KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

ユーザーマニュアル

印刷された文書は参考用です。最新の情報についてはオンラインヘルプを参照してください。

改訂日: 2024年04月08日

目次

- はじめに
  - Dispatcher Phoenixの概要
  - Dispatcher Phoenix ライセンス
  - Dispatcher Phoenixのインストール
  - オプション ノード(アドイン)
  - Dispatcher Phoenix バーティカル市場のオプションパッケージ
  - 要件
  - Dispatcher Suite
  - 登録
  - ライセンスマネージャー
  - 複合機へのDispatcher Phoenixのインストール
  - メンテナンスの更新
- ワークフローの構築と実行
  - アプリケーションのメイン画面の使用
  - ワークフロービルダーの使用
  - ワークフローの作成
  - ワークフローの実行
  - インデックスフォームビルダー
  - Release2Meシステムワークフロー
  - デモノードのインストール
- 収集ノード
  - 入力フォルダー
  - コニカミノルタ® 複合機ユーザーボックス
  - Webキャプチャノード
  - コニカミノルタ® 複合機パネルノード
  - Dispatcher Phoenixプリンタードライバー
  - Dispatcher Pro Port
  - LPR入力ノード
  - DSP Web入力
  - DSP ローカル入力
  - FTP入力
  - SMTP入力
  - DP Mobile
  - Googleクラウドプリント
  - HTTP入力
  - JDFコンバーター
  - 電子メール入力
  - Dropbox入力
- 処理ノード
  - 処理
  - 高度なルーティング
    - カラー経路指定
    - ページ数経路指定
    - 電子メール解析
  - バーコード

        - 2Dバーコード処理
        - バーコードジェネレーター
        - バーコードライター
        - バーコード処理
    - データベース
        - ODBC
    - ドキュメント操作
        - 高度なベイツスタンプ
        - パネルでの高度なベイツスタンプの作成
        - 注釈
        - 強調/取り消し線
        - パネルでの強調/取り消し線
        - パネルでの墨消し
        - 墨消し
    - DSP
        - DSP Web
        - DSPローカル
    - ファイル変換
        - CDAジェネレーター
        - KDK-PDLコンバーター
        - KDKコード生成
        - Officeに変換
        - PDFに変換
        - PSに変換
        - ファイルに出力
    - ファイル解析
        - 解析の概要
        - 挿入
        - 解析と挿入
        - 解析と置換
        - 解析と配信
        - 解析（検索）
    - ファイル処理
        - マージ
        - 分割
    - 採点
        - Bubble Grader
        - デスクトップ Bubble Sheet Generator
        - DP Web Bubble Sheet Generator
    - 画像処理
        - ネガポジ反転
        - ノイズ除去
        - ミラーイメージ
        - 傾き補正
        - 名前の変更
        - 透かし
    - メタデータ

        - HL7解析
        - メタデータ/ファイル
        - メタデータのブラウズ
        - メタデータスクリプト
        - メタデータ経路指定
        - PJL印刷設定
    - OCR
        - 高度なOCR
        - フォーム処理
        - 仕分け
        - OCR設定
        - aiDocuDroid
    - PDF処理
        - PDFからデータを抽出
        - PDFページクロップ
        - PDFページ削除
        - PDFページ複製
        - PDFページ挿入
        - PDFページ移動
        - PDFページシフト
        - PDFページリサイズ
        - PDFコンテンツ回転
    - セキュリティ
        - Release2Me
        - Rx保護
        - コピー保護
    - プロダクションプリント
        - プロダクションプリントの概要
        - ブリードタブ:しおりノード
        - ブリードタブ:PDFマージノード
        - ブリードタブ:ユーザー指定ノード
        - 背丁
        - カラーバー
        - カラールートベクターPDF
        - Excel解析
        - ギャンギングノード
        - ジョブチケットエディター
        - 面付
        - ジョブチケット読込:CSV
        - ジョブチケット読込:JDF
        - ジョブチケット読込:JSON
        - ジョブチケット読込:XML
        - ジョブチケット書出し:JDFノード
        - ジョブチケット書出し:JSON
        - ジョブチケット書出し: XML
        - ページサイズルートノード
        - プリフライト

        - タブ:しおり
        - タブ:ユーザー指定ノード
        - タブ:PDFマージノード
        - タブ:ページシフトノード
        - タブ:作成済みタブの読込ノード
        - トリムマークノード
        - ワークシート整形
        - VDP
- 配信ノード
    - コネクター
        - サードパーティーコネクター
        - Boxコネクター
        - DocRecordコネクター
        - DocuSignコネクター
        - Dropboxコネクター
        - DSP ローカル出力
        - DSP Web出力
        - EPICコネクター
        - FileAssistコネクター
        - FilesAnywhereコネクター
        - Googleドライブコネクター
        - Guardianコネクター
        - Laserficheコネクター
        - M-Filesコネクター
        - OnBaseコネクター
        - OneDriveコネクター
        - OneDrive for Businessコネクター
        - Paragon Cloud Fax コネクター
        - RightFaxコネクター
        - SharePointコネクター
        - SharePoint Onlineコネクター
        - Square 9 Softworks コネクター
        - Upland InterFAX コネクター
        - WebDAVコネクター
        - Windows Faxコネクター
        - Workshareコネクター
        - Worldoxコネクター
        - AccurioPro Fluxコネクター
        - AccurioPro Conductorコネクター
    - 出力
        - 電子メール出力
        - FTP
        - HL7コネクター
        - HTTP出力
        - Microsoft Exchange
        - 出力フォルダー
        - プリンター

        - SFTP出力
- DP Web
    - DP Webモジュールのインストール
    - PIV/CAC カード認証
    - セルフホスティング環境の設定
    - IIS ホスティング環境の設定
    - DP Webの使用
    - アカウント
    - デバイス ツール
    - 一括登録ツール
    - ReleaseMe 印刷委任
    - レポート
    - システム設定
- ECM
    - バッチインデックス
        - バッチインデックスの概要
        - バッチインデックスアプリケーションの使用
        - ショートカットキー
    - バッチマネージャー
        - バッチマネージャー
    - ユーザーライセンス
        - 概要
    - 検証
        - 検証の概要
        - 検証ツールの使用
        - ショートカットキー
    - Workstation
        - Workstationの概要
        - Workstationのインストールと要件
        - Workstationクイックスタート
        - Workstationワークフローの作成
        - Workstationの構成
        - 新規バッチの作成
        - ドキュメントをインポートするソースの選択
        - ドキュメントのインポート
        - スキャンしたイメージの作業
        - バッチの送信
- エンタープライズオプション
    - 概要
    - クラスターの管理
    - オフロードサーバーの構成
    - フェールオーバーサーバーのインストール
    - ワークフロー共有
    - ワークフロー制御
    - ユーザーデータ
    - 分析
    - カード登録

- ツール
  - アドインマネージャー
  - Dispatcher Phoenix複合機シミュレーター設定
  - 複合機シミュレーター
  - Workflow Service Manager
- 参考資料
  - Active Directory用の設定
  - Dispatcher Phoenix FAQ
  - エンドユーザーソフトウェア使用許諾契約書
  - 用語集
  - Ganging Job Submitterの基本操作手順
  - ジョブチケットのメタデータ情報
  - 複合機サポートリスト
  - Rx保護をサポートする複合機リスト
  - 正規表現
  - プロダクションプリントの設定
  - シングルサインオン認証
  - サードパーティーのライセンス
  - トラブルシューティング
  - チュートリアル
  - 使用事例
  - Webベースの認証
- Dispatcher Paragon

はじめに

Dispatcher Phoenixの概要

このトピックでは、コニカミノルタの高度なワークフロー自動化製品ラインである **Dispatcher™ Phoenix** の概要を説明します。Dispatcher Phoenixは次の構成で使用することができます。

- **Dispatcher Phoenix** - 完全かつ多様な機能セットを含む基本ライセンス。Dispatcher Phoenixの基本ライセンスは、**オプションのアドインノード** や **バーティカル市場パッケージ** を購入することでアップグレードすることができます。
- **Dispatcher Phoenix ScanTrip** - Dispatcher PhoenixのScan-to-Cloud (クラウドにスキャン)ソリューション。
- **Dispatcher Phoenix Release2Me+** - Dispatcher Phoenixのセキュリティで保護された印刷リリースとスキャンのためのソリューション。以下が含まれます。
  - Release2Me セキュアプリントリリースシステム
  - Webベースの印刷レポート
  - 印刷委任
  - 複合機パネルで簡単にアクセスすることができるさまざまなコネクター
  - その他

注: Dispatcher Phoenixは **Dispatcher Suite** の一部として含まれています。各パッケージの違いは付属する **ノード** の構成です。Dispatcher Phoenixのコア機能には以下が含まれます。以下でノードについて説明します

- **ワークフロービルダー** - ワークフローの作成とカスタマイズに使用されるグラフィカルユーザーインターフェイス。
- **ノード** - 各ノードは、ファイルを収集、処理、または配信するために、Dispatcher Phoenixワークフローで構成できる機能を実行します。ノードの例は、**Dropbox入力** 、**名前の変更** 、および **Dropboxコネクター** です。
- **サンプルワークフロー** - 起動してすぐに実行できるように設計された一連の事前構成済みワークフロー。Dispatcher Phoenixワークフローのパワーと使用可能なノードを示します。
- **ワークフロースケジューラー** - ワークフローをいつ実行するかを定義するために使用できるツール。
- **インデックスフォームビルダー** - 複合機パネルで使用するインタラクティブフォームを作成するために使用できるツール。フォルダーの参照とドキュメントのインデックス作成のサポートが含まれています。
- **ログビューワー** - 選択したワークフローのアクティビティログを表示するために使用できるツール。
- **認証オプション** - CAC/PIV認証のサポートを含む、豊富なオプションの選択。
- **Dispatcher Phoenix Web ユーザーインターフェイス** - 追加の高度な機能と、ツールに簡単にアクセスすることができる直感的なWebユーザーインターフェイス。Dispatcher Phoenixは、ワークフロー共有、ワークフロー制御、クラスター管理、分析などの企業の他の重要な機能にアクセスするための**エンタープライズ**用の **Webクライアント** も提供しています。
- **アドインマネージャー** - オプションのノードとサービスをいつでもアプリケーションに追加することができるハブ。

Dispatcher Phoenixのワークフローとノード

Dispatcher Phoenix は、独自の**ワークフロービルダー** を使用して、ドキュメントイメージング、印刷、およびルーティングタスクを管理および自動化します。この直感的なグラフィカルユーザーインターフェイスによって、ユーザーはビジネスニーズに合わせてワークフローを簡単に作成およびカスタマイズすることができます。

Dispatcher Phoenixワークフローは **ノード** を使用してファイルを受け取り、処理し、配信します。Dispatcher Phoenixはノードを3つのタイプにグループ化します。

- **収集ノード** は、監視され、ワークフローの入力として使用されます。収集ノードは、次のような多くの異なるソースから処理/配信用のファイルを受信できます。
  - 複合機インターフェイスパネル、またはWebブラウザーから直接
  - ローカルまたはネットワークディレクトリ内のファイルフォルダー
  - 電子メール受信ボックス
  - その他
- **処理ノード** は、ユーザー定義の仕様に従ってファイルを処理する、自動化されたファイル操作タスクです。
- **配信ノード** は、ワークフローの出力場所です。処理の後、これらのノードは次のようなユーザー定義の場所にファイルを配信します。
  - 別のローカルまたはネットワークディレクトリ
  - クラウドアプリケーション
  - 電子メール受信者
  - ドキュメント管理システム
  - その他

Dispatcher Phoenixを起動して実行

次のトピックはDispatcher Phoenixを起動して実行するのに役立ちます。

- **ハードウェアおよびソフトウェア要件**
- **インストール**
- **製品登録**
- **複合機へのDispatcher Phoenixのインストール**

Dispatcher Phoenix ライセンス

Dispatcher Phoenixは、特定のユーザーグループのそれぞれのニーズをターゲットとするいくつかの異なる構成で購入することができます。

- **Dispatcher Phoenix** - 基本ライセンス。
- **Dispatcher Phoenix ScanTrip** - クラウドへのスキャン用に設計されたDispatcher Phoenixの縮小版。
- **Dispatcher Phoenix Release2Me+** - Release2Meのセキュリティを提供するDispatcher Phoenixの縮小版。

購入ごとに **ページボリューム処理に制限のない** 1つの**アクティブ入力**が含まれます。**メンテナンスパッケージ** は別途購入する必要があります。ScanTripとRelease2Me+では、ワークフローノードの数は削減されていますが、価格は大幅に削減されています。

Dispatcher Phoenix 基本ノード

以下のセクションでは、ノードタイプ別にグループ化されたDispatcher Phoenix基本ライセンスに含まれるノードをリストします。

収集ノード

ノード	説明
DP Mobile	モバイルデバイスから送信されたファイルを収集します。
Dropbox入力	Dropboxフォルダーからファイルを収集します。
FTP入力	監視対象のFTPサーバーから定期的にファイルを収集します。
入力フォルダー	PCまたはネットワーク上のディレクトリまたはフォルダーからファイルを収集します。
LPR入力	WindowsプリンターキューなどのLPRクライアントから印刷ジョブを収集します。
複合機パネル	Konica Minolta 複合機パネルから直接ワークフローを開始します。
複合機ユーザーボックス	複合機のユーザーボックスから処理するファイルを収集します。
Webキャプチャ	Webブラウザー経由でデバイスから送信されたファイルをキャプチャします。

注: Dispatcher Pro Portは、ワークフロービルダーの作業領域にドラッグアンドドロップできるアイコンとして表示されていません。その代わりに、他のアプリケーション(Microsoft Wordなど)で使用するためにDispatcher Pro Portを直接ファイルへのプリンターとして構成して、Dispatcher Phoenixワークフローへの入力として使用することができます。

処理ノード

ノード	説明
注釈	スキャンした画像ファイルに、受信した日付、カウンターシーケンス番号、または選択したテキストをページの特定の場所に注釈として付けます。
Tesseract、aiDocuDroid、および aiDocuDroid Handwrittenによる高度なOCR	光学式文字認識（OCR）出力を改良し、ユーザー定義または自動検出されたゾーンを使用してメタデータを抽出します。Tesseract **OCR エンジン**、aiDocuDroid **OCR エンジン**、および aiDocuDroid Handwritten **ICR エンジン**が含まれています。
カラー経路指定	ドキュメント内のカラーページの数または割合に基づいてファイルをルーティングします。
TesseractによるPDFに変換	PDF/A準拠のドキュメントや検索可能なPDFファイルを作成するためのオプションを含め、任意の画像ファイルをPDFドキュメントに変換します。Tesseract **OCR エンジン**が含まれています。
PSに変換	画像ファイルをPostScript形式に変換します。
傾き補正	歪んだ画像をまっすぐにします。傾き補正処理に要求する精度が高いほどファイルの処理に時間がかかることに注意してください。
ノイズ除去	スキャンした画像から斑点を取り除きます。斑点は除去されますが、画像は歪まないように注意する必要があります。
挿入	解析プロセスを必要とせずに、ワークフローの一部として文字列を挿入します。
マージ	設定されたファイルの数に基づいて、単一の画像を大きな画像ファイルに結合します。画像とPDFファイルの両方をマージします。
メタデータ経路指定	ユーザー定義のメタデータベースの検索ルールに従ってドキュメントをルーティングします。
メタデータスクリプト	メタデータを操作します（コピー、追加、変更、または削除）。
メタデータ/ファイル	受信ファイルからメタデータを抽出し、その情報を別のファイルに保存します。このノードはメタデータバンドルに含まれています。
ミラーイメージ	画像を反転します(水平または垂直)。
ネガポジ反転	入力ドキュメントのネガを作成します(例:明るい部分を暗く、またはその逆に変換)。
ODBC	ODBC(Open Database Connectivity)データソースのデータを取得または更新します。
ページ数経路指定	ドキュメントの合計ページ数に基づいてファイルをルーティングします。
解析と配信	ファイル内のキーワードまたはテキスト文字列を検索します。
解析と挿入	検索のオブジェクトが見つかった後にテキスト文字列を挿入します。
解析と置換	検索ルールで見つかったテキストを置き換えます。
解析	名前、ファイルタイプ、サイズなどのファイル属性を検索するための検索ルールを作成します。
PDFからデータを抽出	PDFフォームからフォーム値などのメタデータを抽出します。このノードはメタデータバンドルに含まれています。
PJL印刷設定	ユーザーが印刷ジョブの印刷設定を自動または複合機で指定/構成できるようにします。PJL印刷設定ノードは、Release2Meおよびメタデータバンドルパッケージに含まれています。
ファイルに出力	ドキュメントをPRN形式に変換してファイルに印刷し、関連するWindowsアプリケーションを使用して印刷できるようにします。
名前の変更	変数、カウンター、または静的テキストを使用してファイル名を変更します。
分割	ユーザー指定のページ番号またはメタデータ条件に基づいて、複数ページのファイルを区切ります。
透かし	会社のロゴなどの指定された不透明な画像を画像ファイルにオーバーレイします。

配信ノード

ノード	説明
Boxコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付けしてBox.comに配信します。
Cloud Fax コネクター	Upland InterFAX クラウド型FAXサービスにドキュメントを配信します。**Dispatcher Paragon** でのみ利用可能です。
Dropboxコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付けしてDropboxに配信します。
電子メール出力	出力ファイルを電子メールの添付ファイルとして送信します。
FileAssistコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理、およびコニカミノルタのFileAssistクラウドストレージサービスに配信します。
FilesAnywhereコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介してファイルをスキャンし、処理してFilesAnywhereに配信します。
FTP	FTPサーバー上のディレクトリに配信します。
Googleドライブコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、スキャン、処理してGoogleドライブに配信します。
Microsoft Exchange	Microsoft Exchangeを介して出力ファイルを電子メールの添付ファイルとして送信します。
OneDriveコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理してMicrosoft OneDriveに配信します。
OneDrive for Business	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理してMicrosoft OneDrive for Businessに配信します。
出力フォルダー	PCまたはネットワーク上のディレクトリまたはフォルダーに配信します。
プリンター	出力を印刷するために複合機に配信します。
SFTP 出力	ドキュメントをSFTP(SSHファイル転送プロトコル)サーバーに配信します。
SharePointコネクター	Microsoft SharePointに接続し、SharePointフォルダーを参照して、SharePointリポジトリにドキュメントをアップロードします。
SharePoint Onlineコネクター	Microsoft SharePoint Onlineに接続し、SharePoint Onlineフォルダーを参照して、SharePoint Online リポジトリにドキュメントをアップロードします。
WebDAVコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付けして汎用WebDAVサーバーに配信します。

注: Cloud Fax コネクター はDispatcher Phoenix ScanTrip基本ライセンスに含まれていますが、個別にダウンロードする必要があります。

Dispatcher Phoenix ScanTrip

Dispatcher Phoenix ScanTripは、シンプルで低コストのスキャンから、クラウドまでのソリューションを提供する **Dispatcher Phoenix** の簡易バージョンです。ScanTripの利点は次のとおりです。

- スキャン機能を含まない印刷管理ソリューション(例:Pharos)の簡単な統合。
- Box、Dropbox、OneDrive、Googleドライブなどの一般的なクラウドアプリケーションへのコネクターが含まれています。
- Dispatcher Phoenixにアップグレードするオプション。

ScanTripは、次のワークフローで使用することができます。

- Scan to Me
- Scan To Home
- Scan to Folder
- Scan to Email (SMTP および MS Exchange)
- Scan to Cloud Apps
- Scan/submit files via Web Browser

ScanTrip 設定

ScanTripには、Dispatcher Phoenixの次の機能が含まれています。

- クライアントアプリケーション
- **ワークフロービルダー**
- **サンプルワークフロー** - Dispatcher Phoenixワークフローの機能と使用可能なノードを図示した、すぐに起動して実行できるように設計された事前に構成された一連のワークフロー。

ScanTripには、次のノードが含まれています。

収集ノード

ノード	説明
複合機パネル	Konica Minolta 複合機パネルから直接ワークフローを開始します。
Webキャプチャ	Webブラウザー経由でデバイスから送信されたファイルをキャプチャします。

処理ノード

ノード	説明
TesseractおよびaiDocuDroidによる高度なOCR	光学式文字認識（OCR）出力を改良し、ユーザー定義または自動検出されたゾーンを使用してメタデータを抽出します。Tesseract **OCR エンジン** および aiDocuDroid **OCR エンジン** が含まれています。
メタデータ経路指定	ユーザー定義のメタデータベースの検索ルールに従ってドキュメントをルーティングします。
メタデータ/ファイル	受信ファイルからメタデータを抽出し、その情報を別のファイルに保存します。
名前の変更	変数、カウンター、または静的テキストを使用してファイル名を変更します。

配信ノード

ノード	説明
Boxコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付けしてBox.comに配信します。
Dropboxコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付けしてDropboxに配信します。
Cloud Fax コネクター	Upland InterFAX クラウド型FAXサービスにドキュメントを配信します。**Dispatcher Paragon** でのみ利用可能です。
FileAssistコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理、およびコニカミノルタのFileAssistクラウドストレージサービスに配信します。
FilesAnywhereコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介してファイルをスキャンし、処理してFilesAnywhereに配信します。
Googleドライブコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、スキャン、処理してGoogleドライブに配信します。
Microsoft Exchange	Microsoft Exchangeを介して出力ファイルを電子メールの添付ファイルとして送信します。
OneDriveコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理してMicrosoft OneDriveに配信します。
OneDrive for Business	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理してMicrosoft OneDrive for Businessに配信します。
出力フォルダー	PCまたはネットワーク上のディレクトリまたはフォルダーに配信します。
SharePointコネクター	Microsoft SharePointに接続し、SharePointフォルダーを参照して、SharePointリポジトリにドキュメントをアップロードします。
SharePoint Onlineコネクター	Microsoft SharePoint Onlineに接続し、SharePoint Onlineフォルダーを参照して、SharePoint Onlineリポジトリにドキュメントをアップロードします。
電子メール出力	出力ファイルを電子メールの添付ファイルとして送信します。
WebDAVコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付けして汎用WebDAVサーバーに配信します。

注: Cloud Fax コネクター はDispatcher Phoenix ScanTrip基本ライセンスに含まれていますが、個別にダウンロードする必要があります。

Dispatcher Phoenix Release2Me+

Dispatcher Phoenix Release2Me+は、安全な印刷とスキャンに使用することができる無駄のない、経済的なフル機能の印刷管理ソリューションの代替品です。この便利で安全な印刷ソリューションはビジネス文書の機密性を保護し、望まない不要な印刷を削減します。

注: Release2Me ノード デバイスライセンスは、高度なワークフロー機能が必要なお客様向けにDispatcher Phoenix 基本ライセンスのオプションのアドインとして利用できます。

Dispatcher Phoenix Release2Me+ 設定

Dispatcher Phoenix Release2Me+には次の機能が含まれています。

- 安全な印刷リリース
- 印刷レポート
- 印刷委任
- Dispatcher Phoenix Release2Me ドライバー
- すべてのScanTrip機能

システムワークフロー

ワークフロー	説明
Release2Me システムワークフロー	システムエディターを使用した使いやすい印刷リリースソリューション。

収集ノード

ノード	説明
LPR入力	WindowsプリンターキューなどのLPRクライアントから印刷ジョブを収集します。
複合機パネル	Konica Minolta 複合機パネルから直接ワークフローを開始します。
Webキャプチャ	Webブラウザー経由でデバイスから送信されたファイルをキャプチャします。

処理ノード

ノード	説明
TesseractおよびaiDocuDroidによる高度なOCR	光学式文字認識（OCR）出力を改良し、ユーザー定義または自動検出されたゾーンを使用してメタデータを抽出します。Tesseract **OCR エンジン** および aiDocuDroid **OCR エンジン** が含まれています。
メタデータ経路指定	ユーザー定義のメタデータベースの検索ルールに従ってドキュメントをルーティングします。
メタデータ/ファイル	受信ファイルからメタデータを抽出し、その情報を別のファイルに保存します。
PJL印刷設定	ユーザーは、印刷ジョブの印刷設定を自動、または複合機で指定/構成できます。PJL印刷設定ノードは、Release2Meおよびメタデータバンドルパッケージに含まれています。
Release2Me	安全で便利な印刷リリースシステムのため、複合機で後からアクセスしてキューにジョブを印刷する機能を提供します。
名前の変更	変数、カウンター、または静的テキストを使用してファイル名を変更します。

配信ノード

ノード	説明
Boxコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付けしてBox.comに配信します。
Dropboxコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付けしてDropboxに配信します。
FileAssistコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理、およびコニカミノルタのFileAssistクラウドストレージサービスに配信します。
FilesAnywhereコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介してファイルをスキャンし、処理してFilesAnywhereに配信します。
Googleドライブコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、スキャン、処理してGoogleドライブに配信します。
Microsoft Exchange	Microsoft Exchangeを介して出力ファイルを電子メールの添付ファイルとして送信します。
OneDriveコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理してMicrosoft OneDriveに配信します。
OneDrive for Business	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理してMicrosoft OneDrive for Businessに配信します。
出力フォルダー	PCまたはネットワーク上のディレクトリまたはフォルダーに配信します。
プリンター	出力を印刷するために複合機に配信します。
SharePointコネクター	Microsoft SharePointに接続し、SharePointフォルダーを参照して、SharePointリポジトリにドキュメントをアップロードします。
SharePoint Onlineコネクター	Microsoft SharePoint Onlineに接続し、SharePoint Onlineフォルダーを参照して、SharePoint Onlineリポジトリにドキュメントをアップロードします。
電子メール出力	出力ファイルを電子メールの添付ファイルとして送信します。
WebDAVコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付けして汎用WebDAVサーバーに配信します。

Dispatcher Phoenixのインストール

このセクションでは、標準アプリケーション、アドインノード、およびメンテナンスのインストールと登録の方法について説明します。

Dispatcher Phoenixには「**コンピューターごと**」のライセンスが付与されます。つまり、アプリケーションは、**特定のPCでのみ使用**するためにライセンス/登録されます。ライセンスを新しいコンピューターに移管する方法については、**ライセンス移管**を参照してください。

アプリケーションをインストールする前に、PCの管理者権限を持っていることを確認してください。

Dispatcher PhoenixをCD/DVDまたは実行可能ファイルからインストールするには、以下の操作を行います。

1. CD/DVDを適切なドライブに挿入するか、**[Dispatcher Phoenix]** アイコンをダブルクリックして、インストール処理を開始します。

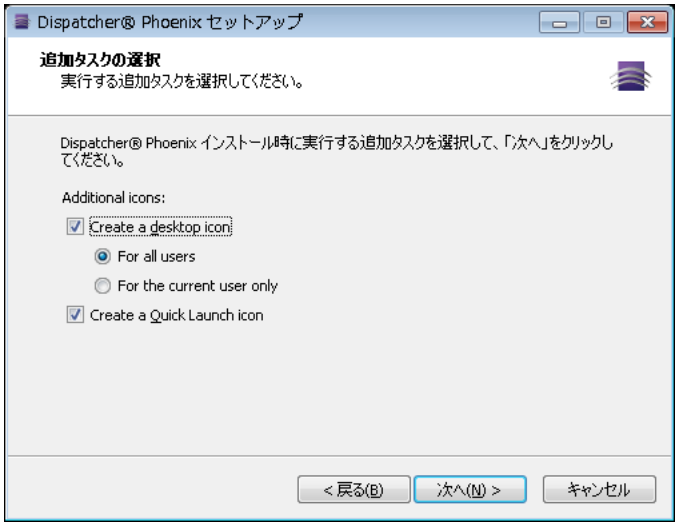
2. CD/DVDからインストールする場合、[自動再生]ウィンドウが表示されます。**[AutoRun.exe の実行]** オプションをクリックします。

   Dispatcher Phoenixのインストーラーが表示されます。下記のイラストはDispatcher Phoenixのインストーラーの例です。

3. インストールしたい項目をリスト(Dispatcher Phoenix、Offload license、またはWorkstation)から選択します。
4. 提供されるラジオボタンを使用して、アプリケーションのバージョン(64ビットまたは32ビット)を選択します。
5. **[アプリケーションのインストール]** を選択します。
6. **[ユーザーアカウント制御]** ウィンドウが表示された場合、Dispatcher Phoenixを使用してシステムに変更を加えることを確認するメッセージが表示されたら、**[はい]** を選択します。
7. [Welcome(ようこそ)]ウィンドウで **[次へ]** ボタンを選択します。

   [End-User License Agreement(使用許諾契約書)]ウィンドウが表示されます。

8. [End-User License Agreement(使用許諾契約書)]ウィンドウで、使用許諾契約書を読んでから、**[I accept the agreement (同意する)]** ラジオボタンをクリックしてインストール処理を続行します。完了したら、**[次へ]** ボタンを選択します。[Information(情報)]ウィンドウが表示されます。
9. [Information(情報)]ウィンドウに、アプリケーションのリリース情報が表示されます。**[次へ]** ボタンを選択して続行します。[Select Additional Tasks (追加タスクの選択)]ウィンドウが表示されます。
10. [Select Additional Tasks(追加タスクの選択)]ウィンドウで、デスクトップやツールバーに追加するアイコンの種類を指定できます。完了したら、**[次へ]** ボタンを選択します。



注: クイック起動アイコンを作成するには、[Create a Quick Launch icon(クイック起動アイコンを作成する)]オプションを有効にする必要があります。多くのオペレーティングシステムでは、[Create a Quick Launch icon(クイック起動アイコンを作成する)]オプションは、タスクバーか、[スタート]メニューの[プロパティ]ウィンドウにあります([スタート]メニューを右クリックして[プロパティ]を選択すると表示されます)。

11. 選択した設定の概要が示された[Ready to Install (インストール準備完了)]ウィンドウが表示されます。**[インストール]** ボタンを選択すると、[インストール状況]ウィンドウが表示され、Dispatcher Phoenixをインストールするためのシステムのセットアップが開始されます。
12. インストール元の場所が複数検出された場合には(CD/DVD、USBドライブ、インターネットなど)、**[パッケージリポジトリの選択]** ウィンドウが表示されます。使用可能なインストール元の場所がすべて示されるので、いずれかのパッケージリポジトリを選択できます。[パッケージリポジトリの選択]ウィンドウの例については、次の図を参照してください。

Dispatcher Phoenixの登録の詳細については、登録ページを参照してください。

インターネットにアクセスしないでDispatcher Phoenixを更新する

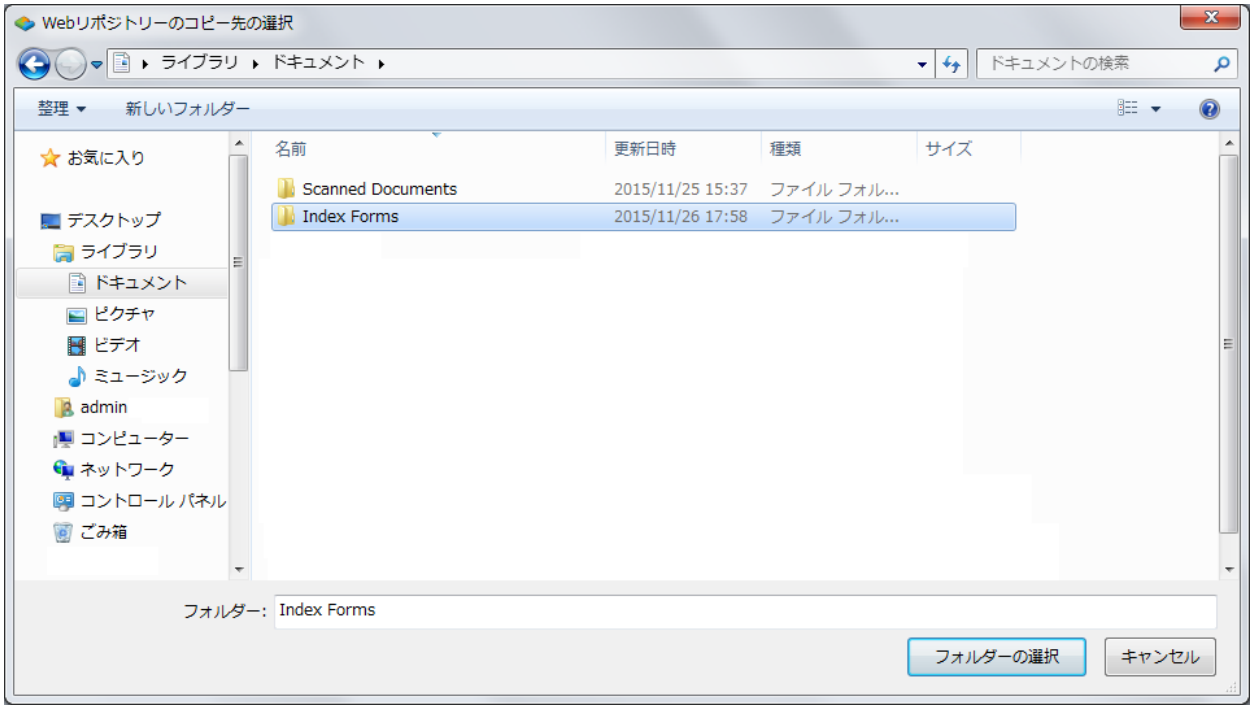
インターネットに接続できないか、または接続が制限されている場所でDispatcher Phoenixをインストールする必要がある場合は、以下の操作を行います。

1. Webリポジトリをコピーします。
2. ダウンロードしたリポジトリから更新をインストールします。

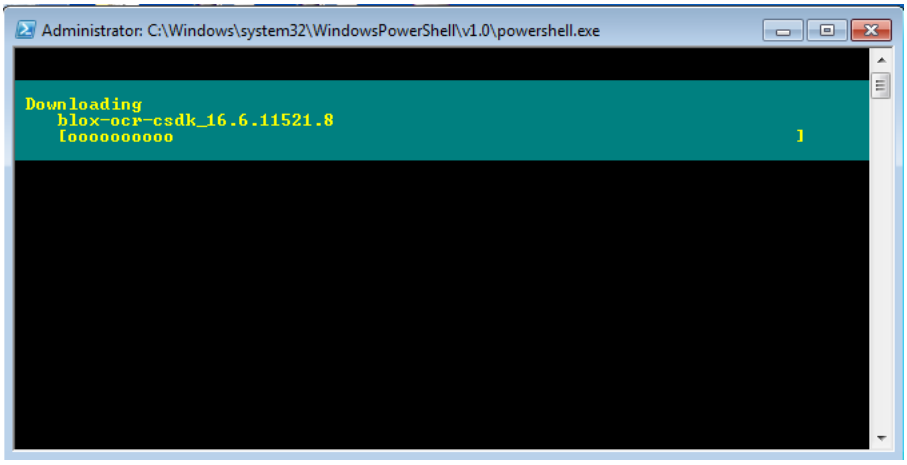
   注: Dispatcher Phoenixを新規インストールする場合、この手順は、Dispatcher Phoenixの必須コンポーネント(Microsoft .Net Framework 4.8など)がすべてインストールされている場合にかぎり有効です。

Webリポジトリのコピー

1. アドインマネージャーを開きます。
2. **[オプション]** ボタンを選択します。
3. [オプション]ウィンドウで、**[Webリポジトリのコピー]** ボタンをクリックします。
4. **[Webリポジトリのコピー先の選択]** ウィンドウが開きます。リポジトリを保存する外部メディア(USBドライブなど)を選択してから、**[フォルダーの選択]** ボタンをクリックします。**注:** Webリポジトリは、必ずメディアのルートディレクトリまたは第1レベルのディレクトリにコピーしてください。それ以外のディレクトリにコピーすると、アドインマネージャーはローカルリポジトリを自動検出できません。



5. powershell.exeウィンドウが開き、指定した場所へのWebリポジトリのダウンロードが開始されます。例については、次の図を参照してください。



ダウンロードしたリポジトリからの更新のインストール

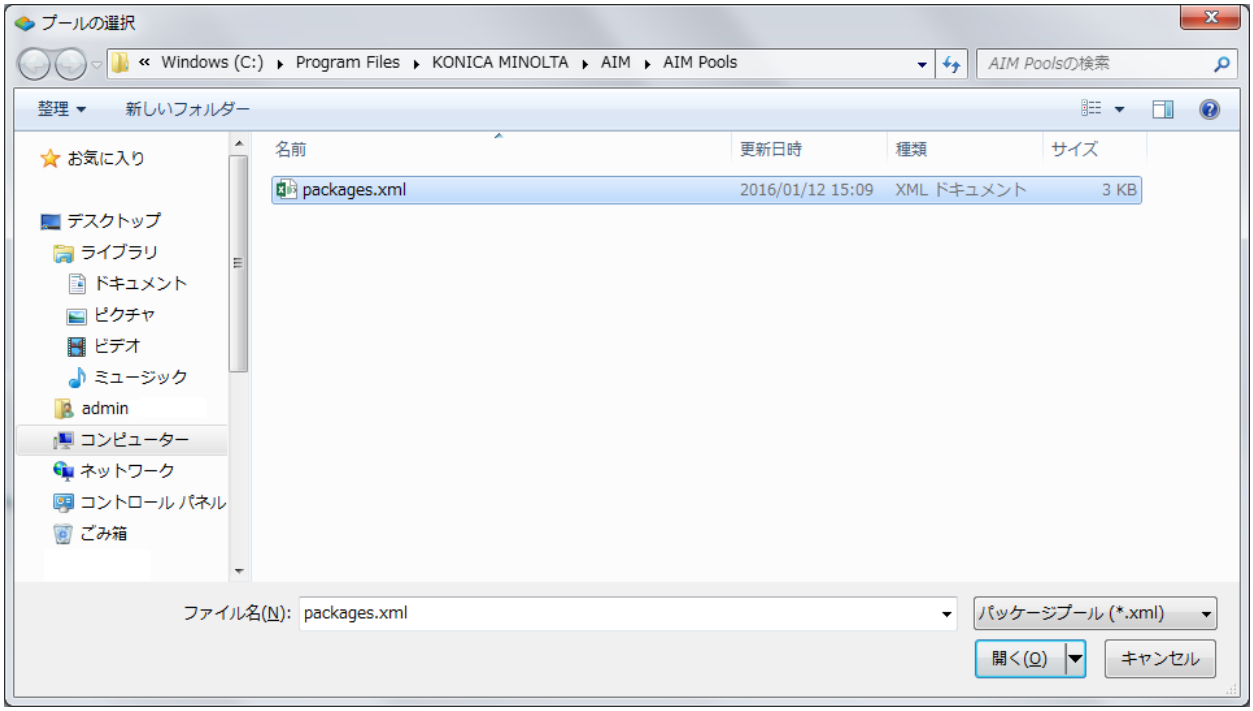
外部メディアにダウンロードしたリポジトリを使用して更新をインストールするには、以下の操作を行います。

1. Webリポジトリのダウンロード先のメディアが、更新するシステムに接続されていることを確認します。
2. 以下のいずれかの操作を行います。
   - **Dispatcher Phoenix**で以下の操作を行います。
     1. **[ヘルプ]** プルダウンメニューから **[更新の確認]** オプションを選択します。
     2. **[パッケージリポジトリの選択]** ウィンドウが開きます。
     3. ダウンロードするリポジトリが含まれているダウンロード元を選択します。
     4. アドインマネージャーが起動し、その場所からのファイルのダウンロード/インストールが開始されます。
   - **アドインマネージャー** で以下の操作を行います。
     1. ウィンドウの左側にある **[以下から更新を選択]** リンクをクリックします。
     2. ダウンロードするリポジトリが含まれているダウンロード元を選択します。
     3. **[更新のインストール]** ボタンを選択します。

ネットワーク共有からのDispatcher Phoenixの更新

Dispatcher Phoenixのライセンスを複数所有している場合は、ライセンスごとに更新をダウンロードすると時間がかかることがあります。その解決策として、ネットワーク共有からすべての更新をインストールするようにアドインマネージャーを設定できます。この設定をするには以下の操作を行います。

1. Webリポジトリをコピーします。
2. ダウンロードしたリポジトリをネットワーク共有にコピーします。
3. アドインマネージャーを開きます。
4. **[オプション]** ボタンを選択します。
5. **[オプションのローカルリポジトリの指定]** > **[参照]** の順に選択して、ダウンロードしたリポジトリが含まれているネットワーク共有上で **packages.xml** を検索して選択します。次の図を参照してください。



6. **[保存]** ボタンを選択して変更を保存し、アドインマネージャーを閉じます。

アドインマネージャーの使用

Dispatcher Phoenixには、アドインマネージャーツールが用意されています。このツールを使用すると、追加のオプションノードのインストール、既存のノードへの更新のインストール、およびノードやパッケージのアンインストールを簡単に行うことができます。

管理者として実行

更新、アンインストール、またはインストールを実行するには、ユーザーが管理アクセス許可を持っている必要があります。ただし、更新の*ダウンロード*はどのユーザーでも実行することができます。

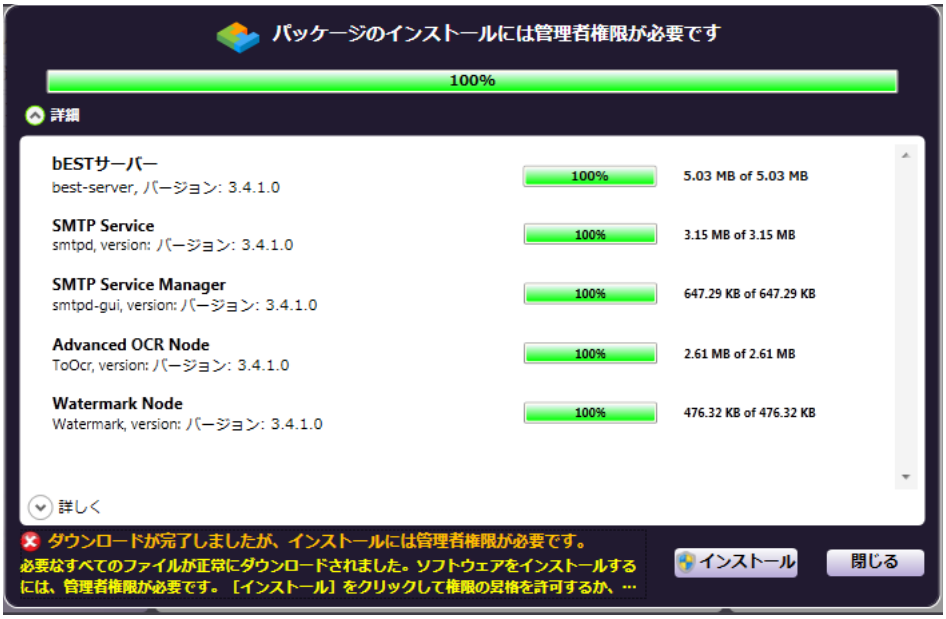
次のいずれかを実行します。

- **アドインマネージャー**で **[管理者として実行]** ボタンを選択します。または、
- Windowsのプログラムの一覧で **[アドインマネージャー]** を右クリックして、表示されるコンテキストメニューから **[管理者として実行]** を選択します。この手順では、**[管理者として実行]** ボタンはアドインマネージャーに表示されません。

UACのプロンプトが表示されます。**[はい]** ボタンをクリックして、続行します。アドインマネージャーを閉じるまで管理アクセス許可が付与されます。

バックグラウンドで更新をダウンロードしている場合

アドインマネージャーがバックグラウンドで更新のダウンロードを開始している場合、インストールの開始時に次のウィンドウが表示されます。



この場合、**[インストール]** ボタンをクリックすると、自動的に管理者特権が付与されて、インストールが続行されます。

アドインマネージャーの概要

アドインマネージャーはWindowsの[スタート]メニューから使用できます。プログラムの一覧の中からKONICA MINOLTAフォルダーの下にあるAdd-In Managerサブフォルダーを見つけます。Add-In Managerフォルダーをクリックすると実行可能ファイルが表示されます。

アドインマネージャーを初めて開いた場合は、アンインストールできるすべてのノード/パッケージが表示されます。ウィンドウの左側のさまざまな項目をクリックして更新を表示してインストールしたり、新しいオプションノードをインストールしたりすることもできます。

更新のダウンロード/インストールや新しいノードのインストールを行う場合は次の点に注意します。

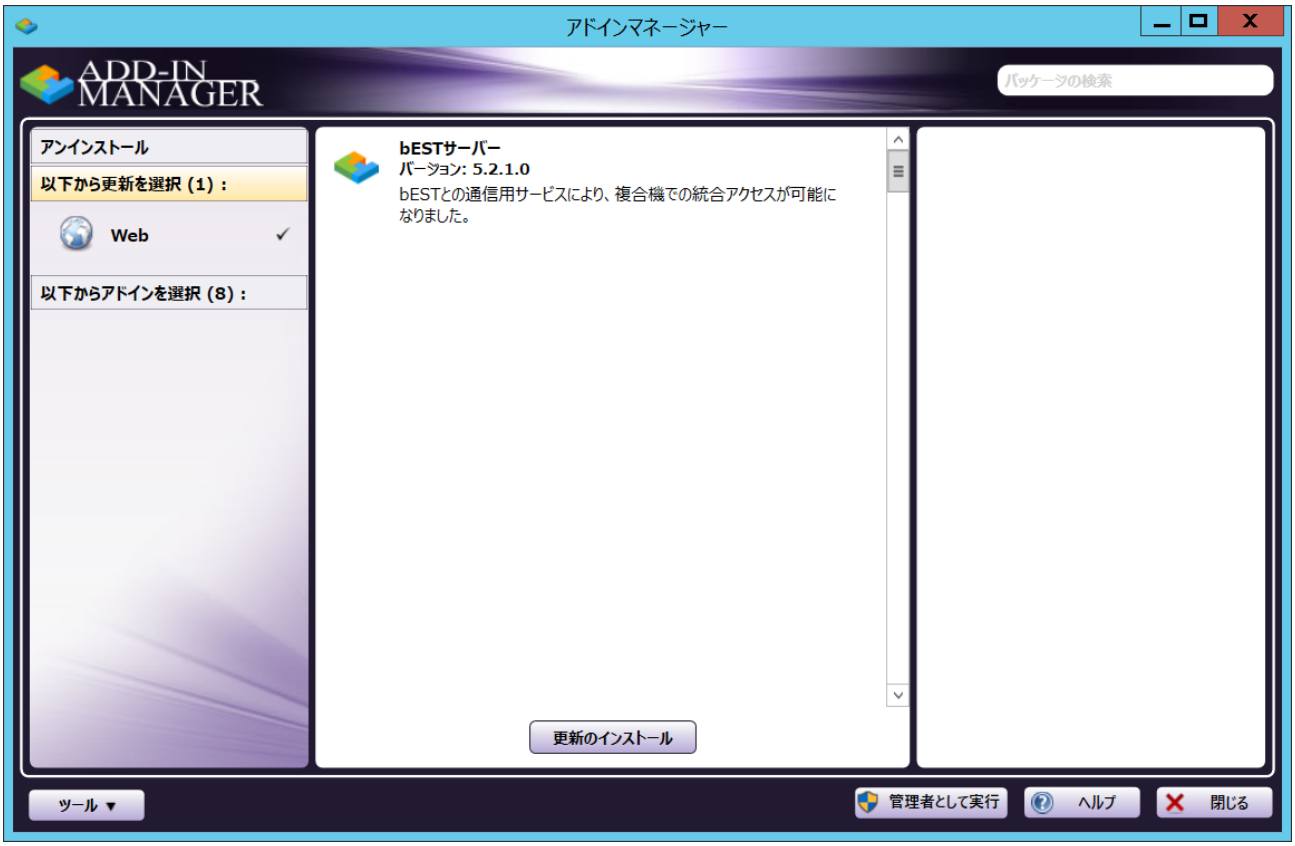
- アドインマネージャーを初めて開いたときに自動的に更新をダウンロードする場合、**アドインマネージャーはバックグラウンドで動作** します。これは更新の既定のオプションであり、アプリケーションのメイン画面の **[ツール]** メニューにある **[オプション]** ウィンドウで変更できます。
- **アドインマネージャーは最小化できます。** ダウンロード、インストール、または更新中に、アドインマネージャーウィンドウを最小化できます。システムトレイにアイコンが表示されます。このアイコンをダブルクリックして操作の進行状況を確認できます。
- **アドインマネージャーには複数選択機能が用意されています。** アドインマネージャーに表示される項目を複数選択して、それらを一度にインストールまたはアンインストールできます。

アンインストール

アドインマネージャーウィンドウの左側にある **[アンインストール]** リンクには、システムに現在インストールされているすべてのパッケージのリストが表示されます。各項目の下に簡単な説明が表示されます。特定のパッケージに関する詳細を表示するには、リスト内の項目をクリックします。ウィンドウの右側にその項目の依存関係のリストが表示されます。

- 特定のコンポーネントをアンインストールするには、**[アンインストール]** ボタンを選択します。コンポーネントをアンインストールすると、そのコンポーネントの依存関係もアンインストールされます。そのパッケージをアンインストールしてもよいかどうかを確認する確認メッセージが表示されます。
- アンインストール操作を開始する前に、アドインマネージャーは実行中のパッケージを探します。問題が見つかった場合は、進行状況バーが赤くなり、ウィンドウの下部にメッセージが表示されます。次の図には、Dispatcher Phoenixアプリケーションが開いているときに発生したエラーが表示されています。

以下から更新を選択

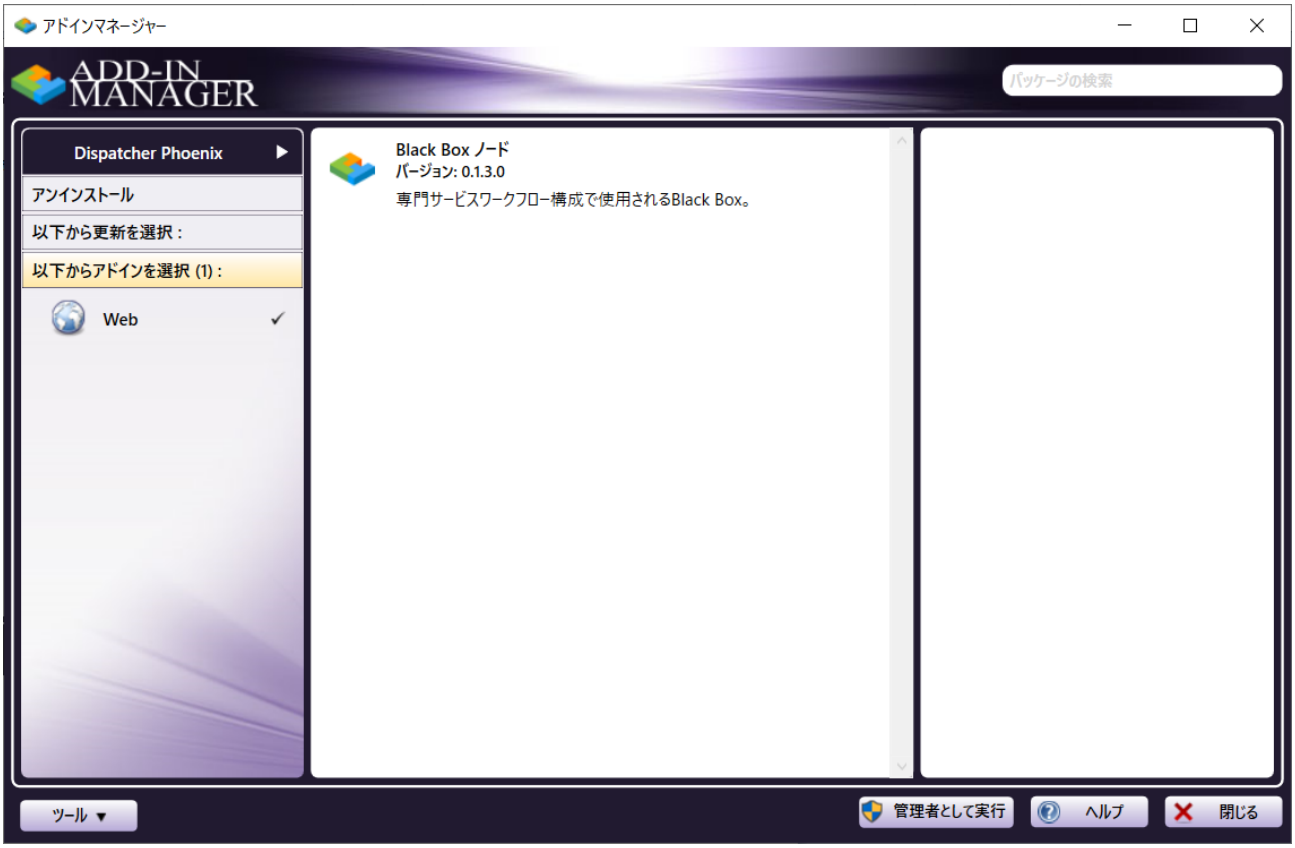


アドインマネージャーウィンドウの左側にある **[以下から更新を選択]** リンクには、現在インストールできる更新の数が表示されます(選択した場所に応じて異なります)。パッケージリポジトリの場所は動的に検出されます。この領域に表示される場所の種類(Webとローカルリポジトリ、ローカルリポジトリのみ、Webのみ)を変更するには、[オプション]ウィンドウを使用します (**[ツール]** プルダウンから開きます)。

[更新のインストール] ボタンを選択して、インストール処理を開始します。更新をインストールしてもよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。更新操作を開始する前に、アドインマネージャーは実行中のパッケージを探します。問題が見つかった場合は進行状況バーが赤くなり、ウィンドウの下部にメッセージが表示されます。

特定のコンポーネントに関する詳細を表示するには、リスト内の項目をクリックします。ウィンドウの右側にその項目の依存関係のリストが表示されます。

以下からアドインを選択



アドインマネージャーウィンドウの左側にある **[以下からアドインを選択]** リンクには、現在インストールできる新しいパッケージが表示されます(選択した場所に応じて異なります)。パッケージリポジトリの場所は動的に検出されます。この領域に表示される場所の種類(Webとローカルリポジトリ、ローカルリポジトリのみ、Webのみ)を変更するには、**[オプション]** ウィンドウを使用します (**[ツール]** プルダウンから開きます)。

パッケージを選択してから(またはShiftキーを押しながらクリックして複数のパッケージを選択してから)、**[インストール]** ボタンを選択してインストール処理を開始します。新しいパッケージをインストールしてもよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。

インストール操作を開始する前に、アドインマネージャーは実行中のパッケージを探します。問題が見つかった場合、進行状況バーが赤くなり、ウィンドウの下部にメッセージが表示されます。

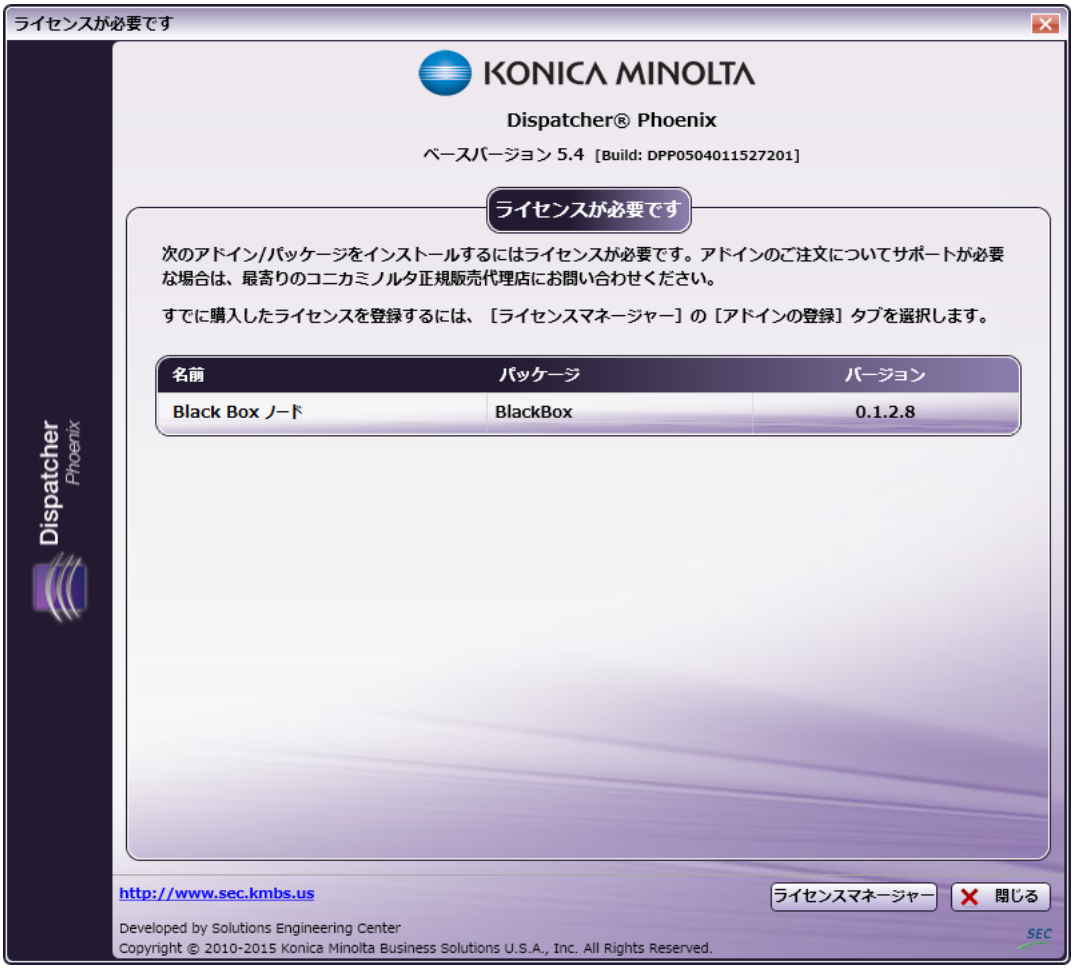
特定のコンポーネントに関する詳細を表示するには、リスト内の項目をクリックします。ウィンドウの右側にその項目の依存関係のリストが表示されます。

注: 新しいパッケージをインストールする前にすべての更新をインストールしておく必要があります。

次の図は、新しいノードをインストールしているアドインマネージャーの「詳細」画面の例です。

ライセンス要件

アドインモジュールがまだ登録されていない場合は、[ライセンスが必要です]ウィンドウが開き、インストールまたは更新の対象として選択したすべてのアドインの名前、パッケージ、およびバージョンが表示されます。たとえば、次の図では、ユーザーがBlack Boxノードアドインモジュールを事前に登録しないでインストールしようとしました。



このウィンドウでは、次の操作ができます。

- **【閉じる】** ボタンを選択して、[ライセンスが必要です]ウィンドウを閉じてから、アドインマネージャーに戻る。
- **【ライセンスマネージャー】** ボタンを選択して[ライセンスマネージャー]ウィンドウを起動し、アドインノードを登録する。詳細は **「アドインモジュールの登録」** のセクションを参照してください。

[検索]フィールドの使用

インストール、更新、または新規作成されたコンポーネントを探す場合、アドインマネージャーの右上にある **【検索】** フィールドを使用してリストを絞り込むことができます。表示されている空白のフィールドにキーワードを入力すると、3つのオプション([アンインストール]、[更新]、[インストール可能])すべてについて、フィルターされた検索結果が表示されます。フィルターされた結果を削除するには、単にフィールド内の語句を削除するか、 をクリックしてフィールドをクリアします。

ショートカット: スラッシュキー(/)を押すと、フォーカスがただちに[検索]フィールドに移ります。

バージョン情報の確認

システムに現在インストールされているすべてのパッケージとそのバージョン番号のリストを表示するには、アドインマネージャーの **【ツール】** プルダウンメニューから **【バージョン情報...】** を選択します。

次の図のように、[アドインマネージャーレポート]ウィンドウが表示されます。

以下の操作を行います。

- **表示されたパッケージのリストを絞り込む** には、ウィンドウの右上にある **[検索]** フィールドを使用します。フィルターされた結果を削除するには、単にフィールド内の語句を削除するか、☑ をクリックしてフィールドをクリアします。

ショートカット:スラッシュキー(/)を押すと、フォーカスがただちに[検索]フィールドに移ります。

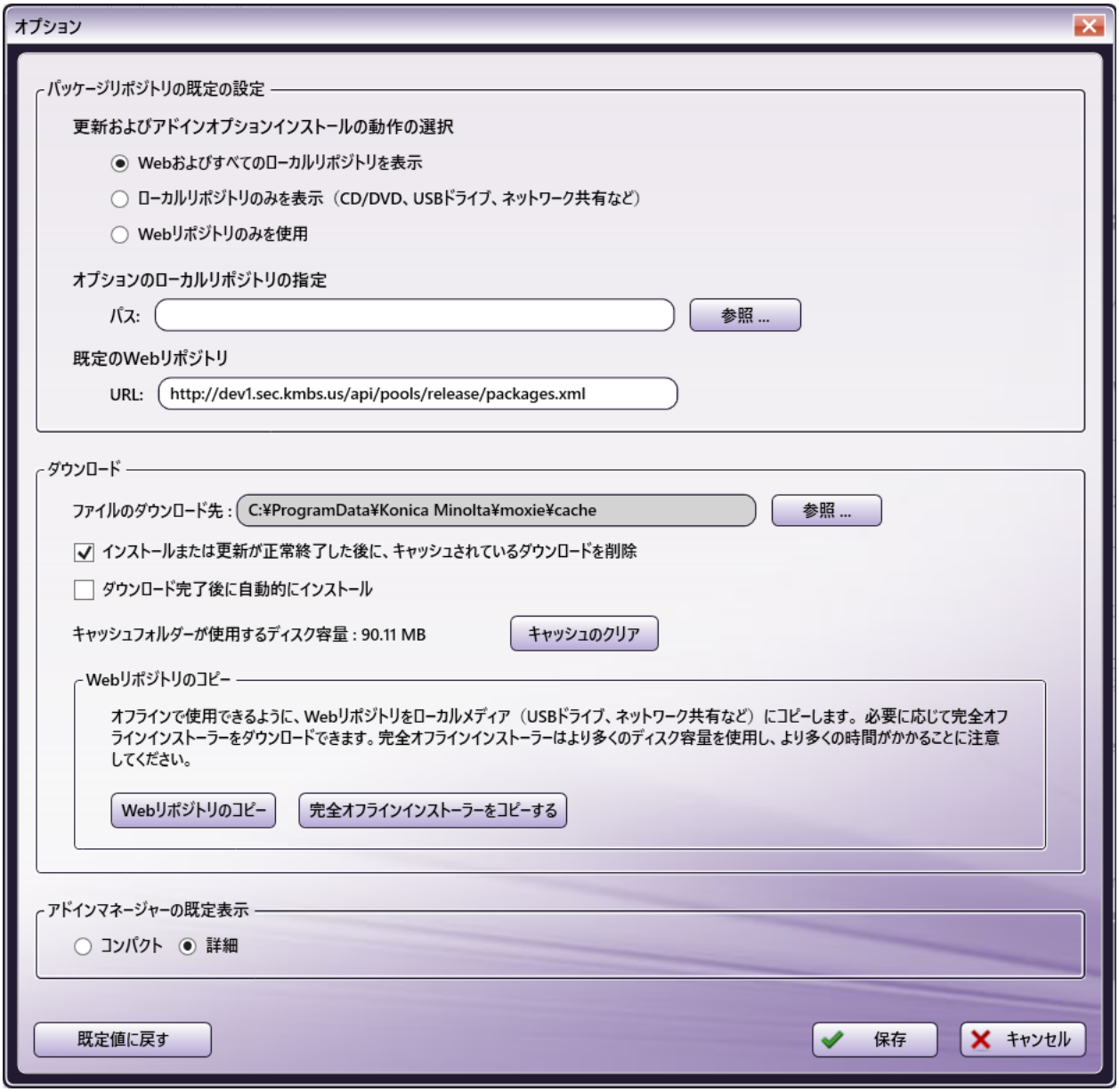
- **レポートをPDFファイルとして保存する** には、**[PDFとして保存]** ボタンを選択します。Windowsの[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、目的の場所にファイル(既定の名前はAIM Report.pdf)を保存できます。保存すると、PDFが生成されて自動的に開きます。
- [アドインマネージャーレポート]を閉じるには、[キャンセル]ボタンをクリックします。

注: このウィンドウは、[ライセンスマネージャー]または[製品情報]ボックスから開くこともできます。

アドインマネージャーのオプションの構成

パッケージリポジトリの基本設定の指定、ローカルメディアへのWebリポジトリのコピー、およびアドインマネージャーのビューの設定を行うには、アドインマネージャーの **[ツール]** プルダウンメニューから **[オプション...]** を選択します。

[オプション]ウィンドウは、次の図のようになります。

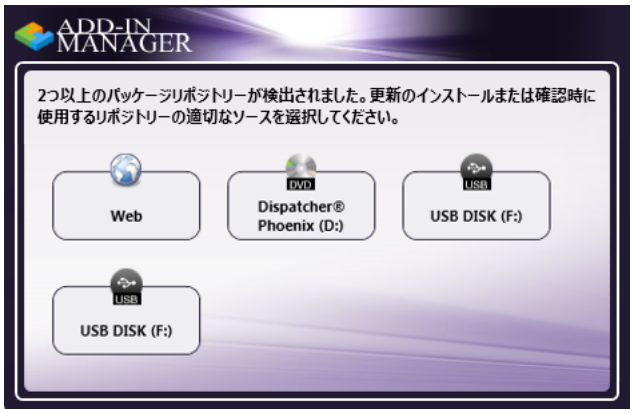


パッケージリポジトリの既定の設定

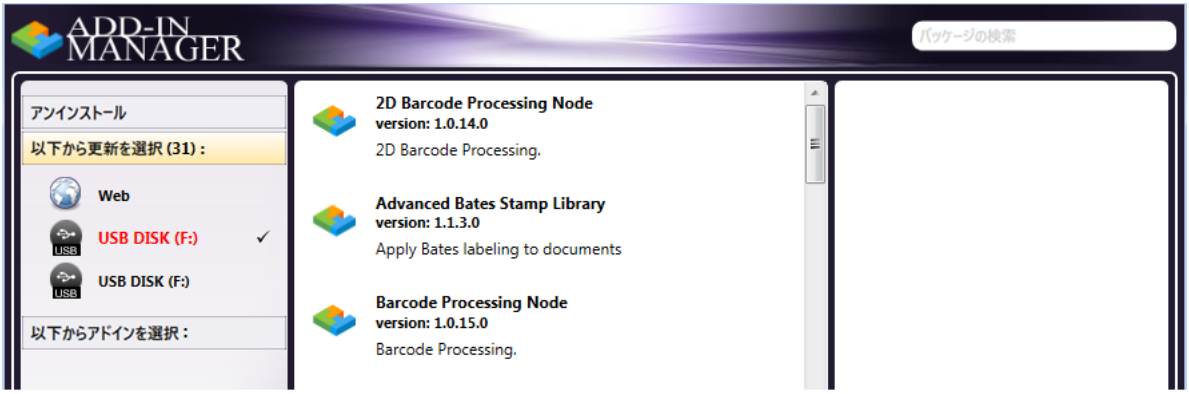
[更新およびアドインオプションのインストールの動作の選択]のオプションから次のいずれかのオプションを選択して、パッケージを更新またはインストールするときに選択肢として表示するパッケージリポジトリの場所を選択できます。

- **[Webおよびすべてのローカルリポジトリを表示]** - これは既定の設定です。このオプションを有効にすると、アドインマネージャーは、使用可能なパッケージリポジトリの場所を自動検出して、複数のリポジトリの場所(Web、CD/DVD、USBドライブなど)が検出された場合に使用できるパッケージリポジトリのリストを表示します。ネットワーク共有またはローカルドライブが指定されている場合は、それらも表示されます。

  次の図のように、アプリケーションで更新を確認すると、パッケージリポジトリがリストされたメッセージが表示されます。



Windowsの[プログラム]メニューから直接アドインマネージャーにアクセスした場合は、次の図のように、使用可能なパッケージリポジトリの場所がウィンドウの左側に表示されます。



- **[ローカルリポジトリのみ(CD/DVD、USBドライブなど)を表示]** - このオプションを有効にすると、アドインマネージャーは自動的に、インストールまたは更新するパッケージリポジトリのインストール元の場所としてローカルメディア(CD/DVDやUSBドライブなど)を使用しようとします。複数のローカルリポジトリが自動検出された場合は、いずれか1つを選択するようメッセージが表示されます。ネットワーク共有またはローカルドライブが指定されている場合は、それらも表示されます。

  Windowsの[プログラム]メニューから直接アドインマネージャーにアクセスした場合は、パッケージリポジトリが含まれているローカルのインストール元の場所だけがウィンドウの左側に表示されます。

ローカルリポジトリが検出されなかった場合は、警告メッセージが表示されます。

- **[Webリポジトリのみを使用]** - このオプションを有効にすると、アドインマネージャーは自動的に、インターネット([既定のWebリポジトリ]フィールドに示されている)からパッケージをダウンロードします。

  Windowsの[プログラム]メニューから直接アドインマネージャーにアクセスした場合は、パッケージリポジトリが含まれているローカルのインストール元の場所だけがウィンドウの左側に表示されます。インストールする前に

- **[オプションのローカルリポジトリの指定]** フィールドにパスの場所を追加することで、別のローカルリポジトリ(ネットワーク共有またはローカルドライブ)が利用可能なダウンロード元の場所またはパッケージリポジトリとして表示されるよう指定することもできます。**[参照]** ボタンを使用してリポジトリを検索して特定できます。

ダウンロード

- キャッシュされているダウンロードファイルを保存する既定の一時フォルダーを変更するには、**[ファイルのダウンロード先]** フィールドの横にある **[参照]** ボタンをクリックします。
- 既定では、インストールまたは更新されたダウンロードファイルは、インストールまたは更新が完了した後に自動的に削除されます。この機能を無効にするには、**[インストールまたは更新が正常終了した後、キャッシュされているダウンロードを削除]** ボックスをオフにします。キャッシュされているファイルをすべてクリアするには、**[キャッシュのクリア]** ボタンをクリックします。
- パッケージをダウンロードした後に自動的にインストールするには、**[ダウンロード完了後に自動的にインストール]** ボックスをオンにします。
- USBドライブなどのローカルメディアにWebリポジトリをダウンロードするには、**[Webリポジトリのコピー]** ボタンをクリックします。詳細は「Webリポジトリのコピー」のセクションを参照してください。

  注:このオプションを使用すると、アドインマネージャーは、新しいパッケージまたは更新されたパッケージのみを確認します。そのため、Webリポジトリを複製する場合は **[インストールまたは更新が正常終了した後、キャッシュされているダウンロードを削除]** オプションが **無効** になっていることを確認してください。

アドインマネージャーの既定表示

アドインマネージャーの外観を構成するには、以下のいずれかを選択します。

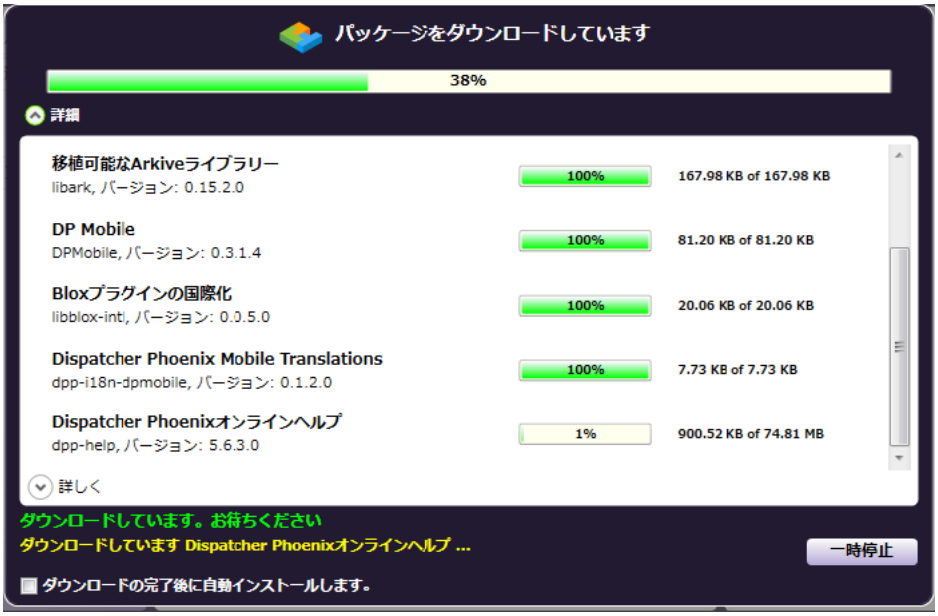
- **[コンパクト]** - この既定の表示では、進行状況バーと製品の機能のスライドショーが表示されます。
- **[詳細]** - この表示では、進行状況バーと詳細な進行状況メッセージが表示されます。

既定値の復元

[既定値に戻す] ボタンをクリックして、いつでも既定の設定に戻すことができます。

ダウンロード中

更新および新しいパッケージはすべて、ダウンロードしてからインストールします。ダウンロードが完了した後、手動または自動でインストールを実行できます。以下に、ダウンロード中のウィンドウの例を示します。



ダウンロード中のウィンドウでは、次の操作ができます。

- ファイルのダウンロード完了後にインストールを自動的に開始するには、**[ダウンロード完了後に自動的にインストール]** ボックスをオンにします。この設定をオンにすると、以降のダウンロード操作すべてに適用されます。
- **[一時停止]** ボタンを選択して、ダウンロード処理をいつでも一時停止できます。ダウンロードを一時停止した場合、後で **[再開]** ボタンをクリックすると、ダウンロード処理中に一時停止した箇所と同じ箇所からダウンロードを再開できます。

さまざまなビュー

ダウンロード、アンインストール、またはインストールするときは、次の2つのビューから選択できます。

- 進行状況バーと製品の機能のスライドショー(**既定** のビュー)
- 進行状況バーと詳細なインストールメッセージ(**詳細** ボックスがオンの場合に表示されます)

アプリケーションのアンインストール

Dispatcher Phoenixアプリケーションをアンインストールするには、Windowsのコントロールパネルの **[プログラムのアンインストール]** オプションを使用します。アプリケーションのアンインストールを選択すると、確認メッセージが表示されます。

アドインモジュールの登録

Dispatcher Phoenix には、複数の強力な機能がインストールされています。アドインモジュールを使用すると、ユーザー固有のニーズに合わせてアプリケーションの機能を拡張および強化できます。

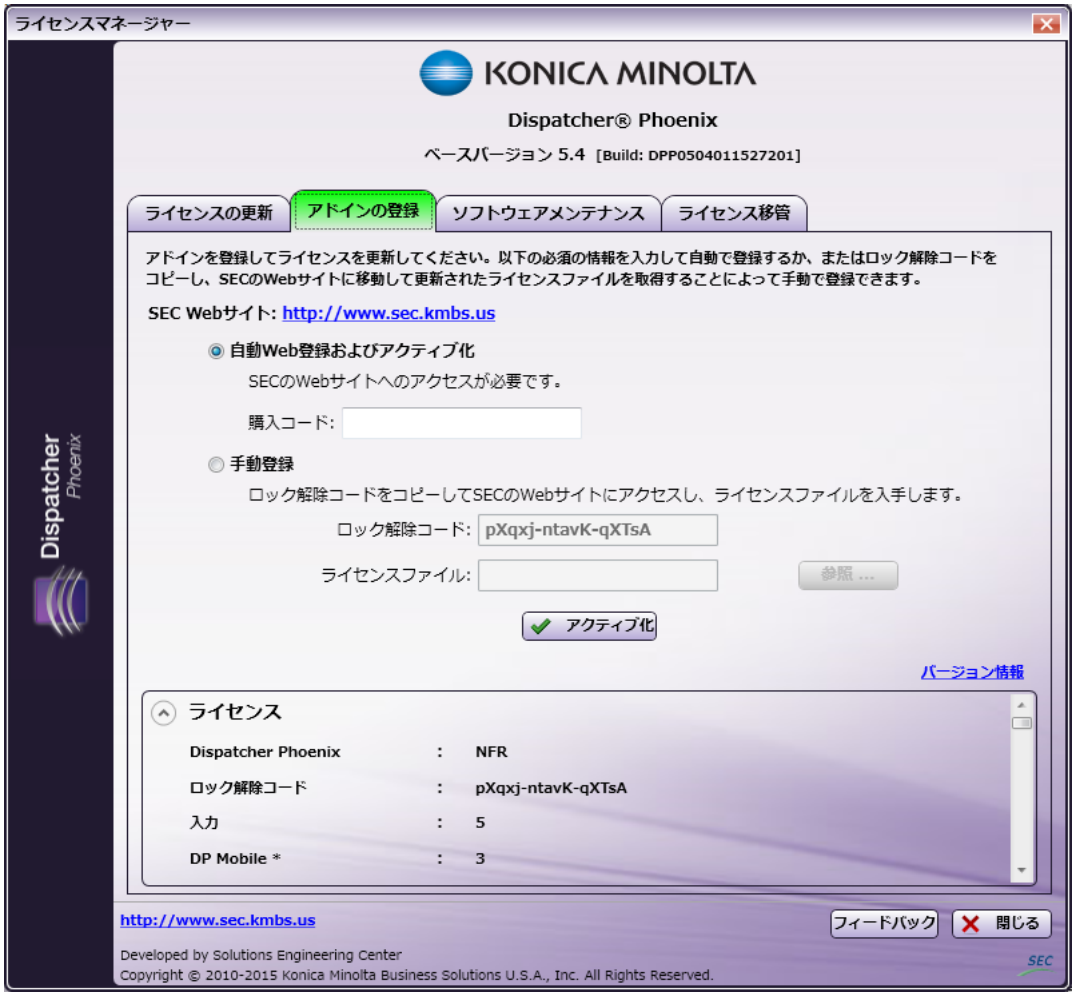
また、追加のアクティブ入力をアドインモジュールとして購入することもできます。追加のアクティブ入力を(SEC Webサイトまたはコニカミノルタの販売担当者から)購入したら、後はそのアドインを登録するだけです。つまり、ダウンロードやインストール用のソフトウェアは必要ありません。

インストール済みの **Dispatcher Phoenix** に追加する形になるため、アドインの登録処理は、前述のメインアプリケーションの登録処理とは少し異なります。

注意: ライセンスファイルは、インストール環境対象に固有のものです。別のコンピューターのライセンスファイルは使用できません。

アドインを登録するには、以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenixの **[ヘルプ]** メニューまたはアドインマネージャーの **[ツール]** プルダウンから **[アドインの登録...]** を選択します(デモバージョンのDispatcher Phoenixを実行している場合は、**[アドインの登録...]** オプションが **[製品の登録...]** に変わります)。次の図で示すように、**[アドインの登録]** タブが表示された状態で[ライセンスマネージャー]が開きます。



2. 以下の操作が実行できます。
    - 自動的に登録する
    - 手動で登録する
3. 購入コードまたはライセンスファイルを **[アクティブ化]** します。

    [処理が完了しました]ウィンドウが開き、登録したアドインモジュールが表示されます。
4. **[OK]** ボタンを選択してメッセージを閉じてから、[ライセンスマネージャー]で **[閉じる]** ボタンを選択します。更新されたライセンスが検出されたことと、そのライセンスで使用できる新しいパッケージをインストールするためにアドインマネージャーが使用されることを通知するメッセージが表示されます。
5. **[ユーザーアカウント制御]** ウィンドウが表示され、Dispatcher Phoenixのインストールによってシステムが変更されてもよいかどうか確認を求められたら、**[はい]** を選択します。
6. インストール元の場所が複数検出された場合には(CD/DVD、USBドライブ、インターネットなど)、**[パッケージリポジトリの選択]** ウィンドウが表示されます。使用可能なインストール元の場所がすべて示されるので、いずれかのパッケージリポジトリを選択できます。このウィンドウが表示されたら、適切なインストール元を選択します。
7. アドインマネージャーが起動し、該当するパッケージがダウンロードおよびインストールされます。

アドイン - 自動Web登録

アドインを自動的に登録するには、以下の操作を行います。

1. **[自動Web登録およびアクティブ化]** ラジオボタンを選択します。
2. **[購入コード]** フィールドに、アドインモジュールの購入コードを入力します。
3. **[アクティブ化]** ボタンを選択します。

アドイン - 手動登録

手動で登録する場合は、**[手動登録]** ラジオボタンを選択して、ロック解除コードをコピーします。SEC Webサイト にアクセスして、アプリケーションを登録します。アプリケーションを登録するには、以下の手順に従います。

1. ロック解除コードをクリップボードにコピーします。
2. 登録ページのリンクをクリックすると、ブラウザーが開き、SEC Webサイト にアクセスします。
3. **[Register(登録)]** ボタンを選択します。

4. **[Click here to register your add-in or software maintenance(アドインまたはソフトウェアのメンテナンスを登録するにはここをクリック)]** ラジオボタンを選択します。
5. アドインの購入時に受け取った有効な購入コードを入力します。
6. インストールされた **Dispatcher Phoenix** からロック解除コードを入力するか、貼り付けます。

   重要: アドインの場合は、確認のためにロック解除コードを入力する必要があります。メインアプリケーションの登録処理とはこの点が異なります。
7. **[Submit(送信)]** ボタンを選択して、アプリケーションに対応するライセンスファイルを生成します。このファイルへのリンクが表示されます。リンクをクリックしてライセンスファイルをダウンロードします。
8. **Dispatcher Phoenix** アプリケーションに戻って、該当するライセンスファイルを見つけて選択し、**[アクティブ化]** をクリックします。**アクティブ化する前にライセンスファイルを解凍しないでください。**

注: コニカミノルタSECアプリケーションの購入、ダウンロード、インストール、およびライセンスの方法に関する追加情報は、SEC Webサイト の「Assistance(サポート)」セクションを参照してください。

ライセンス

購入してすぐに利用できる特徴や機能や、製品を強化するためにどのアドインを購入して登録するかの決定にいたるまで、アプリケーションの機能や能力は **Dispatcher Phoenix** のライセンスによって決まります。

インストールされている特定の **Dispatcher Phoenix** にライセンスされている機能を表示するには、**[ヘルプ]** メニューから **[ライセンスマネージャー]** を選択します。基本ノードとアドインノードは別々に整理されます。さらに、[インストール済み]または[未インストール]というステータスが各ノードの横に表示されます。ノードがインストールされていても、そのノードが機能するためにはアプリケーションを再起動する必要がある場合は、ノードの横に [インストール済み] (アプリケーションの再起動が必要) のステータスが表示されます。ライセンスマネージャーの詳細については**「ライセンスマネージャー」**のセクションを参照してください。

ライセンス - アクティブ入力のカウント

Dispatcher Phoenixは **アクティブ入力** によってライセンスされています。入力は、ワークフローへの任意のエントリポイント（入力フォルダー、複合機ユーザーボックス、複合機パネル、LPR入力、SMTP入力、Googleクラウドプリンター、FTP、DP Mobile、Workstation、電子メール入力、Dropbox入力）であり、ワークフローの実行中、または実行がスケジュールされている時にアクティブとみなされます。つまり、スケジュールされたワークフローをアクティブ化するにはライセンスが使用されます。複製または無効化されたアクティブ入力は、アクティブな入力カウントを増加させません。

注: Workstation収集ノードおよびDispatcher Phoenix Mobile収集ノードは、ワークフローの実行で使用される場合、アクティブ入力を消費しません。ただし、これらの機能を使用するにはユーザーライセンスを購入する必要があります。

アクティブ入力は、以下によって複数のワークフローにわたってカウントされます。

入力ノード	フォルダーパス	ホスト名	IPアドレス	印刷キュー	URL
複合機パネル	-	✓	✓	-	-
Dropbox入力	✓	-	-	-	-
電子メール入力	-	✓	✓	-	-
FTP入力	✓	✓	✓	-	-
Googleクラウドプリント	-	-	-	✓	-
HTTP入力	-	-	-	-	✓
入力フォルダー	✓	-	-	-	-
JDFコンバーター	✓	-	-	-	-
LPR入力	-	-	-	✓	-
複合機ユーザーボックス	-	✓	✓	-	-
SMTP入力	-	✓	✓	-	-
Webキャプチャ	-	✓	✓	-	-

これは、複数のワークフローで使用される1つのデバイスが一度だけカウントされることを意味します。同様に、複合機パネル、複合機ユーザーボックス、SMTP入力など、複数の入力ノードで使用される1つのデバイスは一度だけカウントされます。複数のワークフロー内の複数の入力フォルダーが同じディレクトリから収集している場合、それらは一度だけカウントされます。

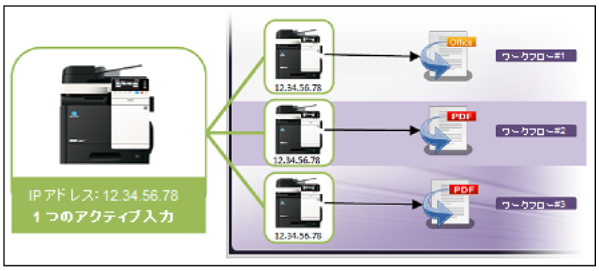
注: Dispatcher Phoenix MobileおよびWorkstation収集ノードは、アクティブな入力としてカウントされません。

より複雑なワークフローの場合は、追加のDispatcher Phoenixライセンスを購入して、入力の数を増やすことができます。追加のライセンスにより利用可能な入力の数がライセンスごとに1つ増えます。

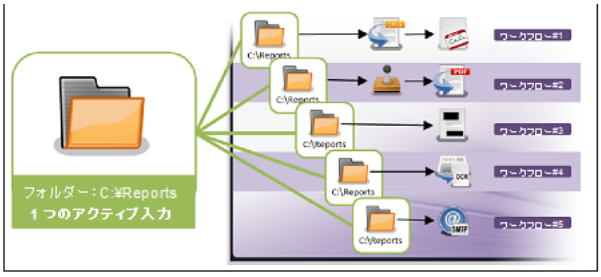
注: デモバージョンには、使用可能なアクティブ入力が3つ付属しています。ただし、デモバージョンではこの3つ以外に追加の入力をライセンスすることはできません。

次の例ではすべて、「1つ」のアクティブ入力がカウントされます。

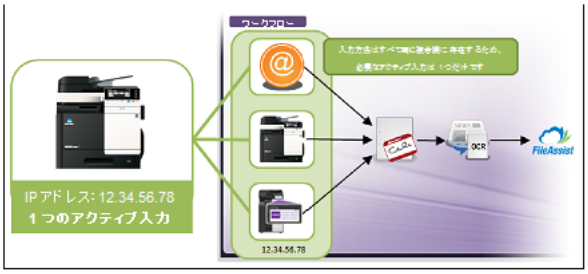
3つのワークフローが同じデバイス上で実行されている場合(アクティブ入力の合計数=1)



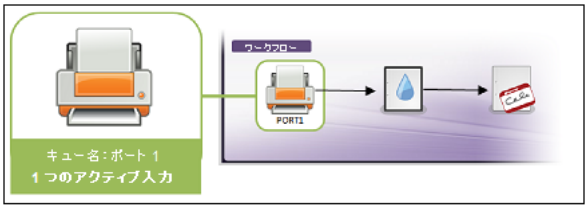
5つのワークフローが同じ入力パスから収集している場合(アクティブ入力の合計数=1)



異なる3種類の入力ノードが含まれ、そのすべてが同じデバイスを使用する1つのワークフローの場合(アクティブ入力の合計数=1)



「LPR入力」入力ノードを使用する1つのワークフローの場合(アクティブ入力の合計数=1)



アクティブ入力の制限

- 複合機パネル - ワークフロー当たり1つの複合機パネルノード。
- SMTP入力 - ワークフロー当たり1つのSMTP入力ノード。一度に実行できるSMTP入力ワークフローは1つだけです。
- LPR入力 - 制限なし。

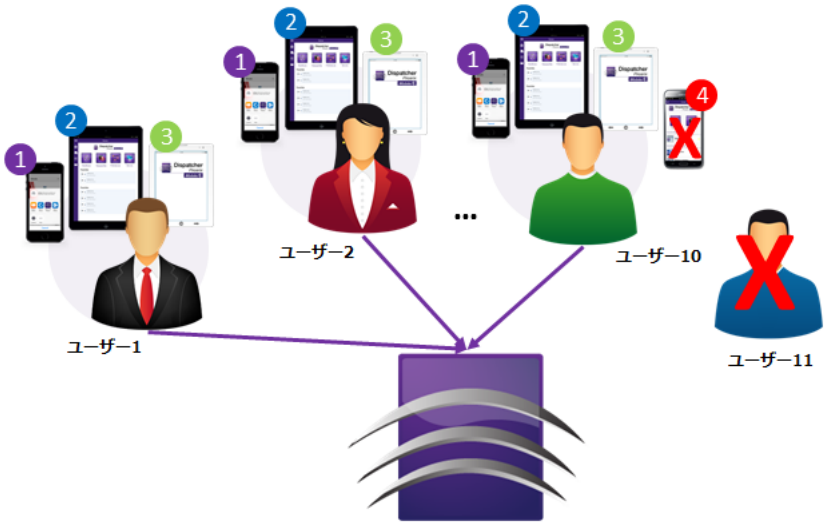
DP Mobileのライセンス

DP Mobile入力ノードはDispatcher Phoenixのどのエディションにも含まれていますが、DP Mobileを使用可能にする前に、DP Mobileユーザー用の適切なライセンスを購入する必要があります。

Dispatcher Phoenixモバイルは、次の形態でライセンスされます。

- **ユーザー** - 10、25、50、100、250、500、および1,000ユーザー用のライセンスパックを購入できます。
- **デバイス** - 各個人ユーザーは、最大3台のデバイスを使用してDispatcher Phoenixサーバーに接続できます。

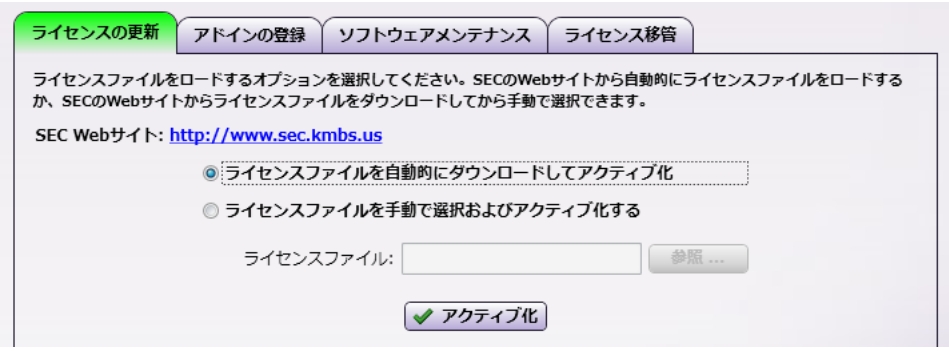
たとえば、DP Mobileの10ユーザー用ライセンスパックでは、3台のデバイスそれぞれで10人のユーザーがDP Mobileを使用できます。例については、次の図を参照してください。



アプリケーションのメイン画面にある **[ツール]** メニューによりアクセスできる **[オプション]** ウィンドウを使用すると、DP Mobileのライセンス情報を表示できます。

ライセンスの再アクティブ化

稀に、システムエラーまたは改ざんによってライセンスファイルが変更される事態が発生することがあります。この場合、元のライセンスファイルを再適用して、アプリケーションを動作状態に戻すことができます。ライセンスファイルが読み取れなくなったり、改ざんされたりした場合は、[ライセンスマネージャー]の次のセクションに入力する必要があります。

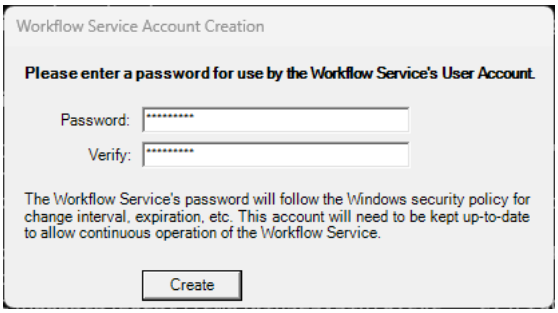


ライセンスを復元するには、Webを介して **Dispatcher Phoenix** を自動的に再アクティブ化するか、手動でライセンスファイルを復元できます。

- ライセンスファイルを自動的に復元するには、**[ライセンスファイルを自動的にダウンロードしてアクティブ化]** ラジオボタンをクリックして、**[アクティブ化]** ボタンを選択します。**Dispatcher Phoenix** は、SEC Webサイトにアクセスして該当するライセンスファイルをダウンロードし、そのライセンスを再インストールして再アクティブ化します。
- ライセンスを手動で復元するには、**[ライセンスファイルを手動で選択およびアクティブ化する]** ラジオボタンをクリックします。**[参照]** ボタンを使用して、ダウンロードされた元のライセンスファイルを見つけて選択します。ライセンスを選択したら、**[アクティブ化]** をクリックしてライセンスを再アクティブ化します。

ログイン資格情報が必要

登録とライセンス認証が終わると、[Setup-SEC Workflow Services(セットアップ - SEC Workflow Services)]ウィンドウが開き、パスワードを入力(または作成)して確認するよう求められます。



オプション ノード(アドイン)

Dispatcher Phoenix には、堅牢な収集、処理、および配信 **ノード** のセットが含まれています。**アドインマネージャー(Add In Manager)** を使用して、**オプションのアドインノード** と **ノードバンドル** を追加することによって、Dispatcher Phoenixの能力と機能を拡張し、強化することができます。利用可能なオプションは次のとおりです。

注: このトピックで説明されている拡張オプションは、Dispatcher Phoenix 基本ライセンスでのみ使用できます。**Dispatcher Phoenix ScanTrip** または **Dispatcher Phoenix Release2Me+** では使用できません。ここにリストされている多くのアドインノードとノードバンドルは、**Dispatcher Phoenix バーティカル市場パッケージ** からも入手することができます。

オプション ノード（アドイン）

以下に、DispatcherPhoenix 基本ライセンスで使用できるオプションのアドインノードを示します。ノードは、バンドルの一部としてのみ利用可能です。詳細については、以下の **Dispatcher Phoenix オプション アドインバンドル** セクションを参照してください。

収集ノード (オプション)

ノード	説明
DSP ローカル入力	Dispatcher Phoenixがカスタムビルドのローカル実行可能ファイルからドキュメントを受け入れることを許可します。
DSP Web入力	Dispatcher PhoenixがカスタムビルドのWebアプリケーションからドキュメントを受け入れることを許可します。
電子メール入力	電子メールサーバー上のフォルダーまたは受信トレイから電子メールを収集します。
HTTP入力	Webサービスを介してアップロードされたファイルを受診します。
JDFコンバーター	JDFファイルから情報を解析します。
SMTP入力	複合機から送信された電子メールを受信します。
Workstation	スキャンオペレーターがページ/ドキュメントの操作や並べ替えなどのために、高速スキャナー（およびその他のソース）から画像をインポートできるようにします。

処理ノード (オプション)

ノード	説明
高度なベイツスタンプ	スキャンしたイメージファイルとPDFにベイツスタンプを無制限に配置します。
OmniPageによる2Dバーコード処理	ユーザー定義ゾーンを使用して、スキャンしたドキュメントの2次元バーコードから情報を認識して抽出します。OmniPage **OCR エンジン**が含まれています。
OmniPageによるバーコード処理	ユーザー定義ゾーンを使用して、スキャンしたドキュメントのバーコードから情報を認識して抽出します。受信したドキュメントにバーコードを自動的に適用するバーコードライターノードも付属しています。OmniPage **OCR エンジン**が含まれています。
バーコードライター	受信したドキュメントにバーコードとバーコードラベルを挿入します。
バッチインデックス	インデックスオペレーターが、Dispatcher Phoenix Webを介してドキュメントにメタデータを（手動または自動で）入力/割り当てできるようにします。
Bubble Grader	OMRバブルシートテストを自動的に採点し、分析レポートを生成します。
Bubble Sheet Generator	バブルシートの解答キーと学生の解答シートを生成するツール。
CDAジェネレーター	EHRなどの主要な医療システムにインポートするために、患者記録やその他の医療文書を標準のHL7 CDA XML形式に変換します。
OmniPageによるOfficeに変換	イメージファイルとPDFをWord、Excel、PowerPointなどの標準のMicrosoft Officeドキュメントに変換します。OmniPage **OCR エンジン**が含まれています。
コピー保護	コニカミノルタのコピー保護機能をドキュメントに適用します。
OmniPageによる仕分け	スキャンしたドキュメントを事前定義されたクラスに自動的に仕分けします。OmniPage **OCR エンジン**が含まれています。
DSP ローカル	Dispatcher Phoenixがカスタムビルドのローカル実行可能ファイルと統合できるようにします。
DSP Web	Dispatcher PhoenixがカスタムビルドのWebアプリケーションと統合できるようにします。
電子メール解析	電子メールの添付ファイルを抽出し、電子メールのヘッダーメタデータを解析し、設定された条件に基づいて電子メールをルーティングします。
フォーム処理	パターンマッチングテクノロジーを使用してデータを抽出および処理します。OmniPage **OCR エンジン**、Tesseract **OCR エンジン**、aiDocuDroid **OCR エンジン**、およびaiDocuDroid手書き **ICR エンジン**が含まれています。
OmniPageによる強調/取り消し線	ユーザー指定の検索条件に基づいて、重要な情報を強調表示したり、テキストに取り消し線を付けたりします。OmniPage **OCR エンジン**が含まれています。
HL7 解析	HL7 メッセージからデータと埋め込みドキュメントを抽出して処理します。
KDKコード生成	Kodak KDK/KDE PDLコマンドをPDFまたはPostscriptファイルに追加して、Kodak Digimasterでの印刷を容易にします。
KDK-PDLコンバーター	Konica Minolta PDLコマンドをKodak KDK/KDE PDLコマンドに、またはKodak KDK/KDE PDLをKonica Minolta PDLに変換することによってKonica MinoltaとKodakプリンター間の通信を促進します。
高度なOCR用OmniPage	高度なOCRノードで、OmniPage **OCR エンジン**を有効にします。
PDFに変換用OmniPage	PDFに変換ノードで、OmniPage **OCR エンジン**を有効にします。
OmniPageによる墨消し	検索条件に基づいて、スキャンしたイメージファイルから機密情報を除外します。 OmniPage **OCR エンジン**が含まれています。
Release2Me	安全で便利な印刷リリースシステムのために、複合機で後からアクセスできるように、ジョブをキューに印刷する機能を提供します。
Rx保護	受信する処方箋に改ざん防止機能を適用します。
検証	オペレータは**Dispatcher Phoenix Web**を介して品質保証のためにドキュメントを検証できます。

サービス（オプション）

ノード	説明
SMTPマネージャー	管理ユーザーに、SMTP経由で電子メールを受信し、ワークフローサービスに送信するSMTPサービスを構成することを許可します。

配信ノード（オプション）

ノード	説明
Cloud Fax コネクター	Dispatcher ScanTripおよびDispatcher Paragonを使用しているお客様は、Upland InterFAX クラウドベースのFAXシステムに接続できます。
DocRecord コネクター	Dispatcher Phoenixを使用している顧客が、ドキュメントをDocRecordサーバーに配信できるようにします。
DocuSign コネクター	Dispatcher Phoenixを使用している顧客が、ドキュメントをDocuSignに配信できるようにします。
DSP ローカル出力	Dispatcher Phoenixが、ローカル実行可能ファイルを介してカスタマイズされた出力にドキュメントを配信できるようにします。
DSP Web出力	Dispatcher Phoenixが、Webアプリケーションを介してカスタマイズされた出力にドキュメントを配信できるようにします。
Guardian コネクター	複合機でスキャンしたI-9ドキュメントをLawLogix Guardianプラットフォームに配信します。
HL7コネクター	標準的なHL7メッセージ形式で電子カルテなどのサードパーティシステムに患者のドキュメントを送信します。
HTTP出力	入力ファイルを指定されたURLにアップロードします。
Laserfiche コネクター	Laserficheのコンテンツ管理システムによる収集用に、処理されたドキュメントを監視フォルダーに配信します。
M-Files コネクター	複合機、または、自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックスして、M-Filesに配信します。
OnBaseコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ドキュメントをスキャン、インデックスして、OnBaseコンテンツ管理システムにアップロードします。
Rightfaxコネクター	ドキュメントをスキャン、インデックスして、Rightfaxサーバーにアップロードします。
Square 9 Softworks コネクター	ドキュメントをスキャン、インデックスして、Square 9サーバーにアップロードします。
Upland InterFAXコネクター	ファイルをスキャン、およびインデックスしてUplandのInterFAX デジタルファクスサービスへ配信します。
Windows Faxコネクター	ローカルFAXモデムまたはFAXサーバーを介してファイルをスキャン、インデックス付け、および配信します。
Workshareコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、処理、およびWorkshareに配信します。
Worldoxコネクター	複合機、または自動化されたワークフローを介して、ファイルをスキャン、インデックス付け、およびWorldoxドキュメント管理システムに配信します。

システムワークフロー（オプション）

システムワークフロー	説明
Release2Me システムワークフロー	システムエディターを使用した使いやすい印刷リリースソリューション。このシステムワークフローはRelease2Meパッケージに含まれています。

Dispatcher Phoenix オプション アドインバンドル

バンドル名	含まれるノード	パッケージに含まれるもの
バーコード処理	**バーコード処理** **バーコードライター**	Dispatcher Phoenix ECM Dispatcher Phoenix Finance Dispatcher Phoenix Government Dispatcher Phoenix Healthcare
バッチインデックスパッケージ	**バッチインデックス** **バッチマネージャー** **レポート** **検証**	Dispatcher Phoenix ECM
DSP バンドル	**DSP Local In** **DSP Web In** **DSP ローカル入力** **DSP Web入力** **DSP ローカル** **DSP Web**	なし
電子メール バンドル	**電子メール入力** **電子メール解析** **SMTP入力**	Dispatcher Phoenix ECM Dispatcher Phoenix Healthcare
HL7 バンドル	**CDAジェネレーター** **HL7コネクター** **HL7 解析**	Dispatcher Phoenix Healthcare
KDK バンドル	**KDKコード生成** **KDK-PDLコンバーター**	なし
PDF処理 バンドル	**PDFページクロップ** **PDFページ削除** **PDFページ複製** **PDFページ挿入** **PDFページ移動** **PDFページシフト** **PDFページリサイズ** **PDFコンテンツ回転**	なし
墨消し & 強調/取り消し線 バンドル	**強調/取り消し線** **墨消し**	Dispatcher Phoenix ECM Dispatcher Phoenix Education Dispatcher Phoenix Finance Dispatcher Phoenix Government Dispatcher Phoenix Healthcare Dispatcher Phoenix Legal
Release2Me ライセンス	**Dispatcher Phoenix Release2Me ドライバー** **Release2Me ノード** **Release2Me システムワークフロー**	Dispatcher Phoenix ECM Dispatcher Phoenix Release2Me+

注: Dispatcher Phoenixオプションのアドインバンドルに含まれているノードは、個別に購入することはできません。**バンドルでのみ** 購入することができます。

Dispatcher Phoenix バーティカル市場のオプションパッケージ

Dispatcher Phoenixには、信頼性の高い収集、処理、および配信**ノード**のセットが含まれています。**アドインマネージャー**を使用して1つ以上のDispatcher Phoenixバーティカル市場パッケージを追加することにより、Dispatcher Phoenixのパワーと機能を拡張および強化することができます。利用可能なオプションは以下のとおりです。

注: このトピックで説明されている拡張オプションは、Dispatcher Phoenix 基本ライセンスでのみ使用できます。**Dispatcher Phoenix ScanTrip**、または**Dispatcher Phoenix Release2Me+**では使用できません。ここにリストされている多くのアドインノードとノードバンドルは、以下にリストされている **Dispatcher Phoenix バーティカル市場パッケージ** からも利用することができます。

Dispatcher Phoenix 基本ライセンスを購入すると、1つまたはそれ以上の次のバーティカル市場のオプションパッケージを追加することができます。

- **Dispatcher Phoenix Legal**
- **Dispatcher Phoenix Healthcare**
- **Dispatcher Phoenix Education**
- **Dispatcher Phoenix Finance**
- **Dispatcher Phoenix Government**
- **Dispatcher Phoenix Office**
- **Dispatcher Phoenix ECM**

Legal オプションパッケージ

Dispatcher Phoenix 基本ライセンスを購入した場合、このオプションパッケージを追加できます。法律業界のニーズに合わせてカスタマイズされたDispatcher Phoenix Legalは、法律事務所で最もよく使用されるドキュメント処理を含んでいます。Dispatcher Phoenix Legalには、Dispatcher Phoenixに含まれるすべてのノードに加えて、次のノードが含まれます。

処理ノード

- **高度なベイツスタンプ**
- **OmniPageによるPDFに変換**
- **OmniPageによる強調/取り消し線**
- **OmniPageによる墨消し**

配信ノード

- **Guardian コネクター**

Healthcare オプションパッケージ

Dispatcher Phoenix 基本ライセンスを購入した場合、このオプションパッケージを追加できます。Dispatcher Phoenix Healthcareは医療専門家を対象としています。Dispatcher Phoenixに含まれるすべてのノードに加えて、Dispatcher Phoenix Healthcareには次のノードが含まれます。

収集ノード

- **電子メール入力**
- **SMTP入力**

処理ノード

- **OmniPageによる高度なOCR**
- **OmniPageによるバーコード処理** - **バーコードジェネレーター**が含まれています。
- **OmniPageによる2Dバーコード処理**
- **バーコードライター**
- **CDAジェネレーター**
- **OmniPageによるPDFに変換**
- **OmniPageによるOfficeに変換**
- **電子メール解析**
- **OmniPageによる強調/取り消し線**
- **HL7 解析**
- **OmniPageによる墨消し**
- **Rx保護**

配信ノード

- **OnBaseコネクター**
- **HL7コネクター**

Education オプションパッケージ

Dispatcher Phoenix 基本ライセンスを購入した場合、このオプションパッケージを追加できます。Dispatcher Phoenix Educationは、教育の専門家を対象としています。Dispatcher Phoenixに含まれるすべてのノードに加えて、Dispatcher Phoenix Educationには次のノードが含まれます。

処理ノード

- **OmniPageによる高度なOCR**
- **Bubble Grader** - **Bubble Sheet Generator ツール**が含まれています。
- **OmniPageによるPDFに変換**
- **OmniPageによるOfficeに変換**
- **OmniPageによる強調/取り消し線**
- **OmniPageによる墨消し**

Finance オプションパッケージ

Dispatcher Phoenix 基本ライセンスを購入した場合、このオプションパッケージを追加できます。Dispatcher Phoenix Financeは、銀行、信用組合、会計事務所などの金融サービス会社を対象としています。Dispatcher Phoenixに含まれるすべてのノードに加えて、Dispatcher Phoenix Financeには次のノードが含まれます。

処理ノード

- **OmniPageによる2Dバーコード処理**
- **OmniPageによる高度なOCR**
- **OmniPageによるバーコード処理** - **バーコードジェネレーター**が含まれています。
- **バーコードライター**
- **OmniPageによるPDFに変換**
- **OmniPageによるOfficeに変換**
- **OmniPageによる強調/取り消し線**
- **OmniPageによる墨消し**

Government オプションパッケージ

Dispatcher Phoenix 基本ライセンスを購入した場合、このオプションパッケージを追加できます。Dispatcher Phoenix Governmentは、州および連邦政府機関のドキュメント処理を合理化するように設計されています。Dispatcher Phoenixに含まれるすべてのノードに加えて、Dispatcher Phoenix Governmentには次のノードが含まれます。

処理ノード

- **OmniPageによる高度なOCR**
- **OmniPageによるバーコード処理** - **バーコードジェネレーター**が含まれています。
- **バーコードライター**
- **OmniPageによるPDFに変換**
- **OmniPageによるOfficeに変換**
- **コピー保護**
- **OmniPageによる強調/取り消し線**
- **OmniPageによる墨消し**

配信ノード

- **Laserfiche コネクター**

Office オプションパッケージ

Dispatcher Phoenix 基本ライセンスを購入した場合、このオプションパッケージを追加できます。Dispatcher Phoenix Officeは、一般的なオフィスユーザーにとって理想的なソリューションです。Dispatcher Phoenixに含まれるすべてのノードに加えて、Dispatcher Phoenix Officeには次のノードが含まれます。

処理ノード

- **OmniPageによる高度なOCR**
- **OmniPageによるPDFに変換**
- **OmniPageによるOfficeに変換**

Dispatcher Phoenix Officeには **Asian Font Pack (アジアン・フォント・パック)** も含まれています。

ECM オプションパッケージ

Dispatcher Phoenix 基本ライセンスを購入した場合、このオプションパッケージを追加できます。 Dispatcher Phoenix ECMにはDispatcher Phoenixのすべての特徴/機能、および以下を含む広範なアドインが含まれています。

収集ノード

- **電子メール入力**
- **SMTP入力**
- **Workstation**

処理ノード

- **高度なベイツスタンプ**
- **OmniPageによる高度なOCR**
- **OmniPageによるバーコード処理** - **バーコードジェネレーター**が含まれています。
- **OmniPageによる2Dバーコード処理**
- **バーコードライター**
- **バッチインデックス**
- **OmniPageによるPDFに変換**
- **OmniPageによるOfficeに変換**
- **コピー保護**
- **電子メール解析**
- **フォーム処理** - OmniPageおよび **OCR エンジン**、Tesseract **OCR エンジン**、aiDocuDroid **OCR エンジン**、および aiDocuDroid 手書き **ICR エンジン** が含まれています。
- **OmniPageによる強調/取り消し線**
- **OmniPageによる墨消し**
- **Release2Me**

システムワークフロー

- **Release2Me システムワークフロー**

配信ノード

- **OnBaseコネクター**

DP Web ツール

- **バッチインデックス**
- **バッチマネージャー**
- **ECMレポート**
- **Release2Me 印刷委任**
- **Release2Me レポート**
- **検証**

追加ライセンス

ECMパッケージには次のライセンスが含まれています。

- **バッチインデックス** (1)
- **Dispatcher Phoenix Mobile** (10)
- **Release2Me デバイス** (3)
- **Workstation** (1)

要件

オペレーティングシステム

Dispatcher Phoenixは、以下のプラットフォームで動作するように設計されています。

- Windows Server 2022
- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows 11
- Windows 10

サポートされているアーキテクチャ

- x86（32ビット）
- x64（64ビット）

注:

- WindowsオペレーティングシステムのHome、Small Business、またはEssentialsエディションのサポートは含まれていません。
- 各バージョンのオペレーティングシステムでは、最新のService Packのみがサポートされています。
- ドメインコントローラーは、環境のあらゆる面において非常に重要です。ドメインコントローラーに何らかのソフトウェアをインストールすると、コア機能（認証、承認、セキュリティ、監査など）に必要なリソースが奪われ、ドメイン全体のすべてのユーザーおよびコンピューターに影響を与える可能性があります。
- IntelのTiger LakeプロセッサでDispatcher Phoenix Workflow Servicesを使用すると、ワークフローが開始された直後に予期せず停止することがあります。Windowsイベントログには、「crypto.dll」エラーが含まれます。この問題が発生した場合は、Intelが公開している修正プログラム を参照してください。

インストールされる依存関係

Dispatcher Phoenixは、以下の依存関係をインストールします。

- Microsoft Windows Imaging Component (WIC)
- Windows PowerShell 2.0
- Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ x86
- Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ x64
- Microsoft Visual C++ 2013 再頒布可能パッケージ x86
- Microsoft Visual C++ 2013 再頒布可能パッケージ x64
- Microsoft Visual C++ 2015-2019 再頒布可能パッケージ x86
- Microsoft Visual C++ 2015-2019 再頒布可能パッケージ x64
- Microsoft .NET 4.8 再頒布可能パッケージ

ハードウェアの要件

画像のコンテンツはファイルによって大きく異なるため、処理する画像と現在実行されているワークフローによってはパフォーマンスは左右されることに注意してください。次の「推奨」ハードウェア構成を使用することをお勧めします。

複合機の数	1 - 10	11 - 50	51 - 100	100+
注釈、ドキュメントルーティング、名前の変更などの非OCRドキュメント処理	RAM - 8GB プロセッサー - クアッド コア2GHz+ ディスク容量 - 20GB+	RAM - 8GB プロセッサー - クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 100GB+	RAM - 16GB プロセッサー - クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 250GB+	RAM - 32GB+ プロセッサー - (3x) クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 500GB+
複数のアクティブなワークフローを使用した、注釈、ドキュメントルーティング、名前の変更などの非OCRドキュメント処理	RAM - 8GB プロセッサー - クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 100GB+	RAM - 8GB プロセッサー - クアッド コア 2GHz+ - 250GB+	RAM - 16GB - 2GHz+ ディスク容量 - 250GB+	RAM - 32GB+ プロセッサー - (3x) クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 500GB+
高度なOCR、バーコード、フォーム処理などのOCRドキュメント処理	RAM - 16GB プロセッサー - クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 100GB+	RAM - 16GB プロセッサー - クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 100GB+	RAM - 32GB プロセッサー - クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 250GB+	RAM - 64GB+ プロセッサー - (4x) クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 500GB+
複数のアクティブなワークフローによる高度なOCR、バーコード、フォーム処理などのOCRドキュメント処理	RAM - 16GB プロセッサー - クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 100GB+	RAM - 32GB プロセッサー - クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 250GB+	RAM - 32GB プロセッサー - (2x) クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 250GB+	RAM - 64GB+ プロセッサー - (4x) クアッド コア 2GHz+ ディスク容量 - 500GB+

注:

- 一般的なドキュメントの仕様: 50ページ、50%テキスト/画像、75%白黒。
- 50台以上の複合機をインストールする場合は、オフロードサーバーを推奨します。
- パフォーマンスはハードウェアの仕様に直接関連しています。
- OCRワークフローには、クアッドコアプロセッサが必要です。

ファイアウォールの例外

有効にすると、Windowsファイアウォールは、許可するアプリケーションとポートを除く、コンピューターへのすべての着信ネットワークトラフィックをブロックします。**Dispatcher Phoenix** をインストールする場合、次のフォルダーをウイルス対策ソフトウェアから除外する必要があることに注意してください。

- C:\Program Files\Konica Minolta\
- C:\Program Files (x86)\Konica Minolta\
- C:\Program Data\Konica Minolta

さらに、次の**Dispatcher Phoenix** の実行可能ファイルは頻繁にアラートをトリガーします。

- C:\Program Files\Konica Minolta\blox\blox-xmpp-cluster.exe
- C:\Program Files\Konica Minolta\blox\blox-xmpp-worker.exe
- C:\Program Files\Konica Minolta\conopsd\erts-5.10.4\bin\erl.exe
- C:\Program Files\Konica Minolta\conopsd\erts-5.10.4\bin\erlsrv.exe

注: erts-X.XX.X 実行可能ファイルのフォルダー名は変更される場合があります。

Dispatcher Phoenix は、ワークフロー、構成、およびログファイルを次の場所に書き込みます。

- %appdata%\Konica Minolta\Dispatcher Pro Phoenix Edition
- %localappdata%\Konica Minolta\BarcodeGenerator
- %localappdata%\Konica Minolta\BubbleGrader
- %localappdata%\Konica Minolta\Dispatcher Phoenix MFP Simulator
- %localappdata%\Konica Minolta\Dispatcher Pro Phoenix Edition
- %localappdata%\Konica Minolta\Form Builder
- %commonappdata%\Konica Minolta\kmf
- %commonappdata%\Konica Minolta\MFP Explorer
- %commonappdata%\Konica Minolta\Moxie
- %commonappdata%\Konica Minolta\Patterns
- %commonappdata%\Konica Minolta\Workflow Services Manager

注: Dispatcher Phoenixは、Windowsレジストリに構成データを書き込みます。

インストールされているオプションのアドインによっては、上記のすべてのフォルダーが存在しない場合があります。アンチウイルスにサブフォルダーが含まれている限り、親フォルダー %appdata%\Konica Minolta\ および%localappdata%\Konica Minolta\のみを除外できます。これらはユーザー固有のフォルダーであるため、ログインしている各ユーザーにはこれらのフォルダーの独自のコピーがあることに注意してください。

ポートと実行可能ファイル

- **KMBS bEST Server**
  - 実行可能ファイル: C:\Program Files\Konica Minolta\Tuscon\Tuscon.exe
  - 受信ポート: 50808 (HTTP), 50809 (HTTPS)
- **KMBS LPR Service**
  - 実行可能ファイル: C:\Program Files\Konica Minolta\blox\blox-lpd.exe
  - 受信ポート: 515 (LPD)
- **KMBS SMTP Service**
  - 実行可能ファイル: C:\Program Files\Konica Minolta\blox\blox-smtp.exe
  - 受信ポート: 25 (既定、ただしSMTPマネージャーで構成可能)
- **SEC Workflow Worker Process**
  - 実行可能ファイル: C:\Program Files\Konica Minolta\conopsd\erts-7.3\bin\erl.exe
  - 出力ポート: ワークフローで必要とされるあらゆる送信ポートへのバインドを試みます(例: 53, 80, 443, 25, 445, 465, 587)。
- **Add-In Manager**
  - 実行可能ファイル: C:\Program Files\Konica Minolta\AIM\2.6.0.0\AIM.exe
  - 送信 (HTTP) ポート 80, (HTTPS) ポート 443。

コニカミノルタ複合機の前提条件

Dispatcher Phoenixのワークフローは、グラフィカルユーザーインターフェイスおよびネイティブユーザーインターフェイスを使用して複合機上で実行します。前提条件は以下のとおりです。

- グラフィカルユーザーインターフェイスの場合、i-Option（LK-101またはLK-101 v2）および追加のメモリーが必要です。
- ネイティブユーザーインターフェイスの場合、i-Optionおよび追加のメモリーは「不要」です。

複合機パネルノードワークフローのデバイス要件

- bEST対応複合機でDispatcher Phoenixを登録するには、デバイスでOpenAPI 3.5またはそれ以降がサポートされている必要があります。サポートされているOpenAPIのバージョンについては、ファームウェアのリリースノートを確認することをお勧めします。
- 高度なスキャン設定（空白のページの削除、個別スキャン、ドキュメントのサイズ）を使用するには、デバイスがOpenAPI 4.13またはそれ以降をサポートされている必要があります。これらのデバイスは次のとおりです。
    - bizhub C287, C227
    - bizhub 367, 287, 227
    - bizhub C368, C308, C258
    - bizhub 958, 808
    - bizhub C658, C558, C458
    - bizhub 558, 458, 368, 308
    - bizhub 658e, 558e, 458e, 368e, 308e
    - bizhub C759, C659
    - bizhub C3851FS, C3851, C3351
    - bizhub 4752, 4052

デバイスの要件について、詳しくは**ここ** を確認してください。

ソフトウェアメンテナンス

Dispatcher Phoenixメインアプリケーションとすべてのアドインモジュールには、ソフトウェアメンテナンス（1、3、5年単位で提供）が必要です。このメンテナンスの内容は次のとおりです。

- マイナーアップデートおよびメジャーアップデート
- メンテナンスリリース
- 新しいオペレーティングシステムのサポート
- 重要な修正プログラム

メンテナンスの期限が切れても、引き続きアプリケーションを使用することができます。ただし、更新プログラムを入手したり、新しいパッケージをインストールしたりするには、ソフトウェアメンテナンスが有効でなければなりません。

注:

- **メインアプリケーション** - メインアプリケーションのソフトウェアメンテナンスの期限が切れた場合、失効後90日以内にメンテナンスを購入して有効にする必要があります。さらに、期限が切れて90日以上経過した場合、更新用のアクティベーションキーの購入と、メインアプリケーションに関連するメンテナンス更新アクティベーションキーを購入してアクティブ化する必要があります。
- **アドインモジュール** - アドインモジュール（高度なOCRなど）のソフトウェアメンテナンスの有効期限が切れた場合は、メンテナンスを随時購入してアクティブ化できます。

サポートされているすべてのデバイスモデルは、**複合機サポートリスト** にリストされています。古いデバイスモデルシリーズでのDispatcher Phoenixのサポート終了（EOS）が発表された場合、EOSの日付に到達した後、影響を受けるデバイスでのサポートは保証されなくなります。

Dispatcher Suite

Dispatcher Suite は、印刷管理とスキャンの両方のワークフローのための高度なプラットフォームで、スキャン用に **Dispatcher Phoenix** 、印刷管理、認証、および原価計算用に **Dispatcher Paragon** を統合しています。**Dispatcher Suite** を使用することで、ワークフローはスキャンと印刷の両方の効率に対して最適化されます。この統合ソリューションには、1つのインストーラーを使用して両方のプログラムをダウンロードしてインストールすることができる容易さ、および複合機でのシームレスなシングルサインオンエクスペリエンスが含まれます。

Dispatcher Paragon のヘルプドキュメントを参照するには、**ここをクリック** してください。

要件

Dispatcher Suite の場合、推奨される要件には、**Dispatcher Phoenix** および **Dispatcher Paragon** に必要なリソースがリストされています。それらは以下にリストされています。より具体的な推奨事項については、地域のセールスマネージャーまたはコニカミノルタ正規販売店にお問い合わせください。

Dispatcher Suite をインストールするには管理者権限が必要です。Dispatcher Suiteをインストールしたいコンピューターに対する管理者権限がない場合は、ネットワーク管理者に連絡してください。

すべてのプラットフォームで、最新のWindows Service Packと、Windows Update Webサイトから入手可能な重要な更新プログラムにアップグレードして、ベストな互換性とセキュリティを確保することをお勧めします。一部のオペレーティングシステムでは、最新のWindows Service Packのインストールが必要になる場合があります。

注: Dispatcher Suiteは、Active Directoryドメインの一部であるマシンにインストールする必要があります。

ハードウェア要件

カテゴリー	中小規模展開の推奨（例:最大100ユーザー、40デバイス、10-15ワークフロー）	大規模展開の推奨（例:サーバーあたり200以上のユーザー、200以上のデバイス、20以上のワークフロー）
プロセッサ	8コアCPU、2.5 Ghz以上 512MB以上のVRAM搭載	8コアCPU、2.5Ghz以上 512MB以上のVRAM搭載
メモリ	16 GB RAM	32GB RAM
ハードディスク速度	150MB/s または 100 I0PS または SSD	150MB/s または 100 I0PS または SSD および 少なくとも150MB/sのスループットと300 I0PSのストレージへの接続
必要な空き領域	256GB 空き領域	1TB 空き領域
デュアルサーバー設定		推奨

注: パフォーマンスを向上させるには、Dispatcher Suiteをソリッドステートドライブ（SSD）にインストールする必要があります。

オペレーティングシステム要件

Dispatcher Suite は、次世代のワークフロー自動化および印刷管理ソフトウェアです。仮想環境または物理環境の両方でサポートされています。

オペレーティングシステム	Service Pack	Dispatcher Paragon	Dispatcher Phoenix
Windows Server 2012	1	✓	✓
Windows Server 2012 R2 (推奨)	N/A	✓	✓
Windows Server 2016	N/A	✓	✓
Windows Server 2019	N/A	✓	✓
Windows Server 2022	N/A	✓	✓

注: Dispatcher SuiteはWindows Server 2012およびWindows Server 2012 R2をサポートしますが、Dispatcher PhoenixおよびDispatcher Paragon+はWindows Server 2016以降のみをサポートします。

依存関係

Dispatcher Suite には以下の依存関係が必要です。通常、Dispatcher Suiteインストーラーは、必要なすべての依存関係がシステムに存在しない場合、それらを検出して自動インストールします。

依存関係
Microsoft Windows Imaging Component (WIC)
Windows PowerShell 2.0
Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ x86
Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ x64
Microsoft Visual C++ 2015 再頒布可能パッケージ x86
Microsoft Visual C++ 2015 再頒布可能パッケージ x64
Microsoft .NET 4.8 再頒布可能パッケージ

ファイアウォールの例外

Dispatcher Phoenix

Dispatacher Phoenix 用にファイアウォールの例外を設定する方法については、**ここ** をクリックしてください。

Dispatcher Paragon

ウイルス対策保護が **Dispatcher Paragon** サーバーにインストールされている場合、Dispatcher ParagonディレクトリとDispatcher Paragonシステムサービス全体をウイルス対策のリアルタイムのテストから除外する必要があります。**Dispatcher Paragon** に必要なウイルス対策設定の詳細については、**ここ** をクリックしてください。

Dispatcher Suiteのインストール

Dispatcher Phoenix のスキャンおよび処理機能と **Dispatcher Paragon** の印刷管理機能をシームレスに統合するには、**Dispatcher Suite** をインストールする必要があります。これは **Dispatcher Phoenix** と**Dispatcher Paragon** の両方を自動的にダウンロードしてインストールするので、印刷、コピー、およびスキャン操作を作成および管理しながら、それらを並行して作業できるように統合できます。

Phoenix または **Paragon** を個別にインストールする場合、または個別のインストールで追加のサポートが必要な場合は、以下のリンクを使用してください。

- **Dispatcher Phoenixのインストール**
- **Dispatcher Paragonのインストール**

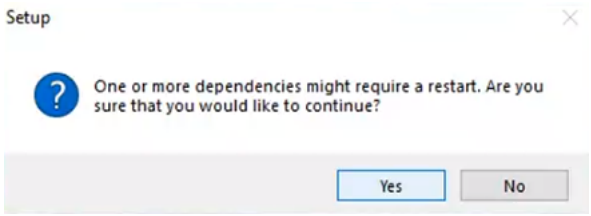
注: 2つのシステムを別々のサーバーにインストールする場合、2つのアプリケーションが効果的に通信するためには、別々のサーバー間でネットワークタイムプロトコル（NTP）または時刻同期を有効にする必要があります。

Dispatcher Suiteのインストール

CD/DVDまたは実行可能ファイルから **Dispatcher Suite** をインストールするには、次の手順を実行します。

1. CD/DVDを適切なドライブに挿入するか、デスクトップの **Dispatcher Suite** アイコンをダブルクリックしてインストールプロセスを開始します。
2. CD/DVDからインストールする場合は、自動再生ウィンドウが表示されます。**[Autorun.exeを実行]** オプションをクリックします。次の図のように **Dispatcher Suite** インストーラーが表示されます。

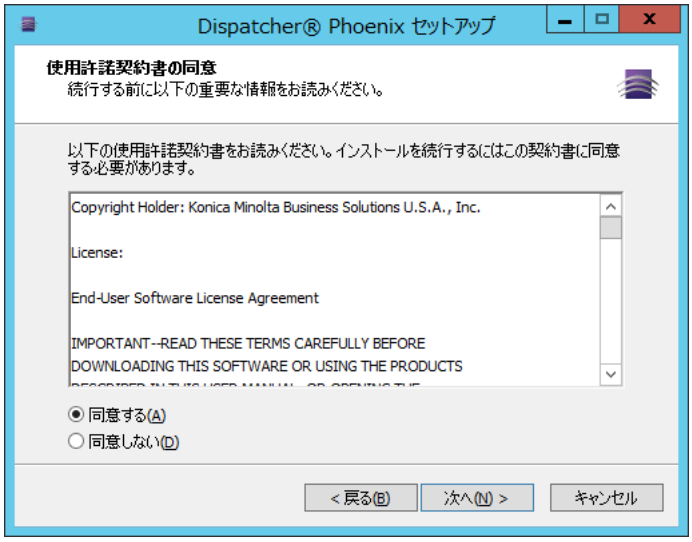
3. ドロップダウンリストを使用して、**[Dispatcher Suite]** を選択し、次に **[アプリケーションのインストール]** ボタンを選択します。お使いのPCに変更を加える許可を要求する **[User Account Control]** ウィンドウが表示されたら、**[Yes（はい）]** を選択します。
4. 1つ以上の依存関係について再起動を推奨するウィンドウが表示される場合があります。続行するには **[はい]** を押します。



5. セットアップウィンドウで、**[次へ]** ボタンを選択します。

6. セットアップウィンドウで、**[インストール]** ボタンを選選択します。
7. **Dispatcher Suite** セットアップが完了すると、**Dispatcher Phoenix** セットアップが開始されます。セットアップウィンドウで **[次へ]** をクリックします。

8. **[使用許諾契約書]** ウィンドウが表示されたら、使用許諾契約書を読みます。**[同意する]** ラジオボタンを選択して **[次へ]** をクリックします。



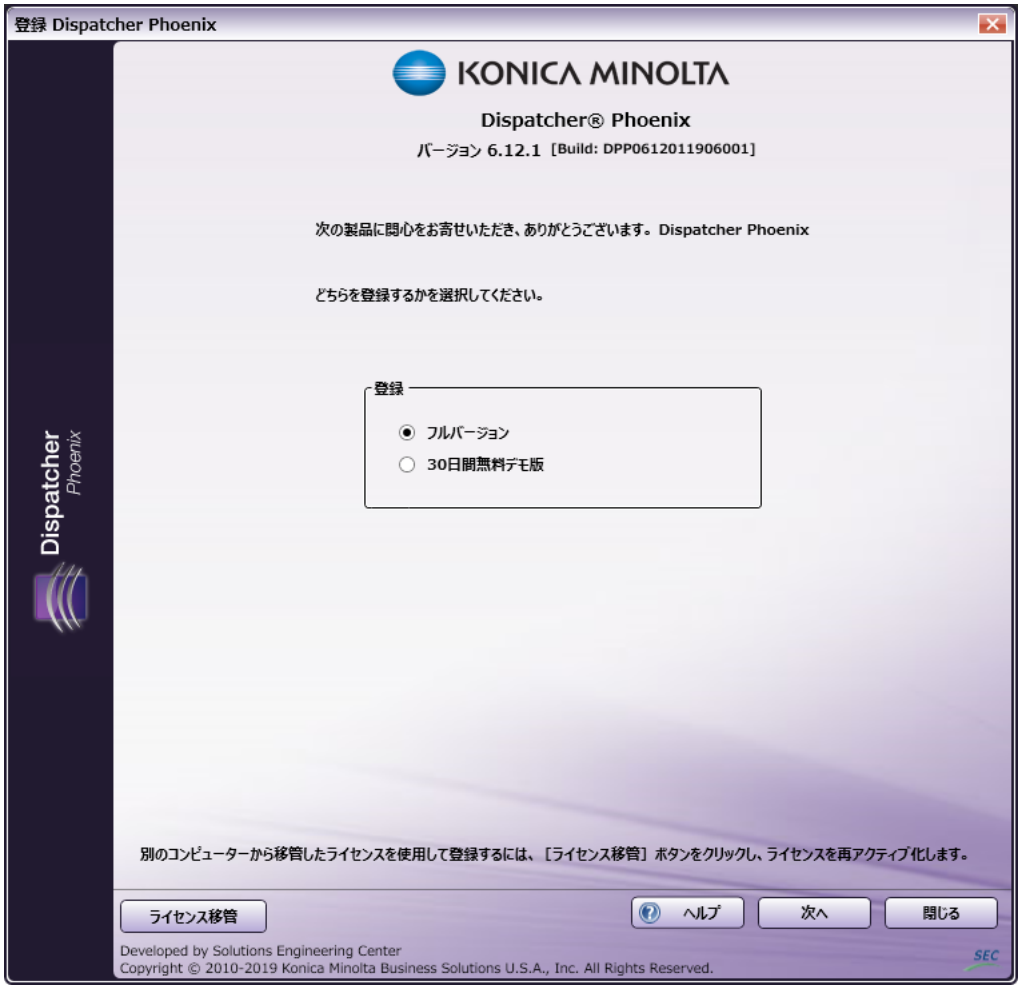
9. **[情報]** ウィンドウで情報を確認して **[次へ]** を選択します。

10. **[追加タスクの選択]** ウィンドウで、インストーラーによって実行される追加のタスクを決定し、**[次へ]** をクリックします。

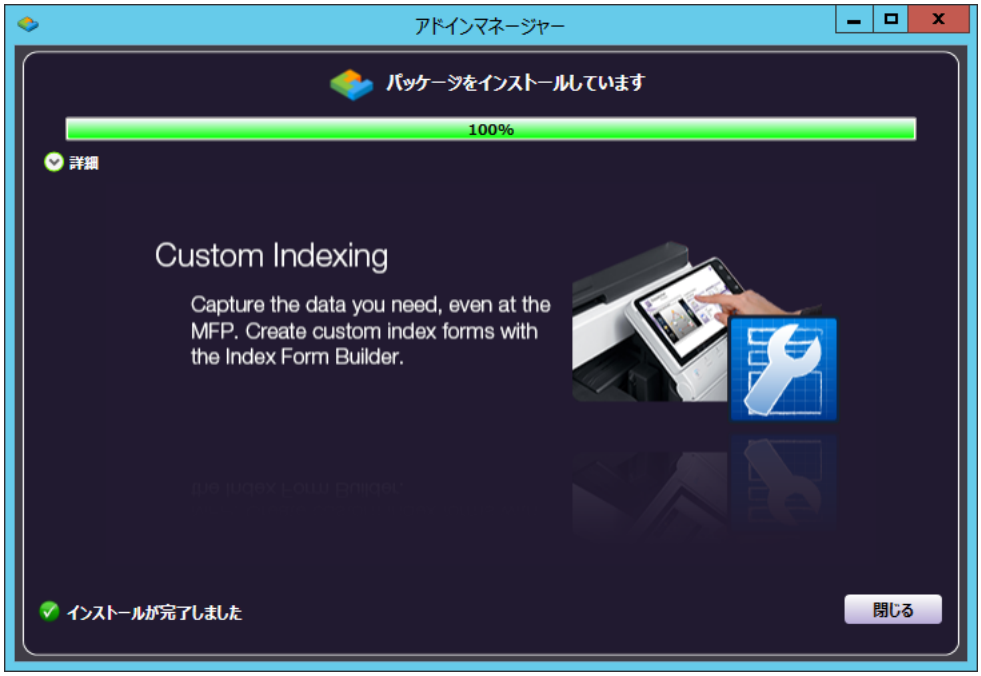
11. **[インストール準備完了]** ウィンドウで **[インストール]** を選択して**Dispatcher Suite** インストールを続行します。

12. アドインマネージャーが表示されたら、**[Dispatcher Suite]** リポジトリのボタンを選択します。

13. 次に、**[登録 Dispatcher Phoenix]** ウィンドウが表示されます。**[登録]** の下で、ご希望のバージョンを選択します。**Dispatcher Phoenix** の登録に関する詳細は、**ここ** をクリックしてください。

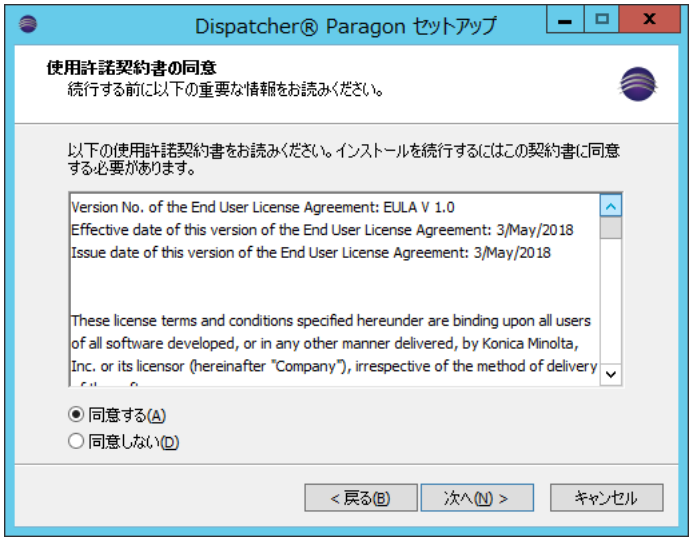


14. 登録が完了すると、**Dispatcher Phoenix** がインストールされます。
15. アドインマネージャーによるインストールが完了したら、**[閉じる]** をクリックします。



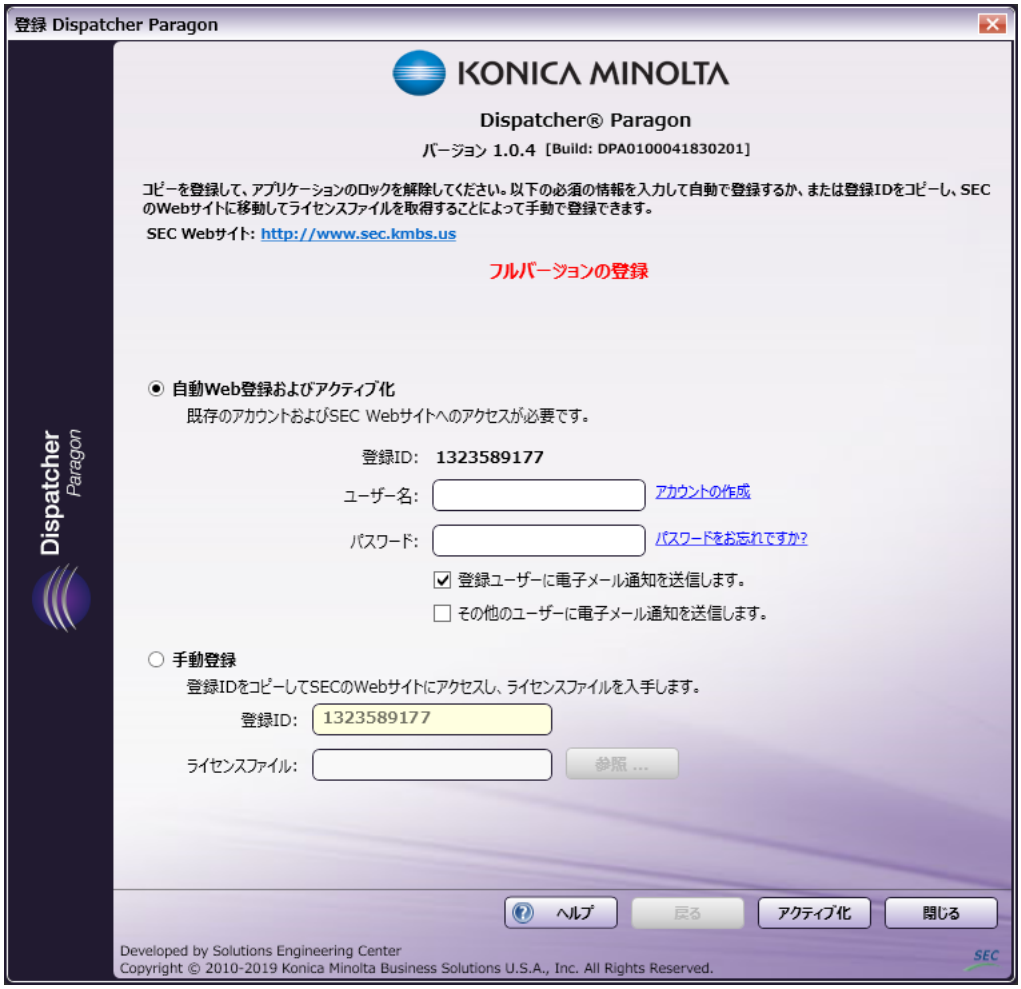
16. システムは自動的に再起動します。再起動すると、**アドインマネージャー** はすべての更新が完了したことを確認します。**[閉じる]** を選択します。
17. 表示された **[Dispatcher Paragon]** セットアップウィンドウで、**[次へ]** ボタンを選択します。

18. **[使用許諾契約書の同意]** ウィンドウが表示されたら、使用許諾契約書を読みます。**[同意する]** ラジオボタンを選択し、**[次へ]** をクリックします。

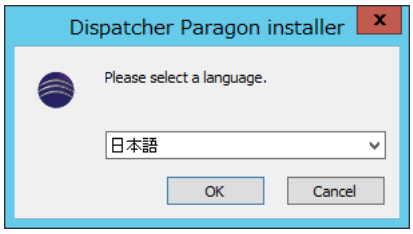


19. **[インストール準備完了]** ウィンドウが表示されます。戻って設定を確認または変更するには、**[戻る]** ボタンを選択します。インストールを続けるには、**[インストール]** ボタンを選択します。
20. 複数のソースの場所が検出されると、**[アドインマネージャー:パッケージリポジトリの選択]** ウィンドウが表示されます。**[Dispatcher Suite]** ボタンを選択します。

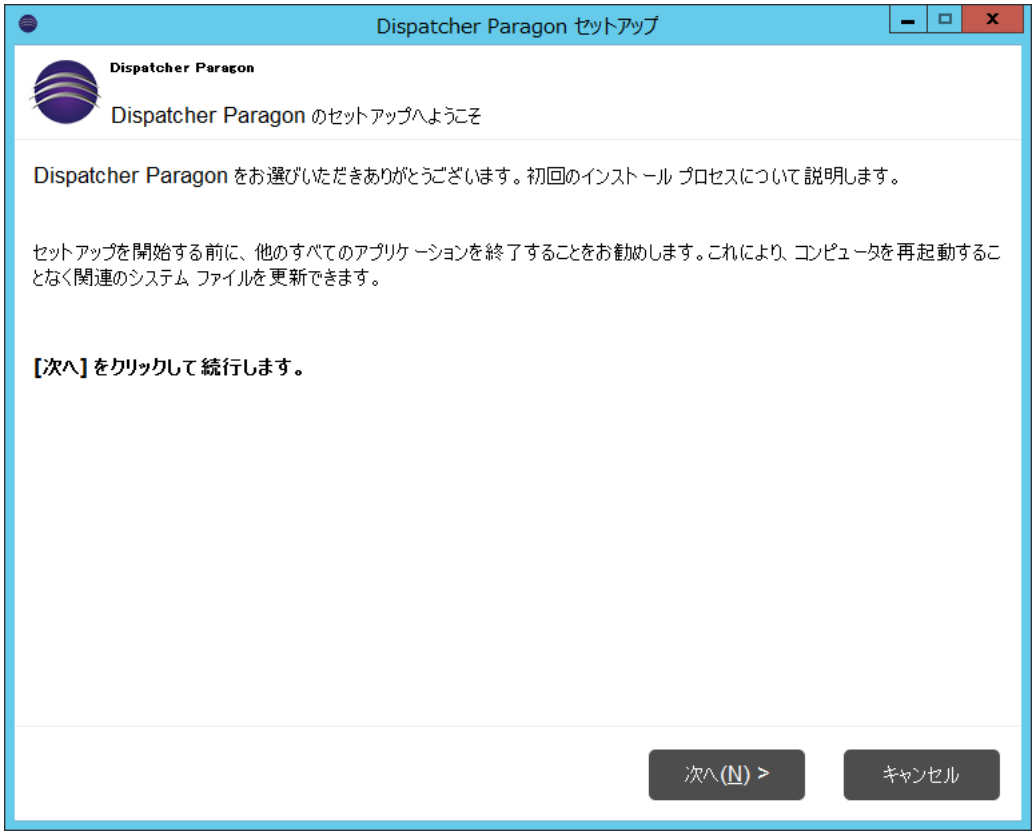
21. **[登録 Dispatcher Paragon]** ウィンドウで、SECアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。次に **[アクティブ化]** ボタンを選択します。



22. インストーラーウィンドウで、ドロップダウンリストを使用して使用したい言語を選択します。**[OK]** ボタンをクリックします。

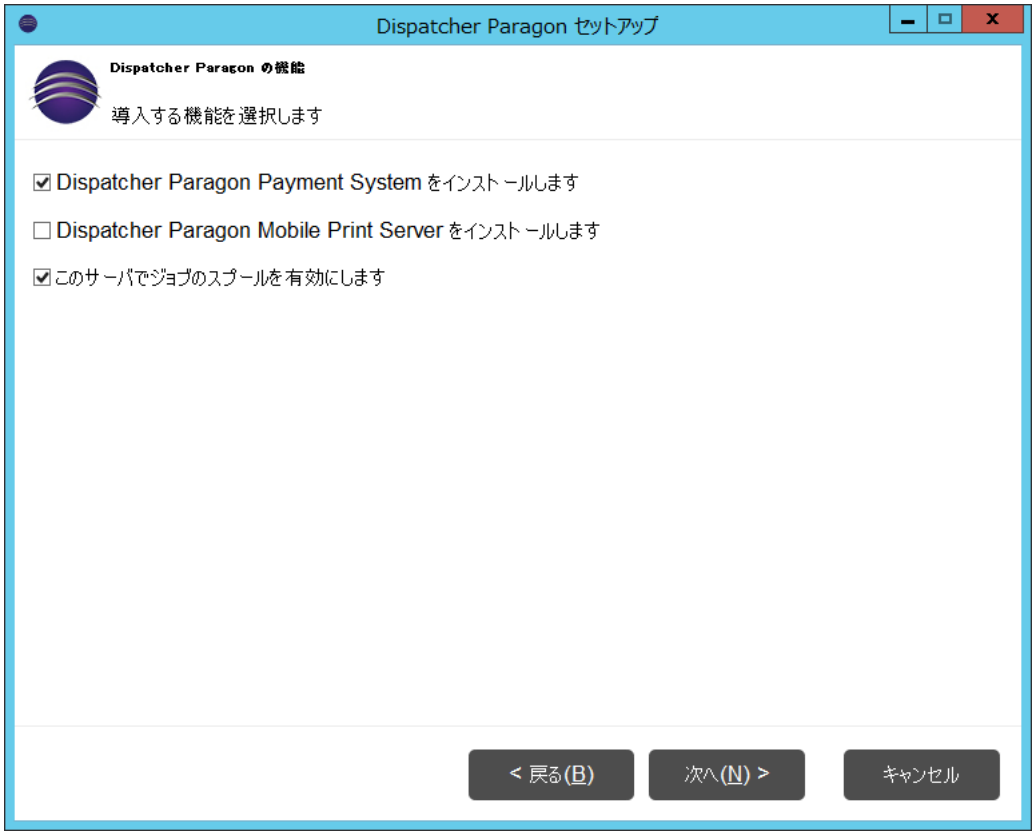


23. 次に、**[Dispatcher Paragonセットアップ]** ウィンドウが表示されます。**[次へ]** ボタンを選択します。

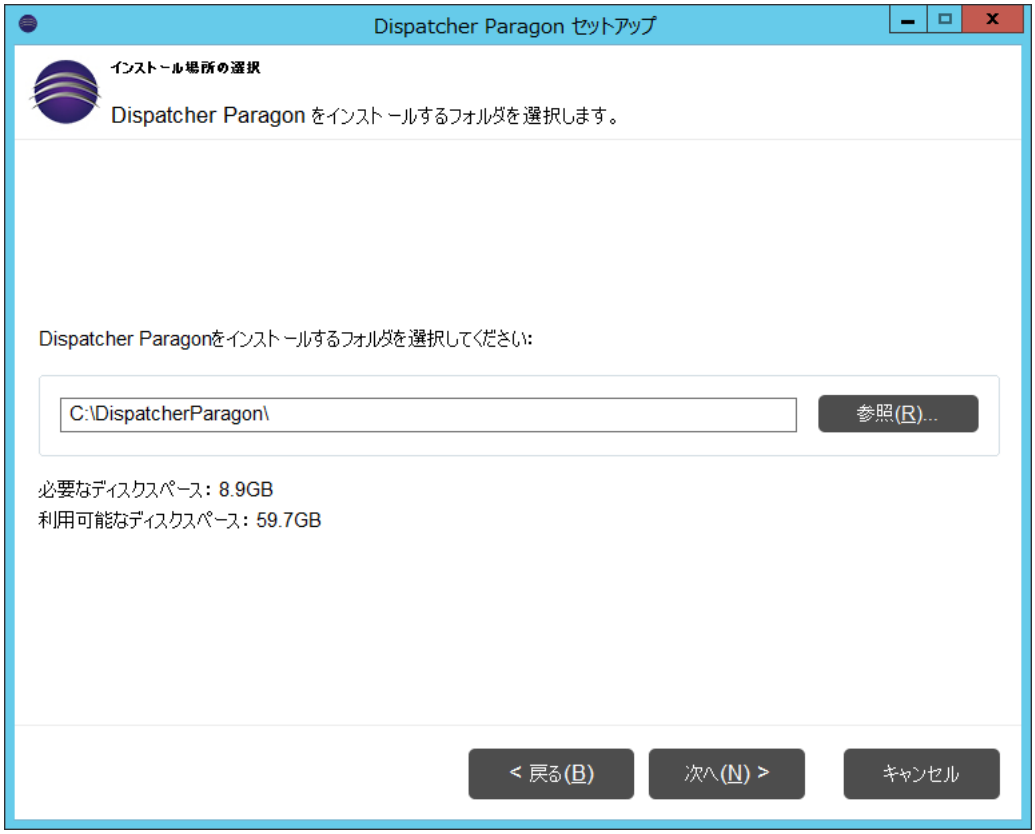


24. **[サーバー環境]** ウィンドウで、サーバー環境に応じてインストールシナリオを選択し、**[次へ]** ボタンを選択します。**Dispatcher Paragon** でサポートされているインストールの種類の詳細については、**ここ** をクリックします。

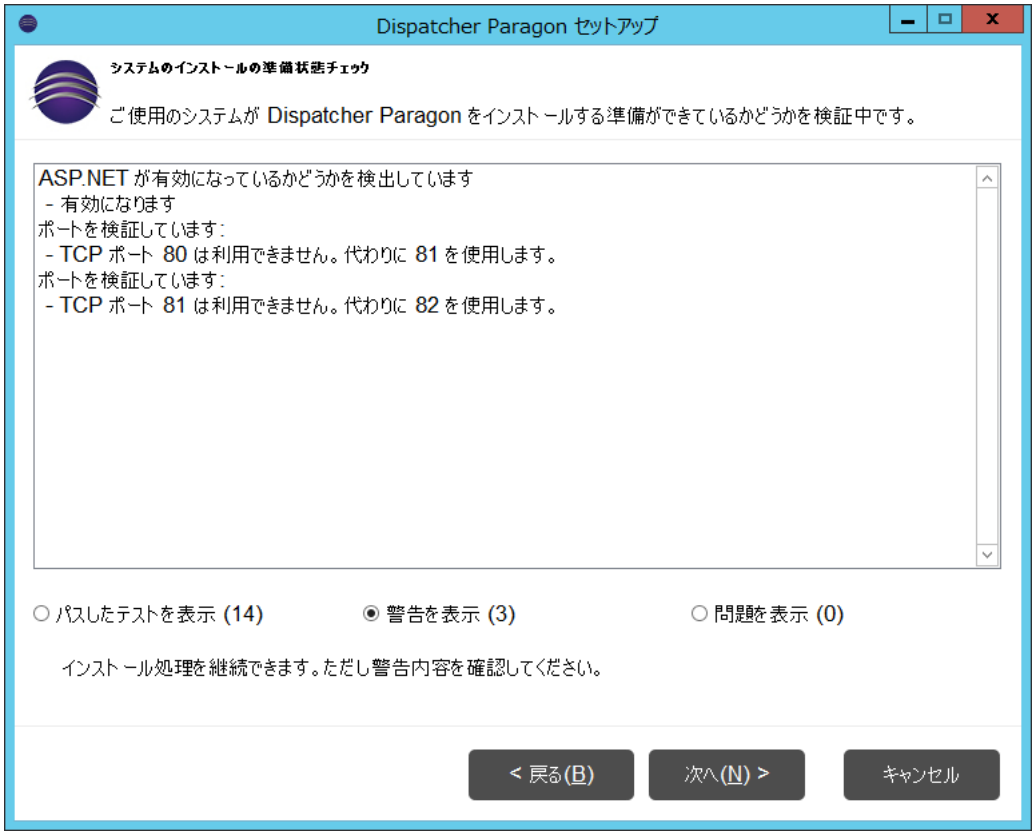
25. **[Dispatcher Paragonの機能]** ウィンドウで、展開したい機能を選択します。**[このサーバー上のジョブのスプールを有効にする]** チェックボックスは既定でオンになっています。インストールに必要な機能の詳細については、**ここ** をクリックします。



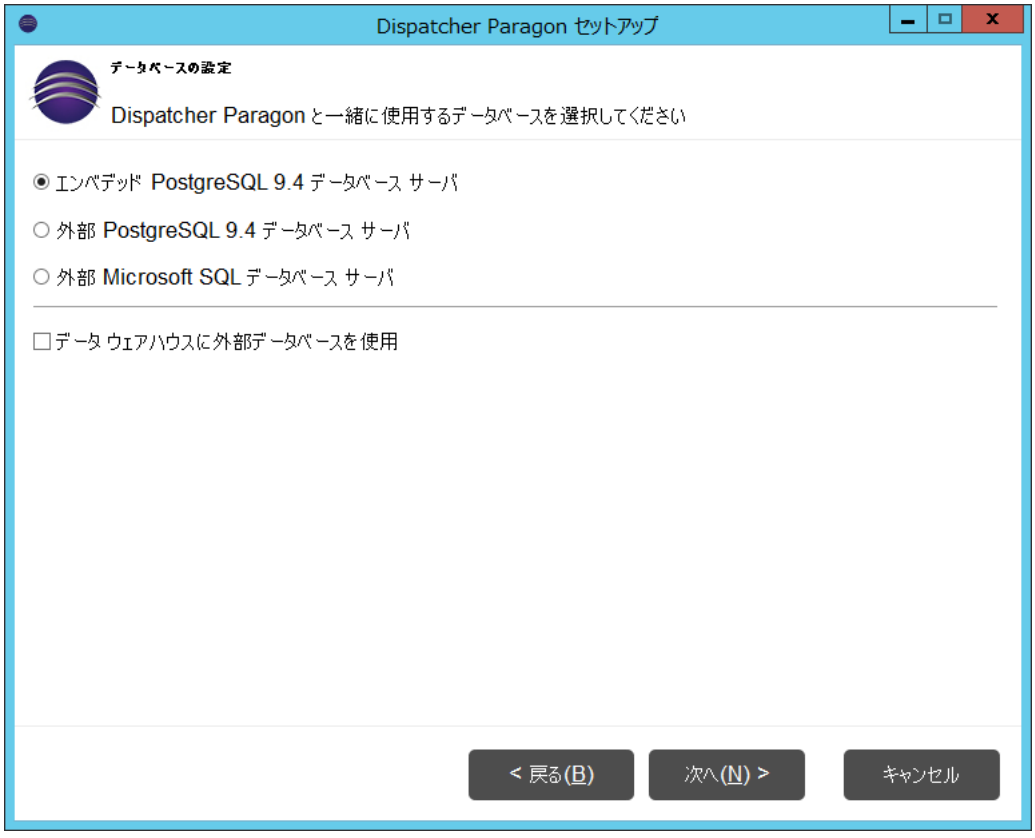
26. **【インストール場所の選択】** ウインドウで、Dispatcher Paragon Print Managementをインストールするフォルダーを選択します。**【次へ】** ボタンをクリックします。



27. **【システムのインストールの準備状態チェック】** ウィンドウが表示されます。システムがDispatcher Paragonをインストールする準備ができている場合、**【次へ】** ボタンを選択します。

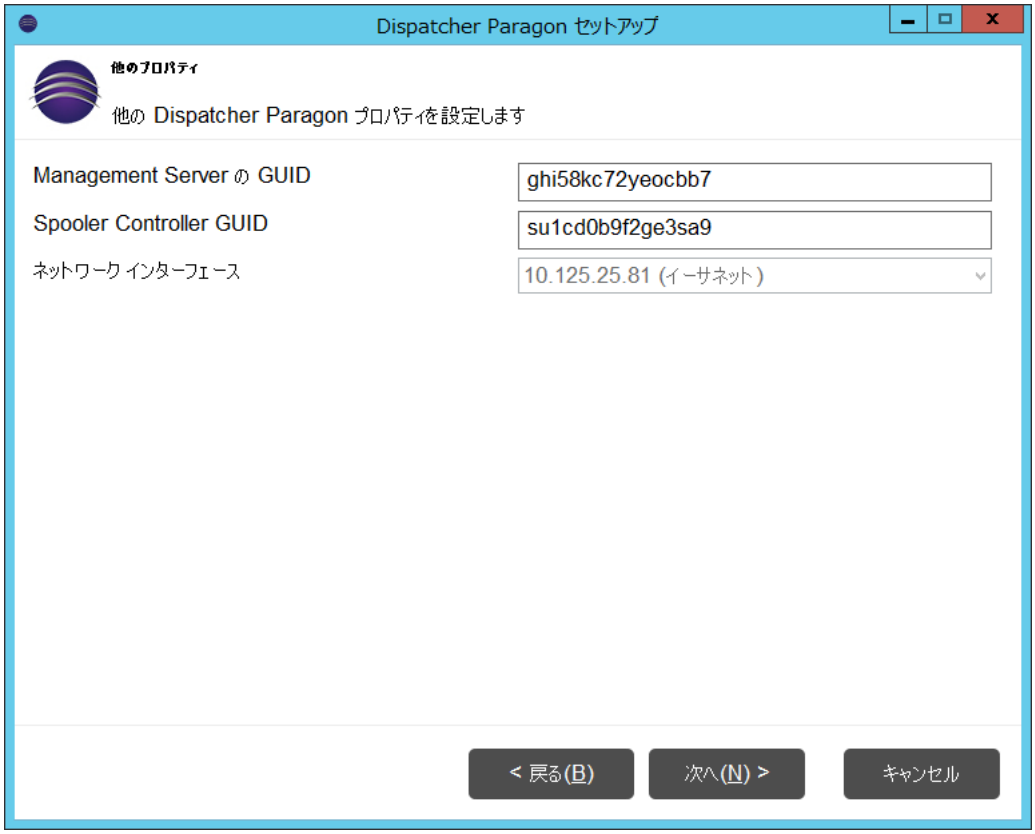


28. **[データベースの設定]** オプションが開いたら、Dispatcher Paragon Print Managementで使用するデータベースサーバーを選択します。**[次へ]** ボタンをクリックします。

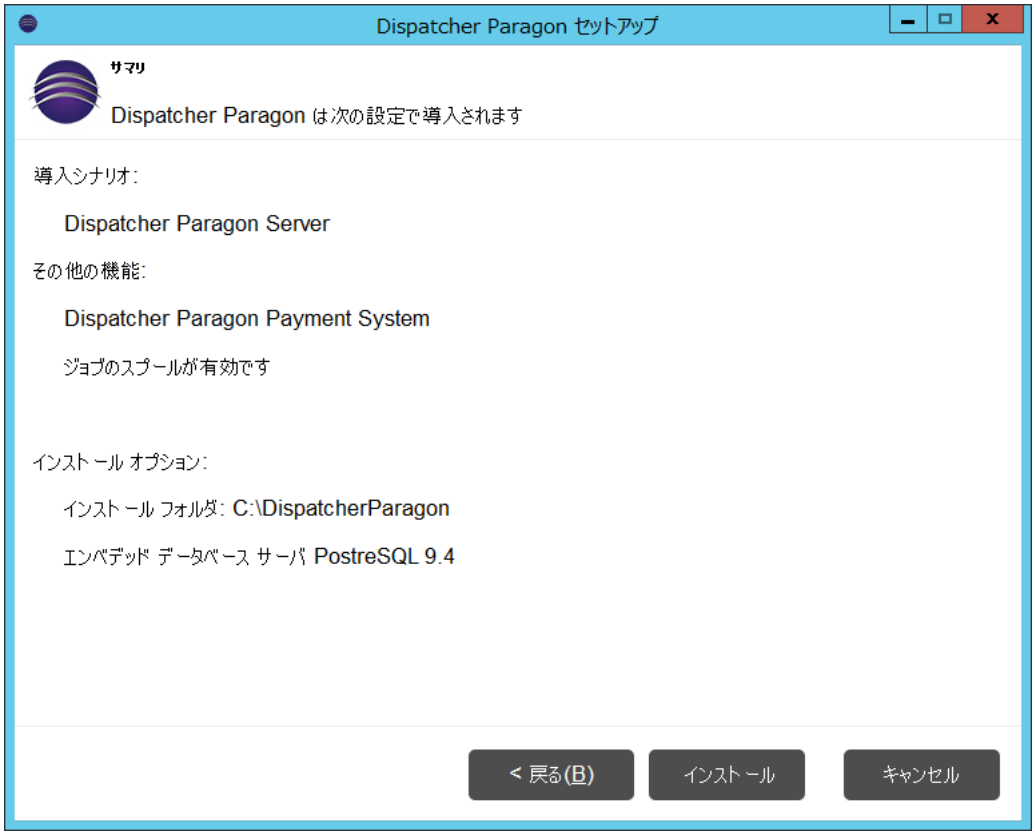


29. **[エンベデッド データベースの設定]** ウィンドウが表示されます。データベースのパスワードを入力し、パスワードを再入力します。クリップボードにコピーされるパスワードを生成するオプションもあります。完了したら、**[次へ]** ボタンを選択します。

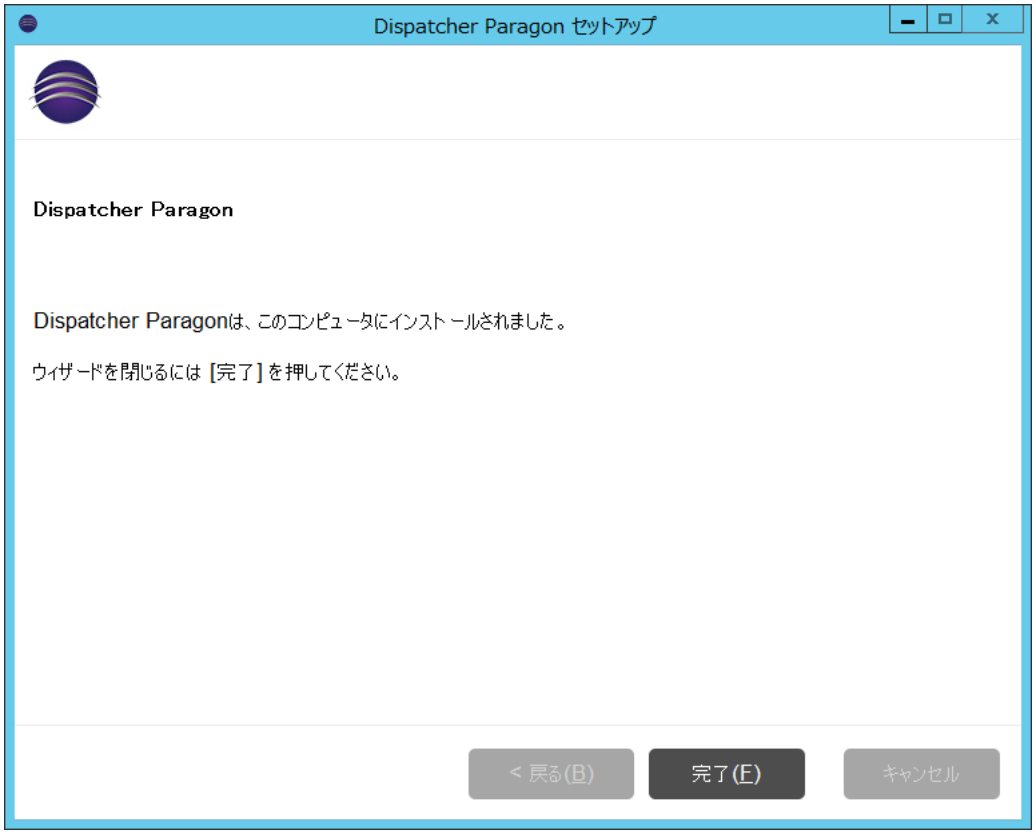
30. **【その他のプロパティ】** ウィンドウで、設定したいDispatcher Paragonプロパティを指定します。**【次へ】** ボタンを選択します。



31. **【サマリー】** ウィンドウで、選択したオプションを確認します。変更したい場合は、**【戻る】** ボタンを選択します。インストールを続けるには、**【インストール】** ボタンを選択します。インストールの進行状況を示すウィンドウが表示されます。



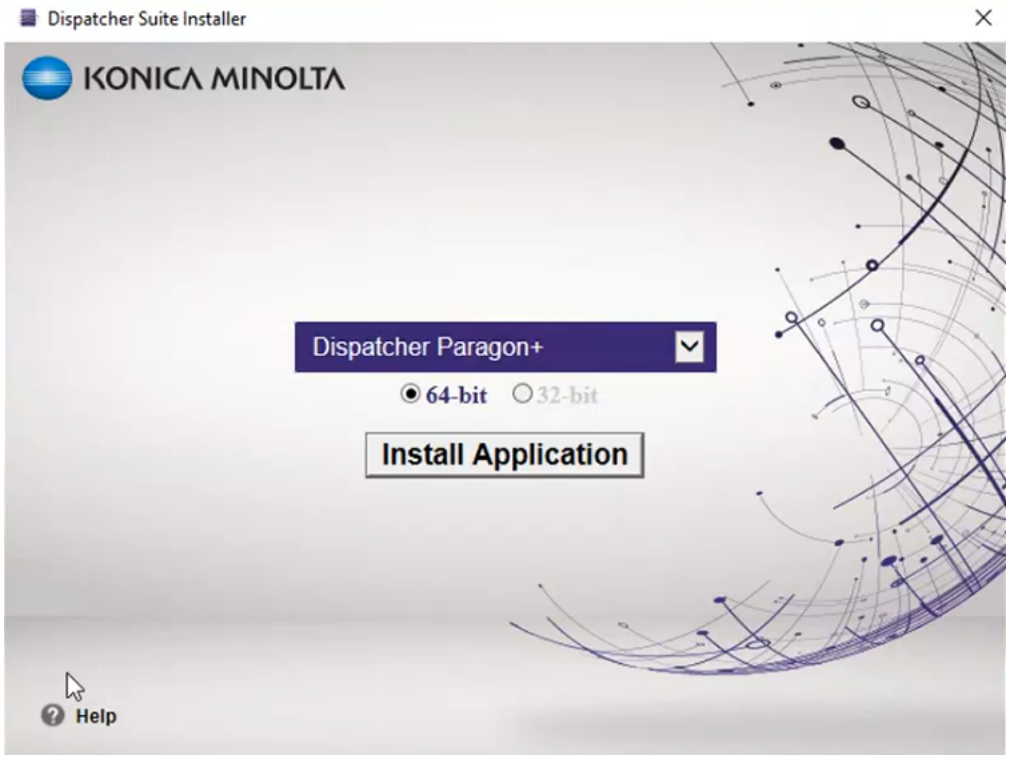
32. インストールが正常に完了すると、次の通知がインストーラーに表示されます。**[完了]** ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。



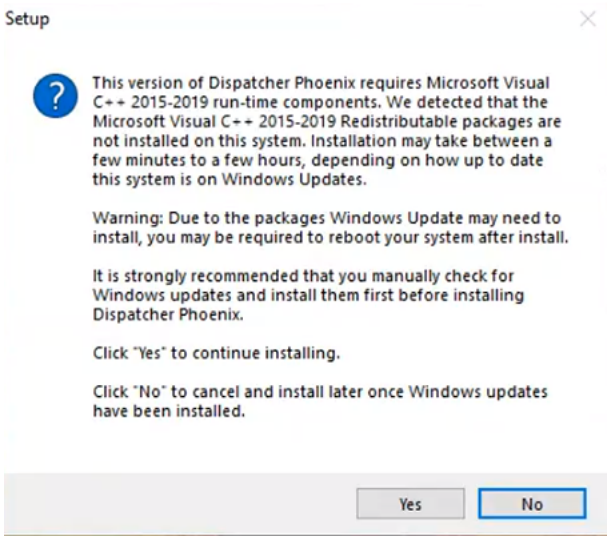
Dispatcher Paragon+のインストール

Dispatcher Paragon+ をCD/DVD、または実行可能ファイルからインストールするには、次の手順を実行します。

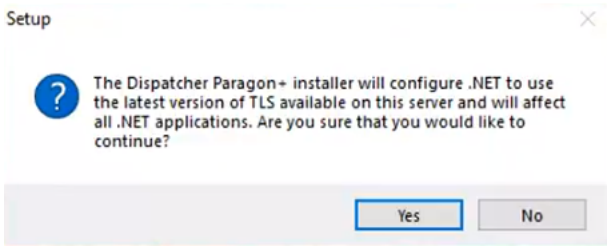
1. CD/DVDを適切なドライブに挿入するか、デスクトップの **Dispatcher Paragon+** アイコンをダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。
2. CD/DVDからインストールする場合、自動再生ウィンドウが表示されます。**autorun.exeの実行** オプションをクリックします。次の図のように、**Dispatcher Suite** インストーラーが表示されます。



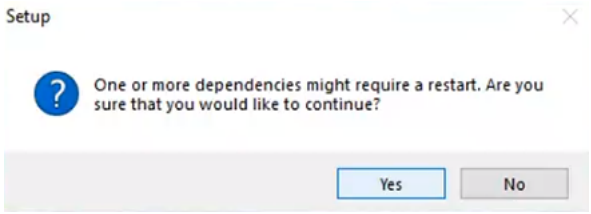
3. ドロップダウンリストを使用して、**Dispatcher Paragon+** を選択し、**[アプリケーションインストール]** ボタンを選択します。PC に変更を加える許可を求める **ユーザーアカウント制御** ウィンドウが表示された場合は、**[はい]** を選択します。
4. Microsoft Visual C++のアップデートを推奨するウィンドウが表示される場合があります。続行するには **[はい]** を押してください。



5. .NETの設定を確認するウィンドウが表示される場合があります。続行するには **[はい]** を押してください。

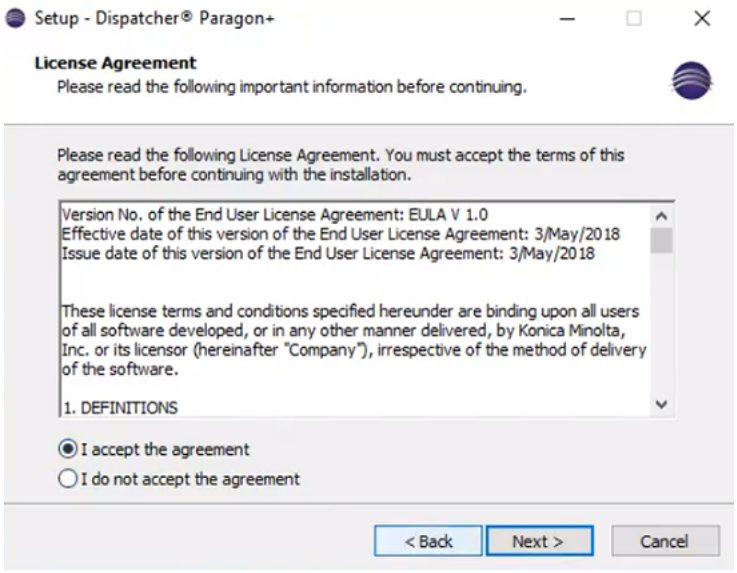


6. 1つまたは複数の依存関係に対して再起動を推奨するウィンドウが表示される場合があります。続行するには **[はい]** を押してください。

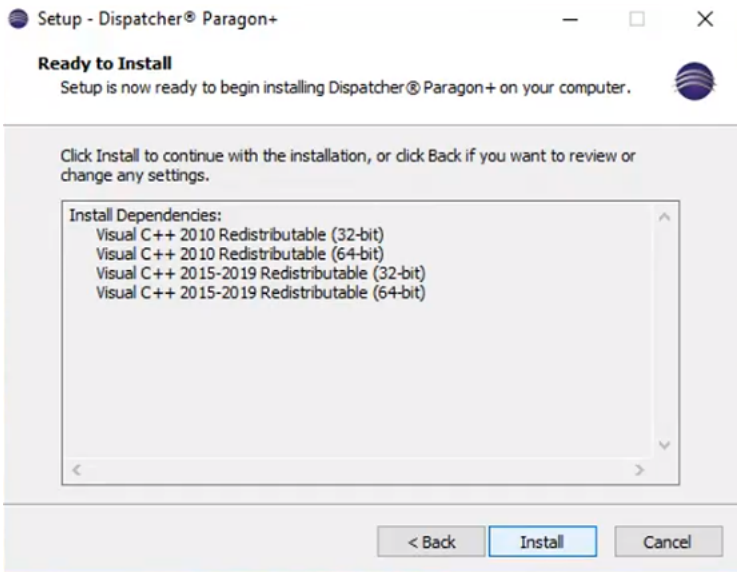


7. セットアップウィンドウで、下図のように **[次へ]** ボタンを選択します。

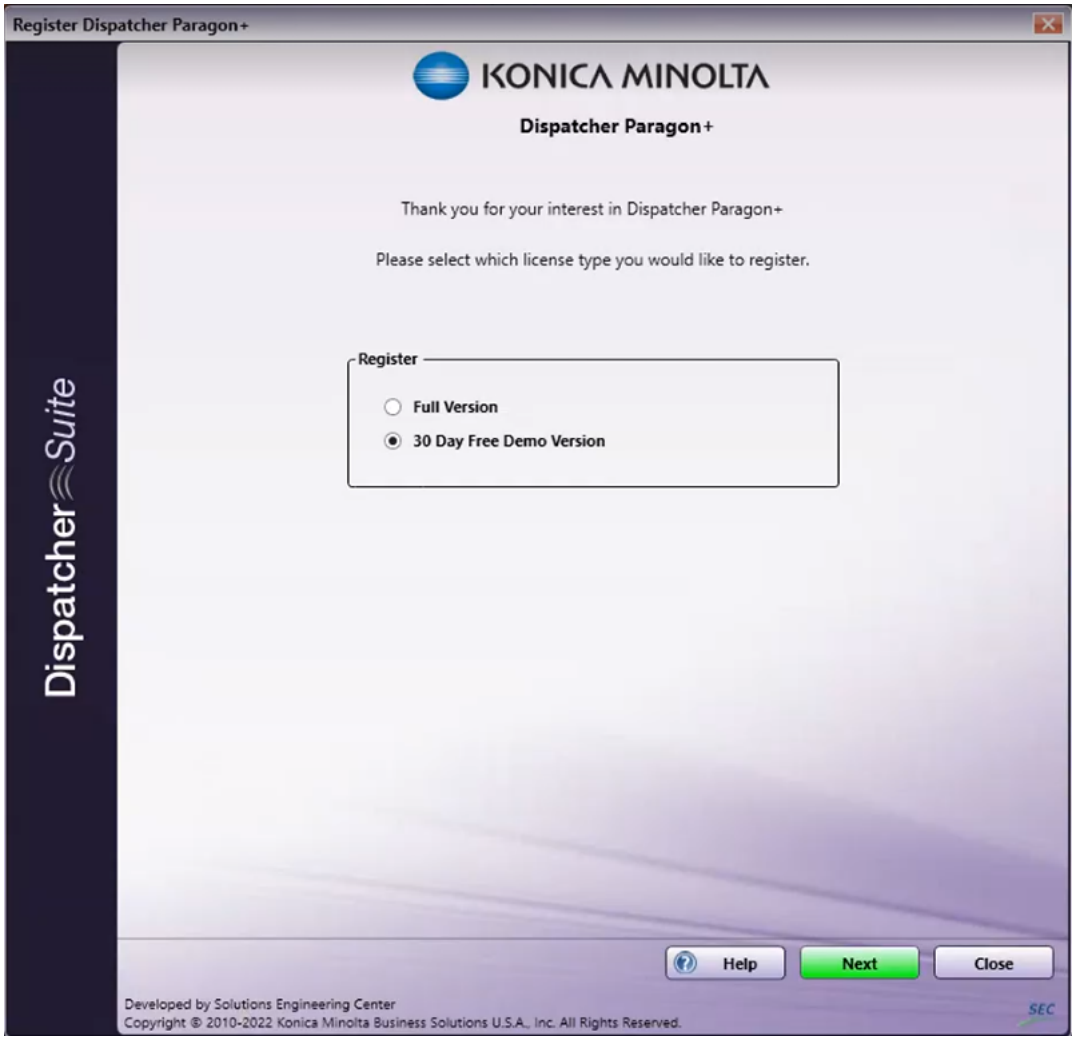
8. **使用許諾契約書** のウィンドウが表示されたら、使用許諾契約書をお読みください。**使用許諾契約に同意する** ラジオボタンを選択し、**[次へ]** をクリックします。



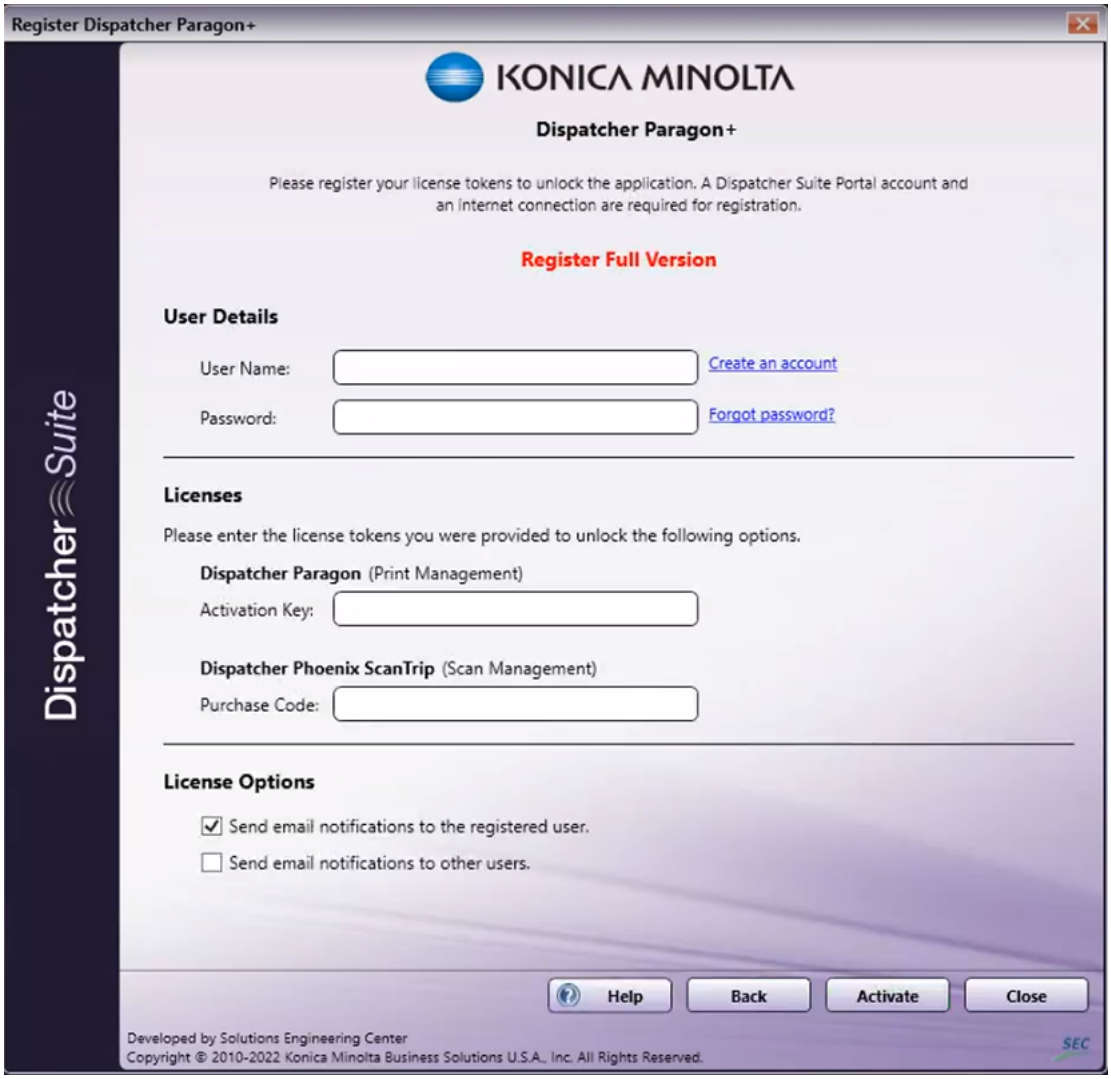
9. 表示される **インストールの準備** ウィンドウの情報を確認します。**[インストール]** を押して続行します。



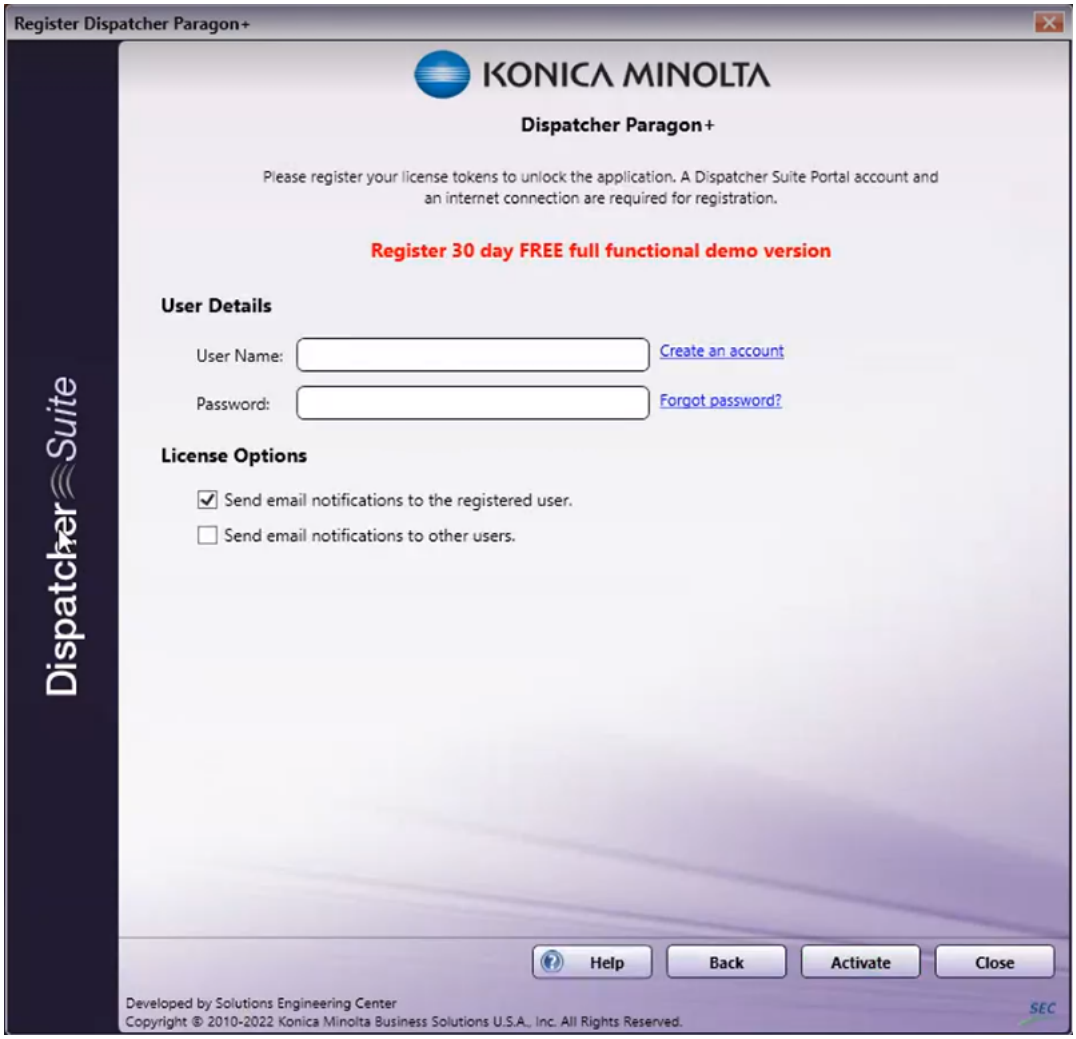
10. 次に、**Dispatcher Paragon+の登録** ウィンドウが表示されます。**[登録]** で、目的のバージョンを選択します。**Dispatcher Phoenix** の登録の詳細については、**ここをクリック** してください。



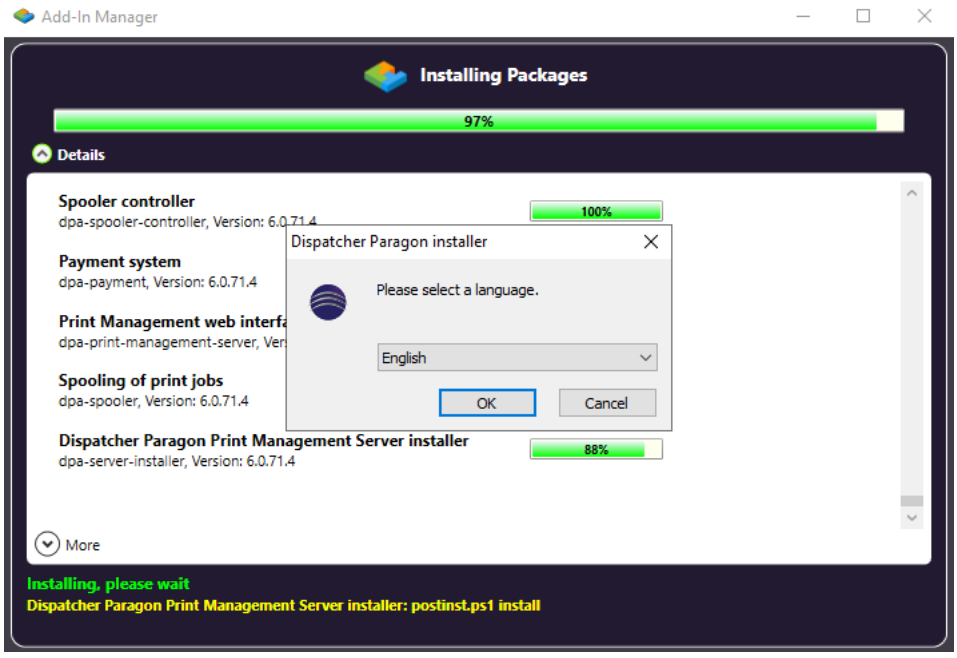
11. フルバージョンを選択した場合、**Dispatcher Paragon+を登録** ウィンドウが表示されます。SECアカウントのユーザー名とパスワード、およびDispatcher Paragonのアクティベーションキーと Dispatcher Phoenix ScanTripの購入コードを入力します。



30日間デモ版を選択した場合、**Dispatcher Paragon+登録** のウィンドウが表示されます。SECアカウントのユーザー名とパスワードを入力し、**アクティブ化** ボタンをクリックしてください。



12. この時点で、Dispatcher ScanTripとDispatcher Paragonのインストールが開始されます。詳しくは、**Dispatcher Suiteのインストール 手順 22-32** をご覧ください。



Dispatcher Suiteの設定

注意! Dispatcher PhoenixのLPRサービスは、両方のサービスが同じポートを使用するため、Dispatcher Paragon FlexiSpoolerと互換性がありません。この場合、Dispatcher Paragon FlexiSpoolerを印刷ローミングに使用するには、次の手順を実行します。

1. Windowsサービスアプリケーションを使用して、**KMBS SEC LPR Service** を停止します。
2. 右クリックして、表示されるメニューから **[プロパティ]** を選択します。
3. KMBS SEC LPR Serviceのプロパティウィンドウで、[スタートアップの種類]ドロップダウンリストから **[手動]** を選択します。完了したら **[OK]** ボタンを選択します。
4. Dispatcher Phoenix LPR Serviceが無効になったら、**Dispatcher Paragon FlexiSpooler** を再起動します。

Dispatcher Suite を設定するには、以下の操作を実行する必要があります。

- **Paragonライセンスのアクティブ化**
- **LDAP用 Workflow Services Managerを有効にする**
- **Dispatcher Phoenixシステム設定の構成**
- **Dispatcher Paragonシステム設定の構成**
- **LDAPユーザーの同期**
- **アクセス権の設定**
- **デバイス同期の設定**

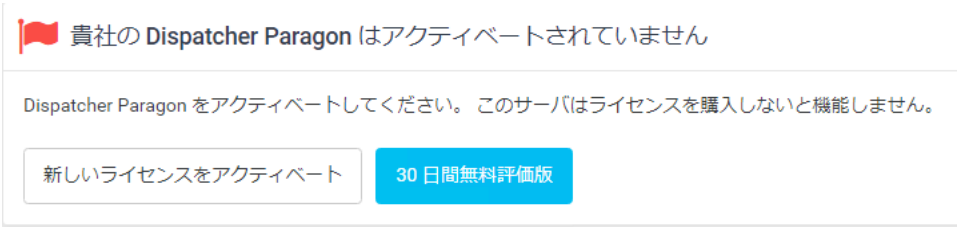
Paragonライセンスのアクティブ化

Dispatcher Paragon がインストールされたら、アプリケーションを起動した後の最初のステップはライセンスを認証することです。**Dispatcher Paragon** ライセンスを有効にするには、次の操作を実行します。

1. 管理者として **[Dispatcher Paragon Management Interface]** にログインします。既定では、ユーザー名とパスワードは **[admin]** です。

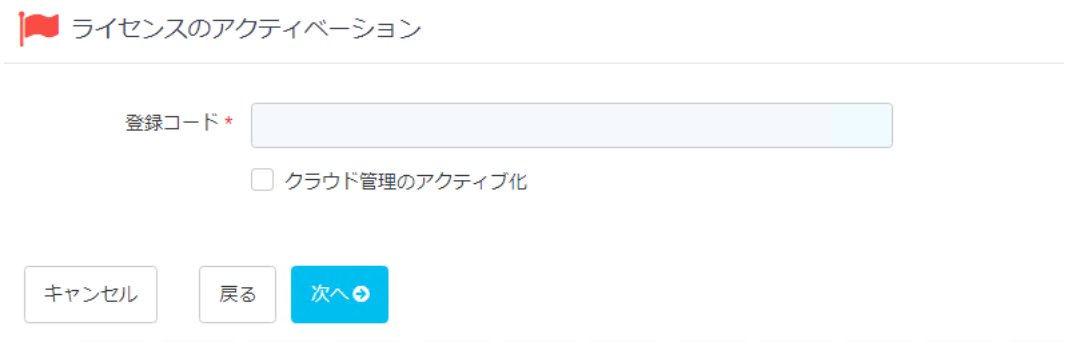
   注: パスワードはDispatcher Paragonで変更できます。パスワードを変更するには、右上隅にあるシステム管理者を選択してパスワードの変更をクリックします。

2. 次の図に示すように、メインの **[ダッシュボード]** から **[新しいライセンスのアクティブ化]** を選択します。

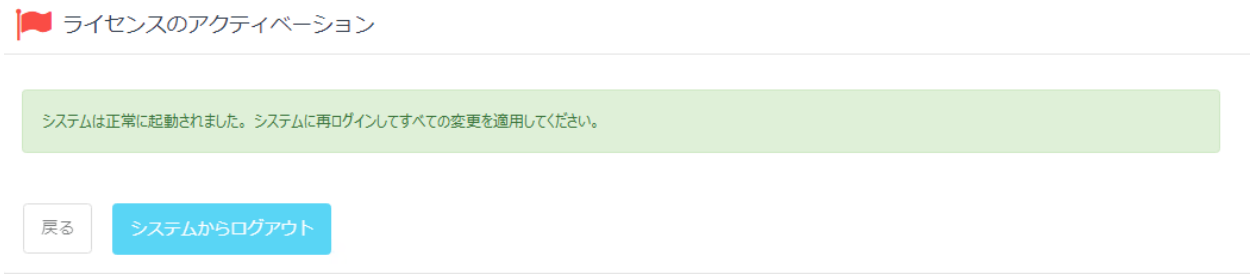


3. **[新しいライセンスをアクティブ化する]** ラジオボタンが選択されていることを確認します。**[次へ]** を選択します。

4. **[登録コード]** フィールドに、アクティベーションコードを入力します。**[次へ]** を選択します。



5. 次の画面が表示され、ライセンスが正常にアクティブ化されたことが表示されます。**[システムからログアウト]** を選択して **Paragon** からログアウトしてからプラットフォームに再度ログインします。



LDAP用 Workflow Services Managerを有効にする

LDAP検索の **Windows認証** は、**Dispatcher PhoenixのWorkflow Services Manager** で有効にする必要があります。LDAP検索を有効にすることにより、Active Directoryユーザーは、複合機で認証するときに、**Dispatcher Phoenix** ワークフローに自動的にアクセスできます。この設定については、**ここ** をクリックしてください。

Dispatcher Phoenixシステム設定の構成

Dispatcher Phoenix が **Dispatcher Paragon** から複合機およびユーザー情報を正常に送受信するためには、以下のプロパティを設定する必要があります。

1. **Dispatcher Phoenix Web** を起動し、次の図に示すように **[ホーム]** で **[システム設定]** カードをクリックします。

   注: システム設定を表示するには、管理者としてDP Webにログインする必要があります。

2. **システム設定** ページには2つのセクションがあります。1つは **Dispatcher Paragon** 用、もう1つは **Dispatcher Phoenix** 用です。**Dispatcher Paragon** システム設定は **[Dispatcher Paragon 統合を有効にする]** チェックボックスの下に表示されます。

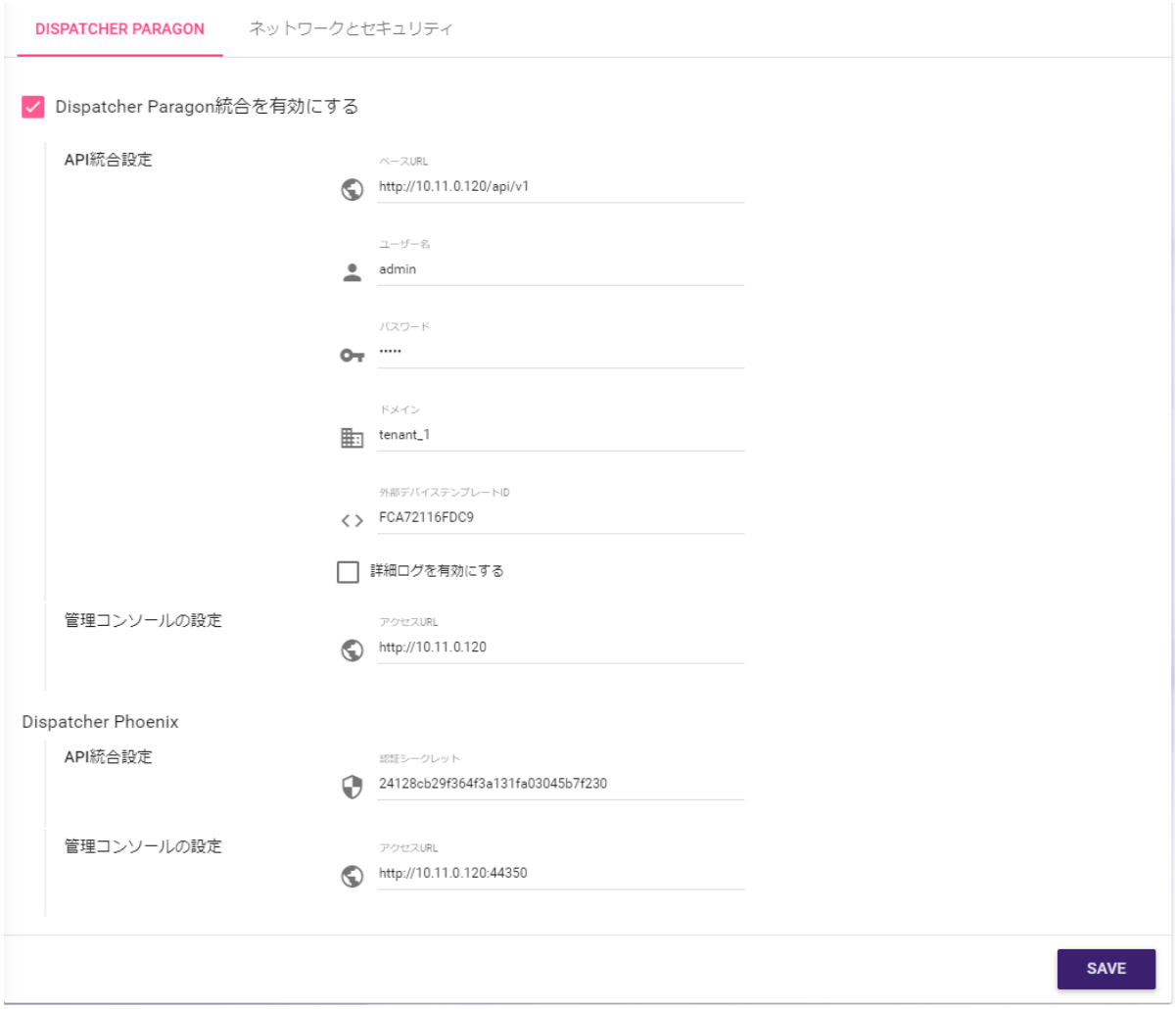
   Dispatcher Paragon システム設定には、以下のフィールドが含まれています。

   - **[Dispatcher Paragon 統合を有効にする]** ボックスをチェックします。
   - **[ベースURL]** - これは **Dispatcher Paragon** のAPI URLです。この値は、**Paragon** と **Dispatcher Phoenix** の両方がインストールされているコンピューターまたはサーバーのIPアドレスと一致する必要があります。
     - Dispatcher PhoenixとDispatcher Paragonが同じサーバーにインストールされている場合、既定値をそのままにすることができます。

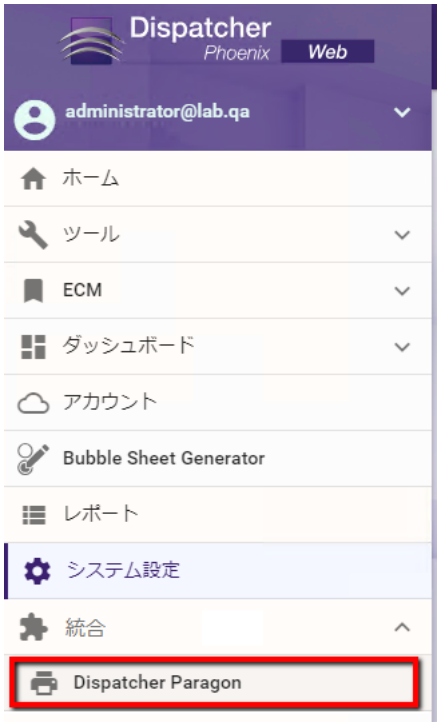
    - Dispatcher PhoenixとDispatcher Paragonが別々に(別々のサーバーにそれぞれ)インストールされている場合は、URLのIPアドレスを、Dispatcher Paragonがインストールされているサーバーの IPアドレスと一致するように更新してください。
    - Dispatcher Paragonサーバーが既定(80)以外のポートでHTTP要求をリッスンしている場合は、必ずベースURLに正しいポート値を追加してください。
- **[ユーザー名]と[パスワード]** - **アクセス権のセットアップ** ヘルプセクションの説明に従って、**Dispatcher Paragon** で指定されたサービスアカウントに関連付けられているユーザー名とパスワードに変更します。
- **[Paragon]** は単一のテナントのみをサポートするため、**[ドメイン]** の既定値は *tenant_1* です。このフィールドは変更しないでください。
- **[外部デバイステンプレートID]** - この値は自動的に割り当てられるので変更しないでください。この値は **Paragon** で **デバイステンプレート** を作成するときに使用され、書き留めておくか、安全な場所に保存しておく必要があります。
- **[詳細ログを有効にする]** - このツールはログで提供されるデータを増やします。トラブルシューティングの際に役立ちます。特に必要がない限り、このオプションはオフのままにします。
- **[アクセスURL]** - これは **Dispatcher Paragon** のWeb URLです。
    - Dispatcher PhoenixとDispatcher Paragonが同じサーバーにインストールされている場合は、既定値をそのままにすることができます。
    - Dispatcher PhoenixとDispatcher Paragonが別々に(別々のサーバーにそれぞれ)インストールされている場合は、URLのIPアドレスを、Dispatcher Paragonがインストールされているサーバーの IPアドレスと一致するように更新してください。

Dispatcher Phoenixシステム設定には、以下のフィールドが含まれています。

- **[認証シークレット]** - これは自動的に割り当てられた値で、**Paragonの設定**時に使用されます。このフィールドを変更しないでください。この値は、Dispatcher PhoenixとDispatcher Paragonで同一でなければなりません。
- **[アクセスURL]** - これは **Dispatcher Phoenix Web** のIPアドレスであり、変更する必要はありません。

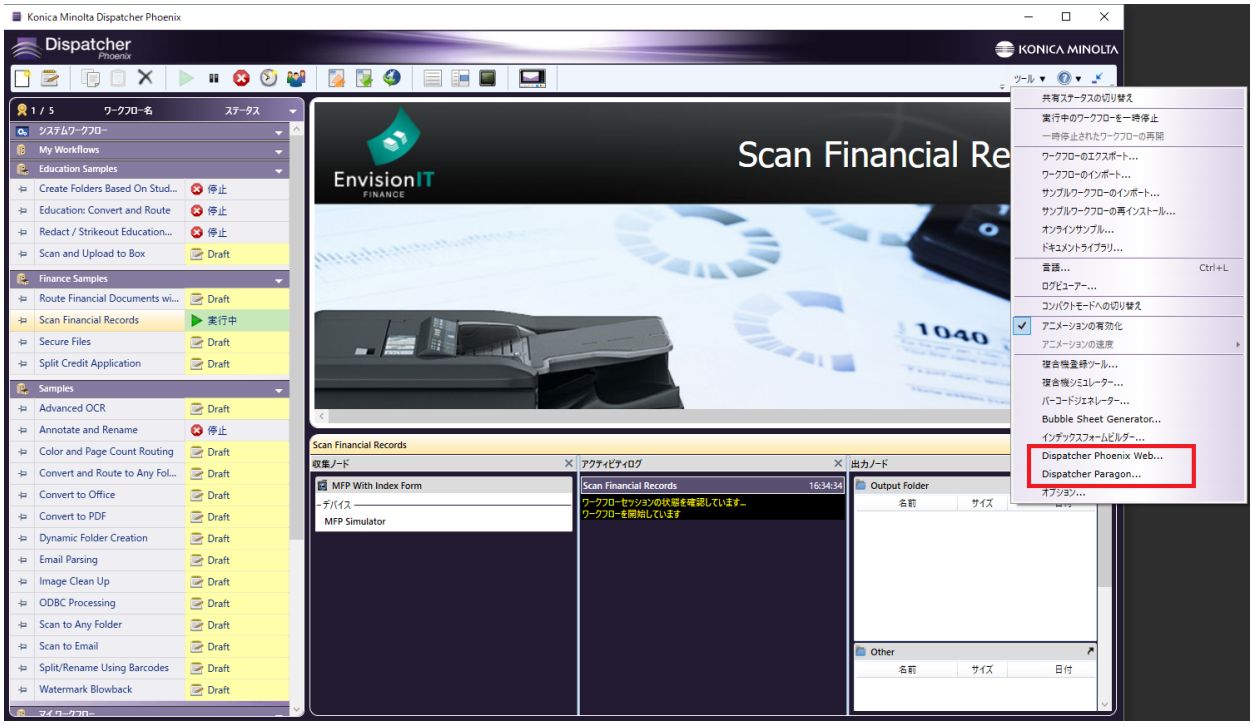


3. システム設定ページの右下隅にある **[保存]** をクリックします。
4. **[ネットワークとセキュリティ]** タブでは、プロキシ設定と証明書設定を設定できます。詳しくは、**ここをクリック** してください。
5. ホーム画面に **Dispatcher Paragon** ボタンが追加されます。さらに、**[統合]** セクションが下の **Dispatcher Paragon** リンクとともに自動的にサイドメニューに追加されます。このリンクから **Dispatcher Paragon Management Interface** にアクセスできます。



設定手順が完了したら、ユーザーは **Dispatcher Phoenix** クライアントアプリケーションから **Dispatcher Phoenix** と **Dispatcher Paragon** の両方のWebインターフェイスに次の手順で移動できるようになります。

1. **Dispatcher Phoenix** を開きます。次に、右上隅にある **[ツール]** ドロップダウンに移動します。

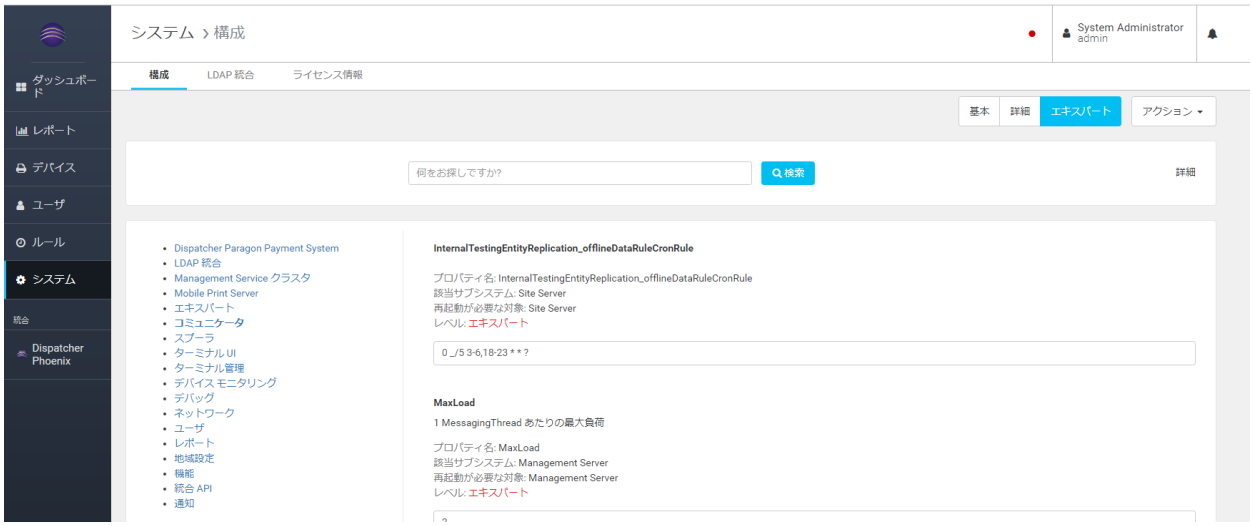


2. **Dispatcher Phoenix Web** または **Dispatcher Paragon Management Interface** に移動します。

Dispatcher Paragonシステム設定の構成

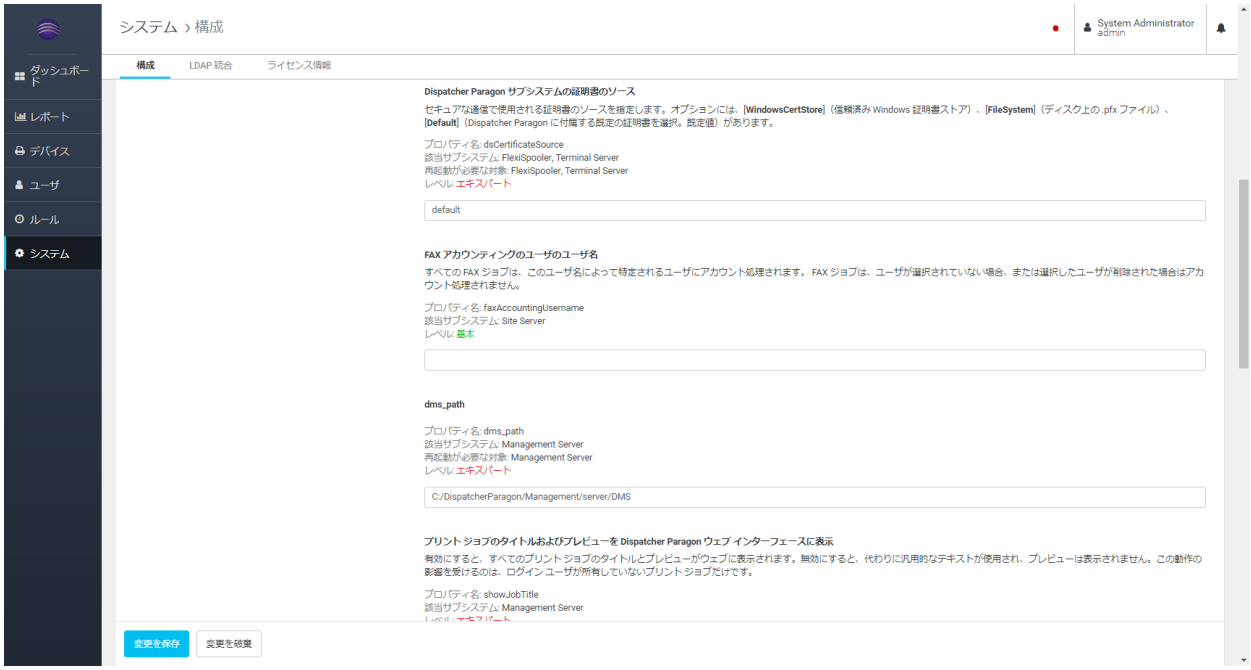
Dispatcher Suite を正常にインストールするための次のステップとして、アプリケーションが **Dispatcher Phoenix** から複合機およびユーザー情報を送受信するために **Dispatcher Paragon** を正しく構成する必要があります。この操作を行うには以下の手順に従います。

1. ライセンスが有効になったら、**Dispatcher Paragon** にログインし直します。**[ダッシュボード]** の左側のメニューで、下部にある **[システム]** ボタンに移動します。次の図に示すように、**[構成]** セクションに移動されます。



2. 画面の右上にある **[エクスポート]** ボタンを選択してから、左側の列にある **[統合API]** サブグループをクリックします。以下のプロパティを設定します。

   - **[Konica Minolta Dispatcher Phoenix API シークレット]** - **[Dispatcher Phoenix Jason Web トークン(JWT)キー]** を入力してください。これは **Dispatcher Phoenix Web** を起動し、**[システム設定]** から **[認証シークレット]** をこのフィールドにコピーすることによって取得できます。詳細については、上記の **Dispatcher Phoenix Web インターフェイスの設定** セクションを参照してください。
   - **[Konica Minolta Dispatcher Phoenix API URL]** - **[Dispatcher Phoenix API]** のアクセスURLを入力してください。**Dispatcher Phoenix** が **Dispatcher Paragon** と異なるデバイスにインストールされていない限り、この値は変更されません。その場合は、**Dispatcher Phoenix** IPアドレスを入力する必要があります。
   - **[Konica Minolta Dispatcher Phoenix Web URL]** - **[Dispatcher Phoenix Web]** のアクセスURLを入力してください。**Dispatcher Phoenix** が **Dispatcher Paragon** と異なるデバイスにインストールされていない限り、この値は変更されません。その場合は、**Dispatcher Phoenix** IPアドレスを入力する必要があります。
   - **[Konica Minolta Dispatcher Phoenix 統合]** - **[有効]** に設定します。
   - **[ターミナルサービスとの通信が許可されているIPアドレスのリスト]** - インストール用のIPアドレスを入力します。



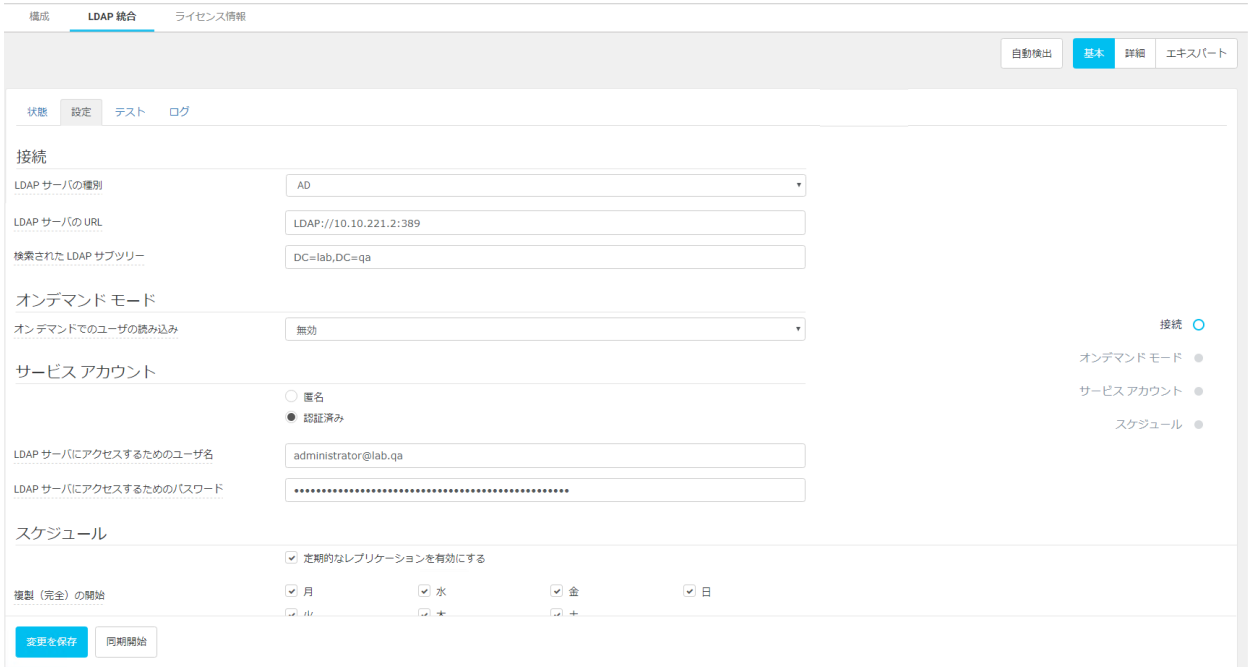
3. 終了したら、**[変更を保存]** ボタンを選択します。

LDAPユーザーの同期

これらのユーザーを **LDAP** と同期させると、**Dispatcher Paragon** と **Dispatcher Phoenix** の間でユーザーを共有でき、複合機でのシングルサインオンが可能になります。この操作を行うには、以下の手順に従います。

1. **[Dispatcher Paragon Management Interface]** を起動します。次に、左側のメニューで **[システム]** に移動します。

2. ページ上部のナビゲーションから **[LDAP統合]** を選択します。次に、**[設定]** タブに移動します。

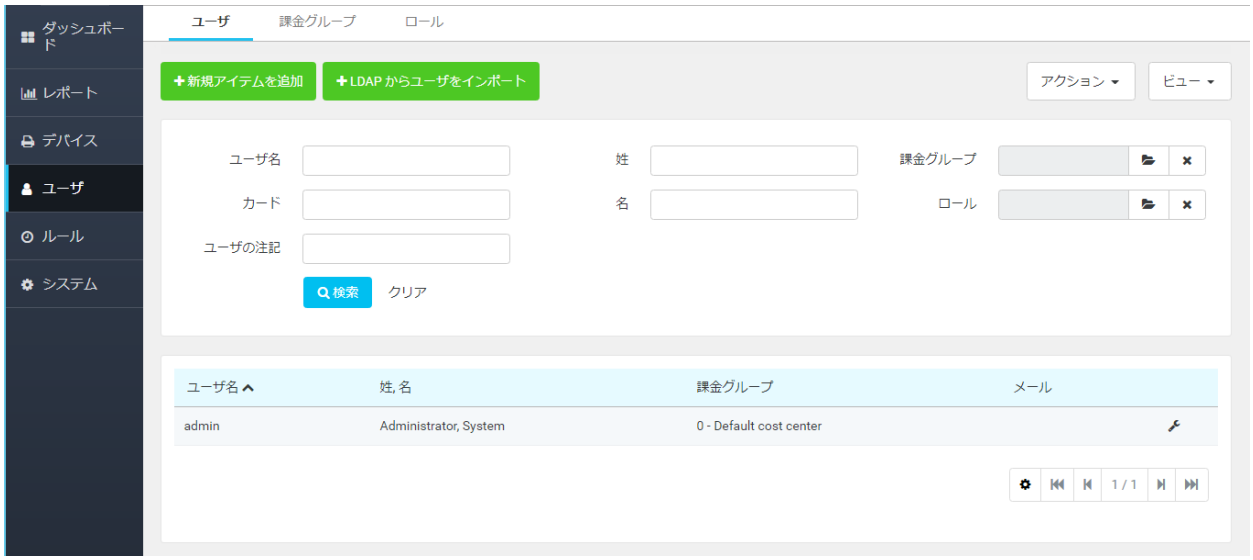


3. 右上のナビゲーションバーから **[Dispatcher Phoenixから読み込み]** を選択します。このステップは **LDAP検索** が **Workflow Services Manager** で既に設定されている場合にのみ機能します。詳細については、**LDAP検索の設定** ページを参照してください。
4. **[変更を保存]** ボタンを選択します。
5. **[LDAP連携]** の下の **[テスト]** ページに移動し、次の図に示すように下部にある **[設定のテスト]** ボタンを選択します。

6. 設定がテストされ、成功した結果が返されたら、**[今すぐ同期]** ボタンをクリックしてユーザーを設定します。同期の進行状況を確認するには、**[ステータス]** タブをクリックすると、追加されたユーザー数を確認できます。次の図に示すように、同期が完了すると、**[結果]** の横に **[成功]** と表示されます。

アクセス権の設定

1. 管理者として **Dispatcher
2. Management Interface** にログインし、メインメニューの **[ユーザー]** に移動します。ユーザーデータベースから、_administrator_以外のユーザーを選択して、Dispatcher PhoenixとDispatcher Paragonの間の通信を円滑にする指定サービスアカウントにします。サービスアカウントの設定に関する詳細については、ここをクリックしてください。



3. ユーザーの右端に表示されている アイコンをクリックして、このアカウントに対し、以下の権限が有効になっていることを確認します。
    - 全般
        - 管理サーバーのREST APIを介したリモートアクセス
    - デバイス
        - プリンターとキューのリスト
        - プリンターとキューの管理
    - システム
        - システム設定 – 基本オプション
        - システム設定 – 詳細オプション
        - システム設定 – エキスパートオプション

4. **[変更を保存]** ボタンを選択します。

   注: 選択したサービスアカウントは、ParagonとPhoenixが正常に通信できるようにするために使用されます。

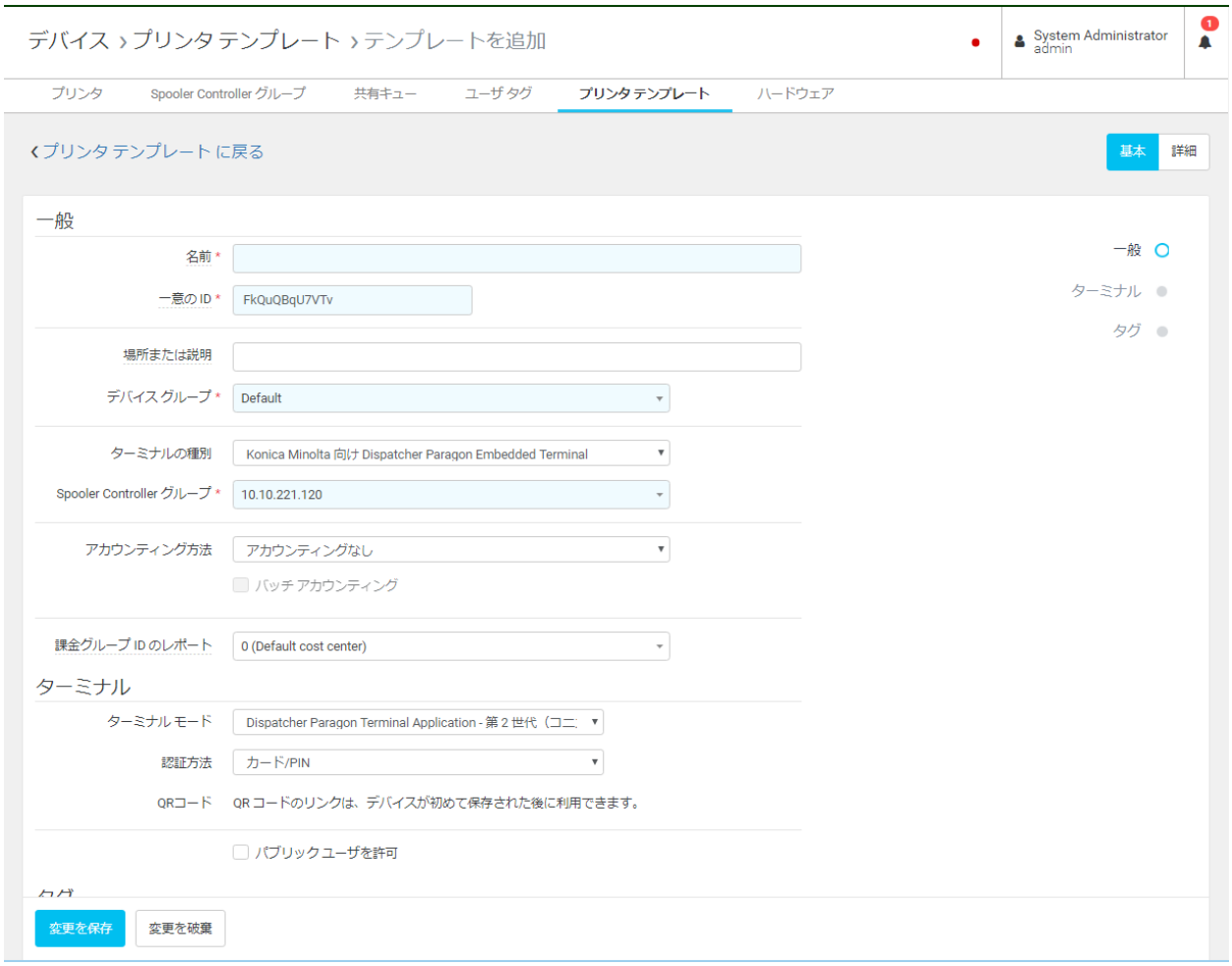
これらの手順を完了して **Dispatcher Paragon Management Interface** が正しく設定されると、下の図に示すように、サイドメニューの下に **Dispatcher Phoenix** リンクが含まれる **統合** セクションが自動的に追加されます。リンクは **Dispatcher Phoenix Web** にアクセスします。

デバイス同期の設定

Dispatcher Paragon から複合機が追加された場合にいつでも使用することができるデバイステンプレートを設定する必要があります。この操作を行うには、以下の手順を実行します。

1. **[Dispatcher Paragon Management Interface]** を起動します。左側のメニューで **[デバイス]** に移動し、次の図に示すように **[プリンターテンプレート]** を選択します。

2. **[テンプレートを追加]** ボタンを選択して、以下の情報を下記のフォームに記入します。
   - **[ユニークID]** - この値は **[DP Web]** を起動して **[システム設定]** の **[外部デバイステンプレートID]** をこのフィールドにコピーすることによって取得できます。詳しくは、**Dispatcher Phoenix Web インターフェースの設定** セクションをご覧ください。
   - **[ターミナルタイプ]** を選択 - **[Konica Minolta 向け Dispatcher Paragon Embedded Terminal]** を選択します。
   - **[ターミナルモード]** を選択 - **[Dispatcher Paragon Terminal Application - 第2世代（コニカミノルタテーマ）]** 。このオプションは、コニカミノルタの最新のグラフィック複合機インターフェースをサポートします。コニカミノルタのネイティブ複合機 UIを使用するには、**[ネイティブ]** オプションを選択します。



3. **[変更を保存]** を選択します。

デバイスの同期

デバイスによりきめ細かい制御を提供し、ユーザーエクスペリエンスを向上させるために、**Dispatcher Suite** は **Dispatcher Phoenix Web** の **[デバイス]** ツール内に追加機能を提供します。

Dispatcher Phoenix または **Dispatcher Paragon** に複合機を追加すると、新しいデバイスは自動的に他のプラットフォームと同期します。さらに、いずれかのデバイスリストのデータを変更すると、両方のデバイスリストにデータが入力されます。オプションの[名前]フィールドに値を指定せずにデバイスがDispatcher Phoenixに追加された場合、Dispatcher Paragonはモデルを名前として、そのデバイスをそのデバイスリストに追加します。後で値がDispatcher Phoenixのオプションの名前フィールドに追加されると、それはDispatcher Paragonの名前を上書きします。デバイスがDispatcher Paragonに追加され、追加された名前がDispatcher Phoenixの既知のモデルと同じである場合は、Dispatcher Phoenix登録ツールから表示される名前は1つだけです。ただし、Dispatcher Paragonに入力された名前が異なる値の場合は、最新の名前が表示されます。

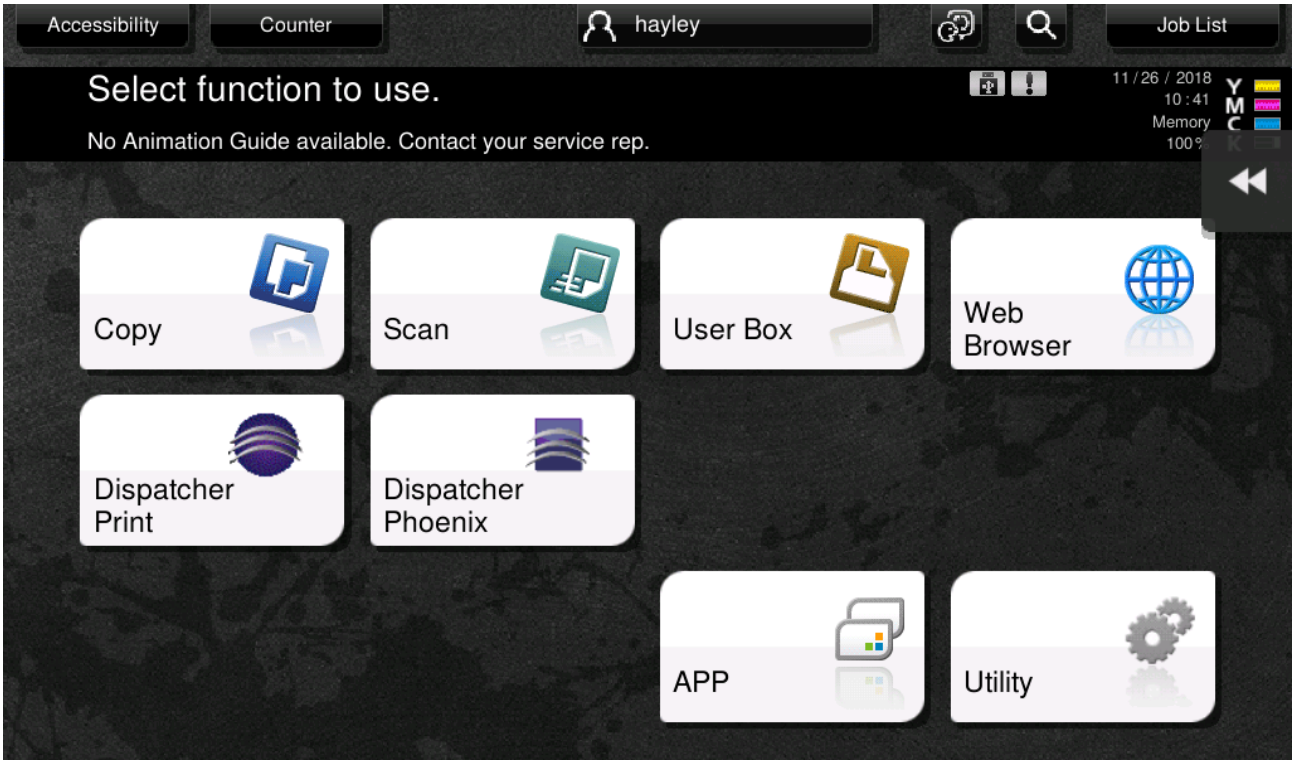
注: 次の表に示すように、特定のフィールドでは、Dispatcher Phoenixに入力または編集された情報は、Dispatcher Paragonに共有されます。

Dispatcher Phoenix	Dispatcher Paragon
ホスト名/IPアドレス	ネットワークアドレス
名前（オプション）またはモデル	名前
管理者のパスワード	管理者のパスワード
説明	場所または説明
機器ID（追加情報タブにあり）	機器ID（メタサブセクションにあり）
サービス契約ID（追加情報タブにあり）	サービス契約ID（メタサブセクションにあり）
連絡先（[追加情報]タブにあり）	連絡担当者（メタサブセクションにあり）
郵便番号（[追加情報]タブにあり）	郵便番号（メタサブセクションにあり）

重要! デバイスのMACアドレスが変更された場合は、Dispatcher PhoenixとDispatcher Paragonから既存のデバイスを削除することを強くお勧めします。後からDispatcher Phoenixのデバイスツールを使用してデバイスを再追加できます。Dispatcher Phoenixから複合機を削除すると、Dispatcher Paragonからも削除されます。Dispatcher Paragonから複合機を削除すると、それがDispatcher Phoenixに登録されていない場合は、Dispatcher Phoenixから削除されます。

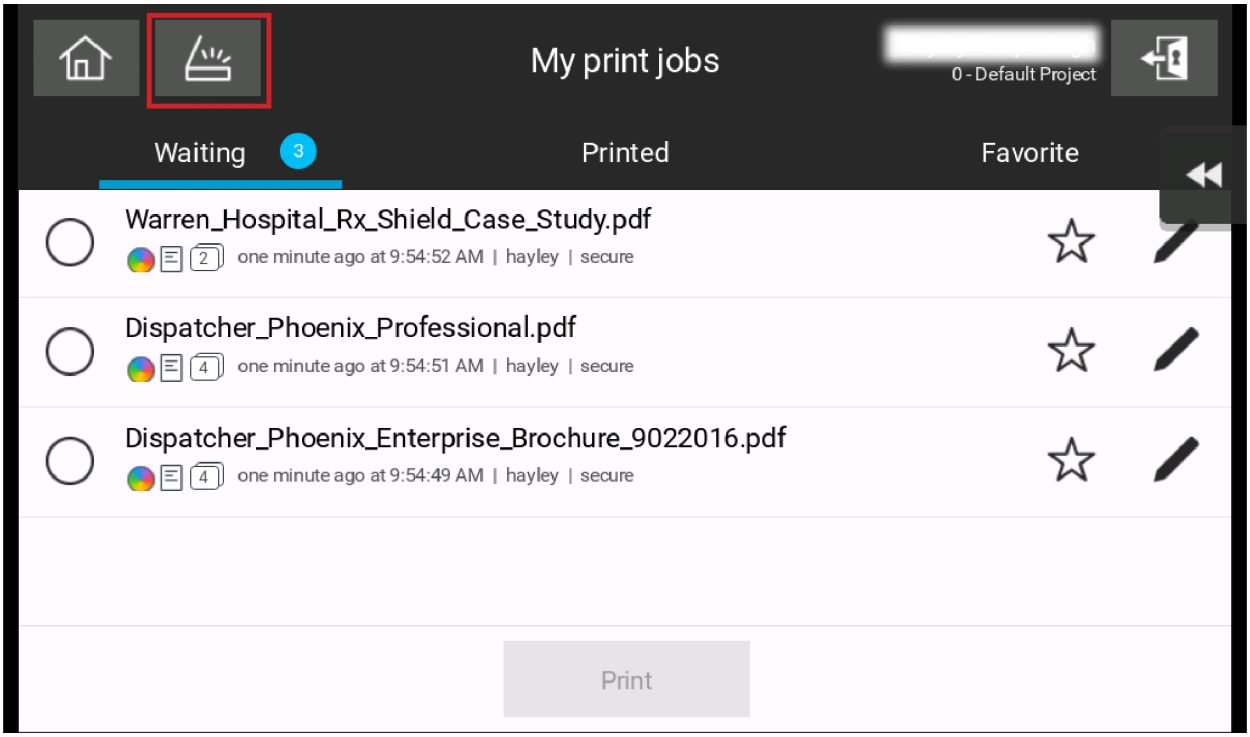
複合機統合

Dispatcher Phoenix と **Dispatcher Paragon** の両方を設定したら、ユーザーは複合機で両方のプラットフォームの利用を開始できます。**Dispatcher Suite** ソリューションでは、印刷管理機能とスキャン機能の両方をシングルサインオンで統合して、複合機と同じ外観でシームレスなユーザーエクスペリエンスを実現できます。



複合機パネルから、Dispatcher PhoenixとDispatcher Paragonを切り替えることができます。

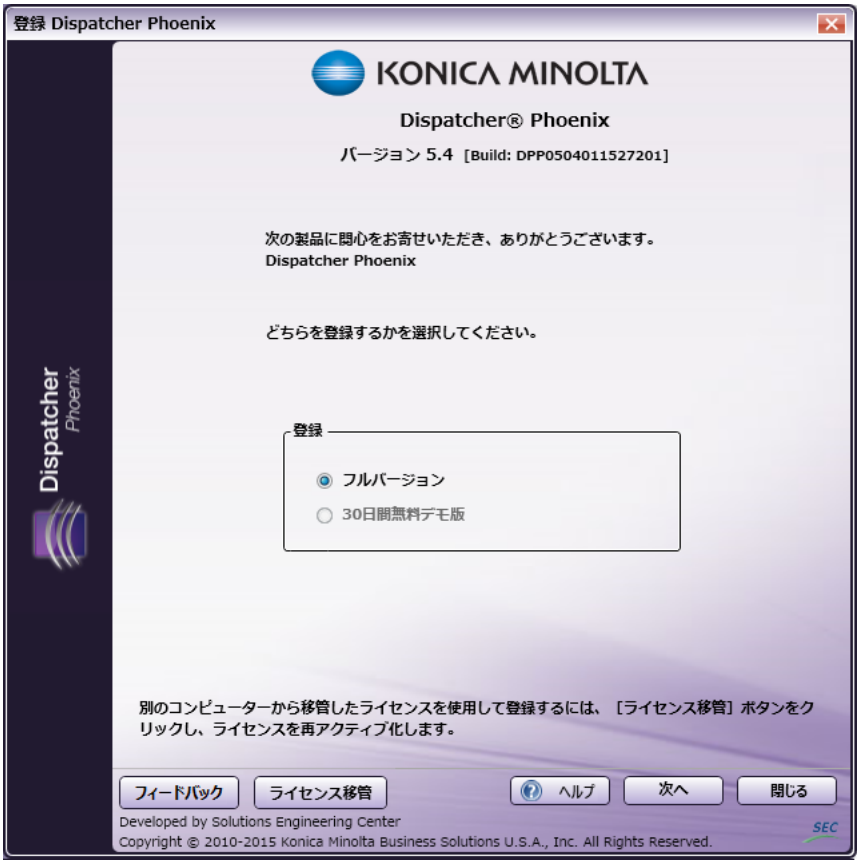
1. 複合機で、**Dispatcher Paragon** から **Dispatcher Phoenix** にアクセスするには、次の図に示すように、左上隅の **[スキャン]** ボタンをタップします。



2. 複合機で **Dispatcher Phoenix** から **Dispatcher Paragon** にアクセスするには、次の図に示すように、右上隅にある **[印刷]** ボタンをタップします。

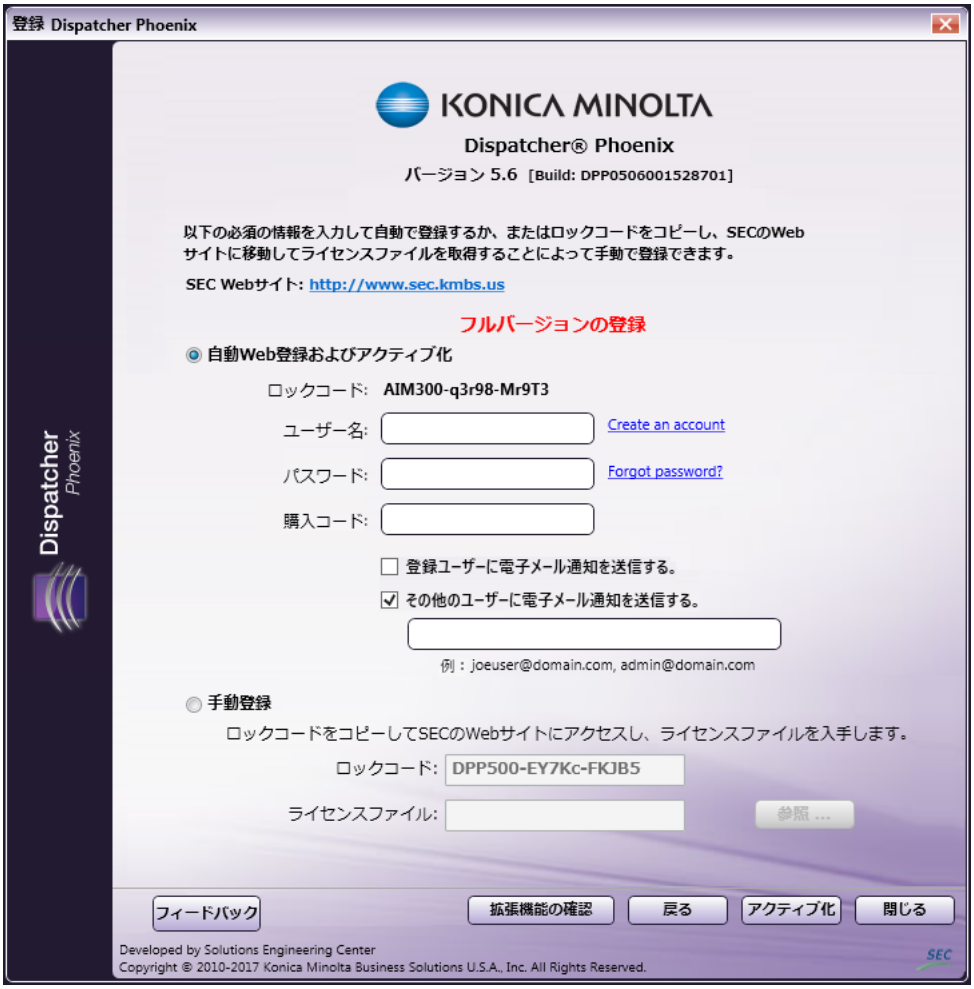
登録

Dispatcher Phoenixを登録するときは、**[フルバージョン]** または **[デモ版]** としてアプリケーションを登録できます。デモ版では、3つのアクティブ入力ライセンスを含むDispatcher Phoenixのすべての特長と機能を30日間試用することができます。次の図を参照してください。



製品のフルバージョンを登録するには、次の操作を行います。

1. [フルバージョン]ラジオボタンを選択します。[次へ]ボタンを選択します。**【フルバージョン】** を選択すると、次の画面でプログラムのアクティブ化を求められます。この画面には、インストール専用のロックコードが含まれています。各ロックコードは、インストールされている特定のマシンハードウェアに基づいて生成されるため一意です。登録は自動または手動で行うことができます。次の図を参照してください。



- **[自動のWeb登録およびアクティブ化]** - **SEC Webサイト**に既存のアカウントがある場合は、**[自動のWeb登録およびアクティブ化]** を選択して、次の操作を行います。

  1. Dispatcher Phoenixアプリケーションの **[ユーザー名]**、**[パスワード]**、および **[購入コード]** を入力します。
  2. チェックボックスをオンまたはオフにして、ソフトウェアメンテナンスの更新を含む電子メール通知を登録ユーザー、またはその他のユーザーに送信するかどうかを指定します。**[その他のユーザーに電子メール通知を送信する]** チェックボックスをオンにすると、空白のフィールドが表示され、複数の電子メールアドレスをスペース、コンマ、またはセミコロンで区切って入力できます。
  3. **[アクティブ化]** ボタンを選択すると、適切なライセンスファイルが自動的にダウンロードされてインストールされ、Dispatcher Phoenixのコピーがアクティブになります。アカウントを作成してパスワードをリセットするためのリンクがあります。**SEC Webサイト**へのリンクもあります。

  注:ライセンスファイルは対応するロックコードに固有のものなので、別のマシンからライセンスファイルを使用しようとしても機能しません。

- **[手動登録]** - 手動登録するには、**[手動登録]** ラジオボタンを選択して、次の操作を行います。

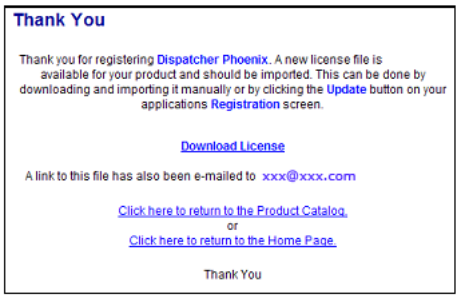
  1. ロックコードをクリップボードにコピーします。
  2. 登録ページのリンクをクリックすると、ブラウザが開き、**SEC Webサイト**にアクセスします。
  3. ログインプロファイルがない場合は、無料のアカウントを作成する必要があります。
  4. ページの上部にある **[Register (登録)]** リンクをクリックして、アプリケーション登録画面に進みます。
  5. ページの **[Click here to register your application (アプリケーションを登録するにはここをクリック)]** セクションの隣にあるラジオボタンを選択します。

  6. 下のフィールドに、有効な購入コードを入力します。

  注: Dispatcher Phoenix CDをお持ちの場合、購入コードと購入したライセンスの数が示されます。CDをお持ちでない場合は、SEC Webサイトの「Product (製品)」セクションにアクセスしてアプリケーションを購入することができます。

  7. Dispatcher Phoenixのインストールのロックコードを入力（または貼り付け）します。
  8. ドロップダウンリストからDispatcher Phoenixアプリケーションを選択します。

9. **[Submit (送信)]** ボタンを選択すると、アプリケーションに対応するライセンスファイルが生成されます。このファイルへのリンクが表示されます。リンクをクリックして、ライセンスファイルをダウンロードします。



10. Dispatcher Phoenixアプリケーションに戻り、**[ライセンスファイル]** フィールドで適切なライセンスファイルを参照して選択します。**[アクティブ化]** ボタンを選択します。アクティブ化の前にライセンスファイルを解凍しないでください。ライセンスファイルは一度だけロードする必要があります。ソフトウェアアプリケーションの今後のアップデートでは、すべての有効なインストールが認識されます。

製品のデモ版を登録するには、次の操作を行います。

1. デモ版のラジオボタンを選択します。[次へ]ボタンを選択します。**[30日間無料デモ版]** を選択すると、プログラムを有効にする必要があります。フルバージョンのアプリケーションを登録する場合と同じ手順を実行する必要があります。唯一の例外は、自動的に登録するときに、購入コードを指定する必要はありません。

   アプリケーションが正常に登録されると、アドインマネージャーはパッケージのダウンロードとインストールを行います。

   注: 資格情報を入力する必要がある場所から実行しているときに、インストーラが途中で再起動する必要がある場合、インストーラは再起動後も自動的に続行されません。続行するには、インストールを再度実行する必要があります。

ライセンスマネージャー

ライセンスマネージャーは、ライセンスの更新、アドインモジュールの登録、メンテナンスの表示、ライセンスの移管、および電子メール通知を送信するユーザーの指定などの機能を提供します。

ライセンス

Dispatcher Phoenix ライセンスは、“すぐに使用できる” アプリケーションから、製品を強化するために購入および登録することを決定したアドインまで、アプリケーションが持つ機能を管理します。

Dispatcher Phoenix の特定のインストールでライセンスされている機能を表示するには、[ヘルプ]メニューから[ライセンス マネージャー]を選択します。基本ノードとアドインノードは別々に編成されます。さらに、各ノードの横に「インストール済み」または「インストールされていません」のステータスが表示されます。ノードがインストールされているが、ノードを機能させるためにアプリケーションを再起動する必要がある場合は、その横に[インストール済み (アプリケーションを再起動する必要があります)] の状態が表示されます。

ライセンス – アクティブ入力カウント

Dispatcher Phoenixは **アクティブ入力** によってライセンスされています。入力は、ワークフローへの任意のエントリーポイント(入力フォルダー、複合機ユーザーボックス、複合機パネル、LPR入力、SMTP入力、Workstation、電子メール入力、Dropbox入力など)であり、ワークフローの実行中、または実行がスケジュールされているときに *アクティブ* と見なされます。つまり、スケジュールされたワークフローをアクティブ化すると、ライセンスが使用されます。アクティブな入力が重複、または無効になっても、アクティブな入力数は増えません。

注: Workstation収集ノードとDispatcher Phoenix Mobile収集ノードは、実行中のワークフローで使用される場合、アクティブな入力を消費しません。ただし、これらの機能を使用するにはユーザーライセンスを購入する必要があります。

アクティブ入力は、複数のワークフローで次のようにカウントされます。

入力ノード	フォルダーパス	ホスト名	IPアドレス	印刷キュー	URL
複合機パネル	-	✓	✓	-	-
Dropbox入力	✓	-	-	-	-
電子メール入力	-	✓	✓	-	-
FTP入力	✓	✓	✓	-	-
HTTP入力	-	-	-	-	✓
入力フォルダー	✓	-	-	-	-
JDFコンバーター	✓	-	-	-	-
LPR入力	-	-	-	✓	-
複合機ユーザーボックス	-	✓	✓	-	-
SMTP入力	-	✓	✓	-	-
Webキャプチャ	-	✓	✓	-	-

つまり、複数のワークフローで使用される1つのデバイスは1回だけカウントされます。同様に、複合機パネル、複合機ユーザーボックス、SMTP入力などの複数の入力ノードで使用される1つのデバイスは、一度だけカウントされます。複数のワークフロー内の複数の入力フォルダーが同じディレクトリから収集されている場合、それらは一度だけカウントされます。

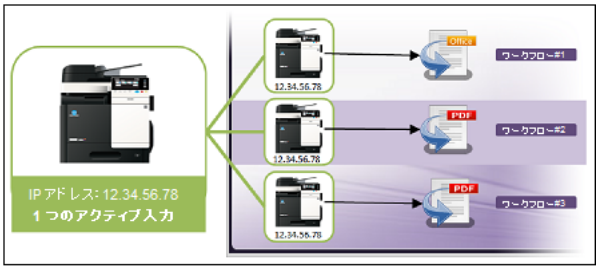
注: Dispatcher Phoenix MobileおよびWorkstation収集ノードは、アクティブ入力としてカウントされません。

より複雑なワークフローの場合は、追加のDispatcher Phoenixライセンスを購入することで入力数を増やすことができます。ライセンスを追加すると、使用可能な入力の数がライセンスごとに1つ増えます。

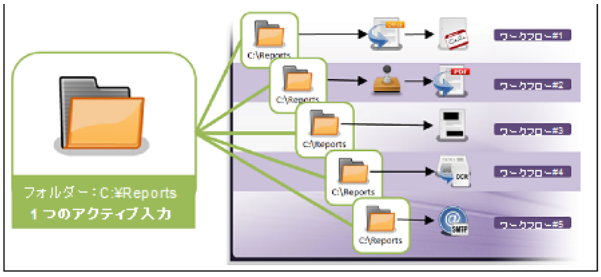
注: デモ版には、3つのアクティブ入力が付属しています。ただし、このバージョンでは、これらの最初の3つを超えて追加の入力をライセンスすることはできません。

以下のすべての例では、1つのアクティブな入力がカウントされます。

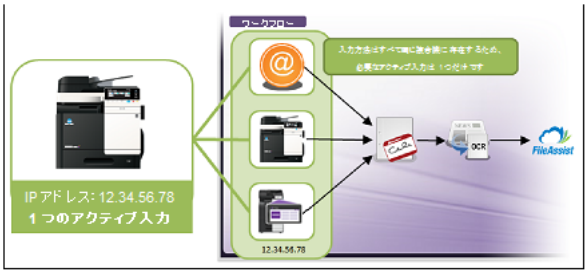
3つのワークフローが同じデバイスで実行されている (アクティブ入力の合計数 = 1):



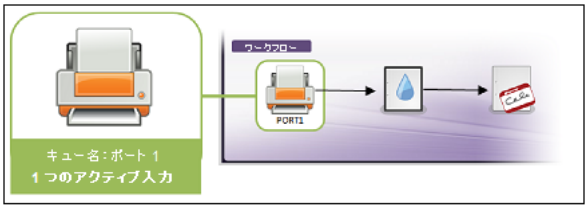
5つのワークフローが同じ入力パスから収集されている (アクティブ入力の合計数 = 1):



すべて同じデバイスを使用する3つの異なるタイプの入力ノードを含む1つのワークフロー (アクティブ入力の合計数= 1):



1つのLPR入力ノードを使用する1つのワークフロー (アクティブ入力の合計数 = 1):



アクティブ入力の制限

- 複合機パネル - ワークフローごとに1つの複合機パネルノード
- SMTP入力 - ワークフローごとに1つのSMTP入力ノード。一度に実行できるSMTP入力ワークフローは1つだけです。
- LPR入力 - 制限なし

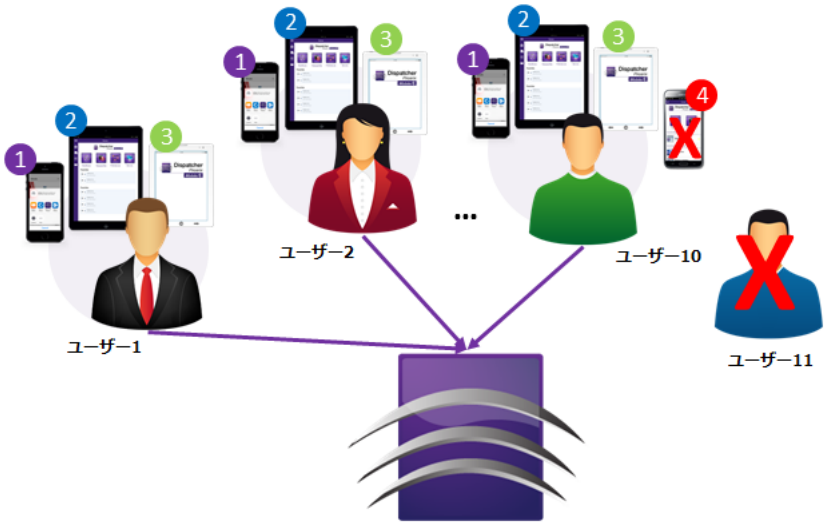
DP Mobile ライセンス

すべてのDispatcher Phoenixパッケージには DP Mobile入力ノードが含まれていますが、DP Mobileを使用するには、DP Mobileユーザー向けの適切なライセンスを購入する必要があります。

Dispatcher Phoenix Mobile は、以下によってライセンスされています。

- **ユーザー** - 10、25、50、100、250、500、および1000ユーザーのライセンスパックを購入できます。
- **デバイス** - 個々のユーザーは、最大3台のデバイスを使用してDispatcher Phoenixサーバーに接続できます。

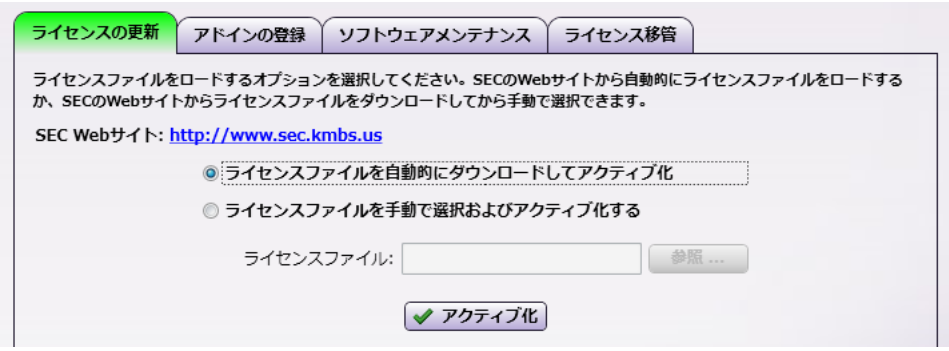
たとえば、DP Mobile 10ユーザーライセンスパックでは、10人のユーザーがそれぞれ3台のデバイスでDP Mobileを使用できます。次の図の例を参照してください。



アプリケーションのメイン画面の **ツール** メニューからアクセスできる **オプション** ウィンドウを使用して、DP Mobileのライセンス情報を表示できます。

ライセンスの再アクティベーション

稀に、システムエラーや改ざんなどによってライセンスファイルが変更される場合は、元のライセンスファイルを再適用して、アプリケーションを動作状態に復元することができます。ライセンスファイルが読み取れない、または改ざんされている場合は、ライセンスマネージャーの次のセクションに入力する必要があります。

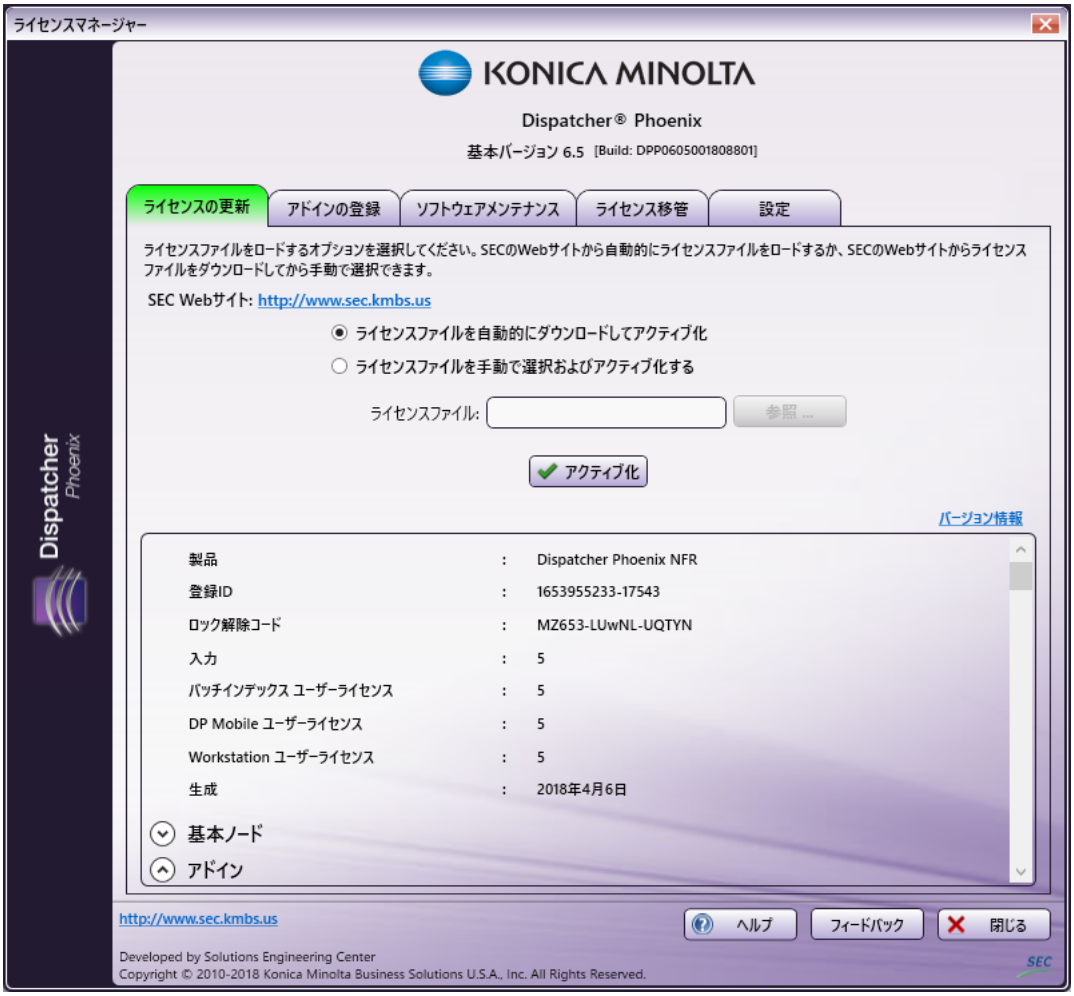


ライセンスを復元するには、**Dispatcher Phoenix** をWeb経由で再アクティブ化するか、ライセンスファイルを手動で復元することを選択できます。

- ライセンスファイルを自動的に復元するには、**[ライセンスファイルを自動的にダウンロードしてアクティブ化]** ラジオボタンをクリックし、**[アクティブ化]** ボタンを選択します。**Dispatcher Phoenix** はSECサイトにアクセスし、適切なライセンスファイルをダウンロードし、そのライセンスを再インストールして再アクティブ化します。
- ライセンスを手動で復元するには、**[ライセンスファイルを手動で選択およびアクティブ化する]** ラジオボタンをクリックします。**[参照]** ボタンを使用して、ダウンロードした元のライセンスファイルを見つけて選択します。選択したら、**[アクティブ化]** をクリックしてライセンスを再アクティブ化します。

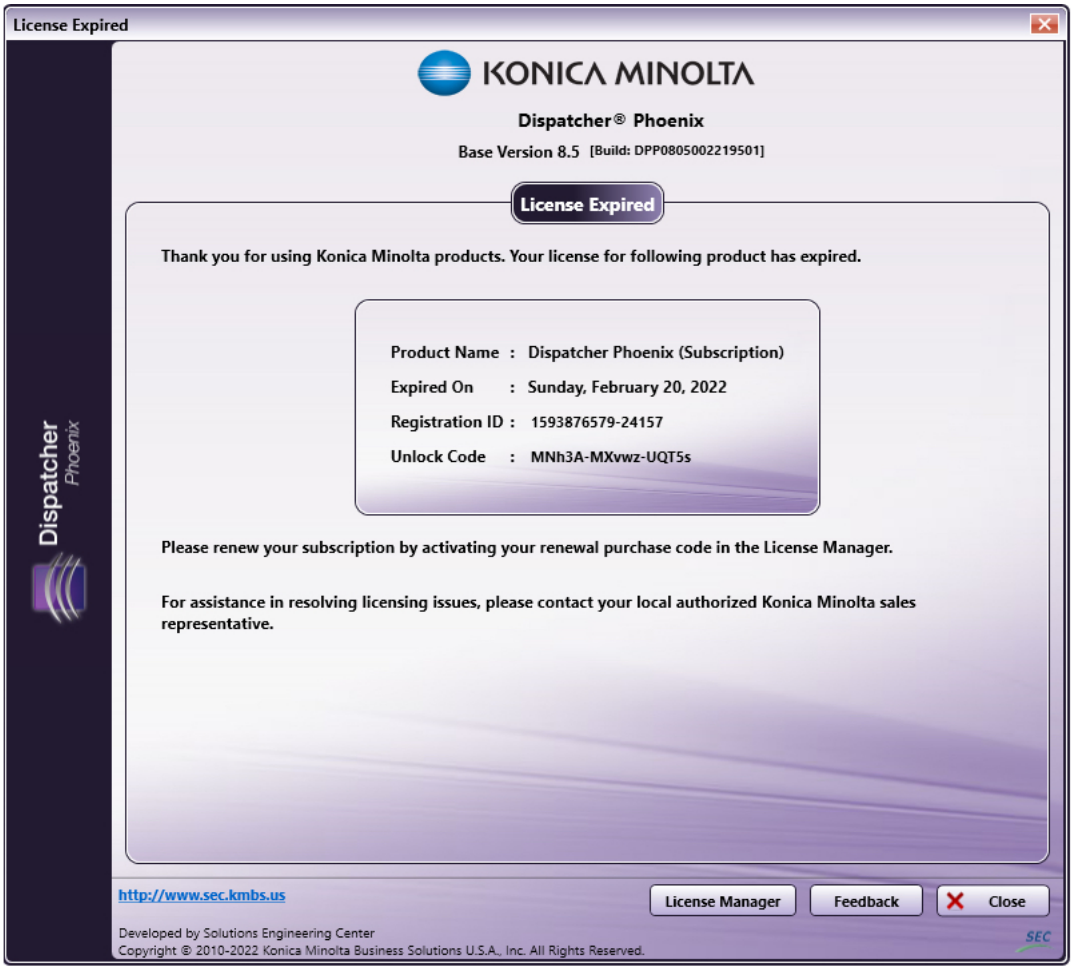
ライセンスの更新

[ヘルプ] > [ライセンスマネージャー...] の順に選択すると、**[ライセンスの更新]** タブがアクティブな状態でライセンスマネージャーが表示されます。ライセンスファイルが読み込めなくなったり、改ざんされたりした場合、このウィンドウを使用してライセンスファイルを更新できます。



期限付きライセンスの期限切れ

Dispatcher Phoenix の期限付きライセンスを購入して有効期限が切れた場合、Dispatcher Phoenix とライセンスマネージャーを開くと、次の画面が表示されます。

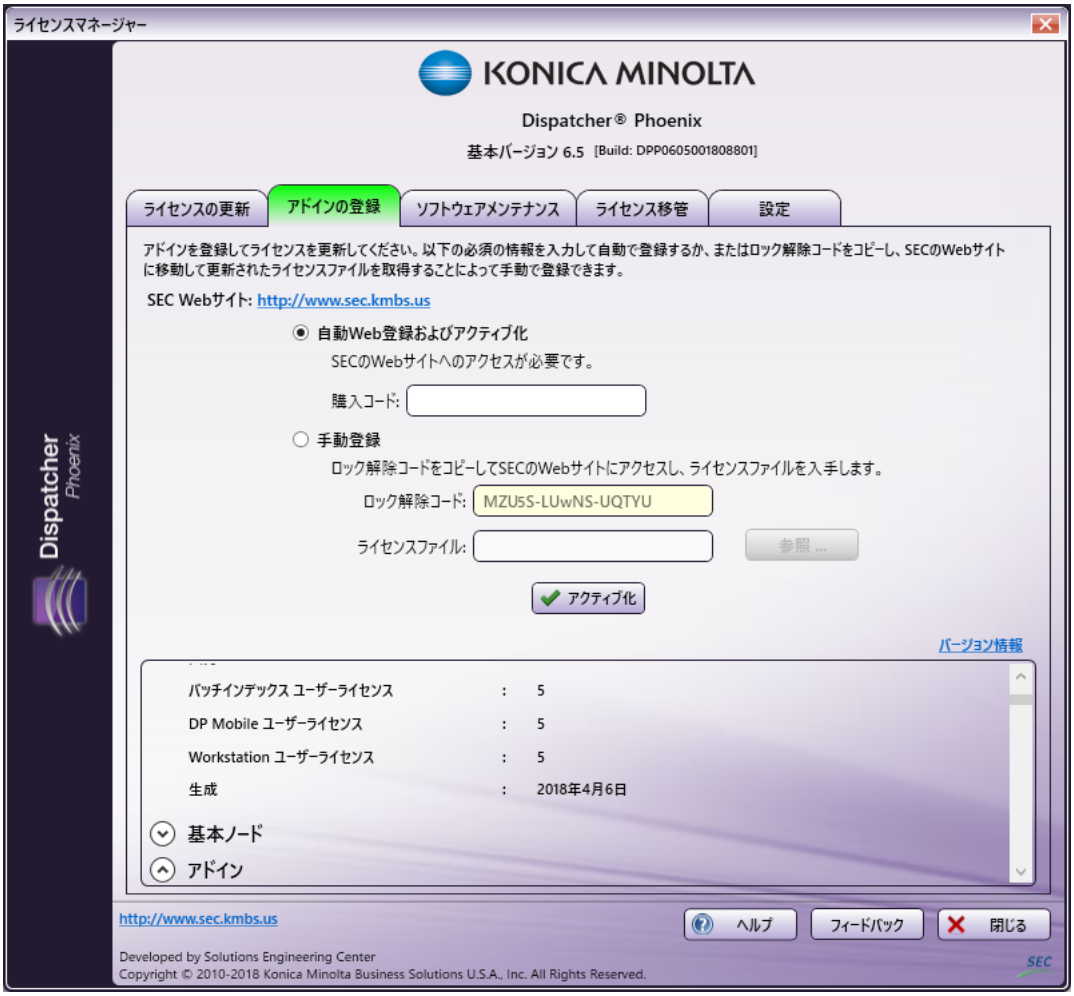


[ライセンスマネージャー] ボタンを選択すると、新しい購入コードを入力して、Dispatcher Phoenixライセンスを再アクティブ化することができます。

重要! Dispatcher Phoenixの期限付きライセンスの期限が切れた場合、すべてのワークフローが自動的に停止され、ライセンスが再アクティブ化された後に手動で再開する必要があります。

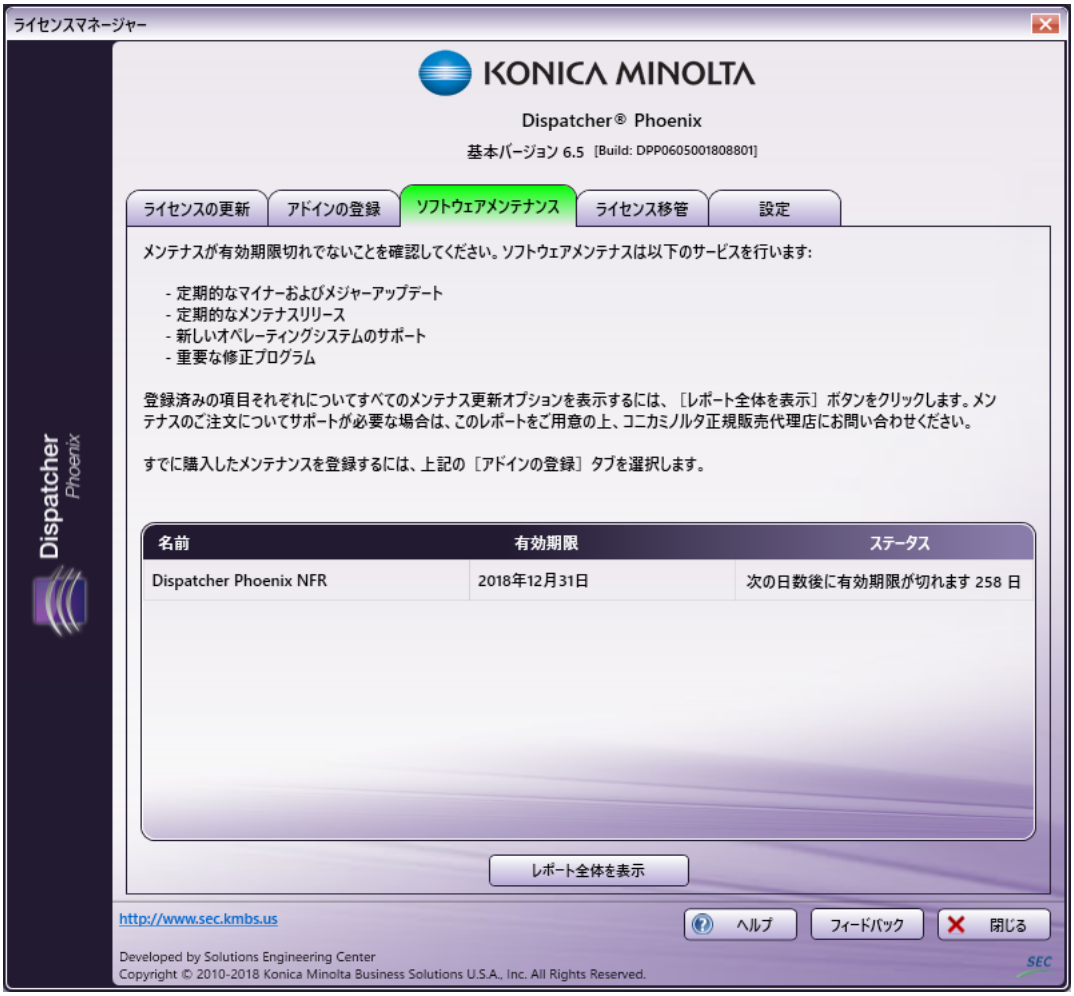
アドインの登録

[ヘルプ] > [アドインの登録...] の順に選択すると、ライセンスマネージャーが表示され、**アドインの登録** タブが有効になります。このウィンドウを使用して、アドインモジュールを登録することができます。



ソフトウェアメンテナンス

アプリケーションのソフトウェアメンテナンスに関する情報を表示するには、**[ヘルプ] > [ソフトウェアメンテナンス]** の順に選択します。次の図に示すように、[ソフトウェアメンテナンス]タブが開いた状態でライセンスマネージャーが起動します。

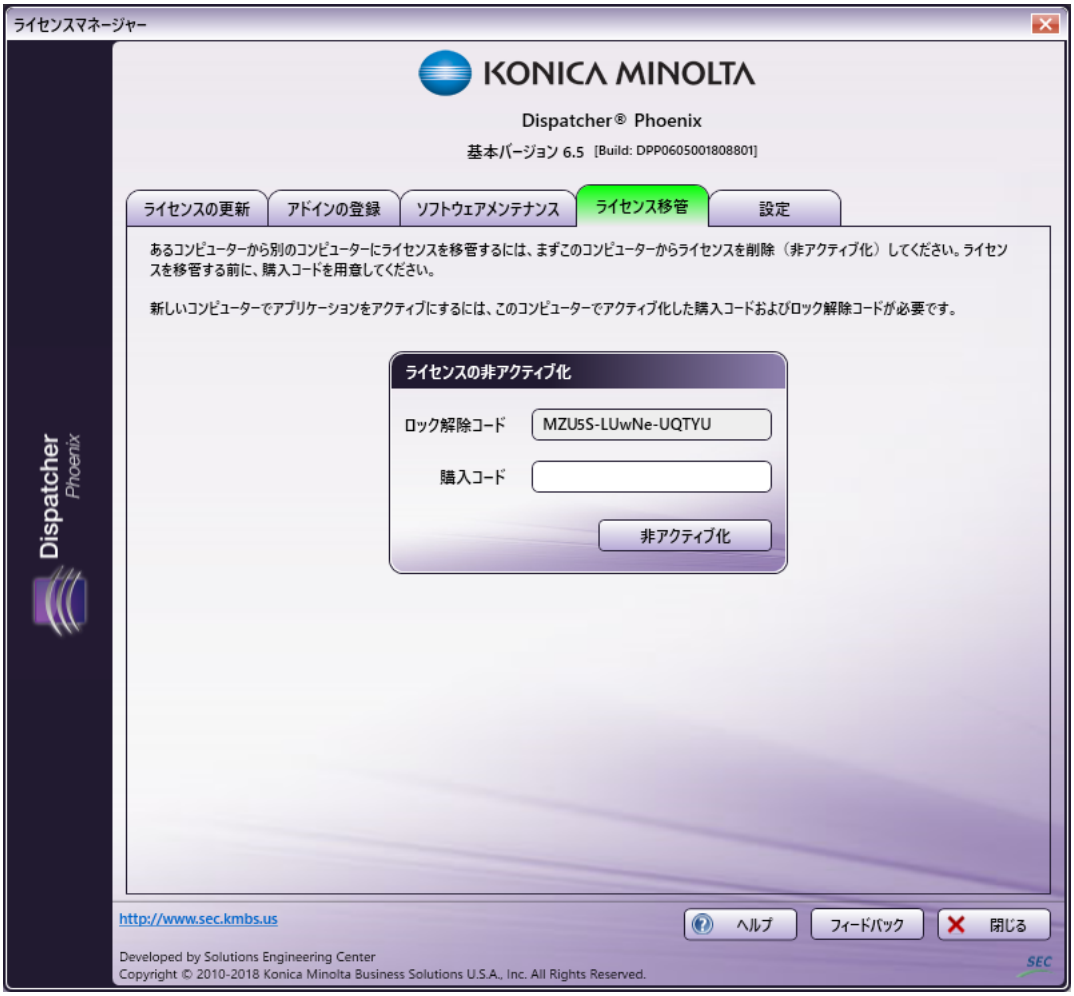


このウィンドウには、Dispatcher Phoenixインストール環境のすべてのコンポーネント(メインアプリケーションとアドインモジュール)が、有効期限、および現在のメンテナンス有効期限のステータスと共に表示されます。

メンテナンス更新オプションを表示するには、**[レポート全体を表示]** ボタンを選択します。メンテナンスの詳細は、次のセクションを参照してください。

ライセンス移管

新しいコンピューターを購入した場合、古いコンピューターから新しいコンピューターにライセンスを移管できます。**[ヘルプ] > [ライセンス移管]** の順に選択します。次の図に示すように、[ライセンス移管]タブが開いた状態でライセンスマネージャーが起動します。



オンライン非アクティブ化

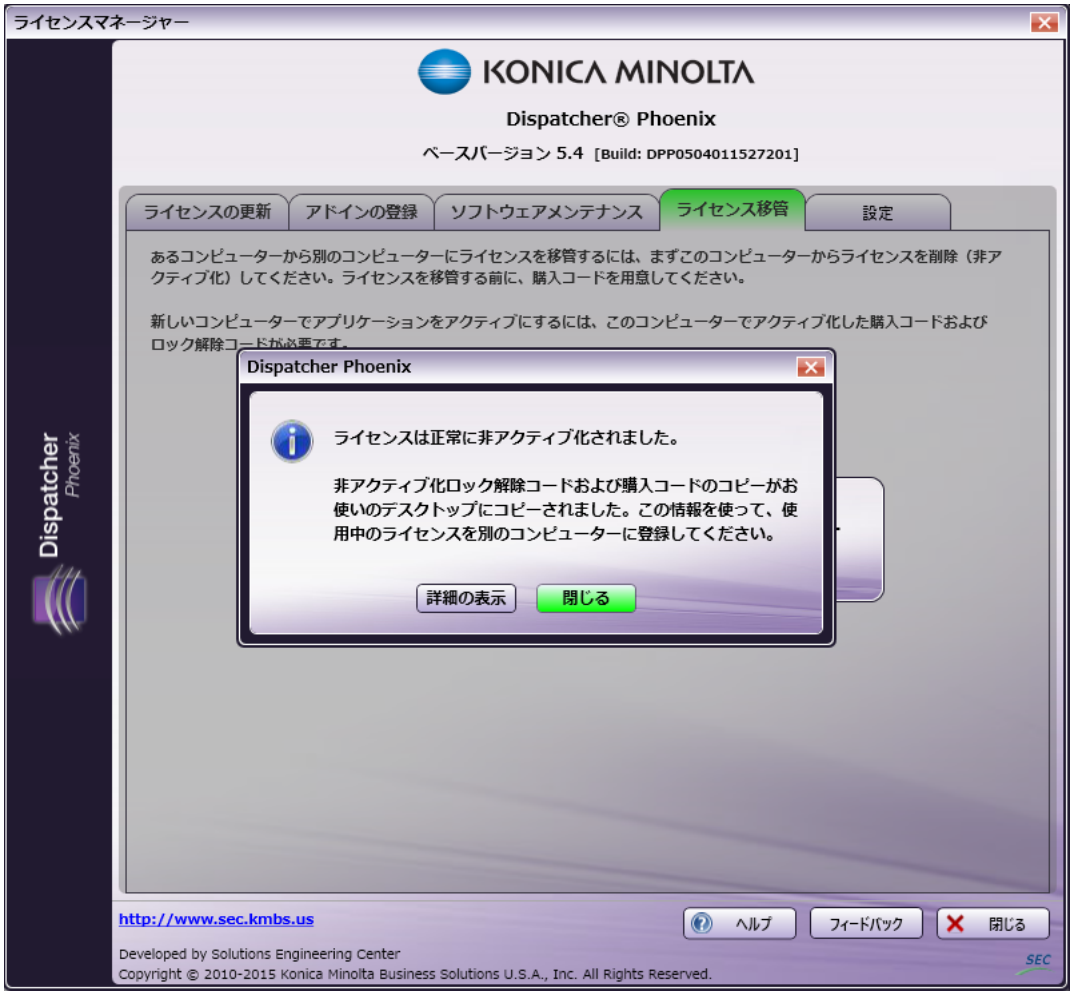
ライセンスを自動的に非アクティブ化するには、以下の操作を行います。

1. アプリケーションの購入コードを確認します。購入コードは、SECからの電子メールに記載されているか、Dispatcher Phoenix DVDに付属の証明書に印刷されているか、またはSEC Webサイト にログインして、**[MySEC]タブ** および、**Registration History(登録履歴)** で確認することができます。

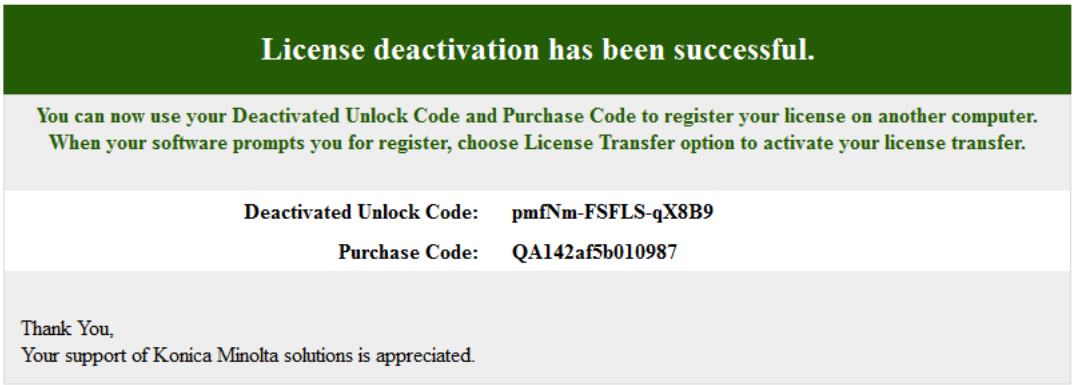
日付	製品	ロックコード	解除コード	購入コード	注文番号
Mon, November 23rd, 2020	Dispatcher Phoenix QA	xxxxxxxxxxx-F57mZ	MNhuW-VAcPJ-UQT4S	QA901566fe59523	Customize License Download License Email Notifications

   注: Dispatcher Phoenixライセンスを登録したSEC Webサイトユーザーアカウントにログインする必要があります。ライセンスを登録したユーザーアカウントがわからない場合、またはアカウントへのサインインについてサポートが必要な場合は、サポートチャネルにお問い合わせください。

2. 製品の購入コードを **[購入コード]** フィールドに貼り付けるか、入力します。
3. **[非アクティブ化]** ボタンを選択します。
4. 表示される確認メッセージで**[はい]** を選択します。次の図のように、ライセンスの非アクティブ化が成功したことを示す別のメッセージが表示されます。

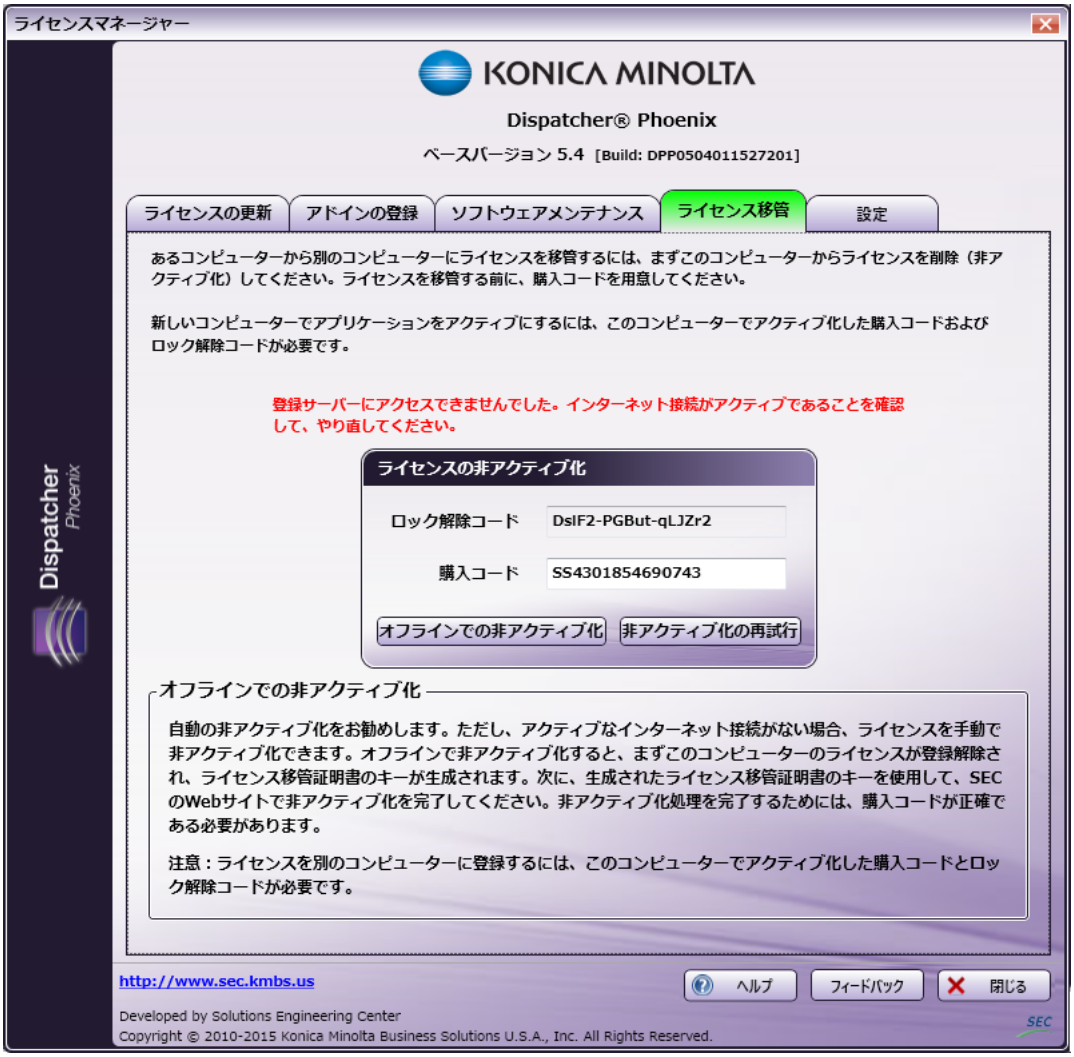


5. このメッセージで **[詳細の表示]** ボタンを選択すると、ライセンスの非アクティブ化に関する通知を表示できます。Dispatcher Phoenixライセンスを再度アクティブ化するには、これらを入力する必要があるため、非アクティブ化されたロック解除コードと購入コードをコピーします。この情報は、SEC Webサイトの **[MySEC]タブ** および、**Registration History(登録履歴)** で確認することができます。



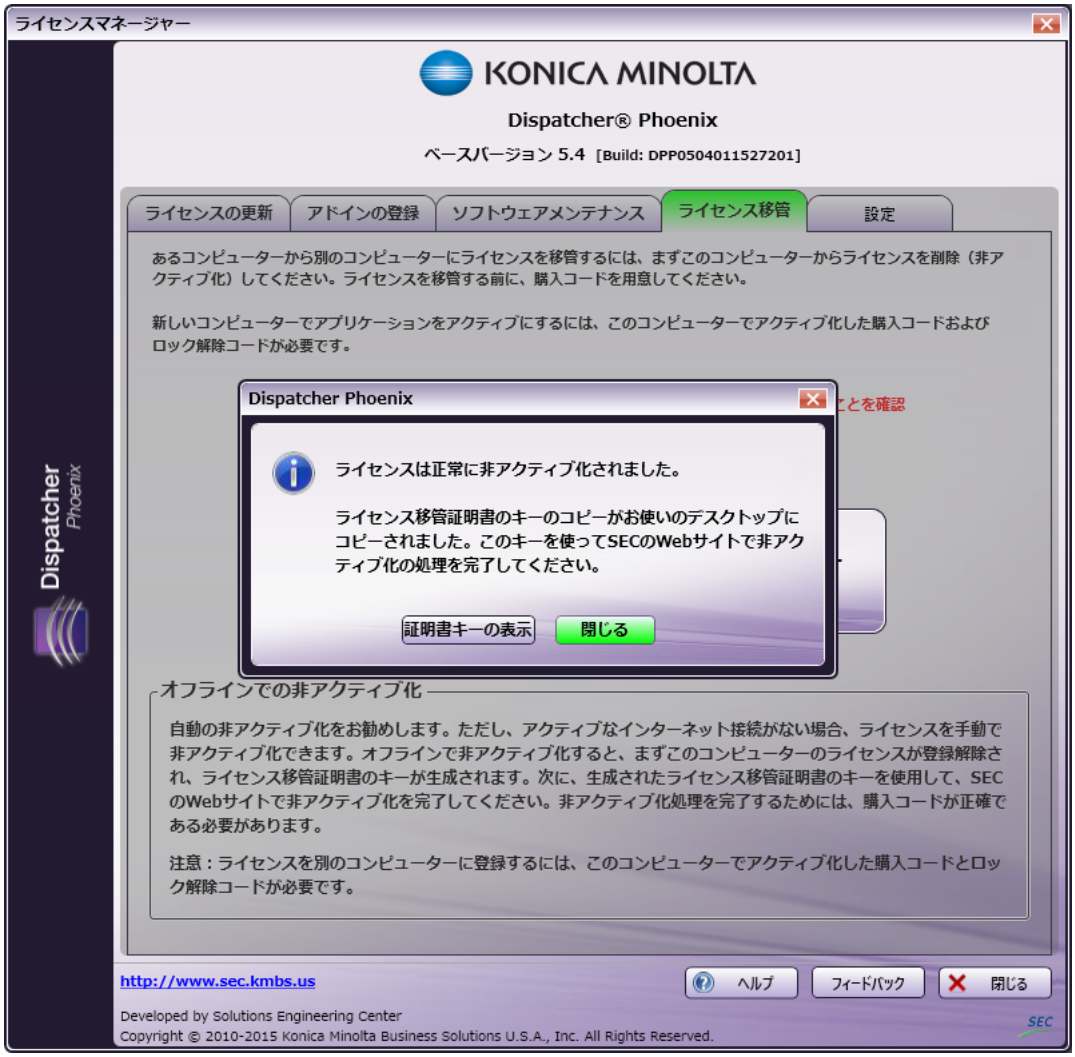
オフライン非アクティブ化

アクティブなインターネット接続がない場合、ライセンスを手動で非アクティブ化する必要があります。ライセンスを自動的に移管しようとすると、次の画面が表示されます。

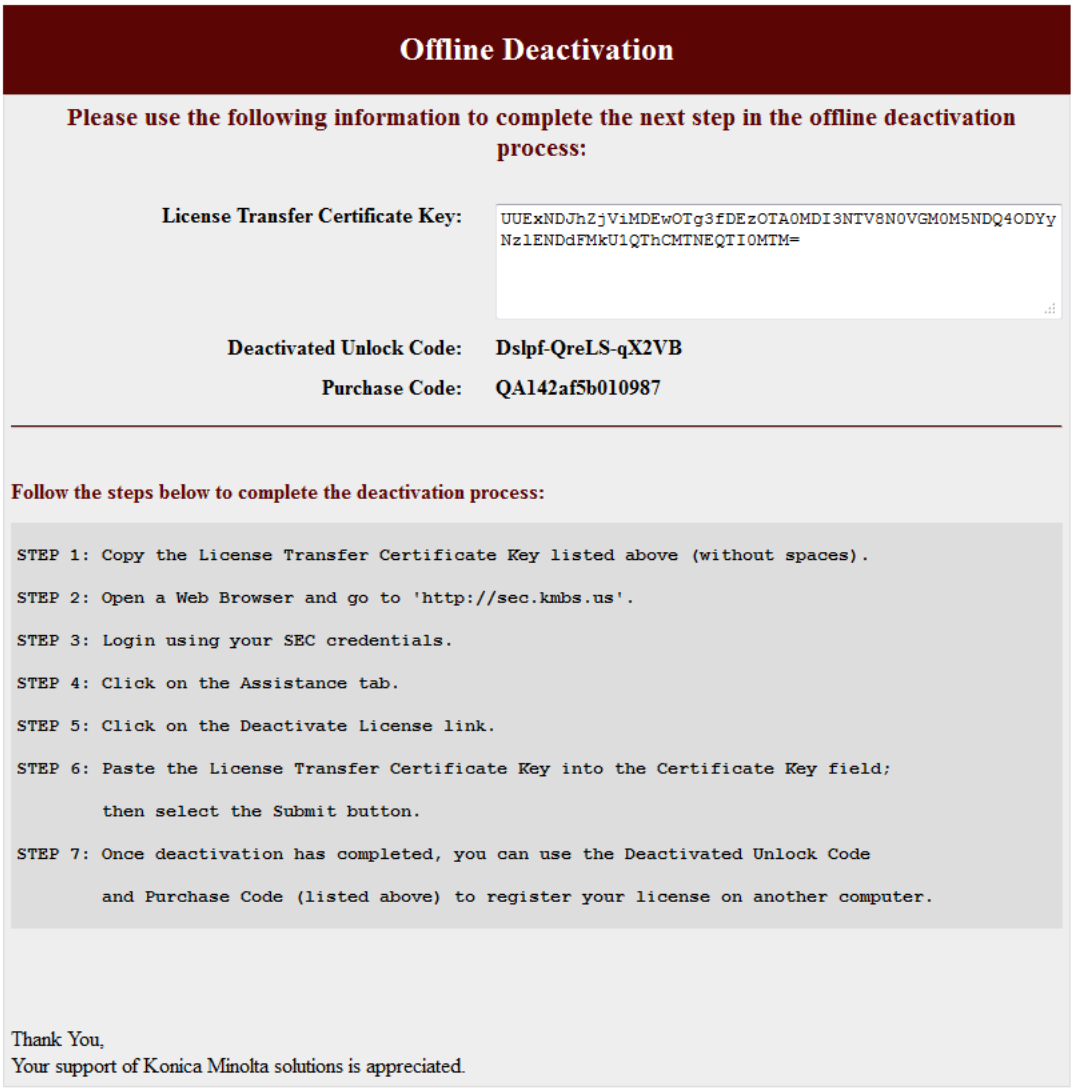


以下の操作を行います。

1. **[オフラインでの非アクティブ化]** ボタンを選択します。
2. 表示される確認メッセージで **[はい]** を選択します。
3. 次の図に示すように、自動的に生成されたライセンス移管証明書キーに関する通知が表示されます。



4. [**証明書キーの表示**] ボタンを選択すると、オフライン非アクティブ化通知が開き、ライセンス移管証明書キー、非アクティブ化されたロック解除コード、および購入コードが示されます。この情報をコピーします。例については、次の図を参照してください。



Offline Deactivation

Please use the following information to complete the next step in the offline deactivation process:

License Transfer Certificate Key:

```
UUExNDJhZjViMDEwOTg3fDEzOTA0MDI3NTV8N0VGM0M5NDQ4ODYy
NzlENDdFMkU1QThCMTNEQTI0MTM=
```

Deactivated Unlock Code: **Dslpf-QreLS-qX2VB**

Purchase Code: **QA142af5b010987**

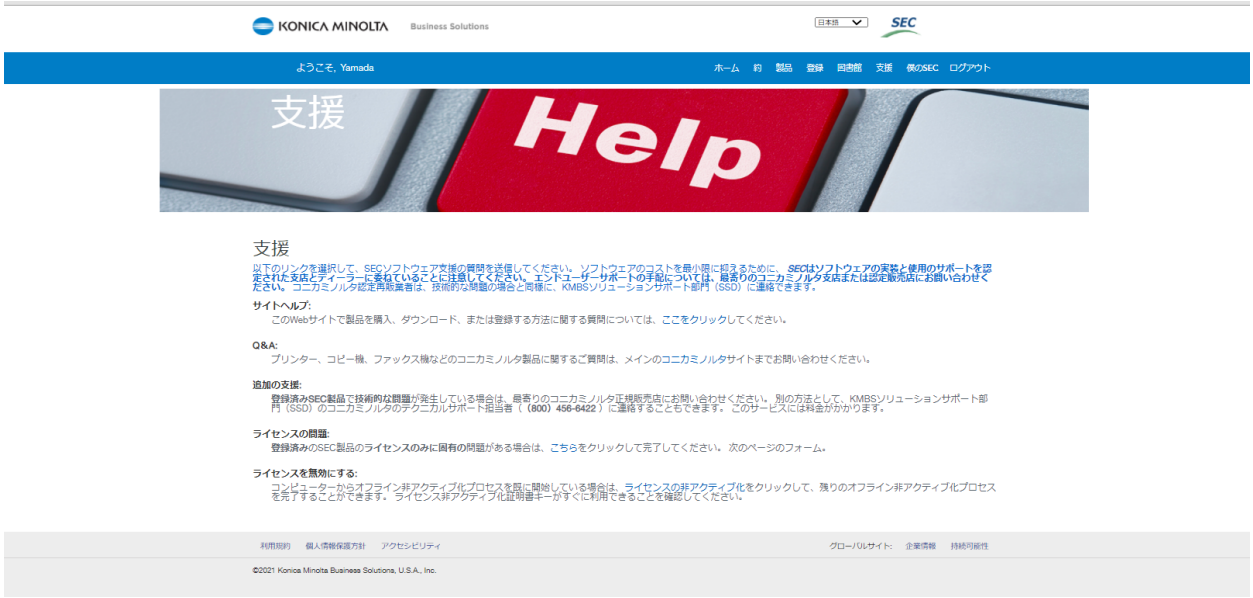
Follow the steps below to complete the deactivation process:

```
STEP 1: Copy the License Transfer Certificate Key listed above (without spaces).

STEP 2: Open a Web Browser and go to 'http://sec.kmbs.us'.

STEP 3: Login using your SEC credentials.

STEP 4: Click on the Assistance tab.

STEP 5: Click on the Deactivate License link.

STEP 6: Paste the License Transfer Certificate Key into the Certificate Key field;
        then select the Submit button.

STEP 7: Once deactivation has completed, you can use the Deactivated Unlock Code
        and Purchase Code (listed above) to register your license on another computer.
```

Thank You,
Your support of Konica Minolta solutions is appreciated.

注: スペースをコピーしないでください。

5. 上記の非アクティブ化されたロック解除コードと購入コードを使用して、新しいコンピューターにライセンスを登録できるようになります。
6. SEC Webサイト に移動して、SECの資格情報を使用してログインします。次の図のように、[**Assistance(支援)**] タブをクリックしてから、[**Deactivate License(ライセンスを無効にする)**] リンクをクリックします。



注: この操作を行うには、アクティブなインターネット接続が必要です。

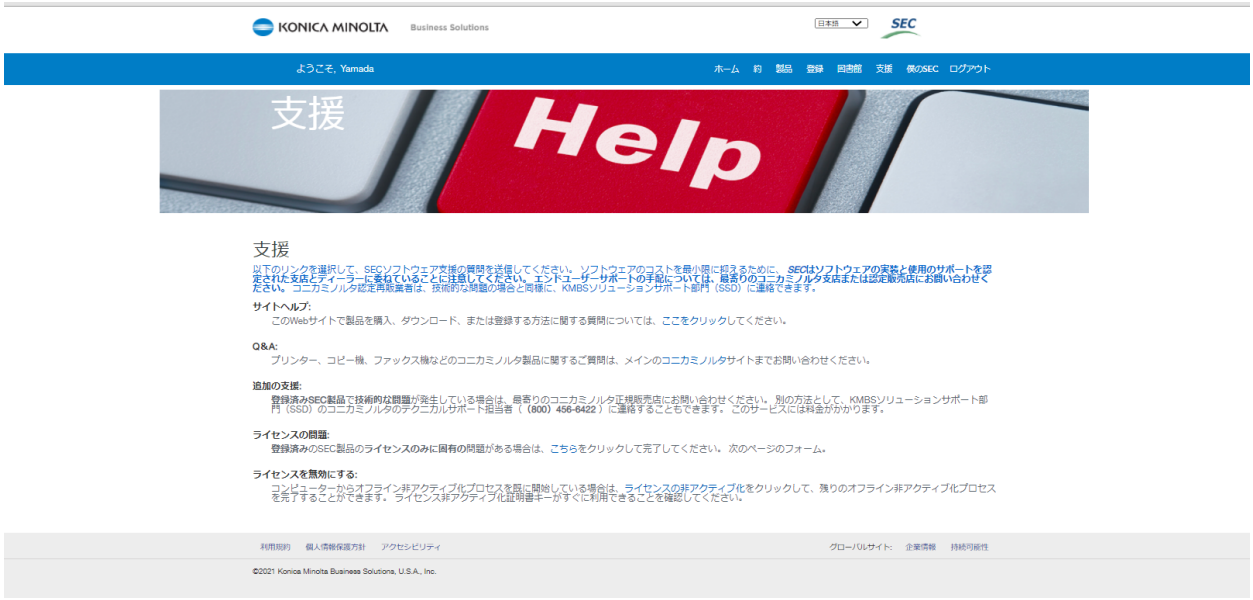
7. 次の図に示すように、利用可能なフィールドに **ライセンス移管証明書のキー** を貼り付けます。

8. **[Submit(送信)]** ボタンを選択します。
9. その後、新しいデバイスでライセンスを再登録できます。

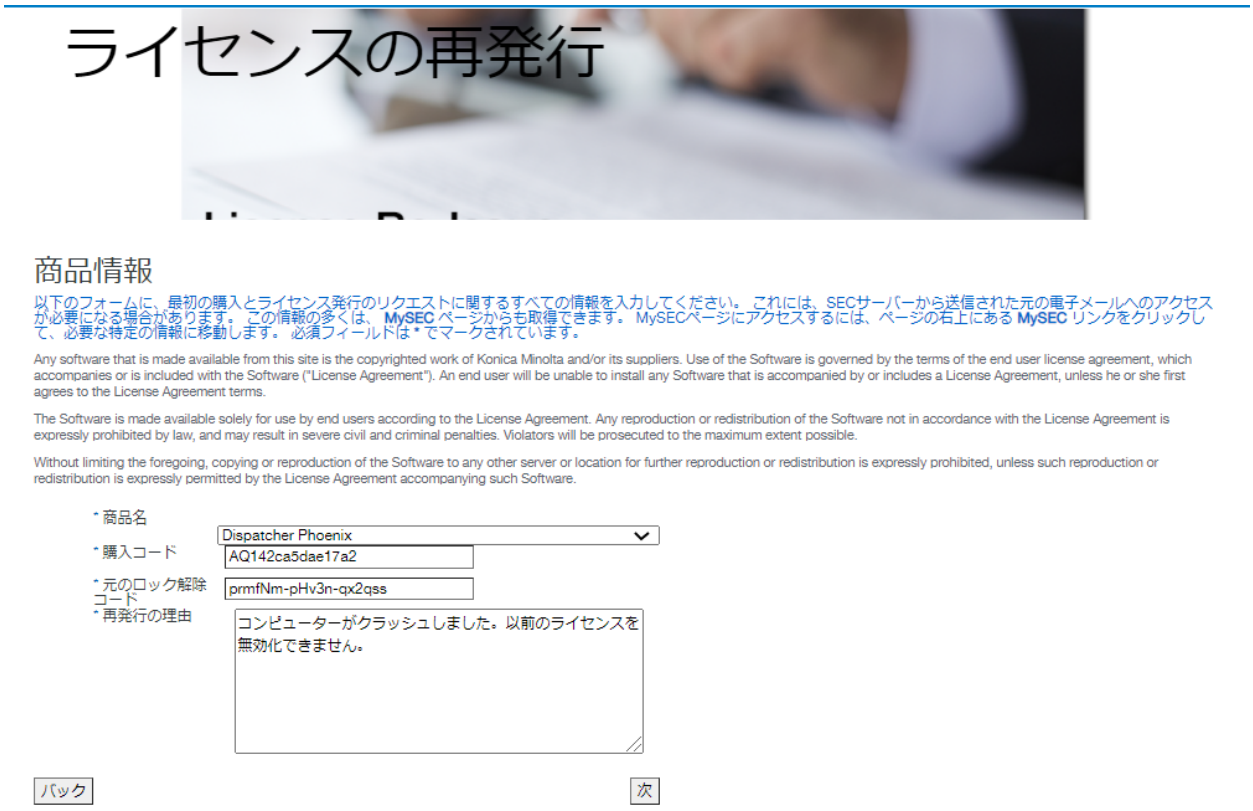
アクセスできないシステムでのライセンスの非アクティブ化

Dispatcher Phoenixがインストールされたコンピューターが突然クラッシュしたり、操作不能になったりした場合に、システムを復旧してライセンスを非アクティブ化する方法がないときは、SEC Webサイト を使用して、ライセンス移管を要求する必要があります。以下の手順に従います。

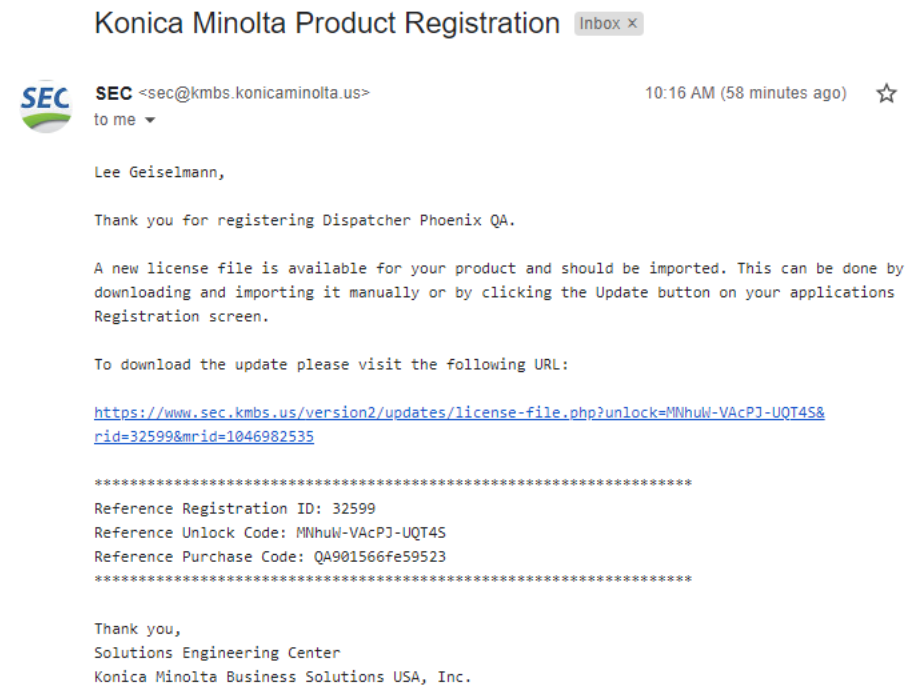
1. SEC Webサイトにログインし、[Assistance(支援)]タブを選択します。
2. 次の図に示すように、[Assistance(支援)]ウィンドウで、**[License Issues(ライセンスの問題)]** の下にある **[click here(こちらをクリック)]** リンクを選択して開始します。



3. 次に[SEC Policy(SECポリシー)]画面が表示されます。**[Continue(継続する)]** リンクを選択して、SECライセンスポリシーを読み、理解し、同意したことを確認します。次の画面に、ライセンス移管をリクエストするために必要なもののリストが表示されます。準備ができたら、[**次へ**] ボタンを選択します。
4. 次に表示される使用許諾契約で、ページの下部にある **[同意する]** リンクを選択して、ライセンス契約を読み、理解し、同意したことを示します。表示される[概要]画面で、**[同意する]** を選択します。
5. 表示される[製品情報]画面で、**製品名** を選択します。次に、**[購入コード]** と **[元のロック解除コード]** を適切なフィールドに貼り付けます。表示されたテキストフィールドに、リクエストの **再発行の理由** を入力します。完了したら、[**次へ**] ボタンを選択します。例については次の図を参照してください。



6. 次に表示される使用許諾契約で、ページの下部にある **[同意する]** リンクを選択して、ライセンス契約を読み、理解し、同意したことを示します。表示される[概要]画面で、**[同意する]** を選択します。
7. この時点で、リクエストが送信されます。評価時に、ライセンス移管情報を記載したメールが届きます。例については、次の図を参照してください。


Konica Minolta Product Registration Inbox ×

SEC <sec@kmbs.konicaminolta.us> 10:16 AM (58 minutes ago)
to me

Lee Geiselmann,

Thank you for registering Dispatcher Phoenix QA.

A new license file is available for your product and should be imported. This can be done by downloading and importing it manually or by clicking the Update button on your applications Registration screen.

To download the update please visit the following URL:

https://www.sec.kmbs.us/version2/updates/license-file.php?unlock=MNhuW-VAcPJ-UQT4S&rid=32599&mrid=1046982535

****
Reference Registration ID: 32599
Reference Unlock Code: MNhuW-VAcPJ-UQT4S
Reference Purchase Code: QA901566fe59523
****

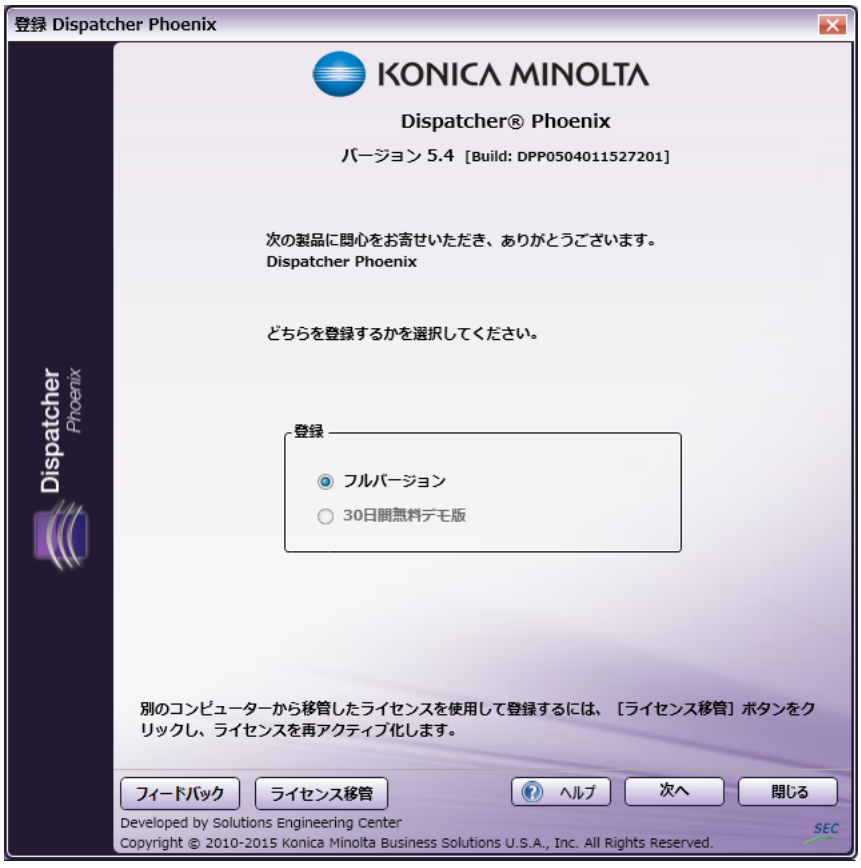
Thank you,
Solutions Engineering Center
Konica Minolta Business Solutions USA, Inc.

8. その後、新しいデバイスでライセンスを再登録できます。

新しいコンピューターでの登録のアクティブ化

ライセンスを非アクティブ化したら、新しいコンピューターでDispatcher Phoenixを登録する必要があります。登録画面には、ライセンスを簡単に再アクティブ化できる「ライセンス移管」オプションが含まれています。以下の操作を行います。

1. 次の図に示すように、[登録 Dispatcher Phoenix]ウィンドウが表示されたら、ウィンドウの下部にある **[ライセンス移管]** ボタンをクリックします。



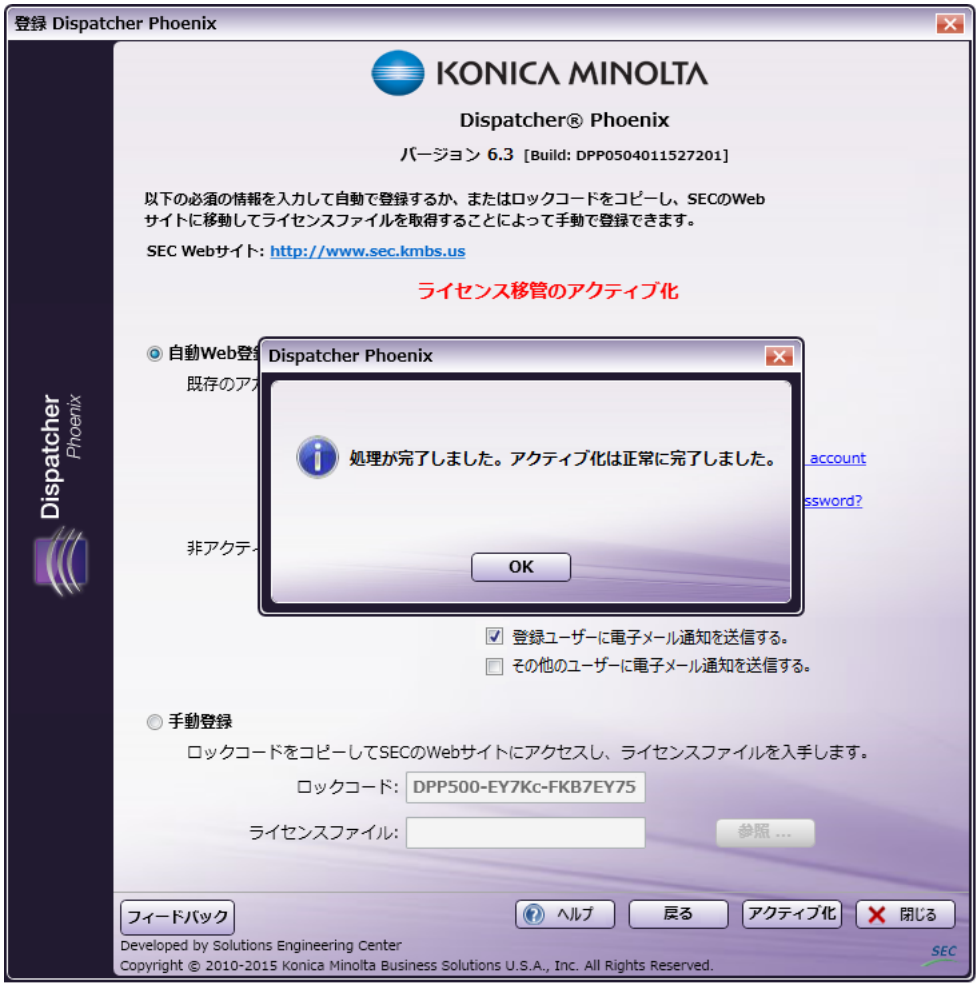
注: 「フルバージョン」として登録しようとすると、「Cannot register the product because the purchase code has no licenses remaining.(登録に失敗しました。購入コードに残りライセンスがないため製品を登録できません。)」というエラーが表示されます。

2. 次の図のように、[ユーザー名]、[パスワード]、[非アクティブ化されたロック解除コード]、および[購入コード]フィールドに必要な情報を入力します。

注: 非アクティブ化されたロック解除コードと購入コードは、SEC Webサイト にログインして、**[MySEC]タブ** および、**Registration History(登録履歴)** で確認することができます。

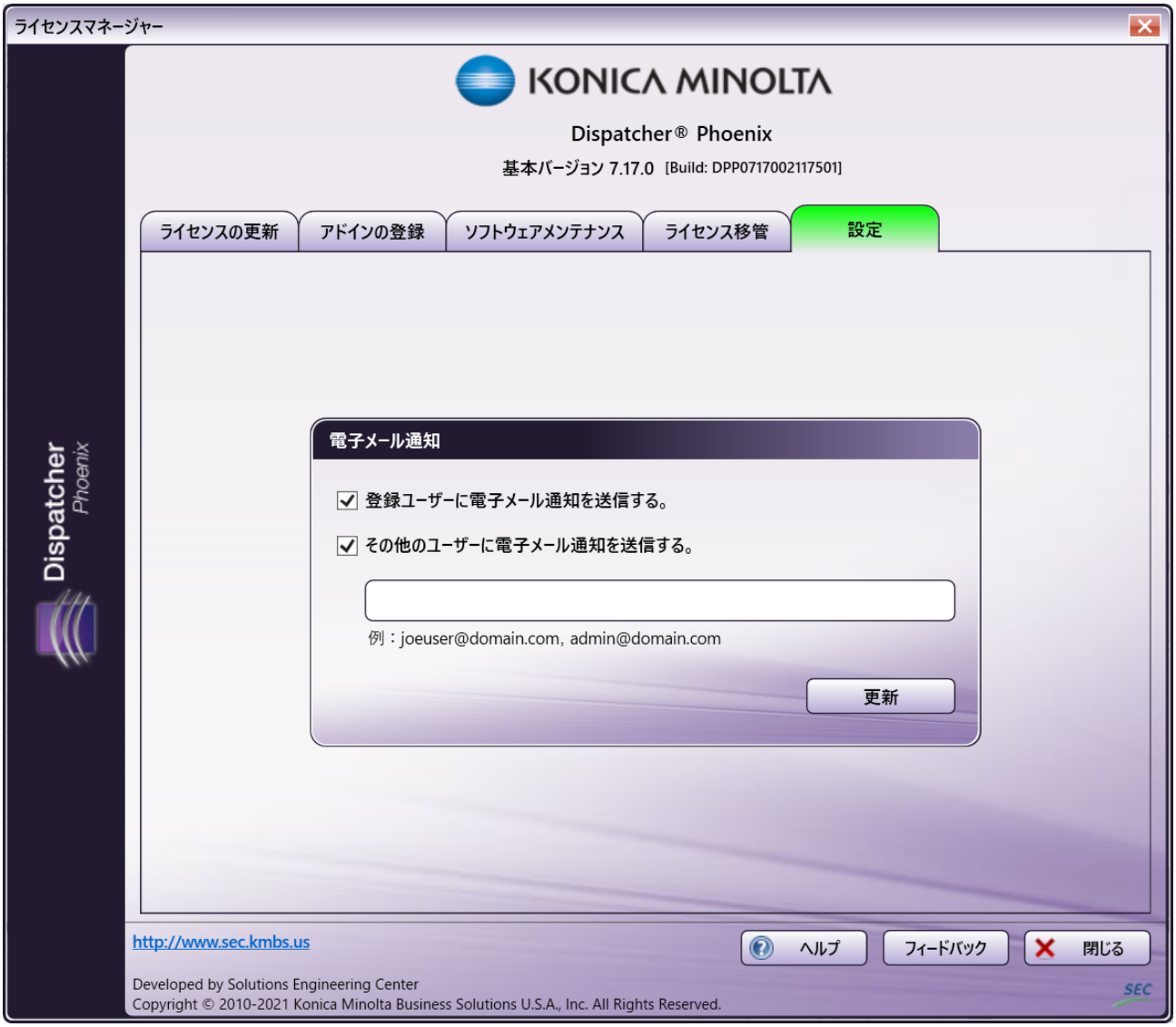
3. **[アクティブ化]** ボタンを選択します。

4. 次の図のように、移管が成功したことを示す確認メッセージが表示されます。



設定

[ヘルプ] > [ライセンスマネージャー...] を選択し、**[設定]** タブを選択すると、電子メール通知の取得方法を指定できます。**[その他のユーザーに電子メール通知を送信する]** を選択した場合は、電子メールアドレスをカンマ、スペース、またはセミコロンで区切って入力できます。

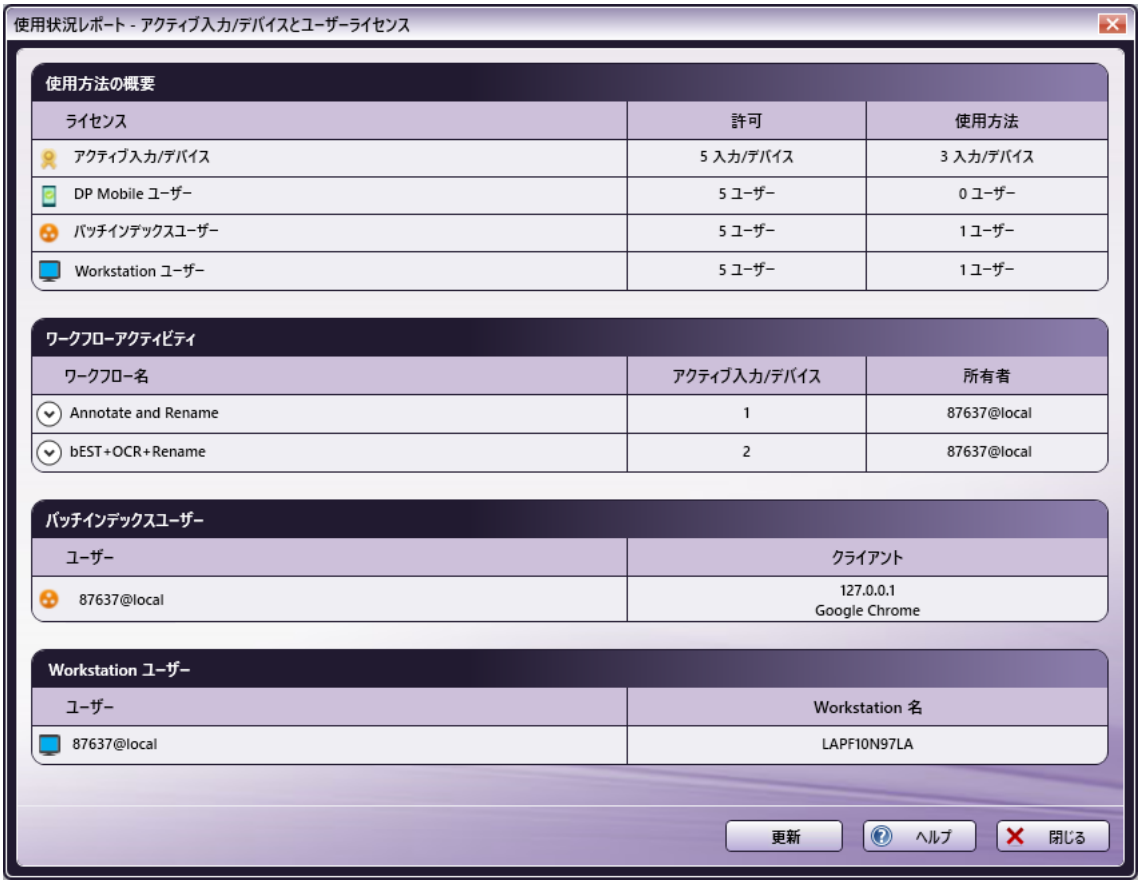


ライセンス使用状況レポート

ライセンス使用状況レポート は、**Dispatcher Phoenix** プラットフォーム全体でライセンスの使用状況を追跡する動的に生成されたレポートです。

ライセンス使用状況レポート:

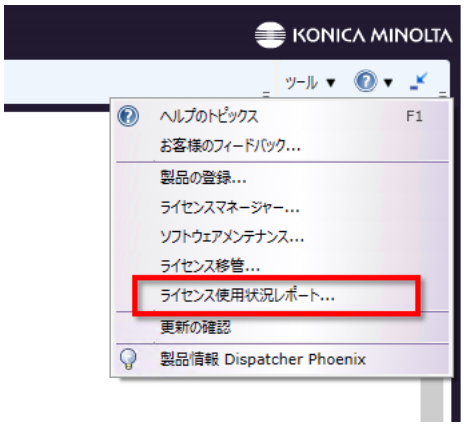
1. 使用可能で現在使用されている入力、デバイスおよびユーザーライセンスの数を表示します。
2. アクティブ入力を使用しているワークフローに関する追加の情報を提供します。
3. 現在使用中で、バッチインデックス、Workstation、およびDispatcher Phoenix Mobileに使用可能なユーザーライセンスに関する情報を提供します。



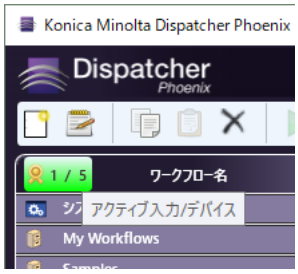
ライセンス使用状況レポートの生成

ライセンス使用状況レポートを起動するには、次のいずれかを実行します。

1. 右上隅にある **[ヘルプ]** ドロップダウンをクリックして、**[ライセンス使用状況レポート]** を選択します。



2. ワークフローリストに表示されている **[アクティブ入力カウント]** をクリックします。



ライセンス使用状況レポートが要求に応じて生成されます。レポートが読み込まれると、次の操作を実行できます。

- リストのワークフローをクリックして、**ワークフローアクティビティ** 領域を展開、または、折りたたみます。
- ウィンドウに表示されている使用情報を更新するには、**[更新]** ボタンを選択します。
- 使用状況レポートを閉じるには、**[閉じる]** ボタンを選択します。

使用状況レポートの詳細については、ここをクリックしてください。

複合機へのDispatcher Phoenixのインストール

複合機にDispatcher Phoenixを登録するには、以下の操作を行います。

1. **複合機を登録します。** Dispatcher Phoenixには、ネットワーク上の複合機を自動検出できる複合機登録ツールがあります。複合機を登録するには、以下の操作を行います。
    1. Dispatcher Phoenixアプリケーションを開きます。
    2. 画面の右上で、**[ツール]** 、**[複合機登録ツール...]** の順に選択します。
    3. **[複合機を検索]** を選択します。
    4. 登録する複合機の横にあるチェックボックスをチェックします。一度に複数の複合機を選択できます。その後、**[選択]** ボタンを選択します。
    5. 複合機登録ツールのホーム画面の右側にある **[ステータス]** 列に、どの複合機が[登録済み]で、どの複合機が[登録解除済み]であるか表示されます。登録する[登録解除済み]の複合機の横にあるチェックボックスをチェックして、**[複合機の登録]** ボタンを選択します。

    詳細については、**複合機登録** ページを参照してください。

2. **ワークフロービルダーを使用して新規ワークフローを作成します。** Dispatcher Phoenixを使用すると、ビジネスニーズに合わせてカスタマイズされた高度なドキュメントワークフローを簡単に設計できます。複合機にDispatcher Phoenixをインストールするときの次の手順は、**複合機パネルノード** が含まれるワークフローの作成です。このワークフローを作成するには、以下の操作を行います。
    1. Dispatcher Phoenixアプリケーションを開きます。
    2. 最上部のナビゲーションバーで、**[新規ワークフロー...]** アイコンを選択します。これにより、ワークフロービルダーが新しいウィンドウで開きます。
    3. ワークフロービルダーの **[収集]** 領域で、**[複合機パネル]** アイコンを選択して、ワークフロービルダーのキャンバスにドラッグアンドドロップします。
    4. **[複合機パネル]** アイコンをダブルクリックして、**[複合機パネルノード]** ウィンドウを開きます。
    5. **[使用できる登録済みの複合機]** 領域で、使用する登録済みの複合機の横にあるチェックボックスをチェックして、**[ノードに追加]** を選択します。使用する登録済みの複合機を選択して、**[選択された複合機]** 領域にドラッグアンドドロップすることもできます。
    6. 完了したら、**[保存]** を選択します。

3. **ワークフローを完成させます。複合機パネルノード** に登録済みの複合機を追加したら、ワークフローを完成させる必要があります。以下の操作を行います。
    1. ワークフロービルダーの **[処理]** 領域で、任意の処理ノードアイコンを選択して、ワークフロービルダーのキャンバスにドラッグアンドドロップします。
    2. ワークフロービルダーの **[配信]** 領域で、任意の配信ノードアイコンを選択して、ワークフロービルダーのキャンバスにドラッグアンドドロップします。まだ操作に慣れていない場合は、**出力フォルダーノード** から始めるとよいでしょう。**[出力]** アイコンをダブルクリックして、**[出力フォルダー]** ウィンドウを開きます。**[出力ディレクトリーの選択]** の横にある参照アイコンを選択します。ディレクトリー内のフォルダーを選択して、**[フォルダーを選択]** を選択します。
    3. 完了したら、**[保存]** を選択します。
    4. コネクター（ワークフロービルダーの左側にある赤い矢印）を選択してから、**[複合機パネルノード]** アイコン、処理ノードアイコンの順にクリックします。他のコネクターを選択した後、処理ノードアイコン、出力ノードアイコンの順にクリックします。
    5. ワークフローが有効かどうか確認するには、最上部にある **[フロー検証]** アイコンを選択します。F12キーをタップしてこの操作を行うことができます。

詳細については、**複合機パネルノード** ページを参照してください。

複合機でのDispatcher Phoenixへのアクセス

複合機のパネルでDispatcher Phoenixにアクセスするには、以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenixアプリケーションを開き、前のセクションで作成したワークフローを選択した後、最上部にある **[ワークフローの開始/再開]** アイコンを選択します。
2. 複合機のパネルで、複合機のホーム画面に移動します。
3. **[アプリケーション]** ボタンをタップします。
4. **[Dispatcher Phoenix]** ボタンをタップします。
5. ユーザー認証のプロンプトを表示するように複合機を構成している場合、ユーザー名とパスワードを使用してログインしてから、矢印ボタンをタップします。

詳細については、**複合機パネルノード - 複合機パネルワークフローの実行** ページを参照してください。

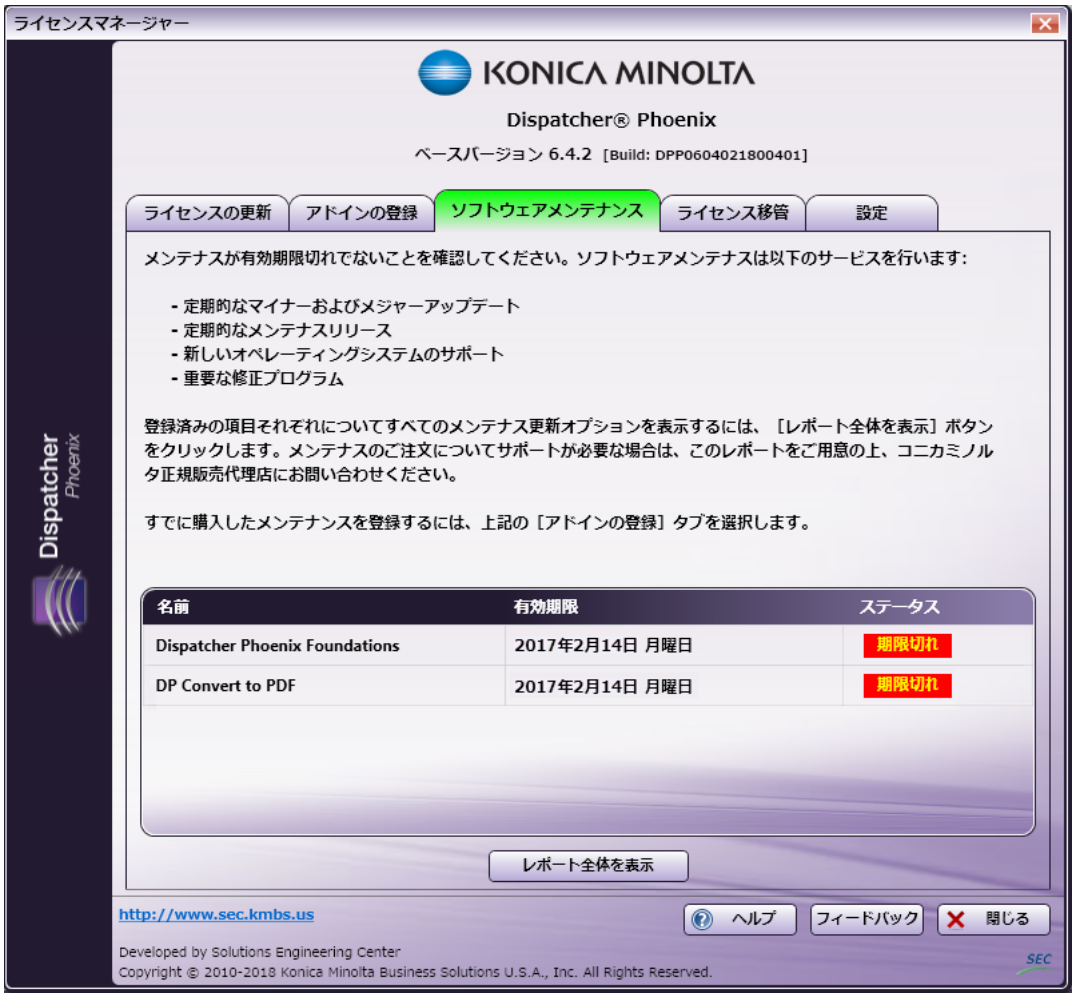
メンテナンスの更新

Dispatcher Phoenixのメンテナンスライセンスを更新するには、次の手順を実行します。

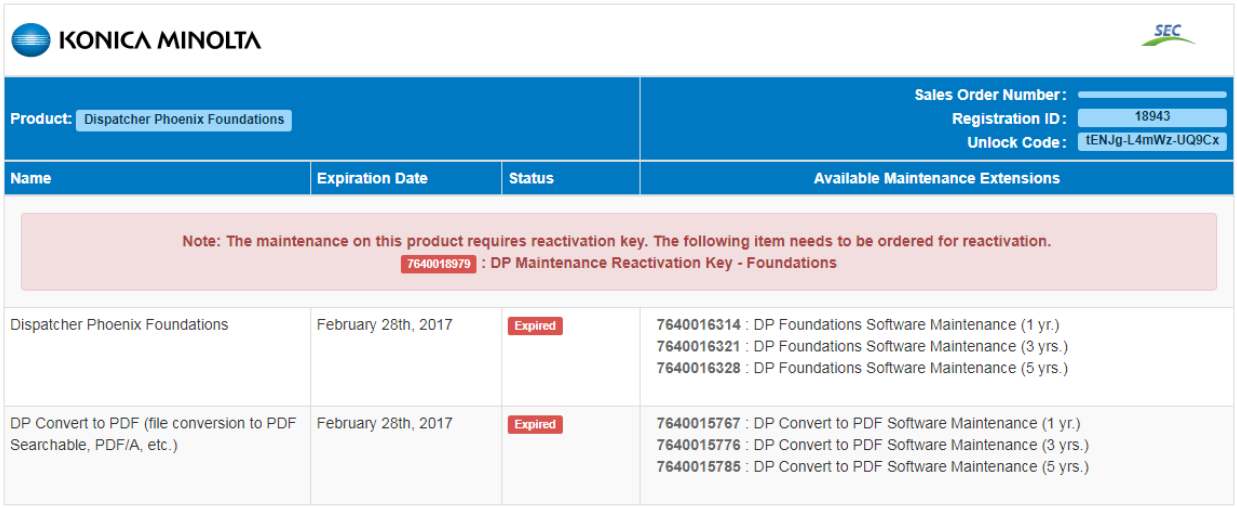
1. コニカミノルタの販売担当者に連絡し、メンテナンスアップデートを購入してください。証明書は購入コードとともに出荷されます。

2. Dispatcher Phoenixを開き、ライセンスマネージャーを開きます。ライセンスマネージャーを開くには、右上隅にあるヘルプアイコンをクリックし、次に **ライセンスマネージャー** をクリックします。

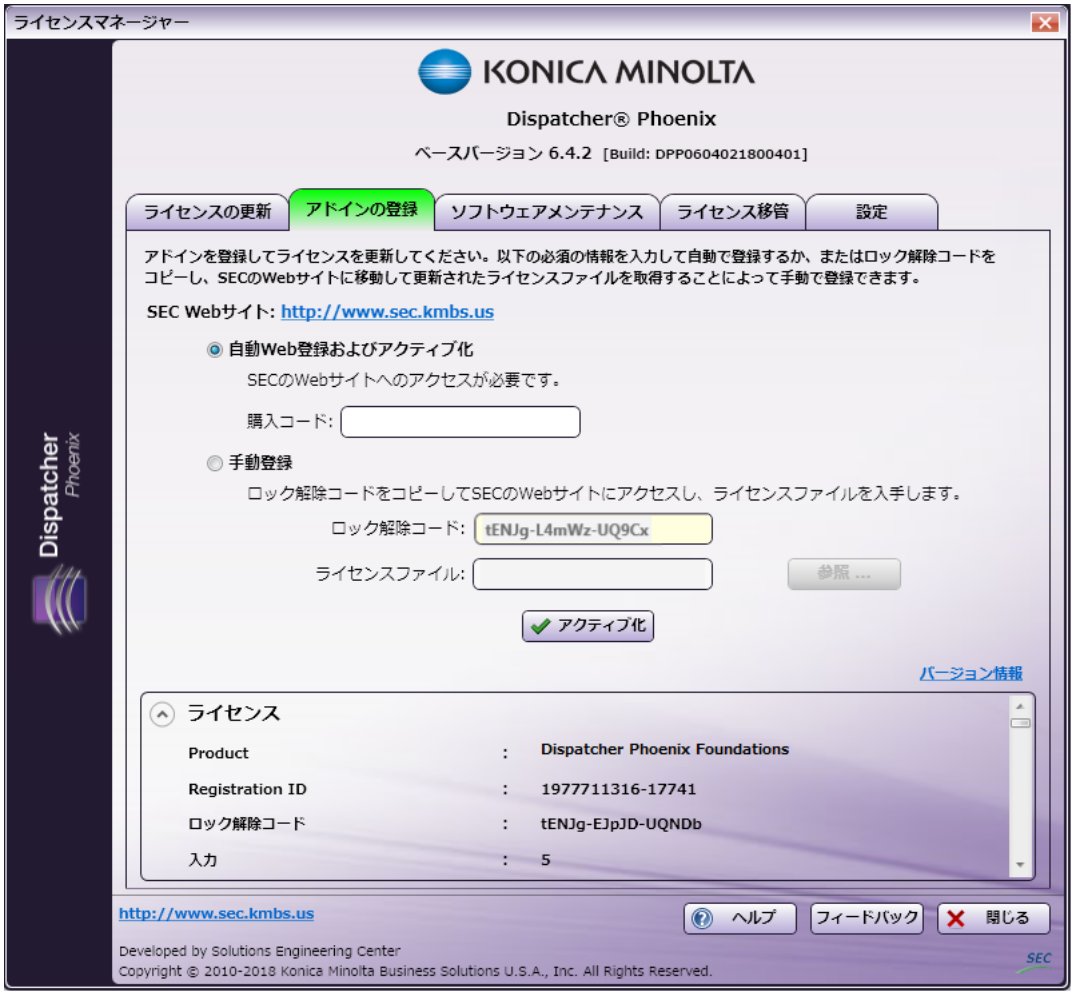
3. **ソフトウェアメンテナンス** タブを選択すると、下の図に示すように、ステータスが期限切れになっていることが表示されます。



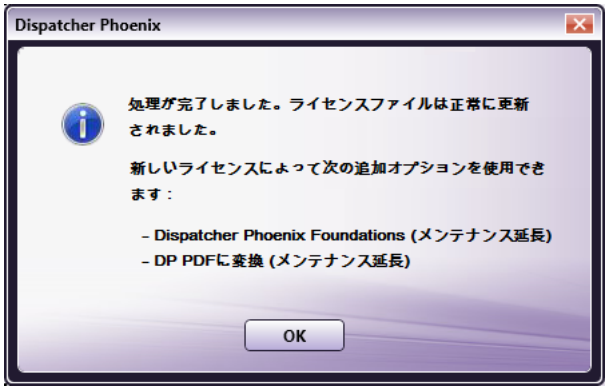
4. 詳細を表示するには、**レポート全体を表示** をクリックします。次の図に示すように、Webブラウザーでページが開きます。



5. **アドインの登録** タブを選択します。**自動Web登録およびアクティブ化** ラジオボタンを選択し、購入コードを **購入コード** フィールドに入力します。次に、**アクティブ化** をクリックします。



6. メンテナンスライセンスが正常に更新されたことを確認するポップアップが表示されます。



ワークフローの構築と実行

アプリケーションのメイン画面の使用

Dispatcher Phoenixを初めて起動する

Dispatcher Phoenixを正常にインストールしたら、次の手順に従ってアプリケーションを起動します。

1. **Dispatcher Phoenix** アイコンをダブルクリックします。アプリケーションがロードされ、ログイン資格情報の入力を求められます。
2. ログイン認証情報を入力します。

重要!

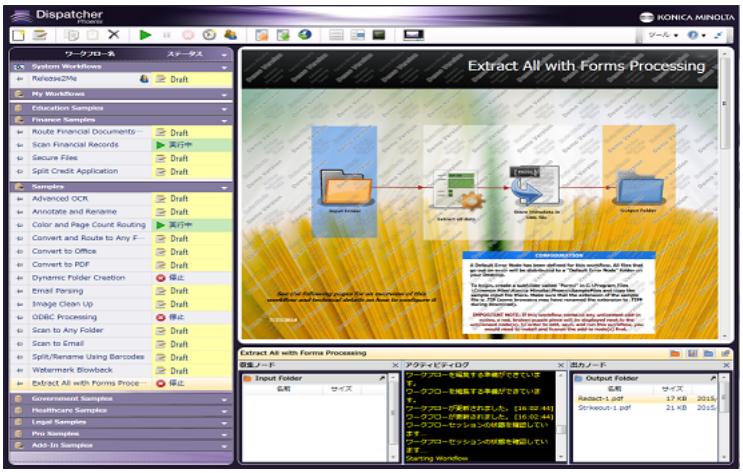
Microsoft Entra IDでログインする場合は、**Workflow Services Manager** を事前に設定する必要があります。セットアップが完了すると、[ユーザー名]フィールドにEntra IDを入力できるようになります。

- Microsoftログインを使用する場合、ドロップダウンメニューで利用できるようになります。

アプリケーションの要素

メインウインドウには次の要素が含まれています。

- ツールバー
- ワークフローリスト
- プレビュー領域
- アクティビティペイン



ツールバー

アプリケーションのメイン画面では、画面上部のツールバーにアプリケーションを使用する際に役立つアイコンやプルダウンメニューが用意されています。

アイコン

ツールバーのアイコンは次のとおりです。

アイコン	説明
	[新規] - ワークフロービルダーを開いて、新しいワークフローを作成できます。
	[編集] - 強調表示したワークフローのワークフロービルダーを開きます。
	[コピー] - 選択したワークフローをコピーします。
	[ペースト] - クリップボードにコピーしたワークフローを[ワークフローリスト]にペーストします。
	[削除] - 選択したワークフローを削除します。
	[ワークフローの開始/再開] - 選択したワークフローの実行を開始します。
	[一時停止] - 選択したワークフローを一時停止します。
	[停止] - 選択したワークフローを停止します。
	[スケジュール] - 選択したワークフローのスケジュールを定義するためのパネルを開きます。
	[共有ステータスの切り替え] - ワークフローを1つ以上選択している場合にこのアイコンをクリックすると、ワークフローが「共有」として指定されます。つまり、このコンピューターにアクセスできるユーザーなら誰でも、その実行中のワークフローを使用できます。共有ステータスのオン/オフを切り替えることができます。「共有」として指定すると、ワークフローの横に[共有]アイコンが表示されます。
	[インポート] - 既存のワークフローをインポートします。
	[エクスポート] - ワークフローを*.wfxpファイルとしてエクスポートします。
	[オンラインサンプル] - 表示およびダウンロードができるサンプルワークフローが掲載されたWebページを開きます。
	[ワークフローリストの表示/非表示] - 画面の左上にある[ワークフローリスト]の表示/非表示を切り替えます。
	[プレビューの表示/非表示] - [ワークフローのプレビュー]の表示/非表示を切り替えます。
	[アクティビティの表示/非表示] - アクティビティペインの表示/非表示を切り替えます。
	[複合機シミュレーター] - Dispatcher Phoenix複合機シミュレーターツールを起動します。

ツールメニュー

画面の右上隅にある **[ツール]** メニューから、アプリケーションのさまざまな機能やツールにアクセスできます。オプションは次のとおりです。

- **[共有ステータスの切り替え]** - ワークフローを1つ以上選択している場合にこのアイコンをクリックすると、ワークフローが「共有」として指定されます。つまり、このコンピューターにアクセスできるユーザーなら誰でも、その実行中のワークフローを使用できます。共有ステータスのオン/オフを切り替えることができます。「共有」として指定すると、ワークフローの横に[共有]アイコンが表示されます。
- **[実行中のワークフローを一時停止]** - すべてのワークフローを一時停止します。
- **[一時停止されたワークフローの再開]** - 一時停止されたワークフローを再開します。
- **[ワークフローのエクスポート...]** - 選択したワークフローをエクスポートします。
- **[ワークフローのインポート...]** - 既存の **Dispatcher Phoenix** ワークフローをインポートします。
- **[サンプルワークフローのインポート...]** - 使用可能なサンプルワークフローの1つをインポートします。
- **[サンプルワークフローの再インストール...]** - アプリケーションに付属のすべてのサンプルワークフローを再インストールします。
- **[オンラインサンプル...]** - サンプルワークフローを表示してダウンロードできます。
- **[ドキュメントライブラリ...]** - アプリケーションに関する参考資料にオンラインでアクセスできるSEC Webサイトのページを表示します。
- **[言語]** - 言語マネージャーを開いて、優先する言語を選択できます。
- **[ログビューアー...]** - ワークフローのログファイルを表示できます。
- **[コンパクトモードへの切り替え]** - 表示を縮小して[ワークフローリスト]とメニューアイコンだけを表示します。
- **[アニメーションの有効化]** - ワークフローの実行中にアニメーションを表示するかどうかを選択します。

- **[アニメーションの速度]** - ワークフローのアニメーションの速度を[リアルタイム]または[低速]に設定します。
- **[複合機登録ツール...]** - 複合機登録ツールを起動します。詳細については、次のセクションを参照してください。
- **[複合機シミュレーター...]** - 対話型のDispatcher Phoenix複合機シミュレーターツールを起動します。
- **[バーコードジェネレーター]** - バーコードジェネレーターツールを起動します。
- **[Bubble Sheet Generator...]** - Bubble Sheet Generatorツールを起動します。
- **[インデックスフォームビルダー...]** - インデックスフォームビルダーツールを起動します。
- **[Dispatcher Phoenix Web...]** - Dispatcher Phoenix Webを起動します(Dispatcher Suite インストールのみ)。
- **[Dispatcher Paragon...]** - Dispatcher Paragonを起動します(Dispatcher Suite インストールのみ).
- **[オプション...]** - 管理者がアプリケーションの設定を構成できます。

共有ワークフロー

共有ワークフローは、ワークフローを実行するActive Directoryユーザー専用に設計されたものです。共有ワークフローを使用すると、複合機のコントロールパネルから複数のユーザーが同じワークフローにアクセスできます。これにより、ユーザー固有のActive Directoryフォルダーに直接ドキュメントを送る「Scan to Home」機能を使用できるようになります。

共有ワークフローは、コントロールパネルおよびDispatcher Phoenix内で次のアイコンで特定できます。

注: 共有ワークフローの状態を他のユーザーが変更することはできません。

別のユーザーとしてWindowsにログインした場合、共有ワークフローは、グレー表示されたアイコンが横に付いて一覧表示されます。

Dispatcher Phoenix Webの共有アプリケーションを使用して、特定のユーザーにワークフローを割り当てることもできます。ワークフローを特定のユーザーと共有すると、ワークフローリストでそのワークフローの横に次のようなアイコンが表示されます。

複合機登録

複合機登録ツールを使用して、Dispatcher Phoenixが使用する複合機をワークフローに登録できます。Dispatcher Phoenix Webインターフェイスには、デバイスの検出、登録、編集用の[デバイス]ツールも含まれています。Webベースのデバイスツールの詳細については、ここ をクリックしてください。

このツールを起動すると、以下の操作ができます。

- **[複合機を追加]** ボタンをクリックして、目的の複合機固有のデバイス情報を入力します([複合機を追加]ウィンドウを使用)。
- **[複合機を検索]** ボタンをクリックして、ネットワーク上で使用可能なすべての複合機の自動検索を開始します(複合機エクスプローラーツールを使用)。
- **[既定値]** ボタンをクリックして、bESTアプリケーションサーバーの場所とユーザー認証オプションを設定します([設定]ウィンドウを使用)。これらの設定は、登録されているすべての複合機の既定の設定になります。

- **[複合機の編集]** ボタンをクリックして、複合機の構成、および特定の複合機のユーザー認証設定の構成を行います。これらの設定は、選択した複合機にのみ適用されます。
- **[複合機の登録]** ボタンをクリックして、選択した複合機を登録します。または、**[複合機の登録解除]** をクリックして、選択した複合機の登録を解除します。
- **[複合機の削除]** ボタンをクリックして、選択した複合機をリストから削除します。未登録の複合機のみを削除できます。登録済みの複合機を削除するには、最初に登録を解除する必要があります。

手動または自動で複合機登録ツールにデータが読み込まれるとウィンドウは次の図のようになります。

- **[デバイス情報]** - この列には複合機のモデルとIPアドレス、およびプリンターのオプション名が表示されます。
- **[OpenAPIの情報]** - この列にはSSLが有効か無効か、および複合機のOpenAPIバージョンが表示されます。
- **[詳細]** - この列には登録されているアプリケーションの名前と、複合機のパネルの外観が表示されます。
- **[ステータス]** - この列には複合機が登録済みか未登録か、および登録プロセスのステータスが表示されます。

複合機の登録/登録解除

登録する複合機の横にあるボックスをオンにするか、**[すべて]** ボックスをオンにして、リストされている複合機をすべて選択してから、**[複合機の登録]** ボタンをクリックします。

完了すると、[ステータス]が[登録済み]に変わります。複合機の登録を解除するには、デバイスをリストから選択してから、**[複合機の登録解除]** ボタンを選択します。

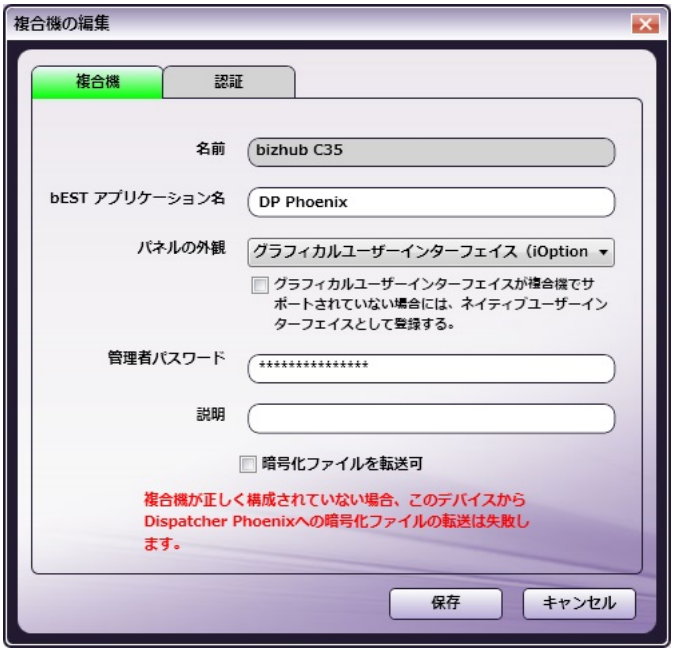
大量の複合機(100台の複合機など)を一度に登録する場合、複合機は一度に5個ずつ同時に登録され、残りはキューに格納されます。現在登録されている複合機を示す登録バーが表示されます。ウィンドウの下部にある **[キャンセル]** ボタンをクリックして登録処理をキャンセルすると、残りの複合機はすべてキューから削除されますが、現在処理している複合機はすべて引き続き処理されます。「キュー」のステータスの例については次の図を参照してください。

次の図に示すように、登録が失敗すると、[ステータス]列に「失敗」メッセージが表示されます。マウスポインターを **[ヘルプ]** アイコンの上に移動すると、登録が失敗した理由に関する詳細メッセージを表示できます。

注: (複合機の追加時に)[グラフィカルユーザーインターフェイスが複合機でサポートされていない場合、ネイティブユーザーインターフェイスとして登録する]オプションが有効になっていない場合、複合機にi-Optionがインストールされていない、またはi-Optionがライセンス認証されていない場合、ここで定義されている外観の[グラフィカルユーザーインターフェイス]パネルを使用して登録できません。

複合機の編集

個々の複合機の設定を編集するには、複合機をリストから選択して(または対応するチェックボックスをオンにして)、**[複合機の編集]** ボタンをクリックします。次の図に示すように[複合機の編集]ウィンドウが表示されます。



このウィンドウで、複合機と個々の複合機のユーザー認証設定を変更できます。

注: このウィンドウで行った変更は保存されますが、複合機を登録するまでは(または登録を解除して再び登録するまでは)、複合機に適用されることも複合機に対して検証されることもありません。

[パネルの外観の変更]: 定義されたパネル設定の外観を変更するには、最初にデバイスの登録を解除する必要があります。詳細は「複合機の登録/登録解除」のセクションを参照してください。

[セキュリティ]: 複合機によっては、**[暗号化ファイルを転送可]** ボックスも[複合機の編集]ウィンドウに表示され、ドキュメントを暗号化できます。このボックスをオンにした場合、複合機を構成する必要もあります。複合機で以下の操作を行います。

1. 複合機パネルで **[メニュー]** キーを選択します。
2. [設定メニュー]画面で **[管理者設定]** ボタンを押します。次の図に示すように[パスワード]画面が表示されます。

3. 管理者パスワードを入力してから、**[OK]** ボタンを押します。
4. [管理者設定]画面で、**[ネットワーク設定]** ボタンを押します。[ネットワークの設定]画面が表示されます。次の図に示すように、**[次画面]** ボタンを押します。

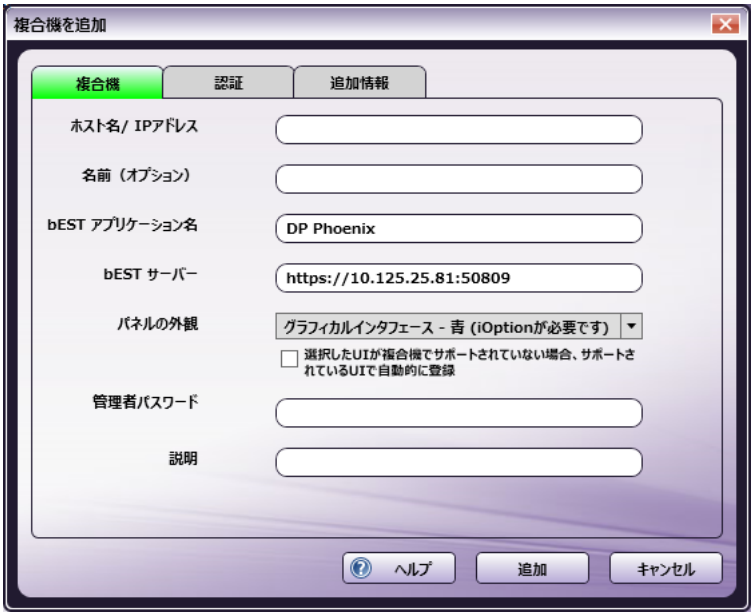
5. [ネットワーク設定]の2番目の画面で、次の図に示すように、**[WebDAV設定]** ボタンを選択します。

6. [WebDav設定]画面で、**[クライアントの設定]** ボタンを選択してから、[次画面]ボタンを2回押します。
7. この時点で、**[チャンク転送]** ボタンが表示されます。このオプションを有効にする必要があります。
8. 完了したら、**[OK]** ボタンを選択します。

複合機の手動追加

登録する特定の複合機の情報がわかっている場合は、**[複合機を追加]** ボタンを選択します。

複合機タブ



単一の複合機を追加するには、以下の操作を行います。

- **[ホスト名/IPアドレス]** フィールドに、複合機デバイスのホスト名またはIPアドレスを入力します。
- **名前[(オプション)]** フィールドに、複合機のわかりやすい名前を入力します。この名前はモデル名とは別です。この名前は、Dispatcher Paragonの **[デバイス名]** に対応します(該当する場合)。
- **[bESTアプリケーション名]** フィールドに、複合機パネルに表示するアプリケーションの一意の名前を入力します。

  複合機にアクセスできる他のユーザーが使用する名前と同様に、bESTアプリケーション名が複合機パネルに表示されるため、名前はすべてのユーザー間で一意である必要があります。名前がすでにDispatcher Phoenixの別のインストールで使用されている場合、名前を変更するか、登録を引き継ぐように求められます。

  登録を引き継ぐことを選択した場合、(元のユーザー用ではない)命名されたパネルボタンが押されたときにアプリケーションが実行されます。他のユーザーにはこの変更が通知されないため、登録を引き継ぐ際には注意が必要です。

  使用するアプリケーション名がパネル上のアプリケーション名を使用する別のソフトウェアプログラム(DocuBreezeやPageScope Enterprise Suiteなど)によって提供されている場合、引き継ぎオプションは表示されません。唯一のオプションはアプリケーションの名前を変更することです。

  さらに、引き継ぎ時に、元のユーザーは複合機でアプリケーションを使用する機能を失い、デバイスの登録を解除しようとするとエラーメッセージを受け取ります。ユーザーはステータスを強制的に未登録に変更することができます。これにより、デバイスを再登録して再使用できるようになります。強制的な登録解除に **[No]** と言うオプションもあります。複合機がその時点で処理中で外部コマンドを受信できないため、この通知が誤っている可能性があるとユーザーが信じる場合、[No]ボタンを選択して登録を再試行できます。

  重要! 複合機が登録解除されている場合、そのノード/デバイスを使用するすべてのワークフローは機能しなくなります。
- 既定では、**[bESTサーバー]** フィールドにbESTサーバーのURLが表示されます。高度なネットワーク状況においては、このURLをカスタマイズできます(たとえば、bESTサーバーが別のサーバー上で登録されている、bESTサーバーがIISに組み込まれている、NATネットワーキングを使用したVM上にDispatcher Phoenixがインストールされているなど)。
- **[パネルの外観]** ドロップダウンリストで、アプリケーションのパネルの外観を選択します。複合機にi-Optionがインストールされていない場合、またはi-Optionがライセンス認証されていない場合、[ネイティブユーザーインターフェイス]オプションを選択する必要があります。
- パネルの外観オプションを使用して登録する際に登録が失敗しないようにするために、**[グラフィカルユーザーインターフェイスが複合機でサポートされていない場合には、ネイティブユーザーインターフェイスとして登録する]** ボックスをオンにできます。このオプションが有効になっていると、複合機でグラフィカルUIがサポートされていない場合(およびその複合機に[グラフィカルユーザーインターフェイス]オプションが指定されている場合)、複合機が自動的にネイティブUIとして登録されます。
- **[管理者パスワード]** フィールドに、複合機への管理アクセスに必要なパスワードを入力します。
- **[説明]** フィールドに、複合機の説明を入力します。このフィールドは必須ではありませんが、説明を入力しておくと複数の複合機がある場合にこの複合機を認識しやくなります。
- すべての情報を入力したら、**[追加]** ボタンを選択すると、複合機デバイスが[複合機登録ツール]画面のリストに表示されます。

一括インポート

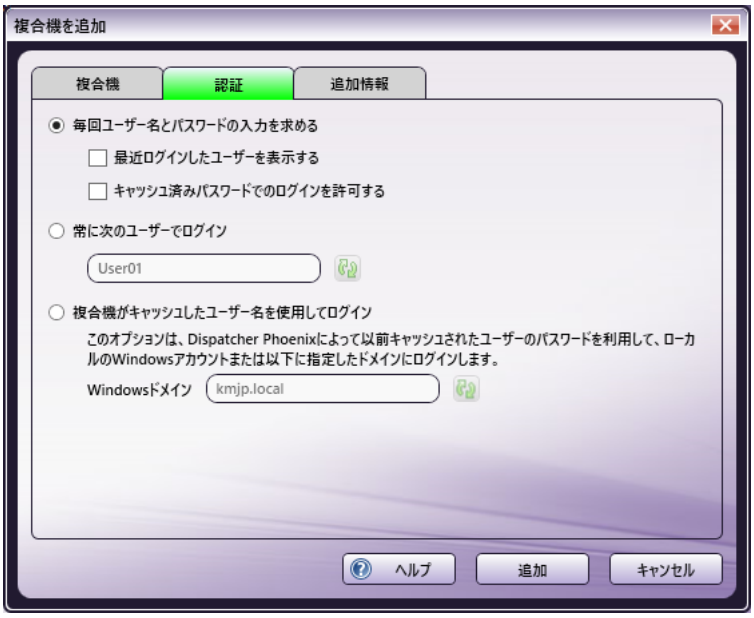
複合機の一括インポートを実行するには、**[複数の複合機]** ラジオボタンを選択します。以下の操作を行います。

1. **[インポート...]** ボタンを選択して複合機のリストを追加します。インポートするファイルはCSV形式で、ホスト/IPアドレス、bESTアプリケーション名、および管理者パスワードが含まれている必要があることに注意してください。インポートされたファイルに含まれていた複合機が、[複合機を追加]ウィンドウに表示されます。
2. 各複合機の横にあるチェックボックスを使用して選択します。
3. **[追加]** ボタンを選択し、複合機デバイスを追加して登録します。

複合機パネルには、この複合機にアクセスできる他のユーザーが使用する名前が表示されます。同様に、このアプリケーション名も複合機パネルに表示されるため、すべてのユーザー間で一意の名前にしてください。インストール済みの別のDispatcher Phoenixですでに使用されている名前を入力した場合、名前を変更するか登録を引き継ぐよう求められます。

認証タブ

新しい複合機を定義するときに、ワークフローにアクセスするための認証手順を指定することもできます。既定では、ユーザーはワークフローにアクセスする前に、複合機コントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを使用して手動でログインする必要があります。



- **[毎回ユーザー名とパスワードの入力を求める]** - これは既定の設定であり、ユーザーはワークフローにアクセスする前に複合機のコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを入力する必要があります。この設定では次のオプションも使用できます。
    - **[最近ログインしたユーザーを表示する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはドロップダウンリストからログインした最新の1000人のユーザーのユーザー名を選択できるようになり、この情報を手動で入力する必要がなくなります。ただし、パスワードは入力する必要があります。
    - **[キャッシュ済みパスワードでのログインを許可する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはパスワードを入力せずにログインできます。以前に入力したパスワードが使用されます。

      注: Windowsのユーザー名とパスワードを変更すると、ワークフローにアクセスできなくなります。
- **[常に次のユーザーでログイン]** - セットアップを最小限に抑え、コントロールパネルでワークフローにすばやくアクセスするには、ワークフローにアクセスするときに毎回Windowsログイン名を使用することを選択できます。このオプションを使用すると、複合機のコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを手動で入力する必要がなくなります。このオプションを有効にすると、その特定のユーザーに対してアクティブに実行されているワークフローのみが表示され、パネルからスキャンされたジョブはそのユーザーとして実行されます。このフィールドには、現在のユーザーのユーザー名とドメイン名(使用可能な場合)が事前に入力されます。フィールドの横にある **[更新]** ボタンを使用すると、値を現在ログインしているユーザーにリセットすることができます。

  注: このフィールドが自動入力されない場合は、ユーザ名を手動で入力してください。
- **[複合機がキャッシュしたユーザー名を使用してログイン]** - このシングルサインオンオプションは、複合機またはActive Directory認証で動作するように設計されています。共有ワークフローに最適なこのオプションは、ユーザーが複合機にログインすると自動的にDispatcher Phoenixにログインします。このオプションを有効にすると、Windowsドメインフィールドにログインシステムの現在のドメインが事前に入力されるか、フィールドが空白のままになります。初めて使用する場合は、パスワードを手動で入力する必要があります。

  フィールドの横にある **[更新]** ボタンを使用すると、値を現在のドメインにリセットできます。

  注: このフィールドが自動入力されない場合は、ドメイン名を手動で入力してください。

注:

- このタブで行われた認証の変更は、既存の複合機ではなく、新しく定義された複合機にのみ適用されます。
- Windowsのユーザー名とパスワードを変更すると、ワークフローにアクセスできなくなります。

追加情報タブ

[追加情報] タブで、機器に関する追加情報を入力できます。このフィールドの値は、機能やパフォーマンスに影響を与えるものではなく、メモを保存するためのものです。

注: [追加情報]タブは、Dispatcher Suiteインストールでのみ使用可能です。

- **[機器 ID]** - 機器の識別情報を入力します。
- **[サービス契約ID]** - サービスの識別情報を入力します。
- **[連絡窓口]** - 担当者に関する情報を入力します。
- **[郵便番号]** - 郵便番号に関する情報を入力します。
- 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

Dispatcher Suiteでのパネルの外観テーマの切り替え

Dispatcher Phoenixには、ワークフローをカスタマイズするための複数のパネル外観テーマが含まれています。パネルの外観は、ネイティブインターフェイスと2つのグラフィカルインターフェイス(青と紫)の間で切り替えることができます。

パネルの外観を変更するには、次の手順を実行します。

1. Dispatcher Phoenix Clientを起動します。
2. **[ツール]** メニューから **[複合機登録ツール]** を選択します。
3. **[複合機登録ツール]** で、テーマを変更する複合機をダブルクリックします。
4. ポップアップダイアログから、パネルの外観に必要なインターフェイスを選択します。

   Dispatcher Suite

   - ネイティブインターフェイス
   - グラフィカルインターフェイス - 紫(iOptionが必要)
   - グラフィカルインターフェイス - 青(iOptionが必要)

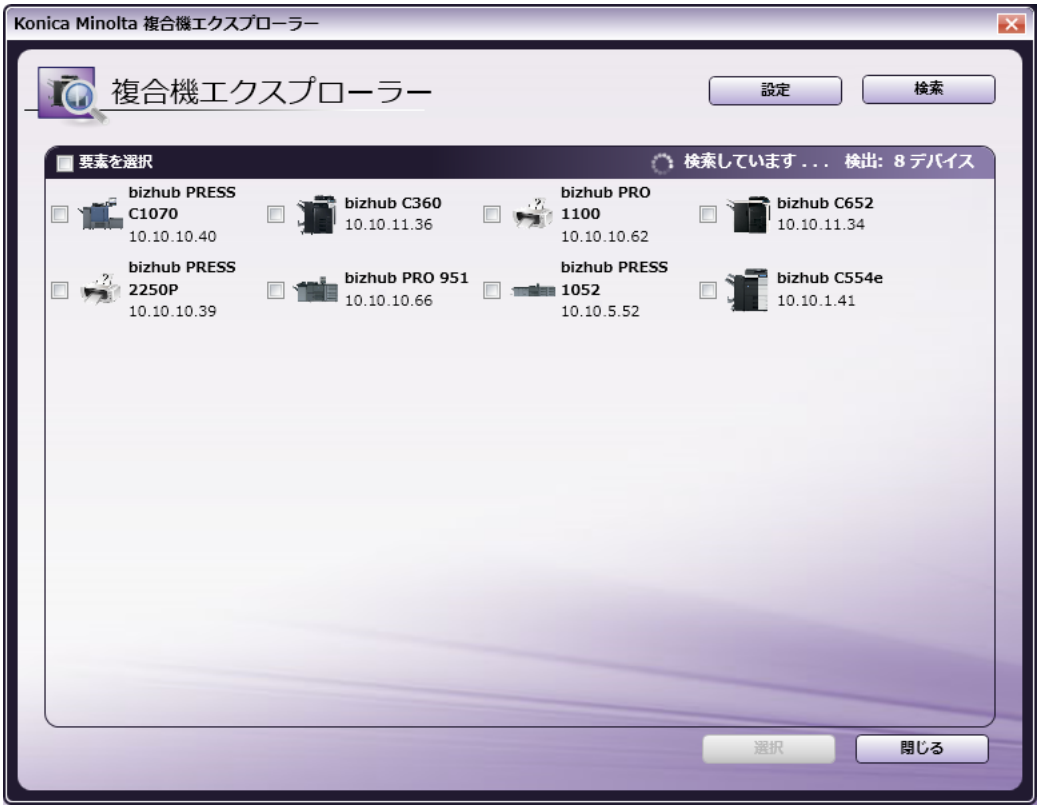
   注: [グラフィカルインターフェイス - 青] オプションは、Dispatcher Suiteインストールでのみ使用可能です。

グラフィカルインターフェイス

グラフィカルインターフェイス - 青

複合機エクスプローラーツール

複合機を容易かつ正確に設定するために、Dispatcher Phoenixには、複合機エクスプローラーツールが用意されています。複合機登録ツールから起動するとすぐに、複合機エクスプローラーは、現在構成されているネットワークで複合機デバイスを検索します。次の図に示すように、すべての結果がウィンドウに表示されます。



注: Fieryコントローラーと組み合わせた複合機は、一般的なプリンターアイコンで表されます。

複合機エクスプローラーツールでは、以下の操作ができます。

- 目的の複合機の **[ボックス]** をオンにするか、**[要素を選択]** ボックスをオンにして、リストされている複合機をすべて選択する。**[選択]** ボタンをクリックすると、複合機登録ツールに戻ります。
- **[設定]** ボタンをクリックして、検索している現在のネットワークの設定を変更する。このボタンをクリックすると、次のフィールドが表示されます。

  以下の操作ができます。

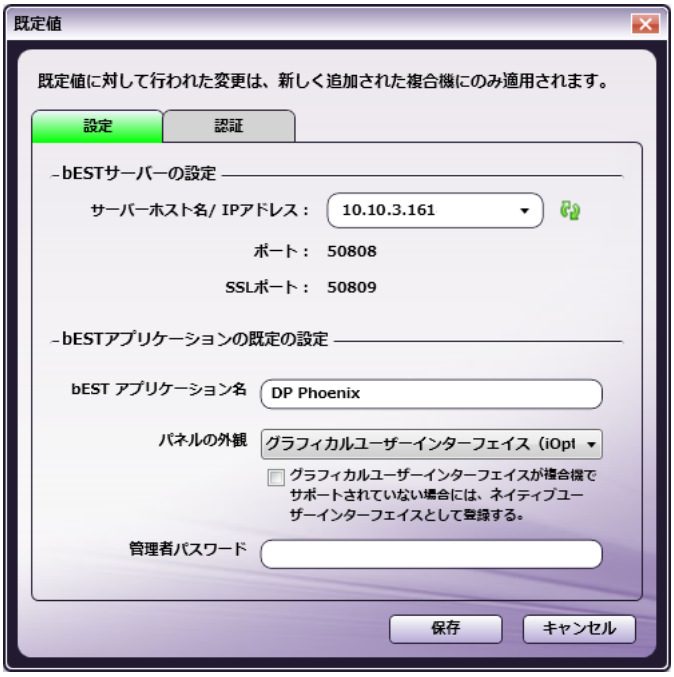
  - **[V1]** と **[V3]** のラジオボタンを使用してSNMPのバージョンを選択します。
  - **[SNMPブロードキャスト]** フィールドで、既定のブロードキャストアドレスを変更します。[SNMPブロードキャスト]は、複合機エクスプローラーに対して、複合機デバイスを検索するネットワークサブセットを指定します。既定では、これは255.255.255.255に設定されており、アクセス可能なすべてのサブネットを検索するようになっています。より詳細なサブネットを入力して、検索範囲を絞り込むことができます。
  - **[タイムアウト]** フィールドで、検索タイムアウトの既定値を変更します。[タイムアウト]フィールドでは、複合機エクスプローラーがネットワーク上で複合機を検出するのに費やす時間の制限を設定できます。ネットワーク上にある複合機の数が少ない場合は、小さい値のままにすることをお勧めします。複合機の数が多い場合は、この値を増やすことをお勧めします。既定では、タイムアウトは6秒に設定されています。最大値は300秒(5分)です。
  - **[SNMPコミュニティー(V1)]** フィールドで、SNMPコミュニティー文字列の既定のパスフレーズを変更します。SNMPコミュニティーは、各複合機に設定されるパスフレーズと同様のものです。既定では、コニカミノルタの複合機デバイスには"public"というフレーズが設定されています。ネットワーク上の複合機デバイスでこの値が変更されている場合は、ここでパスフレーズを入力できます。
  - すべての変更内容を既定値に戻すには、**[既定値に戻す]** を選択します。
  - 変更内容を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。
- **[検索]** ボタンをクリックして、自動検索を再び開始します。

既定値ウィンドウの使用

複合機エクスプローラーの **[既定値]** ボタン(ウィンドウの右上角)をクリックすると、bESTサーバーの[既定値]ウィンドウが表示され、bESTアプリケーションサーバーの場所およびユーザー認証オプションを構成できます。

bESTサーバーの既定の設定

bESTサービスは、Dispatcher Phoenixと共にPCにローカルにインストールされ、ネットワーク上にある互換複合機デバイスでこのテクノロジーを使用できるようにします。IPアドレスまたはサーバーホスト名を入力することで、サービスを検索する場所を複合機に指示します。これは特に、1台のコンピューターで複数のIPアドレスが使われていて、使用するIPアドレスを複合機に指示する場合に重要です。



bESTアプリケーションサーバーの場所を設定するには、**[サーバーホスト名/IPアドレス]** フィールドにIPアドレスまたはサーバーホスト名を入力します。このフィールドには、既定でコンピューターのIPアドレスが入力されています。フィールドの横にある **[最新の情報に更新]** ボタンをクリックして、この値をコンピューターの現在のIPアドレスに戻すことができます。

さらに、以下を実行することで、このウィンドウでbESTアプリケーションの既定の設定を指定できます。

- **[bESTアプリケーション名]** フィールドに、アプリケーションを識別するためにコントロールパネルに表示する名前を入力します。
- **[パネルの外観]** ドロップダウンリストから、ワークフローをコントロールパネルに表示する方法を選択します。
- **[グラフィカルユーザーインターフェイス]** オプションを選択すると、ワークフローのスキャン設定の詳細が、ワークフロー自体のサムネイル画像と共に表示されます。これは既定の設定です。
- **[ネイティブユーザーインターフェイス]** を選択すると、ワークフローは、グラフィカルではないテキストベースの方法で表示されます。i-Optionがインストールまたはライセンス認証されていないデバイスではこのオプションを選択してください。
- パネルの外観オプションを使用して登録する際に登録が失敗しないようにするために、**[選択したUIが複合機でサポートされていない場合、サポートされているUIで自動的に登録]** ボックスをオンにできます。このオプションが有効になっていると、複合機でグラフィカルUIがサポートされていない場合(およびその複合機に[グラフィカルユーザーインターフェイス]オプションが指定されている場合)、複合機が自動的にネイティブUIとして登録されます。
- **[管理者パスワード]** フィールドに、bESTアプリケーションを次回登録する際に自動的に使用するパスワードを入力します。アプリケーションを初めて複合機に登録する際は、有効なパスワードのみが必要です。
- 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

注: このタブで行った変更は、新しく定義した複合機にのみ適用され、既存の複合機には適用されません。

既定のユーザー認証の設定

ワークフローのユーザー認証設定を変更できます。

オプションウィンドウ

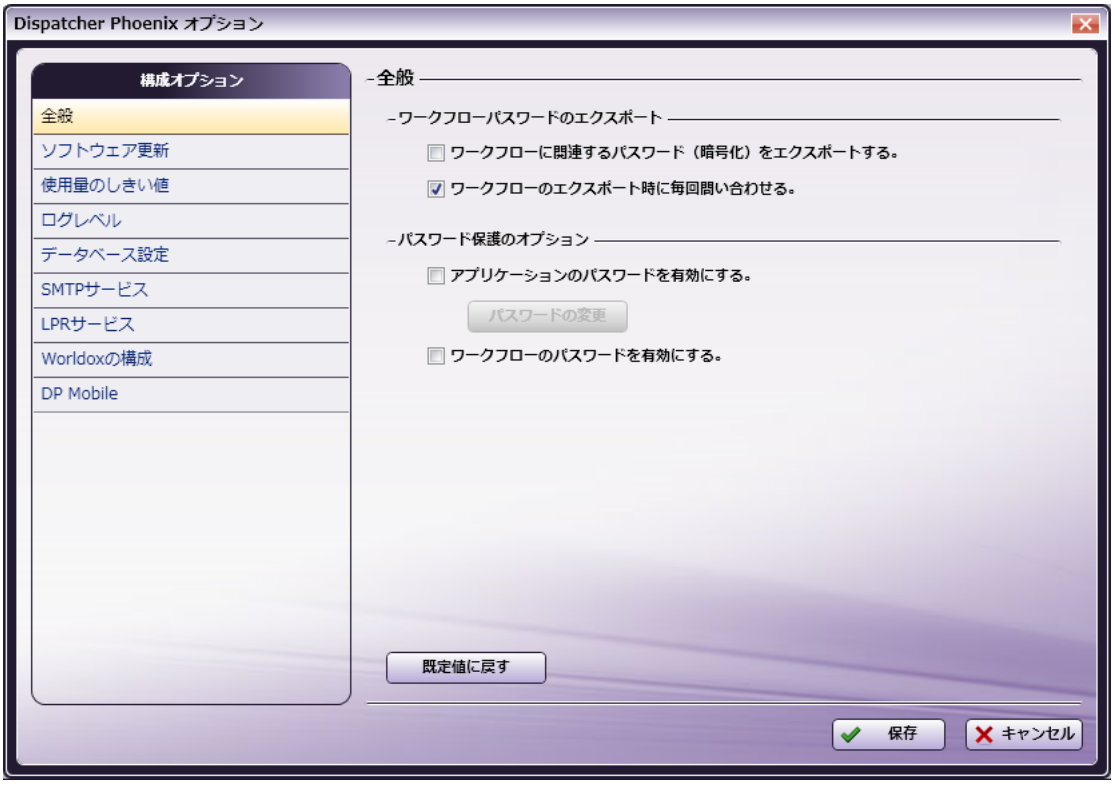
オプションウィンドウは、アプリケーションの各種設定を構成する管理者専用として設計されており、**[ツール]** メニューからアクセスできます。このウィンドウでは、以下を構成できます。

- [全般]設定
- [ソフトウェア更新]設定
- [使用量のしきい値]設定
- [ログレベル]設定
- [DP Mobile]設定
- [LPRサービス]設定 **(オプション)**
- [データベース設定]設定
- [SMTPサービス]設定 **(オプション)**
- [Worldoxの構成]設定 **(オプション) - Worldoxコネクターがインストールされている場合にのみ利用できます。**

注: [LPRサービス]構成オプションは、LPR入力ノードがアドインとしてインストールされている場合にのみ表示されます。

全般設定

初めて[オプション]ウィンドウを開くと、次の図のような[全般]構成オプションが表示されます。



以下の操作を行います。

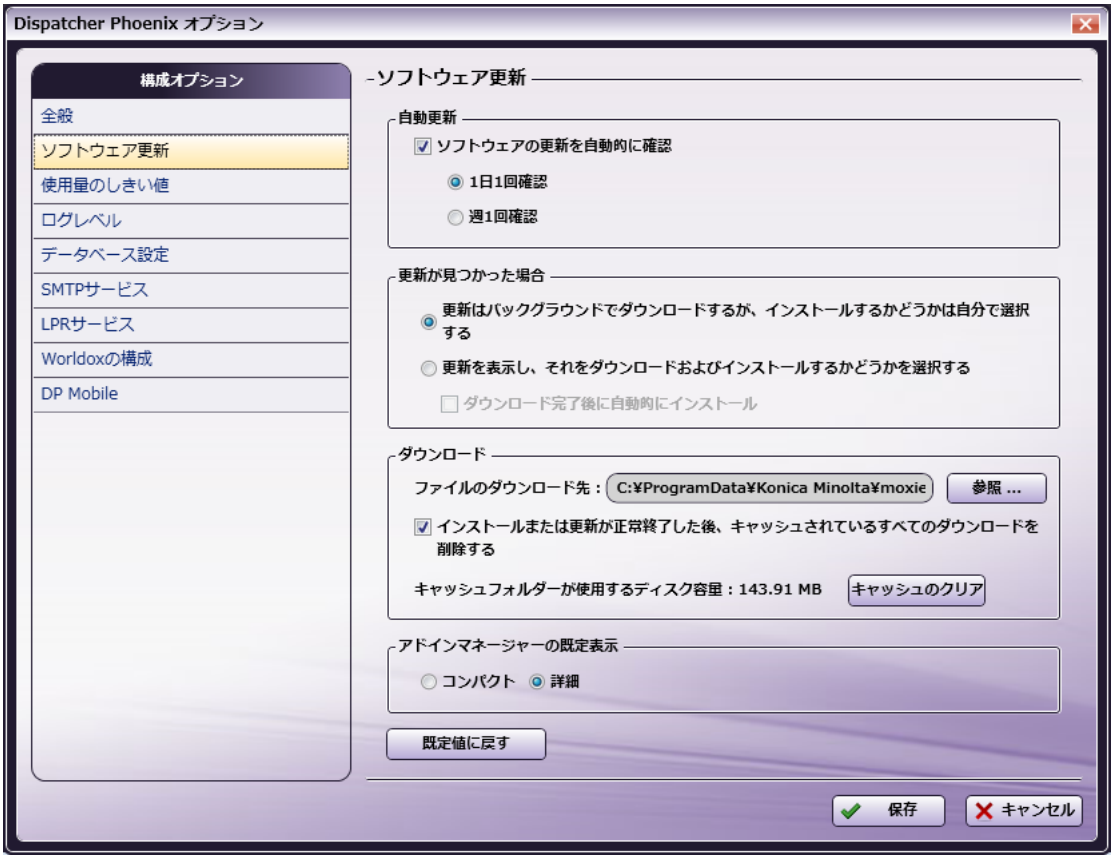
- ワークフローのエクスポート操作中に常にワークフローと共にパスワードをエクスポートするには、**[ワークフローに関連するパスワード(暗号化)をエクスポートする]** ボックスをオンにします。
- ワークフローのエクスポート時に毎回「ワークフローパスワードのエクスポート」メッセージを表示しない場合、**[ワークフローのエクスポート時に毎回問い合わせる]** ボックスをオフにします。
- アプリケーションの起動に対するパスワード保護を有効にするには、**[アプリケーションのパスワードを有効にする]** ボックスをチェックします。[パスワードの設定]ポップアップウィンドウが表示され、パスワードを入力して確認することができます。次回アプリケーションを起動すると、そのパスワードの入力を求められます。

  このボックスのチェックを外すと、設定を無効にする前にパスワードの入力を求められます。
- 設定済みのパスワードを変更するには、**[パスワードの変更]** ボタンを選択します。このボタンは、パスワードが指定されるまではグレーアウトされます。[パスワードの変更]ポップアップウィンドウが表示され、新しいパスワードを入力することができます。
- ワークフローのパスワード保護を有効にするには、**[ワークフローのパスワードを有効にする]** ボックスをチェックします。この設定を有効にすると、ワークフローのコンテキストメニューから **[パスワード保護]** オプションを使用することができます(コンテキストメニューは、ワークフローリストのワークフローを右クリックすると表示されます)。
- 加えた変更を既定の設定に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを選択します。
- 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

ソフトウェア更新設定

Dispatcher Phoenixで更新を確認してインストールする方法を変更できます。たとえば、更新を自動的にダウンロードするだけでインストールはしないようにアプリケーションを構成したり、更新のダウンロードやインストールの前に通知するように構成したりできます。自動更新を無効にすることもできます。

[ソフトウェア更新]設定を変更するには、**[構成オプション]** の下にある **[ソフトウェア更新]** をクリックします。[ソフトウェア更新]設定は、次の図のようになります。



自動更新

- 既定では、アプリケーションはソフトウェア更新を自動的に確認します。自動更新を無効にした場合、更新を定期的に確認する必要があります(アプリケーションのメイン画面にある **[ヘルプ]** メニューの **[更新の確認]** 項目をクリックします)。
- 毎日確認する場合、**[1日1回確認]** ラジオボタンを選択します。毎日ではなく週に1回確認する場合、**[週1回確認]** ラジオボタンを選択します。

更新が見つかった場合

- 既定では、アプリケーションは更新を自動的にダウンロードし、更新をインストールする準備が整ったらアラートで通知します。これは、**[更新はバックグラウンドでダウンロードするが、インストールするかどうかは自分で選択する]** オプションです。このオプションを選択すると、アドインマネージャーがシステムトレイに表示されます。
- 更新を自動的に確認するだけで、ダウンロードとインストールの両方を実行する時刻になったときにDispatcher Phoenixで通知するには、**[更新を表示し、それをダウンロードおよびインストールするかどうかを選択する]** ラジオボタンを選択します。このオプションを選択する場合、**[ダウンロード完了後に自動的にインストール]** ボックスをオンにすることで、ダウンロード完了後すぐに更新をインストールするよう選択することもできます。

ダウンロード

- 更新をダウンロードする既定のフォルダーを変更するには、**[参照...]** ボタンをクリックしてから、別のダウンロード先の場所を選択します。このオプションは、ネットワーク接続が低速な場合に役立つことがあります。1人のユーザーがネットワーク上の共通の場所に更新をダウンロードしておけば、他のユーザーは、更新をダウンロードしなくても、その場所を参照することで簡単に更新を実行できます。
- 既定では、インストールや更新が完了すると、キャッシュされているダウンロードファイルは自動的に削除されます。この機能を無効にする場合、**[インストールまたは更新が正常終了した後に、キャッシュされているダウンロードを削除]** ボックスをオフにします。キャッシュを手動でクリアにするには、**[キャッシュのクリア]** ボタンをクリックします。

アドインマネージャーの既定の表示

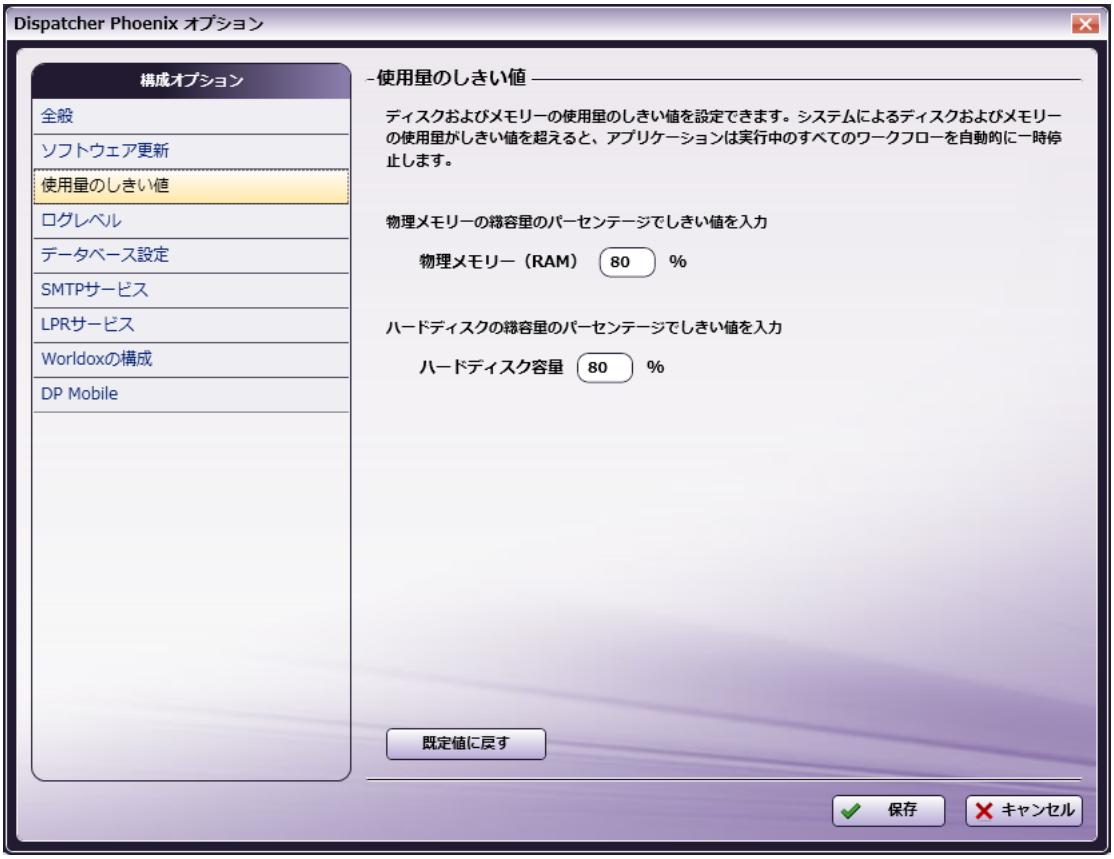
アドインマネージャーの外観を構成するには、以下のいずれかを選択します。

- **[コンパクト]** - 既定の表示では、進行状況バーと共に製品の機能のスライドショーが表示されます。
- **[詳細]** - この表示では、進行状況バーと共に詳細な進行状況メッセージが表示されます。

使用量のしきい値 設定

アプリケーションでいかなる種類のパフォーマンス低下も発生しないようにするために、管理者は、使用できる物理メモリー容量やハードディスク容量にしきい値を指定できます。これらの指定制限を超過すると、実行中のワークフローはすべて一時停止し、警告メッセージが表示されます。

しきい値を指定するには、**[構成オプション]** の下にある **[使用量のしきい値]** をクリックします。[使用量のしきい値]設定は、次の図のようになります。



以下の操作を行います。

- 物理メモリーの総容量に対して、しきい値を指定するには、**[物理メモリー(RAM)]** フィールドにパーセンテージ値を入力します。
- ディスクの総容量に対して、しきい値を指定するには、**[ハードディスク容量]** フィールドにパーセンテージ値を入力します。
- 加えた変更を既定の設定に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを選択します。
- 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

ログレベル 設定

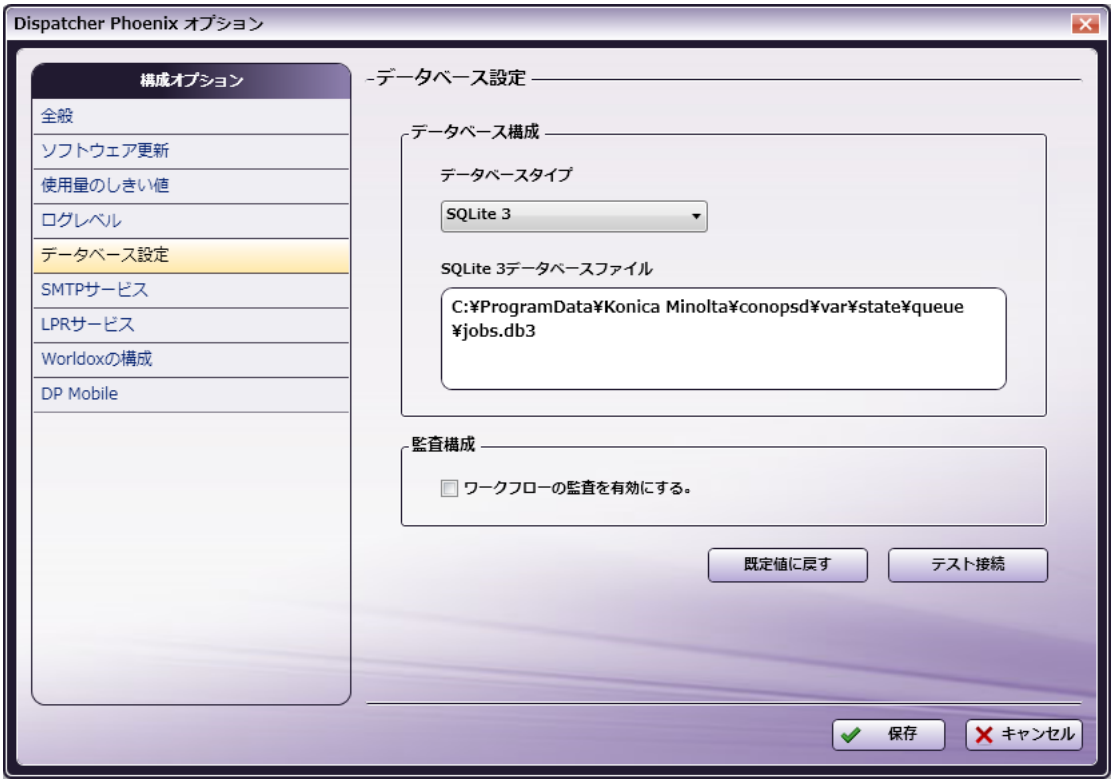
管理者は、ワークフローの実行時にレポートする必要があるメッセージのレベルを指定できます。アプリケーション内部の問題をデバッグする際、この構成が有用な場合があります。しきい値を指定するには、**[構成オプション]** の下にある **[ログレベル]** をクリックします。[ログレベル]設定は、次の図のようになります。

以下の操作を行います。

- **コントロール** を上下にスライドして、ログレベルを設定します。
  - **[+] (青色のプラス記号)** は、ログに含まれることを示します。
  - **(赤色のx記号)** は、ログに含まれないことを示します。
- 加えた変更を既定の設定に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを選択します。既定のログレベルは、[重要]、[エラー]、および[警告]です。
- 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

データベース設定 設定

既定では、Dispatcher Phoenixには、SQLite 3のデータベースファイル(C:\ProgramData\Konica Minolta\conospd\var\state\queue\jobs.db3)がインストールされています。データベースファイルを開くにはSQLite 3をインストールする必要があります。その他のより堅固なサーバーを使用する場合は、[構成オプション]下の[データベース設定]をクリックします。[データベース設定]での設定項目は、以下の図のようになります。



Microsoft SQL Serverに切り替えるには、以下の操作を行います。

1. **[データベースタイプ]** ドロップダウンメニューから **[Microsoft SQL Server]** オプションを選択します。このデータベースのインスタンスがシステムにインストールされている必要があることに注意してください。
2. **[ODBC接続文字列]** ボックスにデータベース接続の詳細情報を入力します。
3. 接続文字列をテストするには、**[テスト接続]** ボタンを選択します。
4. 既定のデータベース設定に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを選択します。
5. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

注: 既定のSQLiteデータベースは単一サーバーシステム用に推奨されます。クラスター環境でのSQLiteの使用は冗長機能もフェイルオーバー機能も提供されないためお勧めしません。

SMTPサービス設定(オプション)

このオプションは、SMTP入力ノードがインストールされている場合に表示され、管理者ユーザーは、ファイルをSMTP入力ノードに渡すSMTPサービスの設定を構成できます。SMTP入力ノードが適切に機能するようにSMTPサービスをインストールする必要があります。また、SMTP入力ノードがインストールされているマシンを指すように構成する必要があります。

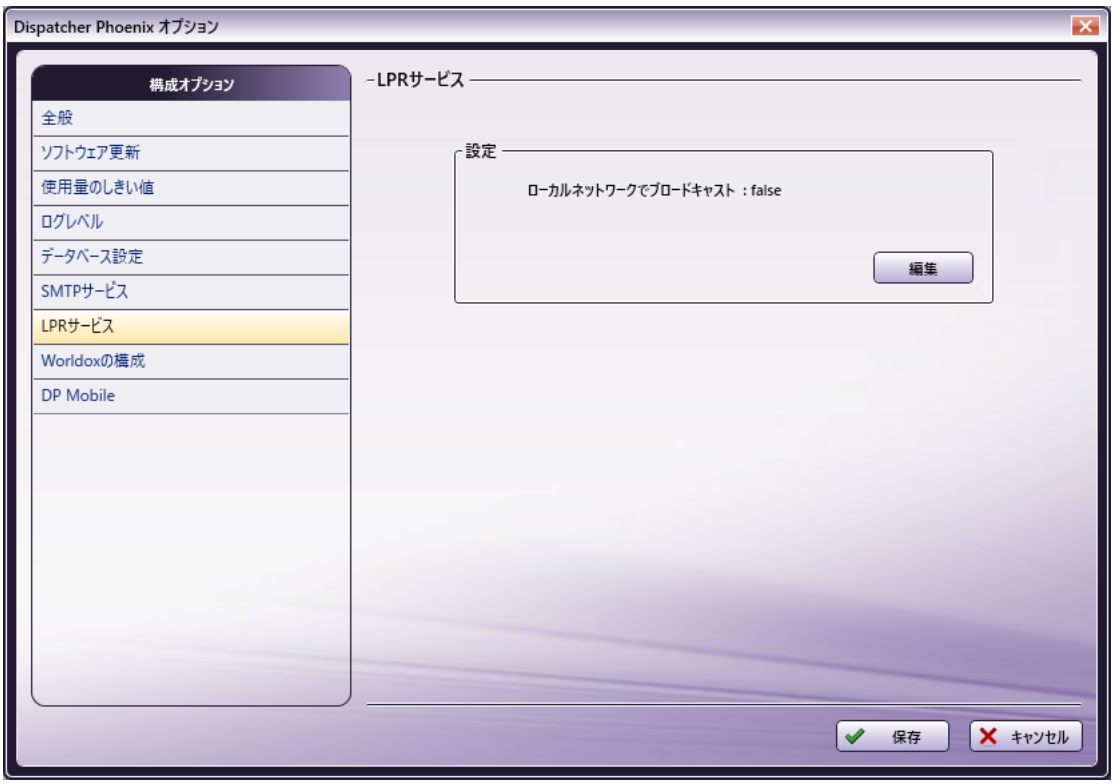
管理者は、SMTPサービスの設定を表示または構成できます。その場合、**[構成オプション]** の下にある **[SMTPサービス]** をクリックします。[SMTPサービス]設定は、次の図のようになります。

[ホスト名]が指定されている場合、SMTPサービスで現在使用されているポート番号と共に表示されます。25が既定のポート番号です。これらの設定を変更するには、**[編集]** ボタンを選択します。これによって、**SMTPマネージャー** ウィンドウが表示されます。

LPRサービス設定(オプション)

このオプションはLPR入力ノードがインストールされている場合に表示され、管理者ユーザーは、LPRサービスの設定を構成できます(サービスの開始と停止を含む)。

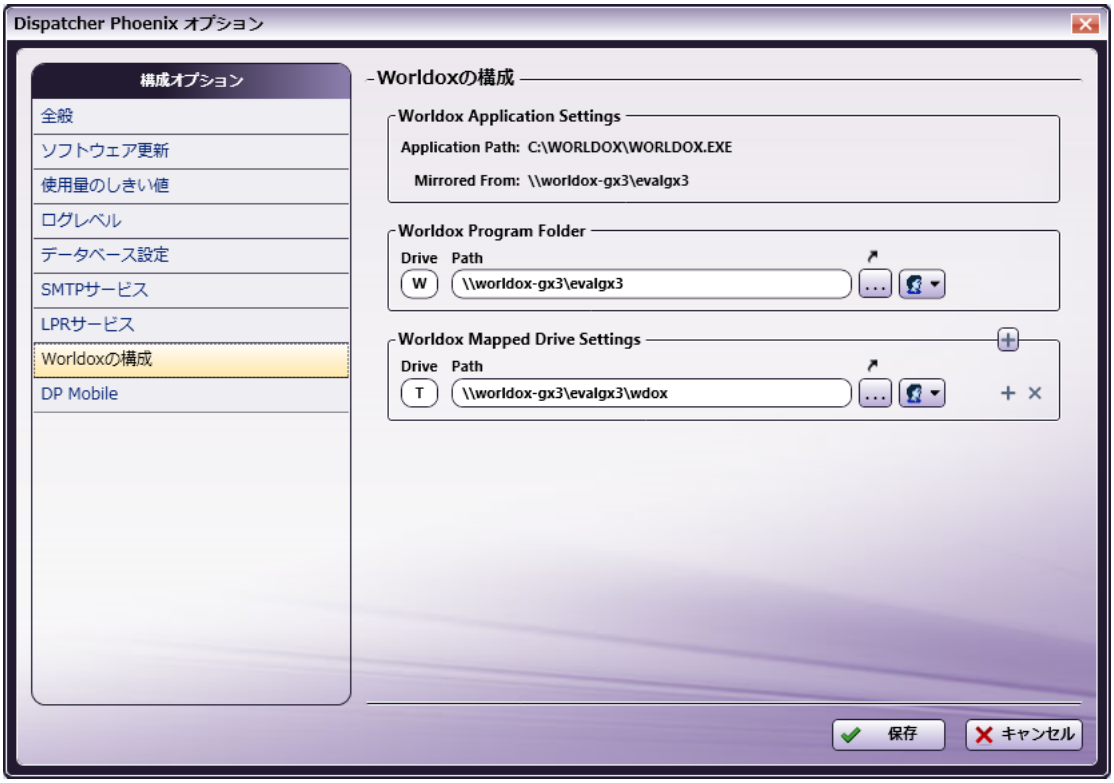
現在のLPR設定を表示するには、**[構成オプション]** の下にある **[LPRサービス]** をクリックします。[LPRサービス]設定は、次の図のようになります。



これらの設定を変更する必要がある場合、**[編集]** ボタンを選択して、**LPRマネージャー**を起動します。

Worldoxの構成設定(オプション)

Worldoxコネクターノードがインストールされている場合、このオプションは自動的に表示されます。Worldoxコネクターを使用する前に、まずWorldoxに関する全般設定を定義する必要があります。Worldoxの構成設定は、次の図のようになります。



以下の操作を行います。

1. Worldoxプログラムフォルダーを指定します。

   Worldoxサーバーをミラー化しているシステムに Dispatcher Phoenixがインストールされている場合、Worldoxプログラムフォルダーを指定する必要があります。**[Worldox Program Folder(Worldoxプログラムフォルダー)パス]** フィールドに入力するパスは、ミラー化された場所と同じUNCパスにする必要があります。[ドライブ]フィールドには、好きなドライブ文字を入力できます。ただし、ログインユーザーがすでにWorldoxを特定のドライブにマップしている場合、それと同じドライブを使用する必要があります。

   ネットワーク共有を使用する場合、**[資格情報]** アイコンをクリックして、ネットワーク資格情報を追加する必要があります。そのパスに対する読み込み/書き込みアクセスを持つWorldoxサーバーユーザーである必要があります。

   注: Dispatcher PhoenixがWorldoxサーバーに直接インストールされている場合、プログラムフォルダーの指定は不要です。

2. Worldoxのマップされたドライブの設定を指定します。

   ログインしているWindowsユーザーは、Worldoxのマップされたドライブをすべてセットアップする必要があります。SEC Workflow Servicesアカウント用に、このウィンドウでこれらの設定を複製する必要があります。マップされたドライブは、Worldoxプロファイルグループに関連します。各プロファイルグループが、マップされたドライブを指す基本パスを持ちます。プロファイルグループのマップされたドライブのパスを **[Worldox Mapped Drive Settings(Worldoxのマップされたドライブの設定)パス]** フィールドに入力します。マップされたドライブをさらに指定する必要がある場合、[+]ボタンをクリックして、他のドライブとパスを追加します。指定するドライブ文字は、Worldoxで使用されているものと同じにする必要があります。ネットワーク共有を使用する場合、**[資格情報]** アイコンをクリックして、ネットワーク資格情報を追加する必要があります。そのパスに対する読み込み/書き込みアクセスを持つWorldoxサーバーユーザーである必要があります。

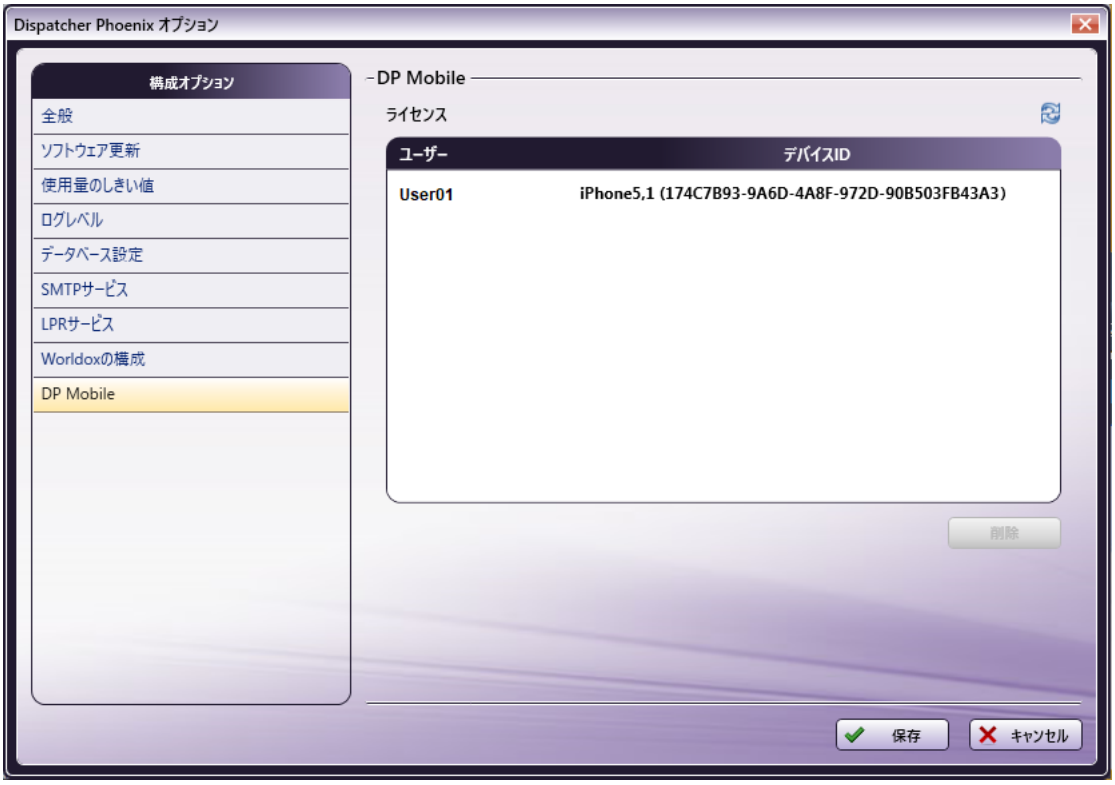
3. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。SEC Workflow Servicesのパスワードを入力するように求められます。

DP Mobile設定

DP Mobileを使用している場合、ユーザーおよび現在使用中のデバイスを表示できます。[DP Mobile]構成設定ウィンドウに、ユーザーおよび使用中のデバイスが表示されます。

ライセンスを解放するには、ユーザー/デバイスを選択してから、**[削除]** ボタンを選択します。また、**[最新の情報に更新]** アイコンをクリックしてリストを更新することもできます。

次の図を参照してください。



ヘルプのトピックス

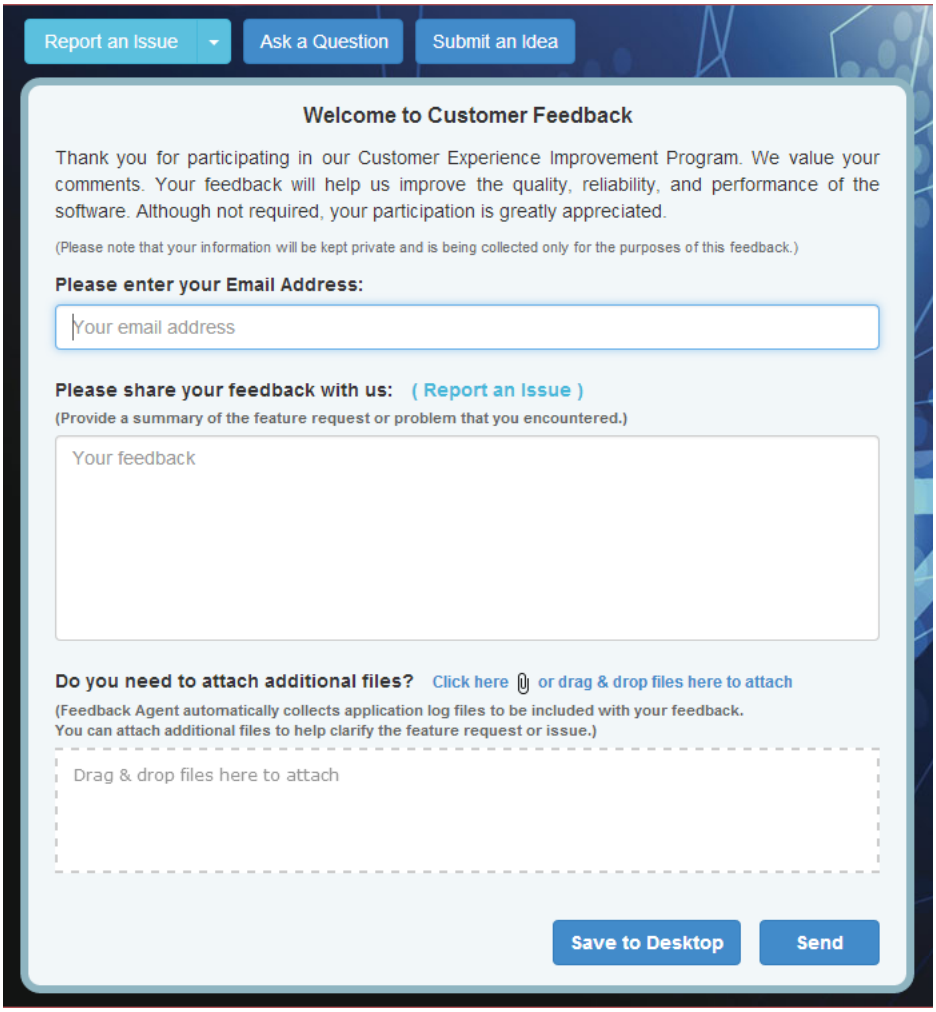
[ヘルプ] メニューから 、以下のオプションを選択できます。

- お客様のフィードバック
- アドインの登録 (アプリケーションがデモバージョンの場合は[製品の登録])
- ライセンスマネージャー
- ソフトウェアメンテナンス
- ライセンス移管
- ライセンス使用状況レポート
- 更新の確認
- 製品情報Dispatcher Phoenix

お客様のフィードバック

アプリケーションに関するフィードバックを送信する場合やエラーが発生した場合、**[ヘルプ] > [お客様のフィードバック]** の順に選択します。**ライセンスマネージャー** ウィンドウの **[フィードバック]** ボタンを選択することで、このウィンドウにアクセスすることもできます。

[お客様のフィードバック]ウィンドウは次の図のようになります。

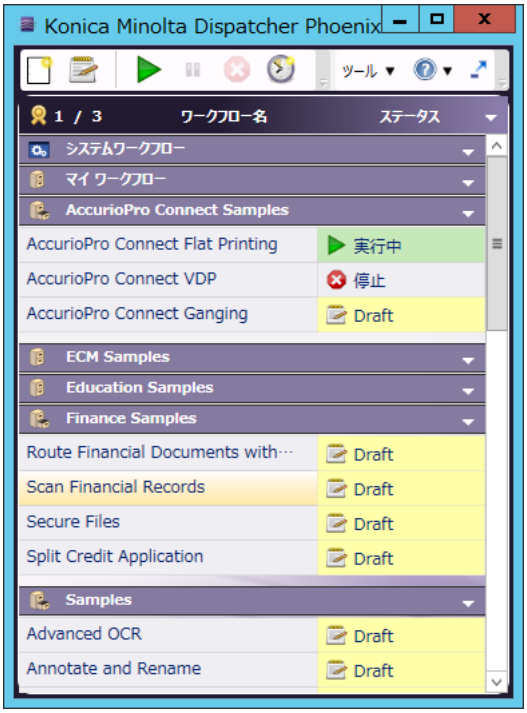


このウィンドウでは、以下の操作を行います。

1. **[Please provide your Email Address(電子メールアドレスを入力してください)]** フィールドに、メールアドレスを入力します。
2. **[Please share your feedback with us(フィードバックを共有してください)]** ボックスに、フィードバックを入力します。
3. 追加のファイルを添付する必要がある場合は、**ファイルクリップ** アイコンをクリックしてWindowsエクスプローラーでファイルを参照するか、ファイルを空のボックスにドラッグアンドドロップします。
4. 完了したら、**[Send(送信)]** ボタンを選択します。
5. 現在インターネットに接続していないが、後でフィードバックを送信したい場合は、**[Save to Desktop(デスクトップに保存)]** ボタンを選択して、フィードバックをローカルに保存します。
6. お客様のフィードバックの特定の設定を構成するには、**[Options(オプション)]** ボタンを選択します。[Options(オプション)]ウィンドウでは、言語の設定と、フィードバックとともに送信する追加情報(インストールされているアプリケーション、インストールされているWindows更新プログラムなど)を指定できます。

コンパクトモード

[コンパクトモードへの切り替え] アイコンをクリックすると、次の図のように、ワークフローリストのみが表示された状態でアプリケーションが再起動します。

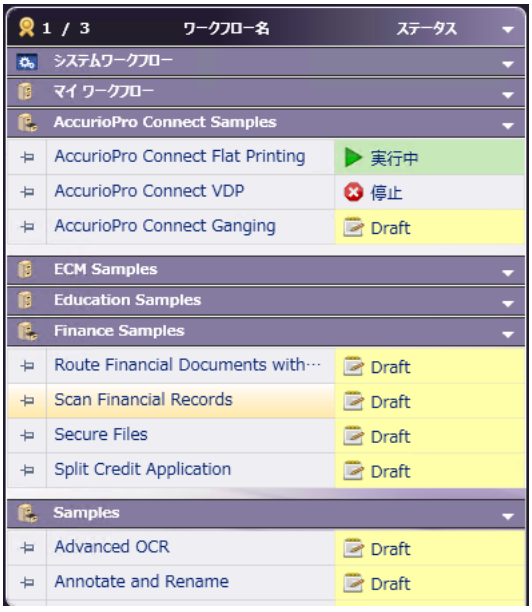


ワークフローリスト

画面の左側のワークフローリストには、現在ワークフローで使用されているアクティブな入力の数、既存の定義済みワークフローのリスト、他のユーザーがアクセスできるかどうか (**共有**) 、**現在のアクティビティステータス** が表示されます。ワークフローのステータスは次のいずれかです。

- [実行中] - ワークフローは現在実行中です。
- [一時停止済み] - ワークフローの実行は現在一時停止されています。
- [停止] - ワークフローの実行は停止されています。
- [Draft(ドラフト)] - ワークフローは作成済みですが、まだワークフロービルダーで検証されていません。

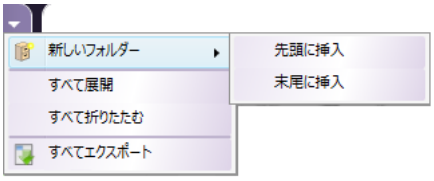
ワークフローは、ユーザー定義フォルダー内に編成されます。ワークフローが初めて作成すると、自動的に現在使用中のフォルダーに配置されます。ユーザー定義フォルダーが定義されていない場合、新しく作成したワークフローは、「マイワークフロー」というタイトルの既定のフォルダーに配置されます。アクティブな入力の使用状況のスナップショットは、ワークフローリストの左上隅にも表示されます。ワークフローリストは次の図に似ています。



アプリケーションを初めて起動したときに、すべてのサンプルワークフローが含まれる**「サンプルワークフロー」**フォルダーが自動的に作成されます。

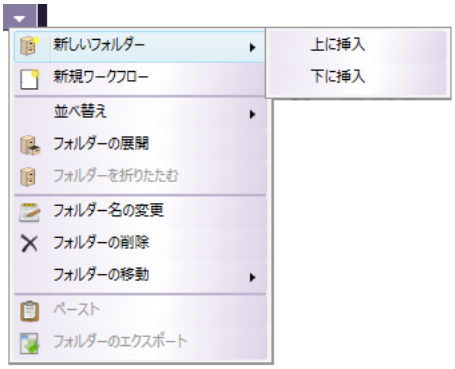
ワークフローリストのタイトルバーのコンテキストメニュー

下矢印をクリックするか、ワークフローリストのタイトルバーを右クリックすると、次のメニューが表示されます。



フォルダーのタイトルバーのコンテキストメニュー

下矢印をクリックするか、フォルダーのタイトルバーを右クリックすると、次のメニューが表示されます。



フォルダーの操作

上の図に示すコンテキストメニューを使用すると、フォルダーの作成、移動、および削除ができ、さらにワークフローリストにあるフォルダーの外観を変更できます。

新しいワークフローの作成

フォルダーのタイトルバーのドロップダウンメニューには、**【新規ワークフロー】** オプションがあります。メニューバーのアイコンを使用するかわりに、このオプションを選択して、新しいワークフローを作成できます(ワークフロービルダーが開きます)。

フォルダーの作成

新しいフォルダーを作成するには、以下のいずれかの操作を行います。

- **ワークフローリスト** のタイトルバーの下矢印をクリックして、表示されるメニューから **【新しいフォルダー】** を選択します。新しいフォルダーをワークフローリストの先頭に追加するか(**【先頭に挿入】** オプション)、それともワークフローリストの末尾に追加するか(**【末尾に挿入】** オプション)を選択できます。

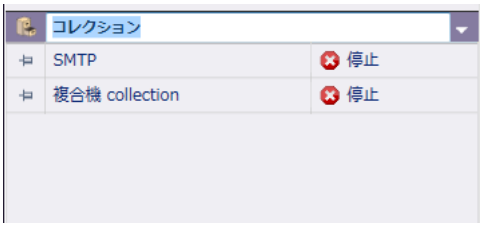
または

- フォルダーのタイトルバーで下矢印をクリックして、表示されるメニューから **【新しいフォルダー】** を選択します。新しいフォルダーを現在のフォルダーの上に追加するか(**【上に挿入】** オプション)、それとも現在のフォルダーの下に追加するか(**【下に挿入】** オプション)を選択できます。

フォルダー名の指定/変更

フォルダーを作成すると、最初は既定で「新しいフォルダー」という名前が付けられます。このフォルダーにわかりやすい名前を付ける場合や、既存のフォルダーの名前を変更する場合は、そのフォルダーのタイトルバーの **下** 矢印をクリックして、表示されるメニューから **【フォルダー名の変更】** オプションを選択します。

次の図に示すように、フォルダーの名前は後で編集することもできます。



この状態で、フォルダーの名前を入力できます。その後、**Enter** キーを押すか、アプリケーション内の他の **任意の場所をクリックして** 、変更内容を適用します。

注: すでに使用されている名前をフォルダーに付けたり、フォルダー名をそのような名前に変更することはできません。フォルダー名は一意である必要があります。

フォルダーの展開/折りたたみ

ワークフローリスト内のフォルダーは、Windowsエクスプローラーのフォルダーと同じように展開したり折りたたんだりできるので、各フォルダーの内容を詳しく表示したり、簡潔に表示したりできます。

- フォルダーの内容全体を確認するためにフォルダーを展開するには、フォルダーのタイトルバーの **下** 矢印をクリックします。表示されるメニューから **[フォルダーの展開]** を選択します。

  ショートカット：フォルダーのタイトルバーをクリックしてリストを展開します。

- フォルダーの内容が場所を取らないようにフォルダーを折りたたむには、フォルダーのタイトルバーの **下** 矢印をクリックします。表示されるメニューから **[フォルダーを折りたたむ]** を選択します。

  ショートカット：リストを折りたたむには、フォルダーのタイトルバーをクリックします。

- ワークフローリスト内のすべてのフォルダーを展開するには、**ワークフローリストのタイトルバーの下矢印** をクリックして、表示されるメニューから **[すべて展開]** を選択します。
- ワークフローリスト内のすべてのフォルダーを折りたたむには、**ワークフローリストのタイトルバーの下矢印** をクリックして、表示されるメニューから **[すべて折りたたむ]** を選択します。

フォルダーの移動

目的に合うようにワークフローリスト内のフォルダーを移動できます。ワークフローリスト内のフォルダーの位置を操作するには、以下のいずれかを実行します。

- マウスを使用して、フォルダーを適切な位置に **ドラッグアンドドロップ** します。または、
- フォルダーのタイトルバーの **下** 矢印をクリックして、いずれかの **[フォルダーの移動]** オプション(**[上]**、**[下]**、**[上へ]**、**[下へ]**)を選択します。

フォルダーの削除

フォルダーを削除するには、削除するフォルダーのタイトルバーの下矢印をクリックして、表示されるメニューから **[フォルダーの削除]** オプションを選択します。

注: フォルダーを削除するには、削除の確認が必要です。フォルダーにワークフローが含まれている場合、フォルダー内のすべてのワークフローも削除されます。

ワークフローの操作

ワークフローリストを使用して、同じフォルダーまたは異なるフォルダーのワークフローを個々にまたはグループとして操作できます。

複数のワークフローの選択

複数のワークフローを選択するには、**[Shift]** キー、または **[Ctrl]** キーを押しながらワークフローをクリックします。

ワークフローのコンテキストメニューの使用(複数のワークフローの場合)

同じフォルダーまたは異なるフォルダーから選択した1つ以上のワークフローを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。このメニューのオプションでは、メニューバーのアイコンと同じ機能を実行できます。

たとえば、同時に複数のワークフローを実行するには、ワークフローリストからワークフローを選択して、**[開始]アイコン** をクリックするか、ワークフローを右クリックして表示されるメニューの **[開始/再開]** オプションを選択します。

複数のワークフローを実行する前に、各ワークフローが検証されます。1つのワークフローが検証に失敗すると、ワークフローリストで選択したすべてのワークフローの処理も停止します。

ワークフローのステータスに関係なく、複数のワークフローに対してコマンドを実行できます。1つのワークフローがすでに実行中で、実行対象として選択したワークフローグループに含まれている場合、すでに実行中のこのワークフローは無視され、選択されている他のワークフローの実行が続行されます。

すべてのコマンドは、選択されたワークフローのうち、適切に処理できるワークフローのみを処理します。たとえば、実行中のワークフローと停止されているワークフローを組み合わせて開始するよう指定した場合、[実行]コマンドは、停止されているワークフローのみを処理します。同様に、[一時停止]コマンドは、選択されたワークフローのうち、適切に一時停止できるワークフローのみを処理し、選択されたその他のワークフローはスキップします。

複数のワークフローを停止した場合、現在ファイルを処理中のワークフローに対しては、個別に警告メッセージが表示されます。

ワークフローのスケジューリング

複数のワークフローに対して1つのスケジュールを作成することもできます。この操作を実行するには、リストからワークフローを選択して、ツールバーから **[ワークフローのスケジュール]** アイコンを選択するか、右クリックして表示されるメニューから **[スケジュール]** オプションを選択します。

ワークフローのコピー/ペースト

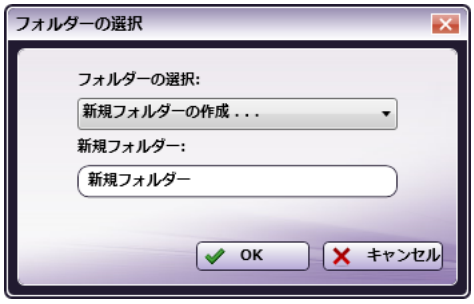
既存のワークフローによく似たワークフローを新規作成する場合は、既存のワークフローを ***[コピー]*** して、ワークフローリストに ***[ペースト]*** できます。

注: 実行中のワークフローをコピーすることはできますが、編集することはできません。編集するには、まず、そのワークフローを停止する必要があります。

1つ以上のワークフローをコピーしてペーストするには、以下の操作を行います。

- ワークフローリストで、1つ以上のワークフローを同一フォルダーまたは異なるフォルダーから選択します。
- ツールバーの **[ワークフローのコピー]** アイコンをクリックするか、**ワークフローを右クリックして** 表示されるコンテキストメニューから **[コピー]を選択** します。

- コピーしたワークフローを特定のフォルダーにペーストするには、そのフォルダーに移動し、フォルダー名のタイトルバーの **下矢印** をクリックして表示されるメニューから **[ペースト]** を選択するか、フォルダー内の **任意の場所を右クリックして** 表示されるコンテキストメニューから **[ペースト]** を選択します。
- ツールバーを使用してワークフローをペーストするには、**[ワークフローをペースト]** ツールバーアイコンをクリックします。次の図に示すように[フォルダーの選択]ウィンドウが表示されます。



- [フォルダーの選択]ウィンドウで、ドロップダウンリストから該当するフォルダーを選択して、**[OK]** ボタンを選択します。

注: 同じ名前のワークフローがすでに含まれているフォルダーにワークフローをペーストすると、ペーストしたワークフローの名前は、「Copy」という語が付く名前に変更されます。たとえば、「サンプルワークフロー - Copy」となります。

- 新しいフォルダーを作成する場合は、ドロップダウンリストから **[新規フォルダーの作成...]** オプションを選択します。[フォルダーの選択]ウィンドウが展開されて、コピーしたワークフローを配置する新しいフォルダーの名前を入力できます。完了したら、**[OK]** ボタンを選択します。

  注: 新しいフォルダーに、すでに使用されている名前を付けることはできません。各フォルダー名は一意である必要があります。
- 編集する際には、コピーしたワークフローは **ワークフロービルダー** で開きます。この際、ワークフローは元のワークフローと同じ属性を持ち、ファイル名とワークフロー名に **Copy** が追加されます。
- 必要な変更をワークフローに加えて、新しい名前を付けます。**[保存]** をクリックして、新しいワークフローを保存します。新しいワークフローを保存すると、上記のスナップショットの下半分に示すように、名前が置換されます。ワークフロービルダーを閉じて、アプリケーションのメイン画面に戻り、新しいワークフローがリストに追加されていることを確認します。

ワークフローの削除

1つ以上のワークフローを削除するには、以下のいずれかの操作を行います。

- 1つ以上のワークフローを選択して **右クリック** し、表示されるメニューから **[削除]** オプションを選択します。または、
- 1つ以上のワークフローを選択して、ツールバーの **[削除]アイコン** をクリックします。

削除してもよいかを尋ねる確認メッセージが表示されます。

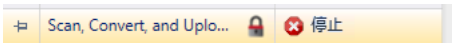
ワークフローのロック

セキュリティのため、ワークフローをパスワードで保護することができます。パスワードが設定されると、ワークフローのスケジュールの変更、ワークフローの共有ステータスの変更、あるいはワークフローの編集、コピー、削除、またはエクスポートを行うときに、パスワードが必要となります。アプリケーションが起動すると、パスワードが設定されているワークフローはすべてロックされます。

ワークフローをパスワードでロックするには、以下の操作を行います。

1. ワークフローリストで、操作対象のワークフローを **右クリック** します(複数のワークフローを選択するには、[Ctrl]キーを押しながら右クリックします)。
2. 表示されるコンテキストメニューから、**[Password Protection(パスワード保護)] > [Set Password(パスワードの設定)]** オプションを選択します。
3. [Set Password(パスワードの設定)]ポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウで、ワークフローのパスワードを入力して確認します。
4. 指定したパスワードでワークフローをロックするには、アプリケーションを再起動するか、ワークフローを右クリックして **[Password Protection(パスワード保護)] > [Lock Workflow(ワークフローのロック)]** オプションを選択します。

5. ワークフローをロックすると、ワークフローリストでワークフロー名の横に **ロック記号** が表示されます。例については以下の図を参照してください。



ワークフローパスワードの変更

ワークフローにパスワードを設定した後に、パスワードを変更することができます。以下の操作を行います。

1. ワークフローリストで、操作対象のワークフローを **右クリック** します(複数のワークフローを選択するには、Ctrlキーを押しながら右クリックします)。
2. 表示されるコンテキストメニューから、**[Password Protection(パスワード保護)] > [Change Password(パスワードの変更)]** オプションを選択します。
3. 表示される[Change Password(パスワードの変更)]ポップアップウィンドウで、古いパスワードと新しいパスワードを入力し、新しいパスワードを再度入力して **[OK]** ボタンを選択します。

ワークフローパスワードの解除

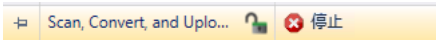
ワークフローのパスワード保護を解除するには、以下の操作を行います。

1. ワークフローリストで、操作対象のワークフローを右クリックします(複数のワークフローを選択するには、Ctrlキーを押しながら右クリックします)。
2. 表示されるコンテキストメニューから、**[Password Protection(パスワード保護)] > [Remove Password(パスワードの解除)]** オプションを選択します。
3. 表示される[Provide Password(パスワードの入力)]ポップアップウィンドウで、パスワードを入力して **[OK]** ボタンを選択します。

ワークフローのロック解除

指定したパスワードを保持したままワークフローのロックを解除するには、以下の操作を行います。

1. ワークフローリストで、操作対象のワークフローを **右クリック** します(複数のワークフローを選択するには、Ctrlキーを押しながら右クリックします)。
2. 表示されるコンテキストメニューから、**[Password Protection(パスワード保護)] > [Unlock Workflow(ワークフローのロック解除)]** オプションを選択します。
3. 表示される[Provide Password(パスワードの入力)]ポップアップウィンドウで、パスワードを入力して **[OK]** ボタンを選択します。ワークフローリストで、ワークフロー名の横に開いた鍵の記号が表示されます。例については、以下の図を参照してください。



ワークフローのソート

フォルダー内でワークフローをソートするには、フォルダーのタイトルバーの **下矢印** をクリックして、表示されるメニューから **[並べ替え]** オプションを選択します。ワークフローの名前でソートするか(**[名前]**)、ワークフローのステータスでソートするか(**[ステータス]**)を選択できます。

注: 新規作成したワークフローは、作成時以前のソート条件に基づいて自動的にソートされることはありません。

ワークフローの順序変更

ワークフローの順序を変更するには、ワークフローリスト内の任意の場所(同じフォルダー内または異なるフォルダー間)でワークフローを **ドラッグアンドドロップ** します。また、**[移動]** オプションまたは **[移動先]** オプション(ワークフローを右クリックして表示されるメニューから選択できます)を使用することもできます。

- **フォルダー内でワークフローを移動するには** 、ワークフローを右クリックして、表示されるメニューから **[移動]** ([上]、[下]、[上へ]、[下へ])を選択します。[上]オプションを選択すると、ワークフローはフォルダー内で最上部に移動します。[下]オプションを選択すると、ワークフローはフォルダー内で最下部に移動します。[上へ]オプションまたは[下へ]オプションを選択すると、ワークフローはそれぞれ1レベル上または下に移動します。
- **ワークフローリスト内でワークフローを移動するには** 、ワークフローを右クリックして、表示されるメニューから **[移動先]** を選択します。[フォルダーの選択]ウィンドウが表示され、選択したワークフローの移動先として適切なフォルダーの場所を選択できます。[フォルダーの選択]を使用して新しいフォルダーを作成することもできます。

注: ドラッグアンドドロップで複数のワークフローを移動する場合、マウスを移動する間は、マウスボタンとShiftキーを同時に押したままにする必要があります。

アクティビティウィンドウの表示

選択したワークフローのアクティビティフローティングパネルを表示するには、ワークフローリストからワークフローを選択して右クリックし、**[アクティビティウィンドウを開く]** オプションを選択します。

注: このオプションを選択するときに複数のワークフローが選択されている場合、選択されているワークフローのうち、リストで最初のワークフローのアクティビティウィンドウが表示されます。

エクスポート

アプリケーションのメイン画面のオプションを使用して、個々のワークフローをエクスポートすることも、異なるフォルダーから複数のワークフローをエクスポートすることも、フォルダー全体をエクスポートすることもできます。複数のワークフローの場合もフォルダー全体の場合も、1つのファイルに保存されるようになりました。命名規則は次のとおりです。

- フォルダー全体をエクスポートした場合、エクスポートファイルの名前は、既定でそのフォルダーの名前になります。
- 複数のワークフローを複数のフォルダーからエクスポートした場合、エクスポートファイルの名前は、既定で「マイワークフロー」になります。

- 1つのワークフローをエクスポートした場合、エクスポートファイルの名前は、既定でそのワークフローの名前になります。
- エクスポートファイルのファイル拡張子はすべて.wfxpです。

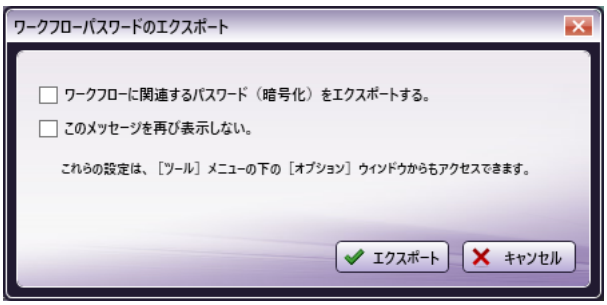
注: エクスポートするワークフローで、ネットワークディレクトリにアクセスするためのショートカットが使用されている場合、ワークフローを再度インポートすると、このディレクトリにアクセスできなくなります。インポート後に該当するディレクトリにアクセスするには、完全なネットワークパスが必要です。そのため、エクスポート対象のワークフローにネットワークディレクトリへのショートカットが含まれていないことを確認してください。

ワークフローおよびフォルダーのエクスポート

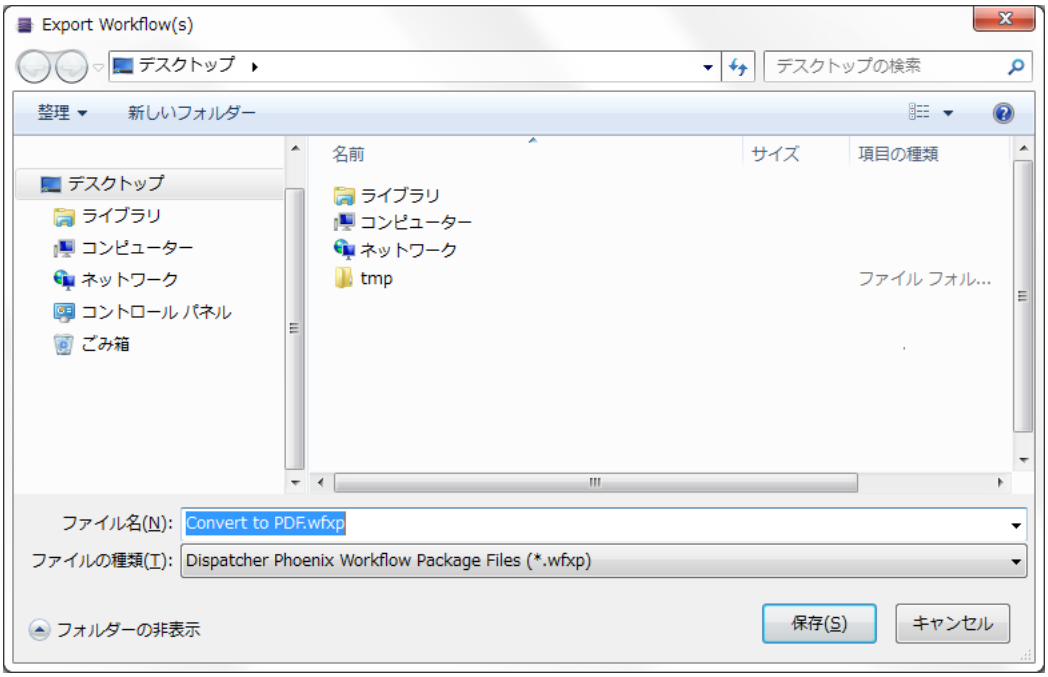
1つ以上のワークフローをエクスポートするには、以下の操作を行います。

- ワークフローをエクスポートするには、同一フォルダーまたは異なるフォルダーから該当するワークフローを選択し、右クリックして表示されるメニューから **[エクスポート...]** を選択するか、ツールバーの **[ワークフローのエクスポート]** アイコンをクリックします。
- フォルダーの内容全体をエクスポートするには、フォルダーのタイトルバーの **下矢印** をクリックして、表示されるメニューから **[フォルダーのエクスポート]** オプションを選択します。[ワークフローのエクスポート]ウィンドウが表示されます。
- ワークフローリスト内のすべてのフォルダーをエクスポートするには、ワークフローリストのタイトルバーの **下矢印** をクリックして、表示されるメニューから **[すべてエクスポート]** オプションを選択します。

[ワークフローパスワードのエクスポート]メッセージが表示され、ワークフローに設定されているパスワードがあれば、それらのパスワードをエクスポートすることを選択できます。パスワードを関連付けることができるノードは、電子メール出力、FTP、複合機、入力フォルダー、出力フォルダー、および透かしです。ワークフローにこれらのノードのいずれかが含まれている場合、ワークフローと共にパスワードもエクスポートできます。このオプションを有効にすると、インポート後に追加構成なしでワークフローを実行できます。**[このメッセージを再び表示しない]** ボックスをオンにしないかぎり、ワークフローをエクスポートするたびにこのメッセージが表示されます。



[ワークフローパスワードのエクスポート]メッセージで、必要なオプションを有効にして **[エクスポート]** ボタンを選択すると、次の図に示すように[ワークフローのエクスポート]ウィンドウが表示されます。



[ワークフローのエクスポート]ウィンドウで、エクスポートするワークフローのファイルの名前と場所を指定して、**[保存]** ボタンを選択します。このウィンドウで、エクスポートするファイルの名前を変更した場合、ワークフローをアプリケーションにインポートして戻すと、ワークフローは元の名前に戻ることに注意してください。

ワークフローのインポート

ワークフローをアプリケーションにインポートして戻すには、以下のいずれかの操作を行います。

- **エクスポートしたファイルをダブルクリック** します。インポートウィザードが表示されます。Dispatcher Phoenixが実行されていない場合は自動的に起動します。

- ツールバーメニューから **[ワークフローのインポート]** アイコンを選択します。[ワークフローのインポート]ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、インポートするエクスポート済みファイルを見つけて、[開く]ボタンを選択します。インポートウィザードが表示されます。

.wfxファイルと.wfxpファイルの両方をインポートできます。入力フォルダーノード、出力フォルダーノード、複合機ノード、FTPノード、電子メール出力ノード、または透かしノードが含まれるワークフローをインポートする場合、インポートしたワークフローを実行する前に、ノードのネットワーク資格情報の再構成が必要な場合があります。

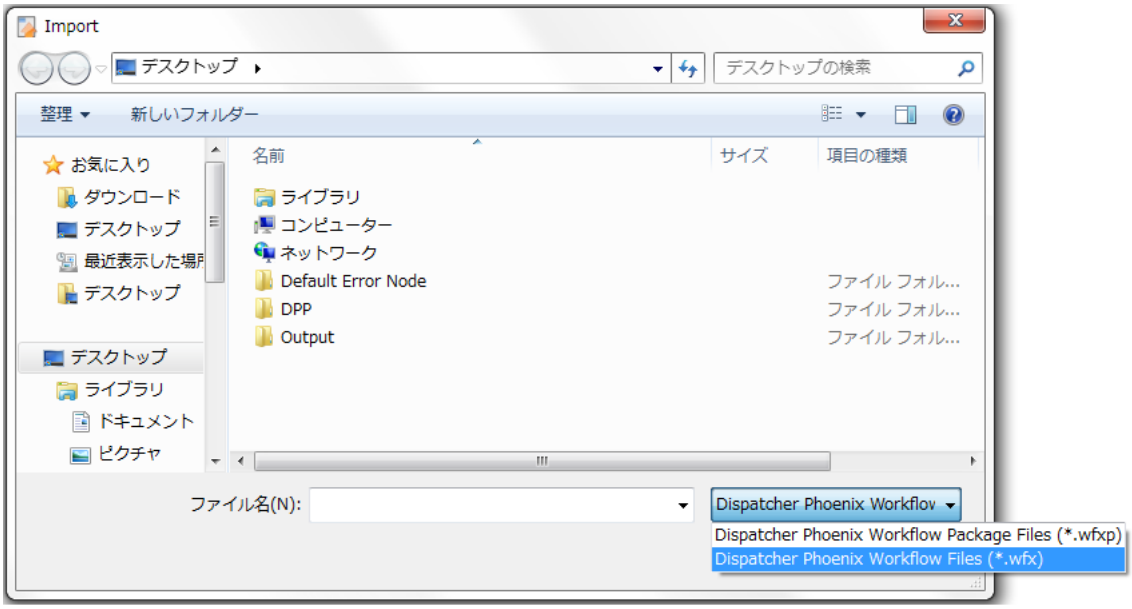
インポートウィザードの使用

インポートウィザードは、次の図のようになります。

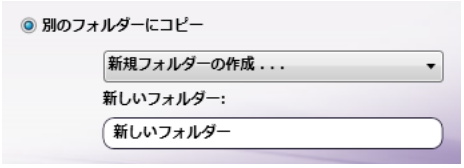
インポートウィザードを使用するには、以下の操作を行います。

- **[インポートするファイルの選択]** フィールドの横にある[参照(...)]ボタンを使用して、アプリケーションにインポートして戻すエクスポート済みファイルを見つけます。[インポート]ウィンドウでは、次の2つのファイルタイプのいずれかを選択してインポートできます。*.wfxp または *.wfx* 。

注: *.wfxpファイルの名前が *.wfxに変更されている場合、そのファイルはインポートできません。



- ワークフローのインポート先のフォルダーを選択します。オプションは次のとおりです。
  - **[同じフォルダーに移動]** - このオプションを選択すると、インポートするワークフローがエクスポート時に存在していたフォルダーと同じ名前のフォルダーが作成されます(フォルダーがすでに存在している場合を除きます)。*.wfxファイルをインポートする場合、このオプションは無効になります。
  - **[別のフォルダーにコピー]** - このオプションでは、ドロップダウンリストから既存のフォルダーを選択して、インポートしたワークフローをそのフォルダーに配置できます。**[新規フォルダーの作成...]** を選択すると、新しいフォルダーにワークフローをインポートできます。次の図に示すように、空のフィールドが表示され、新しいフォルダーの名前を入力できます。



- 完了したら、**[インポート]** ボタンを選択します。インポート対象のワークフローが、インポート先のフォルダーにすでに存在する場合、そのワークフローの名前に「コピー」が付きます(Windowsの命名規則と同様です)。選択したファイルが破損しているか、Dispatcher Phoenixファイルではない場合、エラーメッセージが表示されます。詳細は、トラブルシューティングのセクションを参照してください。

注: インポートウィザードは複数回起動できるので、複数のファイルを同時にインポートできます。

[プレビュー]領域

[プレビュー]領域には、ワークフローリストで選択したワークフローがグラフィックで表示されます。[プレビュー]領域をダブルクリックすると、ワークフローを編集できます(ワークフロービルダーが開きます)。

プレビュー領域のコンテキストメニューの使用

[プレビュー]領域のコンテキストメニューを開くには、[プレビュー]領域を右クリックします。以下のオプションを選択できるコンテキストメニューが表示されます。

- **[開始/再開]** - ワークフローを実行します。
- **[停止]** - ワークフローを停止します。
- **[一時停止]** - 選択したワークフローを一時停止します。
- **スケジュール** - ワークフローを実行する時間を設定します。
- **[編集...]** - ワークフロービルダーでワークフローを開き、編集できるようにします。
- **[エクスポート...]** - ワークフローを *.wfxpファイルとしてエクスポートします。
- **[アニメーションの速度]** - ワークフローのアニメーションの速度を指定します。

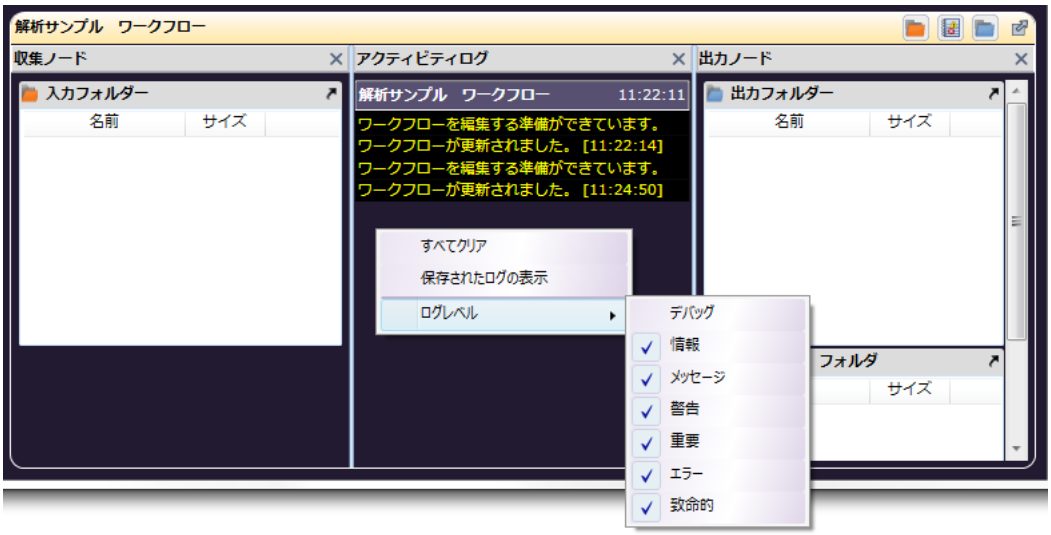
アクティビティペイン

ウィンドウの下半分にはアクティビティペインがあり、選択したワークフローの入力ノード、アクティビティログ、および出力ノードが表示されます。アクティビティペインをスクロールして、各ワークフローの入力、アクティビティログ、および出力を確認できます。Windowsエクスプローラーを使用する場合と同様に、[アクティビティ]ペインでは、フォルダー間でファイルをドラッグアンドドロップすることもできます。

注: アクティビティペインのフォルダーには、1,000個のファイルしか表示されません。表示されているファイルより多くのファイルがフォルダーに含まれている場合、それらすべてのファイルを選択しようとすると(一括削除の場合など)、最初の1,000ファイルだけが処理されます。ディレクトリ内にある1,000ファイルごとに処理を繰り返す必要があります。

アクティビティペインのコンテキストメニューの使用

アクティビティペインで使用するコンテキストメニューを開くには、目的のアクティビティペインを右クリックします。



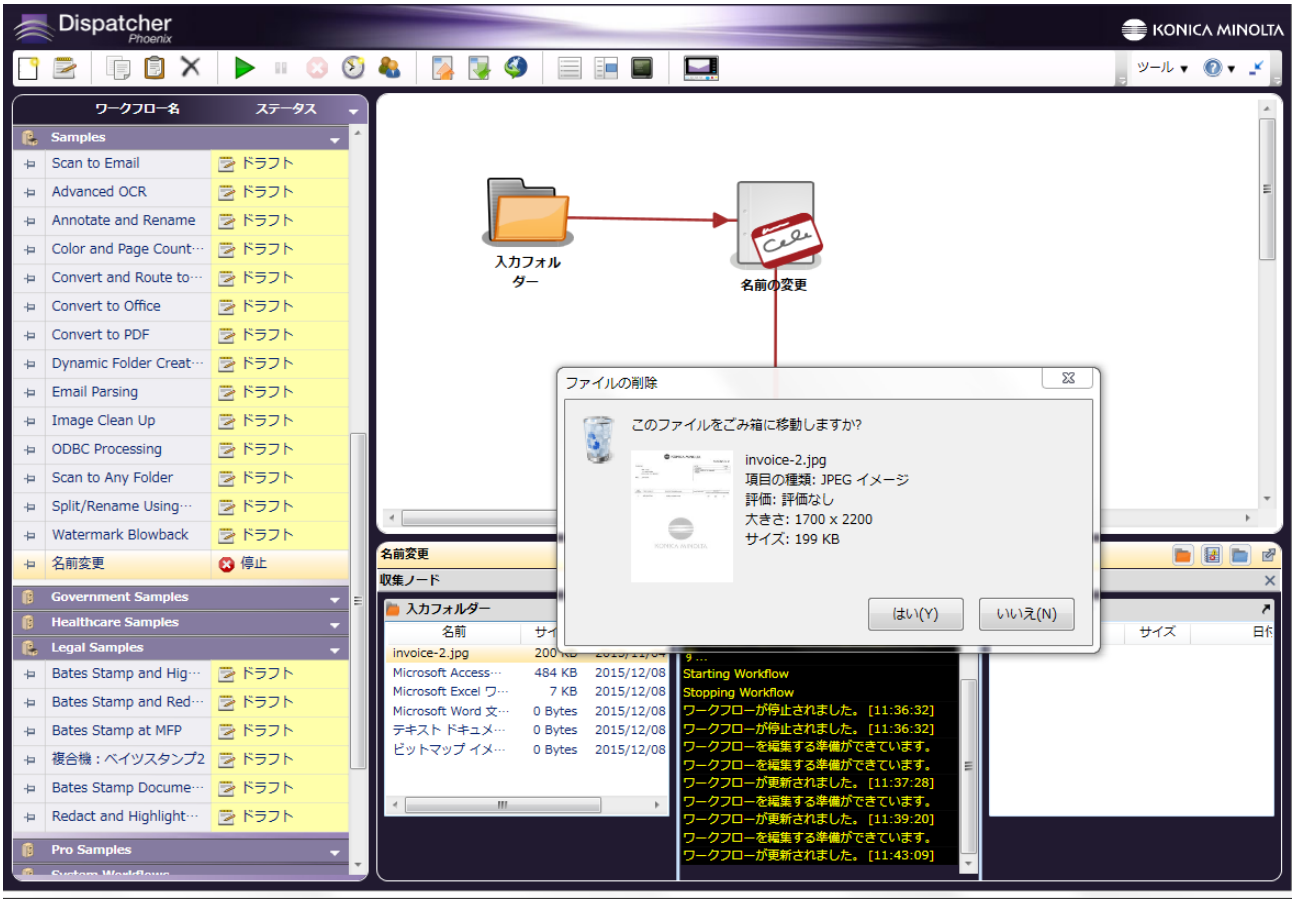
以下のオプションを選択できるコンテキストメニューが表示されます。

- **[すべてクリア]** - 対象のアクティビティペインからすべてのログをクリアします。
- **[保存されたログの表示]** - 保存されているログをログビューアーに表示します。
- **[ログレベル]** - ログに記録する情報を指定します。

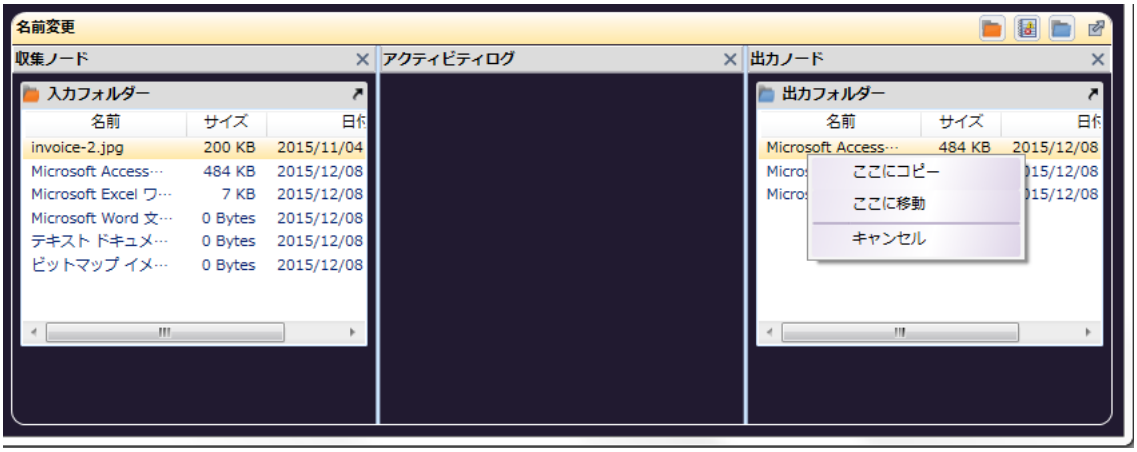
アクティビティペインでのファイルの使用

Dispatcher Phoenix では、ワークフローの入力および出力フォルダー内のファイルは、PCのデスクトップで操作する場合と同じように処理できます。

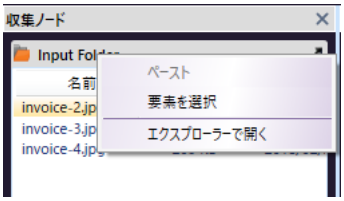
- **ファイルの削除** - 1つ以上のファイルを削除するには、アクティビティペイン内のいずれかのフォルダータイプ内のファイルをクリックします。複数のファイルを選択する場合は、Ctrlキーを押しながらクリックします。コンテキストメニューから **[削除]** を選択します。削除を確認すると、ファイルがごみ箱に移動されます。次の図では、入力フォルダー内のファイルを右クリックして[削除]を選択した結果、アクションを確認するプロンプトが表示されています。



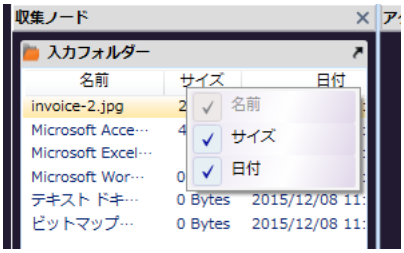
- **ファイルを開く** - ファイルを開くには、ファイル名をダブルクリックします。
- **ファイルのドラッグアンドドロップ** - 入力フォルダーおよび出力フォルダーに直接ファイルをドラッグアンドドロップできます。次の図に示すように、ファイルをコピーするのか、それとも移動するのかを尋ねられます。



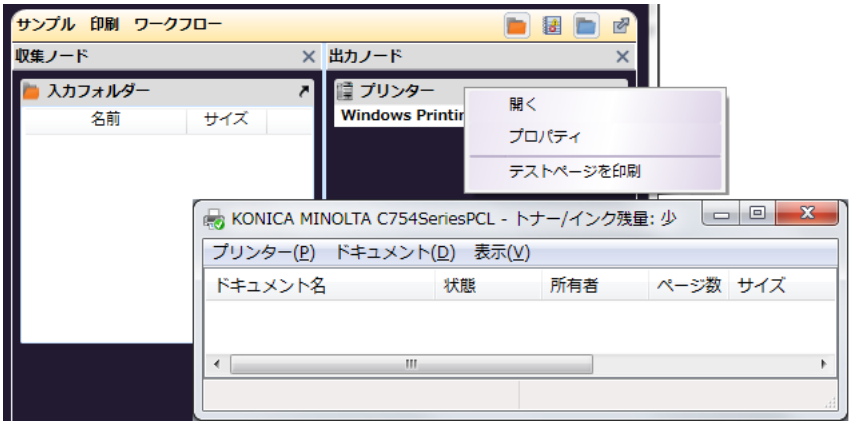
- **コンテキストメニューの使用** - 入力フォルダーまたは出力フォルダーを右クリックすると、コンテキストメニューとオプションが表示されます。表示されるメニューは、ノードのタイプ、およびノードのどこをクリックしたかによって異なります。次の例は、**入力フォルダーのヘッダーバー** を右クリックしたときに表示されるメニューです。



次の例は、**入力フォルダー名** を右クリックしたときに表示されるメニューです。



最後は、プリンター出力ノードの例です。ダブルクリックすると **実際のプリンターキュー** が開き、右クリックするとコンテキストメニューが表示されます。

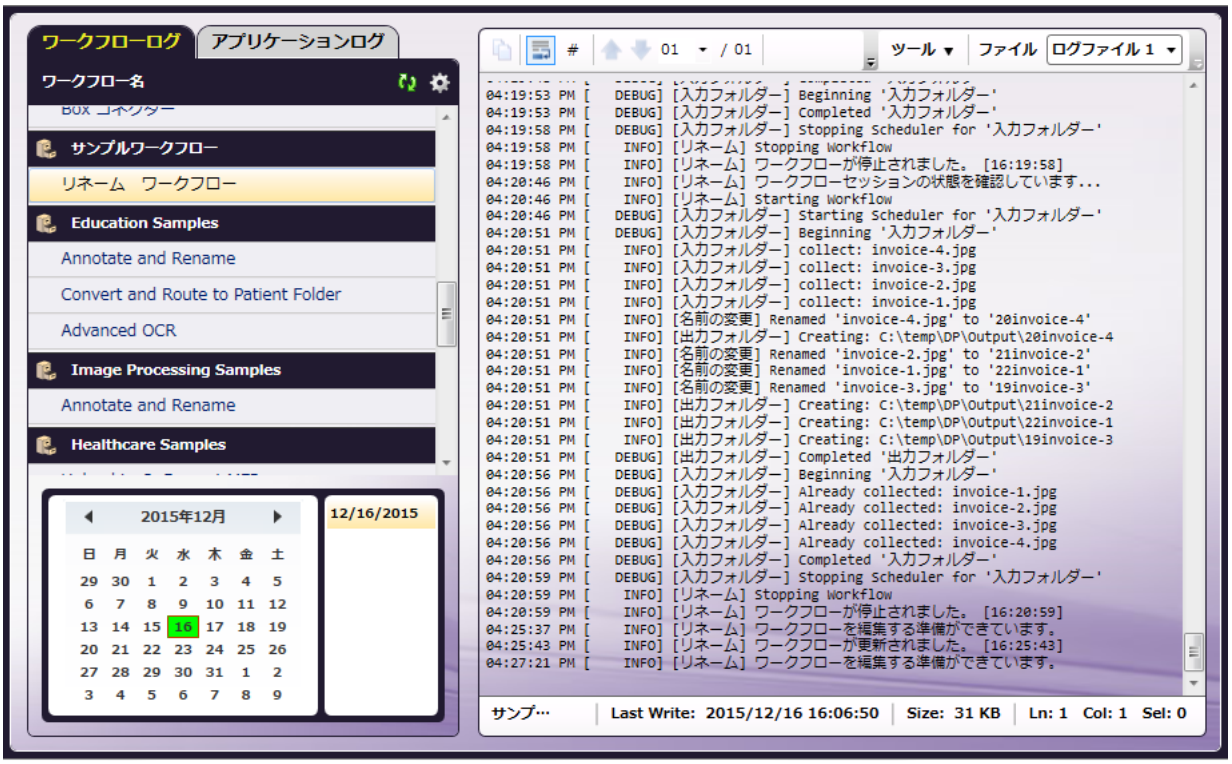


ログビューアー

アクティビティログのファイルは、ワークフローごとに毎日個々に記録されます。ログビューアーにアクセスするには、以下のいずれかの操作を行います。

- 少なくとも1回は実行したことがあるワークフローの[アクティビティログ]セクションを右クリックして、**[保存されたログの表示]** を選択します。または、
- **[ツール]** プルダウンメニューから **[ログビューアー...]** を選択します。
- **Windowsの[スタート]ボタン > [すべてのプログラム] > [KONICA MINOLTA] > [Dispatcher Phoenix]** に進み、**[Dispatcher Phoenix Log Viewer]** をクリックします。

ログビューアーは、次の図のようになります。選択したワークフローが強調表示されています。マウスを使用するか、または[Shift]キーを押しながら矢印キーを押して、ログビューアーのコンテンツの一部またはすべてを選択できます。

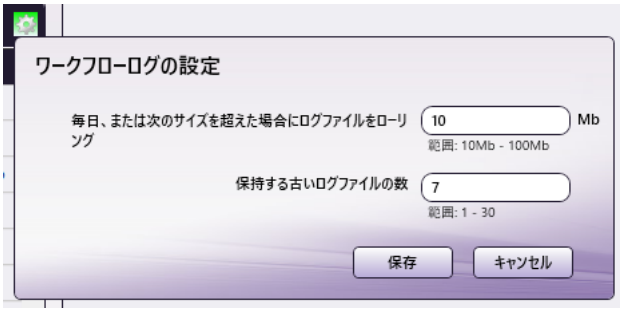


ワークフローログ

ワークフローログ タブには、ディスクにログファイルが格納されている(つまり、少なくとも一度は実行されたことがある)すべてのワークフローが表示されます。特定のワークフローをクリックすると、そのワークフローのログファイルが表示されます。

[ワークフローログ]タブの機能は、次のとおりです。

- **[フォルダー]** - すべてのワークフローが、Dispatcher Phoenixメインアプリケーションのワークフローリストで分類されるものと同じフォルダーに分類されます。
- **[最新の情報に更新]ボタン** - ログビューアーを再起動しないで、このパネルに表示されているワークフローを再度読み込むには、**[ワークフローリストの再読み込み]** ボタンをクリックします。
- **[カレンダー]** - ウィンドウの最下部にあるカレンダーを使用してログの履歴を簡単にナビゲートできます。「月」名をクリックすると、12か月を示した「年」ビューが表示され、矢印を使用して1年ずつスクロールできます。「年」ビューで任意の「月」をクリックすると、カレンダーにその「月」が表示されます。「月」も矢印を使用して1か月ずつスクロールできます。
- **[ワークフローログの設定]** - ログビューアーに表示される情報は、ワークフロー内の処理とログ設定によって異なります。[ワークフローログ]タブの **[ワークフローログの設定]** ボタンをクリックすると、次の図に示すようなドロップダウンパレットが表示されます。



以下の操作を行います。

- **[毎日、または次のサイズを超えた場合にログファイルをローリング]** フィールドには、ログファイルを保存して次のログを開始するときのサイズの数値を10～100MBの範囲で指定します。
- **[保持する古いログファイルの数]** フィールドには、保持するログファイルの数を入力します(最大30ファイル)。
- 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。ログ設定を保存するには、Dispatcher Phoenixアプリケーションを実行しておく必要があることに注意してください。

これらの各設定は、1箇所で設定しますが、各ワークフローに個々に適用されます。

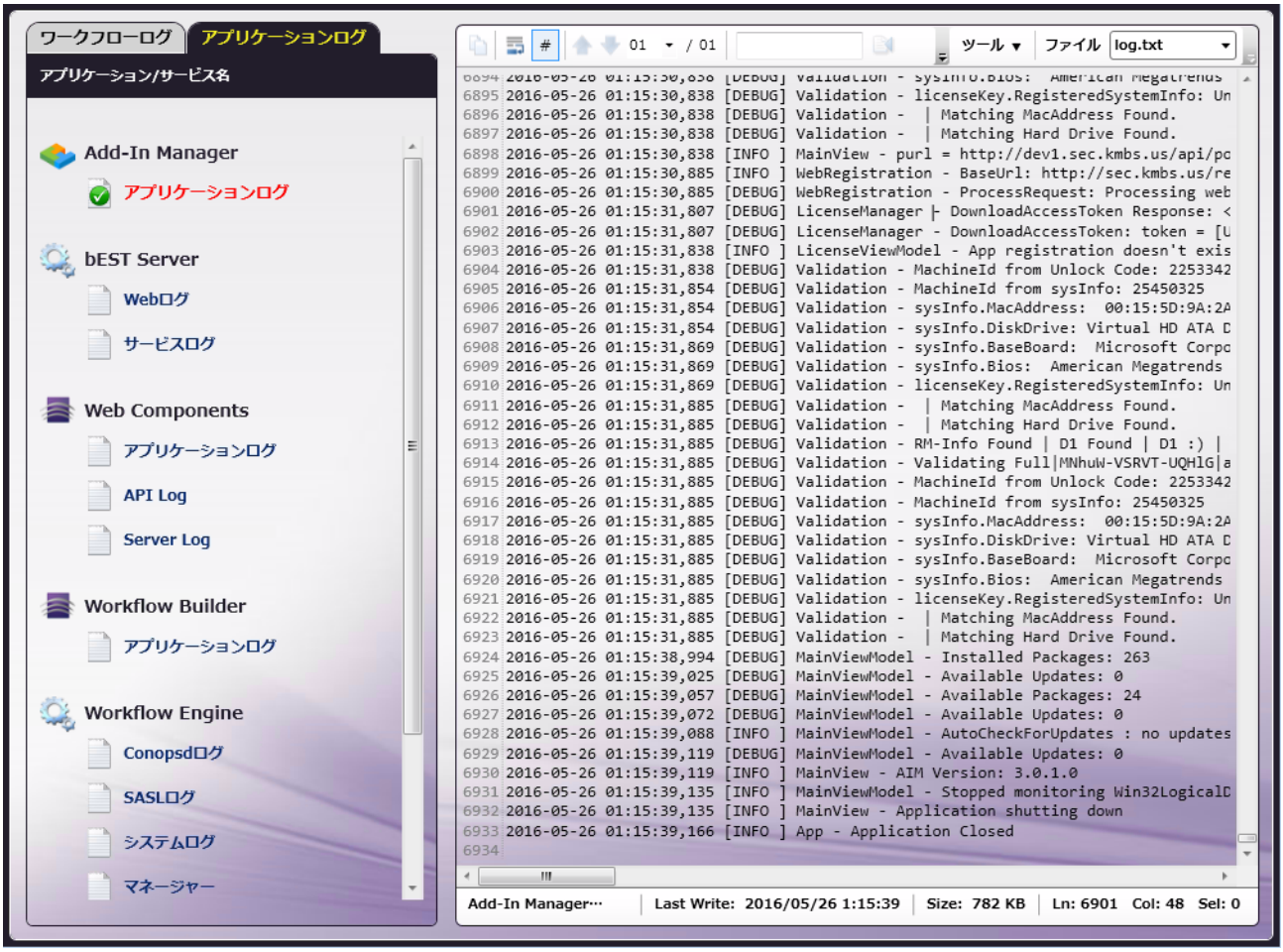
注: ワークフローごとに2つの条件を基にして新しいログファイルが作成されます。日付が変わった場合か、ログファイルのサイズが設定の最大値に達した場合です。

アプリケーションログ

[アプリケーションログ]タブをクリックすると、次のアプリケーションからログにアクセスできるようになります。

- Add-In Manager(アドインマネージャー)
- bEST Server(bESTサーバー)
- Web Components(ウェブコンポーネント)
- Workflow Builder(ワークフロービルダー)
- Workflow Engine(ワークフローエンジン)
- MFP Registration Tool(複合機登録ツール)

例については、次の図を参照してください。



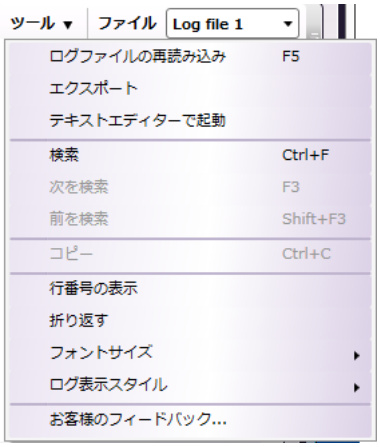
ツールバー

ログビューアーのツールバーは以下の図のようになります。

アイコン	説明
	選択したテキストをクリップボードにコピーします。
	ログビューアーのウィンドウに合わせてテキストを折り返すか、折り返しを解除します。
#	行番号の表示/非表示を切り替えます。
03 / 03	ログファイルが10MBを超えた場合、ログファイルは複数ページに分割されます。上矢印または下矢印をクリックして、ページ間をナビゲートします。現在のページ番号と合計ページ数が矢印の横に表示されます。
	用意されているテキストフィールドを使用して、ログビューアーで特定の語を検索できます。テキストフィールドの横の矢印アイコンをクリックすると、ログビューアー内を上下に検索できます。ショートカットキーは、F3(次を検索)およびShift+F3(前を検索)です。
	新しいログ情報を再ロードします。
ツール ▾	ログファイルのエクスポートや外部テキストエディターの起動など、その他の機能にアクセスします。
ファイル Log file 1	別のログファイルにアクセスします。

[ツール]ボタン

ログビューアーのツールバーにある **[ツール]** ボタンをクリックすると、次のドロップダウンメニューが表示されます。

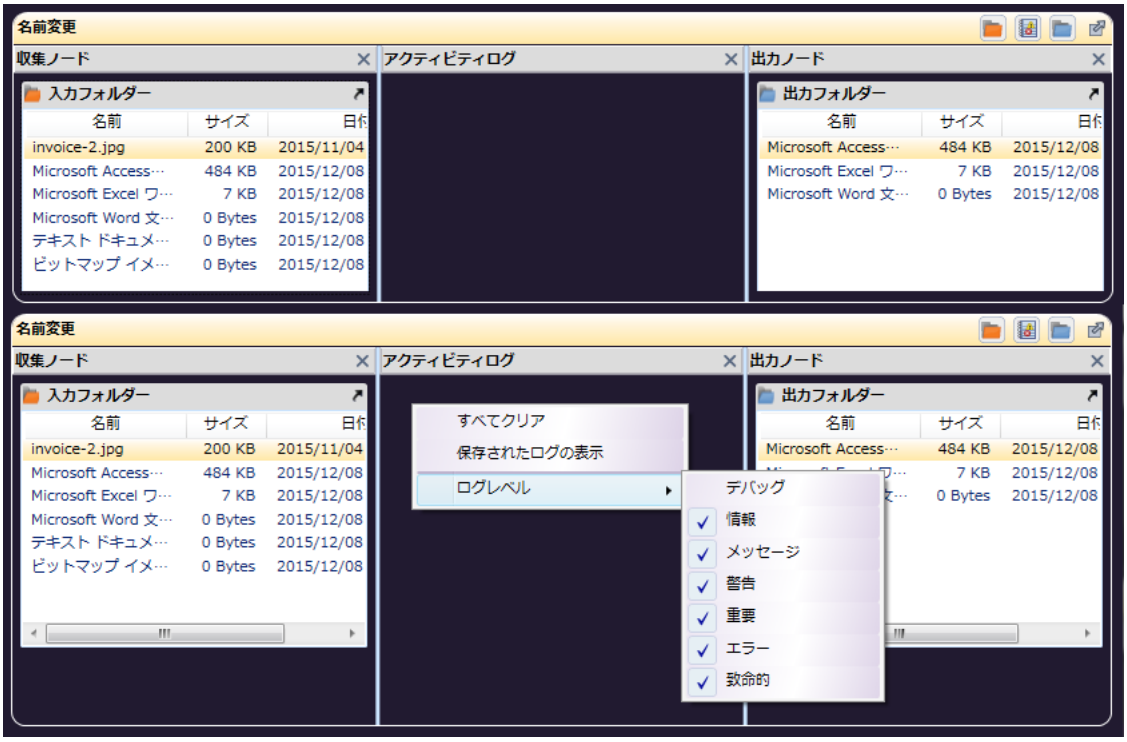


以下のオプションを選択できます。

- **[ログファイルの再読み込み]** - 新しいログ情報を再ロードします。
- **[エクスポート]** - ログファイルをテキストファイルにエクスポートします。
- **[テキストエディターで起動]** - ログファイルをテキストエディターで開きます。
- **[検索]** - ツールバーの[検索]テキストフィールドにフォーカスします。
- **[次を検索]** - 検索テキストの次の出現箇所を検索します。
- **[前を検索]** - 検索テキストの前の出現箇所を検索します。
- **[コピー]** - 選択したテキストをクリップボードにコピーします。
- **[行番号の表示]** - 行番号の表示/非表示を切り替えます。
- **[折り返す]** - ログビューアーのウィンドウに合わせてテキストの折り返すか、折り返しを解除します。
- **[フォントサイズ]** - ログファイルのテキストのフォントサイズを変更します。オプションは次のとおりです。[既定値]、[小]、[中]、[大]、[XL(最大)]。
- **[ログ表示スタイル]** - ログビューアーの背景スタイルを変更します。オプションは次のとおりです。
  - 既定値
  - メモ帳
  - コンソール
  - Powershell
- **[お客様のフィードバック]** - カスタマーフィードバックエージェントを起動します。

[すべてクリア]オプションと[ログレベル]オプション

[アクティビティログ] 領域を右クリックして、**[すべてクリア]** をクリックすると、すべてのログをクリアできます。これにより、**[アクティビティログ]** 画面からログがクリアされます。ただし、システムに保存されているログファイルは消去されません。同じログを再度表示するには、パネルメニューから **[保存されたログの表示]** を選択します。



コンテキストメニューから **[ログレベル]** を選択すると、ログファイルに含める情報を指定できます。既定では、すべてのレベルがログ対象として選択されています。エラー発生時のトラブルシューティングに役立つように、すべてのアクティビティログにデバッグ情報が含まれますが、ワークフローについて記録されるその他のタイプのメッセージは、いずれも選択解除できます。

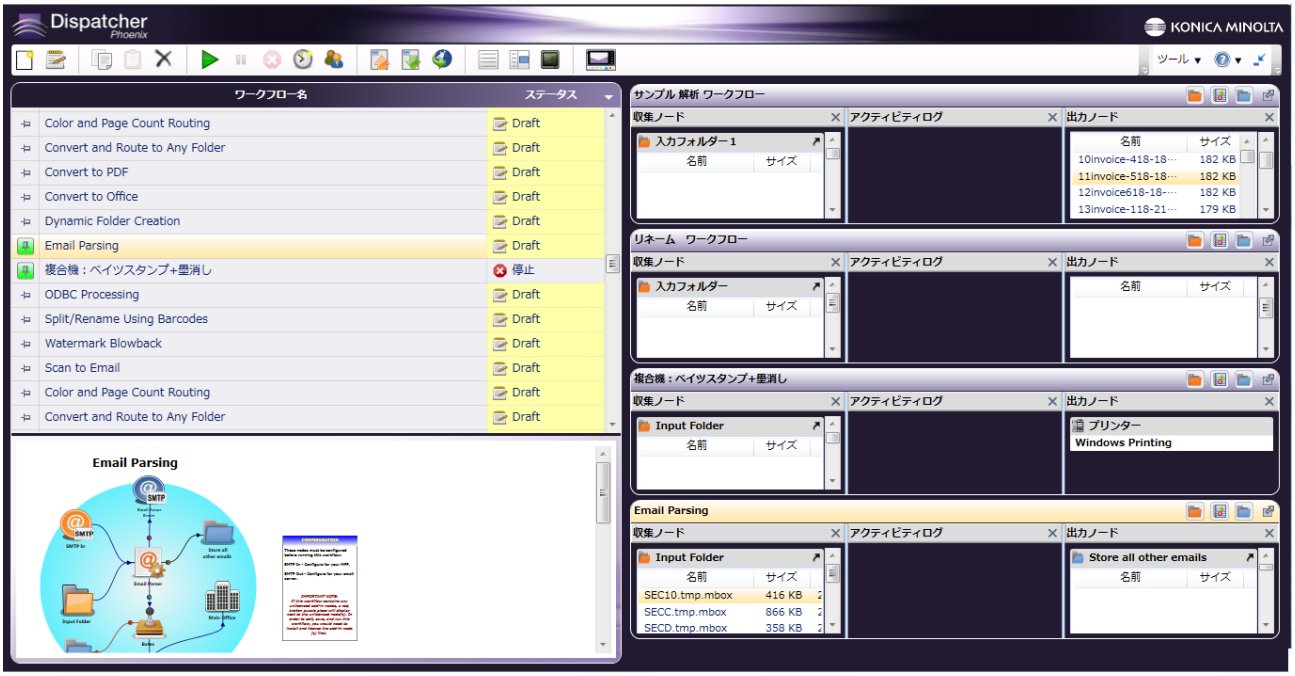
さまざまな機能

Dispatcher Phoenix は、ユーザーがワークフロービルダーで作成したワークフローを実行します。これらのワークフローは、編集することも、コピーすることもできます。メイン画面には、以下の機能が含まれています。

ワークフローリスト

ワークフローを開いて「ピン留め」し、画面の左下角に表示できます。このためには、ワークフローリストで、選択したワークフロー名の左にあるピンをクリックします。

注: ワークフローをピン留めする場合、アプリケーションのメイン画面の左下角に表示されるワークフローのプレビューは、静的画像として表示されます。ワークフローが実行されているときにLiveFloアニメーションは表示されません。



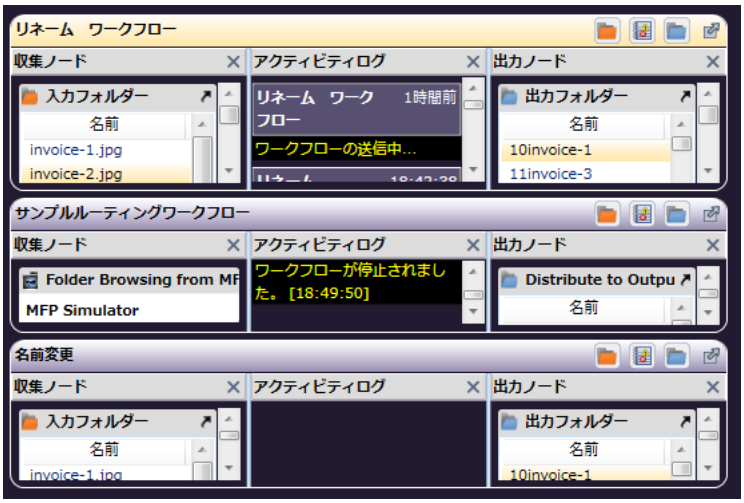
ビューの表示/非表示

メニューバーの以下のセクションには、ワークフローのビューの変更に使用できる3つのアイコンが用意されています。

アイコン	説明
	[ワークフローリストの表示/非表示] - 開いているワークフローを画面左上に表示するか、非表示にします。
	[ワークフロープレビューの表示/非表示] - ワークフローを画面左下に表示するか、非表示にします。
	[ワークフローアクティビティの表示/非表示] - アクティビティ情報を画面右側に表示するか、非表示にします。

ワークフローのアクティビティパネル

開いている各ワークフローのアクティビティパネルの右側上部([ツール]メニューの下)には、4つのアイコンが表示されます。次の図に示すように、これらのアイコンを使用して選択したワークフローのビューを変更できます。



これらのパネルのアイコンは、次のように機能します。

アイコン	説明
	[入力ノードの表示/非表示] - 入力フォルダーの表示/非表示を切り替えます。
	[出力ノードの表示/非表示] - 出力フォルダーの表示/非表示を切り替えます。
	[アクティビティログの表示/非表示] - アクティビティログの表示/非表示を切り替えます。
	[フロートウィンドウ] - これを選択すると、アクティビティパネルからウィンドウを切り離して、画面上の任意の場所に移動できます。

列の境界線をクリックしてドラッグすることによって、列の長さや幅を伸ばすこともできます。

ワークフロービュー

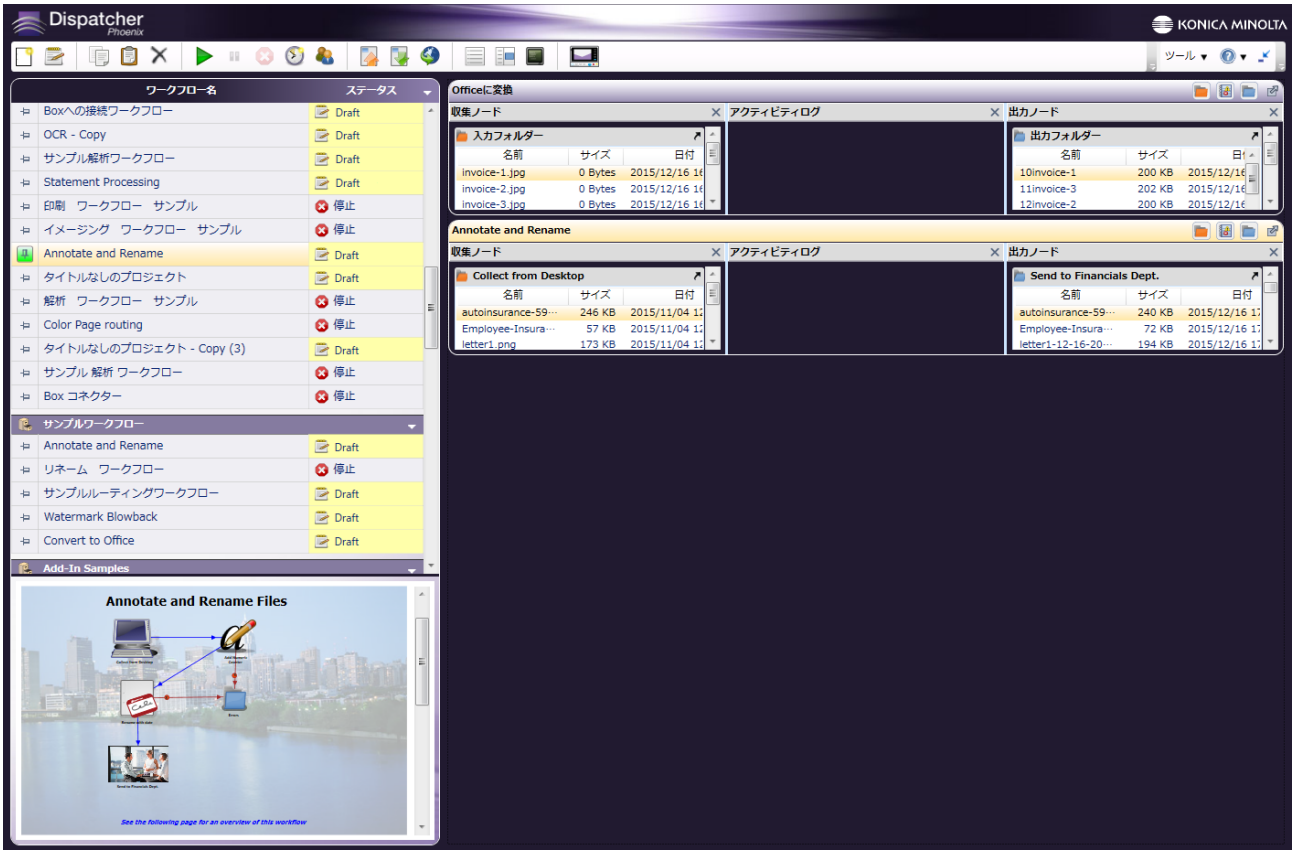
Dispatcher Phoenixに設定したレイアウト(表示されるビュー、ペインのサイズ、表示するワークフロー)は、自動的に保存されます。これによって、次回アプリケーションを開いたときに目的の外観とレイアウトが表示されるため、ペインとビューをすべて再設定する必要はありません。

ただし、アクティビティペインは例外です。このペインは切り離すことができるため、ノードとアクティビティのリストは、常に既定のサイズで開きます。ただし、このペインを非表示にした場合は、アプリケーションを再度開いたときも非表示のままです。

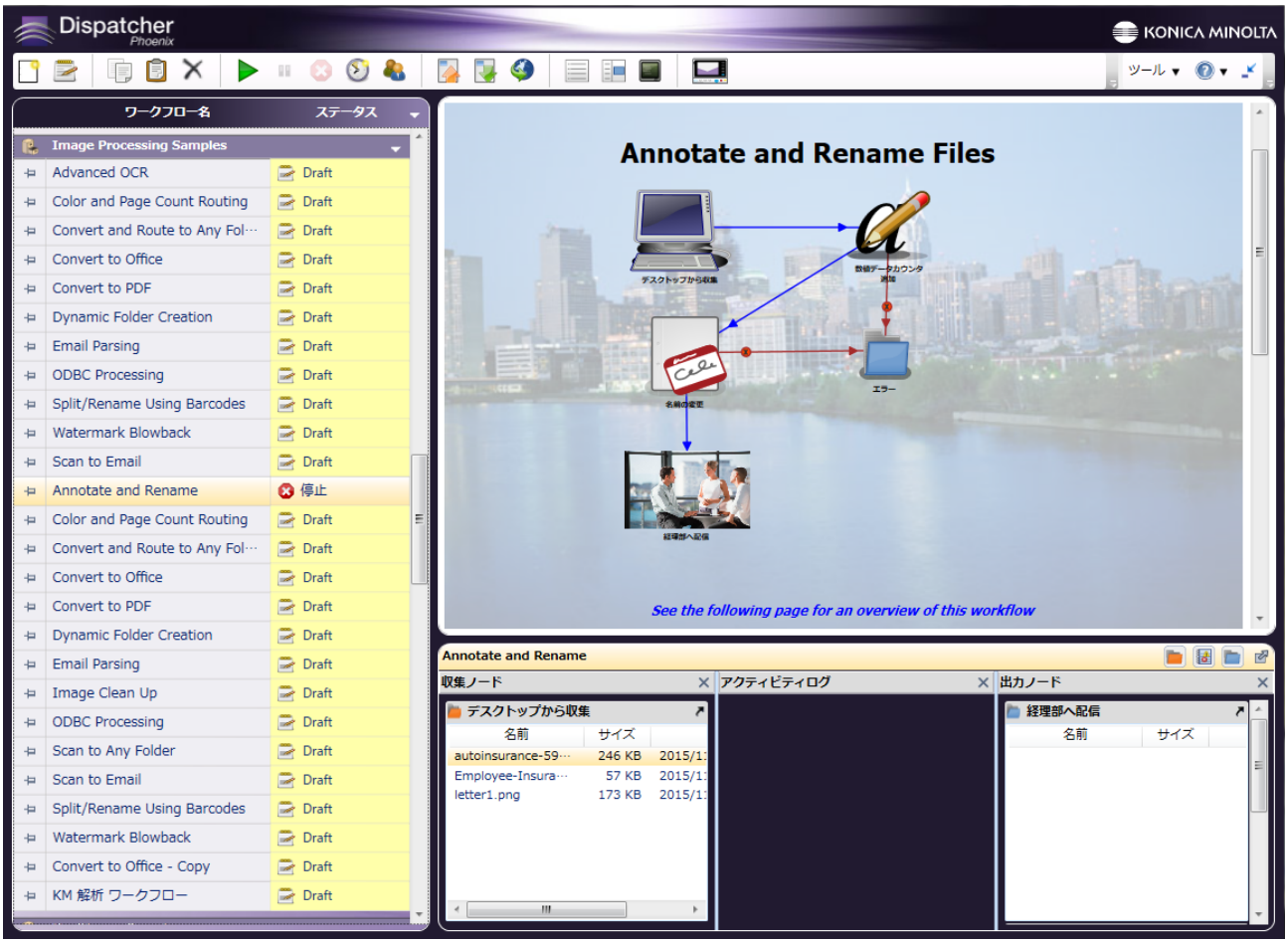
ワークフロー - ピン留め/ピン留めなし

Dispatcher Phoenixの画面には、選択したワークフローのビューとして、2種類のビューと、ワークフローリストおよびアクティビティペイン用のその他のビューがあります。

ピン留めされたワークフロー



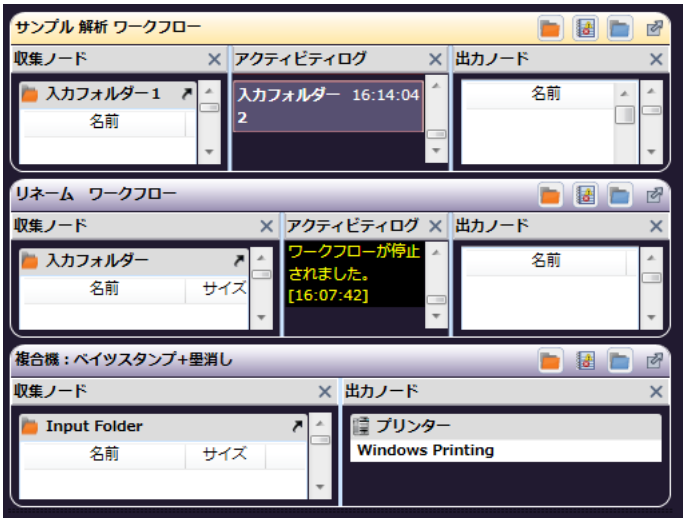
ピン留めなしのワークフロー



どちらのビューにも表示設定用のツールバーがあり、拡大および縮小、幅に合わせる、ページ全体を表示する、または2ページとして表示する(実際に2ページ以上を使用する大きなワークフローの場合)ことができます。

アクティビティペインのビュー

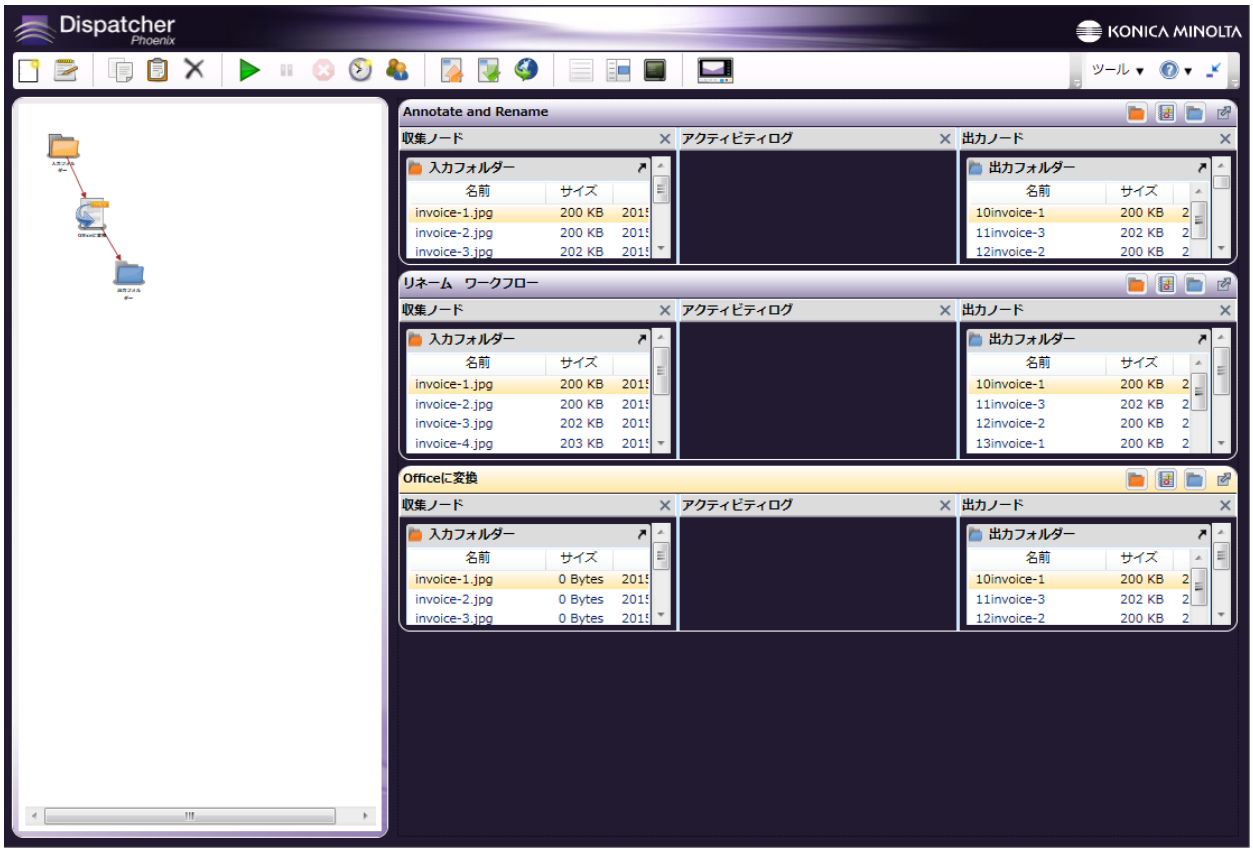
列の長さまたは幅を広げることができます。この操作を実行するには、長さまたは幅を目的のサイズまでドラッグするか、各セクションの上部にあるアイコンを使用して1つまたは2つの列を非表示にします。



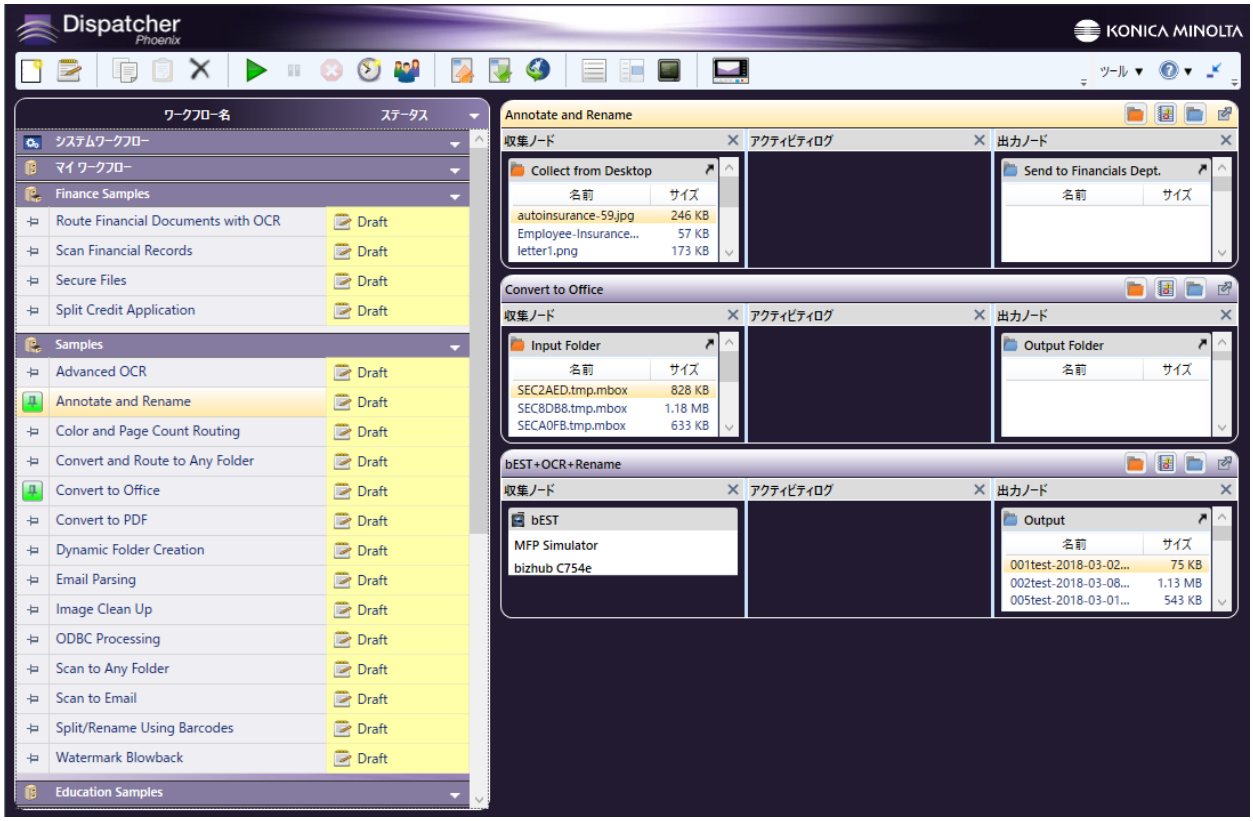
ワークフローリスト、ビュー、またはアクティビティの非表示

ワークフロービューのアイコンのいずれかをクリックして、ワークフローリスト、ビュー、またはアクティビティを非表示にできます。

1. **ワークフローリストの非表示** - 次の図は、ワークフローリストが非表示になっている画面を示しています。

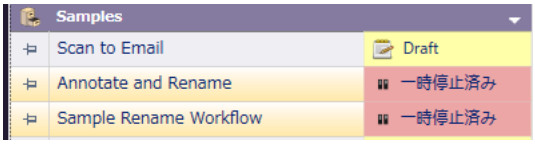


2. **ワークフローのプレビューの非表示** - 2つ目の **[ワークフローリストの表示/非表示]** アイコンをクリックすると、次の図に示すように、ワークフローのプレビューが非表示になります。



実行中のワークフローの操作

- 実行中のワークフローを **[停止]** するには、ワークフローリストでそのワークフローを選択して、**[停止]** アイコンをクリックします。そのワークフローが現在ファイルを処理中の場合は、メッセージが表示され、対処方法を指定するよう求められます。
- 実行中のワークフローを **[一時停止]** するには、そのワークフローを強調表示して、**[一時停止]** アイコンをクリックします。ワークフローは実行を停止し、**[ステータス]** が **[一時停止済み]** に変わります。アクティブなワークフロー **すべてを一時停止** するには、**[ツール]** メニューの **[実行中のワークフローを一時停止]** オプションを使用します。



- ワークフローの実行中にアプリケーションを **[終了]** するには、アプリケーションのメイン画面の右上にある アイコンをクリックします。そのワークフローが現在ファイルを処理中の場合は、メッセージが表示され、対処方法を求められます。メッセージが表示されない場合、その時点で処理中のファイルが無かったことを意味します。この場合、アプリケーションを再度開いたときに、直前に実行されていたワークフローが再開され、ファイルは再収集されません。

サンプルのワークフローの実行

Dispatcher Phoenixを初めて起動すると、アプリケーションの使い方を理解できるよう、サンプルワークフローが表示されます。これらのワークフローを実行するには(最初はこれらのワークフローは「Draft(ドラフト)」の状態です)、ワークフロービルダーで開いて有効にする必要があります。

Dispatcher Phoenixでは、ワークフローリストで有効になっているワークフローだけを実行できます。ワークフローを有効にするには、使用する収集ポイント、処理、および配信ポイントに合わせてワークフローの各ノードを定義する必要があります。初回起動時に表示されるサンプルは有効な処理で構成されていますが、ワークフローを実際に実行するには、特定の収集(入力)ポイントと配信(出力)ポイントを定義する必要があります。**[ステータス]** 列に、ワークフローが実行中か停止されているかが表示されます。無効なワークフローを実行しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

この例では、サンプル「Annotate and Rename」を実行します。

以下の操作を行います。

1. ワークフローリストでサンプル「Annotate and Rename」をクリックして、ワークフロービルダーを起動します。

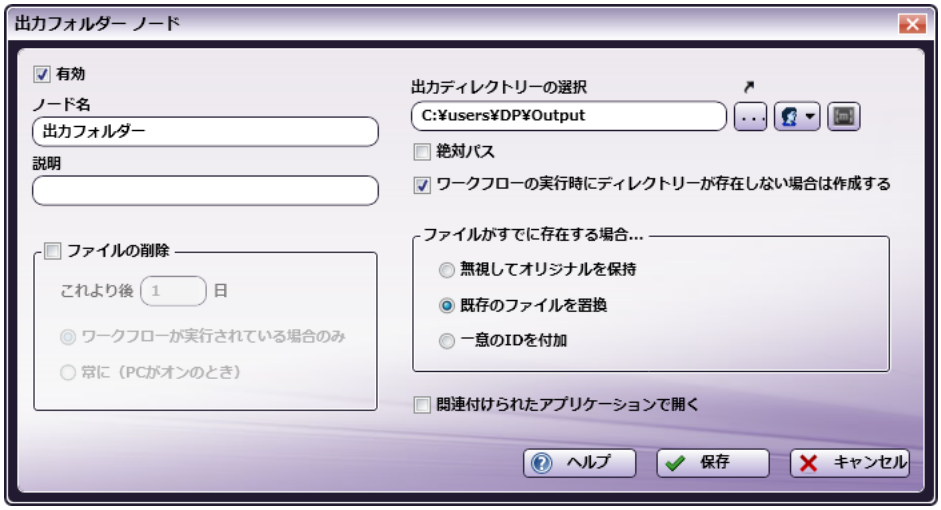
2. ワークフロービルダーのキャンバス領域にある **[入力フォルダー]アイコン** をダブルクリックして、入力フォルダーノードのプロパティウィンドウを開きます。
3. 入力フォルダーノードのプロパティウィンドウで、以下の操作を行います。

   a. Dispatcher Phoenixですべてのファイルを一度に収集する場合は、ファイルを処理する前に、**[ファイルをグループとして処理]** ボックスをオンにします。このボックスをオフのままにすると、各ファイルが個々に処理されます。

   b. フォルダー内のファイルが処理後に削除されないように、**[取得時に削除する]** ボックスがオフになっていることを確認してください。

   c. 入力フォルダーノードのディレクトリはすでに定義してあります。このディレクトリを変更するには、**[参照(...)]** ボタンをクリックして、別のディレクトリを検索します。この場合、新しいディレクトリに独自のイメージファイルを追加してください。

   d. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。
4. ワークフロービルダーのキャンバス領域にある **[出力フォルダー]アイコン** をダブルクリックして、次の図に示すような[出力フォルダーノード]のプロパティウィンドウを開きます。

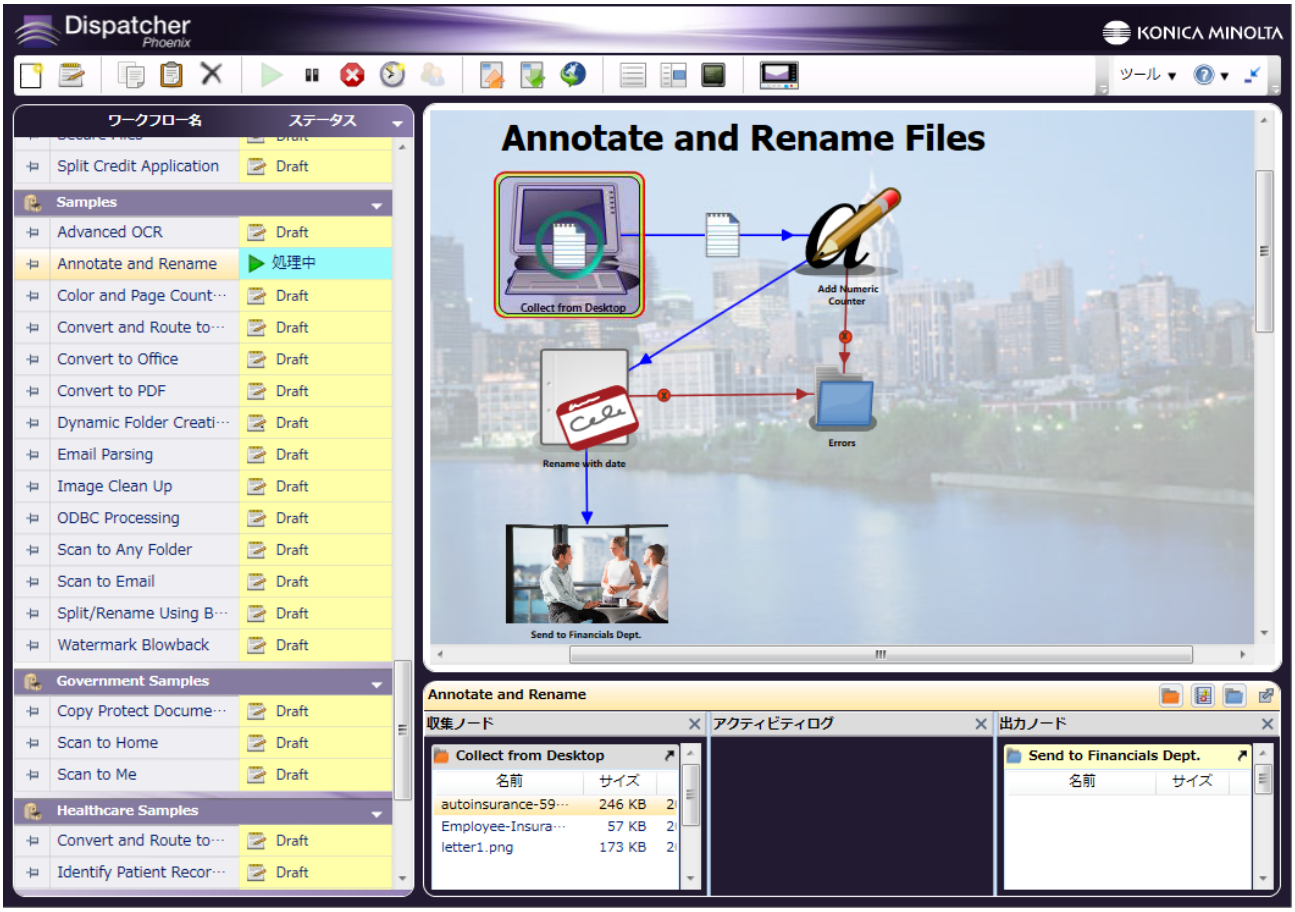


5. [出力フォルダーノード]ウィンドウで、以下の操作を行います。

   a. 出力フォルダーノードのディレクトリはすでに定義してあります。このディレクトリを変更するには、**[参照(...)]** ボタンをクリックして、別のディレクトリを検索します。

   b. このサンプルでは、**[ファイルの削除]** ボックスがオフになっていることを確認してください。

   c. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。
6. ワークフロービルダーのキャンバス領域にある **[注釈]** アイコンをダブルクリックして、定義されている注釈を変更します。
7. ワークフロービルダーのキャンバス領域にある **[名前の変更]** アイコンをダブルクリックして、処理の名前を変更します。
8. ツールバーの **[フロー検証]** ボタンをクリックして、ワークフローを有効にします。
9. **[保存]** アイコンをクリックしてワークフローを保存し、画面の右上角にある をクリックしてワークフロービルダーを終了します。
10. **ワークフロービルダー** が終了すると、アプリケーションのメイン画面に戻ります。メイン画面ではワークフローが強調表示されています。**[実行]** アイコンをクリックすると、次の図のように、ファイルがワークフロー内を移動して実行されるのを確認できます。

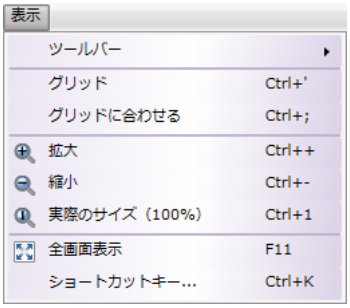


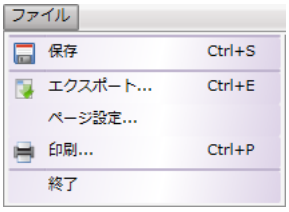
ワークフロービルダーの使用

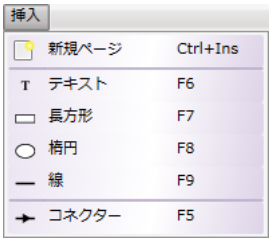
このセクションでは、ワークフロービルダーのさまざまな機能を示します。

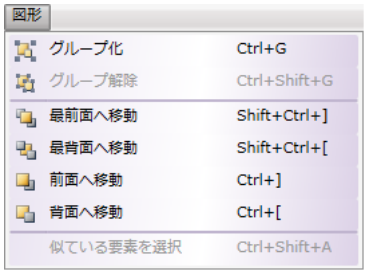
メニュー

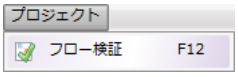
画面の最上部に名前で表示されるメニューには、[ファイル]、[編集]、[表示]、[挿入]、[図形]、[プロジェクト]、および[ヘルプ]があります。









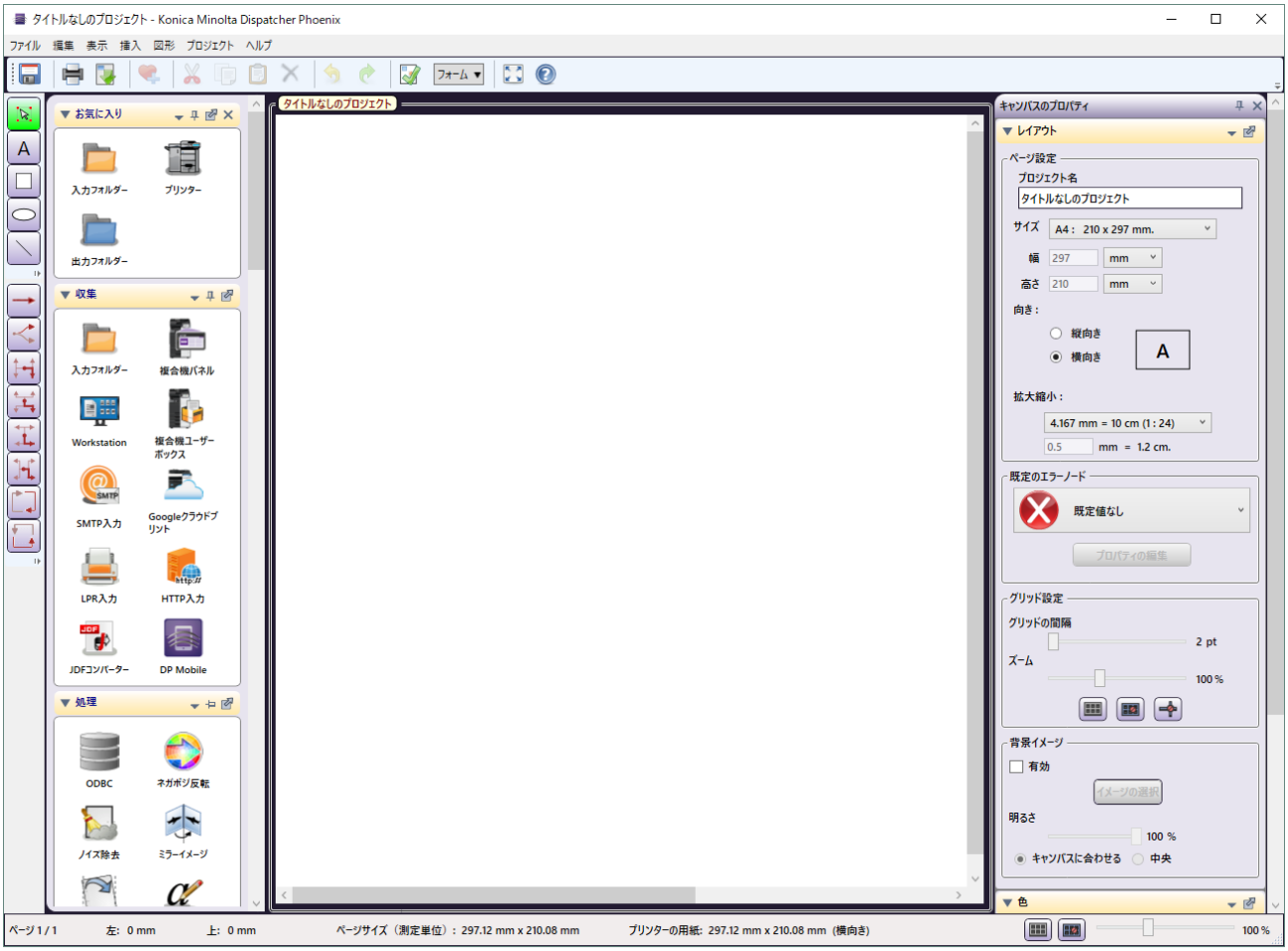


メニューバーアイコン

メニューの文字の下には、より使用頻度の高い機能を実行できるアイコンが用意されています。[新規]、[開く]、[保存]、[名前を付けて保存...]、[印刷]、[エクスポート]、[切り取り]、[コピー]、[ペースト]、[削除]、[元に戻す]、[やり直し]、[全画面表示]、[ヘルプ]などです。[フロー検証]アイコンもあります。

その他の機能

次の図は、ワークフロービルダーのその他の機能を示しています。オブジェクトをドラッグアンドドロップする画面部分を キャンバス またはキャンバス作業領域と呼びます。画面の左側には描画ツール、コネクター、ノードパレットがあり、ウィンドウの最上部にはメニューとメニューアイコンがあります。



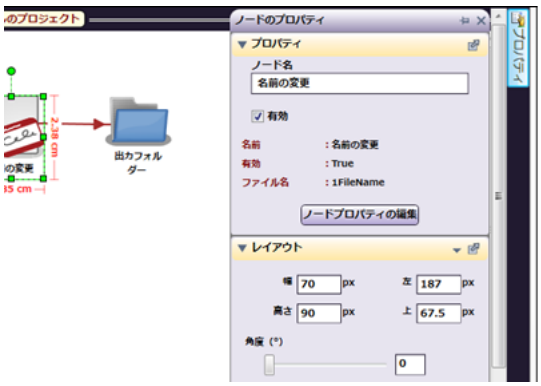
プロパティパネル（表示属性）

プロパティパネルを開くと、選択した *オブジェクトに固有のプロパティ* だけが表示されます。**プロパティ** パネルを使用して、サイズ、色、フォント、順序などの、オブジェクトの表示特性を定義できます。**[有効]** ボックスをオフにして、ノードを無効にすることもできます。

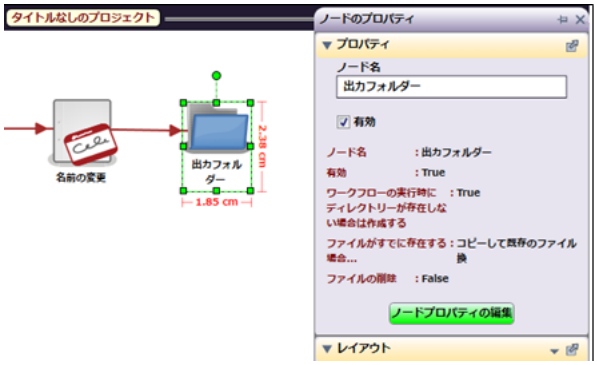
注: ノードをダブルクリックすると、そのノードのウィンドウだけが表示されプロパティパネルは開きません。ノードの定義を変更するが、ノードの表示プロパティは変更しない場合は、ノードをダブルクリックします。

プロパティパネルを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

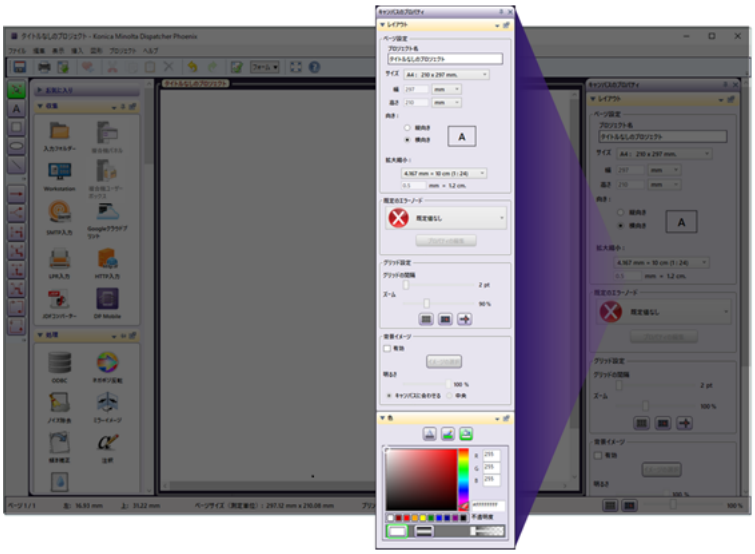
- オブジェクトを強調表示して、[プロパティ]タブをマウスでポイントするかクリックして、パネルを開きます。



- オブジェクトを選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示するか、**[編集]** プルダウンメニューから **[プロパティ]** を選択します（ **[編集] > [プロパティ]** ）。
- オブジェクトを選択して、**[F4]** キーを押します。



作業領域のプロパティ



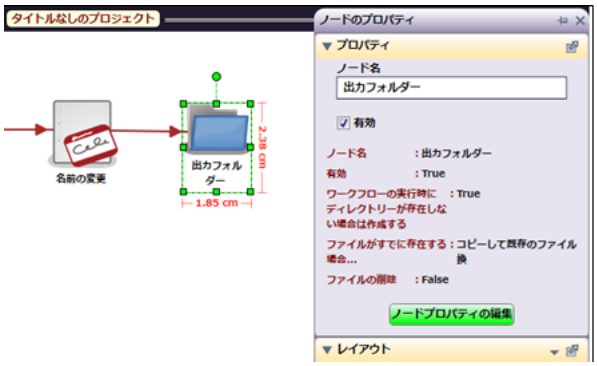
ワークフロービルダーの作業領域のプロパティには、[レイアウト]以下に[ページ設定]、[既定のエラーノード]、[グリッド設定]、[背景イメージ]、および[色]以下に追加属性が含まれています。

- **[ページ設定]** 下の用紙サイズのドロップダウンメニューには、一般的に使用されるサイズの大部分が含まれていますが、[幅]および[高さ]のオプションを使用して、任意のサイズを作成することもできます。ページの *[向き]* について、該当するボタンにマークを付けます。
- **[既定のエラーノード]** を指定するには、[既定のエラーノード]領域にあるドロップダウンリストから該当するノードを選択した後、**[プロパティの編集]** ボタンを選択します。
- **[グリッド設定]** では、[グリッドの間隔]スライダーを使用してグリッド線の間隔を決定したり、[ズーム]スライダーを使用して表示を決定したりできます。

  注: このセクションにある3つのボタンで[グリッド線の表示]、[グリッド線に合わせる]、[十字線]のオン/オフを切り替えることができます。
- プロパティパネルのセクション内で右クリックすると、**[レイアウト]または[色]の既定** を設定できます。小メニューのアイコン（小さい三角形）を使用して既定を設定することもできます。

  任意のプロパティを既定として設定すると、既定が設定されているワークフローオブジェクトを次に作成または編集したときにそれらのプロパティが使用されます。

  次の図は、**[プロパティ]** パネルを開いたままにする方法、「ピン留め」する方法、または自動非表示にする方法を示しています。ボックス内から外に飛び出している矢印のアイコンを使用すると、画面上の好きな場所にパネルのセクションを「フロート表示」できます。



既定のエラーノード

ワークフローのノードごとにエラー出力ノードを描画するかわりに、すべてのエラー遷移に対応する既定のエラーノードを定義できます。この場合、失敗したすべてのドキュメントはこの既定のエラーノードに強制的に入れられます。これはワークフローからは見えなくなります。次のような任意の配信ノードを既定のエラーノードとして機能するように指定することができます。

- 出力フォルダー
- 複合機デバイス
- SMTPサーバー
- FTPサーバー

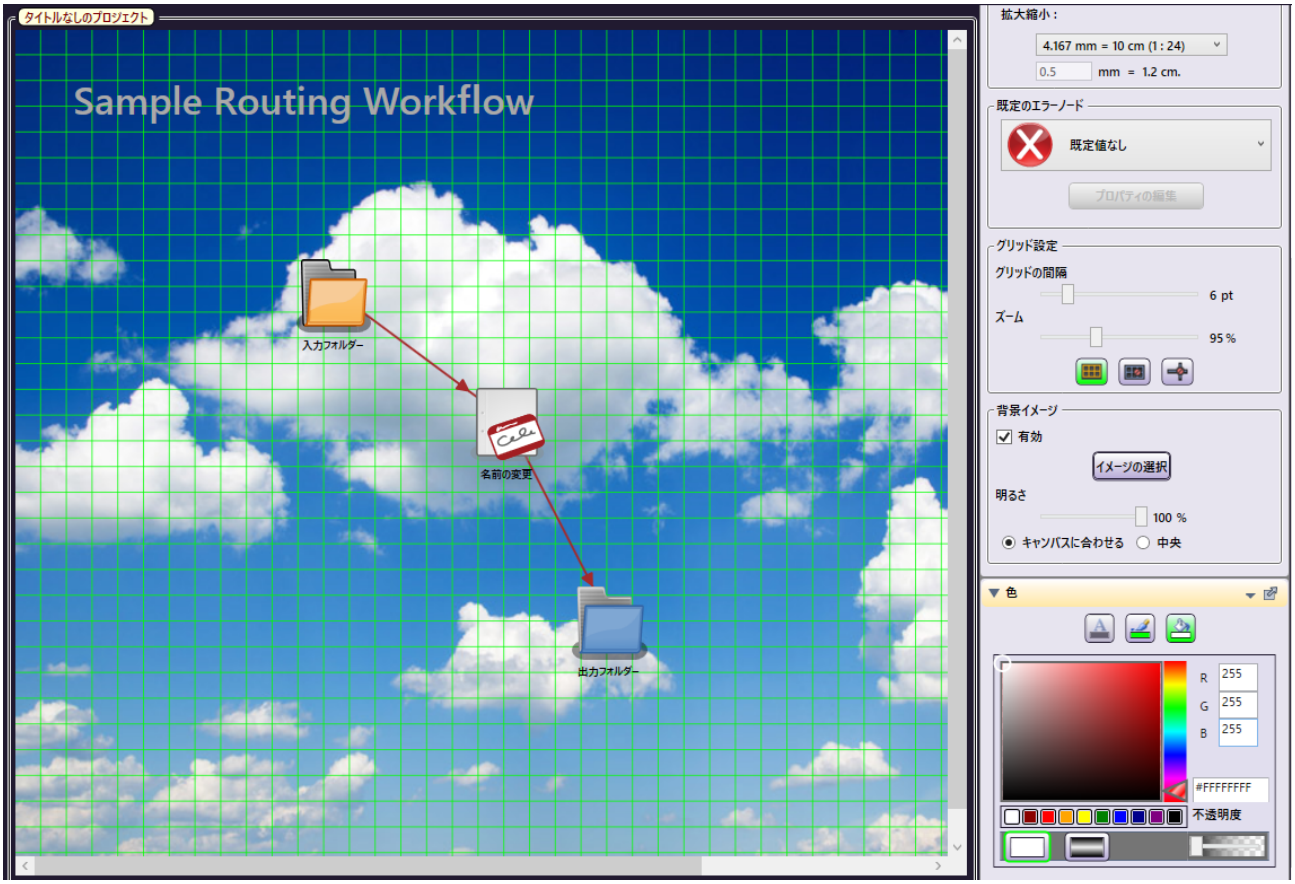
既定のエラーノードを指定しない場合、**[既定のエラーノード]** プルダウンリストで **[既定値なし]** オプションが選択されていることを確認します（これが既定です）。

背景イメージ

背景として使用する画像をアップロードすることもできます。次の図では写真が使用されていますが、地図やその他のイメージ等を使用することもできます。背景イメージを指定するには、以下の操作を行います。

- オブジェクトを何も選択していない状態で、キャンバスの作業領域をダブルクリックするか、[プロパティ]パネルを開きます。
- [背景イメージ]領域で、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けた後、[イメージの選択]ボタンを選択して、好きなイメージを指定します（ファイル形式：PNG、JPG、GIF、またはBMP）。
- **[OK]** ボタンを選択して、その画像をアップロードします。
- **[明るさ]** スライダーバーを使用して、イメージの明るさを変更します。
- 該当するラジオボタン（[キャンバスに合わせる]および[中央]）を使用して、キャンバスに合わせて画像を伸縮するか、キャンバスの中央に画像を配置するかを定義します。

注: イメージが大きい場合、[中央]を選択しても、キャンバスに合わせてイメージが縮小します。アイコンサイズのイメージ（45x45ピクセル）など、アップロードされたイメージが小さい場合、[キャンバスに合わせる]を選択すると、キャンバスに合わせてイメージが拡大するため、イメージが歪むことがあります。

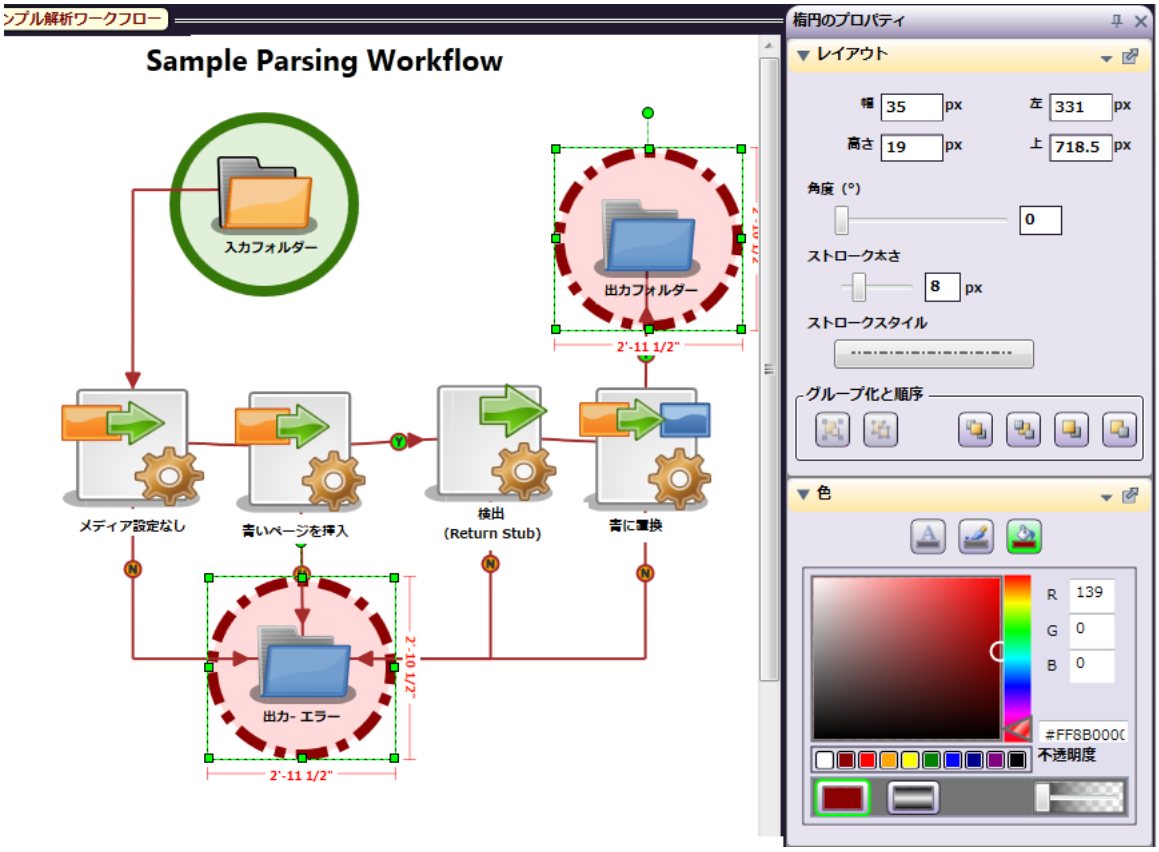


レイアウト

[プロパティ]パネルの[レイアウト]セクションでは、次の操作ができます。

- **[幅]** フィールドおよび **[高さ]** フィールドを使用すると、オブジェクトの幅および高さを調整できます。
- **[左]** フィールドおよび **[上]** フィールドを使用すると、図面の左または最上部からのオブジェクトの距離を指定できます。
- **[角度]** スライダーを使用すると、キャンバスのオブジェクトの配置角度を指定できます。
- **[ストローク太さ]** スライダーを使用するか、スライダーの隣にあるフィールドで値をピクセルで指定すると、オブジェクトのストロークの太さを変更できます。同じ種類の複数のオブジェクトを同時に変更できます。
- **[ストロークスタイル]** ボックスを使用すると、オブジェクトの境界線のスタイルを指定できます（実線、破線、または一点鎖線）。
- **[グループ化と順序]** 下のアイコンを使用すると、オブジェクトのグループ化および順序を指定できます。

  下の図は、2つの円を選択した後、それらのストロークのスタイルおよび太さを変更した状態を示しています。複数のノードを選択すると、それらのアイコンを同時に変更することもできます。



既定の構成

ページのレイアウト、エラーノード、グリッド、および背景イメージに対して行った変更は既定の構成として設定できます。これにより、アプリケーションを開くたびにこの設定が事前に行われるようになります。

既定の設定

設定を既定にするには、**[プロパティ]** パネルの好きな場所を右クリックした後、コンテキストメニューから **[既定値として設定]** を選択します。その後、**[ページ設定]**、**[エラーノード]**、**[グリッド設定]**、または **[背景イメージの設定]** のいずれかを選択します。選択後、そのセクションで行った設定がすべて既定の構成として保存され、新しいワークフローを作成するたびにそれらの設定が表示されるようになります。

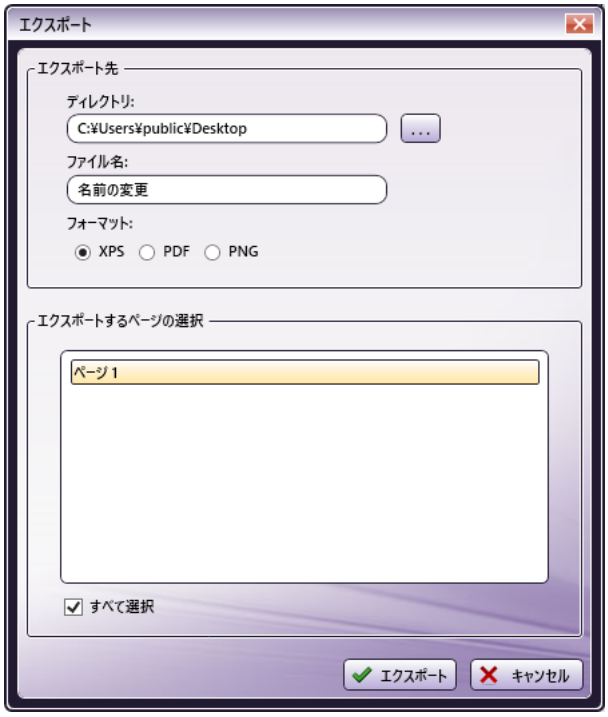
既定の復元

レイアウト、グリッド、または背景の設定を変更したが、既定の構成に戻したい場合、これらの設定を復元できます。設定を既定に復元するには、**[プロパティ]** パネルの好きな場所を右クリックした後、コンテキストメニューから **[既定値に戻す]** を選択します。その後、**[ページ設定]**、**[エラーノード]**、**[グリッド設定]**、または **[背景イメージの設定]** のいずれかを選択します。選択後、そのセクションで行った設定がすべて既定の構成に戻ります。

ファイル メニュー

ワークフロービルダーの **[ファイル]** メニュー内には、[保存]、[エクスポート]、[ページ設定]、[印刷]、および[終了]があります。

- **[保存]** を選択すると、固有の場所にワークフローを保存できます。
- **[エクスポート...]** を選択すると、XPS、PDF、またはPNGのファイル形式でワークフローファイルを好きな場所にエクスポートできます。次の図のように、[エクスポート]ウィンドウが開きます。



[エクスポート]ウィンドウでは、以下の操作を行います。

1. [ファイル名]フィールドにエクスポートファイルの**ファイル名**を入力します。
2. 該当するラジオボタン([XPS]、[PDF]、[PNG])を使用して、好きな**形式**を選択します。
3. **[エクスポート]** ボタンを選択して、エクスポートファイルを保存します。

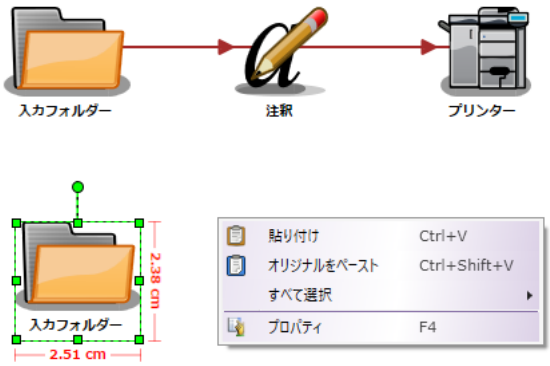
- **[ページ設定...]** を選択すると、ワークフローページの既定の編集または設定を行うことができます(次の図を参照)。
  1. **[用紙サイズ]** を選択した後、測定単位([インチ]、[ピクセル]、[cm]、[mm]、または[points])を選択します。
  2. **[拡大縮小]** を設定します。
  3. **[既定値として設定]** ボックスにチェックマークを付けて、[ページ設定]のオプションを保存します。

- **[印刷...]** を選択すると、ワークフローを印刷できます。
- **[終了]** を選択すると、アプリケーションを終了できます。

編集 メニュー

[編集]メニューには、*元に戻す*、*やり直し*、*切り取り*、*コピー*、*貼り付け*、*削除*、*すべて選択*、* など、Windows アプリケーションに典型的な多くの編集機能が含まれており、選択したオブジェクトに対して期待どおりの操作を実行できます。これらの機能は、オブジェクトを右クリックしてコンテキストメニューから使用することもできます。[編集]メニューのその他のオプションは次のとおりです。

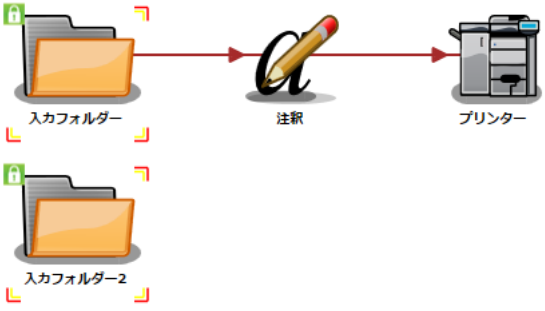
- **[元に戻す]** を選択すると、最後に実行したアクションを取り消すことができます。たとえば、誤ってノードを削除してしまい、そのノードを元に戻す必要がある場合に[元に戻す]を使用できます。
- **[やり直し]**（[元に戻す]機能を使用しないと有効にならない）を選択すると、前に「取り消した」アクションを再び実行できます。
- **[元に戻す]** および **[やり直し]** は、以下のアクションで使用できます。
    - ワークフローの要素（ノード、コネクター、図形オブジェクト）の追加または削除
    - ワークフローのオブジェクトの移動またはサイズ変更
    - ワークフローの要素の切り取り、コピー、および貼り付け
    - プロパティ（色、フォントサイズ、ストローク）の変更
- **[切り取り]** を選択すると、選択された要素を切り取ることができます。
- **[コピー]** を選択すると、その要素をクリップボードにコピーできます。
- **[貼り付け]**（入力フォルダーまたは出力フォルダーなどのノードをコピーした場合にだけ使用できる）を選択すると、コピー元のノードと同じプロパティを持つ、独立したコピーノードを作成できます。複製コピーを変更しても、コピー元のノードには影響しません。
- **[オリジナルをペースト]**（入力フォルダーまたは出力フォルダーなどのノードをコピーした場合にだけ使用できる）を選択すると、同じノードの貼り付けバージョンを作成できます。貼り付けたノードを変更した場合、元のノードにもそれらの変更が反映されます。次の図は、入力フォルダーノードがクリップボードにコピーされ、以下のコンテキストメニューのオプションが使用できることを示しています。



その他の要素（長方形、テキストボックス、円など）をコピーしている場合、またはノードとオブジェクトの組み合わせをコピーしている場合、[貼り付け]オプションだけが使用できます。

- **[ロック/ロック解除]** を選択すると、キャンバスでオブジェクトをロックできます。オブジェクトがロックされると、ノードを強調表示したときにオブジェクトの左上の隅に小さいロックアイコンが表示されます。これは、ノードおよび図形オブジェクトの位置を固定するだけの機能であるため、ノードの属性には影響しません。

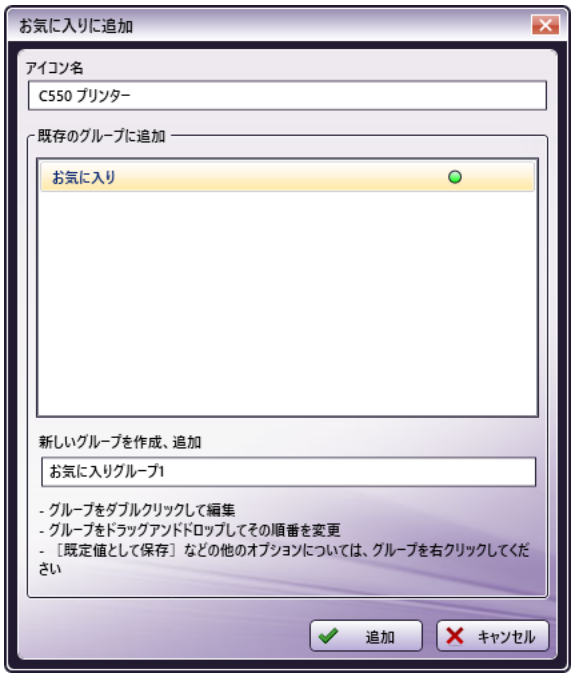
警告：ノードがロックされていても、そのノードは削除できます。「ロック」は、作業領域での位置を固定するだけの機能です。



- **[お気に入りに追加]** を選択すると、ワークフローで使用できる独自のカスタムノードパレットを作成できます。定義されたノードを「お気に入り」グループに追加するには、ノードを選択した後、以下のいずれかの操作を行います。
    - [編集]メニューから **[お気に入りに追加...]** を選択します。*または*、
    - ノードを右クリックした後、表示されるコンテキストメニューから **[お気に入りに追加]** を選択します。*または*、
    - （ノードパレット内の）既存ノードの上に表示される **[ハートアイコン]** をクリックします。

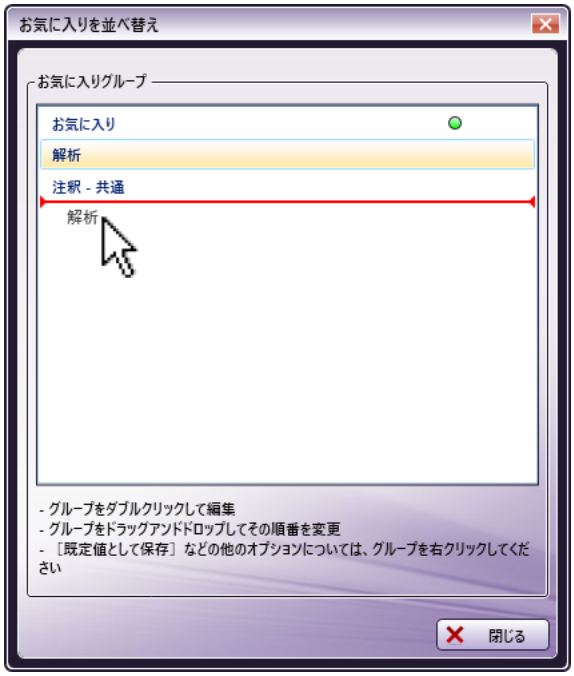
    注：グループ化されたノードをお気に入りとして保存することもできます。

お気に入りを初めて追加するときは、次の図のように、既定の[マイお気に入り]グループに追加するか、お気に入りを追加するための新しいグループを指定する必要があります。

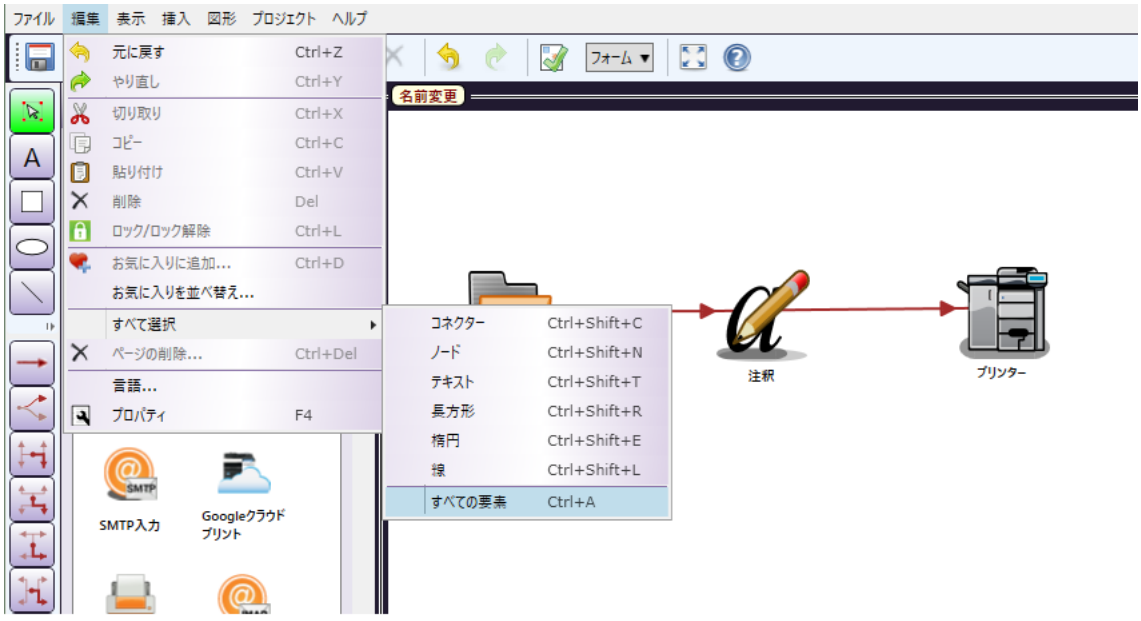


お気に入りグループからノードを削除するには、グループ内のノードの左上の隅に表示される **[x]** アイコンをクリックします。

- さらに多くのお気に入りグループを作成している場合、ノードパレットを編成するには、**[お気に入りを並べ替え...]** を選択します。[お気に入りを並べ替え]ウィンドウでは、以下の操作ができます。
  - パレットをドラッグすると、好きな順序に並び替えることができます。



  - **既定のお気に入りグループを指定**できます。グループ名を右クリックした後、コンテキストメニューから **[既定値として設定]** を選択します。
  - **既定のお気に入りグループの名前を変更**できます。グループ名を右クリックした後、コンテキストメニューから **[名前の変更]** を選択します。
  - **既定のお気に入りグループを削除**できます。グループ名を右クリックした後、コンテキストメニューから **[削除]** を選択します。
- すべての類似図形、または、すべての図形を同時に選択するには、**[すべて選択]** を選択するか、**[Ctrl]** キーを押しながら[A]を押します。

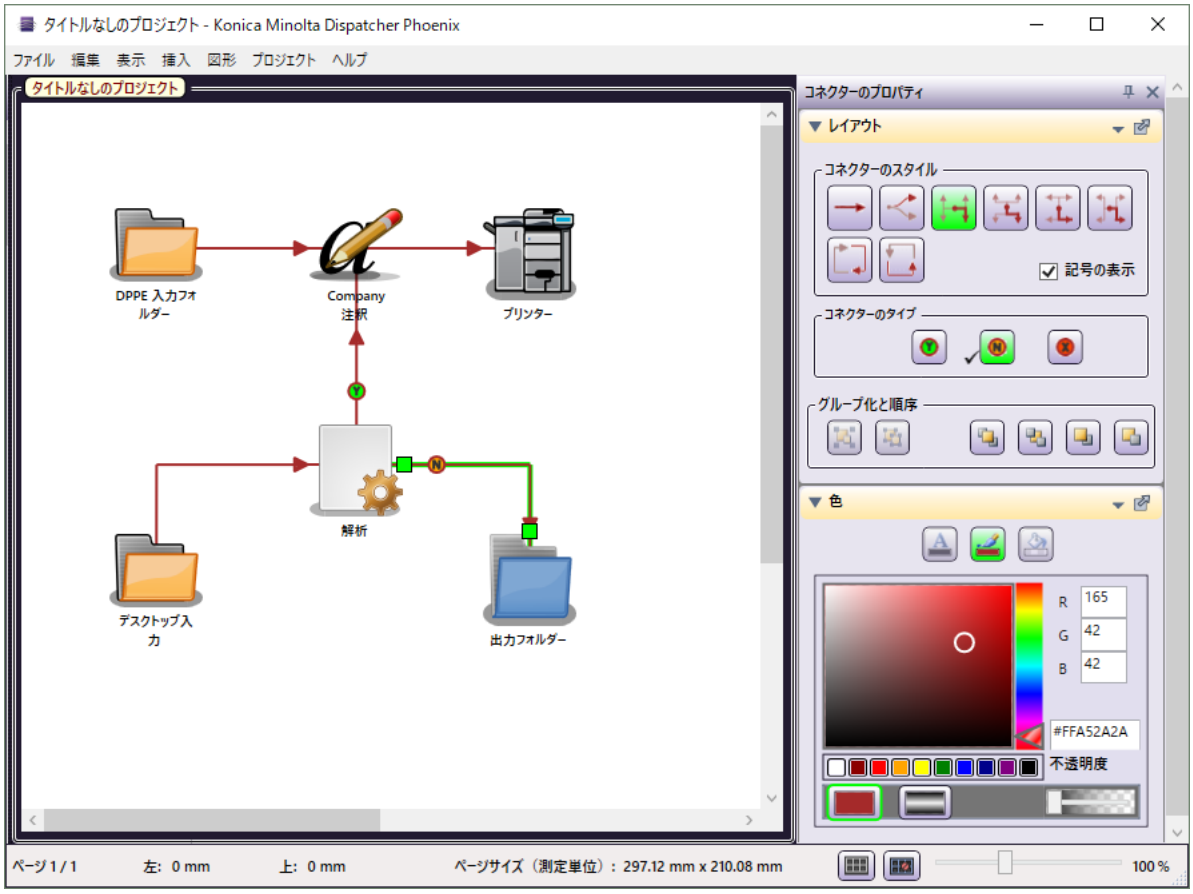


[選択/サイズ変更]ツールを使用すると、ドラッグ操作で複数のオブジェクトを囲んで選択できます。この操作を行うには、[選択/サイズ変更]ツールを選択した後、複数のオブジェクトの上部でキャンバスをクリックします。その後、マウスのボタンを押しながら、マウスポインターをドラッグして複数のオブジェクトを囲みます。選択後、これらのオブジェクトをまとめて切り取ったり、コピーしたり、貼り付けたり、削除したり、移動したりできます。次の図を参照してください。

表示 メニュー

- ツールバー（キャンバス領域の上部に表示されるアイコン）、描画ツール、ノードパネル、プロパティパネル、およびステータスバーの表示/非表示を切り替えるには、**[ツールバー]** を選択します。

  ツールバーを非表示にすると、描画領域を拡大できます（[挿入]メニューを使用すると、描画ツールボックスを使用することなく図形オブジェクトを作成できます）。次の図では、ツールバーが非表示になっています。

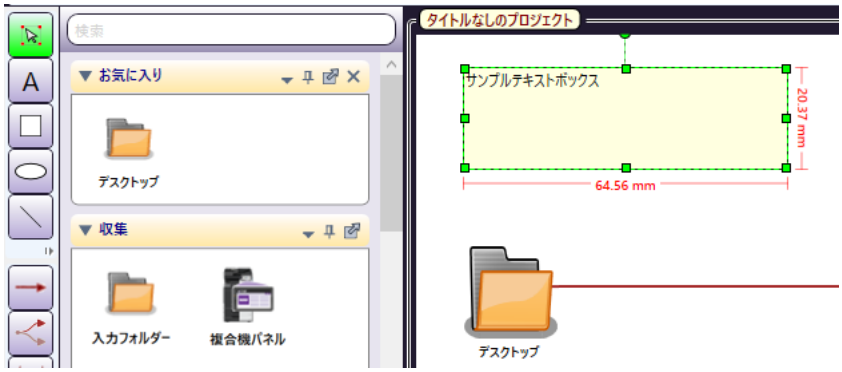


- グリッドの表示/非表示を切り替えるには、**[グリッド]** を選択します。この機能は、画面の最下部に表示される[グリッド線の表示]アイコンを使用して実行することもできます。( )
- 最も近いグリッド線にオブジェクトを引き寄せるかどうかを指定するには、**[グリッド線に合わせる]** を選択します。この機能は、画面の最下部に表示される[グリッド線に合わせる]アイコンを使用して実行することもできます。( )
- キャンバスの表示を拡大する（キャンバスに近づく）には、**[拡大]** を選択します。
- キャンバスの表示を縮小する（キャンバスから離れる）には、**[縮小]** を選択します。
- **[全画面]** を選択すると、ワークフロービルダー画面がモニター全体に表示されます。[F11] または [Esc] キーを押して、前の表示に戻ります。
- 次の図のように、使用できるキーボードのショートカットをリスト表示するウィンドウを開くには、**[ショートカットキー...]** を選択します。

挿入 メニュー

[挿入] メニューでは、新しいページまたは図形オブジェクトを追加できます。このメニューはいつでも使用できますが、*ツールバー* を非表示にした状態でアプリケーションで作業をしているときに特に役立ちます。

- **[新規ページ]** を選択すると、ワークフロービルダーのワークフロープロジェクトに新しいページを追加できます。
- **[テキスト]** を選択すると、次の図のように、キャンバスのワークフロー領域にメモ、タイトル、または任意のテキストを追加できます。



1. **[長方形]** を選択すると、（ノードを視覚的にグループ化する目的で）ノードの周囲に長方形または正方形を描くことができます。長方形およびノードは、オブジェクトの上に表示される小さい円を使用して回転させることもできます。
2. **[楕円]** を選択すると、ノードの周囲に楕円または円を描くことができます。
3. **[線]** を選択すると、キャンバスの線を描くことができます。
4. **[コネクター]** を選択すると、2つのノードを接続できます。図形オブジェクトと同様に、コネクターにはさまざまな色を設定できます。ただし、図形オブジェクトとは異なり、コネクターにはより詳細な設定を割り当てることができます。**[レイアウト]** セクションを使用すると、記号（矢印）の表示/非表示を切り替えることができます。これにより、エラーや、**「はい」** / **「いいえ」** の決定も示すことができます。

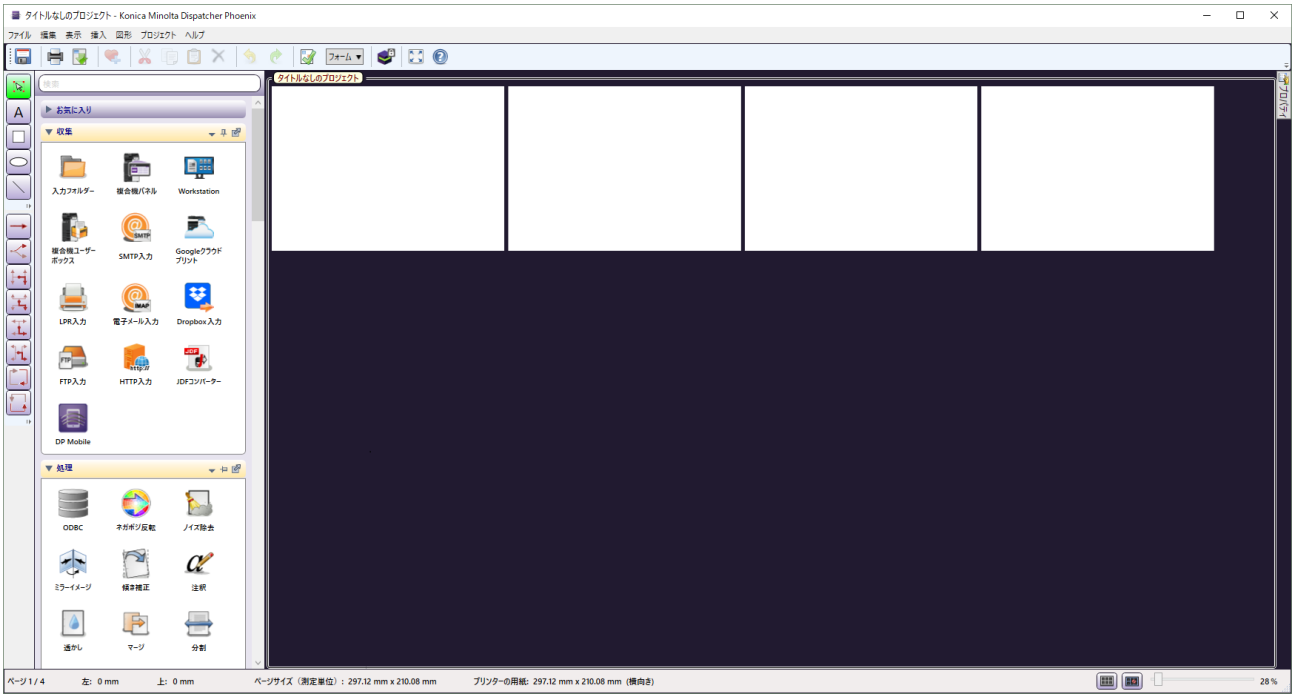
注:

- 線およびコネクターを除いて、すべての図形オブジェクトおよびアイコンで[グリッド線に合わせる]機能を使用できます。これにより、ワークフローのオブジェクトの位置を揃えることができます。
- 長方形、楕円、線、およびテキストボックスは、すべて[プロパティ]下で線のスタイル、線の太さ、不透明度、および色を設定できます。

複数のページの挿入

想定していたよりもワークフローが大きかった場合、**[挿入]** メニューを使用すると、ページを追加できます。1ページまたは複数のページを既存のワークフローに追加するには、**[挿入]** プルダウンメニューから **[新規ページ]** を選択します。

注: 追加されたページを表示するために、「ズーム」のパーセンテージを変更しなければならないことがあります。次の図では、ページが28%まで「ズームアウト」されています。



複数のページ上にある要素の接続

ワークフローの複数の要素をコピーして別のページに貼り付けることができます。ノードをコピーすると、**特別な貼り付けオプション** が使用できるようになります（ **[オリジナルをペースト]** および **[貼り付け]** ）。任意のページでノードをコピーした後、**[オリジナルをペースト]** を使用して、そのノードを他のページに貼り付ける操作は、同じページにある2つのノード間でコネクターを使用する操作に相当します。

図形 メニュー

[図形] メニューでは、キャンバスに描かれた図形を調整できます。

- **[グループ化]** を選択すると、1つ以上の図形をグループ化できます。
- **[グループ解除]** を選択すると、グループ化された図形のグループ化を解除できます。
- **[最前面へ移動]** を選択すると、最前面にオブジェクトを配置できます。
- **[最背面へ移動]** を選択すると、最背面にオブジェクトを配置できます。
- **[前面へ移動]** を選択すると、1つ前面にオブジェクトを配置できます。
- **[背面へ移動]** を選択すると、1つ背面にオブジェクトを配置できます。
- 類似図形（例：すべての長方形、すべての円）を選択するには、キャンバスの作業領域にある図形のいずれかを選択した後、**[似ている要素を選択]** を選択します。これにより、すべての図形に対して同じ変更を同時に実行できます。

これらのメニューオプションは、[レイアウト]セクションの[プロパティ]パネルでも使用できます。

プロジェクト メニュー

[フロー検証] を選択すると、ワークフローが論理的であること、およびワークフローがアプリケーションのすべてのルールに従っていることを確認できます。

ヘルプ メニュー

- **[ヘルプのトピックス]** を選択すると、オンラインヘルプにアクセスできます。
- アプリケーションに関する意見を送信する場合やエラーが発生した場合、**[お客様のフィードバック]** を選択します。[カスタマーフィードバックエージェント]ウィンドウが

- 表示されます。
- **[更新の確認]** を選択すると、入手できるアップデートがあるかどうかを確認できます。
- **[製品情報 Dispatcher Phoenix]** を選択すると、ご使用のアプリケーションに関する情報を確認できます。

描画ツール

これ以降のセクションでは、ワークフローを描くための**ツール**および**コネクター**について説明します。

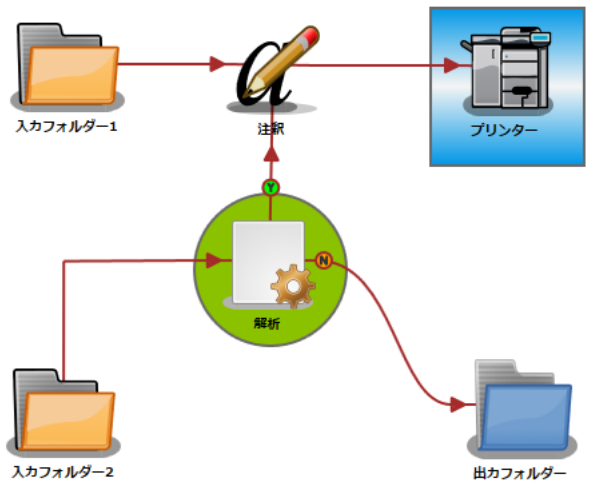
[ツール]

- **[選択/サイズ変更]** キャンバスのオブジェクトを選択したり、ハンドルをドラッグしてオブジェクトを好きなサイズに変更したりします。
- **[テキスト]** キャンバス画面にテキストを挿入します（これを使用するとフローに詳細情報を追加できます）。
- **[長方形]** キャンバスの作業領域に長方形（または正方形）の図形を描きます。
- **[楕円]** 図面に円または楕円を追加できます。
- **[線]** 図面にさまざまなスタイルやサイズの線を追加します。

[コネクター]

- **[シングルコネクター]** 直線でオブジェクトを接続します。
- **[ベジェ曲線コネクター]** 曲線で接続します。
- **[右左 - 上下コネクター]** コネクターが右方向または左方向に進んだ後、上方向または下方向に直角に折れ曲がります。
- **[上下 - 右左コネクター]** コネクターが上方向または下方向に進んだ後、右方向または左方向に直角に折れ曲がります。
- **[下上 - 直角 - 左右コネクター]** 上方向/下方向に進み、左方向/右方向に直角に折れ曲がった後、さらに直角に折れ曲がります。
- **[左右 - 直角 - 下上コネクター]** 左方向/右方向に進み、上方向/下方向に直角に折れ曲がった後、さらに直角に折れ曲がります。
- **[直角 横接続コネクター]** 直角線がオブジェクトの横に接続します
- **[直角 上部または下部接続コネクター]** 直角線がオブジェクトの最上部または最下部に接続します

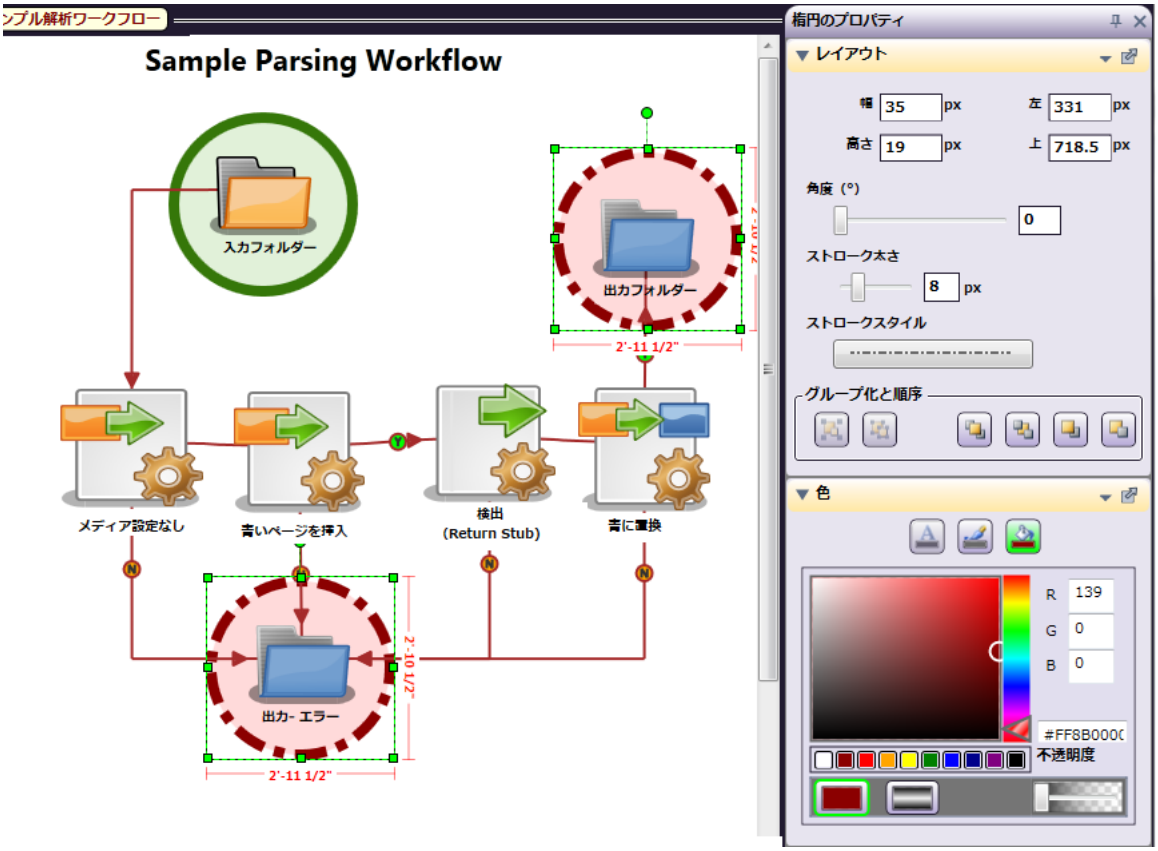
次の図はさまざまな描画ツールを使用した例です。



選択およびサイズ変更

[選択/サイズ変更] ツールは、キャンバスの作業領域でオブジェクトの選択、サイズ変更、または移動を行うのに使用される矢印です（四隅にハンドルが付いています）。[選択/サイズ変更]ツールをクリックした後、ノードをクリックして強調表示すると、そのノードを移動したり、ハンドルをドラッグしてそのノードを拡大/縮小したりできます。

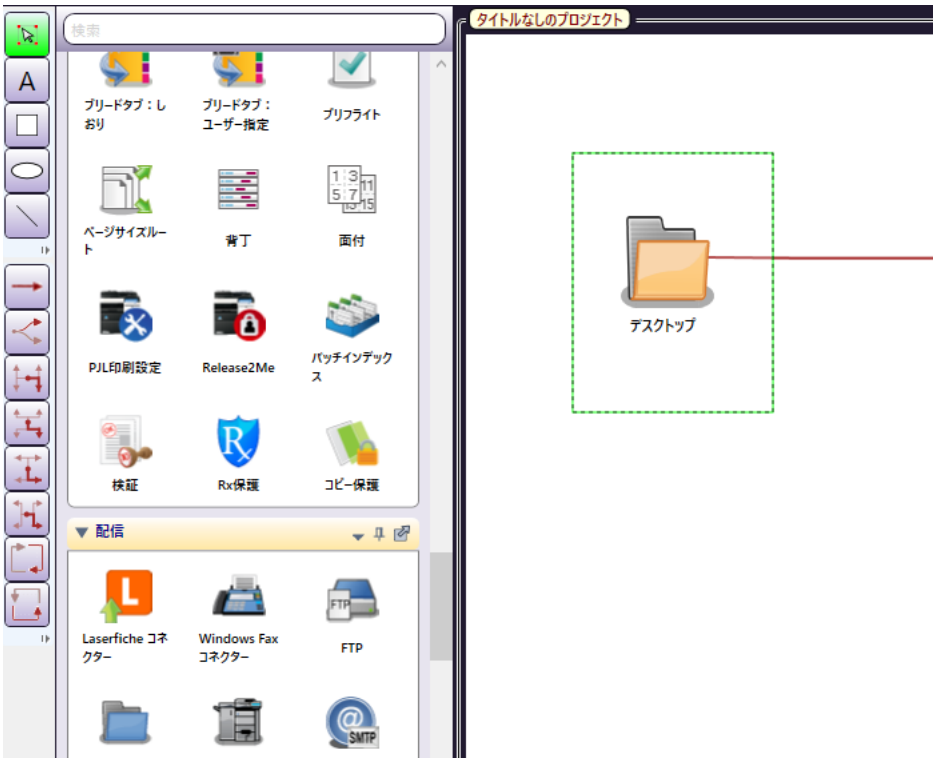
注: [サイズ変更]オプションをグループで使用すると、グループ内のすべてのオブジェクトが同時にサイズ変更されます。フォントサイズは、[プロパティ]パネルの[テキスト]セクションで変更します。



複数選択

キャンバスで複数のオブジェクトを選択する方法はいくつかあります。

- 最初のオブジェクトをクリックした後、**[Ctrl]** キーを押しながら、その他のオブジェクトをクリックして選択します。*または、*
- **[選択/サイズ変更]** ツールを使用して、クリックした後に複数のオブジェクトをドラッグで一度に囲むと、次の図のように、コネクターを含むすべてのオブジェクトを選択できます。

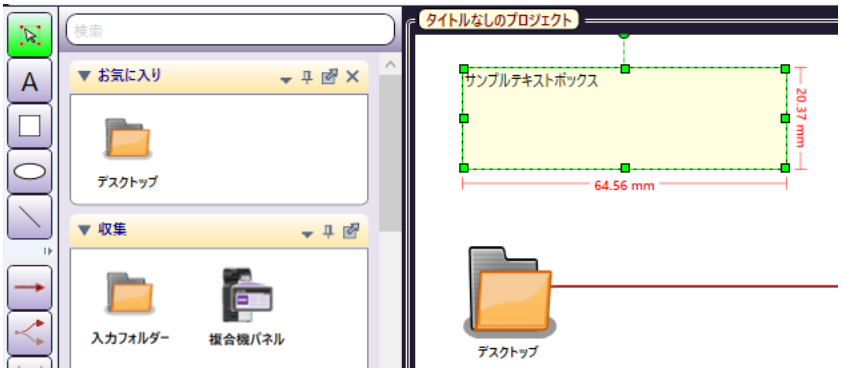


ヒント：[編集]>[すべて選択]の順にクリックするか、[図形]メニューを使用すると、類似オブジェクトを選択できます。**[Ctrl]** キーを押しながら[A]を押すことで、キャンバスのすべてのオブジェクトを選択できます。

テキストボックス描画ツール

ワークフローには、フローのさまざまな詳細の説明に役立つテキストボックスを追加できます。以下の操作を行います。

1. **[テキスト]** ツールをクリックしてから、キャンバスをクリックした後、マウスをドラッグすると、テキストボックスを描くことができます。テキストボックスのサイズについては、後で調整できるため、あまり悩む必要はありません。
2. テキストボックスをダブルクリックした後、ボックス内に含める単語を入力します。テキストは、描かれたボックスの幅に合わせて折り返されます。



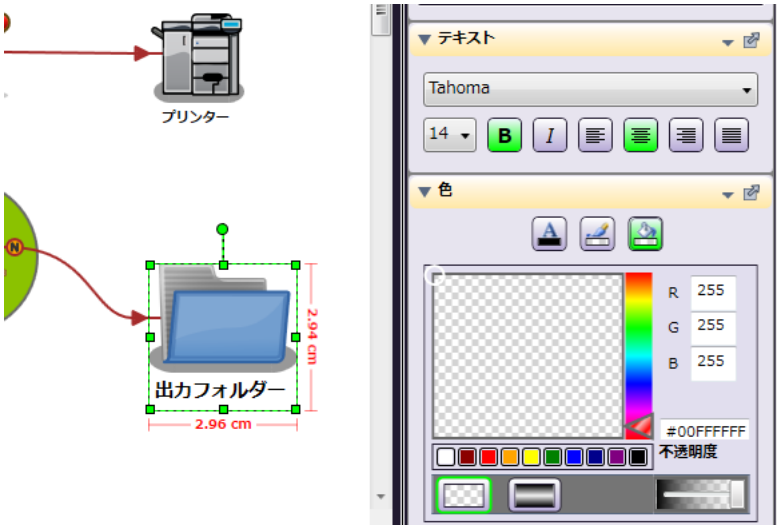
[プロパティ]パネルでは、以下の操作ができます。

- [プロパティ]パネルの **[テキスト]** セクションを使用すると、好きなサイズおよびスタイルにテキストを調整できます。サイズを変更したり、テキストを **太字** または *斜体* にしたり、位置揃えを設定したりできます。
- **[レイアウト]** セクションを使用すると、線の太さおよびスタイルを変更できます。
- さまざまなボタンを使用すると、テキストの**位置揃え**を変更できます。
- **[グループ化と順序]** セクションを使用すると、テキストボックスを前面または背面に配置できます。
- **[カラー]** セクションを使用すると、テキストの前景、背景、および境界を変更できます。

次の図では、テキストボックスが**太字**、16pt、および右揃えに変更されています。

ワークフローのテキストボックスまたは任意のオブジェクトを削除するには、テキストボックスを強調表示した後、メニューバーの **[削除]** アイコン ( ) をクリックするか、Deleteキーを使用するか、右クリックしてコンテキストメニューの **[削除]** オプションを使用します。

テキストボックスの既定のフォントは、PCのWindowsの既定ですが、次の図のように、フォントのドロップダウンリストを使用してこのフォントを変更できます。



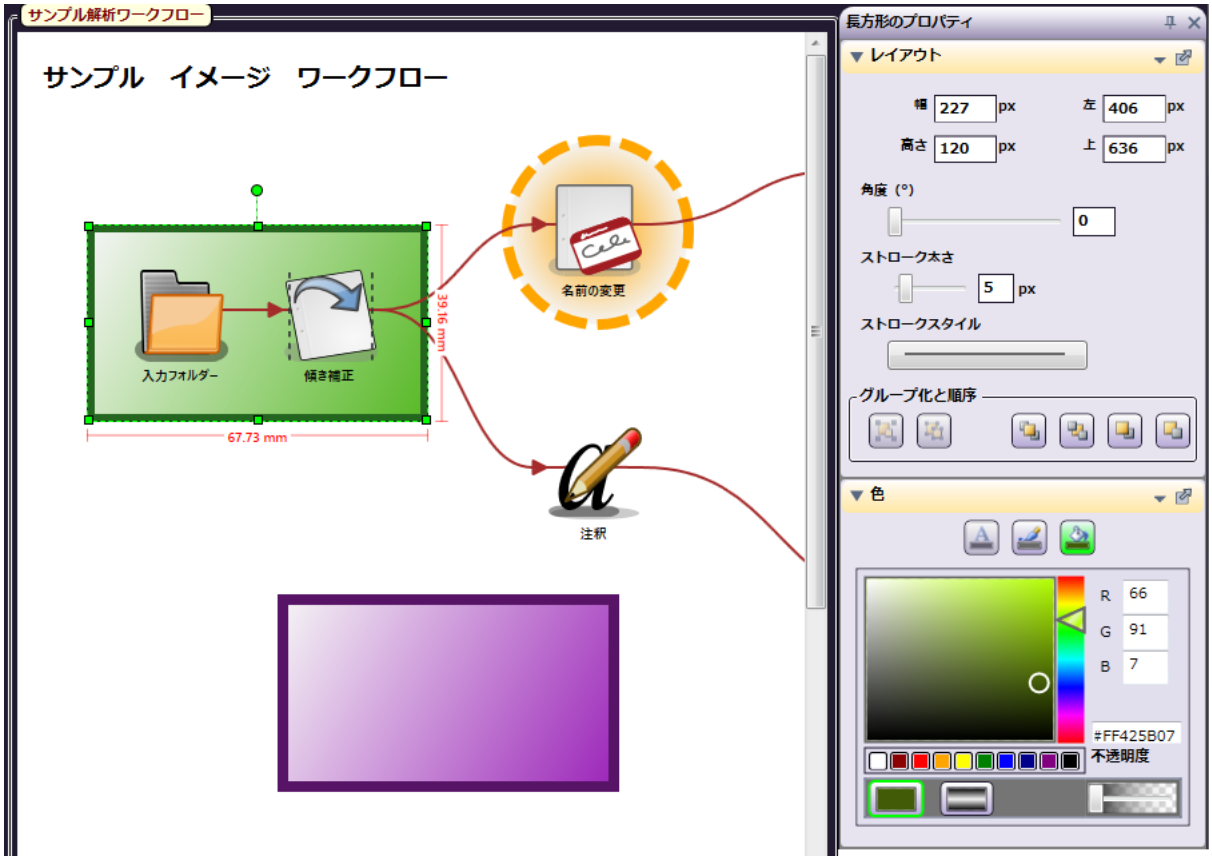
注: インラインスペルチェック機能が搭載されています。テキストボックスまたはノードラベル内の単語のスペルが誤っている場合、赤い下線が引かれます。その単語を右クリックすると、スペルを修正するための置換候補の単語のリストが表示されます。

長方形および円

円および長方形を描くと、複数のノードを視覚的に関連付けることができます。また、色を使用すると責務の領域などを表現することができます。

画面の左側にあるツールを使用してオブジェクトを描くには、以下の手順を実行します。

- [長方形]または[楕円]の描画ツールをクリックして選択した後、クリックしてドラッグすると、オブジェクトを描くことができます。オブジェクトが選択された状態で、[プロパティ]パネルをクリックして(または[F4]を押して)、[カラー]セクションに移動し、[塗りつぶしの色]インディケーターをクリックします。
- [カラー]セクション内で、矢印スライダーをクリックした後、色インジケーターが希望する範囲に入るまで、矢印スライダーを上方向に移動します。色インジケーターボックス内をクリックした後、マウスポインターを使用して、好きな色が見つかるまで色「ピッカー」をあちこち移動します。好きな色が見つかったらマウスボタンを放します。
- [レイアウト]セクションを使用して、図形オブジェクトの境界の線の太さおよびスタイルを変更します。線またはオブジェクトの境界は、実線、破線、または一点鎖線に設定できます。また、右クリックするか小メニューを使用して、[レイアウト]の既定を設定することもできます。
- [グループ化と順序]セクションを使用して、オブジェクトを最前面、最背面、またはその中間のどこかに配置します。サイズ変更のため、または単にオブジェクトをまとめるために複数のオブジェクトをグループ化します。

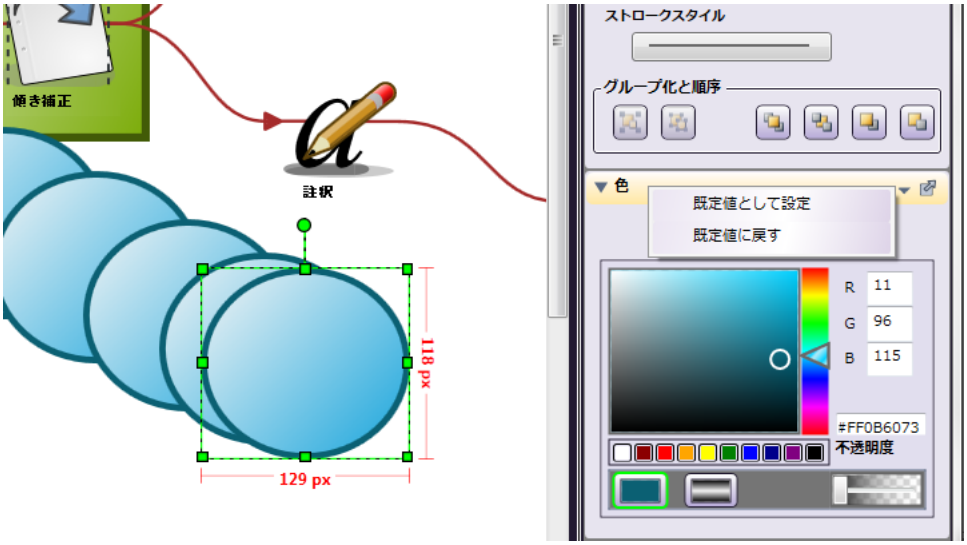


注: ノードはグループ化できますがコネクターはそのグループの一部には含まれません。

色の既定の設定

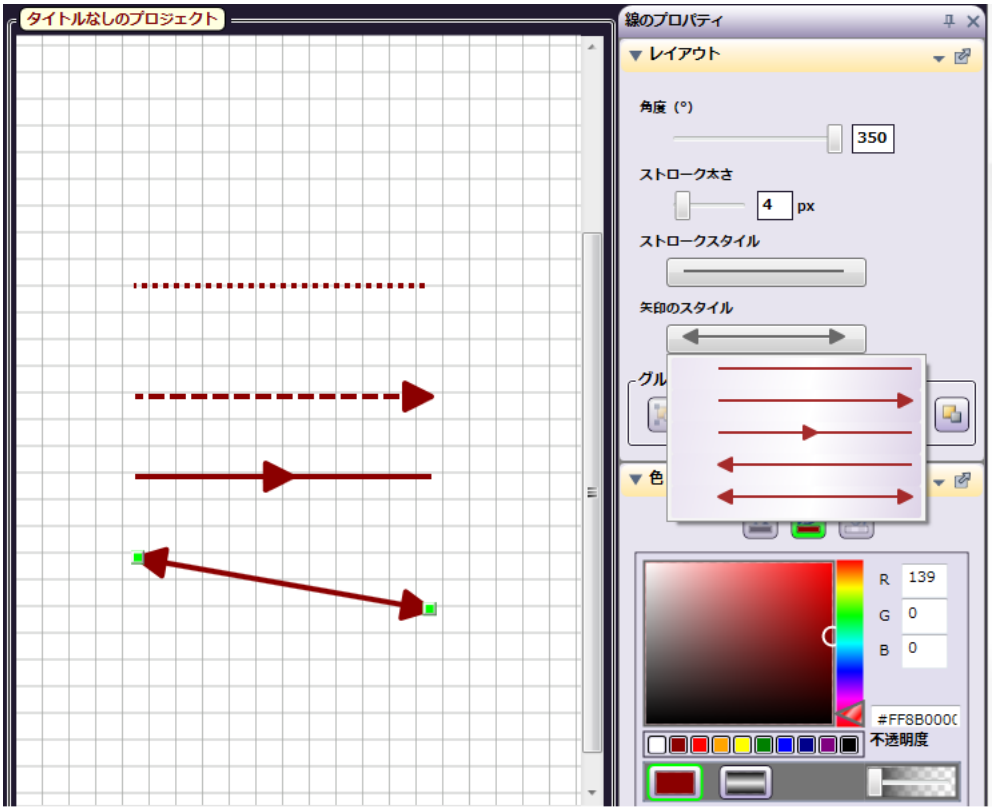
キャンバスに描かれるオブジェクト、キャンバス領域の背景、およびグリッド線の色の既定を設定できます。たとえば、長方形の色を定義するには、長方形を強調表示してから長方形の背景および境界を好きな色に変更した後、[カラー]セクションで右クリックして、[既定値として設定]を選択します。

注: セクションヘッダーにある小さい三角形をクリックしてメニューにアクセスする方法でも既定を設定できます。



線および矢印

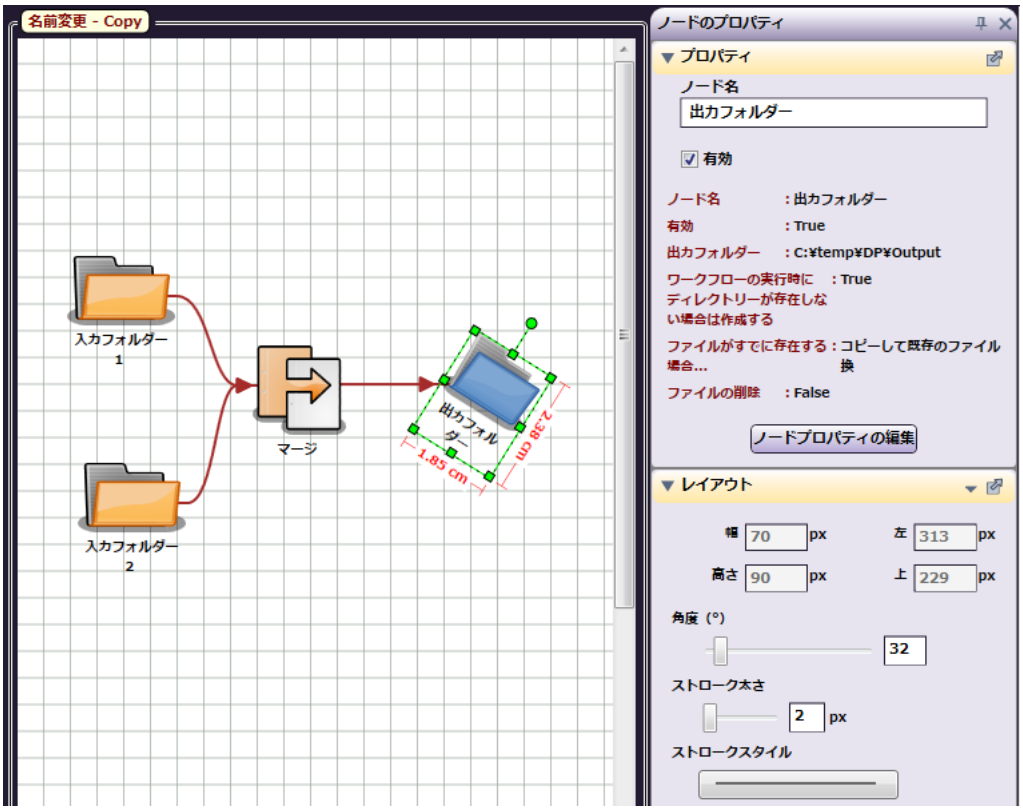
[線のプロパティ]内には、[ストローク太さ]や[ストロークスタイル]の他に[カラー]および[不透明度]もあります。線の太さは、スライダーバーを使用するか、幅を数値（ピクセル単位）で入力して変更できます。また、**[プロパティ]** パネルの *[レイアウト]* セクションにあるドロップダウンから点線のさまざまなスタイルを選択することもできます。また、線の片方の端、両端、または中央に矢印を追加できます。**[線]** は、スライダーを使用するか、度数を変更することで特定の角度を指定できます。



注: 角度の度数を変更することで線がキャンバスからはみ出す（線が端に近すぎる）場合、線の角度は設定できません。

図形の回転

キャンバスに描かれたノードおよびその他のオブジェクトは、次の図のように、マウスを使用して選択されたオブジェクトの中央の上に表示される円を動かすことで回転できます。

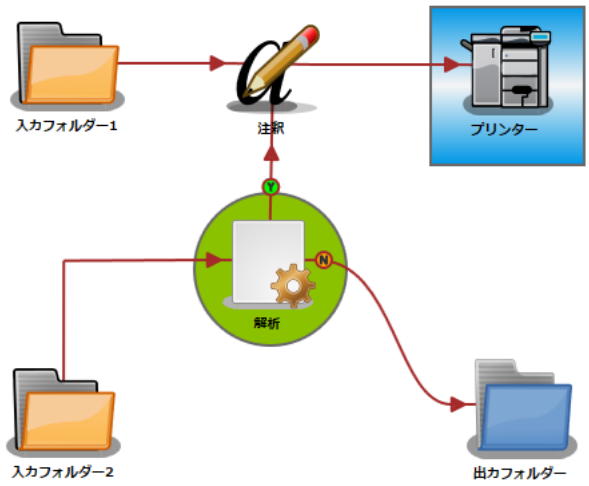


コネクター

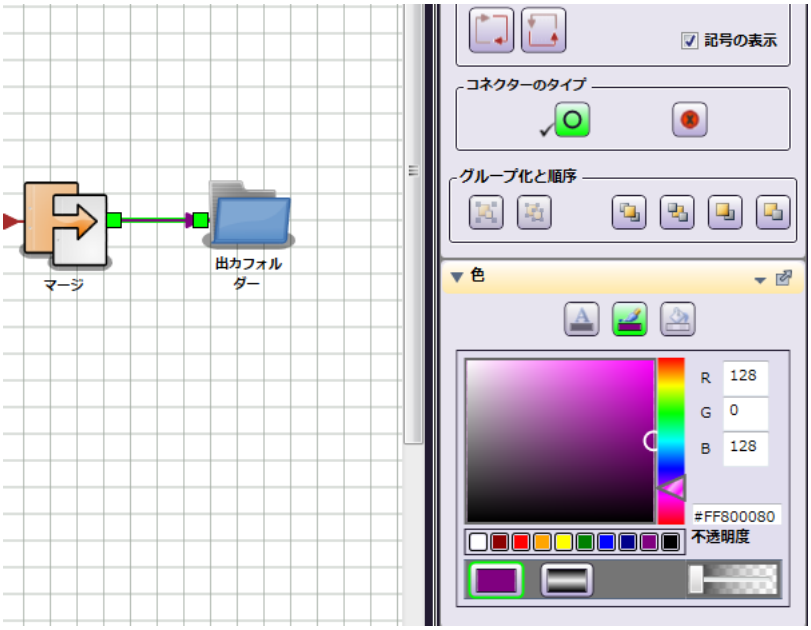
コネクターは、単なる矢印付きの線ではなく、実際に複数のノードを接続します。ノードを作成した後、好きなコネクターをクリックし、接続元となるノードをクリックして次のノードまでコネクターをドラッグすることで、それらのノード間に***遷移***が作成されます。

コネクターには、以下のような種類があります。

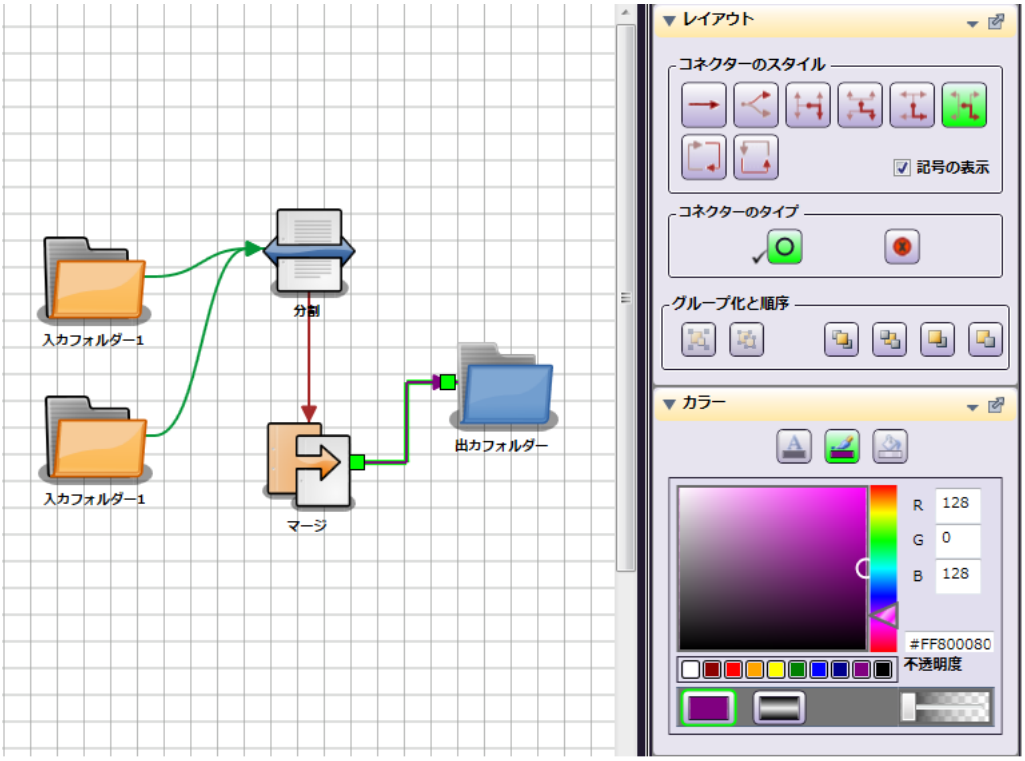
- 直線コネクター
- ベジエ曲線
- 水平方向から垂直方向に折れ曲がる直角線
- 垂直方向から水平方向に折れ曲がる直角線
- 水平方向から垂直方向に折れ曲がり、さらに水平方向に折れ曲がるカギ線
- 垂直方向から水平方向に折れ曲がり、さらに垂直方向に折れ曲がるカギ線
- オブジェクトの横にスナップする直角線のコネクター
- オブジェクトの最上部または最下部にスナップする直角線のコネクター



コネクターは2つのノード間の遷移を表しますが、さまざまな色、不透明度、および階調を指定できる点で、他の描画ツールと視覚的に似ています。スライダーバーを使用して好きな色の「系統」を見つけた後、カラーピッカーを使用して正確な色を決定します。カラーピッカー領域の下に表示されている一般的に使用される色のいずれかを選択することもできます。



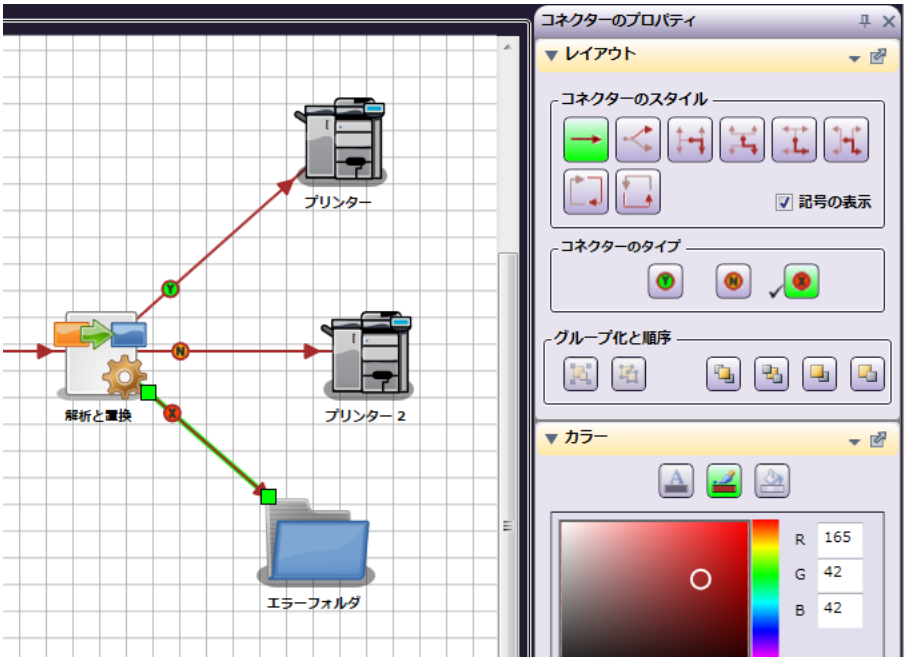
コネクターには、さまざまな色を設定することもできます。コネクターのスタイルの他にも、コネクターの方向矢印を非表示にしたい場合は、**[記号の表示]** ボックスのチェックマークを外すことができます。また、コネクターの先端部をドラッグして異なるノードに接続することもできます。コネクターを削除して描きなおす必要はありません。



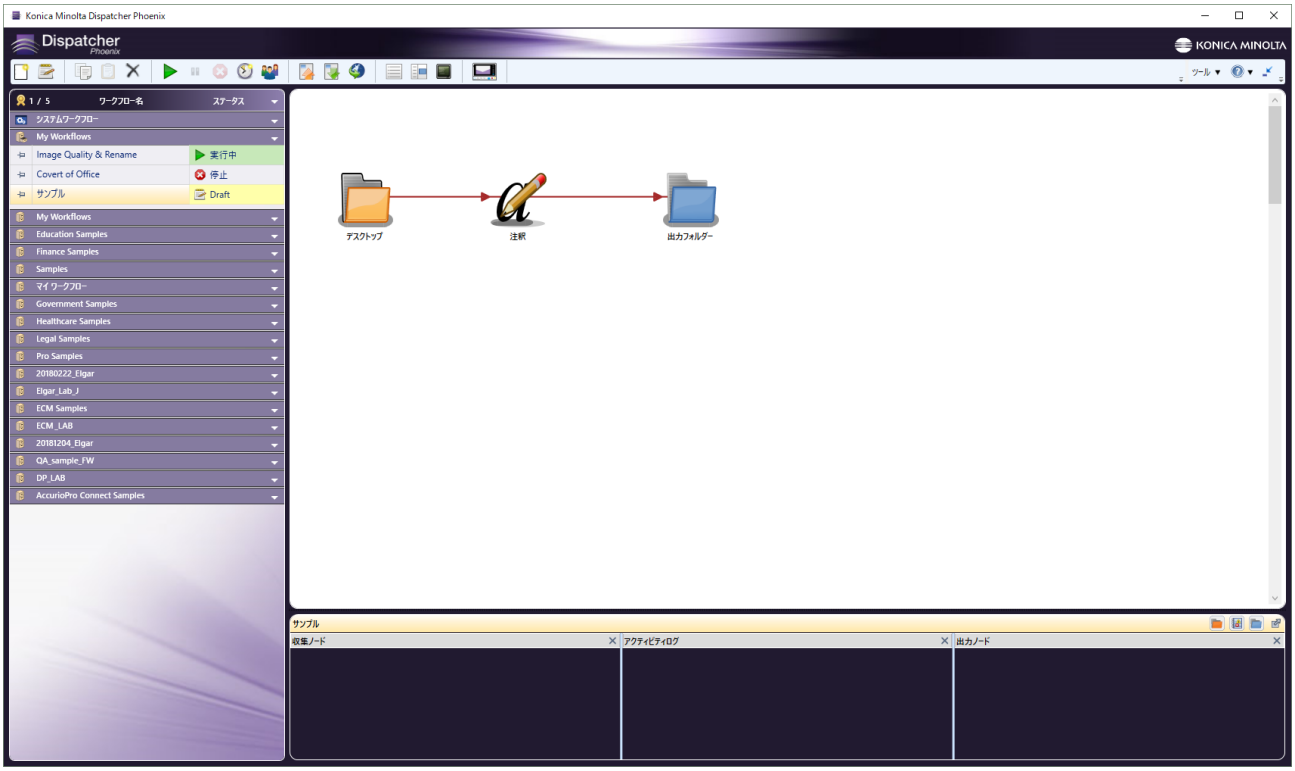
注: 接続されたノード同士を近づけすぎると、それらのノード同士が触れ合っていなくても、コネクター線が表示されなくなります。

コネクターの定義

エラーパスは、好きな種類のコネクターを使用して設定できます。また、解析ワークフローのコネクターは、「はい」/「いいえ」の決定やエラーを示すことができます。[レイアウト]下の[コネクターのタイプ]を変更するには、コネクターを選択した後で種類を選びます。



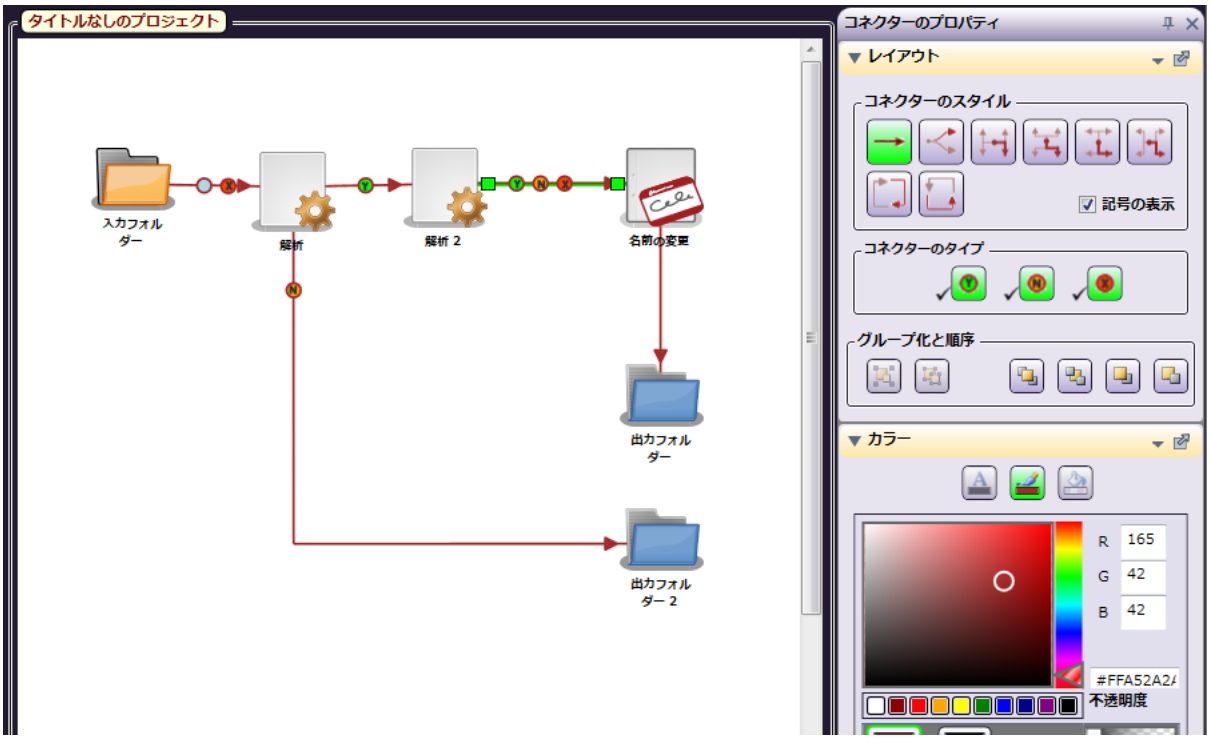
解析ノードでは、True/Falseの条件を基準にコネクターの種類を決定できます。たとえば、解析ノードに特定の語句の検索機能が含まれているにも関わらず、その語句が見つからない場合、その語句が見つかった場合にワークフローが選択するパスとは異なる、別の配信ポイントに遷移するパスをワークフローが選択するようにできます。



処理が失敗してエラーが発生した場合、エラーのコネクターの種類が有効になっており、指定されたエラー場所（通常は出力フォルダー）に接続されているコネクター、または既定のエラーノード（定義されている場合）にファイルが渡されます。エラーが発生して、エラーのコネクターの種類が有効になっているコネクターも定義された既定のエラーノードも存在しない場合はファイルが失われてしまうことがあります。

同じ出力に接続する複数のコネクター

ワークフロービルダーでワークフローを作成しているときに、解析ルールの結果に関係なく、ファイルが次のノードに移動するようにしたい場合、同じ出力ノードに対して複数のコネクターを描くことができます。コネクターには、**[Y]**（「はい」を表す）、**[N]**（「いいえ」を表す）、および3つ目が存在する場合は **[X]**（「エラー」を表す）のラベルが付けられます。コネクターを選択した後、**[レイアウト]下の[コネクターのタイプ]** を変更することで、コネクターのラベルを手動で付けることができます。次の図を参照してください。

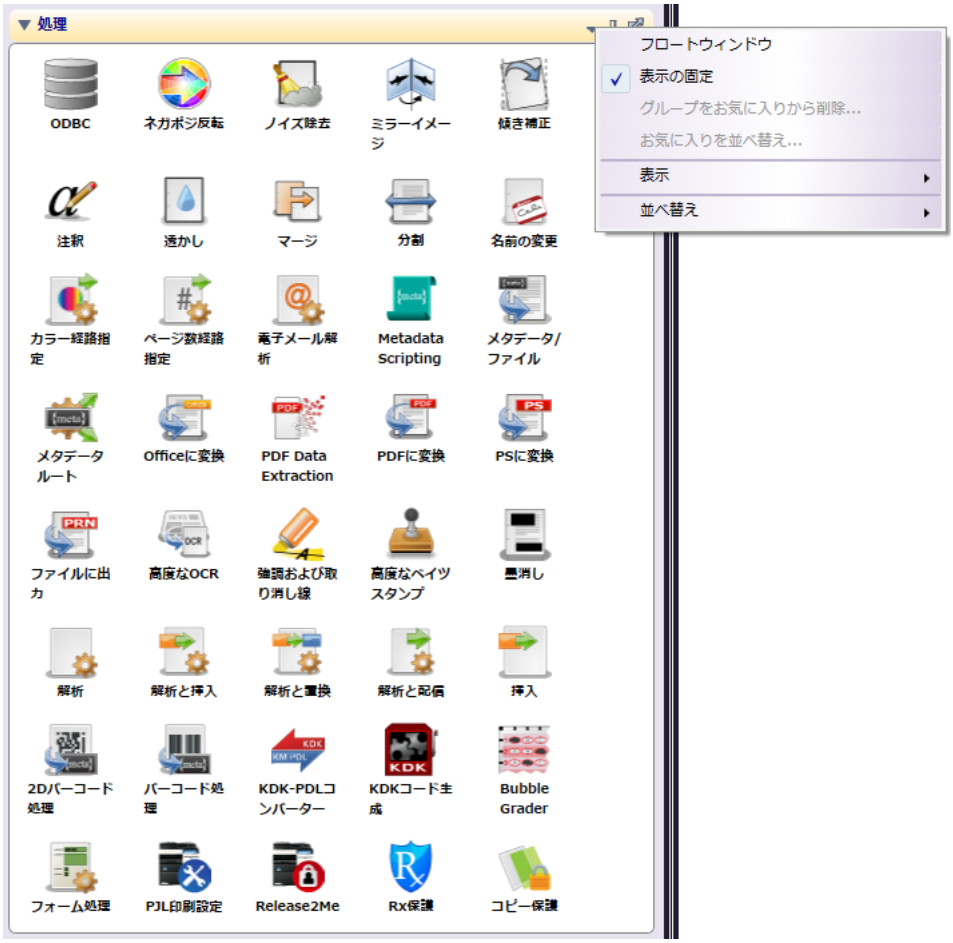


（解析以外の）通常のノードから同じ出力ノードに接続する複数のコネクターには、「正常」または「エラー」（円に囲まれた赤いX）のラベルを付けることができます。このコネクターの種類を手動で選択したり、ワークフロービルダーがコネクターのラベルを順序正しく付けるようにしたり、**[記号の表示]** チェックボックスの選択を解除してラベルを非表示にしたりできます（当然ながら、記号を非表示にした場合、外向きの遷移が2つ存在していることを示すことができなくなります）。

ノードパレット

ノードは、すべて[収集]、[処理]、[配信]、および[お気に入り]のパレット内（定義されている場合）に編成されます。これらすべてのパレットには、ユーザーがワークフロービルダーをカスタマイズしてニーズを最大限に満たせるようにするためのさまざまなソートオプションが用意されています。行った変更はすべて保存され、ワークフロービルダーを次に起動したときに反映されます。

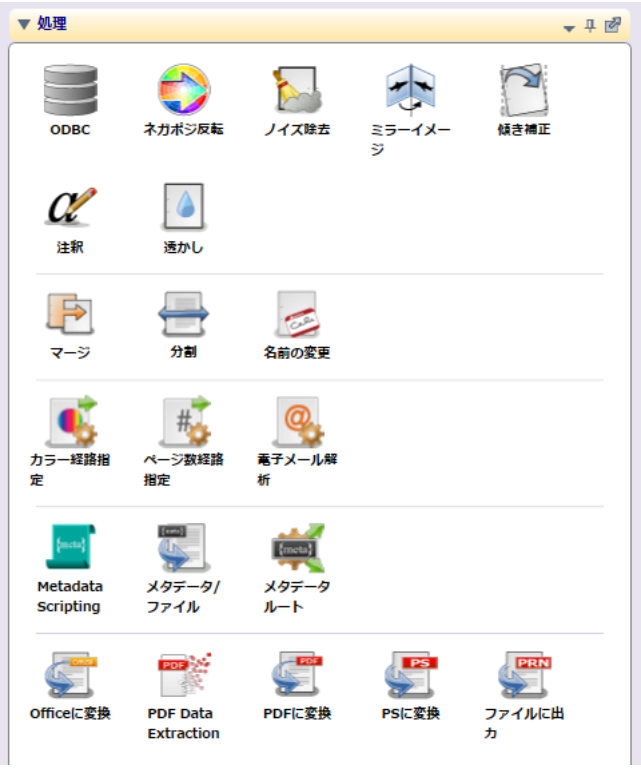
これらのオプションには、次の図のように、パレットのタイトルバーにある下矢印をクリックすることでアクセスできます。



このメニューを使用すると以下の操作ができます。

- **[フロートウィンドウ]** を選択すると、デスクトップの好きな場所にパレットウィンドウを移動できます。
- **[表示の固定]** を選択すると、パレットを開いたままの状態にできます。
- **[グループをお気に入りから削除...]** を選択すると、お気に入りのグループを削除できます。
- **[お気に入りを並べ替え...]** を選択すると、[お気に入りを並べ替え]ウィンドウを開くことができます。
- **[表示]** を選択すると、パレット内のノードの外観をカスタマイズできます。
- **[並べ替え]** を選択すると、パレット内のノードの編成をカスタマイズできます。オプションは次のとおりです。
    - 名前(アルファベット順、既定の設定)
    - 区切り線ありのタイプ
    - 区切り線なしのタイプ

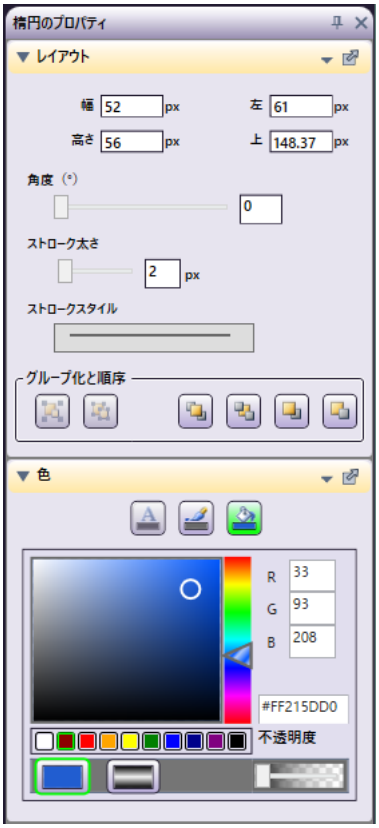
  たとえば、すべての経路指定ノード（カラー経路指定、ページ数経路指定、および電子メール解析）をグループ化できます。同様に、すべての解析ノード（挿入、解析、解析と配信、解析と置換、および解析と挿入）もグループ化できます。次の図は、種類を基準にパレットをソートして区切り線で分けた例を示しています。



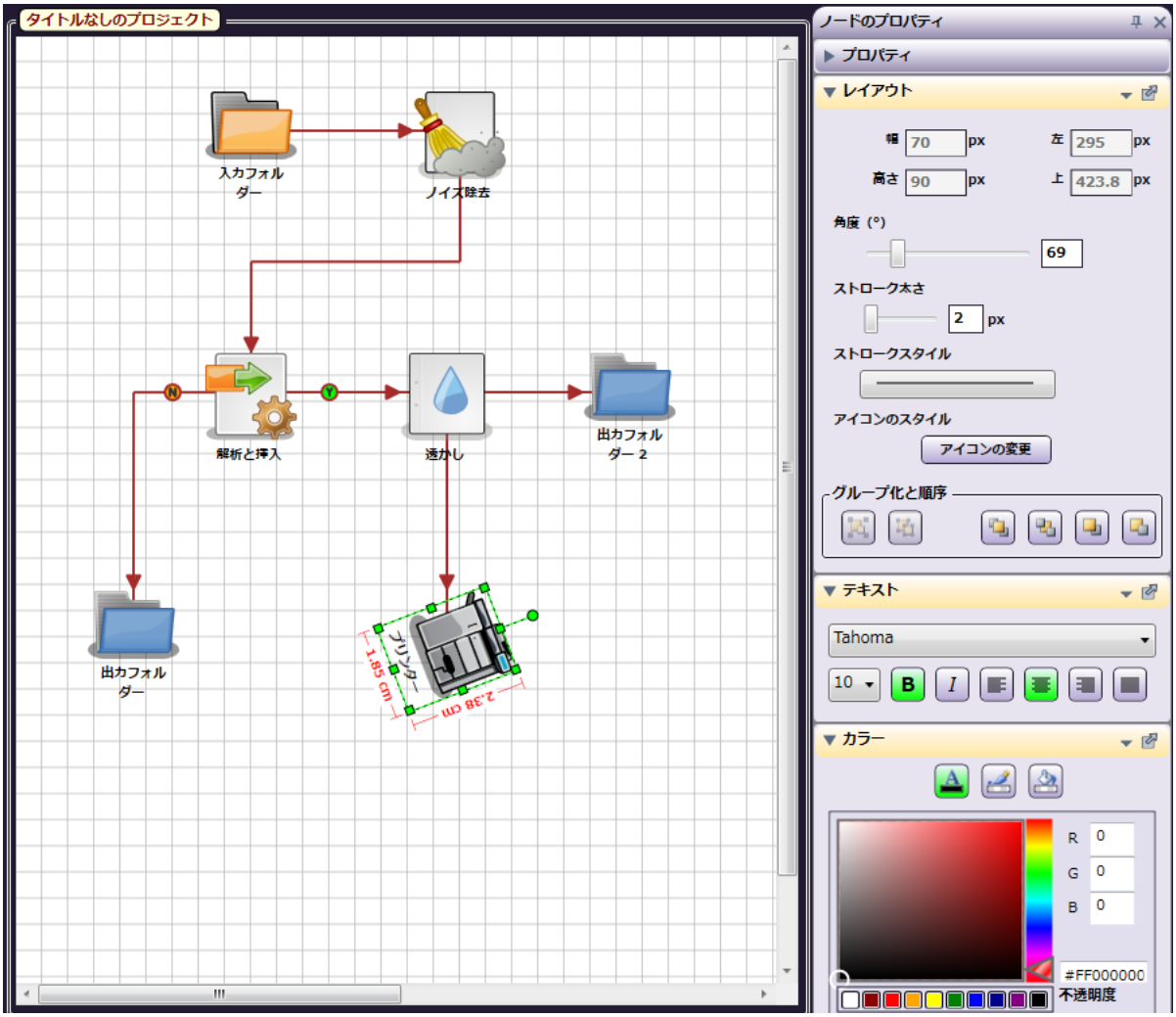
プロパティ（外観）

ノード、図形、およびコネクターの外観は、[プロパティ]パネルを使用して定義します。[プロパティ]パネルには、選択されているオブジェクトの種類に応じて、最大で4つのセクション（[プロパティ]、[レイアウト]、[テキスト]、および[カラー]）が含まれます。

```
<img src="../sec.using_media/image70.png" alt="プロパティ" />
```



パネルを開くには、ノード、図形、またはコネクターを右クリックした後、**[プロパティ]** を選択します。（以下に示す）パネルの[レイアウト]、[テキスト]、および[カラー]セクションを使用することで、ノードの「外観」を変更できます。



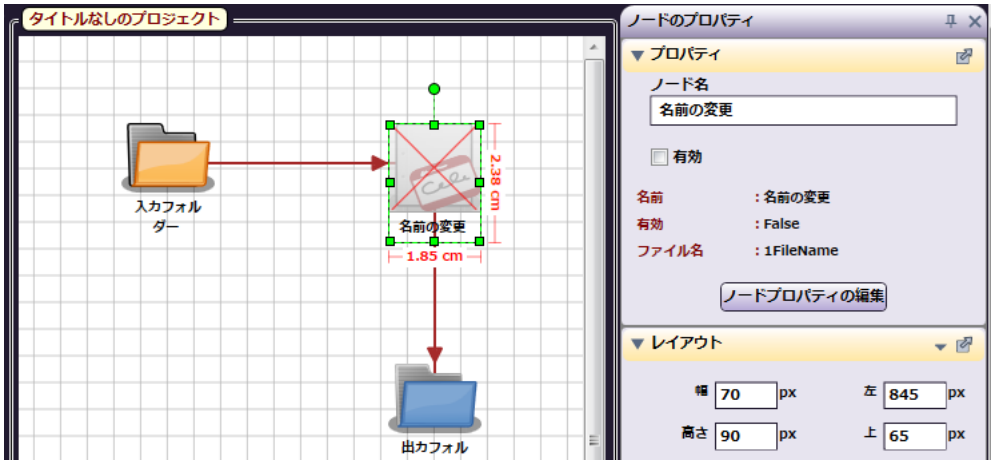
ノードのプロパティ

[プロパティ]パネルの[プロパティ]セクションでは、以下の操作ができます。

- **[ノード名]** フィールドでは、ノードの名前を編集したり、作成したりできます。
- **[有効]** チェックボックスを使用すると、ノードを有効にしたり、無効にしたりできます。チェックマークを外すとそのノードは無視されます。ドキュメントはこのノードの場所から収集されることも、このノードの場所を通して処理されることも、このノードの場所に配信されることもなくなります。

  注: 無効な出力ノードにファイルを送信すると、失われることになります。

  無効になっているノードは、次の図のようにキャンバス上にグレーアウトで表示され、[X]が付きます。



ノードのレイアウト

[プロパティ]パネルの[レイアウト]セクションでは、以下の操作ができます。

- **[幅]**、**[高さ]**、**[左]**、および **[上]** フィールドを使用すると、ワークフロービルダーに表示されるオブジェクトのサイズや位置を定義できます。
- **[角度]** スライダーバーを使用すると、ワークフロービルダー上でオブジェクトで回転できます。
- 別のイメージを選択してノードを表すことができます。詳細は「アイコンの変更」セクションを参照してください。
- オブジェクトをグループ化したり、順序を変更したりできます。詳細は「グループ化および順序」セクションを参照してください。

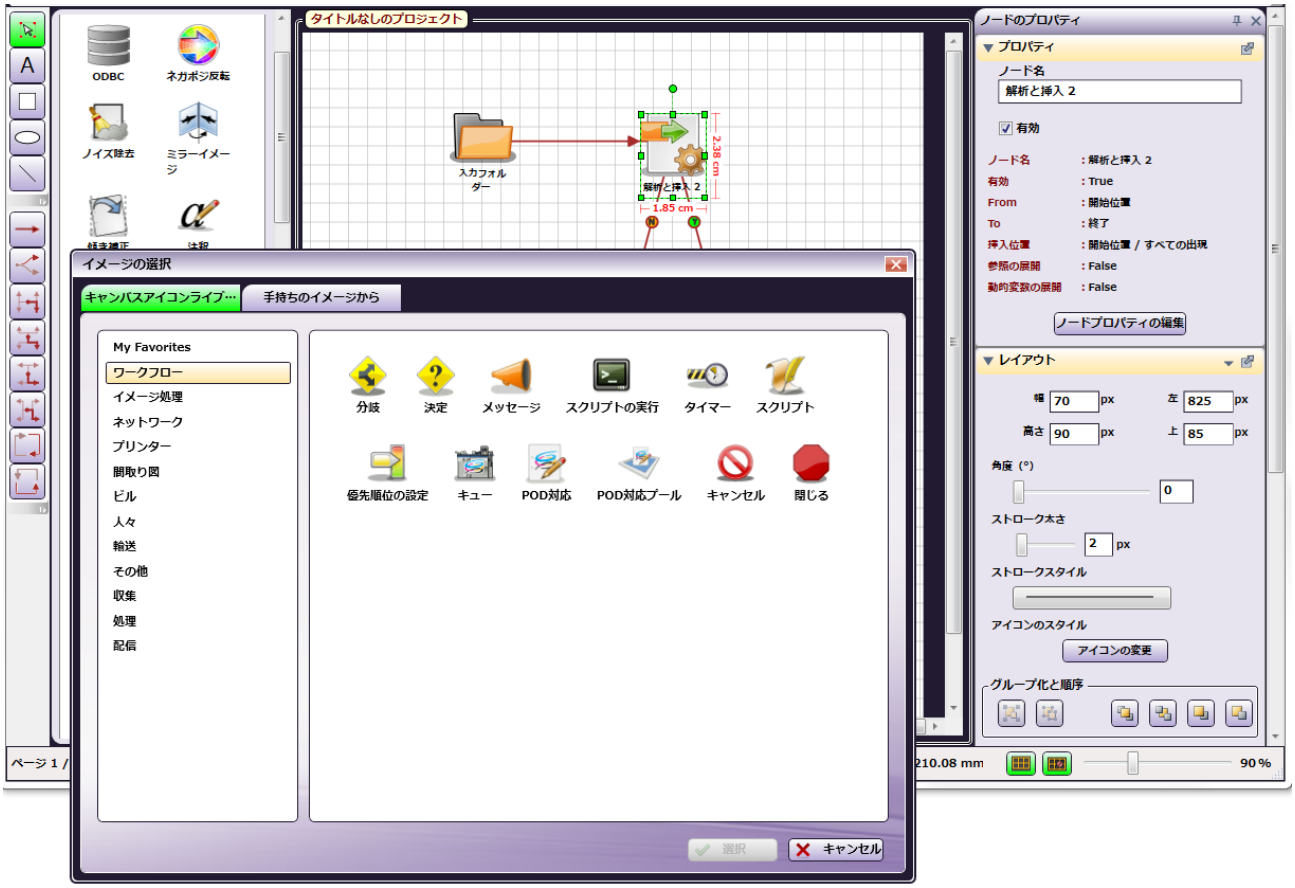
アイコンの変更

ノードを選択すると、[レイアウト]下の[アイコンのスタイル]セクションで **[アイコンの変更]** ボタンが使用できるようになります。このボタンをクリックすることで、別のイメージを選択してノードを表すことができます。1つまたは複数のノードを好きなイメージファイル（BMP、JPEG、PNG、GIF）に置換できます。

- アイコンを変更するには、ノードを選択した後、**[アイコンの変更]** ボタンを選択して、目的のイメージを見つけ、そのイメージをアップロードします。
- [イメージの選択]ウィンドウでは、以下のいずれかの操作を行います。
  - **[キャンバスアイコンライブラリから]** タブをクリックして、ライブラリから別のアイコンを選択します。*または*、
  - **[手持ちのイメージから]** タブをクリックして、ファイルまたはクリップボード（すでにイメージをクリップボードにコピーしている場合）からイメージを選択します。

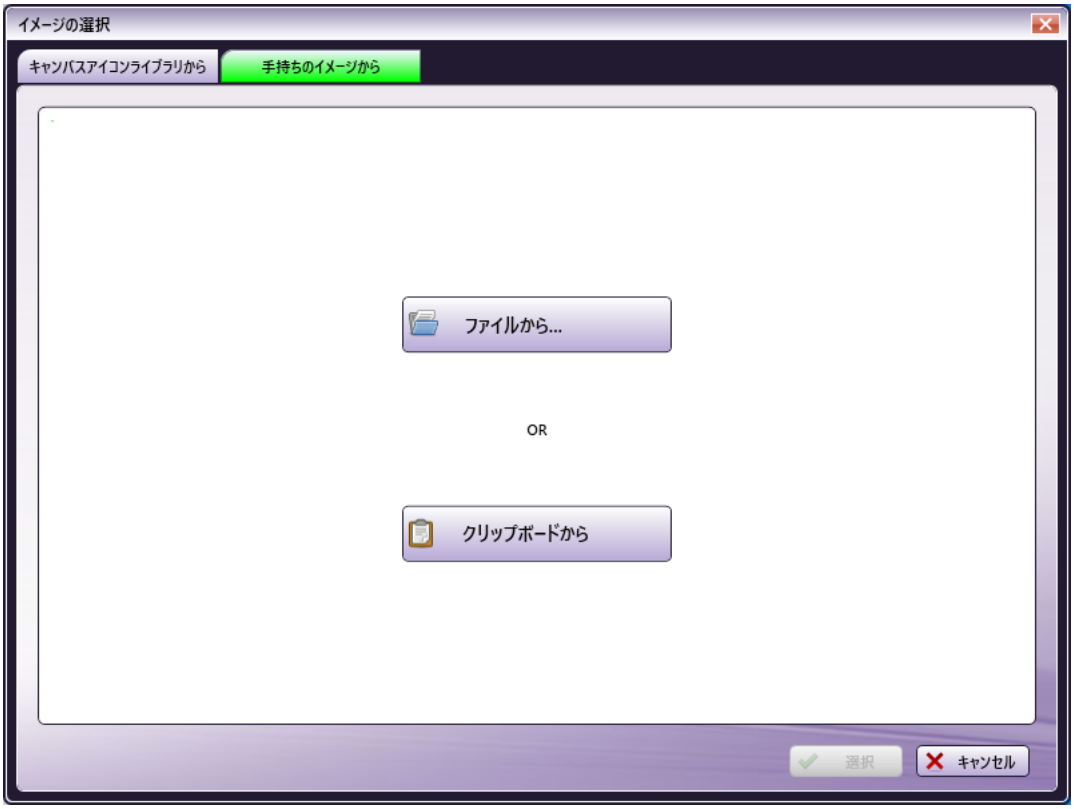
キャンバスアイコンライブラリからの選択

次の図では、解析と挿入ノードが選択され、（*[ワークフロー]* ライブラリの）[スクリプト]ノードのグラフィックイメージに変更されています。



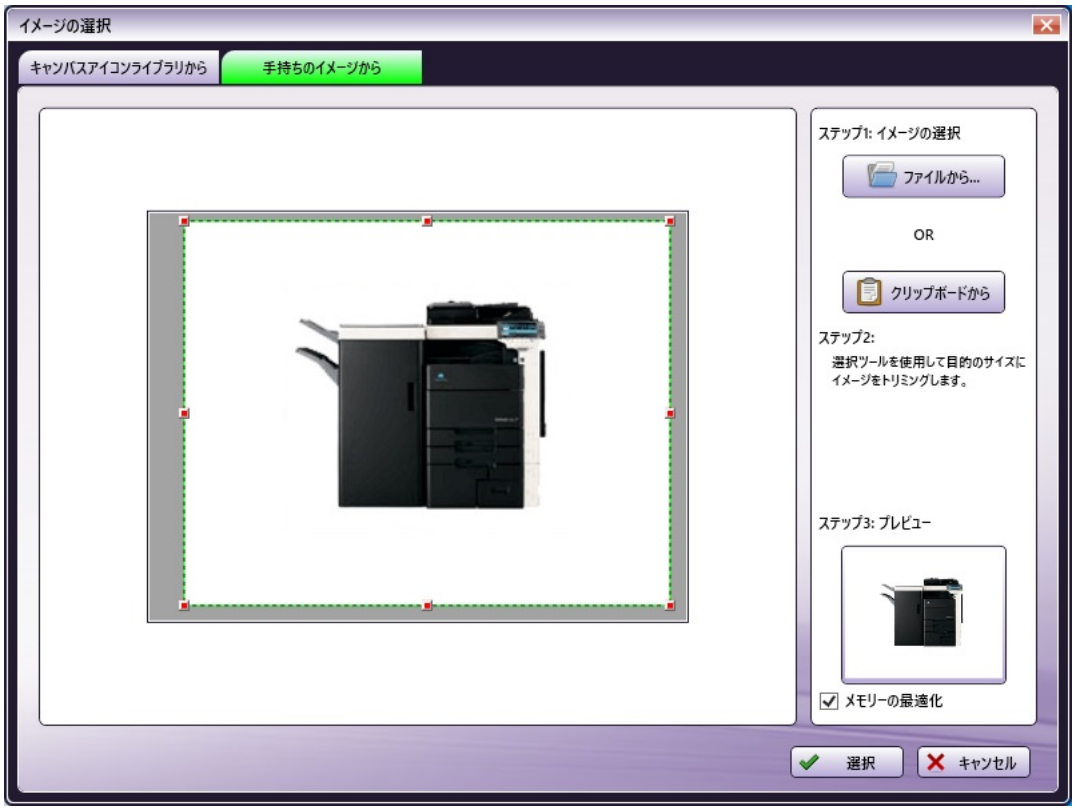
手持ちのイメージからの選択

[手持ちのイメージから] タブを選択すると、次の図のようにイメージを選ぶ方法（ファイルから選ぶか、クリップボードから選ぶか）を選択できるようになります。

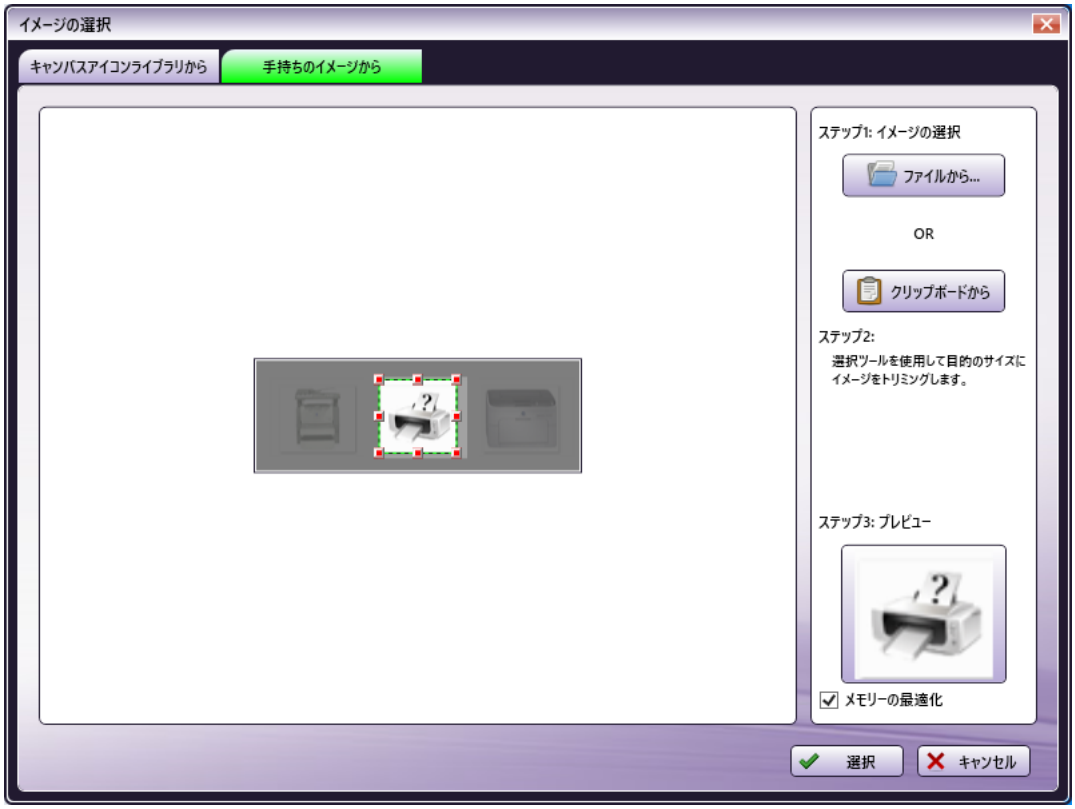


以下のいずれかの操作を行います。

- ファイルからアイコンを選ぶには、**[ファイルから...]** ボタンを選択します。[イメージの選択]ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、使用するファイルを見つけて、そのファイルを指定できます。また、好きなイメージの一部を選択することもできます。ハンドルを使用してこれを行うには、次の図のように、小さいボックスをクリックした後、ドラッグします。



- クリップボードからアイコンを選ぶには、**[クリップボードから]** ボタンを選択します。右側のペイン内には手順が表示されます。次の図のように、正方形を移動したり、サイズ変更したりすることで、コピーイメージのどの部分を使用するかを決定できます。決定したら、**[選択]** ボタンを選択します。



選択したイメージのプレビューが右側に表示されます（上の図を参照）。コンピューターに合わせてイメージが構成されるように、**[メモリーの最適化]** チェックボックスに自動的にチェックマークが付けられます。

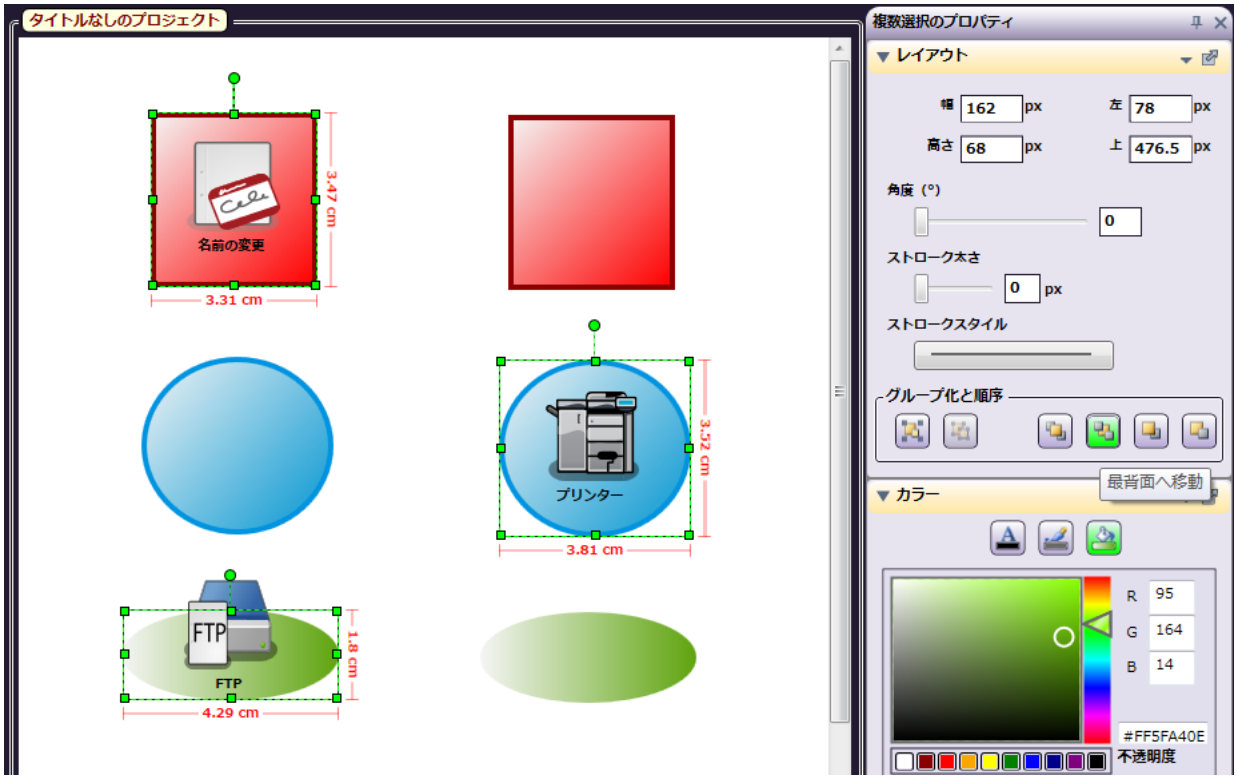
注意! このチェックボックスをオフにするとイメージの画質は向上しますが、メモリーの使用量が増大してシステムの速度が低下することがあります。より高い解像度で画像をアップロードするには、チェックボックスのマークを外します。ただし、画質が高ければそれだけPCのリソース消費量も増大します。

注: 上記のいずれの場合においてもノードのイメージは変更されますが、ラベルのテキストは自身で変更する必要があることに注意してください。

グループ化と順序

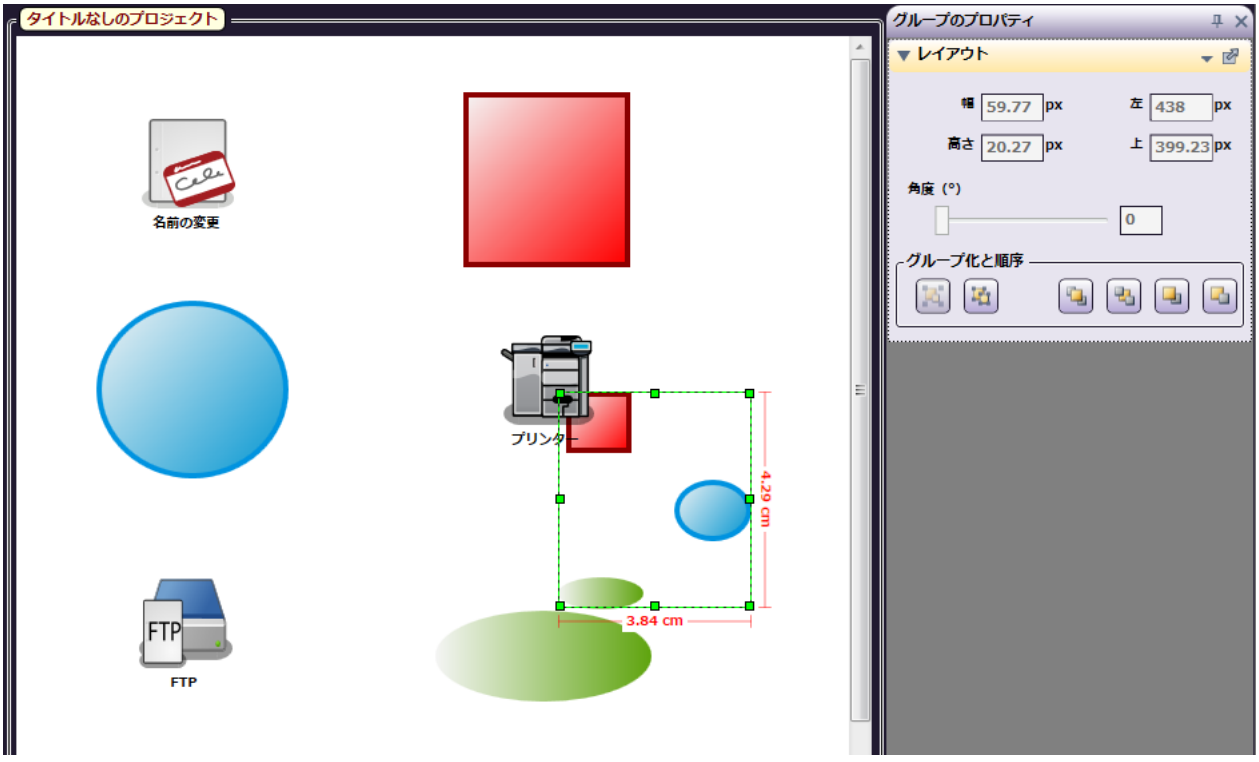
[グループ化と順序]サブセクションを使用することでノードを好きな順序に並び替えることができます。

- 図形オブジェクトをノードの背面に配置するには、次の図のように、オブジェクトを選択した後、**[最背面へ移動]** アイコンをクリックします。



- 複数のオブジェクトをグループ化するには、複数のオブジェクトを選択した後、**[グループ化]** アイコン( )をクリックします。複数のオブジェクトをグループ化すると、同時にサイズを変更したり移動したりできます。

次の図では、背面（上面）に移動した3つのオブジェクトがグループ化されています。



ノードのテキスト

[プロパティ]パネルの[テキスト]セクションでは、テキストのフォントファミリー、サイズ、スタイル、および位置揃えを構成できます。

ノードの色

[プロパティ]パネルの[カラー]セクションでは、オブジェクトのテキスト、線、または背景の色を構成できます。

ノードのコピーおよび貼り付け

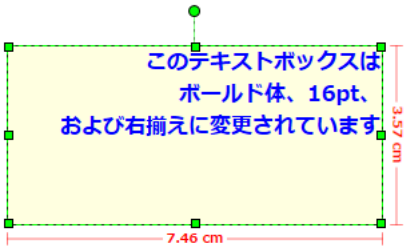
入力 または *出力* フォルダーなどのノードをコピーすると、以下の特殊な貼り付けオプションが選択できるようになります。**[貼り付け]** と **[オリジナルをペースト]** です。これらの特殊メニューオプションは、*ノード* を選択してコピーしたとき *だけ* 表示されます。長方形、テキストボックス、円などその他の要素をコピーしたときは、[コピーをペースト]オプションだけが選択できるようになります。ノードとオブジェクトの組み合わせをコピーした場合も、**[貼り付け]** オプションだけが選択できるようになります。

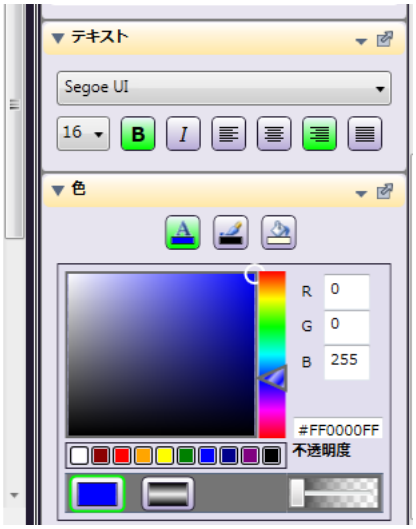
[貼り付け] を選択すると、対象のノードの独立コピーが作成されます。この独立コピーのプロパティは、これらのプロパティを編集して一意のノードを作成するまで元のノードと同じです。この複製コピーに変更を加えても、それらの変更がコピー元のノードに影響することはありません。

[オリジナルをペースト] を選択すると、同じノードの別のコピーが作成されます。貼り付けたノードに変更を加えた場合、それらの変更は元のノードにも同時に適用されます。

ノードのラベルまたはテキストボックス

(ラベルが付いている)ノードまたはテキストボックスを選択すると、[プロパティ]パネルの[テキスト]セクションが使用できるようになります。[テキスト]セクションを使用することで、フォント、サイズ、スタイル、または位置揃えを変更できます。

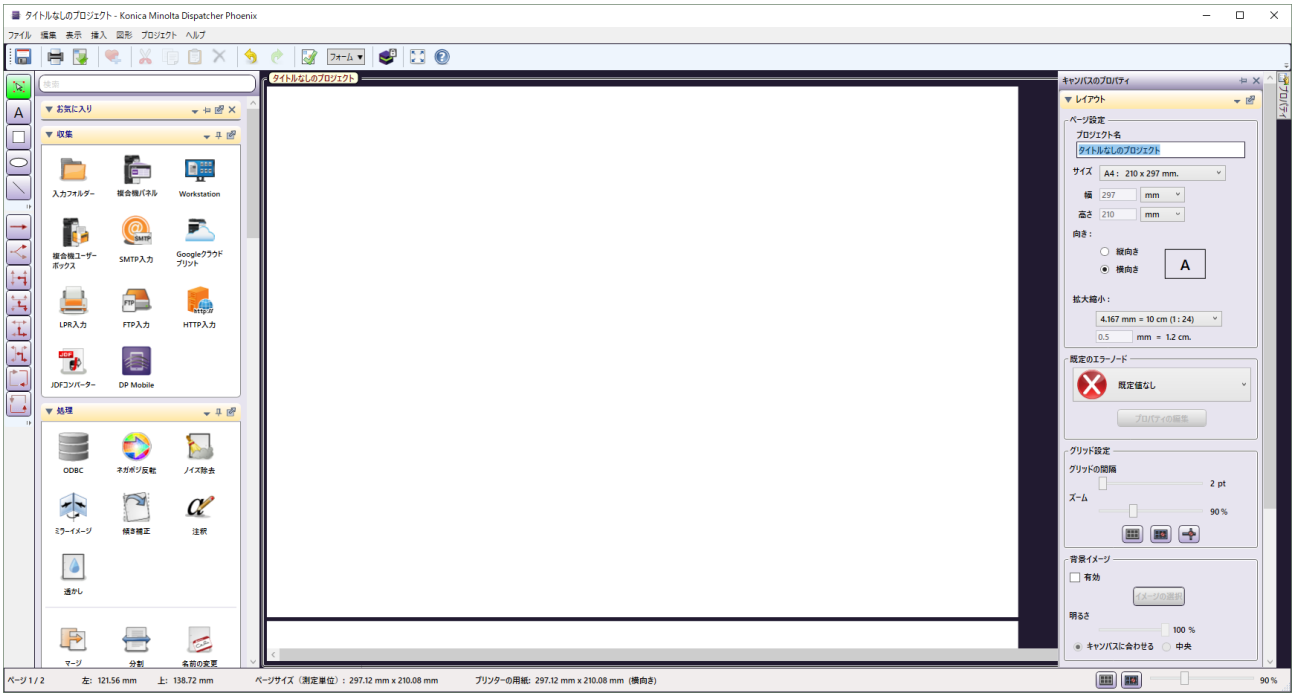




ワークフローの作成

ワークフロービルダーは、Dispatcher Phoenix専用のKonica Minolta® Canvasのカスタマイズバージョンであり、ワークフローの作成を可能にする、グラフィックアイコンの完全なパレットおよび描画ツールを提供します。

アプリケーションのメイン画面で、**[新規ワークフロー]** アイコンを選択するか、既存のワークフローを編集すると、ワークフロービルダーのウィンドウが開きます。新しいワークフローを作成する場合、最初の「キャンバス」は空白で、グリッド線が「非表示」になっている既定のビューが表示されます。

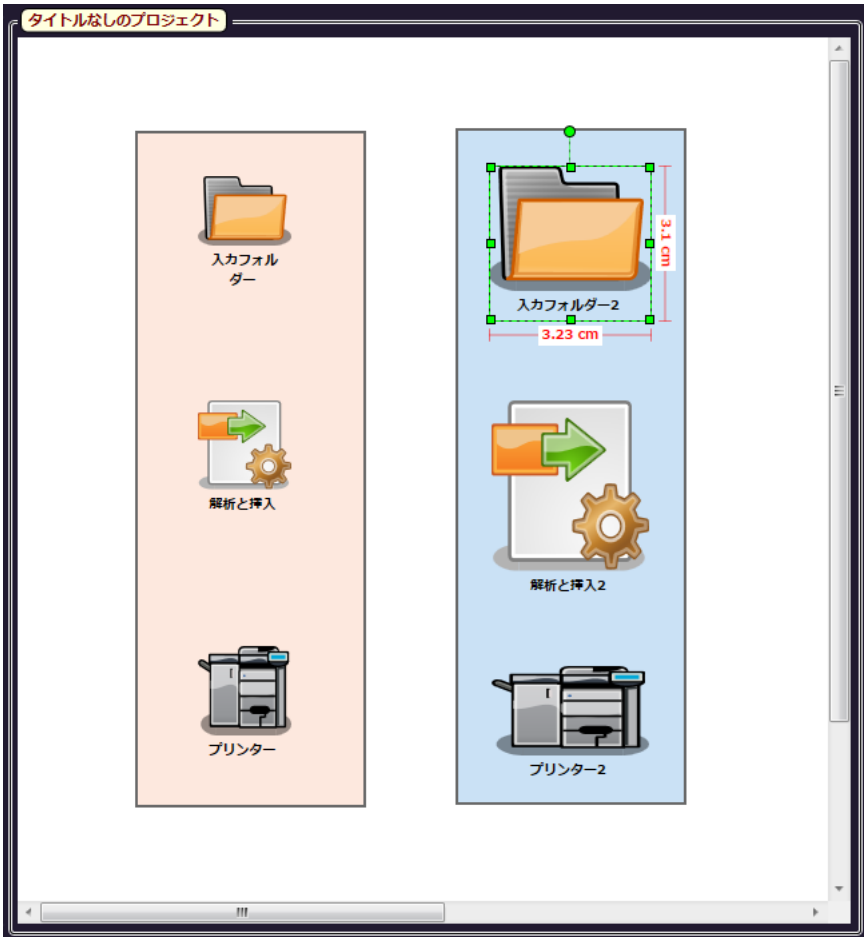


(キャンバス)ウィンドウの左側には、ノードパレットが表示されます。ノードパレットを開いたままの状態にするには、**プッシュピン** をクリックします。ノードパレットは、**収集** 、**処理** および **配信** に分割されています。また、事前定義されたノードとともに、独自のノードを含む **My Favorites(お気に入り)** グループを追加できます。

注: ワークフロービルダーを開いているときは、Dispatcher Phoenixの機能は使用できません。他のワークフローを処理(実行、一時停止、停止など)するには、ワークフロービルダーを閉じる必要があります。

ワークフローの作成

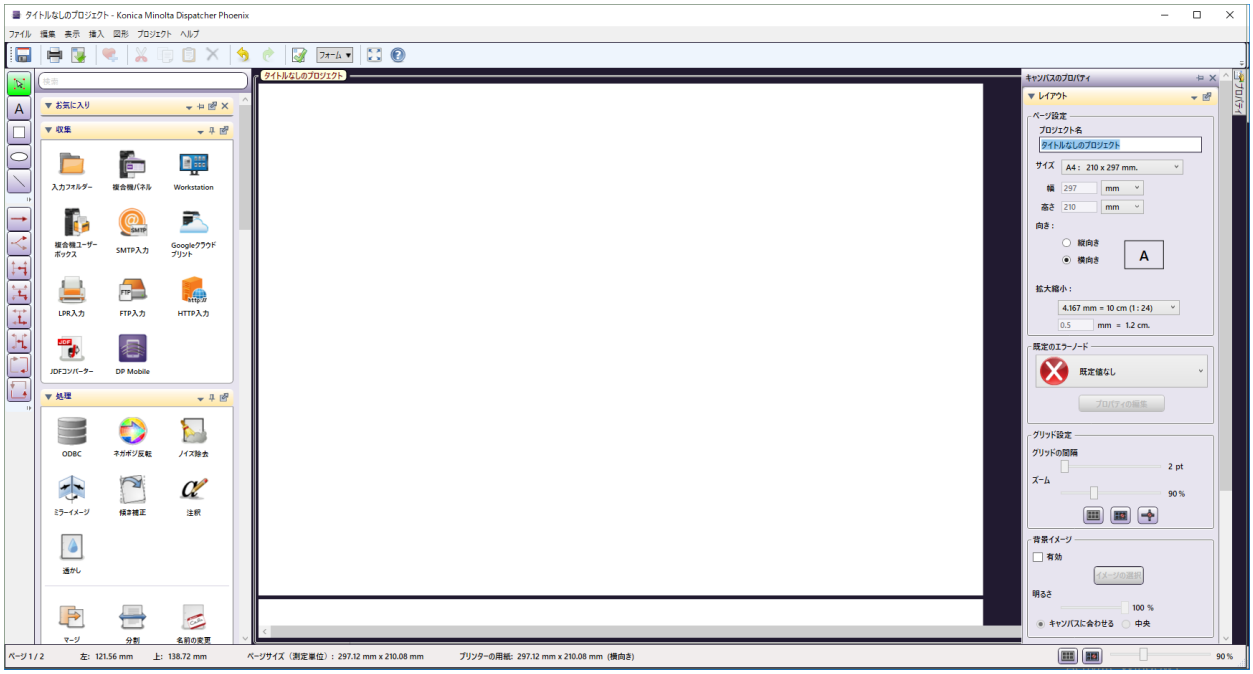
ノードは、キャンバスにドロップしたり、ドラッグして好きなサイズに変更したりできます。次の図は、キャンバスに3つのノードをドロップした状態(左側)、およびドラッグしてサイズを変更した状態(右側)を示しています。



最初のワークフローを作成するための準備として、デスクトップ上に2つのフォルダー(入力フォルダーおよび出力フォルダー)を作成しておくことをお勧めします。*入力* フォルダーには、.JPG、.TIF、.PDFなどの拡張子を持つイメージファイルを入れます。

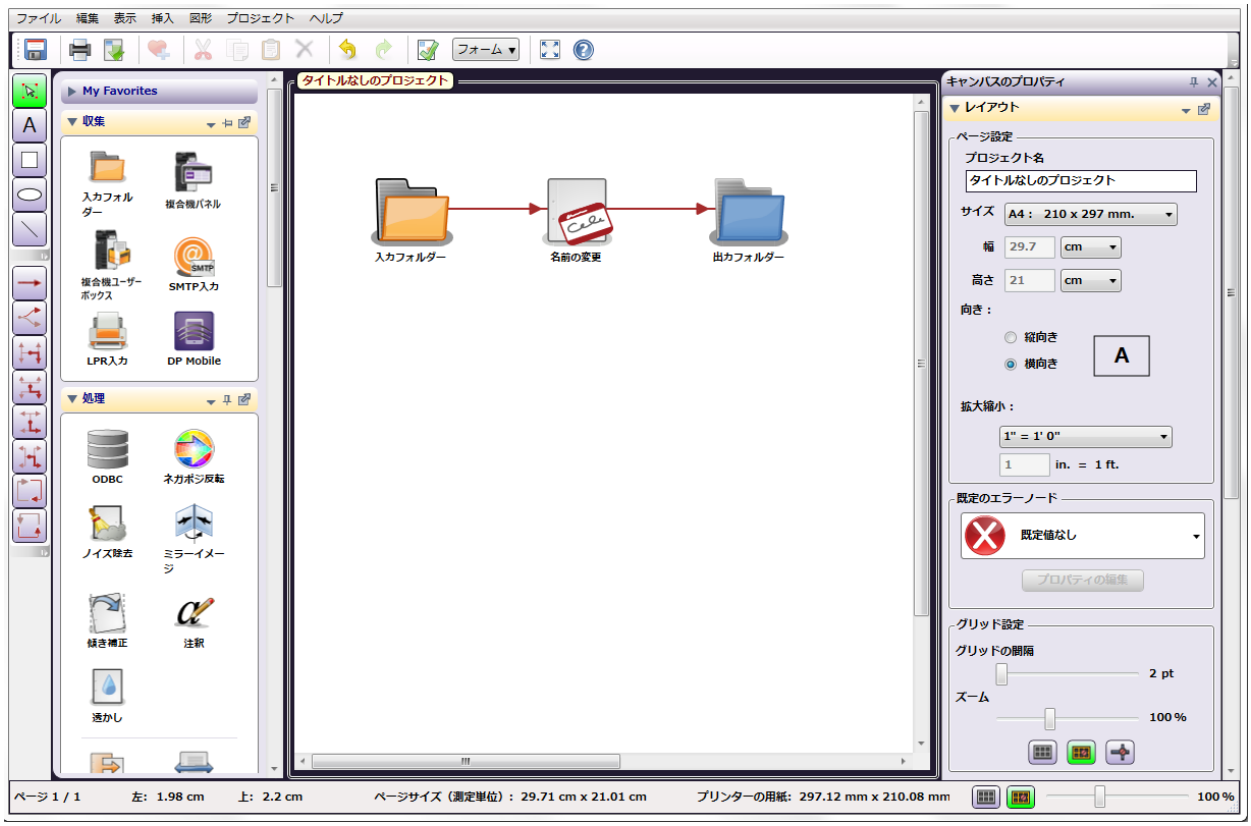
注: サンプル演習時にすでに2つのフォルダーを作成している場合は、それらを再び使用できます)。

1. 最初に、[収集]ノードパレットを開いた後、入力フォルダーノードをクリックします。ノードが選択されている状態で、キャンバスの描画領域をクリックした後、マウスをドラッグして、ノードの作成およびサイズ変更を行います。
2. 最初のワークフロー用にシンプルな処理ノード(例:**名前の変更**)を追加します。
3. 配信ノードとして出力フォルダーを追加します。グリッド線および十字線とともにマウスを使用することで、ノードの位置を揃えることができます。また、**[選択/サイズ変更]** ツールを使用することで、好きなノードを拡大できます。
4. 次の図のように、キャンバスの作業領域をダブルクリックして[プロパティ]パネルを開いた後、ワークフローの名前を指定します。



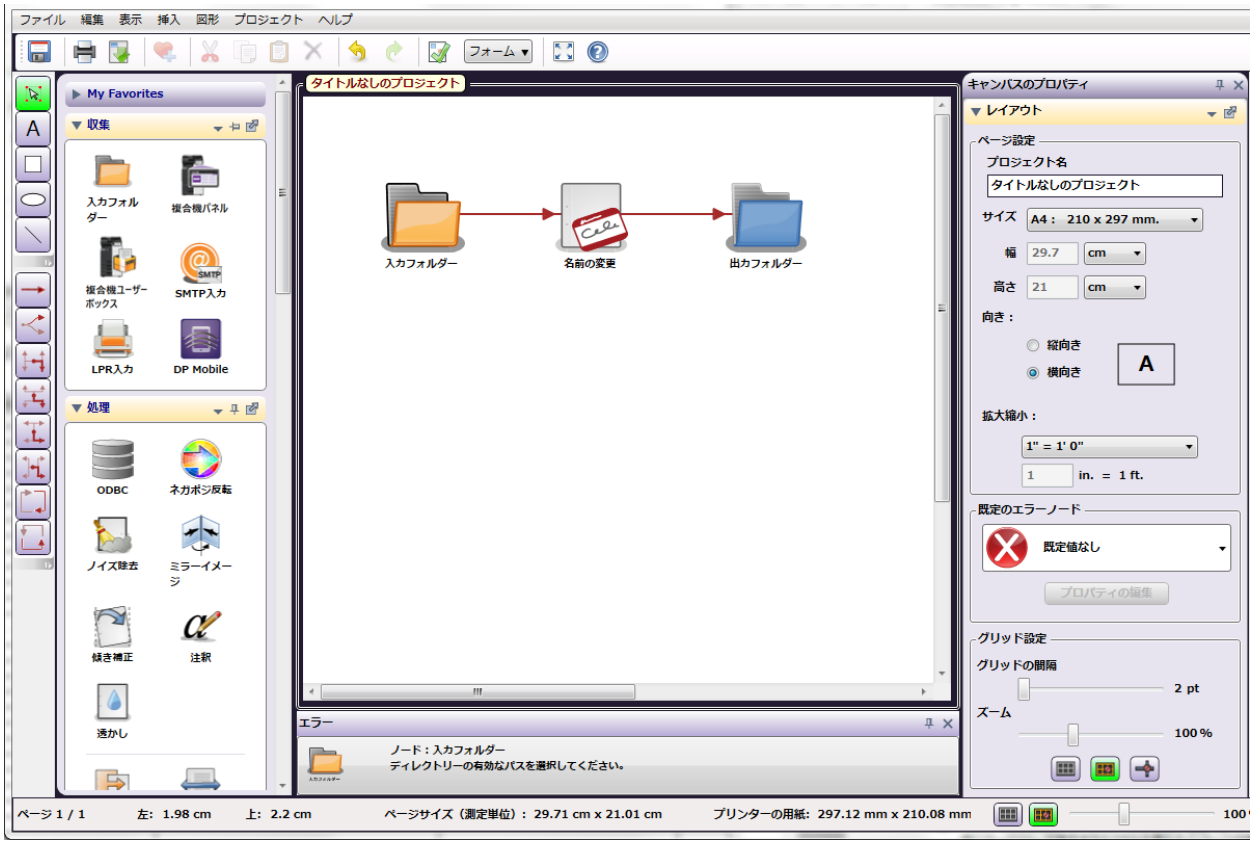
5. **コネクターツール** をクリックした後、**入力フォルダー** をクリックします。その後、マウスボタンを押しながら、最初のノードから次のノードまでコネクターをドラッグします。このようにして、最後のノードまでコネクターを描いていきます。

   描き終わった図面は、3つのノードが接続された次の図のようになります。



6. **[保存]** アイコン ( ) を選択するか、**[ファイル]プルダウンメニュー** から **[保存]** を選んで、ワークフローを保存します。

7. 次の図のように、**[フロー検証]** アイコン ( ) を選択するか、**[プロジェクト]** プルダウンメニューから **[フロー検証]** を選んで、ワークフローを検証します（この検証は、今行っても後で行ってもかまいません）。



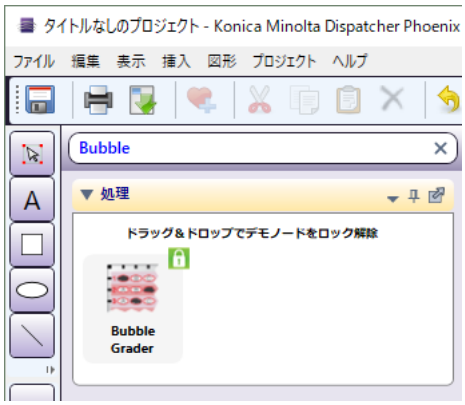
8. ウィンドウを閉じると、ワークフローの有効性が確認できていないことを通知し、ワークフロービルダーを閉じる前にワークフローを修正するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます（名前を指定していない場合、名前を指定するように指示されます。これは、ワークフローを描いただけで、個々のノードを定義していないためです）。

おめでとうございます。基本的なDispatcher Phoenixのワークフローを作成できました。次にワークフローのさまざまな部分を定義しましょう。

ノードの検索

ワークフローに追加したいノードを見つけやすくするために、**[編集]** ドロップダウンメニューから[検索]機能を利用できます。次の操作を行います。

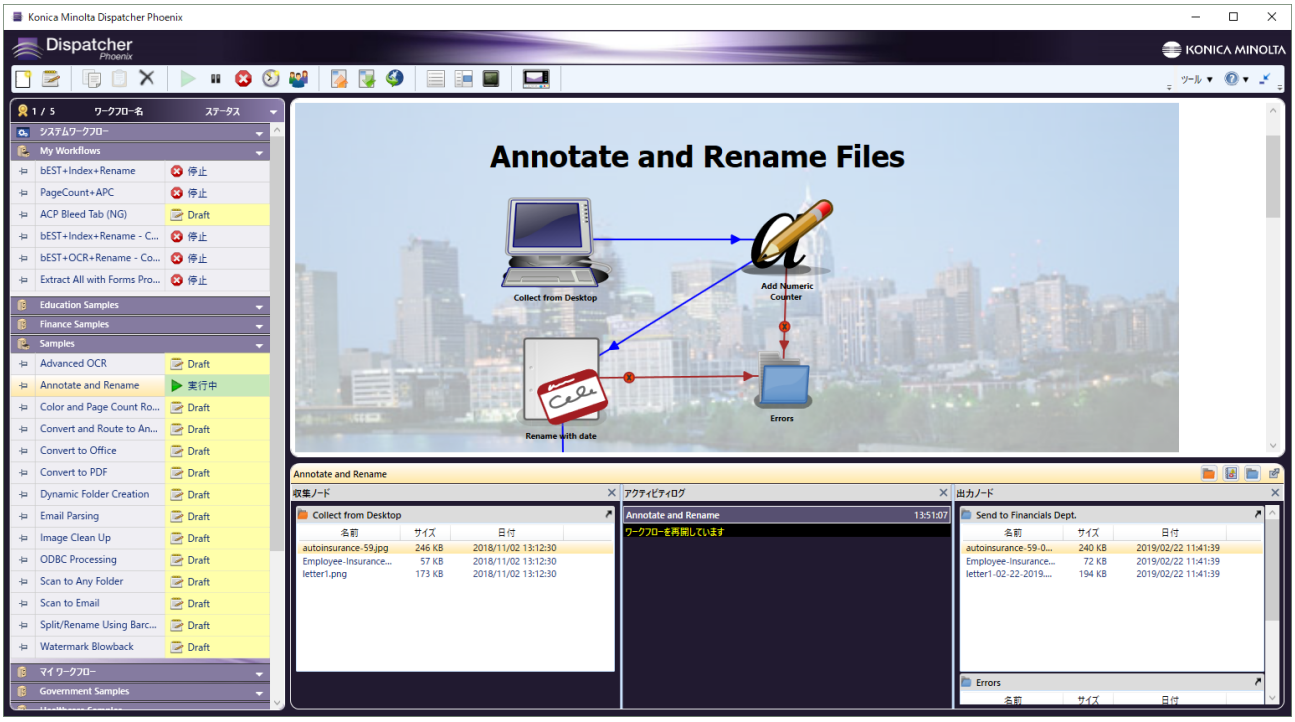
1. 空のフィールドに探しているノード名を入力します。このフィールドには先行入力検索機能が含まれているため、入力を開始すると検索基準に一致するノードパレットが自動的に表示されます。次の例では、ユーザーはBubble Graderノードを検索しています。



2. 全てのノードパレットに戻るには、検索バーの右端にある **[検索のクリア]** ボタンをクリックしてください。

ワークフローの実行

アプリケーションを初めて起動する際には、アプリケーションの使用に慣れるように、サンプルのワークフローが提示されます。画面は、下の図のようになります。



(ワークフローリスト内の)ワークフローの名前の左側に表示されているピンを使用することで、右側の大きいウィンドウでワークフローのステップを表示するか(ピン留めされていない状態、上の図を参照)、小さいビュー(左下)に表示するかを決定できます。

どちらのビューにも表示設定用のツールバーがあり、拡大および縮小、幅に合わせる、ページ全体を表示する、または2ページとして表示する(実際に2ページ以上を使用する大きなワークフローの場合)ことができます。

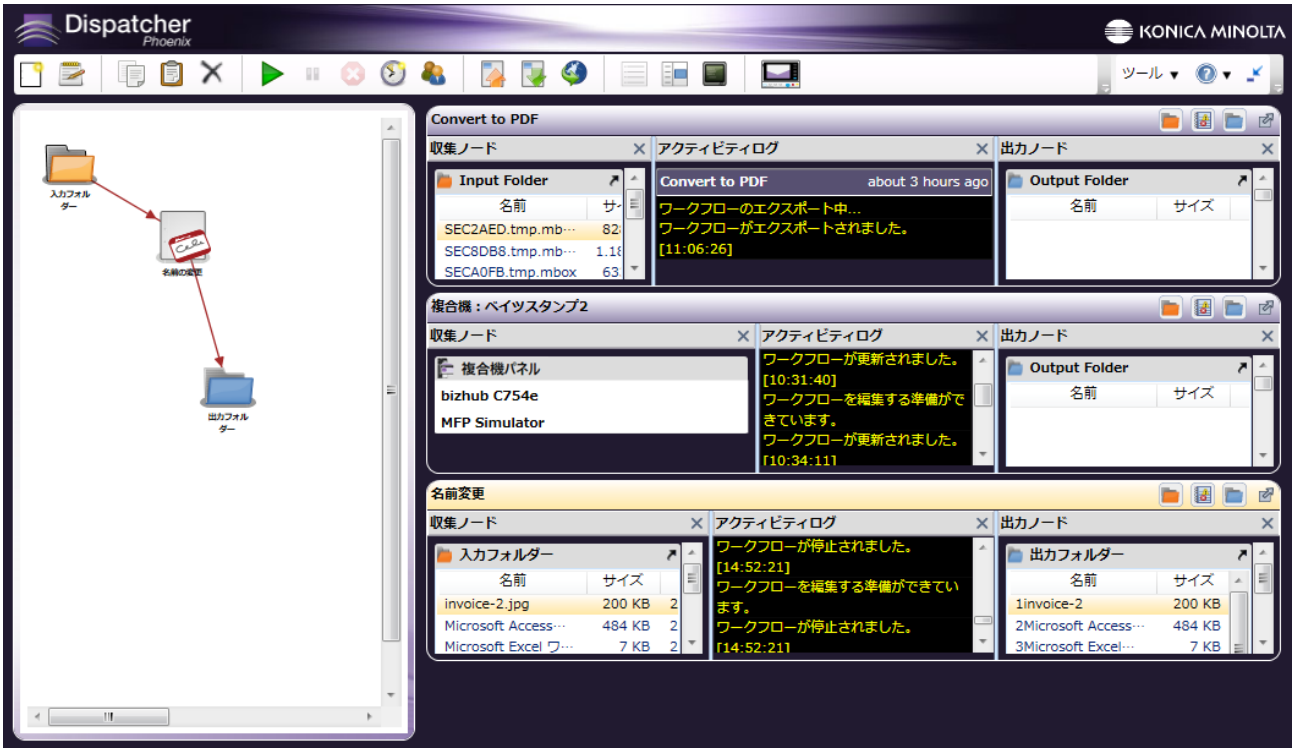
ワークフローリスト、プレビュー、および[アクティビティ]ペイン

(時計アイコンの右側にある)メニューアイコンのすぐ後に、ワークフローリスト、ワークフロー、またはピン留めされたワークフローの[アクティビティ]ペインの表示/非表示を切り替えるための3つのアイコンが用意されています。

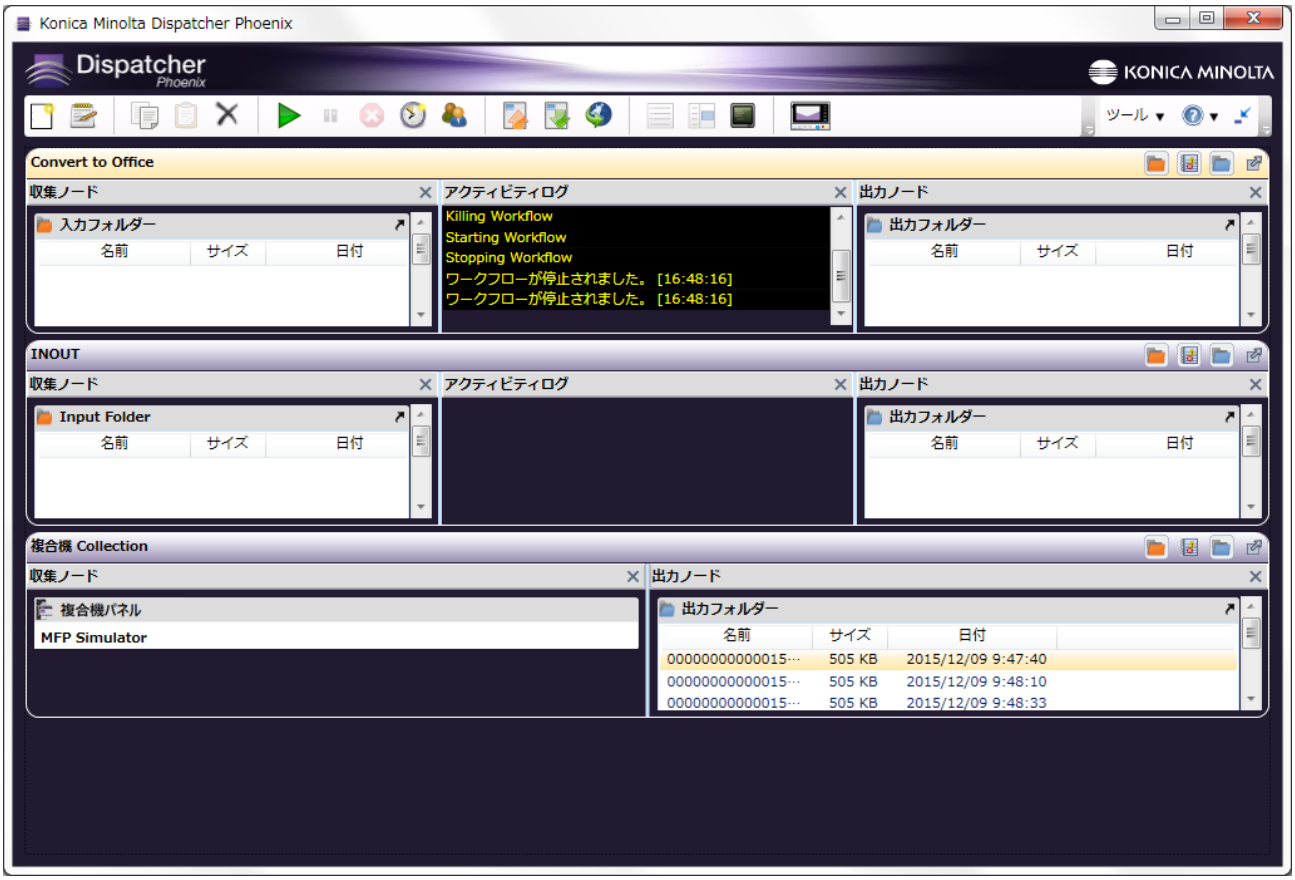
ワークフローリストには、**[ステータス]** 列が含まれています。[ステータス]列には、現在のワークフローの状態が表示されます。[ステータス]には、以下のようなオプションがあります。

- **[Draft]** - ワークフロービルダーでまだ検証されていない新しいワークフローを示しています。
- **[実行中]** - ワークフローはアクティブで実行中です。
- **[停止]** - ワークフローが実行中でないか、実行がスケジューリングされていないことを示しています。
- **[スケジュール済み]** - ワークフローがスケジューリングされ、アクティブになっていることを示しています。
- **[一時停止済み]** - ワークフローが一時停止していることを示しています。

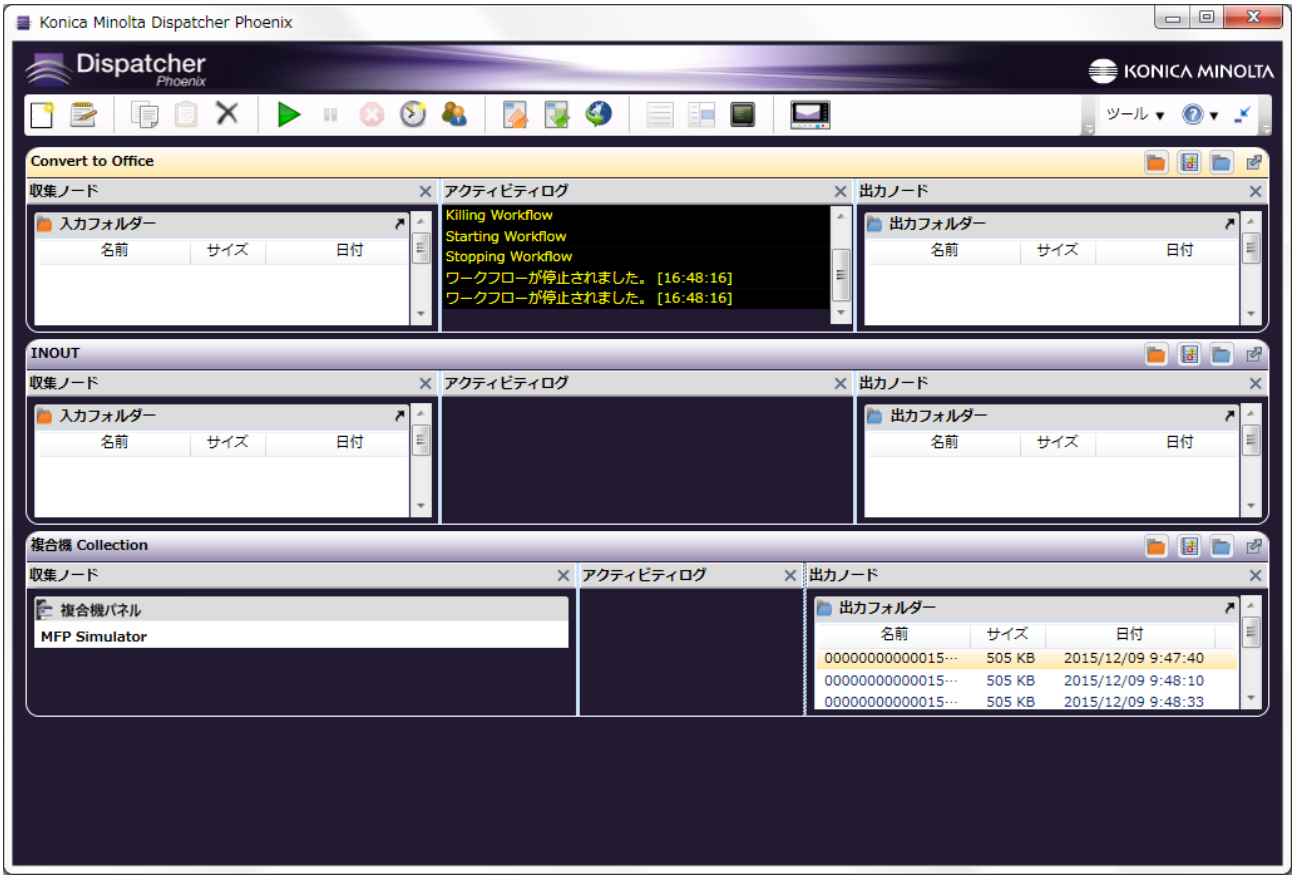
次の例は、ワークフローリストを非表示にした状態のアプリケーションウィンドウを示しています。



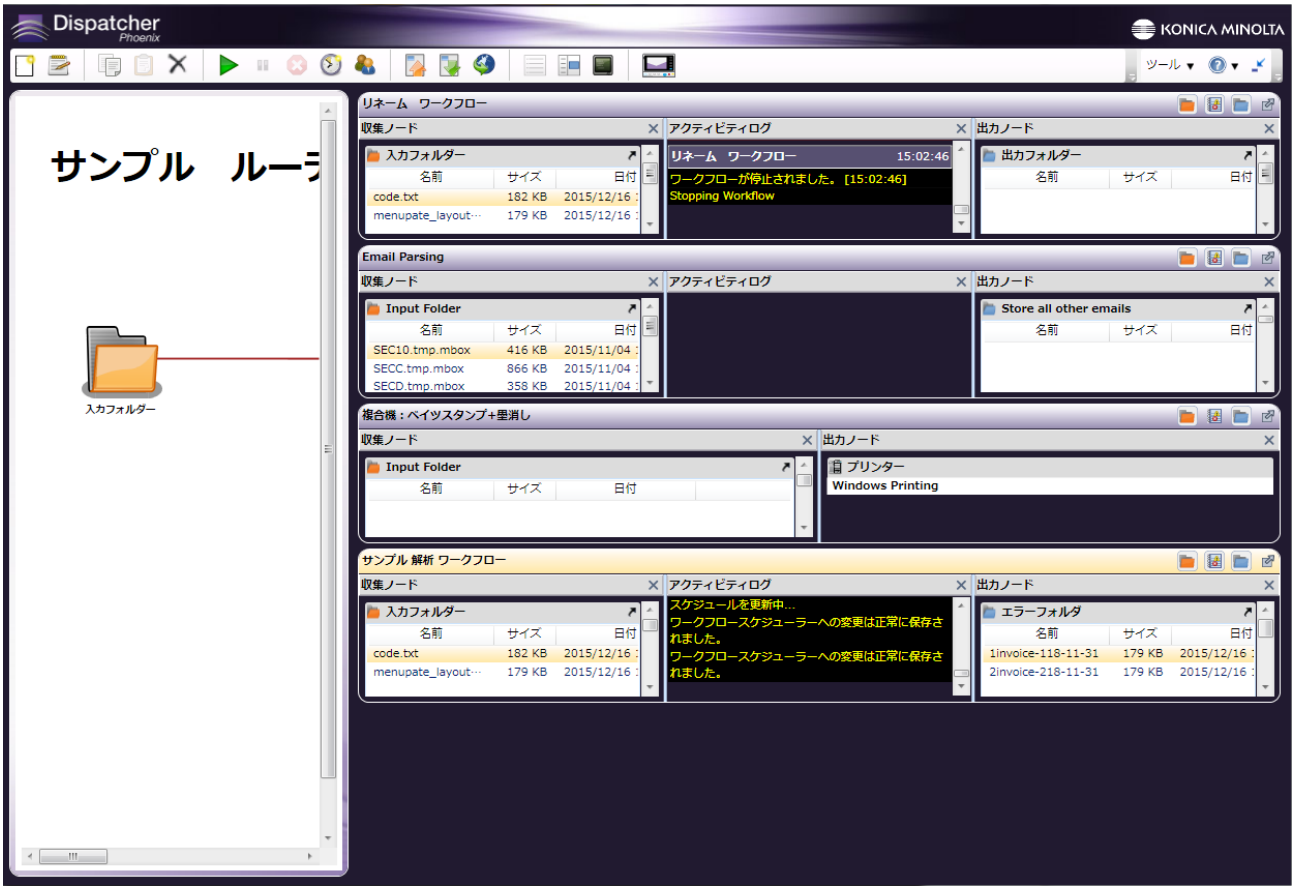
ワークフローをピン留めした後、各ワークフローの[アクティビティ]ペインをスクロールすることで、入力、アクティビティログ、および出力を確認できます。また、希望するサイズになるまで列をドラッグすることで、列の長さや幅を伸ばすこともできます。



各ワークフローの[アクティビティ]ペインの右上にはアイコンが表示されています。最初のアイコンは *入力* の表示を切り替えます。2つ目のアイコンは *アクティビティログ* の表示/非表示を切り替えます。3つ目のアイコンは *出力* の表示を切り替えます。ボックス内から外に飛び出している矢印のアイコンを使用することで、画面上の好きな場所にワークフローの[アクティビティ]ペイン全体を「フロート表示」できます。



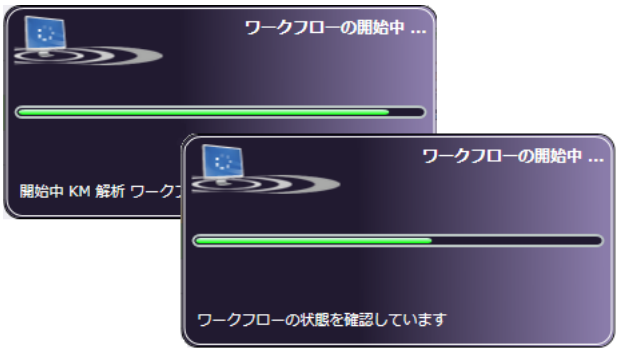
以下の例では、[アクティビティログ]セクションが表示されていません。



有効なワークフローの実行

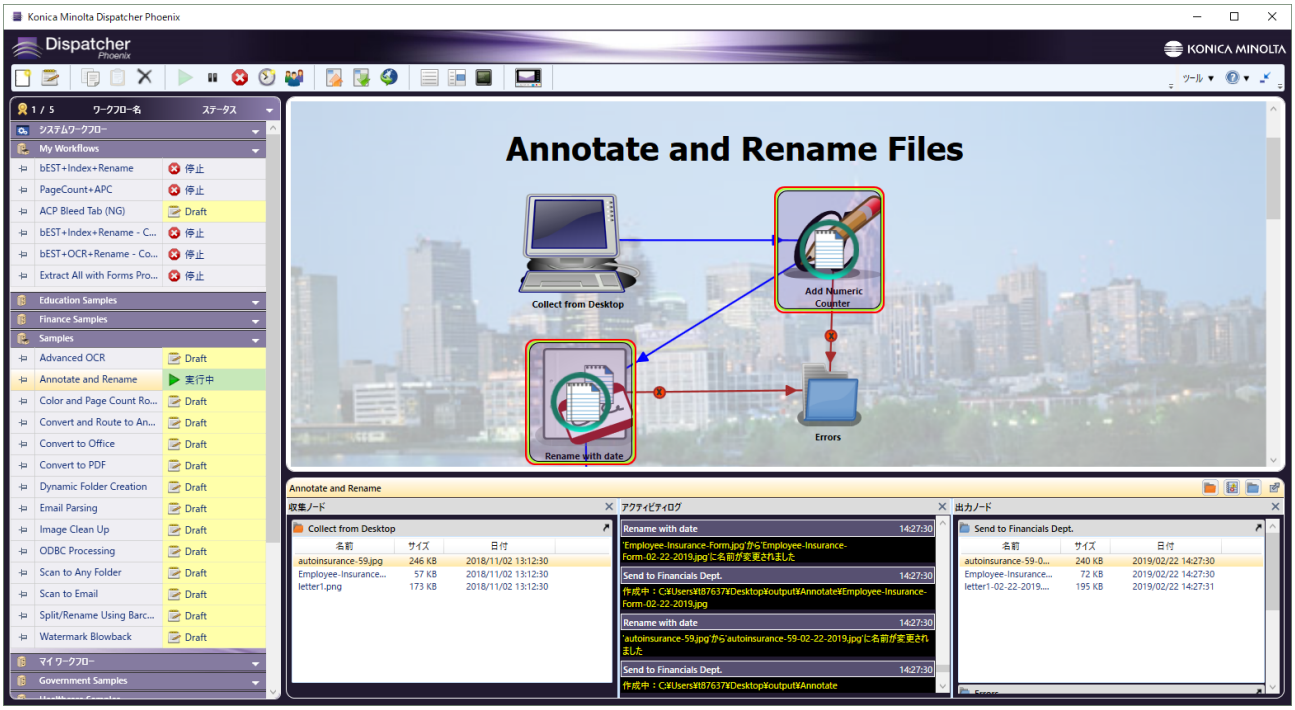
リスト内のワークフローが有効だとわかっている場合は、ワークフローを選択して、**[実行]** アイコン ( )をクリックします。すると、読み込みと検証が行われた後、ワークフローが実行されます。ワークフローが有効な場合、ワークフローのステータスが[実行中]、[処理中]の順に変化します。右側のペインの[アクティビティログ]に、ワークフローで実行中のステップが表示されます。

[実行] アイコン ( )をクリックすると、[ワークフローの開始中]メッセージが表示されます。



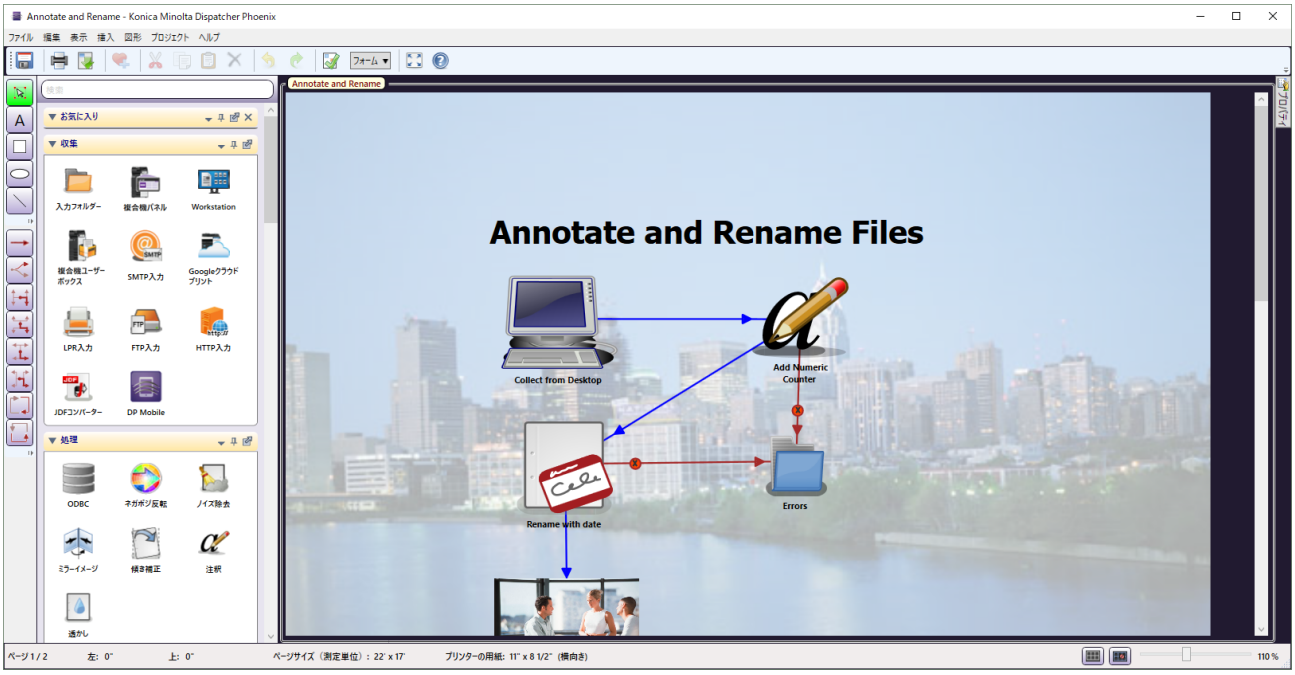
複数のワークフローの実行: 同じフォルダーまたは別のフォルダーにある複数のワークフローを実行するには、ワークフローリストでワークフローを選択してから[ワークフローの開始]アイコンをクリックします。すべてのワークフローが検証後に実行されます。ワークフローのいずれかが検証に失敗すると、リスト内の残りのワークフローも停止します。

次の図は実行中のワークフローを示しています。



ワークフローの編集

停止したワークフローをリスト内でダブルクリックまたは選択してから、**[編集]** アイコンをクリックすると、ワークフロービルダーでそのワークフローが開くので、必要な変更を加えることができます。実行中またはスケジュール済みのワークフローを *編集* するには、まず、そのワークフローの停止または非アクティブ化が必要となります。ワークフロービルダーで選択したワークフローを開いて編集できます。

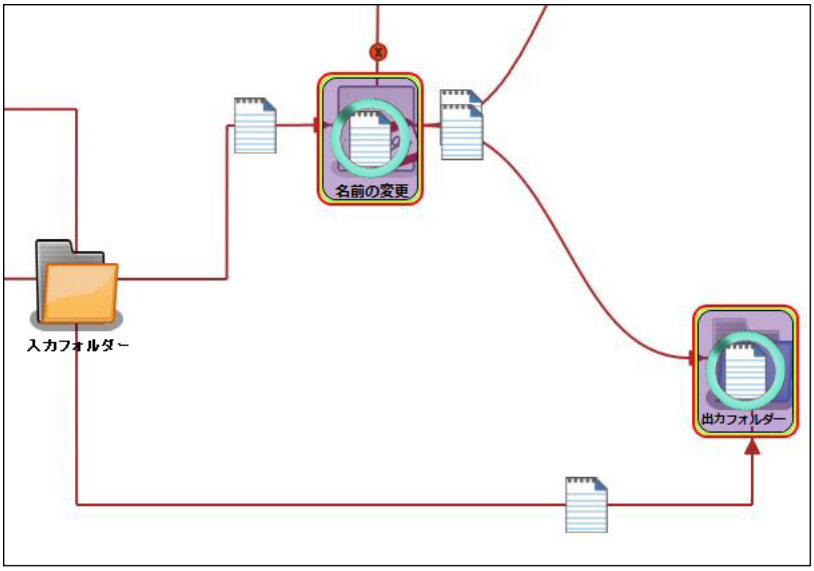


ワークフローの保存

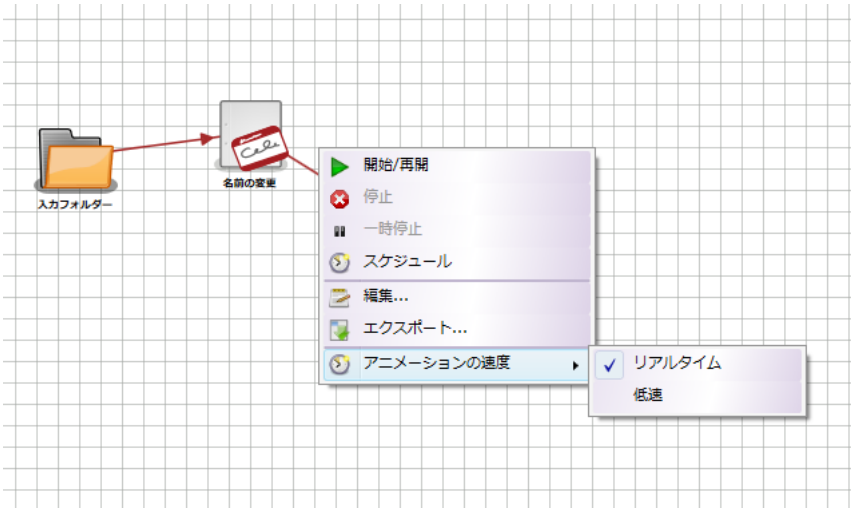
ワークフローを編集した後、**[保存]** アイコンをクリックするか、**[ファイル]** プルダウンメニューで **[保存]** を選択します。ワークフローを保存した後、[ワークフロービルダー]ウィンドウが閉じ、アプリケーションのメイン画面に戻ります。

ワークフローのアニメーション

ワークフローの実行中は、そのワークフローに対して実行中のノードと、ある場所から別の場所に遷移しているファイルを表示できます。すべてのアクティビティは、アプリケーションのメイン画面にあるワークフローペインで表示できます。



注: ワークフローウィンドウが閉じている場合は、アニメーションは表示されません。ただし、アニメーションは表示されていないときは実行されないので、システムリソースを使用しないことにも注意してください。



ワークフローのアニメーションは、リアルタイムまたは低速で表示できます。ワークフローによっては、通常よりも処理負荷が高いことがあります。処理負荷が低いワークフローでは、アニメーションが速く進みすぎて、画面に効果的に表示されないことがあります。ワークフローのアニメーション速度を低下させるには、ワークフローウィンドウを右クリックします。**[アニメーションの速度] > [低速]** の順に選択します。または、**[リアルタイム]** を選択して、アニメーション速度を既定に戻すことができます。

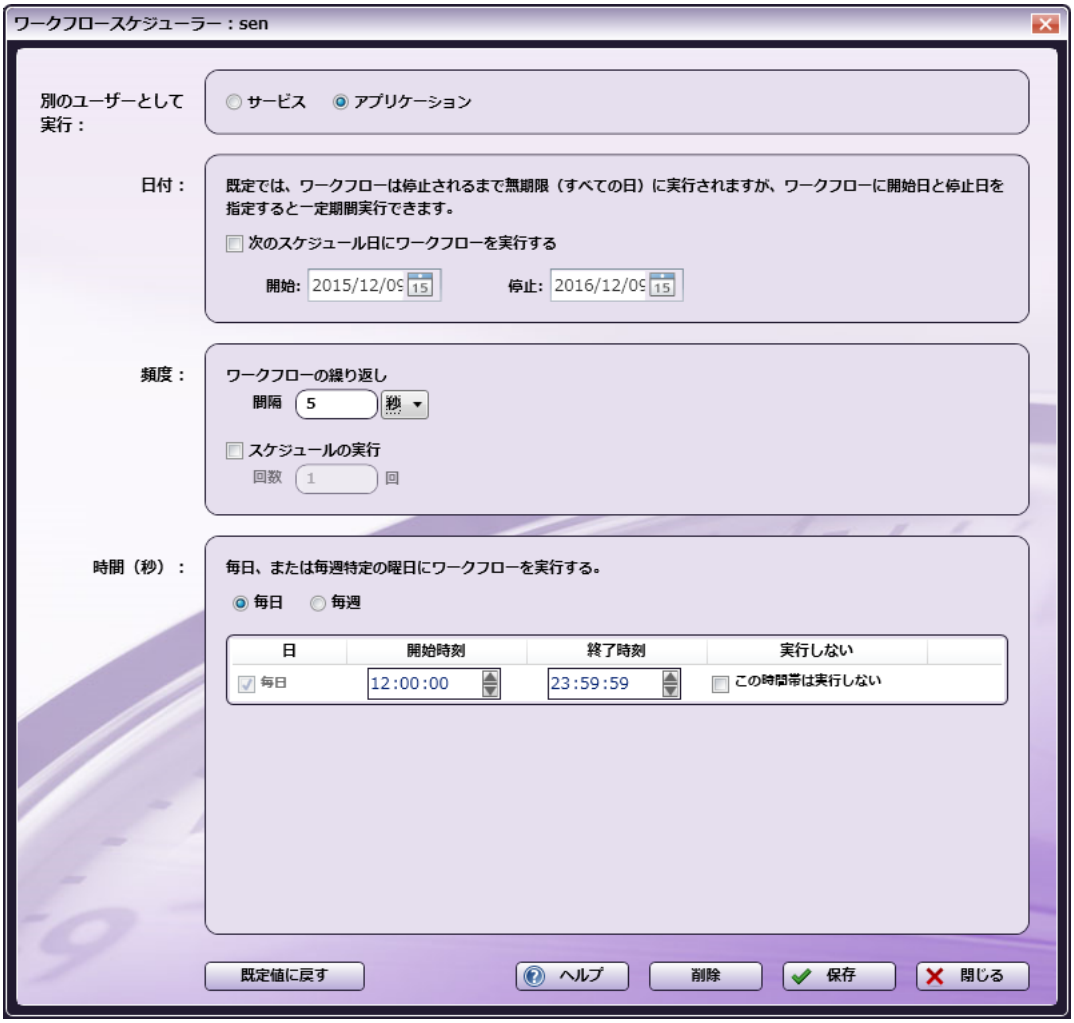
処理負荷が高い場合、またはワークフローの実行中にアニメーションを実行しない場合は、アニメーションの非表示を選択できます。右上の **[ツール]** メニューで **[アニメーションの有効化]** をクリックして、オプションの選択を解除します(チェックマークの表示が消えます)。アニメーションを再び有効にするには、同じ操作を実行して、**[アニメーションの有効化]** の横にチェックマークを再び表示します。

ワークフローのスケジューリング

ワークフローを実行する時刻と頻度をスケジューリングでき、ワークフローをサービスとして実行することもできます。

ワークフローをアクティブにしてスケジューリングするには、ライセンスが必要となることに注意してください。

ワークフローをスケジューリングするには、アプリケーションのメイン画面上部のツールバーにある **[ワークフロースケジューラー]** ボタンをクリックします。次の図で示すように、[ワークフロースケジューラー]ウィンドウが表示されます。



以下の操作を行います。

- **[別のユーザーとして実行]** セクションで、ワークフローの実行方法を指定します。オプションは次のとおりです。
  - PCの電源がオンの間、Dispatcher Phoenixアプリケーションを開いているかどうかにかかわらず、ワークフローを継続して実行するには、**[別のユーザーとして実行]** で **[サービス]** ラジオボタンを選択します。サービスとして実行するワークフローがある場合は、システムトレイにアイコンが表示されます。システムトレイのアイコンをクリックすると、現在、サービスとしての実行が設定されているすべてのジョブのリストが表示されます。ただし、このリストはインタラクティブではなく、アプリケーションは[Open Dispatcher Phoenix(Dispatcher Phoenixを開く)]リンクから開くことができます。コンピューターが再起動された場合は、コンピューターの準備が整い次第、これらのジョブが引き続き実行されます。

注: 日付や時刻を設定しなくても、ワークフローをサービスとして実行できます。

  - ワークフローのスケジュールを設定するには、**[アプリケーション]** ラジオボタンを選択します。
- **[日付]** セクションを使用して、ワークフローの開始日と終了日を指定します。以下の操作を行います。
  - **[次のスケジュール日にワークフローを実行する]** ボックスをチェックします。
  - **[開始]** カレンダーアイコンをクリックして、開始日を選択します。

- **[停止]** カレンダーアイコンをクリックして、終了日を選択します。

注: 新しいスケジュールには、既定で、現在の日付と時刻が表示されます。ただし、以前に保存したスケジュールには、過去の日付である可能性が高い、元の設定の日付と時刻が表示されます。このため、ワークフローを実行する前に日付と時刻の更新が必要な場合があります。

- **[頻度]** セクションを使用して、ワークフローを実行する時間と頻度を指定します。次のことを実行できます。
  - **[次のスケジュール日にワークフローを実行する]** フィールドを使用して、「x」秒、分、または時間ごとにワークフローを実行するように指定します。
  - **[スケジュールの実行]** ボックスをチェックしてその下の空白のフィールドに値を入力することにより、「x」回だけ実行するように指定します。予定した期間内に、一定の回数だけワークフローを実行するようにスケジューリングした場合、Dispatcher Phoenixでは、その期間内にファイルを収集しようと試行します。収集を試行するたびに、**[回数]** の残り回数が減少します。
- **[時間(秒)]** セクションを使用して、ワークフローを毎日、または毎週実行するスケジュールを指定します。以下の操作を行います。
  - ワークフローのスケジュールを毎日で指定するには、**[毎日]** ラジオボタンをクリックしてから、**[開始時刻]** と **[終了時刻]** で2桁の時、分、秒、午前/午後の各フィールドをクリックして、矢印を使用して時刻を変更します。
  - ワークフローのスケジュールを毎週で指定するには、**[毎週]** ラジオボタンをクリックします。[日]ボックスを使用して、ワークフローを実行する曜日にマークを付けます。それから、**[開始時刻]** と **[終了時刻]** で2桁の時、分、秒、午前/午後の各フィールドをクリックして、矢印を使用して時刻を変更します。
  - **[この時間帯は実行しない]:** スケジューリングしたワークフローを実行しない期間を設定するには、**[この時間帯は実行しない]** ボックスをチェックします。たとえば、大規模なジョブをスケジューリングしていて、日常処理を妨げたくない場合は、実行しない時間を午前08:00:00から午後05:00:00の間に設定できます。

注: カウンターは、ワークフローの実行がスケジューリングされた期間の最初に、毎回開始されます。これは、ワークフローを一定の回数実行し、さらに、指定された時間には実行しないというスケジュールの場合は、実行を制限された時間帯が過ぎた後に、カウンターがリセットされるということです。

- スケジューリングのオプションの設定が終了したら、以下の操作を行います。
  - 設定を既定に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを選択します。
  - スケジュールを削除するには、**[削除]** ボタンを選択します。
  - ワークフローのスケジュールを保存して開始するには、**[保存]** ボタンを選択します。
  - スケジュールの定義や保存をしないで、ワークフロースケジューラーを終了するには、**[閉じる]** ボタンを選択します。

重要! Dispatcher Phoenixの初期設定では、午後11:59:59に稼働中のワークフローを停止し、ログをクローズします。続いて午前0:00:00にワークフローを再稼働し、新たな日付でログを生成します。その際、稼働中のワークフローに処理中のジョブが存在する場合、ワークフローを停止、再稼働することにより、処理中のジョブが失われる場合があります。このジョブの消失を回避する為に、処理中のジョブが午後11:59:59より前に処理を完了するようにジョブの投入を制御する必要があります。

インデックスフォームビルダー

インデックスフォームビルダーでは、複合機パネルで使用する対話型のフォームを作成できます。複合機でインデックス作成フォームを使用すると、スキャンしたドキュメントに関する情報を識別したり、変換形式や特定のスキャン先などの追加オプションを選択したりできます。

インデックスフォームビルダーを使用してフォームを設計するとき、以下を定義できます。

- テキスト、数値、パスワードの各フィールド
- チェックボックス
- 以下を表示するドロップダウンリスト
  - カスタム一覧項目
  - フォルダー参照用のルートフォルダーとサブディレクトリ
  - ODBCデータソースからのデータベースエントリー
- 非表示フィールド。複合機には表示されませんが、フォーム上の他のフィールドやワークフロー内のノードが使用する値を格納できます。
- ラベル、セクション見出し、および改ページ

注: 複合機のネイティブユーザーインターフェイス上で動作するインデックスフォームでは、複合機の制限により、フィールドラベルの末尾が表示されないことがあります。

インデックスフォームビルダーへのアクセス

インデックスフォームビルダーには、**複合機パネルノード** 、**ワークフロービルダー** 、または **メインアプリケーション画面** のいずれかからアクセスできます。既存のフォームをワークフローまたは複合機パネルノードにインポートすることもできます。

特定のワークフローに関連付けられていない新しいインデックスフォームの作成

メインアプリケーション画面の[ツール]メニューから[インデックスフォームビルダー]を選択します。空白のインデックスフォームが表示されます。

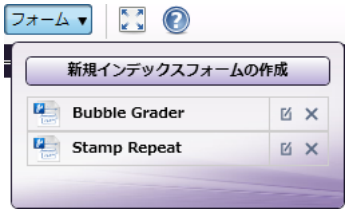
インデックスフォームビルダーのこのインスタンスは、スタンドアロンツールです。このツールを使用して作成されたフォームは、後でワークフローにインポートできます。

特定のワークフローに関連付けられた新しいインデックスフォームの作成

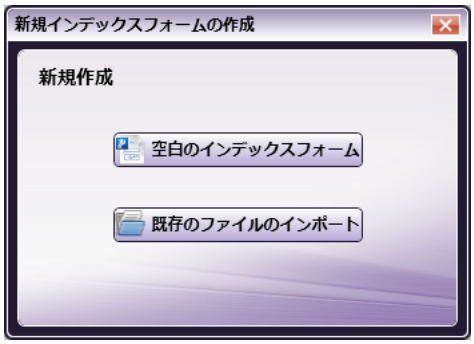
以下の操作を行います。

1. 次のいずれかの操作を行って、インデックスフォームビルダーにアクセスします。

- 複合機パネルノードのプロパティウィンドウで、**[インデックスフォームの添付]** チェックボックスをオンにしてから、**[+]** ボタンをクリックします。[新規インデックスフォームの作成]ウィンドウが表示されます。
- ワークフロービルダーで **[フォーム]** ボタンを選択します。表示されるドロップダウンパレットで、**[新規フォームの作成]** ボタンを選択して新しいフォームを作成します。ワークフローに関連付けられている既存のフォームがあれば、それもドロップダウンパレットに表示されます。次の図に示すように、フォームの横に表示されるアイコンを使用して、これらのフォームを編集したり、削除したりできます。



2. 次の図のように、[新規インデックスフォームの作成]ウィンドウで **[空白のインデックスフォーム]** ボタンを選択します。



既存のインデックスフォームのインポート

既存のインデックスフォーム(*.wfxfファイル)を複合機パネルノードにインポートできます。以下の操作を行います。

- 複合機パネルノードのプロパティウィンドウで、**[インデックスフォームの添付]** チェックボックスをオンにしてから、**[+]** ボタンをクリックします。[新規インデックスフォームの作成]ウィンドウが表示されます。
- [新規インデックスフォームの作成]ウィンドウで **[既存のファイルのインポート]** ボタンを選択します。
- 表示される[開く]ウィンドウで*.wfxfファイルを選択してから、**[開く]** ボタンを選択します。

複合機パネルノードの既存のインデックスフォームの編集

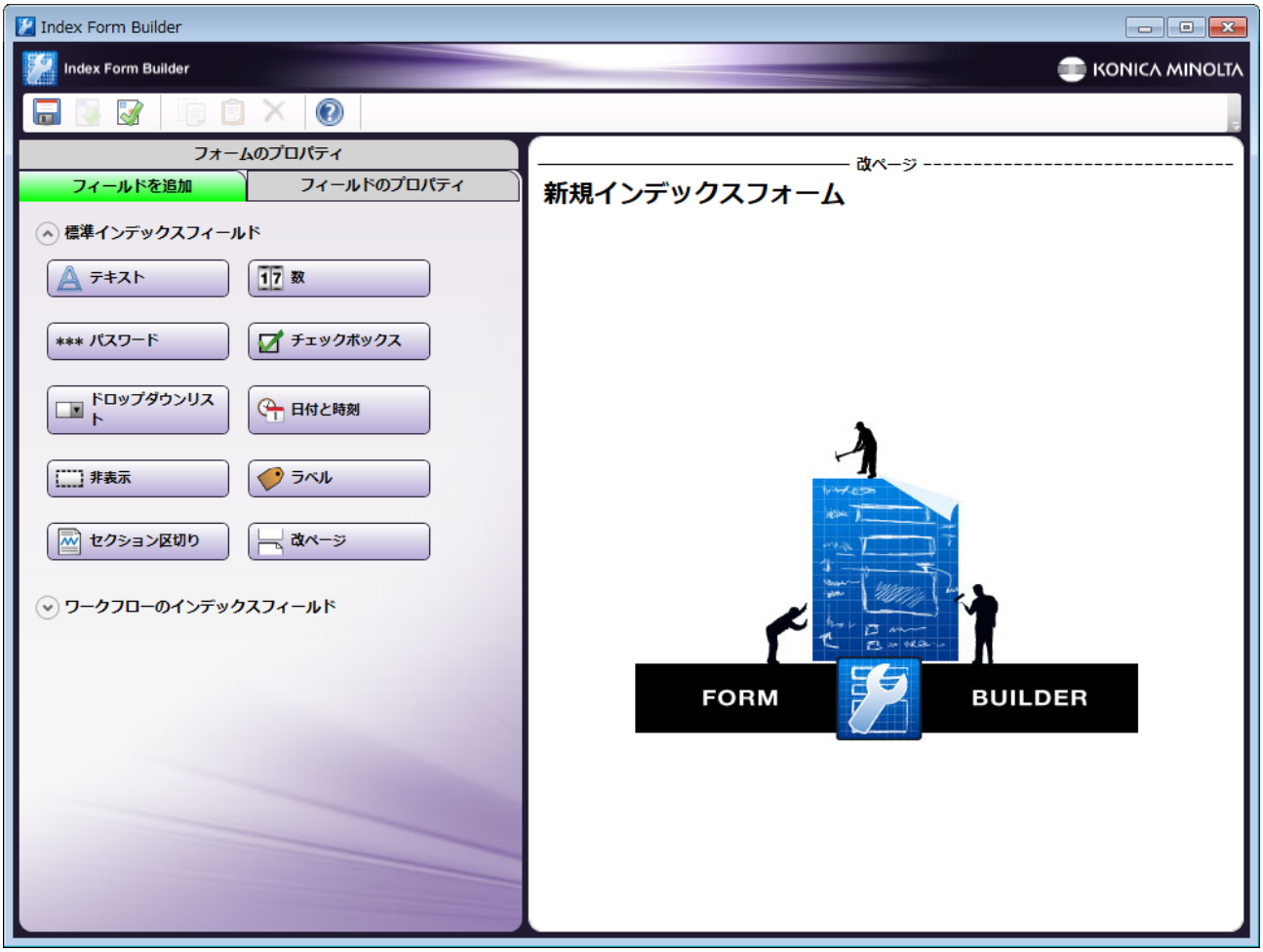
ワークフローに関連付けられている既存のインデックスフォームを編集することもできます。次の *いずれか* の操作を行います。

1. 複合機パネルノードのプロパティウィンドウで、**[インデックスフォームの添付]** チェックボックスをオンにします。
2. ドロップダウンリストから目的のワークフローを選択し、**[編集]** ( )ボタンをクリックします。
3. ワークフロービルダーの **[フォーム]** ボタンを選択し、ドロップダウンリストに表示されている既存のワークフローを選択します。

複合機パネルノードからのインデックスフォームの削除

1. 複合機パネルノードからインデックスフォームを削除するには、複合機パネルノードのプロパティウィンドウで[インデックスフォームの添付]チェックボックスをオンにします。
2. ドロップダウンリストから目的のワークフローを選択し、**[削除]** ( )ボタンをクリックします。
3. 表示される確認ボタンで **[はい]** を選択します。

インデックスフォームビルダーの構成要素



ツールバー

ツールバーを使用して、次の操作ができます。

アイコン	説明
	[新規インデックスフォームの作成]ウィンドウを開きます。このオプションが使用できるのは、Dispatcher Phoenixアプリケーションのメイン画面からアクセスするスタンドアロン型のインデックスフォームビルダーだけです。
	既存のフォームを開きます。このオプションが使用できるのは、Dispatcher Phoenixアプリケーションのメイン画面からアクセスするスタンドアロン型のインデックスフォームビルダーだけです。
	フォームを保存します。フォームは、*.wfxfというファイル拡張子を付けて保存されます。
	フォームをエクスポートします。
	フォームの各フィールドを検証します。検証メッセージが作業領域のエラーリスト領域に表示されます。
	選択したフォームフィールドをコピーします。
	コピーされたフォームフィールドを貼り付けます。
	選択したフォームフィールドを削除します。
	フォームが複合機パネルでどのように表示されるかをプレビューします。
	インデックスフォームビルダーについてのヘルプ情報を表示します。

インデックスフィールド

次のフィールドをフォームに追加できます。

フィールド要素	説明
テキスト	テキストフィールド。ユーザーはドキュメント名やベンダー名など、スキャンしたドキュメントに関するテキストを入力できます。
数	数値フィールド。ユーザーは請求書番号やユーザーIDなどの数値を入力できます。
パスワード	パスワードフィールド。ユーザーはドキュメントに関連付けるパスワードを入力できます。[パスワード]フィールドに入力した文字はすべて自動的にマスクされます。
チェックボックス	チェックボックス。ユーザーはオン/オフを切り替えることができます。たとえば、ドキュメントを検索可能なPDF形式に変換するかどうかをユーザーが選択できます。複合機コントロールパネルでは、サイズの制約により、チェックボックスが2つのボタンとしてパネルに表示されます。
ドロップダウンリスト	ドロップダウンリスト。ユーザーは一覧からアイテムを選択できます。このドロップダウンリストは、フォルダーやデータベースエントリーをあらかじめ自動で入力しておくことができます。または、特定のアイテムからなる一覧を手動で作成することもできます。
日付と時刻	日付/時刻フィールド。ユーザーはスキャンしたドキュメントに日付や時刻を関連付けることができます。
非表示	非表示フィールド。他のフィールドの結果や、ドキュメントに関連付ける必要がある既定値で、複合機ユーザーに表示する必要がないものを格納するときに使用できます。
ラベル	ラベル。フォーム上に表示される静的なテキストです。
セクション区切り	セクション区切り。インデックスフォームを複数の見出しに分割します。
改ページ	改ページ。インデックスフォームを複合機上の複数の画面に分割します。

ワークフローインデックスフィールド

ワークフロービルダーから複合機パネルノードを経由するか、**【フォーム】** ボタンから選択してインデックスフォームビルダーを起動すると、ワークフロー内のノードを表すボタンが **【ワークフローのインデックスフィールド】** セクションに表示されます。これらのボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップすることで、ボタンをフォームに追加できます。たとえば、スキャンしたドキュメントの出力ディレクトリをユーザーが指定できるようにするには、[出力フォルダー]ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。

インデックスフォームで定義できるワークフローインデックスフィールドの1つは、SharePointのフィールドです。SharePointノードのボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップすると、SharePoint構成フィールドの一覧が表示されます。これは、SharePoint配信ノード内の構成フィールドと一致するものです。SharePoint配信ノードがすでに構成されている場合は、インデックスフォームの各フィールドに既定値が入力されます。

開始

新しいインデックスフォームを開くと、空のフォームが[新規インデックスフォーム]という既定のタイトルでワークフローに表示されます。フォームの名前をカスタマイズするには、次の*いずれか*の操作を行います。

- **【フォームのプロパティ】** タブをクリックし、**【フォームのタイトル】** フィールドに名前を入力します。*または*
- インデックスフォームの作業領域で既定のタイトルを選択し、**【ページのタイトル】** フィールドにインデックスフォームの名前を入力します。

作業領域へのインデックスフィールドの追加

フォームにフィールドを追加するには、まずウィンドウの左側に表示されているボタンをインデックスフォームビルダーの作業領域にドラッグアンドドロップします。ボタンをダブルクリックして作業領域に追加することもできます。

次のアイコンが作業領域内のフィールドの横に表示されることがあります。

そのフィールドがワークフローインデックスフィールドであることを示します。

そのフィールドにイベントが関連付けられていることを示します。

作業領域からのインデックスフィールドの削除

作業領域内の各インデックスフィールドは、下に **【削除】** ボタンがあります。インデックスフィールドをフォームから削除するには、**【削除】** ボタンを選択します。次に、表示される確認メッセージで **【はい】** を選択します。

作業領域でのインデックスフィールドの移動

インデックスフィールドの順序を変更するには、作業領域でフィールドをドラッグアンドドロップします。

インデックスフィールドの構成

インデックスフォームビルダーの作業領域でフィールドを選択すると、選択したフィールドのプロパティがウィンドウの左側に表示されます。ここで、フィールドを目的に合わせて構成できます。

インデックスフォームのエクスポート

インデックスフォームをエクスポートして他のワークフローで使用できます。この機能は、ワークフロービルダーから起動するインデックスフォームビルダーでも、スタンドアロン型のツールとして使うインデックスフォームビルダーでも使用できます。インデックスフォームをエクスポートするには、インデックスフォームビルダーのツールバーにある **【エクスポート】**

ボタンを選択します。

注: フォームにワークフローフィールドが含まれている場合、インデックスフォームをエクスポートすると、それらのフィールドが標準インデックスフィールドに変換されます。その旨の警告メッセージがエクスポート処理の完了前に表示されます。

テキストフィールドの追加

フォームにテキストフィールドを追加するには、[テキスト]ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。そのプロパティをカスタマイズするには、新しく作成したテキストフィールドを選択します。

次の操作ができます。

- **[変数名]** フィールドに、ワークフロー内の他のノードやフォーム上の他のフィールドから参照できる、フィールドの内部識別名を入力します。変数名は複合機ではユーザーに表示されません。空白文字は使用できません。空白文字を入力した場合は、アンダースコア(_)に置き換えられます。インデックスフォーム内の変数名はすべて一意である必要があります。

  この変数名は、次の構文を使用して後でワークフロー内の他のノードや他のフィールドから参照できます。{form:[変数名]}(たとえば、変数名が「name」の場合、他のノードでこの変数名を参照するにはこの構文{form:name}を使用します)。

  変数名は、インデックスフォームビルダーの作業領域内のフィールドの右側に表示されます。

- **[フレンドリー名]** フィールドに複合機でテキストフィールドの上に表示されるテキストを入力します。フレンドリー名は複合機で常にユーザーに表示されます。
- **[既定値]** フィールドにフォームの最初のロード時に表示される既定のテキストを指定します。
- **[最小長]** フィールドと **[最大長]** フィールドに入力できる最小と最大の文字数を指定します。
- **[オプション]** 領域では次の指定ができます。
  - **[必須]** - 必須の入力フィールドとして設定します。
  - **[読み取り専用]** - 変更できない読み取り専用のフィールドとして設定します。
  - **[固定]** - バッチ内のすべてのドキュメントのフィールドに値を保持します。
  - **[マスク入力]** - ユーザーが入力するテキストをすべてマスクします。
  - **[複製を許可]** - 複合機パネルでユーザーがフィールドを複製できるようにします。このオプションを有効にすると、インデックスフォームビルダーと複合機コントロールパネルでフィールドの横に **[+]** ボタンが表示されます。複合機ユーザーは、**[+]** ボタンをタップしてフィールドを複製できます。必須フィールドを複製した場合、複合機パネルでは複製したフィールドの横に赤い星印(*)が表示されます。
  - **[メタデータから除外]** - ドキュメントに関連付けられたメタデータとして変数を含めません。
  - **[ヘルプテキストを追加]** - フィールドについてのヘルプ情報を提供します。このヘルプ情報は、ユーザーがフィールドの横のクエスチョンマークをタップしたときに複合機でアクセスされます。このオプションを有効にすると[ヘルプテキストの編集]ボックスが表示され、そこでテキストを入力できます。
  - **[操作ボタンを追加]** - フィールドの横に表示されるボタンを追加します。このボタンが複合機パネルでタップされたときの動作を定義できます。フォームがネイティブユーザーインターフェイスの複合機で表示された場合には、[操作]ボタンが表示されないことに注意してください。この場合、ユーザーがフィールドの内容を変更するときにイベントがトリガーされます。このオプションを有効にすると、[操作ボタンの説明]フィールドのテキストを変更することで、[操作]ボタンに表示されるキャプションの既定のテキストを変更できるようになります。
- **[イベントを追加]** 領域で、フィールドにイベントを関連付けます。

数フィールドの追加

フォームに数値フィールドを追加するには、**[数]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。そのプロパティをカスタマイズするには、新しく作成した数値フィールドを選択します。

次の操作ができます。

- **[変数名]** フィールドに、このフィールドの内部識別名を入力します。変数名は、複合機ではユーザーに表示されません。空白文字は使用できません。空白文字を入力した場合は、アンダースコア(_)に置き換えられます。インデックスフォーム内の変数名はすべて一意である必要があります。

  この変数名は、次の構文を使用して後でワークフロー内の他のノードや他のフィールドから参照できます。{form:[変数名]}(たとえば、変数名が「name」の場合、他のノードでこの変数名を参照するには、この構文{form:name}を使用します)。

  変数名は、インデックスフォームビルダーの作業領域内のフィールドの右側に表示されます。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、複合機で数値フィールドの上に表示されるテキストを入力します。フレンドリー名は、複合機で常にユーザーに表示されます。
- **[既定値]** フィールドに、フォームの最初のロード時に表示される値を指定します。
  - 複合機ネイティブユーザーインターフェイスの場合:既定値を指定しない場合、フィールドには0が入力されます。
  - 複合機グラフィカルユーザーインターフェイスの場合:既定値を指定しない場合、フィールドは空白のままになります。
- **[最小値]** フィールドと **[最大値]** フィールドに、入力できる最小値と最大値を指定します。
- **[オプション]** 領域では、次の指定ができます。
  - **[必須]** - 必須の入力フィールドとして設定します。
  - **[読み取り専用]** - 変更できない読み取り専用のフィールドとして設定します。
  - **[固定]** - バッチ内のすべてのドキュメントのフィールドに値を保持します。
  - **[マスク入力]** - ユーザーが入力するテキストをすべてマスクします。

- **[複製を許可]** - 複合機パネルでユーザーがフィールドを複製できるようにします。このオプションを有効にすると、インデックスフォームビルダーと複合機コントロールパネルでフィールドの横に **[+]** ボタン が表示されます。複合機ユーザーは、**[+]** ボタンをタップしてフィールドを複製できます。必須フィールドを複製した場合、複合機パネルでは複製したフィールドの横に赤い星印(*)が表示されます。
- **[メタデータから除外]** - ドキュメントに関連付けられたメタデータとして変数を含めません。
- **[ヘルプテキストを追加]** - フィールドについてのヘルプ情報を提供します。このヘルプ情報は、ユーザーがフィールドの横のクエスチョンマークをタップしたときに複合機でアクセスされます。このオプションを有効にすると[ヘルプテキストの編集]ボックスが表示され、そこでテキストを入力できます。

- **[イベントを追加]** 領域で、フィールドにイベントを関連付けます。

パスワードフィールドの追加

フォームにパスワードフィールドを追加するには、**[パスワード]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。そのプロパティをカスタマイズするには、新しく作成したパスワードフィールドを選択します。

次の操作ができます。

- **[変数名]** フィールドに、ワークフロー内の他のノードやフォーム上の他のフィールドから参照できる、フィールドの内部識別名を入力します。変数名は、複合機ではユーザーに表示されません。空白文字は使用できません。空白文字を入力した場合は、アンダースコア(_)に置き換えられます。インデックスフォーム内の変数名はすべて一意である必要があります。

  この変数名は、次の構文を使用して後でワークフロー内の他のノードや他のフィールドから参照できます。{form:[変数名]}(たとえば、変数名が「name」の場合、他のノードでこの変数名を参照するには、この構文{form:name}を使用します)。

  変数名は、インデックスフォームビルダーの作業領域内のフィールドの右側に表示されます。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、複合機でパスワードフィールドの上に表示されるテキストを入力します。フレンドリー名は、複合機で常にユーザーに表示されます。
- **[最小長]** フィールドと **[最大長]** フィールドに、入力できる最小と最大の文字数を指定します。
- **[オプション]** 領域では、次の指定ができます。
  - **[必須]** - 必須の入力フィールドとして設定します。
  - **[固定]** - バッチ内のすべてのドキュメントのフィールドに値を保持します。
  - **[複製を許可]** - 複合機パネルでユーザーがフィールドを複製できるようにします。このオプションを有効にすると、インデックスフォームビルダーと複合機コントロールパネルでフィールドの横に **[+]** ボタンが表示されます。複合機ユーザーは、**[+]** ボタンをタップしてフィールドを複製できます。必須フィールドを複製した場合、複合機パネルでは複製したフィールドの横に赤い星印(*)が表示されません。
  - **[メタデータから除外]** - ドキュメントに関連付けられたメタデータとして変数を含めません。
  - **[ヘルプテキストを追加]** - フィールドについてのヘルプ情報を提供します。このヘルプ情報は、複合機でユーザーがフィールドの横のクエスチョンマークアイコンをタップしたときにアクセスされます。このオプションを有効にすると[ヘルプテキストの編集]ボックスが表示され、そこでテキストを入力できます。
- **[イベントを追加]** 領域で、フィールドにイベントを関連付けます。

チェックボックスの追加

フォームにチェックボックスを追加するには、**[チェックボックス]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。そのプロパティをカスタマイズするには、新しく作成したチェックボックスを選択します。

以下の操作ができます。

- **[変数名]** フィールドに、ワークフロー内の他のノードやフォーム上の他のフィールドから参照できる、フィールドの内部識別名を入力します。変数名は、複合機ではユーザーに表示されません。空白文字は使用できません。空白文字を入力した場合は、アンダースコア(_)に置き換えられます。インデックスフォーム内の変数名はすべて一意である必要があります。

  この変数名は、後でワークフロー内の他のノードや他のフィールドから次の構文を使用して参照できます。{form:[変数名]}(たとえば、変数名が「name」の場合、他のノードでこの変数名を参照するには、この構文{form:name}を使用します)。

  変数名は、インデックスフォームビルダーの作業領域内のフィールドの右側に表示されます。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、複合機でチェックボックスの上に表示されるテキストを入力します。フレンドリー名は、複合機で常にユーザーに表示されます。
- **[Trueボタンラベル]** フィールドおよび **[Falseボタンラベル]** フィールドで、複合機に表示されるボタンのラベルをカスタマイズします。
- **[オプション]** 領域では、次の指定ができます。
  - **[既定でオン]** - フォームの最初のロード時に[True]ボタンを自動的に選択します。
  - **[読み取り専用]** - 変更できない読み取り専用のボタンとして設定します。
  - **[固定]** - バッチ内のすべてのドキュメントのフィールドに値を保持します。
  - **[複製を許可]** - 複合機パネルでユーザーがチェックボックスを複製できるようにします。このオプションを有効にすると、インデックスフォームビルダーと複合機コントロールパネルでチェックボックスの横に **[+]** ボタンが表示されます。複合機ユーザーは、**[+]** ボタンをタップしてチェックボックスボタンを複製できます。必須フィールドを複製した場合、複合機パネルでは複製したフィールドの横に赤い星印(*)が表示されません。
  - **[メタデータから除外]** - ドキュメントに関連付けられたメタデータとして変数を含めません。
  - **[ヘルプテキストを追加]** - フィールドについてのヘルプ情報を提供します。このヘルプ情報は、複合機でユーザーがフィールドの横のクエスチョンマークアイコンをタップしたときにアクセスされます。このオプションを有効にすると[ヘルプテキストの編集]ボックスが表示され、そこでテキストを入力できます。

ドロップダウンリストの追加

フォームにドロップダウンリストを追加するには、**[ドロップダウンリスト]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。そのプロパティをカスタマイズするには、新しく作成したドロップダウンリストを選択します。

以下の操作ができます。

- **[変数名]** フィールドに、ワークフロー内の他のノードやフォーム上の他のフィールドから参照できる、フィールドの内部識別名を入力します。変数名は、複合機ではユーザーに表示されません。空白文字は使用できません。空白文字を入力した場合は、アンダースコア(_)に置き換えられます。インデックスフォーム内の変数名はすべて一意である必要があります。

  この変数名は、後でワークフロー内の他のノードや他のフィールドから次の構文を使用して参照できます。{form:[変数名]}(たとえば、変数名が「name」の場合、他のノードでこの変数名を参照するには、この構文{form:name}を使用します)。

  変数名は、インデックスフォームビルダーの作業領域内のフィールドの右側に表示されます。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、複合機でドロップダウンリストの上に表示されるテキストを入力します。フレンドリー名は、複合機で常にユーザーに表示されます。
- **[オプション]** 領域では、次の指定ができます。
  - **[必須]** - 必須の入力フィールドとして設定します。
  - **[読み取り専用]** - 変更できない読み取り専用のフィールドとして設定します。
  - **[固定]** - バッチ内のすべてのドキュメントのフィールドに値を保持します。
  - **[複製を許可]** - 複合機パネルでユーザーがフィールドを複製できるようにします。このオプションを有効にすると、インデックスフォームビルダーと複合機コントロールパネルでフィールドの横に **[+]** ボタンが表示されます。複合機ユーザーは、**[+]** ボタンをタップしてフィールドを複製できます。必須フィールドを複製した場合、複合機パネルでは複製したフィールドの横に赤い星印(*)が表示されません。
  - **[複数選択]** - 複合機ユーザーがリストから一度に複数の項目を選択できるようにします。
  - **[ボタンリスト]** - 複合機パネルでドロップダウンリストの項目をボタンとして表示します。
  - **[メタデータから除外]** - ドキュメントに関連付けられたメタデータとして変数を含めません。
  - **[ヘルプテキストを追加]** - フィールドについてのヘルプ情報を提供します。このヘルプ情報は、複合機でユーザーがフィールドの横のクエスチョンマークアイコンをタップしたときにアクセスされます。このオプションを有効にすると[ヘルプテキストの編集]ボックスが表示され、そこでテキストを入力できます。
  - **[イベントを追加]** 領域で、フィールドにイベントを関連付けます。

リストの項目の手動追加

フォルダーの場所やデータベースエントリーをドロップダウンリストに入力しない場合、以下の操作を行って、ドロップダウンリストに表示する項目を手動で定義できます。

1. **[リスト値]** 領域で、**[+]** ボタンをクリックします。次の図のように空のフィールドが表示されます。

2. **[ラベル]** フィールドに、このリストの項目の「フレンドリー名」を入力します。このテキストは、複合機パネルでユーザーに表示されます。
3. **[値]** フィールドに、このリストの項目の一意の値を入力します。この値はワークフロー内の他のノードで参照できます。

   例:

- **スキャンしたドキュメントを他のフォーマットに変換** スキャンしたドキュメントに対して、Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPointなどの広範なファイル形式からユーザーが選択できるようにします。これを行うには、ファイルタイプそれぞれに対してリストの項目を定義します。Wordの場合、ラベルを「MS Word」に、値を「word」にすることが考えられます。この値は、メタデータ経路指定ノードで参照して、入力ファイルをOfficeに変換ノードに経路指定できます。
- **ディレクトリの制限されたリストへのスキャンをユーザーに許可** フォルダーの参照を使用する代わりに、ドキュメントの配信先として指定できる限られた数の場所を手動で入力できます。ここでも、ラベルを「デスクトップ」などのユーザーのフレンドリーテキストにし、その値を対応するディレクトリのパスにできます。

日付/時刻の追加

複合機パネルでユーザーが日付および時刻を入力するフィールドを追加するには、**[日付と時刻]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。この情報はメタデータとしてファイルに関連付けられます。そのプロパティをカスタマイズするには、新しく作成した日付/時刻フィールドを選択します。

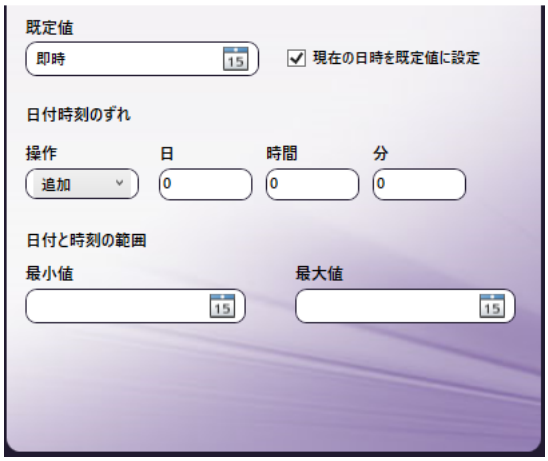
以下の操作ができます。

- **[変数名]** フィールドに、ワークフロー内の他のノードやフォーム上の他のフィールドから参照できる、フィールドの内部識別名を入力します。変数名は、複合機ではユーザーに表示されません。空白文字は使用できません。空白文字を入力した場合は、アンダースコア(_)に置き換えられます。インデックスフォーム内の変数名はすべて一意である必要があります。

  この変数名は、後でワークフロー内の他のノードや他のフィールドから次の構文を使用して参照できます。{form:[変数名]}(たとえば、変数名が「name」の場合、他のノードでこの変数名を参照するには、この構文{form:name}を使用します)。

  変数名は、インデックスフォームビルダーの作業領域内のフィールドの右側に表示されます。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、複合機で日付/時刻フィールドの上に表示されるテキストを入力します。フレンドリー名は複合機で常にユーザーに表示されます。
- **[表示タイプ]** ドロップダウンリストから、収集する情報のタイプを選択します。**[時刻]**、**[日付]**、または **[日付と時刻]** です。
- **[戻り値の形式]** ドロップダウンリストから、インデックスファイルへの書き込みに使用するフォーマットを選択します。このフィールドにフォーマットを直接入力することもできますが、そのフォーマットが有効になるためには既知のフォーマットで入力する必要があります。
- **[既定値]** フィールドで、フィールドの既定値を選択または入力します。**[現在の日時を既定値に設定]** ボックスをチェックすると、現在の日付/時刻が表示されます。カレンダーアイコンをクリックして、ポップアップのカレンダーまたは時計にアクセスできます。



- **[現在の日時を既定値に設定]** チェックボックスをオンにすると、現在の日付/時刻が表示され、**[日付時刻のずれ]** が有効になります。
- **日付/時刻の範囲の[最小値]および[最大値]** フィールドで、カレンダーアイコンを使用してカレンダーまたは時計のポップアップにアクセスし、日付または時刻の最小値および最大値を指定できます。最大値の範囲の外側はスキャンできません。
- **[オプション]** 領域では、次の指定ができます。
  - **[必須]** - 必須の入力フィールドとして設定します。
  - **[読み取り専用]** - 変更できない読み取り専用のフィールドとして設定します。
  - **[固定]** - バッチ内のすべてのドキュメントのフィールドに値を保持します。
  - **[複製を許可]** - 複合機パネルでユーザーがフィールドを複製できるようにします。このオプションを有効にすると、インデックスフォームビルダーと複合機コントロールパネルでフィールドの横に **[+]** ボタンが表示されます。複合機ユーザーは、**[+]** ボタンをタップしてフィールドを複製できます。必須フィールドを複製した場合、複合機パネルでは複製したフィールドの横に赤い星印(*)が表示されません。
  - **[メタデータから除外]** - ドキュメントに関連付けられたメタデータとして変数を含めません。
  - **[ヘルプテキストを追加]** - フィールドについてのヘルプ情報を提供します。このヘルプ情報は、複合機でユーザーがフィールドの横のクエスチョンマークアイコンをタップしたときにアクセスされます。このオプションを有効にすると[ヘルプテキストの編集]ボックスが表示され、そこでテキストを入力できます。
  - **[イベントを追加]** 領域で、フィールドにイベントを関連付けます。

非表示フィールドの追加

フォームに隠しフィールドを追加するには、[非表示]ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。そのプロパティをカスタマイズするには、新しく作成した非表示フィールドを選択します。

非表示フィールドは、一時変数として使用され、インデックスフォームで再使用できる値を格納します。たとえば、いくつかのコネクター(Boxコネクター、SharePointコネクターなど)は、**AuthScheme** 非表示フィールドを使用して、サーバーがサポートしている認証スキームの種類を追跡します。AuthSchemeフィールドは通信用に内部で使用され、ユーザーによる入力は必要ありません。

以下の操作ができます。

- **[変数名]** フィールドに、ワークフロー内の他のノードやフォーム上の他のフィールドから参照できる、フィールドの内部識別名を入力します。変数名は、複合機ではユーザーに表示されません。空白文字は使用できません。空白文字を入力した場合は、アンダースコア(_)に置き換えられます。インデックスフォーム内の変数名はすべて一意である必要があります。

  この変数名は、後でワークフロー内の他のノードや他のフィールドから次の構文を使用して参照できます。{form:[変数名]}(たとえば、変数名が「name」の場合、他のノードでこの変数名を参照するには、この構文{form:name}を使用します)。

  変数名は、インデックスフォームビルダーの作業領域内のフィールドの右側に表示されます。

- **[既定値]** フィールドに、フォームの最初のロード時に表示される値を指定します。

- **[オプション]** 領域では、次の指定ができます。
  - **[固定]** - バッチ内のすべてのドキュメントのフィールドに値を保持します。
  - **[メタデータから除外]** - ドキュメントに関連付けられたメタデータとして変数を含めません。
  - **[イベントを追加]** 領域で、フィールドにイベントを関連付けます。

静的テキストの追加

フォームに静的テキストを追加するには、**[ラベル]** アイコンを作業領域にドラッグします。既定のテキストである[ここにラベルを入力]が表示されます。この新しく作成された要素をカスタマイズするには、これを選択します。**[フレンドリー名]** フィールドでテキストを編集できるようになります。

セクションの見出しの追加

フォームにセクションの見出しを追加するには、**[セクション区切り]** アイコンを作業領域にドラッグします。既定のテキストである[セクション見出し]が表示されます。この新しく作成された要素をカスタマイズするには、これを選択します。**[セクション見出し]** フィールドでテキストを編集できるようになります。また、複合機パネルでユーザーがセクションを複製できるように、**[複製を許可]** オプションを有効にできます。このオプションを有効にすると、インデックスフォームビルダーと複合機コントロールパネルでセクションの横に **[+]** ボタンが表示されます。複合機ユーザーは、**[+]** ボタンをタップしてフィールドを複製できます。必須フィールドを複製した場合、複合機パネルでは複製したフィールドの横に赤い星印(*)が表示されません。

改ページの追加

フォームに新しいページを追加するには、[改ページ]アイコンを作業領域にドラッグします。既定のテキストである[ページのタイトル]が表示されます。この新しく作成された要素をカスタマイズするには、その改ページを選択します。

以下の操作ができます。

- **[変数名]** フィールドに、ワークフロー内の他のノードやフォーム上の他のフィールドから参照できる、フィールドの内部識別名を入力します。変数名は、複合機ではユーザーに表示されません。空白文字は使用できません。空白文字を入力した場合は、アンダースコア(_)に置き換えられます。インデックスフォーム内の変数名はすべて一意である必要があります。

  この変数名は、後でワークフロー内の他のノードや他のフィールドから次の構文を使用して参照できます。{form:[変数名]}(たとえば、変数名が「page1」の場合、他のノードでこの変数名を参照するには、この構文{form:page1}を使用します)。

  変数名は、インデックスフォームビルダーの作業領域内のフィールドの右側に表示されます。
- **[ページのタイトル]** フィールドに、複合機で画面の上部に表示されるテキストを入力します。
- **[オプション]** 領域では、次の設定ができます。
  - **[前へ]ボタンを非表示** - この画面に左矢印を表示しません。
  - **[次へ]ボタンを非表示** - この画面に右矢印を表示しません。
  - **[スキャン]ボタンを非表示** - この画面にスキャンボタンを表示しません。
  - **[ホーム]ボタンを非表示** - この画面にホームアイコンボタンを表示しません。
  - **[戻る]ボタンを非表示** - この画面にこのボタンを表示しません。
  - **ページ番号を非表示** - この画面にページ番号を表示しません。
  - **ヘルプテキストを追加** - フィールドについてのヘルプ情報を提供します。このヘルプ情報は、複合機でユーザーがフィールドの横のクエスチョンマークアイコンをタップしたときにアクセスされます。このオプションを有効にすると[ヘルプテキストの編集]ボックスが表示され、そこでテキストを入力できます。

展開文字列構成

展開文字列構成ウィンドウでは関連付けられたインデックスフィールドの変数の値を展開できます。これに特別な設定は必要ありませんが、展開文字列クエリーのフレンドリー名をカスタマイズするオプションがあります。

フレンドリー名を変更するには、テキストフィールドに新しい名前を入力してから画面上の保存ボタンをクリックしてください。フレンドリー名の変更はインデックスフォームビルダーにすぐに反映されます。

イベントの概要

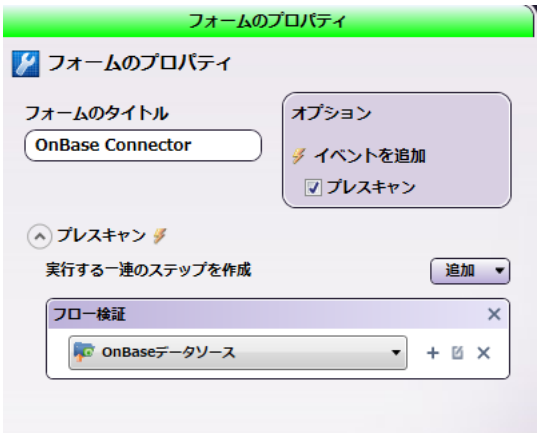
発生するイベントまたは一連のイベントを以下の状況で関連付けできます。

- **[ロード時]** フォームが最初に複合機パネルにロードされるとトリガーされるアクションまたは一連のアクション。
- **[通知時]** フィールドが他のフィールドによって通知されるとトリガーされるアクションまたは一連のアクション。
- **[選択変更時]** 複合機パネルで選択が行われるとトリガーされるアクションまたは一連のアクション。複合機パネルに最初にフォームがロードされるとき、テキストボックスの選択肢をユーザーがアクティブに変更するまで、選択変更イベントはトリガーされません。
- **[プレスキャン]** スキャンボタンが選択されるとトリガーされるアクションまたは一連のアクション。このオプションは **[フォームのプロパティ]** タブから選択でき、SharePointまたはOnBaseのいずれかに入力したキーワードを検証するために使用されます。

プレスキャンイベントの定義

スキャンボタンを選択したときに入力したOnBaseのキーワードを検証するために、フォームのプレスキャンイベントを定義できます。以下の操作を行います。

1. **[フォームのプロパティ]** タブをクリックします。
2. **[オプション]** 領域で **[プレスキャン]** ボックスをチェックします。
3. **[追加]** ボタンのドロップダウンリストから、**[フロー検証]** を選択します。
4. **[+]** ボタンのドロップダウンリストから、**[OnBaseデータソース]** を選択します。
5. OnBaseデータソースを **[OnBaseキーワードの検証]** に設定します。

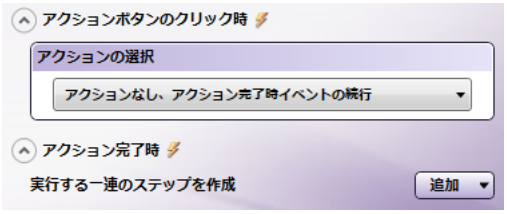


アクションボタンクリック時のイベントの追加

テキストフィールドを定義するとき、フィールドの横にボタンを追加できます。このフィールドを使用すると、ユーザーは、フォルダーまたはデータベースエントリーを参照する、データベースエントリーのリストから選択する、またはテキストフィールドへのユーザー入力に *基づいて* 別のアクションを実行するといった操作を行うことができるようになります。

アクションボタンクリック時のイベントを追加するには、以下の操作を行います。

1. フォームにテキストフィールドを追加します。
2. テキストフィールドのプロパティパネルで、[オプション]の下にある **[操作ボタンを追加]** ボックスをチェックします。次の図のように、空の[アクションボタンのクリック時イベント]ドロップダウンリストが[アクション完了時]ドロップダウンリストと共に表示されます。



3. 以下をこのボタンに関連付けることができます。
   - フォルダーの参照、*または*
   - Windowsエクスプローラーのようなフォルダーの表示、*または*
   - テキストフィールドへのユーザー入力に基づいて今後実行するアクション

アクションボタンのクリック時イベント - ブラウズ

「ブラウズ(参照)」をアクションボタンに関連付けるには、以下の操作を行います。

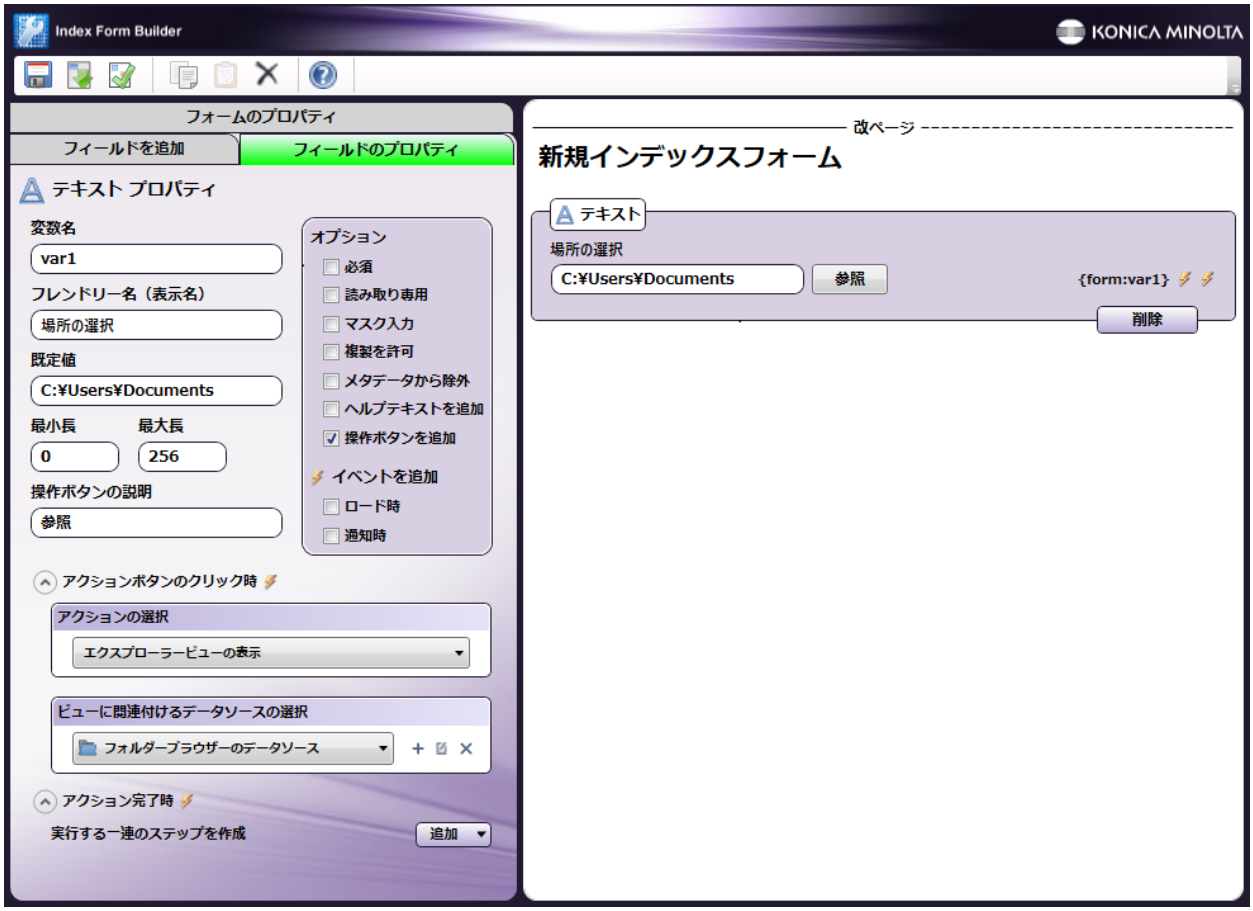
1. [アクションの選択]ドロップダウンリストから、[フォルダーブラウザービューの表示]または[エクスプローラービューの表示]を選択します。
2. **[ビューに関連付けるデータソースの選択]** ボックスの **[+]** をクリックし、**[フォルダーブラウザーのデータソース]** または **[SharePointデータソース]** を選択します。複合機パネルに表示するもの(フォルダー、SharePointライブラリなど)を指定できる特別な構成ウィンドウが開きます。

   例:

   テキストフィールドは以下の属性を使用して定義できます。

   - 「場所の選択」というラベル(テキストフィールドの **[フレンドリー名]** フィールドに「場所の選択」と入力する)。
   - 「参照」というラベルが付けられたアクションボタン(テキストフィールドの[オプション]の下にある **[操作ボタンを追加]** オプションを有効にし、**[操作ボタンの説明]** フィールドに「参照」と入力する)。
   - ルートフォルダー**C:/Users** および既定のフォルダー**C:/Users/Documents** を含むエクスプローラーのブラウザー表示(**[アクションの選択]** ドロップダウンリストから **[エクスプローラービューの表示]** を選択し、**[ビューに関連付けるデータソースの選択]** ドロップダウンリストから **[フォルダーブラウザーのデータソース]** を選択します。[フォルダーブラウザー構成]ウィンドウが開きます)。

   インデックスフォームは次の図のようになります。



複合機パネルでの表示:

複合機パネルでは、画面にテキストフィールドおよび「参照」というラベルが付けられたアクションボタンが表示されます。ユーザーが **【参照】** ボタンをタップすると、別の画面が表示され、既定のフォルダーの下にサブフォルダーが表示されます。ここでは、ClientX、ClientY、およびClientZが既定のフォルダーC:\Users\Documentsのサブフォルダーです。次の図を参照してください。

アクションボタンのクリック時 - アクション完了時

テキストフィールドへのユーザー入力に *基づいて* 実行されるアクションにアクションボタンを関連付けるには、**【アクションなし、アクション完了時イベントの続行】** オプションを選択します。このオプションは、テキストフィールドへのユーザー入力に基づいて他のフィールドまたはドロップダウンリストにデータを入力するために使用されます。たとえば、ユーザーがテキストフィールドに従業員IDを入力して **【アクションボタン】** をタップすると、データベースのクエリーに基づいて、別のフィールドに従業員の姓を入力できます。

以下の操作を行います。

1. [アクションの選択]ドロップダウンリストから[アクションなし、アクション完了時イベントの続行]を選択します。
2. **[アクション完了時]** 領域で、ユーザーがこのフィールドにテキストを入力して **[アクション]** ボタンをタップすると実行される手順を作成します。トリガーは以下のとおりです。
    - **[クエリー]** - データソースでクエリーを設定するために使用します。
    - **[通知]** - インデックスフォームの別のフィールドに特定のアクションまたはイベントを通知するために使用します。
    - **[値の設定]** - ユーザー入力または複合機での選択肢に基づいてフィールドを更新するために使用します。
    - **[リストの設定]** - ドロップダウンリストにデータソースのクエリー結果を入力するために使用します。
    - **[ページに移動]** - 特定のイベントが発生した後にインデックスフォームの別のページを自動的に表示するために使用します。
    - **[アラートの表示]** - 特定のイベントが発生した後に警告メッセージを自動的に表示するために使用します。
    - **[展開セクション]** - 動的に作成したフィールドのプレースホルダーを表示するために使用します(SharePointのキーワードなど)。

    例:

    名前と姓の2列を含むデータベースがある場合、複合機パネルで入力された姓に基づいて、従業員の名前が複合機パネルの別のフィールドに自動的に入力されるようにインデックスフォームを設定できます。

    この場合、姓のテキストフィールド(変数名'last')と名前のテキストフィールド(変数名'first')の2つのテキストフィールドを設定する必要があります。

    'last'テキストフィールドは、以下の属性を使用して定義できます。

    - 「姓」というラベル(テキストフィールドの **[フレンドリー名]** フィールドに「姓」と入力する)。
    - 「調べる」というラベルが付けられたアクションボタン(テキストフィールドの[オプション]の下にある **[操作ボタンを追加]** オプションを有効にし、**[操作ボタンの説明]** フィールドに「調べる」と入力する)。
    - [アクションなし、アクション完了時イベントの続行]オプションを有効化([アクションの選択]ドロップダウンリストから選択する)。
    - アクション完了の後に実行されるODBCデータベースのクエリー(**[アクション完了時]** 領域で **[追加]>[クエリー]** の順に選択し、クエリーにODBCデータソースを選択する)。以下のように、複合機パネルで入力された姓に関連付けられた名前を取得するようにSQLクエリーを設定する必要があります。

    SELECT [first] FROM [customers] WHERE last='{form:last}'

    Where:

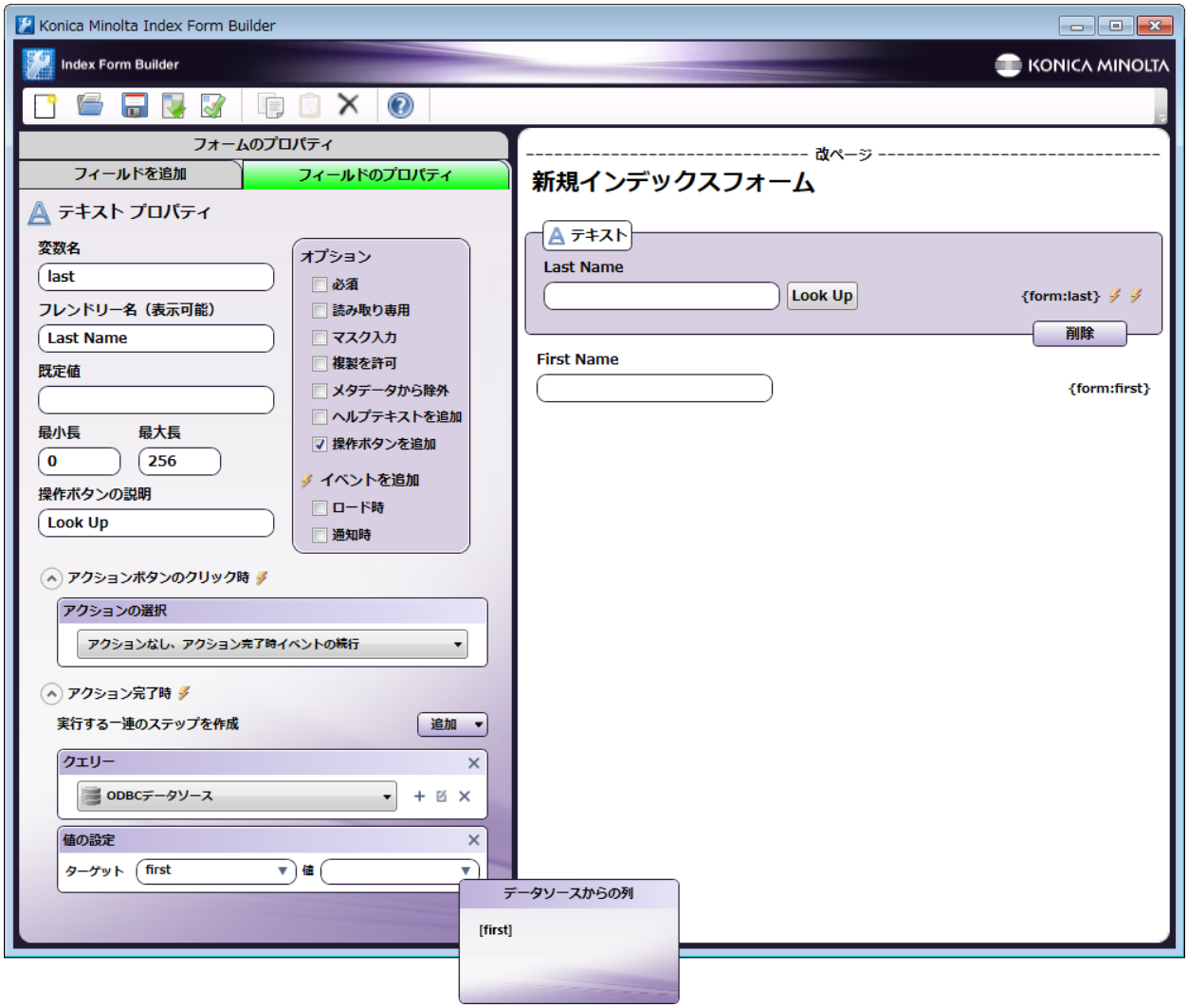
    [first] はすべての名前を含む列の名前です

    [customers] は表の名前です

    last はすべての姓を含む列の名前です

    {form:last} は、複合機で姓として入力された値を参照します。

- 'first'テキストフィールドにODBCデータソースのクエリーから取得した値を入力する **[値の設定]** トリガー。[値の設定]トリガーを定義する場合、[ターゲット]フィールドおよび[値]フィールドの下矢印を使用して、対応する値のフィールドを選択します。次の図を参照してください。



複合機パネルでの表示

複合機パネルでは、画面に2つのテキストフィールドおよび1つのアクションボタンが表示されます。ユーザーが[Last Name]フィールドに姓を入力し、[参照]をタップすると、データベースのクエリーに基づいて[First Name]フィールドにデータが自動的に入力されます。次の図を参照してください。

クエリーの定義

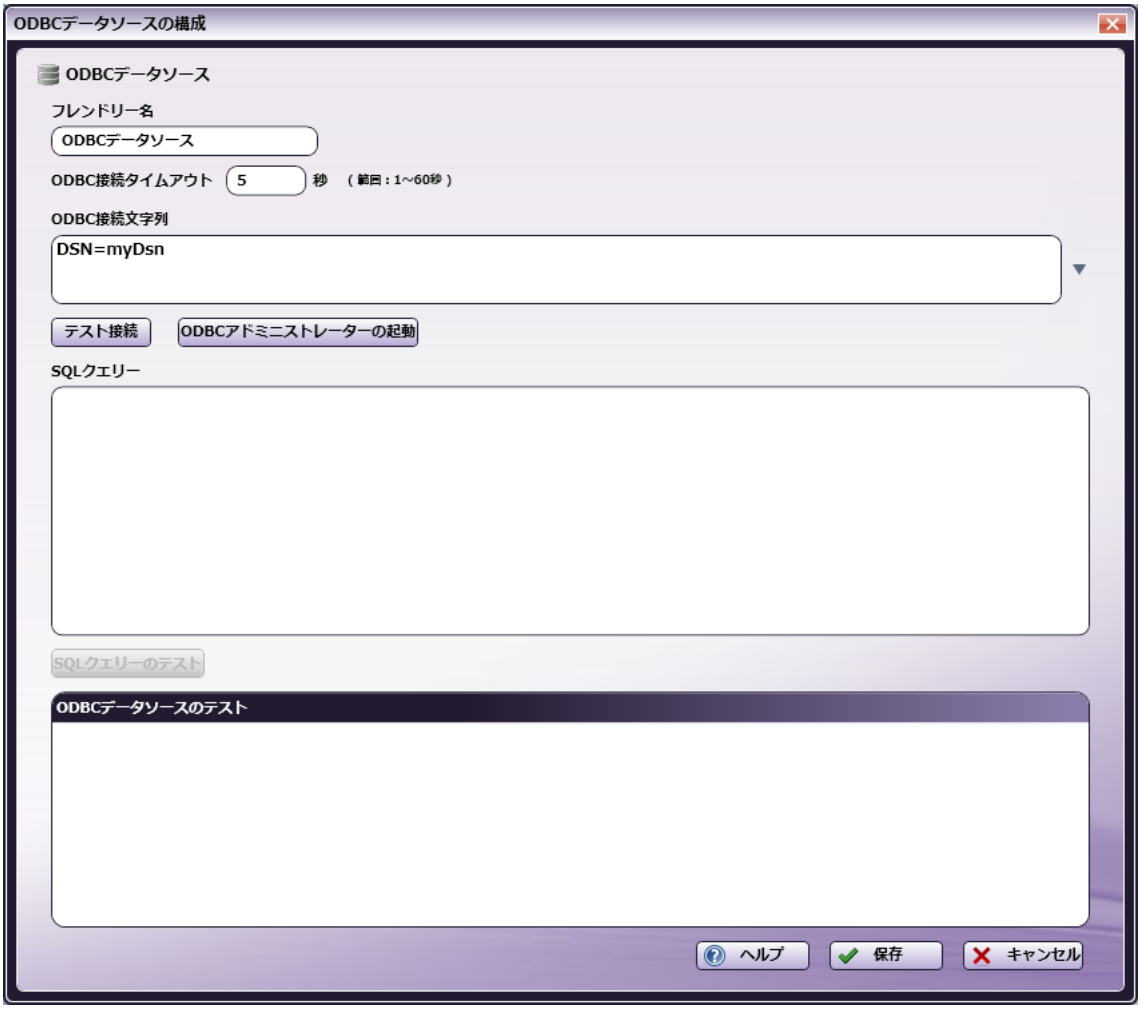
定義できるイベントの1つがクエリーです。次のクエリーを実行できます。

- ODBCデータソース
- LDAPサーバー(電子メール検索)
- フォルダー
- 動的変数
- Microsoft SharePointドキュメント管理システム
- Box.com
- WebDAV サーバー
- Dropbox
- OneDrive
- OneDrive for Business
- Google Drive
- Workshare
- FilesAnywhere
- FileAssist

まず、**[追加]** ボタンから **[クエリー]** を選択し、[クエリー]ボックスで **[+]** アイコンをクリックします。次のオプションを含むメニューが表示されます。

データベース参照 - ODBCデータベース構成

表示された新しい[クエリー]ドロップダウンリストから[ODBCデータソース]を選択すると、[ODBCデータソースの構成]ウィンドウが表示され、ここでデータベースに接続してカスタムのクエリーを実行し、データベースから特定のレコードを取得できます。



このウィンドウで、以下の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、この特定のデータソースクエリーに対する識別名を入力します。
- **[ODBC接続タイムアウト]** フィールドで、接続が確立されるまでの時間(秒)を指定します(この時間が経過すると接続試行は終了します)。
- 目的のデータソースに接続するための接続文字列を **[ODBC接続文字列]** 領域に入力します。アプリケーションには、ユーザーが選択でき、お使いのシステム用にカスタマイズできる既定の文字列のリストが含まれています。**下** 矢印をクリックして、文字列のリストを表示し、そこから選択します。
- 入力した接続文字列が有効であることを確認するには、**[テスト接続...]** ボタンを選択します。
  - 接続が有効な場合は、[ODBCデータソースのテスト]領域にデータが表示されます。
  - 接続が無効の場合は、[ODBCデータソースのテスト]領域にエラーメッセージが表示されます。
- データベースドライバーとデータベースソースを管理するには、**[ODBCアドミニストレーターの起動]** ボタンを選択します。表示されるダイアログボックスの詳細は、Microsoft Windowsのドキュメントを参照してください。
- SQLクエリーをデータソースに送信するには、**[SQLクエリー]** 領域にSQLステートメントを入力します。
- 作成したSQLステートメントがデータソースから適切なレコードを取得することを確認するには、**[SQLクエリーのテスト]** ボタンを選択します。SQLクエリーにはフォーム変数を追加できます。

  例:

  複合機パネルへのフォームのロードが完了したら、値のリストがドロップダウンリストへ自動的に入力されるように、データベースのクエリーを設定できます。

  この場合、ドロップダウンリストのフィールドは以下の属性を使って定義できます。

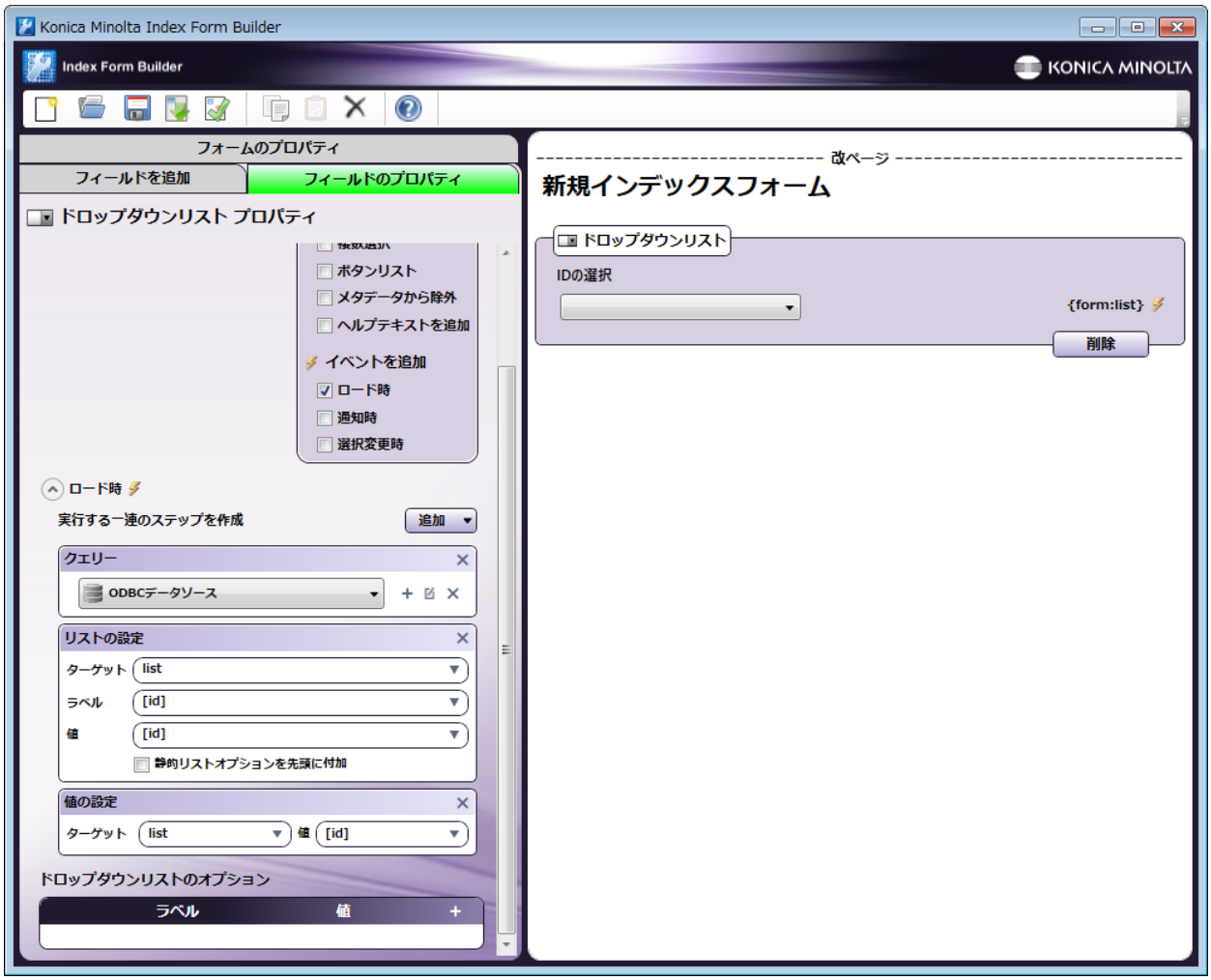
  - 変数名'list'(**[変数名]** フィールドに'list'と入力する)。
  - 「IDの選択」というラベル(**[フレンドリー名]** フィールドに「IDの選択」と入力する)。
  - ロード時イベントを有効化(**[イベントを追加]** 領域の下にある **[ロード時]** ボックスをチェックする)。
  - ODBCデータソースクエリー(**[ロード時]** セクションで **[追加]**、**[クエリー]** の順に選択し、次に **[ODBCデータソース]** を選択する)。SQLクエリーは、次のSQL文を使用して、表の'customers'データ範囲の'id'列を取得します。

  SELECT [id] FROM [customers]

  - **[リストの設定]** トリガー。ドロップダウンリストにクエリーの結果が入力されます。[リストの設定]トリガーを定義する場合、下矢印を使用して、データソースから列名を選択できます。

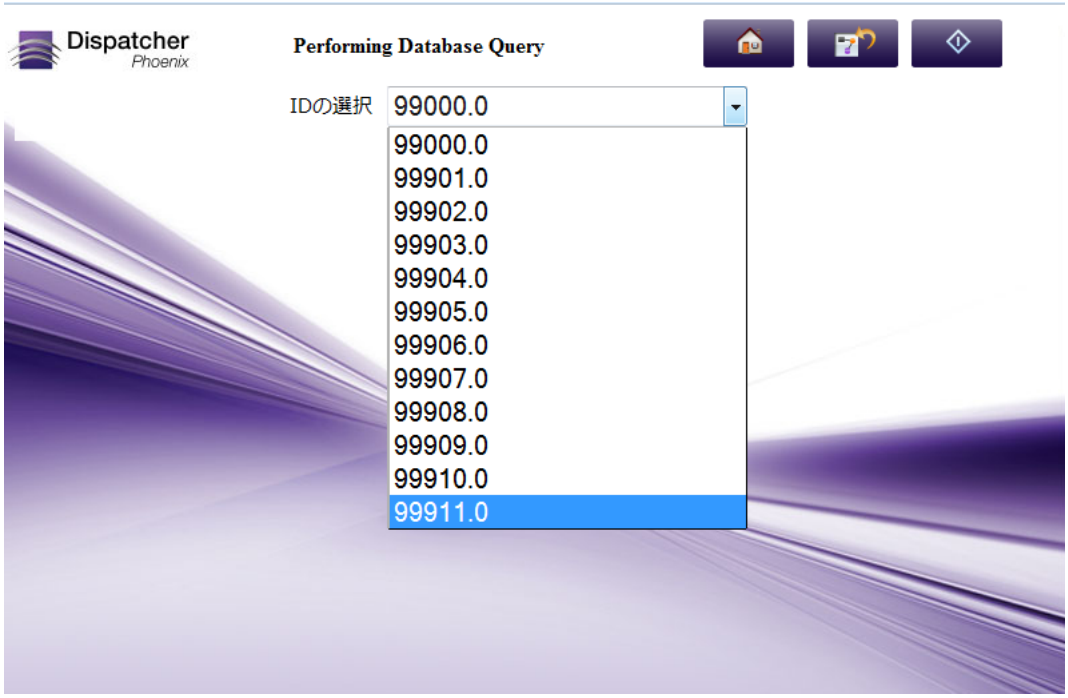
- **[値の設定]** トリガー。フォームが初めてロードされるときにリストの最初の項目を事前選択します。[値の設定]トリガーを定義する場合、下矢印を使用して、データソースから列名を選択できます。

インデックスフォームビルダーは、次の図のようになります。



複合機パネルでの表示

複合機パネルには、次の図にあるように、ID番号があらかじめ入力されたドロップダウンリストが表示されます。



複数選択の例:

ドロップダウンリストで「複数選択」オプションを指定した場合、次の図のように、複合機の画面に[追加]が表示され、リストから複数の項目を選択できます。

電子メール検索のためのLDAPクエリーの作成

複合機のパネルでLDAPユーザーの電子メールアドレスを簡単に入力または検索することのできるインデックスフォームを作成できます。これを利用して、スキャンしたドキュメントを電子メールで送信できます。この機能では先行入力がサポートされており、ユーザーがフィールドに入力を開始すると、その内容に基づいてLDAPサーバーから取得された結果が自動的に表示されます。

このLDAP電子メール検索機能を備えた「Scan to Me」機能を作成するには、LDAPクエリーを実行するためのインデックスフォームを構成する必要があります。このLDAPクエリーによって、LDAPディレクトリから電子メールアドレスを検索します。

注: 2010年3月10日、MicrosoftはActive Directoryドメインコントローラーのセキュリティパッチをリリースし、LDAPチャネルバインドとLDAP署名の使用を強制することで特権の昇格の脆弱性に対処しました。この問題に対処するために、Dispatcher Phoenixが拡張されました。次の点に注意してください。

LDAP認証タイプがSIMPLEに設定され、SSLがアクティブ化されていないユーザーの場合、Microsoftのセキュリティ更新プログラムが有効になると、LDAP接続は失敗します。SIMPLE認証タイプを維持したい場合、SSL暗号化を有効にし、信頼できる認証局によって発行された有効なLDAPサーバー証明書がドメインサーバーにインストールされていることを確認する必要があります。このシナリオでは、どちらの証明書検証オプションも機能します。

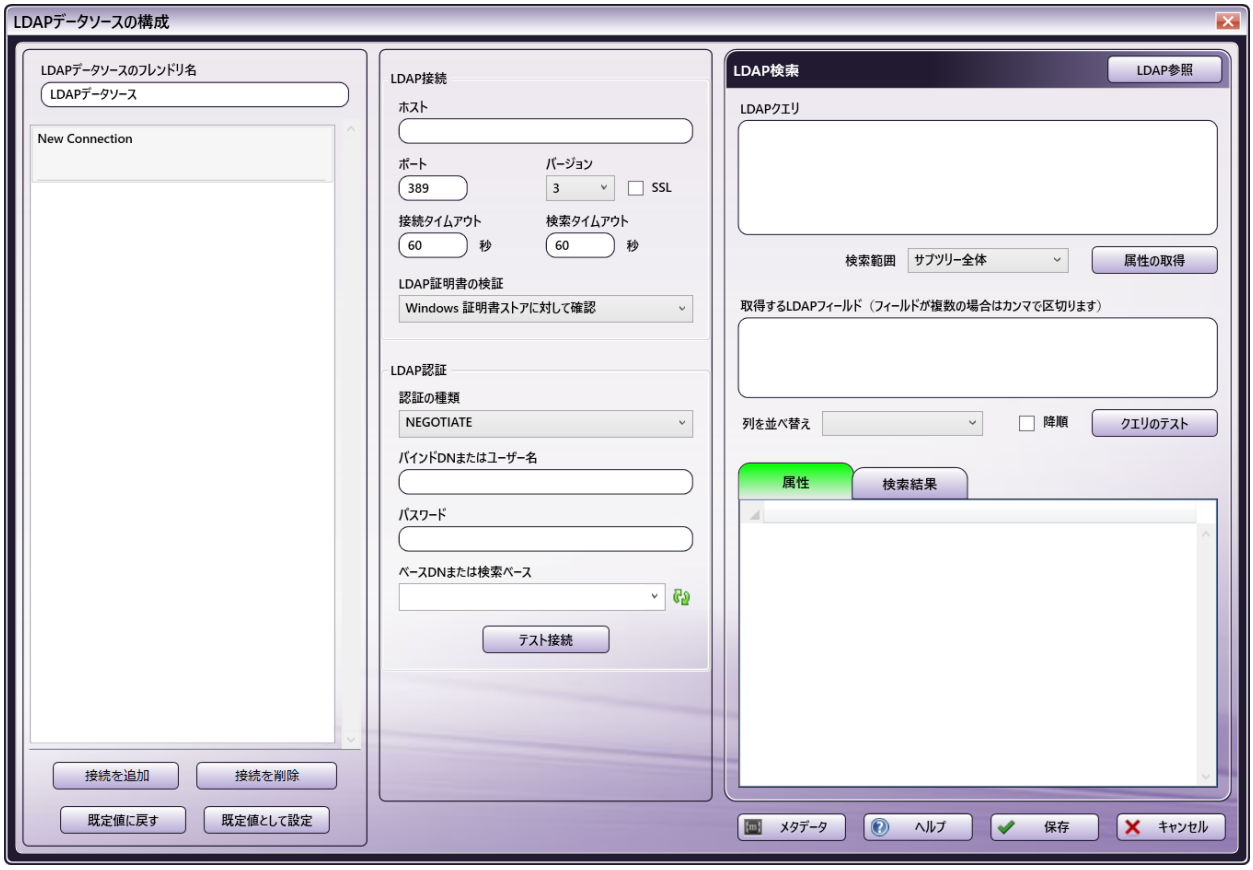
もう1つのオプションは、別の認証タイプを選択することです。これらの認証タイプは、MSセキュリティ更新プログラムが実装された後でも機能します。

注: このMicrosoft Updateは、Workflow Services ManagerおよびDispatcher Phoenix Web カード登録のLDAP接続にも影響します。

LDAPデータソースの構成

最初に、LDAPデータソースクエリーをインデックスフォームに追加する必要があります。以下の操作を行います。

1. インデックスフォームビルダーで、キャンバス領域に**テキスト** フィールドをドラッグアンドドロップします。
2. [オプション]の下で、そのテキストフィールドの **[検索を追加]** ボックスをチェックします。[クエリーの検索]フィールドが表示されます。
3. [クエリー]ドロップダウンリストから **[+] (追加)** ボタンを選択し、表示されるドロップダウンリストから **[LDAPデータソース]** を選択します。
4. [LDAPデータソースの構成]ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、LDAPサーバーに接続し、クエリーのパラメーターを設定します。次の図を参照してください。



次のセクションでは、[LDAPデータソースの構成]ウィンドウの設定方法について説明します。LDAPの構成とクエリーが完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

接続

ウィンドウを初めて開くと、利用可能な「新しい接続」が左側の列に表示されます。領域の下部にあるボタンを使用して接続を変更することができます。

- **[接続を追加]** - 新しいLDAP接続を追加します。Dispatcher Phoenixは、最大10の個別の接続をサポートします。
- **[接続を削除]** - 選択したLDAP接続を削除します。
- **[既定値に戻す]** - 選択したLDAP接続を、以前に選択した既定の設定にリセットします。まず **[既定値として設定]** ボタンをクリックする必要があることに注意してください。
- **[既定値として設定]** - 現在の構成を既定として保存します。

LDAP接続

[LDAP接続]領域で、企業のLDAPサーバーに接続するのに必要な情報を入力します。

- **[ホスト]** - LDAPがホストされているサーバーの名前を入力します。
- **[ポート]** - LDAPサーバーのポートを入力します。
- **[バージョン]** - ドロップダウンリストからLDAPのバージョンを選択します。バージョン3(既定の設定)はバージョン1およびバージョン2との後方互換性を備えているため、既定の設定のままにしておくことをお勧めします。
- **[SSL]** - LDAPサーバーとの間でSSLで暗号化された接続が必要な場合は、このボックスを選択します。
- **[接続タイムアウト]** - LDAP接続を確立するための最大秒数を入力します。この時間内に接続が確立されない場合、接続は終了します。
- **[検索タイムアウト]** - LDAPデータを検索するための最大秒数を入力します。

LDAP認証

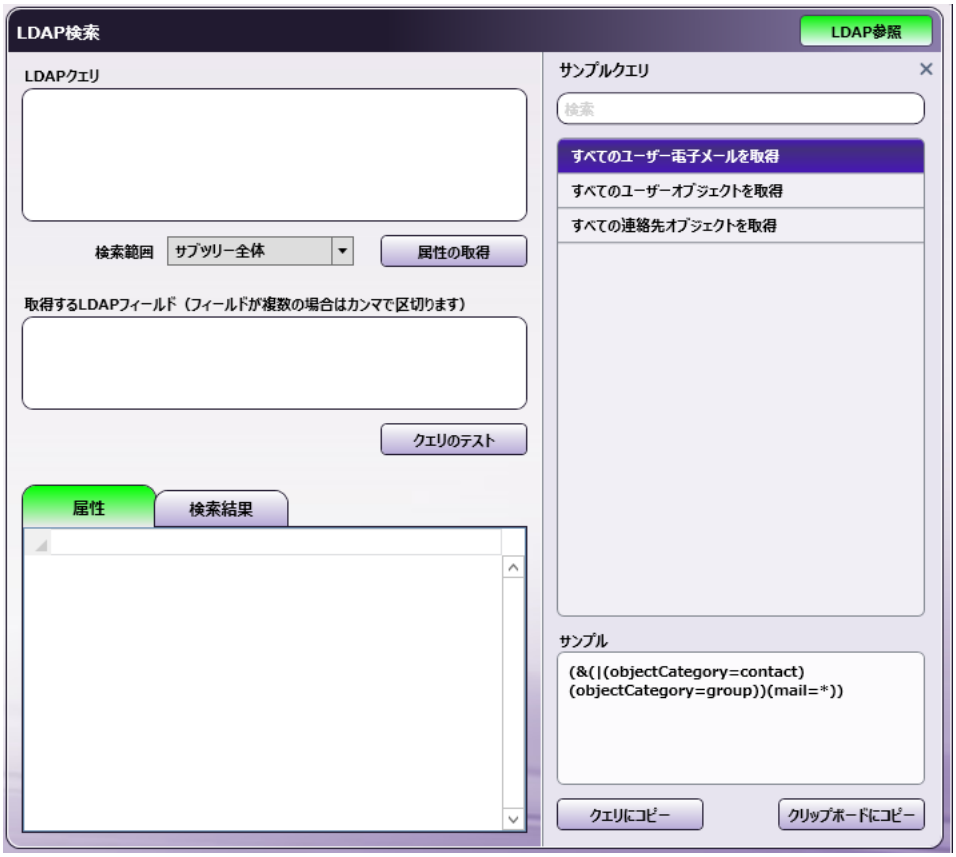
[LDAP認証]領域でLDAPアカウント情報を入力し、接続をテストします。次の手順に従ってください。

1. **[認証の種類]** ドロップダウンリストから、LDAP接続の認証の種類を選択します。既定は[NEGOTIATE]であり、これは接続でMicrosoft Negotiate認証が使用されることを意味します。
2. **[バインドDNまたはユーザー名]** フィールドに、LDAP接続で認証されるユーザーのユーザー名を入力します。
3. **[パスワード]** フィールドに、このLDAPユーザーアカウントに関連付けられているパスワードを入力します。
4. **[ベースDNまたは検索ベース]** フィールドの横の **[最新の情報に更新]** ボタンをクリックします。入力した認証資格情報が正しい場合は、**[ドメイン]** フィールドと **[ベースDNまたは検索ベース]** ドロップダウンのいずれか、またはその両方のフィールドに自動的にデータが表示されます。その場合、**[ベースDNまたは検索ベース]** ドロップダウンリストから適切な検索開始点を選択できます。
5. **[テスト接続]** ボタンを選択し、入力した接続/認証の詳細情報に基づいてLDAP接続をテストします。

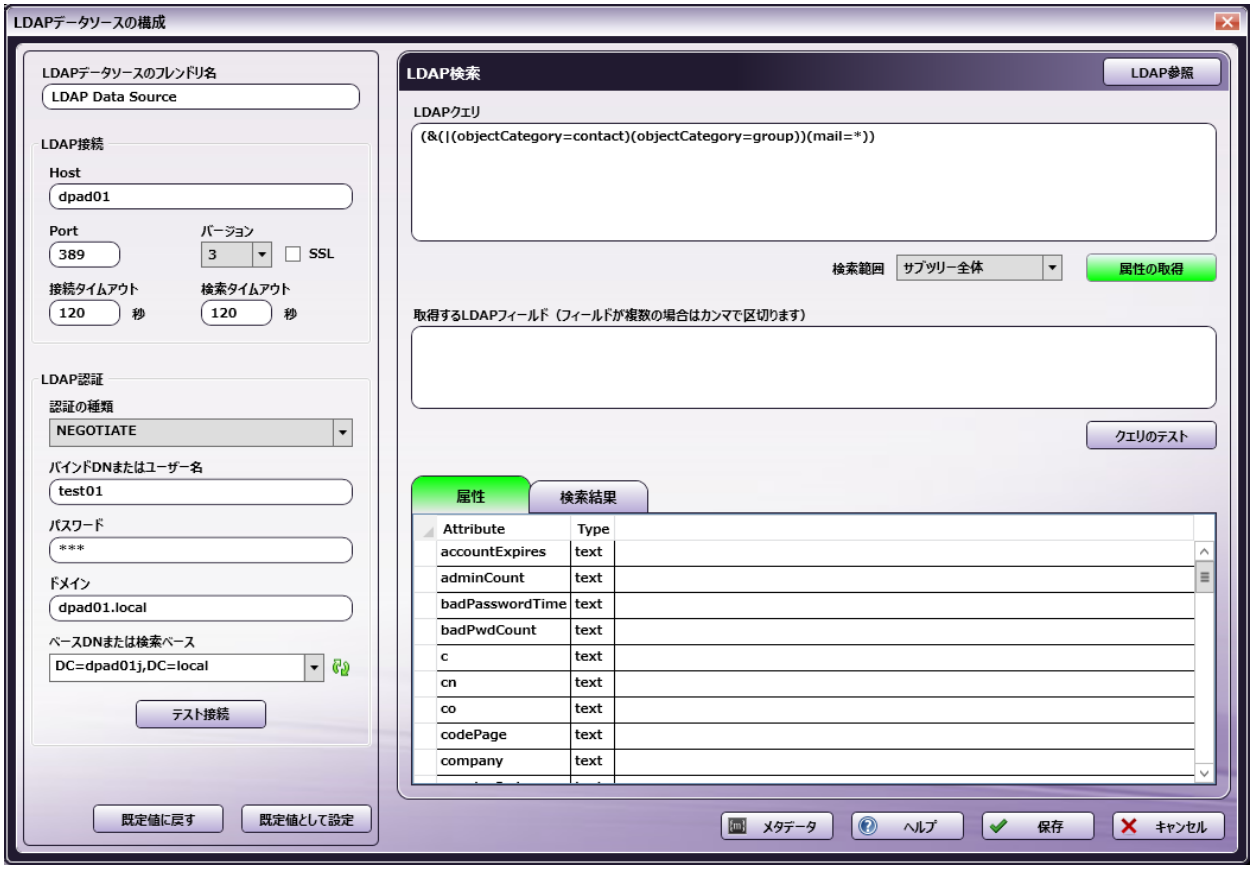
LDAPクエリー

[LDAPクエリー]領域で、検索に使用するLDAPクエリー検索文字列を入力します。複合機に入力した内容に基づいて、ディレクトリから電子メールアドレスが返されます。クエリーを作成するのに役立つ2つのツールがあります。

- **メタデータの追加:** クエリーにインデックスフォームのメタデータを追加するには、**[メタデータ]** ボタンを選択します。[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示され、ここで目的のメタデータキーをクエリーにドラッグアンドドロップします。
- **サンプルクエリーの使用:** [LDAPデータソースの構成]ウィンドウでは、サンプルクエリーを参照することができ、クエリーを構成する際にそれを使用できます。サンプルクエリーを参照するには、**[LDAP参照]** ボタンを選択します。サンプルクエリーのリストが表示されます(これらを使用してすべてのユーザー電子メール、ユーザーオブジェクト、または連絡先オブジェクトを取得することができます)。**[クエリーにコピー]** ボタンを選択して、選択したクエリーを[LDAPクエリー]ボックスにコピーできます。また、**[クリップボードにコピー]** ボタンを選択して、選択したクエリーをクリップボードにコピーし、後で貼り付けることができます。詳細は、次の図を参照してください。



- **[検索範囲]** ドロップダウンリストから、データを検索する場所を選択します(サブツリー全体、要求されたエントリのみ、または要求されたエントリの直下のエントリ)。
- **[属性の取得]** ボタンを選択し、入力したクエリーに基づいて検出されたすべての属性を取得します。次の図に示すように、[属性]領域に結果が表示されます。



取得するLDAPフィールド

LDAPクエリーで返された属性を使用して、ユーザーのどの属性を複合機のパネルに表示させるかを選択できます。次のいずれかの操作を行うことができます。

- [取得するLDAPフィールド]ボックスに、LDAP属性を手動で入力します。*または*
- [属性]領域にリスト表示されている項目をダブルクリックします。[取得するLDAPフィールド]ボックスにその項目が自動的に表示されます。

[列を並べ替え]ドロップダウンからオプションを選択して、結果を並べ替えることもできます。このドロップダウンメニューには、**[取得するLDAPフィールド]** に入力された項目が自動的に入力されます。次に、結果が列ごとにグループ化され、英数字で配置されます。**[降順]** チェックボックスを選択すると、表示順序を逆にすることができます。

注: このボックスにリストされている属性は、カンマで区切る必要があります。

クエリーのテスト

作成したクエリーをテストして、LDAPから適切な結果が返されるかどうかを確認できます(このワークフローを複合機で実行する必要はありません)。クエリーをテストするには以下の操作を行います。

1. **[クエリーのテスト]** ボタンを選択します。[メタデータフォーム]ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、作成した[インデックスフォーム]フィールドが表示され、このフィールドに文字を入力してテストを行うことができます。
2. [メタデータフォーム]ウィンドウに適切な文字を入力します。
3. **[OK]** ボタンを選択します。[検索結果]領域にクエリーの結果が表示されます。

検索データグリッドの定義

LDAPデータソースクエリーを構成したら、インデックスフォームに検索時の動作を定義する要素を追加する必要があります。

以下の操作を行います。

1. [LDAPデータソースの構成]ウィンドウを保存し、インデックスフォームビルダーツールに戻ります。
2. **[データグリッド列の検索]** 領域で、**[+] (追加)** ボタンを選択して空の行を追加します。
3. 複合機のインデックスフォームに電子メールアドレスが返されたときに表示する内容を指定します。**[ヘッダー]** フィールドに列の名前を入力し、各列に表示される値を **[値]** フィールドで選択します。選択可能な値は、[LDAPデータソースの構成]ウィンドウの **[取得するLDAPフィールド]** フィールドで属性として指定した項目です。
4. この機能では先行入力検索がサポートされているため、検索処理が開始されるまでに入力する必要のあるテキストの最小の長さの値を、**[lookupをトリガするテキストの最小長]** フィールドに入力します。
5. [検索時]領域で **[値の設定]** の動作を追加し、[ターゲット]フィールドに入力し、指定されたフィールドに値を入力します。

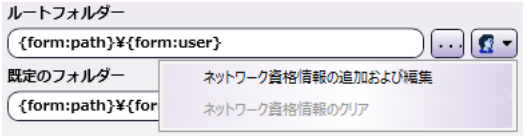
次の例では、ユーザーが[検索]フィールドに1文字以上を入力すると、LDAPから電子メールとユーザー名が返され、複合機に表示されます。選択が行われると、そのLDAPユーザーの電子メールアドレスが[検索]フィールドに表示されます。

フォルダーの参照

表示された新しい **[クエリー]** ドロップダウンリストから **[フォルダーブラウザーのデータソース]** を選択すると、[フォルダーブラウザー構成]ウィンドウが表示され、ここで複合機パネルに表示するフォルダーを選択できます。

このウィンドウでは、以下の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、この固有の構成を識別する名前を入力します。
- **[ルートフォルダー]** フィールドに、複合機パネルに表示するルートフォルダーを入力します。この設定は、指定したルートフォルダーの下のフォルダーだけにユーザーのアクセスを制限します。省略記号ボタンをクリックして、正しいフォルダーを参照して選択してください。
- **[既定のフォルダー]** フィールドに、複合機パネルで既定で選択されるフォルダーを入力します。**[省略記号]** ボタンをクリックして、正しいフォルダーを参照して選択してください。
- ルートフォルダー、既定のフォルダー、およびお気に入りフォルダーを指定すると、ネットワーク資格情報(ユーザー名とパスワード)を入力できます。
- 指定したパスがカスタムパスの場合、そのパスについてネットワーク資格情報を指定できます。たとえば、ネットワーク共有のフォルダーを作成するためにメタデータ変数を使用する場合(\server\data\{email:to} または {form:path}\{form:user}など)、そのフォルダーが動的に作成されていることを保証するためにパスの資格情報を入力できます。
- ネットワーク資格情報の追加または変更を行うには、省略記号ボタンの右側にある **[ネットワーク資格情報]** ボタンを選択し、**[ネットワーク資格情報の追加および編集]** を選択して[ネットワーク資格情報]ポップアップウィンドウを開きます。



[ネットワーク資格情報]ウィンドウでは、ユーザー名を選択して適切なパスワードを入力することができます。

注: ワークフローでは、パスワードが暗号化された形式で保存されます。展開されるパスが絶対パスである場合、ワークフローの実行時にネットワーク資格情報が無視されます。

このフィールドは、パス名の一環としてユーザー名とパスワードも受け入れて保存します。たとえば、「file://test:test@servername/folder/user」と入力すると、ユーザー名とパスワード(test、test)がネットワーク資格情報として使用されます。この場合、ユーザーが指定した任意のネットワーク資格情報([ネットワーク資格情報]ウィンドウで入力されたもの)は無視され、パスワードは暗号化されません。

- **[オプション]** 領域では、以下の操作を行うことができます。
  - **[フォルダー検索の有効化]** ボックスのチェックを外し、複合機パネルでフォルダーを検索するときに既定の先行入力機能を無効にします。
  - **[新規フォルダーオプションの表示]** ボックスをチェックして、ユーザーが複合機パネルに新しいフォルダーを作成できるようにします。*このオプションは、グラフィカルユーザーインターフェイスを実行する複合機だけで使用できます(ネイティブユーザーインターフェイスを実行する複合機では使用できません)。*
  - **[ファイルの表示]** ボックスをチェックして、ルートフォルダーのファイルをすべて表示します。
  - **[お気に入りフォルダーの表示]** ボックスをチェックして、複合機パネルにお気に入りフォルダーのリストを表示します。このオプションを有効にすると、[お気に入りフォルダー]領域はグレーアウトされなくなります。[お気に入りフォルダー]領域の[+]ボタンをクリックし、複合機パネルに表示される「フレンドリー名」を指定し、フォルダーパスを入力(または省略記号ボタンを使用して選択)して、次の図のようにお気に入りの場所を指定できます。

  - **[分割ビューの表示]** ボックスをチェックして、ルートフォルダーとお気に入りフォルダーの両方を複合機パネルに表示します。既定では、[お気に入りフォルダーの表示]オプションが有効になっている場合、お気に入りフォルダーだけが表示されます。
  - 既定では、[ルートフォルダー]フィールドおよび[既定のフォルダー]フィールドでデスクトップを示すには、{fs:DesktopDirectory}変数が使用されます。出力場所がユーザーごとに変わらないようにフルパスだけが指定されるようにするには、**[絶対パスのみを使用]** ボックスをチェックします。

注: このページにフォルダー参照フィールドが1つしかない場合、フォルダー参照クエリーの結果は複合機パネルに自動的に表示されます。このページに複数のフィールドがある場合、複数のフィールドがリストされた画面が表示されます。

注: ファイルまたはフォルダー名が長すぎてディスプレイに収まらない場合、名前は切り捨てられます。

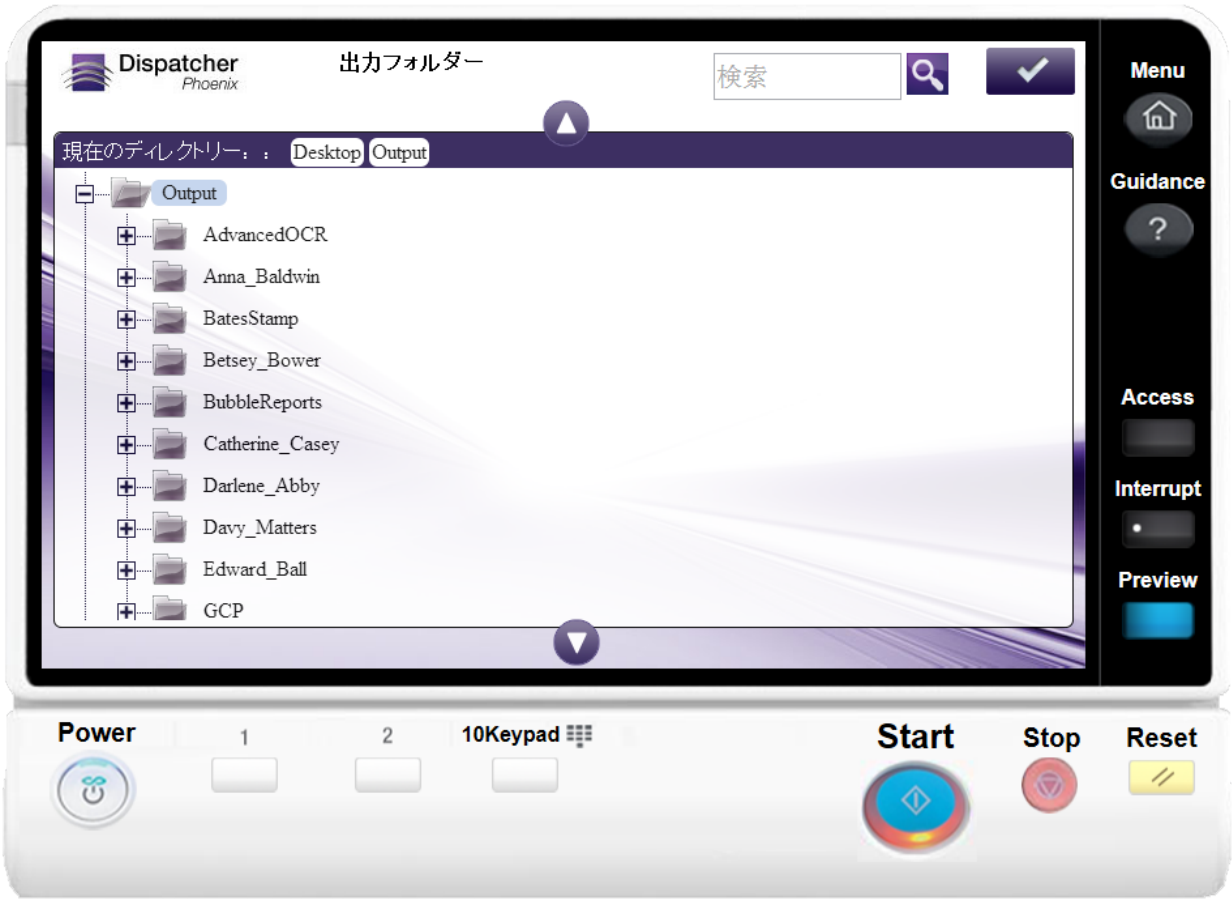
複合機での先行入力フォルダー検索

Dispatcher Phoenixでは、複合機でフォルダーを参照するためのユーザーフレンドリーな操作を提供し、スキャン先のフォルダーを参照する時間を節約するための先行入力機能が用意されています。たとえば、ユーザーが、数千の異なるフォルダーが含まれているディレクトリ内の特定のフォルダーにスキャンしたファイルを経路指定する必要がある場合、そのフォルダー名の最初の数文字を入力して、表示されるフォルダーのリストをフィルター処理できます。

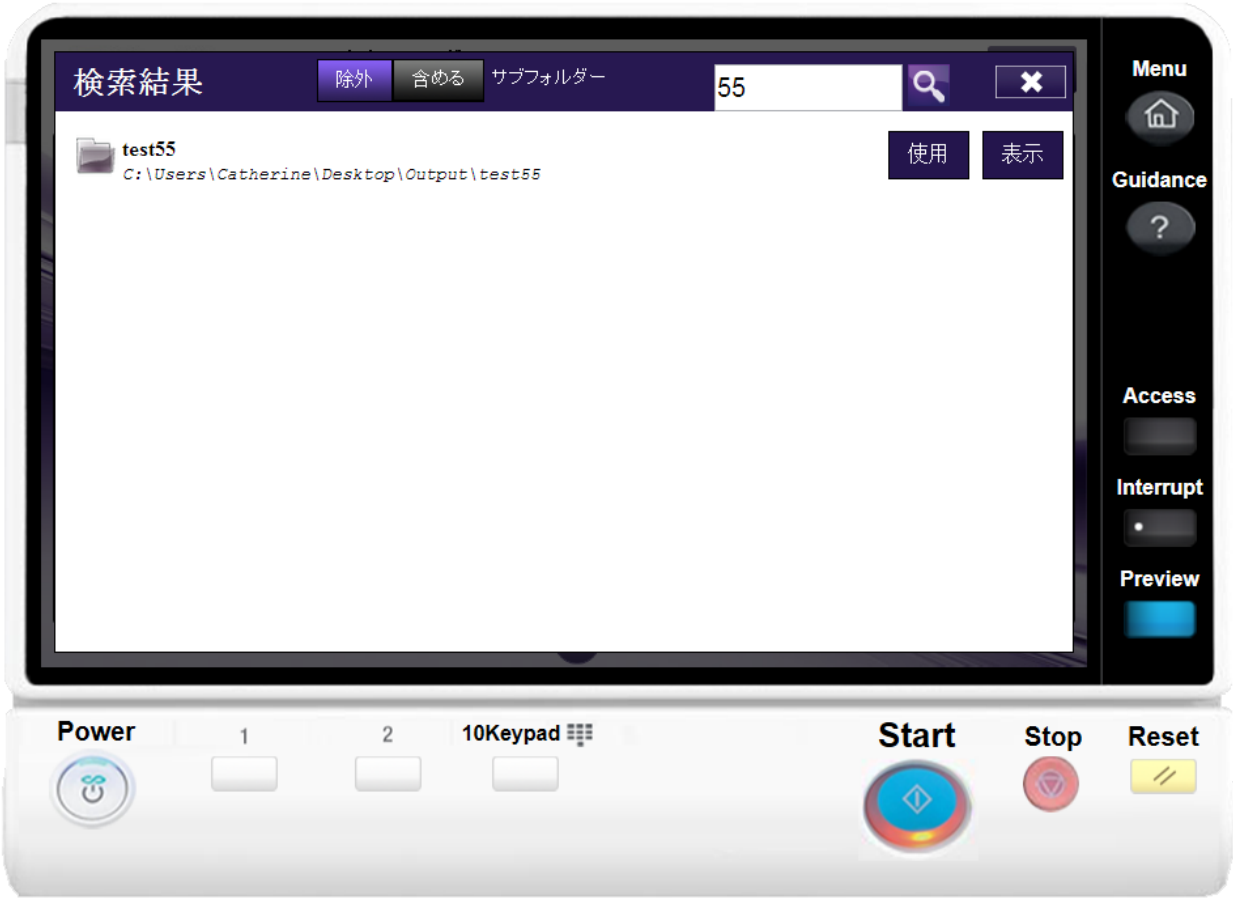
注: 既定では、現在選択されているフォルダーの直接の子フォルダーだけが返されます。

複合機でフォルダーを検索する方法の説明は以下の図を参照してください。

1. メインのフォルダー参照画面には、フォルダーのリストを絞り込むために使用する **[検索]** フィールドが用意されています。このフィールドにテキストを入力できます。次に、このフィールドの横にある **検索** アイコンをタップします。
   - テキストを入力すると、指定したテキストを含むすべてのフォルダーがフォルダー検索結果に返されます。
   - 検索は選択したディレクトリから始まります(構成したルートディレクトリからではありません)。
   - ワイルドカードのアスタリスク(*)を使用して、任意の文字列を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「inv*」と入力すると、この3文字で *始まる* フォルダーがすべて表示されます(inv01、inv02、invoiceなど)。または、[検索]フィールドに「*inv」と入力すると、この3文字で *終わる* フォルダーがすべて表示されます(01inv、02invなど)。
   - ワイルドカードのクエスチョンマーク(?)を使用して、任意の1文字を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「INV0?」と入力すると、INV01、INV02、INV03などのフォルダーが表示されます。



たとえば、次の図では、ユーザーが[検索]フィールドに「55」と入力した結果が示されています(「55」が含まれているフォルダーだけが表示されます)。

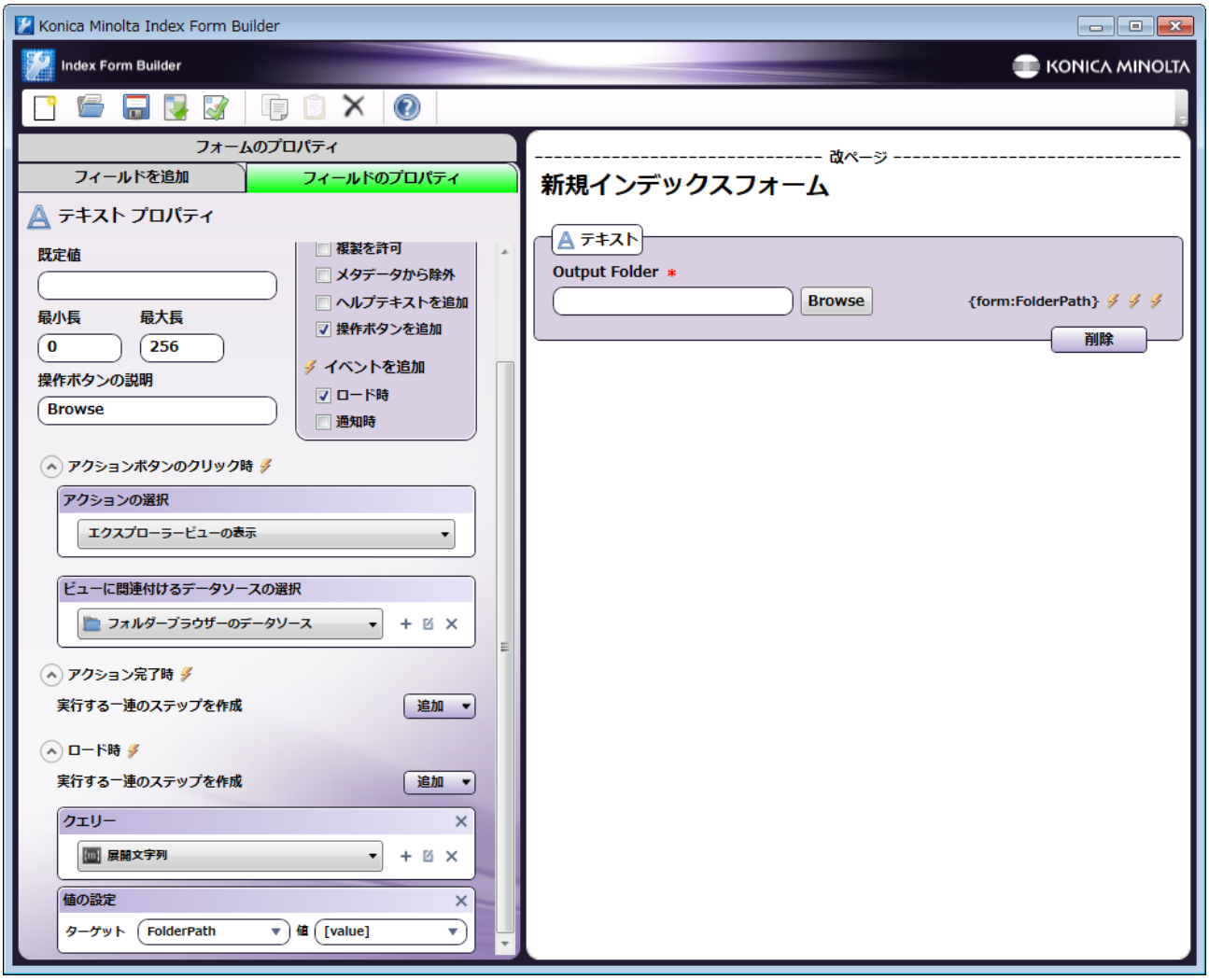


2. 検索によってフォルダーのリストをフィルター処理すると以下の操作を行うことができます。
    - 特定のフォルダーを選択するには、**[使用]** ボタンをタップします。
    - その特定のフォルダーのディレクトリ構造表示に戻るには、**[表示]** ボタンをタップします。
    - フィルターを解除するには、[検索]フィールドの横にある ボタンをタップします。
    - フィルター処理したリストにサブフォルダーの結果を含めるには、**[サブフォルダーを含める]** ボタンをタップします。

展開文字列クエリー

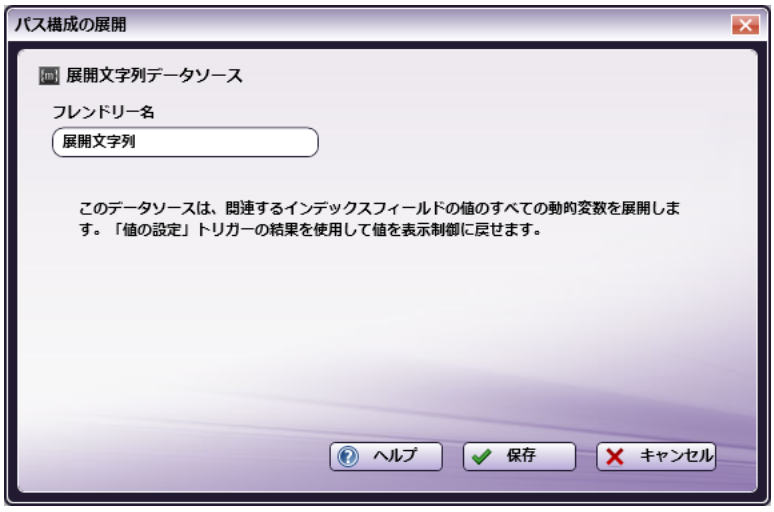
展開文字列クエリーを使用すると、複合機パネルにフォームがロードされた後に、動的変数を含むあらゆるフォルダーパスが実際の値に自動的に展開されます。

インデックスフォームに[出力フォルダー]ワークフローインデックスフィールドを追加すると、フィールドの構成の一部として展開文字列クエリーが自動的に追加されます。また、次の図のように、出力フォルダーの変数名に[値の設定]トリガーが指定されます。



フォルダー検索クエリーを手動で追加している場合、以下の操作を行う必要があります。

1. **[ロード時]** アクションを追加します。
2. **[追加]** ボタンから **[クエリー]** を選択し、**[+]** アイコンをクリックして、展開文字列クエリーを指定します。**[展開文字列データソース]** オプションを選択すると、次の図のように、[展開文字列]構成ウィンドウが表示されます。



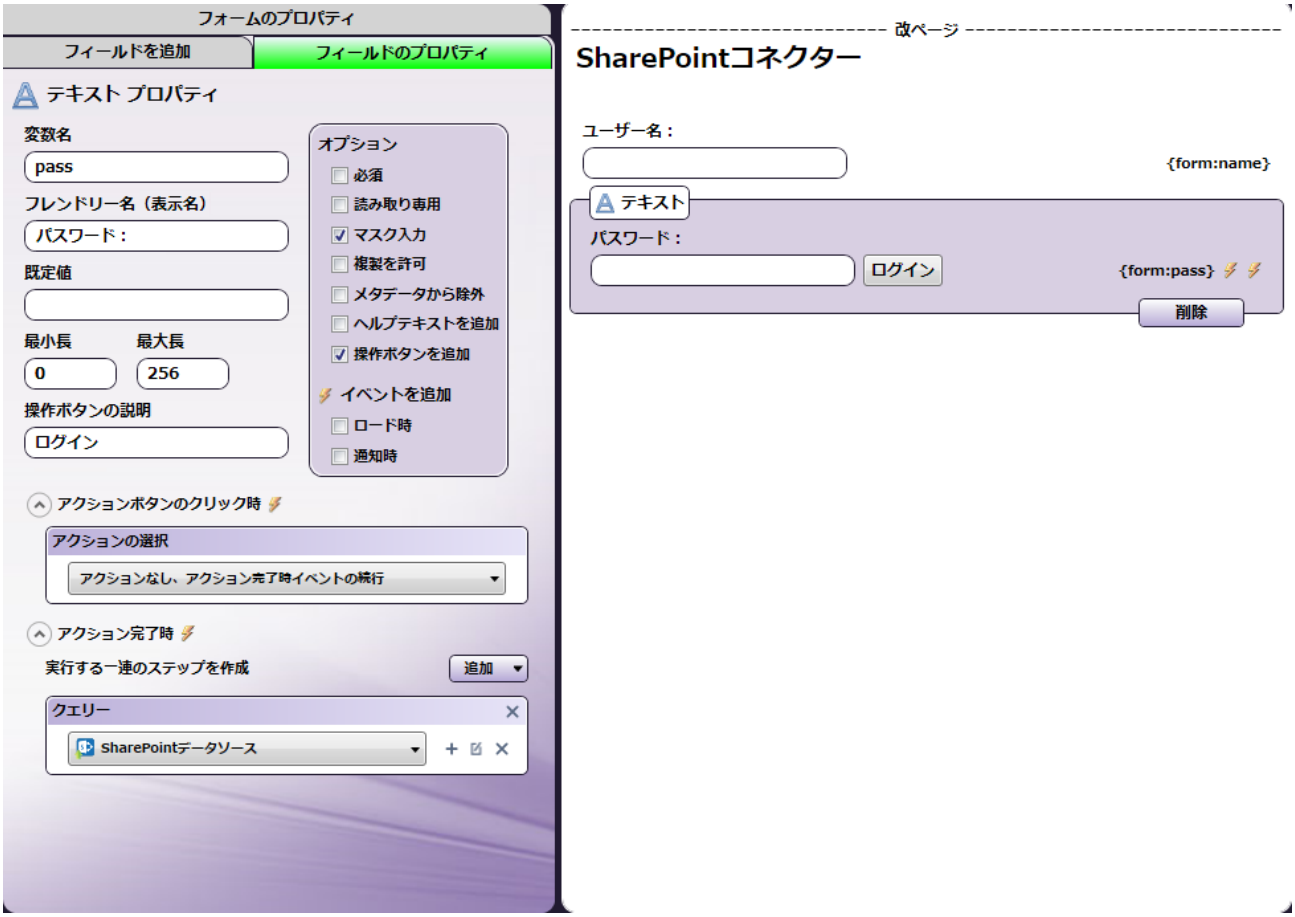
3. インデックスフォームビルダーに戻り、**[値の設定]** トリガーを追加します。ここで、**[ターゲット]** フィールドは出力フォルダーの変数名、**[値]** は[value]です。

SharePointログインの検証例

ユーザーがSharePointにログインできるように、インデックスフォームを設定できます。以下の操作を行います。

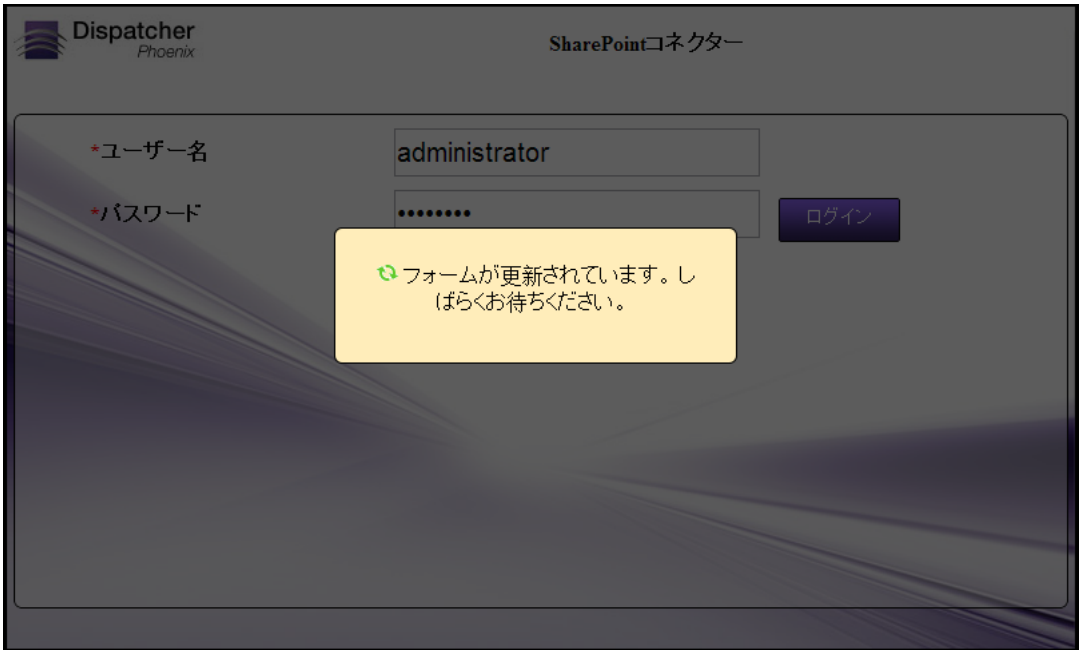
- フレンドリー名を「ユーザー名」にした **テキストフィールド** を1つ追加します。
- フレンドリー名を「パスワード」にした別の **テキストフィールド** を追加します。このフィールドの[マスク入力]オプションが有効になっていることを確認します。
- キャプションを「ログイン」にした **アクションボタン** を[パスワード]フィールドに関連付けます。
- [SharePointへのログインの検証]アクションでSharePointをクエリーする **[アクション完了時イベント]** を使用してアクションボタンを構成します。

例については次の図を参照してください。



複合機パネルでの表示

複合機パネルには、ログイン資格情報フィールドが表示されます。次の図のように、ユーザー名とパスワードを入力すると、インデックスフォームは[SharePointへのログインの検証]アクションを実行します。



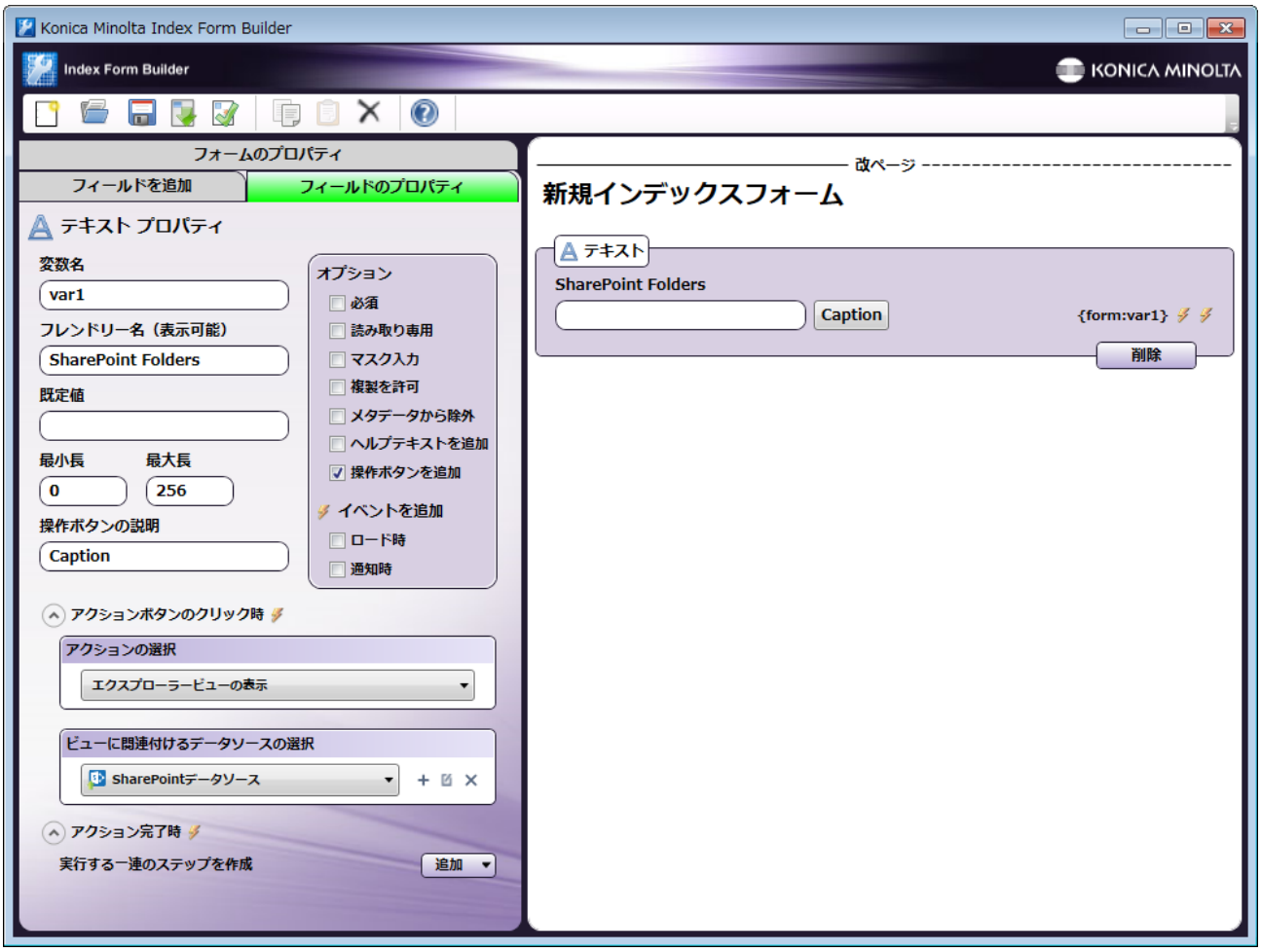
SharePointのライブラリ/フォルダーを取得の例

インデックスフォームを設定して、SharePointのライブラリおよびフォルダーを自動的にWindowsエクスプローラーのように表示できます。

この場合、次のプロパティを持つアクションボタン付きテキストフィールドを構成します。

- [アクションボタンのクリック時]では[エクスプローラービューの表示]アクションを選択します。
- [ビューに関連付けるデータソースの選択]では[SharePointデータソース]を選択します。
- [SharePointデータソースの構成]ウィンドウで、**[SharePointのライブラリ/フォルダーを取得]** アクションを選択します。

次の図を参照してください。



注: このページでは[SharePointのライブラリ/フォルダーを取得]フィールドを1つしか定義していないので、SharePointライブラリやフォルダーの取得結果が自動的に表示されます。1つのページに複数のフィールドがある場合、複数のフィールドがリストアップされた画面が表示されます。

複合機パネルでの表示

複合機パネルには、次の図にあるように、SharePointサイトにあるライブラリやフォルダーが表示されます。

値の設定トリガーの定義

複合機でのユーザーの選択または入力内容に基づいてフィールドを更新するには、値の設定トリガーを使用します。たとえば、このトリガーを使用して、インデックスフォームのリストから選択された値を隠しフィールドに入力できます。

値の設定トリガーを定義するには、以下の操作を行います。

1. **[追加]** ボタンから **[値の設定]** を選択します。空の[値の設定]ボックスが表示されます。
2. **[ターゲット]** フィールドで、下矢印を使用して、インデックスフォームの変数名リストから選択します。
3. **[値]** フィールドで、下矢印を使用して、クエリーから返された列名リストから選択します。

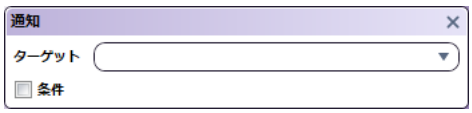
重要: データソースの列を参照するときには、列名を角カッコ([ ])で囲む必要があります。たとえば、SQLクエリーの結果にある「client」列にアクセスする必要がある場合は、[client]と入力する必要があります。角カッコを使用しなかった場合、テキストは静的テキストとして扱われます。

通知トリガーの定義

他のアクションフィールドに対する注意を喚起するには、通知トリガーを使用します。この通知は、別のアクションや、連続するアクションを実行するためのフィールドをトリガーします。

通知トリガーを定義するには以下の操作を行います。

1. **[追加]** ボタンから **[通知]** を選択します。次の図のように、空の[通知]ウィンドウが表示されます。



2. **[ターゲット]** フィールドで、通知したいフィールドの変数名を選択または入力します。下矢印を使用して、フォームにある変数リストから選択できます。

リストの設定トリガーの定義

ドロップダウンリストにクエリーの結果を入力するには、リストの設定トリガーを使用します。リストの設定トリガーを定義するには、以下の操作を行います。

1. **[追加]** ボタンから **[リストの設定]** を選択します。空の[リストの設定]ボックスが表示されます。
2. **[ターゲット]** フィールドで、下矢印を使用して、更新したいドロップダウンリストの変数名を選択します。
3. **[ラベル]** フィールドで、下矢印を使用して、クエリーから返された列リストから選択します。選択した列の内容がドロップダウンリストに表示されます。
4. **[値]** フィールドで、下矢印を使用して、ラベルと関連付ける必要のある値を選択します。指定した値は、フォーム内の他のイベントで参照として使用できます。

   重要: データソースの列を参照するときには、列名を角カッコ([ ])で囲む必要があります。たとえば、SQLクエリーの結果にある「client」列にアクセスする必要がある場合は、[client]と入力する必要があります。角カッコを使用しなかった場合、テキストは静的テキストとして扱われます。
5. リストの先頭に静的テキストを追加するには、**[静的リストオプションを先頭に付加]** ボックスをチェックします。次に、[ドロップダウンリストのオプション]領域にリスト項目を静的テキストで入力します。

例(#1):

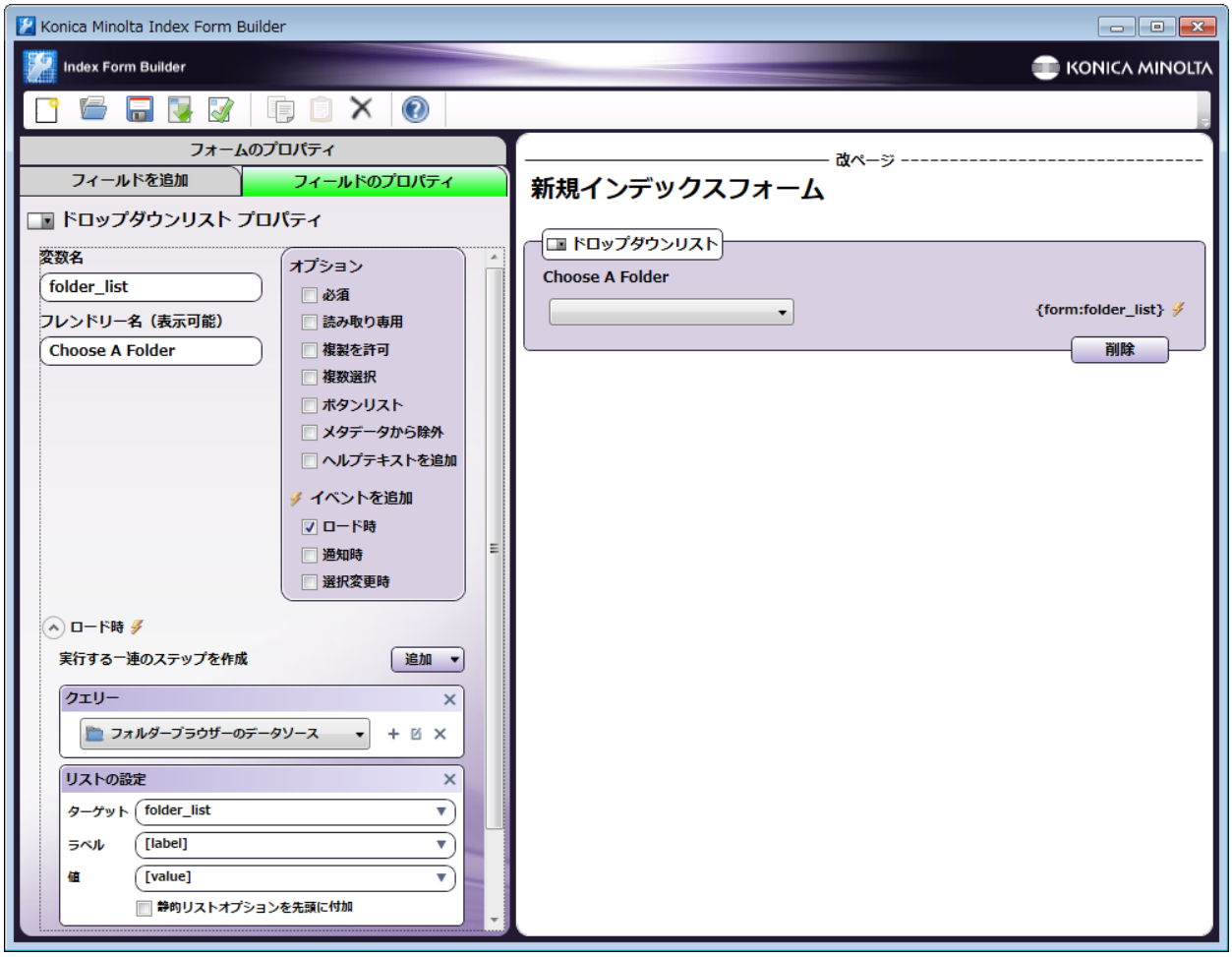
複合機パネルへのフォームのロードが完了したら、フォルダーパスの場所のリストがドロップダウンリストへ自動的に入力されるように、フォルダーブラウザーを設定できます。

この場合、ドロップダウンリストは以下の属性を使って定義できます。

- 変数名'folder_list'(**【変数名】**フィールドに'folder_list'と入力する)。
- ラベル'Choose a Folder'(**【フレンドリー名】**フィールドに'Choose a Folder'と入力する)。
- ロード時イベントを有効化(**【イベントを追加】**領域の下にある**【ロード時】**ボックスをオンにする)。
- フォルダー参照クエリー(**【ロード時】**セクションで[追加]、[クエリー]の順に選択し、次に**【フォルダーブラウザーのデータソース】**を選択する)。フォルダーブラウザー構成を設定するときには、**【ファイルの表示】**オプションが無効化されていることを確認してください。
- フォルダーブラウザークエリーの結果を参照する'folder_list'フィールドをターゲットにした **リストの設定** イベント(**【ロード時】**セクションで**【追加】**、**【リストの設定】**の順に選択する)。フォルダーブラウザークエリーから返されたフォルダーパスのリストをドロップダウンリストに入力するには、'label'変数と'value'変数を使用します。

  注: この変数名を使用するときには、フォルダーのフルパスではなく、子フォルダー名しか表示されませんので注意してください。フルパスを表示するには、リストの設定イベントで[ラベル]を定義するときに、変数名の前に静的テキストとして追加する必要があります。

  次の図を参照してください。



複合機パネルでの表示

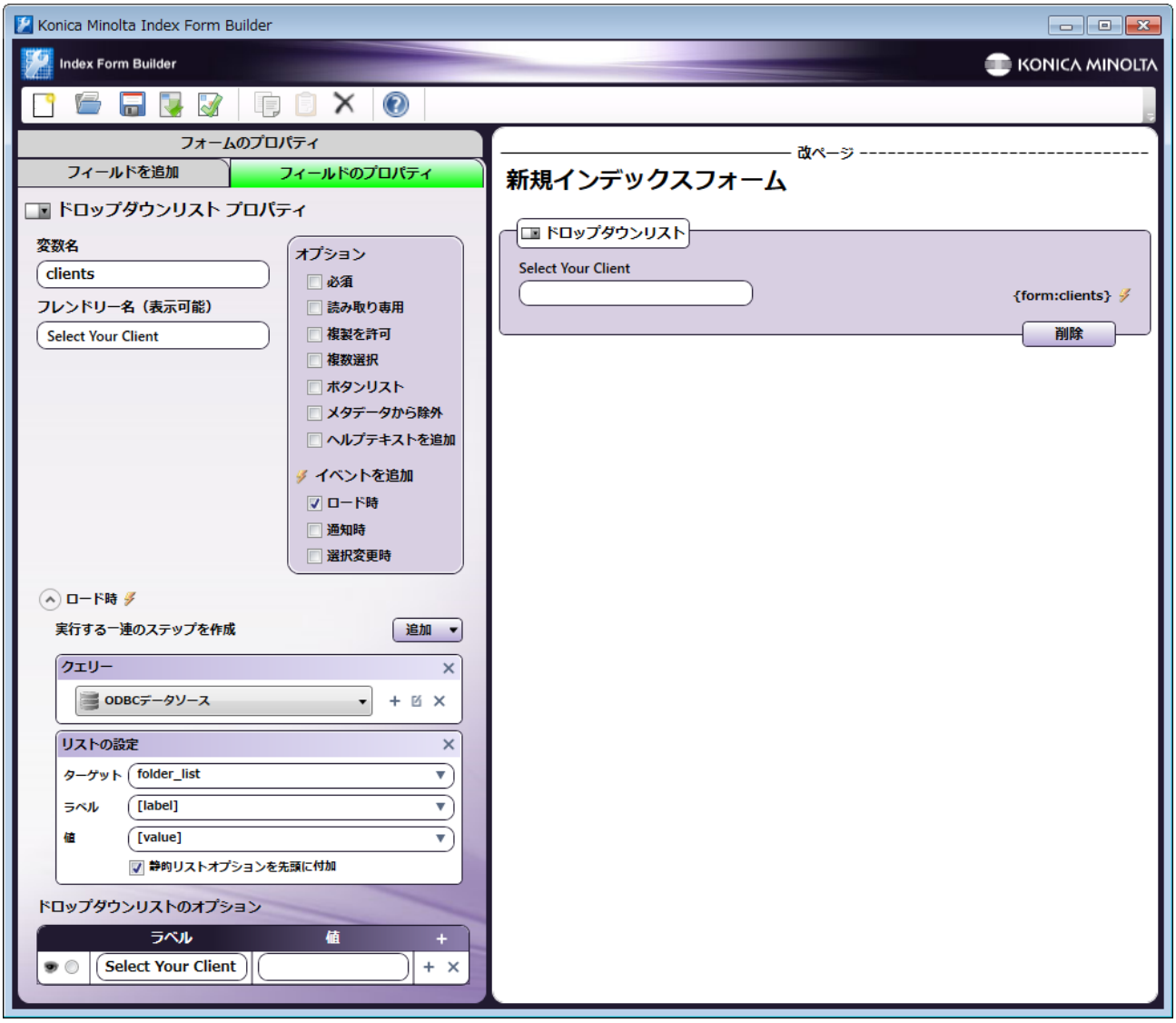
複合機パネルには、次の図のように、フォルダーパスがあらかじめ入力されたドロップダウンリストが表示されます。

例(#2):

先頭項目が「Select Your Client」という静的テキストで、データベースクエリーにより得られた姓を項目として含むドロップダウンリストを設定できます。

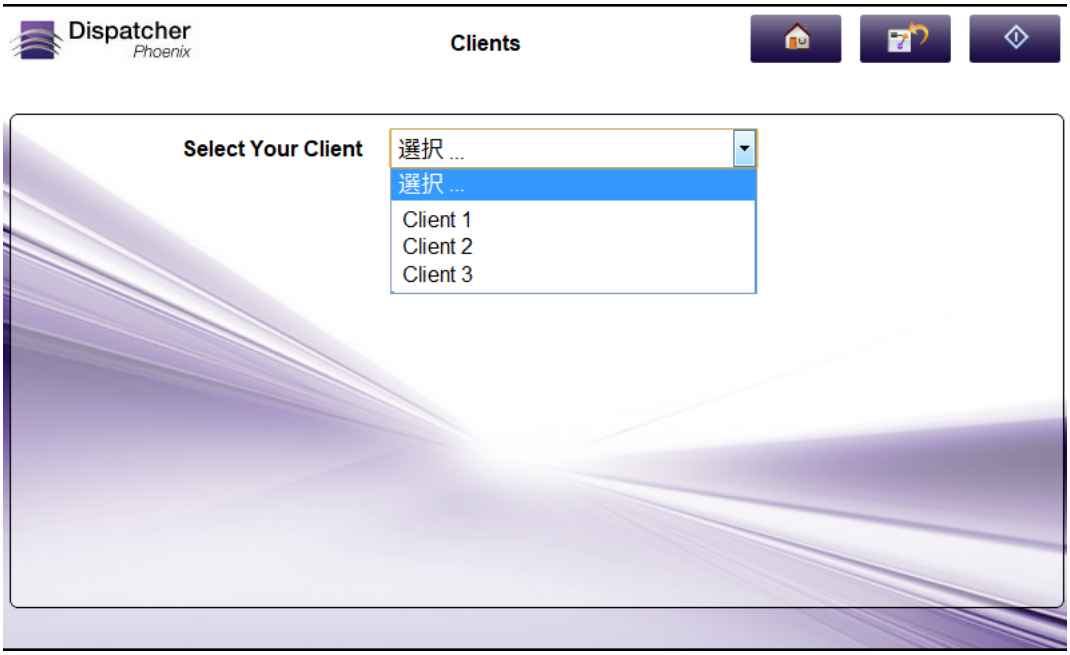
この場合、ドロップダウンリストは以下の属性を使って定義できます。

- 変数名'clients'(**[変数名]** フィールドに'clients'と入力する)。
- ラベル'Select Your Client'(**[フレンドリー名]** フィールドに'Select Your Client'と入力する)。
- ロード時イベントを有効化(**[イベントを追加]** 領域の下にある **[ロード時]** ボックスをオンにする)。
- ODBCデータソースクエリー(**[ロード時]** セクションで **[追加]**、**[クエリー]** の順に選択し、次に **[ODBCデータソース]** を選択する)。
- ドロップダウンリストにクエリーの結果が入力され、**[静的リストオプションを先頭に付加]** ボックスがオンになっている**リストの設定** イベント。
- 次の図のように、ラベル「Select Your Client」が入力され、[値]フィールドが空の **[ドロップダウンリストのオプション]** 項目。



複合機パネルでの表示

複合機パネルには、次の図のように、クライアント名があらかじめ入力されているドロップダウンリストが項目「Select Your Client」で表示されます。



ページに移動トリガーの定義

特定のイベントの発生後、インデックスフォームに別のページを自動的に表示するには、ページに移動トリガーを使用します。

例:

- ユーザーがパネルで選択した後、インデックスフォームの別のページが自動的に表示される。
- ユーザーがOnBaseなどのドキュメント管理システムにログインし、検証が正常に終了すると、インデックスフォームの別のページが自動的に表示される。

ページに移動トリガーを定義するには、以下の操作を行います。

1. **[追加]** ボタンから **[ページに移動]** を選択します。空の[ページに移動]ボックスが表示されます。
2. **[ターゲット]** フィールドで、下矢印を使用して、移動先となるページの変数名を選択します。
3. 特定の条件が満たされた場合 *のみ* 、ページに移動がトリガーされるように制限するには、**[条件]** ボックスをチェックします。さらに2つのフィールド、[When(いつ)]と[Equals(等しい)]が表示されます。
4. **[When(いつ)]** フィールドで、下矢印を使用して、データソースクエリーから返された条件リストから選択します。
5. **[Equals(等しい)]** フィールドに、条件の具体的な結果を角カッコで囲んで入力します。

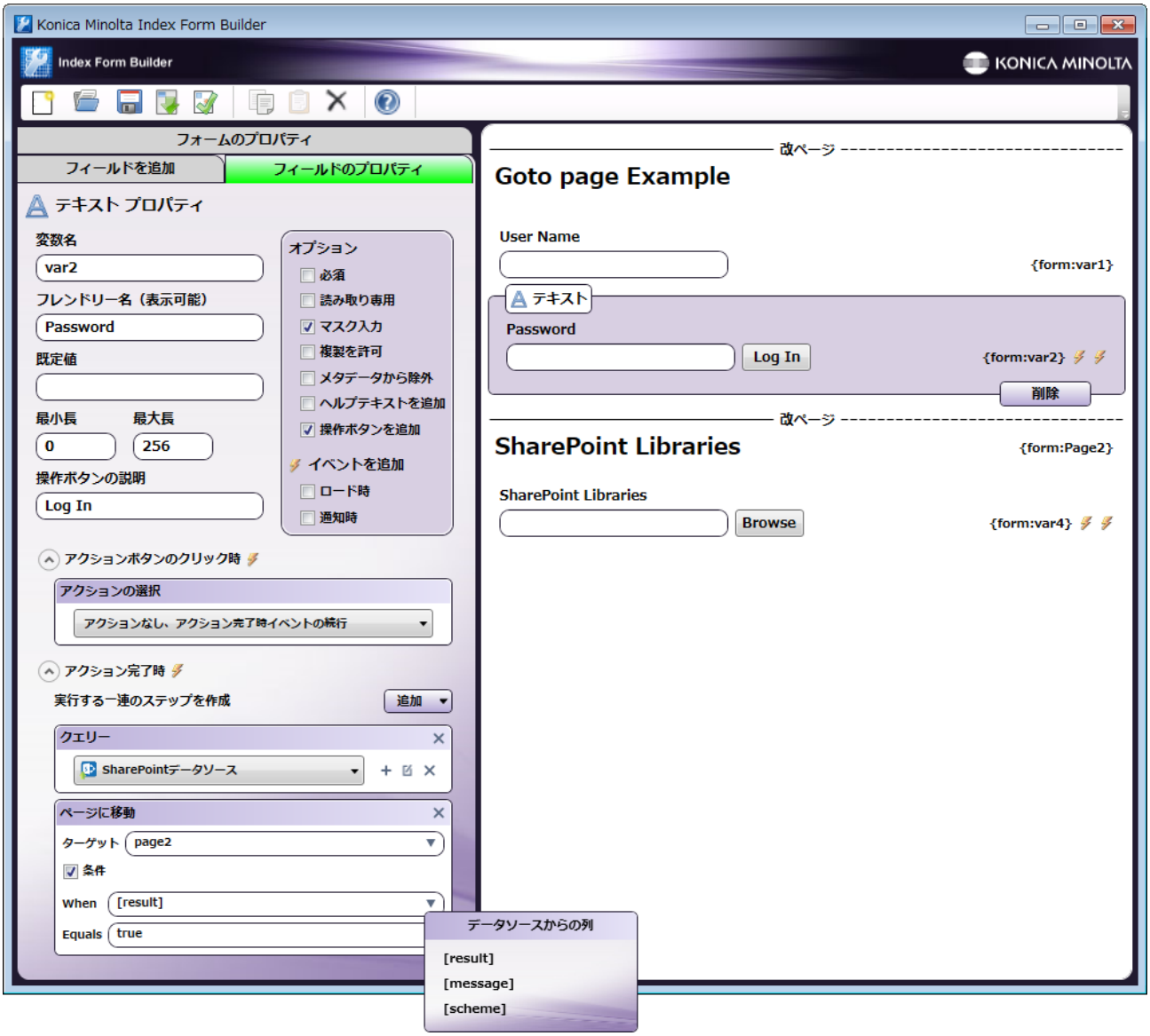
例:

ユーザーが複合機でSharePointに正常にログインしたら、インデックスフォームの2ページ目に移動するようにインデックスフォームを設定します。

この場合、インデックスフォームは次を使って設定します。

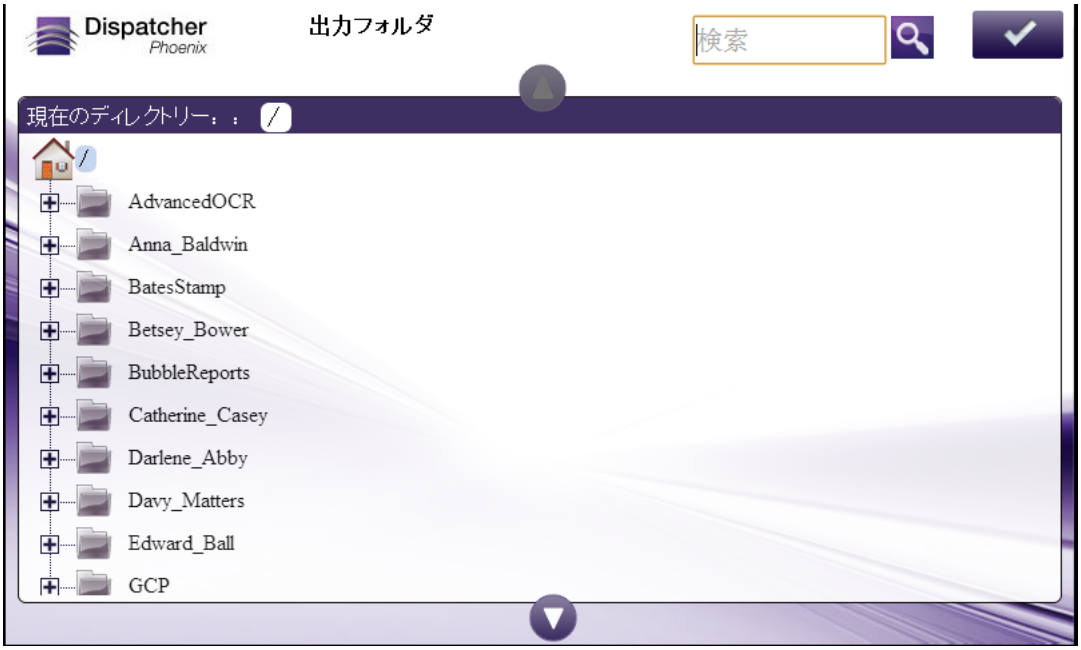
- **SharePointへのログインの検証アクション** で構成されたログインフィールド。
- 変数名Page2を持つ **改ページ** 。
- エクスプローラー形式で表された **SharePointのライブラリとフォルダー** のビュー。
- 検証の正常終了後、Page2を表示する **ページに移動** トリガー。**[条件]** ボックスがオンで、**[When]** フィールドが、[result]、[message]、[scheme]を返している点に注意してください。リストから[result]を選択します。

次の図を参照してください。



複合機パネルでの表示

複合機パネルには、ログイン画面が表示されます。ユーザーが正しいログイン資格情報を入力すると、2ページ目が自動的に表示されます。次の図を参照してください。



アラートの表示トリガー

特定のイベントの発生後、アラートメッセージを自動的に表示するには、アラートの表示トリガーを使用します。たとえば、ログインの検証に失敗したときに、エラーメッセージを表示することができます。このメッセージはデータソースからプルすることもできますし、複合機で表示するためにインデックスフォームビルダーに直接入力することもできます。

アラートの表示トリガーを定義するには、以下の操作を行います。

1. **[追加]** ボタンから **[アラートの表示]** を選択します。空の[アラートの表示]ボックスが表示されます。
2. **[メッセージ]** フィールドで、下矢印を使用して、データソースクエリーから返された列名のリストから選択するか、表示したいテキストをアラートボックスに入力します。特定の条件が満たされた場合 **のみ、** アラートの表示がトリガーされるように制限するには、**[条件]** ボックスをチェックします。さらに2つのフィールド、[When]と[Equals]が表示されます。

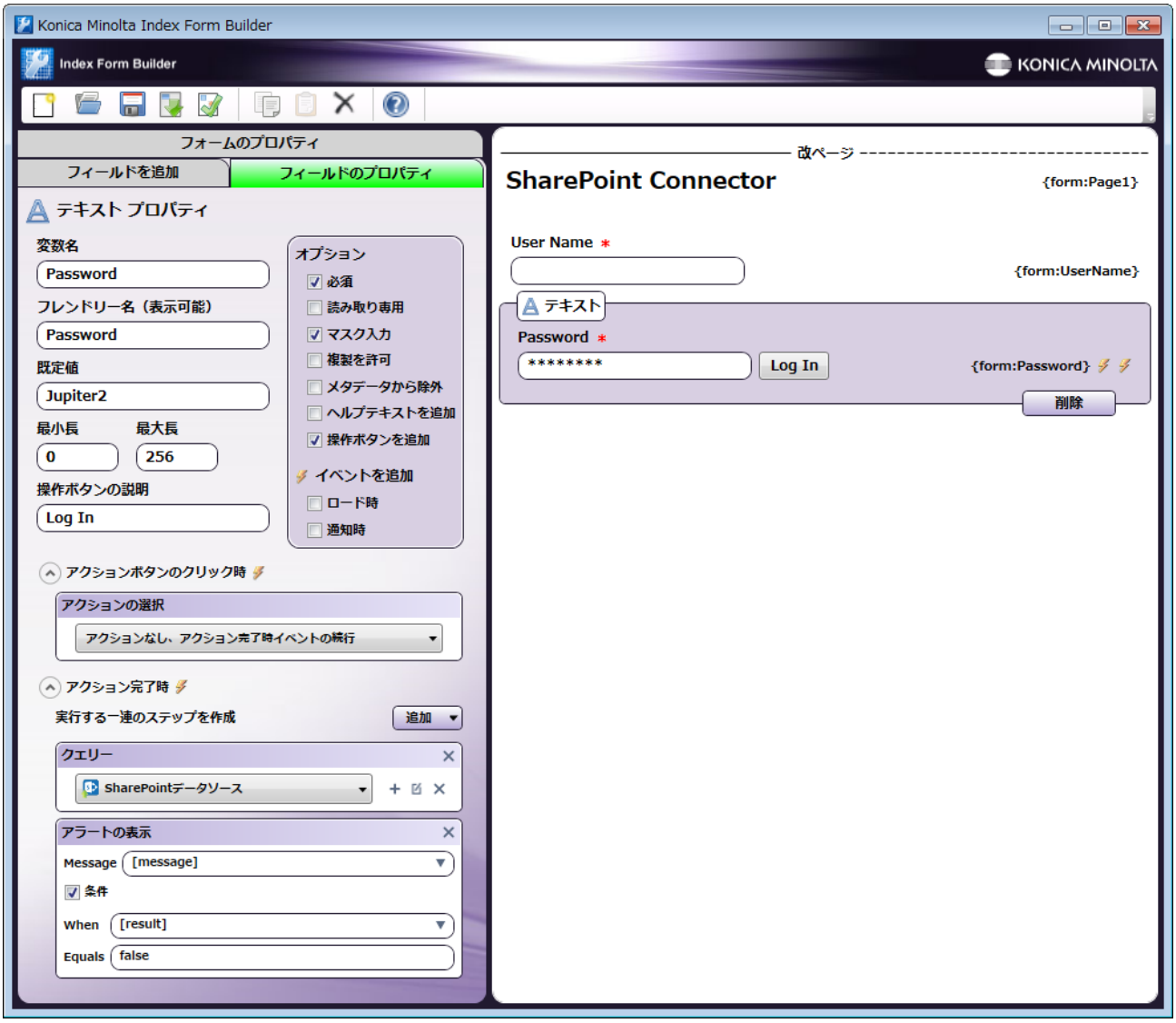
例:

ユーザーがSharePointにログインできるように、インデックスフォームを設定できます。ログインに失敗した場合に、SharePointからのアラートメッセージを表示することができます。

この場合、インデックスフォームは次を使って設定します。

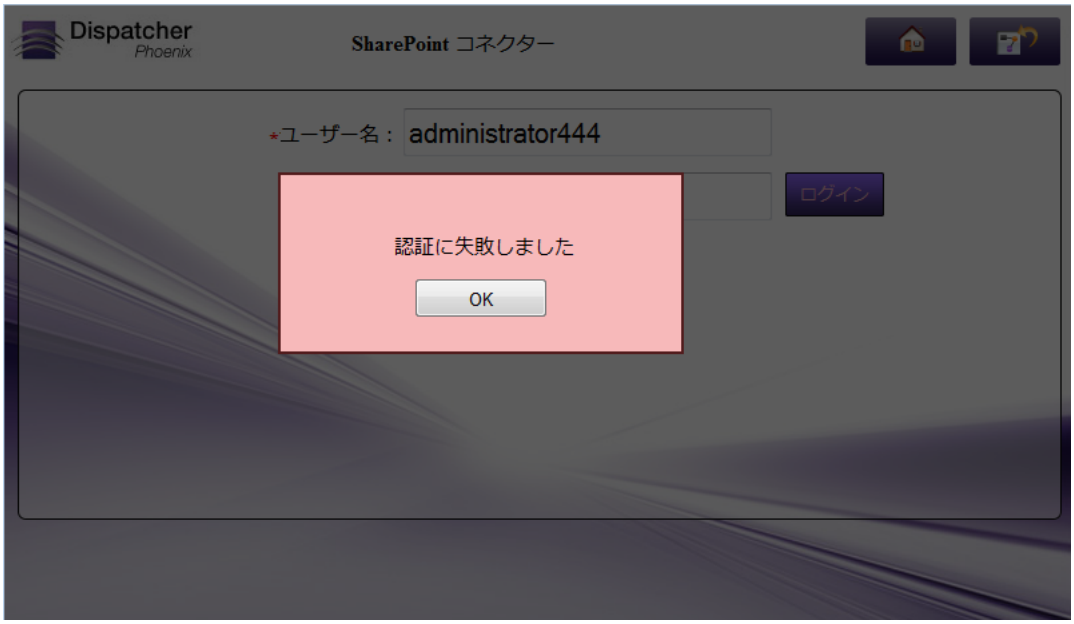
- **SharePointへのログインの検証アクション** で構成されたログインフィールド。
- ログインの検証に失敗したときにSharePointからのメッセージが表示される **アラートの表示** トリガー。**[条件]** ボックスが有効化されていること、および **[When]** フィールドで[message]が指定されていて、データソースにメッセージ列からのデータが取得されることを確認してください。

次の図を参照してください。



複合機パネルでの表示

不正なログイン資格情報が入力されると、複合機パネルには、次のメッセージアラートが表示されます。



展開セクショントリガーの定義

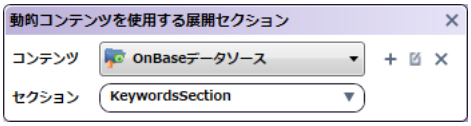
OnBase、SharePoint、Worldoxなどのデータソースから動的フィールドを表示するには、展開セクショントリガーを使用して、プレースホルダーを定義します。

展開セクショントリガーを定義するには以下の操作を行います。

1. **[追加]** ボタンから **[展開セクション]** を選択します。空の[展開セクション]ボックスが表示されます。
2. **[コンテンツ]** ドロップダウンリストの隣にある **[+]** アイコンをクリックして、セクションのコンテンツを指定します。コンテンツは、ODBC、OnBase、SharePointなどどのようなデータソースからでも取得できます。
3. **[セクション]** フィールドで、フィールドを表示するセクションを入力または選択します。

例:

複合機で選択されたドキュメントタイプに基づいて、インデックスフォームの別のセクションに、OnBaseからのキーワードを表示できるように、インデックスフォームを設定できます。次の例では、図にあるように、[展開セクション]ボックスがカスタマイズされます。



Release2Meシステムワークフロー

Release2Meシステムワークフロー には、認証されたユーザーが複合機で印刷ジョブをキューに保留してリリースするための使いやすく簡単な方法が用意されています。

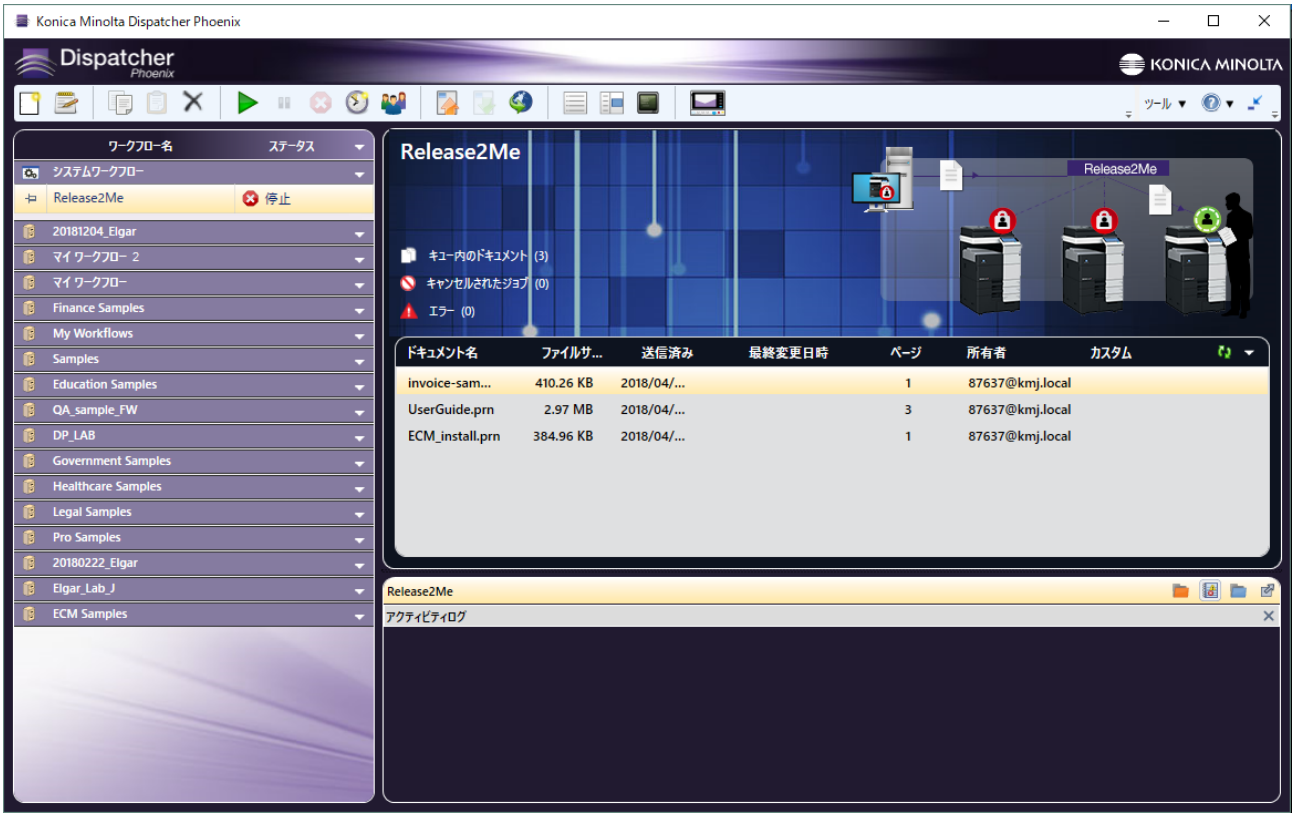
Dispatcher Phoenixでは、Dispatcher Phoenix Release2Meプリンターが自動的にインストールされます。このプリンターでは、Dispatcher Phoenix Printerドライバーが使用されます。他のWindowsアプリケーションからこのRelease2Meシステムワークフローに直接出力する場合は、Release2Meプリンターを使用する必要があります。別のプリンターを使用する場合は、そのプリンターのLPRキュー名に一致するように、LPRキュー名を変更する必要があります。LPRキュー名は、Release2Meシステムワークフロー構成ウィンドウの[LPRキュー名]フィールドで編集できます。

Release2Meには、プリンターの使用状況を監視し、安全に印刷するための[レポートの印刷]と**印刷の委任** 機能も付属しています。

注: Release2Me機能へのアクセスは、グラフィカルユーザーインターフェイスを実行している複合機でのみサポートされています。

作業の開始

Release2Meパッケージをインストールすると、次の図のように、**Release2Me** 用の共有されたシステム定義ワークフローが自動的にインストールされ、Dispatcher Phoenixメインアプリケーション画面のワークフローリストの[システムワークフロー]という名前の新しく作成されたフォルダーの下に表示されます。



[ワークフローのプレビュー]領域には、Release2Meの対話型パネルが表示されます。このパネルでは、以下の操作を行うことができます。

- 現在キューに入っているドキュメントの数を表示できます。印刷ジョブのリストが表示され、キューに入っている印刷ジョブの数が **[キュー内のドキュメント]** というテキストの横に表示されます。

- **[キャンセルされたジョブ]** リンクを選択すると、キャンセルされたために出力フォルダーに送信された印刷ジョブを表示したり、それらの印刷ジョブにアクセスしたりできます。
- **[エラー]** リンクを選択すると、エラーが発生したために出力フォルダーに送信された印刷ジョブを表示したり、それらの印刷ジョブにアクセスしたりできます。
- 以下の図に示すように、キューに入っている印刷ジョブを右クリックして、表示されるメニューのいずれかを選択することで、それらのジョブをキャンセルまたは削除することができます。

- **[ジョブのキャンセル]** オプションを選択すると、特定の印刷ジョブをキャンセルできます。ファイルは[いいえ]遷移に移行します。
- **[ジョブの削除]** オプションを選択すると、特定の印刷ジョブを完全に削除できます。
- **[すべてのジョブを削除]** オプションを選択すると、[印刷キュー]に保留されている既存の印刷ジョブすべてを完全に削除できます。
- **[最新の情報に更新]** ボタンを選択すると、印刷キューリストの内容を最新の情報に更新できます。以下の図に示すように、右上の **[最新の情報に更新]** ボタンを選択して印刷キューを最新の情報に更新することもできます。

- システムワークフローのアクティビティログを表示できます。既定ではアクティビティログが表示されますが、アクティビティパネルの右側にあるフォルダーアイコンを使用して、その領域に入出力を表示することもできます。

注: Dispatcher Phoenixの他のワークフローとは異なり、Release2Meのワークフロープレビュー領域では、LiveFloアニメーションを使用できません。

システムワークフローフォルダーの使用

ワークフローリスト内のシステムワークフローフォルダーは、ワークフローリスト内の他のフォルダーとは異なっています。他のフォルダーで使用できる機能でも、システムワークフローでは使用できないものがあります。たとえば、以下のような機能です。

- フォルダーのエクスポート
- フォルダー内のワークフローのコピー/ペースト
- フォルダーの削除
- ワークフロービルダーツールの起動
- このフォルダーからのまたはこのフォルダーへのワークフローのシフト
- このフォルダー内での新しいワークフローの作成

以下の操作を行うには、システムワークフローメニューで下矢印をクリックします。

- 名前またはステータスでフォルダー内のワークフローをソート
- フォルダーの展開と折りたたみ
- フォルダー名の変更

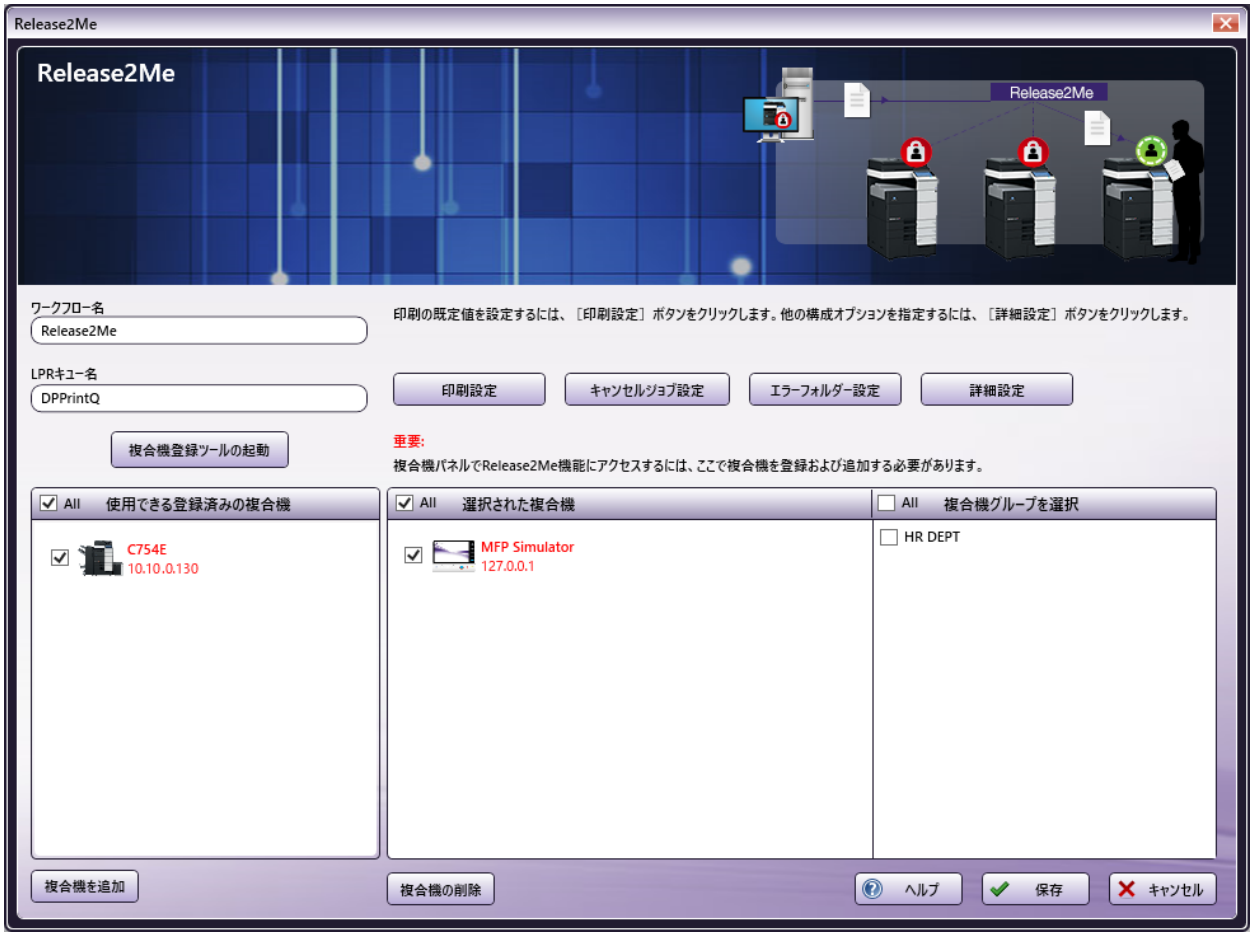
以下の図を参照してください。

注: システムワークフローフォルダーは、必ずワークフローリストの最初のフォルダーとしてリストの最上部に表示されます。

Release2Me用の構成

複合機でRelease2Me機能の使用を開始するには、以下の操作を行います。

1. Release2Meワークフローを編集します。システムワークフローフォルダーでワークフローをダブルクリックするか、ワークフローを選択して **[編集]** アイコンをクリックしてください。
2. 以下の図のように、Release2Meシステムエディターが表示されます。



3. [使用できる登録済みの複合機]領域に、Release2Meおよび他のワークフローで使用される、登録済みのすべての複合機デバイスが表示されます。**[複合機登録ツールの起動]** ボタンをクリックすると、Release2Meノードから複合機登録ツールに直接アクセスできます。

   [使用できる登録済みの複合機] 領域から **[選択された複合機]** ボックスに複合機のアイコンを移動するには、以下のいずれかの操作を行います。

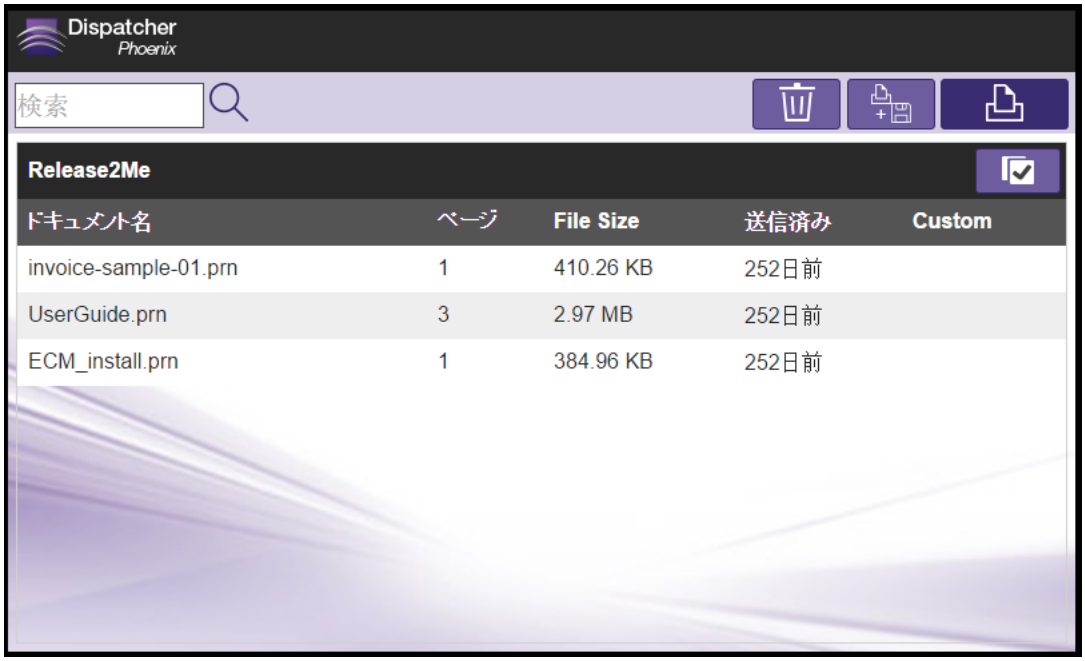
   - 複合機のアイコンをドラッグアンドドロップします。
   - 複合機のアイコンの横にあるボックスを1つ以上チェックして、**[複合機を追加]** ボタンを選択します。
   - **[All（すべて）]** ボックスをチェックして、表示されているすべての複合機を選択してから、**[複合機を追加]** ボタンを選択します。

4. **[保存]** ボタンを選択して、変更内容を保存します。

Release2Meの実行

システム定義のワークフローを適切な複合機で構成すると、印刷ジョブでRelease2Meの機能を使用できるようになります。以下の操作を行います。

1. Release2Meワークフローが動作していることを確認します。
2. Release2Meソリューションの一部としてインストールされている **Dispatcher Phoenix Release2Meプリンター** を使用してドキュメントを印刷します。
3. Dispatcher Phoenixのメインアプリケーションの[Release2Me]パネルに印刷ジョブのリストが表示されます。
4. 以下の図のような画面で、複合機でのRelease2Meキューへのアクセスを認証します。



5. **[リリース]** ボタンを選択すると、ファイルが印刷され、Release2Meのキューからは削除されます。
6. **[リリースして維持]** ボタンを選択すると、ファイルは印刷されますが、後で使用できるよう複製されたコピーがRelease2Meのキューに保持されます。つまり、ファイルは、後日リリースまたは削除されるまで、Release2Meのキューに残ります。
7. **[削除]** ボタンを選択すると、ファイルが印刷されずにRelease2Meのキューから削除されます。
8. さらに、先行入力機能を備えた **[検索]** フィールドを使用して、表示される印刷ジョブのリストを絞り込むこともできます。[検索]フィールドに文字を入力し始めると、入力された文字に応じて、印刷ジョブのリストが自動的に、そして即座に絞り込まれます。
9. 印刷ジョブに対して **[リリース]** または **[リリースして維持]** を選択すると、以下の図のような画面でそのジョブの印刷設定を指定できます。

注: 表示される印刷設定のフィールドは、カスタマイズできます。

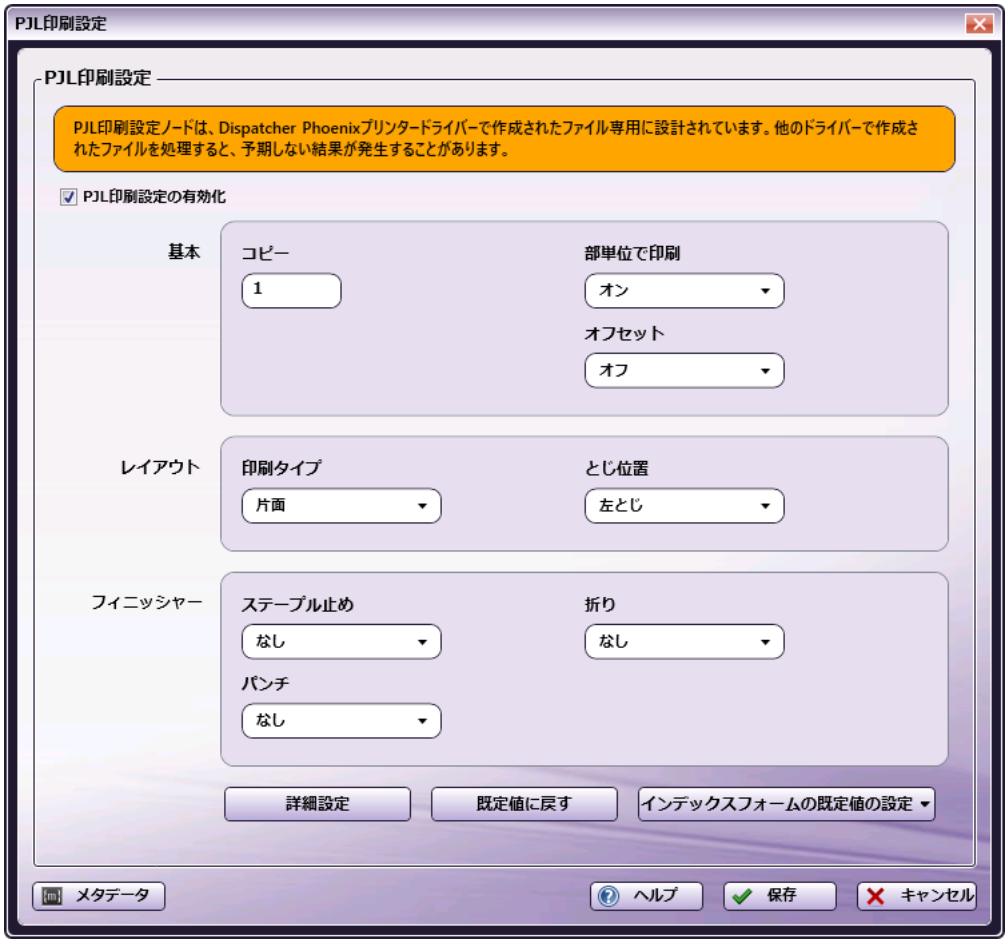
Release2Meのオプションの構成 – 印刷設定

既定では、システム定義のワークフローにより、印刷ジョブに既定の印刷設定が適用されます。この印刷設定は、ジョブのリリース後にパネルでカスタマイズできます。この機能の無効化、既定の印刷設定のカスタマイズ、パネルに表示される印刷設定フィールドのカスタマイズ、および追加のPJLヘッダーの指定を行うことができます。

重要! これらの設定は、Dispatcher Phoenix プリンタードライバーを使用した処理を対象として設計されていることに注意してください。その他のドライバーのサポートは異なったものになります。ここで指定した設定は、必ずしもPSファイルやPCLファイルで優先されるとは限りません。

以下の操作を行います。

1. Release2Meワークフローをダブルクリックして、システムエディターで開きます。
2. **[印刷設定]** ボタンを選択します。以下のポップアップ画面が表示されます。



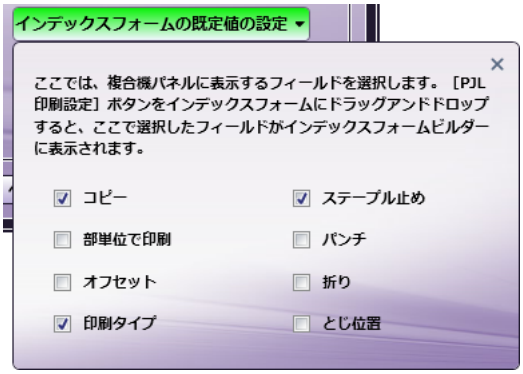
3. このフォームがパネルに表示されないようにするには、**[PJL印刷設定の有効化]** ボックスのチェックを外します。このボックスを無効にすると、リリースされた各印刷ジョブには既定の印刷設定が適用され、ユーザーがそれらの既定の設定をパネルで変更することはできなくなります。
4. PJL印刷設定が有効になっていると、以下の **[基本]** 設定の既定の設定を指定できます。
    - **[コピー]** - 印刷するコピーの部数を入力します。
    - **[部単位で印刷]** - [オン]、[オフ]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
    - **[オフセット]** - [オン]、[オフ]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
5. PJL印刷設定が有効になっていると、以下の **[レイアウト]** 印刷設定に既定の設定を指定できます。
    - **[印刷タイプ]** - [片面]、[両面]、[小冊子]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
    - **[とじ位置]** - [左とじ]、[右とじ]、[上とじ]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
6. PJL印刷設定が有効になっていると、以下の **[フィニッシャー]** 印刷設定の既定の設定を指定できます。
    - **[ステープル止め]** - [コーナー]、[2点]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
    - **[折り]** - [中折り]または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
    - **[パンチ]** - [2穴]、[3穴]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。

以下の点に注意してください。

- **[小冊子]** は、[部単位で印刷]、[ステープル止め]、および[パンチ]の設定より優先されます。[小冊子]レイアウトを指定すると、[ステープル止め]および[パンチ]は[オフ]に設定され、[部単位で印刷]は[オン]に設定されます。
- **[折り]** は、[ステープル止め]、[パンチ]、[部単位で印刷]、および[オフセット]の設定より優先されます。[折り返す]仕上げを指定すると、[部単位で印刷]は[オン]、[オフセット]は[オフ]、[ステープル止め]と[パンチ]は[オフ]に設定されます。
- **[ステープル止め]** は、[オフセット]の設定より優先されます。[ステープル止め]仕上げを指定すると、[オフセット]は[オフ]に設定されます。

7. カスタムPJLヘッダーを入力ドキュメントに追加するには、**[詳細設定]** ボタンを選択します。
8. PJL印刷設定を既定値に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを選択します。
9. 印刷ジョブのリリース後、既定では、[コピー]、[印刷タイプ]、および[ステープル止め]の各フィールドが画面に表示されます。ただし、**[インデックスフォームの既定値の設定]** ボタンを選択すると、パネルに表示されるフィールドをカスタマイズできます。ドロップダウンパレットが表示され、印刷ジョブのリリース後にパネルに表示されるフィールドを

選択することができます。以下の図を参照してください。



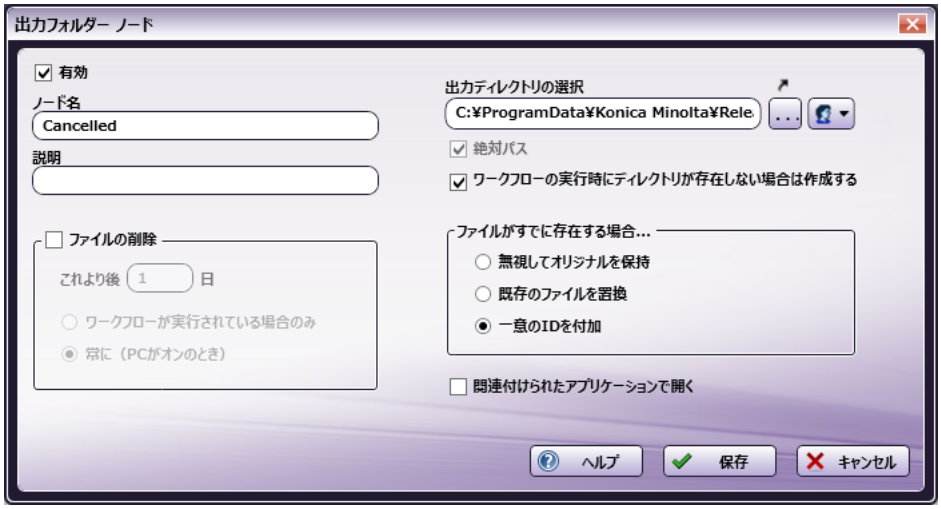
注: 選択したフィールドが3つ以下の場合、それらはインデックスフォームにボタンとして表示されます。ただし、フィールドを4つ以上選択した場合は、ドロップダウンリスト形式で表示されます。

Release2Meオプションの構成 - キャンセルジョブ設定

キャンセルされた印刷ジョブの設定を構成できます。以下の操作を行います。

1. Release2Meワークフローをダブルクリックして、システムエディターで開きます。
2. **[キャンセルジョブ設定]** を選択します。

   以下の図のように、[出力フォルダーノード]が開きます。



[絶対パス] のボックスは既定で有効になっているので、無効にすることはできません。出力フォルダーは絶対パスである必要があり、絶対パスでないとファイルが失われてしまいます。エラーフォルダーが構成されている場合、キャンセルジョブは代わりにエラーフォルダーに送信されます。

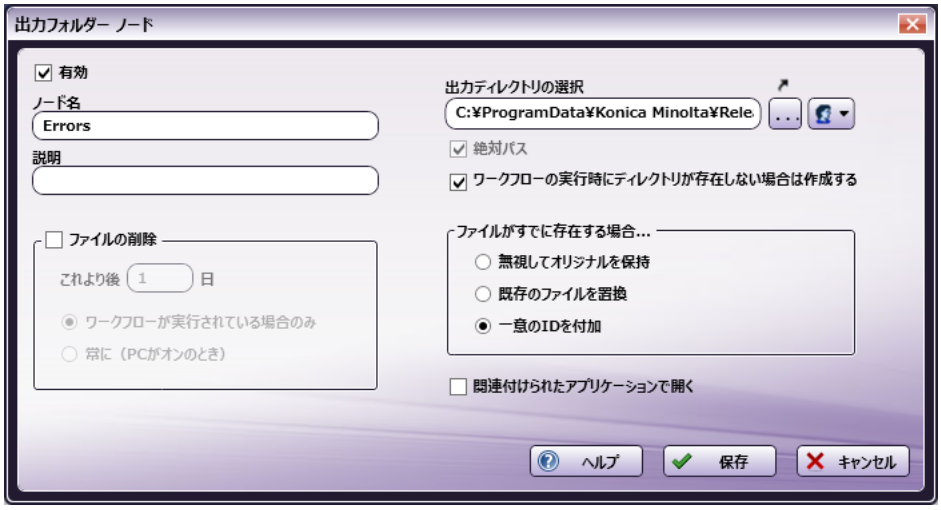
このノードの構成方法の詳細については、**出力フォルダーノード**ページを参照してください。

Release2Meオプションの構成 - エラーフォルダー設定

エラー印刷ジョブの設定を構成できます。以下の操作を行います。

1. Release2Meワークフローをダブルクリックして、システムエディターで開きます。
2. **[エラーフォルダー設定]** を選択します。

   以下の図のように、[出力フォルダーノード]が開きます。



[絶対パス] のボックスは既定で有効になっているので、無効にすることはできません。出力フォルダーは絶対パスである必要があり、絶対パスでないとファイルが失われてしまいます。

このノードの構成方法の詳細については、**出力フォルダーノード**ページを参照してください。

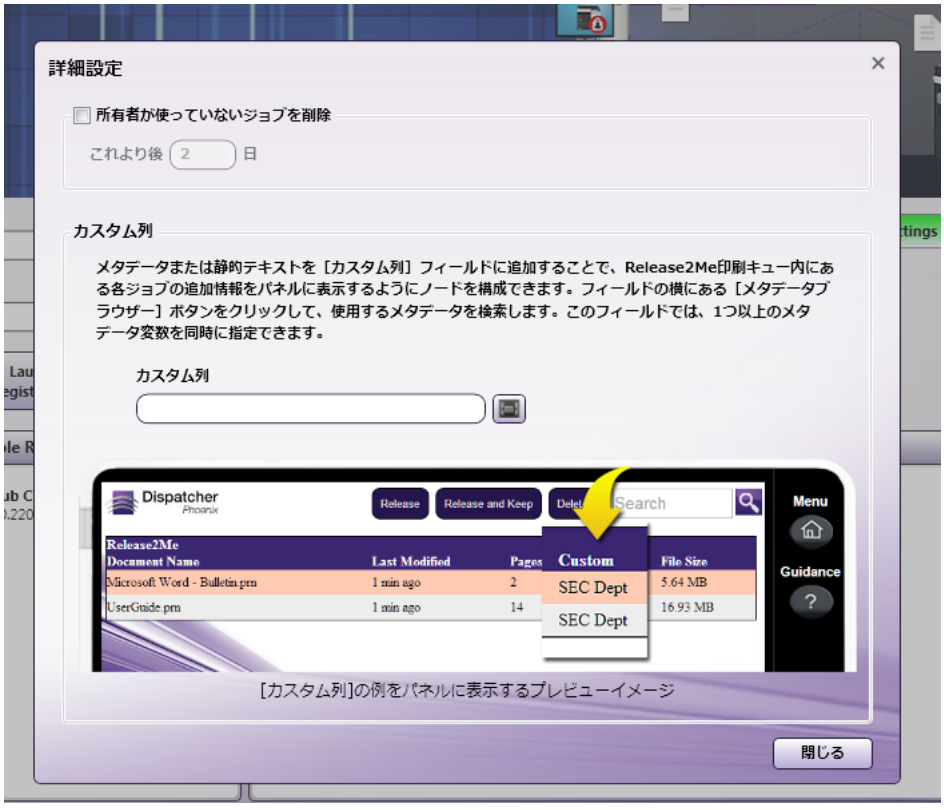
Release2Meのオプションの構成 – 詳細設定

以下の詳細設定を構成できます。

- Dispatcher Phoenixで、キュー内の要求されていないジョブを自動的に削除するかどうか、および何日後に印刷ジョブをキューから削除するか
- 印刷キューに表示する、各印刷ジョブの追加情報

以下の操作を行います。

1. Release2Meワークフローをダブルクリックして、システムエディターで開きます。
2. **[詳細設定]** ボタンを選択します。以下のポップアップ画面が表示されます。



3. Dispatcher Phoenixでキューに入ったまま所有者が使っていないジョブが自動的に削除されるようにするには、**[所有者が使っていないジョブを削除]** ボックスをチェックしてから、印刷ジョブがキューから削除されるまでの日数を入力します。

4. 既定では、Release2Meキューには、各印刷ジョブのファイル名、送信日、ページ総数、およびファイルサイズが表示されます。メタデータを使用すると、印刷ジョブに関する情報をさらに追加することができます。以下の操作を行います。

   a. **[カスタム列]** フィールドの横にある **[メタデータの参照]** ボタンをクリックします。

   b. [メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。対象のメタデータを見つけて選択したら、**[カスタム列]** フィールドまでドラッグします。このフィールドには、複数のメタデータ変数を追加できます。

5. **[保存]** ボタンを選択して、変更内容を保存します。

追加のPJLヘッダーの指定

このノードを使用して、以下の操作を行うこともできます。

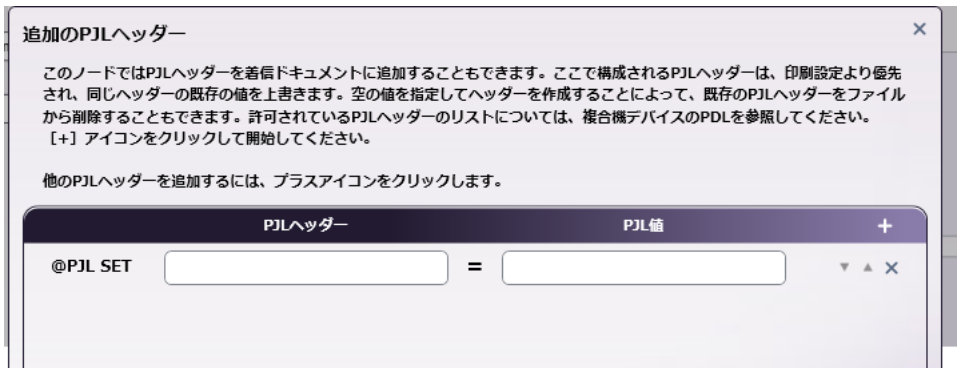
- 入力ドキュメントにPJLヘッダーをさらに追加する。
- 入力ドキュメントにある既存のPJLヘッダーの値を変更する。
- 入力ドキュメントから既存のPJLヘッダーを削除する。

重要! カスタムPJLヘッダーを追加すると、ドキュメントを正しく印刷できなくなる場合があります。印刷に使用する特定のデバイスに適したPJLヘッダーを必ず把握しておいてください。

以下の操作を行います。

1. 最初に、**[詳細設定]** ボタンを選択します。以下のパレットが表示されます。

2. **[+]** ボタンをクリックします。以下の図のように、空の行が表示されます。



3. PJLヘッダーの名前を@PJL SETラベルの横に入力し、それに対応する値を=記号の後ろに入力します。
4. 必要に応じて、行を続けて追加します。
5. 行を削除するには、 ボタンをクリックします。

6. リスト内で行を上下に移動するには、**矢印** ボタンをクリックします。
7. 値が空のPJLヘッダー行を作成すると、入力ドキュメント内のその特定のPJLヘッダーは削除されます。

ここで指定するいずれの値も、入力ドキュメント内の同じPJLヘッダーの既存の値を上書きします。

デモノードのインストール

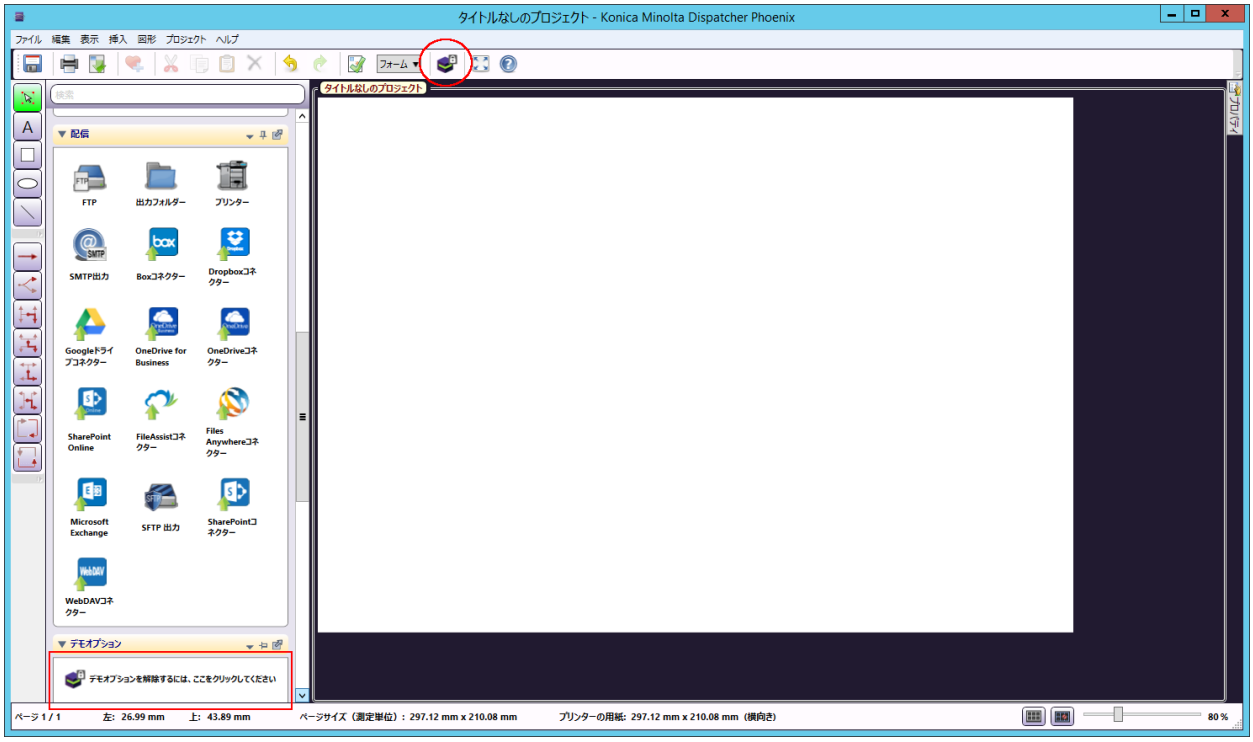
Dispatcher Phoenixプラットフォームの全ての機能を体験して試すために、Dispatcher Phoenix任意の機能の試用ライセンスを入手して30日間インストールして使用することができます。たとえば、現在、Dispatcher Phoenix Foundationsのユーザーであり、自動化されたベイツスタンプに興味がある場合、現在のインストールに高度なベイツスタンプ処理ノードの30日間の試用ライセンスを追加できます。すべてのデモノードは商用利用が許可されており、フルライセンスノードと同じ機能を備えています。

注: デモノードは **Dispatcher Phoenix**でのみ利用可能です。**Dispatcher Phoenix ScanTrip** および **Dispatcher Phoenix Release2Me+**では使用できません。

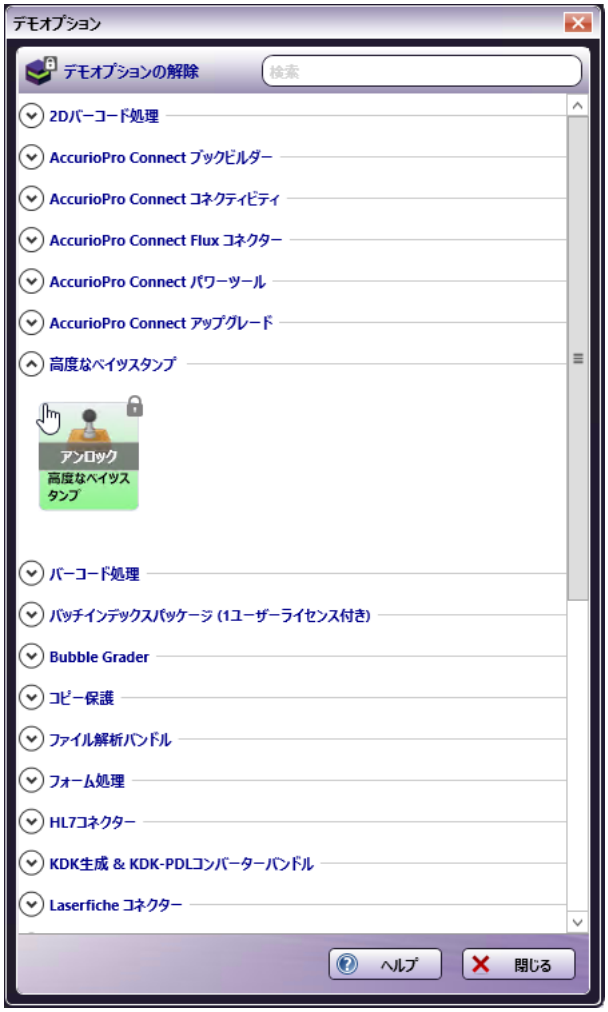
デモノードのインストール

Dispatcher Phoenixノードのデモライセンスをインストールするには、以下の手順に従います。

1. ワークフロービルダーツールを開きます。Dispatcher Phoenixクライアントアプリケーションの **[新規ワークフロー]** ボタンを選択して新しいワークフローを作成するか、**[ワークフローリスト]** のワークフローをダブルクリックして既存のワークフローを編集することができます。
2. デモノードを表示してインストールするには、ワークフロービルダーツールの左側にある標準の **[お気に入り]** 、**[収集]** 、**[処理]** および **[配信]** パレットの下の **[デモオプション]** パレットの **[デモオプションのロックを解除するにはここをクリック]** ボタンを選択します。

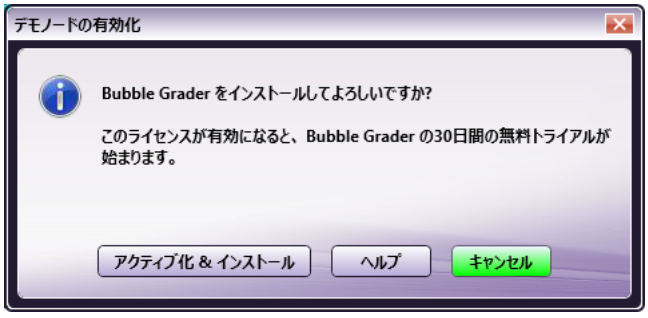


3. または、ツールバーから **[デモオプションの解除]** アイコン ( )をクリックできます。
4. デモノードは、それらが属する購入可能なバンドルごとに編成されています。バンドルに含まれているノードを表示するには、バンドル名または下矢印をクリックしてノードパレットを展開します。ノードアイコンの右上隅にあるロックアイコンは、この機能がデモ用に使用可能であることを示しています。
5. デモノードをインストールするには、ノードの上にマウスを置き、**[アンロック]** を選択します。確認ウィンドウが表示されます。

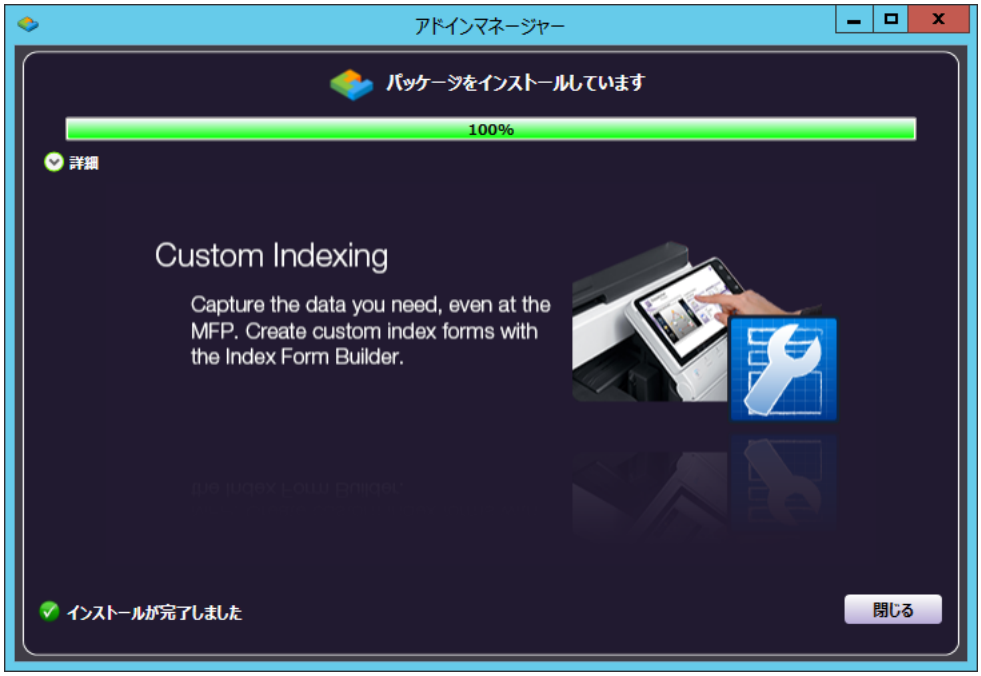


6. 30日間のトライアルライセンスをアクティブ化するには、確認ウィンドウで **[アクティブ化 & インストール]** を選択してください。アクティブ化をキャンセルするには、**[キャンセル]** を選択してください。

   注: バンドル内のいずれかのノードの試用ライセンスをアクティブにすると、バンドル内のすべてのノードがインストールされます。ライセンスは、ノードがアクティブ化された日から30日で期限切れになります。同時にいくつのDispatcher Phoenixバンドルをデモできるかについての制限はありません。

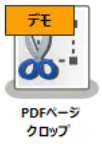


7. アドインマネージャーにシステムの変更の許可を要求する **[ユーザーアカウント制御]** ウィンドウが表示されることがあります。**[はい]** を選択します。アドインマネージャーが起動して、選択したバンドルに属するすべてのデモノードを自動的にアクティブ化してインストールします。



8. アドインマネージャーがインストールを完了したら、**[閉じる]** ボタンを選択します。デモノードがアクティブになると、次のことが起こります。
   - ノードがワークフロービルダーツールの **[デモオプション]** ノードパレットに追加されます。

   - 次の図のように、デモノードはワークフローキャンバス領域上でノードアイコン上のオレンジ色の **[デモ]** ラベルで識別されます。



デモノードの管理

30日間の試用期間が終了すると、次のことが起こります。

- デモラベルのテキストは[デモ]から[期限切れ]に変わります。
- デモラベルは赤くなります。
- ワークフローは実行を停止し、必要なノードが完全にライセンスされるまで再開できなくなります。

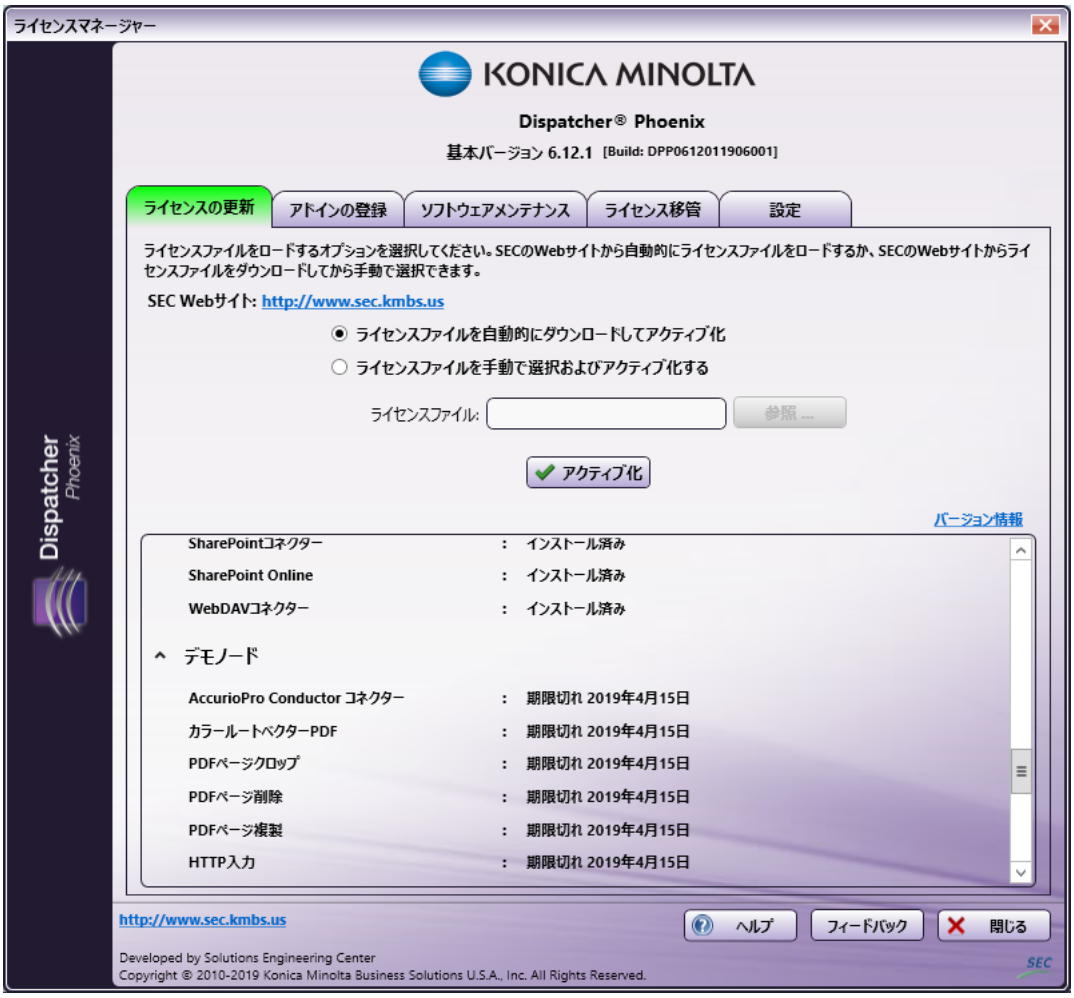
注: 期限切れのデモノードは、引き続きノードパレットから使用することができます。更新がリリースされるとノードの機能が更新され、設定をプレビューすることができます。ただし、アクティブなワークフローでトライアルライセンスが期限切れになると、ノードを使用することはできなくなります。

デモノードの有効期限の表示

ライセンスマネージャーを介して試用版ライセンスの有効期限を監視することができます。以下の操作を実行します。

1. Dispatcher Phoenixクライアントアプリケーションの右上隅にある **[ヘルプ]** ドロップダウンに移動します。**[ライセンスマネージャー...]** を選択してます。
2. **[ライセンスの更新]** または **[アドインの登録]** タブで、ウィンドウの右側にあるスクロールバーを使用して **[デモノード]** に移動します。

次の図のように、現在インストールされているすべてのデモノードとその有効期限が一覧表示されます。



デモノードライセンスの非アクティブ化

[デモオプション] ノードパレットからデモノードを削除するには、

1. **[デモオプションのロックを解除するにはここをクリック]** ボタンを選択します。
2. 目的のデモノードを見つけて、アイコンの上にマウスを置きます。**[非アクティブ化]** をクリックします。あるいは、ノードパレット内のデモノードを右クリックして、**[非アクティブ化および削除]** を選択します。確認ウィンドウが表示されます。無効化をキャンセルするには、**[キャンセル]** を選択します。

3. アドインマネージャーにシステムの変更の許可を要求する **[ユーザーアカウント制御]** ウィンドウが表示されることがあります。**[はい]** を選択します。アドインマネージャーが起動し、選択したデモノードを自動的に無効にしてアンインストールします。

[デモオプション] ノードパレットからノードのバンドルを削除するには：

1. **[デモオプション]** の横にある **[メニュー]** 矢印を選択します。
2. **[並び変え]**、次に **[区切り線あり]** に移動します。
3. バンドル名のとなりの右上隅にある をクリックします。確認ウィンドウが表示されます。非アクティブ化をキャンセルするには、**[キャンセル]** を選択します。
4. アドインマネージャーにシステムの変更の許可を要求する **[ユーザーアカウント制御]** ウィンドウが表示されることがあります。**[はい]** を選択します。アドインマネージャーが起動し、選択したバンドルを自動的に無効化し、アンインストールします。

デモノードライセンスの変換

デモノードを完全にライセンスされた機能に変換するには、適切なDispatcher Phoenixノードバンドルを購入する必要があります。その後、アドインモジュールを登録します。詳細は**アドインの登録** を確認してください。

デモライセンスが完全にライセンスされた機能に変換されると、購入されたノードはデモノードパレットから適切な収集、処理、または配信フォルダーに移動します。

収集ノード

入力フォルダー

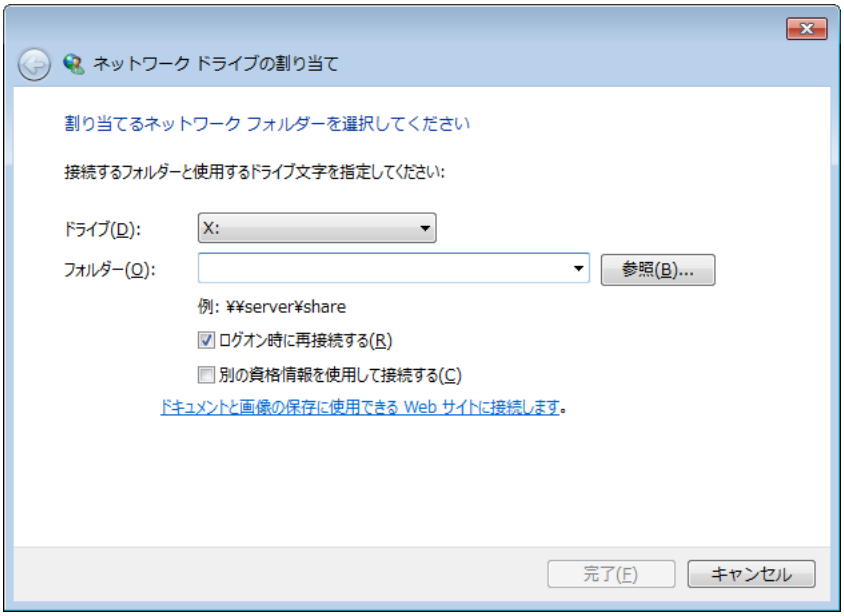
収集ノード（この例ではフォルダー）をダブルクリックして ***[入力フォルダー] - [ノードのプロパティ]*** ウィンドウを開きます。画面の右側の[プロパティ]パネルを使用してワークフローでのノードの外観を定義し、[ノードのプロパティ]ウィンドウを使用して実際の入力フォルダーの定義を行います。

入力フォルダーノードウィンドウで、以下の操作を行います。

- 入力ソースが複数ある場合、**[有効]** ボックスがチェックされていて、1つ以上の収集ノードが有効になっていることを確認します（入力ソースが1つの場合には不要です）。
- **[ノード名]** フィールドに入力フォルダーノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドにノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、収集ノードが複数ある場合に役に立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 以下の収集オプションを指定します。
  - **[ファイルをグループとして処理。]** ファイルのいずれかを処理する前に、アプリケーションにすべてのファイルを一度に収集させるには **[ファイルをグループとして処理]** ボックスをチェックします。チェックしないままにするとファイルはそれぞれ個別に収集されて処理、配信されます。
  - **[取得時に削除する。]** 取得したファイルを **[削除]** するにはこのボックスをチェックします。ファイルが削除されていない場合、ファイルは次に同じ入力ソースを使用してワークフローが実行されるときに再度処理されます。
  - **[以前に処理されたファイルを収集。]** ワークフローが実行される度にドキュメントを収集できるようにするには、[以前に処理されたファイルを収集する]チェックボックスをオンにします。このボックスがチェックされていない場合、ファイルは一度だけ処理されます。
- **[入力ディレクトリの選択]** フィールドで、**[省略記号]** ボタン（ … ）をクリックし、入力場所をブラウズして選択します。フィールドに場所が表示されたら、矢印を使用してエクスプローラーウィンドウを開きます。入力場所を指定するとき、**日付、ファイルシステム、およびユーザーの動的変数** を使用できます。

注:

- ***新しく*** マップされたネットワークドライブから収集する場合、[ネットワークドライブのマップ]ウィンドウでネットワークドライブを指定するときに **[ログオン時に再接続]** ボックスがチェックされていることを確認してください。***既存の*** マップされたネットワークドライブに新しいフォルダーを追加する場合、まずマップされたネットワークから切断（ドライブを右クリックし[切断]オプションを選択）してから[ネットワークドライブのマップ]ウィンドウで再接続する必要があります。この時点で、ネットワーク資格情報を再入力する必要があります。



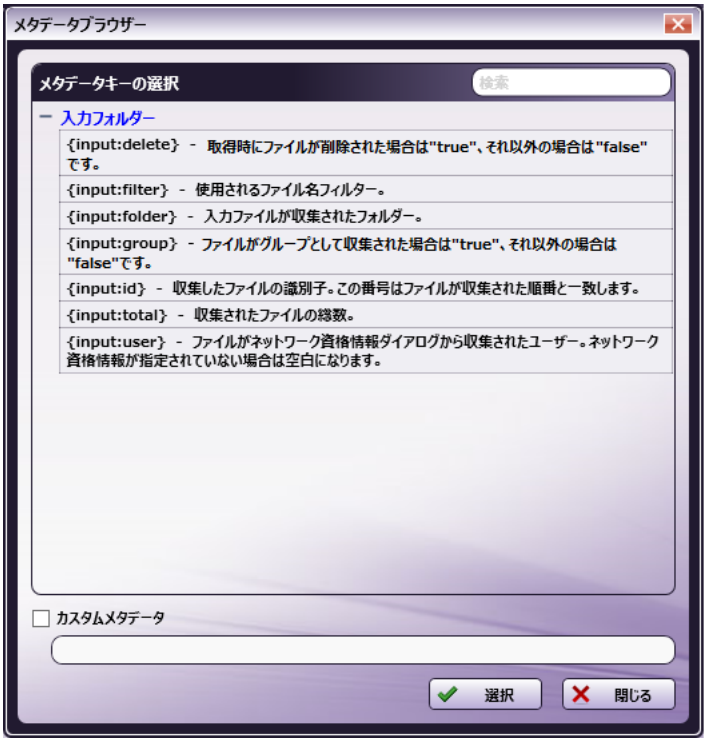
- ネットワークディレクトリを指す入力フォルダーを作成する場合、ネットワーク資格情報を入力する必要があります。**[省略記号]** ボタンの右にある **[ネットワーク資格情報]** ボタン( )を選択し、[ネットワーク資格情報]ウィンドウにアクセスします。このウィンドウでユーザー名を選択し、適切なパスワードを入力します。

  重要! Dispatcher PhoenixはCIFSネットワーク共有とSMBネットワーク共有のみをサポートします。

- 入力した入力場所がユーザーごとに変わらないようにするには **[絶対パス]** ボックスをチェックします。このオプションを使用すると、該当の場所で実行されるあらゆる種類の置換が無効になります。既定の設定(チェックなし)では、事前定義されたファイルシステム変数にパスを置き換えることが許可されています。
- **[ファイルフィルター]** フィールドにファイル拡張子を入力し、収集するファイルタイプを定義します(すべてのファイルを収集するには、このフィールドを空のままにします)。フィルターを使用すると、処理ノードは間違ったタイプのファイルを処理しなくなります。たとえば、イメージ(.jpg、.pngなど)に対してのみ作用するマージ機能を使用している場合、フィルターを使用してアプリケーションがWordのドキュメント(.doc)をマージしようとすることを防止できます。
- ノードについてのオンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。
- このノードの定義を保持するには、**[保存]** ボタンを選択します。
- 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。

メタデータキーの選択

メタデータブラウザー がいずれかのノードで開いているときは、次のメタデータキーは入力フォルダーノードから各ファイルにエクスポートすることができます。



- **{input:total}** - 収集したファイルの総数。
- **{input:id}** - 収集したファイルの識別子。この番号はファイルが収集された順に準じます。

- **{input:folder}** - ファイルが収集されたフォルダーパス。
- **{input:user}** - ファイルを収集したユーザー。
- **{input:filter}** - ファイル名に適用されるフィルター。
- **{input:group}** - ファイルがグループとして収集された場合は[true]、それ以外の場合は[false]です。
- **{input:delete}** - 取得時にファイルが削除された場合は[true]、それ以外の場合は[false]です。

ファイアウォールの注意事項

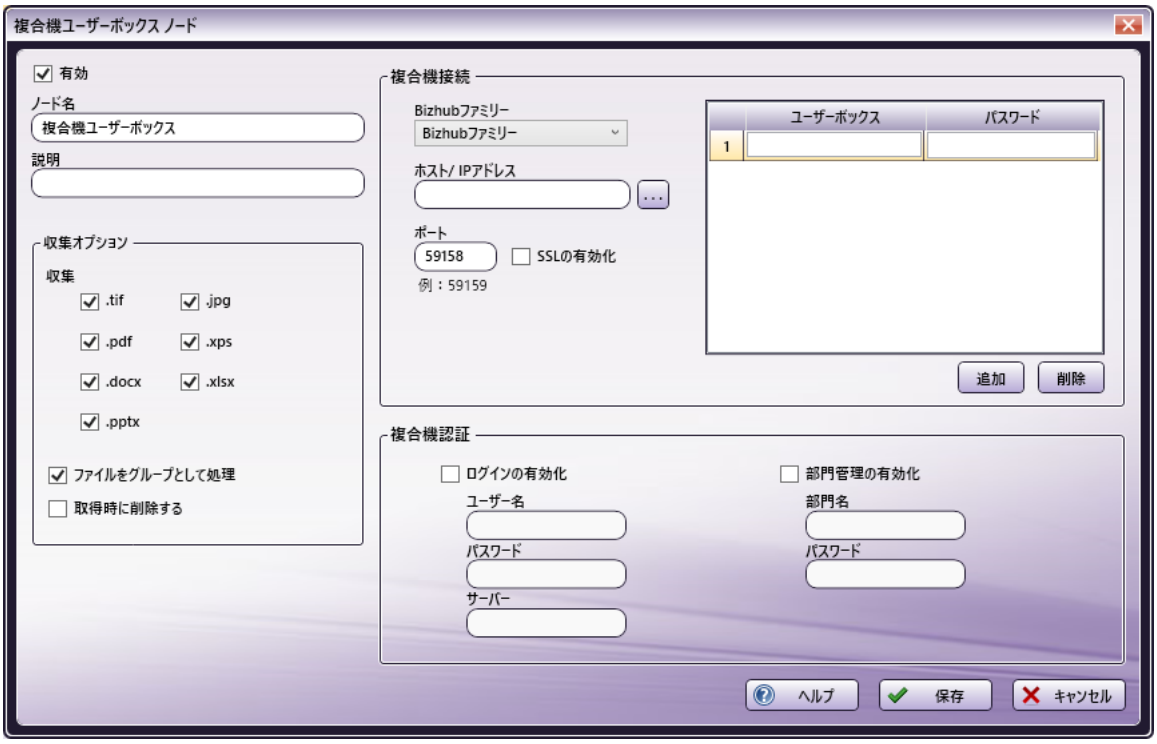
一部のアンチウイルスソフトウェアを含むサードパーティーのファイアウォールアプリケーションは、Dispatcher Phoenixの入力フォルダーが使用するポートをブロックする場合があります。Dispatcher Phoenixは、SMBプロトコルまたはCIFSプロトコルを使用してWindowsのディレクトリにアクセスします。既定では、SMB/CIFSはオペレーティングシステムおよびネットワーク要件に応じて多数の異なるポートを必要とします。接続に失敗した場合、ワークフローのログで以下のメッセージを確認してください。

「ディレクトリにアクセスできませんでした:'\\server\share\path\to\file'」

Windowsのディレクトリに正しくアクセスできるようにするには、お使いのファイアウォールアプリケーションのドキュメントを参照してワークフローエンジン処理「blox-erl.exe」がアクセスできるようにしてください。

コニカミノルタ® 複合機ユーザーボックス

入力ソースとしてネットワーク複合機のユーザーボックスを使用している場合、そのノードウィンドウはフォルダーのウィンドウとは別になります。複合機ユーザーボックス収集ノードをダブルクリックして、以下の図のように **[複合機ユーザーボックスノード]** ウィンドウを開きます。



- この場所を入力ソースとして使用するように **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認してください。また、このボックスがチェックされていると、入力ソースが複数ある場合、1つ以上の収集ノードを使用できます。チェックを外すと、この入力は無視されます。ドキュメントはこのノードの場所からは収集されません。
- **[ノード名]** フィールドに「収集元」複合機ユーザーボックスノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに複合機ユーザーボックスノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数存在する場合に複合機ユーザーボックスノードの認識を容易にできます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 以下の **収集オプション** を指定します。
  - **[収集]:** TIFF、JPG、XPS、またはPDFのファイルを選択できます。特定のタイプのイメージファイルを収集しない場合、そのボックスのチェックを外します。
  - **[ファイルをグループとして処理]:** ファイルのいずれかを処理する前に、アプリケーションにすべてのファイルを一度に収集させるには **[ファイルをグループとして処理]** ボックスをチェックします。
  - **[取得時に削除する]:** 収集したファイルを削除するには、**[取得時に削除する]** ボックスをチェックします。ファイルは削除しないと同じ入力を使用して次にワークフローが実行されるときに再度処理されます。

注: 複数ページのドキュメントをJPGとしてスキャンすると、すべてのページが別々のファイルとして収集され、名前が変更されます。たとえば、10ページのドキュメントをスキャンすると、JPGファイルの名前は以下のようになります。ファイル名_1_of_10.jpg、ファイル名_2_of_10.jpg…ファイル名_10_of_10.jpg。

- **[複合機接続]** セクションで複合機にアクセスする方法を定義します。
    - **[Bizhubファミリー]** :最も一般的はファミリーはBizhubですが、使用している複合機に応じてファミリータイプのドロップダウンリストから別のファミリーを選択できます。以下のような選択肢があります。

    bizhubファミリー - C754、C654、C364、C284、C224、C220、C280、C35、C360、C451、C452、C550、C552、C650、C652、160、181、223、25、283、361、363、421、423、501、552、601、652、751、42/36など。

    bizhub PRESS - C6000、C7000、C8000など。

    注: bizhub PRESSマシンから収集できるのはJPGファイルだけです。

    bizhub PRO - 1051、1200、950、C5501、C6000L、C6501など。

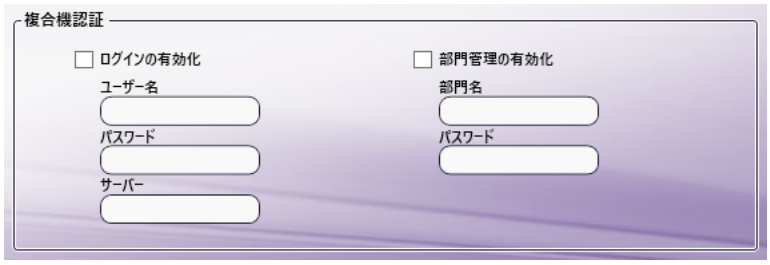
    注: bizhub PROマシンから収集できるのはTIFFファイルだけです。

    bizhubファミリー:C350 bizhubファミリー:200 bizhubファミリー:250 bizhubファミリー:350 - コニカミノルタのこれらのモデルは特定の構成のメニューから選択する必要があります。また、これらのモデルをアプリケーションで動作させるには、2.5世代のファームウェアがインストールされている必要があります。

    従来のセキュアモデル - これらのマシンはボックスにスキャンします。ボックスはパスワードが必要な場合と不要な場合があります。Bizhub Pro 920、Bizhub Pro 1050、Konica 7145(ファームウェアリリース遅延)。

    従来の標準モデル - コニカのこれらのマシンは通常、パスワードがないボックスにスキャンします。Konica 7020、7022、7025、7030、7033、7040、7045、7075、7085、7130、7135、7145、7165、7155、7222、7228、7235、7255、7272。

    - **[ホスト/IPアドレス]** :収集に使用する有効なホスト名(mysubdomain.domain.comなど)または数字のIPアドレス(10.10.220.110など)を入力するか、*省略* ボタン(...)をクリックして複合機エクスプローラーツールを開き、ネットワーク上の複合機デバイスを探します。複合機エクスプローラーは、現在構成されているネットワークで複合機デバイスを検索し、デバイスが選択されると、複合機ノードのプロパティ ウィンドウにあるフィールドに正しい情報を自動的に入力します。この場合、複合機ノードのウィンドウにある既存の設定はすべて上書きされます。複合機エクスプローラーの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
    - **[ユーザーボックス]/[パスワード]:** この領域にユーザーボックス番号またはユーザーボックス名(該当する場合にはパスワードも)入力します。ユーザーボックスを追加する必要がある場合 **[追加]** ボタンを選択します。
    - **[ポート]:** これは既定でコニカミノルタ製複合機の一般的なポート番号になっています。
    - **[SSLの有効化]:** 複合機でSSLが有効になっていない場合のみ、このボックスのチェックを外します。
- **[複合機認証]:** ユーザー認証または部門管理(あるいは両方)が有効になっている場合、複合機アクセス権を取得するために追加の詳細が必要です。



    - **[ログインの有効化]:** 認証された **[ユーザー名]** および **[パスワード]** を入力します。外部サーバーに接続して認証するように複合機が構成されている場合、複合機は認証のために外部サーバーに接続するように構成されています。複合機ユーザーボックス収集は、**サーバー** フィールドに適切な名前を入力することにより、同じサーバーに対しても構成できます。複合機エクスプローラーツールは、使用可能なサーバーを自動的に検出し、選択可能なリストを提示します。
    - **[サーバー]** フィールドに適切な名前を入力して、同じサーバーに対して複合機ボックス収集も構成できます。複合機エクスプローラーツールは、使用可能なサーバーを自動的に検出し、選択リストを表示します。
    - **[部門管理の有効化]: 部門管理** がオンになっていて同期が有効になっていない場合、適切な **[部門名]** および **[パスワード]** を入力します。

重要! コニカミノルタ複合機パネルで、認証された管理者は、ログインして**ユーザー認証** と**部門管理** の両方をオンにし、同期を有効にできます。ユーザーとアカウントとを同期させると1回のログインでアクセスできるようになります。同期していないと、ユーザーは、複合機(上記のように **[複合機認証]** 以下のリスト)を使用するために2回ログインする必要があります。同期が有効になっている場合、**[複合機パネル]** でログインをアカウントに関連付けて、リモートログインの許可を取る必要があります。複合機パネルでの手順は以下のとおりです。

1. ***[ユーティリティ]/[カウンター]*** を押します。
2. ***[管理者設定]*** を選択します。
3. ***[管理者パスワード]*** を使用してログインします。
4. ***[ユーザー認証/部門認証]*** を選択します。
5. ***[一般的な設定]*** を選択します。
6. ***[ユーザー認証]*** を[オン(複合機)]に設定します。
7. ***[部門管理]*** を[オン]に設定します。
8. ***[ユーザー認証と部門認証の同期]*** を[同期する]に設定します。

ログインとアカウントの両方の入力をユーザーに求めるには上記の手順を実行しますが、[ユーザー認証と部門認証の同期]を[同期しない]に切り替えます。

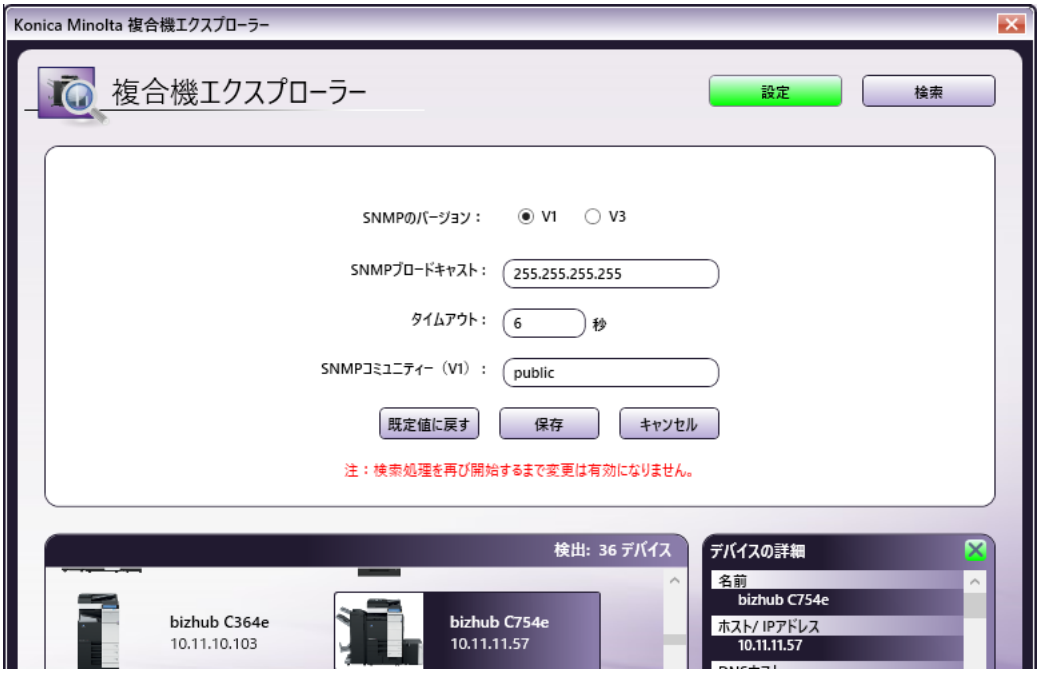
- **複合機収集ノードの定義が終了** したら、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してノードについてのオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

複合機エクスプローラー

複合機の設定を簡単により正確に行うために、**Dispatcher Phoenix** には複合機エクスプローラーツールが組み込まれています。複合機エクスプローラーを開くには、**[ホスト/IPアドレス]** フィールドの横にある**省略** (...)ボタンをクリックします。複合機エクスプローラーは、起動すると現在構成されているネットワークで複合機デバイスを検索します。次の図のようにすべての結果がウィンドウに表示されます。

- **詳細を表示** するには複合機デバイスをクリックします。次の図のようにウィンドウの新しいペインに詳細が表示されます。

- 検索した現在のネットワークの**設定を変更** するには、次の図のようにウィンドウの上部にある **[設定]** ボタンを選択します。



[SNMPブロードキャスト]は、複合機デバイスを検索するネットワークサブネットを複合機エクスプローラーに通知します。既定では、これは255.255.255.255に設定されています。この設定ではアクセス可能なすべてのサブネットが検索されます。特定のサブネットを入力して検索範囲を絞り込めます。

[SNMPコミュニティー]は、各複合機に渡されるパスフレーズに似ています。既定では、コニカミノルタの複合機デバイスは、このフレーズが[public]に設定されています。ネットワーク上の複合機デバイスでこの値が変更された場合、そのパスフレーズをここに入力できます。

[タイムアウト]では、複合機エクスプローラーがネットワーク上の複合機の検出に費やす際の制限時間を設定できます。ネットワーク上の複合機数が少ない場合、この数を小さいままにしてください。ただし、複合機が多数ある場合、この数を増やすことをお勧めします。既定では、[タイムアウト]は6秒に設定されています。最大値は300秒（5分）です。

目的の複合機デバイスが見つかったらこれをクリックして強調表示し、ウィンドウの下部にある[選択]ボタンを選択します。選択された複合機デバイスの情報が複合機ノードのプロパティパネルに自動的に入力されます。

注: 検出されたすべての複合機デバイスがDispatcher Phoenixと互換性があるわけではありません。完全互換ではないデバイスでは一部の情報だけがノードのプロパティパネルに表示されます。フォームに情報がすでに入力されている場合、新しい部分的な複合機デバイス情報が表示される前にそのデータはクリアされます。

ファイアウォールの注意事項

一部のアンチウイルスソフトウェアを含むサードパーティーのファイアウォールアプリケーションは、Dispatcher Phoenixの複合機ノードが使用するポートをブロックする場合があります。バージョン1およびバージョン2では既定ではポート59159でSSLは有効です。バージョン3では、デフォルトはポート59158でSSLは有効になっていません。ただし、このポート番号は構成できるため、番号が変更された場合には異なる番号である場合があります。ファイルの接続に失敗した場合、ワークフローのログで以下のようなメッセージを確認してください。

「mfp.com:59159に接続できませんでした:(SSL:yes、type:16)」

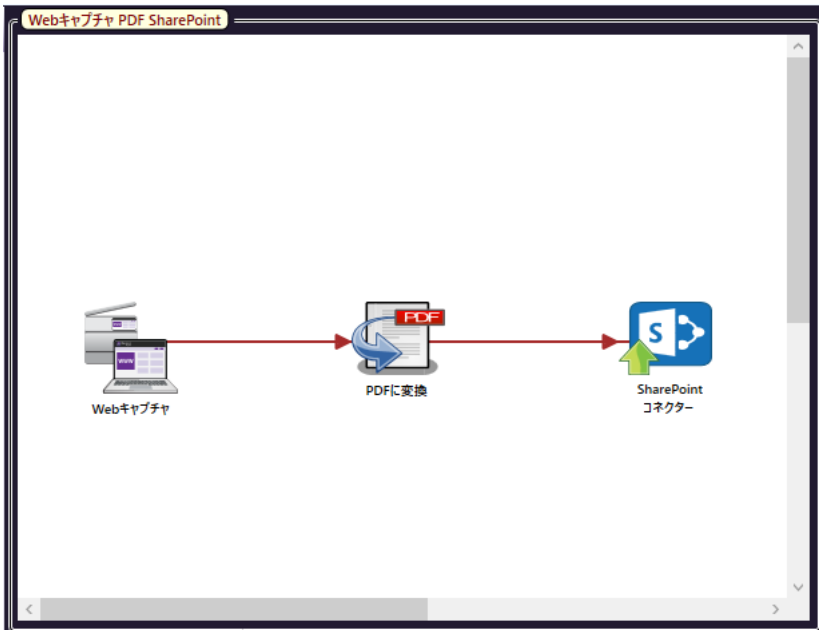
複合機収集が正しく動作するようにするには、お使いのファイアウォールアプリケーションのドキュメントを参照して、ポート59158/59159をブロックしないようにするか、またはワークフローエンジン処理「blox-erl.exe」がアクセスできるようにしてください。

Webキャプチャノード

Dispatcher Phoenix Webキャプチャ ノードは、互換性のあるWebブラウザーから **Dispatcher Phoenix** にアクセスして実行することができるセキュリティで保護されたドキュメントスキャンアプリケーションです。この方法でWebブラウザーがあるデバイスからドキュメントを **Dispatcher Phoenix** ワークフローにスキャンすることができます。**Webキャプチャ** ノードは、**複合機パネルノード** と同様にユーザー認証、フォルダーの参照、ドキュメントのインデックス作成などをサポートします。たとえば、**Webキャプチャ** を使用すると、サポートされている任意のWebブラウザーインターフェイスから、SharePointやOnBaseなどのドキュメント管理システムのフォルダーをインデックス付けして閲覧することができます。Webブラウザーから **Dispatcher Phoenix** にアクセスするため、ファイルはスケジューリングなしですぐに処理されます。

注: 複合機パネルノード とは異なり、**Webキャプチャ** はWebブラウザー経由でスキャン設定を変更することはできません。代わりに、複合機でWebキャプチャアプリケーションを使用している場合、ネイティブ複合機スキャン設定オプションにアクセスできる場合があります。

次の図は、**Webキャプチャ** のシンプルなワークフローを表しています。



要件

Webキャプチャ の最小要件は次のとおりです。

- HTML 4.01仕様またはそれ以上
- ECMAScript 5th Edition(JavaScript 1.85と同等)以上
- カスケードスタイルシート レベル 2 リビジョン 1 (CSS 2.1)仕様またはそれ以上
- HTTP通信プロトコル 1.1
- 暗号化された通信プロトコルTLS 1.1またはそれ以上

サポートされるブラウザー

Dispatcher Phoenix Webキャプチャ は、以下のWebブラウザーを公式にサポートしていますが、上記の要件を満たすすべてのブラウザーでも適切に機能します。

- Internet Explorer 11 またはそれ以上
- Firefox
- Microsoft Edge
- Google Chrome
- Safari

デバイスの登録

Webキャプチャ ノードでデバイスを使用するには、**Dispatcher Phoenix Web デバイスツール** を使用してデバイスを登録し、さらにデバイスグループに追加する必要があります。個々のデバイスをワークフローに追加できる **複合機パネル** ノードとは異なり、**Webキャプチャ** では、デバイスをワークフローに追加する前にデバイスグループに含める必要があります。このようにアプリケーションは入力を受信できるデバイスを認識します。

IPアドレスが変更された場合

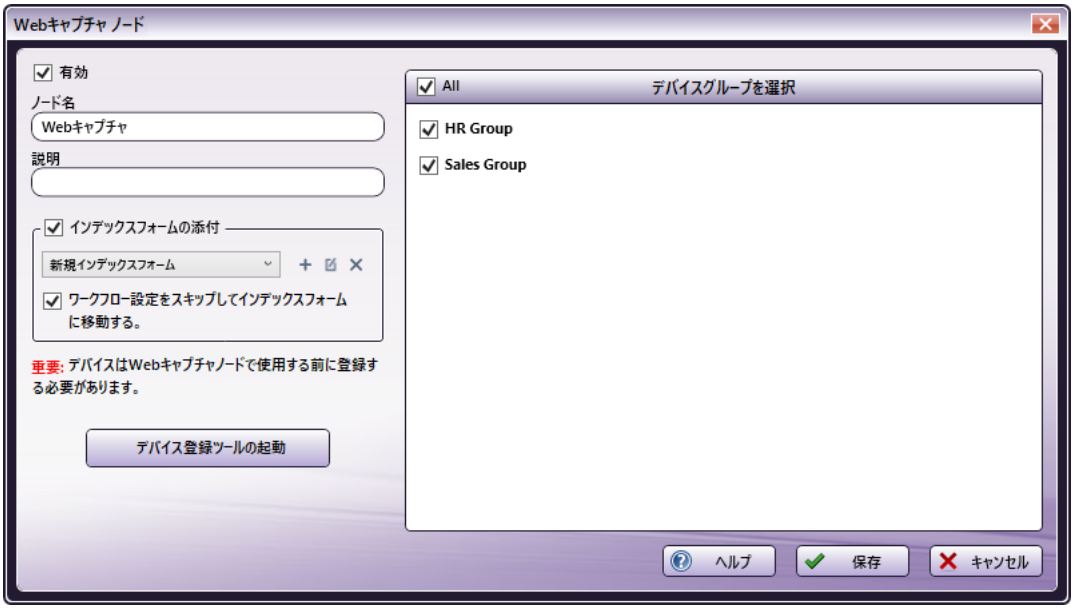
Dispatcher Phoenix のインストール後にIPアドレスが変更された場合、Dispatcher Phoenixに接続する前にIPアドレスを更新する必要があります。更新するには次の手順を実行します。

1. Dispatcher Phoenix Webを開き、管理者権限でサインインします。
2. **デバイスタイル** タイルをクリックします。
3. **既定値ボタン** をクリックします。
4. bESTサーバーのホスト名/IPアドレスフィールドの横にある [**更新**] ボタンをクリックします。
5. [**保存**] をクリックして、変更を保存します。

注: **既定値** ウィンドウで行われた変更はすべて保存されますが、デバイスが初めて登録されるか、もしくは登録解除されてから再度登録されるまでデバイスには適用、検証されません。

Webキャプチャノードのセットアップ

デバイスが登録され、デバイスグループに追加されると、**Dispatcher Phoenix** の **Webキャプチャ** ノードで使用することができます。開始するには、ワークフローに **Webキャプチャ** ノードを追加し、ノードをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開きます。



- **[有効]** - このノードを入力ソースとして使用するにはこのボックスをオンにします。オフの場合、ワークフローはこの入力を無視します。ワークフローは検証可能ですが、無効な入力はドキュメントを収集しません。
- **[ノード名]** - この **Webキャプチャ** ノードの名前を入力します。
- **[説明]** - ノードの説明を入力します。これは必須フィールドではありませんが、一意の説明により、ノードをワークフロー内の他のノードと区別できます。説明が長い場合、このフィールド上にマウスを移動して、内容全体を表示します。
- **[インデックスフォームの添付]** - ワークフローにインデックスフォームを追加するには、**インデックスフォームの添付** ボックスをチェックします。
- **[ワークフロー設定をスキップしてインデックスフォームに移動する]** - ワークフローにアクセスするときにインデックスフォームに直接移動するには、このボックスをオンにします。一つのワークフローのみが実行されている場合、インデックスフォームが直接表示されます。複数のワークフローが実行されている場合、ワークフローを選択するとインデックスフォームが表示されます。
- **[デバイス登録ツールの起動]** - このボタンをクリックして、**Dispatcher Phoenix Web デバイスツール** にアクセスします。ここでデバイスを登録し、デバイスグループを定義できます。
- **[デバイスグループを選択]** - 既存のデバイスグループがパネルに表示され、選択できるようになります。ワークフローに含めるデバイスを含む1つ以上のデバイスグループの横にあるチェックボックスをオンにします。**[デバイス登録ツールの起動]** ボタンをクリックして、各デバイスグループの内容を表示したり、追加のデバイスグループを定義したりできます。
- **[ヘルプ]** - ノードについて説明するオンラインヘルプトピックにアクセスします。
- **[保存]** - 現在の設定を保存して、ノードを終了します。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了します。

Webキャプチャ メタデータ

次のWebキャプチャ固有のメタデータは、**Webキャプチャ** ノードによって作成されます。

メタデータ値	説明
{webcapture:device_address}	Webキャプチャノードにファイルを送信するデバイスのIPアドレス。
{webcapture:num_files}	Webキャプチャノードに送信されたファイルの数。
{webcapture:user_agent}	Webブラウザーからのユーザーエージェントの詳細。

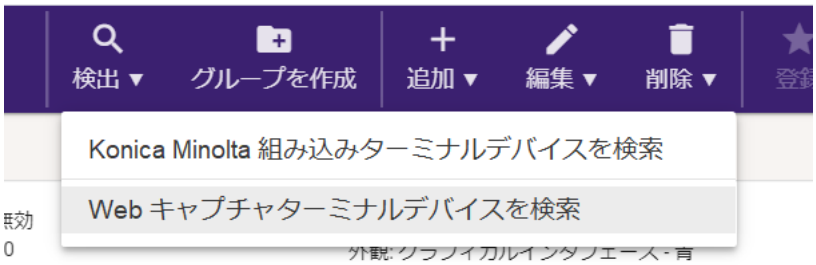
WebブラウザーからDispatcher Phoenixを使用する

Webキャプチャノードを使用して、Webブラウザーで **Dispatcher Phoenix** ワークフローにアクセスするには次の手順を実行します。

1. **Dispatcher Phoenix Web** を開き、管理者権限でサインインします。
2. **デバイスタイル** をクリックして、デバイスのホームページを開きます。ツールバーを使用して、次の操作を実行します。

a. **[グループを作成]** を選択して、Webキャプチャにアクセスするための新しいデバイスグループを作成します。

b. SNMPを介してブロードキャストされるWebキャプチャのすべてのデバイスを自動的に検出するには、**[検出]** を選択します。



c. **追加** を選択して、Webキャプチャ用のデバイスを手動で追加します。次の図のように、[デバイスを追加]ウィンドウが表示されます。

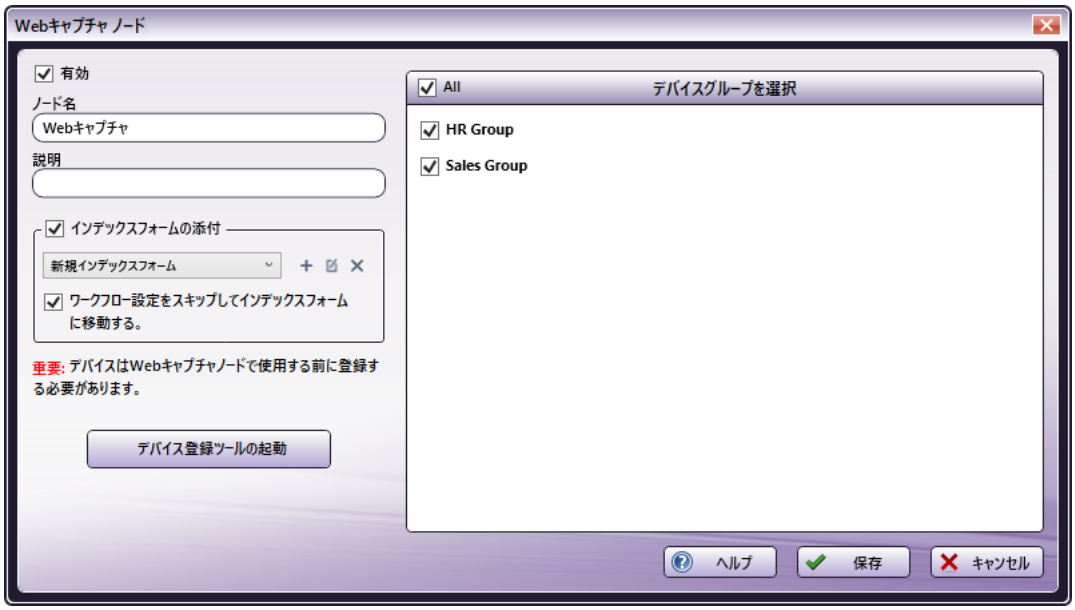
3. [デバイスを追加]ウィンドウを使用する場合は、次の手順を実行します。
   - **[ターミナルの種類]** - [**Webキャプチャターミナル**] を選択します。
   - **[IPアドレス]** - デバイスのIPアドレスを入力します。
   - **[名前]** - Dispatcher Phoenix Webデバイスパネルでアプリケーションを区別するために、アプリケーションに一意の名前を付けます。
   - **[アプリケーション名]** - デバイスに表示するWebキャプチャアプリケーションの一意の名前を入力します。
   - **[アプリケーションURL]** - WebキャプチャサーバーのURLは既定で表示されます。このURLをWebブラウザーのURL領域に入力して、**Dispatcher Phoenix** ワークフローにアクセスします。
   - **[Release2Meを有効にする]** - WebブラウザーからRelease2Me印刷キューにアクセスするには、このボックスをオンにします。
   - **[グループに割り当て]** - デバイスをグループに追加します。
   - **[認証タブ]** - **認証の設定** を指定します。
   - **[追加情報タブ]** - 機器ID、サービス契約ID、連絡窓口、郵便番号などのオプションのデバイス情報を追加するには、このタブを選択します。
   - **[追加]** - 変更を保存し、デバイスページを終了します。

注: [デバイス]タイルの詳細については、**デバイスツール** セクションを参照してください。

4. **Dispatcher Phoenix** を開きます。ワークフロービルダーツールから次の操作を行います。

   a. **Webキャプチャ** ノードをワークフローに追加します。

   b. 必要に応じて、**インデックスフォームの添付** ボックスをオンにし、**[+]** ボタンを選択します。



   c. [**デバイスグループの選択**] パネルで、Webキャプチャデバイスを含むデバイスグループを選択します。

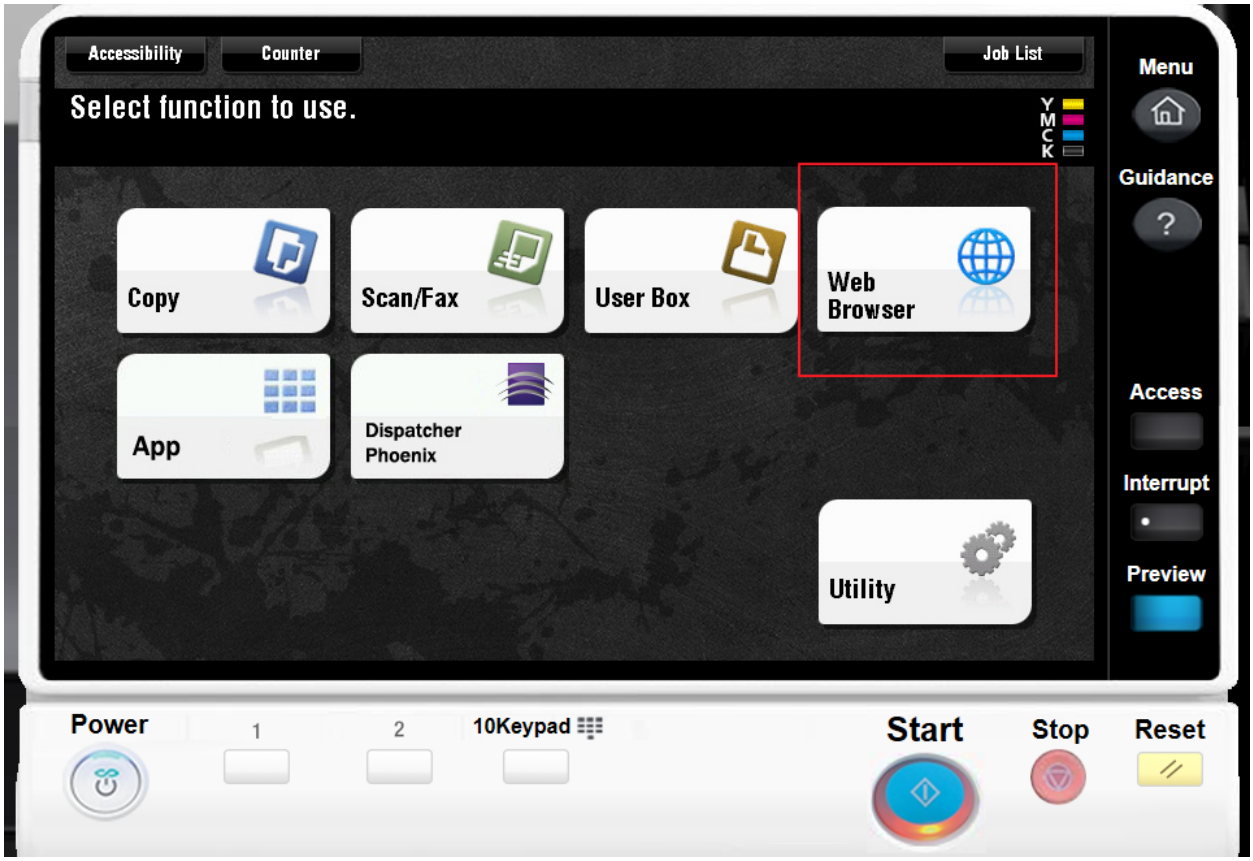
   d. ワークフローを実行します。

5. Webブラウザーでアクセスしたいデバイスにアクセスします。

複合機でWebキャプチャーへアクセスする

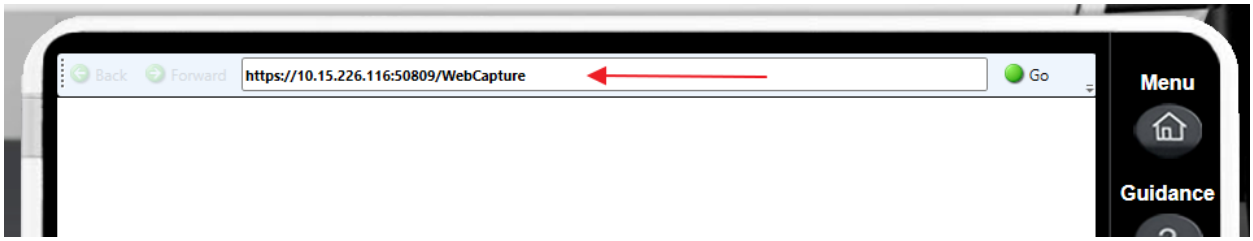
複合機デバイスで次の手順を実行して、Webブラウザーで Dispatcher Phoenixを開きます。

1. 複合機コントロールパネルからWebブラウザーを起動します。



2. URL表示領域をタップします。

3. WebキャプチャURLを入力します。例: https://10.15.226.116:50809/WebCapture (独自のIPアドレスに置き換えてください)



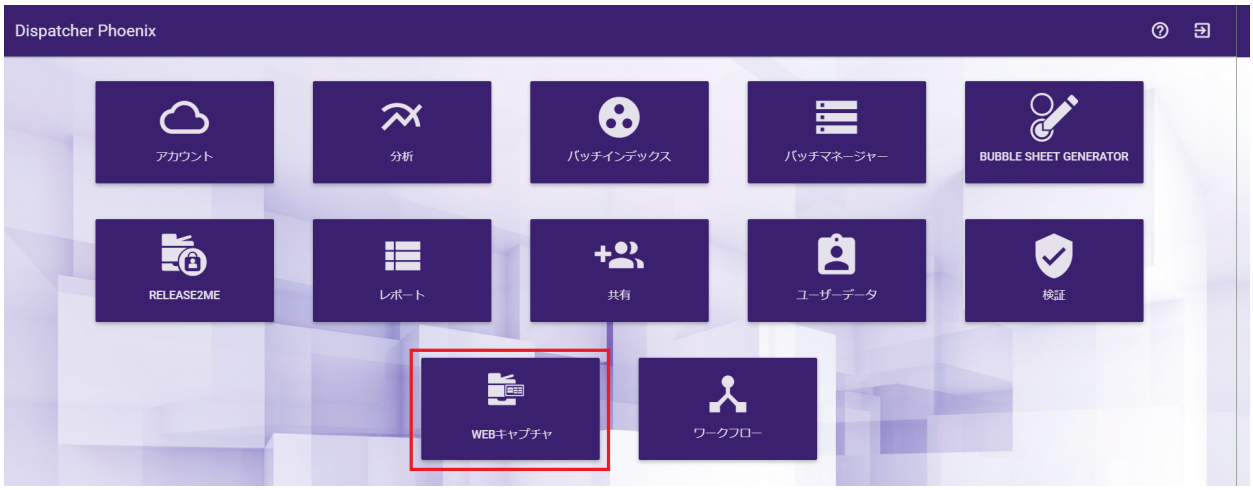
4. パネルが開き、実行中のワークフローが表示されます。

5. 将来、使用するためにページをブックマークします。

コンピューターデバイスでWebキャプチャーへアクセスする

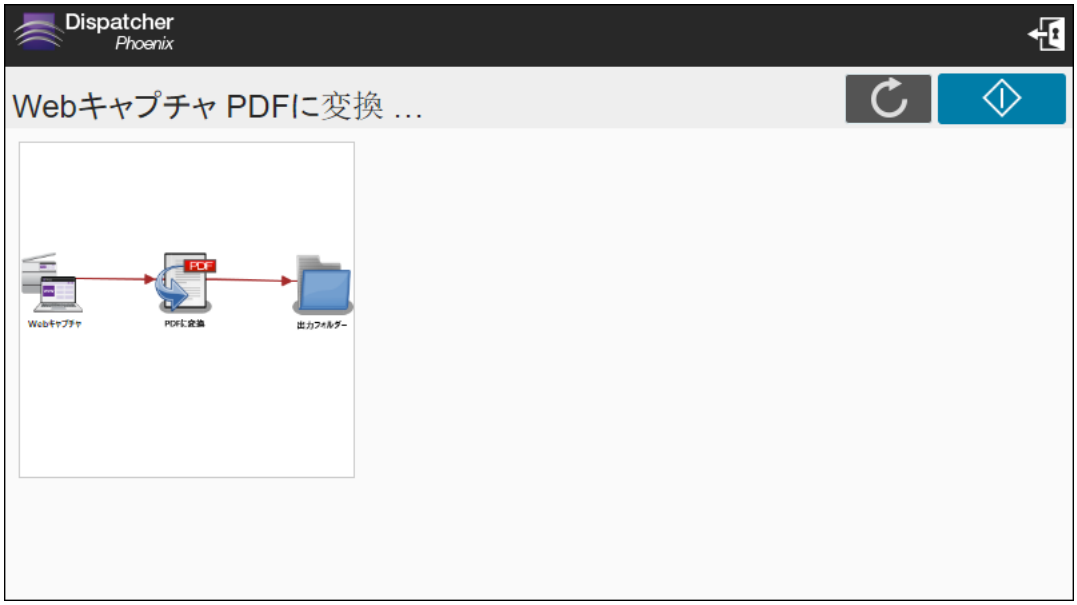
コンピューターデバイスで次の手順を実行して、WebブラウザーでDispatcher Phoenixを開きます。

1. Dispatcher Phoenix Webの[ホーム]ページで、[Webキャプチャ]タイルをクリックします。



2. Webキャプチャタイルの代わりに、アプリケーションURLをコピーしてWebブラウザーに貼り付けることもできます。アプリケーションのURLは、Dispatcher Phoenix Webデバイスツールにあります。[デバイス]タイルにアクセスするには、管理者権限が必要です。

3. Webブラウザーウィンドウが開き、実行中のワークフローが表示されます。



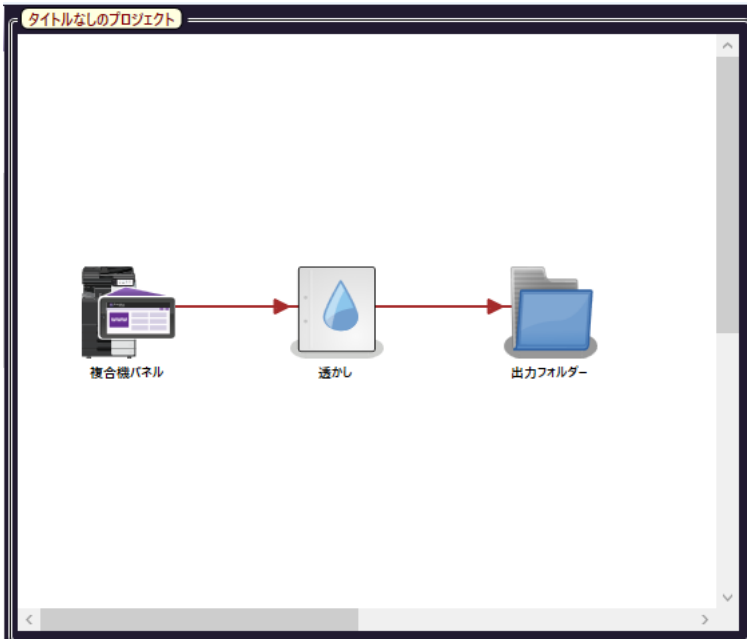
コニカミノルタ® 複合機パネルノード

Dispatcher Phoenix は、bEST（bizhub Extended Solution Technology：bizhub拡張ソリューションテクノロジー）を実行するコニカミノルタの複合機デバイスを利用できます。***複合機パネル*** ノードを使用すると、事前構成されたスキャン設定のワークフローにドキュメントを直接送信できます。ノードは複合機パネルからアクセスされるため、ワークフローはスケジュールに入れられることなくすぐに実行されます。ただし、***複合機パネル*** ノードにアクセスできるようにするために、ワークフローは動作中である必要があります。

注: 複合機は、Dispatcher Phoenixにドキュメントを送信するために、WebDAVクライアントを有効にする必要があります。

スキャンするときに含まれるメタデータは、出力フォルダーノードや電子メール出力ノードなどの他のノードで使用できます。

注: システムの負荷が大きいと外部サービスのパフォーマンスに影響する場合があります。そのため、負荷の大きい処理は複数のコアを持つ高速システムで実行することをお勧めします。



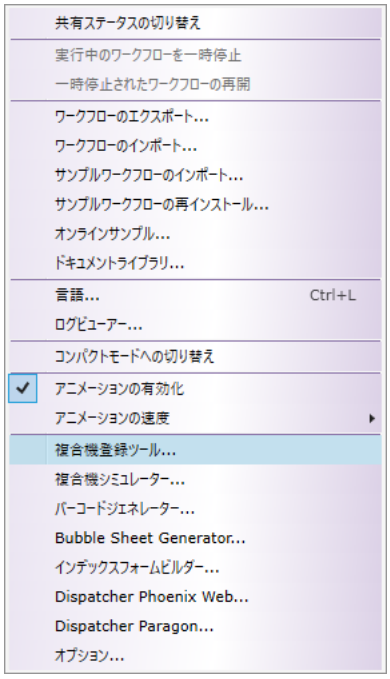
このノードは、複合機で **[画像ログ転送設定]** 設定が有効になっていると動作しません。この設定を無効にするには、デバイスパネルで以下の操作を行います。

1. **[ユーティリティ]** を選択。
2. [管理者設定]を選択します。
3. [セキュリティの設定]を選択します。
4. [画像ログ転送設定]設定が **[オフ]** になっていることを確認します。
5. 完了したら **[OK]** をクリックします。

複合機登録

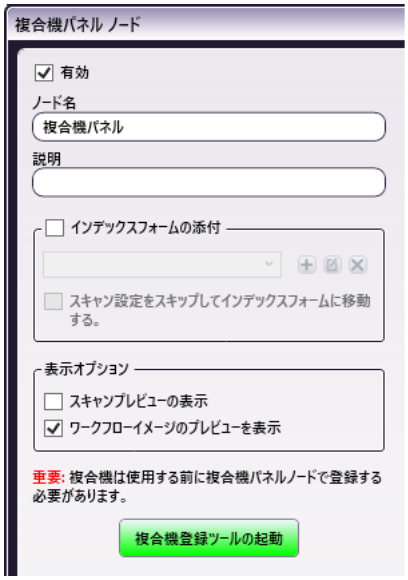
複合機デバイスを ***複合機パネル*** ノード で使用できるようにするにはその前に、入力の操作元の複合機をアプリケーションが認識するように **Dispatcher Phoenix** を使用して複合機デバイスを登録する必要があります。複合機登録ツールを起動するには、以下の ***いずれか*** の操作を行います。

- アプリケーションのメイン画面の **[ツール]** プルダウンメニューから **[複合機登録ツール...]** を選択する。



または

- ***複合機パネル***ノードのプロパティウィンドウから **[複合機登録ツールの起動]** ボタンを選択する。



IP アドレスが変更された場合...

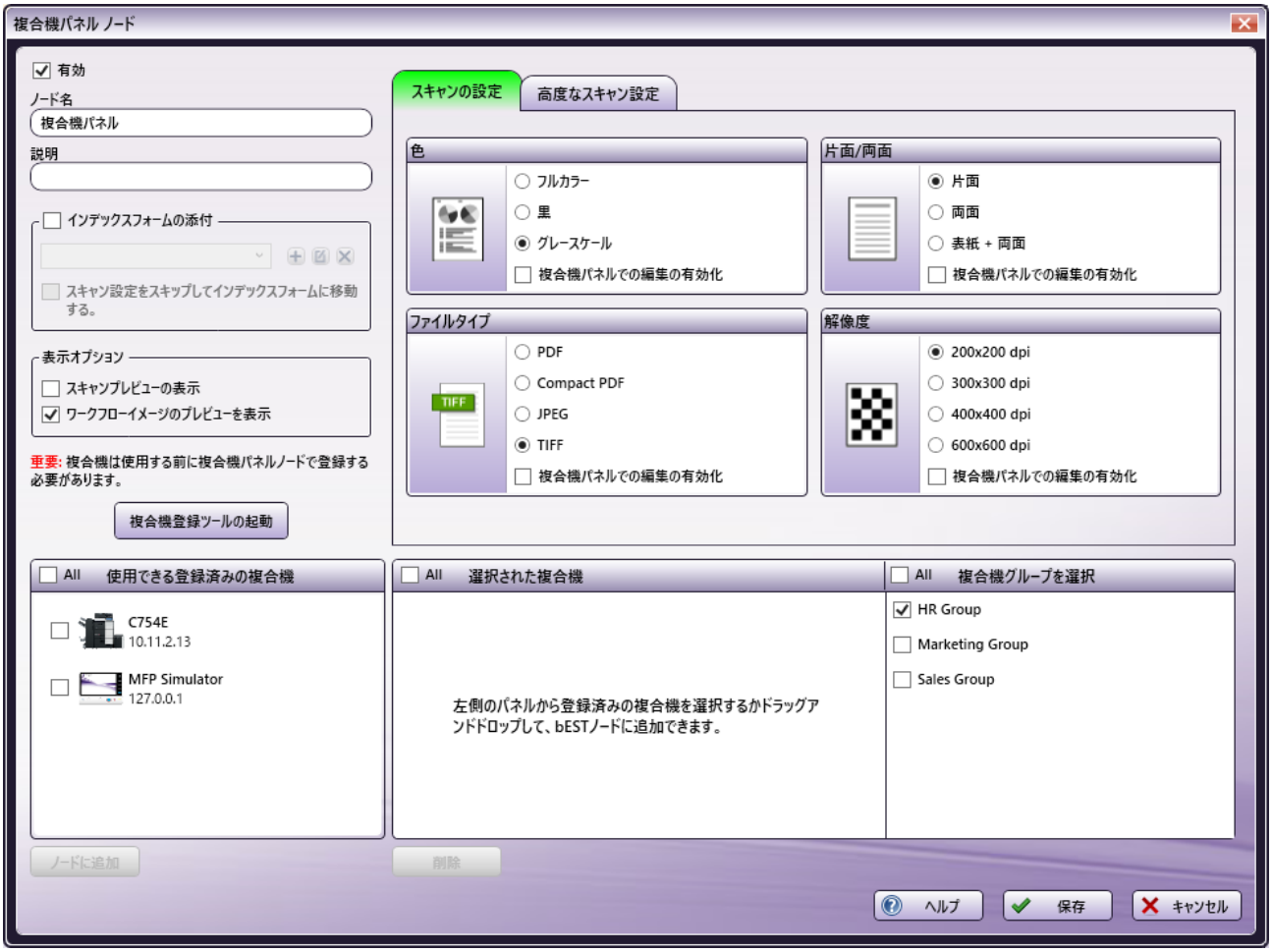
Dispatcher Phoenix のインストール後にIPアドレスが変更された場合は、Dispatcher Phoenixに接続する前にIPアドレスを更新する必要があります。更新するには、次の手順を実行します。

1. Dispatcher Phoenix Web を開き、管理者権限でサインインします。
2. **デバイスタイル** をクリックします。
3. **既定値ボタン** をクリックします。
4. [bESTサーバーのホスト名/IPアドレス]フィールドの横にある [**更新**] ボタンをクリックします。
5. [**保存**] をクリックして、変更を保存します。

注: 既定値 ウィンドウで行った変更は保存されますが、デバイスが初めて登録されるか、または登録解除されてから再度登録されるまではどのデバイスにも適用または検証されません。

複合機パネルノードの設定

複合機を登録したら、**Dispatcher Phoenix** の ***複合機パネル*** ノードで使用できます。

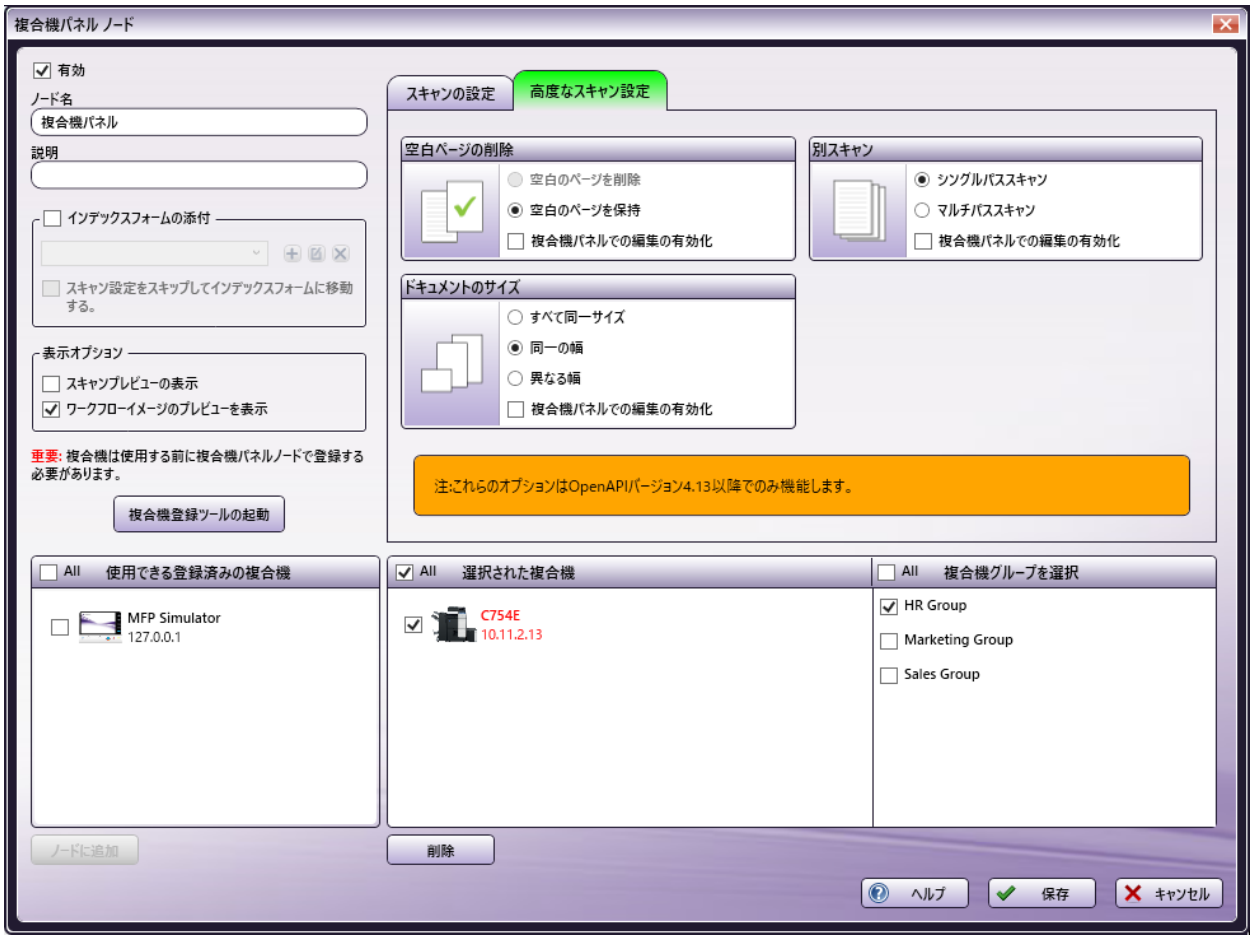


- この場所を入力ソースとして使用するように **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認してください。チェックを外すとこの入力は無視されます。ドキュメントはこのノードの場所からは収集されません。
- **[ノード名]** フィールドに、***複合機パネル***ノードの名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、**複合機パネル**ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数存在する場合にノードの認識を容易にできます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- インデックスフォームをワークフローに追加するには、**インデックスフォームの添付** ボックスをチェックします。
- 複合機パネルでワークフローにアクセスしているときにインデックスフォームに直接移動するには、**[スキャン設定をスキップしてインデックスフォームに移動する]** ボックスをチェックします。この設定を有効にすると複合機パネルでスキャン設定を変更できなくなります。**[Dispatcher Phoenix（Dispatcher Phoenixアプリケーション）]** ボタンをタップ（実行中のワークフローが1つだけの場合）または **[ワークフローリスト画面]** のワークフローをタップ（実行中のワークフローが複数ある場合）するとインデックスフォームに直接移動します。
- **[表示オプション]** 領域で、**[スキャンプレビューの表示]** チェックボックスをオンにして複合機でスキャンしたドキュメントのプレビューを表示します。**[ワークフローイメージのプレビューを表示]** のチェックボックスをオンにすると、複合機でのワークフローイメージのプレビューが表示されます。
- **[スキャンの設定]** セクションで、ドキュメントをスキャンするときに使用する複合機の設定を事前定義します。これらの設定は複合機でユーザーが使用できる設定をミラーリングします。すべてのスキャンオプションがすべての複合機デバイスでサポートされているわけではありません。白黒の複合機でのカラー設定などの場合、ここでのユーザー設定は無視されます。
- **[高度なスキャン設定]** タブでは、ドキュメントをスキャンするときに使用する複合機の詳細設定を選択できます。オプションは次のとおりです。
  - **[空白ページの削除]** - 空白のページを削除するかどうかを選択します。
  - **[別スキャン]** - シングルパスまたはマルチパスのどちらでスキャンするかを選択します。
  - **[ドキュメントのサイズ]** - スキャンするドキュメントのサイズが同一か、異なるかを選択します。

重要! 高度なスキャン設定 で利用できる追加のスキャン機能は、OpenAPIバージョン4.13またはそれ以降のデバイスでのみサポートされています。

- bizhub C287, C227
- bizhub 367, 287, 227
- bizhub C368, C308, C258
- bizhub 958, 808
- bizhub C658, C558, C458
- bizhub 558, 458, 368, 308

- bizhub 658e, 558e, 458e, 368e, 308e
- bizhub C759, C659
- bizhub C3851FS, C3851, C3351
- bizhub 4752, 4052



- デバイスパネルでスキャン設定を編集するには、目的のスキャン設定に関連付けられた **[複合機パネルでの編集の有効化]** チェックボックスをチェックします。このオプションを有効にしないとスキャン設定は複合機に表示されません。

  注: ネイティブユーザーインターフェイスに関する注意事項:ネイティブユーザーインターフェイスを使用すると、複合機パネルノードのウィンドウから片面/両面オプションを制御できません。たとえば両面スキャンを行う場合、複合機パネルノードのウィンドウではなく複合機コントロールパネルでこの設定を指定する必要があります。[複合機パネルでの編集の有効化]オプションが無効になっていても片面/両面オプションはコントロールパネルで変更できます。

- **[使用できる登録済みの複合機]** - この領域には **複合機パネル** ノードで使用するために登録されたすべての複合機デバイスが含まれています。特定の複合機を **複合機パネル**ノードに追加するには、以下の操作のいずれかを行って、その複合機アイコンをこのボックスから[選択された複合機]ボックスに移動する必要があります。

  - 目的の複合機アイコンをドラッグアンドドロップする。
  - **[すべて(All)]** ボックスをチェックしてリストされているすべての複合機を選択するか、または目的の複合機アイコンの横にあるボックスをチェックし **[ノードに追加]** ボタンをクリックする。

  複合機はノードに追加されるとこのボックスにはリストされなくなります。

- **[選択された複合機]** - この領域には、**複合機パネル**ノードのスキャン元として登録された複合機が含まれています。この領域から複合機を削除するには以下のいずれかの操作を行います。

  - 目的の複合機を[使用できる登録済みの複合機]ボックスにドラッグアンドドロップして戻す。
  - **[すべて(All)]** ボックスをチェックしてリストされているすべての複合機を選択するか、または目的の複合機アイコンの横にあるボックスをチェックし、**[削除]** ボタンをクリックする。

- **[複合機グループを選択]** - この領域では、ワークフローに必要な事前に組み立てられた複合機グループを停止したり編集したりすることなく追加できます。

- **[ヘルプ]** - このノードのオンラインヘルプにアクセスします。
- **[保存]** - このノードの定義を保持します。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了します。

ファイアウォールの注意事項 一部のアンチウイルスソフトウェアを含むサードパーティーのファイアウォールアプリケーションは、Dispatcher Phoenixの *複合機パネル* ノードが使用するポートをブロックする場合があります。既定では、*複合機パネル* ノードはポート50808を使用します（SSL接続の場合はポート50809）。ただし、このポート番号は構成できるため、番号が変更された場合には異なる番号である場合があります。接続に失敗した場合、デバイスパネルに以下のメッセージが表示されます。

「Connecting to server..(サーバーへの接続...)」

複合機パネル ノードに正しく接続するようにするには、お使いのファイアウォールアプリケーションのドキュメントを参照してポート50808/50809をブロックしないようにするか、またはワークフローエンジン処理「blox-erl.exe」がアクセスできるようにしてください。

複合機パネルノード ワークフローの実行

この時点で ***複合機パネル***ノードが設定され、ワークフローの一部として組み込まれたため、複合機パネルから ***複合機パネル***ワークフローを実行できます。

注: 複合機でワークフローにアクセスできるようにするにはその前に、Dispatcher Phoenixでそのワークフローが実行中である必要があります。開始ボタン（ ▶ ）をクリックして、複合機パネルから実行する複合機パネルワークフローを開始してください。

1. デバイスパネルで、**[App(アプリケーション)]** ボタンをタップし、登録されているすべてのアプリケーションを表示するか、または **[Dispatcher Phoenix]** ボタンをタップしてDispatcher Phoenixのワークフローに直接移動します。

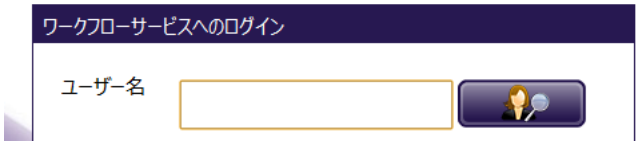
   SSL接続を使用しているアプリケーション を起動すると、複合機は次のメッセージを表示する場合があります：「このページは保護されています。情報は暗号化されて送受信されます。」このメッセージを非表示にするには、複合機のWebブラウザーを使用してSSLを使用するサイト（https://www.google.comなど）にアクセスし、メッセージが表示されたら「このメッセージを再度表示しない」ラベルのチェックボックスを選択します。

2. Dispatcher Phoenixワークフローにアクセスするには、複合機にログインする必要がある場合があります (**ユーザー認証を要求するように複合機を登録している場合**。

   デバイスパネルでDispatcher Phoenixにログインするには、必須のフィールドにWindowsのログイン情報を入力し、**[矢印]** ボタンをタップします。

   注: アクティブドメインのログインに関する注意事項：Dispatcher Phoenixがインストールされているコンピューターがアクティブドメインに属している場合、既定のユーザー名はそのドメインに属していることが想定されます。この場合、ローカルユーザー資格情報を使用してログインするには、コンピューター名およびローカルWindowsユーザー名（「local-pc\jane」など）を入力する必要があります。ショートカットとして、コンピューター名（「.\jane」など）として「.」を代用できます。

- 「最近ログインしたユーザーを表示する」認証オプションを使用して複合機を構成した場合、次の図で示すように、[ユーザー名]フィールドの右に **[ユーザー検索]** ボタンが表示されます。



- **[ユーザー名]** フィールドに文字または文字列を入力すると、入力した文字と一致するかまたはその文字を含むユーザー名のリストが画面の右側に表示されます。この **[先行入力]** 機能を使用できるのは新しい複合機モデルだけです。

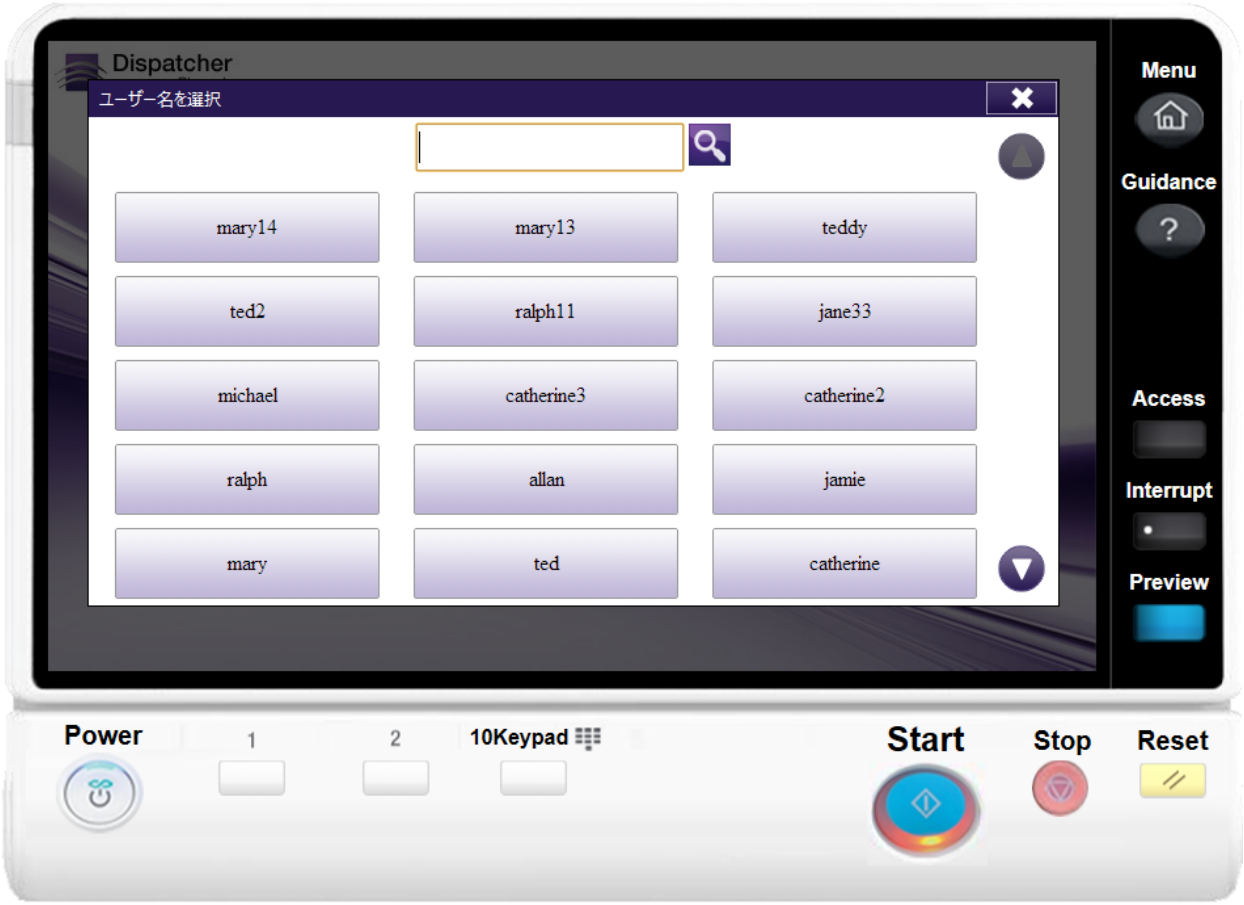
注: 最近ログインしたユーザーのリストは複合機でキャッシュされています。削除したユーザーは、Dispatcher Phoenixを登録解除し、複合機に再登録するまで複合機に反映されません。

次の図では、ユーザーが「c」と入力し、これらの文字を含むユーザー名が自動的に表示されています。

注: 以前の複合機でユーザー名を検索することもまだ可能ですが、先行入力機能は使用できません。以前の複合機のログイン画面からユーザー名を検索するには、[ユーザー名]フィールドに文字または文字列を入力し、ユーザー検索ボタンをタップします。ユーザーリスト画面に移動します。ここにはフィルター検索の結果が表示されます。

- 最近ログインしたすべてのユーザーを表示するには、[ユーザー名]フィールドの横にある **[ユーザー名検索]** ボタンをタップするか、またはキーボードで **[Ctrl+F]** を押します。

以前ログインしたユーザー（最大1,000人）のリストがユーザーリスト画面に表示されます。この画面には次の図のようにナビゲーション矢印があり、スクロールして上下に移動できます。

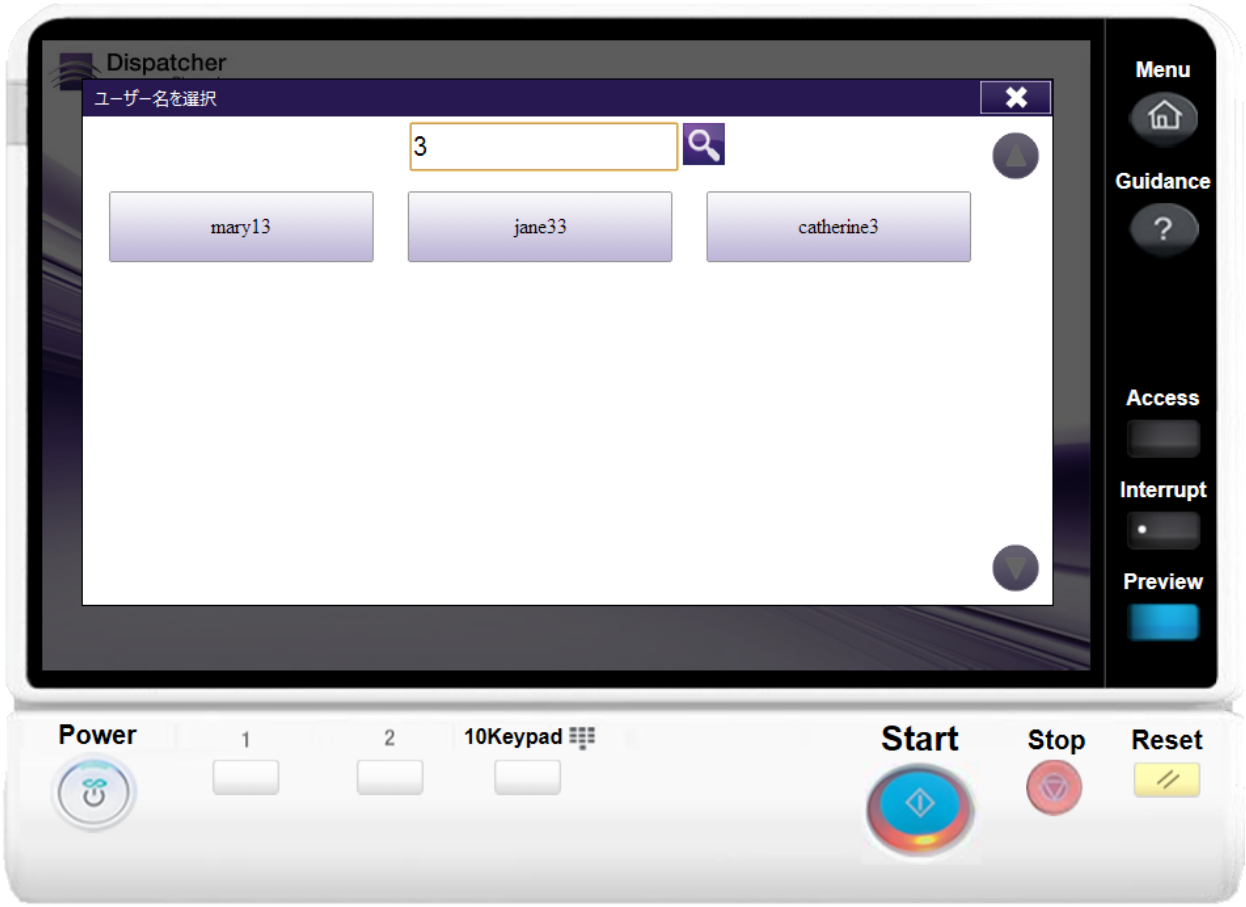


この画面で、以下の操作を実行できます。

- Dispatcher Phoenixへのログインに使用するユーザー名のボタンをタップする。ログイン画面に戻ります。その際、選択したユーザー名が[ユーザー名]フィールドに自動的に入力されています。

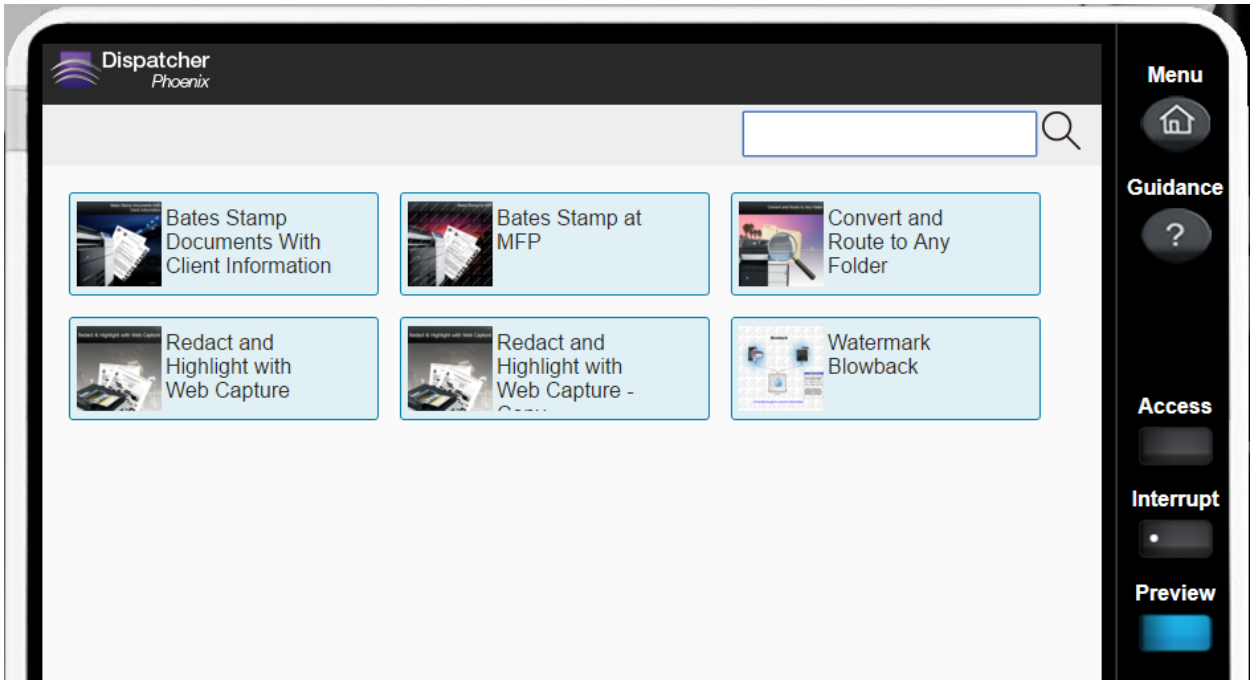
または

- 表示されている空の **[検索]** フィールドに文字または文字列を入力して現在表示されているユーザー名のリストを絞り込む。
  - 新しい複合機モデルでは、**[検索]** フィールドに文字を入力し始めるとすぐにフィルターが自動的に適用されます。
  - 以前の複合機では、表示されている空の検索フィールドに文字または文字列を入力し、**[検索]** ボタンをタップしてフィルター検索の結果を表示します。

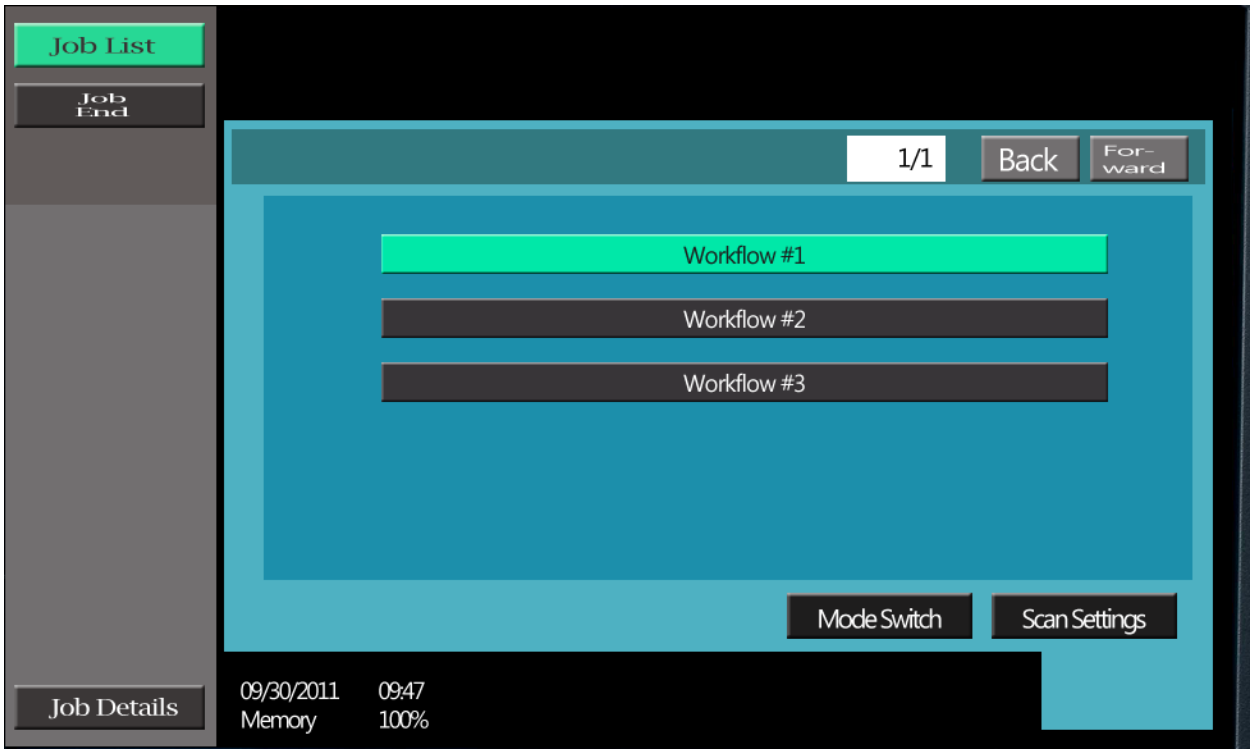


3. 複合機でDispatcher Phoenixアプリケーションにアクセスしたら、ワークフローリスト画面が表示され、現在実行中の各複合機パネルノードワークフローのリストがアルファベット順に並べられて表示されます（複数のワークフローが同時に実行されている場合）。ワークフローリスト画面で、目的のワークフローのボタンをタップしてワークフローを選択します。
    - 1つのワークフローのみが実行されている場合は、このワークフローリスト画面は表示されません。代わりに、実行中のワークフローのワークフロー詳細画面が自動的に表示されます。
4. 複合機の構成に応じて、ワークフローリストのグラフィカルビューまたはネイティブビューが表示されます。

    ワークフローリスト - グラフィカル:

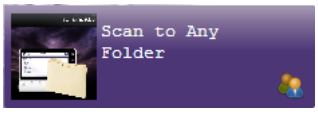


ワークフローリスト - ネイティブ:



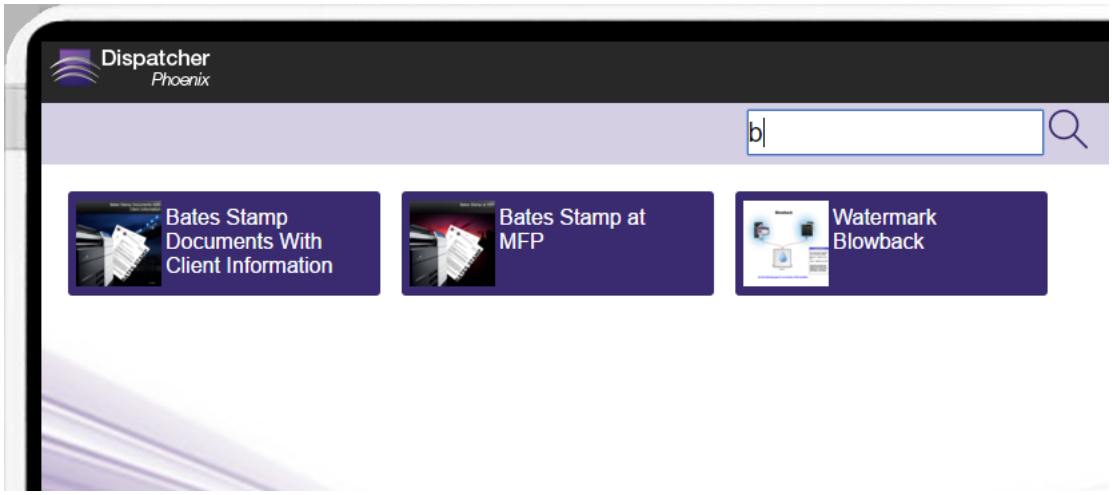
ワークフローリストのグラフィカルビューは以下で構成されています。

- 上下にスクロールするための **[ナビゲーション]** 矢印。
- 次の図のような、ワークフローボタンの右下にある **[共有]** ワークフローを識別するためのアイコン。



- リストされているワークフローをフィルターするために使用できる **[検索]** フィールド。検索できるのはワークフロー名だけです。ワークフローの他の属性については検索できないことに注意してください。**[Ctrl + F]** を押して入力フォーカスをこのフィールドへ移動します。

5. ワークフローリストの[検索]フィールドを使用して、現在表示されているワークフローリストを絞り込みます。このフィールドには、文字または文字列を入力できます。文字を入力し始めると、フィルターが自動的に適用されます。



注:旧型の複合機では、検索を開始するために[検索]ボタンをタップする必要があります。

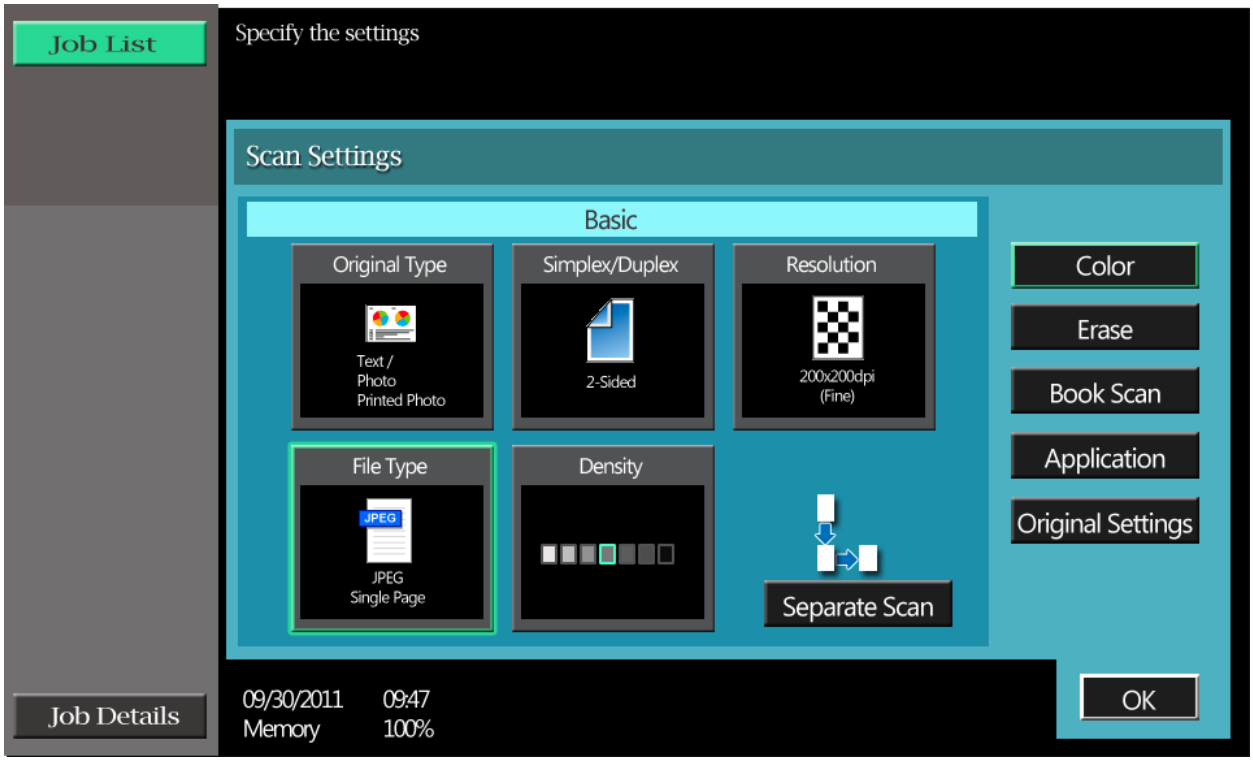
検索結果が表示されない場合は、複合機に次の図のようなメッセージが表示されます。

注: 画面左上にあるDispatcher Phoenixのロゴをタップすると、フィルターされた検索結果がクリアされます。

6. ワークフローを選択すると、ワークフロー詳細画面が表示されます。複合機の構成に応じてグラフィカルビューまたはネイティブビューが表示されます。

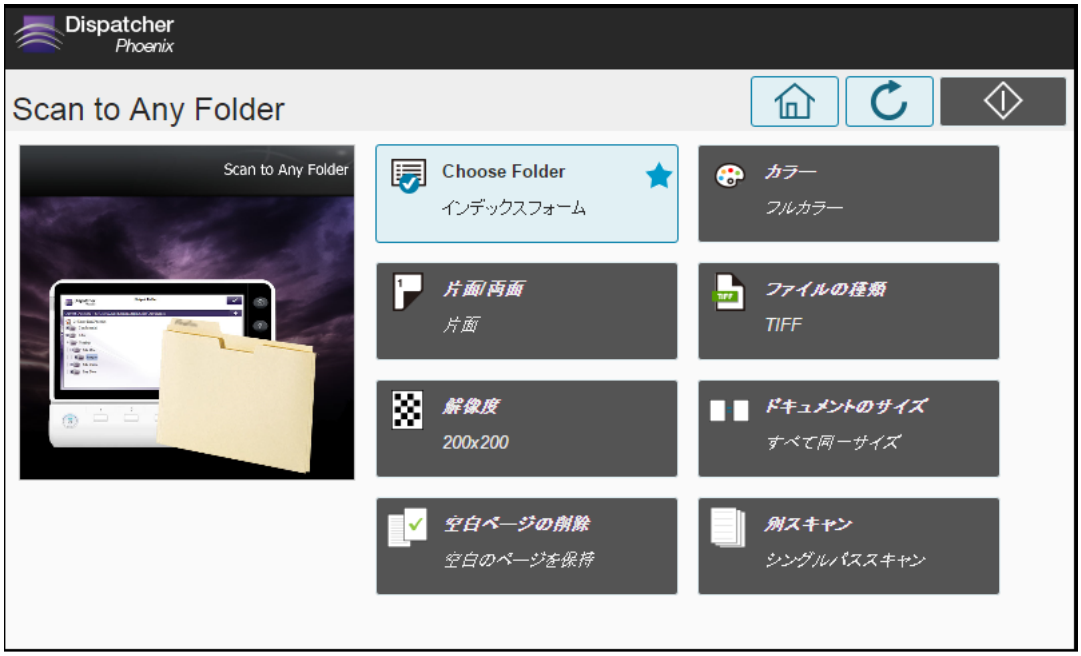
ワークフロー詳細 - グラフィカル:

ワークフロー詳細 - ネイティブ:



- ワークフローにインデックスフォーム、カスタマイズ可能な高度なベイツスタンプノード、墨消しノード、あるいは強調/取り消し線ノードが含まれている場合は、次の図のように、グラフィカルビューの[ワークフローのカスタマイズ]領域にアイコンが表示されます。

- インデックスフォームに必須フィールドが含まれている場合は、次の図のように、星印が[インデックスフォーム]アイコンの横に表示されます。



この赤色の点滅する星印は、インデックスフォームにフォームが最初に複合機にロードされたときに事前に入力された必須フィールドが含まれている場合は **表示されません**（たとえば、データベースからのエントリーが入力されるドロップダウンリスト、または、既定値が既に設定されている出力フォルダーフィールドなど）。

7. スキャンするドキュメントを複合機のドキュメントフィーダーに置きます。スキャンを開始するには、パネルの **[スキャン]** ボタンをタップするか、複合機の **[開始]** ボタンを押します。複合機の青色の[開始]ボタンを使用する場合は、ドキュメントがスキャンされてDispatcher Phoenixに送信されたという通知メッセージはパネルに表示されません。

   [スキャンプレビューの表示] オプションを有効にしていた場合は、スキャンしたドキュメントのプレビューがパネルに表示されます。一部の複合機では、スキャンするドキュメントの方向をこのオプションで選択できます。この[元の方向の確認]画面を有効または無効にするには、管理者として複合機にログインし、[印刷設定]画面（**[メニュー] > [設定メニュー] > [管理者設定] > [システム設定] > [印刷設定]**）に進みます。

   注: [スキャンプレビューの表示]機能は、新型の複合機でしか使用できない上、グラフィカルユーザーインターフェイスを備えた複合機でしかサポートされていません。また、この機能はbizhub PRO 951ではサポートされていません。**[スキャンプレビューの表示]** オプションが有効な場合は、**[今すぐ送信する]** ボタンをタップしてドキュメントをDispatcher Phoenixワークフローに送信する必要があります。

8. **[ホーム]** ボタンを押してキャンセルしてから、メインのワークフローリスト画面に戻ります。

   注: 複合機のモデルとファームウェアによっては、複合機ネイティブユーザーインターフェイスからDispatcher Phoenixを使用する場合にスキャン設定やインデックスフォームデータが複数のスキャン間で保持されないことがあります。

ネイティブユーザーインターフェイスを使用したDispatcher Phoenixの実行

複合機のネイティブユーザーインターフェイスを使用してDispatcher Phoenixを実行する場合は次の制限や例外に注意してください。

- Dispatcher Phoenixアプリケーションの ***複合機パネル*** ノードのプロパティウィンドウから[片面/両面]オプションを制御することはできません。たとえば、両面をスキャンするには、***複合機パネル*** ノードのウィンドウではなく、複合機コントロールパネルで設定を直接指定する必要があります。***複合機パネル*** ノードのウィンドウで **[複合機パネルでの編集の有効化]** オプションが無効になっている場合でもコントロールパネルで片面/両面オプションを変更できます。
- 複合機のモデルとファームウェアによっては、スキャン設定やインデックスフォームデータが複数のスキャン間で保持されないことがあります。
- 複合機では、ベイツスタンプや墨消し、強調、取り消し線といった検索条件をカスタマイズすることは、サポートされていません。
- 複合機の制限により、[インデックスフォーム]フィールドラベルの末尾が表示されないことがあります。
- インデックスフォームではアクションボタンは使用されません。代わりに、ユーザーがフィールドの内容を変更すると、イベントがトリガーされます。
- 複合機では、新しいフォルダーを作成する機能はサポートされていません。
- インデックスフォームに追加できるコントロール（フィールドおよびラベル）の最大数は19です。
- BoxやWebDAVなどのコネクター用のインデックスフォームでは、ユーザー名フィールドとパスワードフィールドに既定値をあらかじめ入力しておくことはできません。

Dispatcher Phoenixプリンタードライバー

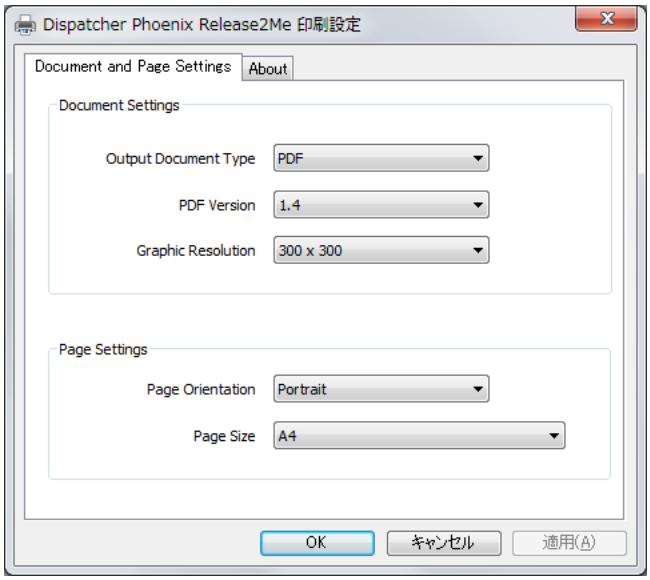
Dispatcher Phoenixプリンタードライバーは、Release2Meソリューションと共に自動的にインストールされ、Dispatcher Phoenix Release2Meノードで使用されるように設計されています。このプリンタードライバーは、Windows環境で印刷できる任意のアプリケーションで使用可能であり、PDFまたはTIF形式のドキュメントを印刷できます。

印刷の設定

Dispatcher Phoenixプリンタードライバーの印刷設定を構成するには、以下の操作を行います。

1. Windowsコントロールパネルの **[デバイスとプリンター]** にアクセスします。

2. Dispatcher Phoenix Release2Meプリンターを右クリックして、**[印刷設定]** を選択します。



3. 以下の項目を変更できます。
    - Output Document Type(出力ドキュメントのタイプ)(PDFまたはTIF)
    - PDF Version(PDFバージョン)
    - Graphic Resolution(グラフィック解像度)(解像度を高くするとファイルサイズも大きくなることに注意してください)
    - Page Orientation (ページの向き)
    - Page Size (ページサイズ)

DPプリンタードライバーの手動アップロード

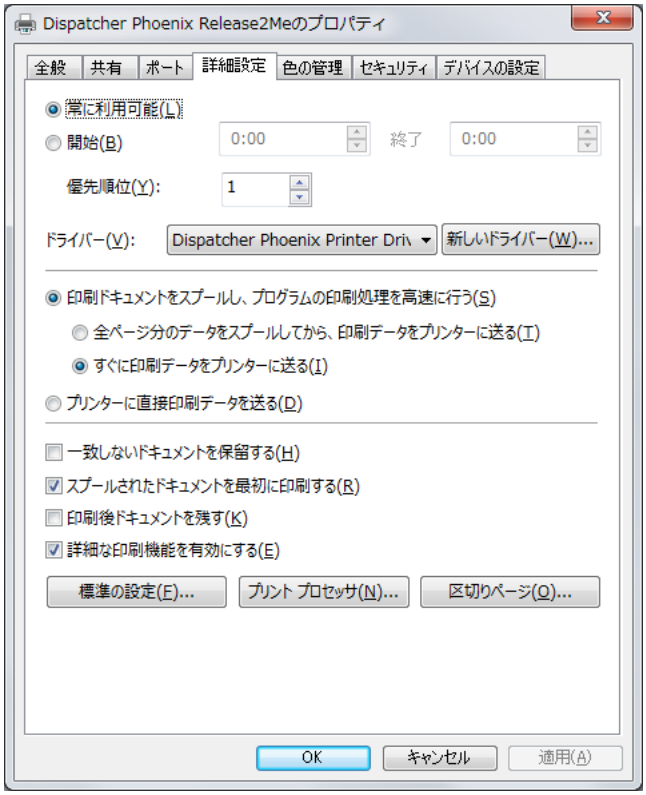
Dispatcher Phoenixプリンタードライバーは自動更新をサポートしていません。このプリンタードライバーをアップグレードするには、以下の手順を実行する必要があります(管理者として)。

1. すべての既存のプリンターからDispatcher Phoenixプリンタードライバーを削除する。
2. Dispatcher Phoenixプリンタードライバーを削除する。
3. 更新されたDispatcher Phoenixプリンタードライバーをインストールする。
4. このDispatcher Phoenixプリンタードライバーを既存のプリンターに割り当てる。

既存のプリンターからDPプリンタードライバーを削除する

既存のプリンターからDispatcher Phoenixプリンタードライバーを削除するには以下の操作を行います。

1. Windowsコントロールパネルの **[デバイスとプリンター]** にアクセスします。
2. Dispatcher Phoenixプリンタードライバーを使用するプリンターを右クリックして、**[プリンターのプロパティ]** オプションを選択します。
3. 表示されるそのプリンターのプロパティウィンドウで、次の図で示すように **[詳細設定]** タブを選択します。



4. **[ドライバー]**プルダウンメニューから、他の任意のプリンターを選択して、**[OK]** ボタンを選択します。
5. Dispatcher Phoenixプリンタードライバーを使用するすべてのプリンターについて、上記の手順を繰り返します。

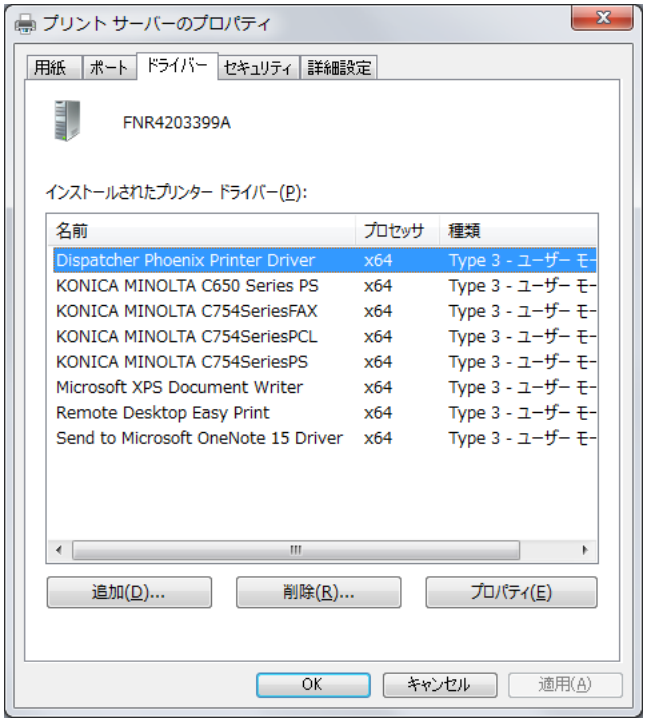
Dispatcher Phoenixプリンタードライバーを削除

次に、以下の手順に従って既存のDispatcher Phoenixプリンタードライバーを削除します。

1. Windowsコントロールパネルの **[デバイスとプリンター]** にアクセスします。
2. 表示されている任意のプリンターを選択します。
3. 上部のメニューバーにある **[プリント サーバープロパティ]** ボタンを選択します。次の図で示すように、プリントサーバーのプロパティウィンドウが表示されます。

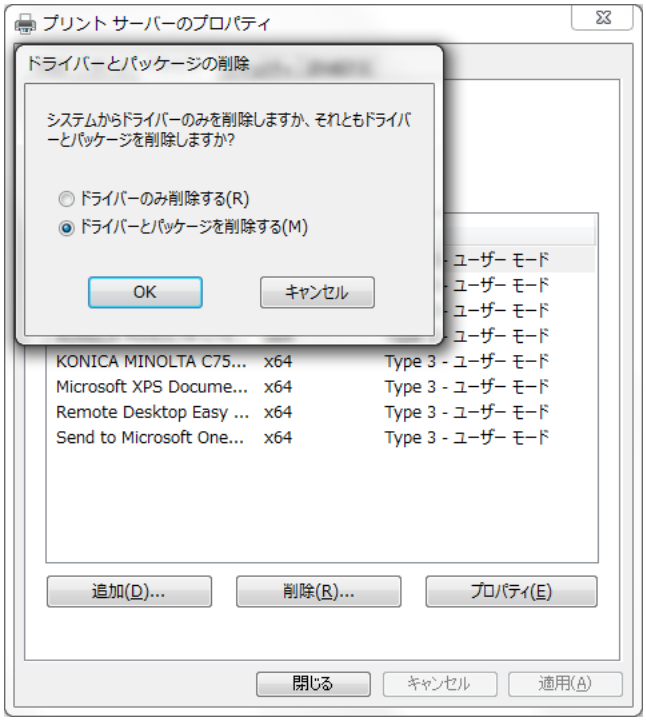
4. **[用紙設定の変更]** ボタンを選択します。

5. **[ドライバー]** タブを選択します(次の図を参照)。



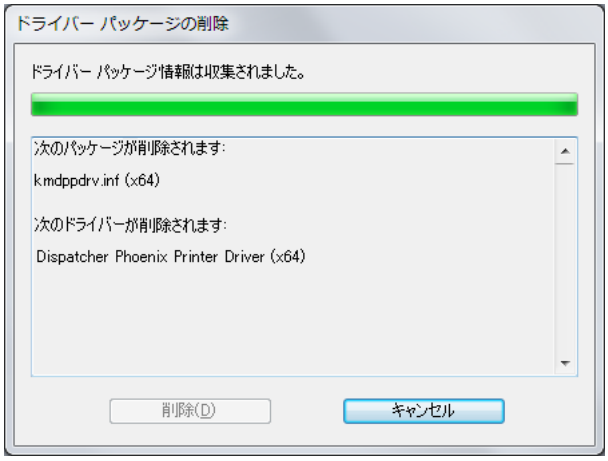
6. リストからDispatcher Phoenix Printer Driverを選択して、**[削除]** ボタンを選択します。

7. 表示される[ドライバーとパッケージの削除]ウィンドウで、**[ドライバーとパッケージを削除する]** オプションを選択してから、**[OK]** ボタンを選択します(次の図を参照)。



8. 表示される確認メッセージで **[はい]** を選択します。

9. ドライバーパッケージの削除ウィンドウで、**[削除]** ボタンを選択します(次の図を参照)。

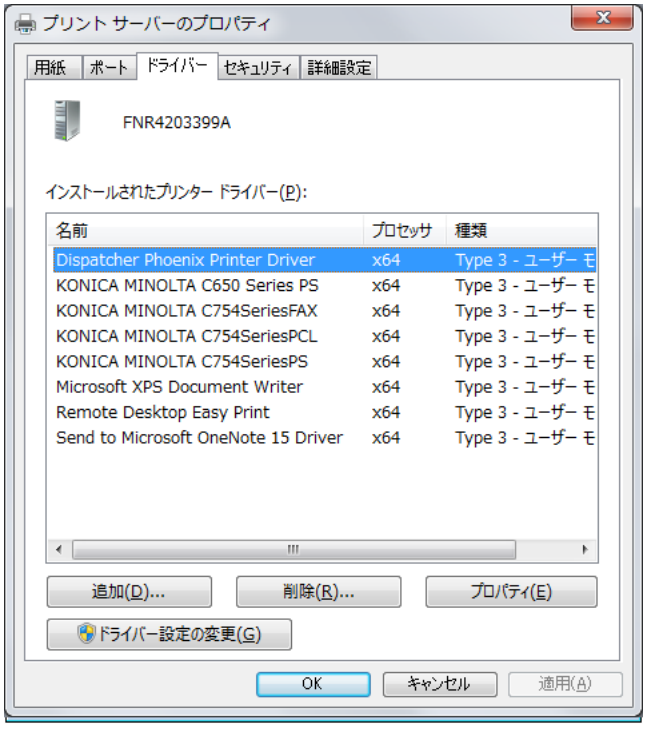


10. これは必須の手順ではありませんが、Dispatcher Phoenix Printer Driverの削除後に、システムを再起動することをお勧めします。

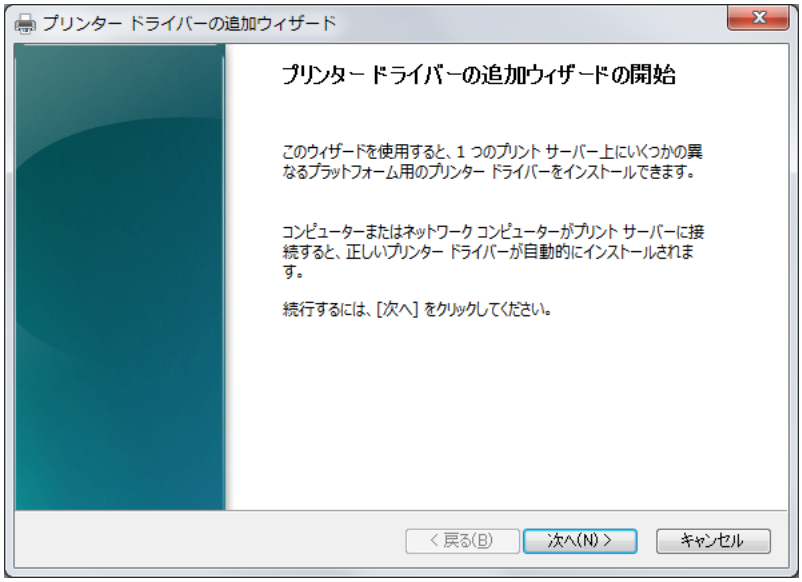
更新されたDispatcher Phoenixプリンタードライバーをインストール

次に、以下の手順に従って更新されたDispatcher Phoenixプリンタードライバーをインストールします。

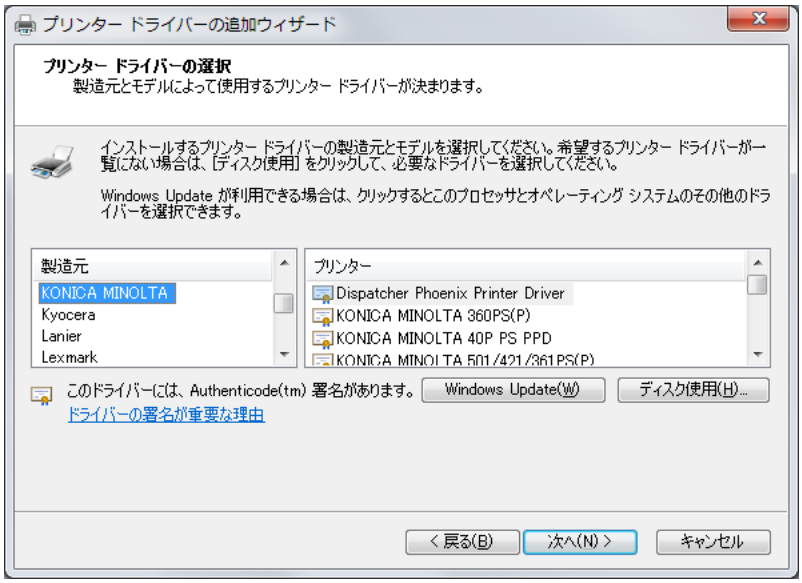
1. 前述の「Dispatcher Phoenixプリンタードライバーの削除」セクションの手順1～4を再び実行します。
2. **[追加]** ボタンを選択します(次の図を参照)。



3. 次の図のような[プリンター ドライバーの追加ウィザード]が表示されます。



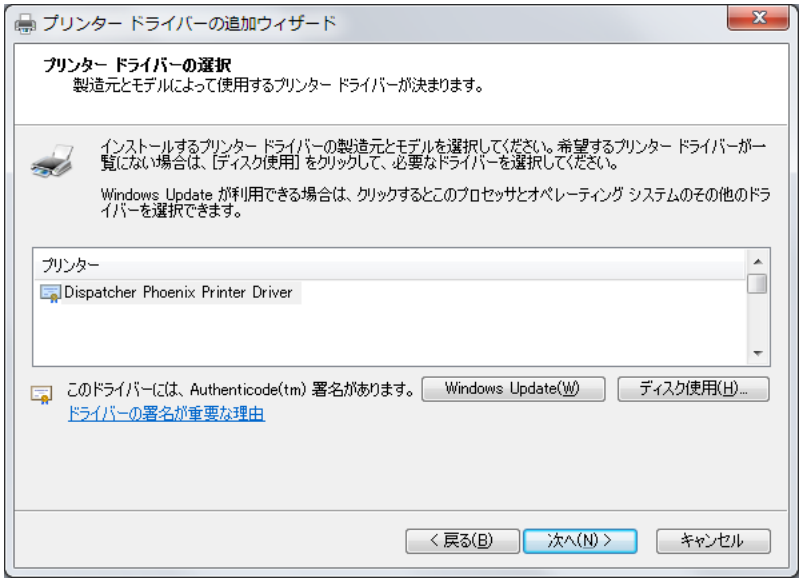
4. **[次へ]** ボタンを選択します。
5. プロセッサとオペレーティングシステムの選択ウィンドウで、オペレーティングシステムを選択してから、**[次へ]** ボタンを選択します。[プリンタードライバーの選択]ウィンドウが表示されます。
6. プリンタードライバーの選択ウィンドウで、**[ディスク使用]** ボタンを選択します(次の図を参照)。



7. ディスクからインストールウィンドウで、**[参照...]** ボタンを選択します。
8. 次のいずれかのディレクトリに移動します。
   - C:/ProgramData/Konica Minolta/blox/print-driver/dpp-printer-drivers/x64 for 64ビット オペレーティングシステム、

     または

   - C:/ProgramData/Konica Minolta/blox/print-driver/dpp-printer-drivers/x86 for 32ビット オペレーティングシステム
9. kmdppdrv.infファイルを選択して、**[開く]** ボタンを選択します。
10. ディスクからインストールウィンドウで、上記のディレクトリパスが **[製造元のファイルのコピー元]** フィールドに表示されていることを確認します。**[OK]** ボタンを選択して続行します。
11. プリンタードライバーの選択ウィンドウで、次の図で示すように[プリンター]セクションにDispatcherPhoenix Printer Driverが表示されていることを確認します。



12. **[次へ]** ボタンを選択します。
13. プリンタードライバーの追加ウィザードの完了ウィンドウで **[完了]** ボタンを選択します。

既存のプリンターへDPプリンタードライバーの割り当て

最後に、以下の手順に従って更新されたDPプリンタードライバーをすべての既存のプリンターに割り当てます。

1. Windowsコントロールパネルの **[デバイスとプリンター]** にアクセスします。
2. プリンターを右クリックして、**[プリンターのプロパティ]** オプションを選択します。
3. 表示されるそのプリンターのプロパティウィンドウで、**[詳細設定]** タブを選択します。
4. **[ドライバー]** プルダウンメニューから、Dispatcher Phoenix PrinterDriverを選択して、**[OK]** を選択します。
5. このドライバーを使用する他のすべてのプリンターについて、上記の手順を繰り返します。

Dispatcher Pro Port

WindowsデバイスドライバーがDispatcher Phoenixにインストールされると、*Dispatcher Pro Port* という新しいプリンターポートタイプが作成されます。このポートはWindowsアプリケーションの「ファイルに出力」機能をサポートしています。また、ポートの機能にアクセスして使用するために、有効なDispatcher Phoenixライセンスが必要です。

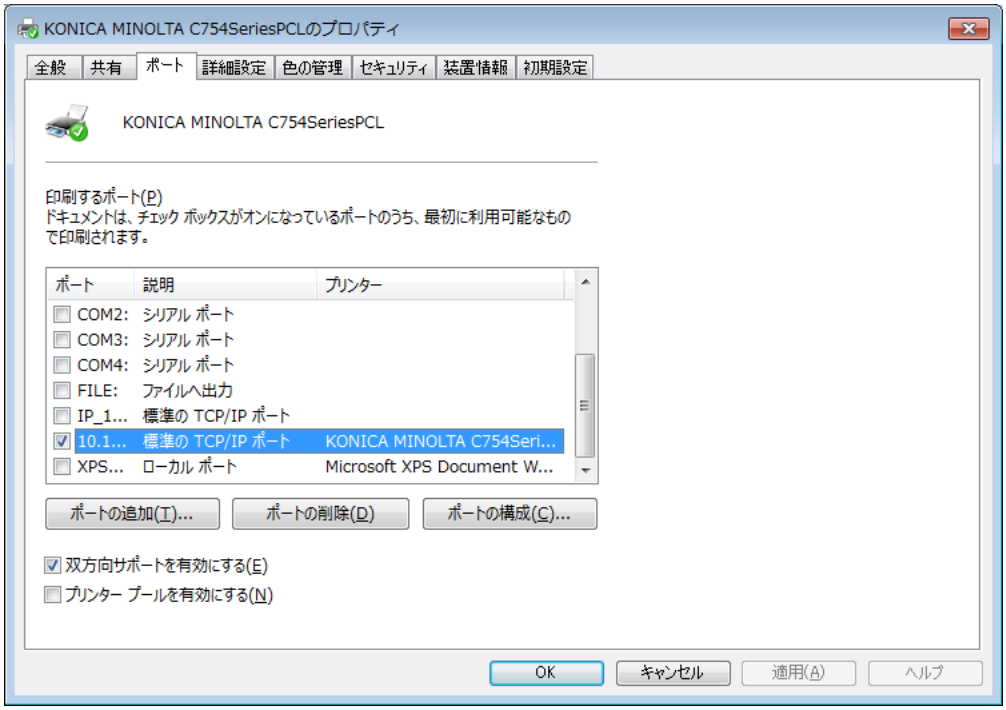
注:オペレーティングシステムの言語が英語以外の場合は、ドライバーおよびプリンターはDispatcher Phoenixに自動的にはインストールされません。このような場合は、Dispatcher Pro Portを新しいプリンターに手動で追加する必要があります。

WindowsでのDispatcher Pro Portの設定

既存のプリンターにDispatcher Pro Portを設定するには、以下の操作を行います。

1. [スタート]メニューから **[コントロールパネル]** を選択して **[プリンターとFAX]** を開きます。
2. インストール済みの任意のプリンターを右クリックし、**[プリンターのプロパティ]** を選択します。

3. **[ポート]** タブをクリックします。



4. **[ポートの追加...]** ボタンを選択します。
5. 利用可能なポートの種類から **[Dispatcher Pro Port]** を選択します。
6. **[新しいポート...]** ボタンを 選択します。
7. 出力ファイルのディレクトリを選択し、**[OK]** をクリックします。この特別な出力ディレクトリをメモします。
8. このウィンドウで **[閉じる]** をクリックします。ポートタブリストに新しいグループが表示されます。

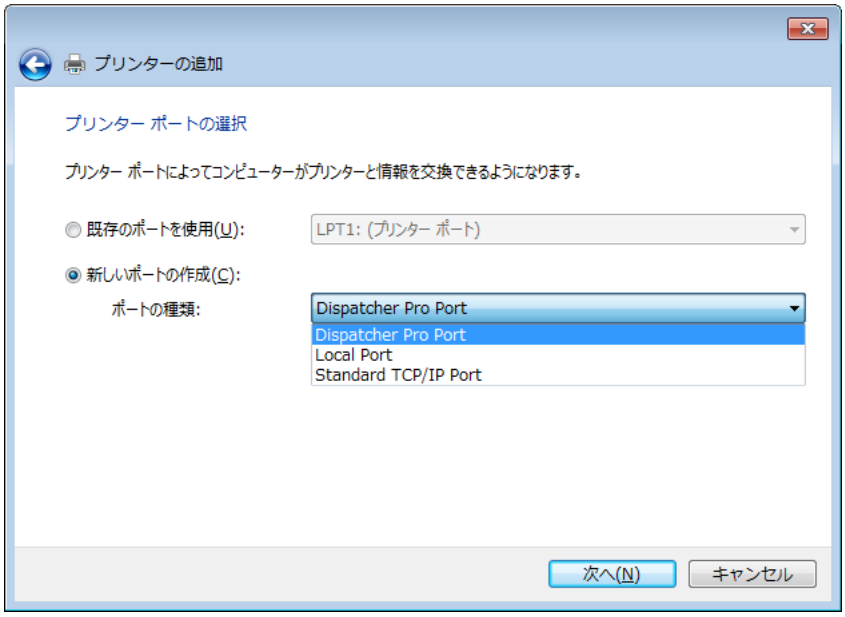
9. 新たに作成したポートを選択し、**[適用]** をクリックします。

これで、印刷ノードと共に、選択したプリンター(「ファイルに出力」機能を搭載)を使用できるようになりました。

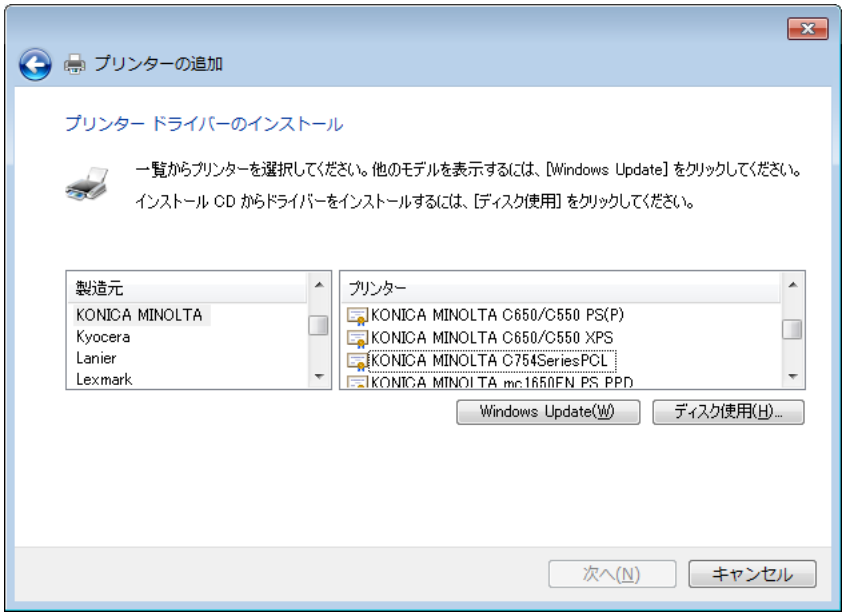
新しいプリンターへのDispatcher Pro Portの追加

Dispatcher Pro Portを新しいプリンターに追加するには、次の操作を行います。

1. Windowsの[スタート]メニューから **[デバイスとプリンター]** を選択します。
2. [コントロール パネル] > [ハードウェアとサウンド] > [デバイスとプリンター]ウィンドウで、画面上部にある[プリンターの追加]オプションを選択します。
3. 表示された[プリンターの追加]ウィンドウで、**[ローカルプリンターを追加する]** オプションを選択します。
4. 表示された次のウィンドウで、**[新しいポートの作成]** ラジオボタンを選択します。次に、リストから **[Dispatcher Pro Port]** を選択します。



5. **[次へ]** を選択すると、[フォルダーの参照]ポップアップウィンドウが表示されます。ここで、Dispatcher Pro Portで使用される出力ファイル用のフォルダーを選択できます。フォルダーを選択して **[OK]** ボタンを選択すると、[プリンター ドライバーのインストール]ウィンドウが表示されます。



6. このウィンドウで、製造元として[Konica Minolta]を選択し、[プリンター]列から任意のプリンターを選択します。**[次へ]** ボタンを選択すると、[プリンター名を入力してください]ウィンドウが表示されます。
7. [プリンター名を入力してください]ウィンドウで、**Dispatcher Pro Port** プリンターの名前を入力してから、**[次へ]** ボタンを選択します。
8. [プリンター共有]ウィンドウで、**[このプリンターを共有しない]** ラジオボタンを選択してから、**[次へ]** ボタンを選択します。
9. 最後のウィンドウで、**[終了]** ボタンを選択します。

LPR入力ノード

LPR入力は、Windowsプリンターキューなどの LPRクライアントからの印刷ジョブを収集するオプションのノードです。「ファイルに出力」プロセスと同様に、LPRクライアントは、ワークフローの他のプロセスノードで使用できる形式にファイルを変換します。つまり、LPR入力ノードにより、Dispatcher Phoenixアプリケーションを、ジョブ送信用のネットワークプリンターと同じように表示できます。変換されたファイルのデータ形式は、プリンタードライバーに応じて異なります。ただし、ほとんどの場合はPCLまたはPostscriptになります。

Windows画像とFAXビューアなどの一部のイメージングアプリケーションでは印刷時に出力ファイルの名前が変更されます。このような場合は、ファイルが互いに上書きされないようにするために、そのアプリケーションを使用しないか、ワークフローに名前変更プロセスを追加するかを選択することもできます。MicrosoftペイントおよびAdobe Photoshopではファイル名は変更されません。

このノードを正しく機能させるためには、LPR入力ノードにも指定されているキュー名を使用して、LPR印刷用ポートを構成する必要があります。LPRポートとLPR入力ノードが正しく設定されてWindowsサービスが開始されると、任意のアプリケーションから印刷できます。ファイルはLPR入力ノードに直接送信され、ワークフローが開始されます。

印刷ジョブに含まれるLPR メタデータ は、出力フォルダーノードやSMTP出力ノードなどの他のノードでも使用できます。

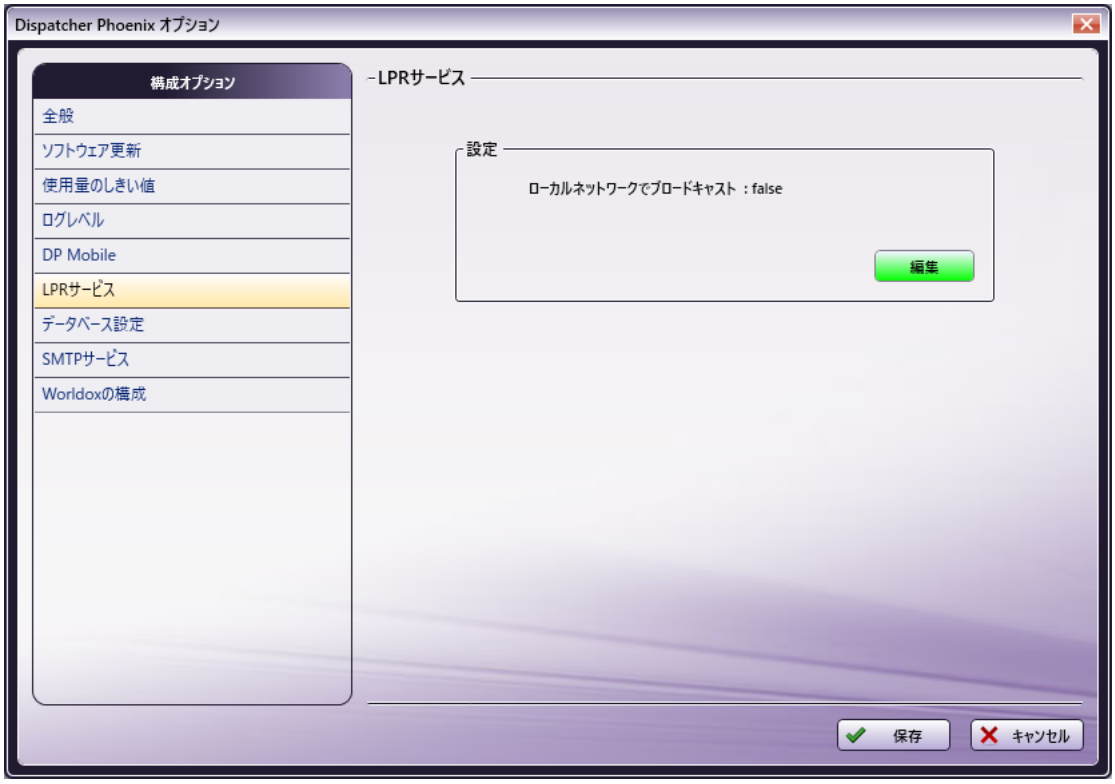
注: システムの負荷が大きいと、外部サービスのパフォーマンスに影響する場合があります。そのため、負荷の大きい処理は複数のコアを持つ高速システムで実行することをお勧めします。

使用例は次のとおりです。

- LPR印刷ドライバーによって生成されたデータファイル内のPostscriptコマンドを（解析と挿入などの解析ノードを使用してトレイ呼び出しやその他の製造元コマンドを挿入することにより）解析します。これらのファイルの元の *コンテンツ* の解析が成功するかどうかは、選択した印刷ドライバーに応じて異なります。
- 業務時間内の社内プリンターの連携を防止し、LPR印刷ドライバーが初めてスプールしてからのプリンターの出力処理を高速化します。
- 収集されたドキュメントをLPR入力ノードからワークフロー内の2つの異なる場所に送信します。送信先の1つはプリンター、もう1つはアーカイブを目的とした出力フォルダーです。
- 複数のPCから1つのワークフローに印刷します。

重要! Windows LPD/LPRサービスがインストールされている場合、Dispatcher PhoenixのLPRサービスとWindows LPD/LPRサービスとの互換性はありません。どちらのサービスもポート515を使用するからです。Dispatcher Phoenix LPRサービスの使用中は、Windows LPD/LPRサービスを停止（またはアンインストール）する必要があります。Windows LPD/LPRサービスを停止するには、次の操作を行います。

1. **Dispatcher Phoenix** を開いて、上部ツールバーの右側にある **[ツール]** に移動します。次に **[オプション...]** を選択すると以下の画面が表示されます。



2. **LPRサービス** に移動し、設定ボックスの **[編集]** をクリックします。変更を求めるウィンドウが表示されます。[はい]をクリックすると、次の画面が表示されます。

3. **[サービスの停止]** をクリックして閉じます。

   注: 「ローカルネットワークでブロードキャスト」を有効にするのは、他の人が自分のLPRプリンターを見つけられるようにする場合のみにしてください。

このノードの使用方法

このノードを使用するには、次のステップが含まれています。

ステップ #1 LPRポートの構成

ステップ #2 LPR入力ノードの構成

ステップ #3 Windowsサービスの開始

ステップ #4 LPRサービスの開始

ファイアウォールの注意事項

一部のアンチウイルスソフトウェアを含むサードパーティーのファイアウォールアプリケーションは、Dispatcher PhoenixのLPR入力ノードが使用するポートをブロックする場合があります。既定では、LPR入力ノードはポート515を使用します。LPR入力収集が正しく動作するようにするには、お使いのファイアウォールアプリケーションのドキュメントを参照して、ポート515をブロックしないようにするか、またはワークフローエンジン処理「blox-erl.exe」がアクセスできるようにしてください。

(これらの手順はWindows 10用です)

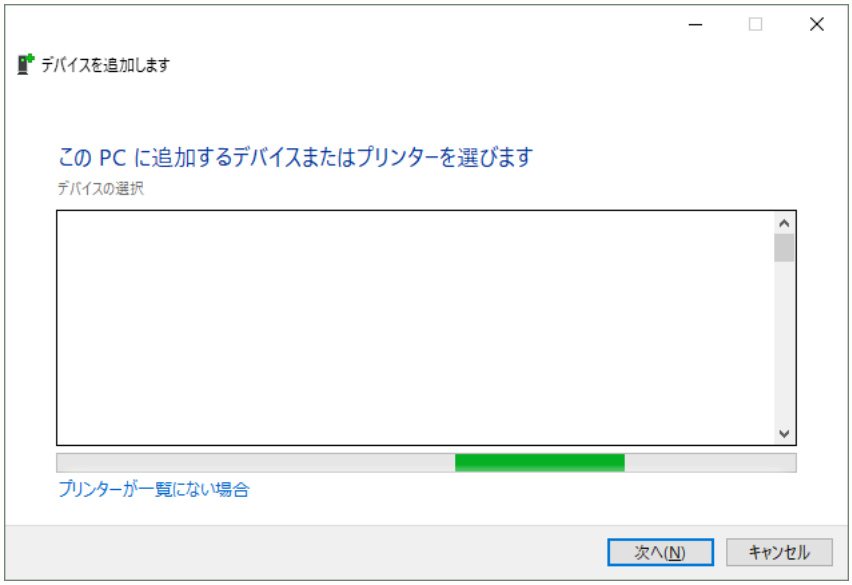
ステップ #1 LPRポートの構成

LPR入力ノードを使用するには、最初にLPRポートを構成する必要があります。次の操作を行います。

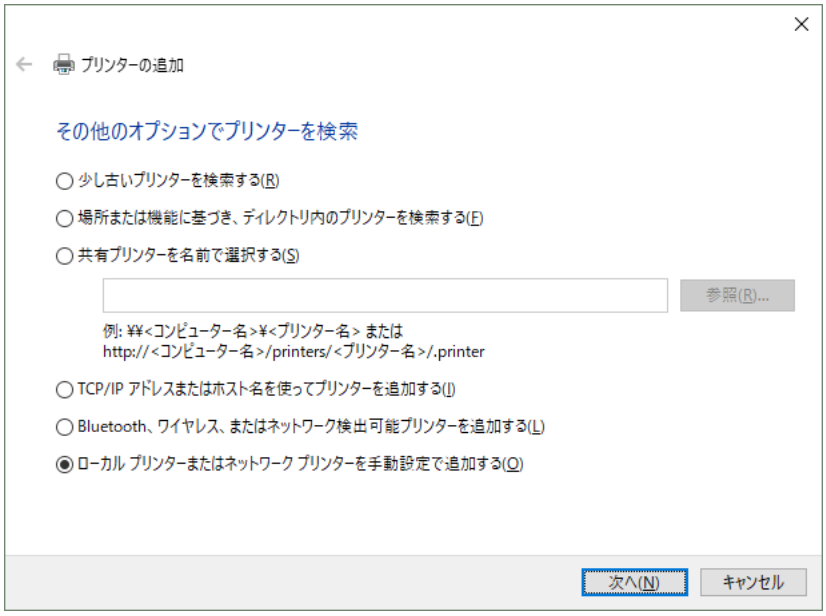
1. **[スタート]** メニューに移動して **[設定]** アイコンをクリックするか、**[スタート]** 検索バーで **[Bluetoothとその他のデバイス設定]** を検索してください。次の画面が表示されます。

2. **[関連する設定]** の下の **[デバイスとプリンター]** をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

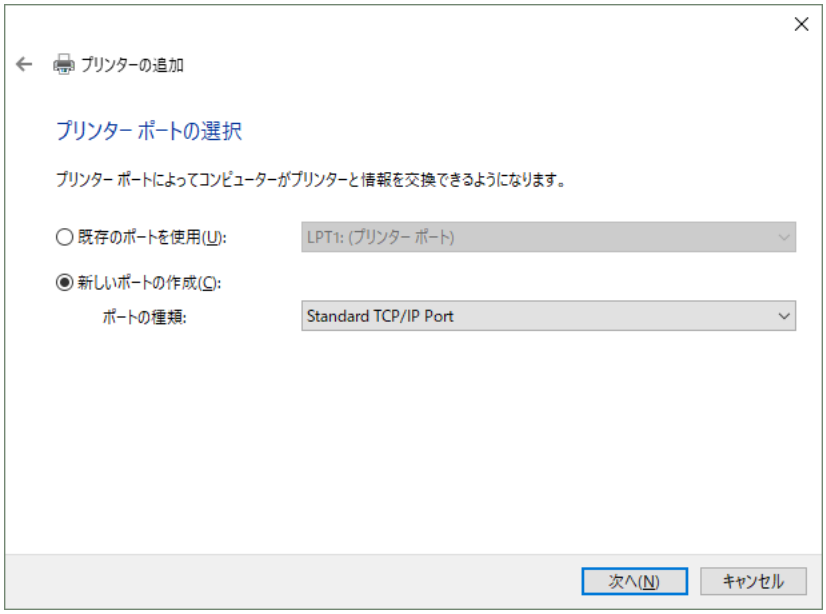
3. 次の図のように、**[プリンターの追加]** をクリックしてプリンターを選択します。手動でプリンターを追加するには、一番下の **[プリンターが一覧にない場合]** を選択します。



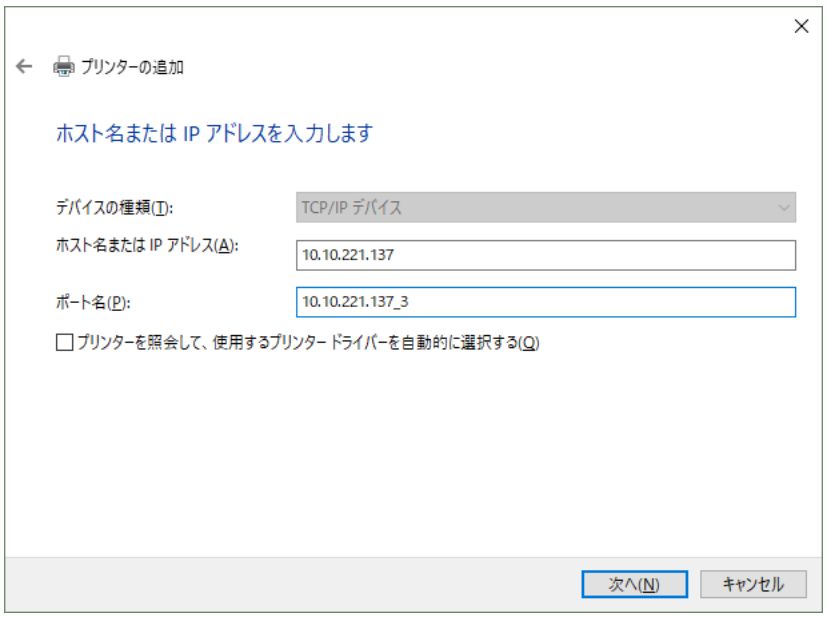
4. 次の図のように、[プリンターの追加]メニューの **[ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを手動設定で追加する]** の横にある一番下の丸を選択し、**[次へ]** をクリックします。



5. 次の図のように、**[新しいポートの作成]** を選択し、その隣のフィールドで **[Standard TCP/IP Port]** を選択します。

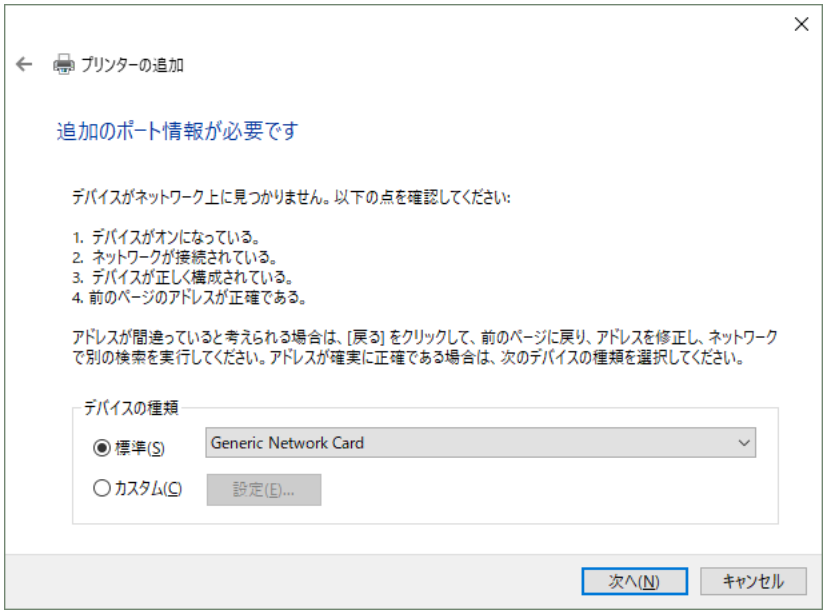


6. **[ホスト名またはIPアドレス]** を入力します。ただし、プリンターを照会するためのチェックボックスをオンにしないでください。次の図のように、**[次へ]** をクリックします。

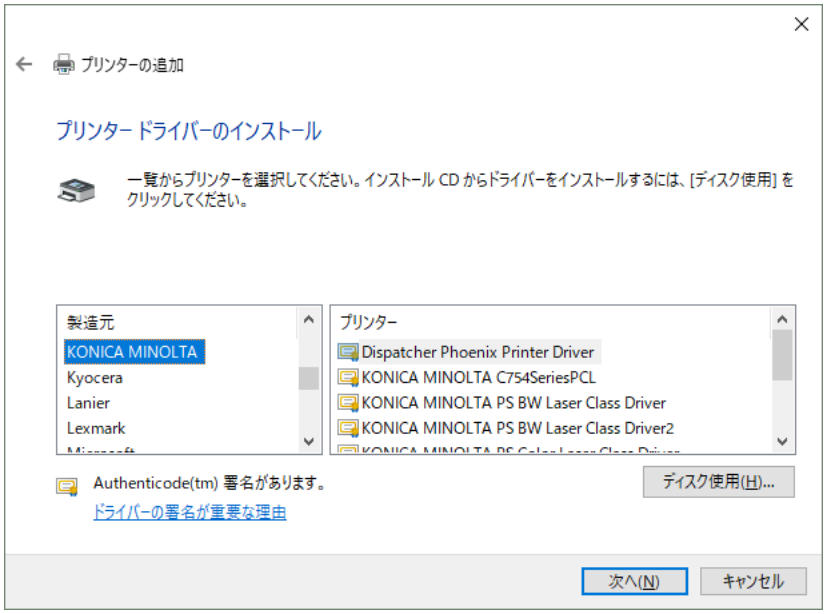


注:IPアドレスがわからない場合は、Windowsのスタートメニューで[コマンド プロンプト]と入力し、[ipconfig]と入力します。[Enter]キーを押して、IPv4 アドレスの隣にある数値を探します。

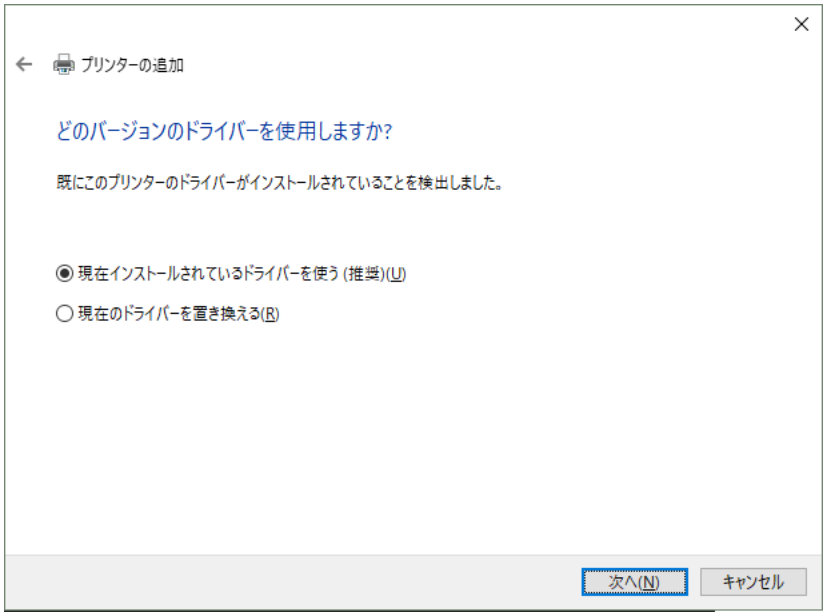
7. **「TCP/IPポートの検出中...」** というメッセージが表示され、それが完了すると、**「追加のポート情報が必要です」** ウィンドウが表示されます。**[標準デバイスタイプ]** をオンにした状態ですべて表示されたままにし、次の図のように **[次へ]** をクリックします。



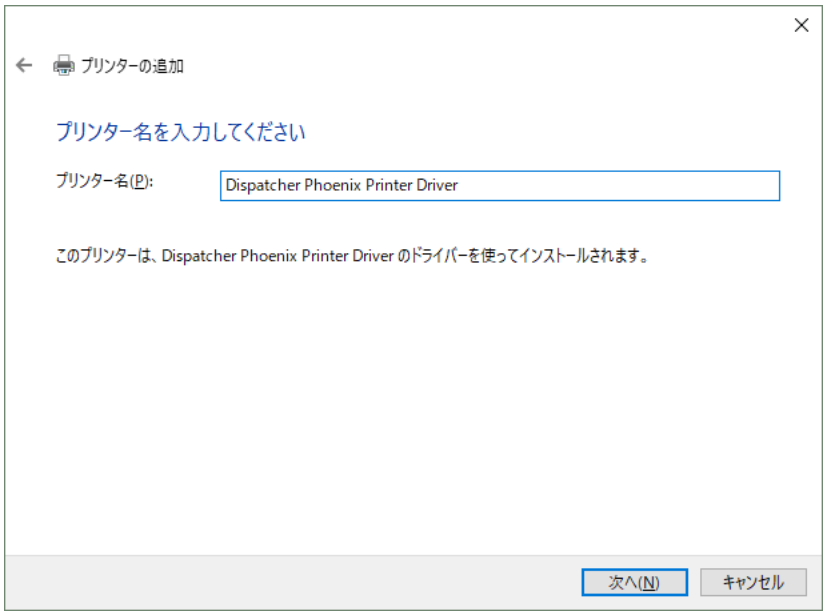
8. **プリンタードライバーのインストール** ウィンドウで **[KONICA MINOLTA]** を選択し、接続したいプリンターをクリックします。次の図のように **[次へ]** をクリックします。



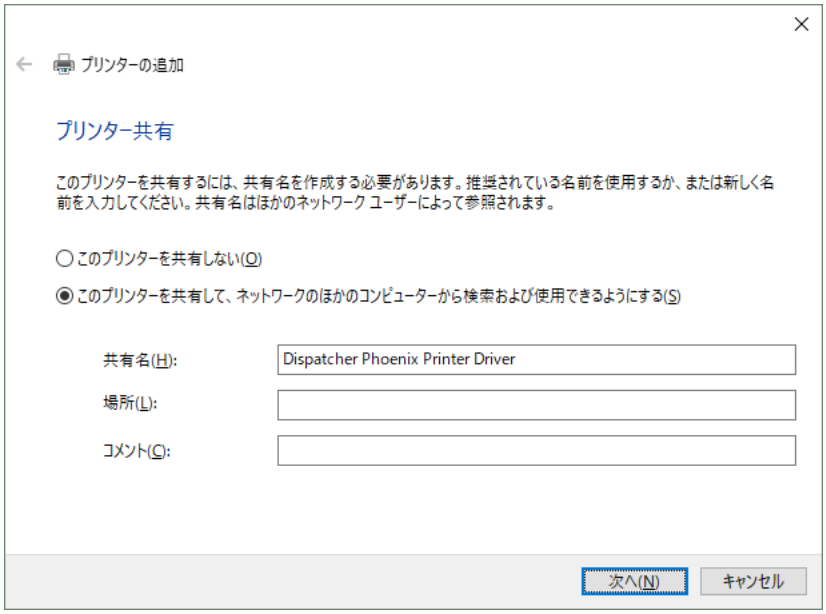
9. 現在インストールされているドライバーを使用し、次の図のように **[次へ]** をクリックします。



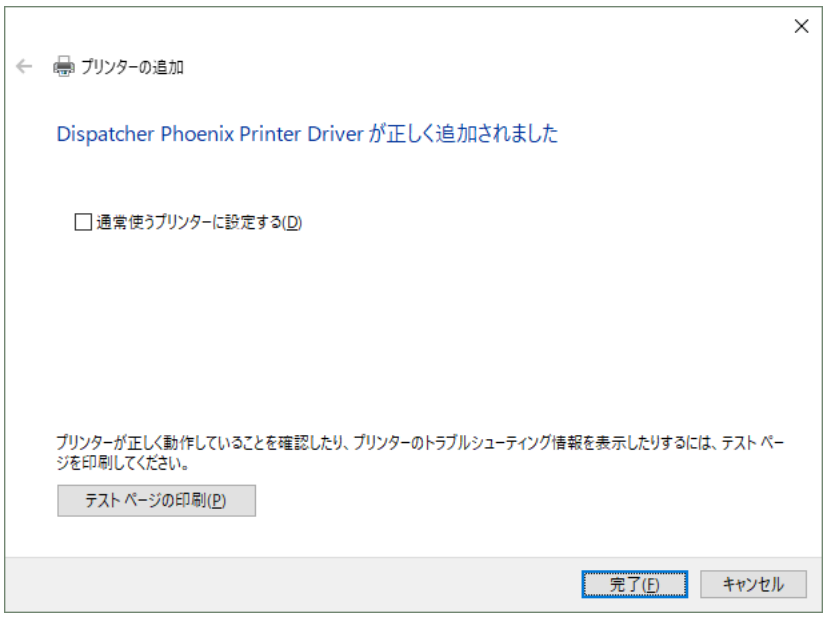
10. 次の図のように、プリンターの名前を入力して **【次へ】** をクリックします。



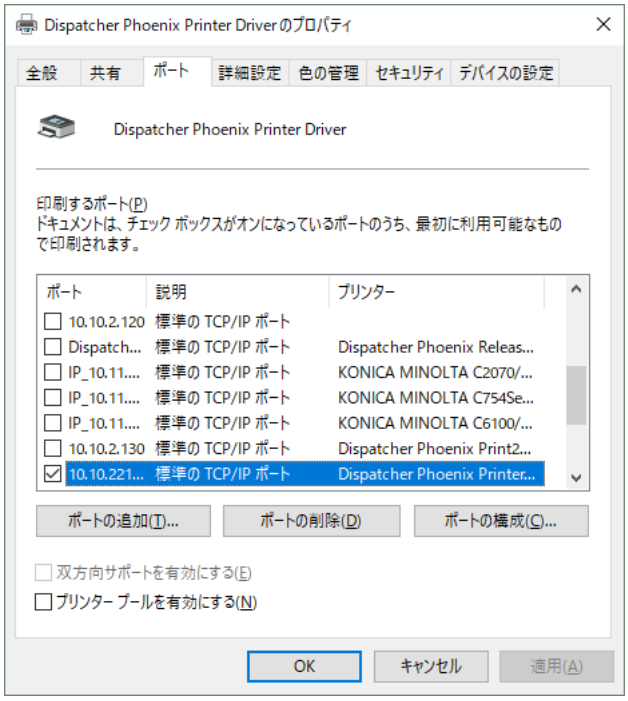
11. 次の図のように、プリンターを共有して **【次へ】** をクリックします。



12. テストページを印刷するか、**【完了】**をクリックします。



13. プリンターを追加したら、**【デバイスとプリンター】**ページに戻って、追加したプリンターを見つけ、右クリックして **【プリンターのプロパティ】**を選択します。次の図のように、上の[ポート]に移動し、下の **【ポートの構成...】**をクリックします。



14. **[プロトコル]** の **[LPR]** ボタンを選択し、キュー名を作成します。次の図のように、**[OK]** をクリックします。

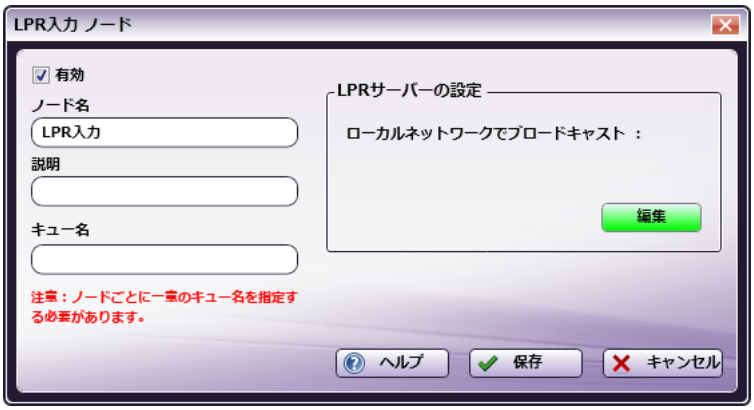
注: キュー名は、LPRノードで指定した名前と一致している必要があります。また、ワークフローに複数のLPR入力ノードが含まれている場合、各キュー名は一意である必要があります。

ステップ # 2 LPR入力ノードの構成

LPR入力ノードをワークフローの一部として組み込むことができるようになりました。**LPR入力** ノードをワークフロービルダーのキャンバスにドラッグします。次に、アイコンをダブルクリックして *LPR入力ノード* ウィンドウを開きます。画面の右側にある *プロパティ* パネルを使用してワークフローでのノードの外観を定義し、LPR入力ノードウィンドウを使用し

て実際の *LPR入力* の定義を行います。

LPR入力ノードウィンドウは、次の図のようになります。



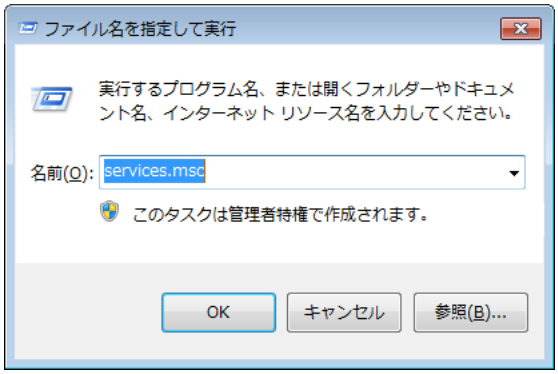
LPR入力ノードウィンドウで、以下の操作を行います。

- **［有効］**ボックスがチェックされていることを確認します。チェックを外すと、この入力は無視されます。ドキュメントはこの入力場所からは処理されません。
- **［ノード名］**フィールドに、LPR入力ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **［説明］**フィールドに、LPR入力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、収集ノードが複数ある場合に役に立ちます。説明が長すぎる場合には、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **［キュー名］**フィールドに、LPRポート用に指定したキュー名と同じキュー名を入力します。ワークフローに複数のLPR入力ノードが含まれている場合は、各キュー名は一意である必要があります。
- このLPRサービスの設定を編集する必要がある場合は、**［編集］**ボタンを選択して、LPRマネージャーを起動します。
- 完了したら、**［保存］**ボタンを選択します 。**［ヘルプ］**ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**［キャンセル］**ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

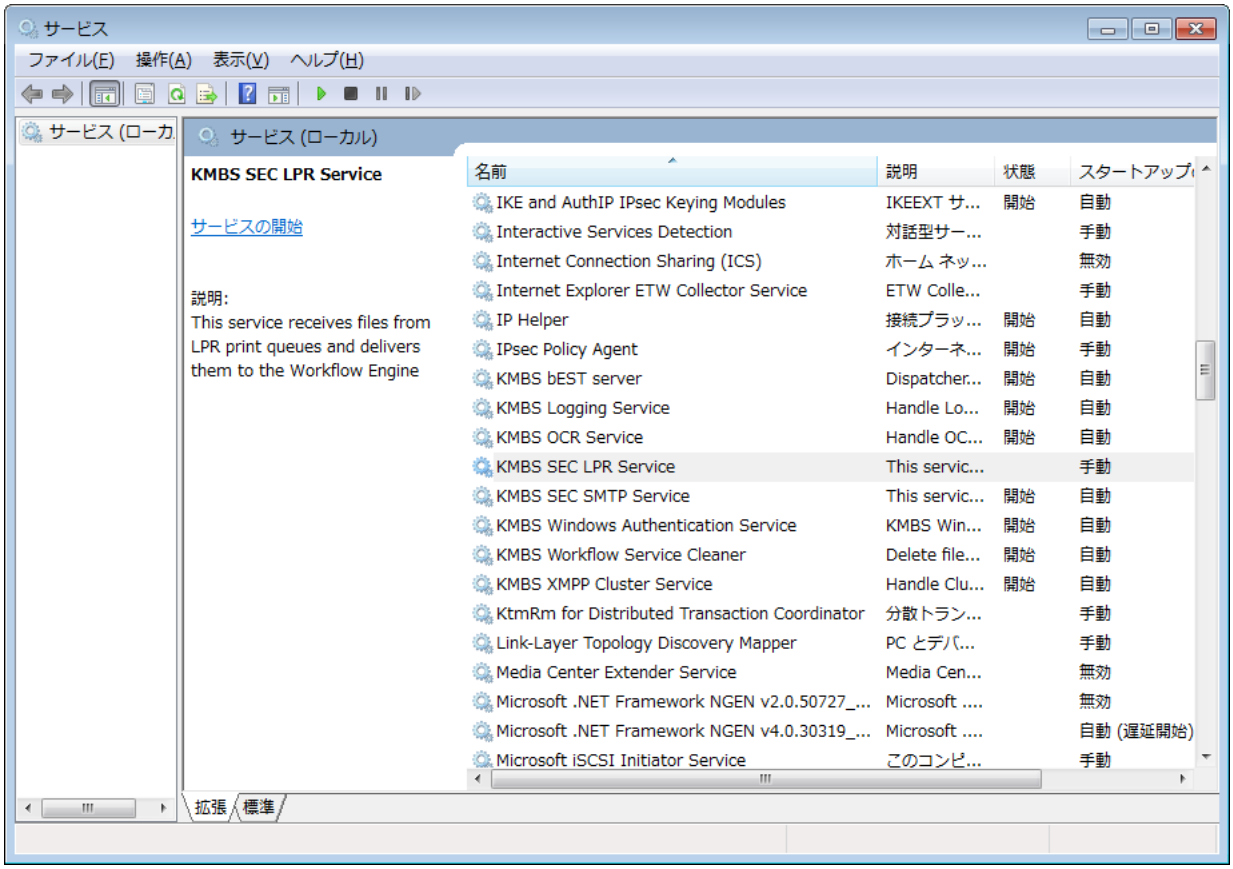
ステップ # 3 Windowsサービスの開始

Windowsサービスを開始するには、次の操作を行います。

1. Windowsの[ファイル名を指定して実行]ウィンドウにアクセスするには、**[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を検索するか、[Windowsキー ＋ R]を押します。**次の図のように、[ファイル名を指定して実行]ウィンドウが表示されます。



2. 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウで、「名前」フィールドに**「services.msc」**と入力します。次に **[OK]** ボタンを選択します。次の図のように、[サービスの開始]ウィンドウが表示されます。



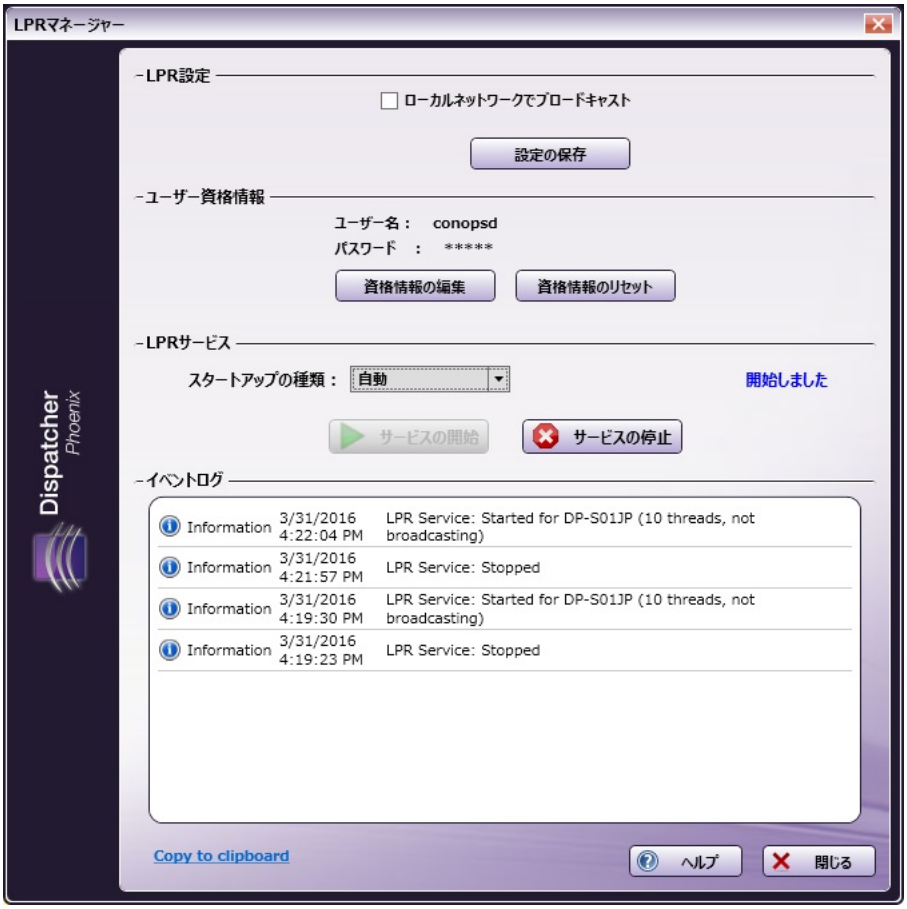
3. [サービスの開始]ウィンドウで、**[KMBS SEC LPR Service]** を選択します。次に、**[サービスの開始]** リンクをクリックします。

ステップ # 4 LPRサービスの開始

LPRサービスが実行中であることを確認してから、LPR入力ノードを含むワークフローを実行します。**LPRマネージャー** で **[サービスの開始]** ボタンを選択すると、LPRサービスを開始できます。LPRマネージャーには、**LPR入力** ノードまたはメインアプリケーション画面の **[ツール]** メニューからアクセスします。

注: (アプリケーションの初回インストール後に) LPRが個別にインストールされる場合は、自動的に開始するようには構成されません。LPRサービスを正常に実行する前に、追加の構成が必要な場合があります。

LPRマネージャーは、次の図のようになります。



LPRマネージャーを使用すると、LPRサービスの設定を編集できます。

注: 変更を有効にするには、サービスを再起動する必要があります。

LPR設定

- **［ローカルネットワークでブロードキャスト］** このチェックボックスを使用すると、ネットワーク上のLPR印刷ドライバーの自動検出を有効または無効にできます。このオプションが有効な場合は、LPRプリンターが、ローカルネットワーク上に存在することを「告知」します。このようにして、Bonjour for Windowsなどの検出ツールを使用してLPRプリンターを容易に検出できます。mDNSクライアントを使用してWindowsプリンターをインストールまたは構成すると、LPR入力ノードのキュー名と一致するようにLPRキュー名を個別に構成することが必要になる場合があります。

  注: このオプションを使用するには、システムにBonjour for Windowsサービスをインストールしておく必要があります。

- **［設定の保存］** このボタンをクリックして、構成したLPR設定を保存します。

ユーザー資格情報

Dispatcher Phoenixの初回インストール時には、この領域は空白で表示され、SEC Workflow Servicesの既定のユーザー名とパスワードが自動的に使用されます。このサービスのユーザー資格情報を変更した場合に限り、ユーザー名とパスワードの領域に情報が入力されます。

- Workflow Serviceの実行に対する認証に使用される資格情報を変更する必要がある場合（Workflow Serviceのパスワードを変更した場合、またはWindowsログインユーザーの資格情報を使用したい場合など）は、**［資格情報の編集］** ボタンを選択します。

  これにより、［Windows資格情報］ポップアップが表示されます。ここで、新しいユーザー名を選択して適切なパスワードを入力できます。

- 変更した資格情報を元に戻して既定のユーザー名とパスワードを使用するには、**［資格情報のリセット］** ボタンを選択します。ユーザー名とパスワードが再度空白で表示されます。

- 資格情報に変更を加えた後、LPRサービスを再起動します。

LPRサービス

LPRマネージャーのこのセクションを使用すると、LPRドライバーとのインバウンド通信をアクティベートできます。

- **［スタートアップの種類］** LPRサービスの開始方法を選択します。これらのオプションはWindowsサービスマネージャーと同期しています。オプションは次のとおりです。
  - **［自動（遅延起動）］** - ［自動］と指定されたその他すべてのサービスが開始した後、まもなくサービスが開始します（通常はシステムの起動後1～2分）。このオプションは、Windows 8またはそれ以降のオペレーティングシステムにだけ利用できます。
  - **［自動］** - システムが最初に起動したときにサービスが開始します。
  - **［手動］** - サービスを開始するには、PCを起動するたびに、ユーザーがこのウィンドウの［サービスの開始］ボタンを使用する必要があります。
  - **［無効］** - ユーザーは、いつの時点であっても、サービスを開始できません。
- **［サービスの開始］** ボタン。LPRサービスを開始するには、このボタンを選択します。

- **［サービスの停止］**ボタン。LPRサービスを停止するには、このボタンを選択します。既定では、アプリケーションが最初に起動したときにLPRサービスは実行されません。

イベントログ

LPRマネージャーのこのセクションには、LPRサービスのイベントログが表示されます。

- **［クリップボードにコピー］**クリップボードにイベントログをコピーするには、このリンクをクリックします。

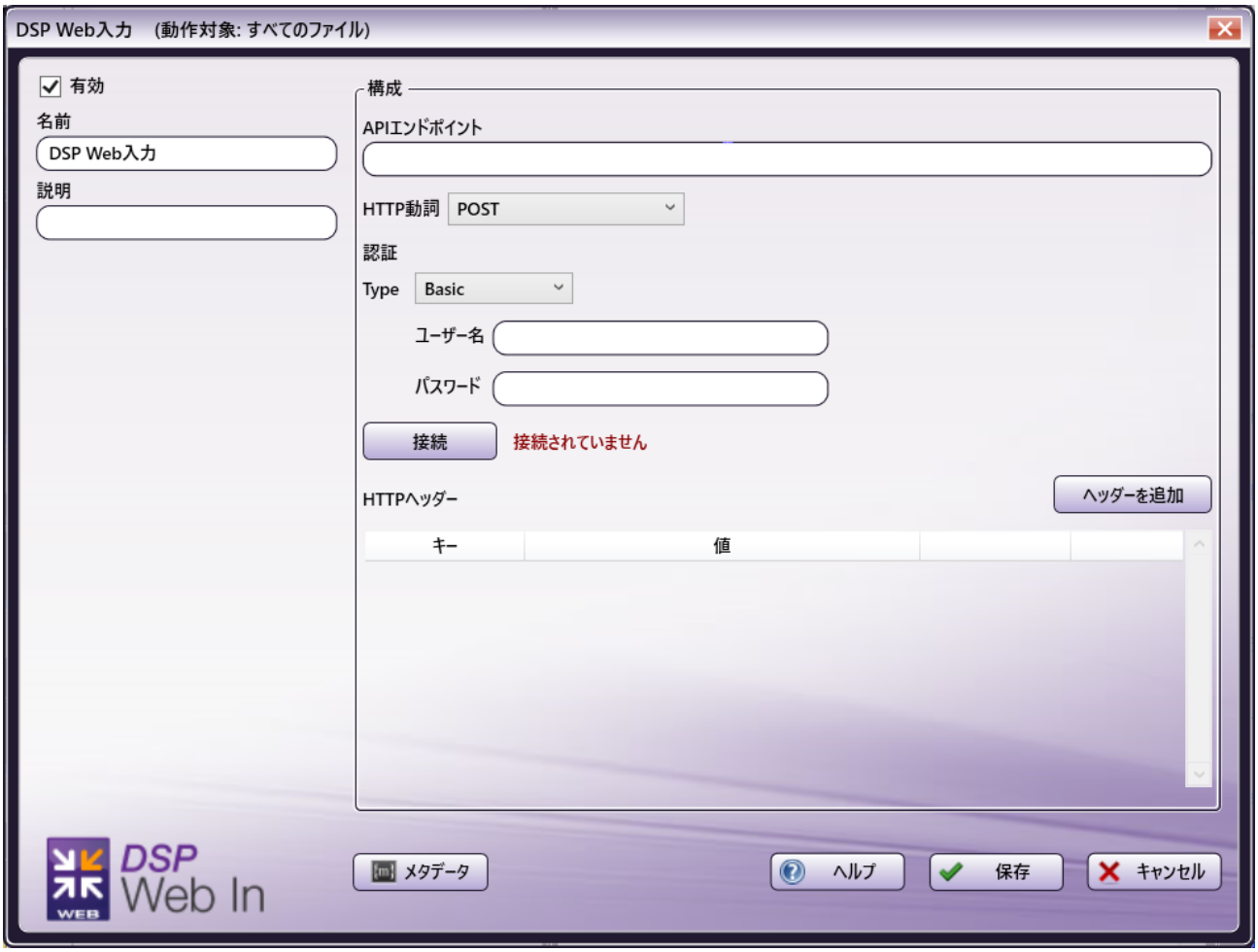
DSP Web入力

DSP Web入力

DSP Web入力ノードは、Dispatcher Phoenix Developer Support Program(DSP)のメンバーによって開発されたアプリケーション/機能で使用するように設計されています。DSPの詳細については、コニカミノルタの担当者にお問い合わせください。

DSP Web入力ノードの使用

DSP Web入力ノードウィンドウを開くには、DSP Web入力ノードの収集ノードを追加して、ダブルクリックします。



次のようないくつかのボタンとフィールドが表示されます。

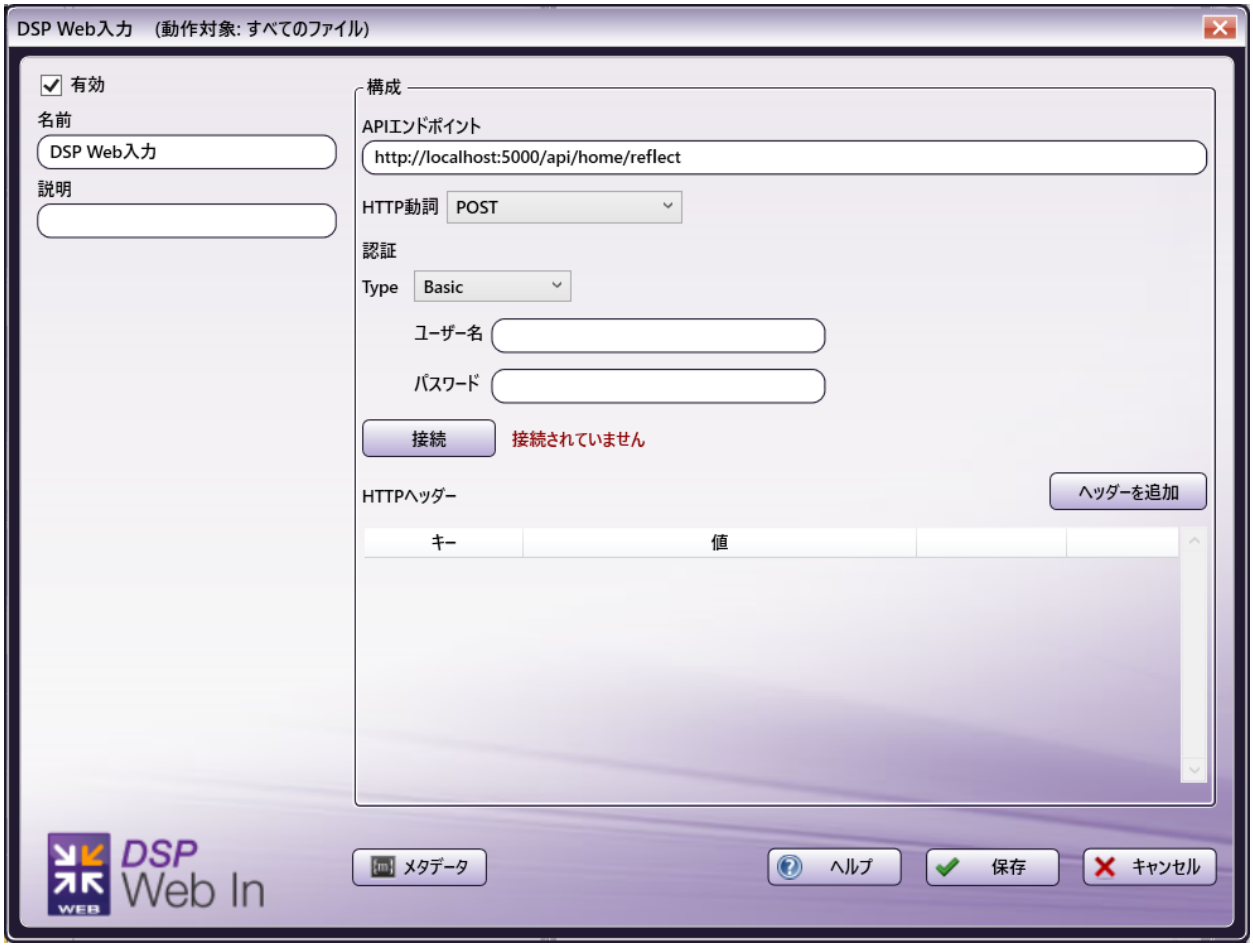
- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。チェックを外すとこの入力は無視されます。有効な収集ノードが少なくとも1つあるかどうかはワークフローで検証されますが、**[有効]** ボックスがオフの場合、ドキュメントは**DSP Web入力** ノードによって収集されません。
- **[名前]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ワークフローでノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノードの名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。
- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウインドウにアクセスするにはこのボタンをクリックします。

- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

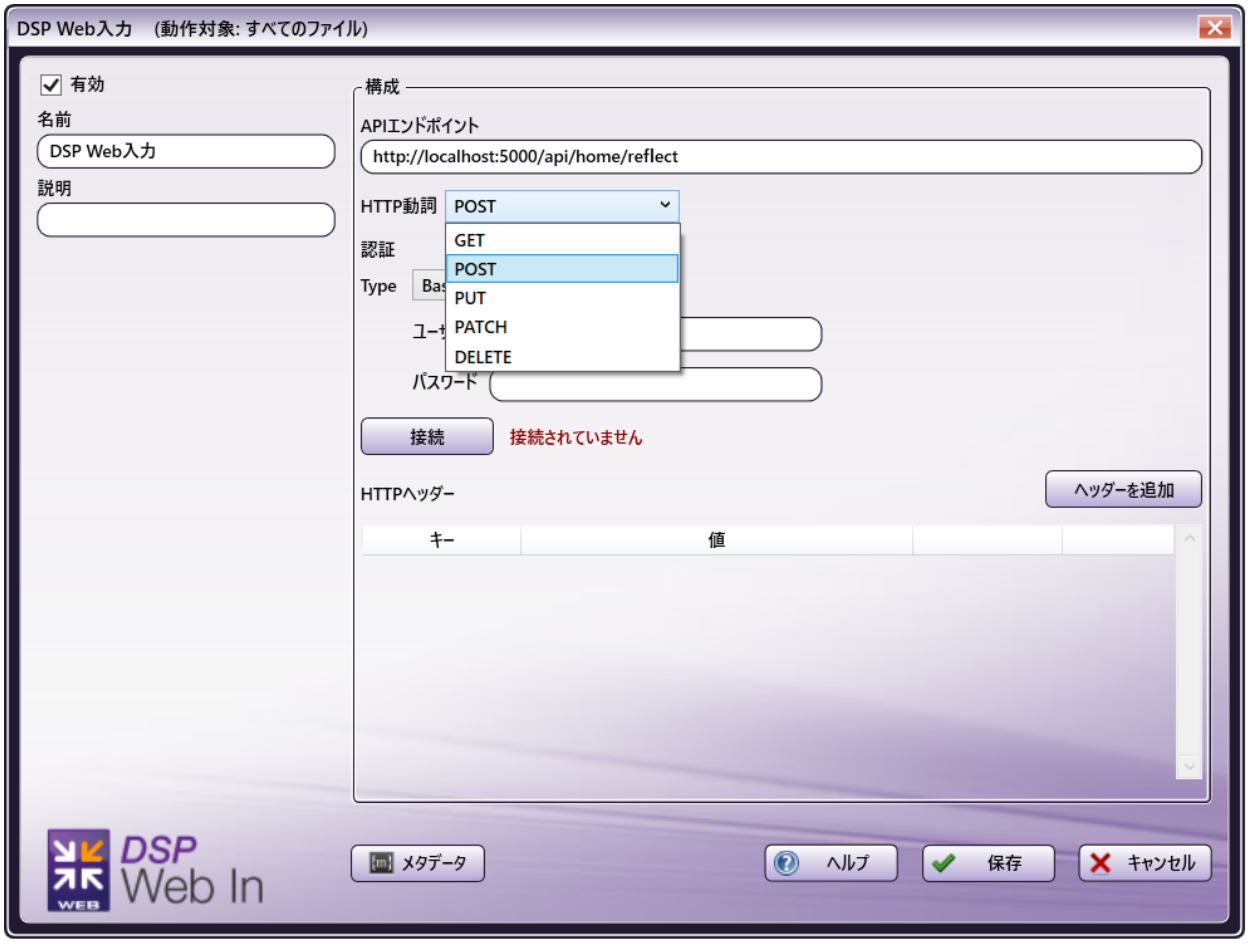
アプリケーションのセットアップ

DSPで開発されたWebサービスでこれを使用するには、Webベースのアプリケーション、またはAPIの場所(例:URLなど)を指すようにノードを構成する必要があります。ノードを構成するには、次の操作を実行します。

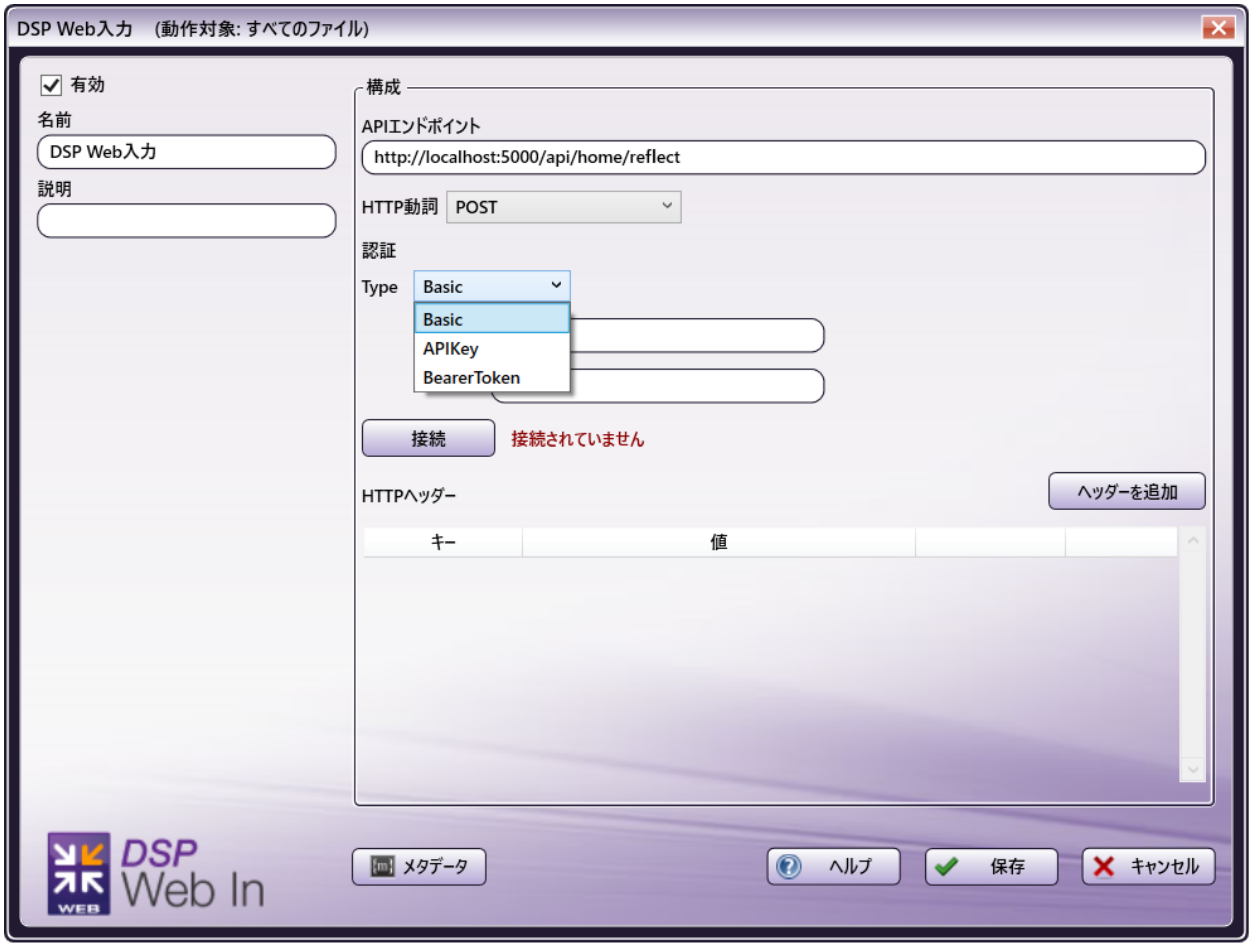
1. DSP Web入力ノードをダブルクリックして開きます。
2. APIエンドポイントをアプリケーションに入力します。



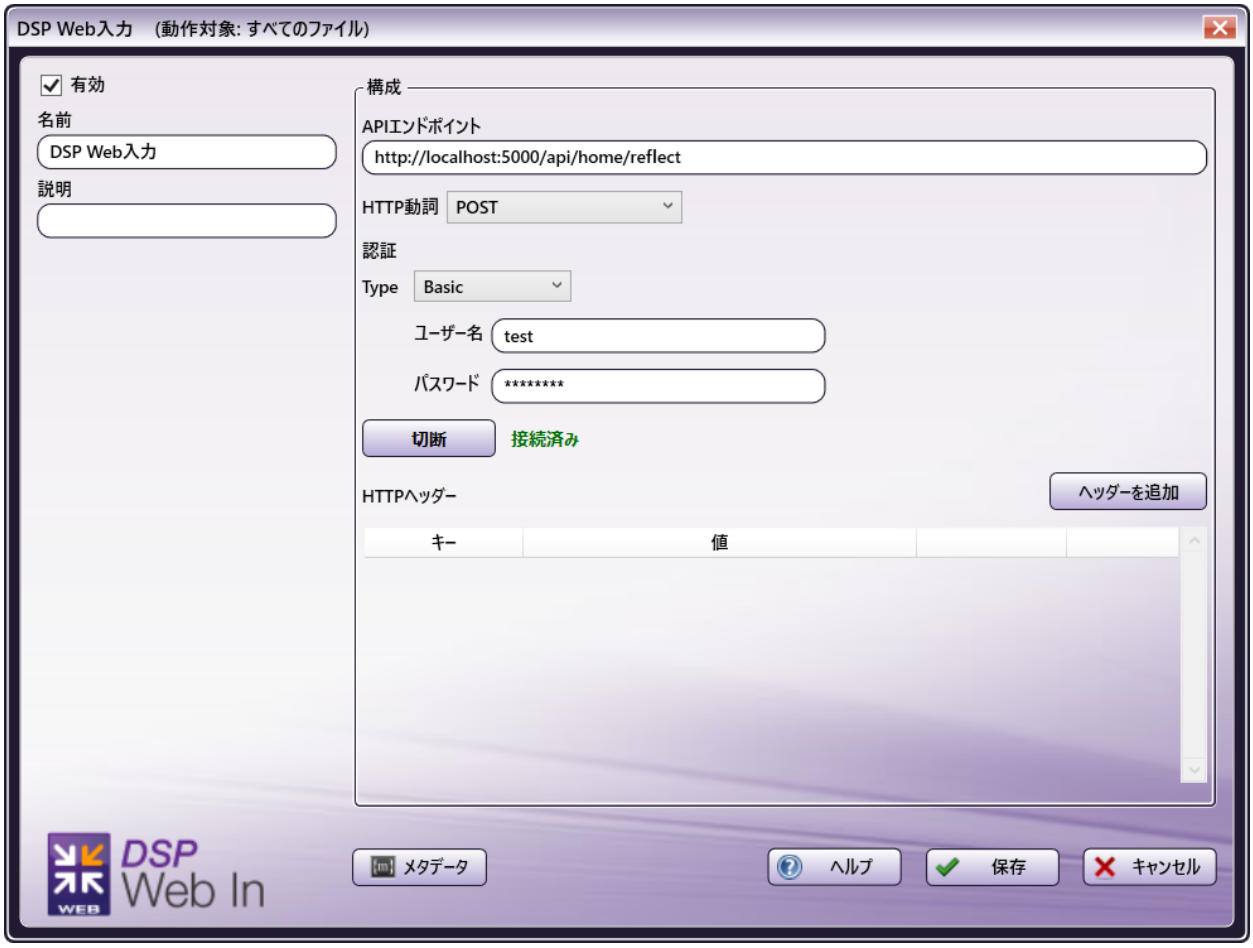
3. **HTTP動詞** を選択します。次のオプションが含まれます。
    - Get
    - Post
    - Put
    - Patch
    - Delete



4. **認証** タイプを選択します。次のオプションが含まれます。
    - Basic - **ユーザー名** と**パスワード** を入力するように求められます。
    - APIKey - **キー名** と**キー値** を入力するように求められます。
    - BearerToken - **トークン** を入力するように求められます。



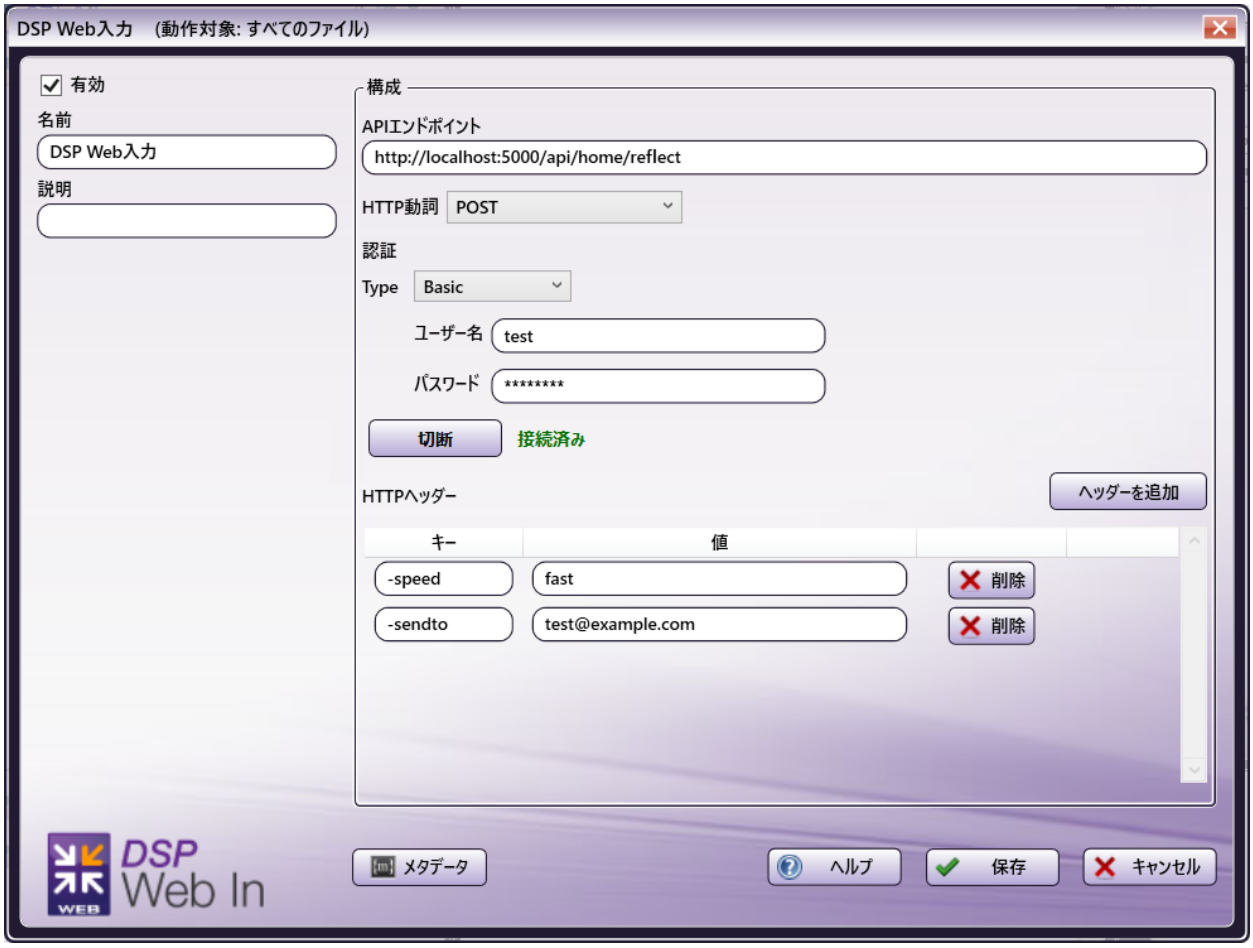
5. **【接続】** ボタンを選択します。これにより、DSP Web入力ノードとアプリケーション間の接続が確立され、アプリケーションから提供されたメタデータキー、または値のペアが接続されるため、ワークフロー内の後続のノードでメタデータを使用することができます。これにより、アプリケーションが有効なDSPライセンスキーで正しく登録されていることも確認されます。



重要! 正常に接続していない場合、ワークフローを適切に検証できません。

注: APIフィールドに変更を加える場合は、**[接続]** ボタンを選択して接続を再確立する必要があります。

6. 必要に応じて、アプリケーションに必要なヘッダーを追加します。ヘッダーを追加するには、**[ヘッダーを追加]** ボタンを選択します。これにより、ヘッダーの**キー** と**値** を入力できるようになります。ヘッダーは、アプリケーションの外部にある追加のコーディングコマンドであり、アプリケーションの実行方法を変更することができます。必要な**ヘッダーキー** と**値** は、アプリケーションと一緒にインストール手順で提供される可能性があります。それ以外の場合、このフィールドは空白のままにすることができます。複数のヘッダーを追加することができます。追加したヘッダーを削除するには、ヘッダーの横にある **[削除]** ボタンを選択します。ヘッダーはメタデータと互換性があります。メタデータをヘッダーに追加するには、**[メタデータ]** ボタンをクリックし、メタデータキーをヘッダーの**キー** または**値** フィールドにドラッグアンドドロップします。



7. ノードを保存して閉じます。

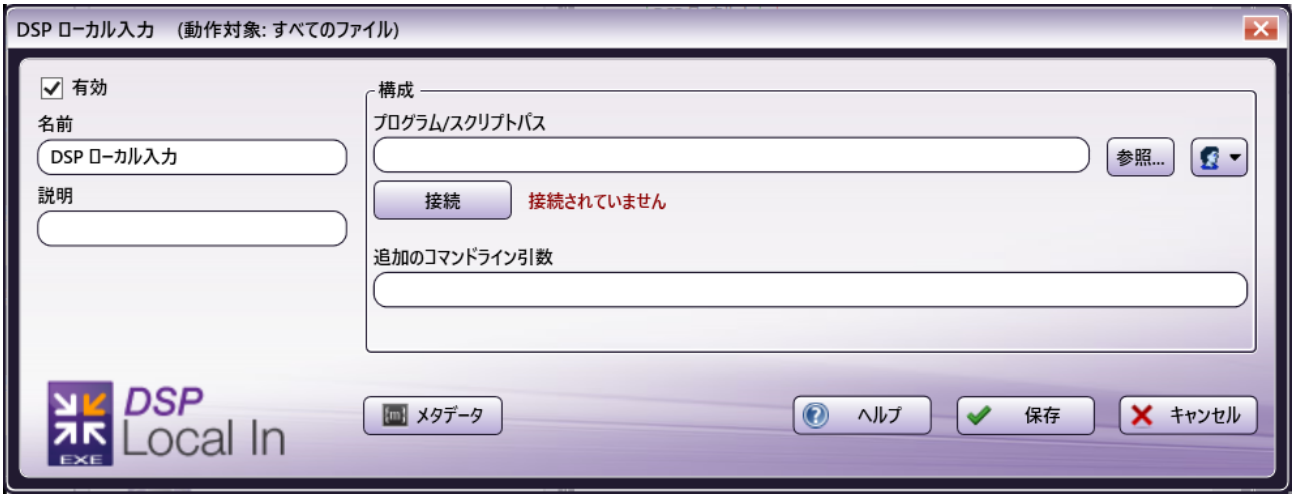
注: DSP Web入力ノードは、接続されているアプリケーションの仕様に従って、可能な限りドキュメントを収集します。ノードまたはアプリケーションが処理中にエラーを生成した場合、エラーの具体的な詳細については、アプリケーションログを参照する必要があります。

DSP ローカル入力

DSP ローカル入力ノードは、Dispatcher Phoenix Developer Support Program（DSP）のメンバーによって開発されたアプリケーション/機能で使用するように設計されています。DSPの詳細については、コニカミノルタの担当者にお問い合わせください。

DSP ローカル入力ノードの使用

DSP ローカル入力ノードウィンドウを開くには、DSP ローカル入力ノードの収集ノードを追加して、ダブルクリックします。



次のようないくつかのボタンとフィールドが表示されます。

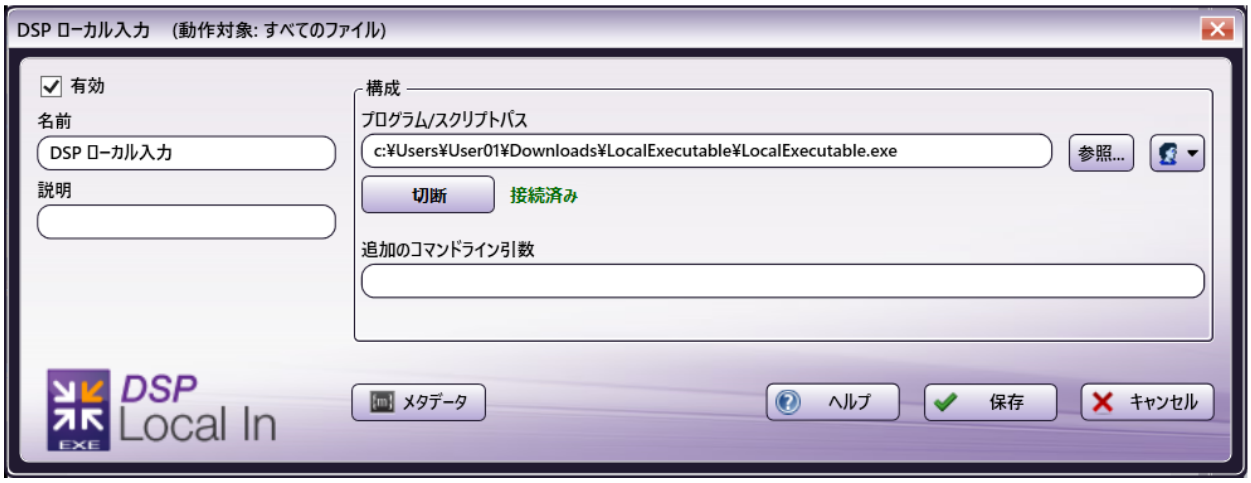
- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。チェックを外すとこの入力は無視されます。有効な収集ノードが少なくとも1つあるかどうかはワークフローで検証されますが、**[有効]** ボックスがオフの場合、ドキュメントは**DSP ローカル入力** ノードによって収集されません。
- **[名前]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ワークフローでノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノードの名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。
- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウインドウにアクセスするにはこのボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

アプリケーションのセットアップ

DSPで開発されたローカル実行可能ファイルでこれを使用するには、実行可能ファイルの場所(アクセス可能なフォルダーなど)を指すようにノードを構成する必要があります。目的のアプリケーションがアクセス可能なフォルダーに保存されたら、DSP ローカル入力ノードにそれを使用するように指示できます。ノードを構成するには、次の操作を実行します。

1. DSP ローカル入力ノードをダブルクリックして開きます。
2. アプリケーションへのファイルパスを入力します。**[参照]** ボタンを使用してフォルダーブラウザーを開き、アプリケーションを見つけることもできます。

   - **[認証]** ボタンを使用すると、アプリケーションが存在するフォルダーにアクセスするために必要な場合、ネットワーク資格情報を入力、または編集できます。
3. **[接続]** ボタンを選択します。これにより、DSP ローカル入力ノードとアプリケーション間の接続が確立され、アプリケーションから提供されたメタデータキーまたは値のペアが接続され、ワークフロー内の後続のノードでメタデータを使用することができます。これにより、アプリケーションが有効なDSPライセンスキーで正しく登録されていることも確認されます。



重要! 正常に接続していない場合、ワークフローを正しく検証できません。

注: プログラム/スクリプトパスまたはネットワーク資格情報に変更を加える場合は、**[接続]** ボタンを選択して接続を再確立する必要があります。

4. 表示されたフィールドに**追加のコマンドライン引数** を入力します。コマンドライン引数は、アプリケーションの外部にある追加のコーディングコマンドであり、アプリケーションの実行方法を変更することができます。必要なコマンドラインプロンプトは、アプリケーションとともに提供される可能性があります。それ以外の場合、このフィールドは空白のままにすることができます。このフィールドはメタデータと互換性があります。**[メタデータ]** ボタンを使用して、ワークフローの前半で収集したメタデータをこのフィールドにドラッグアンドドロップすることができます。

注:

- 複数の単語を含む単数の引数を入力する場合は、フレーズを引用符で囲む必要があります。たとえば、接続されたプログラムがフォルダーパス名を予期し、名前にスペースが含まれている場合、引数は`"C:\Program Files\Konica Minolta"`のようになります。
- DPS ローカル入力ノードは、2種類の二重引用符で囲まれた引数を処理できます。
  - 二重引用符で囲まれた引数内の二重引用符(それぞれがバックスラッシュ付き)、(引用符内の `"A \"quote\"` など)。
  - 二重引用符で囲まれた引数の一重引用符(引用符内の `"A 'quote'"` など)。
- 一重引用符 (")、一重引用符/アポストロフィ (')、または円記号 (\ )を含む引数を入力する場合、引数を適切に処理するには、各記号の前に円記号 (\ )を入力する必要があります。たとえば、アプリケーションが `O'Brien`という名前を送信しようとした場合、一重引用符を含めるには、引数を `O\'Brien` として入力する必要があります。

5. ノードを保存して閉じます。

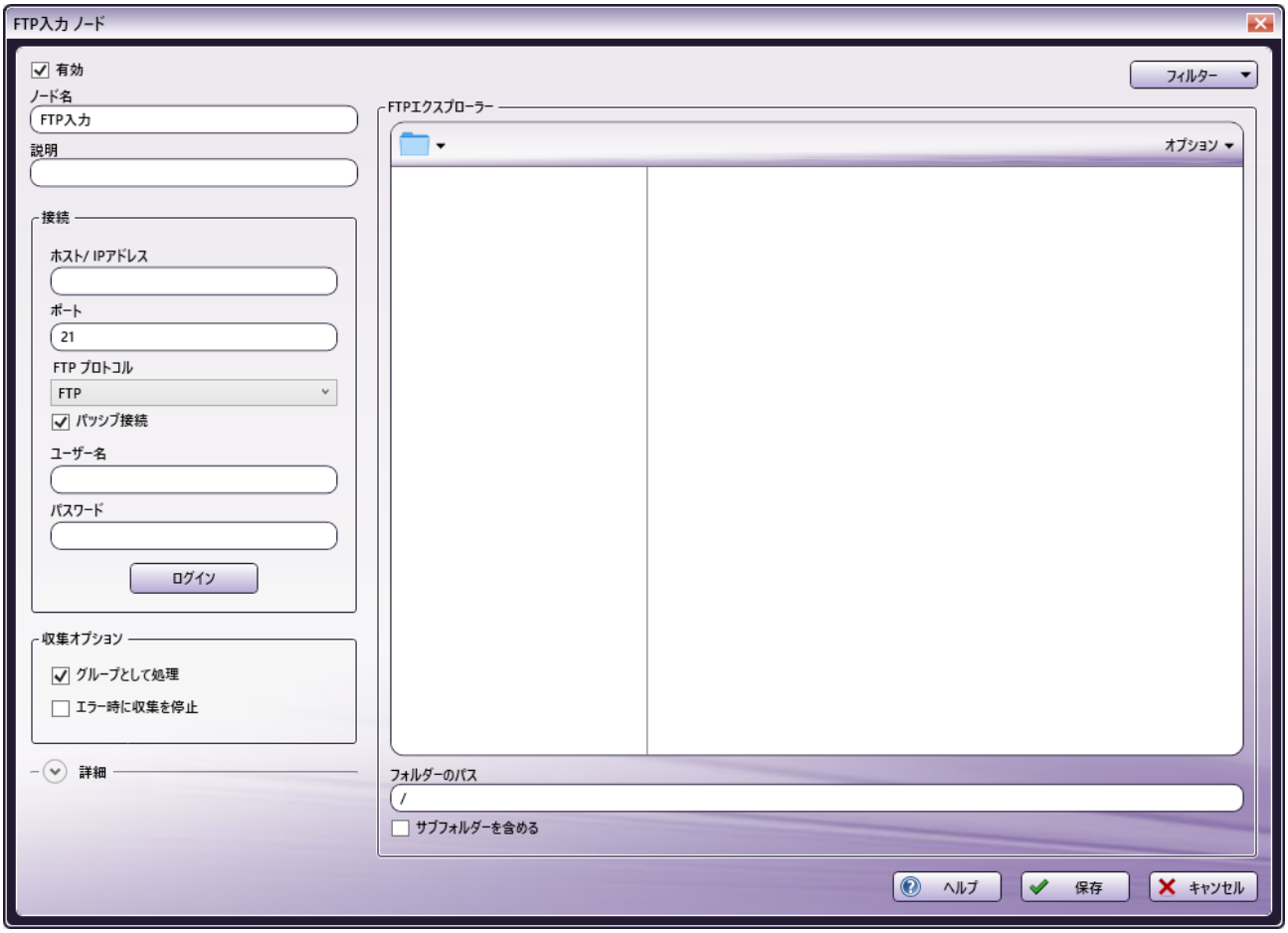
注: DSP ローカル入力ノードは、接続されているアプリケーションの仕様に従って、可能な限りドキュメントを収集します。ノードまたはアプリケーションが処理中にエラーを生成した場合、エラーの具体的な詳細については、アプリケーションログを参照する必要があります。

FTP入力

FTP入力

FTP入力 収集ノードは、定期的にFTPサーバーに接続して、新しいファイルの設定済みフォルダーを監視します。この収集ノードでは、ワークフローに沿ってドキュメントをハンドルする前に、処理およびルーティングのために名前、サイズ、または更新日でファイルをフィルタリングすることもできます。

FTP入力 ノードを開くには、FTP入力収集ノードをワークフローに追加してダブルクリックします。



以下の操作を実行します。

1. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認してください。チェックしなかった場合、この処理は無視されます。ワークフローは検証されますが、ドキュメントは収集されずに失われる可能性があります。
2. **[ノード名]** フィールドに、FTP入力ノードのわかりやすい名前を入力します。
3. **[説明]** フィールドに、FTP入力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
4. **[接続]** 領域で、FTPサーバーに接続するための次の設定を入力します。
   - **[ホスト/IPアドレス]**：FTPサーバーのアドレス。
   - **[ポート]**：FTPサーバーのポート。
   - **[FTP プロトコル]**：接続が確立され、ファイルが送信されるFTPプロトコル。オプションは次のとおりです。**[FTP]** または **[FTPS]**（FTP over SSL）。FTPSは暗黙的または明示的な暗号化にすることができます。
   - **[パッシブ接続]**：パッシブ接続を使用する場合はこのチェックボックスを選択します。パッシブ接続では、クライアントはコマンドチャネルを確立します。これにより、サーバーでポートの待機を開始するように要求されます。それ以外の場合、FTPサーバーへの接続はアクティブ接続になります。つまり、サーバーはデータチャネルを確立しながら、クライアントはコマンドチャネルを確立する必要があります。

     注: ファイアウォールが存在する場合は、パッシブ接続が必要になる場合があります。
5. サーバーでの認証が必要な場合は、**[認証]** 領域にFTPサーバーに関連する **[ユーザー名]** と **[パスワード]** を入力してください。
6. **[接続]** エリアの下部にある **[ログイン]** ボタンを使用して、Dispatcher PhoenixがFTPサーバーと正しく通信していることを確認します。
7. **[収集オプション]** セクションで、関連するオプションを選択します。

- **[グループとして処理]**：このオプションがチェックされると、フォルダーからのファイルはグループとして処理されます。このチェックボックスをオフにすると、ファイルはFTPサーバーから個別に処理されます。
- **[エラー時に収集を停止]**：このオプションをチェックすると、エラーが発生したときにファイルの収集が停止されます。

8. **[詳細]** セクションで、次のオプションを設定します。
   - **[データ接続タイムアウト]**：データ接続の試行がタイムアウトして失敗と見なされるまでに継続する時間（秒単位）。
   - **[すべての通信を記録]**：このオプションがチェックされると、FTP入力ノードはすべてのFTP通信をDispatcher Phoenixのアクティビティログに記録します（デバッグレベル・ログが必要）。
9. FTPサーバーとの接続が確立されたら、右上隅にある **[フィルター]** ドロップダウンを使用して、ファイルを収集するための条件を識別します。フィルターを使用すると、指定された基準を満たすファイルのみがFTPサーバーから収集されます。
   - **[ファイル名をフィルター]**：ファイル拡張子を含む、識別されたファイル名と一致するファイルの収集を有効にするには、このボックスをオンにします。
     - [ファイル名]フィールドに、Dispatcher PhoenixがFTPサーバーから収集する **[ファイル名]** を入力します。
     - **[正規表現]** ボックスを選択して、一定量のテキストを記述するパターンを使用してファイルを動的にフィルタリングします。
     - ファイル名の大文字と小文字が区別される場合は、[大文字と小文字を区別]の横のチェックボックスをオンにします。

     注: 一度に有効にできるオプションは、[大文字と小文字を区別]または[正規表現]のいずれか1つのみです。
   - **[フォルダー名をフィルター]**：フォルダー名と一致するフォルダーからのファイルの収集を有効にするには、このボックスをオンにします。
     - [フォルダー名]フィールドに、Dispatcher PhoenixがFTPサーバーからファイルを収集する **[フォルダー名]** を入力します。
     - 一定量のテキストを記述するパターンを使用してフォルダーを動的にフィルターするには、**[正規表現]** ボックスを選択します。
     - フォルダー名の大文字と小文字が区別される場合は、**[大文字と小文字を区別]** の横のチェックボックスをオンにします。

     注: 一度に有効にできるオプションは、[大文字と小文字を区別]または[正規表現]のいずれか1つのみです。
   - **[ファイルサイズをフィルター]**：このボックスをチェックして、ファイルが **[FTPサーバー]** からDispatcher Phoenixワークフローに取り込まれる前に満たすべきサイズ基準を選択します。
     - ファイルサイズドロップダウンを使用して、ファイルサイズを[次の値より大きい]、[次の値より小さい]、[等しい]、[以上]、[次の値以下]、または[次の値の範囲内]いずれかに指定します。
     - 空白のフィールドにファイルサイズを入力します。
     - ファイルサイズの測定単位を指定します：バイト、KB、MB、GB、またはTB。
   - **[ファイル修正日をフィルター]**：このボックスをオンにすると、特定の日付範囲の前後、または特定の日付範囲内に変更されたファイルのフィルタリングが有効になります。
     - ファイル日付のドロップダウンを使用して、ファイルの更新日を指定日より[より新しい]、[より古い]、[次の値の範囲内]、または[等しい]にするかを指定します。
     - カレンダーを使用して適切な日付を選択するか、次の形式で日付を入力します：MM/DD/YYYY
   - **[フィルター基準]**
     - **[いずれかのフィルター基準に一致]**：フィルター基準のいずれかが満たされている場合、ファイルはFTPサーバーから収集されます。
     - **[全てのフィルター基準に一致]**：フィルター基準がすべて満たされている場合、ファイルはFTPサーバーから収集されます。
10. フォルダー表示を調整したり設定するには、FTPエクスプローラーの右上隅にある **[オプション]** ボタンを使用します。
    - ツリー表示で完全なフォルダー構造を表示するには、**[ツリービューの表示]** を選択します。
    - フォルダー参照ビュー内のファイルを表示するには、**[ファイルの表示]** を使用します。
    - FTPサーバー上の現在選択されているフォルダーパスに新しいフォルダーを作成するには、**[新規フォルダー]** オプションを使用します。
    - FTPエクスプローラーのフォルダーブラウザーのツリービューを **[更新]** します。
11. FTPエクスプローラーでフォルダーを選択すると、フォルダーツリーの下の **[フォルダーのパス]** フィールドに自動入力されます。ファイルエクスプローラーをナビゲートしたくない場合は、フィールドに **[フォルダーパス]** を手動で入力します。
    - Dispatcher Phoenixがフォルダーパス内にあるすべてのサブフォルダーからもファイルを収集する場合は、**[サブフォルダーを含める]** の横のチェックボックスをオンにします。
12. FTP入力ノードの設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを、変更を保存せずにウィンドウを終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択します。

メタデータ

次のメタデータが**FTP入力**ノードで作成されます。

メタデータ値	説明
{ftpin:count}	FTPサーバーから収集されたファイルの総数。
{ftpin:filename}	収集されたファイル名。
{ftpin:folder}	ファイルが収集されるFTPサーバー上のフォルダーの名前。
{ftpin:fullpath}	FTPファイルのフルパス（ファイル名を含む）。
{ftpin:host}	FTPサーバーのアドレス。
{ftpin:path}	ファイルが収集されるFTPサーバー上のフォルダーへのパス。

SMTP入力

SMTP入力ノードは、複合機でスキャンされ、電子メールとして、送信されたドキュメントを受信するオプションのノードです。これらの電子メールは、その後、添付ファイルとしてワークフローに送信されます。他の収集ノードとは異なり、SMTP入力ノードはドキュメントを保存しません。電子メールは受されると処理されます。

SMTP入力ノードを使用するワークフローを実行する前に、SMTPサービスを開始しておく必要があります。

注: システムの負荷が大きいと、外部サービスのパフォーマンスに影響する場合があります。そのため、負荷の大きい処理は複数のコアを持つ高速システムで実行することをお勧めします。

SMTPヘッダーメタデータ

次のヘッダーメタデータは、ドキュメントに含めたり、出力フォルダーノードや電子メール出力ノードなどの他のノードで使用することができます。

変数	置き換えの内容
from	送信者のメールボックス(必ずしも送信者の電子メールアドレスである必要はありません)。メールボックスアドレスは、山カッコで囲まれます(<user@example.com>など)。
rcpt	宛先メールボックス(受信時に1人の受信者につき1つ)。これは、To、CC、およびBCCのすべてのメールボックスに設定されます。

注: SMTPメタデータを動的変数として使用するには、次の形式を使用します。{smtp:variable}。例:{smtp:from}。

このノードの使用方法

SMTP入力ノードの後には、通常、電子メール解析ノードが続き、電子メールの添付ファイルを展開してイメージング処理や印刷処理をさらに実行します。ただし、SMTP入力ノードはまた、他のルーティングノード、解析ノード、および出力ノード(メタデータルーティング、出力フォルダー、解析と配信、名前の変更、FTPなど)と直接連携して機能します。

SMTP入力ノードは、マルチステッププロセスで使用されます。以下のステップを実行する必要があります。

ステップ #1. 使用する複合機をSMTP入力ノードのソースとして構成

ステップ #2. SMTP入力ノードをワークフローで構成

ステップ #3. SMTPサービスを確実に実行

ステップ #4. ドキュメントをスキャンして電子メールで送信

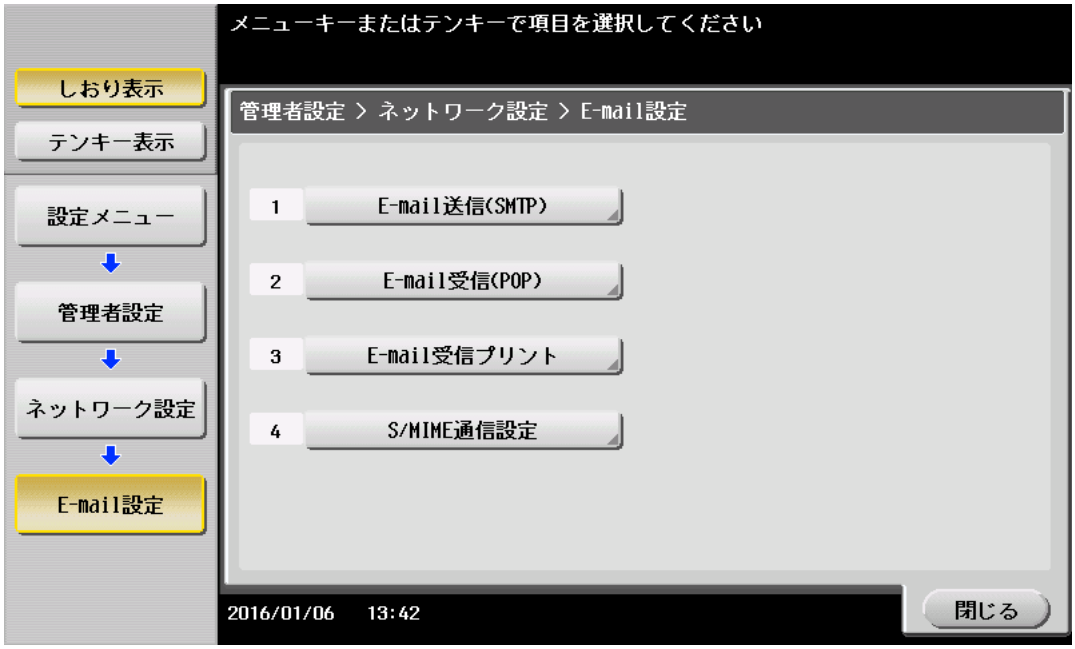
ステップ #1 複合機の構成

複合機からSMTP入力ノード経由でワークフローに送信されたスキャン済みの電子メールを受け入れる前に、まず、複合機を適切に構成しておく必要があります。

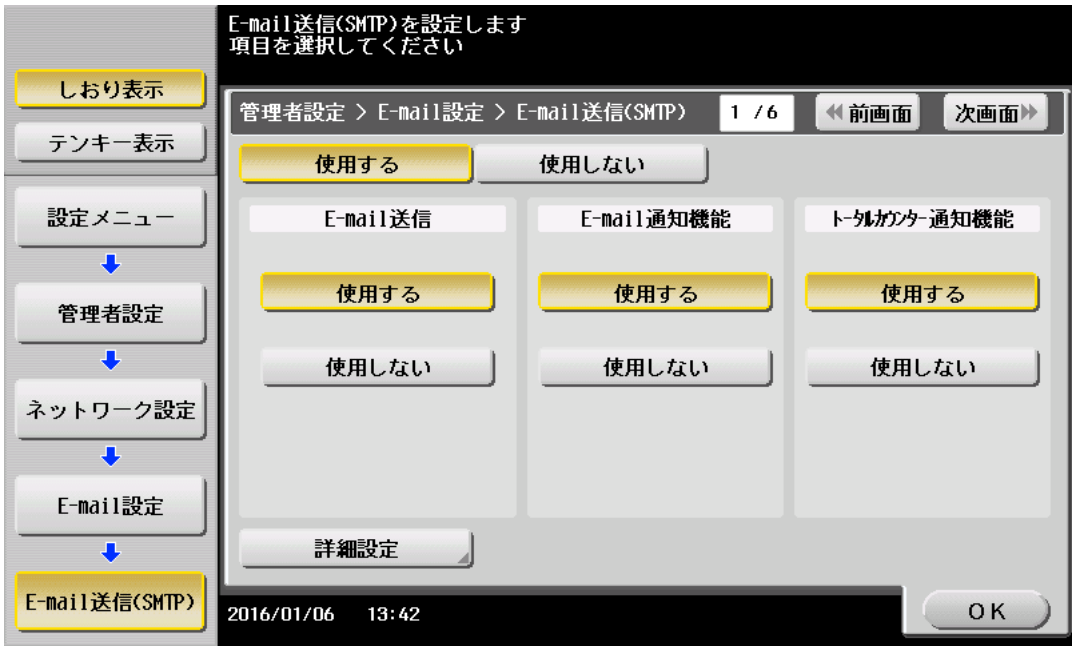
1. **[メニュー]**、**[設定メニュー]** の順にタッチします。
2. **[管理者設定]** ボタンを選択します。次の図で示すように、[パスワード]画面が表示されます。

3. 管理者パスワードを入力してから、**[OK]** ボタンを押します。
4. [管理者設定]画面で、**[ネットワーク設定]** ボタンを押します。[ネットワーク設定]画面が表示されます。この画面で、**[E-Mail設定]** ボタンを押します。

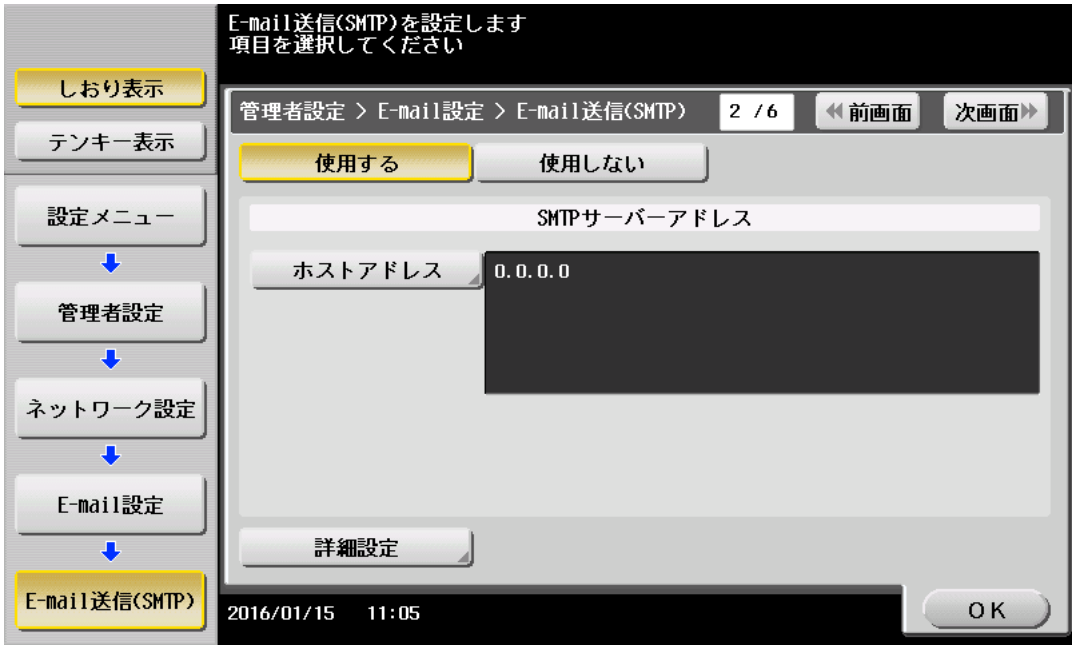
5. **[E-Mail** 設定]画面が表示されます。この画面で、**[E-Mail送信(SMTP)]** ボタンを押します。



6. [**E-Mail送信(SMTP)**]画面が表示されます。この画面で、**[次画面]** ボタンを押します。



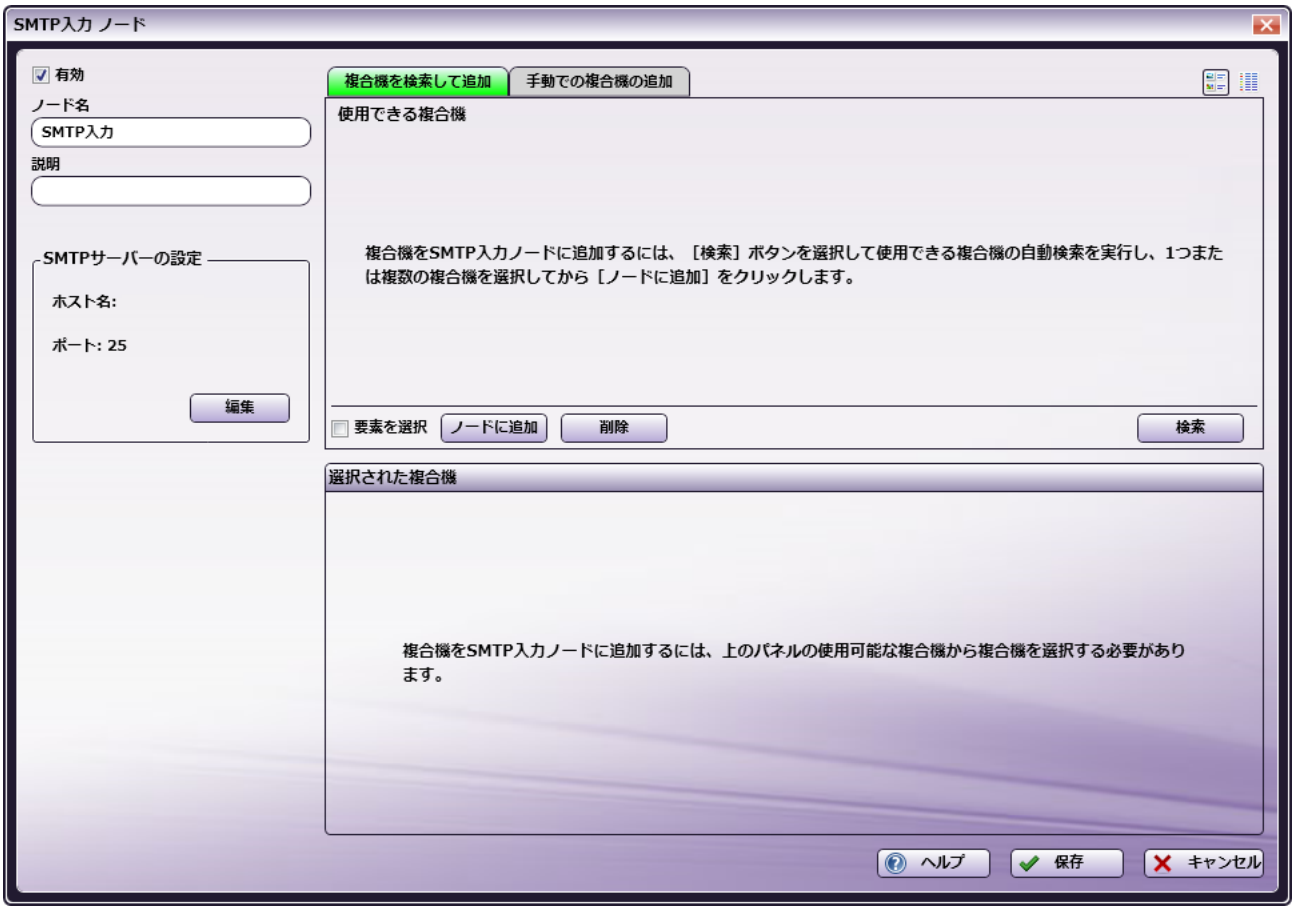
7. [SMTPサーバーアドレス]画面が表示されます。ホストマシンのIPアドレスを入力します。完了したら、**[OK]** ボタンを押します。



ステップ #2 SMTP入力ノードの構成

電子メールをワークフローの一部として複合機から受信するには、ワークフロービルダーのキャンバスにSMTP入力ノードをドラッグします。次に、そのアイコンをダブルクリックして **[SMTP入力]** ウィンドウを開きます。画面の右側の[プロパティ]パネルを使用してワークフローでのノードの外観を定義し、[ノードのプロパティ]ウィンドウを使用して実際のSMTP入力の定義を行います。

[SMTP入力ノード]設定は、次の図のようになります。



[SMTP入力ノード]ウィンドウで、以下の操作を行います。

- **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認します。チェックを外すと、この入力は無視されます。ドキュメントはこの入力場所からは処理されません。ワークフロー内の唯一の入力ノードがSMTP入力ノードである場合は、有効にする必要があります。有効にしないと、ワークフローで検証されません。

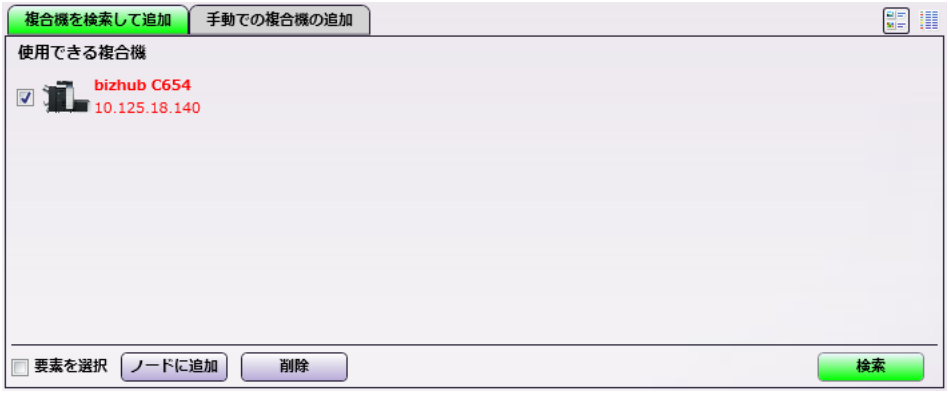
- **[ノード名]** フィールドに、収集元ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、SMTP入力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、収集ノードが複数ある場合に役に立ちます。説明が長すぎる場合には、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[SMTPサーバーの設定]** 領域には、サーバーのホスト識別名やSMTP通信用にサーバーによって使用されるポート(既定は25)などのSMTPサーバーに関するシステム情報が含まれています。これらの設定を変更するには、**[編集]** ボタンを選択して[SMTPマネージャー]ウィンドウに進みます。
- 複合機エクスプローラーツールを使用して検出するか、手動により、電子メールをワークフローに送信するために **使用する複合機を指定** します。追加できるデバイスの最大数は100です。詳細は、後続のセクションを参照してください。
- このSMTP入力収集ノードの定義が終了したら、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

注: SMTP入力ノードは、アクティブなワークフロー1つにだけ設定できます。また、他のSMTP入力ノードが無効になっている場合でも、1つのワークフローに設定できるSMTP入力ノードは1つだけです。

複合機を検索して追加

複合機エクスプローラーツールを使用して、このノードと共に使用する適切な複合機デバイスを検出するには、**[複合機を検索して追加]** タブを選択します。さらに、次の操作を行います。

1. **[複合機を検索して追加]** タブで、**[検索]** ボタンを選択して複合機エクスプローラーを開きます。複合機エクスプローラーがネットワーク上の複合機デバイスを検出します。
2. 複合機エクスプローラーウィンドウで適切な複合機を選択すると、次の図で示すように、**[使用できる複合機]** 領域に該当の複合機が表示されます。

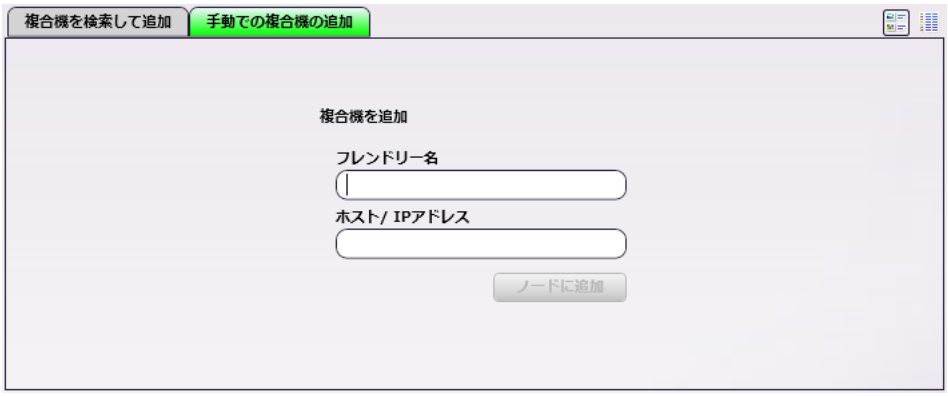


3. 複合機をノードに追加するには、その横のチェックボックスを選択し(または **[要素を選択]** ボックスをチェックし)、次に **[ノードに追加]** ボタンを選択します。次の図のように、指定した複合機が[選択された複合機]領域に表示されます。

4. 複合機を[使用できる複合機]領域または[選択された複合機]領域から削除するには、適切な複合機の横のチェックボックスを選択し(または **[要素を選択]** ボックスをチェックし)、次に **[削除]** ボタンを選択します。

手動での複合機の追加

ノードに追加したい特定の複合機の情報が判明している場合は、**[手動での複合機の追加]** タブをクリックします。



次の操作を行います。

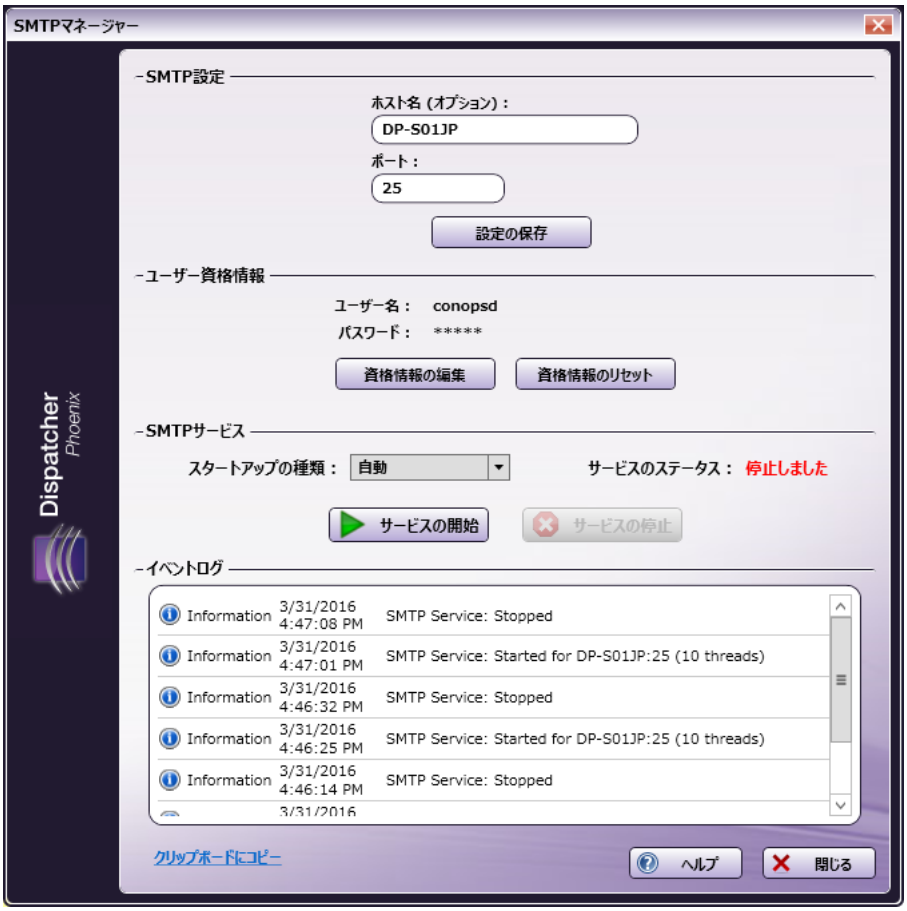
1. **[フレンドリー名]** フィールドに、追加する複合機のわかりやすい名前を入力します。
2. **[ホスト/IPアドレス]** フィールドで、複合機デバイスのIPアドレスを入力します。
3. 完了したら、**[ノードに追加]** ボタンを選択します。
4. 複合機をノードに追加するには、**[保存]** ボタンを選択します。

ステップ #3 SMTPサービスの実行

このノードを正常に機能させるためには、SMTPサービスが実行中である必要があります。[SMTPサーバーの設定]領域にある[編集]ボタンを選択し、SMTPマネージャーを起動します。SMTPマネージャーで、**[サービスの開始]** ボタンが選択されていることを確認します。

注: (アプリケーションの初回インストール後に)SMTPサービスが個別にインストールされる場合は、自動的に開始するようには構成されません。SMTPサービスを正常に実行する前に、追加の構成が必要になる場合があります。

SMTPマネージャーを使用すると、SMTPサービスの設定を編集できます。



注: 変更を有効にするには、サービスを再起動する必要があります。

SMTP設定

- **[ホスト名(オプション)]:** サーバーのホスト識別名を編集します。

- **[ポート]:** SMTP通信用にサーバーで使用されるポートを編集します。
- **[設定の保存]:** このボタンをクリックして、SMTP設定に行った変更を保存します。

SMTPサービス

SMTPマネージャーのこのセクションを使用すると、SMTPサービスとのインバウンド通信をアクティベートできます。

- **[スタートアップの種類]:** SMTPサービスの起動方法を選択します。これらのオプションはWindowsサービスマネージャーと同期しています。オプションは次のとおりです。
  - **[自動(遅延起動)]** - [自動]と指定されたその他すべてのサービスが開始した後、まもなくサービスが開始します(通常はシステムの起動後1～2分)。このオプションは、Windows 8またはそれ以降のオペレーティングシステムにだけ利用できます。
  - **[自動]** - システムが最初に起動したときにサービスが開始します。
  - **[手動]** - サービスを開始するには、PCを起動するたびに、ユーザーがこのウィンドウの[サービスの開始]ボタンを使用する必要があります。
  - **[無効]** - ユーザーは、いつの時点であっても、サービスを開始できません。
- **[サービスの開始]** ボタン: SMTPサービスを開始するには、このボタンを選択します。
- **[サービスの停止]** ボタン: SMTPサービスを停止するには、このボタンを選択します。既定では、アプリケーションが最初に起動したときには、SMTPサービスは実行されません。

イベントログ

SMTPマネージャーのこのセクションには、SMTPサービスのイベントログが表示されます。

- **[クリップボードにコピー]** クリップボードにイベントログをコピーするには、このリンクをクリックします。

ステップ #4 ドキュメントをスキャンして電子メールで送信

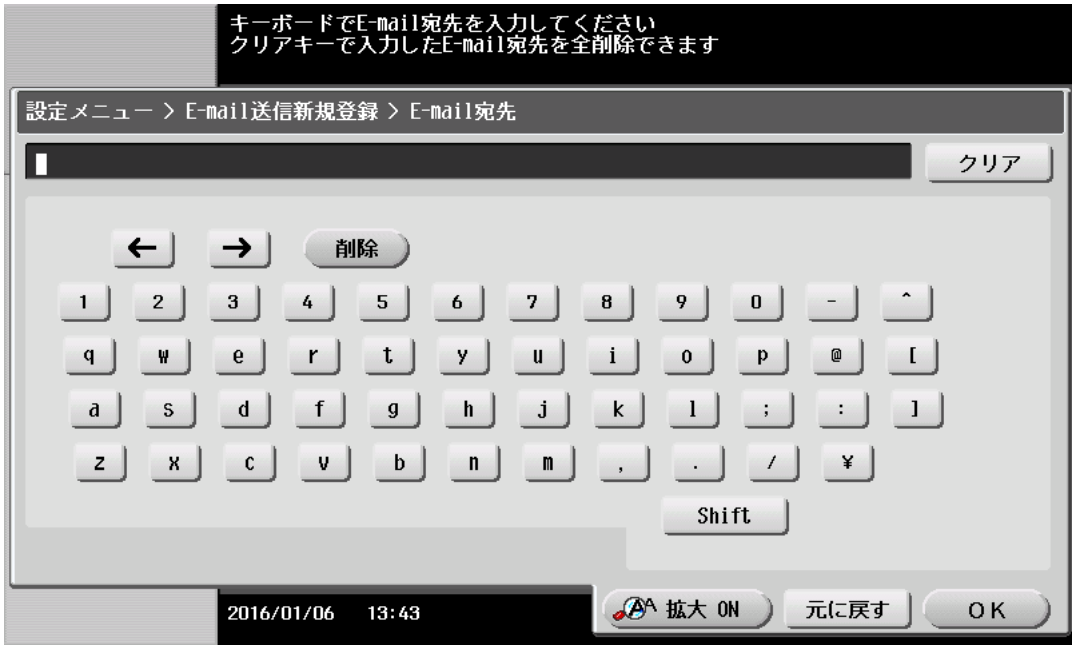
これで、ドキュメントをスキャンして、電子メールとしてワークフローに送信することができるようになりました。

注: この処理を開始する前に、ワークフローが実行中であることを確認します。

次の操作を行います。

1. 複合機タッチパネルで **[ファクス/スキャン]** キーを選択することにより、モードを変更します。次に、**[直接入力]** タブを選択して宛先を選択します。[送信方法]画面が表示されます。この画面で、**[E-Mail]** ボタンを押します。

2. [**E-Mail送信新規登録**]>[**E-mail宛先**]画面が表示されます。この画面で、適切な電子メールアドレスを入力します。その後完了したら、[OK]ボタンを押します。唯一の宛先がDispatcher Phoenixワークフローであり、実際の電子メールが電子メールクライアントに送信されていない場合でも、この電子メールアドレスは必須です。



3. 電子メールとして送信するドキュメントを配置します。次に、複合機パネルの **[スタート]** キーを押します。

DP Mobile

DP Mobile入力ノードは、DP Mobileアプリケーション経由でモバイルデバイスからファイルを受信します。処理、経路指定、または印刷のためにモバイルデバイスからDispatcher Phoenixにファイルを送信するには、**DP Mobile入力** が含まれるDispatcher Phoenixワークフローが少なくとも1つ実行されている必要があります。

アプリケーションとその使用法の詳細は、*『Dispatcher Phoenix Mobileユーザーズガイド』* を参照してください。

［DP Mobile node（DP Mobileノード）］ ウィンドウを開くには、*［DP Mobile］* の入力ノードを追加して、そのノードをダブルクリックします。

- 複数の入力ソースがあるときに（単一の入力ソースでは不要な）1つまたは複数の収集ノードを有効にするには、**［有効］** ボックスにチェックマークを付けるようにします。
- **［ノード名］** フィールドに、DP Mobileノードのわかりやすい名前を入力します。
- **［説明］** フィールドに、DP Mobileノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の収集ノードがあるときに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- Google Playからアプリケーションをダウンロードするには、**［Googleplay］** ボタンをクリックします。
- App Storeからアプリケーションをダウンロードするには、**［App Store］** ボタンをクリックします。

- DP Mobileの入力定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

DP Mobileインデックスフォームの作成

DP Mobileモバイルアプリケーションを使用してモバイルデバイスからインデックスフォームにアクセスするには、そのインデックスフォームをDP Mobile入力ノードと関連付ける必要があります。次の操作を行います。

1. **[インデックスフォームの添付]** ボックスにチェックマークを付けます。
2. **[+]** ボタンをクリックします。
3. [新規インデックスフォームの作成]ウィンドウで、**[空白のインデックスフォーム]** ボタンを選択します。
4. モバイルデバイスに表示されるようにするフィールドを追加します。インデックスフォームの作成方法の詳細は、「インデックスフォームビルダー」のセクションを参照してください。

Googleクラウドプリント

お知らせ: Dispatcher Phoenix Googleクラウドプリントノードは廃止されました

2021年1月1日をもって、GoogleはGoogleクラウドプリントサービスを廃止しました。そのため、現在Googleクラウドプリントノードを含むDispatcher Phoenixワークフローはすべて機能しなくなりました。Dispatcher Phoenixを現在のバージョンに更新すると、ワークフロー内のすべてのGoogleクラウドプリントノードが赤い壊れたパズルのピースに置き換えられ、これらのノードが機能しなくなったことを示します。現在のバージョンに更新しないことを選択した場合、ノードはワークフローで変更されていないように見えますが、ワークフローは機能しません。

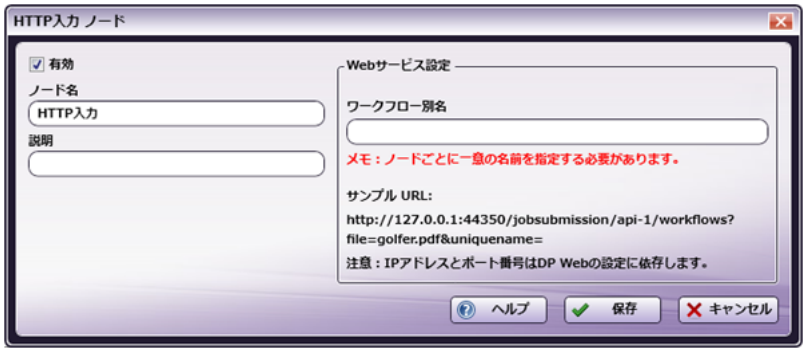
HTTP入力

注: このノードは、あらゆる形式のファイルを動作対象としています。

HTTP入力ノードでは、Webサービスを通じてアップロードされたドキュメントを受信します。複数のワークフローで、このノードを実行できます。ただし、各ノードには一意のワークフロー別名が必要です。ドキュメントの送信先となるターゲットワークフローは、URLで指定されるリクエストパラメーターの1つである、ワークフロー別名によって決まります。任意のタイプのファイルをこのノードに送信できます。

HTTP入力ノードを作成する

HTTP入力 ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**HTTP入力** ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**[HTTP入力ノード]** ウィンドウが開きます。



- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、HTTP入力ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、HTTP入力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

- **［ワークフロー別名］**フィールドに、各HTTP入力ノードの一意の名前を入力します。この別名は、ファイルがアップロードされたときに実行する必要があるワークフローを識別するために使用されます。

  注: 使用できるのは、英数字と2つの特殊文字（「-」と「_」）だけです。

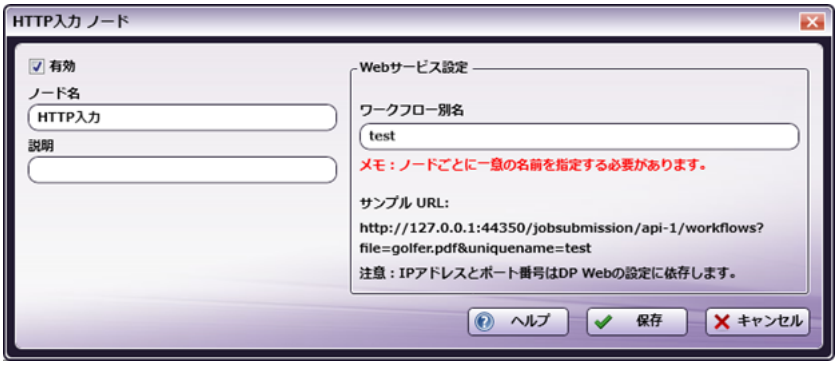
- 変更を保存するには、［保存］ボタンを選択します。**［キャンセル］**を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］**ボタンを選択します。

  注: IPアドレスとポート番号は、インストールされているDispatcher Phoenix Webで使用されているものと同じです。

HTTP入力ノードを使う

サードパーティーのHTTPジョブ送信アプリケーションを使用して、ワークフローの **HTTP入力** ノードにジョブを送信できます。そのために、Dispatcher Phoenix WebのWebサービスを利用できます。

次のHTTP入力ノード画面では、［Webサービス設定］ボックスにサンプルURLが表示されます。



サンプルURLの値は、HTTPジョブ送信アプリケーションによるデータ（POST）の送信先です。HTTPを使用してHTTP入力ノードにデータを送信するためのURL値（ターゲットファイル名とワークフロー別名を含む）を、サードパーティーのジョブ送信アプリケーションを使用して指定します。

URLの形式は以下のテンプレートに従ってください。

```
http://[ipaddress]:[port]/jobsubmission/api-1/workflows?file=[filename]&uniquename=[Workflow Alias Name]
```

以下は、角かっこで囲まれた値の詳細です。

- **ipaddress:** Dispatcher Phoenix Webが動作するサーバーのIPアドレス。
- **port:** Dispatcher Phoenix Webが動作するサーバーのポート番号。
- **filename:** サードパーティーのアプリケーションから送信されてきたファイルの名前。
- **Workflow Alias Name:** HTTP入力ノード設定画面で入力された［ワークフロー別名］の値。上記の例では、**test** という値が設定されています。データ取得先（GET）に対するワークフローの別名を設定します。HTTPを使用してHTTP入力ノードにデータを送信するときに、この値が宛先として使用されます。

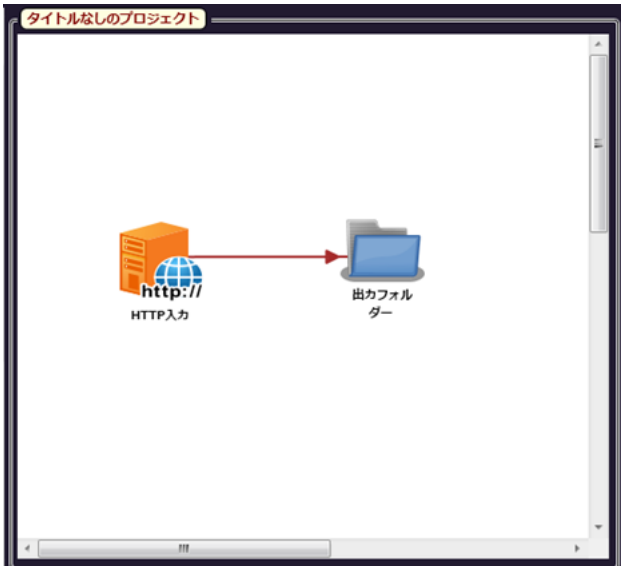
サードパーティーアプリケーションの構成設定を使用して上記のURLを指定します。このURLを使用して、ワークフローにファイルを送信できるようになります。角かっこの値を使用して、ワークフローにファイルがマッピングされます。

Webサーバー上でのWebサイトのホスティングについての詳細は、**DP Webホスティングオプション** を参照してください。

HTTP入力ワークフローのサンプル

HTTP入力ノードを作成し、サードパーティーアプリケーションに正しいURL情報を設定すると、ワークフローにジョブを送信できるようになります。

サンプルワークフローでは、サードパーティーアプリケーションからのジョブがHTTP入力ノードに送信され、その後出力フォルダーに移動されます。



サードパーティーアプリケーション経由で入力されたURL情報に、Dispatcher Phoenix Webのワークフローに関する正しい角かっこで囲まれた値の情報が含まれている場合、この機能は説明どおりに動作します。

ファイルアップロードのサンプルコード

Curl コマンドラインコードのサンプル

ワークフローのHTTP入力ノードを使用したジョブのアップロードには、以下のCurlコマンドラインコードを使用できます。

```
curl -i -X POST -H "Content-Type: application/pdf" "http://127.0.0.1:44350/jobsubmission/api-1/workflows?file=A4.pdf&uniquename=test" --da
```

Curlコマンドを使用する場合は、前のセクション1.2で説明している正しいURLを指定します。以下のリンクからCurlコマンドラインツールをダウンロードしてください。

```
    https://winampplugins.co.uk/curl/
```

このツールに関する詳細については、HTTP入力ノードにHTTPジョブを送信するために使用する、サードパーティーアプリケーションのWebサイトをご確認ください。

JAVAサーバーコードのサンプル

ワークフローのHTTP入力ノードを使用したジョブのアップロードには、以下のJavaサーバーコードを使用できます。

```
package httpnodes;

import java.io.File;
import java.io.IOException;
import java.io.OutputStream;
import java.io.OutputStreamWriter;
import java.io.PrintWriter;
import java.net.HttpURLConnection;
import java.net.MalformedURLException;
import java.net.URL;
import java.net.URLConnection;
import java.nio.file.Files;

public class HttpIn {
    public static void main(String args[]) throws MalformedURLException, IOException{
        //Update the URL as per the configuration below.
        String url = "http://127.0.0.1:44350/jobsubmission/api-1/workflows?file=sample.pdf&uniquename=test";
        String charset = "UTF-8";
        //update the location of the file here.
        File sampleFile = new File("C:\\Users\\test.user\\Desktop\\Test\\input\\sample.pdf");
        String boundary = Long.toHexString(System.currentTimeMillis());
        String CRLF = "\r\n";

        URLConnection connection = new URL(url).openConnection();
        connection.setDoOutput(true);
        connection.setRequestProperty("Content-Type", "application/pdf; boundary=" + boundary);

        try (
            OutputStream output = connection.getOutputStream();
            PrintWriter writer = new PrintWriter(new OutputStreamWriter(output, charset), true);
        ) {
            //send file
            writer.append("--" + boundary).append(CRLF);
            writer.append("Content-Disposition: form-data; name=\"file\"; filename=\"" + sampleFile.getName() + "\"").append(CRLF);
            writer.append("Content-Type: text/plain; charset=" + charset).append(CRLF);
            writer.append(CRLF).flush();
            Files.copy(sampleFile.toPath(), output);
            output.flush();
            writer.append(CRLF).flush();
```

```
            writer.append("--" + boundary + "--").append(CRLF).flush();
        }

        int responseCode = ((HttpURLConnection) connection).getResponseCode();
        System.out.println(responseCode); // Should be 200 for success
    }
}
```

PHPサーバーコードのサンプル

ワークフローのHTTP入力ノードを使用したジョブのアップロードには、以下のPHPサーバーコードを使用できます。

```
<?php
//Update the URL as per the configuration below.
$request = curl_init('http://127.0.0.1:44350/jobsubmission/api-1/workflows?file=sample.pdf&uniquename=test');

curl_setopt($request, CURLOPT_POST, true);
curl_setopt(
    $request,
    CURLOPT_POSTFIELDS,
    array(
        'file' => '@' . realpath('C:/Users/test.user/Desktop/Test/input/sample.pdf') //update the location of the file here.
    ));

curl_setopt($request, CURLOPT_RETURNTRANSFER, true);
echo curl_exec($request);
curl_close($request);
?>
```

注: HTTP入力ノードを使用するには、Dispatcher Phoenix Webサーバーがインストールされている必要があります。

注: HTTP入力ノードでは、1つのリクエストに対して複数のファイルは受け入れられません。ファイルは一度に1つずつノードに送信し、数秒待ってから次のファイルを送信してください。

JDFコンバーター

注: このノードは、Zip（JDF+PDF）ファイルに対応しています。

JDFコンバーターノード を使用すると、JDFファイルの情報を解析して、解析された情報をメタデータに変換できます。このノードでは、JDFファイルとPDFファイルの両方を含むZIPファイルだけを受け付けます。ZIPファイルが送信されると、JDFコンバーターノードがファイルを解凍します。その後、解析操作を実行してから、ジョブ情報をメタデータとして保存します。解析済みの情報とPDFは、ワークフロー内の次のノードに送られます。

ノードに送信する入力JDFには、AccurioPro ConductorのJDF形式の使用をお勧めします。入力JDFファイルがAccurioPro ConductorのJDF形式でない場合、**JDFコンバーター** ノードは、入力ファイルを正しいJDF形式に変換してから解析します。

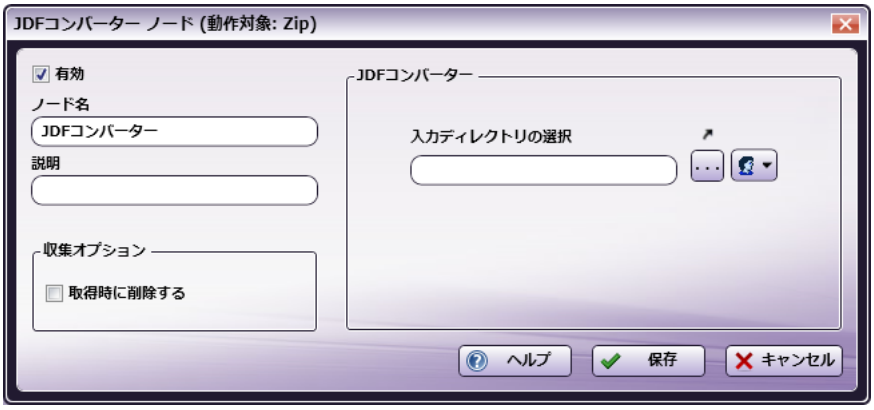
注: このヘルプファイルには、サポートされているジョブチケットメタデータとJDF XPathおよび値の範囲に関する詳細情報が含まれています。**ジョブチケットのメタデータ情報** を参照してください。

現在、JDFコンバーターノードは、次のサードパーティアプリケーションをサポートしています。

- **Agfa Apogee**
- **Screen EQUIOS**

JDFコンバーターノードを使う

JDFコンバーター ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**JDFコンバーター** ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、[JDFコンバーターノード]ウィンドウが開きます。

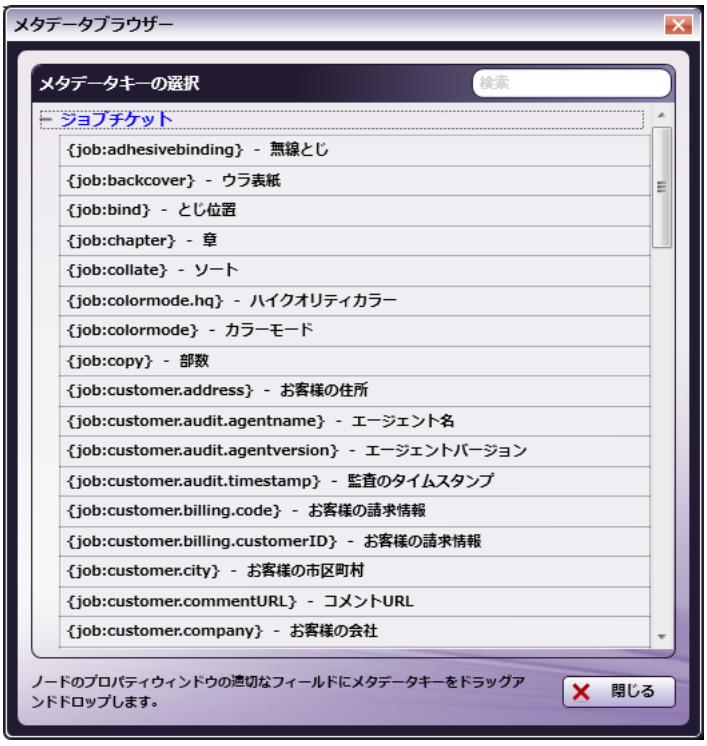


- この場所を入力ソースとして使用するために、**[有効]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。オフにすると、この入力は無視されます。ドキュメントはこのノードの場所からは収集されません。
- **[ノード名]** フィールドに、JDFコンバーターノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、JDFコンバーターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、収集ノードが複数ある場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 入力場所から入力ファイルを削除するには、**[収集オプション]** 領域で、**[取得時に削除する]** を選択します。
- **[入力ディレクトリの選択]** フィールドに、JDFコンバーターノードに送信するZIPファイルを含む入力ディレクトリが表示されます。
- **[省略記号]** ボタン( )をクリックして参照してから、入力場所を選択してください。
- **[ネットワーク資格情報]** ボタン( )をクリックしてネットワーク資格情報を追加または削除し、指定した入力ディレクトリにノードを接続できるようにします。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- **[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。

JDFコンバーターのメタデータ

JDFコンバーターノードがワークフローに追加されると、「ジョブチケット」という名前のエントリーが1つメタデータブラウザーに表示されます。

ジョブチケットの構文は{job:ジョブチケット属性名}です。以下のスクリーンキャプチャーが示すように、ジョブチケット変数の選択にも[メタデータブラウザー]ウィンドウを使用できます。

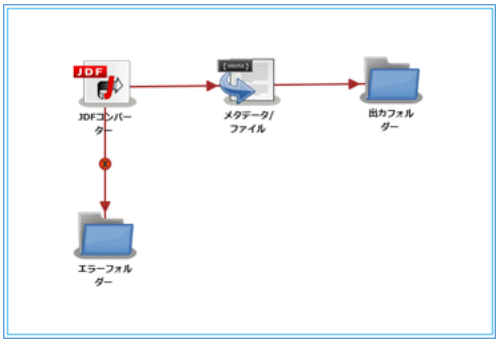


注: このヘルプファイルには、サポートされているジョブチケットメタデータとJDF XPathおよび値の範囲に関する詳細情報が含まれています。**ジョブチケットのメタデータ情報** を参照してください。

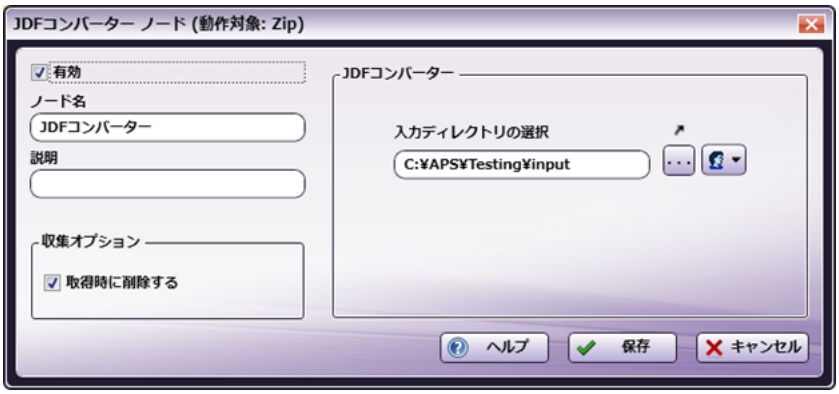
JDFコンバーターのワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、JDFファイルの情報を解析してメタデータとして書出し、**出力フォルダー** に送信することです。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。



JDFコンバーターノード: PDFファイルやJDFファイルを含むZIPファイルを収集するように、JDFコンバーターノードを構成します。収集されたZIPが無効な場合、収集されたZIPファイルは **エラーフォルダー** に移されます。**［取得時に削除する］** チェックボックスが選択されている場合、収集されたZIPファイルは構成されたパスから削除されます。



ファイルがJDF Converter Nodeに送信される場合、**作者名** は必須であり、入力JDFファイルのメタデータに含める必要があります。

以下は、**作者名** が含まれるJDFファイルのサンプルです。次のパスを使用してJDFファイルを探します。

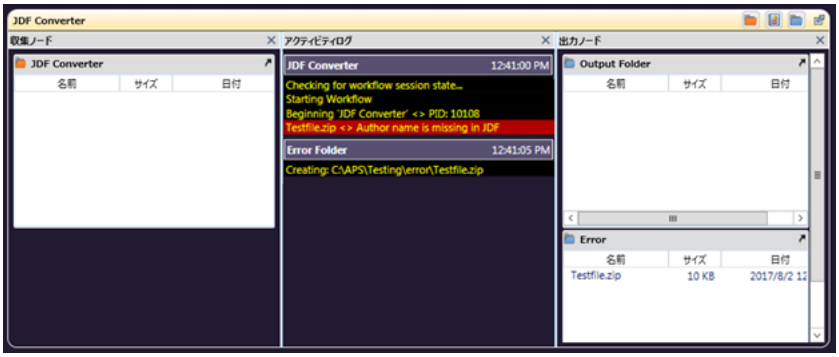
- ***/JDF/AuditPool/Created@AgentName XPath***

.

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
        <JDF Activation="Active" Category="DigitalPrinting"
        CommentURL="http://127.0.0.1" ICSVersions="IDP_L1-1.0 Base_L3-1.0"
        ID="n170802_114943875_000137" JobID="001"
        JobPartID="170802_114943875_000138" MaxVersion="1.3"
        SettingsPolicy="BestEffort" Status="Ready" Type="Combined"
        Types="LayoutPreparation Imposition Interpreting Rendering DigitalPrinting"
        Version="1.2" xmlns="http://www.CIP4.org/JDFSchema_1_1"
        xmlns:kmbs="http://www.konicaminolta.com/KMBS_JDFExtension_1_1"
        xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:type="Combined">
        <Comment/>
        <ResourcePool>
                <Media Class="Consumable" Dimension="612 792"
                        ID="r170802_114943875_000139" MediaColorName="Yellow" Status="Available">
                        <Location LocationName="AutoSelect"/>
                </Media>
                <LayoutPreparationParams Class="Parameter"
                        ID="r170802_114943875_000140" Sides="OneSidedFront" Status="Available"/>
                <RunList Class="Parameter" ID="r170802_114943876_000141" NPage="4" Status="Available">
                        <LayoutElement>
                        <FileSpec URL="Testfile.pdf"/>
                        </LayoutElement>
                </RunList>
                <InterpretingParams Class="Parameter" ID="r170802_114943876_000142"
                        PrintQuality="Normal" Status="Available"
                      kmbs:EnableStrokeAdjust="False" kmbs:UseCIEColor="False" kmbs:UseDeviceToneCurve="False">
                        <ObjectResolution NoOp="true"/>
                </InterpretingParams>
                <RenderingParams Class="Parameter" ID="r170802_114943876_000143" Status="Available"/>
                <DigitalPrintingParams Class="Parameter" Collate="Sheet"
                        ID="r170802_114943877_000144" OutputBin="SystemSpecified"
                        PageDelivery="SameOrderFaceDown" Status="Available"
                         kmbs:ExternalFinisherInlineMode="false" kmbs:GlossMode="False">
```

```
                <MediaRef rRef="r170802_114943875_000139"/>
            </DigitalPrintingParams>
            <Component Class="Quantity" ComponentType="FinalProduct"
                ID="r170802_114943877_000145" Status="Unavailable"/>
            <kmbs:UserAuthentication kmbs:AuthenticationType="Public"/>
            <DensityMeasuringField Center="0 0" Class="Parameter" Density="0"
                DescriptiveName="PGPrintDensity=Level6" Diameter="0" DotGain="0"
                ID="r170802_114943880_000147" Percentage="0" Screen=""
                Separation="" Status="Unavailable" ToleranceBlack="0 0"
                ToleranceCyan="0 0" ToleranceDotGain="0 0" ToleranceMagenta="0 0" ToleranceYellow="0 0"/>
            <ColorantControl Class="Parameter" ID="r170802_114943880_000148"
                ProcessColorModel="DeviceCMYK" Status="Available"/>
            <Component Class="Quantity" ComponentType="PartialProduct"
                ID="r170802_114943880_000149" Status="Available"/>
            <kmbs:ImageQuality kmbs:ColorMode="BW"/>
        </ResourcePool>
        <ResourceLinkPool>
            <MediaLink CombinedProcessIndex="0" Usage="Input" rRef="r170802_114943875_000139"/>
            <LayoutPreparationParamsLink CombinedProcessIndex="0" Usage="Input" rRef="r170802_114943875_000140"/>
            <RunListLink CombinedProcessIndex="0 1" ProcessUsage="Document"
                Usage="Input" rRef="r170802_114943876_000141"/>
            <InterpretingParamsLink CombinedProcessIndex="2" Usage="Input" rRef="r170802_114943876_000142"/>
            <RenderingParamsLink CombinedProcessIndex="3" Usage="Input" rRef="r170802_114943876_000143"/>
            <DigitalPrintingParamsLink CombinedProcessIndex="4" Usage="Input" rRef="r170802_114943877_000144"/>
            <ComponentLink Amount="3" CombinedProcessIndex="4" Usage="Output" rRef="r170802_114943877_000145"/>
            <DensityMeasuringFieldLink CombinedProcessIndex="2" Usage="Input" rRef="r170802_114943880_000147"/>
            <ColorantControlLink CombinedProcessIndex="4" Usage="Input" rRef="r170802_114943880_000148"/>
        </ResourceLinkPool>
        <AuditPool>
            <Created AgentName="AccurioPro Conductor" AgentVersion="1.0"
                ID="a170802_114943878_000146" TimeStamp="2017-08-02T11:49:43-07:00"/>
        </AuditPool>
        <NodeInfo JobPriority="50" TargetRoute="" kmbs:DeviceIPAddress="Noset"
            kmbs:DeviceType="GENERIC" kmbs:DocRoute="" kmbs:EXPORT="true"/>
        <CustomerInfo BillingCode="" CustomerID="" CustomerJobName="Testfile.pdf">
            <Contact ContactTypes="Customer">
                <Address City="" Country="" PostalCode="" Region="" Street=""/>
                <Person FamilyName="" FirstName=""/>
                <ComChannel ChannelType="Phone" Locator=""/>
                <ComChannel ChannelType="Email" Locator=""/>
                <ComChannel ChannelType="Fax" Locator=""/>
                <Company OrganizationName=""/>
            </Contact>
        </CustomerInfo>
</JDF>
```

作者名 が含まれていない場合、ノードではワークフローの **［アクティビティログ］** にエラーメッセージが表示され、ファイルは **エラーフォルダー** に移されます。



以下の手順に沿って、JDFコンバーターノードに送信するZIPファイルを作成します。

1. テキストエディターを使用して、上記のサンプルJDFファイルをコピーします。
2. 以下のXPathにおける入力PDFファイル名とPDFファイルのページ数を更新します。
    - **/JDF/ResourcePool/RunList/LayoutElement/FileSpec/@URL -> PDFファイル名**
    - **/JDF/ResourcePool/RunList/@NPage -> PDFファイルのページ数**
3. ファイルを *jdf_converter.jdf*としてローカルに保存します。
4. 保存したJDFファイルと上記の手順2で指定したテスト用のPDFファイルをZIPにまとめます。

メタデータ/ファイルノード: このノードは、構成されたメタデータを抽出してXMLファイルとして保存し、それをワークフローにおける次の処理に送ります。以下の手順に従って、メタデータ/ファイルノードを構成します。

1. ノードアイコンをダブルクリックして、**メタデータ/ファイル** ノードを開きます。
2. **［有効］** チェックボックスがオンになっていることを確認します。
3. **［出力設定］** の **［元のファイルを出力］** を選択し、**［メタデータファイル形式］** ドロップダウンから **［XML (.xml)］** を選択します。

4. **［メタデータファイル拡張子］**の**［出力ファイルの拡張子プラスメタデータファイルの拡張子］**ラジオボタンを選択します。

5. メインパネルで、**［抽出するメタデータの選択］**ヘッダーの下にある［ジョブチケット］チェックボックスを選択します。

6. **［保存］**をクリックして、変更を適用します。

出力フォルダーノード: 入力PDFドキュメントと、JDFから抽出したジョブ情報は、出力フォルダーノードで構成されるフォルダーパスに配置されます。

以下の出力されたメタデータは、このドキュメントの前のセクションで説明した設定に基づいています。

```
<file size="19497" ctime="0" mtime="1501700034">
        <meta group="job" name="audit.agentname">
                <document>AccurioPro Conductor</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="audit.agentversion">
                <document>1.0</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="audit.timestamp">
                <document>2017-08-02T11:49:43-07:00</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="collate">
                <document>ON</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="colormode">
                <document>Color</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="colormode.hq">
                <document>OFF</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="copy">
                <document>3</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="customer.commentURL">
                <document>http://127.0.0.1</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="file.URL">
                <document>Testfile.pdf</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="name">
                <document>Testfile.pdf</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="offset">
                <document>OFF</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="orientation">
                <document>Portrait</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="paper.color">
                <document>Yellow</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="paper.h">
                <document>792</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="paper.holetype">
                <document>OFF</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="paper.source">
                <document>Auto</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="paper.w">
                <document>612</document>
        </meta>
```

```
        <meta group="job" name="pps">
                <document>OFF</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="printtype">
                <document>One-Sided</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="priority">
                <document>Normal</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="ringbinding">
                <document>OFF</document>
        </meta>
        <meta group="job" name="ticket.file">
                <document>C:\ProgramData\Konica Minolta\conopsd\var\blox\node_2\tmp.d\0000Y_export_15016997838 78_2.jdf</document>
        </meta>
</file>
```

電子メール入力

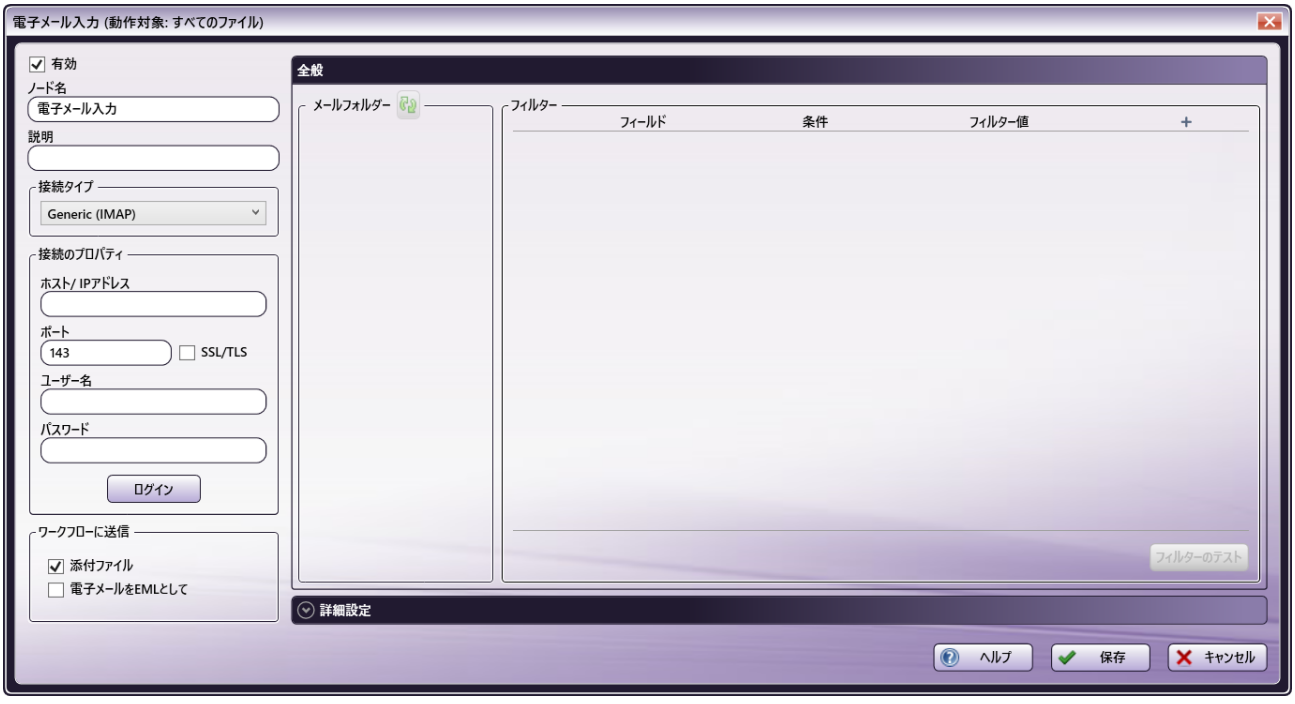
電子メール入力 ノードは、電子メールサーバー上のフォルダーからの受信および既存の電子メールをアクティブにモニターします。宛先(To)、送信元(From)、CC、bcc、日付(Date)、サイズ(Size)、本文(Body)、件名(Subject)、およびヘッダー(Header)データを含むさまざまなフィールドで電子メールを動的にフィルタリングして、Dispatcher Phoenixがワークフロー内で処理する必要があるコンテンツを確実に収集するようにできます。現在、電子メール入力ノードはIMAPプロトコルをサポートしており、ワークフローで監視されている電子メールサーバーに対して有効にする必要があります。

注: Dispatcher Phoenixはさまざまな電子メールサーバーと接続します。サーバーでIMAPを有効にして、Gmailなど、2段階認証が必要なサーバーのアプリケーションパスワードを設定する必要があります。ネットワークの使用状況によっては、電子メールクライアントの接続が遅くなる場合があります。

重要! Dispatcher 8.6以前からDispatcher Phoenix 8.7またはそれ以降にアップグレードする場合、**電子メール入力** ノードを使用するすべてのワークフローで、それらのワークフローを再開する前に、そのノードと関連するすべてのインデックスフォームを置き換えて構成する必要があります。

電子メール入力ノードの設定

電子メール入力ノードを開くには、ワークフローに電子メール入力収集ノードを追加して、ダブルクリックします。



次の操作を実行します。

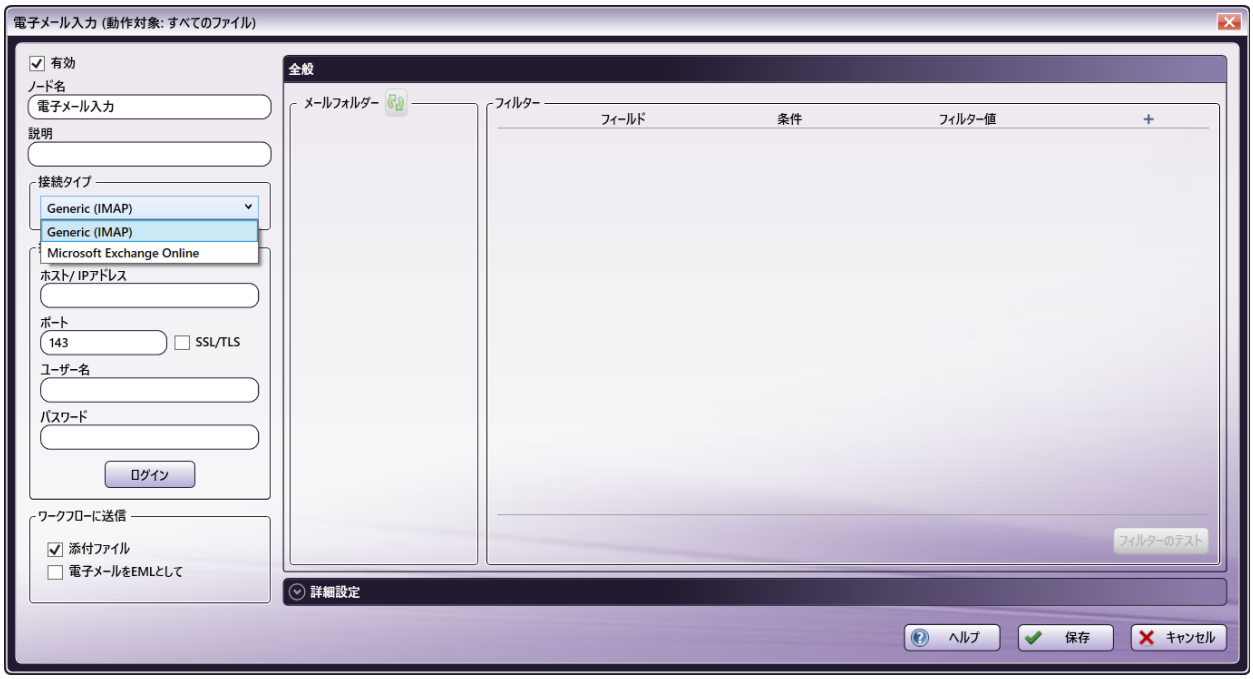
- **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認してください。チェックしなかった場合、この入力は無視されます。ワークフローは検証されますが、電子メールは収集されません。
- **[ノード名]** フィールドに、電子メール入力ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、電子メール入力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の入力先がある場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

アプリケーションのセットアップ

電子メール入力 ノードを使用するには、次の手順を実行します。

1. **電子メール入力** ノードをダブルクリックして開きます。
2. **接続タイプ** 領域で、ドロップダウンからオプションを選択します。



注:

- **Dispatcher Phoenix Web** から Microsoft Exchange Onlineアカウントをまだ設定していない場合は、ドロップダウンに表示される前に設定を行う必要があります。
- Microsoft Exchange Online 機能は、Microsoft Exchange Online と Outlook.comの両方のメールサービスで動作します。

3. Microsoft Exchange OnlineまたはGmail接続を使用している場合は、ドロップダウンから目的のアカウントを選択します。

   Generic (IMAP) 接続を使用している場合は、電子メールサーバーのシステム情報を入力します。

   - **[ホスト/IPアドレス]** フィールドに、このサーバーの識別ホスト名またはそのIPアドレスを入力します。
   - **[ポート]** フィールドに、サーバーが電子メールサーバーで使用されるポートを入力します(既定は143)。
   - SSLまたはTLSセキュリティプロトコルを有効にするには、**[SSL/TLS]** ボックスをオンにします。
   - **[ユーザー名]** フィールドに、電子メールサーバーへの接続に必要なユーザー名を入力します。
   - **[パスワード]** フィールドに、電子メールサーバーに正常にログインするために必要なパスワードを入力します(Gmailユーザーの場合、アカウントのセキュリティ設定で設定されているアプリケーションのパスワードです)。
   - **[ログイン]** ボタンをクリックして、電子メールサーバーとの接続をテストします。

   注: Gmailアカウントの一時的なロックアウトを避けるため、IMAPダウンロードで1日あたり2500MBを超えないようにしてください。複数のコンピュータに単一のIMAPアカウントを設定する場合、各設定の間はしばらく時間を空けることをお勧めします。

4. **[ワークフローに送信]** 領域で、次の操作を行います。
   - ワークフローを介して、電子メールから添付ファイルを収集して処理するには、**[添付ファイル]** ボックスをオンにします。
   - ワークフローを介して、電子メールの内容をEMLファイルとして送信するには、**[電子メールをEMLとして]** ボックスをオンにします。
5. **[IMAP接続のプロパティ]** セクションを正常に完了すると、**[全般]** セクションにメールフォルダーが自動的に追加されます。[更新]ボタンを使用すると、いつでもメールフォルダーを再読込できます。
   - **[メールフォルダー]** 領域で、メールを収集するフォルダーを選択します。
   - **[フィルター]** 領域で、ワークフローに関連するすべての電子メールを識別して収集するためにシステムに必要な基準を選択します。フィルターを追加するには、右上隅にある **[+]** ボタンを使用します。フィルターの作成と使用の詳細については、**ここをクリック** します。

6. **[詳細設定]** セクションでは、電子メールが収集された後に電子メールサーバーが実行するアクションをカスタマイズしたり、電子メールから抽出するメタデータを指定することができます。
    - **[収集後]** 以下で、Dispatcher Phoenixが電子メールを収集したときに取るべきアクションを選択します。オプションは次のとおりです。
        - **[グループとして処理]** - このオプションを使用して、500個以下のグループの電子メールを処理します。
        - **[既読としてマーク]** - 電子メールサーバー上で電子メールを既読としてマークします。
        - **[電子メールをサーバーから削除]** - Microsoft Exchangeの場合、電子メールは削除されますが、Microsoft Exchangeクライアント内からは引き続きアクセスできます。Google Mailの場合、電子メールは削除されますが、このノードおよびGoogle Mailクライアント内からは引き続きアクセスできます。ワークフローが予期せず停止すると、電子メールが失われる可能性があります。
        - **[メールフォルダーに移動]** - 電子メールが電子メールサーバーから収集され、ワークフローを介して処理された電子メールを保存するフォルダーを選択します。
    - **[接続タイムアウト設定]** で、ネットワーク接続がタイムアウトするまでの秒数を指定します（例：ログインまたはログアウト操作）。
    - **[メタデータ抽出]** で、電子メール入力ノードによって収集された電子メールからどのメタデータを抽出するかを示します。
7. 電子メール入力の設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを、変更を保存せずにウィンドウを終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択します。

フィルターロジック

電子メール入力を使用してDispatcher Phoenixワークフローに収集された電子メールは、次のフィールドでフィルタリングすることができます。

フィールド	説明
添付ファイル名	個々の電子メール添付ファイルの名前。
添付ファイルサイズ	個々の電子メール添付ファイルのサイズ。
添付ファイル	電子メール内の添付ファイルの存在（例：添付ファイルがある、または添付ファイルがない）。
Bcc アドレス	ブラインドカーボンコピーされたアドレスのリスト。
本文	電子メールの本文に含まれる内容。
Cc アドレス	カーボンコピーされたアドレスのリスト。
日付	電子メールが送信または受信された期間。
電子メールサイズ	添付ファイルを含む電子メールの合計サイズ。
送信元アドレス	電子メールの送信元アカウントの電子メールアドレス。
ヘッダー	電子メールのヘッダーの内容。ヘッダーの少なくとも1つの要素がフィルター値と一致する必要があります。
閲覧	電子メールのステータス（例：既読、または未読）。
件名	電子メールの件名。
宛先	電子メールの受信者のアドレス
添付ファイルの合計サイズ	電子メールに含まれるすべての添付ファイルの合計サイズ。

カスタマイズ可能なコンテンツを持つフィールドには、変数 **[条件]** と **[フィルター値]** を指定できます。条件のオプションは次のとおりです。

- 次の値を含む
- 含まない
- 次の値で終了
- 次の値である
- 正規表現
- 次の値で開始

ノードに複数のフィルターを追加した後、フィルターロジックを定義できます。たとえば、ノードに次の2つのフィルター条件が含まれているとします。

```
1. 件名に含まれる: "Form"
2. 差出人に含まれる: "@company.com"
```

既定では、これら2つのフィルターに「**AND**」フィルターロジックが適用されます。これは、件名に"Form"という単語を含み、@company.comという電子メールアドレスを持つ人物からの指定フォルダー内のすべての電子メールが自動的にワークフローに取り込まれることを意味します。

注: フィルター値は大文字と小文字を区別しません。

場合によっては、送信者 **または** 電子メールの件名で電子メールを見つける必要があります。この場合、フィルターロジックの選択を「**OR**」に変更します。

連続する「**AND**」フィルターは条件のグループを作成し、「**OR**」はフィルターを互いに分離します。例は次の通りです。

```
(フィルター1 AND フィルター2) OR (フィルター3) OR (フィルター4 および フィルター5)
```

メタデータ

次のメタデータが電子メール入力ノードで作成されます。

メタデータ 値	説明
{emailin:attachment_sizes}	電子メールを含む各添付ファイルのサイズのリスト。
{emailin:bcc}	ブラインドカーボンコピーされたアドレスのリスト。
{emailin:body}	電子メール本文の内容。
{emailin:cc}	カーボンコピーされたアドレスのリスト。
{emailin:date}	電子メールの送受信日。
{emailin:folder}	電子メールが収集されたフォルダー。
{emailin:from}	電子メールの送信者アドレス。
{emailin:headers}	IPアドレスやエンコードタイプなど、ヘッダーの内部電子メールメタデータ。
{emailin:host}	ホスト/IP 電子メールサーバーアドレス。
{emailin:subject}	電子メールの件名。
{emailin:to}	電子メールの受信者アドレス
{emailin:total_attachment_size}	電子メール内のすべての添付ファイルの合計サイズ。
{emailin:username}	電子メールが収集されたアカウントの電子メールアドレス。

Dropbox入力

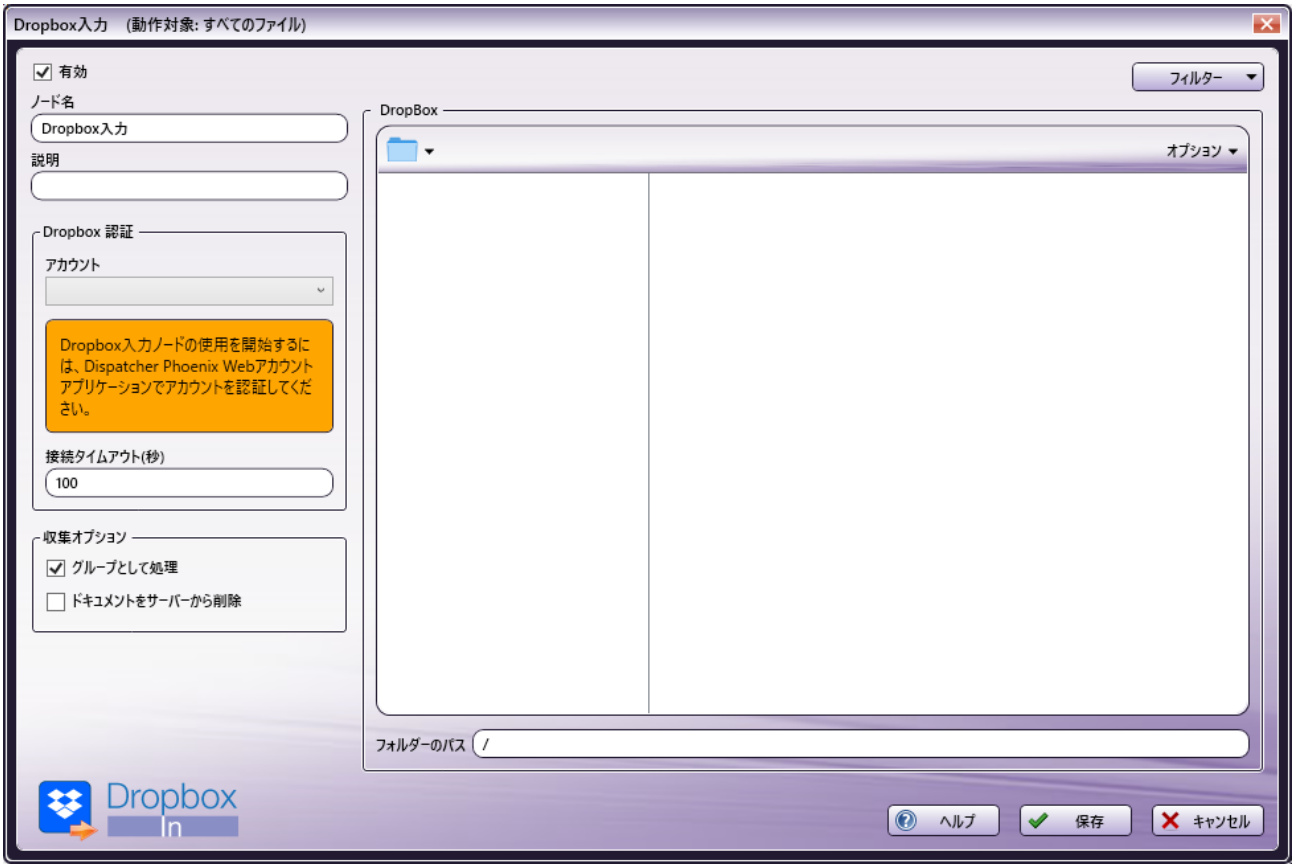
Dropbox入力 収集ノードを使用して、Dropbox Business StandardまたはAdvancedアカウントを含むDropboxアカウントに接続し、構成されたフォルダーで新しいファイルを定期的に監視します。Dropboxは、クラウドストレージとファイル同期を提供するファイルホスティングサービスです。

Dropbox入力は、個人、チーム、および共有フォルダーをサポートし、処理、およびルーティングのためにドキュメントをワークフローに沿って渡す前に、名前、サイズ、または変更日でファイルをフィルタリングすることができます。

注: Dropbox入力ノードを使用するには、最初に **Dispatcher Phoenix WebでDropboxアカウントを設定** する必要があります。

Dropbox入力ノードの設定

Dropbox入力ノードを開くには、**Dropbox入力** 収集ノードをワークフローに追加し、ダブルクリックします。Dropbox入力プロパティウィンドウが開きます。



次のオプションを使用できます。

- **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認してください。チェックしなかった場合、この処理は無視されます。ワークフローがまだ検証されている間はドキュメントは収集されません。
- **[ノード名]** フィールドに、Dropbox入力ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、Dropbox入力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の入力を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

ボタン

- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保存してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

Dropbox認証

- **[Dropbox認証]** 領域で、次の設定をします。
- **[アカウント]** - ドロップダウンをクリックして、承認されたDropboxアカウントのリストを表示します。ワークフローで収集するドキュメントまたはフォルダーを含むDropboxアカウントを選択します。アカウントが表示されない場合は、Dropbox アカウントの認証に使用されたDispatcher Phoenix Webログオンユーザーアカウントが、現在のDispatcher Phoenix ログオンユーザーアカウントと同じであることを確認してください。DropboxアカウントがDispatcher Phoenixに表示されるには、ログオンユーザーアカウントが一致している必要があります。
- **[接続タイムアウト(秒)]** - ネットワーク接続がタイムアウトになるまでの秒数を指定します(例: ログインまたはログアウト操作)。

収集オプション

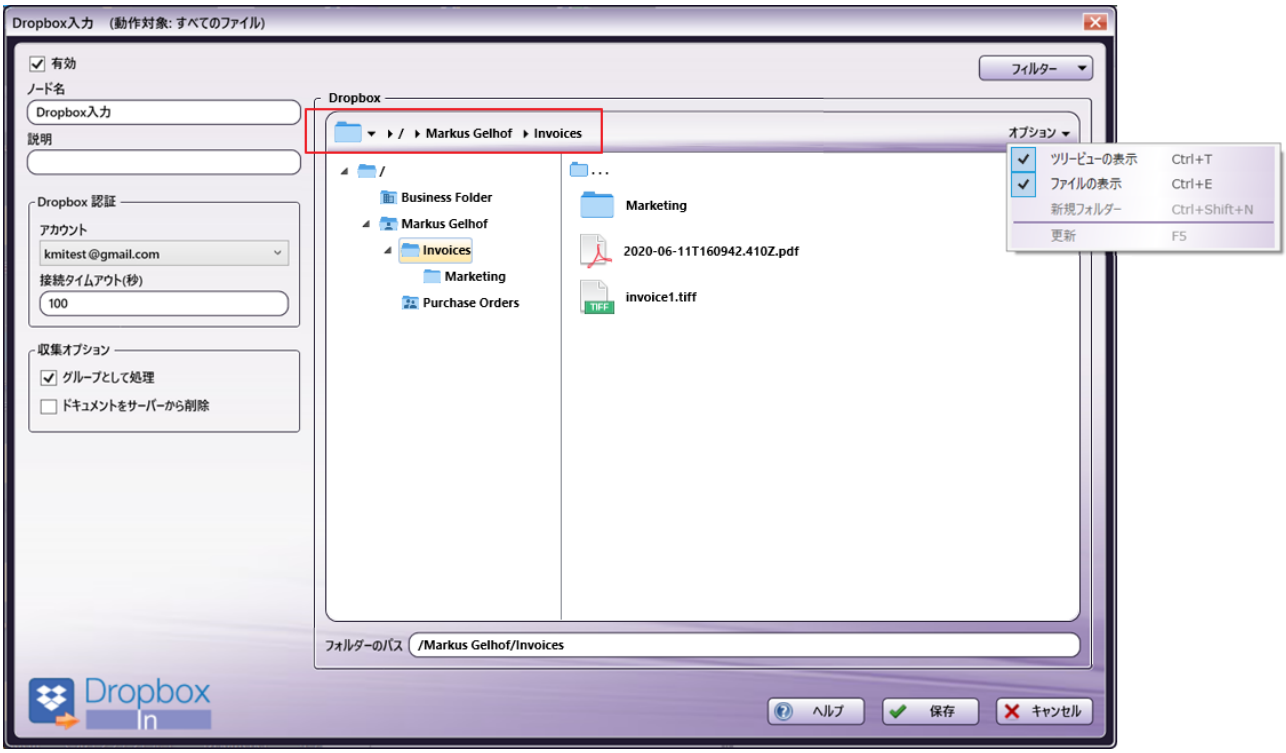
- **[収集オプション]** セクションには、次のオプションがあります。
- **[グループとして処理]** - 選択したフォルダーのファイルをグループとして処理するには、このボックスにチェックを入れます。ファイルを個別に処理するには、ボックスを空白のままにします。
- **[ドキュメントをサーバーから削除]** - 収集時にDropboxサーバーからファイルを削除するには、このボックスをオンにします。それ以外の場合は、ボックスを空白のままにします。

Dropboxエクスプローラー領域

Dropboxとの接続が確立されると、**Dropbox** エクスプローラー領域にDropboxアカウントのフォルダー構造が表示されます。Dispatcher PhoenixがモニターするDropboxフォルダーを選択してください。

現在のフォルダーパスがフォルダーアイコンの横に表示されます( )。このフォルダーパスを使用して、フォルダー構造内を移動することができます。エクスプローラ領域の下の **フォルダーパス** フィールドにも現在のパスが表示されます。

次の図では、フォルダーパスが表示され、Dropbox領域には、[オプション]メニューからの現在の選択に従って、ツリービューと選択したフォルダー内のファイルが表示されます。



フォルダータイプ

Dropboxのバージョンに応じて、次の種類のフォルダーがDropboxエクスプローラー領域に表示される場合があります。

Dropbox 個人用フォルダー

Dropbox チームフォルダー

Dropbox チームメンバーフォルダー

Dropbox 共有フォルダー

フィルター

プロパティウィンドウの右上隅にある **[フィルター]** ドロップダウンを使用して、ファイルを収集するための条件があれば指定します。フィルターを適用すると、ワークフローは、指定された条件を満たすファイルのみをDropboxから収集します。

- **[ファイル名をフィルター]** - ファイル拡張子を含む、識別されたファイル名と一致するファイルの収集を有効にするには、このボックスをオンにします。
  - **[ファイル名]** - Dispatcher PhoenixがDropboxから収集するファイル拡張子を含む完全なファイル名を入力します。入力する名前にはワイルドカードを使用できます。たとえば、***.jpg** と入力すると、拡張子が「jpg」のすべてのファイルが返されます。
    - **[正規表現]** - 一定量のテキストを表すパターンを使用してファイルを動的にフィルタリングするには、このボックスをオンにします。このオプションを選択すると、**[大文字と小文字
    - **[大文字と小文字を区別]** - 検索で大文字と小文字が区別される場合は、このボックスをオンにします。このオプションを選択すると、 **[正規表現]** チェックボックスが無効に
- **[ファイルサイズをフィルター]** - このボックスをチェックして、ファイルがDropboxからDispatcher Phoenixワークフローに取り込まれる前に満たすべきサイズ基準を選択します。
  - **[ファイルサイズ]** - 以下で指定されたサイズを基準にしてファイルをフィルター処理します。次の条件のいずれかを選択します。
    - 次の値より大きい
    - 次の値より小さい
    - 等しい
    - 以上

        - 次の値以下
        - 次の値の範囲内(範囲内の低い値と高い値を指定)

      ファイル サイズを指定してから、ファイルサイズの測定単位を指定します。次のオプションがあります。

        - バイト
        - KB
        - MB
        - GB
        - TB

- **[ファイル修正日をフィルター]** - 変更日に基づいてファイルをフィルター処理するには、このフィールドのボックスをオンにします。次のフィールドがアクティブになります。
    - **[ファイル日付]** - 以下で指定された日付に関連するファイルをフィルター処理します。次の条件のいずれかを選択します。
        - より新しい
        - より古い
        - 次の値の範囲内(範囲内の開始日と終了日を指定する)
        - 等しい
        - **[日付を選択]** - 日付を指定するには、カレンダーをクリックして日付を選択します。次のいずれかの形式を使用して、日付を直接入力することもできます。
            - MM/DD/YY
            - MM/DD/YYYY
            - MONTH DD, YYYY
- **[フィルタリングの条件]**
    - **[いずれかのフィルター基準に一致]** - フィルター基準のいずれかが満たされた場合、ファイルはDropboxから収集されます。
    - **[すべてのフィルター基準に一致]** - すべてのフィルター基準が満たされている場合、ファイルはDropboxから収集されます。フィルター基準のいずれかが満たされない場合、ファイルはDropboxから収集されません。

オプション

Dropboxエクスプローラー領域の右上隅にある **[オプション]** ボタンを使用して、フォルダービューを構成するか、新しいフォルダーを追加します。ドロップダウンメニューには、各オプションのショートカットキーが含まれています。

- **[ツリービューの表示]** - ツリービューで完全なフォルダー構造を表示するには、このオプションを選択します。
- **[ファイルの表示]** - フォルダー参照ビュー内でファイルを表示するには、このオプションを選択します。
- **[新規フォルダー]** - Dropboxで現在選択されているフォルダーパスに新しいフォルダーを作成するには、このオプションを選択します。[新しいフォルダーの作成]ウィンドウが表示されます。
- **[更新]** - Dropboxエクスプローラーでフォルダーブラウザービュー(ツリービューの表示またはファイルの表示)を更新するには、このオプションを選択します。

フォルダーパス

フォルダーツリーの下の **フォルダーパス** フィールドは、Dropboxエクスプローラーでフォルダーを選択すると自動的に入力されます。ファイルエクスプローラーをナビゲートしたくない場合は、このフィールドにフォルダーパスを手動で入力できます。

メタデータ

次のメタデータが **Dropbox入力** ノードで作成されます。

メタデータ値	説明
{dropboxin:count}	フォルダーごとに収集されたファイルの数。
{dropboxin:date}	Dropboxから収集したファイルの最終更新日。**{dropboxin:file}**
{dropboxin:filesize}	収集されたファイルのサイズ
{dropboxin:folder}	ファイルが収集されたフォルダーの名前。
{dropboxin:fullpath}	ファイル名を含む完全ファイルパス。

処理ノード

処理

処理ノードのパレットは、**ワークフロービルダー** で使用できます。**基本ノード** は、**Dispatcher Phoenix** の標準です。**オプションノード** は、**アドインマネージャー** から利用できます。

イメージング処理でサポートされているファイル

注釈、傾き補正、ノイズ除去、マージ、分割、透かしなどの画像処理は、選択した数のファイルタイプに対して機能します。Dispatcher Phoenixは、Windows Imaging Components (WIC) でサポートされているすべての画像形式をサポートしています。これらのファイル形式には次のものがあります。

- BMP
- GIF
- JPG
- PNG
- TIFF

WICはコーデックを使用して追加の形式をサポートできるため、Dispatcher Phoenixはさらに多くの画像形式をサポートする可能性があります。ただし、Dispatcher Phoenixで使用するための徹底的なテストが行われたフォーマットは他にありません。したがって、上記の 5種類以外の画像形式を使用すると、結果が予測できない場合があります。

注: 画像処理ノードでサポートされていないファイルタイプを受信すると、エラーが発生します。

ワークフローでのノードの順序

ワークフローが正しく実行されるように、ノードがワークフロー内で正しい順序で配置されていることを確認してください。たとえば、ドキュメントをOCRメタデータでベイツスタンプしたい場合は、ゾーン抽出用に設定された「フォーム処理」、または「高度なOCR」のいずれかがワークフロー内の「ベイツスタンプ」ノードの前に配置されていることを確認する必要があります。ノードが処理されている時点で、そのノードが使用できるようにメタデータが利用可能である必要があります。

高度なルーティング

カラー経路指定

カラー経路指定処理は、ドキュメントのカラーページ数またはドキュメントのカラーページのパーセントに基づいて入力PDFおよびイメージを経路指定します。

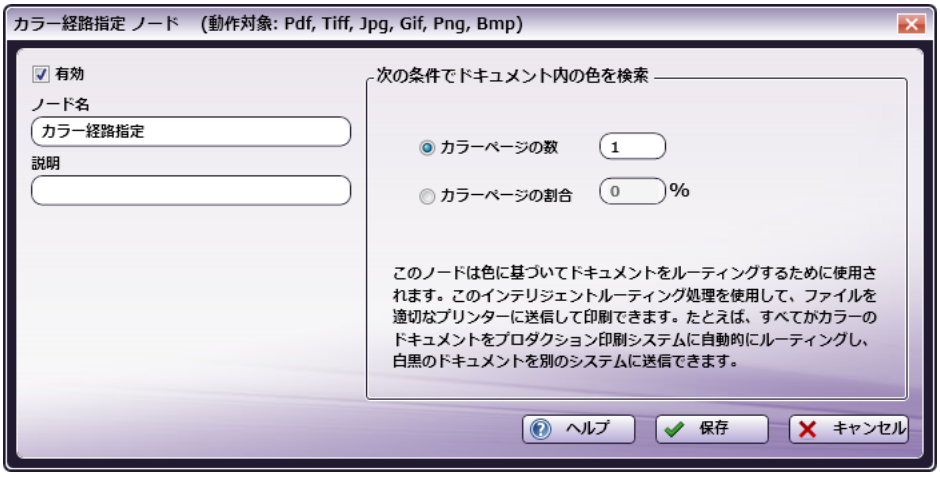
このノードは、PDF、TIFF、JPG、GIF、PNG、およびBMPファイルに対応しています。

注: このノードは、AES（Advanced Encryption Standard）PDFをサポートしていません。

このノードでは次の出力コネクターを使用できます。

- **はい** - カラーページ数が指定した値と一致する場合。
- **いいえ** - カラーページ数が指定した値と一致しない場合。
- **エラー** - ドキュメントタイプがサポートされていない場合。

カラー経路指定ノードウィンドウを開くには、カラー経路指定の処理ノードを追加して、そのノードをダブルクリックします。



- ワークフローに複数の処理がある場合は、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックしなかった場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、あたかもノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、カラー経路指定ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、カラー経路指定ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 含まれているカラーページ数に基づいてファイルを経路指定するには、**[カラーページの数]** ラジオボタンを選択し、隣のフィールドに値を入力します。
- 色を持つページのパーセンテージに基づいてファイルを経路指定するには、**[カラーページの割合]** ラジオボタンを選択し、隣のフィールドに値を入力します。
- カラーページの数量またはパーセンテージが特定できない場合にファイルをルーティングする方法を定義するには、[**カラーが確認できない場合、次へルート:**] フィールドのドロップダウンリストを使用します。ルーティングオプションは次のとおりです。
  - **色** (「はい」トランジション)
  - **黒/白** (「いいえ」トランジション)
  - **エラー** (「エラー」遷移)
- カラー経路指定の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

ページ数経路指定

ページ数経路指定処理は、ユーザーが設定した特定のページ数を基に、入力イメージとPDFの経路を指定します。このノードでは次の出力コネクターを使用できます。

- **[はい]** - ページ数が指定した範囲内にある場合。
- **[いいえ]** - ページ数が指定した範囲内にない場合。
- **[エラー]** - ドキュメントタイプがサポートされていない場合。

このノードは、PDF、TIFF、JPG、GIF、PNG、およびBMPファイルに対応しています。

注: このノードは、AES（Advanced Encryption Standard）PDFをサポートしていません。

[ページ数経路指定ノード]ウィンドウを開くには、ページ数経路指定処理ノードを追加して、そのノードをダブルクリックします。

- **[有効]** - ワークフローに複数の処理がある場合は、このチェックボックスをオンにします。チェックを外すと、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、論理条件またはエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** ページ数経路指定ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** ページ数経路指定ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[ページ数の条件]** ドロップダウンリストを使用して、このノードのルールを使用します。オプションは次のとおりです。
  - 次の値より大きい
  - に等しい
  - 以上
  - 次の値以下
  - 次の値の範囲内 - このオプションを選択すると、2つのフィールドが表示されます。範囲を入力します。次の図の例を参照してください。

[次の値の範囲内] 以外のすべてのオプションについては、適切な演算子を選択したら、表示されたフィールドに対応する値を入力します。たとえば、100ページを超えるファイルを特定のプリンターに経路指定するには、**[次の値より大きい]** を選択し、フィールドに「100」を入力します。

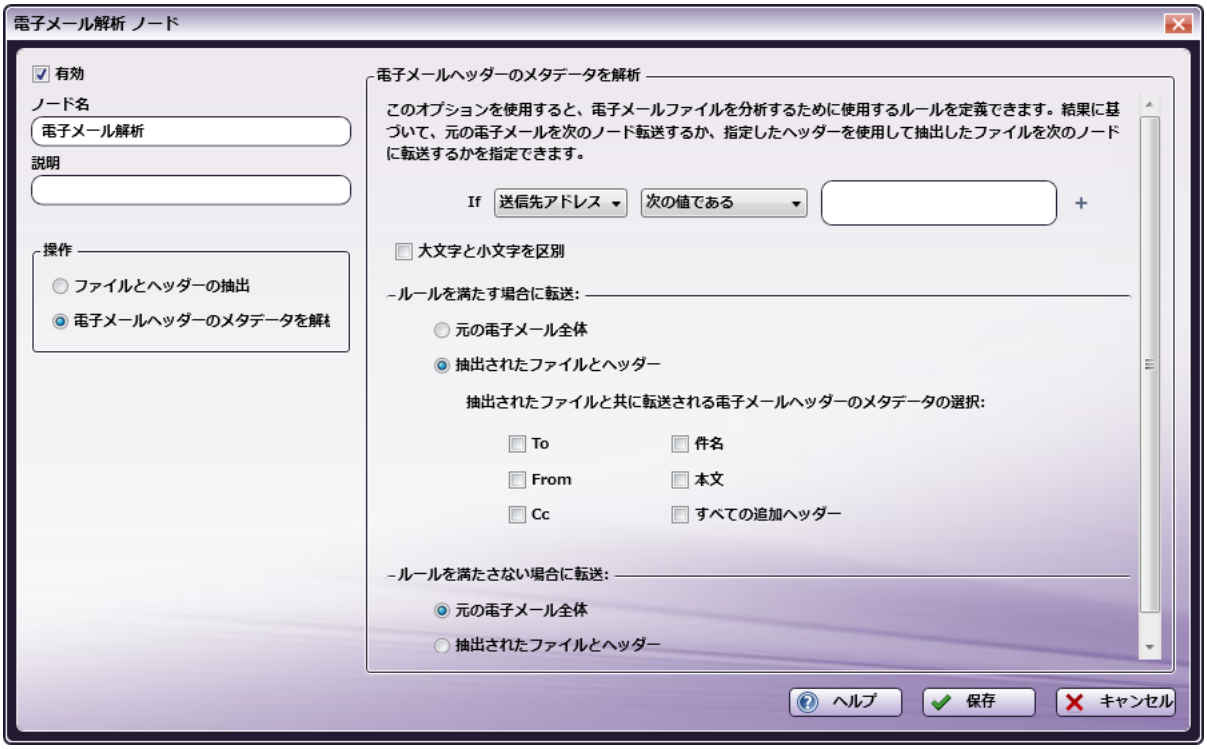
電子メール解析

電子メール解析とは、指定の条件に基づいてファイルの抽出や電子メールの経路指定を行う場合に使われるオプションノードです。電子メール出力ノードと連動して機能することが可能です。電子メールのヘッダーにあるメタデータは、電子メール出力ノードに渡される（そして、その後ノードによって使われる）前に、抽出された添付ファイルに付けることができます。

注: MIME符号化された電子メールだけが電子メール解析によってサポートされます。

電子メール解析ノードの使用

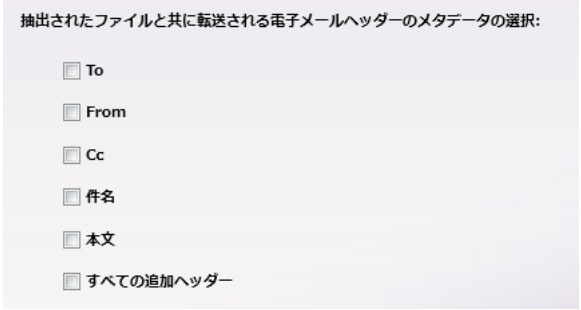
電子メール解析ノードウィンドウを開くには、電子メール解析ノードの処理ノードを追加して、このノードをダブルクリックします。



- **有効** - ワークフローに複数の処理がある場合は、このチェックボックスをオンにします。チェックを外すと、この処理は無視されます。電子メールは、ノードが存在しないかのように通過します(つまり、既定、または「Y(はい)方向の」パスに沿って続行します)。無効化されたノードは、論理条件またはエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - 電子メール解析ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** - 電子メール解析ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読むことができます。
- **[操作]** - この領域では、ノードを通過する電子メールの処理方法を指定できます。選択肢は次のとおりです。
  - **[ファイルとヘッダーの抽出]** - ラジオボタンをクリックして、電子メールの添付ファイルとヘッダーのメタデータを抽出します。次に、ウィンドウの右側にある適切なオプションを選択します。
  - **[電子メールヘッダーのメタデータを解析]** - ラジオボタンをクリックして、電子メールのメタデータを取り出します。次に、ウィンドウの右側にある適切なオプションを選択します。
- **[保存]** - 電子メール解析の定義を保存します。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプファイルにアクセスします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了します。

添付ファイルとヘッダーの抽出

このノードで処理されている電子メールに添付されたファイルを抽出したい場合は、ウィンドウの左側にある **[操作]** 領域から、**[ファイルとヘッダーの抽出]** ラジオボタンを選択します。この時点で、適切なチェックボックスをクリックして、抽出した添付ファイルにどのヘッダーメタデータ(ある場合)を付けるか指定するオプションがあります。この情報は、後で電子メール出力ノードによって使われます。抽出したファイルに付属しているメタデータが必要ない場合、ボックスにチェックマークを付けないままにしておきます。追加の電子メールヘッダーメタデータを使うには、**[すべての追加ヘッダー]** ボックスにチェックマークを付けます。



例: 元の電子メールの件名行を電子メール出力ノードに使用する場合は、[件名]チェックボックスをクリックして、抽出された添付ファイルに情報が渡っていることを確認します。

注: このオプションを選択した場合、元のMIME電子メールは廃棄され、その添付ファイルだけが電子メール出力ノードに処理/転送されます。

電子メールヘッダーメタデータの解析

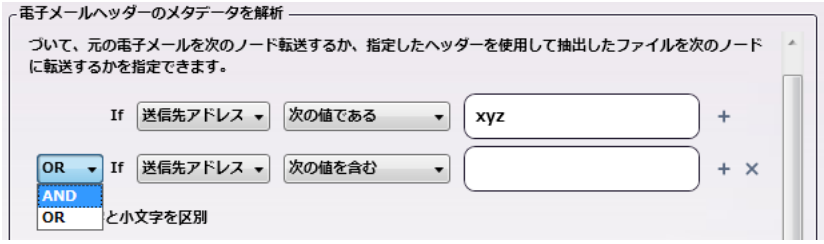
指定のルールに一致しているかどうかに基づいて、元の電子メール、または特定のヘッダーメタデータを含む元の電子メールの添付ファイルを経路指定したい場合は、ウィンドウの左側にある **[操作]** 領域から、**[電子メールヘッダーのメタデータを解析]** ラジオボタンを選択します。

ルールの設定

転送されるドキュメントに、一致するかどうかの条件ルールを設定する必要があります。次の操作を行います。

1. 適切なヘッダーメタデータ（ **[送信先アドレス]** 、**[Fromアドレス]** 、**[Ccアドレス]** 、**[件名]** 、または **[本文]** ）を選択します。
2. 適切なオプション（ **[次の値である]**、**[次の値を含む]**、**[正規表現]** ）を選択します。
3. 最後に、用意されている空のフィールドに適切なフィルターテキストを入力します。
4. 入力された指定のケースにマッチするヘッダーメタデータを持つ電子メールだけが含まれていることを確認するには、**[大文字と小文字を区別]** ボックスにチェックマークを付けます。
5. （ANDやOR演算子を使って）別のルールを追加するには、入力フィールドの隣にある **プラス** 記号をクリックします。ルールを削除するには、入力フィールドの隣にある をクリックします。

複数のルールを指定する場合は、次の図のように、使用する論理演算子（ANDまたはOR）を選択できます。



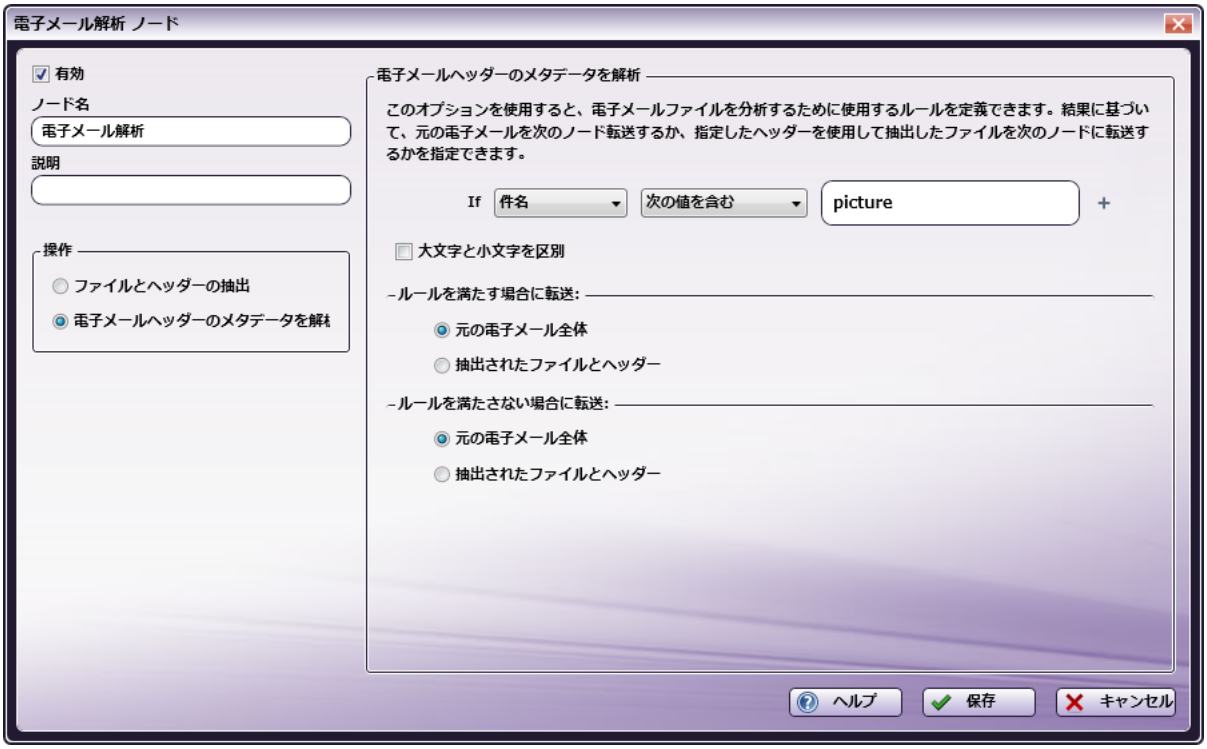
注: 指定できるルールの数に制限はありません。

ルールを満たす/満たさない場合

ルールを定義した場合、次に起こることを指定する必要があります。

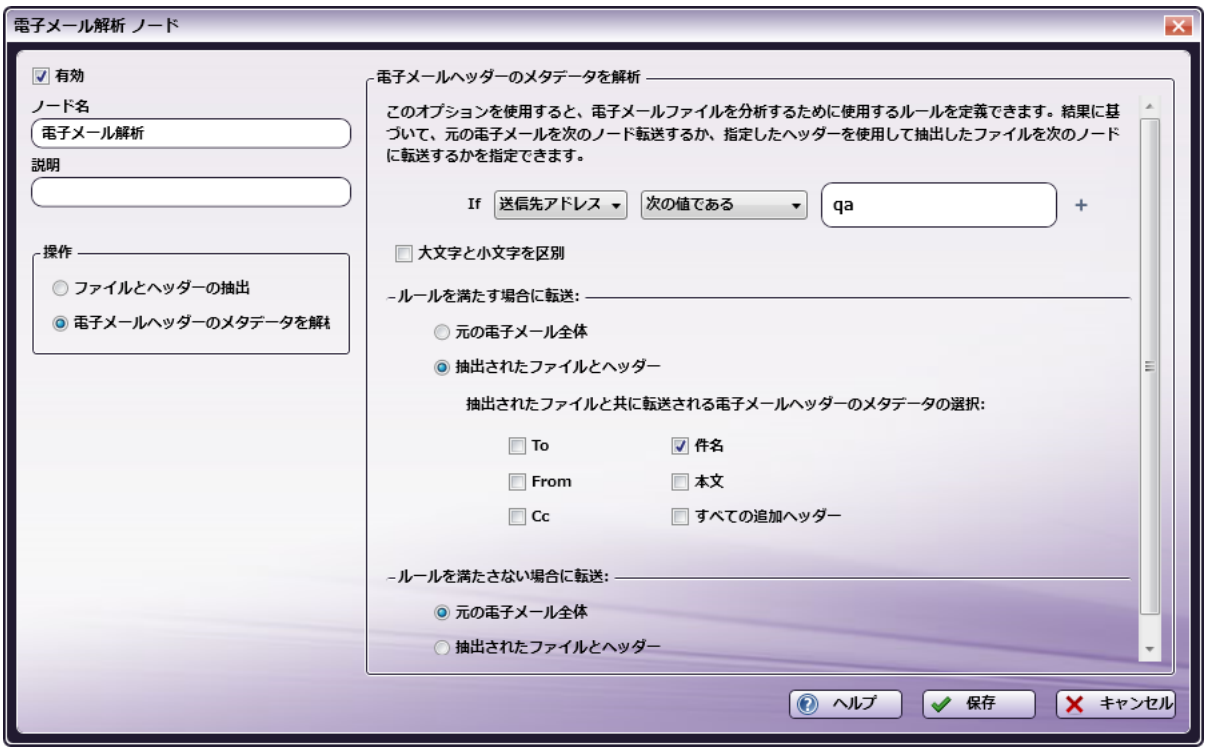
- 指定したルールに従う元の電子メールだけを転送するには、**[ルールを満たす場合に転送:]** 領域内の **[元の電子メール全体]** ラジオボタンをクリックします。次のことが起こります。
    - 次のノードが電子メール出力ノードの場合、元のメールは新しい電子メールに添付されます。
    - 次のノードが出力フォルダーの場合、電子メールファイルはフォルダーに預けられます。
    - 次のノードがプリンターノードの場合、電子メールファイルはプリンターに送られます。
    - 次のノードがFTPノードの場合、電子メールファイルはFTPサーバーに送られます。

次の図では、ワードの「画像」を含む件名行を持つ電子メールだけが転送されます。



- 指定したルールに従う電子メールの抽出した添付ファイルとヘッダーメタデータを転送するには、**[ルールを満たす場合に転送:]** 領域の **[抽出されたファイルとヘッダー]** ラジオボタンをクリックします。この時点で、抽出したファイルと一緒に、もしあれば、どの電子メールヘッダーメタデータを渡したいかを指定できます。この情報は、後で電子メール出力ノードによって使われます。

次の図では、ユーザーは[Toアドレス]に文字「qa」を含む電子メールから、件名行情報を転送することを選択しました。



- また、ルールを満たさない場合に何をするかを定義することもできます。**[ルールを満たさない場合に転送:]** 領域の **[元の電子メール全体]** ラジオボタンをクリックして元の完全な電子メールを転送するか、または **[ルールを満たさない場合に転送:]** 領域の **[抽出されたファイルとヘッダー]** ラジオボタンをクリックし、表示されたチェックボックスを使って適切なメタデータにチェックマークを付けて、抽出したファイルとメタデータ情報を転送することを選択できます。

バーコード

2Dバーコード処理

2Dバーコード処理は、スキャンされたドキュメントの2Dバーコードを認識して情報を抽出するオプションのノードです。このノードを使用して、ドキュメントに含まれるバーコードに基づいてドキュメントを分割、インデックス作成、またはルーティングする処理を自動化します。この処理ノードを使用して、2Dバーコードメタデータ情報をキャプチャするためのゾーンが作成されます。ゾーンは、水色のサイズ変更可能なボックスで表されます。このノードは、次のファイルタイプで機能します。

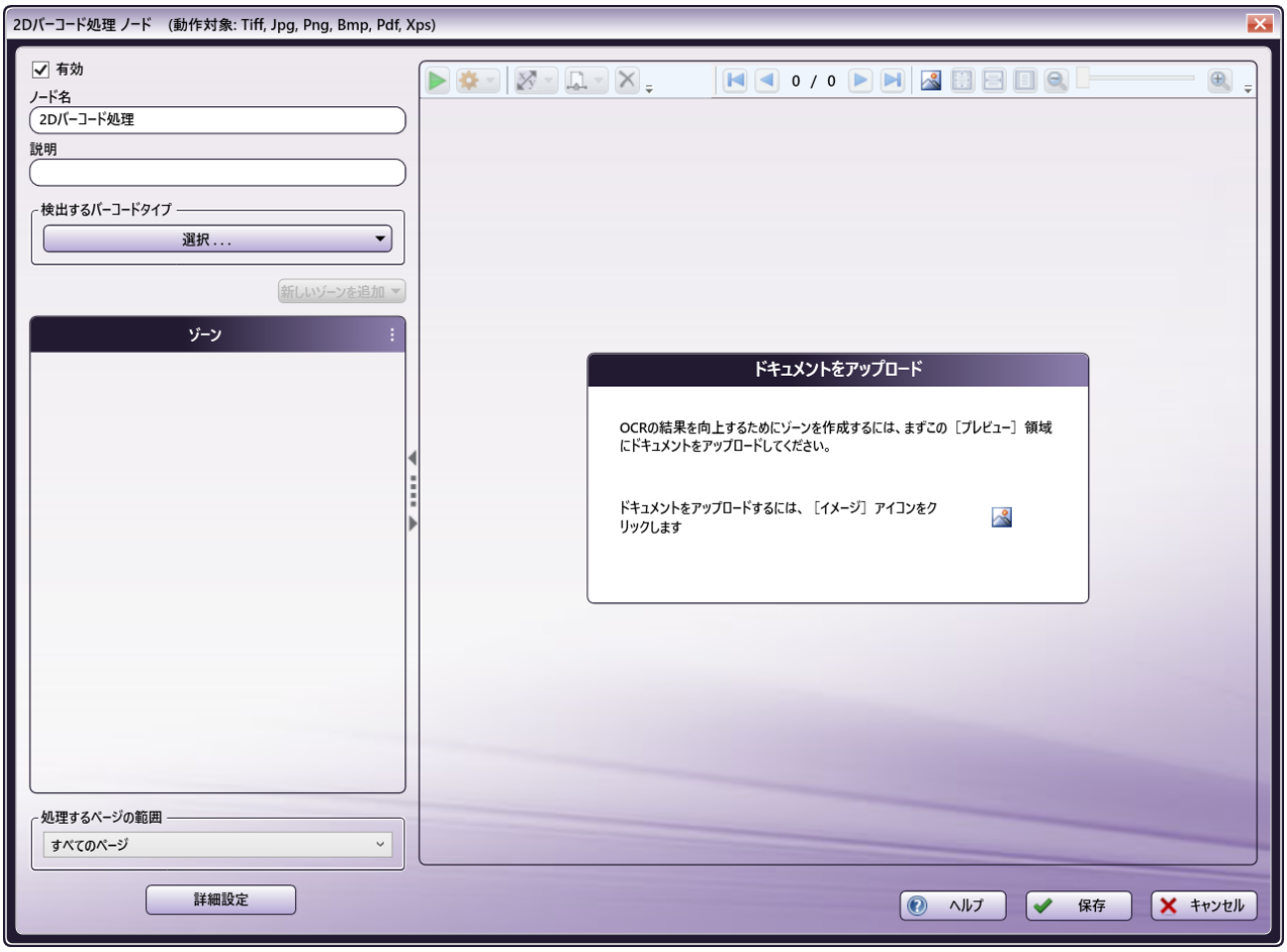
- TIFF
- JPG
- PNG
- BMP
- PDF
- XPS

2Dバーコード処理ノードは、PDF-417タイプのバーコードとQRコードを読み取ることができます。

注: このノードには、OmniPage **OCRエンジン** が含まれます。

2Dバーコード処理ウィンドウの使用

2Dバーコード処理ノードウィンドウを開くには、2Dバーコード処理の処理ノードを追加して、そのノードをダブルクリックします。まず、ゾーンを作成するドキュメントをアップロードします。次の図のように、画面の指示に従います。



2Dバーコード処理ウィンドウでは、2Dバーコード処理のゾーンを完全に定義したりカスタマイズできます。このウィンドウ設定には、次のオプションがあります。

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、ロジックまたはエラー状態をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示すノードの意味のある名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。ワークフローに複数の処理が含まれている場合、説明は複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。

ボタン

- **[詳細設定]** - **高度なOCR設定**ウインドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenix オンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノードの定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

注: 2Dバーコード処理ノードのプロパティウィンドウを構成するには、少なくとも次の操作を行う必要があります。

1. ゾーンを(手動または自動で)定義する。
2. ページ範囲を指定する。

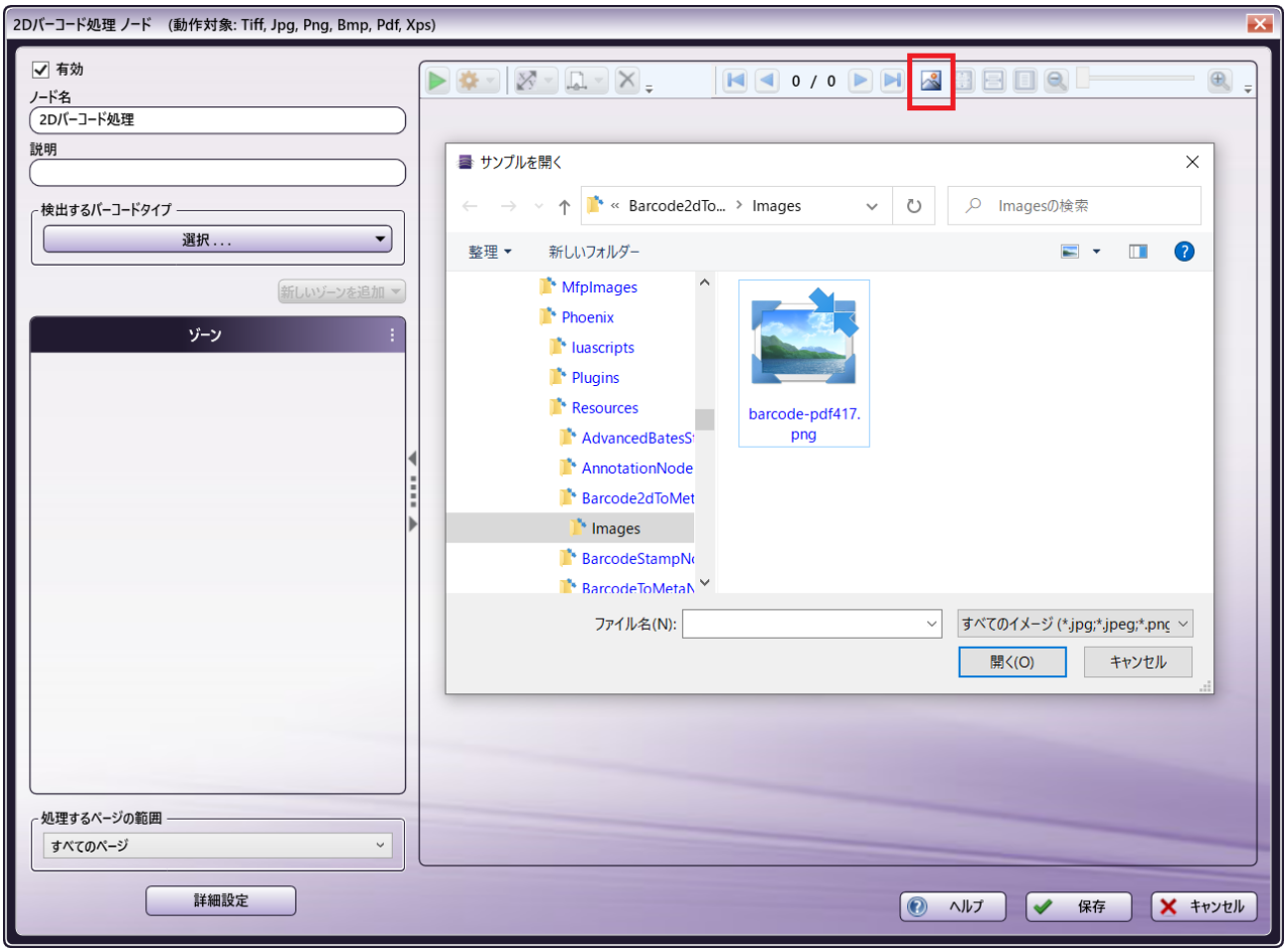
サンプルドキュメントのアップロード

ノード構成を続行するには、まずプレビュー領域に表示するサンプルドキュメントをアップロードする必要があります。ドキュメントは、ノードで検索しようとしているドキュメントに似ている必要があります。次の操作を行います。

[アップロード] - このアイコンをクリックして、「サンプルを開く」参照フォルダーにアクセスします。アイコンは、ページの次の場所に表示されます。いずれかをクリックします。

- ツールバー。
- プレビュー領域の[ドキュメントのアップロード]ボックス。

次の図に示すように、「サンプルを開く」参照フォルダーでは、アプリケーションが提供するサンプルドキュメントから選択するか、別のフォルダーに移動して独自のサンプルドキュメントを選択できます。

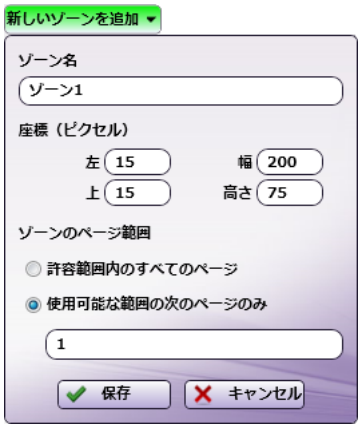


注: プレビュー領域のツールバーにあるサンプルドキュメントアイコン をクリックすると、いつでもサンプルファイルを置き換えることができます。以前にノードプロパティウィンドウを使用してサンプルドキュメントをアップロードした場合、Dispatcher Phoenixは、サンプルファイルの選択時に使用した最新のフォルダーを自動的に開きます。プレビュー領域のツールバーの詳細については、以下の **ツールバー** セクションを参照してください。

ゾーンの作成

ゾーンは、OCRエンジン用にページの特定の領域を定義する境界線であり、手動または自動で作成できます。ドキュメントの処理方法を正確に制御するには、次の手順でゾーンを手動で作成できます。

1. **[新しいゾーンを追加]** - 次の図のように、このボタンを選択してドロップダウンパレットを表示します。



2. [新しいゾーンを追加]ドロップダウンパレット上で、以下の操作を行います。
    - **[ゾーン名]** - ゾーンの識別名を入力します。
    - **[左]および[上]** - 値（ピクセル単位）を入力して、ドキュメントの左上からゾーンを配置します。
    - **[幅]** - 値（ピクセル単位）を入力して、ゾーンの適切な幅を定義します。
    - **[高さ]** - 値（ピクセル単位）を入力して、ゾーンの適切な高さを定義します。
    - **[ゾーンのページ範囲]** - ゾーンを適用するページを指定します。オプションは次のとおりです。
        - **[許容範囲内のすべてのページ]** - 指定した範囲内のすべてのページにゾーンを適用するには、このラジオボタンを選択します。これは、ドキュメントの最初のページで構成されたゾーンが、ドキュメント内の残りのページに自動的に適用されることを意味します（指定された **[処理するページの範囲]** が「すべてのページ」の場合）。
        - **[使用可能な範囲の次のページのみ]** - このラジオボタンを選択して、許容範囲内の特定の範囲のページにのみゾーンを適用します。表示されたフィールドにページ範囲を入力します。たとえば、5ページのドキュメントの場合、次のいずれかが許容可能なエントリーです。
            - 1-3
            - 1,2,5
            - 1&4
            - 1-3,5
            - 1-3, 5
3. **[保存]** - このボタンをクリックして設定を保持し、ウィンドウを終了します。ゾーンは、プレビュー領域の指定された場所に表示されます。

    注: このバーコードのコンテンツは、ワークフロー内の他のノードで使用できるようになりました。詳細については、2Dバーコードメタデータセクションを参照してください。
4. **[キャンセル]** - 変更を保存せずにドロップダウンパレットを終了するには、このボタンを選択します。

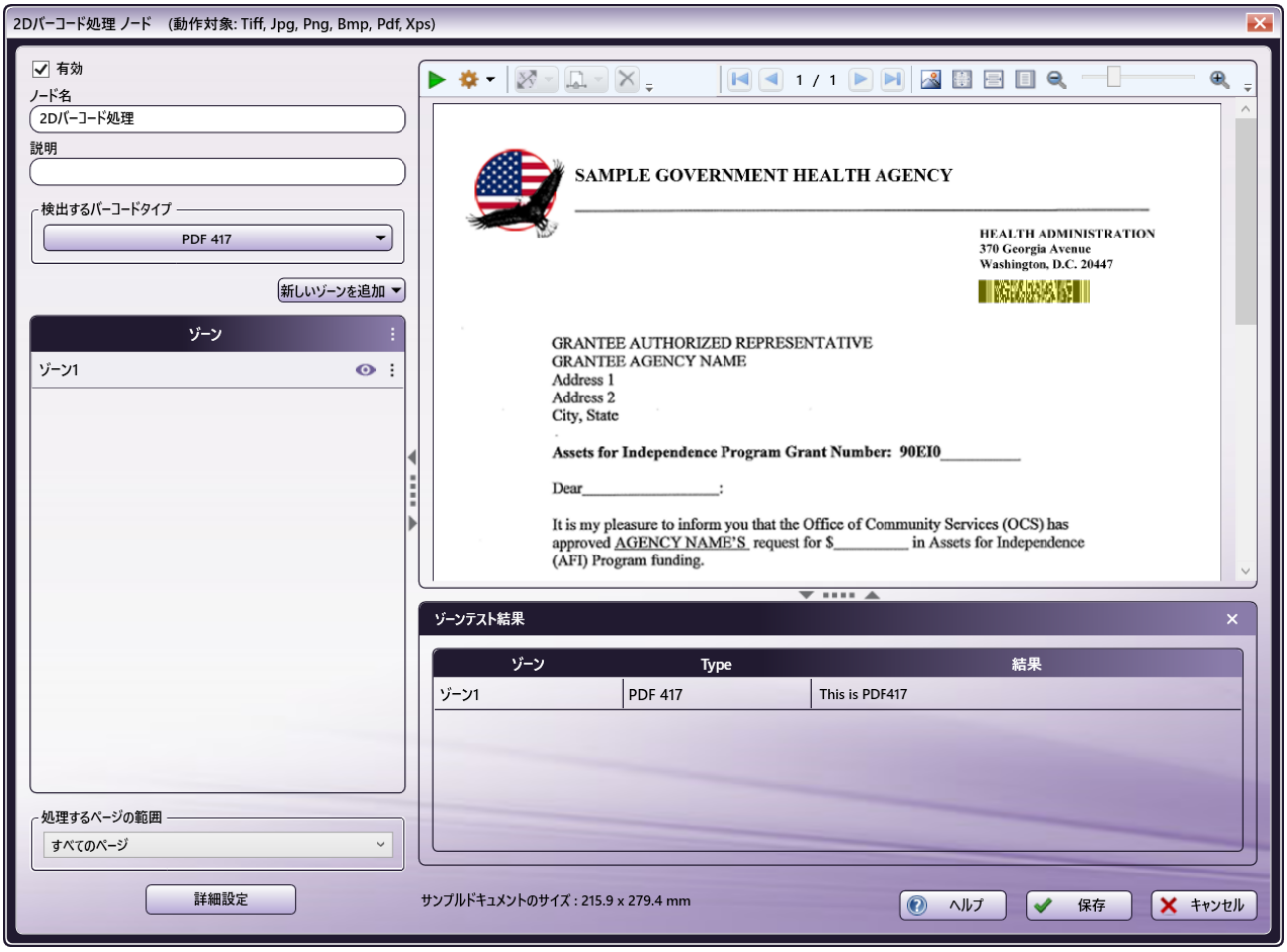
ゾーンのテスト

ゾーンを作成してバーコードタイプを選択したら、ツールバーの **[ゾーンテストを実行]** アイコンを使用してゾーンをテストできます。これにより、次の図に示すように、ゾーン名、ゾーン内のバーコードタイプ、バーコードの結果など、ゾーンに関する情報が返されます。

- **ゾーン** - ゾーンの名前
- **タイプ** - ゾーン内のバーコードタイプ
- **結果** - バーコードの結果

バーコード値が検出された任意のゾーンの値を右クリックしてコピーを選択すると、その値をコピーできます。テスト機能を使用する場合、ゾーンを選択して **[テストゾーン]** ボタンをクリックするか、選択して右クリックし、**[テストゾーン]** を選択して、個々のゾーンまたは複数のゾーンをテストできます。複数のゾーンを選択するには、次の2つの方法があります。

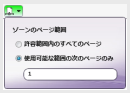
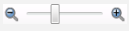
1. マウスをクリックしてドラッグし、一度に複数のゾーンをハイライトします。
2. CTRL + クリックを使用して複数のゾーンを選択します。



ツールバー

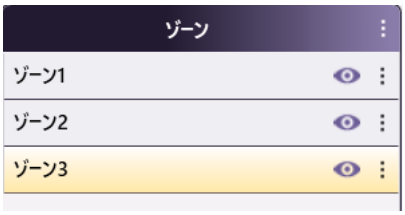
プレビュー領域の上部にあるツールバーを使用して、ゾーンをさらに定義し、ノードのプロパティウィンドウのビューをカスタマイズします。

ツールバーのドロップダウンパレットを使用しているときは、**[Enter]** キーを押すか、パレット外側の任意の場所をクリックすると、それらの変更内容がゾーンに適用されます。

ツールバーアイコン	説明
	[ゾーンテストを実行] - クリックして、定義したゾーンをテストします。
	[ゾーンテストの設定] - クリックして、タイムアウトが発生するまでの通信なしの時間に割り当てられた秒数を変更します。
	[ゾーン座標アイコン] - クリックして、ゾーンの特定の座標を定義します。**[幅]** フィールドと **[高さ]** フィールドに値(ピクセル単位)を入力することで、ゾーンのサイズを変更できます。**[左]** フィールドと **[上]** フィールドに値(ピクセル単位)を入力して、ゾーンの位置を移動することもできます。
	**[ゾーンのページ範囲アイコン]** - このドロップダウンパレットを使用して、ゾーンを適用するページを指定します。オプションは次のとおりです。 • **[許容範囲内のすべてのページ]** - 指定した範囲内のすべてのページにゾーンを適用するには、このラジオボタンを選択します。これは、ドキュメントの最初のページで構成されたゾーンが、ドキュメント内の残りのページに自動的に適用されることを意味します(指定された **処理するページの範囲** が「すべてのページ」の場合)。 • **[使用可能な範囲の次のページのみ]** - このラジオボタンを選択すると、許容範囲内の特定の範囲のページにのみゾーンが適用されます。表示されたフィールドにページ範囲を入力します。たとえば、5ページのドキュメントの場合、「1-3」、「1,2,5」、「1&4」、「1-3、5」のいずれかが受け入れ可能なエントリです。 これらの設定は、[新しいゾーンの追加]パレットで最初にゾーンを作成するときにも設定できます。
	[削除アイコン] - クリックして、選択したゾーンを削除します。
	[ページアイコン] - 矢印をクリックして、サンプルドキュメントの複数のページをナビゲートします(利用可能な場合)。
	[サンプルイメージアイコン] - [検索]をクリックして、プレビュー領域で使用する別のサンプル画像をアップロードします。
	[実際のサイズアイコン] - クリックして、プレビューサンプルドキュメントをオリジナルのサイズに戻します。
	[幅に合わせるアイコン] - クリックして、プレビューサンプルドキュメントをオリジナルのサイズに戻します。
	[ページ全体アイコン] - クリックして、サンプルドキュメントをプレビュー領域に完全に合わせます。
	**[ズームコントロール]** - 虫眼鏡アイコンまたはスライドバーを使用して、プレビュー領域をズームイン/ズームアウトします。

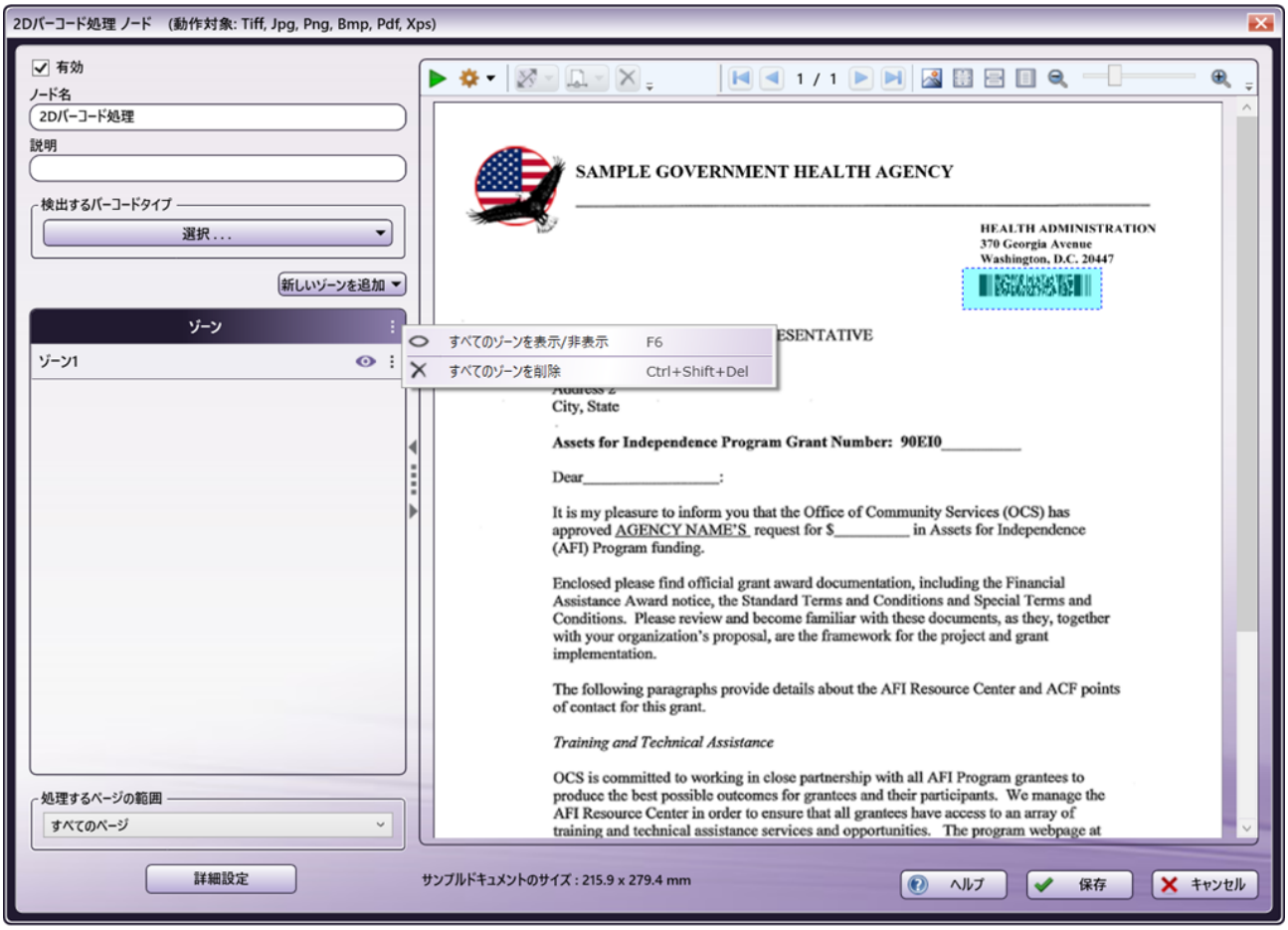
ゾーンリスト

次の図に示すように、この領域にはノードに定義されているすべてのゾーンが表示されます。



この領域には、ノードに定義されているすべてのゾーンが表示されます。この領域では、次の操作ができます。

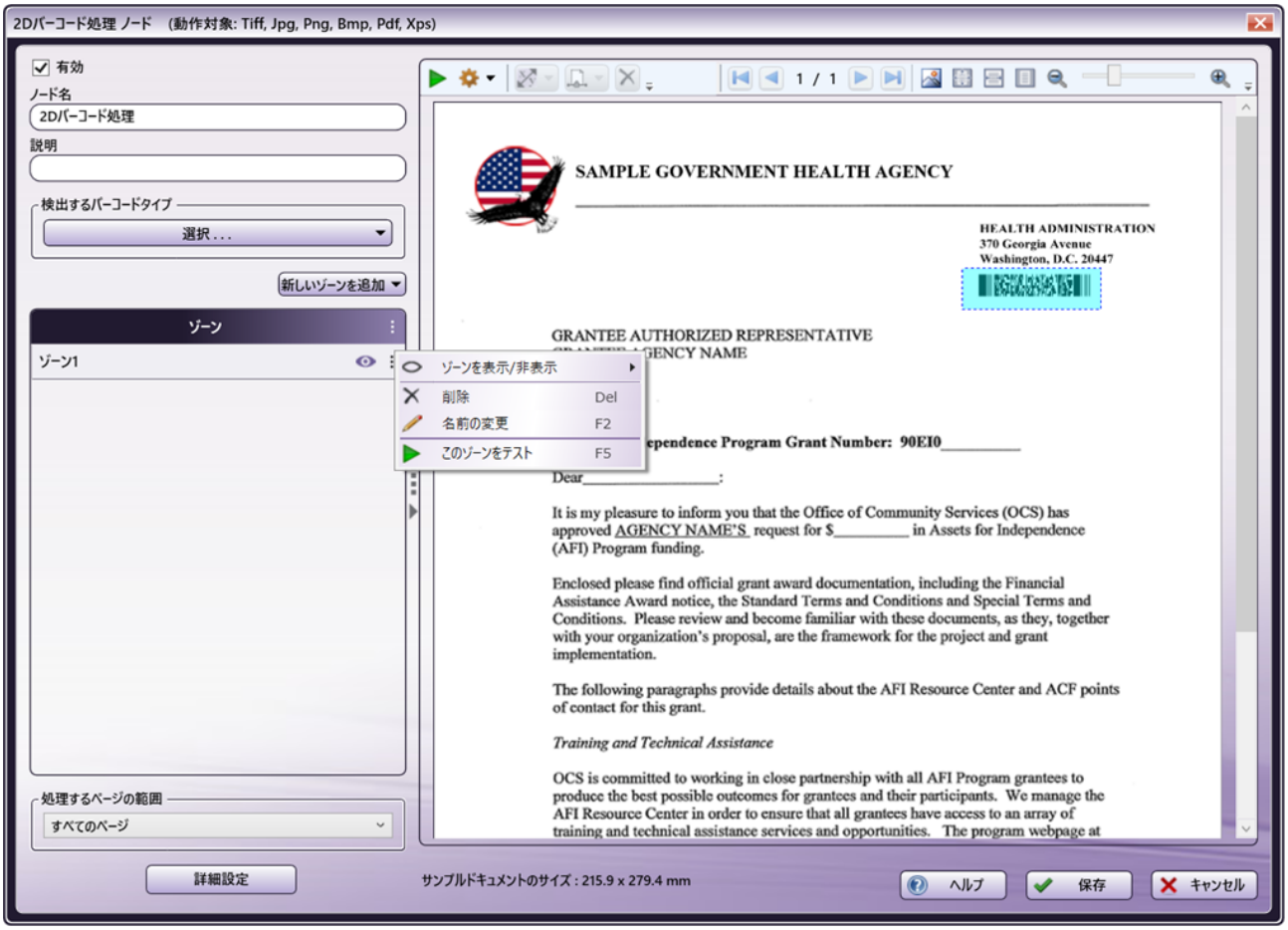
ゾーンの追加オプションにアクセスするには、以下に示すように、ゾーン領域の右上にある ⋮ アイコンをクリックして、[**その他のアクション**] メニューを開きます。



ゾーン 領域の3つのドットをクリックすると、次の操作ができるコンテキストメニューが開きます。

メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
すべてのゾーンを表示/非表示	キャンバス上のすべてのゾーンの表示を切り替え、非表示の場合はリスト内の各ゾーンの横に「非表示」アイコン を表示します。現在の選択範囲に表示と非表示のゾーンが混在している場合、このオプションをクリックするとすべてのゾーンが非表示になります。	F6
すべてのゾーンを削除	ゾーンエディター/キャンバスからすべてのゾーンを削除します。	Ctrl+Shift+Del

ゾーンの横にある3つのドットをクリックすると、次の操作が可能になります。



メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
ゾーンを表示/非表示	次の表を参照	次の表を参照
削除	ゾーンエディター/キャンバスから1つのゾーンを削除します。	Del
名前の変更	右クリックのコンテキストメニューからゾーンの名前を変更します。	F2
このゾーンをテスト	ユーザーが個別のゾーンをテスト、およびデバッグできるように、1つのゾーンを実行してテストします。	F5

ゾーンの表示/非表示 の2番目のメニューには、より多くのオプションがあります。

メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
すべてのゾーンを表示/非表示	キャンバス上のすべてのゾーンの表示を切り替え、非表示の場合はリスト内の各ゾーンの横に「非表示」アイコン を表示します。現在の選択に、表示されているゾーンと非表示のゾーンが混在している場合、このオプションをクリックするとすべてのゾーンが非表示になります。	F6
このゾーンを表示/非表示	キャンバス上のゾーンの可視性を切り替えます。	F7
これ以外のすべてのゾーンを非表示	選択したゾーンを除く、キャンバス上のすべてのゾーンを非表示にします。	F9

また、このノードは追加アクションにも対応しています。

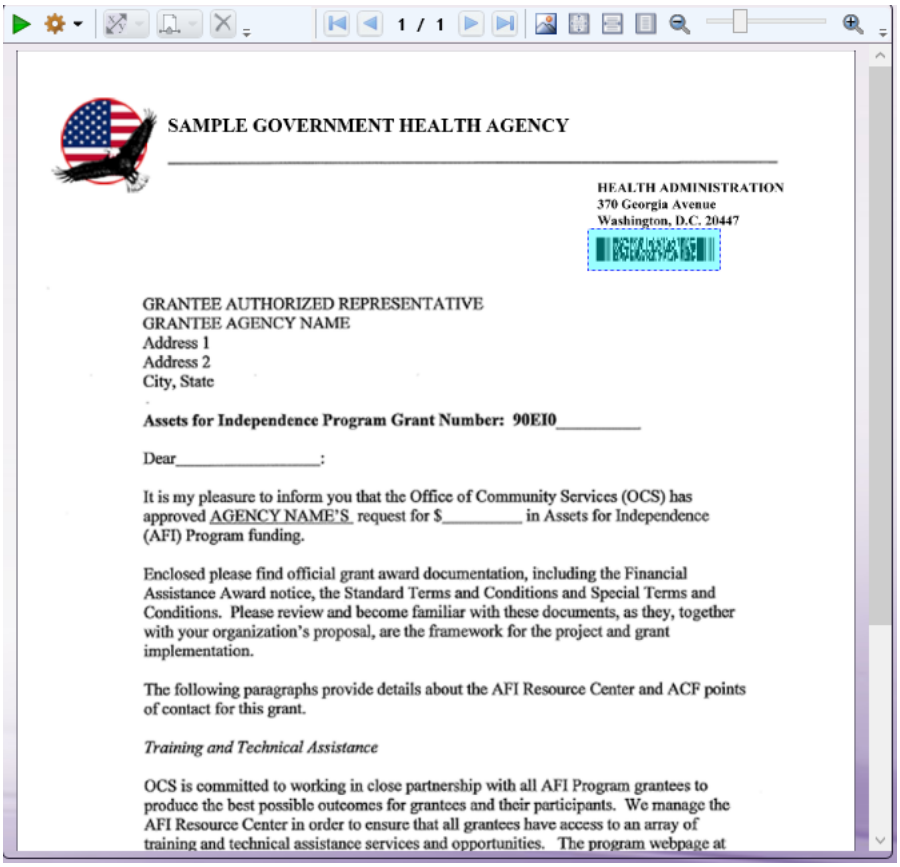
メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
選択したゾーンをテスト	選択した複数のゾーンを実行してテストし、ユーザーが一度に複数の選択したゾーンをテストおよびデバッグできるようにします。	F5
ゾーン値をWindowsクリップボードにコピー	検出されたゾーン値をWindowsクリップボードにコピーします。このコマンドには、ゾーン結果の右クリックコンテキストメニューからアクセスできます。	Ctrl+C
選択したゾーンを削除	ゾーンエディター/キャンバスから選択したゾーンを削除します。	Del

注: ゾーンリスト領域またはプレビューでゾーンを右クリックして、個々のゾーンのプロパティを **名前の変更** 、**削除** 、**表示/非表示** することもできます。領域をクリックし、表示されるコンテキストメニューからオプションを選択します。

プレビュー領域

プレビュー領域には、サンプルドキュメントと定義済みのゾーンが表示されます。プレビュー領域を使用して、次の操作ができます。

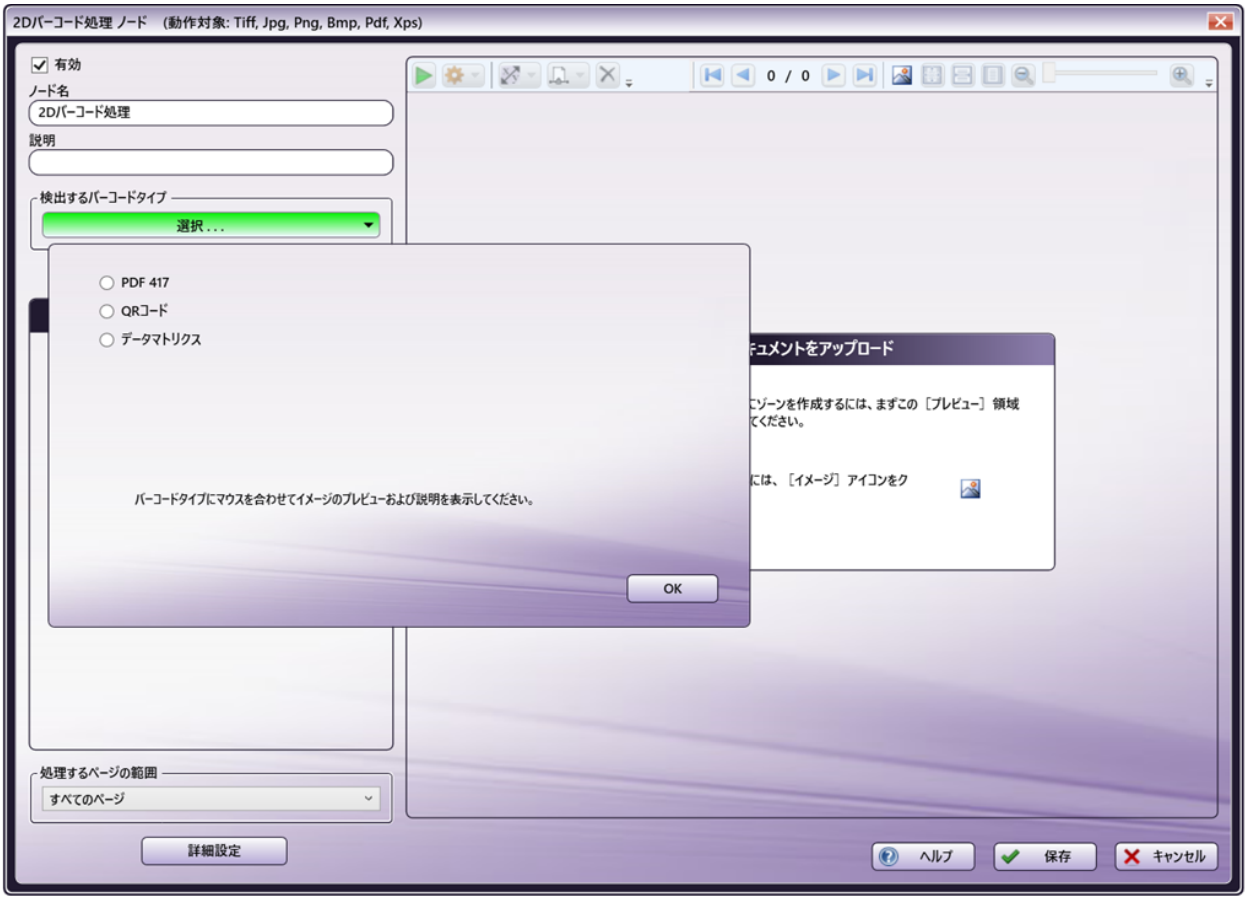
- ゾーンの境界ボックスの **サイズを変更** するには、境界ボックスを選択し、ボックスが目的のサイズになるまで適切なハンドルをドラッグします。
- 境界ボックスをクリックしてゾーンを **再配置** し、ボックスを目的の位置にドラッグします。
- **複数のゾーンを選択** するには、選択するゾーンの上でマウスをクリックしてドラッグします。任意の余白から始めます。1つのゾーンを選択し、Shiftキーを押しながら別のゾーンを選択することで、複数のゾーンを選択することもできます。
- ゾーンを選択してキーボードのDeleteキーを押して **削除** します。確認メッセージが表示されます。
- ツールバーの **アップロード** アイコンをクリックし、別のドキュメントを選択して、**別のサンプルドキュメントをアップロード** します。元のドキュメントにゾーンを定義した場合、新しいドキュメントを選択するとポップアップウィンドウが表示され、ゾーンを保持するか破棄するかを選択する必要があります。



バーコードタイプの選択

[検出するバーコードタイプ] フィールドで、ドロップダウンメニューを選択してバーコードタイプを選択します。

- PDF 417
- QRコード
- データマトリクス



注: このノードは、単一のゾーン内で複数のQRコードを検出できません。QRコードごとに新しいゾーンを作成する必要があります。

[OK] ボタンをクリックして、変更を保存します。

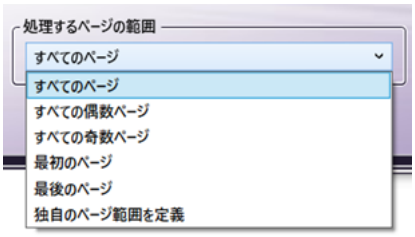
処理するページの範囲の指定

[処理するページの範囲] 領域を使用して、バーコードゾーン処理中に処理するページを指定します。オプションは次のとおりです。

- **[すべてのページ]** - すべてのページを処理します。
- **[すべての偶数ページ]** - 偶数ページを処理します。
- **[すべての奇数ページ]** - 奇数ページを処理します。
- **[最初のページ]** - 最初のページのみを処理します。
- **[最後のページ]** - 最後のページのみを処理します。
- **[独自のページ範囲を定義]** - カスタムページ範囲を処理します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力するための空のフィールドが表示されます。以下の操作を行います。
    - ドキュメントの先頭から数えてカンマまたはダッシュ記号を使用してページ範囲を指定します。たとえば、ページ1、2、5、6、および7を処理するには、1, 2, 5-7と入力します。
    - 括弧を使用して、ページ範囲内の特定1-10(3)と入力して、1ページから10ページまでの3ページごとに処理します。
    - 「end」を使用して最後のページを指定します。たとえば、end(-5) - endと入力して、20ページのドキュメントの15～20ページを処理します。

  その他の例は次のとおりです。

    - 20ページのドキュメントの1、2、5、6、7、19ページを処理するには、「1,2,5-7, end(-1)」と入力します。
    - 20ページのドキュメントの10～15ページ目を処理するには、「10-end(-5)」と入力します。
    - 20ページのドキュメントの10～15ページを1ページおきに処理するには、「10-end(-5)(2)」と入力します。
    - 25ページのドキュメントの15～20ページ目を処理するには、「end(-10)-end(-5)」と入力します。
    - 20ページのドキュメントの10～20ページ目を処理するには、「end(-10)-end」と入力します。



注: 入力ドキュメントのページ数に対応しないページ範囲を指定した場合（たとえば、3ページのドキュメントの10～20ページ目を処理するように指定した場合など）、ファイルはエラーになります。

2Dバーコードメタデータ

2Dバーコードゾーンを定義すると、ワークフロー内の他のノードがそれを参照できるようになります。

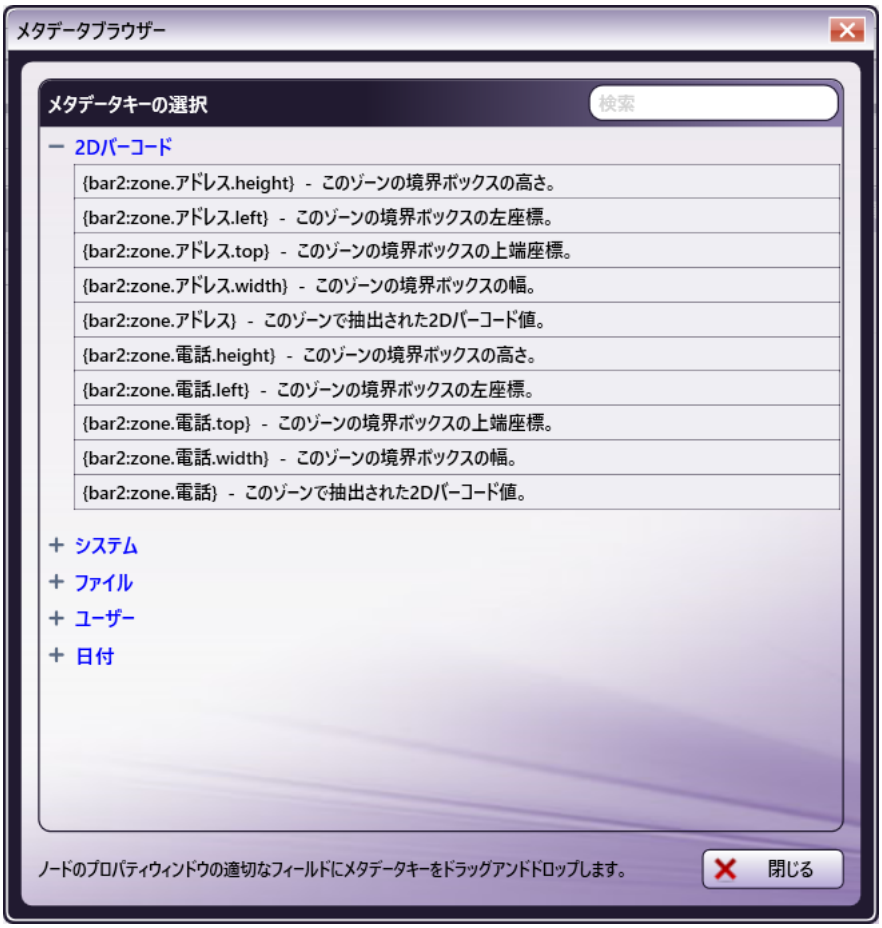
OCRゾーン参照の構文は次のとおりです。このゾーンで抽出された値を提供します。

{bar2:zone.nameofzone.[<page>]}

OCRアプリケーションがゾーン内の値を検出した場所の構文は次のとおりです。ここでの、[zonecoordinate]は、ピクセルで定義された「上」、「左」、「幅」、または「高さ」のいずれかです。

{bar2:zone.nameofzone.[zonecoordinate]}

次の図のように、**メタデータブラウザーウィンドウ**を使用して、2Dバーコードゾーン変数を選択することもできます。



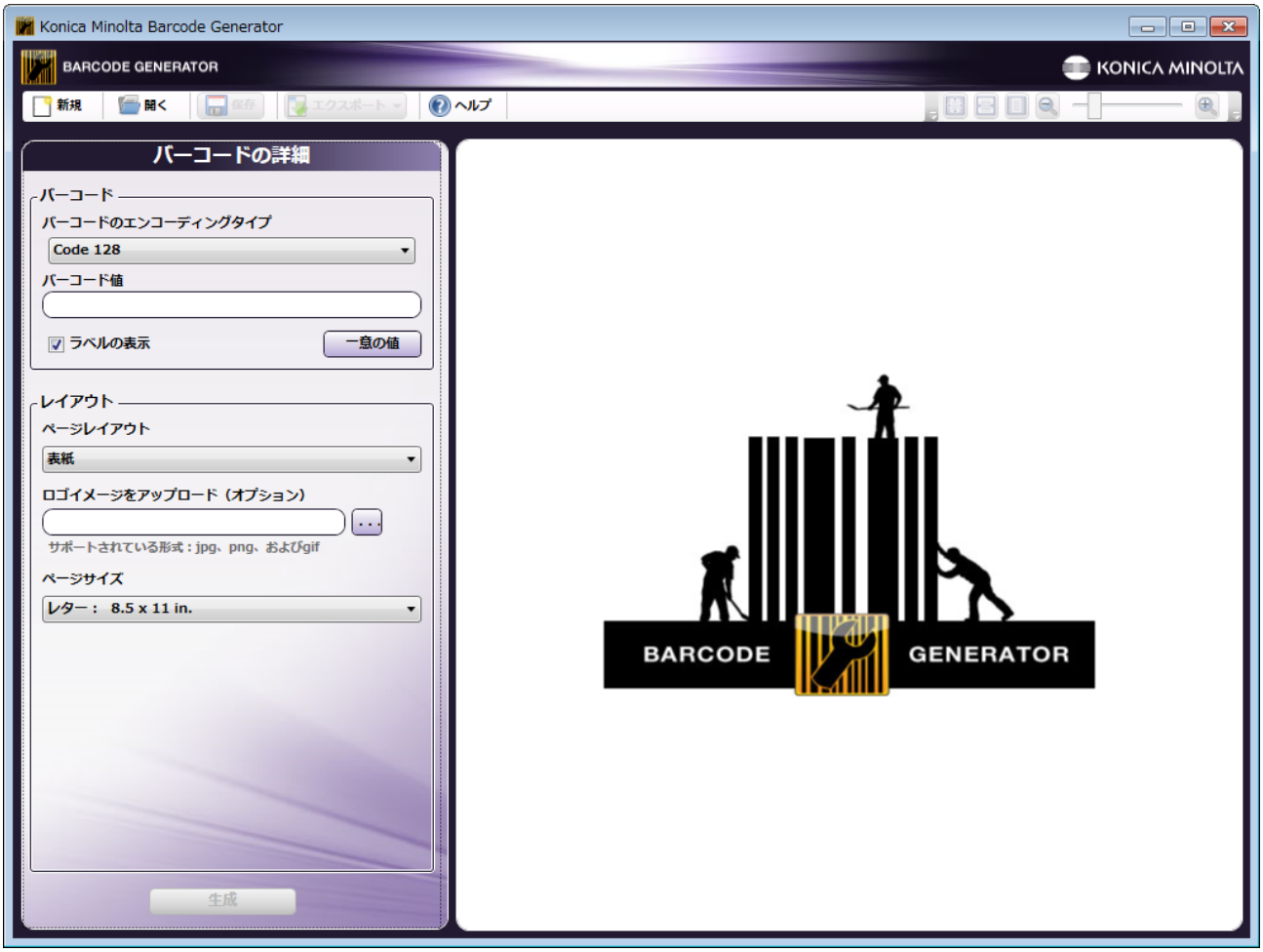
バーコードジェネレーター

バーコードジェネレーターは、バーコードの表紙ページ(説明情報を含む、または含まない)またはラベル印刷用のバーコードの複数列ページを生成するスタンドアロンツールです。ワークフロー内の生成されたバーコードを使用して、ドキュメントを分割して経路指定したり、ドキュメントに関する重要なメタデータ情報を抽出したりできます。バーコードジェネレーターは、さまざまなサイズ、タイプ、および値のバーコードを生成して、それらのバーコードをさまざまなイメージファイル形式で出力できます。

バーコードジェネレーターには、以下の場所からアクセスできます。

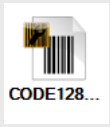
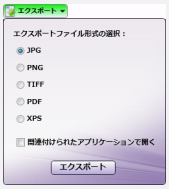
- Windowsの [スタート] メニュー (KONICA MINOLTAフォルダーに表示されます)。
- Dispatcher Phoenixのメインアプリケーション画面の [ツール] メニュー。
- バーコード処理ノードのプロパティウィンドウ。

- 保存されたバーコードジェネレーターファイルをダブルクリック。



ツールバーの使用

ツールバーのメニュー項目とアイコンは、バーコードを生成する際に役立ちます。

ツールバーアイコン	説明
	新しい バーコードの作成を開始します。
	バーコードジェネレーターによってすでに生成されて保存されている既存のバーコードを **開きます**
	生成されたバーコードを **保存** します。このバーコードはバーコードパッケージファイル(*.wfxb)として保存されます。バーコードパッケージファイルは、次の図のようになります。  - このアイコンをダブルクリックすると、バーコードジェネレーターが自動的に開かれます。
	生成されたバーコードを画像ファイル形式で **エクスポート** します。
	バーコードジェネレーターに関する **オンラインヘルプ** 情報を表示します。
	プレビューバーコード表紙ページ、またはラベルページを **元のサイズ**に戻します。キーボードショートカット: **[Ctrl]** + **[1]**。
	プレビュー領域の幅に合わせて、プレビューバーコード表紙ページ、またはラベルページを **拡大**します。キーボードショートカット: **[Ctrl]** + **[2]**。
	プレビューバーコードの表紙ページ、またはラベルページを **表示** して、プレビュー領域に完全に **収まる** ようにします。キーボードショートカット: **[Ctrl]** + **[3]**。
	ズーム イン/アウト (虫眼鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用)。キーボードショートカット: **[Ctrl]** と **[+]** を押してズームインします。**[Ctrl]** と **[-]** を押してズームアウトします。

バーコードの作成

バーコードを作成するには、ウィンドウの **バーコードの詳細**セクションでバーコードタイプを選択し、バーコード値を入力して、バーコード出力を選択する必要があります。完了後に **[生成]** ボタンを選択すると、生成されたバーコードがプレビュー領域に表示されます。

以下の操作を行います。

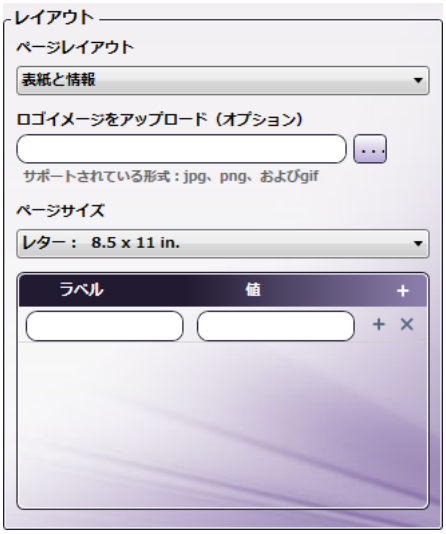
- **[バーコードのエンコーディングタイプ]** ドロップダウンリストからバーコードのタイプを選択します。バーコードジェネレーターは代表的なバーコードタイプをサポートしています。たとえば、Code 39、Code 128、Interleaved 2 of 5、EAN8、EAN13、UPC-A、UPC-E、Codabar、PostNetなどがサポートされています。
- 対応するバーコード値を **[バーコード値]** フィールドに入力します。正しい値は、指定されたバーコードタイプによって異なります。たとえば、バーコードタイプがEAN-13の場合は、12～13桁の数字を入力する必要があります。以下の点に注意してください。
    - Code 39は最大58文字をサポートしています。Code 39の文字セットは、大文字(A～Z)、数字(0～9)、および特殊文字(-、.、$、/、+、%、スペース)のみで構成できます。
    - Code 128とInterleaved 2 of 5は、最大100文字をサポートしています。
- 一意のバーコード値を生成するには、**[一意の値]** ボタンをクリックします。これにより、アプリケーション側で生成された値が [バーコード値] フィールドに自動的に入力されます。このボタンを使用できるのは、一意の値を受け付けるバーコードの場合のみです。
- 指定された値をバーコードの下に表示するには、**[ラベルの表示]** チェックボックスをオンにします。UPC-A、EAN 8、およびEAN 13のバーコードではチェックディジットが生成されます。これらのチェックディジットはスペースで区切って表示されます。
- **[ページレイアウト]** ドロップダウンリストからバーコードの出力を選択します。オプションは次のとおりです。
    - **[表紙]** - 指定されたバーコードが表記された表紙ページを生成します。既定のコニカミノルタロゴも表記されます。
    - **[表紙と情報]** - 指定されたバーコードとカスタマイズされた情報が表記された表紙ページを生成します。既定のコニカミノルタロゴも表記されます。詳細は下記を参照してください。
    - **[ラベル - Averyフォーム5161]** - Avery Form 5161シートに対応するように事前フォーマットされたバーコードラベルのシートを生成します。このオプションを選択した場合は、ページサイズを変更できなくなります。
    - **[ラベル - カスタムレイアウト]** - ユーザーがカスタマイズできるレイアウトを使用したバーコードラベルのシートを生成します。詳細は下記を参照してください。

      注: 表紙ページの生成時に提供される既定のロゴを変更するには、[ロゴイメージをアップロード] フィールドの横にある [参照] ボタンを選択して、適切な画像を探して選択します。サポートされている形式は、JPG、PNG、およびGIFです。

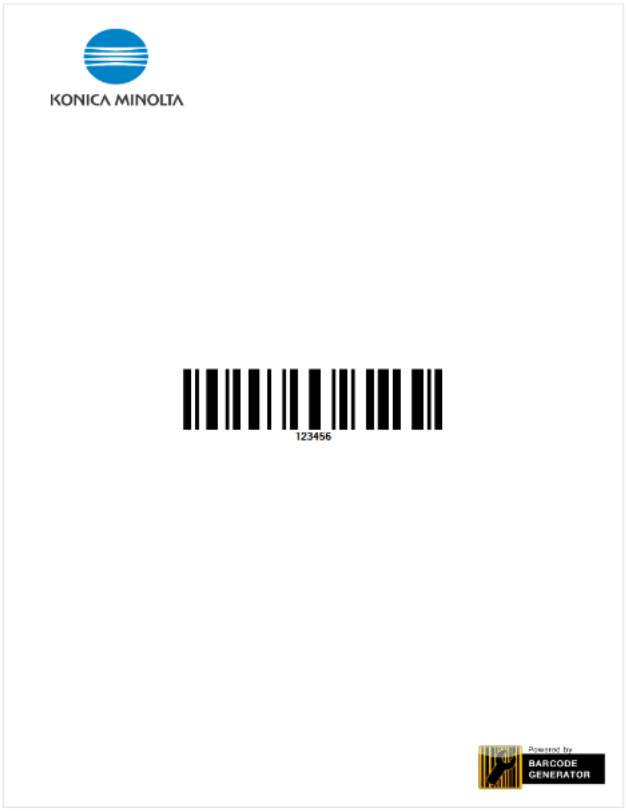
- 表紙ページまたはラベルページのサイズを **[ページサイズ]** ドロップダウンリストから選択します。

情報付き表紙ページの指定

説明情報が表記された表紙ページを作成することを選択した場合は、次の図で示すように、[ページレイアウト] ドロップダウンリストの下に追加のフィールドが表示されます。

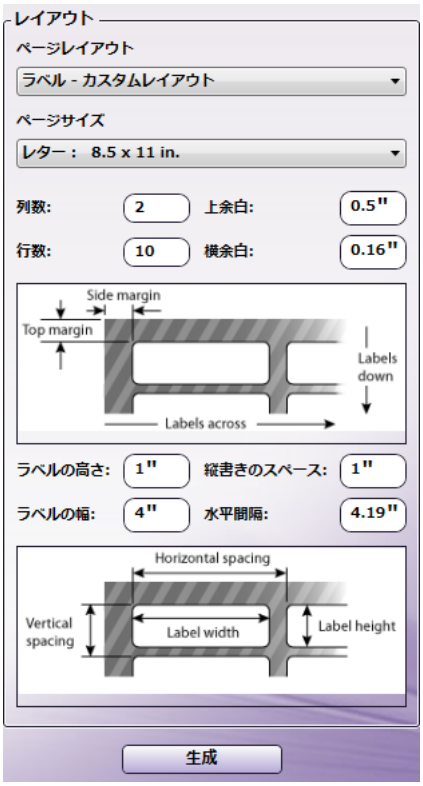


[ラベル] フィールドと **[値]** フィールドに、具体的な情報を入力します(日付と作成者など)。もう1行の空白フィールドを追加するには、**[+]** アイコンをクリックします。行を削除するには、**[X]** アイコンをクリックします。この情報は次の図で示すように、生成されたバーコードの下に表示されます。



カスタムレイアウトを使用したラベルの指定

ラベルとして印刷されるバーコードのシートを作成する場合に、レイアウトをカスタマイズするには、**[ページレイアウト]** ドロップダウンリストから **[ラベル - カスタムレイアウト]** オプションを選択します。次の図で示すように、[レイアウト]領域に追加のフィールド(および画像)が表示されます。



以下の操作を行います。

1. **[列数]** フィールドを使用して、ページ全体に配置するラベルの数を入力します。
2. **[行数]** フィールドを使用して、ページの下に配置するラベルの数を入力します。
3. **[上余白]** および **[横余白]** フィールドを使用して、余白の指定を入力します。
4. **[ラベルの高さ]** フィールドと **[ラベルの幅]** フィールドを使用して、単一のラベルの正確な高さと幅の測定値を入力します。
5. **[縦書きのスペース]** および **[水平間隔]** フィールドを使用して、ページ上のラベル間の間隔を調整します。

注: すべての値はインチ単位 (1インチ = 25.4mm) です。

バーコードのエクスポート

ラベルが生成されたら、バーコード表紙ページまたはラベルページをエクスポートできます。ツールバーの **[エクスポート]** ボタンを選択します。次のファイル形式にエクスポートできます。

- JPG
- PNG
- TIFF
- PDF
- XPS

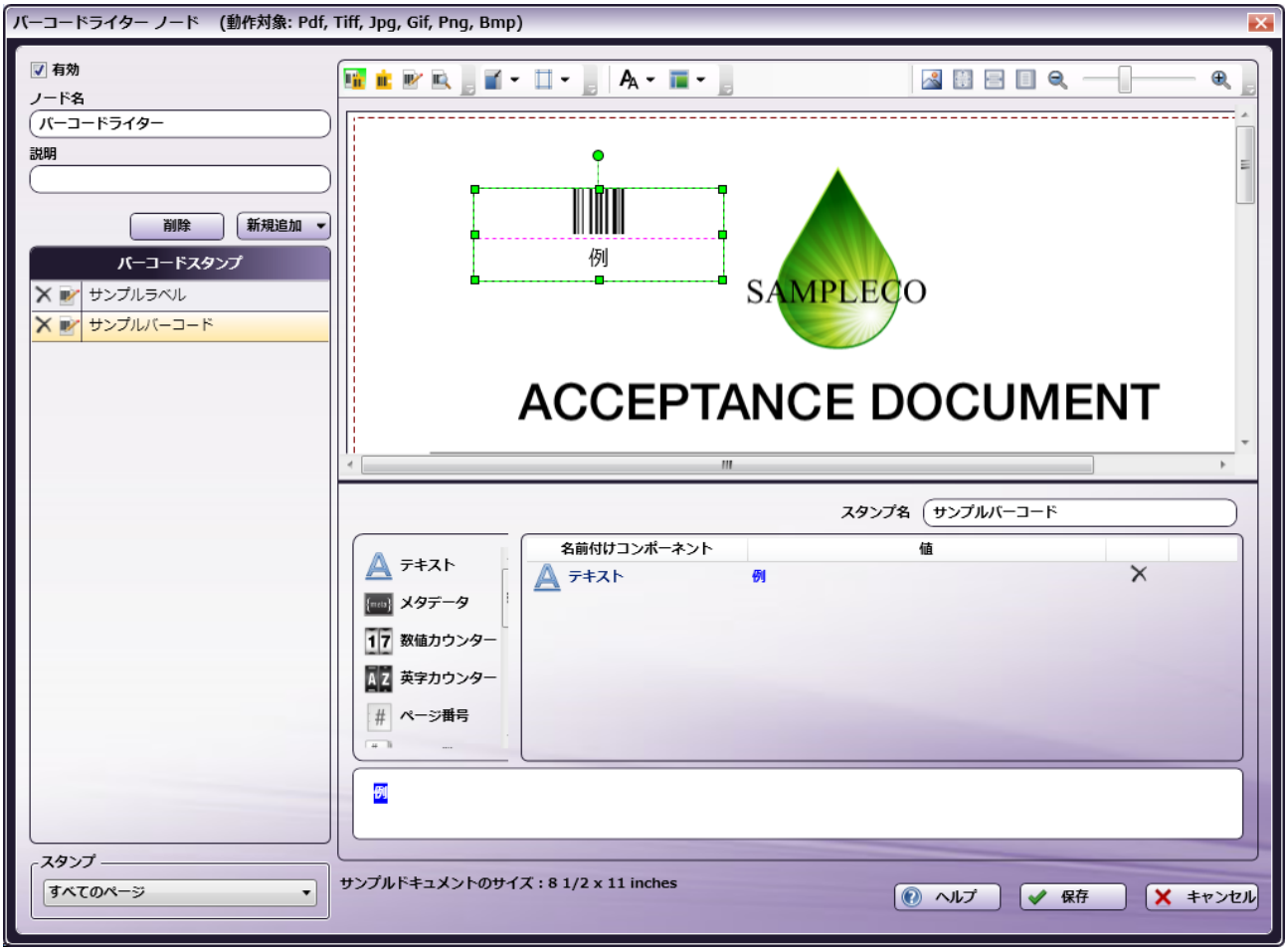
バーコードが生成されたときに、関連するアプリケーションでバーコードを開くこともできます。適切なファイル形式を選択したら、**[エクスポート]** ボタンをクリックします。Windowsエクスプローラーウィンドウが表示され、エクスポートされたファイルを正しい場所に保存できます。既定では、ファイル名はバーコードタイプの名前になります (例:EAN13.png)。エクスポートされたページの上部にコニカミノルタのロゴが表示され、ページの下部に「Powered by Barcode Generator」アイコンが表示されます。

バーコードライター

バーコードライターノードは、カスタマイズされたバーコードとバーコードラベルを1つまたは複数作成し、スキャンされたイメージファイル上に配置する場合に使用します。Code 39バーコードとCode128バーコードおよびQRコードを作成できます。このノードに必要なバーコードフォントは、バーコードライターモジュールと共に自動的にインストールされます。

このノードでは、ページ内の好きな位置に垂直または水平にバーコードを配置できます。バーコードを90°回転させることもできます。配置と書式に関する他の詳細オプションも使用できます。たとえば、バーコード用のスペースを確保するために、ページコンテンツのサイズを縮小したり、ページ上でのコンテンツの位置を移動したりできます。このノードは、TIFF、JPG、GIF、PNG、BMP、およびPDFのファイルに対応しています。

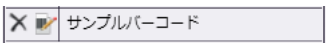
バーコードライターノードのプロパティウィンドウを開くには、**バーコードライター** 処理ノードをワークフロービルダーのキャンバスに追加して、そのノードをダブルクリックします。バーコードライターノードウィンドウは、次の図のようになります。



バーコードスタンプリスト

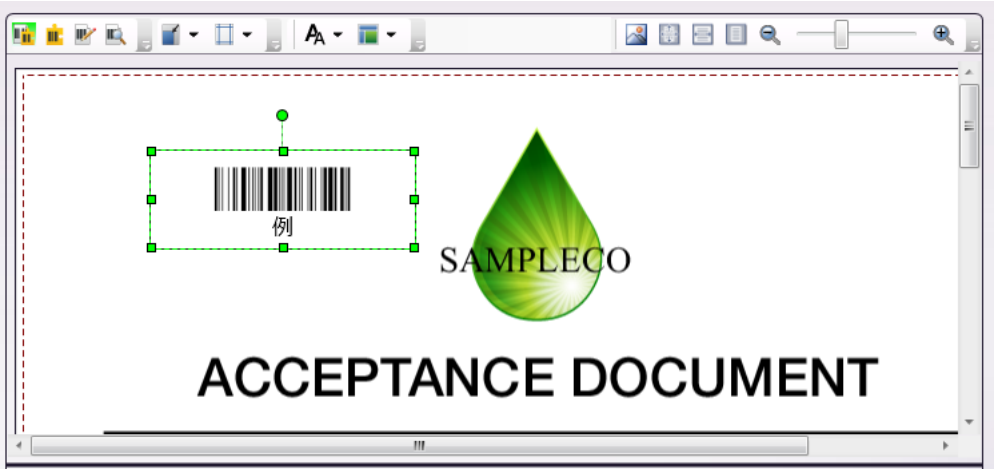
[バーコードスタンプ]リスト領域では、以下の操作を行うことができます。

- **[バーコード/ラベルを並べ替える]** ページ上で重なり合っている複数のバーコードやバーコードラベルを操作する場合は、表示されているバーコード/ラベルをドラッグアンドドロップして並べ替えることができます。
- **[バーコードまたはバーコードラベルの名前を編集する]** バーコードまたはバーコードラベルの特定に使用されている名前を変更するには、その名前の横にある **編集** アイコンをクリックするか、その名前をダブルクリックします。
- **[定義済みのバーコードまたはバーコードラベルを削除する]** 名前の横にある **[削除]** アイコンをクリックするか、[バーコードスタンプ]リストでそのバーコードまたはバーコードラベルを選択してからキーボードの **[Delete]** キーを押します。確認メッセージが表示されて、そのバーコード/ラベルを本当に削除するかどうかが尋ねられます。



バーコードの編集 領域

[バーコードの編集]領域には、定義済みのバーコード/ラベルが配置されたサンプルドキュメントが表示されます。サンプルドキュメント上では、余白は赤色で表示されます。既定では、次の図に示すように、「例」という値を持つ定義済みのCode 128バーコードと、サンプルバーコードの値を示すバーコードラベルがあらかじめ入力されています。



以下の操作ができます。

- 境界ボックスの **[サイズを変更]** するには、[バーコードの編集]領域で境界ボックスを選択して、適切なハンドルをドラッグしてボックスを希望のサイズに変更します。
- 境界ボックスを **[回転]** するには、[バーコードの編集]領域で境界ボックスをクリックして、ボックスの上部にある回転ハンドルを90°ずつドラッグして、ボックスを希望の角度に回転します。
- 境界ボックスを別の位置に **[移動]** するには、[バーコードの編集]領域で境界ボックスをクリックして、ボックスを希望の位置にドラッグします。バーコードまたはバーコードラベルを選択してから、キーボードの矢印キーを使用してバーコードまたはバーコードラベルを移動することもできます。
- 矩形領域内の **[複数のバーコード/ラベルを選択する]** には、マーキー枠をマウスでドラッグして選択対象のバーコード/ラベルを囲みます。この操作は、サンプルドキュメントの外側から開始する必要があります。または、ページコンテンツが移動されている場合は、任意の空白領域から開始する必要があります。別の方法として、1つのバーコード/バーコードラベルを選択した後に **[Shift]** キーを押しながら別のバーコード/バーコードラベルを選択することで、複数のバーコード/バーコードラベルを選択することもできます。
- 矩形領域内のすべてのオブジェクトを選択するには、選択ツールを使用して、マーキー枠をドラッグして選択対象のオブジェクトを囲みます。
- バーコード/バーコードラベルを **[削除]** するには、そのバーコード/バーコードラベルを選択してからキーボードの **[Delete]** キーを押します。確認メッセージが表示されます。
- **[サンプルコンテンツを移動]** するには、サンプルドキュメントを選択してから、マウスでドラッグします（またはキーボードの矢印キーを使用してサンプルドキュメントを移動します）。
- 異なるサンプルドキュメント上でバーコード/ラベルを表示するには、ツールバーの **[イメージ]** アイコンをクリックします。

コンポーネント領域

[コンポーネント]領域は、バーコードとバーコードラベルを設計できる[バーコードライターノード]ウィンドウのセクションです。バーコードまたはバーコードラベルを作成するために使用できるすべての名前付けコンポーネントは、アイコンとして左側に一覧表示されています。また、この領域にある **[スタンプ名]** フィールドでは、バーコードまたはバーコードラベルの名前を必要に応じて編集できます。

ウィンドウの下部にある結果領域には、次の図で示すように、すでに定義されているコンポーネントが表示されます。

ツールバー

ウィンドウの上部にあるツールバーを使用して、バーコードまたはバーコードラベルの外観、ページコンテンツの外観、および実際のウィンドウ自体のプロパティを構成できます。ウィンドウの外観に加えた変更は、このウィンドウを次回に開いたときも保持されます。

ツールバーのドロップダウンパレットを使用しているときは、**[Enter]** キーを押すか、パレット外側の任意の場所をクリックすると、それらの変更内容が[バーコードの編集]領域に保存されます。ツールバーにあるオプションのいくつかは、[バーコードの編集]領域を対象としたものであり、[コンポーネント]領域には適用されません。

ツールバーアイコン	説明
	[バーコードの編集] 領域と **[コンポーネント]** 領域の両方を表示します。これが既定の設定です。
	[コンポーネント] 領域のみをウィンドウに表示します。
	[バーコードの編集] 領域のみをウィンドウに表示します。
	[印刷プレビュー] を表示します。このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメント上のバーコード/バーコードラベルの最終出力が表示されます。印刷プレビューではバーコード/バーコードラベルのコンテンツを整形することはできません。
	ページのコンテンツを **[縮小]** および **[移動]** します。
	ページの **[余白]** を指定します。
	[フォント] ドロップダウンパレットからフォントを選択してカスタマイズします。選択できる項目は、バーコードまたはバーコードラベルのフォントサイズ、境界ボックス内のバーコードまたはバーコードラベルの位置揃え（左、中央、右）、および境界ボックス内のバーコードまたはバーコードラベルの配置（中央上部、中央、中央下部）です。
	[レイアウト] ドロップダウンパレットでさまざまなオプションを指定して、境界ボックスのレイアウトをカスタマイズします。これらの変更は、[バーコードの編集]領域の境界ボックスのサイズを変更または移動することによって手動で行うこともできることに注意してください。 • 境界ボックスの幅を指定するには、**[幅]** フィールドに適切な値をピクセル単位で入力します。 • 境界ボックスの高さを指定するには、**[高さ]** フィールドに適切な値をピクセル単位で入力します。 • ドキュメントの左または上、あるいはその両方から境界ボックスの配置を指定するには、**[左]** または **[上]** フィールドに適切な値をピクセル単位で入力します。 • 境界ボックスの角度を指定するには、**[角度]** スライドバーを使用するか、空白のフィールドに適切な値を入力します。
	[バーコードの編集]領域で使用する別の **[サンプルドキュメント]** を見つけてアップロードします。
	プレビューのサンプルドキュメントを **元のサイズに戻します** 。キーボードショートカット: **[Ctrl]** + **[1]**
	[バーコードの編集]領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを **拡大** します。キーボードショートカット: **[Ctrl]** + **[2]**
	サンプルドキュメント全体が[バーコードの編集]領域にちょうど **収まる** ように表示します。キーボードショートカット: **[Ctrl]** + **[3]**
	ズーム イン/アウトします（虫眼鏡のアイコンまたはスライドバーを使用）。キーボードショートカット: ズームインするには **[Ctrl]** キーを押しながら **[+]** キーを押します。ズームアウトするには **[Ctrl]** キーを押しながら **[-]** キーを押します。

バーコードライター ウィンドウの使用

バーコードライターウィンドウでは、バーコードとバーコードラベルを自由にカスタマイズおよび整理できます。このノードを設定する際は、以下のことを必ず行ってください。

- ワークフローの実行時にノードが処理されるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「ポジティブ方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件についてチェックされないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、バーコードライターノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、バーコードライターノードの説明を入力します。このフィールドは必須ではありませんが、ノードの内容を明確に示すために役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- ノードのカスタマイズが完了したら、**[保存]** ボタンを選択してバーコードとラベルを保存します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

サンプルドキュメントのアップロード

ツールバーの **[アップロード]** アイコンをクリックすると、ユーザー独自のサンプルドキュメントをアップロードして、バーコードとラベルを構成する際にプレビューとして使用できます。アプリケーションには、各種サイズのサンプルドキュメントが5つ用意されており（ **A4、レター縦長、レター横長、リーガル、およびタブロイド** ）、これらを使用することもできます。独自のドキュメントをアップロードする場合は、PDFファイルをサンプルドキュメントとして使用することはできない点に注意してください。

[アップロード] アイコンをクリックすると、[イメージの選択]参照フォルダーが表示され、このフォルダーから適切なサイズのドキュメントを選択できます。

注: サンプルドキュメントは、最小でも½インチ（12.70mm） x ½インチ（12.70mm）の大きさが必要です。

ページのコンテンツの縮小と移動

バーコードまたはラベルによってページの重要な情報が見づらくならないように、ページのコンテンツを縮小したり、移動したりする必要が生じることがあります。

- ページのコンテンツを縮小するには、ツールバーの **[縮小]** アイコンをクリックしてから、**[イメージの縮小]** スライドバーを使用して、コンテンツを縮小するパーセントを指定します。スライドバーの右側にあるフィールドに、パーセントの数値を入力することもできます。
- コンテンツの位置を移動するには、**[イメージの移動]** の **[上]**、**[下]**、**[左]**、**[右]** の矢印を使用するか、**[左]** と **[上]** の両フィールドに位置の移動量(ピクセル)を入力するか、マウスを使用してコンテンツを選択してドラッグします。コンテンツをページの中央に配置するには、**[中央の四角形]** をクリックします。位置を移動する際に、コンテンツがページ境界の外側にはみ出るとコンテンツが切り取られます。
- 矢印を1回クリックすると、コンテンツが一度に1ピクセルずつ移動します。ただし、移動速度を高める場合は、矢印をクリックして左マウスボタンを押したままにすることができます。速度をさらに高めるには、矢印をクリックした後で左マウスボタンを押したままにして、**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーのどちらかを押します。コンテンツを最も高速に移動するには、矢印をクリックしてから左マウスボタンを押したままにして、**[Ctrl]** + **[Shift]** キーを両方とも押します。

余白の指定

ドキュメントの余白を変更する場合は、ツールバーの **[余白]** アイコンをクリックして、**[上]**、**[下]**、**[左]**、**[右]** の各フィールドに新しい値を入力します。必要な場合は、これらのページの余白の限界を越えてバーコードまたはラベルを配置できます。余白は参考のために用意されています。バーコードとラベルのレイアウトを決めるときにも有効です。余白の測定単位はインチです。

注: 入力ドキュメントに、このノードで指定されたページ余白より小さなページが含まれている場合、これらのページがバーコード/ラベルのスタンプ対象として選択されていると、ファイルはエラーになります。

バーコード/バーコードラベルの挿入

バーコード/バーコードラベルをドキュメントに挿入するためのノードをカスタマイズするには、以下の操作を行います。

1. [バーコードスタンプ]領域で、以下の操作の **いずれか** を行います。
    - このノードであらかじめ定義されている「サンプルバーコード」バーコードまたは「サンプルラベル」ラベルを選択するか、*または*
    - **[新規追加]** ボタンを選択します。
2. **[新規追加]** ボタンを選択すると、次の図に示すようなドロップダウンパレットが表示されます。

[新規追加] パレット上で、以下の操作を行います。

- **[スタンプ名]** フィールドに、バーコードまたはバーコードラベルの名前を入力します(これにより、ノード内でバーコードまたはバーコードラベルを特定できます)。この名前は、**コンポーネント**領域で編集することもできます。
- **[バーコードタイプ]** ラジオボタンで、挿入するバーコードのタイプ(Code 39, UTF 128 B, または QRコード)を選択するか、あるいはバーコードラベルに挿入する**テキスト**を選択します。
- **[既定のアンカー位置]** ボックスの下にあるラジオボタンで、バーコード/ラベルの開始位置を選択します。ただし、この位置を定義した後も、**[レイアウト]** ドロップダウンパレットを使用するか、**[バーコードの編集]** 領域でマウスを使って境界ボックスを移動することによって、この位置を変更できます。
- 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

既存のバーコード/バーコードラベルと同じ位置に新しいバーコード/バーコードラベルを配置した場合、新しいバーコード/ラベルは、既存のバーコードのすぐ下に配置されます。

3. **[スタンプ]** プルダウンメニューを使用して、バーコードまたはラベルを付けるページを指定します。オプションは次のとおりです。
    - **[すべてのページ]** - すべてのページにバーコード/ラベルを挿入します。
    - **[すべての偶数ページ]** - 偶数ページにバーコード/ラベルを挿入します。
    - **[すべての奇数ページ]** - 奇数ページにバーコード/ラベルを挿入します。
    - **[最初のページ]** - 最初のページのみにバーコード/ラベルを挿入します。
    - **[最後のページ]** - 最後のページのみにバーコード/ラベルを挿入します。
    - **[独自のページ範囲を定義]** - バーコード/ラベルを適用するページ範囲を独自に定義します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力するための空のフィールドが表示されます。以下の操作を行います。
        - ドキュメントの先頭から数えたページ範囲を指定するには、カンマ記号またはダッシュ記号（あるいはその両方）を使用します。たとえば、「1,2, 5-7」と入力すると、1、2、5、6、7ページが処理されます。
        - ページ範囲内でスタンプを押す並びを指定するには、かっこを使用します。たとえば、「1-10(3)」と入力すると、1～10ページまで2ページおきにバーコード/ラベルが挿入されます。
        - 最後のページを指定するには、「end」を使用します。たとえば、「end(-5) - end」と入力すると、20ページあるドキュメントの15～20ページ目にバーコード/ラベルが挿入されます。

    ほかには、以下のような例があります。

    20ページあるドキュメントの1、2、5、6、7、19ページ目にバーコード/ラベルを追加するには、「1,2,5-7, end(-1)」と入力します。

    20ページあるドキュメントの10～15ページ目にバーコード/ラベルを追加するには、「10-end(-5)」と入力します。

    20ページあるドキュメントの10～15ページに1ページおきにバーコード/ラベルを追加するには、「10-end(-5)(2)」と入力します。

    25ページあるドキュメントの15～20ページ目にバーコード/ラベルを追加するには、「end(-10)-end(-5)」と入力します。

    20ページあるドキュメントの10～20ページ目にバーコード/ラベルを追加するには、「end(-10)-end」と入力します。

    注: 入力ドキュメントのページ数に対応しないページ範囲を指定した場合（3ページのドキュメントに対して10～20ページ目にバーコード/ラベルを追加した場合など）、ファイルはエラーになります。
4. バーコードまたはバーコードラベルをカスタマイズするには、名前付けコンポーネントをコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップします。この領域内でコンポーネントをドラッグアンドドロップすることによって、コンポーネントの順序をいつでも変更できます。

バーコードメタデータ

バーコードを作成したら、ワークフロー内の他のノードでそのバーコードを参照できます。バーコードライターを参照するための構文は、{bar: バーコードの名前 [<page>]}です。

注: バーコードラベルのメタデータはキャプチャされません。

以下の図に示すように、[メタデータブラウザー]ウィンドウを使用してバーコードライター変数を選択することもできます。

さまざまなドキュメントサイズに合わせたバーコードの位置とサイズの設定

バーコードとラベルを構成する際には、バーコードが適用されるイメージの寸法に関係なく、指定した *余白* と *フォントサイズ* が同じ値に保たれることに注意してください。ただし、テキストを配置できる最大領域を示すバーコード/ラベルの境界ボックスのサイズと位置は、ドキュメントサイズに比例して調整されます。

たとえば、フォントサイズ12 ptを指定して180 x 50ピクセルの境界ボックスの中央に揃えられたバーコードが、8 ½ x 14のサンプルドキュメントの左上に配置された場合と、5 x 7のドキュメントに適用された場合では、表示が大幅に異なります。小さいドキュメントでは境界ボックスが縮小され、バーコード/ラベルはボックス内に完全には収まらなくなります。

一方、QRコードはフォントによってサイズは変更されません。QRコード自体が反応します。QRコードのサイズは、フォントサイズを増減することで変更できません。QRコードの最小サイズは29ピクセル x 29ピクセルです。

サイズの異なるドキュメントに幅広く対応するためには、以下のことを試してください。

- [バーコードの編集]領域に他のサンプルドキュメントをアップロードして、さまざまなドキュメント上でバーコード/ラベルをレイアウトします。サンプルイメージは、処理するドキュメントの代表例を示すものにする必要があります。
- すべてのバーコード/ラベルを表示するために十分な境界ボックスの大きさが保たれるように、境界ボックスの高さと幅のレイアウトを調整します。テキストが常に見えるようにする必要がある場合は、境界ボックスの高さをドキュメントの高さに合うように拡大します。

境界ボックスの絶対寸法の指定

処理対象のドキュメントに関係なく境界ボックスを同じサイズと位置に保つには、レイアウトパレットの **[絶対計測値を使用]** ボックスにチェックマークを付けます。このオプションを有効にすると、バーコード/ラベルは拡大縮小されなくなり、同じ状態に維持されます。このため、レイアウトの向きまたはサイズが異なるドキュメントを処理すると、バーコード/ラベルがページ外に配置される可能性があることに注意してください。

バーコードの名前付けコンポーネント

名前付けコンポーネント	説明
	[テキスト] - バーコード値にテキストを追加します。名前付けコンポーネントのメイン領域に **[テキスト]** アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックして適切なテキストを入力します。 1. 通常のバーコードのテキストコンポーネントには、標準の文字制限はありません。文字の最大数は、ページサイズによって決まります。 2. Code 39 バーコードにテキスト値を割り当てる場合、次の制限が適用されます。 ◦ 許可: A-Z [大文字のみ], 0-9, スペース, -, ., $, /, +, % ◦ 最大: なし 3. Code 128 バーコードにテキスト値を割り当てる場合、次の制限が適用されます。 ◦ 許可: a-z, A-Z, 0-9, space, !, “, #, $, %, &, ‘, (,), *, +, ,, -, ., /, [, ,], ^, _, ‘, . ◦ 最大: なし 4. QRコードにバーコードにテキスト値を割り当てる場合、次の制限が適用されます。 ◦ 数値 ▪ 許可: 0-9 ▪ 最大: 5,597 ◦ 英数字 ▪ 許可: 0-9, A-Z [大文字のみ], スペース, $, %, *, +, -, ., /, : ▪ 最大: 2,411 ◦ バイナリ ▪ 最大: 1,166 ◦ 漢字 ▪ 最大: 778
	[メタデータ] - ワークフロー内の他のノードから取得したメタデータに加え、日付、ファイル、およびシステム変数などのシステム定義メタデータをバーコード値に追加します。使用可能な変数の詳細については参照情報を参照してください。名前付けコンポーネントのメイン領域に **[メタデータ]** アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックしてから **[メタデータキーの選択]** ボタンをクリックして、メタデータブラウザーにアクセスします。
	[数値カウンター] - 数値の連続カウンターをバーコード値に追加します。**[数値カウンター]** アイコンを名前付けコンポーネントのメイン領域にドラッグアンドドロップしたら、アイコンをダブルクリックしてカウンターをカスタマイズします。表示されるフィールドで以下の操作を行います。 1. **[開始値]** フィールドに、カウンターの適切な開始値を入力します。開始値には最大255文字を指定できます。 2. **[終了値]** フィールドに、カウンターの適切な終了値を入力します。終了値には最大255文字を指定できます。 3. ドロップダウンリストで **[増分]** または **[減分]** のどちらかを選択して、ノードが処理されるたびにカウンターを増加させるか減少させるかを指定します。その隣の空のフィールドに、カウンターの適切な増加分または減少分の値を入力します。次の点に注意してください。 ◦ **[増分]** オプションを選択する場合、**[終了値]** は **[開始値]** より大きくする必要があります。 ◦ **[減分]** オプションを選択する場合、**[開始値]** は **[終了値]** より大きくする必要があります。 4. カウンターに先頭文字（スペース、ゼロ、またはその他の記号）を埋め込む場合は、**[先頭文字]** ドロップダウンリストから選択します。 5. カウンターの循環を無効にする場合は、**[サイクル]** ボックスのチェックマークを外します。これにより、カウンターが自動的に循環しなくなり、指定された終了値に達するとファイルはエラーになります。この時点で、カウンターのステータスは[期限切れ]に変更されます。 6. カウンターの進め方を変更するには、**[ドキュメントレベルカウンター]** ボックスにチェックマークを付けます。このオプションが有効になっていると、各ページではなくそれぞれの連続するドキュメントごとにカウンターが進みます。既定の動作では、各ドキュメントの各ページに順次カウンターが適用されます。 7. **[カウンターのステータス]** 領域には、カウンターの現在のステータスが、現在の値とともに表示されます。ワークフローが少なくとも1回実行された後、カウンターを元の「開始値」にリセットするには、**[リセット]** リンクを選択します。カウンターをリセットできないようにロックするには、**[ロック]** リンクを選択します。

名前付けコンポーネント	説明
	[アルファベットのカウンター] - アルファベットカウンターをバーコード値に追加します。名前付けコンポーネントのメイン領域に、**[アルファベットのカウンター]** アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックしてカウンターをカスタマイズします。表示されるフィールドで、以下の操作を行います。 1. **[開始値]** フィールドに、カウンターの適切な開始値を入力します。開始値には最大255文字を指定できます。 2. **[終了値]** フィールドに、カウンターの適切な終了値を入力します。終了値には最大255文字を指定できます。 3. ドロップダウンリストで **[増分]** または **[減分]** のどちらかを選択して、ノードが処理されるたびにカウンターを増加させるか減少させるかを指定します。その隣の空のフィールドに、カウンターの適切な増加分または減少分の値を入力します。このフィールドは、数値の入力のみを受け付けます。たとえば、開始値を「A」、終了値を「Z」として、増分2を指定すると、「A、C、E、G、I…」が生成されます。以下の点に注意してください。 ◦ **[増分]** オプションを選択する場合、**[終了値]** は **[開始値]** より大きくする必要があります。 ◦ **[減分]** オプションを選択する場合、**[開始値]** は **[終了値]** より大きくする必要があります。 4. カウンターに先頭文字（スペース、ゼロ、またはその他の記号）を埋め込む場合は、**[先頭文字]** ドロップダウンリストから選択します。 5. カウンターの循環を無効にする場合は、**[サイクル]** ボックスのチェックマークを外します。これにより、カウンターが自動的に循環しなくなり、指定された終了値に達するとファイルはエラーになります。この時点で、カウンターのステータスは[期限切れ]に変更されます。 6. アルファベットカウンターを小文字で表示するように指定する場合は、**[小文字出力]** ボックスにチェックマークを付けます。 7. カウンターの進め方を変更するには、**[ドキュメントレベルカウンター]** ボックスにチェックマークを付けます。このオプションが有効になっていると、各ページではなくそれぞれの連続するドキュメントごとにカウンターが進みます。既定の動作では、各ドキュメントの各ページに連続カウンターが適用されます。 8. **[カウンターのステータス]** 領域には、カウンターの現在のステータスが、現在の値とともに表示されます。ワークフローが少なくとも1回実行された後、カウンターを元の「開始値」にリセットするには、**[リセット]** リンクを選択します。カウンターをリセットできないようにロックするには、**[ロック]** リンクを選択します。リセットとロックのどちらのアクションを実行する際にも確認メッセージが表示されます。
	[ページ番号] - 名前付けコンポーネントのメイン領域に[ページ番号]アイコンをドラッグアンドドロップして、バーコード値にページ番号を追加します。
	[ページ数] - 名前付けコンポーネントのメイン領域に[ページ数]アイコンをドラッグアンドドロップして、バーコード値に合計ページ数を追加します。
	[日付] - バーコード値に現在の日付を追加します。名前付けコンポーネントのメイン領域に **[日付]** アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックして日付の表示形式をカスタマイズします。 • [月]、[日]、および[年]を追加するには、**[MM-dd-yyyy]** ラジオボタンを選択します。 • [月]のみ、追加するには **[MM]** ラジオボタンを選択します。 • [日]のみ、追加するには **[dd]** ラジオボタンを選択します。 • [年]のみ、追加するには **[yyyy]** ラジオボタンを選択します。
	[時間] - バーコード値に現在の時刻を追加します。このコンポーネントは、Code39バーコードでは使用できないことに注意してください。名前付けコンポーネントのメイン領域に **[時間]** アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックして時刻の表示形式をカスタマイズします。 • [時]、[分]、および[秒]を追加するには、**[HH:mm:ss]** ラジオボタンを選択します。 • [時]を追加するには、**[HH]** ラジオボタンを選択します。 • [分]を追加するには、**[mm]** ラジオボタンを選択します。 • [秒]を追加するには、**[ss]** ラジオボタンを選択します。

名前付けコンポーネント	説明
	[区切り] - さまざまな区切り記号をバーコード値に追加します。名前付けコンポーネントのメイン領域に **[区切り]** アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックしてドロップダウンリストから適切な区切り記号を選択します。オプションは次のとおりです: • スペース • コロン (:) • セミコロン (;) • コンマ (,) • チルダ (~) • 感嘆符 (!) • アットマーク (@) • シャープ記号 (#) • ドル記号 ($) • パーセント記号 (%) • ピリオド (.) • ダッシュ (-) • プラス記号 (+) • 下線 (_)
	[ファイル名] - 名前付けコンポーネントのメイン領域に **[ファイル名]** アイコンをドラッグアンドドロップして、ファイルの名前をバーコード値に追加します。
	[ファイル拡張子] - 名前付けコンポーネントのメイン領域に **[ファイル拡張子]** アイコンをドラッグアンドドロップして、ファイルの拡張子をバーコード値に追加します。
	[ファイルサイズ] - 名前付けコンポーネントのメイン領域に **[ファイルサイズ]** アイコンをドラッグアンドドロップして、ファイルのサイズ（バイト）をバーコード値に追加します。
	[イメージの幅] - 名前付けコンポーネントのメイン領域に **[イメージの幅]** アイコンをドラッグアンドドロップして、バーコード値にイメージの幅を追加します。
	[イメージの高さ] - 名前付けコンポーネントのメイン領域に **[イメージの高さ]** アイコンをドラッグアンドドロップして、バーコード値にイメージの高さを追加します。

注: QRコードには、レベルMの誤り訂正機能が組み込まれています。レベルMの誤り訂正率は15%です。

バーコードラベルのコンポーネント

[テキスト] - バーコードラベルにテキストを追加します。名前付けコンポーネントのメイン領域に **[テキスト]** アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックして適切なテキストを入力します。

[バーコード値] - バーコードラベルにバーコード値を追加します。名前付けコンポーネントのメイン領域に **[バーコード値]** アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックして使用するバーコードを選択します。

バーコード/ラベルの編集

バーコードまたはバーコードラベルを作成した後、以下のいずれかを行ってバーコードまたはバーコードラベルを編集できます。

- **[バーコードリスト]** から選択する、*または*
- **[バーコードの編集]** 領域で境界ボックスを選択する。

バーコード処理

バーコード処理は、スキャンされたドキュメントのバーコードを認識して情報を抽出するオプションのノードであり、ドキュメントに含まれるバーコードに基づいて、ドキュメントの分割、名前の変更、注釈付け、スタンプ、インデックス作成、またはルーティングの処理を自動化するために使用されます。この処理ノードを使用して、バーコードメタデータ情報をキャプチャするためのゾーンが作成されます。有効なバーコードの最小の長さは3桁です。このノードは次のファイルタイプで機能します。

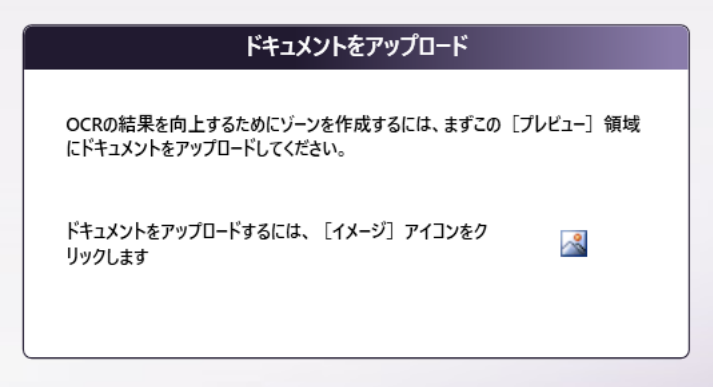
- TIFF
- JPG
- PNG
- BMP
- PDF
- XPS

注:

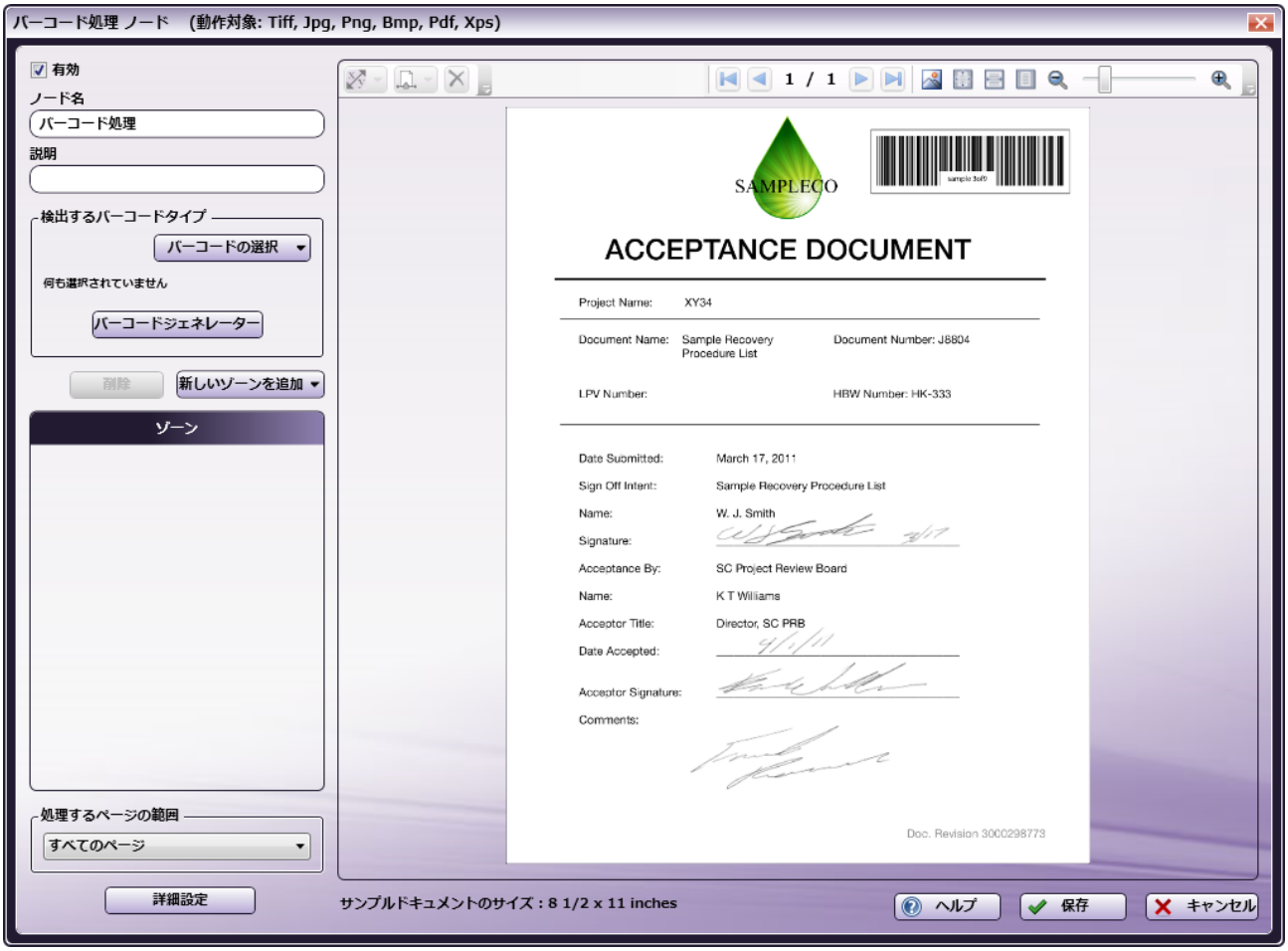
- PDFファイルからバーコードメタデータを抽出する場合、PDFは[検索可能なPDF]、または[PDFイメージのみ]の種類で、品質が最適化されている必要があります。
- このノードにはOmniPage OCR エンジンが含まれています。

バーコード処理ウインドウの使用

バーコード処理ノードウィンドウを開くには、バーコード処理用の処理ノードを追加してダブルクリックします。まず、ゾーンを作成するドキュメントをアップロードします。次の図のように、画面の指示に従います。



[バーコード処理]ウィンドウで、バーコード処理のゾーンを定義およびカスタマイズすることができます。



詳細な情報を確認するには、以下をクリックします。

- **検出するバーコードタイプ**
- **ゾーンリスト**
- **プレビュー領域**
- **ツールバー**
- **ゾーンの作成**
- **処理するページ範囲の指定**

検出するバーコードタイプ

着信するドキュメントで検出するバーコードのタイプを指定するには、**[バーコードの選択]** ボタンをクリックします。認識されたすべてのバーコードをリストしたドロップダウンパレットが表示されます。アプリケーションに検出してもらいたいバーコードの隣にあるチェックボックスに、チェックマークを付けます。

Code 128(チェックディジット転送あり)を選択した場合、検出されたCode 128バーコードはチェックディジット付きでレポートされます。スキャンにおけるエラーを確認するためのチェックディジットは、バーコードの最後の数字になります。Dispatcher Phoenixのバーコードジェネレーターは、チェックディジットなしのCode 128バーコードしか生成しません。そのため、バーコードジェネレーターによって生成されるCode 128バーコードに対して、Code 128オプションを選択する必要があります。

バーコードタイプを選択すると、選択したタイプが[ノードのプロパティ]ウィンドウの **[検出するバーコードタイプ]** 領域のリストに表示されます。

認識されるバーコード

- Code 39
- Code 39(チェックディジット制御および転送あり)
- Code 39(スタート-ストップキャラクター転送あり)
- Code 39 フルASCIIモード
- Code 93
- Code 128*
- Code 128(チェックディジット転送あり)*
- UCCコード128*

- UPC-A
- UPC-E(6桁)
- Codabar
- Codabar(スタート-ストップキャラクター転送なし)
- EAN 8/13
- EAN/UPC(2または5桁の補足コード付き)
- ITF(Interleaved 2 of 5)
- ITF(チェックディジット制御および転送あり)
- Postnet コード

*一度に選択できるのは、これらのオプション(UCCコード128、Code 128、およびCode 128(チェックディジット転送あり))の1つだけです。

ゾーンリスト

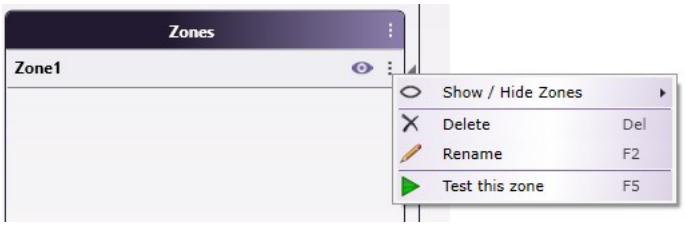
この領域には、当該ノードのすべての定義済みゾーンが表示されます。この領域では、以下の操作を実行できます。

ゾーンの追加オプションにアクセスするには、以下に示すように、[ゾーンリスト]領域の右上にある ⋮ アイコンをクリックして [**コンテキストメニュー**] メニューを開きます。

ゾーン 領域の3つのドットをクリックすると、次の操作ができるコンテキストメニューが開きます。

メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
すべてのゾーンを表示/非表示	キャンバス上のすべてのゾーンの表示を切り替え、非表示の場合はリスト内の各ゾーンの横に「非表示」アイコン を表示します。現在の選択に、表示されているゾーンと非表示のゾーンが混在している場合、このオプションをクリックすると、すべてのゾーンが非表示になります。	F6
すべてのゾーンを削除	ゾーンエディター / キャンバス からすべてのゾーンを削除します。	Ctrl+Shift+Del

ゾーンの横にある3つのドットをクリックすると、次の図のようなメニューが開きます。



メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
ゾーンを表示/非表示	次の表を参照	次の表を参照
削除	ゾーンエディター/キャンバスから単一のゾーンを削除します。	Del
名前の変更	右クリックのコンテキストメニューからゾーンの名前を変更します。	F2
このゾーンをテスト	ユーザーが個々のゾーンをテストおよびデバッグできるように、1つのゾーンを実行してテストします。	F5

ゾーンを表示/非表示 の2番目のメニューには、より多くのオプションがあります。

メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
すべてのゾーンを表示/非表示	キャンバス上のすべてのゾーンの表示を切り替え、非表示の場合はリスト内の各ゾーンの横に「非表示」アイコン を表示します。現在の選択に、表示されているゾーンと非表示のゾーンが混在している場合、このオプションをクリックすると、すべてのゾーンが非表示になります。	F6
このゾーンを表示/非表示	キャンバス上のゾーンの可視性を切り替えます。	F7
これ以外のすべてのゾーンを非表示	選択したゾーンを除く、キャンバス上のすべてのゾーンを非表示にします。	F9

このノードは、追加のアクションもサポートしています。

メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
選択したゾーンをテスト	選択した複数のゾーンを実行およびテストして、ユーザーが選択した複数のゾーンを一度にテストおよびデバッグできるようにします。	F5
選択したゾーンを削除	ゾーンエディター/キャンバスから選択したゾーンを削除します。	Del

注: 表示/非表示、削除、名前の変更、このゾーンのテスト オプションには、プレビュー領域でゾーンを右クリックして現われるメニューから選択してアクセスすることもできます。

プレビュー領域

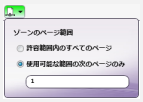
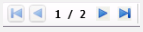
プレビュー領域には、定義済みゾーンが表示されるサンプルドキュメントが表示されます。プレビュー領域を使って次の操作ができます。

1. ゾーンの境界ボックスの **[サイズを変更]** するには、その境界ボックスを選択して、適切なハンドルをドラッグしてボックスを希望のサイズに変更します。
2. ゾーンの **[位置を変更]** するには、境界ボックスをクリックしてから、ボックスを希望の位置にドラッグします。
3. 長方形領域の **[複数のゾーンを選択]** するには、マーキー枠をマウスでドラッグして選択対象のゾーンを囲みます。この操作は、空白領域から開始する必要があります。別の方法として、1つのスタンプを選択した後に[Shift]キーを押しながら別のスタンプを選択することで、複数のスタンプを選択できます。
4. ゾーンを **[削除]** するには、そのゾーンを選択してから、キーボードの[Delete]キーを押します。確認メッセージが表示されます。
5. ツールバーの **[アップロード]** アイコンをクリックして別のドキュメントを選択して **別のサンプルドキュメントをアップロード** します。元のドキュメントにゾーンを定義した場合は、新しいドキュメントを選択した後にポップアップウィンドウが表示されるため、ゾーンを保持するか破棄するかを選択する必要があります。

ツールバー

ウィンドウの上部にあるツールバーで、ゾーンの詳細定義、およびノードプロパティウィンドウのビューをカスタマイズできます。

ツールバーのドロップダウンパレットを使う場合、**[Enter]** キーを押すか、パレットの外側のどこかをクリックすると、変更がゾーンに適用されます。

ツールバーアイコン	説明
	[ゾーンテストを実行] このアイコンをクリックして、定義したゾーンをテストします。
	[ゾーンテストの設定] このアイコンをクリックして、タイムアウトが発生するまでの通信なしの時間に割り当てられた秒数を変更します。
	[ゾーン座標] このアイコンをクリックして、ゾーンの具体的な座標を設定します。**[幅]** フィールドと **[高さ]** フィールドに値(ピクセル単位)を入力して、ゾーンのサイズを変更できます。**[左]** フィールドと **[上]** フィールドに値(ピクセル単位)を入力して、ゾーンの位置を移動することもできます。
	**[ゾーンのページ範囲]** このドロップダウンパレットを使用して、当該ゾーンを適用するページを指定します。オプションは次のとおりです。 • **[許容範囲内のすべてのページ]** - このラジオボタンを選択すると、当該ゾーンが指定された範囲内のすべてのページに適用されます。これにより、1ページ目に設定されているゾーンが、(処理を指定したページ範囲が[すべてのページ]の場合)ドキュメントの残りのページに自動的に適用されます。 • **[使用可能な範囲の次のページのみ]** - このラジオボタンを選択して、表示されている空のフィールドにページ範囲を入力すると、指定された範囲内の特定の範囲のページだけに当該ゾーンが適用されます。 これらの設定は、[新しいゾーンを追加]パレットでゾーンを最初に作成する際にも行うことができます。
	[削除] このアイコンをクリックして、選択したゾーンを削除します。
	**[ページ]** 矢印をクリックして、サンプルドキュメントのページ間を移動します(可能な場合)。
	[サンプルドキュメント] このアイコンをクリックして、[プレビュー]領域で使用する別のサンプルドキュメントを見つけてアップロードします。
	[実際のサイズ(100%)] プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる] [プレビュー]領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを拡大するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体] サンプルドキュメント全体が[プレビュー]領域にちょうど収まるように表示するには、このアイコンをクリックします。
	[ズームコントロール] 虫眼鏡アイコンまたはスライドバーを使用して、[プレビュー]領域をズームイン/アウトします。

バーコード処理 ウィンドウの使用

バーコード処理ウィンドウでは、バーコード処理のゾーンの定義とカスタマイズができます。このウィンドウを設定するには、次のオプションがあります。

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、ロジックまたはエラー状態をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示すノードの意味のある名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。ワークフローに複数の処理が含まれている場合、説明は複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。

ボタン

- **[詳細設定]** - **高度なOCR設定** ウインドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixのオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

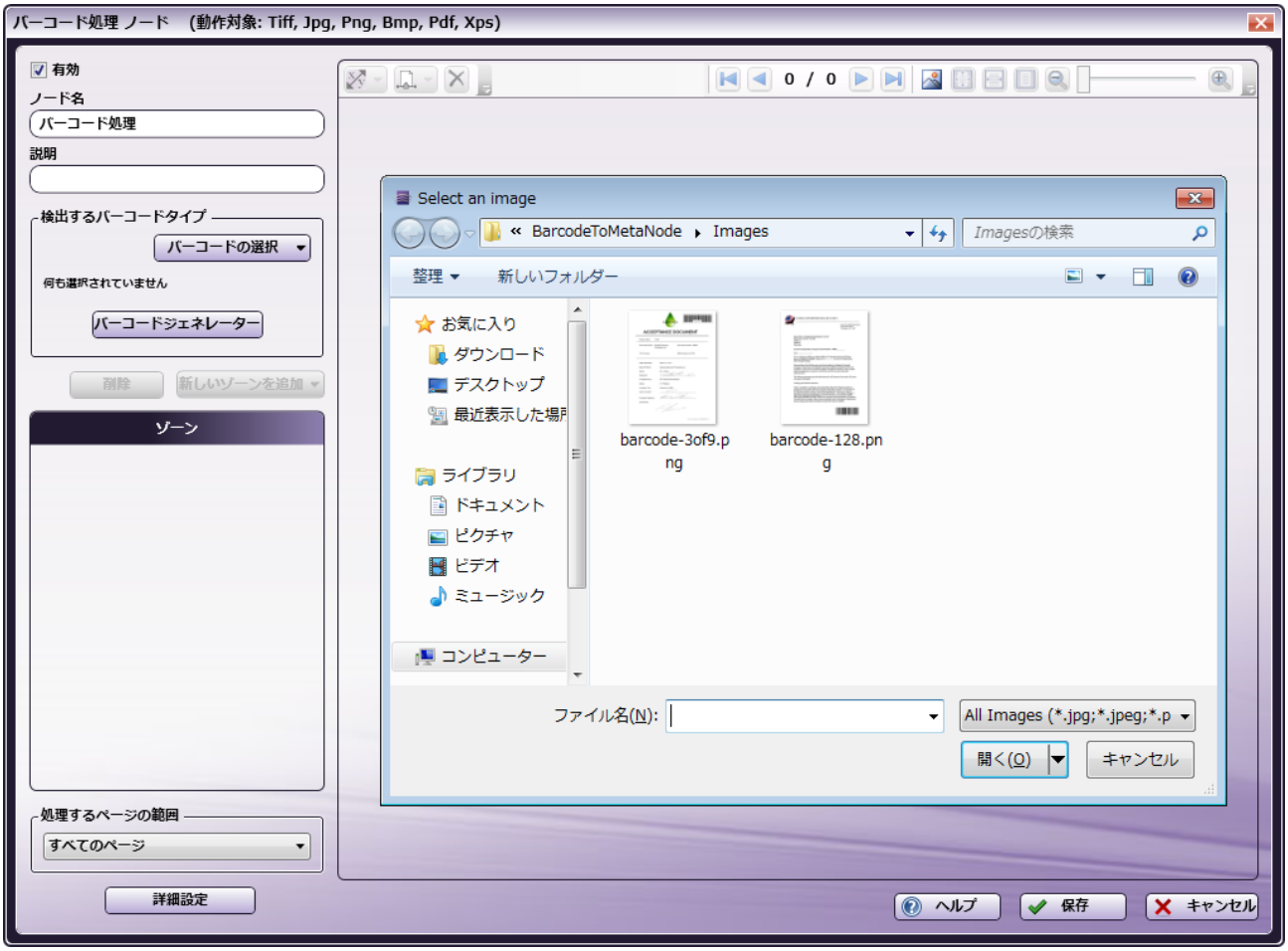
注: このノードを保存するには、少なくとも1つ以上のゾーンを作成する必要があります。

バーコード処理ノードのプロパティウィンドウを設定するには、以下の操作を行う必要があります。

1. 検出するバーコードのタイプを選択します。
2. ゾーンを定義します(手動または自動)。
3. ページ範囲を指定します。

サンプルドキュメントのアップロード

ツールバーの **[アップロード]** をクリックすると、ゾーンを作成できる独自のサンプルドキュメントをアップロードできます。**[アップロード]** をクリックすると、次の図のように、「サンプルを開く」参照フォルダーが表示され、そこから適切なドキュメントを選択できます。



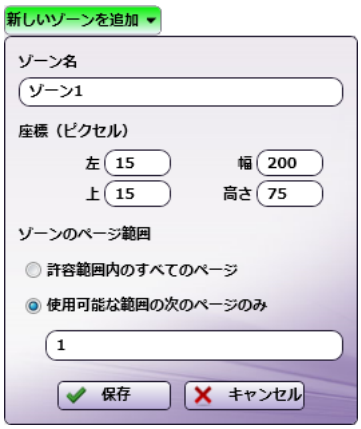
検出するバーコードの指定

[バーコードの選択] ボタンをクリックして、アプリケーションに検出するバーコードの種類を指定する必要があります。

ゾーンの作成

ゾーンは、OCRエンジンのページの特定の領域を定義する境界線であり、手動または自動で作成できます。ドキュメントの処理方法を正確に制御するには、次の手順でゾーンを手動で作成できます。

1. **[新しいゾーンを追加]** - 次の図のように、このボタンをクリックしてドロップダウンパレットを表示します。



2. [新しいゾーンを追加]ドロップダウンパレット上で、以下の操作を行います。
   - **[ゾーン名]** - ゾーンを識別する名前を入力します。
   - **[左]および[上]** - 値(ピクセル単位)を入力して、ドキュメントの左右からゾーンを配置します。

- **[幅]** - 値(ピクセル単位)を入力して、ゾーンの適切な幅を定義します。
- **[高さ]** - 値(ピクセル単位)を入力して、ゾーンの適切な高さを定義します。
- **[ゾーンのページ範囲]** - ゾーンが適用されるページを指定します。オプションは次のとおりです。
  - **[許容範囲内のすべてのページ]** - 指定された範囲内のすべてのページにゾーンを適用するには、このラジオボタンを選択します。これにより、1ページ目に設定されているゾーンが、(処理を指定したページ範囲が[すべてのページ]の場合)ドキュメントの残りのページに自動的に適用されます。
  - **[使用可能な範囲の次のページのみ]** - 指定された範囲内の特定のページ範囲だけにゾーンを適用するには、このラジオボタンを選択し、次に表示されている空のフィールドにページ範囲を入力します。たとえば、5ページのドキュメントの場合、次のいずれかが受け入れ可能なエントリです。
    - 1-3
    - 1,2,5
    - 1&4
    - 1-3,5
    - 1-3, 5

3. **[保存]** - このボタンをクリックして設定を保持し、ウィンドウを終了します。ゾーンは、プレビュー領域の指定された場所に表示されます。
4. **[キャンセル]** - 変更を保存せずにドロップダウンパレットを終了するには、このボタンを選択します。

ゾーンのテスト

ゾーンが作成され、バーコードタイプが選択されると、ツールバーの **[ゾーンテストを実行]** アイコンを使用してゾーンをテストできます。これにより、次のようなゾーンに関する情報が返されます。

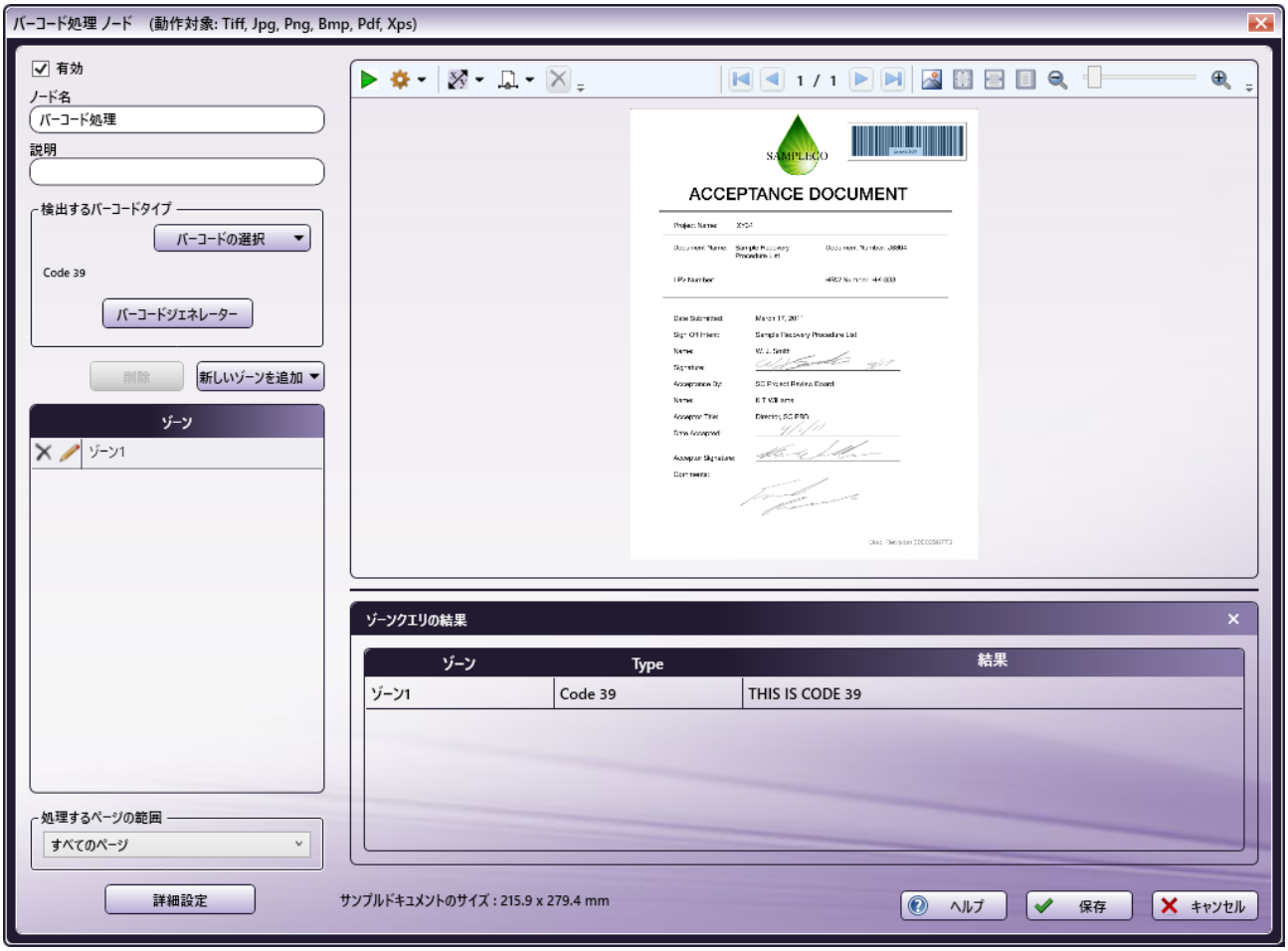
- ゾーン名
- ゾーン内のバーコードタイプ
- バーコードの結果

バーコード値が検出された任意のゾーンの値を右クリックしてコピーを選択すると、その値をコピーできます。

テスト機能を使用する場合、ゾーンを選択して右クリックし、[**このゾーンをテスト**] を選択するか、複数のゾーンを選択して右クリックし、ツールバーの [**選択したゾーンをテスト**] または、[**すべてのゾーンをテスト** ボタンをクリックして、個々のゾーンまたは複数のゾーンをテストできます。複数のゾーンを選択するには、次の 2 つの方法があります。

1. マウスをクリックしてドラッグし、一度に複数のゾーンをハイライトします
2. 複数のゾーンを選択するには、CTRL + クリック を使用します

下の図を参照してください。



テスト済みゾーンの値をコピーするには、次の2つの方法があります。

1. ゾーンを右クリックし、**バーコード値をコピー** を選択します。
2. ゾーン結果クエリーセクションで、ゾーン結果を右クリックし、**コピー** を選択します。

メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
ゾーン値をWindowsクリップボードにコピー	検出されたゾーン値をWindowsクリップボードにコピーします。このコマンドには、ゾーン結果の右クリックコンテキストメニューからアクセスできます。	Ctrl+c

注:

- マウスをゾーンの上に置くと、テストされたゾーンの値を確認できます。
- 領域の端をクリックしてドラッグすると、プレビューセクションとゾーン結果クエリーセクションのサイズを調整できます。

処理するページ範囲の指定

[処理するページの範囲] 領域では、バーコードゾーン処理時に処理するページを指定できます。オプションは次のとおりです。

- **[すべてのページ]** - すべてのページを処理します。
- **[すべての偶数ページ]** - 偶数ページを処理します。
- **[すべての奇数ページ]** - 奇数ページを処理します。
- **[最初のページ]** - 最初のページだけを処理します。
- **[最後のページ]** - 最後のページだけを処理します。
- **[独自のページ範囲を定義]** - 任意のページ範囲を処理します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力するための空のフィールドが表示されます。次の操作を行います。
    - カンマ記号やドキュメントの開始からカウントするダッシュ記号(あるいはその両方)を使って、ページ範囲を指定します。たとえば、「1, 2, 5-7」と入力すると、1、2、5、6、7ページが処理されます。
    - ページ範囲内でスタンプを押す並びを指定するには、カッコを使用します。たとえば、「1-10(3)」と入力すると、1～10ページが2ページおきに処理されます。
    - 最後のページを指定するには、「end」を使用します。たとえば、「end(-5) - end」と入力すると、20ページのドキュメントの15～20ページ目が処理されます。

その他の例は次のとおりです。

- 20ページのドキュメントの1、2、5、6、7、19ページを処理するには、「1,2,5-7,end(-1)」と入力します。
- 20ページのドキュメントの10～15ページを処理するには、「10-end(-5)」と入力します。
- 20ページのドキュメントの10～15ページを1ページおきに処理するには、「10-end(-5)(2)」と入力します。
- 25ページのドキュメントの15～20ページを処理するには、「end(-10)-end(-5)」と入力します。
- 20ページのドキュメントの10～20ページを処理するには、「end(-10)-end」と入力します。

注: 入力ドキュメントのページ数に対応しないページ範囲を指定した場合(たとえば、3ページのドキュメントのページ10～20を処理する場合)、ファイルはエラーで出力されます。

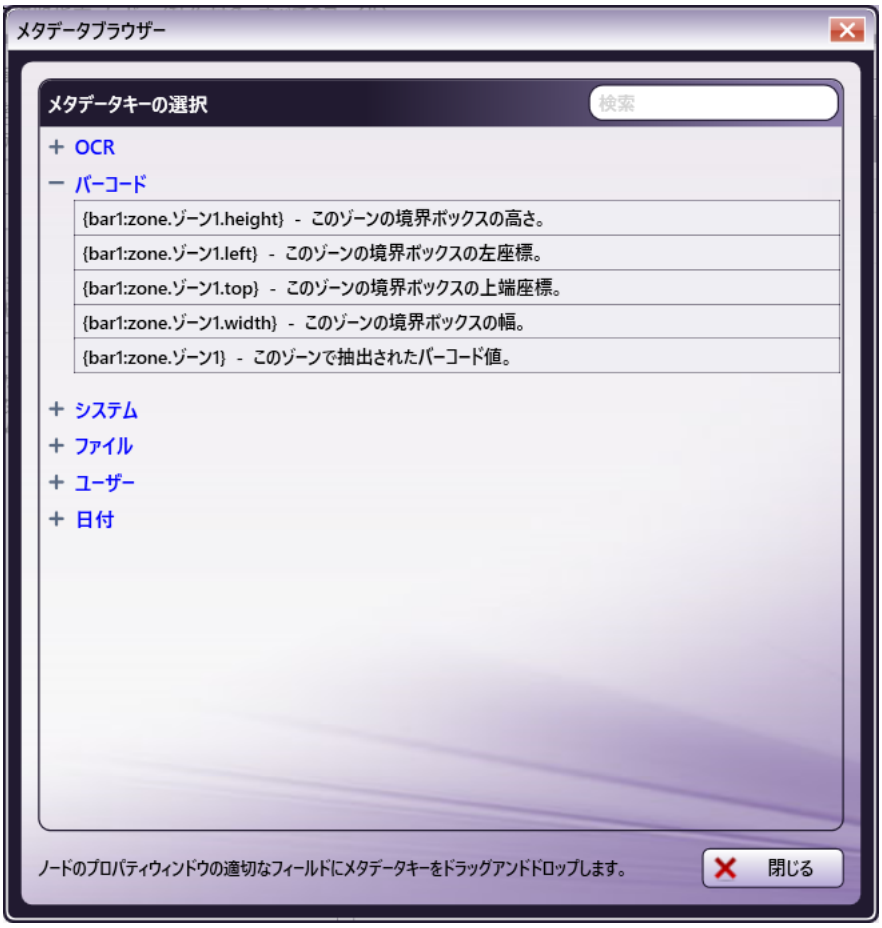
バーコードメタデータ

バーコードゾーンが定義されると、ワークフロー内の他のノードから参照できるようになります。

バーコードゾーン参照の構文は次のとおりです。{bar1:zone.nameofzone.[<page>]}。これにより、このゾーンで抽出された値が提供されます。

OCRアプリケーションがゾーン内の値を見つけた場所の構文は{bar1:zone.nameofzone.[zonecoordinate]}です。ここでの、[zonecoordinate]はピクセル単位で定義されるように、「上」、「左」、「幅」、または「高さ」のいずれかです。

以下の図に示すように、メタデータブラウザーウィンドウを使用してバーコードゾーン変数を選択することもできます。



データベース

ODBC

ODBC処理ノードでは次のことができます。

- ODBC（Open Database Connectivity）データソースからデータを取得し、そのデータをメタデータとしてファイルに関連付ける（例:{odbc:列名}）。
- ファイルまたはワークフローに関連付けられている既存のメタデータを使用して、ODBCデータソース内のデータを更新する。

注: ODBCメタデータ変数では、大文字と小文字が区別されます。ワークフローでODBCメタデータを使用するときは、大文字と小文字を適切に書き分けてください。

ドライバー

このノードを使用するには、適切なODBCドライバーをDispatcher Phoenixと同じPCにインストールしておく必要があります。主要なデータベースシステムごとにODBCドライバーが用意されています。次に示すSEC Webサイトに入手できる一部のドライバーへのリンクが掲載されています。
https://www.sec.kmbs.us/version2/products/dppe/odbc.html

重要!

- 32ビットのオペレーティングシステムでは、32ビットのドライバーを使用する必要があります。
- 64ビットのプラットフォームでは、ドライバーのアーキテクチャがソフトウェアのアーキテクチャに適合している必要があります。インストールした64ビットのDispatcher Phoenix内でODBCノードを動作させる場合は、64ビットのODBCドライバーを探してください。
    - 32ビット版のMicrosoft Officeを64ビットのオペレーティングシステムにインストールした場合、64ビットのAccessドライバーはインストールできません。
    - 64ビットODBCドライバーにアクセスできないときは、64ビット版のDispatcher Phoenixをアンインストールして、32ビット版のDispatcher Phoenixを64ビットのオペレーティングシステムにインストールしなおすことができます。ただし、これは「64ビット版のMicrosoft Officeまたは64ビットドライバーをインストールできない場合」のみの最終手段と考えてください。

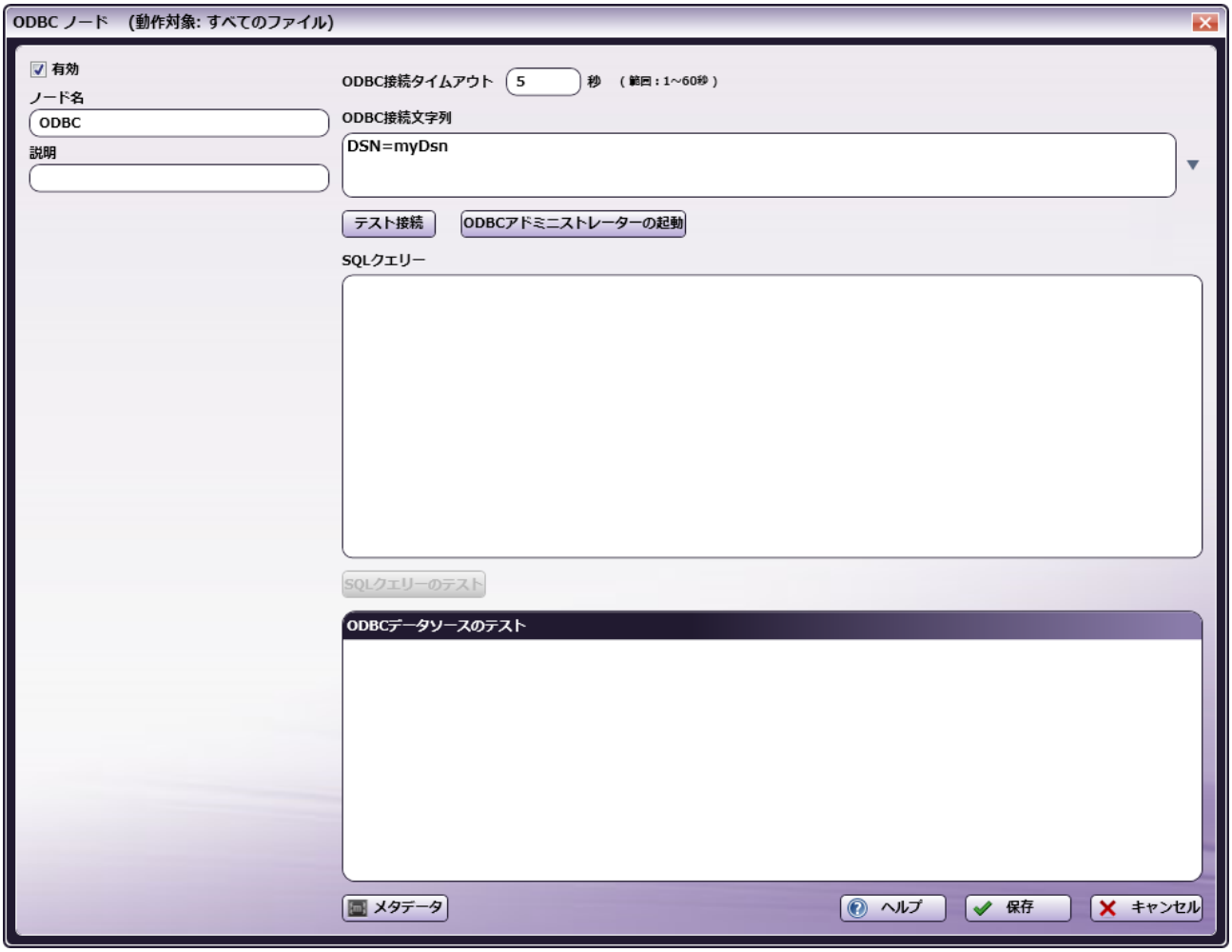
ODBCの概要

次のセクションでは、ODBCの簡単な定義とそのインフラストラクチャを示します。

- **ODBC:** ODBCとは、データへのアクセスを目的としてアプリケーションをデータベースサーバーに接続するためのオープンな標準方式です。たとえば、ODBCを介して、Dispatcher Phoenixのユーザーは複合機パネルにあるデータソースに透過的にアクセスできます。
- **データソース:** アプリケーションで使用されるデータ。一例として、SQL ServerデータベースやMicrosoft Accessデータベースなどが挙げられます。
- **ODBCドライバー:** Dispatcher Phoenixのようなアプリケーションからデータベースにアクセスできるようにするには、アプリケーションがインストールされているクライアントシステムにドライバーをインストールする必要があります。ODBCドライバーは、データソースに接続し、標準SQLステートメントをデータソースが処理できる構文に翻訳して、リクエストされたデータをアプリケーションに返します。ユーザーがアプリケーションからODBCドライバーを介してデータソースに接続するとき、ODBCドライバーはユーザーに代わってローカルまたはネットワーク経由で接続を確立します。

Dispatcher Phoenix ODBCノードの使用

ODBCノードは、次の図のようになります。



以下の操作を行います。

- この特定の構成を識別する名前を **[ノード名]** フィールドに入力します。
- ノードの説明を **[説明]** フィールドに入力します。
- 接続確立の試行を終了するまでの時間間隔（秒単位）を **[ODBC接続タイムアウト]** フィールドに指定します。
- 目的のデータソースに接続するための接続文字列を **[ODBC接続文字列]** 領域に入力します。このアプリケーションには、ひな形として使用できる多数のサンプル接続文字列が用意されています。**下** 矢印をクリックすると、文字列の一覧が表示され、この一覧から選択できます。この情報の入力方法が不確かな場合は、使用するODBCドライバーやデータベースのドキュメントを参照してください。
- 入力した接続文字列が有効であることを確認するには、**[テスト接続...]** ボタンを選択します。
- 接続が有効な場合は、[ODBCデータソースのテスト]領域にデータが表示されます。
- 接続が無効の場合は、[ODBCデータソースのテスト]領域にエラーメッセージが表示されます。
- データベースドライバーとデータベースソースを管理するには、**[ODBCアドミニストレーターの起動]** ボタンを選択します。表示されるダイアログボックスの詳細は、Microsoft Windowsのドキュメントを参照してください。
- SQLクエリーをデータソースに送信するには、**[SQLクエリー]** 領域にSQLステートメントを入力します。

  注: SQLは標準化されていますが、特定のデータベースの動作に対応するためにドライバー固有の変更が行われていることがあります。
- SQLクエリーの中でメタデータを使用できます。これらの変数を取り込みやすいように、**[メタデータ]** ボタンをクリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。[メタデータブラウザー]ウィンドウには、ワークフローに含まれているすべてのメタデータが表示されます。[メタデータブラウザー]ウィンドウからメタデータをドラッグして、[ODBC]ウィンドウにドロップできます。
- 作成したSQLステートメントがデータソースから適切なレコードを取得することを確認するには、**[SQLクエリーのテスト]** ボタンを選択します。SQLクエリーにはフォーム変数を追加できます。

ODBCデータソースからファイルへのデータの関連付け

SQLクエリーでSELECTステートメントを使用してODBCデータソースからデータを取得して、ODBCデータソースを入力ファイルに関連付けることができます。また、クエリーの結果を基に特定のデータをデータソースから取得することもでき、そのクエリーにはOCRのゾーン、ベイツスタンプ、バーコード、インデックスフォームフィールドなどのワークフローのメタデータを使用できます。SQLクエリーを設定するときは、**[メタデータ]** ボタンをクリックして[メタデータブラウザー]ウィンドウを開き、必要とするメタデータ変数を見つけます。

データをデータソースから取得すると、ファイルにODBCメタデータとして追加され、後からワークフローで使用できます。

ODBCメタデータの構文は、{odbc:変数名[ページ数]}です（例:{odbc:address[1]}）。SQLクエリーでワークフローのメタデータを参照するときは、カッコ内にページ番号を指定する必要があります。

注: サポートされるSQLの構文はドライバーごとに異なる可能性があります。ODBCドライバーおよびデータベースでサポートされている構文や演算については、それらのドキュメントを参照してください。

全てのレコードを取得するには:

```
SELECT \* from [テーブル名]
```

特定の条件に基づいて選択したレコードを取得するには:

```
SELECT [列] FROM [テーブル名] WHERE [列]='[metadata]'
```

注: テキスト値は一重引用符で囲みます。数値を一重引用符で囲む必要はありません。

SELECTステートメントを使用したSQLクエリーの例:

サンプルデータソース:

Last - **First** - **Address**

```
Doe - John - jdoe@gmail.com

Doe - Jane - janedoe@gmail.com

Smith - Jane - jsmith@hotmail.com

Crockett - Davey - dcrockett@aol.com
```

入力ドキュメントから姓を抽出するために、「last」という名前のOCRゾーンが作成されています（高度なOCRノードを使用）。ODBCノードを使用することで、入力ドキュメントに含まれる姓に対して、データソース内で見つかったメールアドレスを取得できます（高度なOCR処理を使用して抽出）。ODBCノード経由で見つかったメールアドレスはODBCメタデータとしてファイルに追加され、電子メール出力ノードでドキュメントを正しいメールの宛先に送信するために使用できます。

「last」のOCRゾーンメタデータ{zone:ocr.last}が「Doe」を返す場合、Address列で見つかったメールアドレスを取得するには、次のステートメントを使用します。

```
SELECT [address] FROM [customers] WHERE [Last]='{ocr:zone.last[1]}'
```

ODBCデータソース内のデータの更新

レコードを保持する場合に役立ちます。ワークフロー内の別のメタデータ（OCRゾーン、ベイツスタンプ、バーコード、インデックスフォームフィールドなど）を基に、ODBCデータソース内のデータを更新することもできます。この操作を実行するには、SQLクエリーでUPDATEステートメントを使用します。SQLクエリーを設定するときは、**[メタデータ]** ボタンをクリックして[メタデータブラウザー]ウィンドウを開き、必要とするメタデータ変数を見つけます。

注: サポートされるSQLの構文はドライバーごとに異なる可能性があります。ODBCドライバーおよびデータベースでサポートされている構文や演算については、それらのドキュメントを参照してください。

Updateステートメントを使用する構文:

```
UPDATE [table] SET [column]= 'metadata' WHERE [column name]='metadata';
```

注:

- Updateステートメントではメタデータは作成されません。
- SQLクエリーでワークフローのメタデータを参照するときは、カッコ内にページ番号を指定する必要があります（例:{bates.YourStamp[1]}）。
- テキスト値は一重引用符で囲みます。数値を一重引用符で囲む必要はありません。

UPDATEステートメントを使用したSQLクエリーの例:

サンプルデータソース

File - **Count**

```
xyz - 1

abc - 2

rty - 3

yui - 4
```

入力ドキュメントのファイル名がテーブル内の別の列と一致する場合、「customers」テーブル内の列を更新できます。たとえば、「xyz」ファイルをスキャンするたびに、「Count」列内のカウントは1ずつ増加し、何回ファイルがスキャンされたかを記録します。

次のステートメントを使用します。

```
UPDATE customers SET count=count+1 WHERE file='{file:name}';
```

ODBCデータソースへのデータの挿入

ワークフロー内の他のメタデータに基づいて新しいレコードをODBCデータソースに挿入することもできます。この操作にはSQLクエリーでINSERT INTOステートメントを使用します。SQLクエリーを設定するときは、**[メタデータ]** ボタンをクリックして[メタデータブラウザー]ウィンドウを開き、必要とするメタデータ変数を見つけます。

注: サポートされるSQLの構文はドライバーごとに異なる可能性があります。ODBCドライバーおよびデータベースでサポートされている構文や演算については、それらのドキュメントを参照してください。

Insert Intoステートメントを使用する構文:

```
INSERT INTO [table] [column1, column2,…] VALUES [value1, value2, …];
```

注:

- Insertステートメントではメタデータは作成されません。
- SQLクエリーでワークフローのメタデータを参照するときは、カッコ内にページ番号を指定する必要があります（例:{bates.YourStamp[1]}）。
- テキスト値は一重引用符で囲みます。数値を一重引用符で囲む必要はありません。

INSERTステートメントを使用したSQLクエリーの例:

サンプルデータソース（テーブル名は'files'）

File - **Count**

```
abc - 1

def - 2

ghi - 3

jkl - 4
```

次のステートメントを使用して、次のように「mno」および「5」というデータを持つ新しいレコードを「files」テーブルに挿入できます。

```
INSERT INTO files (File, Count) VALUES ('mno', 5);
```

ドキュメント操作

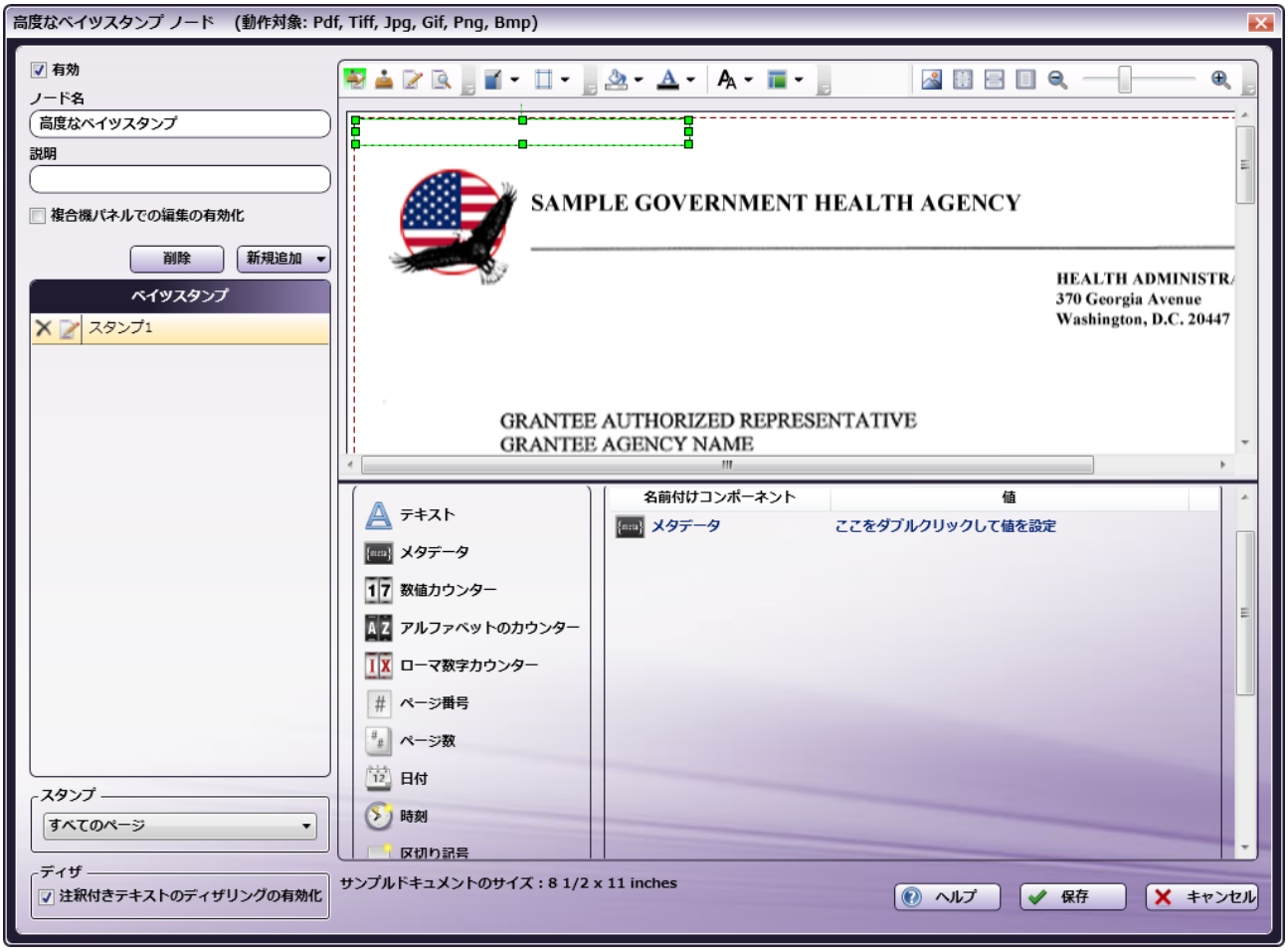
高度なベイツスタンプ

高度なベイツスタンプノードを使用して、1つ以上のカスタマイズされたスタンプを作成して、スキャンされたイメージファイル上に配置します。これらのスタンプには、連続番号、テキスト、日付、時間、メタデータなどのさまざまな命名コンポーネントの組み合わせを含めることができます。

このノードを使用すると、ページ上の任意の位置にスタンプを縦方向または横方向に配置できます。配置とフォーマットに関する他の詳細オプションも使用できます。たとえば、スタンプ用のスペースを確保するために、ページコンテンツのサイズを縮小したり、ページ上のコンテンツの位置を移動したりするためのオプションです。このノードは、TIFF、JPG、GIF、PNG、BMP、およびPDFのファイルに対応しています。

注: このノードは、AES（Advanced Encryption Standard）PDFをサポートしていません。

高度なベイツスタンプノードのプロパティウィンドウを開くには、**高度なベイツスタンプ** の処理ノードをワークフロービルダーのキャンバスに追加して、このノードをダブルクリックします。高度なベイツスタンプノードのウィンドウは次の図のようになります。



詳細な情報を見るには以下をクリックします。

ベイツスタンプリスト

スタンプの編集 領域

ベイツスタンプ名前付けコンポーネント

ツールバーアイコン

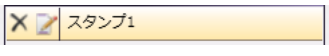
ベイツスタンプの作成

ベイツスタンプの編集

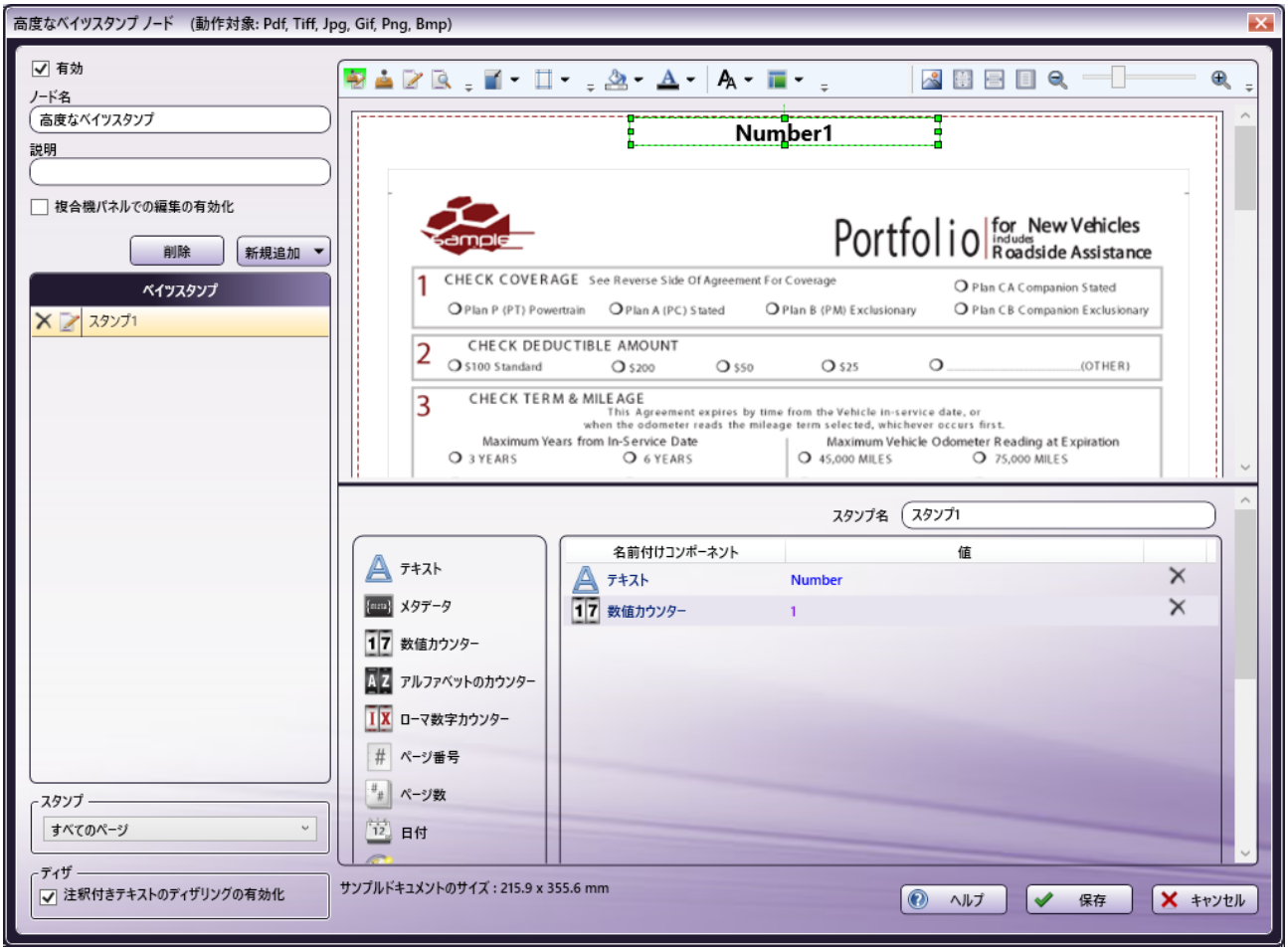
ベイツスタンプリスト

ベイツスタンプリストの領域では、以下の操作を行うことができます。

- **スタンプを並べ替える。** ページ上で重なり合っている複数のスタンプを操作する場合は、表示されているスタンプをドラッグアンドドロップして並べ替えることができます。
- **スタンプの名前を編集する。** スタンプの名前を変更するには、そのスタンプの名前の横にある**編集**アイコンをクリックするか、その名前をダブルクリックします。
- **定義済みのスタンプを削除する。** スタンプを削除するには、そのスタンプの名前の横にある **削除** アイコンをクリックするか、ベイツスタンプリストでそのスタンプを選択してからキーボードで **[Delete]** キーを押します。確認メッセージが表示されて、そのスタンプを本当に削除するかどうかが尋ねられます。



スタンプの編集 領域



[スタンプの編集]領域には、定義済みのベイツスタンプが配置されたサンプルドキュメントが表示されます。このサンプルドキュメントでは、マージンは赤色で表示され、ページ境界は青色で表示されます。ツールバーの左上側にあるアイコンを使用して、スタンプをカスタマイズできます。以下の操作も行うことができます。

- [スタンプの編集] 領域で境界ボックスを選択し、ボックスが目的のサイズになるまで適切なハンドルをドラッグして、スタンプの境界ボックスの **サイズを変更** します。
- [スタンプの編集] 領域のバウンディングボックスをクリックし、ボックスが正しい角度になるまでボックスの上部にある回転ハンドルをドラッグして、スタンプのバウンディングボックスを **回転** させます。
- [スタンプの編集] 領域の境界ボックスをクリックし、ボックスを目的の位置にドラッグして、スタンプの境界ボックスを新しい場所に **移動** します。スタンプを選択して、キーボードの矢印キーを使用して移動することもできます。
- マウスを使用して、選択するスタンプの上にマーキーをドラッグし、矩形領域内で **複数のスタンプを選択** します。これは、サンプルドキュメントの外側から開始するか、ページコンテンツがシフトされている場合は空白から開始する必要があることに注意してください。または、1つのスタンプを選択し、**[Shift] キー** を押しながら別のスタンプを選択して、複数のスタンプを選択することもできます。
- 矩形領域内のすべてのオブジェクトを選択するには、選択ツールを使用して、マーキー枠をドラッグして選択対象のオブジェクトを囲みます。
- スタンプを選択してキーボードで[Delete]キーを押すとスタンプが **削除** されます。確認メッセージが表示されます。
- サンプルドキュメントを選択し、マウスでドラッグ（またはキーボードの[矢印]キーを使用して移動する）と、**サンプルコンテンツを移動** できます。
- ツールバーの [**アップロード**] アイコンをクリックして、別のサンプルドキュメントのスタンプを表示します 。

注: この領域ではすべての画像は96 dpiで表示されます。高解像度画像がサンプルドキュメントとしてアップロードされた場合は、このウィンドウでそのドキュメントをプレビューする際に、ドキュメントの画質の差異を感じることがあります。

コンポーネント領域

コンポーネント領域は、ベイツスタンプを設計できる高度なベイツスタンプノードウィンドウのセクションです。ベイツスタンプを作成するために使用できるすべての命名コンポーネントは、アイコンとして左側に一覧表示されています。また、この領域にある **[スタンプ名]** フィールドでは、スタンプの名前を必要に応じて編集できます。

ウィンドウの下部にある結果領域には、次の図で示すように、すでに定義されているコンポーネントが表示されます。

注: 結果領域では、ローマ数字カウンターが数値として表示されますが、[スタンプの編集]領域では変換されたローマ数字が正しく表示されます。

ツールバー

ウィンドウの上部にあるツールバーを使用して、スタンプとページコンテンツの外観を構成でき、実際のウィンドウ自体のプロパティを構成できます。ウィンドウの外観に加えた変更は、このウィンドウを次回に開いたときも保持されます。

ツールバーのドロップダウンパレットを使用するときは、**[Enter]** キーを押すか、パレット外側の任意の場所をクリックすると、それらの変更内容が[スタンプの編集]領域に保存されます。ツールバーにあるオプションのいくつかは、[スタンプの編集]領域を対象としたものであり、[コンポーネント]領域には適用されません。

アイコン	説明
	[スタンプの編集] 領域と **[コンポーネント]** 領域の両方を表示します。これが既定設定です。
	[コンポーネント] 領域のみをウィンドウに表示します。
	[スタンプの編集] 領域のみをウィンドウに表示します。
	[印刷プレビュー] を表示します。このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメント上のスタンプの最終出力をプレビューします。[印刷プレビュー]ではスタンプのコンテンツを整形することはできません。
	ページのコンテンツを **縮小** および **移動** します。
	ページの **余白** を指定します。
	スタンプの **背景色** を選択します。ドロップダウンカラーパレットから色を選択するか、用意されている空白フィールドに16進数のカラーコードを入力します。また、**[不透明度]** スライドバーを使用して背景色の透明度を指定することもできます。
	テキストの色 を選択します。ドロップダウンカラーパレットから色を選択するか、用意されている空白フィールドに16進数のカラーコードを入力します。また、**[不透明度]** スライドバーを使用してテキストの透明度を変更することもできます。完全に透明な（見えない）テキスト色が便利なケースとしては、実際のドキュメントを変更せずに増分カウンターを追加したい場合が挙げられます。
	[フォント] ドロップダウンパレットで各種のオプションを選択して、テキストをカスタマイズします。選択できる項目は、フォントタイプ、フォントサイズ、フォントスタイル（太字/斜体）、境界ボックス内のテキストの行揃え（左、中央、右）、および境界ボックス内のテキストの配置（中央上部、中央、中央下部）です。また、**[水平]** または **[垂直]** ラジオボタンを選択して、テキストの向きを指定できます。
	[レイアウト] ドロップダウンパレットで各種のオプションを指定して、境界ボックスのレイアウトをカスタマイズします。これらの変更は、[スタンプの編集]領域で境界ボックスをサイズ変更または移動することで、手動で加えることもできます。境界ボックスの幅を指定するには、**[幅]** フィールドに適切な値をピクセル単位で入力します。境界ボックスの高さを指定するには、**[高さ]** フィールドに適切な値をピクセル単位で入力します。ドキュメントの左端または上端を基準にした境界ボックスの位置を指定するには、**[左]** フィールドまたは **[上]** フィールドに適切な値をピクセル単位で入力します。境界ボックスの角度を指定するには、**[角度]** スライドバーを使用するか、用意されている空白フィールドに適切な値を入力します。
	[スタンプの編集]領域で使用する別の **サンプルドキュメント** を見つけてアップロードします。
	プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに **戻します**。ショートカットキー: **[Ctrl]** + **[1]**
	[スタンプの編集]領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを **拡大** します。ショートカットキー: **[Ctrl]** + **[2]**
	サンプルドキュメント全体が[スタンプの編集]領域にちょうど **収まる** ように表示します。ショートカットキー: **[Ctrl]** + **[3]**
	ズーム イン/アウトします（虫眼鏡のアイコンまたはスライドバーを使用）。ショートカットキー: ズームインするには **[Ctrl]** キーを押しながら **[+]** キーを押します。ズームアウトするには **[Ctrl]** キーを押しながら **[-]** キーを押します。

注: 色付きの背景またはテキストが含まれたスタンプが白黒のドキュメントに適用されている場合、その色は出力時に白黒に変換されます（ただし[スタンプの編集]領域にはその色が表示されます）。

高度なベイツスタンプ ウィンドウの使用

[高度なベイツスタンプ]ウィンドウでは、ベイツスタンプを完全にカスタマイズおよび編成できます。ベイツスタンプを設定するには、以下の操作を実行してください。

- ワークフローの実行時にノードが処理されるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件についてチェックされないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、高度なベイツスタンプノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、高度なベイツスタンプノードの説明を入力します。このフィールドは必須ではありませんが、ノードの内容を明確に示すために役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[複合機パネルでの編集の有効化]** チェックボックスをオンにすると、ユーザーが複合機パネルでベイツスタンプをカスタマイズできるようになります。
- ベイツスタンプの定義または変更が完了したら、**[保存]** ボタンを選択してベイツスタンプの定義を保存します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

サンプルドキュメントのアップロード

ツールバーの **アップロード** アイコンをクリックすると、ユーザー独自のサンプルドキュメントをアップロードして、スタンプを構成する際にプレビューとして使用できます。アプリケーションには、各種サイズのサンプルドキュメントが5つ用意されており（ **A4、レター縦長、レター横長、リーガル、およびタブロイド** ）、これらを使用することもできます。独自のドキュメントをアップロードする場合は、PDFファイルをサンプルドキュメントとして使用することはできない点に注意してください。

アップロード アイコンをクリックすると、[イメージの選択]参照フォルダーが表示され、このフォルダーから適切なサイズのドキュメントを選択できます。

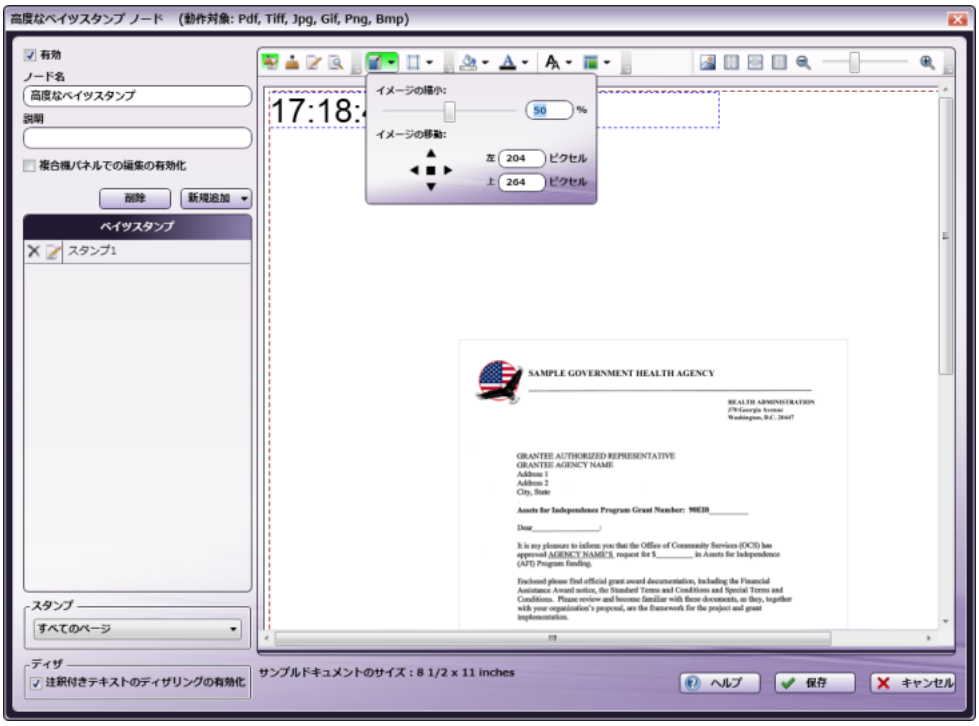
注: サンプルドキュメントは、最小でも½インチ（12.70mm） x ½インチ（12.70mm）の大きさが必要です。

ページのコンテンツの縮小とシフト

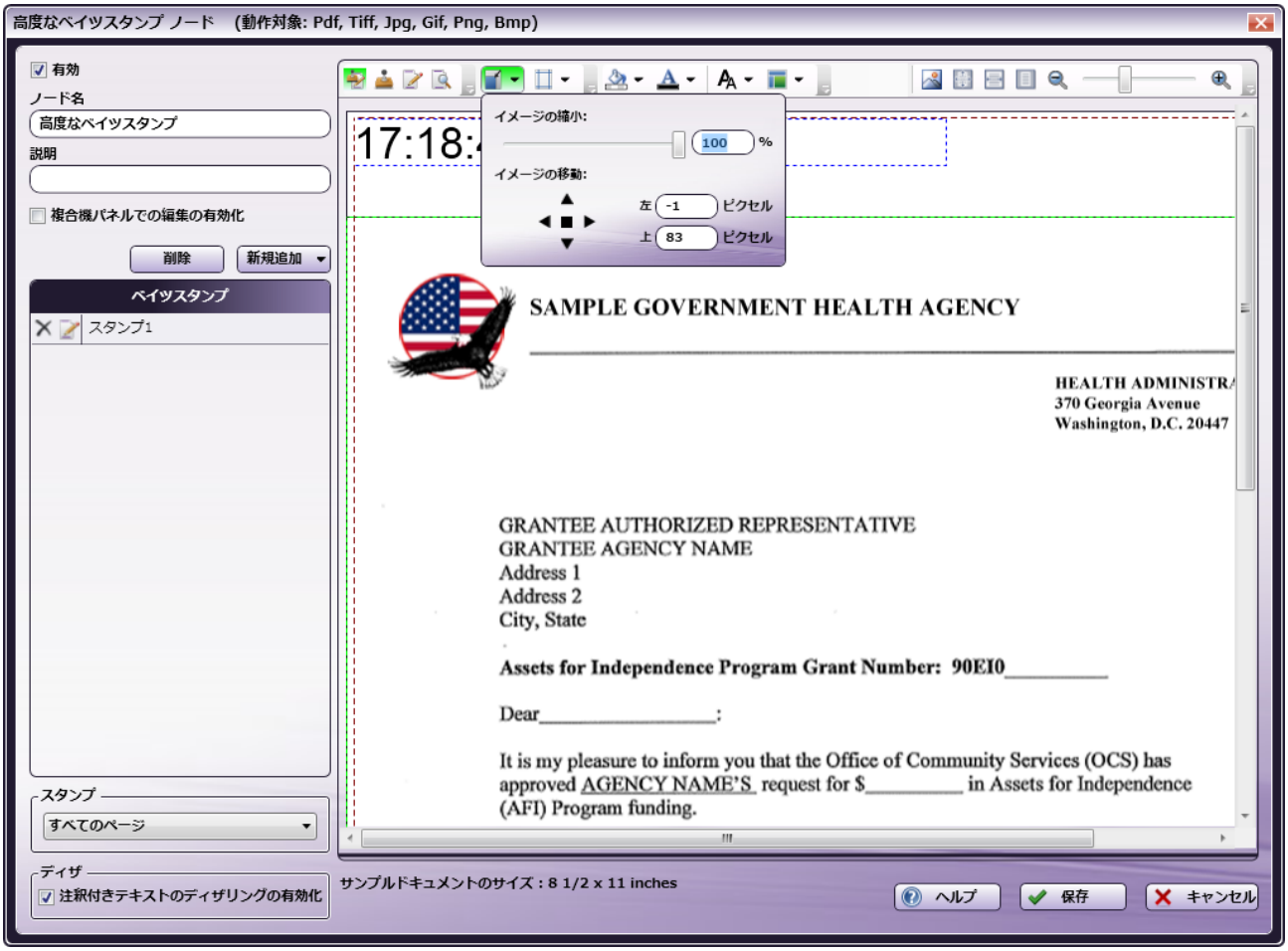
ベイツスタンプによってページの重要な情報が見づらくならないように、スタンプをカスタマイズする際にページのコンテンツを縮小したり、シフトしたりする必要が生じることがあります。

- ページのコンテンツを縮小するには、ツールバーの **[縮小]** アイコンをクリックしてから、**[イメージの縮小]** スライドバーを使用して、コンテンツを縮小するパーセントを指定します。スライドバーの右側にあるフィールドに、パーセントの数値を入力することもできます。
- コンテンツの位置をシフトするには、**[イメージの移動]の上、下、左、右の矢印** を使用するか、**[左]** と **[上]** の両フィールドに位置の移動量（ピクセル）を入力するか、マウスを使用してコンテンツを選択してドラッグします。コンテンツをページの中央に配置するには、**中央の四角形** をクリックします。位置をシフトする際に、コンテンツがページ境界の外側にはみ出ると、コンテンツが切り取られます。
- 矢印を1回クリックすると、コンテンツが一度に1ピクセルずつ移動します。ただし、移動速度を高める場合は、矢印をクリックして左マウスボタンを押したままにすることができます。速度をさらに高めるには、矢印をクリックした後で左マウスボタンを押したままにして、**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーのどちらかを押します。コンテンツを最も高速にシフトする方法は、矢印をクリックしてから左マウスボタンを押したままにして、**[Ctrl] + [Shift]** キーを両方とも押すことです。

以下の図では、ページのコンテンツはオリジナルサイズの50%です。



次の図では、コンテンツは下にシフトされています。



余白の指定

ドキュメントの余白を変更する場合は、ツールバーの **[余白]** アイコンをクリックして、**[上]**、**[下]**、**[左]**、**[右]** の各フィールドに新しい値を入力します。必要な場合は、これらのページ余白の限界を越えてスタンプを配置できることに注意してください。余白は参考のためのもので、スタンプのレイアウトを決定する際にも便利です。余白の測定単位はインチです。

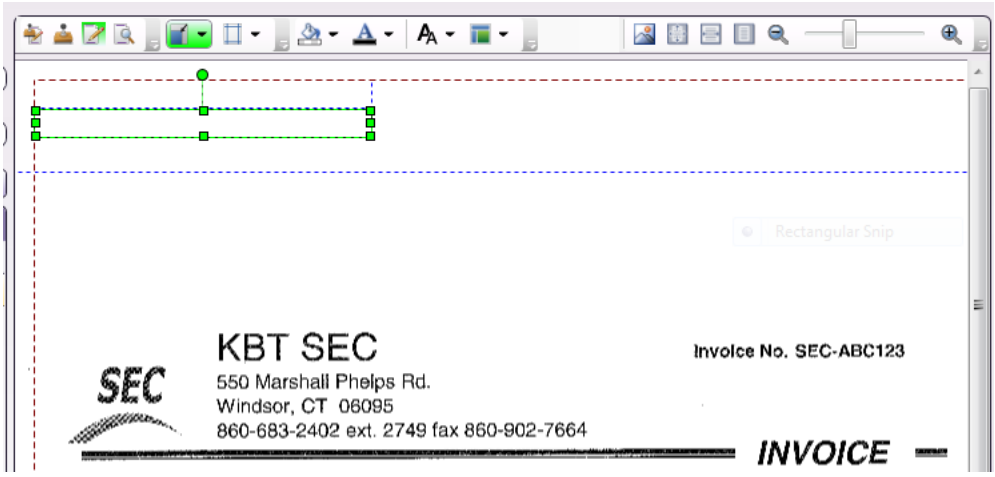
注: 入力されたドキュメントに、このノードで指定されたページ余白より小さなページが含まれている場合、これらのページがスタンプ対象として選択されていれば、ファイルはエラーになります。

ベイツスタンプの作成

ベイツスタンプを作成するには、以下の操作を行います。

1. **[新規追加]** ボタンを選択します。ドロップダウンパレットが表示されます。このパレットでは、以下の操作を行います。
    - スタンプの名前を **[スタンプ名]** フィールドに入力します。この名前は、**コンポーネント** 領域で編集することもできます。
    - **[既定のアンカー位置]** の下に表示される、あらかじめ定義された9つの位置のいずれかを選択することにより、スタンプの開始位置を選択します。ただし、この位置を定義した後も、**[レイアウト]** ドロップダウンパレットを使用するか、**スタンプの編集** 領域でマウスを使って境界ボックスを移動することによって、この位置を変更できます。

    既存のスタンプと同じ位置に新規スタンプを配置する場合は、次の図に示すように、既存のもののすぐ下に新規スタンプが配置されます。



- **[水平]** または **[垂直]** のどちらかのラジオボタンを選択して、スタンプの境界ボックスの向きを指定します。
- 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。新しく作成されたベイツスタンプが、ベイツスタンプのリストに表示されます。
- 変更を保存せずにドロップダウンパレットを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。

2. [スタンプ]プルダウンメニューを使用して、スタンプを付けるページを指定します。オプションは次のとおりです。
   - **[すべてのページ]** - すべてのページにスタンプを付けます。
   - **[すべての偶数ページ]** - 偶数ページにスタンプを付けます。
   - **[すべての奇数ページ]** - 奇数ページにスタンプを付けます。
   - **[最初のページ]** - 最初のページのみにスタンプを付けます。
   - **[最後のページ]** - 最後のページのみにスタンプを付けます。
   - **[独自のページ範囲を定義]** - スタンプを適用するページ範囲を任意に定義します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力するための空のフィールドが表示されます。次の操作を行います。
     - カンマ記号またはダッシュ記号（あるいはその両方）を使って、ドキュメントの先頭から数えたページ範囲を指定します。たとえば、「1, 2, 5-7」と入力すると、1、2、5、6、7ページにスタンプが付けられます。
     - ページ範囲内の特定のスタンプシーケンスを指定するには、カッコを使用します。たとえば、「1-10(3)」と入力すると、1～10ページ目まで2ページおきのページにスタンプが付けられます。
     - 最後のページを指定するには、「end」を使用します。たとえば、「end(-5) - end」と入力すると、20ページあるドキュメントの15～20ページ目にスタンプが付けられます。

   他の例には、以下があります。

   20ページあるドキュメントの1、2、5、6、7、19ページにスタンプを付けるには、「1,2,5-7,end(-1)」と入力します。

   20ページあるドキュメントの10～15ページにスタンプを付けるには、「10-end(-5)」と入力します。

   20ページあるドキュメントの10～15ページに1ページおきにスタンプを付けるには、「10-end(-5)(2)」と入力します。

   25ページあるドキュメントの15～20ページにスタンプを付けるには、「(-10)-end(-5)」と入力します。

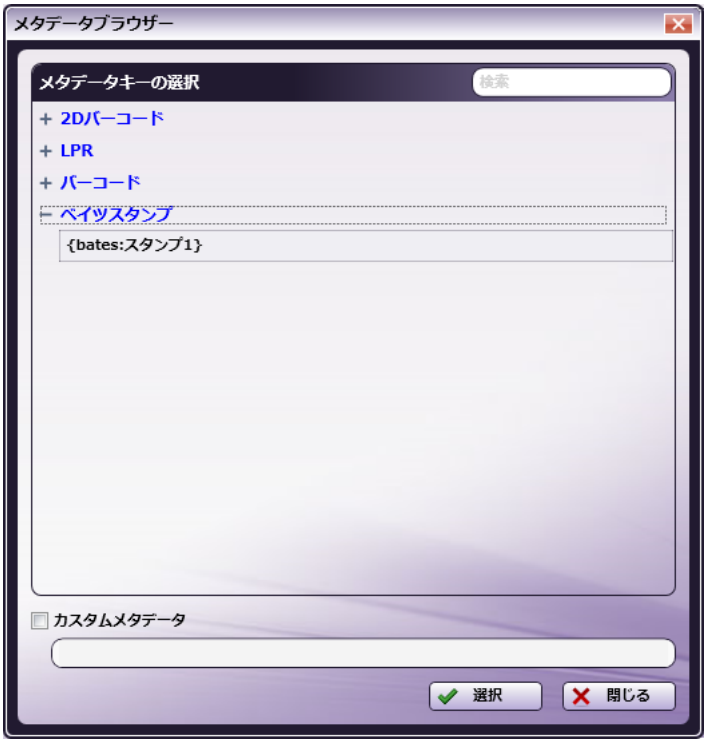
   20ページあるドキュメントの10～20ページにスタンプを付けるには、「end(-10)-end」と入力します。

   注: 入力ドキュメントのページ数に対応しないページ範囲を指定した場合（3ページのドキュメントに10～20ページのスタンプを指定した場合など）、ファイルはエラーになります。

3. 必要な場合は、**[注釈付きテキストのディザリングの有効化]** ボックスにチェックマークを付けて、テキストの明瞭さを高めます。
4. スタンプをカスタマイズするには、名前付けコンポーネントをコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップします。この領域内でコンポーネントをドラッグアンドドロップすることによって、コンポーネントの順序をいつでも変更できます。

ベイツスタンプのメタデータ

ベイツスタンプが作成された後、ワークフロー内の他のノードからベイツスタンプを参照できます。ベイツスタンプを参照するための構文は、{bates: name of stamp [<page>]}です。以下の図に示すように、メタデータブラウザーウィンドウを使用してベイツスタンプ変数を選択することもできます。

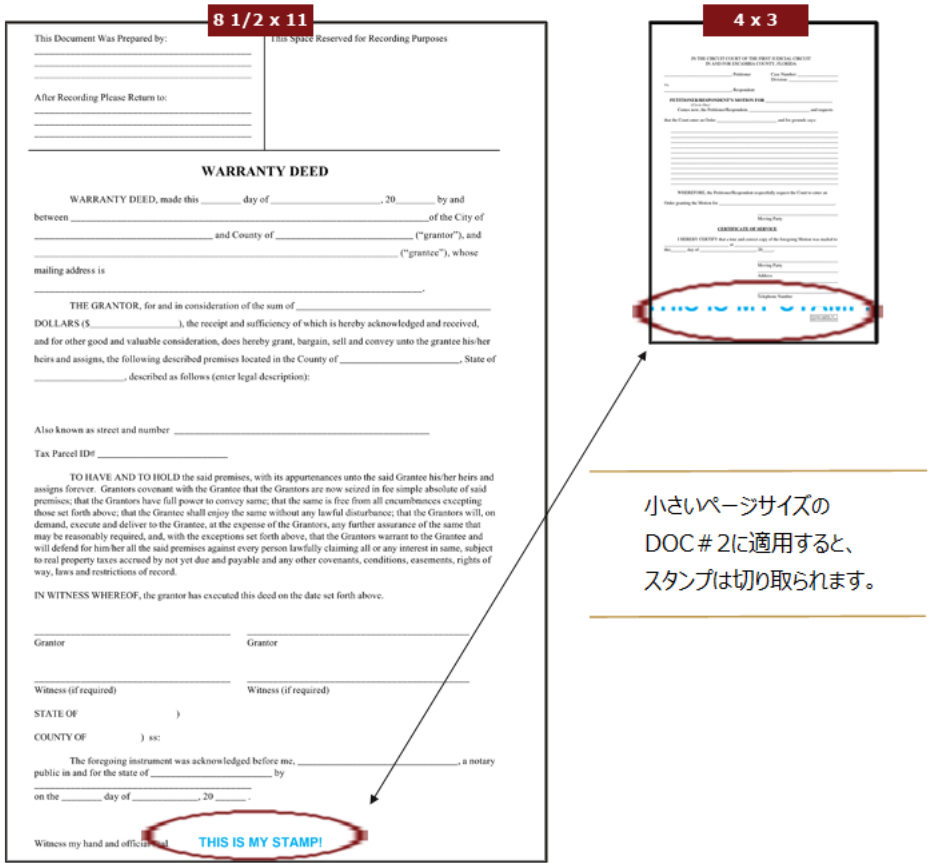


サイズの異なるドキュメントへのベイツスタンプの配置とサイズ

ベイツスタンプを構成する際には、スタンプが適用されるイメージの寸法に関係なく、指定した *余白* と *フォントサイズ* が同じ値に保たれることに注意してください。ただし、テキストを配置できる最大面積を示すスタンプの境界ボックスのサイズと位置は、ドキュメントサイズに比例して調整されます。

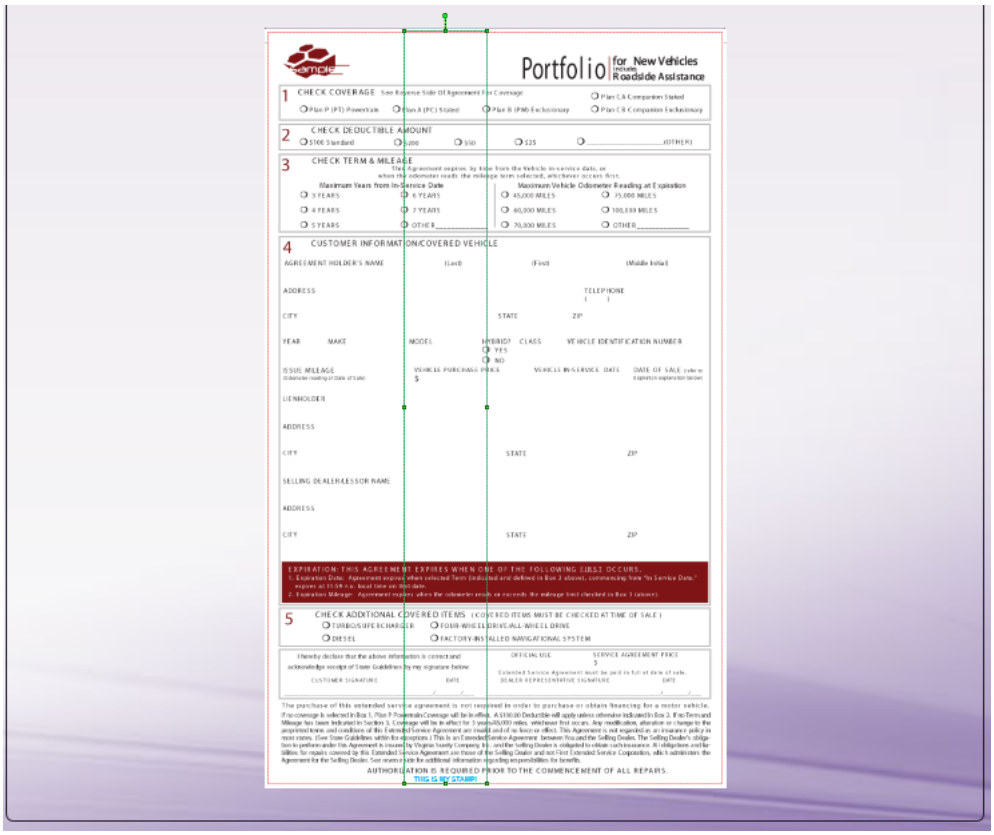
たとえば、フォントサイズ12 ptを指定して180 x 50ピクセルの境界ボックスの中央に揃えられたスタンプが、8 ½ x 14のサンプルドキュメントの左上に配置された場合と、5 x 7のドキュメントに適用された場合では、表示が大幅に異なります。小さいドキュメントではスタンプの境界ボックスが縮小され、テキストはボックス内に完全に収まらなくなります。

以下の図では、スタンプの境界ボックスは元は8 ½ x 11のドキュメント用に構成されていましたが、はるかに小さなドキュメントが高度なベイツスタンプノードによって処理された後、スタンプの大部分が失われました。



サイズの異なるドキュメントに幅広く対応するためには、以下のことを試してください。

- スタンプの編集領域に他のサンプルドキュメントをアップロードして、さまざまなドキュメント上でスタンプをレイアウトします。サンプルイメージは、処理するドキュメントの代表例を示すものにする必要があります。
- スタンプのすべてのテキストを表示するために十分な境界ボックスの大きさが保たれるように、境界ボックスの高さと幅のレイアウトを調整します。テキストが常に見えるようにする必要がある場合は、以下の図に示すように、境界ボックスの高さをドキュメントの高さに合うように拡大します。



注: この調整を行う場合に、スタンプの背景に色を追加すると、ドキュメントに比例したサイズ変更に伴って境界ボックスの領域全体に色が適用されるので、問題が生じる可能性があります。

境界ボックスの絶対寸法の指定

処理対象のドキュメントに関係なく境界ボックスを同じサイズと位置に保つには、レイアウトパレットの **[絶対計測値を使用]** ボックスにチェックマークを付けます。このオプションを有効にした後、スタンプは拡大縮小されなくなり、同じ状態に維持されます。このため、レイアウトの向きまたはサイズが異なるドキュメントを処理すると、スタンプがページ外に配置される可能性があることに注意してください。

ベイツスタンプの名前付けコンポーネント

テキスト

スタンプにテキストを追加します。名前付けコンポーネントメイン領域に[テキスト]アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックして適切なテキストを入力します。

例: 「Document ID」と入力して、静的テキスト「Document ID」をスタンプに追加します。

メタデータ

ワークフロー内の他のノードから取得したメタデータ、および日付、ファイル、システム変数などのシステム定義のメタデータをスタンプに追加します。[メタデータ]アイコンを名前付けコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックしてから **[メタデータキーの選択]** ボタンをクリックすると、以下の図に示すようなメタデータブラウザーが表示されます。

注: メタデータブラウザーには、システム定義の変数と、ワークフロー内で使用されている他のノードからのメタデータのみがリストされます。まだ他のノードを追加していない場合は、システム定義の変数（日付、ファイル、システム、ユーザー）のみが表示されます。

メタデータブラウザーでは、次の操作ができます。

- 目的のメタデータの隣にある**「+」**記号をクリックして、**リストを展開** します。たとえば、LPRメタデータを表示する場合は、LPRの隣にある**「+」**記号をクリックすると、展開可能なリストが以下のように表示されます。

- 該当するメタデータの隣にある「-」記号をクリックして、**リストを縮小** します。
- メタデータをクリックして **【選択】** ボタンをクリックすることによって、**スタンプに追加するメタデータを選択** します。この時点でメタデータブラウザーは閉じ、[高度なベイツスタンプ]ウィンドウに戻ります。
- **ページレベルのメタデータ、またはメタデータ参照の出現番号（あるいはその両方）を指定** します。このためには、**【カスタムメタデータ】** チェックボックスをクリックして、用意されている空のフィールドに上のリストからメタデータをドラッグアンドドロップした後、正しい構文を入力します。
- ウィンドウの右側にある空の検索フィールドに目的のテキスト文字列を入力して、**メタデータを検索** します。

例: LPR入力ノードのキュー名をリストするLPRメタデータを使用して、すべてのページにスタンプを追加します。

数値カウンター

数値の順次カウンターをスタンプに追加します。名前付けコンポーネントメイン領域に[数値カウンター]アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックしてカウンターをカスタマイズします。表示されるフィールドで、以下の操作を行います。

- **[開始値]** フィールドに、カウンターの適切な開始値を入力します。開始値には最大255文字を指定できます。
- **[終了値]** フィールドに、カウンターの適切な終了値を入力します。終了値には最大255文字を指定できます。
- ドロップダウンリストで **[増分]** または **[減分]** のどちらかを選択して、ノードが処理されるたびにカウンターを増加させるか減少させるかを指定します。その隣の空のフィールドに、カウンターの適切な増加分または減少分の値を入力します。次の点に注意してください。

  注:

  - **[増分]** オプションを選択する場合、**[終了値]** は **[開始値]** より大きくする必要があります。
  - **[減分]** オプションを選択する場合、**[開始値]** は **[終了値]** より大きくする必要があります。
- カウンターに先頭文字(スペース、ゼロ、またはその他の記号)を埋め込む場合は、**[先頭の文字]** ドロップダウンリストから選択します。
- カウンターの循環を無効にする場合は、**[サイクル]** ボックスのチェックマークを外します。これにより、カウンターが自動的に循環しなくなり、指定された終了値に達するとファイルはエラーになります。この時点で、カウンターのステータスは[期限切れ]に変更されます。
- カウンターの進め方を変更するには、**[ドキュメントレベルのカウンター]** ボックスにチェックマークを付けます。このオプションが有効になっていると、各ページではなくそれぞれの連続するドキュメントごとにカウンターが進みます。これは、ドキュメント内でそれぞれのページに対して同じ一意のIDを生成する場合に便利です。たとえば、このオプションを有効にすると、doc1のすべてのページにスタンプ0001が付けられ、doc2のすべてのページにスタンプ0002が付けられ、以降も同様な結果になります。既定の動作では、各ドキュメントの各ページに順次カウンターが適用されます。
- **[カウンターのステータス]** 領域には、カウンターの現在のステータスが、現在の値とともに表示されます。ワークフローが少なくとも1回実行された後、カウンターを元の「開始値」にリセットするには、**[リセット]** リンクを選択します。カウンターをリセットできないようにロックするには、**[ロック]** リンクを選択します。

例: 1から始まり999999999で終了する増分10の数値カウンターを使用して、各ページにスタンプを指定します。[先頭のゼロ]オプションを有効にします。処理されるファイルの3ページ目のスタンプは、000000021になります。

アルファベットのカウンター

アルファベットのカウンターをスタンプに追加します。名前付けコンポーネントメイン領域に[アルファベットのカウンター]アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックしてカウンターをカスタマイズします。表示されるフィールドで、以下の操作を行います。

- **[開始値]** フィールドに、カウンターの適切な開始値を入力します。開始値には最大255文字を指定できます。
- **[終了値]** フィールドに、カウンターの適切な終了値を入力します。終了値には最大255文字を指定できます。
- ドロップダウンリストで **[増分]** または **[減分]** のどちらかを選択して、ノードが処理されるたびにカウンターを増加させるか減少させるかを指定します。その隣の空のフィールドに、カウンターの適切な増加分または減少分の値を入力します。このフィールドは、数値の入力のみを受け付けます。たとえば、開始値を「A」、終了値を「Z」として、増分2を指定すると、「A、C、E、G、I...」が生成されます。以下の点に注意してください。

  注:

  - **[増分]** オプションを選択する場合、**[終了値]** は **[開始値]** より大きくする必要があります。
  - **[減分]** オプションを選択する場合、**[開始値]** は **[終了値]** より大きくする必要があります。
- カウンターに先頭文字(スペース、ゼロ、またはその他の記号)を埋め込む場合は、**[先頭の文字]** ドロップダウンリストから選択します。
- カウンターの循環を無効にする場合は、**[サイクル]** ボックスのチェックマークを外します。これにより、カウンターが自動的に循環しなくなり、指定された終了値に達するとファイルはエラーになります。この時点で、カウンターのステータスは[期限切れ]に変更されます。
- アルファベットのカウンターを小文字で表示するように指定する場合は、**[小文字出力]** ボックスにチェックマークを付けます。
- カウンターの進め方を変更するには、**[ドキュメントレベルのカウンター]** ボックスにチェックマークを付けます。このオプションが有効になっていると、各ページではなくそれぞれの連続するドキュメントごとにカウンターが進みます。これは、ドキュメント内でそれぞれのページに対して同じ一意のIDを生成する場合に便利です。たとえば、このオプションを有効にすると、doc1のすべてのページにスタンプ0001が付けられ、doc2のすべてのページにスタンプ0002が付けられ、以降も同様な結果になります。既定の動作では、各ドキュメントの各ページに順次カウンターが適用されます。
- **[カウンターのステータス]** 領域には、カウンターの現在のステータスが、現在の値とともに表示されます。ワークフローが少なくとも1回実行された後、カウンターを元の「開始値」にリセットするには、**[リセット]** リンクを選択します。カウンターをリセットできないようにロックするには、**[ロック]** リンクを選択します。リセットとロックのどちらのアクションを実行する際にも、確認メッセージが表示されます。

例: Aから始まりZZZZZで終了する増分5のアルファベットのカウンターを使用して、各ページにスタンプを指定します。[小文字出力]オプションを無効にして、先頭の文字[空白(スペース)]オプションを有効にします。処理されるファイルの3ページ目のスタンプは、「K」(前に4つのスペースが入る)になります。

ローマ数字カウンター

ローマ数字カウンターをスタンプに追加します。名前付けコンポーネントメイン領域に[ローマ数字カウンター]アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックしてカウンターをカスタマイズします。表示されるフィールドで、以下の操作を行います。

- **[開始値]** フィールドに、カウンターの適切な開始値を入力します。開始値には最大255文字を指定できます。
- **[終了値]** フィールドに、カウンターの適切な終了値を入力します。終了値には最大255文字を指定できます。

- ドロップダウンリストで **[増分]** または **[減分]** のどちらかを選択して、ノードが処理されるたびにカウンターを増加させるか減少させるかを指定します。その隣の空のフィールドに、カウンターの適切な増加分または減少分の値を入力します。次の点に注意してください。

  注:

  - **[増分]** オプションを選択する場合、**[終了値]** は **[開始値]** より大きくする必要があります。
  - **[減分]** オプションを選択する場合、**[開始値]** は **[終了値]** より大きくする必要があります。
- カウンターに先頭文字（スペース、ゼロ、またはその他の記号）を埋め込む場合は、**[先頭の文字]** ドロップダウンリストから選択します。
- カウンターの循環を無効にする場合は、**[サイクル]** ボックスのチェックマークを外します。これにより、カウンターが自動的に循環しなくなり、指定された終了値に達するとファイルはエラーになります。この時点で、カウンターのステータスは[期限切れ]に変更されます。
- ローマ数字カウンターを小文字で表示するように指定する場合は、**[小文字出力]** ボックスにチェックマークを付けます。
- カウンターの進め方を変更するには、**[ドキュメントレベルのカウンター]** ボックスにチェックマークを付けます。このオプションが有効になっていると、各ページではなくそれぞれの連続するドキュメントごとにカウンターが進みます。これは、ドキュメント内でそれぞれのページに対して同じ一意のIDを生成する場合に便利です。たとえば、このオプションを有効にすると、doc1のすべてのページにスタンプ0001が付けられ、doc2のすべてのページにスタンプ0002が付けられ、以降も同様な結果になります。既定の動作では、各ドキュメントの各ページに順次カウンターが適用されます。
- **[カウンターのステータス]** 領域には、カウンターの現在のステータスが、現在の値とともに表示されます。ワークフローが少なくとも1回実行された後、カウンターを元の「開始値」にリセットするには、**[リセット]** リンクを選択します。カウンターをリセットできないようにロックするには、**[ロック]** リンクを選択します。リセットとロックのどちらのアクションを実行する際にも、確認メッセージが表示されます。

例: 20から始まり1で終了する減分1のローマ数字カウンターを使用して、各ページにスタンプを指定します。[小文字出力]オプションは無効にします。処理されるファイルの3ページ目のスタンプは、XVIIIになります。

ページ番号

[ページ番号]アイコンを名前付けコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップして、スタンプにページ番号を追加します。

例: 処理されるファイルの5ページ目では、作成されるスタンプは5になります。

ページ数

[ページ数]アイコンを名前付けコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップして、スタンプに合計ページ数を追加します。

例: 処理されるファイルの合計ページ数とその中のページ番号を含むスタンプを追加するには、ページ番号、テキスト、およびページ数の名前付けコンポーネントを組み合わせて使用します。3ページのドキュメントの1ページ目では、作成されるスタンプは1 of 3になります。

日付

現在の日付をスタンプに追加します。名前付けコンポーネントメイン領域に[日付]アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックして日付の外観をカスタマイズします。

- 月、日、および年を追加するには、**[MM-dd-yyyy]** ラジオボタンを選択します。
- 月のみを追加するには、**[MM]** ラジオボタンを選択します。
- 日のみを追加するには、**[dd]** ラジオボタンを選択します。
- 年のみを追加するには、**[yyyy]** ラジオボタンを選択します。

例: **[MM]** オプションが選択された場合に、ファイルが5月に処理されると、作成されるスタンプは05になります。

時間

現在の時刻をスタンプに追加します。名前付けコンポーネントメイン領域に[時間]アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックして時間の外観をカスタマイズします。

- 時、分、および秒を追加するには、**[HH:mm:ss]** ラジオボタンを選択します。
- 時のみを追加するには、**[HH]** ラジオボタンを選択します。
- 分のみを追加するには、**[mm]** ラジオボタンを選択します。
- 秒のみを追加するには、**[ss]** ラジオボタンを選択します。

例: [HH]オプションが選択された場合に、ファイルが午後2:00に処理されると、作成されるスタンプは14になります。

区切り

さまざまな区切り記号をスタンプに追加します。名前付けコンポーネントメイン領域に[区切り]アイコンをドラッグアンドドロップした後、アイコンをダブルクリックしてドロップダウンリストから適切な区切り記号を選択します。オプションは次のとおりです。

スペース

コロン（:）

セミコロン(;)

カンマ(,)

波形記号(~)

感嘆符(!)

アットマーク(@)

シャープ記号(#)

ドル記号($)

パーセント記号(%)

ピリオド(.)

プラス記号(+)

ダッシュ(-)

下線(_)

例: ファイル名とカウンターの間でダッシュを使用する場合、作成されるスタンプは、doc1-00010のようになります。

ファイル名

[ファイル名]アイコンを名前付けコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップして、ファイルの名前をスタンプに追加します。

例: 処理されるドキュメントのファイル名がrecordxxxxの場合、作成されるスタンプはrecordxxxxになります。

ファイル拡張子

[ファイル拡張子]アイコンを名前付けコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップして、ファイルの拡張子をスタンプに追加します。

例: 処理されるドキュメントのファイル拡張子がJPGの場合、作成されるスタンプにはJPGという語が含まれます。

ファイルサイズ

[ファイルサイズ]アイコンを名前付けコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップして、ファイルのサイズ(バイト)をスタンプに追加します。

例: 入力ファイルのファイルサイズが278KBの場合、作成されるスタンプは283926になります。

イメージの幅

[イメージの幅]アイコンを名前付けコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップして、スタンプにイメージの幅を追加します。

例: イメージファイルの幅が960ピクセルの場合、作成されるスタンプは960になります。

イメージの高さ

[イメージの高さ]アイコンを名前付けコンポーネントメイン領域にドラッグアンドドロップして、スタンプにイメージの高さを追加します。

例: イメージファイルの高さが300ピクセルの場合、作成されるスタンプは300になります。

ベイツスタンプの編集

ベイツスタンプが作成された後、次のいずれかを行って編集するベイツスタンプを選択できます。

- **ベイツスタンプリスト** から選択する。

  または

- **スタンプの編集** 領域でベイツスタンプの境界ボックスを選択する。

パネルでの高度なベイツスタンプの作成

複合機パネルでDispatcher Phoenixベイツスタンプを作成および変更できます。パネルで既存のベイツスタンプに加えた変更は、Dispatcher Phoenixにも自動で反映されます。

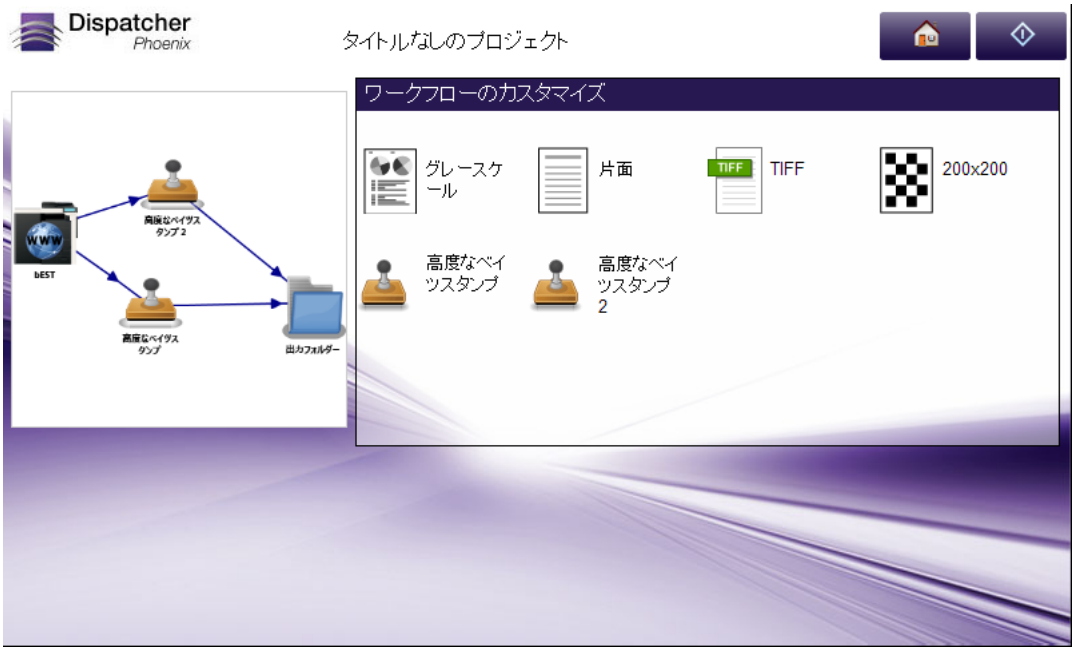
注: 高度なベイツスタンプ機能へのアクセスは、グラフィカルユーザーインターフェイスを実行する複合機でのみサポートされています。

作業の開始

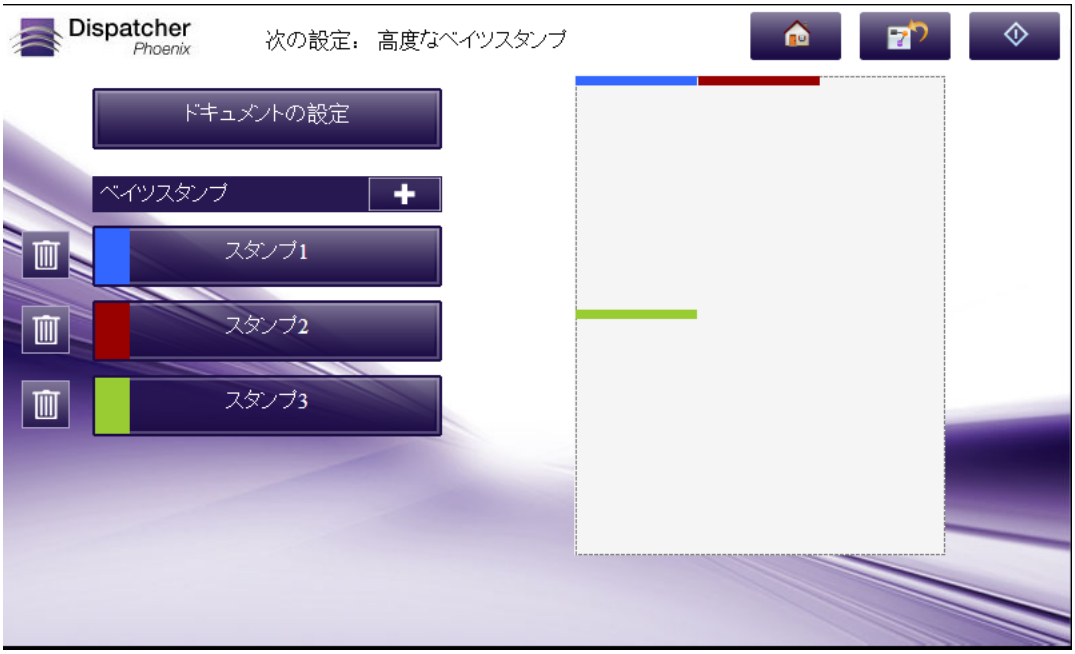
複合機パネルでベイツスタンプを操作するには、以下の操作を行います。

1. ワークフローを構成して、1つの複合機パネルノードと1つ以上の高度なベイツスタンプノードを挿入します。高度なベイツスタンプノード上で **[複合機パネルでの編集の有効化]** オプションが有効になっていることを確認します。
2. ワークフローが実行中であることを確認します。

Dispatcher Phoenixにログインして、パネルで実行中のワークフローにアクセスすると、次の図に示すように[ワークフローの詳細]画面が表示されます。



新規ベイツスタンプを表示、編集、および作成するには、目的の高度なベイツスタンプノードのアイコンをタップします。次の図のようなノード構成画面が表示されます。



この画面には、高度なベイツスタンプノードにすでに定義されているベイツスタンプが表示されます。最大3つのベイツスタンプが画面に表示されます。その他のベイツスタンプに移動するための上下矢印が用意されています。

この画面では、以下の操作を実行できます。

- **[ドキュメントの設定]** ボタンをタップして、ドキュメントのプロパティ、およびその他のスタンプ作成オプションを変更します。
- **[+]** ボタンをタップして、別のスタンプをノードに追加します。
- 特定の**ベイツスタンプ**をタップして、既存のスタンプのコンポーネントを編集します。

ボタンの使用

複合機パネル上の高度なベイツスタンプ作成画面のほとんどにはボタンが備わっており、これらのボタンを使用して変更内容を保存または破棄したり、スタンプ作成画面の間を移動したりすることができます。

アイコン	説明
	複合機上で現在実行されているワークフローのリストに戻ります。実行されているワークフローがただ1つの場合は、そのワークフローの[ワークフローの詳細]画面が表示されます。
	[ワークフローの詳細]画面に戻ります。
	スキャンを開始します。
	変更内容を保存します。
	前の画面に戻ります。
	変更内容を破棄します。
	ワークフローのリストまたは[ワークフローの詳細]画面に戻ります。

ドキュメント設定の変更

[ドキュメントの設定] ボタンをタップすると、次の図に示すような[ドキュメントの設定]画面が表示されます。

以下の操作を行います。

- ページのコンテンツを縮小するには、**[イメージの縮小]** ボックスにコンテンツを縮小するパーセントを入力します。
- コンテンツの位置をシフトするには、**[左]** フィールドと **[上]** フィールドに、位置の移動量（ピクセル）を入力します。
- ドキュメントの印刷余白を変更するには、**[印刷の余白]**の**[上]**、**[下]**、**[左]**、**[右]** の各フィールドに新しい値を入力します。
- **[スタンプ]** プルダウンメニューを使用して、スタンプを付けるページを指定します。オプションは次のとおりです。
  - **[すべてのページ]** - すべてのページにスタンプを付けます。
  - **[すべての偶数ページ]** - 偶数ページにスタンプを付けます。
  - **[すべての奇数ページ]** - 奇数ページにスタンプを付けます。
  - **[最初のページ]** - 最初のページのみにスタンプを付けます。
  - **[最後のページ]** - 最後のページのみにスタンプを付けます。

- **[独自のページ範囲を定義]** - スタンプを適用するページ範囲を任意に定義します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力するための空のフィールドが表示されます。詳細は、「高度なベイツスタンプ」のセクションを参照してください。

- **[ディザリングの有効化]の[はい]** ボタン、または **[いいえ]** ボタンをタップして、ディザリングを有効または無効にします。

ベイツスタンプの構成

新しいベイツスタンプをノードに追加したり、ノード内の既存のベイツスタンプを編集したりすることができます。

新しいベイツスタンプの追加

新しいベイツスタンプを構成するには、**[+]** ボタンをタップします。次の図のように、[新しいベイツスタンプ]画面が表示されます。

以下の操作を行います。

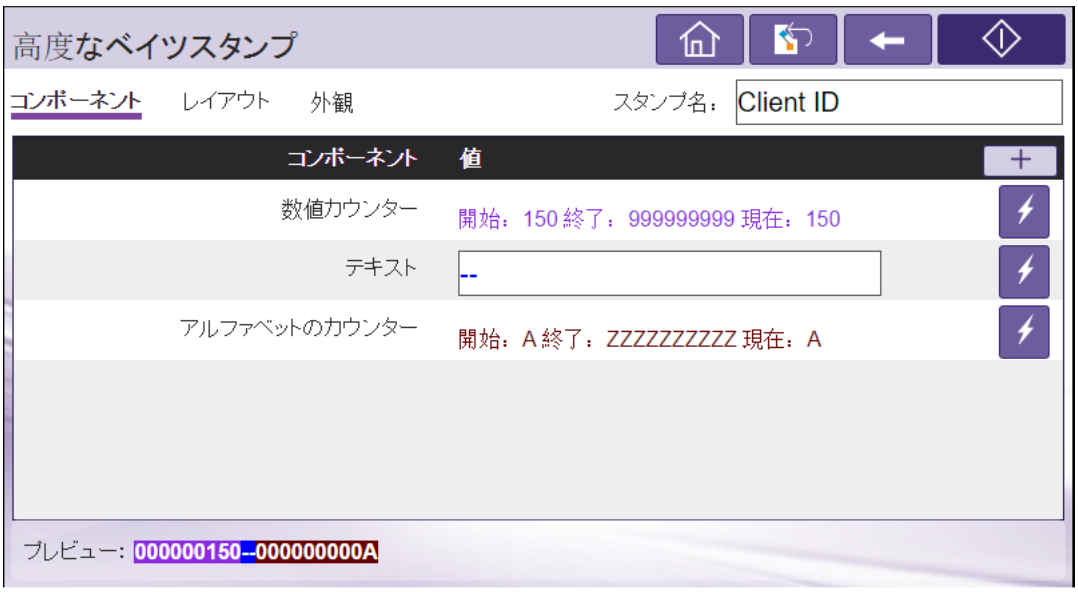
- **[スタンプ名]** フィールドに、ベイツスタンプに付けるわかりやすい識別名を入力します。
- **[水平]** ボタンまたは **[垂直]** ボタンを使用して、ベイツスタンプの向きを指定します。
- **[アンカー位置]** ボックス内のボタンをタップして、新しく追加するベイツスタンプの既定のアンカー位置を指定します。

指定が完了すると、空白のスタンプ構成画面が表示されます。この画面を使用する方法の詳細については、次のセクションを参照してください。

既存のベイツスタンプの編集

既存のベイツスタンプを編集するには、ノード構成画面のベイツスタンプの領域にリストされているスタンプをタップします。

[スタンプ構成]画面が表示されます。最大5つのスタンプコンポーネントが画面に表示されます。その他のスタンプコンポーネントに移動するための上下矢印が用意されています。



この画面では、既存のスタンプコンポーネントを変更したり、新しいスタンプコンポーネントをスタンプに追加したりすることができます。

既存のスタンプコンポーネントの編集

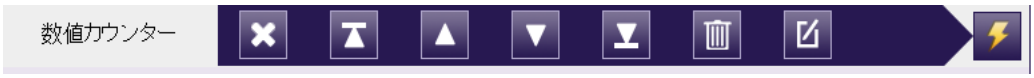
既存のスタンプコンポーネントを編集するには、以下のいずれかの操作を行います。

- コンポーネントをタップする。

  または

- **[操作]** ボタンをタップする。

[操作] ボタンをタップすると、次の図に示すようなツールバーが表示されます。



既存のスタンプコンポーネントの編集

ノードに新しいベイツスタンプを追加するには、**[+]** アイコンをタップします。[新しい名前付けコンポーネント]画面が表示され、次の図に示すように、ベイツスタンプに追加できるすべてのスタンプコンポーネントがリストされます。

テキストの追加

ベイツスタンプにテキストを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[テキスト]** ボタンをタップします。
2. [テキスト]コンポーネントウィンドウで、**[値]** フィールドに新しいテキストを入力します。

メタデータの追加

ベイツスタンプにメタデータを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[メタデータ]** ボタンをタップします。

2. [メタデータ]コンポーネントウィンドウで、**[値]** フィールドに変数を入力します。

数値カウンターの追加

ベイツスタンプに新しい数値カウンターを追加するには、以下の操作を行います。

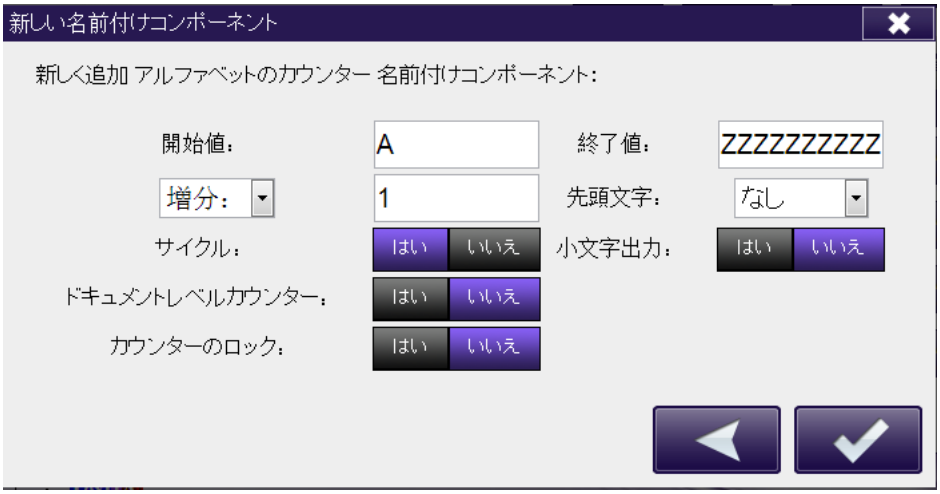
1. **[数値カウンター]** ボタンをタップします。
2. [数値カウンター]ウィンドウで、以下の操作を行います。
   - **[開始値]** フィールドに、カウンターの適切な開始値を入力します。
   - **[終了値]** フィールドに、カウンターの適切な終了値を入力します。
   - ドロップダウンリストを使用して、**[増分]** または **[減分]** のどちらかを選択します。その後、カウンターの適切な増加分または減少分の値を入力します。
   - カウンターに先頭文字を埋め込む場合は、**[先頭の文字]** ドロップダウンリストから文字を選択します。
   - **[サイクル]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、指定された終了値に達した後、数値カウンターを自動的に循環させるかどうかを選択します。
   - **[ドキュメントレベルのカウンター]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、カウンターを連続するドキュメントごとに進めるか、ページごとに進めるかを選択します。
   - **[カウンターのロック]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、カウンターをリセットできないようにロックするかどうかを選択します。

アルファベットのカウンターの追加

ベイツスタンプに新しいアルファベットのカウンターを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[アルファベットのカウンター]** ボタンをタップします。
2. [アルファベットのカウンター]ウィンドウで、以下の操作を行います。
   - **[開始値]** フィールドに、カウンターの適切な開始値を入力します。
   - **[終了値]** フィールドに、カウンターの適切な終了値を入力します。
   - ドロップダウンリストを使用して、**[増分]** または **[減分]** のどちらかを選択します。その後、カウンターの適切な増加分または減少分の値を入力します。
   - カウンターに先頭文字を埋め込む場合は、[先頭の文字]ドロップダウンリストから文字を選択します。

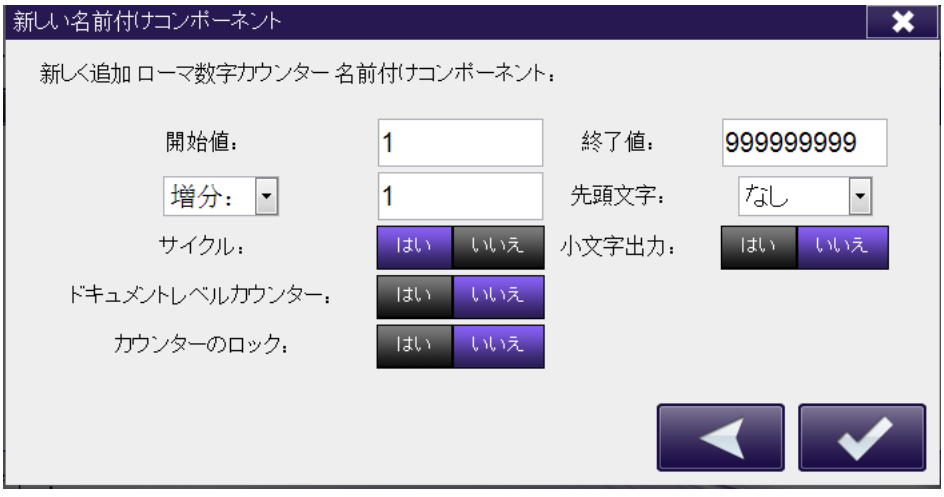
- **[小文字出力]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、アルファベットのカウンターを大文字または小文字のどちらで表示するか選択します。
- **[サイクル]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、指定された終了値に達した後、数値カウンターを自動的に循環させるかどうかを選択します。
- **[ドキュメントレベルのカウンター]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、カウンターを連続するドキュメントごとに進めるか、ページごとに進めるかを選択します。
- **[カウンターのロック]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、カウンターをリセットできないようにロックするかどうかを選択します。



ローマ数字カウンターの追加

ベイツスタンプに新しいローマ数字カウンターを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[ローマ数字カウンター]** ボタンをタップします。
2. [ローマ数字カウンター]ウィンドウで、以下の操作を行います。
   - **[開始値]** フィールドに、カウンターの適切な開始値を入力します。
   - **[終了値]** フィールドに、カウンターの適切な終了値を入力します。
   - ドロップダウンリストを使用して、**[増分]** または **[減分]** のどちらかを選択します。その後、カウンターの適切な増加分または減少分の値を入力します。
   - カウンターに先頭文字を埋め込む場合は、[先頭の文字]ドロップダウンリストから文字を選択します。
   - **[小文字出力]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、ローマ数字カウンターを大文字または小文字のどちらで表示するか選択します。
   - **[サイクル]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、指定された終了値に達した後、数値カウンターを自動的に循環させるかどうかを選択します。
   - **[ドキュメントレベルのカウンター]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、カウンターを連続するドキュメントごとに進めるか、ページごとに進めるかを選択します。
   - **[カウンターのロック]の[はい]/[いいえ]** ボタンをタップして、カウンターをリセットできないようにロックするかどうかを選択します。



ページ番号の追加

ベイツスタンプにページ番号を追加するには、以下の操作を行います。

1. **[ページ番号]** ボタンをタップします。
2. [ページ番号]コンポーネントウィンドウに、{page:number}変数が読み取り専用で表示されます。

3. **[保存]** ボタンをタップして、ベイツスタンプにページ番号を追加します。

ページ数の追加

ベイツスタンプにページ数を追加するには、以下の操作を行います。

1. **[ページ数]** ボタンをタップします。
2. [ページ数]コンポーネントウィンドウに、{page:count}変数が読み取り専用で表示されます。
3. **[保存]** ボタンをタップして、ベイツスタンプにページ数を追加します。

日付の追加

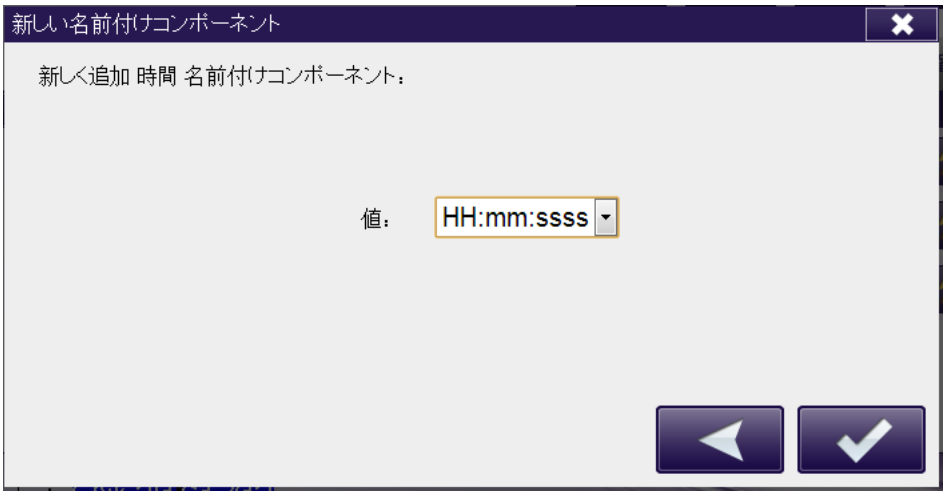
ベイツスタンプに日付を追加するには、以下の操作を行います。

1. **[日付]** ボタンをタップします。
2. [日付]コンポーネントウィンドウで、**[値]** ドロップダウンリストから適切な日付のフォーマットを選択します。

時間の追加

ベイツスタンプに時刻を追加するには、以下の操作を行います。

1. **[時間]** ボタンをタップします。
2. [時間]コンポーネントウィンドウで、**[値]** ドロップダウンリストから適切な時間のフォーマットを選択します。



区切りの追加

ベイツスタンプに区切り記号を追加するには、以下の操作を行います。

1. **[区切り]** ボタンをタップします。
2. [区切り]コンポーネントウィンドウで、**[値]** ドロップダウンリストから適切な区切りを選択します。

ファイル名の追加

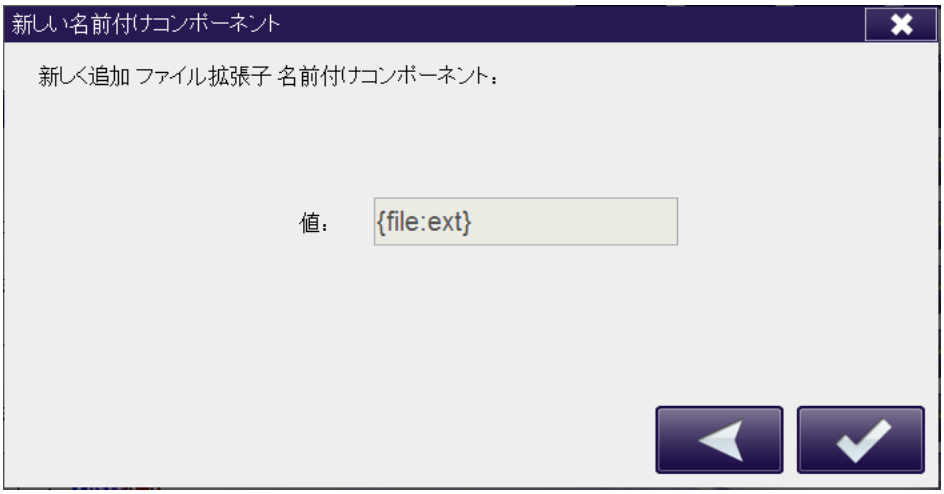
ベイツスタンプにファイル名を追加するには、以下の操作を行います。

1. **【ファイル名】** ボタンをタップします。
2. [ファイル名]コンポーネントウィンドウに、{file:name}変数が読み取り専用で表示されます。
3. **【保存】** ボタンをタップして、ベイツスタンプにファイル名を追加します。

ファイル拡張子の追加

ベイツスタンプにファイル拡張子を追加するには、以下の操作を行います。

1. **【ファイル拡張子】** ボタンをタップします。
2. [ファイル拡張子]コンポーネントウィンドウに、{file:ext}変数が読み取り専用で表示されます。
3. **【保存】** ボタンをタップして、ベイツスタンプにファイル拡張子を追加します。



ファイルサイズの追加

ベイツスタンプにファイルサイズを追加するには、以下の操作を行います。

1. **【ファイルサイズ】** ボタンをタップします。
2. [ファイルサイズ]コンポーネントウィンドウに、{file:size}変数が読み取り専用で表示されます。
3. **【保存】** ボタンをタップして、ベイツスタンプにファイルサイズを追加します。

イメージの幅の追加

ベイツスタンプにイメージの幅を追加するには、以下の操作を行います。

1. **[イメージの幅]** ボタンをタップします。
2. [イメージの幅]コンポーネントウィンドウに、{image:width}変数が読み取り専用で表示されます。
3. **[保存]** ボタンをタップして、ベイツスタンプにイメージの幅を追加します。

イメージの高さの追加

ベイツスタンプにイメージの高さを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[イメージの高さ]** ボタンをタップします。
2. [イメージの高さ]コンポーネントウィンドウに、{image:height}変数が読み取り専用で表示されます。
3. **[保存]** ボタンをタップして、ベイツスタンプにイメージの高さを追加します。

ベイツスタンプのレイアウトの変更

ベイツスタンプのレイアウトを変更するには、ノード構成画面の **【レイアウト】** タブをタップします。次の画面が表示されます。

以下の操作を行います。

- **【高さ】** フィールドと **【幅】** フィールドに、スタンプの境界ボックスのサイズを示す適切な値（ピクセル単位）を入力します。
- **【場所】** の **【上】** フィールドと **【左】** フィールドに、スタンプの境界ボックスをドキュメント上で配置する位置を示す適切な値（ピクセル単位）を入力します。
- **【角度】** フィールドに、スタンプの境界ボックスの回転角度を入力します。
- 処理対象のドキュメントに関係なく境界ボックスを同じサイズと位置に保つには、レイアウトパレットの **【絶対計測値を使用】の【はい】/【いいえ】** ボタンを選択します。このオプションを有効にした後、スタンプは拡大縮小されなくなり、同じ状態に維持されます。このため、レイアウトの向きまたはサイズが異なるドキュメントを処理すると、スタンプがページ外に配置される可能性があることに注意してください。

ベイツスタンプの外観の変更

ベイツスタンプの外観を変更するには、ノード構成画面の[外観]タブをタップします。次の画面が表示されます。

以下の操作を行います。

- 色を指定します。
  - **[背景色]** フィールドに、スタンプの境界ボックスの背景に表示したい色の値を入力します。
  - **[前景色]** フィールドに、スタンプのコンテンツに使いたい色の値を入力します。
  - 背景と前景について、それぞれの[不透明度]フィールドに不透明度（0から1までの10進数）を入力します。
  - HTMLの色名をフィールドに入力することができます。入力した色名は、対応するHTMLのカラーコードに自動的に変換されます。基本的な色名には、水色（aqua）、黒（black）、青（blue）、赤紫（fuchsia）、灰色（gray）、緑（green）、ライム（lime）、くり色（maroon）、ネイビー（navy）、オリーブ（olive）、パープル（purple）、赤（red）、銀（silver）、緑がかった青（teal）、白（white）、黄（yellow）があります。
- **[水平方向の配置]** と **[垂直方向の配置]** ボタンを使って、スタンプのコンテンツの水平方向および垂直方向のアラインメント（左、中央、右、または上、中央、下）を選択します。
- **[フォント]** ドロップダウンリストから、スタンプのコンテンツに使うフォントファミリーとフォントサイズを選択します。
- **[向き]** ボタンを使って、スタンプの向き（横または縦）を選択します。
- **[太字]** と **[斜体]** の [はい/いいえ] ボタンを使って、スタンプのコンテンツを太字や斜体にするかどうかを選択します。

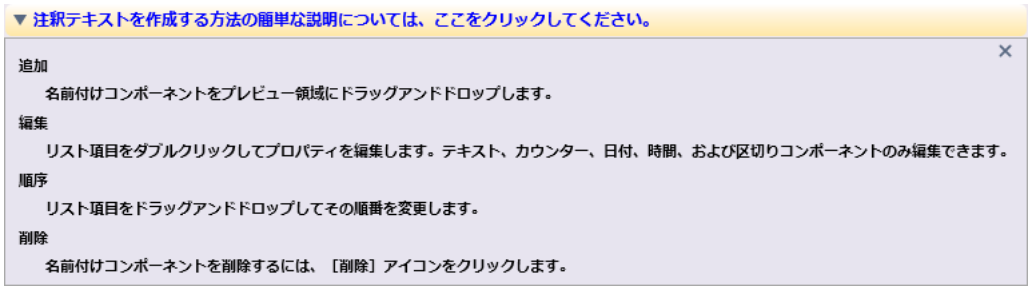
注釈

自動的に実行可能な多くの処理の1つが **注釈** です。注釈は、TIFF、JPG、GIF、PNG、BMPおよびPDF形式のファイルで機能します。注釈では、各ファイルに付け加えたいものを正確に定義します。

注: このノードは、AES（Advanced Encryption Standard）PDFをサポートしていません。

[注釈ノード] ウィンドウを開くには、**注釈** 処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。*名前の変更ノード* の場合と同様、左側のコンポーネントを *プレビュー* ペインにドラッグして、注釈テキストを定義します。

- 処理を実行できるように、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントはノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、注釈ノードに付けるわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、注釈ノードの説明を入力します。これは必要ありませんが、処理を区別する場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 次の図にあるように、注釈テキストの作り方の説明を見るには、**注釈領域の上のトップメニューバー** をクリックします。



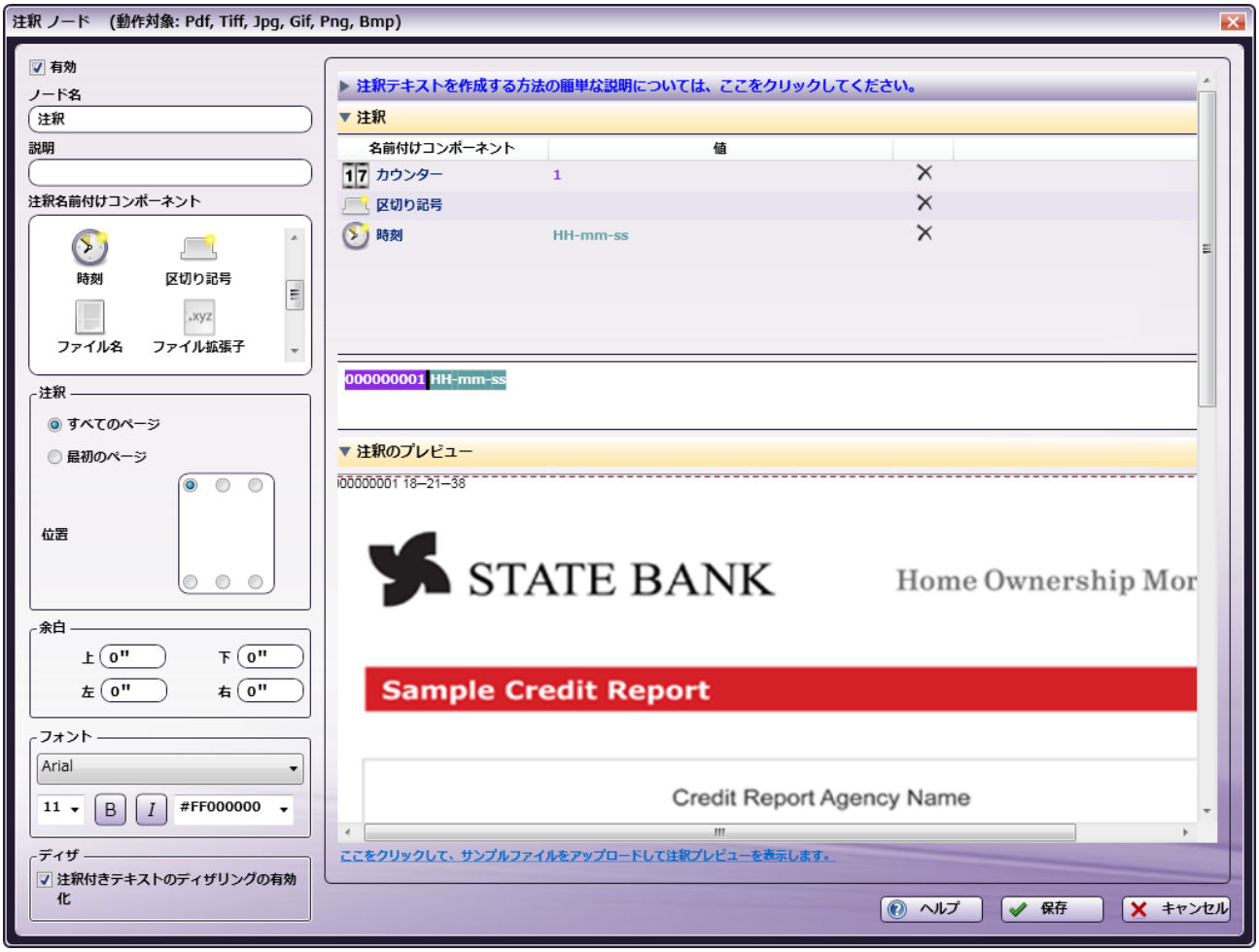
必要な情報を見つけたら、再びメニューバーをクリックして説明の表示を消します。

- **[注釈名前付けコンポーネント]** 領域で、次のコンポーネントを **[注釈]** 領域にドラッグします。
  - **[テキスト]** - 注釈に含めたいテキスト文字列を入力します。このコンポーネントでファイルレベルの動的変数を使うこともできます。たとえば、ファイルのファイル名全体を注釈に含めるには、「 *{file:fullname}* 」とタイプします。
  - **[メタデータ]** - ワークフローで使われている他のノードからのシステム定義変数やメタデータを表示する[メタデータブラウザー]ウィンドウを起動するには、メタデータ名前付けコンポーネントをダブルクリックして、次に **[メタデータキーの選択]** ボタンをクリックします。まだ他のノードを追加していない場合はシステム定義変数（Date、File、System、User）だけがウィンドウに表示されます。メタデータについての詳細は、各ノードのセクションを参照してください。メタデータブラウザーでは、次の操作ができます。
    - **リストを展開** するには、目的のメタデータの横にある **[+]** 記号をクリックします。たとえば、LPRメタデータを表示する場合は、LPRの横にある **[+]** 記号をクリックすると展開可能なリストが以下のように表示されます。

    - 該当するメタデータの隣にある「-」記号をクリックして、**リストを縮小** します。
    - メタデータをクリックし、[選択]ボタンをクリックして、注釈に追加する **メタデータを選択** します。この時点でメタデータブラウザーは閉じ、[注釈]ウィンドウに戻ります。
    - メタデータを参照するための **ページレベルまたは出現番号**（あるいはその両方）を指定します。このためには、[カスタム]チェックボックスをクリックし、表示されている空のフィールドにメタデータをドラッグアンドドロップして、正しい構文を入力します。
    - ウィンドウの右側にある空の検索フィールドに目的のテキスト文字列を入力して、**メタデータを検索** します。
  - **[日付]** - 処理の日付が入ります。（日付の形式を選択するには、これをダブルクリックします。）
  - **[区切り]** - 利用できる区切り記号のドロップダウンリストです。
  - **[時間]** - 注釈内の時刻が入ります。
  - **[カウンター]** - *スタート値* と *増分値* を持つ順次カウンターを追加します。**[最大値]** フィールドに最大値を指定し、（ **[先頭のゼロ]** ボックスにチェックマークを付けて）有効数字の前にゼロを並べるかどうかも指定できます。カウンターの最大桁数は18桁です。カウントの整合性を維持するため、一度ワークフローを実行したらカウンターはそれ以降は編集できません。
  - **[ファイル名]** - 注釈内の元ファイルの名前が入ります。

- **[ファイル拡張子]** - 注釈内の元ファイルの拡張子が入ります。
- **[ファイルサイズ]** - 注釈内のファイルのサイズが入ります。
- **[ページ番号]**、**[イメージの幅]**、**[イメージの高さ]** - ファイルについての詳細データが入ります。幅と高さは、ピクセル値で表示されます。

注: 注釈にスペースがある場合、テキストは折り返されます。



- 要素を注釈領域にドラッグし、並べ替えて注釈テキストを作成します。
- **[注釈]** 領域で、次のオプションから選択します。
  - **[すべてのページ]** - すべてのページに注釈を付けます。
  - **[最初のページ]** - ファイルに複数ページがある場合、最初のページだけに注釈を付けます。
  - **[位置]** - 注釈テキストを付ける場所を特定するには、ボタンに印を付けます。
- **[余白]** 領域で、**[上]**、**[下]**、**[左]** および **[右]** フィールドを使って、[プレビュー]領域に表示される既定のプリンターマージンに対して新しい値を入力します。余白は参考のために用意されています。注釈のレイアウトを決めるときにも有効です。余白の測定単位はインチです。これらのフィールドのどれかを変更すると、余白は[注釈のプレビュー]領域ですぐに調整されます。
- **[フォント]** 領域で、注釈付きテキストのフォント、サイズ、スタイル、色を指定します。
- テキストが白黒イメージで不明瞭または色が付いている場合に鮮やかさを改善するには、**[ディザ]** ボックスにチェックマークを付けます。
- すでに定義されている名前付けコンポーネントを削除するには、削除したいコンポーネントの隣にある **[削除]** アイコン (**X**) をクリックします。
- サンプルファイルの注釈処理の結果を見るには、[プレビュー]領域の下部にある **[ここをクリックして、サンプルファイルをアップロードして注釈プレビューを表示します]** のリンクを選択します。

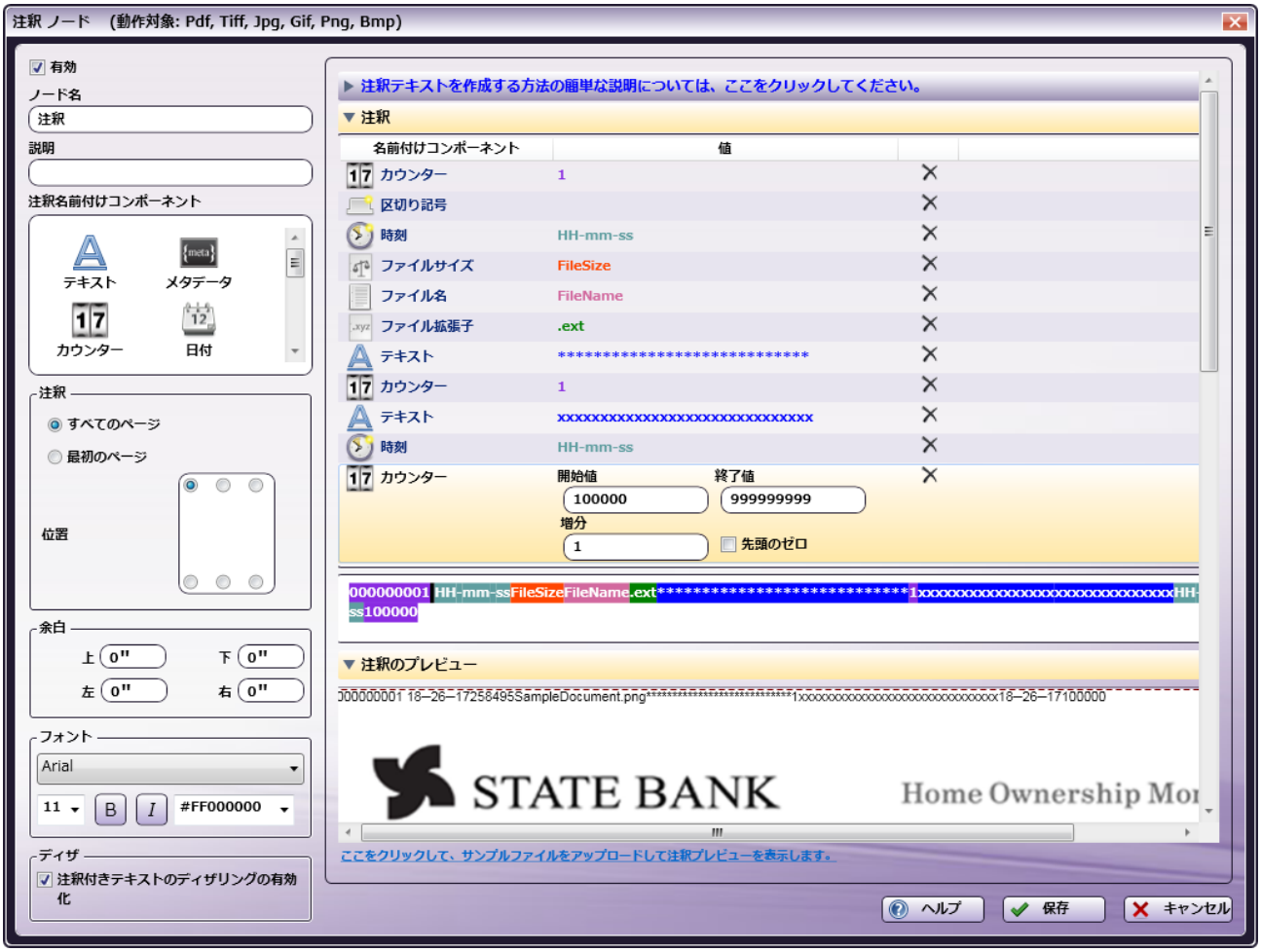
注: PDFファイルは、サンプルドキュメントとして使用できません。

Dispatcher Phoenixは、サンプルイメージの解像度を読み込み、それに応じて注釈のフォントサイズを合わせます。解像度が読み込めない場合、サンプルの解像度は96 dpiと仮定され、表示されます。さらに、元のカラーパレットとイメージフォーマットは保持されます。これは、白黒イメージやグレースケールイメージが使われる場合、注釈にとって特に重要です。適用される注釈が、白黒ドキュメント上で色付きのテキストを含んでいる場合、注釈の色は白黒に変換されます。使われている色の色調は、注釈が、処理されたドキュメント上で、たとえば明るい色の付いたテキストが白としてレンダリングされたように見えるかどうか（したがって、白いページでは見えない）に影響することがあります。

注: サンプルドキュメントをアップロードしても、表示は実際の結果と厳密にはマッチしない可能性があります。実際の結果を見るには、ワークフローを実行します。

- 注釈コンポーネントをすべて指定したら、[プレビュー]ペイン下部に表示されている **[生成される注釈テキスト]** にチェックマークを付け、期待通りか確認します。
- 注釈の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを閉じることもできます。

注: この注釈の内容は、次の構文を使って、ワークフロー内の他のノードで使用できます。{annotate:text[<page>]}。



強調/取り消し線

強調/取り消し線の処理は、重要な情報を強調したり、情報を取り消したりする(削除対象にする)ときに使用します。このノードでは、検索して強調したり取り消し線を引いたりする対象の文字列を入力し、強調または取り消し線を適用する範囲または頻度を指定します。複数の検索語句を指定できます。この処理は、TIF/TIFF、PNG、JPG/JPEG、BMP、およびPDFファイルで機能します。GIFファイルもこのノードで処理できますが、出力精度にばらつきが出ることがあります。

入力ドキュメントの最大許容サイズはA0(33.1インチx46.8インチ)で、最大解像度は2,400 dpiです。これらの上限を超える画像は処理されません。また、ワードプロセッサー形式(.docと.rtf)は、高さと幅の上限が22インチです。

注: このノードの一部の機能は、Microsoft.NET Framework 3.5がないと正しく動作しないことがあります。Microsoft.NET Framework 3.5をWindows Updateからインストールするか、MicrosoftのWebサイトからダウンロードしてください。

注: このノードには、OmniPage **OCR エンジン** が含まれています。

[強調/取り消し線のノード]ウィンドウを開くには、強調/取り消し線の処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。

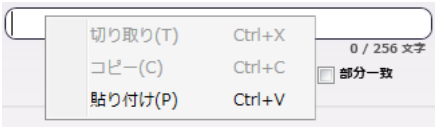
- ワークフローに複数の処理がある場合、**[有効]** チェックボックスをオンにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、あたかもノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに強調/取り消し線ノードに付けるわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに強調/取り消し線ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[複合機パネルでの編集の有効化]** チェックボックスをオンにすると、ユーザーが複合機パネルで強調/取り消し線ノードをカスタマイズできるようになります。
- **[出力ファイルのフォーマット]** 領域で、希望する出力形式（PDFまたはXPS）を選択できます。
- 出力ファイルをさらに定義するには、以下の *いずれか* の操作を行います。
  - **[PDFの最適化方法]** ドロップダウンリストから選択して、サイズ、画質、またはさまざまなPDFバージョンを基準に最適化します。

    または
  - **[PDF/A]** ラジオボタンをオンにして、アーカイブ用に最適化します。この場合、PDF/A互換の出力ファイルが作成されます。PDF/Aとは、電子ドキュメントの長期保存のための標準規格で、ファイルがコンピューター環境にかかわらずまったく同様に表示され、年月を経ても可読性を維持することを保証します。
- OCR設定を構成してOCR処理の精度や速度を調整するには、**[詳細設定]** ボタンをクリックします。
- **[強調/取り消し線の検索オプション]** 領域で、検索して強調や取り消し線を適用する対象の単語、テキスト文字列、または語句を入力できます。この領域を使用すると、検索テキスト文字列、単語、または語句をいくつでも必要なだけ指定できます。このノードを保存するには、検索アイテムを少なくとも1つは指定する必要があります。詳細は、次のセクションを参照してください。
- 強調と取り消し線の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。*[ヘルプ]* ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、*[キャンセル]* ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

強調/取り消し線の適用対象の検索

強調または取り消し線を適用するテキストを検索するには、以下の操作を行います。

1. **[検索対象]** 列にある空のフィールドに、適切なテキストまたはテキストのブロック（最大256字まで）を入力します。Microsoftショートカットキー（**[Ctrl + C]**、**[Ctrl + X]**、**[Ctrl + V]**）を使用してテキストの切り取り、コピー、貼り付けができます。または、次の図のように、フィールドを右クリックして、表示されるコンテキストメニューから選択することもできます。



注: テキストマッチングは複数行にまたがっては実行されません。検索語句に改行が含まれている場合は、必ず［あいまい一致］オプションを有効にしてください。

2. 検索するテキストを入力したら、フィードの下のチェックボックスを使用して、希望する他の任意のオプションを選択します。

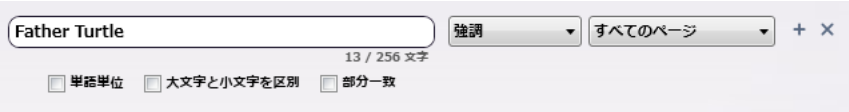
オプション	説明	例
［大文字と小文字を区別］	検索して強調/取り消し線を適用するときに大文字/小文字を区別する場合は、このチェックボックスをオンにします。このオプションを有効にすると、入力した単語や語句と大文字/小文字の区別も含めてマッチする単語や語句に強調/取り消し線が適用されます。	たとえば、「MR.JONES」を検索対象として、このオプションを有効にした場合、処理後のドキュメントで「Mr. Jones」は強調も取り消し線も適用されません。
［単語単位］	指定した文字列が単に *含まれている* だけの単語ではなく、完全に一致する単語だけを検索して強調/取り消し線を適用するには、このチェックボックスをオンにします。	「boat」を検索対象として、このオプションを「無効」にした場合、「boathouse」や「sailboat」は部分的に強調されるか、取り消し線が適用されます。
［あいまい一致］	入力した文字列と一致するか、ほぼ一致する単語やテキスト文字列を検索して強調/取り消し線を適用するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、OCRの誤りを補正するために用意されています。	「Turtle」を検索対象として、このオプションを有効にした場合、ドキュメント内の「Hurtle」という単語も強調されるか、取り消し線が適用されます。

3. ［検索］フィールドの横のドロップダウンリストで、指定したテキストに強調または取り消し線を適用するかどうかを選択します。
4. 横のドロップダウンリストで、検索して強調または取り消し線を適用する範囲を指定します。オプションは次のとおりです。
   - **［すべてのページ］** - すべてのページで見つかったテキストに強調または取り消し線を適用します。
   - **［すべての偶数ページ］** - 偶数ページで見つかったテキストに強調または取り消し線を適用します。
   - **［すべての奇数ページ］** - 奇数ページで見つかったテキストに強調または取り消し線を適用します。
   - **［最初のページ］** - 最初のページで見つかったテキストだけに強調または取り消し線を適用します。
   - **［最後のページ］** - 最後のページで見つかったテキストだけに強調または取り消し線を適用します。
   - **［独自のページ範囲を定義］** - テキストに強調または取り消し線を適用するページ範囲を任意に定義します。このオプションを選択すると、ドロップダウンリストの下に空のフィールドが表示されます。そのフィールドにページ範囲を入力できます。次の操作を行います。
     - ドキュメントの先頭から数えたページ範囲を指定するには、カンマ記号またはダッシュ記号（あるいはその両方）を使用します。たとえば、「1, 2, 5-7」と入力すると、1、2、5、6、7ページのテキストが強調されます。
     - ページ範囲内の特定の並びを指定するには、カッコを使用します。たとえば、「1-10(3)」と入力すると、1～10ページまで2ページおきにテキストに取り消し線が引かれます。
     - 最後のページを指定するには、「end」を使用します。たとえば、「end(-5) - end」と入力すると、20ページあるドキュメントの15～20ページ目のテキストが強調されます。
5. 検索して強調または取り消し線を適用するテキスト文字列、語句、または単語をいくつでも必要なだけ入力します。［+］記号をクリックすると、空の［検索対象］行がノードに追加されます。☑ 記号をクリックすると、［検索対象］行が（空でも入力済みでも）ノードから削除されます。さまざまな検索オプションの例については、次の図を参照してください。

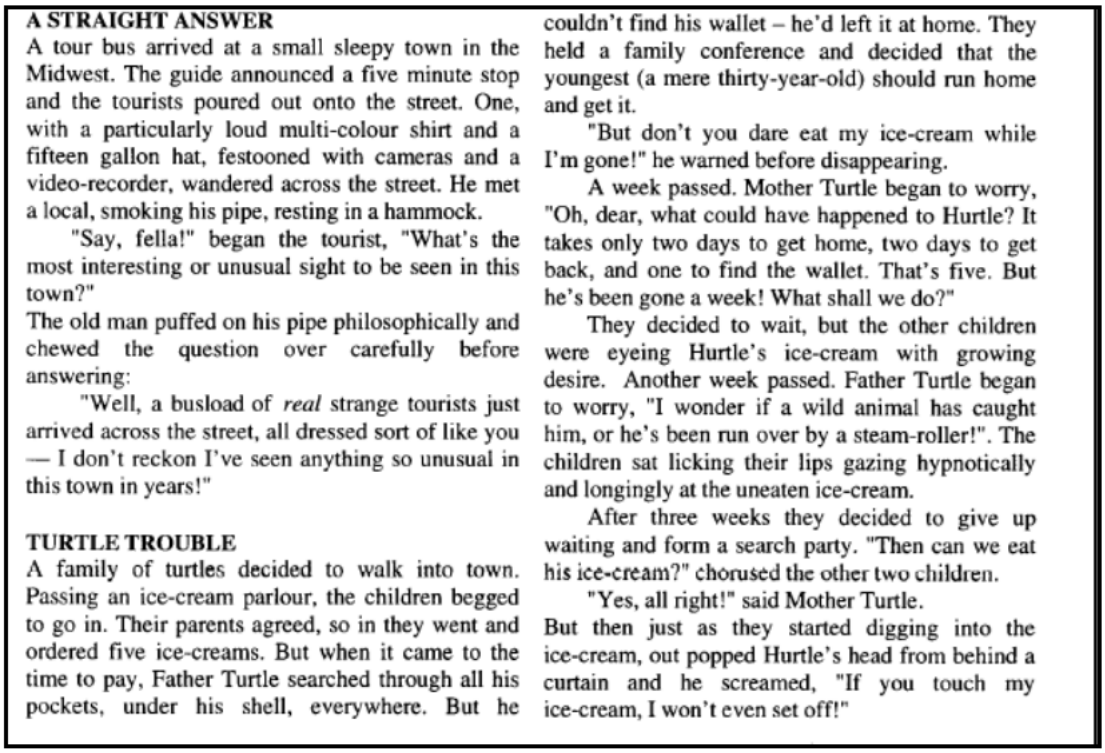
注: このノードでは、［検索対象］行フィールドを空のままにしておくことができません。［+］記号をクリックして［検索対象］行を作成した後でノードを保存するためには、フィールドにテキストを入力する必要があります。

検索して強調/取り消し線の例

- **1つの単語または語句**を強調するには、次の図のように1つの［検索対象］行にテキストを入力します。



元のドキュメント



A STRAIGHT ANSWER

A tour bus arrived at a small sleepy town in the Midwest. The guide announced a five minute stop and the tourists poured out onto the street. One, with a particularly loud multi-colour shirt and a fifteen gallon hat, festooned with cameras and a video-recorder, wandered across the street. He met a local, smoking his pipe, resting in a hammock.

"Say, fella!" began the tourist, "What's the most interesting or unusual sight to be seen in this town?"

The old man puffed on his pipe philosophically and chewed the question over carefully before answering:

"Well, a busload of *real* strange tourists just arrived across the street, all dressed sort of like you — I don't reckon I've seen anything so unusual in this town in years!"

TURTLE TROUBLE

A family of turtles decided to walk into town. Passing an ice-cream parlour, the children begged to go in. Their parents agreed, so in they went and ordered five ice-creams. But when it came to the time to pay, Father Turtle searched through all his pockets, under his shell, everywhere. But he couldn't find his wallet – he'd left it at home. They held a family conference and decided that the youngest (a mere thirty-year-old) should run home and get it.

"But don't you dare eat my ice-cream while I'm gone!" he warned before disappearing.

A week passed. Mother Turtle began to worry, "Oh, dear, what could have happened to Hurtle? It takes only two days to get home, two days to get back, and one to find the wallet. That's five. But he's been gone a week! What shall we do?"

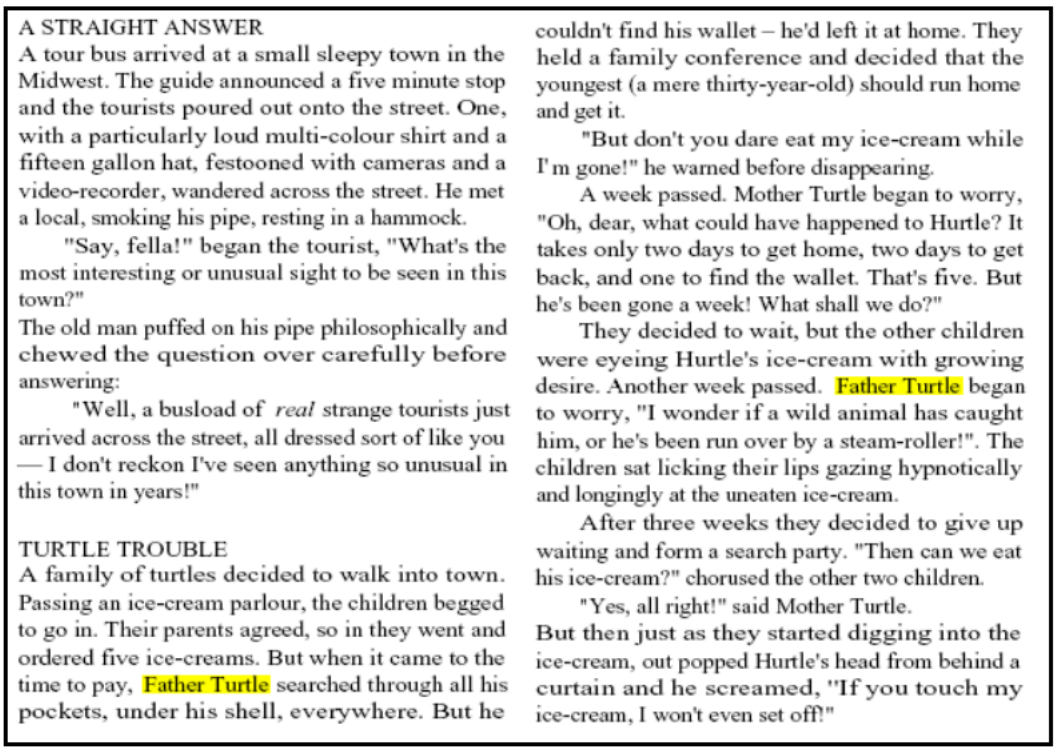
They decided to wait, but the other children were eyeing Hurtle's ice-cream with growing desire. Another week passed. Father Turtle began to worry, "I wonder if a wild animal has caught him, or he's been run over by a steam-roller!". The children sat licking their lips gazing hypnotically and longingly at the uneaten ice-cream.

After three weeks they decided to give up waiting and form a search party. "Then can we eat his ice-cream?" chorused the other two children.

"Yes, all right!" said Mother Turtle.

But then just as they started digging into the ice-cream, out popped Hurtle's head from behind a curtain and he screamed, "If you touch my ice-cream, I won't even set off!"

強調されたドキュメント



A STRAIGHT ANSWER

A tour bus arrived at a small sleepy town in the Midwest. The guide announced a five minute stop and the tourists poured out onto the street. One, with a particularly loud multi-colour shirt and a fifteen gallon hat, festooned with cameras and a video-recorder, wandered across the street. He met a local, smoking his pipe, resting in a hammock.

"Say, fella!" began the tourist, "What's the most interesting or unusual sight to be seen in this town?"

The old man puffed on his pipe philosophically and chewed the question over carefully before answering:

"Well, a busload of *real* strange tourists just arrived across the street, all dressed sort of like you — I don't reckon I've seen anything so unusual in this town in years!"

TURTLE TROUBLE

A family of turtles decided to walk into town. Passing an ice-cream parlour, the children begged to go in. Their parents agreed, so in they went and ordered five ice-creams. But when it came to the time to pay, Father Turtle searched through all his pockets, under his shell, everywhere. But he couldn't find his wallet – he'd left it at home. They held a family conference and decided that the youngest (a mere thirty-year-old) should run home and get it.

"But don't you dare eat my ice-cream while I'm gone!" he warned before disappearing.

A week passed. Mother Turtle began to worry, "Oh, dear, what could have happened to Hurtle? It takes only two days to get home, two days to get back, and one to find the wallet. That's five. But he's been gone a week! What shall we do?"

They decided to wait, but the other children were eyeing Hurtle's ice-cream with growing desire. Another week passed. Father Turtle began to worry, "I wonder if a wild animal has caught him, or he's been run over by a steam-roller!". The children sat licking their lips gazing hypnotically and longingly at the uneaten ice-cream.

After three weeks they decided to give up waiting and form a search party. "Then can we eat his ice-cream?" chorused the other two children.

"Yes, all right!" said Mother Turtle.

But then just as they started digging into the ice-cream, out popped Hurtle's head from behind a curtain and he screamed, "If you touch my ice-cream, I won't even set off!"

- **複数の単語**を強調するには、単語ごとに別々の［検索対象］行を使用します。たとえば、*「Father」*と*「Turtle」*という2つの単語を強調するには、次の図のように、それぞれの単語を個別に2つの行に入力します。

元のドキュメント

A STRAIGHT ANSWER

A tour bus arrived at a small sleepy town in the Midwest. The guide announced a five minute stop and the tourists poured out onto the street. One, with a particularly loud multi-colour shirt and a fifteen gallon hat, festooned with cameras and a video-recorder, wandered across the street. He met a local, smoking his pipe, resting in a hammock.

"Say, fella!" began the tourist, "What's the most interesting or unusual sight to be seen in this town?"

The old man puffed on his pipe philosophically and chewed the question over carefully before answering:

"Well, a busload of *real* strange tourists just arrived across the street, all dressed sort of like you — I don't reckon I've seen anything so unusual in this town in years!"

TURTLE TROUBLE

A family of turtles decided to walk into town. Passing an ice-cream parlour, the children begged to go in. Their parents agreed, so in they went and ordered five ice-creams. But when it came to the time to pay, Father Turtle searched through all his pockets, under his shell, everywhere. But he couldn't find his wallet – he'd left it at home. They held a family conference and decided that the youngest (a mere thirty-year-old) should run home and get it.

"But don't you dare eat my ice-cream while I'm gone!" he warned before disappearing.

A week passed. Mother Turtle began to worry, "Oh, dear, what could have happened to Hurtle? It takes only two days to get home, two days to get back, and one to find the wallet. That's five. But he's been gone a week! What shall we do?"

They decided to wait, but the other children were eyeing Hurtle's ice-cream with growing desire. Another week passed. Father Turtle began to worry, "I wonder if a wild animal has caught him, or he's been run over by a steam-roller!". The children sat licking their lips gazing hypnotically and longingly at the uneaten ice-cream.

After three weeks they decided to give up waiting and form a search party. "Then can we eat his ice-cream?" chorused the other two children.

"Yes, all right!" said Mother Turtle.

But then just as they started digging into the ice-cream, out popped Hurtle's head from behind a curtain and he screamed, "If you touch my ice-cream, I won't even set off!"

強調された出力

A STRAIGHT ANSWER
A tour bus arrived at a small sleepy town in the Midwest. The guide announced a five minute stop and the tourists poured out onto the street. One, with a particularly loud multi-colour shirt and a fifteen gallon hat, festooned with cameras and a video-recorder, wandered across the street. He met a local, smoking his pipe, resting in a hammock.

"Say, fella!" began the tourist, "What's the most interesting or unusual sight to be seen in this town?"

The old man puffed on his pipe philosophically and chewed the question over carefully before answering:

"Well, a busload of *real* strange tourists just arrived across the street, all dressed sort of like you — I don't reckon I've seen anything so unusual in this town in years!"

TURTLE TROUBLE
A family of turtles decided to walk into town. Passing an ice-cream parlour, the children begged to go in. Their parents agreed, so in they went and ordered five ice-creams. But when it came to the time to pay, Father Turtle searched through all his pockets, under his shell, everywhere. But he couldn't find his wallet – he'd left it at home. They held a family conference and decided that the youngest (a mere thirty-year-old) should run home and get it.

"But don't you dare eat my ice-cream while I'm gone!" he warned before disappearing.

A week passed. Mother Turtle began to worry, "Oh, dear, what could have happened to Hurtle? It takes only two days to get home, two days to get back, and one to find the wallet. That's five. But he's been gone a week! What shall we do?"

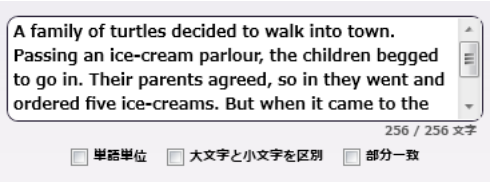
They decided to wait, but the other children were eyeing Hurtle's ice-cream with growing desire. Another week passed. Father Turtle began to worry, "I wonder if a wild animal has caught him, or he's been run over by a steam-roller!". The children sat licking their lips gazing hypnotically and longingly at the uneaten ice-cream.

After three weeks they decided to give up waiting and form a search party. "Then can we eat his ice-cream?" chorused the other two children.

"Yes, all right!" said Mother Turtle.

But then just as they started digging into the ice-cream, out popped Hurtle's head from behind a curtain and he screamed, "If you touch my ice-cream, I won't even set off!"

- **テキストのブロックに取り消し線を引く**には、テキストをコピーして［検索対象］フィールドに貼り付けます（フィールドを右クリックすると表示されるコンテキストメニューを使用）。そのテキストのブロックがドキュメント内で見つかるたびに取り消し線が適用されます。



元のドキュメント

A STRAIGHT ANSWER
A tour bus arrived at a small sleepy town in the Midwest. The guide announced a five minute stop and the tourists poured out onto the street. One, with a particularly loud multi-colour shirt and a fifteen gallon hat, festooned with cameras and a video-recorder, wandered across the street. He met a local, smoking his pipe, resting in a hammock.

"Say, fella!" began the tourist, "What's the most interesting or unusual sight to be seen in this town?"

The old man puffed on his pipe philosophically and chewed the question over carefully before answering:

"Well, a busload of *real* strange tourists just arrived across the street, all dressed sort of like you — I don't reckon I've seen anything so unusual in this town in years!"

TURTLE TROUBLE
A family of turtles decided to walk into town. Passing an ice-cream parlour, the children begged to go in. Their parents agreed, so in they went and ordered five ice-creams. But when it came to the time to pay, Father Turtle searched through all his pockets, under his shell, everywhere. But he couldn't find his wallet – he'd left it at home. They held a family conference and decided that the youngest (a mere thirty-year-old) should run home and get it.

"But don't you dare eat my ice-cream while I'm gone!" he warned before disappearing.

A week passed. Mother Turtle began to worry, "Oh, dear, what could have happened to Hurtle? It takes only two days to get home, two days to get back, and one to find the wallet. That's five. But he's been gone a week! What shall we do?"

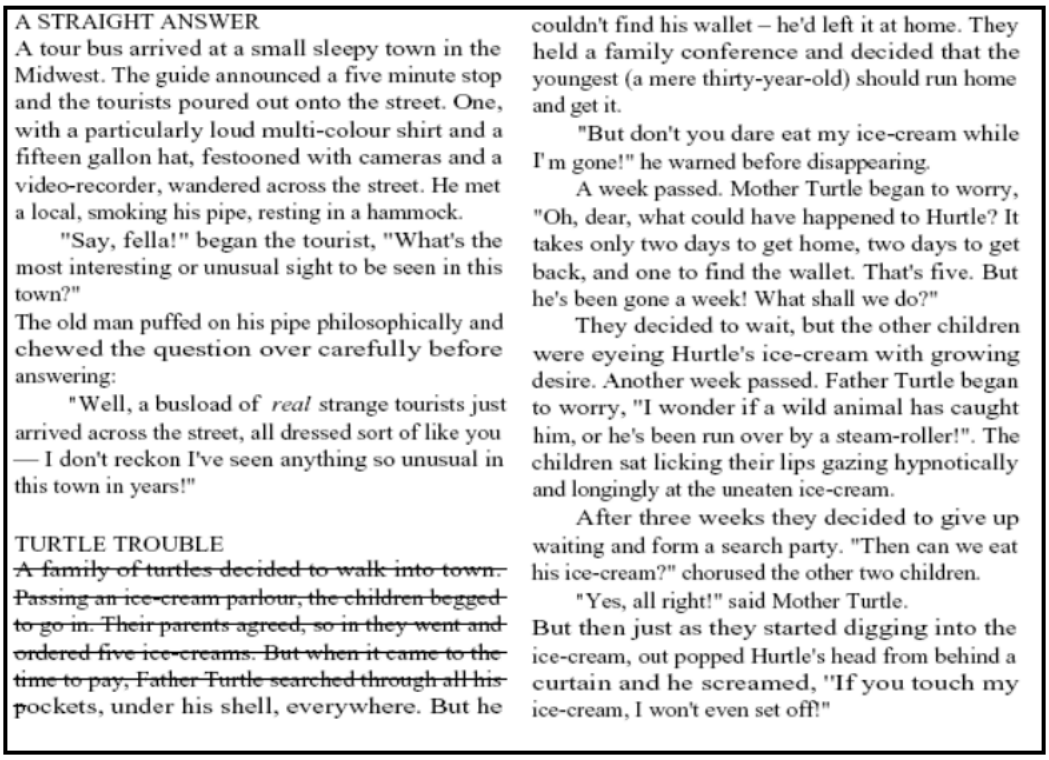
They decided to wait, but the other children were eyeing Hurtle's ice-cream with growing desire. Another week passed. Father Turtle began to worry, "I wonder if a wild animal has caught him, or he's been run over by a steam-roller!". The children sat licking their lips gazing hypnotically and longingly at the uneaten ice-cream.

After three weeks they decided to give up waiting and form a search party. "Then can we eat his ice-cream?" chorused the other two children.

"Yes, all right!" said Mother Turtle.

But then just as they started digging into the ice-cream, out popped Hurtle's head from behind a curtain and he screamed, "If you touch my ice-cream, I won't even set off!"

取り消し線が引かれた出力



A STRAIGHT ANSWER

A tour bus arrived at a small sleepy town in the Midwest. The guide announced a five minute stop and the tourists poured out onto the street. One, with a particularly loud multi-colour shirt and a fifteen gallon hat, festooned with cameras and a video-recorder, wandered across the street. He met a local, smoking his pipe, resting in a hammock.

"Say, fella!" began the tourist, "What's the most interesting or unusual sight to be seen in this town?"

The old man puffed on his pipe philosophically and chewed the question over carefully before answering:

"Well, a busload of *real* strange tourists just arrived across the street, all dressed sort of like you — I don't reckon I've seen anything so unusual in this town in years!"

TURTLE TROUBLE

~~A family of turtles decided to walk into town. Passing an ice-cream parlour, the children begged to go in. Their parents agreed, so in they went and ordered five ice-creams. But when it came to the time to pay, Father Turtle searched through all his~~ pockets, under his shell, everywhere. But he couldn't find his wallet – he'd left it at home. They held a family conference and decided that the youngest (a mere thirty-year-old) should run home and get it.

"But don't you dare eat my ice-cream while I'm gone!" he warned before disappearing.

A week passed. Mother Turtle began to worry, "Oh, dear, what could have happened to Hurtle? It takes only two days to get home, two days to get back, and one to find the wallet. That's five. But he's been gone a week! What shall we do?"

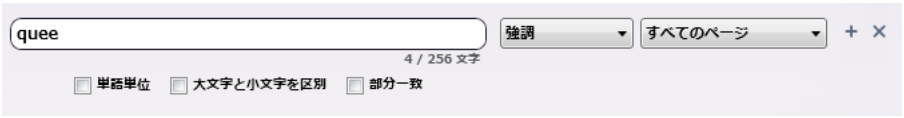
They decided to wait, but the other children were eyeing Hurtle's ice-cream with growing desire. Another week passed. Father Turtle began to worry, "I wonder if a wild animal has caught him, or he's been run over by a steam-roller!". The children sat licking their lips gazing hypnotically and longingly at the uneaten ice-cream.

After three weeks they decided to give up waiting and form a search party. "Then can we eat his ice-cream?" chorused the other two children.

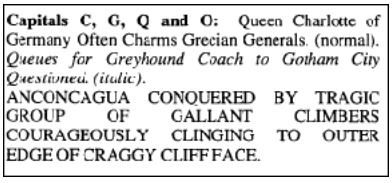
"Yes, all right!" said Mother Turtle.

But then just as they started digging into the ice-cream, out popped Hurtle's head from behind a curtain and he screamed, "If you touch my ice-cream, I won't even set off!"

- **特定のテキスト文字列またはそれに似た文字列を含む単語すべてに取り消し線を引く** には、次の図のように **［あいまい一致］** オプションを使用します。

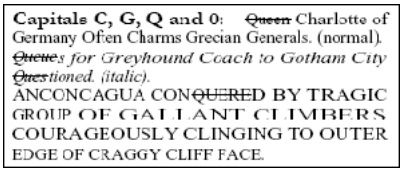


元のドキュメント



Capitals C, G, Q and O: Queen Charlotte of Germany Often Charms Grecian Generals. (normal).
Queues for Greyhound Coach to Gotham City Questioned. (italic).
ANCONCAGUA CONQUERED BY TRAGIC GROUP OF GALLANT CLIMBERS COURAGEOUSLY CLINGING TO OUTER EDGE OF CRAGGY CLIFF FACE.

取り消し線が引かれた出力



Capitals C, G, Q and O: ~~Queen~~ Charlotte of Germany Often Charms Grecian Generals. (normal).
~~Queue~~*s for Greyhound Coach to Gotham City* ~~Ques~~*tioned. (italic).*
ANCONCAGUA CON~~QUERED~~ BY TRAGIC GROUP OF GALLANT CLIMBERS COURAGEOUSLY CLINGING TO OUTER EDGE OF CRAGGY CLIFF FACE.

パネルでの強調/取り消し線

Dispatcher Phoenixのユーザーは、ワークフロー内の[強調/取り消し線]の構成を複合機コントロールパネルから直接編集できます。パネルで既存の強調/取り消し線に加えた変更は、Dispatcher Phoenixにも自動で反映されます。

注: 強調/取り消し線機能は、ネイティブユーザーインターフェイスの複合機では使用できません。

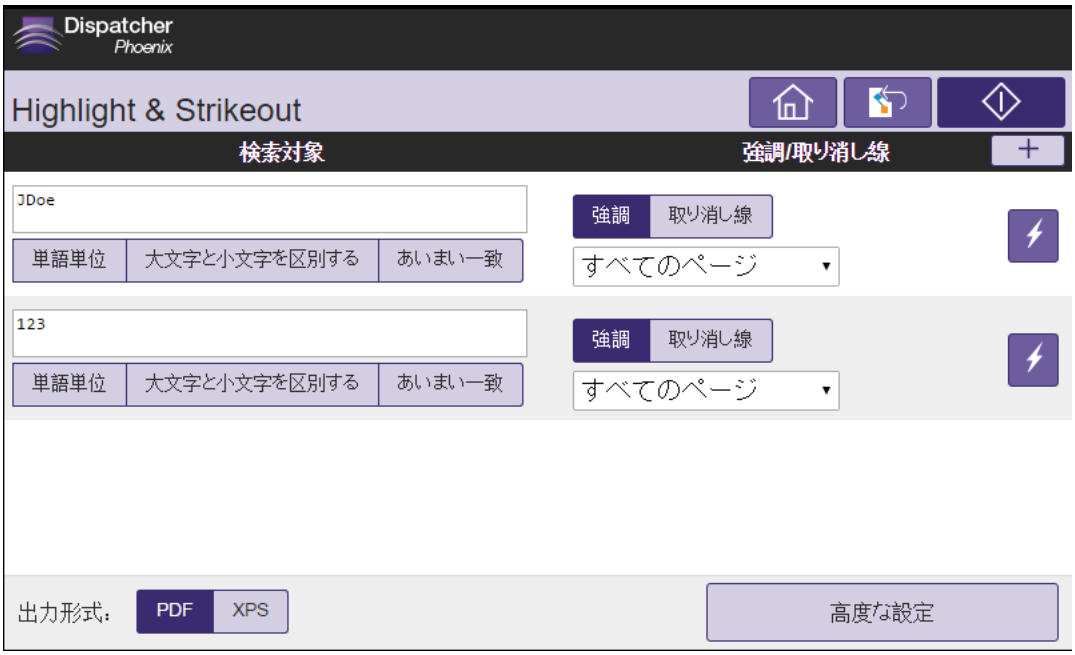
作業の開始

強調/取り消し線の構成を複合機パネルで変更するには、以下の操作を行います。

1. ワークフローを構成して、1つの複合機パネルノードと、1つ以上の強調/取り消し線ノードを挿入します。
2. ワークフローが実行中であることを確認します。

Dispatcher Phoenixにログインして、実行中のワークフローにパネルでアクセスすると、次の図に示すようにワークフロー詳細画面が表示されます。

強調/取り消し線ノードを表示または編集するには、[強調/取り消し線]ノードのアイコンをタップします。次の図のようなノード構成画面が表示されます。



この画面には、強調/取り消し線ノードにすでに定義されている検索テキスト文字列が表示されます。同時に2つの検索文字列が表示されます。その他の検索文字列に移動するための上下矢印が用意されています。

この画面では、次の操作ができます。

- **[検索対象]** の各フィールドに表示される検索テキストを編集します。
- 指定した検索文字列が見つかったとき、その文字列に強調または取り消し線を適用するかどうかを、**[強調]** ボタンまたは **[取り消し線]** ボタンをタップして指定します。
- **[強調/取り消し線]** ドロップダウンリストを使用して、検索文字列ごとの強調/取り消し線オプションを変更します。オプションは、Dispatcher Phoenixの[強調/取り消し線のノードのプロパティ]ウィンドウにあるものと同じです。
- **[単語単位]** 、**[大文字と小文字を区別]** 、**[あいまい一致]** の各ボタンをタップすると、検索文字列ごとにこれらの設定を有効にできます。
- 各検索文字列に対してその他のアクションを実行するには、**[操作]** アイコンをタップします。
- **[+]** ボタンをタップすると、別の検索文字列が強調/取り消し線ノードに追加されます。

操作ツールバーの使用

[操作] アイコンをクリックすると、特定の検索文字列の操作ツールバーが表示されます。操作ツールバーには次の機能があります。

操作ツールバーには、次の機能があります（左から右）：

- ツールバーを閉じる
- 検索文字列を先頭に移動
- 検索文字列を1つ上に移動
- 検索文字列を1つ下に移動
- 検索文字列を下に移動
- 検索文字列を削除

高度なOCR設定の指定

墨消し処理の精度や処理速度を向上させるために、OCRエンジンの既定の設定を変更できます。**[高度な設定]** ボタンを選択して[高度な設定]画面にアクセスします。

指定できる設定は次のとおりです。

- 前処理
- OCR認識
- 出力形式

複合機パネルに用意されている設定は、Dispatcher Phoenixの強調/取り消し線ノードから使用できる高度なOCR設定とほぼ同じです。

新しい検索文字列の追加

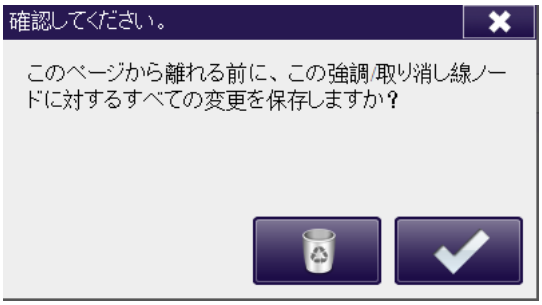
新しい検索文字列を強調/取り消し線ノードに追加するには、**[+]** ボタンをタップします。次の図のように、一覧の末尾に空の入力フィールドが表示されます。

以下の操作を行います。

- 表示された **空のテキストフィールド** に検索文字列を入力します。
- **[強調]** ボタンまたは **[取り消し線]** ボタンをタップして、検索文字列が見つかった際にその文字列を強調するか取り消し線を引くかを指定します。
- **[強調/取り消し線]** ドロップダウンリストを使用して、検索文字列に強調または取り消し線を適用する範囲を指定します。
- **[単語単位]**、**[大文字と小文字を区別]**、**[あいまい一致]** の各ボタンをタップして、検索対象を絞り込みます。
- **[操作]** バーを使用して、新しい検索文字列を移動したり、削除したりします。

変更内容の保存

変更が終了したら、**[保存]** アイコンをタップします。次のような確認メッセージが表示されます。



パネルでの墨消し

Dispatcher Phoenixのユーザーは、ワークフロー内の墨消しノードの構成を、複合機コントロールパネルから直接編集できるようになりました。パネルで既存の墨消しノードに加えた変更は、Dispatcher Phoenixにも自動的に反映されます。

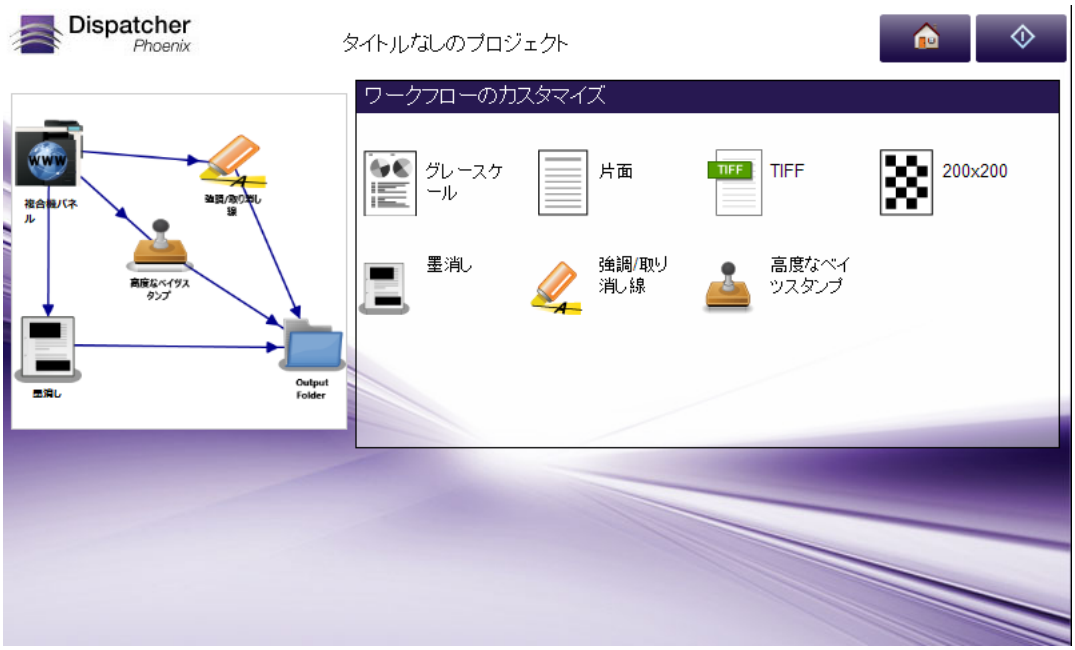
注: 墨消し機能は、ネイティブユーザーインターフェイスの複合機では使用できません。

作業の開始

墨消しの構成を複合機パネルで変更するには、以下の操作を行います。

1. ワークフローを構成して、1つの複合機パネルノードと1つ以上の墨消しノードを挿入します。墨消しノードで **[複合機パネルでの編集の有効化]** オプションが有効になっていることを確認します。
2. ワークフローが実行中であることを確認します。

Dispatcher Phoenixにログインして、実行中のワークフローにパネルでアクセスすると、次の図に示すようにワークフロー詳細画面が表示されます。



墨消しノードを表示または編集するには、目的の墨消しノードのアイコンをタップします。次の図のようなノード構成画面が表示されます。

この画面には、墨消しノードにすでに定義されている検索テキスト文字列が表示されます。同時に2つの検索文字列が表示されます。その他の検索文字列に移動するための上下矢印が用意されています。

この画面では、以下の操作を実行できます。

- **[検索対象]** の各フィールドに表示される検索テキストを編集します。
- **[墨消し]** ドロップダウンリストを使用して、それぞれの検索文字列の墨消しオプションを変更します。オプションは、Dispatcher Phoenixの墨消しノードのプロパティウィンドウにあるものと同じです。
- **[単語単位]**、**[大文字と小文字を区別]**、**[あいまい一致]** の各ボタンをタップすると、検索文字列ごとにこれらの設定を有効にできます。
- **[出力形式]** のボタン（[PDF]または[XPS]）を使用して、墨消しを適用したファイルの出力形式を変更します。
- 各検索文字列に対してその他のアクションを実行するには、**操作** アイコンをタップします。
- **[+]** ボタンをタップして、墨消しノードに別の検索文字列を追加します。
- **[高度な設定]** ボタンをタップして、OCR処理の高度な設定を指定します。

操作ツールバーの使用

操作 アイコンをクリックすると、特定の検索文字列の操作ツールバーが表示されます。操作ツールバーには次の機能があります。

高度なOCR設定の指定

墨消し処理の精度や処理速度を向上させるために、OCRエンジンの既定の設定を変更できます。それには、**[詳細設定]** ボタンを選択して[詳細設定]画面にアクセスします。

指定できる設定は次のとおりです。

- 前処理
- OCR認識
- 出力形式

複合機パネルに用意されている設定は、Dispatcher Phoenixの墨消しノードで使用できる高度なOCRの設定とほぼ同じです。

新しい検索文字列の追加

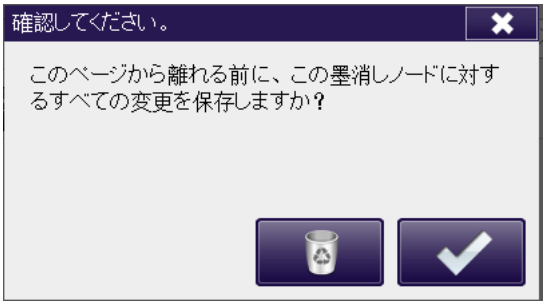
新しい検索文字列を墨消しノードに追加するには、**[+]** ボタンをタップします。次の図のように、リストの末尾に空の入力フィールドが表示されます。

以下の操作を行います。

- **新規ルールテキストフィールド** に検索文字列を入力します。
- **[墨消し]** ドロップダウンリストを使用して、墨消しオプションを指定します。
- **[単語単位]**、**[大文字と小文字を区別]**、**[あいまい一致]** の各ボタンをタップして、検索対象を絞り込みます。
- **[操作]** バーを使用して、新しい検索文字列を移動したり、削除したりします。

変更内容の保存

変更が終了したら、**ワークフロー詳細** アイコンをタップします。次の確認メッセージ画面が表示されます。



墨消し

墨消し処理は、ドキュメント上で機密情報を黒く塗りつぶす場合に使用します。このノードでは、検索して墨消しする検索項目を1つ以上入力し、出力ファイルの形式を選択して、テキストに墨消しを適用する範囲や頻度を指定します。

入力ドキュメントの最大許容サイズはA0（33.1インチx46.8インチ）で、最大解像度は2,400 dpiです。これらの上限を超える画像は処理されません。また、ワードプロセッサー形式（.docと.rtf）は、高さと幅の上限が22インチです。

重要! このノードの一部の機能は、Microsoft.NET Framework 3.5がないと正しく動作しないことがあります。FrameworkをWindows Updateからインストールするか、MicrosoftのWebサイトからダウンロードしてください。

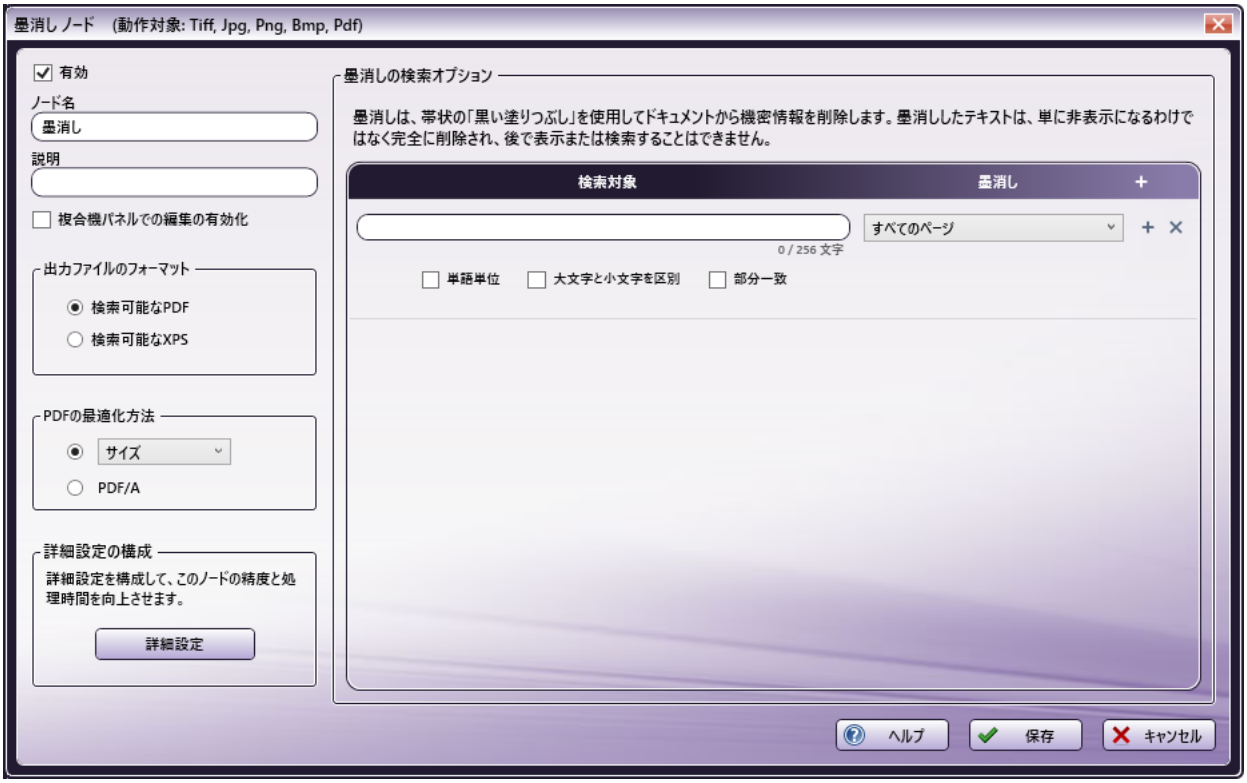
注: このノードには、OmniPage **OCR エンジン** が含まれています。

このノードは、次のドキュメントおよびファイルタイプに対応しています。

- 単一および複数ページのドキュメント *および*
- TIF/TIFF、PNG、JPG/JPEG、BMP、およびPDFの各ファイルタイプ
- GIFファイルもこのノードで処理できますが、出力精度にばらつきが出ることがあります。

最適なスキャン解像度：ほとんどのドキュメントでは、300 dpiが最適な解像度です。ただし、最初にソースドキュメントをテストして、墨消しが正しく動作していることを確認してください。

[墨消しノード]ウィンドウを開くには、墨消しの処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。

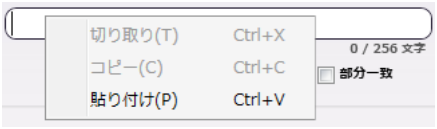


- ワークフローに複数の処理がある場合は、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックしなかった場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、あたかもノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、墨消しノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、墨消しノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[複合機パネルでの編集の有効化]** ボックスをチェックすると、ユーザーが複合機パネルで墨消しノードをカスタマイズできるようになります。
- **[出力ファイルのフォーマット]** 領域で、希望する出力形式を選択できます。どの種類のファイルがサポートされているかについての詳細は **OCR設定** ページを確認してください。
- 出力ファイルをさらに定義するには、以下の *いずれか* の操作を行います。
  - **[PDFの最適化方法]** ドロップダウンリストから選択して、サイズ、画質、またはさまざまなPDFバージョンを基準に最適化します。*または*
  - **[PDF/A]** ラジオボタンをオンにして、アーカイブ用に最適化します。この場合、PDF/A互換の出力ファイルが作成されます。PDF/Aとは、電子ドキュメントの長期保存のための標準規格で、ファイルがコンピューター環境にかかわらずまったく同様に表示され、年月を経ても可読性を維持することを保証します。
- OCR設定を構成してOCR処理の精度や速度を調整するには、**[詳細設定]** ボタンをクリックします。
- **[墨消しの検索オプション]** 領域で、検索して墨消しする単語、テキスト文字列、または語句を指定できます。この領域を使用すると、テキスト文字列、単語、または語句をいくつでも必要なだけ指定できます。このノードを保存するには、検索アイテムを少なくとも1つは指定する必要があります。詳細は、次のセクションを参照してください。
- 墨消しの定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

墨消しの検索

墨消しを適用するテキストを検索するには、以下の操作を行います。

1. **[検索対象]** 列にある空のフィールドに、適切なテキストまたはコピーしたテキストのブロック（最大256字まで）を入力します。フィールドの下に文字数が表示されます。Microsoftショートカットキー（ **[Ctrl + X]** 、**[Ctrl + C]** 、**[Ctrl + V]** ）を使用してテキストの切り取り、コピー、貼り付けができます。または、次の図のように、フィールドを右クリックして、表示されるコンテキストメニューから選択することもできます。

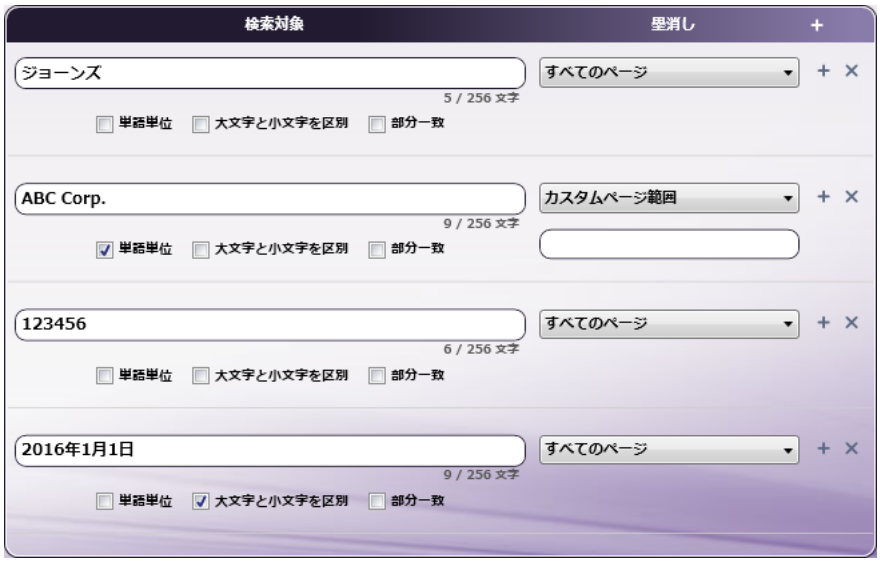


注: テキストマッチングは、複数行にまたがっては実行されません。検索語句に改行が含まれている場合は、必ず[部分一致]オプションを有効にしてください。

2. 検索するテキストを入力したら、フィードの下のチェックボックスを使用して、希望する他の任意のオプションを選択します。

オプション	説明	例
[大文字と小文字を区別]	検索して墨消しするときに大文字/小文字を区別する場合は、このボックスをチェックします。このオプションを有効にすると、入力した単語や語句と一致する単語に（大文字/小文字の区別あり）墨消しが適用されます。	たとえば、「MR.JONES」を検索した場合、このオプションを有効にしていれば、処理後のドキュメントで「Mr. Jones」には墨消しが適用されません。
[単語単位]	入力した文字列が単に *含まれている* 単語ではなく、完全に一致する単語だけを検索して墨消しする場合は、このボックスをチェックします。	「boat」を検索した場合、このオプションを無効にしていれば、「boathouse」や「sailboat」という単語は一部が墨消しされます。
[部分一致]	入力した文字列と一致するか、ほぼ一致する単語やテキスト文字列を検索して墨消しする場合は、このボックスをチェックします。このオプションは、OCRの誤りを補うために用意されています。	「Turtle」を検索した場合、このオプションを有効にしていれば、「Hurtle」という単語もドキュメント内で墨消しされます。

3. 入力したテキスト文字列、語句、または単語ごとに、墨消しする位置や頻度を[墨消し]列の下のドロップダウンリストから選択できます。オプションは次のとおりです。
   - **[すべてのページ]** - すべてのページで見つかったテキストを墨消しします。
   - **[すべての偶数ページ]** - 偶数ページで見つかったテキストを墨消しします。
   - **[すべての奇数ページ]** - 奇数ページで見つかったテキストを墨消しします。
   - **[最初のページ]** - 最初のページで見つかったテキストだけを墨消しします。
   - **[最後のページ]** - 最後のページで見つかったテキストだけを墨消しします。
   - **[独自のページ範囲を定義]** - 墨消しを適用するページ範囲を任意に定義します。このオプションを選択すると、ドロップダウンリストの下に空のフィールドが表示されます。そのフィールドにページ範囲を入力できます。以下の操作を行います。
     - カンマ記号またはダッシュ記号（あるいはその両方）を使って、ドキュメントの先頭から数えたページ範囲を指定します。たとえば、「1, 2, 5-7」と入力すると、1、2、5、6、7ページのテキストが墨消しされます。
     - ページ範囲内の特定の並びを指定するには、カッコを使用します。たとえば、「1-10(3)」と入力すると、1～10ページまで2ページおきにテキストが墨消しされます。
     - 「end」を使用して、最後のページを指定します。たとえば、「end(-5) - end」と入力すると、20ページあるドキュメントの15～20ページ目のテキストが墨消しされます。
4. 検索して墨消しするテキスト文字列、語句、または単語をいくつでも必要なだけ入力します。**[+] 記号** をクリックすると、空の[検索対象]行がノードに追加されます。**記号** をクリックすると、[検索対象]行が（空でも入力済みでも）ノードから削除されます。さまざまな検索オプションの例については、次の図を参照してください。



注: このノードでは、[検索対象]行フィールドを空のままにしておくことができません。[+]記号をクリックして[検索対象]行を作成した後でノードを保存するためには、フィールドにテキストを入力する必要があります。

検索と墨消しの例

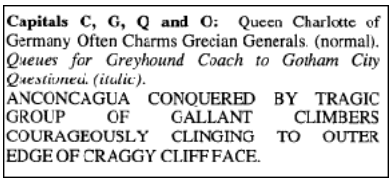
- **1つの単語または語句** を墨消しするには、次の図のように1つの[検索対象]行にテキストを入力します。

- **複数の単語** を墨消しするには、単語ごとに別々の[検索対象]行を使用します。たとえば、*「Father」*と*「Turtle」*という2つの単語を墨消しするには、次の例のように、それぞれの単語を個別に2つの行に入力します。

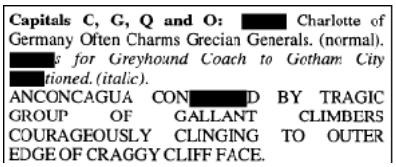
- テキストのブロックを墨消しするには、テキストをコピーして **[検索対象]** フィールドに貼り付けます（空のフィールドを右クリックすると表示されるコンテキストメニューを使用します）。そのブロックがドキュメント内で見つかるたびに墨消しされます。
- 特定のテキスト文字列または類似する文字列を含む単語すべてに墨消しを適用するには、次の図のように[検索対象]オプションを使用します。

例:

オリジナル ドキュメント:


Capitals C, G, Q and O: Queen Charlotte of Germany Often Charms Grecian Generals. (normal). *Queues for Greyhound Coach to Gotham City Questioned. (italic).*
ANCONCAGUA CONQUERED BY TRAGIC GROUP OF GALLANT CLIMBERS COURAGEOUSLY CLINGING TO OUTER EDGE OF CRAGGY CLIFF FACE.

墨消し ドキュメント:


Capitals C, G, Q and O: [redacted] Charlotte of Germany Often Charms Grecian Generals. (normal). [redacted]*s for Greyhound Coach to Gotham City* [redacted]*tioned. (italic).*
ANCONCAGUA CON[redacted]D BY TRAGIC GROUP OF GALLANT CLIMBERS COURAGEOUSLY CLINGING TO OUTER EDGE OF CRAGGY CLIFF FACE.

DSP

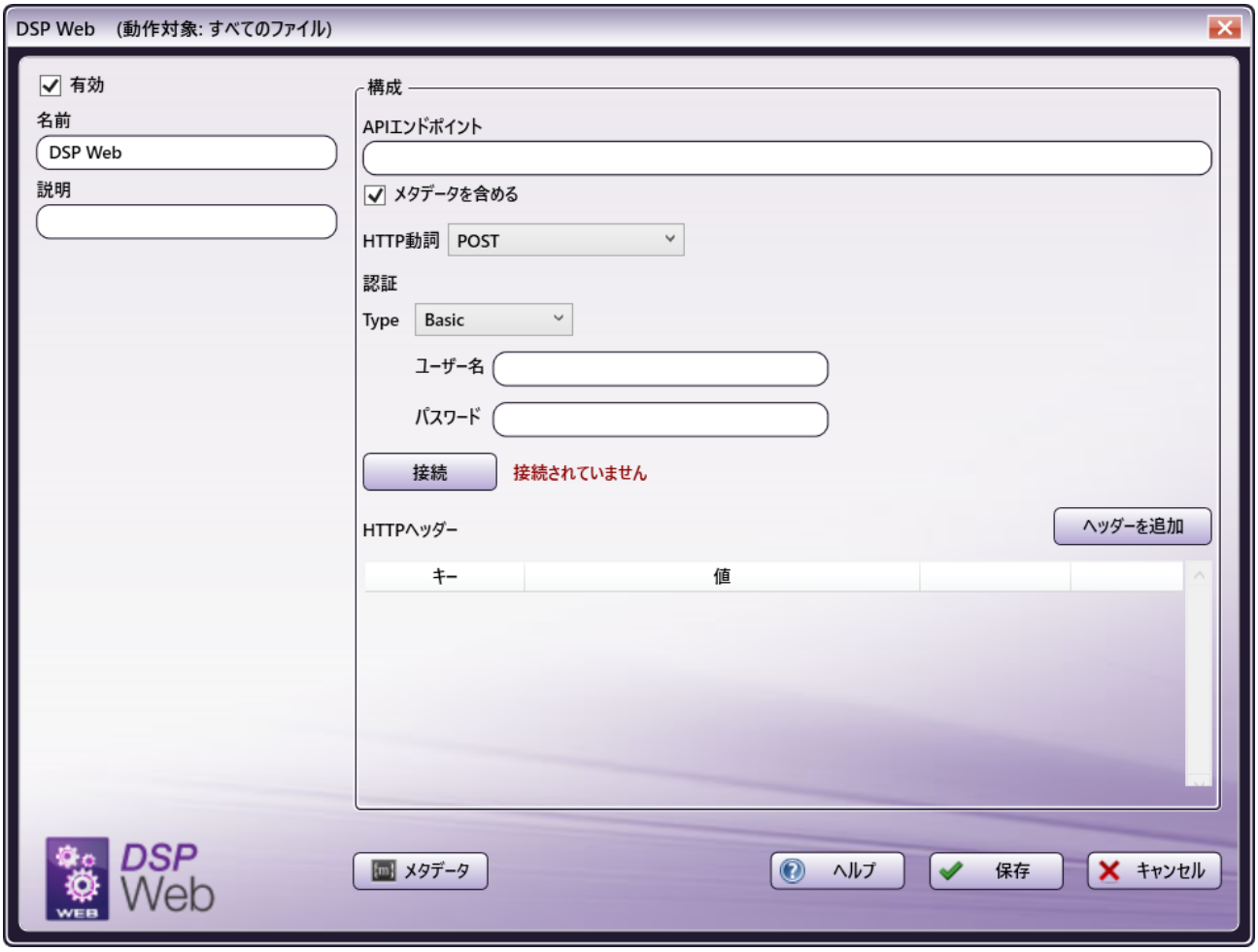
DSP Web

DSP Web

DSP Webノードは、Dispatcher Phoenix Developer Support Program(DSP)のメンバーによって開発されたアプリケーション/機能で使用するように設計されています。DSPの詳細については、コニカミノルタの担当者にお問い合わせください。

DSP Webノードの使用

DSP Webノードウィンドウを開くには、DSP Webノードの収集ノードを追加して、ダブルクリックします。



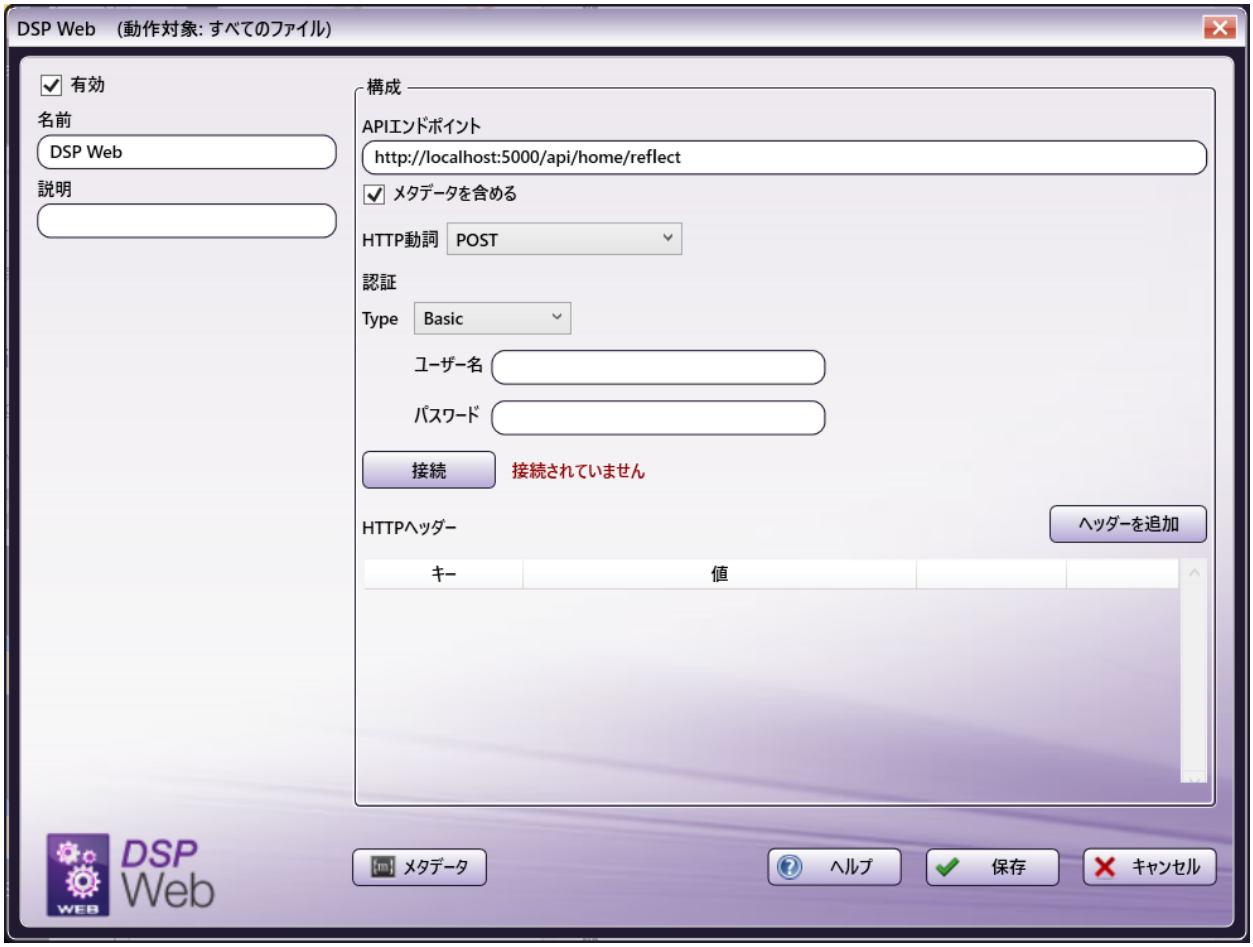
次のようないくつかのボタンとフィールドが表示されます。

- **[有効]** - ワークフローに複数の処理がある場合は、このボックスをオンにします。チェックを外すと、この処理は無視されます。ファイルは、ノードが存在しないかのように通過します(既定または「はい」のパスに沿って続行します)。無効にされたノードはロジックまたはエラー状態をチェックしないことに注意してください。
- **[名前]** - 意味のあるノードの名前を入力します。
- **[説明]** - Webノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別する時に役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。
- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウインドウにアクセスするにはこのボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

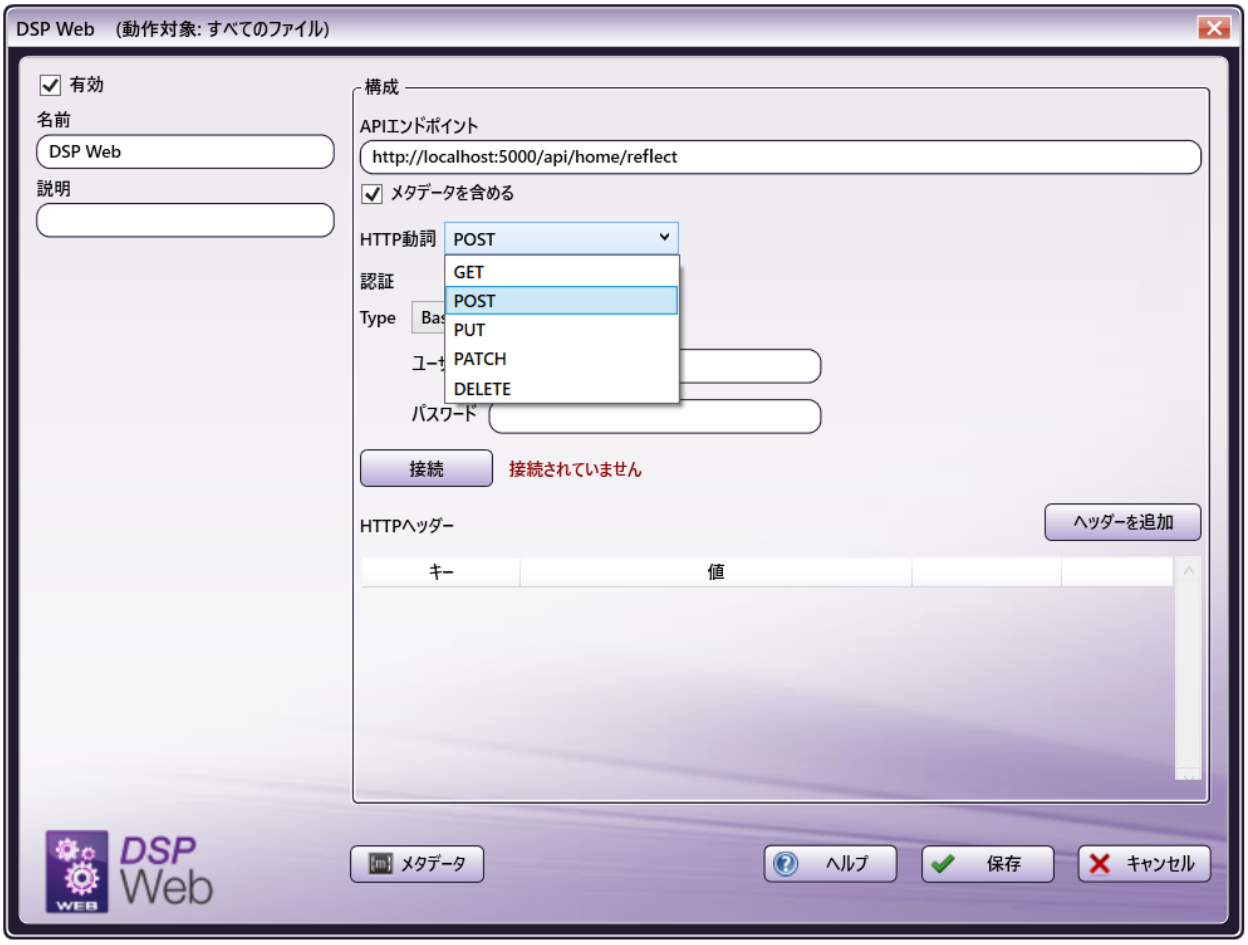
アプリケーションのセットアップ

DSPで開発されたWebサービスでこれを使用するには、Webベースのアプリケーション、またはAPIの場所(例:URLなど)を指すようにノードを構成する必要があります。ノードを構成するには、次の操作を実行します。

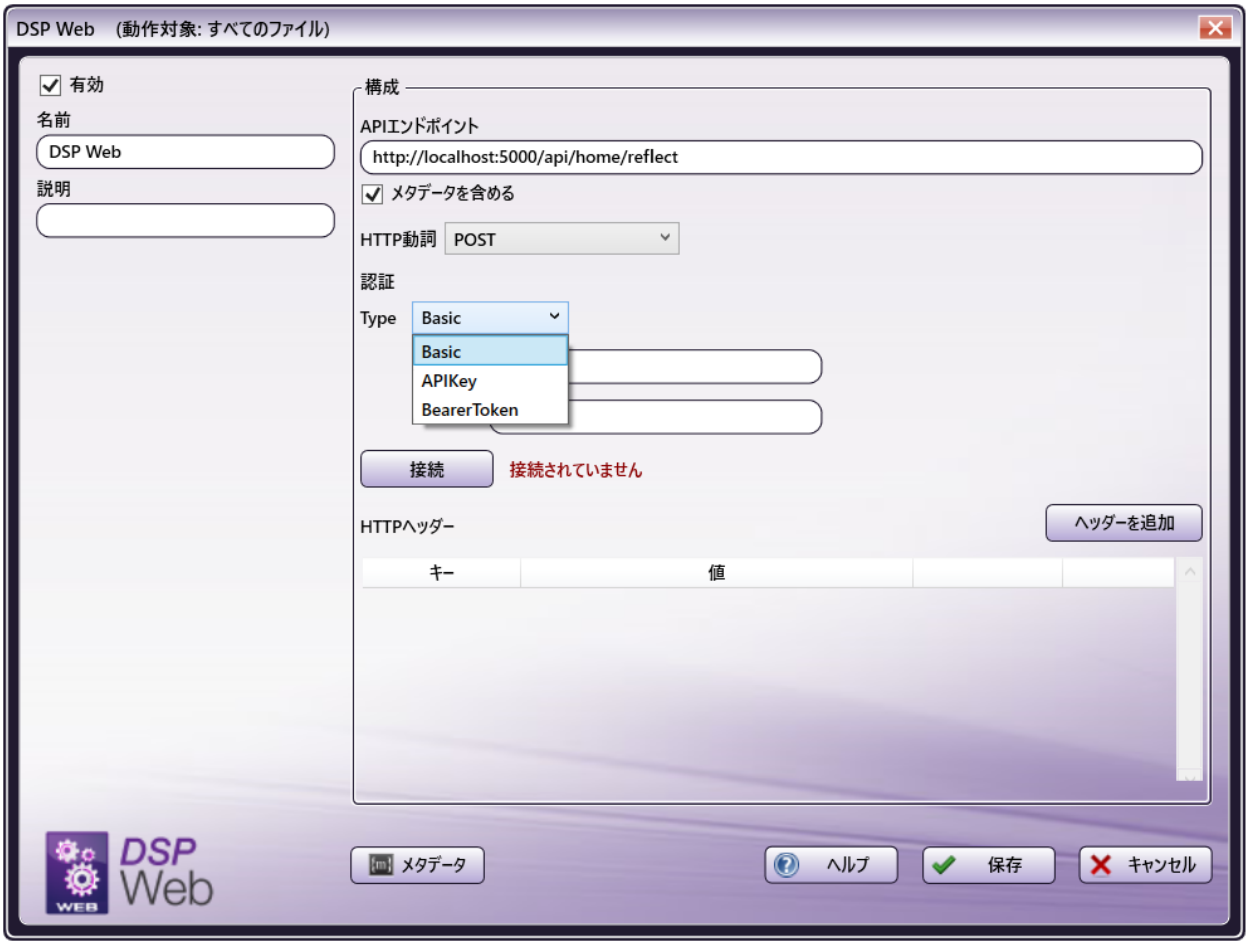
1. DSP Webノードをダブルクリックして開きます。
2. APIエンドポイントをアプリケーションに入力します。



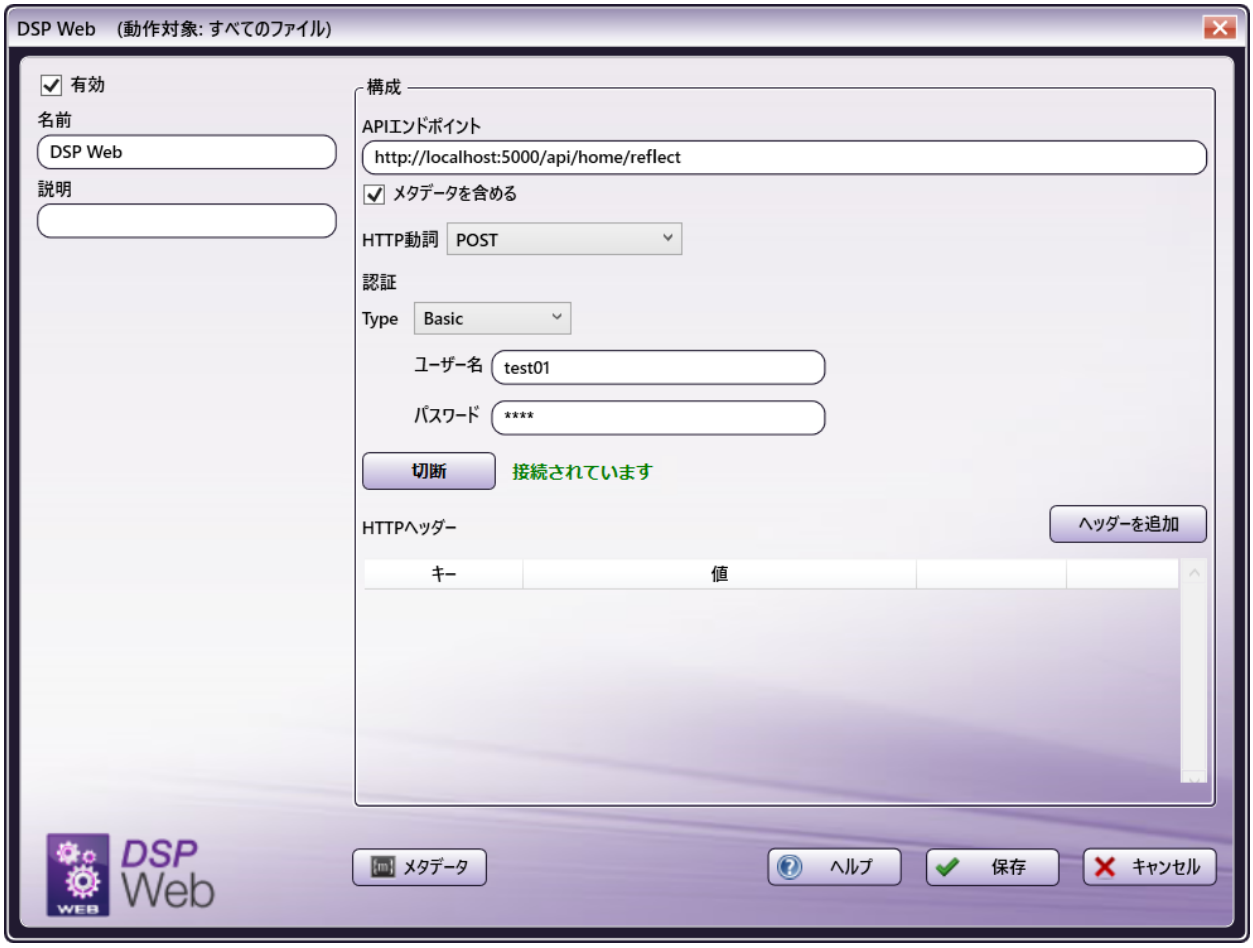
3. **メタデータを含める** かどうかを選択します。このチェックボックスを選択すると、ノードにはワークフロー内の以前のノードから収集されたすべてのメタデータが含まれます。
4. **HTTP動詞** を選択します。次のオプションが含まれます。
    - Get
    - Post
    - Put
    - Patch
    - Delete



5. **認証** タイプを選択します。次のオプションが含まれます。
    - Basic - **ユーザー名** と **パスワード** を入力するように求められます。
    - APIKey - **キー名** と **キー値** を入力するように求められます。
    - Bearer Token - **トークン** を入力するように求められます。



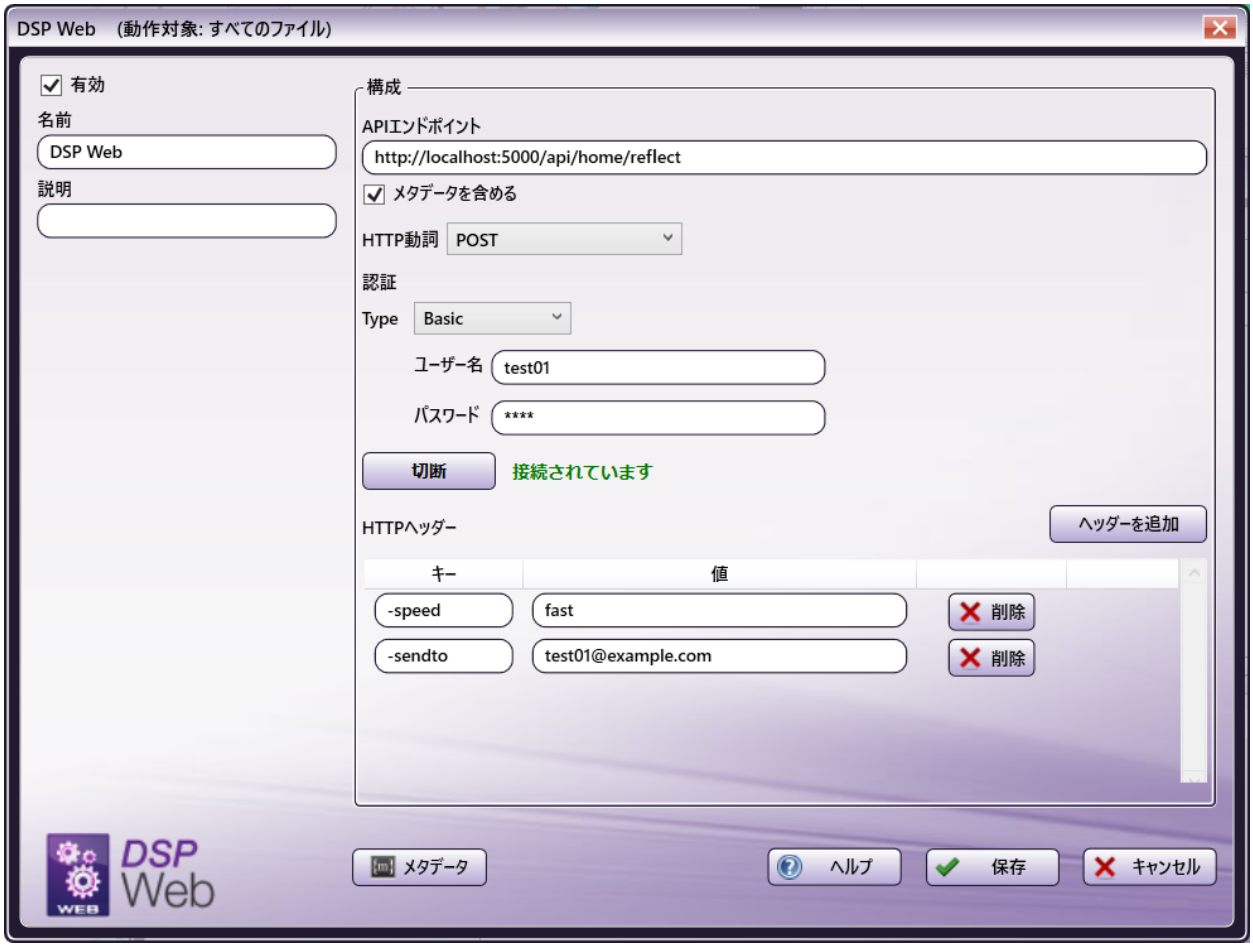
6. **[接続]** ボタンを選択します。これにより、DSP WebノードとWebアプリケーション間の接続が確立され、アプリケーションから提供されたメタデータキー、または値のペアが接続されるため、ワークフロー内の後続のノードでメタデータを使用することができます。これにより、アプリケーションが有効なDSPライセンスキーで正しく登録されていることも確認されます。



重要! ワークフローを適切に検証するには、**[接続]** ボタンを選択する必要があります。

注: APIフィールドに変更を加える場合、**[接続]** ボタンを選択して接続を再確立する必要があります。

7. 必要に応じて、アプリケーションに必要なヘッダーを追加します。ヘッダーを追加するには、**[ヘッダーを追加]** ボタンを選択します。これにより、ヘッダーの **キー** と **値** を入力できるようになります。ヘッダーは、アプリケーションの外部にある追加のコーディングコマンドであり、アプリケーションの実行方法を変更することができます。必要な **ヘッダーキー** と **値** は、アプリケーションと一緒にインストール手順で提供される可能性があります。それ以外の場合、このフィールドは空白のままにすることができます。複数のヘッダーを追加することができます。追加したヘッダーを削除するには、ヘッダーの横にある **[削除]** ボタンを選択します。ヘッダーもメタデータと互換性があります。メタデータをヘッダーに追加するには、**[メタデータ]** ボタンをクリックし、メタデータキーを **ヘッダーキー** または **値** フィールドにドラッグアンドドロップします。



8. ノードを保存して閉じます。

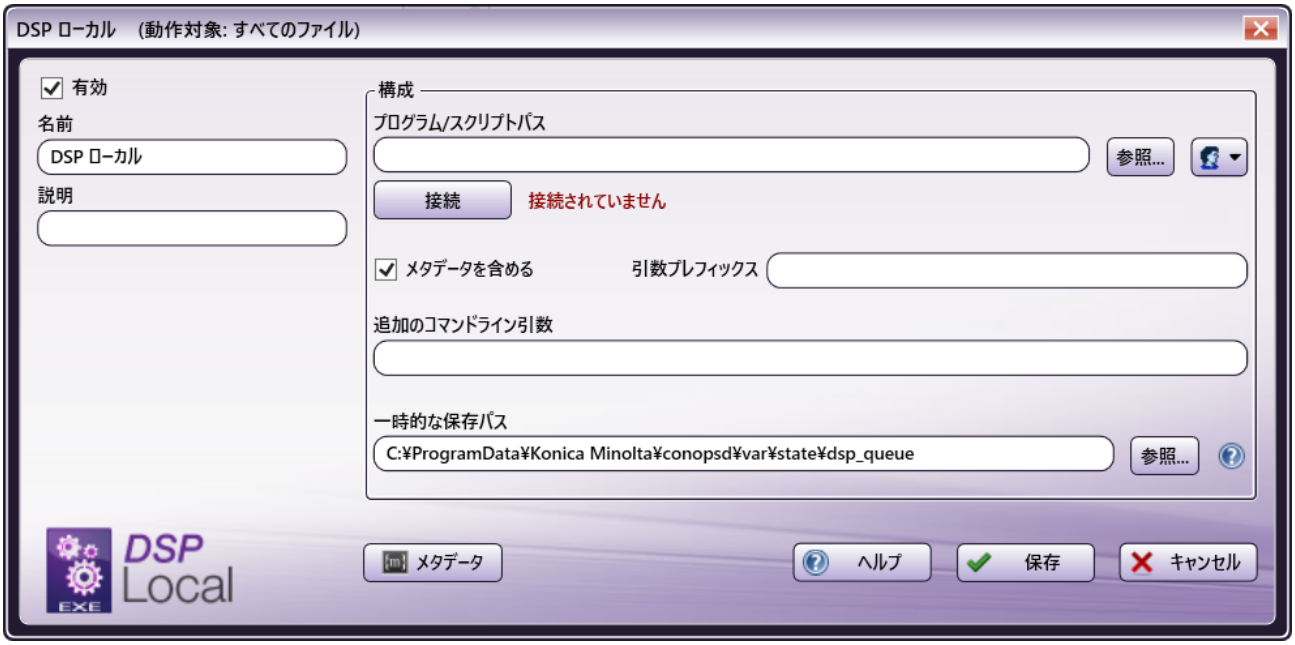
注: DSP Webノードは、接続されているアプリケーションの仕様に従って、可能な限りドキュメントを処理します。ノードまたはアプリケーションが処理中にエラーを生成した場合、エラーの具体的な詳細については、アプリケーションログを参照する必要があります。

DSPローカル

DSP ローカルノードは、Dispatcher Phoenix Developer Support Program(DSP)のメンバーによって開発されたアプリケーション/機能で使用するように設計されています。DSPの詳細については、コニカミノルタの担当者にお問い合わせください。

DSPローカルノードの使用

DSP ローカルノードウィンドウを開くには、DSPローカルノードの処理ノードを追加して、ダブルクリックします。



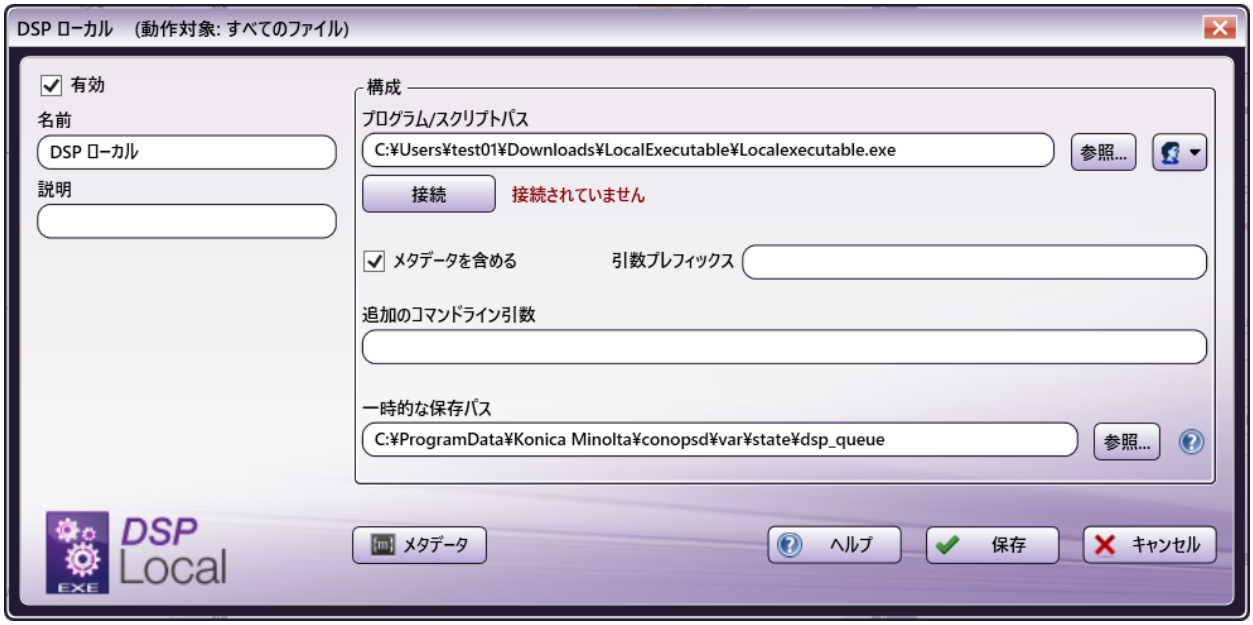
次のようないくつかのボタンとフィールドが表示されます。

- **[有効]** - ワークフローに複数のプロセスがある場合は、このボックスをオンにします。チェックを外すと、この処理は無視されます。ファイルは、ノードが存在しないかのように通過します（既定、または「はい」のパスに沿って続行します）。無効にされたノードはロジックまたはエラー状態をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - DSPローカルノードの意味のある名前を入力します。
- **[説明]** - DSPローカルノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数のプロセスを互いに区別するために役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。
- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウインドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

アプリケーションのセットアップ

DSPで開発されたローカル実行可能ファイルでこれを使用するには、実行可能ファイルの場所(アクセス可能なフォルダーなど)を指すようにノードを構成する必要があります。目的のアプリケーションがアクセス可能なフォルダーに保存されたら、DSPローカルノードにそれを使用するように指示できます。ノードを構成するには、次の操作を実行します。

1. DSPローカルノードをダブルクリックして開きます。
2. アプリケーションへのファイルパスを入力します。**[参照]** ボタンを使用してフォルダーブラウザーを開き、アプリケーションを見つけることもできます。



- **【認証】** ボタンを使用すると、アプリケーションが存在するフォルダーにアクセスするために必要な場合、ネットワーク資格情報を入力、または編集できます。

3. **【接続】** ボタンを選択します。これにより、DSPローカルノードとアプリケーション間の接続が確立され、アプリケーションから提供されたメタデータキーまたは値のペアが接続され、ワークフロー内の後続のノードでメタデータを使用することができます。これにより、アプリケーションが有効なDSPライセンスキーで正しく登録されていることも確認されます。

重要! 正常に接続していない場合、ワークフローを正しく検証できません。

注: プログラム/スクリプトパスまたはネットワーク資格情報に変更を加える場合は、**【接続】** ボタンを選択して接続を再確立する必要があります。

4. ドキュメントがローカル実行可能ファイルに配信されるときに **メタデータを含める** かどうかを選択します。このチェックボックスを選択すると、ノードにはワークフロー内の以前のノードから収集されたすべてのメタデータが含まれます。チェックボックスがオンになっている場合は、表示されたフィールドに必要な **引数プレフィックス** を入力します。これらはメタデータに追加され、アプリケーションがメタデータを他のデータと区別できるようにします。

5. 表示されたフィールドに **追加のコマンドライン引数** を入力します。コマンドライン引数は、アプリケーションの外部にある追加のコーディングコマンドであり、アプリケーションの実行方法を変更することができます。必要なコマンドラインプロンプトは、アプリケーションとともに提供される可能性があります。それ以外の場合、このフィールドは空白のままにすることができます。このフィールドはメタデータと互換性があります。**【メタデータ】** ボタンを使用して、ワークフローの前半で収集したメタデータをこのフィールドにドラッグアンドドロップすることができます。

注:

- 複数の単語を含む単数の引数を入力する場合は、フレーズを引用符で囲む必要があります。たとえば、接続されたプログラムがフォルダパス名を予期し、名前にスペースが含まれている場合、引数は`"C:\Program Files\Konica Minolta"`のようになります。
- DPSローカルノードは、2種類の二重引用符で囲まれた引数を処理できます。
  - 二重引用符で囲まれた引数内の二重引用符(それぞれがバックスラッシュ付き)、(引用符内の `"A \"quote\"` など)。

        - 二重引用符で囲まれた引数の一重引用符(引用符内の `"A 'quote'"`など)。
    - 一重引用符(")、一重引用符/アポストロフィ(')、または円記号(\ )を含む引数を入力する場合、引数を適切に処理するには、各記号の前に円記号(\ )を入力する必要があります。たとえば、アプリケーションが `O'Brien`という名前を送信しようとした場合、一重引用符を含めるには、引数を `O\'Brien` として入力する必要があります。
6. 必要に応じて、一時ファイルを保持するファイルパスを編集します。これは指定されたアプリケーションで処理するためのドキュメントを保存するために使用される一時的な場所です。すべてのユーザーがアクセスできる共有フォルダーまたは共通フォルダーのパスであれば、既定の場所を変更することができます。**[参照]** ボタンを使用してフォルダーブラウザーを開き、一時ファイルを保存する適切な場所を選択することもできます。
7. ノードを保存して閉じます。

注: DSPローカルノードは、接続されているアプリケーションの仕様に従って、可能な限りドキュメントを処理します。ノードまたはアプリケーションが処理中にエラーを生成した場合、エラーの具体的な詳細については、アプリケーションログを参照する必要があります。

ファイル変換

CDAジェネレーター

CDAジェネレーター を使用すると、Dispatcher Phoenixは患者の記録やその他の臨床ドキュメントを標準のHL7 CDA XMLドキュメントに変換し、それを電子健康記録（EHR）アプリケーションなどの医療システムにインポートできます。CDAジェネレーターは、医療記録を管理するために必要な相互運用性を医療機関に提供します。このノードは、患者の健康記録を見るためにEHRベンダーによって取り込まれるXMLテンプレートを作成します。

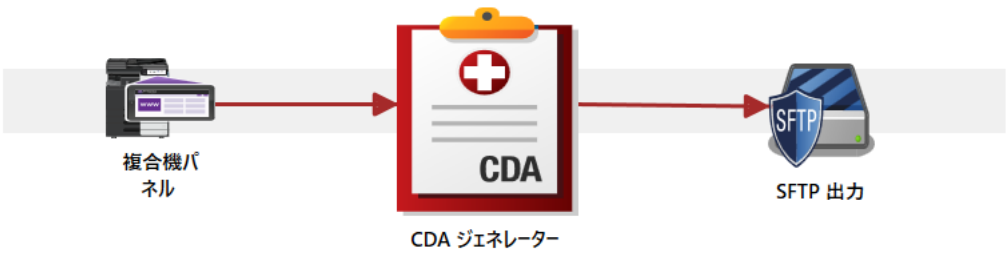
CDA形式のXMLファイルは、次の6つの特性を持つ共通の設計構造を使用します。

1. 持続性 - 長期間、使用中のままにできます。
2. 管理 - CDAを使用している病院などの信頼できる組織によって管理されます。
3. 認証の可能性 - 臨床情報が正確であることの法的検証。
4. 属性 - 患者IDやドキュメントの作成者など、既定の属性がレコードに追加されます。
5. 完全性 - ドキュメント全体を認証することができます。
6. 解読可能 - 人がブラウザーまたはモバイル機器で資料を読むことができます。

注: CDAジェネレーターノードは、すべてのファイルタイプをサポートします。ただし、TIFF(Tag Image File Format)ファイルでCDAジェネレーターノードを使用すると、問題が発生する場合があります。

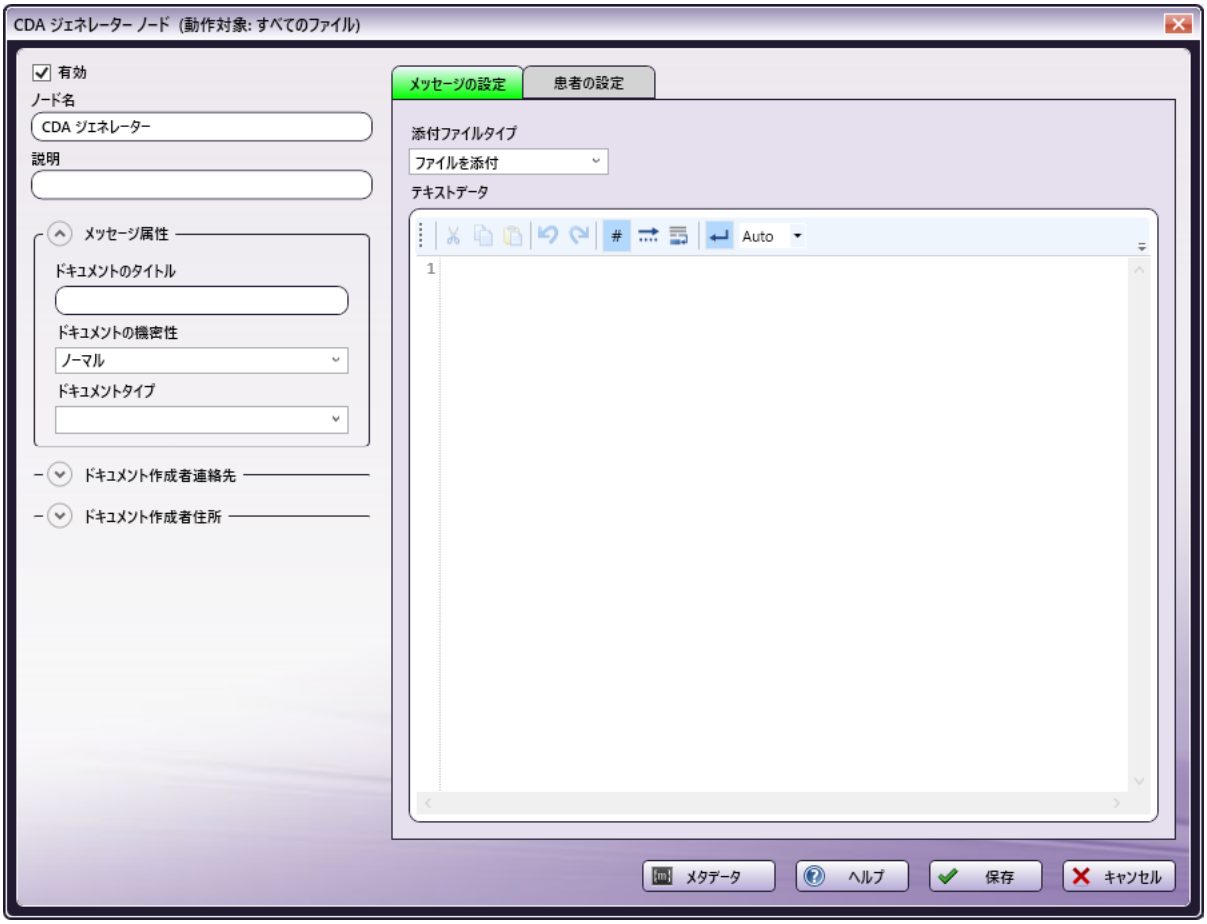
CDAジェネレーター ワークフローの設定

複合機パネル ノード、**CDAジェネレーター** ノード、および、選択した出力をワークフローに追加します。



CDAジェネレーターノードの設定

CDAジェネレーターノードを開くには、ノードをダブルクリックします。



次の操作を実行します。

1. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認してください。チェックしなかった場合、このプロセスは無視されます。ワークフローは検証されますが、ドキュメントは処理されずに失われる可能性があります。
2. **[ノード名]** フィールドに、CDAジェネレーターノードのわかりやすい名前を入力します。
3. **[説明]** フィールドに、CDAジェネレーターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
4. **[メッセージ属性]** 領域で、次の設定を構成します。
   - **[ドキュメントのタイトル]** フィールドに、解りやすいドキュメントのタイトルを入力します。
   - **[ドキュメントの機密性]** ドロップダウンリストから、ドキュメントの機密性レベルを[低]、[中]、[ノーマル]、[制限あり]、[制限なし]、または[制限あり(強)]のいずれかを選択します。
   - **[ドキュメントタイプ]** ドロップダウンリストから、[紹介]、[退院]、[一般的な通信]、[患者主導]、[緊急退院]、[入院患者の退院]、または[投薬管理]など、CDAジェネレーターを通して処理されるドキュメントタイプを指定します。

   注: メッセージ属性 以下のすべてのフィールドはメタデータを受け入れます。フィールドに追加するメタデータを閲覧するために、**[メタデータ]** ボタンをクリックすると、**メタデータブラウザー** ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用して、**[メタデータブラウザー]** から適切なフィールドに変数名をドラッグアンドドロップすることができます。
5. **[ドキュメント作成者連絡先]** セクションで、以下の情報を設定します。
   - **[組織]** フィールドに、ドキュメントの作成者が関連付けられている組織を入力します。
   - **[名]** フィールドに、ドキュメント作成者の名前を入力します。
   - **[姓]** フィールドに、ドキュメント作成者の姓を入力します。
   - **[電話番号]** フィールドに、ドキュメント作成者の電話番号を入力します。

   注: [組織]を除く [ドキュメント作成者連絡先]以下のすべてのフィールドはメタデータを受け入れます。フィールドに追加するメタデータを閲覧するには、**[メタデータ]** ボタンをクリックすると、**メタデータブラウザー** ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用して、**[メタデータブラウザー]** から適切なフィールドに変数名をドラッグアンドドロップすることができます。
6. **[ドキュメント作成者住所]** セクションで、以下のフィールドを設定します。
   - **[住所]** フィールドに、ドキュメント作成者の住所を入力します。
   - **[市区町村]** フィールドに、ドキュメント作成者の住所に関連付けられた市区町村を入力します。
   - **[都道府県]** フィールドに、ドキュメント作成者の所在地の都道府県を入力します。

- **[郵便番号]** フィールドに、市区町村の郵便番号とドキュメント作成者の所在地を入力します。
- **[国]** フィールドに、ドキュメントの作成者が居住する国を入力します

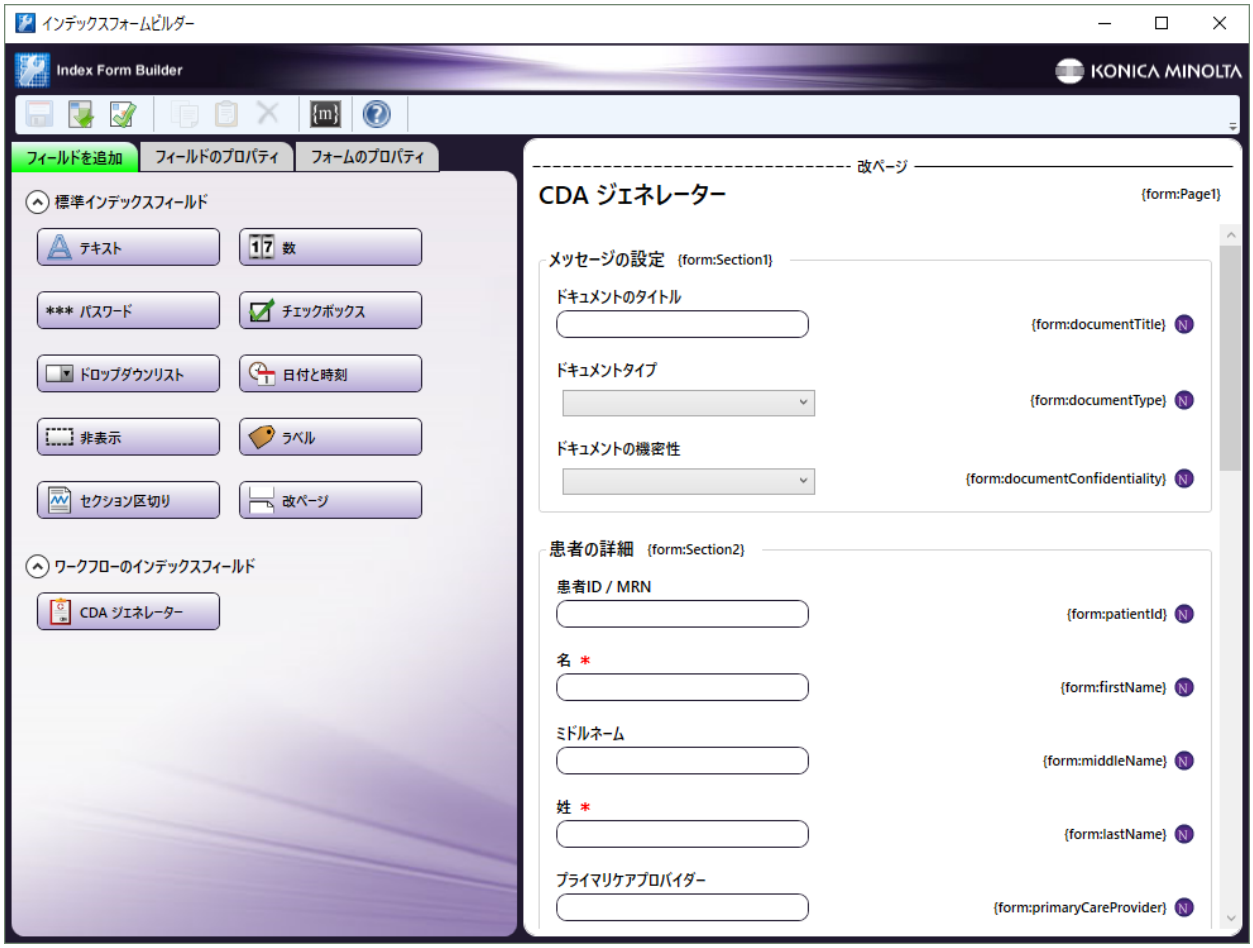
7. **[メッセージの設定]** タブで、次の設定を行います。
   - **[添付ファイルの種類]** ドロップダウンリストから、CDAジェネレーターを通して処理される添付ファイルの種類を指定します。オプションは、[添付ファイルなし]、[ファイルを添付]、[テキストを添付]です。
   - **[テキストデータ]** 領域に、必要に応じて患者レコードに含める必要があるテキストを入力します。たとえば、医師のメモや所見を含めることができます。
8. **[患者の設定]** タブで、患者の詳細を設定します。患者の詳細は以下のとおりです。
   - Patient ID/MRN (患者ID/MRN)
   - First Name (名前) この項目は必須です。
   - Middle Name (ミドルネーム)
   - Last Name (姓) この項目は必須です。
   - Date of Birth (生年月日) (MM/DD/YYYY)
   - Gender (性別)
   - Race (人種)
   - Primary Care Provider (プライマリケアプロバイダー)
   - Address (住所)
   - City (市区町村)
   - State (都道府県)
   - Zip Code (郵便番号)
   - Country (国)
   - Phone Number (電話番号)

   注: [**患者の設定**] 以下のすべてのフィールドはメタデータを受け入れます。フィールドに追加するメタデータを閲覧するには、**[メタデータ]** ボタンをクリックすると、**メタデータブラウザー** ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用して、**[メタデータブラウザー]** から適切なフィールドに変数名をドラッグアンドドロップすることができます。
9. **[保存]** ボタンを選択してCDAジェネレーターの設定を保存します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを選択し、変更を保存せずにウィンドウを終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択します。

CDAジェネレーターインデックスフォームの作成

スキャン時に **[CDAジェネレーター]** プロセスをカスタマイズできるインデックスフォームを作成できます。

1. ワークフローに **複合機パネル** ノードと **CDAジェネレーター** ノードを追加します。
2. 複合機パネルノードから **インデックスフォームビルダー** を開きます。**[ワークフローインデックスフィールド]** 領域の下に **[CDAジェネレーター]** ボタンが表示されます。
3. **[CDAジェネレーター]** ボタンをインデックスフォーム作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図のように、CDAジェネレーターのインデックスフォームが自動的に表示されます。



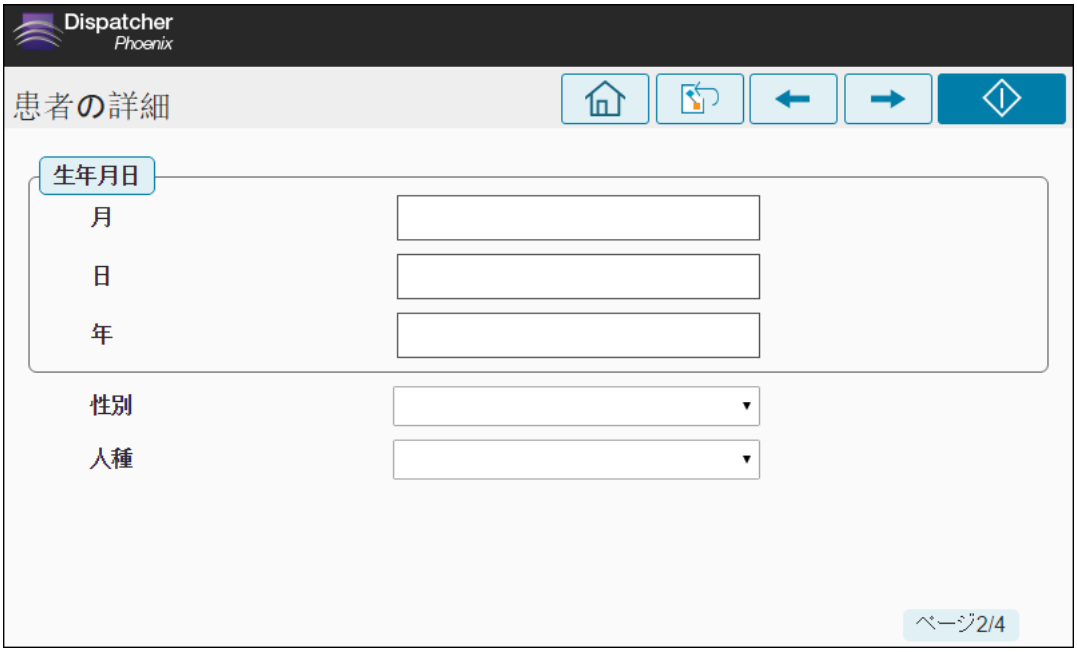
4. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。複合機ユーザーが複合機でインデックスフォームを使用して患者データを指定すると、CDAジェネレーターノードには、インデックスフォームメタデータが自動的に入力されます。

複合機でCDAジェネレーターを使用する

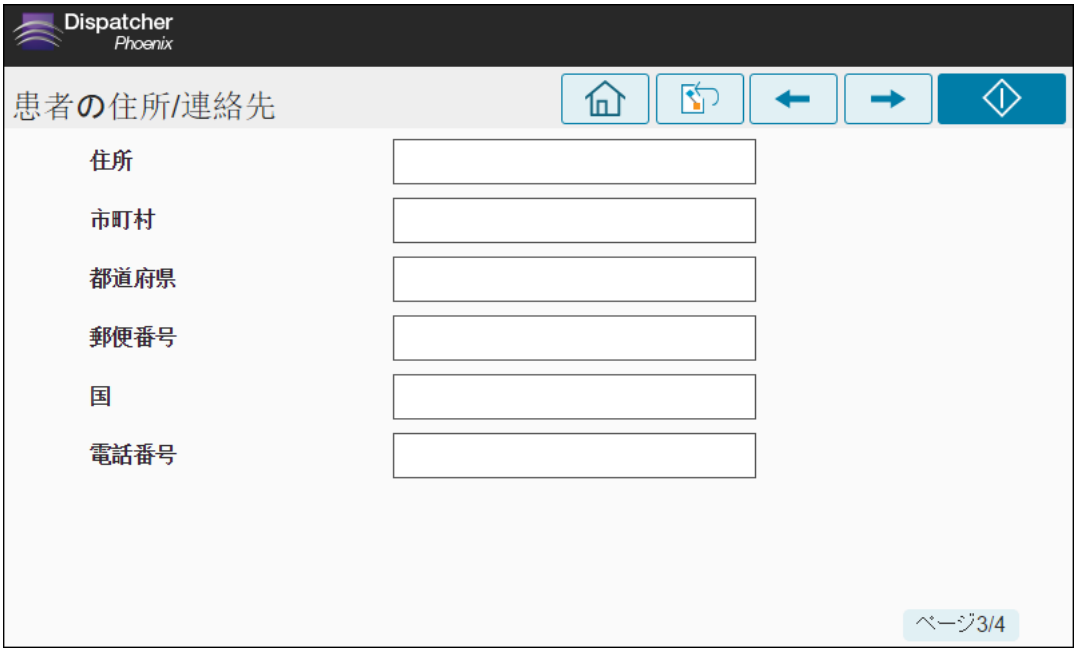
インデックスフォームを作成して出力ノードを定義したら、複合機ユーザーは複合機でドキュメントの設定を指定できます。次の図の例を参照してください。

画面 1: メッセージの設定と患者詳細の指定

画面 2: 患者の生年月日、性別、人種を入力



画面 3: 患者の住所やその他の連絡先情報を入力

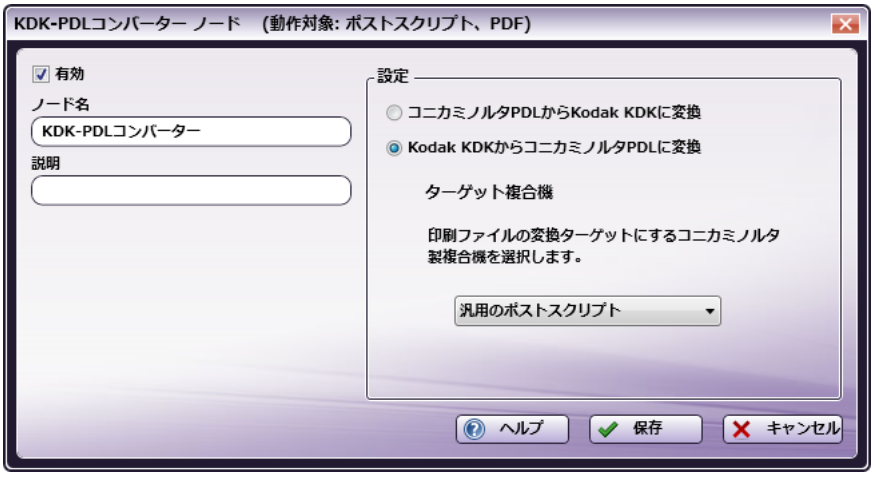


画面 4: ドキュメント作成者の連絡先情報を入力

KDK-PDLコンバーター

KDK-PDLコンバーター処理は、PDFまたはPostscript形式の入力ファイルをKodak KDK/KDEコマンドからコニカミノルタプロダクションプリントPDLへ、また、コニカミノルタプロダクションプリントPDLからKodak KDK/KDEへ変換するオプションノードです。

KDK-PDLコンバーターノードウィンドウを開くには、KDK-PDLコンバーターの処理ノードを追加して、このノードをダブルクリックします。



- ワークフローに複数の処理がある場合は、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックしなかった場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、あたかもノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、KDKコンバーターノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、KDKコンバーターノードの説明を入力します。これは必要ありませんが、複数の処理を互いに区別する場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- ***Kodak KDKに変換するには*** 、**[コニカミノルタPDLからKodak KDKに変換]** ラジオボタンを選択します。
- ***コニカミノルタPDLに変換するには*** 、**[Kodak KDKからコニカミノルタPDLに変換]** ラジオボタンを選択します。この変換を実行するには、変換処理中に正しいコニカミノルタPDLが使用されるようにするために、ターゲット複合機を指定する必要があります。**[ターゲット複合機]** ドロップダウンリストから[複合機]を選択します。既定の設定は[汎用のポストスクリプト]で、これには最大限の変換機能が含まれます。
- KDKコンバーターの定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。***[ヘルプ]*** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、***[キャンセル]*** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

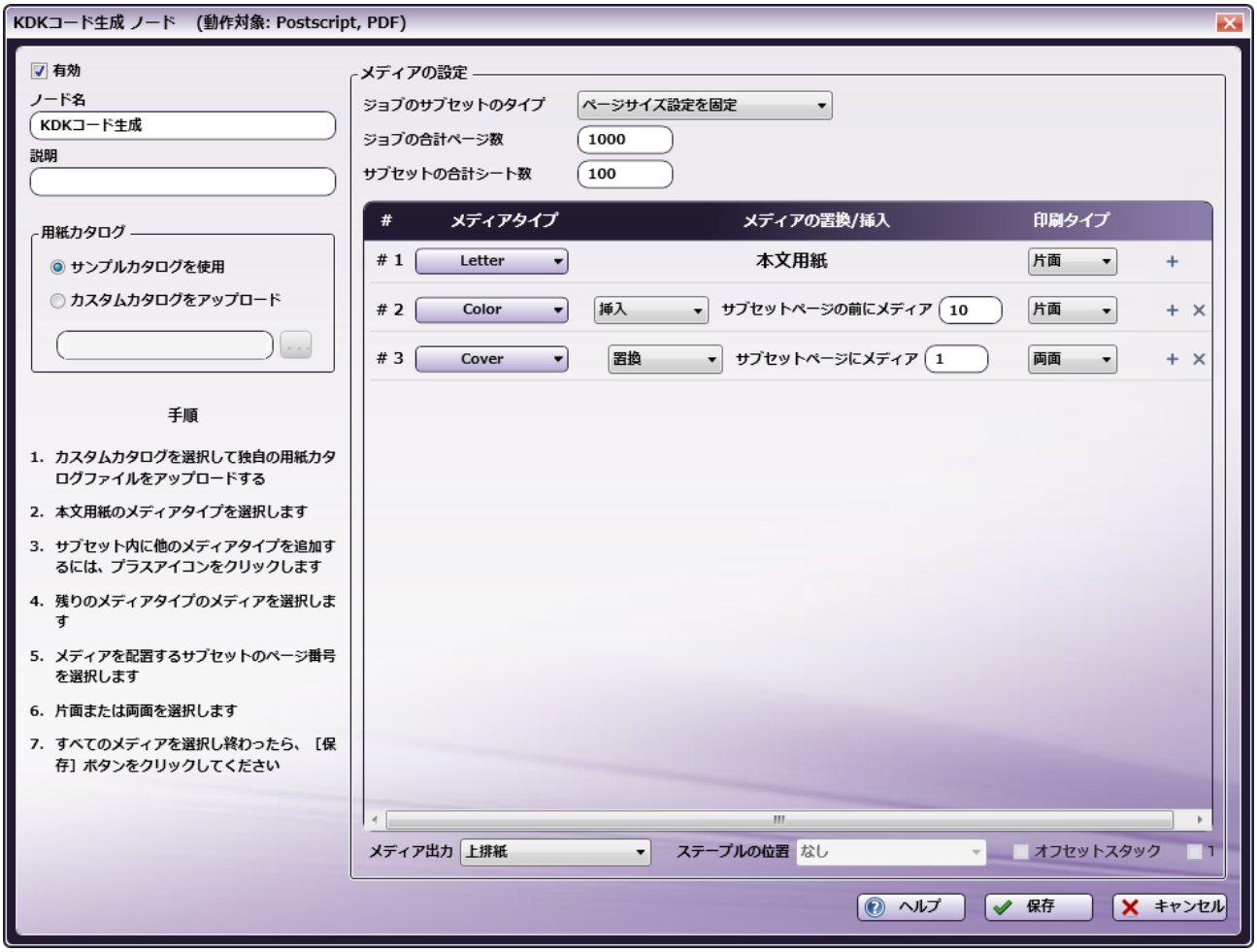
注: Kodak Digimasterとコニカミノルタプロダクションプリント複合機の差異により、これらの複合機で互換性のないプリンターコマンドが存在する可能性があります。この場合、可能な限り最適な代替コマンドが使用されます。代替策がない場合、ファイルはエラーとなります。このため、KDKノードを含むワークフローには必ずエラーパスが含まれるようにする必要があります。

KDKコード生成

KDKコード生成は、KDK/KDEコードをPDFまたはPostscript形式の入力ファイルに追加して、Kodak Digimasterでの印刷を可能にするオプション処理です。このノードをカスタマイズするには、出力ファイルの構造を定義して、Digimasterでのファイルの処理方法を定義する必要があります。

注: このノードで処理されたPDFファイルは、Postscriptヘッダーを持つPDFファイルとなり、本当のPDFファイルとは認識されなくなります。また、このようなファイルタイプの変更を示すために、PDFファイルの拡張子が *.pdf から *.ps に変更されます。

[KDKコード生成ノード]ウィンドウを開くには、KDKコード生成の処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。



- ワークフローに複数の処理がある場合は、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックしなかった場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、あたかもノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、KDKコード生成ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、KDKコード生成ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別する場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- KDKコード生成の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

出力ファイルの構造の定義

出力ファイルの構造を定義するには、以下の操作を行います。

1. どの用紙カタログを使用するかを指定します。ノードに付属している基本用紙カタログを使用する場合は **[サンプルカタログを使用]** ラジオボタンを、別のDigimaster装置の用紙カタログを使用する場合は **[カスタムカタログをアップロード]** ラジオボタンを選択します。カスタムカタログのアップロードを選択した場合は、まず、Digimasterから用紙カタログをダウンロードする必要があります。
2. **[メディアの設定]** ドロップダウンリストで、印刷ファイル内のサブセット数を定義します。選択肢は **[ページサイズ設定を固定]** と **[タグ区切りセット]** です。
    - 各サブドキュメント内のページ数の定義を選択した場合は、**[ジョブの合計ページ数]** フィールドに印刷ファイルの総ページ数、**[サブセットの合計シート数]** フィールドにサブドキュメントのページ数を入力する必要があります。ただし、サブドキュメントのページ数は、総ページ数を割り切れるものでなければなりません。たとえば、総ページ数が1000ページのドキュメントに100ページのサブドキュメントを定義することはできますが、このドキュメントに90ページのサブドキュメントを定義しようとすると、11.11セットとなってしまうため、この定義は無効です。
    - 可変サイズのサブセットを指定するには、**[タグ区切りセット]** を使用して、ファイル内の特定のタグに基づいて、個々のセットを定義します。**[ジョブのサブセットのタイプ]** プルダウンメニューの **[タグ区切りセット]** をクリックします。次に、**[タグ値]** フィールドに適切なテキストを入力します。このテキスト文字列または単語では大文字小文字が区別されます。また、正規表現を使用できます。セットに存在しないメディアタイプをページに対して指定した場合、そのメディアタイプは処理されません。たとえば、タグ区切りセットで4ページのセットが定義されているときに、メディアタイプが5ページに発生するよう設定されている場合、そのセットではメディアタイプは処理されません。さらに、ドキュメントの先頭でタグが発生しない場合、タグまでのページはDigimasterの既定の出力に送られます。

    注: タグ区切りセットを使用する場合、入力ファイルはPostscript形式でなければなりません。
3. [#1]行で、**[メディアの選択]** ボタンをクリックし、表示される **[メディアの選択]** ポップアップウィンドウからメディアタイプを選択して、本文のプライマリメディアタイプを選択します。次に、**[印刷タイプ]** ドロップダウンリストを使って、[本文用紙]を片面、両面のどちらで印刷するかを選択します。これは印刷ファイル全体の既定値になります。
4. 既定値の指定後、さらにメディアタイプを定義するには、行末にある **[+]** アイコンをクリックします。最高11種類のメディアタイプを定義できます。サブドキュメントの特定のページの前に異なるメディアタイプを挿入することもできますし、特定のページを置き換えることもできます。

次の図は、各サブドキュメントの10ページ目の前にカラーページを挿入し、各ドキュメントの1ページ目をカバーページで置き換えるように構成されているノードの例です。

出力オプションの定義

メディアタイプの選択後、**[メディア]** 出力ドロップダウンリストからメディア出力/仕上げオプションを指定できます。選択肢は[上排紙]、[フィニッシャー]、[スタッカー]、[Booklet Maker]です。

- **[フィニッシャー]** を選択した場合、**[ステープルの位置]** ドロップダウンリストからステープルの位置をカスタマイズできます。選択肢は、[なし]、[上]、[下]、[両方]です。
- [フィニッシャー]または[スタッカー]を選択した場合、[オフセットスタック]ボックスをチェックして、ジョブをオフセットすることができます。

Officeに変換

Officeに変換処理は、イメージファイルやPDFを次のような標準のMicrosoft Office形式に変換するために使用できるオプションのノードです。

- Word
- Excel
- Powerpoint

良好な出力を得るには300 DPI以上のスキャンをお勧めします。この処理は、次のファイルタイプで機能します。

- TIF/TIFF
- PNG
- JPG/JPEG
- BMP
- PDF

注: このノードはGIFファイルを処理できます。ただし、出力精度にばらつきが出ることがあります。

重要! このノードの一部の機能は、Microsoft.NET Framework 3.5がないと正しく機能しない場合があります。FrameworkをWindows Updateからインストールするか、MicrosoftのWebサイトからダウンロードする必要があります。

注: このノードには、OmniPage **OCR エンジン**が含まれます。

制限

以下を超える入力イメージドキュメントは、処理されません。

- 最大許容サイズ: A0 (33.1” x 46.8”)
- 最大 dpi: 2400

さらに、ワードプロセッサ形式(.doc および.rtf)には、22インチの長さ/高さの制限があります。

Officeに変換 ノードの構成

Officeに変換ノードを開くには、**Officeに変換**ノードを処理パネルからワークフローにドラッグアンドドロップして、ダブルクリックします。次に示すように、「Officeに変換」プロパティウィンドウが開きます。

次のオプションを使用できます。

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードはロジックまたはエラー状態をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示すノードの意味のある名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。

詳細設定を構成する

OCR処理の精度と速度を調整するには、**[詳細設定]** ボタンをクリックして **OCR設定** 画面にアクセスします。たとえば、Officeに変換によって出力ファイルの外観が大幅に変わる場合は、この画面を使用して、OCR設定を調整します。

出力設定

このセクションを使用して、出力設定を指定します。

- **[出力ファイルのフォーマット]** - 出力ファイル形式を選択します。サポートされているファイル形式とタイプの詳細については、**OCR設定** ページを参照してください。

  注: Microsoft Excelの場合、複数のページを含むファイルを処理すると、出力は、ページごとにタブが付いた1つのワークブックファイルになります。

  注: PowerPoint 97ファイルは .rtfファイルとして出力されますが、拡張子が.pptに変更されると、PowerPointで開くことができます。
- **[空白のページを削除]** - 出力されたファイルから空白ページを削除するには、このチェックボックスをオンにします。
- **[自動画像回転]** - OCRエンジンは、変換時にテキストを適切に自動的に回転します。テキストの自動回転を防止するには、このボックスを空白のままにします。
- **[スペルチェックの有効化]** - 単語の受容性を判断し、スペルミスを自動的に修正することでOCR処理の精度を高めるには、このチェックボックスをオンにします。既定値は「有効」です。入力ファイルのスペルチェックを自動的に行わないようにする場合は、チェックボックスをオフにします。スペルチェックを無効にすると、OCR処理が高速化される場合がありますが、結果の精度に影響する場合があります。

ボタン

- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックしてください。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

PDFに変換

PDFに変換

PDFに変換処理ノードは、イメージおよびPDFをPDF/A互換ファイルなどの異なる形式のPDFドキュメントに変換します。出力ファイルは定義する設定に応じて検索可能、編集可能、および表示可能にできます。このノードは以下のファイルタイプで使用できます。

- TIF/TIFF

- PNG
- JPG/JPEG
- BMP
- PDF

注: このノードはGIFファイルを処理できます。ただし、出力精度にばらつきが出ることがあります。

注: スキャンされたドキュメントの推奨最小DPIは200です。300DPIまたはそれ以上のドキュメントではより良い結果が期待できます。

注: このノードにはTesseract **OCR エンジン**が含まれています。OmniPage OCR エンジンのライセンスを購入することもできます。

制限

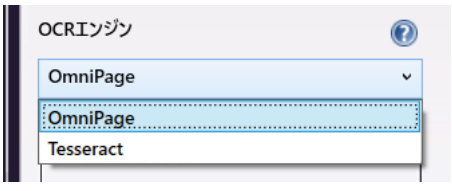
入力ドキュメントにおいて、以下を超える画像は処理されません。

- 最大許容サイズ: A0 (33.1” x 46.8”)
- 最大dpi: 2400

PDFに変換ノードの構成

「PDFに変換」ノードを開くには、「PDFに変換」ノードを処理パネルからワークフローにドラッグアンドドロップし、ダブルクリックします。以下のように、「PDFに変換」プロパティウィンドウが開きます。

上の図は、TesseractをOCRエンジンとして使用し、選択オプションを使用しない[プロパティ]ウィンドウの既定の構成を示しています。次の図のように、「PDFに変換」用OmniPage アドオンノードを購入すると、OCRエンジンフィールドがドロップダウンフィールドになります。



次のオプションを使用できます。

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、ロジックまたはエラー状態をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されています。この名前はワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノードの名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明はワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読み込むことができます。
- **[OCRエンジン]** - 複数の**OCR エンジン**がライセンスされてDispatcherPhoenixにインストールされている場合、使用するエンジンを選択できるドロップダウンメニューが表示されます。システムで使用できるエンジンが1つしかない場合は、エンジンの名前がこのフィールドに表示されます。

注: 別のOCRエンジンを選択すると、すべての構成設定が破棄され、既定の設定に戻されます。

ボタン

- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノードの定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

詳細設定を構成する

OCR処理の精度や速度を調整するには、**[詳細設定]** ボタンをクリックして**OCR設定**ウインドウにアクセスします。たとえば、PDF変換によって出力ファイルの外観が大幅に変わる場合は、この画面を使用してOCR設定を調整します。

出力設定

このセクションを使用して、出力設定を指定します。

- **[ファイルタイプ]** - 出力ファイルの種類を選択します。ドロップダウンをクリックすると、出力オプションのリストが表示されます。**OCRエンジン** は、このフィールドで使用できるオプションのリストに影響を与える可能性があります。オプションが[ファイルタイプ]フィールドに表示されない場合、そのオプションはOCRエンジンでサポートされていません。以下の表を参照してください。

出力オプション	OmniPage	Tesseract
PDF	はい	いいえ
編集済みPDF	はい	いいえ
PDFイメージのみ	はい	はい
検索可能なPDF	はい	はい
イメージ置き換え付きのPDF	はい	いいえ

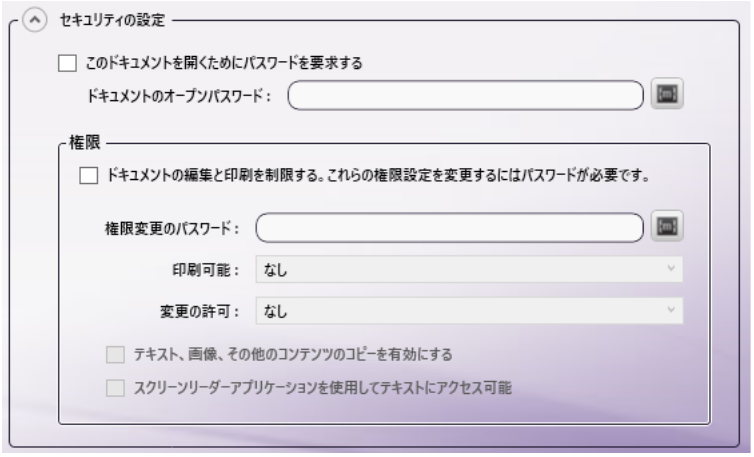
- **[PDFバージョン]** - 出力ファイルをさらに定義するには、ドロップダウンをクリックして、次のいずれかを選択します。このフィールドは、Tesseract OCRエンジンでは使用できないことに注意してください。
  - 品質の最適化
  - サイズの最適化
  - PDF 1.3
  - PDF 1.4
  - PDF 1.5
  - PDF 1.6
  - PDF 1.7
  - PDF/A-1a (PDFバージョン1.4を出力)
  - PDF/A-2a (PDFバージョン1.7を出力)
  - PDF/A-3a (PDFバージョン1.7を出力)
  - PDF/A-1b (PDFバージョン1.4を出力)
  - PDF/A-2b (PDFバージョン1.7を出力)
  - PDF/A-3b (PDFバージョン1.7を出力)
  - PDF/A-2u (PDFバージョン1.7を出力)
  - PDF/A-3u (PDFバージョン1.7を出力)
- **[空白のページを削除]** - 出力されるPDFから空白のページを削除するには、このチェックボックスをオンにします。
- **[自動画像回転]** - **OCRエンジン**は、変換時にテキストを適切に自動的に回転させます。テキストの自動回転を防止するには、ボックスを空白のままにします。

セキュリティの設定

この領域を使用して、PDFドキュメント（PDF/Aドキュメントを除く）のセキュリティ設定を指定します。パスワードを使用して、ユーザーによるPDFドキュメントの開始、印刷、および編集を制限することができます。

注: パスワード保護されたPDFは、Dispatcher Phoenix ワークフローから印刷することはできません。

セキュリティの設定 の下矢印をクリックします。ウィンドウが展開され、次の情報が表示されます。



- **[このドキュメントを開くためにパスワードを要求する]** - PDFを開く前にユーザーにパスワードの入力を要求するには、このチェックボックスをオンにします。
- **[ドキュメントのオープンパスワード]** - このフィールドでは、次のいずれかを実行できます。
    - 使用するパスワードを入力する。

  または

    - **[メタデータ]** アイコンを選択して **メタデータブラウザー** を開いて、ドキュメント内のメタデータに基づいてパスワードを作成する。

権限

この領域では、PDFドキュメントを別のアプリケーションで開いたときに使用できる編集および印刷オプションと、これらの設定を変更するために必要な権限パスワードを指定できます。

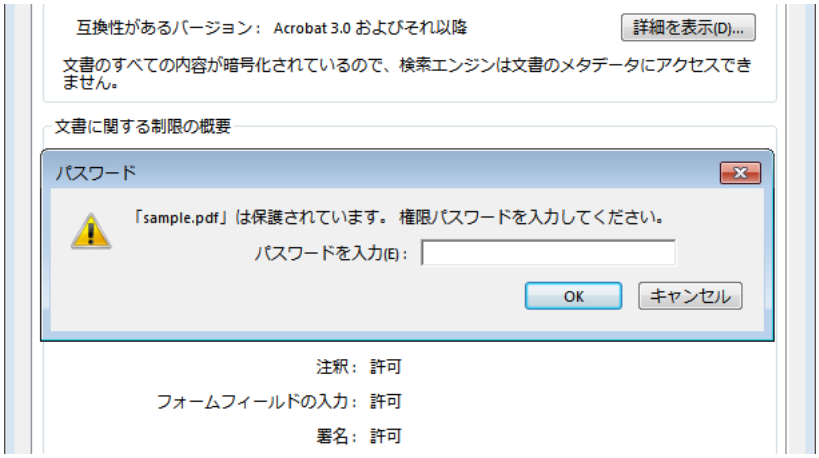
- **[ドキュメントの編集と印刷を制限する]** - 他のアプリケーションでのPDFの編集と印刷を制限するには、このチェックボックスをオンにします。この領域のフィールドとボックスがアクティブになります。このパスワードは、このノードで設定した印刷および編集設定をユーザーが変更しようとするたびに必要になります。
- **[権限変更のパスワード]** - このフィールドでは、次のいずれかを実行できます。
    - 使用するパスワードを入力する。

  または

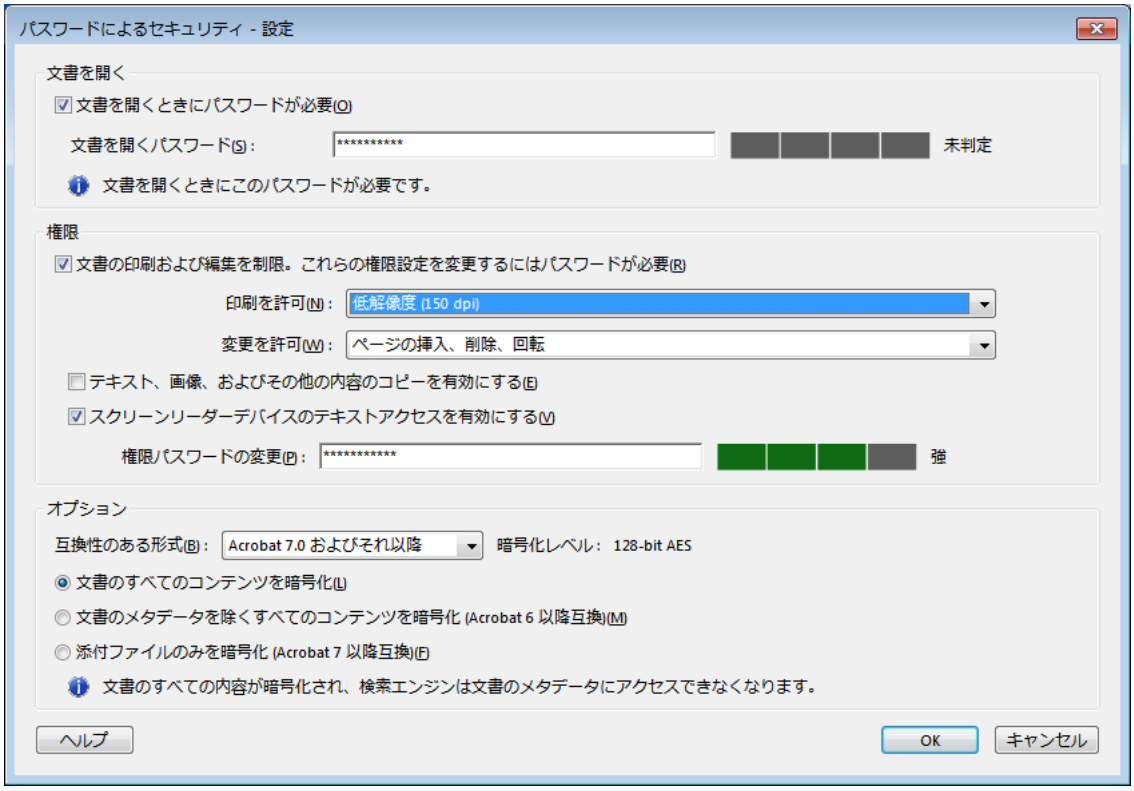
    - **[メタデータ]** アイコンを選択して **メタデータブラウザー** を開いて、ドキュメント内のメタデータに基づいてパスワードを作成する。
    - **[印刷可能]**
        - **[低解像度（150 dpi）]** - ユーザーは150 DPI以下の解像度で印刷できます。各ページがビットマップイメージとして印刷されるため、印刷が遅くなる可能性があります。
        - **[高解像度]** - ユーザーは任意の解像度で印刷できます。
    - **[変更の許可]**
        - **[ページの作成、挿入、削除、および回転]** - ユーザーがページを挿入、削除、回転したり、ブックマークやサムネイルを作成したりできるようにします。
        - **[フォームフィールドへの書き込みおよび既存の署名フィールドへの署名]** - ユーザーがフォームに入力してデジタル署名を追加できるようにします。このオプションでは、コメントを追加したり、フォームフィールドを作成したりすることはできません。
        - **[コメントの追加、フォームフィールドへの入力、既存の署名フィールドへの署名]** - ユーザーがコメントとデジタル署名を追加し、フォームに入力できるようにします。このオプションでは、ユーザーがページオブジェクトを移動したり、フォームフィールドを作成したりすることはできません。
        - **[ページの抽出以外すべて]** - ユーザーがドキュメントを編集したり、フォームフィールドを作成して入力したり、コメントやデジタル署名を追加したりできるようにします。
    - **[テキスト、画像、その他のコンテンツのコピーを有効にする]** - ユーザーはPDFの内容を選択してコピーできます。
    - **[スクリーンリーダーアプリケーションを使用してテキストにアクセス可能]** - ユーザーはスクリーンリーダーでドキュメントを読むことができますが、コンテンツをコピーまたは抽出することはできません。

  たとえば、印刷を許可せず、権限パスワードが「abcdefg」であると指定した場合、ユーザーはそのドキュメントをAdobe Acrobatで印刷するために次の手順を実行する必要があります。

    1. Adobe AcrobatでPDFを開きます。
    2. **[ファイル]** メニューから **[プロパティ]** を選択します。
    3. [**セキュリティ**]タブをクリックします。
    4. **[設定の変更]** ボタンをクリックします。次のように、パスワードプロンプトメッセージボックスが表示されます。



5. **[パスワードを入力]** フィールドに「abcdefg」と入力し、**[OK]** ボタンをクリックします。次の画面が表示されます。



6. **[印刷を許可]** ドロップダウンリストから、**[低解像度]** または **[高解像度]** を選択し、完了したら **[OK]** ボタンを選択します。

注: これらの設定はAdobe Readerでは編集できません。

PSに変換

PSに変換（PostScript）ノードを使用すると、イメージをPostScript形式に変換できます。サポートされているファイル形式には、TIF/TIFF、PNG、JPG/JPEG、GIF、Text、およびBMPがあります。これらのイメージをPostScriptに変換したら、PostScriptファイルを出力フォルダーに保存するか、またはこれらをプリンターの配信ポイントに送信して印刷できます。[PSに変換ノード]ウィンドウを開くには、PSに変換の処理ノードを追加して、ノードをダブルクリックします。

- 処理が実行されるようにするには、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、PSに変換ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、PSに変換ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[変換するファイルタイプの選択]** 領域で、変換するイメージの形式をマークします。
    - TXTファイルを変換するときに出力するテキストをさらに制御する必要がある場合、[TXT]ボックスをチェックし、**[テキスト設定]** タブを選択します。
- **[プリンターの用紙]** 領域で、紙のサイズおよび向き（[自動]、[縦向き]、または[横向き]）を指定します。選択した用紙サイズに合わせてイメージのサイズが変更されます。
- PSに変換の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、*[キャンセル]* ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

テキスト設定

このタブを使用すると、出力されるテキストファイルのフォントファミリー、フォントサイズ、および行の高さをカスタマイズできます。

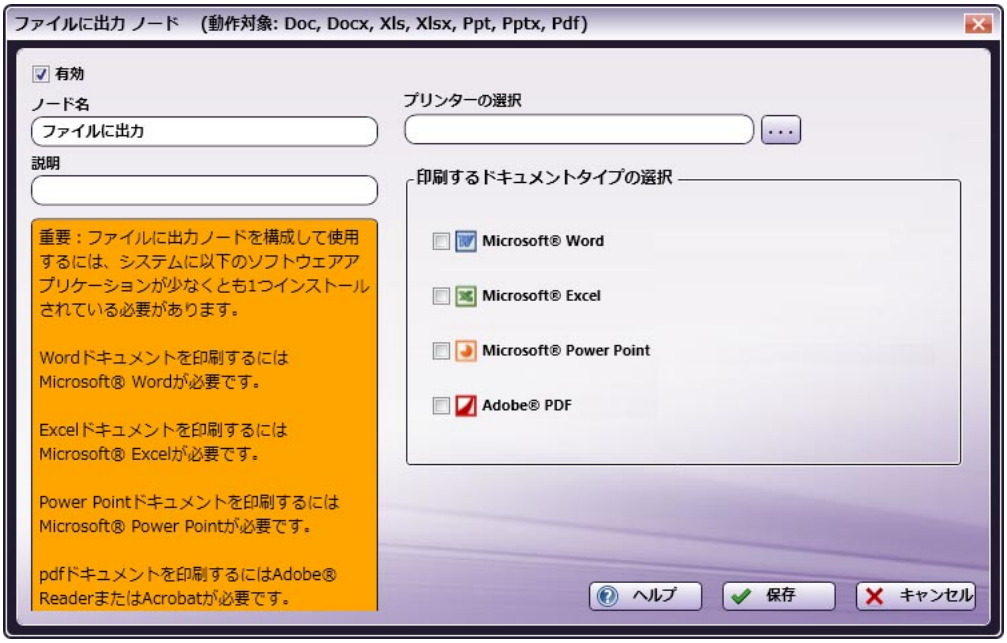
以下の操作を行います。

- **[フォント]** プルダウンリストから異なるフォントファミリーを選択します。
- **[サイズ]** プルダウンリストを使用してフォントサイズを指定します。

- **[行間]** フィールドに、テキストの新しい行の高さを入力します。

ファイルに出力

ファイルに出力 ノードは、*Windowsアプリケーション印刷* を有効にします。この機能により外部アプリケーション（PDFファイルの場合は *Adobe Acrobat* 、Microsoft Office ドキュメントの場合は *オフィスオートメーション* ）が読み込まれて、関連付けられたプリンタードライバーの既定設定を使用してPRNファイルが作成されます。***ファイルに出力ノード*** ウィンドウを開くには、***ファイルに出力*** の処理ノードを追加して、このノードをダブルクリックします。



1. この処理が実行されるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントはノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
2. **[ノード名]** フィールドに、ファイルに出力ノードのわかりやすい名前を入力します。
3. **[説明]** フィールドに、ファイルに出力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
4. **[プリンターの選択]** フィールドは編集できません。*省略記号* ボタン（…）を使用して適切なプリンターを見つけて選択します。省略記号ボタンを選択すると、[プリンターの選択]ウィンドウが表示され、Dispatcher Pro Portへ出力するように設定されたプリンターだけが表示され、選択できます。Windowsアプリケーション印刷によって、選択されている印刷ドライバーのネイティブPDL（PCL、EBCDIC、HP-GL、EPSONなど）で印刷ファイルが生成されます。
5. **[印刷するドキュメントタイプの選択]** 領域で、変換するドキュメントタイプのボックスをオンにします。サポートされているファイルの種類には、Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) 2003/2007/2010、Adobe Acrobat 2020/2023、Adobe Reader 2020/2023、およびFoxit 12が含まれます。これらのプログラムのいずれかがインストールされているがまだ実行されていない場合、Dispatcher Phoenixはアプリケーションを「インストールされていない」と報告する場合があります。

注: Adobe Reader 2023の更新により、Adobe Readerを「ファイルへ出力」ノードで使用するには、Adobe Reader設定 (環境設定 > セキュリティ (拡張)) で「起動時に保護モードを有効にする」オプションのチェックを外す必要があります。詳細については、**こちら** をクリックしてください。

6. ファイルに出力の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

注: Dispatcher Proプリンターデバイスが削除されているか、名前が変更されている場合、ファイルへ出力は機能しません。さらに、ファイルが選択したタイプと違う場合、サポートされていない場合、またはエラーのために変換されない場合には、エラー条件に従ってワークフロー内でノードからの経路が指定されます。

PDFファイルを変換するときの出力を安定させるには、*Adobe Acrobat* を一度に1つだけ実行します。この結果、他のノードは、*ファイルに出力* 処理が実行されている間、一時的に停止可能になります。

サポートされるオペレーティングシステム

サポートされているオペレーティングシステムの詳細については、**要件** を参照してください。

ファイル解析

解析の概要

解析は、あらかじめ定義されたルールに基づいてファイルに実行する処理です。解析のルールは、定義された条件に基づいて、[検索対象]、[配信]、[挿入]、または[置換]の操作を実行するワークフロー内の処理です。解析の処理を設定する前に、解析ルールノードを設定する必要があります。

ルールノードには、次の項目を定義できます。

- 検索する単語または語句
- 検索の開始および終了ポイント（検索の開始位置と検索の終了位置）
- ファイル内の指定した位置に挿入または置換するテキスト

注: 検索の開始および終了ポイントとして行番号を定義する場合、検索には終了行の行番号は含まれないことに注意してください。たとえば、解析と挿入処理を作成し、行番号4～行番号7の特定のテキスト文字列を検索する場合、検索結果に行番号7は含まれません。

1つのテキストファイルに適用するルールセットは複数個作成できます。そして各ルールに異なる単語または語句を指定し、*ルール* が成立した場合に検索や挿入/置換を実行できます。PostScriptやPCLなどのプリンター記述言語の知識がある場合は、入力ファイルを変更するルールを作成することもできます。さらに、そのファイルに対して特定の操作を実行するようコニカミノルタ複合機に命令できます。

次の4つのグラフィカルノードは、異なるタイプの解析ルールを表します。

- 解析 - 検索ルールの作成だけに使用し、他の処理が後に続きます。
- 解析と挿入 - [検索]の対象が見つかった後に、テキスト文字列を挿入するために使用します。
- 解析と置換 - [検索]ルールで見つかったテキストを置換するために使用します。
- 解析と配信-ファイル内のキーワードやテキスト文字列を検索するために使用できます。ファイル名、タイプ、またはサイズだけでなく、ファイルの内容（メタデータ）も検索できます。

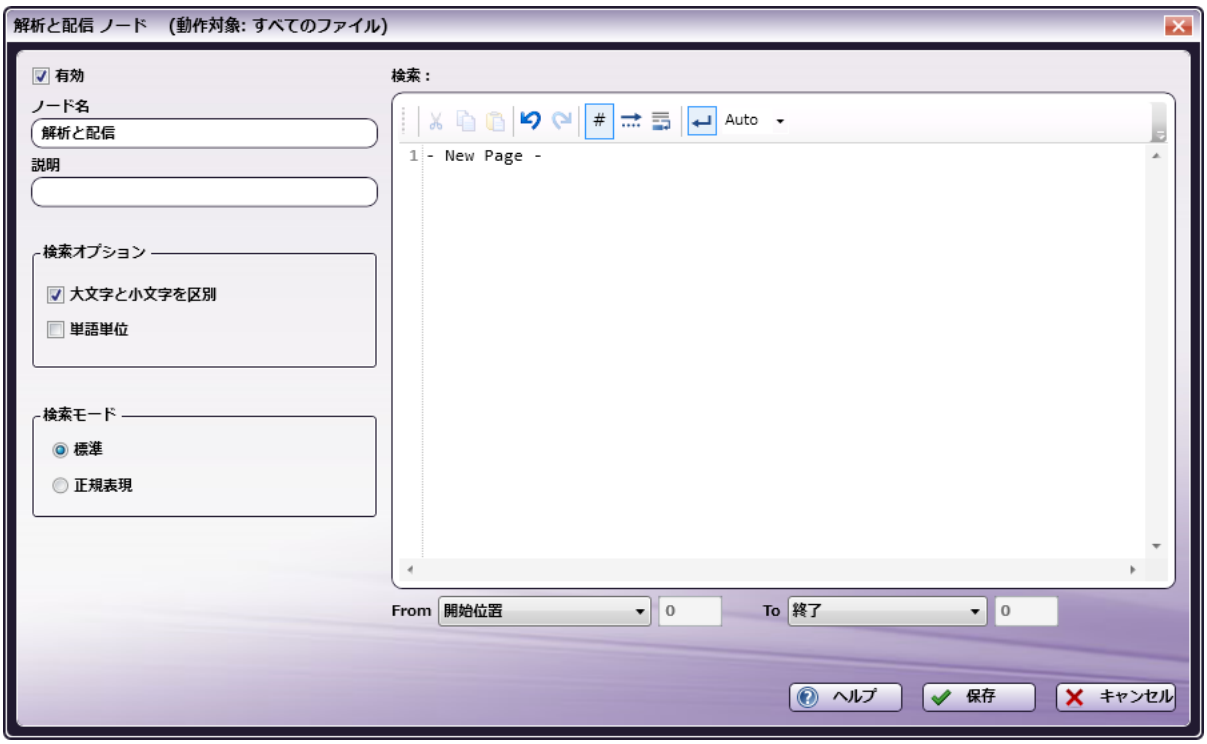
前回のすべての出現箇所の例

解析と挿入、解析と置換、および解析と配信ノードには、[前回のすべての出現]検索オプションが提供されています。この機能は、前回の検索結果に対して2番目の検索を実行できるため非常に便利で、複雑な操作を大幅に短いルールで実行できるようになります。

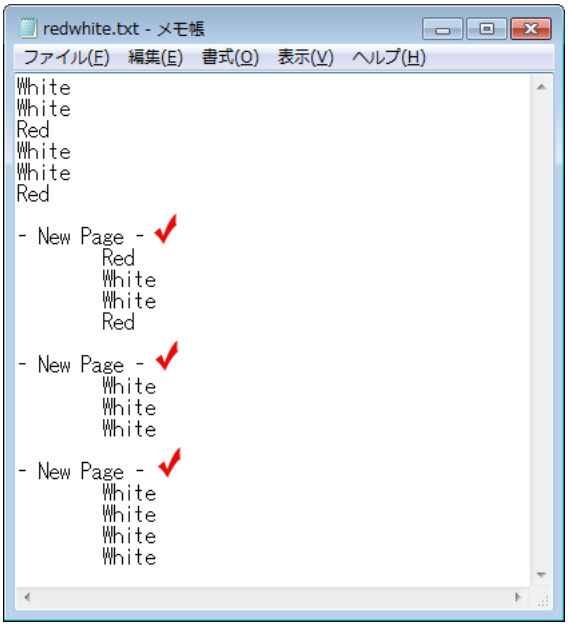
この例では、テキストファイル内の特定の箇所に出現する単語「white」を「blue」に変更する必要があります。これは一見、簡単に思えるかもしれません。多くの場合は、解析と置換を使用して、この操作を実行できます（[検索]領域に「white」を指定し、[置換]領域に「blue」を指定します）。ただし、このケースでは、「white」の変更が必要なのは、語句「- New Page -」のサブセットとして最初に出現する箇所だけです。

ワークフロー内では、**解析と配信** ノードで「- New Page -」を検索し、次に **解析と置換** ノードの **前回のすべての検索結果** で、「White」が最初に出現する箇所までを検索し、すべての出現箇所で「White」を「Blue」に置換します。

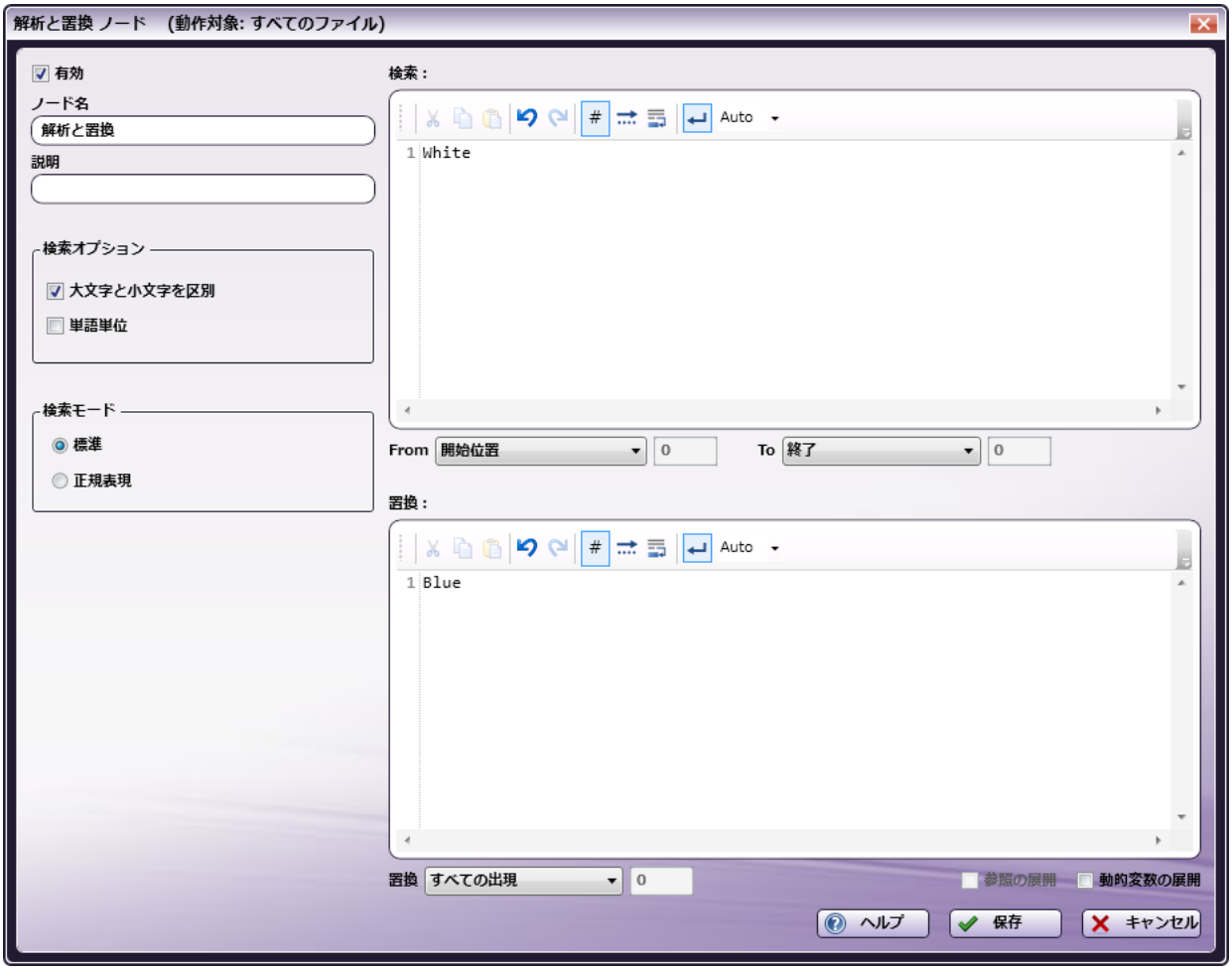
ステップ #1: 解析と配信ノードを使用して、次のように「- New Page -」の検索を定義します。



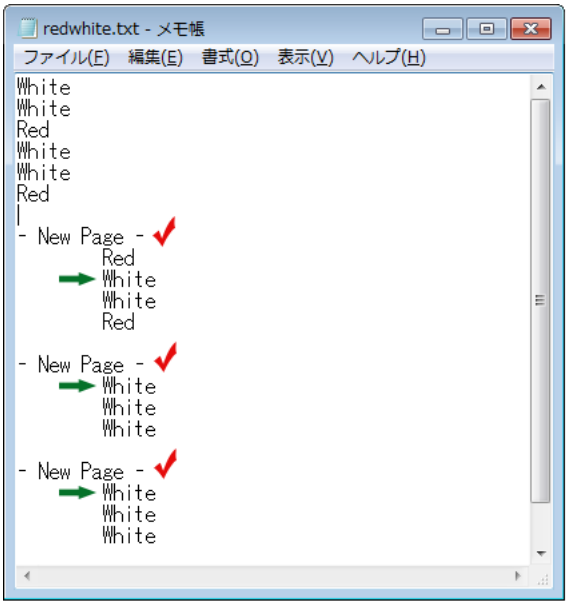
この検索は、ファイル内のすべての「- New Page -」を探します。次の図では、赤いチェックマークがこの検索の結果を示しています。

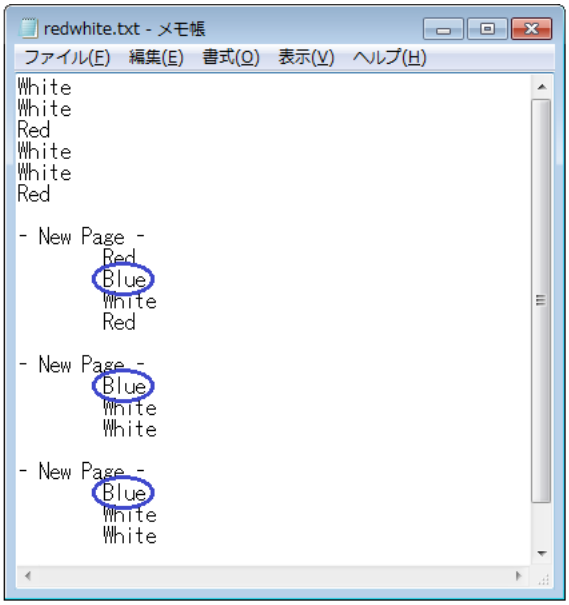


ステップ #2: 解析と置換ノードを使用して、次のように検索と置換を定義します。



検索処理は、前回の解析と配信の検索で見つかった各グループの内容をすべて検索します。各グループ内で「White」が最初に出現する箇所が見つかったら、それを「Blue」に置換します。左側の図では、緑色の矢印が検索結果を示しています([前回のすべての出現]で開始し、[最初の出現]で終了しています)。右側の図では、[前回のすべての出現]の置換操作の結果を青色の丸で囲んでいます。

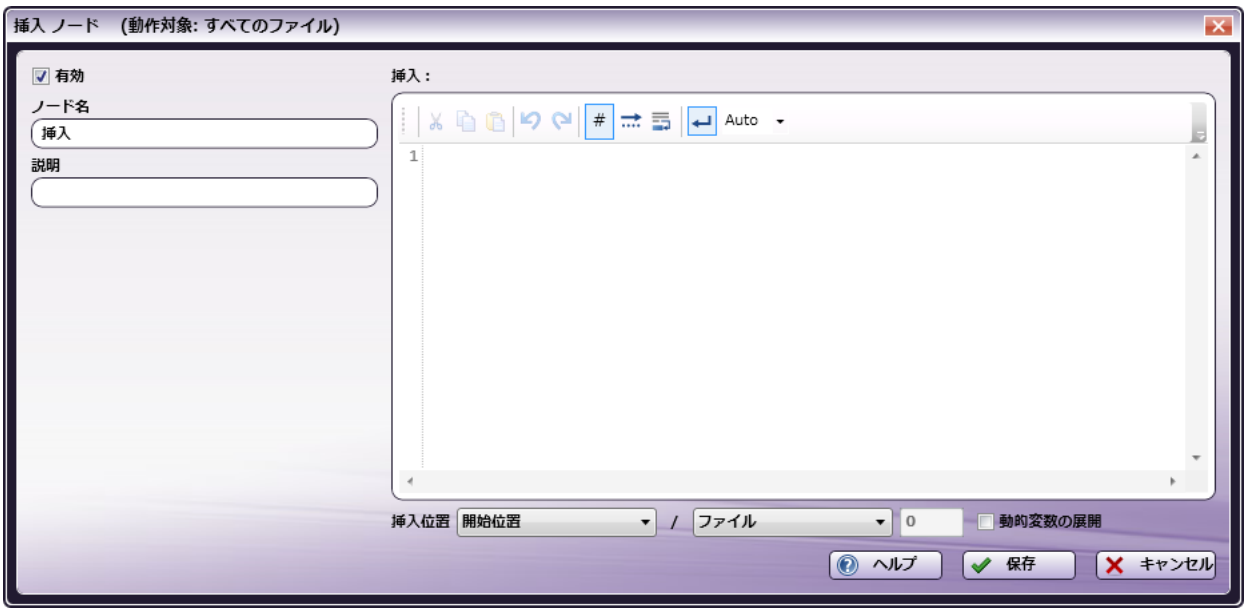




挿入

ファイルの先頭、または末尾、もしくはファイル内の指定された行番号の位置にテキスト文字列を挿入するには、**挿入** 機能を使用します。このプロセスは、PS、PCL、またはPRNファイルタイプに変換されたファイルであればどれでも使用できます。また、このプロセスはテキストファイルでも使えます。

[挿入ノード]ウィンドウを開くには、挿入処理ノードを追加し、ノードをダブルクリックします。

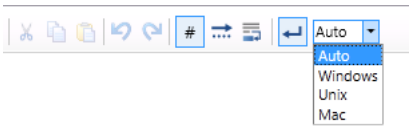


- 処理が実行されるようにするには、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントはノードが存在していないかのように通過します（既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、挿入ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、挿入ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別する場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[挿入]** ボックスに、挿入されるテキスト文字列を入力します。
- **[挿入位置]** フィールドで以下を指定します。

- **開始位置:** ファイルの先頭または指定された行番号の位置にテキスト文字列を挿入できるようにするオプションです。2つ目のドロップダウンリストから **[ファイル]** または **[行番号]** を選択します。[行番号]を選択した場合は、表示されている空のフィールドに行番号を入力します。
- **終了:** ファイルの末尾または指定された行番号の位置にテキスト文字列を挿入できるようにするオプションです。2つ目のドロップダウンリストから **[ファイル]** または **[行番号]** を選択します。[行番号]を選択した場合は、表示されている空のフィールドに行番号を入力します。

- ドキュメントに動的変数の値すべてを挿入するには、**[動的変数の展開]** ボックスをチェックします。たとえば、入力ファイルのファイル名と拡張子を挿入するには、[挿入]領域に{file:fullname}と入力します。[動的変数の展開]ボックスがチェックされていない場合、変数は展開されません（つまり、結果はpostscript1.psではなく{file:fullname}になります）。
- 挿入の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

ツールバーを使用して、次の操作ができます。



[切り取り] - テキストをクリップボードに移動します。

[コピー] - テキストをクリップボードにコピーします。

[ペースト] - クリップボードからテキストをペーストします。

[元に戻す] - 実行された最後のアクションを元に戻します。

[やり直し] - これまでの「元に戻す」アクションを繰り返します。

[行番号の表示] - 行番号を表示/非表示にします。

[スペースとタブの表示] - 空白とタブを表示/非表示します。

[折り返す] - 表示可能領域にテキストを保持します。

[行末の表示] - 行の終わりを示すマーカーを表示/非表示します。

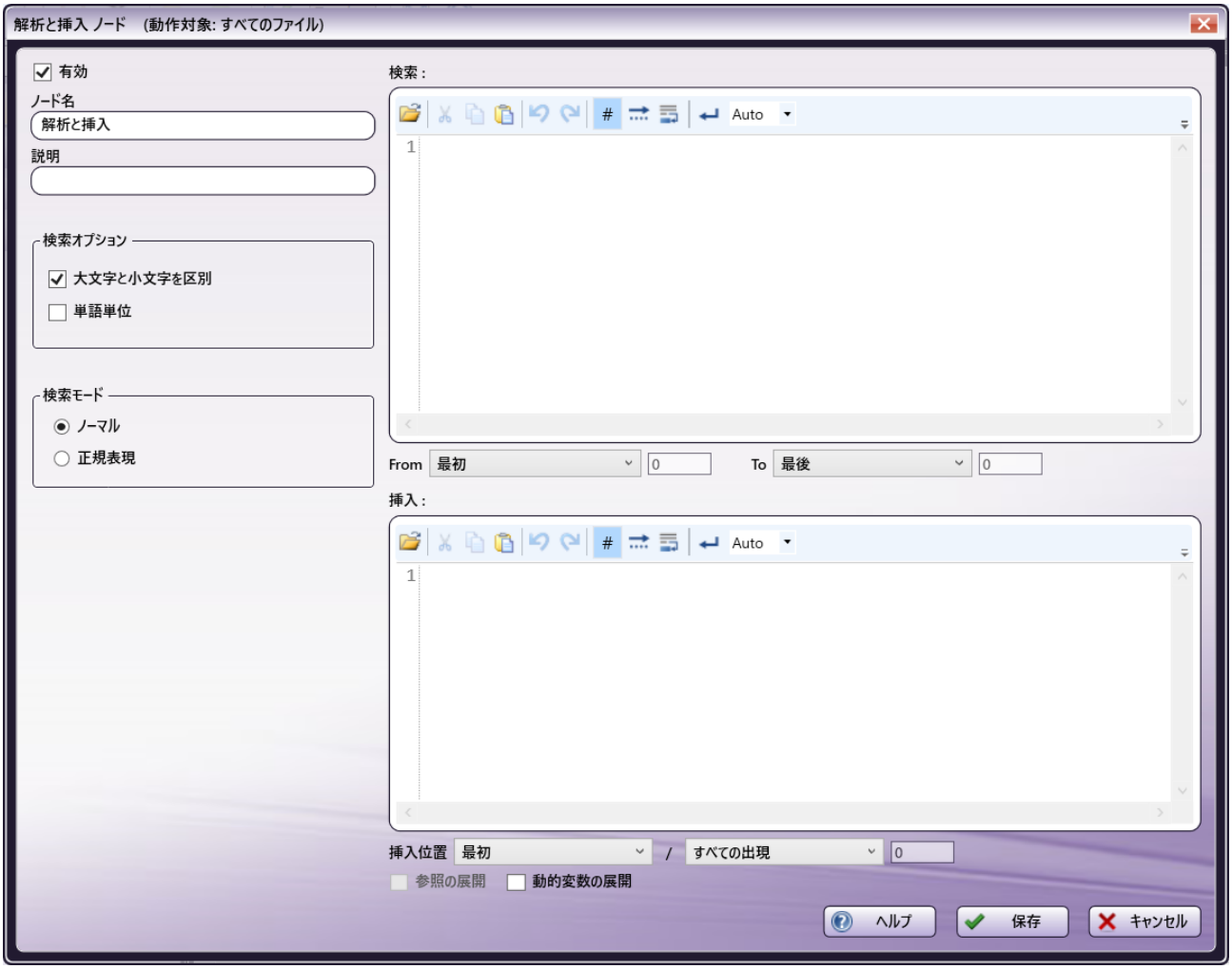
[改行コード] - テキスト入力時の行末を指定するために使用するマーカーの種類をWindows、Unix、またはMacから選択します。

解析と挿入

解析と挿入 の機能は、ファイル内で検索条件に一致した箇所の後ろにキーワードや語句を挿入するために使用します。ウィンドウの上部で **検索** 条件を指定してから、下のセクションを使用してテキスト文字列を **挿入** する位置やタイミングを定義する必要があります。

注: この処理は、PS、PCL、またはPRNファイルタイプに変換されたファイルであればどれとでも使用できます。また、この処理はテキストファイルでも使えます。

解析と挿入ノード ウィンドウを開くには、***解析と挿入***ノードを追加し、ノードをダブルクリックします。



- この処理が実行されるように、**[有効]** ボックスをオンにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、解析と挿入ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、解析と挿入ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[検索オプション]** 領域で、以下の操作を行います。
  - 指定した大文字と小文字の区別と一致するファイル名を結果に含めるには、**[大文字と小文字を区別]** ボックスをオンにします。
  - 指定した単語全部が一致する場合にだけ結果に含めるには、**[単語単位]** をオンにします。
- **[検索モード]** 領域で、次のいずれかを指定します。
  - **[ノーマル]** は、入力したテキストと完全に一致するファイル名を検索します。
  - **[正規表現]** は、正規表現を使用して、単純な単語や語句ではなく、パターンを検索します。
- **[検索対象]** 領域で、検索条件として使用するテキスト文字列または式を入力します。次に検索する位置を指定します。オプションは次のとおりです。

開始位置	終了位置
開始位置	[終了] - 解析しているファイルの先頭からファイルの最後まで検索します。
	[行番号] - ファイルの先頭から指定された行番号まで検索します。表示される空白のフィールドに行番号を入力します。
	[最初の出現] - ファイルの先頭から、最初の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[最後の出現] - ファイルの先頭から、最後の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[出現番号] - ファイルの先頭から、結果内の特定の出現箇所まで検索します。このフィールドには負の数を指定できます。この場合、最後の出現から特定の数だけ戻った出現箇所まで検索します。たとえば、「-5」をこのフィールドに指定すると、最後から5番目の出現箇所までを検索します。常に1つの一致しか返しません。
行番号	[終了] - 解析しているファイルの指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から最後まで検索します。
	[行番号] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）まで検索します。
	[最初の出現] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から最初の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[最後の出現] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から最後の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[出現番号] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から結果内の指定された出現箇所まで検索します。このフィールドには負の数を指定できます。この場合、最後の出現箇所から特定の数だけ戻った出現箇所まで検索します。たとえば、「-5」をこのフィールドに指定すると、最後から5番目の出現箇所までを検索します。常に1つの一致しか返しません。
前回のすべての出現*	[最初の出現] - 前回の結果の一致するすべてのコンテンツブロックの中で、最初の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[最後の出現] - 前回の結果の一致するすべてのコンテンツブロックの中で、最後の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[出現番号] - 前回の結果の一致するすべてのコンテンツブロックの中で、結果内の特定の出現箇所まで検索します。このフィールドには負の数を指定できます。この場合、最後の出現から特定の数だけ戻った出現箇所を検索します。たとえば、「-5」をこのフィールドに指定すると、最後から5番目の出現箇所を検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[すべての出現] - 前回の結果の一致するすべてのコンテンツブロックの中で、すべての一致が出現するまで検索します。
*[前回のすべての出現]オプションは、前回のルールが[検索対象]の操作で、一致結果が開始ポイントに指定されている場合にだけ機能します。	

- **[挿入]** 領域に、挿入するテキスト文字列または式を入力します。次にテキスト文字列を挿入する位置を指定します。オプションは次のとおりです。

挿入	位置
開始位置	[ファイル] - ファイルの先頭に挿入します。
	[行番号] - ファイル内の指定された行番号の先頭に挿入します。
	[すべての出現] - 一致が出現する箇所すべての先頭に挿入します。
	[最初の出現] - 一致が最初に出現する箇所の先頭に挿入します。
	[最後の出現] - 一致が最後に出現する箇所の先頭に挿入します。
	[出現番号] - 結果内の特定の出現箇所の先頭に挿入します。このフィールドには、負の数を指定して、その出現箇所の先頭に挿入できます。この出現箇所は、最後の出現から特定の数だけ戻った位置になります。たとえば、「-5」をこのフィールドに指定すると、最後から5番目の出現箇所の先頭に挿入します。
終了位置	[ファイル] - ファイルの末尾に挿入します。
	[行番号] - ファイル内の指定された行番号の末尾に挿入します。
	[すべての出現] - 一致が出現する箇所すべての末尾に挿入します。
	[最初の出現] - 一致が最初に出現する箇所の末尾に挿入します。
	[最後の出現] - 一致が最後に出現する箇所の末尾に挿入します。
	[出現番号] - 結果内の特定の出現箇所の末尾に挿入します。このフィールドには負の数を指定できます。この場合、最後の出現から特定の数だけ戻った出現箇所を指定します。たとえば、「-5」をこのフィールドに指定すると、最後から5番目の出現箇所の末尾に挿入します。
次の行	[行番号] - 指定した行番号の次の行に挿入します。
	[すべての出現] - 一致の出現する箇所すべての次の行に挿入します。
	[最初の出現] - 一致が最初に出現する箇所の次の行に挿入します。
	[最後の出現] - 一致が最後に出現する箇所の次の行に挿入します。
	[出現番号] - 結果内の特定の出現箇所の次の行に挿入します。このフィールドには負の数を指定できます。この場合、最後の出現から特定の数だけ戻った出現箇所に挿入します。たとえば、「-5」をこのフィールドに指定すると、最後から5番目の出現箇所の次の行に挿入します。

- 解析と挿入の定義を保存し、次のノードへの遷移を追加するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを閉じることもできます。

参照の展開

検索操作で正規表現を使用するときは、**[参照の展開]** チェックボックスを使用して、特定のサブグループに値を挿入できます。

正規表現のサブグループから値を挿入するには、次の構文を使用します。

(\ )

または

g< >（フレンドリー名またはサブグループの番号を参照する場合）

例

以下の例では、次のテキストファイルを処理対象として使用します。

%KDKBody:(Letter) on

%KDKPrintMethod: print

%KDKOutputMedia:stapler

%%Requirements:numcopies(2) staple(front) fold(none) duplex(on) collate jog(alternate)

%KDKRequirements: numcopies(2) staple(front) fold(none) duplex(longedge) collate jog(alternate) trim(off)

%KDKCovers:(Letter) none

%KDKRotation:0

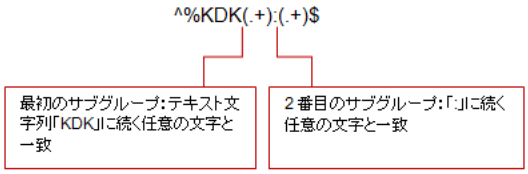
%KDKError: on (Letter)

%KDKPeSubset:1 6

%KDKPeOutput:stapler 6

例 #1: %KDKが出現する箇所すべての後で、コロン(:)の前に値を挿入するには、以下の操作を行います。

1. 解析と挿入ノードで、**[検索モード]** 領域の **[正規表現]** ラジオボタンをクリックします。
2. **[検索]** 領域に次の正規表現を入力します。



3. **[挿入]** 領域に次の文字列を入力します。

   (\1)

4. **[参照の展開]** ボックスがオンになっていることを確認します。
5. **[すべての出現]** オプションで **[挿入位置]に[終了]** を選択している場合には、結果が次のようになります(挿入されたテキストを赤色で示します)。

%KDKBody:(Letter) on **(Body)**

%KDKPrintMethod: print **(PrintMethod)**

%KDKOutputMedia:stapler **(OutputMedia)**

%KDKRequirements: numcopies(2) staple(front) fold(none) duplex(longedge) collate jog(alternate) trim(off) **(Requirements)**

%KDKCovers:(Letter) none **(Covers)**

%KDKRotation:0 **(Rotation)**

%KDKError: on (Letter) **(Error)**

%KDKPeSubset:1 6 **(PeSubset)**

%KDKPeOutput:stapler 6 **(PeOutput)**

例 #2: サブグループにフレンドリー名を使用することもできます。別の例を次に示します。

1. 解析と挿入ノードで、**[検索モード]** 領域の **[正規表現]** ラジオボタンをクリックします。
2. **[検索]** 領域に次の正規表現を入力します。

   ^%KDK(.+):(?<Value1>.+)$

   <Value1>は、2番目のサブグループのフレンドリー名です。フレンドリー名は、山カッコ < > で囲む必要があります。

3. **[挿入]** 領域に次の文字列を入力します。

   \g<Value1>

4. **[参照の展開]** ボックスがオンになっていることを確認します。
5. **[ファイル]** オプションの **[開始位置]** を選択している場合には、結果が次のようになります。

Body %KDKBody:(Letter) on

%KDKPrintMethod: print

%KDKOutputMedia:stapler

%KDKRequirements: numcopies(2) staple(front) fold(none) duplex(longedge) collate jog(alternate) trim(off)

%KDKCovers:(Letter) none

%KDKRotation:0

%KDKError: on (Letter)

%KDKPeSubset:1 6

%KDKPeOutput:stapler 6

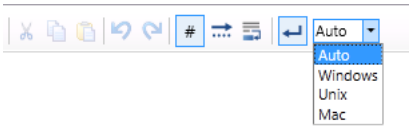
動的変数の展開

解析と挿入操作では、参照の展開だけでなく、展開された動的変数を挿入することもできます。動的変数を挿入するには、**[動的変数の展開]** ボックスをオンにします。また、バーコードやOCRゾーンなど、ワークフローでメタデータとして先に取り込んだあらゆるデータを指定できます。

例: 特定の文字列が出現するすべての箇所の末尾にファイル名と拡張子を挿入するには、**[挿入]** 領域に{file:fullname}を追加します。

ツールバーの使用

ツールバーでは、以下の操作を行うことができます。



[切り取り] - テキストをクリップボードに移動します。

[コピー] - テキストをクリップボードにコピーします。

[ペースト] - クリップボードからテキストをペーストします。

[元に戻す] - 実行された最後のアクションを元に戻します。

[やり直し] - これまでの「元に戻す」アクションを繰り返します。

[行番号の表示] - 行番号を表示/非表示にします。

[スペースとタブの表示] - 空白とタブを表示/非表示します。

[折り返す] - 表示可能領域にテキストを保持します。

[行末の表示] - 行の終わりを示すマーカーを表示/非表示します。

[改行コード] - テキスト入力時の行末を指定するために使用するマーカーの種類をWindows、Unix、またはMacから選択します。

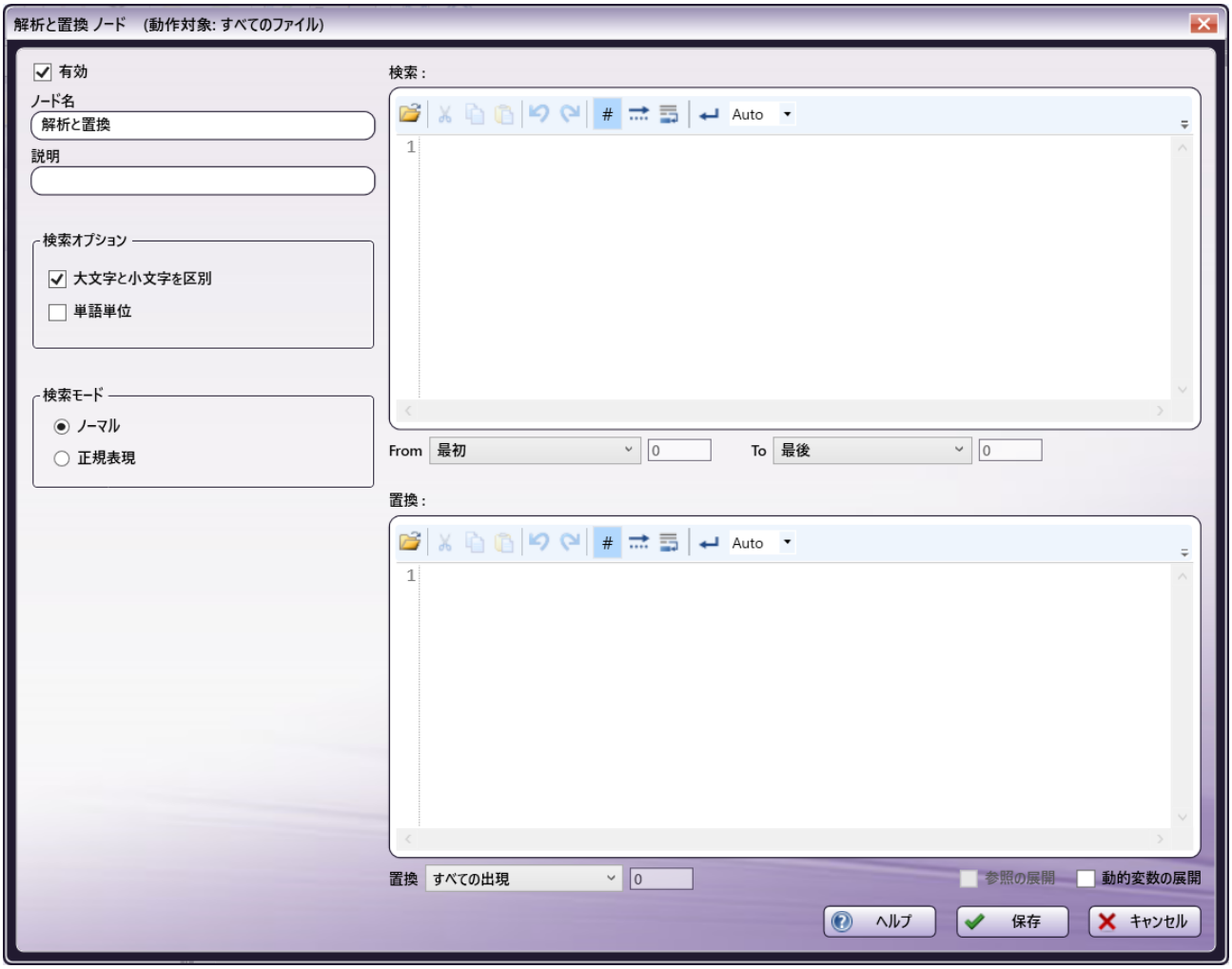
注: 挿入操作が完了すると、「検索対象」のすべての結果がクリアされます。

解析と置換

解析と置換 の機能は、ファイル内の検索条件に一致した箇所をキーワードや語句で置換するために使用します。ウィンドウの上部で検索条件を指定してから下のセクションを使用してテキスト文字列を置換する位置やタイミングを定義する必要があります。

注 この処理は、PS、PCL、またはPRNファイルタイプに変換されたファイルであればどれとでも使用できます。また、この処理はテキストファイルでも使えます。

解析と置換ノード ウィンドウを開くには、***解析と置換*** 処理ノードを追加し、ノードをダブルクリックします。



- この処理が実行されるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合この処理は無視されます。ドキュメントはノードが存在していないかのように通過します（既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、解析と置換ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、解析と置換ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[検索オプション]** 領域で、以下の操作を行います。
  - 指定した大文字と小文字の区別と一致するファイル名を含めるには、**[大文字と小文字を区別]** ボックスをオンにします。
  - 指定した単語全部が一致する場合にだけ結果に含めるには、**[単語単位]** をオンにします。
- **[検索モード]** 領域で、次のいずれかを指定します。
  - **[ノーマル]** は、入力したテキストと完全に一致するファイル名を検索します。
  - **[正規表現]** は、正規表現を使用して、単純な単語や語句ではなく、パターンを検索します。
- **[検索対象]** 領域で、検索条件として使用するテキスト文字列または式を入力します。次に **[開始位置]** および **[終了位置]** フィールドで、検索の開始および終了ポイントを指定します。オプションは次のとおりです。

開始位置	終了位置
開始位置	[終了] - 解析しているファイルの先頭からファイルの最後まで検索します。
	[行番号] - ファイルの先頭から指定された行番号まで検索します。表示される空白のフィールドに行番号を入力します。
	[最初の出現] - ファイルの先頭から、最初の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[最後の出現] - ファイルの先頭から、最後の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[出現番号] - ファイルの先頭から、結果内の特定の出現箇所まで検索します。このフィールドには負の数を指定することができます。この場合、最後の出現箇所から特定の数だけ戻った出現箇所まで検索します。たとえば、このフィールドに「-5」を指定すると、最後から5番目の出現箇所までを検索します。常に1つの一致しか返しません。
行番号	[終了] - 解析しているファイルの指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から最後まで検索します。
	[行番号] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）まで検索します。
	[最初の出現] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から最初の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[最後の出現] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から最後の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[出現番号] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から結果内の指定された出現箇所まで検索します。このフィールドには負の数を指定することができます。この場合、最後の出現箇所から特定の数だけ戻った出現箇所まで検索します。たとえば、このフィールドに「-5」を指定すると、最後から5番目の出現箇所までを検索します。常に1つの一致しか返しません。
前回のすべての出現*	[最初の出現] - 前回の結果の一致するすべてのブロックの中で、最初の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[最後の出現] - 前回の結果の一致するすべてのブロックの中で、最後の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[出現番号] - 前回の結果の一致するすべてのブロック中で、特定の一致の出現箇所まで検索します。このフィールドには負の数を指定することができます。この場合、最後の出現から特定の数だけ戻った出現箇所を検索します。たとえば、このフィールドに「-5」を指定すると、最後から5番目の出現箇所を検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[すべての出現] - 前回の結果の一致するすべてのブロックの中で、すべての一致が出現するまで検索します。
[前回のすべての出現] オプションは、前回のルールが[検索対象]の操作であり、一致結果が開始ポイントに指定されている場合にだけ機能します。	

- **[置換]** 領域で、テキスト文字列を入力します。このテキスト文字列は、ファイル内の指定した位置でキーワードや語句と置換されます。[置換]には、以下のようなオプションがあります。
- **[すべての出現]:** 一致が出現するすべての箇所の単語や語句を置換します。
- **[最初の出現]:** 検索結果で、一致が最初に出現する箇所のキーワードや語句を新しい単語や語句に置換します。
- **[最後の出現]:** 検索結果で、一致が最後に出現する箇所のキーワードや語句を新しいキーワードや語句に置換します。
- **[出現番号]:** 検索結果で、一致が出現する指定された箇所のキーワードや語句を新しい単語や語句に置換します。このフィールドには負の数を指定することができます。この場合、最後の出現箇所から特定の数だけ戻った出現箇所で置換します。たとえば、このフィールドに「-5」を指定すると、最後から5番目の出現箇所を置換します。
- 解析と置換の定義を保存し、次のステップへの遷移をワークフローに追加するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

参照の拡張

検索操作で正規表現を使用するときは、**[参照の展開]** チェックボックスを使用して検索結果を特定の参照グループの値で置換できます。

正規表現の参照値の値でテキストを置換するには、次の構文を使用します。

(\ )

または

g< >（フレンドリー名またはサブグループの番号を参照するとき）

例

以下の例では、次のテキストファイルを処理対象として使用します。

%KDKBody:(Letter) on

%KDKPrintMethod: print

%KDKOutputMedia:stapler

%%Requirements:numcopies(2) staple(front) fold(none) duplex(on) collate jog(alternate)

%KDKRequirements: numcopies(2) staple(front) fold(none) duplex(longedge) collate jog(alternate) trim(off)

%KDKCovers:(Letter) none

%KDKRotation:0

%KDKError: on (Letter)

%KDKPeSubset:1 6

%KDKPeOutput:stapler 6

「KDK」の文字列を「KM」で置換し、他の各コマンド行の値をすべて維持するには、以下の操作を行います。

1. 解析と置換ノードで、**[検索モード]** 領域の **[正規表現]** ラジオボタンをクリックします。
2. **[検索]** 領域に次の正規表現を入力します。

   ^%KDK(.+):(?<Value1>.+)$
3. **[置換]** 領域に次の文字列を入力します。

   KM%\1:\g<Value1>
4. **[正規表現]** ボックスがチェックされていることを確認します。
5. **[すべての出現を置換]** を選択している場合には、結果が次のようになります。

KM%KDKBody:(Letter) on

KM%PrintMethod: print

KM%OutputMedia:stapler

KM%Requirements: numcopies(2) staple(front) fold(none) duplex(longedge) collate jog(alternate) trim(off)

KM%Covers:(Letter) none

KM%Rotation:0

KM%Error: on (Letter)

KM%PeSubset:1 6

KM%PeOutput:stapler 6

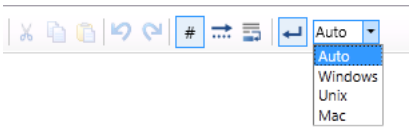
動的変数の展開

拡張された参照だけでなく、解析と置換の操作では、拡張された動的変数でテキストを置換することもできます。動的変数を使用するには、**[動的変数の展開]** ボックスをチェックします。システム定義変数のリストについては参照情報のシステム定義変数を参照してください。また、バーコードやOCRゾーンなど、ワークフローでメタデータとして先に取り込んだあらゆるデータを指定できます。

例: テキストをファイル名と拡張子で置換するには、[置換]領域に{file:fullname}を追加します。

ツールバーの使用

ツールバーでは、以下の操作を行うことができます。



[切り取り] - テキストをクリップボードに移動します。

[コピー] - テキストをクリップボードにコピーします。

[ペースト] - クリップボードからテキストをペーストします。

[元に戻す] - 実行された最後のアクションを元に戻します。

[やり直し] - これまでの「元に戻す」アクションを繰り返します。

[行番号の表示] - 行番号を表示/非表示にします。

[スペースとタブの表示] - 空白とタブを表示/非表示します。

[折り返す] - 表示可能領域にテキストを保持します。

[行末の表示] - 行の終わりを示すマーカーを表示/非表示します。

[改行コード] - テキスト入力時の行末を指定するために使用するマーカーの種類をWindows、Unix、またはMacから選択します。

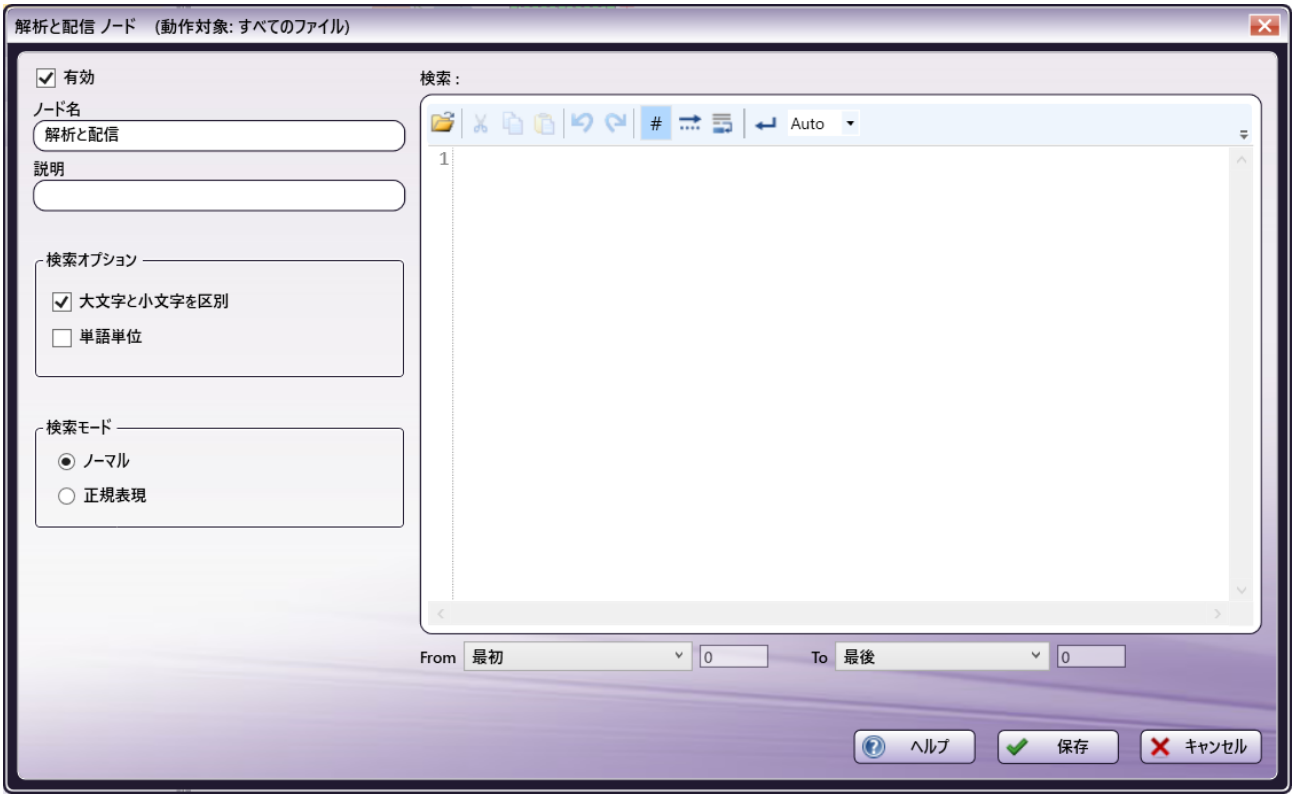
注: 挿入操作が完了すると、「検索対象」のすべての結果がクリアされます。

解析と配信

解析と配信 の機能は、ファイル内のキーワードやテキスト文字列を検索するために使用できます。ファイル内でテキスト文字列が見つかると、そのドキュメントは指定された配信先へと経路指定されます（ワークフローの *[はい]* 条件によって定義します）。この処理は、検索結果を基に配信できるという点では他の解析処理と同様ですが、解析ルールは、ファイルの名前、タイプ、およびサイズの検索に限られている点が異なります。解析と配信ルールは、ファイル内の指定したポイントから、指定した別のポイントまでを検索します。

注: この処理は、PS、PCL、またはPRNファイルタイプに変換されたファイルであればどれとでも使用できます。また、この処理はテキストファイルでも使えます。

解析と配信ノード ウィンドウを開くには、***解析と配信*** 処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。



- この処理が実行されるように、**[有効]** ボックスをオンにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード]** フィールドに、解析と配信ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、解析と配信ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[検索オプション]** 領域で、以下の操作を行います。
  - 指定した大文字と小文字の区別と一致するファイル名を結果に含めるには、**[大文字と小文字を区別]** ボックスをオンにします。
  - 指定した単語全部が一致する場合にだけ結果に含めるには、**[単語単位]** をオンにします。
- **[検索モード]** 領域で、次のいずれかを指定します。
  - **[ノーマル]** は、入力したテキストと完全に一致するファイル名を検索します。
  - **[正規表現]** は、正規表現を使用して、単純な単語や語句ではなく、パターンを検索します。
- **[検索対象]** ボックスで、検索条件として使用するテキスト文字列または式を入力します。
- **[開始位置]/[終了位置]** フィールドで、検索の開始および終了ポイントを指定します。オプションは次のとおりです。

開始位置	終了位置
開始位置	[終了] - 解析しているファイルの先頭からファイルの最後まで検索します。
	[行番号] - ファイルの先頭から指定された行番号まで検索します。表示される空白のフィールドに行番号を入力します。
	[最初の出現] - ファイルの先頭から、最初の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[最後の出現] - ファイルの先頭から、最後の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[出現番号] - ファイルの先頭から、結果内の特定の出現箇所まで検索します。このフィールドには負の数を指定できます。この場合、最後の出現から特定の数だけ戻った出現箇所まで検索します。たとえば、「-5」をこのフィールドに指定すると、最後から5番目の出現箇所までを検索します。常に1つの一致しか返しません。
行番号	[終了] - 解析しているファイルの指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から最後まで検索します。
	[行番号] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）まで検索します。
	[最初の出現] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から最初の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[最後の出現] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から最後の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[出現番号] - 指定された行番号（表示された空のフィールドに入力）から結果内の指定された出現箇所まで検索します。このフィールドには負の数を指定できます。この場合、最後の出現箇所から特定の数だけ戻った出現箇所まで検索します。たとえば、「-5」をこのフィールドに指定すると、最後から5番目の出現箇所までを検索します。常に1つの一致しか返しません。
前回のすべての出現*	[最初の出現] - 前回の結果の一致するすべてのコンテンツブロックの中で、最初の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[最後の出現] - 前回の結果の一致するすべてのコンテンツブロックの中で、最後の一致の出現箇所まで検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[出現番号] - 前回の結果の一致するすべてのコンテンツブロックの中で、結果内の特定の出現箇所まで検索します。このフィールドには負の数を指定できます。この場合、最後の出現から特定の数だけ戻った出現箇所を検索します。たとえば、「-5」をこのフィールドに指定すると、最後から5番目の出現箇所を検索します。常に1つの一致しか返しません。
	[すべての出現] - 前回の結果の一致するすべてのコンテンツブロックの中で、すべての一致が出現するまで検索します。
*[前回のすべての出現]オプションは、前回のルールが[検索対象]の操作で、一致結果が開始ポイントに指定されている場合にだけ機能します。	

- 解析と配信の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

参照をメタデータとして追加

検索操作内で、正規表現をサブグループに使用するときには、そのサブグループからメタデータを作成して、ワークフロー内の他の解析ノードで使用できます。

この方法は、検索操作でファイル内のデータを取り込み、そのデータをワークフローの後半で使用する場合に役立ちます。

[正規表現のメタデータ参照] ドロップダウンリストは、**[検索モード]** で **[正規表現]** ラジオボタンを選択した場合にだけ使用できるようになります。このドロップダウンリストによってメタデータの作成方法を指定できます。

- メタデータを参照できるようにしない場合は **[なし]** を選択します。
- **[名前付きの参照を追加]** オプションは、フレンドリー名が付けられたサブグループだけからメタデータを作成する場合に選択します。
- **[番号付きの参照を追加]** オプションは、番号が付けられたサブグループだけからメタデータを作成する場合に選択します。
- **[名前付きの参照および番号付きの参照を追加]** オプションは、名前が付けられたサブグループと番号が付けられたサブグループの両方からメタデータを作成する場合に選択します。このオプションでは、データの重複が生じる可能性があることに注意してください。名前付きの参照には、番号によってもアクセスできます。

例

以下の例では、次のテキストファイルを処理対象として使用します。

%!PS-Adobe-3.0

%%Driver Build:07.01.00.0010

%%Title:(account_statement.pdf)

%%StartKPDComments

%EK-JSE-3-0-Build:07.00.00.0000

%KDKBody:(Letter) on

%KDKPrintMethod: print

%KDKOutputMedia:stapler

%%Requirements:numcopies(2) staple(front) fold(none) duplex(on) collate jog(alternate)

%KDKRequirements: numcopies(2) staple(front) fold(none) duplex(longedge) collate jog(alternate) trim(off)

%KDKCovers:(Letter) none

%KDKRotation:0

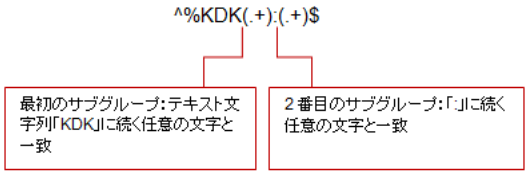
%KDKError: on (Letter)

%KDKPeSubset:1 6

%KDKPeOutput:stapler 6

例1: ファイル内で%KDKの出現の後に検出されるすべての値を使用するには、以下の操作を行います。

1. 解析と配信ノードで、**[検索モード]** 領域の **[正規表現]** ラジオボタンをクリックします。
2. **[検索]** 領域に次の正規表現を入力します。



3. **[正規表現のメタデータ参照]** ドロップダウンリストから **[番号付きの参照を追加]** オプションを選択します。
4. その後の挿入ノードで、「{parse:1}」と入力し、解析と配信ノードの正規表現で指定した最初のサブグループから取得された値を挿入します（挿入ノードウィンドウで **[動的変数の展開]** オプションが有効になっていることを確認します）。

結果:

挿入される値は「Body」になります。

（最初の参照グループの最初の出現箇所）

例2: サブグループにフレンドリー名を使用することもできます。別の例を次に示します。

1. 解析と配信ノードで、**[検索モード]** 領域の **[正規表現]** ラジオボタンをクリックします。
2. **[検索]** 領域に次の正規表現を入力します。

   ^%KDK(.+):(?<Value1>.+)$

   ^%KDK(.+):(?<Value2>.+)$

   ^%KDK(.+):(?<Value3>.+)$

   <Value1>、<Value2>、および<Value3>はサブグループのフレンドリー名です。フレンドリー名は山括弧 “< >“で囲む必要があります
3. [正規表現のメタデータ参照]ドロップダウンリストから **[名前付きの参照および番号付きの参照を追加]** オプションを選択します。
4. その後の挿入ノードで、「{parse:Value3}」と入力し、Value3サブグループの値を挿入します（挿入ウィンドウで **[動的変数の展開]** オプションが有効になっていることを確認します）。

挿入される値は「stapler」になります。

例3: さらに、メタデータ/ファイルノードを使用して、正規表現の結果を別のファイルに抽出することもできます。次の例を参照してください。

1. 解析と配信ノードで、**[検索モード]** 領域の **[正規表現]** ラジオボタンをクリックします。
2. **[検索]** 領域に次の正規表現を入力します。

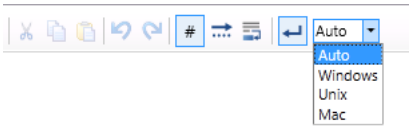
   ^%KDK(.+):(?<Value>.+)$

   <Value> は、サブグループのフレンドリー名です
3. [正規表現のメタデータ参照]ドロップダウンリストから **[名前付きの参照および番号付きの参照を追加]** オプションを選択します。
4. **メタデータ/ファイル** ノードをワークフローに追加します。
5. **メタデータ/ファイル** ノードのウィンドウで、解析と配信のメタデータを抽出するように選択します。

新しいメタデータファイルが作成され、見つかったすべての値が保存されます。それらの値は、解析と配信ノードのウィンドウで指定した正規表現によって見つかったものです。

ツールバーの使用

ツールバーでは、以下の操作を行うことができます。



[切り取り] - テキストをクリップボードに移動します。

[コピー] - テキストをクリップボードにコピーします。

[ペースト] - クリップボードからテキストをペーストします。

[元に戻す] - 実行された最後のアクションを元に戻します。

[やり直し] - これまでの「元に戻す」アクションを繰り返します。

[行番号の表示] - 行番号を表示/非表示にします。

[スペースとタブの表示] - 空白とタブを表示/非表示します。

[折り返す] - 表示可能領域にテキストを保持します。

[行末の表示] - 行の終わりを示すマーカーを表示/非表示します。

[改行コード] - テキスト入力時の行末を指定するために使用するマーカーの種類をWindows、Unix、またはMacから選択します。

解析（検索）

解析 は、検索操作を実行する最も単純なプロセスです。解析処理は、名前、タイプ、サイズなどのファイル属性だけを検索します。この結果を基に、ファイルは設定された条件に応じてワークフロー内の宛先に渡されます。***解析ノード***ウィンドウを開くには、***解析*** 処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。

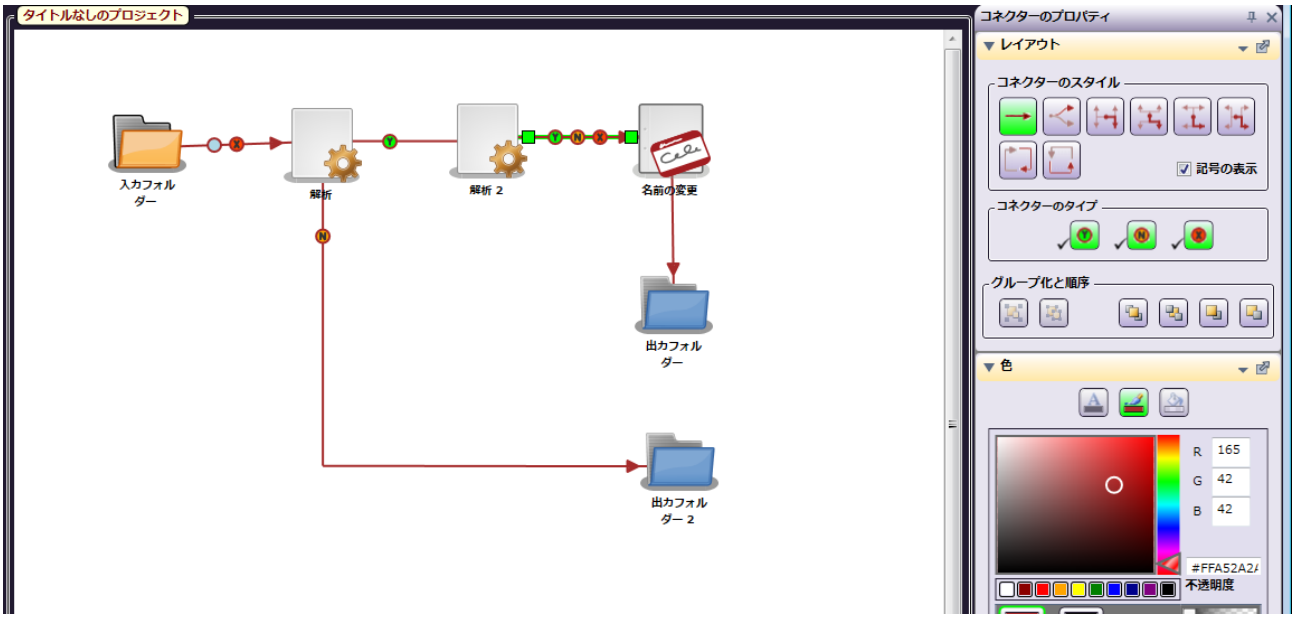
- この処理が実行されるように、**[有効]** ボックスをオンにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、解析ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、解析ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、ワークフロー内でアクティブな処理を把握するのに便利です。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[検索条件]** ボックスで、いずれかの検索条件に一致するファイルを結果に含めるか（[いずれかの検索条件に一致] ラジオボタン）、すべての検索条件に一致するファイルを結果に含めるか（[すべての検索条件に一致] ラジオボタン）を指定します。

- ファイル名で検索するには、**【ファイル名の検索】** ボックスをオンにして、以下のいずれかの操作を行います。
    - 入力したテキストに完全に一致するファイル名を検索するか、またはJPGやPNGなどの特定のファイルタイプを検索するには、**【ノーマル】** ラジオボタンを選択します。次に **【ファイル名】** フィールドで、テキストまたはファイルタイプを指定します。必要に応じて、アスタリスクを付けたり、カンマで区切ります。入力したテキストと大文字小文字が一致するファイル名だけを含めるには **【大文字と小文字を区別】** ボックスをオンにします。

      または、
    - 単語や語句ではなくパターンで検索するには、**【正規表現】** ラジオボタンを選択します。次に **【ファイル名】** フィールドで正規表現を指定します。
- サイズで検索するには、**【ファイルサイズの検索】** ボックスをオンにします。次にサイズの単位と適切な算術演算子を指定します。**【次の値の範囲内】** オプションを選択した場合には、2つの値を指定する必要があります。これらの制限が検索結果に組み込まれます。
- **【保存】** ボタンを選択して解析の定義を保存し、ワークフローの次のノードへのコネクターを追加します。**【ヘルプ】** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**【キャンセル】** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

注: 解析ノードからのコネクターには、通常の経路指定コネクターよりも多くの設定条件に関連する詳細情報があります。

解析ノードを保存したら、プリンターの配信ポイントへのコネクターを追加し、遷移の条件を定義する必要があります。解析ノードには、次の図のように「はい」、「いいえ」、「エラー」の最大3つの出力コネクターを指定できます。通常の（解析以外の）ノードには、2つの出力を指定できます。これらのコネクターは、レイアウトプロパティで手動で変更できます。



参照をメタデータとして追加

検索操作内で正規表現と、名前を指定したサブグループを使用すると、そのサブグループからメタデータを作成して、ワークフロー内の他のノードで使用できます。メタデータは、番号付きの参照に対しては作成されません。

たとえば、「25-file.pdf」という名前のファイルの先頭の値を取り込む場合、次のような操作を実行します。

- [ファイル名の検索] ボックスをオンにします。
- **【正規表現】** ラジオボタンをクリックします。
- **【ファイル名】** フィールドに、「 ^(?<Count>.+)- 」と入力します。

名前を指定したサブグループを参照するには、クラス「parser」とサブグループのフレンドリー名をコロンで区切って使用します。上のサブグループの例でサブグループを参照するには、{parser:Count}を使用して「25」の値を取り込みます。

ファイル処理

マージ

マージノード を使用して2つ以上のファイルを1つまたはそれ以上の出力ファイルに結合します。選択したフォームでグループ化、並べ替え、およびマージしてTIFFまたはPDFファイルに出力できます。

たとえば、マージノードでは次のサンプルワークフローが可能になります。

1. Dispatcher Phoenixワークフローを介して、コニカミノルタ複合機、仮想プリンターキュー、またはその他のファイルからスキャンしたドキュメントを自動的にキャプチャします。
2. シーケンシャルファイル名またはドキュメントメタデータに基づいてファイルを解析し、ファイルを1つのマージファイルに変換します。
3. マージされたファイルを1つ、または複数の処理操作にルーティングします。
    - **バーコードライター**
    - **CDAジェネレーター**
    - **傾き補正**
    - **ノイズ除去**
    - **強調**
    - **メタデータ経路指定**
    - **墨消し**
    - **名前の変更**
4. 処理されたドキュメントを1つ、または複数の配信ノードにルーティングします(次を含みますがこれらに限定されません)。
    - **出力フォルダー**
    - **電子メール出力**
    - **HTTP出力**
    - **Googleドライブコネクター**
    - **Worldoxコネクター**

注: マージノードを使用するワークフローには、ファイルをグループとして収集することができる収集ノードが必要です。収集ノードで [**ファイルをグループとして処理**] (一部のノードでは **グループとして処理**) フィールドのボックスをオンにしてください。ボックスを空白のままにするとマージ処理はファイルをマージすることができません。次の収集ノードはファイルをグループとして収集することができます。

- **入力フォルダー**
- **複合機ユーザーボックス**
- **電子メール入力**
- **Dropbox入力**
- **FTP入力**

マージノードを使用する

マージノードは次のファイル形式をサポートしています。

- HD Photo
- TIFF
- JPG
- GIF
- PNG
- BMP
- PDF (暗号化されたPDFファイルのマージはサポートしていません。)

マージノードは次の順序で操作を実行します。

1. グループファイル
2. グループ内のファイルを並べ替え
3. 並べ替えされたグループのファイルをマージ

マージノードワークフローは出力ファイルの名前を生成します。以下の要素で構成されます。

1. グループ内の最初のファイルの名前から拡張子(.JPG、.PNGなど)を引いたもの。
2. そのファイル名に追加される増分カウンター番号。正常にマージされたファイルのグループごとに番号が自動的に増加します(例: report-1.tiff、somereport-2.tiffなど)。

マージ操作後にファイルサイズが変更される場合があり、ファイル数は必ずしもページ数と同一ではありません。

複数のページを含むファイルによってマージされた一部のファイルには他のファイルよりも多くのページが含まれます。同じページ数を確保するにはマージする前にファイルに対して **分割** 処理を実行することをお勧めします。

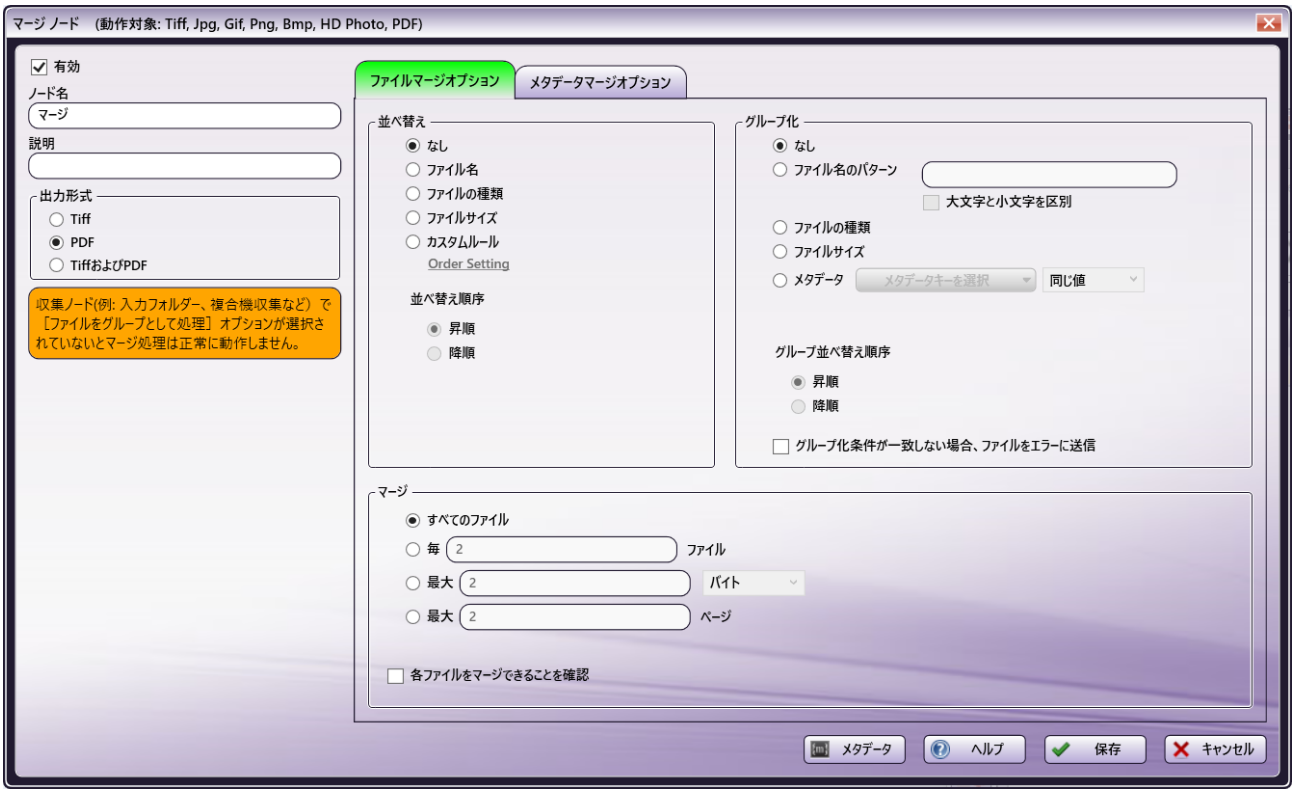
マージノードは受信したファイルからドキュメントレベルとページレベルの ***メタデータ*** を組み合わせることができます。このようにワークフローでファイルを処理/ルーティングするためにメタデータを使用することができます(例: ファイルの名前変更、注釈付けなど)。

ワークフロー内の次のノードの処理制限に従ってマージの上限を設定する機能など、追加のマージオプションを使用することができます。

マージノードの構成

マージノードウィンドウを開くには、マージノードをワークフロー領域にドラッグアンドドロップしてダブルクリックします。次のタブを含むマージノードウィンドウが表示されます。

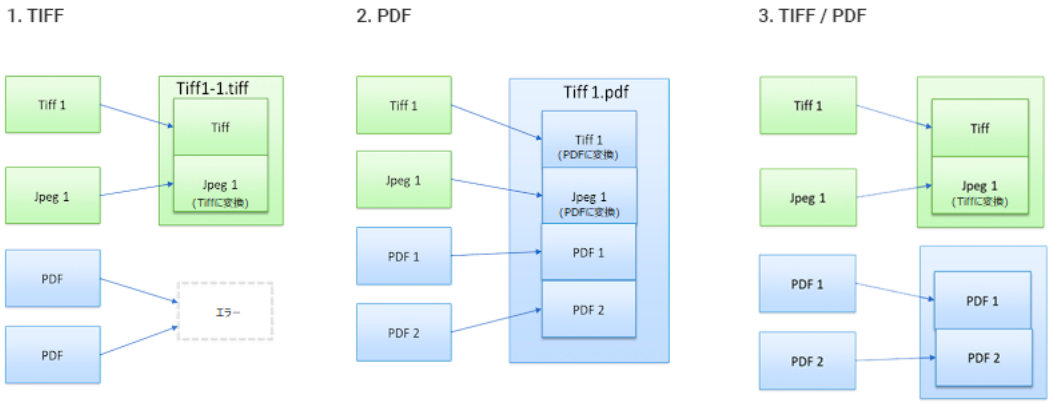
- **ファイルマージオプション**
- **メタデータマージオプション**



タブの左側に次のフィールドが表示されます。

- **[有効]** - このマージノードをワークフローに含めるにはこのフィールドのチェックボックスをオンにします。チェックされていない場合、この処理は無視されます。ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードはロジックまたはエラー状態をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - このマージノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** - このマージノードの説明を入力します。
- **[出力形式]** - 出力されるマージドキュメントの形式を選択します。次のようなオプションがあります。
  - **[TIFF]** - 複数の静止画像ファイルを単一のTIFFファイルにマージします。この形式はPDFファイルをサポートしていません。PDFファイルはエラーパスに送信されます。
  - **[PDF]** - サポートされているファイルタイプをPDFに出力します。
  - **[TIFFおよびPDF]** - サポートされているファイルタイプをTIFFまたはPDFに出力します。静止画像はマージされたTIFFファイルとして出力されます。PDFファイルはマージされたPDFファイルとして出力されます。

  出力形式の図については次の図を参照してください。

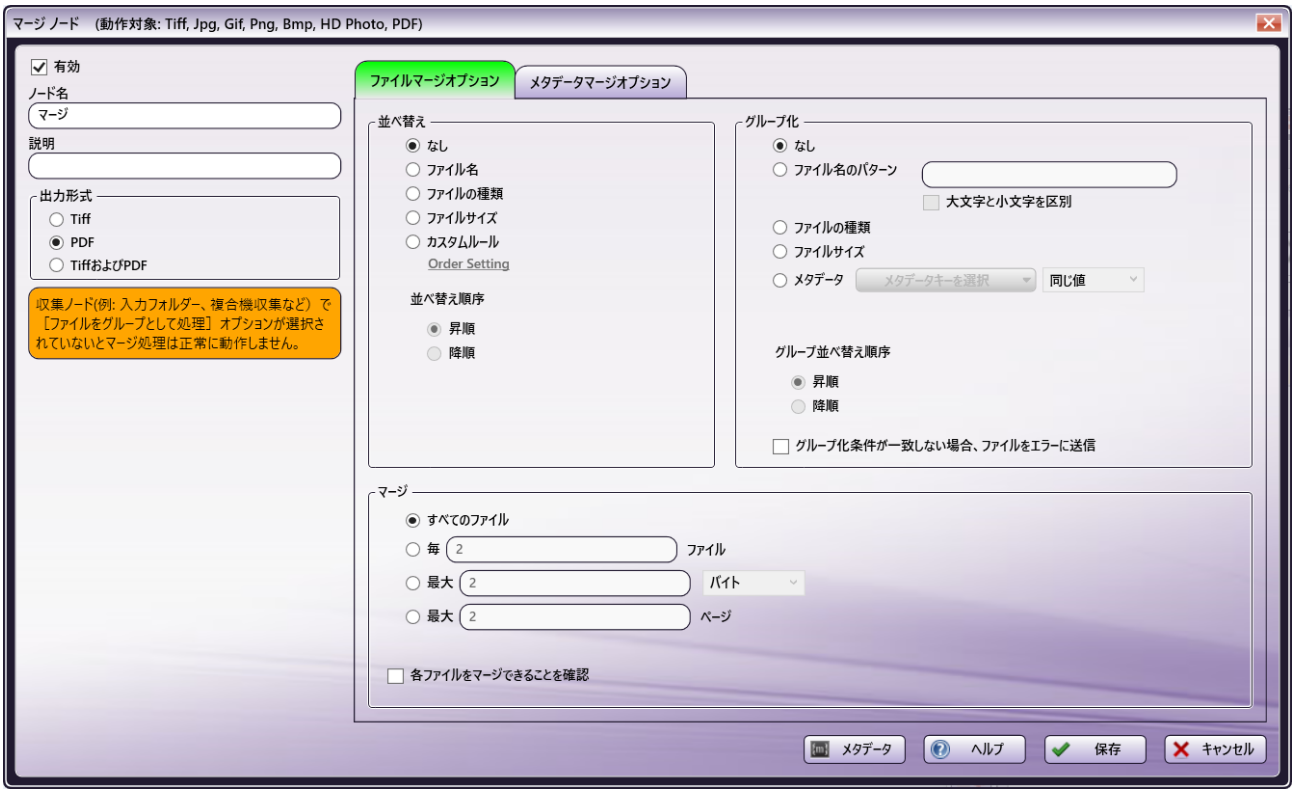


マージノードウィンドウの下部に次のボタンが表示されます。

- **[ヘルプ]** - オンラインヘルプにアクセスします。
- **[保存]** - マージ定義を保持します。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了します。

ファイルマージオプション タブ

このタブを使用してワークフローによって収集されたファイルの並べ替え、グループ化、およびマージの設定を指定します。



並べ替え

このパネルを使用してワークフロー内の直前の入力/処理ノードによって収集されたファイルをマージする順序を設定します。並べ替えする前に、マージは最初に指定したグループ化構成を適用することに注意してください。次の構成オプションがあります。

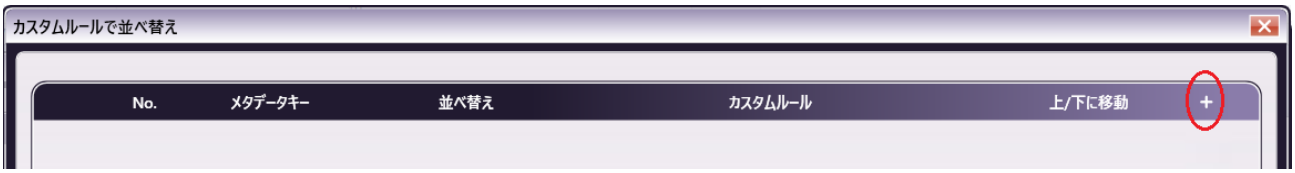
- **[なし]** - ドキュメントを並べ替えない。
- **[ファイル名]** - ファイル名でドキュメントを並べ替える。
- **[ファイルの種類]** - ファイル種類または拡張しでドキュメントを並べ替える。
- **[ファイルサイズ]** - ファイルサイズでドキュメントを並べ替える。

- **[カスタムルール]** - メタデータを使用してマージ順序を制御します。**[カスタムルールで並べ替え]** 画面で順序を構成します。詳細については以下の **カスタムルール** セクションを参照してください。
- **[並べ替え順序]** - 上記のファイル属性フィールドのいずれかで並べ替えることを選択するとこのフィールドがアクティブになり、次のオプションがあります。
  - **[昇順]** - 最小値がリストの一番上になるようにファイルを並べ替える。
  - **[降順]** - 最大値がリストの一番上になるようにファイルを並べ替える。

カスタムルール

メタデータを使用してマージの順序を構成するには、[並べ替え]パネルで[カスタムルール]を選択し、[順序設定(Order Setting)]をクリックします。**カスタムルールで並べ替え** ウィンドウが表示されます。

カスタムルールで並べ替え ウィンドウを使用してマージの順序を決定するルールのテーブルを作成します。ルールを追加するには、ヘッダーバーの右側にある **[+]** ボタンをクリックします。



ルールがテーブルに表示されると次の構成オプションがあります。

- **[メタデータキー]** - ドロップダウンをクリックしてメタデータブラウザーウィンドウにアクセスします。このウィンドウからメタデータキーを選択できます。
- **[並べ替え]** - ソート順を指定します。次のオプションがあります。
  - **[昇順]** - 最小メタデータ値が一番上になるようにファイルを並べ替えます(特殊 [#、$、など] -> 数値[0-9] -> アルファベット [A-Z])。同一のメタデータキーが複数のファイルに存在する場合、元のレコードの順序によって順序が定められます。
  - **[降順]** - 最大メタデータ値が一番上になるようにファイルを並べ替えます(アルファベット[Z-A]->数値[9-0]->(特殊 [#、$、など])。同一のメタデータキーが複数のファイルに存在する場合、元のレコードの順序によって順序が定められます。
  - **[カスタムルール]** - カスタムルール文字列を構成して並べ替え順序を決定します。このオプションを選択すると[**カスタムルール**]フィールドがアクティブになり、1つ以上のコンマ区切り値(CSV)で構成されるルールを指定できます。順序付けにより文字列がメタデータ値と比較されます。一致しないメタデータはすべて最後に並べられます。
- **[上/下に移動]** - **[上矢印]** および **[下矢印]** ボタンを使用してカスタムルールの並べ替え順序を変更します。
- **[+]** - この列の **[+]** ボタンと ボタンを使用してそれぞれルールを追加または削除します。ヘッダーバーの **[+]** ボタンは、リストの一番上に新しいルールを挿入します。

注: 複数のルールを操作する場合、最初のカスタムルールが実行されると、2番目のカスタムルールは最初のルールによって作成されたファイルの個々のグループごとに実行され、3番目のルールは2番目のルールによって作成されたファイルに対して実行されます。たとえば、ルール1がファイル拡張子でファイルを並べ替え、ルール2がファイル名で並べ替える場合、ルール2は、ファイルのグループ全体ではなく、同じファイル拡張子を持つファイルの各グループで実行されます。

グループ化

このパネルを使用してマージする前に収集されたファイルをグループに分割するための基準を指定します。ノードは構成によって作成されたグループごとにマージされたファイルを含む個別の出力ファイルを作成します。基準に一致しないファイルは「一致しない」グループに配置されます。

次の構成オプションがあります。

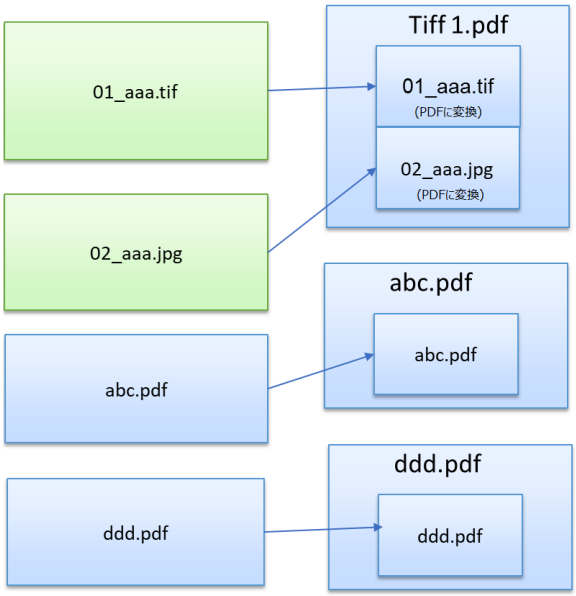
- **[なし]** - ドキュメントを単一のグループとして処理します。
- **[ファイル名のパターン]** - 命名規則を使用してファイルをグループ化します。このオプションを選択すると関連するフィールドがアクティブになり、1つ以上のコンマ区切り値(CSV)を入力してグループを識別できます。たとえば、次のようになります。
    - *_book.png
    - *.jpeg
        - **[大文字と小文字を区別]** - **[ファイル名のパターン]** オプションを選択するとこのフィールドがアクティブになります。グループに追加する前に、CSV値をファイル名の大文字または小文字、あるいはその両方と一致させるにはチェックボックスをオンにします。それ以外の場合はボックスを空白のままにします。
- **[ファイルの種類]** - ファイル拡張子でファイルをグループ化します。
- **[ファイルサイズ]** - 元のファイルサイズを使用してファイルをグループ化します。
    - 最小 (100KB未満)
    - 中 (100KBから1MB)
    - 大 (1MBから16MB)
    - 最大 (16MB以上)
- **[メタデータ]** - メタデータのキー値(ドキュメントおよびページレベル)を使用してメタデータ値でファイルをグループ化します。たとえば、同じ会社のすべての請求書でグループ化するように選択できます(**OCR** が必要です)。ドキュメントに複数の同一のメタデータキー値がある場合、このオプションは最初に見つかったものを使用します。

    このオプションを選択すると **[メタデータキーを選択]** ボタンがアクティブになります。このボタンをクリックして **メタデータブラウザーウィンドウ** にアクセスします。このウィンドウでは、メタデータキーを選択してグループ基準を定めることができます。指定されたメタデータを含まないファイルはソートされたファイルリストの最後に配置されます。

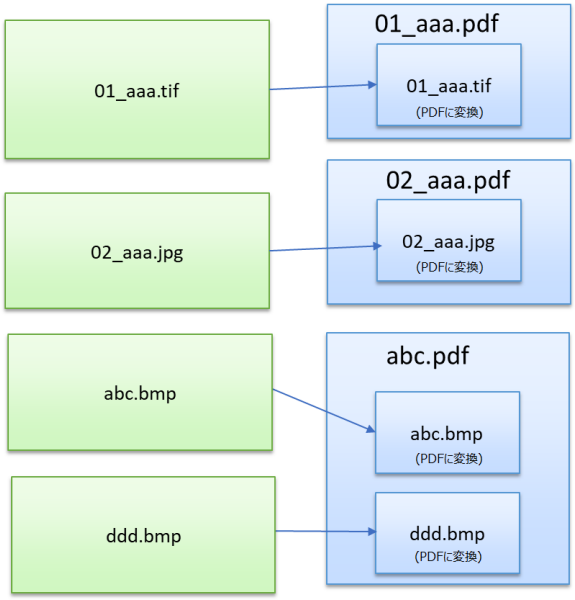
    メタデータキーを選択したら、右側のドロップダウンをクリックして **[条件]** を選択します。いくつかの条件では、検索条件を定義する **条件文字列** を入力する必要があります。次の条件のいずれかを選択できます。
    - **[同じ値]** - 同じメタデータキーの値でグループ化する。
    - **[次の値]** - 指定された条件文字列をメタデータ値に一致させてグループ化する。
    - **[次の値を含む]** - 指定された条件文字列を含むメタデータ値でグループ化する。
    - **[正規表現]** - メタデータ値を正規表現と照合してグループ化する。
    - **[存在する]** - メタデータキーが存在する場合、ファイルをグループ化する。
    - **[を含む]** - 指定されたメタデータキーに値がある場合、ファイルをグループ化する。
    - **[ではない]** - 指定された条件文字列をメタデータ値に一致させずにグループ化する。
    - **[含まない]** - 指定された条件文字列を含まないメタデータキーの値でファイルをグループ化する。
    - **[値なし]** - メタデータキーに値がない場合、ファイルをグループ化する。
    - **[存在しない]** - メタデータキーが存在しない場合、ファイルをグループ化する。
- **[グループ並べ替え順序]** - [グループ化]オプションを選択すると、このフィールドがアクティブになり、グループ(グループ内のファイルではなく)を並べ替える順序を指定できます。オプションは次のとおりです。
    - **[昇順]** - 最小値が一番上になるようにグループを並べ替えます。
    - **[降順]** - 最大値が一番上になるようにグループを並べ替えます。
- **[グループ化条件が一致しない場合、ファイルをエラーに送信]** - ドキュメントがグループ化ルールに一致しない場合、ファイルをエラーに送信するには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。それ以外の場合はボックスを空白のままにします。

グループ化オプションの図については次の図を参照してください。

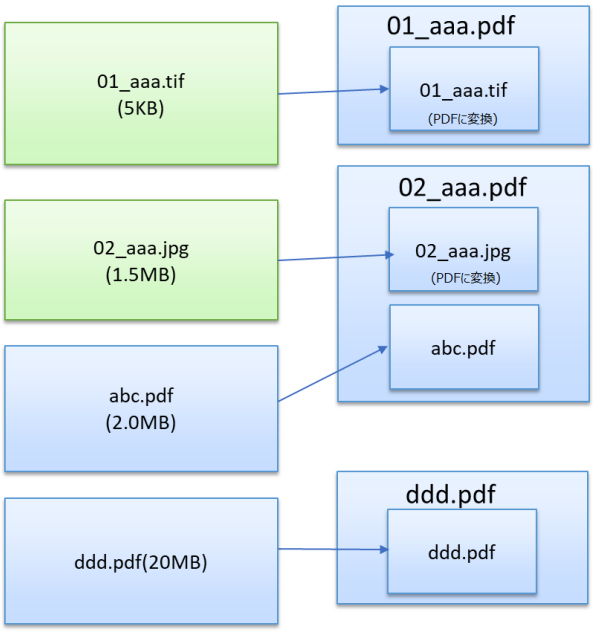
1. ファイル名パターン
(ルール1:*_aaa.*, ルール2:abc.* ルール3:*.pdf)



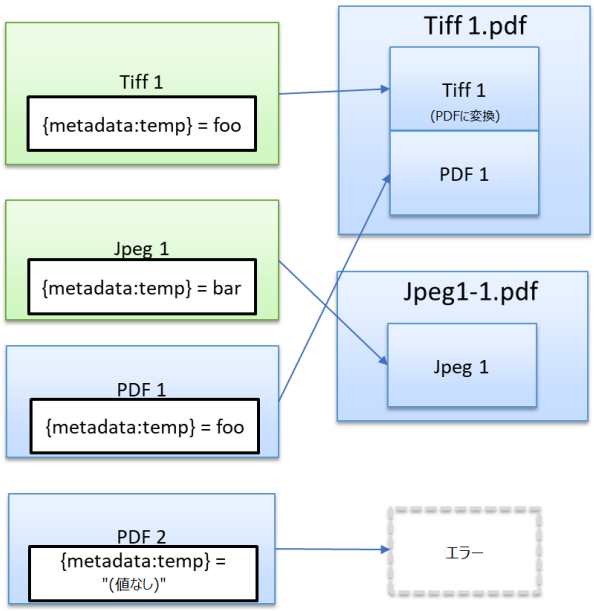
2. ファイルタイプ



3. ファイルサイズ



4. メタデータキーの同じ値



条件文字列

メタデータでファイルをグループ化する場合、いくつかの条件では検索条件を定義するために関連するフィールドに条件文字列を入力する必要があります。1つ以上のコンマ区切りの値をフィールドに入力でます。検索でファイルのメタデータキー値に複数の一致が見つかった場合、最初に見つかった一致に基づいてファイルがグループ化されます。

たとえば、収集したファイルにメタデータ値「ab、abc、abcd」が含まれているかどうかに基づいてグループ化すると仮定します。次の手順を実行します。

1. 検索したい値を含むメタデータキーを選択します。
2. 条件として「を含む」を選択します。
3. 「ab、abc、abcd」の条件文字列を入力します。

この構成では「abc」や「abcd」のインスタンスが含まれている場合であっても、最初のメタデータ値 (ab) を含むすべてのファイルがグループ化されます。最初のメタデータ値 (ab) を含むすべてのファイルがグループ化されると、ノードは「abcd」のインスタンスが含まれている場合でも、次のメタデータ値(abc)を含むすべてのファイルをグループ化します。この処理はすべてのメタデータ値が検査されるまで継続します。

マージ

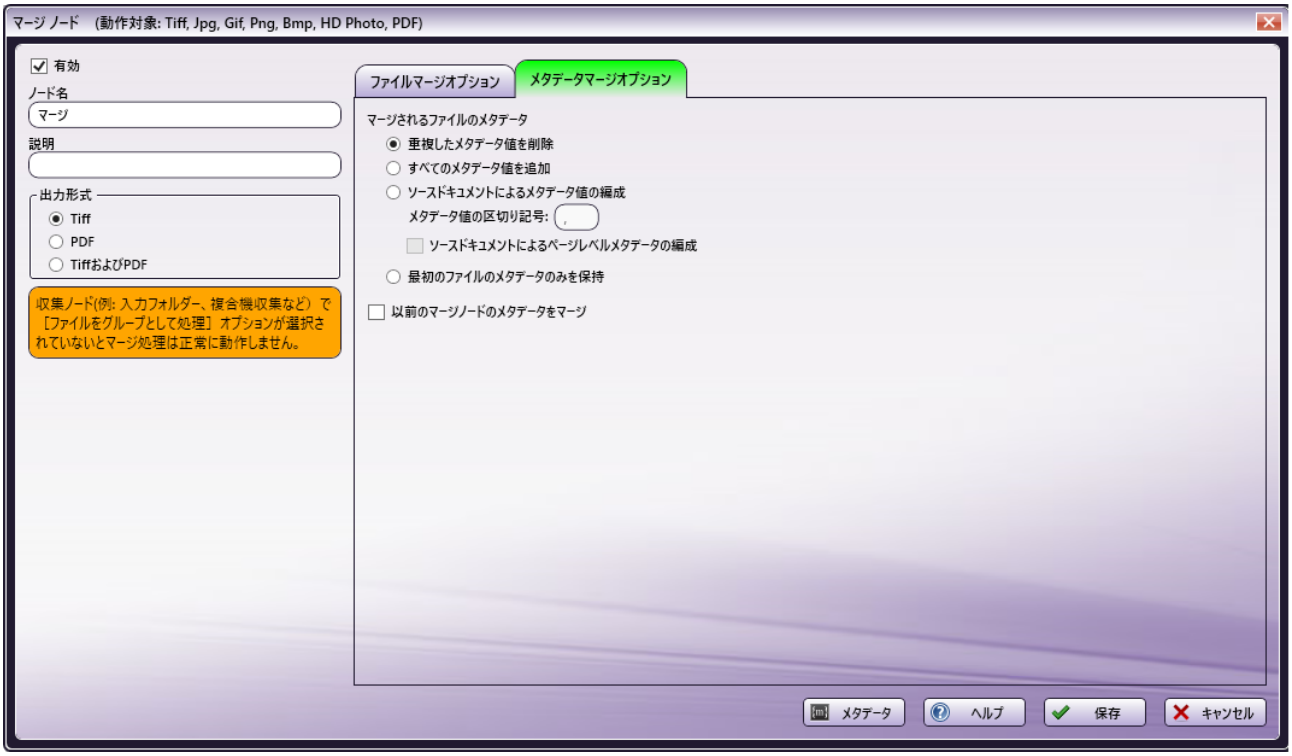
このパネルを使用してマージの設定を指定します。次のオプションがあります。

- **[すべてのファイル]** - すべてのファイルをマージする。
- **[毎 x ファイル]** - 別の出力ファイルに移動する前に、マージされたファイルにマージする単一ファイルの数を指定します。最大100,000個のファイルを1つのマージされたファイルにマージできます。
- **[最大 x バイト]** - マージされたファイルにマージされる単一ファイルの最大ファイルサイズを指定します。マージされたファイルの最大ファイルサイズは4GBです。このオプションはマージされたファイルサイズを見積もるために変換された出力形式の一時ファイルを作成するため、パフォーマンスが低下する可能性があることに注意してください。
- **[最大 x ページ]** - 単一のファイルからより大きなファイルにマージするページ数を指定します。最大100,000ページを1つのマージされたファイルにマージできます。
- **[各ファイルをマージできることを確認]** - マージを試みる前にドキュメントをマージできることを確認するには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。このオプションを選択すると、マージできないファイル(たとえば、暗号化されたPDFファイル)は、マージファイルのカウントプロセスによって無視されます。常に各ドキュメントのマージを試みるにはボックスを空白のままにします。このオプションを選択した場合でも、マージできないファイルはマージプロセスによってカウントされます。

  たとえば、2つのファイルごとにマージするように設定されているとします。チェックボックスをオンにして2番目のファイルをマージできない場合、2番目のファイルはスキップされ、3番目のファイルは最初のファイルとマージされます。ボックスを空白のままにすると、2番目のファイルはマージできなくてもカウントされ、3番目のファイルは次のシーケンシャルマージファイルに追加されます。

メタデータマージオプションタブ

このタブを使用して、収集されたファイルからメタデータをマージするための設定を指定します。



次のフィールドを使用して、マージ時に既存のメタデータを処理する方法を構成します。

- **[重複したメタデータ値を削除]** - 同じ値を持つドキュメントレベルのメタデータキーをすべて削除します。たとえば、特定のメタデータキーに関連付けられた一意の値のみに関心がある場合はこれを選択します。

例については **ここ** をクリックしてください。

- **[すべてのメタデータ値を追加]** - ドキュメント間で一致するすべてのメタデータキーをマージしてすべての値を保持します。例については **ここ** をクリックしてください。
- **[ソースドキュメントによるメタデータ値の編成]** - ユーザー指定の区切り記号で区切られた、各ドキュメントの複数の値を含むメタデータキーを結合します。**既定** の区切り文字はコンマです。ファイルは *merge:input.fullname* メタデータキーに従って、マージされたのと同じ順序で一覧表示されます。たとえば、ワークフローでメタデータ値のソースをマージされたドキュメントの値に関連付ける必要がある場合は、このオプションを選択します。例については **ここ** をクリックしてください。
  - **[ソースドキュメントによるページレベルメタデータの編成]** - *merge:input* メタデータリストからのインデックスを保持しながら、ドキュメントレベルのメタデータと同じ方法でページレベルのメタデータにインデックスを付けます。このオプションを選択しない場合、ページレベルのメタデータはそのまま結果のドキュメントにマージされます。ページレベルのメタデータはドキュメントレベルのメタデータとは異なり、マージされたドキュメントと競合しません。
- **[最初のファイルのメタデータのみを保持]** - マージされたファイルのメタデータを最初のファイルからコピーして、他のすべてのファイルからメタデータを破棄します。この設定はマージノードのメタデータだけでなく、前のノードのメタデータも無視します。例については **ここ** をクリックしてください。
- **[以前のマージノードのメタデータをマージ]** - ワークフローで複数のマージノードが発生する場合は、このオプションを選択して次のデータを引き継いで更新します。
  - ***merge:input.fullname*** – 前のマージ操作からの完全なファイル名(名前と拡張子)が保持され、このマージ操作のファイル名はマージされた順序で追加されます。
  - ***merge:input.name*** – 前のマージ操作からのファイル名(拡張子は含まれない)は保持され、このマージ操作のファイル名はマージされた順序で追加されます。
  - ***merge:input.ext*** – 前のマージ操作のファイル拡張子は保持され、このマージ操作のファイル拡張子はマージされた順序で追加されます。

- ***merge:input.size*** – 前のマージ操作のファイルサイズは保持され、このマージ操作のファイルサイズはマージされた順序で追加されます。
- ***merge:total*** – マージされたファイルの総数は、新しくマージされたファイルの数に追加された以前のマージされたファイルの数で更新されます。

注: このオプションを選択せずにワークフローで複数のマージノードが発生した場合、前のマージノードから生成されたメタデータ(たとえば、*merge:* で始まるすべてのメタデータ)は削除され、引き継がれません。

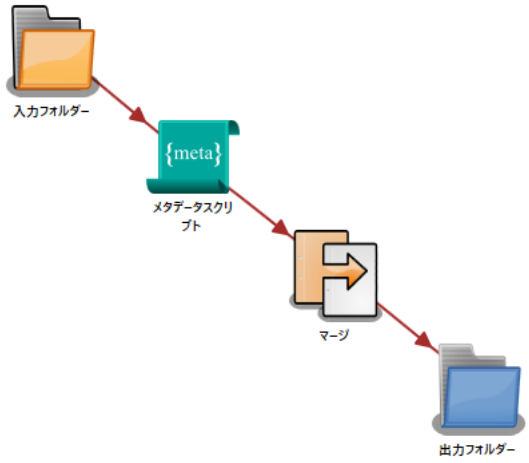
マージノードメタデータ

次のメタデータはマージノードによって作成されます。

メタデータ	説明
merge:input.fullname:	出力ドキュメントを作成するためにマージされたファイルの名前と拡張子。ファイル名はマージされた順序で表示されます。このメタデータキーは **[ソースドキュメントによるメタデータ値の編成]** オプションが選択されている場合に、メタデータ情報の出所を特定するために使用できます。
merge:input.name:	出力ドキュメントを作成するためにマージされたファイルの名前(ファイル拡張子を除く)。ファイル名はマージされた順序で表示されます。このメタデータキーは **[ソースドキュメントによるメタデータ値の編成]** オプションが選択されている場合に、メタデータ情報の出所を特定するために使用できます。
merge:input.ext:	出力ドキュメントを作成するためにマージされたファイルのファイル拡張子。**merge:input.fullname** および **merge:input.name** メタデータを使用して、拡張機能が関連付けられている元のドキュメントを判別できます。
merge:input.size:	出力ドキュメントを作成するためにマージされたファイルのファイルサイズ。**merge:input.fullname** および **merge:input.name** メタデータを使用して、サイズが関連付けられている元のドキュメントを判別できます。
merge:input.from:	マージされた各ファイルの最初のページのマージされたドキュメントのページ番号。**merge:input.fullname** および **merge:input.name** メタデータを使用して、ページ番号が関連付けられている元のドキュメントを判別できます。
merge:input.to:	マージされた各ファイルの最後のページのマージされたドキュメントのページ番号。ページ番号は包括的です。**merge:input.fullname** および**merge:input.name** メタデータを使用して、ページ番号が関連付けられている元のドキュメントを判別できます。
merge:total.pages:	マージされたページの総数。
merge:total.files:	マージされたファイルの総数。
merge:id:	マージ操作の一意の識別子。

マージノードのメタデータの例

このセクションの例は次のサンプルワークフローに基づいています。



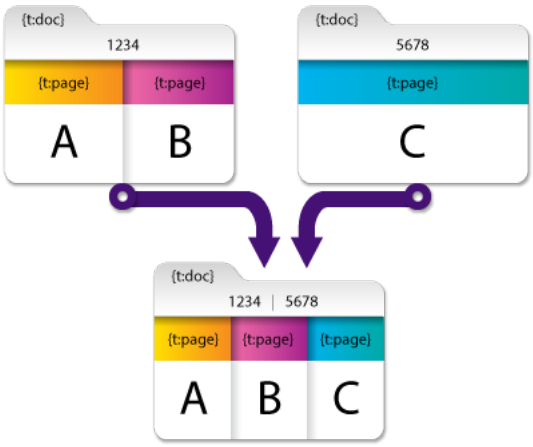
このワークフローでは、

1. **入力フォルダー** は、2つ以上の画像を収集します。
2. **メタデータスクリプト** ノードは以下を追加します。
    - {t:doc} メタデータキーを使用した各画像への単一のドキュメントレベルのメタデータ値。
    - {t:page} メタデータキーを使用した各画像の各ページへのページレベルのメタデータ。
3. マージノードはこれら2つのドキュメントとそれらのメタデータをマージします。
4. **出力フォルダー** は、新しくマージされたドキュメントをフォルダーに配信します。

重複するメタデータ値の削除の例

このセクションでは **重複したメタデータ値を削除** フィールドの効果の例を示します。このオプションを選択すると、ドキュメントがマージされるときに、既定でドキュメントレベルとページレベルのメタデータがマージされ、メタデータキーの冗長な値は削除されます。

例 1:



この例では、最初のドキュメントに次のメタデータが含まれています。

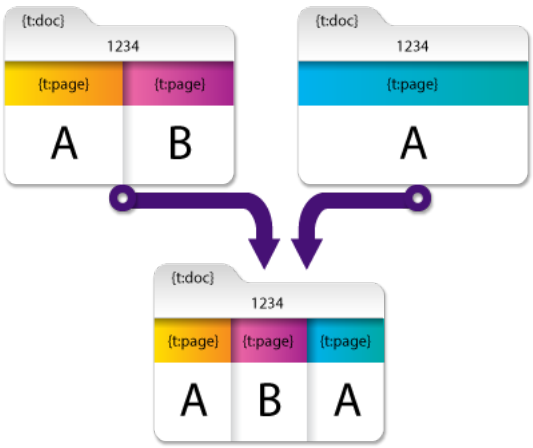
- ドキュメントレベルのメタデータ: 値が「1234」である {t:doc}
- ページレベルのメタデータ:
  - 最初のページ: 値が「A」である {t:page}
  - 2ページ目: 値が「B」である {t:page}

2番目のドキュメントには、次のメタデータが含まれています。

- ドキュメントレベルのメタデータ: 値が「5678」である {t:doc}
- そのページ(のみ)のページレベルのメタデータ: 値が「C」である {t:page}

これらのドキュメントには両方とも同じメタデータキー({t:doc})が含まれていますが、それらの値は一意であり、結果のマージされたドキュメントに引き継がれます。({t:doc})には「1234」と「5678」の2つの値が含まれるようになりました)。それらのページレベルのメタデータもマージされます。

例 2:

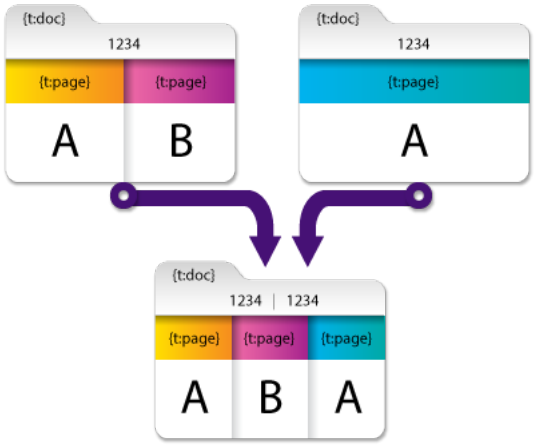


この例では、最初と2番目のドキュメントには同じ値('1234')のドキュメントレベルのメタデータキー({t:doc})があります。**重複したメタデータ値を削除** オプションを有効にすると、{t:doc} の冗長な値がマージされたドキュメントから削除され、単一の値「1234」になります。

注: ページレベルのメタデータ{t:page}は、最初のドキュメントの最初のページと2番目のドキュメントの最初のページが同じメタデータキーと値(「A」)を持っていても削除されないことに注意してください。これは値が異なるページにあるため、冗長とは見なされないためです。

すべてのメタデータ値を追加する例

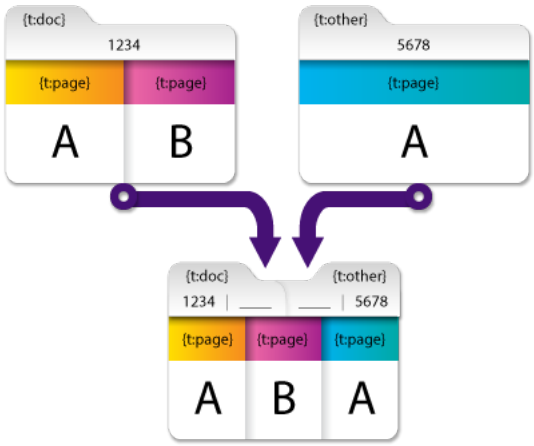
このセクションでは、**すべてのメタデータ値を追加** フィールドの効果の例を示します。特定のメタデータキーに関連付けられているすべての値に関心がある場合(たとえば、特定のメタデータ値の出現回数をカウントする場合)、このオプションを選択します。



この例では、{t:doc}メタデータキーの両方の値が保持され、結果のマージされたドキュメントには、{t:doc}の2つの値「1234」と「1234」が含まれます。

ソースドキュメントでメタデータ値を整理する例

このセクションでは、**ソースドキュメントによるメタデータ値の編成** フィールドの効果の例を示します。このオプションは、次の図のように、他のオプションとは異なる方法でメタデータを処理します。



上記の例では、ドキュメントレベルのメタデータに空白が埋め込まれています。これはDispatcher Phoenixのドキュメントレベルのメタデータが次の形式を使用してアクセスされるためです。

```
\ : \ (例: {t:doc})
```

これは次の形式の略です。

```
\ : \ [0] [値 インデックス]
```

この形式は、たとえば上の図のように、ページレベルのメタデータにも使用されます。

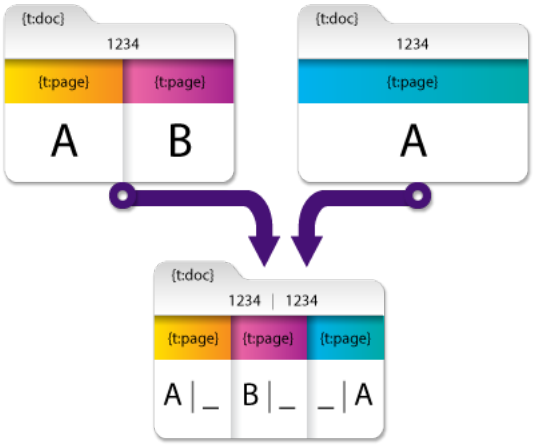
- マージされたドキュメントのページ1の場合、{t:page [1] [1]}を使用して「A」にアクセスできます。
- マージされたドキュメントのページ2の場合、{t:page [2] [1]}を使用して「B」にアクセスできます。
- マージされたドキュメントのページ3の場合、{t:page [3] [1]}を使用して「A」にアクセスできます。

上記の例の結果のマージされたドキュメントでは、

- {t:doc [0] [1]}には最初のドキュメントの値が含まれ、2番目のドキュメントにはそのキーが含まれていなかったため、{t:doc[0] [2]}には空白が含まれています。
- {t:other[0] [1]}は、最初のドキュメントにこのキーの値が含まれていなかったため空白ですが、{t:other [0] [2]}には2番目のドキュメントの値が含まれています。

これにより、値のインデックスをドキュメント名のインデックスと相互参照することで特定のメタデータ値の出所を特定できます。

ソースドキュメントによるページレベルメタデータの編成 オプションを選択すると、結果は次のようになります。



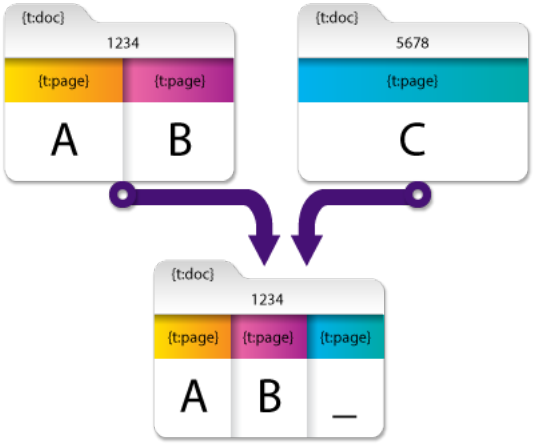
これで結果のマージされたドキュメントには、メタデータの元となったドキュメントを示すページレベルのメタデータブランクが含まれます。

- {t:page[1] [1]} および {t:page [2] [1]} には、最初のドキュメントに由来するため、値「A」および「B」が含まれています。
- {t:page[3] [2]} には、2番目のドキュメントに由来するため、値「A」が含まれています。

これらのオプションを使用すると、ドキュメントレベルおよびページレベルのメタデータをそのソースにマッピングすることができます。

最初のファイルのメタデータのみを保持する例

この例は、**最初のファイルのメタデータのみを保持** フィールドの効果を示しています。



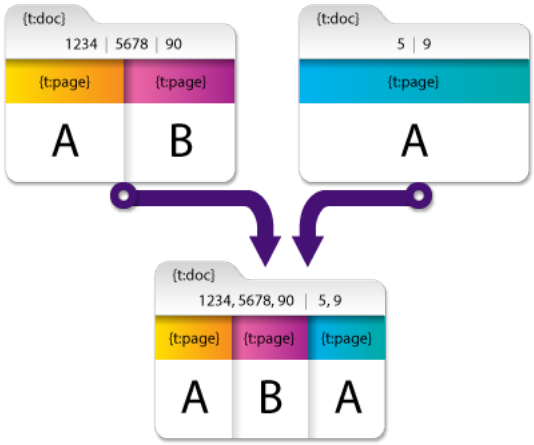
この例では、マージされる2つのファイルにはそれぞれ独自のメタデータがあります。

- ドキュメントレベル(図では「1234」と「5678」の番号で示されています)
- ページレベル(図の A、B、および C)

最初のファイルのメタデータのみを保持 フィールドを選択すると、2つのファイルがマージされますが、最初のファイルのメタデータ(「1234」と A、B)のみが保持され、2番目のファイルのメタデータ(「5678」と C)は削除されます。

メタデータの集約

1つのドキュメント内の1つのキーに複数のメタデータ値がある場合、値は1つのインデックスに結合され、分割されます(ノード構成中に定義されたユーザー指定の区切り文字による)。例については、次の図を参照してください。



最初のドキュメントでは、{t:doc}に3つの値が含まれ、2番目のドキュメントでは、{t:doc}に2つの値が含まれています。マージされた結果のドキュメントでは、{t:doc[0] [1]}メタデータキーに値「1234、5678、90」が含まれ、{t:doc[0] [2]}に値「5、9」が含まれます。

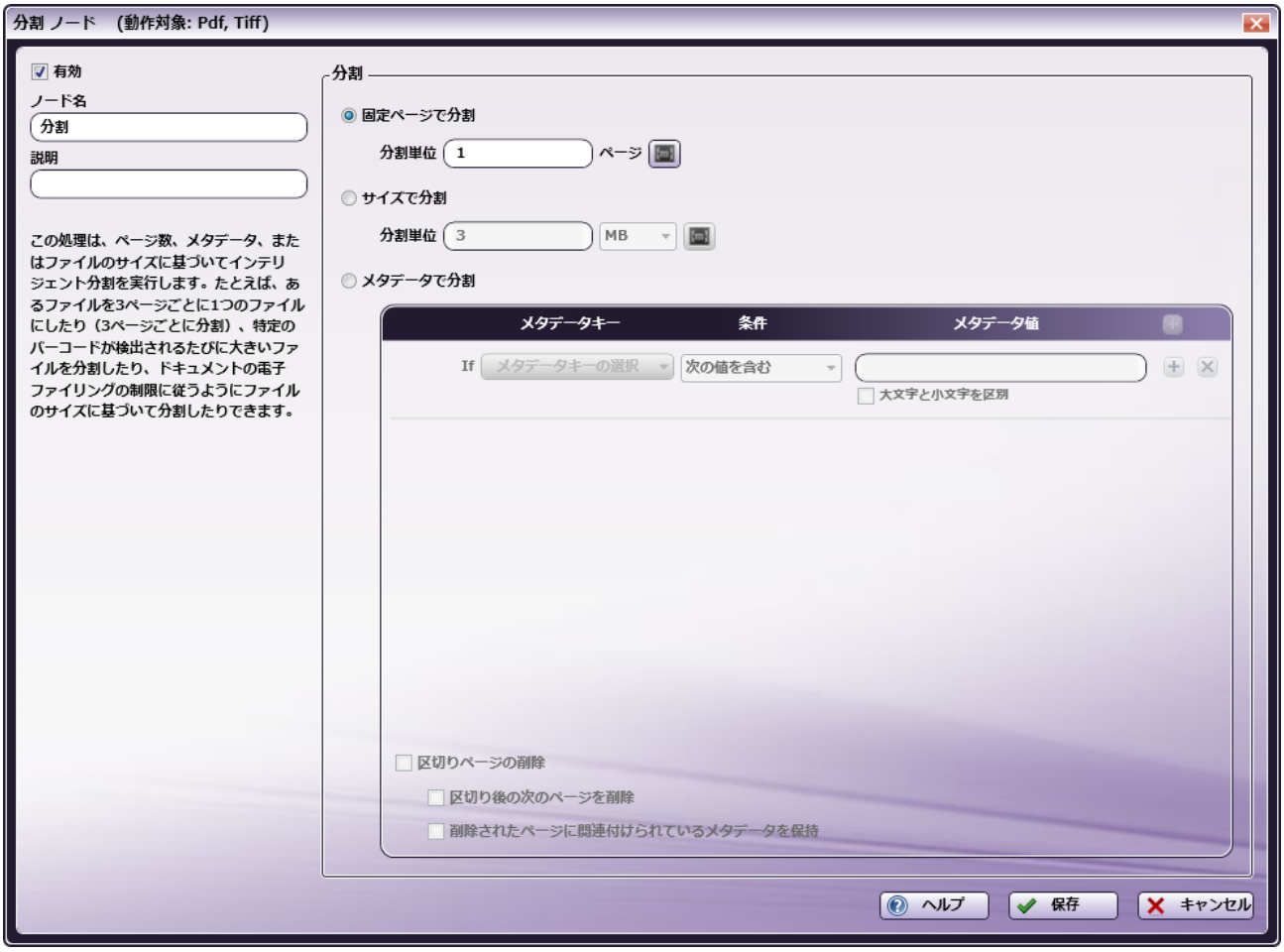
分割

分割 処理は、ユーザー定義のページ数、ファイルサイズ、または特定のメタデータ条件に基づいて、複数ページのイメージファイルを個別のファイルに分割します。このノードは、PDFおよびTIFFを処理します。

注: このノードは、AES（Advanced Encryption Standard）PDFをサポートしていません。

分割イメージ処理が実行されると、結果のファイル名は、元のファイル名に、ハイフンと数列（-1、-2、-3…）が追加されたものになります。たとえば、元のファイル名が「MyFileOne」であり、これが2つのイメージに分割された場合、結果のファイル名は「MyFileOne-1」と「MyFileOne-2」になります。

分割ノード ウィンドウを開くには、***分割*** 処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。



- この処理が実行されるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、分割ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、分割ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、それぞれの処理を区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 分割の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

固定ページで分割

入力ファイルをページ数に基づいて分割するには、**[固定ページで分割]** ラジオボタンを選択して、入力ファイルをさらに小さいファイルに分割する頻度を入力します。たとえば、3と入力すると、1つのファイルが複数の3ページのファイルに分割されます。

次の図に示すように、**[メタデータブラウザー]** ボタンをクリックして[メタデータブラウザー]ウィンドウを開き、メタデータキーをフィールドにドラッグアンドドロップすることによって、このフィールドでメタデータ値を使用できます。

メタデータ参照のページレベルまたは出現番号（あるいはその両方）を指定するには、メタデータをフィールドにドラッグアンドドロップしてから正しい構文を入力します。

サイズで分割

入力ファイルをサイズに基づいて分割するには、以下の操作を行います。

1. **[サイズで分割]** ラジオボタンを選択します。
2. 表示された入力フィールド内の各ドキュメントに対して、**最大ファイルサイズ**を指定します。
3. **[メタデータブラウザー]** ボタンをクリックして[メタデータブラウザー]ウィンドウを開き、メタデータキーをフィールドにドラッグアンドドロップすることによって、このフィールドでメタデータ値を使用できます。[メタデータブラウザー]ウィンドウの例については、上の図を参照してください。
   メタデータ参照のページレベルまたは出現番号（あるいはその両方）を指定するには、メタデータをフィールドにドラッグアンドドロップしてから正しい構文を入力します。
4. 適切なサイズ単位（バイト、KB、MB、GB）を選択します。

たとえば、5 MBごとに分割するように選択すると、すべての出力ファイルは5 MB以下になります。

メタデータで分割

入力ファイルを特定の条件を満たすメタデータに基づいて分割するには、**[メタデータで分割]** ラジオボタンを選択し、以下の操作を行います。

1. **[メタデータキーの選択]** ドロップダウンリストを使用して、条件として使用するメタデータを選択します。

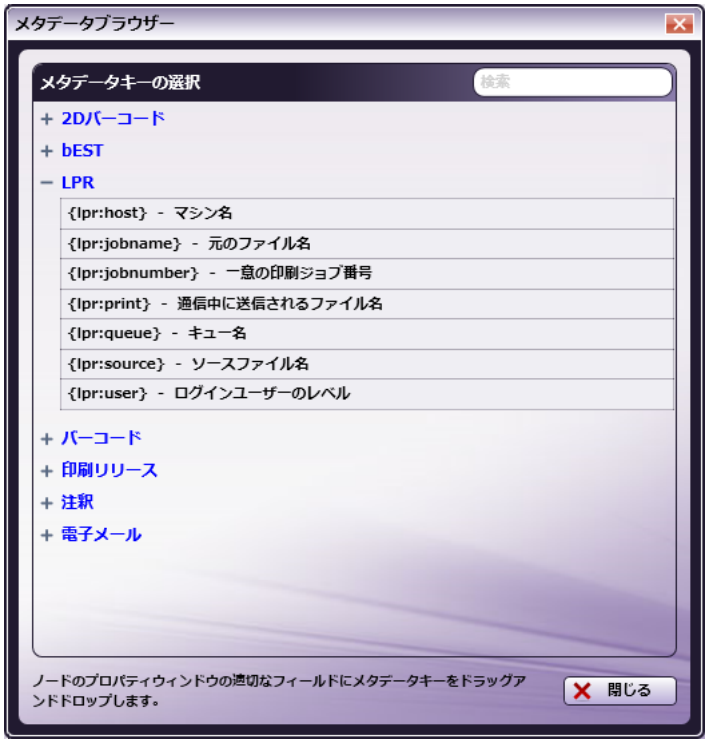
   注: 日付、ファイル、またはファイルシステム動的変数に基づくファイルの分割はできないため、それらの変数は表示されません。
2. **[条件]** ドロップダウンリストと **[メタデータ値]** 入力フィールドを使用して、条件とメタデータ値を指定します。**[大文字と小文字を区別]** チェックボックスを使用して、入力したメタデータ値の大文字と小文字を区別するかどうかを指定します。
3. **[区切りページの削除]** ボックスにチェックマークを付けて、分割をトリガーしたページを削除します。これはオプションのステップです。

完了したら、**[+]アイコン** をクリックして条件を追加したり、**[X]アイコン** をクリックして条件を削除したりできます。

ステップ #1: メタデータの選択

ドキュメントに関連付けられている任意のメタデータをワークフローで使用できます。**[メタデータキーの選択]** ボタンをクリックすると、メタデータブラウザーが開き、使用できるすべてのメタデータが種類ごとに分類されて表示されます。たとえば、以前に高度なOCRノードでゾーンを作成した場合、そのゾーンがポップアップウィンドウの[OCR]見出しの下に表示されます。メタデータブラウザーでは、以下の操作を行うことができます。

- ***リストを展開*** するには、目的のメタデータの横にある **[+]** 記号をクリックします。たとえば、LPRメタデータを表示する場合は、LPRの横にある **[+]** 記号をクリックすると、次のような展開可能なリストが表示されます。



- ***リストを折りたたむ*** には、該当するメタデータの横にある[-]記号をクリックします。
- メタデータをクリックして **[選択]** ボタンをクリックすることによって、***分割トリガーとして使用するメタデータを選択します*** 。この時点でメタデータブラウザーは閉じ、[分割]ウィンドウに戻ります。
- ウィンドウの右側にある空の検索フィールドに目的のテキスト文字列を入力して、***メタデータを検索*** します 。

ステップ #2: 条件と値の定義

次に、**[条件]** ドロップダウンリストから目的のオプションを選択できます。オプションは、[次の値である]、[次の値を含む]、[正規表現]、および[存在する]です。**[存在する]** を選択した場合、[メタデータ値]フィールドが非表示になります。それ以外の場合は、**[メタデータ値]** フィールドに目的の値を入力します。次の図では、番号に「195」が含まれている請求書を検出するたびにドキュメントを分割するというルールが設定されています。

ステップ #3: 区切りページの削除

オプションとして、指定されたルールに適合し、ファイルの分割に使用されたバーコードや他のメタデータを含む区切りページの削除を選択できます。このオプションは、たとえば、すべてのバーコード区切りシートを削除する際に役立ちます。以下の操作を行います。

- **[区切りページの削除]** ボックスにチェックマークを付けます。
- 両面印刷ページに対応するには、**[区切り後の次のページを削除]** ボックスにチェックマークを付けます。
- ページの削除を指定するときに、そのページと関連するメタデータを保持しておきたい場合があります（たとえば、分割をトリガーしたバーコードをワークフロー内で後から参照したい場合など）。この場合は、**[削除されたページに関連付けられているメタデータを保持]** ボックスにチェックマークを付けます。メタデータが参照したページは出力ドキュメント内から存在しなくなるため、このメタデータは、ドキュメントレベルを意味するページ番号「0」を使用して参照できます。

分割メタデータ

ワークフロー内で分割ノードを定義すると、ワークフロー内の他のノードが参照できるようになります。分割メタデータキーは、[メタデータブラウザー]ウィンドウを使用して選択できます。分割メタデータには、以下が含まれています。

- {split:errors} - 入力文書の処理中に検出された回復可能エラーの数。以下のエラーは「回復可能」と見なされます。
- **[メタデータで分割]** を **[区切りページの削除]** オプションと一緒に指定すると、0ページのドキュメントになります（たとえば、ワークフローはバーコードカバーシートに基づいて分割してもユーザーは2つのシートを双方向でスキャンする、またはカバーシートが最終ページであるなどです）。
- **[サイズで分割]** は、この要件を満たすことができません（たとえば、1ページのドキュメントに分割した後にも、ファイルはターゲットページサイズより大きくなります）。

処理中にエラーを検出しない場合には、{split:errors}メタデータは出力ファイルに追加されません。

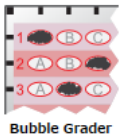
- {split:from} - 新しいドキュメントの最初のページとして使用される入力ファイルのページ番号。

- {split:id} - 出力ドキュメントのインデックス（たとえば、「2/5」の「2」がこれに該当します）。
- {split:input.ext} - 入力ファイルの拡張子（最後のピリオドを先頭として、末尾までの範囲）。
- {split:input.fullname} - 入力ファイルの名前と拡張子。
- {split:input.name} - 入力ファイルの名前（最後のピリオドの直前までで、ファイル拡張子は含みません）。
- {split:input.size} - 入力ファイルのサイズ（バイト）。
- {split:to} - 新しいドキュメントの最終ページとして使用される入力ファイルのページ番号。
- {split:total} - 入力ファイルの分割によって生成されたファイルの数（たとえば、「2/5」の「5」がこれに該当します）。Dispatcher Phoenixがすべてのファイルを一度に（「グループとして」）収集するように設定されている場合、合計値は、グループ当たりの合計ファイル数の値になります。たとえば、10ページで構成される5つのファイルを1ページごとに分割するように設定すると、分割により50ファイルが出力されますが、{split:total}は50ファイルすべてに対して10になります。
- {split:unmodified} - このメタデータのキーは、入力ファイルが変更されていない（分割が実行されなかった）場合にのみ存在します。

重要! 致命的エラー（発生すると分割ノードが入力ファイルを出力することになる）によって、入力ファイルに分割メタデータが追加されることはありません（たとえば、ファイルフォーマットがサポートされていない場合など。）。

採点

Bubble Grader



Bubble Grader処理は、幼稚園から高校生、短大、および大学の教育者または管理者のためのテストの採点、および評価全般のソリューションの一部です。Bubble Grader処理を使用すると、OMRマークシートの採点が自動的に行われ、レポートが生成されます。

注:

- このノードは、Bubble Sheet Generatorツールによって作成されたテスト集および解答集を使用した場合のみ機能します。
- このノードはTIFFファイル形式およびPDFファイル形式のみサポートします。以下のPDF圧縮方法はサポートされません。
  - CCITTFaxDecode
  - JBIG2Decode
  - JPXDecode
  - Crypt
- 完了すると、テストパケットは。
  - 正解キー
  - オプションの重み付けシート
  - および生徒の解答シートの順になります

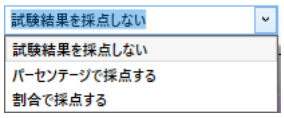
Bubble Graderノード ウィンドウを開くには、**Bubble Grader** 処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。

次の操作を行います。

1. 処理が実行されるようにするには、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（例: 既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してくださ

い。

2. **[ノード名]** フィールドに、Bubble Graderノードのわかりやすい名前を入力します。
3. **[説明]** フィールドに、Bubble Graderノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、処理を区別する場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
4. **[出力設定]** 領域で、出力するファイルを選択します。オプションは次のとおりです。
    - **[元のファイルを出力]** - 採点されたテストと共に元のファイルも出力するにはこのボックスを有効にしてください。
    - **[テストIDの適用]** - 先生が正しいグループのテストを収集したことを確認する場合、このボックスを有効にしてください。有効になっている場合、処理および採点を行うためには、解答用紙のテストIDが解答集のテストIDと一致している必要があります。また、解答用紙にリストされているテストIDが解答集のテストIDと一致しない場合、処理は行われません。
    - **[採点された解答用紙を出力]** - 採点されたテストを出力するにはこのボックスを有効にしてください。
    - **[試験結果を採点]** - このドロップダウンで、生徒の各解答用紙にテストの得点を表示することができます。



        - **[試験結果を採点しない]** - 印刷された生徒用解答用紙に試験の得点を表示しないことを選択した場合の規定の設定です。
        - **[パーセンテージで採点する]** - このオプションを使用すると、生徒の解答用紙に試験の得点をパーセントで表示できます。
        - **[割合で採点する]** - このオプションを使用すると、生徒の解答用紙に試験の得点を割合の形式で表示できます。
5. **[レポート設定]** 領域で、生成するレポートおよびそのファイル形式を選択します。オプションは次のとおりです。
    - 総合テストレポート（PDFのみ）
    - 項目分析レポート（CSVまたはExcel 2003 XML）
    - 生徒の解答レポート（CSVまたはExcel 2003 XML）
    - テストの概要統計レポート（CSVまたはExcel 2003 XML）
6. **[Bubble Sheet Generatorの起動]** ボタンを選択し、解答集および解答用紙を作成します。

テストの要件

生徒用解答用紙に記入するとき、受験者は以下のことに注意する必要があります。

- 黒または青のボールペンまたはHBの鉛筆を使用してマークを完全に塗りつぶします。
- マークを部分的に塗りつぶさないようにしてください。マークの中央を塗り残さないでください。
- 1つの問題に1つのマークのみマークしてください。
- マークは指定のスペースにのみ行います。解答用紙のその他の領域には何も書き込まないでください。
- 解答を変更した場合は完全に消去します。

採点されたテスト

Bubble Graderは、以下のように生徒用解答用紙を自動的に採点します。

- **正解** は、緑色の丸で囲まれます。次の図では、生徒はEと解答し正解でした。

- **不正解** は、赤の ☑ でマークされ、正しい答えが赤の丸で囲まれます。次の図では、生徒はEと解答し、不正解でした。正解はCでした。

- **試験の成績** は、以下の図のようにページの右上隅にパーセント、または、割合として表示できます。

生成されるレポート

Bubble Graderは以下のレポートを生成できます。

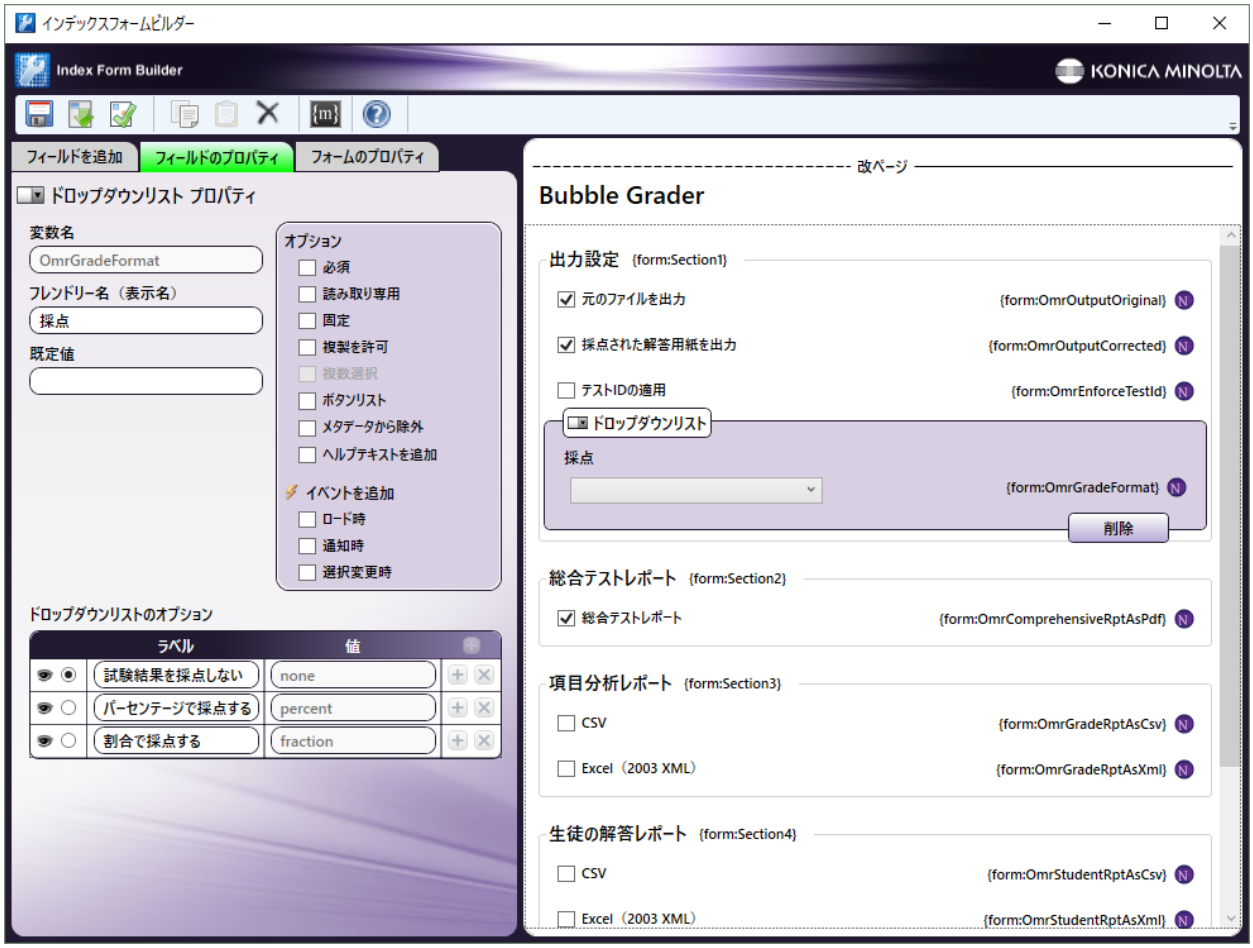
- **総合テストレポート** - このレポートは、すべてのデータを総合PDFレポートに組み込みます。
- **項目分析レポート** - このレポートは、各項目の詳細を提供し、また、生徒がそれぞれの問題に対して正解した頻度/パーセントおよび不正解した頻度/パーセントを提供します。
- **生徒の解答レポート** - このレポートは、それぞれの問題に対する個々の生徒の解答に関するデータを提供します。
- **テストの概要統計レポート** - この概要レポートは、クラス全体としてテストの採点に関する基本的な統計を提供します。統計には、平均値、中央値、標準偏差、および範囲が含まれます。

Bubble Graderのインデックスフォームの作成

Bubble Grader処理は自動実行するように設定できます。または、Bubble Graderのインデックスフォームを作成して、複合機ユーザーが複合機で直接Bubble Graderの設定を指定できます。Bubble Graderのインデックスフォームを作成するには、以下の操作を行います。

1. **複合機パネル** ノードをワークフローに追加します。
2. **複合機パネル** ノードをダブルクリックし、このノードのプロパティウィンドウを開きます。
3. **[インデックスフォームの添付]** ボタンをチェックします。次に **[+]** アイコンをクリックして新しいインデックスフォームを作成します。
4. [新規インデックスフォームの作成]ウィンドウで、**[空白のインデックスフォーム]** ボタンを選択します。
5. 次の図のように、[インデックスフォームビルダー]ウィンドウの左下に **[Bubble Grader]** のボタンが表示されます。

6. **[Bubble Grader]** ボタンを[インデックスフォームビルダー]ウィンドウのキャンバス領域にドラッグアンドドロップします。[Bubble Grader]フィールドが自動的に作成され、複合機ユーザーはBubble Graderの設定を指定できます。例については次の図を参照してください。



Bubble Graderのメタデータ

Bubble Grader処理は以下のメタデータを出力します。

ドキュメントレベル

ドキュメントレベルのメタデータは、Bubble Grader処理が「通常」遷移のままのすべてのドキュメントに追加されます。

- {omr:questions} - 採点された質問数
- {omr:students} - 採点されたテスト数
- {omr:teacher} - 教師ID（設定されている場合）
- {omr:test} - 解答集のテストID（設定されている場合）
- {omr:course} - 解答集のコースコード（設定されている場合）
- {omr:total_points} - テストの合計点数
- {omr:stats.max} - 最高点スコア（採点するテスト数が1以上の場合）
- {omr:stats.min} - 最小点スコア（採点するテスト数が1以上の場合）
- {omr:stats.mean.raw} - 平均点スコア（採点するテスト数が1以上の場合）
- {omr:stats.mean.percent} - 平均点のパーセントスコア（採点するテスト数が1以上の場合）
- {omr:stats.range} - スコアの範囲（採点するテスト数が1以上の場合）
- {omr:stats.deviation} - 標準偏差（採点するテスト数が1以上の場合）
- {omr:stats.variance} - 分散範囲（採点するテスト数が1以上の場合）

ページレベル

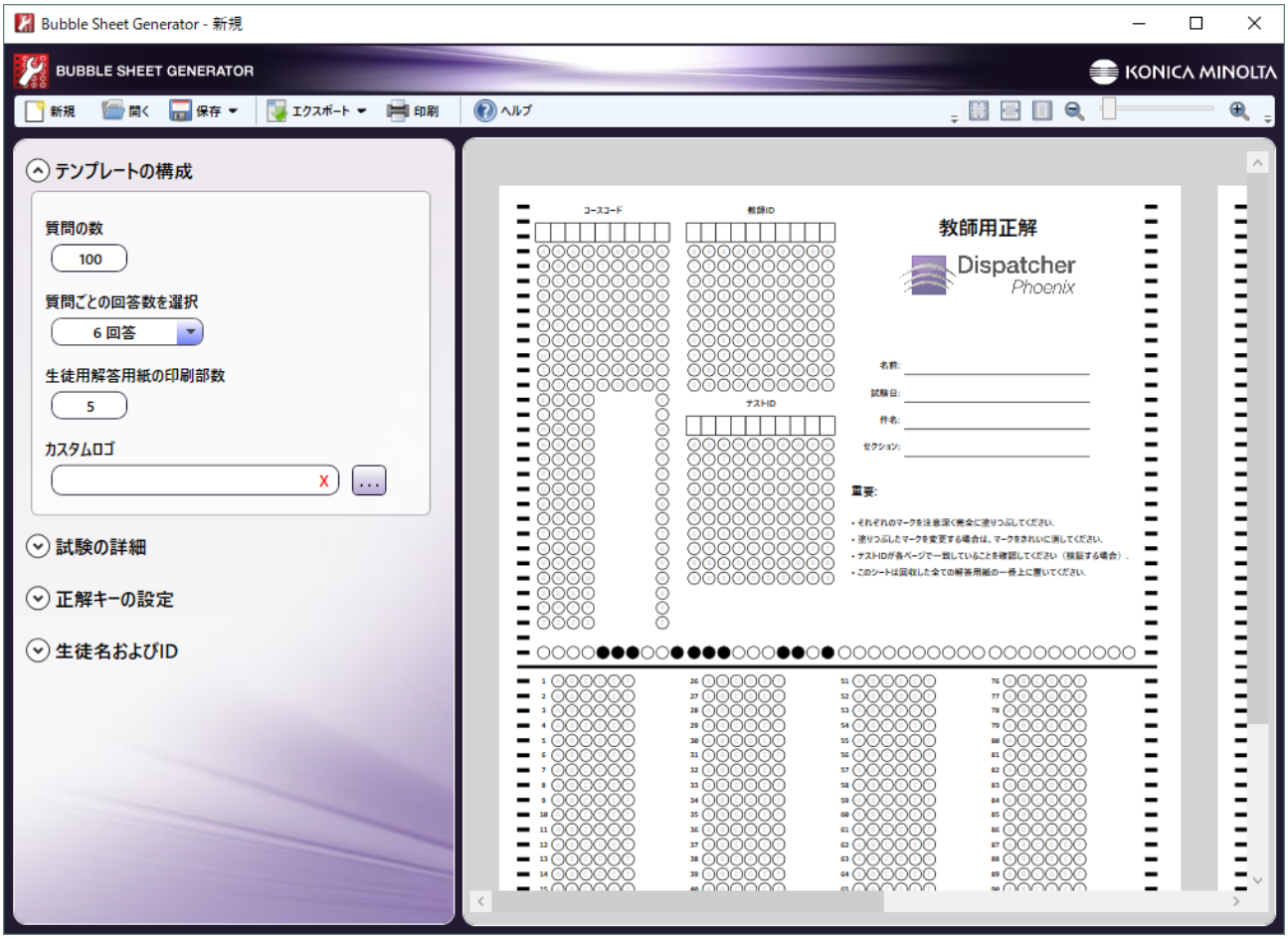
出力される生徒のテストシートに生徒固有のメタデータが追加されます。

- {omr:student.correct[page]} - 合計
- {omr:student.grade[page]} - パーセント（パーセント記号なし）

- {omr:student.id[page]} - 生徒ID（設定されている場合）
- {omr:student.first_name[page]} - 名前（設定されている場合）
- {omr:student.last_name[page]} - 姓（設定されている場合）
- {omr:student.unanswered} - 解答されなかった問題（採点するテスト数が1以上の場合）

デスクトップ Bubble Sheet Generator

Bubble Sheet Generator は、マークシートの解答集および生徒用解答用紙を生成して自動採点およびレポート生成を行うためのツールです。



Bubble Sheet Generatorツールを使って、次の操作ができます。

- 質問の数と質問ごとの回答数をカスタマイズ。
- 出力する生徒用解答用紙の数の設定。
- マークシートをロゴでカスタマイズ。
- カスタマイズしたテンプレートを保存。
- カスタマイズしたテンプレートをTIFF、PDF、またはXPS形式でエクスポート。
- カスタマイズしたテンプレートを印刷。
- コースおよび教師の詳細を含むバブルシートテストを構成。
- 正解キーの記入。
- 個別の名前とIDを使用して生徒用解答用紙をカスタマイズ。

注: 実施した変更のほとんどは、プレビュー領域に自動的に反映されます。

Bubble Sheet Generatorへのアクセス

このツールは、以下の場所からアクセスできます。

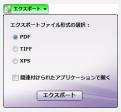
- Windowsのスタートメニュー（KONICA MINOLTA/Dispatcher Phoenixフォルダーの下にリストされます）。
- Dispatcher Phoenixのメインアプリケーション画面の [**ツール**] メニュー。
- Bubble Grader処理ノードのプロパティウィンドウ。

- **SEC Webサイト**。

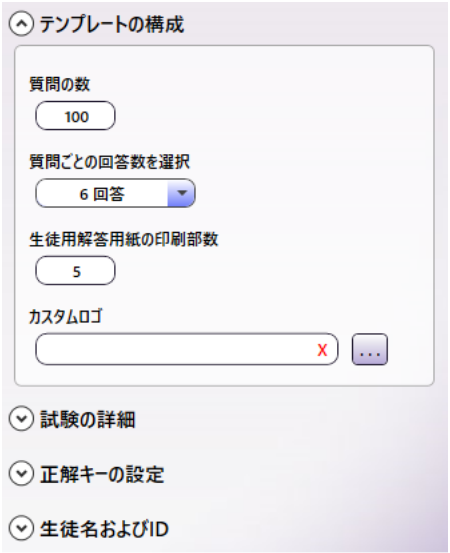
さらに、保存されたBubble Sheet Generatorファイル(*.bgtx)をダブルクリックすると、Bubble Sheet Generatorツールを開くことができます。

ツールバーの使用

ツールバーのメニュー項目とアイコンは、解答キーと生徒の解答用紙を生成するときに役立ちます。

ツールバーアイコン	説明
新規	新しいテンプレートの作成を開始します。
開く	Bubble Sheet Generatorによってすでに生成されて保存されている既存のマークシートファイルを開きます。
保存	**[保存]** または **[名前を付けて保存]** コマンドを使用してマークシートのテンプレートを保存します。マークシートはマークシートパッケージファイル(*.bgtx)として保存されます。このファイルをダブルクリックしてBubble Sheet Generatorを自動的に開くことができます。
	マークシートの解答集および生徒用解答用紙をPDF、TIFF、またはXPSのファイルにエクスポートします。**[関連付けられたアプリケーションで開く]** ボックスをチェックすることによって、エクスポートが完了した後に、エクスポートしたファイルに関連付けられたアプリケーションでそのファイルを自動的に開くことも選択できます。ファイル形式を指定したら、**[エクスポート]** ボタンを選択します。
印刷	マークシートの解答集および生徒用解答用紙を印刷します。
ヘルプ	Bubble Sheet Generatorに関するオンラインヘルプ情報を開きます。
	プレビューのサンプルドキュメントを実際のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[プレビュー]領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを拡大するには、このアイコンをクリックします。
	[プレビュー]領域の高さにプレビュードキュメントの高さを合わせるには、このアイコンをクリックします。
	[ズーム] イン/アウトします(虫眼鏡のアイコンまたはスライドバーを使用)。マウスホイールを使用してズームインおよびズームアウトすることもできます。

テンプレートの構成



[テンプレートの構成]。

- **[質問の数]** フィールドにマークシートの質問数を入力します。

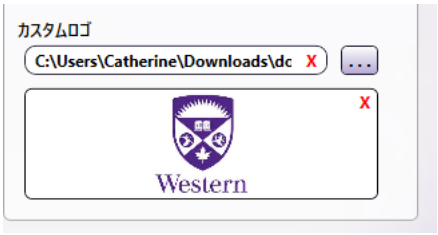
  注: 質問の最小数は1で質問の最大数は200です。

- **[質問ごとの回答数を選択]** ドロップダウンリストを使用して1質問あたりの回答数を選択します。

  注: 質問ごとの回答の最大数は6です。質問が150件を超える場合は、質問ごとに最大4回答のみを選択できます。

- **[生徒用解答用紙の印刷部数]** フィールドに印刷する生徒用解答用紙の数を入力します。
- 解答キーとDispatcher Phoenixのロゴ付きの生徒用解答用紙をカスタマイズしてロゴを置き換えるには以下のいずれかを行います。
  - **[カスタムロゴ]** フィールドのとなりの **[ロゴの選択]** ボタンをクリックします。Windows エクスプローラーウィンドウが開き、使用するロゴイメージを参照して選択することができます。
  - **[カスタムロゴ]** フィールドに画像のURLを貼り付けます。

カスタムロゴを指定すると、次の図のようにプレビュー領域および **[カスタムロゴ]** フィールドの下にそのイメージが表示されます。



試験の詳細

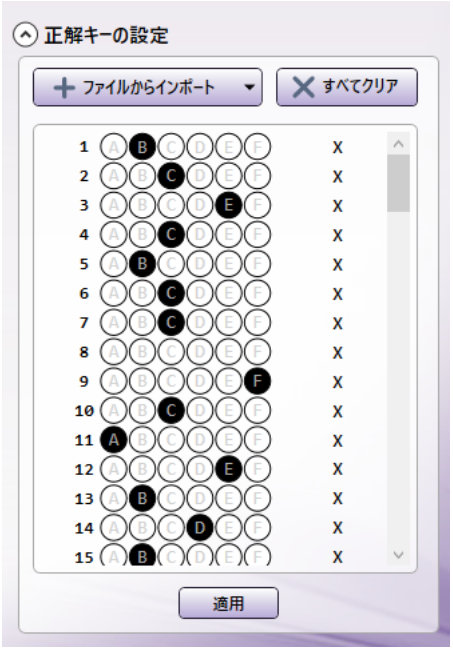
[試験の詳細] の横にある下矢印をクリックすると、次の図のように追加のフィールドが表示され、解答集をカスタマイズすることができます。

次の操作ができます。

- **[コースコード]** フィールドに、コースコードを入力します。これは解答集および生徒用解答用紙に追加されます。
- **[教師ID]** フィールドに、先生のIDを入力します。これは解答集に追加されます。
- **[テストID]** フィールドに、テストのIDを入力します。これは解答集および生徒用解答用紙に追加されます。
- **[講師名]** フィールドに、テストを出題者の先生/教授の名前を入力します。これは解答集および生徒用解答用紙に追加されます。
- **[試験日]** フィールドに、試験日を指定します。これは解答集および生徒用解答用紙に追加されます。カレンダーのアイコンを使用し、カレンダーをポップアップ表示して日付を簡単に選択できます。
- **[件名]** フィールドに、テストの件名を入力します。これは解答集に追加されます。
- **[セクション]** フィールドに、必要に応じてクラス分けを入力します。これは解答集に追加されます。

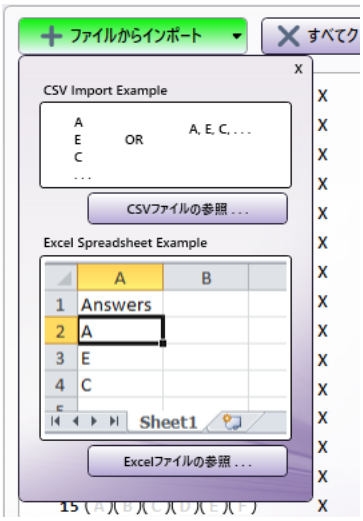
正解キーの設定

[正解キーの設定] の横にある下矢印をクリックすると、次の図のように追加のフィールドが表示され、解答集に正しい答えを記入できます。



次のいずれかの操作を行います。

- マウスを使用して、リスト内の正しい番号のマークをクリックします。マークをクリックすると自動的に塗りつぶされます。選択をクリアするには、該当行の ☑ ボタンをクリックします。選択を完了したら **[適用]** ボタンを選択します。プレビュー領域の解答集に変更が反映されます。
- **[ファイルからインポート]** ボタンを選択して、正しい答えのリストを含むCSVファイルまたはExcelファイルをインポートします。次のドロップダウンパレットが表示されます。



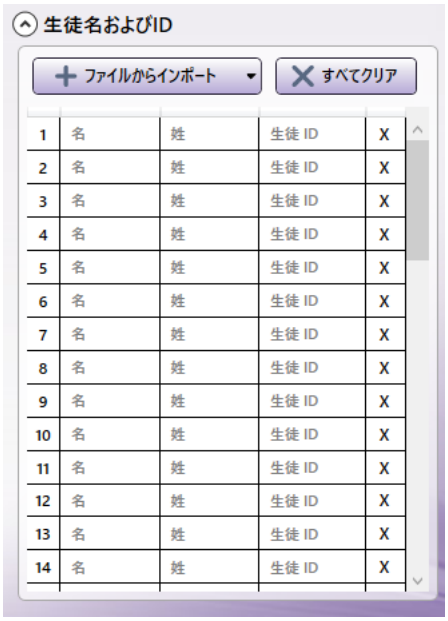
  - **[CSVファイルの参照]** ボタンまたは **[Excelファイルの参照]** ボタンを選択して、正しいファイルを探します。インポートする正しいファイルを選択したら、正しい答えがドロップダウンパレットに自動的に反映されます。完了したら **[適用]** ボタンを選択してください。プレビュー領域の解答集にこの変更が反映されます。

    注: ファイルからインポートされたデータで、処理できないコンテンツは取り除かれます。例えば、ExcelまたはCSVファイルの行に複数の文字がある場合、解答シートの行全体は空白のままになります。

- 行ったすべての選択をクリアするには、**[すべてクリア]** ボタンを選択します。

生徒名およびID

[生徒名およびID] の横にある下矢印をクリックすると、次の図のように追加のフィールドが表示され、生徒用解答用紙をカスタマイズできます。

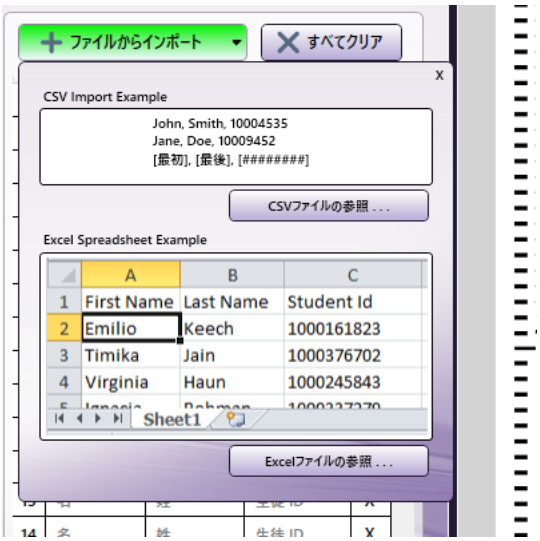


ここで入力したすべての情報は、解答用紙を印刷またはエクスポートしたときのみ、生徒用解答用紙に表示されます。

注: これらのフィールドは英数字のみを受け入れます。

次のいずれかの操作を行います。

- マウスを使用して、生徒用解答用紙それぞれに生徒の名前、姓、およびIDを入力します。情報をクリアするには、該当する行の ボタンをクリックします。
- **[ファイルからインポート]** ボタンを選択して、生徒名およびIDのリストを含むCSVファイルまたはExcelファイルをインポートします。次のドロップダウンパレットが表示されます。



  - **[CSVファイルの参照]** ボタンまたは **[Excelファイルの参照]** ボタンを選択して、正しいファイルを探します。インポートする正しいファイルを選択したら、生徒の情報がドロップダウンパレットに反映されます。

  注: ファイルからインポートされたデータで、処理できないコンテンツは取り除かれます。例えば、ファイルに生徒名に「h3i」が含まれている場合、「hi」だけが取り込まれます。

- 行ったすべての選択をクリアするには、**[すべてクリア]** ボタンを選択します。

DP Web Bubble Sheet Generator

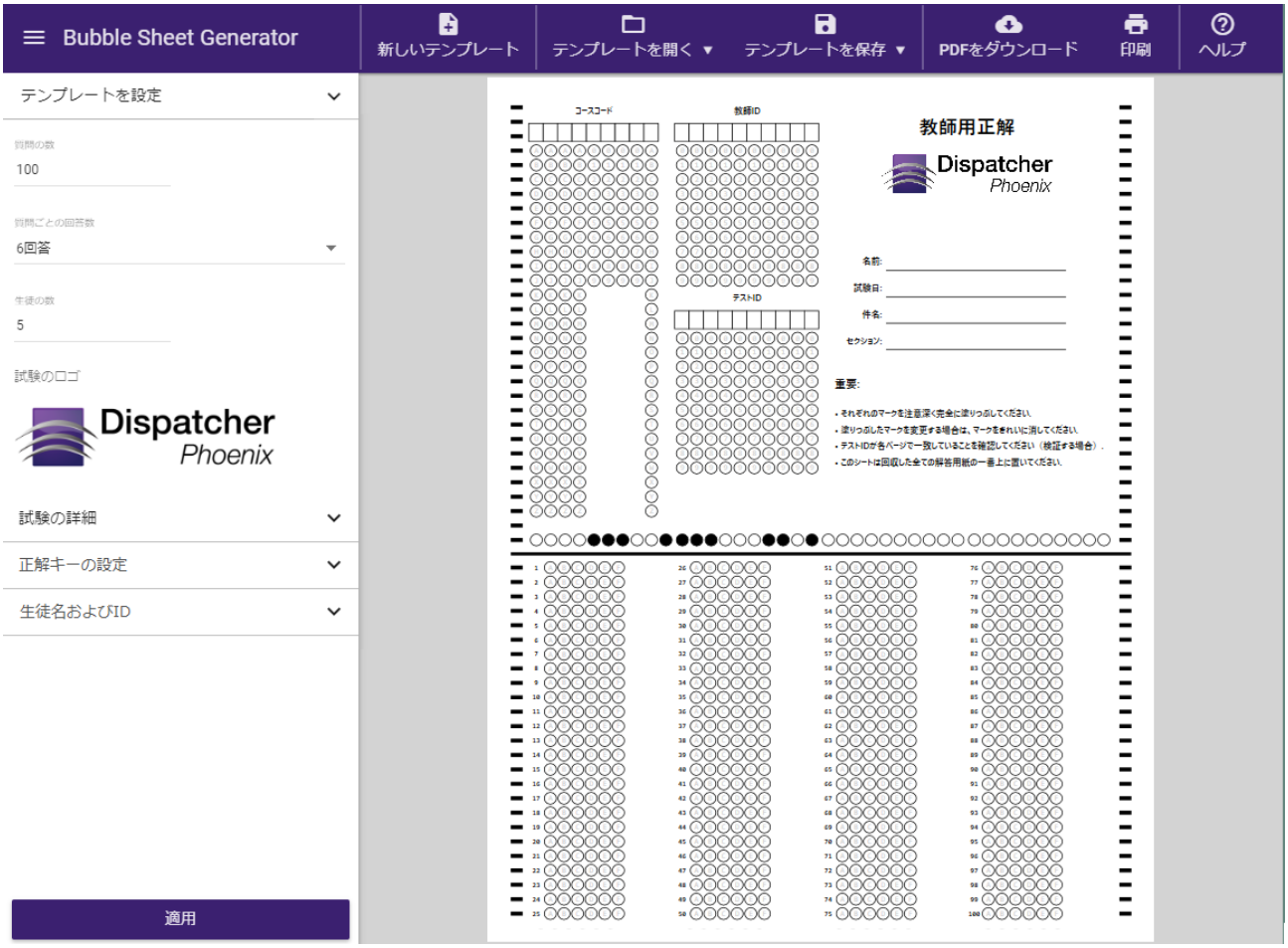
Dispatcher Phoenix Web **Bubble Sheet Generator** は、マークシート正解用紙と生徒用解答用紙を作成して、自動採点とレポート生成を行うためのオンライン版スタンドアロンクライアントアプリケーションです。Webバージョンでは、有効なDispatcher Phoenix Webライセンス（Education アドオンライセンスが必要）を使用して、Dispatcher Phoenix Webにログインすることにより、任意のコンピューターからいつでもソフトウェアにアクセスできます。

Bubble Sheet Generatorを使用すると、次の操作が可能になります。

- 質問数と質問ごとの回答数をカスタマイズ。
- 印刷する生徒用解答用紙の数を設定する。

- マークシートをロゴでカスタマイズ。
- カスタマイズされたテンプレートをWebに保存、または、PDFとしてダウンロード。
- 保存されたテンプレートを開く。
- テンプレートのインポートとエクスポート。
- 教師用正解と生徒の名前とIDをインポート。
- カスタマイズしたテンプレートを印刷。
- コースおよび教師の詳細を含むマークシートテストを構成。
- 正解キーを記入。
- 個別の名前とIDを使用して生徒用解答用紙をカスタマイズ。
- 既存の姓と名のフィールドを1つのフィールドにまとめる。
- 個々の質問に重み付けポイント値を割り当てる。
- 質問ごとに複数の正解を許可する。

  注: 表示された変更は、[適用]ボタンをクリックするとプレビュー領域に自動的に反映されます。



Bubble Sheet Generatorへのアクセス

Bubble Sheet Generator ツール はDispatcher Phoenix EducationライセンスのDispatcher Phoenix Webで提供されています。

- Bubble Sheet Generatorアプリケーションにアクセスするには、次の図に示すように、Dispatcher Phoenix Webのホームページの Bubble Sheet Generatorを選択します。

ツールバーの使用

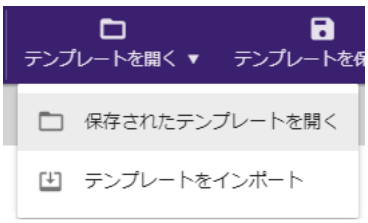
テンプレートを管理するために必要なものはすべて **Bubble Sheet Generator ツールバー** にあります。

新しいテンプレート:

Bubble Sheet Generatorの既定の設定にマークシートテンプレートがリセットされ、テンプレートの現在の状態がクリアされます。

テンプレートを開く:

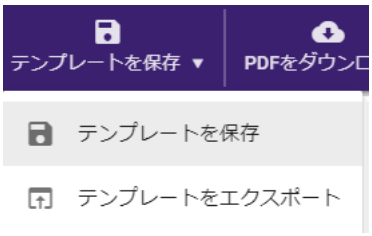
次の図に示すように、ドロップダウンメニューには、保存されたテンプレートを開くか、またはインポートするかのオプションが表示されます。



- **[保存されたテンプレートを開く]:** Bubble Sheet Generatorによって既に生成され保存されている既存のマークシートファイルを開いて、必要に応じて変更、または使用できるようにします。
- **[テンプレートをインポート]:** インポートするエクスポート済ファイルを選択できます。

テンプレートを保存:

次の図に示すように、ドロップダウンメニューが表示され、テンプレートを保存するか、またはテンプレートを.bgtxファイルとしてエクスポートするかのオプションが表示されます。



- **[テンプレートを保存]:** Dispatcher PhoenixのWebストレージに作業を保存することができます。.bgtxファイルをエクスポートするのとは異なり、保存されたテンプレートはローカルコンピュータにはダウンロードされません。保存されたテンプレートは、**Bubble Sheet Generator** を使用する任意のコンピューターのアカウントからアクセスできます。このオプションを使用すると、既存のテンプレートを上書きするか、新しいテンプレートを保存することもできます。
- **[テンプレートをエクスポート]:** テンプレート(.bgtxファイル)をコンピュータに保存することができます。

- **[テンプレートを別名で保存]:** これは、現在のテンプレートがすでに保存またはインポートされている場合にのみ使用できます。このオプションを選択すると、次の図に示すように新しいテンプレート名を入力するよう求められます。

- 名前が有効な場合、DP Web ストレージに保存され、.bgtxファイルをアップロードすることなく以前に保存したテンプレートにアクセスして開くことができます。

PDFをダウンロード:

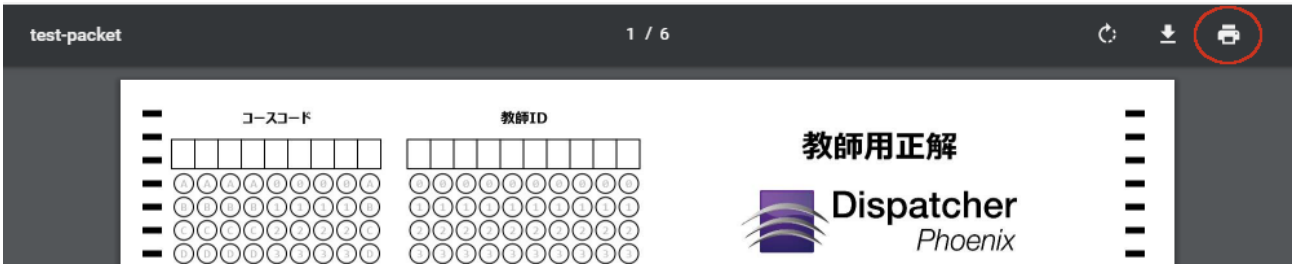
あとから使用/印刷するために、現在開いているテンプレートをPDFファイルとしてダウンロードします。

注: テンプレートをエクスポートするかPDFをダウンロードする場合、ダウンロードする前にファイルを保存する場所を尋ねるようにブラウザーを設定していない場合、ファイルは自動的に"ダウンロード"フォルダーにダウンロードされます。

印刷:

マークシート正解用紙と生徒用解答用紙を印刷することができます。

注: WebブラウザーでDP Webのポップアップが許可されていない場合は、印刷可能なテストパケットが現在のブラウザータブに表示されます。また、印刷ダイアログが自動的に表示されない場合は、下の図に示すように、印刷プレビューウィンドウのヘッダーにあるプリンターアイコンをクリックしてください。

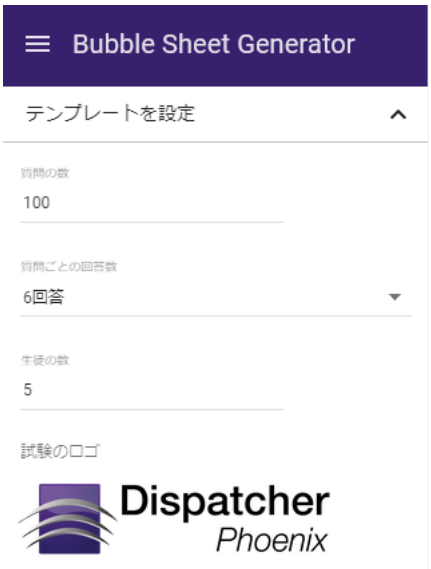


ヘルプ:

Bubble Sheet Generatorに関するオンラインヘルプ情報を開きます。

テンプレートを設定する

[テンプレートを設定] をクリックすると、テストテンプレートをデザインするための追加フィールドが表示されます。



- **[質問の数]** フィールドに、マークシートの質問数を入力します。

  注: 最小質問数は1で、最大質問数は200です。

- **[質問ごとの回答数]** フィールドでは、ドロップダウンリストを使用して質問ごとの回答数を選択します。

  注: 150を超える質問がある場合は、質問ごとに最大4つの回答のみを選択できます。

- **[生徒の数]** フィールドでは、印刷したい生徒の解答シートの数を入力します。

  注: 最大50名の生徒のみを入力することができます。

- **[試験のロゴ]** セクションでは、独自のカスタム画像をアップロードすることができます。Dispatcher Phoenixロゴの上にマウスを置いて、編集アイコンを選択して画像に移動します。

- 既存のロゴを削除するには、**[試験のロゴ]** セクションにカーソルを置き、**[X（試験のロゴをリセット）]** アイコンをクリックします（次の図を参照）。

- カスタムロゴをアップロードすると、画像はプレビュー領域と **[試験のロゴ]** セクションに表示されます。

試験の詳細

[試験の詳細] をクリックすると、次の図のように正解キーをカスタマイズできる追加のフィールドが表示されます。

ここでは次のことができます。

- **[コースコード]** フィールドに、コースコードを入力します。これは、教師用正解用紙と生徒用解答用紙に追加されます。

  注: このフィールドは数字のみを受け入れます。

- **[教師 ID]** フィールドで、教師のIDを入力します。これは教師用正解用紙に追加されます。
  - テスト IDフィールドの隣にある **[生成]** ボタンを使用すると、一意の識別子が必要な場合にテストIDを自動的に生成できますが、特定の番号体系は必要ありません。

    注: このフィールドは数字のみを受け入れます。

- **[テスト ID]** フィールドで、テストのIDを入力します。これは、教師用正解用紙と生徒用解答用紙に追加されます。

  注: このフィールドは数字のみを受け入れます。

- **[講師名]** フィールドに、テストを行っている教師/教授の名前を入力します。これは教師用正解用紙と生徒用解答用紙に追加されます。

- **[試験日]** フィールドに、試験の日付を指定します。これは、教師用正解用紙と生徒用解答用紙に追加されます。カレンダーのアイコンを使用すると、カレンダーの表示をポップアップして簡単に日付を選択することができます。
- **[件名]** フィールドに、試験の件名を入力します。これは、教師用正解用紙に追加されます。
- **[セクション]** フィールドに、必要に応じてクラスセクションを入力します。これは教師用正解用紙に追加されます。

正解キーを設定する

[正解キーの設定] をクリックすると、次の図のように、正しい解答を教師用正解用紙にマーク表示させるための追加フィールドが表示されます。

質問の重み付け

次の図に示すように、テストで特定の質問が他の質問よりも重要度が高い場合、教師はそれらの値の重みに対し、重み付けポイント値を割り当てることができます。

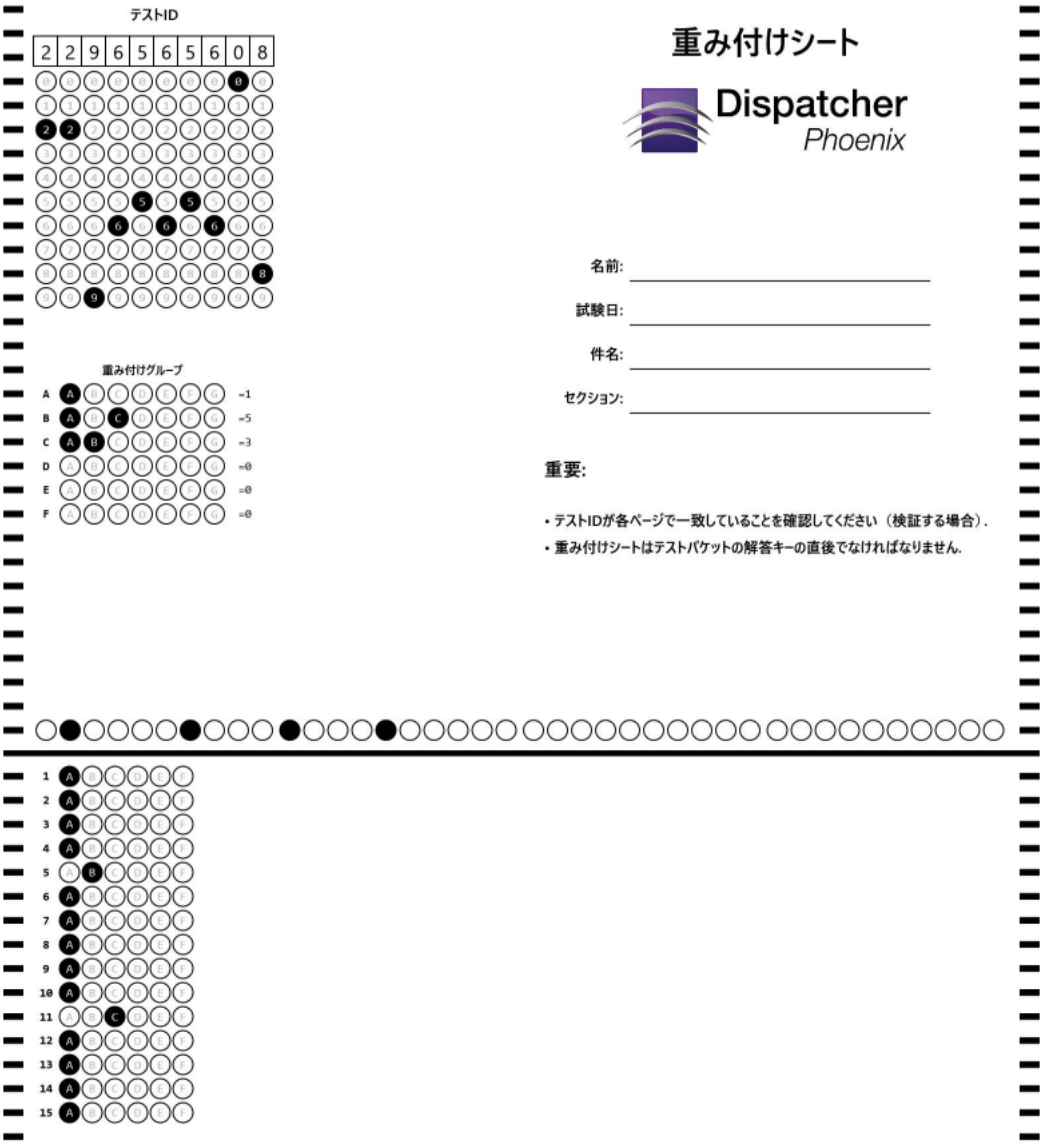
質問に重み付けを割り当てるには、次の手順に従います。

1. **[質問の重み付けを有効にする]** ボックスをチェックします。
2. 重み付けボックスが表示されると、すべての質問に既定のポイント値1が割り当てられます。
3. 1より高い重みを持つ、各質問のポイント値を入力します。

重み付けシート

重み付けシートは正解キーの拡張であり、質問に重み付けが割り当てられるとBubble Sheet Generatorによって自動的に生成されます。重み付けシートは、ポイントグループを使用して質問にポイント値を割り当てます。これは正解キーと一緒に、Dispatcher Phoenixによるテストの評価に使用されます。

- テストの質問に割り当てられた各ポイント値は、ポイントグループに割り当てられます。次に、そのポイント番号を使用している各質問がそのポイントグループに割り当てられます。
- そのグループに相当するA-Fのラベルが付けられた各質問にポイントが割り当てられます。各重み付けグループには7つのマークがあり、各マークには正しいポイント値になるように値が割り当てられています。マーク値は、A=1、B=2、C=4、D=8、E=16、F=32、およびG=64です。例えば、重み付けグループに値5が割り当てられると、マークAとCが選択されます（マークA=1ポイント、マークC=4ポイント、合計5の値になります）。重み付けグループに割り当てることができる最大値は100です。
- 重み付けシートあたりのグループ数は、以下のように制限されています。
    - 150問、またはそれ以下の6つのグループ。
    - 151問、またはそれ以上の質問に対する4つのグループ。
- すべての重み付け値に対応するのに十分なグループが単一の重み付けシートに存在しない場合、追加の重み付けシートが作成されます。Bubble Sheet Generatorは、入力されたさまざまな重み付け数に対応するために必要な重み付けシートの数を自動的に生成します。各試験の重み付けシートの最大数は15です。
- 次の図は、15の質問と3つの重み付けグループを使用した重み付けシートの例です。重み付けグループAの値は1、重み付けグループBの値は5、重み付けグループCの値は3です。重み付けグループD-Fは使用されません。2を除くすべての質問は、重み付け値が1である重み付けグループAに割り当てられているため、重み付け値は1です。例外は、質問4（重み付けグループBに割り当てられ値は5）および質問11（重み付けグループCに割り当てられ値は3）です。



正解の割り当て

- 正解を割り当てるには、その質問に関連する正しいマーク文字をクリックします。選択を解除するには、特定の行の ☑ ボタンをクリックします。選択が完了したら、**[適用]** ボタンをクリックします。プレビュー領域の正解キーには、変更内容が反映されます。
- **[インポート]** ボタンをクリックして、正しい解答のリストを含むCSVまたはExcel(.xlsx)ファイルをインポートします。Windowsファイルエクスプローラーのポップアップウィンドウが開き、教師用正解キーのインポートファイルを選択します。
  - **[Excel]** - 列Aには、1行目に"Answers"という見出しの付いた正しい解答（単一または複数）が含まれている必要があります。
  - **[CSV]** - 1行目には"Answers"というヘッダーがあり、その後の各行に正しい解答が含まれている必要があります。
- すべての選択をクリアするには、**[すべてクリア]** ボタンをクリックします。

複数の回答

- 質問に複数の正解が含まれている場合は、**[各質問に対して複数の正解を許可する]** のチェックボックスをオンにします。次の図に示すように、マウスを使用して、その質問に関連付けられている可能性のあるすべての正しいマーク文字をクリックします。

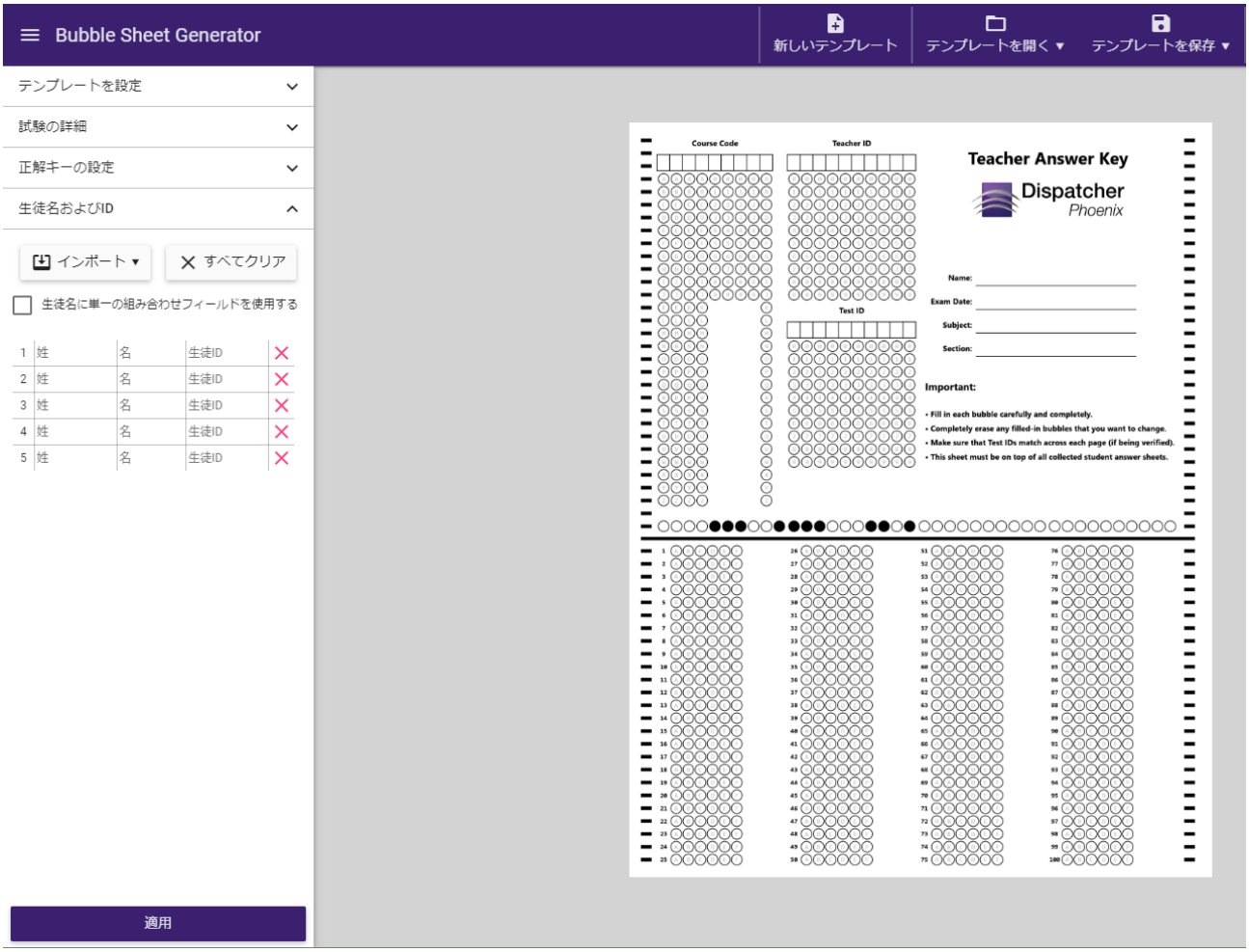
- **[インポート]** ボタンをクリックして、正しい解答のリストを含むCSVまたはExcel(.xlsx)ファイルをインポートします。Windowsファイルエクスプローラーのポップアップウィンドウが開き、教師用正解キーのインポートファイルを選択します。
    - **[Excel]** - 列Aには、1行目に[Answers]という見出しの付いた正しい解答（単一または複数）が含まれている必要があります。列Bには、1行目に[Weights]という見出しの付いた重み付け値が含まれている必要があります。
    - **[CSV]** - 1行目には[Answers]というヘッダーがあり、その後にカンマ(,)が続き、続いて[Weights]というヘッダーがスペースなしで続きます。それ以下の各行には、各質問に対する正しい解答と、続いてスペースなしで重み付けの値が含まれています。次の図は、複数の回答と重み付け値を含むCSVファイルを示しています。

```
Answers,Weights
AB,1
AC,1
D,1
BC,1
C,2
BD,2
B,2
AD,2
```

- **[すべてクリア]** ボタンで、入力したすべてのマークを簡単に消去して、新規に生徒用解答用紙を開始することができます。

生徒名およびID

[生徒名およびID]の横にある下向きの矢印をクリックすると、次の図のように、生徒の名、姓と生徒IDを含む生徒用解答用紙をカスタマイズすることができる追加のフィールドが表示されます。



- ここに入力された情報は、印刷またはエクスポートされた場合に限り、生徒用解答用紙に表示されます。
- 姓と名の間の区切りを省くには、**[生徒名に単一の組み合わせフィールドを使用する]** チェックボックスをオンにして、長い名前を持つ学生のためより多くの文字を提供する柔軟性を提供します。
  - 名前と姓を区別するために空白を使用します。
  - スペースなしで名前を1つだけ指定した場合、[姓]フィールドに保存されます。
- 各生徒用解答用紙に生徒の姓、名、およびIDを入力します。情報を消去するには、特定の行の ☑ ボタンをクリックするか、**[すべてクリア]** ボタンを選択してすべての生徒情報を消去します。
- 1番目と2番目のフィールドは、文字のみを受け入れ、最後のフィールドは、数値のみを受け付け入れます。
- **[インポート]** ボタンをクリックして、生徒の名前とIDのリストを含む **[Excel]** (.xlsx) ファイルをインポートし、次のフォーマット規則を適用します。
  - 姓と名の区切り
    - 最初の行には、列Aに[First]ヘッダー、列Bに[Last]ヘッダー、および列Cに[Id]ヘッダーが含まれます。
    - 続く各行には、1人の生徒用に、列Aに生徒の名前、列Bに生徒の姓、列Cに生徒のID情報が含まれます。
  - 姓と名の組み合わせ
    - 最初の行には、列Aに[Fullname]ヘッダー、列Bに[Id]ヘッダーが含まれます。
    - 続く各行には、1人の生徒用に、列Aに生徒の姓、スペース、名前、列Bに生徒のID情報が含まれます。
- **[インポート]** ボタンをクリックして、生徒の名前とIDのリストを含む **[CSV]** ファイルをインポートし、次のフォーマット規則を適用します。
  - 姓と名の区切り
    - 最初の行には、[First]ヘッダー、スペースなしカンマ(,)、[Last]ヘッダー、スペースなしカンマ(,)、および[Id]ヘッダーが含まれます。
    - 続く各行には、1人の生徒用に、生徒の名前、スペースなしカンマ(,)、生徒の姓、スペースなしカンマ(,)、および生徒のID情報が含まれます。
  - 姓と名の組み合わせ
    - 最初の行には、[Fullname]ヘッダー、スペースのなしカンマ(,)、および[Id]ヘッダーが含まれます。
    - 続く各行には、1人の生徒用に、生徒の姓、スペース、生徒の名前、スペースなしカンマ(,)、および生徒のIDを含む情報が含まれます。
  - 次の図は、生徒名とIDを区切ったCSVファイルを示しています。

```
First,Last,Id
John,Smith,1
Helen,Reddy,2
Albert,Camus,3
```

- プレビュー領域に選択内容が表示されるのを確認するには、**[適用]** をクリックします。

適用

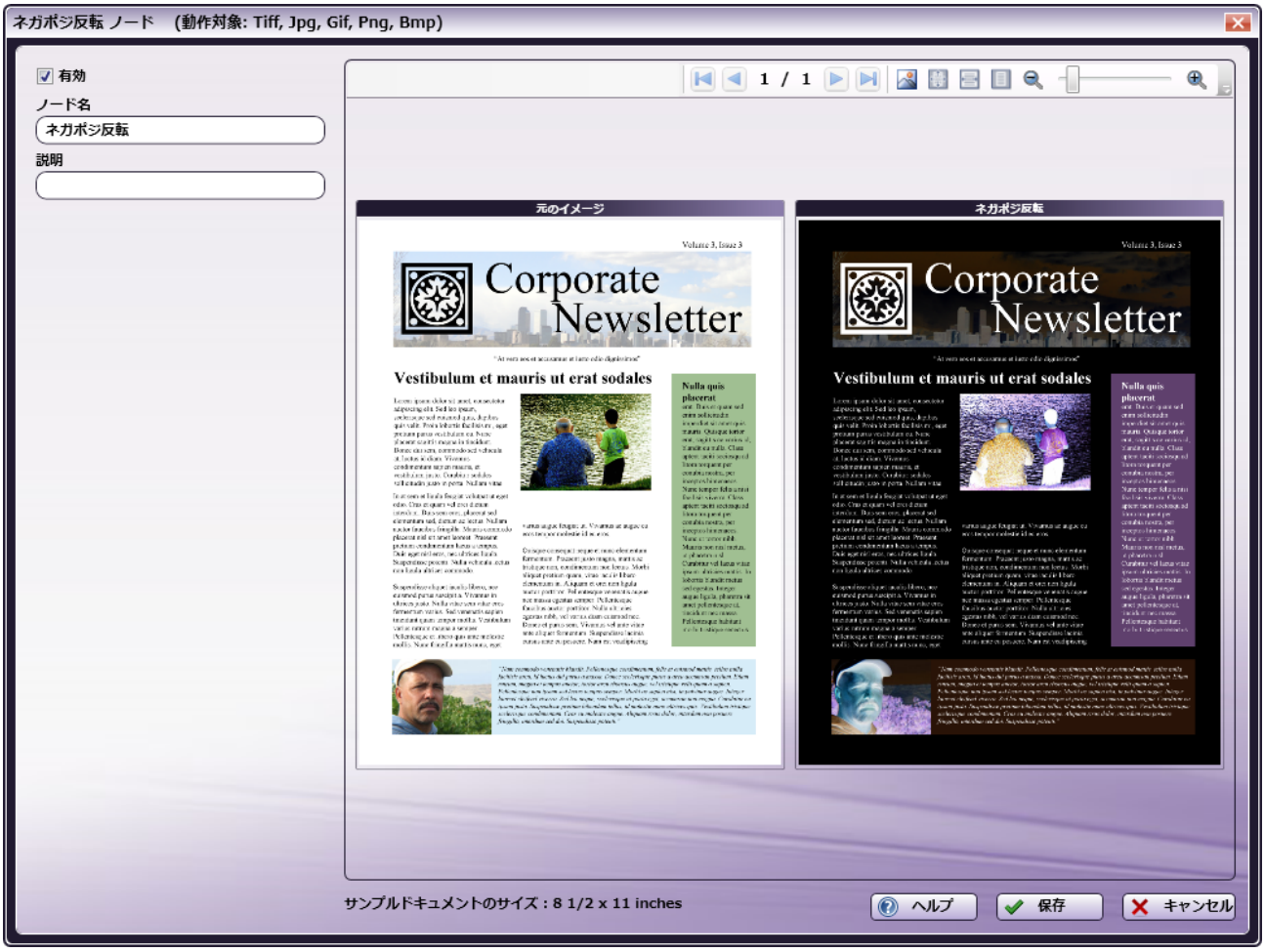
画像処理

ネガポジ反転

ネガポジ反転処理は、入力ドキュメントのネガを作成するオプションのノードです（たとえば、明暗を反転させます）。このノードには、処理結果を表示するプレビュー領域があります。このノードは、TIFF、JPG、GIF、PNG、およびBMPファイルに対応しています。

注: このノードは、AES（Advanced Encryption Standard）PDFをサポートしていません。

ネガポジ反転ノードウィンドウを開くには、**ネガポジ反転** の処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。プレビュー領域に変換処理の結果が反映されます。

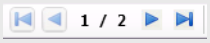
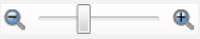


- ワークフローに複数の処理がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、あたかもノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、ネガポジ反転ノードのわかりやすい名前を入力します。

- **[説明]** フィールドに、ネガポジ反転ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- ネガポジ反転の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

ツールバーの使用

ツールバーを使用して、プレビュー領域の操作や変更ができます。

アイコン	説明
	**[ページ]アイコン。** 矢印をクリックして、サンプルドキュメントのページ間を移動します（可能な場合）。
	[サンプルドキュメント]アイコン。 このアイコンをクリックして、[プレビュー]領域で使用する別のサンプルドキュメントを見つけてアップロードします。
	[実際のサイズ（100%）]アイコン。 プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン。 [プレビュー]領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを拡大するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体]アイコン。 サンプルドキュメント全体が[プレビュー]領域にちょうど収まるように表示するには、このアイコンをクリックします。
	**ズームコントロール。** 虫眼鏡アイコンまたはスライドバーを使用して、[プレビュー]領域を拡大/縮小します。

新しいサンプルドキュメントのアップロード

ツールバーの **[アップロード]** アイコンをクリックすると、ユーザー独自のサンプルドキュメントをアップロードして、ネガポジ反転処理を定義する際にプレビューとして使用できます。また、アプリケーションには、自由に使用できるさまざまなサイズの5つのサンプルドキュメントが用意されています。**[アップロード]** アイコンをクリックすると、[イメージの選択]というフォルダー参照ウィンドウが表示され、このフォルダーから適切なサイズのドキュメントを選択できます。

ノイズ除去

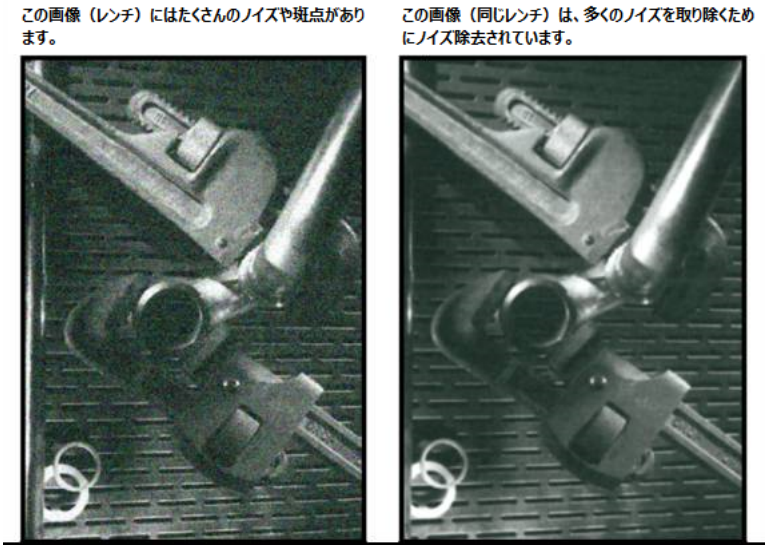
スキャンした写真が、スキャン面からほこりや汚れを拾っている場合があります。*ノイズ除去* 処理により、スキャンした画像に点在する汚れが取り除かれます。この操作を選択した場合、選択範囲内のピクセルをぼやけさせるか、溶け込ませるフィルターを適用することで「ノイズ」の汚点が取り除かれ、バランス良く画像がシャープになり汚点が隠れます。ノイズ除去を行うときは次のことに注意してください。

注:

- ノイズ除去は、主にスキャンした写真のようなアナログ画像にお薦めします。コントラストの線がいっそうシャープになるためデジタル画像にはノイズ除去はお薦めしません。
- アナログであろうとデジタルであろうと、ノイズ除去はテキストの視認性に影響する場合があることに注意してください。最善の結果を得るにはノイズ除去処理を活用する前に、見本となるサンプルドキュメントで設定の影響をテストしてみることをお薦めします。
- ノイズ除去は、透明ピクセルのある画像では機能しません。

ノイズ除去ノード ウィンドウを開くには、**ノイズ除去** の処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。

- 処理を実行できるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、ノイズ除去ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、ノイズ除去ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、処理を区別する場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[半径]** スライドバーを使って、選択した画像範囲内のノイズを、フィルターがどの程度まで探し出すのかを指定します。ほとんどの画像では、1または2の半径を使って、写真をゆがめることなくうまく除去されます。次の例は、2枚のスパナレンチの写真です。2つ目のサンプルはノイズ除去を施してあります。



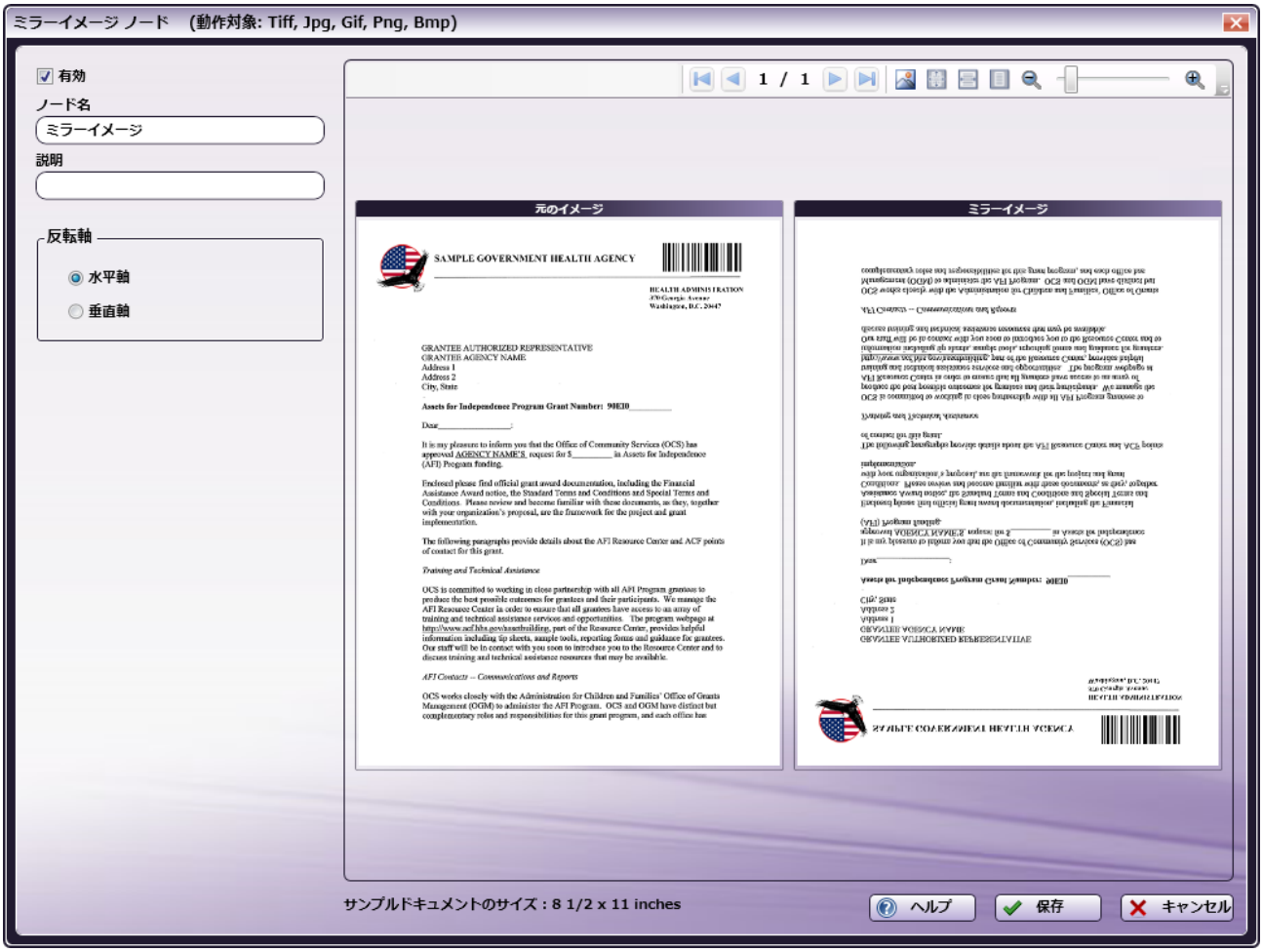
- ノイズ処理の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

ミラーイメージ

ミラーイメージ処理は、ユーザーが指定する仮想の横軸または縦軸を中心として画像を反転させるオプションのノードです。このノードには、反転結果を表示するプレビュー領域があります。このノードは、TIFF、JPG、GIF、PNG、およびBMPファイルに対応しています。

注: このノードは、AES（Advanced Encryption Standard）PDFをサポートしていません。

ミラーイメージノードウィンドウを開くには、**ミラーイメージ** の処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。



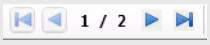
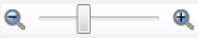
- ワークフローに複数の処理がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、あたかもノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、ミラーイメージノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、ミラーイメージノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[反転軸]** 領域で、オブジェクトを反転させる基準の軸を選択します。選択肢は次のとおりです。
  - **[垂直軸]** - 画像の左右が逆になります。
  - **[水平軸]** - 画像の上下が逆になります。

プレビュー領域に、選択した反転処理の例が反映されます。

- ミラーイメージの定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

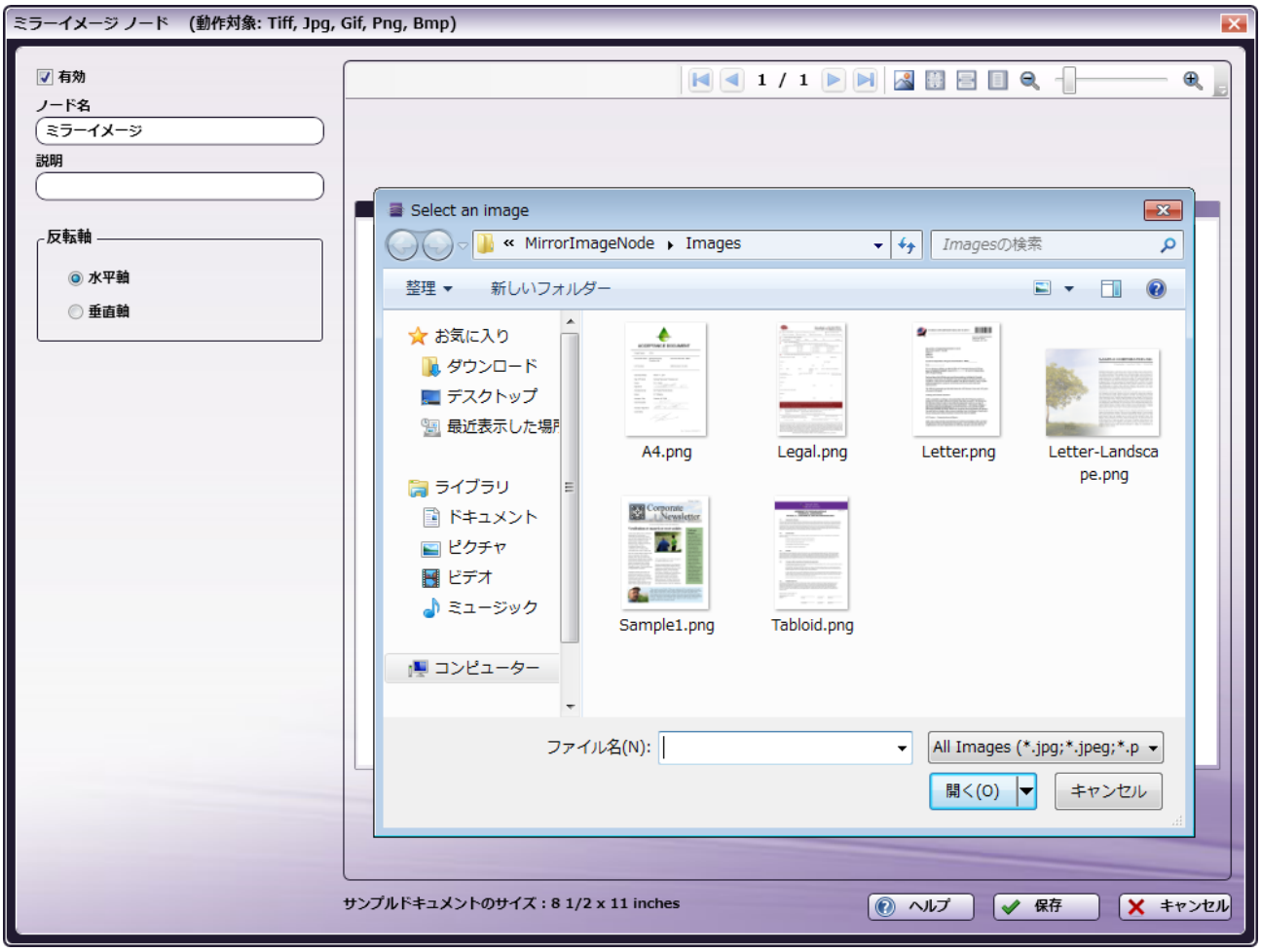
ツールバーの使用

ツールバーを使用して、[プレビュー]領域の操作や変更ができます。

アイコン	説明
	**[ページ]アイコン。** 矢印をクリックして、サンプルドキュメントのページ間を移動します（可能な場合）。
	[サンプルドキュメント]アイコン。 このアイコンをクリックして、[プレビュー]領域で使用する別のサンプルドキュメントを見つけてアップロードします。
	[実際のサイズ（100%）]アイコン。 プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン。 [プレビュー]領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを拡大するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体]アイコン。 サンプルドキュメント全体が[プレビュー]領域にちょうど収まるように表示するには、このアイコンをクリックします。
	**ズームコントロール。** 虫眼鏡アイコンまたはスライドバーを使用して、[プレビュー]領域を拡大/縮小します。

新しいサンプルドキュメントのアップロード

ツールバーの **[アップロード]** アイコンをクリックすると、ユーザー独自のサンプルドキュメントをアップロードして、ミラーイメージ処理を定義する際にプレビューとして使用できます。また、アプリケーションには、自由に使用できるさまざまなサイズの5つのサンプルドキュメントが用意されています。**[アップロード]** アイコンをクリックすると、[イメージの選択]というフォルダー参照ウィンドウが表示され、このフォルダーから適切なサイズのドキュメントを選択できます（次の図を参照）。



傾き補正

傾き補正 の画像処理ノードは、スキャンされた画像が用紙とぴったり合わない場合、画像の角度を補正します。傾き補正は、水平方向または垂直方向に走る画像中のテキストの線を検出することで機能します。OCRは、傾き補正処理中は実行されません。また、大量のグラフィックドキュメントは、思うようには傾き補正されない場合があることに注意してください。

傾き補正ノードでは、標準設定と高度な設定ができます。傾き補正ノードウィンドウを開くには、**傾き補正** の処理ノードを追加し、ノードをダブルクリックします。

- 処理を実行できるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、傾き補正ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、傾き補正ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、処理を区別する場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 傾き補正の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

傾き補正 - 標準設定

既定では、最初に標準設定が表示されます。

- 正確な傾き補正結果が必要なのか[高]、または処理時間を速くしたいのか[低]を指定するには **[精度]** スライドバーを使います。
- 傾き補正が必要な範囲を定義するには、**[予想される元の傾き]** スライドバーを使います。[高]は、より大きい傾き角度を指し、「低]は、より小さい傾き角度を指しています。視覚的には、右側のサムネイル画像から出ている赤い点線に沿って調整されます。

傾き補正 - 高度な設定

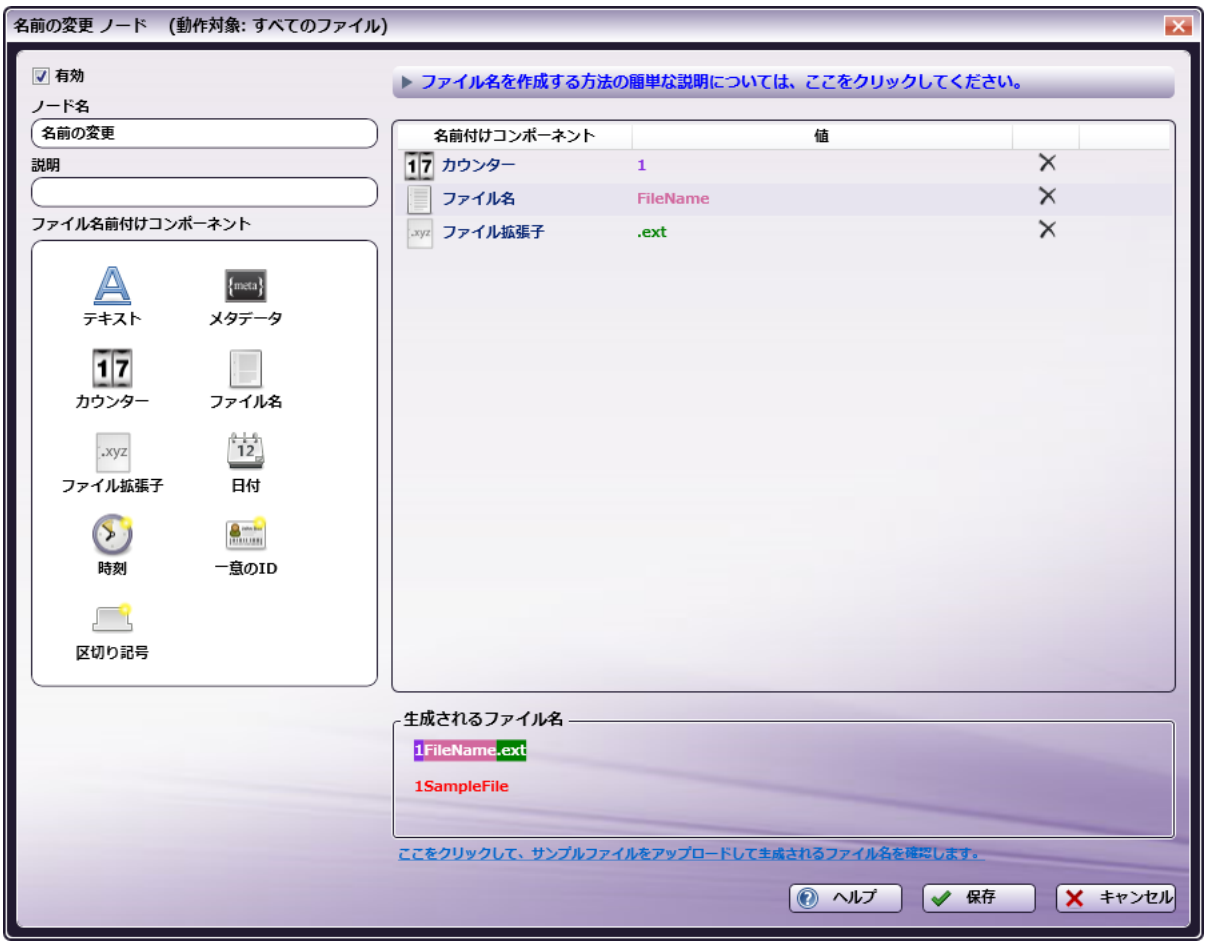
傾き補正処理をさらにカスタマイズするには、[設定]領域の **[詳細]** ラジオボタンをクリックします。これは、傾きの異なるさまざまなドキュメントがあり、傾き補正の性能を調整する必要がある場合に有効です。[高度な設定]ビューは、次の図のようになります。

- 傾き補正の範囲を詳細に定義するには、**[予想される開始角度]** および **[予想される元の傾き]** スライドバーを使います。
  - **[予想される開始角度]** スライドバーを使って、傾き角度を指定します。これは、傾き補正処理の出発点であり、画像をほぼこの角度回転させるという前提でスタートするようにアプリケーションに指示します。既定の0は、前提がないことを意味します。視覚的には、右側のサムネイル画像は、それに応じて回転します。
  - **[予想される元の傾き]** スライドバーを使って、傾き補正の範囲を指定します。たとえば、[予想される元の傾き]が15度で、[予想される開始角度]に5度を指定した場合、アプリケーションは、ドキュメントを最大20度まで補正します。視覚的には、右側のサムネイル画像から出ている赤い点線に沿って調整されます。
- 傾き補正処理中にアプリケーションが横線または縦線を探すかどうかを指定するには、**[水平]** または **[垂直]** ラジオボタンを使います。**[垂直方向に検索]** は、縦書きテキストのドキュメントまたは横向き書式としてスキャンされるドキュメントがある場合に有効です。詳細は次の図を参照してください。

- **[スキャン領域]** は、傾き補正処理に使われるゾーン（ページ範囲）を定義します。既定のスキャン領域は、ページの中央半分です。この設定を変更するには、ドキュメントの左上の始点から右下までの、XとYのパーセンテージ値を入力します。定義されたスキャン領域が大きければ、それだけ傾き補正処理に時間がかかることに注意してください。
- 既定では、傾き補正処理の開始前に、画像のノイズが除去されます。これは視覚的には出力に影響しませんが、線を強調することができ、傾き補正処理中のエッジ検出に役立ちます。このオプションを無効にしたい（そして、傾き補正処理時間を短縮したい）場合は、**[傾き補正の前にイメージのノイズを除去する]** ボックスのチェックを外します。
- ドキュメントの傾き角をチェックして補正する場合の増分を定義するには、**[精度]** フィールドを使います。たとえば、「.5」を入力すると、アプリケーションはドキュメントの傾き角度を0.5度単位で補正します。正確さのため、より小さい増分を選択すると、画像ファイルの傾き補正はより長い時間がかかります。
- その他の性能にかかわる変更として、**[スキャン濃度]** 設定を変更できます。既定の設定では、画像を72dpiまで縮小します。正確さを増すため、最大dpiを上げることができますが、傾き補正処理時間は遅くなります。
- **[感度]** スライドバーは、傾き補正処理中に線を検出するためのコントラストのレベルをコントロールします。感度の値が低いと、高い値の場合よりも多くの線を拾います。

名前の変更

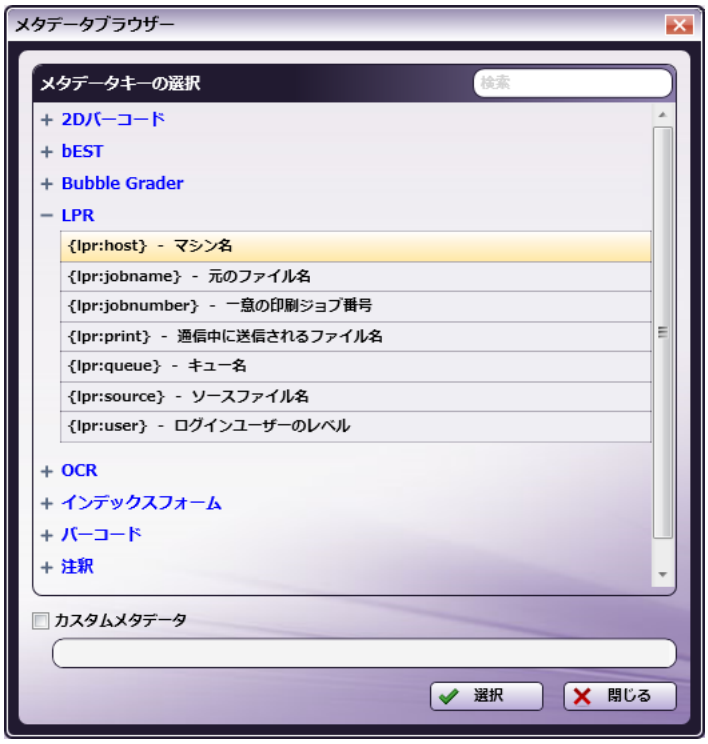
名前の変更処理は、ファイル名を *名前の変更ノード* ウィンドウ内で定義されている名前に変更します。名前の変更ノードウィンドウを開くには、**名前の変更** 処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。



- この処理が実行されるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、名前の変更ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、名前の変更ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、それぞれの処理を区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[ファイル名前付けコンポーネント]** 領域では、次のコンポーネントをカスタマイズしてファイル名を変更できます。ファイル名の長さが255文字（Windowsの制限）を超えることはできません。
    - **[テキスト]**: このアイコンを[名前付けコンポーネント]領域にドラッグアンドドロップします。次に、そのアイコンをダブルクリックして、新しいファイル名に使用するテキスト文字列を入力します。このコンポーネントで、ファイルレベルの動的変数を使うこともできます。たとえば、ファイルのファイル名全体を名前の変更処理に含めるには、

「 *{file:fullname}* 」とタイプします。

- **[メタデータ]**: [メタデータ]名前付けコンポーネントをダブルクリックします。次に、**[メタデータキーの選択]** ボタンをクリックして[メタデータブラウザー]ウィンドウを起動します。このウィンドウには、ワークフローで使われている他のノードのシステム定義変数やメタデータが表示されます。まだ他のノードを追加していない場合は、システム定義変数（Date、File、System、User）だけがウィンドウに表示されます。メタデータブラウザーでは、以下の操作を行うことができます。
- **リストを展開** するには、目的のメタデータの横にある **[+]** 記号をクリックします。たとえば、LPRメタデータを表示する場合は、LPRの横にある **[+]** 記号をクリックすると、次のような展開可能なリストが表示されます。



- **リストを折りたたむ** には、該当するメタデータの横にある[-]記号をクリックします。
- **メタデータを選択** して新しい名前を追加するには、メタデータをクリックし、**[選択]** ボタンをクリックします。この時点でメタデータブラウザーは閉じ、[名前の変更]ウィンドウに戻ります。
- **メタデータ参照のページレベルまたは出現番号（あるいはその両方）を指定** するには、**[その他]** チェックボックスをクリックし、表示された空のフィールドに正しい構文を入力します。
- **メタデータを検索** するには、ウィンドウの左側にある空の[検索]フィールドに目的のテキスト文字列を入力します。

- **[カウンター]**: 新しいファイル名に順次カウンターを追加するには、このアイコンを[名前付けコンポーネント]領域にドラッグアンドドロップします。次に、そのアイコンをダブルクリックしてカウンターをカスタマイズします（開始番号、最大値、カウンターの増分値、および先頭の数字を使用するかどうかを定義します）。増分の最大値は40億です。

  注: カウントの整合性を維持するために、ワークフローを一度実行したら、カウンターを編集できなくなります。

- **[日付]**: 新しいファイル名に処理日を追加するには、このアイコンを[名前付けコンポーネント]領域にドラッグアンドドロップします。次に、そのアイコンをダブルクリックして日付形式（MM-DD-YYYY、MM、dd、またはyyyy）を選択します。
- **[時間]**: 新しいファイル名に時刻を追加するには、このアイコンを[名前付けコンポーネント]領域にドラッグアンドドロップします。次に、そのアイコンをダブルクリックして時刻形式（HH-mm-ss、HH、mmまたはss）を選択します。
- **[区切り]**: 新しいファイル名に区切り記号を追加するには、このアイコンを[名前付けコンポーネント]領域にドラッグアンドドロップします。次に、そのアイコンをダブルクリックして、使用できる区切り記号のリストを表示します。

  さらに、次のコンポーネントを新しいファイル名に追加することもできます。ただし、変更することはできません。

- **[ファイル名]**: 新しいファイル名に元のファイル名を追加するには、このアイコンを[名前付けコンポーネント]領域にドラッグアンドドロップします。
- **[一意のID]**: 新しいファイル名に一意のIDを追加するには、このアイコンを[名前付けコンポーネント]領域にドラッグアンドドロップします（指定しなかった場合、同じ名前のファイルは1つのファイルにマージされます）。
- **[ファイル拡張子]**: 新しいファイル名に元のファイル拡張子を追加するには、このアイコンを[名前付けコンポーネント]領域にドラッグアンドドロップします。

  注: 出力ファイルを表示する予定がある場合は、名前の変更処理に[ファイル拡張子]オプションを追加する必要があります。

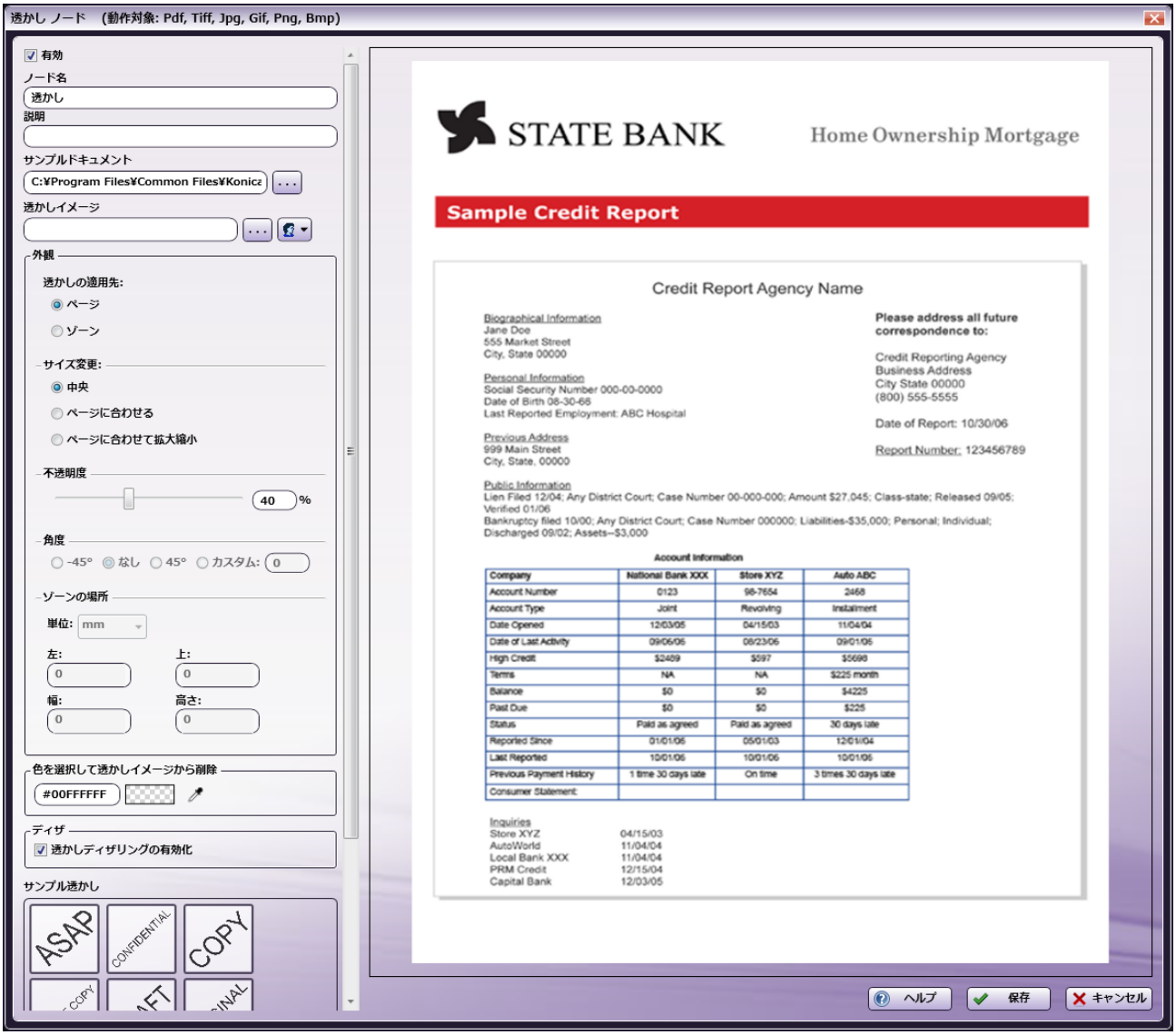
- **[生成されるファイル名]** 領域には、名前の変更処理で作成したファイル名が表示されます。
- サンプルファイルの名前の変更処理の結果を見るには、プレビュー領域の下部にある **[ここをクリックして、サンプルファイルをアップロードして生成されるファイル名を確認します。]** のリンクを選択します。
- すでに定義されている名前コンポーネントを削除するには、削除したいコンポーネントの横にある **[削除]** アイコン（ ）をクリックします。
- 名前の変更の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

透かし

透かしノード はイメージファイルに透かしを適用します。**透かしノード** で使用できるファイルのタイプは、PDF、TIFF、JPG、GIF、PNG、およびBMPです。**透かしノード** はAES (Advanced Encryption Standard) PDFはサポートしていないことに注意してください。

注: 他のOCR処理ノード（PDFに変換、墨消しなど）でワークフローを作成する場合、透かしノードはワークフローの最後の処理ノードでなければなりません。

透かしノード ウィンドウを開くには、**透かし** の処理ノードをワークフロービルダーのキャンバスに追加して、そのノードをダブルクリックします。以下の図のように、**透かしノード** ウィンドウが開きます。



- ノードを有効にするには、**[有効]** ボックスをチェックします。このボックスのチェックを外すと、この処理ノードは無視され、ドキュメントはノードが存在していないかのように通過します。無効になっているノードは論理条件やエラー条件を確認しないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、**透かしノード** の代替名を入力します。これは必須ではありませんが、ワークフローに複数の **透かしノード** がある場合は役立つことがあります。
- **[説明]** フィールドに、**透かしノード** の説明を入力します。これは必須ではありませんが、ワークフローでアクティブな処理を把握しておくために役立つことがあります。説明がフィールドのスペースより長い場合は、このフィールドにマウスを合わせるとすべての説明を読むことができます。
- **[サンプルドキュメント]** フィールドに、透かし処理の結果をプレビューするために使用する別のサンプルドキュメントを指定します。サンプルドキュメントをアップロードしても、表示は実際の結果と厳密には一致しない可能性があることに注意してください。実際の結果を見るには、ワークフローを実行する必要があります。PDFファイルは、サンプルドキュメントとして使用できません。
- **[透かしイメージ]** フィールドに、透かし処理で使用する異なる透かしイメージを指定します。PNG形式の **サンプル透かし** がいくつか用意されており、透かし処理に使用できます。**[サンプル透かし]** の下にある、使用する **サンプル透かし** をクリックするか、**[参照]** ボタン（...）をクリックして、独自のイメージを参照し、そのいずれかを使用し

ます。このノードに付属している多くの共通透かしのいずれかを使用する場合、そのすべての背景は透明であり、(上の図に示すように)プレビューに表示されるものと同じイメージを出力します。ネットワークディレクトリにある透かしイメージを使用する場合は、ネットワークの資格情報を入力する必要があります。**参照** ボタンの右側にある **[ネットワーク資格情報]** ボタンを選択して、[ネットワーク資格情報]ウィンドウにアクセスします。このウィンドウで、ユーザー名を選択して、正しいパスワードを入力することができます。

- **[外観]** 領域では、透かしの外観を変更する各種オプションを選択できます。
  - **[透かしの適用先]:**
    - **[ページ]** - ページ全体に透かしを適用するには、このラジオボタンを選択します。
    - **[ゾーン]** - ページのゾーン内に透かしを適用するには、このラジオボタンを選択します。このオプションを使用して、ゾーンを移動、サイズ変更、および回転できます。

      注: キーボードの矢印キーを使用して、ドキュメントのプレビュー内でゾーンを移動できます。ShiftキーまたはCtrlキーを押しながら矢印キーを押すと、よりすばやく移動できます。
  - **[サイズ変更]** - ページ上の透かしイメージのサイズをどう変更するかを指定するには、このラジオボタンを選択しします。
    - **[中央]** - 入力ドキュメントの中央に透かしイメージを配置します。透かしイメージでは入力ドキュメントのdpiが採用されるため、見かけの高さと幅が変わる場合があることに注意してください。たとえば、300x300ピクセルの透かしが400 dpiのイメージに適用される場合、透かしは3/4インチ x 3/4インチで表示されます。
    - **[ページ/ゾーンに合わせる]** - ページ全体を覆うサイズになるまで、イメージの高さと幅を変更します。この機能では、イメージのサイズが縦横の比率を維持したまま変更されません。そのため、結果のイメージが変形して見えることがあります。
    - **[ページ/ゾーンに合わせて拡大縮小]** - イメージの高さと幅を、イメージのアスペクト比を変えずに、ページに収まる最大の大きさになるまで同じ比率で変更します。
  - **[不透明度]** - スライダーバーを使用するか、パーセンテージフィールドに値を入力して、透かしの不透明度を設定します。
  - **[角度]** - 透かしの角度を変更するには、このラジオボタンを選択します。また、**[カスタム]** ラジオボタンを選択し、[カスタム]フィールドに値を入力すると、好きな角度を指定できます。**[角度]** オプションは、**[ゾーン]** に透かしを適用を選択した場合のみ使用できます。
  - **[ゾーンの場所]** - 測定単位(mm、インチ、ポイント)を選択してから、下部のフィールドに値を入力します。**[左]** と **[上]** には、ページの左端と上端からの距離をそれぞれ指定します。**[幅]** と **[高さ]** には、透かしゾーンのサイズを指定します。**[ゾーンの場所]** オプションは、**[ゾーンに透かしを適用]** を選択した場合のみ使用できます。
- **[色を選択して透かしイメージから削除]** - 透かしに含めない色のカラーコードを入力します。また、スポイトを使用して、透かしに含めない色にマークすることもできます。
- **[ディザ]** - **[透かしディザリングの有効化]** ボックスをチェックして、透かしイメージのオーバーレイを点描します。白黒形式または制限のあるインデックスカラー形式のイメージに透かしを使用するときに、透明度を上げるために役立ちます。
- **[サンプル透かし]** - ドキュメントで使用できるように、各種の一般的な透かしが提供されています。

  注: Ctrl + マウスホイールを使用して、ドキュメントのプレビューを拡大/縮小することができます。
- 透かしの定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプを参照することもできます。さらに、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

注: 白黒のTIFFイメージに透かしを使用する場合は、特別な配慮が必要です。なぜなら、イメージの色深度が非常に制限されている(白または黒のピクセルのみ)からです。そのため、透かしの明るさを100%に設定して透かしイメージを透明にするか、背景色を選択することをお勧めします。すると、白黒のソースドキュメントに透かしが不透明なスタンプとして表示されます。

メタデータ

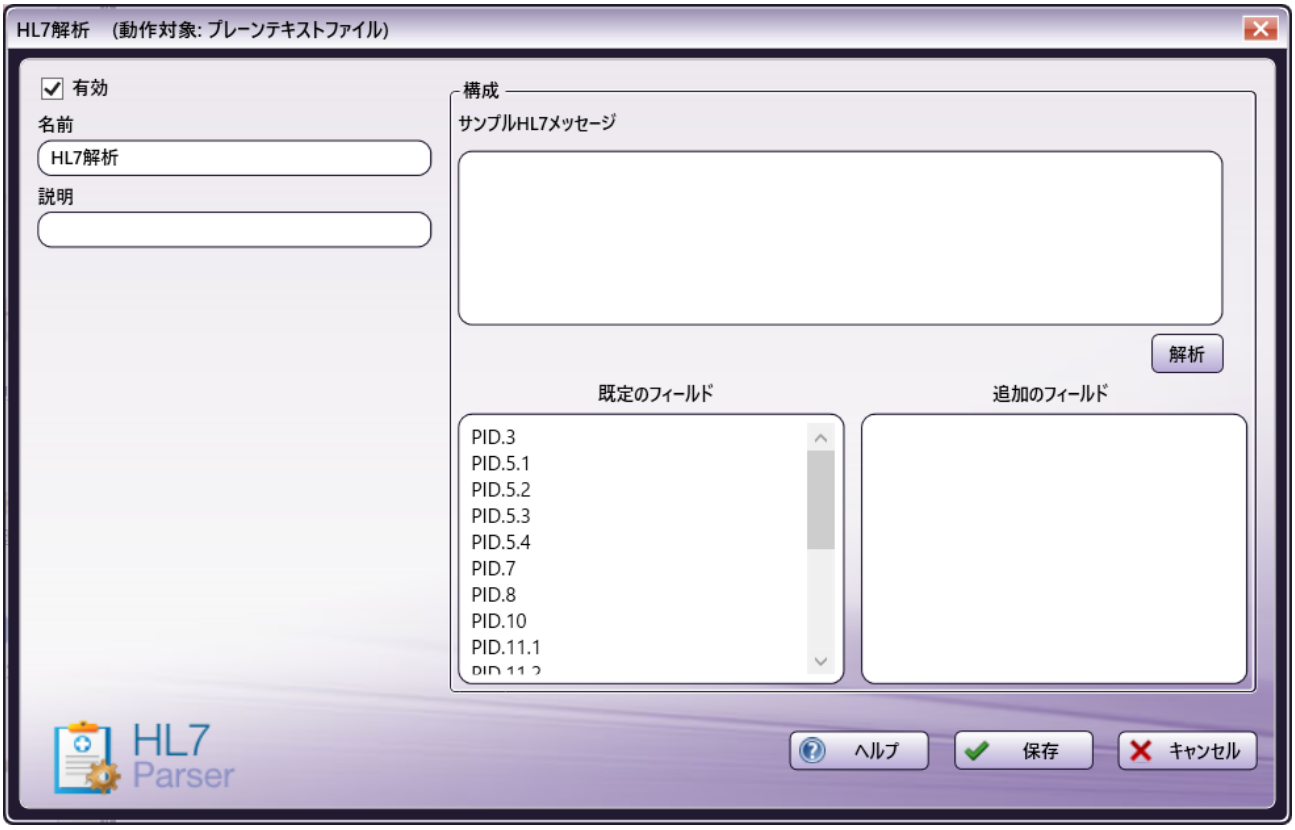
HL7解析

HL7(Health Level 7)は、ヘルスケア市場全体のコミュニケーションのスタンダードです。**HL7解析** を使用すると、Dispatcher Phoenixのお客様は、HL7メッセージを解析して、Dispatcher Phoenix内で使用するためのドキュメントメタデータに変換し、HL7メッセージ内に埋め込まれたドキュメントを抽出することができます。HL7メッセージの詳細については、**HL7の概要** を参照するか、**https://hl7-definition.caristix.com/v2/HL7v2.8/Segments/**を参照してください。

重要! HL7解析 ノードは、**HL7 v2.8** メッセージを最適に解析するように構成されていますが、**HL7 v2.x** メッセージも解析することができます。古いバージョンのHL7 v2.xを解析する場合、解析されたデータが期待どおりに表示されない場合があります。これには、わずかに異なるセグメント名で解析されたデータ、個別、または結合されたサブセグメントで解析されたデータなどが含まれます。HL7 v2.xの古いバージョンの解析の詳細については、Dispatcher Phoenix エンジニアリングサービスにご確認ください。

HL7解析の構成

HL7解析 ノードのプロパティウィンドウを開くには、**HL7解析** 処理ノードをワークフローに追加してダブルクリックします。



- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、**有効** チェックボックスがチェックされていることを確認してください。既定では、ノードは作成時に有効になります。ノードを無効にすると、ワークフローはノードを無視し、ノードが存在しないかのようにドキュメントが通過します。無効にされたノードは、ロジックまたはエラーの状態がチェックされないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を表すノードの意味のある名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。

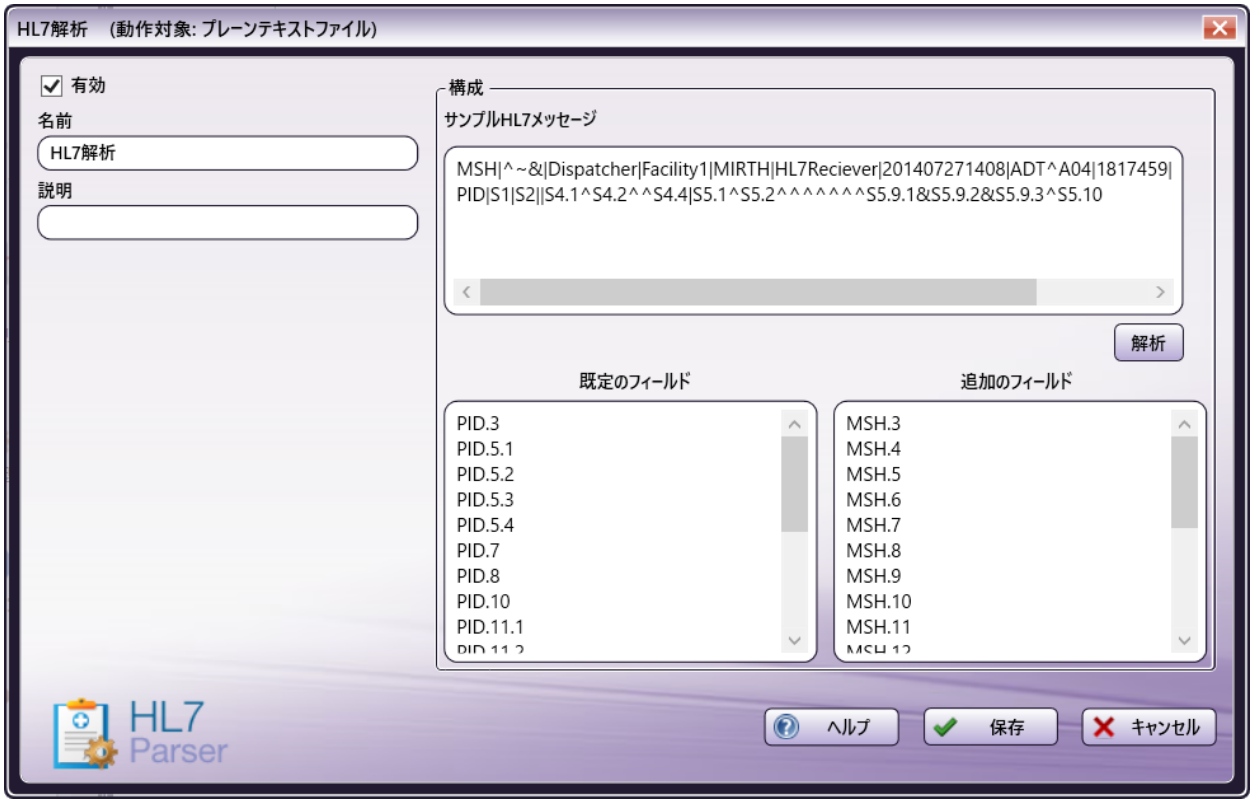
ボタン

- **[ヘルプ]** - オンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

HL7メッセージのサンプル

HL7解析 ノードを使用すると、サンプルのHL7メッセージを入力して、組織で通常使用されるHL7メッセージセグメントを判別することができます。サンプルメッセージを解析するには、次の手順を実行します。

1. コピーしたHL7メッセージをサンプルHL7メッセージフィールドに入力または貼り付けます。
2. [貼り付け]ボタンを選択します。
3. **HL7解析**ノードは、すべてのHL7メッセージセグメントとサブセグメントを分離し、それらを既定のフィールドと比較します。次の図のように、追加のフィールドは **追加フィールド** 領域に自動的に入力されます。



重要! セキュリティとコンプライアンスを維持するために、**サンプルHL7メッセージ** セクションは、ノードが閉じられた後、その領域の情報を自動的に削除します。このセクションのこの情報は、**[保存]** ボタンを選択しても保存されません。

注:

- **HL7解析** は、メッセージの先頭にMSHセグメントを含まないHL7メッセージは解析しません。
- **サンプルHL7メッセージ** 解析を使用して **追加フィールド** 領域にセグメントを追加する場合、ノードは常に定義済みのセグメントに追加されます。既存のエントリーは削除されません。

既定のフィールド

HL7解析 は、HL7メッセージの最も一般的に使用されるセグメントのいくつかの既定のフィールドを自動的に解析するように構成されています。これらは左下のボックスにリストされており、次のものが含まれます。

ID	患者情報の説明
PID.3	患者IDリスト
PID.5.1	名字
PID.5.2	名前
PID.5.3	セカンドネームまたはそのイニシャル
PID.5.4	サフィックス
PID.7	生年月日
PID.8	管理性別
PID.10	人種
PID.11.1	番地
PID.11.2	その他の呼称
PID.11.3	市区町村
PID.11.4	都道府県
PID.11.5	郵便番号
PID.11.6	国
PID.13	電話番号 - ホーム
PID.15	母国語
PID.17	宗教
PID.19	SSN - 患者
PID.22	民族グループ

追加のフィールド

HL7メッセージの追加フィールドは、上記の **サンプルHL7メッセージ** 解析機能を使用するか、**追加のフィールド** というラベルの付いた右下のボックスに手動で入力することによってノード構成に追加することができます。追加フィールドは、ワークフローが検証に合格するために、スペースで区切るか、独自の行に入力できることに注意してください。スペースで区切られたセグメントは、ノードが保存された後、独自の行に配置されることに注意してください。

サブセグメントを持つセグメントの場合、ユーザーは、解析するサブセグメントを指定せずに、最上位のセグメントを入力することができます。この場合、生成されるメタデータには、各サブセグメントに含まれる **すべて** のデータが含まれます。たとえば、ユーザーは[追加のフィールド]領域に「ABS.1」と入力できます。「ABS.1」のメタデータには、「ABS.1.1」から「ABS.1.25」までで検出された値、「ABS.1.23.1」から「ABS.1.23.22」などの追加のサブセグメントが含まれます。

注:

- **HL7解析** は、解析されたデータに対してデータ検証を実行しません。たとえば、「PID.7」は患者の生年月日を参照します。HL7メッセージでは、2087年1月15日の誕生日は「19870115」と表記されています。メタデータを別の形式に変換する必要がある場合は、**メタデータスクリプト** ノードなどをワークフローで使用できます。
- **HL7解析** がデータを持たないHL7セグメントからの情報を解析するように構成されている場合、ノードはnull値でメタデータを作成します。

重要! HL7セグメントは、XXX.#.#. の形式 **でなければなりません**。XXX-#.# などの他の形式では、エラーが発生します。

HL7メッセージからのドキュメントの抽出

HL7解析 は、HL7メッセージから、埋め込まれたドキュメントを抽出することができます。これらのドキュメントは通常、OBX.5セグメントにあります。ノードは、OBX.5セグメントをメタデータに解析しませんが、代わりに、このセグメントに含まれる情報を取得し、その情報に基づいて、ワークフローの後半で使用することができるドキュメントを作成します。ドキュメントのタイプは、OBX.2およびOBX.5セグメントに含まれるデータによって決定されます。

注: HL7解析 はOBX.5セグメントをドキュメントに変換するため、メタデータには使用できません。OBX.5セグメントが **追加のフィールド** 領域に追加された場合、ノードは検証に合格せず、ワークフローはエラーを生成し、実行されません。

HL7の概要

HL7は、異種の医療システム間で医療データを転送するための国際スタンダードです。HL7メッセージは、メッセージの個々の部分を区切る1文字の区切り文字で構成されます。

区切り文字:	
0x0D	各セグメントの終わりをマークします
^	サブコンポジット区切り文字
&	サブ-サブコンポジット区切り文字
-	繰り返しフィールドを区切ります
\	エスケープ文字

HL7メッセージのサンプル

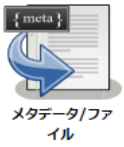
以下は、HL7メッセージの例です。

```
MSH|^~&|Dispatcher|Facility1|MIRTH|HL7Reciever|201407271408|ADT^A04|1817459|D|2.8|123456||AL
PID|S1|S2||S4.1^S4.2^^S4.4|S5.1^S5.2^^^^^^^S5.9.1&S5.9.2&S5.9.3^S5.10
```

このメッセージでは、**HL7解析** は次の情報を抽出します。

- PID.1は、「S1」のメタデータ値を生成します
- PID.4は、「S4.1^S4.2^^S4.4」のメタデータ値を生成します
- PID.4.2は、「S4.2」のメタデータ値を生成します
- PID.5は、「S5.1^S5.2^^^^^^^^S5.9.1&S5.9.2&S5.9.3^S5.10」のメタデータ値を生成します
- PID.5.9は、「S5.9.1&S5.9.2&S5.9.3」のメタデータ値を生成します
- PID.5.9.3は、「S5.9.3」のメタデータ値を生成します

メタデータ/ファイル



メタデータ/ファイル処理ノードを使用して、受信ファイルからメタデータを抽出し、その情報を別のファイルに保存します。さまざまなメタデータファイル形式または **カスタマイズされた出力ファイル形式の作成** に出力して、独自の特定のニーズに合わせることができます。

ワークフローに追加するメタデータ/ファイル処理ノードごとに、以下を指定します。

- 抽出するメタデータ。1つ以上のメタデータタイプを選択できます。以下のリストは、いくつかの可能な選択オプションを示しています。
    - ベイツスタンプ
    - SMTP
    - 電子メール
    - LPR
    - 高度なOCR
    - バーコード (標準)
    - 2D バーコード
- その情報を保存するファイルのタイプ。
- 新しいメタデータファイルの拡張子の形式。

以下に、新しく作成されたメタデータファイルの使用例をいくつか示します。

- 記録の保存。
- 検索目的で他のシステムにインポート。
- **解析と配信** ノードなど、Dispatcher Phoenix ワークフローの他のノードでのルーティング。

注: この処理はすべてのファイルタイプで機能します。

メタデータ/ファイルノードの使用

メタデータ/ファイルウィンドウを開くには、メタデータ/ファイル処理ノードを追加して、このノードをダブルクリックします。次の図に、メタデータ/ファイルウィンドウの一例を示します。

注: この図には、すべてのメタデータが表示されているわけではありませんのでご注意ください。

一般設定

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、ロジックまたはエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名がこのフィールドに既定で設定されます。この名前は、ノードアイコンの下のワークフローに表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフローでのノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読むことができます。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenix オンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノードの定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

出力設定

この領域には次のオプションがあります。

- **元のファイルを出力** - 新しく作成されたメタデータファイルと共に元のファイルを出力するには、チェックボックスをオンにします。メタデータのみを出力するには、ボックスを空白のままにします。
- **メタデータ ファイル形式** - メタデータを保存するファイルの形式を選択します。次のオプションがあります。
  - XML (拡張マークアップ言語)
  - INI (INIファイル)
  - CSV (カンマ区切り値)
  - JSON (JavaScript オブジェクト表記)
  - カスタム - 詳細については、以下の **カスタム出力ファイルの作成** セクションを参照してください。
  - カスタム (バッチ) - このオプションを使用すると、バッチで処理されたすべてのドキュメントのすべてのメタデータを含む単一のCSVファイルを作成できます。

  注: 以下のDispatcher Phoenixライセンスで使用する場合、カスタムおよびカスタム(バッチ)出力ファイル形式オプションは使用できません。
  - **Dispatcher Phoenix ScanTrip**
  - **Dispatcher Phoenix Release2Me+**
- **メタデータ ファイル拡張子** - 新しく作成されたメタデータファイルの拡張子を選択します。選択肢は次のとおりです。
  - **[出力ファイルの拡張子プラスメタデータファイルの拡張子]** - このオプションでは、出力ファイルの拡張子とともにメタデータファイルの拡張子が付けられます。たとえば、このノードで、*123.TIFF* というファイルを処理しているときに、INIファイルの作成を選択した場合、このオプションが有効であると、新たに作成されるメタデータファイルは *123.TIFF.INI* になります。

- **[メタデータファイル拡張子のみ]** - このオプションでは、メタデータファイルのファイル拡張子が付けられます。たとえば、このノードで、*123.TIFF* というファイルを処理しているときに、XMLファイルの作成を選択した場合、このオプションが有効であると、新たに作成されるメタデータファイルは *123.XML* になります。

注: 新たに作成されるメタデータファイルの名前には、出力ファイルと同じ名前が使用されます。

抽出するメタデータの選択

この領域には、ワークフロー内で使用可能なすべてのメタデータタイプが一覧表示されます。たとえば、ゾーンが定義されたワークフローに高度なOCRノードを追加した場合、高度なOCRのチェックボックスが表示されます。別のファイルに抽出する1つ以上のメタデータの横にあるボックスをオンにします。次の表に、この領域に表示される可能性のあるメタデータタイプの一部を示します。

メタデータ	説明
2Dバーコード	2Dバーコードのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、2Dバーコード処理ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
高度なOCR	OCRのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、高度なOCRノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。高度なOCRノードの処理を定義するときには、ゾーンを（手動または自動で）指定し、OCR出力について[元のドキュメントプラスメタデータ]オプションを選択する必要があります。
注釈	注釈のメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、注釈処理ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
バーコード	標準のバーコードのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、バーコード処理ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
ベイツスタンプ	ベイツスタンプのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、高度なベイツスタンプノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
複合機パネル	複合機パネルのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、複合機パネルノードがメタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
電子メール	電子メールのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、電子メール解析ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。電子メール解析ノードの処理を定義するときには、抽出された電子メールの添付ファイルとともに、転送するメタデータを選択する必要があります。
フォーム処理	フォーム処理のメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、フォーム処理ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。フォーム処理ゾーンを定義するときには、そのゾーンで使用するメタデータキーを指定する必要があります。
インデックスフォーム	インデックスフォームのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、関連するインデックスフォームを持つ複合機パネルノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
LPR 入力	送信時に受け取ったLPRメタデータはすべて、出力ファイルから抽出されます。
ODBC	ODBCのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、ODBC処理ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
解析	正規表現を使った検索操作から値を抽出するには、ワークフローのある時点で、解析ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
解析と配信	正規表現を使った検索操作から値を抽出するには、ワークフローのある時点で、解析と配信ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
PDF データ	PDFのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、PDFからメタデータ抽出ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
Release2Me	Release2Meのメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、Release2Meノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。
SMTP	送信時に受け取ったSMTPメタデータはすべて、出力ファイルから抽出されます。
分割	分割のメタデータを抽出するには、ワークフローのある時点で、分割ノードが、メタデータ/ファイル処理よりも前に来なければなりません。

XMLファイルの構造

XMLファイルは、<file/> という名前のルート要素1つと、次の必須属性から構成されます。

1. name - このXMLドキュメントが関連付けられているファイルの名前。
2. size - 'name' ファイルのバイト数。
3. mtime - 'name' ファイルが変更されてから経過したUNIXエポック秒数。

<file/>要素に、1つ以上の <meta/> 要素が含まれることがあります。<file/> の直接の子要素となるXML要素は他には存在しません。

<meta/>要素には必須属性が2つあります。

1. group - 変数の出自を区別するために使用される短いが使いやすい記述子。
2. name - システム、またはインデックスフォームデザイナーによって定義された変数名。

<meta/>要素は、次の2つの子要素のいずれかを持つことがあります。

- document - 変数の値を保持。
- page - 特定のページに関連する変数の値を保持。

INIファイルの構造

INIファイルの形式は次の構造です。

```
[file]
name=sample-file.pdf
size=205491
ctime=0
mtime=1622651543

[group]
metadata-variable-name1=matadata-value1
metadata-variable-name2=matadata-value2
```

注: 「ctime」は、ノードがファイルを作成するのにかかった時間を指します。「mtime」は、ノードがファイルを変更するのにかかった時間を指します。

CSVファイルの構造

CSVファイルの形式は次の構造です。

```
file,name,sample-file.pdf
file,size,205491
file,ctime,0
file,mtime,1622651543

group,metadata-variable-name1,"matadata-value1"
group,metadata-variable-name2,"matadata-value2"
```

JSONファイルの構造

JSONファイルの形式は次の構造です。

```
{name:'', size:0, ctime:0, mtime:0, meta: [
{group:'', name:'', values: {
Document = {doc: %VALUE%}
Per Page = {%PAGE%: %VALUE%}
}
]
}
```

例:

```
{
"name" : "pdf_form_maker1_new.pdf",
"size" : 58750,
"ctime" : 0,
"mtime" : 1427808953,
"meta" : [
{
"group" : "pdf",
"name" : "editable",
"values" : {
"doc" : "true"
}
}
]
}
```

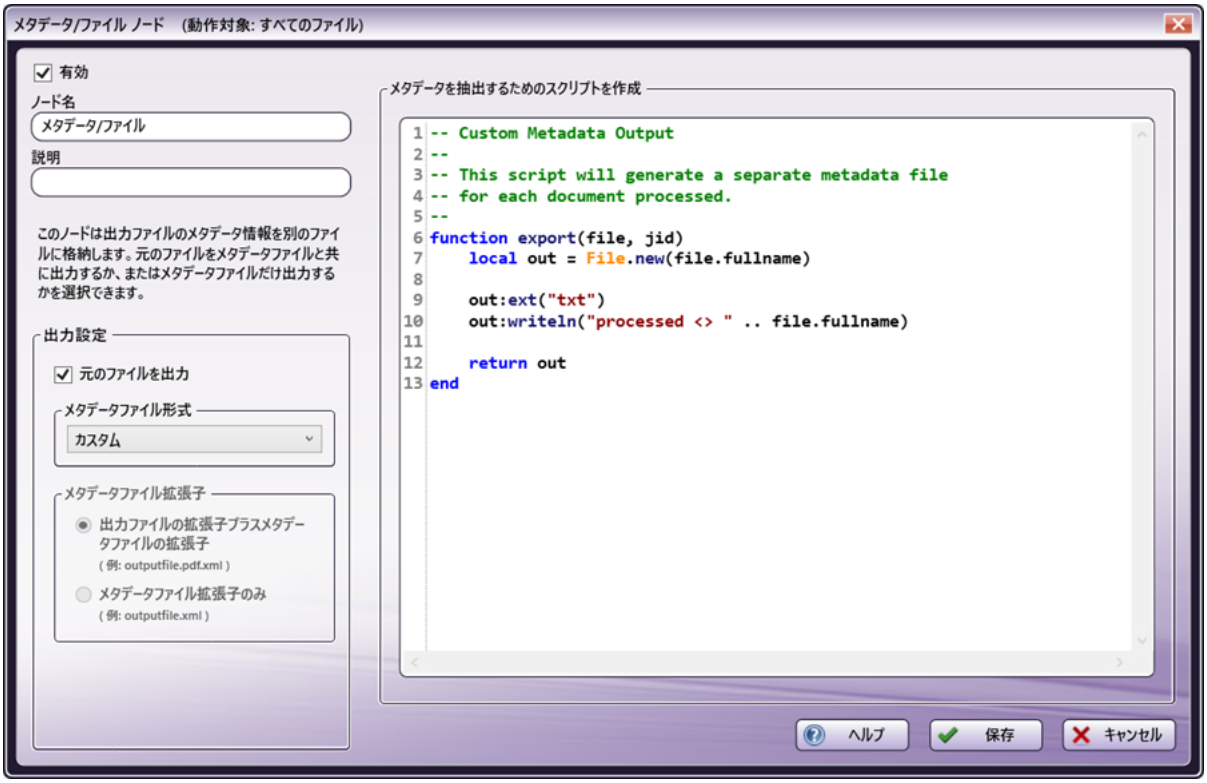
カスタム出力ファイルの作成

Dispatcher Phoenixには、メタデータを格納するための独自のファイル形式を作成するオプションも用意されています。これは、使用しているシステムに合わせてファイルの出力をコントロールする必要がある場合に便利です（たとえば、使用しているコンテンツ管理システムやアプリケーションでは、XMLなどの標準形式がうまく機能しない場合）。

注: 以下のDispatcher Phoenixライセンスで使用する場合、カスタムおよびカスタム(バッチ)出力ファイル形式オプションは使用できません。

- **Dispatcher Phoenix ScanTrip**
- **Dispatcher Phoenix Release2Me+**

カスタマイズしたファイル形式を作成するには、**[メタデータファイル形式]** ドロップダウンリストから **[カスタム]** オプションを選択します。選択すると、さまざまなメタデータタイプを含む **[抽出するメタデータの選択]** ボックスが消え、**[メタデータを抽出するためのスクリプトを作成]** ボックスに置き換わります。このテキストボックスには、Luaの構文強調表示が事前に入力されています (Luaの詳細については、**Lua 5.3 リファレンスマニュアル**を参照してください。)。この非常に簡単な例を使用して、開始することができます。次の図を参照してください。



エクスポート機能

Luaスクリプトは、2つの引数を受け入れる「export」という関数を実装する必要があります。

- 最初の引数(以下 `file`)は、ファイルの基本情報とメタデータを表します。
  - file.name
  - file.ext
  - file.fullname
  - file.size
  - file.mtime
  - file.ctime
  - file.contents
    - read(count)
    - readline()
    - seek(whence, offset)
    - lines([format])

      注: オプションのフォーマット文字列を “base64” にして変換を実行できます。
  - file.{metadata group name} (例: pdf、bates、ocrなど)
    - file.pdf.author
    - file.pdf[‘author’]
    - file.bates.Stamp1
    - file.ocr[‘zone.MyZone’][1] = 1ページ目のzone.MyZoneの値
    - file.ocr[‘zone.MyZone’][2] = 2ページ目のzone.MyZoneの値

    注: メタデータにピリオドが含まれている場合は、[“zone.MyZone”]のように角カッコと二重引用符で囲む必要があります。
- 第2引数(`jid`以下)はユーザー情報を表します。
  - jid.userにはすべての`{user:****}`値が含まれます
    - 例: jid.user.name, jid.user.domain, jid.user.email（定義されている場合）
  - jid.fs にはすべての `{fs:****}` 値が含まれます
    - 例: jid.fs.DesktopDirectory, jid.fs.CommonApplicationData

「export」関数は'File.new()'または'nil'のインスタンスを返します。出力ファイルを作成するには、次の構文を使用します。

```
local out = File.new(“my filename here”)
```

または

```
local out = File.new(file.fullname)
```

ファイルオブジェクトメソッド

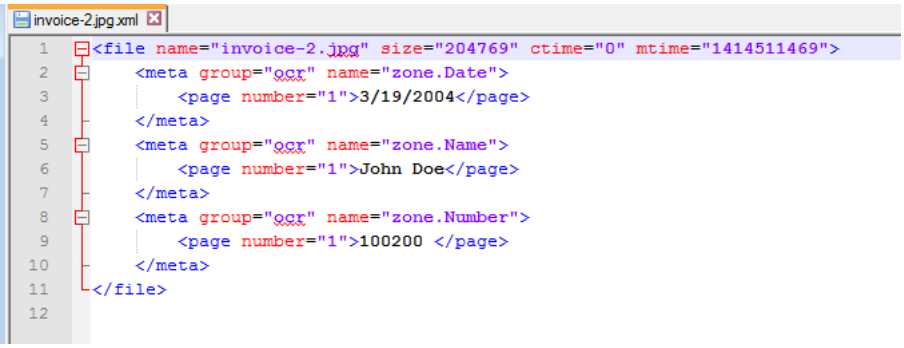
使用可能なファイルオブジェクトメソッドは次のとおりです。

- write(“データ”)
- writeln(“末尾に改行が付いたデータ”)
- ext(“ファイル拡張子の変更”)
  - ext(“txt”)
  - ext(“xml”)
- eol(“改行文字の変更”)
  - eol("\n")
  - eol("\r\n")

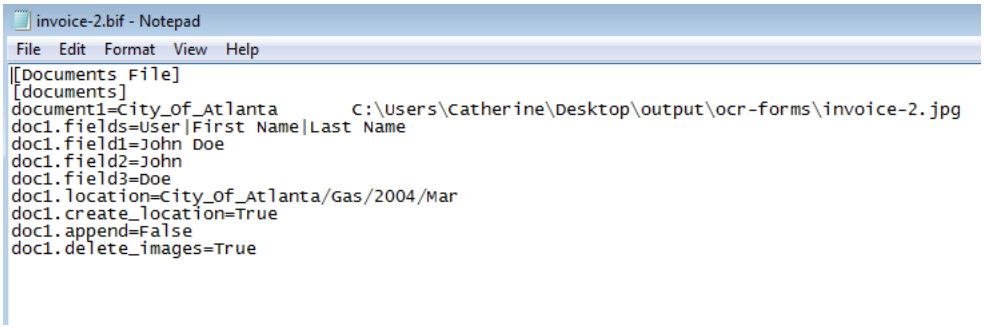
また、メッセージのログに使用できるグローバル関数「Print」もあります。

例

請求書からデータを抽出するワークフローでは、次のXMLファイルが作成されます。



しかし、このXMLの書式やコンテンツは、カスタマーの既存のシステムではうまく機能しません。このため、次のカスタムファイルを作成しました。



このカスタムファイル作成のために使用されたカスタムスクリプトは次のとおりです。

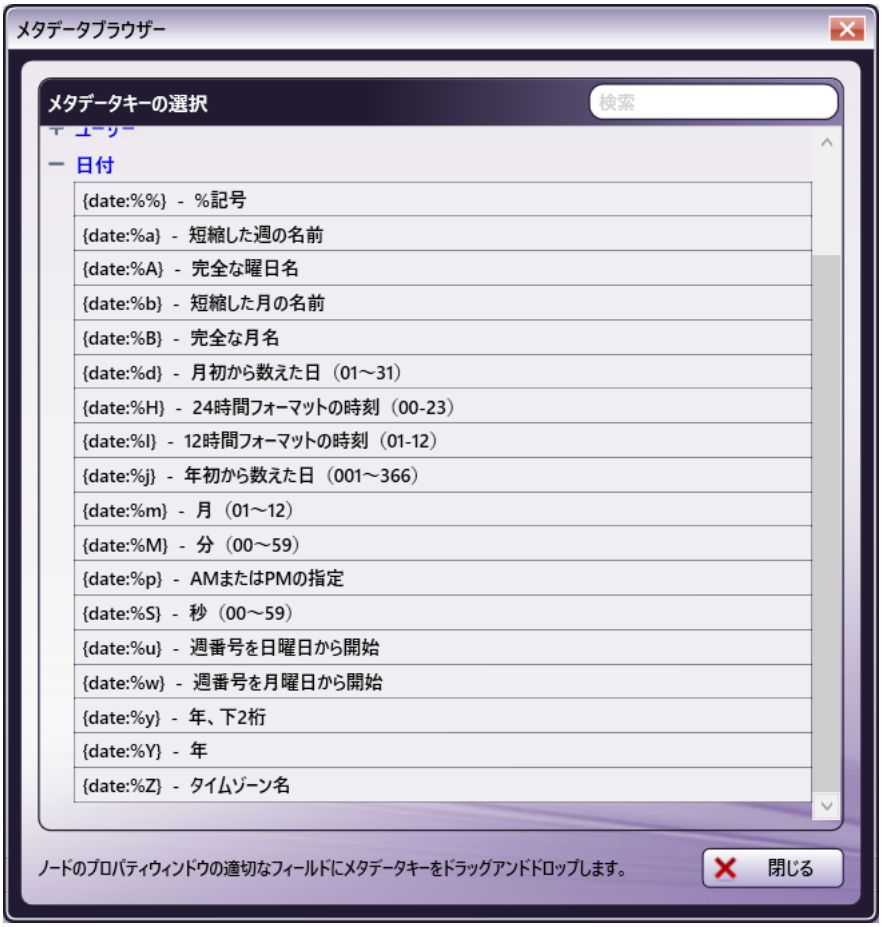
Create script to extract metadata

```
MONTHS = {}
MONTHS[1] = "Jan"
MONTHS[2] = "Feb"
MONTHS[3] = "Mar"
MONTHS[4] = "Apr"
MONTHS[5] = "May"
MONTHS[6] = "Jun"
MONTHS[7] = "Jul"
MONTHS[8] = "Aug"
MONTHS[9] = "Sep"
MONTHS[10] = "Oct"
MONTHS[11] = "Nov"
MONTHS[12] = "Dec"

function export(file, jid)
    local ocr = file.ocr
    local out = File.new(file.fullname)
    local names = string.split(tostring(ocr['zone.Name'][1]), " ")
    local fname = names[1]
    local lname = names[2]
    local pdate = string.split(tostring(ocr['zone.Date'][1]), "/")
    local year = pdate[3]
    local month = MONTHS[tonumber(pdate[1])]

    -- log some values
    print(tostring(ocr['zone.Name'][1]))
    print(tostring(ocr['zone.Date'][1]))
    print(tostring(ocr['zone.Number'][1]))

    -- set file extension
    out:ext("bif")

    out:writeln("[Documents File]")
    out:writeln("[documents]")

    -- Writes Document Line of BIF file, includes Document Type and Image File location
    out:writeln("document1=City_Of_Atlanta\t" .. tostring(jid.fs.DesktopDirectory) .. "\\output\\ocr-forms\\" .. file.fullname)

    -- Enter index names for ViewWise Document Type Specified, these are case sensitive
    -- and must match exactly as they exist in ViewWise.
    out:writeln("doc1.fields=User|First Name|Last Name")

    -- Enter index value variables from RRT's
    out:writeln("doc1.field1=" .. tostring(ocr['zone.Name'][1]))
    out:writeln("doc1.field2=" .. tostring(fname))
    out:writeln("doc1.field3=" .. tostring(lname))

    -- Writes out BIF file options as specified in beginning of this script
    out:writeln("doc1.location=City_Of_Atlanta/Gas/" .. year .. "/" .. month)
    out:writeln("doc1.create_location=True")
    out:writeln("doc1.append=False")
    out:writeln("doc1.delete_images=True")

    -- return File or `nil` to bypass
    return out
end
```

メタデータのブラウズ

メタデータブラウザーからのメタデータ値の指定

ワークフロー内のドキュメントに関連付けられているメタデータを使用することを選択できます。ノード設定ウィンドウ内の **[メタデータ]** ボタンをクリックすると、次の図に示すようにメタデータブラウザーが表示され、利用可能なすべてのメタデータがメタデータの種類別に分類されて一覧表示されます。



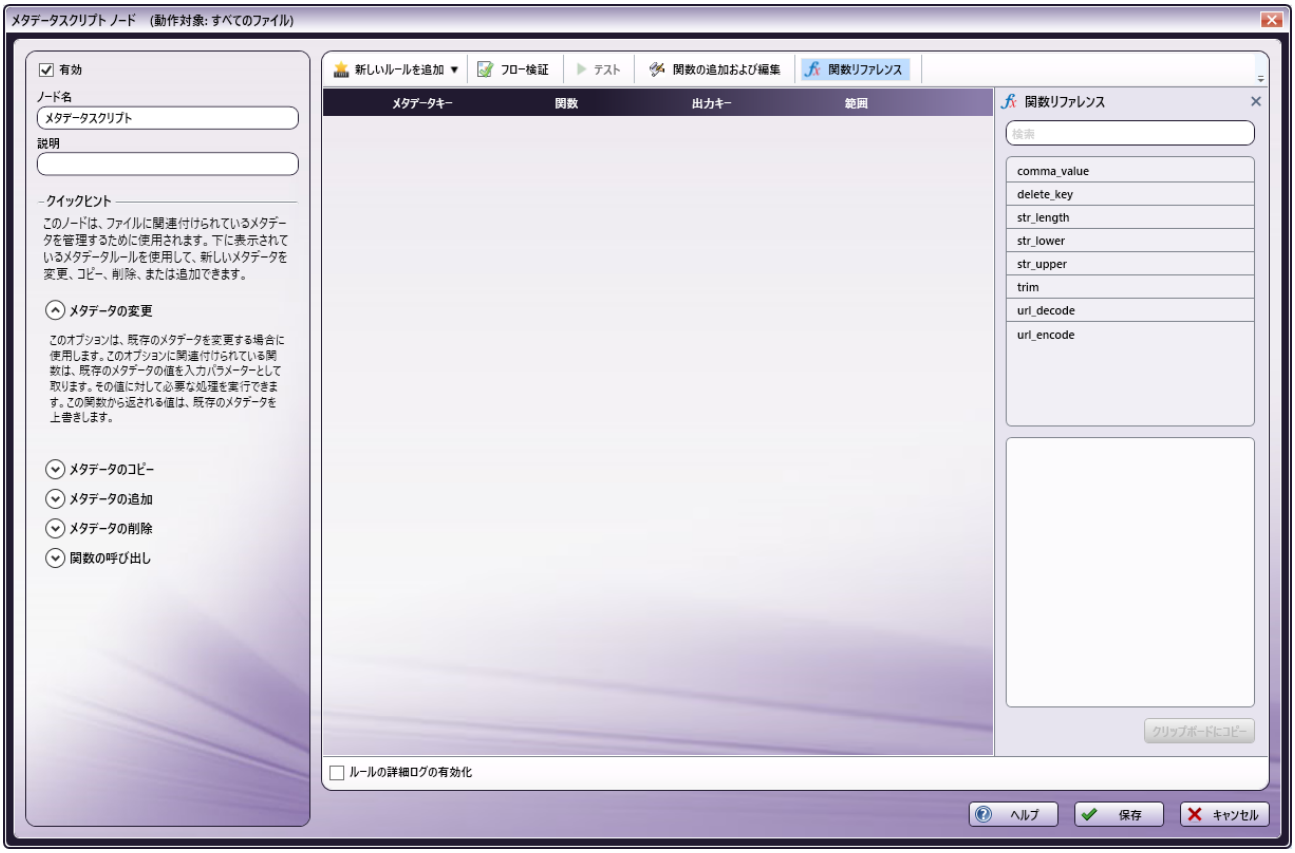
メタデータブラウザーでは、次の操作を実行できます。

1. 目的のメタデータの横にある **[+]** 記号をクリックして、**リストを展開** します。たとえば、日付が必要な場合は、日付の横にある **[+]** 記号をクリックします。上の図のように展開可能なリストが表示されます。
2. メタデータブラウザーから、メタデータキーを **[メタデータ値]** フィールドにドラッグアンドドロップできます。
3. ウィンドウの右側にある空の[検索]フィールドに適切なテキスト文字列を入力して、**メタデータを検索** します。

メタデータスクリプト

メタデータスクリプトノードは、ワークフローでファイルに関連付けられているメタデータの管理に使用される高度な処理です。このノードでは、メタデータの変更、コピー、削除、または新規追加ができます。たとえば、このノードを使用して、メタデータから末尾のスペースを削除できます。

メタデータスクリプトウィンドウを開くには、メタデータスクリプトの処理ノードを追加し、ノードをダブルクリックします。

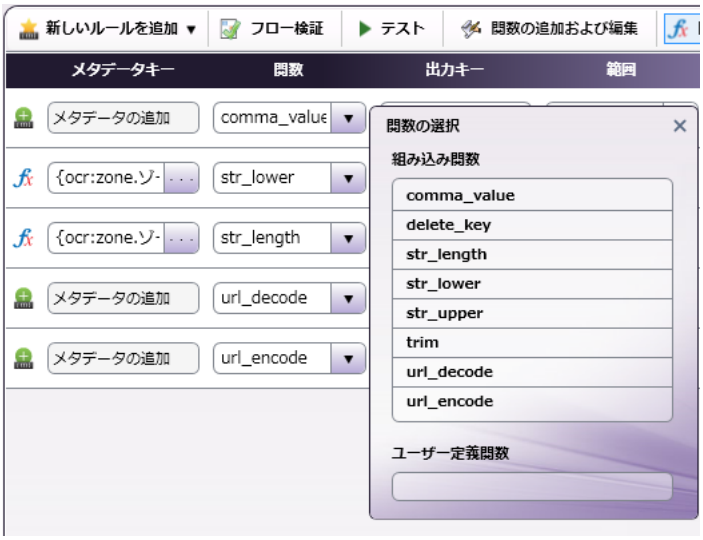


- ワークフローに複数の処理がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。オフにするとこの処理は無視されます。ドキュメントはあたかもノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、メタデータスクリプトノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、メタデータスクリプトノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[ルールの詳細ログの有効化]** チェックボックスをオンにすると、スクリプトのデバッグ用に、より詳細なログメッセージをアクティビティログに挿入できます。
- メタデータスクリプトの定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

ルールの作成

はじめに、メタデータスクリプティングノードウィンドウのメタデータルールビルダー領域でメタデータルールを作成する必要があります。以下の操作を行います。

1. **[新しいルールの追加]** - ツールバーの **[新しいルールを追加]** ボタンを選択し、表示されるドロップダウンパレットからルールの種類を選択します。オプションは次のとおりです。
    - **[メタデータの変更]** - このオプションは、既存のメタデータを変更するときに使用します。
    - **[メタデータのコピー]** - このオプションは、既存のメタデータを新しいメタデータキーにコピーするときに使用します。
    - **[メタデータの追加]** - このオプションは、新しいメタデータを作成するときに使用します。返された値は、[出力キー]フィールドで定義する新しいメタデータキーに代入されます。
    - **[メタデータの削除]** - このオプションは、メタデータキーを削除するときに使用します。
    - **[関数の呼び出し]** - このオプションは、既存のメタデータ上の関数を実行し、他の関数呼び出しで使用する値を格納するときに使用します。
2. **[関数の定義]** - ルールオプションを追加したら、**[関数]** 列でメタデータの関数を指定できます。ウィンドウの右側の[関数リファレンス]領域に表示される事前定義関数を使用することも、ユーザー独自の関数を定義することもできます。フィールドの横の矢印をクリックすると、次の図のように[関数の選択]パレットが開き、選択できる関数の候補が表示されます。



ユーザー独自の関数を定義する場合は、上部ツールバーの **[関数の追加および編集]** ボタンを選択して、Luaスクリプトエディターを開きます。

注: メタデータの削除オプションは、そのメタデータに関数が定義されていなくても使用できます。

3. **[出力キーの指定]** - **[出力キー]** 列で、関数から返される値の新しいメタデータキーを定義します。出力キーには任意のグループ名を含めることができます（例: {myGroup:custom_zone}）。
4. **[範囲の定義]** - **[範囲]** 列で、メタデータルールのページ範囲と出現範囲を定義します。

   [ページ] のオプションは次のとおりです。

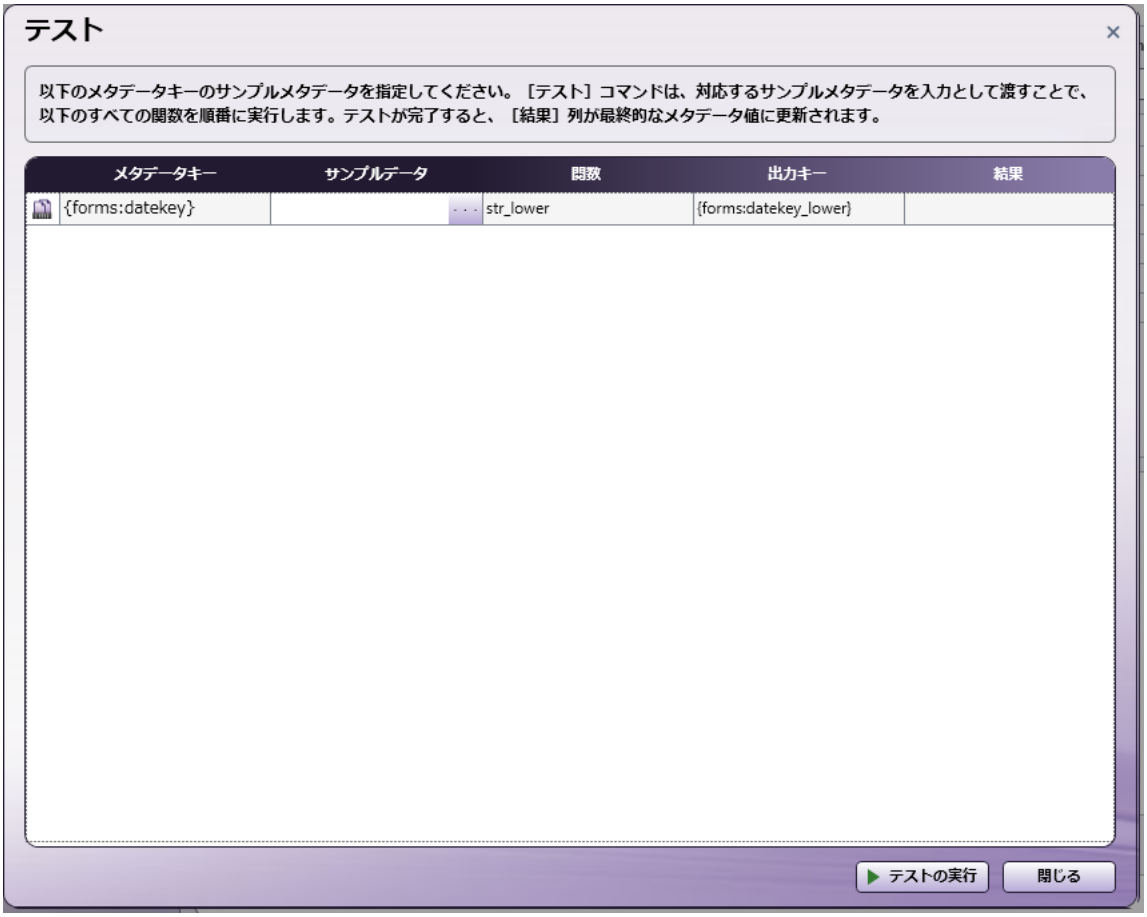
   - [ドキュメント] - ドキュメント全体で見つかったメタデータを処理します。
   - [すべてのページ] - すべてのページで見つかったメタデータを処理します。
   - [すべての偶数ページ] - すべての偶数ページで見つかったメタデータを処理します。
   - [すべての奇数ページ] - すべての奇数ページで見つかったメタデータを処理します。
   - [最初のページ] - 最初のページで見つかったメタデータだけを処理します。
   - [最後のページ] - 最後のページで見つかったメタデータだけを処理します。
   - [カスタム範囲] - 特定のページ範囲内のメタデータを処理します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力するための空のフィールドが表示されます。以下の操作を行います。
     - カンマ記号またはダッシュ記号（あるいはその両方）を使って、ドキュメントの先頭から数えたページ範囲を指定します。たとえば、「1, 2, 5-7」と入力すると、1、2、5、6、7ページが処理されます。
     - カッコを使用して、ページ範囲内の特定の処理の並びを指定します。たとえば、「1-10(3)」と入力すると、1～10ページが2ページおきに処理されます。
     - 「end」を使用して、最後のページを指定します。たとえば、「end(-5) - end」と入力すると、20ページあるドキュメントの15～20ページ目が処理されます。

     その他の例には次のようなものがあります。
     - 20ページあるドキュメントの1、2、5、6、7、19ページを処理するには、「1,2,5-7,end(-1)」と入力します。
     - 20ページあるドキュメントの10～15ページを処理するには、「10-end(-5)」と入力します。
     - 20ページあるドキュメントの10～15ページを1ページおきに処理するには、「10-end(-5)(2)」と入力します。
     - 25ページあるドキュメントの15～20ページを処理するには、「end(-10)-end(-5)」と入力します。
     - 20ページあるドキュメントの10～20ページを処理するには、「end(-10)-end」と入力します。

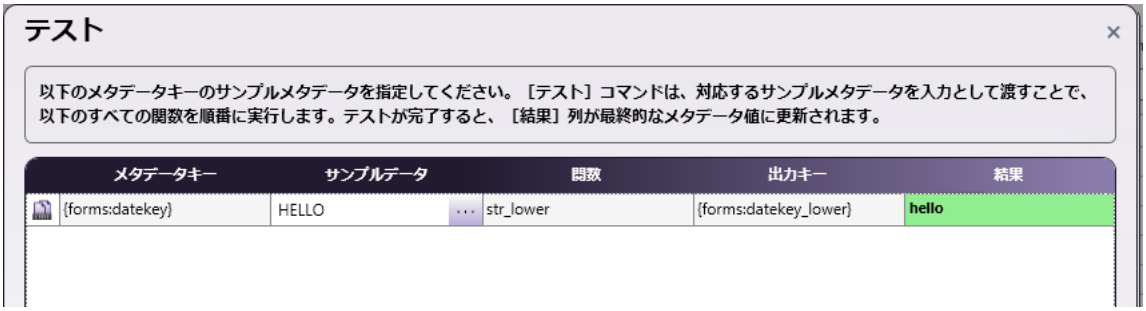
   [出現] のオプションは次のとおりです。

   - [すべての出現] - 見つかったメタデータのすべての出現箇所を処理します。
   - [すべての偶数番目の出現] - ページで見つかったメタデータの偶数番目の出現箇所をすべて処理します。
   - [すべての奇数番目の出現] - ページで見つかったメタデータの奇数番目の出現箇所をすべて処理します。
   - [最初の出現] - ページで見つかったメタデータの最初の出現箇所を処理します。
   - [最後の出現] - ページで見つかったメタデータの最後の出現箇所を処理します。
   - [カスタム範囲] - ページで見つかったメタデータの特定の出現箇所を処理します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力するための空のフィールドが表示されます。カンマ記号またはダッシュ記号（あるいはその両方）を使用して、ドキュメントの先頭から数えた出現範囲を指定できます。たとえば、「1-2」と入力すると、メタデータの1番目と2番目の出現箇所が処理されます。
5. **[フロー検証]** - ルールの作成が完了したら、上部ツールバーの **[フロー検証]** ボタンをクリックして、このルールを検証できます。ルールが正常に検証されない場合は、画面下部に赤字でエラーメッセージが表示されます。

6. **【テスト】** - ルールをテストするには、上部ツールバーの **【テスト】** ボタンをクリックします。次の図のように、[テスト]ウィンドウが表示されます。



- メタデータルールをテストするには、[サンプルデータ]列にテストデータを入力し、**【テストの実行】** ボタンを選択します。次の図のように、[結果]列にルールの結果が緑色で表示されます。



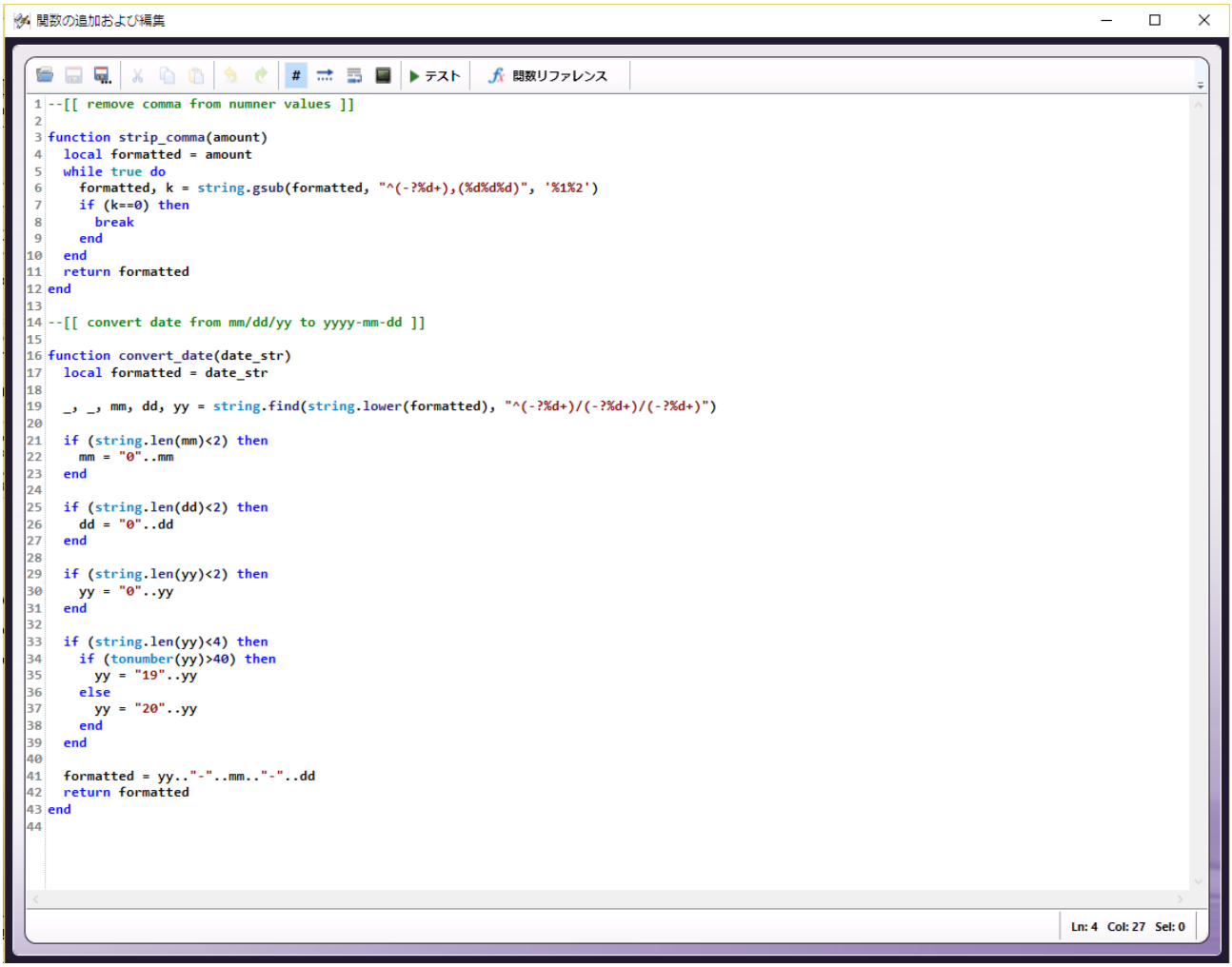
- ルールのテストを実行すると、次の図に示すように、ノードウィンドウの[メタデータビルド]領域に表示されているルールの横に **【テスト結果の表示/非表示】** アイコンが表示されます。

このアイコンをクリックすると、次の図のようにテスト結果が表示されます。テスト結果を非表示にするには、**【テスト結果の表示/非表示】** アイコンをもう一度クリックするか、緑色のボックス内の **【X】** をクリックします。

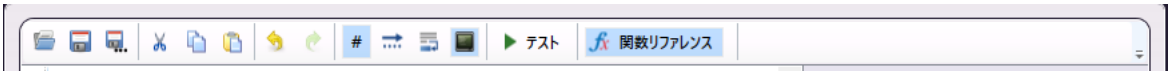
関数の追加および編集

業務上の独自の目的に合わせてLua関数を作成したり編集したりする場合、組み込みのLuaスクリプトテキストエディターを使用できます。このエディターにアクセスするには、上部ツールバーの **【関数の追加および編集】** ボタンをクリックします。このスクリプトエディターは、Luaスクリプティングの構文強調表示に完全対応しています。また、組み込み関数リファレンスも用意されており、テキストエディターへのコピーや挿入に使用できます。

次の図の例を参照してください。



ツールバーの使用



ツールバーの各アイコンで次の操作ができます（左から順に）。

- 外部LUAスクリプトの内容をエディターにロード
- LUAスクリプトの内容を保存
- LUAスクリプトを新しいファイルにエクスポート
- テキストをカット
- テキストをコピー
- テキストを貼り付け
- 最後の操作を元に戻す
- 最後の「元に戻す」をやり直す
- 行番号を表示
- スペース/タブを表示
- テキストの折り返し
- テスト用の統合コマンドシェル切り替え
- 関数のテスト

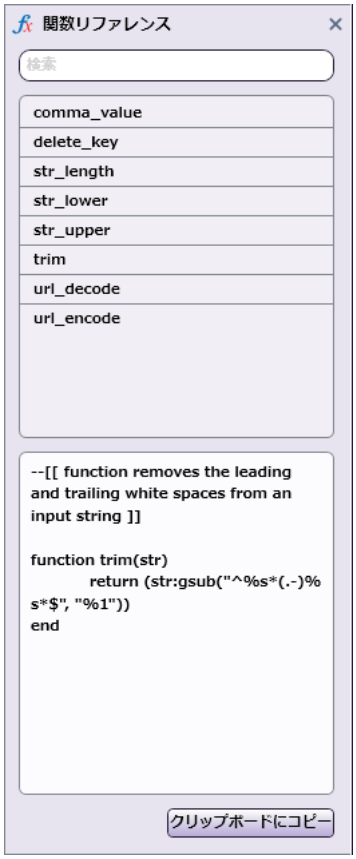
- 組み込み関数ライブラリを切り替え

関数リファレンスライブラリの使用

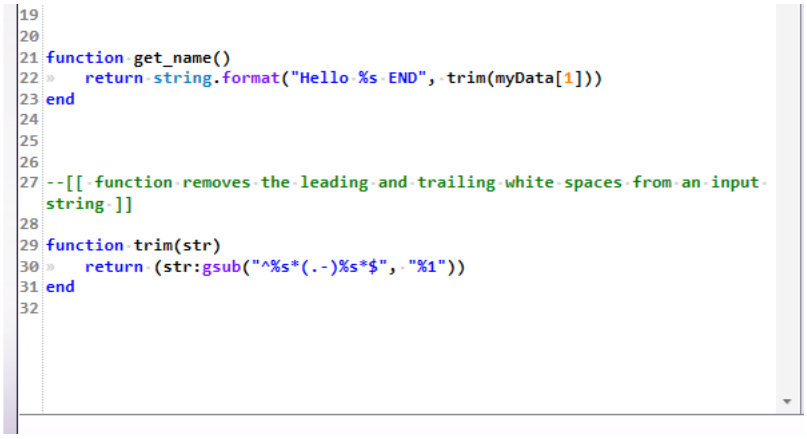
すぐに関数の作成に取りかかれるように、メタデータスクリプトノードには関数リファレンスライブラリが付属しています。これらの標準関数を閲覧したり、必要に応じて特定の関数をスクリプトエディターにコピーまたは挿入し、ビジネス要件に合わせて変更したりできます。

以下の操作を行います。

1. はじめに、ライブラリから関数を選択します。関数リファレンスライブラリパネルの下部にその関数が表示されます。次の図では、trim関数が選択されました。



2. 選択した関数をLuaスクリプトエディターに挿入するには、**[挿入]** ボタンを選択します。次の図のように、スクリプトエディターの下部にその関数が表示されます。

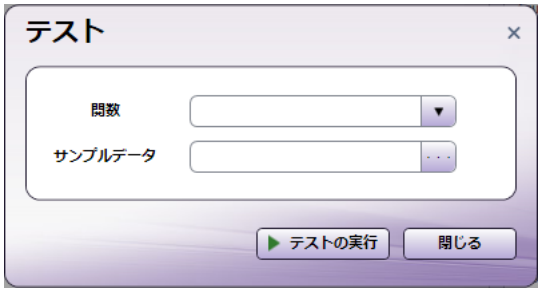


3. 関数をコピーして、Luaスクリプトエディターや他のアプリケーションに貼り付けるには、**[クリップボードにコピー]** ボタンを選択します。

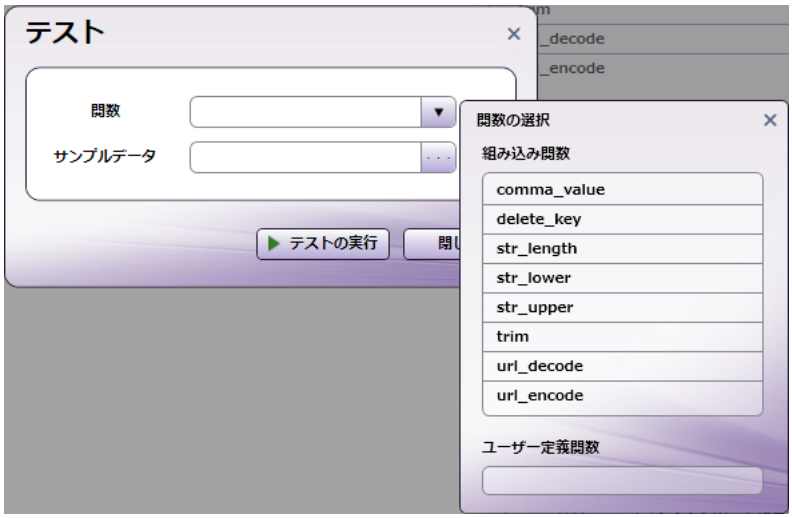
関数のテスト

関数を作成または変更したら、その関数をLuaテキストエディター内からテストできます。以下の操作を行います。

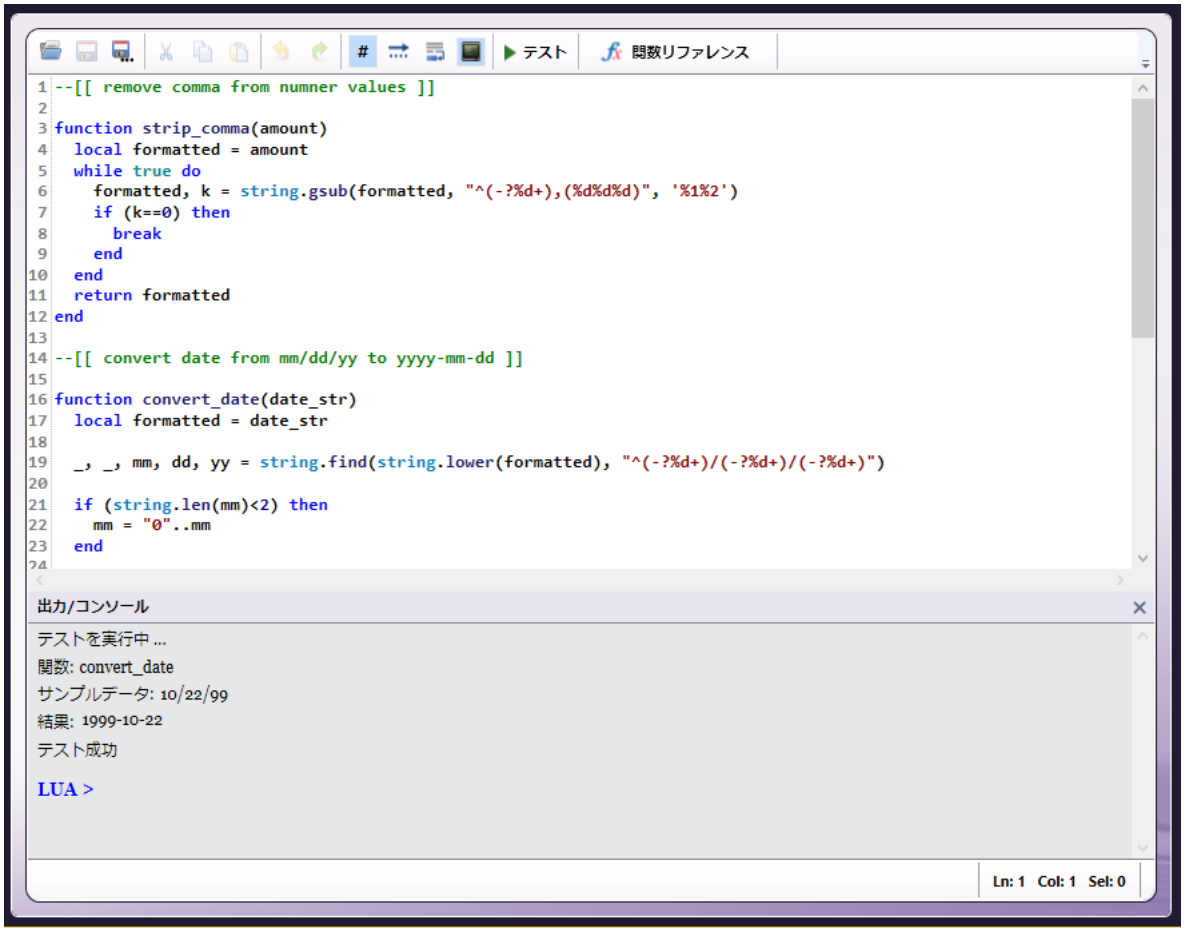
1. ツールバーの **[テスト]** ボタンをクリックします。次の図のような[テスト]ポップウィンドウが表示されます。



2. **[関数]** フィールドの **下** 矢印をクリックして、テストする関数を選択します。ドロップダウンパレットに、メタデータスクリプトノードに用意されているすべての組み込み関数と、任意に作成したカスタム関数が表示されます。例については次の図を参照してください。



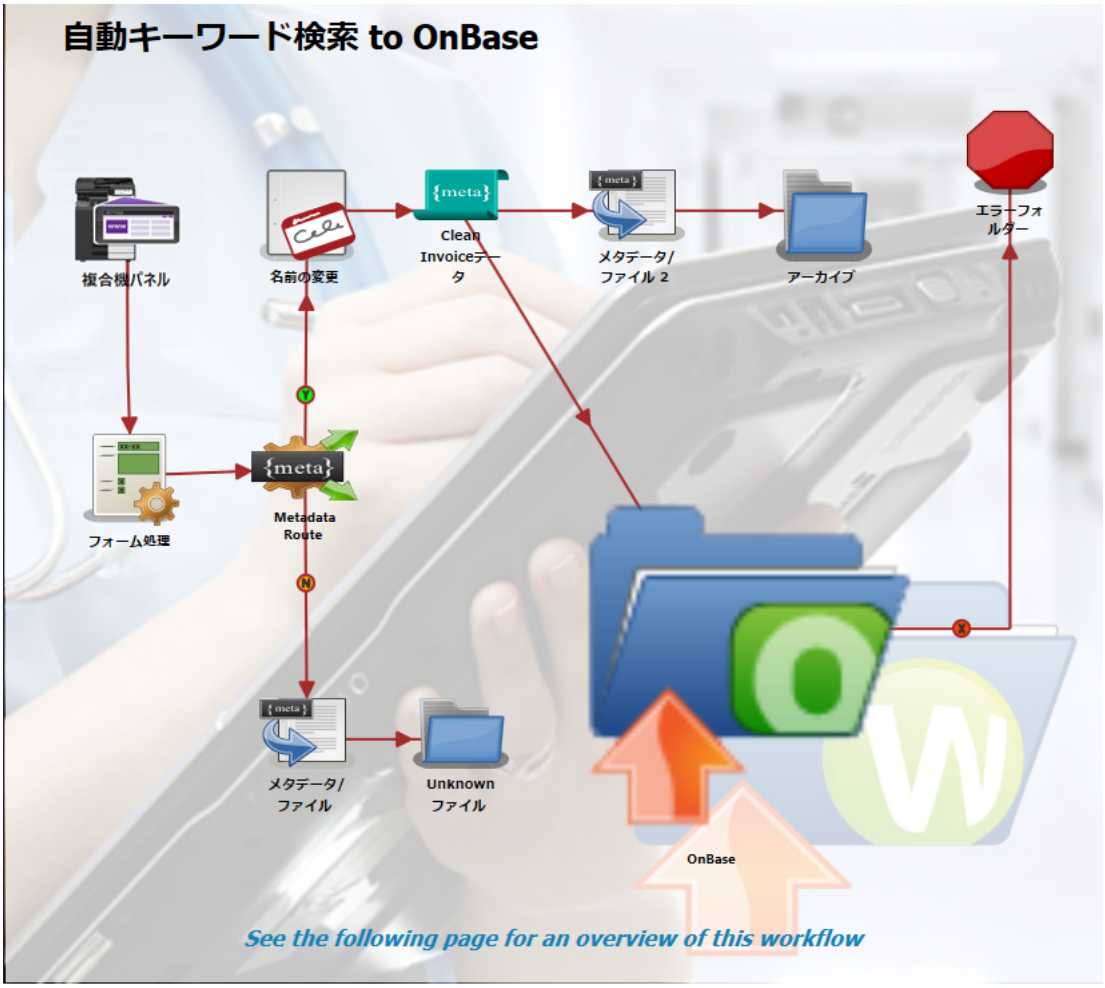
3. テストするサンプルデータを **[サンプルデータ]** フィールドに入力します。このフィールドの横にある省略記号ボタンをクリックするとフィールドを展開できます。
4. **[テストの実行]** ボタンを選択して、テストを開始します。
5. 画面下部にコマンドシェルが表示され、そこにテスト結果が表示されます。例については次の図を参照してください。



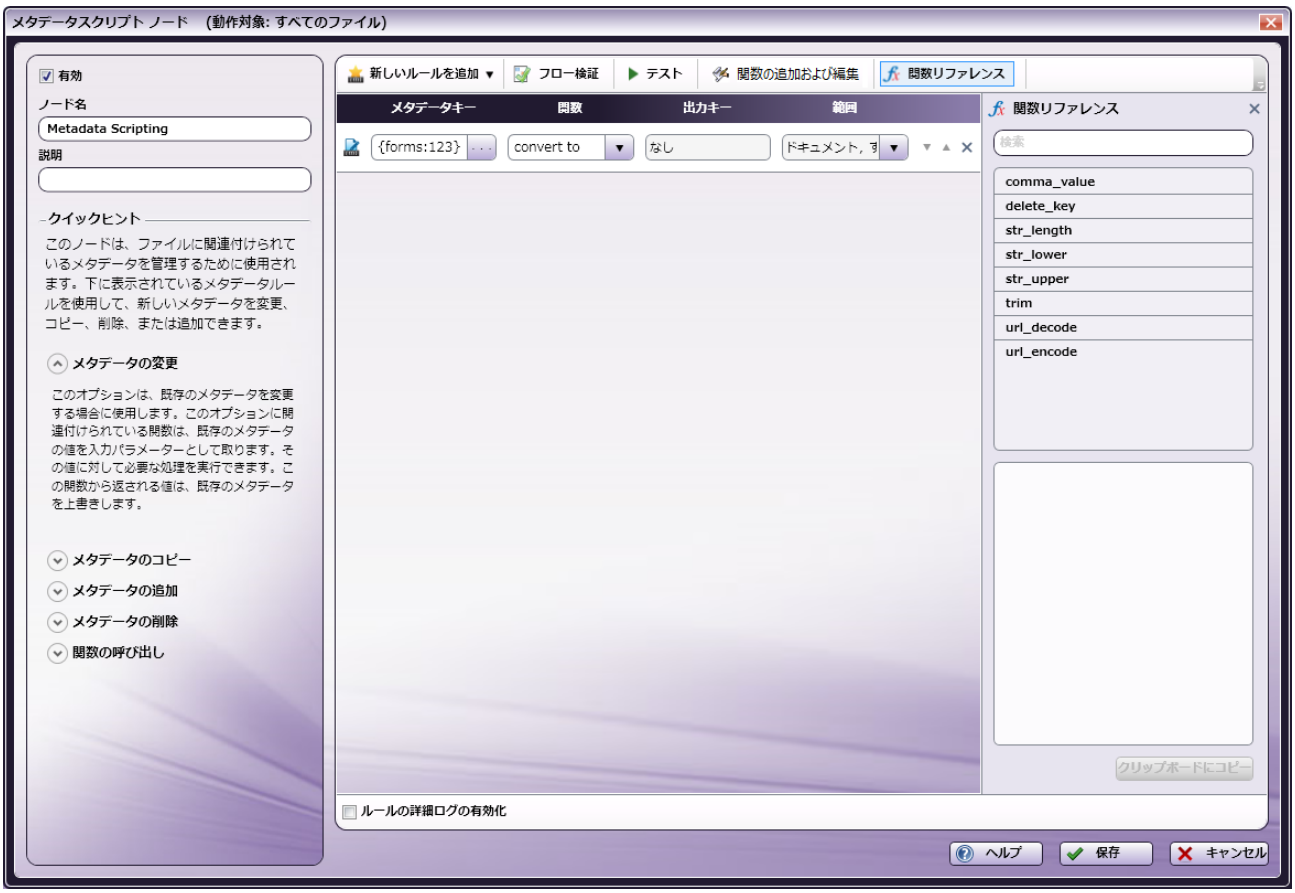
例

次のワークフローでは、受け取った請求書から日付、請求書番号、納入業者名、および請求額が抽出され、メタデータとして取り込まれました。すべての請求書の名前が納入業者名を使用して変更され、処理後のファイルと抽出されたメタデータがOnBaseコンテンツ管理システムに格納されます。ただし、OnBaseへ送信する前に、抽出された日付の形式をmm/dd/yyからyyyy-mm-ddに変更する必要があります。

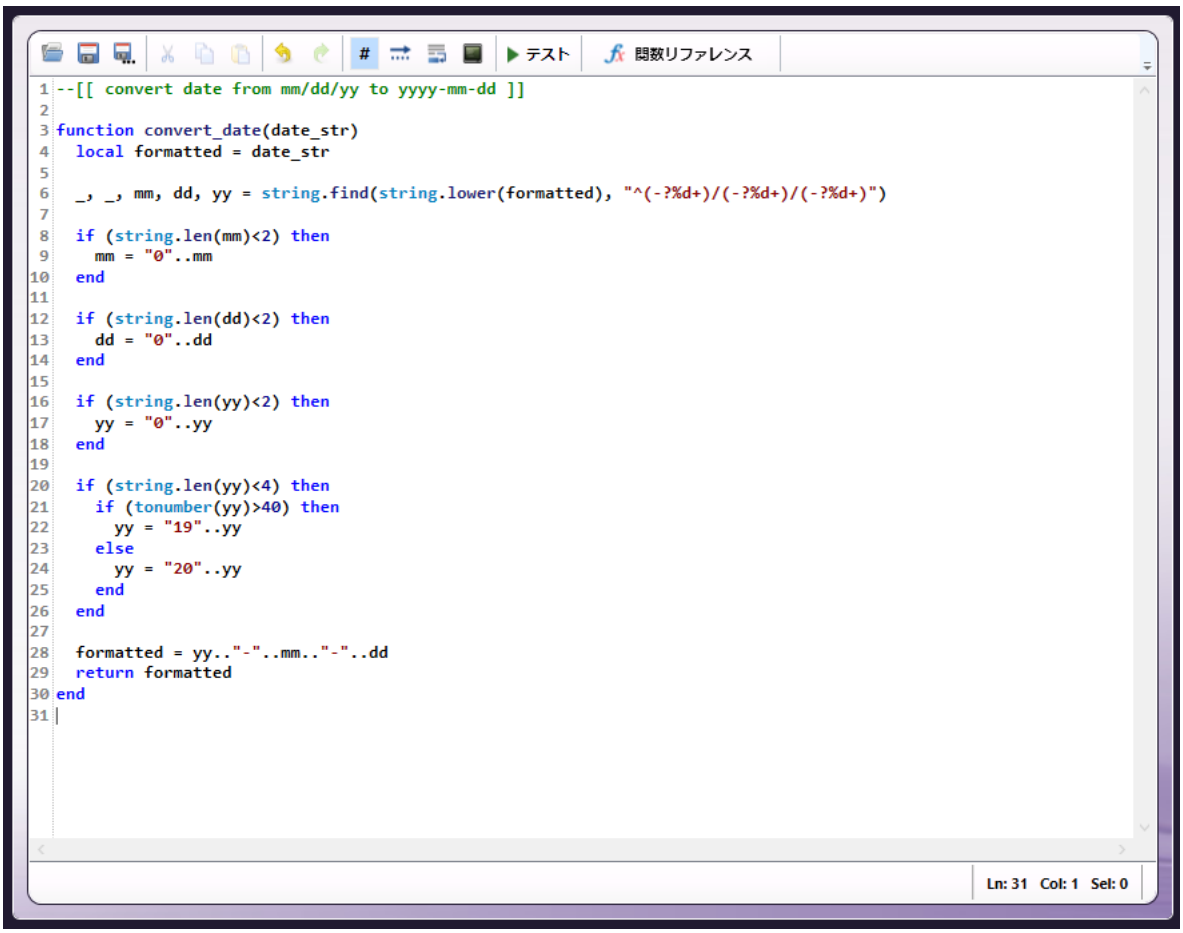
次の図は、このワークフローを図示したものです。



メタデータスクリプトノードを使用して、次のようにメタデータが操作されました。



- フォーム処理ノードの日付メタデータ（この場合は{forms:InvDate}）を使用して、メタデータ変更ルールが作成されました。
- Luaテキストエディターを使用して、次のように日付をmm/dd/yyからyyyy-mm-ddに変換するconvert_dateというユーザー定義関数が作成されました。



メタデータ経路指定

メタデータ経路指定ノード では、ユーザーが定義したメタデータベースの検索ルールに基づいて、ドキュメントの経路を指定します。この処理では、ワークフロー内でドキュメントに関連付けられている任意のメタデータを使用して、経路指定条件を作成できます。たとえば、バーコード処理ノードがワークフローに追加されている場合、あらかじめ定義されているバーコードゾーンを検索できます。

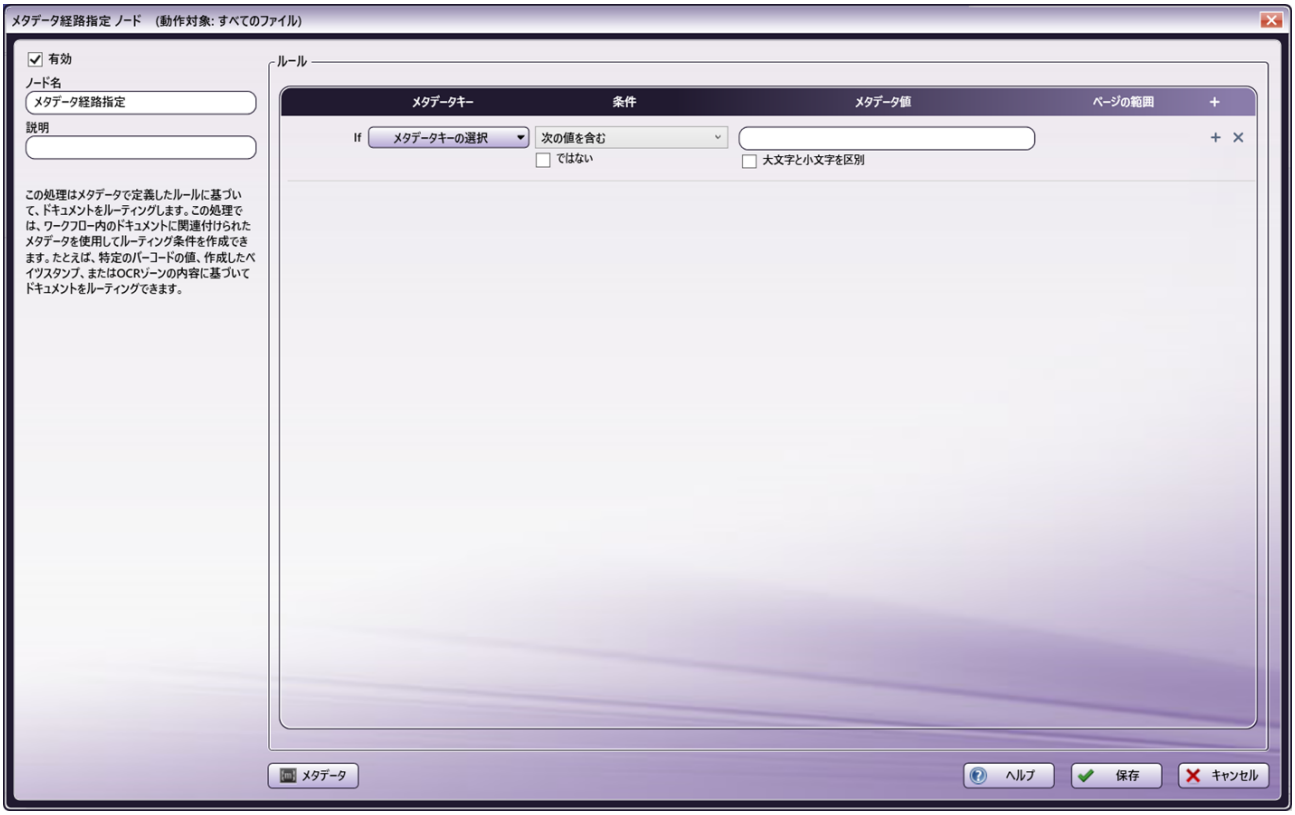
同様に、高度なベイツスタンプノードがワークフローに含まれている場合、あらかじめ定義されている特定のベイツスタンプを検索できます。

また、任意のシステム定義変数を検索することもできます。ルールの設定が完了すると、ノードは、指定された条件をドキュメントが満たしているかどうかに基づいて、それらのノードの経路を指定します。

このノードでは以下の出力コネクターを使用できます。

- **[はい]** - メタデータ条件が満たされている場合。
- **[いいえ]** - メタデータ条件が満たされていない場合。
- **[エラー]** - ドキュメントタイプがサポートされていない場合。

メタデータ経路指定ノード ウィンドウを開くには、**メタデータ経路指定** の処理ノードをワークフロービルダーのキャンバスに追加して、そのノードをダブルクリックします。以下の図のように、**メタデータ経路指定ノード** ウィンドウが開きます。



メタデータ経路指定ノードウィンドウの使用

- 処理が実行されるように **[有効]** ボックスをチェックします。チェックを外すと、この処理は無視されます。ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは論理条件やエラー条件を確認しないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、メタデータ経路指定ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、メタデータ経路指定ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理をそれぞれ区別するのに役立ちます。説明が長い場合は、このフィールドにマウスを合わせるとすべての内容を読むことができます。
- メタデータ経路指定の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。変更を保存しないでウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。

メタデータルールの設定

メタデータルールを設定するには、以下の操作を行います。

手順1: メタデータの選択

ワークフロー内でドキュメントに関連付けられている任意のメタデータを選択して使用できます。**[メタデータキーの選択]** ボタンをクリックすると、メタデータブラウザーが開き、使用できるすべてのメタデータが種類ごとに分類されて表示されます。たとえば、高度なOCRノードでゾーンを作成している場合、そのゾーンがポップアップウィンドウの[OCR]という見出しの下に表示されます。また、このウィンドウで、条件として使用するシステム定義変数を選択することもできます。ワークフロー内の他の処理ノードでメタデータキーを設定していない場合はメタデータキーが表示されませんので注意してください。メタデータブラウザーでは、以下の操作を行うことができます。

- **リストを展開** するには、目的のメタデータの横にある **[+]** 記号をクリックします。たとえば、LPRメタデータを表示する場合は、LPRの横にある **[+]** 記号をクリックすると、以下のような展開可能なリストが表示されます。

- **リストを折りたたむ** には、目的のメタデータの横にある[-]記号をクリックします。
- **ルールに追加するメタデータを選択** するには、メタデータをクリックして、[選択]ボタンをクリックします。この時点でメタデータブラウザーが閉じ、[メタデータ経路指定]ウィンドウに戻ります。
- **メタデータ参照のページレベルまたは出現番号（あるいはその両方）を指定** するには、**[カスタムメタデータ]** ボックスをクリックして、表示された空のフィールドに正しい構文を入力します。
- **メタデータを検索** するには、ウィンドウの右側にある空の[検索]フィールドに目的のテキスト文字列を入力します。

手順2: 条件の指定

次に以下の操作を行います。

- ドロップダウンから **[条件]** を指定します。オプションは次のとおりです。

条件 | **説明** | **大文字と小文字を区別を許可** | **メタデータ値が必要** — | — | — | — 次の値 | **メタデータキー** は **メタデータ値** と正確に一致します。| はい | はい 次の値を含む | **メタデータキー** は、任意の場所に **メタデータ値** を含みます。| はい | はい より少ない | **メタデータキー** の値は、**メタデータ値** に入力された値より小さい。| いいえ | はい 以下または等しい | **メタデータキー** の値は、**メタデータ値** に入力された値より小さいか同じです。| いいえ | はい より大きい | **メタデータキー** の値は、**メタデータ値** に入力された値よりも大きい。| いいえ | はい より大きいまたは等しい | **メタデータキー** の値は、**メタデータ値** に入力された値より大きいか同じです。| いいえ | はい は間に | **メタデータキー** の値は、2つの **メタデータ値** 領域に入力された値の間にあります。2つのエントリーの順序は関係ありません。| いいえ | はい 等しいまたはその間 | **メタデータキー** の値は、いずれかの値と同じか、2つの **メタデータ値** 領域に入力された値の間にあります。2つのエントリーの順序は関係ありません。| いいえ | はい 正規表現 | **メタデータキー** の値は、式または選択したパターンによって記述されたパラメーター内に収まります。| はい | はい 存在する | ファイルには **メタデータキー** が存在します。| いいえ | いいえ を含む | **メタデータキー** から抽出されたメタデータには、任意の値が含まれます。| いいえ | いいえ

- **[ではない]** チェックボックスをオンにして、選択した **[条件]** の反対を検索します。
- **[大文字と小文字を区別]** チェックボックスをオンにして、入力されたメタデータ値の正確な大文字と小文字を検索します。
- **[+]** アイコンを使用して条件を追加するか、 アイコンをクリックして条件を削除します。

次の図では、「195」を含む請求書番号を持つすべてのドキュメントを特定のフォルダーに送信するようにルールが設定されています。

次の図では、「195」を含む請求書番号 **ではない** すべてのドキュメントを特定のフォルダに送信するルールが設定されています。

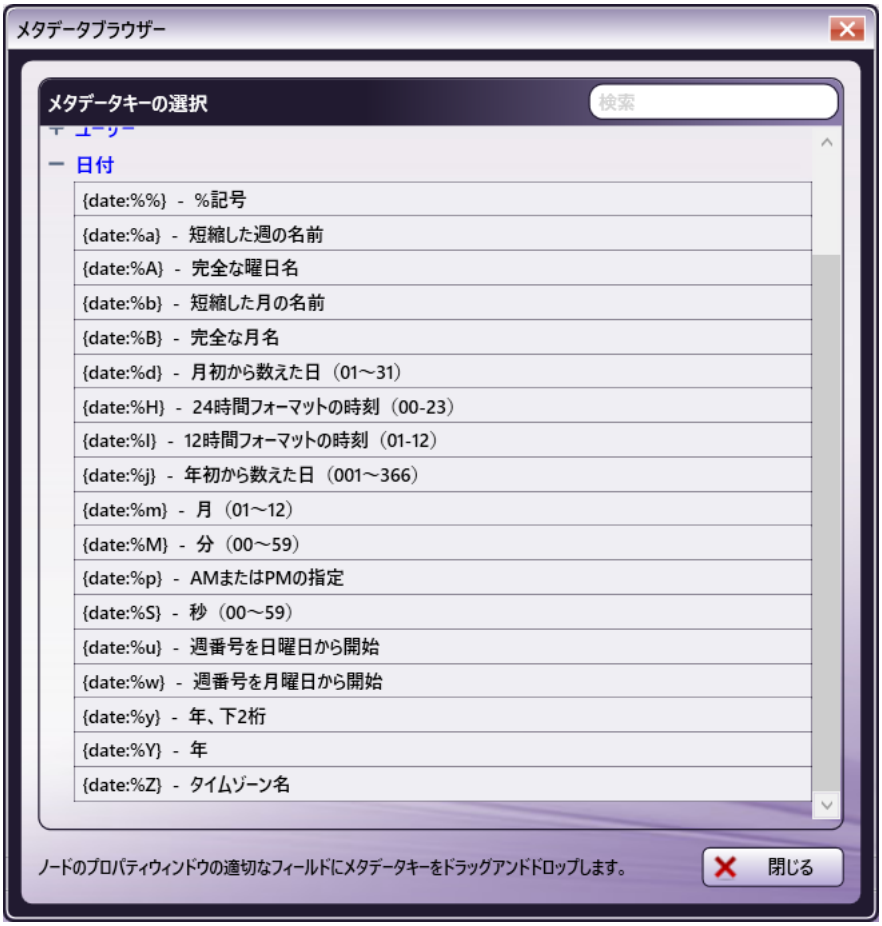
注:

- **メタデータ経路指定** ノードで、数値比較を行う場合、16桁で数値を丸めるため、特定の状況下でドキュメントルーティングに影響を与える可能性があります。
  - たとえば、21.000000000000001 (有効数字17桁) は 21.00000000000000 (有効数字16桁) に丸められ、21.000000000000009 (有効数字17桁) は 21.00000000000001 (有効数字16桁) に丸められます。

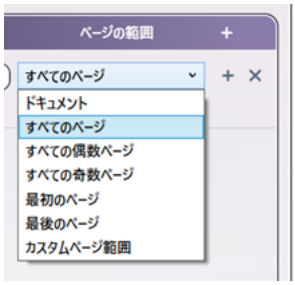
手順3: メタデータブラウザーからのメタデータ値の指定

ワークフロー内でドキュメントに関連付けられている任意のメタデータを選択して使用できます。**[メタデータ]** ボタンをクリックすると、メタデータブラウザーが開き、使用できるすべてのメタデータが種類ごとに分類されて表示されます。メタデータブラウザーでは、以下の操作を行うことができます。

- **リストを展開** するには、目的のメタデータの横にある **[+]** 記号をクリックします。たとえば、日付を表示する場合は、[日付]の横にある **[+]** 記号をクリックすると、以下のような展開可能なリストが表示されます。



- **メタデータを検索** するには、ウィンドウの右側にある空の[検索]フィールドに目的のテキスト文字列を入力します。
- メタデータブラウザーでは、**[メタデータ値]** フィールドにメタデータキーをドラッグアンドドロップできます。
- **メタデータ参照のページレベルまたは出現番号（あるいはその両方）を指定** するには、[メタデータ値]フィールドに正しい構文を入力します。



正規表現条件でのパターンマッチングの使用

[正規表現] 条件を選択した場合、**パターンマッチングツール** を使用して正規表現を定義できます。

以下の操作を行います。

1. **[条件]** として **[正規表現]** を選択します。以下の図のように、[メタデータ値]フィールドの横に[パターンの参照]ボタンが表示されます。

2. **[パターンの参照]** ボタンをクリックして、パターンマッチングツールを開きます。
3. パターンマッチングツールを使用してパターンを選択/作成したら、**[保存]** ボタンを選択します。パターンマッチングツールが閉じます。
4. 以下の図のように、**[メタデータ値]** フィールドに、選択したパターンの正規表現が表示されます。

手順4: 処理するページ範囲の指定

[処理するページの範囲] 領域では、メタデータルールの範囲を指定できます。オプションは以下のとおりです。

- **[ドキュメント]** - ファイルに関連付けられているメタデータ。
- **[すべてのページ]** - ファイル内のすべてのページに関連付けられているメタデータ。
- **[すべての偶数ページ]** - ファイル内のすべての偶数ページに関連付けられているメタデータ。
- **[すべての奇数ページ]** - ファイル内のすべての奇数ページに関連付けられているメタデータ。
- **[最初のページ]** - ファイルの最初のページに関連付けられているメタデータ。
- **[最後のページ]** - ファイルの最後のページに関連付けられているメタデータ。
- **[独自のページ範囲を定義]** - 特定のページ範囲にルールを適用します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力するための空のフィールドが表示されます。以下の操作を行います。
    - カンマ記号またはダッシュ記号（あるいはその両方）を使用して、ドキュメントの先頭から数えたページ範囲を指定します。たとえば、「1, 2, 5-7」と入力すると、1、2、5、6、7ページが指定されます。
    - カッコを使用して、ページ範囲内でスタンプを押す並びを指定します。たとえば、「1-10(3)」と入力すると、1～10ページまで2ページおきのページが指定されます。
    - 「end」を使用して、最後のページを指定します。たとえば、「end(-5) - end」と入力すると、20ページあるドキュメントの15～20ページが指定されます。

その他にも、以下のような例があります。

20ページあるドキュメントの1、2、5、6、7、19ページを指定するには、「1,2,5-7,end(-1)」と入力します。

20ページあるドキュメントの10～15ページを指定するには、「10-end(-5)」と入力します。

20ページあるドキュメントの10～15ページを1ページおきに指定するには、「10-end(-5)(2)」と入力します。

25ページあるドキュメントの15～20ページを指定するには、「end(-10)-end(-5)」と入力します。

20ページあるドキュメントの10～20ページを指定するには、「end(-10)-end」と入力します。

注: 入力ドキュメントのページ数に対応しないページ範囲を指定した場合は（3ページのドキュメントについて10～20ページを処理するように指定した場合など）、ファイルはエラーになります。

複数のルールの設定

メタデータ経路指定 ノードは、複数のルールをサポートしています。複数のルールを使用する場合は、次の図のように、ドロップダウンから **AND** および/または **OR** を選択して組み合わせることができます。

注: 複数のルールを使用する場合、ノードは **OR** ルールを処理する前に **AND** ルールを処理します。**AND** が選択されたルールは、上の行と組み合わされて、1つの検証イベントを形成します。たとえば、次の図では、ノードはゾーン1のメタデータが「XY39」であるかどうか、およびゾーン2のメタデータに「2021」が含まれているかどうかを確認します。両方が[true]の場合、ドキュメントは「はい」ワークフローに沿ってルーティングされます。これらの条件のいずれかが[true]でない場合、ノードはゾーン1のメタデータに「XYZ」が含まれているかどうかを確認します。存在する場合、ドキュメントは「はい」ワークフローに沿ってルーティングされます。**AND** ルールと **OR** ルールのいずれかが[false]の場合、ドキュメントは「いいえ」ワークフローに沿ってルーティングされます。

PJL印刷設定

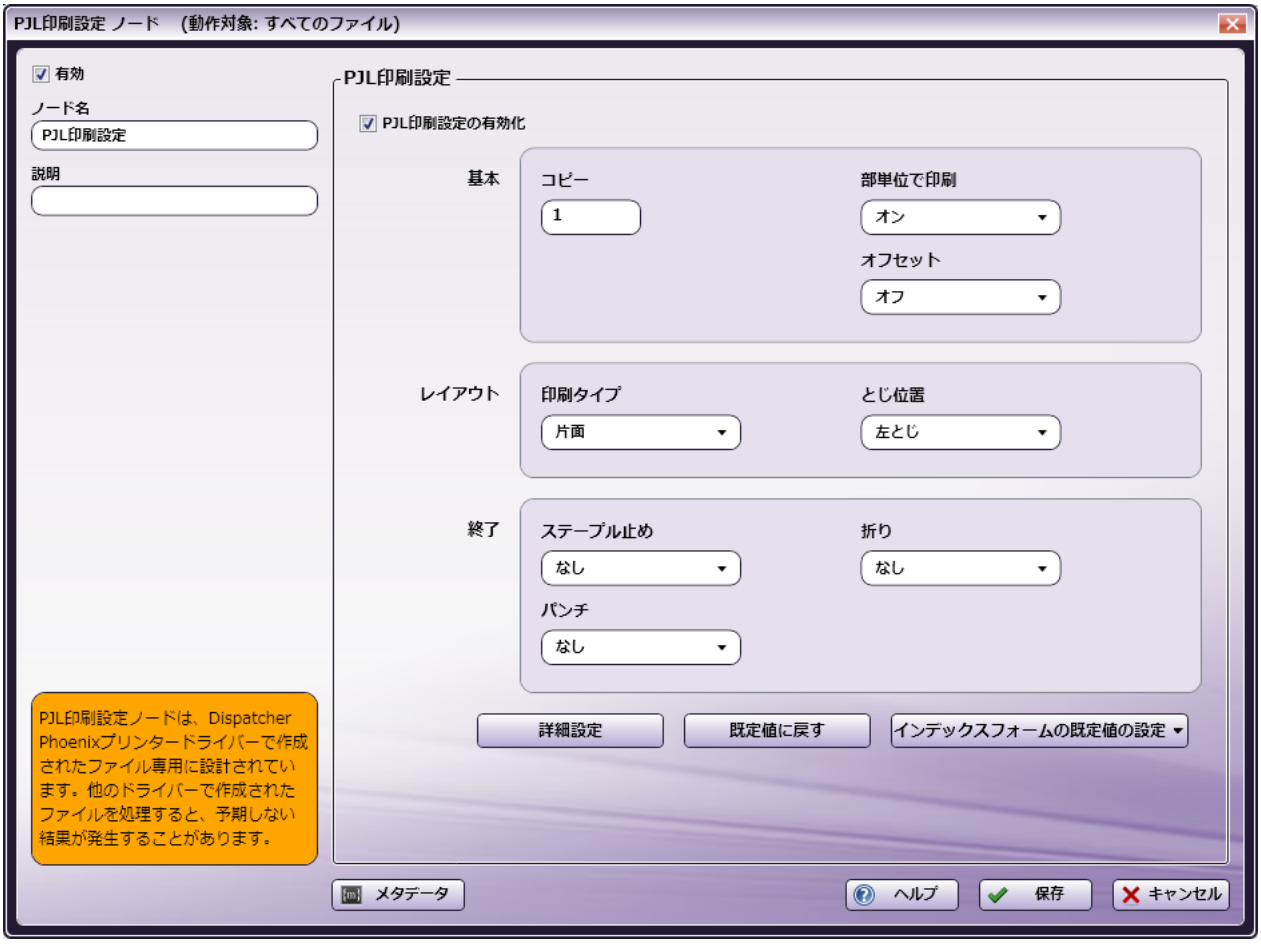
PJL印刷設定の処理によって、基本的および高度なPJL印刷設定をジョブに指定できます。この設定は、自動的に適用することができ、複合機で直接指定することもできます。この処理は、Dispatcher PhoenixのRelease2Meソリューションの一機能として使用するように設計されています。

印刷ジョブがキューからリリースされた後に、ユーザーが複合機で印刷設定を指定できるようにするには、PJL印刷設定のインデックスフォームをRelease2Meノードに追加します。この場合、ワークフロー内で、PJL印刷設定ノードがRelease2Meノードよりも *後に* 位置することを確認する必要があります。

また、PJL印刷設定ノードを使用することにより、印刷ファイルで高度なPJLヘッダーの追加、置換、および削除を行うことができます。

注: これらの印刷設定は、Dispatcher Phoenix印刷ドライバーを使用するように設計されています。他のドライバーのサポートはそれぞれ異なります。ここで指定した設定は、必ずしもPSファイルやPCLファイルより優先されるとは限りません。

PJL印刷設定ノード ウィンドウを開くには、**PJL印刷設定** の処理ノードを追加して、ノードをダブルクリックします。



- この処理が実行されるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** フィールドに、PJL印刷設定ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、PJL印刷設定ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

PJL印刷設定の指定

このノードを使用することで、以下の操作ができます。

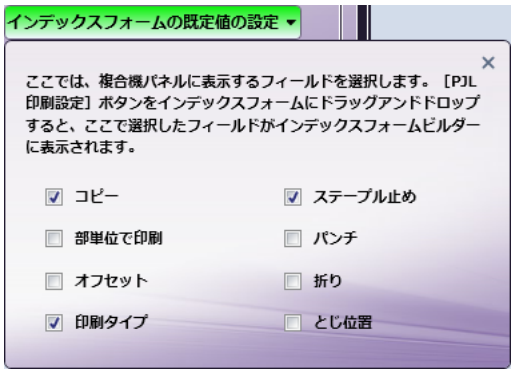
1. PJL印刷設定を変更するには、**[PJL印刷設定の有効化]** ボックスがオンになっていることを確認します。カスタマイズしたPJLヘッダーを入力ドキュメントに追加するには、このボックスのチェックを外します。
2. **[基本]** の次の設定を指定します。
    - **[コピー]** - 印刷するコピーの数を入力します。
    - **[部単位で印刷]** - [オン]、[オフ]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
    - **[オフセット]** - [オン]、[オフ]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
3. **[レイアウト]** の次の印刷設定を指定します。
    - **[印刷タイプ]** - [片面]、[両面]、[小冊子]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
    - **[とじ位置]** - [左とじ]、[右とじ]、[上とじ]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
4. **[終了]** の次の印刷設定を指定します。
    - **[ステープル止め]** - [コーナー]、[2点]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
    - **[折り]** - [中折り]または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。
    - **[パンチ]** - [2穴]、[3穴]、または[なし]を選択します。入力ドキュメントの既存の設定を保持する場合は、[なし]を選択してください。

    注:

    - **[小冊子]** は、[部単位で印刷]、[ステープル止め]、および[パンチ]の設定より優先されます。[小冊子]レイアウトを指定すると、[ステープル止め]および[パンチ]は[オフ]に設定され、[部単位で印刷]は[オン]に設定されます。

- **[折り]** は、[ステープル止め]、[パンチ]、[部単位で印刷]、および[オフセット]の設定より優先されます。[折り返す]仕上げを指定すると、[部単位で印刷]は[オン]、[オフセット]は[オフ]、および[ステープル止め]と[パンチ]は[オフ]に設定されます。
- **[ステープル止め]** は、[オフセット]の設定より優先されます。[ステープル止め]仕上げを指定すると、[オフセット]は[オフ]に設定されます。

5. カスタムPJLヘッダーを入力ドキュメントに追加するには、**[詳細設定]** ボタンを選択します。
6. PJL印刷設定を既定値に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを選択します。
7. このノードをインデックスフォームビルダーで使用して、ユーザーが複合機パネルから直接印刷設定にアクセスできるようにすることもできます。既定では、インデックスフォームは[コピー]、[印刷タイプ]、および[ステープル止め]オプションによって作成されます。ただし、**[インデックスフォームの既定値の設定]** ボタンを選択することにより、インデックスフォームをカスタマイズできます。ドロップダウンパレットが表示され、PJL印刷設定ノードをインデックスフォームビルダーのキャンバス領域にドラッグアンドドロップしたときに、インデックスフォームに自動的に追加するフィールドを選択できます。次の図を参照してください。



注: 選択したフィールドが3つ以下の場合、各フィールドはインデックスフォームにボタンとして表示されます。3つを超えるフィールドを選択した場合は、ドロップダウンリスト形式で表示されます。

追加のPJLヘッダーの指定

さらに、このノードを使用して、以下の操作を行うこともできます。

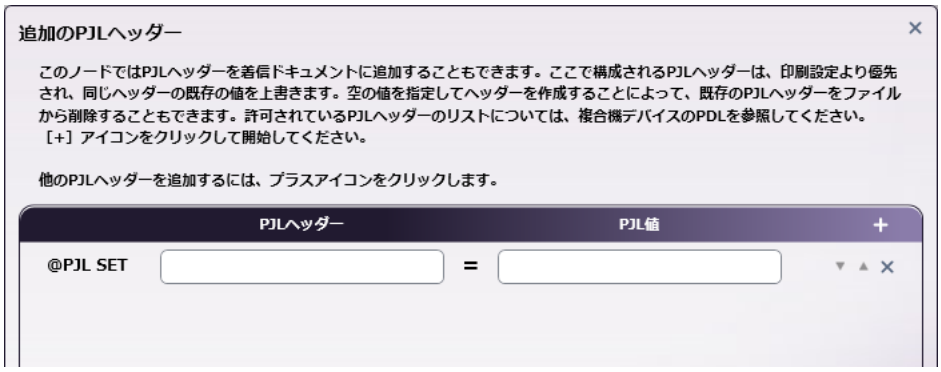
- 入力ドキュメントにさらにPJLヘッダーを追加します。
- 入力ドキュメントの既存のPJLヘッダーの値を変更します。
- 入力ドキュメントから既存のPJLヘッダーを削除します。

重要! カスタムPJLヘッダーを追加すると、ドキュメントが正しく印刷されなくなる場合があります。印刷に使用する特定のデバイスに適したPJLヘッダーを必ず把握しておいてください。

以下の操作を行います。

1. 開始するには、**[詳細設定]** ボタンを選択します。次のパレットが表示されます。

2. **[+]** ボタンをクリックします。次の図のように、空の行が表示されます。



3. PJLヘッダーの名前を「@PJL SET」ラベルの横に入力し、それに対応する値を「=」記号の後ろに入力します。
4. 必要に応じて、続けて行を追加します。
5. 行を削除するには、 ボタンをクリックします。
6. リスト内で行を上下に移動するには、**[矢印]** ボタンをクリックします。
7. 値が空のPJLヘッダー行を作成すると、入力ドキュメント内のその特定のPJLヘッダーは削除されます。
8. ここで指定した値は、入力ドキュメント内の同じPJLヘッダーに指定されている既存の値より優先されます。

OCR

高度なOCR

高度なOCR

高度なOCR処理ノードを使用して、光学式文字認識（OCR）の結果を調整し、**ゾーン**を使用してメタデータを抽出します。ゾーンを介して、**OCR エンジン**がページ上のテキスト、フォーム、表、グラフィックなどのさまざまな要素を認識する方法を定義できます。たとえば、受信ドキュメントから請求書番号を取得するために、請求書番号が表示されるドキュメントの領域にゾーンを作成できます。さらに、ゾーンはメタデータを自動的に抽出して、メタデータを元のドキュメントに関連付けることができます。

このノードは、次のファイルタイプで機能します。

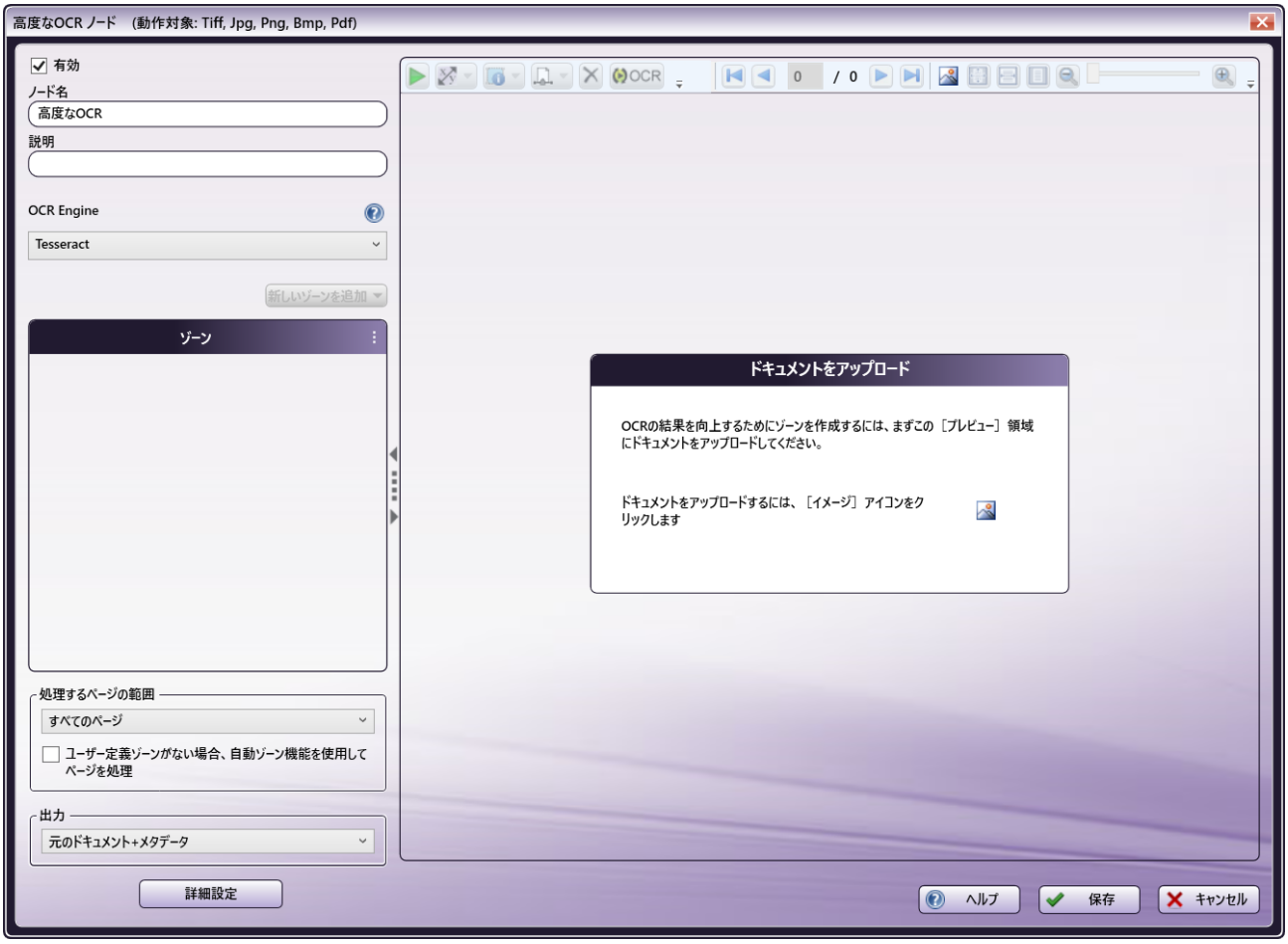
- TIFF
- JPG
- PNG
- BMP
- PDF

注:

- Microsoft.NET Framework 3.5またはそれ以上が存在しない場合、このノードの機能の一部は正しく機能しない可能性があります。FrameworkをWindows Updateからインストールするか、MicrosoftのWebサイトからダウンロードしてください。
- スキャンされたドキュメントの推奨最小DPIは200です。300 DPI以上のドキュメントではより良い結果が期待できます。
- このノードには、Tesseract **OCR エンジン** と、aiDocuDroid **OCR エンジン** が含まれます。OmniPage OCRエンジン、もしくはaiDocuDroid 手書き文字認識 ICRエンジンのライセンスを購入することもできます。
- このページはおもにTesseractとOmniPageに当てはまります。aiDocuDroidおよびaiDocuDroid 手書き文字認識の要件と機能はわずかに異なり、ここで説明されています。

プロパティウインドウ

高度なOCR処理ノードを構成するには、ノードをワークフロービルダーの作業領域にドラッグアンドドロップしてダブルクリックします。次の図のように、[高度なOCR]ノードのプロパティウィンドウが表示されます。



上の図は、TesseractをOCRエンジンとして使用し、選択オプションを使用しないプロパティウィンドウの既定の構成を表しています。

複数のOCRエンジンにアクセスできる場合は、[OCRエンジン]フィールドがドロップダウンメニューで表示されます。オプションは次のとおりです。

- Tesseract
- OmniPage
- aiDocuDroid (OCR)
- aiDocuDroid 手書き文字認識 (ICR)

高度なOCRプロパティウィンドウで、OCR処理のゾーンを完全に定義およびカスタマイズできます。ウィンドウは次の領域で構成されています。

- **一般的な設定**
- **プレビュー領域**
- **ツールバー**
- **ゾーンリスト**
- **追加の設定**

一般的な設定

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前はワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を表すノードの意味のある名前を指定します。
- **「説明」** - このノードのオプションの説明を入力します。説明はワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くとその内容全体を読み取ることができます。
- **[OCR エンジン]** - **複数のOCRエンジン** がライセンスされ、Dispatcher Phoenixにインストールされている場合、ドロップダウンメニューが表示され、そこから使用するエンジンを選択することができます。システムで使用できるエンジンが1つしかない場合は、エンジンの名前がこのフィールドに表示されます。

  注: 別のOCRエンジンに変更すると、**[有効]** チェックボックスと **[ノード名]** を除くすべての構成設定が破棄され、既定の設定に戻されます。

ボタン

- **[詳細設定]** - **高度なOCR設定**ウインドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixのオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。

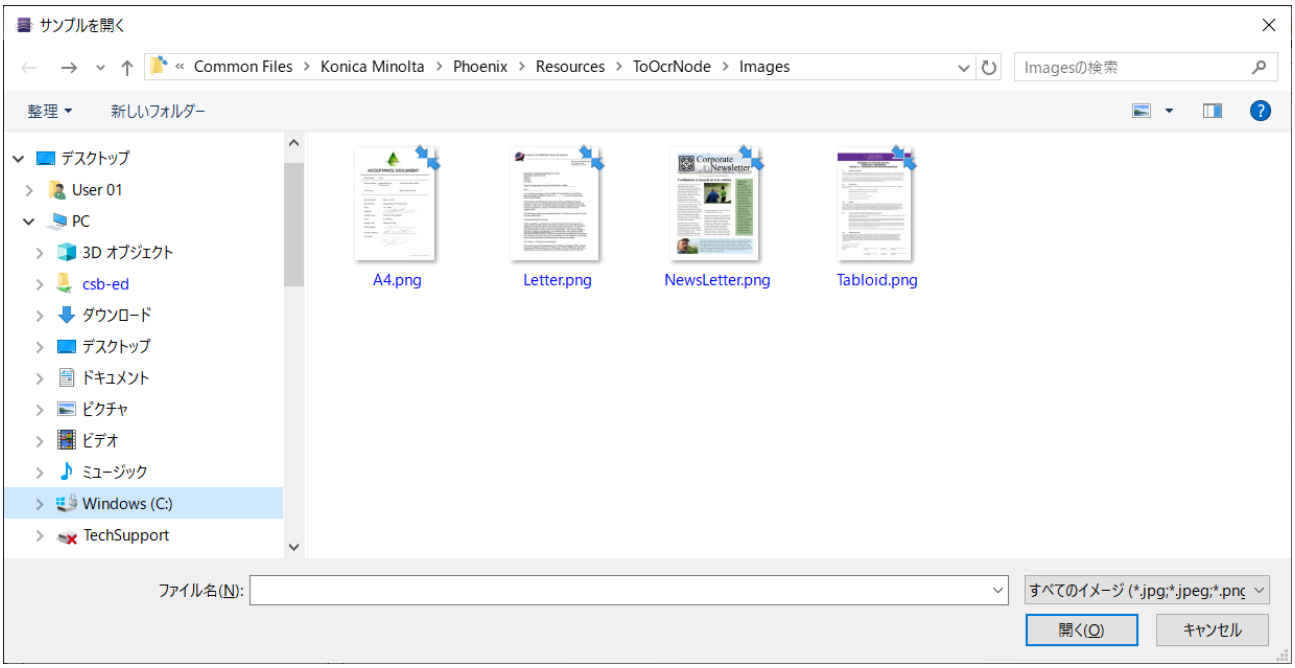
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

プレビュー領域

プレビュー領域を使用して、ゾーンの定義に使用するサンプルドキュメントをアップロードします。ドキュメントはスキャンするドキュメントに類似している必要があります。

高度なOCRノードのプロパティウィンドウを最初に開いたとき、プレビュー領域には **ドキュメントをアップロード** ウィンドウのみが含まれ、画面上の多くのオプションは非アクティブです。ドキュメントをアップロードすると、画像がプレビュー領域に表示され、オプションがアクティブになります。

ドキュメントをアップロードするには、**ドキュメントをアップロード** ウィンドウのアイコンをクリックするか、**ツールバー**の **[アップロード]** アイコンをクリックします。「サンプルを開く」ウィンドウが表示されるので、そこからドキュメントを選択できます。さらに、このアプリケーションは、さまざまなサイズのサンプルドキュメントをいくつか提供しており、これらも使用できます。次の図を参照してください。



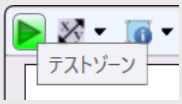
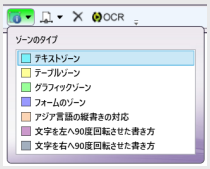
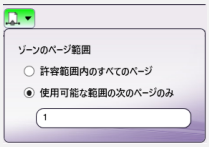
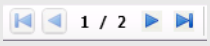
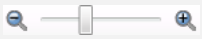
ドキュメントを選択して **[開く]** をクリックします。プレビュー領域にサンプルドキュメントが表示されます。

注: サンプルドキュメントを選択した後、ツールバーの **[アップロード]** アイコンをクリックして別のドキュメントを選択することができます。すでにゾーンを作成している場合、新しいドキュメントを選択するとウィンドウが表示され、既存のゾーンを保存するか削除するかを選択することができます。

ツールバー

ウィンドウの上部にあるツールバーを使用して、ゾーンをさらに定義し、ノードのプロパティウィンドウのビューをカスタマイズします。サンプルドキュメントを**プレビュー領域**にアップロードするまで、多くのツールバーのオプションはアクティブにならないことに注意してください。

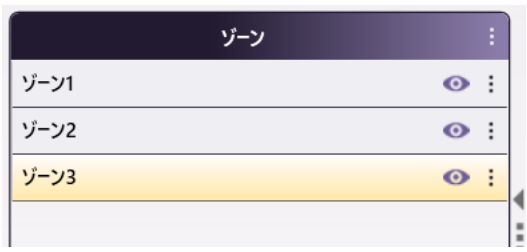
ツールバーのドロップダウンパレットを使用する場合、**[Enter]** キーを押すか、パレットの外側をクリックすると、それらの変更がゾーンに適用されます。

ツールバーアイコン	説明
	**テストゾーン** - クリックして、現在プレビューされているページ上のすべてのゾーンをテストします。結果はプレビュー領域の下のセクションに表示されます。
	ゾーン座標 - クリックして、ゾーンの特定の座標を定義します。**[幅]** フィールドと **[高さ]** フィールドに値（ピクセル単位）を入力することで、ゾーンのサイズを変更できます。**[左]** フィールドと **[上]** フィールドに値（ピクセル単位）を入力して、ゾーンの位置を移動することもできます。
	**ゾーンのタイプ** - このアイコンをクリックして、選択したゾーンの設定を定義します。
	**ゾーンのページ範囲** - クリックして、ゾーンを適用するページを指定します。オプションは次のとおりです。 • **許容範囲内のすべてのページ** - このラジオボタンを選択して、ゾーンが範囲内のすべてのページに適用されるようにします。 • **使用可能な範囲の次のページのみ** - このラジオボタンを選択して、ゾーンが指定された範囲内のページにのみ適用されるようにします。次に、下の空のフィールドにページ範囲を入力します。
	削除 - クリックして、選択したゾーンを削除します。
	OCR - クリックすると、アプリケーションがゾーンを自動的に検出して適用します。ページで定義されている既存のゾーンは、この処理が開始されるとすべて削除されます。
	**ページ** - 矢印をクリックして、サンプルドキュメントの複数のページをナビゲートします（必要な場合）。
	サンプルドキュメントのアップロード - クリックして、プレビュー領域で使用する別のサンプルドキュメントを見つけてアップロードします。
	実際のサイズ - クリックして、プレビューサンプルドキュメントを元のサイズに戻します。
	幅に合わせる - クリックして、サンプルドキュメントを拡大し、プレビュー領域の幅に合わせます。
	ページ全体 - クリックして、サンプルドキュメントをプレビュー領域に完全に合わせます。
	**ズームコントロール** - 虫眼鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域をズームインおよびズームアウトします。

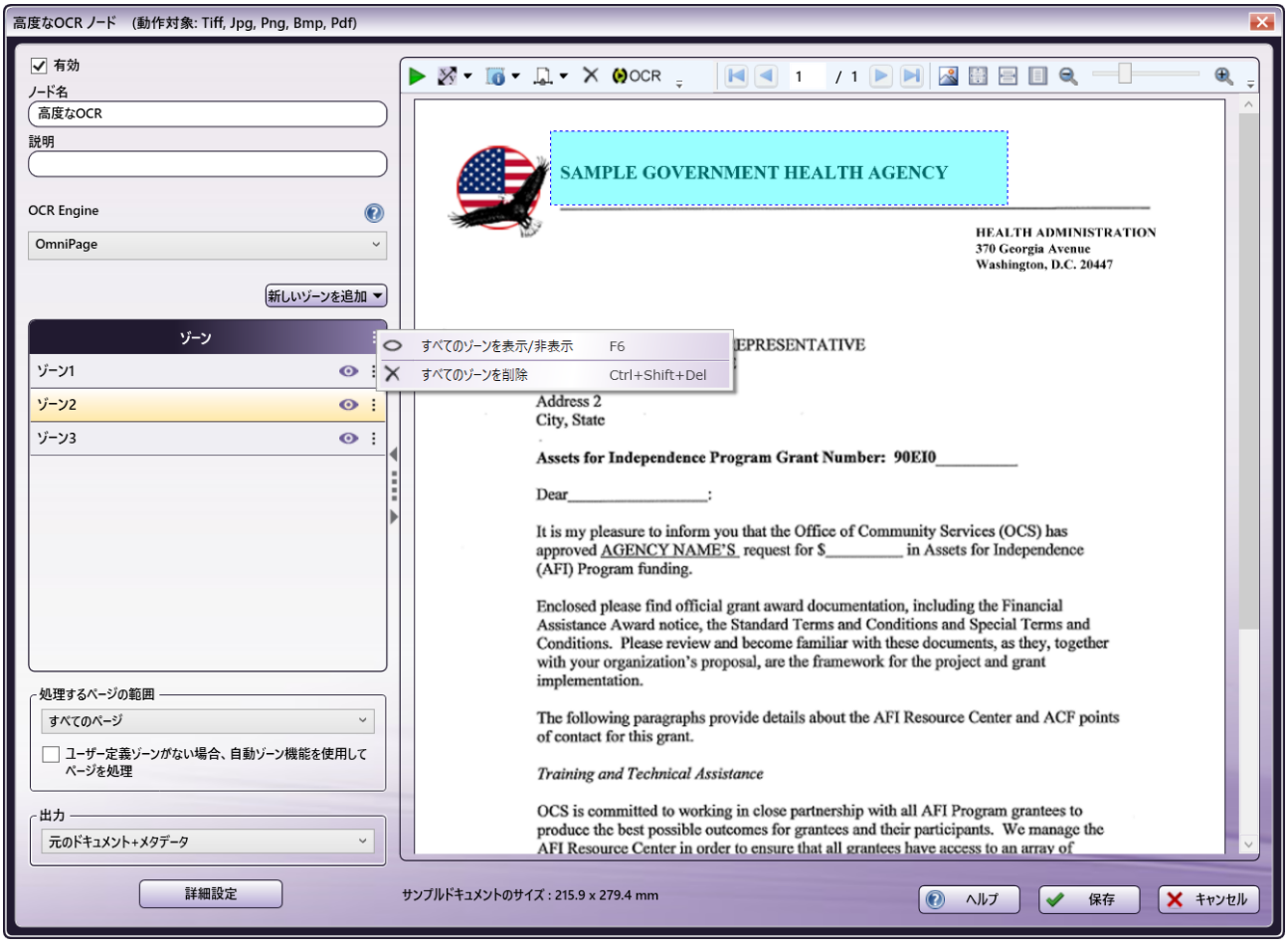
ゾーンリスト

この領域を使用して、検出ゾーンを作成、編集、または削除します。ゾーンは、**OCRエンジン**で使用する画像ドキュメントの領域を定義し、ドキュメントからテキストを出力することができます。ノードを**ゾーンを手動で作成**するか、**ゾーンを自動で作成**するように構成できます。たとえば、受信ドキュメントから請求書番号を取得するために、ドキュメントの請求書番号が表示される領域にゾーンを作成できます。

プレビュー領域にドキュメントをアップロードすると、ゾーンリストがアクティブになります。ノードに定義されているすべてのゾーン(存在する場合)が、次の図のようにリストに表示されます。



ゾーンの追加オプションにアクセスするには、以下に示すように、[ゾーンリスト]領域の右上にある ⋮ アイコンをクリックして、[**その他のアクションメニュー**] を開きます。

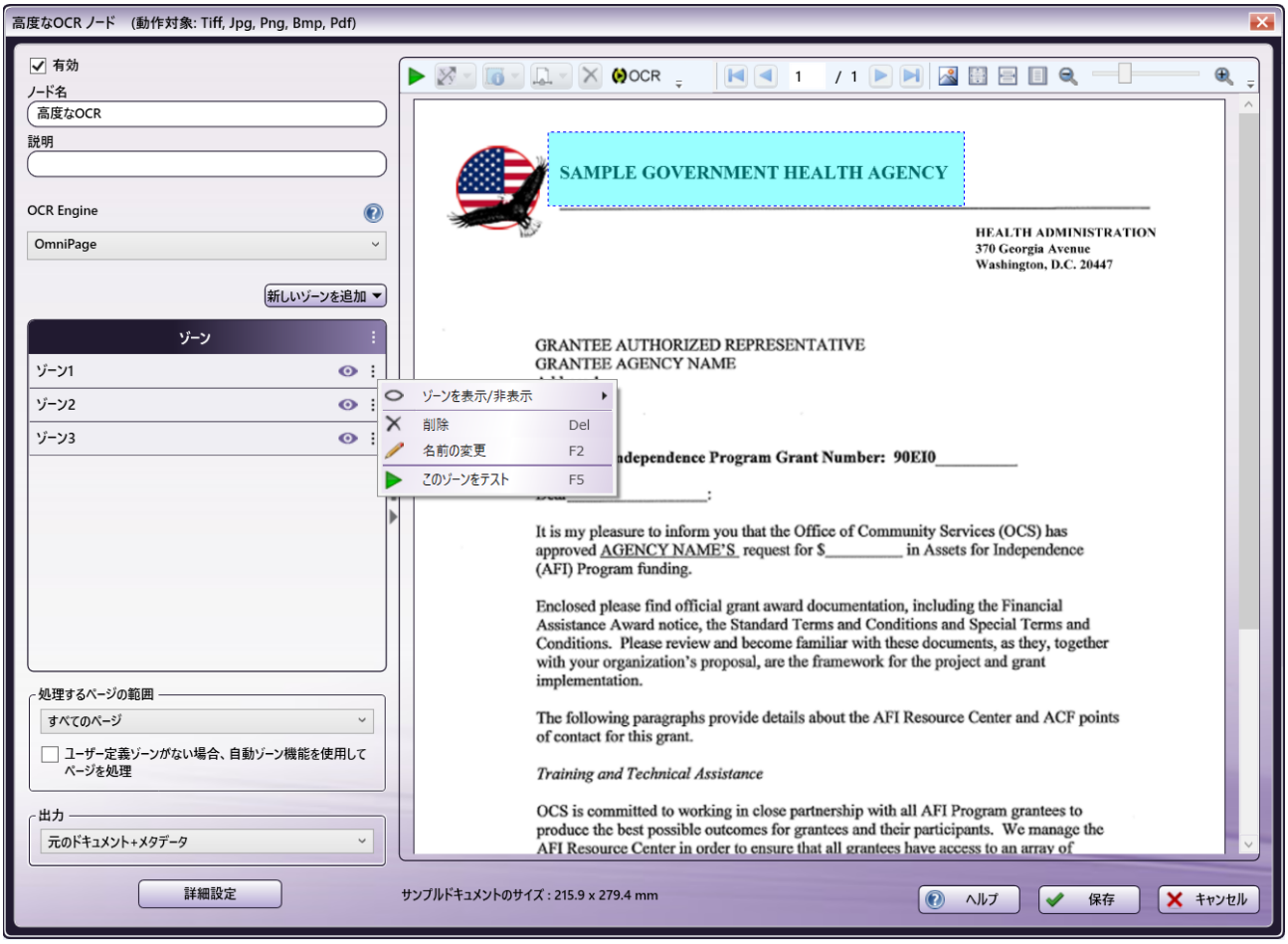


ゾーン 領域の3つのドットをクリックすると、**その他のアクションメニュー** が開き、次の操作ができます。

メニューオプション	メニューアクション	ショートカットキー
すべてのゾーンを表示/非表示	キャンバス上のすべてのゾーンの表示を切り替え、リストの各ゾーンが非表示になっている場合は、その横に「非表示」アイコン を表示します。現在の選択に表示と非表示のゾーンが混在している場合、このオプションをクリックするとすべてのゾーンが非表示になります。	F6

すべてのゾーンを削除 | ゾーンエディター/キャンバスからすべてのゾーンを削除します。 | Ctrl+Shift+Del

ゾーンの横にある3つのドットをクリックすると、次の操作ができます。



メニューオプション	メニューアクション	ショートカットキー
ゾーンを表示/非表示	次の表を参照	次の表を参照
削除	ゾーンエディター/キャンバスから選択したゾーンを削除します。	Del
名前の変更	選択したゾーンの名前を変更します。	F2
このゾーンをテスト	ユーザーが個々のゾーンをテストおよびデバッグできるように、選択した単一のゾーンを実行およびテストします。	F5

注:

- ゾーンのテストに成功すると、ゾーンの結果クエリーセクションがプレビュー領域の下部に表示され、テストされたすべてのゾーンの値が示されます。
- ゾーン領域、プレビュー領域、およびゾーンのテスト後に表示されるゾーン結果クエリーセクションのサイズを調整するには、これらの2つの領域の間のエッジをクリックしてドラッグします。たとえば、ゾーン領域とプレビュー領域の間の境界線を右にドラッグすることで、ゾーン領域を大きく(またはプレビュー領域を小さく)することができます。
- テストされたゾーンの値をコピーするには、次の2つの方法があります。
  1. ゾーンを右クリックして、**ゾーン値をコピー** を選択します。
  2. ゾーンの結果クエリーセクションでゾーンの結果を右クリックし、**コピー** を選択します。

ゾーンを表示/非表示 には、より多くのオプションを備えた2番目のメニューがあります。

メニューオプション	メニューアクション	ショートカットキー
すべてのゾーンを表示/非表示	キャンバス上のすべてのゾーンの表示を切り替え、リストの各ゾーンが非表示になっている場合は、その横に「非表示」アイコン を表示します。現在の選択に表示と非表示のゾーンが混在している場合、このオプションをクリックするとすべてのゾーンが非表示になります。	F6
このゾーンを表示/非表示	キャンバス上の選択したゾーンの表示を切り替えます。	F7
これ以外のすべてのゾーンを非表示	選択したゾーンを除く、キャンバス上のすべてのゾーンを非表示にします。	F9

このノードは追加のアクションもサポートします。

メニューオプション	メニューアクション	ショートカットキー
選択したゾーンをテスト	ユーザーが一度に複数の選択されたゾーンをテストおよびデバッグすることができるように、複数の選択されたゾーンを実行およびテストします。	F5
ゾーン値をWindowsクリップボードにコピー	検出されたゾーン値をWindowsクリップボードにコピーします。このコマンドには、**テストゾーン** 機能を使用した後に生成されるゾーン結果の右クリックメニューからアクセスできます。	Ctrl+c
選択したゾーンを削除	ゾーンエディター/キャンバスから選択したゾーンを削除します。	Del

注: ゾーンリスト領域、またはプレビュー領域を右クリックして表示されるメニューからオプションを選択することによって、個々のゾーンのプロパティを **名前の変更** 、**削除** 、または **表示/非表示** することもできます。

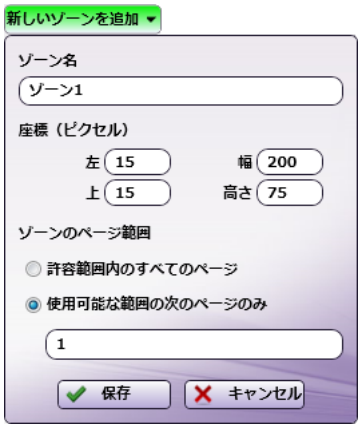
複数のゾーンは、次の2つの方法で選択することができます。

1. プレビュー領域でマウスをクリックしてドラッグし、複数のゾーンを一度に強調表示します。
2. Ctrlキーを押しながらクリックして、複数のゾーンを選択します。この方法は、ゾーン領域とプレビュー領域で機能します。複数のゾーンを選択している場合は、選択したゾーンのいずれかから **その他のアクション** メニューを選択する必要があります。複数のゾーンを変更またはテストするためのオプションが表示されます。

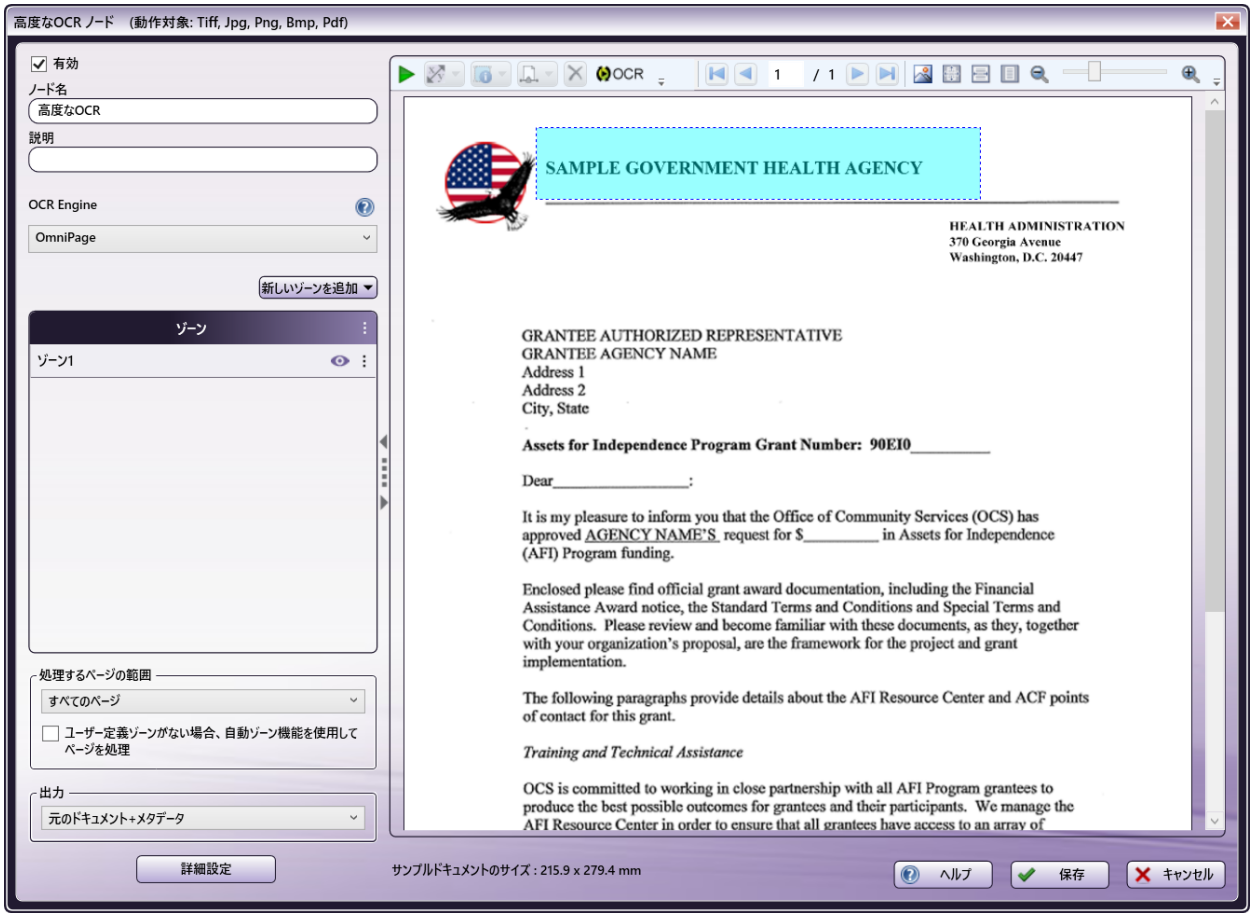
ゾーンを手動で作成

ゾーンを手動で作成するには、次の操作を実行します。

1. **[新しいゾーンを追加]** - 次の図のように、このボタンをクリックしてドロップダウンパレットにアクセスします。



2. [新しいゾーンを追加]ドロップダウンパレットで、次の手順を実行します。
   - **[ゾーン名]** - ゾーンの識別名を入力します（例: *請求書* または *住所* ）。最大15文字まで入力できます。
   - **[左] および [上]** - ドキュメントの左と上からゾーン位置の値（ピクセル単位）を入力します。
   - **[幅]** - ゾーンの適切な幅を定義する値（ピクセル単位）を入力します。
   - **[高さ]** - ゾーンの適切な高さを定義する値（ピクセル単位）を入力します。
   - **[ゾーンのページ範囲]** - ゾーンが適用されるページを指定します。オプションは次のとおりです。
     - **[許容範囲内のすべてのページ]** - このラジオボタンを選択して、指定した範囲内のすべてのページにゾーンを適用します。これはドキュメントの最初のページで構成されたゾーンが、ドキュメント内の残りのページに自動的に適用されることを意味します（処理する指定されたページ範囲がすべてのページの場合）。
     - **[使用可能な範囲の次のページのみ]** - このラジオボタンを選択すると、指定した範囲内の特定の範囲のページにのみゾーンが適用されます。次に表示された空のフィールドにページ範囲を入力します。
   - **[保存]** - 完了したら、このボタンをクリックします。ゾーンは、プレビュー領域の指定された場所に表示されます。下の図を参照してください。
   - **[キャンセル]** - このボタンをクリックして、変更を保存せずにドロップダウンパレットを終了します。



ゾーンを自動で作成

高度なOCRノードは、サンプルドキュメントをアップロードするかどうかに関わらず、ゾーンを自動的に検出できます。サンプルドキュメントをアップロードしないことを選択した場合は、**[処理するページの範囲]** フィールドと **[出力]** フィールドを使用して、それぞれページ範囲と出力形式を指定できます。次に **[保存]** ボタンを選択します。

サンプルドキュメントをアップロードすることを選択した場合、**OCR エンジン** は、ページのコンテンツを順序付けられたゾーンに自動的に分割します。以下の操作を行います。

- **[OCR]** - ゾーンを自動的に作成するには、ツールバーの OCR アイコンをクリックします。複数ページのドキュメントでは、ゾーンは現在プレビューしているページに表示されます。たとえば、4ページのドキュメントで、2ページのプレビュー中にこのボタンをクリックすると、ゾーンが2ページに表示されます。複数ページのドキュメントの別のページにゾーンを適用するには、そのページをプレビューしてからこのボタンをクリックします。

ゾーンの編集

ゾーンを編集するには、**ゾーンリスト** または**プレビュー領域**でゾーンをクリックします。選択したゾーンを編集するには、次のオプションがあります。

- **プレビュー領域**
  - **再配置** - ゾーンをクリックして、パレットの新しい領域にドラッグします。
  - **サイズを変更** - ゾーンの境界にあるハンドルの1つをクリックし、エッジをパレットの新しい場所にドラッグします。サンプルドキュメントのサイズを大幅に変更すると、ハンドルが使用できなくなる場合があることに注意してください。このような場合は、ツールバーの アイコンをクリックして、[ゾーン座標]オプションを使用します。ゾーンのサイズを変更します。

ゾーンのタイプ/コンテンツの定義

ゾーンコンテンツの特定の形式に一致するように、各ゾーンの設定を選択できます。プレビュー領域でゾーンを選択した状態で、ツールバーの アイコンをクリックしてゾーンを表示します。ドロップダウンパレットを入力します。次にゾーンのタイプを選択します。次の表にオプションを示します。

注: ドロップダウンパレットで使用可能なゾーンタイプは、エンジンの機能機能に基づいて**OCR エンジン**によって決定されます。次の表に各OCRエンジンで使用できるオプションを示します。

ゾーンタイプ	OmniPage	Tesseract
テキストゾーン - ゾーンのコンテンツは、フローテキストとして扱われます。	Y	Y
テーブルゾーン - ゾーンのコンテンツはテーブルとして扱われます。	Y	Y
グラフィックゾーン - ゾーンのコンテンツは、認識されたテキスト（写真、ロゴ、描画など）としてではなく、埋め込み画像として扱われます。	Y	Y
アジア言語の縦書きの対応 - ゾーンのコンテンツは、縦書きのアジアのテキストとして扱われます。	Y	N
文字を左へ90度回転させた書き方 - ゾーンのコンテンツは、左回転した縦書きテキストとして扱われます(例:)	Y	N
文字を右へ90度回転させた書き方 - ゾーンのコンテンツは、右回転した縦書きテキストとして扱われます(例:)	Y	N

注: 自動画像回転は、垂直左回転または垂直右回転オプションと競合します。これらのオプションのいずれかを選択する場合は、自動画像回転の既定の設定を無効にします。

OCR メタデータ

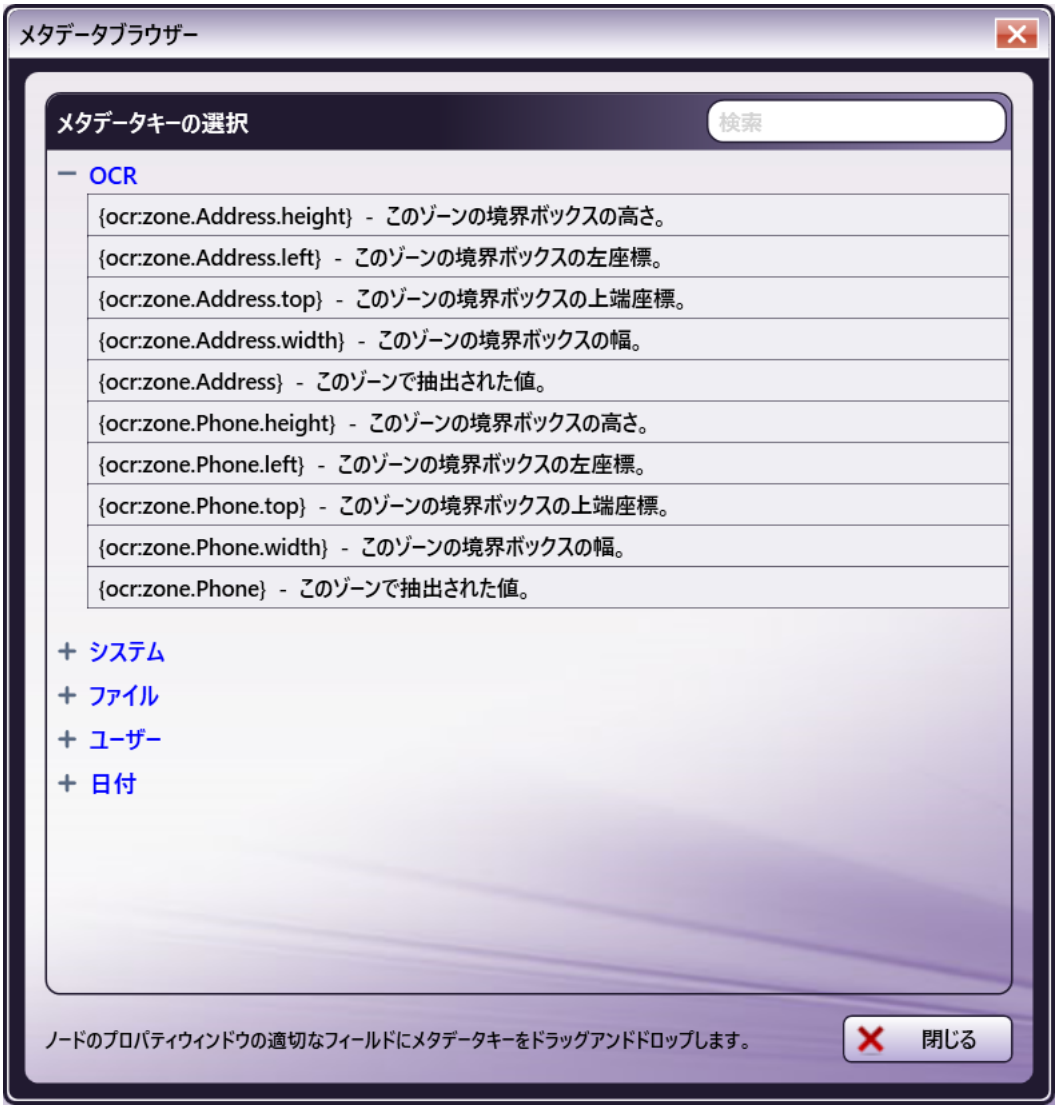
OCRゾーンを定義すると、ワークフロー内の他のノードはそれを参照できるようになります。

- OCRゾーン参照の構文は次のとおりです。
  - **{ocr:zone.nameofzone.[<page>]}**

  これにより、このゾーンで抽出された値が提供されます。
- OCRアプリケーションがゾーン内の値を検出した場所の構文は次のとおりです。
  - **{ocr:zone.nameofzone.[zonecoordinate]}**

  [zonecoordinate] は、ピクセル単位で定義された、「上」、「左」、「幅」、または「高さ」のいずれかです。

次の図のように、メタデータブラウザーウィンドウを使用してOCRゾーン変数を選択することもできます。



追加の設定

OCR処理に含めるページと出力形式を指定できます。これらのフィールドは、高度なOCRノードのプロパティウィンドウの左下隅に表示されます。

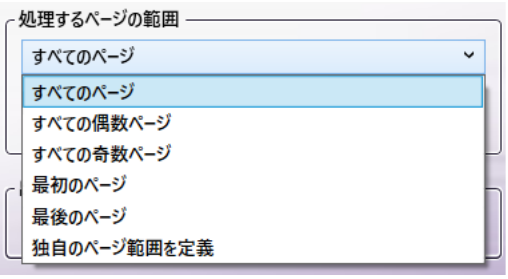
処理するページの範囲の指定

OCR処理に含めるページを指定できます。次のオプションがあります。

- **[処理するページの範囲]** - この領域は、ページの左側、ゾーンリストの下に表示されます。ドロップダウンをクリックすると、次のオプションが表示されます。
  - **[すべてのページ]** - すべてのページを処理します。
  - **[すべての偶数ページ]** - 偶数ページを処理します。
  - **[すべての奇数ページ]** - 奇数ページを処理します。
  - **[最初のページ]** - 最初のページだけを処理します。
  - **[最後のページ]** - 最後のページだけを処理します.
  - **[独自のページ範囲を定義]** - カスタムページ範囲を処理します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力できる空のフィールドが表示されます。次のオプションがあります。 - ドキュメントの先頭から数えてカンマやダッシュ記号を使用してページ範囲を指定します。たとえば、「1, 2, 5-7」と入力して、1、2、5、6、および7ページを処理します。 - カッコを使用して、ページ範囲内の特定のシーケンスを指定します。たとえば、「1-10(3)」と入力して、1ページから10ページまでの3ページごとに処理します。 - 「end」を使用して最後のページを指定します。たとえば、「end(-5)」と入力します。20ページのドキュメントの15-20ページで処理を終了します。

    その他の例は次のとおりです。

    - 20ページのドキュメントの1、2、5、6、7、および19ページを処理するには、「1,2,5-7, end(-1)」と入力します。 - 20ページのドキュメントの10-15ページを処理するには、「10-end(-5)」と入力します。 - 20ページのドキュメントの10-15ページから1ページおきに処理するには、「10-end(-5)(2)」と入力します。 - 25ページのドキュメントの15-20ページを処理するには、「end(-10)-end(-5)」と入力します。 - 20ページのドキュメントの10-20ページを処理するには、「end(-10)-end」と入力します。



注: 受信ドキュメントのページ数に適応しないページ範囲を指定した場合（たとえば、3ページのドキュメントのページ10～20を処理する場合）、ファイルはエラーへ出力されます。

- **[ユーザー定義ゾーンがない場合、自動ゾーン機能を使用してページを処理]** - 複数ページのドキュメントを処理する場合、既定の動作では、ゾーンが作成されているページのみが処理されます。ドキュメントにゾーンが定義されていない複数のページが含まれている場合は、**[ユーザー定義ゾーンがない場合、自動ゾーン機能を使用してページを処理]** チェックボックスをオンにすることで、それらのページの自動ゾーニングを有効にできます。ゾーンは、ゾーンのないページに対して自動的に定義されます。空白のページにはゾーンが定義されていないことに注意してください。

  注: このオプションをオンにすると、{ocr:zone}が利用可能なユーザー定義ゾーンとともにメタデータブラウザーウィンドウに表示されます。

出力フォーマットの選択

[出力]フィールドを使用して、出力ファイルの形式を指定します。この領域は、ページの左側、ゾーンリストの下に表示されます。

[出力]フィールドで、ドロップダウンをクリックすると、出力オプションのリストが表示されます。**OCR エンジン**はこのフィールドで使用できるオプションのリストに影響を与える可能性があります。オプションが[出力]フィールドに表示されない場合、OCRエンジンではサポートされていません。以下の表を参照してください。

注: 処理された出力ファイルには、次の例外を除いて、ユーザー定義ゾーンでキャプチャされたコンテンツのみが含まれます。これらの出力形式には、ゾーンでキャプチャされたコンテンツとともに元のファイルが含まれます。

- 元のドキュメント + メタデータ
- 検索可能なPDF

出力オプション	OmniPage	Tesseract
元のドキュメント + メタデータ - 定義されたゾーンから抽出されたメタデータとともに元のファイルを出力します。これは既定の設定であり、さらに処理するために、ワークフロー内の他のノード（メタデータ/ファイル、メタデータ経路指定など）でメタデータを使用するために必要です。	Y	Y
PDF - 多くのPDF機能をサポートし、認識された文字の位置に大きく依存する、高度な構成が可能な一般的なPDF出力コンバーター。PDFは元のドキュメントと非常によく似た外観になります。	Y	N
検索可能なPDF - 前景にある元イメージを、背景に隠れている認識されたテキストと共に（正確な位置で）保持するPDF出力コンバーターです。ドキュメントのアーカイブとインデックス処理用にお薦めします。この形式では、入力ドキュメント全体が出力に含まれます。	Y	Y
イメージ置き換え付きのPDF - 元の画像から切り取られた画像で、疑わしい単語をカバーする特別なPDFコンバーター。	Y	N
Microsoft Word オプション - ドキュメントをさまざまなバージョンのWordに出力します。選択肢は、Word 2000、XP、97、2003です。Microsoft Wordの長さ/高さの制限は22インチであることに注意してください。	Y	N
Microsoft Excel - ドキュメントをさまざまなバージョンのExcelに出力します。選択肢は、Excel 2003、XP、97です。	Y	N
Microsoft PowerPoint - Microsoft PowerPointで解釈できるプレーンでシンプルなRTFファイルを生成します。	Y	N
検索可能なXPS - ドキュメントを、検索可能なXPSファイルに出力します。XPSは、PDFに似たXMLベースの固定レイアウトドキュメント形式です。	Y	N
RTF オプション - ドキュメントをさまざまなバージョンのRTFに出力します。選択肢は、RTF Word 2000、97、またはWord 6.0/95です。RTF 2000 Exact Word（Microsoft Wordでページをより正確にレンダリングします）。Microsoft Wordの長さ/高さの制限は22インチであることに注意してください。	Y	N
テキスト - ほとんどのテキストエディタやワードプロセッサで読み取れるプレーンテキスト（*.TXT）にドキュメントを出力します。	Y	Y
カンマ区切りテキスト - ドキュメントを、Excel（*.CSV）で読み取ることができるテーブル化されたテキストファイルに出力します。	Y	Y
フォーマット済みテキスト - ドキュメントを（*.TXT）ファイルに出力し、余分なスペースを挿入することによってページのレイアウトを保持しようとします。	Y	N
テキストと改行 - 各行の後に改行を付けてドキュメントをテキストに出力します。	Y	Y
Unicode テキスト - 2バイトのUnicode文字を使用して、ドキュメントをプレーンテキストに出力します。	Y	Y
Unicodeのカンマ区切りテキスト - 2バイトのUnicode文字を使用して、ドキュメントをテーブル化されたテキストファイルに出力します。出力されたファイルはExcelで読み取ることができます。	Y	Y
Unicodeのフォーマット済みテキスト - 2バイトのUnicode文字を使用して、フォーマットされたテキストにドキュメントを出力します。	Y	N
改行を含むUnicodeのテキスト - 各行の後に改行を付けてドキュメントをテキストに出力し、2バイトのUnicode文字を使用します。	Y	Y
XML - ドキュメントをXMLファイル形式で出力します。	Y	N
eBook - Open Ebook Specification 1.0 XMLコンバーターを使用しています。	Y	N

フォーム処理

フォーム処理ノードを使って、バーコード検索またはテキスト検索による固有の識別子（社会保障番号、電話番号など）の高度な検索を実行できます。情報は、ユーザー定義のルールに基づいて抽出や処理（墨消し、強調または取り消し線）ができます。このノードは、抽出内容を（または、ページの正確な位置さえも）知ることなく、ドキュメントの情報を抽出または処理する必要があるときは常に役立ちます。

たとえば、書式のインボイス番号フィールドにあるすべての番号を墨消しする必要がある場合、インボイス番号ラベルを自動的に検索し、次にすべての番号をラベルの右まで墨消しするように、フォーム処理ノードにルールを設定することができます。

フォーム処理ノードを使って、書式の情報を検索して処理するルールを作成できます。ルールは、「基本」ルールと、それに関連する「サブルール」として定義できます。たとえば、基本ルールでは、書式のフィールドにある静的テキスト「社会保障番号」の検索が可能です。次に、基本ルールフィールドの後にある、すべての（XXX-XX-XXXXというパターンの）社会保障番号を見つけるため、基本ルールにサブルールを関連付けることができます。

また、フォーム処理ノードを使って、ページのバーコードを検索することも可能です。Dispatcher Phoenixがバーコードデータを使って書式の別のフィールドを検索するように、ルールを定義することも可能です。

このノードは、次のファイルタイプで動作します。

- TIFF
- JPG
- PDF

注: スキャンしたドキュメントの推奨最小DPIは200です。300DPI以上のドキュメントでは、より良い結果が期待できます。

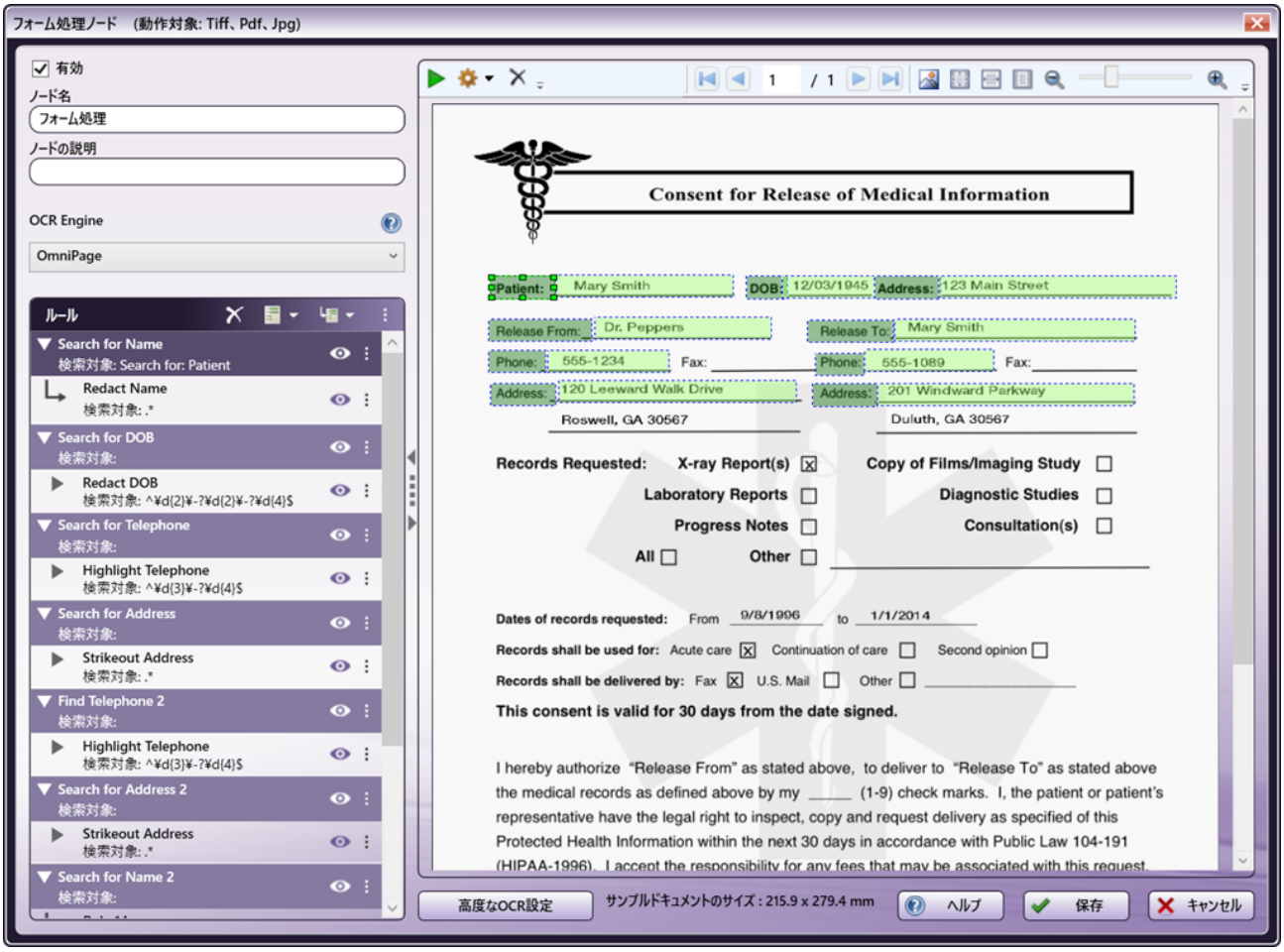
注: このノードには、OmniPage、Tesseract、およびaiDocuDroid **OCR エンジン** が含まれています。

詳細については、このトピックのセクションへの次のリンクをクリックしてください。

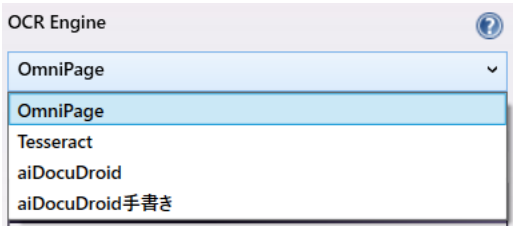
- **ルールリスト領域の使用（基本ルールとサブルールの作成）**
- **ルールとゾーンの操作**
- **操作タブの使用**
- **プレビュー領域の使用**
- **ツールバーの使用**
- **正規表現を使用した検索**
- **パターンマッチングツールの使用**
- **ルール構成の実行**
- **正規表現の例**

フォーム処理ノードを開く

フォーム処理ノードウィンドウを開くには、フォーム処理の処理ノードを追加して、このノードをダブルクリックします。次の図に、複数の基本ルールとサブルールが定義されているフォーム処理ノードの例があります。



- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名がこのフィールドに既定で設定されます。この名前は、ノード アイコンの下のワークフローに表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。ワークフローに複数の処理が含まれる場合、説明は複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読むことができます。
- **[OCR エンジン]** - **複数のOCRエンジン** がライセンスされ、Dispatcher Phoenixにインストールされている場合、使用するエンジンを選択できるドロップダウンメニューが表示されます。システムで使用可能なエンジンが1つだけの場合、そのエンジンの名前がこのフィールドに表示されます。

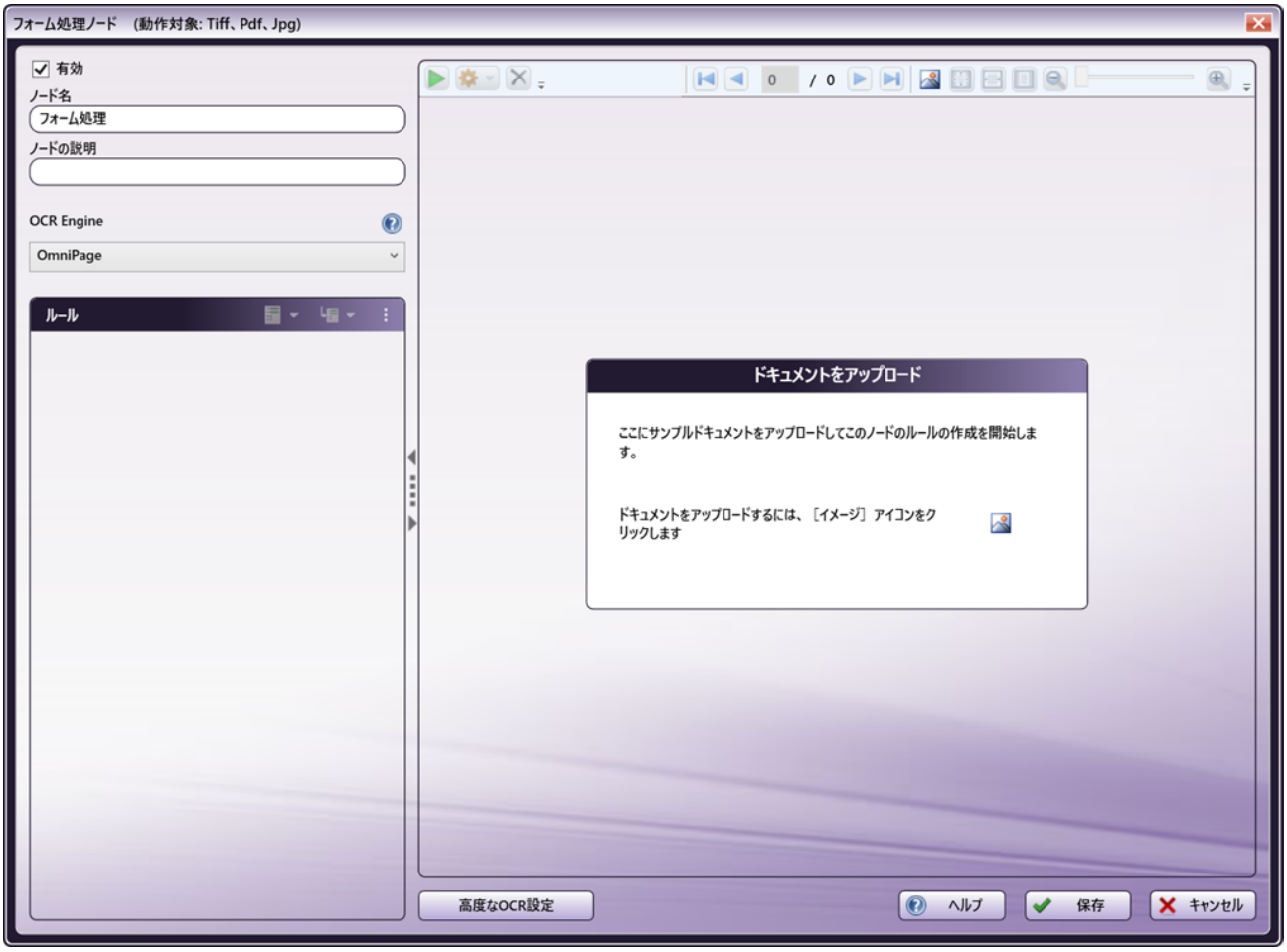


ボタン

- **[詳細設定]** - **高度なOCR設定** ウィンドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenix オンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノードの定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

サンプルドキュメントのアップロード

最初にフォーム処理ノードプロパティウィンドウを開くと、下の図のように空のプレビュー領域が表示されます。



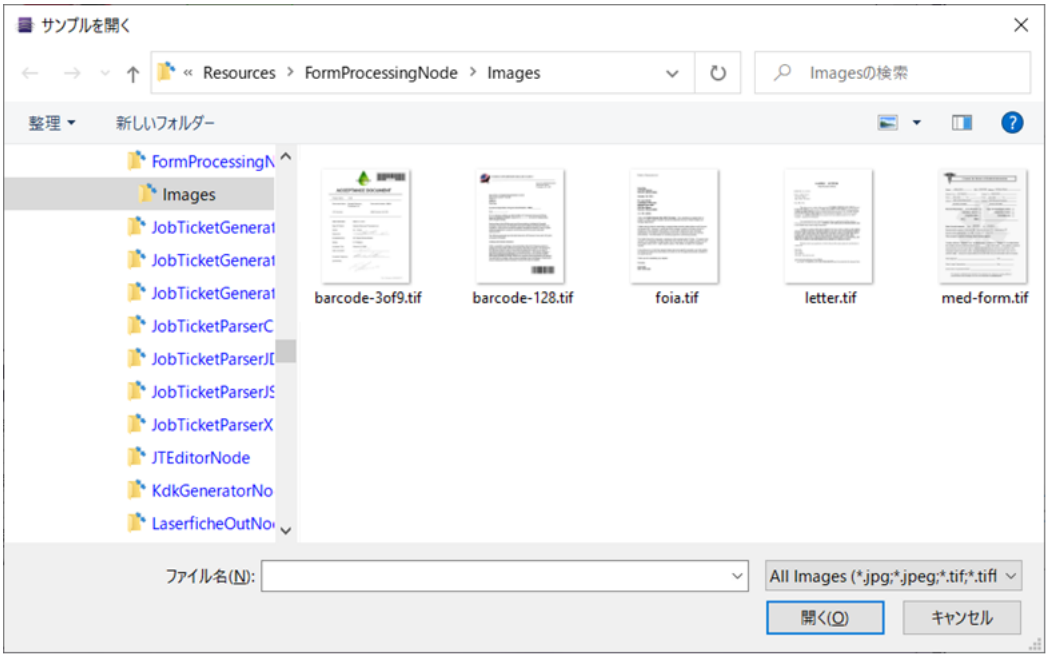
ノード構成を続行するには、まずプレビュー領域に表示するサンプルドキュメントをアップロードする必要があります。ドキュメントは、ノードで検索しようとしているドキュメントに似ている必要があります。以下の操作を行います。

- **[アップロード]** - このアイコンをクリックして、**[サンプルを開く]** 参照フォルダーにアクセスします。アイコンは、ページの次の場所に表示されます。いずれかをクリックします。
    - ツールバー。
    - プレビュー領域の [**ドキュメントをアップロード**] ボックス。

[サンプルを開く] 参照フォルダーには、サンプル ドキュメントを選択するための次のオプションがあります。

- アプリケーションによって提供されるいくつかのサンプルドキュメントから選択します。ドキュメントはさまざまなサイズであり、イメージフォルダーに格納されています。
- 別のフォルダに移動して、独自のサンプルドキュメントを選択します。

次の図は、Imagesフォルダーを示しています。



注: プレビュー領域の **ツールバー** にある **[サンプルドキュメントアイコン]** をクリックすると、いつでもサンプルファイルを置き換えることができます。以前にノードプロパティウィンドウを使用してサンプルドキュメントをアップロードした場合、Dispatcher Phoenixは、サンプルファイルの選択時に使用した最新のフォルダーを自動的に開きます。プレビュー領域のツールバーの詳細については、**ツールバーの使用** を参照してください。

ルールリスト領域の使用

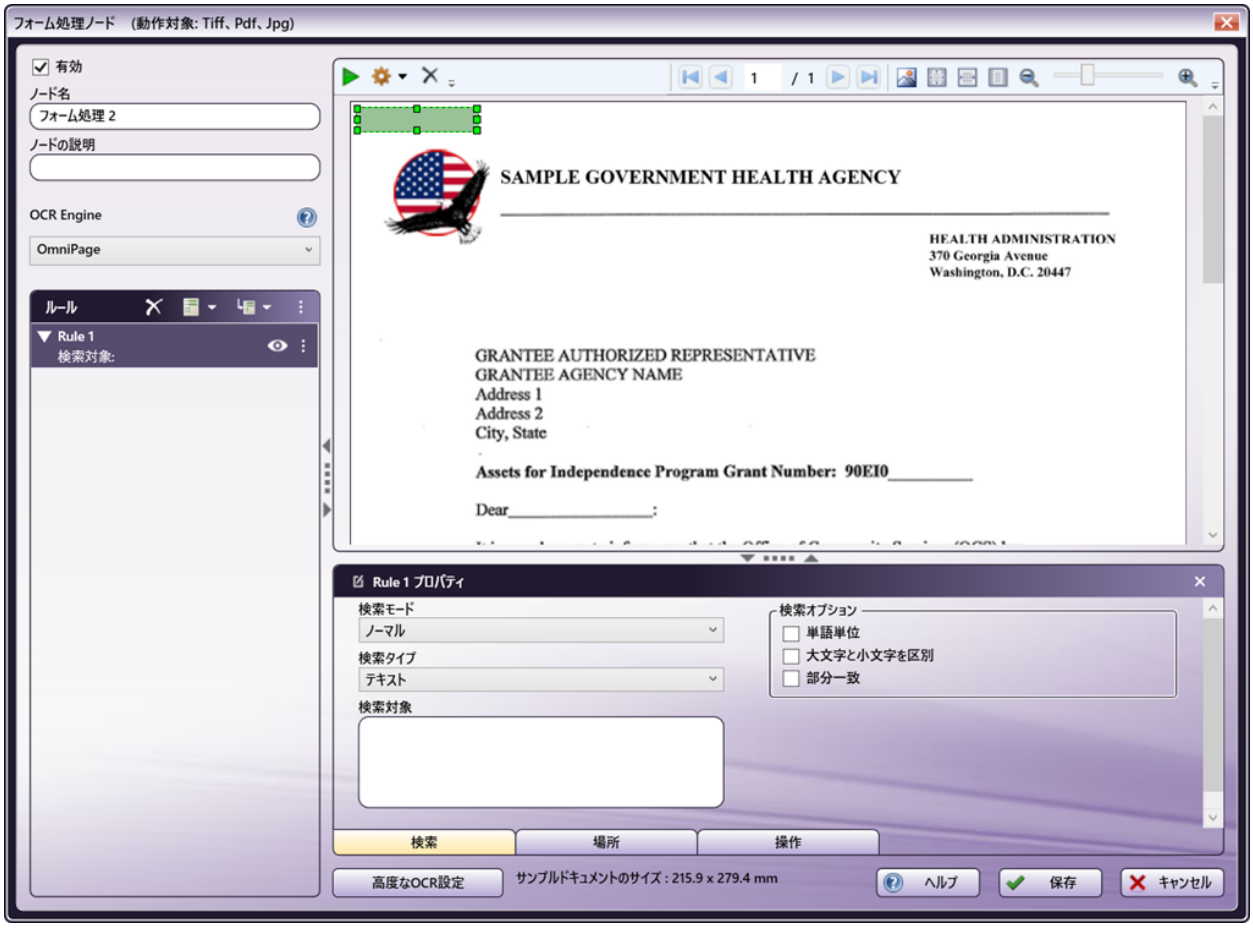
定義されたすべてのルールは、ノードプロパティウィンドウの左側のルールリスト領域に表示されます。この領域の幅は、右側の境界線をクリックして左右にドラッグすることで調整できます。

ルール リスト領域の上部にあるツールバーを使用して、ルールの追加、ルールの削除、または新しいサブルールの追加を行うことができます。

基本ルールの作成

- **[新しいルールを追加]** - このボタンを選択して、基本ルールを追加します。次の図のように、ドロップダウンパレットが表示されます。

- **[ルール名]** - ルールの名前を入力します。基本ルール名は100文字に制限されており、使用できる文字の種類に制限はありません。
- ** [ルールタイプ]** - [フォーム処理]または **チェックボックスの検出** を選択します。このオプションは、aiDocuDroidまたはaiDocuDroid手書き OCR エンジンを使用している場合にのみ表示されることに注意してください。
- **[ルールの場所の選択]** - この領域のボタンをマークして、ルールの既定の場所を選択します。この位置は、[ルールのプロパティ]パネルの[場所]タブを使用するか、プレビュー領域でルールの境界ボックスをドラッグアンドドロップすることで、後で調整できます。
- **[保存]** - 完了したら、このボタンをクリックします。次の図に示すように、ルールの境界ボックスがプレビュー領域の指定された既定の場所に表示されます。



注: 基本ルールは濃い緑色のボックスとして表示されます。

サブルールの作成

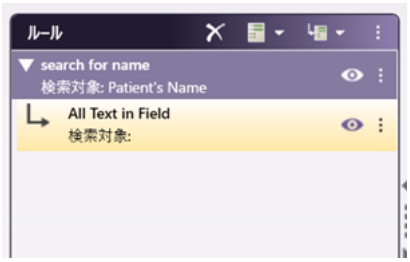
- **[新しいサブルールを追加]** - 基本ルールまたは別のサブルールのサブルールを作成するには、このボタンをクリックします。最初に基本ルールを作成するまで、サブルールを作成することはできません。次の図のようにポップアップパレットが表示されます。

- **[ルール名]** - サブルールの名前を入力します。サブルール名は100文字に制限されており、使用できる文字の種類に制限はありません。
  - **[基本ルールの選択]** - ドロップダウンリストを使って、サブルールと関連付ける基本ルールを選択します。
- **[ゾーンの位置]** - ドロップダウンリストで、サブルールゾーンの置き方を指定します。オプションは、次の通りです。
  - 固定位置
  - ここより上
  - これより後
  - ここより下
  - これより前

  位置が「ここより上」、「これより後」、「ここより下」、または「これより前」に設定されたゾーンは、**[相対ゾーン]** と呼ばれます。相対ゾーンは、ルールリスト領域でそのサブルールの前にあるルールまたはサブルールのゾーンに相対的に配置されます。逆に、**「固定位置」** 配置で構成されたゾーンには、他のゾーンの位置に依存しない場所があります。

注: プレビュー領域の境界ボックスをドラッグアンドドロップすることで、相対ゾーンの位置を調整できます。ゾーンの位置が「固定位置」に設定されている場合は、ドラッグアンドドロップするか、ルールプロパティパネルの[場所]タブを使用して移動できます。さまざまなゾーンタイプの配置の詳細については、**相対ゾーンについて** および **「場所」タブの使用** を参照してください。

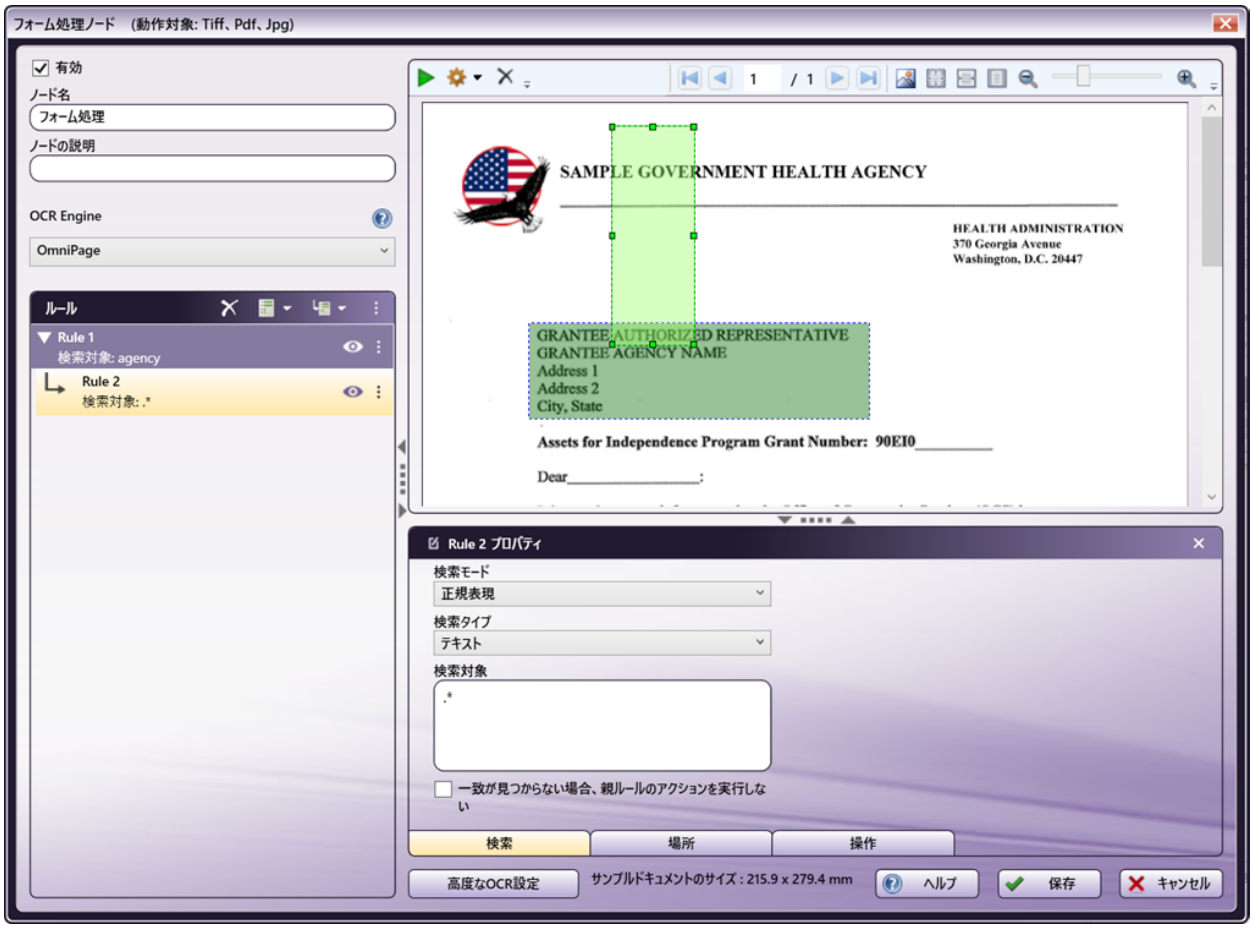
- **[保存]** - 完了したら、このボタンを選択します。サブルールの境界ボックスは、プレビュー領域の指定された既定の場所に表示されます。さらに、サブルールは、ルールリストの親ルールの下にインデントされて表示されます。下の図では、「All Text in Field（フィールドのすべてのテキスト）」ルールが、「search for name（名前の検索）」ルールのサブルールです。



注: サブルールは薄緑色のボックスで表示されます。入力された基準を使用して検索を完了できないルールがあり、このルールの下に相対ゾーンを持つサブルールを作成しようとした場合、サブルールは作成されません。たとえば、上記のルール構成で、「患者の名前」を検索しても結果が得られなかった場合、「フィールド内のすべてのテキスト」というサブルールは作成されないことになります。このような場合は、ルールの検索条件を再入力し、再度サブルールの作成を試みてください。

- **[相対ゾーンについて]** - サブルールを **相対ゾーン**（基本ルールや他のサブルールのゾーンの上、後、下、前に位置するゾーン）として設定すると、Dispatcher Phoenix はルールリスト領域で先行する基本ルールまたはサブルールで検索用語として指定したコンテンツに相対ゾーンを自動的に揃えます。既定では、相対ゾーンはプレビュー領域の端まで拡張され、検索条件に一致するコンテンツをより識別しやすくなっています。

  たとえば、次の画像は、サンプルファイル内の「agency」という単語の上にあるテキストを検索するように構成された相対ゾーンを示しています。



注:

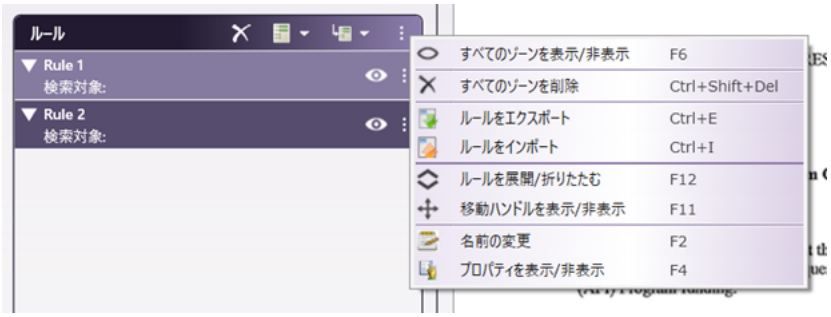
- 基本ルールのゾーンは数行のテキストにまたがりますが、サブルールの相対ゾーンは、基本ルールの検索語として定義されたテキスト(たとえば、「agency」)と明確に一致します。
- 相対ゾーンはページ全体に自動的に拡張されますが、プレビュー領域でハンドルをクリックしてドラッグするか、プロパティパネルを使用して高さと幅を変更することで、サイズを変更できます。プレビュー領域とプロパティパネルの詳細については、以降のセクションを参照してください。

ルール処理

ルールを設定するとき、ルールの結果が検索基準に一致しない場合に処理が停止することに注意してください。たとえば、1つの基本ルールと2つのサブルールがあり、1番目のサブルールが一致しない場合、2番目のサブルールは処理されません。

ルールとゾーンの操作

ルールとゾーンの追加オプションにアクセスするには、以下に示すように、[ルールリスト]領域の右上にある アイコンをクリックして [**その他のアクション**] メニューを開きます。



次の表では、[その他のアクション]メニューで使用できるオプションについて説明します。

メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
全てのゾーンの表示/非表示	プレビュー領域のすべてのゾーンを表示または非表示にします。個々のゾーンまたはゾーンのグループを表示または非表示にすることも選択できることに注意してください。詳細については、**ゾーンの表示または非表示** を参照してください。	F6
すべてのゾーンを削除	現在のノードからすべてのゾーンを削除します。	Ctrl+Shift+Del
ルールをエクスポート	現在のルール リスト領域のルールをXMLファイルにエクスポートします。詳細については、**ルールのインポートとエクスポート** を参照してください。	Ctrl+E
ルールをインポート	XMLファイルからルールリスト領域にルールをインポートします。詳細については、**ルールのインポートとエクスポート** を参照してください。	Ctrl+I
ルールを展開/折りたたむ	ルールリスト領域のルールとサブルールのツリー構造を展開または折りたたみます。ルールリスト領域の名前の左側にある または **矢印2** アイコンをクリックして、個々の基本ルールとサブルールを展開または折りたたむこともできます。	F12
移動ハンドルの表示/非表示	各ルールまたはサブルールの **ハンドルツール** を表示または非表示にします。ハンドルをクリックアンドドラッグして、ルールリスト領域でルールの位置を変更できます。サブルールを含む基本ルールを移動すると、すべてのサブルールが基本ルールとともに移動することに注意してください。他のサブルールを持つサブルールを別の基本ルールに移動すると、そのサブルールの下にあるすべてのサブルールも一緒に移動します。	F11
名前の変更	現在選択されているルールまたはサブルールの名前を、指定した値に変更します。	F2
プロパティの表示/非表示	選択したルールまたはサブルールの[プロパティ]パネルを表示または非表示にします。詳細については、**プロパティパネルの使用** を参照してください。	F4

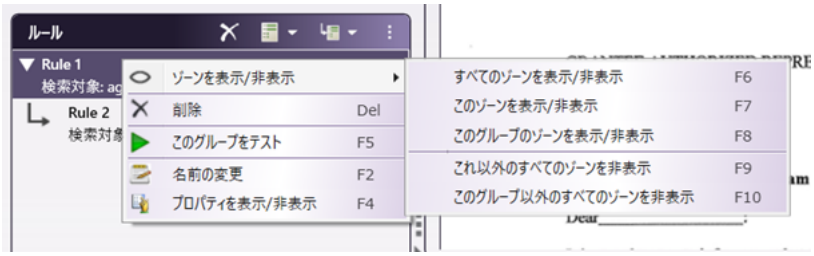
注: ルール リスト領域、またはプレビュー領域で右クリックし、表示されるコンテキストメニューからオプションを選択することで、個々のルールまたはゾーンのプロパティの名前変更、削除、および表示、または非表示を行うこともできます。ルールリスト領域の個々のルールの右側にある アイコンをクリックすると、このメニューにさらにアクセスできます。

ゾーンの表示または非表示

フォーム処理ノードを使用すると、作成した各ルールに関連付けられたゾーンをいくつかの方法で表示または非表示にすることができます。これらのオプションには、画面左側のルールリスト領域またはプレビュー領域からアクセスできます。ルールリスト領域を使用してゾーンを表示または非表示にするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ルールまたはサブルールの名前の右側にある **目** のアイコン をクリックします。または、
- **ゾーンの表示/非表示** メニューの下にあるオプションの1つを選択します。

ゾーンの表示/非表示メニューにアクセスするには、 アイコンをクリックして[その他のアクション]メニューを開くか、下の画像に示すようにルール名を右クリックします。プレビュー領域でゾーンを右クリックして、このメニューにアクセスすることもできます。



次の表に、ゾーンの表示/非表示メニューで使用できるオプションを示します。上記の方法に加えて、キーボードショートカットを使用して各オプションにアクセスすることもできます。

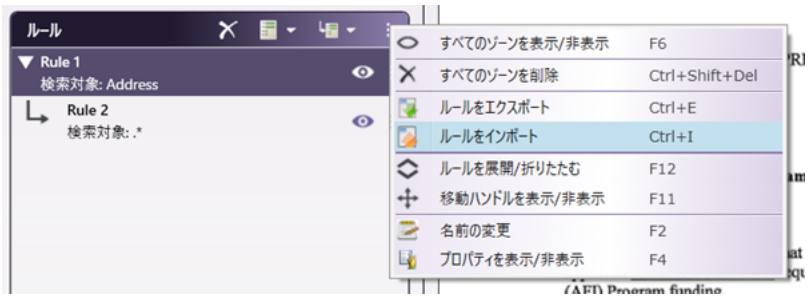
メニューオプション	メニューアクション	キーボードショートカット
すべてのゾーンを表示/非表示	プレビュー領域ですべてのゾーンの表示のオンとオフを切り替えます。	F6
このゾーンを表示/非表示	プレビュー領域で選択したゾーンの表示のオンとオフを切り替えます。	F7
このグループのゾーンを表示/非表示	プレビュー領域で、選択した基本ルールまたはサブルールとそのすべてのサブルールに関連付けられたゾーンの表示/非表示を切り替えます。	F8
これ以外のすべてのゾーンを非表示	プレビュー領域のビューから、選択したゾーンを除くすべてのゾーンを非表示にします。	F9
このグループ以外のすべてのゾーンを非表示	選択した基本ルールまたはサブルールに関連付けられているものを除くすべてのゾーンと、そのすべてのサブルールをプレビュー領域のビューから非表示にします。	F10

注: プレビュー領域にゾーンが表示されている場合、ルールリスト領域の関連するルールまたはサブルールの右側に「目」のアイコン が表示されます。

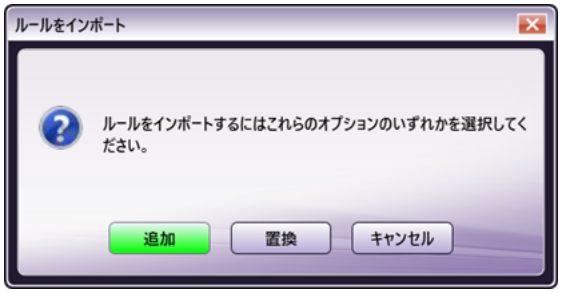
ルールのインポートとエクスポート

ルールとサブルールを作成するだけでなく、XMLファイルを使用してルールをルールリスト領域に **インポート** することもできます。さらに、後で使用するために、既存のルールをXMLファイルに **エクスポート** することもできます。ルールをインポートするには、次の手順に従います。

1. [その他のアクション]メニューをクリックし、以下に示すように [**ルールのインポート**] を選択します。



2. ルールファイルを含むフォルダーに移動して開きます。現在ノードにルールが存在しない場合、Dispatcher Phoenixはルールをルールリスト領域にインポートします。ルールがすでに存在する場合は、次のダイアログボックスが表示されます。



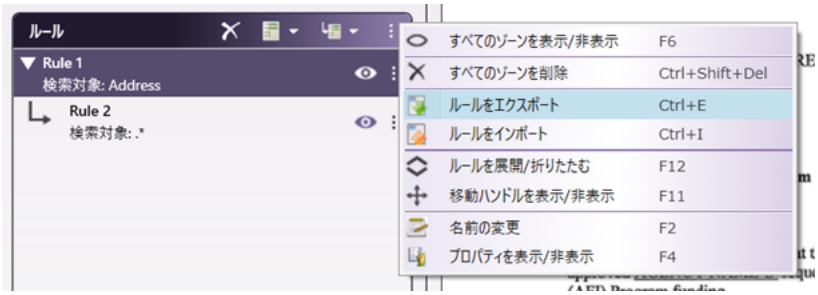
3. 上記のダイアログボックスが表示された場合は、次のいずれかのオプションを選択します。

a) XMLファイルのルールを[ルールリスト]領域の既存のルールセットに **追加** するには、[追加]をクリックします。

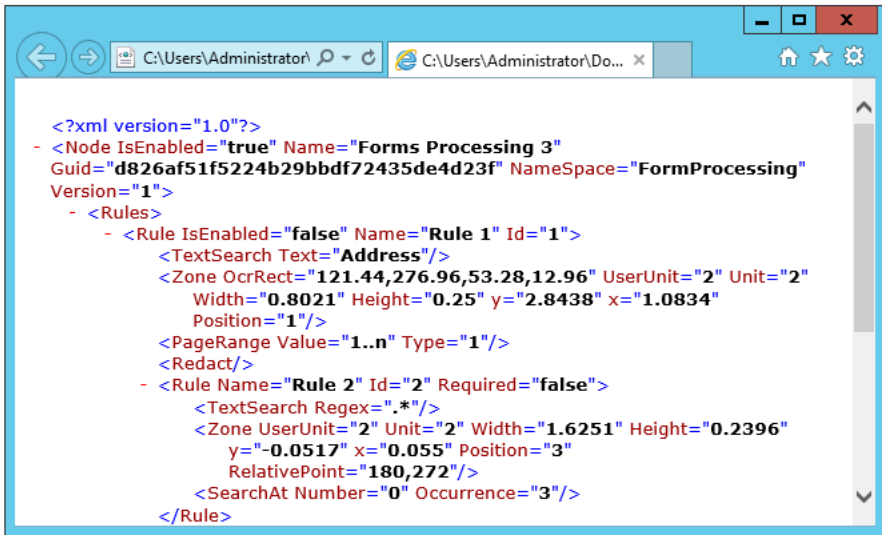
b) **現在定義されているすべてのルール** をXMLファイルのルールに置き換えるには、[置換]をクリックします。[置換]をクリックすると、以前に定義されたすべてのルールが[ルールリスト]領域から削除されることに注意してください。

ルールをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. [その他のアクションメニュー]をクリックし、以下に示すように [**ルールをエクスポート**] を選択します。



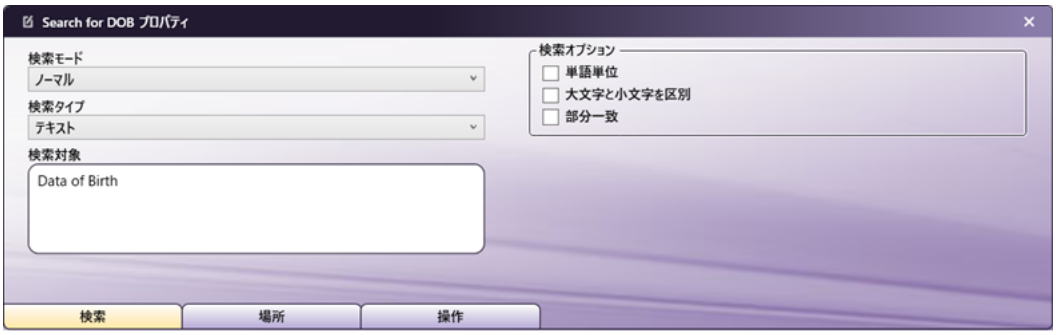
2. ルールファイルを保存するフォルダーに移動します。ファイルの名前を選択し、[**保存**] ボタンをクリックします。ルールファイルのXMLコンテンツのプレビューがブラウザーウィンドウに表示されます。



3. 使用が終了したらプレビューウィンドウを閉じます。エクスポートしたXMLファイルに再度アクセスするには、ファイルが保存されているフォルダーに移動します。

プロパティパネルの使用

プロパティパネルは、次の図のようになります。



ルール名の編集

プロパティパネルタイトルバー上で、**[ルール名の編集]** ボタンをクリックしてルール名を変更できます。以下の図にあるように、ルール名がテキスト入力フィールドになります。

検索タブの使用

[検索タブ] では、**[検索モード]** および **[検索タイプ]** メニューの下にあるオプションを使用して、検索条件を定義できます。[検索モード]メニューで使用できるオプションには、「**ノーマル**」(静的テキストなど)、「**正規表現**」、または「**パターン**」があります。[検索タイプ]メニューを使用して、これらの値を「**テキスト**」または「**バーコード**」検索に適用することを選択できます。たとえば、上の画像では、テキスト値「Date of Birth(生年月日)」の検索がノーマルモードで実行されています。

詳細については、次のセクションを参照してください。

静的テキストの検索

バーコードの検索

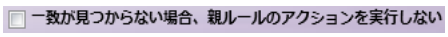
正規表現を使用した検索

パターンマッチングツールの使用

サブルールの一致を必須にする

サブルールには、[検索]タブ上に追加のフィールドがあります。これを使って、前のルールが機能したように、サブルールが一致する必要があるかどうかを指定できます。

このオプション **[一致が見つからない場合、親ルールのアクションを実行しない]** を有効にした場合、サブルールが見つからないときに基本ルールは処理されません。次の図を参照してください。



場所タブの使用

[場所] タブを使って、処理するページ、およびページ上のルールのゾーン位置を指定できます。

基本ルールの場合

基本ルールの場合、処理するページ範囲、およびゾーンの位置/サイズを指定できます。次の操作を行います。

- **[ページの範囲]** ドロップダウンリストを使って、次のオプションの1つを選択できます。
  - **[すべてのページ]** - 各ページを処理します。
  - **[すべての偶数ページ]** - 偶数ページを処理します。
  - **[すべての奇数ページ]** - 奇数ページを処理します。
  - **[最初のページ]** - 最初のページだけを処理します。
  - **[最後のページ]** - 最後のページだけを処理します。
  - **[独自のページ範囲を定義]** - 任意のページ範囲を処理します。このオプションを選択すると、ページ範囲を入力するための空のフィールドが表示されます。次の操作を行います。
    - ドキュメントの開始からカウントするダッシュ記号やカンマ記号（あるいはその両方）を使って、ページ範囲を指定します。たとえば、「1, 2, 5-7」と入力すると、1、2、5、6、7ページが処理されます。
    - ページ範囲内でスタンプを押す並びを指定するには、カッコを使用します。たとえば、「1-10(3)」と入力すると、1～10ページ目まで2ページおきのページが処理されます。

- 最後のページを指定するには、「end」を使用します。たとえば、「end(-5) - end」と入力すると、20ページあるドキュメントの15～20ページ目が処理されます。

  その他の例は次のとおりです。

  - 20ページあるドキュメントの1、2、5、6、7、19ページを処理するには、「1,2,5-7, end(-1)」と入力します。
  - 20ページあるドキュメントの10～15ページを処理するには、「10-end(-5)」と入力します。
  - 20ページあるドキュメントの10～15ページを1ページおきに処理するには、「10-end(-5)(2)」と入力します。
  - 25ページあるドキュメントの15～20ページを処理するには、「(-10)-end(-5)」と入力します。
  - 20ページあるドキュメントの10～20ページを処理するには、「end(-10)-end」と入力します。

  注: 受け取るドキュメントのページ数に対応しないページ範囲を指定した場合（3ページのドキュメントに10～20ページの処理を指定した場合など）、ファイルはエラーになります。

- **[左]** および **[上]** フィールドにピクセルまたはインチで計測値を入力して、ゾーンの位置を設定できます。
- **[高さ]** および **[幅]** フィールドにピクセルまたはインチで計測値を入力して、ゾーンのサイズを変更できます。

サブルールの場合

サブルールの場合、検索する場所と時間、およびゾーンの位置/サイズを指定できます。次の操作を行います。

- **[検索するタイミング]** ドロップダウンリストを使用して、検索する時間を指定します。オプションは次のとおりです。
  - **[最初の出現]** - 前のルールのゾーンから、サブルールが最初に出現するまで検索します。
  - **[最後の出現]** - 前のルールのゾーンから、サブルールが最後に出現するまで検索します。
  - **[すべての出現]** - 前のルールのゾーンから、サブルールがすべて出現するまで検索します。
  - **[出現番号]** - 前のルールのゾーンから、サブルール一致結果の範囲内で指定の出現があるまで検索します。このオプションを選択すると、数字を入力できる空のフィールドが表示されます。
- プロパティパネルの[ゾーンの場所]領域、または[ゾーンのサイズ]領域を使用して、サブルールゾーンのサイズと位置を設定します。以下で説明するように、オプションはゾーンの種類によって異なります。
  - **[固定位置]**。サブルールゾーンの位置は、常に固定位置にあります。次の操作ができます。
    - **[上]** および **[左]** フィールドで、ゾーンの上/左側の位置を指定します。
    - **[高さ]** および **[幅]** フィールドで、ゾーンのサイズを指定します。また、プレビュー領域にあるゾーンの境界ボックスをドラッグして、ゾーンのサイズを指定することもできます。
    - 位置決めに使用する計測単位（ピクセルまたはインチ）をカスタマイズします。
    - また、プレビュー領域に表示されているゾーンを適切な位置までドラッグアンドドロップすることもできます。それに応じて、ルールのプロパティパネル内のフィールドが変化します。
  - ゾーンの位置が[**ここより上**]、[**これより後**]、[**ここより下**]、および[**これより前**]に設定されている場合、サブルールのゾーンは **相対的な** 前のルールのゾーンの位置に配置されます。これらのオプションのいずれかを選択すると、次の操作を実行できます。
    - [ゾーン サイズ]領域の **[高さ]** および **[幅]** フィールドを使用して、ゾーンのサイズを指定します。ゾーンサイズを示すために使用される測定単位 (ピクセル、インチ、またはミリメートル) をカスタマイズします。プレビュー領域でゾーンの境界ボックスをドラッグして、ゾーンのサイズを指定することもできます。
    - 相対ゾーンの **[位置]** を変更するには、クリックしてプレビュー領域の新しい位置にドラッグします。

操作タブの使用

操作タブを使って、次の操作ができます。

- **[ドキュメントの変更]** ボックスにチェックマークを付け、次に **[墨消し]** 、**[強調]** 、または **[取り消し線]** のどれかを選択して、検索結果について実行する処理を選択します。

  注: [メタデータ値の上書き]オプションと[重複の削除(Remove Duplicates)]オプションを有効にするには、まず[メタデータの関連付け]ボックスをオンにする必要があります。

- **[メタデータと関連付ける]** ボックスにチェックマークを付け、メタデータを検索結果と関連付けます。また、**[メタデータキー]** フィールドに、メタデータを識別する名前を入力する必要があります。メタデータのグループ名は[フォーム]になることに注意してください。たとえば、[メタデータキー]フィールドに名前を入力した場合、メタデータは、変数{forms:names}を使って参照できます。

- **[メタデータの値を上書き]** ボックスにチェックマークを付け、次に下にある空のボックスに特定の値を入力することで、メタデータ値をハードコード値で上書きすることも選択できます。これは、特定の値に基づいてファイルを経路指定する場合に有効です。たとえば、(墨消しされたテキストの値に関係なく)墨消しされたテキストを含むすべてのファイルを経路指定したい場合、このフィールドに「墨消し」の値を入力し、次に「墨消し」のフォームメタデータを含むファイルを経路指定するメタデータ経路指定ノードを設定できます。

- **[Remove Duplicates(重複を削除)]** を選択できます。既定では、このオプションは新しいワークフローではチェックされていないため、メタデータ キーに関連付けられたすべてのメタデータ値が保存されます。このボックスをチェックすると、ノードはそのメタデータキーに関連付けられた最初のメタデータ値のみを保存し、OCR処理中に見つかった他の値を無視します。

  注: [Remove Duplicates(重複を削除)] オプションは、Dispatcher Phoenix 8.9.1以降で新しく追加されました。このリリースより前に作成されたワークフローの場合、ワークフロー機能を維持するために、**[Remove Duplicates(重複を削除)]** ボックスが既定でオン(ON)になっています。

プレビュー領域の使用

プレビュー領域には、サンプルドキュメント上にルールの境界ボックスが表示されています。

プレビュー領域を使って、次の操作ができます。

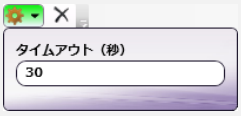
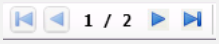
- 境界ボックスを選択し、ボックスが希望するサイズになるまでハンドルを適切にドラッグして、ルールの境界ボックスの **サイズを変更** します。
- 境界ボックスをクリックし、次にボックスを希望の位置までドラッグして、ルールの **位置を変更** します。
- ツールバーの **アップロード** アイコンをクリックして、**別のサンプルドキュメント上でゾーンを定義します。**

ヒント: プレビュー領域の幅と高さは、左と下の境界をクリックしてドラッグすることで調整できます。

ツールバーの使用

ウィンドウの上部にあるツールバーで、ノードのプロパティウィンドウのビューをカスタマイズできます。

ツールバーのドロップダウンパレットを使用するときは、Enter キーを押すか、パレット外の任意の場所をクリックすると、変更内容がゾーンに適用されます。

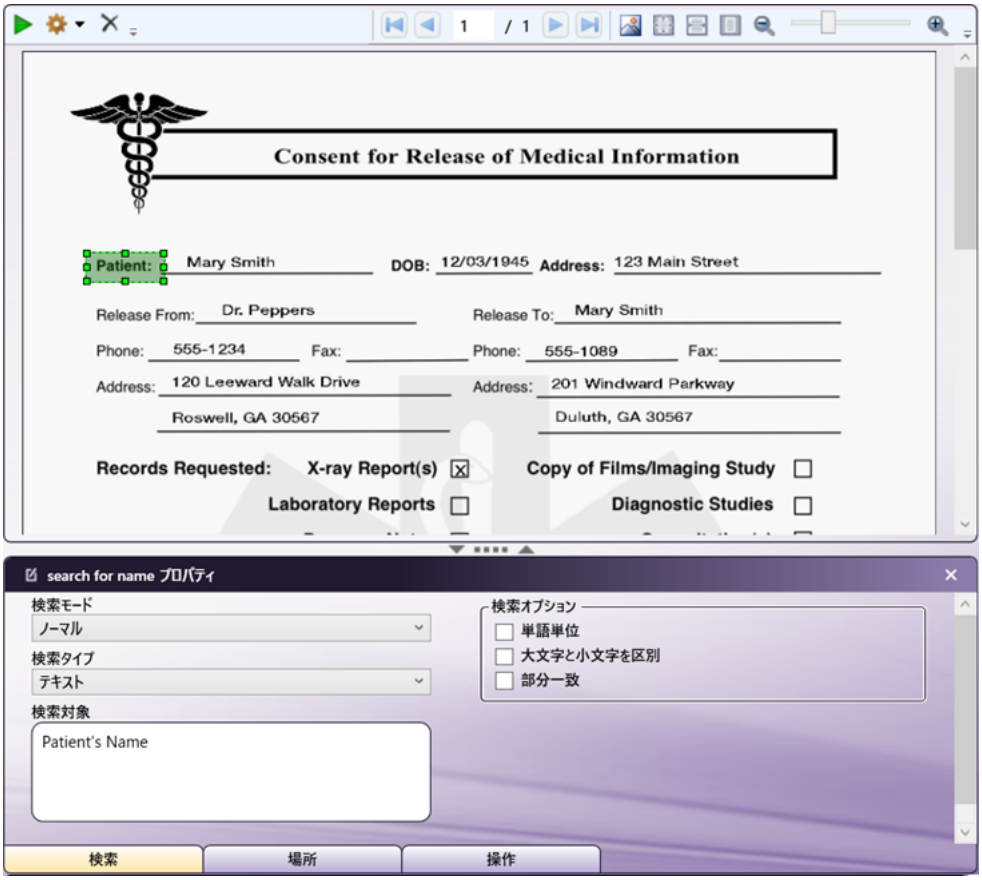
ツールバーアイコン	説明
	ルール構成の実行のアイコン このアイコンをクリックして、定義したルールをテストします。
	**ルール構成の設定の実行を示すアイコン** このアイコンをクリックして、タイムアウトが発生するまでの通信なしの時間に割り当てられた秒数を変更します。
	削除アイコン 選択したルールを削除するには、このアイコンをクリックします。
	**ページアイコン** 矢印をクリックして、サンプルドキュメントの複数のページに移動します (利用可能な場合)。
	サンプルドキュメントアイコン このアイコンをクリックして、別のサンプルドキュメントを見つけてアップロードし、プレビュー領域で使用します。
	実際のサイズアイコン プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを引き伸ばします。
	幅に合わせるアイコン このアイコンをクリックすると、プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントが引き伸ばされます。
	ページ全体アイコン このアイコンをクリックして、サンプルドキュメントをプレビュー領域に完全に合わせます。
	ズーム コントロール 拡大鏡アイコンまたはスライドバーを使用して、プレビュー領域を拡大または縮小します。

静的テキストの検索

ドキュメント内の静的テキストを検索するには、次の操作を行います。

1. **[検索モード]** ドロップダウンリストから **[ノーマル]** を選択します。
2. **[検索タイプ]** ドロップダウンリストから **[テキスト]** を選択します。
3. 検索する静的テキストを、**[検索対象]** フィールドに入力します。
4. 次の **検索オプション** を選択することで、さらに精緻な検索ができます。
    - **[単語単位]** - （単に指定した部分を含むワードではなく）完全なワードを検索するには、このボックスにチェックマークを付けます。
    - **[大文字と小文字を区別]** - 検索操作で大文字、小文字を問題にする場合は、このボックスにチェックマークを付けます。
    - **[部分一致]** - 入力した文字列と一致するか、ほぼ一致する単語やテキスト文字列を検索するには、このボックスにチェックマークを付けます。このオプションは、OCR の誤りを補正するために用意されています。

次の図では、「Patient Name (患者の名前)」が検索されています。



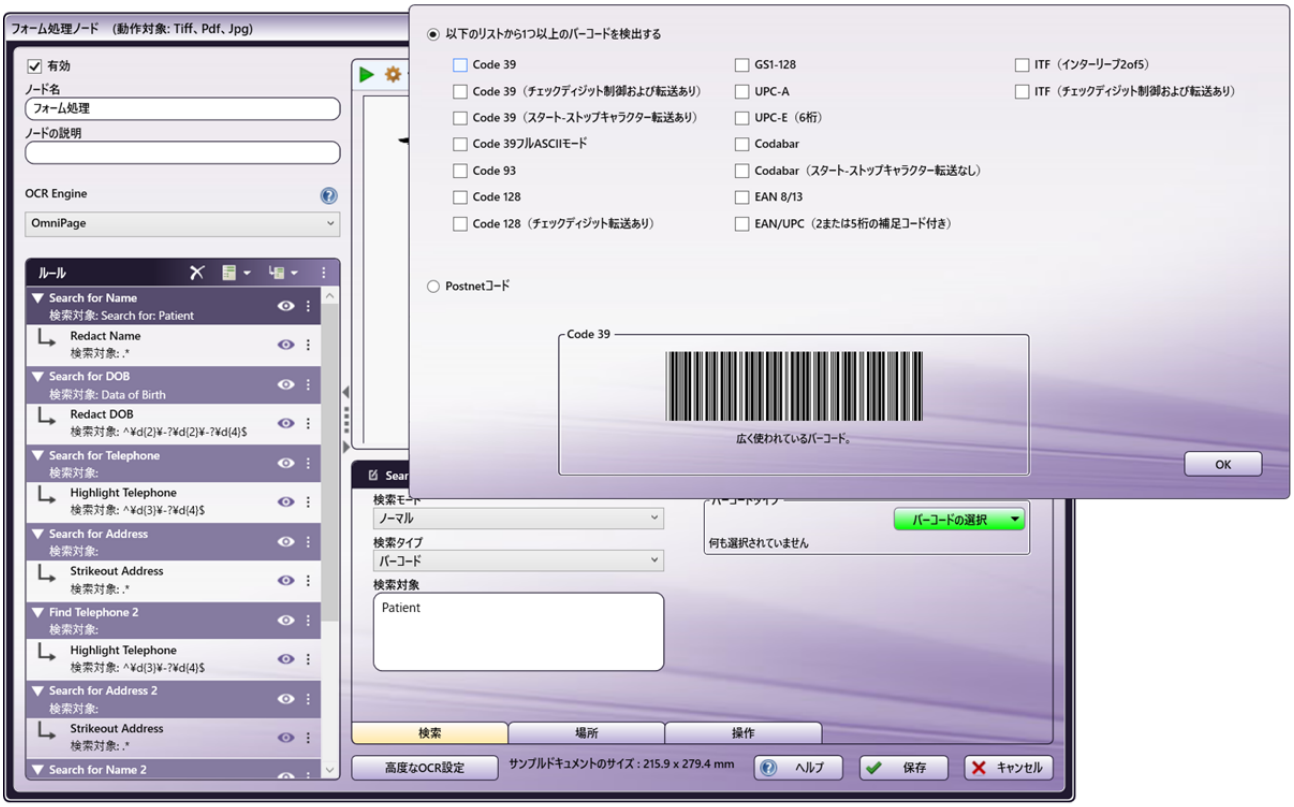
バーコードの検索

バーコード値を検索するには、通常検索、正規表現、またはパターン検索が使えます。検索モードをすでに選択してある場合は、次の操作を行います。

注: Tesseract と aiDocuDroid **OCRエンジン** は、この機能をサポートしていません。

検索モードを選択したら、次の手順を実行します。

1. **[検索タイプ]** ドロップダウンリストから **[バーコード]** を選択します。
2. 表示されたポップアップ画面から検索するバーコードのタイプを選択するには、**[バーコードの選択]** ボタンを選択します。対象となるバーコードの隣にあるボックスにチェックマークを付け、次に **[OK]** ボタンを選択します。例については次の図を参照してください。



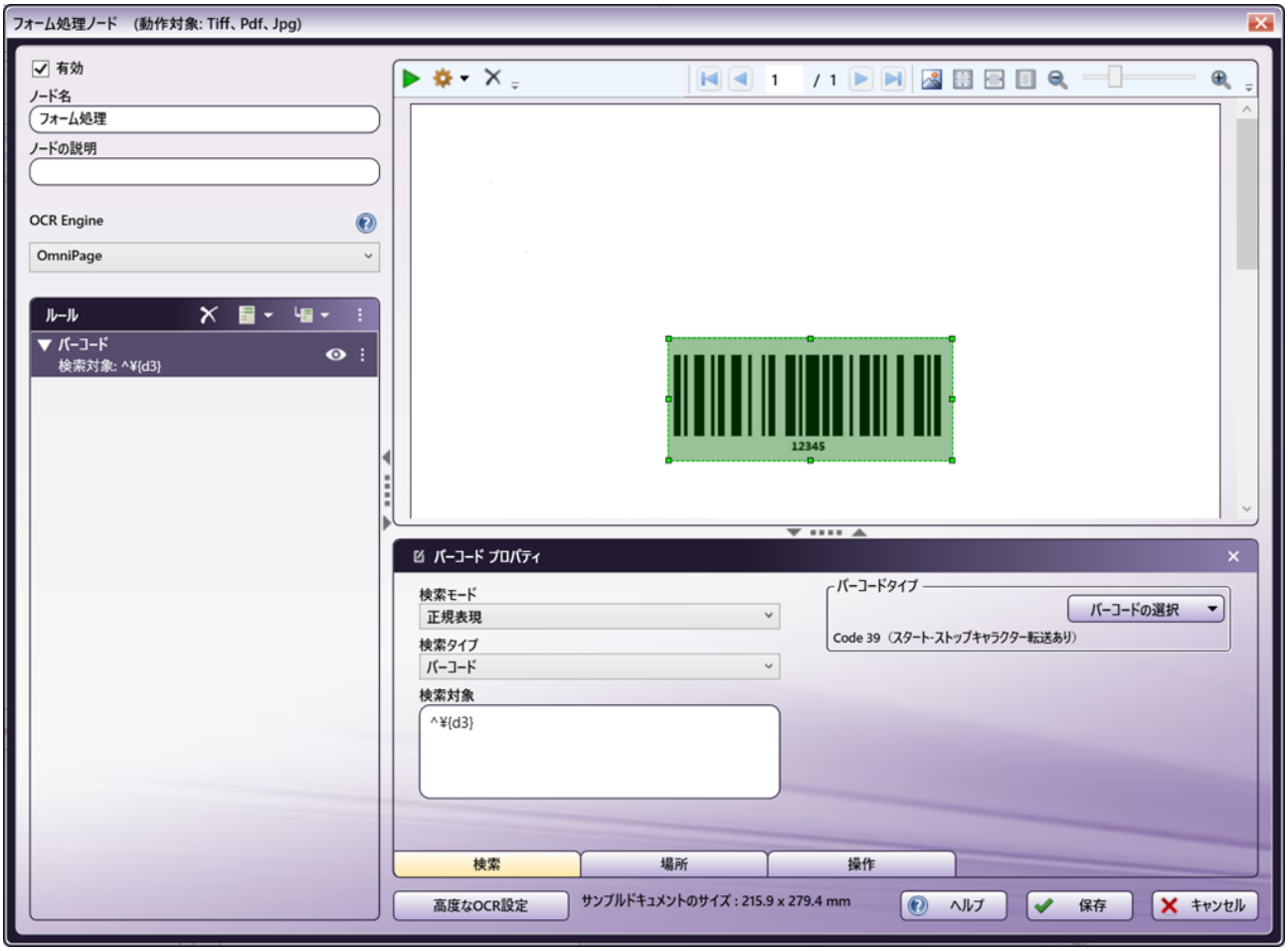
バーコード値を検索するとき、バーコードは単一の要素として扱われます。

たとえば、バーコード値の一部と一致する正規表現検索を設定した場合、バーコード値全体が処理（墨消し、強調、または取り消し線処理）され、結果的にメタデータとして抽出されます。

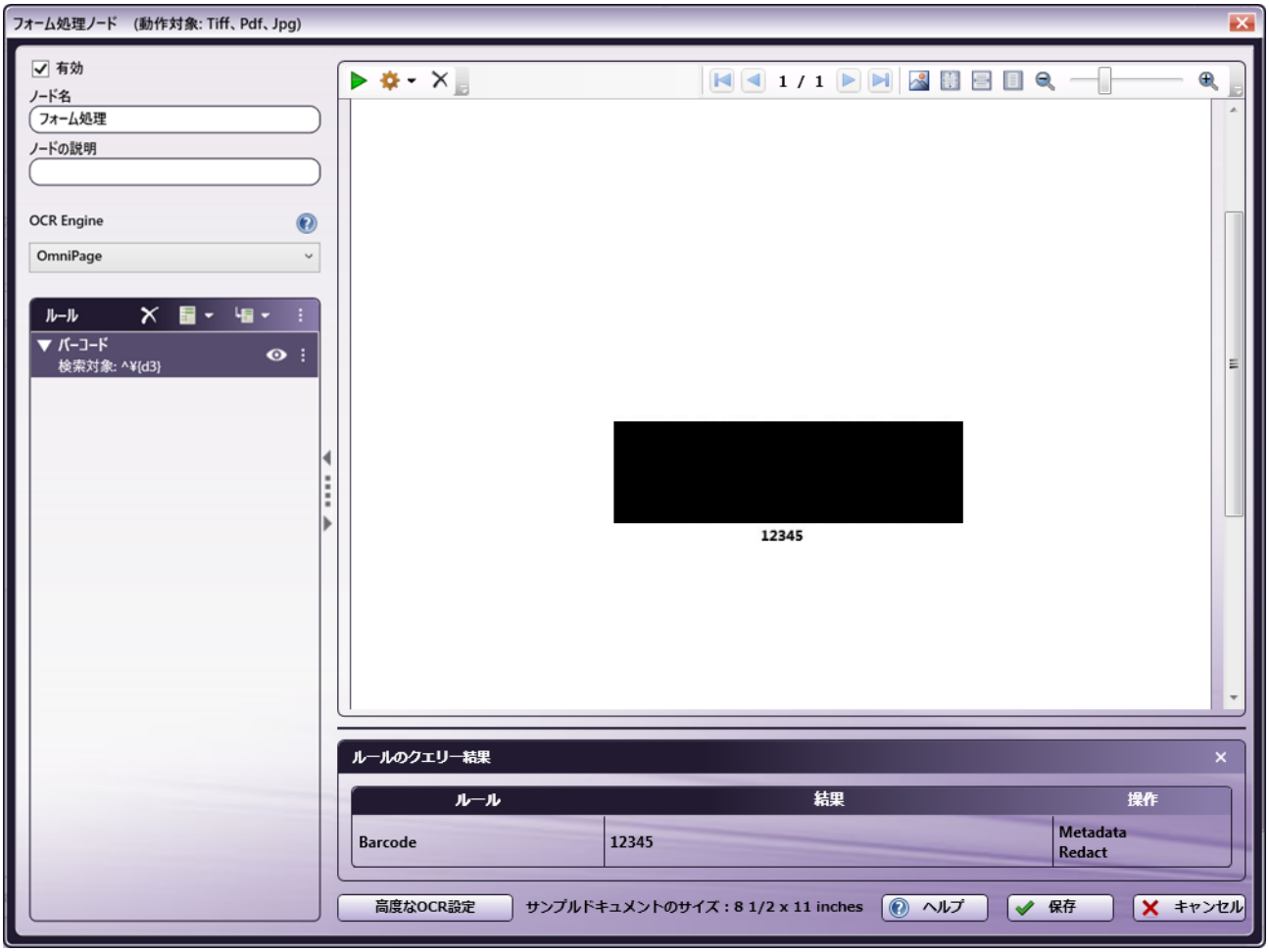
下の例では、バーコード値は「12345」です。「123」を見つけ出し、バーコードを墨消しし、メタデータとしてバーコード値を抽出するように、正規表現検索が設定されています。このケースでは、バーコード全体が墨消しされ、バーコードのメタデータ値が「12345」として戻されます。

次の図を参照してください。

バーコード検索ルール構成:


フォーム処理ノード　(動作対象: Tiff、Pdf、Jpg)
有効
ノード名
フォーム処理
ノードの説明
OCR Engine
OmniPage
ルール
バーコード
検索対象: ^¥{d3}
1
/ 1
12345
バーコード プロパティ
検索モード
正規表現
検索タイプ
バーコード
検索対象
^¥{d3}
バーコードタイプ
バーコードの選択
Code 39（スタート-ストップキャラクター転送あり）
検索
場所
操作
高度なOCR設定
サンプルドキュメントのサイズ : 215.9 x 279.4 mm
ヘルプ
保存
キャンセル

結果:



正規表現を使用した検索

検索で正規表現を使用するには、以下の操作を行います。

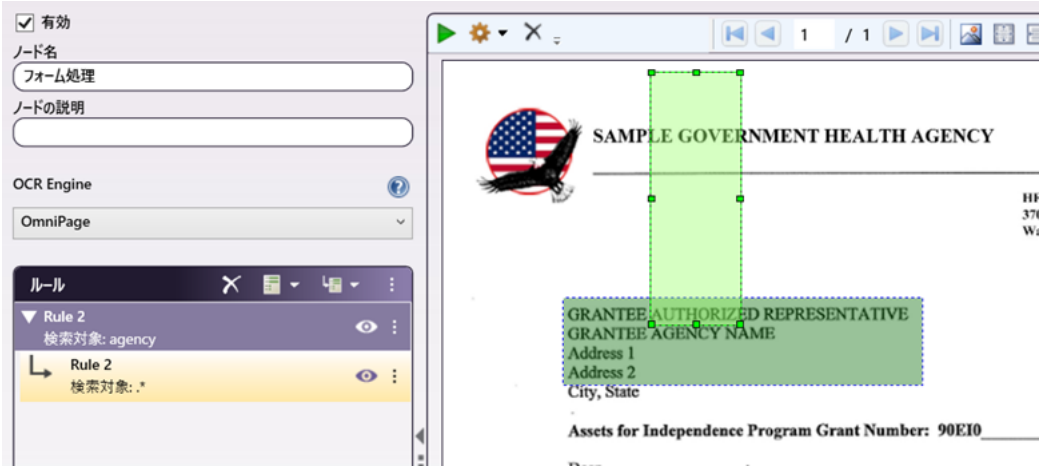
1. **[検索モード]** ドロップダウンリストから **[正規表現]** を選択します。
2. **[検索タイプ]** ドロップダウンリストから **[テキスト]** または **[バーコード]** を選択します。
3. 使用する正規表現を **[検索対象]** フィールドに入力します。

検索条件を変更する

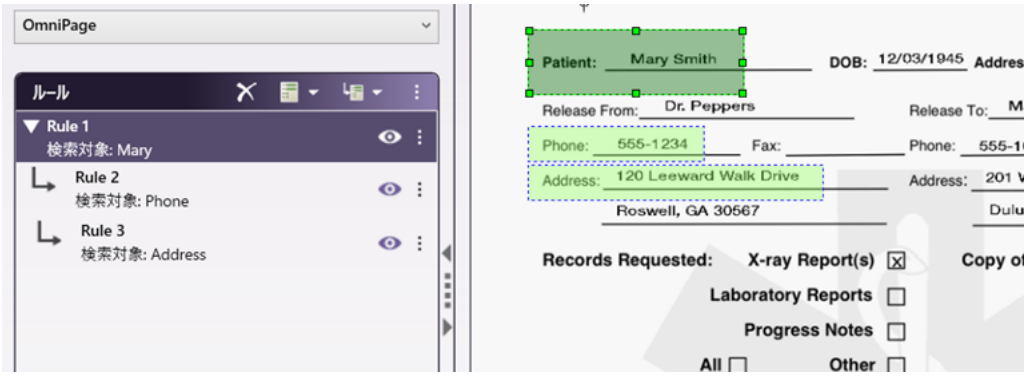
場合によっては、ルールまたはサブルールの検索条件を変更して、ドキュメント内の **別の位置** にあるコンテンツを検索することを決定する場合があります。このシナリオで、ルールリスト領域の他のサブルールより前にあるルール、またはサブルールの検索条件を変更し、新しい検索条件によって識別されるコンテンツと位置が一致するコンテンツを検出する場合は、次のいずれかを実行する必要があります。

- 検索条件が変更されたルール、またはサブルールの下にあるサブルールを **再作成** します。または、
- 検索条件が変更されたルール、またはサブルールの下にあるサブルールのゾーンを手動で **サイズ変更/または再配置** します。

たとえば、以下の画像では、ルール1は「agency」という単語を検索するように構成されており、ルール2はこの用語より上のすべてを検索するように構成されています。ルール1の検索用語が「representative」に変更された場合、ルール2を再作成するか、新しい検索条件より上にあるコンテンツを検出するために手動で位置を変更する必要があります。

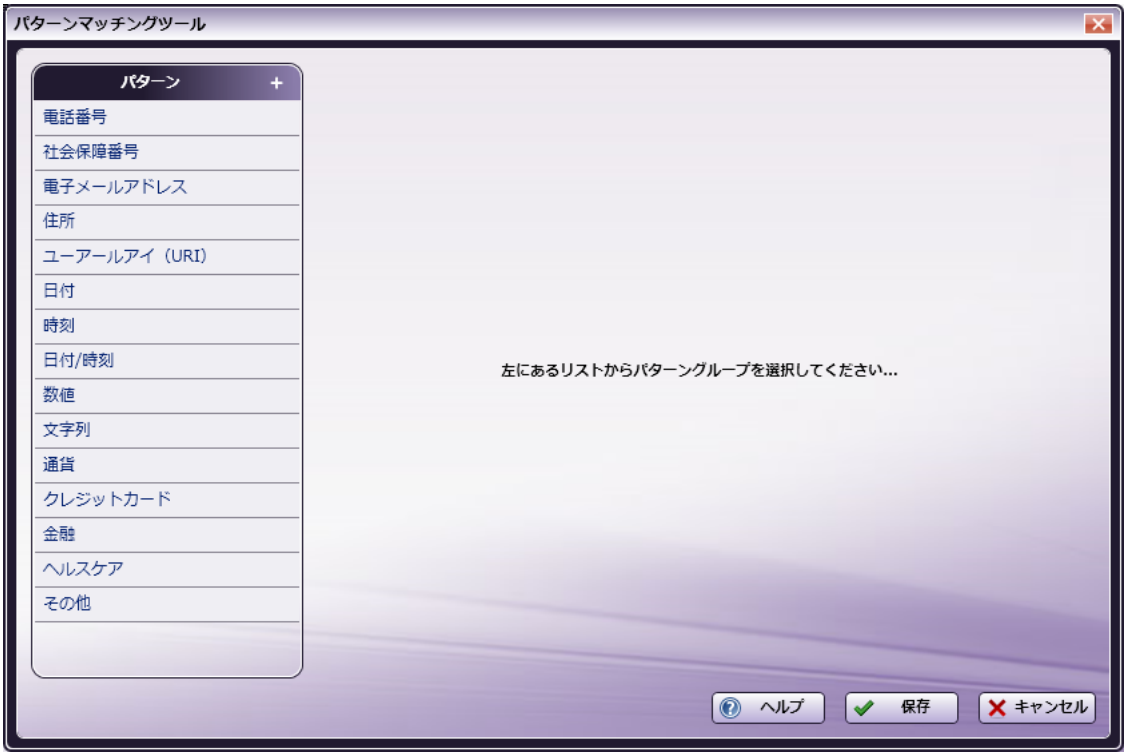


注: 他のサブルールの前にあるルールまたはサブルールの検索条件を変更した場合、その位置が検索で識別されるコンテンツと位置を合わせる必要がない場合は、これらのサブルールに関連付けられたゾーンは再作成、または再配置する必要はありません。たとえば、次の構成で、「Mary」ではなく「Smith」を検索するようにルール1を変更すると、引き続きルール2とルール3を使用して「Phone(電話)」と「Address(住所)」を検出できます。「Smith」という単語と具体的に一致させる必要はありません。



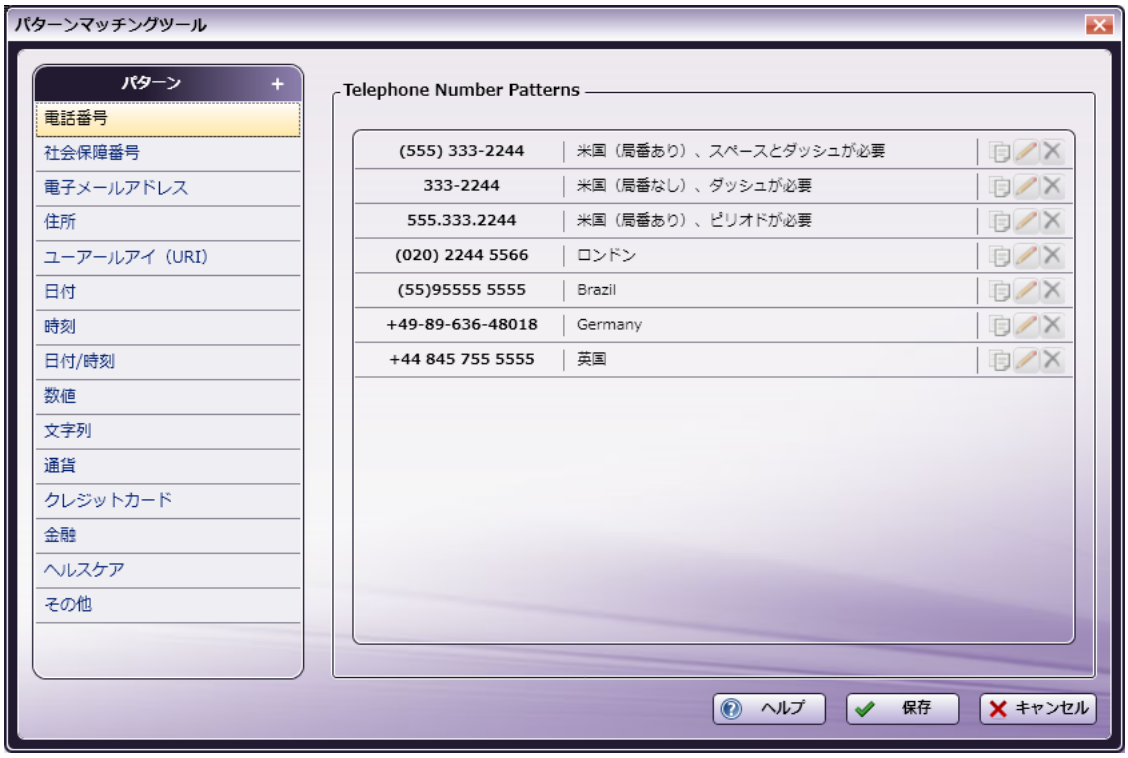
パターンマッチングツールの使用

高度な検索でパターンを使用するには、**[検索モード]** ドロップダウンリストから **[パターン]** を選択し、[パターンの詳細]領域の **[パターンの追加および編集]** ボタンを選択します。次の図のように、パターンマッチングツールが表示されます。

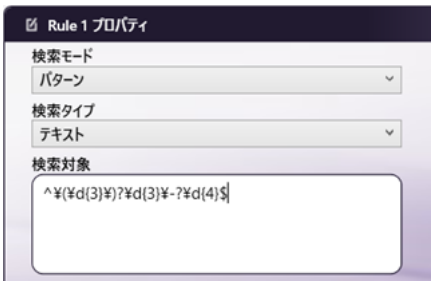


パターンマッチングツールでウィンドウの左側に、あらかじめ定義されたパターンのグループが一覧表示されます。次の操作ができます。

- 各グループ内のパターンを表示するには、特定のカテゴリーを選択します。ウィンドウの右側にパターンが表示されます。たとえば、電話番号のパターンは次の図のようになります。

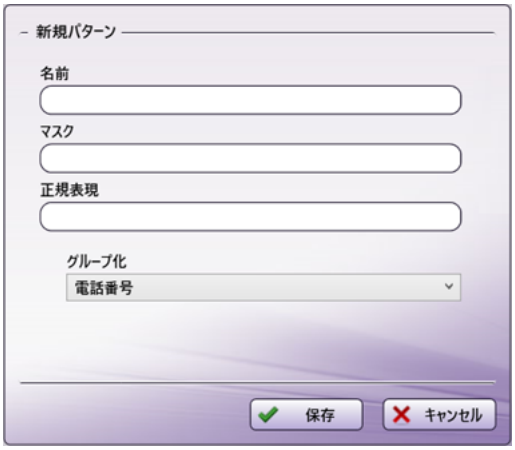


- パターンをフォーム処理ノードに追加するには、以下の操作を行います。
  - パターンマッチングツールの **[パターン]** リストからカテゴリーを選択します。
  - 目的のパターンの横にあるチェックボックスをオンにします。
  - **[保存]** ボタンを選択します。
  - パターンマッチングツールが閉じ、次の図のように、パターンに関連付けられている正規表現がフォーム処理ノードの **[検索対象]** フィールドに表示されます。



新しいパターンの作成

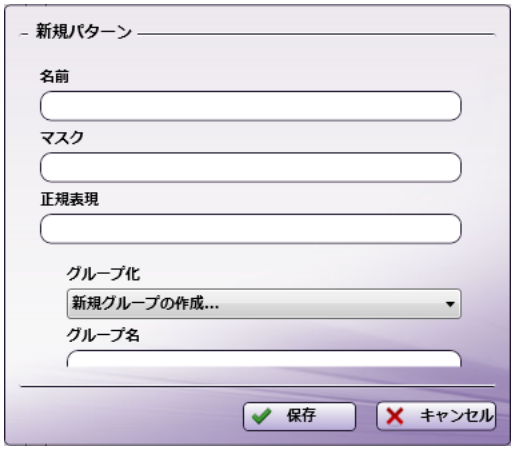
新しいパターンを作成するには、[パターン]領域の [+] ボタンをクリックします。次の図のように、[新規パターン]ウィンドウが表示されます。



次の操作を行います。

1. **[グループ化]** ドロップダウンリストを使用して新しいパターンのグループを選択します。新しいグループを作成する場合は、**[新規グループの作成...]** オプションを選択します。

   a. [新規グループの作成]オプションを選択すると、次の図のように、**[グループ化]** ドロップダウンリストの下に空の **[グループ名]** フィールドが表示されます。



   b. 新しいグループの名前を **[グループ名]** フィールドに入力する必要があります。[パターン]リストの下に新しいグループが表示されます。

2. **[名前]** フィールドに新しいパターンを識別するためのテキストを入力します。このテキストは、新しく作成したパターンの横の[パターンマッチングツール]ウィンドウに表示されます。
3. **[マスク]** フィールドに、新しいパターンを構成するマスク文字を入力します。
4. **[正規表現]** フィールドに新しいパターンの正規表現を入力します。
5. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

新しいパターンが[パターンマッチングツール]ウィンドウに表示され、指定したグループに分類されます。

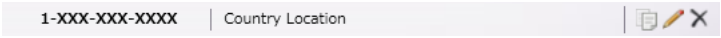
たとえば、「(1) – XXX-XXX-XXXX」という書式の電話番号を検索するパターンを作成するには、以下の操作を行います。

1. **新規パターン追加** のアイコンをクリックして、[新規パターン]ウィンドウを開きます。
2. **[グループ化]** ドロップダウンリストから[電話番号]を選択します。
3. **[説明]** フィールドに新しいパターンの説明(「Country Location」など)を入力します。
4. **[マスク]** フィールドに「1-XXX-XXX-XXXX」と入力します。
5. **[正規表現]** フィールドに「1-\d{3}-\d{3}-\d{4}」と入力します。
6. **[保存]** ボタンを選択します。

次の図のように、新しいパターンが電話番号パターンに追加されます。

パターンを使用した作業

パターンマッチングツールウィンドウに一覧表示される各パターンには、コピー、編集、および削除のアイコンが含まれています。アプリケーションに標準で用意されているパターンは、コピーのみできます（編集や削除はできません）。自分で作成したパターンは、コピー、編集、削除することができます。次の図を参照してください。



パターンのコピー

パターンをコピーするには、コピーしたいパターンの横で **[パターンのコピー]** アイコンをクリックします。次の図のように、パターンのコピーウィンドウが表示されます。

この画面で、パターンに関連付けられているグループ、名前、マスク、および正規表現を変更できます。完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。元のパターンのコピーがパターンマッチングウィンドウのリストの末尾に自動的に表示されます。

パターンの編集

以前に作成したパターンを編集するには、編集したいパターンの横で **[パターンの編集]** アイコンをクリックします。次の図のように、[パターンの編集]ウィンドウが表示されます。

この画面で、パターンに関連付けられているグループ、名前、マスク、および正規表現を変更できます。完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。編集したパターンがパターンマッチングウィンドウのリストの末尾に自動的に表示されます。

パターンの削除

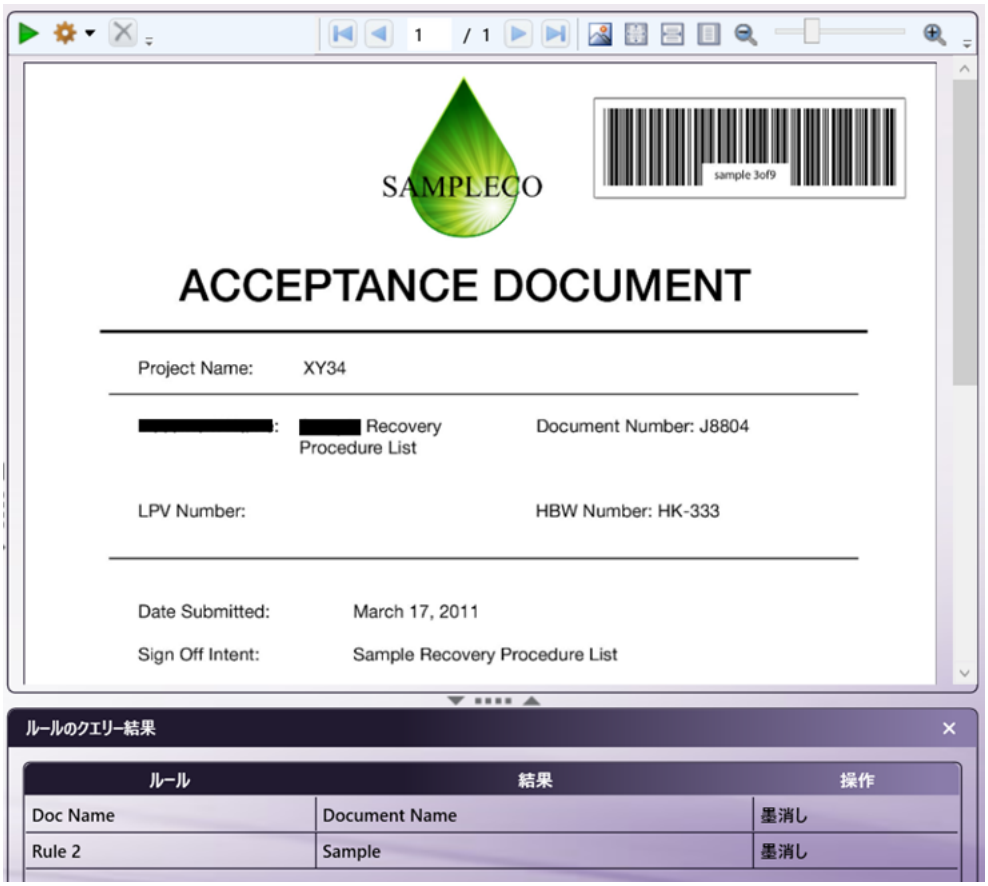
以前に作成したパターンを削除するには、削除したいパターンの横で **[パターンの削除]** アイコンをクリックします。削除操作の確認を求めるメッセージが表示されます。

ルール構成の実行

フォーム処理ノードを使用すると、ワークフローを実行する前に、作成したルールとサブルールをテストすることができます。ルールリスト領域のすべてのルールをテストするか、選択したルールのサブセットをテストするかを選択できます。

すべてのルールのテスト

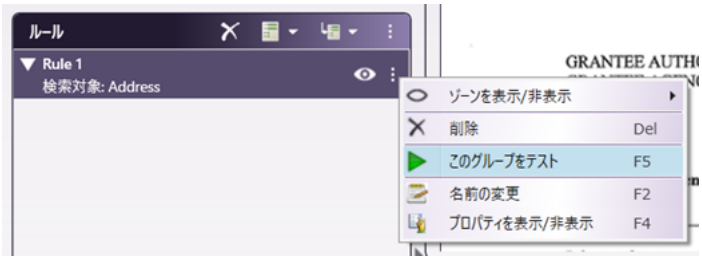
すべてのルールをテストするには、ツールバーの[ルールの構成]ボタンを選択して、処理の結果を確認します。次の図のように、ルールクエリー結果パネルがページの下部に表示されます。



注: ルール構成を実行すると、現在表示されているページのみの結果が返されます。

特定のルールグループのテスト

特定のルールグループのみをテストするには、[ルールリスト]領域でグループの基本ルールを右クリックし、以下に示すように **[このグループをテスト]** を選択します。基本ルールの名前の右側にある ⋮ アイコンをクリックするか、キーボードの **[F5]** キーを押して表示されるメニューにアクセスすることもできます。



このアクションは、基本ルールとそれに関連付けられたすべてのサブルールをテストします。テストの結果は、ノードで構成されたすべてのルールをテストする前のセクションで示した例と同様の形式でプレビュー領域に表示されます。

正規表現の例

マッチング対象 正規表現

電子メールアドレス

「john@example.com」のようなメールアドレスにマッチさせるには、1つ以上の小文字、数字、アンダースコア、ピリオド、またはハイフンと、それに続く@記号、およびドメイン名とマッチするように正規表現を設定してください。ドメイン名も1つ以上の小文字、数字、アンダースコア、ピリオド、またはハイフンで構成されます。

^([a-z0-9_\.-]+)@([\a-z0-9_\.-]+)\.([a-z\.]{2,6})$

Where:

^ は行頭を示します。

[a-z0-9_\.-] は、ユーザー名またはドメイン名に含まれる文字、数字、アンダースコア、ピリオド、またはハイフンに一致します。

+ は1個以上を示します。@は、すべてのメールアドレスのドメイン名の前にある記号です。

. は、ドメイン名の拡張子の前にある記号です。

[a-z\.] は、文字またはピリオドに一致します。

{2,6} は、2～6個の文字が許容されることを示します。

$ は行末を表します。

***例:* ^([a-z0-9_\.-]+)@([\da-z\.-]+)\.([a-z\.]{2,6})$**

マッチ例: `john@doe.com`

ユーザー名

ユーザー名に一致させるには、文字、数字、アンダースコア、またはハイフンに一致するように正規表現を設定します。

例:

/^[a-z0-9_-]{3,16}$

Where:

^ は行頭を示します。

[a-z0-9_-] は、文字、数字、アンダースコア、またはハイフンに一致します。

{3,16} は、それらの文字が3個以上、16個以下出現する必要があることを意味します。

$ は行末を表します。

マッチ例: my-us3r-n4m3

クレジットカード番号

クレジットカードは、基本的な採番体系に準拠しており、先頭の数字列の後ろに一定の桁数が続きます。たとえば、Master Cardの番号は16桁で、最初の1桁は常に「5」に固定されており、2桁目は1～5までの数字です。

例:

5[1-5]\d{14}

Where:

5 は最初の1桁です。

[1-5] は、1～5の範囲の数字に一致します。

d{ 14} は、続く14桁に一致します。

マッチ例: 5212345678901234

仕分け

仕分けノードを使用すると、Dispatcher Phoenixの光学式文字認識機能(OCR)を使用して、スキャンしたドキュメント、電子ファイルなどを事前定義されたクラスに自動的に仕分けすることができます。ノードは情報を抽出し、事前定義された仕分け定義と照合して、以下のメタデータ値を生成します。

- **Classification (仕分け)** - 検出された仕分けタイプ、または検出されなかった場合は「その他（Other）」。
- **Confidence Level (信頼レベル)** - ドキュメントが正しく仕分けされた確率を示す割合レート。

ワークフロー内のその他の処理ノードはこのメタデータを使用してファイルを処理ルーティングすることができます。このノードは、ドキュメントを手動で仕分けして配信する処理に取って代わるものです。

仕分けノードには、出生証明書、融資申込書、注文書など、事前定義された多くの仕分けカテゴリが含まれています。カテゴリには、情報を抽出し、仕分け情報のメタデータ出力を生成するためのキーワードベースのルールが含まれています。ただし、仕分けカテゴリ内の実際のフォームは非表示です。つまり、使用するカテゴリを選択することはできますが、編集することはできません。

このノードは、次のファイルタイプで機能します。

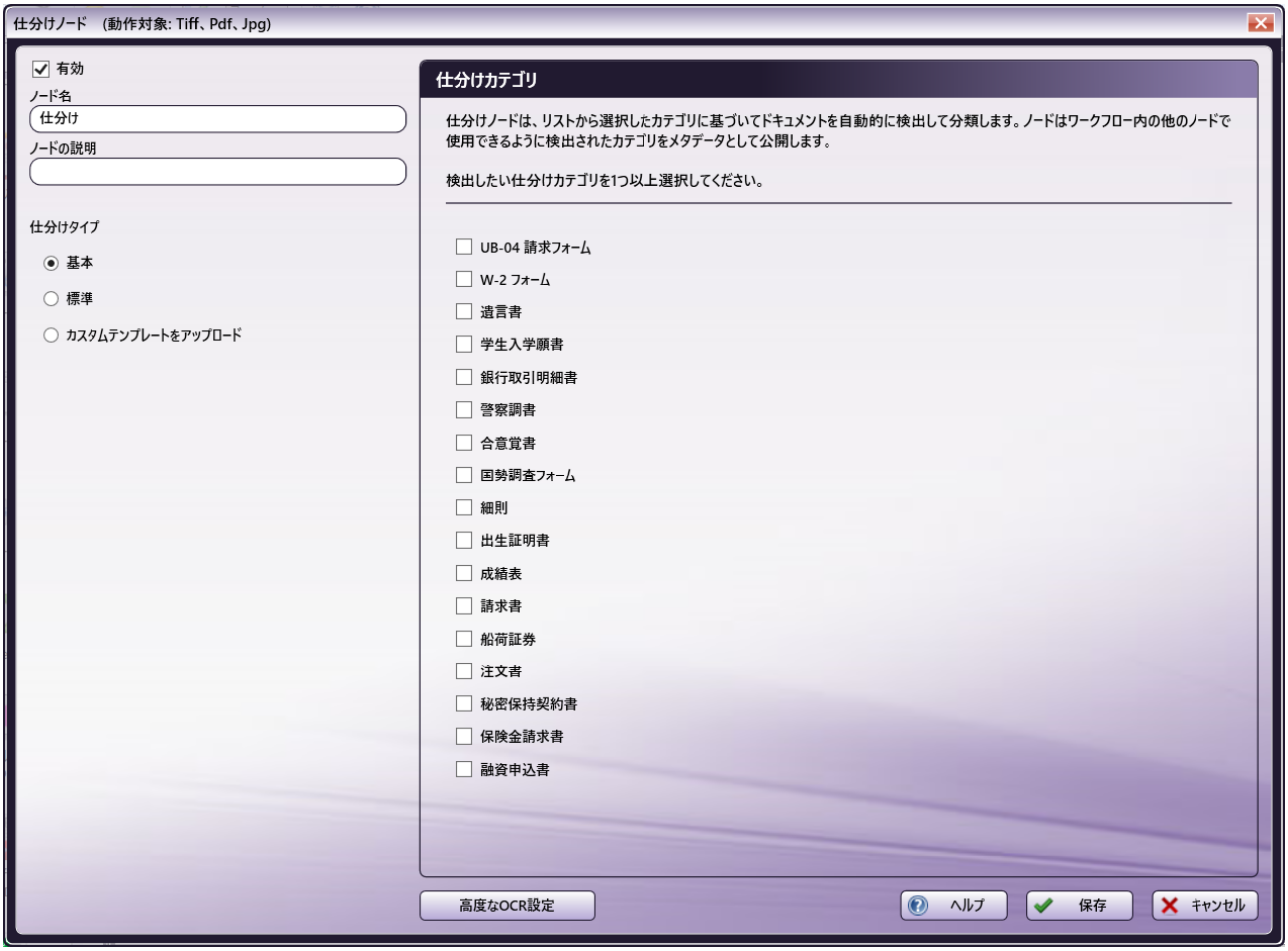
- TIFF
- JPG
- PDF

注:

- 仕分けノードは、300dpiの解像度のファイルのみをサポートします。
- **強調/取り消し線**や**墨消し**などの追加の処理アクションは許可されません。
- **Dispatcher Phoenix Web レポートジェネレーターツール**を使用してレポートを生成できるデータを収集します。
- OmniPage **OCRエンジン**が含まれています。

仕分けノードの構成

仕分けノードを開くには、ノードを「処理」リストからワークフローにドラッグアンドドロップし、ノードをダブルクリックします。プロパティウィンドウが表示されます。



- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。ボックスを空のままにすると、ワークフローはノードを無視してドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードはロジックやエラー状態をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - 既定のノード名をこのフィールドに入力します。この名前は、ワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[ノードの説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明はワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合、フィールドの上にマウスを置くと内容全体を読むことができます。

ボタン

- **[高度なOCR設定]** - **OCR設定**ウインドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。

- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixのオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保存してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

仕分けタイプ

ワークフローに追加する仕分けノードごとに、仕分けタイプを選択する必要があります。各タイプは、画像化されたドキュメントに異なる検出方法を適用します。次のオプションのいずれかを選択します。

- **[基本]** – 「フルページ」オプションであるこの仕分けタイプは、OCRゾーンをページ領域全体に適用し、ノードに対して選択した仕分けカテゴリで定義されたキーワードを検索します。検索では、最初のキーワードが検索され検出された場合は、フルページゾーンを介して他のドキュメント仕分け修飾子が検索されます。
- **[標準]** - 「テンプレートベース」のオプションであるこの仕分けタイプは、事前定義されたテンプレートを適用してノードに対して選択した仕分けカテゴリで定義されたキーワードを検索します。各仕分けカテゴリには、そのカテゴリに関連付けられたドキュメントのサンプリングに基づいて作成されたテンプレートが含まれています。たとえば、注文書カテゴリのテンプレートは、実際の注文書のサンプリングに基づいて作成されます。各テンプレートには、一連のOCRゾーン、ルール、サブルール、および正規表現が含まれています。
- **[カスタムテンプレートをアップロード]** - 上記の検出方法で特定のドキュメントタイプを仕分けするために必要な情報を適切に抽出できない場合、ソリューションエンジニアリングセンター(SEC)にリクエストして、ドキュメントタイプで使用するカスタムテンプレートを作成することができます。このオプションを使用してカスタムテンプレートをノードに適用します。詳細についてはSECにお問い合わせください。

注: 仕分けタイプは常に改良され、更新されています。仕分けタイプを選択した際に複数のテンプレートバージョンが存在する場合、使用可能なバージョンをリストするドロップダウンメニューが表示されます。使用するバージョンを選択します。既定のオプションは最新バージョンであり、テンプレートは新しい順にリストされます。

仕分けタイプについて

- すべての仕分けタイプが**メタデータ**を作成します。
- ドキュメントでキーワードが検出されない場合、ドキュメントを**「その他」**として仕分ける為のメタデータが作成されます。
- 仕分けノードに適用できる仕分けタイプは1つだけですが、異なる仕分けタイプを適用した別の仕分けノードを構成してワークフローに追加することができます。1つのワークフロー内に2つのノードを設定することで、チェックなどの追加の仕分け処理を実行することができます。

仕分けカテゴリ

各仕分けカテゴリには、そのカテゴリに関連付けられたドキュメントのサンプリングに基づいて作成されたテンプレートが含まれています。たとえば、注文書カテゴリのテンプレートは、実際の注文書のサンプリングに基づいて作成されています。各テンプレートには、OCRゾーン、ルール、サブルール、および正規表現のセットが含まれています。テンプレートはこれらの要素を使用してスキャンされたドキュメント内のキーワードを検索し、検出された(または検出されなかった)キーワードに基づいてドキュメントを仕分けします。

さらに、スキャンされたドキュメントごとに、テンプレートは「信頼レベル」を計算し、そのレベルに基づいてメタデータを生成します。基本的に、キーワードを検出するカテゴリ内のOCRゾーンの数が多いほど、信頼レベルは高くなります。信頼レベルに基づいてワークフロー内のドキュメントをルーティングすることができます。

仕分けタイプを選択すると、仕分けカテゴリ領域に使用可能なカテゴリが表示されます。ワークフローでドキュメントを仕分けする1つ以上のカテゴリを選択します。仕分けカテゴリは常に改良され、新しいカテゴリが追加されています。現在、以下のカテゴリを利用することができます。

カテゴリ	カテゴリ
Bank Statements (銀行取引明細書)	Non-Disclosure Agreements (秘密保持契約書)
Bills of Lading (船荷証券)	Police Reports (警察調書)
Birth Certificates (出生証明書)	Purchase Orders (注文書)
Bylaws (細則)	Report Cards (成績表)
Census Forms (国勢調査フォーム)	Student Application Admission Forms (学生入学願書)
Insurance Claims (保険金請求書)	UB-04 Claim Forms (UB-04請求フォーム)
Invoices (請求書)	W-2 Forms (W-2フォーム)
Loan Applications (融資申込書)	Wills (遺言書)
Memorandums of Understanding (合意覚書)	

信頼レベル

ドキュメントを正確かつ信頼してルーティングできるように、各仕分けカテゴリは信頼レベルを生成します。これは、ドキュメントが正しく仕分けされたという信頼レベルを示す割合レートです。仕分けカテゴリによって検出されたキーワードは、信頼レベルのメタデータを生成し、信頼レベルに基づいてドキュメントをルーティングすることができます。たとえば、信頼レベル90以上のすべてのドキュメントを選択した仕分けカテゴリにルーティングし、90を超えないすべてのドキュメントを「その他」カテゴリにルーティングして、レビューおよび再仕分けすることができます。

各仕分けカテゴリは1つ以上の検索ルールで構成され、各ルールは、ドキュメントの指定された領域のコンテンツを検出するために使用されるOCRゾーンを適用します。仕分けカテゴリに含まれるルールの数が多く、それらのゾーンのルールが検出するキーワードが多いほど、ドキュメントが正しく仕分けされたという信頼性が高くなります。

注:

- 信頼レベルは、標準仕分けタイプの仕分けカテゴリでのみ使用され、基本仕分けタイプでは使用されません。

- 複数の仕分けタイプが検出された場合、それぞれに対して信頼レベルが生成され、ドキュメントは検出された最高レベルにルーティングされます。
- 仕分けされたドキュメントで検出された信頼レベルを表示するには、**メタデータ/ファイル**ノードをワークフローに追加し、ワークフローによって生成されたファイルのメタデータセクションを表示する必要があります。以下のワークフローの例2を参照してください。

メタデータ

次のメタデータが仕分けノードで作成されます。

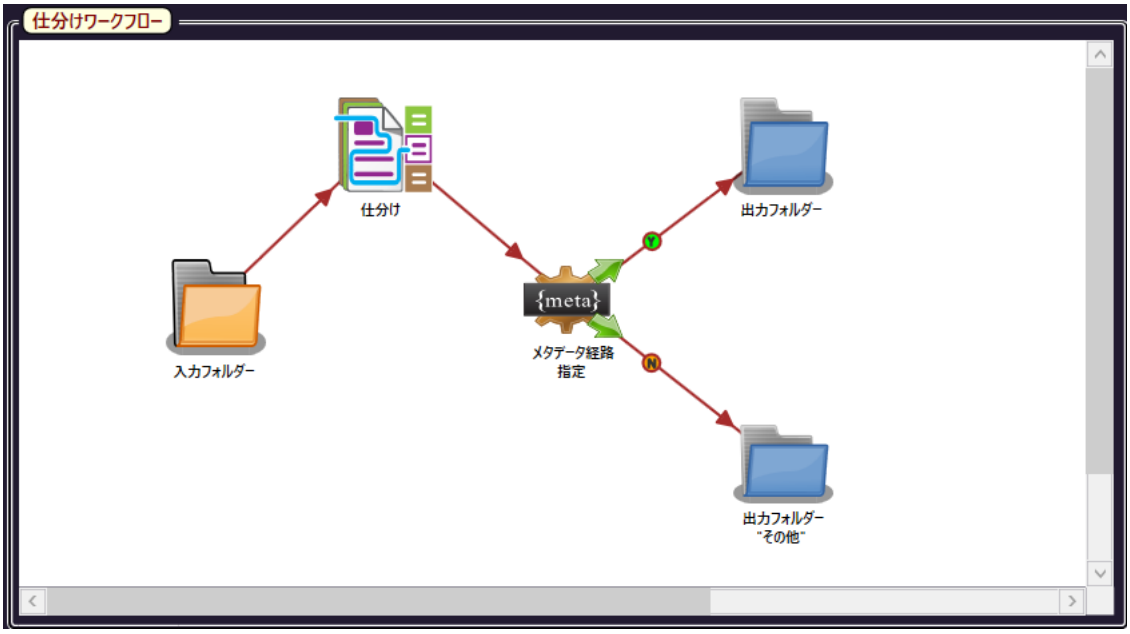
メタデータ	説明
{sdc:classification}	検出された仕分けカテゴリ毎の値を含むドキュメントレベルのメタデータ。
{sdc:confidence}	検出された各仕分けカテゴリの信頼レベル(つまり、ドキュメントが正しく仕分けされたという信頼レベルを示す割合レート)を含むドキュメントレベルのメタデータ。

注: 仕分けノードはドキュメントレベルのメタデータのみを作成します。

サンプルワークフロー 1

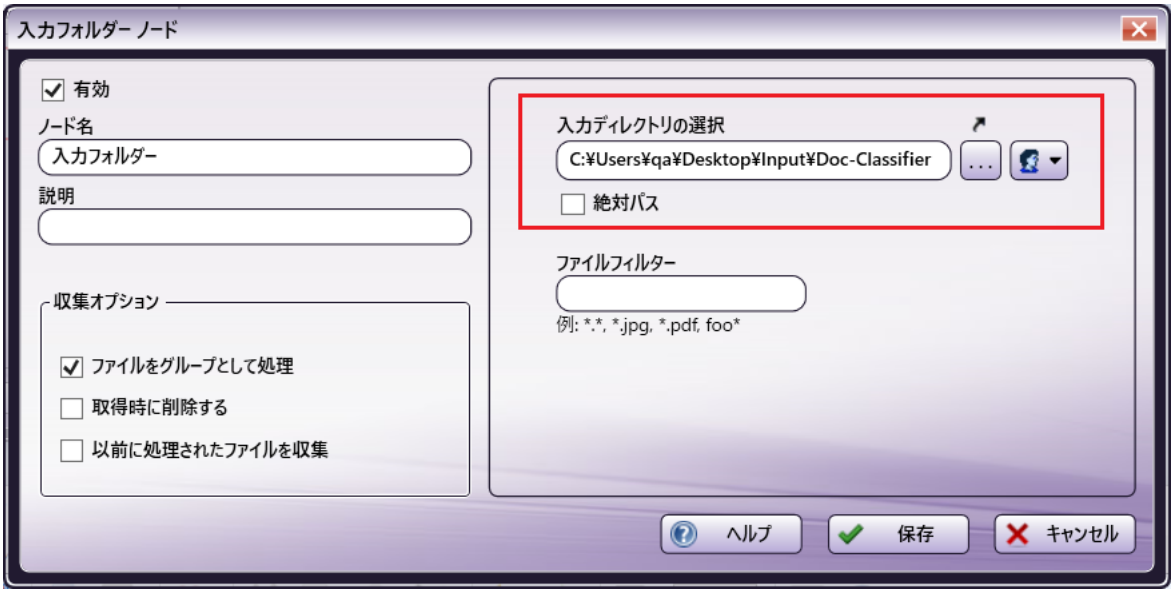
以下は、仕分けカテゴリ別にドキュメントをルーティングするための一般的な仕分けワークフローです。

1. 入力フォルダーからドキュメントを収集します。
2. ユーザー定義の仕分けカテゴリに対してドキュメントを処理します。
3. ドキュメントカテゴリを「メタデータ」として出力し、メタデータを**メタデータ経路指定**に送信します。
4. 仕分けされたすべてのドキュメントを出力フォルダーに配信します。
5. 仕分けされていないすべてのドキュメントを別の出力フォルダーに配信します。



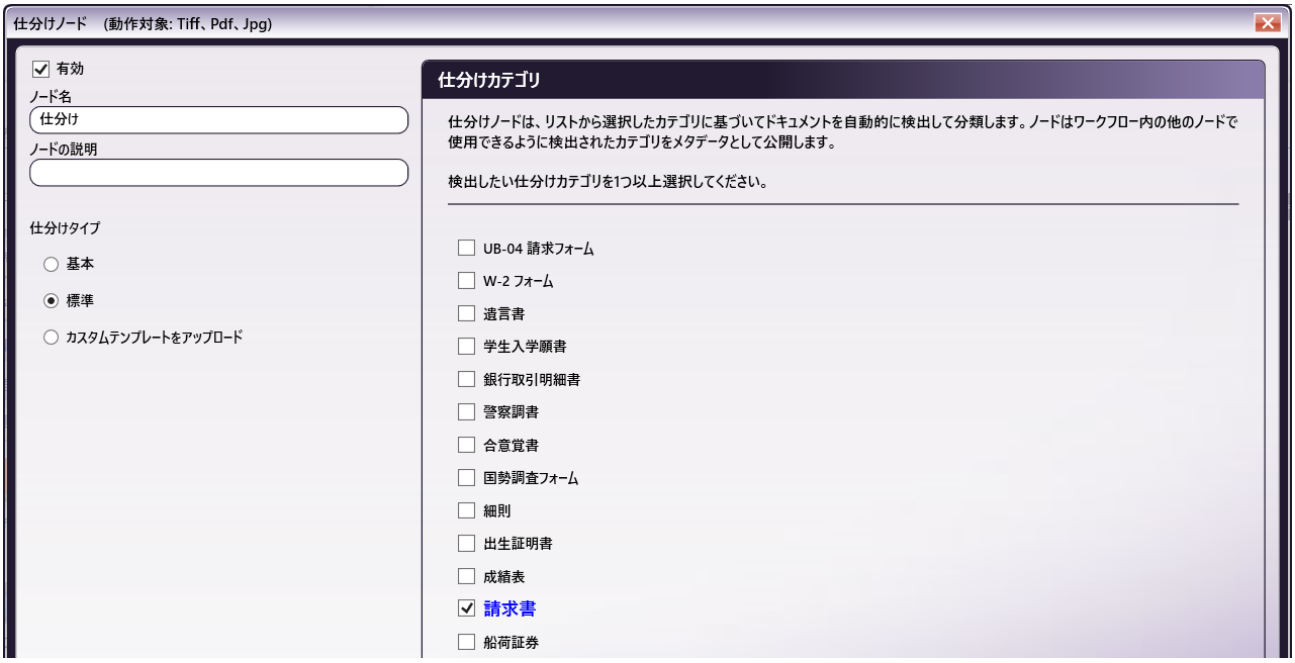
手順 1 - 入力フォルダーを追加する

入力フォルダーをワークフローに追加して、仕分けするドキュメントを含むフォルダーとなる入力ディレクトリを指定します。



手順 2 - 仕分けノードを構成する

仕分けノードをワークフローに追加します。仕分けタイプと、1つ以上の仕分けカテゴリを選択します。

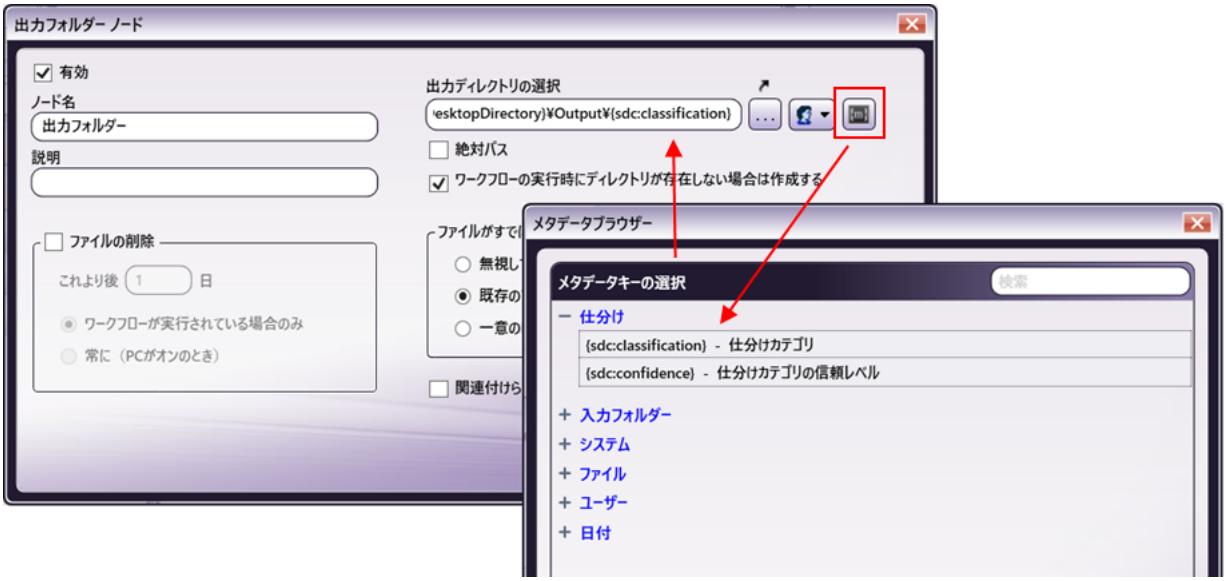


手順 3 - メタデータ経路指定ノードを構成する

メタデータ経路指定ノードをワークフローに追加して、次の図のように構成します。

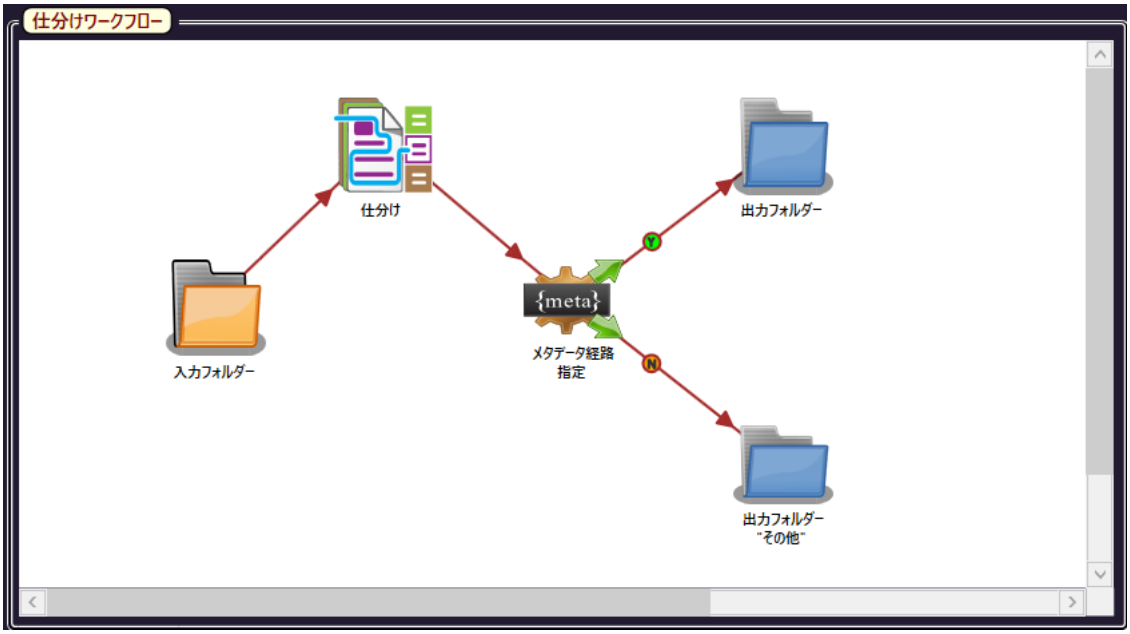
手順 4 - 出力フォルダーを構成する

出力フォルダーノードを2つワークフローに追加します。出力フォルダーノードごとにメタデータに基づいて作成される出力ディレクトリを指定します。



手順 5 - ワークフローでノードを接続する

次の図のようにノードを接続します。



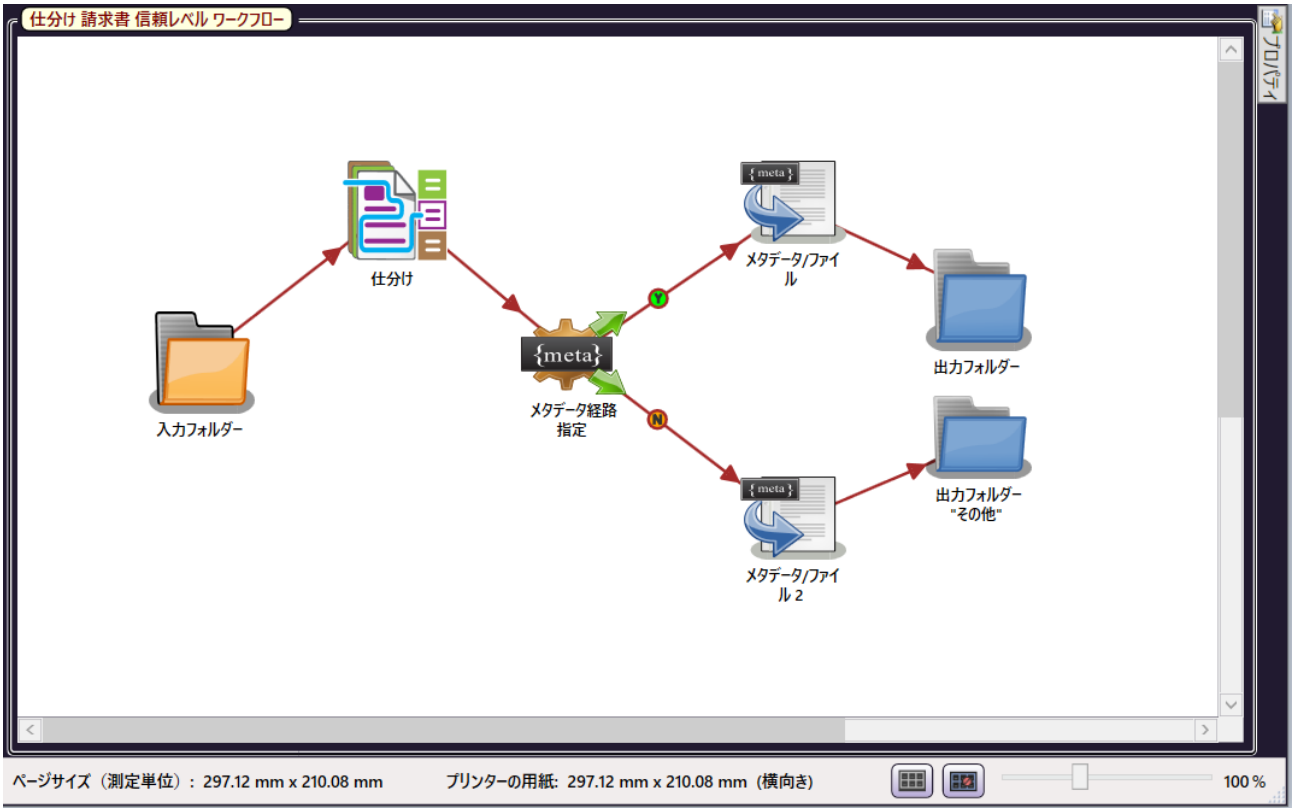
手順 6 - ワークフローを実行する

ワークフローを実行します。仕分けノードは入力フォルダー内のすべてのドキュメントの仕分けメタデータを作成します。すべての請求書は名前付きフォルダーに配信されます。他のすべてのドキュメントは**「その他」**という名前のフォルダーに配信されます。

サンプルワークフロー 2

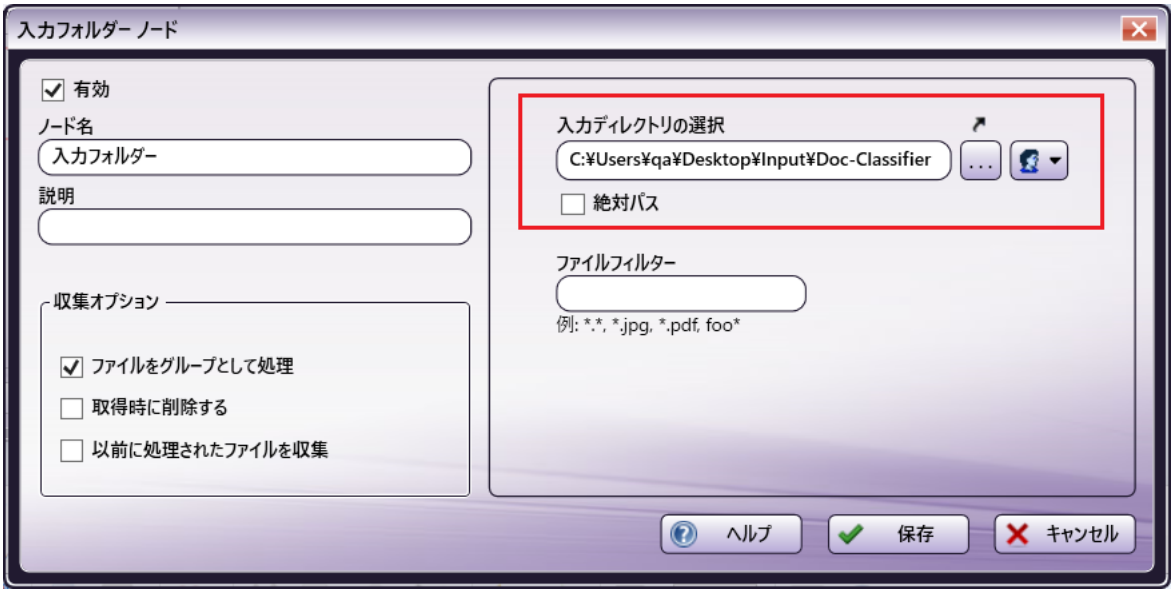
以下は、信頼レベルによってドキュメントをルーティングするように設計された一般的な仕分けワークフローです。

1. 入力フォルダーからドキュメントを収集します。
2. ユーザー定義の仕分けカテゴリに対してドキュメントを処理します。
3. ドキュメントカテゴリをメタデータとして出力し、メタデータを**メタデータ経路指定**ノードに送信します。
4. **メタデータ/ファイル**ノードを2つ追加して、閲覧用にファイル内のメタデータを収集します。
5. 指定された信頼レベルを満たすすべての仕分けされたドキュメントを出力フォルダーに配信します。
6. 仕分けされていないすべてのドキュメントと、指定された信頼レベルを満たしていない仕分けされたすべてのドキュメントを別の出力フォルダーに配信します。



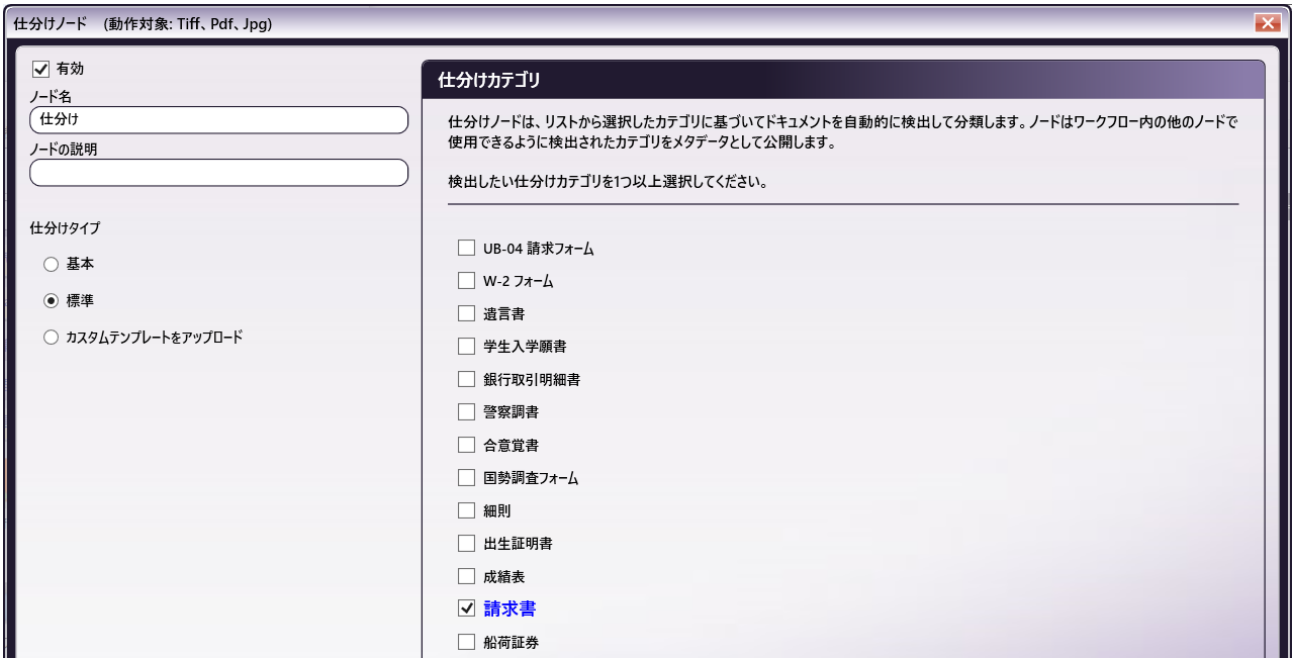
手順 1 - 入力フォルダーを追加する

入力フォルダーをワークフローに追加して、仕分けするドキュメントを含むフォルダーとなる入力ディレクトリを指定します。



手順 2 - 仕分けノードを構成する

仕分けノードをワークフローに追加します。仕分けタイプと、1つ以上の仕分けカテゴリを選択します。



手順 3 - メタデータ経路指定ノードを構成する

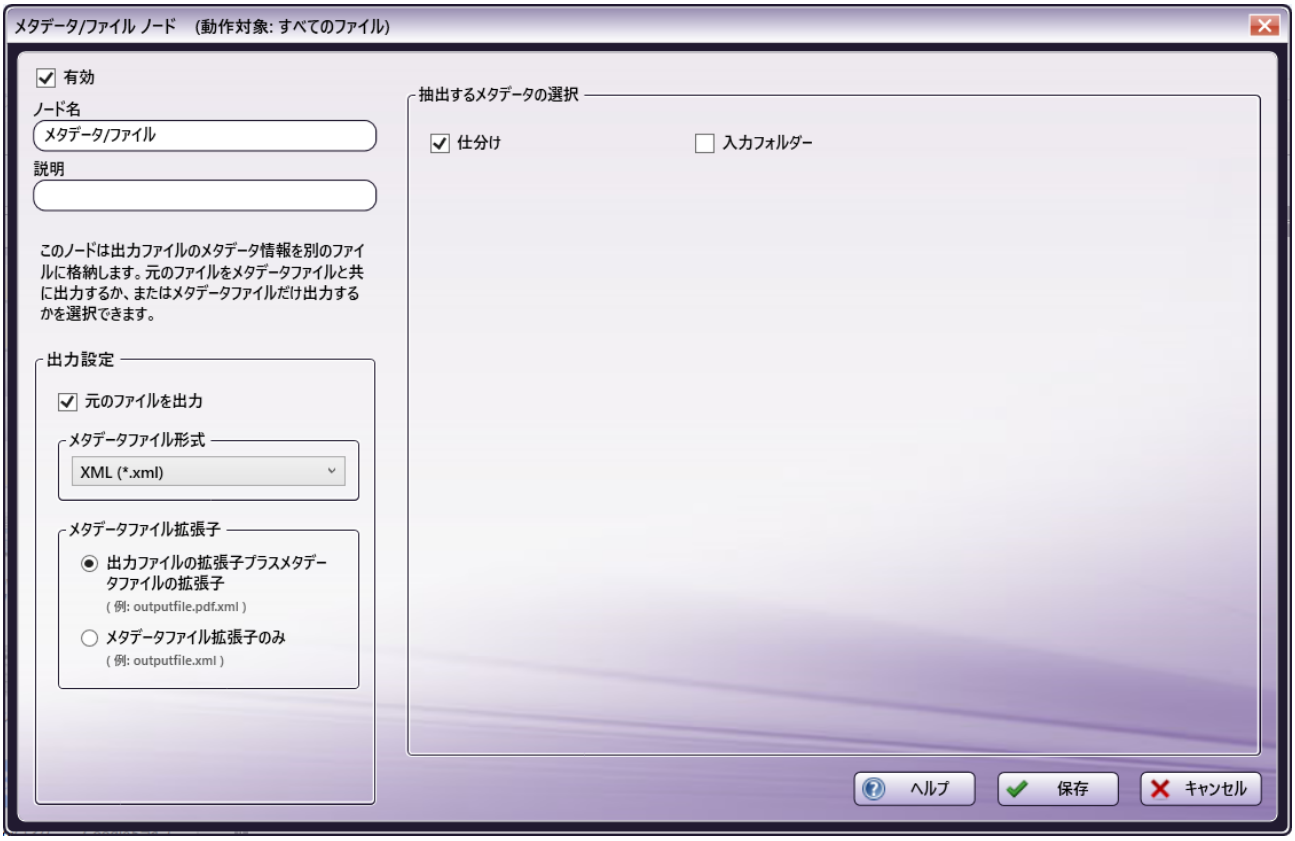
メタデータ経路指定ノードをワークフローに追加して、次の図のように構成します。この例では、信頼メタデータ表現式は、信頼レベルが90以上のすべてのドキュメントを検出されたカテゴリにルーティングし、他のすべてのドキュメントを「その他」フォルダーにルーティングします。

次の表現式を使用して、信頼レベルが次の表に示されている信頼レベル以上のドキュメントをルーティングできます。

信頼レベル	表現式
Confidence >= 60	^(6[0-9]{1}|[7-9]{1}[0-9]{1})\.?[0-9]*
Confidence >= 65	^(6[5-9]{1}|[7-9]{1}[0-9]{1})\.?[0-9]*
Confidence >= 70	^(7[0-9]{1}|[8-9]{1}[0-9]{1})\.?[0-9]*
Confidence >= 75	^(7[5-9]{1}|[8-9]{1}[0-9]{1})\.?[0-9]*
Confidence >= 80	^(8[0-9]{1}|9[0-9]{1})\.?[0-9]*
Confidence >= 85	^(8[5-9]{1}|9[0-9]{1})\.?[0-9]*
Confidence >= 90	^(9[0-9]{1})\.?[0-9]*
Confidence >= 95	^(9[5-9]{1})\.?[0-9]*

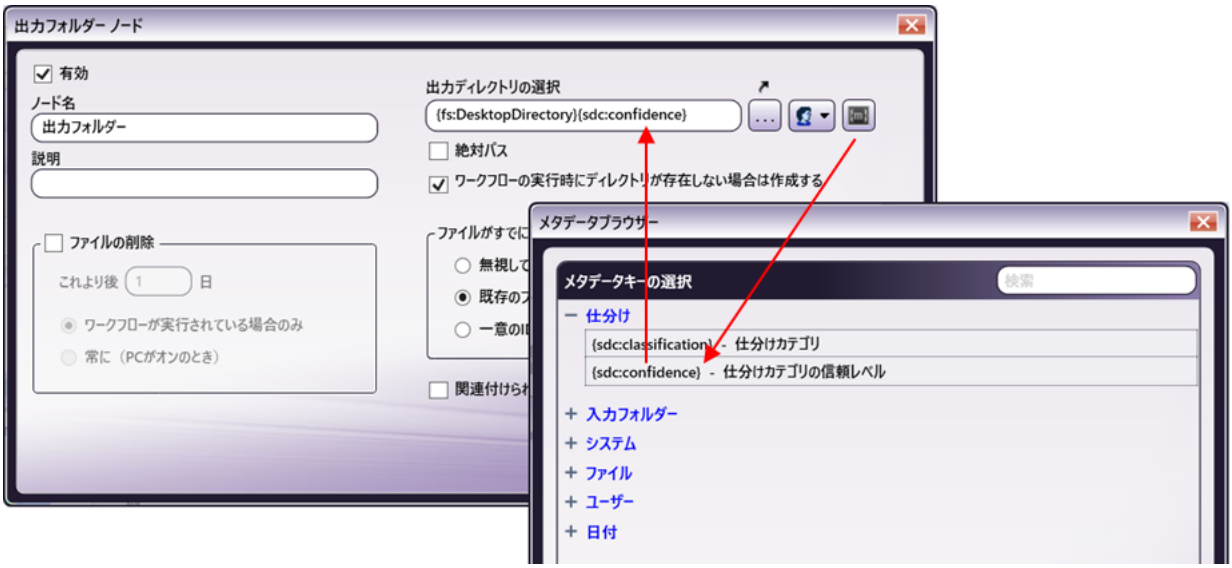
手順 4 - メタデータ/ファイルノードを構成する

メタデータ/ファイルノードを2つワークフローに追加します。**メタデータ/ファイル**ノードごとに、抽出するメタデータとして「仕分け」オプションを選択します。



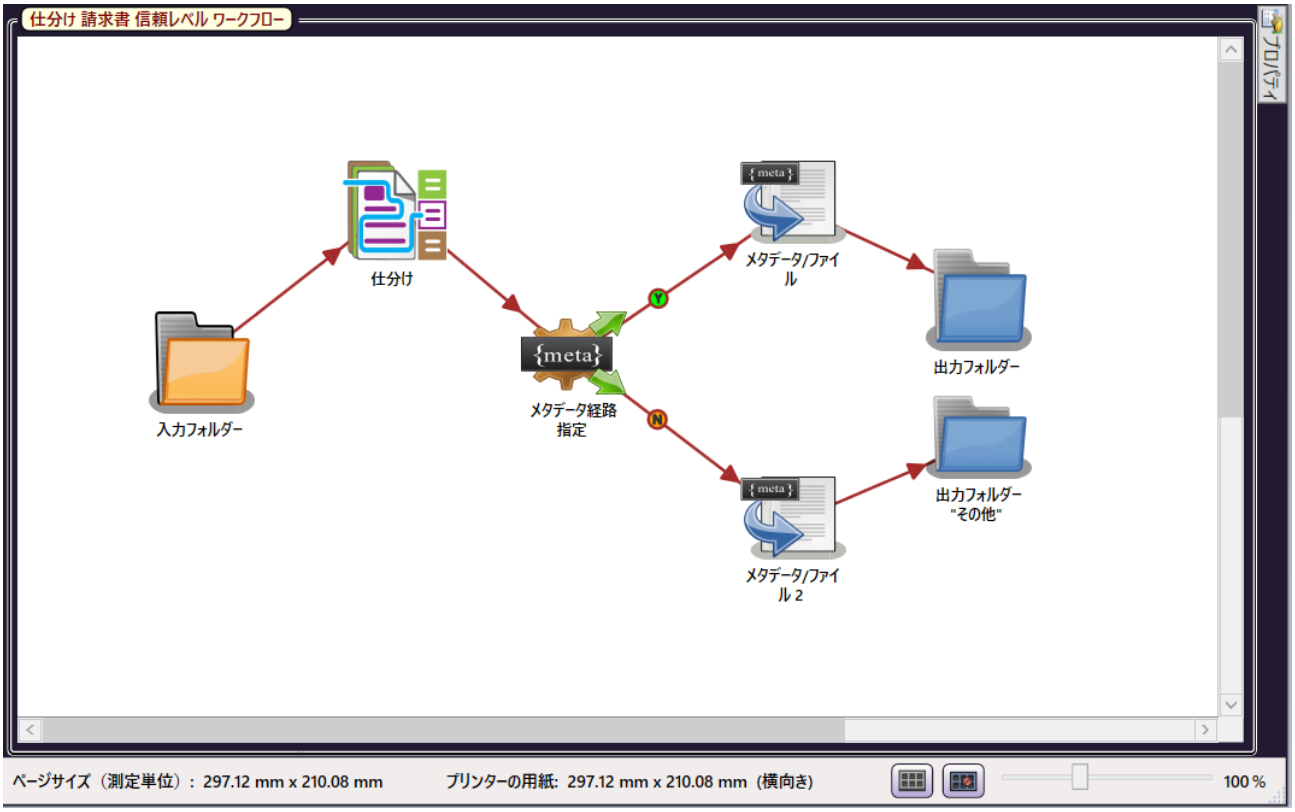
手順 5 - 出力フォルダーを構成する

出力フォルダーノードを2つワークフローに追加します。出力フォルダーノードごとにメタデータに基づいて作成される出力ディレクトリを指定します。



手順 6 - ワークフローでノードを接続する

次の図のようにノードを接続します。

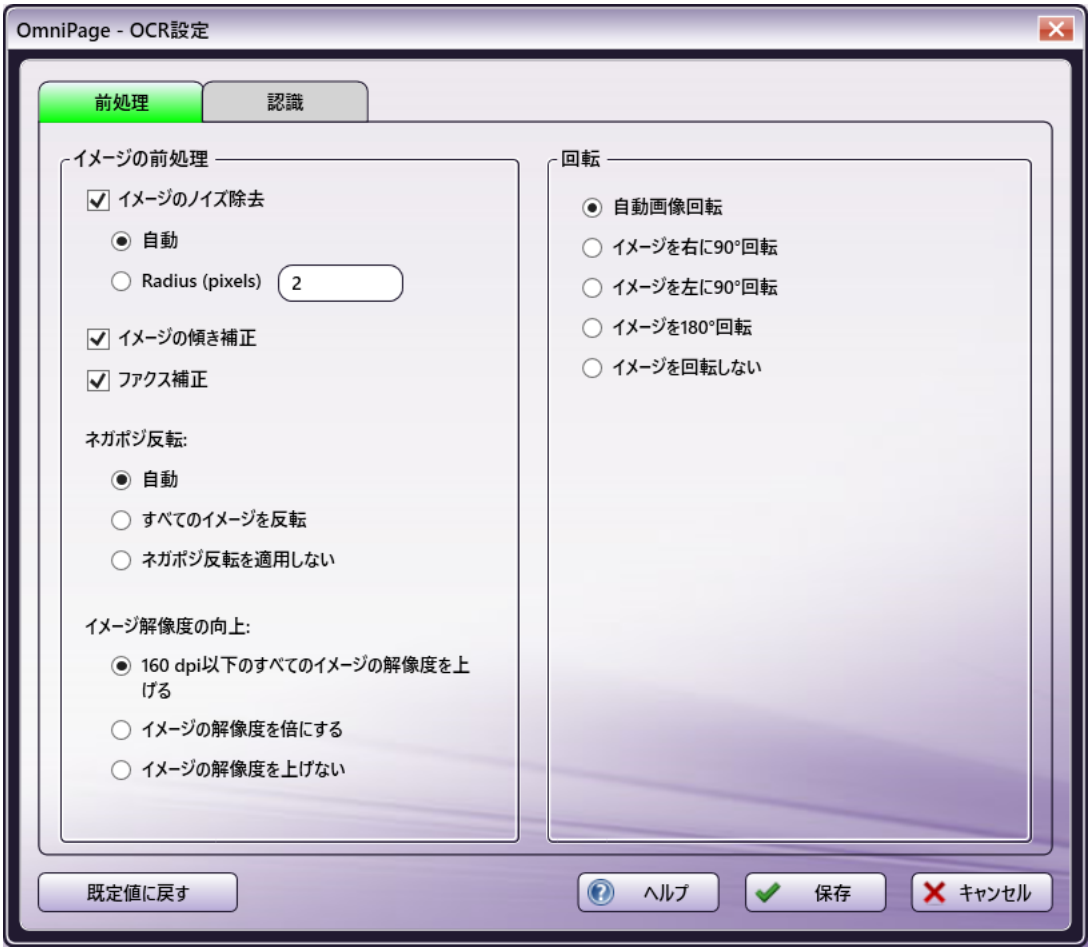


手順 7 - ワークフローを実行する

ワークフローを実行します。仕分けノードは入力フォルダー内のすべてのドキュメントの信頼メタデータを作成します。信頼基準を満たす請求書は指定されたフォルダーに配信されます。他のすべてのドキュメントは**「その他」**という名前のフォルダーに配信されます。

OCR設定

このトピックでは、OCR設定ウィンドウについて説明します。このウィンドウは、光学式文字認識（OCR）をサポートするDispatcher Phoenixノードで使用できます。これらのノードには、OCR設定ウィンドウにアクセスする **[詳細設定]** ボタン（ **高度なOCR設定** ボタンと呼ばれることもあります）が含まれています。次の図を参照してください。



注: このページは主にTesseractとOmniPageに適用されます。aiDocuDroidとaiDocuDroid手書きは、こちら で説明されている詳細設定と機能が若干異なります。

OCRエンジン

光学式文字認識は、OCRエンジンによって駆動されます。Dispatcher Phoenixは現在、次のOCRエンジンをサポートしています。

- Tesseract
- OmniPage
- aiDocuDroid (OCR)
- aiDocuDroid 手書き(ICR)

各OCR対応ノードは、1つ以上のOCRエンジンをサポートします。ノードが1つのOCRエンジンのみをサポートする場合、そのエンジンは既定になります。既定がTesseractであるノードの場合、ノードのプロパティウィンドウの「OCRエンジン」フィールドに「Tesseract」と表示されます。ただし、Tesseractをサポートしないノードの場合、OmniPageが既定になりますが、OCRエンジンフィールドには「OmniPage」が表示されません。

ノードが複数のエンジンをサポートしており、さらに複数のエンジンのライセンスを取得している場合、ノードの **OCRエンジン** フィールドにドロップダウンメニューが表示され、エンジンを選択することができます。

OCR設定ウィンドウにアクセスすると、使用可能なオプションのセットはエンジンの特徴/機能に基づいてOCRエンジンによって決定されます。

注: OCR対応ノードの場合、OCRエンジンは、ノードのプロパティウィンドウの **出力** フィールドで使用できる出力オプションのリストにも影響を与える可能性があります。

OCR対応ノード

次のDispatcher Phoenix処理ノードには、OCR機能が搭載されています。

- **2Dバーコード処理**
- **高度なOCR**
- **バーコード処理**
- **PDFに変換**
- **Officeに変換**
- **仕分け**
- **フォーム処理**

- **強調/取り消し線**
- **墨消し**

OmniPage ノード

すべてのOCR対応ノードは、OmniPage OCRエンジンをサポートしています。これらのノードは、以下の例外を除いたDispatcher Phoenix基本ライセンス用のアドインノード、または、Dispatcher Phoenixバーティカル市場パッケージの一部として購入する必要があります。

- **高度なOCR** - 高度なOCRは、DispatcherPhoenix 基本ライセンスに含まれています。Tesseractのサポートが含まれています。高度なOCR用OmniPageは個別に購入できます。
- **PDFに変換** - PDFに変換は、Dispatcher Phoenix基本ライセンスに含まれています。Tesseractのサポートが含まれています。PDFに変換用OmniPageは個別に購入できます。

Tesseractノード

次のノードはTesseract OCRエンジンをサポートしています。

- **高度なOCR** - 高度なOCRは、DispatcherPhoenix基本ライセンスに含まれています。Tesseractのサポートが含まれています。
- **PDFに変換** - PDFに変換は、Dispatcher Phoenix基本ライセンスに含まれています。Tesseractのサポートが含まれています。
- **フォーム処理** - フォーム処理ノードを購入すると、TesseractとOmniPage OCRエンジン両方のサポートが含まれています。

注: Tesseract OCRエンジンには、OCR認識処理で使用する追加の言語をインストールするオプションが含まれています。これらの追加言語はTesseract OCRエンジンに含まれており、追加のライセンスや購入は必要ありません。

aiDocuDroidノード

次のノードは、aiDocuDroidおよびaiDocuDroid手書きエンジンをサポートしています。

- **高度なOCR** - 高度なOCRは、Dispatcher Phoenixの基本ライセンスに含まれています。Tesseract、aiDocuDroid、aiDocuDroid手書きのサポートが含まれています。
- **フォーム処理** - フォーム処理ノードを購入すると、Tesseract、OmniPage、およびaiDocuDroid OCR/ICRエンジンのサポートが含まれます。

複数のOCRエンジンノード

このセクションにはOmniPageとTesseractの両方のOCRエンジンをサポートする各Dispatcher Phoenixノードの表が含まれています。この表は、各OCRエンジンでサポートされているDispatcher Phoenixの機能と機能を示しています。

高度なOCRノード - OCR機能表

OCR 特徴/機能	OmniPage	Tesseract
自動ゾーン	Yes	Yes
処理するページ範囲	すべてのページ すべての偶数ページ すべての奇数ページ 最初のページ 最後のページ 独自のページ範囲を定義	すべてのページ すべての偶数ページ すべての奇数ページ 最初のページ 最後のページ 独自のページ範囲を定義
出力	元のドキュメント+メタデータ PDF 検索可能なPDF イメージ置き換え付きのPDF Microsoft Word 2000 XP (*.doc) Microsoft Word 2003 (WordML) Microsoft Word 2003 XP (*.xls) Microsoft Powerpoint 97 (*.ppt) 検索可能なXPS RTF Word 2000 テキスト カンマ区切りテキスト フォーマット済みテキスト テキストと改行 Unicodeのテキスト Unicodeのカンマ区切りテキスト Unicodeのフォーマット済みテキスト 改行を含むUnicodeのテキスト XML eBook	元のドキュメント+メタデータ 検索可能なPDF テキスト カンマ区切りテキスト テキストと改行 Unicodeのテキスト Unicodeのカンマ区切りテキスト 改行を含むUnicodeのテキスト
高度な設定	Yes	Yes
前処理	ノイズ除去 傾き補正 ファクス補正 ネガポジ反転 イメージ解像度の向上 回転	傾き補正 回転
認識	127 言語 9 辞書 スペルチェック レイアウトの説明: - 自動 - 1列、表なし - 複数列、表なし - 1列、表あり - スプレッドシート - フォーム - 法律的訴答 OCR処理の最適化 イメージの最大サイズを指定 タイムアウト	113 言語 レイアウトの説明: - 自動 - 1列、表なし - 複数列、表なし - 1列、表あり - スプレッドシート OCR処理の最適化 最大画像サイズを指定 タイムアウト
OCR設定の出力	出力フォーマットのレベル 入力されたフォームデータを保持する 反転したテキストを保持する テキストと背景色を保持 空白ページの削除 認識されない文字の代替文字	なし

PDFに変換 - OCR機能表

OCR 特徴/機能	OmniPage	Tesseract
ファイルタイプ	PDF 編集済みPDF PDFイメージのみ 検索可能なPDF イメージ置き換え付きのPDF	検索可能なPDF PDFイメージのみ
PDFバージョン	品質の最適化 サイズの最適化 PDF 1.3 PDF 1.4 PDF 1.5 PDF 1.6 PDF 1.7 PDF/A-1a PDF/A-2a PDF/A-3a PDF/A-1b PDF/A-2b PDF/A-3b PDF/A-2u PDF/A-3u	なし
空白のページを削除	Yes	Yes
自動画像回転	Yes	Yes
セキュリティの設定	Yes	Yes
詳細設定	Yes	Yes
前処理	ノイズ除去 傾き補正 ファクス補正 ネガポジ反転 イメージ解像度の向上 回転	傾き補正 回転
認識	127 言語 9 辞書 スペルチェック レイアウトの説明: - 自動 - 1列、表なし - 複数列、表なし - 1列、表あり - スプレッドシート - フォーム - 法律的訴答 OCR処理の最適化 イメージの最大サイズを指定 タイムアウト	113 言語 レイアウトの説明: - 自動 - 1列、表なし - 複数列、表なし - 1列、表あり - スプレッドシート OCR処理の最適化 イメージの最大サイズを指定 タイムアウト
OCR設定出力	出力フォーマットのレベル 塗りつぶしフォームデータを保持 反転したテキストを保持 テキストと背景色を保持 空白ページの削除 認識されない文字の代替文字	空白ページの削除

フォーム処理 - OCR機能表

OCR 特徴/機能	OmniPage	Tesseract
ルール構成の実行	Yes	Yes
詳細設定	Yes	Yes
前処理	ノイズ除去 傾き補正 ファクス補正 ネガポジ反転 イメージ解像度の向上 回転	傾き補正 回転
認識	127 言語 9 辞書 スペルチェック レイアウトの説明: - 自動 - 1列、表なし - 複数列、表なし - 1列、表あり - スプレッドシート - フォーム - 法律的訴答 OCR処理の最適化 イメージの最大サイズを指定 タイムアウト	113 言語 レイアウトの説明: - 自動 - 1列、表なし - 複数列、表なし - 1列、表あり - スプレッドシート OCR処理の最適化 イメージの最大サイズを指定 タイムアウト

高度なOCR設定ウィンドウの使用

高度なOCR設定ウィンドウには、OCR結果の精度とOCR処理の実行時間を調整するために使用できる設定が含まれています。

高度なOCR設定ウィンドウには、次のタブがあり、それぞれに関連する設定のセットがあります。次の設定を指定できます。

- **前処理**
- **OCR認識**
- **出力** (このタブはドキュメントを別の形式に変換するノードでのみ表示されます)

ボタン

次のボタンはOCR設定ウィンドウの各タブから使用することができます。

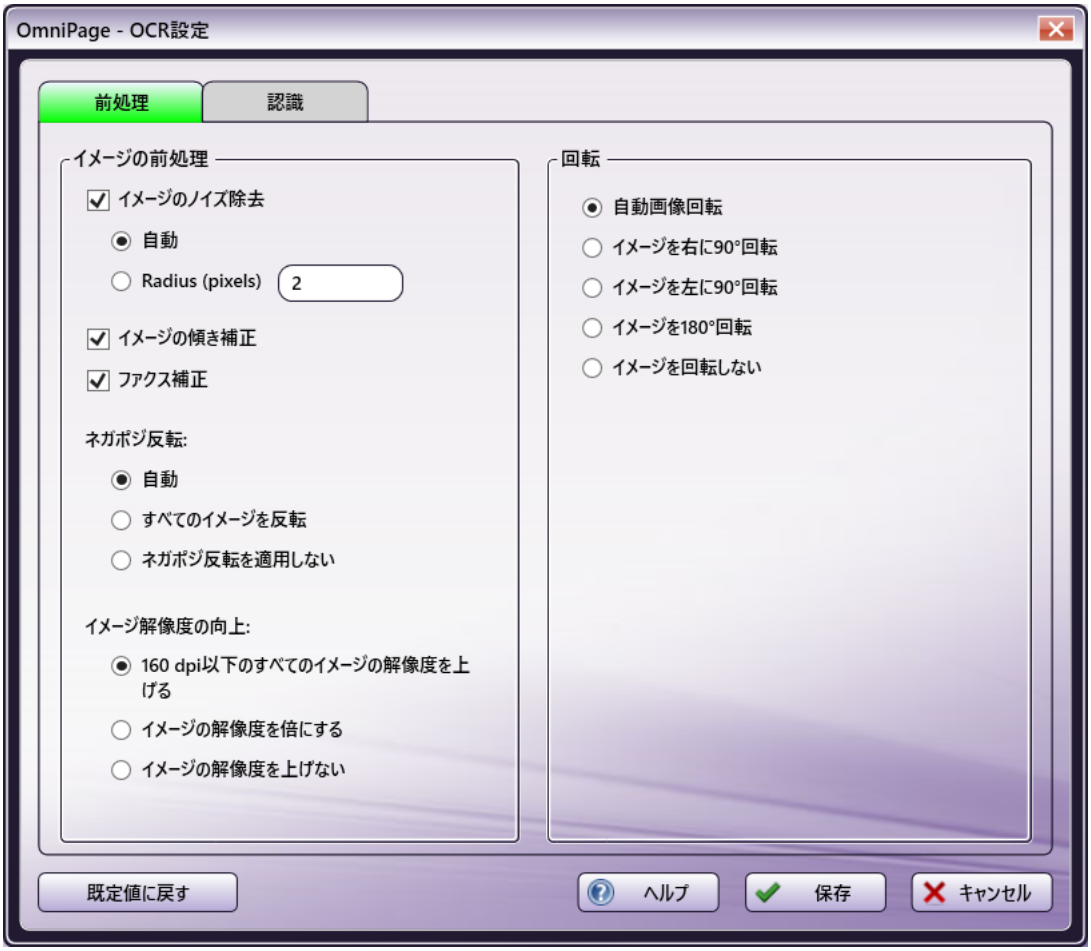
- **[既定値に戻す]** - カスタマイズされたすべての設定を既定値にリセットするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - このウィンドウのオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - 現在のOCR設定を保持するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにOCR設定ウィンドウを終了し、ノードのプロパティウィンドウに戻るには、このボタンをクリックします。

前処理タブ

このタブを使用して、OCR分析と認識を開始する前に、イメージを準備、および前処理する方法を指定するパラメーターを設定します。

注: このタブで使用できるオプションのセットは、エンジンの特徴/機能に基づいて、**OCRエンジン** によって決定されます。オプションがタブに表示されない場合、そのオプションはOCRエンジンでサポートされていません。以下の図は、OmniPageおよびTesseract OCRエンジンで使用可能なオプションを示しています。すべてのオプションは、図の下のセクションで説明されています。

OmniPageオプション



Tesseractオプション

イメージの前処理

OCR認識を実行する前に、イメージに前処理を適用してイメージの品質を向上することができます。これらのオプションを有効、または無効にすると、出力の品質やOCR処理のパフォーマンス時間が向上する場合があります。

- **[イメージのノイズ除去]** - この設定を有効にすると、準備処理中にOCR用にイメージのノイズが自動的に除去されます。OCR処理は低品質のイメージを許容しますが、最良の結果を得るにはイメージからノイズや汚れを取り除く必要があります。ノイズ除去は、スキャンされたイメージのノイズを探し、取り除きます。既定値は「有効」です。
- **[イメージの傾き補正]** - この設定を有効にすると、曲がってスキャンされたイメージは準備処理中に自動的に矯正されます。既定値は「有効」です。
- **[ファクス補正]** - この設定を有効にすると、FAXイメージの解像度が2倍になります。既定値は「有効」です。

  注: [イメージのノイズ除去] 、**[イメージの傾き補正]**、または **[ファクス補正]** の前処理オプションをオフにすると、OCR処理が失敗する場合があります。これらのオプションをオフにした場合、ドキュメントを適切に処理できるようにワークフローに「ノイズ除去」ノードや、「傾き補正」ノードを追加する必要があります。
- **[ネガポジ反転]** - OCRを実行する前に、暗い背景に対して白いテキストを含むイメージを準備処理中に一時的に反転して、OCR結果の精度を高めることができます。オプションは次のとおりです。
  - **[自動]** - この設定を有効にすると、イメージ反転の必要性が検出され、前処理中に反転が実行されます。既定値は「有効」です。
  - **[すべてのイメージを反転]** - この設定を有効にすると、すべてのイメージが自動的に反転され、検出手順がスキップされます。
  - **[ネガポジ反転を適用しない]** - この設定を有効にすると、OCR処理が開始される前に入力イメージは反転されません。このオプションを有効にすると、OCR結果の精度が影響を受ける可能性があることに注意してください。
- **[イメージ解像度の向上]** - 入力イメージの解像度は、OCR処理の精度を向上させるために、準備処理中に一時的に向上させることができます。オプションは次のとおりです。
  - **[160 dpi以下のすべてのイメージの解像度を上げる]** - この設定を有効にすると、イメージの解像度が検出され、160dpi以下の場合は2倍になります。既定値は「有効」です。
  - **[イメージの解像度を倍にする]** - この設定を有効にすると、イメージの解像度が自動的に2倍になり、検出手順がスキップされます。
  - **[イメージの解像度を上げない]** - この設定を有効にすると、元のイメージの解像度は変更されません。このオプションを有効にすると、OCR結果の精度が影響を受ける可能性があることに注意してください。

回転

OCRを実行する前に、向きが正しくないページが検出され、修正が試みられます。入力ファイルの向きの誤りをすでに正確に把握しており、この自動検出処理を回避して処理時間を短縮したい場合は、ここで特定のオプションを選択できます。

- **[自動画像回転]** - このオプションを有効にすると、OCRの実行前に入力画像の向きが検出され、不適切な向きのページ画像が自動的に回転します（90度、180度、または270度）。この「有効」オプションは回転と反転の既定値です。このチェックボックスをオフにすると、処理ノードウィンドウの「自動画像回転」オプションもオフになります。
- **[イメージを右に90°回転]** - この設定を有効にすると、不適切な向きのページ画像が時計回りに90度回転します。
- **[イメージを左に90°回転]** - この設定を有効にすると、不適切な向きのページ画像が反時計回りに90度回転します。
- **[イメージを180°回転]** - この設定を有効にすると、不適切な向きのページ画像が上下が反転されます。
- **[イメージを回転しない]** - この設定を有効にすると、画像は回転しません。

認識タブ

OCRの精度と処理時間を改善するために、認識処理を支援する特定の設定を指定できます。

注: このタブで使用できるオプションのセットは、エンジンの特徴/機能に基づいて、**OCR エンジン** によって決定されます。オプションがタブに表示されない場合、そのオプションはOCRエンジンでサポートされていません。以下の図は、OmniPageおよびTesseract OCRエンジンで使用可能なオプションを示しています。各OCRエンジンで使用可能な言語を含むすべてのオプションは、図の下のセクションで説明されています。

OmniPageオプション

Tesseractオプション

言語と辞書

- **[ドキュメントで使用されている言語]** - このウィンドウには、現在システムにロードされているすべての言語が表示されます。OCR認識処理に含める言語の横にあるチェックボックスをオンにします。複数の言語を選択することができますが、少なくとも1つ選択する必要があります。このフィールドの既定の設定は、オペレーティングシステムの既定の言語を反映しています。
    - **[言語を追加]** - このオプションは、Tesseract OCRエンジンにのみ表示されます。既定のTesseract言語は、ドキュメントの「言語」ウィンドウに表示されます。Tesseract OCR認識処理にその他の言語を含めるには、このボタンをクリックします。「言語を追加」ウィンドウが表示されます。含める言語の横にあるチェックボックスをオンにして、**[インストール]** ボタンをクリックします。一度に最大5つの言語をインストールすることができます。インストールが完了すると、選択した言語がドキュメントの「言語」ウィンドウに表示されます。
- **[専門用語辞書]** - このパネルは、OmniPage OCRエンジンの場合にのみ表示されます。利用可能な専門用語辞書が一覧表示されます。複数の辞書を選択することができます。OmniPage OCR認識処理中に使用したい辞書の横にあるチェックボックスをオンにします。次の表に、使用可能な辞書の種類とそれぞれサポートされている言語を示します。

辞書	Dutch(オランダ語)	English(英語)	French(フランス語)	German(ドイツ語)
Financial	N	Y	N	N
Legal	Y	Y	Y	Y
Medical	Y	Y	Y	Y

- **[スペルチェックの有効化]** - このオプションは、OmniPage OCRエンジンでのみ使用できます。OCR認識中にスペルチェックを有効にするには、このボックスをオンにします。

  この設定を有効にすると、OmniPage OCRエンジンのスペルチェッカーが認識できない単語を推定します（通常、低解像度のスキャンで）。スペルチェックの見積もりは単語の長さを変更しないことに注意してください。たとえば、「optica」は「optical」に変更されません。この設定を無効にすると、専門用語辞書リストが非アクティブになり、辞書を選択できなくなります。

OmniPage OCR言語

次の表に、OmniPage OCR エンジンでサポートされている言語を示します。

言語	言語	言語	言語	言語
Afrikaans	Albanian	*Arabic	Aymara	Basque
Bemba	Blackfoot	Breton	Bugotu	Bulgarian (Cyrillic)
Byelorussian (Cyrillic)	Catalan	Chamorro	Chechen (Cyrillic)	Chuana (Tswana)
Corsican	Croatian	Crow	Czech	Danish
Dutch	English	Eskimo	Esperanto	Estonian
Faroese	Fijian	Finnish	French	Frisian
Friulian	Gaelic Irish	Gaelic Scottish	Galician	Ganda or Luganda
German	Greek	Guarani	Hani	Hawaiian
*Hebrew	Hungarian	Icelandic	Ido	Indonesian
Interlingua	Italian	*日本語	Kabardian (Cyrillic)	Kashubian
Kawa	Kikuyu	Kongo	*Korean	Kpelle
Kurdish	Latin	Latvian	Lithuanian	Luba
Lule Sami	Luxembourgian	Macedonian (Cyrillic)	Malagasy	Malay
Malinke	Maltese	Maori	Mayan	Miao
Minangkabau	Mohawk	Moldavian (Cyrillic)	Nahuatl	Northern Sami
Norwegian	Nyanja	Occidental	Ojibway	Papiamento
Pidgin	Polish	Portuguese	Portuguese (Brazilian)	Provencal
Quechua	Rhaetic	Romanian	Romany	Ruanda
Rundi	Russian (Cyrillic)	Sami	Samoan	Sardinian
Serbian (Cyrillic)	Serbian (Latin)	Shona	*Simplified Chinese	Sioux
Slovak	Slovenian	Somali	Sotho	Southern Sami
Spanish	Sundanese	Swahili	Swazi	Swedish
Tagalog	Tahitian	*Thai	Tinpo	Tongan
*Traditional Chinese	Tun	Turkish	Ukrainian (Cyrillic)	Vietnamese
Visayan	Welsh	Wend	Wolof	Xhosa
Zapotec	Zulu			

* 言語をアクティブ化する前に、Asian FontPack(アジアンフォントパック)アドインを購入してインストールする必要があります。

Tesseract OCR言語

次の表に、Tesseract OCRエンジンでサポートされている言語を示します。

言語	言語	言語	言語	言語
Afrikaans	Albanian	Amharic	Ancient Greek	Arabic
Armenian	Assamese	Azerbaijani	Azerbaijani - Cyrilic	Basque
Belarusian	Bengali	Bosnian	Breton	Bulgarian
Burmese	Catalan	Cebuano	Cherokee	Corsican
Croatian	Czech	Danish	Dutch	Dzongkha
English	Esperanto	Estonian	Faroese	Filipino
Finnish	French	Gaelic Irish	Galician	Georgian
German	Gujarati	Haitian	Hebrew	Hindi
Hungarian	Icelandic	Indonesian	Inuktitut	Italian
日本語	Javanese	Kannada	Kazakh	Khmer
Korean	Kurmanji	Kyrgyz	Lao	Latvian
Lithuanian	Luxembourgish	Macedonian	Malay	Malayalam
Maltese	Maori	Marathi	Middle English	Middle French
Modern Greek	Mongolian	Nepali	Norwegian	Occitan
Oriya	Pashto	Persian	Polish	Portuguese
Punjabi	Quechua	Romanian	Russian	Sanskrit
Scottish Gaelic	Serbian	Serbian - Latin	Simplified Chinese	Sindhi
Sinhala	Slovak	Slovenian	Spanish	Sundanese
Swahili	Swedish	Syriac	Tajik	Tamil
Tatar	Telugu	Thai	Tibetan	Tigrinya
Tongan	Traditional Chinese	Turkish	Uighur	Ukrainian
Urdu	Uzbek	Uzbek - Cyrilic	Vietnamese	Welsh
Western Frisian	Yiddish	Yoruba		

認識オプション

OCR処理中のテキストの認識を向上させるために、レイアウトの処理方法を反映して、元のドキュメントのレイアウトの説明を提供することができます。

[レイアウトの説明]

- **[自動]** - レイアウトを自動検出するには（たとえば、テキストが列にあるかどうかなど）このオプションを選択します。このオプションによって、処理時間を最速にすることができます。このオプションは次のような場合に役立ちます。
    - ドキュメントをすばやく処理したい。
    - ドキュメントにレイアウトが異なる/不明なページが含まれている。
    - ドキュメントに複数の列と表を持つページがある。
    - ドキュメントに複数の表を含むページがある。

    注: フォームが自動的に検出されることはありません。OCRフォームを検出するには、レイアウトとして **フォーム** を選択します。
- **[1列、表なし]** - ページに次のいずれかが含まれている場合、この設定を有効にします。
    - 1つの列で、表はなし（例:ビジネスレターや本のページ）。
    - 1つの列に編成する必要がある列に配置された単語または数字。
- **[複数列、表なし]** - 元のレイアウトと同様に、ページの列にテキストが含まれていて、別々の列に保持する必要がある場合は、この設定を有効にします。表のようなデータが検出された場合、グリッドテーブルではなく列に配置されます。
- **[1列、表あり]** - ページに1列のテキストと1つの表しかない場合は、この設定を有効にします。
- **[スプレッドシート]** - ページにスプレッドシートプログラムにエクスポートする表が含まれている場合、または表として扱われる場合は、この設定を有効にします。
- **[フォーム]** - ページにフォームが含まれている場合は、この設定を有効にします。フォームオブジェクトと要素が検出されます。
- **[法律的訴答]** - ページに法的弁論番号が含まれている場合は、この設定を有効にします。有効にすると、次のオプションが使用可能になります。
    - **[法律的訴答番号の削除]** - このオプションを選択して、受信ドキュメントからすべての法律的訴答番号を削除します。
    - **[法律的訴答番号を保持]** - このオプションを選択すると、受信ドキュメントにすべての法律的訴答番号が保持されます。この場合、番号は表示、編集、および検索可能になります。
- **[OCR処理の最適化方法]:**

- **[高速認識]** - この設定を有効にすると、認識処理の速度が最適化されます。この設定では精度が最も低くなりますが、受信するドキュメントの品質が高く、許容できる正確な結果が得られることがわかっている場合に役立ちます。この設定を有効にすると、色付きのテキスト/背景や反転したテキストなどの高度な書式設定が保持されない場合があります。
- **[中間レベルの精度/速度での認識]** - この設定を有効にすると、迅速な処理と正確な結果のバランスが取れます。
- **[最大限の精度の認識]** - この設定を有効にすると、認識処理が最適化され、正確になります。

- **[使用可能なイメージの最大サイズの指定]** - 入力イメージの **[幅]** と **[高さ]** の制限（ピクセル単位）を設定します。これらの指定された値を超えるすべての入力イメージは処理されません。既定値は8400x8400ピクセルです。
- **[タイムアウト]** - OCR認識処理がタイムアウトするまでの経過時間を秒単位で指定します。

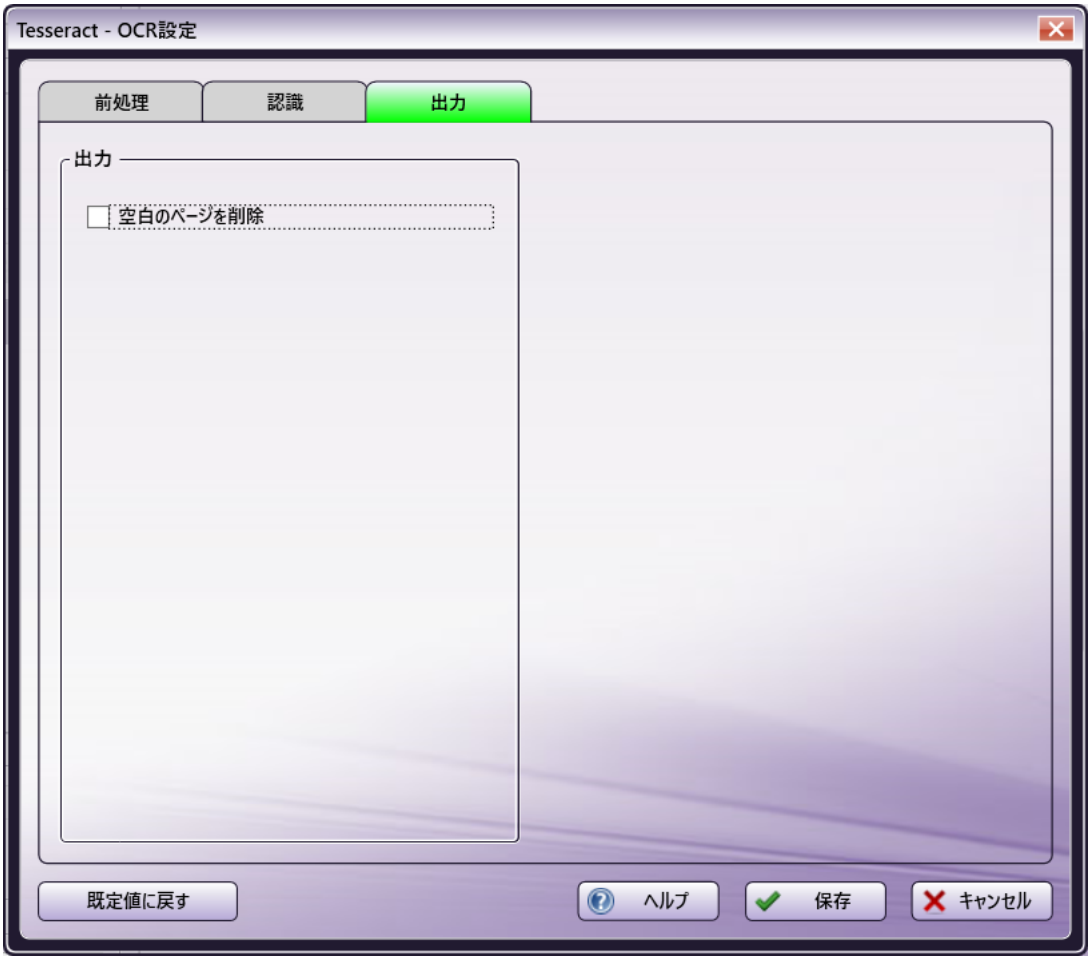
出力タブ

OCR処理の出力の設定を指定することもできます。出力タブは、ドキュメントを別の形式に変換するノードに対してのみ表示されることに注意してください。さらに、高度なOCRノードからこのウィンドウにアクセスし、出力オプションとして「元のドキュメント+メタデータ」を指定した場合、このタブは表示されません。

注: このタブで使用できるオプションのセットは、エンジンの特徴/機能に基づいて、**OCR エンジン** によって決定されます。オプションがタブに表示されない場合、そのオプションはOCR エンジンでサポートされていません。以下の図は、OmniPageおよびTesseract OCR エンジンで使用可能なオプションを示しています。すべてのオプションは、図の下のセクションで説明されています。

OmniPageオプション

Tesseractオプション



出力

- [出力フォーマットのレベル]
  - **[自動]** - この設定を有効にすると、OCRエンジンは指定または検出されたレイアウトに基づいて、使用する出力形式を自動的に決定します。
  - **[プレーンテキスト]** - この設定を有効にすると、OCR処理は左揃えのプレーンなテキストを1つの列に出力します。
  - **[フォーマット済みテキスト]** - この設定を有効にすると、OCR処理はグラフィックスと表とともに、フォントと段落のスタイルを含むテキストを出力します。

  注: Excelファイルとして保存する場合、ドキュメント内で検出された表やスプレッドシートはそれぞれ別のワークシートに保存されます。
  - **[Trueページ]** - この設定を有効にすると、列を含むページの元のレイアウトが、テキスト、イメージ、表のボックスとフレームを使用して出力時に保持されます。
  - **[ページフロー]** - この設定を有効にすると、段落を含むページの元のレイアウトが（テキストボックスやフレームの代わりに）可能な限り段落とインデント設定を使用して出力時に保持されます。テキストは段から段へ流し込まれます。
  - **[スプレッドシート]** - この設定を有効にすると、表計算アプリケーションでの使用に適した表の形式で結果が出力されます。各ページは別々のワークシートに配置されます。
- **[塗りつぶしフォームデータを保持]** - この設定を有効にすると、塗りつぶされたフォームデータは変換処理中も保持されます。*このボックスは既定ではチェックされていません。*
- **[テキストと背景色を保持]** - この設定を有効にすると、色付きのテキストと背景が検出されて出力に使用されます。ドキュメントにカラー写真は必要であるが、色付きのテキスト/背景が必要ない場合はこの設定を無効にしてください。*このボックスは既定でチェックされています。*
- **[反転したテキストを保持]** - このオプションを有効にすると、色反転テキスト（黒または濃い色の背景に白または淡い色の文字）が出力で保持されます。色反転テキストを通常のテキストに変換するには、この設定を無効にします。**OCR処理の最適化方法** オプションを設定した場合、このオプションは使用できません。
- **[空白のページを削除]** - この設定を有効にすると、空白のページは出力ファイルに含まれません。*このボックスは既定ではチェックされていません。*
  - **[コンテンツ感度]** - 空白ページのマークや傷に対する感度のしきい値を指定します。
    - **クリーン** - スライダーをクリーン（100）の方向に動かして、感度のしきい値を上げます。
    - **ノイズ** - スライダーをノイズ（0）の方向に動かして、感度のしきい値を下げます。

Dispatcher Phoenixでサポートされている出力フォーマット/タイプ

出力フォーマット/タイプ	プレーンテキスト	フォーマット済テキスト	スプレッドシート	Trueページ	ページフロー
eBook	YES	YES	NO	NO	NO
Microsoft Excel	YES	YES	YES	NO	NO
Microsoft PowerPoint / Microsoft Publisher	YES	YES	NO	NO	NO
Microsoft Word	YES	YES	NO	YES	YES
PDF	NO	NO	NO	YES	NO
編集済みPDF	YES	YES	NO	YES	NO
テキスト上の画像またはイメージ置き換え付きのPDF	NO	NO	NO	YES	NO
RTF Word 2000	YES	YES	NO	YES	YES
WordPad	YES	YES	NO	NO	NO
WordPerfect 9, 10	YES	YES	NO	YES	YES
XML Paper Specification (XPS)	NO	NO	NO	YES	NO

注: すべての出力形式の既定のオプションは「自動」です。

フォントと文字

[認識されない文字の代替文字] - 既定では、OCRエンジンによって検出された認識できない文字は、出力で「赤いチルダ文字（～）」で表されます。たとえば、OCR処理が「reject」の「j」を認識できなかった場合、出力は「re~ect」のようになります。このフィールドで、使用する独自の文字を指定することができます。

aiDocuDroid

aiDocuDroidは、PDFおよびスキャンされたフォームのデジタル画像用のフォーム自動化およびデジタル化ソフトウェアであり、AIベースのICR/OCR、画像処理、およびドキュメントレイアウト分析テクノロジーを備えています。aiDocuDroidは、同一のワークフロー内で印刷または手書きのテキストでコンテンツが入力されたさまざまなフォーム構造で機能します。次のセクションでは、高度なOCRノードでのaiDocuDroidの使用方法について説明します。

高度なOCRノード

aiDocuDroidを使用して、光学式文字認識(OCR)とインテリジェント文字認識(ICR)の結果を改善し、ゾーンを使用してメタデータを抽出します。ゾーンを介して、**aiDocuDroid エンジン** がページ上のテキストを認識する方法を定義することができます。たとえば、受信ドキュメントから請求書番号を取得するために、請求書番号が表示されるドキュメントの領域にゾーンを作成することができます。さらに、ゾーンはメタデータを自動的に抽出し、メタデータを元のドキュメントに関連付けすることができます。

高度なOCRノードのaiDocuDroidは、次のファイルタイプで動作します。

- TIFF
- JPG
- PNG
- BMP
- PDF

フォーム処理ノード

光学式文字認識(OCR)、およびインテリジェント文字認識(ICR)の結果にaiDocuDroidを使用して、テキスト検索を介して画像化されたドキュメント内の一意の識別子の高度な検索を実行します。情報の正確な内容やページ上の正確な位置を知らなくても、定義したルールに基づいて情報を抽出、または処理(墨消し、強調または取り消し線)することができます。

フォーム処理ノードのaiDocuDroidは、次のファイルタイプで動作します。

- TIFF
- JPG
- PDF

注:

- ドキュメントの画像は、カメラではなくスキャナーでキャプチャする必要があります。
- スキャンされたドキュメントの推奨最小DPIは150dpi以上です。
- ドキュメントは、10ptより大きく18ptより小さいフォントサイズで印刷する必要があります。
- 抽出する必要のあるフォームに関する情報は、ノイズやその他のアーティファクトによって損傷しないようにする必要があります。
- CPUバージョンは動作可能ですが、非常に低速です。パフォーマンスを向上させるためにGPUをお勧めします。NVIDIA Geforce GTX 1650(4GB、10.2 CUDAサポート)またはより強力で高速なGPUカードをお勧めします。
- aiDocuDroidエンジンは、64ビットオペレーティングシステムでのみ動作し、32ビットオペレーティングシステムではサポートされていません。

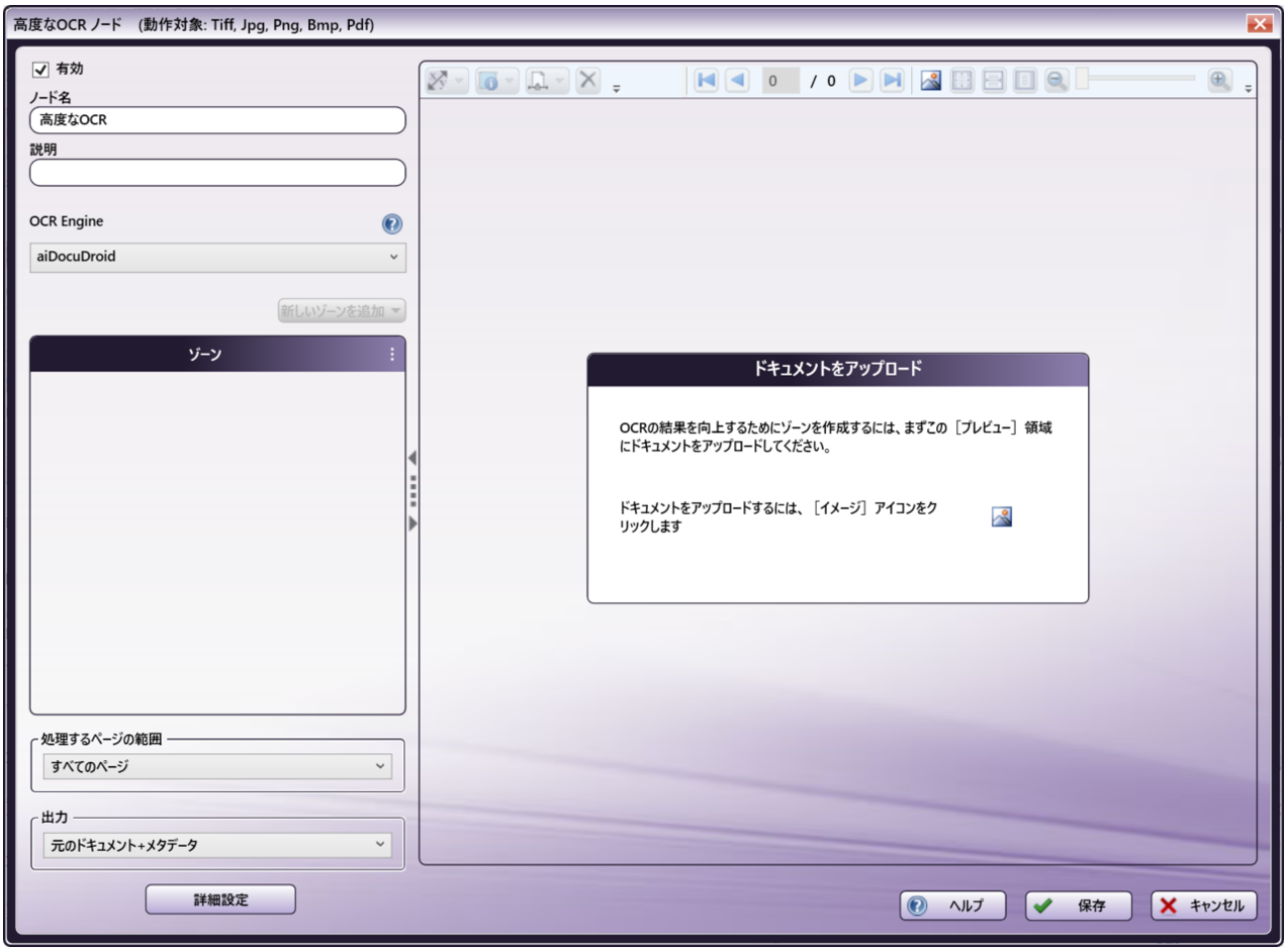
AIDocuDroid エンジン

aiDocuDroidは、**高度なOCR** および **フォーム処理** ノードで次のOCR/ICRエンジンをサポートしています。

- aiDocuDroid (OCR)
- aiDocuDroid 手書き文字(ICR)

プロパティウィンドウ - 高度なOCRノード

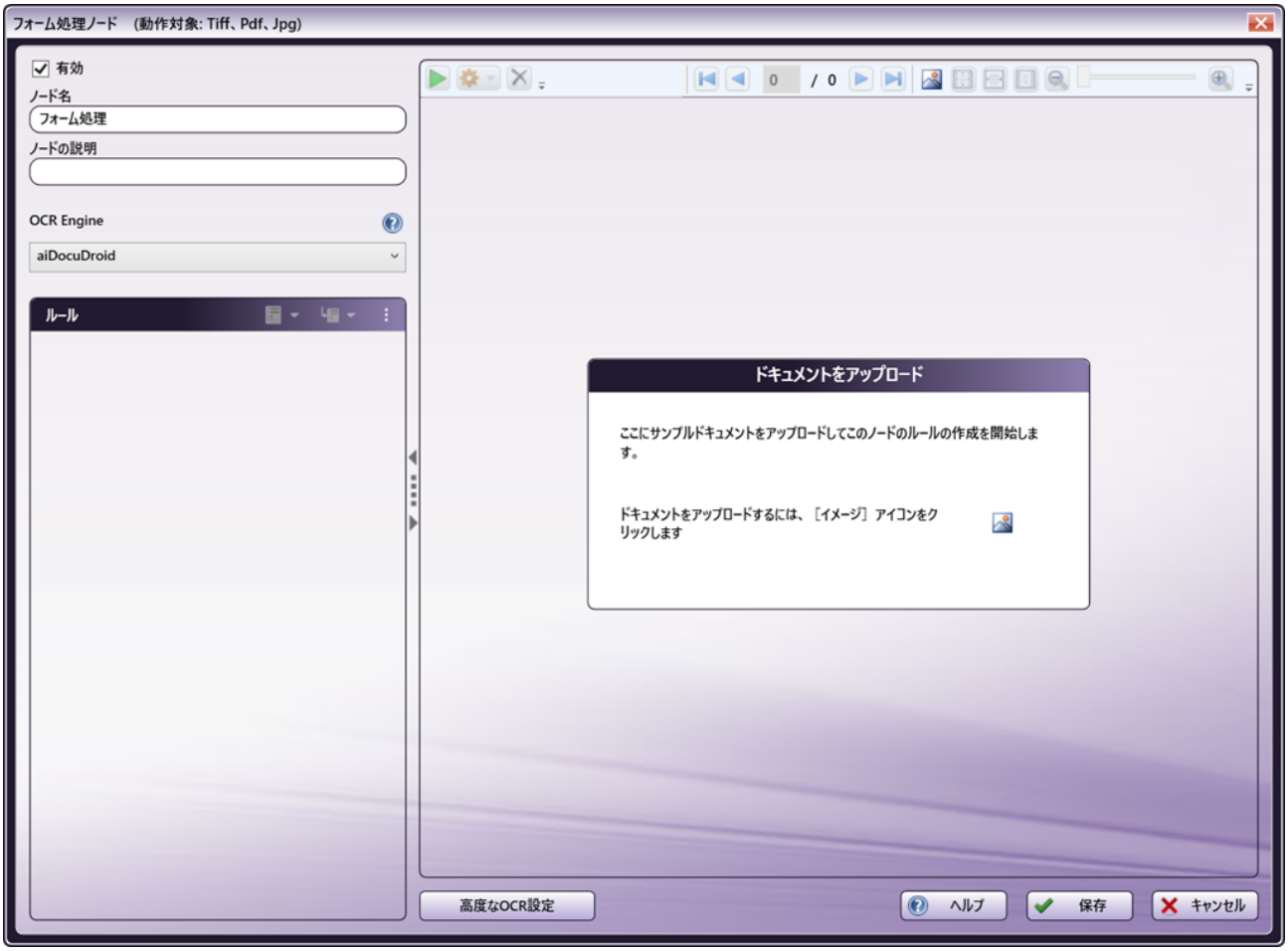
高度なOCRノードでaiDocuDroidを構成するには、ノードをワークフロービルダーの作業領域にドラッグアンドドロップしてダブルクリックします。次の図のように、高度なOCRノードのプロパティウィンドウが表示されます。



上の図は、プロパティウィンドウの既定の構成を示しています。次の図のように、ドロップダウンからaiDocuDroidとaiDocuDroid 手書き文字との間でOCRエンジンを変更することができます。

プロパティウインドウ - フォーム処理ノード

フォーム処理ノードでaiDocuDroidを構成するには、ノードをワークフロービルダーの作業領域にドラッグアンドドロップし、ダブルクリックします。次の図のように、フォーム処理ノードのプロパティウィンドウが表示されます。



上の図はプロパティウィンドウの既定の構成を示しています。次の図のように、ドロップダウンからaiDocuDroidとaiDocuDroid手書きの間でOCRエンジンを変更できます。

注: ワークフローを実行する前に、サンプルイメージをフォーム処理ノードにアップロードする必要があります。サンプルドキュメントがノードに関連付けられていない場合、正しいテキストが存在するにもかかわらず、フォーム用に作成されたルールがトリガーされない可能性があります。

一般設定 - 高度なOCRノード

ゾーンのタイプ/コンテンツの定義

ゾーンコンテンツの特定の形式に一致するように、各ゾーンの設定を選択できます。プレビュー領域でゾーンを選択した状態で、ツールバーの アイコンをクリックして、ゾーンタイプドロップダウンパレットを表示します。次に、ゾーンのタイプを選択します。現在、**aiDocuDroid エンジン** はテキストゾーンタイプのみをサポートしています。

出力フォーマットの選択

[出力]フィールドを使用して、出力ファイルの形式を指定します。この領域は、ページの左側、ゾーンリストの下に表示されます。

[出力]フィールドでドロップダウンをクリックすると、出力オプションのリストが表示されます。**aiDocuDroid エンジン** は、このフィールドで使用可能なオプションのリストに影響を与える可能性があります。オプションが[出力]フィールドに表示されない場合、オプションはそのエンジンでサポートされていません。以下の表を参照してください。

注: 処理されたすべての出力ファイルには、次の例外を除いて、ユーザー定義ゾーンでキャプチャされたコンテンツのみが含まれます。これらの出力形式には、ゾーンでキャプチャされたコンテンツとともに元のファイルが含まれます。

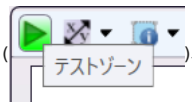
- 元のドキュメント + メタデータ

出力オプション	aiDocuDroid	aiDocuDroid 手書き文字
元のドキュメント + メタデータ - 定義されたゾーンから抽出されたメタデータとともに元のファイルを出力します。これは既定の設定であり、さらに処理するために、ワークフロー内の他のノード(メタデータ/ファイル、メタデータ経路指定など)でメタデータを使用するために必要です。	Y	Y
テキスト - ほとんどのテキストエディターやワードプロセッサで読み取れるプレーンテキスト (*.TXT) としてドキュメントを出力します。	Y	Y
カンマ区切りテキスト - ドキュメントを、Excel (*.CSV)で読み取ることができるテーブル化されたテキストファイルとして出力します。	Y	Y
フォーマット済みテキスト - ドキュメントを *.TXTファイルとして出力し、追加のスペースを挿入してページのレイアウトを維持します。	Y	Y
テキストと改行 - 各行の後に改行を入れてドキュメントをテキストとして出力します。	Y	Y
Unicodeのテキスト - 2バイトのUnicode文字を使用して、ドキュメントをプレーンテキストとして出力します。	Y	Y
Unicodeのカンマ区切りテキスト - 2バイトのUnicode文字を使用して、ドキュメントをテーブル化されたテキストファイルとして出力します。出力されたファイルはExcelで読み取ることができます。	Y	Y
Unicodeのフォーマット済みテキスト - 2バイトのUnicode文字を使用して、フォーマットされたテキストとしてドキュメントを出力します。	Y	Y
改行を含むUnicodeのテキスト - 各行の後に改行を入れてドキュメントをテキストとして出力し、2バイトのUnicode文字を使用します。	Y	Y
XML - ドキュメントをXMLファイル形式で出力します。	Y	Y
検索可能なPDF - 元の画像を前景に保持し、認識されたテキストを背景に (正しい位置に)隠すPDF出力コンバーター。検索可能なPDF出力ファイルの最大ページ数は8191ページです。	Y	Y

ゾーンの作成

aiDocuDroid エンジン は、**手動ゾーン作成** のみをサポートします。自動ゾーン作成はサポートされていません。

注:

- テストゾーン機能は、aiDocuDroidエンジンではサポートされていません。aiDocuDroidエンジンでは、プレビューツールバーの **自動ゾーン作成** アイコン (OCR) と **テストゾーン** アイコン (

)、およびゾーンリストの **このゾーンのテスト** と **選択したゾーンのテスト** オプションは表示/有効化されません。
- 作成されたゾーンは、さまざまなサイズの入力ドキュメントイメージに対してインテリジェントに調整され、ターゲットのテキストを抽出できるようにします。

詳細設定 - フォーム処理ノード

フォーム処理ノードでaiDocuDroidを使用する場合の一般的な設定は、他のOCRエンジンと同様です。詳細は **フォーム処理ノード** を参照してください。

詳細設定 - 高度なOCRノードとフォーム処理ノード

aiDocuDroid エンジン は、詳細設定を使用して、OCR/ICR結果の精度とOCR/ICR処理のパフォーマンス時間を調整します。高度なOCRノードには、OCR/ICR設定ウィンドウにアクセスする[詳細設定]ボタンが含まれています。

[詳細設定]ウィンドウにアクセスすると、使用可能なオプションのセットは、エンジンの機能に基づいてaiDocuDroidエンジンによって決定されます。

[詳細設定]ウィンドウには、次のタブがあり、それぞれに関連する設定のセットがあります。次の設定を指定できます。

- **前処理**
- **認識**

注: aiDocuDroidエンジンは、出力ドキュメント作成の **出力** 形式設定をサポートしていません。

前処理タブ

このタブを使用して、OCR/ICR分析および認識を開始する前にイメージを準備、および、前処理する方法を指定するパラメーターを設定します。以下の図は、**aiDocuDroid エンジン** で使用可能なオプションを示しています。すべてのオプションは、図の下のセクションで説明されています。

aiDocuDroid オプション

aiDocuDroid手書き文字 オプション

イメージの前処理

OCR/ICR認識を実行する前に、前処理手順をイメージに適用して画像の品質を向上させることができます。これらのオプションを有効、または、無効にすると、出力の品質やOCR/ICR処理のパフォーマンス時間が向上する場合があります。

- **イメージの傾き補正** - この設定を有効にすると、曲がってスキャンされた画像は、準備処理中に自動的にまっすぐになります。既定値は[有効]です。

  注: イメージの傾き補正 の前処理オプションをオフにすると、OCR/ICR処理が失敗する可能性があります。このオプションをオフにした場合、ドキュメントを適切に処理できるように、ワークフローにイメージの傾き補正ノードを追加する必要がある場合があります。

回転

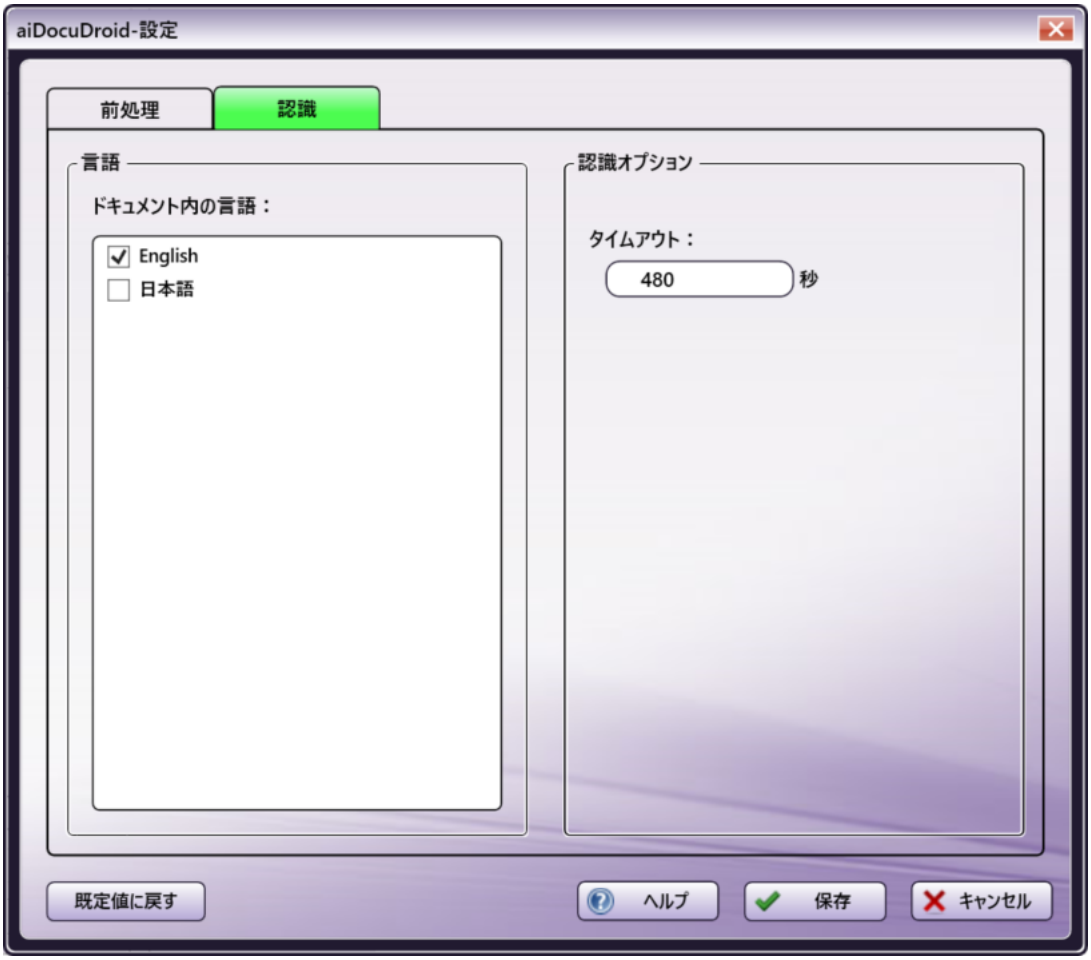
OCR/ICRを実行する前に、アプリケーションは誤った方向のページを検出して修正しようとします。受信ファイルの正確なずれを既に認識していて、この自動検出処理を回避することで処理時間を短縮したい場合は、ここで特定のオプションを選択することができます。

- **自動画像回転** - このオプションは、aiDocuDroidエンジンでのみ使用できます。この設定を有効にすると、OCRが実行される前に、受信画像の向きが検出され、不適切な向きのページ画像が自動的に回転します(90、180、または270度)。この有効なオプションは、回転とミラーリングの既定値です。
- **イメージを右に90°回転** - この設定を有効にすると、不適切な向きのページ画像は、時計回りに90度回転します。
- **イメージを左に90°回転** - この設定を有効にすると、不適切な向きのページ画像は、反時計回りに90度回転します。
- **イメージを180°回転** - この設定を有効にすると、不適切な向きのページ画像が上下逆になります。
- **イメージを回転しない** - この設定を有効にすると、画像は回転しません。

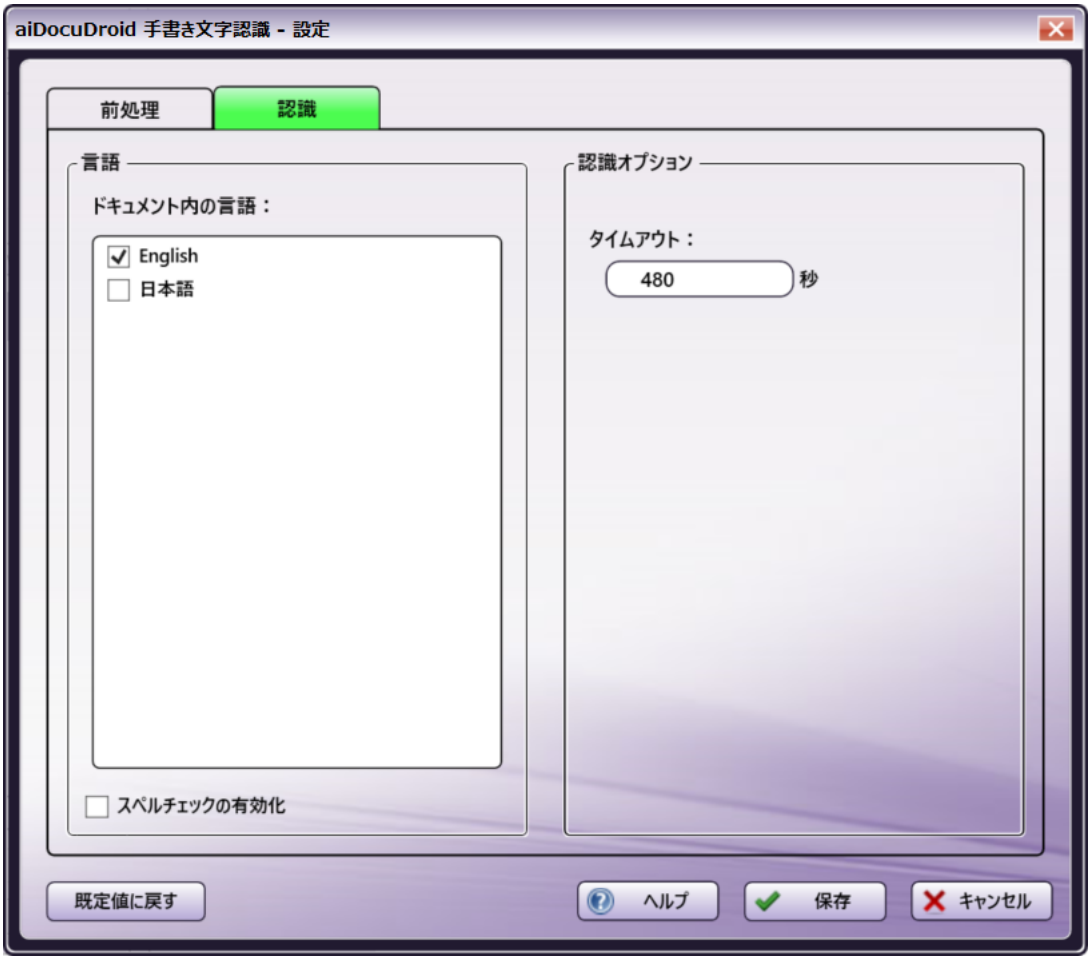
認識タブ

OCR/ICRの精度と処理時間を改善するために、認識処理をアシストする特定の設定を指定することができます。

aiDocuDroid オプション



aiDocuDroid 手書き文字オプション



言語

- **ドキュメント内の言語** - このウィンドウには、**aiDocuDroid エンジン** で現在サポートされているすべての言語が表示されます。OCR/ICR認識処理に含める言語の横にあるチェックボックスをオンにします。複数の言語を選択できますが、少なくとも1つを選択する必要があります。aiDocuDroidエンジンは現在、英語と日本語をサポートしています。既定の言語はEnglish(英語)です。
- **スペルチェックの有効化** - このオプションは、aiDocuDroid手書き文字OCR English(英語)エンジンでのみ使用できます。OCR認識中にスペルチェックを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

  提案ベースのスペルチェッカーとは異なり、aiDocuDroidスペルチェッカーは、監視されていない方法で、認識エンジンの出力からスペルミスのある単語(認識エラー)を自動的に修正します。aiDocuDroidスペルチェッカーは、スペルミスの可能性のある単語と、修正されたスペルペアの数百万を超える例でトレーニングされたディープラーニングモデルです。

認識オプション

- **タイムアウト** - OCR/ICR認識処理がタイムアウトになるまでに経過する時間を秒単位で指定します。既定のタイムアウト期間は480秒です。
- **空白のページを削除** - 入力イメージの空白ページを検出して出力ファイルから除外するかどうかを指定します。これは、検索可能なPDFなど、ページ分割された出力タイプにのみ影響します。

  選択すると、[コンテンツ感度]スライダーを使用して、ページ上に存在し、「空白」と見なされる余分なコンテンツの量を制御することができます。スライダーを「クリーン」側に設定すると、白紙と見なされるページが少なくなり、「ノイズ」側に設定すると、白紙と見なされたまま、ページ上のマーキングの度合いが高くなります。

フォーム処理の追加オプション

フォーム処理ノードからこのメニューにアクセスすると、[空白のページを削除]の代わりに別のオプションが使用可能になります。

- **検索許容値** - 「あいまい検索」を選択した場合の厳密な一致を設定できます。許容値を高く設定することで、OCRの結果にエラーがあった場合でも検索結果を一致させることができます。これを低い許容値に設定すると、類似した単語による誤った一致を防ぐことができます。特に、小さな単語(4文字または5文字未満)を検索する場合、あいまい検索は多数の誤った結果を示す可能性があるため、許容範囲を低く設定するか、あいまい検索を完全に無効にすることが最適な場合があります。

  手書きテキストの認識は、特にエラーが発生しやすい可能性があります。したがって、手書きテキストにはあいまい検索を使用し、より高い許容値を使用することを検討することを強くお勧めします。

PDF処理

PDFからデータを抽出

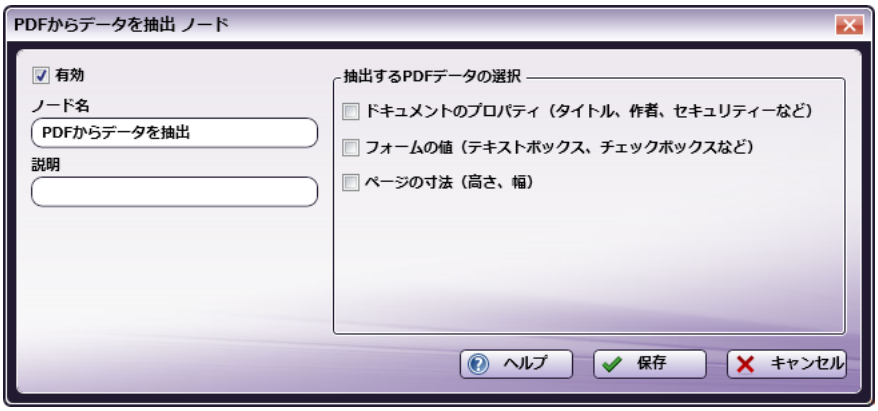
PDFからデータを抽出の処理は、入力PDFファイルからメタデータを抽出するオプションノードです。抽出したメタデータはワークフローの他のノードで後から使用できます（つまり、特定のドキュメントプロパティなどを基に経路を指定できます）。また、検索の目的で他のシステムにインポートできます。この処理では、ユーザーが抽出するメタデータを指定する必要があります。PDFとして開けないファイルの場合、このノードは「エラー」遷移となります。

重要! PDFからデータを抽出ノードから抽出したメタデータは、大文字と小文字が区別されます。ワークフローでメタデータを使用するときは、大文字と小文字を適切に書き分けてください。

サンプルユースケース: PDFのフォームをバッチ処理する場合、フォーム内のフィールドのデータを抽出してデータベースに挿入する必要があります。ワークフローで、入力フォルダーからファイルを収集し、PDFからデータを抽出とODBC処理ノードで処理して、出力フォルダーに処理結果を出力することにより、この処理を自動化できます。

注: このノードは、AES（Advanced Encryption Standard）PDFをサポートしていません。

PDFからデータを抽出のウィンドウを開くには、PDFからデータを抽出の処理ノードを追加して、このノードをダブルクリックします。



- ワークフローに複数の処理がある場合は、**【有効】**ボックスをチェックします。チェックしなかった場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、あたかもノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。

- **[ノード名]** フィールドに、PDFからデータを抽出ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、PDFからデータを抽出ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[抽出するPDFデータの選択]** 領域では、入力ドキュメントから抽出するPDFメタデータを選択できます。

  注: ワークフローの他のノードで使用する場合に、[メタデータブラウザー]ウィンドウに表示されるのは、ドキュメントプロパティとページ寸法のメタデータだけです。

  以下のオプションを選択して抽出できます。

  - **[ドキュメントのプロパティ]** - PDFに関する情報です。著者、作成者、題名、タイトル、キーワード、バージョン、ページなどがあります。さらに、暗号化、編集可能、印刷可能の有無や、高解像度印刷に対応するかどうかを表すセキュリティオプションがあります。
  - **[フォームの値]** - フォームのフィールドの値です。テキストボックス、チェックボックス、ラジオボタンなどが対象となります。PDFのボタンの値は抽出されません。PDFのボタンに関連付けられるのはアクションやラベルだけで、値ではないためです。
- **ページの寸法** – ドキュメントの高さと幅。
- PDFからデータを抽出の定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

重要! PDFからデータを抽出 ノードからのメタデータは、本質的に保存されません。ユーザーは、抽出されたデータを取得するために、**メタデータ/ファイル** などの追加ノードをワークフローに追加する必要があります。

PDFページクロップ

注意:このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

PDFページ クロップノードは、PDFページを別のサイズにクロップするために使用する処理ノードです。**[PDFページ クロップノード]** ウィンドウで、クロップするページとサイズを指定できます。メタデータに基づいて指定することもできます。

PDFページ クロップノードを使う

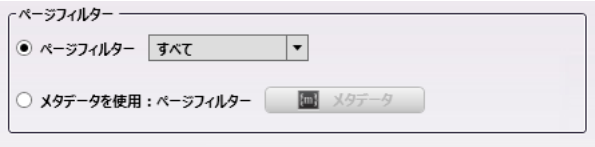
PDFページ クロップノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**PDFページ クロップ** ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、**[PDFページ クロップノード]** ウィンドウが開きます。

このウィンドウでPDFページ クロップのプロパティを指定します。

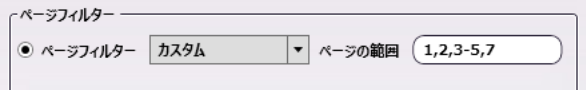
- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、PDFページクロップノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、PDFページクロップノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- PDFページクロップの設定を適用するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

ページフィルター

ここでは、直接指定、範囲、またはドキュメントメタデータのプロパティに基づいて、クロップするページを指定できます。



- **［ページフィルター］**：あらかじめ定義されているページフィルターをドロップダウンメニューから選択できます。サポートされているオプションには、**［すべて］**、**［最初］**、**［最後］**、**［奇数］**、**［偶数］**、**［カスタム］** があります。

  ［カスタム］ を選択すると、**［ページの範囲］** 入力フィールドが表示されます。ここで、カスタムのページ番号の範囲を指定できます。コンマ区切り値、範囲（3,4,5のかわりに3-5）を使用できます。入力できる最大文字数は100文字です。

  注意： 2147483647を超えるページ番号は使用できません。

- **［メタデータを使用：ページフィルター］：** ドキュメントレベルのメタデータに基づいて処理するページを選択するには、このオプションを使用します。**［メタデータ］** ボタン（上の図を参照）をクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。

  注意： 入力するメタデータ式の結果は、**［カスタム］** のページフィルターである必要があります（上の図を参照）。すなわち、1つ以上のコンマ区切り値を含む文字列、1つのページ番号（例：2）、またはページ範囲（例：3-5）となります。

- **［メタデータ］ボタン：** クリックすると、［メタデータブラウザー］ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**［選択］** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。

  以下のURLのヘルプトピック（**［参考資料］ > ［参考情報］ > ［ページレベルメタデータの指定］**）で指定されているすべてのメタデータ構文を使用できます。

  //localhost:9445/reference/sec.reg-express/#メタデータの出現番号の指定

  たとえば、メタデータキー{data:page}のページ番号を含むドキュメントレベルの値が複数ある場合は、［メタデータを使用：ページフィルター］の値に{data:page[]|,}を使用し、有効なページフィルターを生成するためにコンマで値を連結します。単一値の場合は{data:page[]}）を使用します。

トリミング値

以下の入力オプションを使用して、新しいページサイズを固定値で、またはメタデータに基づいて指定できます。

- **［単位］：** ドロップダウンメニューを使用して、使用する単位を選択します。**［PDF単位］**、**［インチ］**、**［ミリ］** の3つから選択できます。
- **固定値：** 次の入力フィールドに、新しいページサイズの値を直接入力できます。
  - **［幅］：** ページのクロップ後の幅を入力します。
  - **［高さ］：** ページのクロップ後の高さを入力します。

  注意：PDFページクロップノードは、選択したページを小さくする場合のみ使用できます。現在のページの高さまたは**幅**よりも大きい**高さ**または**幅**を指定した場合は無視されます。

  注意：［幅］ と **［高さ］** の入力フィールドには、0よりも大きな値のみ入力できます。

  注意：［幅］ と **［高さ］** に入力できる最大値は、199インチ、5,079 mm、または14,399 ptです。これらよりも大きな値を入力すると、構成の保存時にエラーメッセージが表示されます。

- **メタデータの値：ページレベルのメタデータ** から幅と高さのパラメータを導き出すこともできます。そのために、**［トリミング値］** パネルに2つのメタデータボタンが用意されています。
  - **［メタデータを使用：幅］ボタン：** このボタンをクリックすると、［メタデータブラウザー］ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーをダブルクリックして選択するか、またはカスタム文字列を入力できます。メタデータ情報が新しい **［幅］** の値に使用されます。
  - **［メタデータを使用：高さ］ボタン：** このボタンをクリックすると、［メタデータブラウザー］ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーをダブルクリックして選択するか、またはカスタム文字列を入力できます。メタデータ情報が新しい **［高さ］** の値に使用されます。

使用できないメタデータを選択または入力した場合は、ワークフローは実行されますが、ページのクロップは行われません。その場合、Dispatcher Phoenixのエラーログに警告またはエラーメッセージが記録されます。

PDFページ削除

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

PDFページ削除ノードは、PDFドキュメントの特定のページを削除するために使用される処理ノードです。このノードの設定ウィンドウを使用して固定の削除ページ範囲を指定するか、削除する特定のページを指定します。

PDFページ 削除ノードを使う

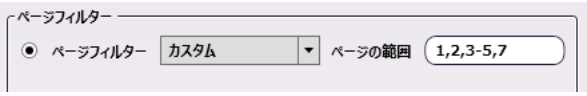
PDFページ 削除ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**PDFページ 削除** ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、**[PDFページ 削除ノード]** ウィンドウが開きます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、PDFページ削除ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、PDFページ削除ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- PDFページ削除の設定を適用するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

ページフィルター

ここでは、直接指定、範囲、またはドキュメントメタデータのプロパティに基づいて削除するページを指定できます。

- **[ページフィルター]:** あらかじめ定義されているページフィルターをドロップダウンメニューから選択できます。サポートされているオプションには、**[すべて]**、**[最初]**、**[最後]**、**[奇数]**、**[偶数]**、**[カスタム]** のページフィルターがあります。



[カスタム] を選択すると、**[ページの範囲]** 入力フィールドが表示されます。ここで、カスタムのページ番号の範囲を指定できます。コンマ区切り値、範囲（3,4,5のかわりに3-5）を使用できます。入力できる最大文字数は100文字です。

注意: 2147483647を超えるページ番号は使用できません。

- **[メタデータを使用:ページフィルター]:** ドキュメントレベルのメタデータに基づいて処理するページを選択するには、このオプションを使用します。**[メタデータ]** ボタン（上の図を参照）をクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。

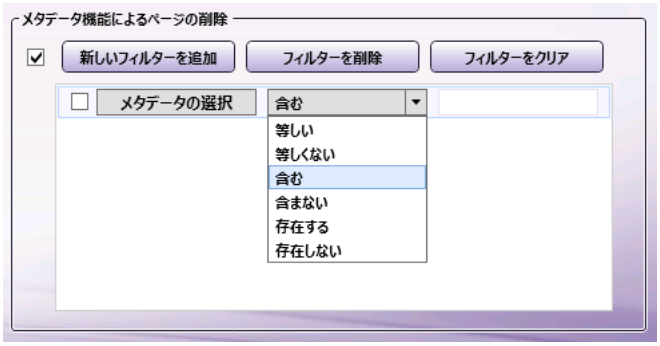
  注意: 入力するメタデータ式の結果は、**[カスタム]** のページフィルターである必要があります（上の図を参照）。すなわち、1つ以上のコンマ区切り値を含む文字列、1つのページ番号（例:2）、またはページ範囲（例:3-5）となります。

- **[メタデータ]ボタン:** クリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**[選択]** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。

  以下のURLのヘルプトピック**メタデータ参照情報**で指定されているすべてのメタデータ構文を使用できます。たとえば、メタデータキー *{data:page}* のページ番号を含むドキュメントレベルの値が複数ある場合は、有効なページフィルターを生成するためにメタデータからのページフィルターとして *{data:page[]|,}* を使用し、それらをコンマで連結します。単一値の場合は *{data:page[]}* を使用します。

メタデータ機能によるPDFページの削除

削除するページの、**ページごとのメタデータの特徴**を指定できます。ドキュメント内でこれらの特徴に一致するすべてのページが削除されます。



- **チェックボックス:** このページを使用するにはチェックボックスをオンにします。
- **[新しいフィルターを追加]:** 新しい、ページごとのメタデータフィルターを追加するには、このボタンをクリックします。

  フィールドをクリックして、この新しいフィルターを直接編集できます。

  - **[メタデータの選択]:** クリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**[選択]** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。
  - **ドロップダウンメニュー:** ドロップダウンメニューから次の値を選択します。**[等しい]**、**[等しくない]**、**[含む]**、**[含まない]**、**[存在する]**、**[存在しない]**。
  - **比較値入力フィールド:[存在する]と[存在しない]** 以外のすべてのドロップダウンオプションには比較対象の値が必要です。
- **[フィルターを削除]:** ページごとのメタデータフィルターを1つだけ削除するには、1つのフィルター（行）を選択し、[フィルターを削除]ボタンをクリックします。
- **[フィルターをクリア]:** ページごとのメタデータフィルターをすべて削除します。

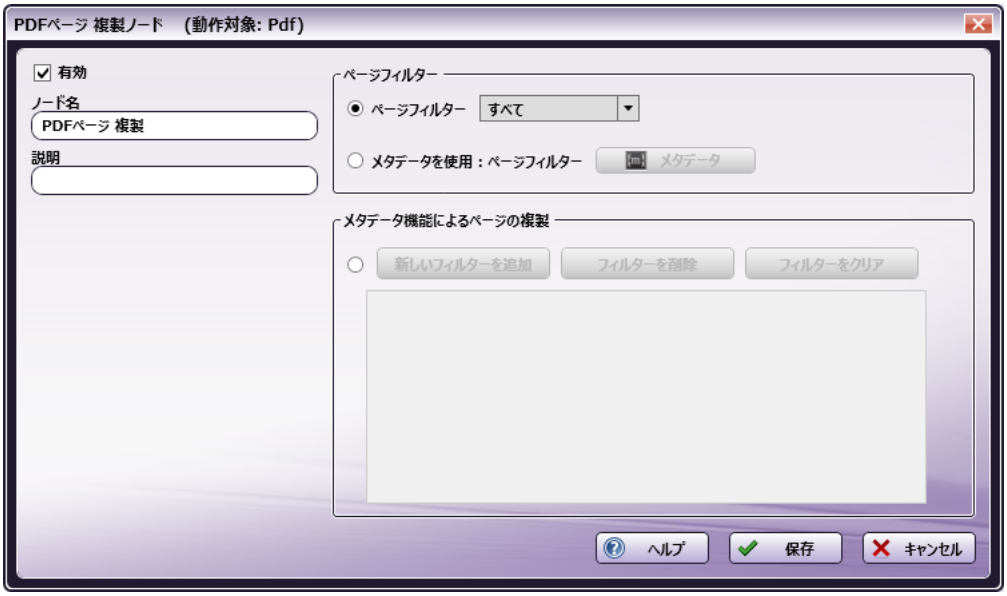
PDFページ複製

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

PDFページ 複製ノードは、PDFドキュメント内でページを複製するために使用される処理ノードです。**[PDFページ 複製ノード]** ウィンドウで、固定の複製ページ範囲を指定できます。また、複製するページをメタデータに基づいて指定することもできます。

PDFページ 複製ノードを使う

PDFページ 複製ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**PDFページ 複製** ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、**[PDFページ 複製ノード]** ウィンドウが開きます。

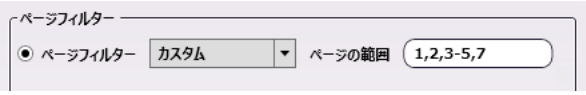


- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、PDFページ複製ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、PDFページ複製ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- PDFページ複製の設定を適用するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

ページフィルター

ここでは、直接指定、範囲、またはドキュメントメタデータのプロパティに基づいて、複製するページを指定できます。

- **[ページフィルター]：あらかじめ定義されているページフィルターをドロップダウンメニューから選択できます。サポートされているオプションには、[すべて]、[最初]、[最後]、[奇数]、[偶数]、[カスタム]** のページフィルターがあります。



[カスタム] を選択すると、**[ページの範囲]** 入力フィールドが表示されます。ここで、カスタムのページ番号の範囲を指定できます。コンマ区切り値、範囲（3,4,5のかわりに3-5）を使用できます。入力できる最大文字数は100文字です。

注意： 2147483647を超えるページ番号は使用できません。

- **[メタデータを使用：ページフィルター]：** ドキュメントレベルのメタデータに基づいて処理するページを選択するには、このオプションを使用します。**[メタデータ]** ボタン（上の図を参照）をクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。

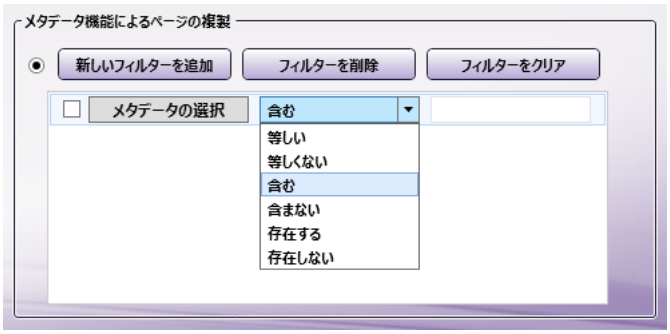
  注意： 入力するメタデータ式の結果は、**[カスタム]** のページフィルターである必要があります（上の図を参照）。すなわち、1つ以上のコンマ区切り値を含む文字列、1つのページ番号（例：2）、またはページ範囲（例：3-5）となります。

- **[メタデータ]ボタン：** クリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**[選択]** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。

  以下のURLのヘルプトピック**メタデータ参照情報**で指定されているすべてのメタデータ構文を使用できます。たとえば、メタデータキー *{data:page}* のページ番号を含むドキュメントレベルの値が複数ある場合は、有効なページフィルターを生成するためにメタデータからのページフィルターとして *{data:page[]},}* を使用し、それらをコンマで連結します。単一値の場合は *{data:page[]}}* を使用します。

メタデータ機能によるPDFページの複製

1つまたは複数のメタデータによる基準を定義できます。これらの基準に合致するすべてのページが複製されます。



- **チェックボックス:** このページを使用するにはチェックボックスをオンにします。
- **［新しいフィルターを追加］:** 新しい、ページごとのメタデータフィルターを追加するには、このボタンをクリックします。

  フィールドをクリックして、この新しいフィルターを直接編集できます。

  - **［メタデータの選択］:** クリックすると、［メタデータブラウザー］ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**［選択］** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。
  - **ドロップダウンメニュー:** ドロップダウンメニューから次の値を選択します。**［等しい］**、**［等しくない］**、**［含む］**、**［含まない］**、**［存在する］**、**［存在しない］**。
  - **比較値入力フィールド:** **［存在する］**と**［存在しない］** 以外のすべてのドロップダウンオプションには比較対象の値が必要です。
- **［フィルターを削除］:** ページごとのメタデータフィルターを1つだけ削除するには、1つのフィルター（行）を選択し、［フィルターを削除］ボタンをクリックします。
- **［フィルターをクリア］:** ページごとのメタデータフィルターをすべて削除します。

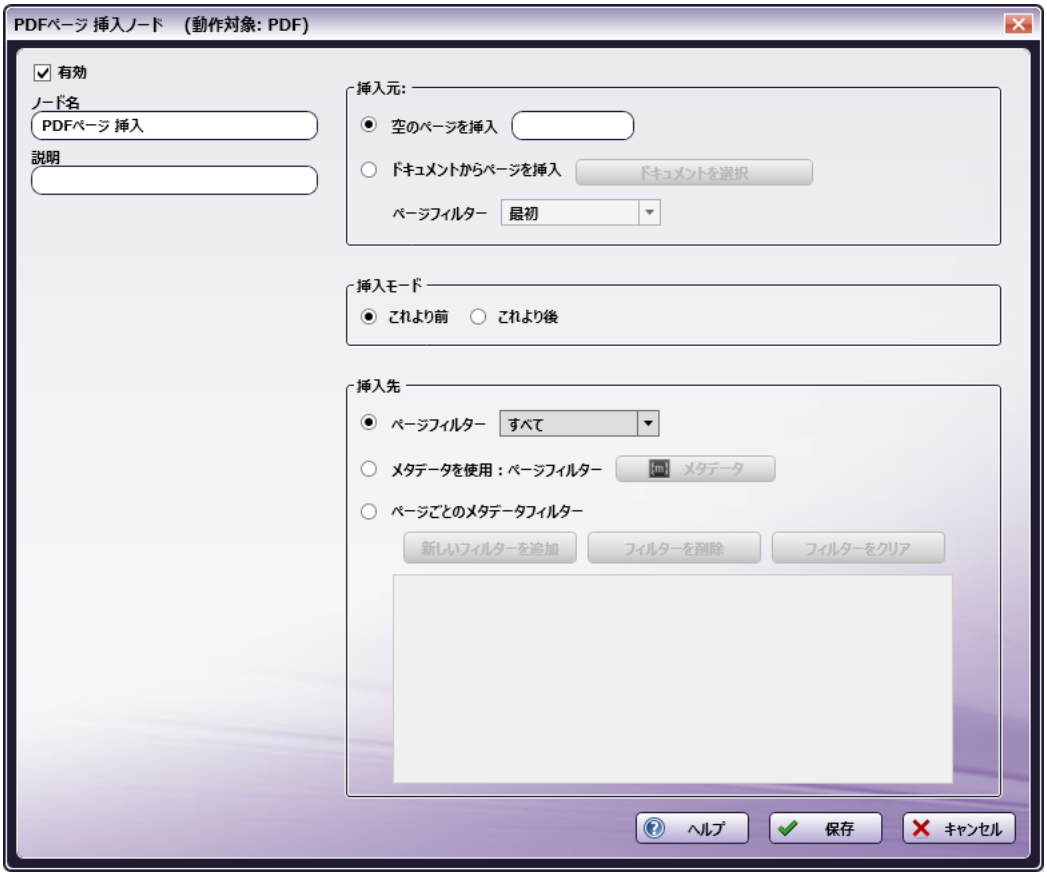
PDFページ挿入

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

PDFページ 挿入ノードは、PDFドキュメント内に、別のPDFドキュメントのページまたは空白ページを挿入するために使用される **処理ノード** です。**［PDFページ 挿入ノード］** ウィンドウで、固定の挿入位置を指定できます。また、メタデータに基づいてページを挿入することもできます。

PDFページ 挿入ノードを使う

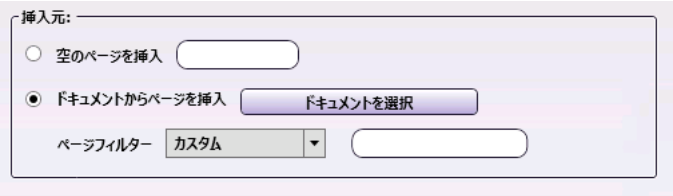
PDFページ 挿入ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**PDFページ 挿入** ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、**［PDFページ 挿入ノード］** ウィンドウが開きます。



- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、PDFページ挿入ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、PDFページ挿入ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- PDFページ挿入の設定を適用するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

挿入元

このパネルでは、挿入するページを指定します。このノードを使用して、1つまたは複数の空のページを挿入できます。または、別のPDFドキュメントのページを挿入することもできます。



- **[空のページを挿入]:** 追加する挿入ページの数をテキストフィールドに入力します。
- **[ドキュメントからページを挿入]:[ドキュメントを選択]** ボタンをクリックし、挿入するページを含むソースドキュメントに移動して選択します。**[ページフィルター]** ドロップダウンが有効になります。
    - **[ページフィルター]:** このドロップダウンでページフィルターのオプションを選択します。オプションには、**[すべて]**、**[最初]**、**[最後]**、**[偶数]**、**[奇数]**、**[カスタム]** のページフィルターがあります。

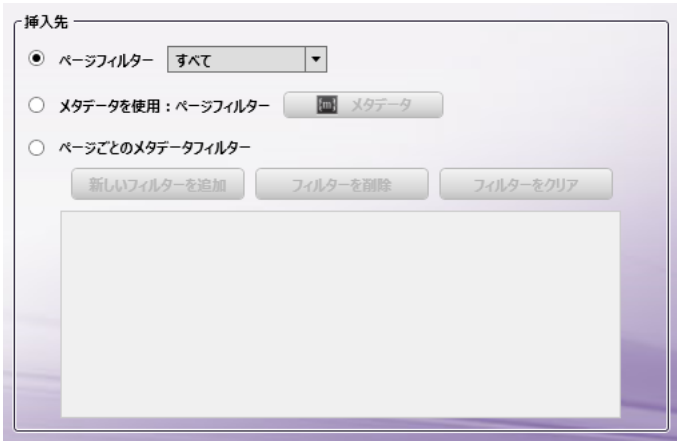
      [カスタム] を選択すると、**[ページ範囲]** 入力フィールドが表示されます。ここで、カスタムのページ番号の範囲を指定できます。コンマ区切り値、範囲（3,4,5のかわりに3-5）を使用できます。このフィールドに入力できる最大文字数は100文字です。

挿入モード

いずれかのラジオボタンをクリックして、既存のページの前、後のいずれにページを挿入するかを指定します。

挿入先

[挿入先]領域で、どの既存ページの前後に新しいページを挿入するかを定義できます。



- **[ページフィルター]:** あらかじめ定義されているページフィルターをドロップダウンメニューから選択できます。**[すべて]**、**[最初]**、**[最後]**、**[奇数]**、**[偶数]**、**[カスタム]** のページフィルターがあります。

  [カスタム] を選択すると、[ページの範囲]入力フィールドが表示されます。ここで、カスタムのページ番号の範囲を指定できます。コンマ区切り値、範囲(3,4,5のかわりに3-5)を使用できます。入力できる最大文字数は100文字です。

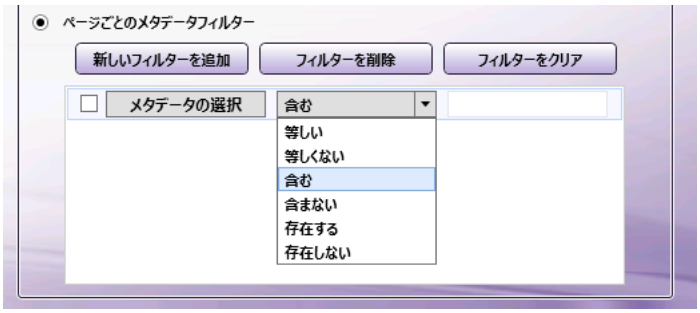
  注意: 2147483647を超えるページ番号は使用できません。

- **[メタデータを使用:ページフィルター]:** ドキュメントレベルのメタデータに基づいて処理するページを選択するには、このオプションを使用します。**[メタデータ]** ボタン(上の図を参照)をクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。

  注意: 入力するメタデータ式の結果は、**[カスタム]** のページフィルターである必要があります(上の図を参照)。すなわち、1つ以上のコンマ区切り値を含む文字列、1つのページ番号(例:2)、またはページ範囲(例:3-5)となります。

- **[メタデータ]ボタン:** クリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**[選択]** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。

  以下のURLのヘルプトピック**メタデータ参照情報**で指定されているすべてのメタデータ構文を使用できます。たとえば、メタデータキー *{data:page}* のページ番号を含むドキュメントレベルの値が複数ある場合は、有効なページフィルターを生成するためにメタデータからのページフィルターとして *{data:page[]},}* を使用し、それらをコンマで連結します。単一値の場合は *{data:page[]})* を使用します。



- **チェックボックス:** このページを使用するにはチェックボックスをオンにします。
- **[新しいフィルターを追加]:** 新しい、ページごとのメタデータフィルターを追加するには、このボタンをクリックします。

  フィールドをクリックして、この新しいフィルターを直接編集できます。

  - **[メタデータの選択]:** クリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**[選択]** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。
  - **ドロップダウンメニュー:** ドロップダウンメニューから次の値を選択します。**[等しい]**、**[等しくない]**、**[含む]**、**[含まない]**、**[存在する]**、**[存在しない]**。
  - **比較値入力フィールド:[存在する]と[存在しない]** 以外のすべてのドロップダウンオプションには比較対象の値が必要です。
- **[フィルターを削除]:** ページごとのメタデータフィルターを1つだけ削除するには、1つのフィルター(行)を選択し、[フィルターを削除]ボタンをクリックします。
- **[フィルターをクリア]:** ページごとのメタデータフィルターをすべて削除します。

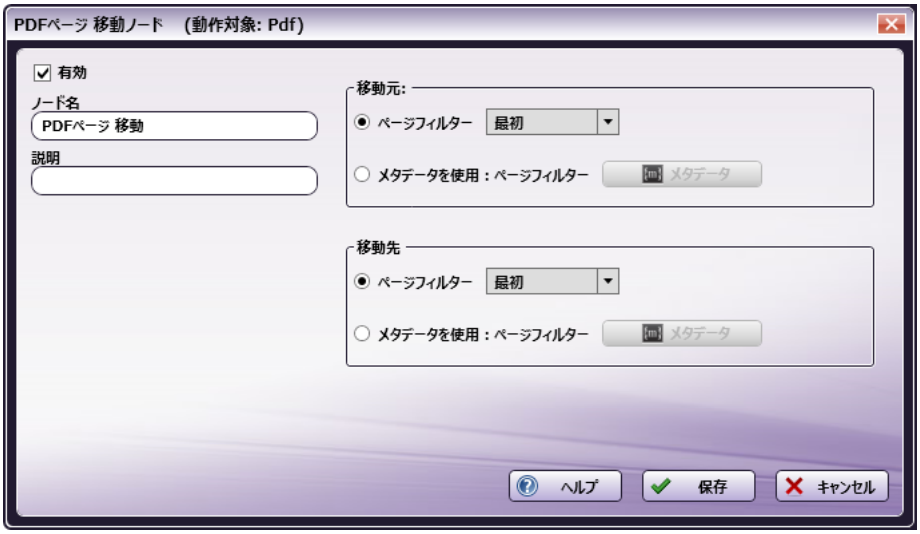
PDFページ移動

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

PDFページ 移動ノードは、PDFファイル内でページを移動するために使用される**処理ノード** です。**[PDFページ 移動ノード]** ウィンドウで、移動するページと、ドキュメント内の新しい場所を指定できます。

PDFページ 移動ノードを使う

PDFページ 移動ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**PDFページ 移動** ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、**[PDFページ 移動ノード]** ウィンドウが開きます。



- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、PDFページ移動ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、PDFページ移動ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- PDFページ移動の設定を適用するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

移動元

このパネルでは、直接指定またはメタデータのプロパティに基づいて移動するページを定義できます。

- **[ページフィルター]:** あらかじめ定義されているページフィルターをドロップダウンメニューから選択できます。サポートされているオプションには、**[最初]**、**[最後]**、**[カスタム]** があります。

[カスタム] を選択すると、**[ページ番号]** 入力フィールドが表示されます。ここで、カスタムのページ番号の範囲を指定できます。コンマ区切り値、範囲（3,4,5のかわりに3-5）を使用できます。入力できる最大文字数は100文字です。

注意: 2147483647を超えるページ番号は使用できません。

- **[メタデータを使用:ページフィルター]:** ドキュメントレベルのメタデータに基づいて移動するページを選択するには、このオプションを使用します。**[メタデータ]** ボタン(上の図を参照)をクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。

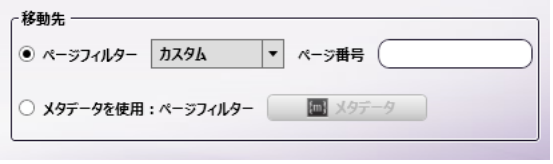
  注意: 入力するメタデータ式の結果は、**[カスタム]** のページ番号である必要があります(上の図を参照)。

- **[メタデータ]ボタン:** クリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**[選択]** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。

  メタデータ参照情報 のヘルプトピックで指定されているすべてのメタデータ構文を使用できます。

移動先

このパネルでは、直接指定またはメタデータのプロパティに基づいてページの移動先を指定します。



- **[ページフィルター]:** あらかじめ定義されているページフィルターをドロップダウンメニューから選択します。サポートされているオプションには、**[最初]**、**[最後]**、**[カスタム]** があります。

  [カスタム] を選択すると、**[ページ番号]** 入力フィールドが表示されます。1つのページ番号だけを入力できます。複数ページやページ範囲はサポートされていません。

  注意: 2147483647を超えるページ番号は使用できません。

- **[メタデータを使用:ページフィルター]:** ドキュメントレベルのメタデータに基づいて移動するページを選択するには、このオプションを使用します。**[メタデータ]** ボタン(上の図を参照)をクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。

  注意: 入力するメタデータ式の結果は、**[カスタム]** のページ番号である必要があります(上の図を参照)。

- **[メタデータ]ボタン:** クリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**[選択]** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。

  メタデータ参照情報 のヘルプトピックで指定されているすべてのメタデータ構文を使用できます。

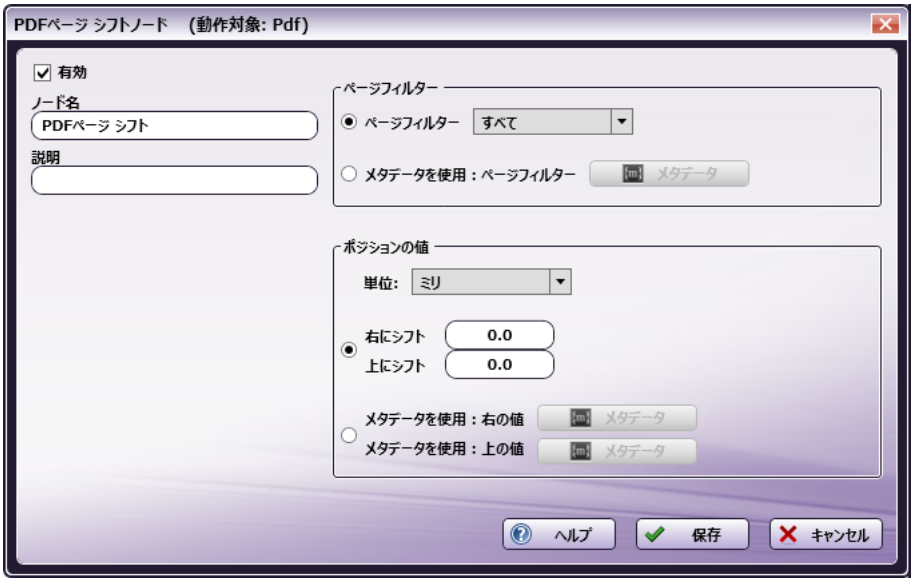
PDFページシフト

注意: このノードは、PDFファイル(バージョン1.3以降)に対応しています。

PDFページ シフトノードは、PDFドキュメント内でページのコンテンツを一定の距離だけシフトするために使用される**処理ノード** です。**[PDFページ シフトノード]** ウィンドウで、シフトするページとシフトの量を指定できます。

PDFページ シフトノードを使う

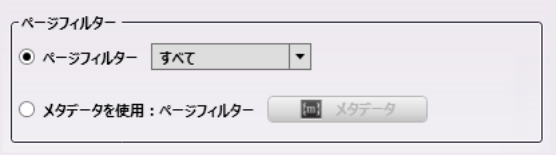
PDFページ シフトノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**PDFページ シフト** ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、**[PDFページ シフトノード]** ウィンドウが開きます。



- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、PDFページシフトノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、PDFページシフトノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- PDFページシフトの設定を適用するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

ページフィルター

ここでは、直接指定、範囲、またはドキュメントメタデータのプロパティに基づいて、シフトするページを指定できます。



- **[ページフィルター]:** あらかじめ定義されているページフィルターをドロップダウンメニューから選択できます。サポートされているオプションには、**[すべて]**、**[最初]**、**[最後]**、**[奇数]**、**[偶数]**、**[カスタム]** のページフィルターがあります。

[カスタム]を選択すると、[ページの範囲] 入力フィールドが表示されます。ここで、カスタムのページ番号の範囲を指定できます。コンマ区切り値、範囲（3,4,5のかわりに3-5）を使用できます。入力できる最大文字数は100文字です。

注意: 2147483647を超えるページ番号は使用できません。

- **[メタデータを使用:ページフィルター]:** ドキュメントレベルのメタデータに基づいて処理するページを選択するには、このオプションを使用します。**[メタデータ]** ボタン（上の図を参照）をクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。

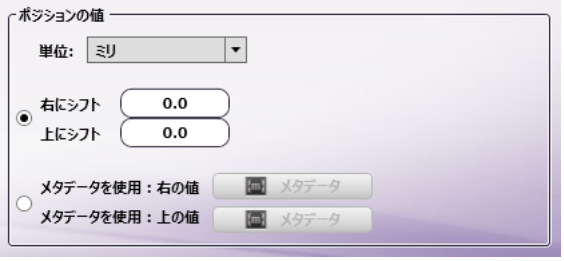
  注意: 入力するメタデータ式の結果は、**[カスタム]** のページフィルターである必要があります（上の図を参照）。すなわち、1つ以上のコンマ区切り値を含む文字列、1つのページ番号（例:2）、またはページ範囲（例:3-5）となります。

- **[メタデータ]ボタン:** クリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**[選択]** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。

  以下のURLのヘルプトピック**メタデータ参照情報**で指定されているすべてのメタデータ構文を使用できます。たとえば、メタデータキー *{data:page}* のページ番号を含むドキュメントレベルの値が複数ある場合は、有効なページフィルターを生成するためにメタデータからのページフィルターとして *{data:page[]],}* を使用し、それらをコンマで連結します。単一値の場合は *{data:page[]})* を使用します。

ポジションの値

以下の入力オプションを使用して、新しいポジションを固定値で、またはメタデータに基づいて指定できます。



- **［単位］:** ドロップダウンメニューを使用して、使用する単位を選択します。**［PDF単位］**、**［インチ］**、**［ミリ］** の3つから選択できます。
- **固定値:** 次の入力フィールドに、新しいポジションの値を直接入力できます。このオフセットは正、負のいずれの値も入力可能です。上限または下限はありません。
  - **［右にシフト］:** ページのコンテンツを右にシフトする距離の数値を入力します。左にシフトする場合はマイナスの数値を入力します。
  - **［上にシフト］:** ページのコンテンツを上にシフトする距離の数値を入力します。下にシフトする場合はマイナスの数値を入力します。

  注意: PDFページシフトノードでは現在のページの高さや幅は変更されないため、ページシフトの値が大きすぎると空のページになってしまうことがあります。
- **メタデータの値:ページレベルのメタデータから［右にシフト］と［上にシフト］** のパラメータを導き出すこともできます。そのために、**［ポジションの値］** パネルに2つのメタデータボタンが用意されています。
  - **［メタデータを使用:右の値］:** このボタンをクリックすると、［メタデータブラウザー］ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーをダブルクリックして選択するか、またはカスタム文字列を入力できます。**メタデータ情報が新しい［右］の値に使用されます。**
  - **［メタデータを使用:上の値］:** このボタンをクリックすると、［メタデータブラウザー］ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーをダブルクリックして選択するか、またはカスタム文字列を入力できます。**メタデータ情報が新しい［上］の値に使用されます。**

  使用できないメタデータを選択または入力した場合は、ワークフローは実行されますが、ページのコンテンツのシフトは行われません。その場合、Dispatcher Phoenixのエラーログに警告またはエラーメッセージが記録されます。

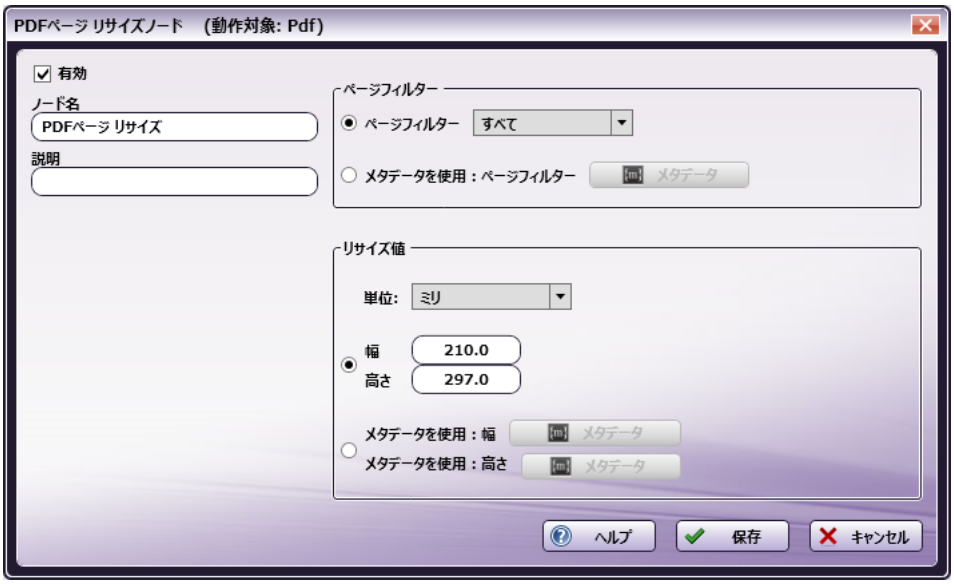
PDFページリサイズ

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

PDFページ リサイズノードは、PDFのページサイズを変変するために使用される**処理ノード** です。**［PDFページ リサイズノード］** ウィンドウで、リサイズするページと変更後のサイズを指定できます。

PDFページ リサイズノードを使う

PDFページ リサイズノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**PDFページ リサイズ** ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、**［PDFページ リサイズノード］** ウィンドウが開きます。

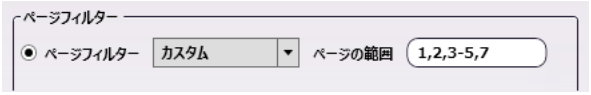


- **［有効］**チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **［ノード名］**フィールドに、PDFページリサイズノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］**フィールドに、PDFページリサイズノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- PDFページリサイズの設定を適用するには、**［保存］**ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**［キャンセル］**ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］**ボタンを選択します。

ページフィルター

ここでは、直接指定、範囲、またはドキュメントメタデータのプロパティに基づいて、リサイズするページを指定できます。

- **［ページフィルター］:** あらかじめ定義されているページフィルターをドロップダウンメニューから選択できます。サポートされているオプションには、**［すべて］**、**［最初］**、**［最後］**、**［奇数］**、**［偶数］**、**［カスタム］**のページフィルターがあります。

  ［カスタム］を選択すると、**［ページの範囲］**入力フィールドが表示されます。ここで、カスタムのページ番号の範囲を指定できます。コンマ区切り値、範囲（3,4,5のかわりに3-5）を使用できます。入力できる最大文字数は100文字です。

  注意: 2147483647を超えるページ番号は使用できません。

- **［メタデータを使用：ページフィルター］:** ドキュメントレベルのメタデータに基づいて処理するページを選択するには、このオプションを使用します。**［メタデータ］**ボタン（上の図を参照）をクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。

  注意: 入力するメタデータ式の結果は、**［カスタム］**のページフィルターである必要があります（上の図を参照）。すなわち、1つ以上のコンマ区切り値を含む文字列、1つのページ番号（例：2）、またはページ範囲（例：3-5）となります。

- **［メタデータ］ボタン:** クリックすると、［メタデータブラウザー］ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**［選択］**ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。

  以下のURLのヘルプトピック**メタデータ参照情報**で指定されているすべてのメタデータ構文を使用できます。たとえば、メタデータキー *{data:page}* のページ番号を含むドキュメントレベルの値が複数ある場合は、［メタデータを使用：ページフィルター］の値に *{data:page[]|,}* を使用し、有効なページフィルターを生成するためにコンマで値を連結します。単一値の場合は *{data:page[]}* を使用します。

リサイズ値

以下の入力オプションを使用して、新しいページサイズを固定値で、またはメタデータに基づいて指定できます。

- **［単位］:** ドロップダウンメニューを使用して、使用する単位を選択します。インチ、ミリ、PDF単位の3つから選択できます。
- **固定値:** 次の入力フィールドに、新しいページサイズの値を直接入力できます。
  - **［幅］:** ページの新しい幅を入力します。
  - **［高さ］:** ページの新しい高さを入力します。

  注意:［幅］と**［高さ］**の入力フィールドには、0よりも大きな値のみ入力できます。

  注意:［幅］と**［高さ］**に入力できる最大値は、199インチ、5,079 mm、または14,399 ptです。これらよりも大きな値を入力すると、構成の保存時にエラーメッセージが表示されます。

- **メタデータの値：ページレベルのメタデータ**から幅と高さのパラメータを導き出すこともできます。そのために、**［リサイズ値］**パネルに2つのメタデータボタンが用意されています。
    - **［メタデータを使用：幅］：** このボタンをクリックすると、［メタデータブラウザー］ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーをダブルクリックして選択するか、またはカスタム文字列を入力できます。メタデータ情報が新しい**［幅］**の値に使用されます。
    - **［メタデータを使用：高さ］：** このボタンをクリックすると、［メタデータブラウザー］ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーをダブルクリックして選択するか、またはカスタム文字列を入力できます。メタデータ情報が新しい**［高さ］**の値に使用されます。

  使用できないメタデータを選択または入力した場合は、ワークフローは実行されますが、ページのリサイズは行われません。その場合、Dispatcher Phoenixのエラーログに警告またはエラーメッセージが記録されます。

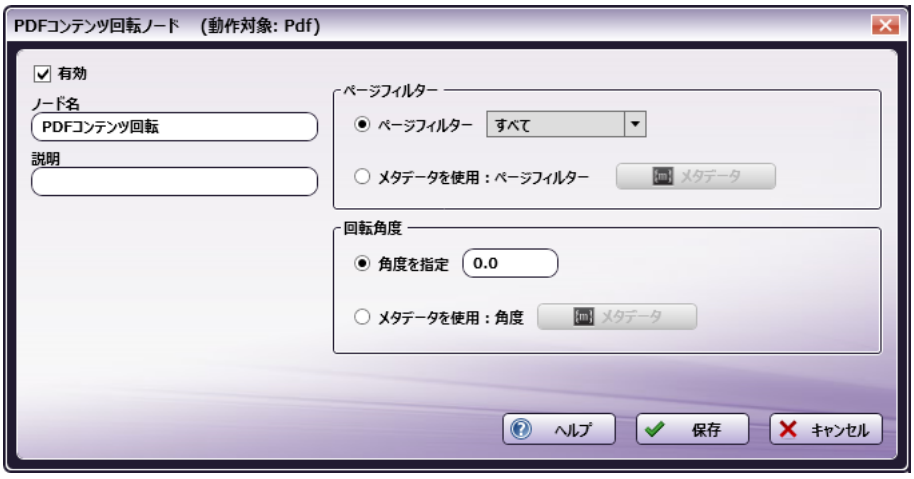
PDFコンテンツ回転

注意： このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

PDFコンテンツ回転ノードは、PDFドキュメント内でページのコンテンツを一定の角度だけ回転するために使用される**処理ノード** です。**［PDFコンテンツ回転ノード］**ウィンドウで、コンテンツを回転するページと回転角度を指定できます。

PDFコンテンツ回転ノードを使う

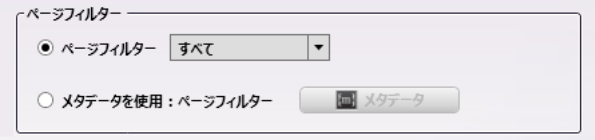
PDFコンテンツ回転ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**PDFコンテンツ回転** ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、**［PDFコンテンツ回転ノード］**ウィンドウが開きます。



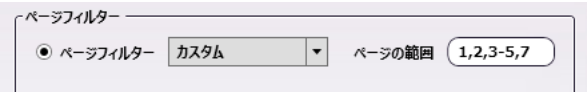
- **［有効］**チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **［ノード名］**フィールドに、PDFコンテンツ回転ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］**フィールドに、PDFコンテンツ回転ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- PDFコンテンツ回転の設定を適用するには、**［保存］**ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**［キャンセル］**ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］**ボタンを選択します。

ページフィルター

ここでは、直接指定、範囲、またはドキュメントメタデータのプロパティに基づいて、コンテンツを回転するページを指定できます。



- **［ページフィルター］：** あらかじめ定義されているページフィルターをドロップダウンメニューから選択できます。サポートされているオプションには、**［すべて］**、**［最初］**、**［最後］**、**［奇数］**、**［偶数］**、**［カスタム］**のページフィルターがあります。



[カスタム] を選択すると、**[ページの範囲]** 入力フィールドが表示されます。ここで、カスタムのページ番号の範囲を指定できます。コンマ区切り値、範囲(3,4,5のかわりに3-5)を使用できます。入力できる最大文字数は100文字です。

注意: 2147483647を超えるページ番号は使用できません。

- **[メタデータを使用:ページフィルター]:** ドキュメントレベルのメタデータに基づいて処理するページを選択するには、このオプションを使用します。**[メタデータ]** ボタン(上の図を参照)をクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。

  注意: 入力するメタデータ式の結果は、**[カスタム]** のページフィルターである必要があります(上の図を参照)。すなわち、1つ以上のコンマ区切り値を含む文字列、1つのページ番号(例:2)、またはページ範囲(例:3-5)となります。

- **[メタデータ]ボタン:** クリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーまたはカスタム文字列の値を入力できます。メタデータキーを選択するには、これをダブルクリックし、**[選択]** ボタンをクリックしてメタデータキーを適用します。

  以下のURLのヘルプトピック**メタデータ参照情報**で指定されているすべてのメタデータ構文を使用できます。たとえば、メタデータキー *{data:page}* のページ番号を含むドキュメントレベルの値が複数ある場合は、有効なページフィルターを生成するためにメタデータからのページフィルターとして *{data:page[]],}* を使用し、それらをコンマで連結します。単一値の場合は *{data:page[]})* を使用します。

回転角度

以下の入力オプションを使用して、回転角度を固定値で、またはメタデータに基づいて指定できます。

- **[角度を指定]:** ページを回転させる角度を入力します。正の値を使用するとページは右に回転し、負の値を使用するとページは左に回転します。

  注意: PDFコンテンツ回転ノードはページのコンテンツを回転させるだけであり、ページの寸法は変更されません。

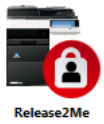
  注意: 入力する回転角度は特定の範囲に制限されることはありませんが、**360で割った余り**が使用されます。

- **[メタデータを使用:角度]:** このボタンをクリックすると、[メタデータブラウザー]ウィンドウが表示されます。ここで、メタデータキーをダブルクリックして選択するか、またはカスタム文字列を入力できます。メタデータ情報によってページの回転角度が定義されます(**[角度を指定]** の説明を参照)。ページレベルのメタデータだけを使用できます。

  使用できないメタデータを選択または入力した場合は、ワークフローは実行されますが、ページのコンテンツの回転は行われません。その場合、Dispatcher Phoenixのエラーログに警告またはエラーメッセージが記録されます。

セキュリティ

Release2Me



Release2Meシステムワークフローでは、印刷ジョブをキューに入れて複合機で後からリリースする基本的な機能が提供されていますが、Release2Meの機能を使用するDispatcher Phoenixの追加機能を持ったワークフローを作成することもできます。この場合、Release2Meのシステムワークフローを使用するのではなく、他の処理ノードと**Release2Meノード** を使用して独自のRelease2Meワークフローを作成できます。

Release2Meにはさらに、高度な印刷レポートと **印刷委任** 機能が搭載されており、プリンターの使用状況と安全なプリントアウトを監視するのに役立ちます。

注: Release2Me機能へのアクセスは、グラフィカルユーザーインターフェイスを実行する複合機でのみサポートされます。

Release2Meノード ウィンドウを開くには、**Release2Me** 処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。

- **[有効]** - ワークフローでこのノードを有効にするには、このボックスをオンにします。このノードを無視するには、ボックスを空白のままにします。チェックを外すと、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在しないかのように通過します (つまり、既定または「Y（はい）方向」に沿って続行します)。無効化されたノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - Release2Meノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** - Release2Meノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

Release2Me処理ノードの設定

Release2Meノードを設定するには、Release2Meソリューションにどの複合機を使用するかを指定する必要があります。

さらにオプションの設定も利用できます。次のことを実行することができます。

- キュー内にある要求元が不明なジョブをDispatcher Phoenixによって自動的に削除するかどうかと、印刷ジョブをキューから削除するまでの日数を設定できます。
- 印刷キューと各印刷ジョブに関する追加情報をカスタマイズできます。
- 印刷ジョブのリリース後にパネルでアクセスする **インデックスフォーム** を関連付けることができます。

Release2Me用の複合機の指定

Release2Meソリューションに使用する複合機を指定するには、以下の操作を行います。

1. 複合機が、複合機登録ツールを使用して登録されていることを確認します。**複合機登録ツール** ボタンをクリックすると、Release2Meノードから複合機登録ツールに直接アクセスできます。[使用できる登録済みの複合機]領域には、Release2Meおよび他のワークフローで使用される、登録済みのすべての複合機デバイスが表示されます。
2. 次のいずれかの操作を行って、**[使用できる登録済みの複合機]** 領域から **[選択された複合機]** ボックスに複合機アイコンを移動します。
    - 複合機アイコンをドラッグアンドドロップします。
    - 1つまたは複数の複合機アイコンを選択し、次に **[複合機を追加]** ボタンを選択します。
    - **[すべて]** ボックスにチェックを付けて、リストされているすべての複合機を選択してから、**[複合機を追加]** ボタンを選択します。
3. **[複合機グループの選択]** - この領域では、何も停止したり編集することなく、事前に組み立てられた複合機グループをワークフローに追加できます。

高度な設定

Release2Meノードのオプションを設定するには、**[詳細設定]** ボタンを選択します。以下の詳細設定を構成できます。

- **[所有者が使っていないジョブを削除]** - キュー内の要求されていないジョブを自動的に削除するには、ボックスをオンにします。それ以外の場合は、ボックスを空白のままにします。ボックスをオンにすると、**[これより後 __ 日]** フィールドが有効になります。
  - **[これより後 __ 日]** - 印刷ジョブがキューから削除されるまでの日数を指定します。
- **[カスタム列]** - このフィールドを使用して、印刷キュー内の各印刷ジョブに関する追加情報を表示します。デフォルトでは、Release2Meキューは各印刷ジョブについて次の情報を表示します。
  - ファイル名
  - 送信日
  - 総ページ数
  - ファイルサイズ

  メタデータを使用して、印刷ジョブに関する追加情報を追加できます。以下の操作を行います。

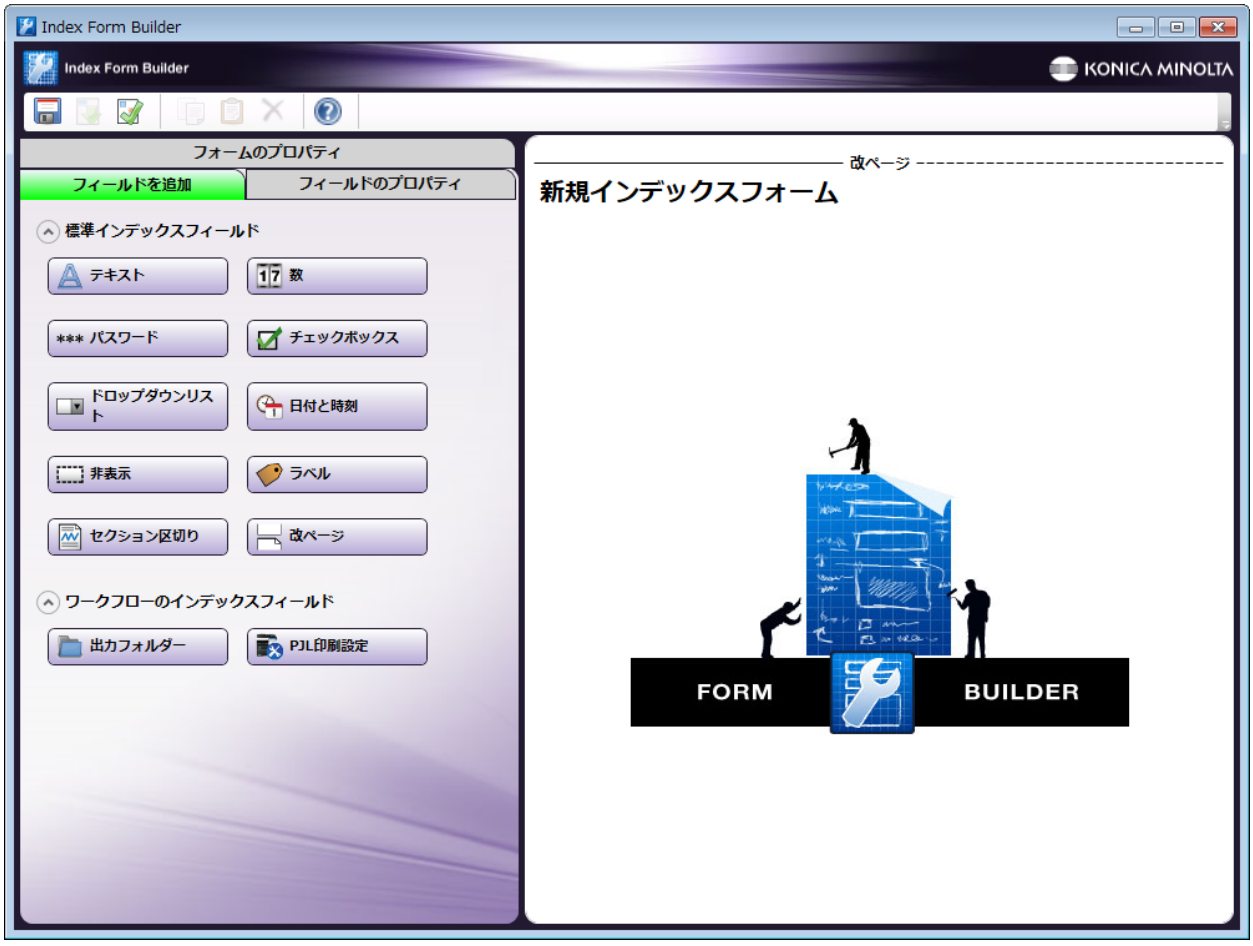
  [メタデータの参照] - **[カスタム列]** フィールドの横にあるこのボタンをクリックします。[メタデータ ブラウザー]ウィンドウが表示されます。関心のあるメタデータを見つけて選択し、**[カスタム列]** フィールドにドラッグします。このフィールドには、複数のメタデータ変数を追加することができます。
- **[閉じる]** - 変更を保存するには、このボタンをクリックします。

Release2Meによるインデックスフォームの関連付け

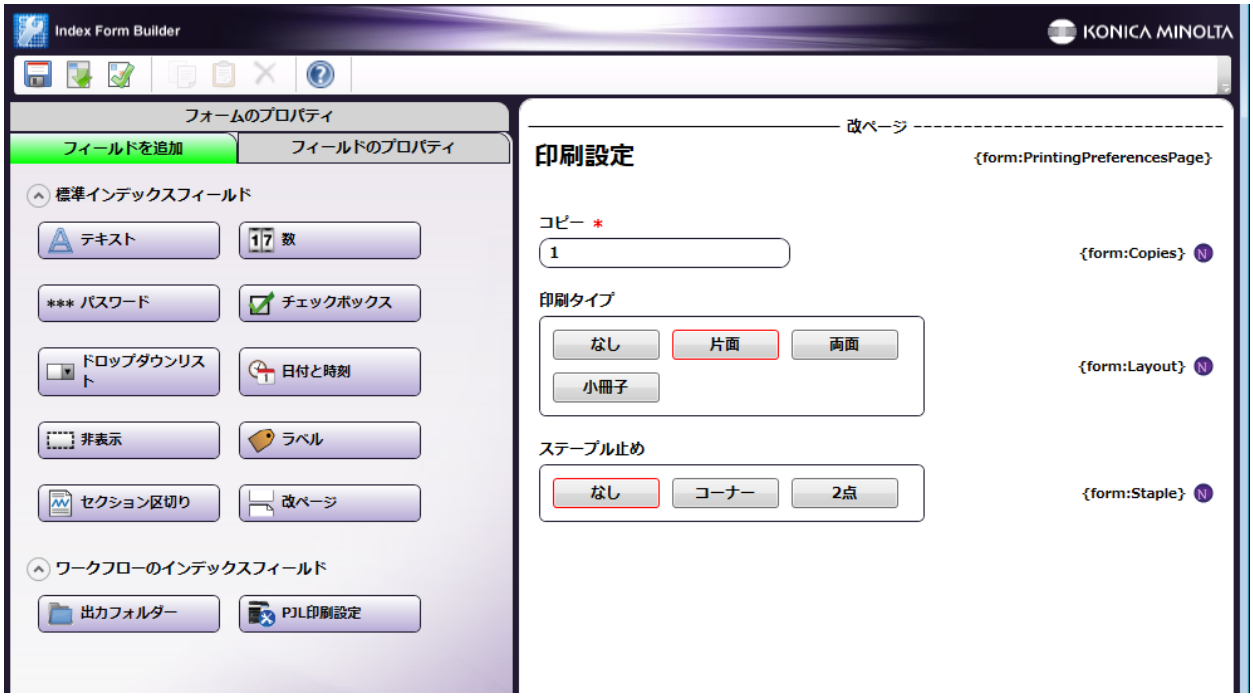
印刷ジョブがリリースされた後に、複合機ユーザーがパネルから **インデックスフォーム** にアクセスできるように、ワークフローをカスタマイズすることもできます。たとえば、複合機ユーザーがパネルから印刷設定を指定できることが必要であるとします。この場合、PJL印刷設定のインデックスフォームをRelease2Meノードに関連付けます。

以下の操作を行います。

1. **[インデックスフォームの添付]** ボックスをチェックします。
2. **[新しいインデックスフォームを追加]** ボタン(**+**)を選択して、インデックスフォームビルダーを起動します。
3. **新規インデックスフォームの作成** ポップアップウィンドウで、**[空白のインデックスフォーム]** ボタンを選択します。
4. ワークフローインデックスフィールドの領域には、インデックスフォームを自動的に作成するために使用できるすべてのノードが表示されます。たとえば、ワークフローに **PJL印刷設定** ノードがある場合、この領域には以下の図に示すボタンが表示されます。



5. **[PJL印刷設定]** ボタンをインデックスフォームビルダーのキャンバス領域にドラッグアンドドロップすると、以下の図に示すとおり、事前に構成されたフィールドが自動的に作成されます。



Release2Meワークフローの作成

システム定義ワークフローに加えて、Release2Meソリューションには、LPR入力ノード、PJL印刷設定ノード、およびDispatcher Phoenix Release2Me印刷ドライバーが付属します。一般に、Release2Meワークフローには以下が含まれます。

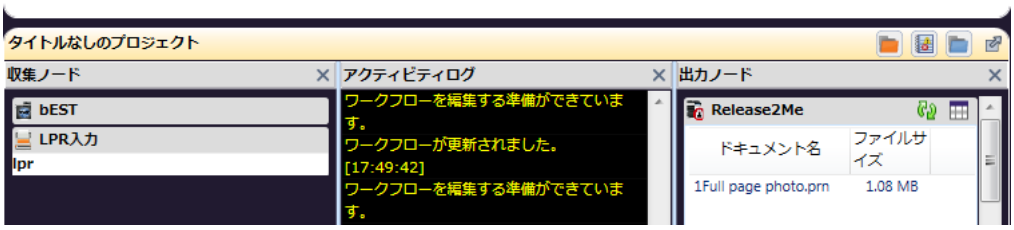
- LPR入力ノード。DPPrintQのキュー名でカスタマイズされています。
- Release2Meノード。
- PJL印刷設定ノード。
- 配信用のプリンターノード。ユーザーが現在使用している複合機上でファイルが印刷されるようにするために、プリンターノードは{release:to}メタデータを使用してカスタマイズする必要があります。
- キャンセルされたジョブを収集するための別の配信ノード。

Release2Me処理は決定ノードです。つまり、Release2Meノードからの「はい/いいえ」遷移をセットアップして、ドキュメントが複合機でリリースされたときに確実に正しい宛先に進むようにする必要があります。

- ドキュメントは、リリースされると、「はい」遷移に進みます。
- ユーザーがジョブのキャンセルを選択すると、ドキュメントは「いいえ」遷移に従います。

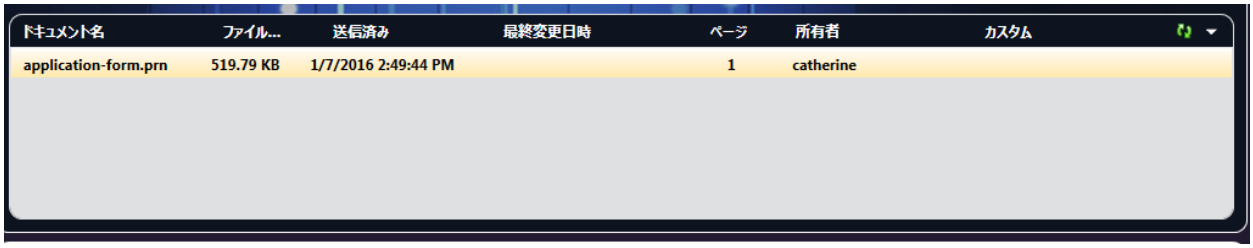
Release2Meアクティビティパネル

Release2Meの機能を使用するワークフローが開始すると、メインアプリケーション画面のアクティビティパネルの右側に、印刷キューがリストされます。そこには、以下の図に示すとおり、通常は残りの出力キューも表示されます。

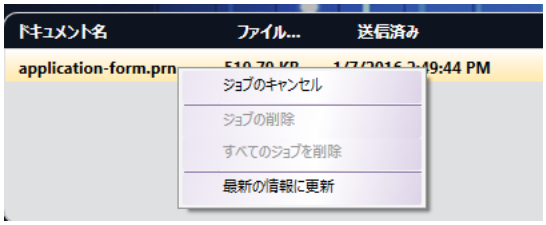


以下の操作を行います。

- **[最新の情報に更新]** ボタンをクリックして、この印刷キューにリストされている印刷ジョブを更新します。
- **[詳細な印刷キューの表示]** ボタンをクリックして、以下の図に示すとおり、さらに大きい切り離し可能画面で、印刷ジョブに関する詳細情報を表示します。



- **[詳細な印刷キュー]** ビューを閉じるには、ウィンドウの右上隅にある ボタンをクリックします。また、[最新の情報に更新]ボタンをクリックして内容を更新することもできます。
- ここにリストされている印刷ジョブを右クリックして、特定のジョブをキャンセルまたは印刷キューから削除するか、またはすべてのジョブを印刷キューから削除します。次の図を参照してください。



- 特定の印刷ジョブをキャンセルするには、**[ジョブのキャンセル]** オプションを選択します。ファイルは遷移なしの状態で処理がキャンセルされます。
- 印刷キューから特定の印刷ジョブを完全に削除するには、**[ジョブの削除]** オプションを選択します。
- 印刷キューに保持されている既存のすべての印刷ジョブを完全に削除するには、**[すべてのジョブを削除]** オプションを選択します。

注: Release2Meノードがワークフローから削除された場合、またはRelease2Meノードがあるワークフローがシステムから削除された場合、印刷ジョブは印刷キューから自動的に削除されます。

複合機でのRelease2Me

Release2Meワークフローが実行されていれば、Dispatcher Phoenix Release2Meプリンターを使用して、印刷ジョブをワークフローに送信できます。複合機で、キューにすべてのジョブが保持されているワークフローが表示されます。

Release2Meのメタデータの変数

ワークフローにRelease2Meノードがある場合、ワークフロー内の他のノードでRelease2Me変数にアクセスしてそれを使用することができます。グループ名 {release:} を持つ以下のRelease2Me変数は、メタデータブラウザーにリストされます。

メタデータ値	説明
{release:from}	印刷ジョブのリリース元であるbESTサーバーのIPアドレス。
{release:is_production}	この値は、プロダクション印刷デバイスから印刷ジョブをリリースした場合にTrueになります。
{release:is_simulator}	この値は、複合機シミュレーターを使用して印刷ジョブをリリースした場合にTrueになります。
{release:mac}	複合機デバイスのMACアドレス。
{release:to}	印刷ジョブのリリース先であるデバイスのIPアドレス。
{release:user}	印刷ジョブをリリースするユーザーの名前。
{release:source}	ジョブをリリースまたはキャンセルするために使用されるユーザーインターフェースに基づくbESTまたはDPPクライアントどちらかの値。

Release2Me 印刷委任

Release2Meには、**印刷委任** 機能が含まれています。

Rx保護

Rx保護は、改ざん防止処方箋に関する連邦政府の命令に準拠した安全な処方箋印刷ソリューションを提供します。Rx保護処理は次の操作を行います。

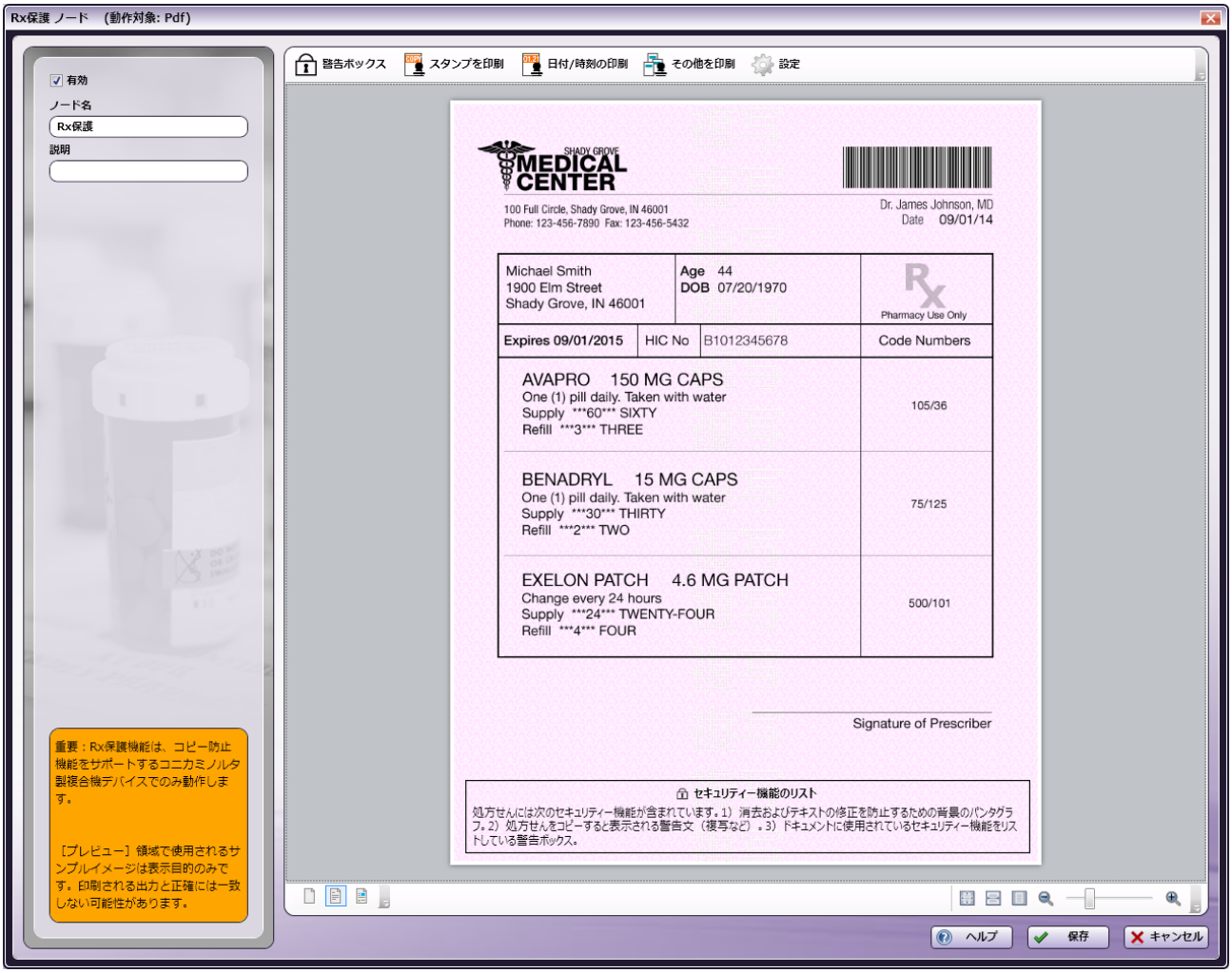
- 処方箋の下部に、カスタマイズ可能な「セキュリティ機能リスト」ボックスを追加します。
- ドキュメントにコピーセキュリティの背景パターンを印刷します。ファイルを不正にコピーすると、「複写」や「未承認」などのテキストが表示されます。オプションとして、必要に応じて日付/時刻、部数管理番号、シリアル番号、およびジョブ番号もテキストに追加できます。コピーしたファイルに「コピー」や「社外秘」などのセキュリティ警告テキストがスタンプとして表示されるようにすると、親展のコピーを防ぐことができます。

このノードで処理されるファイルは、プリンターノードを介してコピープロテクト機能をサポートしているコニカミノルタ製デバイスに送信する必要があります。送信するPDFのバージョンをサポートしているPDFインタープリターが複合機にあることを確認してください。

注:

- このノードはPDFファイルで使用できます。
- これらの機能は、コピープロテクト機能をサポートしているコニカミノルタ製複合機デバイスでのみ使用できます。
- プレビュー領域で使用されるサンプルイメージは表示用に用意されたものであり、印刷される出力と正確に一致しない場合があります。
- ファイルが不正にコピーされたときにセキュリティ警告テキストが正しく表示されるようにするには、お使いの複合機に合わせてRx保護の設定を微調整しなければならないことがあります。

Rx保護ノード ウィンドウを開くには、**Rx保護** 処理ノードを追加し、そのノードをダブルクリックします。次の図のように、Rx保護の既定の設定が適用された処方箋のサンプルがプレビュー領域に表示されます。



このノードを使用するには、以下の操作を行います。

1. この処理が実行されるように、**[有効]** ボックスにチェックマークを付けます。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向」のパスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
2. **[ノード名]** フィールドに、Rx保護ノードのわかりやすい名前を入力します。
3. **[説明]** フィールドに、Rx保護ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、それぞれの処理を区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
4. このノードを使用するために、以下の操作を行うことができます。
    - [セキュリティ機能のリスト]ボックスをカスタマイズします。詳細は下記を参照してください。

- ファイルが不正にコピーされたときに表示するスタンプ（定型スタンプまたは複合機に登録されているスタンプ）を選択します。指定したスタンプは、背景パターンに隠しテキストとして印刷されます。ファイルをコピーすると、隠しテキストがページ全体に表示され、親展のコピーであることを示します。
- コピーされたファイルに日付（および必要に応じて時刻）スタンプを追加します。
- コピーされたファイルに、ジョブ番号、シリアル番号、および部数管理番号のスタンプを追加します。
- テキスト/背景パターンをカスタマイズします。
- プレビュー領域にさまざまなサンプルドキュメントを表示します。

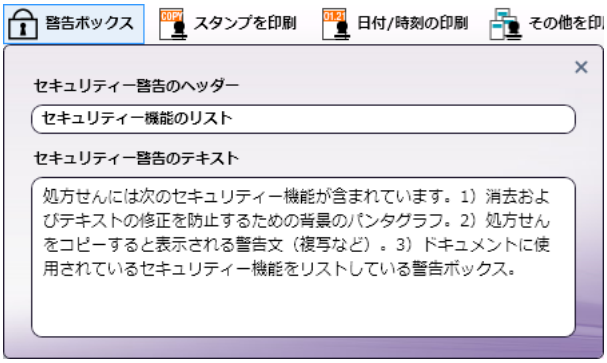
注: 一度に複数のスタンプを印刷できます（定型スタンプ、登録済みスタンプ、日付/時刻、ジョブ番号、シリアル番号など）。ただし、印刷できるスタンプ数は、選択したスタンプのタイプや角度に応じて制限される場合があります。

5. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択することで変更を保存し、ノードを閉じます。

セキュリティ機能のリスト ボックスのカスタマイズ

連邦政府要件の1つとして、安全なファイル印刷ソリューションにはファイルの偽造防止機能が備わっていなければなりません。この要件に対処するために、Rx保護は、ファイルの下部に自動的に警告ボックスを印刷します。このボックスには、Rx保護によってファイルに追加されたすべてのセキュリティ機能が含まれます。このボックスのヘッダーおよび警告テキストをカスタマイズするには、次のいずれかの操作を行います。

- 上部のメニューバーにある **[警告ボックス]** ボタンを選択します。次の図のように、ドロップダウンパレットが表示され、[セキュリティ警告のヘッダー]と[セキュリティ警告のテキスト]を編集できます。



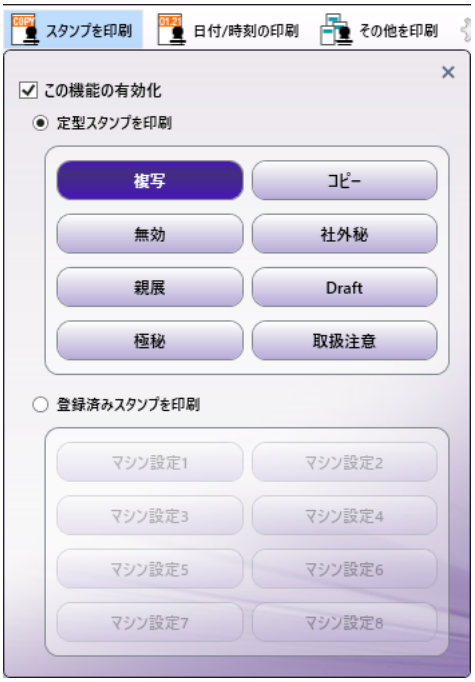
編集したテキストが、プレビュー用のサンプルドキュメントに自動的に表示されます。完了したら、ドロップダウンパレットの外側をクリックするか、右上にある **[X]** をクリックしてパレットを閉じます。

- プレビュー領域のサンプルドキュメントに表示されている[セキュリティ機能のリスト]ボックスをクリックします。次に、[セキュリティ警告のヘッダー]（既定は「セキュリティ警告のテキスト」）や[セキュリティ警告のテキスト]をプレビュー領域で直接編集します。

注: プレビュー領域内のサンプルドキュメントからすべてのセキュリティ警告テキストを削除した場合は、上部のメニューバーにある[警告ボックス]ボタンを選択して、新しいテキストを入力する必要があります。

スタンプのカスタマイズ

処方箋をコピーしたときに表示される既定のスタンプをカスタマイズするには、上部のメニュー バーにある[スタンプを印刷]ボタンを選択します。次の図のように、ドロップダウンパレットが表示され、複合機で定義されているプリセットスタンプまたはカスタムスタンプのいずれかを選択できます。



以下の操作を行います。

1. この機能は既定で有効になっています。ファイルにテキストを印刷しない場合、**[この機能の有効化]** ボックスのチェックを外します。
2. 定型スタンプを選択するには、**[定型スタンプを印刷]** ラジオボタンをクリックます。次に、**[複写]**、**[コピー]**、**[無効]**、**[社外秘]**、**[親展]**、**[Draft]**、**[極秘]**、または **[取扱注意]** のいずれかのボタンを選択します。選択した語句がプレビュー領域のサンプルドキュメントに自動的に表示されます。
3. 複合機で定義したカスタムスタンプを選択するには、**[登録済みスタンプを印刷]** ラジオボタンをクリックします。複合機で登録されたテキストが「マシン設定1」、「マシン設定2」などとして表示されます。表示されるいずれかのボタンを選択します。プレビュー領域のサンプルドキュメントに正しいスタンプが表示されなくても、ワークフローを実行すると、選択したマシン設定に対応する実際のスタンプがドキュメントに印刷されます。
4. 完了したら、ドロップダウンパレットの外側をクリックするか、右上にある ☑ をクリックしてパレットを閉じます。

日付/時刻の追加

ファイルをコピーしたときに表示されるテキストに日付/時刻のスタンプを追加するには、上部のメニューバーにある **[日付/時刻の印刷]** ボタンを選択します。次の図のように、ドロップダウンパレットが表示され、ドキュメントに日付や時刻を表示するかどうかを選択し、日付/時刻形式を設定できます。

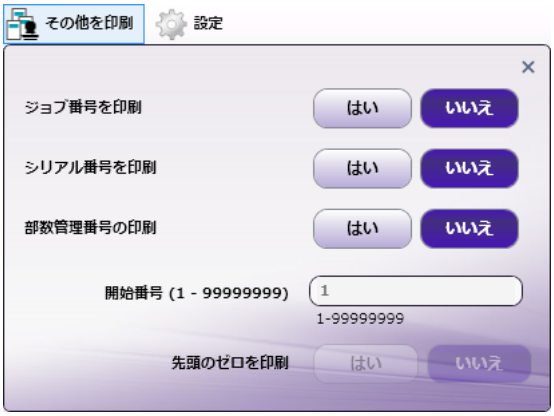
以下の操作を行います。

1. この機能は既定で無効になっています。ファイルに日付を追加するには（必要に応じて時刻も追加できます）、**[日付の印刷]** ボックスをチェックします。[日付形式の選択]の各ボタンがアクティブになります。表示されているいずれかのボタンを選択して、日付の形式を選択します。注: 各ボタンには現在の日付が反映されます。
2. 日付形式を選択した後、時刻を追加することもできます。**[時刻を印刷]** ボックスをチェックします。[時刻形式の選択]の各ボタンがアクティブになります。表示されているいずれかのボタンを選択して、時刻の形式を選択します。

   選択した設定がプレビュー領域のサンプルドキュメントに自動的に表示されます。
3. 完了したら、ドロップダウンパレットの外側をクリックするか、右上にある ☑ をクリックしてパレットを閉じます。

ジョブ番号、シリアル番号、部数管理番号の追加

ジョブ番号、シリアル番号、または部数管理番号（あるいはそれらすべて）をドキュメントに追加するには、上部のメニューバーにある **[その他を印刷]** ボタンを選択します。次の図のようにドロップダウンパレットが表示されます。



以下の操作を行います。

1. プリンターによって管理されるジョブ番号を追加するには、**[ジョブ番号を印刷]** の横にある **[はい]** ボタンを選択します。
2. プリンターでプログラムされたシリアル番号を追加するには、**[シリアル番号を印刷]** の横にある **[はい]** ボタンを選択します。
3. 複数セットのコピーを印刷するときにコピー数を追加するには、**[部数管理番号の印刷]** の横にある **[はい]** ボタンを選択します。**[開始番号]** フィールドで、この数の開始番号を指定できます。**[先頭のゼロを印刷]** の横にある **[はい]** ボタンを選択することによって、部数管理番号の前に0を配置することも指定できます。

   選択した設定がプレビュー領域のサンプルドキュメントに自動的に表示されます。
4. 完了したら、ドロップダウンパレットの外側をクリックするか、右上にある をクリックしてパレットを閉じます。

設定のカスタマイズ

スタンプおよびセキュリティ背景パターンの設定を変更するには、上部のメニューバーにある **[設定]** ボタンを選択します。次の図のように、ウィンドウの右側にパレットが表示されます。

注: 行う変更のほとんどが、プレビュー領域でサンプルドキュメントに自動的に適用されます。

以下の操作を行います。

1. 変更した設定を色の既定の設定に戻すには、**[クリックして既定値を復元]** の下にある **[色]** ボタンを選択します。色の既定の設定は、スタンプが[複写]、[テキストのサイズ]が[標準]、[密度]が[濃い]、[背景色/文字の色]が[マゼンタ]、[パターンの上書き]が[前]、[角度]が0°、[背景のパターン]が7番、[パターンのスタイル]が[テキストの浮き出し]、[パターンのコントラスト]が[+2]です。
2. 変更した設定を白黒の既定の設定に戻すには、**[クリックして既定値を復元]** の下にある **[白黒]** ボタンを選択します。白黒の既定の設定は、スタンプが[複写]、[テキストのサイズ]が[標準]、[密度]が[濃い]、[背景色/文字の色]が[黒]、[パターンの上書き]が[前]、[角度]が0°、[背景のパターン]が4番、[パターンのスタイル]が[テキストの浮き出し]、[パターンのコントラスト]が[+2]です。
3. テキストのサイズを変更するには、**[テキストのサイズ]** の下にある **[小]** ボタン、**[標準]** ボタン、または **[大]** ボタンを選択します。
4. 背景パターンの濃度を変更するには、**[濃度]** の下にある **[薄い]** ボタン、**[標準]** ボタン、または **[濃い]** ボタンを選択します。
5. テキストおよび背景の色を選択するには、**[背景色/文字の色]** の下にある色のボタン（黒、シアン、またはマゼンタ）を選択します。
6. パターンをドキュメントの背景に追加するか前景に追加するかを選択するには、**[パターンの上書き]** の下にある **[前]** または **[後ろ]** を選択します。これらのオプションは、プレビュー領域のサンプルドキュメントには表示されません。
7. テキストの角度を変更するには、以下のように **[角度]** の下にある該当するボタンを選択します。

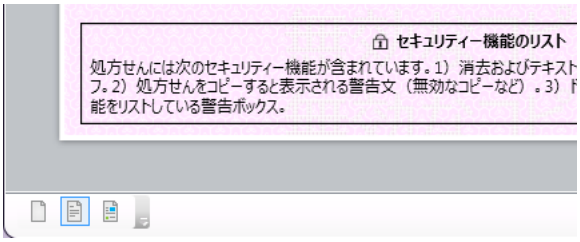
8. ファイルが不正にコピーされたときに適用するパターンを選択するには、**[背景のパターン]** の下にあるパターンのボタンを選択します。
9. 背景パターンのコントラストを指定するには、**[パターンのスタイル]** の下にある以下のいずれかを選択します。
    - **[テキストの浮き出し]**：ファイルが不正にコピーされたときに、テキストパターンが浮き上がるように表示されます。

- **[背景の浮き出し]**：ファイルが不正にコピーされたときに、テキストパターンが輪郭として表示されます。

10. 背景パターンとテキストとのコントラストを調整するには、**[パターンのコントラスト]** の下にある数字ボタンを選択します。
11. パレットを閉じるには、右上にある をクリックします。

プレビュー領域のカスタマイズ

このノードには、プレビュー領域に表示される2つのサンプルドキュメントが付いています。ウィンドウ下部にあるツールバーを使って、どのサンプルドキュメントをプレビュー表示するのか選択できます。次の図を参照してください。

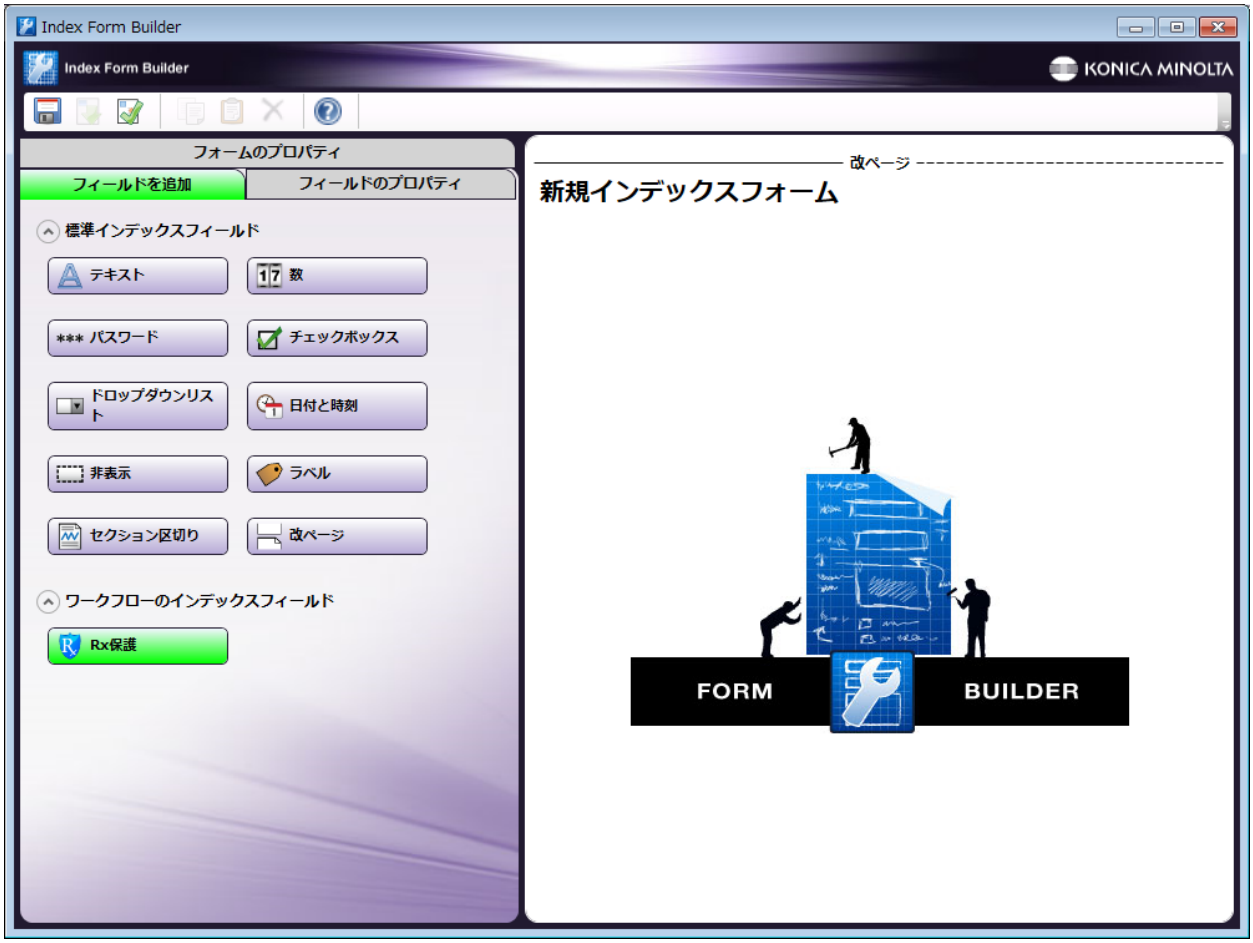


複合機でのRx保護の使用

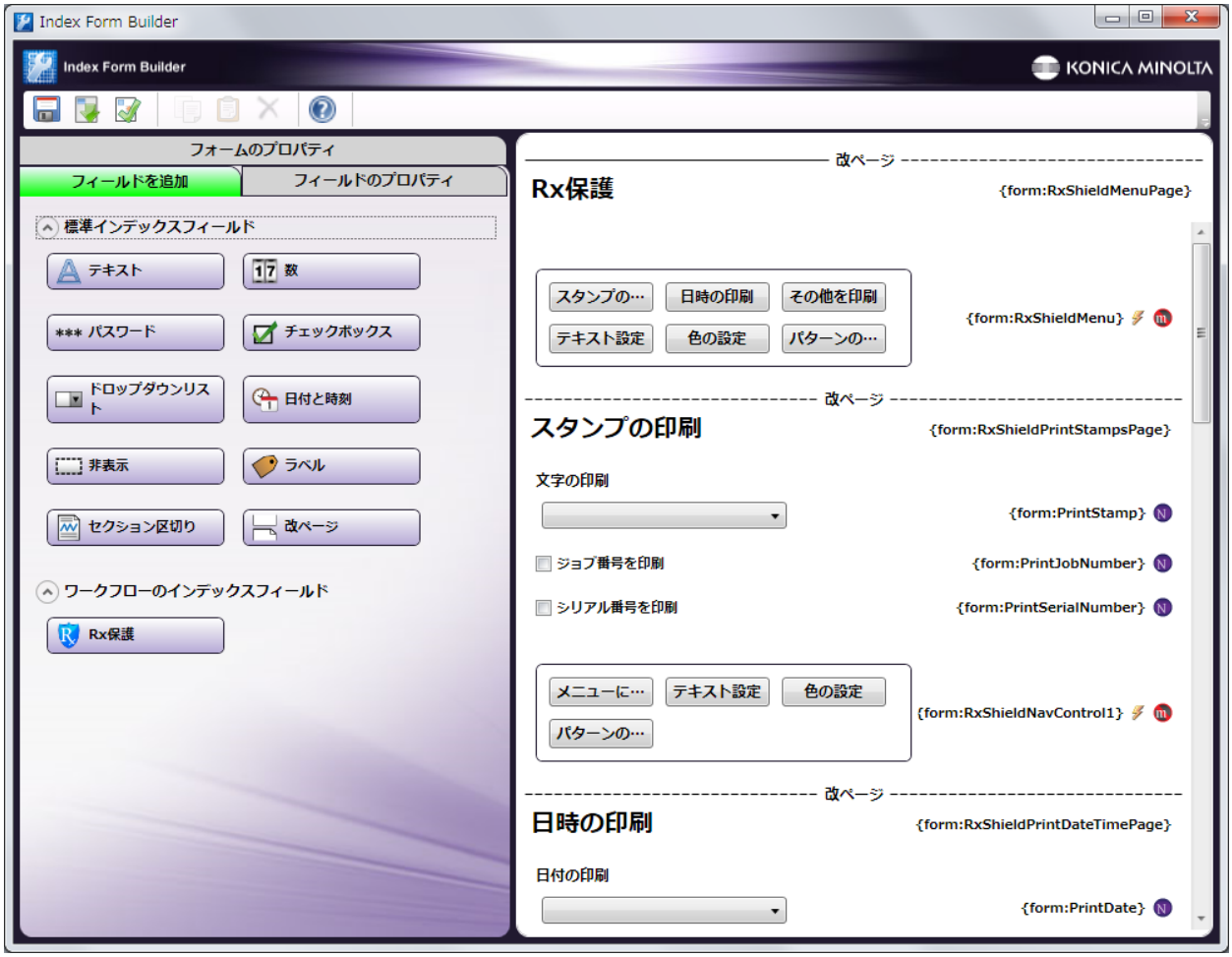
最初にRx保護インデックスフォームをワークフロー内の複合機パネルノードに追加することにより、複合機でRx保護設定を変更することもできます。その後、複合機でそのワークフローにアクセスし、Rx保護処理のための新しい設定を指定できます。

以下の操作を行います。

1. 複合機パネルノードとRx保護ノードを含むワークフローを設定します。
2. [インデックスフォームの添付]ボックスをチェックします。次に、**[+]** アイコン（新しいインデックスフォームを追加）を選択します。
3. 入力を促されたら、[新規インデックスフォームの作成]を選択します。
4. 次の図のように、インデックスフォームビルダーの左側にある[ワークフローのインデックスフィールド]領域の下に、**[Rx保護]** ボタンが表示されます。



5. **[Rx保護]** ボタンを、インデックスフォームビルダーの右側にドラッグアンドドロップします。次の図のように、関連するインデックスフォームフィールドが自動的に表示されます。



6. 複合機パネルで、Rx保護ワークフローを実行します。次に、**[Rx保護]** アイコンをタップして、安全なファイル印刷の設定をカスタマイズします。以下の画面が表示されます。

7. ここでは、以下の操作ができます。

   - ドキュメントに適用するセキュリティパターンに追加したいテキスト、また[ジョブ番号]と[シリアル番号]も追加するかどうかを選択するには、**[スタンプの印刷]** をタップします。次の図を参照してください。

操作が完了したら、画面下部にあるボタンを使用して、メインメニュー画面に戻るか、[テキスト設定]、[色の設定]、または[パターンの設定]を変更するかを選択できます。

- ドキュメントに適用するセキュリティパターンに日付を追加（必要に応じて時間も追加）するには、**[日時の印刷]** をタップします。次の図を参照してください。

操作が完了したら、画面下部にあるボタンを使用して、メインメニュー画面に戻るか、[テキスト設定]、[色の設定]、または[パターンの設定]を変更するかを選択できます。

- ドキュメントに適用するセキュリティパターンに部数管理番号を追加するには、**[その他を印刷]** をタップします。次の図を参照してください。

操作が完了したら、画面下部にあるボタンを使用して、メインメニュー画面に戻るか、[テキスト設定]、[色の設定]、または[パターンの設定]を変更するかを選択できます。

- テキストおよびパターンを書式設定するには、**[テキスト設定]** をタップします。次の図を参照してください。

操作が完了したら、画面下部にあるボタンを使用して、メインメニュー画面に戻るか、[色の設定]または[パターンの設定]を変更するかを選択できます。

- テキストおよび背景の色と濃度を変更するには、**[色の設定]** をタップします。次の図を参照してください。

操作が完了したら、画面下部にあるボタンを使用して、メインメニュー画面に戻るか、[テキスト設定]または[パターンの設定]を変更するかを選択できます。

- 背景のパターンを変更するには、**[パターンの設定]** をタップします。次の図を参照してください。

操作が完了したら、画面下部にあるボタンを使用して、メインメニュー画面に戻るか、[テキスト設定]または[色の設定]を変更するかを選択できます。

コピー保護

コピー保護を使用すると、機密書類や重要書類の未承認のコピーを防止できます。コピー保護処理を使用すると以下のコピープロテクト機能を設定できます。

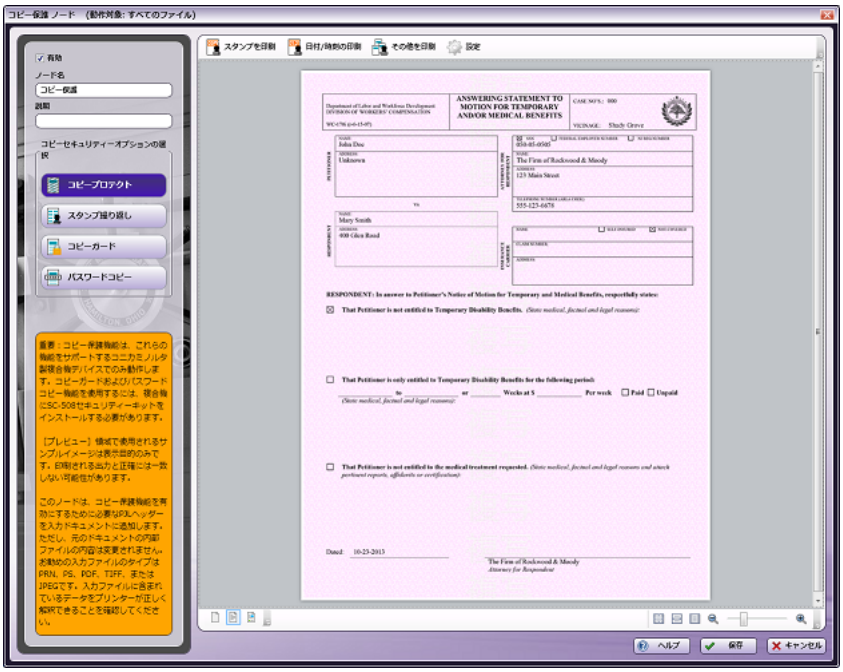
- **コピープロテクト** - ドキュメントにコピーセキュリティの背景パターンを印刷します。ドキュメントを不正にコピーすると「複写」や「親展」などのテキストが表示されます。オプションとして、必要に応じて日付/時刻、部数管理番号、シリアル番号、およびジョブ番号もテキストに追加できます。「コピー」や「社外秘」などのテキストを目に見えるスタンプとして印刷することによって、未承認のコピーを防ぎます。

- **スタンプ繰り返し** - 「コピー」や「社外秘」などのスタンプをページ全体に追加します。
- **コピーガード** - コピー抑止パターンをすべての印刷用紙に埋め込みます。この機能をサポートしているデバイスでコピーガード用紙をコピーしようとすると、コピー処理がキャンセルされ、ジョブが削除されます。
- **パスワードコピー** - すべての印刷用紙にパスワードを埋め込みます。この機能をサポートしているデバイスでパスワードコピー用紙をコピーしようとすると、パスワードの入力を求められます。正しいパスワードを入力した場合のみコピーが始まります。

注:

- このノードはあらゆるファイルで使用できます。
- これらの機能は、コピープロテクトをサポートしているコニカミノルタ複合機デバイスでのみ使用できます。
- プレビュー領域で使用するサンプルイメージは表示目的だけで、印刷される出力と正確に一致しない場合があります。
- このノードで処理されるファイルは、プリンターノードを介してコピープロテクト機能をサポートしているコニカミノルタのデバイスに送信する必要があります。送信しているPDFバージョンをサポートしているPDFインタープリターが複合機にあることを確認してください。
- 複数のスタンプ（プリセットスタンプ、登録済みスタンプ、日付/時刻、ジョブ番号、シリアル番号など）を一度に印刷できます。ただし、印刷できるスタンプの数は選択したスタンプの種類と角度によって制限される場合があります。
- 印刷されるスタンプの言語は、複合機の言語設定によって異なります。

コピー保護ノード ウィンドウを開くには、**コピー保護** の処理ノードを追加し、このノードをダブルクリックします。次の図のように、プレビュー領域に、既定のコピー保護設定が適用されたサンプルドキュメントが表示されます。



このノードを始めるには、次の操作を行います。

1. 処理が実行されるようにするには、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックマークを付けない場合、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
2. **[ノード名]** フィールドに、コピー保護ノードのわかりやすい名前を入力します。
3. **[説明]** フィールドに、コピー保護ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、それぞれの処理を区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
4. このノードを使用するために、次の操作ができます。
    - **コピープロテクト** 機能をドキュメントに追加します。コニカミノルタのコピープロテクト機能は、「コピー」や「社外秘」などのテキストを隠しテキストとして背景パターンに追加します。コピー防止されたドキュメントをコピーすると、隠されていたセキュリティ透かしがページ全体に表示され、未承認のコピーであることを示します。
    - **スタンプ繰り返し** 機能をドキュメントに追加します。コニカミノルタのスタンプ繰り返し機能は、「コピー」や「社外秘」などのスタンプをページ全体に追加します。
    - **コピーガード** 機能をドキュメントに追加します。コニカミノルタのコピーガード機能は、背景に「社外秘」や日付などの隠しセキュリティ透かしを印刷し、未承認のコピーを防止します。また、コピー抑止パターンがすべての印刷用紙に埋め込まれます。この機能をサポートしているデバイスでコピーガード用紙をコピーしようとすると、コピー処理がキャンセルされ、ジョブが削除されます。
    - **パスワードコピー** 機能をドキュメントに追加します。コニカミノルタのパスワードコピー機能は、背景に「社外秘」や日付などの隠しセキュリティ透かしを印刷し、未承認のコピーを防止します。また、パスワードがすべての印刷用紙に埋め込まれます。この機能をサポートしているデバイスでパスワードコピー用紙をコピーしようとすると、パスワードの入力を求められます。正しいパスワードを入力した場合のみコピーが始まります。
    - プレビュー領域にさまざまなサンプルドキュメントを表示します。
5. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択して変更を保存し、ノードを閉じます。

コピープロテクト設定の指定

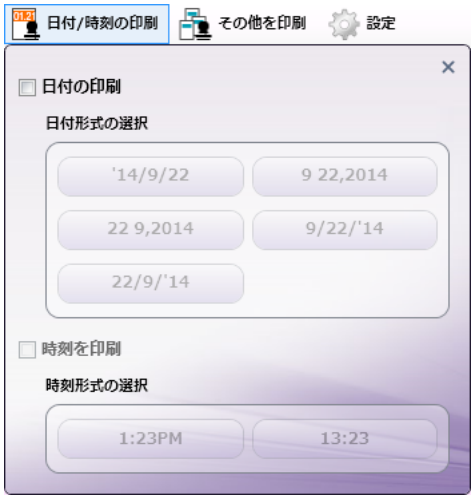
コピープロテクト設定をするには、以下の操作を行います。

1. ウィンドウの左側にある **[コピーセキュリティオプションの選択]** 領域から、**[コピープロテクト]** を選択します。
2. ドキュメントをコピーしたときに現れる既定のスタンプをカスタマイズするには、上部のメニューバーにある **[スタンプを印刷]** ボタンを選択します。次の図のようにドロップダウンパレットが表示され、定型スタンプまたは複合機で定義したカスタムスタンプを選択できます。

以下の操作を行います。

- この機能は既定で有効になっています。ドキュメントにテキストを印刷しない場合、**[この機能の有効化]** ボックスのチェックを外します。
- 定型スタンプを選択するには、**[定型スタンプ]** ラジオボタンをクリックし、リストされたボタンのいずれかを選択します。ボタンには、**[複写]**、**[コピー]**、**[無効]**、**[社外秘]**、**[親展]**、**[Draft]**、**[極秘]**、または **[取扱注意]** があります。選択した単語がプレビュー領域でサンプルドキュメントに自動的に表示されます。
- 複合機で定義したカスタムスタンプを選択するには、**[登録済みスタンプ]** ラジオボタンをクリックします。複合機で登録されたテキストが「マシン設定1」、「マシン設定2」などとして表示されます。リストされたボタンのいずれかを選択します。プレビュー領域のサンプルドキュメントには正しいスタンプが表示されませんが、ワークフローを実行すると、選択したマシン設定に対応する実際のスタンプがドキュメントに印刷されます。
- 完了したら、ドロップダウンパレットの外側をクリックするか、または右上にある をクリックし、パレットを閉じます。

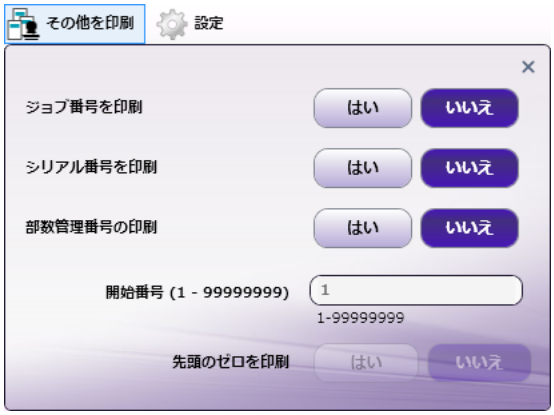
3. ドキュメントをコピーしたときに現れるテキストに日付/時刻のスタンプを追加するには、上部のメニューバーにある **[日付/時刻の印刷]** ボタンを選択します。次の図のようにドロップダウンパレットが表示され、ドキュメントの日付/時刻を選択し、その書式を設定できます。



以下の操作を行います。

- この機能は既定で無効になっています。ドキュメントに日付を追加する場合（オプションで時刻も追加できます）、**[日付の印刷]** ボックスをチェックします。[日付形式の選択]ボタンがアクティブになります。以下にリストしたボタンのいずれかを選択し、日付のフォーマットを選択します。ボタンは現在の日付が反映されることに注意してください。
- 日付のフォーマットを選択した後、時間の追加も選択できます。**[時刻を印刷]** ボックスをチェックします。[時刻形式の選択]ボタンがアクティブになります。リストしたボタンのいずれかを選択し、時刻のフォーマットを選択します。選択した設定がプレビュー領域でサンプルドキュメントに自動的に表示されます。
- 完了したら、ドロップダウンパレットの外側をクリックするか、または右上にある をクリックし、パレットを閉じます。

4. ジョブ番号、シリアル番号、または部数管理番号をドキュメントに追加するには、上部のメニューバーにある **[その他を印刷]** ボタンを選択します。次の図のようにドロップダウンパレットが表示されます。



以下の操作を行います。

- プリンターが管理するジョブ番号を追加するには、**[ジョブ番号を印刷]** の横にある **[はい]** ボタンを選択します。
- プリンターでプログラムされたシリアル番号を追加するには、**[シリアル番号を印刷]** の横にある **[はい]** ボタンを選択します。
- 複数セットのコピーを印刷するときにコピー数を追加するには、**[部数管理番号の印刷]** の横にある **[はい]** ボタンを選択します。**[開始番号]** フィールドで、この数の開始番号を指定できます。**[先頭のゼロを印刷]** の横にある **[はい]** ボタンを選択することによって、部数管理番号の前に0を配置することも指定できます。選択した設定がプレビュー領域でサンプルドキュメントに自動的に表示されます。
- 完了したら、ドロップダウンパレットの外側をクリックするか、または右上にある をクリックし、パレットを閉じます。

5. スタンプおよびセキュリティの背景パターンの設定を変更するには、上部のメニューバーにある **[設定]** ボタンを選択します。次の図のように、ウィンドウの右側にパレットが表示されます。

注: 行う変更のほとんどがプレビュー領域でサンプルドキュメントに自動的に適用されます。

以下の操作を行います。

- テキストのサイズを変更するには、**[テキストのサイズ]** の下にある **[小]** ボタン、**[標準]** ボタン、または **[大]** ボタンを選択します。
- 背景パターンの濃度を変更するには、**[濃度]** の下にある **[薄い]** ボタン、**[標準]** ボタン、または **[濃い]** ボタンを選択します。
- テキストおよび背景の色を選択するには、**[背景色/文字の色]** の下にあるカラーボタン（黒、シアン、またはマゼンタ）を選択します。
- パターンをドキュメントの背景に追加するか、または前景に追加するかを選択するには、**[パターンの上書き]** の下にある **[前]** または **[後ろ]** を選択します。これらのオプションは、プレビュー領域のサンプルドキュメントには表示されません。
- テキストの角度を変更するには、以下のように **[角度]** の下にある該当するボタンを選択します。

角度

- ドキュメントが不正にコピーされたときに適用するパターンを選択するには、**[背景のパターン]** の下にあるパターンのボタンを選択します。
- 背景パターンのコントラストを指定するには、**[パターンのスタイル]** の下にある以下のいずれかを選択します。
  - **[テキストの浮き出し]** - ドキュメントが不正にコピーされたときに、テキストパターンがエンボス化されて表示されます。
  - **[背景の浮き出し]** - ドキュメントが不正にコピーされたときに、テキストパターンがアウトラインとして表示されます。
- 背景パターンとテキストとのコントラストを調整するには、**[パターンのコントラスト]** の下にある数字ボタンを選択します。
- パレットを閉じるには、右上にある ☑ をクリックします。

スタンプ繰り返し設定の指定

スタンプ繰り返し設定を指定するには、以下の操作を行います。

1. ウィンドウの左側にある **[コピーセキュリティオプションの選択]** 領域から、**[スタンプ繰り返し]** を選択します。
2. トップメニューツールバーから、[スタンプを印刷]、[日付/時刻の印刷]、[その他を印刷]、および[設定]オプションを選択します。このオプションでは、背景パターンまたはパターンスタイル/コントラストを変更できないことに注意してください。

取扱注意防止設定の指定

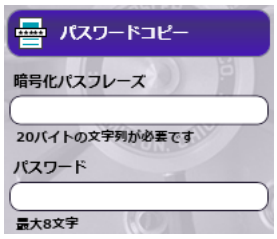
取扱注意防止設定を指定するには、以下の操作を行います。

1. ウィンドウの左側にある **[コピーセキュリティオプションの選択]** 領域から、**[コピーガード]** を選択します。
2. 以下の変更ができます。
    - [スタンプを印刷]
    - [日付/時刻の印刷]
    - [その他を印刷]
    - [設定]：テキストサイズと色、パターンコントラスト、背景パターン

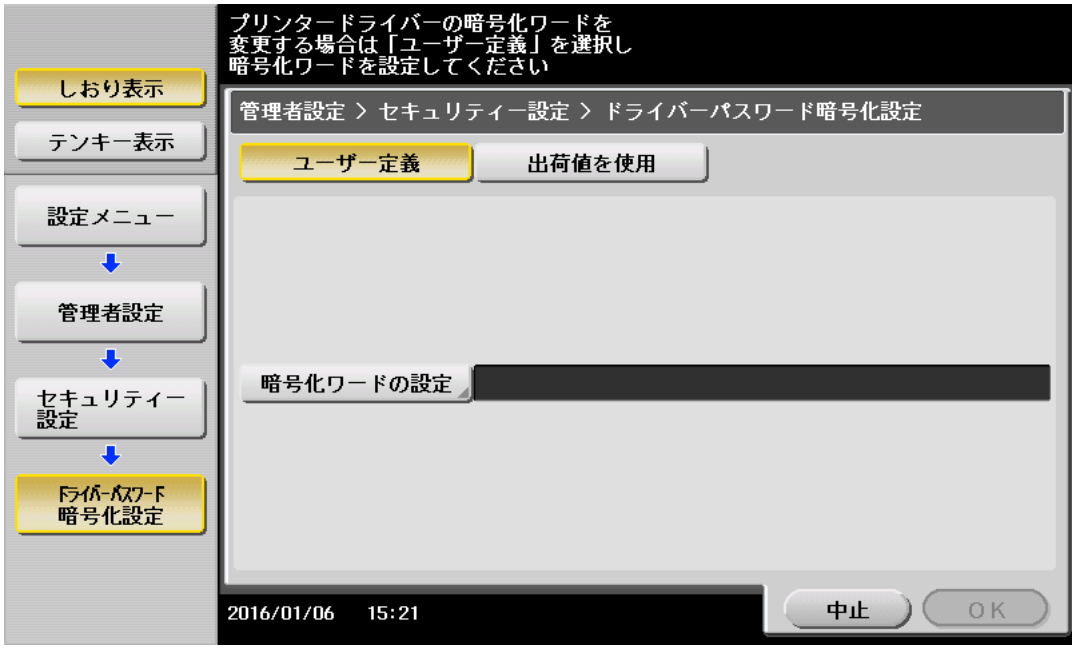
パスワードコピー設定の指定

パスワードコピー設定を指定するには、以下の操作を行います。

1. ウィンドウの左側にある **[コピーセキュリティオプションの選択]** 領域から、**[パスワードコピー]** を選択します。次の図のように、新しいフィールドが表示されます。



2. **[暗号化パスフレーズ]** フィールドに、ユーザーパスワードを暗号化に使う20文字のパスワードフレーズを入力します。
3. 次の手順に従って、*複合機* でも **同じ** 暗号化パスフレーズを定義します。
    - 複合機の **[メニュー]** ボタンを押します。
    - **[設定メニュー]** ボタンをタップします。
    - **[管理者設定]** をタップします。入力を促されたら、複合機の管理者パスワードを入力します。
    - **[セキュリティ設定]** をタップします。
    - **[ドライバーパスワード暗号化設定]** をタップします。
    - **[ユーザー定義]** を選択します。次に、以下の図に示されているとおり、**[暗号化ワードの設定]** フィールドに同じ暗号化パスフレーズを入力します。

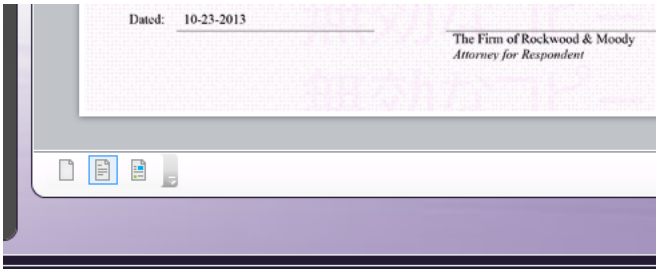


- **[OK]** をタップして、暗号化パスフレーズを設定します。

4. **[パスワード]** フィールドに、コピーを制限するための（最大8文字の）ユーザーパスワードを入力します。
5. 以下の変更ができます。
   - [スタンプを印刷]
   - [日付/時刻の印刷]
   - [その他を印刷]
   - [設定]：テキストサイズと色、パターンコントラスト、背景パターン

プレビュー領域のカスタマイズ

このノードには、プレビュー領域に表示される2つのサンプルドキュメントが付いています。ウィンドウ下部にあるツールバーを使って、どのサンプルドキュメントをプレビュー表示するのか選択できます。次の図を参照してください。

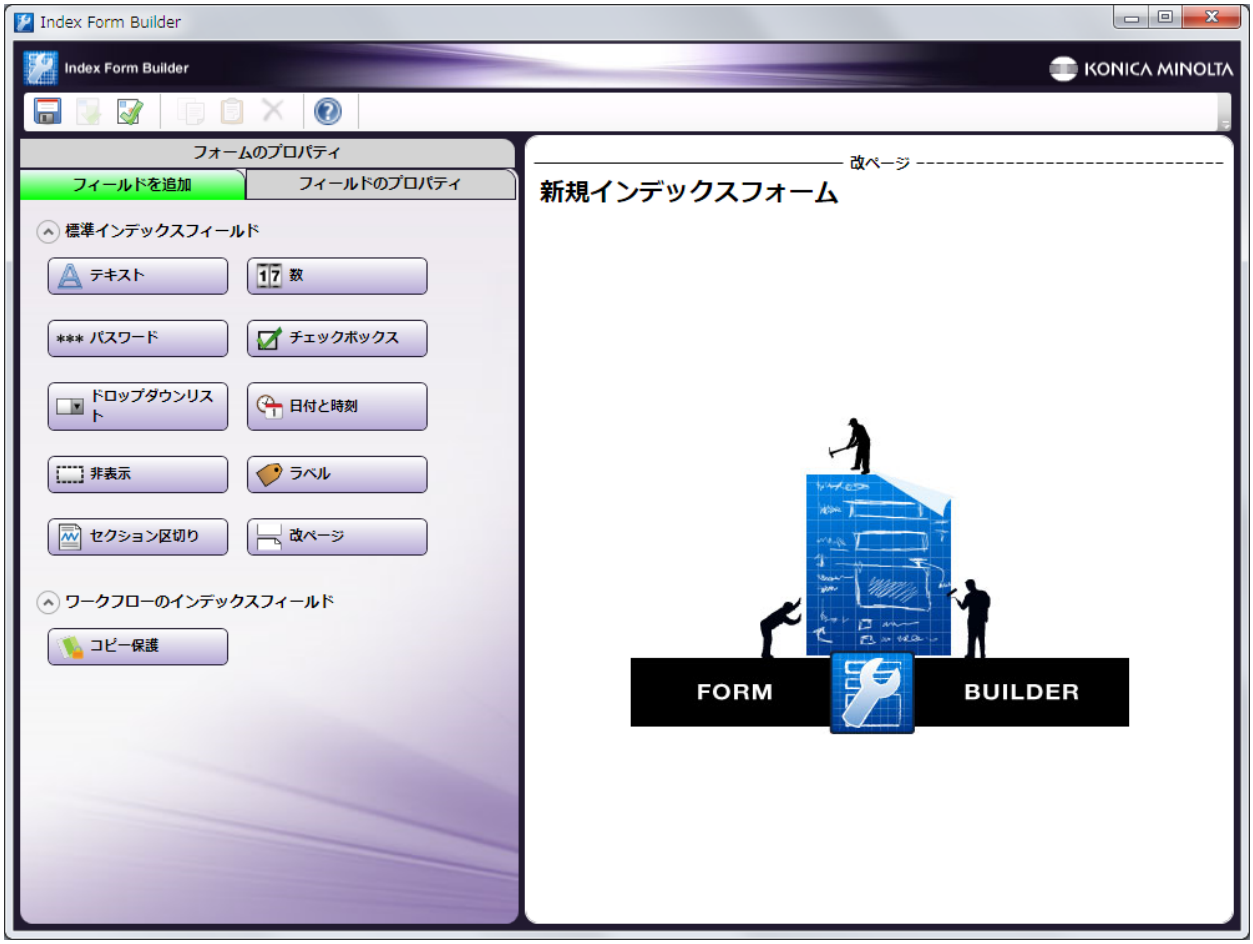


複合機におけるコピー防止の使用

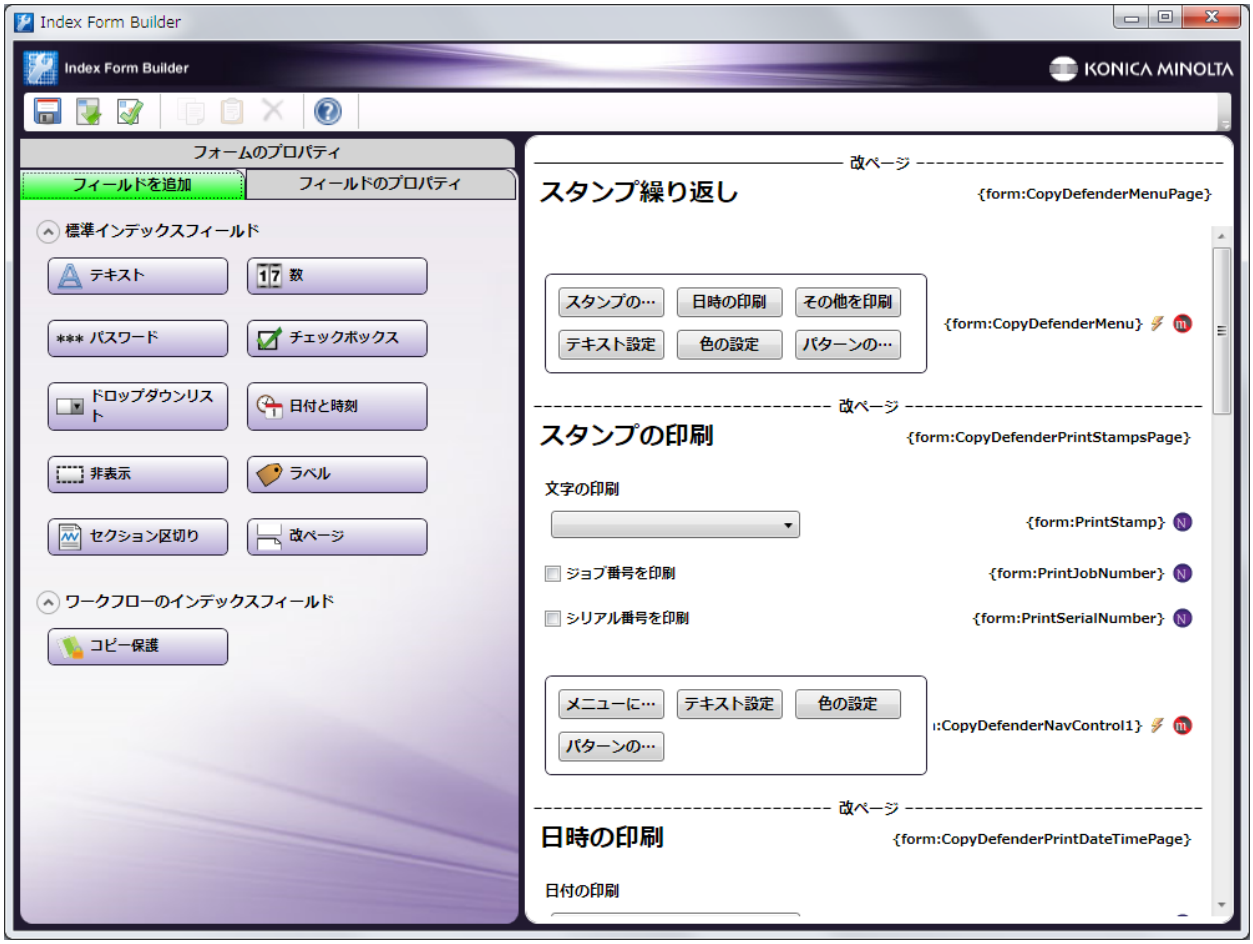
最初にコピー保護インデックスフォームをワークフローの複合機パネルノードに添付することで、複合機でコピー保護設定を変更することもできます。そして、複合機でそのワークフローにアクセスして、コピー保護処理の新規設定を指定できます。

次の操作を行います。

1. 複合機パネルノードとコピー保護ノードを使って、ワークフローを設定します。
2. [コピー保護]ノードのプロパティウィンドウを編集することで、[コピーのセキュリティ]オプションを選択できます。
3. [インデックスフォームの添付]ボックスにチェックマークを付けます。次に、**[+]** アイコン（新しいインデックスフォームの追加）を選択します。
4. 入力を促されたら、[空白のインデックスフォームの作成]を選択します。
5. 次の図のように、[インデックスフォームビルダー]の左側にある[ワークフローのインデックスフィールド]領域の下に、**[コピー保護]** ボタンが表示されます。



6. この **[コピー保護]** ボタンを、[インデックスフォームビルダー]の右側にドラッグアンドドロップします。コピー保護ノードで選択された[コピーのセキュリティ]オプションによって、対応する[インデックスフォーム]フィールドが自動的に表示されます。たとえば、次の図では、コピー保護ノードで[スタンプ繰り返し]オプションが選択されていました。



7. 複合機パネルで、コピー保護ワークフローを実行します。次に、**コピー保護** アイコンをタップして、コピー保護設定をカスタマイズします。次の画面が現れます。

8. ここで、次の操作ができます。

   - ドキュメントに適用するセキュリティパターンに追加したいテキスト、また[ジョブ番号]と[シリアル番号]も追加するかどうかを選択するには、**【スタンプの印刷】** をタップします。次の図を参照してください。

- 完了したら、画面下部にあるボタンを使って、メインメニュー画面に戻るか、**[テキスト設定]**、**[色の設定]**、または **[パターンの設定]** を変更するか選択できます。
- ドキュメントに適用するセキュリティパターンに日付（必要であれば時間）を追加するには、**[日時の印刷]** をタップします。次の図を参照してください。

- 完了したら、画面下部にあるボタンを使って、メインメニュー画面に戻るか、**[テキスト設定]**、**[色の設定]**、または **[パターンの設定]** を変更するか選択できます。
- ドキュメントに適用するセキュリティパターンに[部数管理番号の印刷]を追加するには、**[その他を印刷]** をタップします。次の図を参照してください。

- 完了したら、画面下部にあるボタンを使って、メインメニュー画面に戻るか、**[テキスト設定]**、**[色の設定]**、または **[パターンの設定]** を変更するか選択できます。
- テキストのサイズを整えるには、**[テキスト設定]** をタップします。次の図を参照してください。

- 完了したら、画面下部にあるボタンを使って、メインメニュー画面に戻るか、**[色の設定]** または **[パターンの設定]** を変更するか選択できます。
- テキスト/背景の色を変更するには、**[色の設定]** をタップします。次の図を参照してください。

- 完了したら、画面下部にあるボタンを使って、メインメニュー画面に戻るか、**[テキスト設定]** または **[パターンの設定]** を変更するか選択できます。
- 背景のパターンとコントラストを変更するには、**[パターンの設定]** をタップします。次の図を参照してください。

- 完了したら、画面下部にあるボタンを使って、メインメニュー画面に戻るか 、**[テキスト設定]** または **[色の設定]** を変更するか選択できます。

プロダクションプリント

プロダクションプリントの概要

コニカミノルタのプロダクションプリント機能は、効率的で合理化されたドキュメントキャプチャプロセスを提供し、組織が既存のワークフローやプロセスを通じてジョブを手動で分離したり配信するなど、以前は時間がかかっていたタスクを自動化するのに役立ちます。

プロダクションプリントには、シンプルなワークフローとカスタムワークフローの両方に対応するさまざまな処理ツールが含まれています。印刷オペレーターは、簡単な面付けワークフローをすばやく簡単に設定して、Webサービスからファイルを自動的に収集し、手動で介入することなく正しい数量を面付けして印刷することができます。通常、完了までに10回以上のクリックが必要なプロセスが、プロダクションプリントワークフローを実行するのと同じくらい簡単になりました。

印刷ファイルを評価したり、カスタマイズするワークフローを作成できます。通常は、いくつかの手動の手順を伴うジョブを、ファイルのカラーコンテンツ、ページ数、使用可能なメタデータに基づいて自動的に処理したりルーティングできるようになりました。プリフライトはファイルを自動的にチェックし、トラブルシューティングを行いますが、JDFツールでは、別の準備完了または出力管理プラットフォームに転送される前に、ジョブチケット情報の変換、解析、および変更を行うことができます。

高度で、動的なジョブルーティング操作は、面付け、タブの作成、カラーバーの挿入、トリムマークなどの適切な処理タスクを介してファイルを送信します。プロダクションプリントは、次のような他のさまざまな宛先にドキュメントを送信することができます。

- フォルダー
- 印刷用のプロダクションプレス
- FTPおよびSFTPサーバー
- 電子メール受信者
- Microsoft SharePoint®等の一般的なドキュメント管理システム

次の表には、プロダクションプリントプロセスで使用されるさまざまな処理ノードへのリンクが含まれています。

ノード	説明
ブリードタブ: しおり	PDFしおりに基づいて、入力PDFファイルのすべてのページにブリードタブを追加します。
ブリードタブ: PDFマージ	指定された入力PDFファイルをメタデータに記載されているのと同じ順序でマージし、ファイル名をタブテキストとして各PDFファイルのすべてのページにブリードタブを追加します。
ブリードタブ: ユーザー指定	ユーザーの目的に応じて、入力PDFファイルのすべてのページにブリードタブを追加します。
背丁	面付けノードのメタデータとユーザー設定に基づいて、入力に背丁と背標を追加します。
カラーバー	入力ドキュメントの指定した場所に画像を挿入します。
カラールートベクターPDF	ユーザーが指定したカラーページの状態チェックの結果に基づいて、PDFドキュメントをYES/NO アウトバウンドコネクターにルーティングします。
PDFページクロップ	PDFドキュメントのページを指定されたサイズに切り抜きます。
PDFページ削除	メタデータに基づいて、PDFドキュメントから一定範囲のページを削除します。
PDFページ複製	PDFドキュメント内の指定されたページを複製します。
Excel解析	ユーザーの入力条件に基づいて、入力Excel/CSVドキュメントを解析し、ユーザーの条件チェックの結果に基づいてYES/NO アウトバウンドコネクターにルーティングします。
ギャンギング	コストと紙の無駄を減らすために、共通の用紙に複数の印刷ジョブを配置します。
面付け	印刷のコストを削減し、小冊子、名刺、グリーティングカードなどの作成を容易にするために、大判印刷が可能なデバイスで小さなフォーマットの複数のページを印刷します。
PDFページ挿入	PDFドキュメントのページまたは空のページを別のPDFドキュメントの指定された位置に挿入します。
ジョブチケットエディター	ユーザーからジョブチケット情報を取得し、メタデータに保存します。
ジョブチケット書出し: JDF	マッピングテーブルファイルを使用して、使用可能なメタデータ値でJDFファイルを作成、または更新します。
ジョブチケット書出し: JSON	マッピングテーブルファイルを使用して、使用可能なメタデータ値でJSONファイルを作成、または更新します。
ジョブチケット書出し: XML	マッピングテーブルファイルを使用して、使用可能なメタデータ値でXMLファイルを作成、または更新します。
ジョブチケット読込: CSV	Excelファイルのジョブ情報を解析してメタデータに保存します。
ジョブチケット読込: JDF	JDFファイルを解析し、マッピングテーブルファイルを使用して、ジョブチケット情報をメタデータに更新します。
ジョブチケット読込: JSON	JSONファイルを解析し、マッピングテーブルファイルを使用して、ジョブチケット情報をメタデータに更新します。
ジョブチケット読込: XML	XMLファイルを解析し、マッピングテーブルファイルを使用して、ジョブチケット情報をメタデータに更新します。
PDFページ移動	PDFドキュメント内の指定されたページを別の位置に移動します。
ページサイズルート	ユーザーが指定した条件チェック（標準ページ寸法/カスタム寸法）の結果に基づいて、PDFドキュメントをYES/NO アウトバウンドコネクターにルーティングします。
プリフライト	Acrobatバージョン互換性、全般、PDF規格準拠、PDF/A、PDF/E、PDF/X規格、デジタル印刷、入力ファイルへのプリプレスなどのさまざまなチェックを実行します。
PDFページリサイズ	PDFドキュメントのページを指定されたターゲットサイズにサイズ変更します。
PDFコンテンツ回転	PDFドキュメントのページを指定された角度で回転します。
PDFページシフト	PDFドキュメントのページのコンテンツを指定された量だけシフトします。
ブリードタブ: しおり	ブックマークしたすべてのページの前に、しおり名をタブテキストとしてタブシートを挿入します。
タブ: ユーザー指定	ユーザー指定のタブ情報を含むタブシートを挿入し、入力メタデータで使用できるようにします。
タブ: PDFマージ	入力PDFファイルをマージし、ファイル名をタブテキストとしてファイルの各最初のページの前にタブシートを挿入します。
タブ: ページシフト	指定したページをタブシートに変更し、その内容をユーザー定義の距離だけシフトします。
タブ: 作成済みタブの読込	入力タブページサイズを使用してPDF内のすべてのページを解析し、タブシート情報をメタデータに更新します。
トリムマーク	正確なPostPress作業を実行するために、PDFファイルにトリムマークを追加します。

ブリードタブ：しおりノード

注意: このノードはPDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しており、しおりがすでに含まれているPDFファイルで使用します。

ブリードタブ:しおりノードは、入力PDFファイルを取得し、タブ文字のメタデータを探します。このとき、ブリードタブは、しおり名をタブ文字とするすべてのページに追加されます。

PDFファイルには、以下の2種類のしおりがあります。

- **ページ飛び先しおり:** このしおりはPDFドキュメントのページ番号をポイントします。
- **名前付き飛び先しおり:** このしおりは、グローバルに定義された名前をポイントして、PDFドキュメント内の飛び先ページを参照します。

メタデータにブリードタブのページサイズが指定されていない場合は、入力PDFの最初のページのサイズがブリードタブのページサイズになります。ドキュメントのページサイズとブリードタブのページサイズが一致しない場合は、ブリードタブが適切に追加されないことがあります。そのため、複数のページサイズが混在するドキュメントでは、ブリードタブを正しく追加できないことがあります。

ブリードタブの数、**ブリードタブ文字**、**ブリードタブの高さ**、**ブリードタブの幅**、**ブリードタブのボーダーの幅**、**先頭マージン**、**空隙マージン**、**文字表示領域の高さの最小値**、および**文字表示領域**の空隙の各値を指定して、その指定による変化をプレビュー画面で確認できます。

このノードでは、以下の3つの、メタデータのキーと値のペアをサポートしています。

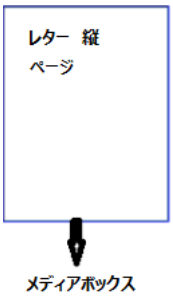
- **job:tab.paper.w**（オプション）:インデックス紙の**用紙幅**を指定します。
- **job:tab.paper.h**（オプション）:インデックス紙の**用紙高さ**を指定します。**用紙幅と高さ**は、一緒に設定する必要があります。これらの値が設定されていない場合、用紙サイズはPDFドキュメントの、最初のページのサイズに既定で設定されます。
- **job:printtype**（オプション）:［片面］または［両面］のいずれかの印刷タイプを指定します。この指定は、ドキュメントレベルのメタデータでのみ考慮されます。

ブリードタブの順序とドキュメントの用紙方向:ブリードタブの向きは、入力PDFファイルの最初のページの向きに既定で設定されます。最初のページが縦の場合、ブリードタブは縦になります。最初のページが横の場合は、ブリードタブは横になります。どちらの場合も、ノードの設定画面でブリードタブの順序を指定します。デフォルト値は、設定画面の**［ブリードタブの並び方向］**のオプションを使用して変更できます。

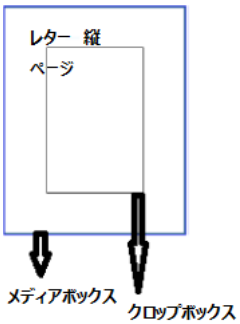
注意: PDFメディアボックス の設定によりページ境界が定義され、それに応じて **ブリードタブ** が追加されます。たとえば、レターPDFページ（8.5 x 11インチ）では、以下に示すように、上下左右が2インチクロップされます。

青い枠はPDFのメディアボックスを示しており、黒い枠はPDFページのクロップボックスを示しています。

元のページ



上下左右を2インチクロップ

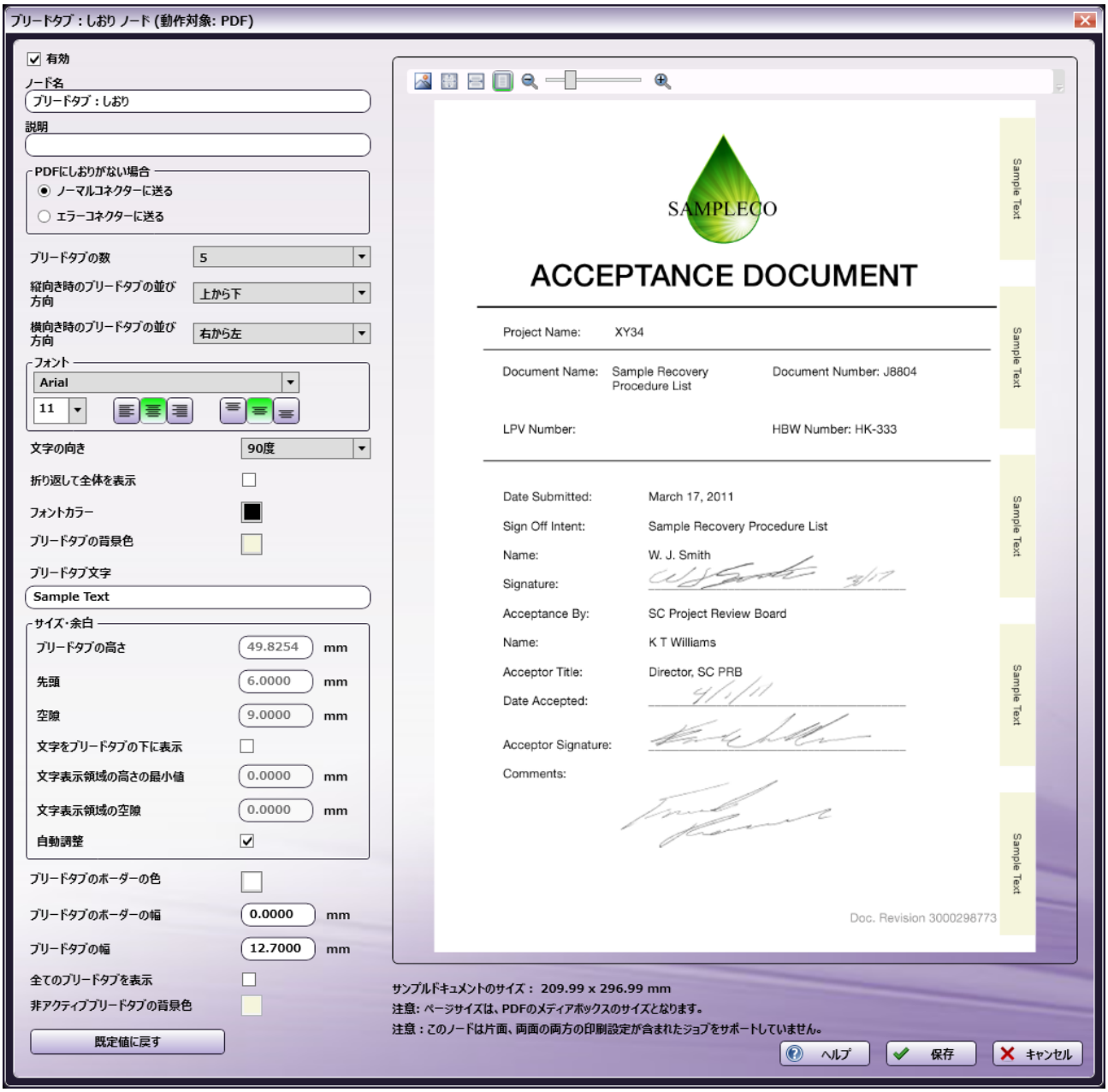


クロップ適用後のPDFページ

このノードは、ブリードタブの作成にメディアボックスの境界を使用します。作成されたブリードタブがクロップボックスの範囲外にある場合、そのブリードタブはPDFページに表示されません。そうしたドキュメントがプリンターに送られると、そのプリンターに基づく独自の設定（メディアボックスまたはクロップボックス）が使用されます。

ブリードタブ：しおりノードを使う

ブリードタブ：しおりノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ブリードタブ：しおり**ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、__[ブリードタブ：しおりノード]__ウィンドウが開きます。



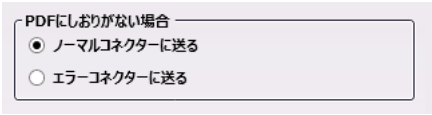
このウィンドウでは、ブリードタブと文字のプロパティを指定します。[プレビュー]パネルには、選択した設定でドキュメントがどのように印刷されるかを示すリアルタイムの画像が表示されます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。

- **[ノード名]** フィールドに、ブリードタブ：しおりノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、ブリードタブ：しおりノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

遷移の選択

ブリードタブ：しおりノードが、しおりを含まないPDFファイルを受け取った場合は、この設定を使用して、ファイルに対する処理内容をワークフローに指示します。



- **[ノーマルコネクターに送る]：** しおりがない場合でも、ファイルはワークフローの次のノードに送られ、通常どおり処理されます。
- **[エラーコネクターに送る]：** しおりの適用はジョブの処理に不可欠なため、しおりのないファイルはエラーフォルダーに移されます。これらのファイルは手動で処理する必要があります。

ブリードタブとそのテキストのプロパティの設定

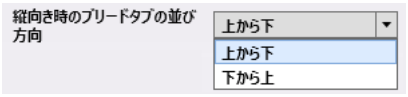
ブリードタブのプロパティとそのテキストのプロパティを構成ウィンドウで設定します。

[ブリードタブの数]

ドキュメントのブリードタブの数をドロップダウンから指定します。

[縦向き時のブリードタブの並び方向]

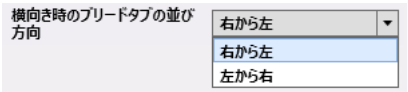
縦向きを使用してドキュメントの**ブリードタブ**の順序を指定します。



- **[上から下]：** ドキュメントの**用紙方向**が**縦**の場合、**ブリードタブ**は上から下に追加されます。
- **[下から上]：** ドキュメントの**用紙方向**が**縦**の場合、**ブリードタブ**は下から上に追加されます。

[横向き時のブリードタブの並び方向]

横向きを使用してドキュメントの**ブリードタブ**の順序を指定します。



- **[右から左]：** ドキュメントの**用紙方向**が**横**の場合、**ブリードタブ**は右から左に追加されます。
- **[左から右]：** ドキュメントの**用紙方向**が**横**の場合、**ブリードタブ**は左から右に追加されます。

ブリードタブ文字

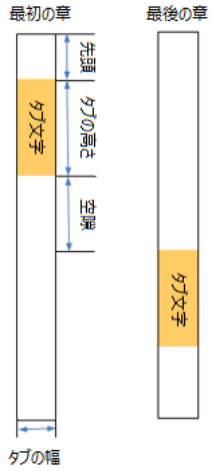
ブリードタブ文字の構成領域では、以下を指定します。

注意: タブ付きのドキュメントを印刷する場合、タブ領域に印刷するテキストは元のPDFファイルのしおりから取得されます。選択したフォントでサポートされていない日本語文字がこれらのしおりで使用されている場合、ノードではワークフローの[アクティビティログ]にエラーメッセージが表示され、ファイルはエラーフォルダーに移されます。

- **[フォント]**:フォント名とサイズをドロップダウンから選択します。最初のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの行端揃えを指定します(左端揃え、中央揃え、右端揃え)。2番目のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの配置を指定します(上中央、中央、下中央)。
- **[文字の向き]**:タブ領域でのタブ文字の垂直方向と水平方向の配置を、文字の向きを基準として指定します。
- **[折り返して全体を表示]**:このチェックボックスをオンにすると、ブリードタブ文字に折り返しが適用されます。
- **[フォントカラー]**:クリックして色の選択オプションを開いてから、フォントの色の値を選択します。
- **[ブリードタブの背景色]:** クリックして色の選択オプションを開いてから、ブリードタブの背景色の値を選択します。
- **[ブリードタブ文字]:** ここには、ブリードタブ文字のリアルタイムプレビューが表示されます。

注意:[ブリードタブ文字] フィールドに入力した値はビジュアルエイドとしてサンプルプレビューに表示されますが、印刷時の出力ジョブには影響しません。印刷される実際のタブデータはPDFのしおりから取得されます。

[サイズ・余白]



このフィールドでは、[ブリードタブの高さ]、[先頭]、および[空隙]のマージン値を指定します。**プレビュー**がリアルタイムで更新され、ドキュメントがどのように印刷されるかを確認できます。

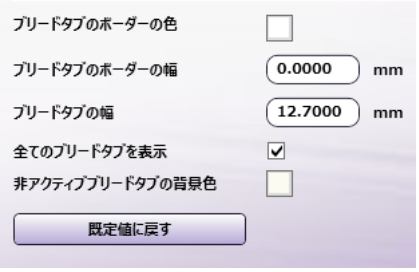
- **[ブリードタブの高さ]:** ブリードタブの高さを指定します。
- **[先頭]:** 先頭のマージン値を指定します。[先頭]はドキュメントの上端と最初のブリードタブとの間の距離を示します。
- **[空隙]:** 空隙のマージン値を指定します。[空隙]値はブリードタブ間の距離を示します。

- **[文字をブリードタブの下に表示]:** このチェックボックスをオンにすると、ブリードタブの下に文字が表示されるようになります。
- **[文字表示領域の高さの最小値]:** ブリードタブの外側にブリードタブ文字がある場合に、その文字を表示する領域の最小の高さを指定します。
- **[文字表示領域の空隙]:** ブリードタブ文字領域とブリードタブ領域との間の空隙の大きさを指定します。
- **[自動調整]:** [ブリードタブの数]を変更したときに[ブリードタブの高さ]、[先頭]および[空隙]の値を自動的に更新するかどうかを指定します。

注意: ドキュメントのページサイズとブリードタブのページサイズが一致しない場合、またはドキュメントのページサイズにばらつきがある場合は、ブリードタブが適切に追加されないことがあります。

注意:ブリードタブのテキストが長すぎてテキストフィールドに表示しきれない場合は、選択したテキストの配置(縦方向または横方向)に基づいて、文字の一部が非表示になります。

ブリードタブ



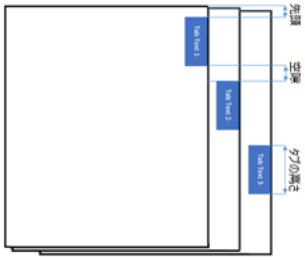
- **[ブリードタブのボーダーの色]:** クリックして色の選択オプションを開き、ブリードタブのボーダーに適用する色の値を選択します。
- **[ブリードタブのボーダーの幅]:** ブリードタブのボーダーの幅
- **[ブリードタブの幅]:** ブリードタブの幅
- **[全てのブリードタブを表示]:** このチェックボックスをオンにすると、各ページにすべてのブリードタブが表示されるようになります。

注意: この設定に基づいて、各ページには1つまたはすべてのブリードタブが表示されます。**[全てのブリードタブを表示]** 設定を選択すると、アクティブなブリードタブは他のブリードタブと異なる色で表示されます。

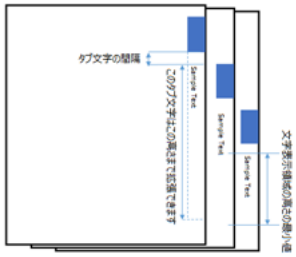
- **[非アクティブブリードタブの背景色]:** 無効になっているブリードタブに適用する色を選択します。

[文字をブリードタブの下に表示] と **[全てのブリードタブを表示]** の設定値に応じて、次の4種類の方法でブリードタブを表示できます。

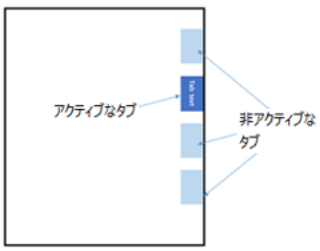
<表示 1>
[文字をブリードタブの下に表示]と**[全てのブリードタブを表示]**の両方を無効にした場合



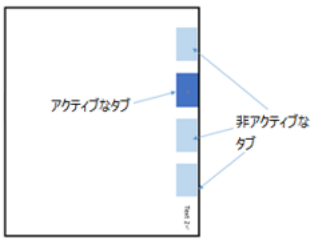
<表示 2>
[文字をブリードタブの下に表示]を有効にして、**[全てのブリードタブを表示]**を無効にした場合



<表示 3>
[文字をブリードタブの下に表示]を無効にして、**[全てのブリードタブを表示]**を有効にした場合



<表示 4>
[文字をブリードタブの下に表示]と**[全てのブリードタブを表示]**の両方を有効にした場合



[既定値に戻す]

ブリードタブの設定をすべて既定値に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを使用します。

印刷タイプの処理

ブリードタブの位置は、ドキュメントレベルの入力メタデータの**印刷タイプ**に基づいて決まります。

[向き]と[印刷タイプ]	[縦]	[横]
[片面]	ブリードタブがページの右に追加されます。	ブリードタブがページの下に追加されます。
[両面]	ブリードタブが、奇数ページでは右に、偶数ページでは左に追加されます。	ブリードタブが、奇数ページでは下に、偶数ページでは上に追加されます。

注意:入力メタデータにドキュメントレベルの印刷タイプの値が含まれていない場合、ブリードタブ:しおりノードは、印刷タイプのデフォルト値One-Sidedをこのジョブに適用します。ドキュメントレベルとページレベルの印刷タイプ入力メタデータ値の不一致が検出されると、ブリードタブ:しおりノードではアクティビティログにメッセージが表示され、PDFドキュメントがこのノードのエラーフォルダーに送られます。

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

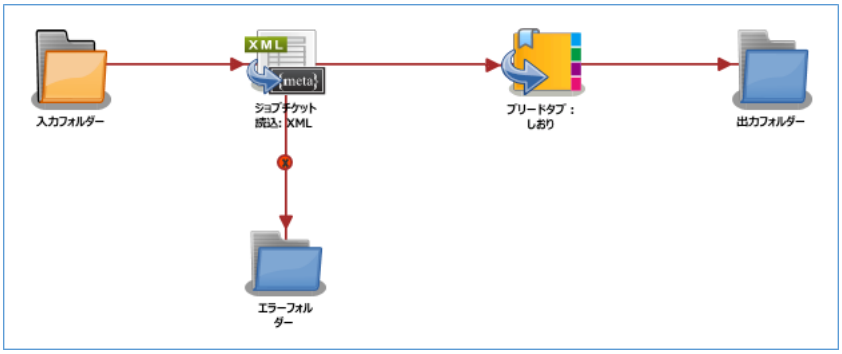
ツールバーのアイコン	説明
	[イメージ]アイコン。サンプルプレビューのイメージを変更するには、このアイコンをクリックします。PNG、JPEG、PDF 形式だけがサポートされています。サポートされているイメージの表示サイズは、A3/A4/A5/A6/B4/B5/B6/はがき/SRA3/SRA4/ISO B4/ISO B5/ISO B6/12X18/8 1/8X13 1/4 / 8 1/4 X13/8 1/2 X13/8X13/ハーフレター/リーガル/レター/タブロイド/13X19/9X11/8K/16Kです。
	[実際のサイズ(100%)]アイコン。プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン。プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体]アイコン。このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	ズームコントロール。拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大/縮小します。

ブリードタブ:しおりワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、XMLファイルを受け取って、ジョブチケットをXMLメタデータに解析し、XMLジョブチケットのしおり名をタブ文字とするブリードタブをすべてのページに追加することです。変更されたファイルは出力フォルダーに送信されます。

注意:このノードは、キー名が「Job」のメタデータ出力を生成します。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。



入力フォルダーノード:XMLジョブチケットを集めて、ジョブチケット読込:XMLノードに送るように入力フォルダーを構成します。送られるジョブチケットファイルには、ジョブチケットの属性情報が含まれています。これらのファイルにはブリードタブ情報も含まれています。このブリードタブ情報は、ブリードタブがブリードタブ:しおりノードに追加されるときに使用されます。以下に、ブリードタブ情報を含むサンプルのジョブチケットを示します。

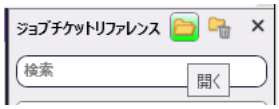
```
<Ticket>
    <PrintType>Double-Sided</PrintType>
    <Bleed>
        <Width>8.5</Width>
        <Height>11</Height>
    </Bleed>
    <Paper>
        <Unit>inch</Unit>
    </Paper>
    <File>file</File>
    <Src>C:\\test files\\10Pages_Letter.pdf</Src>
</Ticket>
```

ジョブチケット読込:XMLノード:ドキュメントがXMLとしてフォーマットされている場合、そのXML情報はジョブチケットメタデータに変換され、ワークフローの次のノードに送られます。ドキュメントがXMLとしてフォーマットされていない場合、そのドキュメントは**エラーフォルダー**に移されます。

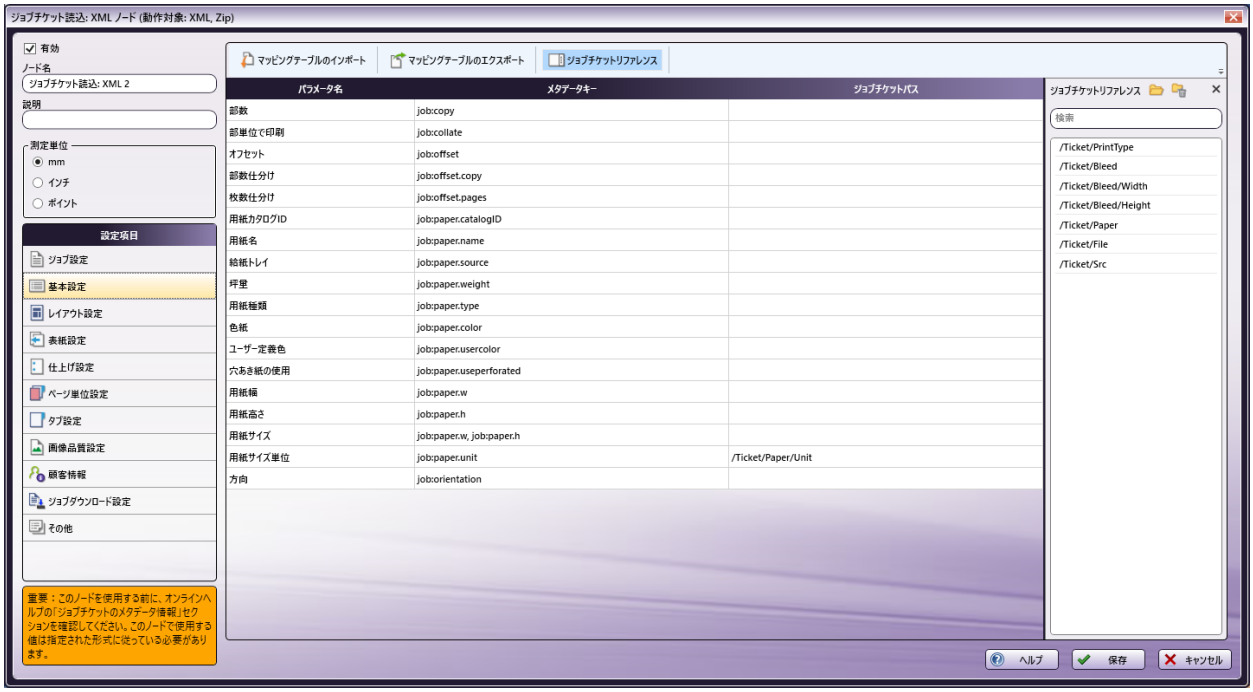
以下の手順に従って、XMLジョブチケットをマップします。

1. テキストエディターを使用して、上記のサンプルジョブチケットのサンプルXMLコードをコピーします。
2. XML_BleedTabs_Bookmark.XMLとしてファイルをローカルに保存します。
3. **ジョブチケット読込:XML**ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。
4. 左側のパネルで、次の値を設定します。
   - **[有効]** チェックボックス:オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
   - **[ノード名]**:ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
   - **[測定単位]**:ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。

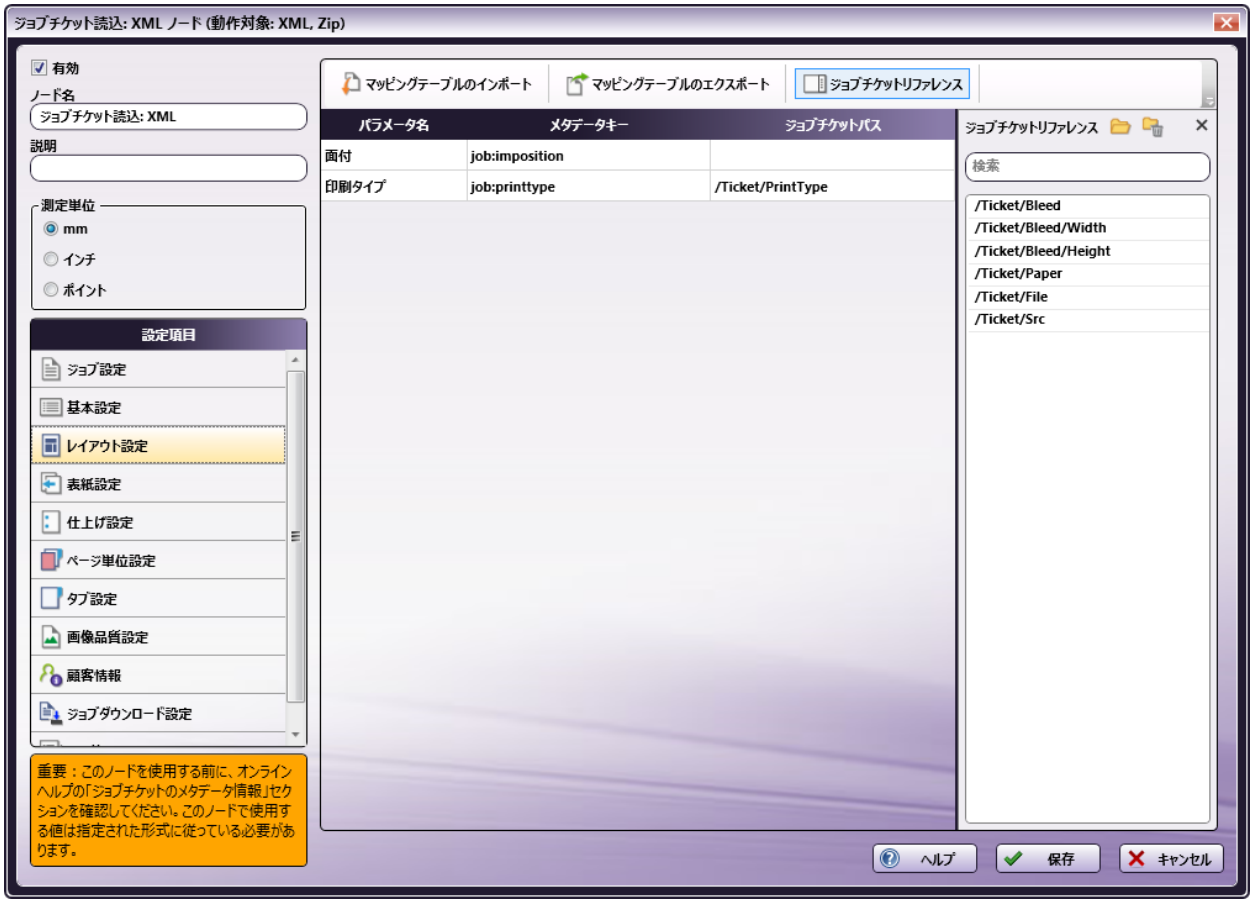
   注意: 前述のジョブチケット(XML_BleedTabs_Bookmarks.XML)は、用紙サイズがインチで示されています。
5. **[ジョブチケットリファレンス]** パネル(右端)で、**[開く]** アイコンを見つけます。



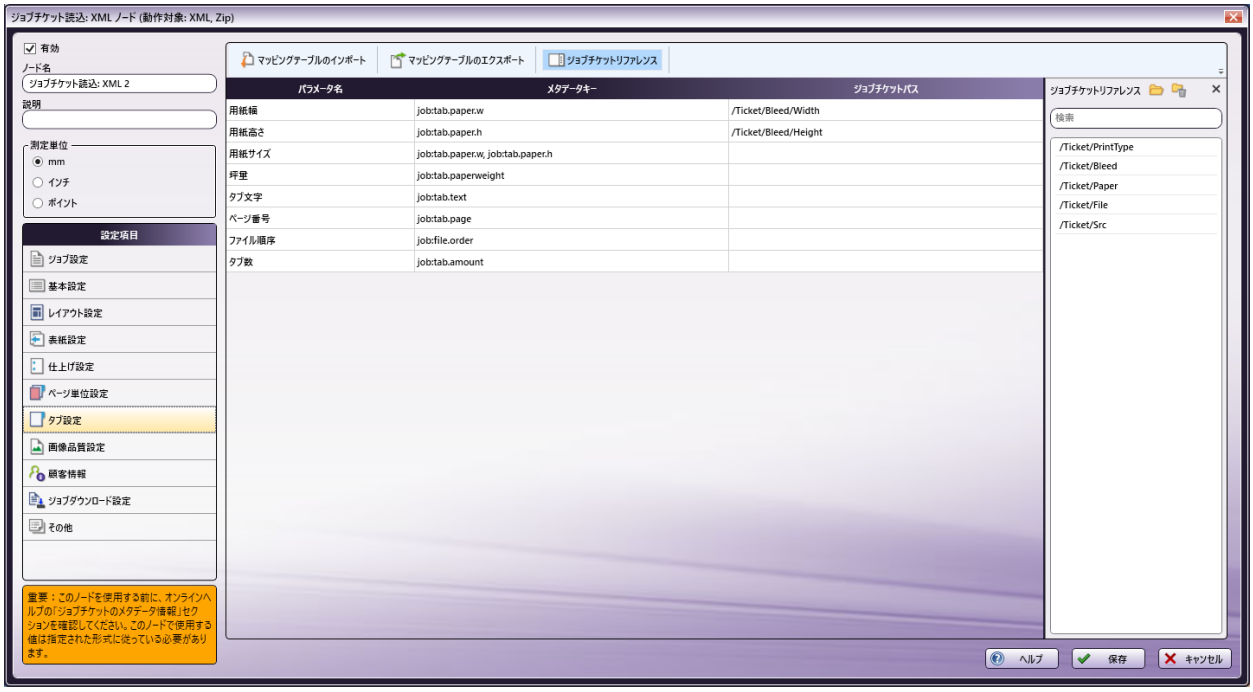
6. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順2で保存したファイル(XML_BleedTab_Bookmark.XML)に移動して選択します。
7. ファイルが開くと、その内容(XPath)が **[ジョブチケットリファレンス]** パネル(右端)に表示されます。
8. **[設定項目]** パネル(左端)で、**[基本設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



9. **[用紙サイズ単位]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Paper/Unit** をドラッグアンドドロップします。
10. **[設定項目]** パネル(左端)で、**[レイアウト設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。

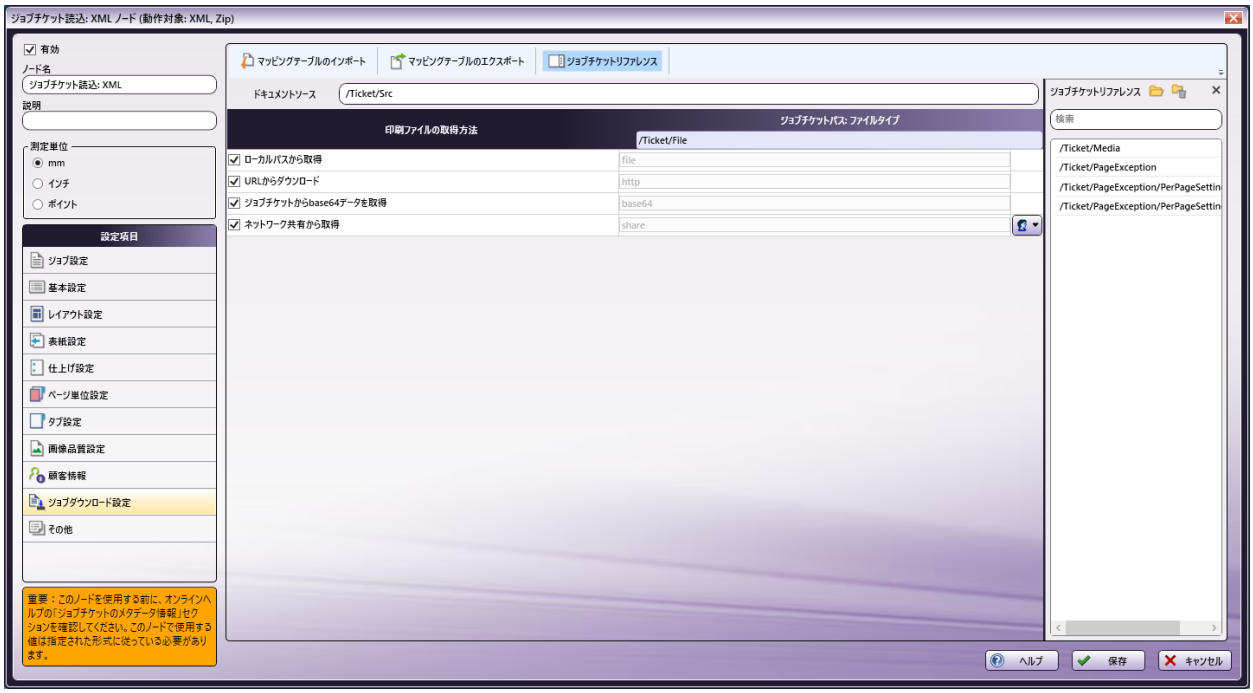


11. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
12. **[印刷タイプ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Print/Type** をドラッグアンドドロップします。
13. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[タブ設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



14. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
15. **[用紙幅]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Bleed/Width** をドラッグアンドドロップします。
16. **[用紙高さ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Bleed/Height** をドラッグアンドドロップします。

17. **[設定項目]** パネル（左端）で、__[ジョブダウンロード設定]__オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]** および **[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドと **[印刷ファイルの取得方法]** チェックボックスがメインパネルに表示されます。



18. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有から取得]** の4つのオプションのチェックボックスをすべてオンにします。
19. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/Ticket/Src** をドラッグアンドドロップします。
20. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドに **/Ticket/File** をドラッグアンドドロップします。
21. これまでの操作が完了すると、上の画像のような画面が表示されます。
22. **[保存]** をクリックして、変更をノードに適用します。

ブリードタブ:しおり: ブリードタブ:しおりノードは、XML_BleedTabs_Bookmarks.XMLにあるタブ文字のメタデータに基づいて、ブリードタブを入力ドキュメントに追加します。

あるファイルがノードに入力される場合を例にして、どのような処理が行われるかを説明します。このファイルは10ページで構成されています。ページ2とページ6にそれぞれしおりが割り当てられています。出力ファイルで、このノードは、最初のしおりに対してページ2～5にブリードタブを配置します。さらに、2番目のしおりに対してページ6～10にブリードタブを配置します。

出力フォルダーノード: ドキュメント（更新されたブリードタブを含む）は、**出力フォルダー**ノードで構成されるフォルダーパスに配置されます。

ブリードタブ:PDFマージノード

ブリードタブ：PDFマージ

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

ブリードタブ:PDFマージノードを使用すると指定したファイルがマージされ、各ファイルの先頭にブリードタブが追加されます。元の3つのドキュメント（例:1.PDF、2.PDF、3.PDF）を1つのファイルにマージすると、マージする最初のPDFファイルの名前である「1.PDF」がその結合PDFファイルのデフォルト名として割り当てられます。マージ前のそれぞれのファイル名がブリードタブに表示されるテキストとして使用されるため、この例のブリードタブ文字は、1.PDF、2.PDF、および3.PDFとなります。

メタデータにブリードタブのページサイズが指定されていない場合は、入力PDFの最初のページのサイズがブリードタブのページサイズになります。ドキュメントのページサイズとブリードタブのページサイズが一致しない場合は、ブリードタブが適切に追加されないことがあります。そのため、複数のページサイズが混在するドキュメントでは、ブリードタブを正しく追加できないことがあります。

ブリードタブの数、**ブリードタブの高さ**、**ブリードタブの幅**、**ブリードタブのボーダーの幅**、**先頭マージン**、**空隙マージン**、**文字表示領域の高さの最小値**、および **文字表示領域の空隙**の各値を指定して、その指定による変化をプレビュー画面で確認できます。

このノードでは、以下の4つの、メタデータのキーと値のペアをサポートしています。

- **job:file.order**（必須）:ファイルパスのリストを指定します。リストでの順序に基づいてファイルがマージされます。
- **job:tab.paper.w**（オプション）:インデックス紙の**用紙幅**を指定します。
- **job:tab.paper.h**（オプション）:インデックス紙の**用紙高さ**を指定します。**用紙幅と高さ**は、一緒に設定する必要があります。これらの値が設定されていない場合、用紙サイズはマージされたPDFファイルの、最初のページのサイズに既定で設定されます。

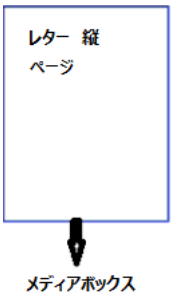
- **job:printtype**（オプション）：［片面］または［両面］のいずれかの印刷タイプを指定します。この指定は、ドキュメントレベルのメタデータでのみ考慮されます。

ブリードタブの順序とドキュメントの用紙方向： ブリードタブの向きは、入力PDFファイルの最初のページの向きに既定で設定されます。最初のページが**縦** の場合、ブリードタブは**縦**になります。最初のページが**横**の場合、ブリードタブは**横**になります。デフォルト値は、設定画面の**［ブリードタブの並び方向］**のオプションを使用して変更できます。

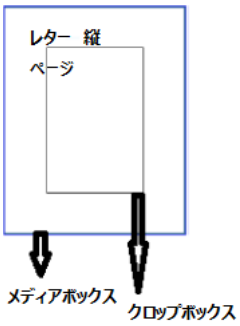
注意：PDFメディアボックスの設定によりページ境界が定義され、それに応じて**タブ**が追加されます。たとえば、レターPDFページ（8.5 x 11インチ）では、以下に示すように、上下左右が2インチクロップされます。

青い枠はPDFページのメディアボックスを示しており、黒い枠はPDFページのクロップボックスを示しています。

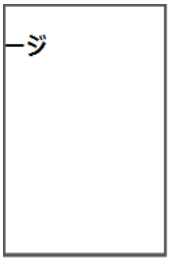
元のページ



上下左右を2インチクロップ



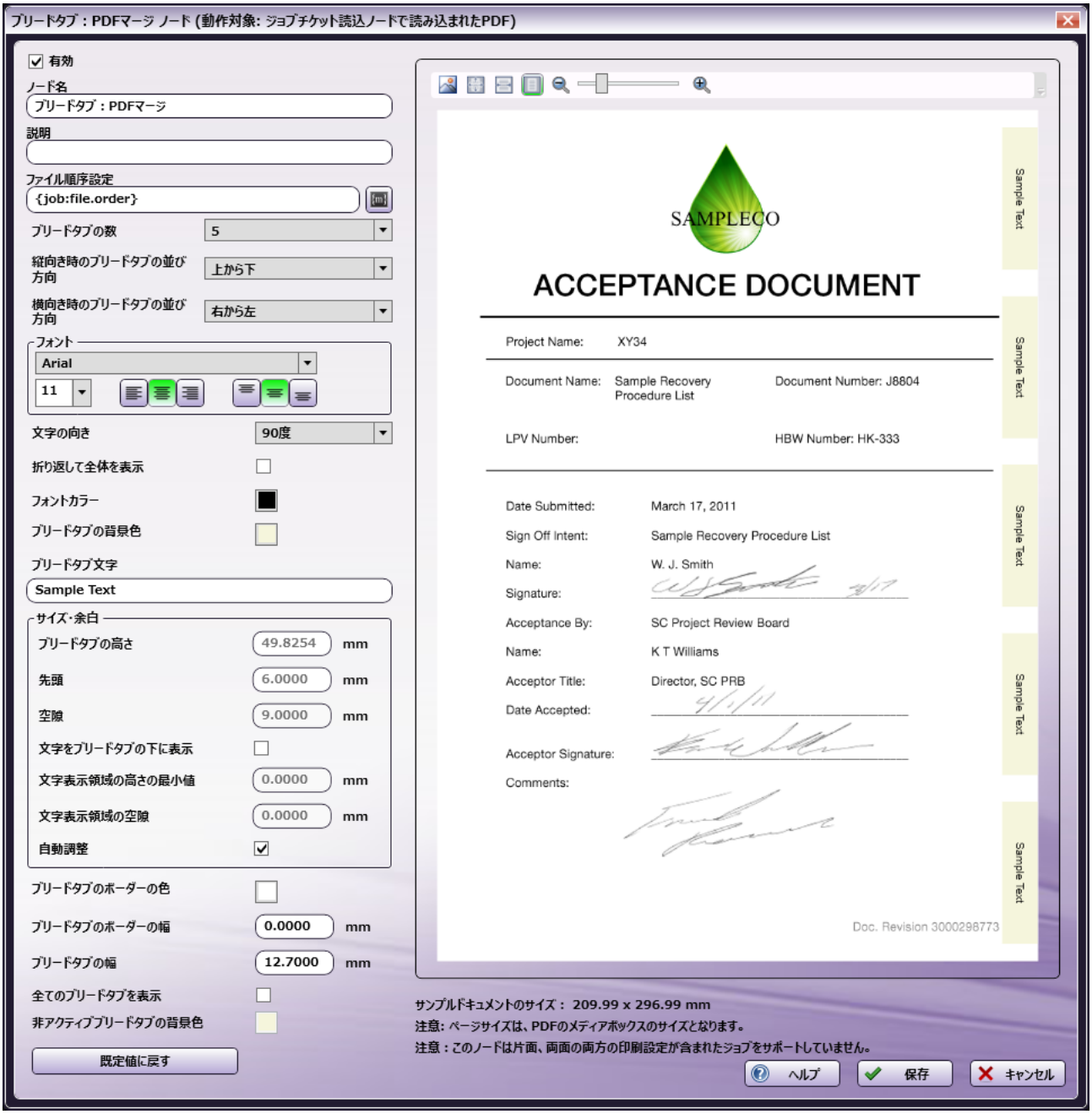
クロップ適用後のPDFページ



このノードは、ブリードタブの作成にメディアボックスの境界を使用します。作成したブリードタブがクロップボックスの範囲外にある場合、そのブリードタブはPDFページに表示されません。そうしたドキュメントがプリンターに送られると、そのプリンターに基づく独自の設定（メディアボックスまたはクロップボックス）が使用されます。

ブリードタブ：PDFマージノードを使う

ブリードタブ：PDFマージノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ブリードタブ：PDFマージ**ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**［ブリードタブ：PDFマージノード］**ウィンドウが開きます。



このウィンドウでは、ブリードタブと文字のプロパティを指定します。[プレビュー]パネルには、選択した設定でドキュメントがどのように印刷されるかを示すリアルタイムの画像が表示されます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、ブリードタブ：マージPDFノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、ブリードタブ：マージPDFノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- • オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

[ファイル順序設定]

[ファイル順序設定] にメタデータ入力を指定します。

メタデータの参照ボタン（ ）をクリックし、メタデータキーを[ファイル順序設定]フィールドにドラッグアンドドロップします。メタデータキーは手動で入力することもできます。

ブリードタブとそのテキストのプロパティの設定

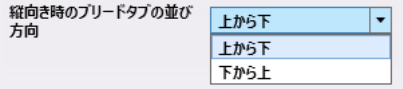
ブリードタブのプロパティとそのテキストのプロパティを構成ウィンドウで設定します。

[ブリードタブの数]

ドキュメントのブリードタブの数をドロップダウンから指定します。

[縦向き時のブリードタブの並び方向]

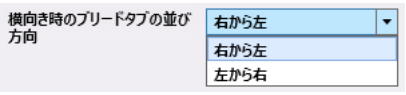
縦向きを使用してドキュメントの**ブリードタブ**の順序を指定します。



- **[上から下]**:ドキュメントの**用紙方向**が **縦**の場合、**ブリードタブ**は上から下に追加されます。
- **[下から上]**:ドキュメントの**用紙方向**が **縦**の場合、**ブリードタブ**は下から上に追加されます。

[横向き時のブリードタブの並び方向]

横向きを使用してドキュメントの**ブリードタブ**の順序を指定します。



- **[右から左]**:ドキュメントの**用紙方向**が **横の**場合、**ブリードタブ**は右から左に追加されます。
- **[左から右]**:ドキュメントの**用紙方向**が **横**の場合、**ブリードタブ**は左から右に追加されます。

[ブリードタブ文字]

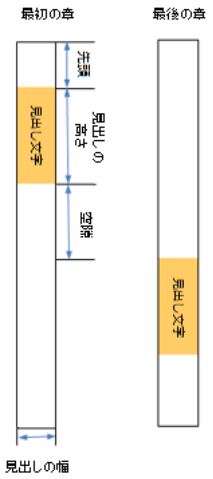
ブリードタブ文字の構成領域では、以下を指定します。

注意: タブ付きのドキュメントを印刷する場合、タブ領域に印刷するテキストは元のPDFファイルの名前から取得されます。選択したフォントでサポートされていない日本語文字がこれらの名前で使用されている場合、ノードではワークフローの[アクティビティログ]にエラーメッセージが表示され、ファイルはエラーフォルダーに移されます。

- **[フォント]**:フォント名とサイズをドロップダウンから選択します。最初のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの行端揃えを指定します(左端揃え、中央揃え、右端揃え)。2番目のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの配置を指定します(上中央、中央、下中央)。
- **[文字の向き]**:タブ領域でのタブ文字の垂直方向と水平方向の配置を、文字の向きを基準として指定します。
- **[折り返して全体を表示]**:このチェックボックスをオンにすると、ブリードタブ文字に折り返しが適用されます。
- **[フォントカラー]**:クリックして色の選択オプションを開いてから、フォントの色の値を選択します。
- **[ブリードタブの背景色]**:クリックして色の選択オプションを開いてから、ブリードタブの背景色の値を選択します。
- **[ブリードタブ文字]**:ここには、ブリードタブ文字のリアルタイムプレビューが表示されます。

注意:[ブリードタブ文字] フィールドに入力した値はビジュアルエイドとしてサンプルプレビューに表示されますが、印刷時の出力ジョブには影響しません。印刷される実際のタブデータは、入力PDFファイルのファイル名から取得されます。

[サイズ・余白]



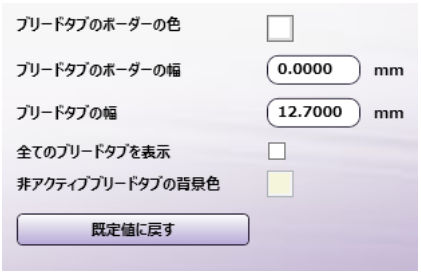
このフィールドでは、[ブリードタブの高さ]、[先頭]、および[空隙]のマージン値を指定します。**プレビュー**がリアルタイムで更新され、ドキュメントがどのように印刷されるかを確認できます。

- **[ブリードタブの高さ]:** ブリードタブの高さを指定します。
- **[先頭]:** 先頭のマージン値を指定します。[先頭]はドキュメントの上端と最初のブリードタブとの間の距離を示します。
- **[空隙]:** 空隙のマージン値を指定します。[空隙]値はブリードタブ間の距離を示します。
- **[文字をブリードタブの下に表示]:** このチェックボックスをオンにすると、ブリードタブの下に文字が表示されるようになります。
- **[文字表示領域の高さの最小値]**:ブリードタブの外側にブリードタブ文字がある場合に、その文字を表示する領域の最小の高さを指定します。
- **[文字表示領域の空隙]**:ブリードタブ文字領域とブリードタブ領域との間の空隙の大きさを指定します。
- **[自動調整]**:[ブリードタブの数]を変更したときに[ブリードタブの高さ]、[先頭]および[空隙]の値を自動的に更新するかどうかを指定します。

注意: ドキュメントのページサイズとブリードタブのページサイズが一致しない場合、またはドキュメントのページサイズにばらつきがある場合は、ブリードタブが適切に追加されないことがあります。

注意: ブリードタブのテキストが長すぎてテキストフィールドに表示しきれない場合は、選択したテキストの配置(縦方向または横方向)に基づいて、文字の一部が非表示になります。

ブリードタブ



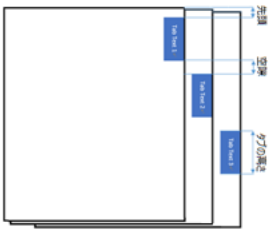
- **[ブリードタブのボーダーの色]**:クリックして色の選択オプションを開き、ブリードタブのボーダーに適用する色の値を選択します。
- **[ブリードタブのボーダーの幅]**:ブリードタブのボーダーの幅
- **[ブリードタブの幅]**:ブリードタブの幅
- **[全てのブリードタブを表示]**:このチェックボックスをオンにすると、すべてのページにすべてのブリードタブが表示されるようになります。

注意: この設定に基づいて、各ページには1つまたはすべてのブリードタブが表示されます。**[全てのブリードタブを表示]** 設定を選択すると、アクティブなブリードタブは他のブリードタブと異なる色で表示されます。

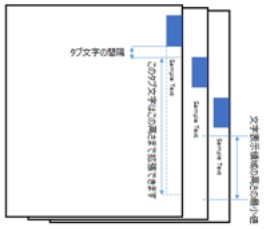
- **[非アクティブブリードタブの背景色]**：無効になっているブリードタブに適用する色を選択します。このオプションは、**[全てのブリードタブを表示]** オプションが選択されているときにだけ適用されます。

[文字をブリードタブの下に表示] と **[全てのブリードタブを表示]** の設定値に応じて、次の4種類の方法でブリードタブを表示できます。

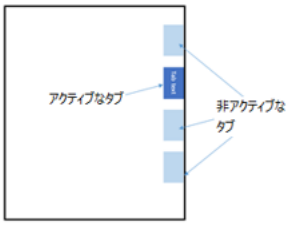
<表示 1>
[文字をブリードタブの下に表示]と**[全てのブリードタブを表示]**の両方を無効にした場合



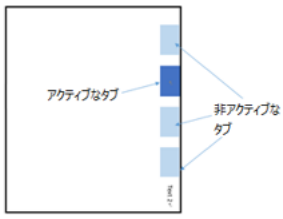
<表示 2>
[文字をブリードタブの下に表示]を有効にして、**[全てのブリードタブを表示]**を無効にした場合



<表示 3>
[文字をブリードタブの下に表示]を無効にして、**[全てのブリードタブを表示]**を有効にした場合



<表示 4>
[文字をブリードタブの下に表示]と**[全てのブリードタブを表示]**の両方を有効にした場合



[既定値に戻す]

ブリードタブの設定をすべて既定値に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを使用します。

印刷タイプの処理

ブリードタブの位置は、ドキュメントレベルの入力メタデータの**印刷タイプ**に基づいて決まります。

[向き]と[印刷タイプ]	[縦]	[横]
[片面]	ブリードタブがページの右に追加されます。	ブリードタブがページの下に追加されます。
[両面]	ブリードタブが、奇数ページでは右に、偶数ページでは左に追加されます。	ブリードタブが、奇数ページでは下に、偶数ページでは上に追加されます。

注意: 入力メタデータにドキュメントレベルの**印刷タイプ**の値が含まれていない場合、ブリードタブ:PDFマージノードは、**印刷タイプ**のデフォルト値**One-Sided**をこのジョブに適用します。ドキュメントレベルとページレベルの**印刷タイプ**入力メタデータ値の不一致が検出されると、ブリードタブ:PDFマージノードではアクティビティログにメッセージが表示され、PDFドキュメントがこのノードのエラーフォルダーに送られます。

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

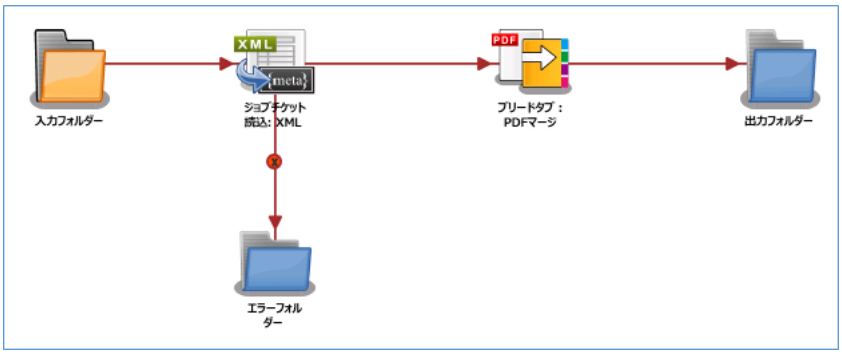
ツールバーのアイコン	説明
	[イメージ] アイコン。サンプルプレビューのイメージを変更するには、このアイコンをクリックします。PNG、JPEG、PDF形式だけがサポートされています。サポートされているイメージの表示サイズは、A3、A4、A5、A6、B4、B5、B6、はがき、SRA3、SRA4、ISO B4、ISO B5、ISO B6、12X18、8 1/8X13 1/4、8 1/4 X13、8 1/2 X13、8X13、ハーフレター、リーガル、レター、タブロイド、13X19、9X11、8K、16Kです。
	[実際のサイズ(100%)] アイコン。プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる] アイコン。プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体] アイコン。このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	ズームコントロール。拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大／縮小します。

ブリードタブ：PDFマージワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、複数のファイルを受け取ってマージし、ジョブチケットをXMLメタデータに解析し、マージしたファイルにブリードタブを追加することです。ブリードタブは、マージされた各ファイルの開始場所に追加されます。ブリードタブの名前は章名から取得されます。変更されたファイルは出力フォルダーに送信されます。

注意： このノードは、キー名が「Job」のメタデータ出力を生成します。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。



入力フォルダーノード： XMLジョブチケットを集めて、ワークフローの**ジョブチケット読込：XML**ノードに送るように入力フォルダーを構成します。送られるXMLジョブチケットファイルには、ジョブチケットの属性情報が含まれています。さらに、送信されたファイルの処理順序も含まれています。この順序設定は、**ブリードタブ：PDFマージ**ノードでファイルがマージされるときに使用されます。以下に、ファイル順序設定を含むサンプルのジョブチケットを示します。

```
<Ticket>
    <PrintType>Double-Sided</PrintType>
    <File>file</File>
    <Src>C:\\test files\\1.pdf</Src>
    <Bleed>
        <Width>8.5</Width>
        <Height>11</Height>
        <Order>1.pdf</Order>
        <Order>C:\\test files\\2.pdf</Order>
        <Order>C:\\test files\\3.pdf</Order>
    </Bleed>
    <Paper>
        <Unit>inch</Unit>
    </Paper>
</Ticket>
```

ジョブチケット読込：XMLノード： ドキュメントがXMLとしてフォーマットされている場合、そのXML情報はジョブチケットメタデータに変換され、ワークフローの次のノードに送られます。ドキュメントがXMLとしてフォーマットされていない場合、そのドキュメントは**エラーフォルダー**に移されます。

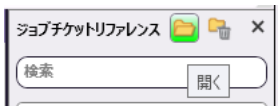
以下の手順に従って、XMLジョブチケットをマップします。

1. テキストエディターを使用して、上記のサンプルジョブチケットのサンプルXMLコードをコピーします。
2. XML_BleedTabs_Merge_PDFs.XMLとしてファイルをローカルに保存します。
3. **ジョブチケット読込：XML**ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。
4. 左側のパネルで、次の値を設定します。
    - **[有効]** チェックボックス：オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
    - **[ノード名]：** ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。

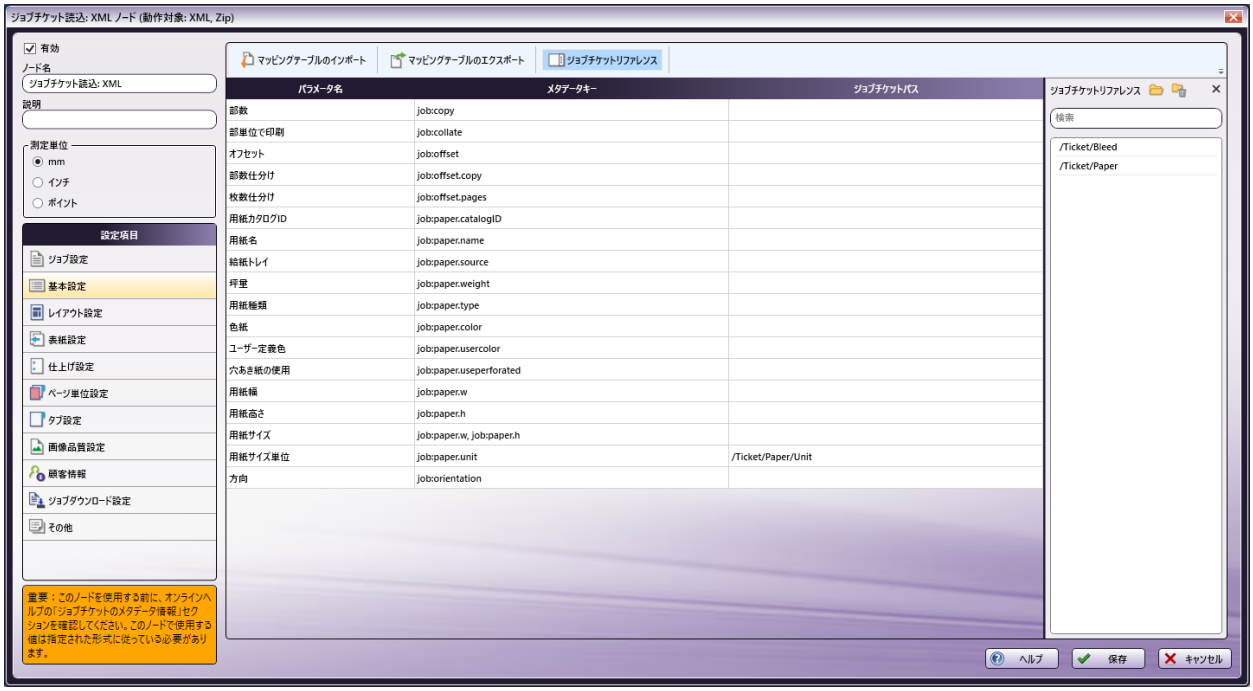
- **［測定単位］:** ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。

注意: 前述のジョブチケット（XML_BleedTabs_Merge_PDFs.XML）は、用紙サイズがインチで示されています。

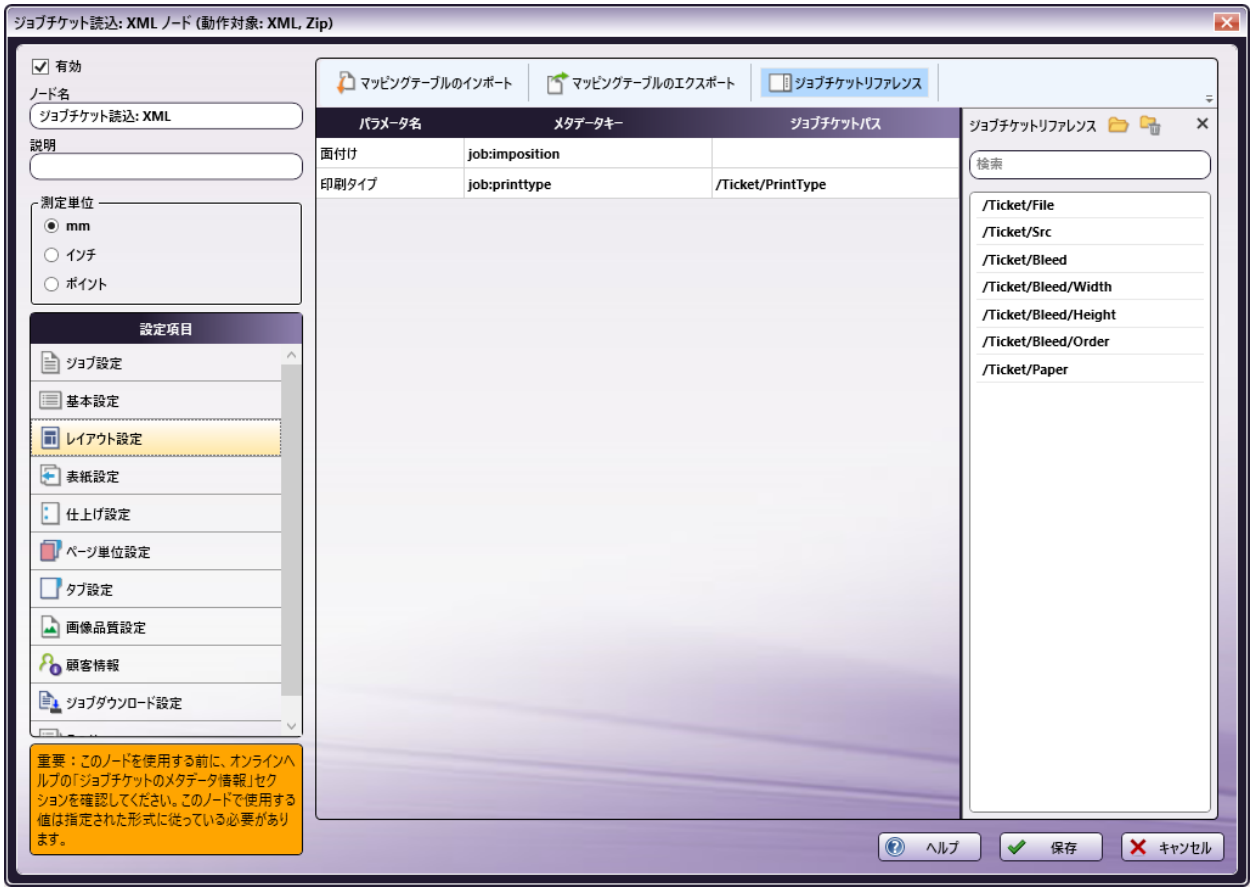
5. **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）で、**［開く］** アイコンを見つけます。



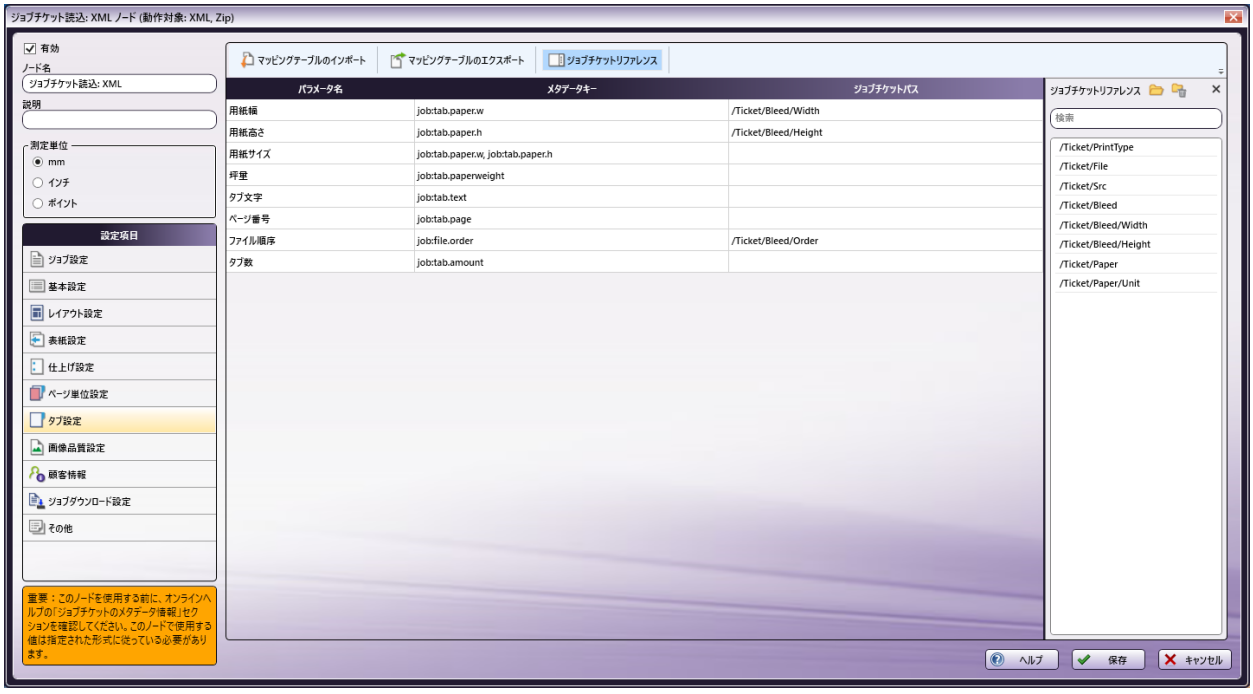
6. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順2で保存したファイル（XML_BleedTab_Merge.XML）に移動して選択します。
7. ファイルが開くと、その内容（XPath）が **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）に表示されます。
8. **［設定項目］** パネル（左端）で、**［基本設定］** をクリックします。**［パラメータ名］**、**［メタデータキー］**、および **［ジョブチケットパス］** 列がメインパネルに表示されます。



9. **［用紙サイズ単位］** 行の **［ジョブチケットパス］** セルに **/Ticket/Paper/Unit** をドラッグアンドドロップします。
10. **［設定項目］** パネル（左端）で、**［レイアウト設定］** をクリックします。**［パラメータ名］**、**［メタデータキー］**、および **［ジョブチケットパス］** 列がメインパネルに表示されます。



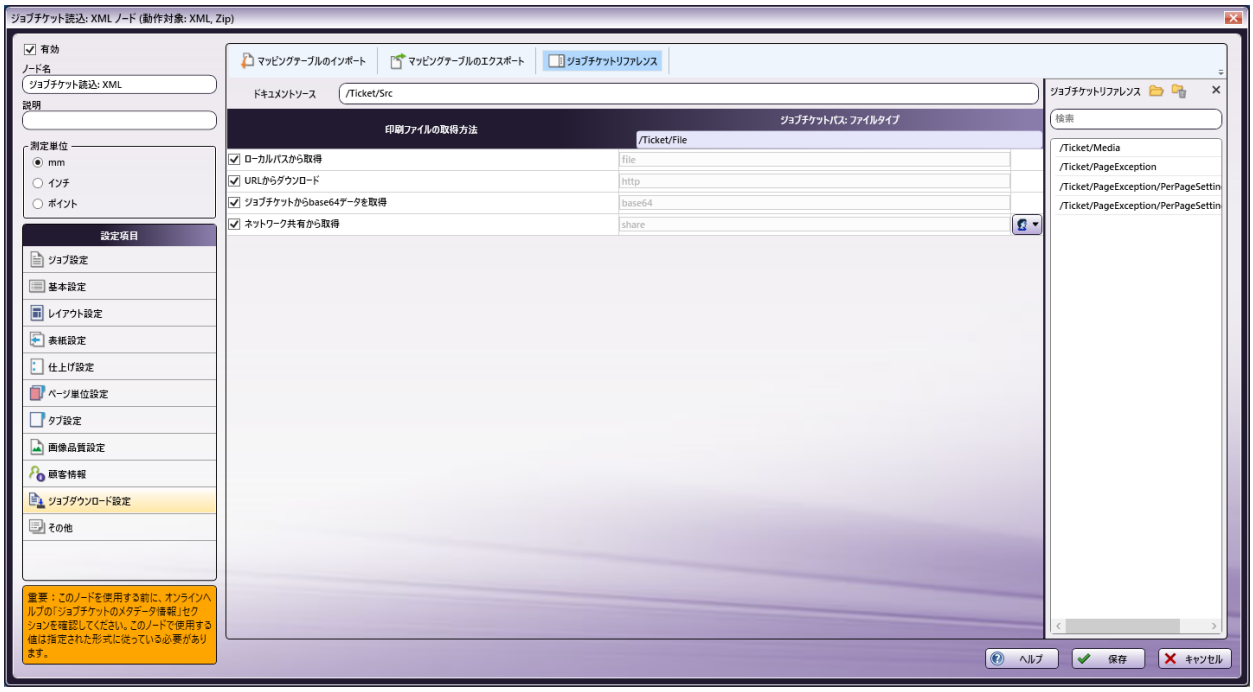
11. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
12. **[印刷タイプ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Print/Type** をドラッグアンドドロップします。
13. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[タブ設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



14. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
15. **[用紙幅]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Bleed/Width**をドラッグアンドドロップします。
16. **[用紙高さ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Bleed/Height**をドラッグアンドドロップします。

17. **［ファイル順序］**行の**［ジョブチケットパス］**セルに**/Ticket/Bleed/Order**をドラッグアンドドロップします。

18. **［設定項目］**パネル（左端）で、**［ジョブダウンロード設定］**オプションをクリックします。**［ドキュメントソース］**および**［ジョブチケットパス：ファイルタイプ］**フィールドと**［印刷ファイルの取得方法］**チェックボックスがメインパネルに表示されます。



19. **［印刷ファイルの取得方法］**列で、**［ローカルパスから取得］**、**［URLからダウンロード］**、**［ジョブチケットからbase64データを取得］**、**［ネットワーク共有から取得］**の4つのオプションのチェックボックスをすべて選択します。

20. **［ジョブチケットリファレンス］**パネルから、**［ドキュメントソース］**フィールドに**/Ticket/Src**をドラッグアンドドロップします。

21. **［ジョブチケットリファレンス］**パネルから、**［ジョブチケットパス：ファイルタイプ］**フィールドに**/Ticket/File**をドラッグアンドドロップします。

22. これまでの操作が完了すると、上の画像のような画面が表示されます。

23. **［保存］**をクリックして、変更をノードに適用します。

ブリードタブ:PDFマージノード:ブリードタブ:PDFマージノードを使用すると、選択したファイルをマージして、それぞれのマージ済みファイルの初めにブリードタブを追加できます。元の3つのドキュメント（例：1.PDF、2.PDF、3.PDF）を1つのファイルにマージすると、マージする最初のPDFファイルの名前である「1.PDF」がその結合PDFファイルのデフォルト名として割り当てられます。マージ前のそれぞれのファイル名がブリードタブに表示されるテキストとして使用されるため、この例のブリードタブ文字は、1.PDF、2.PDF、および3.PDFとなります。

出力フォルダーノード: ドキュメント（更新されたブリードタブを含む）は、**出力フォルダー**ノードで構成されるフォルダーパスに配置されます。

ブリードタブ：ユーザー指定ノード

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

PDFファイルにブリードタブを追加するには、**ブリードタブ:ユーザー指定ノード**を使用します。このノードは、PDFファイルの各章の最初のページ番号を識別し、ブリードタブを各章の初めに追加します。各章の最初のページ番号とブリードタブのページ設定がメタデータに保存されています。

メタデータにブリードタブのページサイズが指定されていない場合は、入力PDFの最初のページのサイズがブリードタブのページサイズになります。ドキュメントのページサイズとブリードタブのページサイズが一致しない場合は、ブリードタブが適切に追加されないことがあります。そのため、複数のページサイズが混在するドキュメントでは、ブリードタブを正しく追加できないことがあります。

ブリードタブの数、**ブリードタブ文字**、**ブリードタブの高さ**、**ブリードタブの幅**、**ブリードタブのボーダーの幅**、**先頭マージン**、**空隙マージン**、**文字表示領域の高さの最小値**、および**文字表示領域の空隙**の各値を指定して、その指定による変化をプレビュー画面で確認できます。

このノードでは、以下の5つの、メタデータのキーと値のペアをサポートしています。

- **job:tab.page**（必須）：インデックス紙を挿入するページのリストを指定します。
- **job:tab.text**（必須）：ブリードタブ文字のリストを指定します。ブリードタブ文字の数は、ブリードタブのページ数と一致している必要があります。
- **job:tab.paper.w**（オプション）：インデックス紙の**用紙幅**を指定します。

- **job:tab.paper.h**（オプション）：インデックス紙の**用紙高さ**を指定します。**用紙幅**と**高さ**は、一緒に設定する必要があります。これらの値が設定されていない場合、用紙サイズはPDFドキュメントの、最初のページのサイズに既定で設定されます。
- **job:printtype**（オプション）：**［片面］**または**［両面］**のいずれかの**印刷タイプ**を指定します。この指定は、ドキュメントレベルのメタデータでのみ考慮されます。

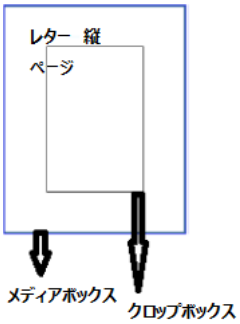
ブリードタブの順序とドキュメントの用紙方向： ブリードタブの向きは、入力PDFファイルの最初のページの向きに既定で設定されます。最初のページが**縦**の場合、ブリードタブは**縦**になります。最初のページが**横**の場合、**ブリードタブ**は横になります。どちらの場合も、ノードの設定画面でブリードタブの順序を決定します。デフォルト値は、設定画面の**［ブリードタブの並び方向］**のオプションを使用して変更できます。

注意：PDFメディアボックス の設定によりページ境界が定義され、それに応じて**ブリードタブ**が追加されます。たとえば、レターPDFページ（8.5 x 11インチ）では、以下に示すように、上下左右が2インチクロップされます。

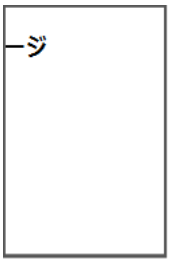
青い枠はPDFのメディアボックスを示しており、黒い枠はPDFページのクロップボックスを示しています。

元のページ

上下左右を2インチクロップ



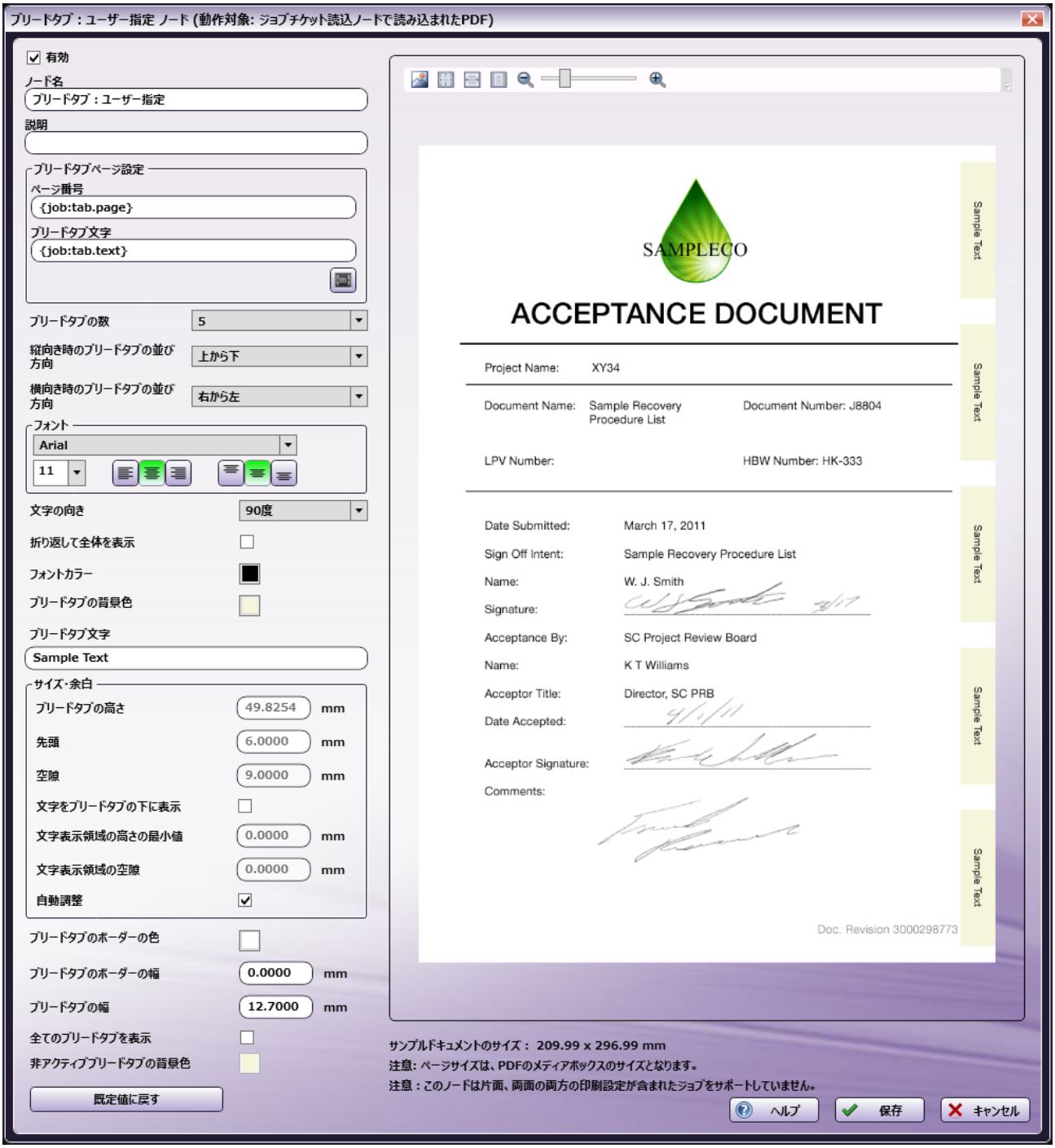
クロップ適用後のPDFページ



このノードは、ブリードタブの作成にメディアボックスの境界を使用します。作成したブリードタブがクロップボックスの範囲外にある場合、そのブリードタブはPDFページに表示されません。そうしたドキュメントがプリンターに送られると、そのプリンターに基づく独自の設定（メディアボックスまたはクロップボックス）が使用されます。

ブリードタブ：ユーザー指定ノードを使う

ブリードタブ：ユーザー指定ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ブリードタブ：ユーザー指定** ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**［ブリードタブ：ユーザー指定ノード］**ウィンドウが開きます。

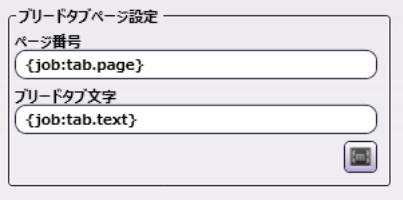


このウィンドウでは、ブリードタブと文字のプロパティを指定します。[プレビュー]パネルには、選択した設定でドキュメントがどのように印刷されるかを示すリアルタイムの画像が表示されます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、ブリードタブ：ユーザー指定ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、ブリードタブ：ユーザー指定ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

ブリードタブページ設定

[ブリードタブページ設定]パネルでページ番号とブリードタブ文字を指定します。



- **[ページ番号]:** メタデータの参照ボタン( )をクリックし、**{job:tab.page}** メタデータキーを[ページ番号]フィールドにドラッグアンドドロップします。メタデータキーは手動で入力することもできます。
- **[ブリードタブ文字]:** メタデータの参照ボタン( )をクリックし、**{job:tab.text}** メタデータキーを[ブリードタブ文字]フィールドにドラッグアンドドロップします。メタデータキーは手動で入力することもできます。

ブリードタブとそのテキストのプロパティの設定

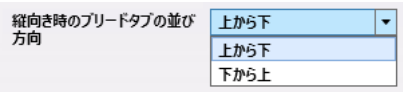
ブリードタブのプロパティとそのテキストのプロパティを構成ウィンドウで設定します。

[ブリードタブの数]

ドキュメントのブリードタブの数をドロップダウンから指定します。

[縦向き時のブリードタブの並び方向]

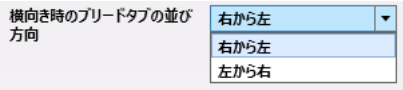
縦向きを使用してドキュメントの**ブリードタブ**の順序を指定します。



- **[上から下]:** ドキュメントの**用紙方向**が **縦**の場合、**ブリードタブ**は上から下に追加されます。
- **[下から上]**:ドキュメントの**用紙方向**が **縦**の場合、**ブリードタブ**は下から上に追加されます。

[横向き時のブリードタブの並び方向]

横向きを使用してドキュメントの**ブリードタブ**の順序を指定します。



- **[右から左]:** ドキュメントの**用紙方向**が **横**の場合、**ブリードタブ**は右から左に追加されます。
- **[左から右]:** ドキュメントの**用紙方向**が **横**の場合、**ブリードタブ**は左から右に追加されます。

ブリードタブ文字

ブリードタブ文字の構成領域では、以下を指定します。

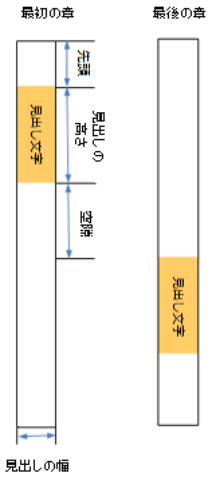
注意: タブ付きのドキュメントを印刷する場合、タブ領域に印刷するテキストは章名のメタデータから取得されます。選択したフォントでサポートされていない日本語文字がこれらの名前で使用されている場合、ノードではワークフローの[アクティビティログ]にエラーメッセージが表示され、ファイルはエラーフォルダーに移されます。

- **[フォント]:** フォント名とサイズをドロップダウンから選択します。最初のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの行端揃えを指定します(左端揃え、中央揃え、右端揃え)。2番目のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの配置を指定します(上中央、中央、下中央)。

- **[文字の向き]:** タブ領域でのタブ文字の垂直方向と水平方向の配置を、文字の向きを基準として指定します。
- **[折り返して全体を表示]:** このチェックボックスをオンにすると、ブリードタブ文字に折り返しが適用されます。
- **[フォントカラー]:** クリックして色の選択オプションを開いてから、フォントの色の値を選択します。
- **[ブリードタブの背景色]:** クリックして色の選択オプションを開いてから、ブリードタブの背景色の値を選択します。
- **[ブリードタブ文字]:** ここには、ブリードタブ文字のリアルタイムプレビューが表示されます。

注意:[ブリードタブ文字] フィールドに入力した値はビジュアルエイドとしてサンプルプレビューに表示されますが、印刷時の出力ジョブには影響しません。印刷される実際のタブデータは、PDFファイルのブリードタブ文字のメタデータから取得されます。

[サイズ・余白]



このフィールドでは、[ブリードタブの高さ]、[先頭]、および[空隙]のマージン値を指定します。リアルタイムプレビューが更新されて、ブリードタブの印刷の体裁が表示されます。

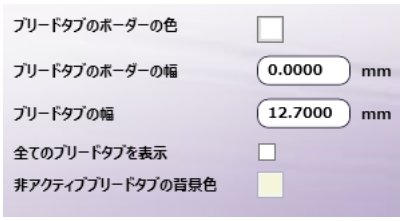
- **[ブリードタブの高さ]:** ブリードタブの高さを指定します。
- **[先頭]:** 先頭のマージン値を指定します。[先頭]はドキュメントの上端と最初のブリードタブとの間の距離を示します。
- **[空隙]:** 空隙のマージン値を指定します。[空隙]値はブリードタブ間の距離を示します。
- **[文字をブリードタブの下に表示]:** このチェックボックスをオンにすると、ブリードタブの下に文字が表示されるようになります。

  注意:[文字をブリードタブの下に表示] チェックボックスをオンにすると、ブリードタブ領域の外側にブリードタブ文字を表示できます。**縦向き**のページでは、ブリードタブ文字は常にブリードタブ領域の下に表示されます。**横向き**のページでは、ブリードタブ文字は常にブリードタブ領域の右側に表示されます。
- **[文字表示領域の高さの最小値]:** ブリードタブの外側にブリードタブ文字がある場合に、その文字を表示する領域の最小の高さを指定します。
- **[文字表示領域の空隙]:** ブリードタブ文字領域とブリードタブ領域との間の空隙の大きさを指定します。
- **[自動調整]:** [ブリードタブの数]を変更したときに[ブリードタブの高さ]、[先頭]および[空隙]の値を自動的に更新するかどうかを指定します。

  注意: ドキュメントのページサイズとブリードタブのページサイズが一致しない場合、またはドキュメントのページサイズにばらつきがある場合は、ブリードタブが適切に追加されないことがあります。

  注意: ブリードタブのテキストが長すぎてテキストフィールドに表示しきれない場合は、選択したテキストの配置(縦方向または横方向)に基づいて、文字の一部が非表示になります。

ブリードタブ

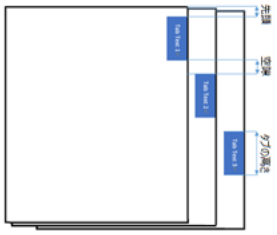


- **［ブリードタブのボーダーの色］:** クリックして色の選択オプションを開き、ブリードタブのボーダーに適用する色の値を選択します。
- **［ブリードタブのボーダーの幅］:** ブリードタブのボーダーの幅
- **［ブリードタブの幅］:** ブリードタブの幅
- **［全てのブリードタブを表示］:** このチェックボックスをオンにすると、各ページにすべてのブリードタブが表示されるようになります。

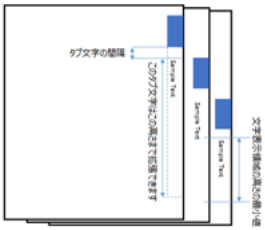
  注意: この設定に基づいて、各ページには1つまたはすべてのブリードタブが表示されます。**［全てのブリードタブを表示］**設定を選択すると、アクティブなブリードタブは他のブリードタブと異なる色で表示されます。
- **［非アクティブブリードタブの背景色］:** クリックして色の選択オプションを開き、適用する色の値を選択します。

［文字をブリードタブの下に表示］と**［全てのブリードタブを表示］**の設定値に応じて、次の4種類の方法でブリードタブを表示できます。

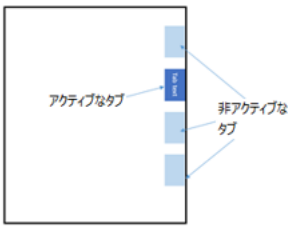
<表示 1>
［文字をブリードタブの下に表示］と**［全てのブリードタブを表示］**の両方を無効にした場合



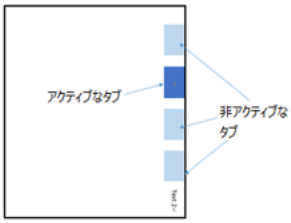
<表示 2>
［文字をブリードタブの下に表示］を有効にして、**［全てのブリードタブを表示］**を無効にした場合



<表示 3>
［文字をブリードタブの下に表示］を無効にして、**［全てのブリードタブを表示］**を有効にした場合



<表示 4>
［文字をブリードタブの下に表示］と**［全てのブリードタブを表示］**の両方を有効にした場合



［既定値に戻す］

ブリードタブの設定をすべて既定値に戻すには、**［既定値に戻す］**ボタンを使用します。

印刷タイプの処理

ブリードタブの位置は、ドキュメントレベルの入力メタデータの**印刷タイプ**に基づいて決まります。

［向き］と［印刷タイプ］	［縦］	［横］
［片面］	ブリードタブがページの右に追加されます。	ブリードタブがページの下に追加されます。
［両面］	ブリードタブが、奇数ページでは右に、偶数ページでは左に追加されます。	ブリードタブが、奇数ページでは下に、偶数ページでは上に追加されます。

注意:入力メタデータにドキュメントレベルの印刷タイプの値が含まれていない場合、ブリードタブ:ユーザー指定ノードは、印刷タイプのデフォルト値One-Sidedをこのジョブに適用します。ドキュメントレベルとページレベルの印刷タイプ入力メタデータ値の不一致が検出されると、ブリードタブ:ユーザー指定ノードではアクティビティログにメッセージが表示され、PDFドキュメントがこのノードのエラーフォルダーに送られます。

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

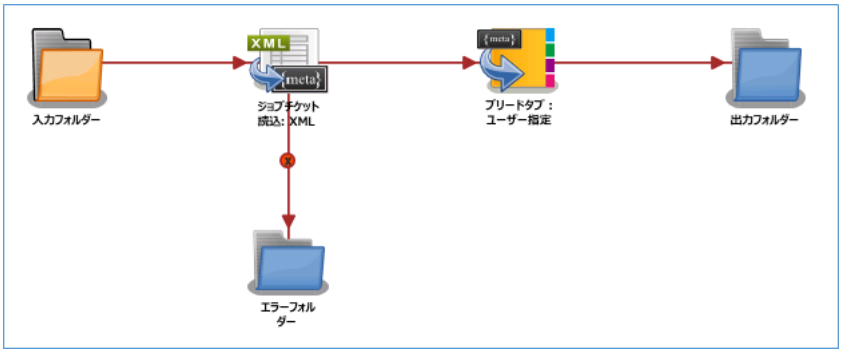
ツールバーのアイコン	説明
	[イメージ]アイコン。 サンプルプレビューのイメージを変更するには、このアイコンをクリックします。PNG、JPEG、PDF形式だけがサポートされています。サポートされているイメージの表示サイズは、A3/A4/A5/A6/B4/B5/B6/はがき/SRA3/SRA4/ISO B4/ISO B5/ISO B6/12X18/8 1/8X13 1/4 / 8 1/4 X13/8 1/2 X13/8X13/ハーフレター/リーガル/レター/タブロイド/13X19/9X11/8K/16Kです。
	[実際のサイズ(100%)]アイコン。 プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン。 プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体]アイコン。 このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	ズームコントロール。 拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大／縮小します。

ブリードタブ:ユーザー指定ワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、XMLファイルを受け取って、ジョブチケットをXMLメタデータに解析し、XMLジョブチケットに含まれる章の情報に基づいてブリードタブをファイルに追加することです。変更されたファイルは出力フォルダーに送信されます。

注意:このノードは、キー名が「Job」のメタデータ出力を生成します。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。



入力フォルダーノード: ジョブチケットを集めて、ジョブチケット読込:XMLノードに送るように入力フォルダーを構成します。送られるジョブチケットファイルには、ジョブチケットの属性情報が含まれています。これらのファイルにはブリードタブ情報も含まれています。このブリードタブ情報は、ブリードタブがブリードタブ:ユーザー指定ノードに追加されるときに使用されます。以下に、ブリードタブ情報を含むサンプルのジョブチケットを示します。

```
<Ticket>
    <PrintType>Double-Sided</PrintType>
    <Bleed>
        <Width>8.5</Width>
        <Height>11</Height>
        <ChapterInfo>
            <Page>
                <Chapter>1</Chapter>
                <Chapter>4</Chapter>
            </Page>
            <Text>
                <Chapter>Chapter1</Chapter>
                <Chapter>Chapter2</Chapter>
            </Text>
        </ChapterInfo>
    </Bleed>
    <Paper>
        <Unit>inch</Unit>
    </Paper>
    <File>file</File>
    <Src>C:\\test files\\10Pages_Letter.pdf</Src>
</Ticket>
```

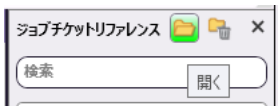
ジョブチケット読込:XMLノード:ドキュメントがXMLとしてフォーマットされている場合、そのXML情報はジョブチケットメタデータに変換され、ワークフローの次のノードに送られます。ドキュメントがXMLとしてフォーマットされていない場合、そのドキュメントはエラーフォルダーに移されます。

以下の手順に従って、XMLジョブチケットをマップします。

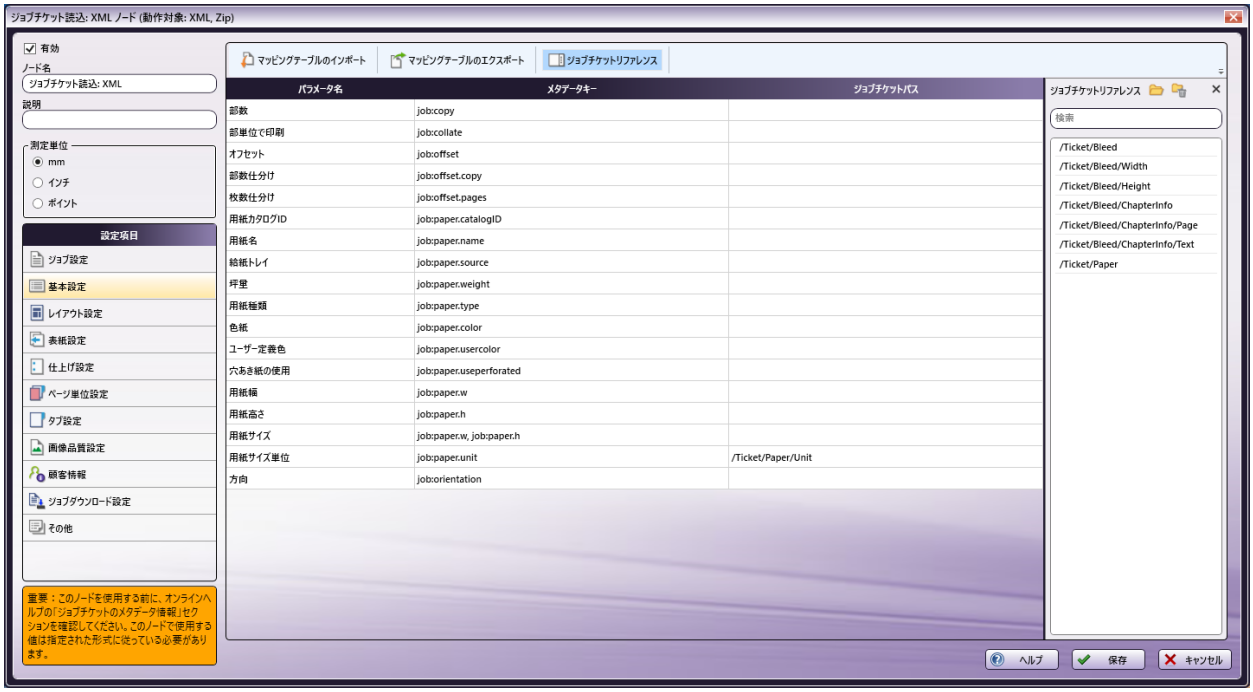
1. テキストエディターを使用して、上記のサンプルジョブチケットのサンプルXMLコードをコピーします。
2. XML_BleedTabs_UserDefined.XMLとしてファイルをローカルに保存します。
3. **ジョブチケット読込:XML**ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。

4. 左側のパネルで、次の値を設定します。
    - **［有効］**チェックボックス：オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
    - **［ノード名］：**ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
    - **［測定単位］：**ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。

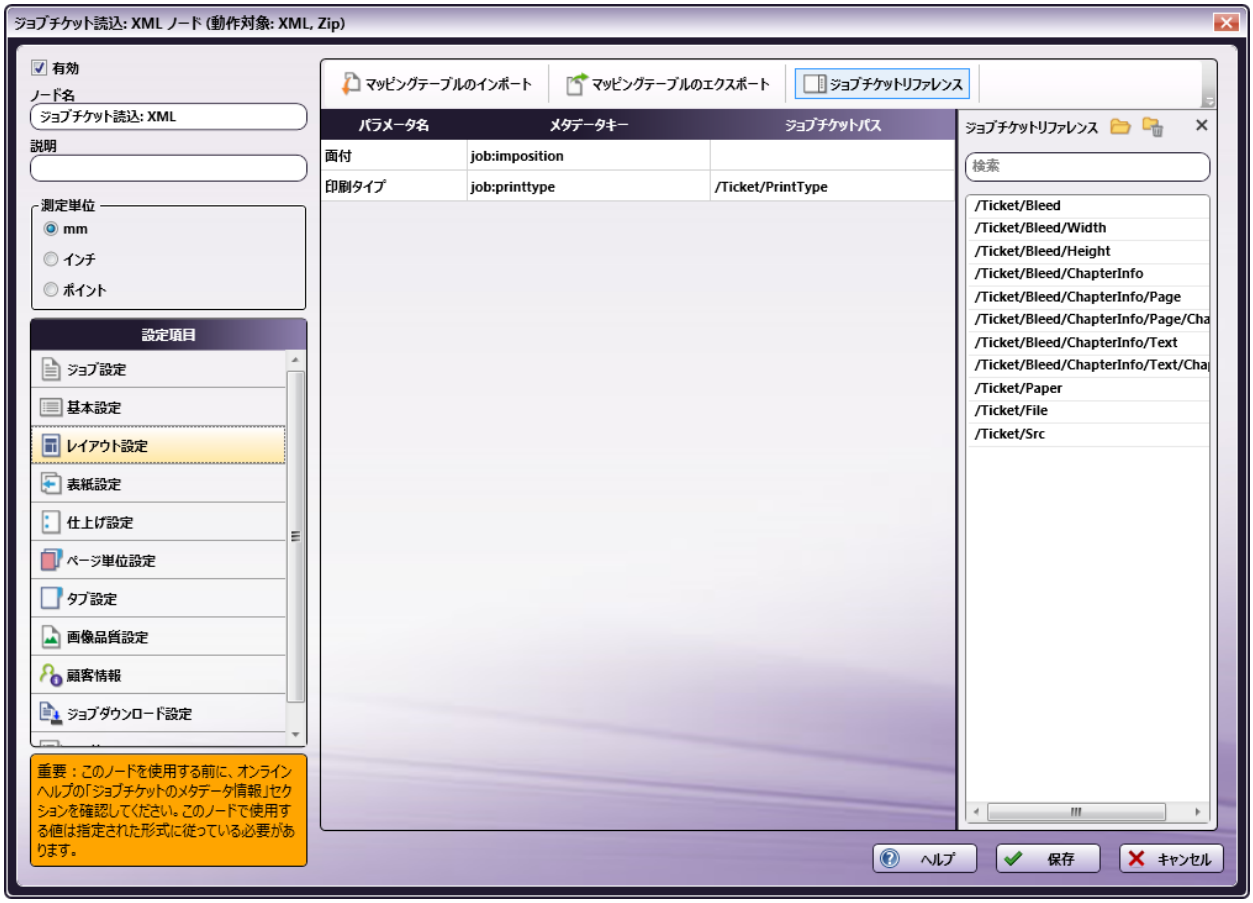
    注意：前述のジョブチケット(XML_BleedTabs_UserDefined.XML)は、用紙サイズがインチで示されています。
5. **［ジョブチケットリファレンス］**パネル（右端）で、**［開く］**アイコンを見つけます。



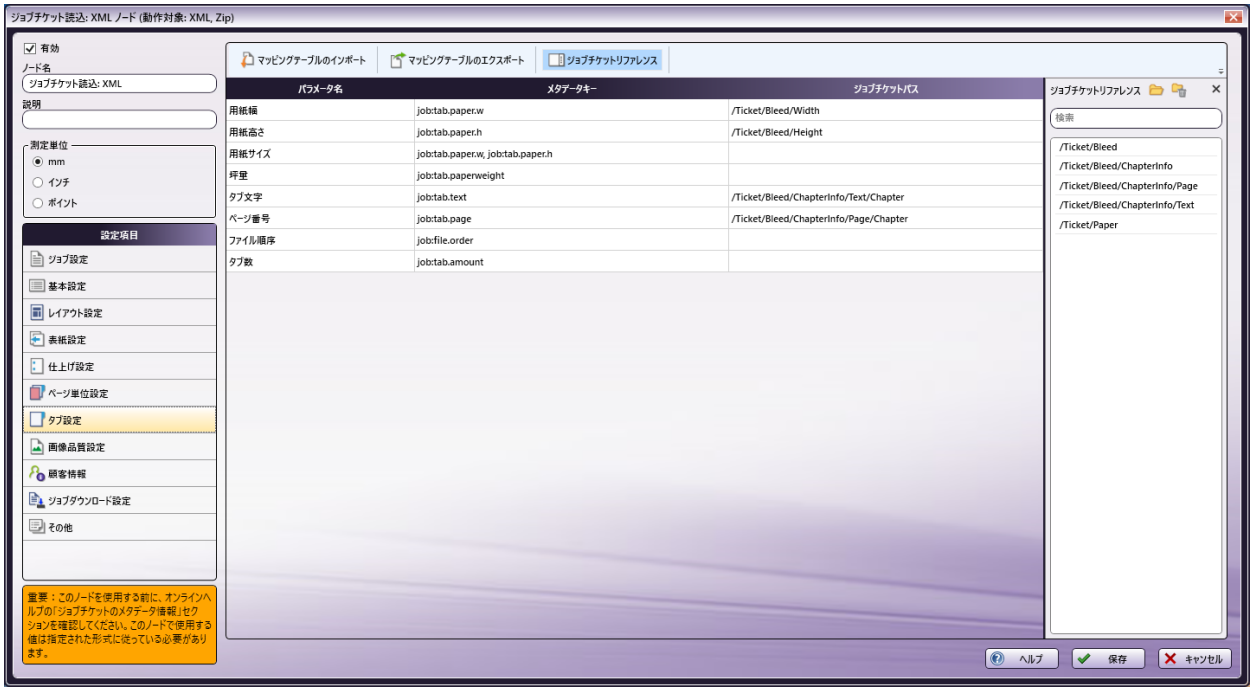
6. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順2で保存したファイル（XML_BleedTabs_UserDefined.XML）に移動して選択します。
7. ファイルが開くと、その内容（XPath）が**［ジョブチケットリファレンス］**パネル（右端）に表示されます。
8. **［設定項目］**パネル（左端）で、**［基本設定］**をクリックします。**［パラメータ名］**、**［メタデータキー］**、および**［ジョブチケットパス］**列がメインパネルに表示されます。



9. **［用紙サイズ単位］**行の**［ジョブチケットパス］**セルに**/Ticket/Paper/Unit**をドラッグアンドドロップします。
10. **［設定項目］**パネル（左端）で、**［レイアウト設定］**をクリックします。**［パラメータ名］**、**［メタデータキー］**、および**［ジョブチケットパス］**列がメインパネルに表示されます。

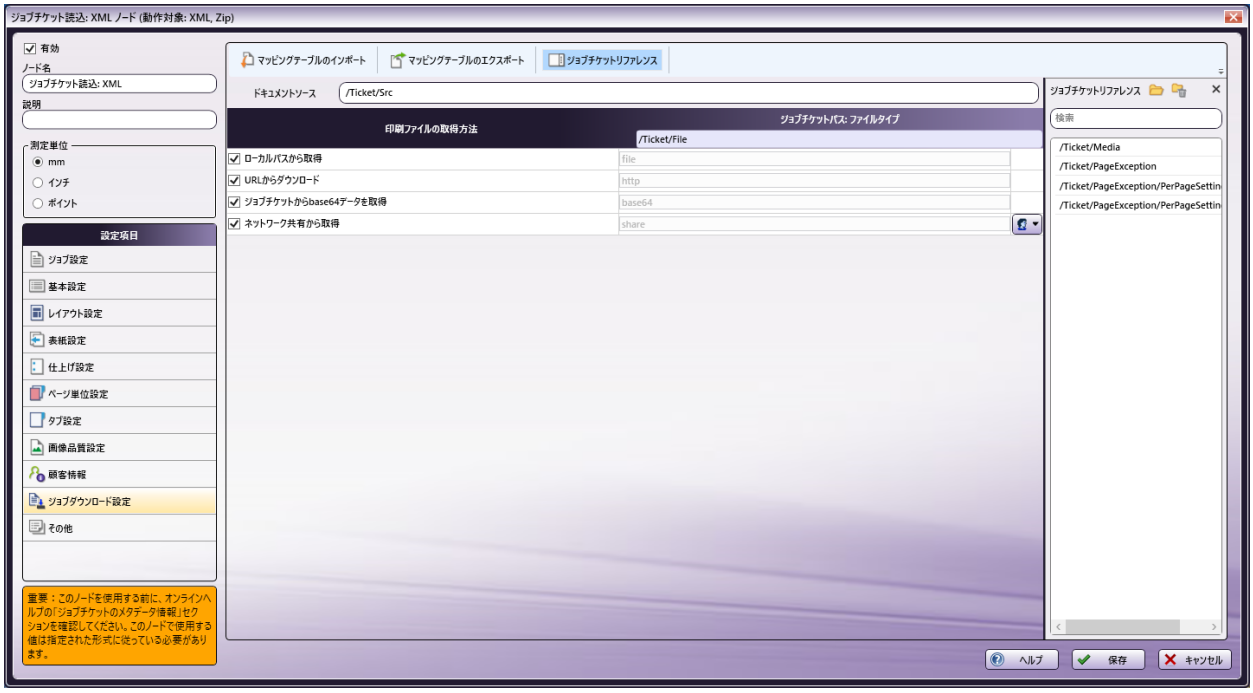


11. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
12. **[印刷タイプ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Print/Type** をドラッグアンドドロップします。
13. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[タブ設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



14. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
15. **[用紙幅]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Bleed/Width** をドラッグアンドドロップします。
16. **[用紙高さ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Bleed/Height** をドラッグアンドドロップします。

17. **[タブ文字]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Bleed/ChapterInfo/Text/Chapter** をドラッグアンドドロップします。
18. **[ページ番号]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Bleed/ChapterInfo/Page/Chapter** をドラッグアンドドロップします。
19. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]** および **[ジョブチケットパス: ファイルタイプ]** フィールドと **[印刷ファイルの取得方法]** チェックボックスがメインパネルに表示されます。



20. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有から取得]** の4つのオプションのチェックボックスをすべてオンにします。
21. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/Ticket/Src**をドラッグアンドドロップします。
22. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス: ファイルタイプ]** フィールドに **/Ticket/File**をドラッグアンドドロップします。
23. これまでの操作が完了すると、上の画像のような画面が表示されます。
24. **[保存]** をクリックして、変更をノードに適用します。

ブリードタブ:ユーザー指定ノード: ブリードタブ:ユーザー指定ノードは、XML_BleedTabs_UserDefined.XMLの章情報に基づいてブリードタブを入力PDFドキュメントに追加し、そのファイルをワークフローの次のノードに送ります。このセクションの初めに示したサンプルのジョブチケットでは、ページ1とページ4が章として取得され、それに応じてPDFドキュメントにブリードタブが追加されます。ファイルはワークフローの次のノードに送られます。

出力フォルダーノード: ドキュメント（更新されたブリードタブを含む）は、**出力フォルダー**ノードで構成されるフォルダーパスに配置されます。

背丁

背丁

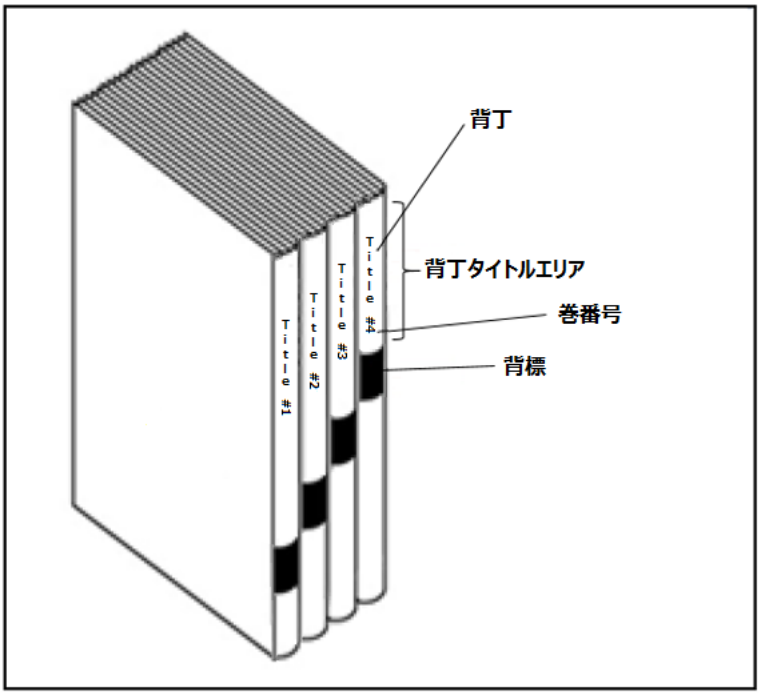
注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

背丁 ノードを使用して、背丁と背標の値をPDFファイルに適用します。面付けノードを含むワークフローでは、このノードを使用する必要があります。面付けノードは、ワークフロー内で背丁ノードより前に配置します。背丁ノードを正しく機能させるには、面付けノードの **[面付け設定] > [面付けタイプ]** で **[小冊子]** を設定します。背丁ノードでは、メタデータキーの値を **[ライン設定] > [印刷タイプ]** でpostpress:typeに設定します。

背丁がPDFファイルに適用された後、ジョブはワークフローの次のノードに移動します。

次の図は、シリーズとしてまとめられた4巻の本を示しています。各巻の背表紙には、上にタイトルがあり、そのすぐ下に数字が付いています。各背表紙の下の部分には、徐々に位置が高くなっていく一連のマークがあります。

タイトルはシリーズの名前を示します。数字は巻の順序（巻番号）を示します。マークは、数字と同様の関係を示す値を視覚的に表したものです。具体的には、最も下のマークがシリーズの最初で、徐々に位置が高くなっていく連続したそれぞれのマークによって、どの巻から読んだらよいかが視覚的にわかるようになっています。



[背丁・背標設定] は、ラインセグメントの値の **[X座標]**、**[Y座標]**、および **[長さ]** を使用して指定します。これらは、背丁ノードUIの **[ライン設定]** セクションで指定します。これらの値の設定方法は、**[メタデータを使用]** チェックボックスがオンかどうかによって異なります。

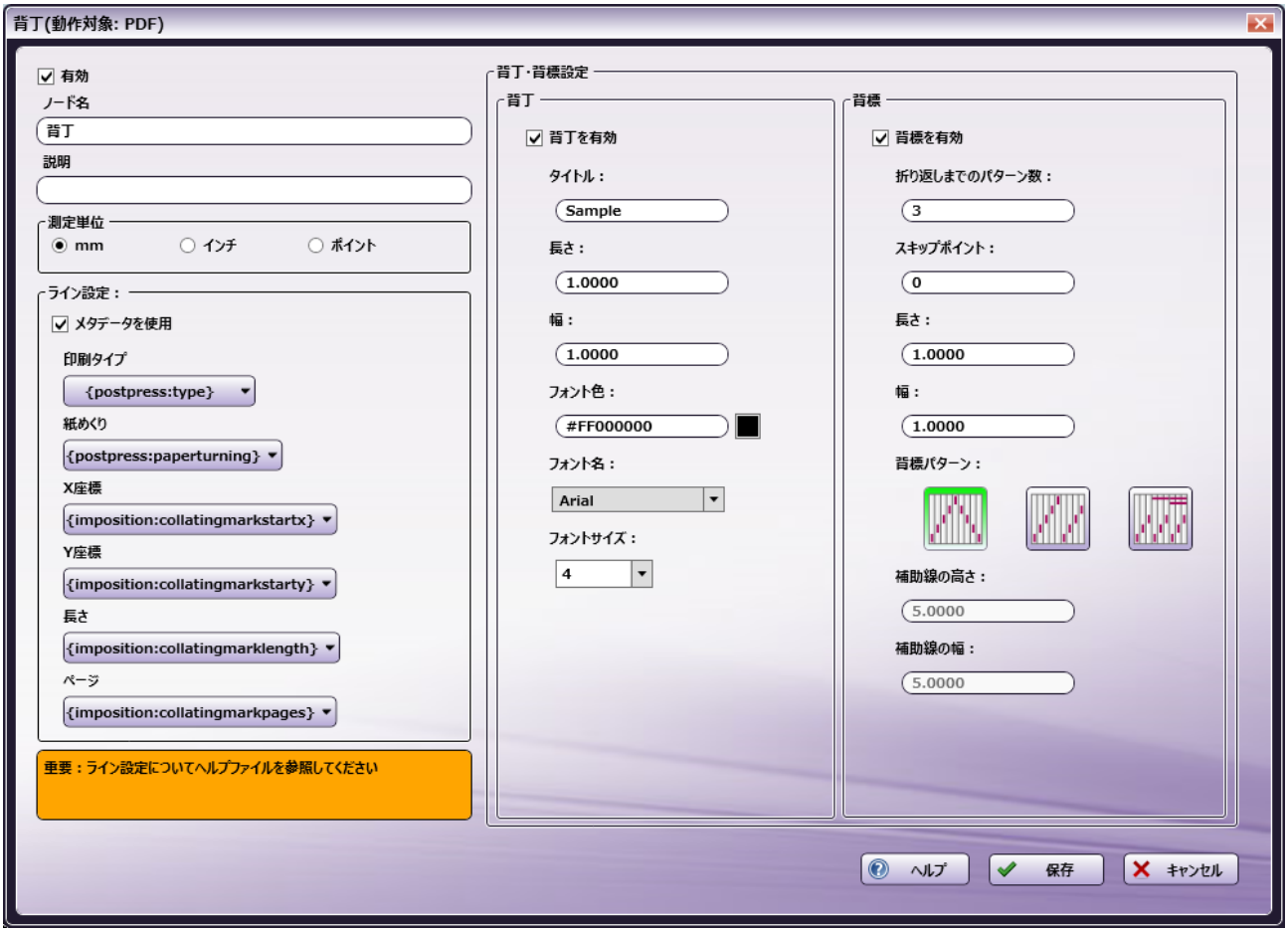
[ライン設定] を指定したら、**[背丁・背標設定]** への入力が可能になります。以下の2つの設定オプションがあります。

- **[背丁]（数値または巻番号を含む）**
- **[背標]**

[ライン設定] の値により、**[背丁・背標設定]** に適用される制限が異なります。**背丁**（背文字の上部のタイトル部分）には、最大で背表紙部分の40%を割り当てることができます。**背標**（背文字の下部）には、最大で背表紙部分の60%を割り当てることができます。

背丁ノードを使う

背丁ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**背丁** ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**[背丁]ノード** ウィンドウが開きます。

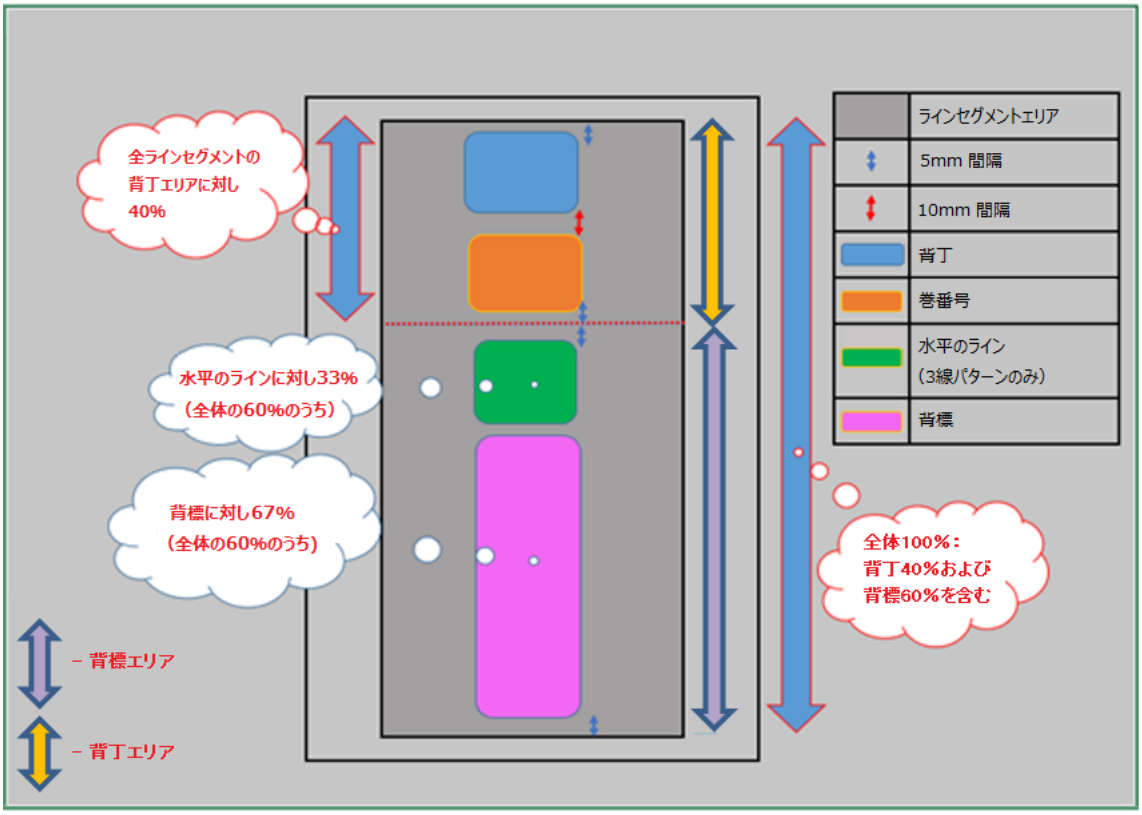


このウィンドウを使用して背丁ノードの設定を指定します。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、デフォルトのパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、背丁ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、背丁ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[測定単位]** 領域では、測定単位を選択します。ミリ、インチ、およびポイントの3種類の測定単位がサポートされています。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンをクリックします。**[キャンセル]** を選択すると、ウィンドウが閉じて変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

背丁：操作手順

次の図は、背丁の各セクションで指定できる最大サイズを示しています。また、背丁と背標が背表紙部分にどのように配置されるかも示しています。



- ［ライン設定］の値により、［背丁・背標設定］に適用される制限が異なります。背丁（背文字の上部のタイトル部分）には、最大で背表紙部分の40%を割り当てることができ、巻番号が含まれます。背標（背文字の下部）には、最大で背表紙部分の60%を割り当てることができます。
- 巻番号とは、タイトルのすぐ下にある、数字による識別番号のことです。
- ［背丁］および［背標］の設定が最大領域を超える場合、入力ファイルはエラーフォルダに送られて、アクティビティログにメッセージが追加されます。
- フォントサイズが背丁部分に収まらない場合は、タイトルの文字列が切り詰められます。
- 背丁部分の上下には5 mmの間隔が空けられ、巻番号と背丁の間には10 mmの間隔が空けられます。
- 背標部分の上下に5 mmの間隔が空けられます。原則として、背表紙部分の60%が背標用に確保されます。ただし、3線パターンを選択した場合、この60%はさらに分割され、60%の領域のうち33%が水平線用に設定され、67%が背標用に設定されます。その他のすべてのパターンオプションでは、指定した領域の60%全体が背標に使用されます。
- 背丁のタイトルのフォント、高さ、幅、フォント色、およびフォントサイズは、背丁のタイトルと巻番号の両方に使用されます。
- 3線パターンでは、補助線の間に2 mmの間隔が空けられます。

［ライン設定］

［ライン設定］は、メタデータキーの値を使用するか、手動で値を入力して指定します。メタデータキーの値を使用するには、**［メタデータを使用］**チェックボックスをオンにします。

メタデータを使用したライン設定

注意：これらの設定は、ワークフローに面付けノードも含まれている場合にのみ機能します。面付けノードは、ワークフロー内で背丁ノードより前に配置します。背丁ノードを正しく機能させるには、面付けノードの**［面付け設定］**>**［面付けタイプ］**で［小冊子］を設定し、このサブセクション（1.3.1）の設定指示に従います。

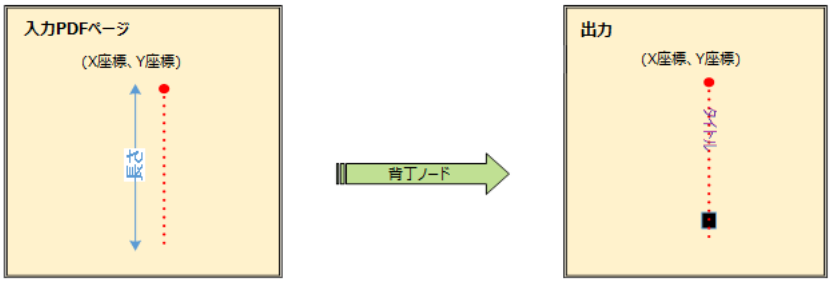
［メタデータを使用］チェックボックスをオンにすると、以下のUIが表示されます。

設定値には、**[印刷タイプ]**、**[紙めくり]**、**[X座標]**、**[Y座標]**、**[長さ]**、および **[ページ]** の6つがあります。それぞれ、**[メタデータの選択]** ボタンをクリックすると[メタデータブラウザー]ウィンドウが起動します。このウィンドウから、メタデータ値を選択します。各設定オプションについて、以下のことに注意してください。

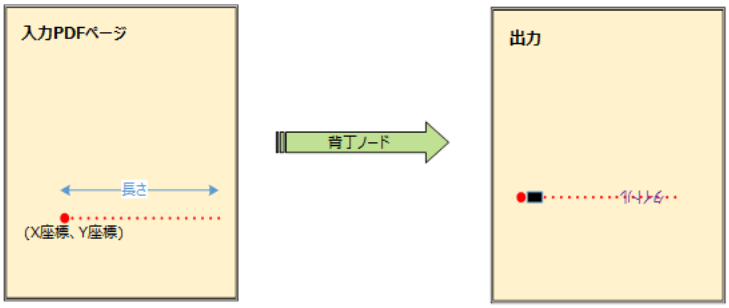
- **[印刷タイプ]:** メタデータキーの値を**postpress:type**に設定します。
- **[紙めくり]:** 綴じ設定を処理するための紙めくり方法のメタデータキー値を選択するために使用します。サポートされているオプションは次のとおりです。
  - [TopBottom] – 上 -> 下の綴じを示します。
  - [LeftRight] – 左 -> 右の綴じを示します。
  - [RightLeft] – 右 -> 左の綴じを示します。

以下の図は、**[紙めくり]** の値にメタデータ値がどのように適用されるかを示しています。

LeftRight/RightLeftの紙めくりの例:



TopBottomの紙めくりの例:



注意: 上の例の赤線は強調を目的としてのみ使用されており、出力には表示されません。

- **[X座標]:** ラインのX座標のメタデータキー値を選択するために使用します。メタデータ値はPostScriptのポイント（たとえば72）で表されます。ワークフローで面付けノードも使用されている場合は、メタデータキー値[imposition:collatingmarkstartx]を選択する必要があります。
- **[Y座標]:** ラインのY座標のメタデータキー値を選択するために使用します。メタデータ値はPostScriptのポイント（たとえば72）で表されます。ワークフローで面付けノードも使用されている場合は、メタデータキー値[imposition:collatingmarkstarty]を選択する必要があります。
- **[長さ]:** ラインの長さのメタデータキー値を選択するために使用します。メタデータ値はPostScriptのポイント（たとえば72）で表されます。ワークフローで面付けノードも使用されている場合は、メタデータキー値[imposition:collatingmarkslength]を選択する必要があります。
- **[ページ]:** PDFファイルの背表紙の場所を入力するために使用します。背丁はこれらのページに配置されます。このオプションで数値を選択します。たとえば、25ページごとに新しい巻が始まる場合は、ここにその値を入力します。ワークフローで面付けノードも使用されている場合は、メタデータキー値[imposition:collatingmarkspages]を選択する必要があります。

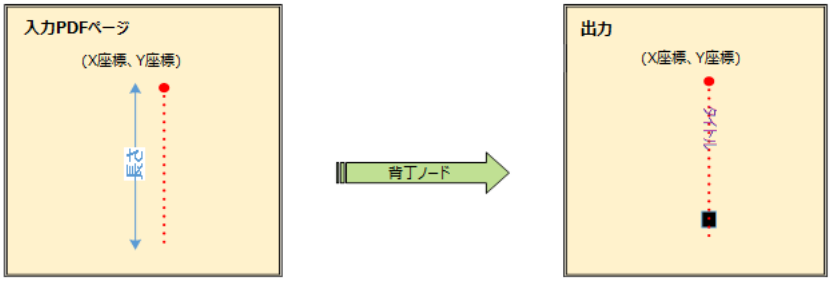
手動入力を使用したライン設定

［メタデータを使用］チェックボックスをオフにすると、以下のUIが表示されます。

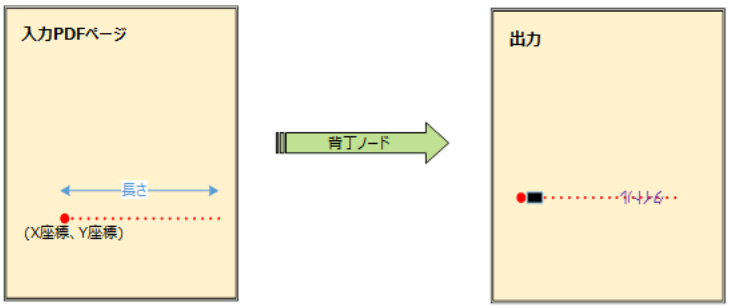
- **［ラインの向き］：**ラジオボタンを選択してラインセグメントの向きを指定します。**［水平］**と**［垂直］**のオプションがあります。

以下の図は、**［ラインの向き］**の値にメタデータ値がどのように適用されるかを示しています。

垂直のラインセグメントの例：

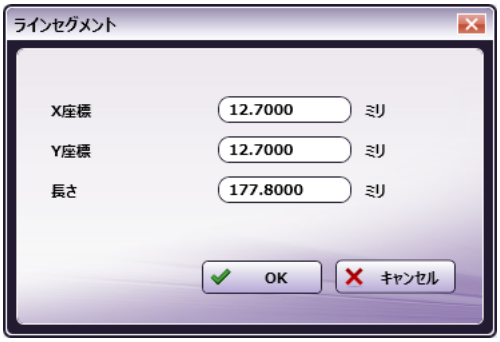


水平のラインセグメントの例：



注意：上の例の赤線は強調を目的としてのみ使用されており、出力には表示されません。

- **［ラインセグメント］：**［+］ボタンをクリックして新しいラインセグメントを追加します。保存すると、新しい値がテーブルに表示されます。値がテーブルに表示されたら、その値をクリックして選択します。設定を変更するには**［編集］**アイコンを使用し、設定をテーブルから削除するには**［削除］**アイコンを使用します。
    - **ラインセグメントの追加または編集：ラインセグメント** の追加または編集を選択すると、次のウィンドウが開きます。



次の値を選択します。

- **[X座標]:** 値を入力します。
- **[Y座標]:** 値を入力します。
- **[長さ]:** 値を入力します。

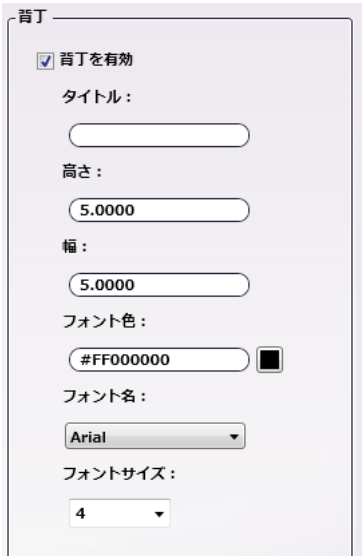
[OK] をクリックして値を保存して適用するか、**[キャンセル]** をクリックして変更の要求をキャンセルします。

注意: 手動で追加できるラインセグメントは **最大4つ** です。

- **[繰り返しページ]:** これらのフィールドを使用して、PDFファイルの背表紙の場所を指定します。たとえば、25ページごとに新しい巻が始まる場合は、**[開始]** の値を1にして、**[間隔]** の値を25にする必要があります。背丁・背標がPDFファイルの25ページ目ごとに追加されます。

背丁の値の設定

この設定オプションを使用して、背丁のフィールドで使用される**タイトル**と**巻番号**の値を入力します。



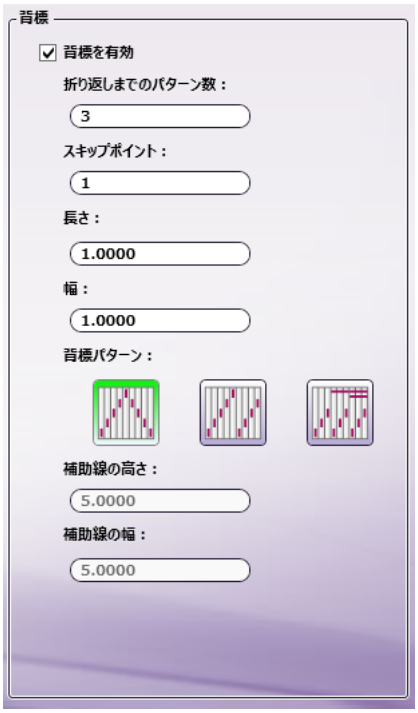
注意:背丁のタイトルのフォント、高さ、幅、フォント色、およびフォントサイズは、背丁のタイトルと巻番号の両方に使用されます。

- **[背丁を有効]:** このチェックボックスをオンにすると、[背丁]の設定が有効になります。
- **[タイトル]:** ここにテキストを入力します。
- **[高さ]:** ここに高さの値を入力します。
- **[幅]:** ここに幅の値を入力します。
- **[フォント色]:** クリックして色選択オプションを開き、色の値を選択します。
- **[フォント名]:** ドロップダウンから値を選択します。システムにインストールされているすべてのフォントの一覧が表示されます。
- **[フォントサイズ]:** フォントサイズの値を選択します。

背標の値の設定

この設定オプションを使用して、背丁のフィールドで使用される背標の値を入力します。

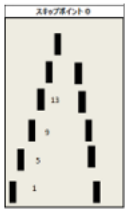
注意:背標 部分の上下には5 mmの間隔が空けられます。



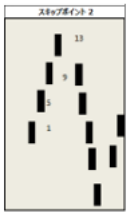
- **[背標を有効]：** このチェックボックスをオンにすると、[背標]の設定が有効になります。
- **[折り返しまでのパターン数]：** 縦の1行に追加するマークの数を指定します。
- **[スキップポイント]：** ページをスキップする場合は、ここでスキップポイントを指定します。この設定は、選択されているパターンに関係なく適用されます。

スキップポイントの使用例

スキップポイント = 0



スキップポイント = 2



- **[長さ]：** 背標の長さを指定します。
- **[幅]：** 背標の幅を指定します。
- **[背標パターン]：** 背標のパターンを選択します。使用できる背標パターンとして、**Vパターン**、**2線パターン**、および**3線パターン**があります。
  - **[補助線の高さ]：** このオプションは、**[背標パターン]** として**3線パターン**を選択した場合にのみ使用できます。このオプションを使用して、**線の高さ**を指定します。
  - **[補助線の幅]：** このオプションは、**[背標パターン]** として**3線パターン**を選択した場合にのみ使用できます。このオプションを使用して、**線の幅**を指定します。

  注意： *前述のように、背表紙部分の60%が背標用に確保されます。**3線パターン** を選択した場合、この60%はさらに分割され、60%の領域のうち33%が水平線用に設定され、67%が**背標**用に設定されます。その他のすべてのパターンオプションでは、指定した領域の60%全体が**背標**に使用されます。*

制限事項

以下の制限事項があります。

1. 背丁のテキストに英語以外の文字が含まれていると、それらの文字（および巻番号）は縦書きで出力されます。

   次に例を示します。

   テキストに英語の文字のみが含まれている場合、出力は次のようになります。 Hello

テキストに英語以外の文字が含まれている場合、出力は次のようになります。

こんにちは

テキストに英語の文字と英語以外の文字の両方が含まれている場合、出力は次のようになります。

こんにちはKM

カラーバー

カラーバー

注意：このノードは、TIFF、JPG、GIF、PNG、BMP、およびPDFファイルに対応しています。

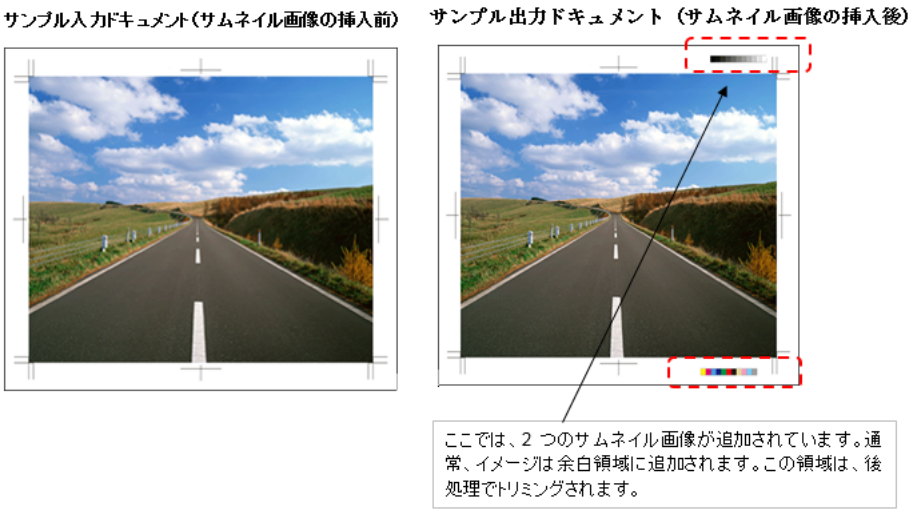
カラーバーノードを使用すると、ファイルにイメージを挿入できます。

- このノードを使用し、挿入されたイメージのリアルタイム出力を確認することで、デバイスインクの色品質をテストできます。
- このノードを使用して、会社のロゴなどのイメージを挿入することもできます。

この処理では、サポートされているファイル形式の入力を受け付け、定義済みの設定に基づいて入力ファイルを処理します。処理が終わると、そのファイルは色処理が施された状態で、ワークフロー内の次の出力先に移動します。

このノードは、ワークフローの実行中に、サムネイルイメージを元の入力ドキュメントに挿入またはマージします。ファイルはマージされ、出力はワークフロー内の次のノードに送られます。

サンプル入力ドキュメント（サムネイルイメージの挿入前）：　サンプル出力ドキュメント（サムネイルイメージの挿入後）：



注意：出力ドキュメントでは、元のドキュメントのコンテンツにサムネイルイメージのコンテンツが重なり合っています。

ユーザーが、あるサムネイルイメージを他のサムネイルイメージ上に配置すると、イメージの重複が起きる可能性があります。

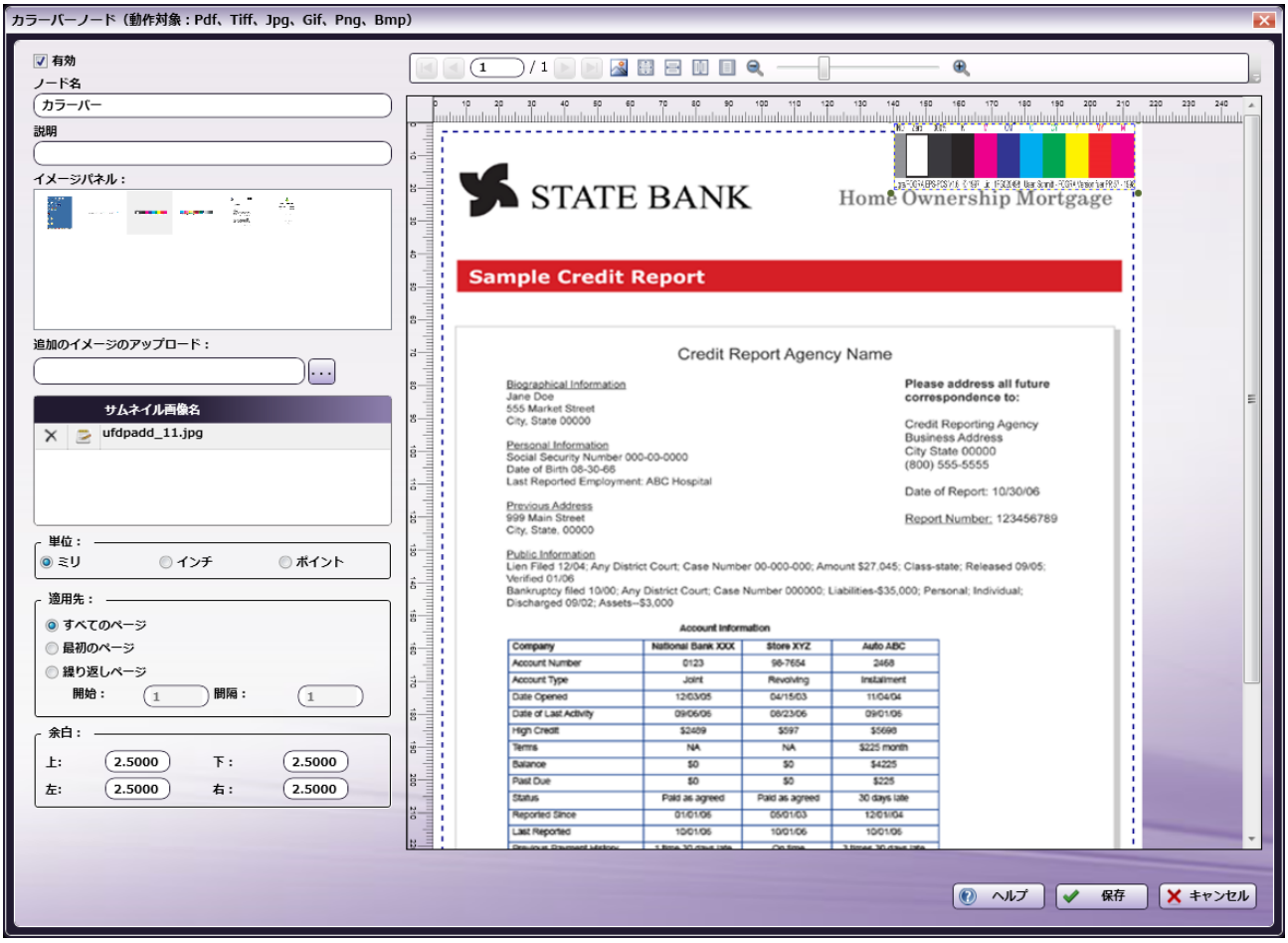
サムネイルイメージが元のドキュメントのサイズよりも大きい場合、すなわちサムネイルが元のドキュメントに収まりきらない場合、元のドキュメントからはみ出したイメージ部分は切り取られ、出力ドキュメントに表示されません。

追加のサムネイルイメージが複数ページのTIFFまたはPDFである場合、入力ドキュメントには最初のページのみが挿入されます。

サムネイルイメージがカラーで、元のドキュメントが白黒（グレースケールまたはモノクロ）の場合、出力ファイルは白黒になります。

カラーバーノードを使う

カラーバーノードアイコンをワークフロービルダーのキャンバスにドラッグすることで、**カラーバー**ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、**［カラーバーノード］**ウィンドウが開きます。カラーバーのプロパティウィンドウを使用して、ノードを設定します。



- **［有効］**チェックボックスをオンにして処理を実行できるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **［ノード名］**フィールドに、カラーバーノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］**フィールドに、カラーバーノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- カラーバーの設定を保存するには、**［保存］**ボタンを選択します。変更を保存しないでウィンドウを終了するには、**［キャンセル］**ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］**ボタンを選択します。

イメージの挿入

イメージパネル

イメージパネルには、以下の物理的な位置にあるすべてのイメージが表示されます。

Program Files\Common Files\Konica Minolta\Phoenix\Resources\ColorBarNode\ThumbnailImages

上記のフォルダーには、事前定義済みのイメージが初めから保存されています。ユーザーがイメージを追加すると、それらのイメージもこのフォルダーに置かれます。

注意：すべてのイメージは、すべてのユーザーおよびワークフローに共通です。

省略記号（…）ボタンを使用し、追加のイメージを参照してアップロードすることができます。追加でアップロードしたイメージは、上記のパスに格納されます。最大で256個のイメージを扱うことができます。

以下のいずれかのファイル形式であれば、追加のイメージとしてアップロードできます。

- TIFF、JPG、GIF、PNG、BMP、およびPDF

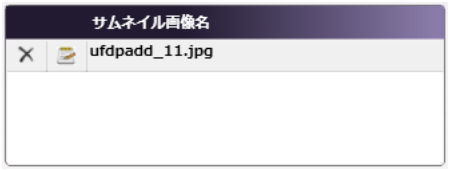
  注意：透明なイメージがPDFファイルに挿入される場合、透明性は維持されません。透明なイメージがPDFファイルに挿入される場合、新しいイメージでは透明だった領域が黒一色に置き換えられて、出力イメージもそのようになります。

追加イメージパネルから**サンプルプレビューパネル**にイメージをドラッグアンドドロップできます。**サンプルプレビュー**にイメージを置くと、そのイメージに対して移動、サイズ変更、回転などの操作を実行できます。**サンプルプレビューパネル**にドロップされたイメージは、入力ドキュメントに挿入されます。

イメージを右クリックして表示されるコンテキストメニューで **[挿入]** オプションを使用することで、サンプルプレビューパネルにイメージを挿入することもできます。

このコンテキストメニューから **[削除]** オプションを選択すると、イメージパネルからサムネイルイメージを削除できます（デフォルトのイメージと追加したイメージのどちらに対しても可能です）。ここで削除したイメージは物理的な場所からも削除されます。

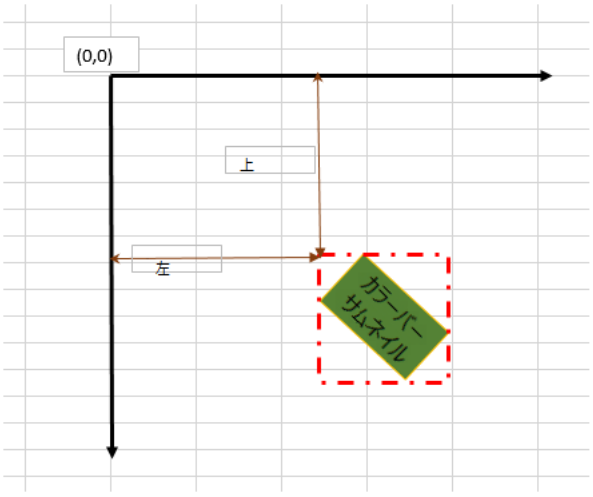
[サムネイル画像名]



サムネイル画像リストには、サンプルプレビューパネルに追加したサムネイル画像の名前が表示されます。サムネイル画像リストにある項目を選択すると、そのサムネイル画像がサンプルプレビューパネルで選択状態になります。同様に、サンプルプレビューパネルでサムネイル画像を選択すると、そのサムネイル画像の項目がサムネイル画像リストで選択状態になります。

サムネイル画像の行の[編集]ボタンを使用するか、イメージ画像をダブルクリックすると、そのイメージを編集できます。

- [サムネイル画像設定]ウィンドウで、画像の **[左]と[上]** の位置、および **[幅]と[高さ]** を指定します。長方形領域の **[左]と[上]** は、次の画像に示すようになります。



- スライダーを使用して **[回転角度]** を自動的に変更するか、テキストフィールドに正確な値を入力します。サポートされている値の範囲は-360～360°です。範囲外の数値を入力すると、値はデフォルトの0°に戻ります。
- ファイルの左側にある **[編集]** アイコンを使用すると、**[サムネイル画像名]** パネルから画像を削除できます。確認のポップアップが開きます。**[OK]** をクリックして **サムネイル画像名** を削除するか、*[キャンセル]* をクリックして要求をキャンセルします。

注意: 値が空白の場合、画面を閉じるとこのオプションは以前の値にリセットされます。

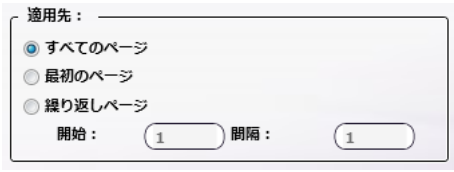
注意:サムネイル画像名 を変更した場合、その変更はこのノードで表示される画像名にのみ適用されます。**ThumbnailImages** フォルダー内のファイル名は変更されません。

[単位]

[単位] パネルでは、測定単位のラジオボタンを選択します。**ミリ**、**インチ**、および **ポイント** の3種類の測定単位を使用できます。

注意:すべての英語ロケールのシステムでは、デフォルトでインチが選択されます。その他のロケールでは、デフォルトはミリです。デフォルト値に関係なく、使用可能な3つの値のうちいずれかを選択できます。単位の値が変更されると、その変更はアプリケーション全体に適用されます。

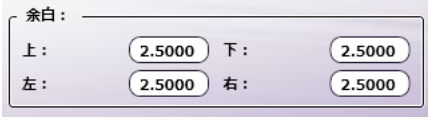
[適用先]の設定



以下のいずれかを選択して、イメージを挿入するページを指定します。

- **[すべてのページ]:** 入力ドキュメントのすべてのページにイメージが挿入されます。
- **[最初のページ]:** 入力ドキュメントの最初のページにだけ、イメージが挿入されます。
- **[繰り返しページ]:[開始]** および **[間隔]** の値に基づいて、イメージが挿入されます。
  - **[開始]:** たとえば、**[開始]** の値が4で、**[間隔]** の値が6であった場合、イメージは6ページおき(4、10、16、22...)に挿入されます。
  - **[間隔]:** このオプションは、**[繰り返しページ]** オプションが選択されているときにだけ有効です。

[余白]



[余白]を指定すると、入力ファイルの配置をプレビューできます。**[上]**、**[下]**、**[左]**、および **[右]** の4つの値を指定できます。これらのプレビューの余白は、目で見て確認できるようにするためのものであり、出力されるドキュメントへの影響はありません。設定された値の組み合わせに基づいて、**サンプルプレビューパネルの余白**(点線)が更新されます。

サンプルプレビューパネル

サンプルプレビューパネルには、出力ファイルのプレビューが表示されます。サポートされているファイルタイプはTIFF、JPG、PNG、BMPおよびPDFです。サポートされている最大の寸法は、330.2 x 1200.0 mmです。画像は、1つずつしかロードできません。

イメージパネルからサンプルプレビューに、画像を一度に1つずつドラッグアンドドロップできます。最大4個の追加画像をサンプルプレビューパネルにドロップできます。画像を右クリックして表示されるコンテキストメニューの **[挿入]** オプションを使用することで、**サンプルプレビューパネル** に画像を挿入することもできます。[挿入]オプションを選択すると、サンプルプレビューパネルの左上隅に選択した画像が挿入されます。サンプルプレビューパネルに追加した画像が、サムネイル画像リストに表示されます。

画像の一部がサンプルプレビューパネルの外にはみ出ている場合、その部分は表示されません。画像全体がサンプルプレビューパネルの外にある場合、画像はまったく表示されず、その画像を選択できなくなります。

サンプルプレビューパネルに画像を配置すると、コピー、移動、回転、サイズ変更、表示、編集、削除などの操作を実行できます。

- **[コピー]/[貼り付け]**

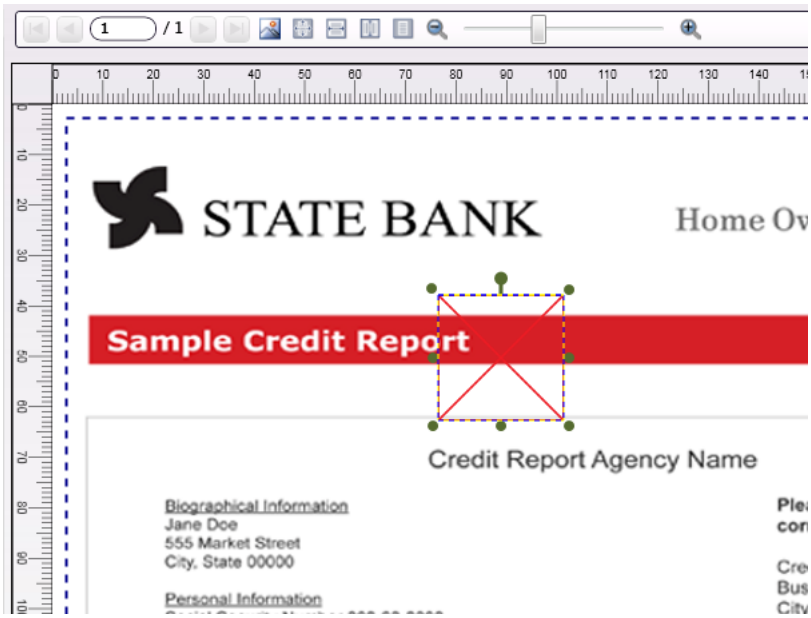
  - 右クリックして表示されるコンテキストメニューで[コピー]オプションと[貼り付け]オプションを使用することで、サンプルプレビューパネル内でサムネイル画像をコピーアンドペーストできます。[コピー]オプションをクリックすると、現在の画像の設定がコピーされます。[貼り付け]オプションをクリックすると、コピーした画像が選択した位置に貼り付けられます。

- **移動**
  - 画像を選択してから **Alt + 矢印キー** ーを押すか、または画像を選択してからマウスを使用して、**サンプルプレビューパネル** 内の画像を移動します。
  - **[サムネイル画像名]** ウィンドウで、サムネイル画像をダブルクリックすると設定画面が開きます。[上]フィールドと[左]フィールドに値を入力します。この2つのフィールドで指定した値の位置に、**サンプルプレビューパネル**の画像が移動します。
- **回転**
  - 右クリックして表示されるコンテキストメニューを使用して、90°、180°、270°の方向にサムネイル画像を回転します。
  - マウスを使用して画像を回転します。
  - **[サムネイル画像名]** ウィンドウで、サムネイル画像をダブルクリックすると設定画面が開きます。スライダーを使用するか、数値を入力します。**[上]** フィールドと **[左]** フィールドに値を入力します。この2つのフィールドで指定した値の位置に、**サンプルプレビューパネル**の画像が移動します。
- **サイズ変更**
  - イメージをクリックしてから隅または端をドラッグして、イメージのサイズを変更します。
  - イメージを選択して、**ALT + SHIFT + 矢印**キーでイメージのサイズを変更します。
  - サムネイルイメージをダブルクリックして表示される[サムネイル画像設定]ウィンドウで、**[幅]** フィールドと **[高さ]** フィールドに数値を入力します。
- **[表示]/[編集]**
  - サムネイル画像のプロパティを表示または編集するには、サムネイル画像をダブルクリックするか、サムネイル画像リストで[編集]アイコンをクリックします。
- **[削除]**
  - 1つ以上のイメージをクリックして選択してから、**Delete**キーを押すか、コンテキストメニューの **[削除]** オプションを選択します。複数の項目を選択するには、CTRLキーを押したままでサムネイルイメージをクリックします。

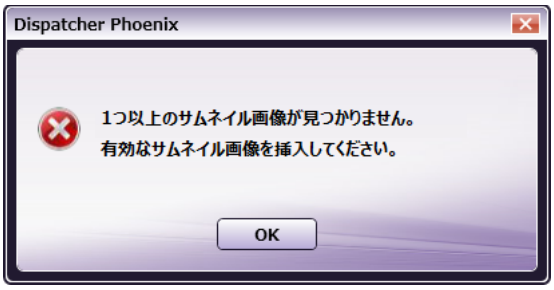
プレビュー画像を追加していない場合、サンプルプレビューパネルにはデフォルトのサンプル画像が表示されます。

プレビュー画像をアップロードするときにエラーが発生すると、サンプルプレビューパネルにはデフォルトのサンプル画像が表示されます。

追加したサムネイル画像を削除すると、以下の例に示すようにクロスマーク(X)が表示され、削除された画像の以前の場所が示されます。



このノード設定の［保存］ボタンをクリックし、追加されたサムネイル画像が見つからない場合は、次のような通知のポップアップが開きます。



［OK］をクリックして、ポップアップを閉じます。

ツールバー

ノードプロパティウィンドウのビューをカスタマイズするには、ウィンドウ上部にあるツールバーを使用します。

ツールバーのアイコン	説明
	［アップロード］アイコン 。このアイコンをクリックすると、サンプルプレビューパネルに表示されているイメージがアップロードされます。
	［ページ］アイコン。 矢印をクリックして、サンプルドキュメントのページ間を移動します（可能な場合）。
	［実際のサイズ（100%）］アイコン。 プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	［幅に合わせる］アイコン。 プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	［高さに合わせる］アイコン。［プレビュー］領域の高さに合わせてサンプルドキュメントを拡大するには、このアイコンをクリックします。
	［ページに合わせる］アイコン。 このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	ズームコントロール。 拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大/縮小します。

制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. 次の形式の組み合わせだけが透明度をサポートしています。
    - 入力ファイルとイメージパネルの両方がPDF。(この場合、**サンプルプレビューパネル** は出力と一致しません。出力ファイルで透明度が適用される領域は、**サンプルプレビューパネル** では白く表示されます。)
    - イメージパネルのファイルがTIFF / PNG 且つ 入力ファイルがPDF以外のケース(入力ファイルがPDFの場合は透明情報が失われます)
2. 透明部を含むPDFサムネイル画像は、プレビューパネルでは白い背景で表示されますが、出力PDFでは透明部を含んで出力されます。
3. PDF入力ファイルとイメージパネルの透明部を含むTIFFを組み合わせると処理エラーが発生します。

カラールートベクターPDF

注意: このノードは、PDFファイル(バージョン1.3以降)に対応しています。

カラールートベクターPDFノードを使用すると、色に基づいてドキュメントをルーティングできます。デフォルトでは、色検出はベクターオブジェクトでのみ実行されます。**[ラスター・ベクター画像両方を評価]** ラジオボタンを選択した場合、両方の種類のオブジェクトがカラー検出の対象とされます。

サポートされていない色空間が見つかった場合は、**[ベクター画像の色空間が判別不能の場合]** ドロップダウンで指定された値が適用されます。色検出の実行時に検出された判別不能の色空間に、このノードがどのように対応するかを調整できる設定もあります。

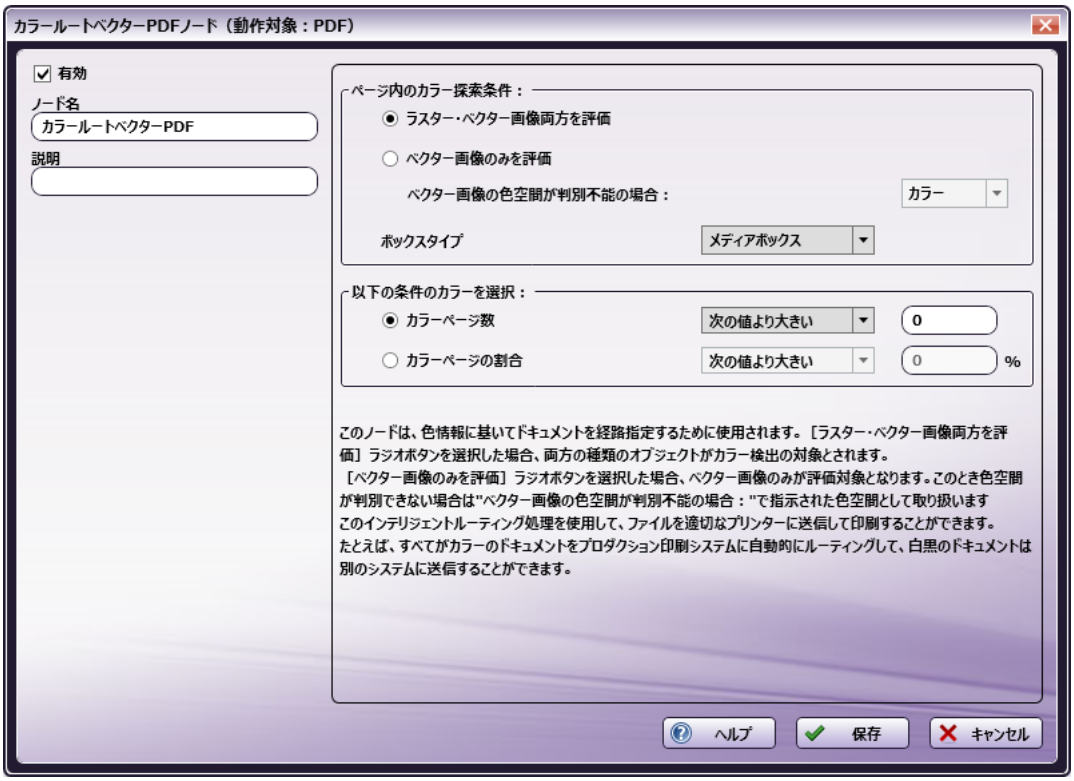
色が検出されたら、このノードを使用してファイルを自動的に転送します。転送先のノードは、検出された設定をサポートしているプリンターにジョブを送信します。たとえば、すべてがカラーのドキュメントをプロダクション印刷システムに自動的にルーティングして、白黒のジョブは別の印刷システムに送信できます。

このノードでは、以下の出力コネクターを選択できます。

- **はい:** カラーページ条件が満たされた場合。
- **いいえ:** カラーページ条件が満たされなかった場合。
- **エラー:** ドキュメントタイプがサポートされていない場合。

カラールートベクターPDFノードを使う

カラールートベクターPDF ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**カラールートベクターPDF** ノードをワークフローに追加します。アイコンをダブルクリックすると、**[カラールートベクターPDF]** ノードウィンドウが開きます。



このウィンドウを使用して、カラールートベクターPDFノードの設定を指定します。

- **［有効］** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します(つまり、デフォルトのパスまたは「Y(はい)方向の」パスを進み続けます)。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。

- **［ノード名］**フィールドに、カラールートベクターPDFノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］**フィールドに、カラールートベクターPDFノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 変更を保存するには、**［保存］**ボタンをクリックします。**［キャンセル］**を選択すると、ウィンドウが閉じて変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］**ボタンをクリックします。

カラールートベクターPDF設定

- **［ラスター・ベクター画像両方を評価］**：このラジオボタンを選択すると、色検出時に入力ファイル内の**ベクター**オブジェクトと**ラスター**オブジェクトの両方が評価されます。

  ［ラスター・ベクター画像両方を評価］が選択されている場合、**ベクター** オブジェクトが最初にスキャンされます。**カラーベクター**オブジェクトが見つかった場合は、**カラー**ページとして扱われます。**カラーベクター**オブジェクトが見つからなかった場合、ページはラスタライズされ、各ピクセルの色をスキャンして色検出を実行します。
- **［ベクター画像のみを評価］**：**［ベクター画像のみを評価］**ラジオボタンを有効にすると、色検出時に入力ファイル内で識別された**ベクター** オブジェクトのみが評価されます。サポートされていない色空間が見つかった場合は、**［ベクター画像の色空間が判別不能の場合］**ドロップダウンで指定された値が適用されます。
- **［ベクター画像の色空間が判別不能の場合］：**ドロップダウンから値を選択します。判別不能の色空間が特定されると、選択された値がその色空間の値として適用されます。
- **［ボックスタイプ］**：ドロップダウンから、検出する必要があるボックスのタイプを選択します。**［メディアボックス］**、**［トリムボックス］**、または **［ブリードボックス］**の3つのオプションがあります。デフォルト値は **［メディアボックス］**です。入力PDFファイルの**メディアボックス**の条件が設定に従って照合されます。

  注意： ページに**トリム／ブリードボックス**が含まれていない場合、値はデフォルトで **メディアボックス**に設定されます。
- **［カラーページ数］**または **［カラーページの割合］**のいずれかのラジオボタンを選択します。ラジオボタンを選択したら、対応するドロップダウンからサポートする値を選択します。
  - **［カラーページ数］：**ドロップダウンからデリミターを選択します。ここでは **［等しい］**、**［次の値より小さい］**、または **［次の値より大きい］**を選択できます。

    デリミターを選択したうえで、テキストフィールドに数値を入力します。たとえば、ノードでカラーページが10ページ未満のファイルを特定のプリンターにルーティングする必要がある場合、**［次の値より小さい］**を選択してからテキストフィールドに「**10**」を入力します。
  - **［カラーページの割合］：**ドロップダウンからデリミターを選択します。ここでは **［等しい］**、**［次の値より小さい］**、または **［次の値より大きい］**を選択できます。

    デリミターを選択したうえで、対応する割合をテキストフィールドに入力します。たとえば、ノードで30%を超えるカラーページを含むファイルをルーティングする必要がある場合、**［次の値より大きい］**を選択してからテキストフィールドに「**30**」を入力します。

Excel解析

注意：このノードは、XLSX、およびCSVの各ファイルに対応しています。

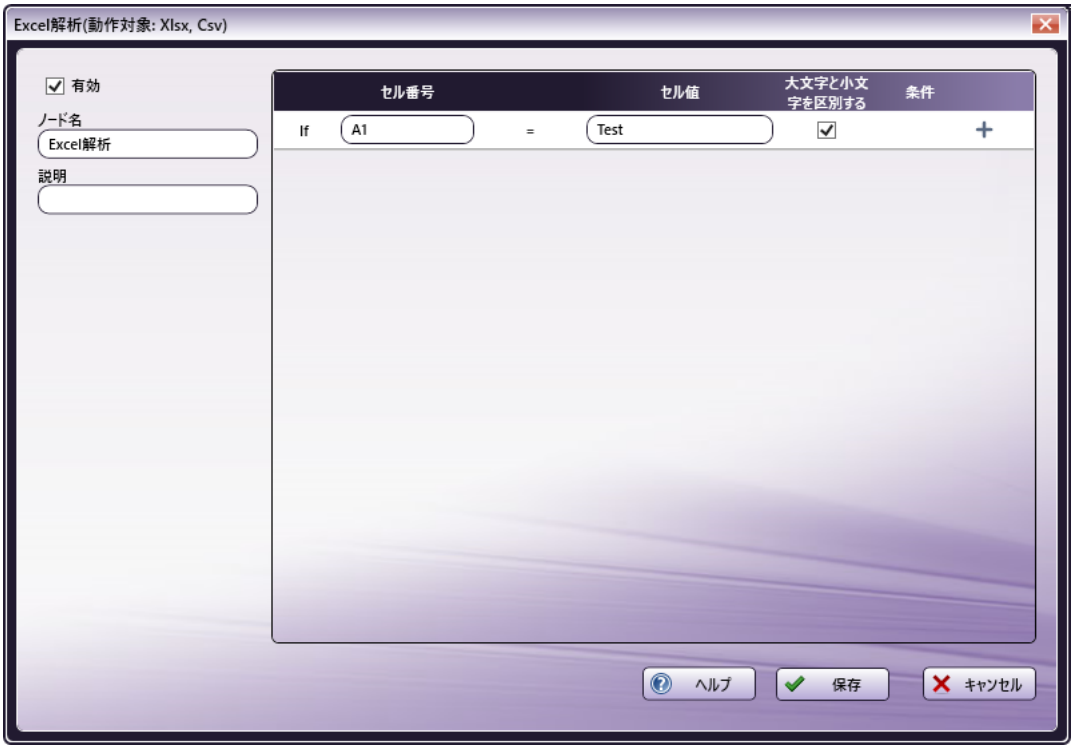
Excel解析ノードは、判断ノードの1つであり、入力ファイルを取得し、ノードで定義された設定に基づいてその入力ファイルを処理します。処理が完了すると、ファイルはワークフローに構成された適切な出力先にルーティングされます。

具体的には、このノードはUIで設定されている **［セル番号］**、**［セル値］**、および **［条件］**を入力ドキュメントに照らしてチェックします（入力ドキュメントはXLSX、または CSV ファイルである必要があります）。一致するものが見つかった場合、ドキュメントは **【はい】**のルートに移動されます。見つからなかった場合、入力ファイルは **【いいえ】**のルートに移動されます。

このノードで使用できるファイルタイプは XLSX、および CSV のみです。他のファイル形式はすべてエラー出力コネクターにルーティングされます。

Excel解析ノードを使う

Excel解析ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**Excel解析** ノードをワークフローに追加します。アイコンをダブルクリックすると、**［Excel解析］ノード** ウィンドウが開きます。



このウィンドウを使用して、Excel 解析ノードの設定を指定します。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、デフォルトのパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、Excel 解析ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、Excel解析ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択すると、ウィンドウが閉じて変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

Excel解析ノードのプロパティの設定

構成ウィンドウでExcel解析ノードのプロパティを設定します。デフォルトで表示される入力条件は1つのみです。

- **[セル番号]:** このフィールドで **セル番号** または列を指定します。Excelドキュメントの場合と同様な値を入力できます（たとえば、先頭行の先頭列であればA1）。100行と100列の範囲で指定が可能です。したがって、**[セル番号]** には最大でA1～CV100の値を指定できます。
- **[セル値]:** それぞれの **[セル番号]** に対する **セル値** をこのフィールドで指定します。
- **[大文字と小文字を区別する]:** このチェックボックスをオンにすると、**[セル値]** の入力データを照合するときに大文字と小文字が区別されます。
- **[条件]:AND** または **OR** を区切り記号として指定できます。指定した入力条件が1つのみの場合、この設定は無視されます。指定した入力条件が複数の場合、入力ファイルのデータの最後の行では、この設定が無視されます。
- **＋ ボタン:** このアイコンを使用して新しい条件を追加します。最大で40の条件を追加できます。同じ**セル番号** を指定した条件を複数追加できますが、その場合、**OR**区切り記号を選択する必要があります。
- **× アイコン:** テーブルから条件を削除するには、目的の条件を選択してこのアイコンをクリックします。

制限事項

1. Excel解析ノードでは、パスワードで保護されたXLSXファイルはサポートされません。
2. CSVの改行コードがCRの場合、Excel解析ノードは改行を認識出来ないため、改行コードを指定出来るテキストエディタにてCR+LFもしくはLFに変更してください。

ギャンギングノード

注意:このノードは、PDFおよびCSVファイルを含むZIPファイルに対応しています。

ギャンギングノードを使用すると、より大きい用紙に出力される複数のジョブを結合できます。出力が終わると、ギャンギングされたジョブはポストプレス装置（カッター、フォルダー、小冊子製本機など）で処理され、個別のジョブに分けられます。

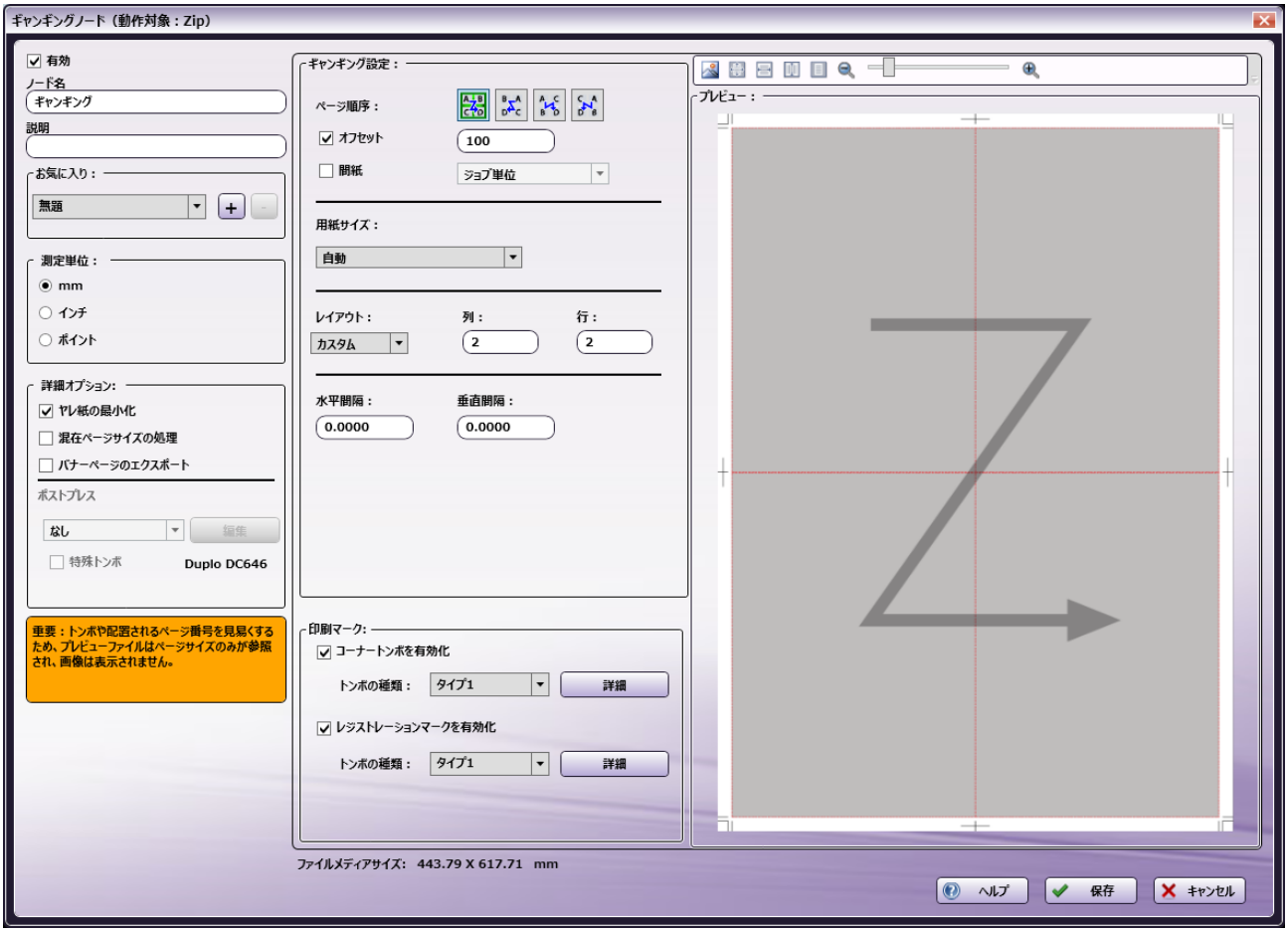
ジョブをギャンギングノードに送信する場合、ジョブは、1つ以上のプリントジョブ（PDFファイル）とギャンギング指示を指定するCSVファイルを含むZIPファイルである必要があります。

注意：必要なZIPファイルの作成手順については、「参考資料」>「Ganging Job Submitterの基本操作手順」のセクション参照してください。

ギャンギングノードで受け付けることができるジョブの最大数は1,000です。

ギャンギングノードを使う

ギャンギングノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ギャンギング**ギャンギングノードをワークフローに追加します。アイコンをダブルクリックすると、**［ギャンギングノード］**ウィンドウが開きます。



このウィンドウを使用してギャンギングノードの設定を指定します。

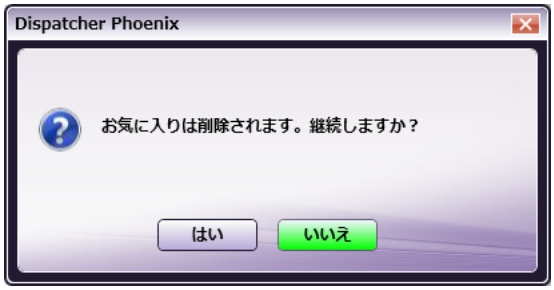
- **［有効］**チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、デフォルトのパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **［ノード名］**フィールドに、ギャンギングノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］**フィールドに、ギャンギングノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **［測定単位］**領域では、測定単位を選択します。この設定では、**mm**、**インチ**、および**ポイント**の3種類の単位がサポートされています。
- 変更を保存するには、**［保存］**ボタンをクリックします。**［キャンセル］**を選択すると、ウィンドウが閉じて変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］**ボタンをクリックします。

[お気に入り]

[お気に入り] 領域では、テンプレートを作成して保存します。保存したテンプレートを削除することもできます。

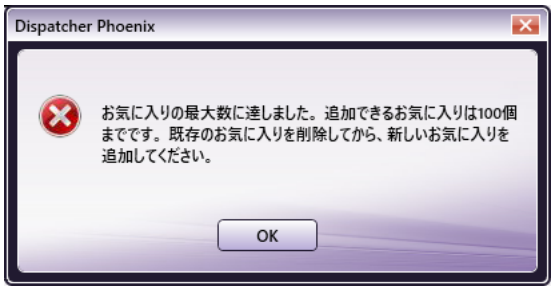
選択した設定を**お気に入り**として保存するには、すべての設定を選択した後**にお気に入り名**を追加します。

- **新しい項目の追加:** [+]ボタンをクリックすると、**[お気に入りの追加]** ポップアップが開きます。**[お気に入り名]** の値を入力し、**[保存]** をクリックして変更を保存します。
- **既存の項目の削除:** [-]ボタンをクリックします。確認ダイアログが開きます。**[はい]** をクリックして**お気に入り**を削除します。



- **既存の項目の編集:既存の項目を編集するには、項目を選択して[+]ボタンをクリックします。必要に応じて変更を加えます。デフォルトでは、[お気に入り]** の値は **[無題]** に設定されます。元の名前を保持するには、古い値を再入力して、**[無題]** を置き換えます。完了したら **[OK]** ボタンをクリックします。古い名前を再入力した場合、上書きを確認するポップアップが開きます。このポップアップで **[はい]** をクリックして、古い値を上書きします。

  注意: *最大100個の**[お気に入り]**を保存できます。**[お気に入り]** の数が100に達すると、テンプレートへの新規追加は許可されず、次のエラーメッセージがユーザーに表示されます。*



注意: *デフォルト以外の保存済みの**[お気に入り]**が選択されている場合、他のワークフローのギャンギングノードによって保存済みの**[お気に入り]**が削除/変更されていない場合、ノードを開くと**[お気に入り]**のドロップダウンには保存済みの**[お気に入り]**名が表示されます。*

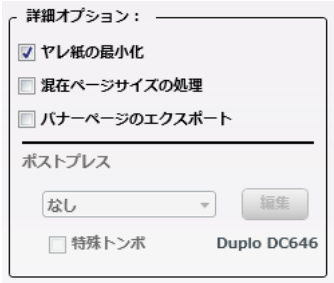
注意: *デフォルト以外の**[お気に入り]**が選択され、ノードが開いたときに既に削除/変更されている場合、**[お気に入り]**ドロップダウンには値[-]が表示されます。*

注意: *ノードが開いているときに**[お気に入り]**の値を変更すると、**[お気に入り]**ドロップダウンに[*無題+]の値が表示されます。*

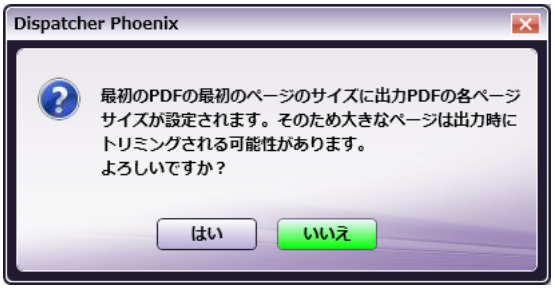
注意: ***[お気に入り]**の名前は、以下の文字の任意の組み合わせにすることができます。*

- *1バイト文字[英字など](a～zおよびA～Z)*
- *2バイト文字[日本語、中国語の文字など]*
- *スペース*
- *数字(0から9)*

[詳細オプション]



- **［ヤレ紙の最小化］:［ヤレ紙の最小化］**チェックボックスをオンにすると、ギャンギング設定と入力ジョブに基づいてヤレ紙が可能な限り最小化されます。オフにすると、ヤレ紙について考慮しない1つのジョブとして出力ジョブが生成されます。
- **［混在ページサイズの処理］:** ジョブに複数の**ページサイズ**が混在している場合には、このチェックボックスをオンにします。値を選択すると、次のポップアップメッセージが開きます。



確定するには**［はい］**を、要求をキャンセルするには**［いいえ］**をクリックします。

- **［バナーページのエクスポート］:** このチェックボックスをオンにすると、マークされたドキュメントとバナーページの両方が作成されます。バナーページには、ジョブに適用されるマークの種類が出力されます（たとえば、トリム）。バナーページが生成され、個別のジョブとしてメインジョブと共に送信されます。

  注意:生成されるバナーページにはメタデータキー"ganging:jobtype"に値として"banner"が設定されます。

- **［ポストプレス］:** 出力が終わると、ギャンギングされたジョブはポストプレス装置（カッター、フォルダー、小冊子製本機など）で処理され、個別のジョブに分けられます。このオプションを使用して、ジョブで使用するポストプレスフィニッシャーの種類を指定します。このコンボボックスのデフォルト値は**［なし］**です。
- **［編集］:** このボタンをクリックすると、［ポストプレス設定］ウィンドウが開きます。

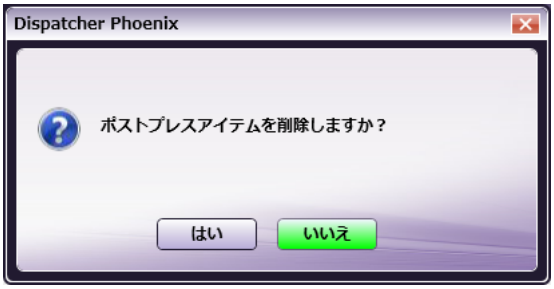
注意:ポストプレスオプションは、［用紙サイズ］で［自動］以外が選択されている場合にのみ使用できます。

- **［新規のポストプレス設定の追加］:［+］**ボタンをクリックするか、コンテキストメニューの**［新規のポストプレス設定の追加］**オプションを使用すると、新規のポストプレス設定が追加されます。保存すると、新しい設定がテーブルに追加されます。

  注意:［ポストプレス設定］の［名前］は、以下の文字の任意の組み合わせにすることができます。

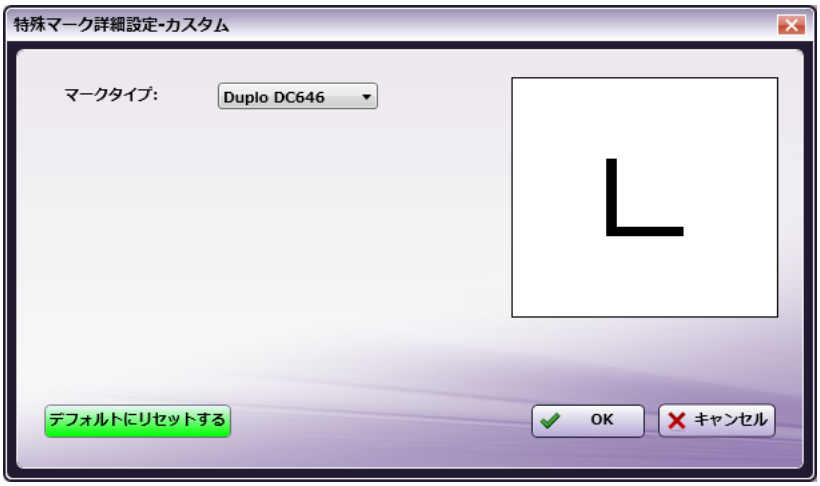
  - *1バイト文字[英字など]（a～zおよびA～Z）*
  - *2バイト文字[日本語、中国語の文字など]*
  - *スペース*
  - *数字（0から9）*

- **ポストプレス設定の削除:** 保存された設定を削除するには、該当の行を見つけて、行の右端にある［X］をクリックします。または、項目の**［No.］**列を右クリックして、メニューから**［削除］**を選択することもできます。いずれかの方法で削除を実行すると、確認ダイアログが開きます。



設定を削除するには［**はい**］を、要求をキャンセルするには［**いいえ**］をクリックします。

- ポストプレスの定義を保存するには、［**保存**］ボタンを選択します。［**キャンセル**］ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを閉じることもできます。
- ［**特殊トンボ**］：このチェックボックスをオンにすると、チェックボックスの右側のハイパーリンクが有効になります。**特殊トンボ**を変更するには、ハイパーリンクをクリックして、［**特殊マーク詳細設定-カスタム**］ダイアログを開きます。その画面で新しい**特殊トンボ**を選択します。

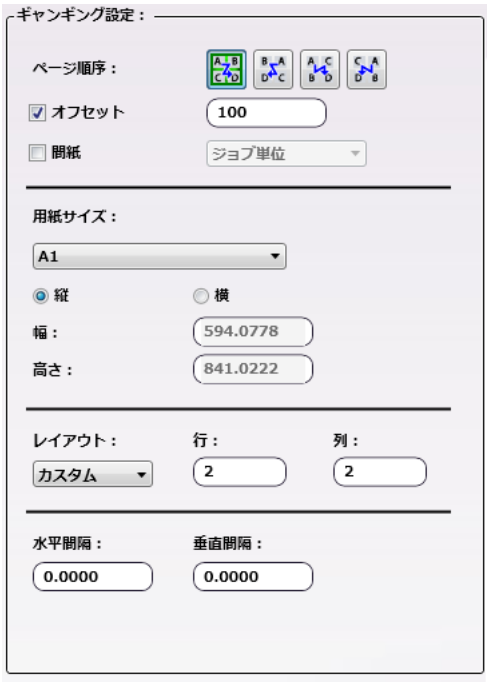


注意:［特殊トンボ］オプションは、［用紙サイズ］で［自動］以外が選択されている場合にのみ使用できます。

- ［**特殊マーク詳細設定-カスタム**］:［**マークタイプ**］で［**カスタム**］を選択すると、次のUIが開きます。このUIで、マークの［**幅**］と［**高さ**］の絶対寸法と、［**左の余白**］と［**下の余白**］を基準にしたマークの絶対位置を指定します。

［ギャンギング設定］

［ギャンギング設定］領域では、ページレイアウトを指定します。



- **［ページ順序］：** ページ出力の順序を指定します。**水平、水平反転、垂直、垂直反転**の4つのオプションがあります。
- **［オフセット］：** チェックボックスをオンにすると、**オフセット**が有効になります。最小値は1、最大値は10,000、そしてデフォルト値は100です。
- **［間紙］：** 出力時にジョブの間またはセットの間に白紙を挿入するには、このチェックボックスをオンにします。
- **［用紙サイズ］：** 印刷に使用される出力用紙のサイズ（ギャンギング用紙のサイズ）を指定します。**［用紙サイズ］** のデフォルト値は **［自動］** です。**［用紙サイズ］** で **［自動］** 以外を選択すると、以下の各オプションを使用できるようになります。
  - **［縦］／［横］：** 出力用紙の向きを選択します。
  - **［幅］：** 印刷用紙の幅（またはギャンギング用紙の幅）。
  - **［高さ］：** 印刷用紙の高さ（またはギャンギング用紙の高さ）。

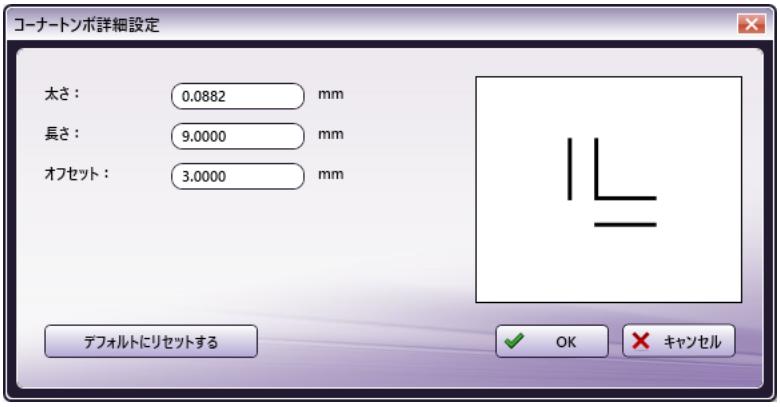
  注意:*B系用紙サイズ（B0、B1など）の寸法は、Dispatcherの言語に基づいて、JIS（日本工業規格）またはISO（国際標準化機構）で表示されます。*

  注意:*Dispatcherの言語設定が日本語以外の場合、B系用紙サイズの寸法はISO（国際標準化機構）で表示されます。日本語の場合は、JIS（日本工業規格）で表示されます。*

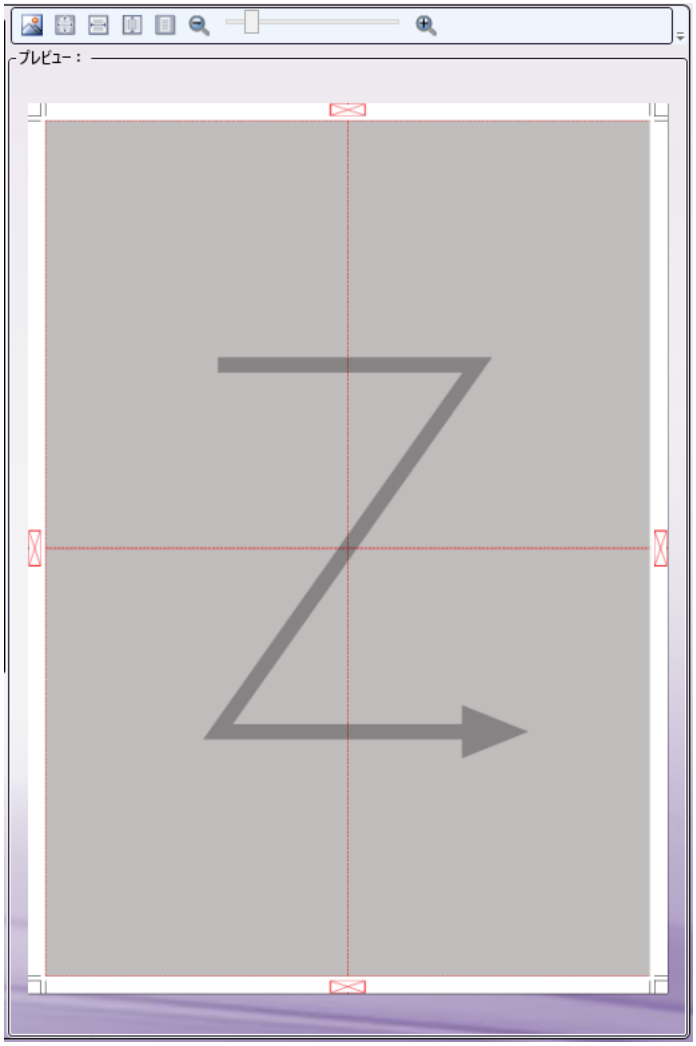
  注意:*ワークフローの実行では、UIに表示されるディメンションが使用されます。*
- **［レイアウト］：** レイアウトのオプションとして **［カスタム］** または **［自動］** を選択します。**［カスタム］** を選択すると、**［列］** および **［行］** で指定されている値に基づいて、ギャンギングされたブロックの数が生成されます。**［自動］** を選択すると、**［行］** フィールドと **［列］** フィールドは無効になり、プレビュー画像に基づいて更新されます。プレビューがアップロードされない場合は、画面の下部に示される **［ファイルメディアサイズ］** に「-」の値が表示されます。
- **［水平間隔］：** 2つのトリムブロック間の水平間隔。デフォルト値は0です。
- **［垂直間隔］：** 2つのトリムブロック間の垂直間隔。デフォルト値は0です。

［印刷マーク］

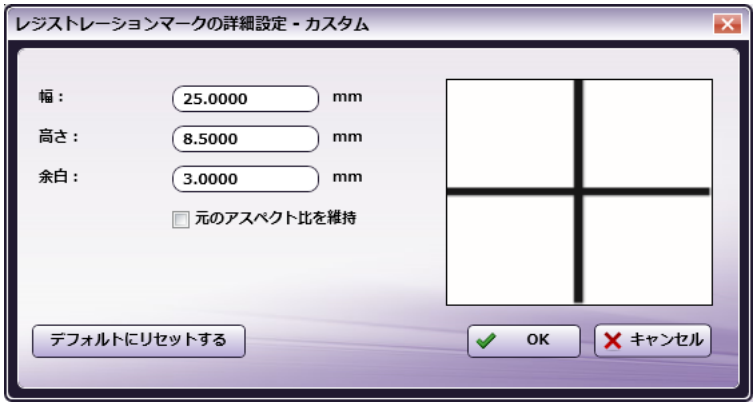
- **［コーナートンボを有効化］：** チェックボックスをオンにすると、**コーナートンボ**が追加されます。
  - **［トンボの種類］：［タイプ1］**、**［タイプ2］**、および **［タイプ3］** の3つのオプションから**コーナートンボ**の種類を選択します。
  - **［詳細］：［詳細］オプションをクリックして、以下に示すダイアログを開きます。ここでカスタムコーナートンボの値を指定できます。［デフォルトにリセットする］** ボタンをクリックすると、すべての値がデフォルト値にリセットされます。



- **［レジストレーションマークを有効化］:** チェックボックスをオンにすると、**レジストレーションマーク**が追加されます。
  - **［トンボの種類］:［タイプ1］**、**［タイプ2］**、**［タイプ3］**、および **［カスタム］** の4つのレジストレーションマークの中から選択します。**［カスタム］** を選択した場合、イメージのパスを指定する必要があります。ネットワーク経由でファイルにアクセスできるようにするには、資格情報を設定する必要があります。**カスタムレジストレーションマーク**のファイルパスが空白の場合は、**Xマーク**の画像が **［プレビュー］** ウィンドウと **［レジストレーションマーク詳細設定-カスタム］** ウィンドウに表示されます。



  - **［トンボの種類］の［カスタム］設定:［詳細］** を選択すると、設定画面が開きます。



- カスタムレジストレーションマークの **[幅]**、**[高さ]**、および **[余白]** を指定します。
- **[元のアスペクト比を維持]** チェックボックスがオンの場合、一方の値を変更すると他方の値に自動的に変更が適用され、**レジストレーションマーク**の元の外観が維持されます。**[デフォルトにリセットする]** ボタンをクリックすると、すべての値がデフォルト値にリセットされます。

[プレビュー設定]

[プレビュー] アイコン をクリックすると[プレビュー設定]ウィンドウが開きます。

- **[PDFを使用]：** このチェックボックスをオンにすると、プレビューの生成にPDFファイルを使用できます。5,000ページを超える最大500 MBの大きさのファイルのインポートがサポートされます。
- **[トリムサイズ]：** 余分な部分を切り取った後のページサイズ。
- **[縦]／[横]：** 用紙方向を選択します。
- **[幅]** および **[高さ]：** トリムの**幅**および**高さ**。**[トリムサイズ]** コンボボックスでカスタムサイズを選択すると、**[幅]** および **[高さ]** のテキストボックスが有効になります。

プレビュー設定の生成中は、進行状況を示す以下の画面が表示されます。

プレビューのロード中に変更を加えると、その変更は適用され、ロードするプレビューは最後に構成された設定に基づきます。

注意:*PDFの**[プレビュー]**のみがサポートされています。*

注意:*ローカルドライブのファイルのみがサポートされます。ネットワークパスのファイルはサポートされません。*

注意:*[プレビュー]に印刷マークを明瞭に表示するため、**[プレビュー]**の表示には、アップロードされたPDFページのサイズのみが使用されます。PDFの内容は、**[プレビュー]**ではグレーのボックスとして表示されます。*

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

ツールバーのアイコン	説明
	[プレビューのアップロード]アイコン。 サンプルプレビューのイメージをアップロードするには、このアイコンをクリックします。PDFのプレビューのみがサポートされています。OSで16 GB以上のRAMが利用可能な場合、5,000ページで最大500 MBの大きさのファイルがプレビューでサポートされます。
	[実際のサイズ(100%)]アイコン: プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン: プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[高さに合わせる]アイコン: プレビュー領域の高さに合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページに合わせる]アイコン: このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	ズームコントロール。 拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大／縮小します。

メタデータの取り扱い

本ノードでは以下のメタデータグループカテゴリについて出力します。

ギャンギング、ジョブ、ポストプレス

制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. 複数のページサイズが混在している場合、ギャンギングノードは正しく機能しません。最適なパフォーマンスを得るには、用紙の許容範囲を±5ポイントに収めることをお勧めします。
2. ギャンギングノードが実行されるシステムのDispatcherに16 GB以上のRAMが搭載されている場合、ギャンギングノードでは1,000個のジョブがサポートされます。
3. **自動ギャンギング**を使用する場合、出力ドキュメントでPDFイメージが複数回繰り返されます。ファイルの**ブリードボックス**が重なっている場合、すべてのイメージが1ページに収まるようにすべてのページのブリードボックスのサイズが縮小されます。このような場合には、断裁エラーを避けるため、**[ギャンギング設定]** 画面で**水平間隔と垂直間隔**を追加することをお勧めします。これによって、正しく断裁できるよう十分な間隔が設けられます。
4. ネットワーク資格情報
   - 資格情報はワークフロー/config XMLにそのまま渡されて書き込まれます。
   - ワークフローを別のマシンからエクスポートしてインポートすると、ネットワーク資格情報が適切に機能しないことがあります。ワークフローをインポートした後で、資格情報を手動で設定／提供する必要があります。
5. イメージをネットワークパスからロードする場合、ワークフローを開くときにパフォーマンスの問題が発生したり、パフォーマンスが低下したりすることがあります。
6. **[プレビュー]** パネルの **[PDFを使用]** オプションでは、パブリックの共有ネットワークパスのみがサポートされています。資格情報を必要とするネットワークパスはサポートされていません。
7. Windows 7で日本語文字のファイル名を使用するには、**ホットフィックスKB2704299**をインストールする必要があります。

ジョブチケットエディター

注意: このノードは、PDFファイル(バージョン1.3以降)に対応しています。

ジョブチケットの情報を変更するには、**ジョブチケットエディター**ノードを使用します。このノードで設定された情報はメタデータに追加され、ワークフローの次のノードに送られます。

たとえば、このノードに送られたすべてのジョブの**部数**を25に変更するようにジョブチケットエディターノードを構成できます。この設定を指定したジョブチケットエディターノードにジョブが送信されると、**コピー**に関するジョブチケットのメタデータが変更され、25という新しい値で上書きされます。この例では、ジョブチケットの他のメタデータ値はすべてそのまま使用されます。このジョブは、**部数の値**だけが変更された状態でワークフローの次のノードへ送られます。

ジョブチケットエディターノードを使う

ジョブチケットエディターノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ジョブチケットエディター**ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**[ジョブチケットエディターノード]** ウィンドウが開きます。

左側パネルのオプションをクリックすると、そのオプションの下に設定オプションが表示されます。

右側パネルには、4つの列で構成されたグリッドが表示されます。

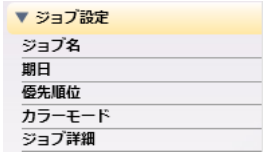
左側パネルに設定オプションが表示されているときに、項目を選択してグリッドにドラッグアンドドロップします。項目を移動するごとに新規の行が追加されます。移動を完了した項目は、4つのすべての列で値を編集できます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理を実行できるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、ジョブチケットエディターノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、ジョブチケットエディターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- ジョブチケットエディターの設定を適用するには **[保存]** ボタンを選択します。変更を保存しないでウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

グリッドの設定オプション

- **[メタデータ名]:** この列には、左側の列から値をドラッグアンドドロップして追加する項目のメタデータ名が表示されます。
- **[メタデータ値]:** この列には、左側の列から値をドラッグアンドドロップして追加する項目のメタデータ値が表示されます。これらの値は要素のタイプによって決まります。値を変更するには、リストから新しい値を選択するか、フィールドの値を手動で編集します。
- **[メタデータがすでに存在する場合]:** このドロップダウンには、要素のタイプに応じて2つまたは3つのオプションが表示されます。ジョブチケットエディターの設定更新に必要な操作を指定するオプションを選択します。
  - **[置換]:** 目的のメタデータキーが存在する場合は値を上書きします。そのキーが存在しない場合は、メタデータキーと値のペアを新たに作成します。
  - **[何もしない]:** 目的のメタデータキーが存在する場合は何も実行しません。そのキーが存在しない場合は、メタデータキーと値のペアを新たに作成します。
  - **[付け足す]:** 目的のメタデータキーが存在する場合は、既存の値に付加します。そのキーが存在しない場合は、メタデータキーと値のペアを新たに作成します。
- **[削除]:** [削除]アイコンをクリックすると、選択した行がグリッドから削除されます。

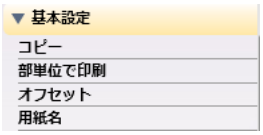
[ジョブ設定]のオプション（左側パネル）



- **[ジョブ名]:** ジョブチケットの説明

- **[期日]:** ジョブを完了する期限
- **[優先順位]:** ジョブの優先順位。[通常]または[ラッシュプリント]を選択します。
- **[カラーモード]:** ジョブのカラーモード。ドロップダウンメニューから[白黒]、[カラー]、[カラー[高彩度]]、[混合]、または[混合[高彩度]]を選択します。
- **[ジョブ詳細]:** 必要に応じてジョブの適切な説明を入力できるテキスト入力フィールド。

[基本設定]のオプション(左側パネル)



- **[コピー]:** 部数を指定します。
- **[部単位で印刷]:** [部単位で印刷]オプションを指定します。[部単位で印刷]オプションの[オン]または[オフ]を選択します。
- **[オフセット]:** オフセット設定。[メタデータ値]フィールドで値をダブルクリックすることで、**[オフセット]** オプションの[オン]または[オフ]を選択できます。[オン]を選択した場合は、**[部数ごとに仕分け]** または **[枚数ごとに仕分け]** のいずれかのオプションを指定します。
- **[用紙名]:** ジョブをサポートするために送信先プリンターのトレイに入れる用紙の名前。

  注意: **[用紙名]** フィールドをサポートするプリンターには、このフィールドに入力できる文字に関して、仕様や制限がある場合があります。用紙名の詳細な要件については、プリンターの説明書を参照してください。

[レイアウト設定]のオプション(左側パネル)

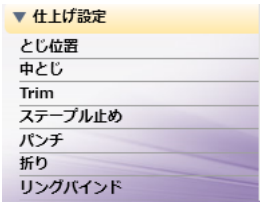
- **[2 in 1]:** 1枚の用紙に2ページを印刷します。ドロップダウンメニューから以下のいずれかを選択します。[オフ]、[2 in 1]、[2リピート]、[回転2リピート(左)]、[回転2リピート(右)]、[回転2リピート(上)]、または[回転2リピート(下)]
- **[印刷タイプ]:** 用紙への印刷の種類ドロップダウンメニューから[小冊子]、[両面]、[片面]、または[無線とじ]を選択します。

[表紙設定]のオプション(左側パネル)

- **[オモテ表紙]:** ドキュメントにオモテ表紙を追加します。**[オフ]**、**[白紙]**、または **[印刷]** のオプションがあります。**[白紙]** または **[印刷]** が選択されている場合は、**[用紙名]** テキストフィールドが表示されるので、**用紙名** を入力できます。
- **[ウラ表紙]:** ドキュメントにウラ表紙を追加します。**[オフ]**、**[白紙]**、または **[印刷]** のオプションがあります。**[白紙]** または **[印刷]** が選択されている場合は **[用紙名]** テキストフィールドが表示されるので、**用紙名** を入力できます。

  注意: **[用紙名]** フィールドをサポートするプリンターには、このフィールドに入力できる文字に関して、仕様や制限がある場合があります。**[用紙名　オモテ表紙]** フィールドと **[用紙名　ウラ表紙]** フィールドに入力する値は、それぞれの仕様と制限に従う必要があります。**用紙名** の詳細な要件については、プリンターの説明書を参照してください。

[仕上げ設定]のオプション(左側パネル)



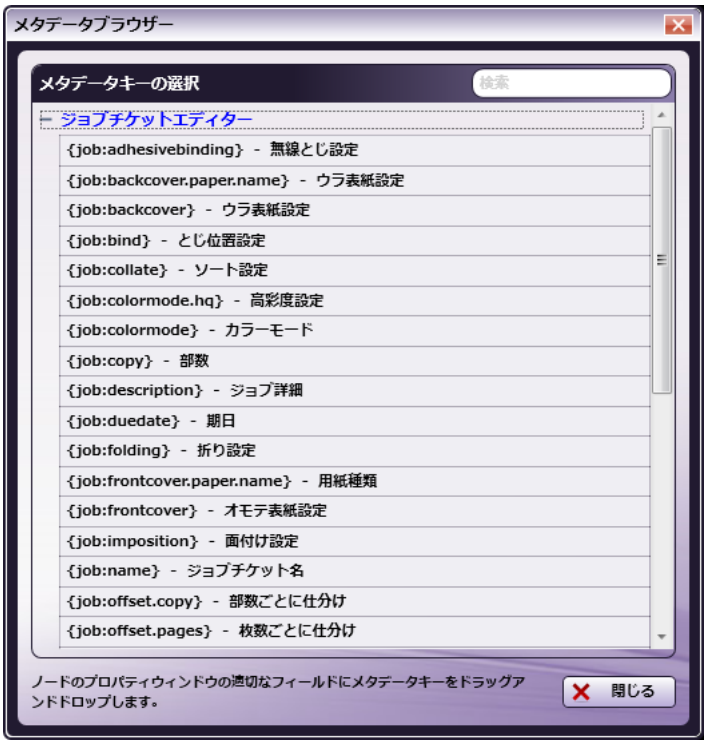
- **[とじ位置]:** 印刷するドキュメントのとじ位置を指定します。ドロップダウンメニューから **[自動]**、**[左とじ]**、**[上とじ]**、または **[右とじ]** を選択します。
- **[中とじ]:** **[オフ]** または **[オン]** を選択します。
- **[Trim]:** 中とじして中央で折った用紙の端を裁断します。**[オフ]** または **[オン]** を選択します。
- **[ステープル止め]** - 用紙をステープルでとじます。ドロップダウンメニューから **[オフ]**、**[1ヶ所]**、**[2ヶ所]**、**[2点(やや狭い)]**、または **[2点(狭い)]** を選択します。
- **[パンチ]:** 用紙にパンチで穴を開けます。ドロップダウンメニューから **[オフ]**、**[2穴]**、**[3穴]**、**[4穴]**、または **[ストリームパンチ]** を選択します。

- **[折り]:** 出力する前に用紙を折ります。ドロップダウンメニューから **[オフ]**、**[Z折り(A3、B4、11x17、8K)]**、**[Z折り(8 1/2x14)]**, **[中折り内印刷]**、**[中折り外印刷]**、**[内三つ折り内印刷]**、**[内三つ折り外印刷]**、**[外三つ折り内印刷]**、**[外三つ折り外印刷]**、**[四つ折り内印刷]**、**[四つ折り外印刷]**、**[観音折り内印刷]**、**[観音折り外印刷]**、**[重ね三つ折り内印刷]**、**[重ね三つ折り外印刷]**、または **[束中折り]** を選択します。
- **[リングバインド]:** [メタデータ値]フィールドで値をダブルクリックすることで **[オフ]** または **[オン]** を選択できます。[オン]を選択すると、**[オモテ表紙印刷面]** オプションと **[ウラ表紙印刷面]** オプションを指定できるようになります。**[内印刷]** または **[外印刷]** を選択します。

ジョブチケットのメタデータ

ジョブチケットエディターノードがワークフローに追加されると、「ジョブチケットエディター」という名前のエントリーが1つメタデータブラウザーに表示されます。

ジョブチケットエディターデータの構文は{job:ジョブチケット属性名}です。以下のスクリーンキャプチャーに示すように、ジョブチケットエディターの変数の選択にも、メタデータブラウザーウィンドウを使用できます。



注意: このヘルプファイルには、サポートされているジョブチケットメタデータ、JDF XPath、およびJDF値の範囲に関する詳細情報が含まれています。**ジョブチケットメタデータ**を参照してください。起動した[メタデータブラウザー]ウィンドウには、あらかじめ定義されているジョブチケットメタデータ、システム定義の変数(日付、ファイル、システム、ユーザー情報など)、およびアクティブノードのメタデータ値が表示されます。

面付

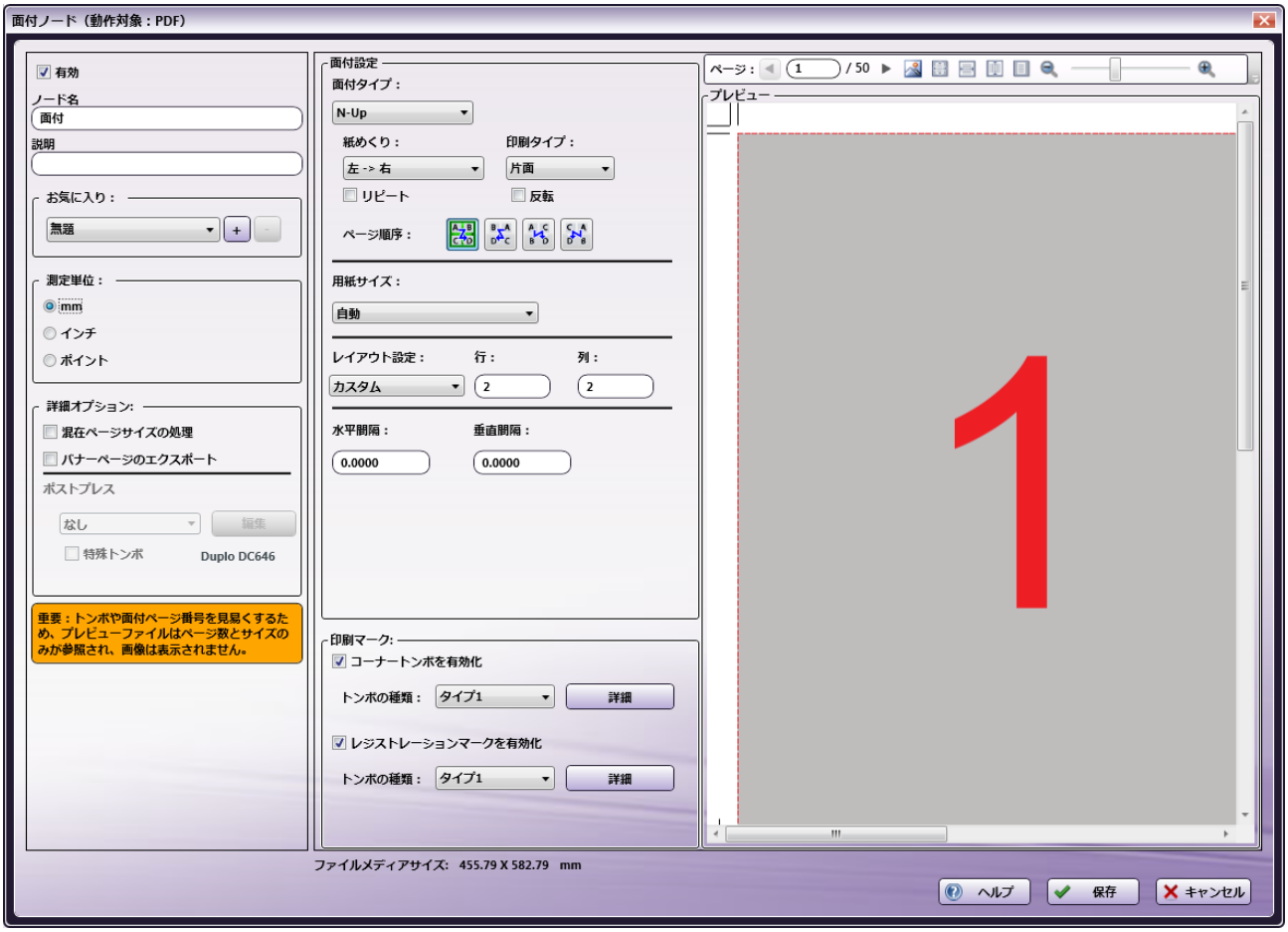
注意: *このノードは、PDFファイル(バージョン1.3以降)に対応しています。*

名刺、小冊子、およびグリーティングカードなどの小型形式のジョブは、大型形式の印刷がサポートされているプリンターへ送信できます。これらの小型形式のジョブは、1つのページに複数のコピーを配置することで、生産性が向上します。

このノードでは、PDFファイルを受け付けてから面付の設定を追加することで、、大型形式のデジタル印刷をサポートします。

面付ノードを使う

面付ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**面付**ノードをワークフローに追加します。アイコンをダブルクリックすると、**[面付ノード]** ウィンドウが開きます。



このウィンドウを使用して面付ノードの設定を指定します。

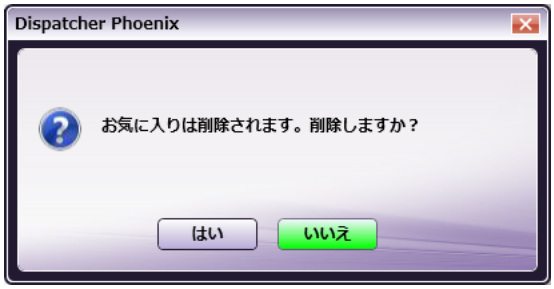
- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、デフォルトのパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、面付ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、面付ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[測定単位]** 領域では、測定単位を選択します。この設定では、**mm、インチ、**および **ポイント**の3種類の単位がサポートされています。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンをクリックします。**[キャンセル]** を選択すると、ウィンドウが閉じて変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンをクリックします。

[お気に入り]

[お気に入り] 領域では、テンプレートを作成して保存します。保存したテンプレートを削除することもできます。

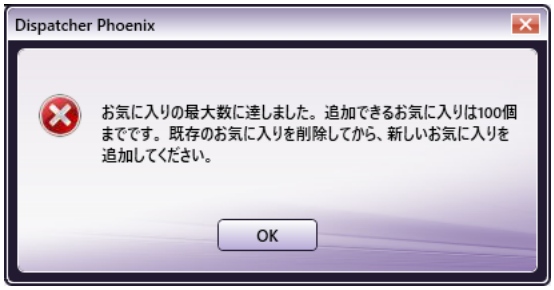
選択した設定を**お気に入り**として保存するには、すべての設定を選択した後に**お気に入り名**を追加します。

- **新しい項目の追加:** [+]ボタンをクリックすると、[お気に入りの追加]ポップアップが開きます。**[お気に入り名]** の値を入力し、**[保存]** をクリックして変更を保存します。
- **既存の項目の削除:** [-]ボタンをクリックします。確認ダイアログが開きます。**[はい]** をクリックして**お気に入り**を削除します。



- **既存の項目の編集：** 既存の項目を編集するには、項目を選択して［+］ボタンをクリックします。必要に応じて変更を加えます。デフォルトでは、**［お気に入り］**の値は**［無題］**に設定されます。元の名前を保持するには、古い値を再入力して、**［無題］**を置き換えます。完了したら**［OK］**ボタンをクリックします。古い名前を再入力した場合、上書きを確認するポップアップが開きます。このポップアップで**［はい］**をクリックして、古い値を上書きします。

  ***注意：** 最大100個の **[お気に入り]**を保存できます。**[お気に入り]**の数が100に達すると、テンプレートへの新規追加は許可されず、次のエラーメッセージがユーザーに表示されます。*



***注意：** デフォルト以外の保存済みの**[お気に入り]**が選択されている場合、他のワークフローの面付ノードによって保存済みの**[お気に入り]**が削除/変更されていない場合、ノードを開くと**[お気に入り]**のドロップダウンには保存済みの**[お気に入り]**名が表示されます。*

***注意：** デフォルト以外の**[お気に入り]**が選択され、ノードが開いたときに既に削除/変更されている場合、**[お気に入り]**ドロップダウンには値[-]が表示されます。*

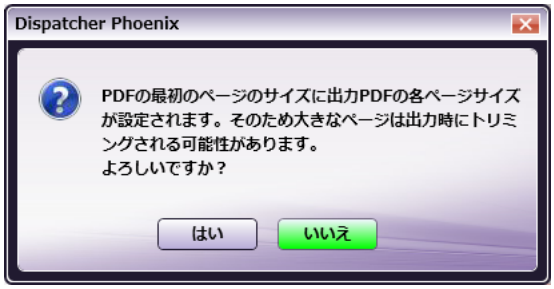
***注意：** ノードが開いているときに**[お気に入り]**の値を変更すると、**[お気に入り]**ドロップダウンに［*無題+］の値が表示されます。*

***注意：** **[お気に入り]**の名前は、以下の文字の任意の組み合わせにすることができます。*

- *1バイト文字[英字など]（a～zおよびA～Z）*
- *2バイト文字[日本語、中国語の文字など]*
- *スペース*
- *数字（0から9）*

［詳細オプション］

- **［混在ページサイズの処理］：ジョブに複数のページサイズ**が混在している場合には、このチェックボックスをオンにします。値を選択すると、次のポップアップメッセージが開きます。



確定するには **[はい]** を、要求をキャンセルするには **[いいえ]** をクリックします。

- **[バナーページのエクスポート]:** このチェックボックスをオンにすると、マークされたドキュメントとバナーページの両方が作成されます。バナーページには、ジョブに適用されるマークの種類が出力されます（たとえば、トリム）。バナーページが生成され、個別のジョブとしてメインジョブと共に送信されます。

  注意: 生成されるバナーページにはメタデータキー"imposition:jobtype"に値として"banner"が設定されます。

- **[ポストプレス]:** 出力が終わると、ギャンギングされたジョブはポストプレス装置（カッター、フォルダー、小冊子製本機など）で処理され、個別のジョブに分けられます。このオプションを使用して、ジョブで使用するポストプレスフィニッシャーの種類を指定します。このコンボボックスのデフォルト値は **[なし]** です。

- **[編集]:** このボタンをクリックすると、[ポストプレス設定]ウィンドウが開きます。

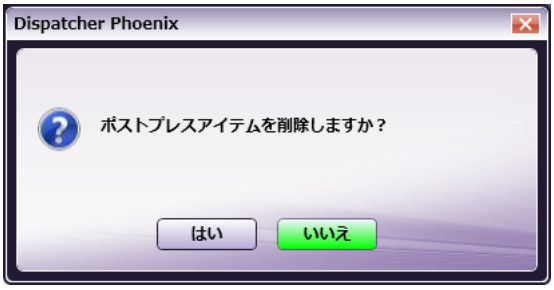
  注意: ポストプレスオプションは、[用紙サイズ]で[自動]以外が選択されている場合にのみ使用できます。

- **[新規のポストプレス設定の追加]:** **[+]** ボタンをクリックするか、コンテキストメニューの **[新規のポストプレス設定の追加]** オプションを使用すると、新規のポストプレス設定が追加されます。保存すると、新しい設定がテーブルに追加されます。

  注意: [ポストプレス設置]の[名前]は、以下の文字の任意の組み合わせにすることができます。

  - *1バイト文字[英字など]（a～zおよびA～Z）*
  - *2バイト文字[日本語、中国語の文字など]*
  - *スペース*
  - *数字（0から9）*

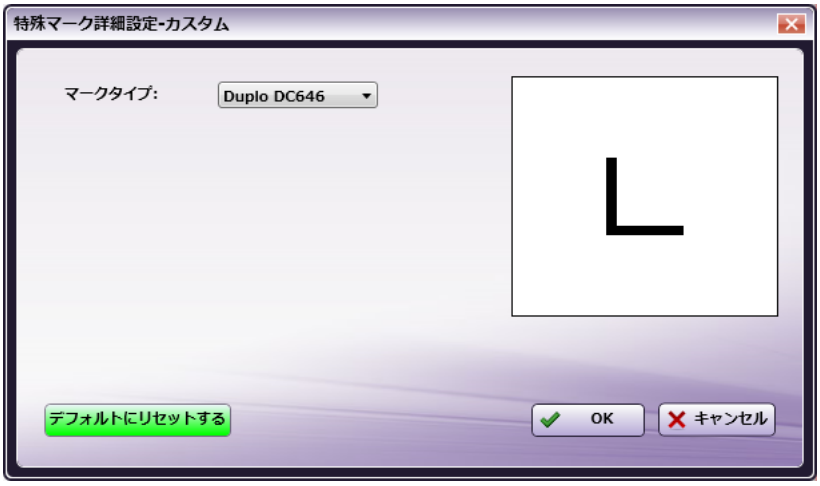
- **ポストプレス設定の削除:** 保存された設定を削除するには、該当の行を見つけて、行の右端にある[X]をクリックします。または、項目の **[No.]** 列を右クリックして、メニューから **[削除]** を選択することもできます。いずれかの方法で削除を実行すると、確認ダイアログが開きます。



設定を削除するには **[はい]** を、要求をキャンセルするには **[いいえ]** をクリックします。

- ポストプレスの定義を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを閉じることもできます。

- **[特殊トンボ]:** このチェックボックスをオンにすると、チェックボックスの右側のハイパーリンクが有効になります。特殊トンボを変更するには、ハイパーリンクをクリックして、**[特殊マーク詳細設定-カスタム]** ダイアログを開きます。その画面で新しい特殊トンボを選択します。



注意:[特殊トンボ]オプションは、[用紙サイズ]で[自動]以外が選択されている場合にのみ使用できます。

- **[特殊マーク詳細設定-カスタム]:[トンボの種類]**で**[カスタム]**を選択すると、次のUIが開きます。このUIで、マークの**[幅]**と**[高さ]**の絶対寸法と、**[左の余白]**と**[下の余白]**を基準にしたマークの絶対位置を指定します。

[面付設定]

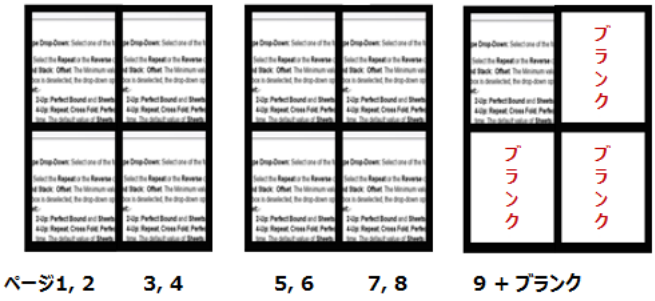
[面付設定]パネルでは、ページレイアウトを指定します。

[面付タイプ]ドロップダウン: 次のいずれかのオプションを選択します。

- **[N-Up]:[リピート]**または**[反転]**チェックボックスを選択します。

- **[断裁とスタック]:オフセット。**最小値は1です。最大値は10,000です。デフォルトでは、**[オフセット]** チェックボックスは有効で、値には100が設定されています。**[オフセット]** チェックボックスがオンになっていない場合、ドロップダウンオプションは無効です。
- **[小冊子]:**
  - **[2-Up]:[無線とじ]** および **[セクション当たりのシート数]**。**[セクション当たりのシート数]** のデフォルト値は16です。
  - **[4-Up]:[リピート]**、**[クロス折り]**、**[無線とじ]**、および **[セクション当たりのシート数]**。**[小冊子]** で **[4-Up]** を選択すると、**[リピート]** と **[クロス折り]** のチェックボックスを同時にオンにすることはできません。**[セクション当たりのシート数]** のデフォルト値は8です。
  - **[8-Up]:[無線とじ]** および **[セクション当たりのシート数]**。**[セクション当たりのシート数]** のデフォルト値は4です。
  - **[16-Up]:[無線とじ]** および **[セクション当たりのシート数]**。**[セクション当たりのシート数]** のデフォルト値は2です。

[小冊子] の値を選択すると、印刷するページに白紙のセクションを含めることができます。たとえば、9ページ構成のドキュメントで2-UPの **[面付] > [小冊子]** 設定を使用した場合、最初のシート2枚の表に2ページ分、裏に2ページ分が印刷されます。一方、最後のシートではシート片側の上半分だけに印刷出力があります。以下の図のように、シートの下半分と裏は空白のままになっています。



これと同様の処理がN-Upの設定を問わずに適用されるため、多くの場合、最終的な印刷ページには白紙のセクションが発生します。ポストプレスで断裁が適用されると、通常、これらの白紙セクションは廃棄されます。

- **[無線とじ]:** 選択した場合は、**[セクション当たりのシート数]** も表示されます。**[セクション当たりのシート数]** のデフォルト値は **[面付タイプ]**（[2-Up]、[4-Up]、[8-Up]、または[16-Up]）に応じて異なります。**[セクション当たりのシート数]** の最小値は1です。最大値は1,000です。

  ***注意:** [小冊子]で[4-Up]を選択したときの[リピート]チェックボックスは、[N-Up]を選択したときの[リピート]チェックボックスとは異なります。*

  ***注意:** [小冊子]で[4-Up]を選択したときの[無線とじ]および[セクション当たりのシート数]は、[小冊子]で[2-Up]を選択したときの[無線とじ]および[セクション当たりのシート数]とは異なります。*
- **[紙めくり]:** ドロップダウンから値を選択して、ドキュメントを参照するときにどちらの方向にページをめくるのかを指定します。**[左 -> 右]（デフォルト）**、**[右 -> 左]（日本式）**、および**[上 -> 下]（カレンダー式）** の3つのオプションがあります。
- **[印刷タイプ]:[片面]** または **[両面]**。**[面付タイプ]** が **[N-Up]** または **[断裁とスタック]** に設定されている場合、デフォルト値は **[片面]** です。**[面付タイプ]** が **[小冊子]** の場合、デフォルト値は **[両面]** です。
- **[ページ順序]:** このオプションは、**[面付タイプ]** が **[N-Up]** または **[断裁とスタック]** の場合に適用できます。ページの出力順序を指定します。**水平**、**水平反転**、**垂直**、または**垂直反転**の4つのオプションがあります。

[用紙サイズ]設定

- **[用紙サイズ]:** 印刷に使用される出力用紙のサイズ（面付用紙のサイズ）。**[用紙サイズ]** のデフォルト値は **[自動]** です。**[用紙サイズ]** で **[自動]** 以外を選択すると、以下の各オプションを使用できるようになります。
  - **[縦]／[横]:** 出力用紙の向きを選択します。
  - **[幅]:** 印刷用紙の幅（または面付用紙の幅）。
  - **[高さ]:** 印刷用紙の高さ（または面付用紙の高さ）。

  ***注意:**B系用紙サイズ（B0、B1など）の寸法は、Dispatcherの言語に基づいて、JIS（日本工業規格）またはISO（国際標準化機構）で表示されます。*

  ***注意:**Dispatcherの言語設定が日本語以外の場合、B系用紙サイズの寸法はISO（国際標準化機構）で表示されます。日本語の場合は、JIS（日本工業規格）で表示されます。*

  注意:ワークフローの実行では、UIに表示されるディメンションが使用されます。*

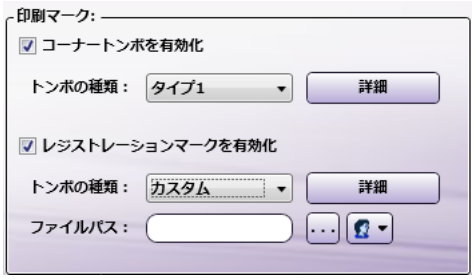
[レイアウト設定]:[カスタム] または **[自動]** を選択します。**[カスタム]** を選択すると、**[列]** および **[行]** で指定されている値に基づいて、ギャンギングブロックの数が生成されます。**[自動]** を選択すると、**[行]** フィールドと **[列]** フィールドは無効になり、プレビュー画像に基づいて更新されます。プレビューがアップロードされない場合は、画面の下部に示される **[ファイルメディアサイズ]** に「-」の値が表示されます。

[水平間隔]: 2つの面付ブロック間の水平間隔。デフォルト値は0です。

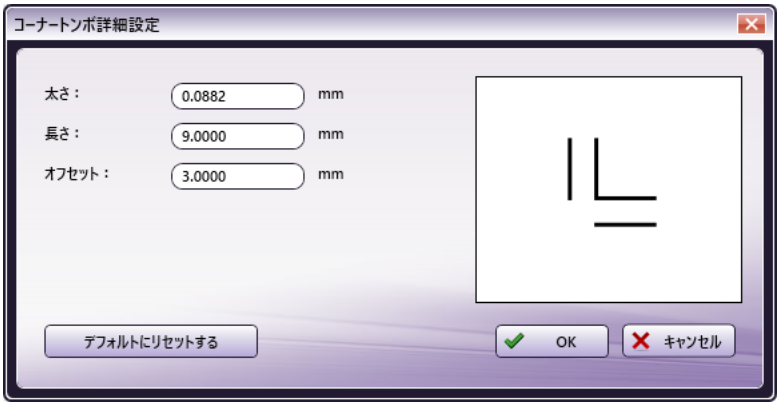
[垂直間隔]: 2つの面付ブロック間の垂直間隔。デフォルト値は0です。

[スプレッド]: このオプションは、[**面付タイプ**] で **[小冊子]** を選択した場合に使用できます。**スプレッド** は、小冊子を構成する同じシートに印刷される2つのページ間の間隔です。**[スプレッド]** の最小値は0 mm、最大値は10 mmです。

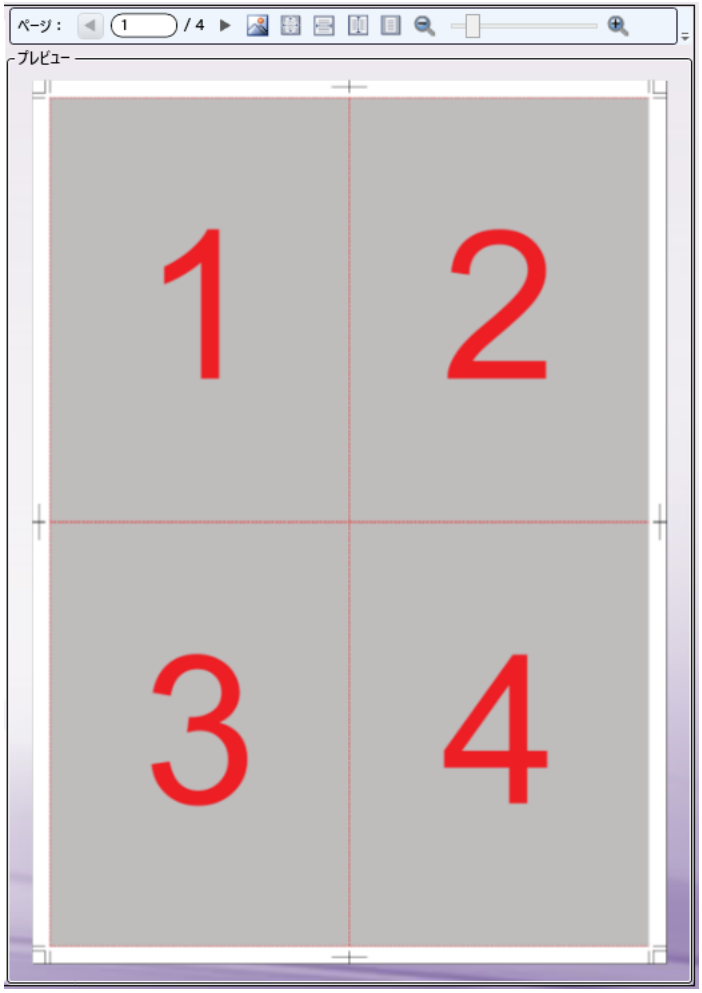
[印刷マーク]



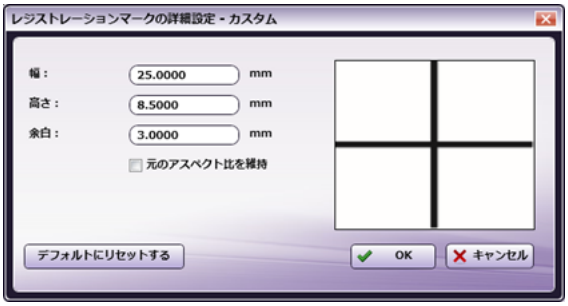
- **［コーナートンボを有効化］:** チェックボックスをオンにすると、**コーナートンボ** が追加されます。
  - **［トンボの種類］:［タイプ1］**、**［タイプ2］**、および **［タイプ3］** の3つのオプションから**コーナートンボ**の種類を選択します。
  - **［詳細］:［詳細］** オプションをクリックしてダイアログを開き、その画面でカスタムコーナートンボの値を指定できます。**［デフォルトにリセットする］** ボタンをクリックすると、すべての値がデフォルト値にリセットされます。



- **［レジストレーションマークを有効化］:** チェックボックスをオンにすると、**レジストレーションマーク**が追加されます。
  - **［トンボの種類］:［タイプ1］**、**［タイプ2］**、**［タイプ3］**、および **［カスタム］** の4つのオプションからレジストレーションマークの種類を選択します。**［カスタム］** を選択した場合、イメージのパスを指定する必要があります。ネットワーク経由でファイルにアクセスできるようにするには、資格情報を設定する必要があります。**カスタムレジストレーションマーク**のファイルパスが空白の場合は、**Xマーク**の画像が **［プレビュー］** ウィンドウと **［レジストレーションマーク詳細設定-カスタム］** ウィンドウに表示されます。



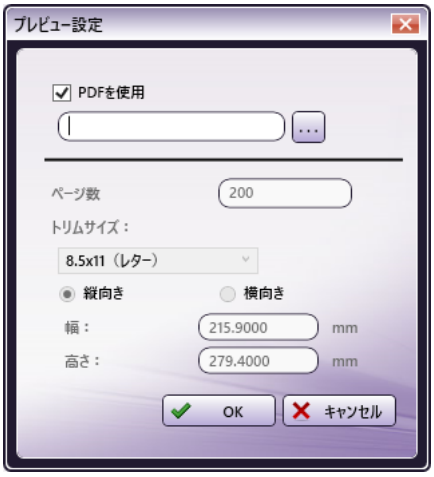
- **[トンボの種類]**の**[カスタム]設定:[詳細]** を選択すると、設定画面が開きます。



- **カスタムレジストレーションマークの[幅]**、**[高さ]**、および **[余白]** を指定します。
- **[オリジナルの縦横比を維持]** チェックボックスがオンの場合、一方の値を変更すると他方の値に自動的に変更が適用され、**レジストレーションマーク**の元の外観が維持されます。**[デフォルトにリセットする]** ボタンをクリックすると、すべての値がデフォルト値にリセットされます。

[プレビュー設定]

[プレビュー] アイコン をクリックすると[プレビュー設定]ウィンドウが開きます。



- **［PDFを使用］:** このチェックボックスをオンにすると、プレビューの生成にPDFファイルを使用できます。5,000ページを超える最大500 MBの大きさのファイルのインポートがサポートされます。
- **［ページ数］:** プレビューするページの合計数。このオプションは、**［PDFを使用］** チェックボックスがオフの場合にのみ使用できます。値を入力します。デフォルト値は200ですが、最大で5,000ページまでのファイルを扱うことができます。
- **［トリムサイズ］:** 余分な部分を切り取った後のページサイズ。
- **［縦］／［横］:** ラジオボタンをクリックして、用紙方向を選択します。
- **［幅］** および **［高さ］:** トリムの **幅** および **高さ。［トリムサイズ］** コンボボックスでカスタムサイズを選択すると、**［幅］** および **［高さ］** のテキストボックスが有効になり、値を変更できます。

プレビュー設定の生成中は、進行状況を示す以下の画面が表示されます。

プレビューのロード中に変更を加えると、その変更は適用され、ロードするプレビューは最後に構成された設定に基づきます。

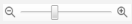
注意: *PDFの**[プレビュー]**のみがサポートされています。*

注意: *ローカルドライブのファイルのみがサポートされます。ネットワークパスのファイルはサポートされません。*

注意: *[プレビュー]に印刷マークを明瞭に表示するため、**[プレビュー]**の表示には、アップロードされたPDFページのサイズのみが使用されます。PDFの内容は、**[プレビュー]**ではグレーのボックスとして表示されます。*

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

ツールバーのアイコン	説明
	[プレビューのアップロード]アイコン: サンプルプレビューのイメージをアップロードするには、このアイコンをクリックします。PDFのプレビューのみがサポートされています。OSで16 GB以上のRAMが利用可能な場合、5,000ページで最大500MBの大きさのファイルがプレビューでサポートされます。
	[実際のサイズ(100%)]アイコン: プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン: プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[高さに合わせる]アイコン: プレビュー領域の高さに合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページに合わせる]アイコン: このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	**ズームコントロール:** 拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大／縮小します。
	ページナビゲーション: (可能な場合)矢印をクリックして、サンプルドキュメントのページ間を移動します。

制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. 複数のページサイズが混在している場合、面付は正しく機能しません。最適なパフォーマンスを得るには、用紙の許容範囲を±5ポイントに収めることをお勧めします。
2. OSで16 GB以上のRAMが利用可能な場合、5,000ページで500 MBの大きさのPDFがプレビューでサポートされます。
3. OSで16 GB以上のRAMが利用可能な場合、ワークフローの実行時に最大で20,000ページのPDFが面付でサポートされます。
4. ネットワーク資格情報
    - 資格情報はワークフロー/config XMLにそのまま渡されて書き込まれます。
    - ワークフローを別のマシンからエクスポートしてインポートすると、ネットワーク資格情報が適切に機能しないことがあります。ワークフローをインポートした後で、資格情報を手動で設定／提供する必要があります。
    - イメージをネットワークパスからロードする場合、ワークフローを開くときにパフォーマンスの問題が発生したり、パフォーマンスが低下したりすることがあります。
5. **[プレビュー]** パネルの **[PDFを使用]** オプションでは、パブリックの共有ネットワークパスのみがサポートされています。資格情報を必要とするネットワークパスはサポートされていません。

ジョブチケット読込:CSV

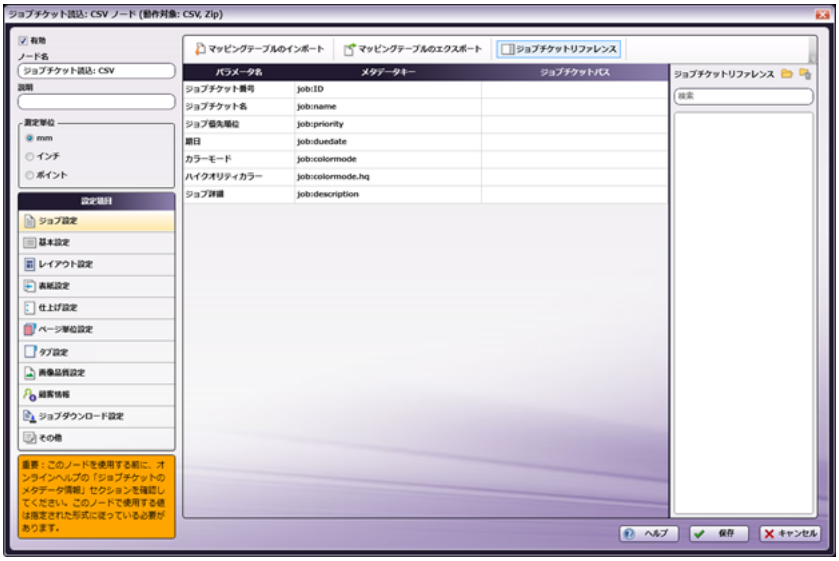
注意: このノードは、CSVファイルおよびZIP(PDF + CSV)ファイルに対応しています。CSVファイルはUTF-8形式である必要があります。

ジョブチケット読込:CSVノードを使用して、CSVファイルに保存されている情報を解析し、解析後の情報をメタデータとして書き込むことができます。CSVファイルには、ジョブチケットフィールドとジョブチケット値フィールドが含まれます。このノードでは、ジョブチケットフィールドとそれに対応するジョブチケットの値が読み取られてから、メタデータが更新されます。ジョブチケットデータをメタデータの値にマップするのに、マッピングテーブルが使用されます。

PDFファイルの場所は、CSVファイルのURLフィールドに記載されており、その情報を使用してPDFファイルがノードにダウンロードされます。入力ファイルがZIPファイル(CSV + PDF)である場合、ファイルが解凍されてから、CSVファイルが処理されます。

ジョブチケット読込:CSVノードを使う

ジョブチケット読込:CSVノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ジョブチケット読込:CSV** ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**[ジョブチケット読込:CSV]** ウィンドウが開きます。



このウィンドウでは、UIの一部であるマッピングテーブルエディターを使用して、マッピングテーブルを作成またはインポートできます。

- **［有効］** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **［ノード名］** フィールドに、ジョブチケット読込：CSVノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］** フィールドに、ジョブチケット読込：CSVノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **［測定単位］** 領域では、測定単位を選択します。**mm**、**インチ**、および**ポイント**の3種類の測定単位がサポートされています。

  注意： すべての英語ロケールのシステムでは、デフォルトでインチが選択されます。その他のロケールでは、デフォルトはmmです。ロケールに関係なく、いずれかのオプションを選択できます。
- **ジョブチケット読込：CSV**の設定を保存するには、**［保存］** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**［キャンセル］** ボタンを選択します。

  オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］** ボタンを選択します。

［設定項目］パネル

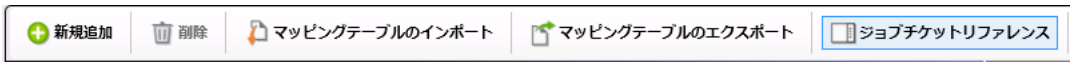
ジョブチケットパラメータは、パネルに表示された11個のグループに分類されています。設定値を表示するには、いずれかのメニューオプションをクリックします。

- **［ジョブ設定］：**［ジョブ設定］を選択して、**［ジョブチケット番号］**、**［ジョブチケット名］**、**［ジョブ優先順位］**、**［期日］**、**［カラーモード］**、**［ハイクオリティカラー］**、または **［ジョブ詳細］** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［基本設定］**：**［基本設定］** を選択して、**［部数］**、**［部単位で印刷］**、**［オフセット］**、**［部数仕分け］**、**［枚数仕分け］**、**［用紙カタログID］**、**［用紙名］**、**［給紙トレイ］**、**［坪量］**、**［用紙種類］**、**［色紙］**、**［ユーザー定義色］**、**［穴あき紙の使用］**、**［用紙幅］**、**［用紙高さ］**、**［用紙サイズ］**、**［用紙サイズ単位］**、または **［方向］** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［レイアウト設定］：**［レイアウト設定］を選択して、**［面付］** または **［印刷タイプ］** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［表紙設定］：**［表紙設定］を選択して、**［オモテ表紙］**、**［オモテ表紙の用紙名］**、**［ウラ表紙］**、または **［ウラ表紙の用紙名］** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［仕上げ設定］**：［仕上げ設定］を選択して、**［とじ位置］**、**［中とじ］**、**［トリム］**、**［ステープル］**、**［パンチ］**、**［折り］**、**［くるみ製本］**、**［くるみ製本モード］**、**［くるみ製本トレイ］**、**［くるみ製本両面］**、**［くるみ製本背表紙］**、**［くるみ製本表紙幅］**、**［くるみ製本表紙高さ］**、**［くるみ製本表紙サイズ］**、**［くるみ製本表紙坪量］**、**［リングバインド］**、**［リングバインドオモテ表紙］**、または **［リングバインドウラ表紙］** のジョブチケットパラメータを編集します。

- **[ページ単位設定]**:[ページ単位設定]を選択して、**[印刷種類]**、**[とじ位置]**、**[用紙カタログID]**、[用紙名]、[給紙トレイ]、[用紙種類]、[用紙幅]、[用紙高さ]、[用紙サイズ]、[坪量]、[色紙]、[ユーザー定義色]、[穴あき紙の使用]、[タブ種類]、[ページ単位設定数]、[ステープル]、[パンチ設定]、[パンチ]、または **[ステープル仕上げ]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[タブ設定]**:**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[タブ文字]**、**[ページ番号]**、**[ファイル順序]**、または **[タブ数]** を選択します。
- **[画像品質設定]:**[画像品質設定]を選択して **[解像度]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[顧客情報]:** [顧客情報]を選択して、**[コメントURL]**、**[お客様の名前]**、**[お客様の姓]**、**[お客様の住所]**、**[お客様の丁目・番地]**、**[お客様の市区町村]**、**[お客様の都道府県]**、**[お客様の郵便番号]**、**[お客様の国]**、**[お客様の会社]**、**[お客様の電話番号]**、**[お客様のファクス番号]**、**[お客様の電子メール]**、または **[ジョブ作成者]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ジョブダウンロード設定]:** [ジョブダウンロード設定]を選択して、印刷ファイルの取得にどの印刷ファイルオプションを使用するかを指定します。指定できるオプションには **[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]** または **[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有から取得]** があります。
- **[その他]:** どの設定項目にもないカスタムジョブチケットパラメータを扱う場合は、**[その他]** ページを使用して新しいフィールドを追加します。

ツールバー

ツールバーは、**[ページ単位設定]**と**[その他]** の設定項目オプションが選択されている場合にのみ表示されます。以下に示す例では、**[その他]** の設定項目オプションが選択されています。ページ単位設定のツールバーは、この例とは異なります。以下に、利用可能なツールバーのオプションをすべて示します。



- **[新規追加]:** 変換ルールを定義する新しいエントリーパラメータを追加するには、このオプションを使用します。このオプションは **[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[削除]:** パラメータのエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは **[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を追加]:** 別の組み合わせの**ページ単位設定**を追加するには、このオプションを使用します。このオプションは **[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を削除]:ページ単位設定** のエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは **[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[マッピングテーブルのインポート]:** クリックするとファイルのダイアログが開き、インポートするマッピングテーブルのxmlファイルを選択できます。
- **[マッピングテーブルのエクスポート]:** この機能を使用して、外部にあるマッピングテーブルのxmlファイルに適用した構成変更を保存できます。
- **[ジョブチケットリファレンス]:[ジョブチケットリファレンス]パネル** の表示と非表示を切り替えるには、このオプションを使用します。

マッピングテーブルパネル

このパネルでは、ジョブチケットパラメータと**Dispatcherメタデータ**間のマッピング値を定義します。設定項目の各オプションをクリックすると、メインパネルに[パラメータ名]／[メタデータキー]の値が表示されます。

パラメータ名	メタデータキー	ジョブチケットパス
ジョブチケット番号	job:ID	
ジョブ名	job:name	
優先度	job:priority	
ジョブの実行期日	job:duedate	
カラーモード	job:colormode	
ハイクオリティカラーモード	job:colormode.hq	
ジョブ詳細	job:description	

- **[パラメータ名]**:この列では、ジョブチケットパラメータのわかりやすい名前を記述します。
- **[メタデータキー]**:この列では、パラメータ名ごとの**Dispatcherメタデータキー**を記述します。
- **[ジョブチケットパス]**:当初、この列は空です。この列には、各ジョブチケットパラメータに対応するCSVファイルのパスを入力します。

値マップパネル

上部のテーブルをクリックすると[メタデータキー]パネルが表示されます。**メタデータ値とジョブチケット**値間の変換ルールを定義するには、このパネルを使用します。テーブルに値を入力します。**メタデータキーとジョブチケットパス**が列見出しに表示され、必要に応じてエントリーの追加や削除ができます。

- **［メタデータキーの追加］:新しいメタデータキー**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **［ジョブチケットパスの追加］**:新しい **ジョブチケットパス**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **［行の追加］:** 新しい値マップ行を追加するには、このボタンをクリックします。
- **［ジョブチケットの値を使用］:** このチェックボックスをオンにすると、ジョブチケットの値がそれに対応する**メタデータキー**と共に保持され、変換が適用されずに保存されます。

  注意: チェックボックスは、1対1マッピングの場合にのみ使用できます。他のすべての条件では、このオプションはグレー表示され、有効にすることはできません。

［ジョブチケットリファレンス］パネル

［開く］ボタン( )をクリックすると、サンプルのジョブチケットファイルを開くことができます。ジョブチケットを選択すると、そのチケットで使用できる CSV ファイルのパスがすべてテーブルにリストで表示されます。このリストから項目を**マッピングテーブルパネル** へドラッグし、目的の **［ジョブチケットパス］**列にドロップします。

このリストの内容を消去するには **［クリア］**ボタン をクリックします。

マッピングテーブルの基本的な操作

ジョブチケットパラメータは、保管したりジョブチケットに対して特定の処理を行ったりする場合に、異なる形式に変換する必要のあることがしばしばあります。ジョブチケットをメタデータに変換（または解析）することで、そのような処理でのジョブチケットの読込が可能になります。このノードは、CSV形式への変換をサポートしています。

ジョブチケットファイル

このノードを使用する前に、CSVジョブチケットファイルを生成する必要があります。

注意: アドインマネージャを使用してDispatcher Phoenixにジョブチケット読込：CSVノードを追加すると、サンプルのジョブチケットファイルを表示できます。これらのファイルは、以下のパスにあります。

\Program Files\Common Files\Konica Minolta\Phoenix\Resources\JobTicketParserCSVNode

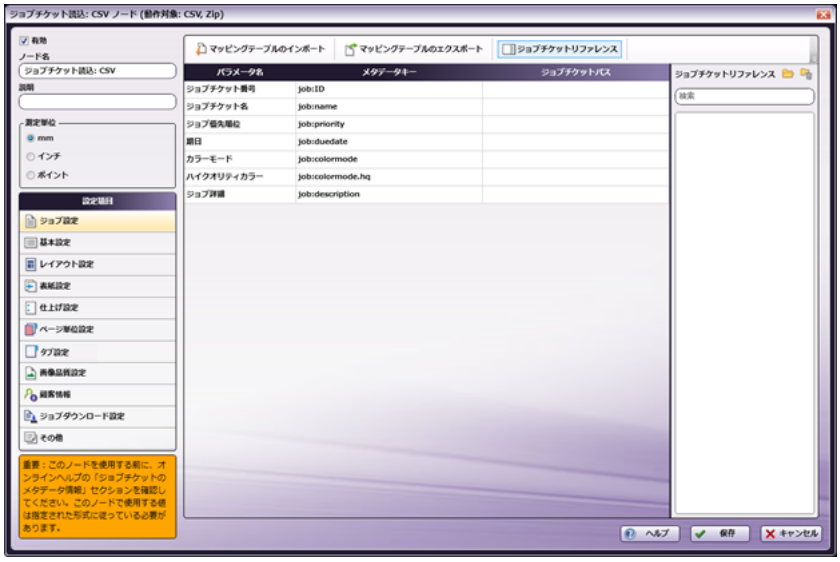
上記のサンプルのジョブチケットには、そのチケットで使用できるすべてのジョブチケットパラメータが含まれています。ファイルをサポートするために必要なパラメータを含むように、サンプルのジョブチケットを変更できます。外部のサードパーティー製のアプリケーションを使用して、ジョブチケットファイルを生成することもできます。この場合、これをサンプルファイルとして使用できます。

ジョブチケット読込：CSVノードでは、ドキュメントレベル値とページ単位設定値を使用してジョブチケットパラメータを定義します。以下の説明では、サンプルのジョブチケットがシンプルなドキュメントとページ単位レベルの設定で変更されています。このサンプルのジョブチケットは、以降の説明に使用されます。

```
JobName,Quantity,MediaColor,Duplex,File,Src,PPS PageRange,PPS PaperName
SampleCSVJob,1,yellow,On,file,C:\Temp\Testfile.pdf,1,A4
,,,,,,"6-9,11",A5
```

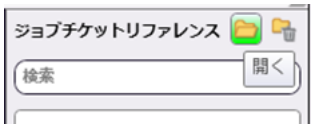
ジョブチケットファイルを使用したマッピングテーブルの構成

1. テキストエディタを使用して、上記のサンプルCSVファイルをコピーします。
2. サンプルのジョブチケットに記載されている **ソースパス（“Src”）**は（上記の例で説明したように）、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. ファイルをcsv_sample_jobticket_file.csvとしてローカルに保存します。
4. **ジョブチケット読込：CSV**ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。

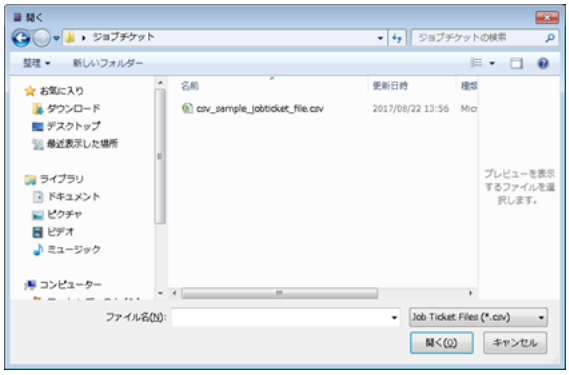


5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
   - **［有効］** チェックボックス：オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
   - **［ノード名］：** ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
   - **［測定単位］：** ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。

   注意：入力ジョブチケットにメタデータ値{job:paper.unit}が含まれている場合、**［測定単位］** フィールドで選択されている値はこのメタデータ値によって上書きされます。
6. **［ジョブチケットリファレンス］パネル（右端）で、［開く］** アイコンを見つけます。



7. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル（csv_sample_jobticket_file.csv）に移動して選択します。



8. ファイルが開くと、その内容（つまりXPath）が次の画像のように、**［ジョブチケットリファレンス］** パネルに表示されます。

注意: ロードされたジョブチケットは、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから正しい値をドラッグアンドドロップしてマッピングする必要があります。値が **[ジョブチケットリファレンス]** パネルに表示されない場合は、このヘルプファイルの指示に記載されている値を手動で入力してください。

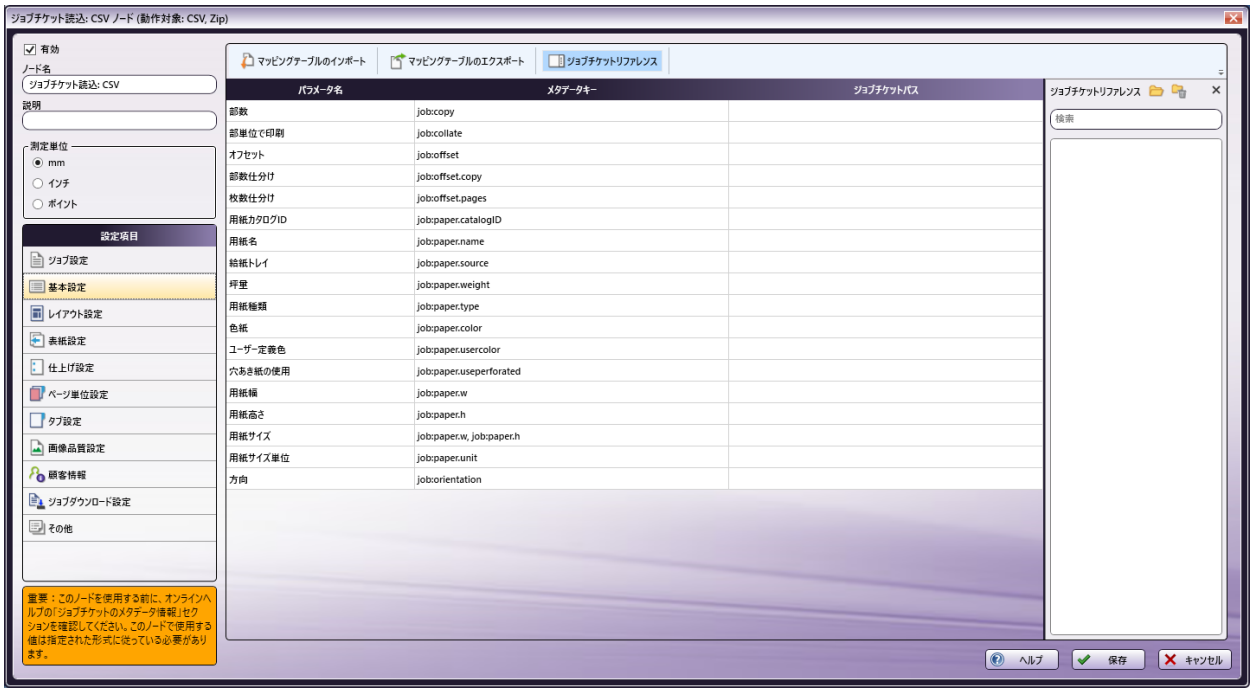
XPathのマッピング

XPath値が使用可能になったら、メインパネルの **[パラメータ名]**／**[メタデータキー]** の値にマッピングする必要があります。そのためには、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値をクリックし、その値をメインパネルの対応する **[ジョブチケットパス]** セルにドラッグします。

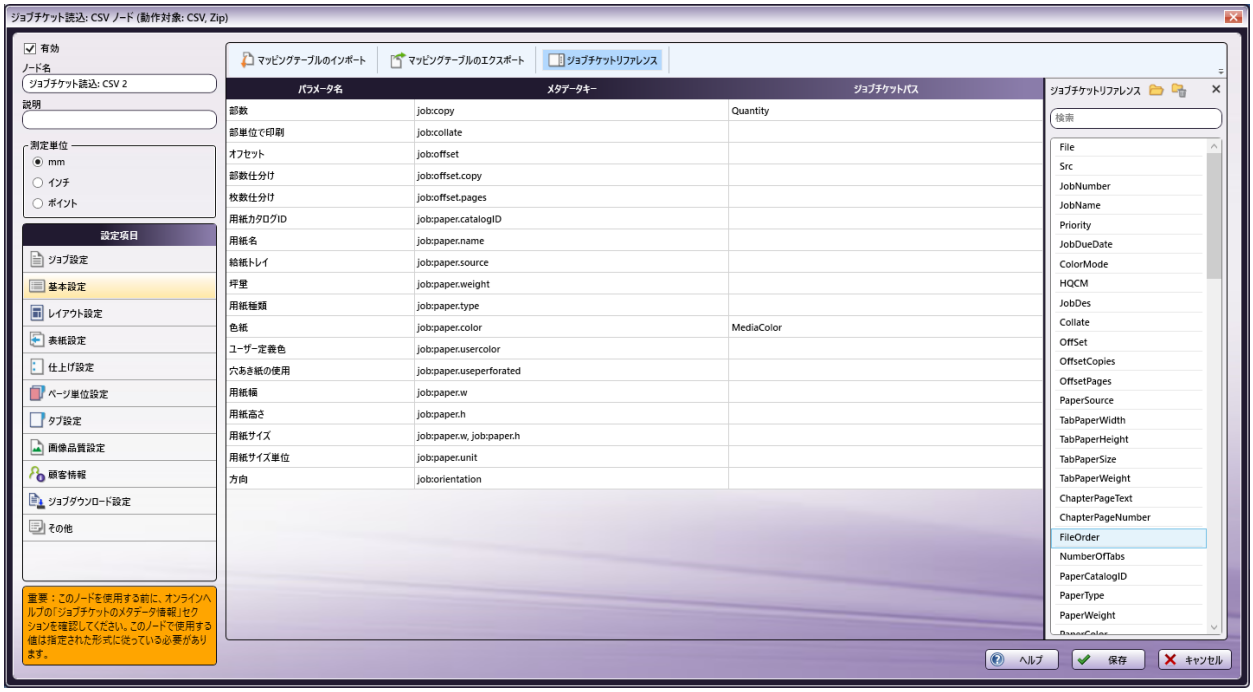
ノードの左側の **[設定項目]** パネルを使用して、いくつかのオプションを指定できます。オプションをクリックすると、メインパネルに含まれている **[パラメータ名]**／**[メタデータキー]** の値が開きます。

基本的な[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

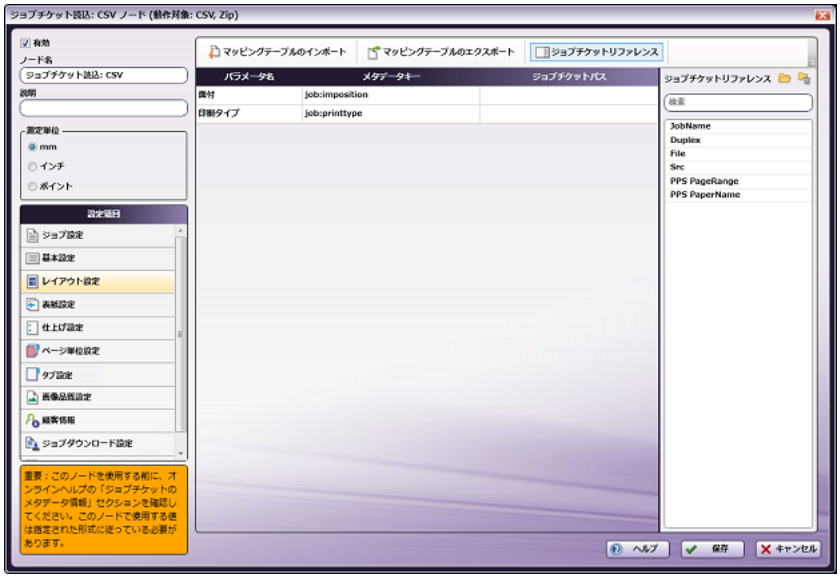
1. **[設定項目]** パネルで、**[基本設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます



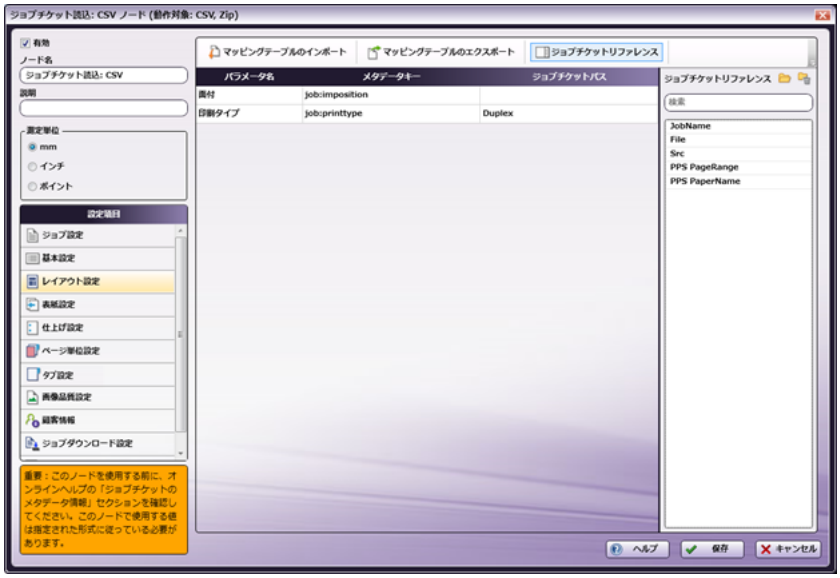
2. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
3. **[コピー]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに**Quantity**をドラッグアンドドロップします。**[色紙]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに**MediaColor**をドラッグアンドドロップします。
4. ドラッグアンドドロップした値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。



5. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**／**[メタデータキー]** および **[ジョブチケットパス]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
7. **[印刷タイプ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに**Duplex**をドラッグアンドドロップします。

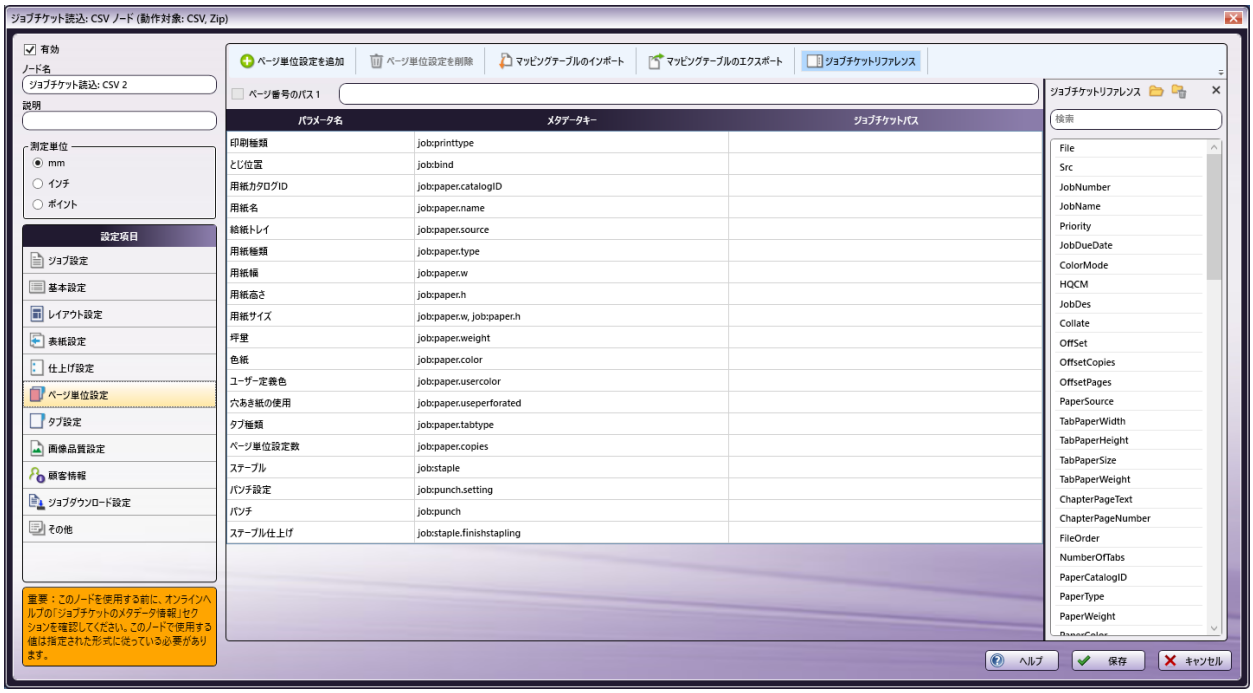


8. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
9. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ページ単位設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

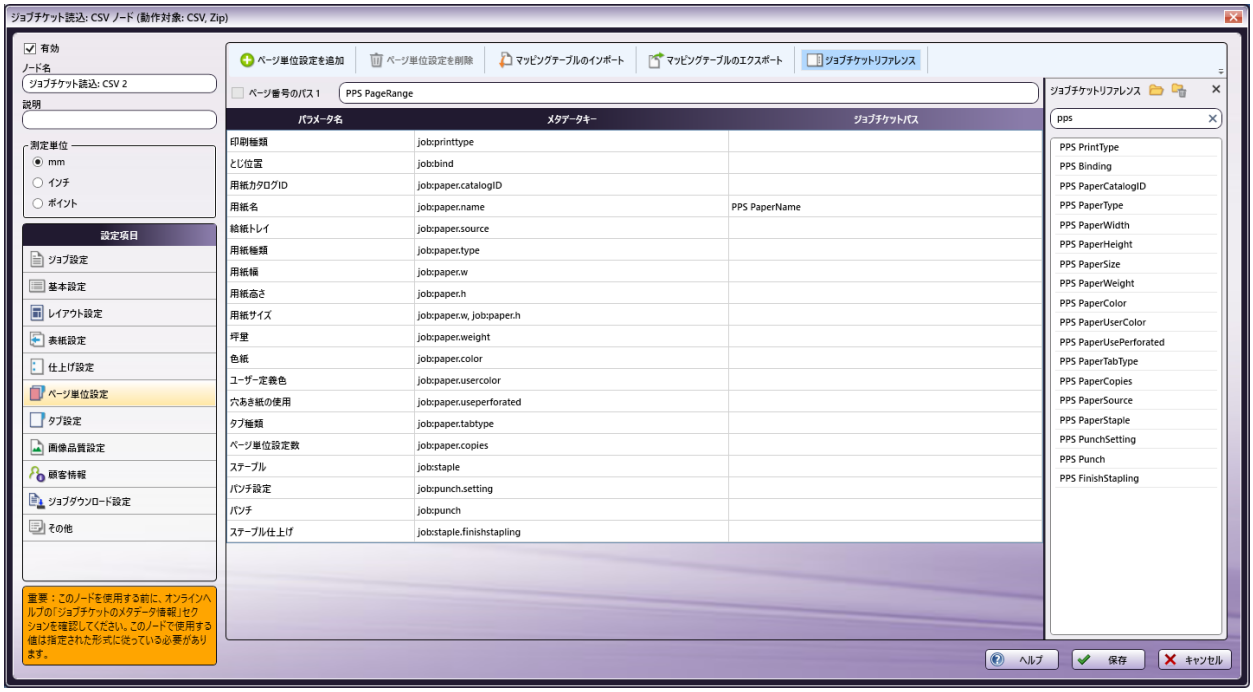
[ページ単位設定] 設定項目は、ページ単位設定を構成するために使用されます。これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。このページ単位設定は、ページレベルのメタデータを生成します。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ページ単位設定]** オプションをクリックします。**[ページ番号のパス1]**、**[パラメータ名]／[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



2. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**PPS PageRangeを[ページ番号のパス1]** テキストボックスにドラッグアンドドロップします。

   注意:[ページ番号のパスn] の内容は”PPS “で始まる文字列である必要があります。
3. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**PPS PaperNameを[用紙名]** 行の **[ジョブチケットパス]** のセルにドラッグアンドドロップします。
4. これまでの操作が完了すると、次の画像のような画面が表示されます。



5. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
6. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ジョブダウンロード設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

[ジョブダウンロード設定]設定項目 は、ジョブのPDFファイルの受信元となる入力ソースを有効にするために使用されます。**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、および **[ジョブチケットからbase64データを取得]**（PDFデータはbase64形式で埋め込まれます）**)**、**[ネットワーク共有からの取得]** の4つの値がサポートされています。

これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。

サンプルCSVジョブチケットファイル：

以下の例は、各ジョブダウンロードオプションで、コードによりPDFファイルがどのように表示されるかを示しています。

ローカルパスから取得

- File,Src
- file, C:\Temp\Testfile.pdf
  注意：ファイルタイプキーワード **file**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

URLからダウンロード

- File,Src
- http,http://10.146.171.98/testapp8/sample.pdf
  注意：ファイルタイプキーワード **http** と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

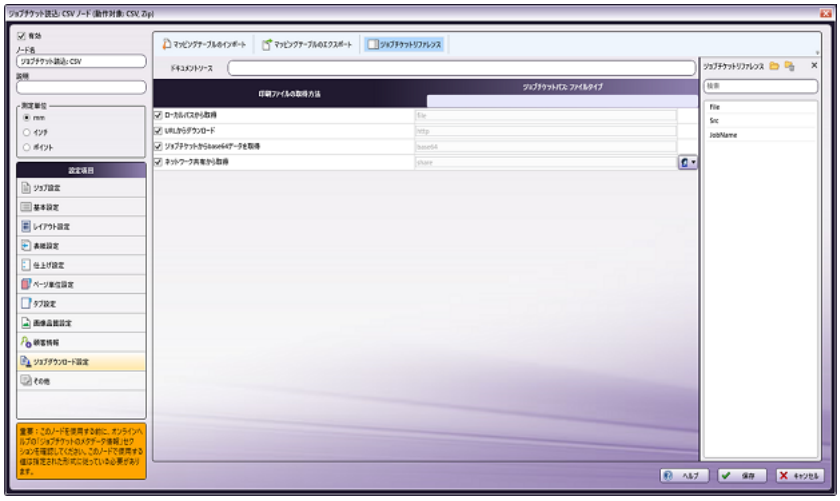
ジョブチケットからbase64データを取得

- File,Src
- base64, xxddgdfexdgfgngn…
  注意：ファイルタイプキーワード **base64**とジョブチケット入力するファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

ネットワーク共有から取得

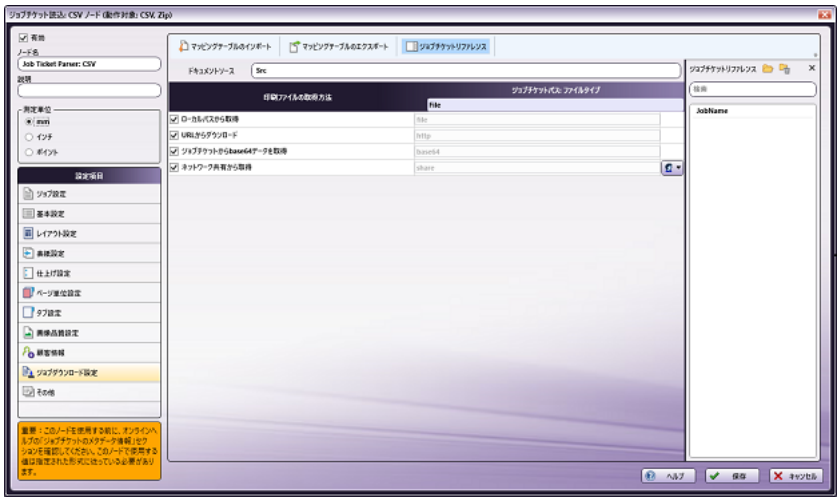
- File,Src
- share, \\11.12.13.14\Temp\Testfile.pdf
  注意：ファイルタイプキーワード **share**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]**、**[印刷ファイルの取得方法]**、および **[ジョブチケットパス：ファイルタイプ]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



2. **[印刷ファイルの取得方法]列で、[ローカルパスから取得]、[URLからダウンロード]**、および[ジョブチケットからbase64データを取得]、**[ネットワーク共有からの取得]**の4つのオプションのチェックボックスをすべて選択します。
3. **[ジョブチケットリファレンス]パネルから、[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]フィールドにFile**をドラッグアンドドロップします。
4. **[ジョブチケットリファレンス]**パネルから、**[ドキュメントソース]フィールドにSrc**をドラッグアンドドロップします。
5. 完了した画面は次のように表示されます。

   注意:[ネットワーク共有からの取得] を選択する場合は、ネットワーク共有先でのネットワーク資格情報の登録をする必要があります。ネットワーク資格情報ボタンを選択してネットワ ーク資格情報ウィンドウにアクセスします。このウィンドウでは、ユーザー名を選択し、適切なパスワードを入力します。

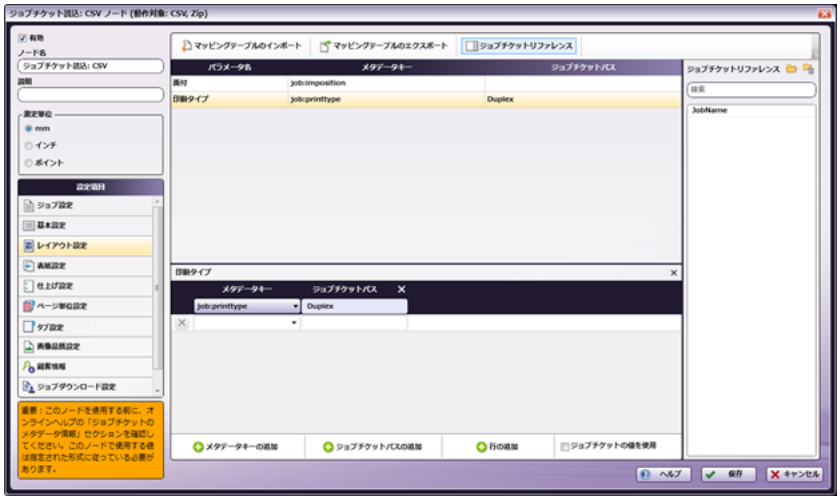


6. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
7. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

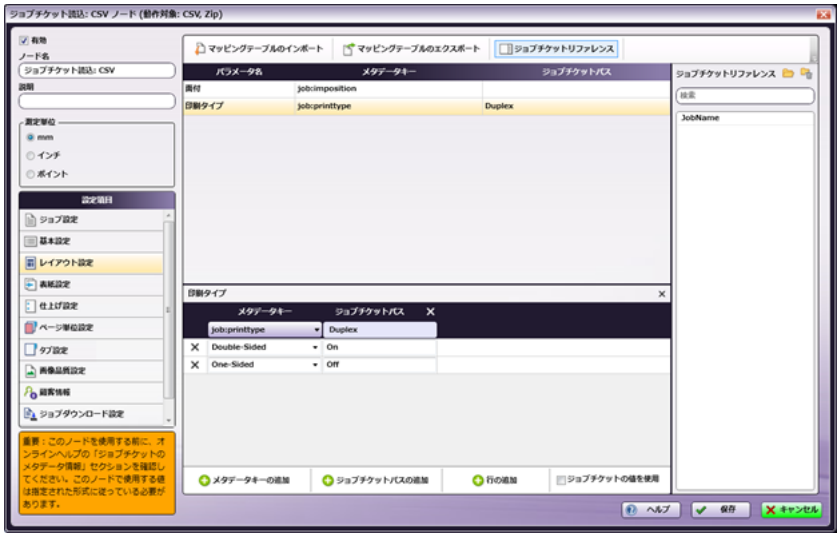
値マップの構成

この機能を使用して、ジョブチケットのパスに対して1つ以上の値を構成できます。以下の例では、**[印刷タイプ]** のXPath値がマッピングされています。これが完了すると、設定が編集され、**Duplex**に対して設定の値マップが指定されます。

1. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。
2. **[印刷タイプ]** 行をクリックして、**値マップ**パネルを開きます。

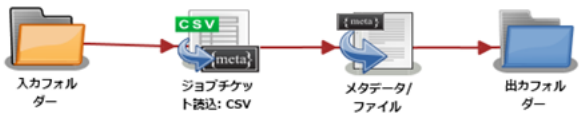


3. デフォルトでは、1つの値マップ行が表示されます。2つの値をマッピングする必要があるため、**[行の追加]** をクリックして、2つ目の値マップ行を追加します。



4. 1つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[Double-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「**On**」と入力します。
5. **Duplex**の値が**On** に設定され**Double-Sided**印刷が選択されているノードにジョブが送信されると、メタデータに**Double-Sided**印刷が出力されます。
6. 2つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[One-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「**Off**」と入力します。
7. **Duplex**の値が**Off** に設定され**One-Sided**印刷が選択されているノードにジョブが送信されると、メタデータに**One-Sided**印刷が出力されます。
8. 終了したら、**[保存]** をクリックします。変更を元に戻すには、**[キャンセル]** をクリックします。

ジョブチケット読込:CSVノードワークフロー



上記のワークフローでは、ジョブチケットファイル(csv_sample_jobticket_file.csvなど)が**入力フォルダー**に移動されます。これは、ジョブチケット読込:CSVノードに送信され、ジョブチケットCSVがジョブチケットメタデータに変換されます。この変換には、ジョブチケット読込:CSVノードの設定に基づいて作成された、マッピングされた値が使用されます。これが完了すると、データは**メタデータ/ファイル**ノードに転送され、XMLドキュメントに変換されます。そこから、XMLドキュメントが **出力フォルダー**に転送されます。

入力フォルダーノード: ファイルを集めて、ジョブチケット読込:CSVノードへ送るように入力フォルダーを構成します。

ジョブチケット読込:CSVノード: このノードの目的と設定手順については、このセクションに先行する箇所で説明されています。

メタデータ/ファイルノード: このノードは、構成されたメタデータを抽出してXMLファイルとして保存し、このファイルをワークフローの次のノードに送ります。以下の手順に従って、メタデータ/ファイルノードを構成します。

1. **メタデータ/ファイル**ノードアイコンをダブルクリックして開きます。
2. **［有効］**チェックボックスがオンになっていることを確認します。
3. **［出力設定］**の**［元のファイルを出力］**を選択し、**［メタデータファイル形式］**ドロップダウンから **XML (* .xml)** を選択します。
4. **［メタデータファイル拡張子］**の**［出力ファイルの拡張子プラスメタデータファイルの拡張子］**ラジオボタンを選択します。
5. メインパネルの**［抽出するメタデータの選択］**ヘッダーの下にある**［ジョブ］**チェックボックスを選択します。
6. **［保存］**をクリックして、変更を適用します。

出力フォルダーノード: すべてのワークフロー処理が正しく適用されると、出力フォルダーノードで設定されたフォルダーパスにジョブが送られます。

以下の出力されたメタデータは、このドキュメントの前のセクションで説明した設定に基づいています。

```
<meta group="job" name="copy">
   <document>1</document>
</meta>
<meta group="job" name="file.URL">
   <document>C:\Temp\Testfile.pdf</document>
</meta>
<meta group="job" name="file.type">
   <document>file</document>
</meta>
<meta group="job" name="paper.color">
   <document>yellow</document>
</meta>
<meta group="job" name="paper.name">
   <page number="1">A4</page>
   <page number="6">A5</page>
   <page number="7">A5</page>
   <page number="8">A5</page>
   <page number="9">A5</page>
   <page number="11">A5</page> </meta>
<meta group="job" name="printtype">
   <document>Double-Sided</document>
</meta>
```

制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. このノードに入力できるZIPファイルには、PDFファイルとCSVファイルのみを含める必要があります。入力として指定されているZIPファイルが、PDFおよびCSVファイルを含むフォルダーが圧縮されている形式の場合はサポートされていません。

ジョブチケット読込:JDF

ジョブチケット
読込: JDF

注意: このノードは、JDFファイル、MJMファイル、およびZip（JDF + PDF）ファイルに対応しています。

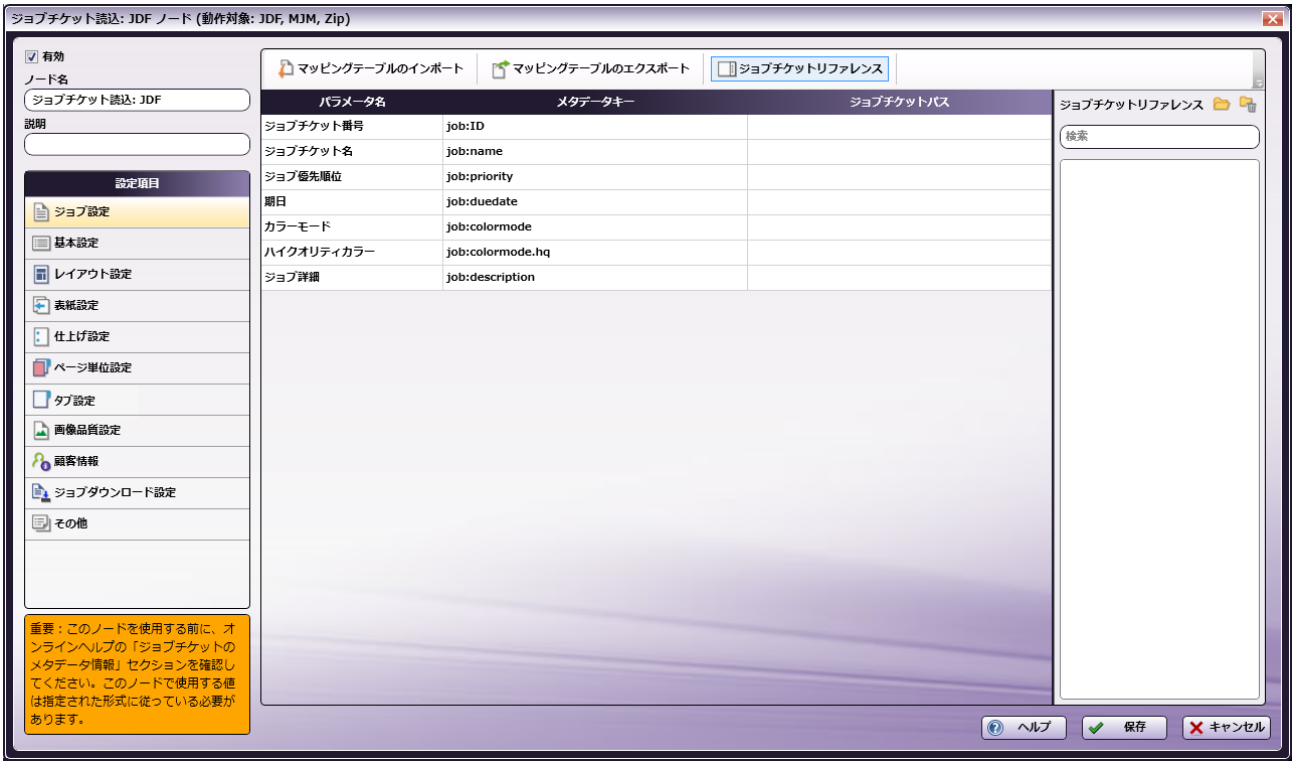
ジョブチケット読込:JDFノード を使用して、JDFファイルに保存されている情報を解析し、解析済みの情報をメタデータとして書き込むことができます。JDFファイルには、ジョブチケットフィールドおよびジョブチケット値が含まれます。このノードでは、ジョブチケットフィールドとそれに対応するジョブチケットの値が読み取られてから、メタデータが更新されます。ジョブチケットデータをメタデータの値にマップするのに、マッピングテーブルが使用されます。

入力は、JDFファイル、ZIP（JDF + PDF）ファイル、またはMIME (MJM)ファイルです。JDFファイルとZIP（JDF + PDF）ファイルには、ジョブチケットフィールドとジョブチケット値の形式でジョブチケット情報が収められています。MJMファイルには、JMF、JDF（ジョブチケット）、およびPDFのコンテンツが含まれており、抽出されたJDFファイル（ジョブチケット）およびPDFファイルが処理されます。

注意: MJMファイルのジョブチケット情報には、JMF、JDF、およびPDFのコンテンツがbase64形式で含まれています。このノードでは、MJMファイル内のJMFコンテンツは処理されません。

ジョブチケット読込:JDFノードを使う

ジョブチケット読込:JDF ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ジョブチケット読込:JDF** ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**［ジョブチケット読込:JDF］** ウィンドウが開きます。

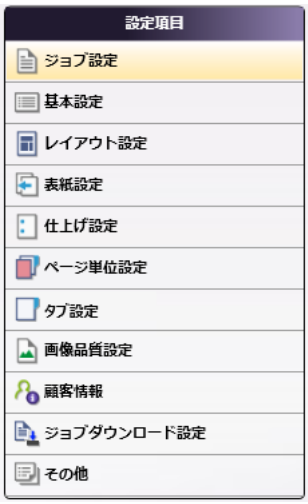


このウィンドウでは、UIの一部であるマッピングテーブルエディターを使用して、マッピングテーブルを作成またはインポートできます。

- **［有効］** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **［ノード名］** フィールドに、ジョブチケット読込:JDFノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］** フィールドに、ジョブチケット読込:JDFノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **ジョブチケット読込:JDF** の設定を保存するには、**［保存］** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**［キャンセル］** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］** ボタンを選択します。

［設定項目］パネル

ジョブチケットパラメータは、パネルに表示された11個のグループに分類されています。設定値を表示するには、いずれかのメニューオプションをクリックします。



- **[ジョブ設定]:** [ジョブ設定]を選択して、**[ジョブチケット番号]**、**[ジョブチケット名]**、**[ジョブ優先順位]**、**[期日]**、**[カラーモード]**、**[ハイクオリティカラー]**、または **[ジョブ詳細]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[基本設定]** : **[基本設定]** を選択して、**[部数]**、**[部単位で印刷]**、**[オフセット]**、**[部数仕分け]**、**[枚数仕分け]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[坪量]**、**[用紙種類]**、**[色紙]**、**[ユーザー定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[用紙サイズ]**、**[用紙サイズ単位]**、または **[方向]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[レイアウト設定]:** [レイアウト設定]を選択して、**[面付]** または **[印刷タイプ]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[表紙設定]:** [表紙設定]を選択して、**[オモテ表紙]**、**[オモテ表紙の用紙名]**、**[ウラ表紙]**、または **[ウラ表紙の用紙名]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[仕上げ設定]**:[仕上げ設定]を選択して、**[とじ位置]**、**[中とじ]**、**[トリム]**、**[ステープル]**、**[パンチ]**、**[折り]**、**[くるみ製本]**、**[くるみ製本モード]**、**[くるみ製本トレイ]**、**[くるみ製本両面]**、**[くるみ製本背表紙]**、**[くるみ製本表紙サイズ]**、**[くるみ製本表紙坪量]**、**[リングバインド]**、**[リングバインドオモテ表紙]**、または **[リングバインドウラ表紙]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ページ単位設定]**:[ページ単位設定]を選択して、**[印刷種類]**、**[とじ位置]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[用紙種類]**、**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[色紙]**、**[ユーザー定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[タブ種類]**、**[ページ単位設定数]**、**[ステープル]**、**[パンチ設定]**、**[パンチ]**、または **[ステープル仕上げ]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[タブ設定]**:**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[タブ文字]**、**[ページ番号]**、**[ファイル順序]**、または **[タブ数]** を選択します。
- **[画像品質設定]:** [画像品質設定]を選択して **[解像度]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[顧客情報]:** [顧客情報]を選択して、**[コメントURL]**、**[お客様の名前]**、**[お客様の姓]**、**[お客様の住所]**、**[お客様の丁目･番地]**、**[お客様の市区町村]**、**[お客様の都道府県]**、**[お客様の郵便番号]**、**[お客様の国]**、**[お客様の会社]**、**[お客様の電話番号]**、**[お客様のファクス番号]**、**[お客様の電子メール]**、または **[ジョブ作成者]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ジョブダウンロード設定]:** このオプションを選択して、印刷ファイルの取得にどの印刷ファイルオプションを使用するかを指定します。指定できるオプションには[ローカルパスから取得]または[URLからダウンロード]、**[ネットワーク共有からの取得]** があります。
- **[その他]:** どの設定項目にもないカスタムジョブチケットパラメータを扱う場合は、**[その他]** ページを使用して新しいフィールドを追加します。

ツールバー

ツールバーは、**[ページ単位設定]** と **[その他]** の設定項目オプションが選択されている場合にのみ表示されます。以下に示す例では、**[その他]** の設定項目オプションが選択されています。ページ単位設定のツールバーは、この例とは異なります。以下に、利用可能なツールバーのオプションをすべて示します。

- **[新規追加]:** 変換ルールを定義する新しいエントリーパラメータを追加するには、このオプションを使用します。このオプションは **[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[削除]:** パラメータのエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは **[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を追加]:** 別の組み合わせの **ページ単位設定** を追加するには、このオプションを使用します。このオプションは **[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を削除]:ページ単位設定** のエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは **[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[マッピングテーブルのインポート]:** クリックするとファイルのダイアログが開き、インポートするマッピングテーブルのxmlファイルを選択できます。
- **[マッピングテーブルのエクスポート]:** 外部にあるマッピングテーブルのxmlファイルに適用した構成変更を保存するには、この機能を使用します。
- **[ジョブチケットリファレンス]:[ジョブチケットリファレンス]パネル** の表示と非表示を切り替えるには、このオプションを使用します。

マッピングテーブルパネル

このパネルでは、ジョブチケットパラメータと**Dispatcherメタデータ間**のマッピング値を定義します。設定項目の各オプションをクリックすると、メインパネルに **[パラメータ名]** ／**[メタデータキー]** の値が表示されます。

パラメータ名	メタデータキー	ジョブチケットパス
ジョブチケット番号	job:ID	
ジョブチケット名	job:name	
ジョブ優先順位	job:priority	
期日	job:duedate	
カラーモード	job:colormode	
ハイクオリティカラー	job:colormode.hq	
ジョブ詳細	job:description	

- **[パラメータ名]:** この列は、ジョブチケットパラメータのわかりやすい名前を示します。
- **[メタデータキー]:** この列は、パラメータ名ごとの**Dispatcherメタデータキー**を示します。
- **[ジョブチケットパス]:** 既定では、この列は空です。この列には、各ジョブチケットパラメータに対応するJDFファイルのパスを入力します。

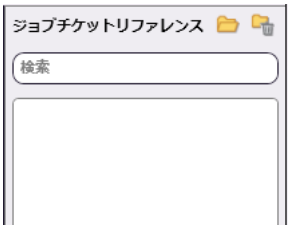
値マップパネル

上部のテーブルをクリックすると[メタデータキー]パネルが表示されます。**メタデータ値とジョブチケット**値間の変換ルールを定義するには、このパネルを使用します。テーブルに値を入力します。**メタデータキーとジョブチケットパス**が列見出しに表示され、必要に応じてエントリーの追加や削除ができます。

- **[メタデータキーの追加]:** 新しい**メタデータキー**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットパスの追加]:** 新しい**ジョブチケットパス**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[行の追加]:** 新しい値マップ行を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットの値を使用]:** このチェックボックスをオンにすると、ジョブチケットの値がそれに対応する**メタデータキー**と共に保持され、変換が適用されずに保存されます。

  注意: チェックボックスは、1対1マッピングの場合にのみ使用できます。他のすべての条件では、このオプションはグレー表示され、有効にすることはできません。

[ジョブチケットリファレンス]パネル



[開く] ボタン( )をクリックすると、サンプルのジョブチケットファイルを開くことができます。ジョブチケットを選択すると、そのチケットで使用できるJDFファイルのパスがすべてテーブルにリストで表示されます。このリストから項目を**マッピングテーブル**パネルへドラッグし、目的の**[ジョブチケットパス]** 列にドロップします。

このリストの内容を消去するには **[クリア]** ボタン( )をクリックします。

マッピングテーブルの基本的な操作

ジョブチケットパラメータは、保管したりジョブチケットに対して特定の処理を行ったりする場合に、異なる形式に変換する必要のあることがしばしばあります。変換することで、そのような処理でのジョブチケットの読込が可能になります。このノードを使用すると、JDF形式に変換できます。

ジョブチケットファイル

このノードの使用を開始する前に、外部アプリケーションからJDFジョブチケットファイルを生成する必要があります。

注意: アドインマネージャを使用してDispatcher Phoenixにジョブチケット読込:JDFノードを追加すると、サンプルのジョブチケットファイルを表示できます。これらのファイルは、以下のパスにあります。

\Program Files\Common Files\Konica Minolta\Phoenix\Resources\JobTicketParserJDFNode

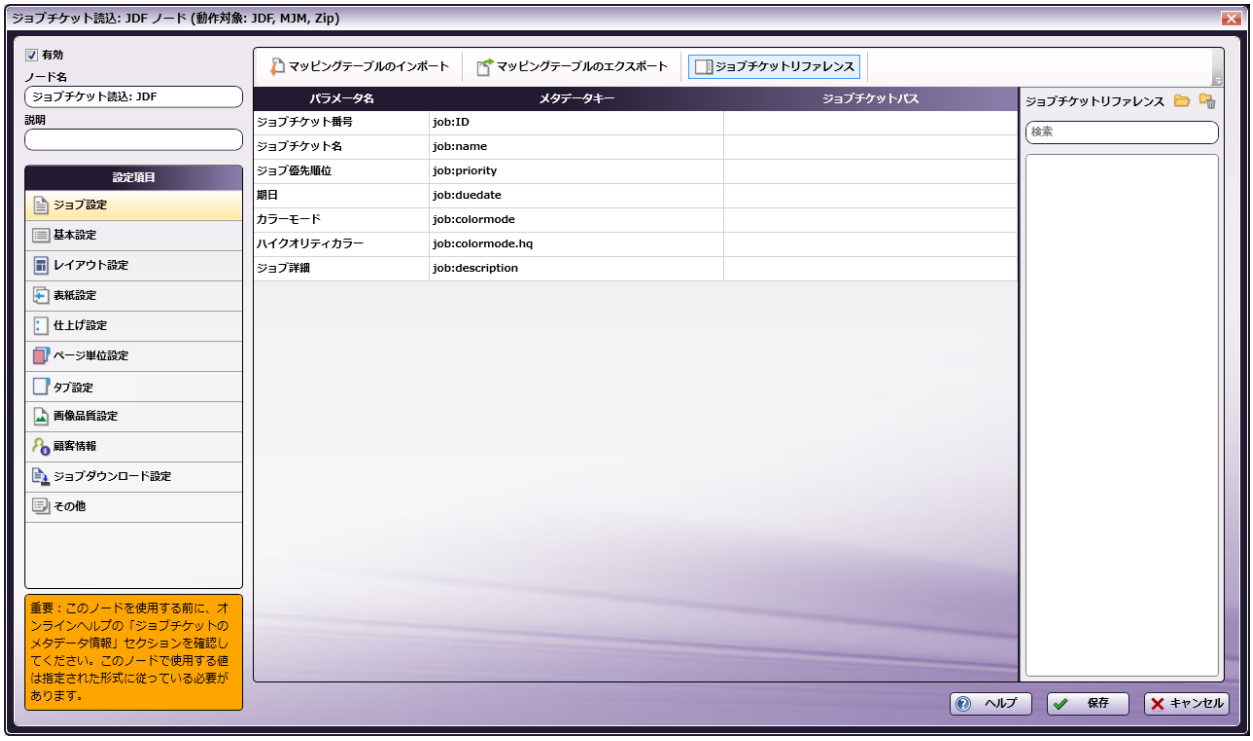
上記のサンプルのジョブチケットには、そのチケットで使用できるすべてのジョブチケットパラメータが含まれています。ファイルをサポートするために必要なパラメータを含むように、サンプルのジョブチケットを変更できます。外部のサードパーティー製のアプリケーションを使用して、ジョブチケットファイルを生成することもできます。この場合、これをサンプルファイルとして使用できます。

ジョブチケット読込:JDFノードでは、ドキュメントレベル値とページ単位設定値を使用してジョブチケットパラメータを定義します。以下の説明では、サンプルのジョブチケットがシンプルなドキュメントとページ単位レベルの設定で変更されています。このサンプルのジョブチケットは、以降の説明に使用されます。

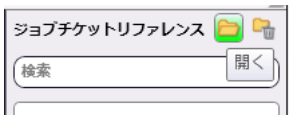
```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
  <JDF xmlns="http://www.CIP4.org/JDFSchema_1_1"
  xmlns:kmbs="http://www.konicaminolta.com/KMBS_JDFExtension_1_1"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:type="Combined">
  <ResourcePool>
    <Media Class="Consumable"
      ID="r170711_024318593_005119" MediaColorName="Yellow" Status="Available">
       <Location LocationName="AutoSelect"/>
    </Media>
    <LayoutPreparationParams Class="Parameter"
        ID="r170711_023611281_005743"
      Sides="TwoSidedFlipY" Status="Available">
     <LayoutPreparationParams RunIndex="0~4"
        kmbs:BindingEdge="Auto" kmbs:PerPageSet="Yes">
      <Media Class="Consumable" DescriptiveName="test">
        <Location LocationName="Auto"/>
      </Media>
    </LayoutPreparationParams>
    </LayoutPreparationParams>
    <RunList Class="Parameter" ID="r170707_053618136_000949" NPage="4" Status="Available">
    <LayoutElement>
      <FileSpec File="file" URL="c:\Temp\Testfile.pdf"/>
    </LayoutElement>
    </RunList>
    <Component Class="Quantity" ComponentType="FinalProduct"
      ID="r170711_024318596_005125" Status="Unavailable"/>
  </ResourcePool>
  <ResourceLinkPool>
    <MediaLink CombinedProcessIndex="0" Usage="Input" rRef="r170711_024318593_005119"/>
    <LayoutPreparationParamsLink CombinedProcessIndex="0" Usage="Input" rRef="r170711_023611281_005743"/>
    <RunListLink CombinedProcessIndex="0 1" ProcessUsage="Document"
      Usage="Input" rRef="r170707_053618136_000949"/>
    <ComponentLink Amount="10" CombinedProcessIndex="4" Usage="Output" rRef="r170711_024318596_005125"/>
  </ResourceLinkPool>
  <CustomerInfo BillingCode="" CustomerID="" CustomerJobName="JDF job"/>
  </JDF>
```

ジョブチケットファイルを使用したマッピングテーブルの構成

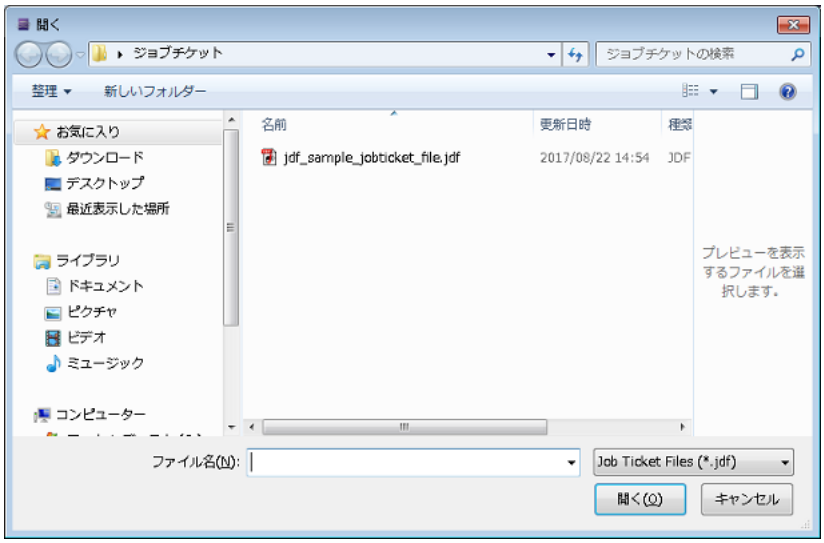
1. テキストエディタを使用して、上記のサンプルJDFファイルをコピーします。
2. **レイアウト要素** に記載されている**URLパス**は、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. ファイルをjdf_sample_jobticket_file.jdfとしてローカルに保存します。
4. **ジョブチケット読込:JDF**ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。



5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
   - **[有効]** チェックボックス：オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
   - **[ノード名]：** ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネル（右端）で、**[開く]** アイコンを見つけます。



7. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル（jdf_sample_jobticket_file.jdf）に移動して選択します。



8. ファイルが開くと、その内容（つまりXPath）が次の画像のように、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルに表示されます。

注意: JDFジョブチケットがロードされると、特定の値がメインパネルに自動的にマッピングされます。マッピングされていない残りのXPathは、ドラッグアンドドロップを使用して手動でマッピングする必要があります。ページ単位設定では、ページ番号のパスとその他のパラメータを常に手動でマッピングする必要があります。

注意: 値が自動的にマッピングされない場合や、必要なオプションが **[ジョブチケットリファレンス]** パネルに表示されない場合は、このヘルプファイルの指示に記載されている値を手動で入力してください。

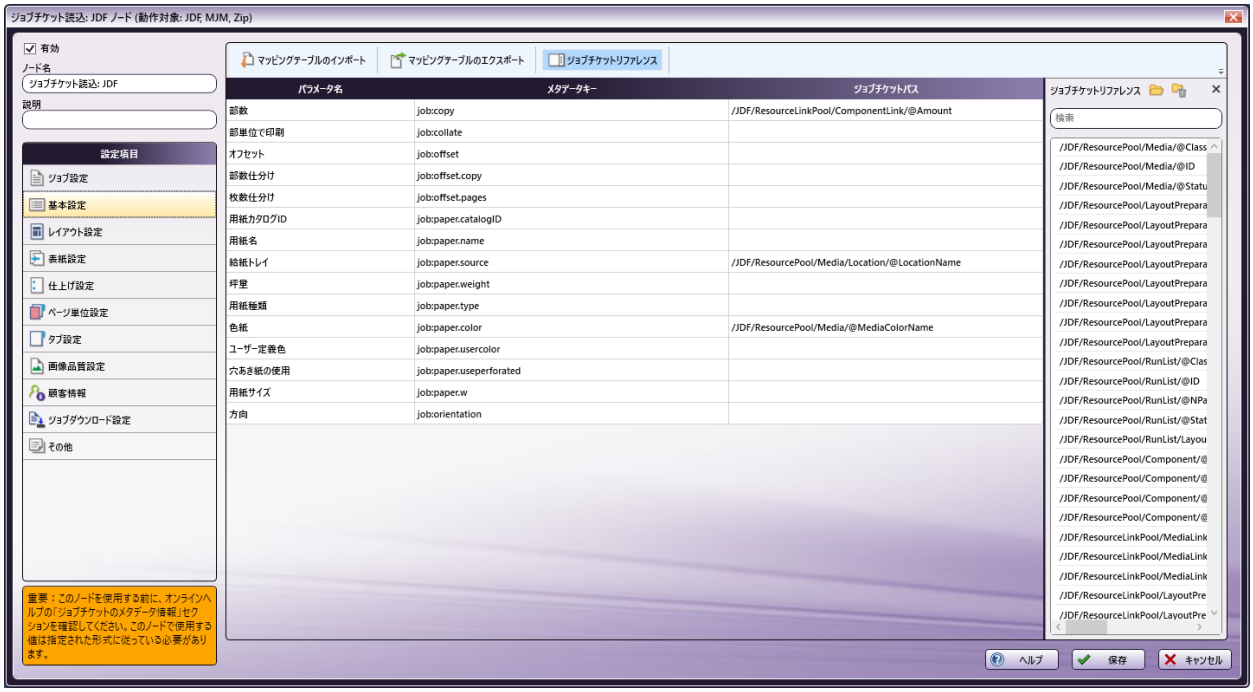
XPathのマッピング

XPath値が使用可能になったら、メインパネルの **[パラメータ名]／[メタデータキー]** の値にマッピングする必要があります。そのためには、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値をクリックし、その値をメインパネルの対応する **[ジョブチケットパス]** セルにドラッグします。

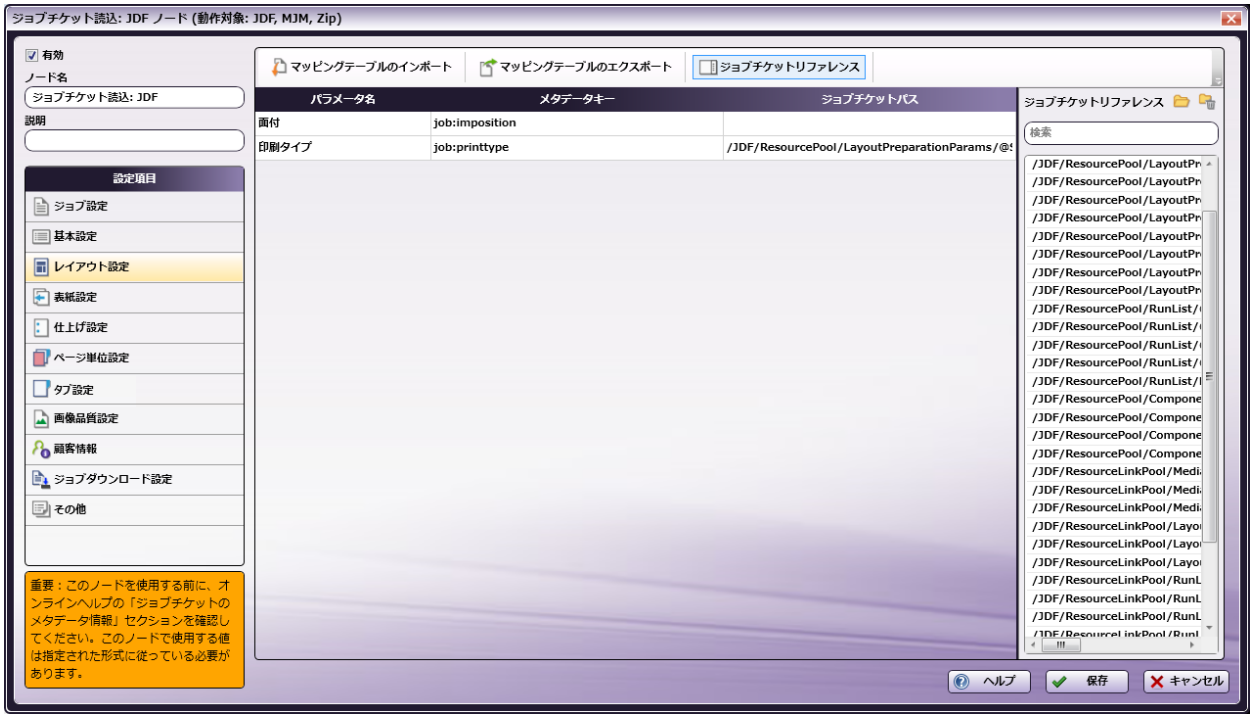
ノードの左側の **[設定項目]** パネルを使用して、いくつかのオプションを指定できます。オプションをクリックすると、メインパネルに含まれている **[パラメータ名]／[メタデータキー]** の値が開きます。

基本的な[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

1. **[設定項目]** パネルで、**[基本設定]** オプションをクリックします。**[基本設定]** の[**パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



2. 以下の値が **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから **[ジョブチケットパス]** のセルに自動的に移されます。
    - **/JDF/ResourceLinkPool/ComponentLink/@Amount -> 部数**
    - **/JDF/ResourcePool/Media/Location/@LocationName -> 給紙トレイ**
    - **/JDF/ResourcePool/Media/@MediaColorName -> 色紙**
3. これらの値が自動的にマッピングされない場合は、
    - **[部数]** 行の[ジョブチケットパス]セルに **/JDF/ResourceLinkPool/ComponentLink/@Amount** をドラッグアンドドロップします。
    - **[給紙トレイ]** 行の[ジョブチケットパス]セルに **/JDF/ResourcePool/Media/Location/@LocationName** をドラッグアンドドロップします。
    - **[色紙]** 行の[ジョブチケットパス]セルに **/JDF/ResourcePool/Media/@MediaColorName** をドラッグアンドドロップします。
4. 自動的に移動または手動でドラッグアンドドロップした値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
5. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



6. 次の値が **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから **[ジョブチケットパス]** のセルに自動的に移されます。

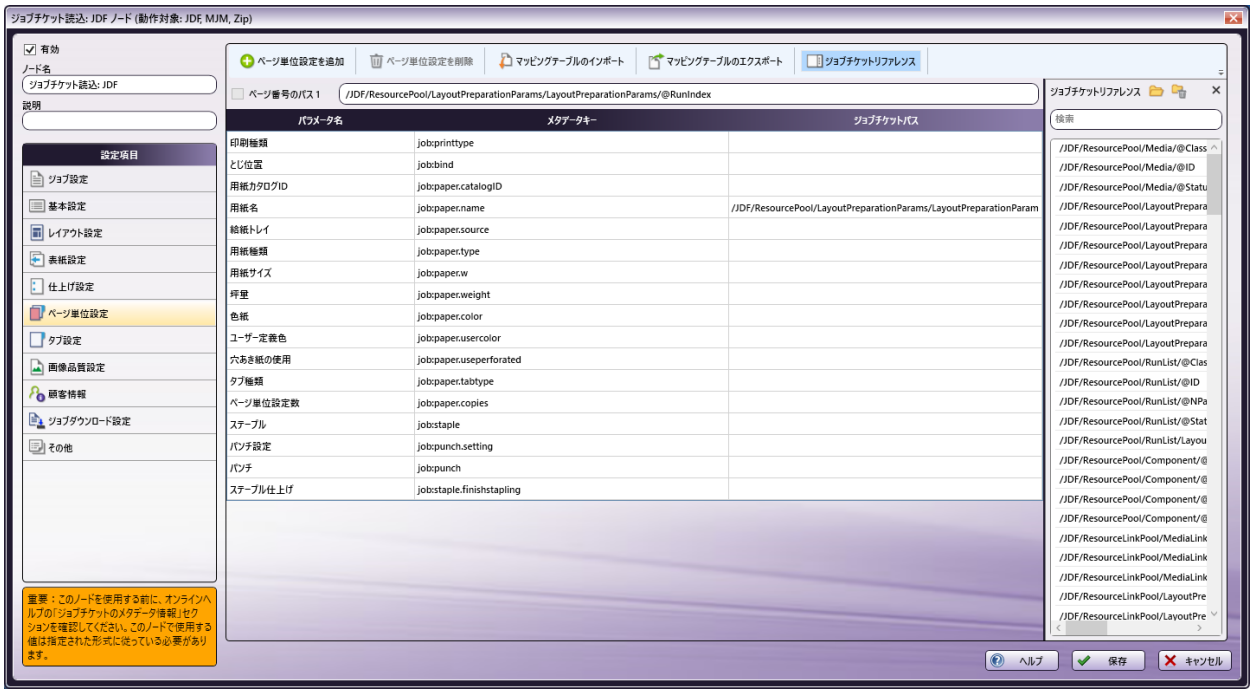
- **/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/@Sides -> 印刷タイプ**

7. この値が自動的にマッピングされない場合は、
   - **［印刷タイプ］**行の［ジョブチケットパス］セルに **/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/@Sides** をドラッグアンドドロップします。
8. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**［ジョブチケットリファレンス］**パネルから削除されます。
9. 必要に応じて、他の **［設定項目］**オプションについて同じ手順を繰り返します。

［ページ単位設定］の［パラメータ名］／［メタデータキー］の値のマッピング

［ページ単位設定］設定項目 は、ページ単位設定を構成するために使用されます。これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。このページ単位設定は、ページレベルのメタデータを生成します。

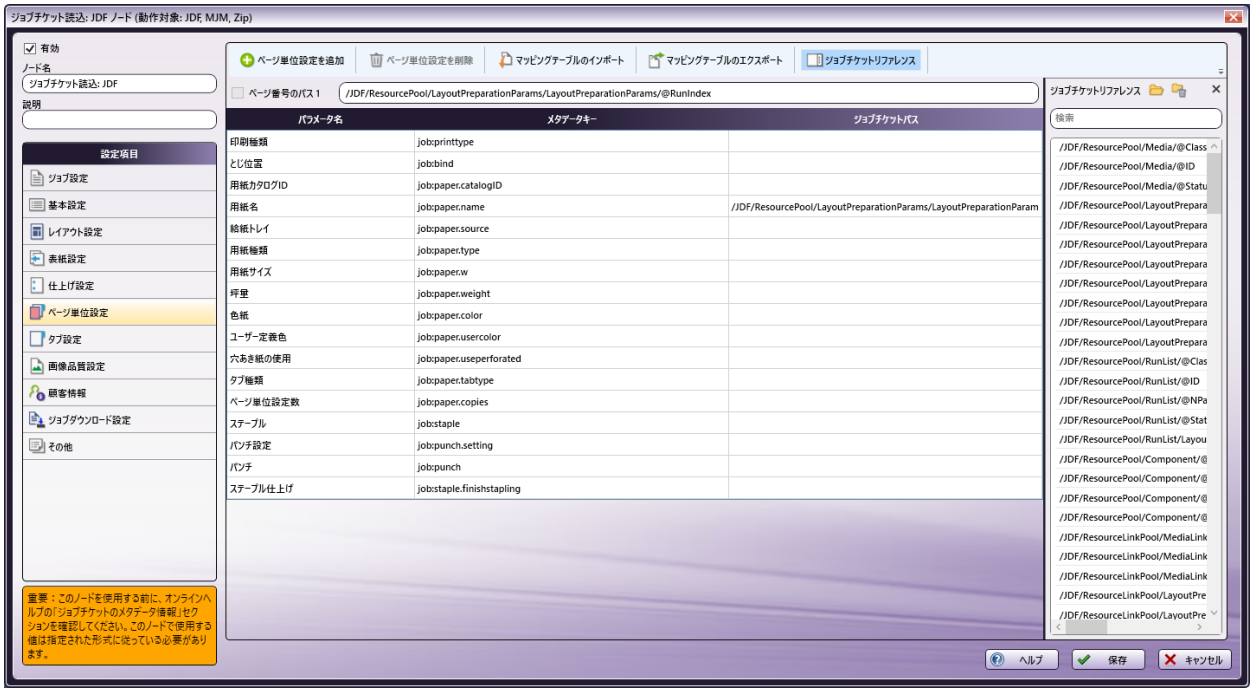
1. **［設定項目］パネルで、［ページ単位設定］**オプションをクリックします。**［ページ番号のパス1］、［パラメータ名］／［メタデータキー］**、および **［ジョブチケットパス］**フィールドが、メインパネルに表示されます。



2. **［ジョブチケットリファレンス］**パネルから、**/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/LayoutPreparationParams/@RunIndex** を **［ページ番号のパス1］**テキストボックスにドラッグアンドドロップします。

   注意：［ページ番号のパスn］の内容は”/JDF/“で始まる文字列である必要があります。

3. **［ジョブチケットリファレンス］**パネルから、**/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/LayoutPreparationParams/Media/@DescriptiveName** を **［用紙名］**の **［ジョブチケットパス］**フィールドにドラッグアンドドロップします。
4. 完了した画面が次のように表示されます。



5. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
6. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ジョブダウンロード設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

[ジョブダウンロード設定]設定項目 は、ジョブのPDFファイルの受信元となる入力ソースを有効にするために使用されます。**[ローカルパスから取得]** および **[URLからダウンロード]**、**[ネットワーク共有からの取得]** の3つの値がサポートされています。

これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。

サンプルJDFジョブチケットファイル：

以下の例は、各ジョブダウンロードオプションで、コードによりPDFファイルがどのように表示されるかを示しています。

ローカルパスから取得

- “File”: “file”
- “URL”: “C:\Temp\Testfile.pdf”
  注意：ファイルタイプキーワード **file**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

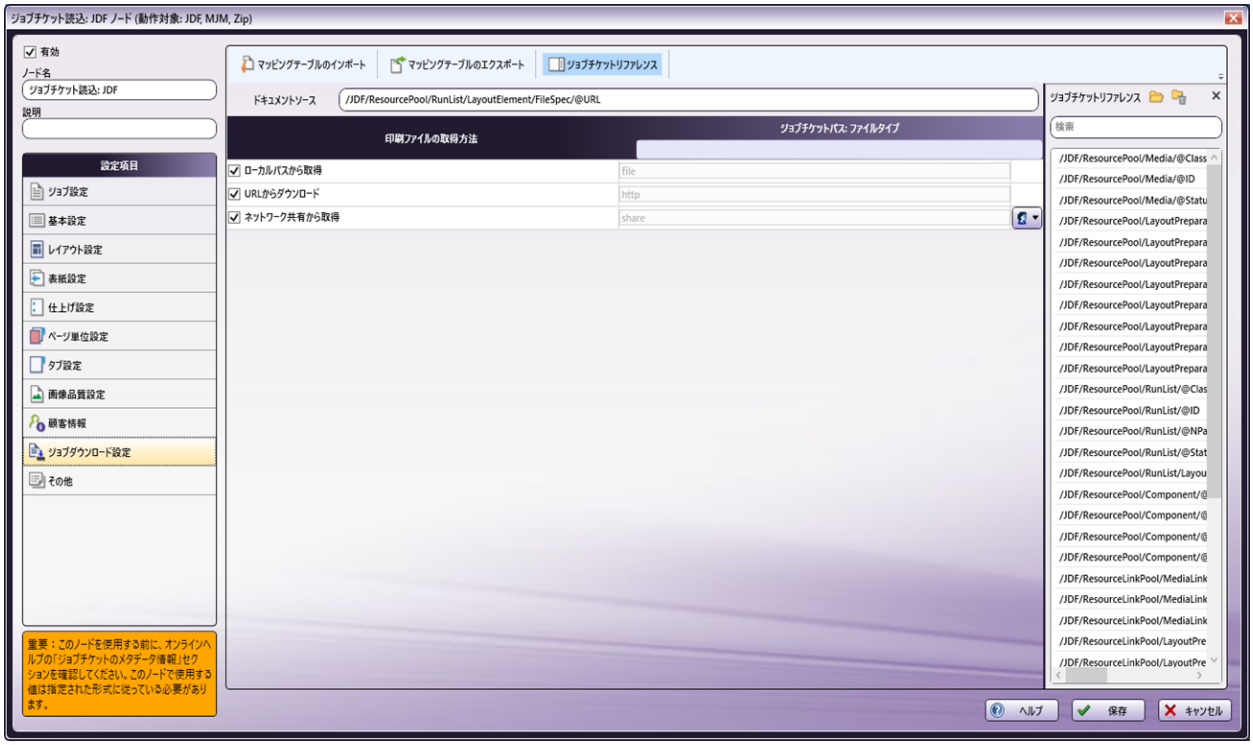
URLからダウンロード

- “File”: “http”
- “URL”: “http://10.146.171.98/testapp8/Testfile.pdf”
  注意： ファイルタイプキーワード **http** と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

ネットワーク共有から取得

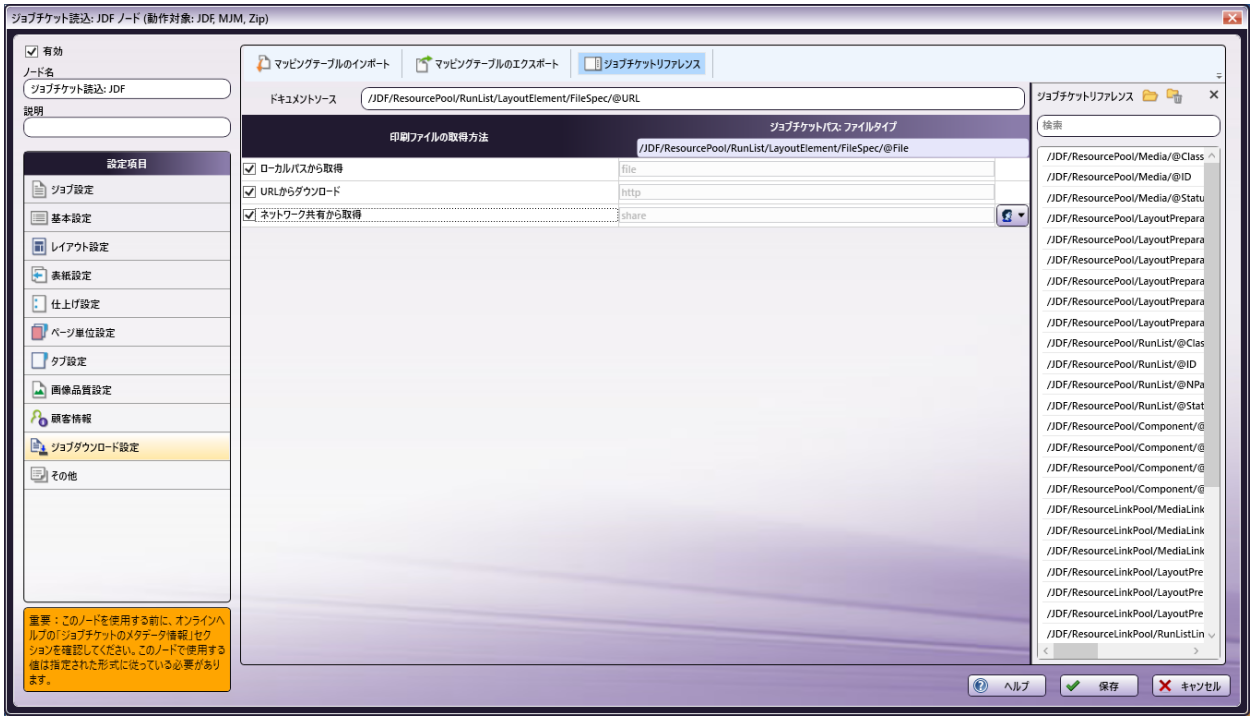
- “File”: “share”
- “URL”: “\\11.12.13.14\Temp\Testfile.pdf”
  注意：ファイルタイプキーワード **share**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]**、**[印刷ファイルの取得方法]**、および **[ジョブチケットパス：ファイルタイプ]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



2. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]** と **[URLからダウンロード]**、**[ネットワーク共有からの取得]** の3つのオプションのチェックボックスをオンにします。
3. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/JDF/ResourcePool/RunList/LayoutElement/FileSpec/@URL** をドラッグアンドドロップします。
4. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドに **/JDF/ResourcePool/RunList/LayoutElement/FileSpec/@File** をドラッグアンドドロップします。
5. 完了した画面は次のように表示されます。

   注意:[ネットワーク共有からの取得 を選択する場合は、ネットワーク共有先でのネットワーク資格情報の登録をする必要があります。ネットワーク資格情報ボタンを選択してネットワーク資格情報ウィンドウにアクセスします。このウィンドウでは、ユーザー名を選択し、適切なパスワードを入力します。

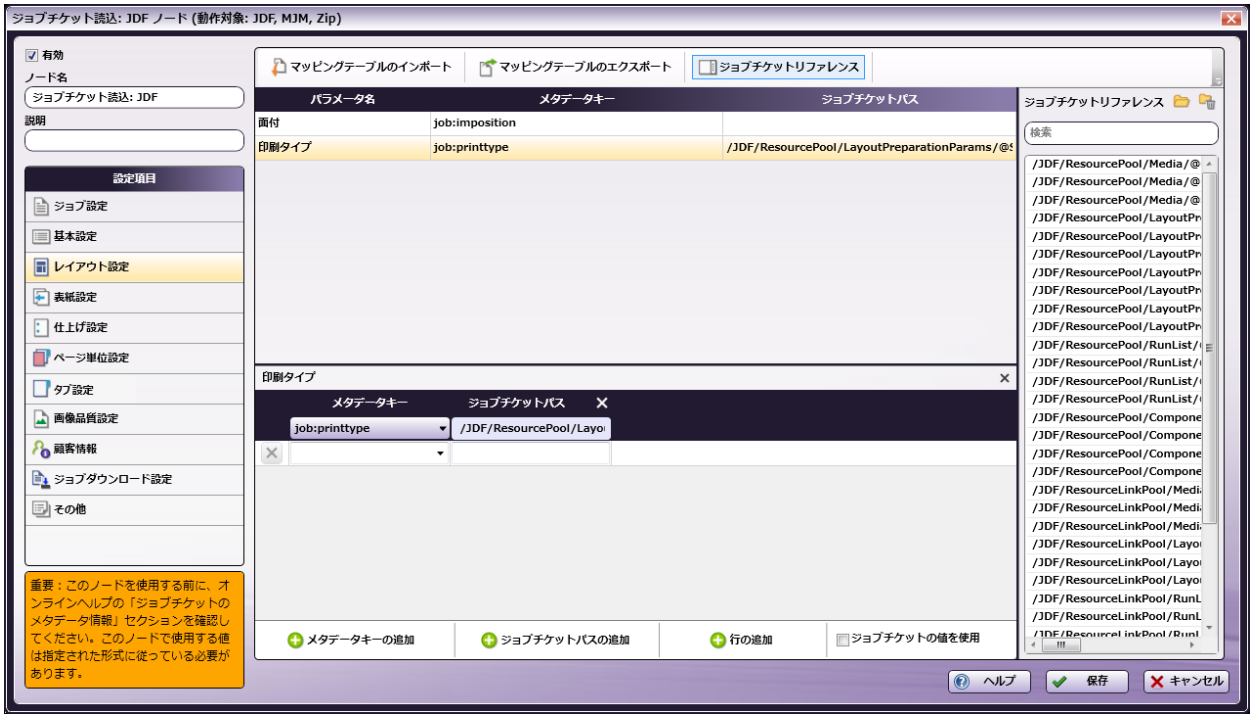


6. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
7. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

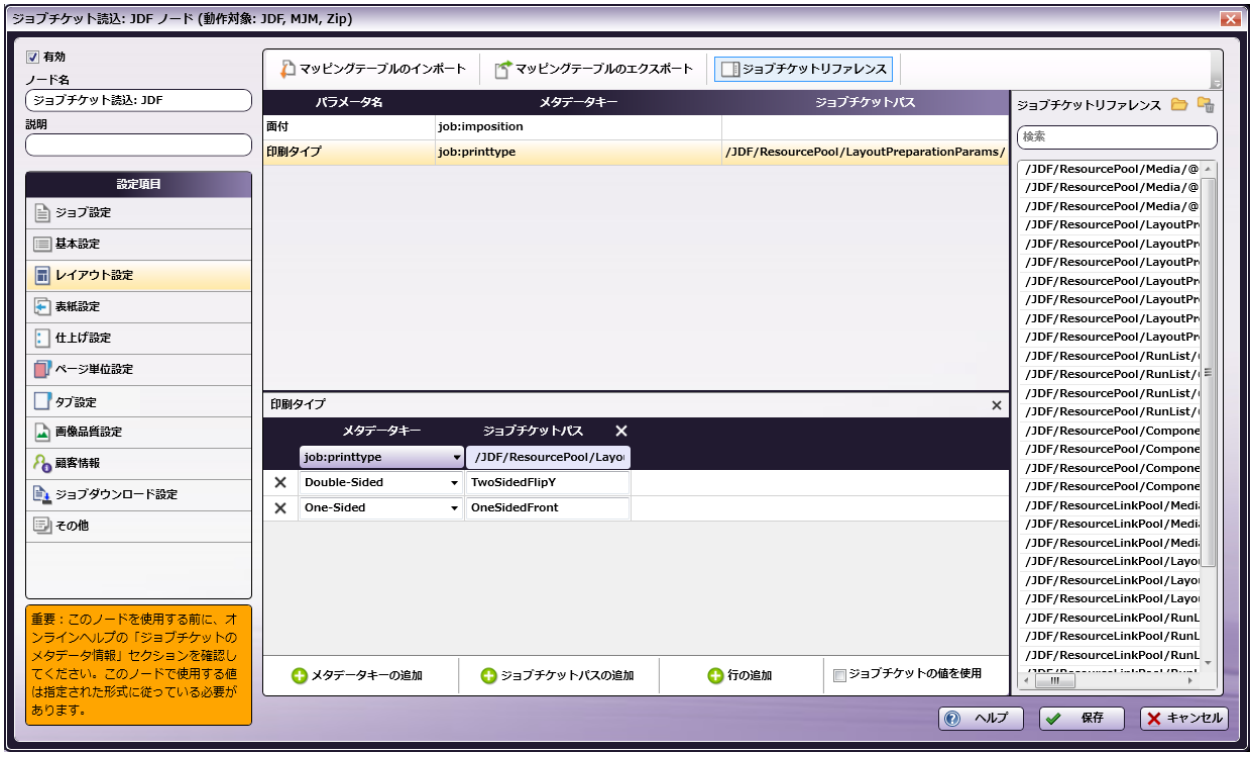
値マップの構成

この機能を使用して、ジョブチケットのパスに対して1つ以上の値を構成できます。以下の例では、**[印刷タイプ]** のXPath値がマッピングされています。これが完了すると、設定が編集され、**/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/@Sides** に対して設定の値マップが指定されます。

1. [設定項目]パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。
2. **[印刷タイプ]** 行をクリックして、**値マップ**パネルを開きます。



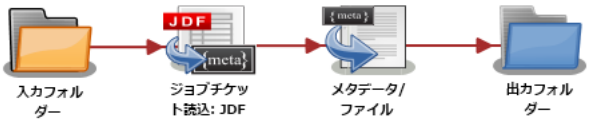
3. デフォルトでは、1つの値マップ行が表示されます。2つの値をマッピングする必要があるため、**[行の追加]** をクリックして、2つ目の値マップ行を追加します。



4. 1つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[Double-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「 **TwoSidedFlipY** 」と入力します。
5. メタデータの値が **Double-Sided** である場合、ジョブチケットは値を **“TwoSidedFlipY”** として書き込みます。
6. 2つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[One-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「 **OneSidedFront** 」と入力します。

7. メタデータの値が **One-Sided** である場合、ジョブチケットは **@Sides** の値を **“OneSidedFront”** として書き込みます。
8. 終了したら、**[保存]** をクリックします。変更を元に戻すには、**[キャンセル]** をクリックします。

ジョブチケット読込:JDFノードワークフローのサンプル



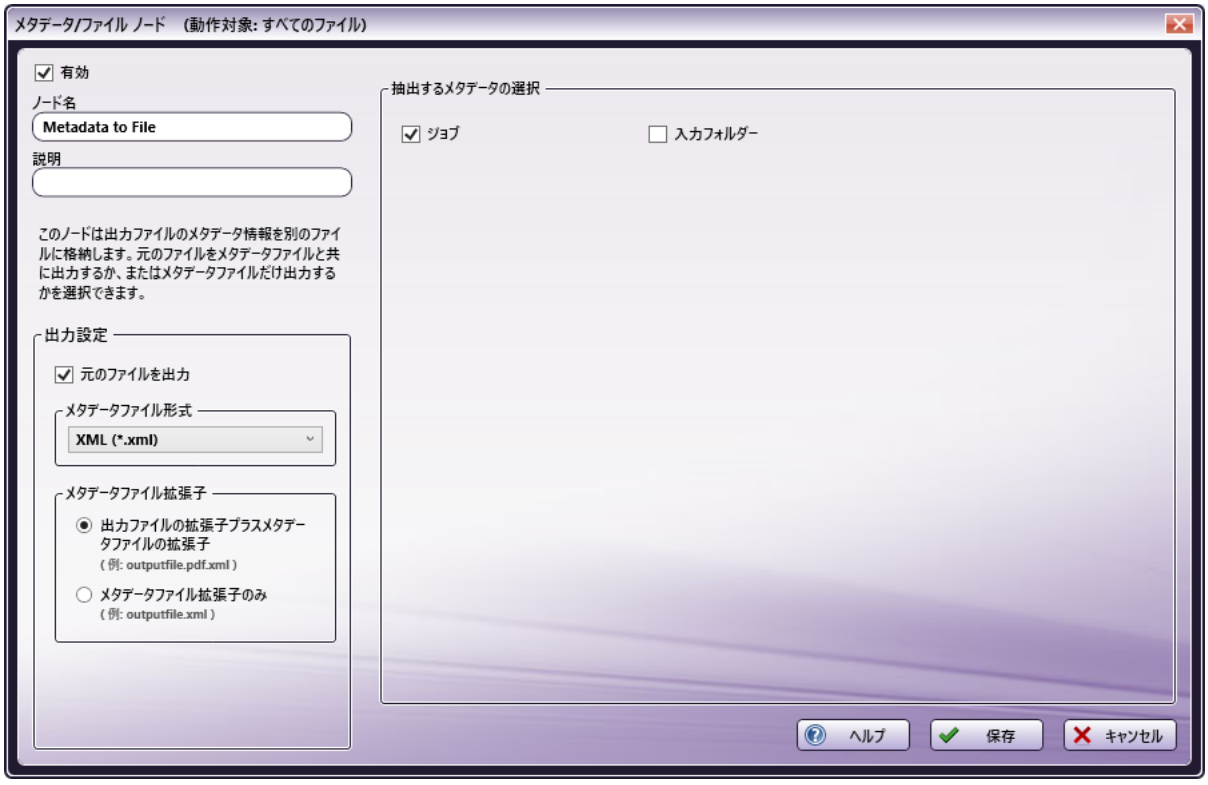
上記のワークフローでは、ジョブチケットファイル(*jdf_sample_jobticket_file.jdf*など)が入力フォルダーに移動されます。このファイルはジョブチケット読込:JDFノードに送信され、そこでジョブチケットJDFがジョブチケットメタデータに変換されます。この変換には、ジョブチケット読込:JDFノードの設定に基づいて作成されたマッピングされた値が使用されます。これが完了すると、データはメタデータ/ファイルノードに転送され、XMLドキュメントに変換されます。そこから、XMLドキュメントが出力フォルダーに転送されます。

入力フォルダーノード: ファイルを集めて、ジョブチケット読込:XMLノードへ送るように入力フォルダーを構成します。

ジョブチケット読込:JDFノード: このノードの目的と設定手順については、このセクションに先行する箇所で説明されています。

メタデータ/ファイルノード: このノードは、構成されたメタデータを抽出してXMLファイルとして保存し、このファイルをワークフローの次のノードに送ります。以下の手順に従って、メタデータ/ファイルノードを構成します。

1. **メタデータ/ファイル**ノードアイコンをダブルクリックして開きます。
2. **[有効]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。
3. **[出力設定]** の **[元のファイルを出力]** を選択し、**[メタデータファイル形式]** ドロップダウンから **[XML (*.xml)]** を選択します。
4. **[メタデータファイル拡張子]** の **[出力ファイルの拡張子プラスメタデータファイルの拡張子]** ラジオボタンを選択します。
5. メインパネルの **[抽出するメタデータの選択]** ヘッダーの下にある **[ジョブ]** チェックボックスを選択します。
6. **[保存]** をクリックして、変更を適用します。



出力フォルダーノード: すべてのワークフロー処理が正しく適用されると、出力フォルダーノードで設定されたフォルダーパスにジョブが送られます。

以下の出力されたメタデータは、このドキュメントの前のセクションで説明した設定に基づいています。

```
<meta group="job" name="copy">
   <document>10</document>
</meta>
<meta group="job" name="file.URL">
```

```
    <document>c:\Temp\Testfile.pdf </document>
</meta>
<meta group="job" name="name">
    <document>JDF job</document>
</meta>
<meta group="job" name="paper.color">
    <document>Yellow</document>
</meta>
<meta group="job" name="paper.name">
    <page number="1">test</page>
    <page number="2">test</page>
    <page number="3">test</page>
    <page number="4">test</page>
    <page number="5">test</page>
</meta>
<meta group="job" name="printtype">
    <document>Double-Sided</document>
</meta>
<meta group="job" name="ticket.file">
    <document>C:\ProgramData\Konica Minolta\conopsd\var\blox\node_2\tmp.d\170711153423.042_000001jdf_sample_jobticket_file.jdf</document>
</meta>
```

制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. このノードに入力できるZIPファイルには、PDFファイルとJDFファイルのみを含める必要があります。入力として指定されているZIPファイルが、PDFおよびJDFファイルを含むフォルダーが圧縮されている形式の場合はサポートされていません。

ジョブチケット読込:JSON

ジョブチケット読込: JSON

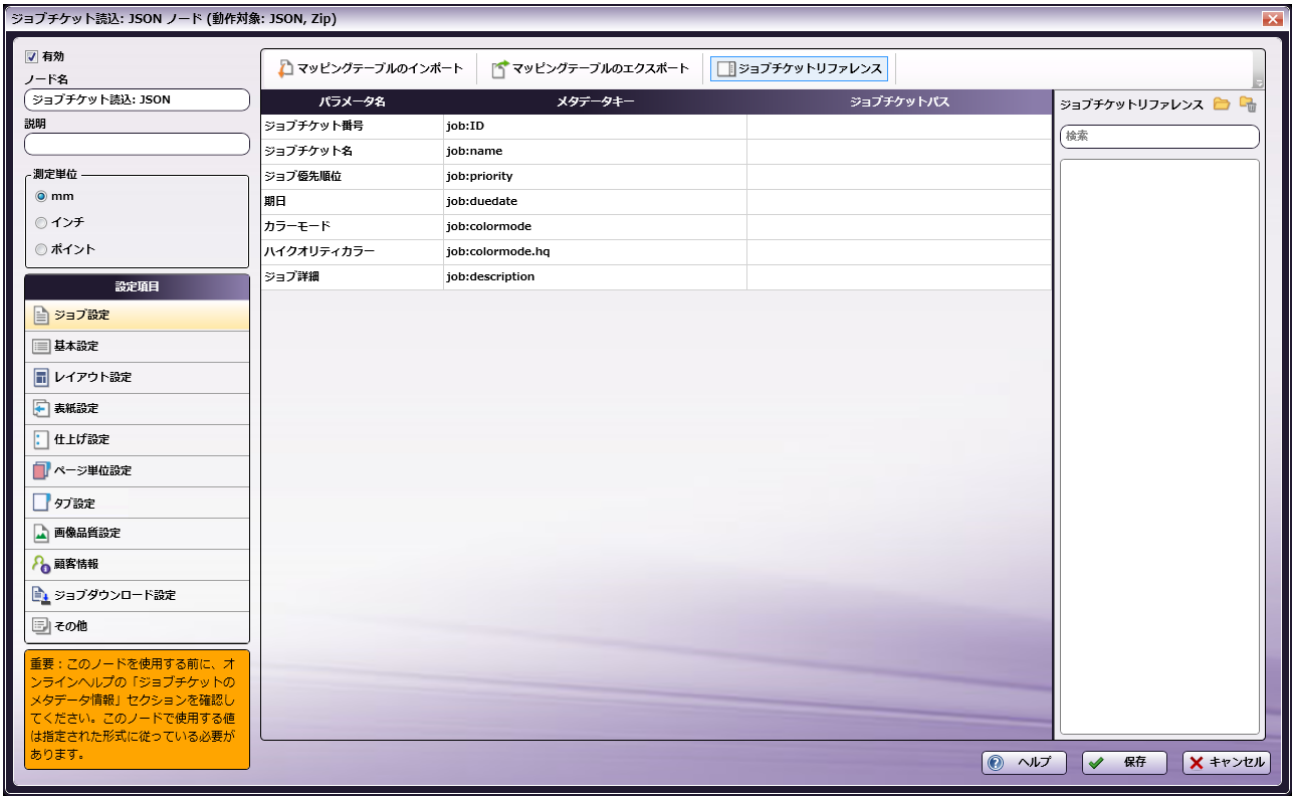
注意: このノードは、JSONファイルおよびZIP（JSON + PDF）ファイルに対応しています。JSONファイルはUTF-8（BOM無し）形式である必要があります。

ジョブチケット読込:JSONノード を使用して、JSONファイルに保存されている情報を解析し、解析済みの情報をメタデータとして書き込むことができます。JSONファイルには、ジョブチケットフィールドおよびジョブチケット値が含まれます。このノードでは、ジョブチケットフィールドとそれに対応するジョブチケットの値が読み取られてから、メタデータが更新されます。ジョブチケットデータをメタデータの値にマップするのに、マッピングテーブルが使用されます。

PDFファイルの場所は、JSONファイルのURLフィールドに記載されており、その情報を使用してPDFファイルがノードにダウンロードされます。入力ファイルがZIPファイル（JSON + PDF）である場合、ファイルが解凍されてから、JSONファイルが処理されます。

ジョブチケット読込:JSONノードを使う

ジョブチケット読込:JSON ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ジョブチケット読込:JSON**ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**［ジョブチケット読込:JSON］** ウィンドウが開きます。



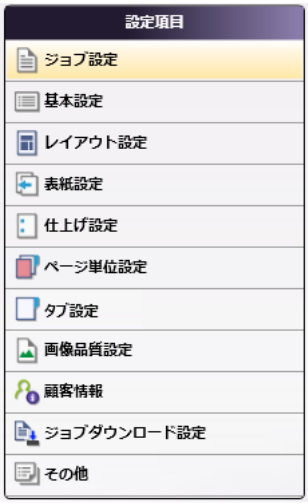
このウィンドウでは、UIの一部であるマッピングテーブルエディターを使用して、マッピングテーブルを作成またはインポートできます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、ジョブチケット読込:JSONノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、ジョブチケット読込: JSONノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[測定単位]** 領域では、測定単位を選択します。**mm**、**インチ**、および**ポイント**の3種類の測定単位がサポートされています。

  注意: すべての英語ロケールのシステムでは、デフォルトでインチが選択されます。その他のロケールでは、デフォルトはmmです。ロケールに関係なく、いずれかのオプションを選択できます。
- **ジョブチケット読込:JSON**の設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

[設定項目]パネル

ジョブチケットパラメータは、パネルに表示された11個のグループに分類されています。設定値を表示するには、いずれかのメニューオプションをクリックします。

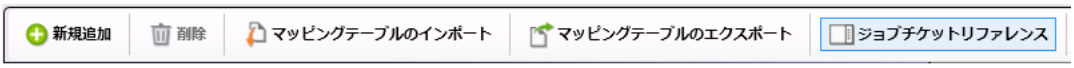


- **[ジョブ設定]:** [ジョブ設定]を選択して、**[ジョブチケット番号]**、**[ジョブチケット名]**、**[ジョブ優先順位]**、**[期日]**、**[カラーモード]**、**[ハイクオリティカラー]**、または **[ジョブ詳細]** のジョブチケットパラメータを編集します。

- **[基本設定]**:**[基本設定]** を選択して、**[部数]**、**[部単位で印刷]**、**[オフセット]**、**[部数仕分け]**、**[枚数仕分け]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[坪量]**、**[用紙種類]**、**[色紙]**、**[ユーザー定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[用紙サイズ単位]**、または **[方向]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[レイアウト設定]:** [レイアウト設定]を選択して、**[面付]** または **[印刷タイプ]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[表紙設定]:** [表紙設定]を選択して、**[オモテ表紙]**、**[オモテ表紙の用紙名]**、**[ウラ表紙]**、または **[ウラ表紙の用紙名]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[仕上げ設定]**:[仕上げ設定]を選択して、**[とじ位置]**、**[中とじ]**、**[トリム]**、**[ステープル]**、**[パンチ]**、**[折り]**、**[くるみ製本]**、**[くるみ製本モード]**、**[くるみ製本トレイ]**、**[くるみ製本両面]**、**[くるみ製本背表紙]**、**[くるみ製本表紙幅]**、**[くるみ製本表紙高さ]**、**[くるみ製本表紙サイズ]**、**[くるみ製本表紙坪量]**、**[リングバインド]**、**[リングバインドオモテ表紙]**、または **[リングバインドウラ表紙]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ページ単位設定]**:[ページ単位設定]を選択して、**[印刷種類]**、**[とじ位置]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[用紙種類]**、**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[色紙]**、**[ユーザー定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[タブ種類]**、**[ページ単位設定数]**、**[ステープル]**、**[パンチ設定]**、**[パンチ]**、または **[ステープル仕上げ]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[タブ設定]**:**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[タブ文字]**、**[ページ番号]**、**[ファイル順序]**、または **[タブ数]** を選択します。
- **[画像品質設定]:** [画像品質設定]を選択して **[解像度]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[顧客情報]:** [顧客情報]を選択して、**[コメントURL]**、**[お客様の名前]**、**[お客様の姓]**、**[お客様の住所]**、**[お客様の丁目･番地]**、**[お客様の市区町村]**、**[お客様の都道府県]**、**[お客様の郵便番号]**、**[お客様の国]**、**[お客様の会社]**、**[お客様の電話番号]**、**[お客様のファクス番号]**、**[お客様の電子メール]**、または **[ジョブ作成者]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ジョブダウンロード設定]:** [ジョブダウンロード設定]を選択して、印刷ファイルの取得にどの印刷ファイルオプションを使用するかを指定します。指定できるオプションには **[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]** または **[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有からの取得]** があります。
- **[その他]:** どの設定項目にもないカスタムジョブチケットパラメータを扱う場合は、**[その他]** ページを使用して新しいフィールドを追加します。

ツールバー

ツールバーは、**[ページ単位設定]** と **[その他]** の設定項目オプションが選択されている場合にのみ表示されます。以下に示す例では、**[その他]** の設定項目オプションが選択されています。ページ単位設定のツールバーは、この例とは異なります。以下に、利用可能なツールバーのオプションをすべて示します。



- **[新規追加]:** 変換ルールを定義する新しいエントリーパラメータを追加するには、このオプションを使用します。このオプションは **[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[削除]:** パラメータのエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは **[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を追加]:** 別の組み合わせの**ページ単位設定**を追加するには、このオプションを使用します。このオプションは **[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を削除]:ページ単位設定** のエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは **[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[マッピングテーブルのインポート]:** クリックするとファイルのダイアログが開き、インポートするマッピングテーブルのxmlファイルを選択できます。
- **[マッピングテーブルのエクスポート]:** 外部にあるマッピングテーブルのxmlファイルに適用した構成変更を保存するには、この機能を使用します。
- **[ジョブチケットリファレンス]:[ジョブチケットリファレンス]パネル** の表示と非表示を切り替えるには、このオプションを使用します。

マッピングテーブルパネル

このパネルでは、ジョブチケットパラメータと**Dispatcherメタデータ間**のマッピング値を定義します。設定項目の各オプションをクリックすると、メインパネルに[パラメータ名]／[メタデータキー]の値が表示されます。

パラメータ名	メタデータキー	ジョブチケットパス
ジョブチケット番号	job:ID	
ジョブチケット名	job:name	
ジョブ優先順位	job:priority	
期日	job:duedate	
カラーモード	job:colormode	
ハイクオリティカラー	job:colormode.hq	
ジョブ詳細	job:description	

- **[パラメータ名]:** この列は、ジョブチケットパラメータのわかりやすい名前を示します。
- **[メタデータキー]:** この列は、パラメータ名ごとの**Dispatcherメタデータキー**を示します。
- **[ジョブチケットパス]:** 既定では、この列は空です。この列には、各ジョブチケットパラメータに対応するJSONファイルのパスを入力します。

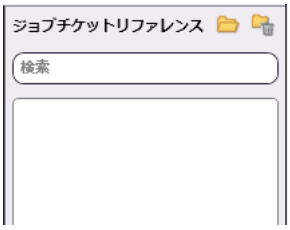
値マップパネル

メタデータ値と**ジョブチケット値間**の変換ルールを定義するには、このパネルを使用します。テーブルに値を入力します。**メタデータキーとジョブチケットパス**が列見出しに表示され、必要に応じてエントリーの追加や削除ができます。

- **[メタデータキーの追加]:** 新しい**メタデータキー**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットパスの追加]:** 新しい**ジョブチケットパス**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[行の追加]:** 新しい値マップ行を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットの値を使用]:** このチェックボックスをオンにすると、ジョブチケットの値がそれに対応する**メタデータキー**と共に保持され、変換が適用されずに保存されます。

  注意: チェックボックスは、1対1マッピングの場合にのみ使用できます。他のすべての条件では、このオプションはグレー表示され、有効にすることはできません。

[ジョブチケットリファレンス]パネル



[開く] ボタン( )をクリックすると、サンプルのジョブチケットファイルを開くことができます。ジョブチケットを選択すると、そのチケットで使用できるJSONファイルのパスがすべてテーブルにリストで表示されます。このリストから項目を**マッピングテーブル**パネルへドラッグし、目的の **[ジョブチケットパス]** 列にドロップします。

このリストの内容を消去するには **[クリア]** ボタン( )をクリックします。

マッピングテーブルの基本的な操作

ジョブチケットパラメータは、保管したりジョブチケットに対して特定の処理を行ったりする場合に、異なる形式に変換する必要のあることがしばしばあります。変換することで、そのような処理でのジョブチケットの読込が可能になります。このノードを使用すると、JSON形式に変換できます。

ジョブチケットファイル

このノードの使用を開始する前に、JSONジョブチケットファイルを生成する必要があります。

注意: アドインマネージャを使用してDispatcher Phoenixにジョブチケット読込:JSONノードを追加すると、サンプルのジョブチケットファイルを表示できます。これらのファイルは、以下のパスにあります。

\Program Files\Common Files\Konica Minolta\Phoenix\Resources\JobTicketParserJSONNode

上記のサンプルのジョブチケットには、そのチケットで使用できるすべてのジョブチケットパラメータが含まれています。ファイルをサポートするために必要なパラメータを含むように、サンプルのジョブチケットを変更できます。外部のサードパーティー製のアプリケーションを使用して、ジョブチケットファイルを生成することもできます。この場合、これをサンプルファイルとして使用できます。

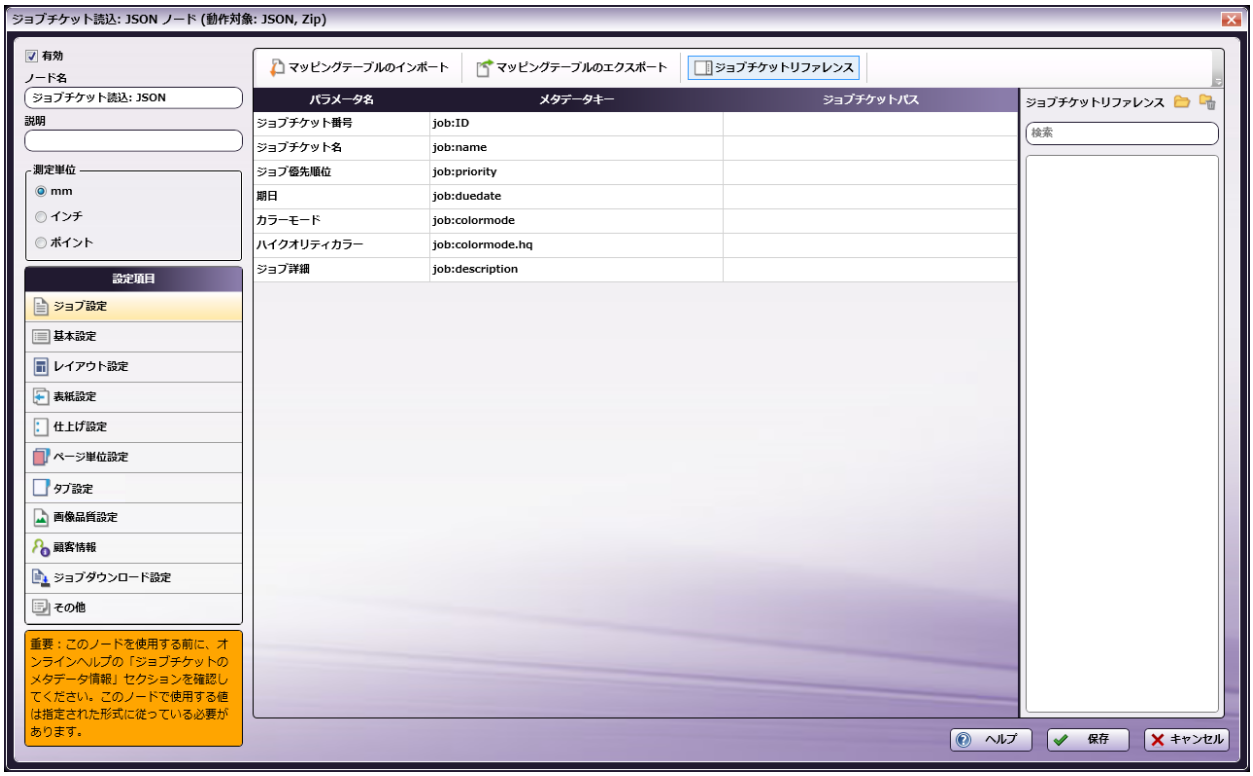
ジョブチケット読込:JSONノードでは、ドキュメントレベル値とページ単位設定値を使用してジョブチケットパラメータを定義します。以下の説明では、サンプルのジョブチケットがシンプルなドキュメントとページ単位レベルの設定で変更されています。このサンプルのジョブチケットは、以降の説明に使用されます。

```
{
   “Ticket”: {
       “Name”: “Sample JSON Job”,
       “Quantity”: 5,
       “Duplex”: “On”,
       “Media”:
          {
             “Color”: “Yellow”
```

```
      },
      “File”: “file”,
      “Src”: “C:\\Temp\\Testfile.pdf”,
      “PageException”: [
         {
            “Range”: “1-5”,
            “Media”:
               {
                  “PaperName”: “A4”
               }
         }]
      }
}
```

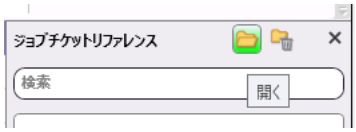
ジョブチケットファイルを使用したマッピングテーブルの構成

1. テキストエディタを使用して、上記のサンプルJSONファイルをコピーします。
2. サンプルのジョブチケットに記載されている**ソースパス(“Src”)**は(上記の例で説明したように)、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. ファイルを json_ sample_ jobticket_file.jsonとしてローカルに保存します。
4. **ジョブチケット読込:JSON** ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。

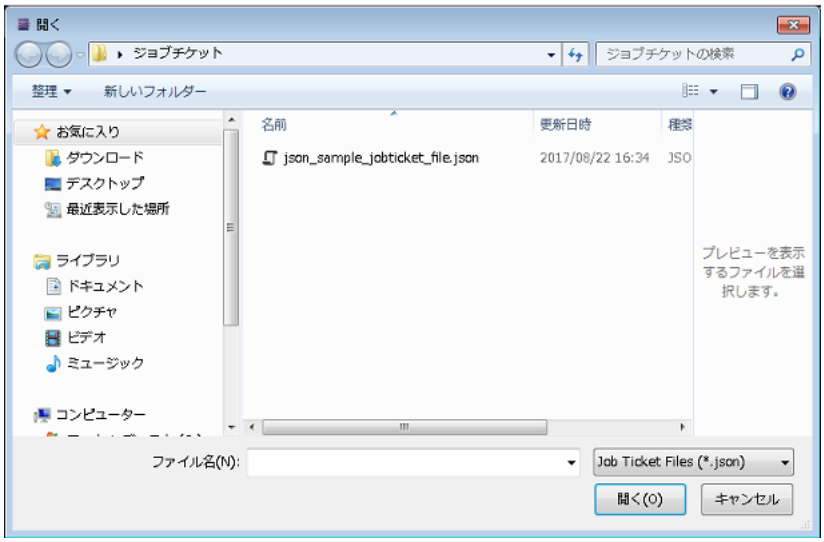


5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
   - **[有効]** チェックボックス:オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
   - **[ノード名]:** ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
   - **[測定単位]:** ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。

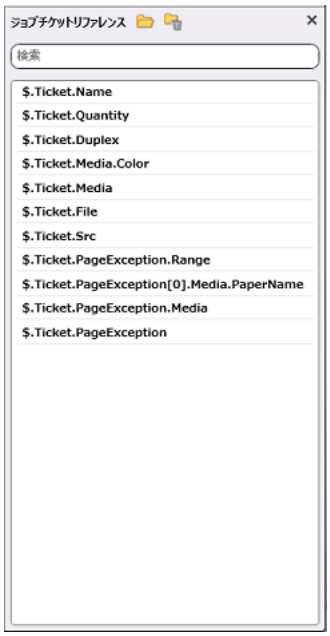
   注意: 入力ジョブチケットにメタデータ値{job:paper.unit}が含まれている場合、[測定単位]フィールドで選択されている値はこのメタデータ値によって上書きされます。
6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネル(右端)で、**[開く]** アイコンを見つけます。



7. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル(json_sample_jobticket_file.json)に移動して選択します。



8. ファイルが開くと、その内容（つまりXPath）が次の画像のように、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルに表示されます。



注意: ロードされたジョブチケットは、[ジョブチケットリファレンス]パネルから正しい値をドラッグアンドドロップしてマッピングする必要があります。値が[ジョブチケットリファレンス]パネルに表示されない場合は、このヘルプファイルの指示に記載されている値を手動で入力してください。

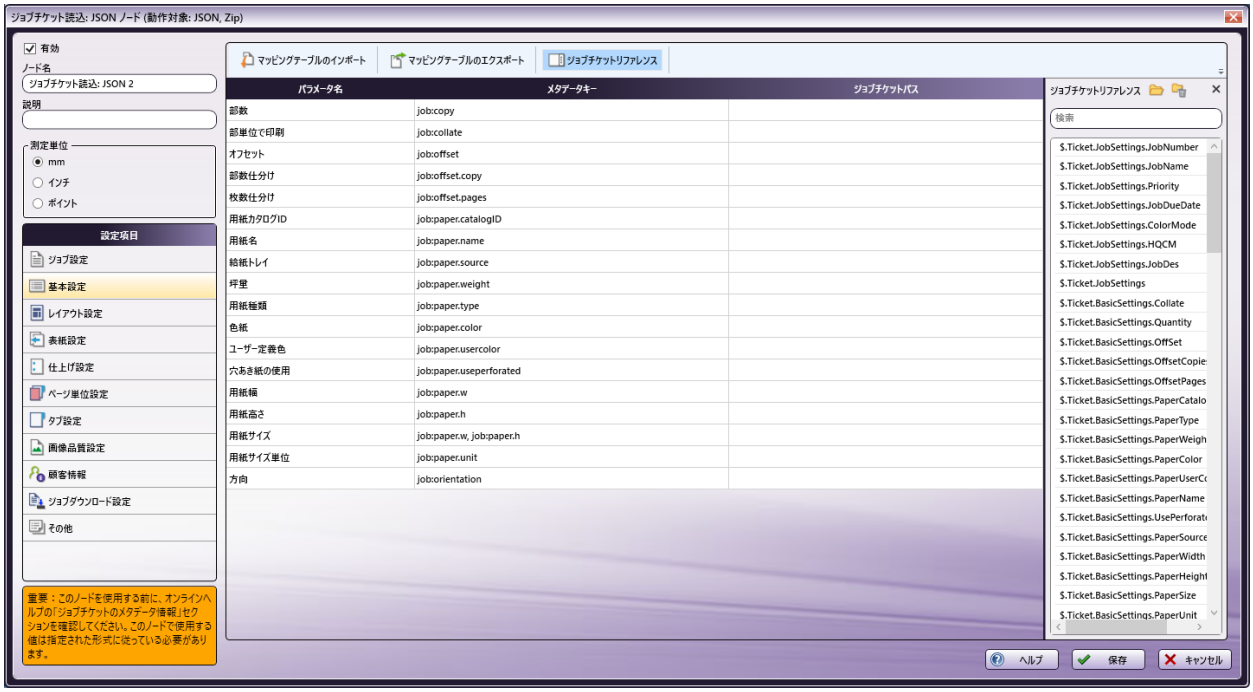
XPathのマッピング

XPath値が使用可能になったら、メインパネルの **[パラメータ名]／[メタデータキー]** の値にマッピングする必要があります。そのためには、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値をクリックし、その値をメインパネルの対応する **[ジョブチケットパス]** セルにドラッグします。

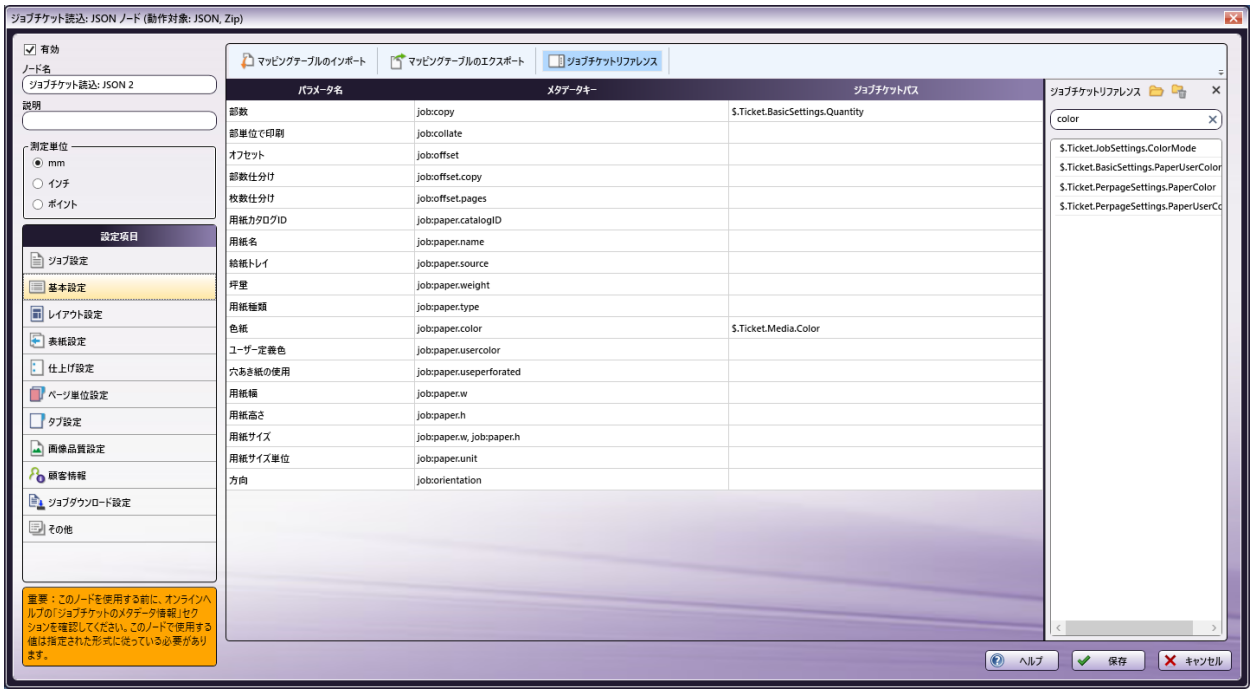
ノードの左側の **[設定項目]** パネルを使用して、いくつかのオプションを指定できます。オプションをクリックすると、メインパネルに含まれている **[パラメータ名]／[メタデータキー]** の値が開きます。

基本的な[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

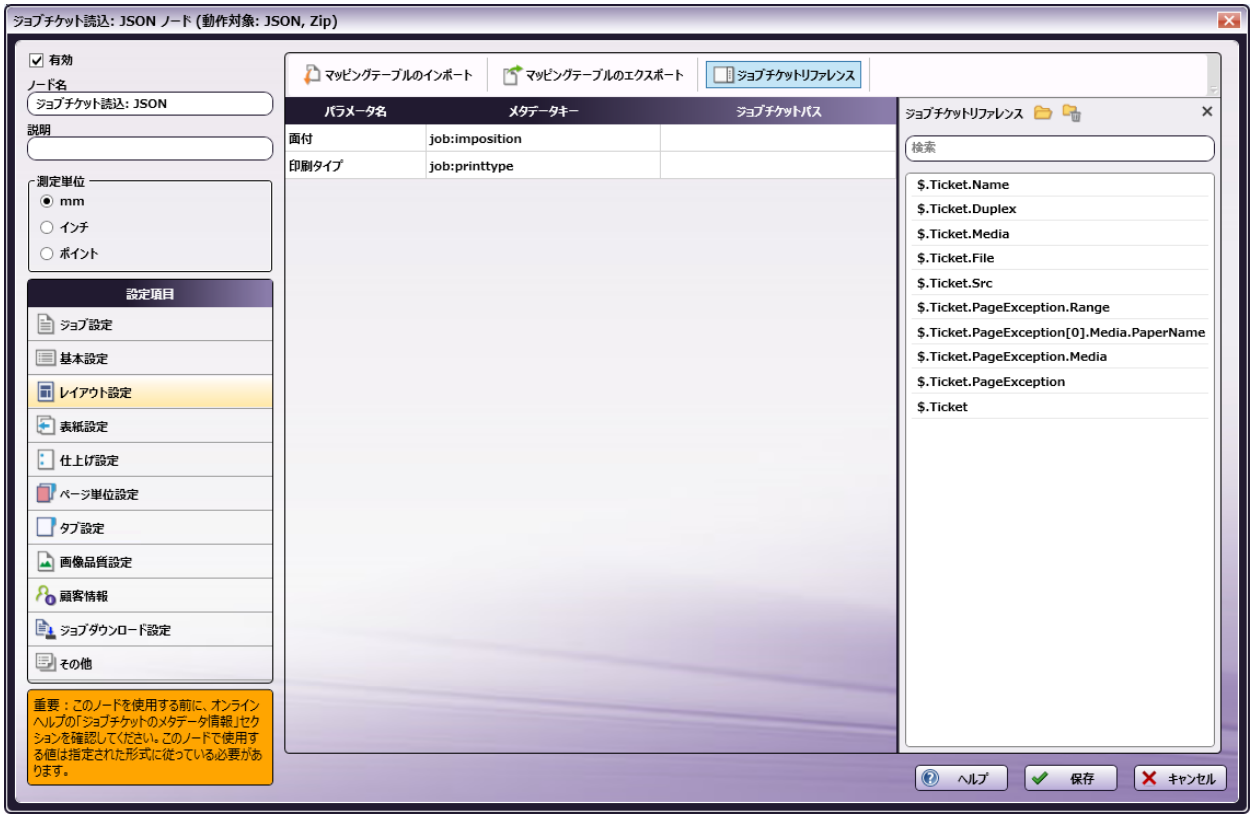
1. **[設定項目]** パネルで、**[基本設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



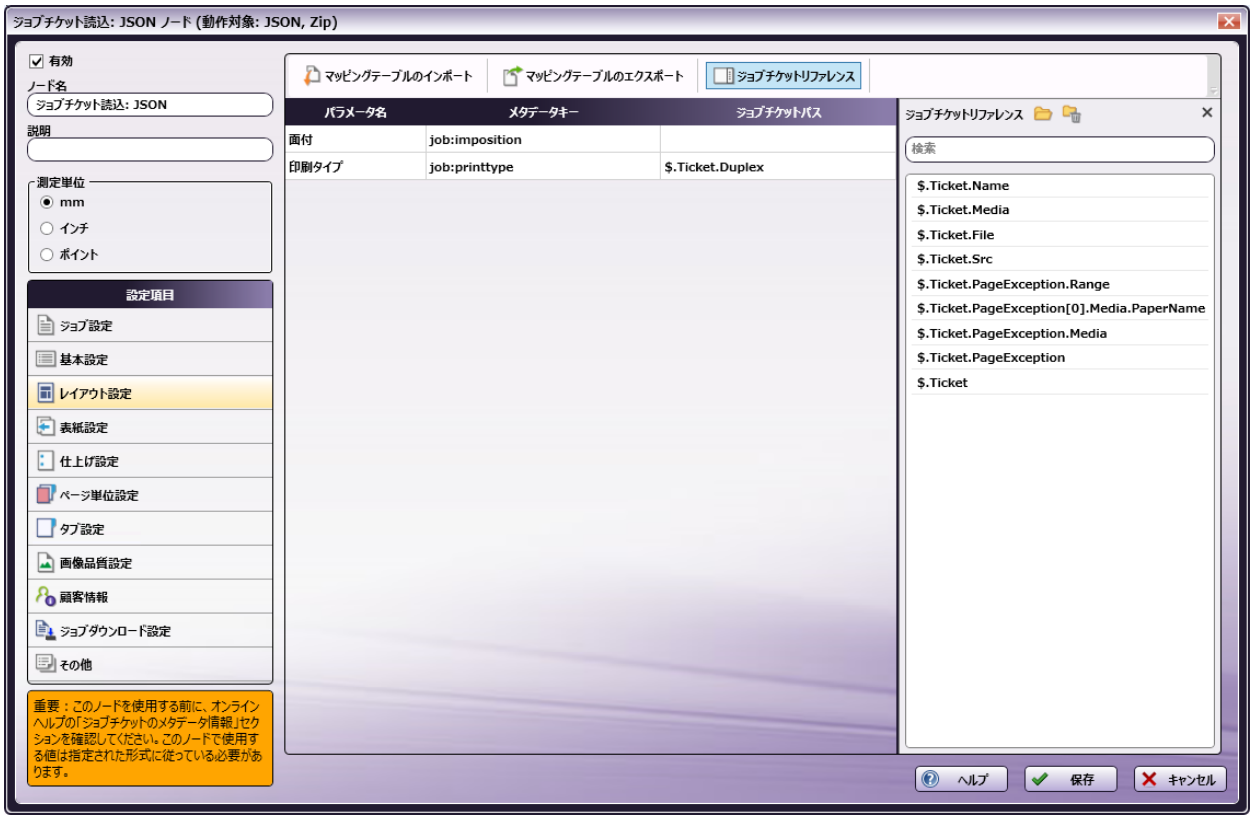
2. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
3. **[コピー]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに `$.Ticket.Quantity` をドラッグアンドドロップします。**[色紙]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに `$.Ticket.Media.Color` をドラッグアンドドロップします。
4. ドラッグアンドドロップした値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。



5. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]** および **[ジョブチケットパス]** 列が、メインパネルに表示されます。



6. **［ジョブチケットリファレンス］**パネルの値を、その値の**［パラメータ名］**に対応する、**［ジョブチケットパス］**列の空いているセルに移動する必要があります。
7. **［印刷タイプ］**行の**［ジョブチケットパス］**セルに `$.Ticket.Duplex` をドラッグアンドドロップします。

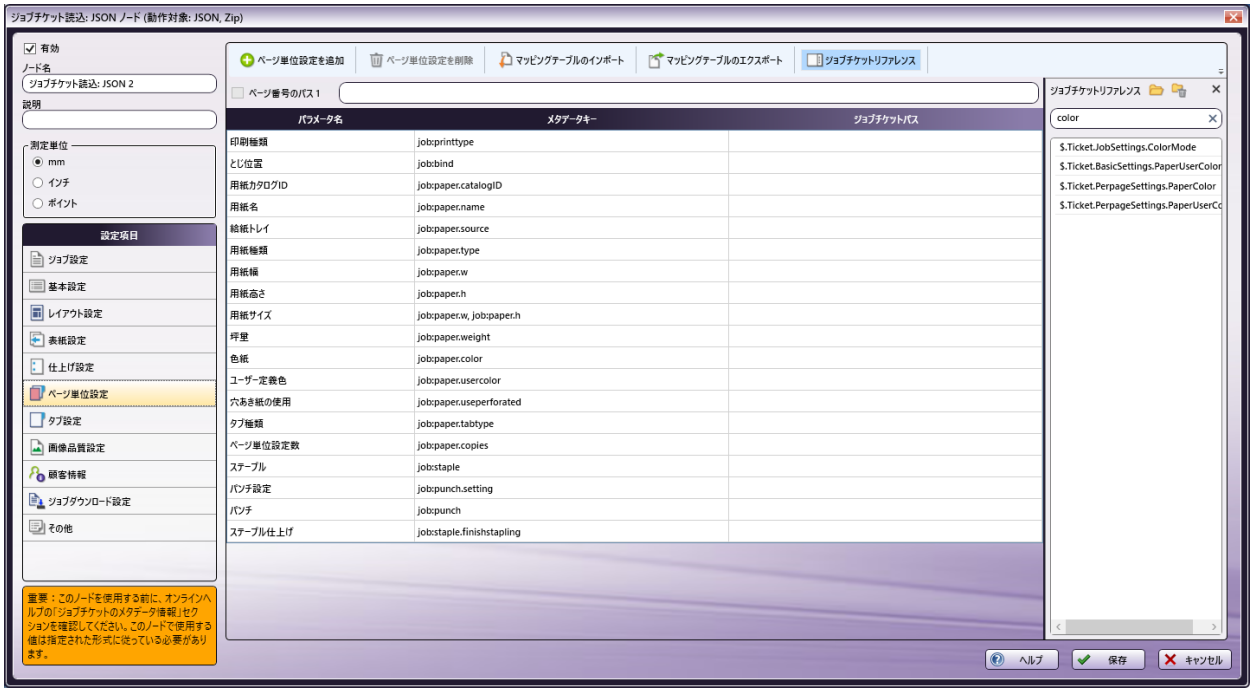


8. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**［ジョブチケットリファレンス］**パネルから削除されます。
9. 必要に応じて、他の**［設定項目］**オプションについて同じ手順を繰り返します。

［ページ単位設定］の［パラメータ名］／［メタデータキー］の値のマッピング

[ページ単位設定]設定項目 は、ページ単位設定を構成するために使用されます。これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。このページ単位設定は、ページレベルのメタデータを生成します。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ページ単位設定]** オプションをクリックします。**[ページ番号のパス1]**、**[パラメータ名]**／**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



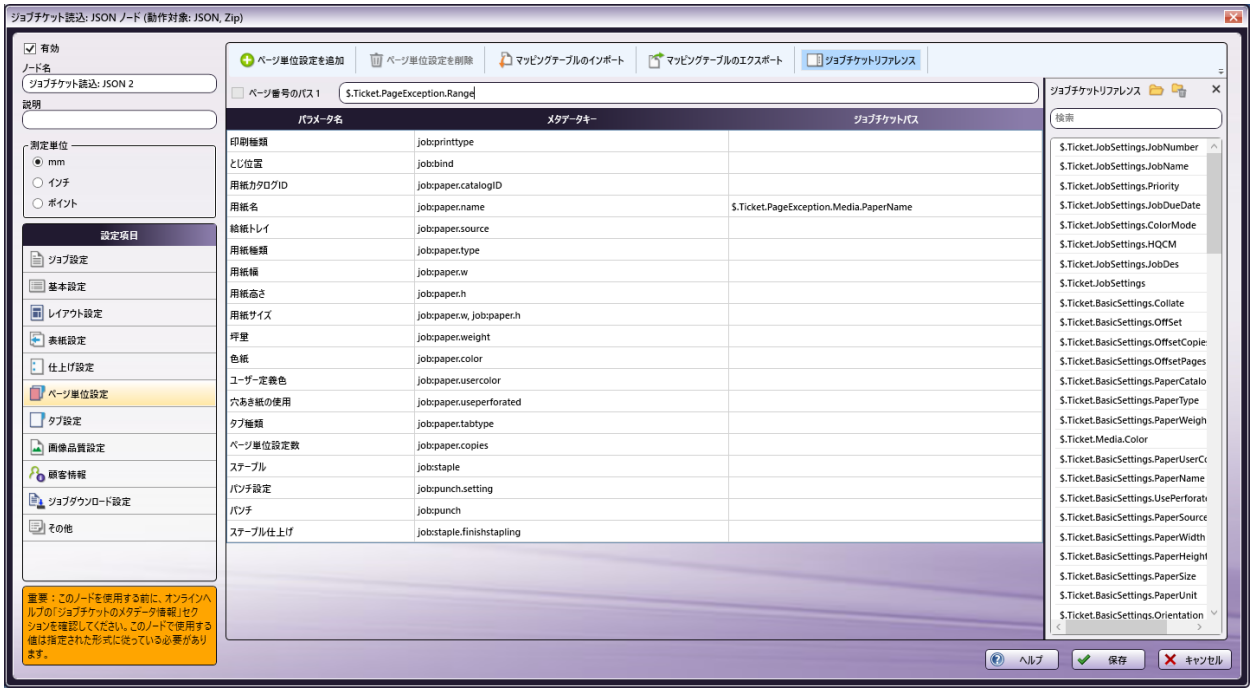
2. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、`$.Ticket.PageException.Range` を **[ページ番号のパス1]** テキストボックスにドラッグアンドドロップします。

   注意：**[ページ番号のパスn]** の内容は"$."で始まる文字列である必要があります。

3. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、`$.Ticket.PageException[0].Media.PaperName` を **[用紙名]** 行の *[ジョブチケットパス]* セルにドラッグアンドドロップします。

   注意： PageException[0]をPageExceptionに変更します。

4. 完了した画面は次のように表示されます。



5. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。

6. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ジョブダウンロード設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

[ジョブダウンロード設定]設定項目 は、ジョブのPDFファイルの受信元となる入力ソースを有効にするために使用されます。**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、および **[ジョブチケットからbase64データを取得]**（PDFデータはbase64形式で埋め込まれています）、**[ネットワーク共有からの取得]** の4つの値がサポートされています。

これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。

サンプルJSONジョブチケットファイル：

以下の例は、各ジョブダウンロードオプションで、コードによりPDFファイルがどのように表示されるかを示しています。

ローカルパスから取得

- “File”: “file”
- “Src”: “C:\\Temp\\Testfile.pdf”
  注意：ファイルタイプキーワード **file**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

URLからダウンロード

- “File”: “http”
- “Src”: “http://10.146.171.98/testapp8/Testfile.pdf”
  注意：ファイルタイプキーワード **http**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

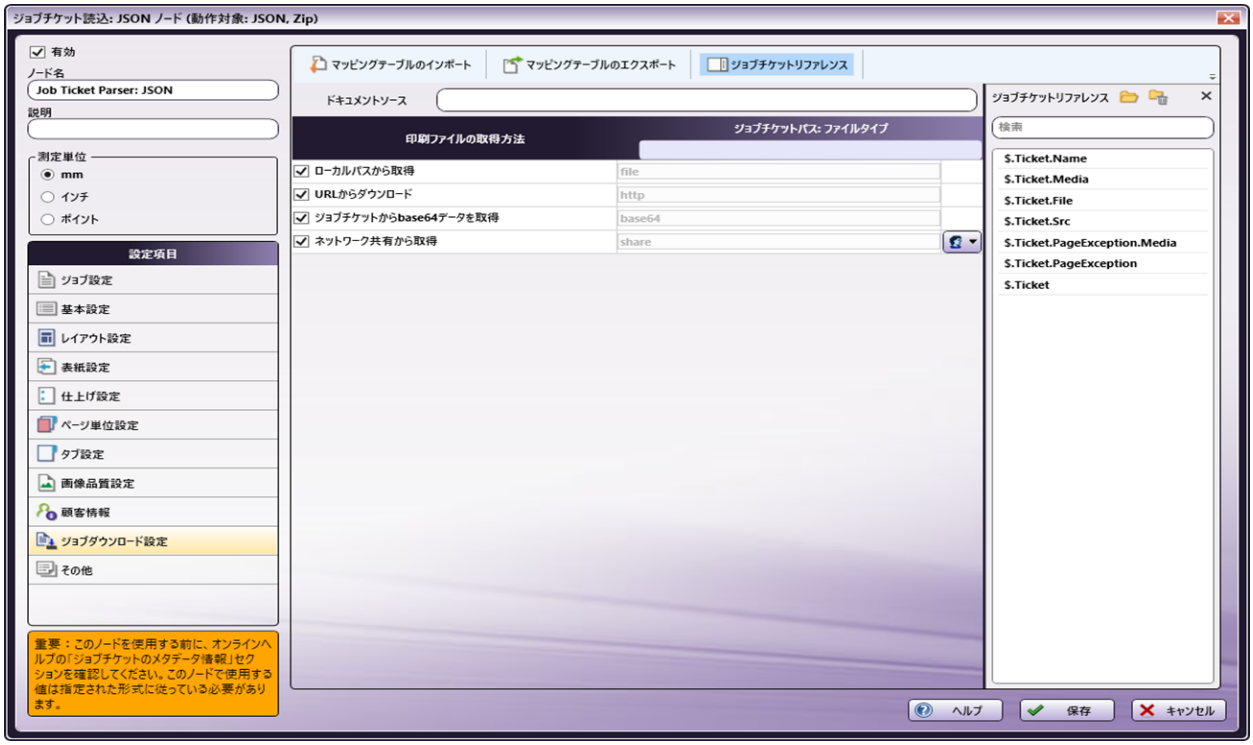
ジョブチケットからbase64データを取得

- “File”: “base64”
- “Src”: “xxddgdfexdgfgngn…”
  注意：ファイルタイプキーワード **base64**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

ネットワーク共有から取得

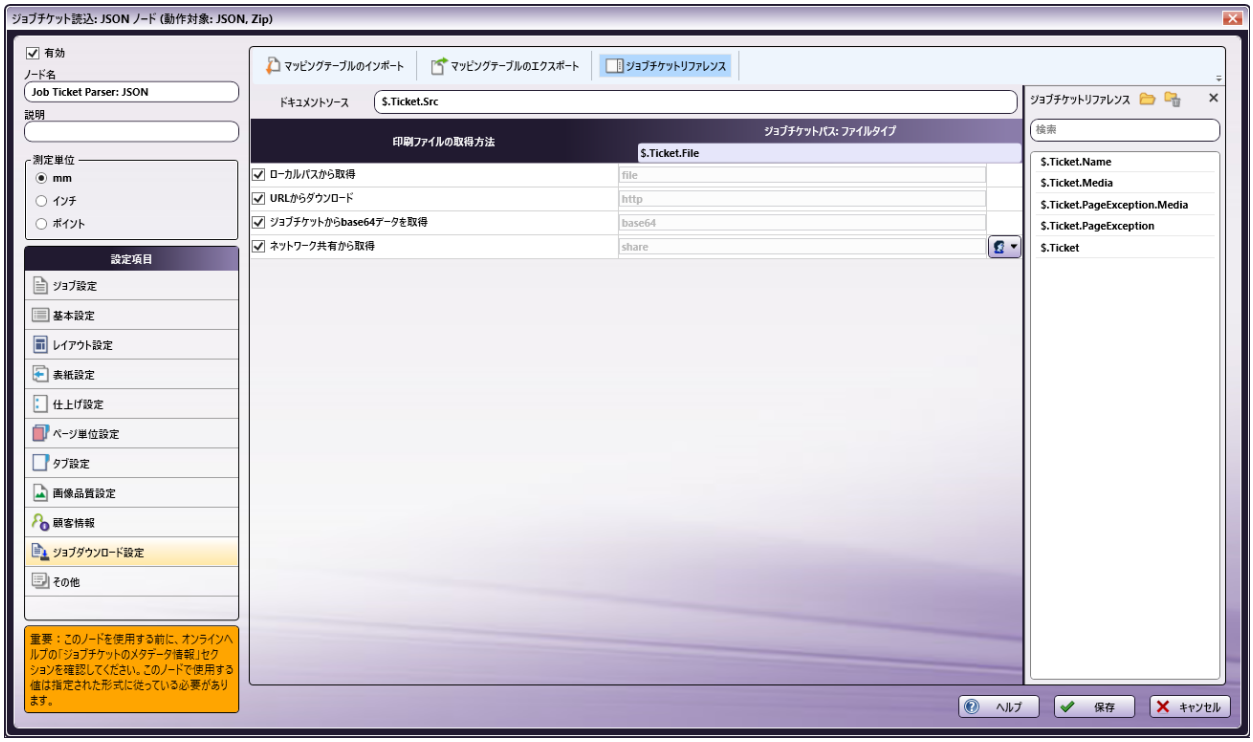
- “File”: “share”
- “Src”: “\\\\11.12.13.14\\Temp\\Testfile.pdf”
  注意：ファイルタイプキーワード **share**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]**、**[印刷ファイルの取得方法]**、および **[ジョブチケットパス：ファイルタイプ]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



2. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、および **[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有からの取得]** の4つのオプションのチェックボックスをすべて選択します。
3. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに `$.Ticket.Src` をドラッグアンドドロップします。
4. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス：ファイルタイプ]** フィールドに `$.Ticket.File` をドラッグアンドドロップします。
5. 完了した画面は次のように表示されます。

注意：[ネットワーク共有からの取得] を選択する場合は、ネットワーク共有先でのネットワーク資格情報の登録をする必要があります。ネットワーク資格情報ボタンを選択してネットワーク資格情報ウィンドウにアクセスします。このウィンドウでは、ユーザー名を選択し、適切なパスワードを入力します。

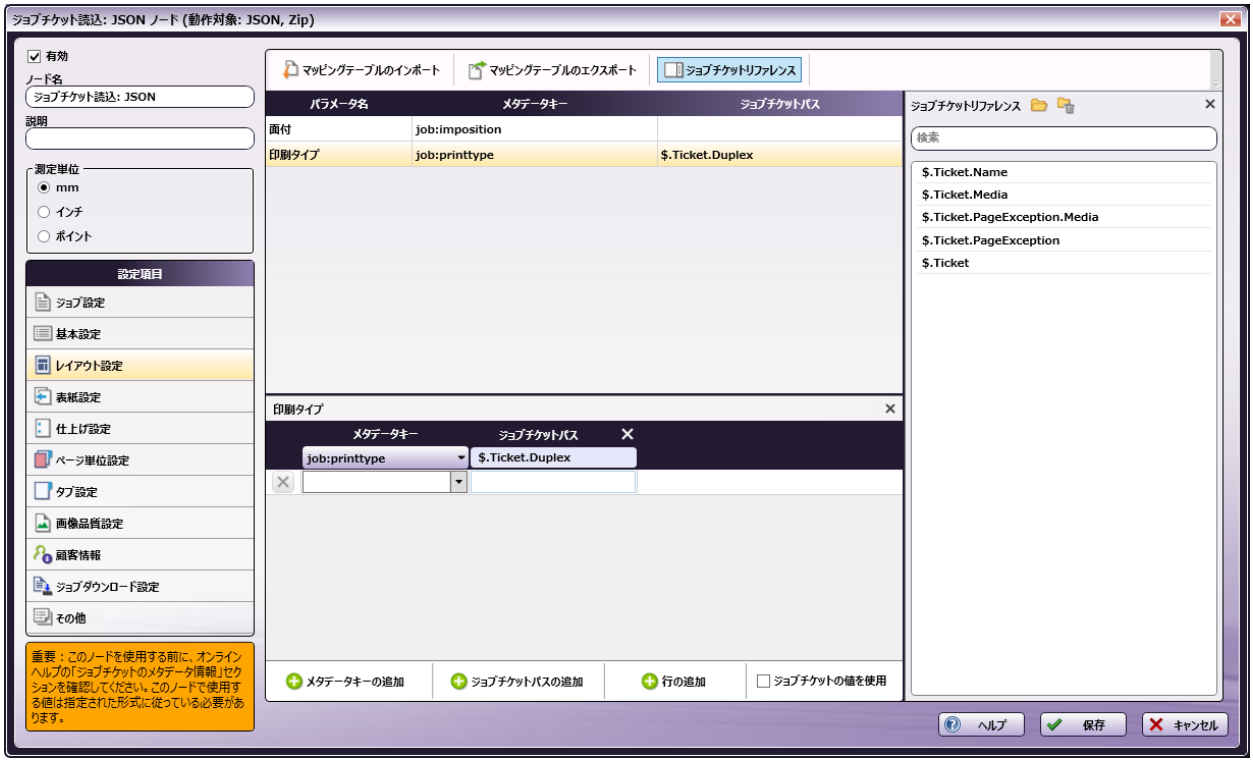


6. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
7. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

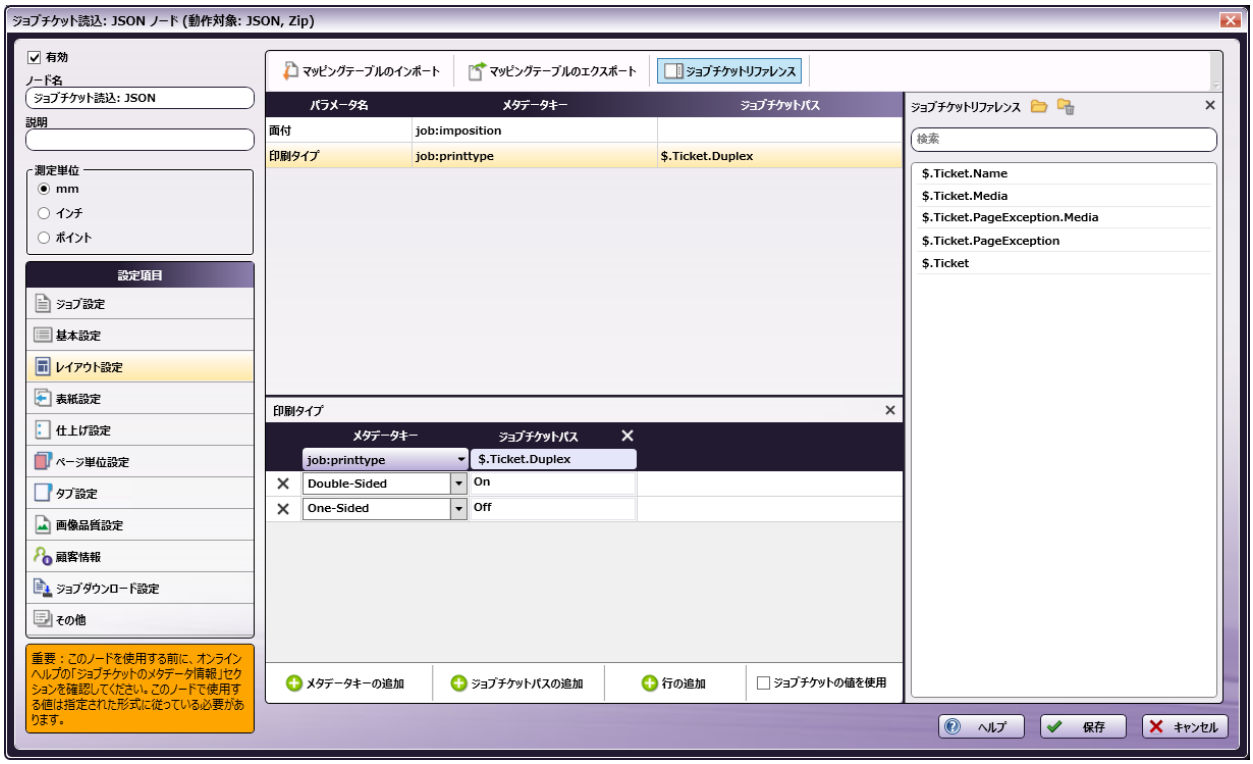
値マップの構成

この機能を使用して、ジョブチケットのパスに対して1つ以上の値を構成できます。以下の例では、**[印刷タイプ]** のXPath値がマッピングされています。これが完了すると、設定が編集され、**Duplex**に対して設定の値マップが指定されます。

1. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。
2. **[印刷タイプ]** 行をクリックして、**値マップ**パネルを開きます。



3. デフォルトでは、1つの値マップ行が表示されます。2つの値をマッピングする必要があるため、**[行の追加]** をクリックして、2つ目の値マップ行を追加します。



4. 1つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[Double-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「 **On** 」と入力します。
5. **Duplex**の値が**On**に設定され **Double-Sided**印刷が選択されているノードにジョブが送信されると、メタデータに**Double-Sided**印刷が出力されます。
6. 2つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[One-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「 **Off** 」と入力します。
7. **Duplex**の値が**Off** に設定され**One-Sided**印刷が選択されているノードにジョブが送信されると、メタデータに **One-Sided]** 印刷が出力されます。
8. 終了したら、**[保存]** をクリックします。変更を元に戻すには、**[キャンセル]** をクリックします。

ジョブチケット読込:JSONノードワークフローのサンプル

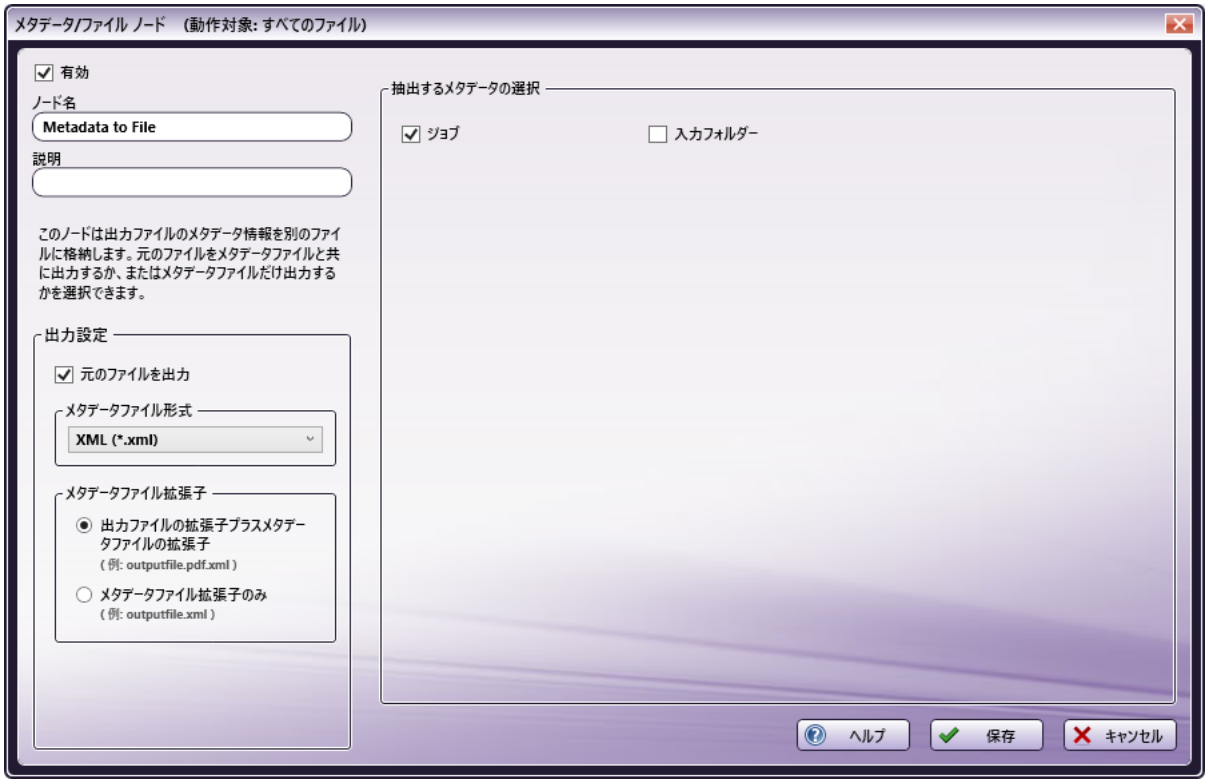
上記のワークフローでは、ジョブチケットファイル（json_sample_jobticket_file.jsonなど）が **入力フォルダー** に移動されます。これは、**ジョブチケット読込:JSON** ノードに送信され、ジョブチケットJSONがジョブチケットメタデータに変換されます。これが完了すると、データは **メタデータ/ファイル** ノードに転送され、XMLドキュメントに変換されます。そこから、XMLドキュメントが **出力フォルダー** に転送されます。

入力フォルダーノード: ファイルを集めて、ジョブチケット読込:JSONノードへ送るように入力フォルダーを構成します。

ジョブチケット読込:JSONノード: このノードの目的と設定手順については、このセクションに先行する箇所で説明されています。

メタデータ/ファイルノード: このノードは、構成されたメタデータを抽出してXMLファイルとして保存し、このファイルをワークフローの次のノードに送ります。以下の手順に従って、メタデータ/ファイルノードを構成します。

1. **メタデータ/ファイル**ノードアイコンをダブルクリックして開きます。
2. **［有効］**チェックボックスがオンになっていることを確認します。
3. **［出力設定］**の**［元のファイルを出力］**を選択し、**［メタデータファイル形式］**ドロップダウンから**［XML (*.xml)］**を選択します。
4. **［メタデータファイル拡張子］**の**［出力ファイルの拡張子プラスメタデータファイルの拡張子］**ラジオボタンを選択します。
5. メインパネルの**［抽出するメタデータの選択］**ヘッダーの下にある**［ジョブ］**チェックボックスを選択します。
6. **［保存］**をクリックして、変更を適用します。



出力フォルダーノード: すべてのワークフロー処理が正しく適用されると、出力フォルダーノードで設定されたフォルダーパスにジョブが送られます。

以下の出力されたメタデータは、このドキュメントの前のセクションで説明した設定に基づいています。

```
<meta group="job" name="copy">
    <document>5</document>
</meta>
<meta group="job" name="file.URL">
    <document>C:\Temp\Testfile.pdf</document>
</meta>
<meta group="job" name="file.type">
    <document>file</document>
</meta>
<meta group="job" name="paper.color">
    <document>Yellow</document>
</meta>
<meta group="job" name="paper.name">
```

```
    <page number="1">A4</page>
    <page number="2">A4</page>
    <page number="3">A4</page>
    <page number="4">A4</page>
    <page number="5">A4</page>
</meta>
<meta group="job" name="printtype">
    <document>Double-Sided</document>
</meta>
<meta group="job" name="ticket.file">
    <document>C:\ProgramData\Konica Minolta\conopsd\var\blox\node_4\tmp.d\170711124550.049_000001json_sample_job_ticket_file.json</documen
</meta>
```

制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. このノードに入力できるZIPファイルには、PDFファイルとJSONファイルのみを含める必要があります。入力として指定されているZIPファイルが、PDFおよびJSONファイルを含むフォルダーが圧縮されている形式の場合はサポートされていません。

ジョブチケット読込：XML

ジョブチケット
読込: XML

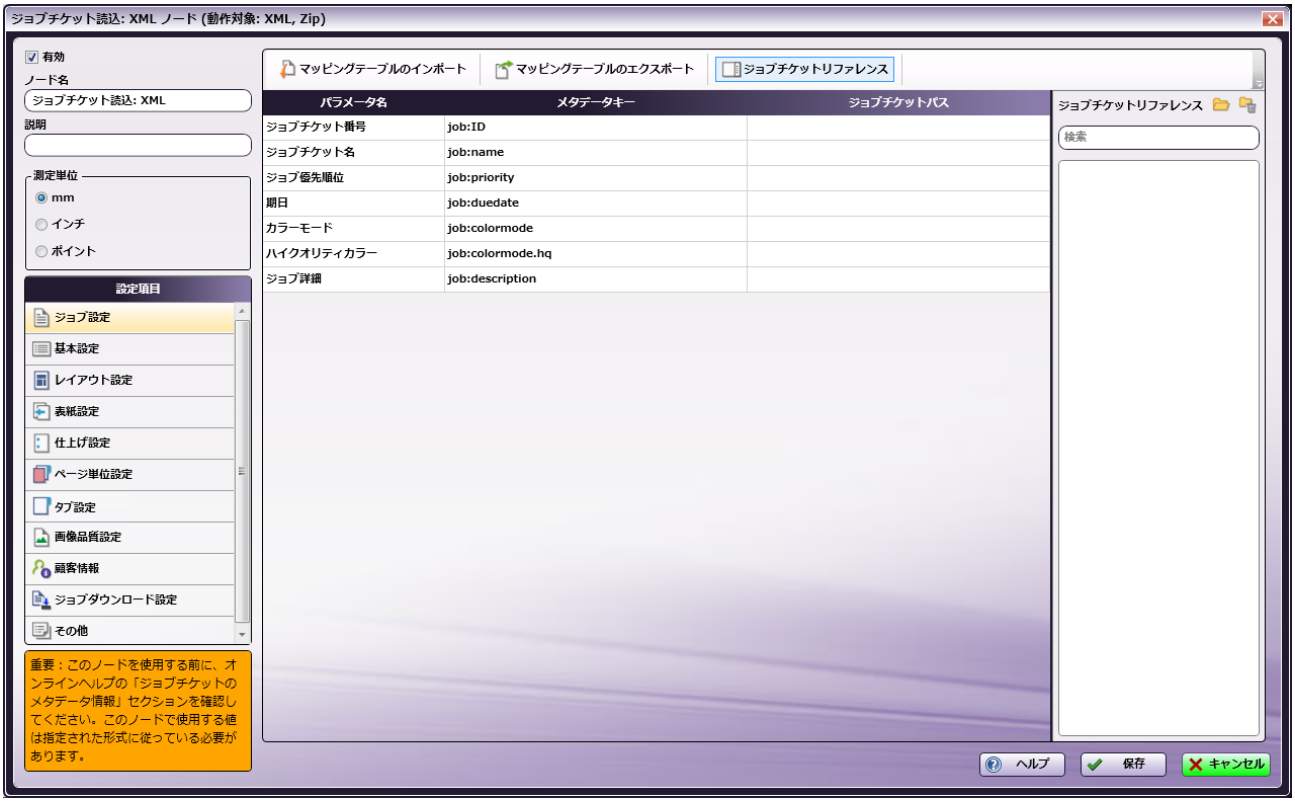
注意: このノードは、XMLファイルおよびZIP（XML + PDF）ファイルに対応しています。XMLファイルはUTF-8形式である必要があります。

ジョブチケット読込：XMLノードを使用して、XMLファイルに保存されている情報を解析し、解析済みの情報をメタデータとして書き込むことができます。XMLファイルには、ジョブチケットフィールドおよびジョブチケット値が含まれます。このノードでは、ジョブチケットフィールドとそれに対応するジョブチケットの値が読み取られてから、メタデータが更新されます。ジョブチケットデータをメタデータの値にマップするのに、マッピングテーブルが使用されます。

PDFファイルの場所は、XMLファイルのURLフィールドに記載されており、その情報を使用してPDFファイルがノードにダウンロードされます。入力ファイルがZIPファイル（XML + PDF）である場合、ファイルが解凍されてから、XMLファイルが処理されます。

ジョブチケット読込：XMLノードを使う

ジョブチケット読込：XMLノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、ジョブチケット読込：XMLノードをワークフローに追加します。アイコンをダブルクリックすると、ジョブチケット読込：XMLノードが開きます。



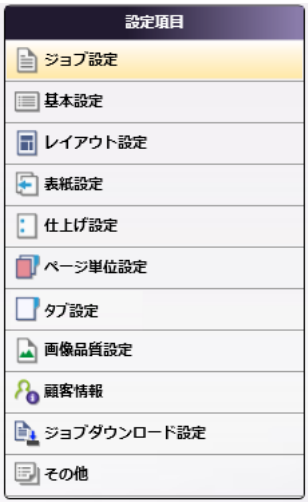
このウィンドウでは、UIの一部であるマッピングテーブルエディターを使用して、マッピングテーブルを作成またはインポートします。

- **［有効］**チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **［ノード名］**フィールドに、ジョブチケット読込：XMLノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］**フィールドに、ジョブチケット読込：XMLノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **［測定単位］**領域では、測定単位を選択します。**mm**、**インチ**、および**ポイント**の3種類の測定単位がサポートされています。

  注意：すべての英語ロケールのシステムでは、デフォルトでインチが選択されます。その他のロケールでは、デフォルトはmmです。ロケールに関係なく、いずれかのオプションを選択できます。
- **ジョブチケット読込：XML**の設定を保存するには、**［保存］**ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**［キャンセル］**ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］**ボタンを選択します。

設定項目 パネル

ジョブチケットパラメータは、パネルに表示された11個のグループに分類されています。設定値を表示するには、いずれかのメニューオプションをクリックします。



- **［ジョブ設定］：**［ジョブ設定］を選択して、**［ジョブチケット番号］**、**［ジョブチケット名］**、**［ジョブ優先順位］**、**［期日］**、**［カラーモード］**、**［ハイクオリティカラー］**、または **［ジョブ詳細］**のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［基本設定］**：**［基本設定］を選択して、［部数］**、**［部単位で印刷］**、**［オフセット］**、**［部数仕分け］**、**［枚数仕分け］**、**［用紙カタログID］**、**［用紙名］**、**［給紙トレイ］**、**［坪量］**、**［用紙種類］**、**［色紙］**、**［ユーザー定義色］**、**［穴あき紙の使用］**、**［用紙幅］**、**［用紙高さ］**、**［用紙サイズ］**、**［用紙サイズ単位］**、または **［方向］**のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［レイアウト設定］：**［レイアウト設定］を選択して、**［面付］**または **［印刷タイプ］**のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［表紙設定］：**［表紙設定］を選択して、**［オモテ表紙］**、**［オモテ表紙の用紙名］**、**［ウラ表紙］**、または **［ウラ表紙の用紙名］**のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［仕上げ設定］**：［仕上げ設定］を選択して、**［とじ位置］**、**［中とじ］**、**［トリム］**、**［ステープル］**、**［パンチ］**、**［折り］**、**［くるみ製本］**、**［くるみ製本モード］**、**［くるみ製本トレイ］**、**［くるみ製本両面］**、**［くるみ製本背表紙］**、**［くるみ製本表紙幅］**、**［くるみ製本表紙高さ］**、**［くるみ製本表紙サイズ］**、**［くるみ製本表紙坪量］**、**［リングバインド］**、**［リングバインドオモテ表紙］**、または **［リングバインドウラ表紙］**のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［ページ単位設定］**：［ページ単位設定］を選択して、**［印刷種類］**、**［とじ位置］**、**［用紙カタログID］**、**［用紙名］**、**［給紙トレイ］**、**［用紙種類］**、**［用紙幅］**、**［用紙高さ］**、**［用紙サイズ］**、**［坪量］**、**［色紙］**、**［ユーザー定義色］**、**［穴あき紙の使用］**、**［タブ種類］**、**［ページ単位設定数］**、**［ステープル］**、**［パンチ設定］**、**［パンチ］**、または **［ステープル仕上げ］**のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［タブ設定］**：**［用紙幅］**、**［用紙高さ］**、**［用紙サイズ］**、**［坪量］**、**［タブ文字］**、**［ページ番号］**、**［ファイル順序］**、または **［タブ数］**を選択します。
- **［画像品質設定］**：［画像品質設定］を選択して **［解像度］**のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［顧客情報］**：［顧客情報］を選択して、**［コメントURL］**、**［お客様の名前］**、**［お客様の姓］**、**［お客様の住所］**、**［お客様の丁目・番地］**、**［お客様の市区町村］**、**［お客様の都道府県］**、**［お客様の郵便番号］**、**［お客様の国］**、**［お客様の会社］**、**［お客様の電話番号］**、**［お客様のファクス番号］**、**［お客様の電子メール］**、または **［ジョブ作成者］**のジョブチケットパラメータを編集します。
- **［ジョブダウンロード設定］：**［ジョブダウンロード設定］を選択して、印刷ファイルの取得にどの印刷ファイルオプションを使用するかを指定します。指定できるオプションには **［ローカルパスから取得］**、**［URLからダウンロード］**または **［ジョブチケットからbase64データを取得］**、**［ネットワーク共有からの取得］**があります。
- **［その他］：**どの設定項目にもないカスタムジョブチケットパラメータを扱う場合は、**［その他］**ページを使用して新しいフィールドを追加します。

ツールバー

ツールバーは、**［ページ単位設定］**と **［その他］**の設定項目オプションが選択されている場合にのみ表示されます。以下に示す例では、**［その他］**の設定項目オプションが選択されています。ページ単位設定のツールバーは、この例とは異なります。以下に、利用可能なツールバーのオプションをすべて示します。

- **[新規追加]**:変換ルールを定義する新しいエントリーパラメータを追加するには、このオプションを使用します。このオプションは**[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[削除]**:パラメータのエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは[その他]設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を追加]**:別の組み合わせの **ページ単位設定** を追加するには、このオプションを使用します。このオプションは**[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を削除]**:**ページ単位設定**のエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは**[ページ単位設定**]設定項目でのみ使用できます。
- **[マッピングテーブルのインポート]**:クリックするとファイルのダイアログが開き、インポートするマッピングテーブルのxmlファイルを選択できます。
- **[マッピングテーブルのエクスポート]**:外部にあるマッピングテーブルのxmlファイルに適用した構成変更を保存するには、この機能を使用します。
- **[ジョブチケットリファレンス]**:**[ジョブチケットリファレンス]パネル**の表示と非表示を切り替えるには、このオプションを使用します。

マッピングテーブルパネル

このパネルでは、ジョブチケットパラメータと**Dispatcherメタデータ**間のマッピング値を定義します。設定項目の各オプションをクリックすると、メインパネルに**[パラメータ名]**／**[メタデータキー]** の値が表示されます。

パラメータ名	メタデータキー	ジョブチケットパス
ジョブチケット番号	job:ID	
ジョブチケット名	job:name	
ジョブ優先順位	job:priority	
期日	job:duedate	
カラーモード	job:colormode	
ハイクオリティカラー	job:colormode.hq	
ジョブ詳細	job:description	

- **[パラメータ名]**:この列は、ジョブチケットパラメータのわかりやすい名前を示します。
- **[メタデータキー]**:この列は、パラメータ名ごとの**Dispatcherメタデータキー**を示します。
- **[ジョブチケットパス]**:既定では、この列は空です。この列には、各ジョブチケットパラメータに対応するXMLファイルのパスを入力します。

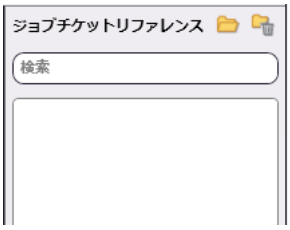
値マップパネル

メタデータ値と**ジョブチケット**値間の変換ルールを定義するには、このパネルを使用します。テーブルに値を入力します。**メタデータキー**と**ジョブチケットパス**が列見出しに表示され、必要に応じてエントリーの追加や削除ができます。

- **[メタデータキーの追加]**:新しい**メタデータキー**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットパスの追加]**:新しい**ジョブチケットパス**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[行の追加]**:新しい値マップ行を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットの値を使用]**:このチェックボックスをオンにすると、ジョブチケットの値がそれに対応する**メタデータキー**と共に保持され、変換が適用されずに保存されます。

  注意: チェックボックスは、1対1マッピングの場合にのみ使用できます。他のすべての条件では、このオプションはグレー表示され、有効にすることはできません。

ジョブチケットリファレンス パネル



［開く］ボタン( )をクリックすると、サンプルのジョブチケットファイルを開くことができます。ジョブチケットを選択すると、そのチケットで使用できるXMLファイルのパスがすべてテーブルにリストで表示されます。このリストから項目を**マッピングテーブルパネル**へドラッグし、目的の**［ジョブチケットパス］**列にドロップします。

このリストの内容を消去するには**［クリア］**ボタン( )をクリックします。

マッピングテーブルの基本的な操作

ジョブチケットパラメータは、保管したりジョブチケットに対して特定の処理を行ったりする場合に、異なる形式に変換する必要のあることがしばしばあります。変換することで、そのような処理でのジョブチケットの読込が可能になります。このノードを使用すると、XML形式に変換できます。

ジョブチケットファイル

このノードの使用を開始する前に、XMLジョブチケットファイルを生成する必要があります。

注意: アドインマネージャを使用してDispatcher Phoenixにジョブチケット読込：XMLノードを追加すると、サンプルのジョブチケットファイルを表示できます。これらのファイルは、以下のパスにあります。

\Program Files\Common Files\Konica Minolta\Phoenix\Resources\JobTicketParserXMLNode

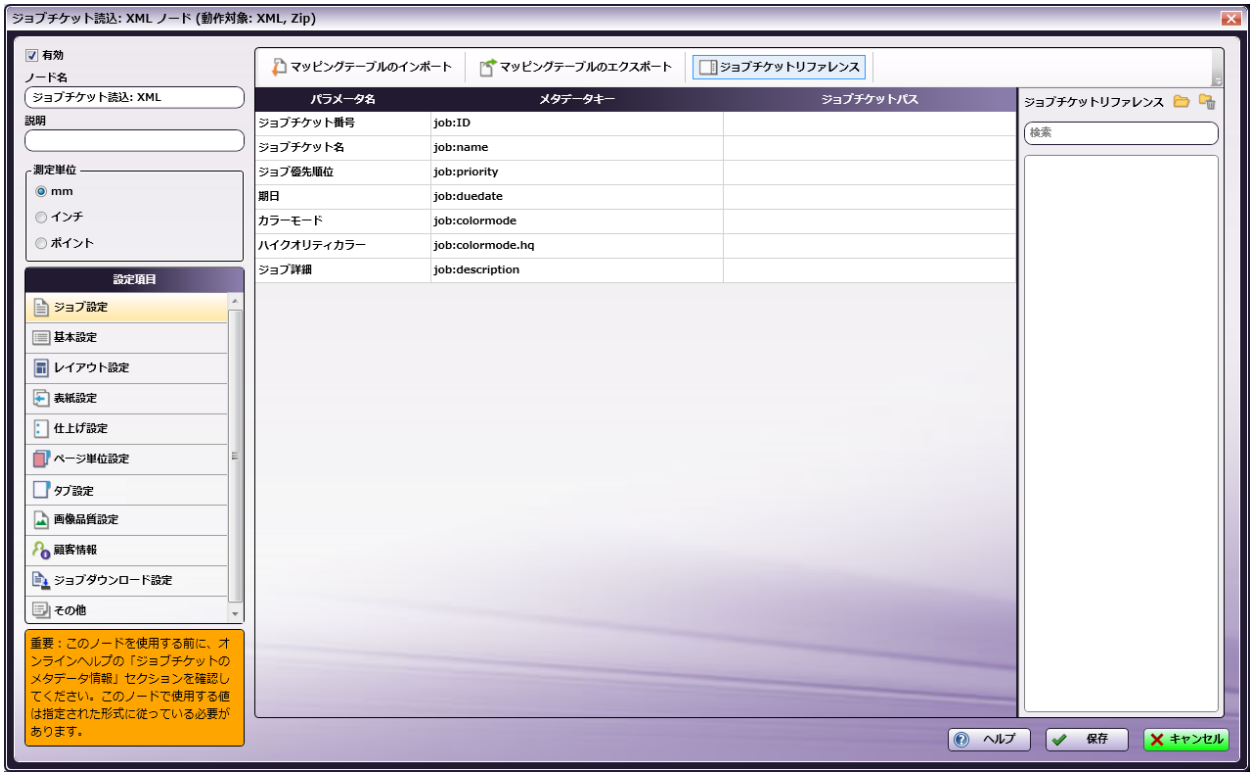
上記のサンプルのジョブチケットには、そのチケットで使用できるすべてのジョブチケットパラメータが含まれています。ファイルをサポートするために必要なパラメータを含むように、サンプルのジョブチケットを変更できます。外部のサードパーティー製のアプリケーションを使用して、ジョブチケットファイルを生成することもできます。この場合、これをサンプルファイルとして使用できます。

ジョブチケット読込：XMLノードでは、ドキュメントレベル値とページ単位設定値を使用してジョブチケットパラメータを定義します。以下の説明では、サンプルのジョブチケットがシンプルなドキュメントとページ単位レベルの設定で変更されています。このサンプルのジョブチケットは、以降の説明に使用されます。

```
<Ticket>
  <Name>Sample XML Job</Name>
  <Quantity>5</Quantity>
  <Duplex>On</Duplex>
  <Media>
    <Color>Yellow</Color>
  </Media>
  <Src>C:\Temp\Testfile.pdf</Src>
  <File>file</File>
  <PageException>
    <PerPageSetting>
      <PageRange>1-5</PageRange>
      <Media>
        <PaperName>A4</PaperName>
      </Media>
    </PerPageSetting>
  </PageException>
</Ticket>
```

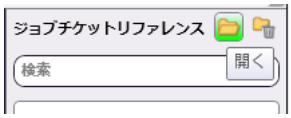
ジョブチケットファイルを使用したマッピングテーブルの構成

1. テキストエディタを使用して、上記のサンプルXMLファイルをコピーします。
2. サンプルのジョブチケットに記載されている **ソースパス(<Src>)** は(上記の例で説明したように)、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. ファイルをxml_sample_jobticket_file.xmlとしてローカルに保存します。
4. **ジョブチケット読込：XML**ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。

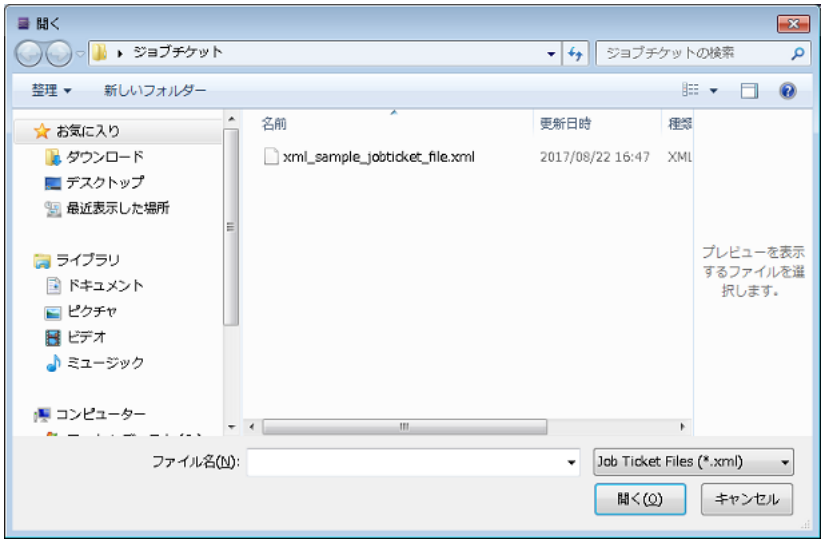


5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
   - **[有効]** チェックボックス：オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
   - **[ノード名]**：ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
   - **[測定単位]**：ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。

     注意： 入力ジョブチケットにメタデータ値{job:paper.unit}が含まれている場合、**[測定単位]** フィールドで選択されている値はこのメタデータ値によって上書きされます。
6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネル（右端）で、**[開く]** アイコンを見つけます。



7. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル（xml_sample_jobticket_file.xml）に移動して選択します。



8. ファイルが開くと、その内容（つまりXPath）が次の画像のように、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルに表示されます。

注意: ロードされたジョブチケットは、[ジョブチケットリファレンス]パネルから正しい値をドラッグアンドドロップしてマッピングする必要があります。値が[ジョブチケットリファレンス]パネルに表示されない場合は、このヘルプファイルの指示に記載されている値を手動で入力してください。

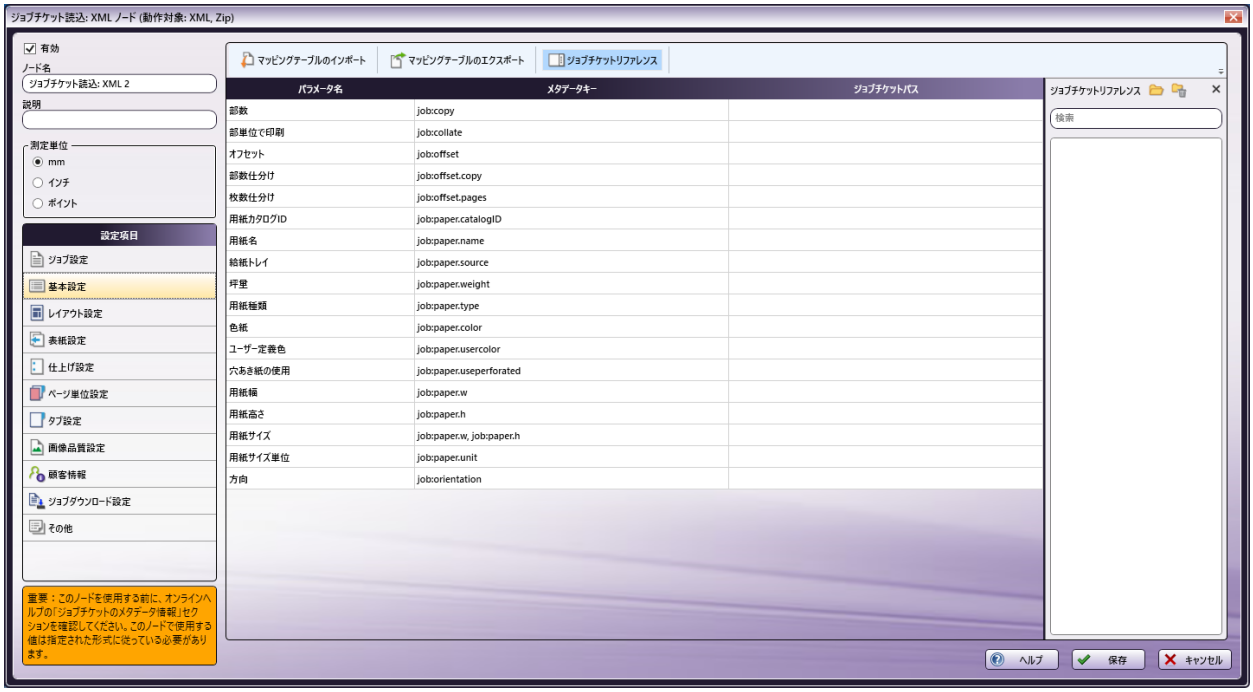
XPathのマッピング

XPath値が使用可能になったら、メインパネルの **[パラメータ名]／[メタデータキー]** の値にマッピングする必要があります。そのためには、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値をクリックし、その値をメインパネルの対応する **[ジョブチケットパス]** セルにドラッグします。

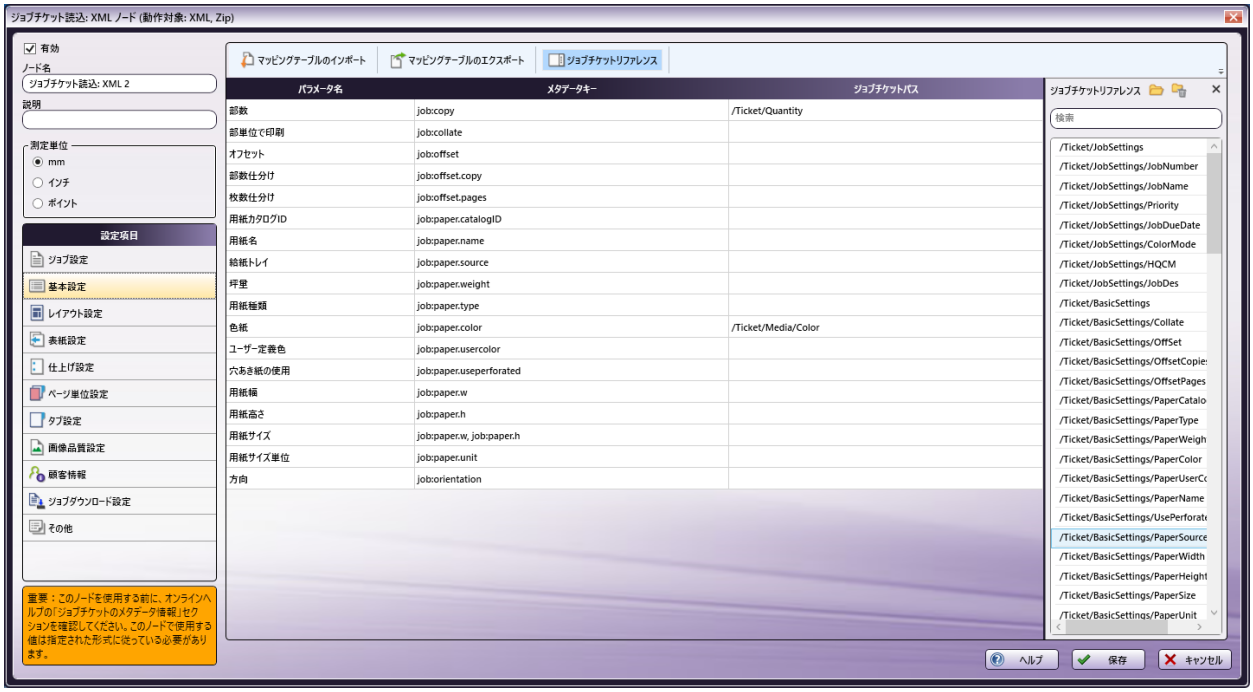
ノードの左側の **[設定項目]** パネルを使用して、いくつかのオプションを指定できます。オプションをクリックすると、メインパネルに含まれている **[パラメータ名]／[メタデータキー]** の値が開きます。

基本的な[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

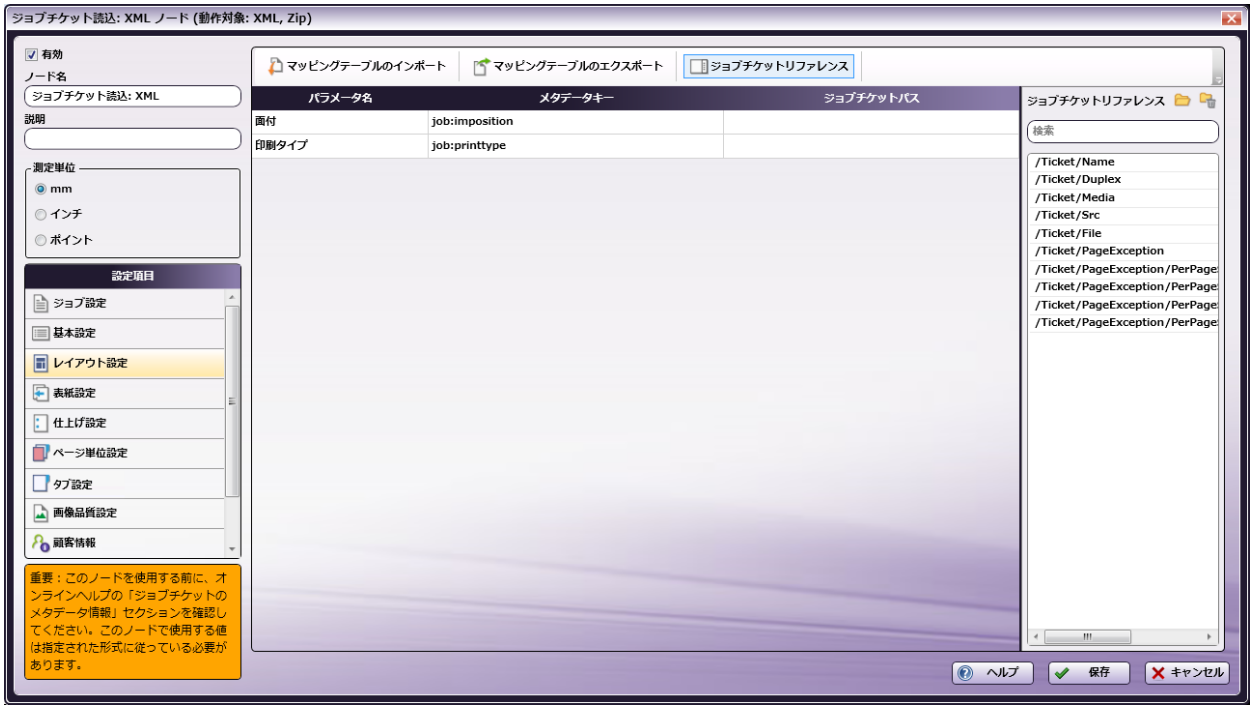
1. **[設定項目]** パネルで、**[基本設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



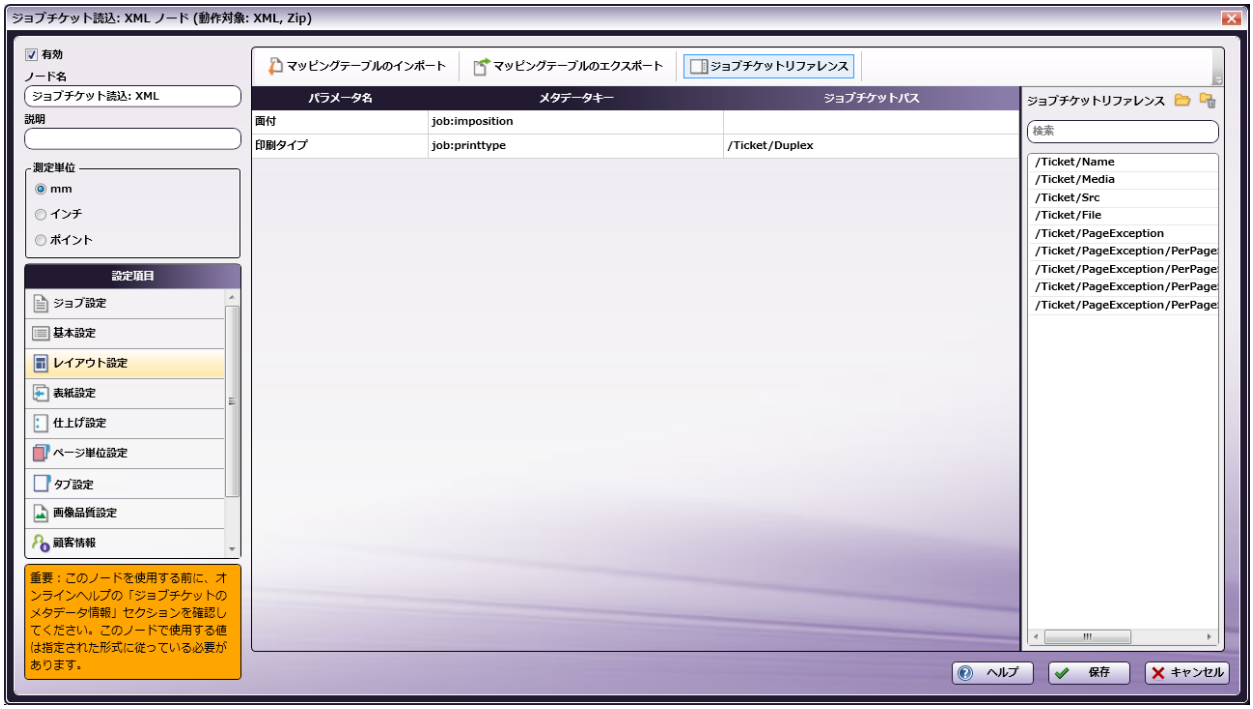
2. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
3. **[コピー]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Quantity** をドラッグアンドドロップします。**[色紙]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Media/Color** をドラッグアンドドロップします。
4. ドラッグアンドドロップした値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。



5. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]** および **[ジョブチケットパス]** 列が、メインパネルに表示されます。



6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
7. **[印刷タイプ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Duplex** をドラッグアンドドロップします。

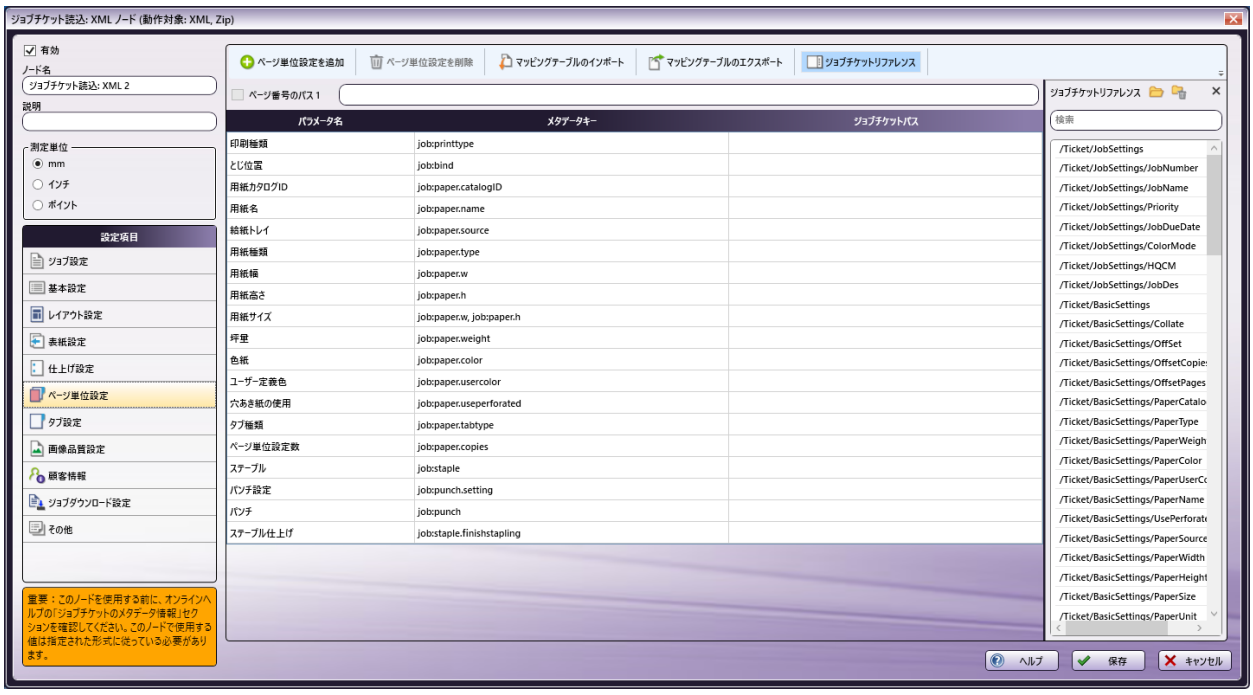


8. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
9. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ページ単位設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

[ページ単位設定]設定項目 は、ページ単位設定を構成するために使用されます。これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。このページ単位設定は、ページレベルのメタデータを生成します。

1. **[設定項目]パネルで、[ページ単位設定]** オプションをクリックします。**[ページ番号のパス1]**、**[パラメータ名]／[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** フィールドが、メインパネルに表示されます。

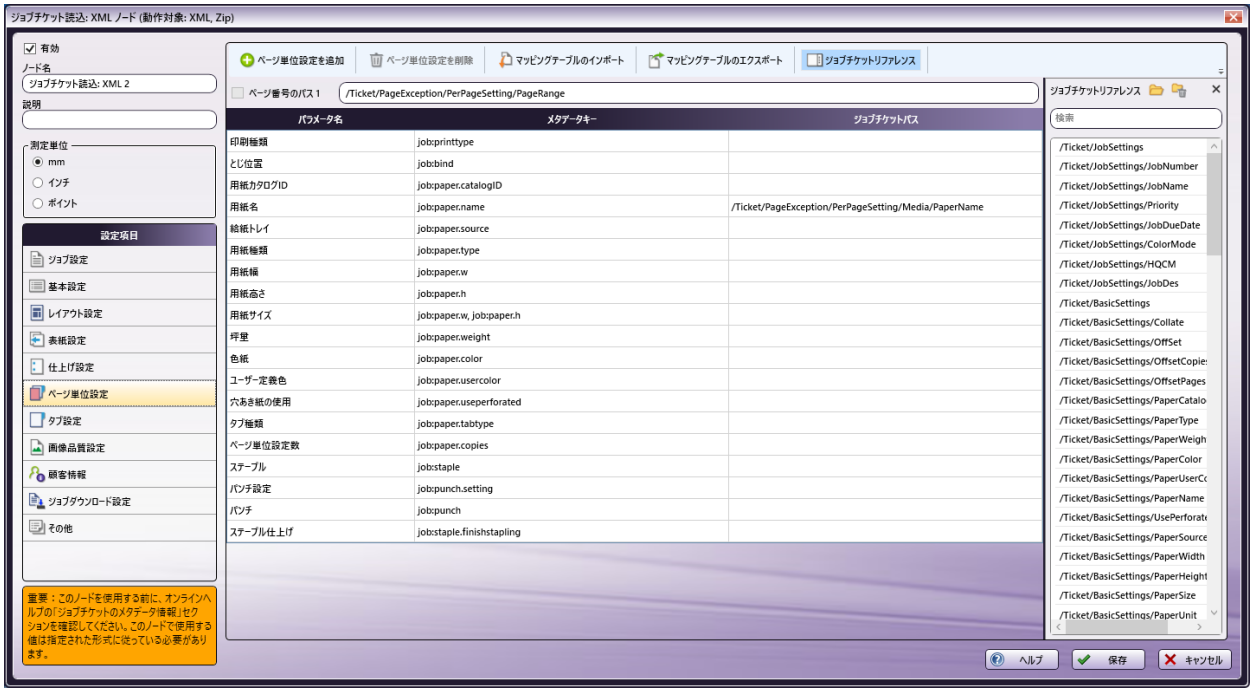


2. **[ジョブチケットリファレンス]パネルから、[ページ番号のパス1]** テキストボックスに **/Ticket/PageException/PerPageSetting/PageRange** をドラッグアンドドロップします。

   注意: **[ページ番号のパスn]** の内容は”/Ticket/ “で始まる文字列である必要があります。

3. **[ジョブチケットリファレンス]パネルから、[ページ単位設定　用紙名]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/PageException/PerPageSetting/Media/PaperName** をドラッグアンドドロップします。

4. 完了した画面は次のように表示されます。



5. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。

6. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

ジョブダウンロード設定 の[パラメータ名]/[メタデータキー]の値のマッピング

[ジョブダウンロード設定]設定項目 は、ジョブのPDFファイルの受信元となる入力ソースを有効にするために使用されます。**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、および **[ジョブチケットからbase64データを取得]**（PDFデータはbase64形式で埋め込まれています）、**[ネットワーク共有から取得]** の4つの値がサポートされています。

これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。

サンプルXMLジョブチケットファイル：

以下の例は、各ジョブダウンロードオプションで、コードによりPDFファイルがどのように表示されるかを示しています。

ローカルパスから取得

- <Src>C:\Temp\Testfile.pdf</Src>
- <File>file</File>
  注意： ファイルタイプキーワード **file**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

URLからダウンロード

- <Src>http://10.146.171.98/testapp8/Testfile.pdf</Src>
- <File>http</File>
  注意： ファイルタイプキーワード **http**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

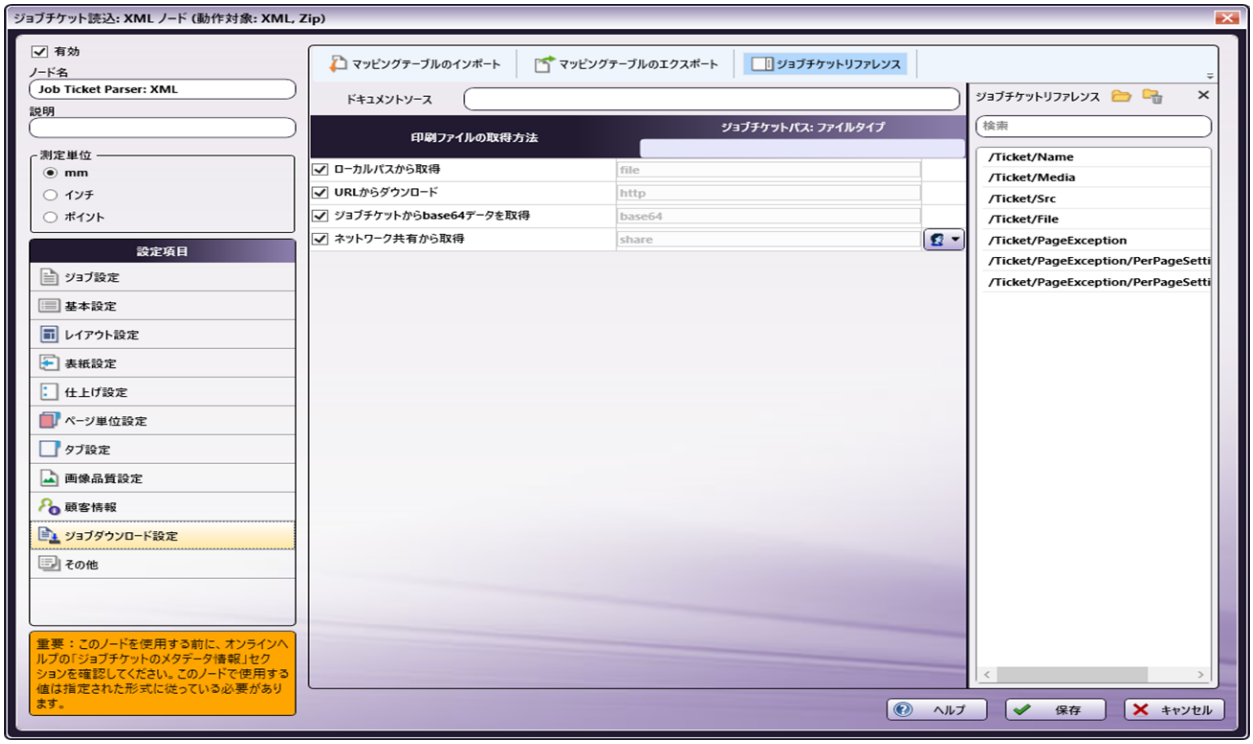
ジョブチケットからbase64データを取得

- <Src>xxddgdfexdgfgngn…</Src>
- <File>base64</File>
  注意： ファイルタイプキーワード **base64**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

ネットワーク共有から取得

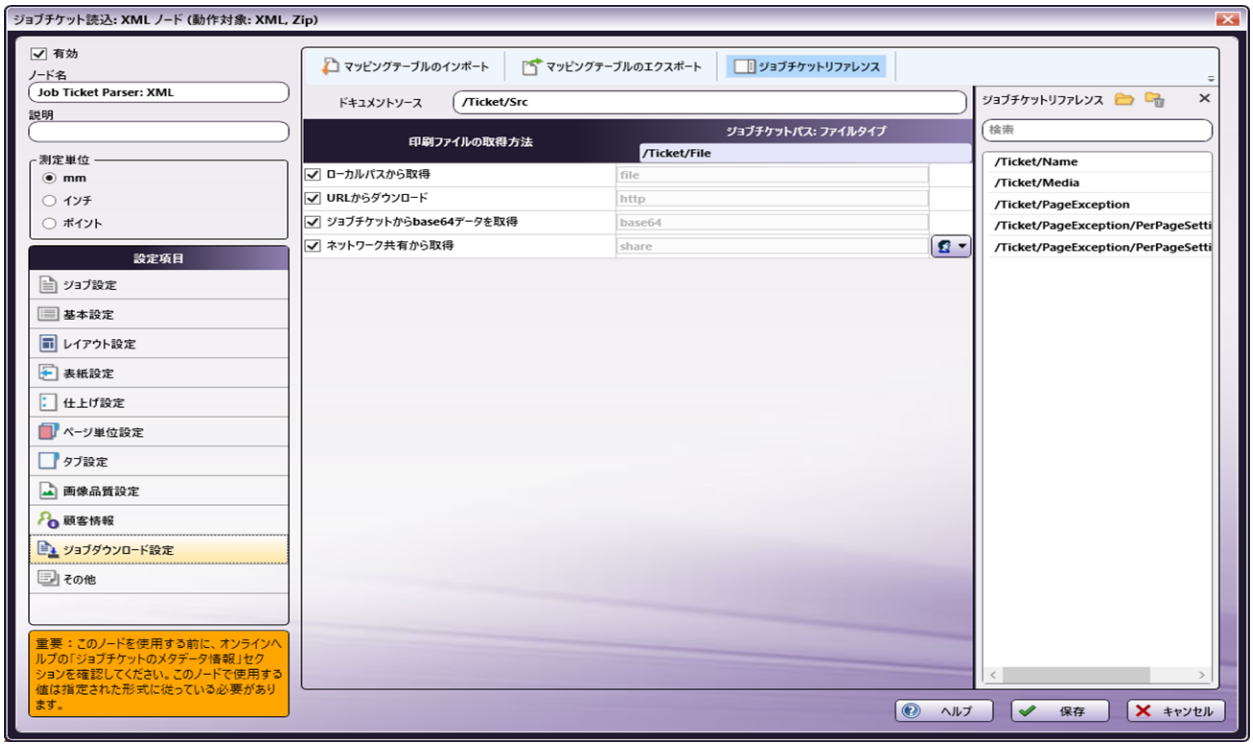
- <Src>\\11.12.13.14\Temp\Testfile.pdf</Src>
- <File>share</File>
  注意：ファイルタイプキーワード **share**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]**、**[印刷ファイルの取得方法]**、および **[ジョブチケットパス：ファイルタイプ]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



2. **[[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、および **[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有からの取得]** の4つのオプションのチェックボックスをすべて選択します。
3. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/Ticket/Src** をドラッグアンドドロップします。
4. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドに **/Ticket/File** をドラッグアンドドロップします。
5. 完了した画面は次のように表示されます。

   注意:[ネットワーク共有からの取得] を選択する場合は、ネットワーク共有先でのネットワーク資格情報の登録をする必要があります。ネットワーク資格情報ボタンを選択してネットワ ーク資格情報ウィンドウにアクセスします。このウィンドウでは、ユーザー名を選択し、適切なパスワードを入力します。

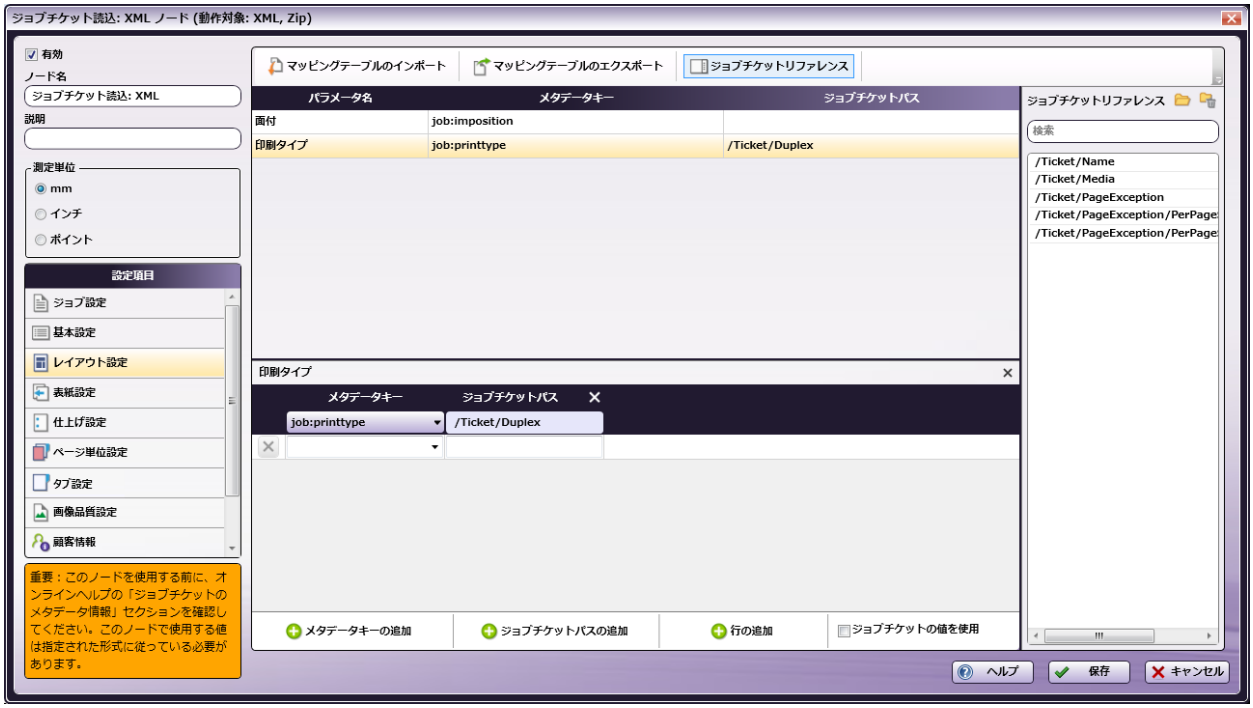


6. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
7. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

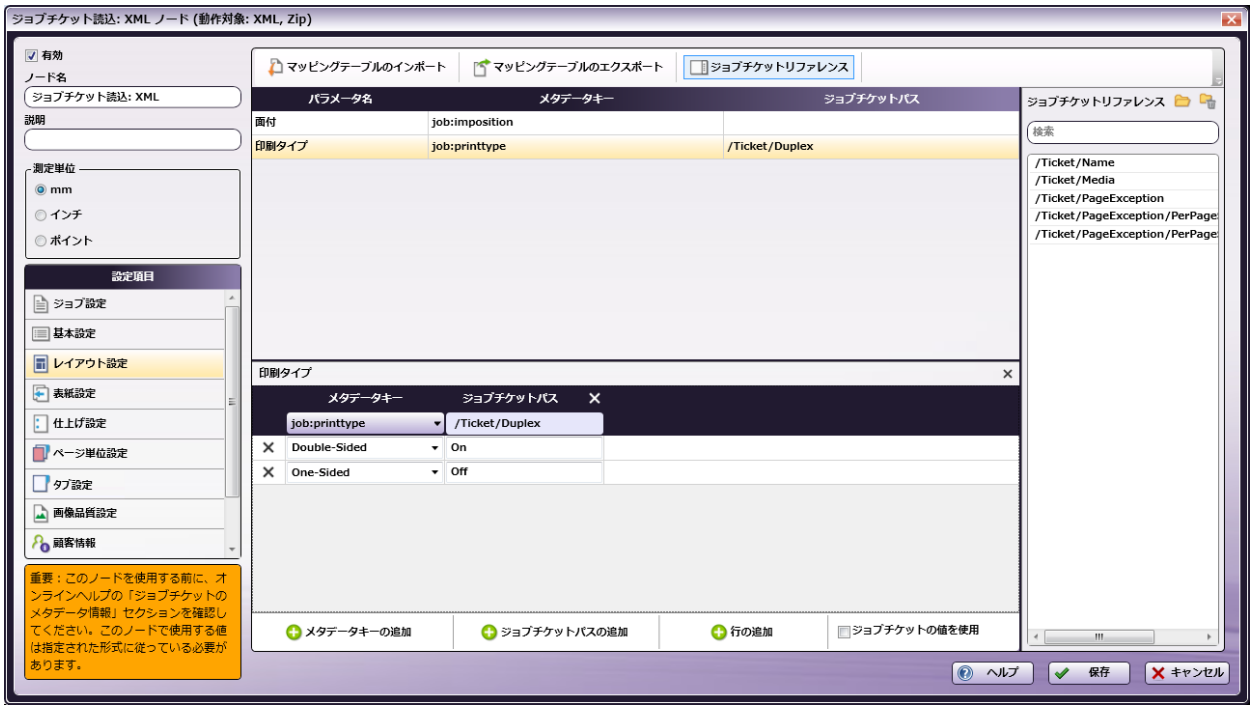
値マップの構成

この機能を使用して、ジョブチケットのパスに対して1つ以上の値を構成できます。以下の例では、**[印刷タイプ]** のXPath値がマッピングされています。これが完了すると、設定が編集され、**Duplex**に対して設定の値マップが指定されます。

1. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。
2. **[印刷タイプ]** 行をクリックして、**値マップ**パネルを開きます。



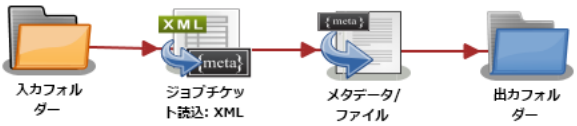
3. デフォルトでは、1つの値マップ行が表示されます。2つの値をマッピングする必要があるため、**[行の追加]** をクリックして、2つ目の値マップ行を追加します。



4. 1つ目の行で、[メタデータキー]ドロップダウンメニューから **[Double-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「**On**」と入力します。
5. **Duplex**の値が**On**に設定され**Double-Sided**印刷が選択されているノードにジョブが送信されると、メタデータに**Double-Sided**印刷が出力されます。
6. 2つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[One-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「**Off**」と入力します。
7. **Duplex**の値が**Off**に設定され**One-Sided**印刷が選択されているノードにジョブが送信されると、メタデータに**One-Sided**印刷が出力されます。

8. 終了したら、**[保存]** をクリックします。変更を元に戻すには、**[キャンセル]** をクリックします。

ジョブチケット読込：XMLノードワークフローのサンプル



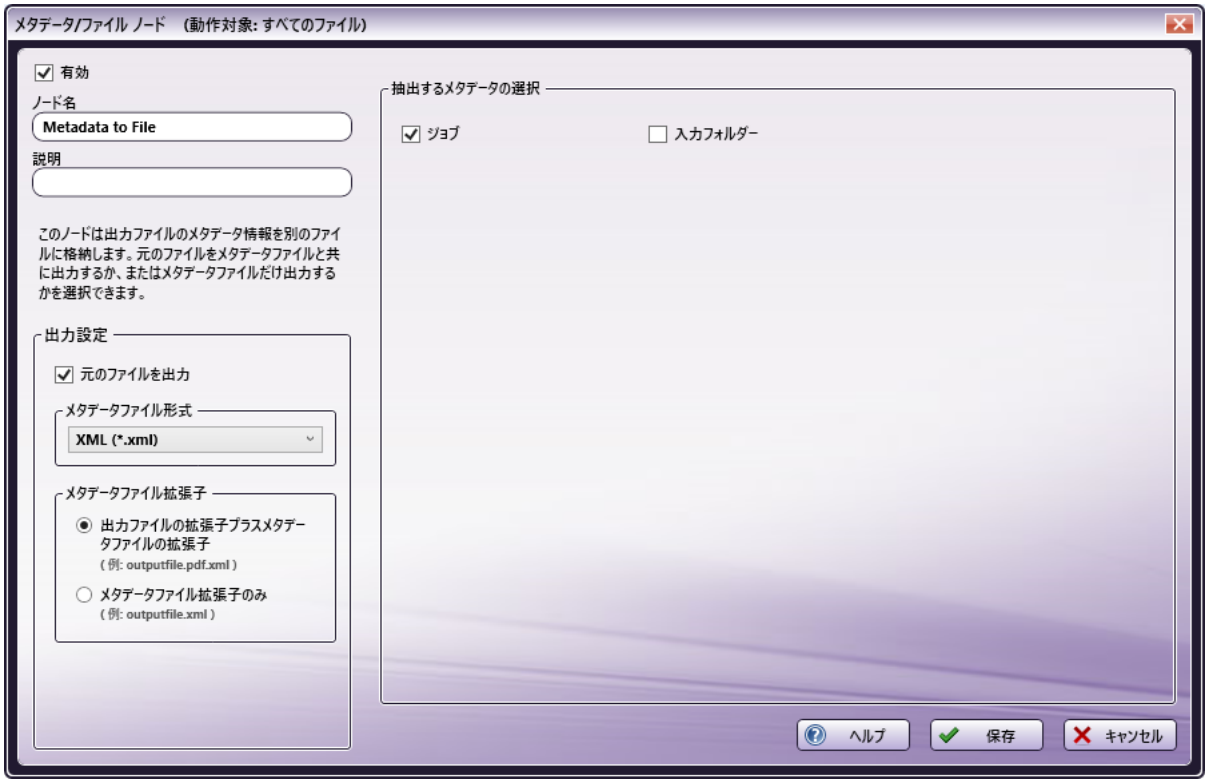
上記のワークフローでは、ジョブチケットファイル（xml_sample_jobticket_file.xmlなど）が**入力フォルダー**に移動されます。これは、**ジョブチケット読込：XML**ノードに送信され、ジョブチケットXMLがジョブチケットメタデータに変換されます（前のセクションで説明）。これが完了すると、データは**メタデータ/ファイル**ノードに転送され、XMLドキュメントに変換されます。そこから、XMLドキュメントが**出力フォルダー**に転送されます。

入力フォルダーノード： ファイルを集めて、ジョブチケット読込：XMLノードへ送るように入力フォルダーを構成します。

ジョブチケット読込：XMLノード： このノードの目的と設定手順については、このセクションに先行する箇所で説明されています。

メタデータ/ファイルノード： このノードは、構成されたメタデータを抽出し、このファイルをワークフローの次のノードに送ります。以下の手順に従って、メタデータ/ファイルノードを構成します。

1. メタデータ/ファイルノードアイコンをダブルクリックして開きます。
2. **[有効]** チェックボックスがオンになっていることを確認します。
3. **[出力設定]** の **[元のファイルを出力]** を選択し、**[メタデータファイル形式]** ドロップダウンから **[XML (*.xml)]** を選択します。
4. [メタデータファイル拡張子]の **[出力ファイルの拡張子プラスメタデータファイルの拡張子]** ラジオボタンを選択します。
5. メインパネルの **[抽出するメタデータの選択]** ヘッダーの下にある **[ジョブ]** チェックボックスを選択します。
6. **[保存]** をクリックして、変更を適用します。



出力フォルダーノード： すべてのワークフロー処理が正しく適用されると、出力フォルダーノードで設定されたフォルダーパスにジョブが送られます。

以下の出力されたメタデータは、このドキュメントの前のセクションで説明した設定に基づいています。

```
<meta group="job" name="copy">
   <document>5</document>
</meta>
<meta group="job" name="file.URL">
   <document>C:\Temp\Testfile.pdf</document>
</meta>
```

```
<meta group="job" name="file.type">
   <document>file</document>
</meta>
<meta group="job" name="paper.color">
   <document>Yellow</document>
</meta>
<meta group="job" name="paper.name">
   <page number="1">A4</page>
   <page number="2">A4</page>
   <page number="3">A4</page>
   <page number="4">A4</page>
   <page number="5">A4</page>
</meta>
<meta group="job" name="printtype">
   <document>Double-Sided</document>
</meta>
<meta group="job" name="ticket.file">
   <document>C:\ProgramData\Konica  Minolta\conopsd\var\blox\node_4\tmp.d\170707162410.016_000001xml_sample_jobticket_file.xml</document>
</meta>
```

制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. このノードに入力できるZIPファイルには、PDFファイルとXMLファイルのみを含める必要があります。入力として指定されているZIPファイルが、PDFおよびXMLファイルを含むフォルダーが圧縮されている形式の場合はサポートされていません。

ジョブチケット書出し:JDFノード

ジョブチケット
書出し: JDF

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

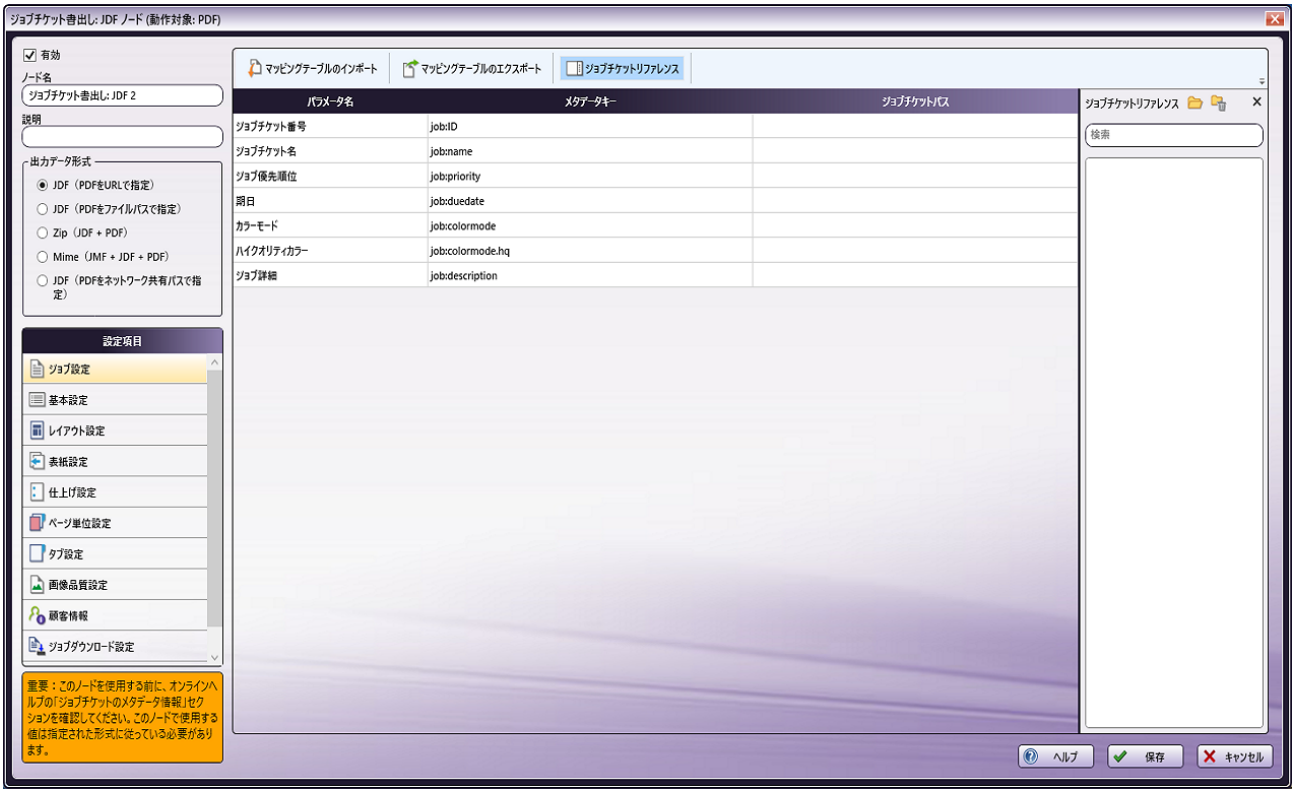
ジョブチケット書出し:JDFノードを使用して、マッピングテーブルファイル上で対応するDispatcherのメタデータ値でJDFファイルを作成または更新できます。そのメタデータにJDFファイルパスが存在しない場合は、このノードでJDFファイル（IDP）が読み込まれ、メタデータ値で更新されます。ファイルパスが存在する場合は、既存のJDFファイルがメタデータで更新されます。

更新対象のジョブチケットがResourcePool項目またはResourceLinkPool項目である場合、対応するResourceLinkPool項目またはResourcePool項目が存在しなければ、このノードでその項目が作成され、一意のリファレンスIDにリンクされます。JDF/@Typeの値が"Combined"（IDP）の場合、このノードでは、JDF/@Typesに存在する適切な処理タイプに基づいて、ResourceLinkPool要素のCombinedProcessIndex属性が更新されます。適切な処理がJDF/@Typesに存在しない場合、このノードでは、適切な処理がJDF/@Typesに付加され、対応するCombinedProcessIndexが更新されます。

デフォルトの"Usage"属性値は、どのResourceLinkPool項目に対して更新されても、マッピングテーブルで明示的に指定されているか、その要素が入力JDFファイルに存在していないかぎり、“Input"です。

ジョブチケット書出し:JDFノードを使う

ジョブチケット書出し:JDF ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ジョブチケット書出し:JDF**ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**［ジョブチケット書出し:JDF］** ウィンドウが開きます。



このウィンドウでは、UIの一部であるマッピングテーブルエディターを使用して、マッピングテーブルを作成またはインポートします。

- **［有効］** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **［ノード名］** フィールドに、ジョブチケット書出し:JDFノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］** フィールドに、ジョブチケット書出し:JDFノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **ジョブチケット書出し:JDF** の設定を保存するには、**［保存］** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**［キャンセル］** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］** ボタンを選択します。

［出力データ形式］

［出力データ形式］ 領域で、次のいずれかのノード出力形式を選択します。

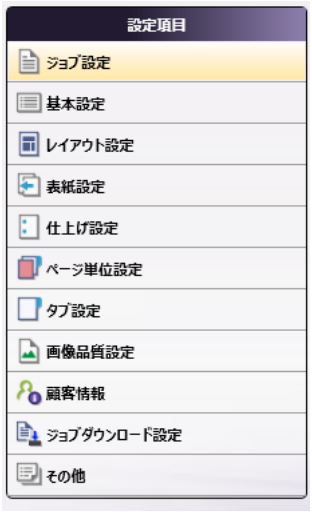
次のオプションがサポートされています。

- **［JDF（PDFをURLで指定）］:** 生成されるジョブチケットのJDFファイルに、ローカルPDFのURLが含まれます。
- **［JDF（PDFをファイルパスで指定）］:** 生成されるジョブチケットのJDFファイルに、ローカルPDFのパスが含まれます。
- **［Zip（JDF + PDF）］:** 出力はJDFファイルおよびPDFファイルです。
- **Mime（JMF + JDF + PDF）:** 出力はMJMファイルです。

  注意:MJMファイルには、ジョブチケット情報とPDFファイルの内容が収録され、抽出されたジョブチケットおよびPDFファイルが処理されます。MJMファイルのジョブチケット情報には、JMF形式、JDF形式、およびPDF形式の内容がbase64形式で収められます。
- **［JDF（PDFをネットワーク共有パスで指定）］:** 生成されるジョブチケットのJDFファイルに、ネットワーク共有PDFのパスが含まれます。

［設定項目］パネル

ジョブチケットパラメータは、パネルに表示された11個のグループに分類されています。設定値を表示するには、いずれかのメニューオプションをクリックします。



- **[ジョブ設定]:** [ジョブ設定]を選択して、**[ジョブチケット番号]**、**[ジョブチケット名]**、**[ジョブ優先順位]**、**[期日]**、**[カラーモード]**、**[ハイクオリティカラー]**、または **[ジョブ詳細]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[基本設定]**:**[基本設定]** を選択して、**[部数]**、**[部単位で印刷]**、**[オフセット]**、**[部数仕分け]**、**[枚数仕分け]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[坪量]**、**[用紙種類]**、**[色紙]**、**[ユーザー定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[用紙サイズ]**、**[用紙サイズ単位]**、または **[方向]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[レイアウト設定]:** [レイアウト設定]を選択して、**[面付]** または **[印刷タイプ]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[表紙設定]:** [表紙設定]を選択して、**[オモテ表紙]**、**[オモテ表紙の用紙名]**、**[ウラ表紙]**、または **[ウラ表紙の用紙名]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[仕上げ設定]**:[仕上げ設定]を選択して、**[とじ位置]**、**[中とじ]**、**[トリム]**、**[ステープル]**、**[パンチ]**、**[折り]**、**[くるみ製本]**、**[くるみ製本モード]**、**[くるみ製本トレイ]**、**[くるみ製本両面]**、**[くるみ製本背表紙]**、**[くるみ製本表紙サイズ]**、**[くるみ製本表紙坪量]**、**[リングバインド]**、**[リングバインドオモテ表紙]**、または **[リングバインドウラ表紙]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ページ単位設定]**:[ページ単位設定]を選択して、**[印刷種類]**、**[とじ位置]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[用紙種類]**、**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[色紙]**、**[ユーザ定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[タブ種類]**、**[ページ単位設定数]**、**[ステープル]**、**[パンチ設定]**、**[パンチ]**、または **[ステープル仕上げ**]のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[タブ設定]**:**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[タブ文字]**、**[ページ番号]**、**[ファイル順序]**、または **[タブ数]** を選択します。
- **[画像品質設定]:** [画像品質設定]を選択して **[解像度]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[顧客情報]:** [顧客情報]を選択して、**[コメントURL]**、**[お客様の名前]**、**[お客様の姓]**、**[お客様の住所]**、**[お客様の丁目･番地]**、**[お客様の市区町村]**、**[お客様の都道府県]**、**[お客様の郵便番号]**、**[お客様の国]**、**[お客様の会社]**、**[お客様の電話番号]**、**[お客様のファクス番号]**、**[お客様の電子メール]**、または **[ジョブ作成者]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ジョブダウンロード設定]:** このオプションを選択して、印刷ファイルの取得にどの印刷ファイルオプションを使用するかを指定します。指定できるオプションには **[ローカルパスから取得]** **[URLからダウンロード]** または **[ネットワーク共有から取得]** があります。
- **[その他]:** どの設定項目にもないカスタムジョブチケットパラメータを扱う場合は、**[その他]** ページを使用して新しいフィールドを追加します。

ツールバー

ツールバーは、[ページ単位設定]と[その他]の設定項目オプションが選択されている場合にのみ表示されます。以下に示す例では、[その他]の設定項目オプションが選択されています。ページ単位設定のツールバーは、この例とは異なります。以下に、利用可能なツールバーのオプションをすべて示します。

- **[新規追加]:** 変換ルールを定義する新しいエントリーパラメータを追加するには、このオプションを使用します。このオプションは **[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[削除]:** パラメータのエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは[**その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を追加]:** 別の組み合わせの**ページ単位設定**を追加するには、このオプションを使用します。このオプションは **[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を削除]:ページ単位設定** のエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは **[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[マッピングテーブルのインポート]:** クリックするとファイルのダイアログが開き、インポートするマッピングテーブルのxmlファイルを選択できます。
- **[マッピングテーブルのエクスポート]:** この機能を使用して、外部にあるマッピングテーブルのxmlファイルに適用した構成変更を保存できます。
- **[ジョブチケットリファレンス]:[ジョブチケットリファレンス]パネル** の表示と非表示を切り替えるには、このオプションを使用します。

マッピングテーブルパネル

このパネルでは、ジョブチケットパラメータと**Dispatcherメタデータ間**のマッピング値を定義します。設定項目の各オプションをクリックすると、メインパネルに **[パラメータ名]** ／**[メタデータキー]** の値が表示されます。

パラメータ名	メタデータキー	ジョブチケットパス
ジョブチケット番号	job:ID	
ジョブチケット名	job:name	
ジョブ優先順位	job:priority	
期日	job:duedate	
カラーモード	job:colormode	
ハイクオリティカラー	job:colormode.hq	
ジョブ詳細	job:description	

- **[パラメータ名]:** この列は、ジョブチケットパラメータのわかりやすい名前を示します。
- **[メタデータキー]:** この列は、パラメータ名ごとの**Dispatcherメタデータキー**を示します。
- **[ジョブチケットパス]:** 既定では、この列は空です。この列には、各ジョブチケットパラメータに対応するJDFファイルのパスを入力します。

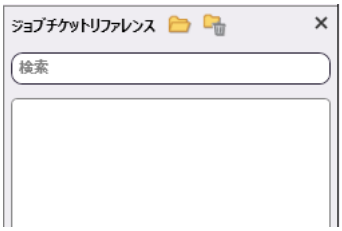
値マップパネル

メタデータ値とジョブチケット値間の変換ルールを定義するには、このパネルを使用します。テーブルに値を入力します。**メタデータキーとジョブチケットパス**が列見出として表示され、必要に応じてエントリーの追加や削除ができます。

- **[メタデータキーの追加]:** 新しい**メタデータキー**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットパスの追加]:** 新しい**ジョブチケットパス**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[行の追加]:** 新しい値マップ行を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットの値を使用]:** このチェックボックスをオンにすると、ジョブチケットの値がそれに対応する**メタデータキー**と共に保持され、変換が適用されずに保存されます。

  注意: チェックボックスは、1対1マッピングの場合にのみ使用できます。他のすべての条件では、このオプションはグレー表示され、有効にすることはできません。

[ジョブチケットリファレンス]パネル



[開く] ボタン( )をクリックすると、サンプルのジョブチケットファイルを開くことができます。ジョブチケットを選択すると、そのチケットで使用できるJDFファイルのパスがすべてテーブルにリストで表示されます。このリストから項目を**マッピングテーブル**パネルへドラッグし、目的の**[ジョブチケットパス]** 列にドロップします。

このリストの内容を消去するには **[クリア]** ボタン( )をクリックします。

マッピングテーブルの基本的な操作

ジョブチケットファイル

ジョブチケット書出し:JDF ノードでは、メタデータをJDFジョブチケットファイルに変換します。

注意: アドインマネージャを使用してDispatcher Phoenixにジョブチケット書出しノードを追加すると、サンプルのジョブチケットファイルを表示できます。これらのファイルは、以下のパスにあります。

\Program Files\Common Files\KonicaMinolta\Phoenix\Resources\JobTicketGeneratorJDFNode

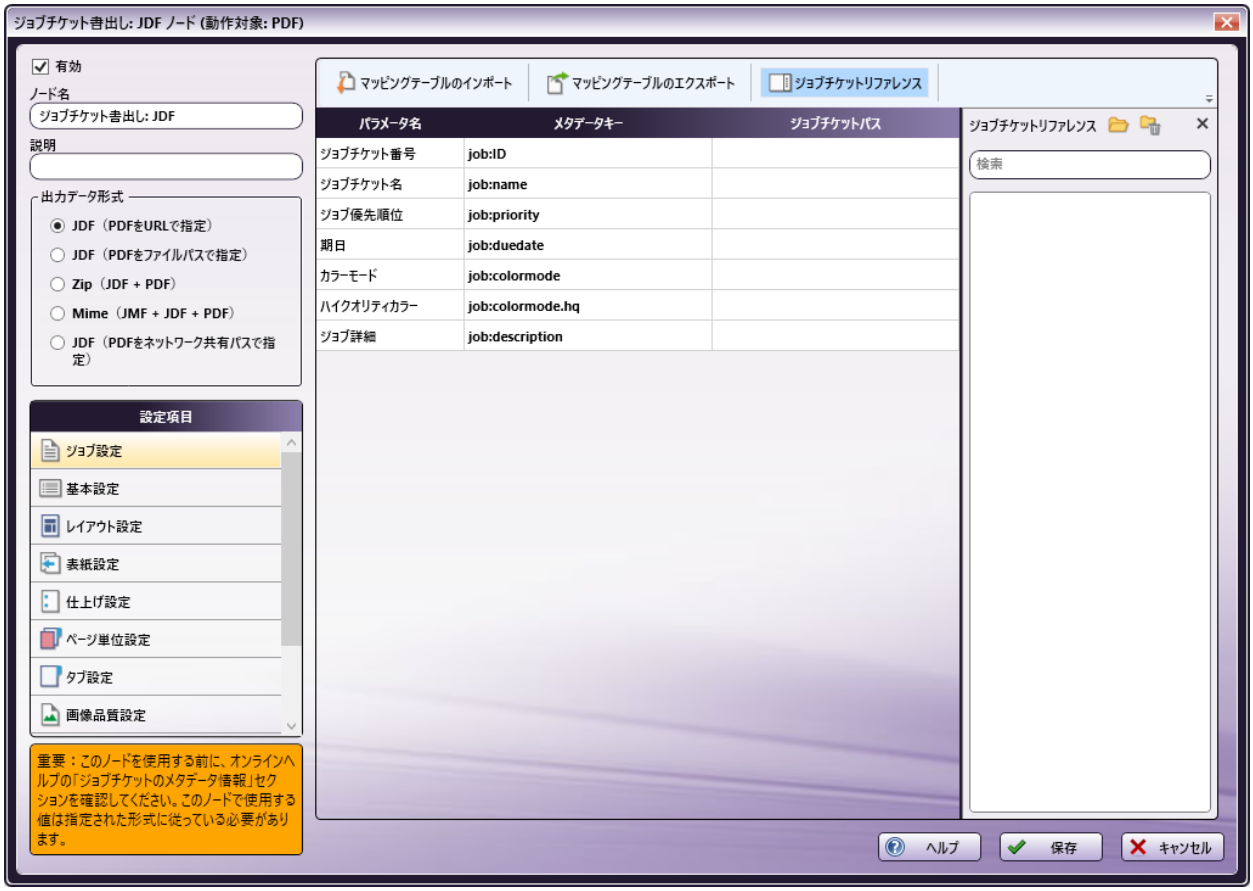
上記のサンプルのジョブチケットには、そのチケットで使用できるすべてのジョブチケットパラメータが含まれています。ファイルをサポートするために必要なパラメータを含むように、サンプルのジョブチケットを変更できます。外部のサードパーティー製のアプリケーションを使用して、ジョブチケットファイルを生成することもできます。この場合、これをサンプルファイルとして使用できます。

ジョブチケット書出し: JDFノードでは、ドキュメントレベル値とページ単位設定値を使用してジョブチケットパラメータを定義します。以下の説明では、サンプルのジョブチケットがシンプルなドキュメントとページ単位レベルの設定で変更されています。このサンプルのジョブチケットは、以降の説明に使用されます。

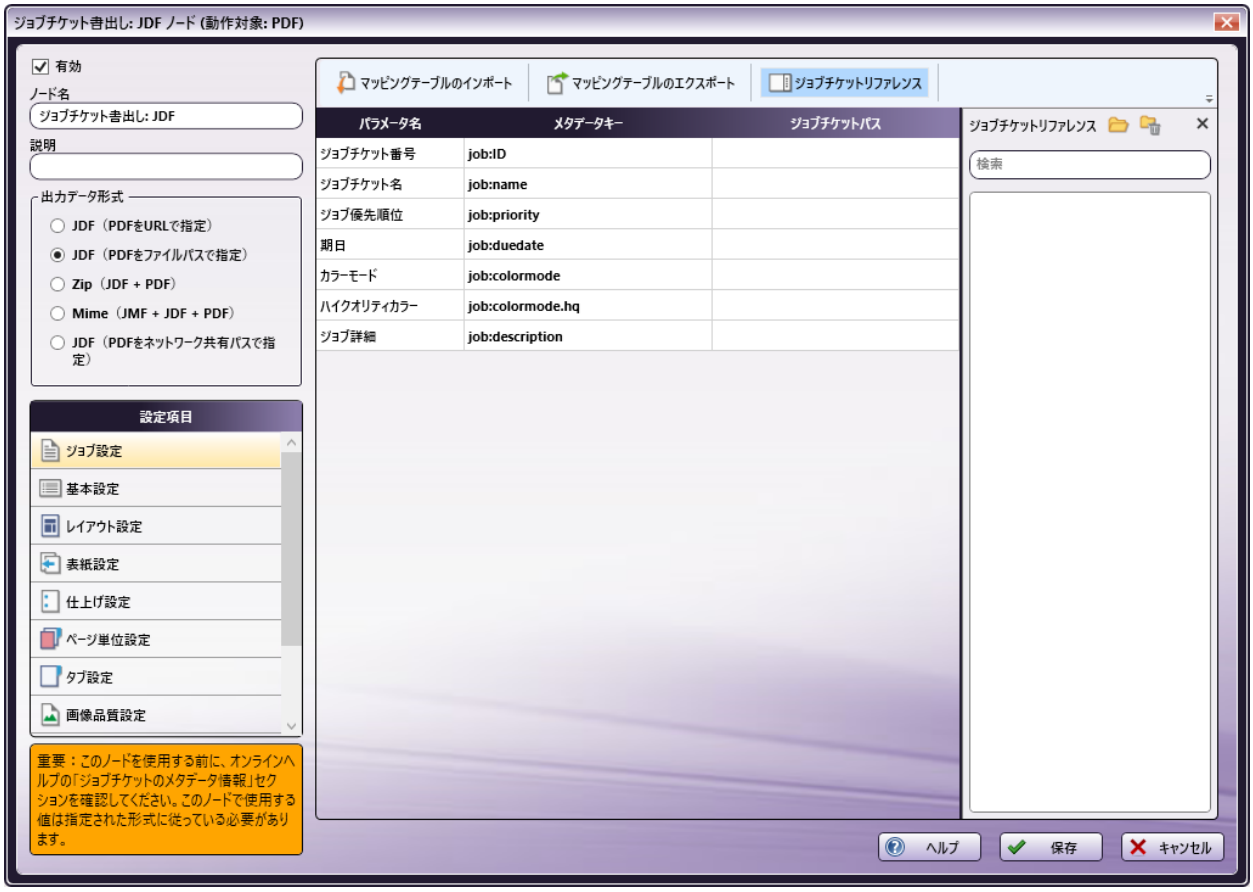
```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<JDF xmlns="http://www.CIP4.org/JDFSchema_1_1"
xmlns:kmbs="http://www.konicaminolta.com/KMBS_JDFExtension_1_1"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:type="Combined">
    <ResourcePool>
        <Media Class="Consumable"
            ID="r170711_024318593_005119" MediaColorName="Yellow" Status="Available">
            <Location LocationName="AutoSelect"/>
        </Media>
    <LayoutPreparationParams Class="Parameter"
            ID="r170711_023611281_005743"
        Sides="TwoSidedFlipY" Status="Available">
    <LayoutPreparationParams RunIndex="0~4"
        kmbs:BindingEdge="Auto" kmbs:PerPageSet="Yes">
        <Media Class="Consumable" DescriptiveName="test">
            <Location LocationName="Auto"/>
        </Media>
    </LayoutPreparationParams>
    </LayoutPreparationParams>
        <RunList Class="Parameter" ID="r170707_053618136_000949" NPage="4" Status="Available">
            <LayoutElement>
                <FileSpec File="file" URL=" C:\Temp\Testfile.pdf "/>
            </LayoutElement>
        </RunList>
    <Component Class="Quantity" ComponentType="FinalProduct"
    ID="r170711_024318596_005125" Status="Unavailable"/>
    </ResourcePool>
    <ResourceLinkPool>
        <MediaLink CombinedProcessIndex="0" Usage="Input" rRef="r170711_024318593_005119"/>
        <LayoutPreparationParamsLink CombinedProcessIndex="0" Usage="Input" rRef="r170711_023611281_005743"/>
        <RunListLink CombinedProcessIndex="0 1" ProcessUsage="Document"
            Usage="Input" rRef="r170707_053618136_000949"/>
        <ComponentLink Amount="10" CombinedProcessIndex="4" Usage="Output" rRef="r170711_024318596_005125"/>
    </ResourceLinkPool>
    <CustomerInfo BillingCode="" CustomerID="" CustomerJobName="JDF job"/>
</JDF>
```

ジョブチケットファイルを使用したマッピングテーブルの構成

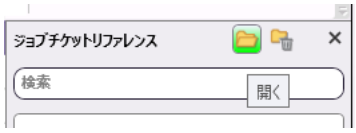
1. テキストエディタを使用して、上記のサンプルJDFファイルをコピーします。
2. **レイアウト要素**に記載されている**URLパス**は（上記の例で説明したように）、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. ファイルをjdf_ sample _jobticket _file.jdfとしてローカルに保存します。
4. **ジョブチケット書出し:JDF**ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。



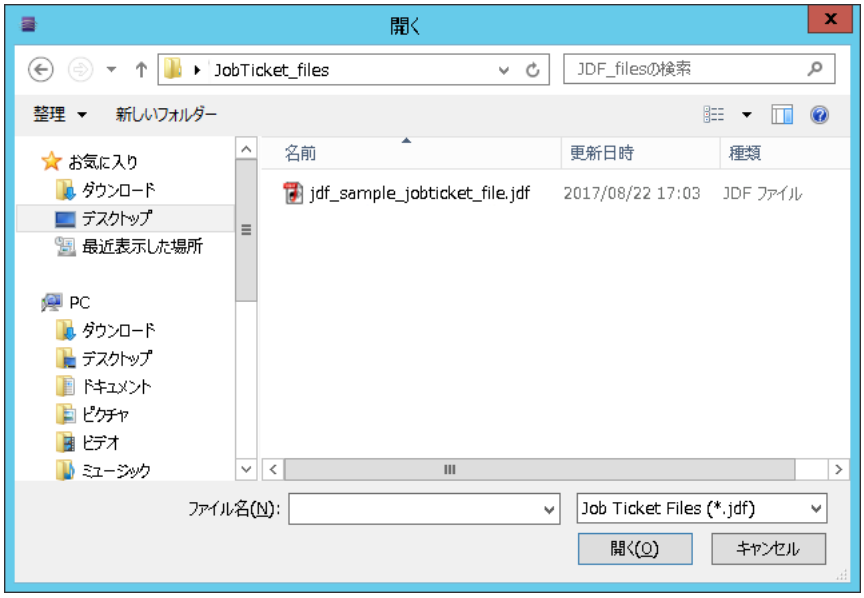
5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
   - **［有効］**チェックボックス：オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
   - **［ノード名］：**ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
   - **［出力データ形式］：［JDF（PDFをファイルパスで指定）］**出力データ形式のラジオボタンを選択します。



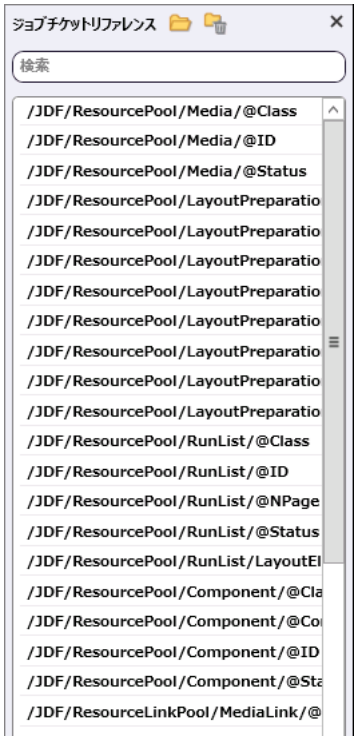
6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネル（右端）で、**[開く]** アイコンを見つけます。



7. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル（jdf_ sample_ jobticket_file.jdf）に移動して選択します。



8. ファイルが開くと、その内容（つまりXPath）が次の画像のように、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルに表示されます。



注意: JDFジョブチケットがロードされると、特定の値がメインパネルに自動的にマッピングされます。マッピングされていない残りのXPathは、ドラッグアンドドロップを使用して手動でマッピングする必要があります。ページ単位設定では、ページ番号のパスとその他のパラメータを常に手動でマッピングする必要があります。

注意: 値が自動的にマッピングされない場合や、必要なオプションが［ジョブチケットリファレンス］パネルに表示されない場合は、このヘルプファイルの指示に記載されている値を手動で入力してください。

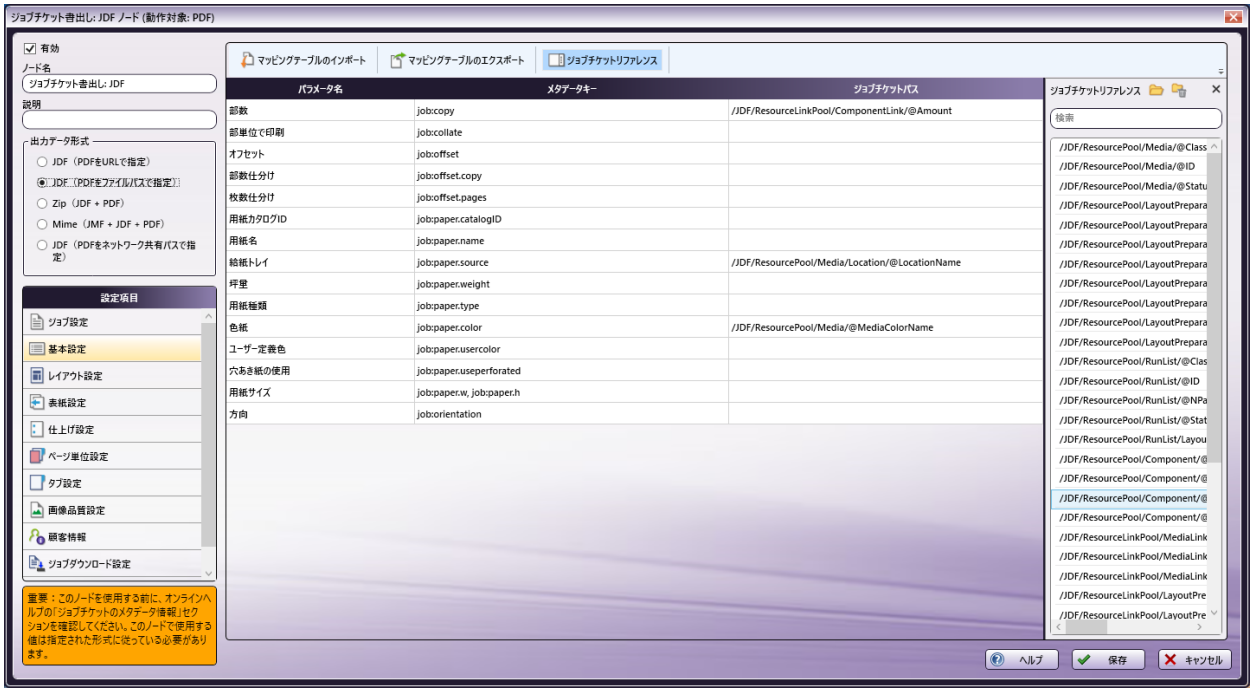
XPathのマッピング

XPath値が使用可能になったら、メインパネルの **［パラメータ名］／［メタデータキー］** の値にマッピングする必要があります。そのためには、**［ジョブチケットリファレンス］** パネルの値をクリックし、その値をメインパネルの対応する **［ジョブチケットパス］** セルにドラッグします。

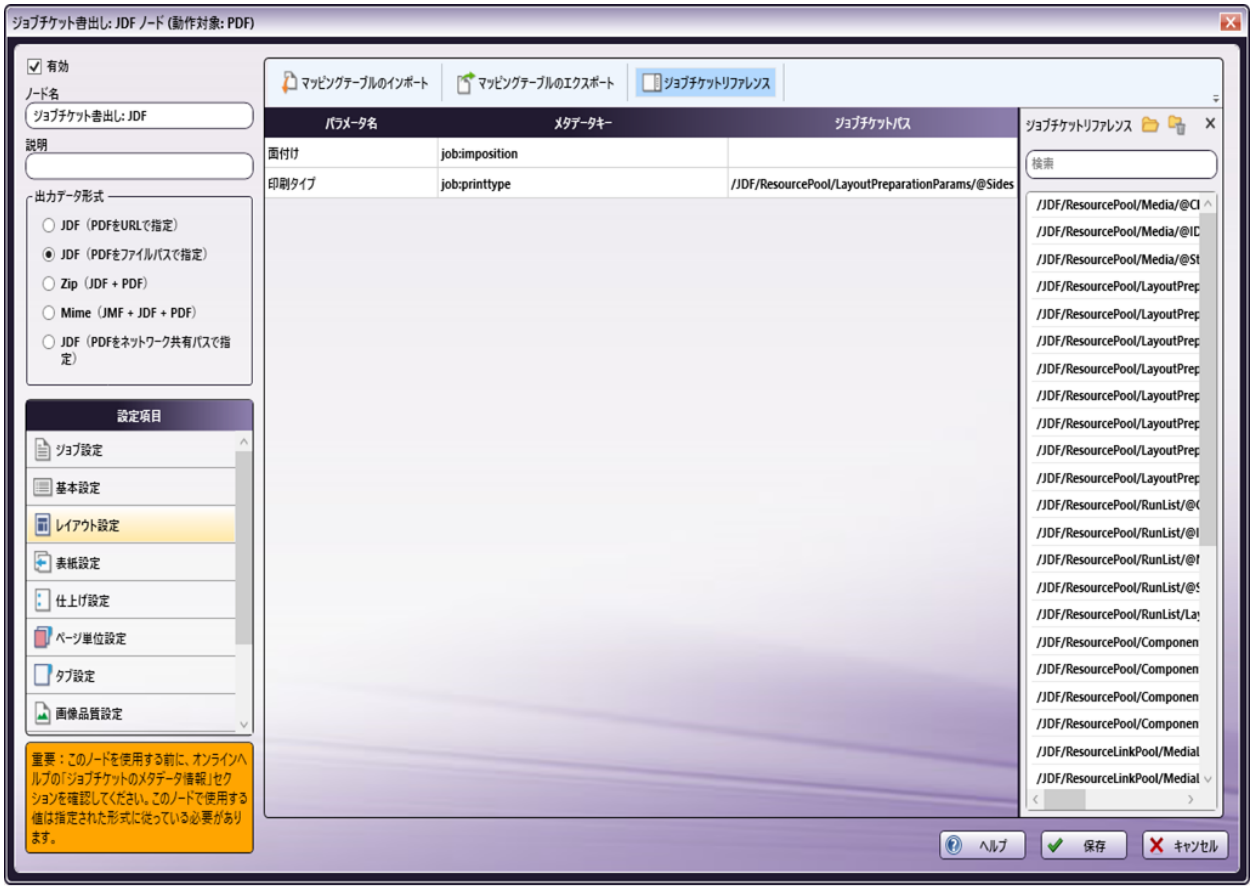
ノードの左側の **［設定項目］** パネルを使用して、いくつかのオプションを指定できます。オプションをクリックすると、メインパネルに含まれている **［パラメータ名］／［メタデータキー］** の値が開きます。

基本的な［パラメータ名］／［メタデータキー］の値のマッピング

1. **［設定項目］** パネルで、**［基本設定］** オプションをクリックします。**［パラメータ名］**、**［メタデータキー］**、および **［ジョブチケットパス］** 列がメインパネルに表示されます。



2. 以下の値が **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから **[ジョブチケットパス]** のセルに自動的に移されます。
    - **/JDF/ResourceLinkPool/ComponentLink/@Amount -> 部数**
    - **/JDF/ResourcePool/Media/Location/@LocationName -> 給紙トレイ**
    - **/JDF/ResourcePool/Media/@MediaColorName -> 色紙**
3. これらの値が自動的にマッピングされない場合は、
    - **[部数]** 行の[ジョブチケットパス]セルに **/JDF/ResourceLinkPool/ComponentLink/@Amount** をドラッグアンドドロップします。
    - **[給紙トレイ]** 行の[ジョブチケットパス]セルに **/JDF/ResourcePool/Media/Location/@LocationName** をドラッグアンドドロップします。
    - **[色紙]** 行の[ジョブチケットパス]セルに **/JDF/ResourcePool/Media/@MediaColorName** をドラッグアンドドロップします。
4. 自動的に移動または手動でドラッグアンドドロップした値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
5. **[設定項目]パネルで、[レイアウト設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。

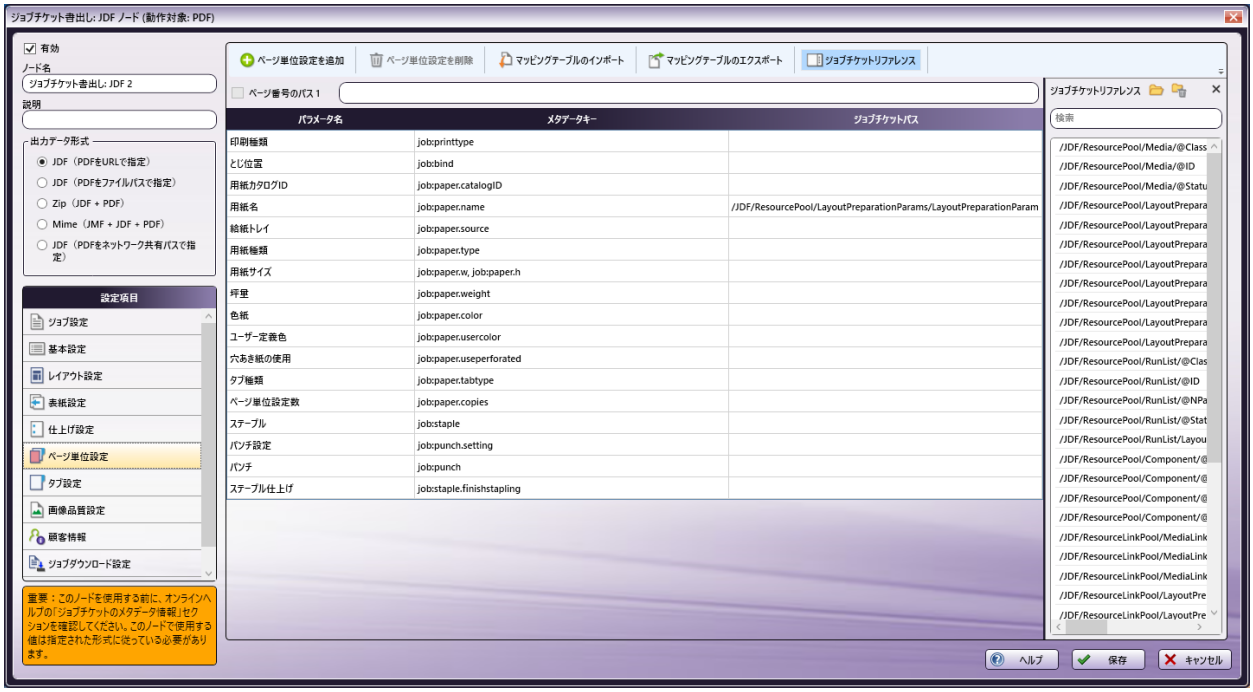


6. 次の値が **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから **[ジョブチケットパス]** のセルに自動的に移されます。
   - **/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/@Sides -> 印刷タイプ**
7. これらの値が自動的にマッピングされない場合は、
   - **[印刷タイプ]** 行の[ジョブチケットパス]セルに **/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/@Sides** をドラッグアンドドロップします。
8. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
9. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ページ単位設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

[ページ単位設定]設定項目は、ページ単位設定を構成するために使用されます。これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。ページ単位設定はページレベルのメタデータを生成します。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ページ単位設定]** オプションをクリックします。**[ページ番号のパス1]**、**[パラメータ名]**／**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** フィールドが、メインパネルに表示されます。

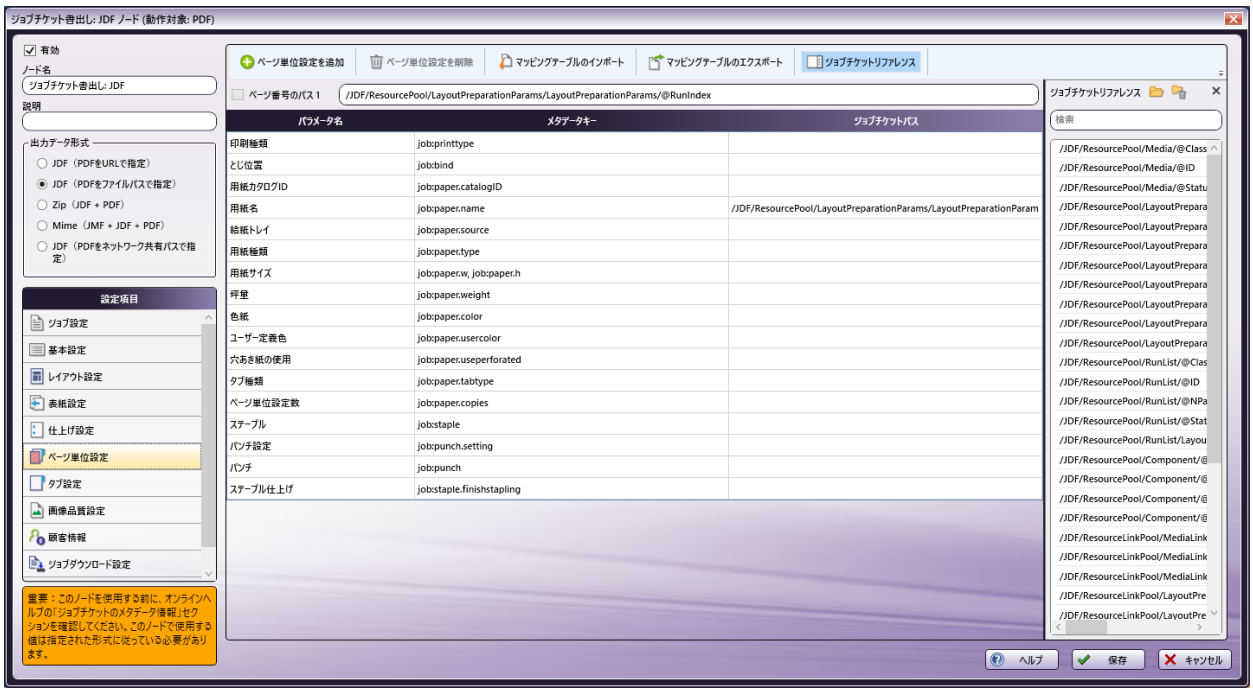


2. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/LayoutPreparationParams/@RunIndex** を **[ページ番号のパス1]** テキストボックスにドラッグアンドドロップします。

   注意: **[ページ番号のパスn]** の内容は” **/JDF/** “で始まる文字列である必要があります。

3. **[ジョブチケットリファレンス]パネルから、/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/LayoutPreparationParams/Media/@DescriptiveName** を **[用紙名]** の **[ジョブチケットパス]** フィールドにドラッグアンドドロップします。

4. 対応する場所にすべての値をドラッグアンドドロップした後の画面は、次のように表示されます。



5. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。

6. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ジョブダウンロード設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

[ジョブダウンロード設定]設定項目 は、ジョブのPDFファイルの受信元となる入力ソースを有効にするために使用されます。**[ローカルパスから取得]** **[URLからダウンロード]** および **[ネットワーク共有から取得]** の3つの値がサポートされています。

これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングします。

サンプルJDFジョブチケットファイル：

以下の例は、各ジョブダウンロードオプションで、コードによりPDFファイルがどのように表示されるかを示しています。

ローカルパスから取得

- “File” = “file”
- “URL” = “C:\Temp\Testfile.pdf”

注意： ファイルタイプキーワード **file**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

URLからダウンロード

- “File” = “http”
- “URL” = “http://10.146.171.98/testapp8/Testfile.pdf”

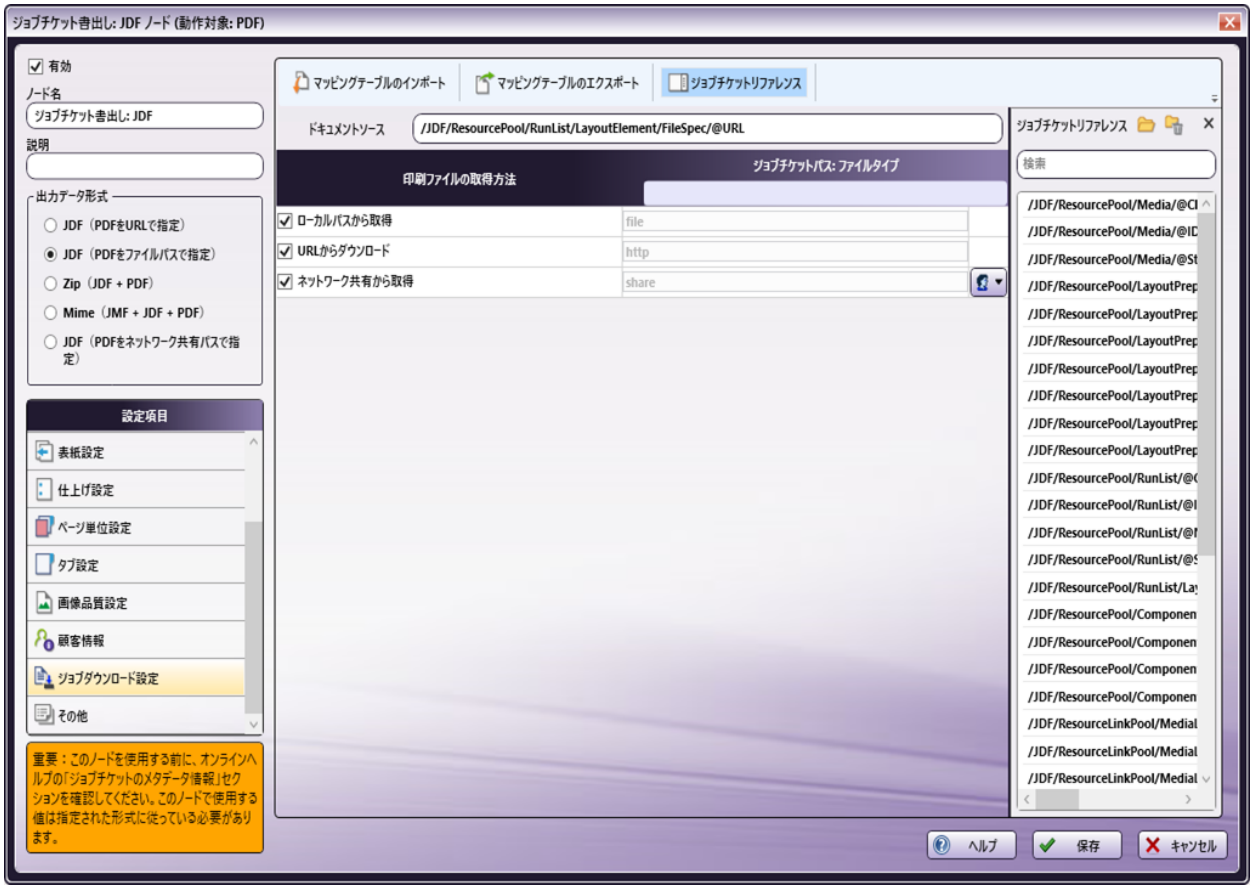
注意： ファイルタイプキーワード **http** と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

ネットワーク共有から取得

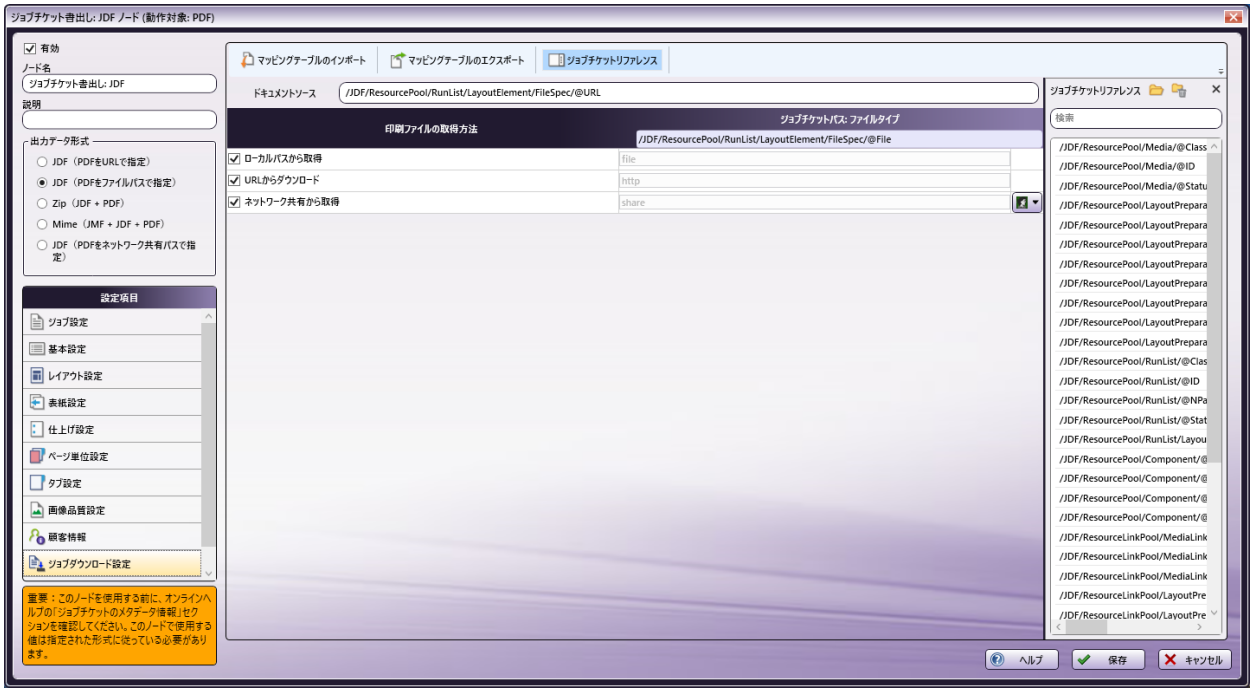
- “File”: “share”
- “URL”: “\\11.12.13.14\Temp\Testfile.pdf”

注意： ファイルタイプキーワード **share**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

1. **［設定項目］** パネルで、**［ジョブダウンロード設定］** オプションをクリックします。**［ドキュメントソース］**、**［印刷ファイルの取得方法］**、および **［ジョブチケットパス：ファイルタイプ］** フィールドが、メインパネルに表示されます。



2. **［印刷ファイルの取得方法］** 列で、**［ローカルパスから取得］**、**［URLからダウンロード］** と **［ネットワーク共有から取得］** の3つのオプションのチェックボックスをオンにします。
3. **［ジョブチケットリファレンス］** パネルから、**［ドキュメントソース］** フィールドに **/JDF/ResourcePool/RunList/LayoutElement/FileSpec/@URL** をドラッグアンドドロップします。
4. **［ジョブチケットリファレンス］** パネルから、**［ジョブチケットパス：ファイルタイプ］** フィールドに **/JDF/ResourcePool/RunList/LayoutElement/FileSpec/@File** をドラッグアンドドロップします。
5. 完了した画面は次のように表示されます。

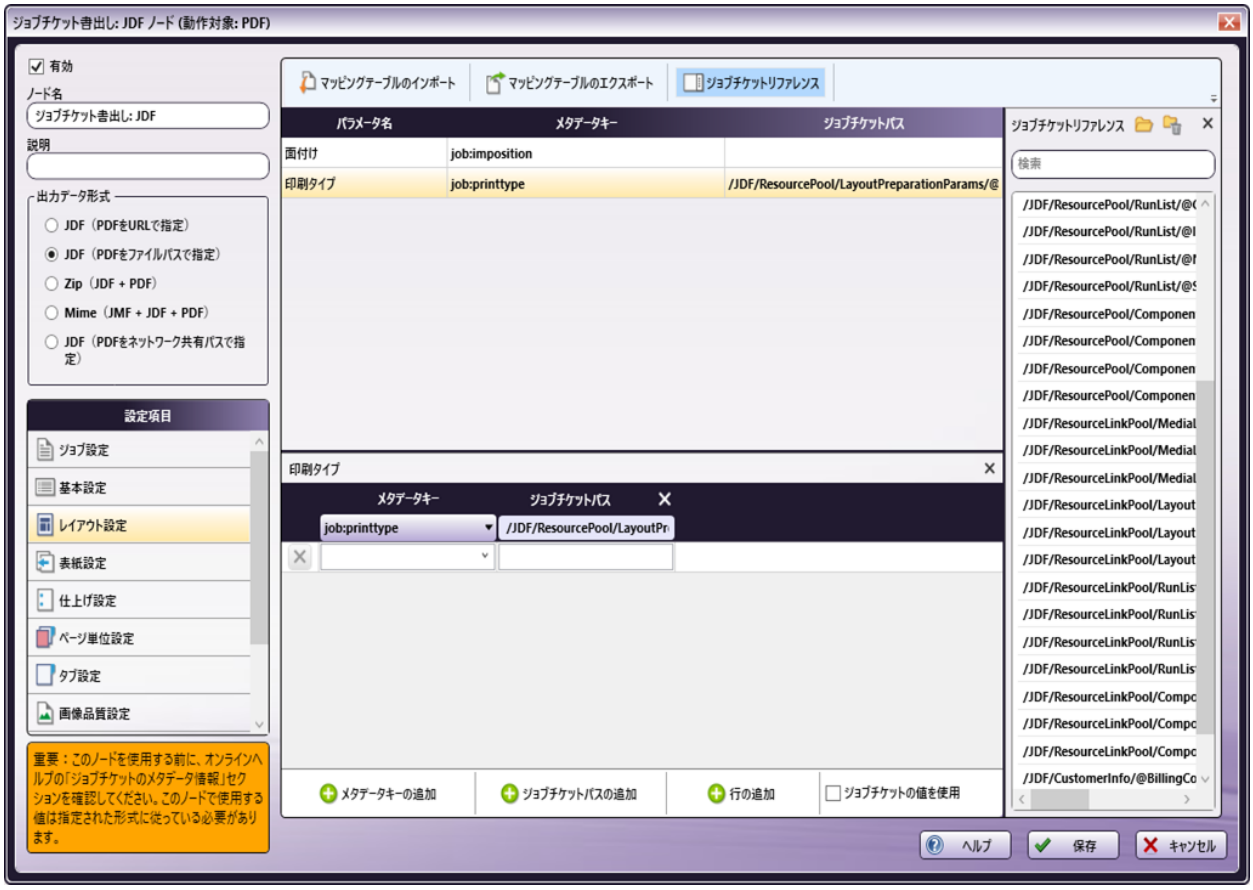


6. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
7. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

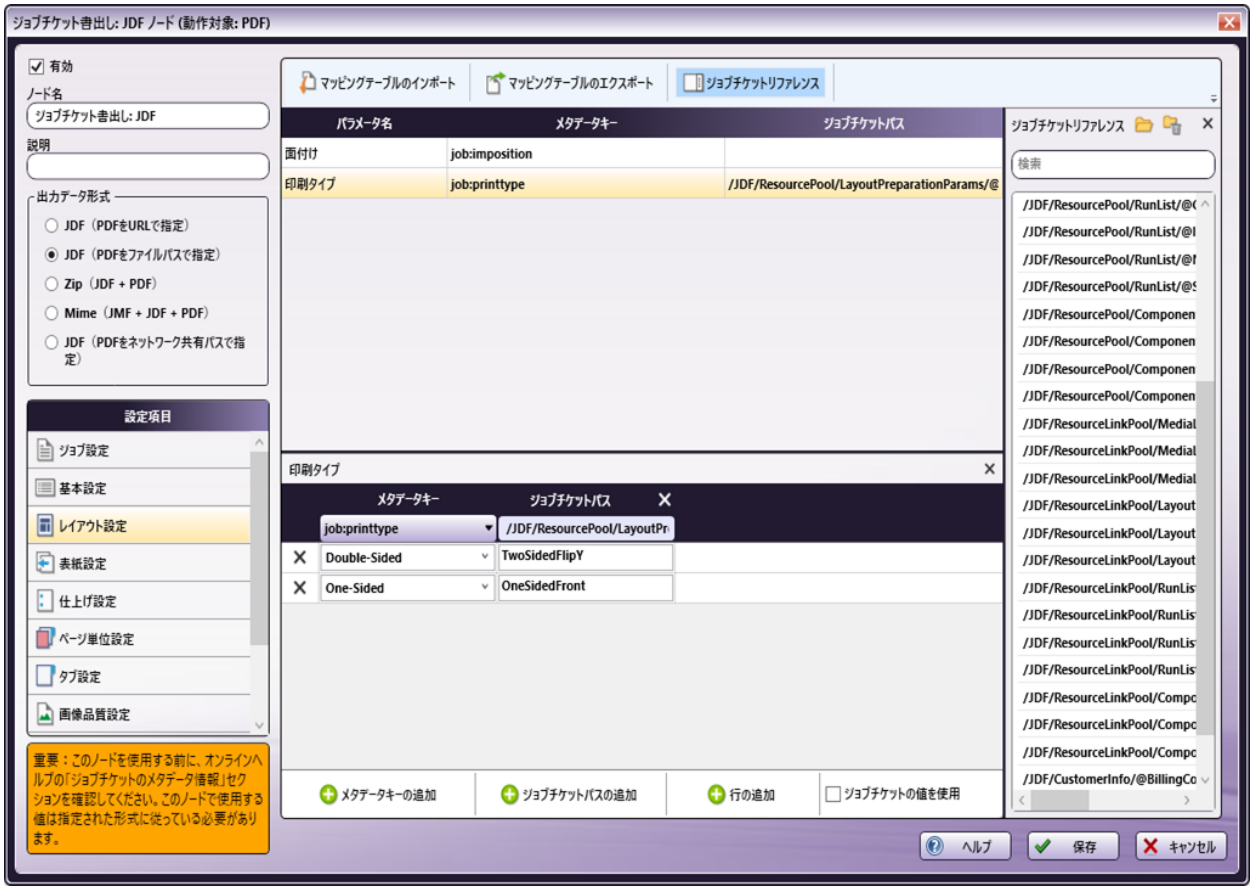
値マップの構成

この機能を使用して、ジョブチケットのパスに対して1つ以上の値を構成できます。以下の例では、**[印刷タイプ]** のXPath値がマッピングされています。これが完了すると、設定が編集され、**/JDF/ResourcePool/LayoutPreparationParams/@Sides** に対して設定の値マップが指定されます。

1. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。
2. **[印刷タイプ]** 行をクリックして、**値マップ**パネルを開きます。



3. デフォルトでは、1つの値マップ行が表示されます。2つの値をマッピングする必要があるため、**[行の追加]** をクリックして、2つ目の値マップ行を追加します。



4. 1つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[Double-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「 **TwoSidedFlipY** 」と入力します。

5. メタデータの値が**Double-Sided**である場合、ジョブチケットは値を **“TwoSidedFlipY”** として書き込みます。
6. 2つ目の行で、**[メタデータキー]**ド ロップダウンメニューから **[One-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「 **OneSidedFront** 」と入力します。
7. メタデータの値が **One-Sided** である場合、ジョブチケットは@Sidesの値を“OneSidedFront”として書き込みます。
8. 終了したら、**[保存]** をクリックします。変更を元に戻すには、**[キャンセル]** をクリックします。

ジョブチケット書出し:JDFノードワークフローのサンプル

上記のワークフローでは、ジョブチケットファイル(jdf_ sample_ jobticket_file.jdfなど)が **入力フォルダー** に移動されます。これは、**ジョブチケット読込:JDF** ノードに送信され、ジョブチケットJDFがジョブチケットメタデータに変換されます(前のセクションで説明)。これが完了すると、データが **ジョブチケットエディタ** ーノードに転送され、**[コピー]** の値が100に変更されます。そこから、ジョブは **ジョブチケット書出し:JDF** ノードに移動され、メタデータからJDFジョブチケットファイルが生成されます。指定された出力形式に応じて、変換されたファイルは **出力フォルダー** に送信されます。

入力フォルダーノード: ファイルを集めて、ジョブチケット読込:JDFノードへ送るように入力フォルダーを構成します。

ジョブチケット読込:JDFノード: ジョブチケット読込:JDFノードを使用して、JDFファイルに保存されている情報を解析し、解析済みの情報をメタデータとして書き込むことができます。JDFファイルには、ジョブチケットフィールドおよびジョブチケット値が含まれます。このノードでは、ジョブチケットフィールドとそれに対応するジョブチケットの値が読み取られてから、メタデータが更新されます。ジョブチケットデータをメタデータの値にマップするのに、マッピングテーブルが使用されます。

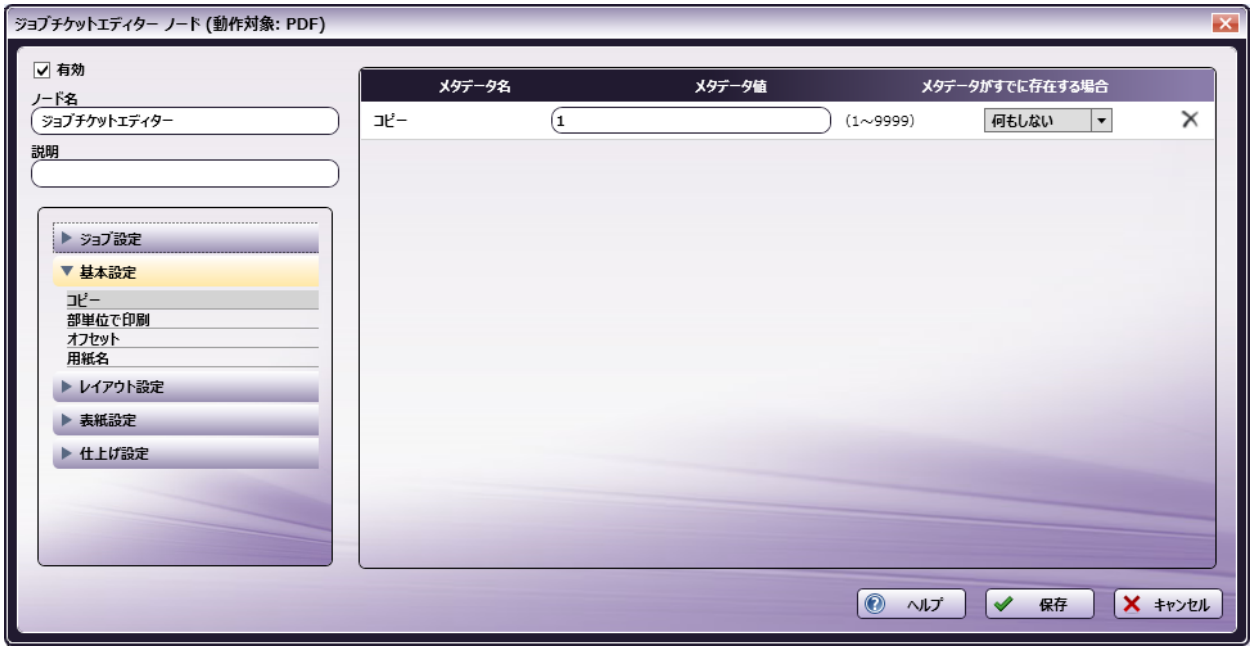
入力は、JDFファイル、Zip(JDF + PDF)ファイル、またはMIME(MJM)ファイルです。JDFファイルとZIP(JDF + PDF)ファイルには、ジョブチケットフィールドとジョブチケット値の形式でジョブチケット情報が収められています。MJMファイルには、JMF、JDF(ジョブチケット)、およびPDFのコンテンツが含まれており、抽出されたJDFファイル(ジョブチケット)およびPDFファイルが処理されます。

詳細については、このヘルプファイルの**ジョブチケット読込:JDFノード**のトピックを参照してください。

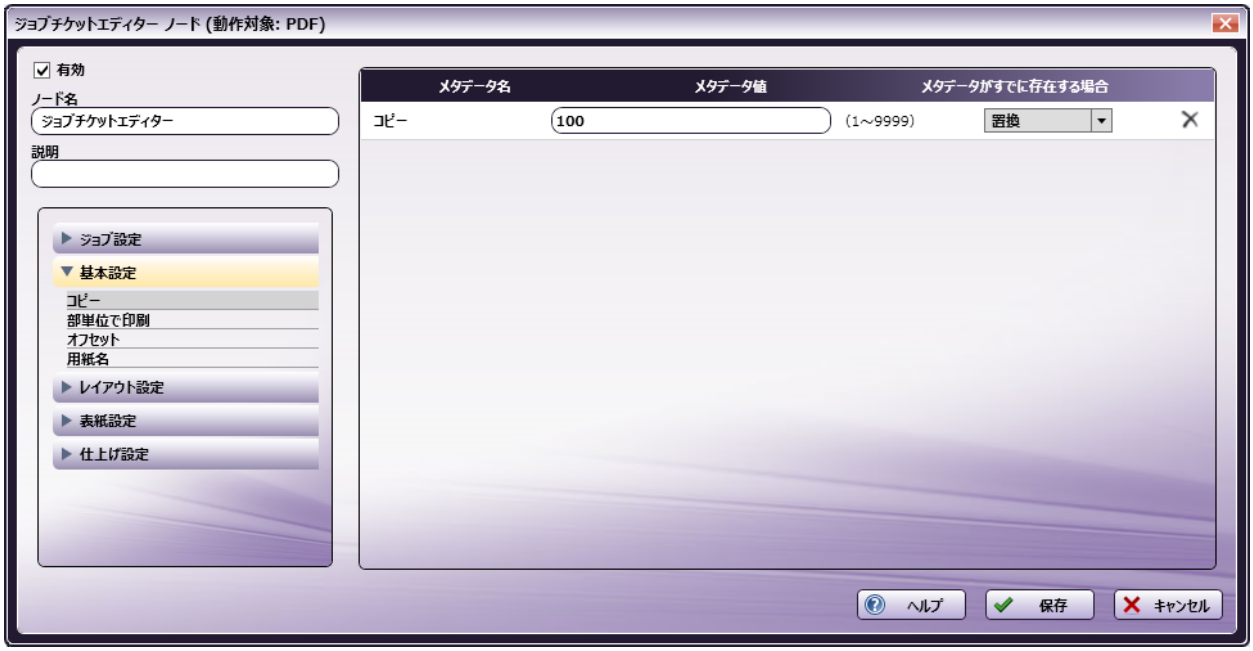
ジョブチケットエディターノード: このノードを使用してジョブの部数を変更します。

1. **ジョブチケットエディター**ーノードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. 左側のパネルから、**[基本設定]** を選択します。
3. **[コピー]** をクリックし、右側のパネルにドラッグします。



4. **[メタデータ値]** を100に変更します。
5. **[メタデータがすでに存在する場合]** ドロップダウンから、**[置換]** を選択します。



6. **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

ジョブチケット書出し:JDFノード: このノードの目的と設定手順については、このセクションに先行する箇所で説明されています。

出力フォルダーノード: すべてのワークフロー処理が正しく適用されると、出力フォルダーノードで設定されたフォルダーパスにジョブが送られます。

以下の出力されたメタデータは、このドキュメントの前のセクションで説明した設定に基づいています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no" ?>
<JDF xmlns="http://www.CIP4.org/JDFSchema_1_1" xmlns:kmbs="http://www.konicaminolta.com/KMBS_JDFExtension_1_1" xmlns:xsi="http://www.w3.or
<ResourcePool>
    <Media Class="Consumable" ID="r170711_024318593_005119" MediaColorName="Yellow" Status="Available">
        <Location LocationName="AutoSelect"/>
    </Media>
    <LayoutPreparationParams Class="Parameter" ID="r170711_023611281_005743" PartIDKeys="RunIndex" Sides="TwoSidedFlipY" Status="Available
        <LayoutPreparationParams RunIndex="0~4" kmbs:PerPageSet="Yes">
            <Media DescriptiveName="test"/>
        </LayoutPreparationParams>
    </LayoutPreparationParams>
    <RunList Class="Parameter" ID="r170707_053618136_000949" NPage="4" Status="Available">
```

```
        <LayoutElement>
            <FileSpec File="file" URL="C:\ProgramData\Konica Minolta\conopsd\var\blox\node_4\tmp.d\Testfile.pdf"/>
        </LayoutElement>
    </RunList>
    <Component Class="Quantity" ComponentType="FinalProduct" ID="r170711_024318596_005125" Status="Unavailable"/>
</ResourcePool>
<ResourceLinkPool>
    <MediaLink CombinedProcessIndex="0" Usage="Input" rRef="r170711_024318593_005119"/>
    <LayoutPreparationParamsLink CombinedProcessIndex="0" Usage="Input" rRef="r170711_023611281_005743"/>
    <RunListLink CombinedProcessIndex="0 1" ProcessUsage="Document" Usage="Input" rRef="r170707_053618136_000949"/>
    <ComponentLink Amount="100" CombinedProcessIndex="4" Usage="Output" rRef="r170711_024318596_005125"/>
</ResourceLinkPool>
<CustomerInfo BillingCode="" CustomerID="" CustomerJobName="JDF job"/>
</JDF>
```

ジョブチケット書出し:JSON

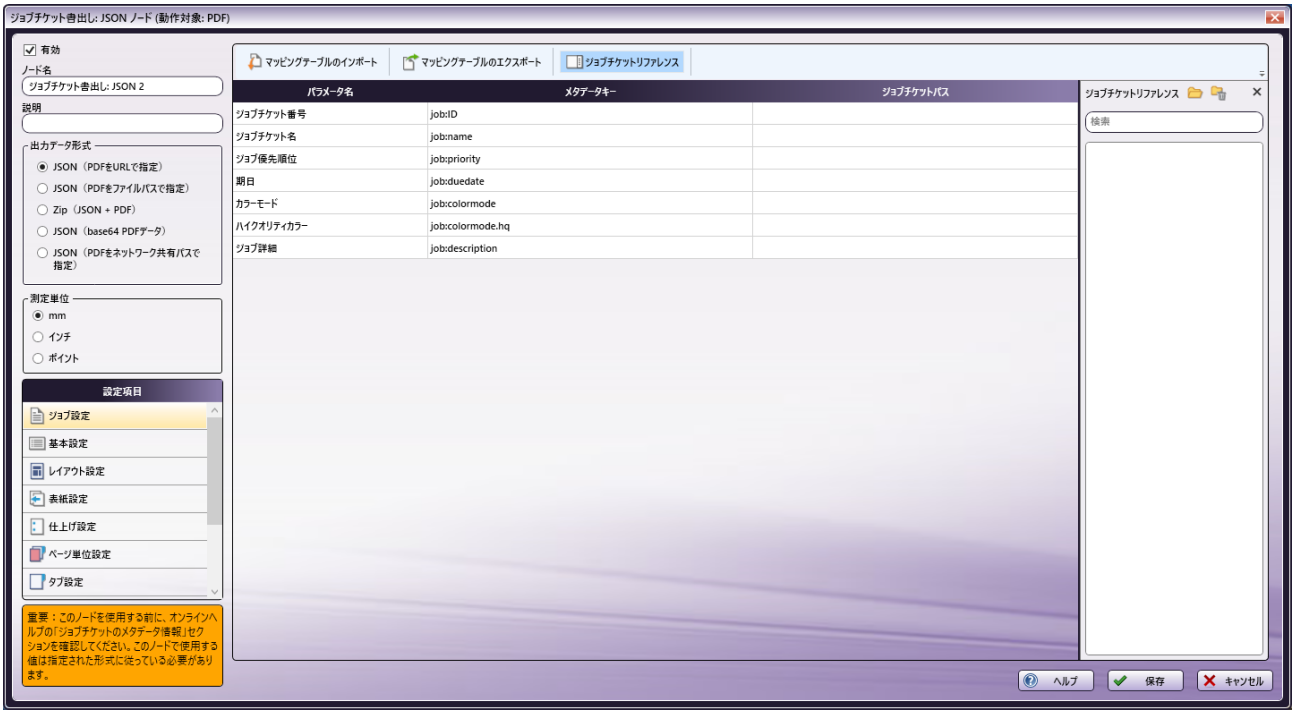
ジョブチケット
書出し: JSON

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

ジョブチケット書出し:JSONノードを使用して、マッピングテーブルファイル上で対応するDispatcherのメタデータ値でJSONファイルを作成または更新できます。そのメタデータにJSONファイルパスが存在しない場合は、このノードで新しいJSONファイルが作成され、対応するメタデータ値が追加されます。ファイルパスが存在する場合、既存のJSONファイルがメタデータで更新されます。

ジョブチケット書出し:JSONノードを使う

ジョブチケット書出し:JSONノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ジョブチケット書出し:JSON**ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**[ジョブチケット書出し:JSON]** ウィンドウが開きます。

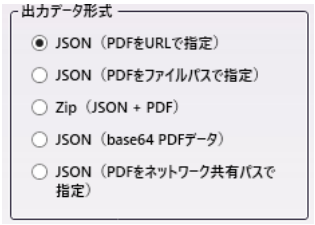


このウィンドウでは、UIの一部であるマッピングテーブルエディターを使用して、マッピングテーブルを作成またはインポートできます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、ジョブチケット書出し:JSONノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、ジョブチケット書出し:JSONノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[測定単位]** パネルでは、測定単位のラジオボタンを選択します。**mm、インチ、およびポイント** の3種類の測定単位を利用できます。
- **ジョブチケット書出し:JSON** の設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

[出力データ形式]

[出力データ形式] 領域で、次のいずれかのノード出力形式を選択します。

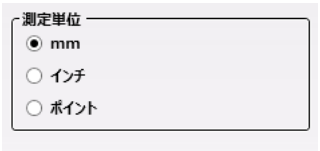


次のオプションがサポートされています。

- **JSON（PDFをURLで指定）]**：生成されるジョブチケットのJSONファイルに、ローカルPDFのURLが含まれます。
- **JSON（PDFをファイルパスで指定）]**：生成されるジョブチケットのJSONファイルに、ローカルPDFのパスが含まれます。
- **[Zip（JSON + PDF）]**：出力は、PDFとJSONジョブチケットファイルを含むZIPファイルです。
- **[JSON（base64 PDFデータ）]**：出力は、base64エンコードされたPDFデータを含むJSONファイルです。
- **[JSON（PDFをネットワーク共有パスで指定）]：** 生成されるジョブチケットのJSONファイルに、ネットワーク共有PDFのパスが含まれます。

[測定単位]

このオプションを使用して、測定単位を指定します。



以下の3つのオプションがあります。

- mm
- インチ
- ポイント

  注意： すべての英語ロケールのシステムでは、デフォルトでインチが選択されます。その他のロケールでは、デフォルトはmmです。デフォルト値に関係なく、使用可能な3つの値のうちいずれかを設定できます。

[設定項目]パネル

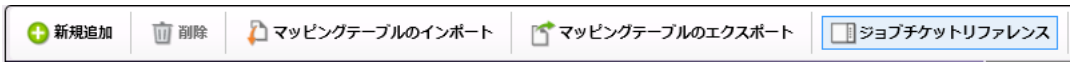
ジョブチケットパラメータは、パネルに表示された11個のグループに分類されています。設定値を表示するには、いずれかのメニューオプションをクリックします。

- **[ジョブ設定]：** [ジョブ設定]を選択して、**[ジョブチケット番号]**、**[ジョブチケット名]**、**[ジョブ優先順位]**、**[期日]**、**[カラーモード]**、**[ハイクオリティカラー]**、または **[ジョブ詳細]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[基本設定]**：**[基本設定]を選択して、[部数]**、**[部単位で印刷]**、**[オフセット]**、**[部数仕分け]**、**[枚数仕分け]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[坪量]**、**[用紙種類]**、**[色紙]**、**[ユーザー定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[用紙サイズ単位]**、または **[方向]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[レイアウト設定]：** [レイアウト設定]を選択して、**[面付]** または **[印刷タイプ]** のジョブチケットパラメータを編集します。

- **[表紙設定]:** [表紙設定]を選択して、**[オモテ表紙]**、**[オモテ表紙の用紙名]**、**[ウラ表紙]**、または **[ウラ表紙の用紙名]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[仕上げ設定]**:[仕上げ設定]を選択して、**[とじ位置]**、**[中とじ]**、**[トリム]**、**[ステープル]**、**[パンチ]**、**[折り]**、**[くるみ製本]**、**[くるみ製本モード]**、**[くるみ製本トレイ]**、**[くるみ製本両面]**、**[くるみ製本背表紙]**、**[くるみ製本表紙幅]**、**[くるみ製本表紙高さ]**、**[くるみ製本表紙サイズ]**、**[くるみ製本表紙坪量]**、**[リングバインド]**、**[リングバインドオモテ表紙]**、または **[リングバインドウラ表紙]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ページ単位設定]**:[ページ単位設定]を選択して、**[印刷種類]**、**[とじ位置]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[用紙種類]**、**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[色紙]**、**[ユーザー定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[タブ種類]**、**[ページ単位設定数]**、**[ステープル]**、**[パンチ設定]**、**[パンチ]**、または **[ステープル仕上げ]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[タブ設定]**:**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[タブ文字]**、**[ページ番号]**、**[ファイル順序]**、または **[タブ数]** を選択します。
- **[画像品質設定]:** [画像品質設定]を選択して **[解像度]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[顧客情報]:**[顧客情報]を選択して、**[コメントURL]**、**[お客様の名前]**、**[お客様の姓]**、**[お客様の住所]**、**[お客様の丁目・番地]**、**[お客様の市区町村]**、**[お客様の都道府県]**、**[お客様の郵便番号]**、**[お客様の国]**、**[お客様の会社]**、**[お客様の電話番号]**、**[お客様のファクス番号]**、**[お客様の電子メール]**、または **[ジョブ作成者]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ジョブダウンロード設定]:**[ジョブダウンロード設定]を選択して、印刷ファイルの取得にどの印刷ファイルオプションを使用するかを指定します。指定できるオプションには **[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]** または **[ネットワーク共有から取得]** があります。
- **[その他]:どの設定項目にもないカスタムジョブチケットパラメータを扱う場合は、[その他]** ページを使用して新しいフィールドを追加します。

ツールバー

ツールバーは、**[ページ単位設定]** と **[その他]** の設定項目オプションが選択されている場合にのみ表示されます。以下に示す例では、**[その他]** の設定項目オプションが選択されています。ページ単位設定のツールバーは、この例とは異なります。以下に、利用可能なツールバーのオプションをすべて示します。



- **[新規追加]:** 変換ルールを定義する新しいエントリーパラメータを追加するには、このオプションを使用します。このオプションは **[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[削除]:** パラメータのエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは **[その他]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を追加]:** 別の組み合わせの**ページ単位設定**を追加するには、このオプションを使用します。このオプションは[**ページ単位設定**] 設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を削除]: ページ単位設定** のエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは **[ページ単位設定]** 設定項目でのみ使用できます。
- **[マッピングテーブルのインポート]:** クリックするとファイルのダイアログが開き、インポートするマッピングテーブルのxmlファイルを選択できます。
- **[マッピングテーブルのエクスポート]:** この機能を使用して、外部にあるマッピングテーブルのxmlファイルに適用した構成変更を保存できます。
- **[ジョブチケットリファレンス]:[ジョブチケットリファレンス]パネル** の表示と非表示を切り替えるには、このオプションを使用します。

マッピングテーブルパネル

このパネルでは、ジョブチケットパラメータと**Dispatcherメタデータ**間のマッピング値を定義します。このパネルは以下の3つの列で構成されています。

パラメータ名	メタデータキー	ジョブチケットパス
ジョブチケット番号	job:ID	
ジョブ名	job:name	
優先度	job:priority	
ジョブの実行期日	job:duedate	
カラーモード	job:colormode	
ハイクオリティカラーモード	job:colormode.hq	
ジョブ詳細	job:description	

- **[パラメータ名]**:この列では、ジョブチケットパラメータのわかりやすい名前を記述します。
- **[メタデータキー]**:この列では、パラメータ名ごとの**Dispatcherメタデータキー**を記述します。
- **[ジョブチケットパス]**:当初、この列は空です。この列には、各ジョブチケットパラメータに対応するJSONファイルのパスを入力します。

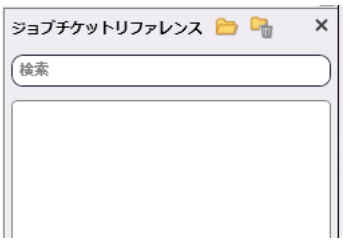
値マップパネル

上部のテーブルをクリックすると[メタデータキー]パネルが表示されます。**メタデータ値とジョブチケット**値間の変換ルールを定義するには、このパネルを使用します。テーブルに値を入力します。**メタデータキーとジョブチケットパス**が列見出しに表示され、必要に応じてエントリーの追加や削除ができます。

- **［メタデータキーの追加］:新しいメタデータキー**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **［ジョブチケットパスの追加］**:新しい **ジョブチケットパス**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **［行の追加］:** 新しい値マップ行を追加するには、このボタンをクリックします。
- **［ジョブチケットの値を使用］:** このチェックボックスをオンにすると、ジョブチケットの値がそれに対応する**メタデータキー**と共に保持され、変換が適用されずに保存されます。

注意: チェックボックスは、1対1マッピングの場合にのみ使用できます。他のすべての条件では、このオプションはグレー表示され、有効にすることはできません。

［ジョブチケットリファレンス］パネル



［開く］ボタン( )をクリックすると、サンプルのジョブチケットファイルを開くことができます。ジョブチケットを選択すると、そのチケットで使用できるJSONファイルのパスがすべてテーブルにリストで表示されます。このリストから項目を**マッピングテーブルパネル** へドラッグし、目的の **［ジョブチケットパス］**列にドロップします。

このリストの内容を消去するには **［クリア］**ボタン( )をクリックします。

マッピングテーブルの基本的な操作

ジョブチケットファイル

ジョブチケット書出し:JSONノードは、メタデータをJSONジョブチケットファイルに変換するために使用されます。

注意: アドインマネージャを使用してDispatcher Phoenixにジョブチケット書出しノードを追加すると、サンプルのジョブチケットファイルを表示できます。これらのファイルは、以下のパスにあります。

\Program Files\Common Files\Konica Minolta\Phoenix\Resources\JobTicketGeneratorJSONNode

上記のサンプルのジョブチケットには、そのチケットで使用できるすべてのジョブチケットパラメータが含まれています。ファイルをサポートするために必要なパラメータを含むように、サンプルのジョブチケットを変更できます。外部のサードパーティー製のアプリケーションを使用して、ジョブチケットファイルを生成することもできます。この場合、これをサンプルファイルとして使用できます。

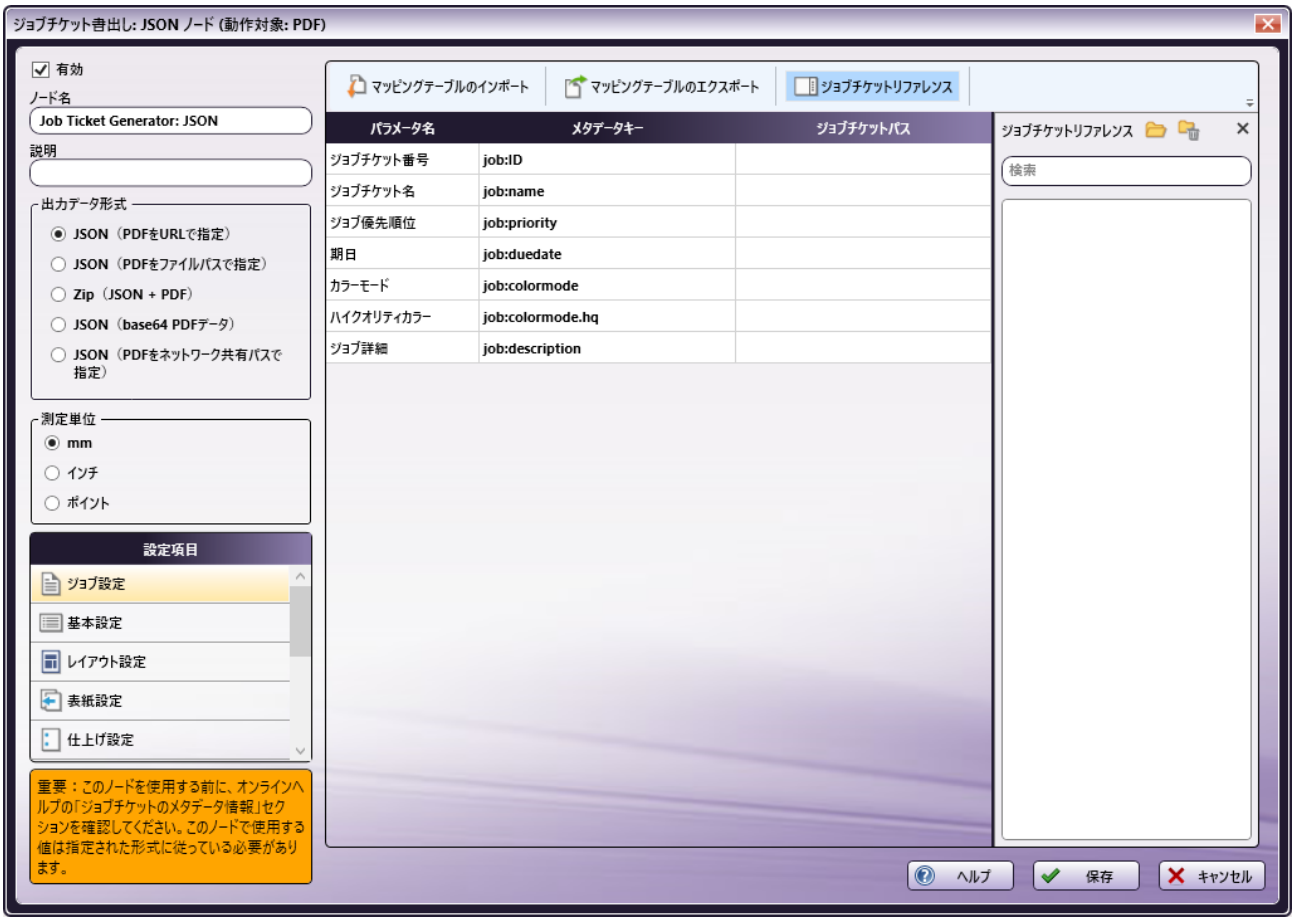
ジョブチケット書出し:JSON ノードでは、ドキュメントレベル値とページ単位設定値を使用してジョブチケットパラメータを定義します。以下の説明では、サンプルのジョブチケットがシンプルなドキュメントとページ単位レベルの設定で変更されています。このサンプルのジョブチケットは、以降の説明に使用されます。

```
{
   "Ticket": {
       "Name": "Sample JSON Job",
       "Quantity": 5,
       "Duplex": "On",
       "Media":
          {
             "Color": "Yellow"
          },
       "File": "file",
       "Src": "C:\\Temp\\Testfile.pdf",
       "PageException": [
          {
             "Range": "1-5",
             "Media":
                {
                   "PaperName": "A4"
```

```
            }
        }]
    }
}
```

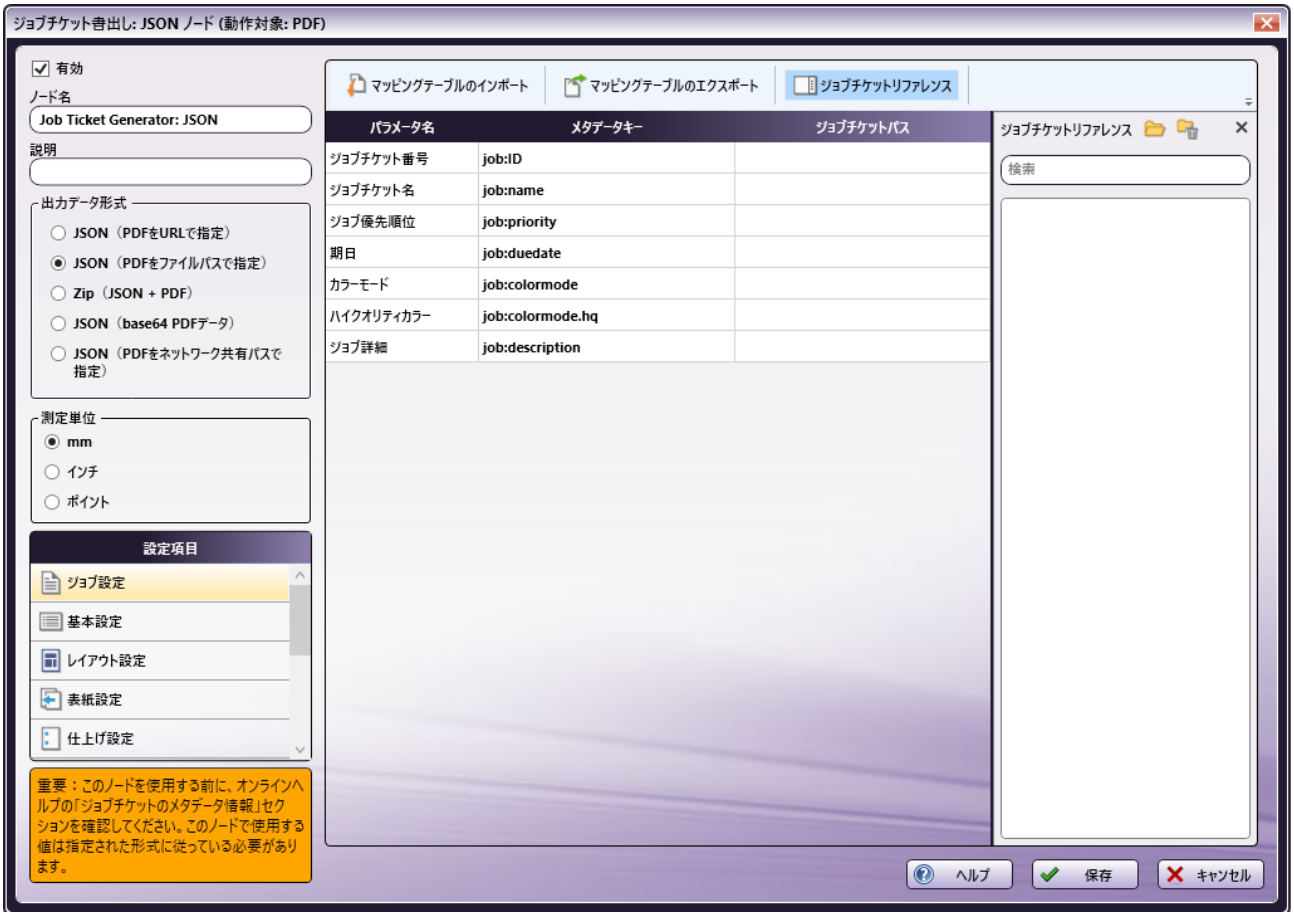
ジョブチケットファイルを使用したマッピングテーブルの構成

1. テキストエディタを使用して、上記のサンプルJSONファイルをコピーします。
2. サンプルのジョブチケットに記載されている **ソースパス（“Src”）** は（上記の例で説明したように）、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. ファイルを json_sample_jobticket_file.jsonとしてローカルに保存します。
4. **ジョブチケット書出し:JSON**ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。

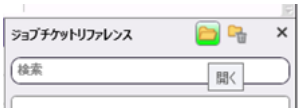


5 .左側のパネルで、次の値を設定します。

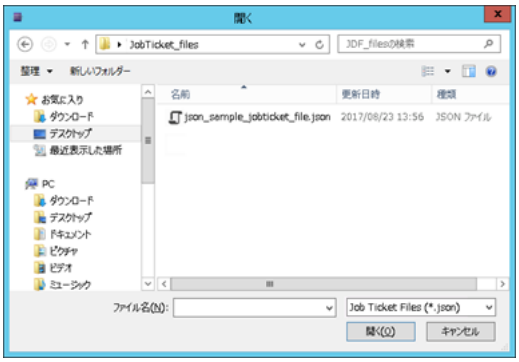
- **［有効］** チェックボックス：オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
- **［ノード名］:** ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
- **［出力データ形式］:［JSON（PDFをファイルパスで指定）］**出力データ形式のラジオボタンを選択します。
- **［測定単位］:** ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。**注意:** 入力ジョブチケットにメタデータ値{job:paper.unit}が含まれている場合、**［測定単位］フィールド**で選択されている値はこのメタデータ値によって上書きされます。



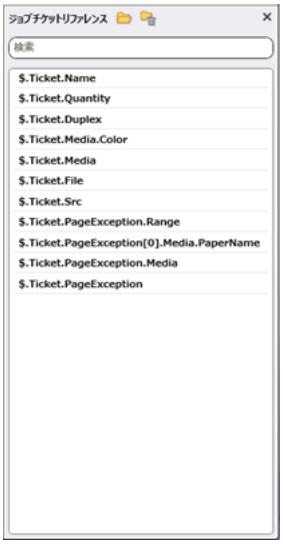
6．**[ジョブチケットリファレンス]** パネル（右端）で、**[開く]** アイコンを見つけます。



7．このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル（json_sample_jobticket_file.json）に移動して選択します。



8．ファイルが開くと、その内容（つまりXPath）が次の画像のように、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルに表示されます。



注意: ロードされたジョブチケットは、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから正しい値をドラッグアンドドロップしてマッピングする必要があります。値が **[ジョブチケットリファレンス]** パネルに表示されない場合は、このヘルプファイルの指示に記載されている値を手動で入力してください。

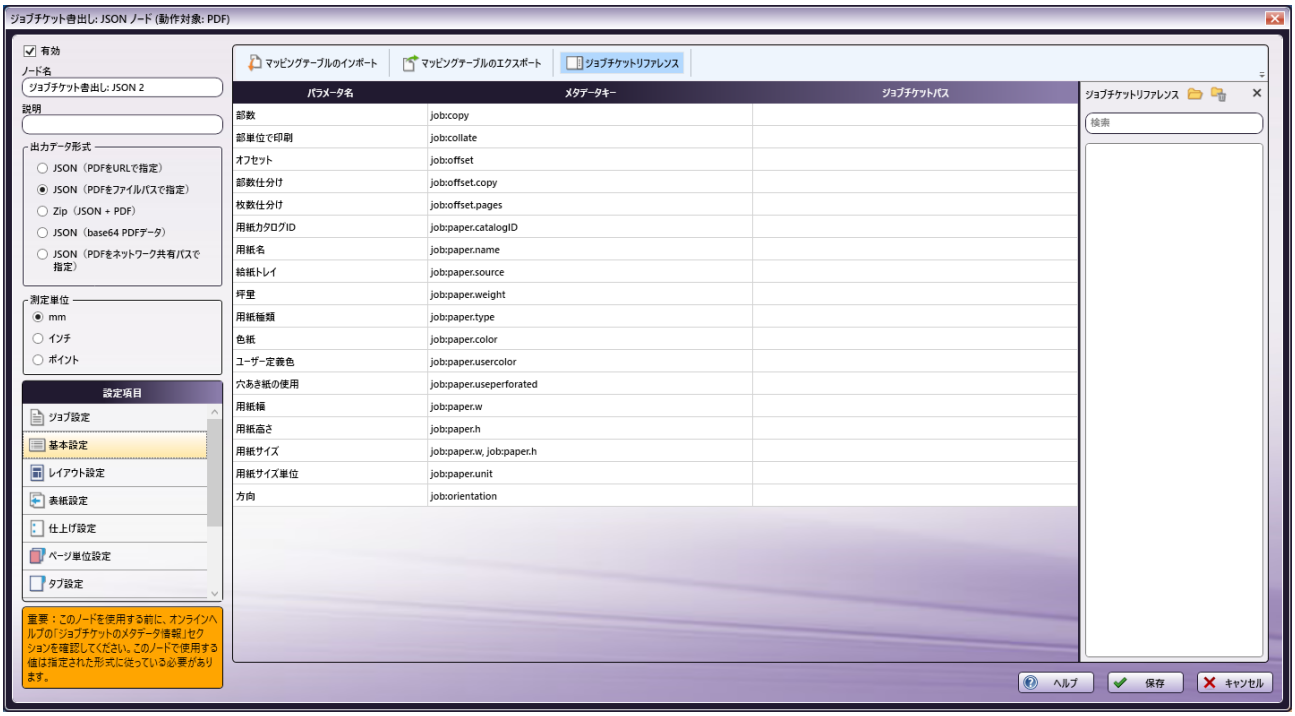
XPathのマッピング

XPath値が使用可能になったら、メインパネルの **[パラメータ名]**／**[メタデータキー]** の値にマッピングする必要があります。そのためには、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値をクリックし、その値をメインパネルの対応する **[ジョブチケットパス]** セルにドラッグします。

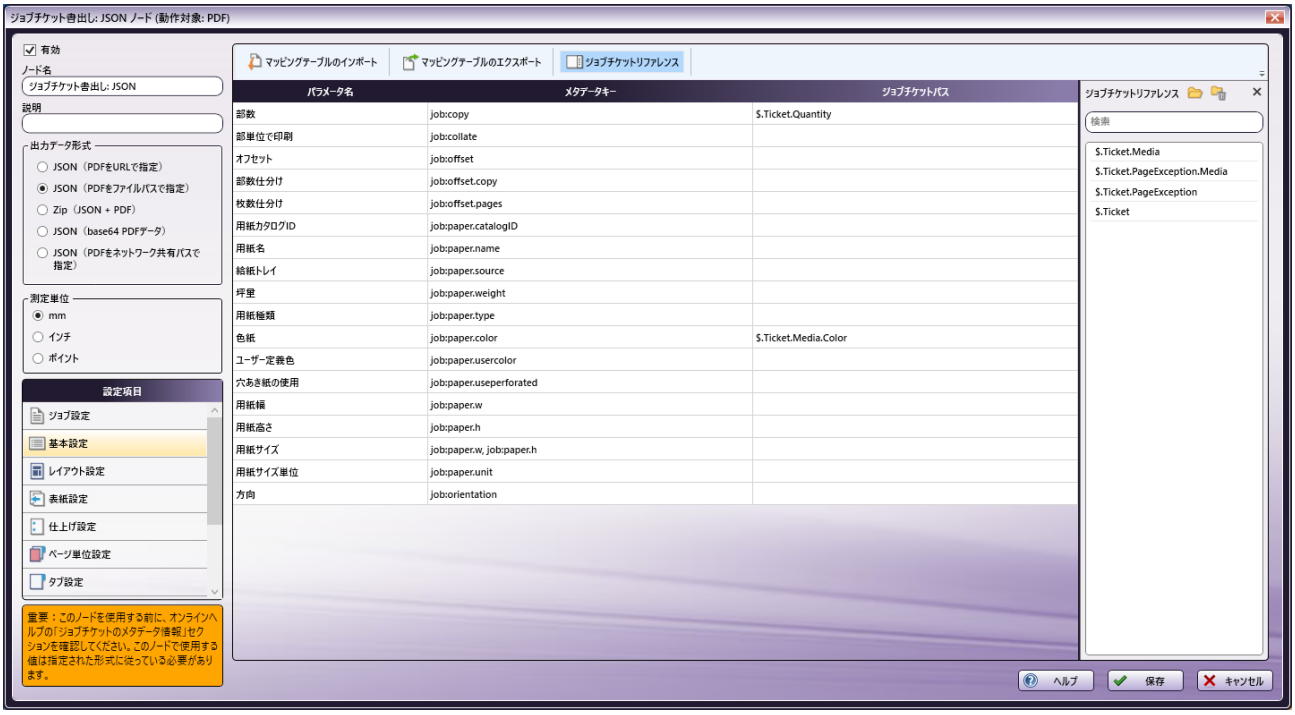
ノードの左側の **[設定項目]** パネルを使用して、いくつかのオプションを指定できます。オプションをクリックすると、メインパネルに含まれている **[パラメータ名]**／**[メタデータキー]** の値が開きます。

基本的な[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

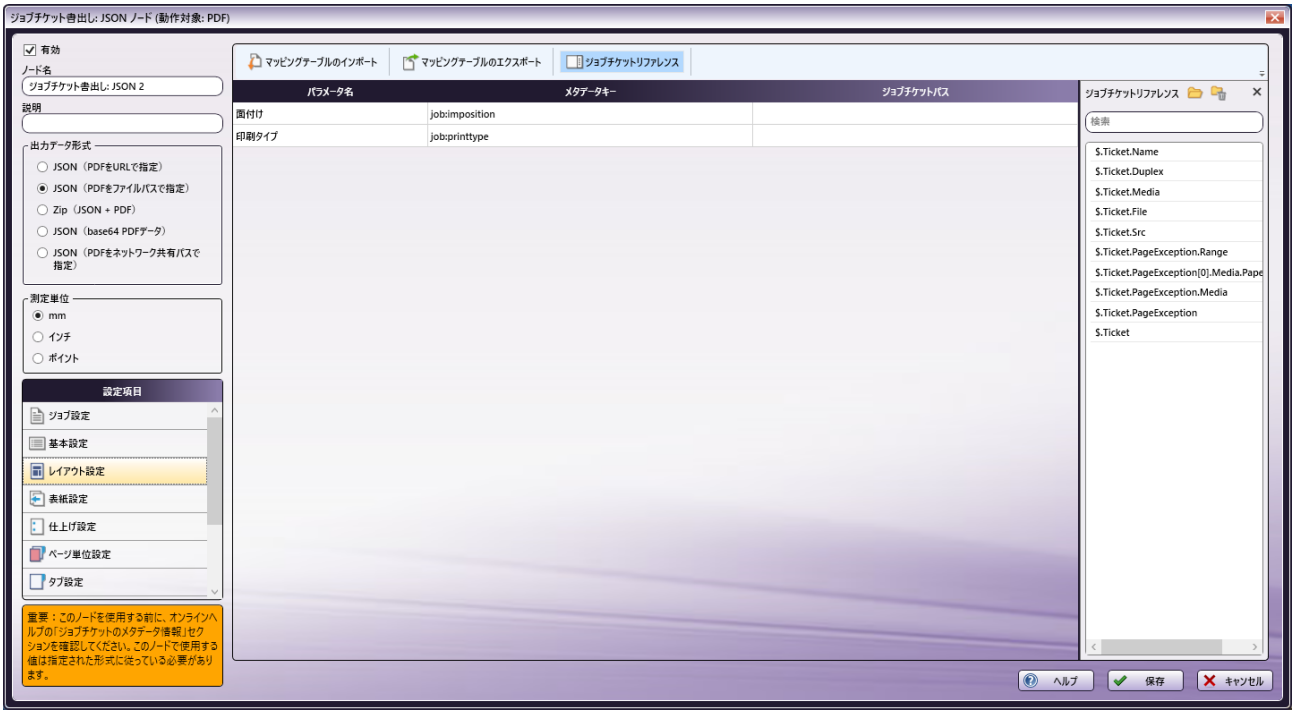
1. **[設定項目]** パネルで、**[基本設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



2. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
3. **[部数]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに `$.Ticket.Quantity` をドラッグアンドドロップします。**[色紙]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに `$.Ticket.Media.Color` をドラッグアンドドロップします。
4. ドラッグアンドドロップした値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。

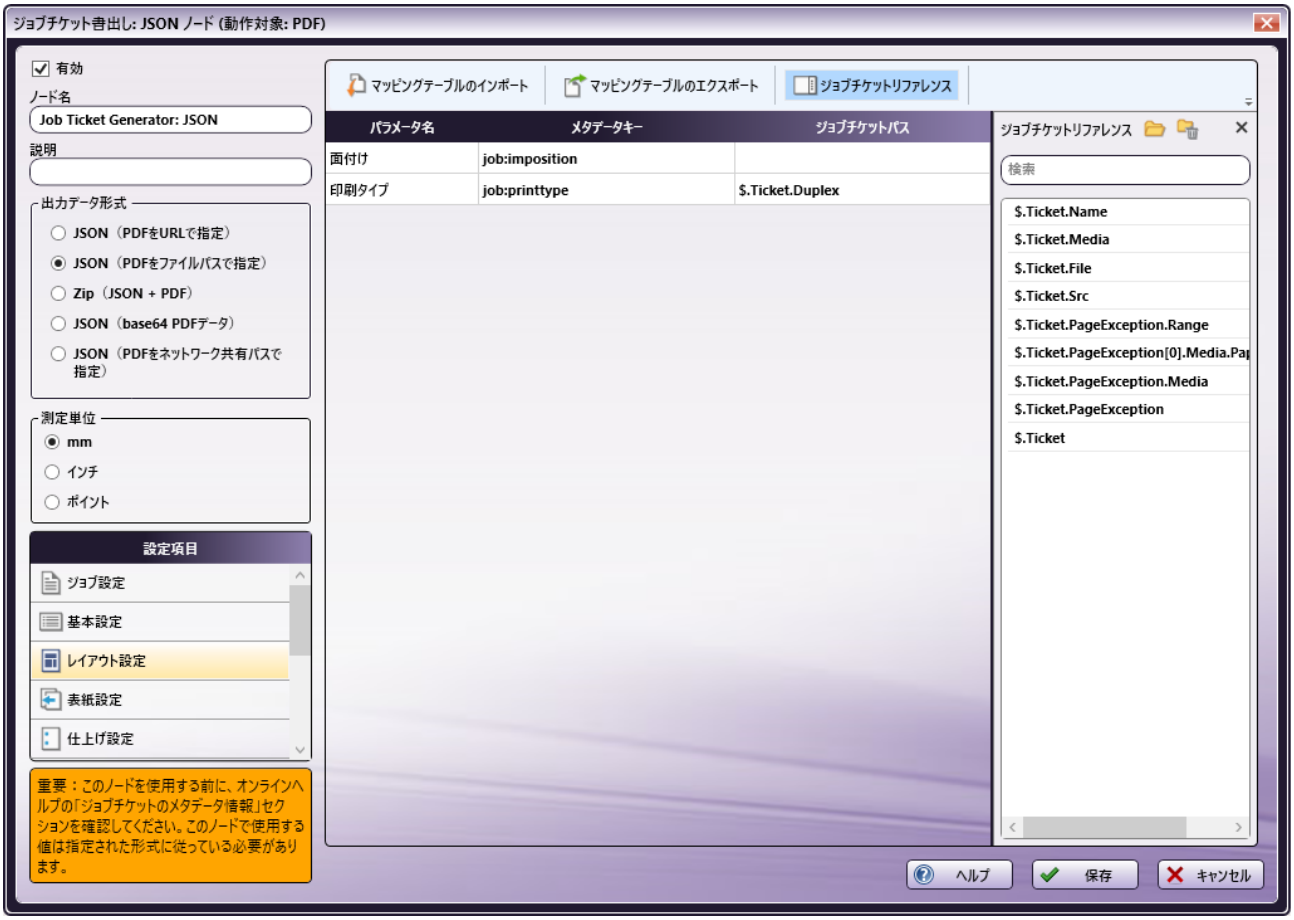


5. **[設定項目]パネルで、[レイアウト設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]／[メタデータキー]** および **[ジョブチケットパス]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。

7. **[印刷タイプ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに `$.Ticket.Duplex` をドラッグアンドドロップします。

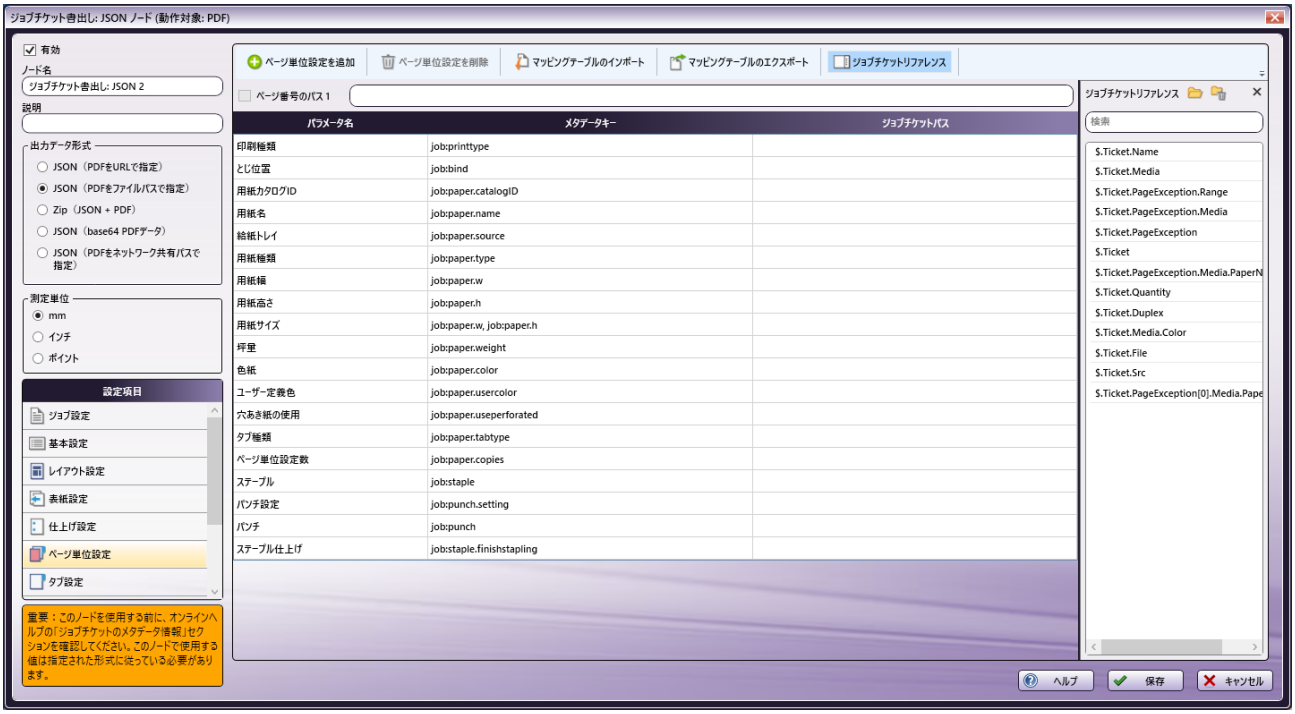


8. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
9. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ページ単位設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

[ページ単位設定]設定項目は、ページ単位設定を構成するために使用されます。これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。ページ単位設定はページレベルのメタデータを生成します。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ページ単位設定]** オプションをクリックします。**[ページ番号のパス1]**、**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および[**ジョブチケットパス]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



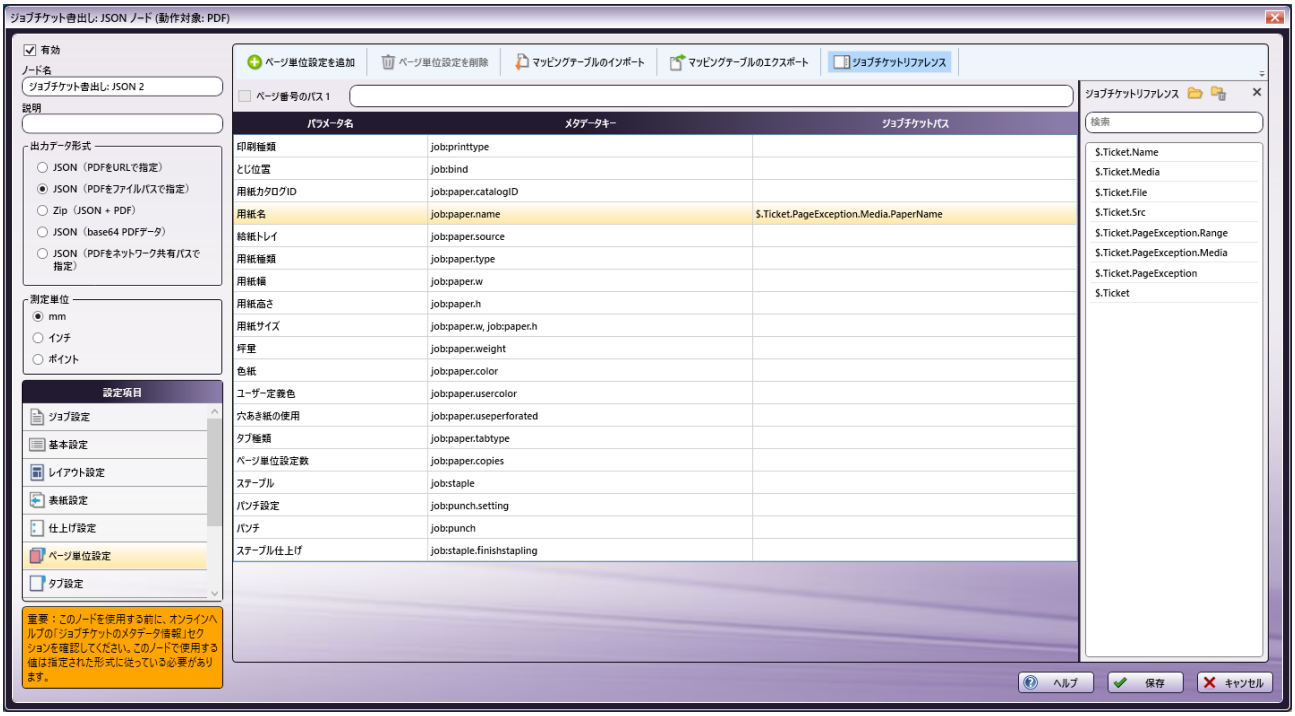
2. **［ジョブチケットリファレンス］**パネルから、`$.Ticket.PageException.Range` を **［ページ番号のパス1］**テキストボックスにドラッグアンドドロップします。

注意：［ページ番号のパスn］の内容は”$.“で始まる文字列である必要があります。

3. **［ジョブチケットリファレンス］**パネルから、`$.Ticket.PageException[0].Media.PaperName` を **［用紙名］**行の **［ジョブチケットパス］**セルにドラッグアンドドロップします。

注意： PageException[0]をPageExceptionに変更します。

4. 完了した画面は次のように表示されます。



5. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**［ジョブチケットリファレンス］**パネルから削除されます。

6. 必要に応じて、他の **［設定項目］**オプションについて同じ手順を繰り返します。

［ジョブダウンロード設定］の［パラメータ名］／［メタデータキー］の値のマッピング

［ジョブダウンロード設定］設定項目 は、ジョブのPDFファイルの受信元となる入力ソースを有効にするために使用されます。**［ローカルパスから取得］**、**［URLからダウンロード］**、**［ジョブチケットからbase64データを取得］**（PDFデータはbase64形式で埋め込まれています）、および **［ネットワーク共有から取得］** および の4つの値がサポートされています。

これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。

サンプルJSONジョブチケットファイル：

以下の例は、各ジョブダウンロードオプションで、コードによりPDFファイルがどのように表示されるかを示しています。

ローカルパスから取得

- “File”: “file”
- “Src”: “C:\\Temp\\Testfile.pdf”
  注意：ファイルタイプキーワード **file**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

URLからダウンロード

- “File”: “http”
- “Src”: “http://10.146.171.98/testapp8/sample.pdf”
  注意：ファイルタイプキーワード **http**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

ジョブチケットからbase64データを取得

- “File”: “base64”
- “Src”: “xxddgdfexdgfgngn…”
  注意：ファイルタイプキーワード **base64**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

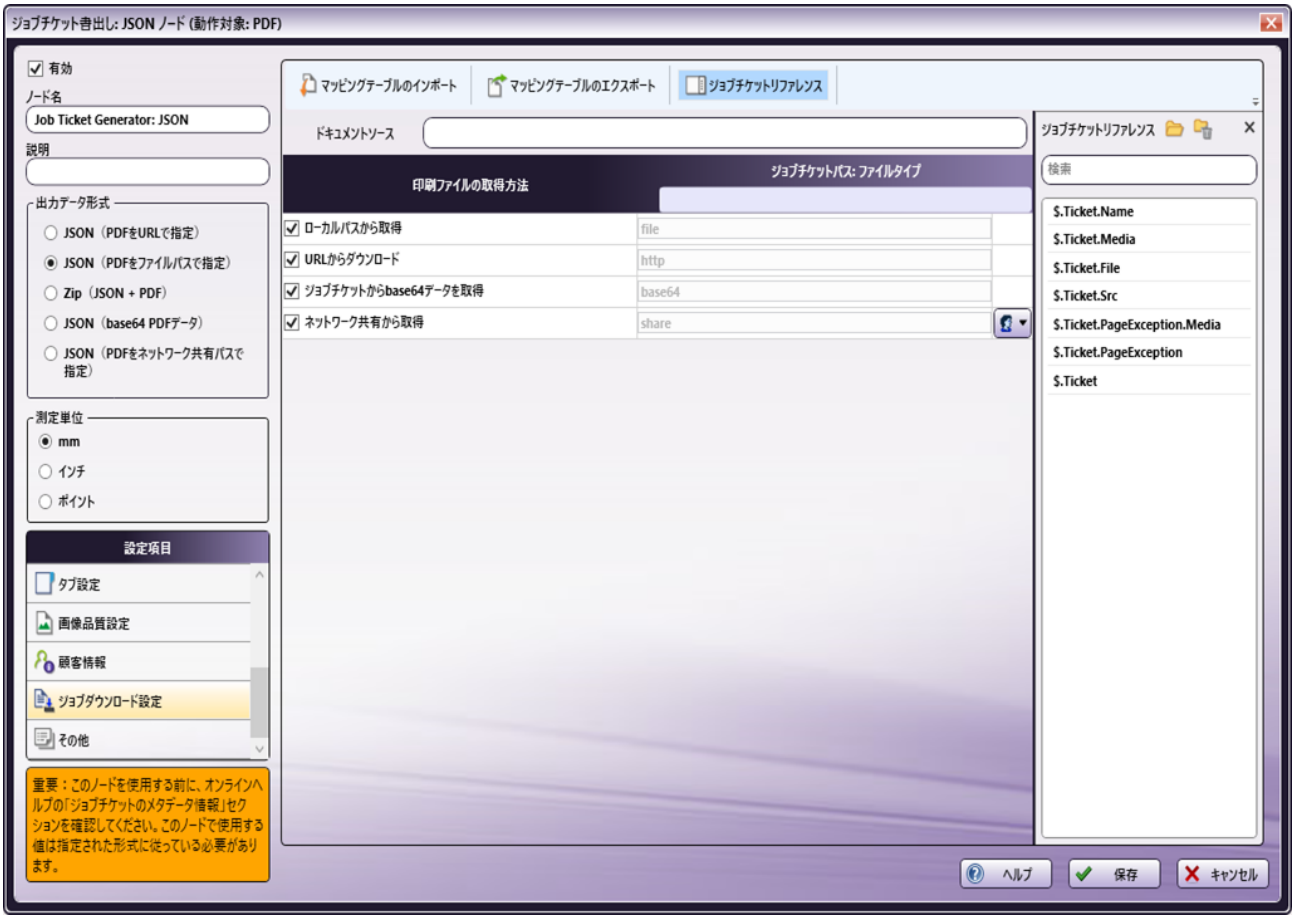
ネットワーク共有から取得

- “File”: “share”
- “Src”: “\\\\11.12.13.14\\Temp\\Testfile.pdf”

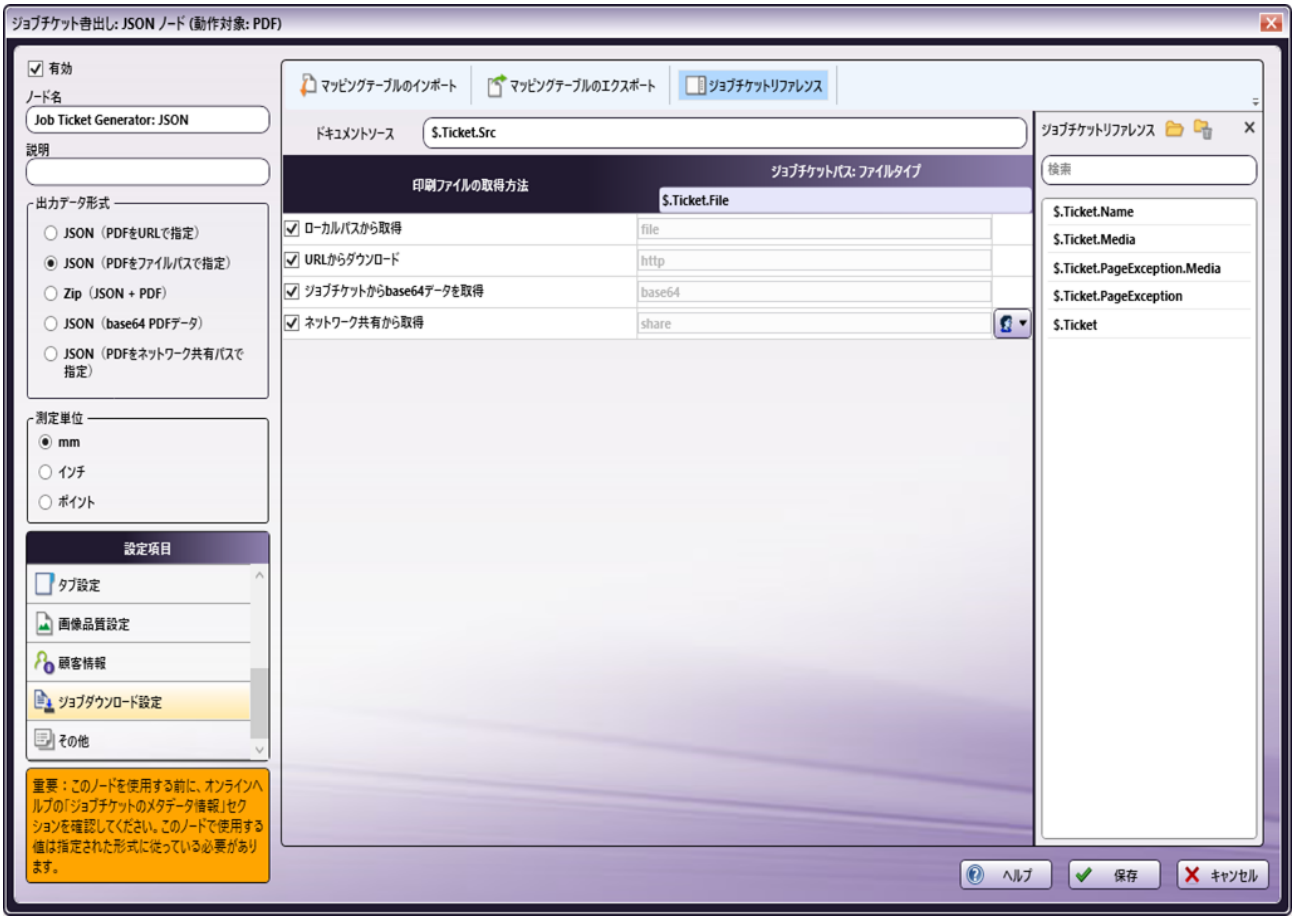
注意：ファイルタイプキーワード **share**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

前述したように、UI出力データ形式の選択に基づいて、生成されたJSONジョブチケットファイルのFileおよびSrcの値が更新されます。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]**、**[印刷ファイルの取得方法]**、および[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]フィールドが、メインパネルに表示されます。



2. **[印刷ファイルの取得方法]列で、[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]**、および **[ネットワーク共有から取得]** の4つのオプションのチェックボックスをすべてオンにします。
3. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに `$.Ticket.Src` をドラッグアンドドロップします。
4. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドに `$.Ticket.File` をドラッグアンドドロップします。
5. 完了した画面は次のように表示されます。

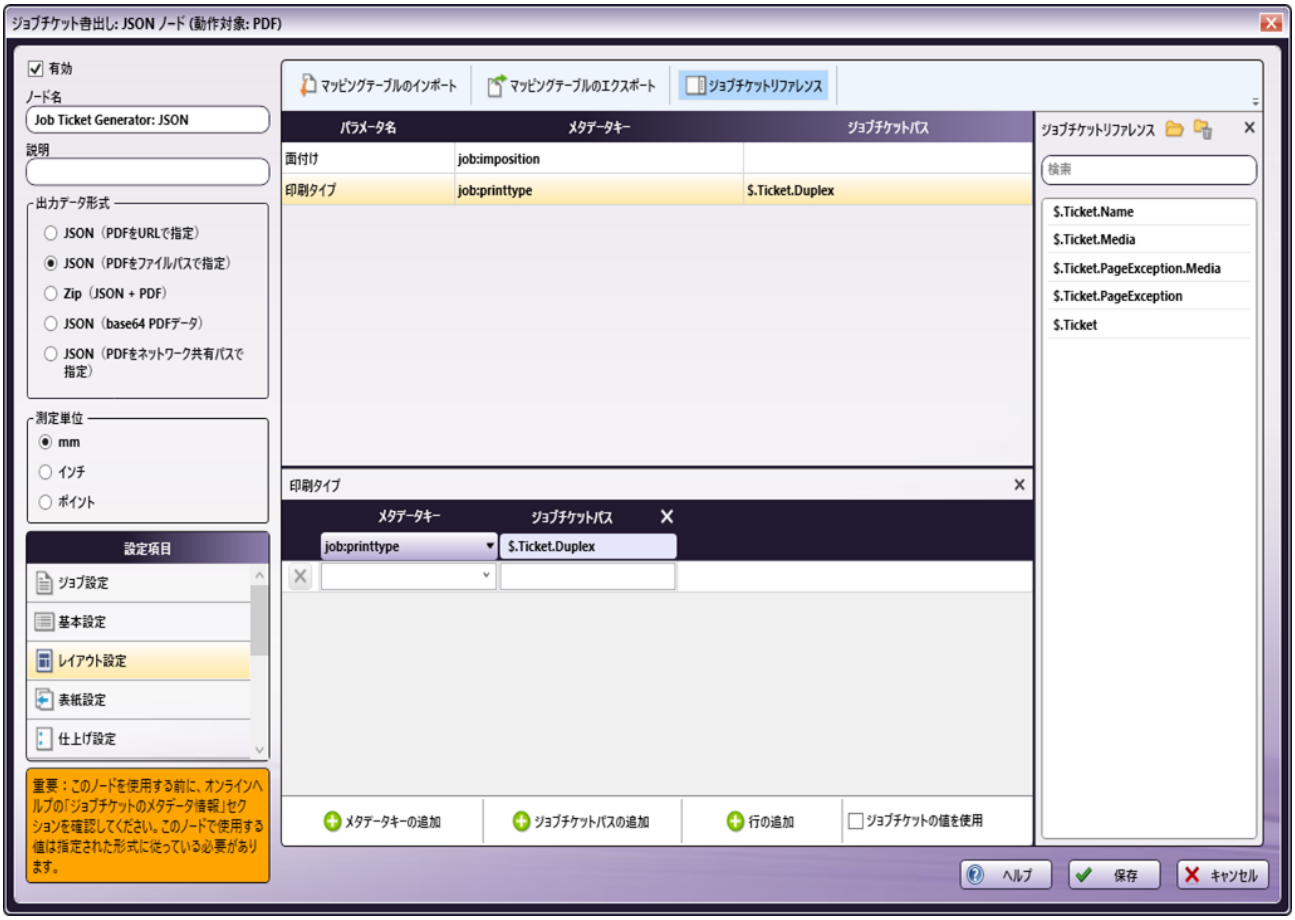


6. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
7. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

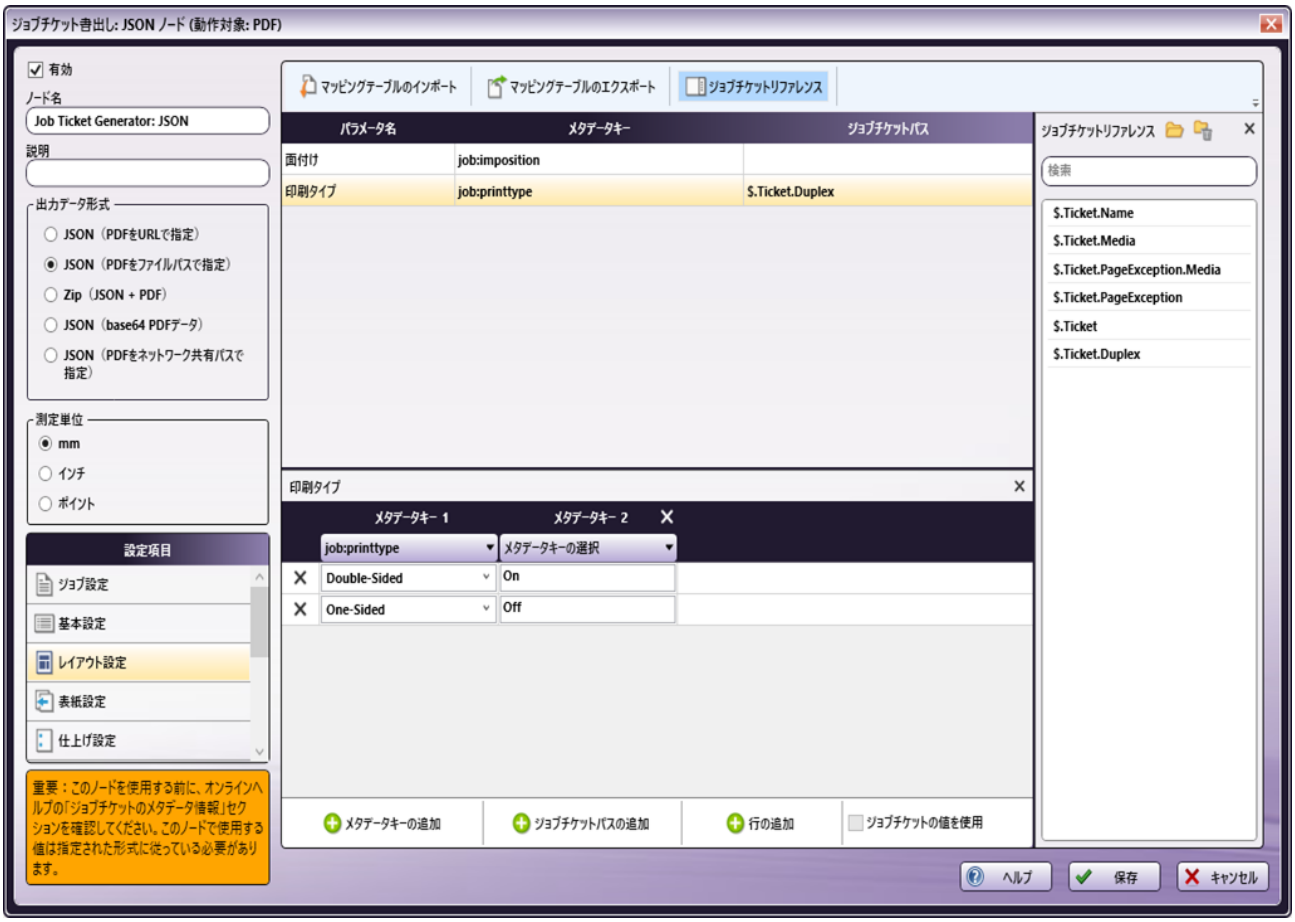
値マップの構成

この機能を使用して、ジョブチケットのパスに対して1つ以上の値を構成できます。以下の例では、**[印刷タイプ]** のXPath値がマッピングされています。これが完了すると、設定が編集され、**Duplex**に対して設定の値マップが指定されます。

1. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。
2. **[印刷タイプ]** 行をクリックして、**値マップ**パネルを開きます。



3. デフォルトでは、1つの値マップ行が表示されます。2つの値をマッピングする必要があるため、[行の追加]をクリックして、2つ目の値マップ行を追加します。



4. 1つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[Double-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「On」と入力します。

5. メタデータの値が**Double-Sided** である場合、ジョブチケットは `$.Ticket.Duplex` の値を“On”として書き込みます。
6. 2つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[One-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「Off」と入力します。
7. メタデータの値が**One-Sided**である場合、ジョブチケットは `$.Ticket.Duplex` の値を“Off”として書き込みます。
8. 終了したら、**[保存]** をクリックします。変更を元に戻すには、**[キャンセル]** をクリックします。

ジョブチケット書出し:JSONノードワークフローのサンプル

上記のワークフローでは、ジョブチケットファイル(json_sample_jobticket_file.jsonなど)が**入力フォルダー**に移動されます。これは、**ジョブチケット読込:JSON** ノードに送信され、ジョブチケットJSONがジョブチケットメタデータに変換されます(前のセクションで説明)。これが完了すると、データが**ジョブチケットエディター**ノードに転送され、**[コピー]の値が100に変更されます。そこから、ジョブはジョブチケット書出し:JSON**ノードに移動され、メタデータからJSONジョブチケットファイルが生成されます。指定された出力形式に応じて、変換されたファイルは**出力フォルダー**に送信されます。

入力フォルダーノード: ファイルを集めて、ジョブチケット読込:JSONノードへ送るように入力フォルダーを構成します。

ジョブチケット読込:JSONノードを使用して、JSONファイルに保存されている情報を解析し、解析済みの情報をメタデータとして書き込むことができます。JSONファイルには、ジョブチケットフィールドとジョブチケット値フィールドが含まれます。このノードでは、ジョブチケットフィールドとそれに対応するジョブチケットの値が読み取られてから、メタデータが更新されます。ジョブチケットデータをメタデータの値にマップするのに、マッピングテーブルが使用されます。

PDFファイルの場所は、JSONファイルのURLフィールドに記載されており、その情報を使用してPDFファイルがノードにダウンロードされます。入力ファイルがZIPファイル(JSON + PDF)である場合、ファイルが解凍されてから、JSONファイルが処理されます。

詳細については、このヘルプファイルの**ジョブチケット読込:JSONノード**のトピックを参照してください。

ジョブチケットエディターノード: このノードを使用してジョブの**部数**を変更します。

1. **ジョブチケットエディター**ノードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. 左側のパネルから、**[基本設定]** を選択します。
3. **[コピー]** をクリックし、右側のパネルにドラッグします。

4. **[メタデータ値]** を100に変更します。
5. **[メタデータがすでに存在する場合]** ドロップダウンから、**[置換]** を選択します。

6. **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

ジョブチケット書出し:JSONノード: このノードの目的と設定手順については、このセクションに先行する箇所で説明されています。

出力フォルダーノード: すべてのワークフロー処理が正しく適用されると、出力フォルダーノードで設定されたフォルダーパスにジョブが送られます。以下の出力されたメタデータは、このドキュメントの前のセクションで説明した設定に基づいています。

```
{
   “Ticket”: {
       “Name”: “Sample JSON Job”,
       “Quantity”: 5,
       “Duplex”: “On”,
       “Media”:
          {
             “Color”: “Yellow”
          },
       “File”: “file”,
       “Src”: “C:\\Temp\\Testfile.pdf”,
       “PageException”: [
          {
             “Range”: “1-5”,
             “Media”:
                {
                   “PaperName”: “A4”
                }
          }]
       }
}
```

ジョブチケット書出し: XML

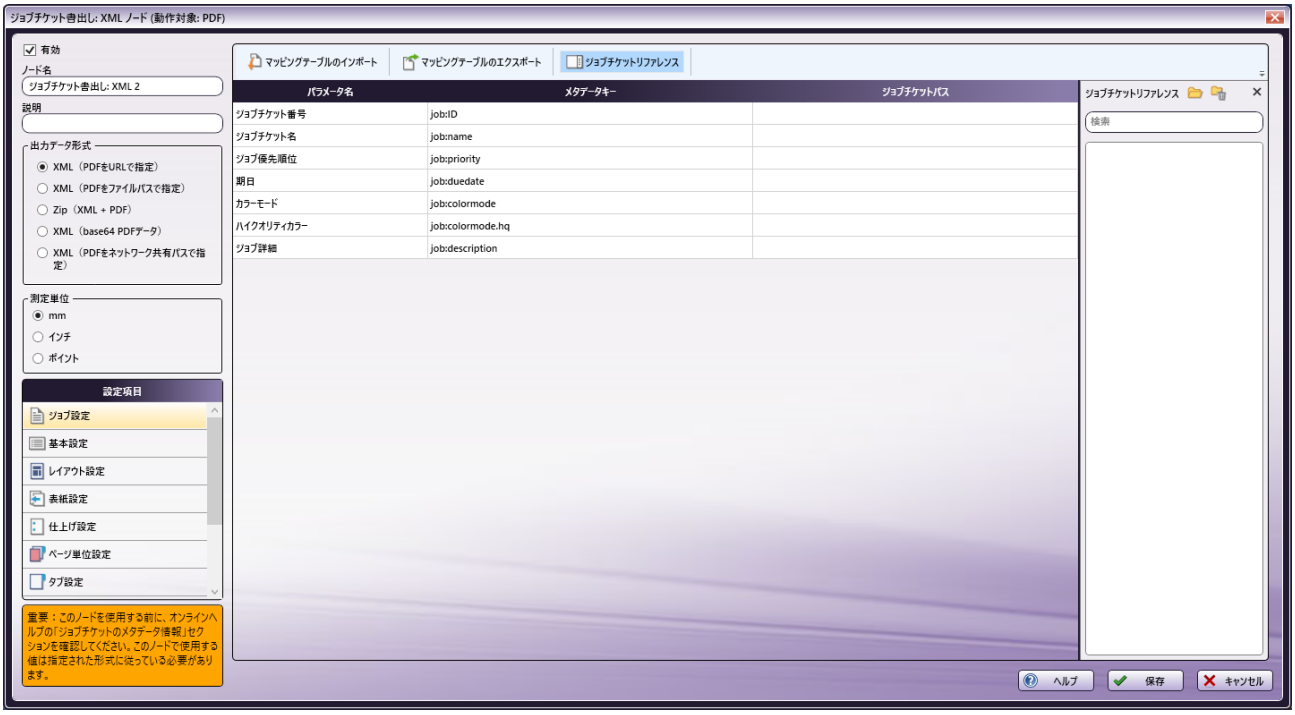
ジョブチケット
書出し: XML

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

ジョブチケット書出し:XMLノードを使用して、マッピングテーブルファイル上で対応するDispatcherのメタデータ値でXMLファイルを作成または更新できます。そのメタデータにXMLファイルパスが存在しない場合は、このノードで新しいXMLファイルが作成され、対応するメタデータ値が追加されます。ファイルパスが存在する場合、既存のXMLファイルがメタデータで更新されます。

ジョブチケット書出し: XMLノードを使う

ジョブチケット書出し:XMLノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**ジョブチケット書出し:XML**ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**[ジョブチケット書出し:XML]** ウィンドウが開きます。

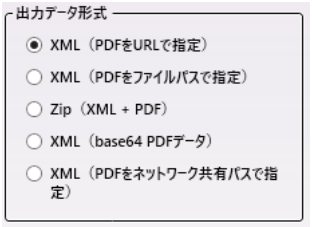


このウィンドウでは、UIの一部であるマッピングテーブルエディターを使用して、マッピングテーブルを作成またはインポートできます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、ジョブチケット書出し：XMLノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、ジョブチケット書出し：XMLノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[測定単位]** パネルでは、測定単位のラジオボタンを選択します。**mm**、**インチ**、および**ポイント**の3種類の測定単位を利用できます。
- **ジョブチケット書出し：XML**の設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

出力データ形式

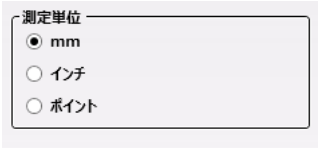
[出力データ形式] 領域で、次のいずれかのノード出力形式を選択します。



- **[XML（PDFをURLで指定）]**：生成されるジョブチケットのXMLファイルに、ローカルPDFのURLが含まれます。
- **[XML（PDFをファイルパスで指定）]**：生成されるジョブチケットのXMLファイルに、ローカルPDFのパスが含まれます。
- **[Zip（XML + PDF）]**：出力はXMLファイルおよびPDFファイルです。
- **[XML（base64 PDFデータ）]**：出力は、base64エンコードされたPDFデータを含むXMLファイルです。
- **[XML（PDFをネットワーク共有パスで指定）]**：生成されるジョブチケットのXMLファイルに、ネットワーク共有PDFのパスが含まれます。

測定単位

このオプションを使用して、測定単位を指定します。



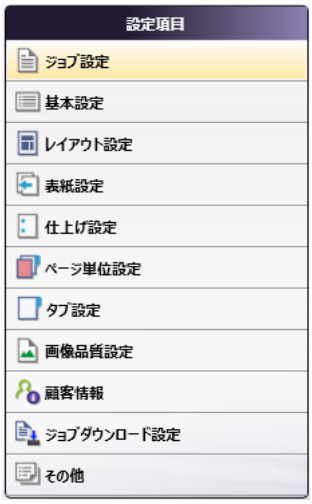
以下の3つのオプションがあります。

- mm
- インチ
- ポイント

  注意: すべての英語ロケールのシステムでは、デフォルトでインチが選択されます。その他のロケールでは、デフォルトはmmです。デフォルト値に関係なく、使用可能な3つの値のうちいずれかに変更できます。

設定項目 パネル

ジョブチケットパラメータは、パネルに表示された11個のグループに分類されています。設定値を表示するには、いずれかのメニューオプションをクリックします。



- **[ジョブ設定]**:[ジョブ設定]を選択して、**[ジョブチケット番号]**、**[ジョブチケット名]**、**[ジョブ優先順位]**、**[期日]**、**[カラーモード]**、**[ハイクオリティカラー]**、または **[ジョブ詳細]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[基本設定]**:**[基本設定]を選択して、[部数]**、**[部単位で印刷]**、**[オフセット]**、**[部数仕分け]**、**[枚数仕分け]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[坪量]**、**[用紙種類]**、**[色紙]**、**[ユーザー定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[用紙サイズ単位]**、または **[方向]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[レイアウト設定]**:[レイアウト設定]を選択して、**[面付]** または **[印刷タイプ]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[表紙設定]**:[表紙設定]を選択して、**[オモテ表紙]**、**[オモテ表紙の用紙名]**、**[ウラ表紙]**、または **[ウラ表紙の用紙名]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[仕上げ設定]**:[仕上げ設定]を選択して、**[とじ位置]**、**[中とじ]**、**[トリム]**、**[ステープル]**、**[パンチ]**、**[折り]**、**[くるみ製本]**、**[くるみ製本モード]**、**[くるみ製本トレイ]**、**[くるみ製本両面]**、**[くるみ製本背表紙]**、**[くるみ製本表紙幅]**、**[くるみ製本表紙高さ]**、**[くるみ製本表紙サイズ]**、**[くるみ製本表紙坪量]**、**[リングバインド]**、**[リングバインドオモテ表紙]**、または **[リングバインドウラ表紙]** のジョブチケットパラメータを編集します。

-**[ページ単位設定]**:[ページ単位設定]を選択して、**[印刷種類]**、**[とじ位置]**、**[用紙カタログID]**、**[用紙名]**、**[給紙トレイ]**、**[用紙種類]**、**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[色紙]**、**[ユーザー定義色]**、**[穴あき紙の使用]**、**[タブ種類]**、**[ページ単位設定数]**、**[ステープル]**、**[パンチ設定]**、**[パンチ]**、または **[ステープル仕上げ]** のジョブチケットパラメータを編集します。

- **[タブ設定]**:**[用紙幅]**、**[用紙高さ]**、**[用紙サイズ]**、**[坪量]**、**[タブ文字]**、**[ページ番号]**、**[ファイル順序]**、または **[タブ数]** を選択します。
- **[画像品質設定]**:[画像品質設定]を選択して **[解像度]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[顧客情報]**:[顧客情報]を選択して、**[コメントURL]**、**[お客様の名前]**、**[お客様の姓]**、**[お客様の住所]**、**[お客様の丁目・番地]**、**[お客様の市区町村]**、**[お客様の都道府県]**、**[お客様の郵便番号]**、**[お客様の国]**、**[お客様の会社]**、**[お客様の電話番号]**、**[お客様のファクス番号]**、**[お客様の電子メール]**、または **[ジョブ作成者]** のジョブチケットパラメータを編集します。
- **[ジョブダウンロード設定]**:このオプションを選択して、印刷ファイルの取得にどの印刷ファイルオプションを使用するかを指定します。指定できるオプションには **[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]**、または **[ネットワーク共有から取得]** があります。
- **[その他]**:どの設定項目にもないカスタムジョブチケットパラメータを扱う場合は、**[その他]** ページを使用して新しいフィールドを追加します。

ツールバー

ツールバーは、**[ページ単位設定]** と **[その他]** の設定項目オプションが選択されている場合にのみ表示されます。以下に示す例では、**[その他]** の設定項目オプションが選択されています。ページ単位設定のツールバーは、この例とは異なります。以下に、利用可能なツールバーのオプションをすべて示します。

- **[新規追加]**:変換ルールを定義する新しいエントリーパラメータを追加するには、このオプションを使用します。このオプションは**【その他】**設定項目でのみ使用できます。
- **[削除]**:パラメータのエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは**【その他】**設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を追加]**:別の組み合わせの**ページ単位設定**を追加するには、このオプションを使用します。このオプションは**【ページ単位設定】**設定項目でのみ使用できます。
- **[ページ単位設定を削除]**:**ページ単位設定**のエントリーを削除するには、このオプションを使用します。このオプションは**【ページ単位設定】**設定項目でのみ使用できます。
- **[マッピングテーブルのインポート]**:クリックするとファイルのダイアログが開き、インポートするマッピングテーブルのxmlファイルを選択できます。
- **[マッピングテーブルのエクスポート]**:この機能を使用して、外部にあるマッピングテーブルのxmlファイルに適用した構成変更を保存できます。
- **[ジョブチケットリファレンス]**:**[ジョブチケットリファレンス]パネル**の表示と非表示を切り替えるには、このオプションを使用します。

マッピングテーブルパネル

このパネルでは、ジョブチケットパラメータと**Dispatcherメタデータ**間のマッピング値を定義します。このパネルは以下の3つの列で構成されています。

パラメータ名	メタデータキー	ジョブチケットパス
ジョブチケット番号	job:ID	
ジョブチケット名	job:name	
ジョブ優先順位	job:priority	
期日	job:duedate	
カラーモード	job:colormode	
ハイクオリティカラー	job:colormode.hq	
ジョブ詳細	job:description	

- **[パラメータ名]**:この列は、ジョブチケットパラメータのわかりやすい名前を示します。
- **[メタデータキー]**:この列は、パラメータ名ごとの**Dispatcherメタデータキー**を示します。
- **[ジョブチケットパス]**:既定では、この列は空です。この列には、各ジョブチケットパラメータに対応するXMLファイルのパスを入力します。

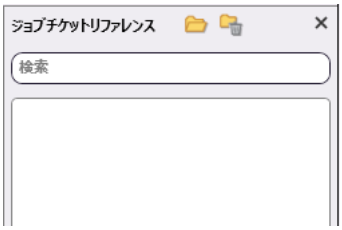
値マップパネル

メタデータ値と**ジョブチケット**値間の変換ルールを定義するには、このパネルを使用します。テーブルに値を入力します。**メタデータキーとジョブチケットパス**が列見出しに表示され、必要に応じてエントリーの追加や削除ができます。

- **[メタデータキーの追加]**:新しい**メタデータキー**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットパスの追加]**:新しい**ジョブチケットパス**を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[行の追加]**:新しい値マップ行を追加するには、このボタンをクリックします。
- **[ジョブチケットの値を使用]**:このチェックボックスをオンにすると、ジョブチケットの値がそれに対応する**メタデータキー**と共に保持され、変換が適用されずに保存されます。

  注意:チェックボックスは、1対1マッピングの場合にのみ使用できます。他のすべての条件では、このオプションはグレー表示され、有効にすることはできません。

[ジョブチケットリファレンス]パネル



［開く］ボタン( )をクリックすると、サンプルのジョブチケットファイルを開くことができます。ジョブチケットを選択すると、そのチケットで使用できるXMLファイルのパスがすべてテーブルにリストで表示されます。このリストから項目を**マッピングテーブルパネル**へドラッグし、目的の**［ジョブチケットパス］**列にドロップします。

このリストの内容を消去するには**［クリア］**ボタン( )をクリックします。

マッピングテーブルの基本的な操作

ジョブチケットファイル

ジョブチケット書出し:XMLノードは、メタデータをXMLジョブチケットファイルに変換するために使用されます。

注意: アドインマネージャーを使用してDispatcher Phoenixにジョブチケット書出しノードを追加すると、サンプルのジョブチケットファイルを表示できます。これらのファイルは、以下のパスにあります。

\Program Files\Common Files\Konica Minolta\Phoenix\Resources\JobTicketGeneratorXMLNode

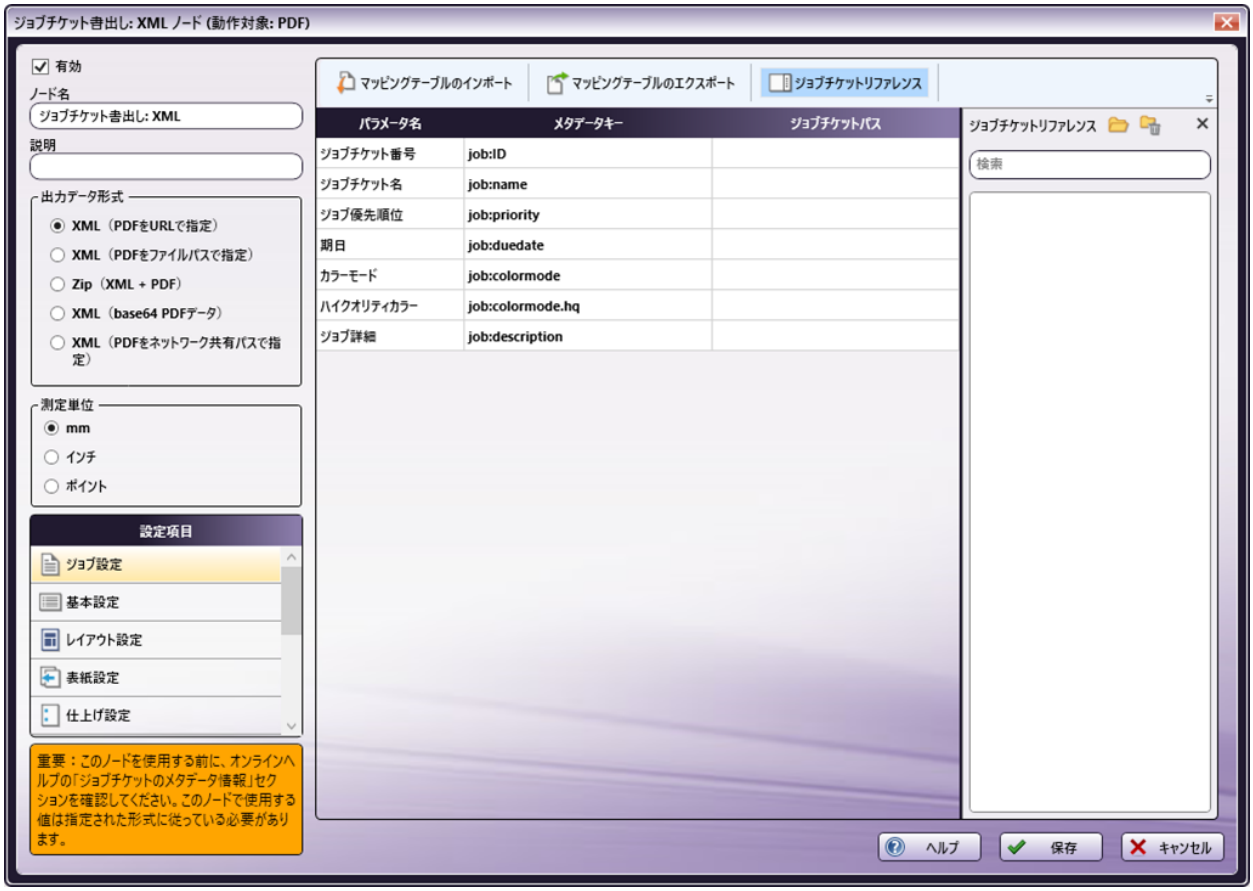
上記のサンプルのジョブチケットには、そのチケットで使用できるすべてのジョブチケットパラメータが含まれています。ファイルをサポートするために必要なパラメータを含むように、サンプルのジョブチケットを変更できます。外部のサードパーティー製のアプリケーションを使用して、ジョブチケットファイルを生成することもできます。この場合、これをサンプルファイルとして使用できます。

ジョブチケット書出し:XMLノードでは、ドキュメントレベル値とページ単位設定値を使用してジョブチケットパラメータを定義します。以下の説明では、サンプルのジョブチケットがシンプルなドキュメントとページ単位レベルの設定で変更されています。このサンプルのジョブチケットは、以降の説明に使用されます。

```
<Ticket>
    <Name>Sample XML Job</Name>
    <Quantity>5</Quantity>
    <Duplex>On</Duplex>
    <Media>
        <Color>Yellow</Color>
    </Media>
    <Src>C:\Temp\Testfile.pdf</Src>
    <File>file</File>
    <PageException>
        <PerPageSetting>
            <PageRange>1-5</PageRange>
            <Media>
                <PaperName>A4</PaperName>
            </Media>
        </PerPageSetting>
    </PageException>
</Ticket>
```

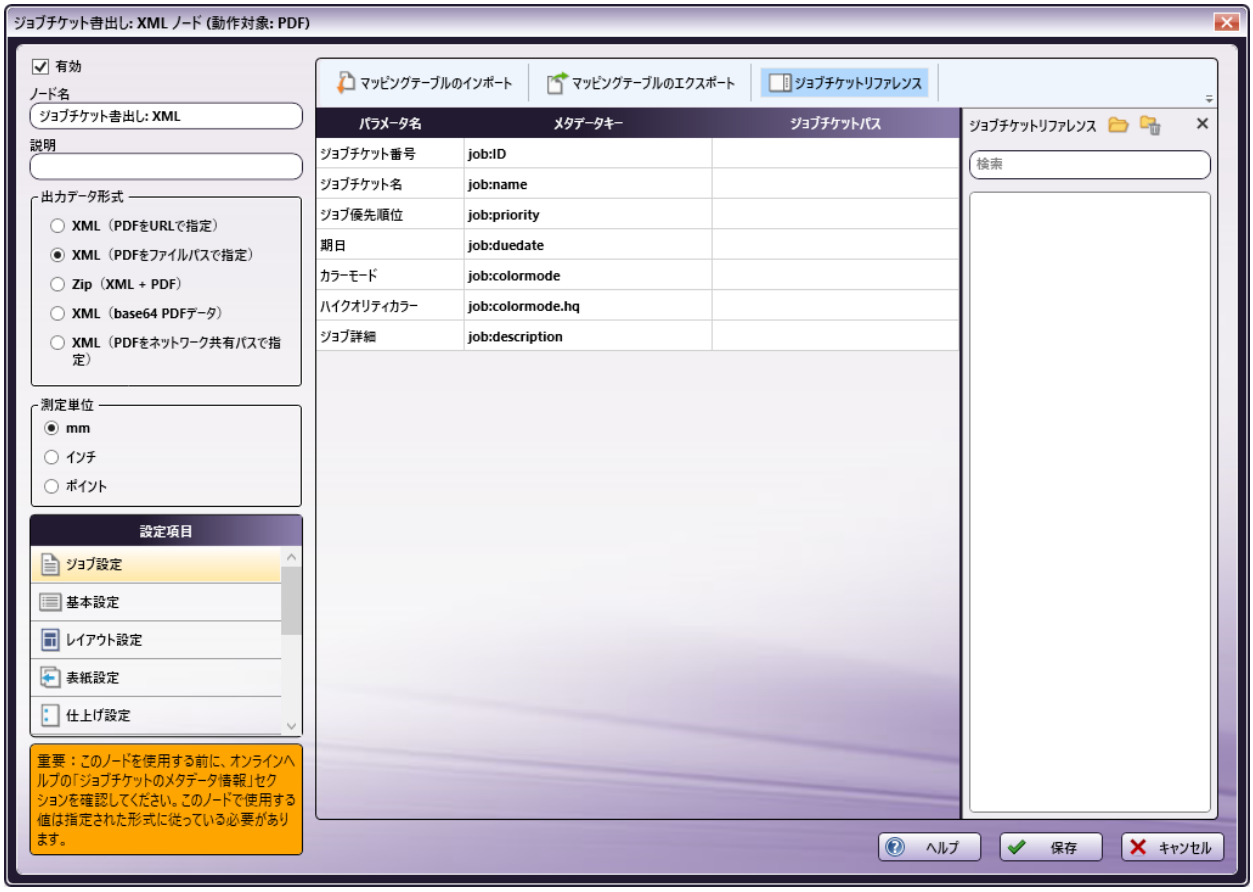
ジョブチケットファイルを使用したマッピングテーブルの構成

1. テキストエディタを使用して、上記のサンプルXMLファイルをコピーします。
2. 上記のサンプルジョブチケットの**<Src>**要素は、既存のPDFファイルへの有効なパスを含むように変更する必要があります。
3. ファイルをxml_sample_jobticket_file.xmlとしてローカルに保存します。
4. **ジョブチケット書出し:XML**ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。

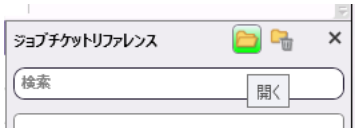


5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
   - **［有効］**チェックボックス：オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
   - **［ノード名］**：ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
   - **［出力データ形式］**：**［XML（PDFをファイルパスで指定）］**出力データ形式のラジオボタンを選択します。
   - **［測定単位］**：ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。

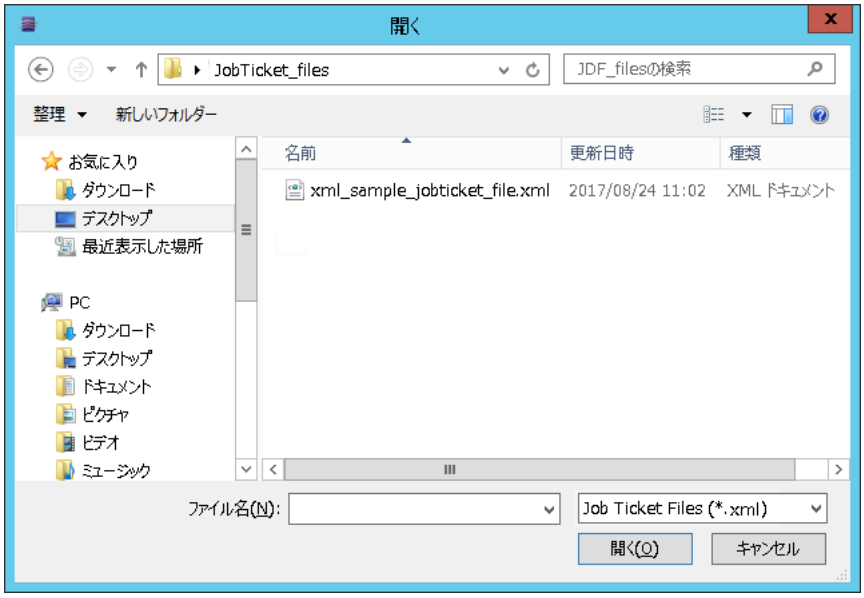
注意：入力ジョブチケットにメタデータ値{job:paper.unit}が含まれている場合、［測定単位］フィールドで選択されている値はこのメタデータ値によって上書きされます。



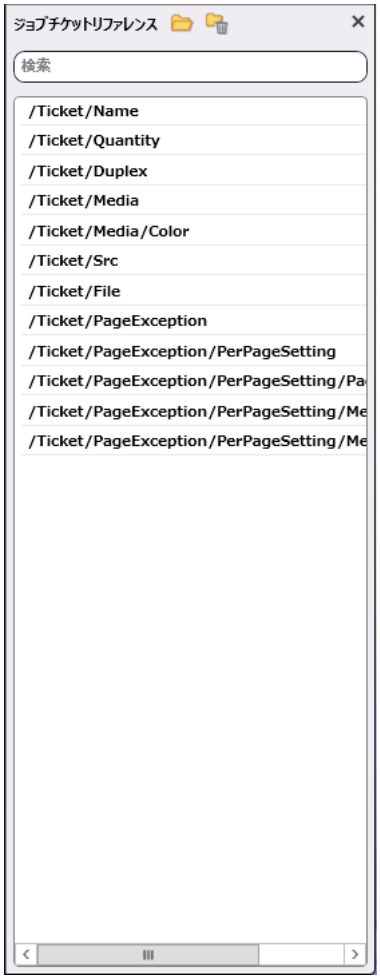
6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネル（右端）で、**[開く]** アイコンを見つけます。



7. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル（xml_sample_jobticket_file.xml）に移動して選択します。



8. ファイルが開くと、その内容（つまりXPath）が次の画面のように、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルに表示されます。



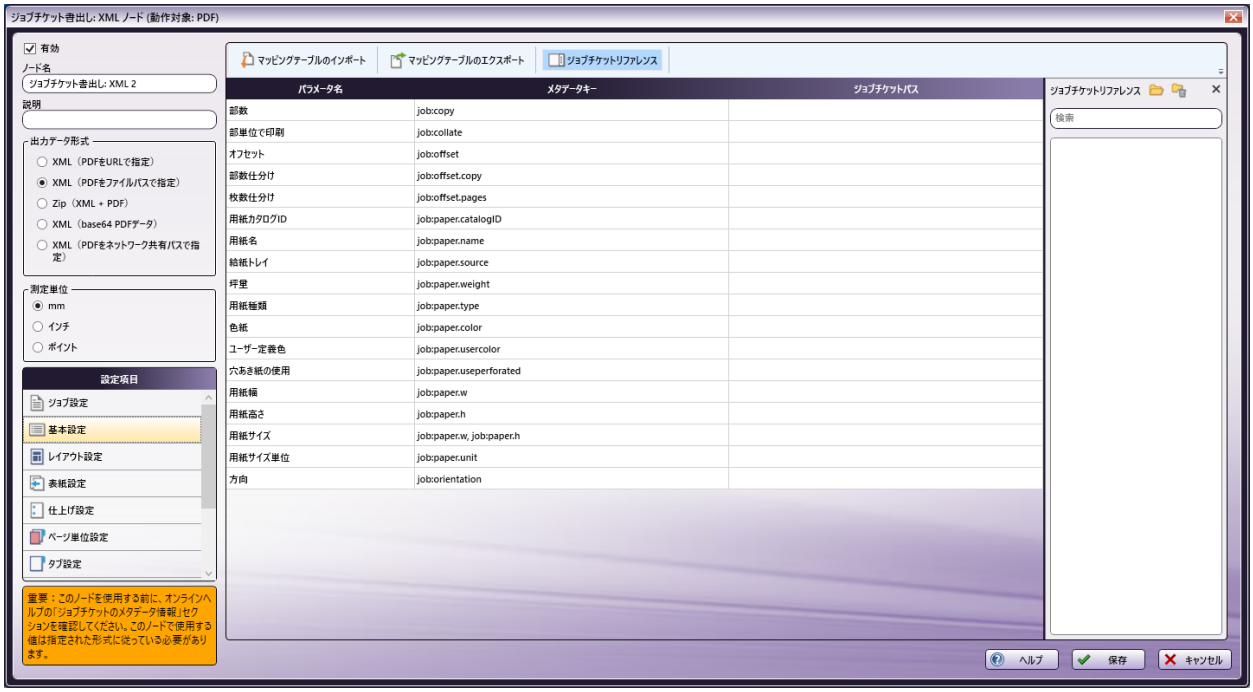
XPathのマッピング

XPath値が使用可能になったら、メインパネルの **[パラメータ名]**／**[メタデータキー]** の値にマッピングする必要があります。そのためには、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値をクリックし、その値をメインパネルの対応する **[ジョブチケットパス]** セルにドラッグします。

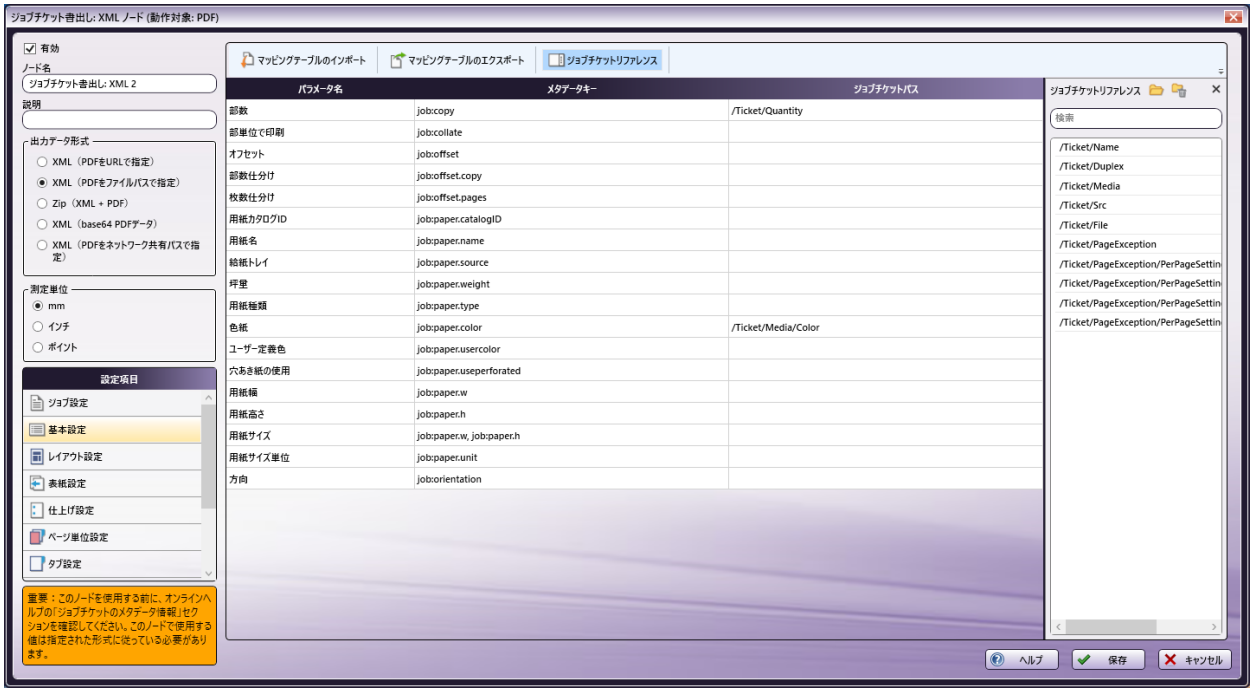
ノードの左側の **[設定項目]** パネルを使用して、いくつかのオプションを指定できます。オプションをクリックすると、メインパネルに含まれている **[パラメータ名]**／**[メタデータキー]** の値が開きます。

基本的な[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

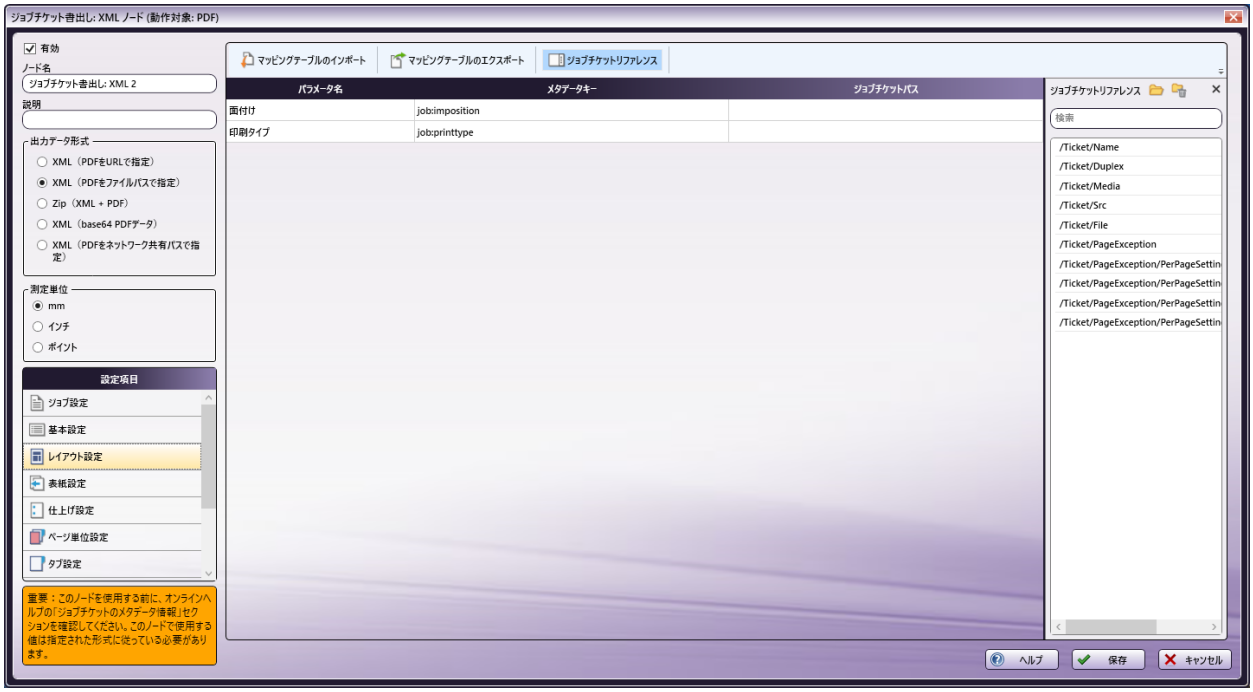
1. **[設定項目]パネルで、[基本設定]オプションをクリックします。[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



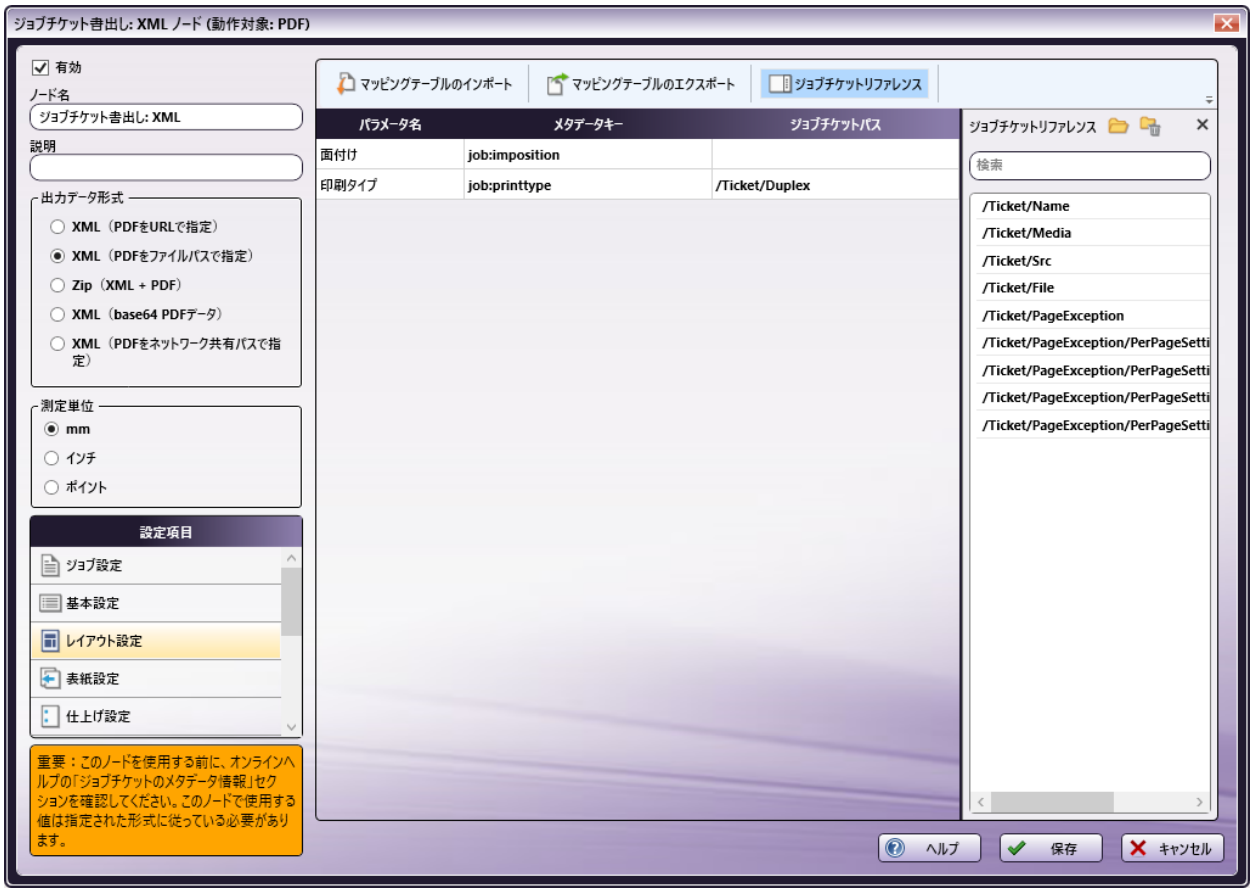
2. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
3. **[コピー]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Quantity** をドラッグアンドドロップします。**[色紙]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Media/Color** をドラッグアンドドロップします。
4. ドラッグアンドドロップした値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。



5. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**／**[メタデータキー]** および **[ジョブチケットパス]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
7. **[印刷タイプ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Duplex** をドラッグアンドドロップします。

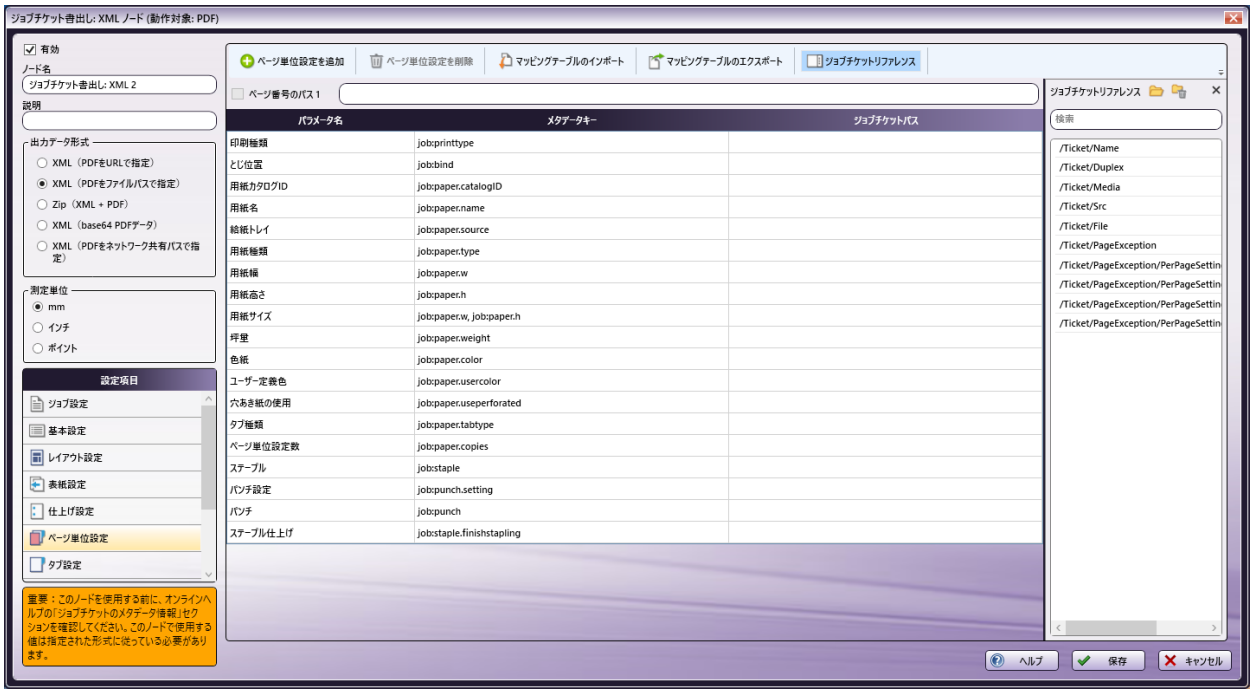


8. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
9. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ページ単位設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

［ページ単位設定］設定項目 は、ページ単位設定を構成するために使用されます。これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。ページ単位設定はページレベルのメタデータを生成します。

1. **［設定項目］** パネルで、**［ページ単位設定］** オプションをクリックします。**［ページ番号のパス1］**、**［パラメータ名］**／**［メタデータキー］**、および **［ジョブチケットパス］** フィールドが、メインパネルに表示されます。

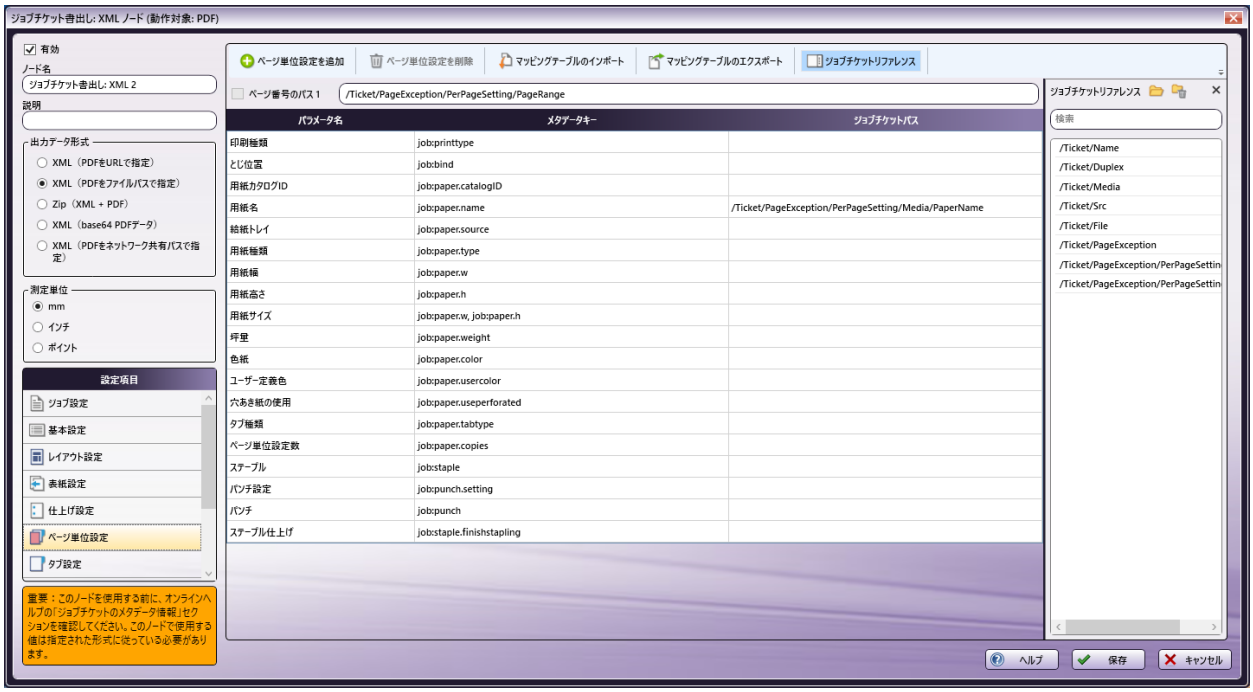


2. **［ジョブチケットリファレンス］** パネルから、**/Ticket/PageException/PerPageSetting/PageRange** を **［ページ番号のパス1］** テキストボックスにドラッグアンドドロップします。

   注意: ［ページ番号のパスn］ の内容は **"/Ticket/"** で始まる文字列である必要があります。

3. **［ジョブチケットリファレンス］** パネルから、**/Ticket/PageException/PerPageSetting/Media/PaperName** を **［用紙名］** の **［ジョブチケットパス］** フィールドにドラッグアンドドロップします。

4. 完了した画面は次のように表示されます。



5. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**［ジョブチケットリファレンス］** パネルから削除されます。

6. 必要に応じて、他の **［設定項目］** オプションについて同じ手順を繰り返します。

[ジョブダウンロード設定]の[パラメータ名]／[メタデータキー]の値のマッピング

[ジョブダウンロード設定]設定項目は、ジョブのPDFファイルの送信元となる入力ソースを有効にするために使用されます。**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]**（PDFデータはbase64形式で埋め込まれています）、および **[ネットワーク共有から取得]** の4つの値がサポートされています。

これらの設定を有効にするには、XPath値を有効にしてマッピングする必要があります。

サンプルXMLジョブチケットファイル：

以下の例は、各ジョブダウンロードオプションで、コードによりPDFファイルがどのように表示されるかを示しています。

ローカルパスから取得

- <Src>C:\Temp\Testfile.pdf</Src>
- <File>file</File>

  注意： ファイルタイプキーワード **file**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

URLからダウンロード

- <Src>http://10.146.171.98/testapp8/Testfile.pdf</Src>
- <File>http</File>

  注意： ファイルタイプキーワード **http**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

ジョブチケットからbase64**データを取得**

- <Src>xxddgdfexdgfgngn...</Src>
- <File>base64</File>

  注意： ファイルタイプキーワード **base64**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

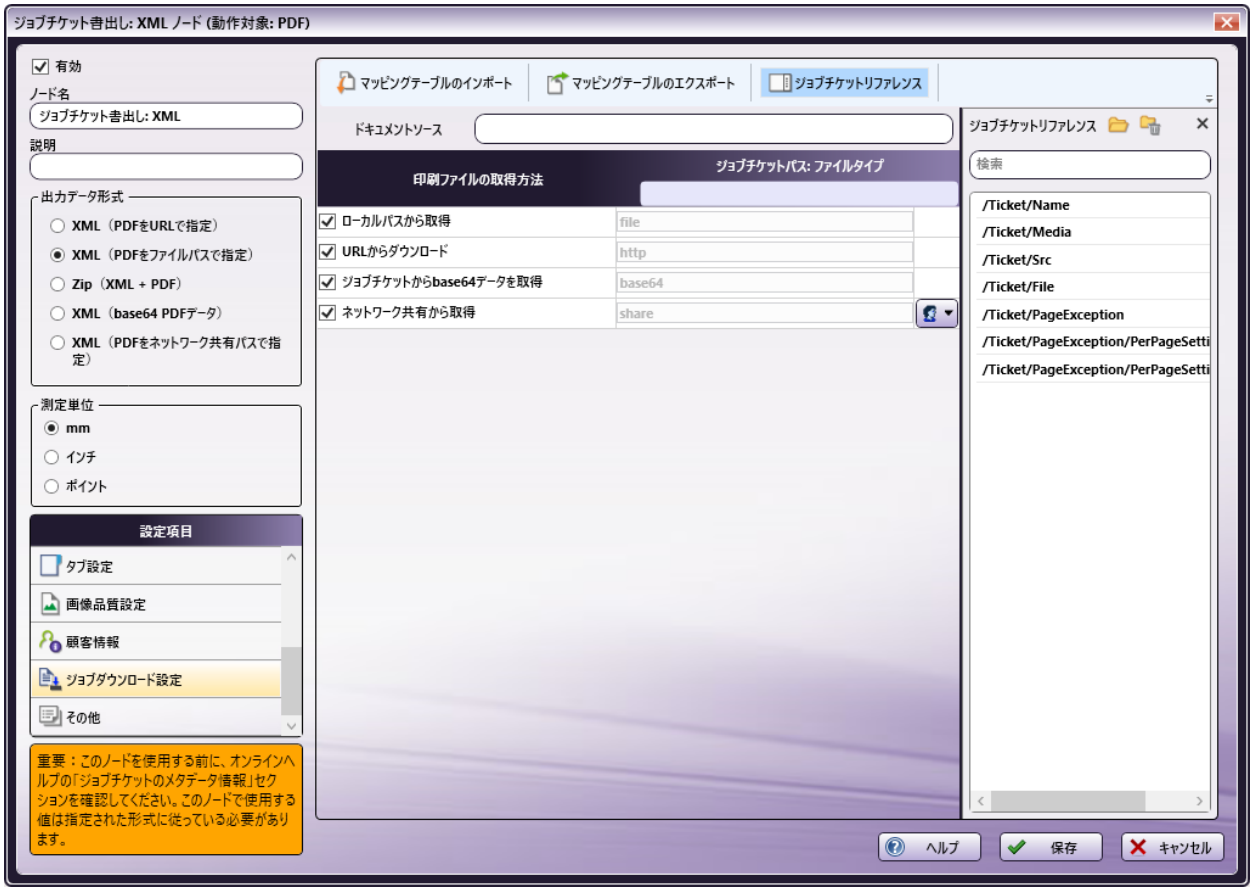
ネットワーク共有から取得

- <Src>\\11.12.13.14\Temp\Testfile.pdf</Src>
- <File>share</File>

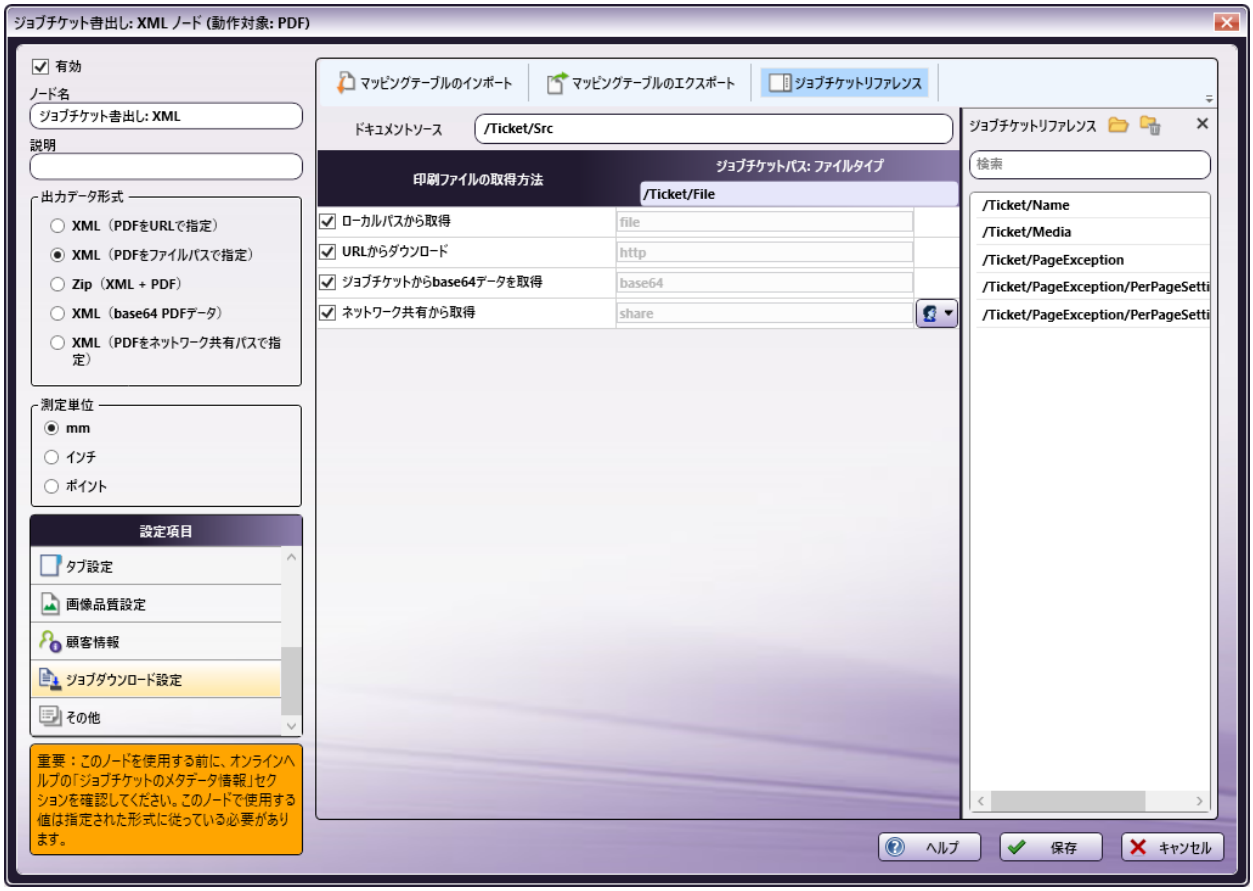
  注意： ファイルタイプキーワード **share**と入力するジョブチケットファイルに記載されたファイルタイプのキーワードは一致している必要があります。

前述したように、UI出力データ形式の選択に基づいて、生成されたXMLジョブチケットファイルの@Fileおよび@Srcの値が更新されます。

1. **[設定項目]** パネルで、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]**、**[印刷ファイルの取得方法]**、および **[ジョブチケットパス：ファイルタイプ]** フィールドが、メインパネルに表示されます。



2. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]**、および **[ネットワーク共有から取得]** の4つのオプションのチェックボックスをすべて選択します。
3. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/Ticket/Src** をドラッグアンドドロップします。
4. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドに **/Ticket/File** をドラッグアンドドロップします。
5. 完了した画面は次のように表示されます。

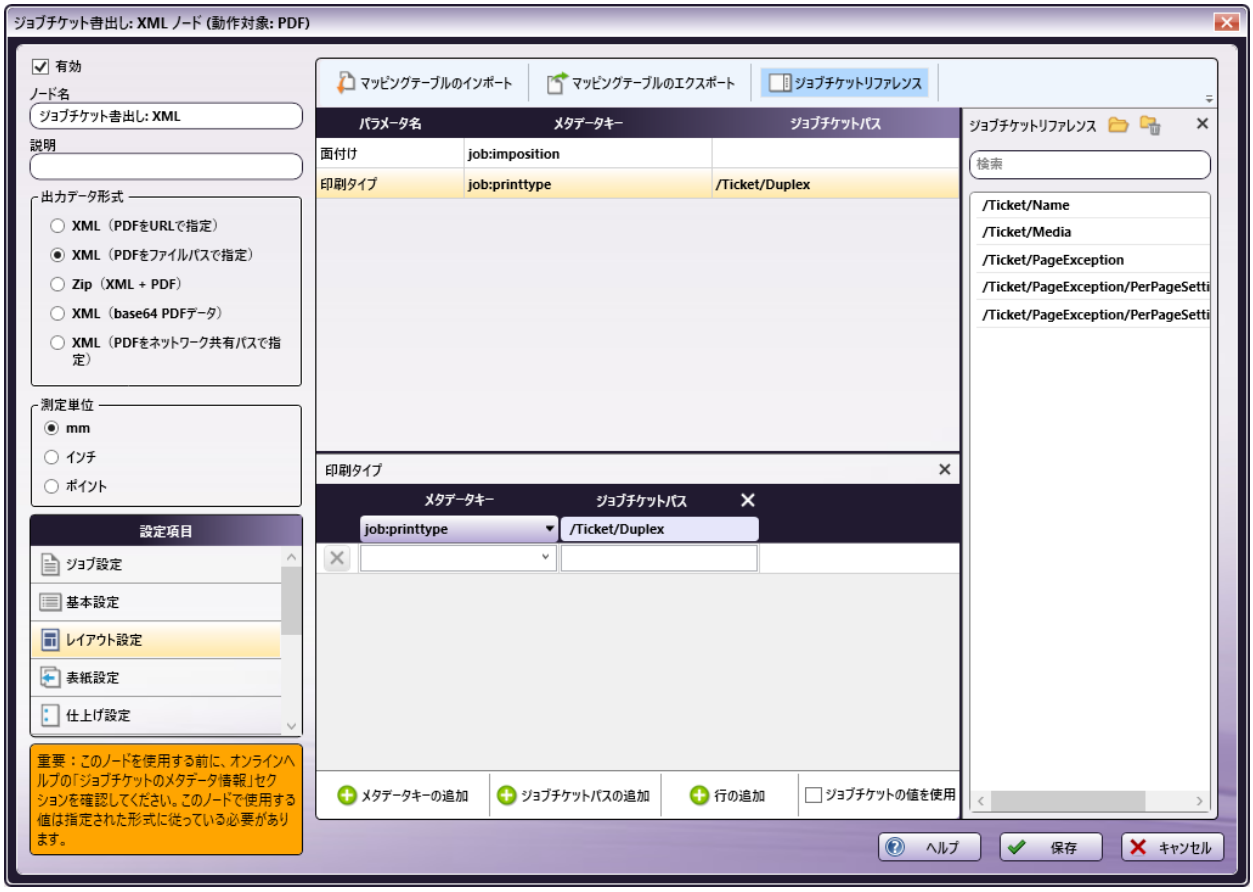


6. ドラッグアンドドロップしたすべての値は、**[ジョブチケットリファレンス]** パネルから削除されます。
7. 必要に応じて、他の **[設定項目]** オプションについて同じ手順を繰り返します。

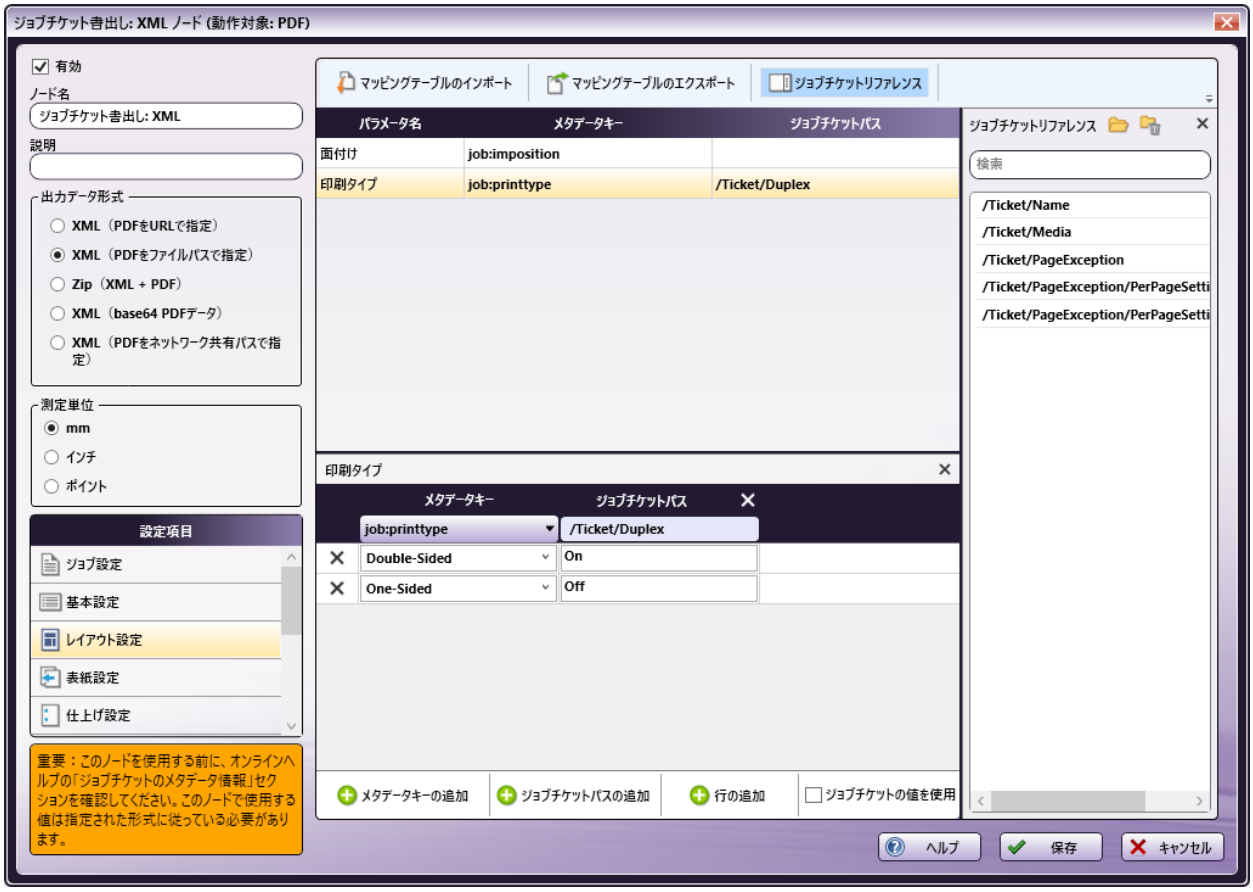
値マップの構成

この機能を使用して、ジョブチケットのパスに対して1つ以上の値を構成できます。以下の例では、**[印刷タイプ]** のXPath値がマッピングされています。これが完了すると、設定が編集され、**Duplex**に対して設定の値マップが指定されます。

1. **[設定項目]** パネルで、**[レイアウト設定]** オプションをクリックします。
2. **[印刷タイプ]** 行をクリックして、**値マップ**パネルを開きます。



3. デフォルトでは、1つの値マップ行が表示されます。2つの値をマッピングする必要があるため、**[行の追加]** をクリックして、2つ目の値マップ行を追加します。



4. 1つ目の行で、[メタデータキー]ドロップダウンメニューから **[Double-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「 **On** 」と入力します。

5. メタデータの値が**Double-Sided**である場合、ジョブチケットは **/Ticket/Duplex** の値を“**On**”として書き込みます。
6. 2つ目の行で、**[メタデータキー]** ドロップダウンメニューから **[One-Sided]** を選択し、ジョブチケットパスに対して「 **Off** 」と入力します。
7. メタデータの値が**One-Sided** である場合、ジョブチケットは **/Ticket/Duplex** の値を“**Off**”として書き込みます。
8. 終了したら、**[保存]** をクリックします。変更を元に戻すには、**[キャンセル]** をクリックします。

ジョブチケット書出し:XMLノードワークフロー

上記のワークフローでは、ジョブチケットファイル(xml_sample_jobticket_file.xmlなど)が**入力フォルダー**に移動されます。これは、**ジョブチケット読込:XML**ノードに送信され、ジョブチケットXMLがジョブチケットメタデータに変換されます(前のセクションで説明)。これが完了すると、データが**ジョブチケットエディター**ノードに転送され、**[コピー]の値が100に変更されます。そこから、ジョブはジョブチケット書出し:XML**ノードに移動され、メタデータからXMLジョブチケットファイルが生成されます。指定された出力形式に応じて、変換されたファイルは**出力**フォルダーに送信されます。

入力フォルダーノード:ファイルを集めて、ジョブチケット読込:XMLノードへ送るように入力フォルダーを構成します。

ジョブチケット読込:XMLノード:ジョブチケット読込:XMLノードを使用して、XMLファイルに保存されている情報を解析し、解析済みの情報をメタデータとして書き込むことができます。XMLファイルには、ジョブチケットフィールドとジョブチケット値フィールドが含まれます。このノードでは、ジョブチケットフィールドとそれに対応するジョブチケットの値が読み取られてから、メタデータが更新されます。ジョブチケットデータをメタデータの値にマップするのに、マッピングテーブルが使用されます。

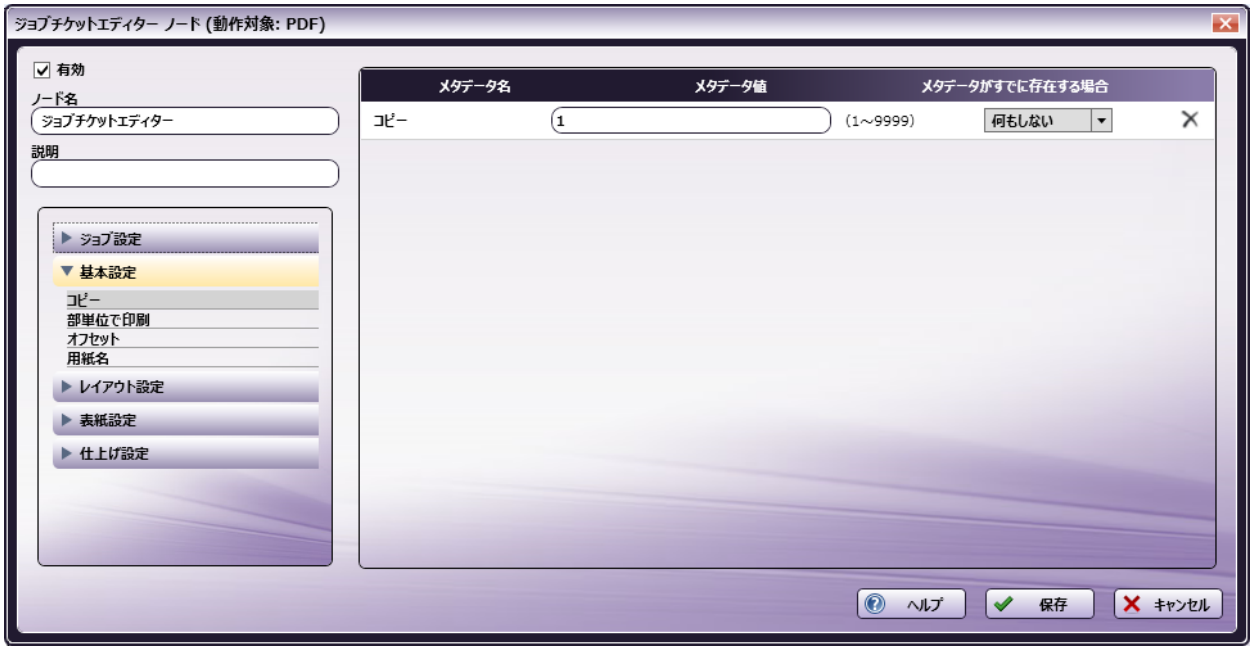
PDFファイルの場所はXMLファイルのURLフィールドに記載されており、その情報を使用してPDFファイルがノードにダウンロードされます。入力ファイルがZIPファイル(XML + PDF)である場合、ファイルが解凍されてから、XMLファイルが処理されます。

詳細については、このヘルプファイルの**ジョブチケット読込:XMLノード**のトピックを参照してください。

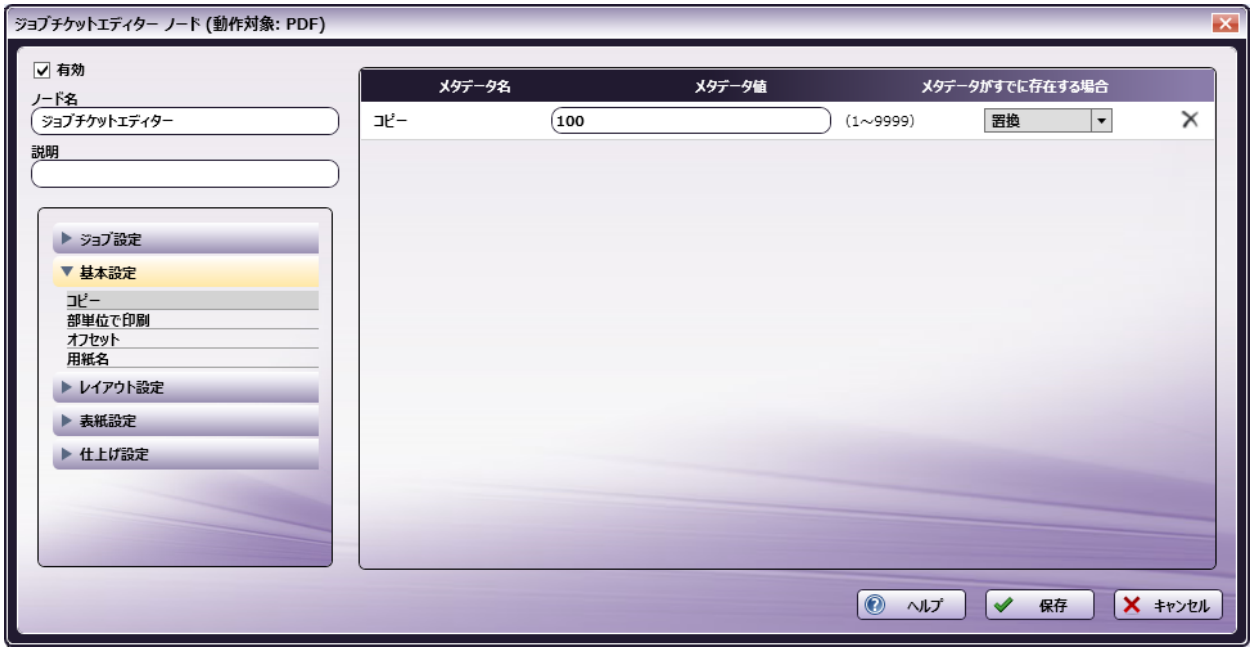
ジョブチケットエディターノード:このノードを使用してジョブの**部数**を変更します。

1. ジョブチケットエディターノードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. 左側のパネルから、**[基本設定]** を選択します。
3. **[コピー]** をクリックし、右側のパネルにドラッグします。



4. **[メタデータ値]** を100に変更します。
5. **[メタデータがすでに存在する場合]** ドロップダウンから、**[置換]** を選択します。



6. **[保存]** をクリックして、変更を適用します。

ジョブチケット書出し:XMLノード:このノードの目的と設定手順については、このセクションに先行する箇所で説明されています。

出力フォルダーノード:すべてのワークフロー処理が正しく適用されると、出力フォルダーノードで設定されたフォルダーパスにジョブが送られます。

以下の出力されたメタデータは、このドキュメントの前のセクションで説明した設定に基づいています。

```
<Ticket>
    <Name>Sample XML Job</Name>
    <Quantity>100</Quantity>
    <Duplex>On</Duplex>
    <Media>
        <Color>Yellow</Color>
    </Media>
    <Src>C:\ProgramData\Konica Minolta\conopsd\var\blox\node_4\tmp.d\Testfile.pdf</Src>
    <File>file</File>
    <PageException>
        <PerPageSetting>
            <PageRange>1-5</PageRange>
```

```
            <Media>
                <PaperName>A4</PaperName>
            </Media>
        </PerPageSetting>
    </PageException>
</Ticket>
```

ページサイズルートノード

注意: このノードは、PDF,TIFF,JPG,PNG,BMP ファイルに対応しています。

ページサイズルートノードを使用すると、入力ファイルを指定の条件（標準ページ寸法、またはカスタム寸法）と比較して、ワークフロー内の適切なノードにそのファイルを移動できます。ページサイズルートノードを使用して、ページサイズの条件を設定します。

このノードでは、以下の出力コネクターを選択できます。

- **はい:** ページサイズが指定の条件と一致する場合。
- **いいえ:** ページサイズが指定の条件と一致しない場合。
- **エラー:** ドキュメントタイプがPDF,TIFF,JPG,PNG,BMP ではない場合。

ページサイズルートノードを使う

ページサイズルートノードのアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、ページサイズルートノードをワークフローに追加します。アイコンをダブルクリックすると、[ページサイズルートノード]ウィンドウが開きます。

- **［有効］** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、デフォルトのパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **［ノード名］** フィールドに、ページサイズルートノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］** フィールドに、ページサイズルートノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、収集ノードが複数ある場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **［測定単位］** パネルでは、測定単位のラジオボタンを選択します。**mm、インチ、およびポイント**の3種類の測定単位を使用できます。
- **［画像設定］** の[DPI]フィールドにDPI値を入力します。入力イメージファイルにDPI値が存在しない場合は、[DPI] フィールドに入力したDPI値がイメージ用紙サイズの計算に使用されます。対応する解像度の範囲は1～2540 dpiで、デフォルト値は96です。
- 変更を保存するには、**［保存］** ボタンをクリックします。**［キャンセル］** を選択すると、ウィンドウが閉じて変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］** ボタンをクリックします。

ページサイズルート

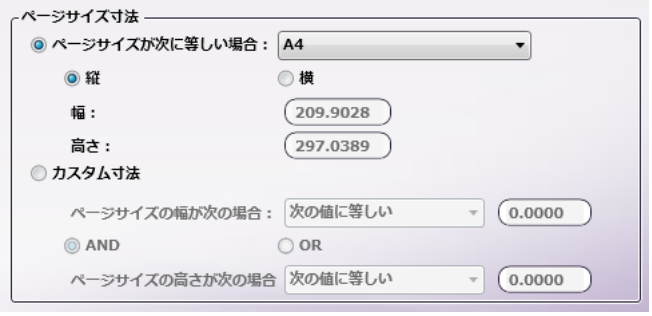
検索領域

［検索領域］に、検索が適用されるページを指定します。

- **［すべてのページ］:** 入力ドキュメントのすべてのページに条件チェックが適用されます。
- **［最初のページのみ］**: 入力ドキュメントの最初のページにのみ条件チェックが適用されます。

ページサイズ寸法

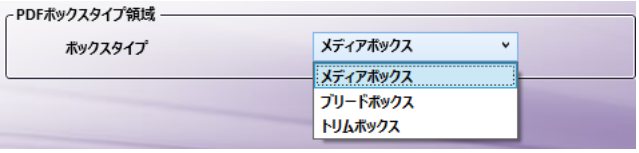
［ページサイズ寸法］領域では、2つのラジオボタンから1つを選択して、検索範囲を定めます。



- **［ページサイズが次に等しい場合］:** ドロップダウンリストから標準の用紙サイズを選択します。
  - **［縦］**または**［横］**のいずれかのページの向きを選択します。
  - **［幅］**:選択した用紙サイズの**幅**。
  - **［高さ］**:選択した用紙サイズの**高さ**。
- **［カスタム寸法］**:
  - **［ページサイズの幅が次の場合］**:ドロップダウンリストからデリミターを選択します。ここでは**［次の値に等しい］**、**［次の値より小さい］**、または**［次の値より大きい］**を選択できます。
  - 隣接するテキストボックスに**用紙サイズの幅**の値を入力します。
  - **［ページサイズの高さが次の場合］**:ドロップダウンリストからデリミターを選択します。ここでは**［次の値に等しい］**、**［次の値より小さい］**、または**［次の値より大きい］**を選択できます。
    - 隣接するテキストボックスに**用紙サイズの高さ**の値を入力します。
  - **ページの幅**と**高さ**の両方が条件と一致する必要がある場合は、**［AND］**を選択します。**ページの幅**または**高さ**のいずれかが条件と一致すればよい場合は**［OR］**を選択します。

PDF ボックスタイプ領域

［PDF ボックスタイプ領域］で、検出するボックスのタイプとして**［メディアボックス］**、**［ブリードボックス］**、または**［トリムボックス］**を選択します。



選択された値に基づき、入力PDFの**ボックスタイプ**と標準サイズまたはカスタムサイズが一致しているかどうかがノードによって確認されます。入力PDFの**ボックスタイプ**が標準サイズまたはカスタムサイズに対して設定された値と一致している場合、入力PDFは**はい**のコネクターに送られます。一致していない場合、入力PDFは**いいえ**のコネクターに送られます。**ブリードボックス**も**トリムボックス**も検出されない場合は、**メディアボックス**が使用されます。

プリフライト

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

プリフライトノード にジョブが送られると、**一般チェック** や **準拠／フィックスアップ** などのさまざまなプリフライトチェックが実行されます。このノードは **一般チェック** で該当する問題を特定し、**準拠** チェックを実行して特定されたエラーを修正します。最後に、チェック結果とフィックスアップの詳細が記述されたレポート（PDF形式）が生成されます。

注意:

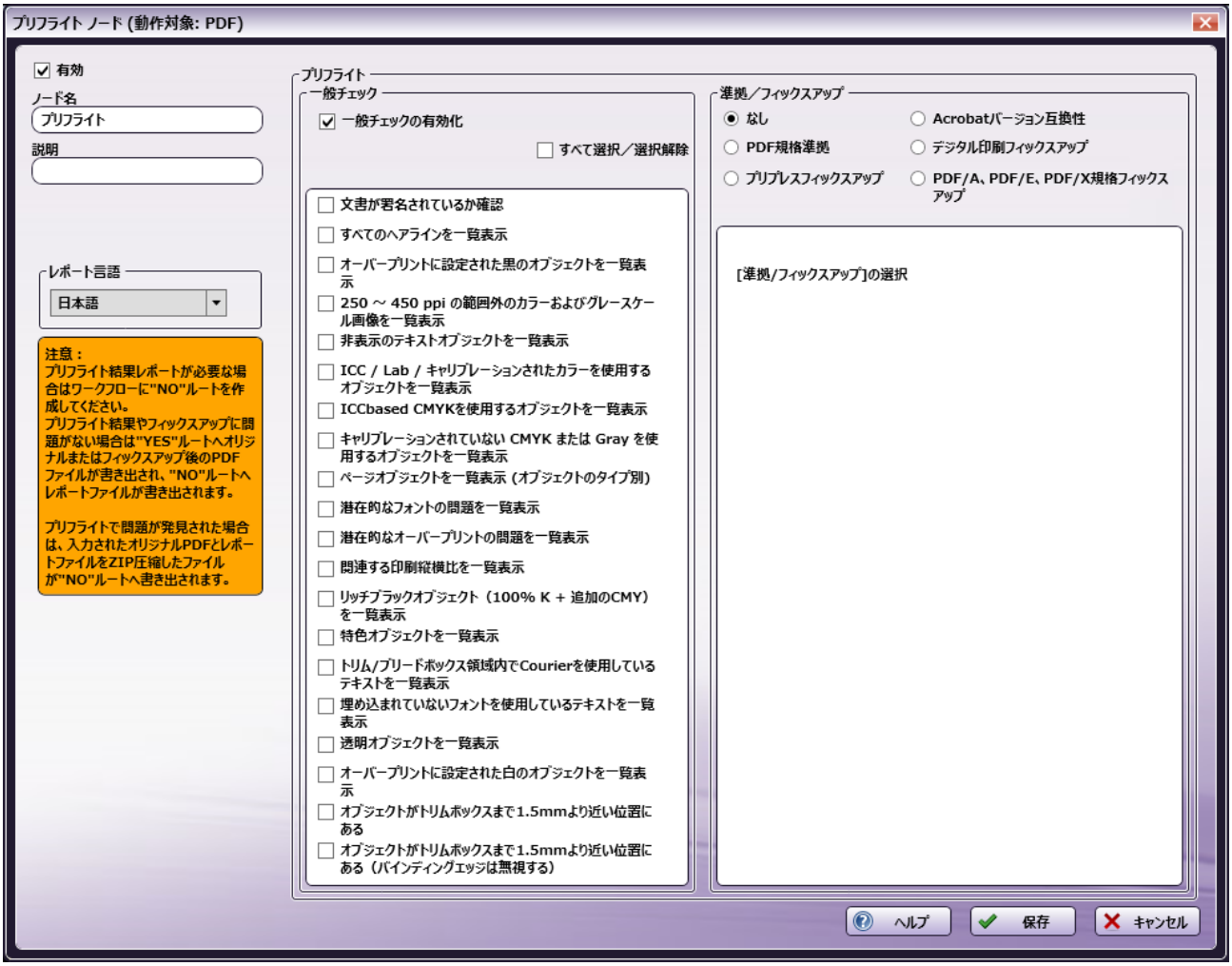
- サポートされている **一般チェック** と **準拠／フィックスアップ** の詳細については、このドキュメント後半の「**主な機能**」を参照してください。
- プリフライトノードが含まれるワークフローを作成する場合、以下の処理が正常に動作するように、ノードの機能の一部として、**はい** 、**いいえ** 、および **エラー** の各ルートを作成する必要があります。

上記のように構成されたワークフローでは、以下の機能がサポートされています。

1. 元のPDFファイルの処理中にエラーが発生した場合、そのファイルは **エラー** のルートへ送られます。
2. **［一般チェックの有効化］** チェックボックスか **［準拠／フィックスアップ］** の1つのオプションまたはその両方が選択されている場合は、チェックまたは分析が実行されます。警告またはエラーが検出されなかった場合、分析レポートがZIPファイルに圧縮されて **いいえ** のルートへ送られ、元のPDFは **はい** のルートを通じて送られます。
3. **［一般チェックの有効化］** チェックボックスか **［準拠／フィックスアップ］** の1つのオプションまたはその両方が選択されている場合は、チェックまたは分析が実行されます。警告／エラーの検出か修復できない準拠の問題またはその両方がある場合、元のPDFファイルと分析レポートはZIPファイルに圧縮されて **いいえ** のルートに送られます。
4. **［一般チェックの有効化］** チェックボックスだけが選択されている場合、チェックまたは分析が実行されます。警告またはエラーが検出された場合、元のPDFファイルと分析レポートはZIPファイルに圧縮されて **いいえ** のルートに送られます。
5. **［準拠／フィックスアップ］** の1つのオプションだけが選択されている場合、チェックまたは分析が実行されます。問題が見つかって修正されると、分析レポートがZIPファイルに圧縮されて **いいえ** のルートに送られ、元のPDFは **はい** のルートを通じて送られます。適用できないフィックスアップが見つかると、元のPDFファイルと分析レポートはZIPファイルに圧縮されて **いいえ** のルートに送られます。
6. 分析またはフィックスアップレポートは常に **いいえ** のルートへ送られます。

プリフライトノードを使う

プリフライトノード アイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**プリフライトノード** をワークフローに追加します。アイコンをダブルクリックすると、**［プリフライトノード］** ウィンドウが開きます。



このウィンドウを使用してプリフライトノードの設定を指定します。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、デフォルトのパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、プリフライトノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、プリフライトノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[レポート言語]** ドロップダウンから値を選択します。サポートされている言語は、**English** 、**French** 、**German** 、**Italian** 、**Spanish** 、**Traditional Chinese** 、**Simplified Chinese** 、および **日本語** です。

  注意: デフォルトでは、**[レポート言語]** の選択は、Dispatcher Phoenixがインストールされているローカルシステムの言語設定に基づいて行われます。
- プリフライトノードの設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** ボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じて変更は適用されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

プリフライトノードの主な機能

以下の機能がサポートされています。

一般チェック

[一般チェック] パネルでは、ノードで実行するチェックを指定します。

- **[一般チェックの有効化]**: **[一般チェック]** のオプションを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。有効化すると、次の **[一般チェック]** がサポートされます。
  - **文書が署名されているか確認**
  - **すべてのヘアラインを一覧表示**
  - **オーバープリントに設定された黒のオブジェクトを一覧表示**
  - **250～450 ppiの範囲外のカラーおよびグレースケール画像を一覧表示**
  - **非表示のテキストオブジェクトを一覧表示**
  - **ICC/Lab/キャリブレーションされたカラーを使用するオブジェクトを一覧表示**

- **ICCbased CMYKを使用するオブジェクトを一覧表示**
- **キャリブレーションされていないCMYKまたはGrayを使用するオブジェクトを一覧表示**
- **ページオブジェクトを一覧表示（オブジェクトのタイプ別）**
- **潜在的なフォントの問題を一覧表示**
- **潜在的なオーバープリントの問題を一覧表示**
- **関連する印刷縦横比を一覧表示**
- **リッチブラックオブジェクト（100% K + 追加のCMY）を一覧表示**
- **特色オブジェクトを一覧表示**
- **トリム/ブリードボックス領域内でCourierを使用しているテキストを一覧表示**
- **埋め込まれていないフォントを使用しているテキストを一覧表示**
- **透明オブジェクトを一覧表示**
- **オーバープリントに設定された白のオブジェクトを一覧表示**
- **オブジェクトがトリムボックスまで1.5mmより近い位置にある**
- **オブジェクトがトリムボックスまで1.5mmより近い位置にある（綴じ端は無視）**

- **［すべて選択／選択解除］:［すべて選択／選択解除］**をオンにすると、**［一般チェック］**のすべての項目が選択され、ノードを通過して送られるすべてのジョブに対してこれらのチェックが実施されます。**［すべて選択／選択解除］**をオフにすると、**［一般チェック］**のすべての項目が選択解除されます。

準拠／フィックスアップ

［準拠／フィックスアップ］パネルでは、適用する準拠チェック／フィックスアップを指定します。選択できるラジオボタンは1つだけです。複数のオプションを必要とする場合は、ワークフローに対して複数のプリフライトノード（準拠／フィックスアップごとに1つ）を作成します。

- **［なし］**：デフォルト値です。これを選択すると、どの準拠／フィックスアップのチェックも適用されません。
- **［Acrobatバージョン互換性］**：ノードでサポートするAcrobatバージョン互換性を選択します。
- **［PDF規格準拠］**：ノードで実装するPDF規格の準拠オプションを選択します。
- **［デジタル印刷フィックスアップ］**：このオプションを選択すると、デジタル印刷が最適化されます。
- **［プリプレスフィックスアップ］**：このオプションを選択すると、プリプレスフィックスアップが適用されます。
- **［PDF/A、PDF/E、PDF/X規格フィックスアップ］**：このオプションを選択すると、ノードを通過するジョブに対してフィックスアップが適用されます。

プリフライトノードのPDFレポート

このドロップダウンから選択した言語で、PDF形式のレポートが生成されます。デフォルトでは、**［レポート言語］**の選択は、Dispatcher Phoenixがインストールされているローカルシステムの言語設定に基づいて行われます。

PDFレポートには、以下のデータが含まれています。

- **情報ページ:**
  - **ヘッダー:** PDFファイル名、プロファイル名
  - **文書情報:** ファイル名、パス、PDFバージョン、ファイルサイズ、タイトル、著者、作成者、制作ツール、作成日、更新日、キーワード、トラッピング、PDF/Xバージョン、版数、版の名前
  - **情報、警告、エラーの概要:** 項目名、ヒット数、ヒットページ数、ヒットページ一覧

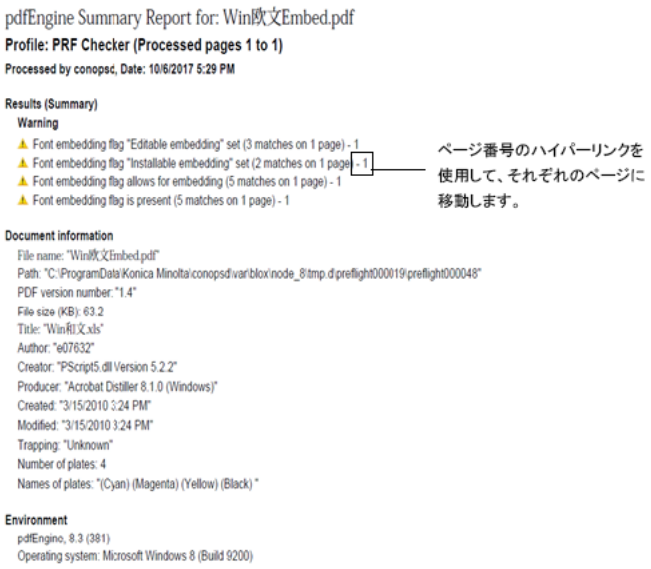
  注意: 概要情報は元のPDFファイルのページごとに提供されますが、この一覧はPDFファイルのレポートの **ページ幅** に制限されます。

  注意: 個々のページに移動するには、概要セクションでページ番号を選択します。Adobe Acrobatの［レイヤー］オプションで詳細な警告およびエラー情報を確認できます。［レイヤー］オプションにアクセスするには、**［表示］>［表示切り替え］>［ナビゲーションパネル］> ［レイヤー］メニュー** を選択します。

  注意: レポートでは、Adobe AcrobatおよびAdobe Pro製品のみがサポートされています。
- **マーク付きPDFページ:** マーク付きPDFページはPDF入力ドキュメントのページのコピーで、処理中に特定されたヒットオブジェクトを特定します。ヒットオブジェクトのマークには以下の色コードが使用されます。

- **情報:** 青
- **警告:** 黄色
- **エラー:** 赤

以下にサンプル **PDFレポート** を示します。



制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. プリフライトノードでは、最大で1.2 GBのサイズの入力ファイルがサポートされています。一方、現在のZIPライブラリーでサポートされている最大ファイルサイズは2GBです。1.2 GBを超えるファイルを使用した場合、ZIPファイル(レポート + ファイル)の生成で問題が発生します。
2. プリフライトノードでは20,000ページの入力ファイルがサポートされていますが、最新のテストから推測すると、このサイズのファイルを処理するには最大で10時間かかります。
3. パスワードで保護されたPDFファイルはこのノードでは処理されません。

タブ:しおり

注意: このノードはPDFファイル(バージョン1.3以降)に対応しており、しおりがすでに含まれているPDFファイルで使用します。

タブ:しおりノード を使用して、しおりが付けられたすべてのページの前にインデックス紙を挿入します。挿入されたインデックス紙の情報はメタデータの中で更新され、ファイルとともにワークフローの次のノードに送られます。

PDFファイルのしおりには、次の2種類があります。

- **ページ飛び先しおり:** このしおりはPDFドキュメントのページ番号をポイントします。
- **名前付き飛び先しおり:** このしおりは、グローバルに定義された名前をポイントして、PDFドキュメント内の飛び先ページを参照します。

このノードは3つのメタデータのキーと値のペアをサポートしています。以下に示すキーと値のペアは、このノードに入力される前にPDFで設定(事前定義)されています。

- **job:tab.paper.w**(オプション):インデックス紙の**用紙の幅。**
- **job:tab.paper.h**(オプション):インデックス紙の**用紙の高さ。用紙の幅と用紙の高さ** は、一緒に設定する必要があります。これらの値が設定されていない場合、**用紙サイズ**はPDFファイルの先頭ページのサイズによって決まります。
- **job:tab.paperweight**(オプション):インデックス紙の**用紙の重さ。インデックス紙　坪量**のメタデータが無効な場合、タブ:しおりノードでは、ワークフローのアクティビティログにメッセージが表示され、PDFドキュメントがノードのエラーフォルダーに送られます。

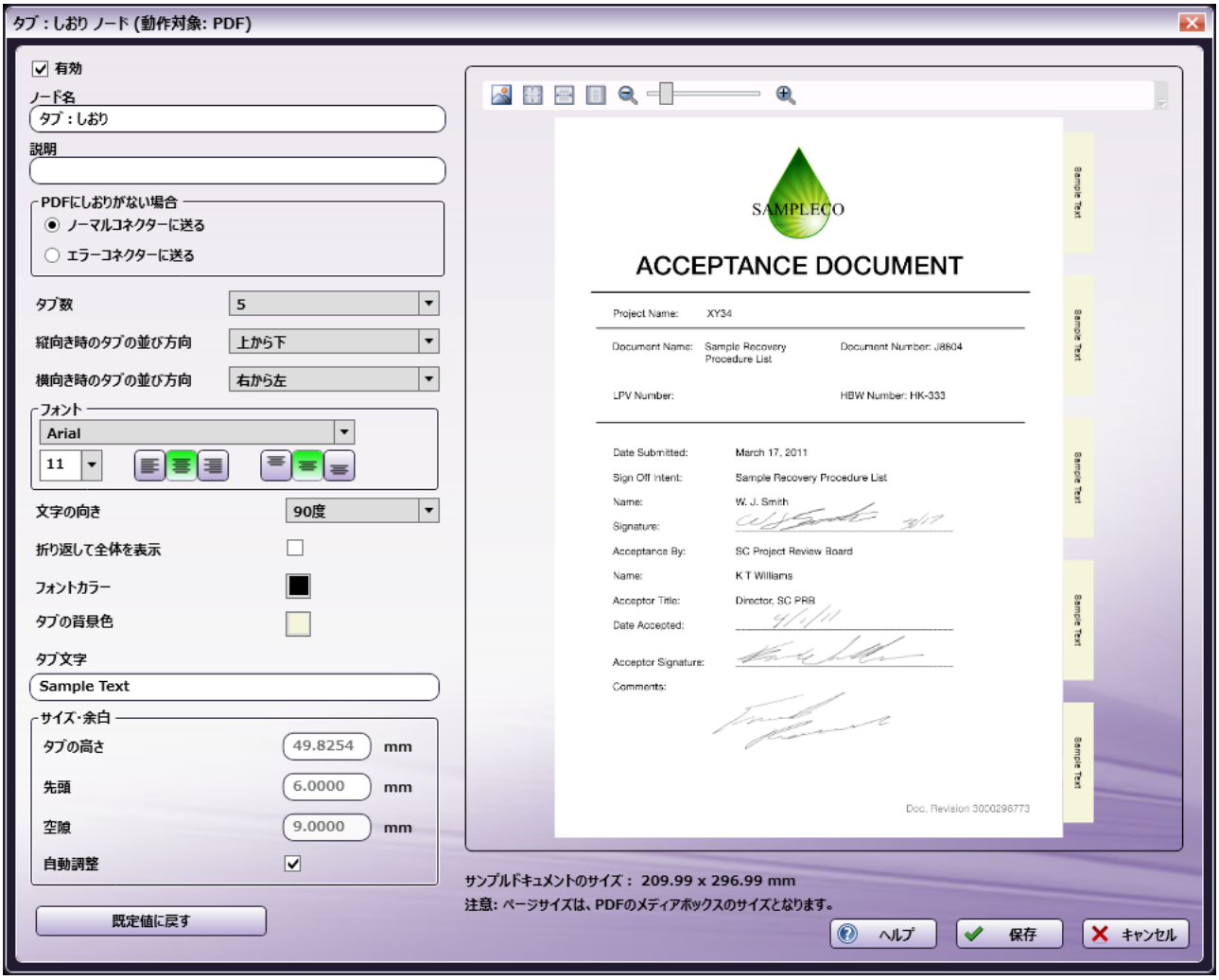
  注意:

  - このヘルプファイルには、サポートされている**インデックス紙　坪量**の詳細情報が記載されています。**ジョブチケットメタデータ** を参照してください。起動した[メタデータブラウザー]ウィンドウには、あらかじめ定義されているジョブチケットメタデータ、システム定義の変数(日付、ファイル、システム、ユーザー情報など)、およびアクティブノードのメタデータ値が表示されます。

- インデックス紙の向きは、マージした入力PDFの先頭ページの向きで決まります。マージした入力PDFの先頭ページの向きが縦であれば、挿入されるインデックス紙の向きも縦になります。また、タブの順序は、[タブの並び方向]フィールドで選択したオプションに基づきます。マージした入力PDFの先頭ページの向きが横であれば、挿入されるインデックス紙の向きも横になります。また、タブの順序は、[タブの並び方向]フィールドで選択したオプションに基づきます。

タブ:しおりノードを使う

タブ:しおりノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、タブ:しおりノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、タブ:しおりノード ウィンドウが開きます。

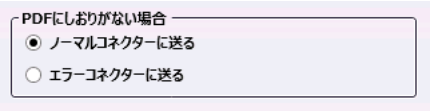


このウィンドウでは、タブ文字のプロパティを指定します。[プレビュー]パネルには、選択した設定でドキュメントがどのように印刷されるかを示すリアルタイムの画像が表示されます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します(つまり、既定のパスまたは「Y(はい)方向の」パスを進み続けます)。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、タブ:しおりノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、タブ:しおりノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

遷移の選択

タブ:しおりノードが、しおりを含まないPDFファイルを受け取った場合は、この設定を使用して、ファイルに対する処理内容をワークフローに指示します。



- **[ノーマルコネクターに送る]:** しおりがない場合でも、ファイルはワークフローの次のノードに送られ、通常どおり処理されます。

- **[エラーコネクターに送る]:** しおりの適用はジョブの処理に不可欠なため、しおりのないファイルはエラーフォルダーに移されます。これらのファイルは手動で処理する必要があります。

しおりとそのテキストプロパティの定義

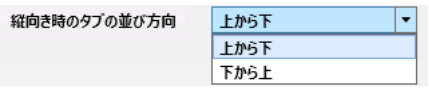
以下のセクションでは、しおりタブに関する他の設定オプションについて説明します。

タブ数

ドキュメントのタブの数をドロップダウンから指定します。

縦向き時のタブの並び方向

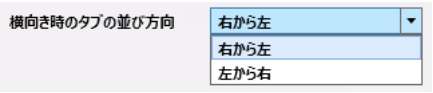
縦向き の **インデックス紙** に対して、**縦向き時のタブの並び方向**を指定します。



- **[上から下]:** ドキュメントの **[向き]** が **[縦]** の場合、**タブ**は上から下に追加されます。
- **[下から上]:** ドキュメントの **[向き]** が **[縦]** の場合、**タブ**は下から上に追加されます。

横向き時のタブの並び方向

横向きのインデックス紙に対して、横向き時のタブの並び方向を指定します。



- **[右から左]:** ドキュメントの **[向き]** が **[横]** の場合は、**タブ**は右から左に追加されます。
- **[左から右]:** ドキュメントの **[向き]** が **[横]** の場合は、**タブ**は左から右に追加されます。

タブ文字

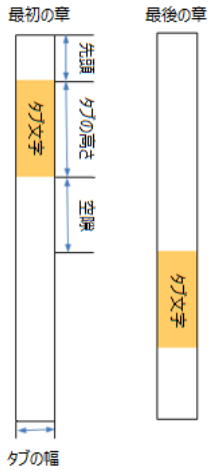
タブ文字の構成領域では、以下を指定します。

注意: タブ付きのドキュメントを印刷する場合、タブ領域に印刷するテキストは元のPDFファイルのしおりから取得されます。選択したフォントでサポートされていない日本語文字がこれらのしおりで使用されている場合、ノードではワークフローの[アクティビティログ]にエラーメッセージが表示され、ファイルはエラーフォルダーに移されます。

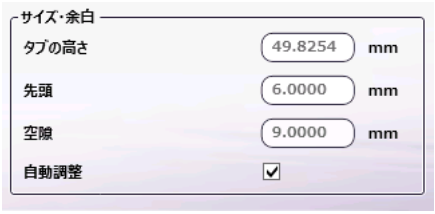
- **[フォント]:** フォント名とサイズをドロップダウンから選択します。最初のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの行端揃えを指定します(左端揃え、中央揃え、右端揃え)。2番目のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの配置を指定します(上中央、中央、下中央)。
- **[文字の向き]:** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、タブ文字の方向を指定します。
- **[折り返して全体を表示]:** このチェックボックスをオンにすると、長すぎてタブの範囲内に収まらないタブ文字が折り返されます。
- **[フォントカラー]:** クリックして色の選択オプションを開いてから、フォントの色の値を選択します。
- **[タブの背景色]:** クリックして色の選択オプションを開いてから、タブの背景色の値を選択します。
- **[タブ文字]:** リアルタイムプレビューに表示されるサンプルテキストを変更します。

注意: **[タブ文字]** フィールドに入力した値はビジュアルエイドとしてサンプルプレビューに表示されますが、印刷時の出力ジョブには影響しません。印刷される実際のタブデータはPDFのしおりから取得されます。

サイズ・余白



[サイズ・余白]オプションを変更すると、リアルタイムプレビューが更新され、タブの印刷の体裁が表示されます。設定した値はノードに適用されるほか、印刷されるインデックス紙にも適用されます。



- **[タブの高さ]:** タブの高さを指定します。
- **[先頭]:** 先頭のマージン値を指定します。[先頭]はドキュメントの上端と最初のタブとの間の距離を示します。
- **[空隙]:** 空隙のマージン値を指定します。[空隙]値はタブ間の距離を示します。
- **[自動調整]:** [タブ数]を変更したときに[タブの高さ]、[先頭]および[空隙]の値を自動的に更新するかどうかを指定します。

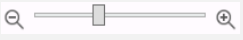
  注意:タブ文字が長すぎてテキストフィールドに表示しきれない場合は、選択したテキストの配置(縦方向または横方向)に基づいて、文字の一部が非表示になります。

既定値に戻す

タブの設定をすべて既定値に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを使用します。

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

ツールバーのアイコン	説明
	[イメージ]アイコン。 サンプルプレビューのイメージを変更するには、このアイコンをクリックします。 PNG、JPEG、PDF形式だけがサポートされています。サポートされているイメージの表示サイズは、A3/A4/A5/B4/B5/ハーフレター/レター/タブロイドです。
	[実際のサイズ(100%)]アイコン。 プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン。 プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体]アイコン。 このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	**ズームコントロール。** 拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大／縮小します。

タブ:しおりワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、入力PDFファイルのしおりに基づいてタブをPDFファイルに追加して、変更されたPDFを出力フォルダーに送信することです。この出力PDFファイルにはタブが含まれます。

注意: ワークフローにタブ:しおりノードが含まれている場合は、タブ:作成済みタブの読込ノードをワークフローに追加する必要はありません。これは、タブ:しおりノードによってインデックス紙がPDFドキュメントに追加され、タブ情報が出力メタデータに追加されるためです。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。

入力フォルダーノード: しおりを含むPDFファイルを集めて、ワークフローの **タブ:しおり** ノードに送るように入力フォルダーを構成します。

タブ:しおり: タブ:しおりノードは、入力PDFファイルのしおりに基づいてタブを入力PDFドキュメントに追加し、そのファイルをワークフローの次のノードに送ります。

あるPDFファイルがノードに入力される場合を例にして、どのような処理が行われるかを説明します。このPDFファイルは10ページで構成されています。ページ2とページ6にそれぞれしおりが割り当てられています。出力ファイルでは、ページ2とページ6の前にインデックス紙が挿入されます。

出力フォルダーノード: ドキュメント(更新されたタブを含む)は、**出力フォルダー** ノードで構成されるフォルダーパスに配置されます。

タブ:ユーザー指定ノード

注意: このノードは、PDFファイル(バージョン1.3以降)に対応しています。

タブ:ユーザー指定ノード を使用すると、ファイルにインデックス紙が挿入されます。挿入されたインデックス紙の情報はメタデータの中で更新され、ファイルとともにワークフローの次のノードに送られます。

このノードは、5つのメタデータのキーと値のペアをサポートしています。

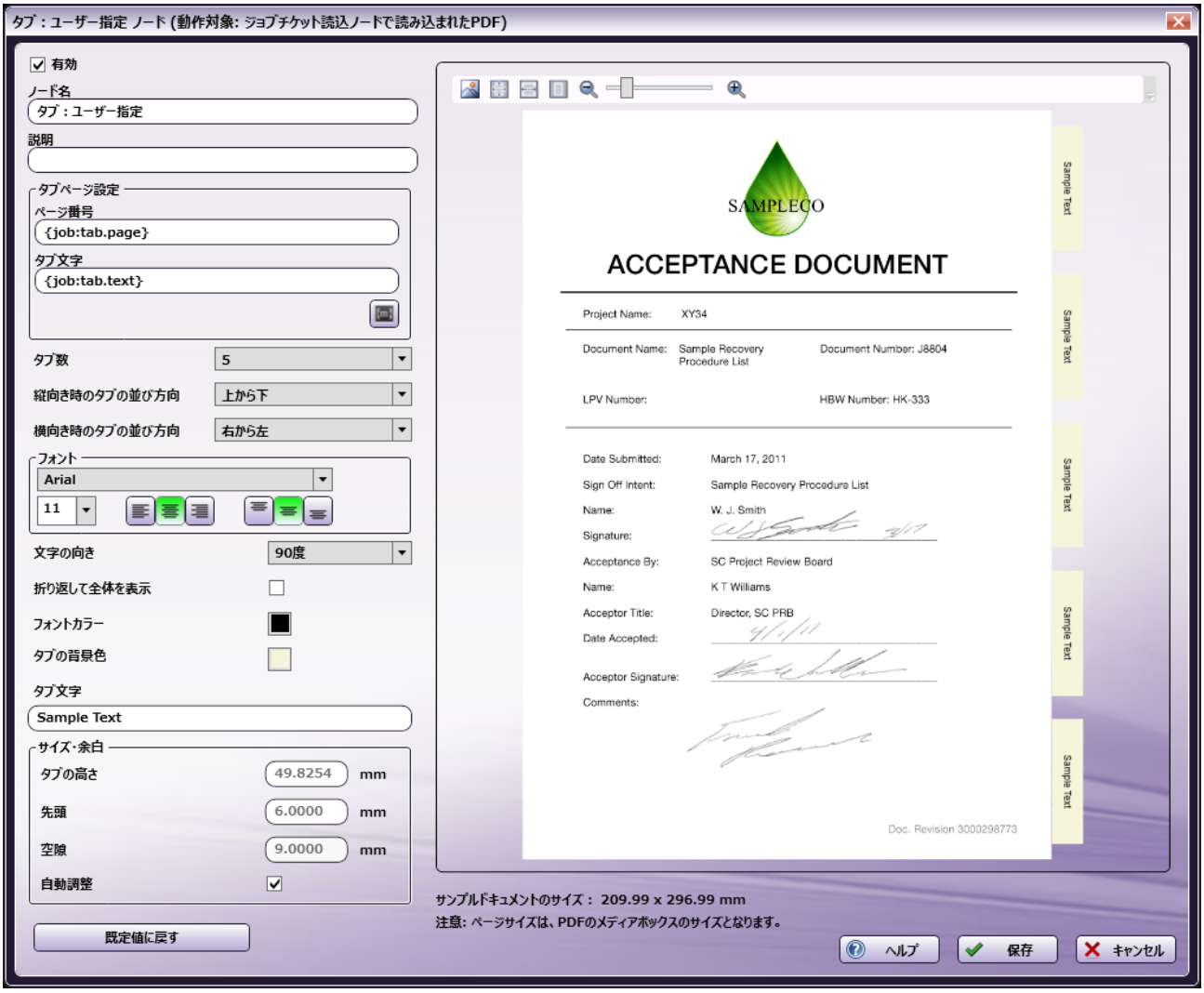
- **job:tab.page** (必須):インデックス紙を挿入するページのリスト。
- **job:tab.text** (必須):インデックス紙のリスト。インデックス紙の数は、タブページの数と一致している必要があります。
- **job:tab.paper.w** (オプション):インデックス紙の **用紙幅。**
- **job:tab.paper.h** (オプション):インデックス紙の **用紙高さ** 。**用紙幅** と **高さ** は、一緒に設定する必要があります。これらの値が設定されていない場合、インデックス紙の **用紙サイズ** は、PDFの先頭ページのサイズによって決まります。
- **job:tab.paperweight** (オプション):インデックス紙の **坪量** 。**坪量** のメタデータが無効な場合、タブ:ユーザー指定ノードでは、アクティビティログにメッセージが表示され、PDFドキュメントがノードのエラーフォルダーに送られます。

  注意:

  - このヘルプファイルには、サポートされているインデックス紙の **坪量** の詳細情報が記載されています。**ジョブチケットメタデータ** を参照してください。起動した[メタデータブラウザー]ウィンドウには、あらかじめ定義されているジョブチケットメタデータ、システム定義の変数(日付、ファイル、システム、ユーザー情報など)、およびアクティブノードのメタデータ値が表示されます。
  - インデックス紙の **方向** は、マージした入力PDFの先頭ページの向きで決まります。マージした入力PDFの先頭ページの向きが縦であれば、挿入されるインデックス紙の **方向** も縦になります。また、タブの順序は、[タブの並び方向]フィールドで選択したオプションに基づきます。マージした入力PDFの先頭ページの向きが横であれば、挿入されるインデックス紙の **方向** も横になります。また、タブの順序は、[タブの並び方向]フィールドで選択したオプションに基づきます。

タブ:ユーザー指定ノードを使う

タブ:ユーザー指定 ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**タブ:ユーザー指定** ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**[タブ:ユーザー指定ノード]** ウィンドウが開きます。

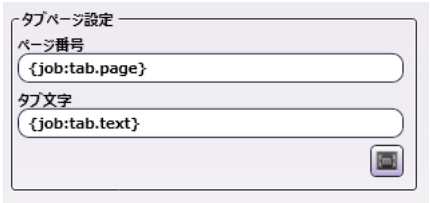


このウィンドウでは、タブ文字のプロパティを指定します。[プレビュー]パネルには、選択した設定でドキュメントがどのように印刷されるかを示すリアルタイムの画像が表示されます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、タブ：ユーザー指定ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、タブ：ユーザー指定ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

タブページ設定

[タブページ設定]でページ番号とタブ文字を指定します。



- **[ページ番号]：** メタデータの参照ボタン（ ）をクリックし、**{job:tab.page}** メタデータキーを[ページ番号]フィールドにドラッグアンドドロップします。メタデータキーは手動で入力することもできます。
- **[タブ文字]：** メタデータの参照ボタン（ ）をクリックし、**{job:tab.text}** メタデータキーを[タブ文字]フィールドにドラッグアンドドロップします。メタデータキーは手動で入力することもできます。

タブとそのテキストのプロパティの設定

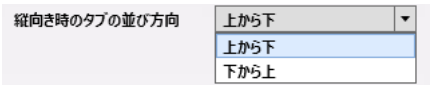
タブのプロパティとそのテキストのプロパティを構成ウィンドウで設定します。

タブ数

ドキュメントのタブの数をドロップダウンから指定します。

縦向き時のタブの並び方向

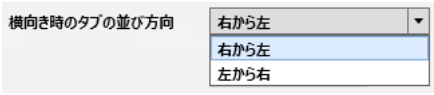
縦向き を使用して **インデックス紙** の **タブの並び方向** を指定します。



- **［上から下］:** ドキュメントの **［向き］** が **［縦］** の場合は、タブは上から下に追加されます。
- **［下から上］:** ドキュメントの **［向き］** が **［縦］** の場合は、タブは下から上に追加されます。

［横向き時のタブの並び方向］

横向き を使用して **インデックス紙** の **タブの並び方向** を指定します。



- **［右から左］:** ドキュメントの **［向き］** が **［横］** の場合は、タブは右から左に追加されます。
- **［左から右］:** ドキュメントの **［向き］** が **［横］** の場合は、タブは左から右に追加されます。

タブ文字

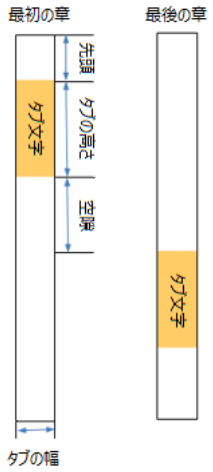
タブ文字の構成領域で、以下を指定します。

注意: タブ付きのドキュメントを印刷する場合、タブ領域に印刷するテキストは章名のメタデータから取得されます。選択したフォントでサポートされていない日本語文字がこれらの名前で使用されている場合、ノードではワークフローの［アクティビティログ］にエラーメッセージが表示され、ファイルはエラーフォルダーに移されます。

- **［フォント］:** フォント名とサイズをドロップダウンから選択します。最初のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの行端揃えを指定します（左端揃え、中央揃え、右端揃え）。2番目のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの配置を指定します（上中央、中央、下中央）。
- **［文字の向き］:** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、タブ文字の方向を指定します。
- **［折り返して全体を表示］:** チェックボックスをオンにすると、この機能がタブ文字に適用されます。
- **［フォントカラー］:** クリックして色の選択オプションを開いてから、フォントの色の値を選択します。
- **［タブの背景色］:** クリックして色の選択オプションを開いてから、タブの背景色の値を選択します。
- **［タブ文字］:** ここには、タブの文字のリアルタイムプレビューが表示されます。

  注意: ［タブ文字］フィールドに入力した値はビジュアルエイドとしてサンプルプレビューに表示されますが、印刷時の出力ジョブには影響しません。印刷される実際のタブデータは、PDFファイルのタブ文字メタデータから取得されます。

サイズ・余白



このフィールドでは、[タブの高さ]、[先頭]、および[空隙]のマージン値を指定します。リアルタイムプレビューが更新されて、タブの印刷の体裁が表示されます。

- **[タブの高さ]:** タブの高さを指定します。
- **[先頭]:** 先頭のマージン値を指定します。[先頭]はドキュメントの上端と最初のタブとの間の距離を示します。
- **[空隙]:** 空隙のマージン値を指定します。[空隙]値はタブ間の距離を示します。
- **[自動調整]:** [タブ数]を変更したときに[タブの高さ]、[先頭]および[空隙]の値を自動的に更新するかどうかを指定します。

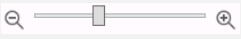
  注意: タブ文字が長すぎてテキストフィールドに表示しきれない場合は、選択したテキストの配置(縦方向または横方向)に基づいて、文字の一部が非表示になります。

既定値に戻す

タブの設定をすべて既定値に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを使用します。

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

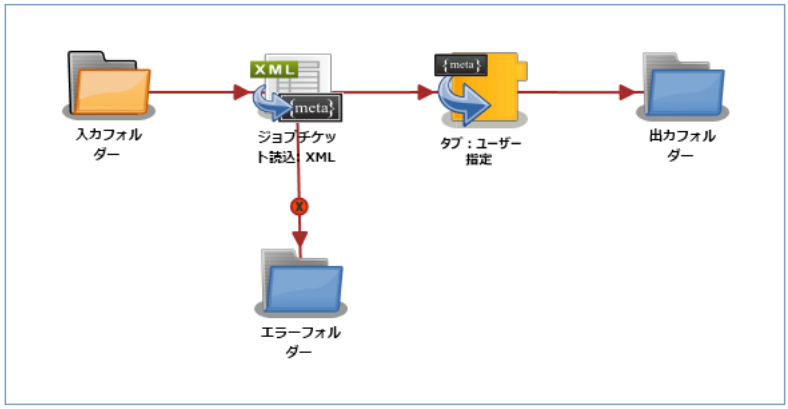
ツールバーのアイコン	説明
	[イメージ]アイコン。 サンプルプレビューのイメージを変更するには、このアイコンをクリックします。 PNG、JPEG、PDF形式だけがサポートされています。サポートされているイメージの表示サイズは、A3/A4/A5/B4/B5/ハーフレター/レター/タブロイドです。
	[実際のサイズ(100%)]アイコン。 プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン。 プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体]アイコン。 このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	**ズームコントロール。** 拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大/縮小します。

タブ:ユーザー指定ワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、XMLファイルを受け取って、ジョブチケットをXMLメタデータに解析し、ジョブチケットに含まれる章の情報に基づいてタブをファイルに追加することです。変更されたファイルは出力フォルダーに送信されます。

注意:このノードは、キー名が **Job** のメタデータ出力を生成します。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。



入力フォルダーノード: XMLジョブチケットを集めて、ワークフローの**ジョブチケット読込:XML**ノードに送るように入力フォルダーを構成します。送られるXMLジョブチケットファイルには、ジョブチケットの属性情報が含まれています。さらに、**タブ:ユーザー指定ノード**でタブを作成する際の章情報も含まれています。以下に、章の情報を含むサンプルのジョブチケットを示します。

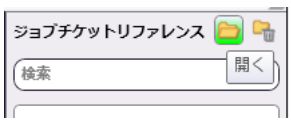
```
<Ticket>
        <Media>
        <Width>8.5</Width>
        <Height>11</Height>
        </Media>
        <Paper>
                <Unit>inch</Unit>
        </Paper>
        <Tab>
        <Width>9</Width>
        <Height>11</Height>
                <Weight>60</Weight>
        <ChapterInfo>
                <Page>
                        <Chapter>1</Chapter>
                        <Chapter>4</Chapter>
                </Page>
                <Text>
                        <Chapter>Chapter1</Chapter>
                        <Chapter>Chapter2</Chapter>
                </Text>
        </ChapterInfo>
        </Tab>
        <File>file</File>
        <Src>C:\\test files\\10Pages_Letter.pdf</Src>
</Ticket>
```

ジョブチケット読込:XMLノード: ドキュメントがXMLとしてフォーマットされている場合、そのXML情報はジョブチケットメタデータに変換され、ワークフローの次のノードに送られます。ドキュメントがXMLとしてフォーマットされていない場合、そのドキュメントは **エラーフォルダー** に移されます。

以下の手順に従って、XMLジョブチケットをマップします。

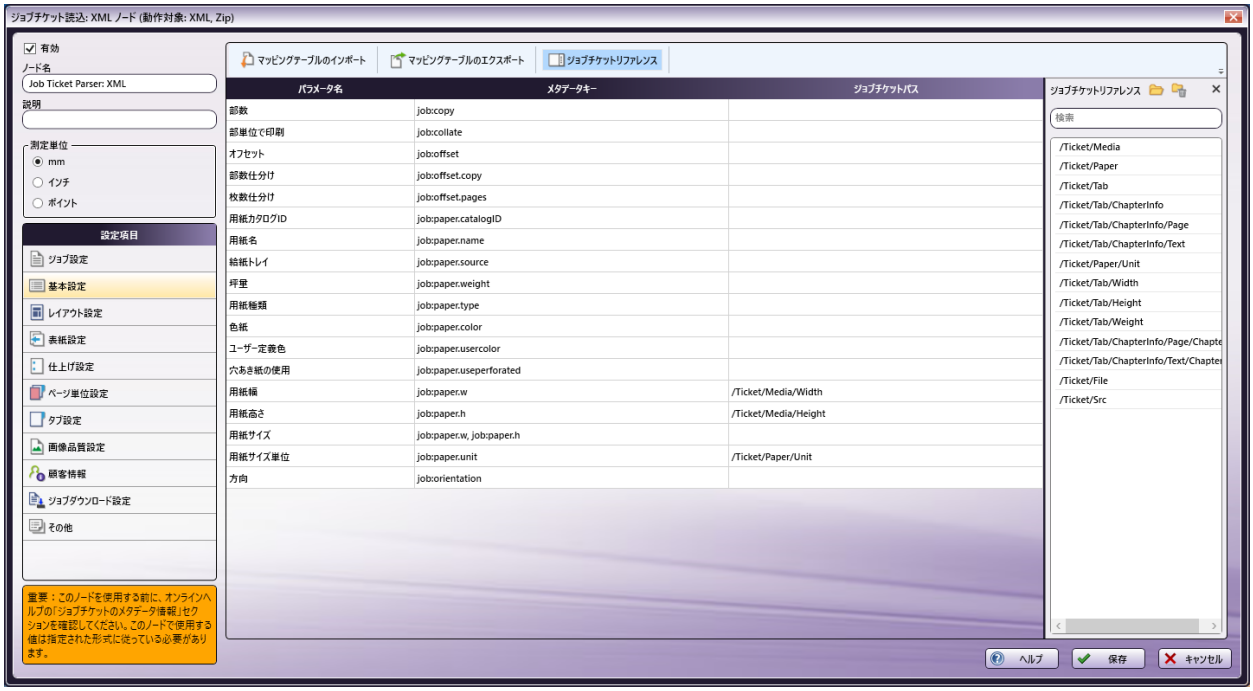
1. テキストエディターを開いて、上記のサンプルのジョブチケットに記載されているサンプルのXMLコードをコピーします。
2. XML_Tabs_Insert.XMLとしてファイルをローカルに保存します。
3. **ジョブチケット読込:XML** ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。
4. 左側のパネルで、次の値を設定します。
    - **［有効］** チェックボックス:オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
    - **［ノード名］:** ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
    - **［測定単位］:** ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。

    注意: 前述のジョブチケット（XML_Tabs_Insert.XML）は、用紙サイズがインチで示されています。
5. **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）で、**［開く］** アイコンを見つけます。

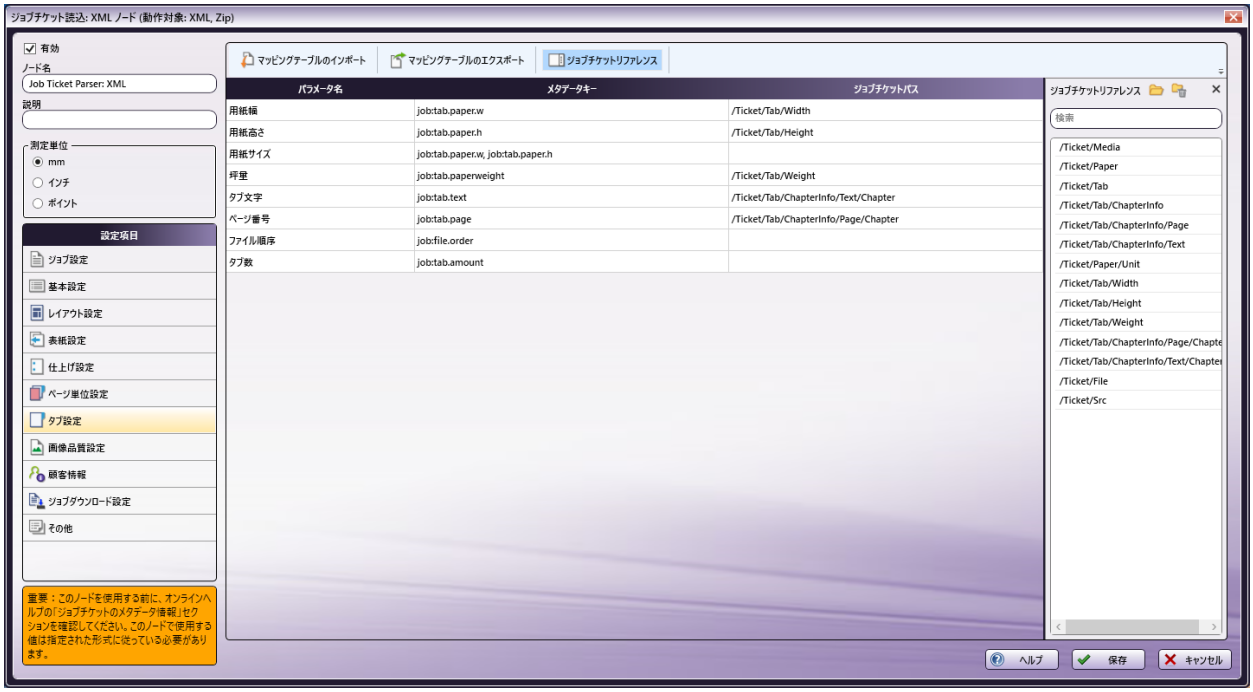


6. このアイコンをクリックします。開いた画面で、上記の手順2で保存したファイル（XML_Tabs_Insert.XML）に移動して選択します。

7. ファイルが開くと、その内容（XPath）が **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）に表示されます。
8. **［設定項目］** パネル（左端）で、**［基本設定］** をクリックします。**［パラメータ名］**、**［メタデータキー］**、および **［ジョブチケットパス］** 列がメインパネルに表示されます。

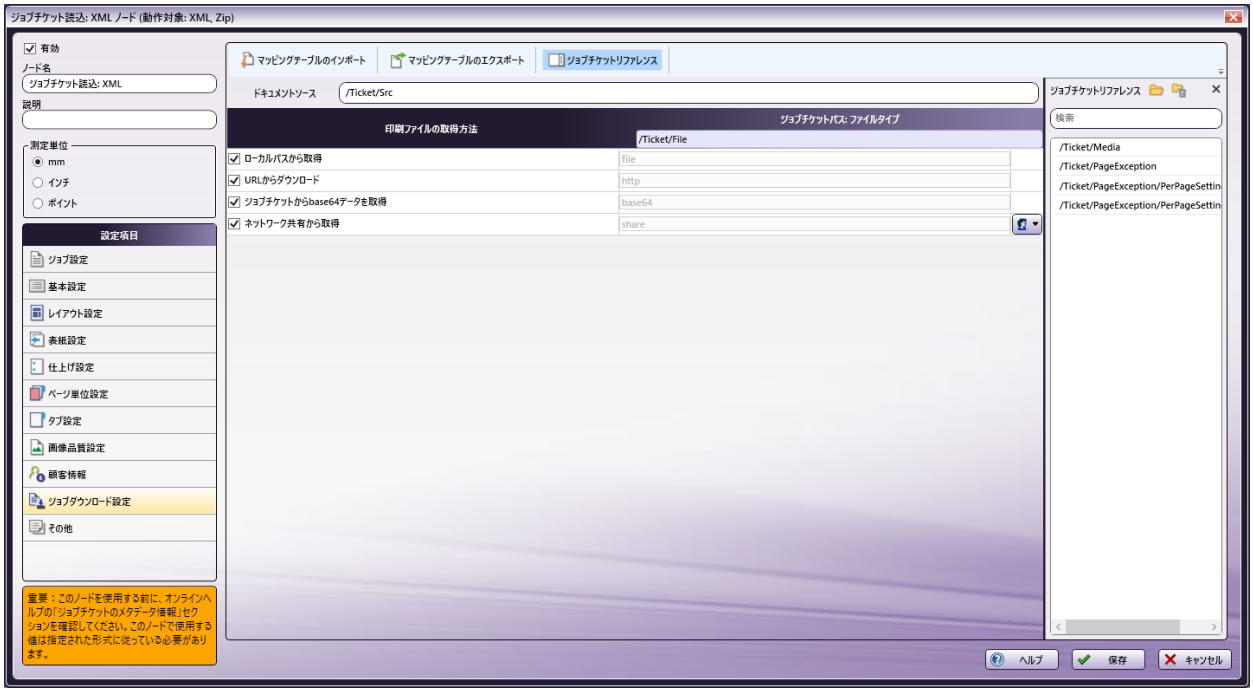


9. **［ジョブチケットリファレンス］** パネルの値を、その値の **［パラメータ名］** に対応する、**［ジョブチケットパス］** 列の空いているセルに移動する必要があります。
10. **［用紙幅］** 行の **［ジョブチケットパス］** セルに **/Ticket/Media/Width** をドラッグアンドドロップします。
11. **［用紙高さ］** 行の **［ジョブチケットパス］** セルに **/Ticket/Media/Height** をドラッグアンドドロップします。
12. **［用紙サイズ単位］** 行の **［ジョブチケットパス］** セルに **/Ticket/Paper/Unit** をドラッグアンドドロップします。
13. **［設定項目］** パネル（左端）で、**［タブ設定］** をクリックします。**［パラメータ名］**、**［メタデータキー］**、および **［ジョブチケットパス］** 列がメインパネルに表示されます。



14. **［ジョブチケットリファレンス］** パネルの値を、その値の **［パラメータ名］** に対応する、**［ジョブチケットパス］** 列の空いているセルに移動する必要があります。
15. **［用紙幅］** 行の **［ジョブチケットパス］** セルに **/Ticket/Tab/Width** をドラッグアンドドロップします。
16. **［用紙高さ］** 行の **［ジョブチケットパス］** セルに **/Ticket/Tab/Height** をドラッグアンドドロップします
17. **［坪量］** 行の **［ジョブチケットパス］** セルに **/Ticket/Tab/Weight** をドラッグアンドドロップします。

18. **[タブ文字]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/ChapterInfo/Text/Chapter** をドラッグアンドドロップします。
19. **[ページ番号]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/ChapterInfo/Page/Chapter** をドラッグアンドドロップします。
20. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]** および **[ジョブチケットパス: ファイルタイプ]** フィールドと **[印刷ファイルの取得方法]** チェックボックスがメインパネルに表示されます。



21. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有から取得]** の4つのオプションのチェックボックスをすべて選択します。
22. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/Ticket/Src** をドラッグアンドドロップします。
23. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス: ファイルタイプ]** フィールドに **/Ticket/File** をドラッグアンドドロップします。
24. これまでの操作が完了すると、上の画像のような画面が表示されます。
25. **[保存]** をクリックして、変更をノードに適用します。

タブ:ユーザー指定: タブ：ユーザー指定ノードは、XML_Tabs_Insert.XMLの章の情報に基づいてPDFドキュメントにタブを挿入します。挿入されたインデックス紙の情報はメタデータに追加され、そのファイルはワークフローの次のノードに送られます。このセクションの初めに示したサンプルのジョブチケットでは、ページ1とページ4が章として取得され、PDFドキュメントからインデックス紙が挿入されます。

出力フォルダーノード:（更新されたタブを含む）ドキュメントは、**出力フォルダー** ノードで構成されるフォルダーパスに配置されます。

タブ：PDFマージノード

注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

タブ:PDFマージノード を使用すると、すべての入力PDFファイルがマージされ、各PDFファイルの先頭ページの前にインデックス紙が挿入されます。元の3つのドキュメント（例：1.PDF、2.PDF、3.PDF）を1つのファイルにマージすると、マージする最初のPDFファイルの名前である「1.PDF」がその結合PDFファイルのデフォルト名として割り当てられます。それぞれのPDFファイル名がタブのテキストとして使用されます。マージ前のそれぞれのファイル名がタブに表示されるテキストとして使用されるため、この例のタブ文字は、1.PDF、2.PDF、および3.PDFとなります。挿入されたインデックス紙の情報は、メタデータの中で更新され、ファイルと共にワークフローを通じて送られます。

このノードは4つのメタデータのキーと値のペアをサポートしています。これらのキーと値のペアは、このモードに入る前にPDFで設定（事前定義）されます。

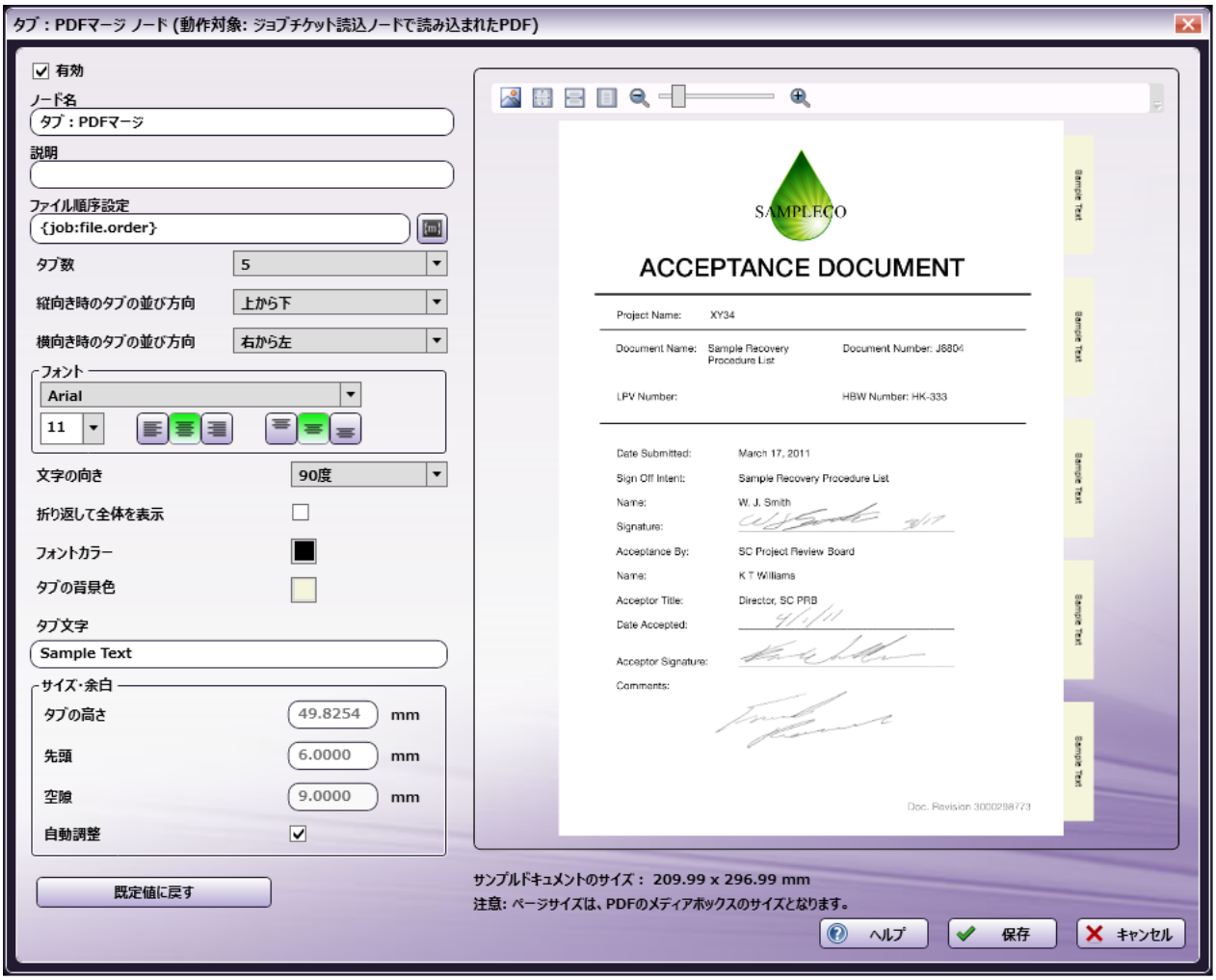
- **job:file.order**（必須）：マージするPDFドキュメントパスのリスト。
- **job:tab.paper.w**（オプション）：インデックス紙の **用紙幅** 。
- **job:tab.paper.h**（オプション）：インデックス紙の **用紙高さ** 。**用紙幅** と **高さ** は、一緒に設定する必要があります。これらの値が設定されていない場合、インデックス紙の用紙サイズは、マージされたPDFの先頭ページのサイズによって決まります。
- **job:tab.paperweight**（オプション）：インデックス紙の **坪量** 。**坪量** のメタデータが無効な場合、タブ：PDFマージノードでは、アクティビティログにメッセージが表示され、PDFドキュメントがノードのエラーフォルダーに送られます。

注意:

- このヘルプファイルには、サポートされている インデックス紙の **坪量** の詳細情報が記載されています。**ジョブチケットメタデータ** を参照してください。起動した［メタデータブラウザー］ウィンドウには、あらかじめ定義されているジョブチケットメタデータ、システム定義の変数（日付、ファイル、システム、ユーザー情報など）、およびアクティブノードのメタデータ値が表示されます。
- **インデックス紙** の **方向** は、マージした入力PDFの先頭ページの向きで決まります。マージした入力PDFの先頭 **ページの向き** が縦であれば、挿入されるインデックス紙の **方向** も縦になります。また、**タブの順序** は、［タブの並び方向］フィールドで選択したオプションに基づきます。マージした入力PDFの先頭 **ページの向きが横** であれば、挿入されるインデックス紙の **方向** も横になります。また、タブの順序は、［タブの並び方向］フィールドで選択したオプションに基づきます。

タブ：PDFマージノードを使う

タブ：PDFマージノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、タブ：PDFマージノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、［タブ：PDFマージノード］ウィンドウが開きます。



このウィンドウでは、タブ文字のプロパティを指定します。［プレビュー］パネルには、選択した設定でドキュメントがどのように印刷されるかを示すリアルタイムの画像が表示されます。

- **［有効］** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **［ノード名］** フィールドに、タブ：PDFマージノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **［説明］** フィールドに、タブ：PDFマージノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 変更を保存するには、**［保存］** ボタンを選択します。**［キャンセル］** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**［ヘルプ］** ボタンを選択します。

ファイル順序設定

［ファイル順序設定］ にメタデータ入力を指定します。

メタデータの参照 ボタン( )をクリックし、**{job:file.order}** メタデータキーを **[ファイル順序設定]** フィールドにドラッグアンドドロップします。メタデータキーは手動で入力することもできます。

タブとそのテキストのプロパティの設定

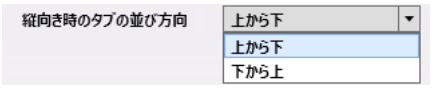
タブのプロパティとそのテキストのプロパティを構成ウィンドウで設定します。

タブ数

ドキュメントのタブの数をドロップダウンから指定します。

縦向き時のタブの並び方向

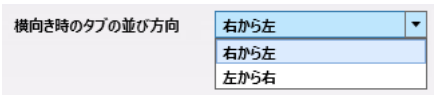
縦向き の **インデックス紙** に対して、**縦向き時のタブの並び方向** を指定します。



- **[上から下]:** ドキュメントの[向き]が[縦]の場合は、タブは上から下に追加されます。
- **[下から上]:** ドキュメントの[向き]が[縦]の場合は、タブは下から上に追加されます。

横向き時のタブの並び方向

横向きの**インデックス紙**に対して、**横向き時のタブの並び方向**を指定します。



- **[右から左]:** ドキュメントの[向き]が[横]の場合は、タブは右から左に追加されます。
- **[左から右]:** ドキュメントの[向き]が[横]の場合は、タブは左から右に追加されます。

タブ文字

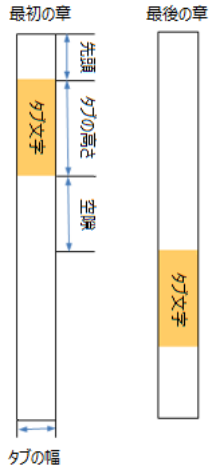
タブ文字の構成領域では、以下を指定します。

注意: タブ付きのドキュメントを印刷する場合、タブ領域に印刷するテキストは元のPDFファイルの名前から取得されます。選択したフォントでサポートされていない日本語文字がこれらの名前で使用されている場合、ノードではワークフローの[アクティビティログ]にエラーメッセージが表示され、ファイルはエラーフォルダーに移されます。

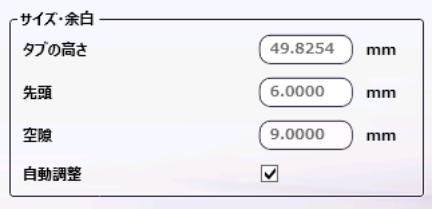
- **[フォント]:** フォント名とサイズをドロップダウンから選択します。最初のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの行端揃えを指定します(左端揃え、中央揃え、右端揃え)。2番目のアイコンのセットを使用して、枠内のテキストの配置を指定します(上中央、中央、下中央)。
- **[文字の向き]:** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、タブ文字の方向を指定します。
- **[折り返して全体を表示]:** チェックボックスをオンにすると、この機能がタブ文字に適用されます。
- **[フォントカラー]:** クリックして色の選択オプションを開いてから、フォントの色の値を選択します。
- **[タブの背景色]:** クリックして色の選択オプションを開いてから、タブの背景色の値を選択します。
- **[タブ文字]:** ここには、タブの文字のリアルタイムプレビューが表示されます。

注意:[タブ文字] フィールドに入力した値はビジュアルエイドとしてサンプルプレビューに表示されますが、印刷時の出力ジョブには影響しません。印刷される実際のタブデータは、入力PDFファイルのファイル名から取得されます。

サイズ・余白



このフィールドでは、[タブの高さ]、[先頭]、および[空隙]のマージン値を指定します。リアルタイムプレビューが更新されて、タブの印刷の体裁が表示されます。



- **[タブの高さ]:** タブの高さを指定します。
- **[先頭]:** 先頭のマージン値を指定します。[先頭]はドキュメントの上端と最初のタブとの間の距離を示します。
- **[空隙]:** 空隙のマージン値を指定します。[空隙]値はタブ間の距離を示します。
- **[自動調整]:** [タブ数]を変更したときに[タブの高さ]、[先頭]および[空隙]の値を自動的に更新するかどうかを指定します。

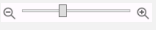
  注意: タブ文字が長すぎてテキストフィールドに表示しきれない場合は、選択したテキストの配置(縦方向または横方向)に基づいて、文字の一部が非表示になります。

既定値に戻す

タブの設定をすべて既定値に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンを使用します。

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

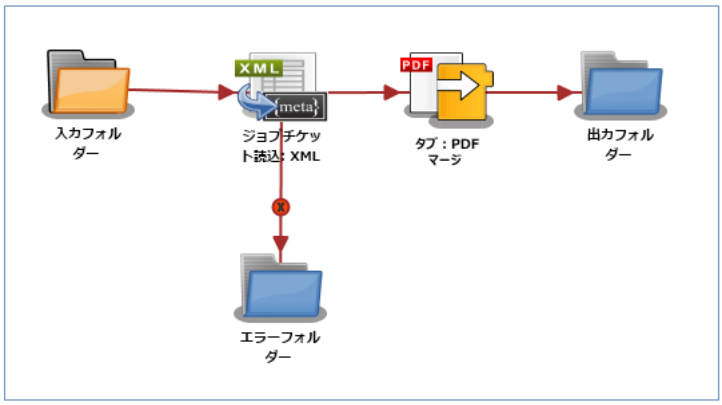
ツールバーのアイコン	説明
	[イメージ]アイコン。 サンプルプレビューのイメージを変更するには、このアイコンをクリックします。PNG、JPEG、PDF形式だけがサポートされています。サポートされているイメージの表示サイズは、A3/A4/A5/B4/B5/ハーフレター/レター/タブロイドです。
	[実際のサイズ(100%)]アイコン。 プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン。 プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体]アイコン。 このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	**ズームコントロール。** 拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大/縮小します。

タブ：PDFマージワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、XMLファイルを受け取って、ジョブチケットをXMLメタデータに解析し、複数のPDFファイルを1つのドキュメントにまとめて、タブを作成して各PDFファイルの先頭に追加することです。変更されたファイルは出力フォルダーに送信されます。

注意:このノードは、キー名が **Job** のメタデータ出力を生成します。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。



入力フォルダーノード：XMLジョブチケットを集めてワークフローの **ジョブチケット読込：XML** ノードに送るように入力フォルダーを構成します。送られるXMLジョブチケットファイルには、ジョブチケットの属性情報が含まれています。さらに、送信されるファイルの処理順序も含まれています。この順序の情報は、**タブ：PDFマージ** ノードでファイルがマージされるときに使用されます。以下に、ファイル順序設定を含むサンプルのジョブチケットを示します。

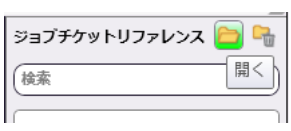
```
<Ticket>
        <File>file</File>
        <Src>C:\\test files\\1.pdf</Src>
        <Tab>
                <Width>9</Width>
                <Height>11</Height>
                <Weight>40</Weight>
                <Order>1.pdf</Order>
                <Order>C:\\test files\\2.pdf</Order>
                <Order>C:\\test files\\3.pdf</Order>
        </Tab>
        <Paper>
                <Unit>inch</Unit>
        </Paper>
</Ticket>
```

ジョブチケット読込：XMLノード：ドキュメントがXMLとしてフォーマットされている場合、そのXML情報はジョブチケットメタデータに変換され、ワークフローの次のノードに送られます。ドキュメントがXMLとしてフォーマットされていない場合、そのドキュメントは **エラーフォルダー** に移されます。

以下の手順に従って、XMLジョブチケットをマップします。

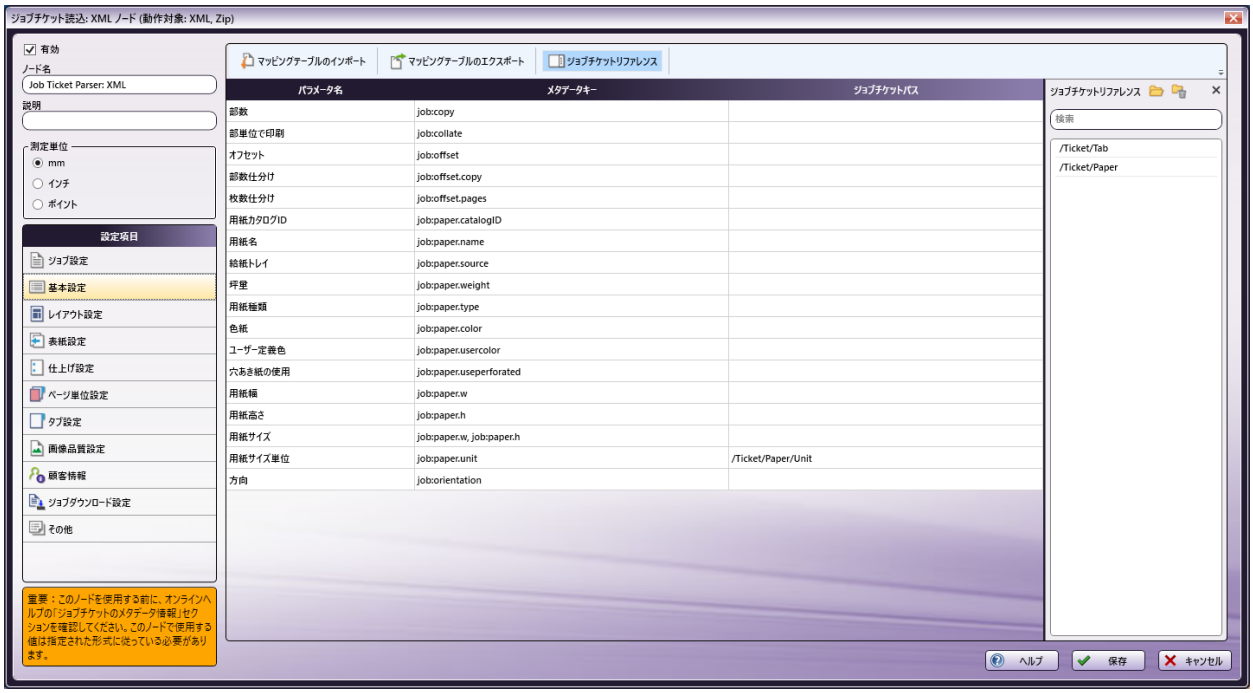
1. テキストエディターを使用して、上記のサンプルジョブチケットのサンプルXMLコードをコピーします。
2. サンプルのジョブチケットに記載されているソースパス **<Src>** は、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. XML_Tabs_Merge_PDFs.XMLとしてファイルをローカルに保存します。
4. ジョブチケット読込：XMLノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。
5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
    - **［有効］** チェックボックス：オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
    - **［ノード名］：** ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
    - **［測定単位］：** ノードに必要な測定単位に対応するラジオボタンを選択します。

    注意： 前述のジョブチケット（XML_Tabs_Merge_PDFs.XML）は、用紙サイズがインチで示されています。
6. **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）で、**［開く］** アイコンを見つけます。

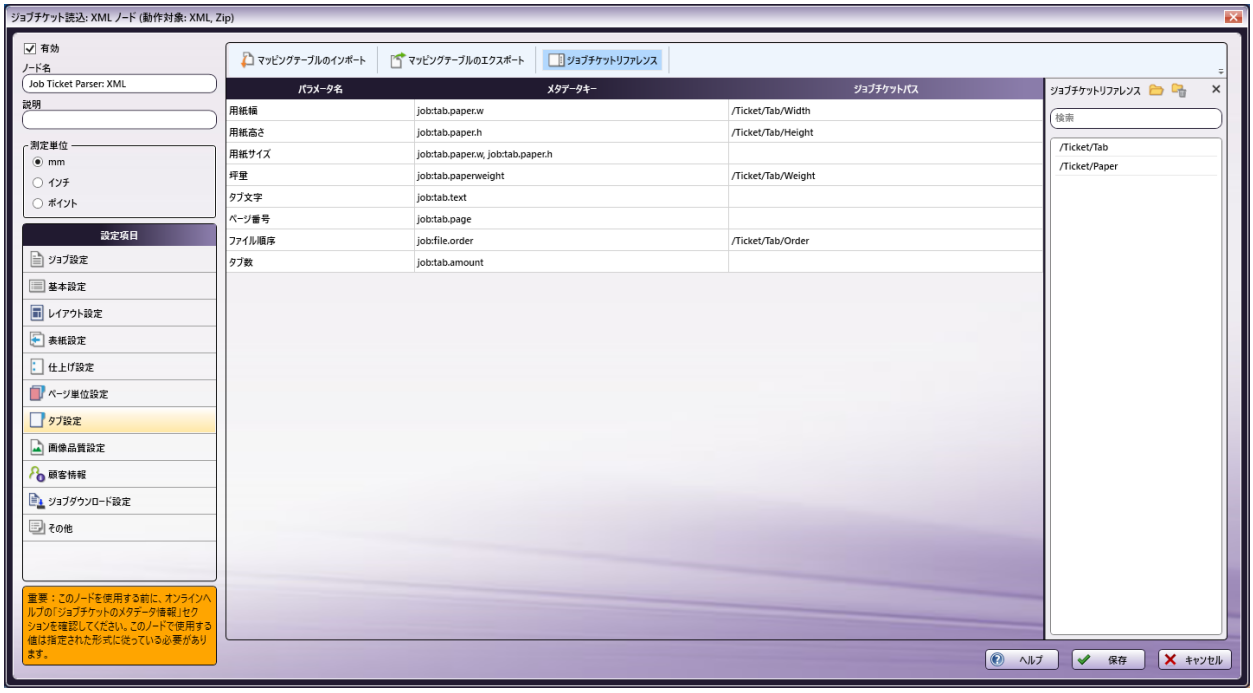


7. このアイコンをクリックします。開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル（XML_Tabs_Merge_PDFs.XML）に移動して選択します。
8. ファイルが開くと、その内容（XPath）が **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）に表示されます。

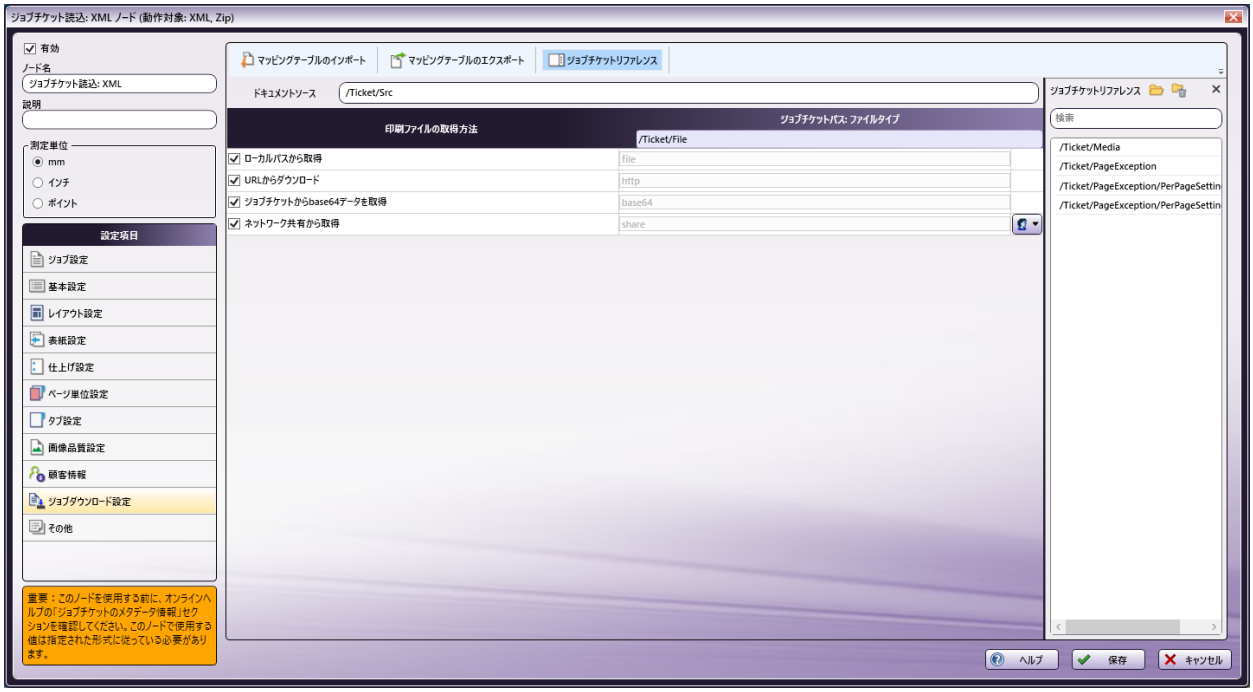
9. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[基本設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



10. **用紙サイズ単位]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Paper/Unit** をドラッグアンドドロップします。
11. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[タブ設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



12. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
13. **[用紙幅]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/Width** をドラッグアンドドロップします。
14. **[用紙高さ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/Height** をドラッグアンドドロップします。
15. **[坪量]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/Weight** をドラッグアンドドロップします。
16. **[ファイル順序]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/Order** をドラッグアンドドロップします。
17. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]** および **[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドと **[印刷ファイルの取得方法]** チェックボックスがメインパネルに表示されます。



18. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有からの取得]** の4 つのオプションのチェックボックスをすべて選択します。
19. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/Ticket/Src** をドラッグアンドドロップします。
20. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドに **/Ticket/File** をドラッグアンドドロップします。
21. これまでの操作が完了すると、上の画像のような画面が表示されます。
22. **[保存]** をクリックして、変更をノードに適用します。

タブ:PDFマージノード :タブ:PDFマージノードを使用すると、すべての入力PDFファイルがマージされ、各PDFファイルの先頭ページの前にインデックス紙が挿入されます。元の3つのドキュメント(例:1.PDF、2.PDF、3.PDF)を1つのファイルにマージすると、マージする最初のPDFファイルの名前である「1.PDF」がその結合PDFファイルのデフォルト名として割り当てられます。それぞれのPDFファイル名がタブのテキストとして使用されます。マージ前のそれぞれのファイル名がタブに表示されるテキストとして使用されるため、この例のタブ文字は、1.PDF、2.PDF、および3.PDFとなります。

出力フォルダーノード :ドキュメント(更新されたタブを含む)は、出力フォルダーノードで構成されるフォルダーパスに配置されます。

タブ:ページシフトノード

注意: このノードは、PDFファイル(バージョン1.3以降)に対応しています。

タブ:ページシフトノードを使用すると、指定したページをインデックス紙に変更できます。このノードは、LetterインデックスまたはA4インデックスのページサイズのみをサポートしています。このノードでLetterインデックスを選択する場合は、ページサイズがレターでなければなりません。A4インデックスを選択する場合は、ページサイズがA4でなければなりません。

挿入されたインデックス紙の情報はメタデータの中で更新され、ジョブと共にワークフローの次のノードに送られます。

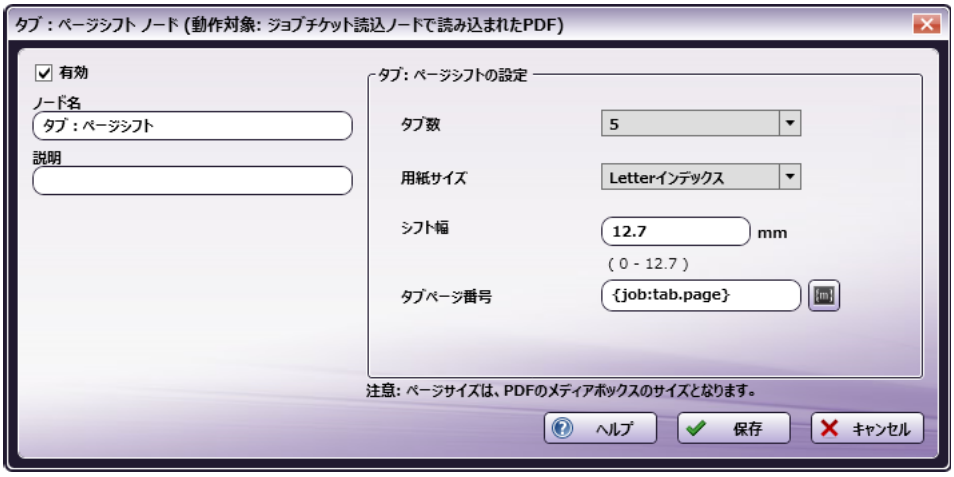
このノードは2つのメタデータのキーと値のペアをサポートしています。これらのキーと値のペアは、このモードに入る前にPDFで設定(事前定義)されます。

- **job:tab.page** (必須):位置をシフトするページのリスト。
- **job:tab.paperweight**(オプション):インデックス紙の **坪量** 。**坪量** メタデータが無効な場合、タブ:ページシフトノードでは、アクティビティログにメッセージが表示され、PDFドキュメントがノードのエラーフォルダーに送られます。

  注意: このヘルプファイルには、サポートされているジョブチケットメタデータ、JDF XPath、およびJDF値の範囲に関する詳細情報が含まれています。**ジョブチケットメタデータ** を参照してください。起動した[メタデータブラウザー]ウィンドウには、あらかじめ定義されているジョブチケットメタデータ、システム定義の変数(日付、ファイル、システム、ユーザー情報など)、およびアクティブノードのメタデータ値が表示されます。

タブ:ページシフトノードを使う

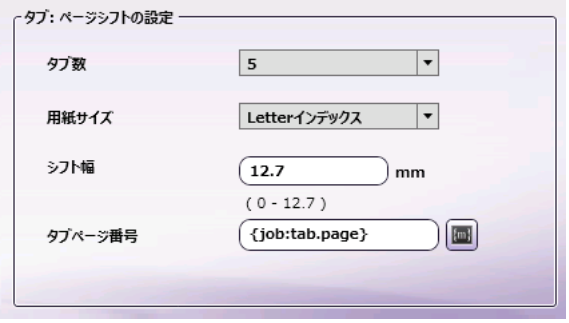
タブ:ページシフトノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、タブ:ページシフトノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、[タブ:ページシフトノード]ウィンドウが開きます。



- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、タブ：ページシフトノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、タブ：ページシフトノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- 変更を保存するには **[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

タブ：ページシフトの設定

[タブ：ページシフトの設定] 領域で以下の設定を指定します。



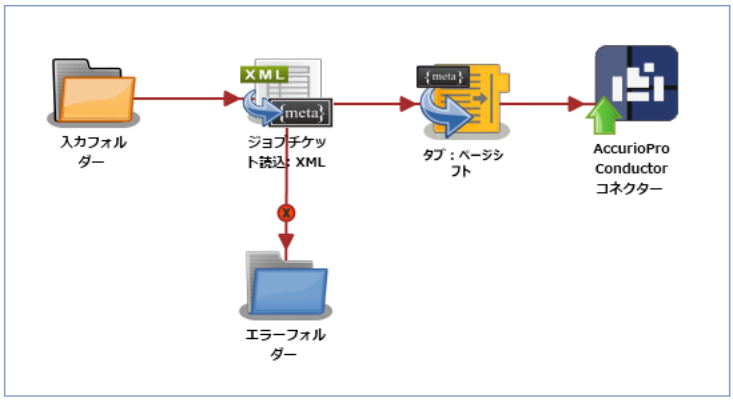
- **[タブ数]：** タブの数をドロップダウンから選択します。タブの高さは、選択されたタブの数に応じて区切られます。
- **[用紙サイズ]** ：インデックス紙のサイズをドロップダウンから指定します。2つ目のドロップダウンメニューから、[Letterインデックス]、[A4インデックス（12.7 mm）]、または[A4インデックス（15.0 mm）]を選択します。
- **[シフト幅]：** タブページのコンテンツの位置を指定するには、このオプションを使用します。指定したページのコンテンツは、ユーザーが指定したシフト位置に基づいて移動します。 注意：用紙方向が縦の場合は、右方向に移動します。用紙方向が横の場合は、下方向に移動します。
- **[タブページ番号]：[タブページ番号]** にメタデータ入力を指定します。メタデータの参照ボタン（ ）をクリックし、メタデータキーを[タブページ番号]フィールドにドラッグアンドドロップします。手動で入力することもできます。

タブ：ページシフトワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、XMLファイルを受け取り、ジョブチケットをXMLメタデータに解析し、XMLジョブチケットに含まれる章の情報に基づいてタブをファイルに追加して、その変更済みドキュメントを印刷のためにAccurioPro Conductorに送信することです。ジョブの印刷時にタブが含まれます。

注意： このノードは、キー名が **Job** のメタデータ出力を生成します。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。



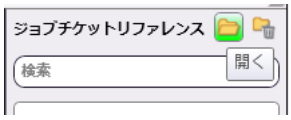
入力フォルダーノード: XMLジョブチケットを集めて、ワークフローの **ジョブチケット読込:XML** ノードに送るように入力フォルダーを構成します。送られるXMLジョブチケットファイルには、ジョブチケットの属性情報が含まれています。さらに、**タブ:ページシフトノード** でタブを作成する際の章情報も含まれています。以下に、章の情報を含むサンプルのジョブチケットを示します。

```
<Ticket>
 <Media>
        <Weight>40</Weight>
        <Width>8.5</Width>
        <Height>11</Height>
</Media>
<Paper>
        <Unit>inch</Unit>
</Paper>
<Tab>
        <Weight>40</Weight>
        <ChapterInfo>
          <Page>
            <Chapter>1</Chapter>
            <Chapter>4</Chapter>
          </Page>
        </ChapterInfo>
</Tab>
<File>file</File>
<Src>C:\\test files\\10Pages_Letter.pdf</Src>
</Ticket>
```

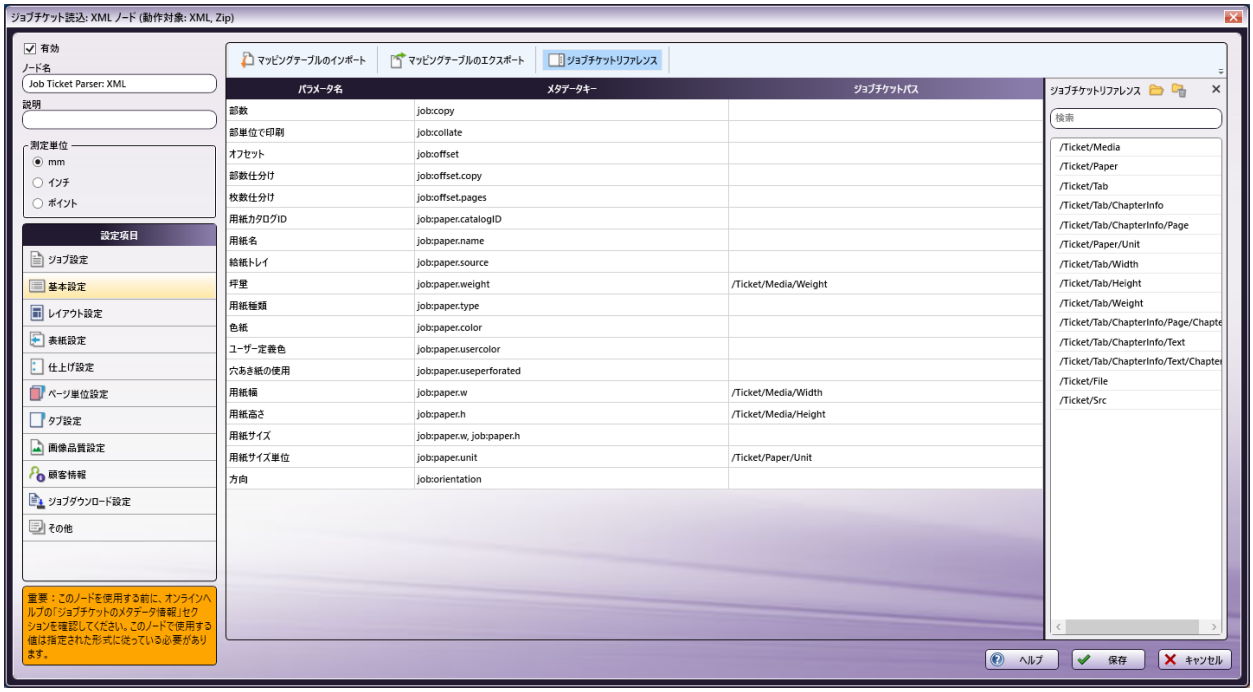
ジョブチケット読込:XMLノード: ドキュメントがXMLとしてフォーマットされている場合、そのXML情報はジョブチケットメタデータに変換され、ワークフローの次のノードに送られます。ドキュメントがXMLとしてフォーマットされていない場合、そのドキュメントは **エラーフォルダー** に移されます。

以下の手順に従って、XMLジョブチケットをマップします。

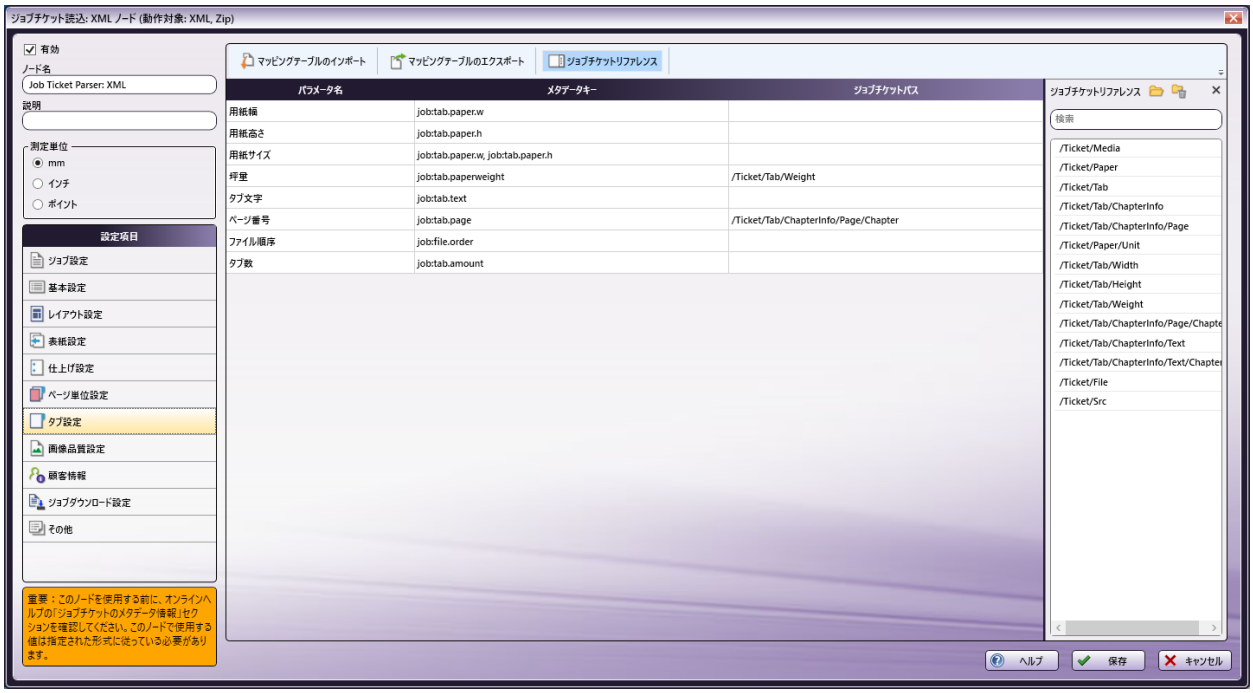
1. テキストエディターを使用して、上記のサンプルジョブチケットのサンプルXMLコードをコピーします。
2. サンプルのジョブチケットに記載されているソースパス **<Src>** は、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. XML_Tabs_Shift.XMLとしてファイルをローカルに保存します。
4. **ジョブチケット読込:XML** ノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。
5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
    - **［有効］** チェックボックス:オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
    - **［ノード名］:** ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
    - **［測定単位］:** ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。
6. **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）で、**［開く］** アイコンを見つけます。



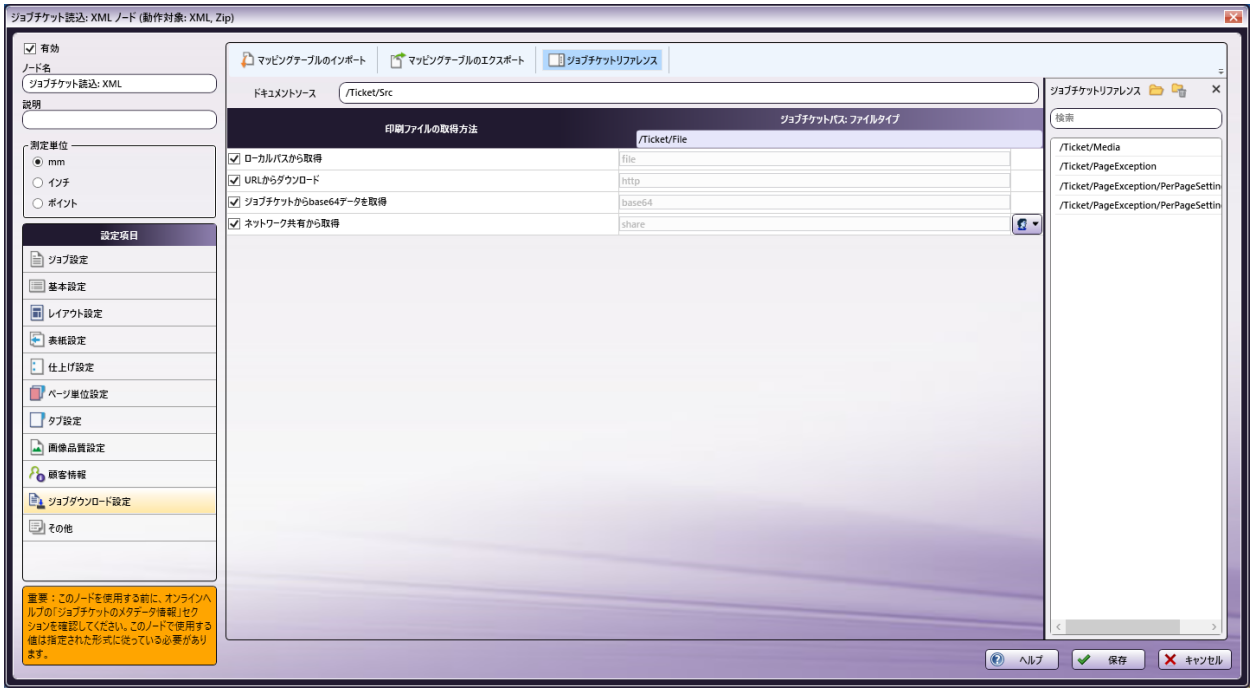
7. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3 で保存したファイル（XML_Tabs_Shift.XML）に移動して選択します。
8. ファイルが開くと、その内容（XPath）が **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）に表示されます。
9. **［設定項目］** パネル（左端）で、**［基本設定］** をクリックします。**［パラメータ名］**、**［メタデータキー］**、および **［ジョブチケットパス］** 列がメインパネルに表示されます。



10. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
11. **[坪量]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Media/Weight** をドラッグアンドドロップします。
12. **[用紙幅]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Media/Width** をドラッグアンドドロップします。
13. **[用紙高さ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Media/Height** をドラッグアンドドロップします。
14. **[用紙サイズ単位]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Paper/Unit** をドラッグアンドドロップします。
15. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[タブ設定]** オプションをクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



16. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
17. **[坪量]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/Weight** をドラッグアンドドロップします。
18. **[ページ番号]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/ChapterInfo/Page/Chapter** をドラッグアンドドロップします。
19. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]** および **[ジョブチケットパス：ファイルタイプ]** フィールドと **[印刷ファイルの取得方法]** チェックボックスがメインパネルに表示されます。



20. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]** **[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有から取得]** の4つのオプションのチェックボックスをすべてオンにします。
21. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/Ticket/Src** をドラッグアンドドロップします。
22. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドに **/Ticket/File** をドラッグアンドドロップします。
23. これまでの操作が完了すると、上の画像のような画面が表示されます。
24. **[保存]** をクリックして、変更をノードに適用します。

タブ:ページシフトノード: タブ:ページシフトノードは、PDFファイル(例:XML_Tabs_Shift.XML)の章の区切り情報を識別し、章の標識としてタブページを追加します。この情報はファイルのメタデータに追加され、そのファイルはワークフローの次のノードに送られます。このセクションの初めに示したサンプルのジョブチケットでは、第1ページと第4ページが章の区切りとして認識され、PDFドキュメントのインデックス紙に変更されます。

AccurioPro Conductorコネクターノード: ドキュメント(およびそのタブ)はAccurioPro Conductorに送られます。そこから、ドキュメントを印刷できます。

タブ:作成済みタブの読込ノード

注意: このノードは、PDFファイル(バージョン1.3以降)に対応しています。

タブ:作成済みタブの読込ノード では、PDFファイルのすべてのページを解析し、タブページを検索します。タブページがあるインデックス紙のページ番号はメタデータに保存され、PDFファイルと共にワークフローの次のノードに送られます。

このノードは3つのメタデータのキーと値のペアをサポートしています。以下に示すキーと値のペアは、このノードに入力される前にPDFで設定(事前定義)されています。

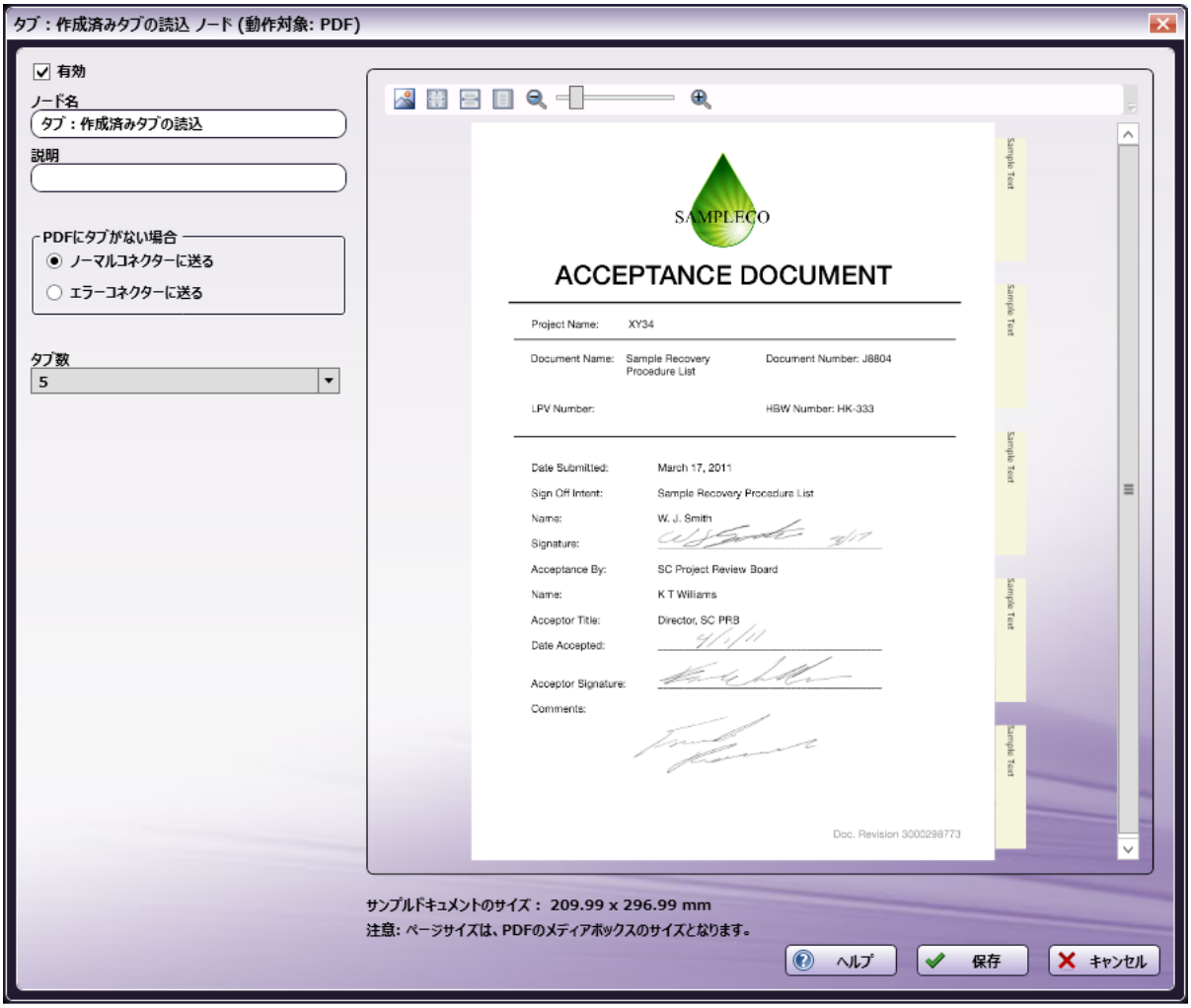
- **job:tab.paper.w**(オプション) – インデックス紙の **用紙幅** 。
- **job:tab.paper.h**(オプション) – インデックス紙の **用紙高さ** 。**用紙幅** と **用紙の高さ** は、一緒に設定する必要があります。これらの値が設定されていない場合、**用紙サイズ** は、PDFファイルの先頭ページのサイズによって決まります。
- Job:tab.paperweight(オプション) – インデックス紙の **坪量** 。**坪量** のメタデータが無効な場合、タブ:作成済みタブの読込ノードでは、アクティビティログにメッセージが表示され、PDFドキュメントがノードのエラーフォルダーに送られます。

  注意: このヘルプファイルには、サポートされているインデックス紙の **坪量** の詳細情報が記載されています。**ジョブチケットメタデータ** を参照してください。起動した[メタデータブラウザー]ウィンドウには、あらかじめ定義されているジョブチケットメタデータ、システム定義の変数(日付、ファイル、システム、ユーザー情報など)、およびアクティブノードのメタデータ値が表示されます。

  注意: インデックス紙の **方向** は、マージした入力PDFの先頭ページの向きで決まります。マージした入力PDFの先頭ページの向きが縦であれば、挿入されるインデックス紙の **方向** も縦になります。また、タブの順序は、[タブの並び方向]フィールドで選択したオプションに基づきます。マージした入力PDFの先頭ページの向きが横であれば、挿入されるインデックス紙の **方向** も横になります。また、タブの順序は、[タブの並び方向]フィールドで選択したオプションに基づきます。

タブ:作成済みタブの読込ノードを使う

タブ:作成済みタブの読込 ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、**タブ:作成済みタブの読込** ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**[タブ:作成済みタブの読込ノード]** ウィンドウが開きます。



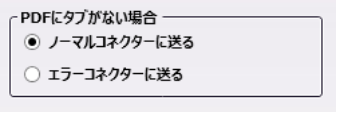
このウィンドウでは、タブ文字のプロパティを指定します。[プレビュー]パネルには、選択した設定でドキュメントがどのように印刷されるかを示すリアルタイムの画像が表示されます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します(つまり、既定のパスまたは「Y(はい)方向の」パスを進み続けます)。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、タブ:作成済みタブの読込ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、タブ:作成済みタブの読込ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[タブ数]** フィールドのドロップダウンからタブの数を指定します。
- 設定を適用するには、**[保存]** ボタンを選択します。変更を保存せずにウィンドウを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

  注意:タブのページサイズ は、送信されたPDFファイルの最初のページによって決まります。サポートされているサイズは、A3、A4、A5、B4、B5、ハーフレター、レター、タブロイドです。最初のページのサイズが、サポートされているいずれの用紙サイズとも異なる場合は、「このインデックス紙はサポートされていません」というエラーメッセージが表示され、PDFファイルがワークフローのエラー遷移フォルダーノードに移されます。

遷移の選択

タブを含まないPDFファイルをノードで受け取った場合は、この設定を使用して、ファイルに対する処理内容をワークフローに指示します。



- **[ノーマルコネクターに送る]:** タブがない場合でも、ファイルはワークフローの次のノードに送られ、通常どおり処理されます。
- **[エラーコネクターに送る]:** タブの適用はジョブの処理に不可欠なため、タブのないファイルはエラーフォルダーに移されます。これらのファイルは手動で処理する必要があります。

タブ数

ドキュメントのタブの数を指定するには、このドロップダウンを使用します。ここで入力した値はメタデータに変換されます。追加のタブページ設定を組み込むと、それらの設定はメタデータに追加されます。このメタデータは、AccurioPro Conductorコネクターノードで使用できます。

[タブ数] の値がすでに指定されているジョブがこのノードに送られてくることがあります。その場合、この値はメタデータキー{job:tab.amount}で識別されます。このメタデータキーを含むジョブが **タブ:作成済みタブの読込ノード** に送られてくると、このオプションを使用して設定されているUI値はすべて無視され、メタデータ値によって上書きされます。

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

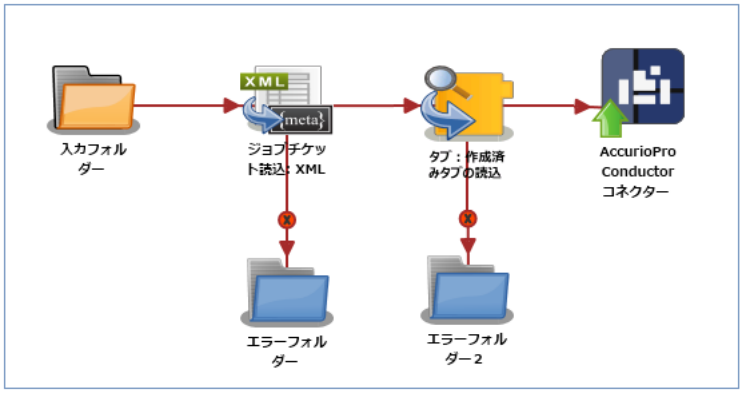
ツールバーのアイコン	説明
	[イメージ]アイコン。 サンプルプレビューのイメージを変更するには、このアイコンをクリックします。 PNG、JPEG、PDF形式だけがサポートされています。サポートされているイメージの表示サイズは、A3/A4/A5/B4/B5/ハーフレター/レター/タブロイドです。
	[実際のサイズ(100%)]アイコン。 プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン。 プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページ全体]アイコン。 このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	ズームコントロール。 拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大／縮小します。

タブ:作成済みタブの読込ワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、XMLファイルを受け取って、ジョブチケットをXMLメタデータに解析し、作成済みのタブ情報を抽出してメタデータに保存し、その変更済みのドキュメントと抽出したタブ情報を印刷のためにAccurioPro Conductorに送信することです。ジョブの印刷時にタブが含まれます。

注意:このノードは、キー名が **Job** のメタデータ出力を生成します。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。



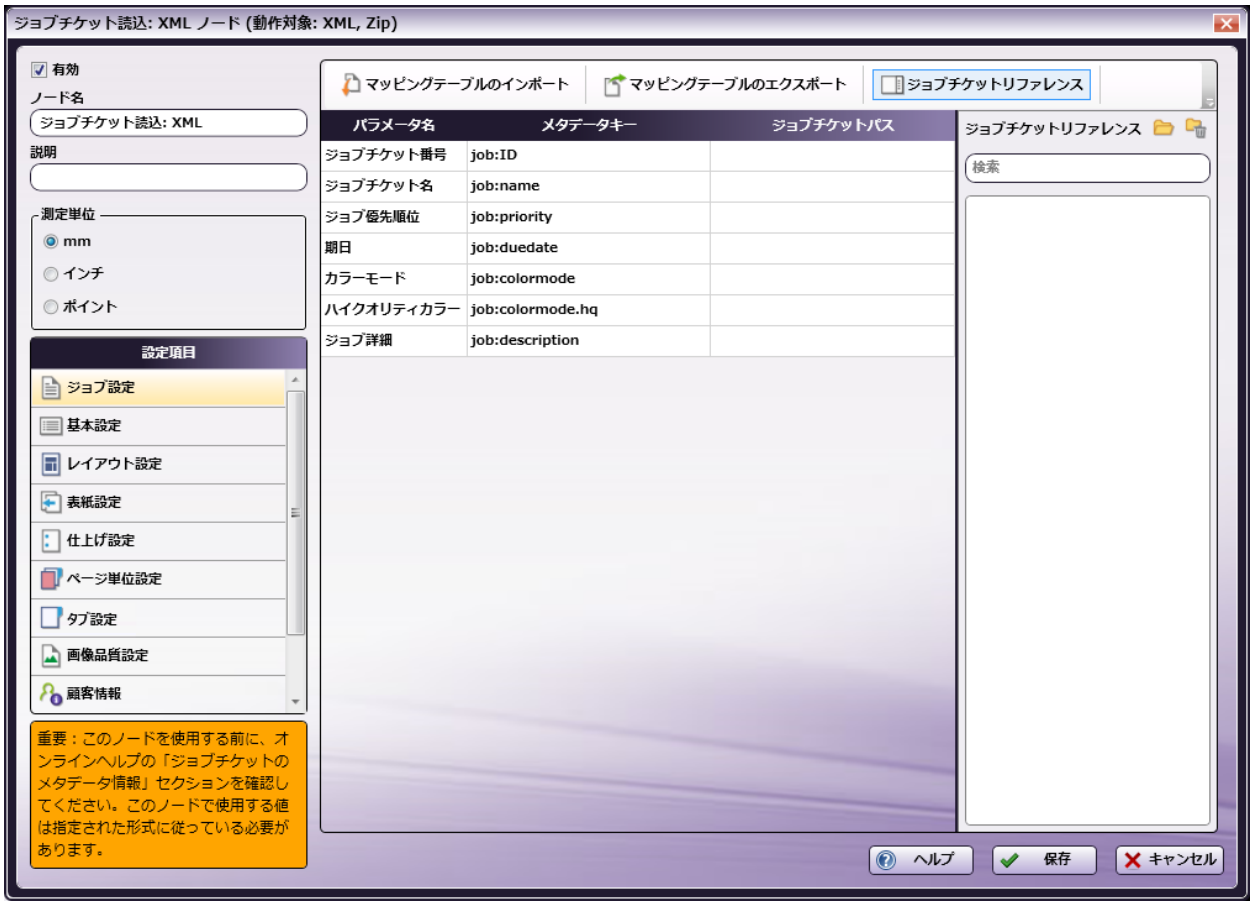
入力フォルダーノード: XMLジョブチケットを集めて、ワークフローの **ジョブチケット読込:XML** ノードに送るように入力フォルダーを構成します。送られるXMLジョブチケットファイルには、タブの情報が含まれています。以下に、タブの情報を含むサンプルのジョブチケットを示します。

```
<Ticket>
        <Tab>
                <Width>9</Width>
                <Height>11</Height>
                <Weight>40</Weight>
        </Tab>
        <Paper>
         <Unit>inch</Unit>
        </Paper>
        <File>file</File>
        <Src>C:\\test files\\Letter_Tab.pdf</Src>
</Ticket>
```

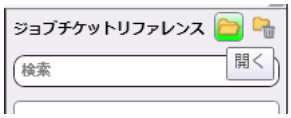
ジョブチケット読込:XMLノード: ドキュメントがXMLとしてフォーマットされている場合、そのXML情報はジョブチケットメタデータに変換され、ワークフローの次のノードに送られます。ドキュメントがXMLとしてフォーマットされていない場合、そのドキュメントは **エラーフォルダー** に移されます。

以下の手順に従って、XMLジョブチケットをマップします。

1. テキストエディターを使用して、上記のサンプルジョブチケットのサンプルXMLコードをコピーします。
2. 前述のサンプルのジョブチケットに記載されているソースパス **<Src>** は、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. XML_Tabs_Pre.xmlとしてファイルをローカルに保存します。
4. **ジョブチケット読込:XML** ノードをダブルクリックします。設定画面が開きます。

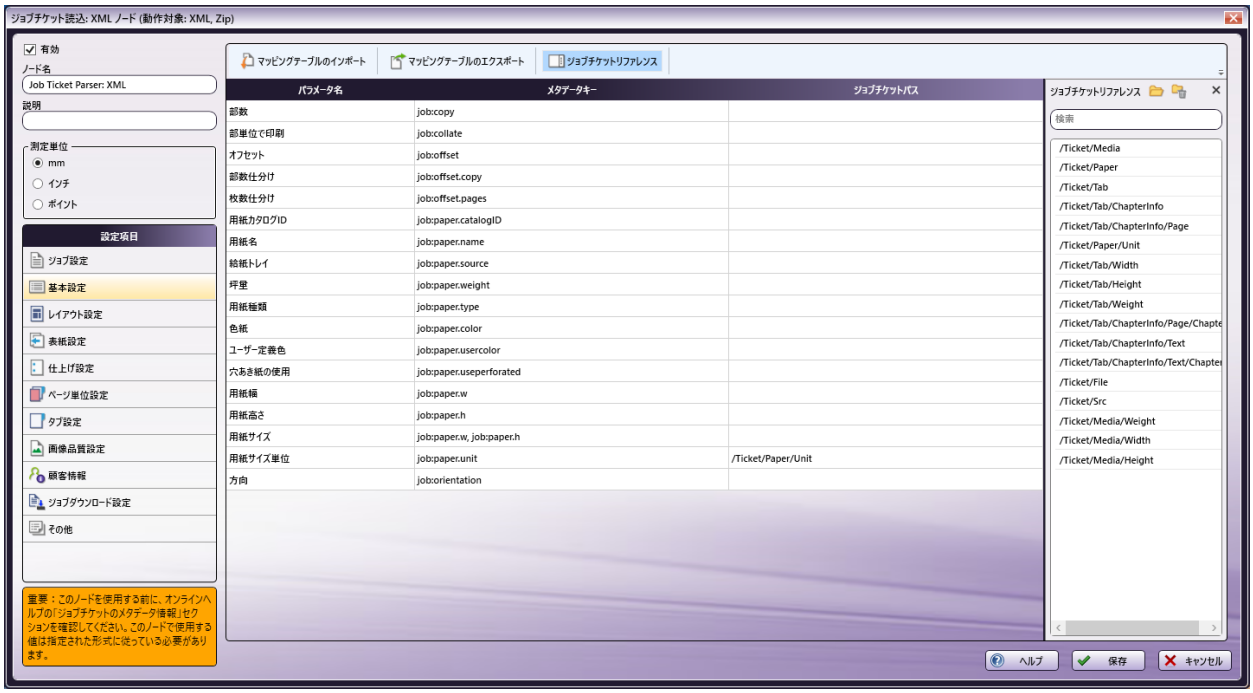


5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
   - **［有効］** チェックボックス:オンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
   - **［ノード名］:** ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
   - **［測定単位］:** ノードに必要な測定単位に対応するラジオボタンを選択します。
6. **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）で、**［開く］** アイコンを見つけます。

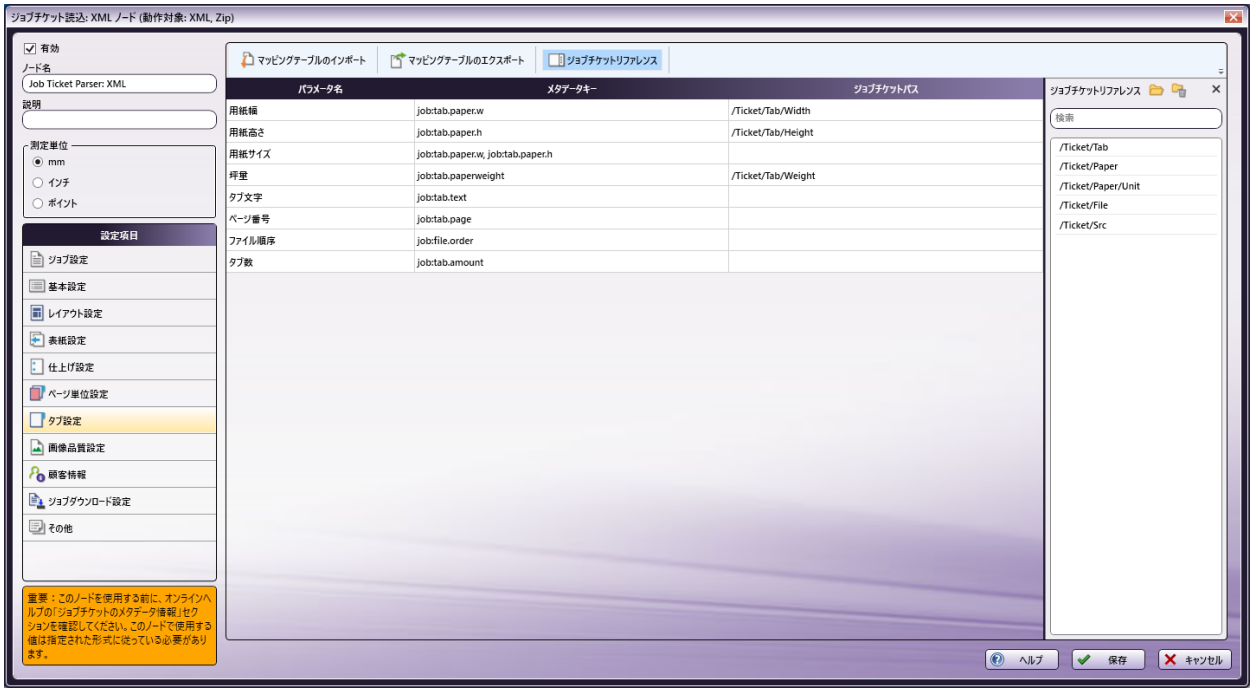


7. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル（XML_Tabs_Pre.xml）に移動して選択します。
8. ファイルが開くと、その内容（XPath）が **［ジョブチケットリファレンス］** パネル（右端）に表示されます。

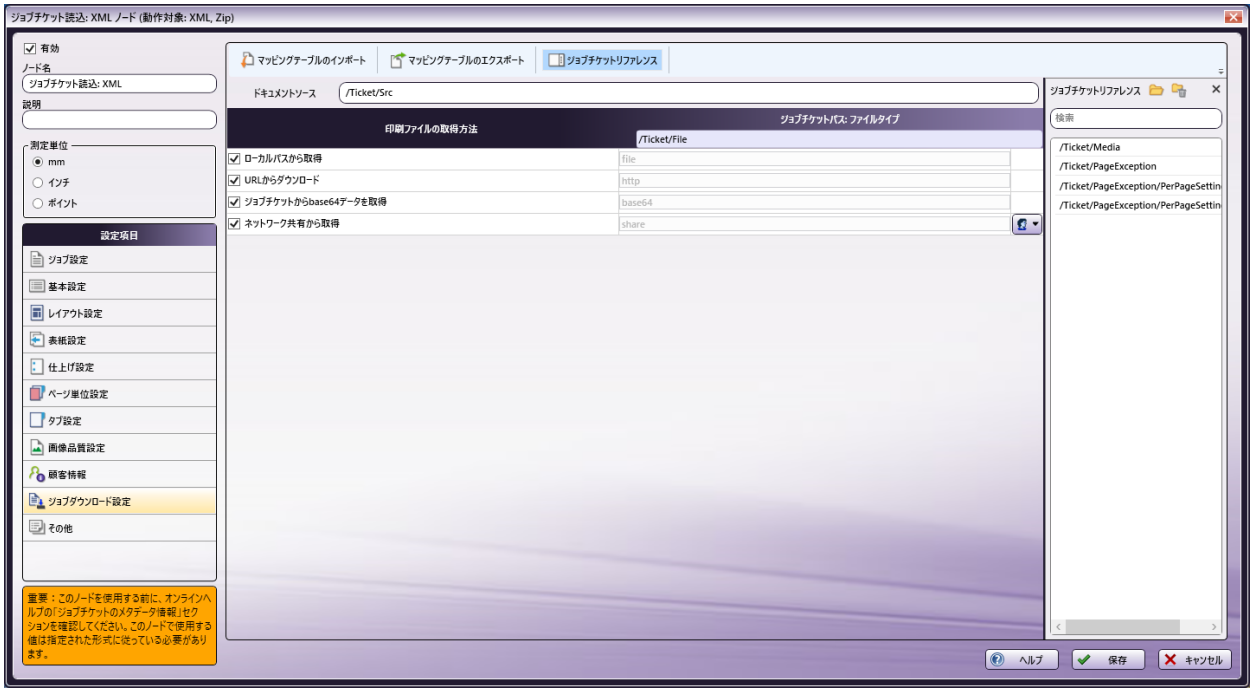
9. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[基本設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



10. **[用紙サイズ単位]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Paper/Unit** をドラッグアンドドロップします。
11. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[タブ設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



12. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
13. **[用紙幅]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/Width** をドラッグアンドドロップします。
14. **[用紙高さ]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/Height** をドラッグアンドドロップします。
15. **[坪量]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Tab/Weight** をドラッグアンドドロップします。
16. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]** および **[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドと **[印刷ファイルの取得方法]** チェックボックスがメインパネルに表示されます。



17. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]**、**[URLからダウンロード]**、**[ジョブチケットからbase64データを取得]**、**[ネットワーク共有から取得]** の 4 つのオプションのチェックボックスをすべて選択します。
18. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/Ticket/Src** をドラッグアンドドロップします。
19. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス: ファイルタイプ]** フィールドに **/Ticket/File** をドラッグアンドドロップします。
20. これまでの操作が完了すると、上の画像のような画面が表示されます。
21. **[保存]** をクリックして、変更をノードに適用します。

タブ:作成済みタブの読込ノード: タブ:作成済みタブの読込ノードは、タブページの設定に基づいて入力ドキュメントのタブページをすべて解析し、解析したタブページ設定をメタデータに追加します。

タブ作成済みタブの読込 ノードは、**[はい]** と **[いいえ]** の遷移によって他のノードと接続できます。

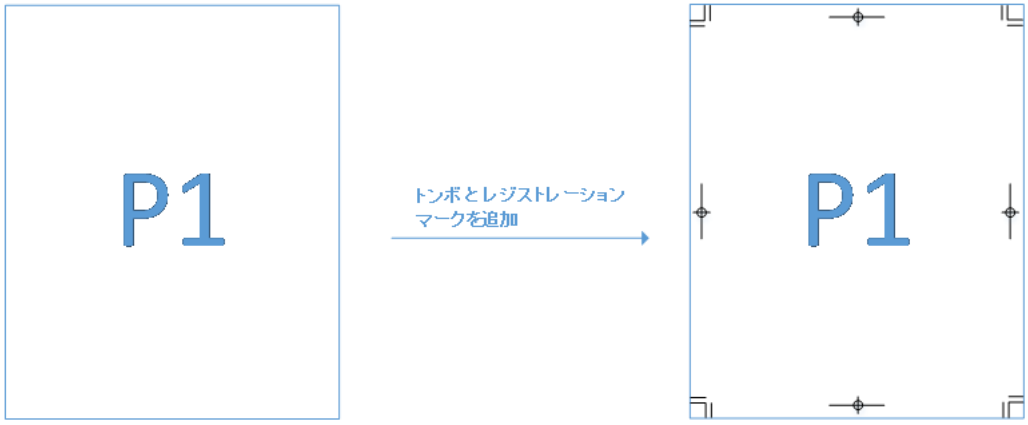
- ドキュメントにタブページがあるかどうかに関係なく、**[ノーマルコネクターに送る]** ラジオボタンをオンにすると、すべてのドキュメントがワークフローの次のノードに送られます。
- ドキュメントにタブページがない場合、**[エラーコネクターに送る]** ラジオボタンをオンにすると、タブのないドキュメントだけが **エラーフォルダー2** に送られます。タブのあるドキュメントはワークフローの次のノードに送られます。

AccurioPro Conductorコネクターノード: ドキュメント（およびそのタブ）はAccurioPro Conductorに送られます。そこから、ドキュメントを印刷できます。

トリムマークノード

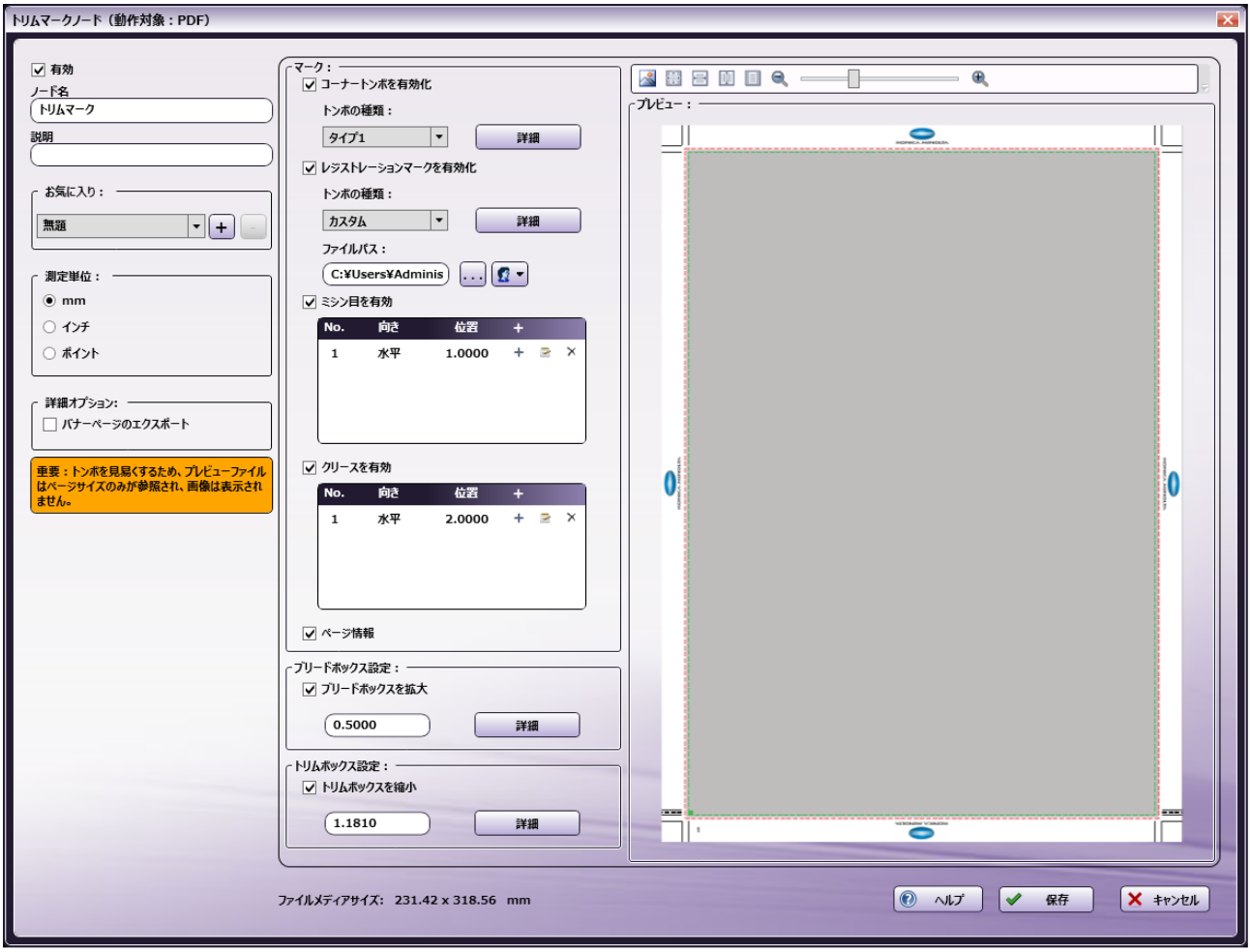
注意: このノードは、PDFファイル（バージョン1.3以降）に対応しています。

トリムマークノード を使用して、正確なポストプレス作業をサポートするために、印刷マークをPDFファイルに追加します。トリムマークノードを実行すると、印刷マークを設定したPDFファイルが作成されます。



トリムマークノードを使う

トリムマークノードのアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、トリムマークノードをワークフローに追加します。アイコンをダブルクリックすると、[トリムマークノード]ウィンドウが開きます。



このウィンドウを使用してトリムマークノードの設定を指定します。

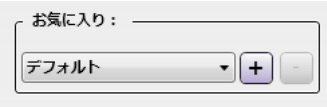
- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、デフォルトのパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、トリムマークノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、トリムマークノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、収集ノードが複数ある場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[測定単位]** パネルでは、測定単位のラジオボタンを選択します。**mm**、**インチ**、および **ポイント**の3種類の測定単位を使用できます。
- **[詳細オプション]** パネルで **[バナーページのエクスポート]** チェックボックスをオンにすると、トリムマークを設定したドキュメントとバナーページの両方が作成されます。バナーページには、ジョブに適用されるトリムマークの種類が出力されます。バナーページが生成され、個別のジョブとしてメインジョブと共に送信されます。

  注意: 生成されるバナーページにはメタデータキー"trim:jobtype"に値として"banner"が設定されます。

- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンをクリックします。**[キャンセル]** を選択すると、ウィンドウが閉じて変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンをクリックします。

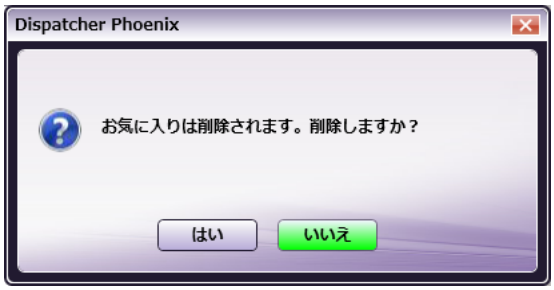
お気に入り

[お気に入り] 領域では、テンプレートを作成して保存します。保存したテンプレートを削除することもできます。



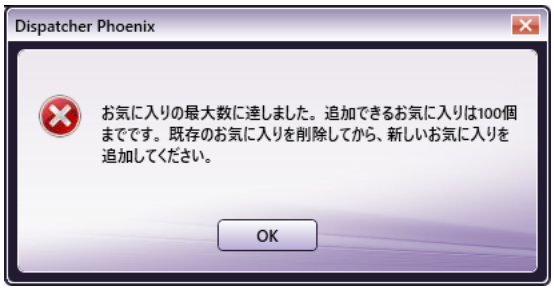
選択した設定を**お気に入り**として保存するには、すべての設定を選択した後に**お気に入り名**を追加します。

- **新しい項目の追加:[+]** ボタンをクリックすると、[お気に入り]ポップアップが開きます。**[お気に入り名]** の値を入力します。**[保存]** ボタンをクリックします。
- **既存の項目の削除:[-]** ボタンをクリックします。確認ダイアログが開きます。**[はい]** をクリックして**お気に入り名**を削除します。



- **既存の項目の編集:[+]** ボタンをクリックします。必要に応じて変更を加えます。デフォルトでは、**[お気に入り]** の値は **[無題]** に設定されます。元の名前を保持するには、古い値を再入力して、**[無題]** を置き換えます。終了したら、**[保存]** ボタンをクリックします。古い名前を再入力した場合、上書きを確認するポップアップが開きます。このポップアップで **[はい]** をクリックして、古い値を上書きします。

  注意: 最大100個の **[お気に入り]** を保存できます。**[お気に入り]** の数が100に達すると、テンプレートへの新規追加は許可されず、次のエラーメッセージがユーザーに表示されます。



注意:デフォルト以外の保存済みの **[お気に入り]** が選択されている場合、他のワークフローのトリムマークノードによって保存済みの **[お気に入り]** が削除/変更されていない場合、ノードを開くと **[お気に入り]** のドロップダウンには保存済みの **[お気に入り]** 名が表示されます。

注意:デフォルト以外の **[お気に入り]** が選択され、ノードが開いたときに既に削除/変更されている場合、**[お気に入り]** ドロップダウンには値[-]が表示されます。

注意:ノードが開いているときに **[お気に入り]** の値を変更すると、**[お気に入り]** ドロップダウンに **[無題+]* の値が表示されます。

注意: **[お気に入り]** の名前は、以下の文字の任意の組み合わせにすることができます。

・1バイト文字[英字など](a～zおよびA～Z)

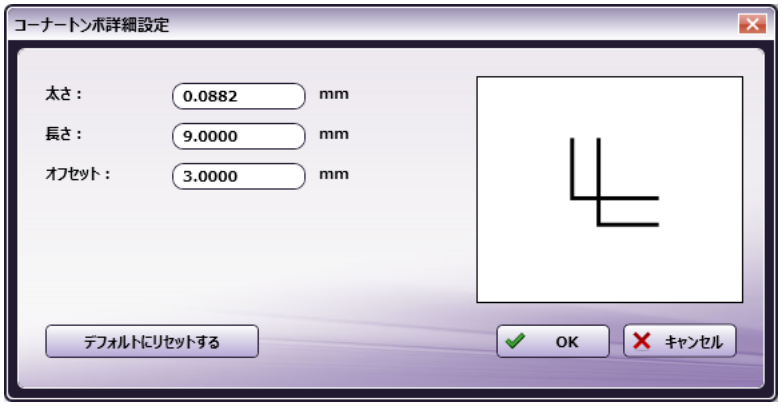
・2バイト文字[日本語、中国語の文字など]

・スペース

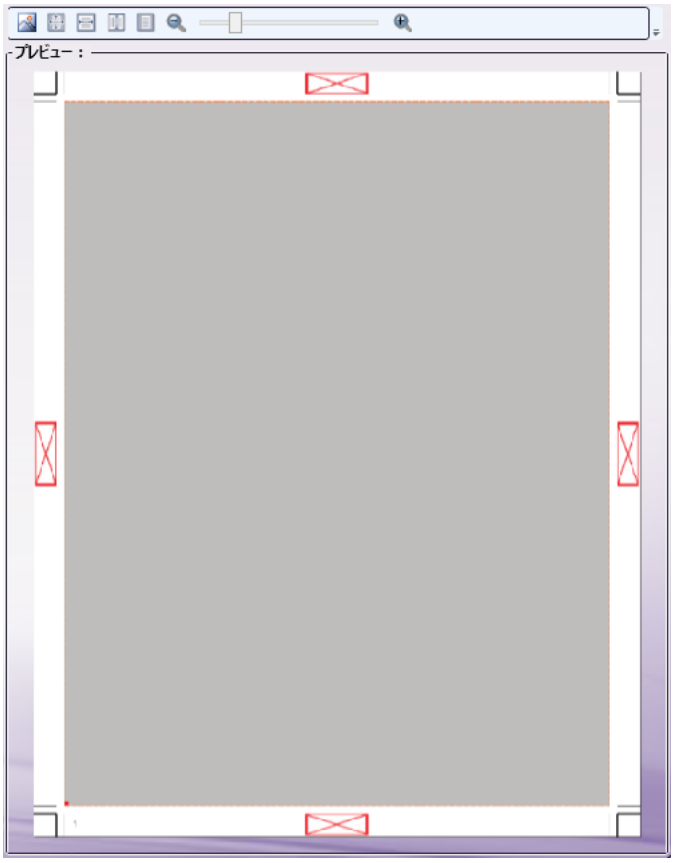
・数字(0から9)

印刷マーク

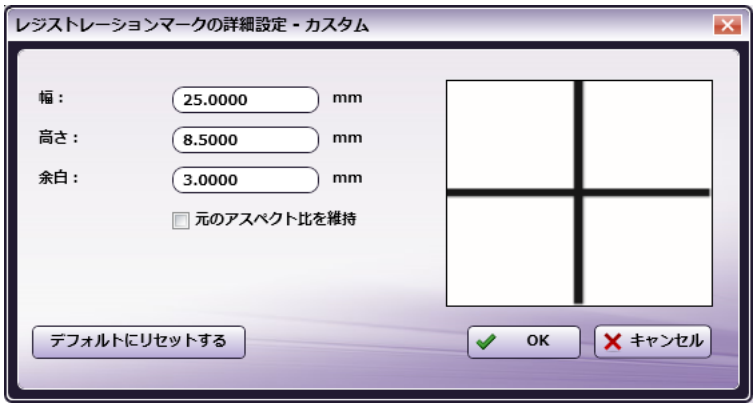
- **［コーナートンボを有効化］:** チェックボックスをオンにすると、**コーナートンボ**が追加されます。
  - **［トンボの種類］:［タイプ1］**、**［タイプ2］**、および **［タイプ3］** の3つのオプションから **コーナートンボ** の種類を選択します。
  - **［詳細］:［詳細］** オプションをクリックして、［コーナートンボ詳細設定］画面を開きます。この画面を使用して、**カスタムコーナートンボ** の **［太さ］**、**［長さ］**、および **［オフセット］** の値を指定します。**［デフォルトにリセットする］** ボタンをクリックすると、すべての値がデフォルト値にリセットされます。



- **［レジストレーションマークを有効化］:** チェックボックスをオンにすると、**レジストレーションマーク** が追加されます。
  - **［トンボの種類］:［タイプ1］**、**［タイプ2］**、**［タイプ3］**、および **［カスタム］** の4つのオプションからレジストレーションマークの種類を選択します。**［カスタム］** を選択した場合、イメージのパスを指定する必要があります。ネットワーク経由でファイルにアクセスできるようにするには、資格情報を設定する必要があります。**カスタムレジストレーションマーク**のファイルパスが空白の場合は、**X** マークの画像が **［プレビュー］** ウィンドウと **［レジストレーションマーク詳細設定-カスタム］** ウィンドウに表示されます。



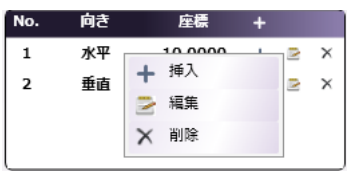
- **［詳細］：［詳細］オプションをクリックして、［レジストレーションマーク詳細設定］画面を開きます。この画面を使用して、レジストレーションマークの［幅］、［高さ］、および［余白］の値を指定します。［デフォルトにリセットする］** ボタンをクリックすると、すべての値がデフォルト値にリセットされます。



- **［ミシン目を有効］：** チェックボックスをオンにすると、**ミシン目マーク** が追加されます。オンにすると、一連の**ミシン目マーク**により、ドキュメントのミシン目を入れる場所が示されます。ミシン目マークは、プレビューと出力ドキュメントに点線で表示されます。これらの線はポストプレス処理で役立ちます。

  ミシン目マークリストには最大で100個のマークを記述できますが、リストに表示されるのは4行のみです。

  右クリックで表示されるコンテキストメニューを使用して、**ミシン目マーク** に対して **［挿入］**、**［編集］**、または **［削除］** の各操作を行います。または、追加（＋）アイコンをクリックしてミシン目マークを追加したり、削除（✕）アイコンをクリックしてミシン目マークを削除したりすることもできます。



- **［クリースを有効］：** チェックボックスをオンにすると、**クリースマーク**が追加されます。オンにすると、プレビューと出力ドキュメントに一連の**クリースマーク**が実線で表示されます。これらの線はポストプレス処理で役立ちます。

  クリースマークリストには最大で100個のマークを記述できますが、リストに表示されるのは4行のみです。

右クリックで表示されるコンテキストメニューを使用して、**クリースマーク** に対して **［挿入］**、**［編集］**、または **［削除］** の各操作を行います。または、追加（＋）アイコンをクリックしてクリースマークを追加したり、削除（×）アイコンをクリックしてクリースマークを削除したりすることもできます。

- **［ページ情報］:** チェックボックスをオンにすると、**ページ番号**が追加されます。オンにすると、出力ページの右下に**6ポイントのTimes New Roman**フォントを使用して**ページ番号**が追加されます。

ブリードボックス設定

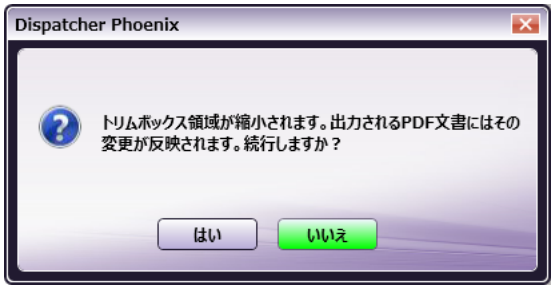
- **［ブリードボックスを拡大］:** デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。この場合、出力ドキュメントは入力ドキュメントで設定された値を保持します。このチェックボックスをオンにした場合は、拡大された**ブリードボックス**の値をテキストボックスで指定する必要があります。
- **［詳細］:** このボタンをクリックすると、［ブリードボックス詳細設定］画面が開きます。この画面で、**［左］**、**［上］**、**［右］**、および **［下］** の値を変更します。

［OK］ をクリックして変更を適用して保存するか、**［キャンセル］** をクリックして要求をキャンセルします。変更が適用されます。

トリムボックス設定

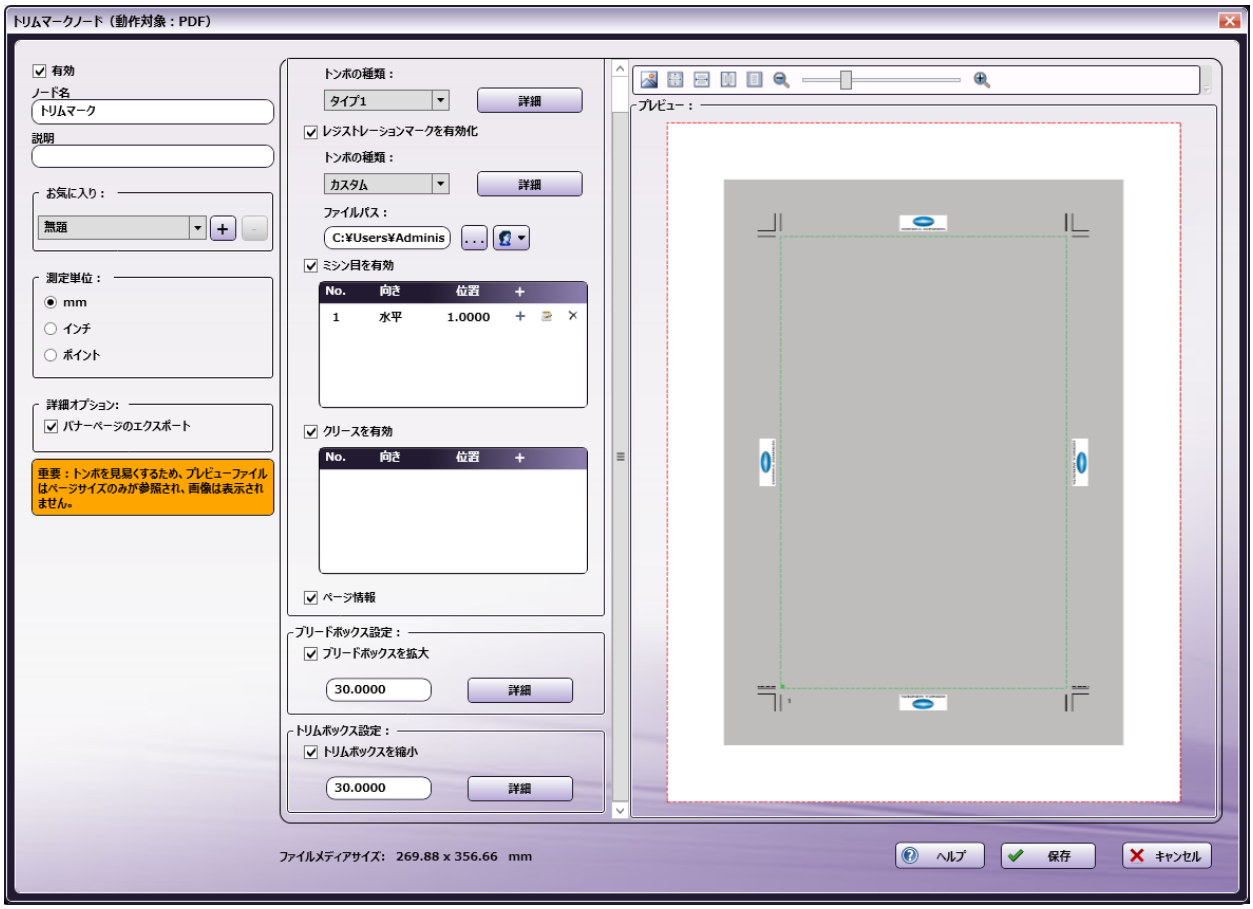
- **［トリムボックスを縮小］:** デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。この場合、出力ドキュメントは入力ドキュメントで設定された値を保持します。このチェックボックスをオンにした場合は、カスタムの **［トリムボックスを縮小］** の値をテキストボックスで指定する必要があります。
- **［詳細］:** このボタンをクリックすると設定画面が開きます。この画面で、[トリムボックスを縮小]の **左側ブリード、右側ブリード、上側ブリード、** および **下側ブリード** の値を変更します。

［OK］ をクリックして変更を適用するか、**［キャンセル］** をクリックして要求をキャンセルします。**［OK］** を選択すると、次のような確認のポップアップが開きます。



[はい] をクリックして変更を適用するか、**[いいえ]** をクリックして要求をキャンセルします。

変更が保存されると、次のようなプレビュー画面が表示されます。



緑色の枠ボックスは、適用された**縮小**設定を示しています。

プレビュー設定

[プレビュー] アイコン をクリックすると[プレビュー設定]ウィンドウが開きます。

- **[PDFを使用]：** このチェックボックスをオンにすると、プレビューの生成にPDFファイルを使用できます。5,000ページを超える最大500 MBの大きさのファイルのインポートがサポートされます。
- **[トリムサイズ]：** 余分な部分を切り取った後のページサイズ。
- **[縦]／[横]：** ラジオボタンをクリックして、ドキュメントの**向き**を選択します。
- **[幅]** および **[高さ]**：これらの値は、トリムの **幅**および **高さ** を示します。**[トリムサイズ]** コンボボックスで **[カスタムサイズ]** を選択すると、**[幅]** および **[高さ]** のテキストボックスが有効になり、値を変更できます。

プレビュー設定の生成中は、進行状況を示す以下の画面が表示されます。

プレビューのロード中に変更を加えると、その変更は適用され、ロードするプレビューは最後に構成された設定に基づきます。

注意:

- プレビューパネルはPDFファイルのみをサポートします。
- ローカルドライブのファイルのみがサポートされます。ネットワークパスのファイルはサポートされません。
- ［プレビュー］パネルに印刷マークを明瞭に表示するため、プレビューの表示には、アップロードされたPDFページのサイズのみが使用されます。［プレビュー］パネルでは、PDFの内容はグレーのボックスとして表示されます。

ツールバー

ツールバーはウィンドウの上部に表示されます。プレビューをカスタマイズするには、このツールバーを使用します。

ツールバーのアイコン	説明
	[プレビューのアップロード]アイコン。 サンプルプレビューのイメージをアップロードするには、このアイコンをクリックします。PDFのプレビューのみがサポートされています。OSで16 GB以上のRAMが利用可能な場合、5,000ページで最大500 MBの大きさのファイルがプレビューでサポートされます。
	[実際のサイズ（100%）]アイコン： プレビューのサンプルドキュメントを元のサイズに戻すには、このアイコンをクリックします。
	[幅に合わせる]アイコン。 プレビュー領域の幅に合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[高さに合わせる]アイコン。 プレビュー領域の高さに合わせてサンプルドキュメントを伸縮するには、このアイコンをクリックします。
	[ページに合わせる]アイコン： このアイコンをクリックすると、サンプルドキュメントがプレビュー領域全体に表示されます。
	ズームコントロール。 拡大鏡アイコンまたはスライドバーのいずれかを使用して、プレビュー領域を拡大／縮小します。

メタデータの取り扱い

本ノードでは以下のメタデータグループカテゴリについて出力します。

トリム、ポストプレス

制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. ネットワーク資格情報
    - 資格情報はワークフロー/config XMLにそのまま渡されて書き込まれます。
    - ワークフローを別のマシンからエクスポートしてインポートすると、ネットワーク資格情報が適切に機能しないことがあります。ワークフローをインポートした後で、資格情報を手動で設定／提供する必要があります。
2. **［プレビュー］**パネルの**［PDFを使用］**オプションでは、パブリックの共有ネットワークパスのみがサポートされています。資格情報を必要とするネットワークパスはサポートされていません。

ワークシート整形

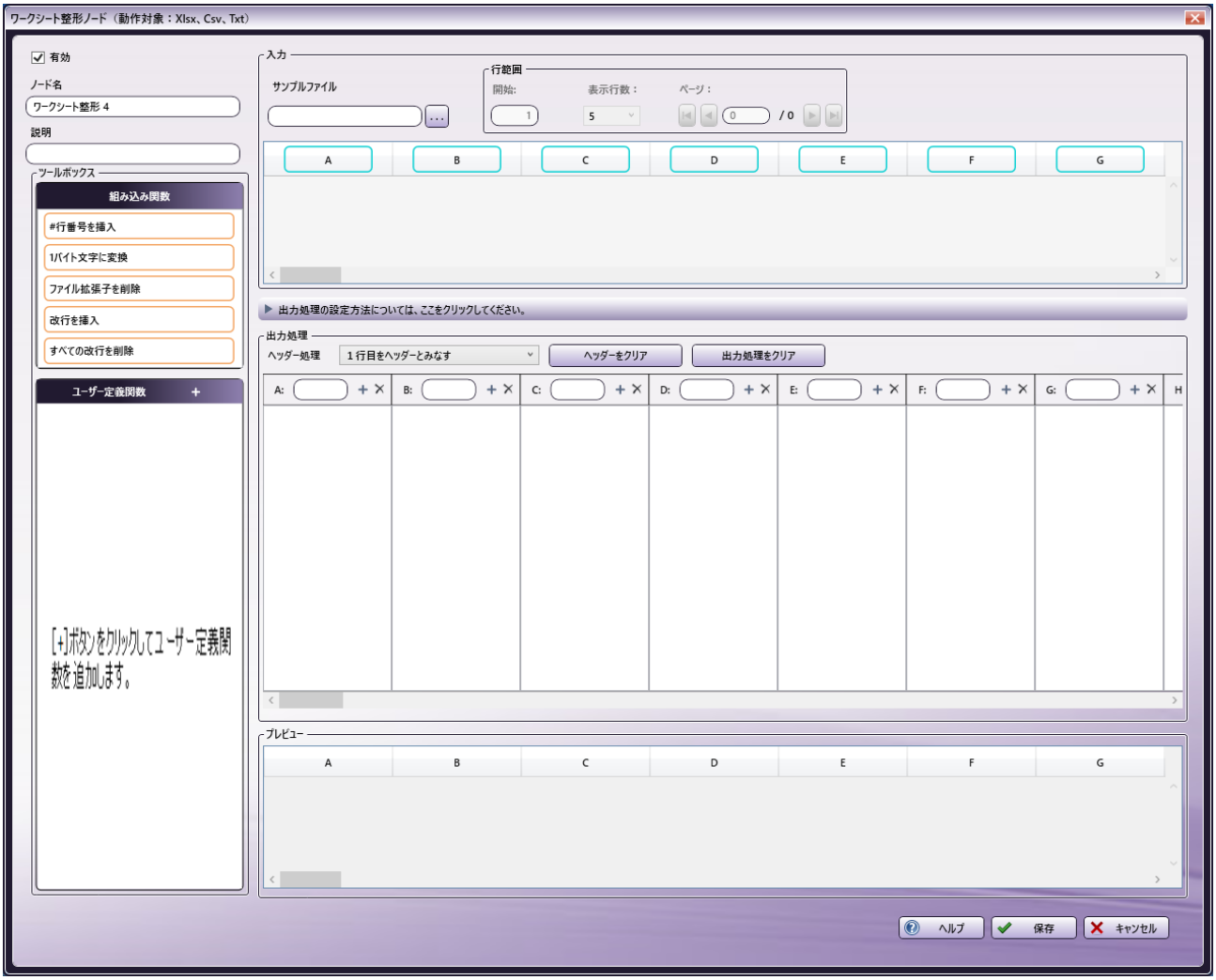
注: このノードはXLSX、CSV、およびTXTファイルに対応します。

注: 各ファイル形式の制限の詳細については、このドキュメントの後半の **制限** を参照してください。

ワークシート整形 ノードは、入力されたワークシートを変換ルールに基づいて処理し、CSVファイルを出力します。変換ルールには下記のような処理を定義できます。

- 列の追加/削除/並び替え
- 列単位でのセル内容のマージ
- セルに含まれるテキストの追加/置換

ワークシート整形 ノードアイコンをワークフロービルダーのキャンバスにドラッグ アンド ドロップすることで、ワークシート整形ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、**ワークシート整形ノード** ウィンドウが開きます。



- **【有効】** チェックボックスをオンにして処理を実行できるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **【ノード名】** フィールドに、ワークシート整形ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **【説明】** フィールドに、ワークシート整形ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- ワークシート整形の定義を保存するには **【保存】** ボタンを選択します。変更を保存しないでウィンドウを終了するには、**【キャンセル】** ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**【ヘルプ】** ボタンを選択します。

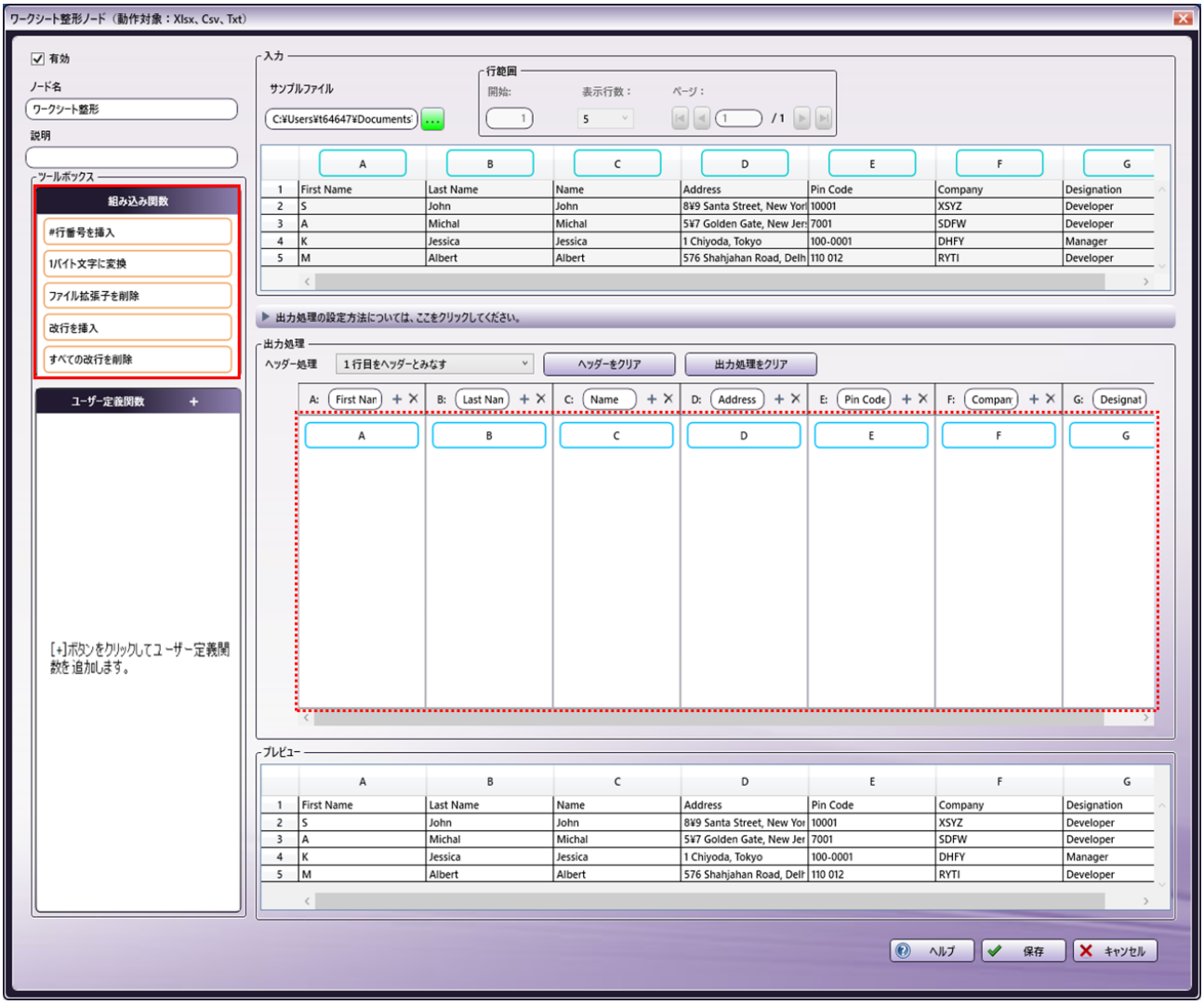
関数を使用する

ワークシート整形 ノードでは、**「組み込み関数」**と**「ユーザー定義関数」**の2種類の関数がサポートされています。

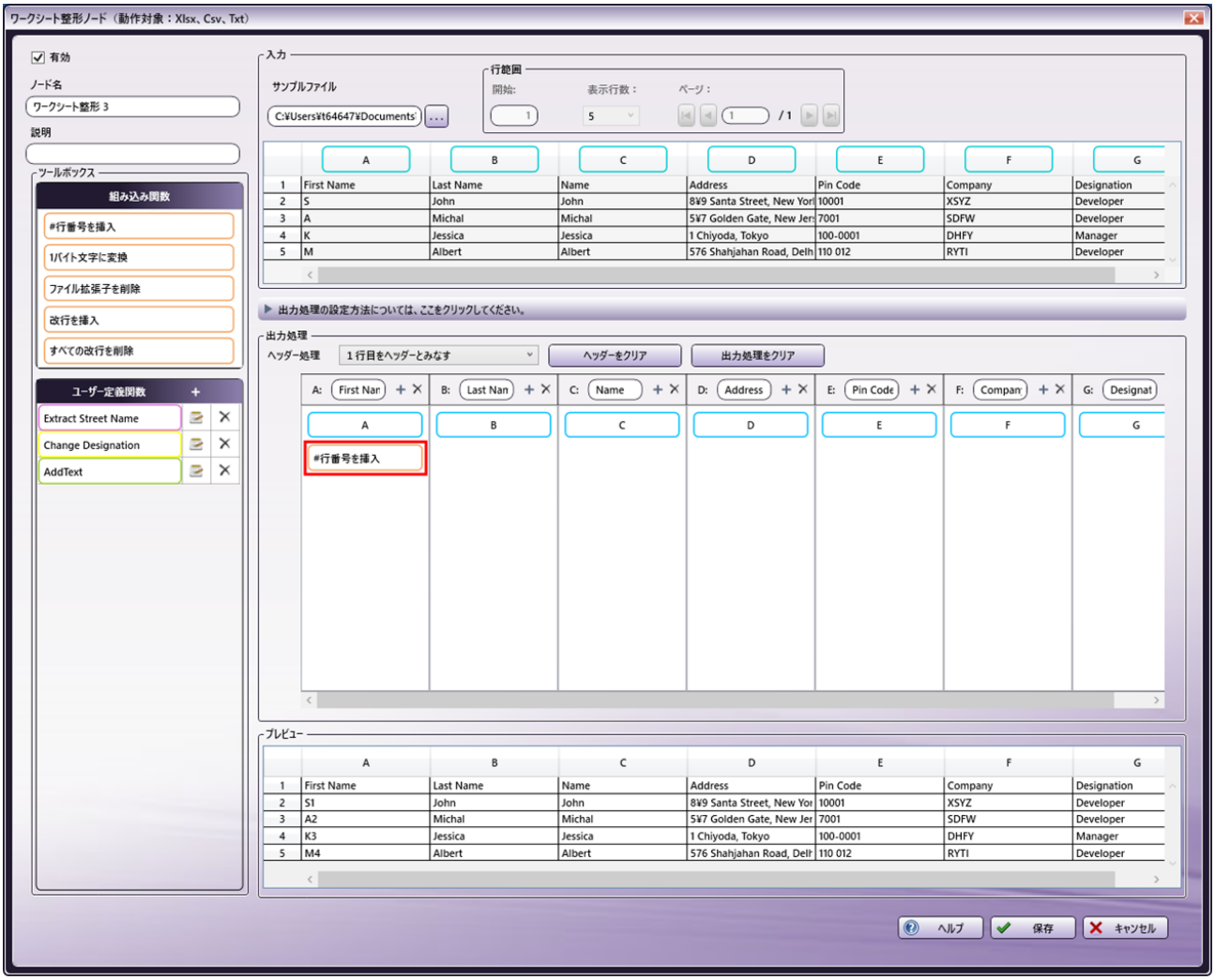
これらの関数を使用して、**出力処理** 設定を構成することができます。

組み込み関数

組み込み関数は、**ワークシート整形ノード** にあらかじめセットされた、変換ルールが定義された関数です。組み込み関数を使用するには、関数を **出力処理** 領域にドラッグ アンド ドロップします。



以下は、**組み込み関数** から **出力処理** 領域のA列に **行番号を挿入** をドラッグアンドドロップで配置した例です。



ワークシート整形 ノードは、以下の **組み込み関数** をサポートしています。

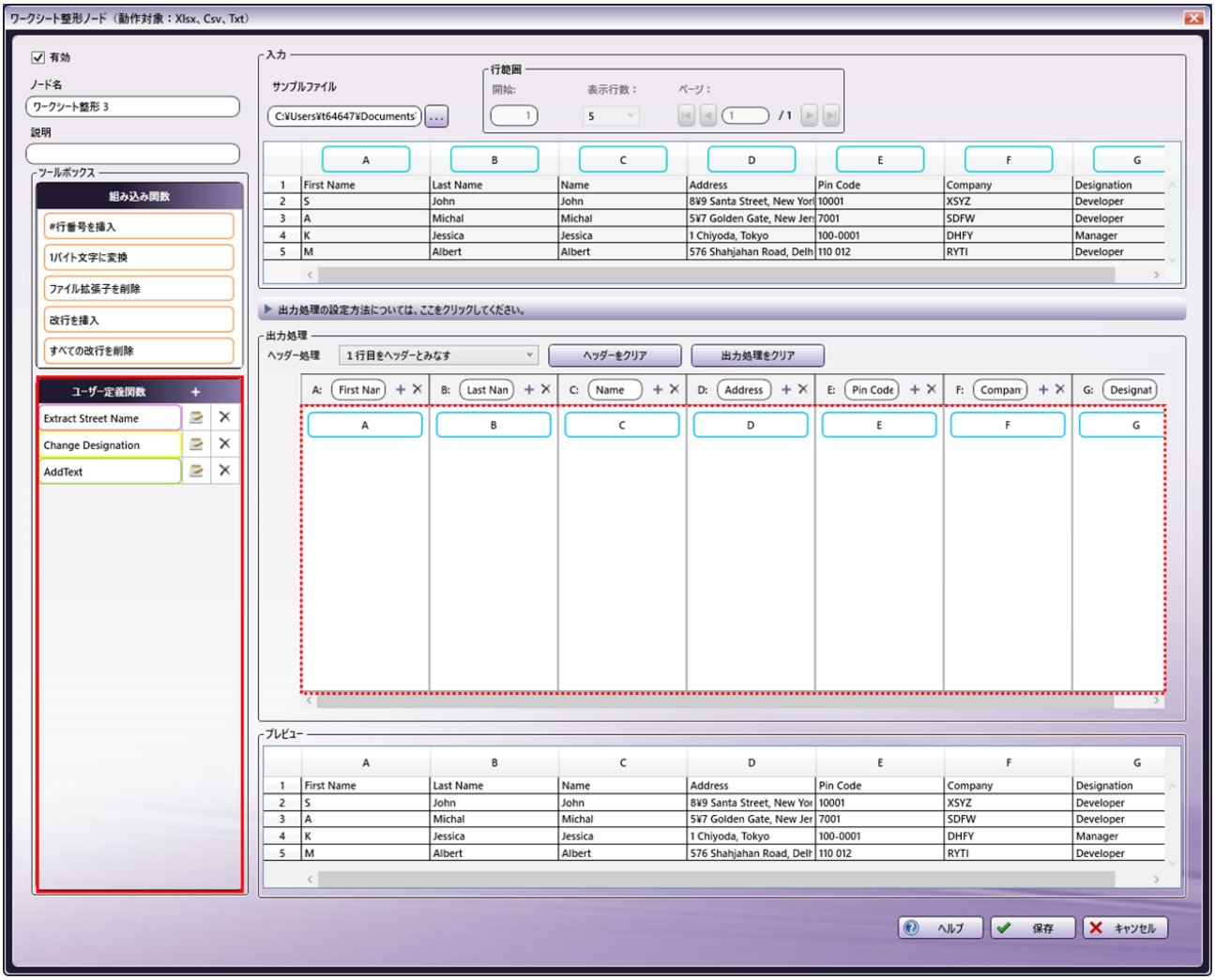
- セルの行番号を挿入。
- 半角文字に変換: この関数が配置された列のすべてのセルの2バイト文字で表現された英数字と一部の記号を半角文字に変換します。たとえば、2バイト文字の「123xyz」を1バイト文字の「123xyz」に変換します。
- ファイル拡張子を削除: この関数が配置された列のすべてのセルの ファイル名の拡張子（例: .pdf、.csv）を削除します。たとえば、「JOB0001.csv」は「JOB0001」として処理されます。
- 改行を挿入: この関数が配置された列のすべてのセルに改行を挿入します。
- すべての改行を削除: この関数が配置された列のすべてのセルからすべての改行を削除します。

注: 組み込み関数は編集/削除することはできません。

出力処理 領域に配置された組み込み関数は、ユーザー定義関数とは異なる色（薄いオレンジ色）で強調表示されます。

ユーザー定義関数

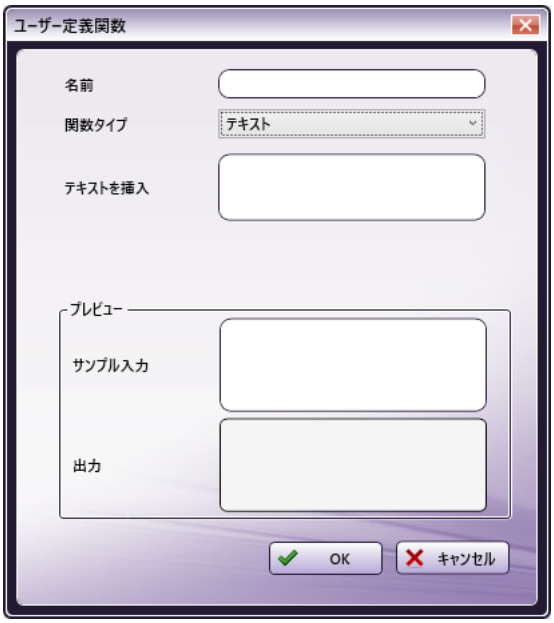
ユーザー定義関数 を使用するには、ノードに **ユーザー定義関数** を追加して、追加した関数を **出力処理** 領域にドラッグ アンド ドロップします。



ユーザー定義関数の追加

新しいユーザー定義関数を追加するには、**ユーザー定義関数** の、 ボタンをクリックします。

ユーザー定義関数 ウィンドウが開きます。



- **名前** に、ユーザー定義関数の名称を入力します。
- **関数タイプ** で、ユーザー定義関数のタイプを選択し、選択した関数タイプで定義する値を入力します。

  注: 関数タイプの詳細については、**ユーザー定義関数タイプ**を参照してください。
- **プレビュー** の **サンプル入力フィールド** に、サンプル値を入力します。サンプル値を入力すると、**出力** フィールドにサンプル値に処理を実行した結果が表示され、プレビュー出力を確認することができます。

  注: サンプル入力 は、必須ではありません。
- ユーザー定義関数を保存するには **[OK]** ボタンをクリックします。以下のように、新しいユーザー定義関数が追加されます。

- 変更を保存しないでウィンドウを終了するには、**【キャンセル】** ボタン、または、画面右上の **【×】** をクリックします。

ユーザー定義関数をさらに追加するには、**ユーザー定義関数** のヘッダーの **＋ (追加)** ボタンをクリックします。

追加したユーザー定義関数をリスト内でドラッグアンドドロップすると、リスト内でユーザー定義関数の表示順序を変更できます。

注: ユーザー定義関数は、最大30個まで追加できます。

ユーザー定義関数の編集

追加したユーザー定義関数を編集するには、編集するユーザー定義関数の （編集）ボタンをクリックします。

ユーザー定義関数を編集するための、**ユーザー定義関数** ウィンドウが開きます。項目についての詳細は、**ユーザー定義関数の追加** を参照してください。

ユーザー定義関数の削除

登録済みのユーザー定義関数を削除するには、削除するユーザー定義関数の ✕（削除）ボタンをクリックします。他の方法としては、**ユーザー定義関数** の右クリックコンテキストメニューを使用し、**【全ての関数を削除する】** を選択して、ユーザー定義関数をすべて削除します。

- 出力処理パネルのテーブルでユーザー定義関数が使用されていない場合、「選択したユーザー定義関数を削除しますか?」というメッセージが表示されます。**【はい】** ボタンをクリックしてユーザー-定義関数を削除します。
- 出力処理パネルのテーブルでユーザー定義関数が使用されている場合、「選択したユーザー定義関数を削除しますか? 出力処理に配置済みの参照も削除されます。」というメッセージが表示されます。**【はい】** ボタンをクリックして、**出力処理** テーブルと **ユーザー定義関数** パネルからユーザー定義関数を削除します。

注: 出力処理 領域に登録されているユーザー定義関数を削除した場合、ユーザー定義関数は出力処理領域から削除されます。

注: 【出力処理】 領域のテーブルで使用されているユーザー定義関数が **【ユーザー定義関数】** パネルから削除される場合、そのユーザー定義関数は **【出力処理】** テーブルからも削除されます。

ユーザー定義関数タイプ

ワークシート整形 ノードは、**テキスト** 、**置換** 、および **正規表現** をユーザー定義関数タイプとしてサポートします。**ユーザー定義関数** ウィンドウで **関数タイプ** を選択します。各ユーザー定義関数の種類については、以下で説明します。

テキスト

テキスト 関数タイプは、**テキストを挿入** フィールドに設定されたテキストを出力に追加します。

テキスト 関数タイプを使用するには、**ユーザー定義関数** ウィンドウで **関数タイプ** として **テキスト** を選択します。

ユーザー定義関数 の **テキスト** 関数タイプは、緑色のボックスで強調表示されます。

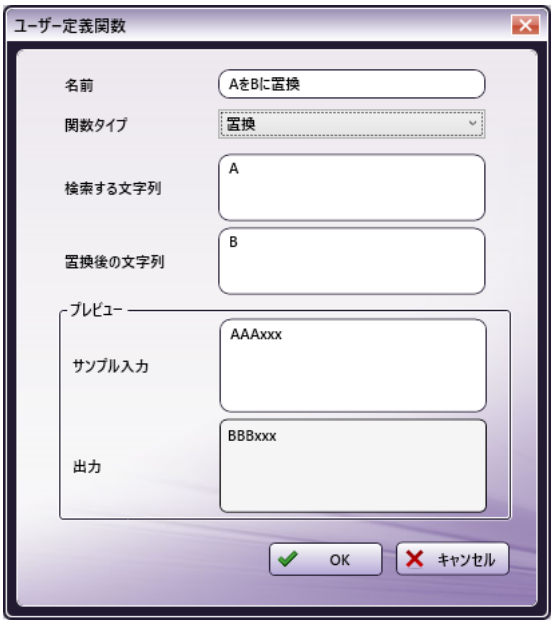
重要! テキストを挿入フィールドに入力できる文字数は最大で250文字です。

置換

置換 関数タイプは、**検索する文字列** で指定した文字列を **置換後の文字列** に設定された文字列に置換します。

置換 関数タイプを使用するには、**ユーザー定義関数** ウィンドウの **関数タイプ** で **「置換」** を選択します。

ユーザー定義関数 の **置換** タイプは、黄色のボックスで強調表示されます。



- 置換の対象となる文字列を **検索する文字列** フィールドに入力します。
- 置換後の文字列を **置換後の文字列** フィールドに入力します。

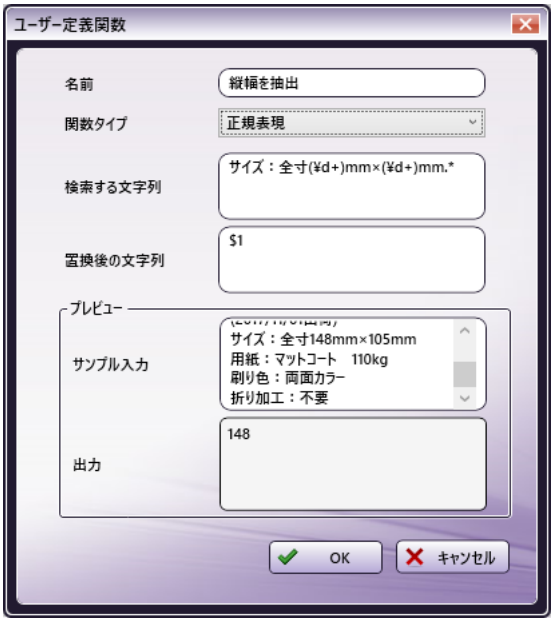
重要! 検索する文字列 、および **置換後の文字列** テキストフィールドに入力できる文字数は最大で250文字です。

正規表現

正規表現 関数タイプは、正規表現で表されたパターンによって文字列を抽出、または抽出した文字列を指定した文字列に置換します。

正規表現 関数タイプを使用するには、**ユーザー定義関数** ウィンドウの **関数タイプ** で **「正規表現」** を選択します。

ユーザー定義関数 の **正規表現** 関数タイプは、紫色のボックスで強調表示されます。



入力データから一致する文字列を検索するための正規表現を、**検索する文字列** フィールドに入力します。

一致した文字列を抽出または置換するためのパターンを表した **正規表現** を、**置換後の文字列** フィールドに入力します。

一致する文字列が見つからない場合は、**サンプル入力** フィールドの値がそのまま **出力** フィールドに表示されます。

正規表現による文字列の抽出例を、以下に示します。

例1: 必要なデータの抽出

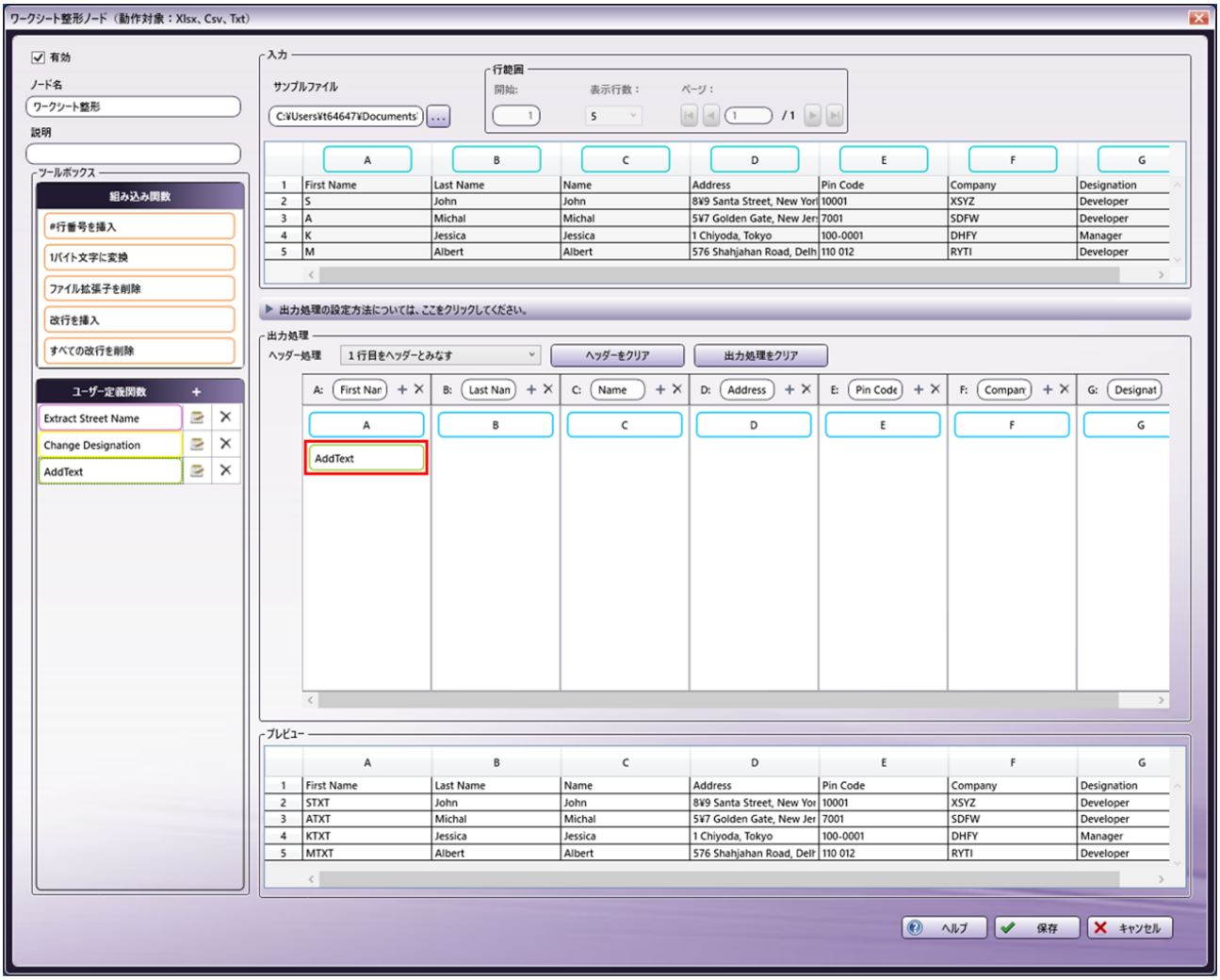
入力データ	正規表現	想定される出力
"オフセット印刷/チラシ・フライヤー印ー 刷/A6チラシ・フライヤー 納品日:受付から4営業日後 (2017/11/01出荷) サイズ:全寸**148**mm×105mm 用紙:マットコート　110kg 刷り色:両面カラー 折り加工:不要"	• 検索する文字列 *サイズ:全寸(\d+)mm×(\d+)mm.* • 置換後の文字列 $1	**148**

例2: データの置換

入力データ	正規表現	想定される出力
“Authorities announced that people need to maintain **street** clean. They also decide to decorate main **street** sidewalks with sculptures.“	• 検索する文字列 (.*)(street)(.*)(street)(.*) • 置換後の文字列 $1road$3road$5	“Authorities announced that people need to maintain **road** clean. They also decide to decorate main **road** side-walks with sculptures.“

正規表現については以下のリンクを参考にしてください。
//localhost:9445/reference/sec.reg-express/#regular-expressions

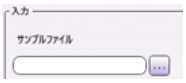
以下の例では、ユーザー定義関数: **AddText** をドラッグ アンド ドロップで **出力処理** 領域のA列に配置した例です。



注: ユーザー定義関数 の機能は、配置された列に対してのみ機能します。

入力

入力 領域でサンプルファイルをアップロードし、**ワークシート整形** ノードにサンプルファイルを入力します。



- **入力** 欄の **サンプルファイル** で ... ボタンをクリックし、アップロードするファイルを選択します。他の方法としては、アップロードするサンプルファイルのファイルパスを手動で入力することができます。

次のファイル形式のいずれかをアップロードできます: XLSX、CSV、およびTXT。

選択したファイルが **サンプルファイル** フィールドに読み込まれ、表示されます。

注:

- サポートされていない形式のファイルを入力した場合、エラーが発生します。
- すでに**出力処理**エリアに関数や列項目が設定されている状態で、新規サンプルファイルをアップロードしようとすると、**出力処理**の設定を上書きする確認メッセージが表示されます。以下の選択に基づいて、**出力処理** 設定が維持されるか、新しいサンプルファイルで上書きされます。
- **Yes (はい)** を選択した場合、現在の出力処理に構成された項目と設定はクリアされます。
- **No (いいえ)** を選択した場合、現在の出力処理に構成された項目と設定は維持されます。
- **キャンセル** を選択した場合、新しいサンプルファイルのアップロードはキャンセルされます。

行範囲の指定

行数を選択することで、アップロードされたファイルから表示する行数を指定することができます。

- **開始** フィールドに表示開始の行を指定することができます。数字以外は指定できないことに注意してください。また、実際に読み込まれたファイルに存在しない行を指定しても無効です。
- **表示行数** ドロップダウンで、**入力** 領域に表示する行数を選択します。既定では、表示される行数は「5」です。たとえば、**表示行数** 値が「10」に選択されている場合、10行が **入力** 領域と **プレビュー** 領域に表示されます。
- 1ページに表示できる最大行数は100行です。
- **ページナビゲーション:** アップロードされたファイルの行数が5行を超え、[表示行]数値がアップロードされたサンプルファイルの合計行数より少ない場合は、矢印をクリックして複数のページに移動します。
- 表示およびナビゲーションされたページの総数は、アップロードされたサンプルファイルの行数と表示行数の値によって異なります。たとえば、アップロードされたサンプルファイルの行数が1000で、表示行数の値が5に選択されている場合、表示および移動できる総ページ数は200になります。
- 開始の行が指定された場合、開始から指定された行数を表示行数で割った数値が総ページ数となります。
- ページナビゲーションフィールドに入力できるのは数値だけです。ページナビゲーションフィールドに入力された値が表示可能な総ページ数よりも大きい場合、**入力** 領域と **プレビュー** 領域は最後のページに移動されます。たとえば、表示可能な総ページ数が200で、200より大きい値が入力された場合、**入力** 領域と **プレビュー** 領域はページ番号200に移動します。
- アップロードされたサンプルファイルの行数が選択された表示行数値以下の場合、ページナビゲーションは無効になります。たとえば、アップロードされたサンプルファイルの行数が8行で、表示行数値が10に選択されている場合、すべての行が1ページに表示され、ページナビゲーションは無効になります。

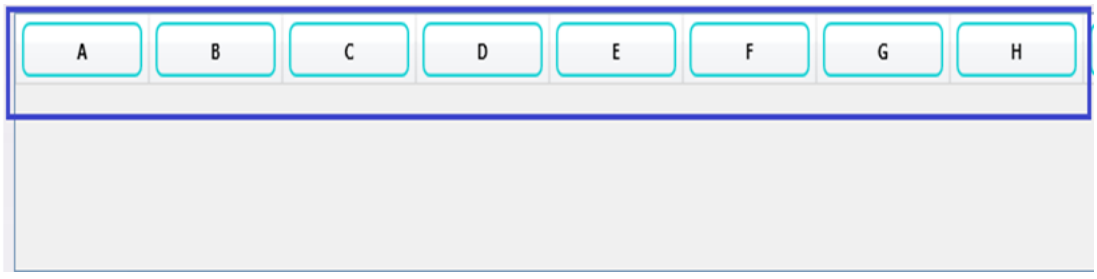
注意:

- ページナビゲーションフィールドに値「0」を入力すると、入力領域とプレビュー領域は最初のページに移動します。
- ◀ ▶ ボタンを使用して、前/次のページに移動できます。
- |◀ / ▶| ボタンを使用して最初/最後のページに移動できます。

入力領域

入力 領域にサンプルファイルをアップロードすると、ファイル内のデータが **入力** 領域に表示されます。

- **入力** 領域は読み取り専用のテーブルです。
- サンプル ファイルをアップロードした後、**行を表示** ドロップダウン値とサンプルファイル データに基づいて、**入力** テーブルに入力データが表示されます。
- 入力されたサンプルのヘッダー列（画面例の青枠部分のA、B、C、…など）は、**出力処理** 領域にドラッグ アンド ドロップして設定項目として利用することができます。



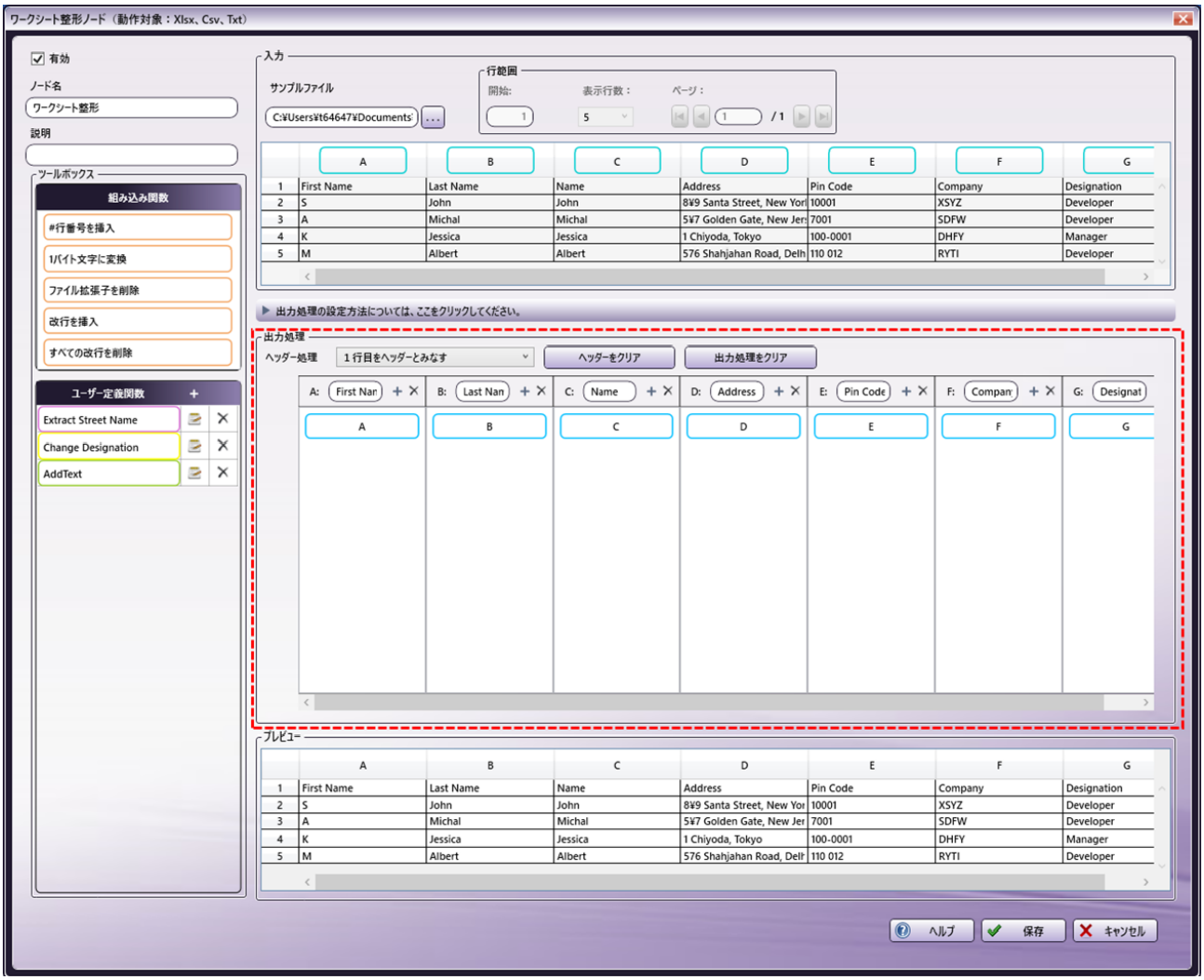
注: 列ID以外の項目は、**出力処理** にドラッグ アンド ドロップできません。

出力処理

ワークシート整形 ノードは、**出力処理** で定義された設定に基づいて、CSVファイルを生成します。

出力処理 では、入力ファイルにあらたに列を追加したり、任意の列を削除したりすることができます。また、組み込み関数やユーザー定義関数を定義して、入力したサンプルファイルに加える変更を構成することができます。

既定では、**出力処理** テーブルにA～CVの列が表示されます。入力ファイルに含まれる列範囲がA～CVより少ない場合は、入力ファイルの列範囲応じた列が表示されます。



列の追加/削除

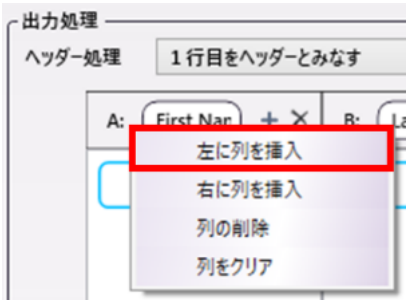
出力処理 で新しい列を追加するには、列のヘッダーの **+** 追加アイコンをクリックします。または、列のヘッダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューの **右に列を挿入** または **左側に列を挿入** を選択すると、選択した列の右側もしくは左側に列を追加することができます。

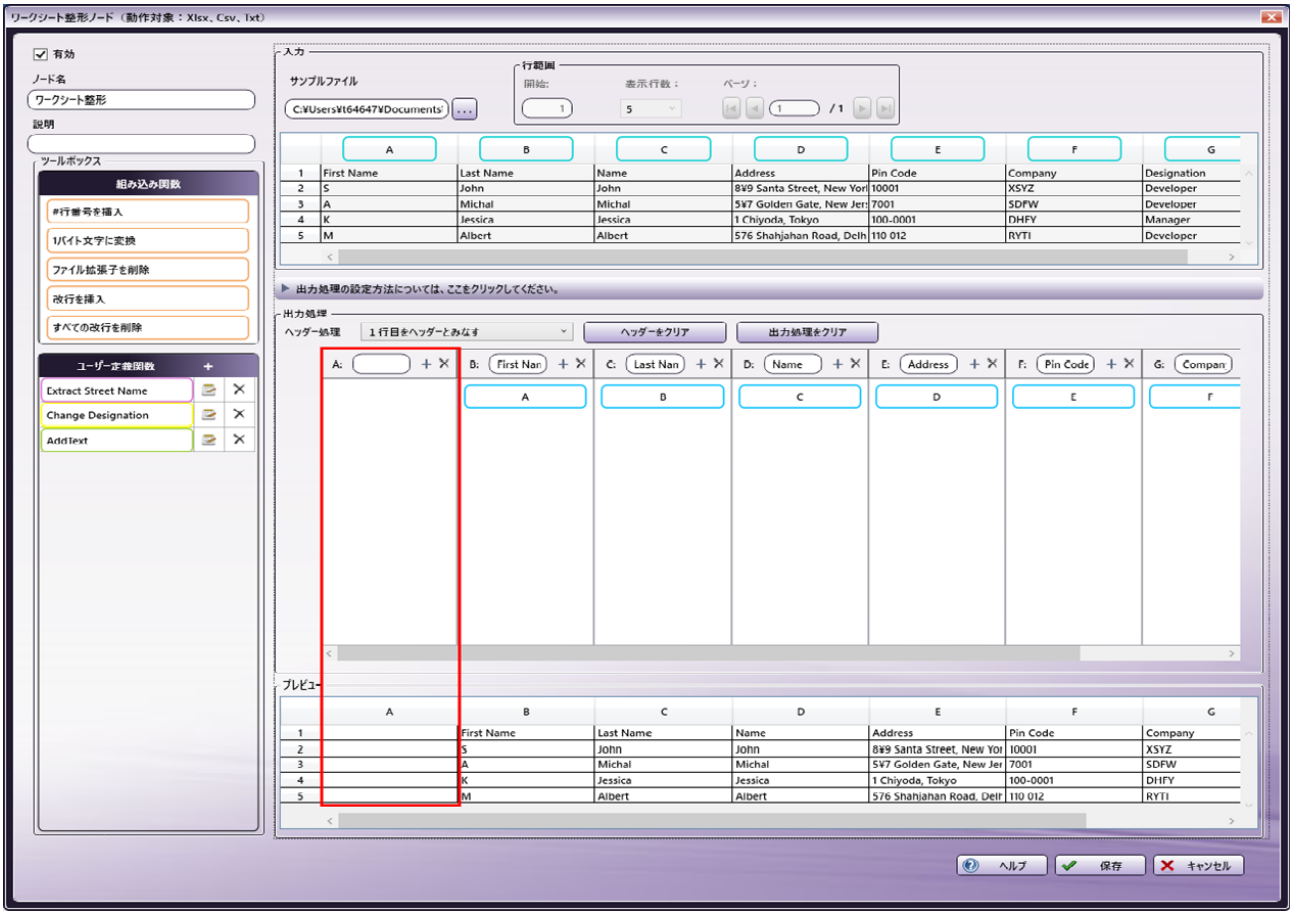
列を削除するには、列のヘッダーの [X] 削除アイコンをクリックします。または、列のヘッダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから、**列の削除** を選択すると、選択した列を削除することができます。

列のヘッダーを右クリックして表示されるコンテキストメニューから **列をクリア** を選択すると、選択した列 に配置された項目をクリアすることができます。

A列の左側に列を追加する場合

1. A列ヘッダー部で右クリック
2. コンテキストメニューの**左に列を挿入**をクリック



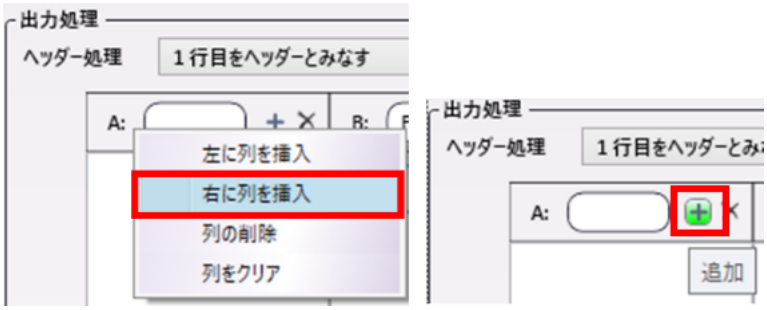


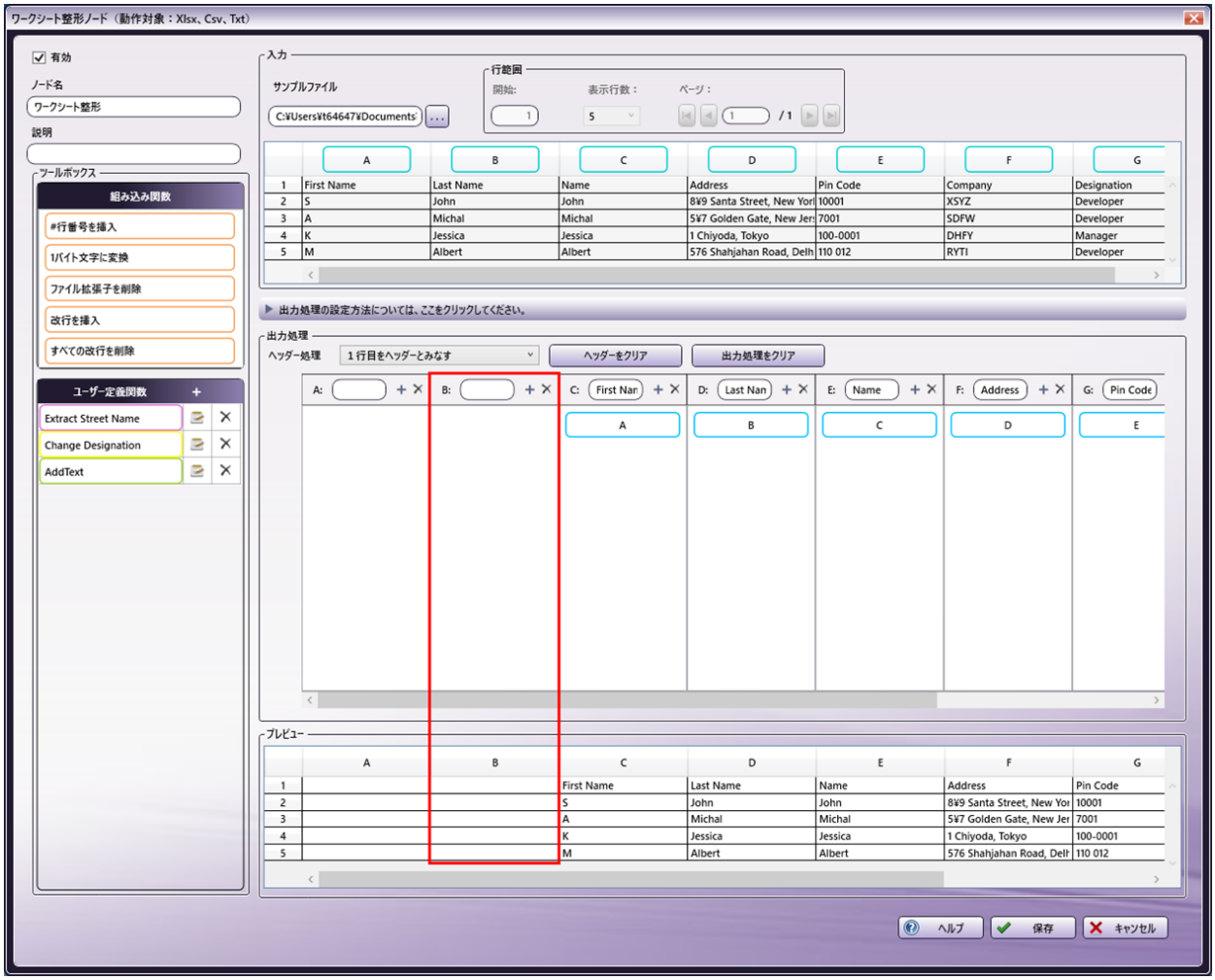
A列の右側に列を追加する場合

1. A列ヘッダー部で右クリック
2. コンテキストメニューの**右に列を挿入**をクリック

   または

   A列ヘッダーの ＋ ボタンクリック





出力領域への処理中の関数の追加/編集/削除

入力テーブルの **組み込み関数** 、**ユーザー定義関数** 、**列ヘッダー** などの項目を **出力処理** テーブルに追加して構成することができます。

列に追加された組み込み関数とユーザー定義関数は、**出力処理** の配置された列のすべてのセルに適用されます。

項目を **出力処理** に追加するには、追加する関数または **入力** 領域の列IDを選択して **出力処理** 領域の任意の位置へドラッグアンドドロップします。

追加した項目は挿入位置や順序を変更することができます。

追加した項目の挿入位置や順序を変更するには、項目を選択し、ドラッグアンドドロップして任意の場所へ移動します。

出力処理 領域に追加された **ユーザー定義関数** は、**出力処理** 領域で選択した **ユーザー定義関数** 項目をマウスでダブルクリックして直接内容を編集できます。

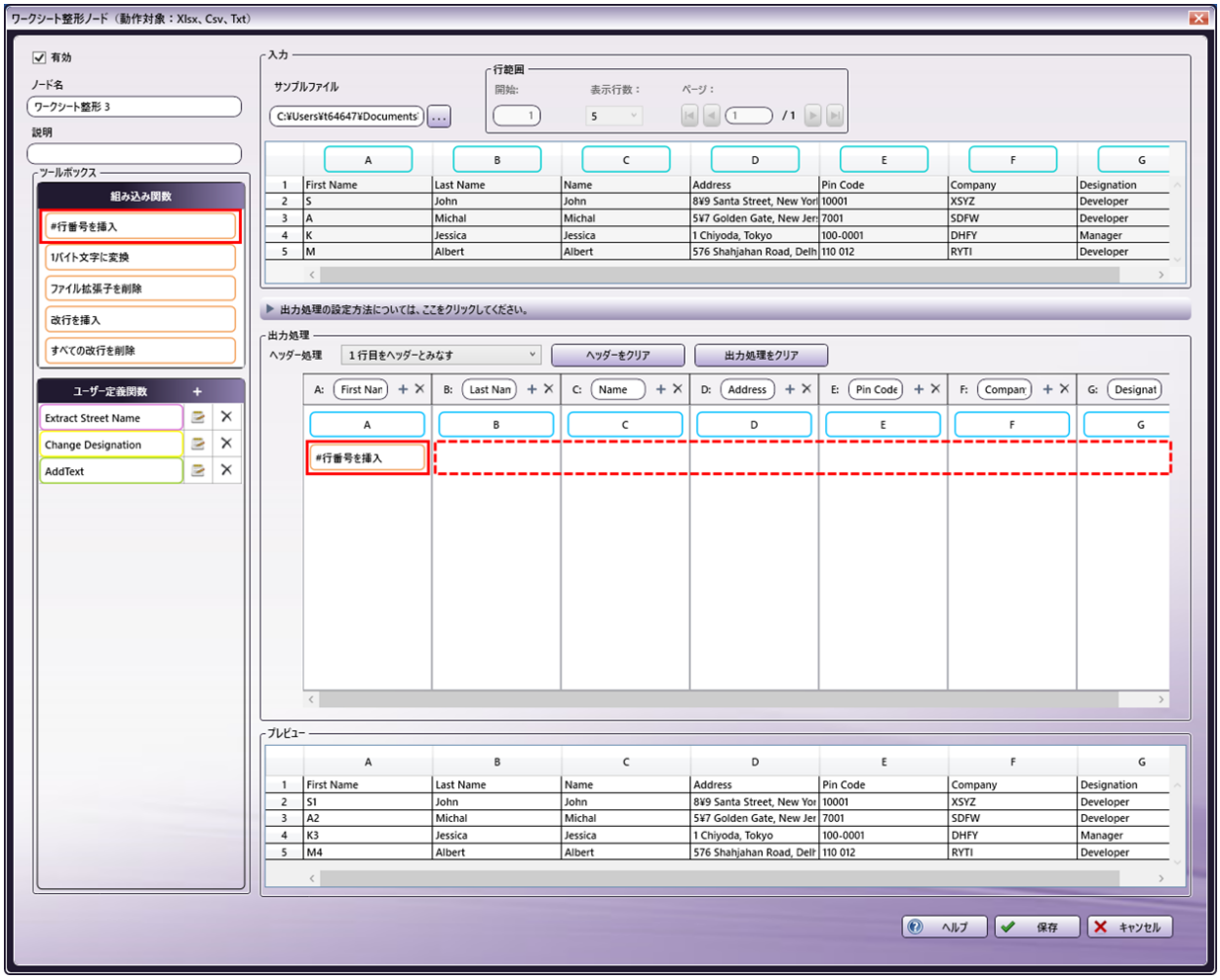
追加した項目の設定を全ての列に適用したい場合、項目を選択して表示されるコンテキストメニューから **項目を全ての列に適用** を選択します。これにより、項目の構成を全ての列に適用することができます。

追加した項目を削除するには、項目を選択して右クリックして表示されるコンテキストメニューから **項目を削除** を選択します。他の方法としては、キーボードの「削除」キーを使用して、選択したアイテムを削除します。

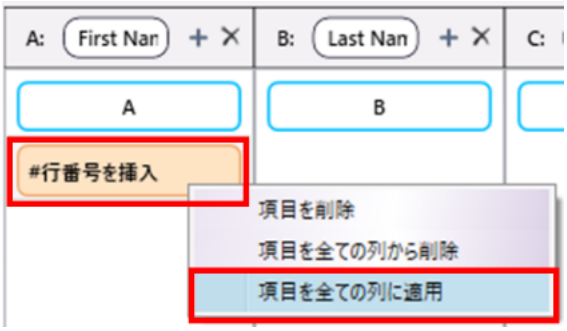
追加した項目の設定を全ての列から削除したい場合、項目を選択して表示されるコンテキストメニューから **項目を全ての列から削除** を選択します。これにより、項目の構成を全ての列から削除することができます。

例:

1. 組み込み関数:**#行番号を挿入**をドラッグ アンド ドロップで**出力処理**領域のA列に配置します。



2.関数を全ての列に適用したい場合、すべての列に設定したい関数を右クリックして**項目を全ての列に適用**をクリックします。

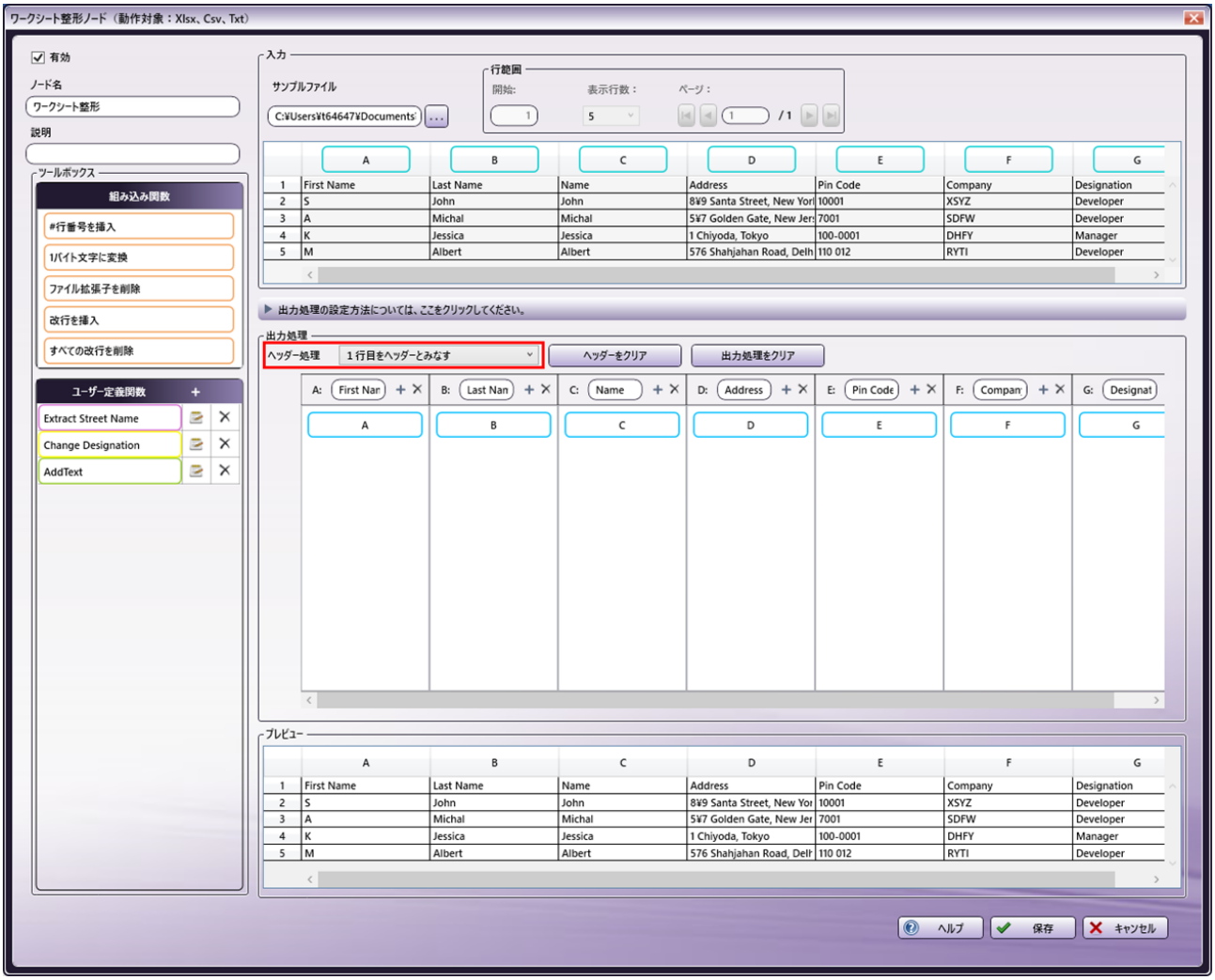


選択した関数がすべての列に適用された例：

注: 設定できる出力処理への機能の総数は最大で300です。これは、すべての列セルに設定されている機能の合計です。列IDも合計に含まれます。各列に設定できる機能の最大は10個です。最大数を超える機能を追加しようとするとエラーメッセージが表示され、追加できません。

ヘッダーの処理

ヘッダー処理 ドロップダウンリストで、出力されるファイルのヘッダーの処理を設定します。既定値は、**1行目をヘッダーとみなす** です。

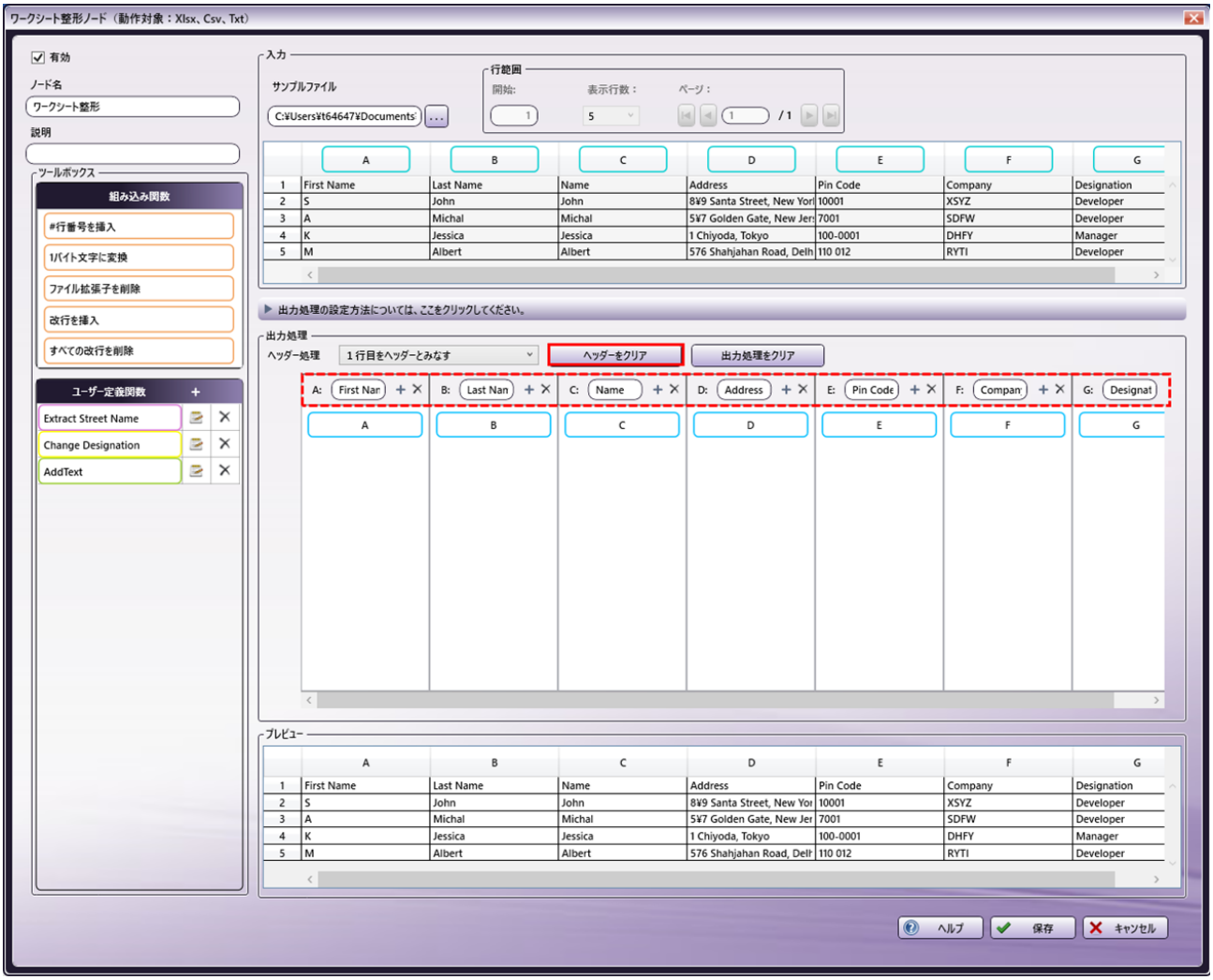


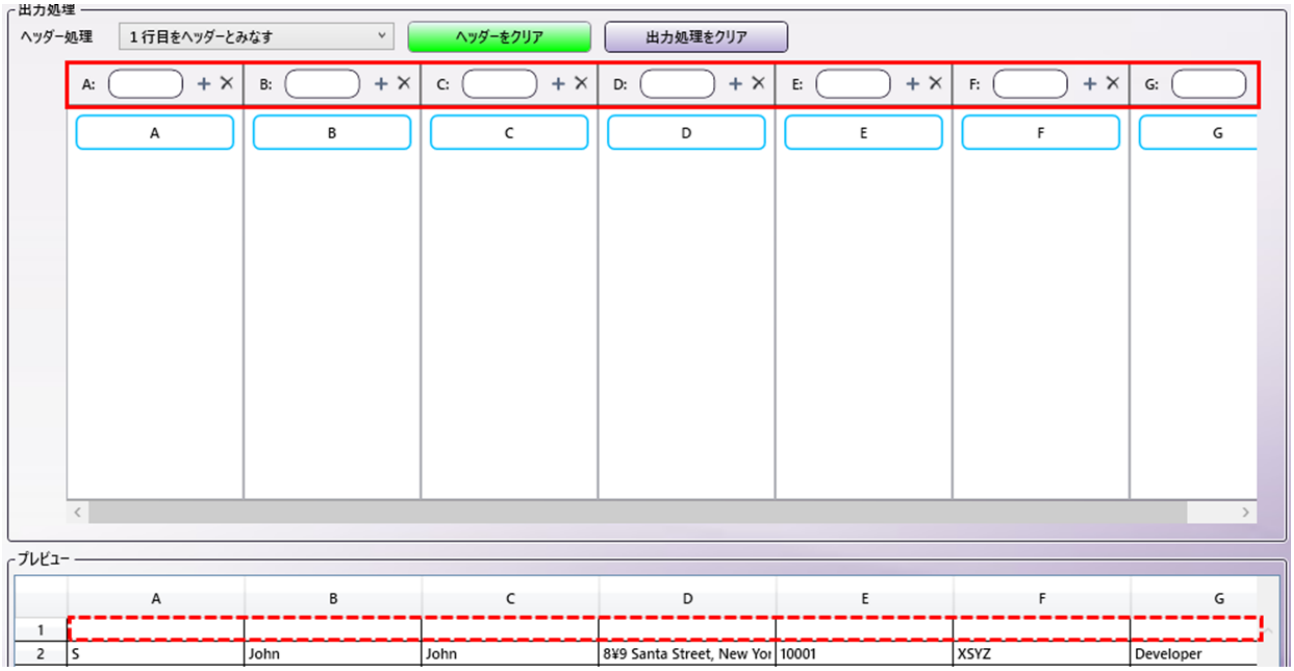
関数	説明
1行目をヘッダーとみなす	入力ファイルの先頭行を編集し、出力でヘッダーとして使用します。
先頭にヘッダーを新規追加	入力ファイルに新しい先頭行を定義し、出力でヘッダーとして使用します。既存の先頭行はデータとして扱われ、出力で処理されます。

注: 入力ファイルのヘッダーは、ファイルの出力に使用されるヘッダーではありません。生成された出力ファイルのヘッダーは、設定ウィンドウの**「出力処理」**領域でヘッダーテキストに設定された内容になります。

出力処理ヘッダーのクリア

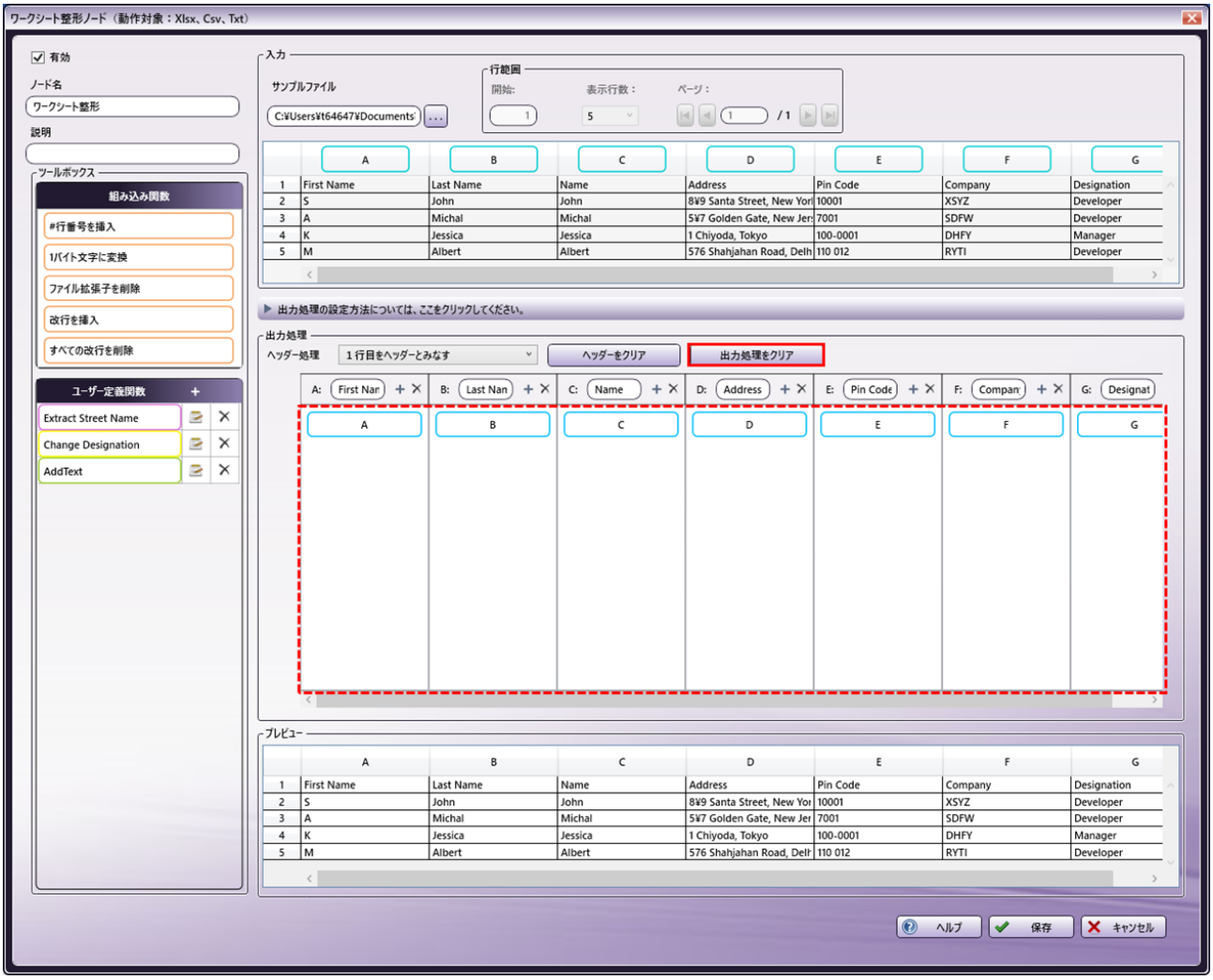
出力処理 領域のヘッダーフォームに入力済みのヘッダーテキストを消去する場合、**ヘッダーをクリア** ボタンをクリックします。



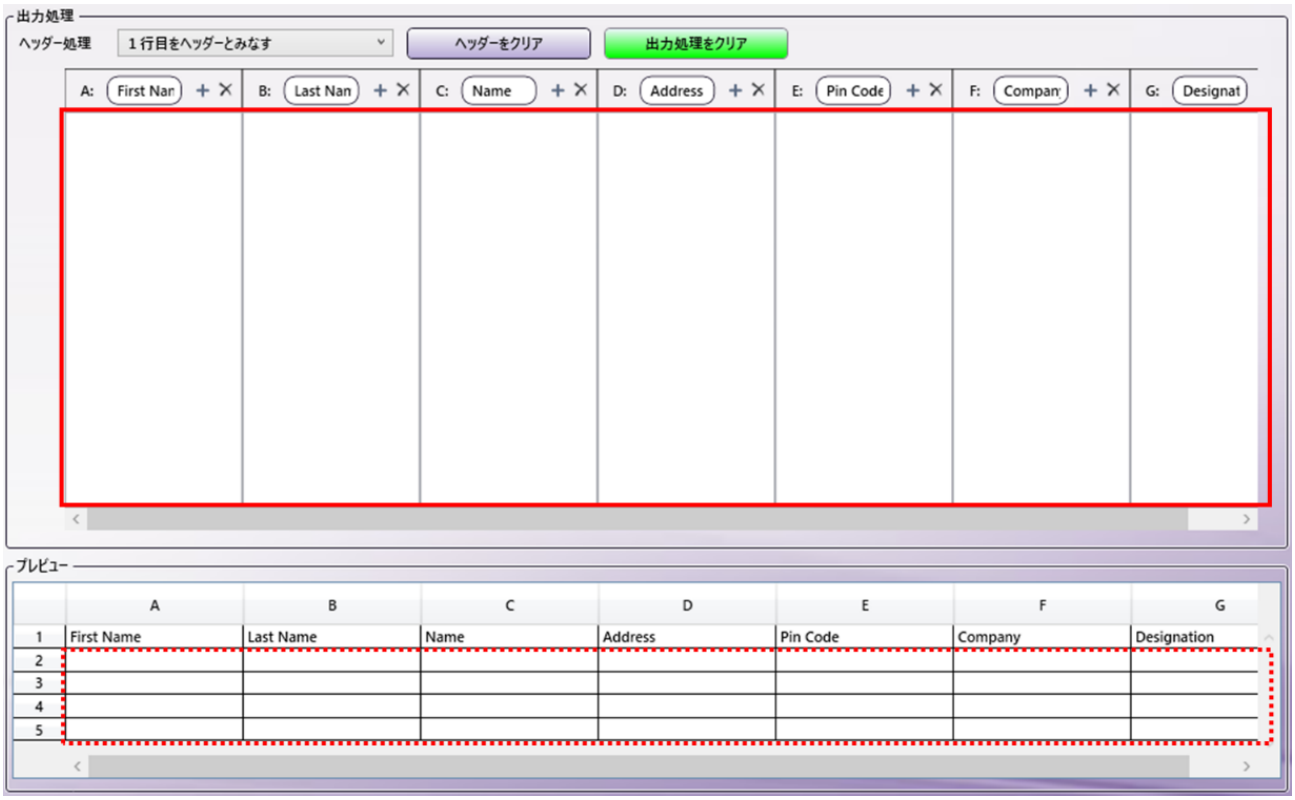


出力処理領域の設定項目をクリアする

出力処理 領域に構成した項目をクリアする場合、**出力処理をクリア** ボタンをクリックします。

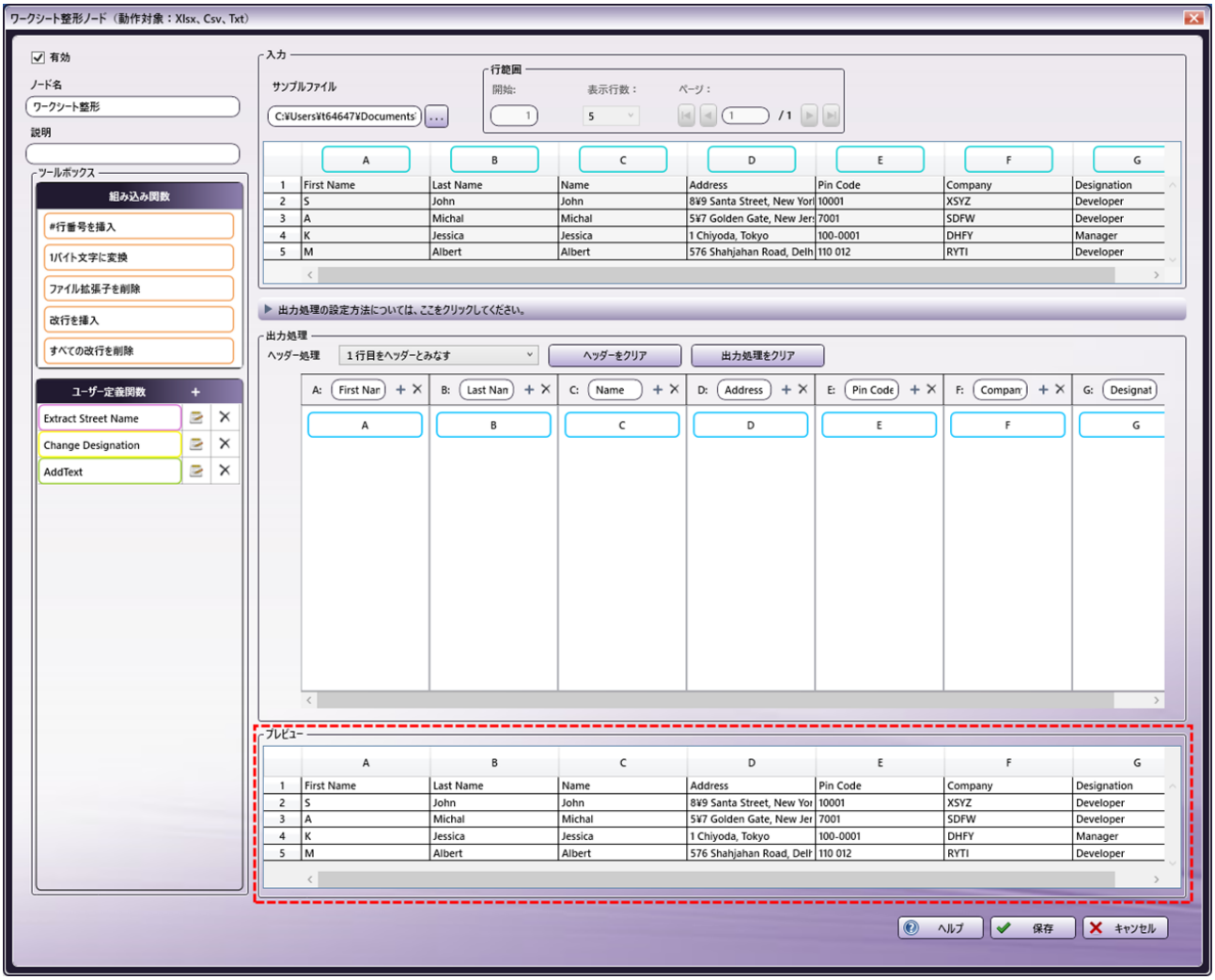


出力処理 領域に設定されたすべての項目がクリアされた例：



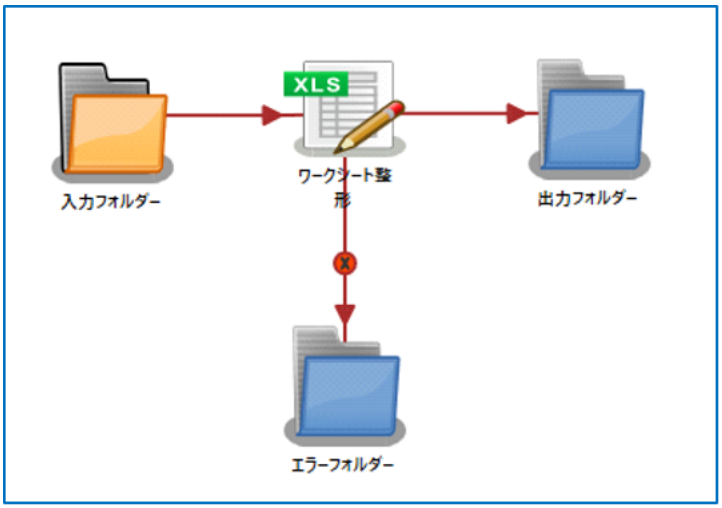
プレビュー

プレビュー 領域には、入力したデータに対し、**出力処理** 領域の構成を適用した出力結果のプレビューが表示されます。



- **表示行数** ドロップダウン選択とサンプルファイルデータに基づいて、**プレビュー** テーブルにプレビューデータが表示されます。
- 入力ファイルがアップロードされている場合のみ、**プレビュー** テーブルにプレビューデータが表示されます。

ワークシート整形ノードのサンプルワークフロー



このサンプルでは、入力したCSVファイルの任意のセルに、**ワークシート整形** ノードで設定したテキスト文字列を挿入したファイルを出力するように設定します。

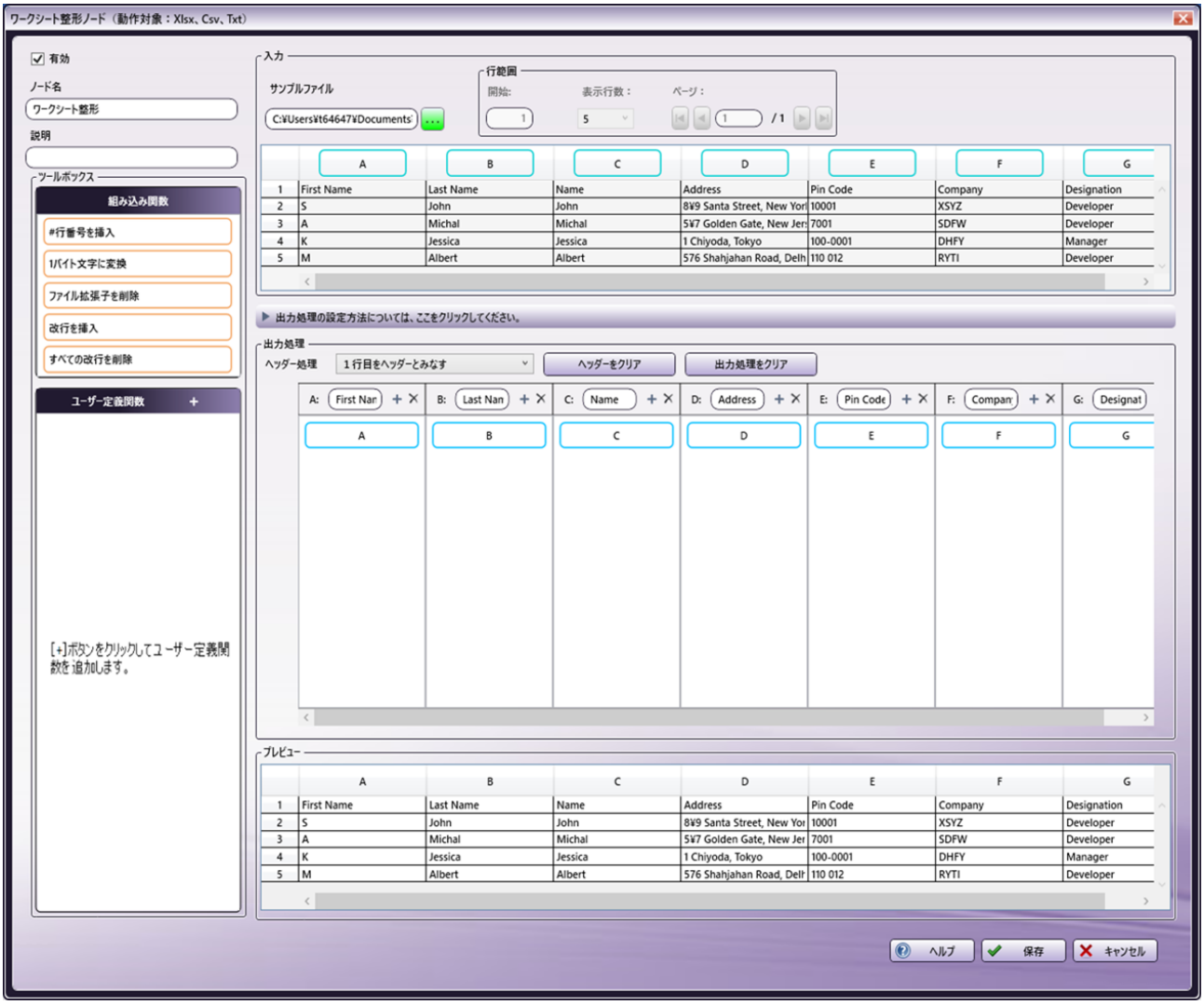
入力フォルダー ノードから収集したファイルが **ワークシート整形** ノードに入力されます。**ワークシート整形** ノードで処理されたファイルは、**出力フォルダー** ノードに出力されます。

入力フォルダー: CSV、XLSX、およびTXTファイルを **入力フォルダー** ノードから収集し、**ワークシート整形** ノードに転送するように入力フォルダーを構成します。

例として、以下のCSVデータを処理する場合の流れを以下に示します。CSVファイルは、「Worksheet_sampledata.csv」としてローカルに保存します。

```
名,姓,名前,住所,Pinコード,会社名,呼称
S,John,John,"8\9 Santa Street, New York ",10001,XSYZ,開発者
A,Michal,Michal,"5\7 Golden Gate, New Jersey ",7001,SDFW,開発者
K,Jessica,Jessica,"1 Chiyoda, Tokyo ",100-0001,DHFY,マネージャー
M,Albert,Albert,"576 Shahjahan Road, Delhi ","110 012",RYTI,開発者
```

ワークシート整形: ワークシート整形 ノードに、入力ファイル（Worksheet_sampledata.csv）をアップロードします。アップロード中に、サンプルファイル内のすべてのヘッダーが **出力処理** テーブルにコピーされます



以下の手順で、**ワークシート整形** ノードでファイルを処理します。この例では会社名の後ろに会社のタイプとして文字列「Sw Dev.Company」を追加するように構成します。

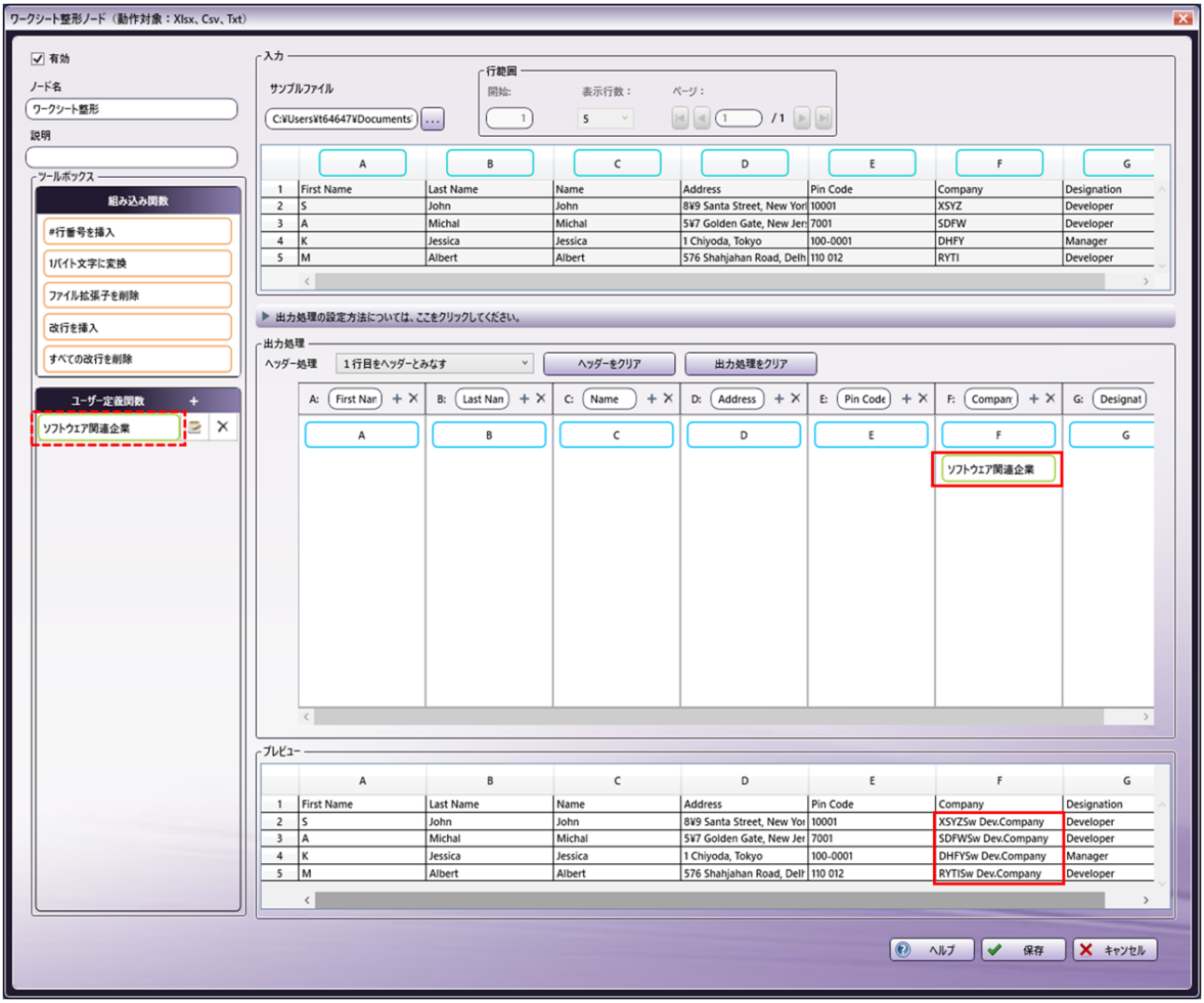
1. **ユーザー定義関数** 列見出しの＋ ボタンをクリックし、ユーザー定義関数「ソフトウェア関連企業」を作成します。
2. 以下の情報で、ユーザー定義関数を構成します。

- **名前**：このユーザー定義関数につける名前を入力します。ここでは「ソフトウェア関連企業」と入力します。
- **関数タイプ**：関数のタイプを選択します。ここでは「テキスト」を選択します。
- **テキストを挿入**：挿入するテキストの値を入力します。ここでは「Sw Dev.Company」と入力します。
- **サンプル入力**：サンプル入力にサンプル値を入力すると、**出力**にその関数が適用された結果の出力値が表示されます。ここでは「ABC_Company 」と入力すると、入力したサンプル文字列の後ろにこのユーザー定義関数で挿入するように設定したテキスト値「Sw Dev.Company」が追加された結果が「出力」に表示されます。

3. **[OK]** ボタンをクリックします。

ユーザー定義関数 に「ソフトウェア関連企業」関数が追加されます。

手順2で作成したユーザー定義関数によって定義されたように、**入力** テーブルの会社データの列「F」の値に文字列「Sw Dev.Company」を追加するように **出力処理** テーブルを構成します。**ユーザー定義関数** 領域から「ソフトウェア関連会社」を **出力処理** テーブルの列 “F” (会社) にドラッグ アンド ドロップします。



出力フォルダー: 出力フォルダー ノードを構成し、ワークフローを保存して、検証します。ワークフローを実行すると、以下のように、入力サンプルファイルのF列の会社名のセルの値の後ろに、**ワークシート整形** ノードのユーザー定義関数で定義したテキスト値「Sw Dev.Company」が挿入されたファイルが生成されます。

```
名,姓,名前,住所,Pinコード,会社名,呼称
S,John,John,"8\9 Santa street, New York ",10001,XSYZSw 開発会社,開発者
A,Michal,Michal,"5\7 Golden gate, New Jersey ",7001,SDFWSw 開発会社,開発者
K,Jessica,Jessica,"1 Chiyoda, Tokyo ",100-0001,DHFYSw 開発会社,開発者
M,Albert,Albert,"576 Shahjahan Road, Delhi ","110 012",RYTISw 開発会社,開発者
```

制限事項

重要!

- このノードがサポートするファイルの最大サイズは次のとおりです。
  - プレビュー出力:
    - 最大で10,000行100列、かつ、ファイルサイズ10MB以下。
  - ワークフロー実行:
    - 最大で75,000行100列、かつ、ファイルサイズ 30MB以下。
- CSVファイルとTXTファイルでは、サポートされているエンコーディングはUTF-8のみです。
- XLSXファイルでは、以下の制限があります。
  - パスワードで保護されたXLSXファイルはサポートされません。
  - XLSXファイルに複数のシートが含まれる場合、最も左側にあるシートのみが処理され、それ以外のシートは無視されます。

VDP

注意: このノードは、最大75,000件のレコードを含む XLSX、およびCSVファイルに対応しています。CSVファイルはUTF-8形式である必要があります。

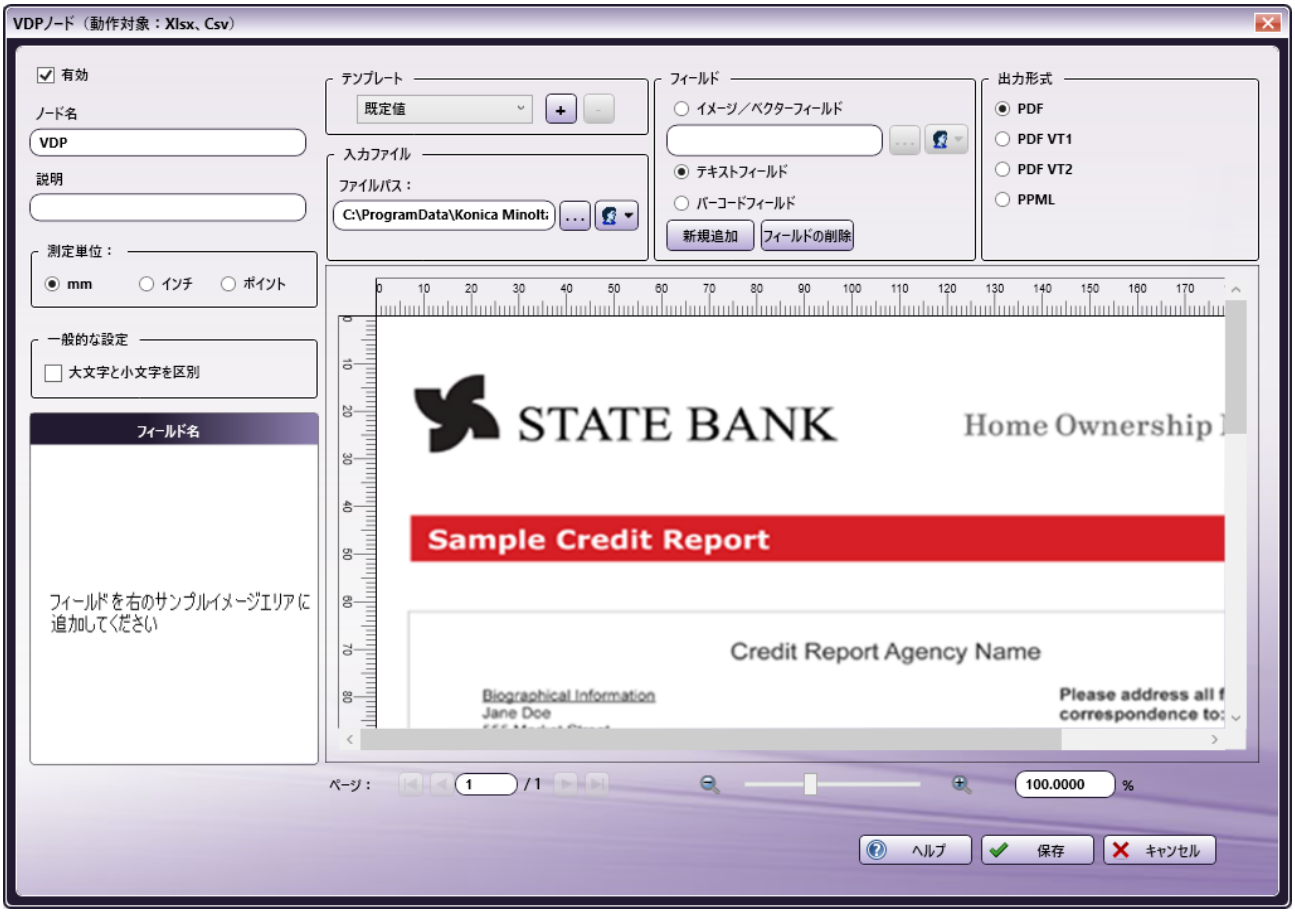
VDPとはデジタル印刷の一形態であり、テキスト、イメージ、ベクターフィールドなどの要素が、1つの入力ファイルにマージまたは挿入されます。VDPノードは、受信したすべてのXLSX/CSVファイルにこの処理を適用します。

ワークフローの実行中、このノードは、要素（テキスト、イメージ、ベクター）を元の入力ドキュメントに挿入またはマージし、マージしたファイルをワークフローの次のノードに出力します。このノードは以下の処理を行います。

- **入力:** ファイルがノードに送信されます。このノードで使用できるのは、CSVファイルまたは XLSX ファイルのみです。また、75,000件を超えるレコードをファイルに含めることはできません。この制限を超えるファイルがノードに送信された場合、そのファイルはエラー出力コネクターにルーティングされます。
- **処理:** 有効なVDPファイルを受信すると、このノードは可変データを挿入して、PDF、PDF VT、またはPPML出力形式のファイルを1つ生成します。生成されるファイルの種類は、ノードの設定を使用して指定します。
- **出力:** その後、可変データが挿入された1つのPDF、PDF VT、またはPPML出力ファイルがワークフローの次のノードに送られます。

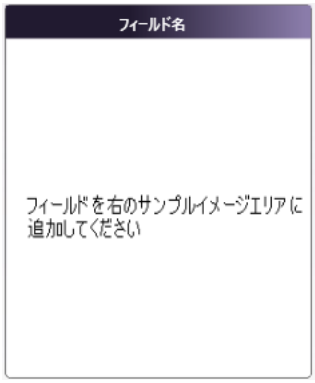
VDPノードを使う

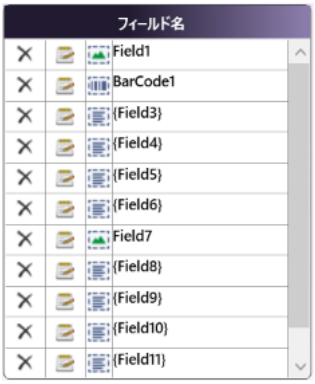
［**VDP**］ノードアイコンをワークフロービルダーのキャンバスにドラッグすることで、**VDP**ノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、［**VDPノード**］ウィンドウが開きます。



- ［**有効**］チェックボックスをオンにして処理を実行できるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、デフォルトのパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- ［**ノード名**］フィールドに、VDPノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- ［**説明**］フィールドに、VDPノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の処理を互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- ［**測定単位**］領域では、測定単位を選択します。ポイント、ミリ、およびインチの3種類の単位を使用できます。
- ［**一般的な設定**］領域の［一致］をオンにすると、大文字と小文字を区別して一致が判断されます。
- VDPの定義を保存するには［**保存**］ボタンを選択します。変更を保存しないでウィンドウを終了するには、［**キャンセル**］ボタンを選択します。
- オンラインヘルプにアクセスするには、［**ヘルプ**］ボタンを選択します。

フィールド名





[フィールド名]パネルには、現在のページのサンプルプレビューパネルに表示されているすべてのフィールドの名前が一覧表示されます。[フィールド名]パネルからフィールドを選択すると、対応するフィールドイメージがサンプルプレビューパネルで選択されます。同様にサンプルプレビューパネルからフィールドイメージを選択すると、対応する[フィールド名]パネル内のフィールドが選択されます。

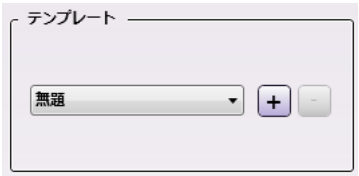
リストの左側にある[編集]アイコンを使用するか、サンプルプレビューパネルのフィールドをダブルクリックして、フィールドを編集します。

リストの左側にある✕アイコンを使用してフィールドを削除できます。

キーボードの「削除」キーを使用してフィールドを削除することもできます。

テンプレート

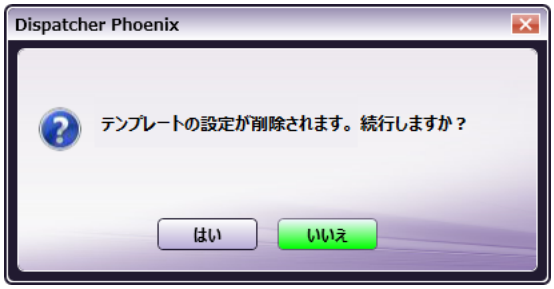
この設定を使用して、**テンプレート** の選択、作成、編集、または削除を行います。



ドロップダウンには、保存されているテンプレートのリストが表示されます。ドロップダウンリストから値を選択すると、関連する設定がロードされます。

選択した設定を **テンプレート** として保存するには、すべての設定を選択した後に **テンプレート** 名を追加します。

- **[+]ボタン:** このボタンをクリックして、[新しいテンプレートを追加]ウィンドウを開きます。入力を求められたら、**テンプレート名** を入力します。**テンプレート名** は100文字未満の英数字にしてください。特殊文字はサポートされません。このオプションを使用して、現在の設定を保存します。値がドロップダウンに追加され、必要に応じて使用できます。
- **[-]ボタン**:ドロップダウンから値を選択してから、このボタンをクリックします。確認のポップアップが開きます。

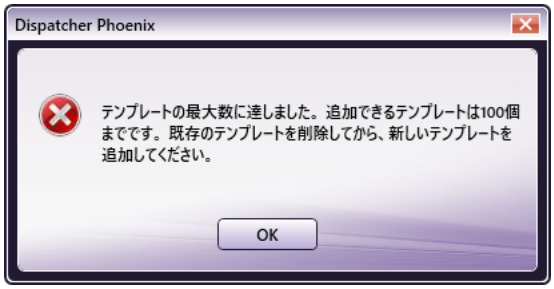


テンプレートを削除するには **[はい]** を、要求をキャンセルするには **[いいえ]** をクリックします。

- **テンプレートの編集:** 既存の項目を編集するには、項目を選択して[+]ボタンをクリックします。必要に応じて変更を加えます。デフォルトでは、**テンプレート名** の値は **「無題」** に設定されます。元の名前を保持するには、古い値を再入力して、**[無題]** を置き換えます。完了したら **[OK]** ボタンをクリックします。古い名前を再入力した場合、上書きを確認するポップアップが開きます。このポップアップで **[はい]** をクリックして、古い値を上書きします。

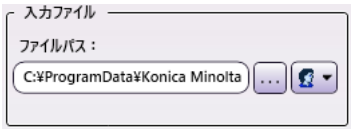
  注意:

  - テンプレートは各インストール環境に固有です。
  - 最大100個の **テンプレート** を保存できます。**テンプレート** の数が100に達すると、**テンプレート** への新規追加は許可されず、次のエラーメッセージがユーザーに表示されます。



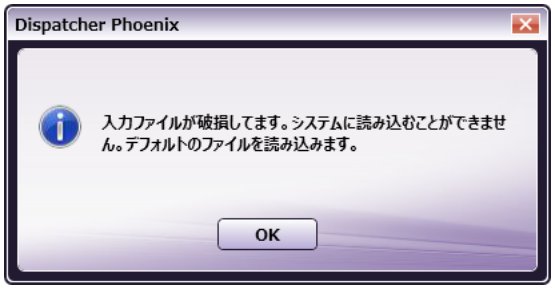
  - デフォルト以外の保存済みの **テンプレート** が選択されている場合、他のワークフローのVDPノードによって保存済みの **テンプレート** が削除/変更されていない場合、ノードを開くと **テンプレート** のドロップダウンには保存済みの **テンプレート** 名が表示されます。
  - デフォルト以外の **テンプレート** が選択され、ノードが開いたときに既に削除/変更されている場合、**テンプレート** ドロップダウンには値[-]が表示されます。
  - ノードが開いているときに **[テンプレート]** の値を変更すると、**テンプレート** ドロップダウンに **[*無題+]** の値が表示されます。
  - **テンプレート** の名前は、以下の文字の任意の組み合わせにすることができます。
  - *1バイト文字[英字など](a～zおよびA～Z)*
  - *2バイト文字[日本語、中国語の文字など]*
  - *スペース*
  - *数字(0から9)*

入力ファイル



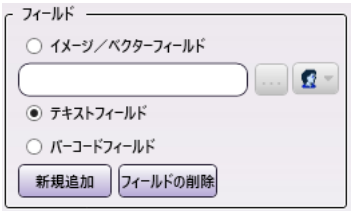
- **[アップロード]ボタン:** このボタンを使用して入力ファイルをアップロードします。テキスト、イメージ、およびベクターフィールドが入力ファイルにマージまたは挿入されます。[入力ファイル]フィールドでサポートされている形式は、**PDF、JPEG、GIF、PNG、BMP、TIFF** です。入力ファイルを選択すると、**ファイルパス** フィールドにパスが表示されます。
- **ネットワーク資格情報の入力ボタン:** 入力したファイルパスがユーザーの資格情報を必要とするネットワーク上にある場合は、このボタンをクリックして必要な値を入力します。

  注意: 選択した入力ファイルが見つからない場合は、VDPノードを開いたときにデフォルトの **テンプレート** ファイルがロードされます。さらに、この問題が原因でワークフローの検証に失敗します。この状況が発生すると、ポップアップメッセージでアラートが通知されます。これを解決するには、新しいファイルをアップロードします。



フィールド

新しい **イメージ/ベクターフィールド** または **テキストフィールド** を追加できます。これらのフィールドの追加は、このノードを通じて処理されるファイルに適用されます。



イメージ/ベクターフィールド オプション

イメージフィールドを追加した場合、可変データファイル（XLSX/CSV）から取得したイメージデータまたはベクターデータが挿入されます。**ベクターフィールド**（ここでのベクターとは、PDFファイルのことです）を追加した場合、可変データにはイメージファイルまたはPDFファイルのパスが含まれており、新しく追加したイメージフィールドまたはベクターフィールドの位置にそのファイルの内容が挿入されます。

1. **［新規追加］** ボタンをクリックします。［VDPノード - イメージフィールド］ポップアップが開きます。
2. **［名前］** タブをクリックして開きます。このタブを使用して、**［フィールド名］**と**［プレビューファイル］** の詳細を指定します。
    - **［フィールド名］**：「Field」に通し番号が付きます（例：**Field 1**、**Field 2** ...）
    - **［プレビューファイル］**：これは、**プレビューファイル** のパスを表示するフィールドです。直接入力もできます。省略記号（...）ボタンをクリックして、新しい **プレビューファイル** をアップロードします。
    - **［画像読み込み時の寸法］：**
        - **［実際の寸法を使用］：** 新しい **プレビューファイル** を実際の寸法でアップロードします。
        - **［設定した寸法を使用］：** 新しい **プレビューファイル** を設定した寸法でアップロードします。

3. **[位置]** タブをクリックして開きます。フィールドを表示する位置を指定します。フィールドサイズを調整する **[左]**、**[上]**、**[幅]**、**[高さ]** の4つのオプションと、フィールド内の画像を調整する **[拡大率]**、**[画像位置]** の2つのオプションがあります。

4. **[拡大率]**：

- **［マニュアル設定］:**
  - **［マニュアル設定］チェックボックスをオン:** 幅と高さを比率で指定することができます。元の画像は定義された幅と高さの割合に拡大･縮小されます。

    [縦横比を維持]:チェックボックスをオンにすると、いずれかの値の変更が自動的に他の値に適用されます。
- **［マニュアル設定］チェックボックスをオフ:** 4つのオプションから1つを選択します。

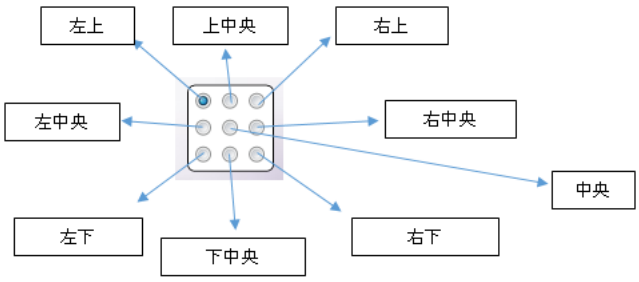
  元のサイズ: 画像は元の寸法で表示されます。

  高さを合わせる拡大 (アスペクト比維持): フィールドサイズの高さに合わせて画像を拡大します。

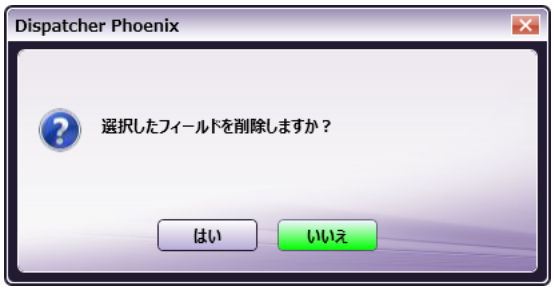
  幅を合わせる拡大 (アスペクト比維持): フィールドサイズの幅に合わせて画像を拡大します。

  高さ･幅を合わせる拡大: フィールドサイズの高さと幅に合わせて画像を拡大します。これにより、画像の縦横比が変更される可能性があります。

5. **[画像位置]:** イメージフィールド内の画像を表示する位置を **［左上］**、**［上中央］**、**［右上］**、**［左中央］**、**［中央］**、**［右中央］**、**［左下］**、**［下中央］**、**［右下］** から指定することができます。フィールドサイズを超えるイメージはクロップされます。



6. ［不一致の画像サイズの更新を有効にする］:このチェックボックスをオンにすると、イメージサイズが **［位置］** タブで指定されたサイズに一致しない場合、入力ファイルはエラーフォルダーにルーティングされます。オフの場合、このようなエラーは無視され、入力ファイルはエラーフォルダーにルーティングされずに処理が続行されます。
7. 設定を指定したら、**［OK］** ボタンをクリックして値を保存します。**［キャンセル］** をクリックした場合、変更は保存されません。**［OK］** をクリックすると、指定した設定が［VDPノード］ウィンドウの **［プレビュー］** 領域に表示されます。
8. 設定を **削除** するには、**［フィールドの削除］** ボタンをクリックします。確認のポップアップが開きます。



9. すべてのフィールド値を削除するには **［はい］** を、要求をキャンセルするには **［いいえ］** をクリックします。

   注意:

   - 変更を保存するには、最低1フィールドを追加する必要があります。使用できるフィールドは、1ページあたり最大20個、1つの設定で最大100個です。どちらかの値を超えた場合、そのフィールドが追加されないことを示す警告ポップアップが開きます。
   - 可変データとUI構成の図の例については、**XLSX/CSV入力データの構成** のセクションを参照してください。

PDFイメージの処理

VDPノードは、以下に示すようにベクターイメージ（PDFイメージ）を挿入します。

- PDFページ全体を挿入するか、PDF内部のイメージのみを挿入するかをバックエンドが決定します。
- バックエンドは1つのPDFページの挿入をサポートします（複数のPDFページの挿入はサポートしません）。

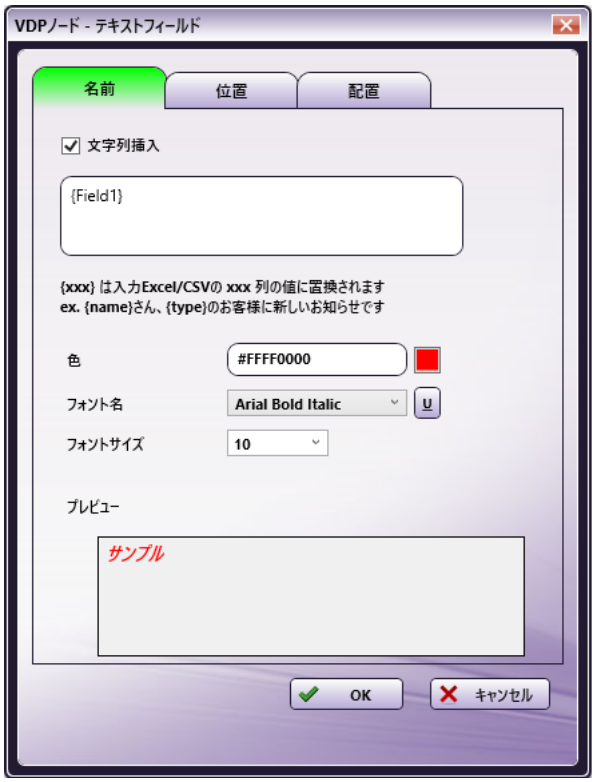
テキストフィールド オプション

テキストフィールド を追加すると、可変データファイル（XLSX/CSV）から取得した**テキストフィールド** データが挿入されます。

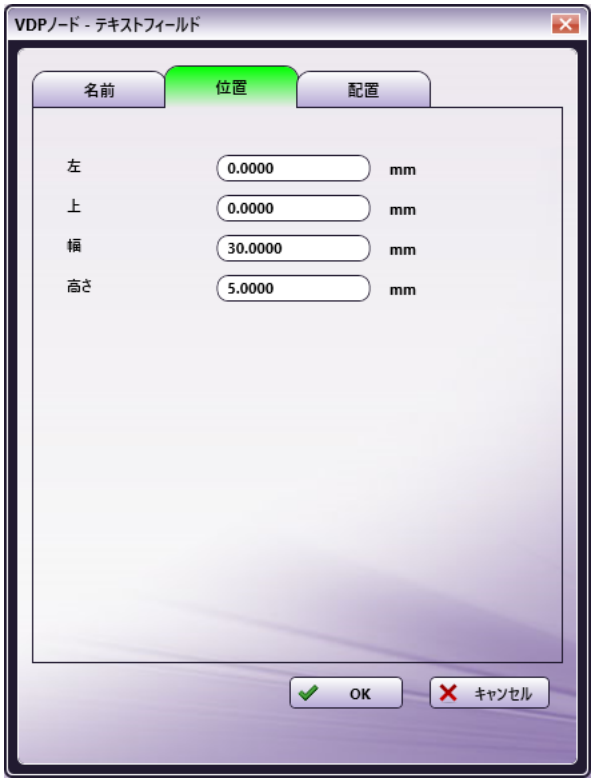
1. **［新規追加］** ボタンをクリックします。［VDPノード - テキストフィールド］ポップアップが開きます。
2. **［名前］** タブをクリックして開きます。このタブを使用して、**［フィールド名］** の詳細を指定します。
   - **［文字列挿入］:** [文字列挿入]がチェックされている場合、可変フィールドを文中に直接使用できます。例えば、{StudentName} 殿、2017年3月に {CourseName} を修了したことを証明します。

注意:

- 上記の例では、{StudentName}と{CourseName}は可変フィールドです。
- 文中の文字が右から左に書く文字（アラビア文字など）のみである場合は、**フィールド名** も同じ種類のフォントである必要があります。すなわち英語などの左から右へ記載する文字は含まれないようにする必要があります。
- [文字列挿入]がチェックされていない場合、フィールド名を指定します。
- **バーコードフィールド** を設定する際、[文字列挿入]にチェックなしで登録されたテキストフィールド名と紐付けることができます。
- **［色］:** これは、**色** のテキスト値を表示する、読み取り専用のフィールドです。色選択のオプションをクリックして色の値を選択します。
- **［フォント名］:** ドロップダウンから値を選択します。ドロップダウンには、使用可能なすべてのシステムフォントの一覧が表示されます。テキスト値に下線を追加するにはアイコンをクリックします。
- **［フォントサイズ］:** ドロップダウンから値を選択します。小数値がサポートされています。
- **［プレビュー］:** 選択した設定がリアルタイムに表示されます。



3. **[位置]** タブをクリックして開きます。テキストフィールドを表示する位置を指定します。**[左]**、**[上]**、**[幅]**、**[高さ]** の4つのオプションがあります。

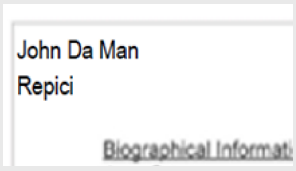
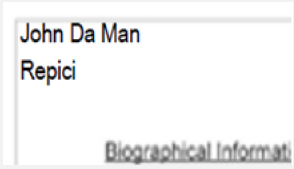
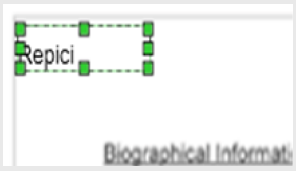
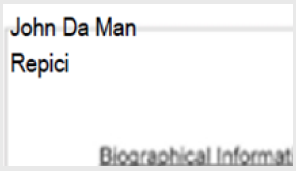


4. **[配置]** タブをクリックして開きます。このタブを使用して、**[フィールド名]** の配置の詳細を指定します。

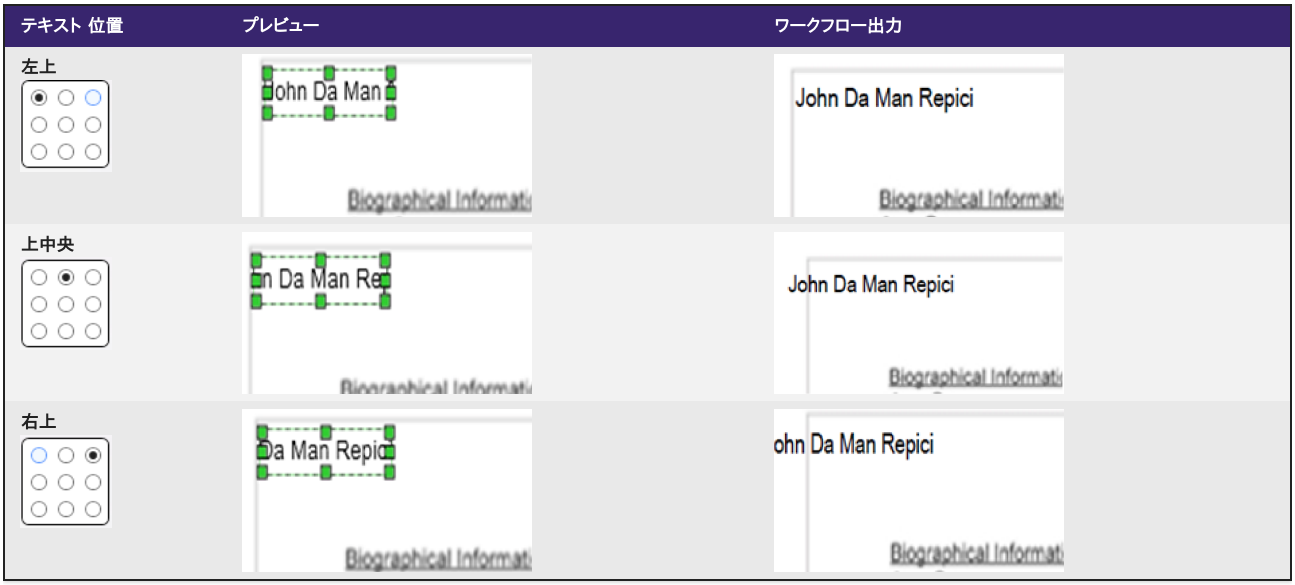
5. **［自動折り返し］チェックボックスをオン:** フィールド内のテキスト折り返しが有効になります。
6. **［テキスト位置調整］:［フィールド長の自動調整］、［フォントサイズの自動調整］**、または **［なし］**の3つのラジオボタンから1つを選択します。
    - **［フィールド長の自動調整］**： **テキストフィールド** の寸法（幅または高さ）は、出力ファイル内の指定されたテキストに合わせて自動調整されます。テキストの［自動折り返し］をチェックすると、テキストフィールドの高さが自動調整されます。テキストの **［自動折り返し］** がチェックされていない場合、テキストフィールドの幅が自動調整されます。

注意: XLSXやCSVファイルで入力されたテキストがテキストフィールドの寸法内に収まらない場合、プレビュー領域に表示されたテキストは出力と一致しません。特に事前確認のためにフィールド名に出力文字列を設定する場合は、下記のような差異が生じることに留意してください。プレビュー領域と出力ファイルで表示されるテキストの違いを示しています。

［フィールド長の自動調整］- ON　&　［自動折り返し］- ON:

テキスト 位置	プレビュー	ワークフロー出力
左上		
左中央		
左下		

［フィールド長の自動調整］- ON　&　［自動折り返し］- OFF:



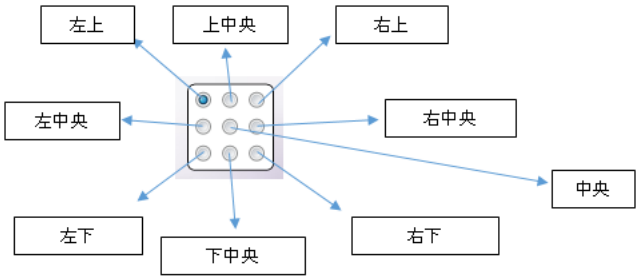
- **［フォントサイズの自動調整］**：テキストのフォントサイズは、出力ファイルの指定されたテキストに合わせて調整されます。**テキストフィールド** の寸法（幅と高さ）は変更されません。

注意： XLSXやCSVファイルで指定されたテキストが、UIで指定されたフォントサイズでテキストボックス内に収まらない場合、プレビュー領域に表示されるテキストのフォントサイズは出力と一致しません。特に事前確認のためにフィールド名に出力文字列を設定する場合は、下記のような差異が生じることに留意してください。プレビュー領域と出力ファイルで表示されるテキストの違いを示します。

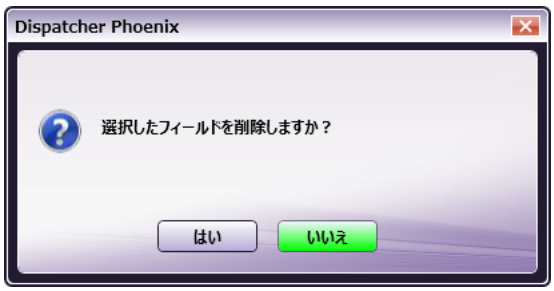
［フォントサイズの自動調整］- ON　&　［自動折り返し］- ON:

［フォントサイズの自動調整］- ON　&　［自動折り返し］- OFF:

7. **[テキスト位置]:** テキストフィールド内のテキストを表示する位置を **[左上]**、**[上中央]**、**[右上]**、**[左中央]**、**[中央]**、**[右中央]**、**[左下]**、**[下中央]**、**[右下]** から指定することができます。



8. 設定を指定したら、**[OK]** ボタンをクリックして値を保存します。**[キャンセル]** をクリックした場合、変更は保存されません。**[OK]** をクリックすると、指定した設定が [VDPノード] ウィンドウの **[プレビュー]** 領域に表示されます。
9. 設定を **削除** するには、**[フィールドの削除]** ボタンをクリックします。確認のポップアップが開きます。



10. すべてのフィールド値を削除するには **[はい]** を、要求をキャンセルするには **[いいえ]** をクリックします。

注意:

- 変更を保存するには、最低1フィールドを追加する必要があります。使用できるフィールドは、1ページあたり最大20個、1つの設定で最大100個です。どちらかの値を超えた場合、そのフィールドが追加されないことを示す警告ポップアップが開きます。
- 可変データとUI構成の図の例については、**XLSX/CSV入力データの構成** のセクションを参照してください。

バーコードフィールド オプション

バーコードフィールド を追加すると、可変データファイル（XLSX/CSV）から取得した **バーコード** データが挿入されます。

1. **[新規追加]** ボタンをクリックします。[VDPノード - バーコードフィールド] ポップアップが開きます。
2. **[バーコードタイプ]** タブをクリックして開きます。このタブを使用して、**バーコードタイプ** の詳細を指定します。
   - **[設定項目]:** ドロップダウンからバーコードの **項目** を選択します。

- **[タイプ]:** 選択した **設定項目** の値に対応するバーコードのタイプをドロップダウンから選択します。
- **[プレビュー]:** 選択した設定がリアルタイムに表示されます。

3. **[位置]** タブをクリックして開きます。バーコードを表示する位置を指定します。フィールドサイズを調整する **[左]**、**[上]**、**[幅]**、**[高さ]** の4つのオプションと、[マニュアル設定]のチェック有り/チェック無し、フィールド内の画像を調整する **[画像位置]** のオプションがあります。

- **［マニュアル設定］:**
  - **［マニュアル設定］チェックボックスをオン:** 幅と高さを比率で指定することができます。元の画像は定義された幅と高さの割合に拡大・縮小されます。

    [縦横比を維持]: チェックボックスをオンにすると、いずれかの値の変更が自動的に他の値に適用されます。
  - **［マニュアル設定］チェックボックスをオフ:** 4つのオプションから1つを選択します。

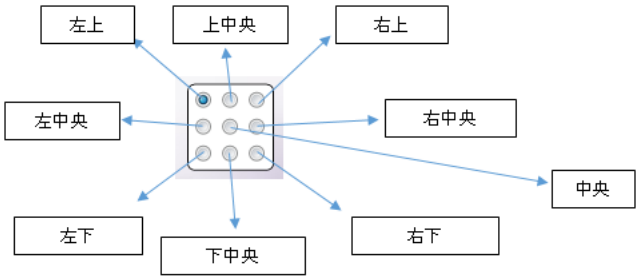
    元のサイズ: 画像は元の寸法で表示されます。

    高さを合わせる拡大 (アスペクト比維持): フィールドサイズの高さに合わせて画像を拡大します。

    幅を合わせる拡大 (アスペクト比維持): フィールドサイズの幅に合わせて画像を拡大します。

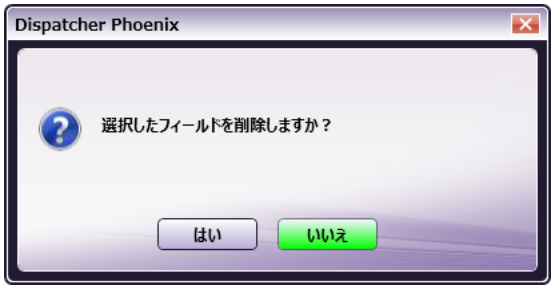
    高さ・幅を合わせる拡大: フィールドサイズの高さと幅に合わせて画像を拡大します。これにより、画像の縦横比が変更される可能性があります。

4. **[バーコード位置]:** イメージフィールド内の画像を表示する位置を **［左上］**、**［上中央］**、**［右上］**、**［左中央］**、**［中央］**、**［右中央］**、**［左下］**、**［下中央］**、**［右下］** から指定することができます。フィールドサイズを超えるイメージはクロップされます。



5. **［割当フィールド］** タブをクリックして開きます。このタブを使用して、**バーコードマッピング**の詳細を指定します。
   - **［利用できるフィールド］:** ドロップダウンから **登録済みのテキストフィールド名** または **［カスタム］** を選択します。
   - **［カスタムフィールド名］:** バーコードを処理しているときにフィールドをマップするために使用する名前を入力します。

6. 設定を指定したら、**［OK］**ボタンをクリックして値を保存します。**［キャンセル］**をクリックした場合、変更は保存されません。**［OK］**をクリックすると、指定した設定が［VDPノード］ウィンドウの**［プレビュー］**領域に表示されます。
7. 設定を削除するには、**［フィールドの削除］**ボタンをクリックします。確認のポップアップが開きます。



8. すべてのフィールド値を削除するには**［はい］**を、要求をキャンセルするには**［いいえ］**をクリックします。

注意:

- ワークフローの実行中に、VDPファイル内にサポートされていないバーコードデータが見つかった場合、ワークフローのアクティビティログにエラーメッセージが表示され、ファイルはエラーフォルダーに送られます。
- サポートされているタイプ/形式オプションのリストについては、このドキュメント後半の **バーコードデータの入力形式** のセクションを参照してください。

コピー/貼り付け/置換

右クリックして表示されるコンテキストメニューで**［コピー］**オプションと**［貼り付け］**オプションを使用すると、プレビューパネルの中でフィールドを追加できます。**［コピー］**をクリックすると、現在選択されているフィールドの設定がコピーされます。**［貼り付け］**をクリックすると、コピーしたフィールドが選択したフィールドに貼り付けられます。コピー操作が完了した後で、コピーしたフィールドを変更しても、その変更は適用されません。

置換をクリックすると、選択されているフィールドがコピーされたフィールドに置き換えられます。置換は、単独でフィールドがコピーされた場合にのみ有効となります。

出力形式

［出力形式］領域で出力ファイルの形式を選択します。**［PDF］、［PDF VT1］、［PDF VT2］、または［PPML］** の4つのオプションがあります。

注意:

- **PDF VT1** と **PDF VT2** は特殊な形式のPDFです。これらのタイプのファイルには拡張子PDFが割り当てられます。
- PDF VT2のすべての出力形式には、以下のメタデータがファイルレベルで追加されます。
- ***pdfvt2:コンテンツ***（*コンテンツファイルをルーティングする*）
- ***pdfvt2:リファレンス***（*イメージファイルをルーティングする*）
- **PDF VT2** 出力形式の場合、UI入力テンプレートファイルに加えて、入力可変データは個別のPDFファイルとして生成されます。詳細については、**制限事項**のセクションを参照してください。
- 別ファイルとして出力されたPDFを統合して印刷するには、**PDF VT2** フォーマットに対応した印刷システムをご利用ください。例：AccurioPress C6100 IC-604

ページのナビゲーションとズーム

［プレビュー］ パネルの下部にあるページナビゲーション機能とズーム機能を使用して、入力ファイルのページ間をナビゲートしたり、ズーム比を制御したりします。

- **ページナビゲーション**：（可能な場合）矢印をクリックして、サンプルドキュメントのページ間を移動します。
- **ズームコントロール**：スライドバーを使用するか、数値を入力して、**［プレビュー］** パネルを **拡大または縮小** します。

XLSX/CSV入力データの構成

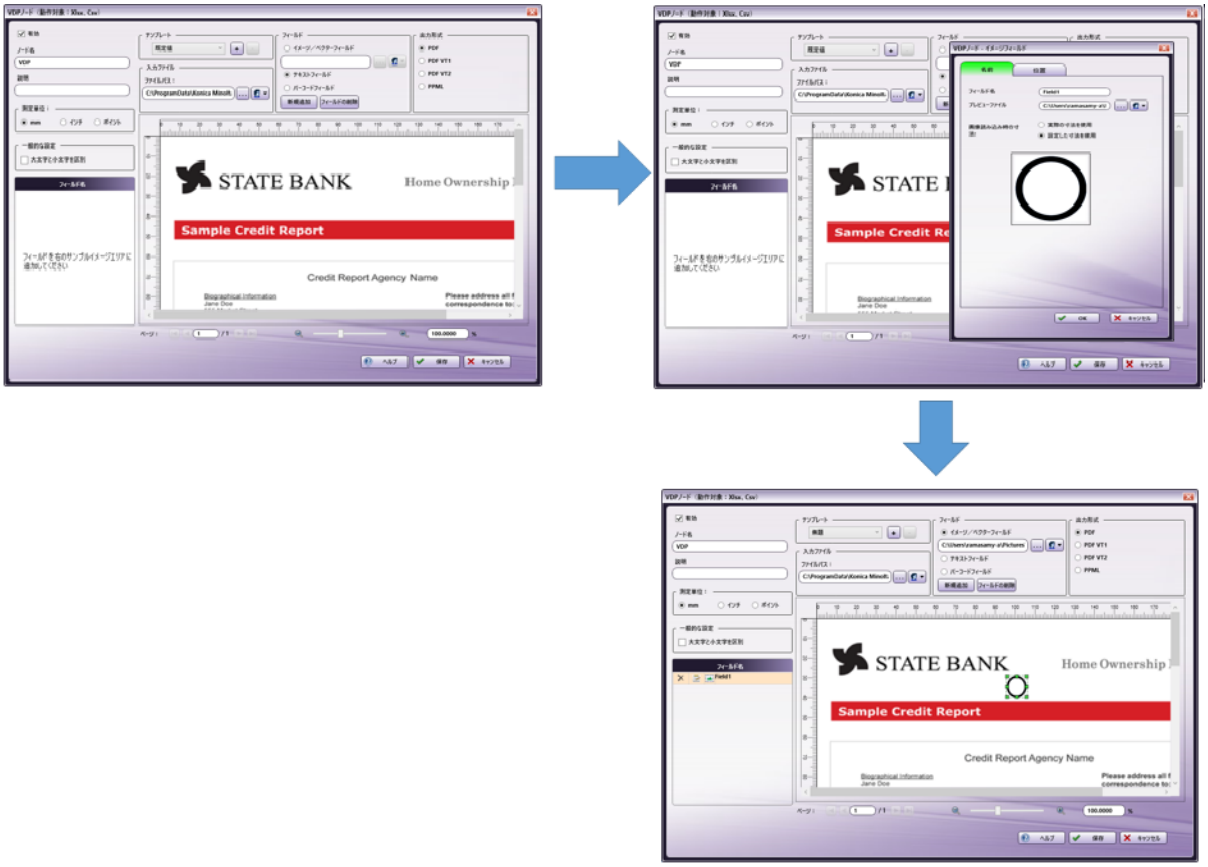
1. 以下の例に示すように、可変データを使用して入力フォルダーを構成できます。

入力フォルダー

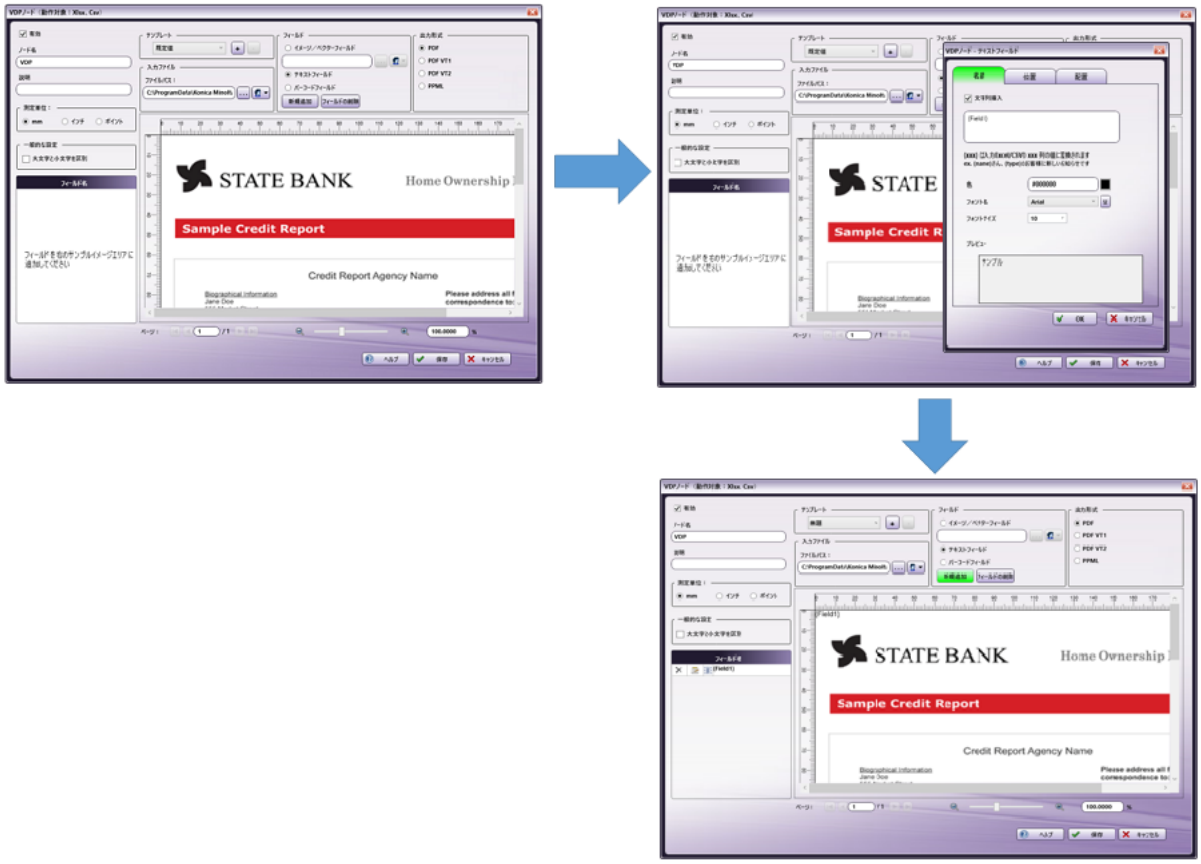
Variable Data - CSV/XLSXファイル

	A	B	C
1	First Name	Bar Code	Field1
2	Text Field1	12341586	C:¥User¥appteam¥Desktop¥image.png
3	Text Field2	12341586	C:¥User¥appteam¥Desktop¥image.png

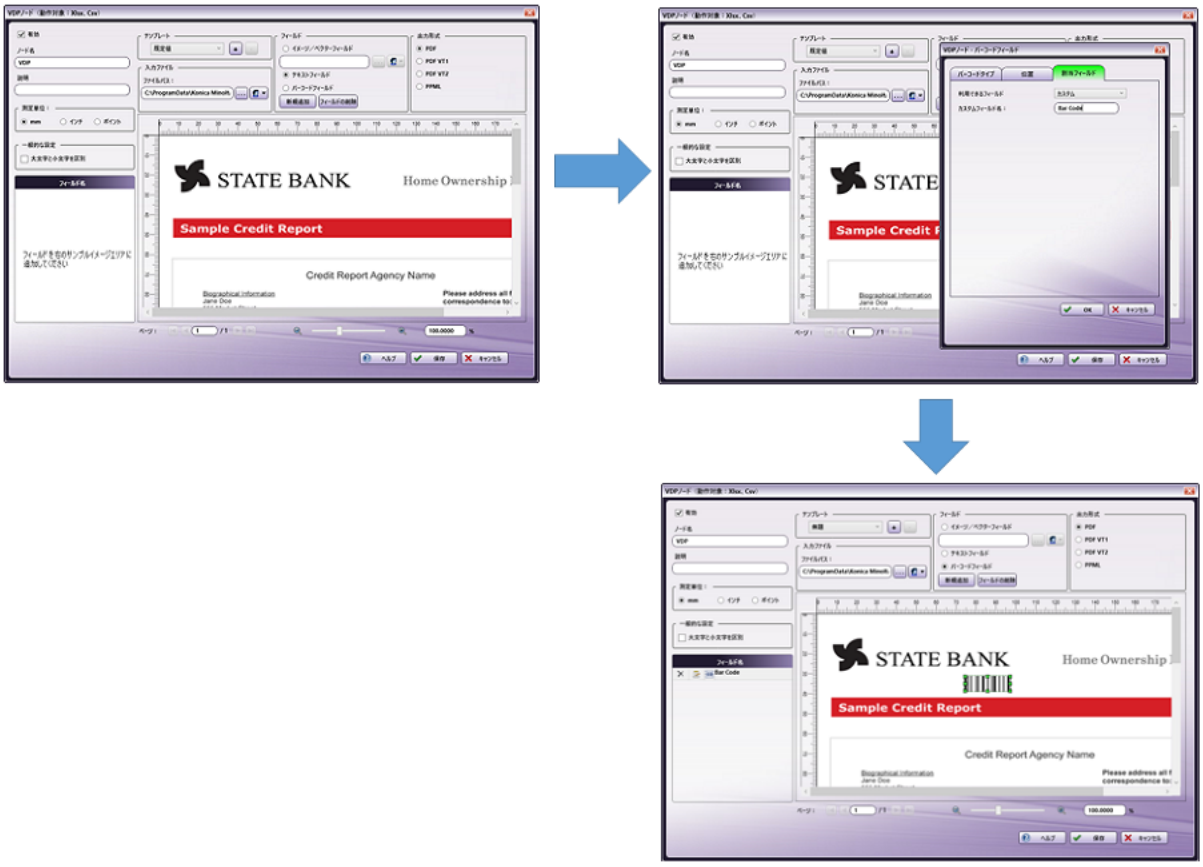
2. VDPノードをドラッグアンドドロップして、以下のUIに示すようにフィールド設定を構成します。
    - **UIでのイメージ/ベクターの設定**



- **UIでのテキストフィールドの設定**



- **UIでのバーコードフィールドの設定**



3. 上に示す処理では、[VDPノード]の設定を使用して3つの **イメージ/ベクター** フィールドが追加されています。可変データとPDF/イメージファイルがこのノードに送られると、可変データから **イメージ/ベクター** フィールドに入力するデータが取得され、ドキュメントに追加されます。

4. 以下の出力が生成されます。

入力フォルダー

Variable Data - CSV/XLSX ファイル

	A	B	C
1	First Name	Bar Code	Field2
2	Text Field1	12341586	C:¥User¥appteam¥Desktop¥image.png
3	Text Field2	12341586	C:¥User¥appteam¥Desktop¥image.png

5. その後、この1つのPDF、PDF VT、またはPPMLファイルがワークフローの次のノードに送られます。

   注意:

   - 入力ファイルがPDFの場合、イメージ/ベクターフィールドタイプでは、1ページのPDFファイルのみがサポートされます。
   - 可変データのデータ入力形式を構成するには、**バーコードデータの入力形式** のセクションを参照してください。

バーコードデータの入力形式

VDPノードでサポートされるバーコードタイプとデータ入力形式を以下に示します。

注意: チェックディジットが含まれるバーコードにはチェックディジットを含めて入力する必要があります。

カテゴリー	タイプ	データ入力フォーマット	桁チェック
Linear codes	Code 128	ABC-abc-1234	
	Code 11	0123-45678-	有り(2桁))
	Code 2of5 Interleaved	1234567890	
	Code 39	ABC-1234	
	Code 39 Full ASCII	Aa-1234	
	Code 93	ABC-1234-/+aC	有り(2桁)
	Flattermarken	123456789	
	GS1 128(UCC/EAN-128)	[01]98898765432106[3202]012345[15]991231	
	MSI	012345674	有り(1桁)
	Pharma 1 Track	123456	
	Pharma 2 Track	123456	
	Telepen	ABC-abc-1234	
PostalCodes	DAFT	DAFTFDATATFDTFAD	
	Japanese Postal	1234567	
	Korean	1234569	
	Planet Code	123456789014	有り(1桁)
	Royal Mail	1234567ABCM	有り(1桁)
	Postnet 6	123455	有り(1桁)
	Postnet 10	1234567895	有り(1桁)
	Postnet 12	123456789014	有り(1桁)
GS1 DataBar	GS1 Databar	01234567890128	有り(1桁)
	GS1 Databar Stacked	12345678901231	有り(1桁)
	GS1 Databar Stacked Omni	12345678901231	有り(1桁)
	GS1 Databar Limited	01234567890128	有り(1桁)
	GS1 Databar Expanded	[01]90012345678908[3103]001750	有り(1桁)
	GS1 Databar Expanded Stacked	[01]98898765432106[3202]012345[15]991231	有り(1桁)
	GS1 128 Composite	[01]01234567890128&&[10]1234567ABCDEFG	有り(1桁)
	GS1 Databar Composite	12345678901231&&[11]990102	有り(1桁)
	GS1 Databar Stacked Limited Composite	12345678901231&&[17]010200	有り(1桁)
	GS1 Databar Expanded Composite	[01]01234567890128[3103]001234&&[91]1A2B3C4D5E	有り(1桁)
EAN/UPC	EAN 8	90311017	有り(1桁)
	EAN 13	9780201379624	有り(1桁)
	EAN 8 Composite	76543210+54321	有り(1桁)
	EAN 13 Composite	2109876543210+54321	有り(1桁)
	UPC A	725272730706	有り(1桁)
	UPC E	01234565	有り(1桁)
	UPC A Composite	123456789012+12345	有り(1桁)
	UPC E Composite	12345670+54685	有り(1桁)
2D BarCodes	QR Code	123456ABDC	
	Data matrix	123456ABDC	
	Aztec	123456ABDC	
	Maxicode	123456ABDC	
	Micro PDF	123456ABDC	
	PDF 417	123456ABDC	
	Micro QR	ABC-abc-1234	
ISBN Codes	ISBN 13	9781234567897	有り(1桁)

制限事項

次の制限事項に注意してください。

1. **入力ファイルとイメージフィールド** の両方がPDFの場合だけ正しく透明度が反映されます。プレビューでは透明度が適用される領域は白く表示されます。
2. **イメージフィールド** で、可変データが含まれる複数ページのTIFFファイルが送信された場合、最初のページのデータだけが出力に挿入されます。他のページのデータは無視されます。
3. **PDFイメージフィールド** では、1ページのPDFのみがサポートされています。イメージフィールドに複数ページのPDFが送信された場合、エラーメッセージが表示されます。
4. VDP UIのテキストボックスには無効な文字や長い文字を入力できることがあります。フィールドの外をクリックすると、このようなエントリーは、そのテキストボックスがサポートする最小文字数または最大文字数の値までDispatcherによって切り詰められ、自動的に修正されます。これは、アプリケーションのデフォルトの動作です。
5. VDPノードでは、複数のページサイズが混在するテンプレートファイルはサポートされません。
6. JPEG圧縮された複数ページのTIFFファイルは、PDF操作のPoDoFoライブラリーでサポートされていないため、VDPノードでもサポートされません。
7. VDPノードはテキストフィールド の複数行のテキストを処理できないため、XLSX/CSVファイルには複数行のテキストを含めないでください。
8. VDPノードではテキストの透明度はサポートされません。これは、PoDoFo機能がテキストの透明度をレンダリングするためのテキストのグラフィック状態を正しく保持できないことによります。
9. VDPノードでは、最大110 MB（他の可変データファイルとテンプレートファイルに対して）の入力をサポートしています。
10. VDPノードでは最大100ページのテンプレートをサポートできますが、入力レコードと出力ページのサポートには制限があります。詳細は以下の表を参照してください。

テンプレートページ数	Excel レコード	合計ページ サポート
1	75000	75000
2	37500	75000
5	15000	75000
10	7500	75000
50	1500	75000
100	750	75000

注意: サポートするページ = テンプレートページ数。 レコードは75,000件以下である必要があります。

11. VDPの現在のバージョンは、ZINTライブラリーに依存しているため、ENVIRONMENT変数への書き込みを行います。そのため、VDPのインストール後は、バーコードが正しく挿入されるようにするために再起動が必要となります。
12. 複合データの場合、可変データにはプライマリデータと他のデータが&&で結合されて含まれていなければなりません。&&はデータの結合に使用されるため、プライマリデータおよびその他のデータに“&&”が含まれていると正しく処理されません。
13. 入力されたバーコード情報のチェックディジットが誤っていた場合、ZINTライブラリーで自動修正されるため、入力されたバーコード情報と出力の結果が異なる場合があります。
14. CSVの改行コードがCRの場合、VDPノードは改行を認識できないため、改行コードを指定できるテキストエディタにてCR+LFもしくはLFに変更してください。
15. テンプレートファイルはPDFバージョン1.3以上でなければなりません。
16. テキストフィールド内の自動折り返し機能は、文字列の間に半角スペースが含まれている場合にのみ機能します。但し、2バイト以上の文字は半角スペースが無くてもフィールド枠の端で改行されます。
17. フィールドの置換は単独でコピーする場合にのみ有効となります。
18. XLSX のセルの日付・時刻・通貨などの表示形式には対応していません。
19. 出力形式で **PDF VT2** が設定された場合、可変データの **イメージ/ベクター** フィールドの情報は入力ファイルとは別のPDFとして出力されます。可変データの **テキストフィールド** および **バーコードフィールド** の情報は **入力ファイル** に直接埋め込まれ、PDFファイルとして出力されます。

配信ノード

コネクター

サードパーティーコネクター

Dispatcher Phoenixでは、サードパーティーアプリケーションへの次のような様々な接続を提供します。

- **Box.com**
- **DocRecord**
- **DocuSign**
- **Dropbox**
- **Epic**
- **FileAssist**
- **FilesAnywhere**
- **Google ドライブ**
- **Guardian**
- **OnBase Content Management System by Hyland Software**
- **Laserfiche**
- **M-Files**
- **Microsoft Exchange**
- **Microsoft OneDrive**
- **Microsoft OneDrive for Business**
- **Paragon Cloud Fax**
- **RightFax**
- **SharePoint by Microsoft Corporation**
- **SharePoint Online by Microsoft Corporation**
- **Upland InterFAX**
- **WebDAV サーバー**
- **Windows Fax**
- **Workshare**
- **Worldox**

注: ワークフローを作成するときには、出力ノードが有効になっていることを確認してください。無効な出力ノードにファイルを送信すると、それらのファイルは失われることになります。

プロキシの設定

Dispatcher Phoenixは、FilesAnywhere、FilesAssist、Dropbox、Box、OneDrive、OneDrive for Business、Googleドライブ、OnBase、SharePoint、SharePoint Online、およびWebDavコネクターのプロキシ設定を優先することができます。Dispatcher Phoenixを実行しているシステムでプロキシ設定をセットアップするには、以下の手順を実行します。

1. Internet Explorerからプロキシを設定します **(ツール > インターネットオプション > 接続 > LANの設定)**。外部アクセスアドレスとプロキシバイパスアドレスの両方にプロキシ設定を構成する方法については、IT管理者にお問い合わせください。
2. **DP Webシステム設定アプリケーション** を使用して、Dispatcher Phoenix用のプロキシを設定します。

注: SharePointとWebDAVは、認証を必要とするプロキシサーバーとのNTLM/Negotiate認証をサポートしません。

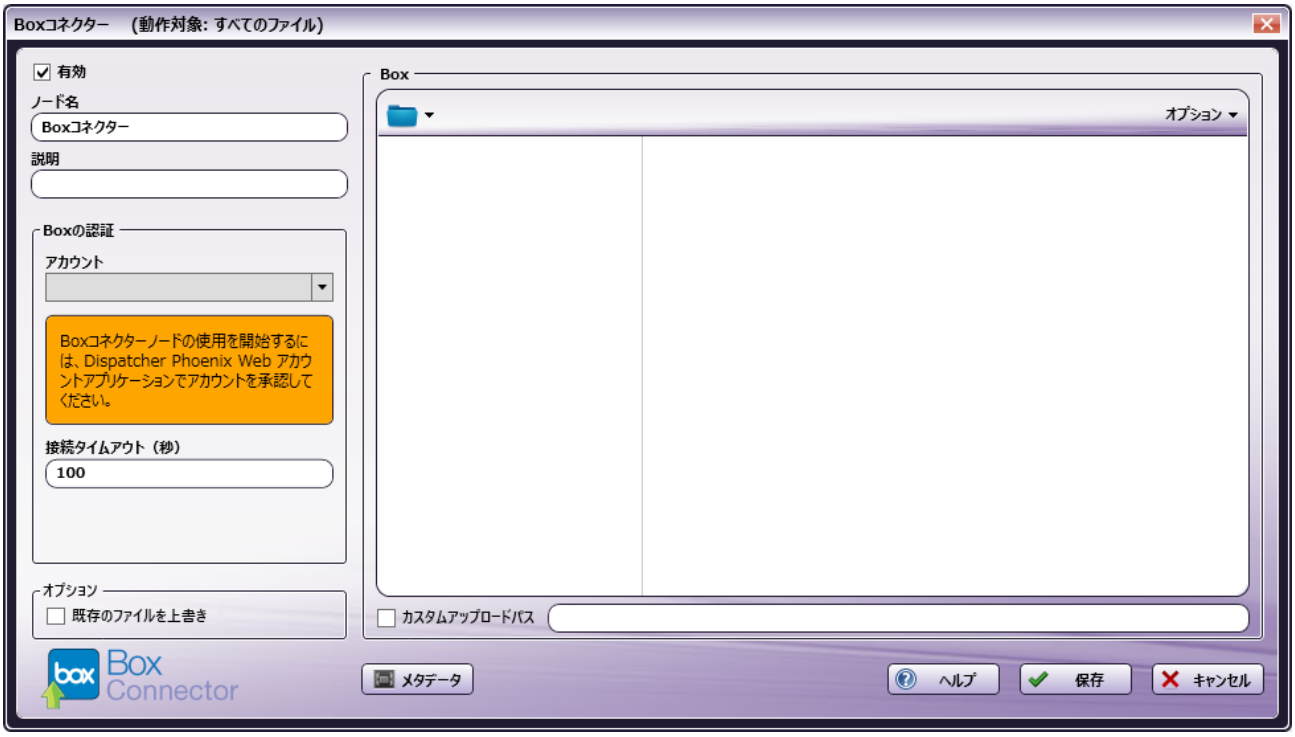
Boxコネクター

Boxコネクターノードを使用すると、企業向けのオンラインファイル共有およびクラウドコンテンツ管理サービスであるBox.comにドキュメントを配信できます。自動ワークフローによってBoxにドキュメントを送信することも、複合機のパネルから直接Boxにログインすることもできます。

注:

- Boxコネクターを使用するには、Boxアカウントが必要です。
- Boxにアップロードするドキュメントの最大ファイルサイズは200MBです。

[Boxコネクターノード] のプロパティウィンドウを開くには、Boxコネクター出力ノードをワークフローに追加してダブルクリックします。



- 複数の出力場所がある場合は、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックを外すとこの出力は無視されます。ドキュメントはワークフローでは引き続き有効と見なされますが、出力されることはなく失われる可能性もあります。
- **[ノード名]** フィールドに、Boxコネクターノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドにBoxコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の宛先ノードをそれぞれ区別するのに役立ちます。説明が長い場合は、このフィールドにマウスを合わせるとすべての内容を読むことができます。
- **[既存のファイルを上書き]** チェックボックスがオンになっている場合、同じファイルを複数回Box.comアカウントにアップロードすることができます。ファイルにはファイル名の横にアイコンが表示され、ファイルがアップロードされた回数を表す数字が表示されます。そのアイコンをクリックすると、そのファイルの他のバージョンが表示されます。この機能は、アカウントレベルが「Pro」以上のBox.comからのみ利用可能です。標準Boxアカウントのユーザーは、ファイルのバージョンを表示することはできません。

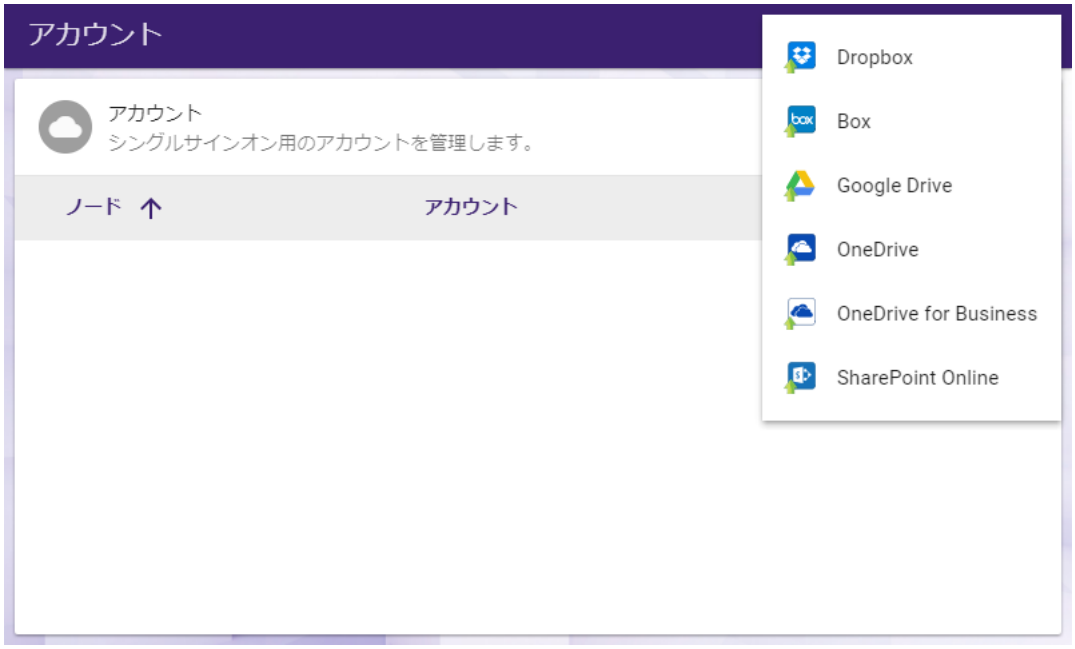
Boxコネクターの構成

Boxコネクターを構成するには、最初にDispatcher Phoenix Webの認証マネージャーからBoxのアカウントにログインする必要があります。この初期設定が完了すると、ノード内または複合機のパネルからのBoxへのログインが不要になり、最適化されたシングルサインオンが実現されます。

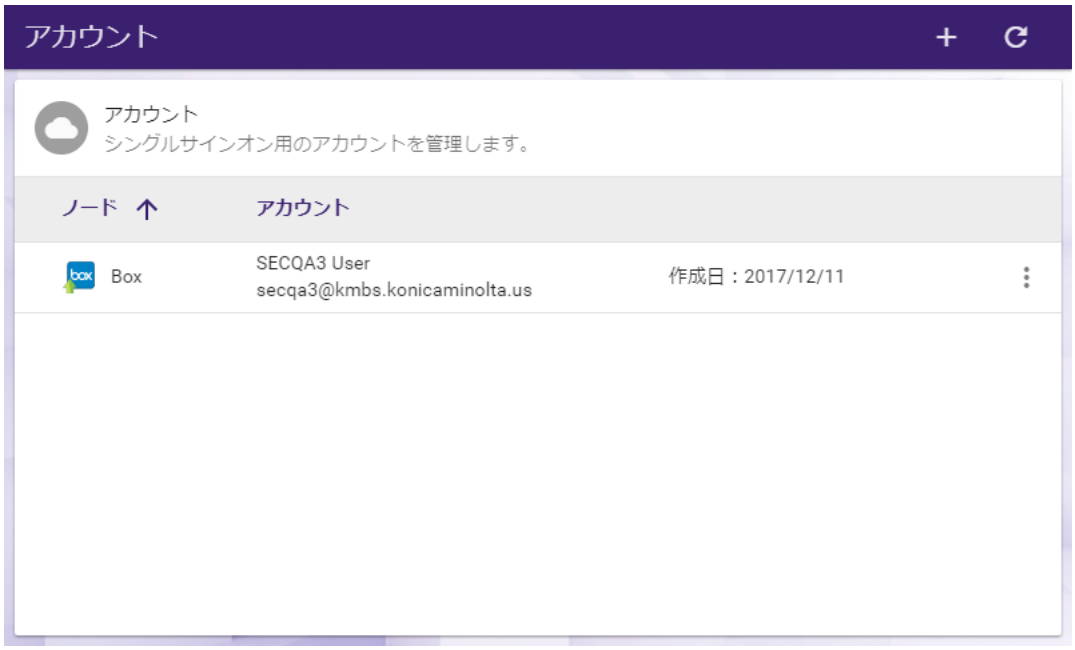
設定

まず、Dispatcher Phoenix Webの認証マネージャーからBoxにログインする必要があります。以下の操作を行います。

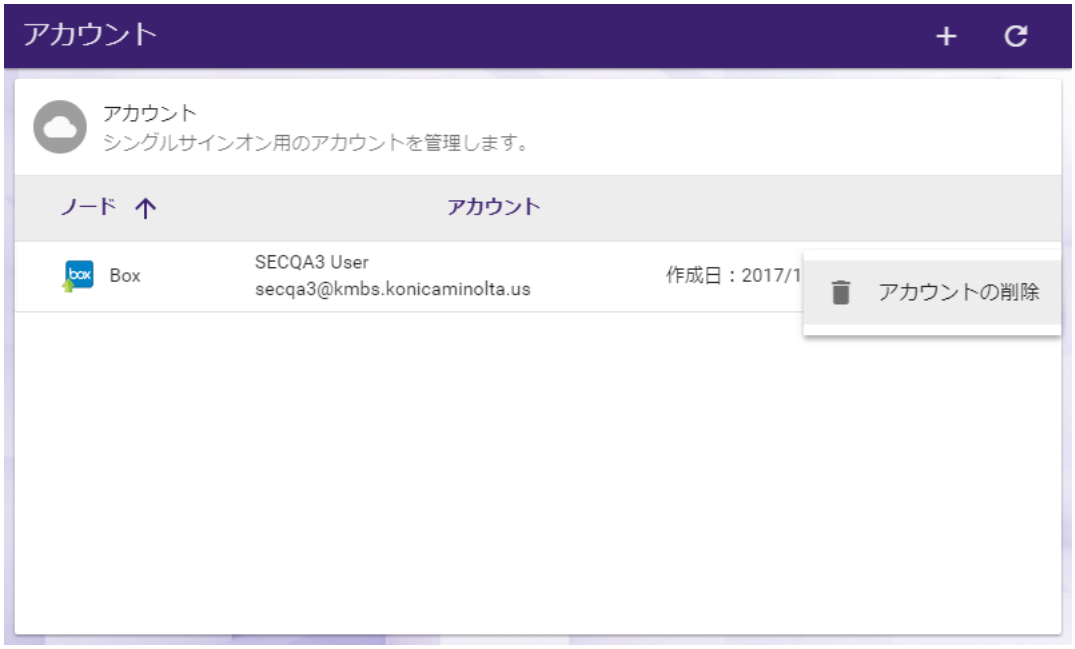
1. Dispatcher Phoenix Webにログインします。
2. ホームページで **[アカウント]** ツールを選択します。
3. [アカウント]ページで、**[+]** ボタンを選択して **[Box]** オプションを選択します。以下の図を参照してください。



4. アカウントの資格情報（電子メールアドレス/Boxアカウントのユーザー名とパスワード）を使用して、Boxにログインします。
5. アプリケーションが情報にアクセスするための許可を求められたら、**[はい]** を選択します。
6. [アカウント]ページにBoxのアカウントが表示されます。例については以下の図を参照してください。



7. アカウントを削除する必要がある場合は、参照ボタンを選択して、以下の図に示すように **[アカウントの削除]** を選択します。

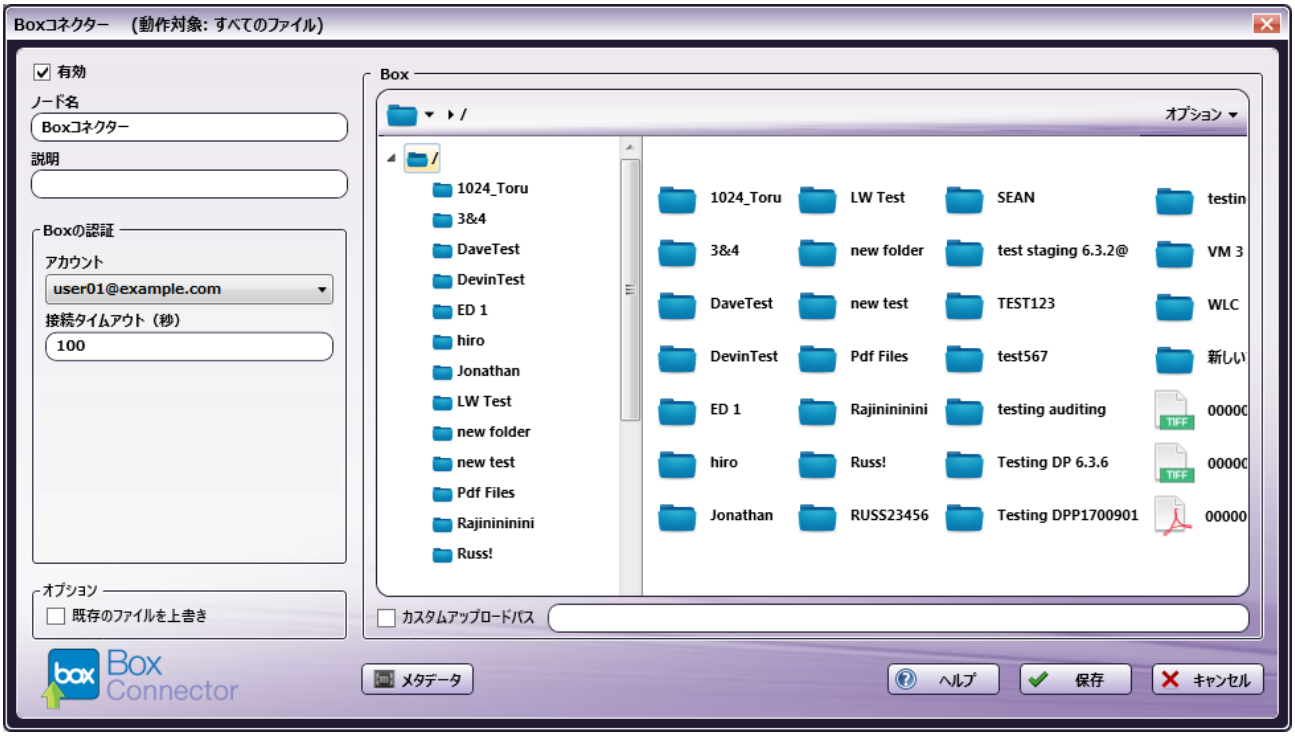


8. 複数のアカウントを追加する場合は、最初に追加したアカウントに星のアイコンが付き、プライマリアカウントとしてマークされます。プライマリアカウントの利点は、複合機へのサインイン時に、このアカウントに即時にアクセスできることです。複合機でチェックアイコンを選択し、次の画面で戻る矢印アイコンを選択することで、別のアカウントに切り替えることができます。参照(･･･)ボタンを選択して **[プライマリアカウントの有効化]** を選択することで、プライマリアカウントを切り替えることもできます。また、**プライマリアカウントを無効化する** ことで、複合機のアカウント画面で常に確認を求めるようにすることができます。

Boxコネクターノードのカスタマイズ

接続後、Boxノードのプロパティウィンドウの右側に、Box内のフォルダー、サブフォルダー、およびファイルのツリービューが表示されます。この領域を使用して、Boxのフォルダー構造を参照し、ドキュメントを格納するフォルダーを選択することができます。

例については、以下の図を参照してください。



別のBoxアカウントを選択するには、**[アカウント]** ドロップダウンリストからアカウントを選択します。

既定の接続タイムアウト（サーバーに最初に接続してから、通信が行われずタイムアウトするまでの時間として割り振られた秒数）を変更するには、**[接続タイムアウト]** フィールドに値を入力します。

新規フォルダーへのドキュメントの送信

Boxにスキャン先となる新規フォルダーを作成するには、**[オプション]** ドロップダウンメニューから **[新規フォルダー]** オプションを選択するか、**[Ctrl]** + **[Shift]** + **[N]** キーを押します。

表示される[新規フォルダーの作成]ウィンドウで、**[名前]** フィールドに新規フォルダーの名前を入力してから、**[作成]** ボタンを選択します。新規に作成されたフォルダーがフォルダービューに表示されます。

メタデータを使用してドキュメントをカスタムパスに送信

Boxノードの設定ウィンドウで定義されたフォルダーにドキュメントを自動的にアップロードすることができます。開始するには、次の手順を実行します。

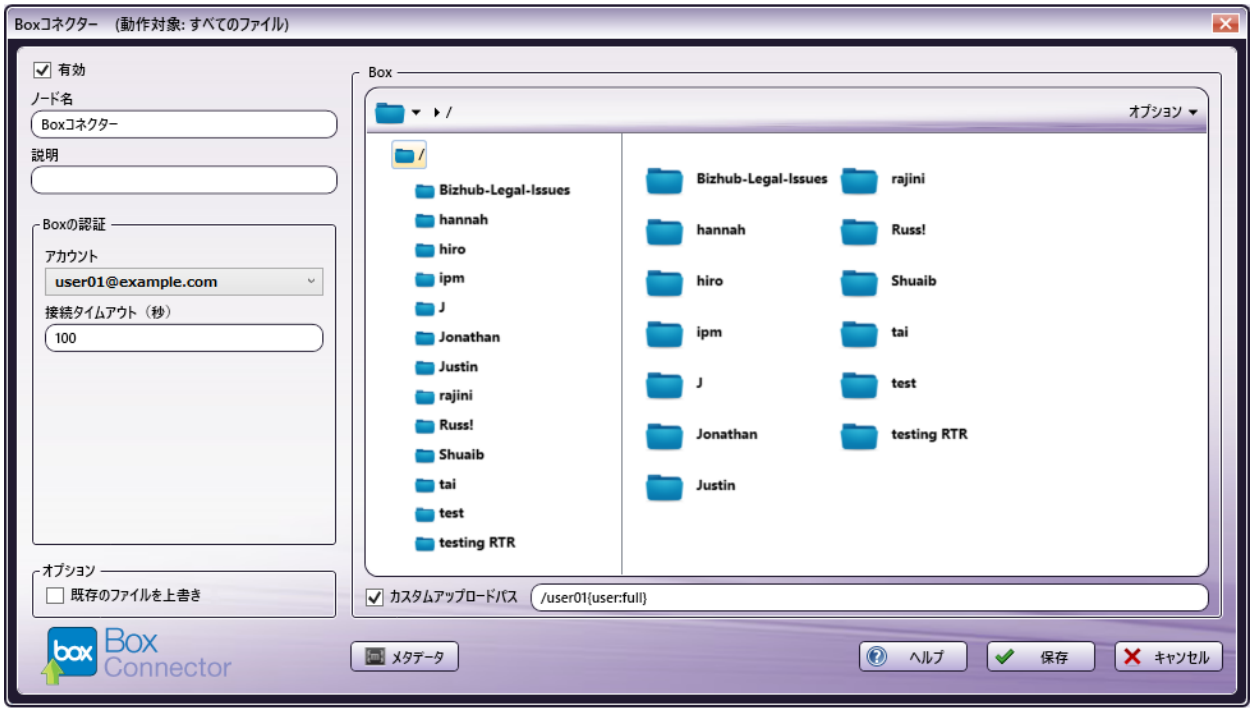
- **[カスタムアップロードパス]** チェックボックスをオンにする: スキャンしたドキュメントをアップロードするフォルダーパスを入力します。作成したいフォルダーの名前を入力して、新しいフォルダーを動的に作成することができます。
- このパス名には必要に応じてメタデータも含めることができます。パスが存在しない場合フォルダーが作成されます。

注: まだ存在していないフォルダー内にはフォルダーを作成できません。たとえば、2つの異なるメタデータ変数を使用してフォルダー内にフォルダーを作成することはできません（例: {bates:Counter}/{file:name}）。

- カスタムアップロードパスにメタデータを追加するには、次の手順を実行します。

  1. **[メタデータ]** ボタンをクリックして、メタデータブラウザーを開きます。
  2. [メタデータ・ブラウザー]ウィンドウで、目的のメタデータ変数を選択します。
  3. メタデータ変数をメタデータブラウザーウィンドウから **[カスタムアップロードパス]** フィールドにドラッグドロップします。

  例については、以下の図を参照してください:



ファイル名の制限

ファイル名には、以下の制限が適用されます。

- ファイル名の最初と最後にスペースを使用することはできません。
- ファイル名の最初に2つのピリオド(..)を使用することはできません。
- 表示されない文字をファイル名に含めることはできません（タブ文字や改行文字など）。
- < > : " / \ | ? *は使用できません。

表示オプション

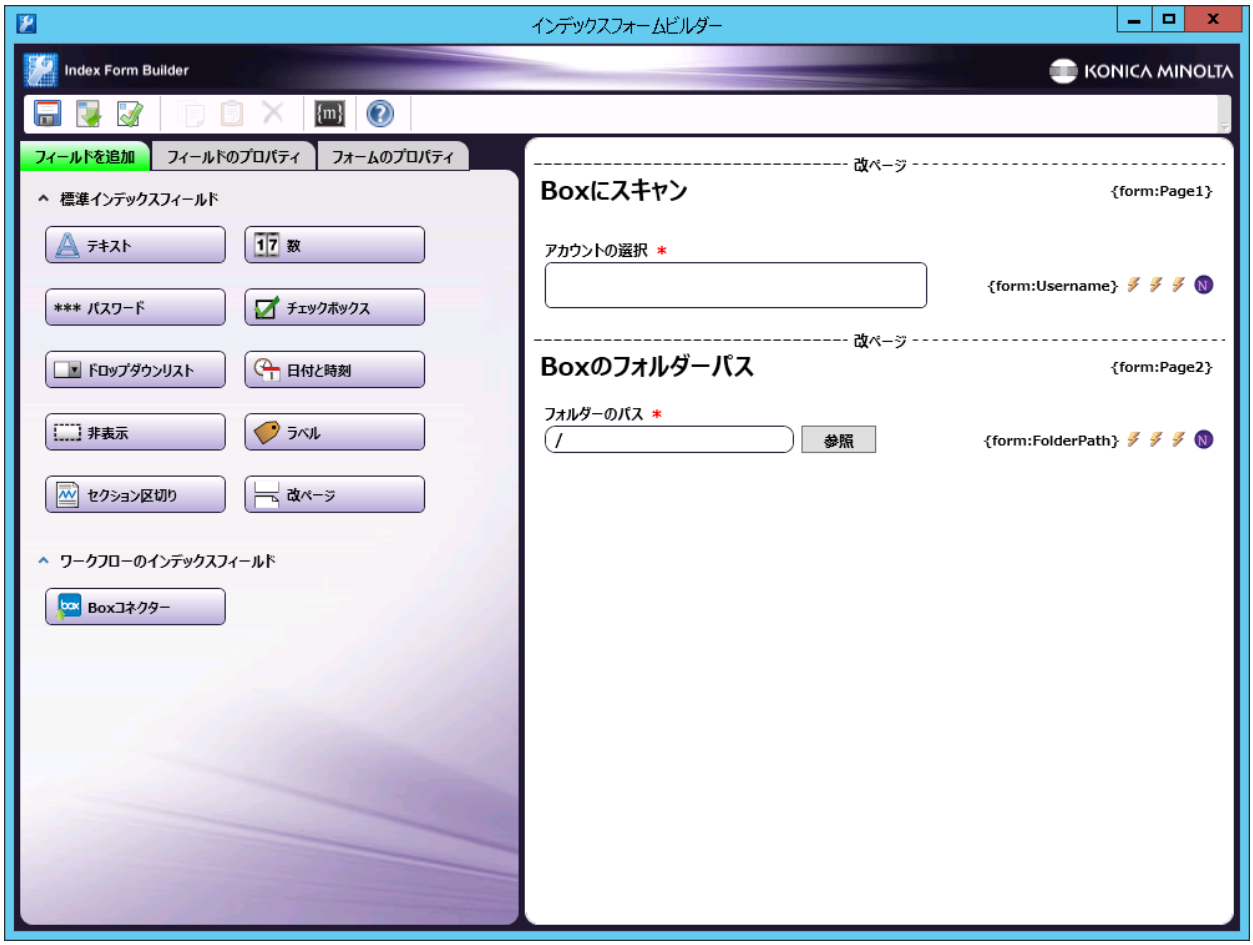
ノードのプロパティウィンドウでの、Boxフォルダーの既定の表示は、ウィンドウの右上にある[オプション]ボタンを使用して調整できます。[オプション]プルダウンメニューから以下の項目を選択します。

- 既定の表示をオフにするには、**[ツリービューの表示]** オプションのチェックを外すか、**[Ctrl]** + **[T]** キーを押します。
- Boxのフォルダーに格納されているファイルを非表示にするには、**[ファイルの表示]** オプションのチェックを外すか、**[Ctrl]** + **[E]** キーを押します。
- 現在の表示を更新して最新のフォルダーとファイルが表示されるようにするには、**[最新の情報に更新]** オプションを選択するか、**[F5]** キーを押します。

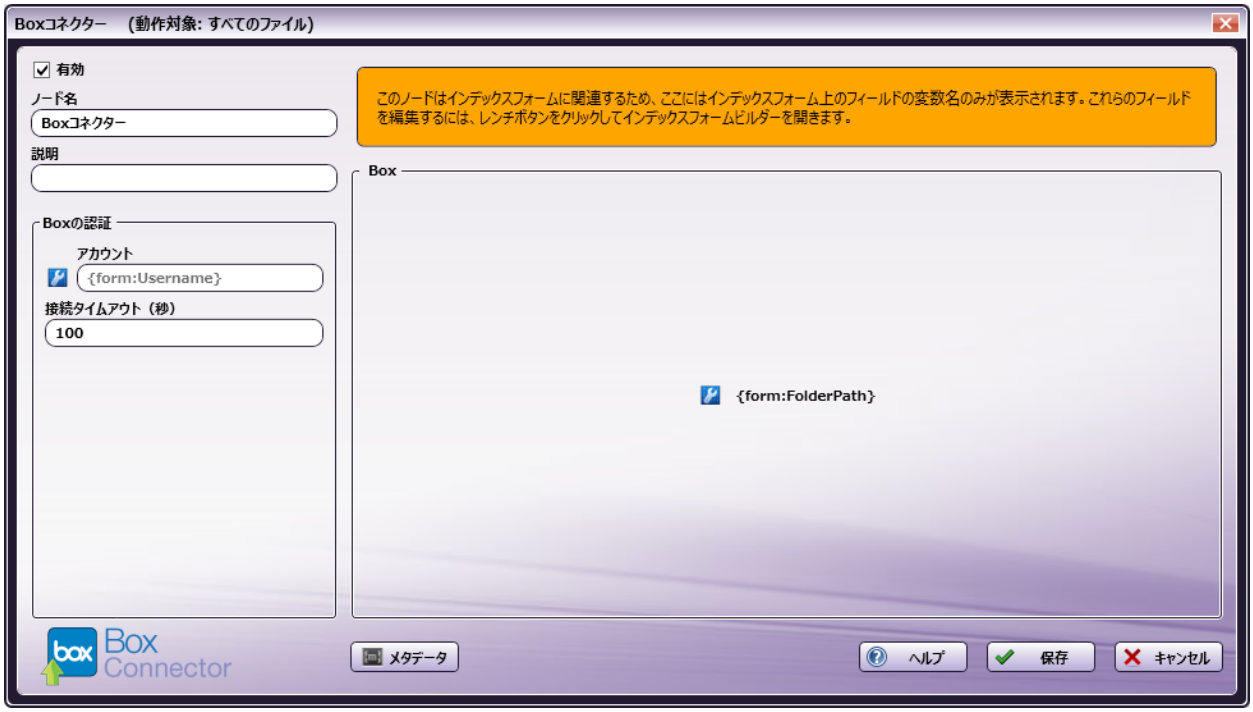
Boxコネクターのインデックスフォームの作成

複合機からBoxに自動ログインできるように、インデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenix Webのアカウントマネージャーから、Boxにログインしていることを確認します。
2. ワークフローに **[複合機パネルノード]** および **[Boxコネクター]** ノードが含まれていることを確認します。
3. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に[Boxコネクター] ボタンが表示されます。
4. **[Boxコネクター]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。以下の図に示すように、[Boxにスキャン]インデックスフォームが自動的に表示されます。



5. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
6. Boxコネクターノードのプロパティウィンドウに、インデックスフォームのフィールドの変数名が自動的に表示されます。このウィンドウのフィールドは編集できませんが、レンチツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダー内の該当のセクションまたはフィールドに移動することができます。以下の図を参照してください。



複合機でのBoxのインデックスフォーム

複合機では、Boxのインデックスフォームが以下のように表示されます。

フォルダーのリストを絞り込むための **[検索]** フィールドが用意されています。このフィールドには、画面に表示されるフォルダーをすばやくフィルターするのに役立つ先行入力機能があります。フィールドに文字を入力し始めると、途中の入力し終わった文字に応じてフォルダーがフィルターされます。検索操作は、ルートディレクトリ内の任意のフォルダーおよびサブフォルダーに対して実行されます。

注:

- ワイルドカード文字（*, %）はサポートされていません。
- Boxでは、項目名の先頭から一致するものを検索します。
- ファイル名またはフォルダー名がキャメルケースを使用した複合語の場合（例:「MyFolder」）、あるいはファイル名またはフォルダー名にスペースが含まれている場合（例:「My Folder」）は、個々の単語構成要素（例:「My」および「Folder」）が検索されます。それ以外の場合、検索は名前全体に対して実行されます（例:「folder」で検索しても、「Myfolder」フォルダーは返されません）。

検索によってフォルダーリストがフィルターされると、以下の操作を行うことができます。

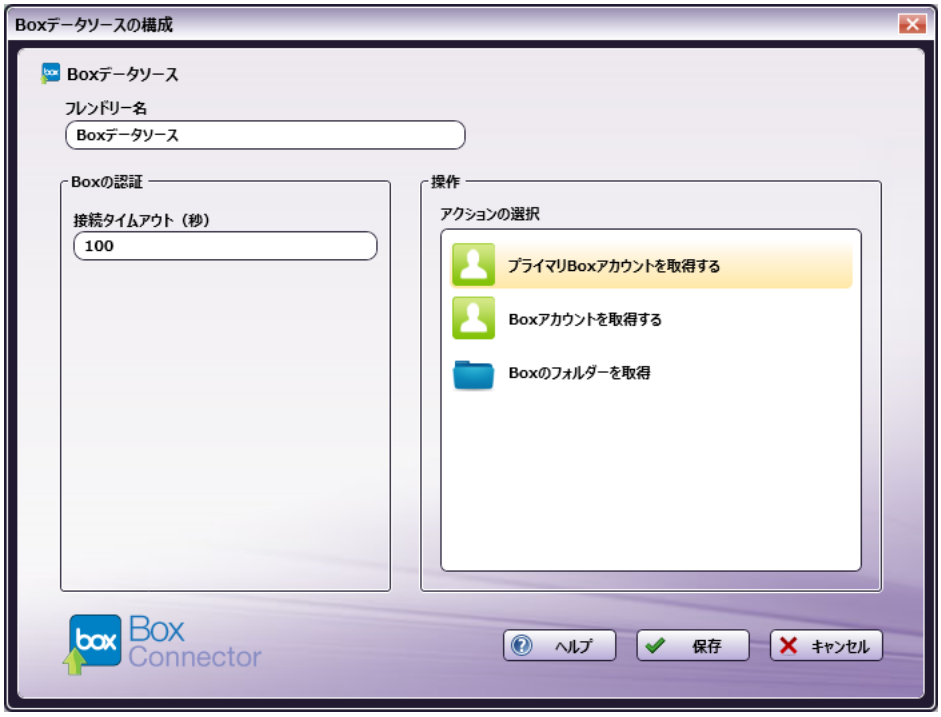
- **[使用]** ボタンをタップして、特定のフォルダーを選択する。
- **[表示]** ボタンをタップして、特定のフォルダーのディレクトリ構造ビューに戻る。
- [検索]フィールドの横にある ボタンをタップして、フィルターを解除する。
- フィールドの横にある **[検索]** アイコンをタップして、同じ条件で再度検索を実行する。

データベースの参照 - Boxの構成

Boxからデータ（フォルダーのリストや検証など）を取得するためのクエリーを手動で構成することもできます。

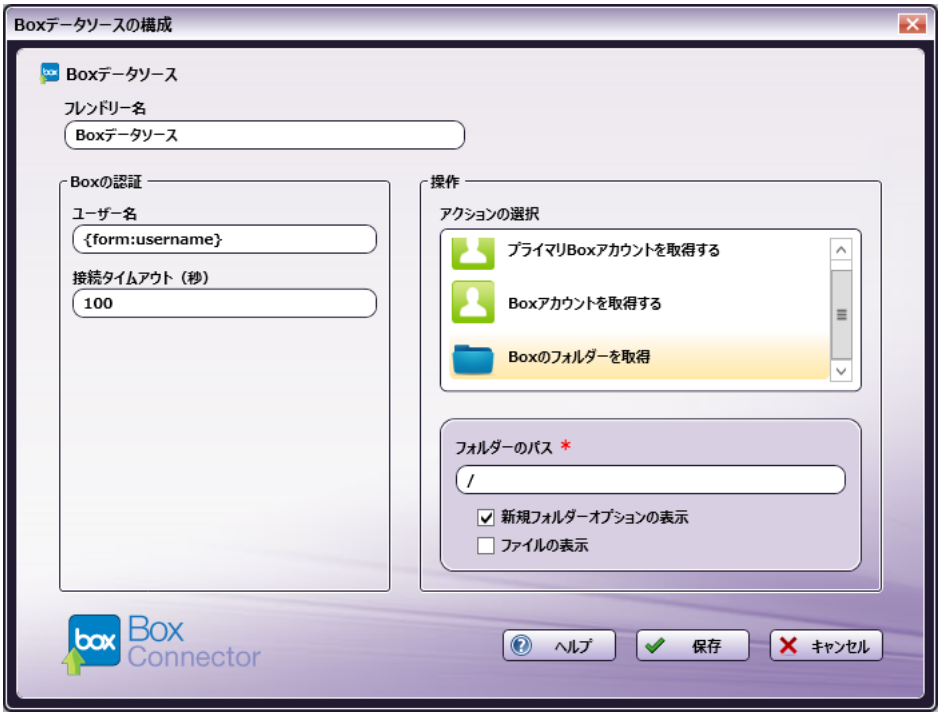
インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新規フィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**[クエリー]** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[Boxデータソース]** を選択します。
4. [Boxデータソースの構成]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、Boxからデータを取得するための特定の操作を実行できます。



以下の操作を行います。

- **【フレンドリー名】** フィールドに、Boxのデータソースの構成を識別する名前を入力します。
- **【アクション】** 領域では、Boxのデータソースに対して実行するアクションの種類を選択できます。オプションは以下のとおりです。
  - ***【プライマリBoxアカウントを取得】*** – このオプションでは、ユーザーのプライマリBoxアカウントが返されます。
  - ***【Boxアカウントを取得】*** – このオプションでは、ユーザーのすべてのBoxアカウントが返されます。
  - ***【Boxフォルダーを取得】*** – 特定のBoxフォルダーパス内のフォルダーのリストを表示するにはこのアクションを使用します。[Boxフォルダーを取得]項目を選択すると、以下の図に示すように構成の新規フィールドが表示されます。



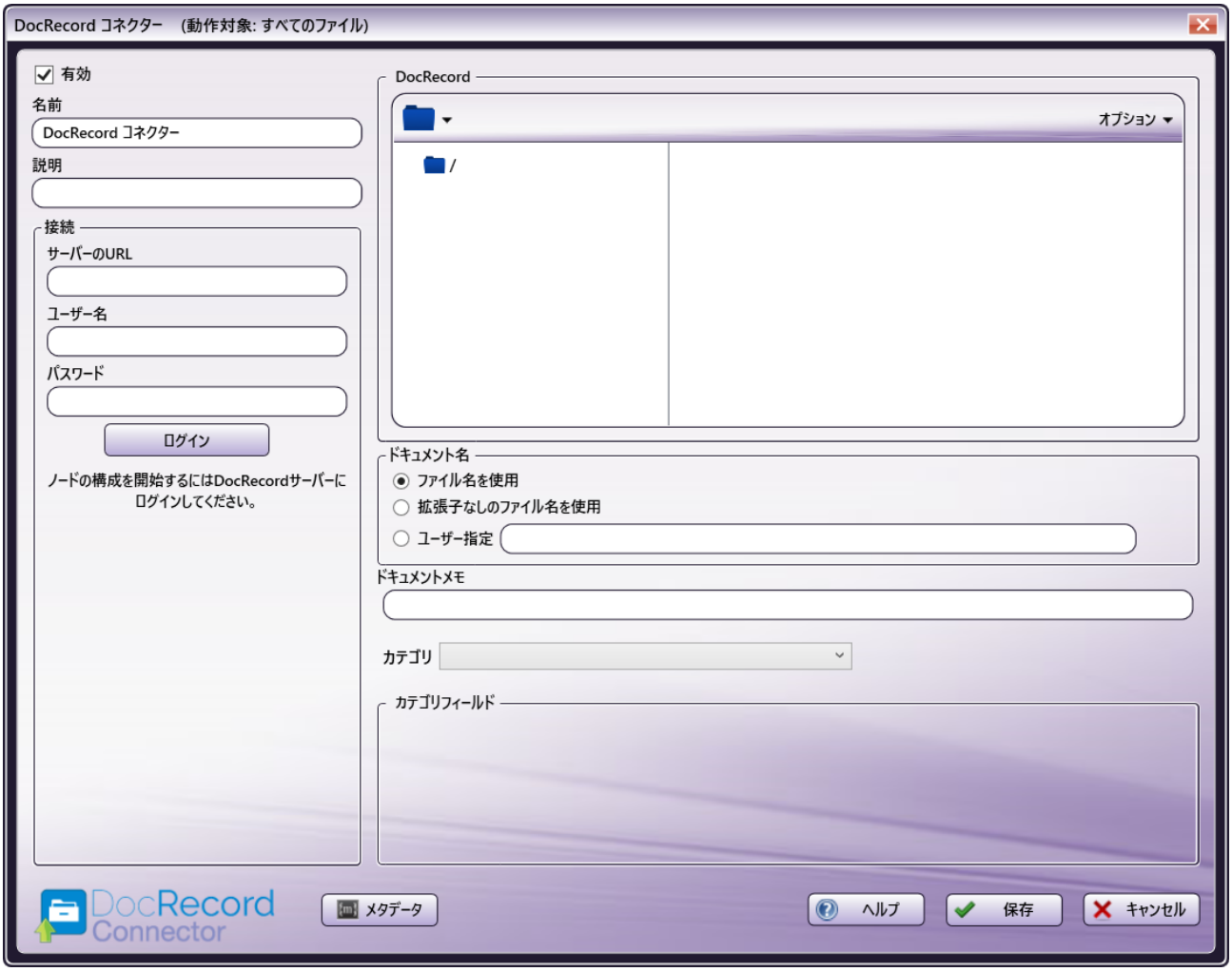
- **【フォルダーのパス】** – 複合機のパネルに表示するBoxルートフォルダーのフォルダーIDを入力します。
  - **【フォルダーオプションの表示】** – このオプションをチェックすると、複合機で新規Boxフォルダーを作成できるようになります。
  - **【ファイルの表示】** - このオプションをチェックすると、複合機にBoxフォルダー内のファイルが表示されます。

DocRecordコネクター

DocRecordコネクターノードを使用すると、人気のECMサービスであるDocRecordにドキュメントを配信することができます。ドキュメントは自動化されたワークフローを介してDocRecordに送信したり、複合機パネルで直接DocRecordにログインすることもできます。

注: DocRecordコネクターを使用するには、DocRecordアカウントが必要です。

DocRecordコネクターノード プロパティウィンドウを開くには、DocRecordの出力ノードをワークフローに追加して、ダブルクリックします。



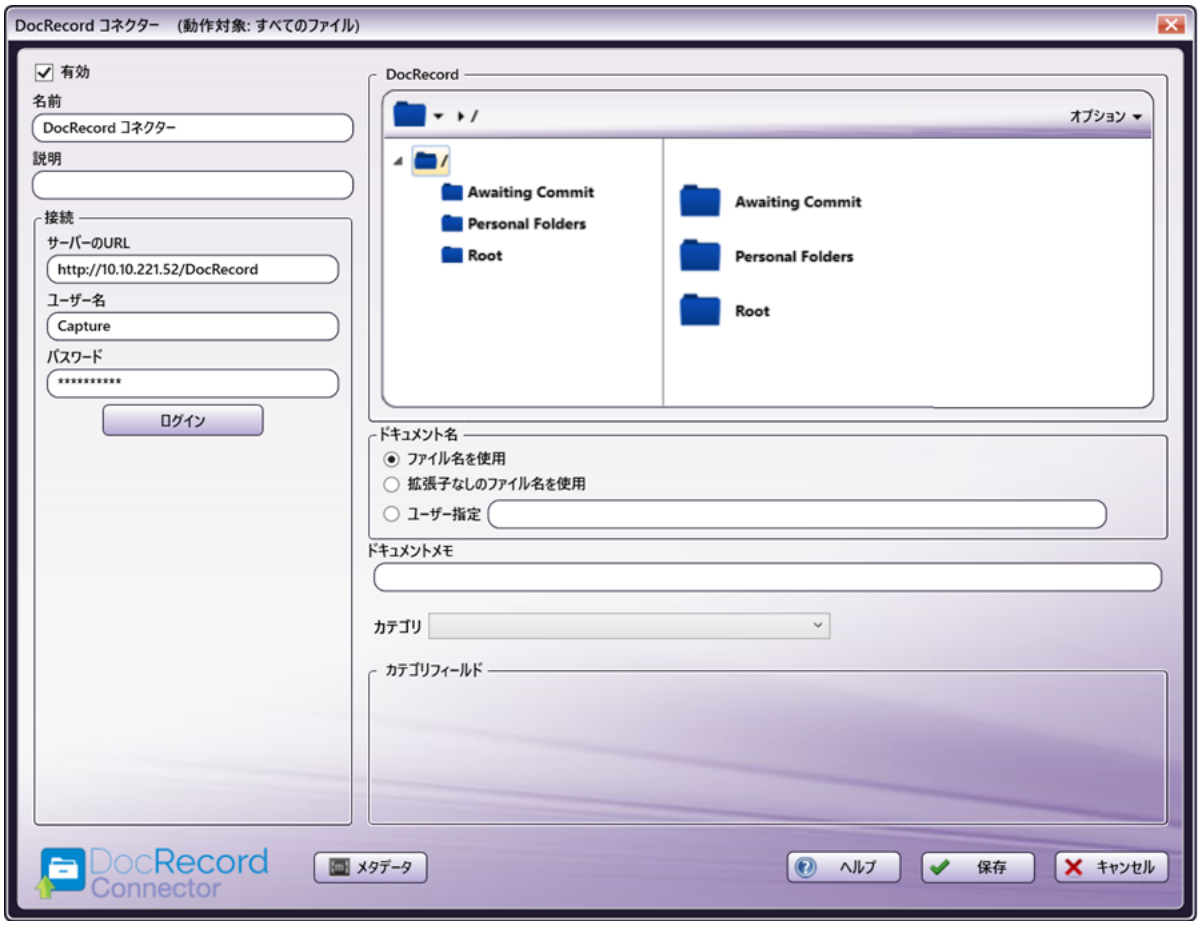
- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、[有効]ボックスがオンになっていることを確認します。既定では、ノードは作成時に有効になります。ノードを無効にすると、ワークフローはノードを無視します。ワークフローは引き続き検証されますが、ドキュメントは出力されず失われる可能性があります。無効化されたノードでは、ロジックまたはエラー状態がチェックされないことに注意してください。
- **[名前]** - ノード名は既定でこのフィールドに設定されます。この名前は、ワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示すノードの意味のある名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を覚えたり、ノードを相互に区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと内容全体を読むことができます。

DocRecordへの接続

開始するには、DocRecordサーバーに接続する必要があります。[接続]領域で、次の操作を行います。

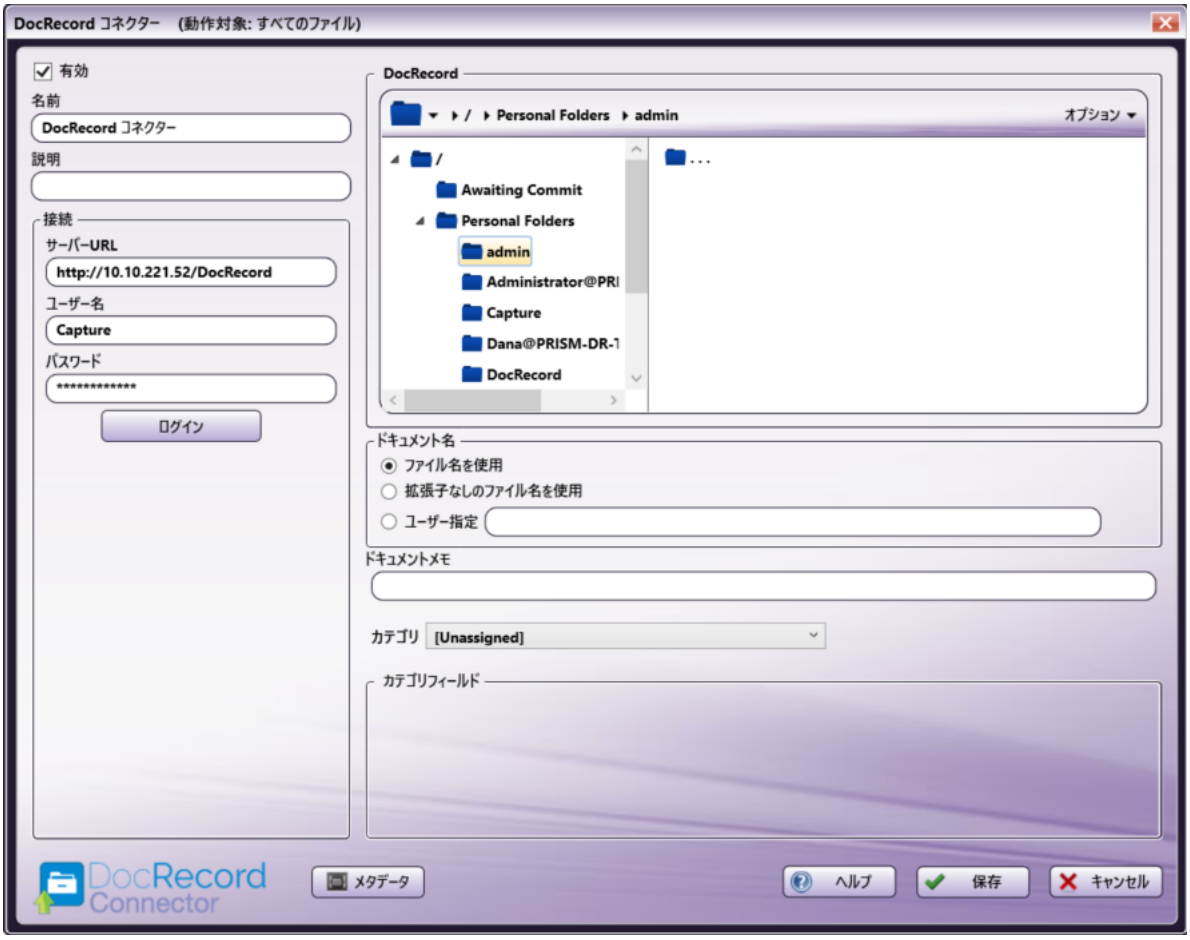
1. **[サーバーのURL]** フィールドに、DocRecordサーバーのURLアドレスを入力します。
2. DocRecordサーバーのユーザー資格情報を **[ユーザー名]** および **[パスワード]** フィールドに入力します。

3. 完了したら、**[ログイン]** ボタンを選択してDocRecordサーバーに接続します。



フォルダーを選択する

接続すると、DocRecordノードのプロパティウィンドウの右側にDocRecordフォルダーのツリービューが表示され、DocRecordフォルダーを参照してドキュメントのフォルダーを選択することができます。DocRecordコネクターは、**[オプション]** ドロップダウンメニューにアクセスすることで非表示または表示(既定では表示)できるツリービューを備えています。



ドキュメントを新しいフォルダーに送信する

DocRecordにドキュメントの送信先として新しいフォルダーを作成することも選択できます。次のいずれかを実行します。

- **[オプション]** ドロップダウンメニューから **[新規フォルダーの作成]** オプションを選択します。
- **Ctrl + Shift + N** のキーボードショートカットを使用して、新しいフォルダーを作成します。

どちらの方法でも、[新規フォルダーの作成]ウィンドウが表示されます。 **[名前]** フィールドに新しいフォルダーの名前を入力します。次に、 **[作成]** ボタンを選択します。新しく作成されたフ

注: DocRecordは、以前に作成したフォルダーと同じ名前のフォルダーに一意の番号を追加します。たとえば、「Invoices」という名前のフォルダーを作成し、そのフォルダー内にすでに「Invoices」という名前のフォルダーが存在する場合、DocRecordは、フォルダー名自体が重複していないことを前提として、新しいフォルダーの名前を「Invoices1」に変更します。

ドキュメント名

[ドキュメント名]領域では、ユーザーがDocRecordコネクター内でドキュメントの命名パラメータを指定できます。以下のオプションが含まれます

- **[ファイル名を使用]** - DocRecordにアップロードされたドキュメントは、ノードに受信されるドキュメントと同じ名前になります。これにはファイル拡張子も含まれます。
- **[拡張子なしのファイル名を使用]** - DocRecordにアップロードされたドキュメントは、ノードに受信されるドキュメントと同じ名前になりますが、ファイル拡張子は含まれません。
- **[ユーザー指定]** - DocRecordにアップロードされるドキュメントに関連付ける特定のドキュメント名を入力できます。

  注:

  - このフィールドはメタデータをサポートします。
  - DocRecordでは、同じ名前で複数のドキュメントを作成できます。

ファイル名の制限

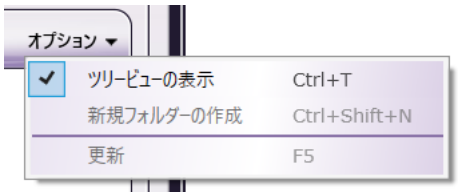
ファイル名には次の制限が適用されます。

- ファイル名に印刷不可能な文字（タブ、改行など）を含めることはできません。

表示オプション

ノードのプロパティウィンドウでDocRecordフォルダーの既定の表示を調整するには、ウィンドウの右上にある[オプション]ボタンを使用します。以下の操作を行います。

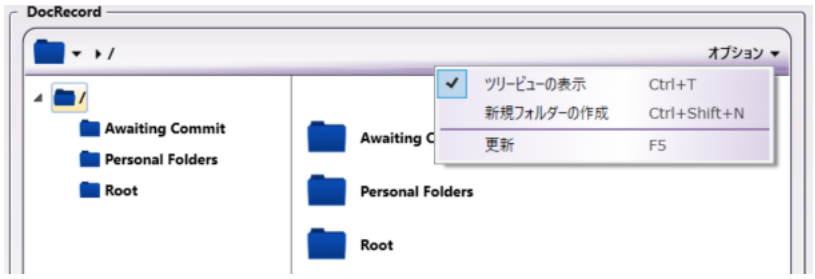
- **[オプション]** ボタンをクリックします。次のドロップダウンメニューが表示されます。



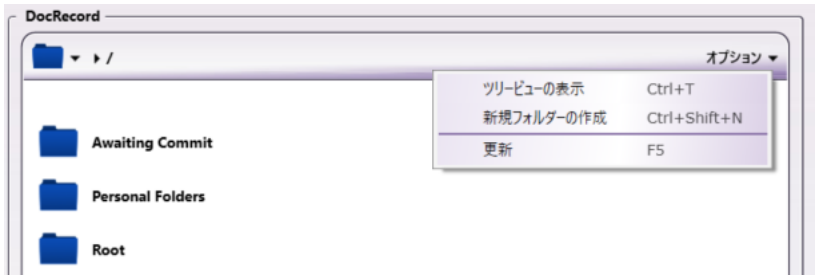
- 既定のビューをオフにするには、**[ツリービューを表示]** オプションのチェックを外します。

  使用可能なさまざまなフォルダービューの比較については、次の図を参照してください。

  ツリービューがオン



  ツリービューがオフ



- 現在のビューを最新のフォルダー/ファイルで更新するには、**[更新]** オプションを選択します。

ドキュメントのメモ

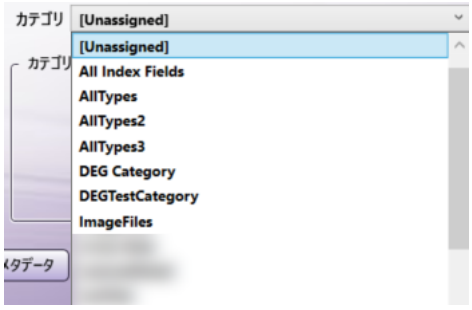
DocRecordでは、ドキュメントに関連付けられたメモを付けることができます。このフィールドを使用して、**ドキュメントのメモ** を追加します。

注: このフィールドはメタデータをサポートします

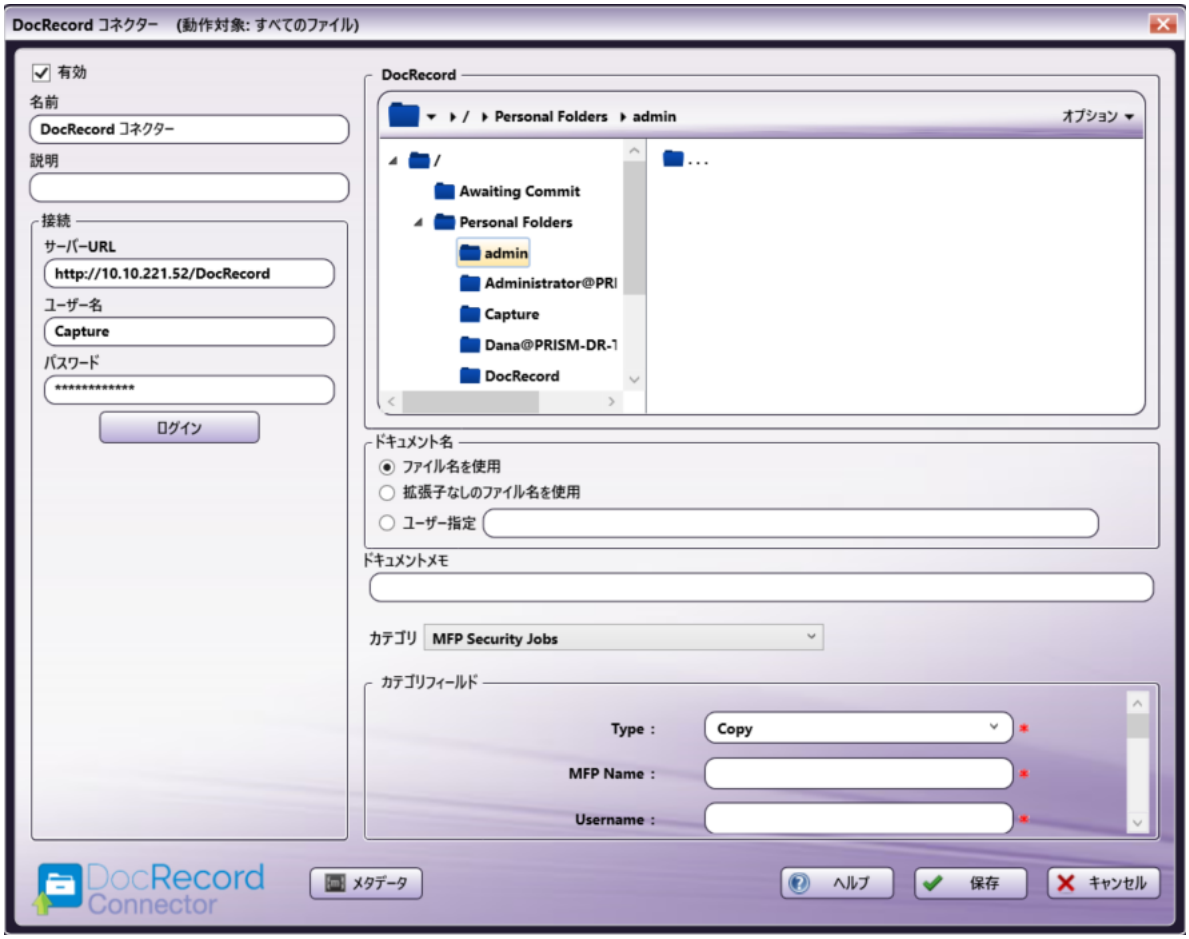
カテゴリ

DocRecordでは、ドキュメントにカテゴリを関連付けることができます。カテゴリを追加するには、次の手順を実行します。

1. **[カテゴリ]ドロップダウン** からカテゴリを選択します。このドロップダウンには、上で選択したフォルダーに関連付けられたカテゴリが表示されます。



2. カテゴリを選択すると、カテゴリフィールド領域に関連フィールドが表示されます。カテゴリフィールド領域に、ドキュメントに関連付ける情報を入力します。

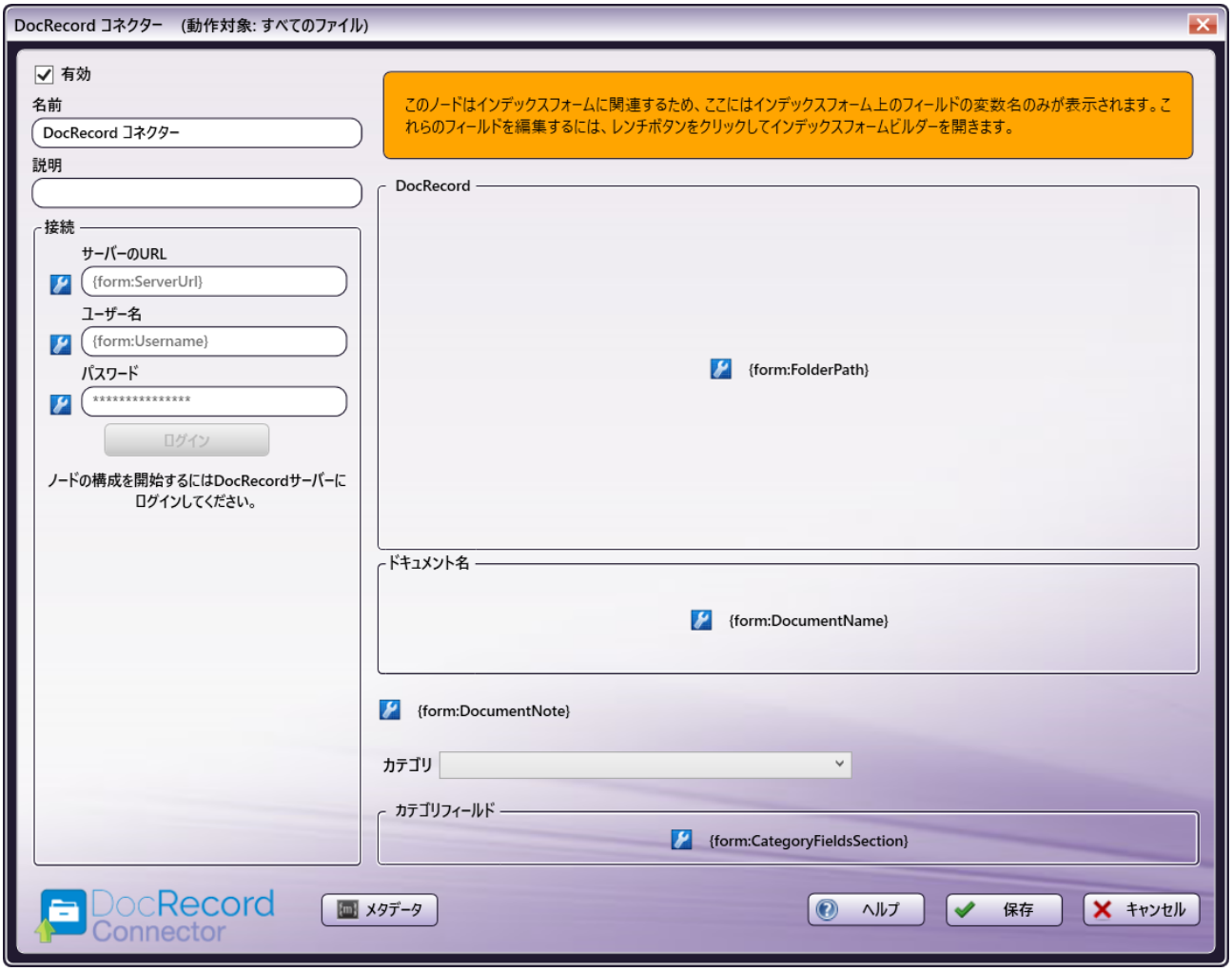


注:

- 必須のカテゴリフィールドには赤いアスタリスク(*)が付いています。
- DocRecordコネクターは、テーブルカテゴリフィールドをサポートしません。これらのフィールドはオプションとして表示されません。
- カテゴリフィールドはメタデータをサポートします。

インデックスフォームの使用

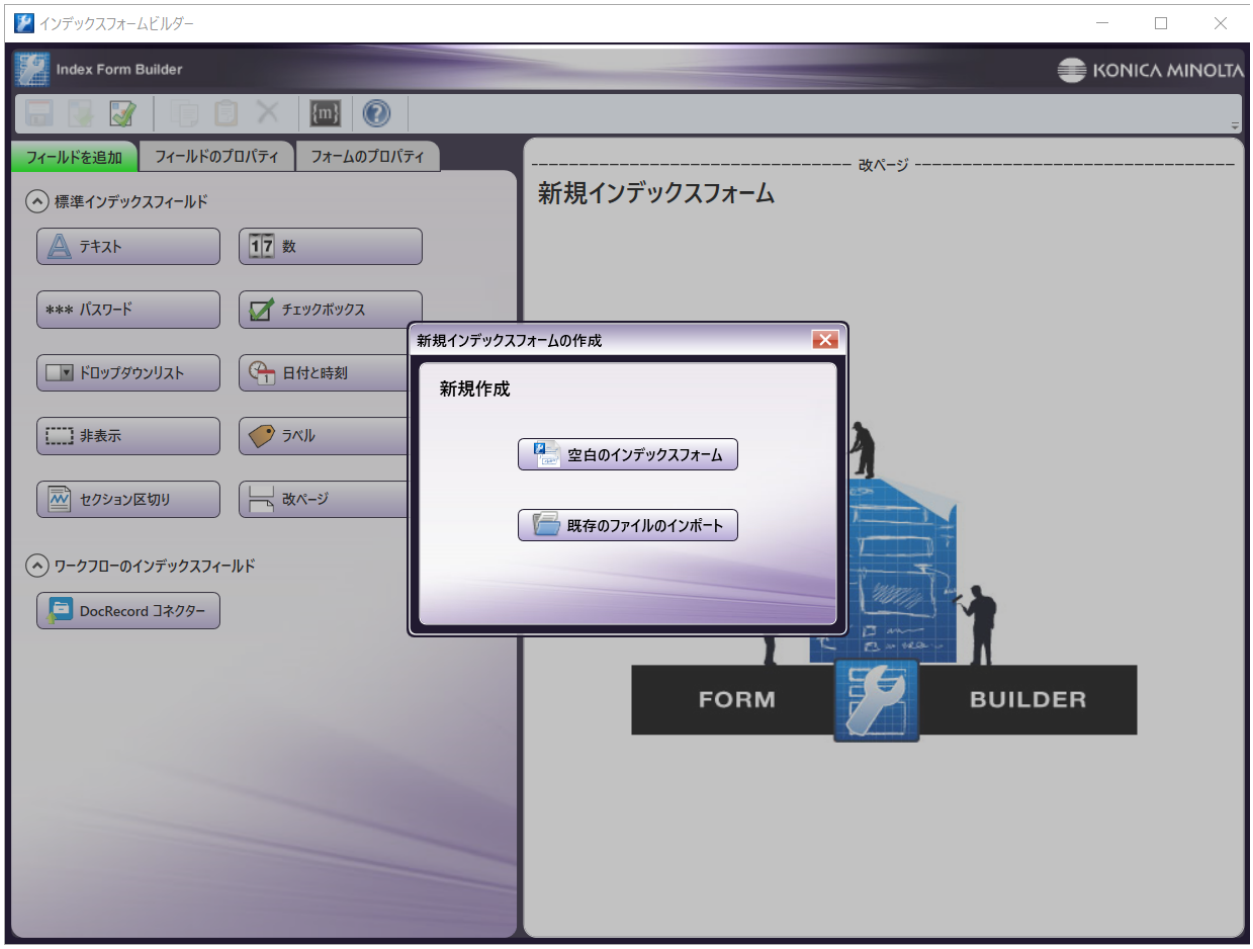
インデックスフォームでDocRecordコネクターノードを使用すると、DocRecordコネクターノードのプロパティウィンドウにインデックスフォームのフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウではフィールドを編集できませんが、レンチツールボタンをクリックすると、インデックスフォームビルダーのそのセクションまたはフィールドに移動できます。次の図を参照してください。



DocRecordサーバーのインデックスフォームの作成

ワークフローがインデックスフォームを使用して構成されている場合、スキャンと送信を開始する前に、複合機でDocRecordアカウントにログインするよう求められます。複合機で **DocRecordコネクター** ノードをカスタマイズできるインデックスフォームを作成するには、次の手順を実行します。

1. ワークフローに **DocRecordコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
2. 次の図に示すように、ツールバーの **【フォーム】** ドロップダウンをクリックし、**【新規インデックスフォームの作成】** を選択し、インデックスフォームビルダーを開きます。



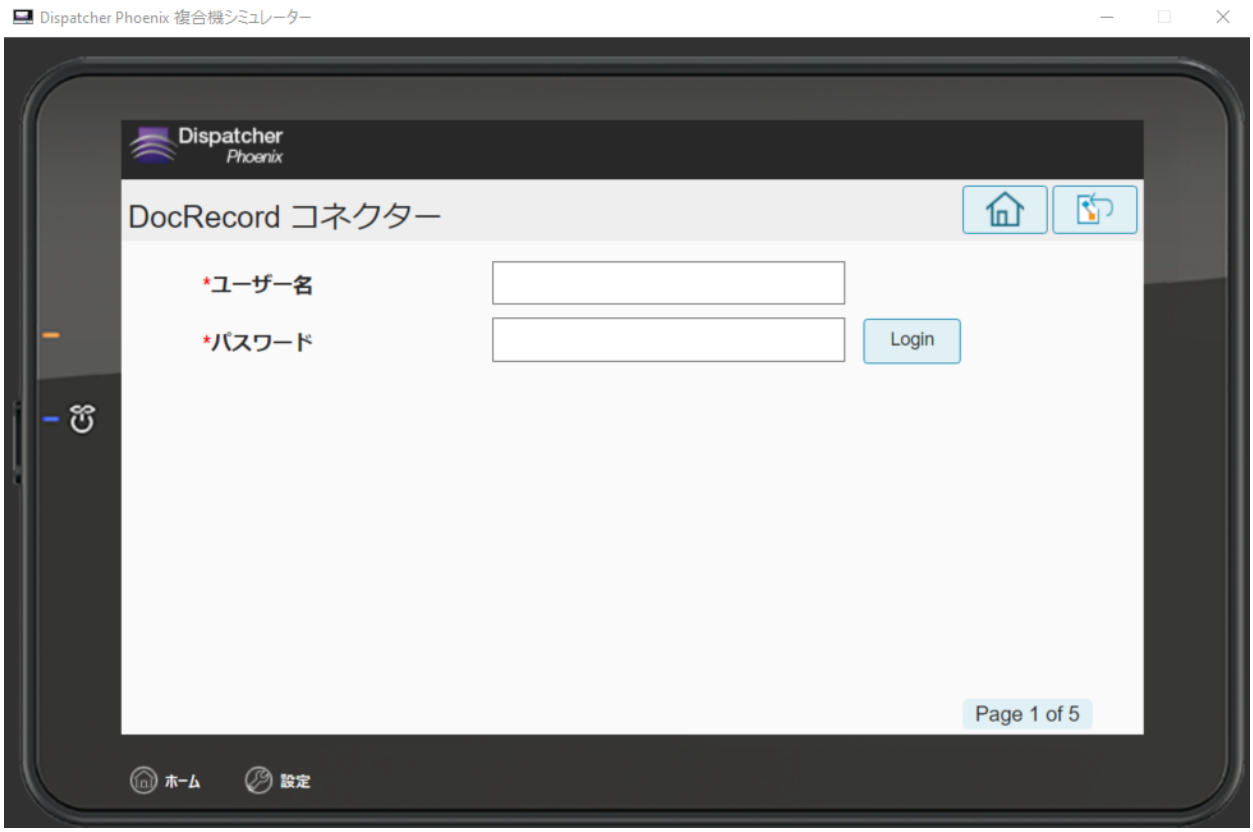
3. ポップアップで **空白のインデックスフォーム** オプションを選択します。次に、**DocRecordコネクター** アイコンをインデックスフォームビルダーの作業領域にドラッグします。次の図に示すように、いくつかのフィールドが入力されます。

4. [ServerURL]コンポーネントを選択し、DocRecordインストールのサーバーURLを[既定値]フィールドに入力します。
5. **ユーザー名** 、**パスワード** 、**ドキュメント名** などの追加情報を入力します。
6. インデックスフォームビルダーを検証し、保存して閉じます。
7. インデックスフォームを、複合機パネルノード、Webキャプチャノード、Release2Meノードなど、インデックスフォームをサポートするノードに接続します。

複合機でのDocRecordインデックスフォーム

DocRecordコネクターがインデックスフォームを使用して構成されている場合、ユーザーはアカウント資格情報を入力し、フォルダーを参照し、必要な追加情報を追加できるようになります。複合機パネルでDocRecordコネクターを使用するには、次の手順を実行します。

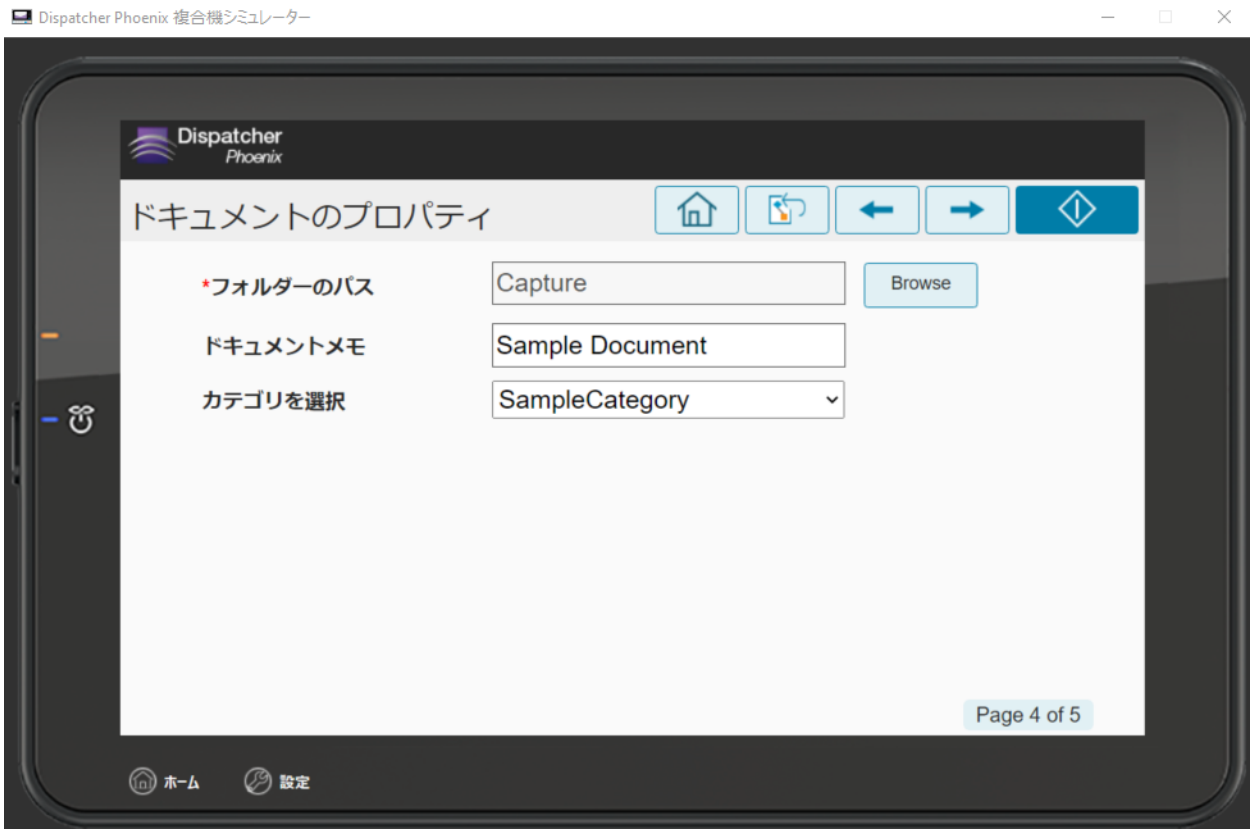
1. 複合機で、DocRecordコネクターと、既に構成したインデックスフォームに関連付けられたノードを含むワークフローを開きます。次の図に示すように、DocRecordコネクターが表示されます。



2. ユーザー名とパスワードを使用してDocRecordコネクターを事前に構成している場合、それらは自動的に表示されます。そうでない場合は、ここで入力して **[ログイン]** を選択します。
3. 次の図に示すように、[ドキュメント名]オプションを選択します。

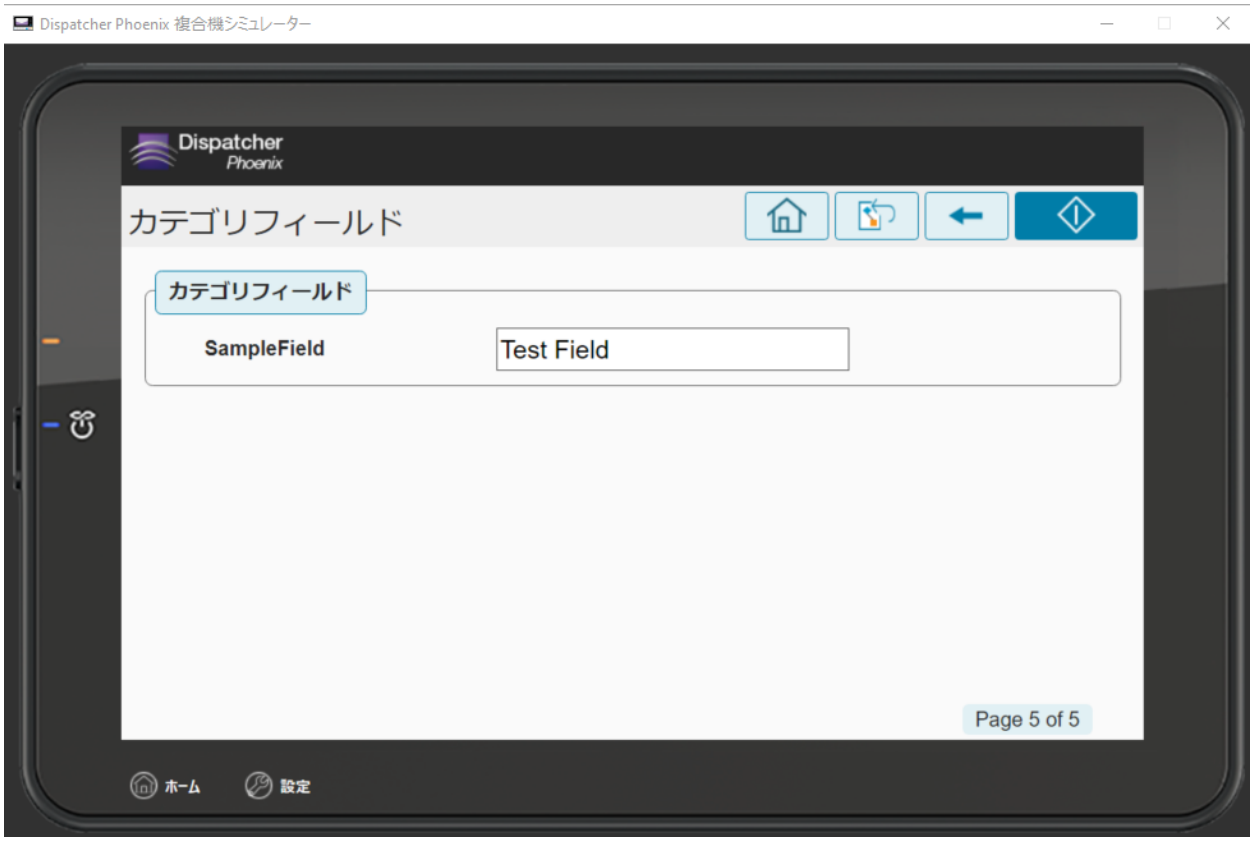
[ユーザー指定] オプションを選択した場合、次の画面で **ドキュメント名** を入力することができます。

4. 次の図に示すように、保存先のDocRecordフォルダーを参照し、ドキュメントのメモを入力して、**[カテゴリを選択]** ドロップダウンメニューからオプションを選択します。



注: 複合機画面は、カテゴリを選択するとすぐに更新されます。カテゴリを編集する必要がある場合は、複合機画面の上部にある矢印を使用して、このインデックスフォームページに戻ることができます。

5. 次の図に示すように、**[カテゴリフィールド]** に必要な情報を入力します。



DocuSignコネクター

DocuSignコネクターノードを使用して、ビジネス向けのオンラインファイル共有およびクラウドコンテンツ管理サービスであるDocuSignにドキュメントを配信します。コネクターを使用すると、自動化されたワークフローを介してドキュメントをDocuSignに送信したり、複合機パネルで直接DocuSignにアクセスしたりできます。

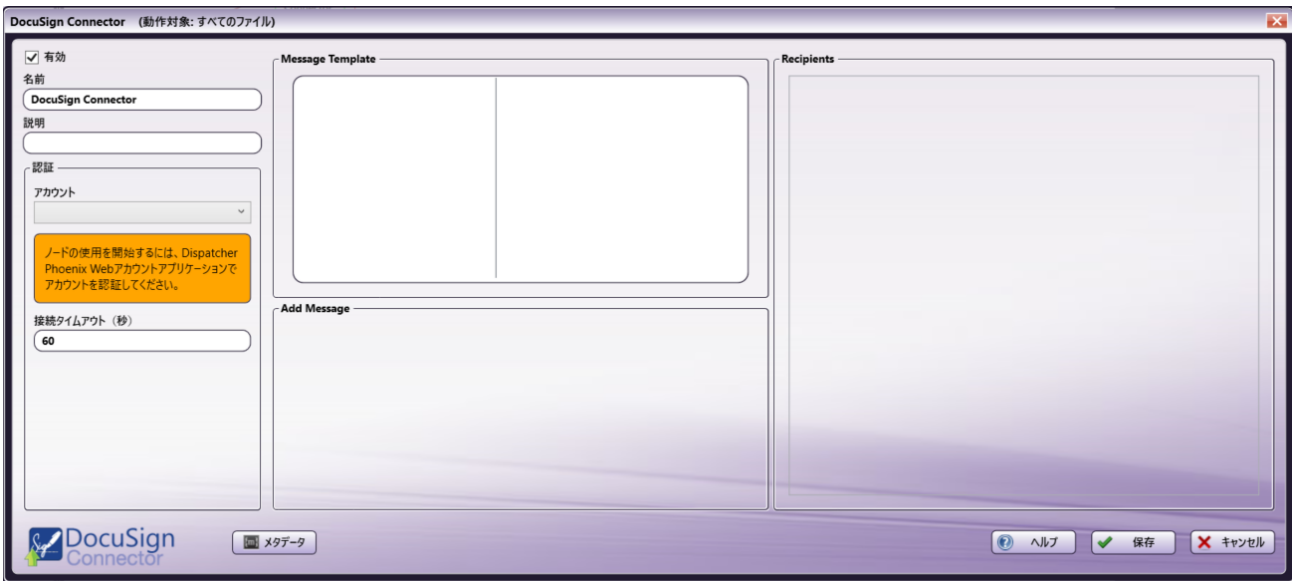
注: DocuSignコネクター ノードを使用するには、DocuSignアカウントが必要です。

DocuSignコネクター ノードの構成ウィンドウを開くには、DocuSign配信ノードをワークフローに追加し、ダブルクリックします。

DocuSignアカウントの追加

DocuSignコネクターを利用するには、ユーザーはまずDocuSignアカウントをDispatcher Phoenix Webに追加する必要があります。詳細については、**Dispatcher Phoenix Webアカウント** ページを参照してください。

DocuSignコネクターの構成



- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、**[有効]** ボックスがオンになっていることを確認します。既定では、ノードは作成時に有効になります。ノードを無効にすると、ワークフローはノードを無視します。ワークフローは引き続き検証されますが、ドキュメントは出力されずに失われる可能性があります。無効化されたノードではロジックまたはエラー状態がチェックされないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名は既定でこのフィールドに設定されます。この名前は、ワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示すノードの意味のある名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を覚えたり、ノードを相互に区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合、フィールドの上にマウスを置くと内容全体を読むことができます。

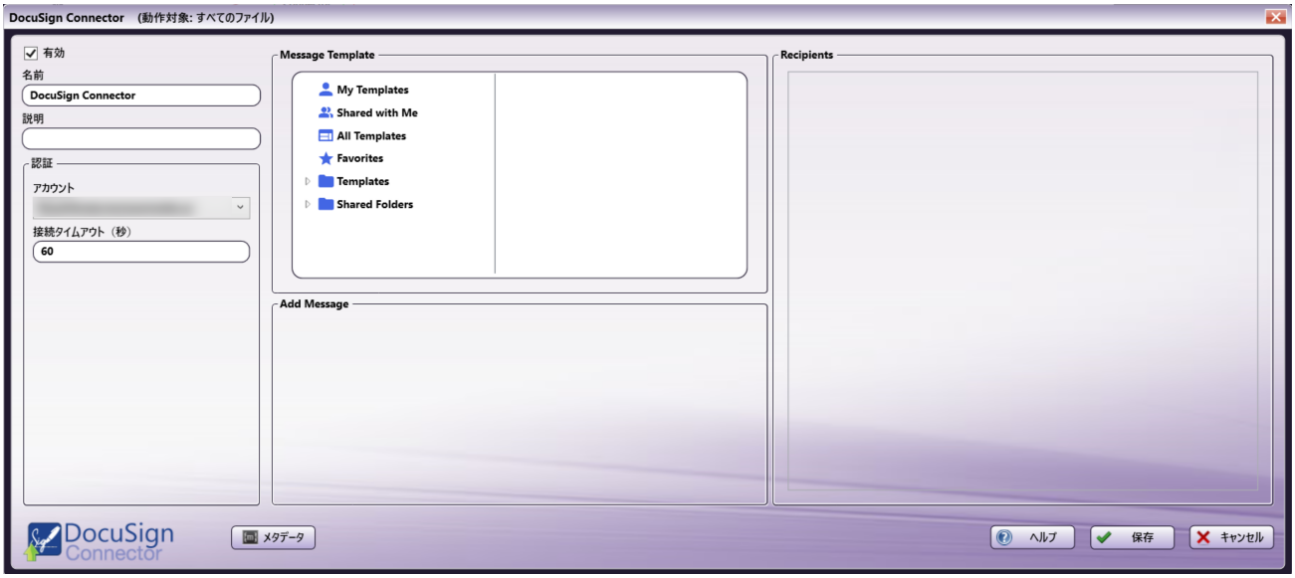
ボタン

- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウィンドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード構成を保存してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

DocuSignへの接続

DocuSignに接続するには、次の手順を実行します。

1. [認証]領域で、ドロップダウンからDocuSignアカウントを選択します。



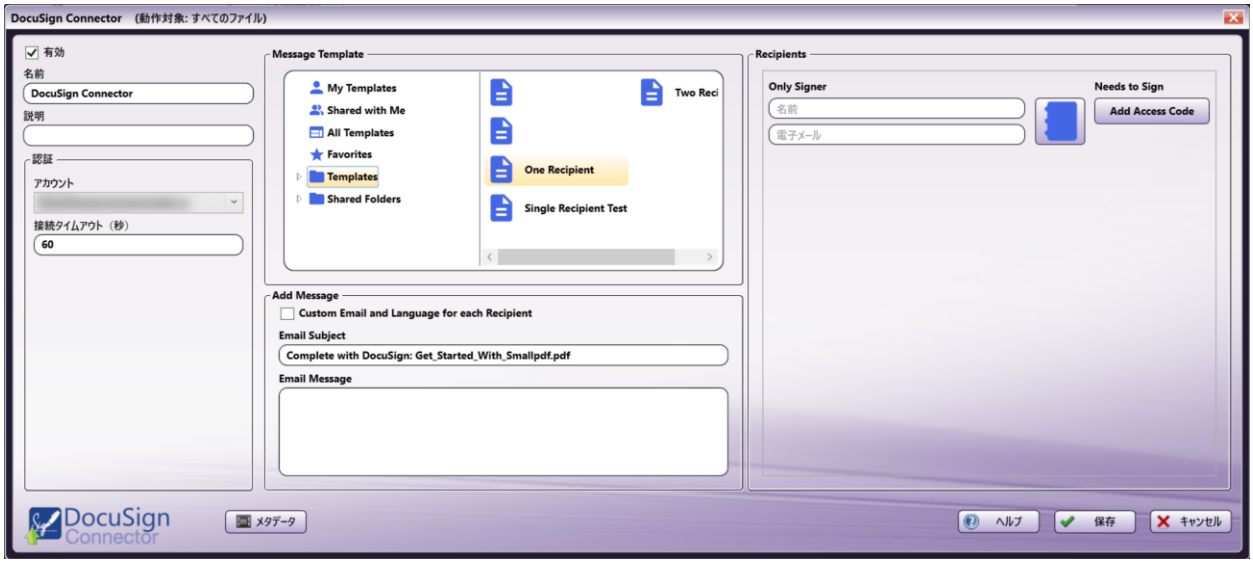
注: Dispatcher Phoenix Web を介してDocuSignアカウントをまだ設定していない場合、ドロップダウンに表示される前にこの操作を行う必要があります。

既定の接続タイムアウト(サーバーへの最初の接続後、タイムアウトが発生するまでの通信がない時間に割り当てられる秒数)を変更するには、**[接続タイムアウト]** フィールドに値を入力します。

メッセージテンプレート

[メッセージテンプレート]領域には、選択したアカウントで使用可能なメッセージテンプレートと、4つの一般的なクエリ (My Templates、Shared with Me、All Templates、およびFavorites)が表示されます。メッセージテンプレートを選択するには、次の手順を実行します。

1. 左側の列でフォルダーまたはクエリを選択します。
2. フォルダーまたはクエリを選択すると、それに関連付けられたテンプレートが右側の列に表示されます。使用したいテンプレートを選択します。



3. テンプレートを選択すると、そのテンプレートに関連付けられた事前構成された受信者のいずれかが受信者領域に表示されます。

受信者

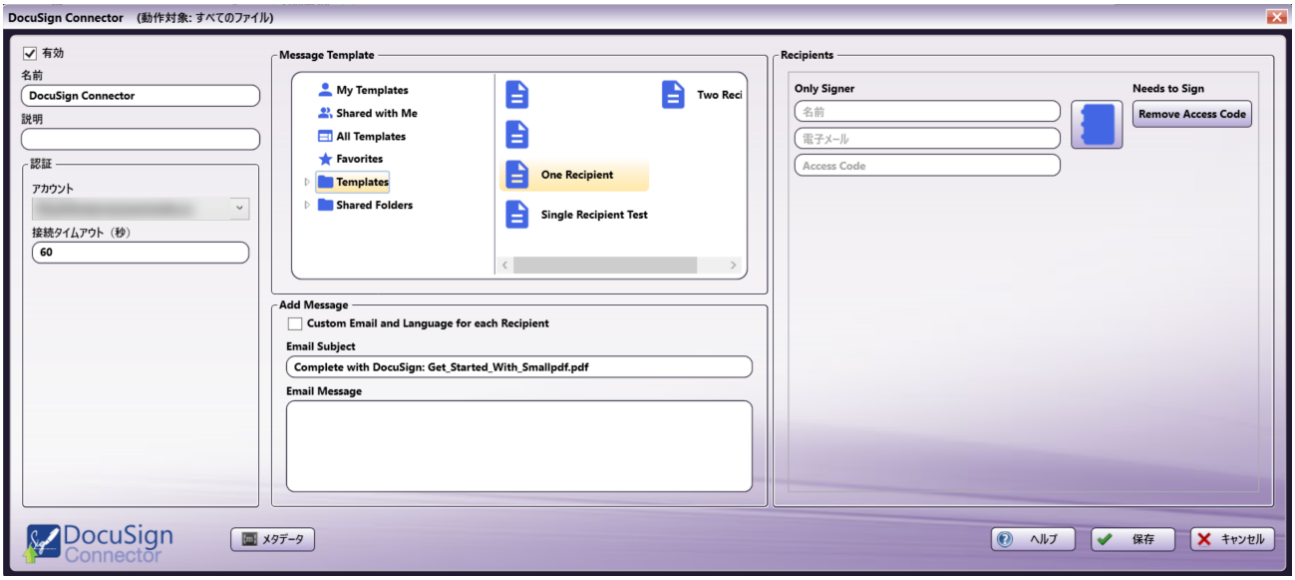
[受信者]領域には、ドキュメントテンプレートに関連付けられた、事前構成されたすべての受信者が表示されます。フィールドのオプションは次のとおりです。

- **名前** - 受信者の名前
- **ホスト** - 電子メールサービスのホスト名
- **電子メール** または **ホスト電子メール** - 受信者、または電子メールホストの電子メールアドレス
- **アクセスコード** - ドキュメントを開くことに関連付けられたセキュリティコード
- **公証人名-** - 受信者に関連付けられた公証人の名前
- **公証人の電子メール** - 受信者に関連付けられた公証人の電子メールアドレス

受信者の連絡先情報が事前構成されていないテンプレートの場合、フィールドは空白です。空白の受信者フィールドはすべて編集可能です。さらに、受信者の連絡先情報は、以下で説明する **アドレス帳とユーザーディレクトリ** を使用して入力できます。

受信者の連絡先情報が事前に構成されているテンプレートの場合、それらのフィールドのテキストはグレー表示され、編集できません。

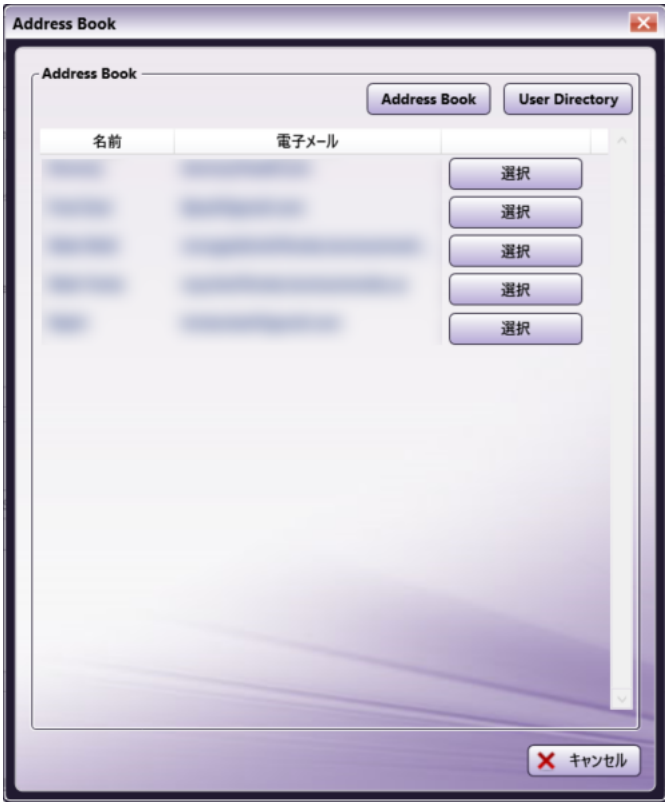
[アクセスコードの追加] ボタンをクリックすると、その受信者の[アクセスコード]フィールドが表示されます。[アクセスコード]フィールドが存在する場合、フィールドを削除する **[アクセスコードの削除]** ボタンが表示されます。



注: [アクセスコード]フィールドには、空白のアクセスコード(文字なし)を入力できます。

アドレス帳

青い[アドレス帳]ボタンをクリックすると、アドレス帳とユーザーディレクトリオプションを含むウィンドウが開きます。

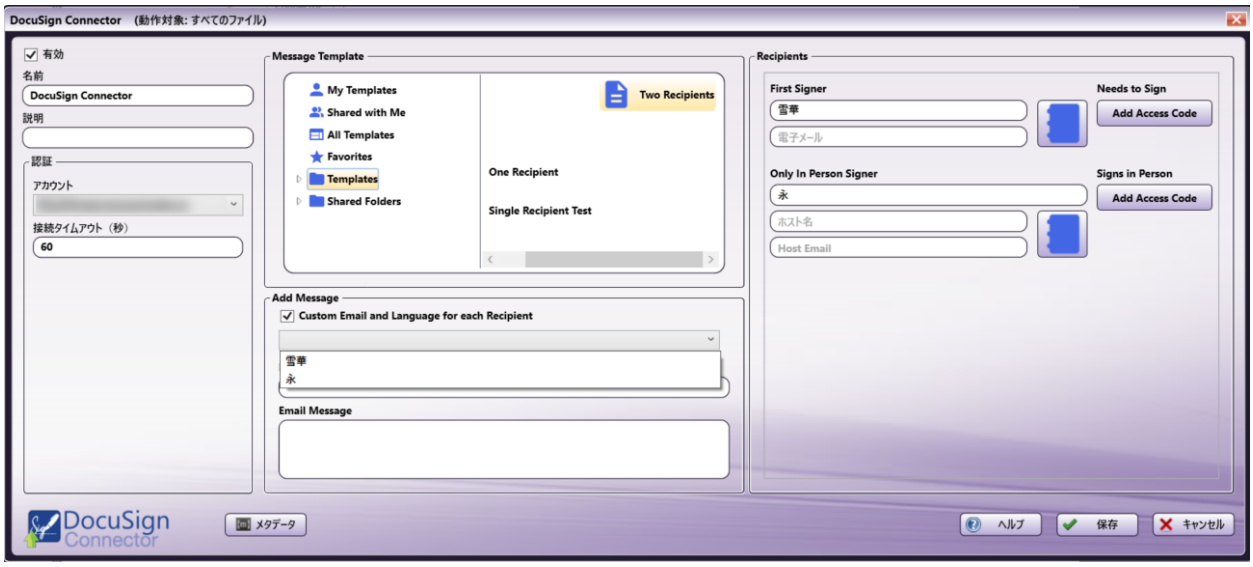


アドレス帳は手動で追加された連絡先のリストであり、ユーザーディレクトリはDocuSignアカウントを持つ社内のすべてのユーザーのリストです。既定では、アドレス帳が最初に開きます。アドレス帳に連絡先がない場合は、ユーザーディレクトリに移動します。

メッセージを追加

[メッセージの追加]領域では、DocuSignにアップロードされるドキュメントと一緒にメッセージを追加できます。次のオプションがあります。

- **各受信者のカスタム電子メールと言語** - このチェックボックスを選択すると、各受信者の名前のドロップダウンが有効になり、それぞれにカスタムの電子メール件名と電子メールメッセージを入力できるようになります。事前構成された名前を持たない受信者は、ドロップダウンメニューに空白のオプションとして表示されることに注意してください。



- **電子メールの件名** - このフィールドには、ドキュメントと一緒に送信される電子メールの件名を入力できます。
- **電子メールメッセージ** - このフィールドでは、ドキュメントと一緒に送信される電子メールの本文の内容を入力できます。

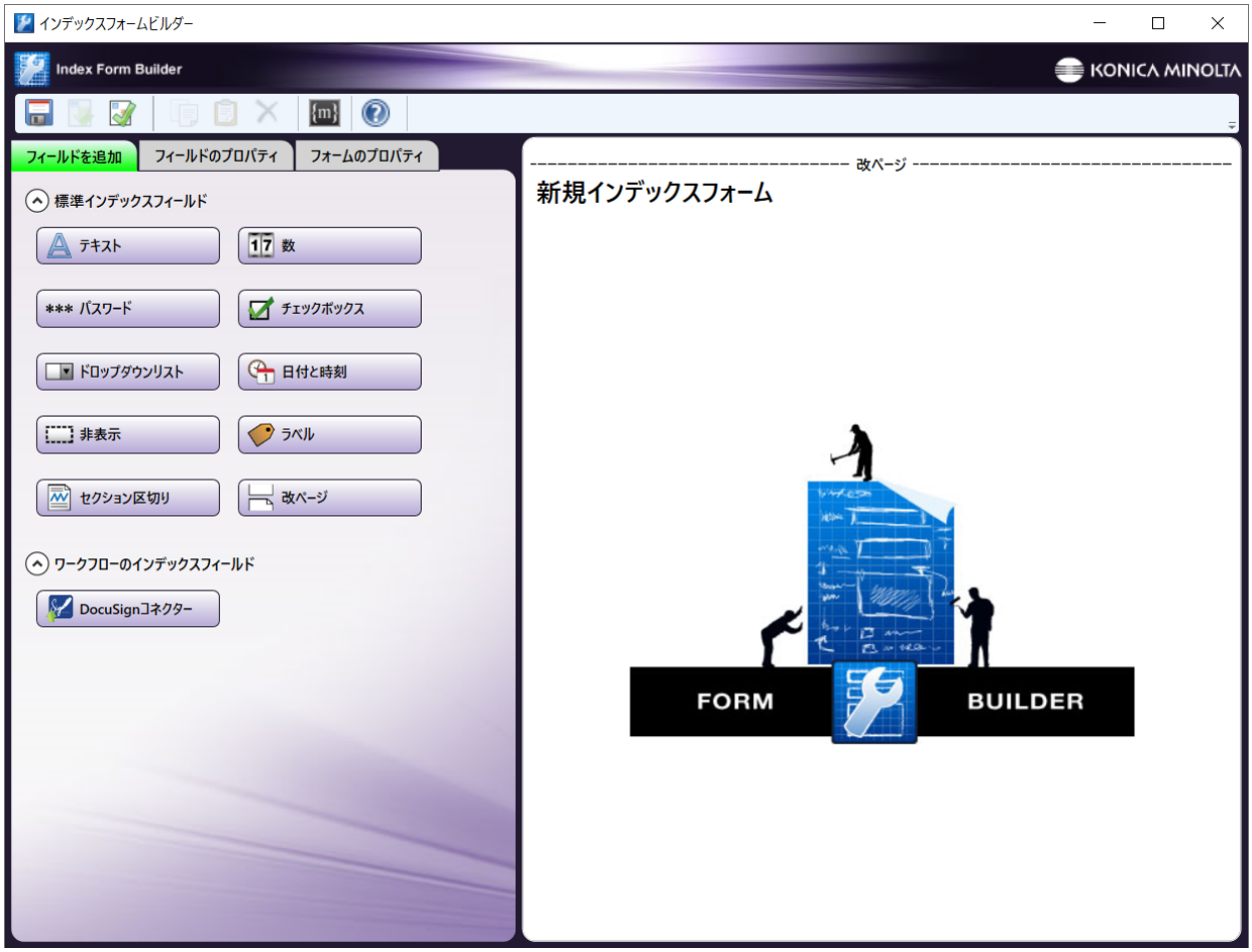
DocuSignインデックスフォームの作成

DocuSignインデックスフォームを使用すると、複合機パネルで受信者情報を入力することができます。複合機でDocuSignアップロードノードをカスタマイズできるインデックスフォームを作成するには、次の手順を実行します。

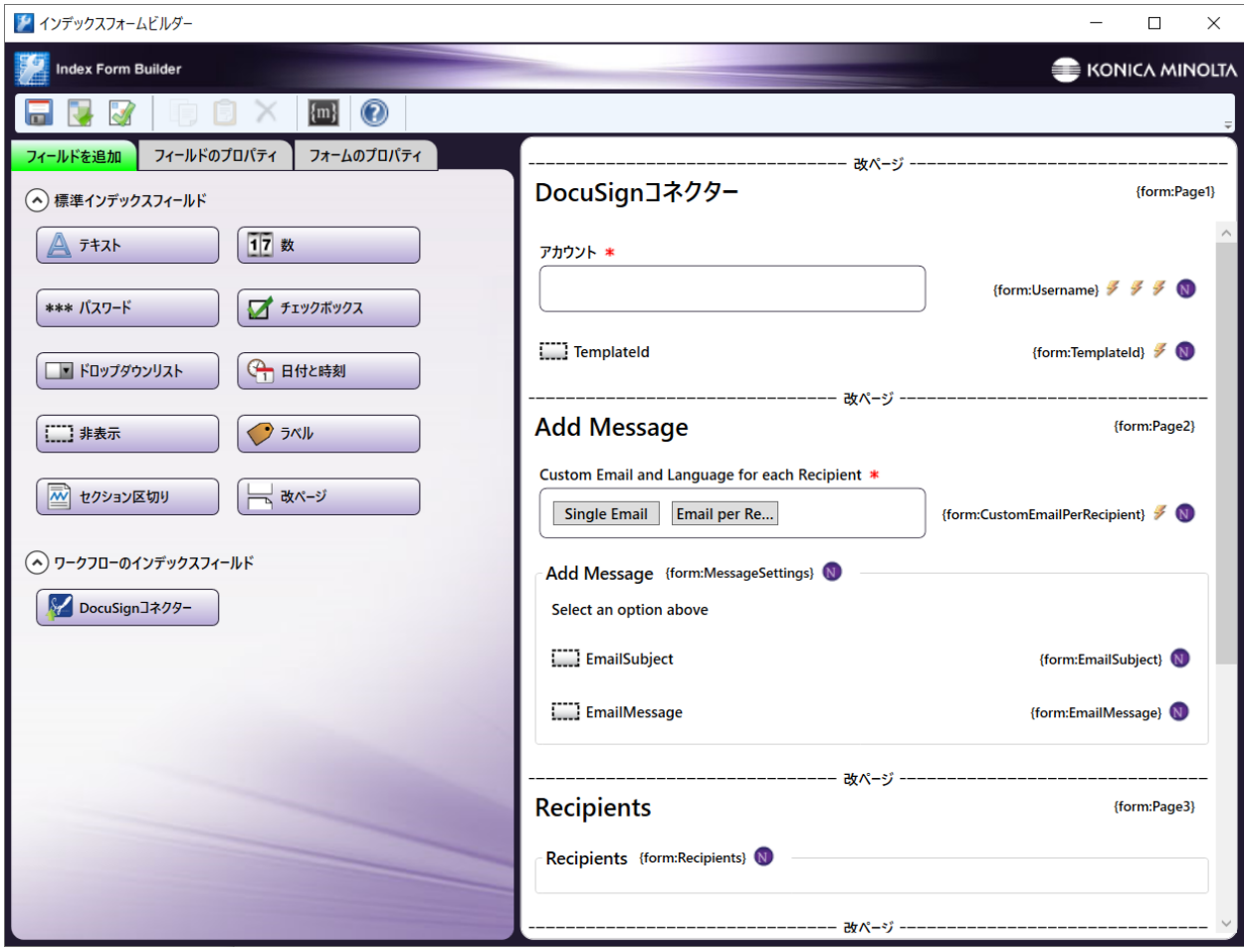
1. ワークフローに **DocuSignコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
2. 上記の説明に従って、アカウントの追加と選択、テンプレートの選択など、**DocuSignコネクター** を構成します。

重要! これらのフィールドはワークフローの検証に必要であり、インデックスフォームを作成する前にノードで構成する必要があります。

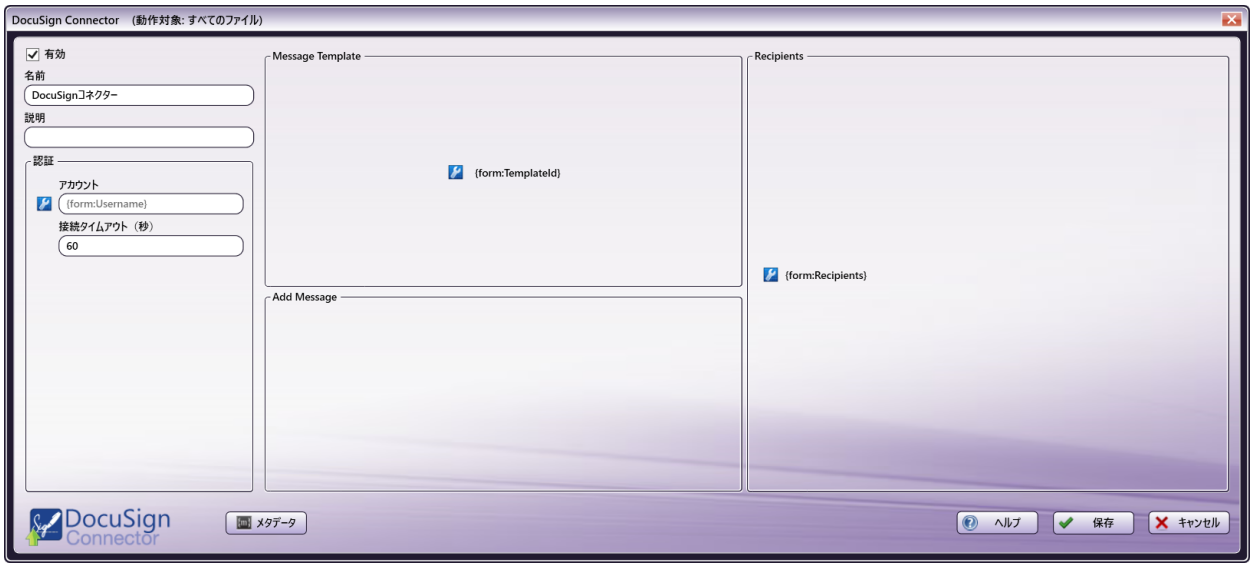
3. 次の図のように、ツールバーの[フォーム]ドロップダウンをクリックし、**[新規インデックスフォームの作成]** を選択してインデックスフォームビルダーを開きます。



4. ポップアップで **空白のインデックスフォーム** オプションを選択します。次に、**DocuSignコネクター** アイコンをインデックスフォームビルダーの作業領域にドラッグします。次の図のように、いくつかのフィールドが入力されます。



5. インデックスフォームビルダーを検証し、保存して閉じます。
6. インデックスフォームを、複合機パネルノード、Webキャプチャノード、Release2Meノードなど、インデックスフォームをサポートするノードに接続します。
7. **DocuSignコネクター** ノードのプロパティウィンドウには、インデックスフォーム上のフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウではフィールドを編集できませんが、レンチツールボタンをクリックすると、インデックスフォームビルダーのそのセクション、または、フィールドに移動することができます。次の図を参照してください。

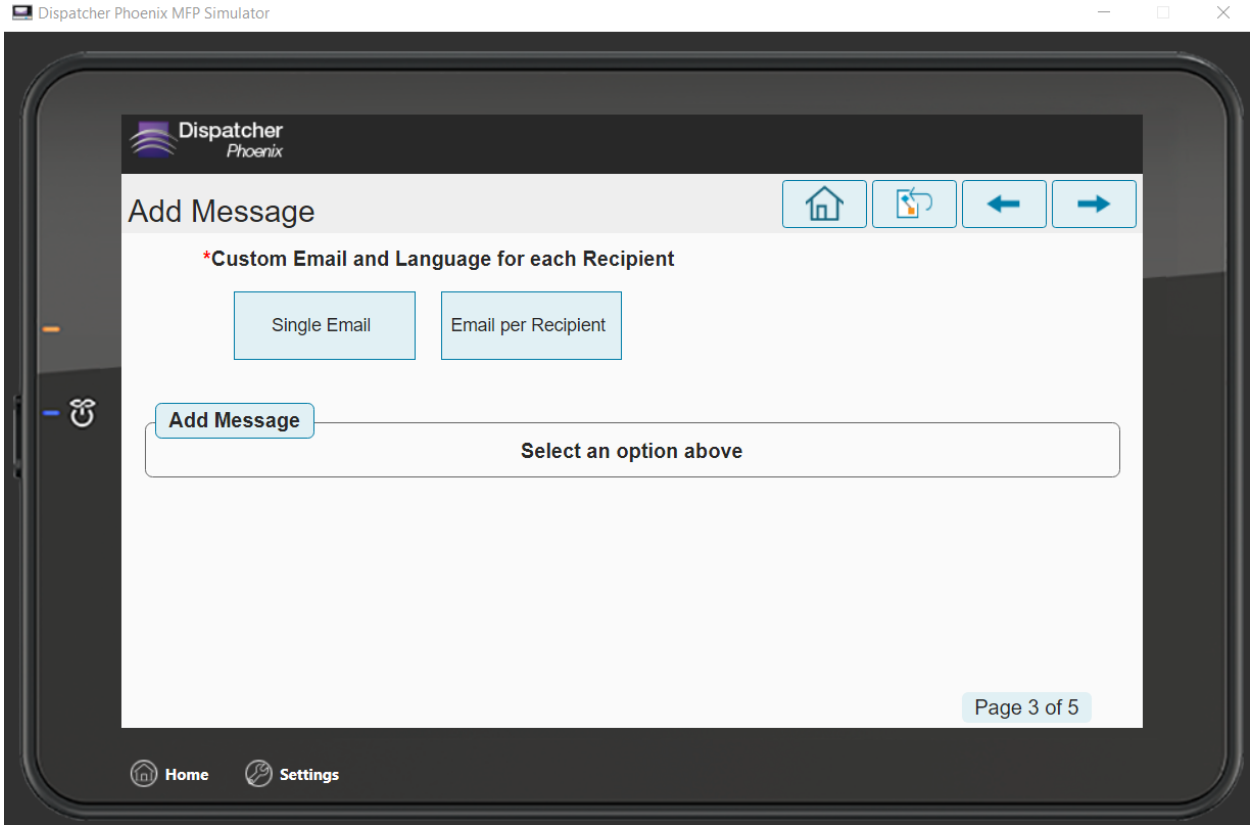


複合機でのDocuSignコネクター

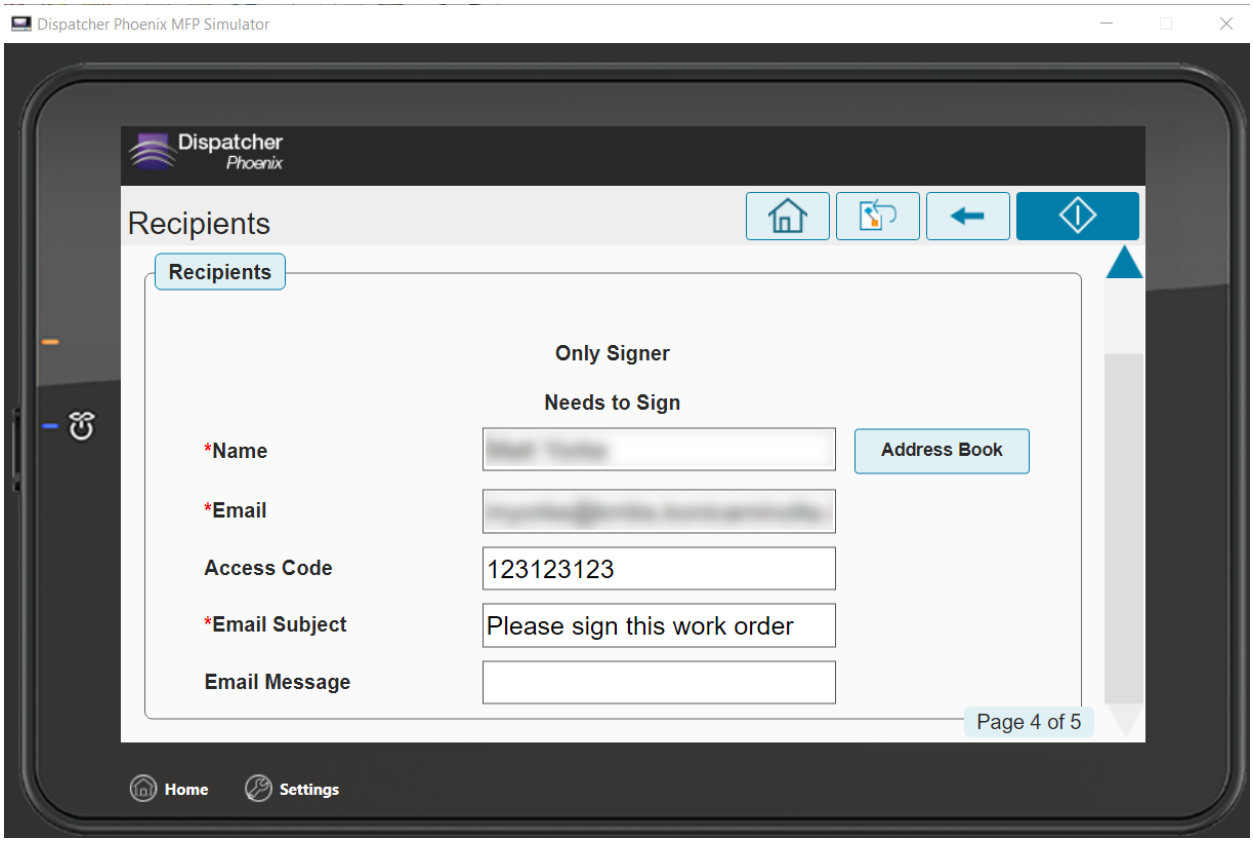
複合機で次の手順を実行します。

1. **ワークフローを選択** - 現在実行中のDispatcher Phoenixワークフローが1つだけの場合、そのワークフローが表示されます。複数のワークフローが実行されている場合は、選択画面が表示され、ワークフローを選択する必要があります。

2. **[メッセージの追加] オプションを選択** - 単一の電子メールを送信するか、受信者毎に個別の電子メールを送信するかを選択するよう求められます。**[単一の電子メール]** を選択すると、ボタンの下の領域に電子メールの件名とメッセージのフィールドが表示され、入力することができます。**[受信者毎の電子メール]** を選択すると、電子メールの件名とメッセージのフィールドが受信者ごとに新しいページに表示されます。



3. **受信者情報の入力** - 各受信者の受信者情報を入力するよう求められます。**[アドレス帳]** ボタンをタップすると、アドレス帳とディレクトリにアクセスできます。



4. **[スキャン]ボタンを選択** - これにより、スキャンされた文書がDocuSign経由で目的の受信者に送信されます。

Dropboxコネクター

Dropboxコネクターノード を使用して、Dropbox Business StandardまたはAdvancedアカウントを含むDropboxアカウントに接続し、ドキュメントをDropboxに配信します。Dropboxは、クラウドストレージとファイル同期を提供するファイルホスティングサービスです。Dropboxコネクターノードを使用すると、ドキュメントをDropboxアカウントに配信したり、複合機パネルで個人、チーム、および共有フォルダーを表示したりできます。

Dropboxコネクターノードを含むDispatcher Phoenix ワークフローは、次のことができます。

- さまざまな入力ソースからファイルを収集します。たとえば、Dropboxコネクターのインデックスフォームを使用して、アカウント/フォルダーのパスを動的に選択できます。Dropboxコネクター構成のフォルダーのパスにメタデータを使用することもできます。
- これらのファイルに対して強力な画像処理操作と複雑なルーティングロジックを実行します。
- ファイルをDropboxフォルダーに配信します。

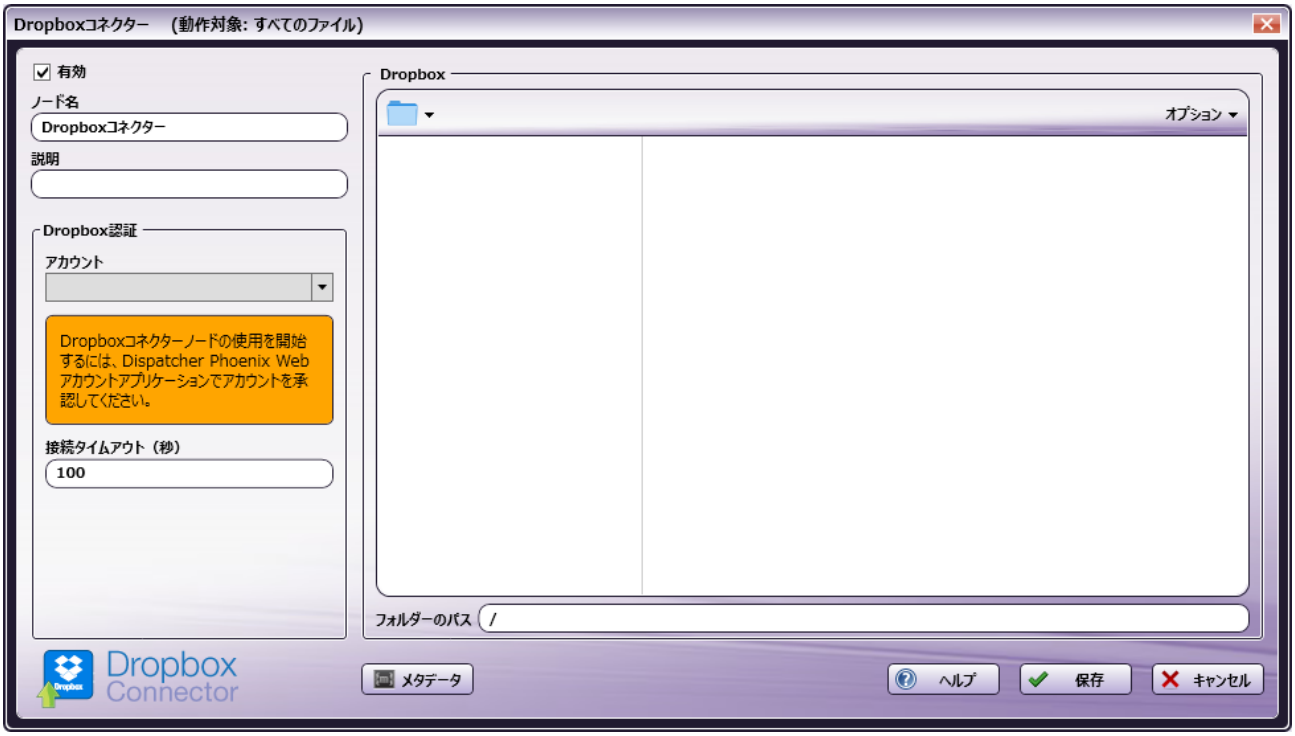
Dropboxファイルを複合機コントロールパネルから電子メールで直接共有したり、スキャンしたドキュメントへの編集アクセスを電子メールアドレスで制御することができます。

注:

- Dropboxコネクターを使用するには、Dropboxアカウントが必要で、**Dispatcher Phoenix WebでDropboxアカウントを設定**する必要があります。
- Dropboxにアップロードできるドキュメントの最大ファイルサイズは149MBです。

Dropboxコネクターノードの構成

Dropboxコネクターノードを開くには、**Dropboxコネクター** ノードを配信パネルからワークフローにドラッグアンドドロップしてから、ダブルクリックします。[Dropboxコネクターのプロパティ]ウィンドウが開きます。



以下を構成します。

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ノードにワークフローでの使用を示す意味のある名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。

ボタン

- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenix オンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

Dropbox認証

Dropbox認証 領域を使用して、次の設定を構成します。

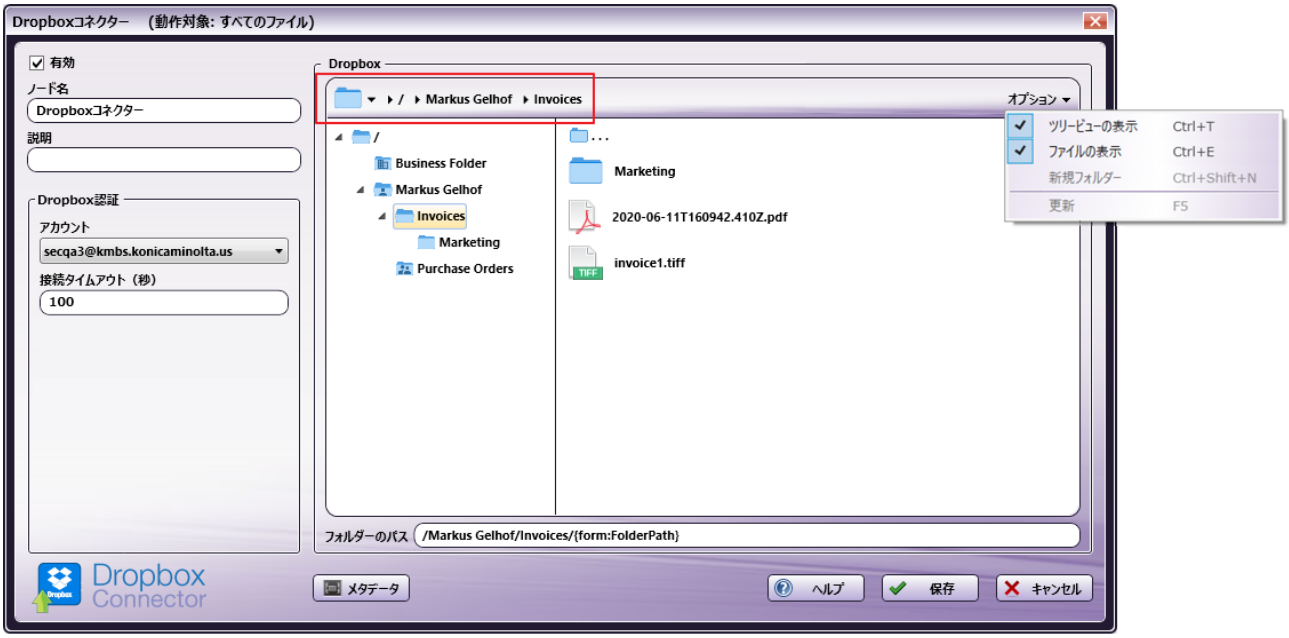
- **[アカウント]** - ドロップダウンをクリックして、承認されたDropboxアカウントのリストを表示します。ワークフローで収集するドキュメントまたはフォルダーを含むDropboxアカウントを選択します。アカウントが表示されない場合、Dropboxアカウントの認証に使用されたDispatcher Phoenix Webログオンユーザーアカウントが、現在のDispatcher Phoenixログオンユーザーアカウントと同じであることを確認してください。ログオンユーザーアカウントは、すべてのDropboxアカウントがDispatcher Phoenixに表示されるために一致する必要があります。
- **[接続タイムアウト(秒単位)]** - ネットワーク接続がタイムアウトするまでに経過する秒数を指定します(例: ログインまたはログアウト操作)。

Dropboxエクスプローラー領域

Dropboxとの接続が確立されると、プロパティウィンドウの右側に、Dropboxフォルダー、サブフォルダー、およびファイルのツリービューを含む**Dropbox** エクスプローラー領域が表示されます。この領域を使用して、Dropboxフォルダー構造を参照し、ドキュメントを保存するフォルダーを選択します。

現在のフォルダーのパスは、Dropbox領域の上部にあるフォルダーアイコンの横に表示されます 。このフォルダーパスを使用して、フォルダー構造をさかのぼることができます。エクスプローラー領域の下の **[フォルダーのパス]** フィールドにも、現在のパスが表示されます。

次の図では、フォルダーのパスが表示され、[オプション]メニューからの現在の選択に従って、Dropbox領域にツリービューと選択したフォルダー内のファイルが表示されています。



フォルダータイプ

Dropboxのバージョンによっては、Dropbox Explorer領域に次の種類のフォルダーが表示される場合があります。

Dropbox 個人用フォルダー

Dropboxチームフォルダー

Dropboxチームメンバーフォルダー

Dropbox共有フォルダー

オプション

Dropboxエクスプローラー領域の右上隅にある **[オプション]** ボタンを使用して、フォルダービューを構成するか、新しいフォルダーを追加します。ドロップダウンメニューには、各オプションのショートカットキーが含まれています。

- **[ツリービューの表示]** - ツリービューで完全なフォルダー構造を表示するには、このオプションを選択します。
- **[ファイルの表示]** - フォルダー参照ビュー内にファイルを表示するには、このオプションを選択します。
- **[新しいフォルダー]** - Dropboxで現在選択されているフォルダーのパスに新しいフォルダーを作成するには、このオプションを選択します。**新しいフォルダーの作成** ウィンドウが表示されます。
- **[更新]** - Dropboxエクスプローラーでフォルダーブラウザービュー（ツリービューの表示またはファイルの表示）を更新するには、このオプションを選択します。

ファイル名の制限

ファイル名には次の制限が適用されます。

- ファイル名をスペースで開始したり、スペースで終了したりすることはできません。
- ファイル名を2つのピリオド文字（..）で始めることはできません。
- 印刷できない文字をファイル名（タブ、改行など）に含めることはできません。
- 次のいずれも使用しないでください。

  < > : " / \ | ? *

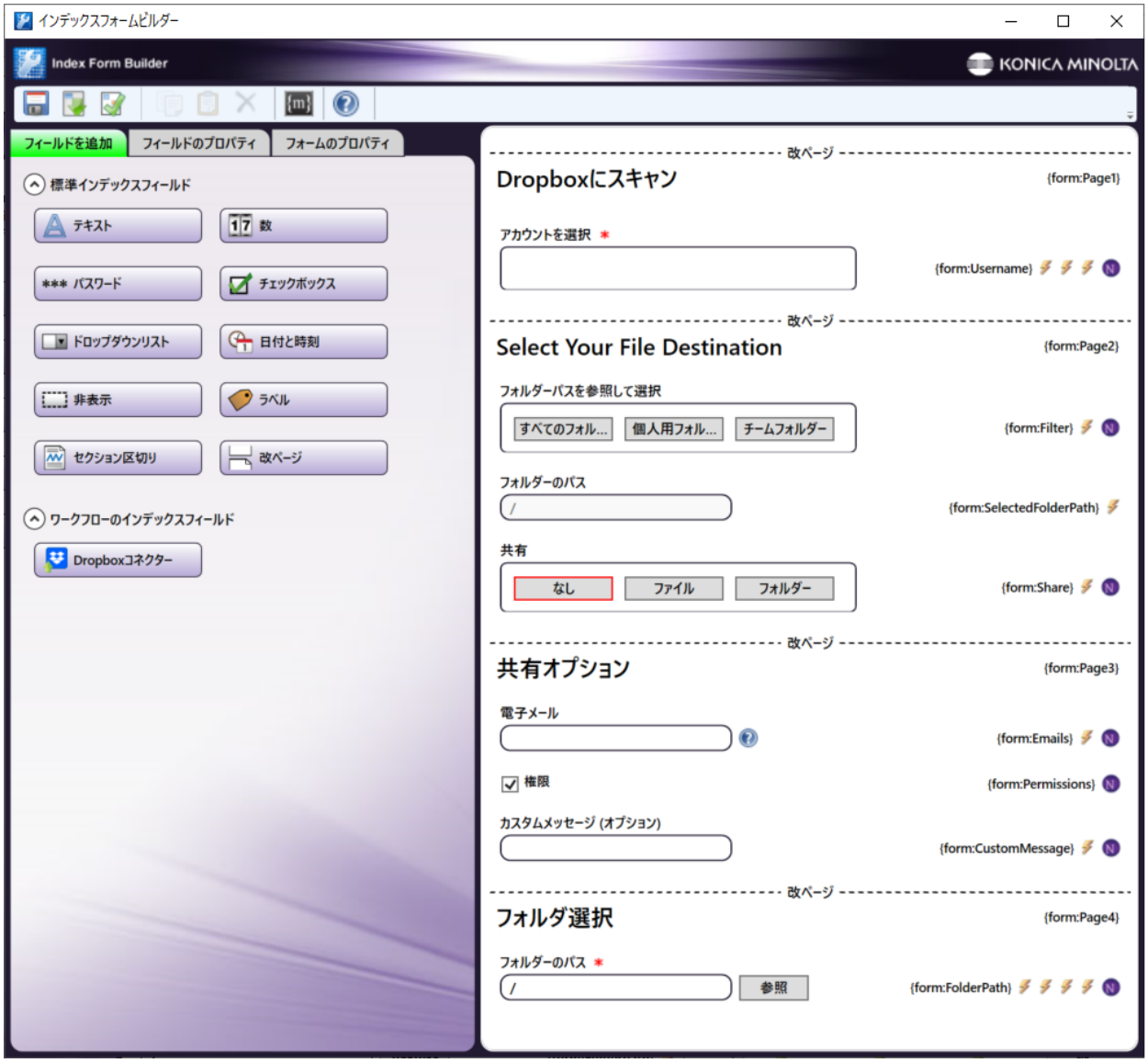
フォルダーのパス

Dropboxエクスプローラー領域でフォルダーを選択すると、フォルダーツリーの下の**フォルダーのパス** フィールドに自動入力が行われます。ファイルエクスプローラーをナビゲートしたくない場合は、代わりにフィールドにフォルダーのパスを手動で入力することができます。

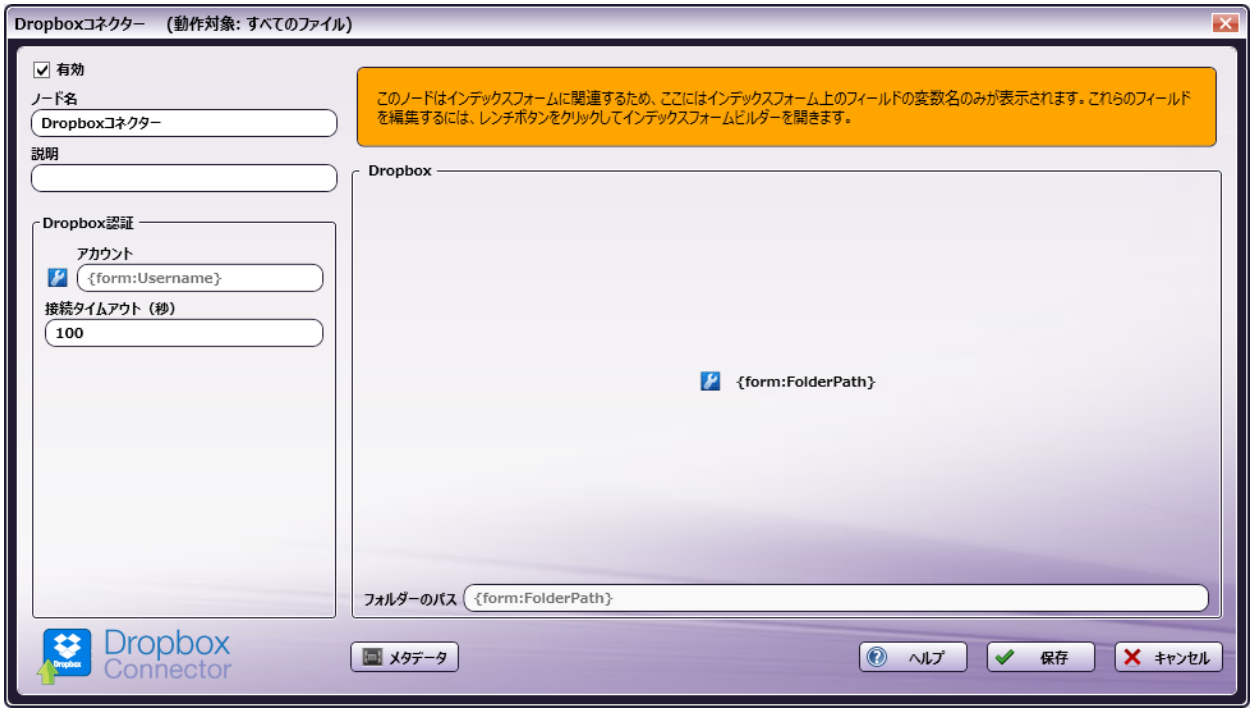
Dropboxコネクターインデックスフォームの作成

インデックスフォームを作成して、複合機でDropboxに自動的にログインできるようにすることができます。次の操作を行います。

1. **Dispatcher Phoenix Web アカウントマネージャー**からDropboxにログインしていることを確認してください。
2. ワークフローに**複合機パネルノード**とDropboxコネクターノードが含まれていることを確認してください。
3. 複合機パネルノードから、インデックスフォームビルダーを開きます。**[Dropboxコネクター]** ボタンがワークフローインデックスフィールド領域の下に表示されます。
4. **[Dropboxコネクター]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図のように、Dropboxにスキャンインデックスフォームが表示されます。



5. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
6. Dropboxコネクターノードのプロパティウィンドウには、インデックスフォームのフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウのフィールドを編集することはできませんが、レンチツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダーのそのセクション、またはフィールドに移動することができます。次の図を参照してください。



複合機でのDropboxインデックスフォーム

複合機で、次の操作を行います。

1. **[ワークフローを選択]** - 現在実行中のDispatcherPhoenixワークフローが1つだけの場合、そのワークフローが表示されます。ただし、複数のワークフローが実行されている場合は、[選択]画面が表示されるため、ワークフローを選択する必要があります。次の図を参照してください。

2. **[インデックスフォームを選択]** - ワークフローが画面に表示されたら、インデックスフォームを選択します。

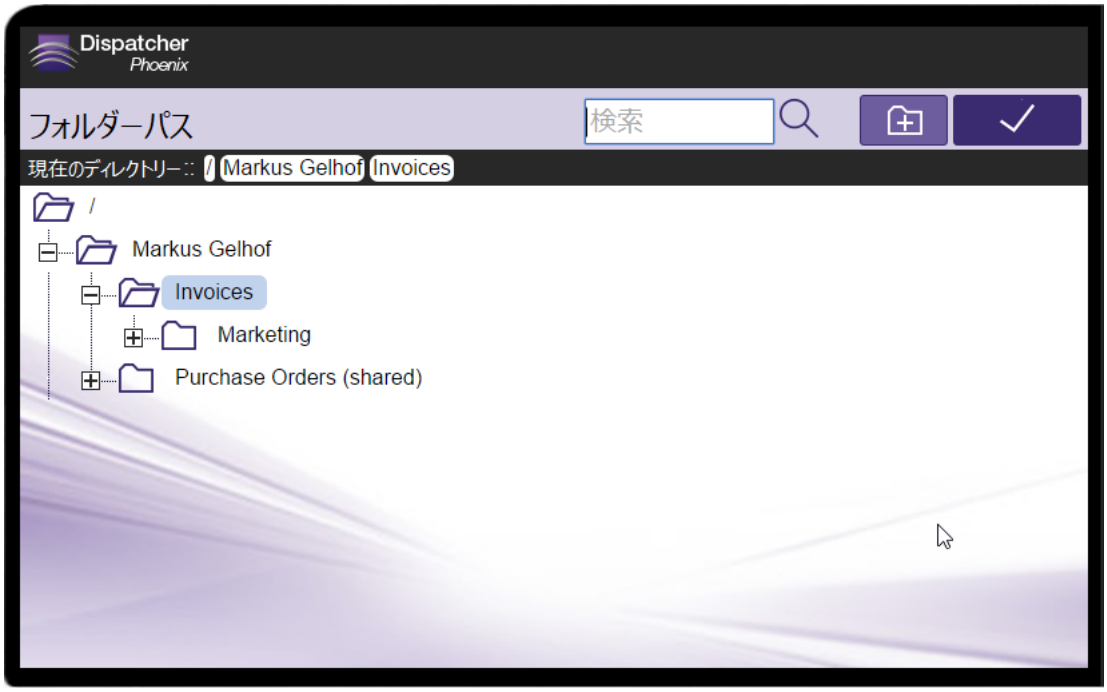
注: 複数のDropboxアカウントが登録されていて、**Dispatcher Phoenix Web アカウントマネージャー**でプライマリアカウントとして構成されているものがない場合、[アカウントの選択]画面が表示されます。処理するフォルダーを含むアカウントを選択する必要があります。

3. **[ファイルの宛先を選択]** - [選択]画面でインデックスフォームを選択すると、[ファイルの宛先の選択]画面が表示されます。この画面を使用して、宛先フォルダーを選択したり、ファイルをチームメンバーと共有したりします。次の図を参照してください。

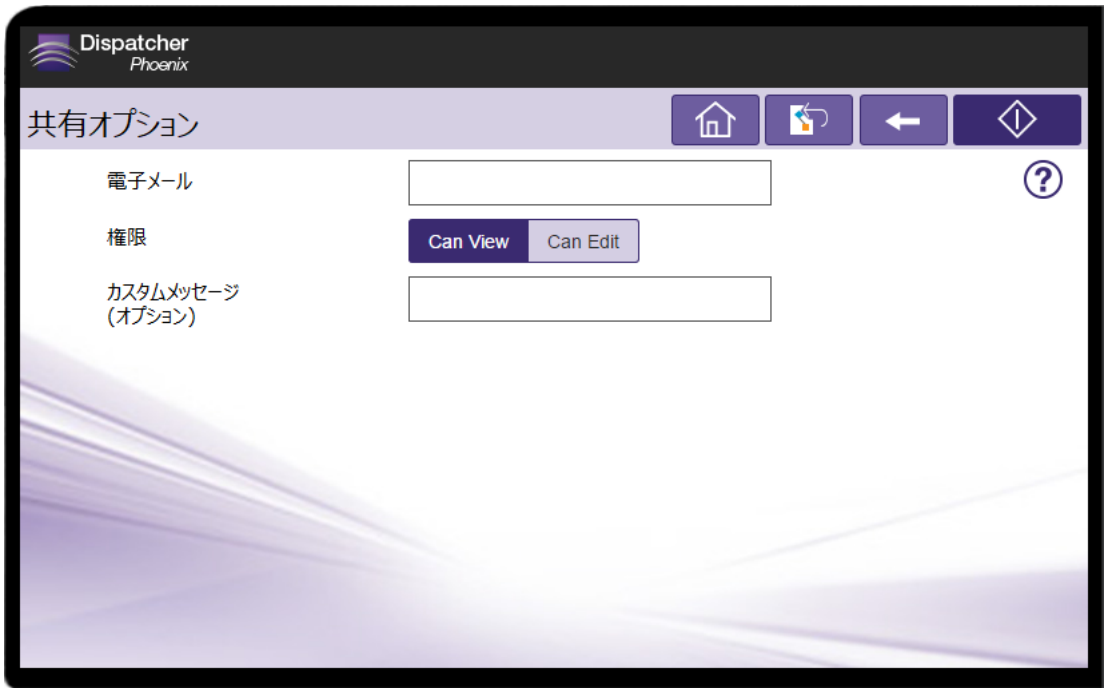
[フォルダーのパス] フィールドには、宛先フォルダーの現在のフォルダーのパスが表示されます。

1. **[フォルダーパスを参照して選択]** - フォルダーのパスを変更するには、このフィールドのフィルタリングオプションをクリックして、[フォルダーのパス]画面にアクセスします。ここで選択したフィルタリングオプションは、以下に示す[フォルダーのパス]画面に表示されるフォルダーのリストを制限します。**すべてのフォルダー** オプションは制限を適用しません。

   [フォルダーのパス]画面で、目的の宛先フォルダーが表示されるまで、フォルダーツリー構造の **[+]**、または **[-]** ボックスをクリックします。フォルダーが強調表示されていることを確認し、**[チェックマーク]** ボタンをクリックして[ファイルの宛先の選択]画面に戻り、選択したフォルダーのパスが **[フォルダーのパス]** フィールドに表示されます。



2. **【フォルダーのパス】** - 宛先フォルダーの現在のフォルダーのパスが表示されます。
3. **【共有】** - 必要に応じて、ファイルまたはフォルダーを1人以上のチームメンバーと共有します。**【共有オプション】** 画面が表示されます。



次のオプションがあります。

- **【電子メール】** - 1つ以上の電子メールアドレスを入力し、各アドレスをカンマ区切り文字で区切ります。
- **【権限】** - チームメンバーの表示、または編集アクセスを指定します。
- **【カスタムメッセージ(オプション)】** - 必要に応じて、電子メールに含めるカスタムメッセージを入力します。

4. 選択したら、スキャンを開始します。スキャンされたドキュメントはDropboxの宛先フォルダーに送信され、指定されたチームメンバー（存在する場合）と共有されます。

検索フィールド

[フォルダーのパス]画面でフォルダーのパスを指定する場合、**【検索】** フィールドを使用してフォルダーのリストを絞り込むことができます。

このフィールドには、画面に表示されているフォルダーをすばやくフィルター処理するのに役立つ先行入力機能があります。フィールドへの文字の入力を開始すると、それに応じてフォルダーがフィルタリングされます。検索操作は、ルートディレクトリ内のすべてのフォルダーとサブフォルダーで実行されます。

注:

- ワイルドカード文字 (*, %) は、この検索ではサポートされていません。
- 検索は、検索条件の入力を開始するとすぐに結果を生成しようとします。
- フォルダー名がキャメルケース（CamelCase）を使用した複合語（例:「MyFolder」）、またはフォルダー名にスペースが含まれている場合（例:「My Folder」）、検索は別々の単語コンポーネント（例:「My」と「Folder」）、それ以外の場合、検索は名前全体に対して実行されます（たとえば、「folder」で検索しても「Myfolder」フォルダーは返されません）。

検索ごとにフォルダーリストがフィルタリングされたら、次の操作を実行できます。

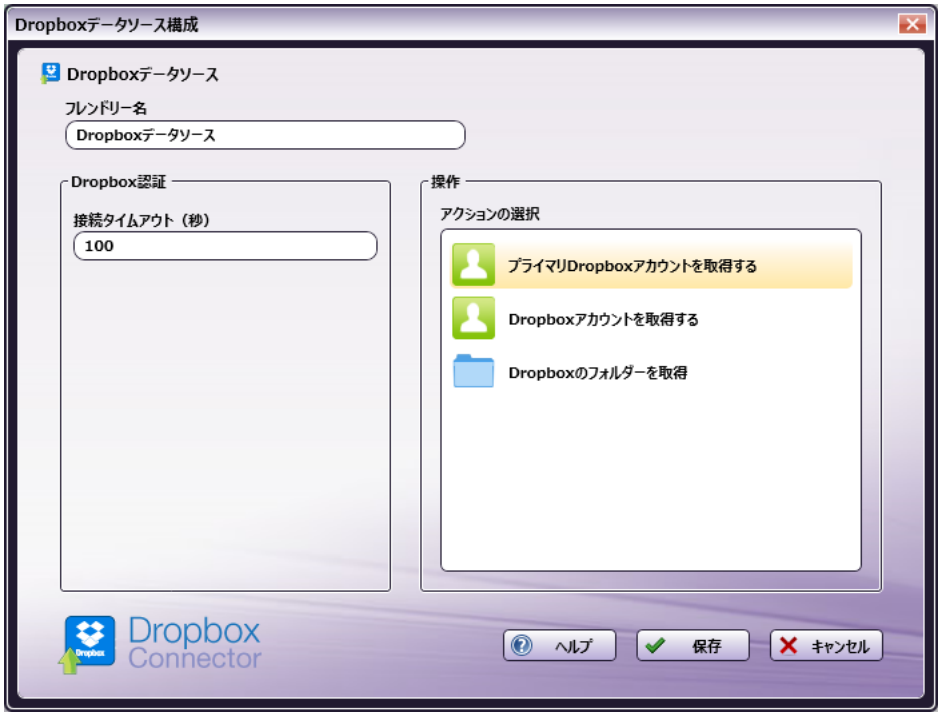
- **[使用]** - 特定のフォルダーを選択するには、このボタンをタップします。
- **[表示]** - 特定のフォルダーのディレクトリ構造ビューに戻るには、このボタンをタップします。
- ☑ - フィルターを解除するには、[検索]フィールドの横にあるこのボタンをタップします。
- **[検索]** - 検索条件を再度送信するには、フィールドの横にあるこのアイコンをタップします。

データベースブラウジング - Dropboxの構成

Dropboxからデータ（フォルダーのリスト、検証など）を取得するようにクエリーを手動で構成することもできます。

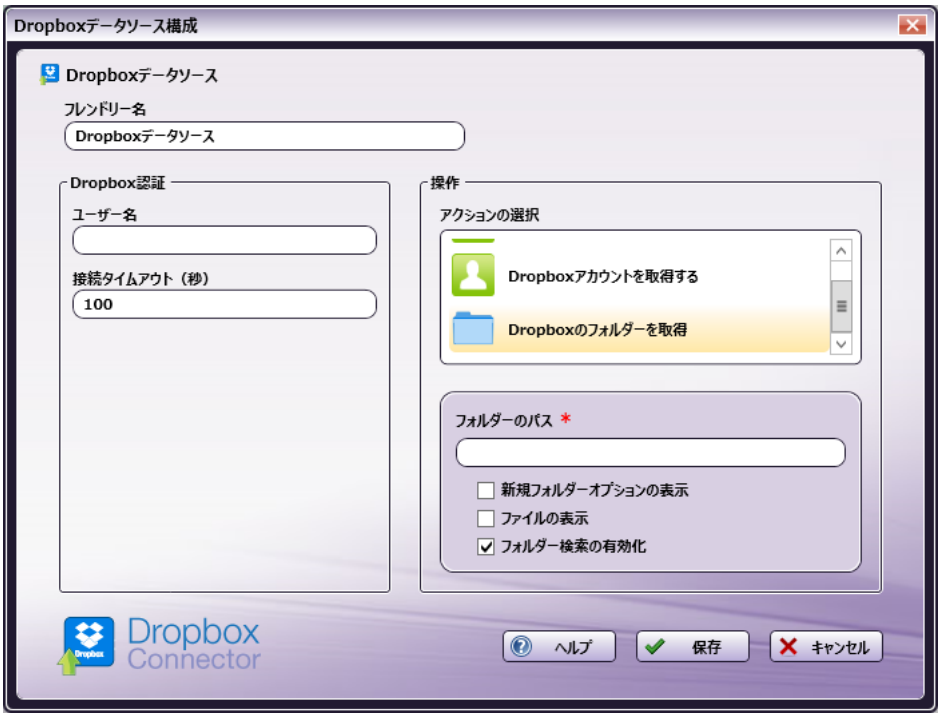
インデックスフォームビルダーを使用して、次の操作を実行します。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. フィールドの **[ロード時]** イベントを定義します。次に、**[クエリー]** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから **[Dropboxデータソース]** を選択します。
4. Dropboxデータソース構成ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、Dropboxからデータを取得するために特定のアクションを実行できます。



次の操作を実行します。

- **[フレンドリー名]** - Dropboxデータソース構成の識別名を入力します。
- **[操作]** - この領域では、Dropboxデータソースで実行するアクションの種類を選択できます。オプションは次のとおりです。
  - **プライマリDropboxアカウントを取得** - このオプションは、ユーザーのプライマリDropboxアカウントを返します。
  - **Dropboxアカウントを取得** - このオプションは、ユーザーのすべてのDropboxアカウントを返します。
  - **Dropboxフォルダーを取得** - このアクションを使用して、特定のDropboxフォルダーのパス内のフォルダーのリストを表示します。Dropboxフォルダーを取得アイテムを選択すると、次の図のように、構成用の新しいフィールドが表示されます。



- **[フォルダーのパス]** - 複合機パネルに表示するDropboxルートフォルダーのフォルダーIDを入力します。
  - **[新規フォルダーオプションの表示]** - このオプションをオンにすると、ユーザーは複合機で新しいDropboxフォルダーを作成できます。
  - **[ファイルの表示]** - 複合機のDropboxフォルダーにファイルを表示するには、このオプションをオンにします。
  - **[フォルダー検索の有効化]** - 複合機でフォルダー検索を有効にするには、このオプションをオンにします。

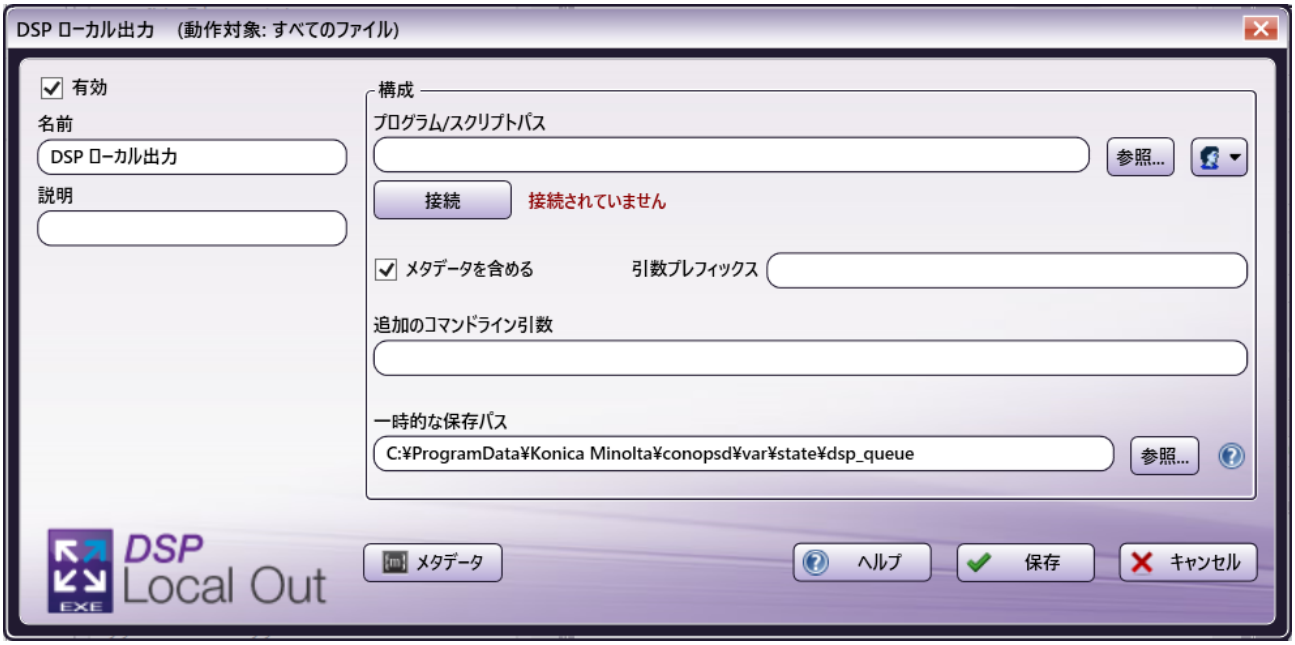
DSP ローカル出力

DSP ローカル出力

DSP ローカル出力ノードは、Dispatcher Phoenix Developer Support Program(DSP)のメンバーによって開発されたアプリケーション/機能で使用するように設計されています。DSPの詳細については、コニカミノルタの担当者にお問い合わせください。

DSP ローカル出力ノードの使用

DSP ローカル出力ノードウィンドウを開くには、DSP ローカル出力ノードの配信ノードを追加して、ダブルクリックします。



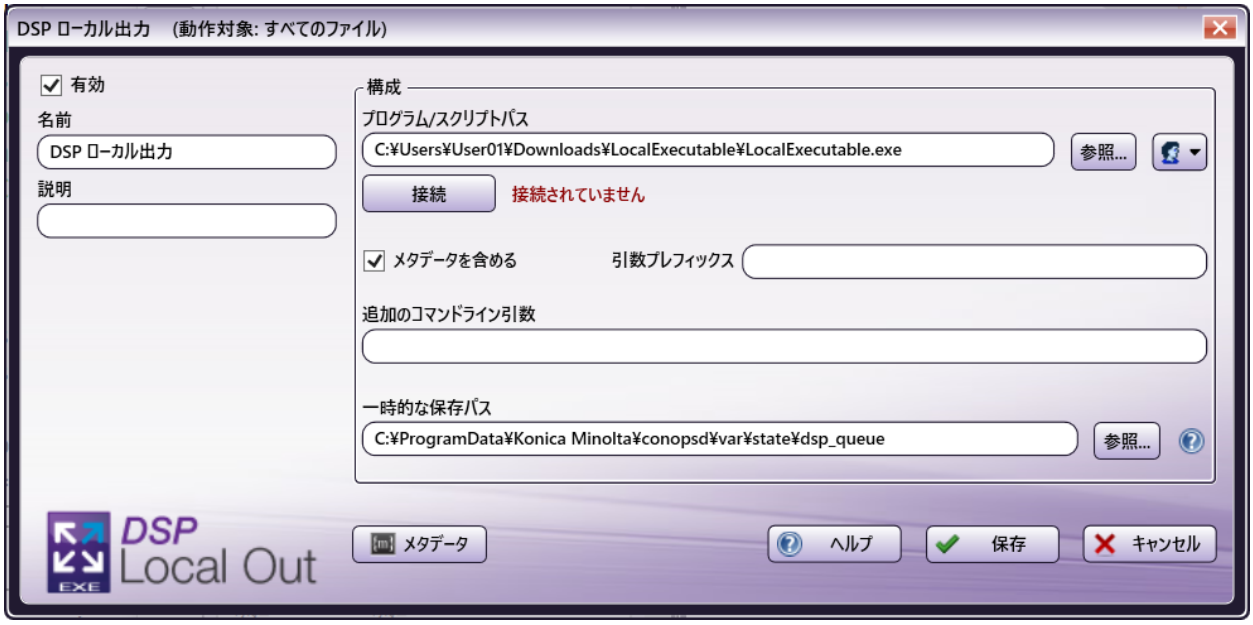
次のようないくつかのボタンとフィールドが表示されます。

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効にされたノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[名前]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ワークフローでノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノードの名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。
- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウインドウにアクセスするにはこのボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

アプリケーションのセットアップ

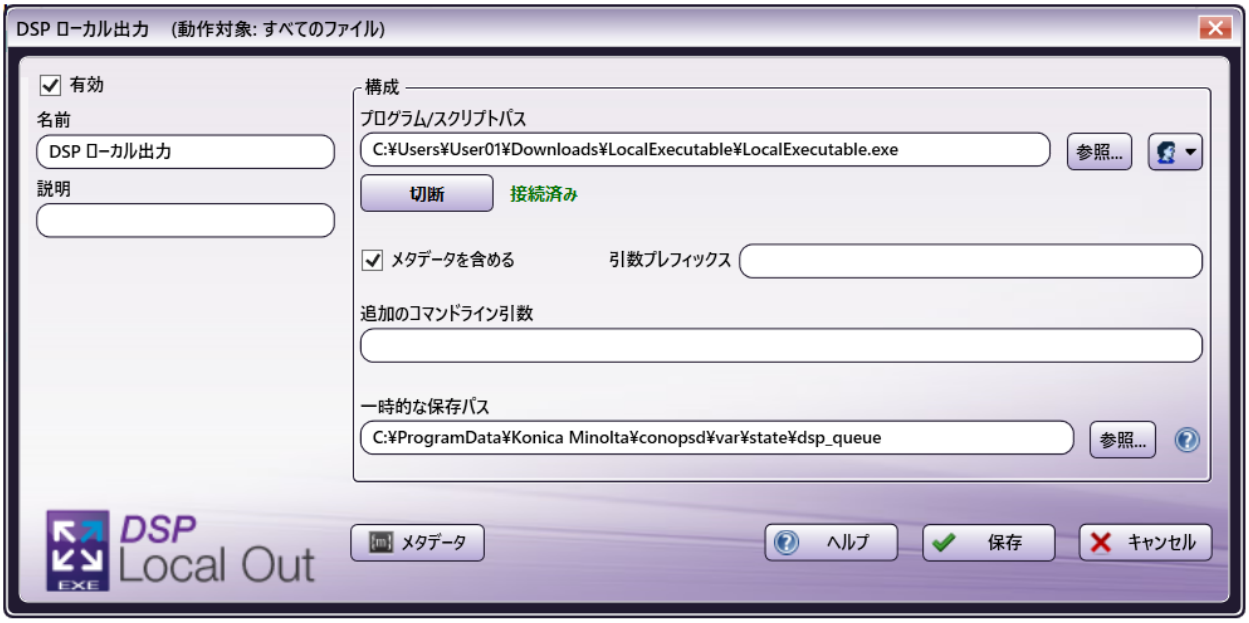
DSPで開発されたローカル実行可能ファイルでこれを使用するには、実行可能ファイルの場所(アクセス可能なフォルダーなど)を指すようにノードを構成する必要があります。目的のアプリケーションがアクセス可能なフォルダーに保存されたら、DSP ローカル出力ノードにそれを使用するように指示できます。ノードを構成するには、次の操作を実行します。

1. DSP ローカル出力ノードをダブルクリックして開きます。
2. アプリケーションへのファイルパスを入力します。**[参照]** ボタンを使用してフォルダーブラウザーを開き、アプリケーションを見つけることもできます。



- **[認証]** ボタンを使用すると、アプリケーションが存在するフォルダーにアクセスするために必要な場合、ネットワーク資格情報を入力、または編集できます。

3. **[接続]** ボタンを選択します。これにより、DSP ローカル出力ノードとアプリケーション間の接続が確立され、アプリケーションから提供されたメタデータキーまたは値のペアが接続され、ワークフロー内の後続のノードでメタデータを使用することできます。これにより、アプリケーションが有効なDSPライセンスキーで正しく登録されていることも確認されます。

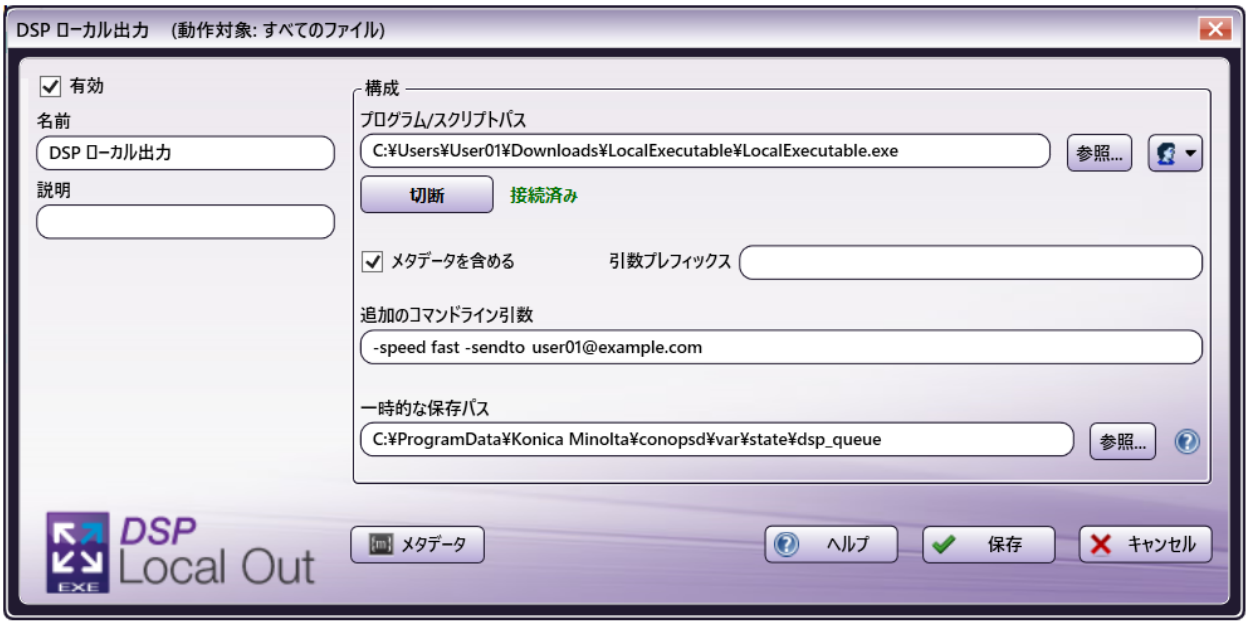


重要! 正常に接続していない場合、ワークフローを正しく検証できません。

注: プログラム/スクリプトパスまたはネットワーク資格情報に変更を加える場合は、**[接続]** ボタンを選択して接続を再確立する必要があります。

4. ドキュメントがローカル実行可能ファイルに配信されるときに**メタデータを含める** かどうかを選択します。このチェックボックスを選択すると、ノードにはワークフロー内の以前のノードから収集されたすべてのメタデータが含まれます。チェックボックスがオンになっている場合は、表示されたフィールドに必要な**引数プレフィックス** を入力します。これらはメタデータに追加され、アプリケーションがメタデータを他のデータと区別できるようにします。

5. 表示されたフィールドに**追加のコマンドライン引数** を入力します。コマンドライン引数は、アプリケーションの外部にある追加のコーディングコマンドであり、アプリケーションの実行方法を変更することができます。必要なコマンドラインプロンプトは、アプリケーションとともに提供される可能性があります。それ以外の場合、このフィールドは空白のままにすることができます。このフィールドはメタデータと互換性があります。**[メタデータ]** ボタンを使用して、ワークフローの前半で収集したメタデータをこのフィールドにドラッグアンドドロップすることができます。



注:

- 複数の単語を含む単数の引数を入力する場合は、フレーズを引用符で囲む必要があります。たとえば、接続されたプログラムがフォルダーパス名を予期し、名前にスペースが含まれている場合、引数は`"C:\Program Files\Konica Minolta"`のようになります。
- DPS ローカル出力ノードは、2種類の二重引用符で囲まれた引数を処理できます。
  - 二重引用符で囲まれた引数内の二重引用符(それぞれがバックスラッシュ付き)、(引用符内の `"A \"quote\"`など)。
  - 二重引用符で囲まれた引数の一重引用符(引用符内の `"A 'quote'"`など)。
- 一重引用符 (")、一重引用符/アポストロフィ (')、または円記号 (\ )を含む引数を入力する場合、引数を適切に処理するには、各記号の前に円記号 (\ )を入力する必要があります。たとえば、アプリケーションが `O'Brien`という名前を送信しようとした場合、一重引用符を含めるには、引数を `O\'Brien` として入力する必要があります。

6. 必要に応じて、[一時的な保存パス]フィールドを使用して、一時ファイルを保持するファイルパスを編集します。これは指定されたアプリケーションで処理するためのドキュメントを保存するために使用される一時的な場所です。すべてのユーザーがアクセスできる共有フォルダーまたは共通フォルダーのパスであれば、既定の場所を変更することができます。**[参照]** ボタンを使用してフォルダーブラウザーを開き、一時ファイルを保存する適切な場所を選択することもできます。
7. ノードを保存して閉じます。

注: DSP ローカル出力ノードは、接続されているアプリケーションの仕様に従って、可能な限りドキュメントを配信します。ノードまたはアプリケーションが処理中にエラーを生成した場合、エラーの具体的な詳細については、アプリケーションログを参照する必要があります。

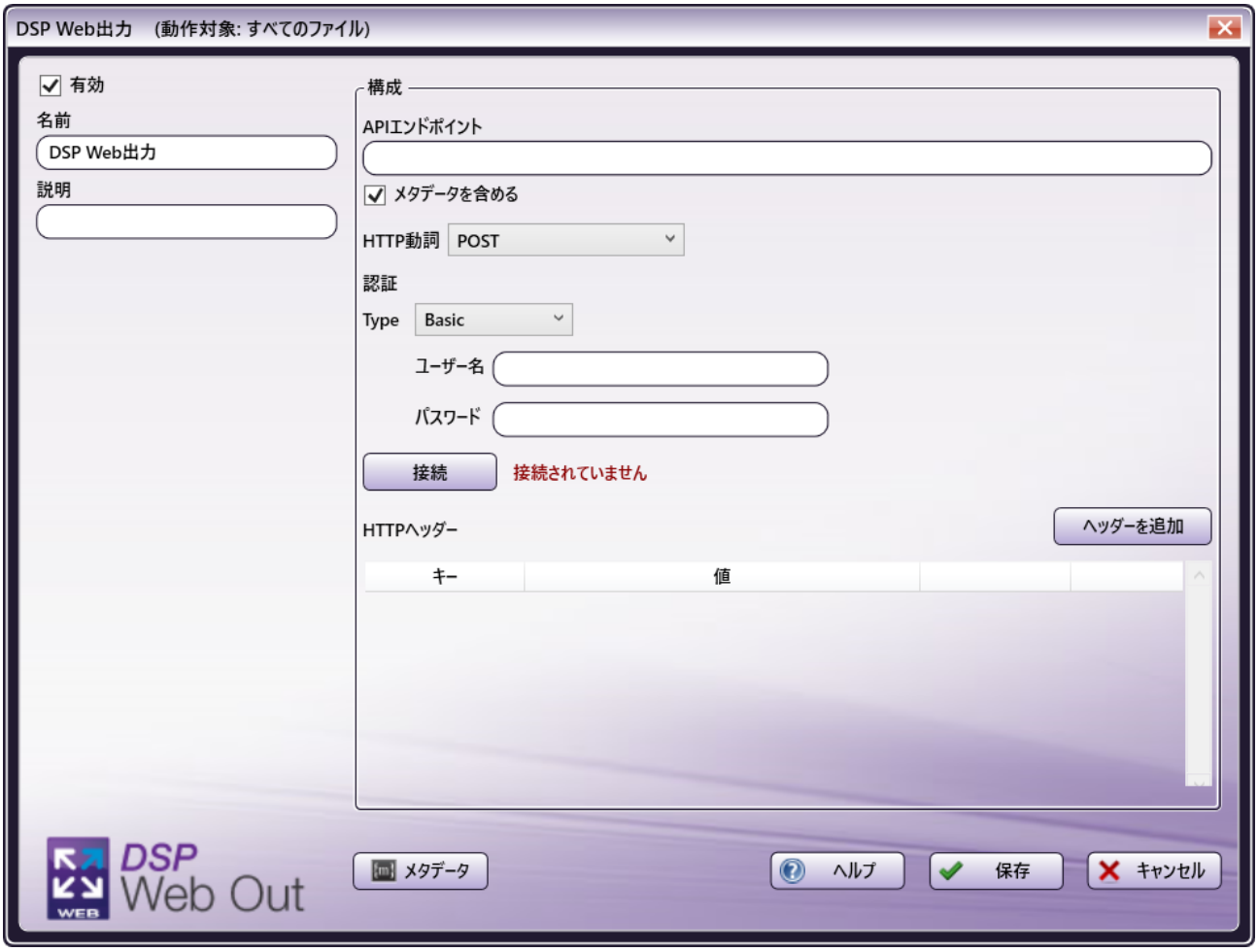
DSP Web出力

DSP Web出力

DSP Web出力ノードは、Dispatcher Phoenix Developer Support Program(DSP)のメンバーによって開発されたアプリケーション/機能で使用するように設計されています。DSPの詳細については、コニカミノルタの担当者にお問い合わせください。

DSP Web出力ノードの使用

DSP Web出力ノードウィンドウを開くには、DSP Web出力ノードの配信ノードを追加して、ダブルクリックします。



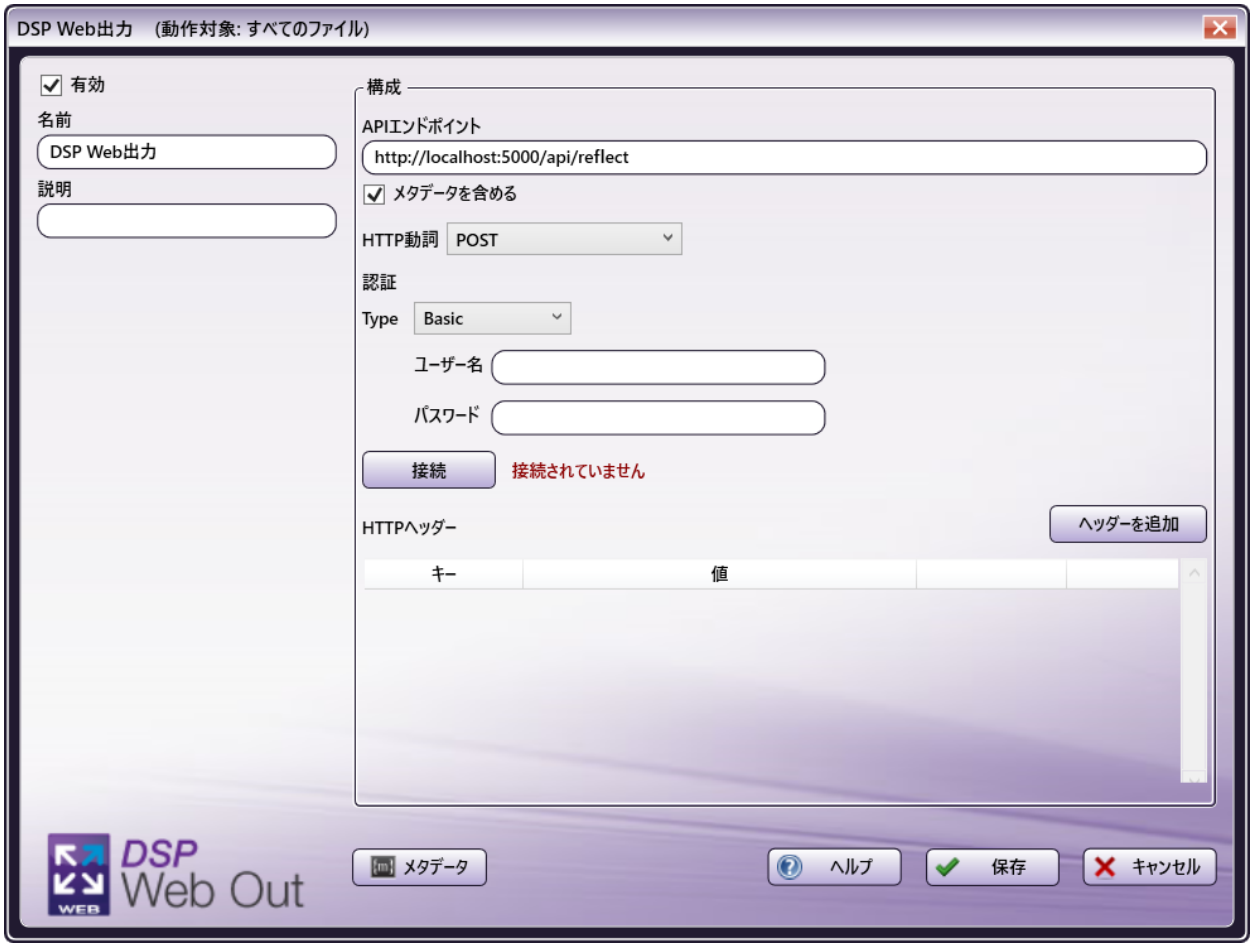
次のようないくつかのボタンとフィールドが表示されます。

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのチェックボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効にされたノードは、ロジックまたはエラー状態をチェックしないことに注意してください。
- **[名前]** - ノード名は既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ワークフローでノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノードの名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読み取ることができます。
- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウインドウにアクセスするにはこのボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

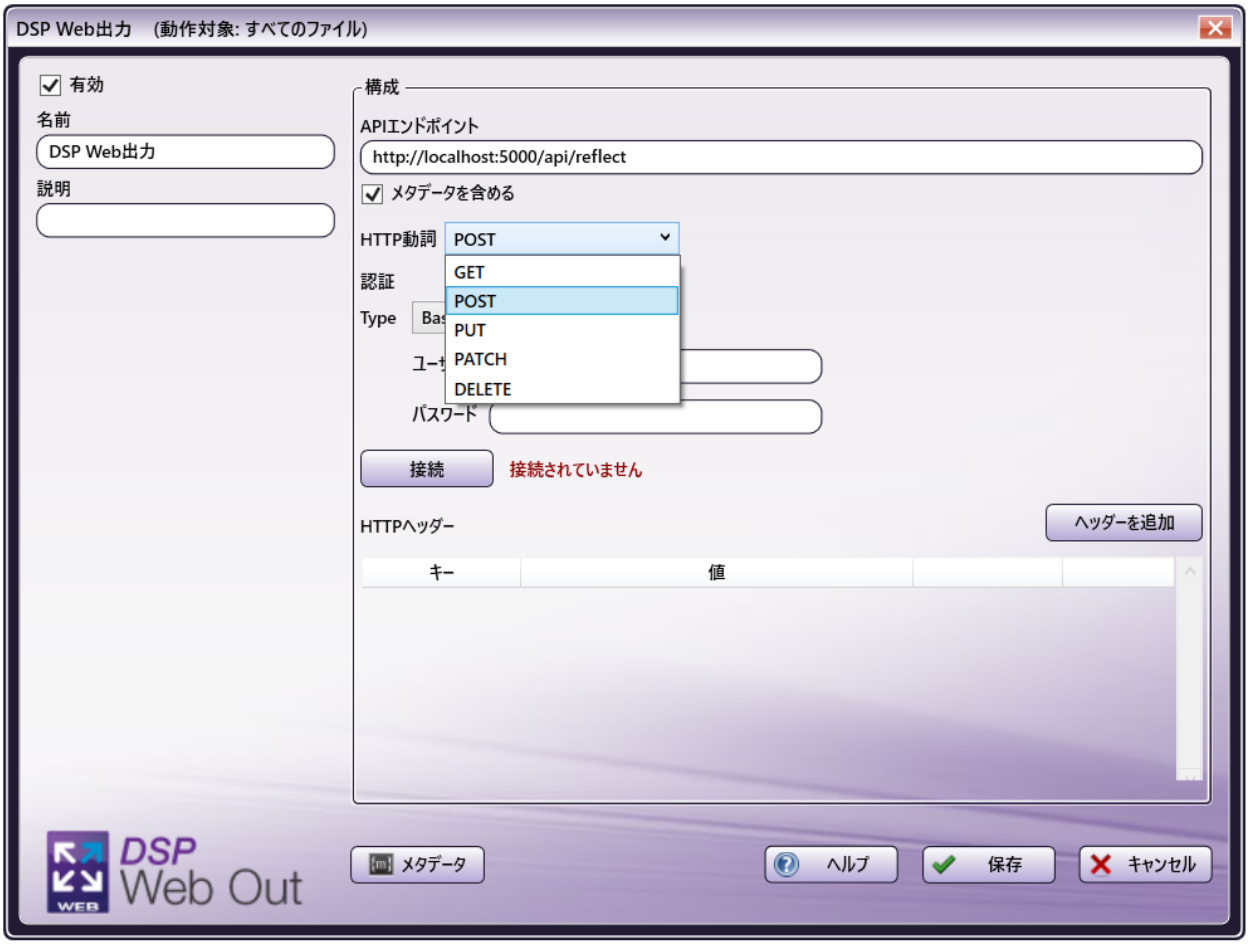
アプリケーションのセットアップ

DSPで開発されたWebサービスでこれを使用するには、Webベースのアプリケーション、またはAPIの場所(例:URLなど)を指すようにノードを構成する必要があります。ノードを構成するには、次の操作を実行します。

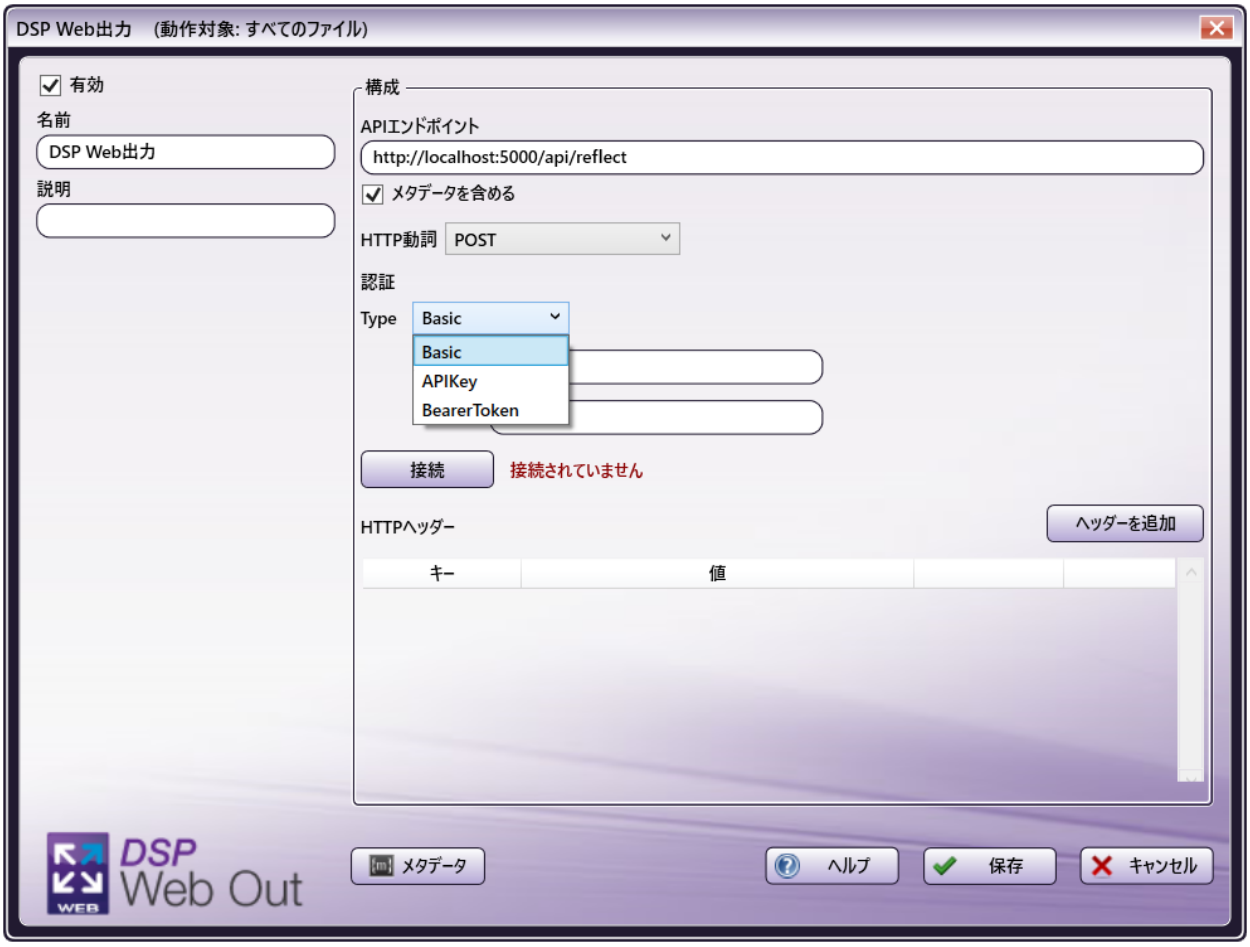
1. DSP Web出力ノードをダブルクリックして開きます。
2. APIエンドポイントをアプリケーションに入力します。



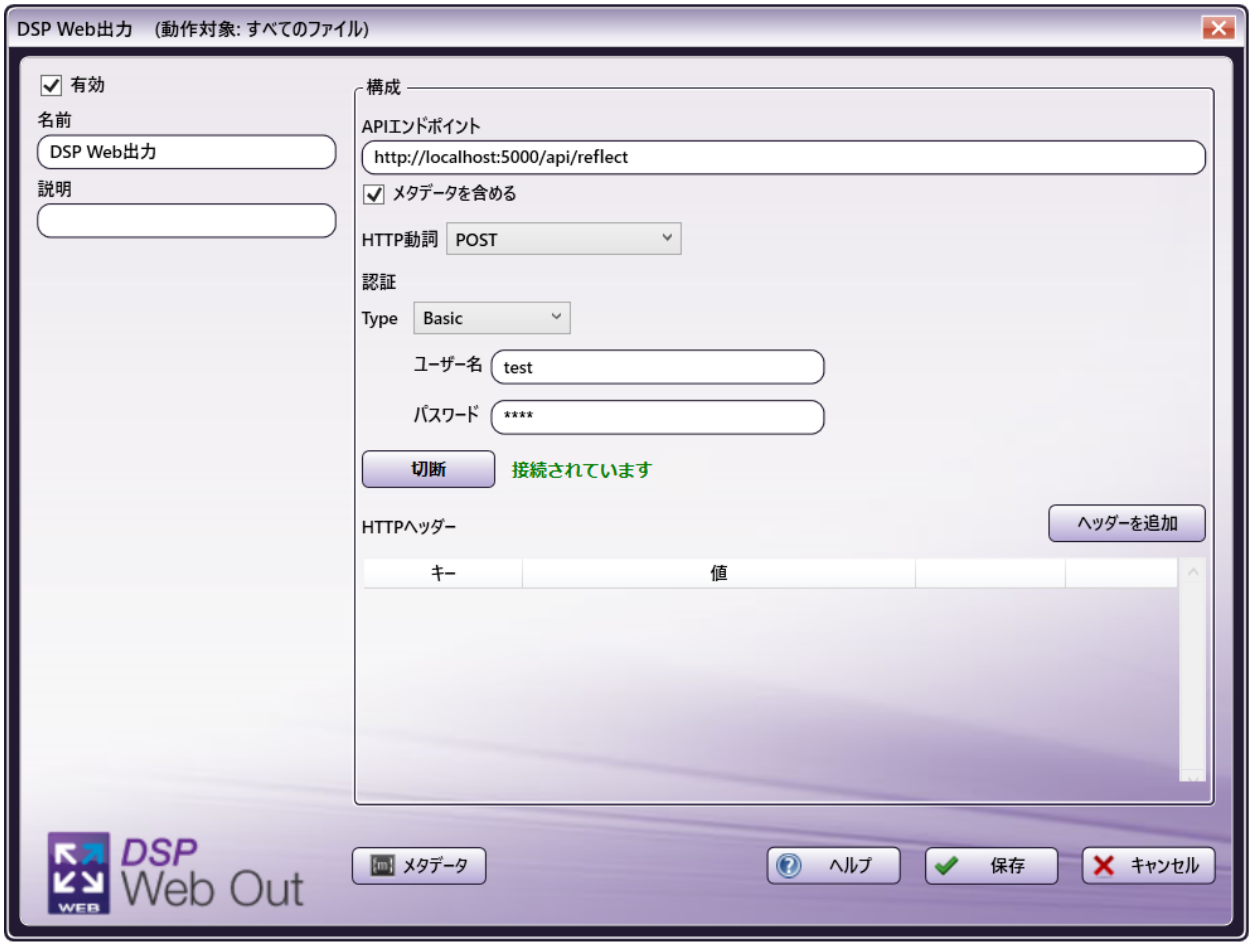
3. **メタデータを含める**かどうかを選択します。このチェックボックスを選択すると、ノードにはワークフロー内の以前のノードから収集されたすべてのメタデータが含まれます。
4. **HTTP動詞** を選択します。次のオプションが含まれます。
    - Get
    - Post
    - Put
    - Patch
    - Delete



5. **認証** タイプを選択します。次のオプションが含まれます。
    - Basic - **ユーザー名** と**パスワード** を入力するように求められます。
    - APIKey - **キー名** と**キー値** を入力するように求められます。
    - BearerToken - **トークン** を入力するように求められます。



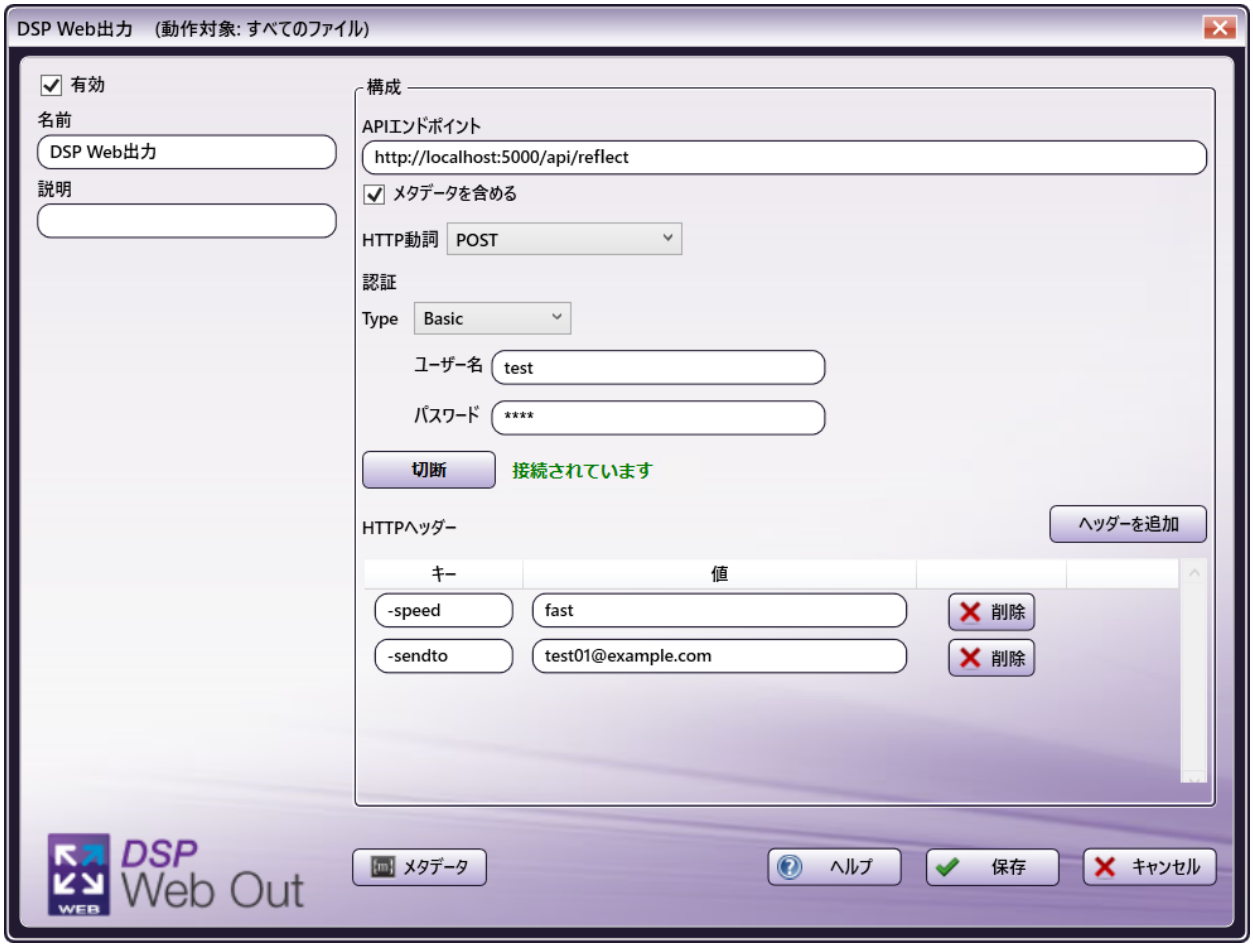
6. **[接続]** ボタンを選択します。DSP Web出力ノードとアプリケーション間の接続が確立されます。これにより、アプリケーションが有効なDSPライセンスキーで正しく登録されていることも確認されます。



重要! 正常に接続していない場合、ワークフローを適切に検証できません。

注: APIフィールドに変更を加える場合は、**[接続]** ボタンを選択して接続を再確立する必要があります。

7. 必要に応じて、アプリケーションに必要なヘッダーを追加します。ヘッダーを追加するには、**[ヘッダーを追加]** ボタンを選択します。これにより、ヘッダーの**キー** と**値** を入力できるようになります。ヘッダーは、アプリケーションの外部にある追加のコーディングコマンドであり、アプリケーションの実行方法を変更することができます。必要な**ヘッダーキー** と**値** は、アプリケーションと一緒にインストール手順で提供される可能性があります。それ以外の場合、このフィールドは空白のままにすることができます。複数のヘッダーを追加することができます。追加したヘッダーを削除するには、ヘッダーの横にある **[削除]** ボタンを選択します。ヘッダーはメタデータと互換性があります。メタデータをヘッダーに追加するには、**[メタデータ]** ボタンをクリックし、メタデータキーをヘッダーの**キー** または**値** フィールドにドラッグアンドドロップします。



8. ノードを保存して閉じます。

注: DSP Web出力ノードは、接続されているアプリケーションの仕様に従って、可能な限りドキュメントを配信します。ノードまたはアプリケーションが処理中にエラーを生成した場合、エラーの具体的な詳細については、アプリケーションログを参照する必要があります。

EPICコネクター

Dispatcher PhoenixのEPICコネクターノードを使用すると、ヘルスケア、および患者情報ソフトウェアの大手企業であるEPICとのシームレスな接続が可能になります。EPICコネクターノードは、HIPAAコンプライアンスに必要な高レベルの情報セキュリティを維持しながら、ドキュメント管理を高速化します。

このガイドでは、ノードのセットアップ方法、一般的な使用例、および基本的なトラブルシューティングについて順を追って説明します。

公開鍵とクライアントシークレットの生成

Dispatcher PhoenixとEPICは、公開/秘密鍵を使用して適切に通信します。これらのキーを設定するには、次の手順を実行します。

1. EPICコネクターをダウンロードし、Dispatcher Phoenix 8.10以降に更新すると、post-installスクリプトが実行され、C:\ProgramData\Konica Minolta\Epicディレクトリに公開鍵と秘密鍵が生成されます。
2. Epic App MarketからDispatcher Phoenix EPICコネクターをダウンロードします。これにより、2つのアプリケーションがダウンロードされます。

- Dispatcher Phoenix EPIC コネクターバックエンド
- Dispatcher Phoenix EPIC コネクターフロントエンド - これにより、クライアントシークレットが生成されます。

3. バックエンドアプリケーションの構成中に、JWT署名公開キーを入力するよう求められます。C:\ProgramData\Konica Minolta\Epicディレクトリにある「EpicKeyPublic.pem」ファイルをアップロードします。

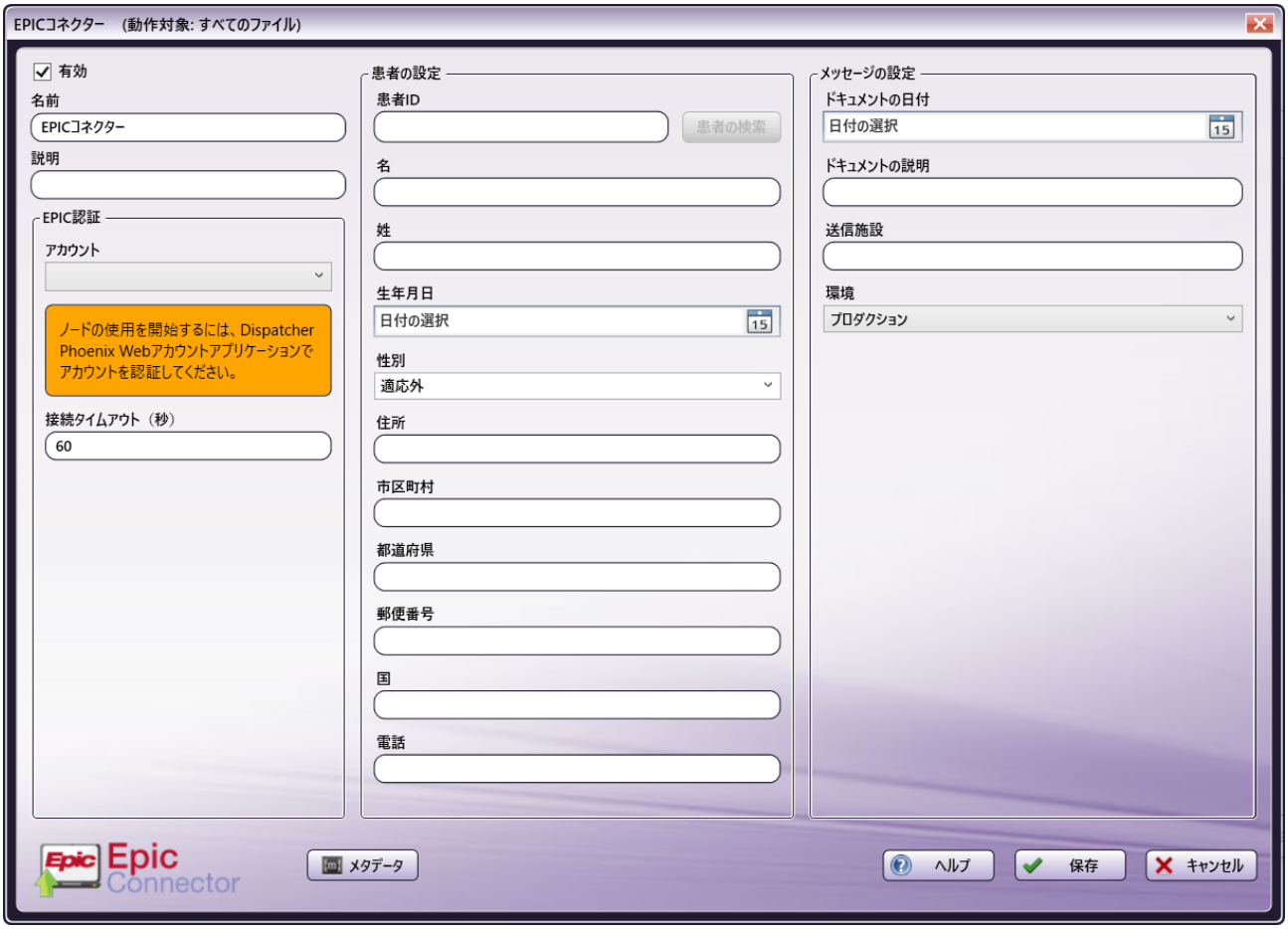
EPICアカウントの追加

EPICコネクターを利用するには、ユーザーは最初にEPICインストールのシステム設定を更新し、EPICアカウントをDispatcher Phoenix Webに追加する必要があります。詳細については、**Dispatcher Phoenix システム設定** および **Dispatcher Phoenix Webアカウント** ページを参照してください。

注: Dispatcher Phoenix EPICコネクターフロントエンドによって生成されたクライアントシークレットが必要になります。

EPICコネクターの使用

EPICコネクターノードウィンドウを開くには、**EPICコネクター** 配信ノードを追加し、ダブルクリックします。



次のようないくつかのボタンとフィールドが表示されます。

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、ロジックやエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[名前]** - ノード名が既定でこのフィールドに設定されます。この名前は、ノードアイコンの下のワークフローに表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフローでのノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くとその内容全体を読むことができます。
- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウインドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenix オンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

アプリケーションのセットアップ

EPICコネクター を使用するには、次の手順を実行します。

1. **EPICコネクター** ノードをダブルクリックして開きます。
2. EPIC認証領域で、ドロップダウンからEPICアカウントを選択します。

注: Dispatcher Phoenix Web からEPICアカウントをまだ設定していない場合は、ドロップダウンに表示される前にこの設定を行う必要があります。

患者の検索でのEPICコネクターの使用

すべての受信ドキュメントを単一の患者ファイルに送信するようにEPICコネクターを構成するには、最初に患者の情報を入力する必要があります。これは、手動、または患者の検索機能を使用して行うことができます。

患者情報の手動入力

患者情報は手動で入力できます。少なくとも、次の患者情報を入力する必要があります。

- アカウント (左側のドロップダウン)

  および、次のいずれか:

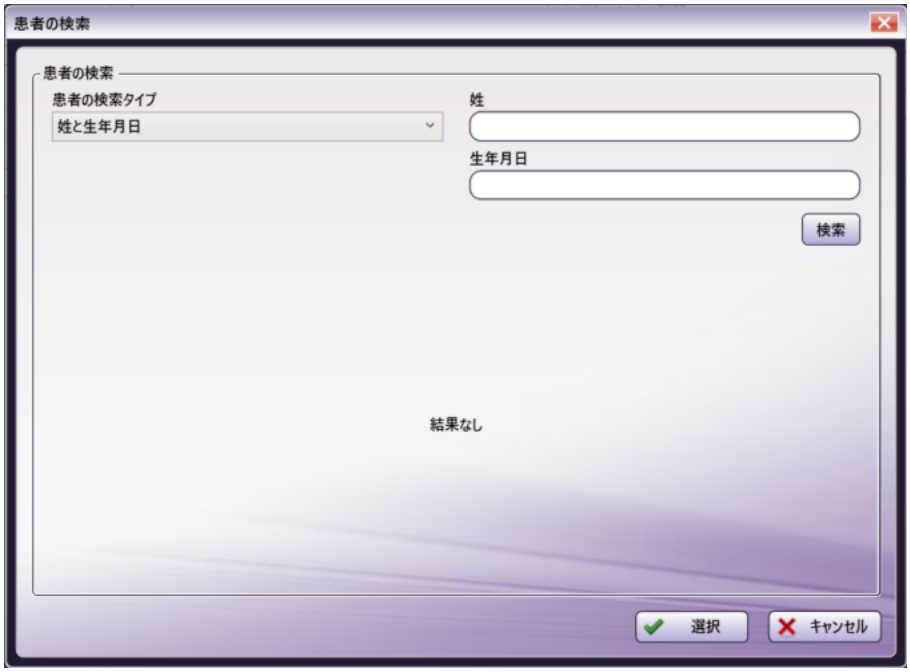
  - 患者識別子
  - 姓、生年月日
  - 姓、性別、電話番号
- ドキュメントの日付 (右側のメッセージ設定セクションにあります)

  注: HL7形式の制限により、次の文字は使用できません。ワークフローの検証エラーが発生します。^ ~ \ & |

患者の検索による患者情報の入力

患者の検索機能を使用するには、次の手順を実行します。

1. **[患者の検索]** ボタンをクリックします。これにより、次の図に示すように、[患者の検索]ウィンドウが開きます。

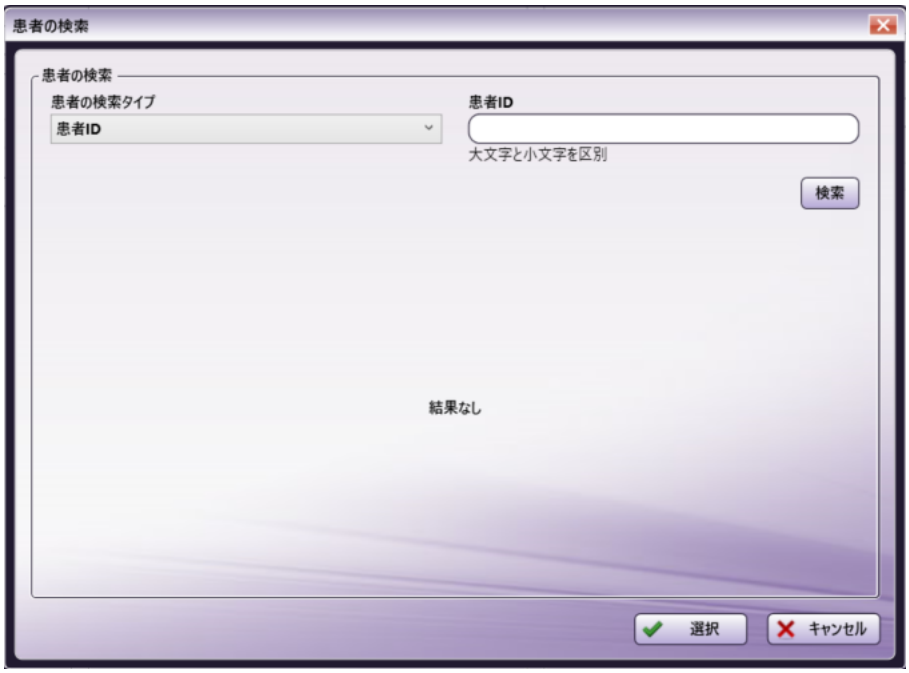


2. 患者の情報を検索する3つの方法のいずれかを選択します。

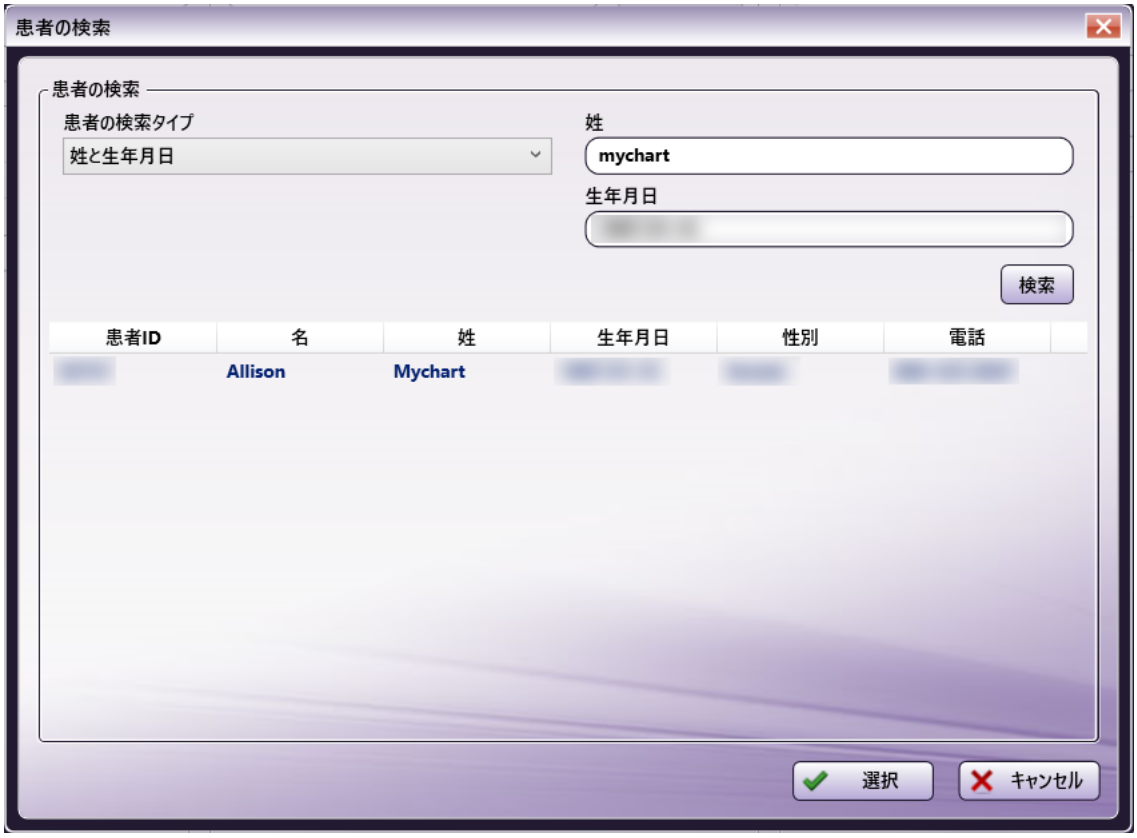
- 患者ID
- 姓と生年月日
- 姓、性別、電話番号

注: 患者IDフィールドは「完全一致」のみをサポートします。他のフィールドオプションについては、「完全一致」が推奨されますが、患者の検索には必要ない場合があります。

3. **患者の検索タイプ** ドロップダウンからこれらのオプションのいずれかを選択すると、次の図のように右側のフィールドが選択に応じて更新されます。



4. 患者情報を入力したら、**【検索】** ボタンを選択します。これにより、有効な検索結果が表示され、次の図のように正しい患者を選択できるようになります。



5. 正しい患者を選択し、**[選択]** ボタンを選択します。これにより、次の図のように、患者情報が患者の設定に入力されます。

メッセージの設定

セットアップを完了するには、[メッセージ設定]セクションでアップロードされたドキュメントの追加情報を選択、または入力します。

- 書類の日付 (必須)
- ドキュメントの説明
- 送信施設
- 環境 (これは常にProductionに設定される可能性が高いことに注意してください)

完了したら、次の図のようにEPICノードを保存できます。

インデックスフォームでEPICコネクターを使用する

EPICコネクターは、複合機に添付されたインデックスフォームを使用して、患者の記録をより個別に制御することもできます。

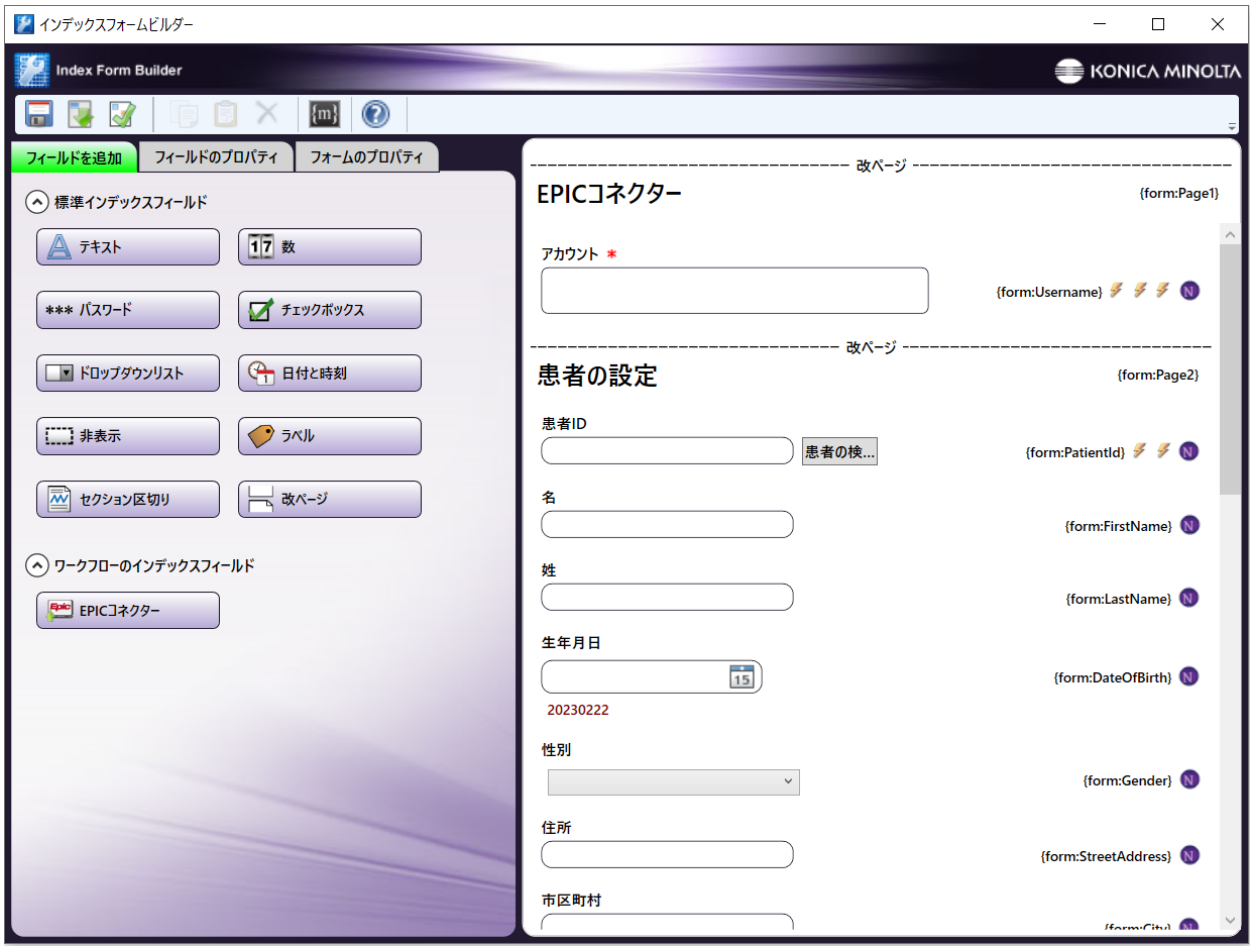
重要! サポートされている収集ノード (**複合機キャプチャ**、**Webキャプチャ** 、**Dispatcher Phoenix Mobile**、**バッチインデックス**) のいずれかでEPICコネクターとインデックスフォームを使用する場合、デバイスにサインオンしているユーザーは、ワークフローが共有されている場合、Dispatcher Phoenix Webに登録されたEPICアカウントを持っている必要があります。

インデックスフォームが添付されたEPICコネクターをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. インデックスフォームを添付できるノード(例:複合機パネルなど)をワークフロービルダー領域にドラッグアンドドロップしてワークフローに追加し、それをEPICコネクターに接続します。
2. 「アプリケーションのセットアップ」セクションに従って、EPICコネクターノードを構成します。
3. インデックスフォームに関連付けられたノードを開きます。
4. [インデックスフォームの添付]の横にある **チェックボックス** をクリックしてから、**[+]** アイコンをクリックして、インデックスフォームビルダーを開きます。次に、次の図のように、ポップアップで **空白のインデックスフォーム** オプションを選択します。

インデックスフォームビルダー
Index Form Builder
KONICA MINOLTA
フィールドを追加
フィールドのプロパティ
フォームのプロパティ
標準インデックスフィールド
テキスト
数
*** パスワード
チェックボックス
ドロップダウンリスト
日付と時刻
非表示
ラベル
セクション区切り
改ページ
ワークフローのインデックスフィールド
EPICコネクター
改ページ
新規インデックスフォーム
FORM
BUILDER

5. **EPICコネクター** アイコンをインデックスフォームビルダー作業領域にドラッグします。次の図のように、いくつかのフィールドが入力されます。



6. インデックスフォームビルダーを検証して保存し、閉じます。

コネクターを使用したドキュメントのアップロード

ドキュメントがEPICコネクターを介してEPICにアップロードされる場合、提供される患者情報の正確さに基づいて、次の3つの可能性があります。

1. 患者情報がEPICサーバー内の1人の患者と一致する場合、ノードはファイルをアップロードします。
2. 患者情報がEPICサーバー内の複数の患者と一致する場合、ノードはファイルをアップロードし、ログメッセージに警告を生成します。
3. 患者情報がEPICサーバー内のどの患者とも一致しない場合、ノードはファイルをアップロードする代わりにエラーパスにファイルを送信し、ログメッセージにエラーを生成します。

複合機でのEPICコネクター

EPICコネクターがインデックスフォームで構成されている場合、ユーザーはアカウント資格情報を入力し、ドキュメントのスキャン時に複合機で患者検索を実行できます。複合機パネルでEPICコネクターを使用するには、次の手順を実行します。

1. 複合機で、EPICコネクターと、構成済みのインデックスフォームに関連付けられたノードを含むワークフローを開きます。次の図のように、EPICコネクターが表示されます。

2. 患者検索機能を使用する場合は、**[患者の検索]** ボタンをタップします。これにより、次の図のように、患者の検索画面が開きます。

3. 必要に応じて、患者の情報を入力します。少なくとも以下を入力する必要があります。
   - 患者ID

     または

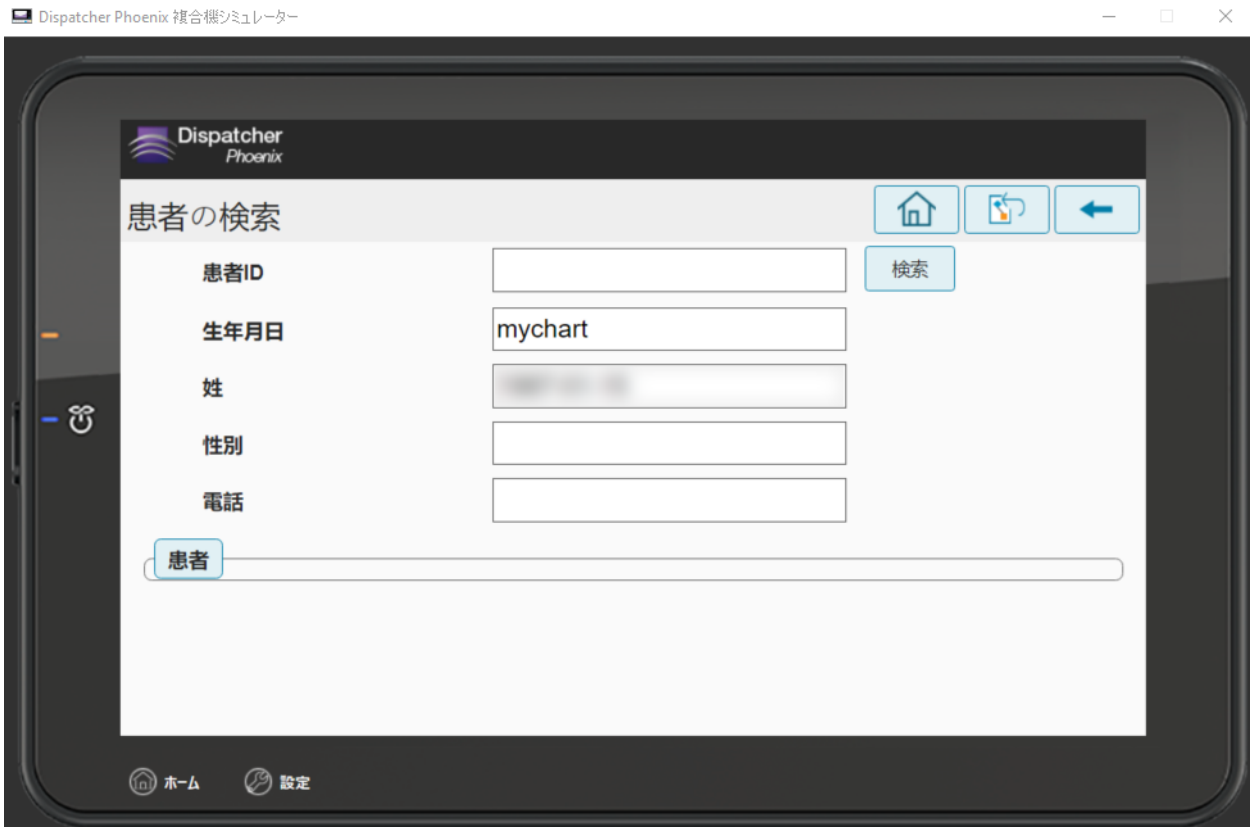
- 姓と生年月日

  または

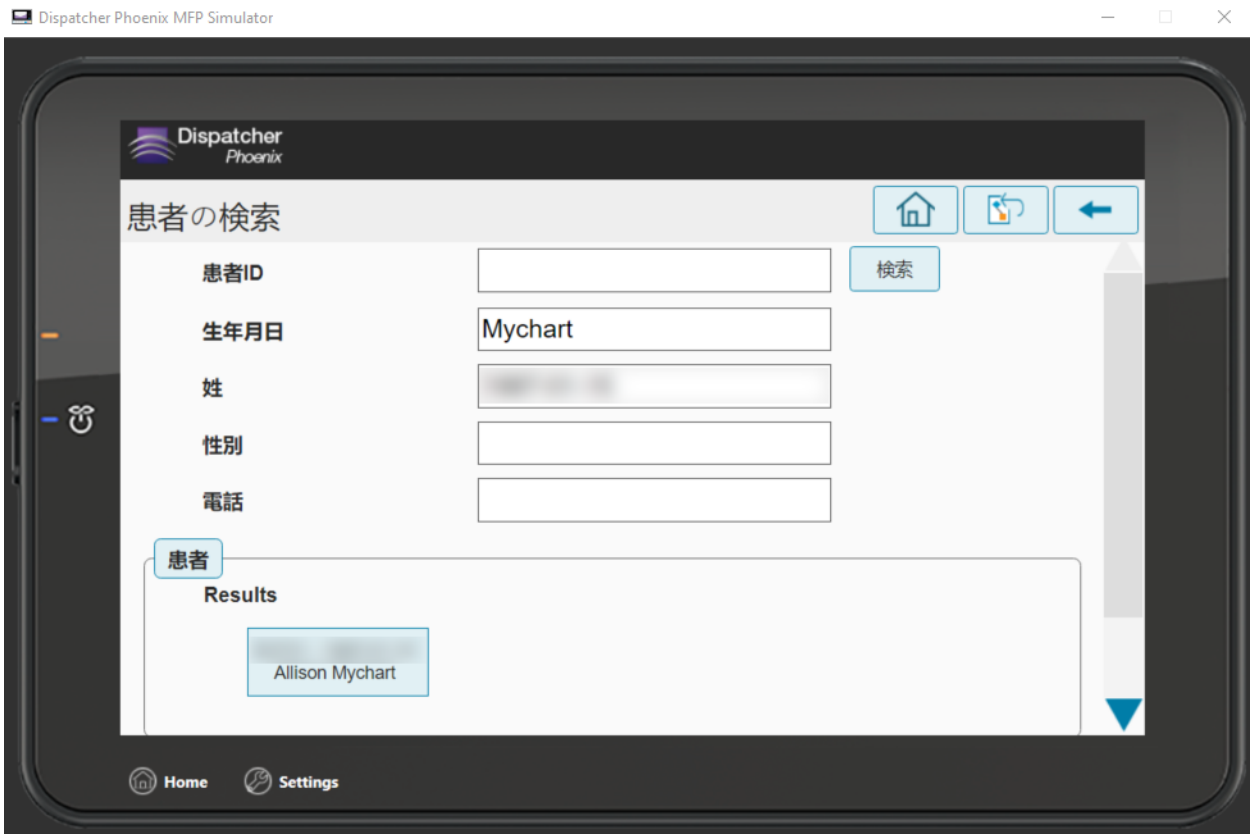
- 姓、性別および電話番号

注: 各オプションについて、患者の記録を正常に検索するには、すべてのフィールドに適切に入力する必要があります。

4. 次に、次の図のように **[検索]** ボタンをタップします。

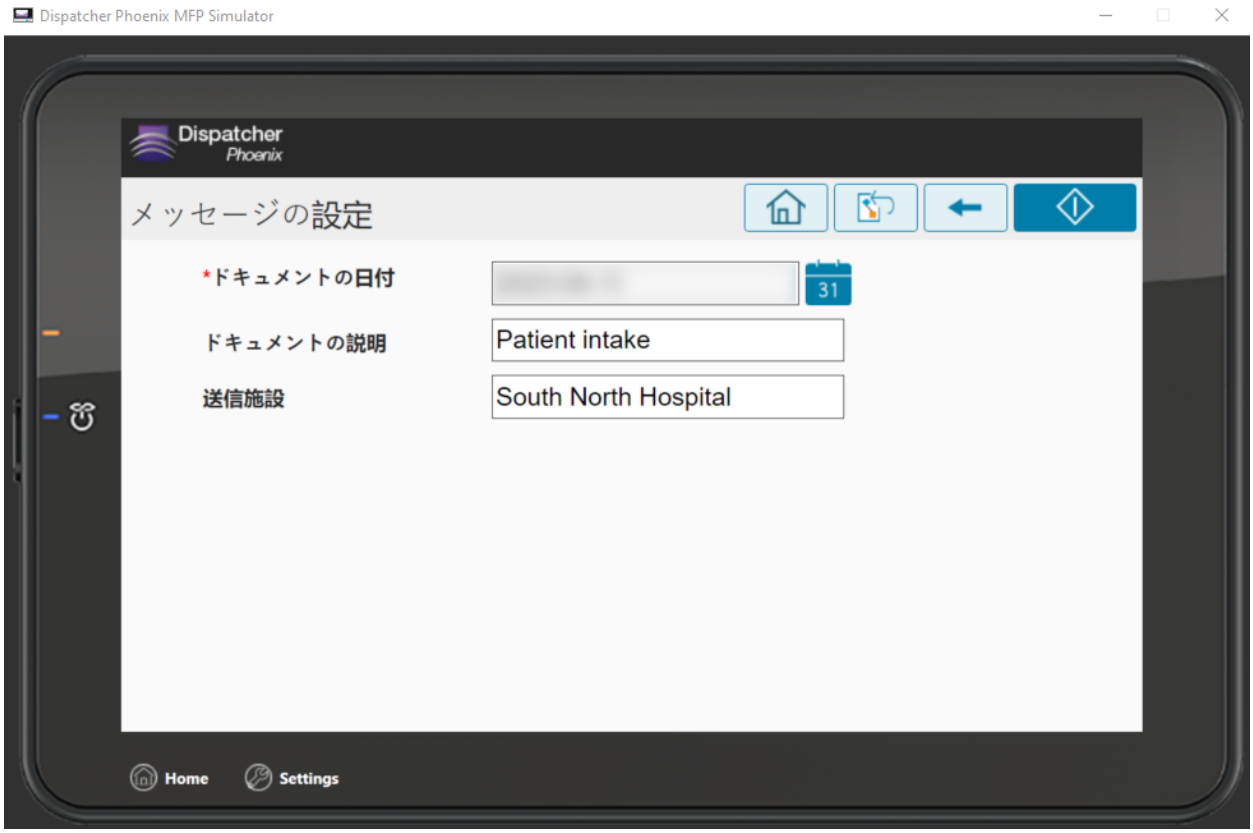


5. 入力した情報と一致する患者がいる場合は、次の図のように、画面の下部にボタンとして表示されます。



6. これにより、入力した基準に適合するすべての患者のリストが表示されます。次の図のように必要なものをタップします。

7. 患者を選択するか、患者の情報を手動で入力した後、次の図のように、ドキュメントに関する追加情報を入力することができます。



注: **ドキュメントの日付** フィールドは必須です。

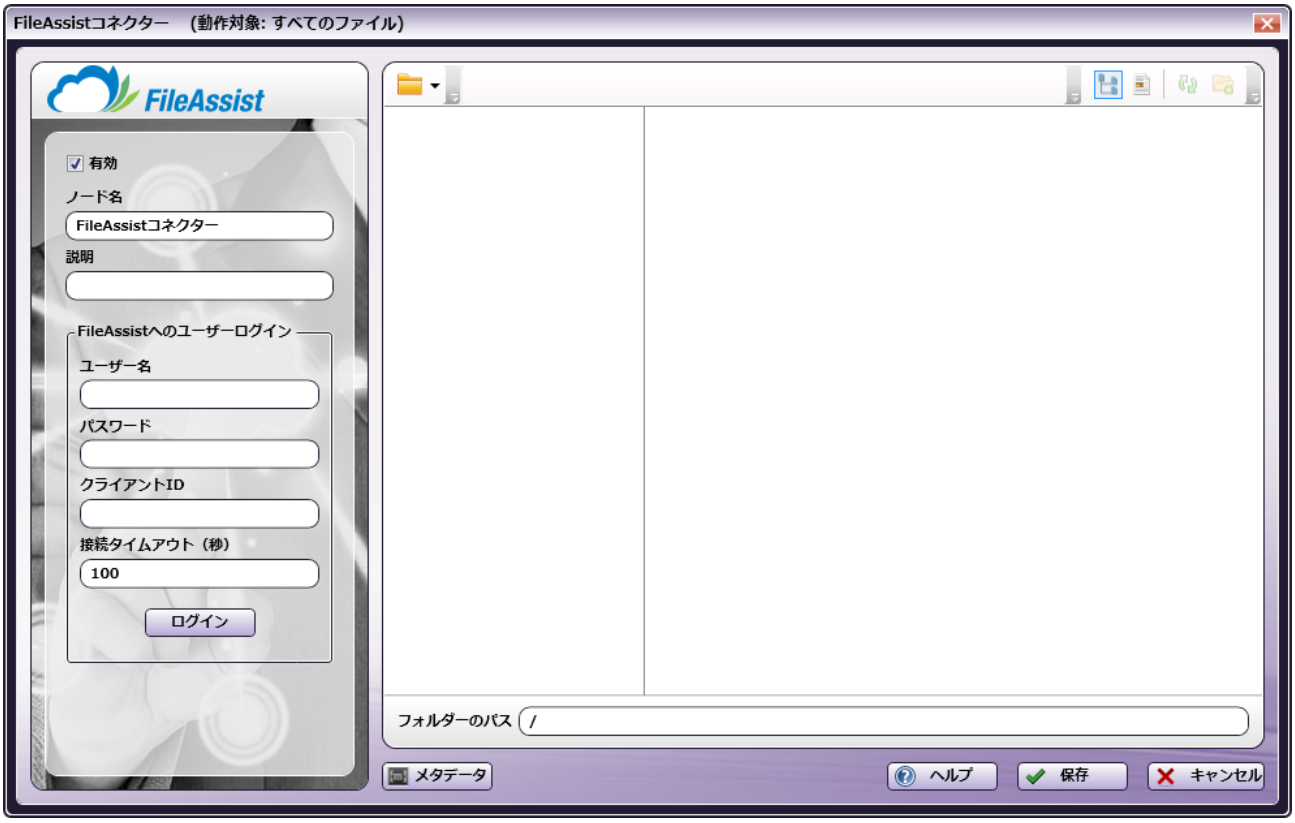
FileAssistコネクター

*日本では販売していないノードです。

FileAssistコネクターノードでは、クラウド保存とファイル同期を提供するコニカミノルタのファイルホスティングサービス、FileAssistにドキュメントを配信できます。ドキュメントは、自動化されたワークフローを経由してFileAssistに送信できますが、複合機パネルでFileAssistに直接アクセスすることもできます。

注: FileAssistコネクターを使用するには、FileAssistのアカウントを持っている必要があります。

FileAssistコネクターノードのプロパティウィンドウを表示するには、FileAssistの出力ノードをワークフローに追加し、それをダブルクリックします。



- 複数の出力場所がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合は、この出力は無視されます。ワークフローによって引き続き検証される一方で、ドキュメントは出力されないため失われる可能性があります。
- **[ノード名]** フィールドに、FileAssistコネクターノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、FileAssistコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先ノードを互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

FileAssistコネクターの構成

FileAssistコネクターを構成するには、まず自分のアカウントに接続するためにFileAssistから認証トークンを受け取る必要があります。これは、ノードプロパティウィンドウに自分のFileAssist資格情報を入力して行います。

FileAssistへの接続

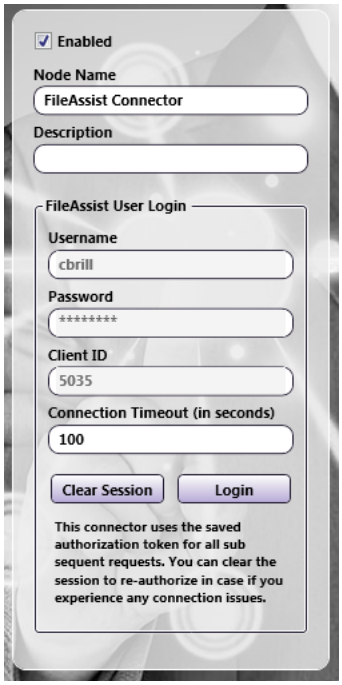
最初に、FileAssist資格情報を入力する必要があります。次の操作を行います。

1. [FileAssist認証]領域の **[ユーザー名]** フィールドと **[パスワード]** フィールドにFileAssist資格情報（アカウントの設定時に使用したユーザー名とFileAssistのパスワード）を入力し、自分の会社に割り当てられているクライアントIDを入力します。

   注: [クライアントID]フィールドは必須です。

   自動化されたワークフロー（自動的に入力フォルダーからFileAssistにファイルをアップロードするなど）を作成する場合は、FileAssistノードのプロパティウィンドウから少なくとも1度、FileAssistにログインしてFileAssistから有効なトークンを受け取る必要があります。

2. 必要に応じて、**[接続タイムアウト]** フィールドで、サーバーに最初に接続した後に通信が行われなくなってからタイムアウトになるまでの時間として割り当てられている秒数を変更します。タイムアウトの既定値は60秒です。
3. 完了したら、**[ログイン]** ボタンを選択します。認証に成功すると、次の図に示すように、**[トークンのクリア]** ボタンが新しく表示されます。

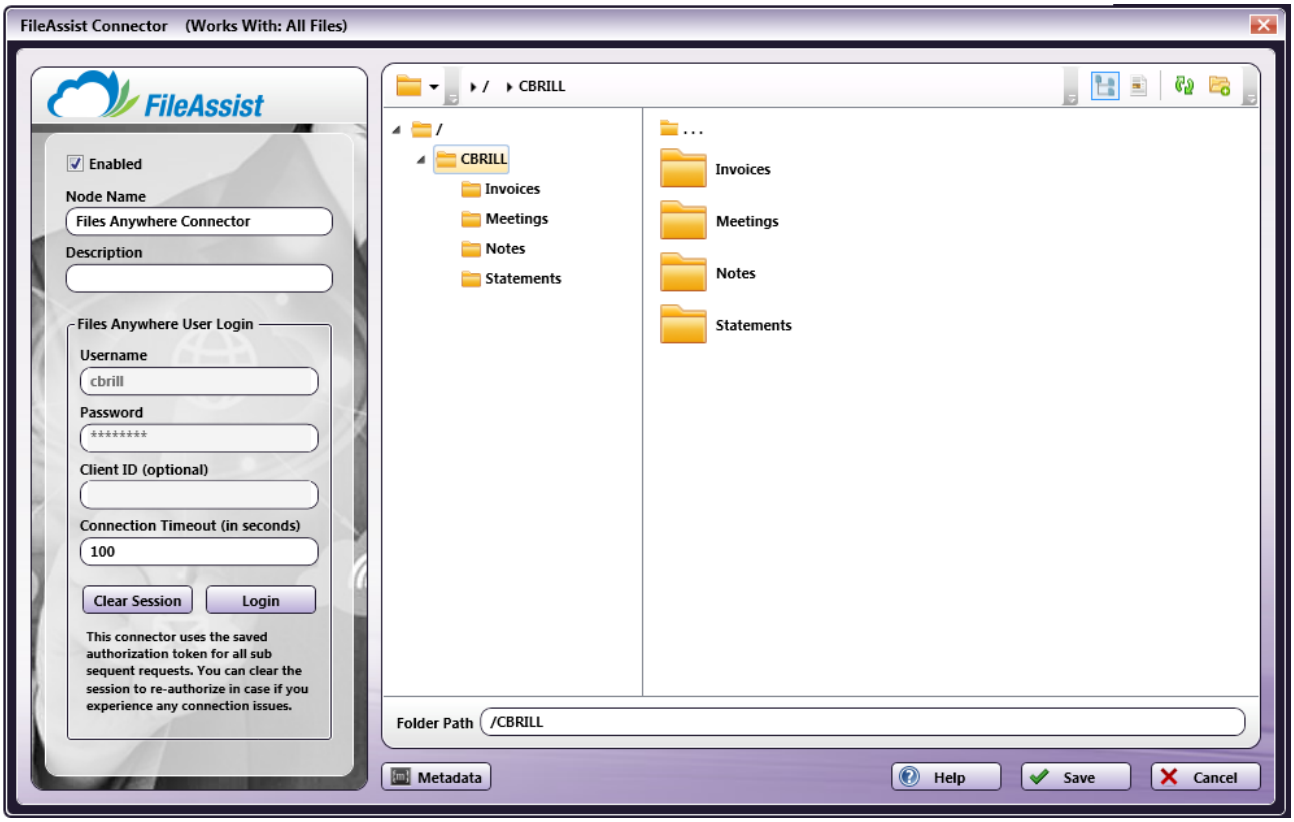


トークンが有効でなくなった場合は、**[セッションのクリア]** ボタンを選択してから、**[ログイン]** ボタンをもう一度選択します。

フォルダーの選択

接続すると、FileAssistノードのプロパティウィンドウの右側にFileAssist内のフォルダー、サブフォルダー、およびファイルのツリービューが表示されます。この領域を使用して、FileAssistフォルダー構造を参照し、ドキュメントの保存先フォルダーを選択します。

例については次の図を参照してください。

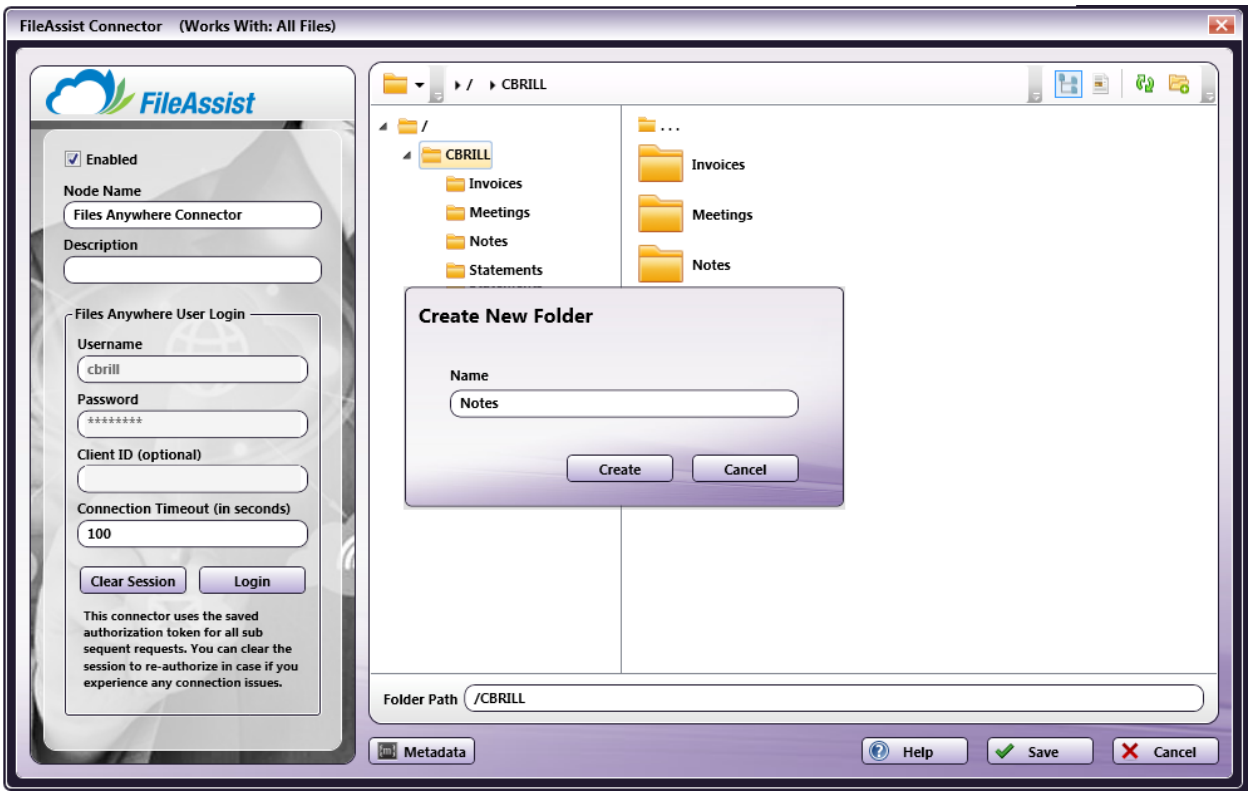


新規フォルダーへのドキュメントの送信

また、ドキュメントの送信先となる新規フォルダーをFileAssistに作成することもできます。次のいずれかの操作を行います。

- ウィンドウの右上にある **新規フォルダー** アイコン( )を選択するか、**Ctrl** + **Shift** + **N** キーを押します。

表示される[新規フォルダーの作成]ウィンドウで、**【名前】** フィールドに新規フォルダーの名前を入力してから、**【作成】** ボタンを選択します。新しく作成されたフォルダーが、[フォルダー]ビューに表示されます。次の図では、「Notes」という名前の新しいフォルダーが作成されています。



- **【フォルダーのパス】** フィールドに、新規フォルダーの名前を入力します。
- メタデータを使用して、実行時のフォルダーパスを指定します。

  たとえば、ゾーンOCRを使用して受信ドキュメントからクライアント名を抽出し、その後、そのOCRメタデータを[フォルダーのパス]フィールドで使用できます。この場合、クライアント名の付いたフォルダー名がFileAssistで作成され、ドキュメントは実行時に新規フォルダーへ自動的にアップロードされます。

  注: まだ存在していないフォルダー内にフォルダーを作成することはできません。たとえば、フォルダー内にフォルダーを作成するために2つの異なるメタデータ変数を使用することはできません（{bates:Counter}/{file:name}など）。

  メタデータを使用するには、以下の操作を行います。

  1. **【メタデータ】** ボタンを選択して、メタデータブラウザーウィンドウを開きます。
  2. メタデータブラウザーウィンドウで、目的のメタデータ変数を選択して、**【フォルダーのパス】** フィールドにドラッグアンドドロップします。

     メタデータのページ番号を手動で変数に追加する必要がある場合があります。例: `{ocr:zone.Name\[1\]}` は、1ページ目 のメタデータを検索します。または、メタデータの最初のドキュメントレベルの出現を見つけるために、空の括弧 (たとえば、`{ocr:zone.Name\[\]}`) を追加することもできます。
  3. メタデータブラウザーウィンドウの **【閉じる】** ボタンを選択します。

ファイル名の制約事項

ファイル名には以下の制約があります。

- ファイル名の先頭と末尾にはスペースを使用できません。
- ファイル名の先頭に2個のピリオド（..）を使用することはできません。
- 表示されない文字をファイル名に含めることはできません（タブ文字や改行文字など）。
- 次の文字は使用できません：< > : " / \ | ? *

表示オプション

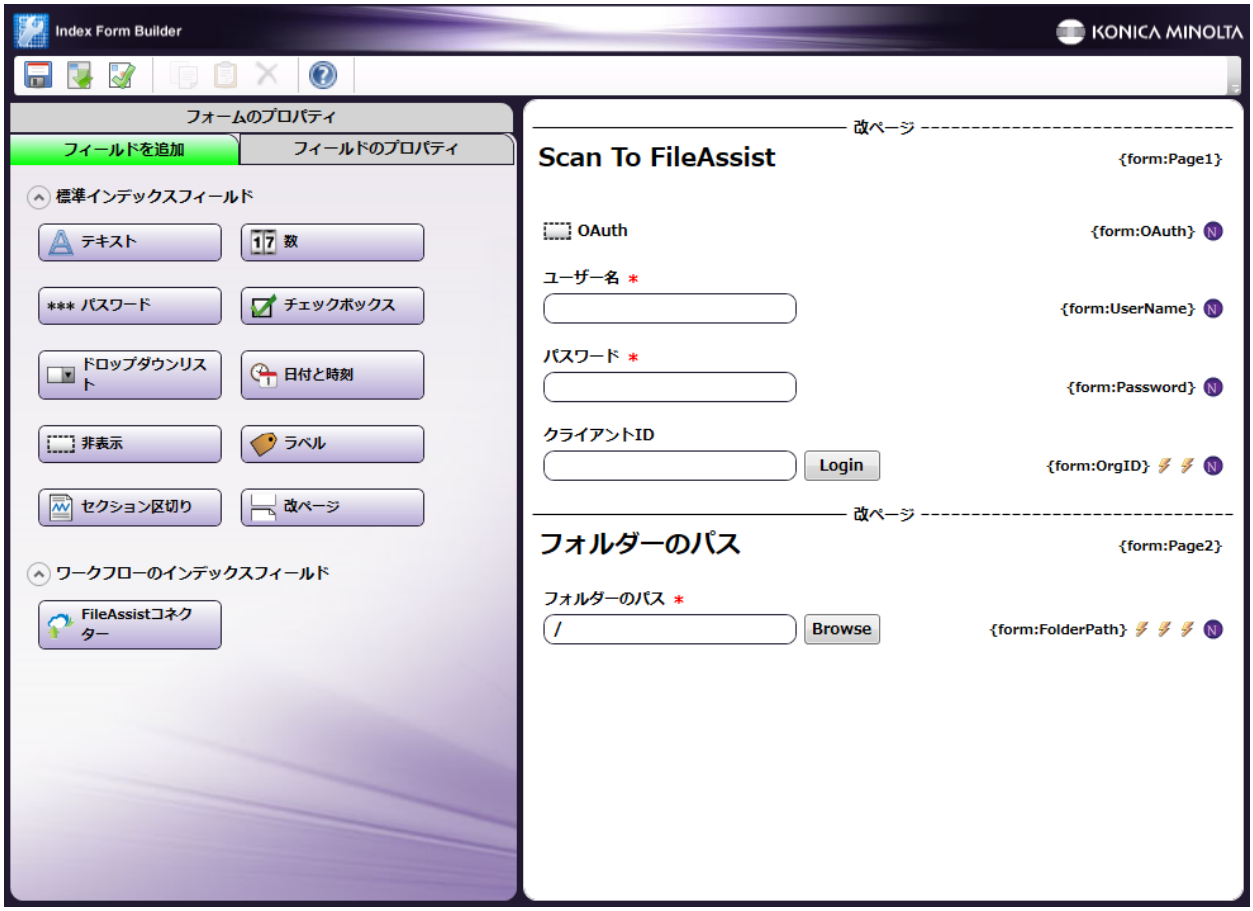
ウィンドウの右上にあるアイコンを使用して、ノードプロパティウィンドウ内のFileAssistフォルダー/ファイルの表示を調節することができます。次の操作を行います。

アイコン	説明
	フォルダーのツリービューを有効または無効にします。
	FileAssistフォルダーに含まれるファイルの表示/非表示を切り替えます。
	現在の表示を最新のフォルダー/ファイルに更新します。

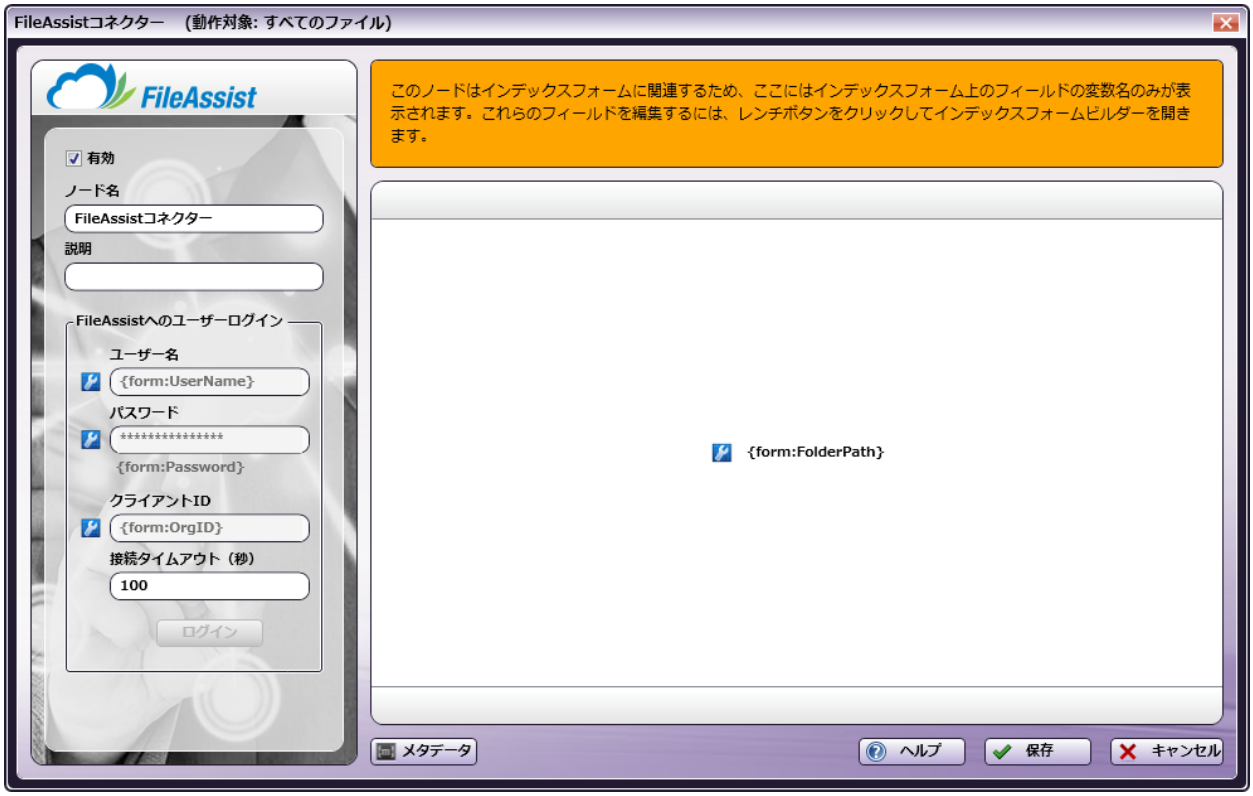
FileAssistコネクターのインデックスフォームの作成

複合機でFileAssistにログインしてスキャンしたドキュメントをFileAssistにアップロードできるようにするインデックスフォームを作成できます。次の操作を行います。

1. ワークフローに **複合機パネルノード** および **FileAssistコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
2. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。ワークフローのインデックスフィールド領域に[FileAssistコネクター]ボタンが表示されます。
3. **[FileAssistコネクター]** ボタンをドラッグして、インデックスフォームの作業領域にドロップします。次の図に示すように、[Scan to FileAssist]インデックスフォームが自動的に表示されます。



4. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
5. FileAssistコネクターノードのプロパティウィンドウには、インデックスフォームにあるフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウでフィールドを編集することはできませんが、レンチツールボタンをクリックすることで、インデックスフォームビルダー内の該当するセクションまたはフィールドに移動できます。次の図を参照してください。

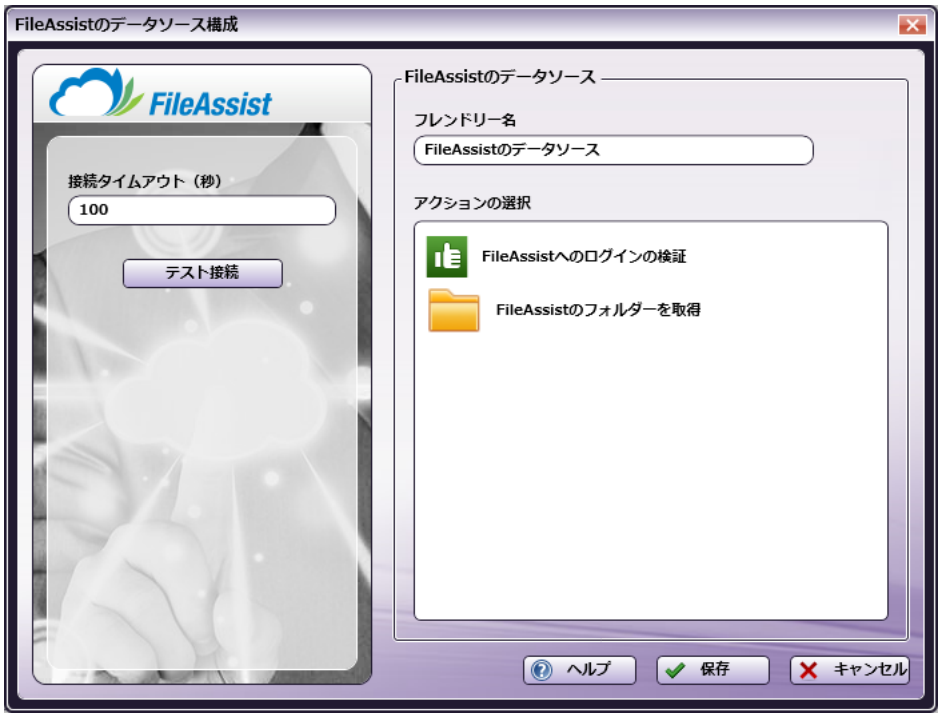


FileAssistの構成

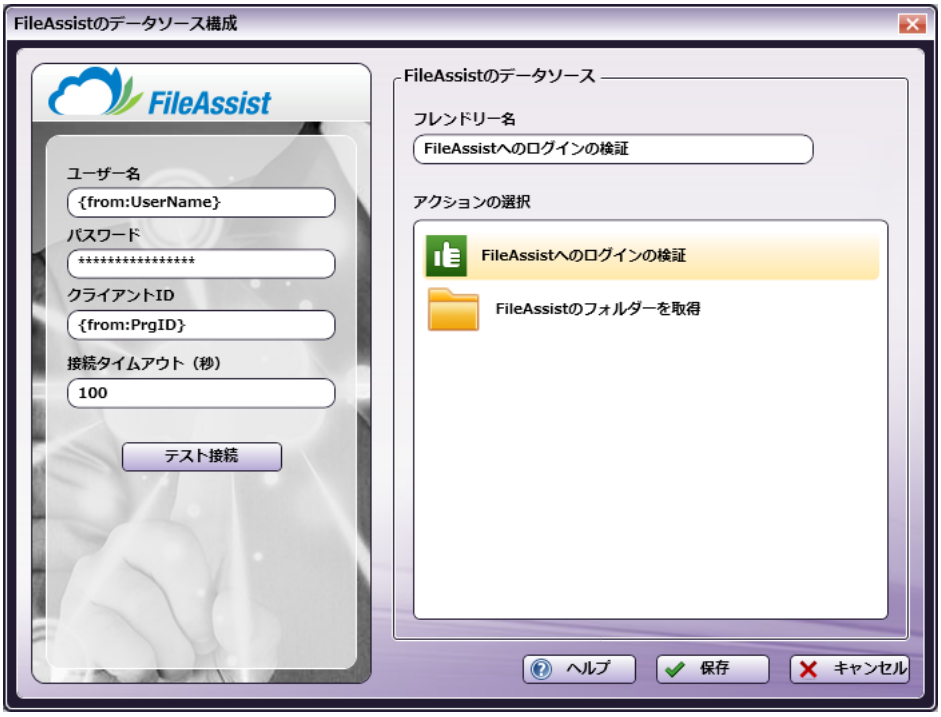
FileAssistからデータ（フォルダーのリストや検証など）を取得するためのクエリーを手動で構成することもできます。

インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[FileAssistのデータソース]** を選択します。
4. [FileAssistのデータソース構成]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、FileAssistからデータを取得するための特定のアクションを実行できます。



- **[フレンドリー名]** フィールドに、FileAssistのデータソース構成を識別する名前を入力します。
- **[操作]** 領域で、FileAssistのデータソースに対して実行するアクションの種類を選択できます。オプションは次のとおりです。
  - **[FileAssistへのログインの検証]** - このオプションをクリックすると、ウィンドウの左側に[ユーザー名]、[パスワード]、および[クライアントID]の各フィールドが表示されます。次の図では、これらのフィールドにインデックスフォームメタデータがすでに入力されています。



このオプションは、複合機で入力されたログイン資格情報（FileAssistユーザー名、パスワード、クライアントID）をFileAssistのデータソースと照合して検証するように設計されています。このアクションでは、次のレコードが返されます。

- [結果] - ログインの結果：trueまたはfalse
- [メッセージ] - 成功または失敗したログインに関するテキスト
- **[FileAssistのフォルダーを取得]** - このアクションを使用して、特定のFileAssistフォルダーパス内のフォルダーのリストを表示します。[FileAssistのフォルダーを取得]項目を選択すると、次の図のように構成に新しいフィールドが表示されます。

- **[フォルダーのパス]** - 複合機パネルに表示するFileAssistルートフォルダーの名前を入力します。
- **[新規フォルダーオプションの表示]** - このオプションにチェックマークを付けると、複合機で新しいFileAssistフォルダーを作成できるようになります。

- **[ファイルの表示]** - このオプションにチェックマークを付けると、複合機にFileAssistフォルダー内のファイルが表示されます。
- **[フォルダー検索の有効化]** - このオプションにチェックマークを付けると、パネルに表示されるFileAssistフォルダーのリストを絞り込むために使用する[検索]フィールドが表示されます。[検索]フィールドでは先行入力機能がサポートされています。このオプションは既定で有効になっています。
- **[テスト接続]** ボタンを選択して、FileAssistに正しく接続していることを確認できます。

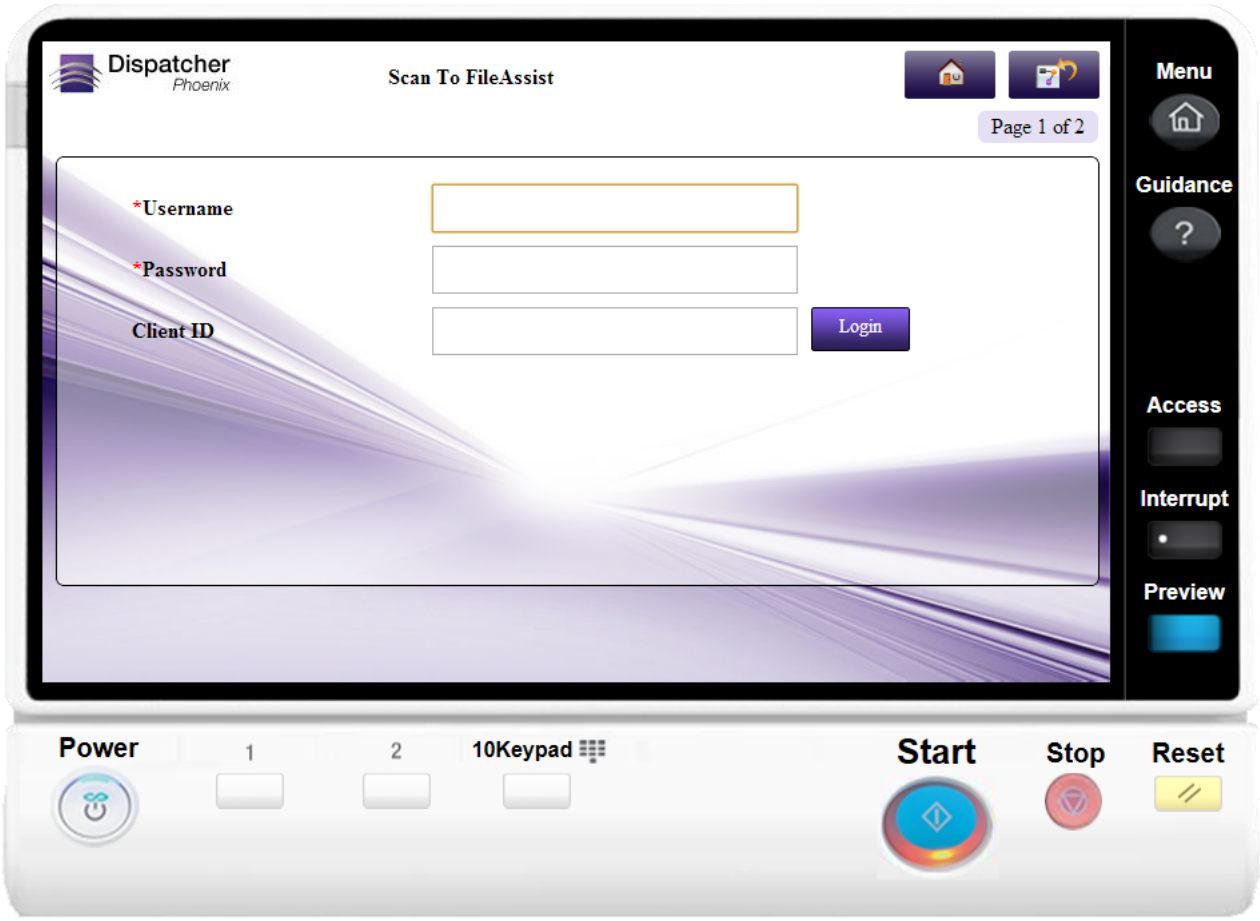
複数の入力でのFileAssistコネクターインデックスフォームの使用

FileAssistコネクターノードを複合機パネルノードのインデックスフォームと関連付けると、FileAssistへの接続および経路指定に必要なすべての情報が複合機で入力されます。このため、他のタイプの収集ノード（入力フォルダー、複合機など）を、ワークフロー内のインデックス付けされたFileAssistコネクターノードに接続することはできません。この場合、ワークフローに別の収集ノードを追加する必要がある場合は、インデックスフォームに接続されていない新しいFileAssistノードを追加する必要があります。

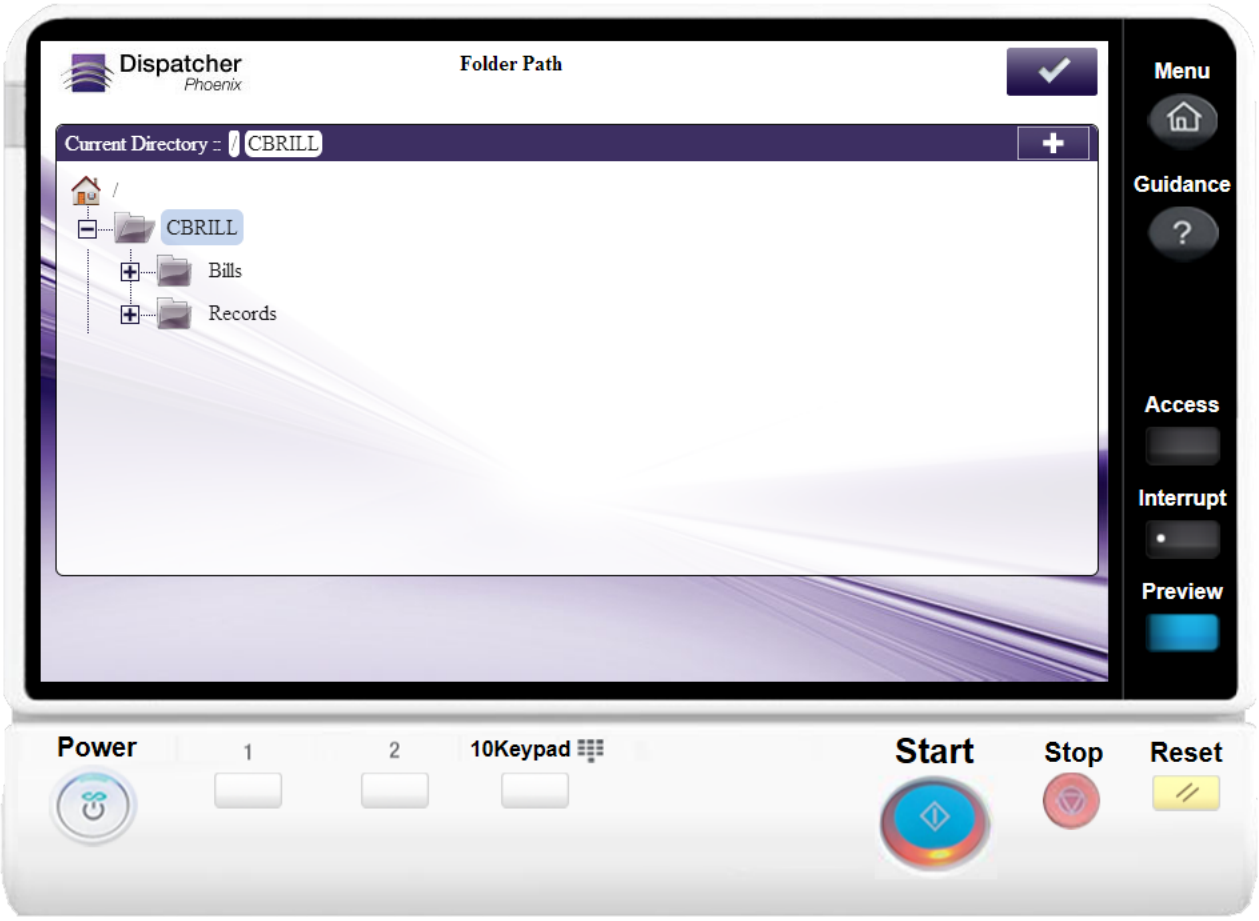
複合機上のFileAssistインデックスフォーム

複合機では、FileAssistインデックスフォームは以下のように3つの独立した画面に分割されます。

1つ目の画面：FileAssistのログイン



2つ目の画面：FileAssistフォルダーの選択/新規FileAssistフォルダーの作成

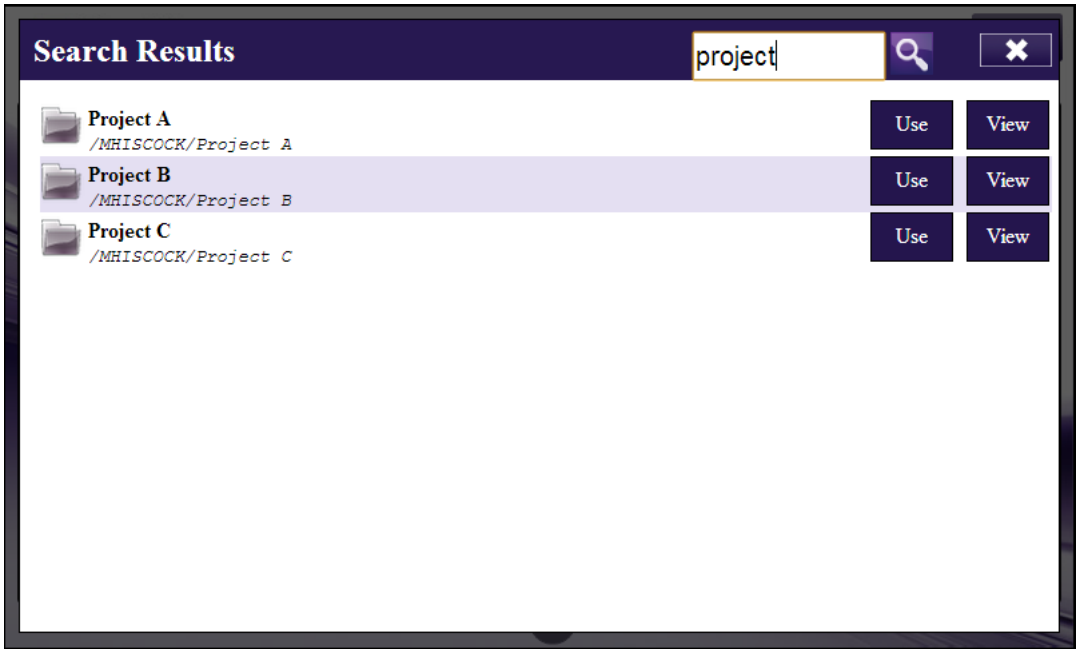


フォルダーのリストを絞り込むために使用する **[検索]** フィールドが用意されています。このフィールドは、画面に表示されるフォルダーをすばやく選別するのに役立つ先行入力機能をサポートしています。フィールドに文字を入力し始めると、それに応じてフォルダーが選別されます。検索操作はルートディレクトリ内のフォルダーおよびサブフォルダーに対して実行されます。

- ワイルドカードのアスタリスク(*)を使用して、任意の文字列を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「inv * 」と入力すると、この3文字で始まるフォルダーがすべて表示されます（inv01、inv02、invoiceなど）。または、[検索]フィールドに「 * inv」と入力すると、この3文字で終わるフォルダーがすべて表示されます（01inv、02invなど）。
- ワイルドカードの疑問符（?）を使用して、任意の1文字を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「INV0?」と入力すると、INV01、INV02、INV03などのフォルダーが表示されます。

検索によってフォルダーのリストをフィルター処理すると、以下の操作を行うことができます。

- 特定のフォルダーを選択するには、**[使用]** ボタンをタップします。
- その特定のフォルダーのディレクトリ構造表示に戻るには、**[表示]** ボタンをタップします。
- 選別を解除するには、[検索]フィールドの隣にある ボタンをタップします。
- 再び検索基準を提示するには、フィールドの隣にある **[検索]** アイコンをタップします。



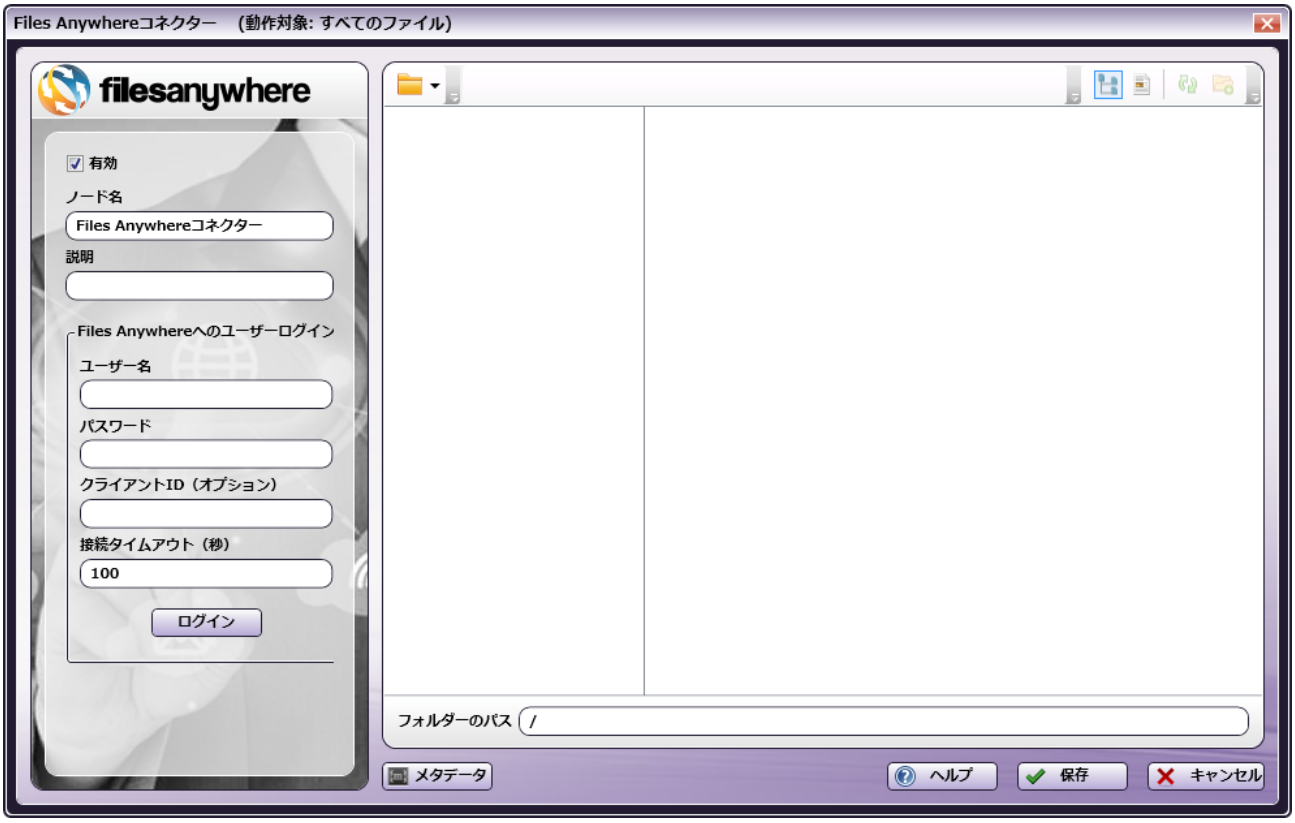
FilesAnywhereコネクター

*日本では販売していないノードです。

FilesAnywhereコネクターノードでは、クラウド保存とファイル同期を提供するファイルホスティングサービスであるFilesAnywhereにドキュメントを配信できます。ドキュメントは、自動化されたワークフローを経由してFilesAnywhereに送信できますが、複合機パネルでFilesAnywhereに直接アクセスすることもできます。

注: FilesAnywhereコネクターを使用するには、FilesAnywhereのアカウントを持っている必要があります。

FilesAnywhereコネクターノードのプロパティウィンドウを表示するには、FilesAnywhereの出力ノードをワークフローに追加し、それをダブルクリックします。



- 複数の出力場所がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合は、この出力は無視されます。ワークフローによって引き続き検証される一方で、ドキュメントは出力されないため失われる可能性があります。
- **[ノード名]** フィールドに、FilesAnywhereコネクターノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、FilesAnywhereコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先ノードを互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

FilesAnywhereコネクターの構成

FilesAnywhereコネクターを構成するには、まず自分のアカウントに接続するためにFilesAnywhereから認証トークンを受け取る必要があります。これは、ノードプロパティウィンドウに自分のFilesAnywhere資格情報を入力して行います。

FilesAnywhereへの接続

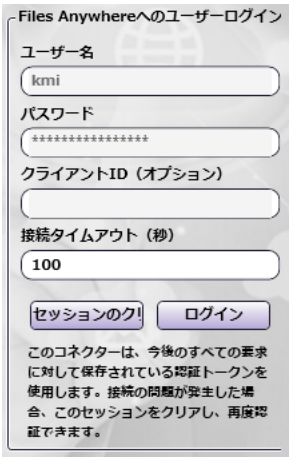
最初に、FilesAnywhere資格情報を入力する必要があります。次の操作を行います。

1. **FilesAnywhere認証領域の[ユーザー名]** フィールドと **[パスワード]** フィールドにFilesAnywhere資格情報（アカウントの設定時に使用したユーザー名とFilesAnywhereのパスワード）を入力し、自分の会社に割り当てられているクライアントIDを入力します。

   注: 個人のFilesAnywhereアカウントを使用している場合は、クライアントIDを入力する必要はありません。

   自動化されたワークフロー（自動的に入力フォルダーからFilesAnywhereにファイルをアップロードするなど）を作成する場合は、FilesAnywhereノードのプロパティウィンドウから少なくとも1度、FilesAnywhereにログインしてFilesAnywhereから有効なトークンを受け取る必要があります。

2. 必要に応じて、**[接続タイムアウト]** フィールドで、サーバーに最初に接続した後に通信が行われなくなってからタイムアウトになるまでの時間として割り当てられている秒数を変更します。タイムアウトの既定値は60秒です。
3. 完了したら、**[ログイン]** ボタンを選択します。認証に成功すると、次の図に示すように、**[セッションのクリア]** ボタンが新しく表示されます。

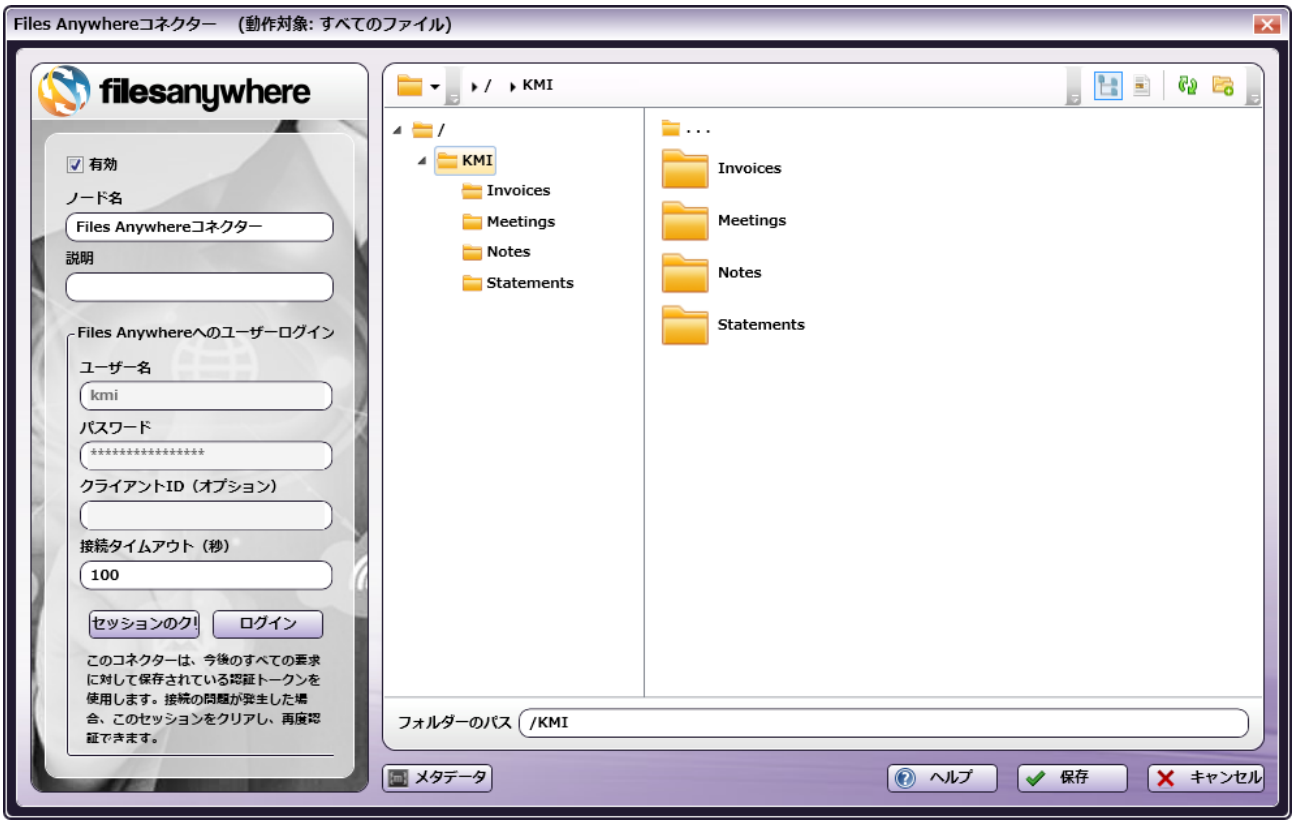


トークンが有効でなくなった場合は、**[セッションのクリア]** ボタンを選択してから、**[ログイン]** ボタンをもう一度選択します。

フォルダーの選択

接続すると、FilesAnywhereノードのプロパティウィンドウの右側にFilesAnywhere内のフォルダー、サブフォルダー、およびファイルのツリービューが表示されます。この領域を使用して、FilesAnywhereフォルダー構造を参照し、ドキュメントの保存先フォルダーを選択します。

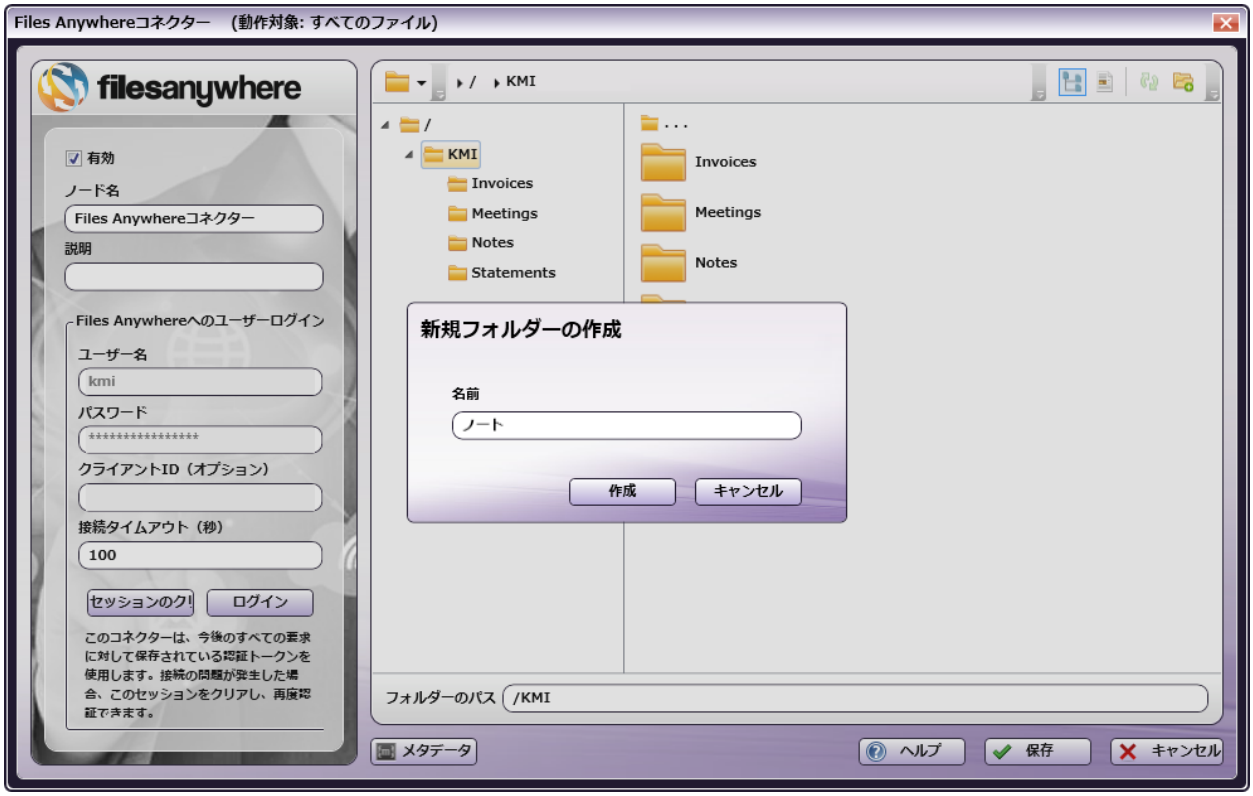
例については次の図を参照してください。



新規フォルダーへのドキュメントの送信

また、ドキュメントの送信先となる新規フォルダーをFilesAnywhereに作成することもできます。次のいずれかの操作を行います。

- ウィンドウの右上にある**新規フォルダー**アイコン( )を選択するか、**Ctrl** + **Shift** + **N** キーを押します。表示される[新規フォルダーの作成]ウィンドウで、**[名前]** フィールドに新規フォルダーの名前を入力してから、**[作成]** ボタンを選択します。新しく作成されたフォルダーが、フォルダービューに表示されます。次の図では、「ノート」という名前の新しいフォルダーが作成されています。



- **[フォルダーのパス]** フィールドに、新規フォルダーの名前を入力します。
- メタデータを使用して、実行時のフォルダーパスを指定します。たとえば、ゾーンOCRを使用して受信ドキュメントからクライアント名を抽出し、その後、そのOCRメタデータを[フォルダーのパス]フィールドで使用できます。この場合、クライアント名の付いたフォルダー名がFilesAnywhereで作成され、ドキュメントは実行時に新規フォルダーへ自動的にアップロードされます。

注: まだ存在していないフォルダー内にフォルダーを作成することはできません。たとえば、フォルダー内にフォルダーを作成するために2つの異なるメタデータ変数を使用することはできません（{bates:Counter}/{file:name}など）。

メタデータを使用するには、以下の操作を行います。

1. **[メタデータ]** ボタンを選択して、メタデータブラウザーウィンドウを開きます。
2. メタデータブラウザーウィンドウで、目的のメタデータ変数を選択して、**[フォルダーのパス]** フィールドにドラッグアンドドロップします。メタデータのページ番号を変数に手動で追加する必要が生じる場合があります。例：{ocr:zone.Name[1]}では、1ページ目のメタデータが検索されます。または、空の角カッコを追加することで（{ocr:zone.Name[]}など）、ドキュメント内の最初に存在するメタデータを検索できます。
3. メタデータブラウザーウィンドウの **[閉じる]** ボタンを選択します。

ファイル名の制約事項

ファイル名には以下の制約があります。

- ファイル名の先頭と末尾にはスペースを使用できません。
- ファイル名の先頭に2個のピリオド（..）を使用することはできません。
- 表示されない文字をファイル名に含めることはできません（タブ文字や改行文字など）。
- 次の文字は使用できません：< > : " / \ | ? *

表示オプション

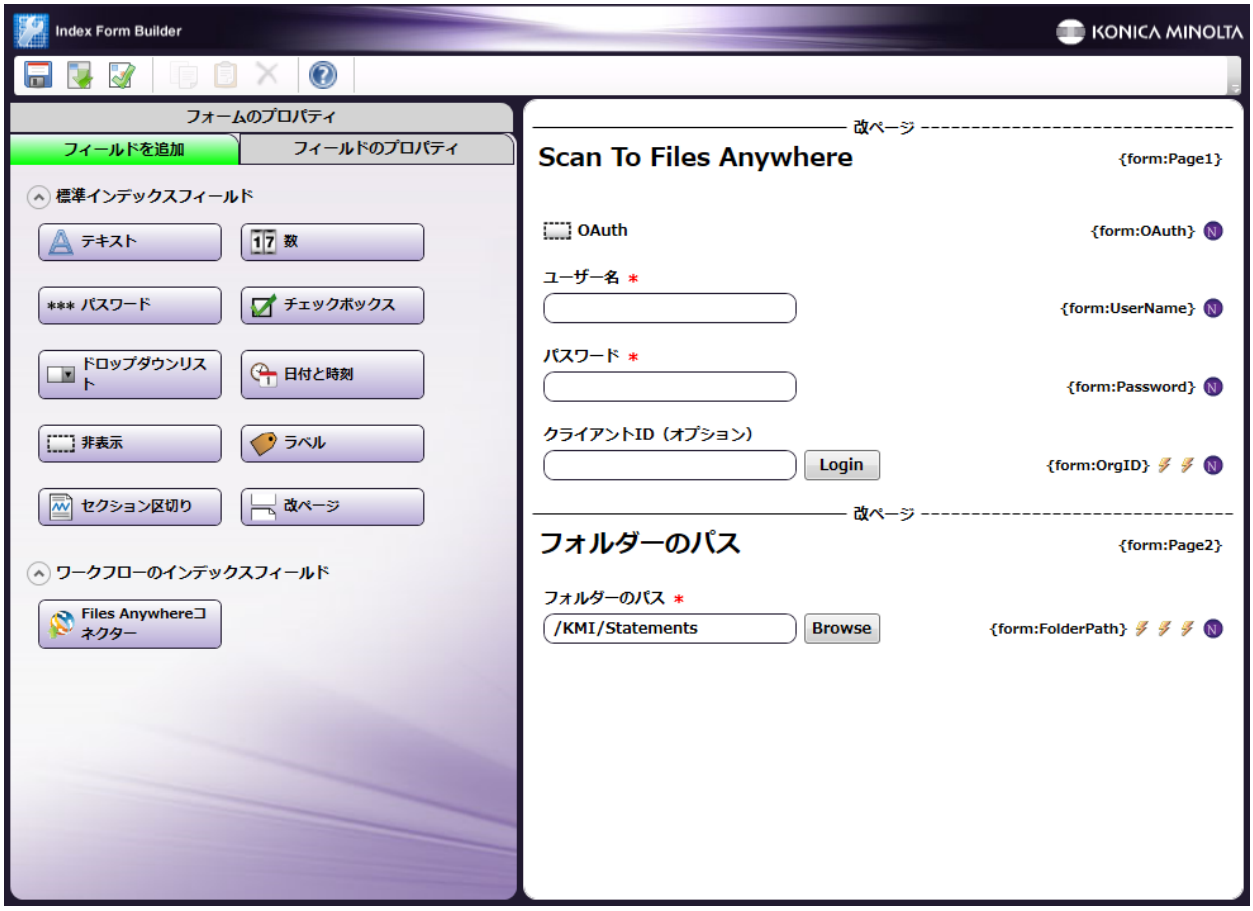
ウィンドウの右上にあるアイコンを使用して、ノードプロパティウィンドウ内のFilesAnywhereフォルダー/ファイルの表示を調節することができます。次の操作を行います。

アイコン	説明
	フォルダーのツリービューを有効または無効にします。
	FilesAnywhereフォルダーに含まれるファイルの表示/非表示を切り替えます。
	現在の表示を最新のフォルダー/ファイルに更新します。

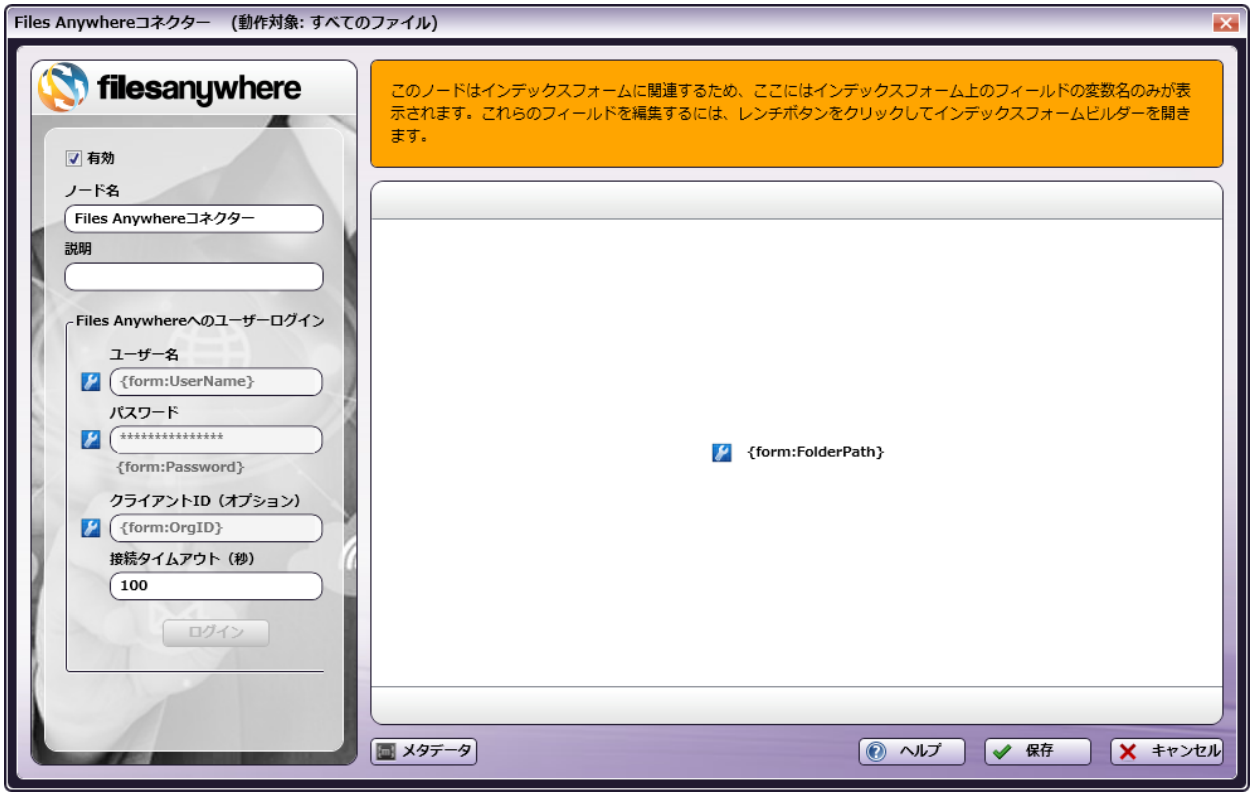
FilesAnywhereコネクターのインデックスフォームの作成

複合機でFilesAnywhereにログインしてスキャンしたドキュメントをFilesAnywhereにアップロードできるようにするインデックスフォームを作成できます。次の操作を行います。

1. ワークフローに**複合機パネルノード**および**FilesAnywhereコネクター**ノードが含まれていることを確認します。
2. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に[FilesAnywhereコネクター]ボタンが表示されます。
3. **[FilesAnywhereコネクター]** ボタンをドラッグして、インデックスフォームの作業領域にドロップします。次の図に示すように、[Scan to FilesAnywhere]インデックスフォームが自動的に表示されます。



4. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
5. FilesAnywhereコネクターノードのプロパティウィンドウには、インデックスフォームにあるフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウでフィールドを編集することはできませんが、スパナツールボタンをクリックすることで、インデックスフォームビルダー内の該当するセクションまたはフィールドに移動できます。次の図を参照してください。



FilesAnywhereの構成

FilesAnywhereからデータ（フォルダーのリスト、検証など）を取得するためのクエリーを手動で構成することもできます。

インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー**を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[FilesAnywhereデータソース]** を選択します。
4. これにより表示される[FilesAnywhereのデータソース構成]ウィンドウでは、FilesAnywhereからデータを取得するための特定のアクションを実行できます。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、FilesAnywhereデータソース構成を識別する名前を入力します。
- **[操作]** 領域で、FilesAnywhereデータソースに対して実行するアクションの種類を選択できます。オプションは次のとおりです。
- **[FilesAnywhereへのログインの検証]** — このオプションをクリックすると、ウィンドウの左側に[ユーザー名]、[パスワード]、および[クライアントID]の各フィールドが表示されます。次の図では、これらのフィールドにインデックスフォームメタデータがすでに入力されています。

このオプションは、複合機で入力されたログイン資格情報（FilesAnywhereユーザー名、パスワード、クライアントID）をFilesAnywhereデータソースと照合して検証するように設計されています。このアクションでは、次のレコードが返されます。

- `\[結果\]` – ログインの結果:`true`または`false`。
- `\[メッセージ\]` – 成功または失敗したログインに関するテキスト。

- **[FilesAnywhereのフォルダーを取得]** - このアクションを使用して、特定のFilesAnywhereフォルダーパス内のフォルダーのリストを表示します。[FilesAnywhereのフォルダーを取得]項目を選択すると、次の図のように構成に新しいフィールドが表示されます。

- **[フォルダーのパス]** — 複合機パネルに表示するFilesAnywhereルートフォルダーの名前を入力します。
- **[新規フォルダーオプションの表示]** — このオプションにチェックマークを付けると、複合機で新しいFilesAnywhereフォルダーを作成できるようになります。

- **[ファイルの表示]** — このオプションにチェックマークを付けると、複合機にFilesAnywhereフォルダー内のファイルが表示されます。
- **[フォルダー検索の有効化]** — このオプションにチェックマークを付けると、パネルに表示されるFilesAnywhereフォルダーのリストを絞り込むために使用する[検索]フィールドが表示されます。[検索]フィールドでは先行入力機能がサポートされています。このオプションは既定で有効になっています。
- **[テスト接続]** ボタンを選択して、FilesAnywhereに正しく接続していることを確認できます。

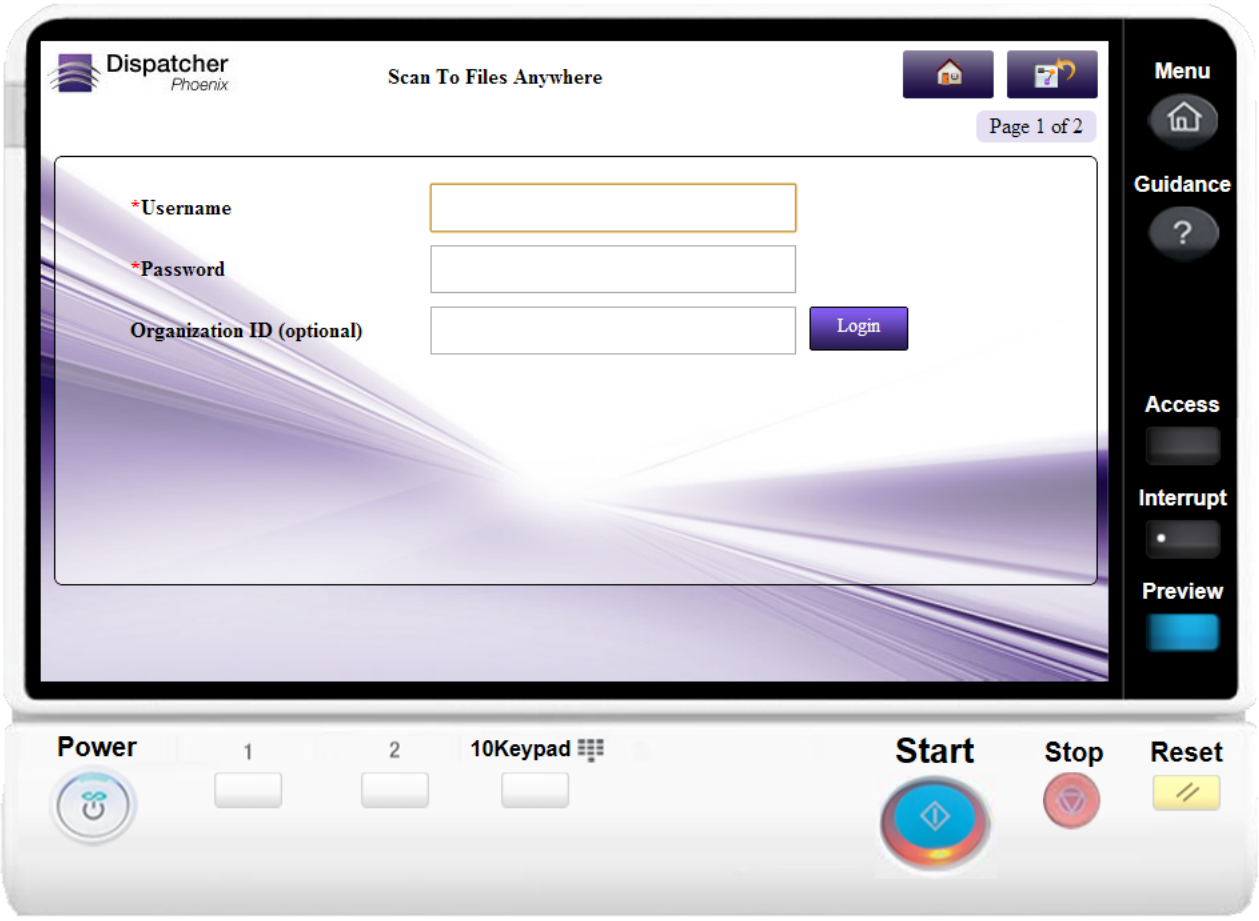
複数の入力でのFilesAnywhereコネクターインデックスフォームの使用

FilesAnywhereコネクターノードを複合機パネルノードのインデックスフォームと関連付けると、FilesAnywhereへの接続および経路指定に必要なすべての情報が複合機で入力されます。このため、他のタイプの収集ノード（入力フォルダーや複合機など）を、ワークフロー内のインデックス付けされたFilesAnywhereコネクターノードに接続することはできません。この場合、ワークフローに別の収集ノードを追加する必要がある場合は、インデックスフォームに接続されていない新しいFilesAnywhereノードを追加する必要があります。

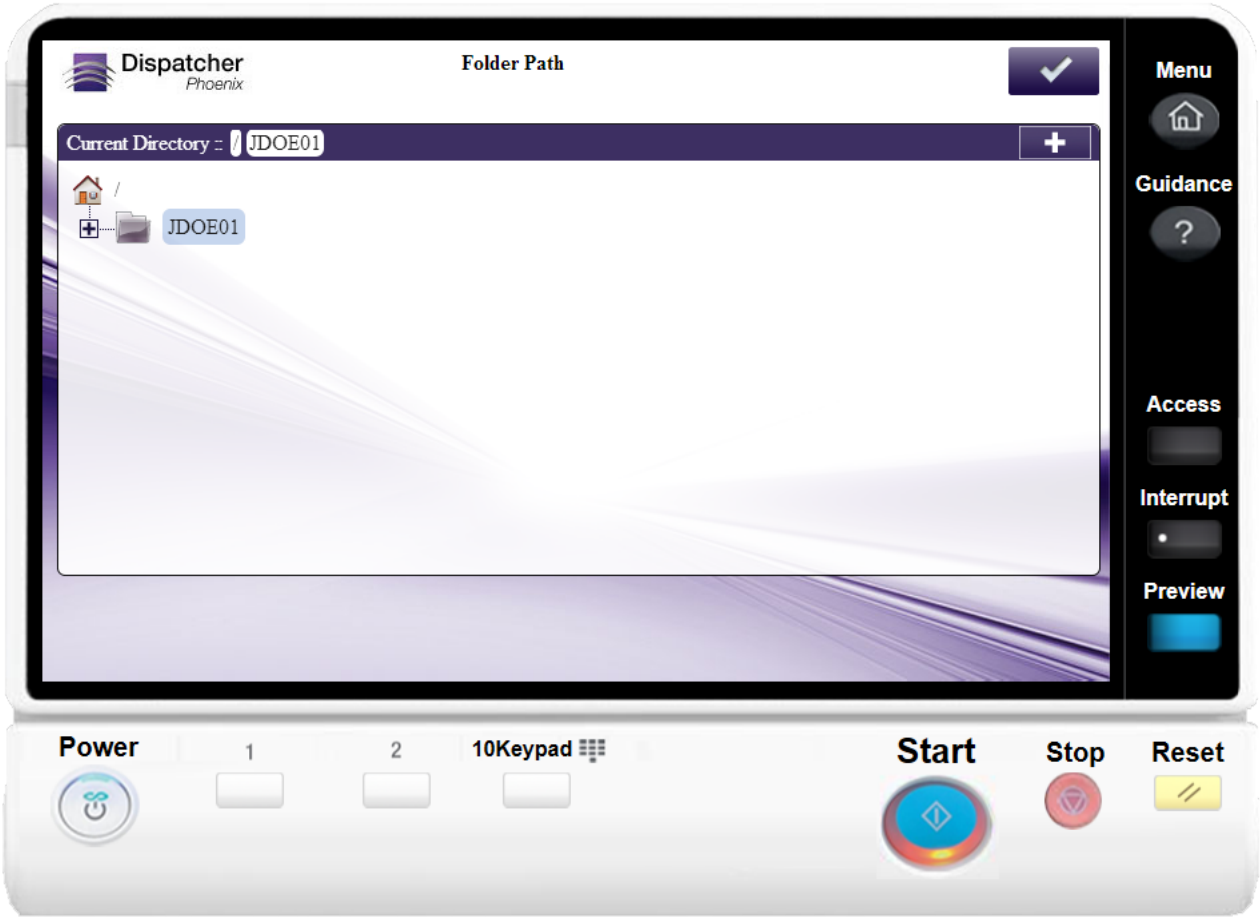
複合機上のFilesAnywhereインデックスフォーム

複合機では、FilesAnywhereインデックスフォームは以下のように3つの独立した画面に分割されます。

1つ目の画面: FilesAnywhereのログイン



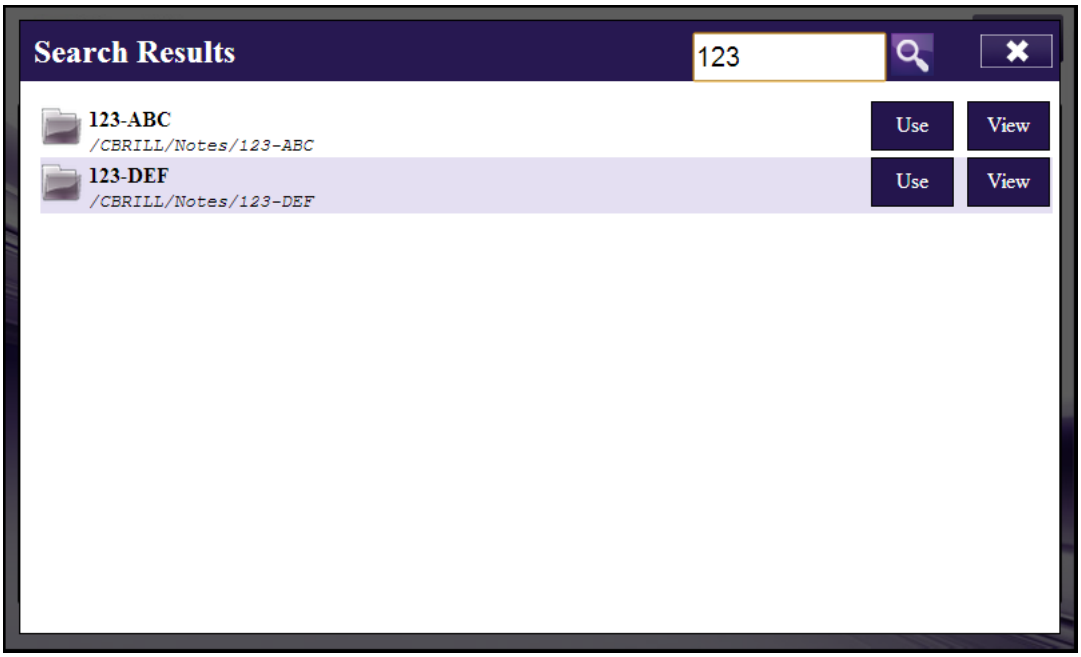
2つ目の画面: FilesAnywhereフォルダーの選択/新規FilesAnywhereフォルダーの作成



フォルダーのリストを絞り込むために使用する **[検索]** フィールドが用意されています。このフィールドは、画面に表示されるフォルダーをすばやく選別するのに役立つ先行入力機能をサポートしています。フィールドに文字を入力し始めると、それに応じてフォルダーが選別されます。検索操作はルートディレクトリ内のフォルダーおよびサブフォルダーに対して実行されます。

- ワイルドカードのアスタリスク（＊）を使用して、任意の文字列を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「inv＊」と入力すると、この3文字で 始まるフォルダーがすべて表示されます（inv01、inv02、invoiceなど）。または、[検索]フィールドに「* inv」と入力すると、この3文字で終わるフォルダーがすべて表示されます（01inv、02invなど）。
- ワイルドカードの疑問符（?）を使用して、任意の1文字を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「INV0?」と入力すると、INV01、INV02、INV03などのフォルダーが表示されます。

3つ目の画面: 検索結果の表示



検索によってフォルダーのリストをフィルター処理すると、以下の操作を行うことができます。

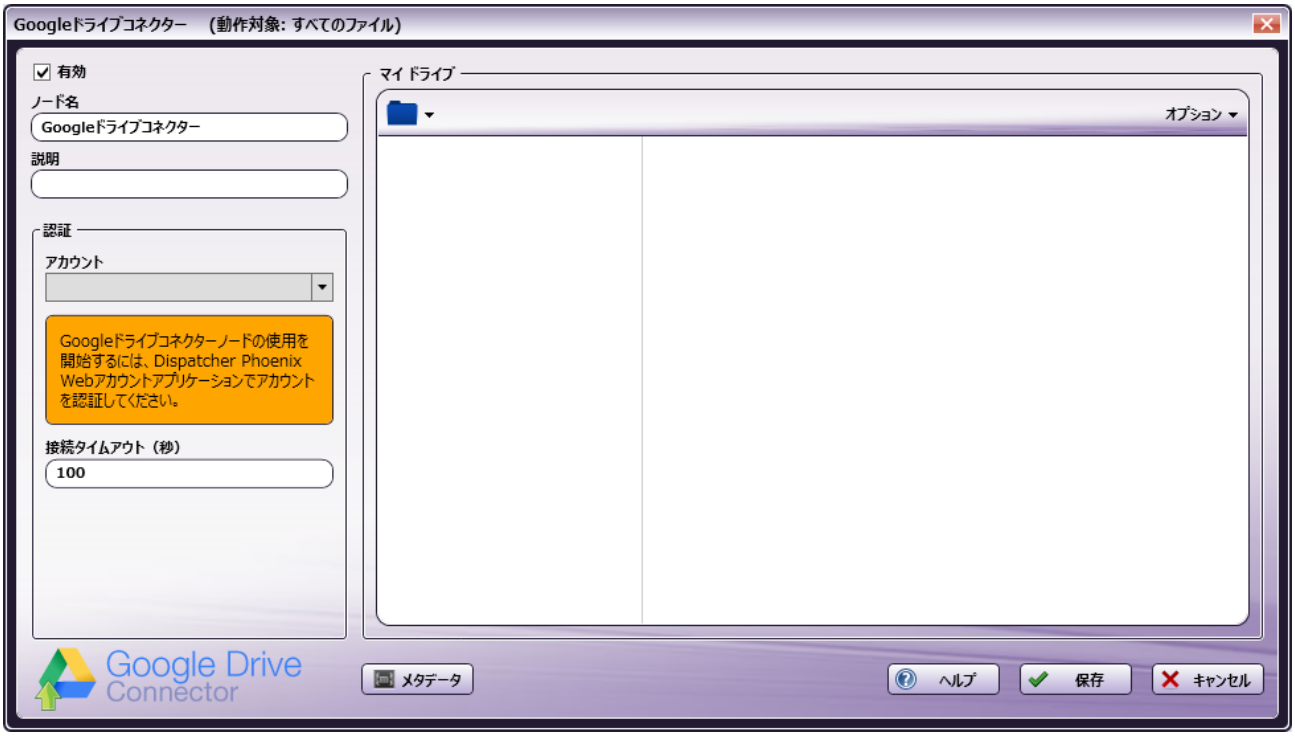
- 特定のフォルダーを選択するには、**[使用]** ボタンをタップします。
- その特定のフォルダーのディレクトリ構造表示に戻るには、**[表示]** ボタンをタップします。
- 選別を解除するには、[検索]フィールドの隣にある ボタンをタップします。
- 再び検索基準を提示するには、フィールドの隣にある **[検索]** アイコンをタップします。

Googleドライブコネクター

Googleドライブコネクターノードを使用すると、Googleドライブ（Googleが作成したファイルストレージおよび同期サービス）にドキュメントを配信できます。自動ワークフローによってGoogleドライブにドキュメントを送信することも、複合機のパネルから直接Googleドライブにアクセスすることもできます。

注: Googleドライブコネクターを使用するには、Googleドライブのアカウントが必要です。

Googleドライブコネクターノード のプロパティウィンドウを開くには、ワークフローにGoogleドライブの出力ノードを追加して、そのノードをダブルクリックします。



- 複数の出力場所がある場合は、**[有効]** ボックスをチェックします。チェックを外すと、この出力は無視されます。ドキュメントは、ワークフローでは引き続き有効と見なされますが、出力されることはなく、失われる可能性もあります。
- **[ノード名]** フィールドに、Googleドライブコネクターノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、Googleドライブコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の宛先ノードをそれぞれ区別するのに役立ちます。説明が長い場合は、このフィールドにマウスを合わせるとすべての内容を読むことができます。

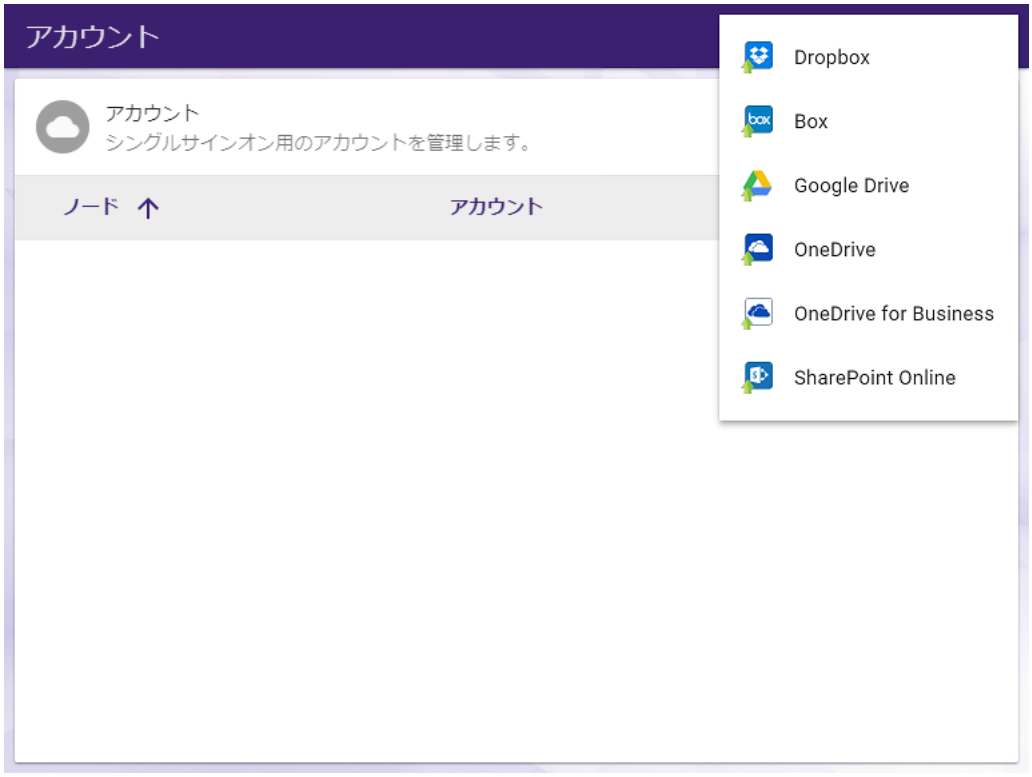
Googleドライブコネクターの構成

Googleドライブコネクターを構成するには、最初にDispatcher Phoenix Webの認証マネージャーからGoogleドライブのアカウントにログインする必要があります。この初期設定が完了すると、ノード内または複合機のパネルからのGoogleドライブへのログインが不要になり、最適化されたシングルサインオンが実現されます。

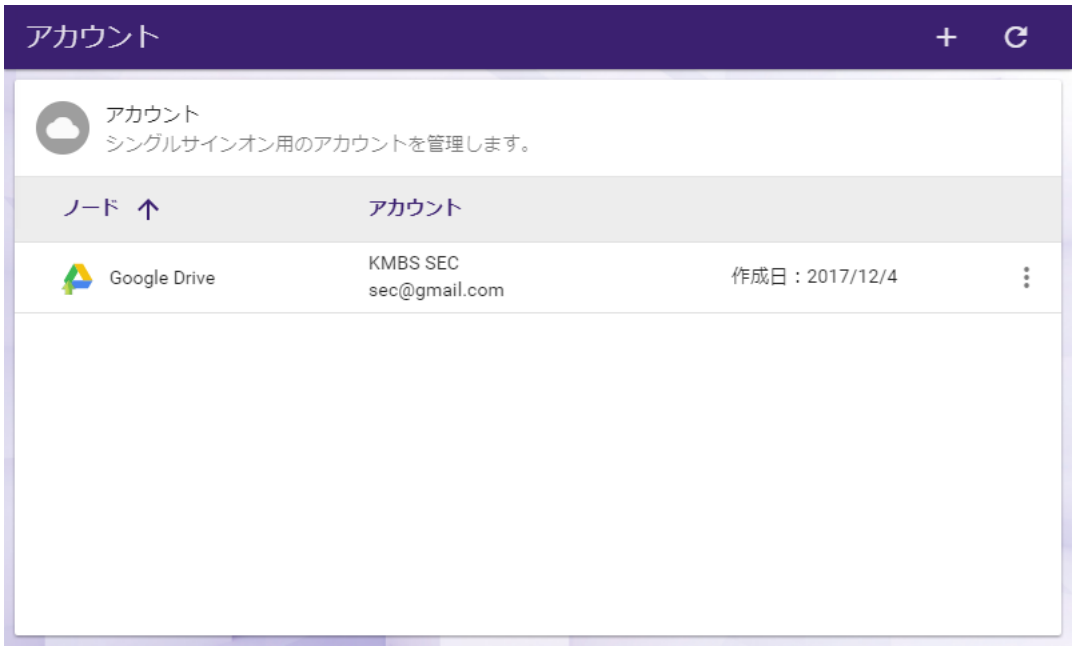
設定

まず、Dispatcher Phoenix Webの認証マネージャーからGoogleドライブにログインする必要があります。以下の操作を行います。

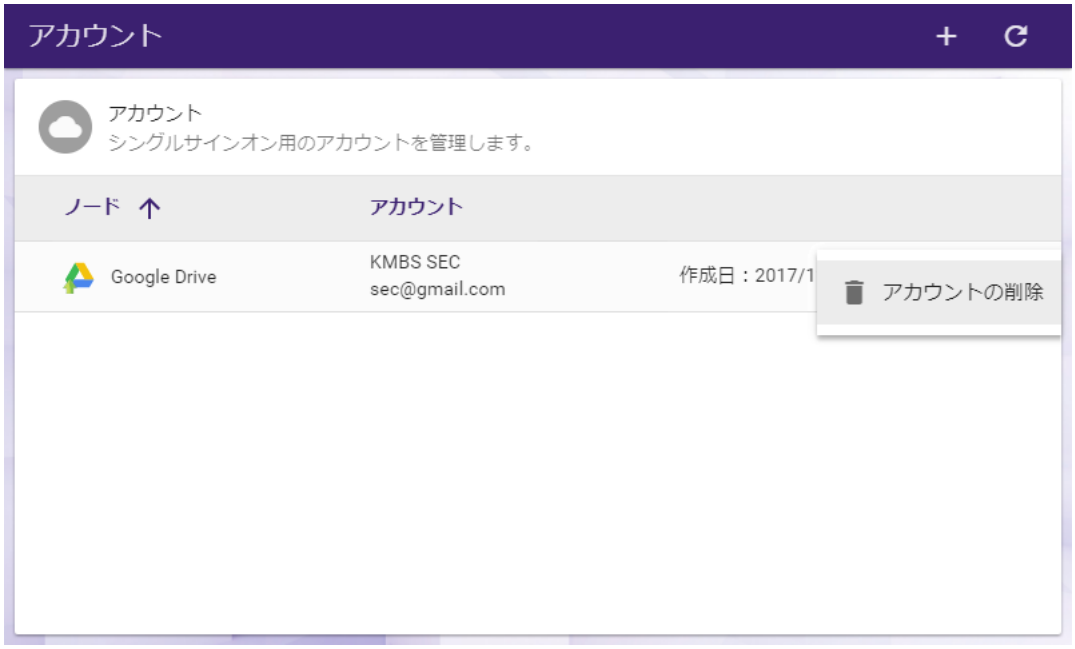
1. Dispatcher Phoenix Webにログインします。
2. ホームページで **[アカウント]** ツールを選択します。
3. [アカウント]ページで、**[+]** ボタンを選択して **[Googleドライブ]** オプションを選択します。以下の図を参照してください。



4. アカウントの資格情報（電子メールアドレス/Googleドライブアカウントのユーザー名とパスワード）を使用して、Googleドライブにログインします。
5. アプリケーションが情報にアクセスするための許可を求められたら、**[はい]** を選択します。
6. [アカウント]ページにGoogleドライブのアカウントが表示されます。例については、以下の図を参照してください。



7. アカウントを削除する必要がある場合は、縦の参照ボタンを選択して、以下の図に示すように **[アカウントの削除]** を選択します。

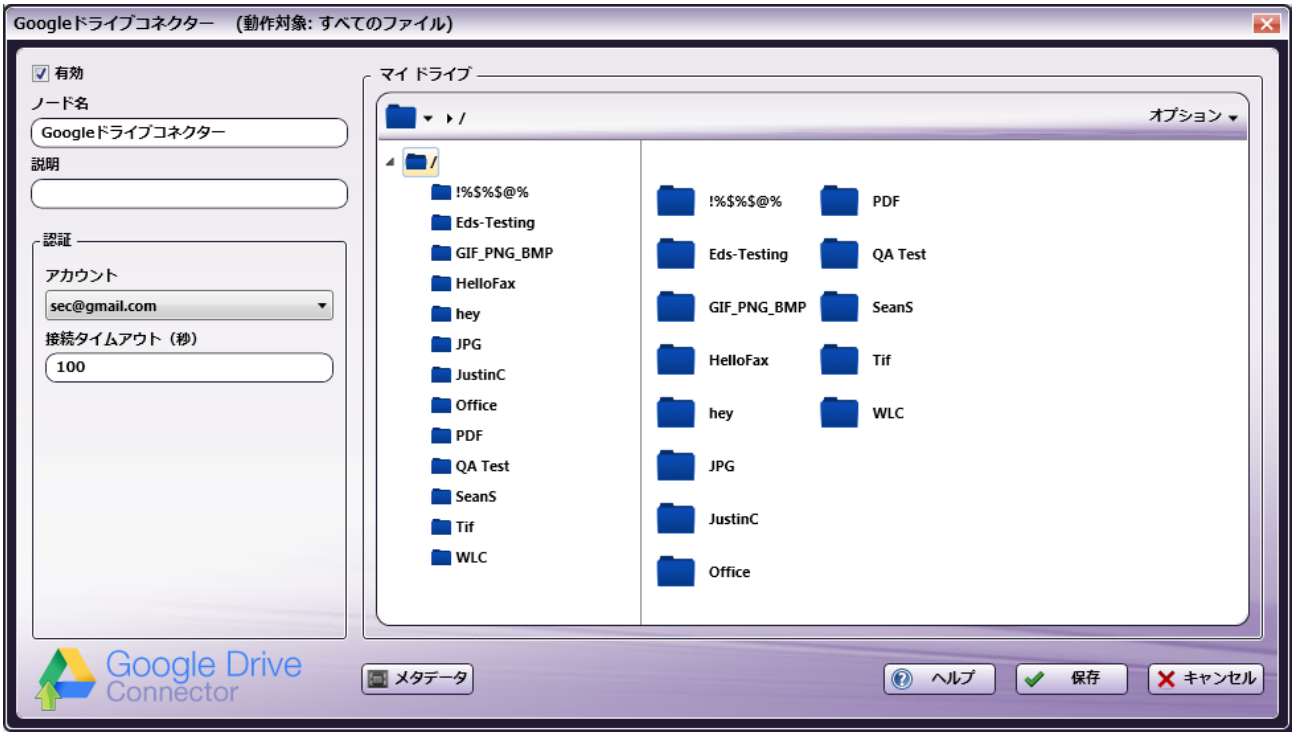


8. 複数のアカウントを追加する場合は、最初に追加したアカウントに星のアイコンが付き、プライマリアカウントとしてマークされます。プライマリアカウントの利点は、複合機へのサインイン時に、このアカウントに即時にアクセスできることです。複合機でチェックアイコンを選択し、次の画面で戻る矢印アイコンを選択することで、別のアカウントに切り替えることができます。縦の参照ボタンを選択して **【プライマリアカウントの有効化】** を選択することで、プライマリアカウントを切り替えることもできます。また、**プライマリアカウントを無効化する** ことで、複合機のアカウント画面で常に確認を求めるようにすることができます。

Googleドライブコネクターノードのカスタマイズ

接続後、Googleドライブノードのプロパティウィンドウの右側に、Googleドライブ内のフォルダー、サブフォルダー、およびファイルのツリービューが表示されます。この領域を使用して、Googleドライブのフォルダー構造を参照し、ドキュメントを格納するフォルダーを選択することができます。

例については、以下の図を参照してください。



別のGoogleドライブアカウントを選択するには、**【アカウント】** ドロップダウンリストからアカウントを選択します。

既定の接続タイムアウト（サーバーに最初に接続してから、通信が行われずタイムアウトするまでの時間として割り振られた秒数）を変更するには、**【接続タイムアウト】** フィールドに値を入力します。

新規フォルダーへのドキュメントの送信

Googleドライブにスキャン先となる新規フォルダーを作成するには、**[オプション]** ドロップダウンメニューから **[新規フォルダー]** オプションを選択するか、**Ctrl** + **Shift** + **N** キーを押します。

表示される[新規フォルダーの作成]ウィンドウで、**[名前]** フィールドに新規フォルダーの名前を入力してから、**[作成]** ボタンを選択します。新規に作成されたフォルダーがフォルダービューに表示されます。

ファイル名の制限

ファイル名には、以下の制限が適用されます。

- ファイル名の最初と最後にスペースを使用することはできません。
- ファイル名の最初に2つのピリオド(..)を使用することはできません。
- 表示されない文字をファイル名に含めることはできません(タブ文字や改行文字など)。
- < > : " / \ | ? *は使用できません。

表示オプション

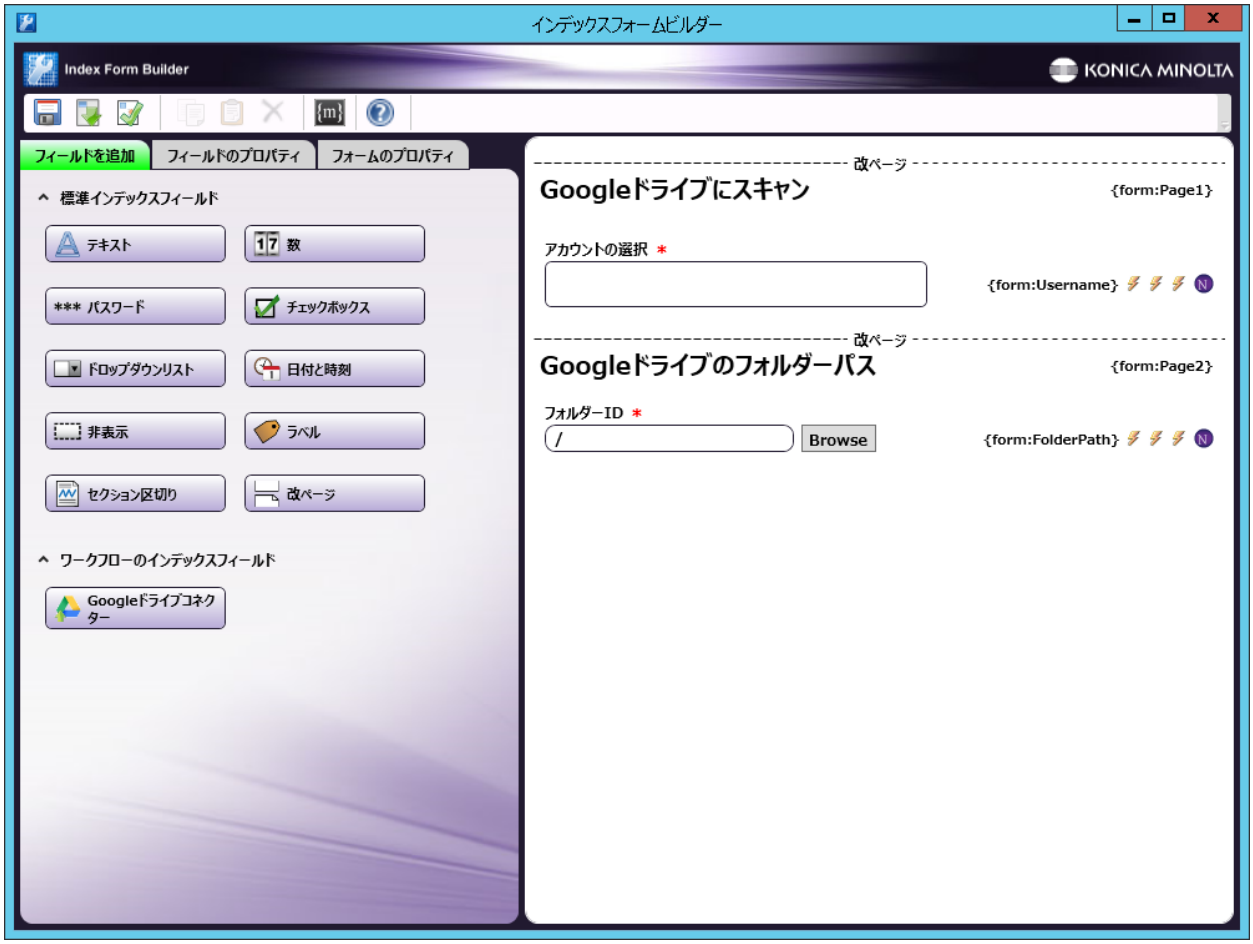
ノードのプロパティウィンドウでの、Googleドライブフォルダーの既定の表示は、ウィンドウの右上にある[オプション]ボタンを使用して調整できます。[オプション]プルダウンメニューから以下の項目を選択します。

- 既定の表示をオフにするには、**[ツリービューの表示]** オプションのチェックを外すか、**Ctrl** + **T** キーを押します。
- Googleドライブのフォルダーに格納されているファイルを非表示にするには、**[ファイルの表示]** オプションのチェックを外すか、**Ctrl** + **E** キーを押します。
- 現在の表示を更新して最新のフォルダーとファイルが表示されるようにするには、**[最新の情報に更新]** オプションを選択するか、**F5** キーを押します。

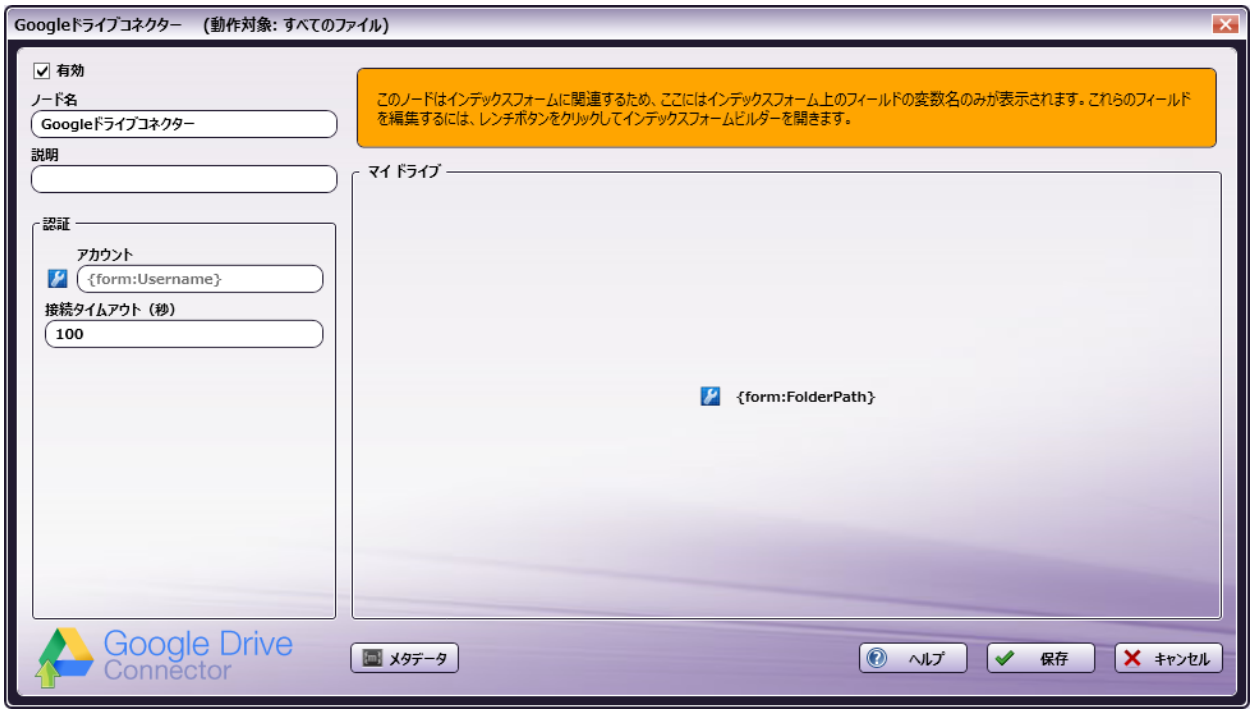
Googleドライブコネクターのインデックスフォームの作成

複合機からGoogleドライブに自動ログインできるように、インデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenix Webのアカウントマネージャーから、Googleドライブにログインしていることを確認します。
2. ワークフローに**複合機パネルノード**、および**Googleドライブコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
3. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に[Googleドライブコネクター]ボタンが表示されます。
4. **[Googleドライブコネクター]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。以下の図に示すように、[Googleドライブにスキャン]インデックスフォームが自動的に表示されます。



5. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
6. Googleドライブコネクターノードのプロパティウィンドウに、インデックスフォームのフィールドの変数名が自動的に表示されます。このウィンドウのフィールドは編集できませんが、レンチツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダー内の該当のセクションまたはフィールドに移動することができます。以下の図を参照してください。



複合機でのGoogleドライブのインデックスフォーム

複合機では、Googleドライブのインデックスフォームが以下のように表示されます。

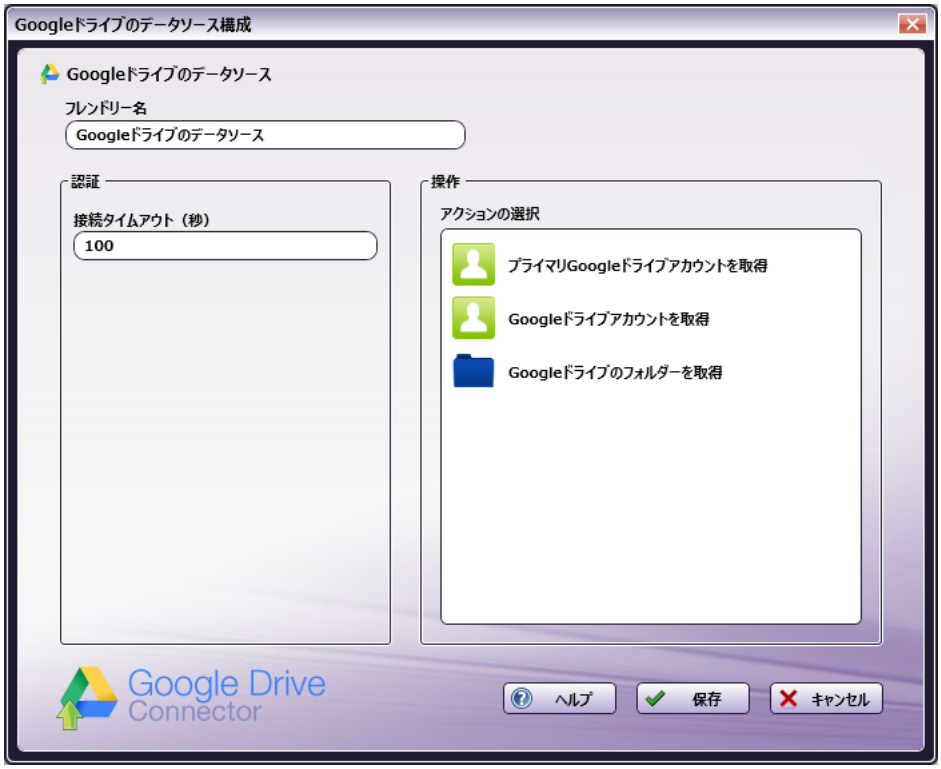
画面上部の **[+]** アイコンを選択して、新規フォルダーを追加できます。以下の図のように、**[新規フォルダー]** ウィンドウが表示されます。

データベースの参照 - Googleドライブの構成

Googleドライブからデータ（フォルダーのリストや検証など）を取得するためのクエリーを手動で構成することもできます。

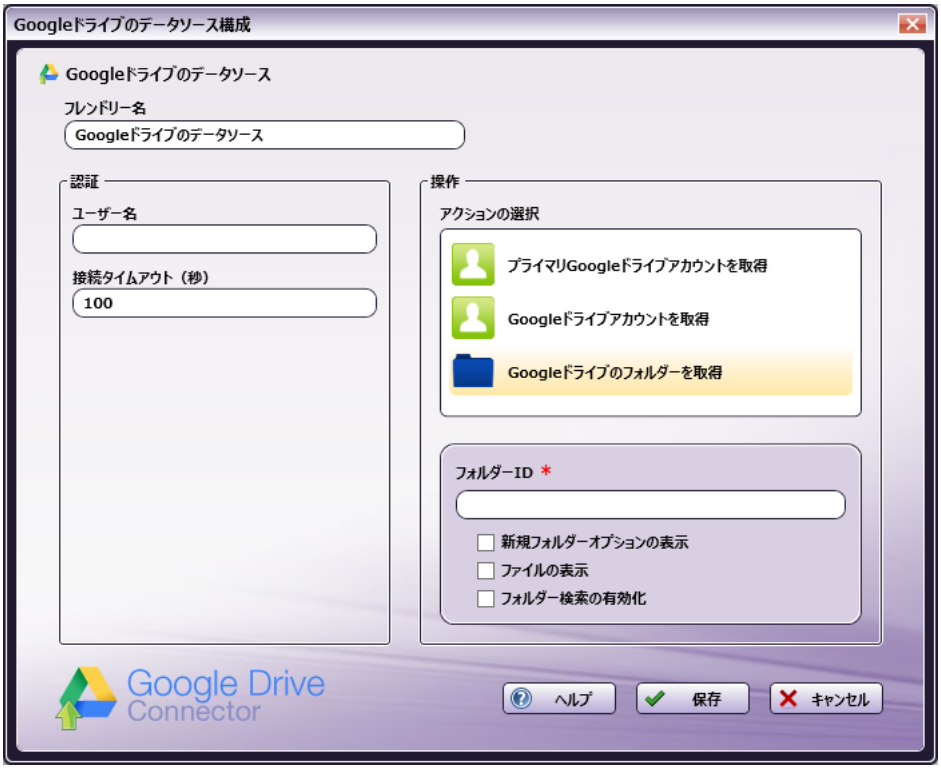
インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新規フィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[Googleドライブデータソース]** を選択します。
4. [Googleドライブのデータソース構成]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、Googleドライブからデータを取得するための特定の操作を実行できます。



以下の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、Googleドライブのデータソースの構成を識別する名前を入力します。
- **[操作]** 領域では、Googleドライブのデータソースに対して実行するアクションの種類を選択できます。オプションは以下のとおりです。
  - ***[プライマリGoogleドライブアカウントを取得]*** – このオプションでは、ユーザーのプライマリGoogleドライブアカウントが返されます。
  - ***[Googleドライブアカウントを取得]*** – このオプションでは、ユーザーのすべてのGoogleドライブアカウントが返されます。
  - ***[Googleドライブフォルダーを取得]*** – 特定のGoogleドライブフォルダーパス内のフォルダーのリストを表示するには、このアクションを使用します。[Google ドライブのフォルダーを取得]項目を選択すると、以下の図に示すように、構成の新規フィールドが表示されます。

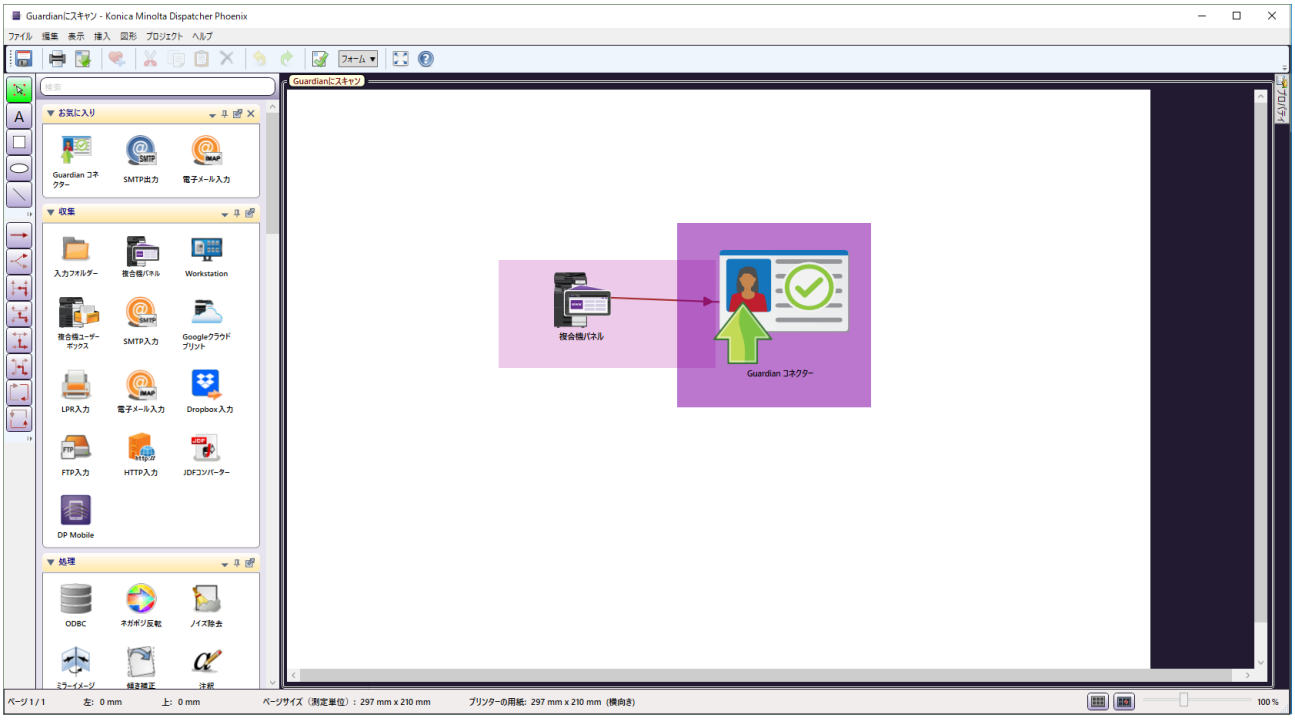


- **[フォルダーのパス]** – 複合機のパネルに表示するGoogleドライブルートフォルダーのフォルダーIDを入力します。

- **[新規フォルダーオプションの表示]** – このオプションをチェックすると、複合機で新規Googleドライブフォルダーを作成できるようになります。
- **[ファイルの表示]** - このオプションをチェックすると、複合機にGoogleフォルダー内のファイルが表示されます。
- **[フォルダー検索の有効化]** - 複合機でのフォルダー検索を有効にするには、このオプションをチェックします。

Guardianコネクター

Guardianコネクター ノードは、スキャンしたドキュメントをGuardianデータベース内の従業員の電子I-9レコードに直接配信するために使用されます。GuardianはLawLogixによるソリューションで、企業は紙のI-9レコードを電子的なI-9レコードに変換し、それらを集中管理用のGuardianのオンラインプラットフォームに保存することで監査リスクを排除します。I-9フォームは、新入社員が米国で働く資格を証明するためにすべての雇用主が記入しなければならない政府のフォームです。Guardianを使用すると、人事管理者は保留中のI-9、I-9のない新入社員、保留中の再検証などを簡単に追跡および管理することができます。以下の図に示すように、Guardianコネクターは **複合機パネル** 収集ノードと組み合わせて使用する必要があります。



Guardianコネクターワークフローの設定

ワークフローに **複合機パネル** ノードと **Guardianコネクター** ノードを追加します。

ステップ1：Guardianコネクターノードの設定

Guardianコネクター ノードを開くには、ノードをダブルクリックします。

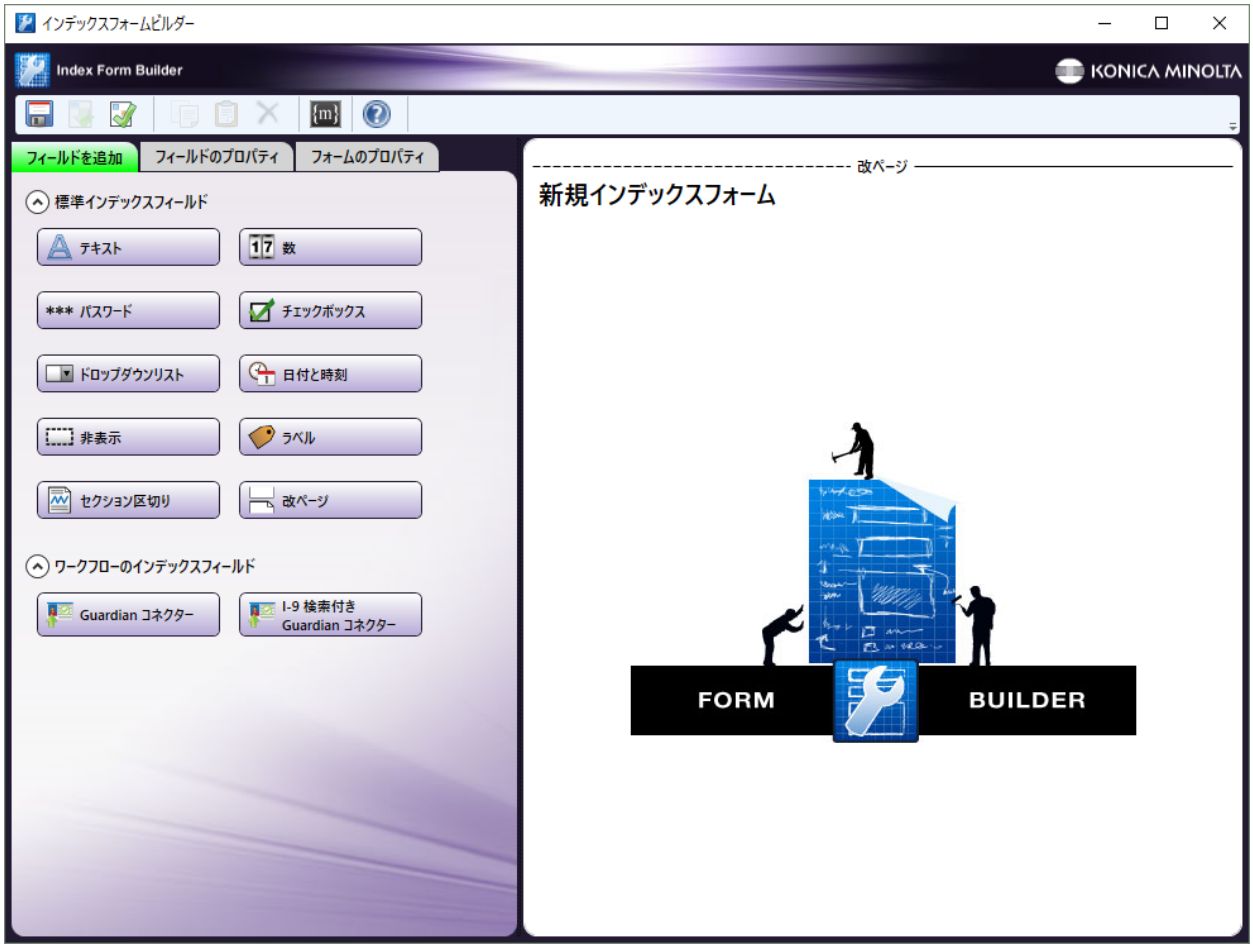
次の操作を実行します。

1. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認します。チェックしない場合、この出力は無視されます。ワークフローは検証されますが、ドキュメントは配信されずに失われる可能性があります。
2. **[ノード名]** フィールドに、Guardianコネクターノードのわかりやすい名前を入力します。
3. **[説明]** フィールドに、Guardianコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、出力先が2つ以上ある場合に便利です。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
4. **[Guardian 接続設定]** 領域に、会社のGuardianアカウントのシステム情報を入力します。
   - **[接続URL]** フィールドに、組織のGuardianアカウントの識別URLを入力します。
   - **[会社のID]** フィールドに、会社の固有のGuardian IDを入力します。
   - **[会社のパスワード]** フィールドに、Guardianに正常にログインするために必要なパスワードを入力します。
   - **[テスト接続]** ボタンをクリックして、Guardianとの接続をテストします。
5. Guardianコネクターの設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。また、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

ステップ2：Guardianコネクターのインデックスフォームを作成する

次に、Guardianインデックスフォームを作成します。これにより、ユーザーは複合機からGuardianにスキャンすることができます。次の操作を実行します。

1. Guardianコネクターノードに **[接続URL]** 、**[会社のID]** 、および **[会社のパスワード]** を設定したことを確認します。
2. **複合機パネル** ノードから **[インデックスフォームビルダー]** を開き、**[空白のインデックスフォーム]** を選択します。ワークフローインデックスフィールド領域の下に2つのGuardianコネクターボタンが表示されます。
   - **[Guardianコネクター]** インデックスフォームを使用して、ユーザーが複合機で保留中のI-9の包括的なリストを表示できるようにします。
   - **[I-9 検索付き Guardian コネクター]** インデックスフォームを使用して、ユーザーが複合機で保留中のI-9レコードをGuardianデータベースで検索できるようにします。
3. **[Guardianコネクター]** インデックスフィールドをインデックスフォーム作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図のように、[Guardianインデックスにスキャン]フォームが自動的に作成されます。



[接続URL]、**[会社のID]**、および **[会社のパスワード]** のGuardianコネクターノードプロパティは、インデックスフォームに自動的に入力されます。

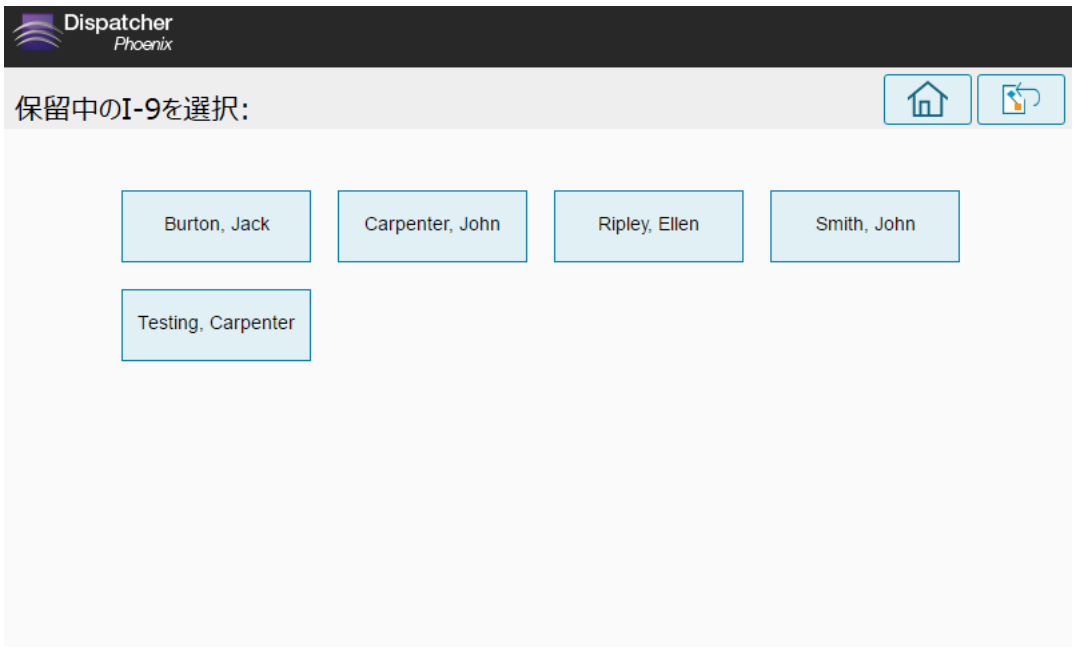
4. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。

ステップ3：複合機からGuardianへのスキャン

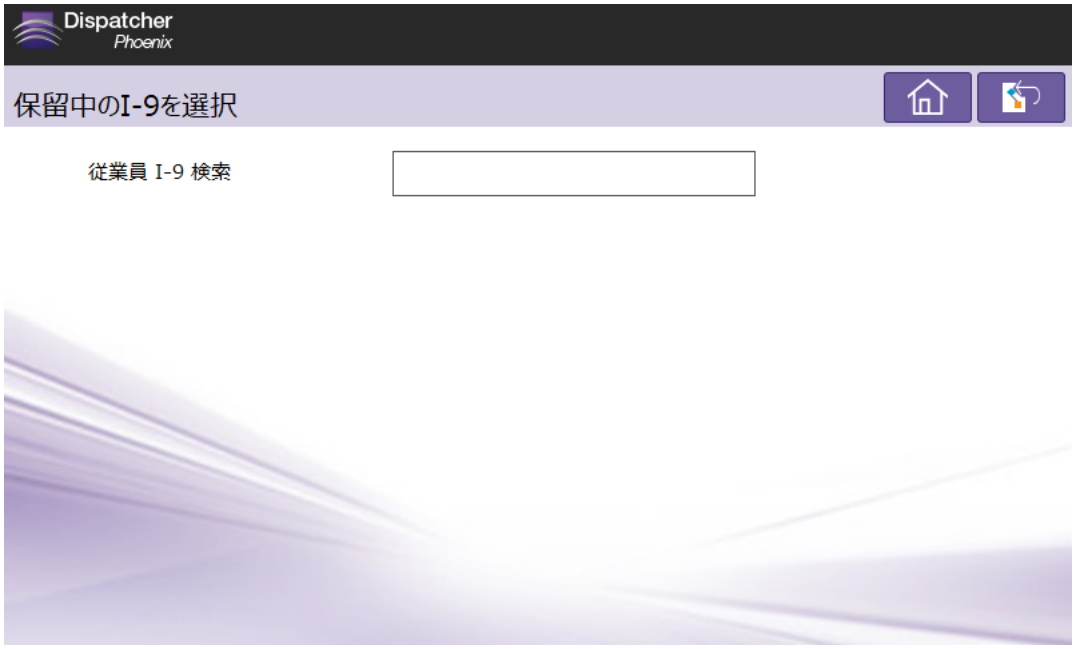
複合機で、ユーザーはGuardianにログインして、保留中のI-9ドキュメントをスキャンすることができます。次の操作を実行します。

1. [Guardianにスキャン]ワークフローにアクセスします。
2. Guardian PIN番号を入力します。

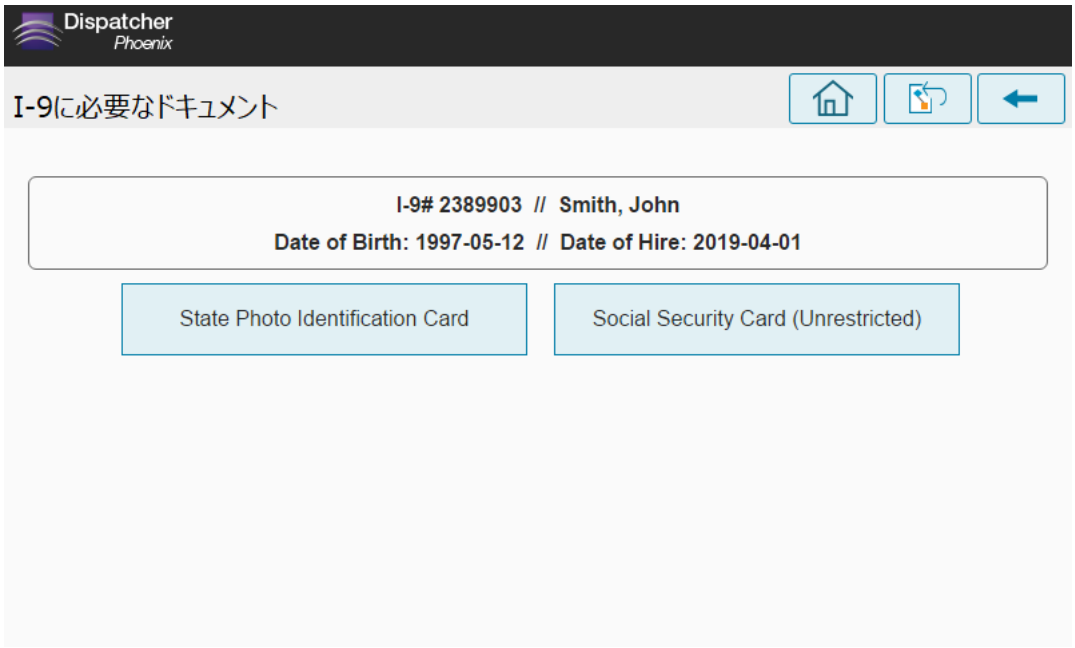
3. I-9ドキュメントをアップロードしたい従業員レコードを選択してください。**[Guardianコネクター]** インデックスフォームを使用している場合、次の図に示すように、保留中のI-9レコードが複合機で認証されたユーザーに対して自動的に表示されます。



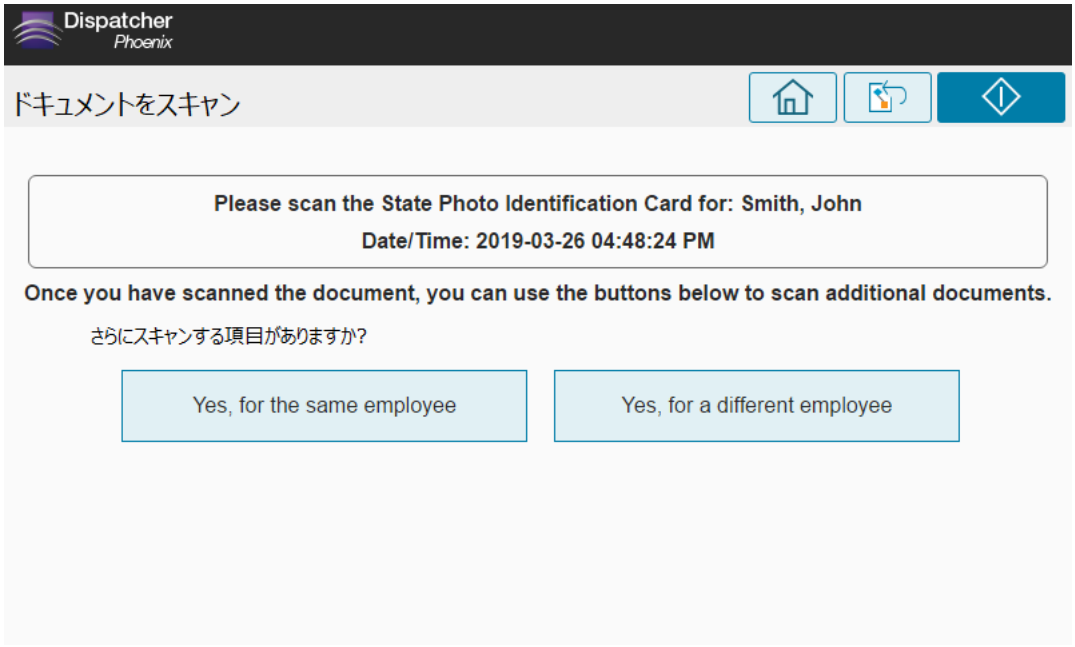
4. **[I-9 検索付き Guardianコネクター]** インデックスフォームが使用されている場合、次の図のように、保留中のI-9レコードをGuardianで検索するように求められます。



5. Guardianにアップロードするためにスキャンするドキュメントの種類を選択します。以前にプラットフォームにアップロードされたドキュメントの横には、緑色のチェックマークアイコン ( ) が表示されます。スキャンされ、Guardianにアップロードされているドキュメントには砂時計のアイコンが表示されます ( )。



6. スキャン操作が完了したら、**[Yes, for the same employee（はい、同じ従業員に対して）]** ボタンを使用して、同じ従業員レコードに戻って別のドキュメントのアップロードを選択できます。または、次の図に示すように、保留中のI-9のリストに戻るには、**[Yes, for a different employee（はい、別の従業員に対して）]** ボタンを使用します。



データベース参照を設定する

Guardianからデータ（例：保留中のI-9のリスト、I-9ドキュメント、I-9従業員の詳細など）を取得するようにクエリーを手動で設定することもできます。インデックスフォームビルダーを使用して、次の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. フィールドに **[通知時]** イベントと、**[選択変更時]** イベントを定義します。次に **[クエリー]** を追加します。カスタムインデックスフォームの作成に関する詳細は**ここ**をクリックしてください。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから **[Guardian データソース]** を選択します。
4. Guardianコネクターデータソース設定ウィンドウが表示されます。ここで、Guardianからデータを取得するために特定のアクションを実行できます。例については次の図を参照してください。

5. **[フレンドリー名]** フィールドに、Guardianデータソース設定の識別名を入力します。

6. **[データソースアクション]** 領域では、Guardianデータソースに対して実行するアクションの種類を選択できます。オプションは次のとおりです。
    - **[ユーザーアクセスPinを確認]** - このオプションは、複合機のユーザーによる認証を有効にします。
    - **[保留中の I-9 のリストを取得]** - このオプションは、Guardianレコードの保留中のI-9情報をすべて返します。
    - **[I-9 ドキュメントのリストを取得]** - このアクションを使用して、特定の従業員の記録に必要なI-9ドキュメントのリストを表示します。
    - **[I-9 従業員の詳細を取得]** - このオプションは、スキャン操作の前に関連する従業員詳細を返します。
    - **[I-9 スキャン確認を取得]** - このアクションを使用して、I-9ドキュメントがスキャンされた後にオプションのリストを表示します。
7. **[保存]** ボタンを選択して、Guardianコネクターデータソース設定を保存します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを、変更を保存せずにウィンドウを終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択することもできます。

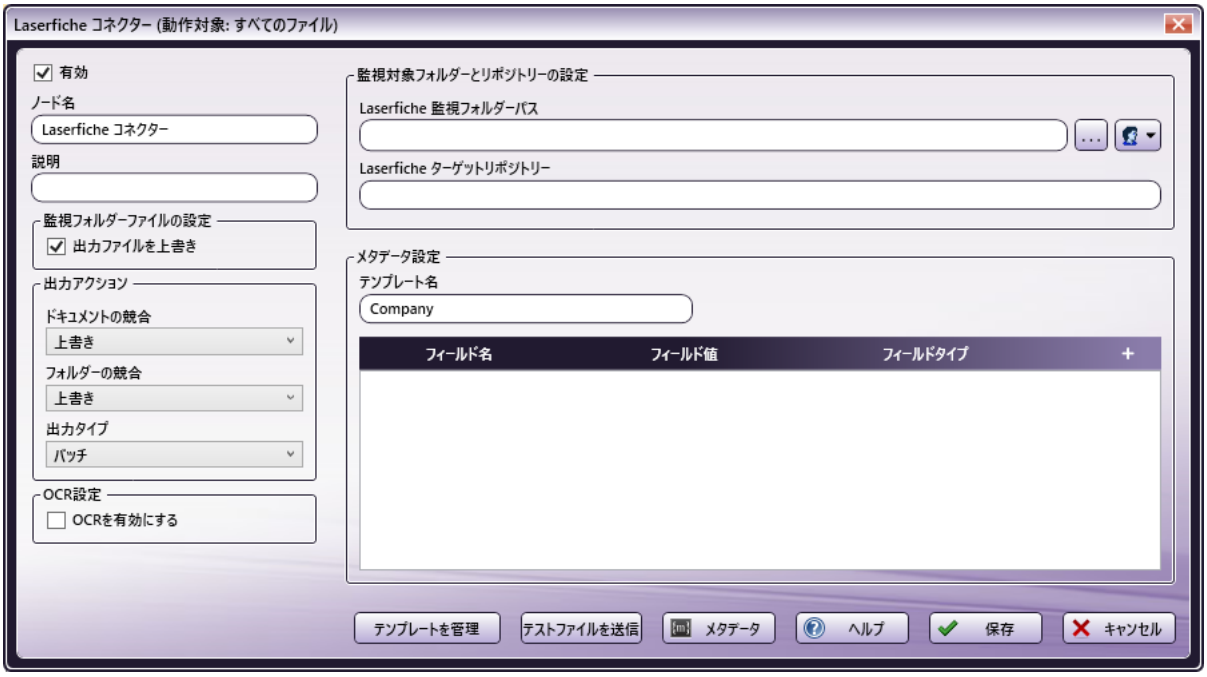
Laserficheコネクター

Laserficheコネクター ノードは、Laserfiche Enterprise Content Management（ECM）プラットフォームによる収集のために処理されたドキュメントを監視対象フォルダーに配信するために使用されます。ノードはLSTファイルを作成します。このLSTファイルには、元のドキュメントのコピーと共にXML形式のドキュメント情報が取り込まれます。その後、これらのファイルはLaserficheによって監視されているフォルダーに保存されます。

LSTファイルはデータリストファイルで、Laserficheを含む複数の種類のプログラムで使用されるさまざまな種類の情報に関連しています。一般的なLSTファイルには、改行で区切られた情報のリストが含まれており、通常はプレーンテキスト形式で表示可能であるため、基本的なテキストエディタで編集できます。Dispatcher Phoenixによってエクスポートされたファイルには Laserficheに転送されるデータが含まれています。

注: 一部のオペレーティングシステムでは、Google ChromeまたはInternet ExplorerのLaserficheコネクターから作成したXMLファイルをUTF-16エンコーディングで開くことはできません。

Laserficheコネクター ノードを開くには、Laserfiche配信ノードをワークフローに追加して、そのノードをダブルクリックします。



以下の操作を実行します。

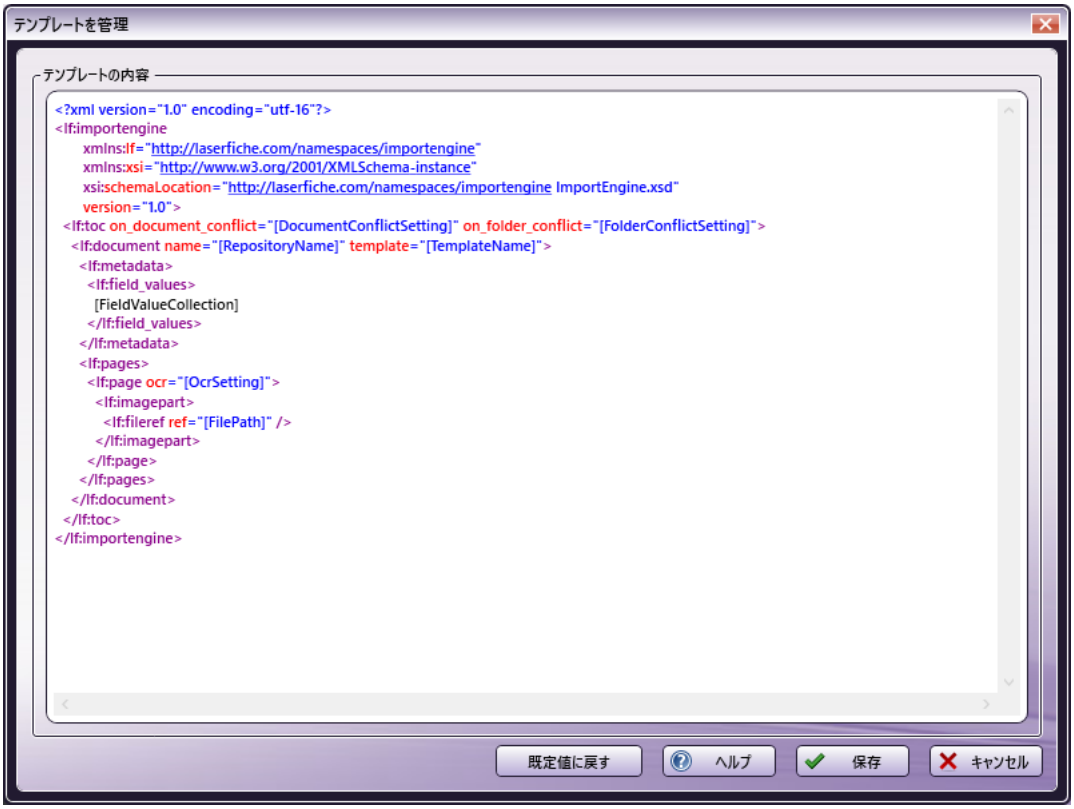
1. 複数の出力場所がある場合、**[有効]** ボックスをオンにします。チェックをオフにした場合はこの出力は無視されます。ワークフローは検証されますが、ドキュメントは出力されずに失われる可能性があります。
2. **[ノード名]** フィールドに、Laserficheコネクターノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
3. **[説明]** フィールドに、Laserficheコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先がある場合に役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
4. **監視フォルダーファイルの設定** 領域で、**[出力ファイルを上書き]** の横にあるチェックボックスをオンにして、監視フォルダー内の同じ名前のファイルを上書きします。
5. **出力アクション** 領域で、次のオプションを指定します。
    - **[ドキュメントの競合]** ドロップダウンリストから、Laserfiche内に、送信するドキュメントの名前のドキュメントが既に存在する場合にLaserficheが実行するアクションを選択します。オプションは以下のとおりです。

        - **[上書き]** 既存のドキュメントを新しいドキュメントで上書きします。
        - **[マージ]** 2つのドキュメントをマージします。
        - **[ユニークにする]** ドキュメントを新しい一意の名前で保存します。
    - **[フォルダーの競合]** ドロップダウンリストから、Laserfiche内に、ターゲットフォルダーと同じ名前のフォルダーが既に存在する場合にLaserficheが実行するアクションを選択します。
        - **[上書き]** 既存のフォルダーを新しいフォルダーで上書きします。
        - **[マージ]** 2つのフォルダーをマージします。
        - **[ユニークにする]** フォルダーを新しい一意の名前で保存します。
    - **[出力タイプ]** ドロップダウンから、ファイルをLaserfiche Import Agentに送信する方法を選択します。オプションは以下のとおりです。
        - 提出されたすべてのファイルに関する情報を含む **[バッチ]** LSTファイルが作成されます。
        - Dispatcher Phoenixワークフローを通過する各ファイルに対して **[個別]** リスト（LST）ファイルタイプが作成されます。
6. **OCR設定** セクションで、**[OCRを有効にする]** の横のボックスを選択します。このオプションを選択すると、Laserfiche Import Agentによってインポートされたときに LaserficheはドキュメントをOCRします。
7. **監視対象フォルダーとリポジトリのセットアップ** 領域で、次の設定を指定します。
    - **[Laserfiche監視フォルダーパス]** フィールドで、Laserfiche XMLデータを含む生成されたLSTファイルの送信先となるWindowsディレクトリを選択します。
    - **[Laserficheターゲットリポジトリ]** フィールドに、ドキュメントのアップロード先となるLaserficheリポジトリ内のターゲットフォルダーへのパスを入力します。
8. **メタデータ設定** 領域で、以下の操作を実行します。
    - **[テンプレート名]** フィールドで、使用するLaserficheテンプレートの名前を入力してください。このテンプレートは、すでにLaserficheサーバーに存在している必要があります。
    - **[+]** ボタンをクリックして、フィールドエントリーをテンプレートに追加します。
    - **[フィールド名]** に、ドキュメント/エントリーフィールドに関する名称を入力します。これはドキュメントのメタデータです。フィールドの名前はテンプレートで定義されています。
    - **[フィールド値]** に、フィールドの値を入力します。または、設定ウィンドウの **[メタデータ]** ボタンを使用して **[メタデータブラウザー]** を開きます。次に、メタデータキーをフィールド値にドラッグアンドドロップします。
    - **[フィールドのタイプ]** で、ドロップダウンを使用してフィールドに入力されている値の種類を選択します。オプションは以下のとおりです。
        - テキスト
        - 番号
        - 通貨
        - 日付
        - 電話
9. Laserficheテンプレートにカスタム変更を入力する、またはテンプレートを既定値に復元するには **[テンプレートの管理]** ボタンを選択します。
10. Dispatcher PhoenixとLaserficheアプリケーションの両方が正しく構成されていることを確認するために、サンプルドキュメントを含むサンプルLSTファイルを生成して、構成された監視フォルダーに送信するには、**[テストファイルを送信]** ボタンを選択します。
11. Laserficheコネクターの設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを、変更を保存せずにウィンドウを終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択することもできます。

Laserficheテンプレートを管理する

Dispatcher PhoenixワークフローからLaserficheにファイルを正しくルーティングするにはXMLテンプレートが必要です。このXMLテンプレートには、ドキュメントを適切にインデックス付けしてコンテンツ構造内に格納するためにLaserficheが必要とするすべての情報が含まれています。

以下に示すように、各Laserficheコネクターノードは、一般的なテンプレートで開始され、Laserficheに情報を渡します。



このテンプレートを編集するには、

- Laserficheコネクター設定ウィンドウから **[テンプレートを管理]** ボタンを選択します。
- LaserficheテンプレートにXMLを使用してカスタム変更を入力します。
- 誤って変更を加えた場合、またはテンプレートを既定値に戻したい場合、[テンプレートの内容]ウィンドウの下部にある[既定値に戻す]ボタンをクリックします。
- Laserficheコネクターの設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを、変更を保存せずにウィンドウを終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択します。

M-Filesコネクター

Dispatcher PhoenixのM-Filesコネクターノードは、M-Filesとのシームレスな接続を可能にします。これは、企業がデータとコンテンツを保護、処理、および管理する方法を改善する独自のインテリジェントな情報管理ソリューションです。M-Filesコネクターノードは、ユーザーが次の処理を簡単に行えるようにすることで、複合機でのドキュメント管理を高速化します。

- ドキュメントをアップロード
- クラスの説明を追加
- ドキュメントのプロパティを追加、等

このガイドでは、ノードの設定方法や、いくつかの一般的な使用例、および基本的なトラブルシューティングについて段階的に説明します。

M-Filesは、ドキュメントストレージへのアプローチがユニークです。ほとんどの情報管理ソリューションとは異なり、M-Filesはフォルダツリーを利用しません。すべてのドキュメントは同じレベルに保存されます。M-Filesドキュメントには、ユーザーが追加するクラスおよびプロパティと呼ばれる追加情報が含まれています。ユーザーはクラスとプロパティでドキュメントを検索して並べ替えることができます。

M-Filesワークフローを設定するには、主に4つの方法があります。

1. **完全自動化** - すべての設定は事前に構成されています。ユーザーは単一のドキュメントタイプのみをスキャンでき、複合機パネルでプロパティを変更することはできません。
2. **部門またはM-Filesサービスユーザーインデックス** - ほとんどの設定は事前に構成されています。ユーザーは、複合機パネルでドキュメントクラスを指定し、事前設定されたドキュメントのプロパティを指定できます。
3. **ユーザーアカウントインデックス** - 一部の設定は事前に構成されています。ユーザーは複合機にサインインして、Vault、ドキュメントクラスを選択し、複合機パネルで事前構成されたドキュメントのプロパティを指定する必要があります。
4. **カスタムインデックス** - すべての設定が事前構成されているという点で完全自動化に似ていますが、事前構成された既定および追加のプロパティがあります。

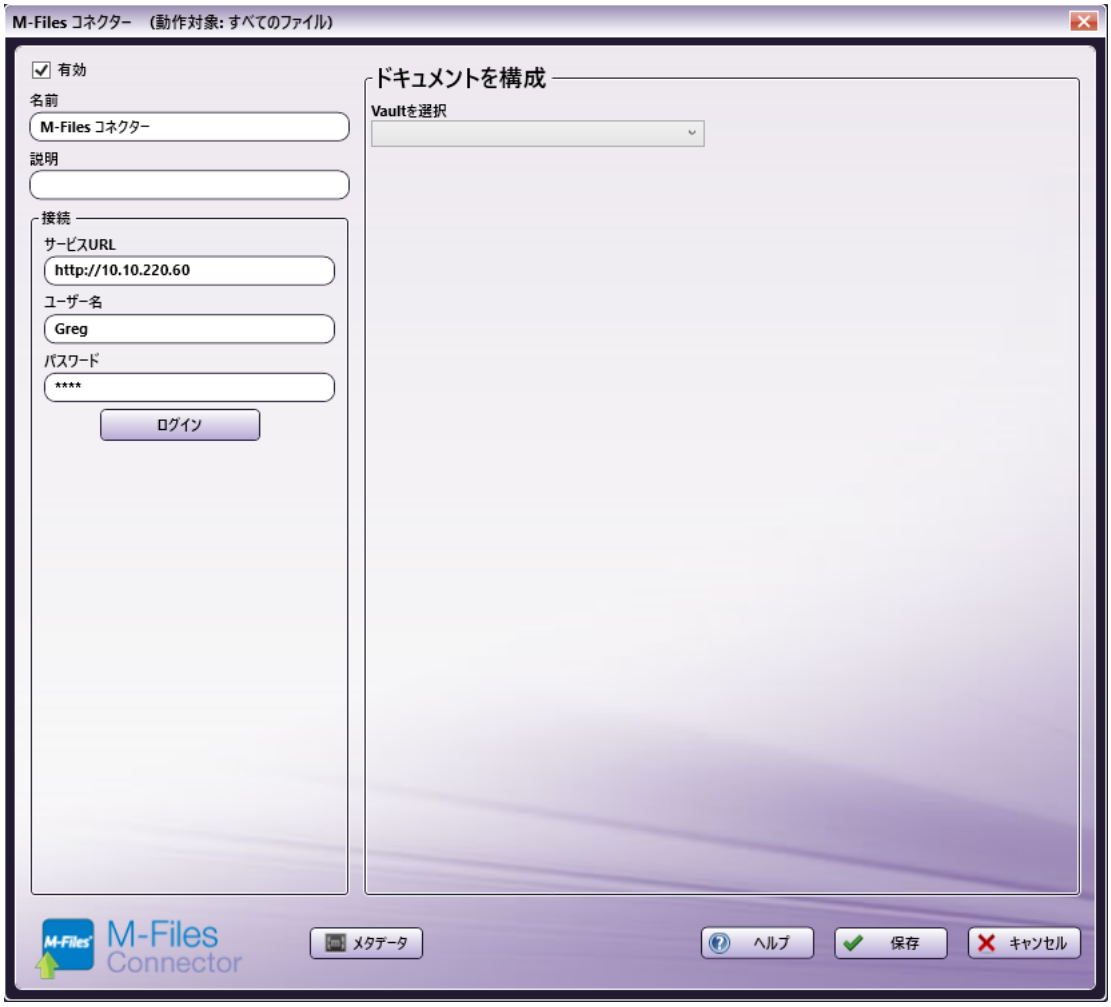
M-Filesコネクターはワークフローとワークフロー状態もサポートします。M-Filesドキュメントに必要なワークフローがある場合、それは自動的に選択されます。ワークフローは、「必須」として構成され、事前に入力されている場合でも編集が可能です。M-Filesコネクターは、ドキュメントを最初のワークフロー状態に自動的に送信します。ノード構成中またはスキャン時に複合機でワークフローとワークフロー状態を選択することもできます。

注: 「最初のステップ」と見なされる **ワークフロー状態** のみを選択できます。通常、**ワークフローの状態** を選択するための「最初のステップ」は1つだけです。

M-Filesサーバーの構成

M-Filesコネクターを利用するには、ユーザーははじめにM-Filesサーバーに接続する必要があります。以下の操作を実行します。

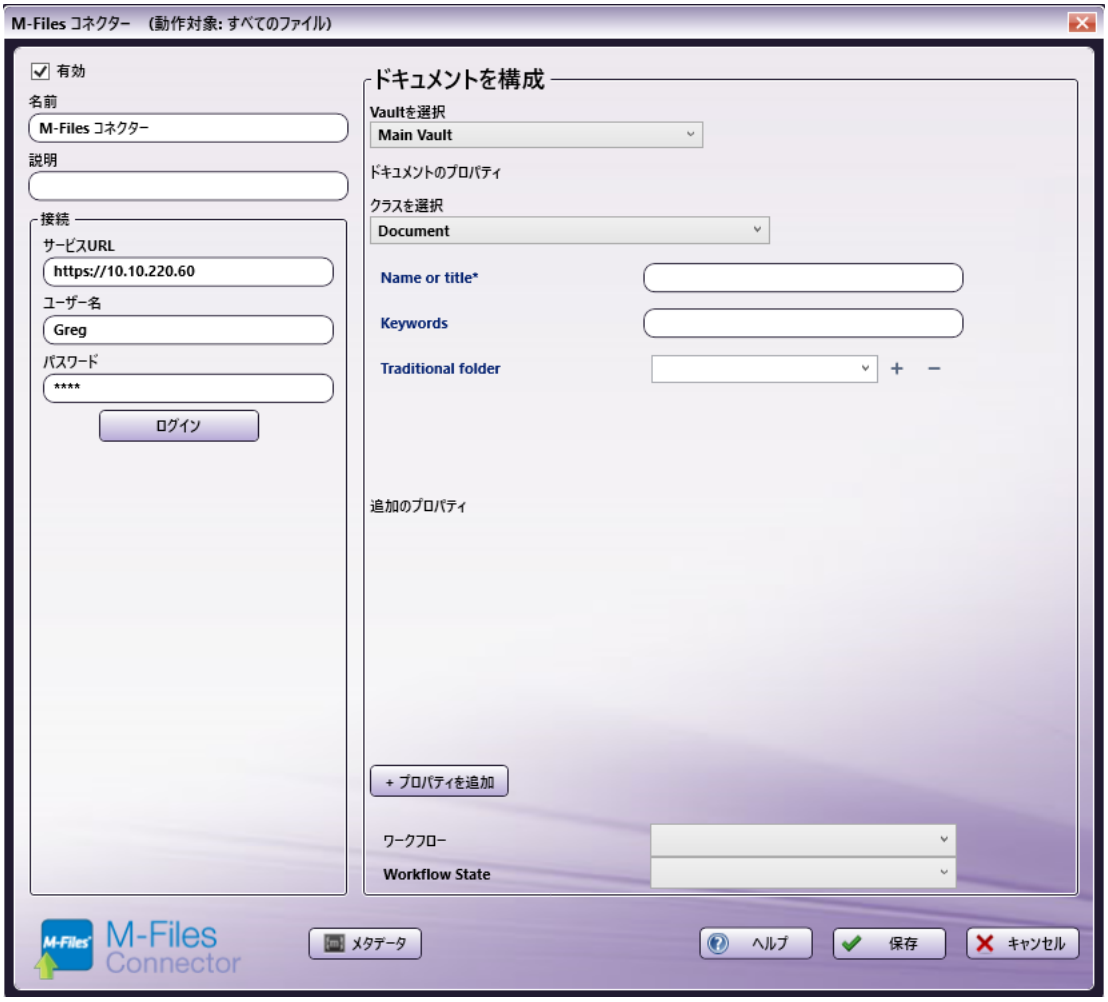
1. M-Filesノードを開きます。
2. 接続領域に、次の情報を入力します。
   - M-Files **サービスURL** フィールドに、M-Filesサーバーの URLを入力します。
   - **ユーザー名** フィールドと **パスワード** フィールドに、M-Filesサーバーへの接続に使用するユーザー名とパスワードを入力します。
   - **[ログイン]** ボタンをクリックして、接続の資格情報を確認します。
3. 接続が成功すると、次の図のように、**ドキュメントを構成** 領域が表示されます。



完全に自動化されたワークフローの構成

完全に自動化されたワークフロー構成では、管理者は、標準のドキュメントクラスとプロパティを使用してM-Files内の特定の場所にドキュメントをスキャンするようにM-Filesコネクターを構成します。ユーザーは事前構成されたワークフローにドキュメントをスキャンして、複合機パネルでVaultを指定したり、ドキュメントクラスやプロパティを編集したりすることはできません。これは、カスタマイズを必要とせずにタスクを繰り返しスキャンしてアップロードするために最も一般的に使用されます。完全に自動化されたワークフロー構成をセットアップするには、次の手順を実行します。

1. M-Filesノードを開きます。
2. 使用可能なすべてのVaultsのドロップダウンリストから **Vault** を選択します。使用可能なVaultが1つだけの場合、Vaultの構成は静的です。
3. **クラス** を選択します。クラスのリストは、M-Files管理者によって事前に構成されています。クラスを選択すると、次の図のように、ドキュメントの **プロパティ** が入力されます。



注:

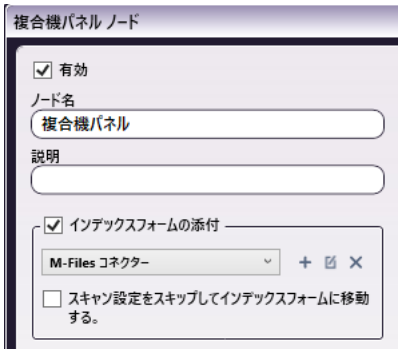
- アスタリスク(*)が付いているプロパティは必須です。
- ドキュメントのプロパティはドキュメントクラスに依存しており、クラスが選択された後にのみ入力されます。
- この場合、プロパティは事前に設定されているため、ユーザーは複合機で任意のプロパティを追加することはできません。ユーザーは、事前に構成されたプロパティにのみ情報を追加できます。

4. 必要に応じて、ドロップダウンから **ワークフロー** と **ワークフローの状態** を選択します。**ワークフロー** を選択すると、最初の **ワークフロー状態** が自動的に入力されますが、必要に応じて別の状態を選択することができます。
5. **[保存]** をクリックして構成を保存し、ノードを閉じます。

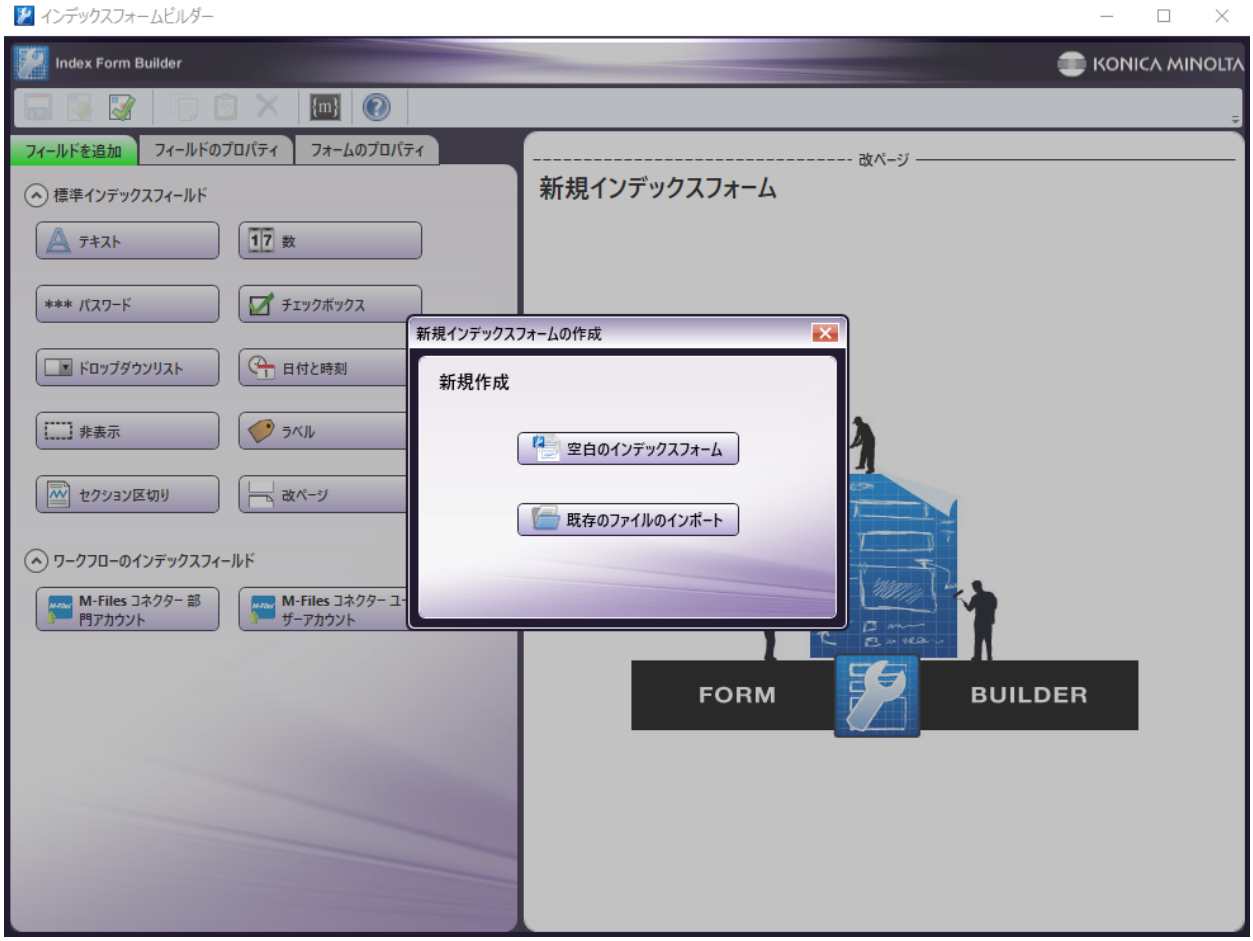
部門またはM-Filesサービスのユーザーインデックス作成ワークフローの構成

部門のインデックス作成構成では、管理者はスキャンドキュメントとそれに関連するプロパティをキャプチャするためにM-Filesサービスアカウントを使用してM-Filesコネクターノードを構成します。この構成を利用すると、ユーザーは複合機パネルでM-Filesアカウントにログインするように要求されません。ユーザーは、スキャン処理中に複合機パネルでドキュメントのクラスとプロパティを構成することもできます。部門のインデックス作成ワークフローを設定するには、次の手順を実行します。

1. 複合機パネルノードとM-Filesコネクターを使用して新しいワークフローを作成します。
2. M-Filesサーバーの構成セクションに従って、M-Filesノードを構成します。
3. **複合機パネル** ノードを開きます。
4. 次の図のように、[インデックスフォームの添付]の横にある **[チェックボックス]** をクリックし、次に **[+]** アイコンをクリックしてインデックスフォームビルダーを開きます。



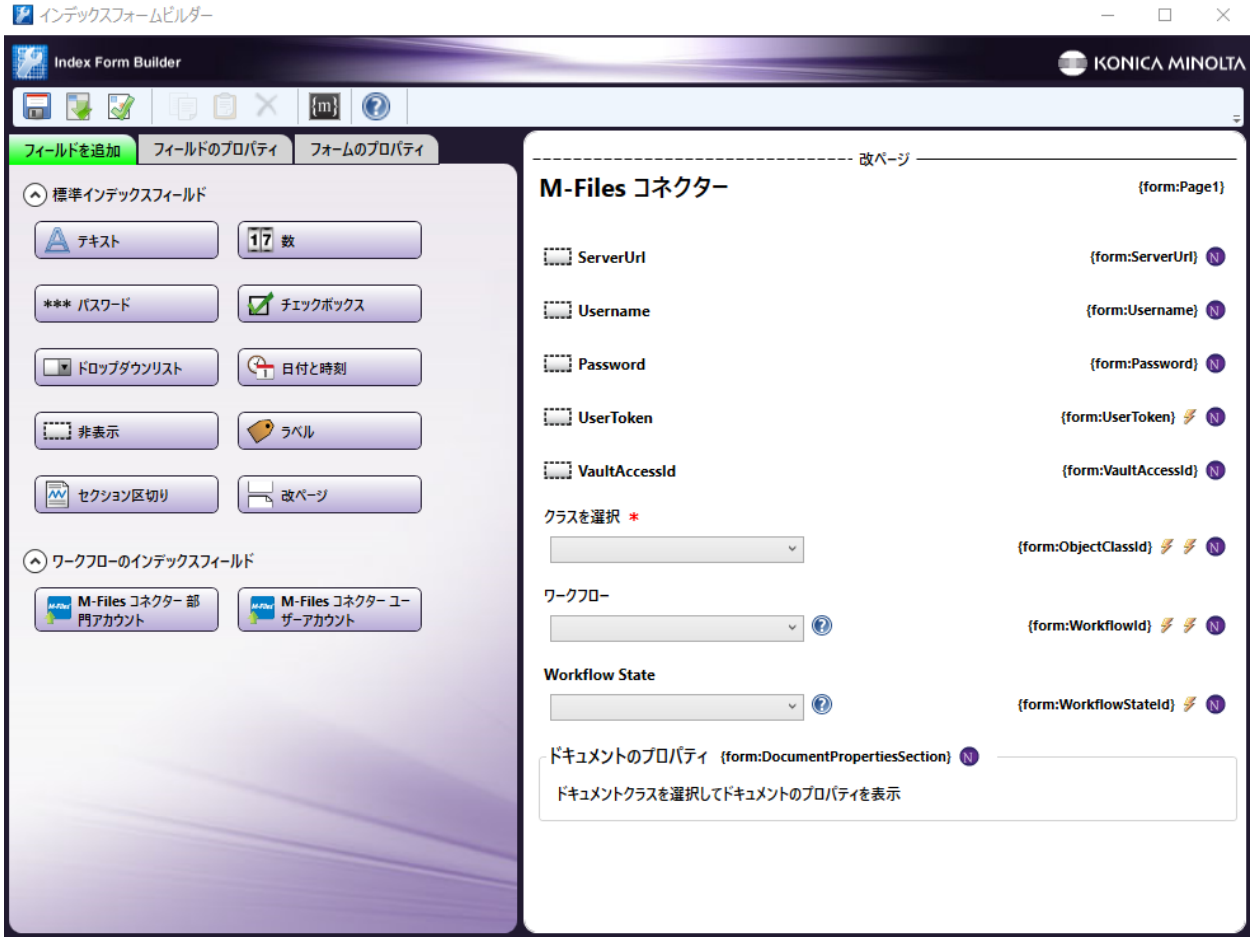
5. 次の図のように、ポップアップで **[空白のインデックスフォーム]** オプションを選択します。



6. 次の図のように、空白のインデックスフォームビルダーが表示されます。

注: M-Filesワークフローインデックスフィールドは、インデックスフォームビルダーを開く前にM-Filesコネクターがワークフローに配置されている場合にのみ入力されます。M-Filesコネクター部門アカウントインデックスフォームは、管理者がサーバーURL、ユーザー名、およびパスワードを入力し、M-Filesノードで部門/サービスユーザーの適切なVaultを選択した後にのみ表示されます。

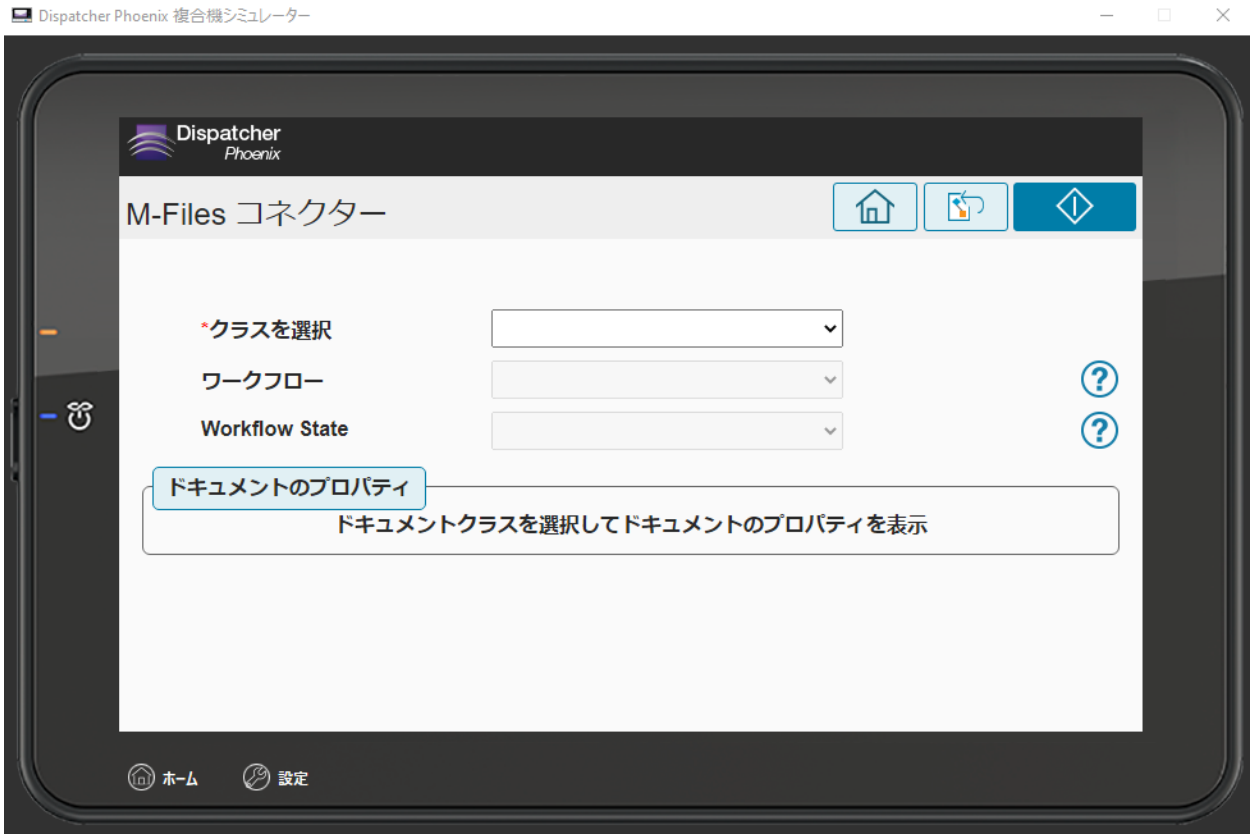
7. **M-Filesコネクター部門アカウント** アイコンをインデックスフォームビルダーの作業領域にドラッグします。次の図のように、いくつかのフィールドが入力されます。



注: 図のServerUrl、Username、Password、UserTokenおよびVaultAccessIdなど、点線で囲まれたフィールドは非表示フィールドです。これらは、M-FilesノードのM-Files管理者によって事前設定されており、複合機でユーザーには表示されません。

8. インデックスフォームビルダーを検証して保存し、閉じます。

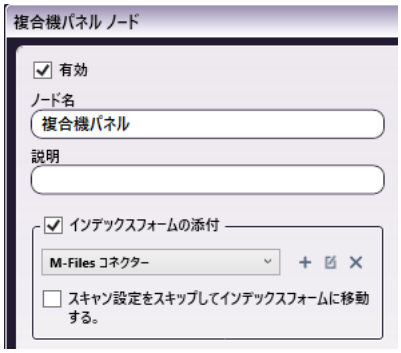
注: 複合機パネルで、ユーザーは事前構成されたリストから **クラス** を選択できます。これにより、次の図のように、**キーワード** 、**ワークフロー** 、**ワークフロー状態** 、および **名前** のフィールドにデータが入力されます。



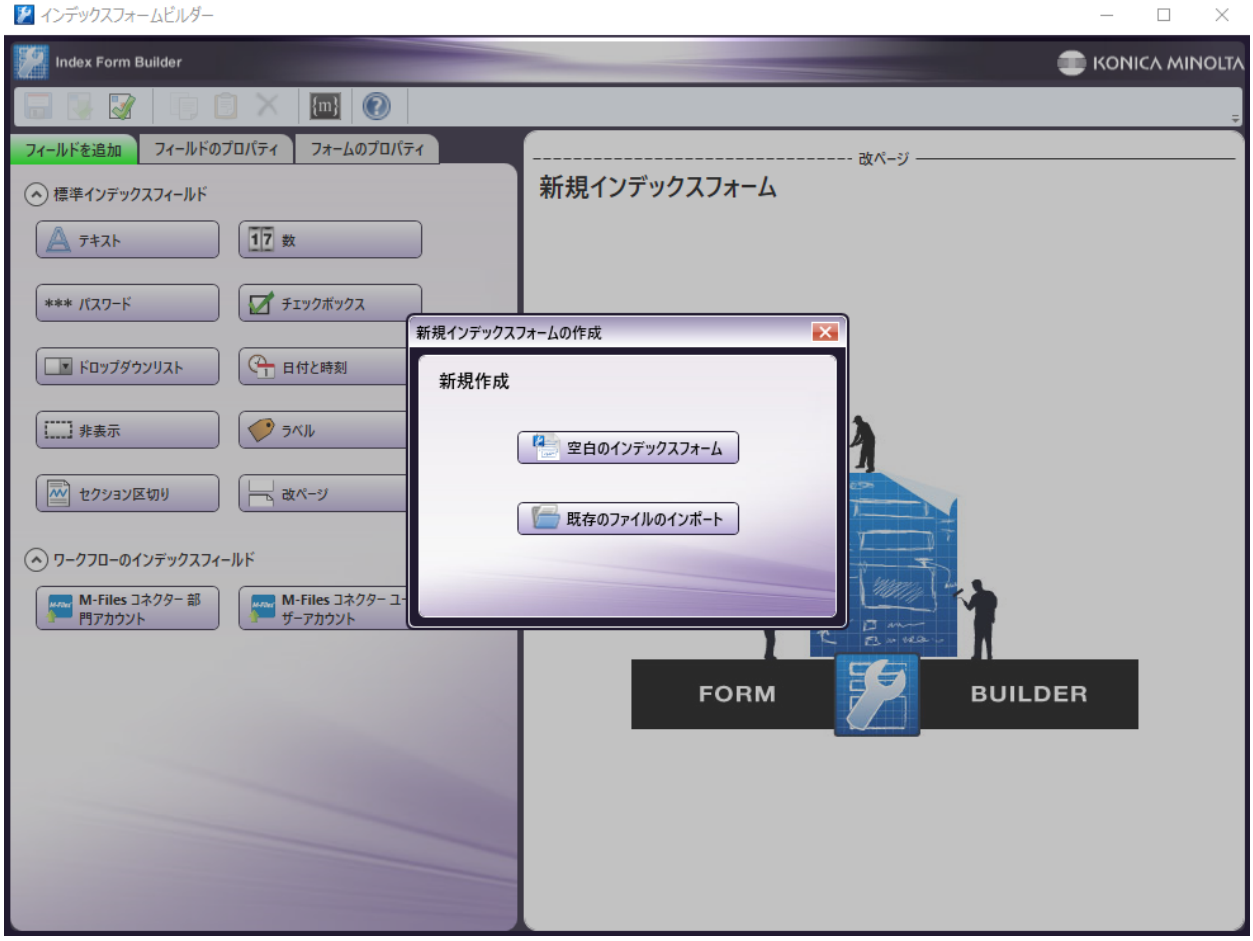
ユーザーアカウントインデックス作成ワークフローの構成

ユーザーアカウントインデックス作成の構成で、ユーザーはユーザーアカウントインデックスフォームを使用して、標準ノード構成値を複合機パネルでユーザーが入力したメタデータに変換します。この設定では、ユーザーはスキャンとインデックス作成を開始する前に、複合機でM-Filesアカウントにログインするように求められます。ユーザーアカウントワークフローを設定するには、次の手順を実行します。

1. 複合機パネルノードとM-Filesコネクターを使用して新しいワークフローを作成します。
2. M-Filesサーバーの構成セクションに従って、M-Filesノードを構成します。
3. **複合機パネル** ノードを開きます。
4. 次の図のように、[インデックスフォームの添付]の横にある[チェックボックス]をクリックし、次に **[+]** アイコンをクリックしてインデックスフォームビルダーを開きます。

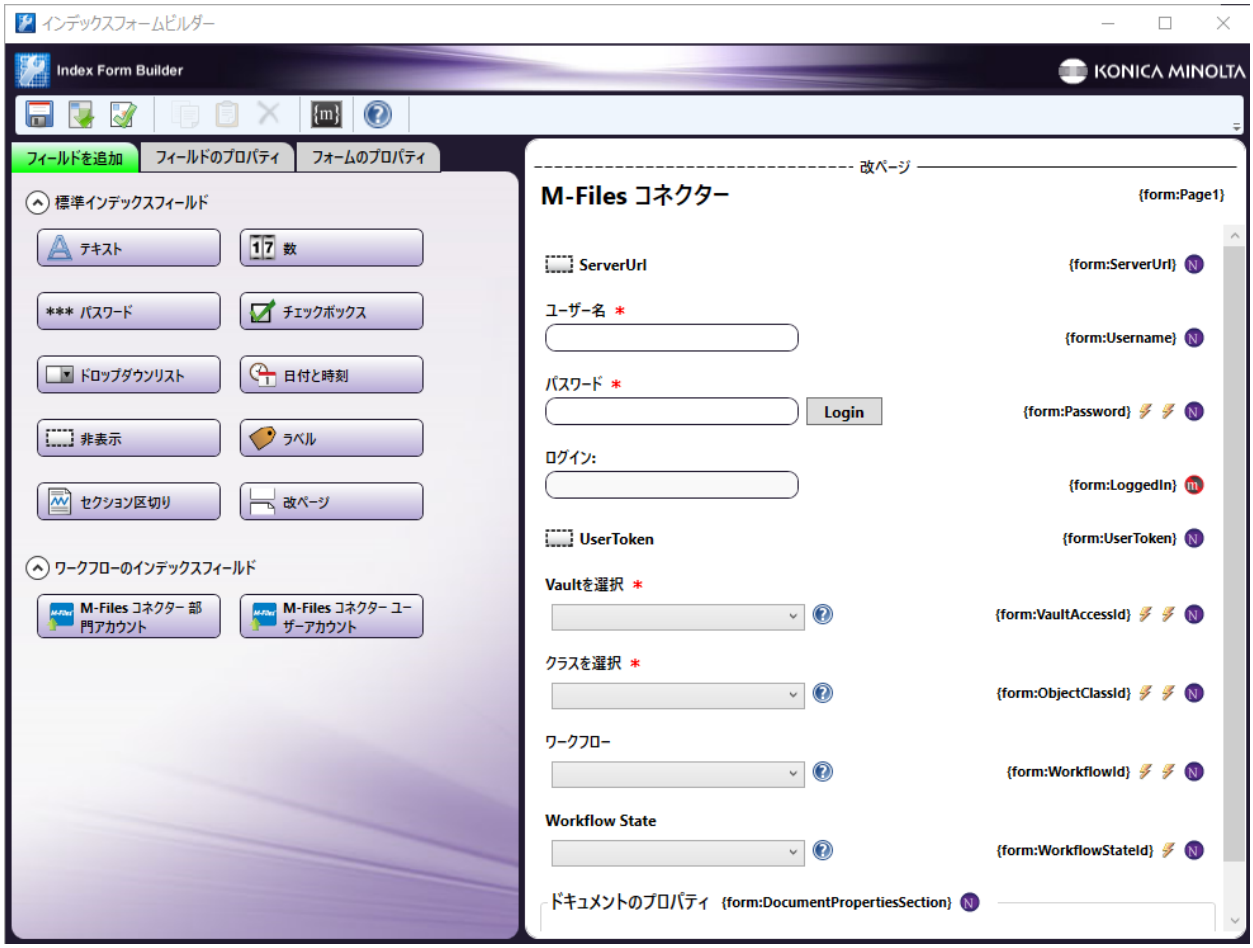


5. 次の図のように、ポップアップで **[空白のインデックスフォーム]** オプションを選択します。



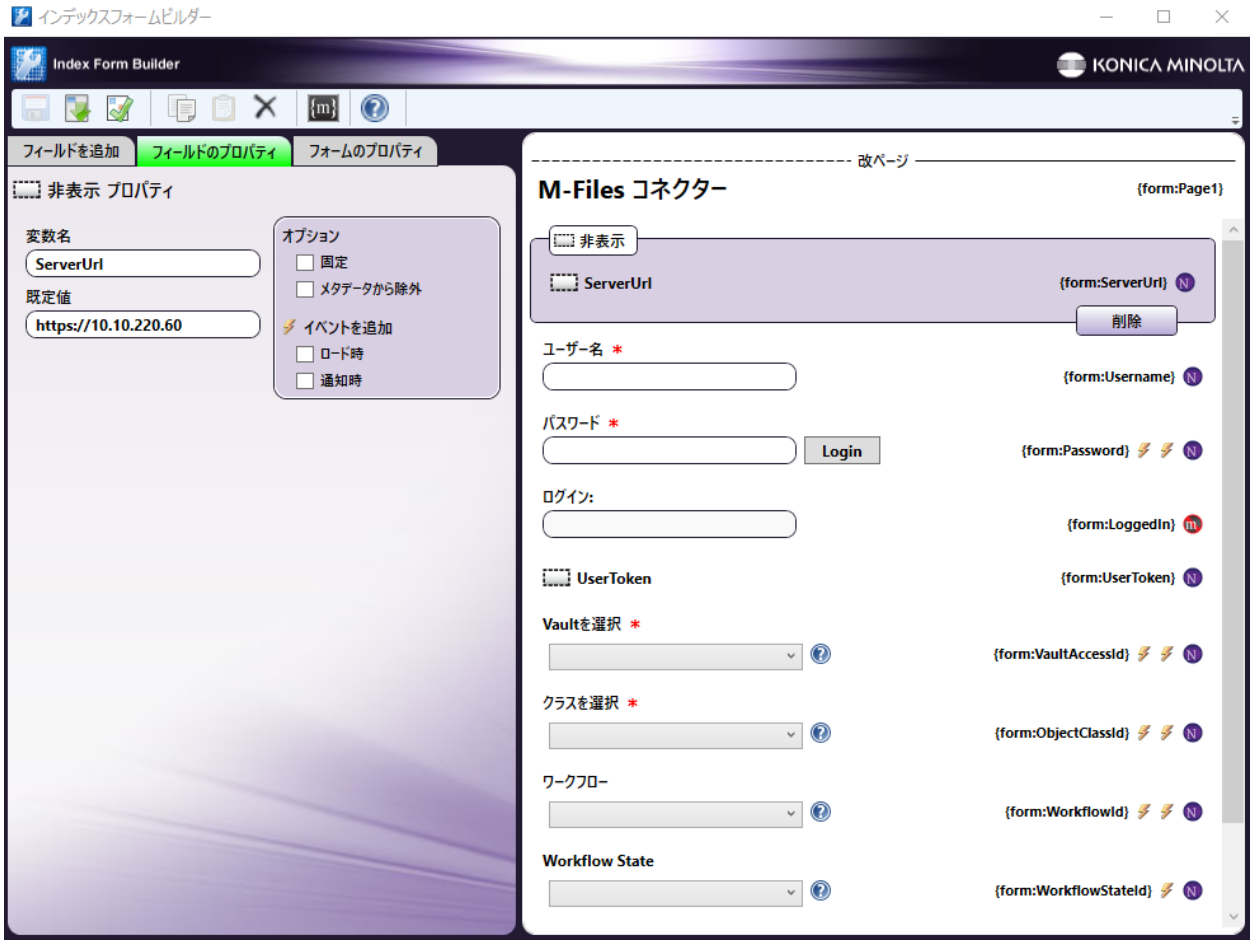
6. 次の図のように、空白のインデックスフォームビルダーが表示されます。

7. **M-Filesコネクターユーザーアカウント** アイコンをインデックスフォームビルダーの作業領域にドラッグします。次の図のように、いくつかのフィールドが入力されます。



注: 図の[ServerUrl]などの、点線で囲まれたフィールドは非表示フィールドです。これらは、M-FilesノードのM-Files管理者によって事前設定されており、複合機でユーザーには表示されません。

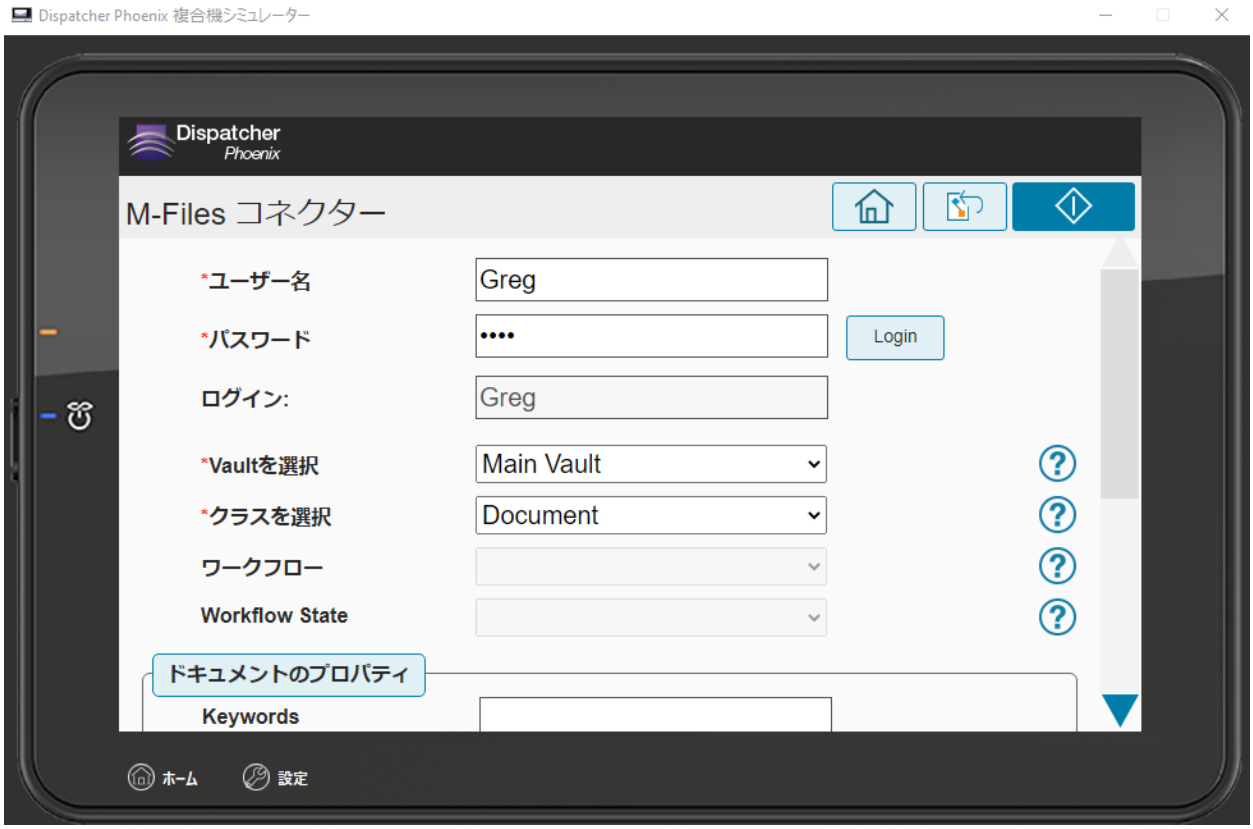
8. **ServerUrl** 領域をクリックして、フィールドプロパティエディターを開きます。次の図のように、**既定値** をM-Filesサーバーの URLに変更します。



9. インデックスフォームビルダーを検証して保存し、閉じます。

注: 次の図に示すように、複合機パネルで、ユーザーはM-Filesの **ユーザー名** と **パスワード** を使用してサインインするように求められます。

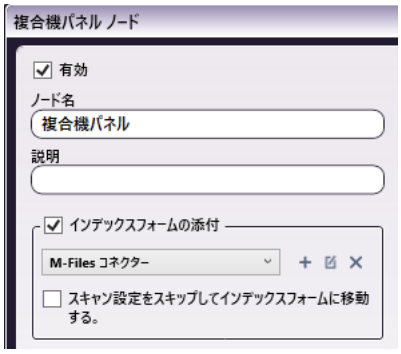
注: ユーザーは、必須フィールドに **ユーザー名** と **パスワード** を入力し、**ログイン** をクリックします。ログインに成功すると、ユーザー名が[ログイン:]フィールドに入力されます。その後、ユーザーは **Vault** と **クラス** を選択できるようになります。クラスを選択すると、次の図のように、**ワークフロー** と **ワークフロー状態** を含むドキュメント **プロパティ** が入力されます。



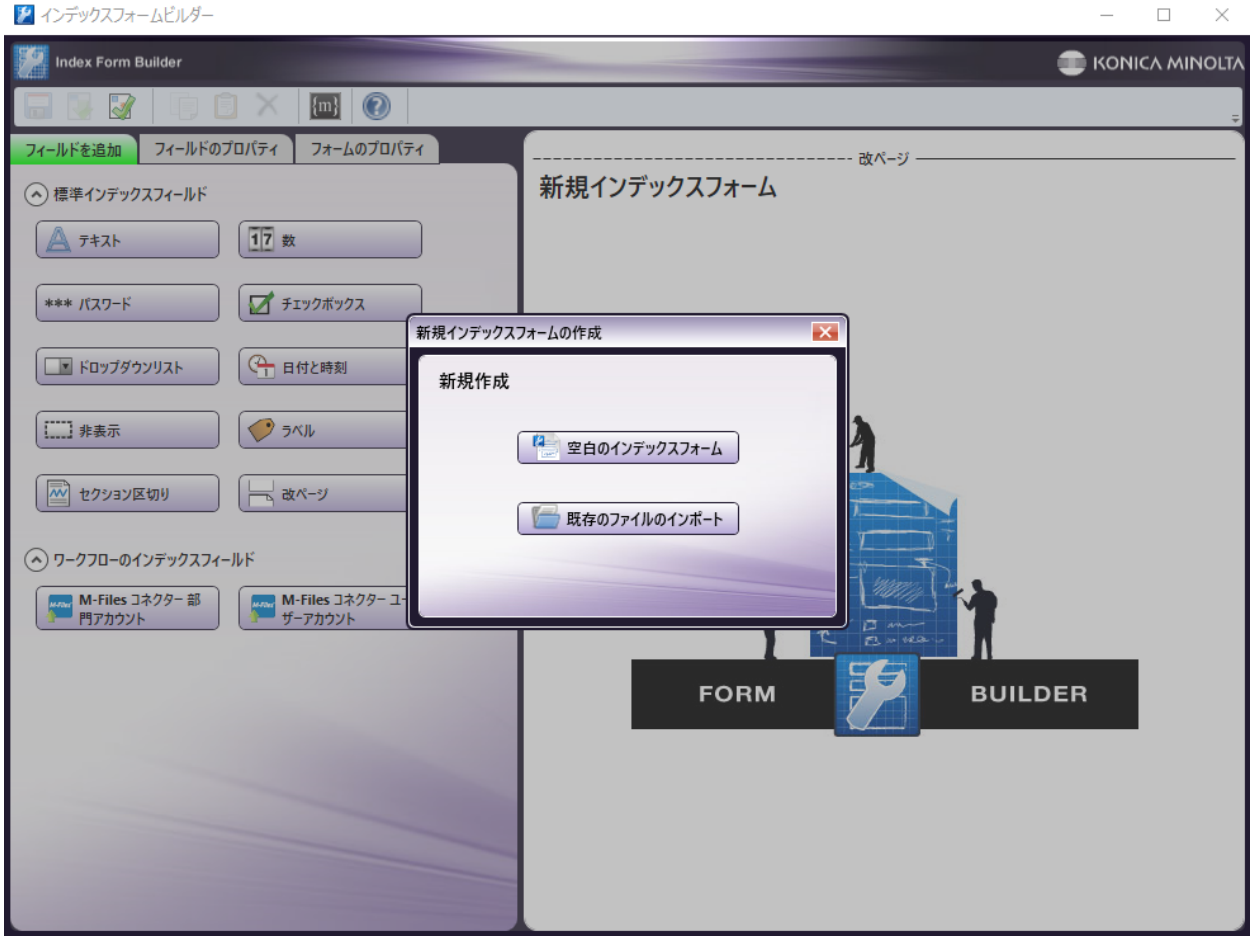
カスタムインデックス作成ワークフローの構成

管理者は、カスタムインデックス作成ワークフローを利用して、ユーザーに独自のインデックス作成エクスペリエンスを作成することができます。この場合、管理者は、メタデータを介してドキュメントのプロパティと追加のプロパティの値を受け入れるようにM-Filesコネクターノードを構成します。ユーザーは、複合機パネルですべてのM-Filesドキュメントのプロパティ情報を入力することができます。カスタムワークフローを設定するには、次の手順を実行します。

1. 複合機パネルノードとM-Filesコネクターを使用して新しいワークフローを作成します。
2. M-Filesサーバーの構成セクションに従って、M-Filesノードを構成します。
3. **複合機パネル** ノードを開きます。
4. 次の図のように、[インデックスフォームの添付]の横にある **[チェックボックス]** をクリックし、次に **[+]** アイコンをクリックしてインデックスフォームビルダーを開きます。



5. 次の図のように、ポップアップで **[空白のインデックスフォーム]** オプションを選択します。

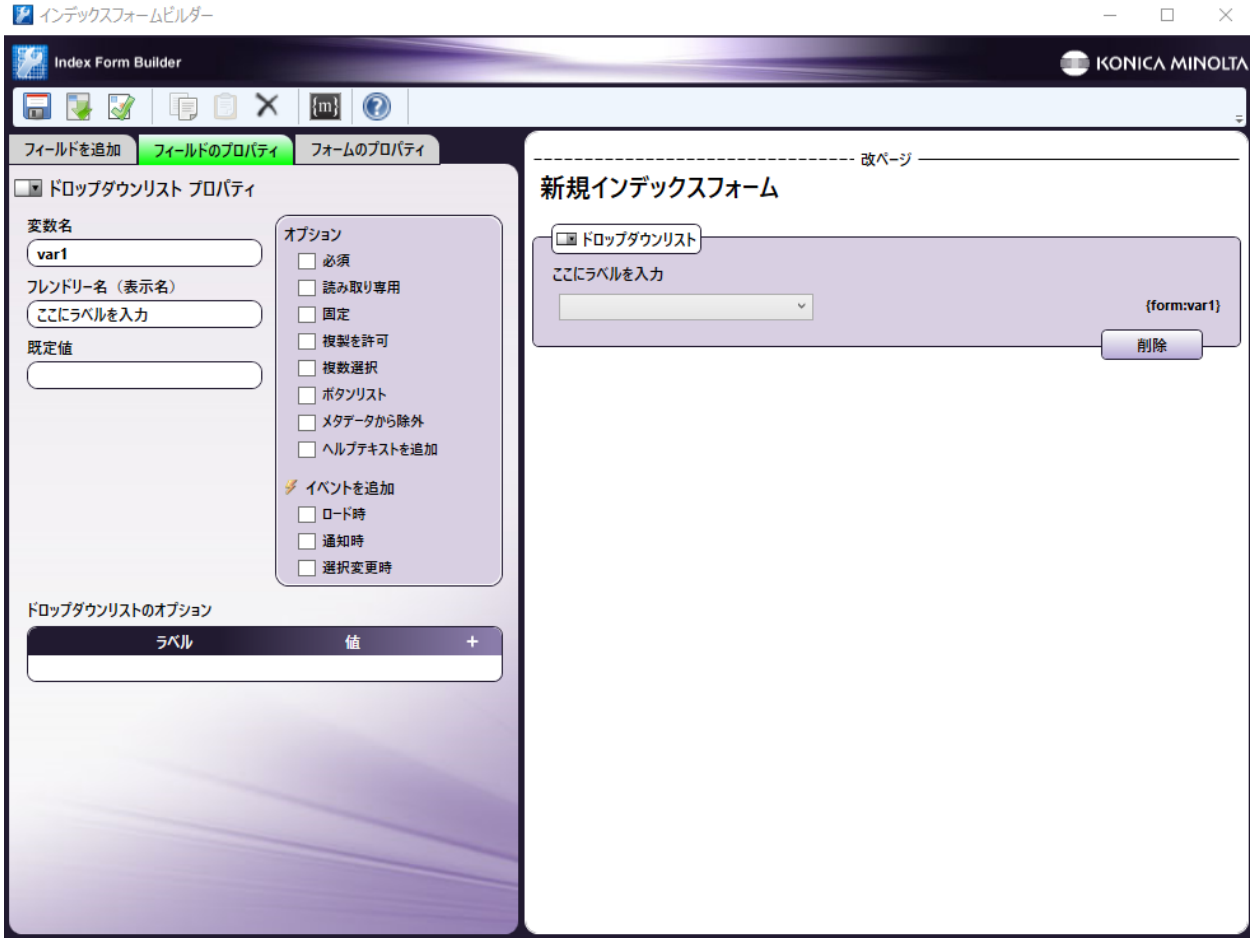


6. **[空白のインデックスフォーム]** をクリックします。次の図のように、空白のインデックスフォームビルダーが表示されます。

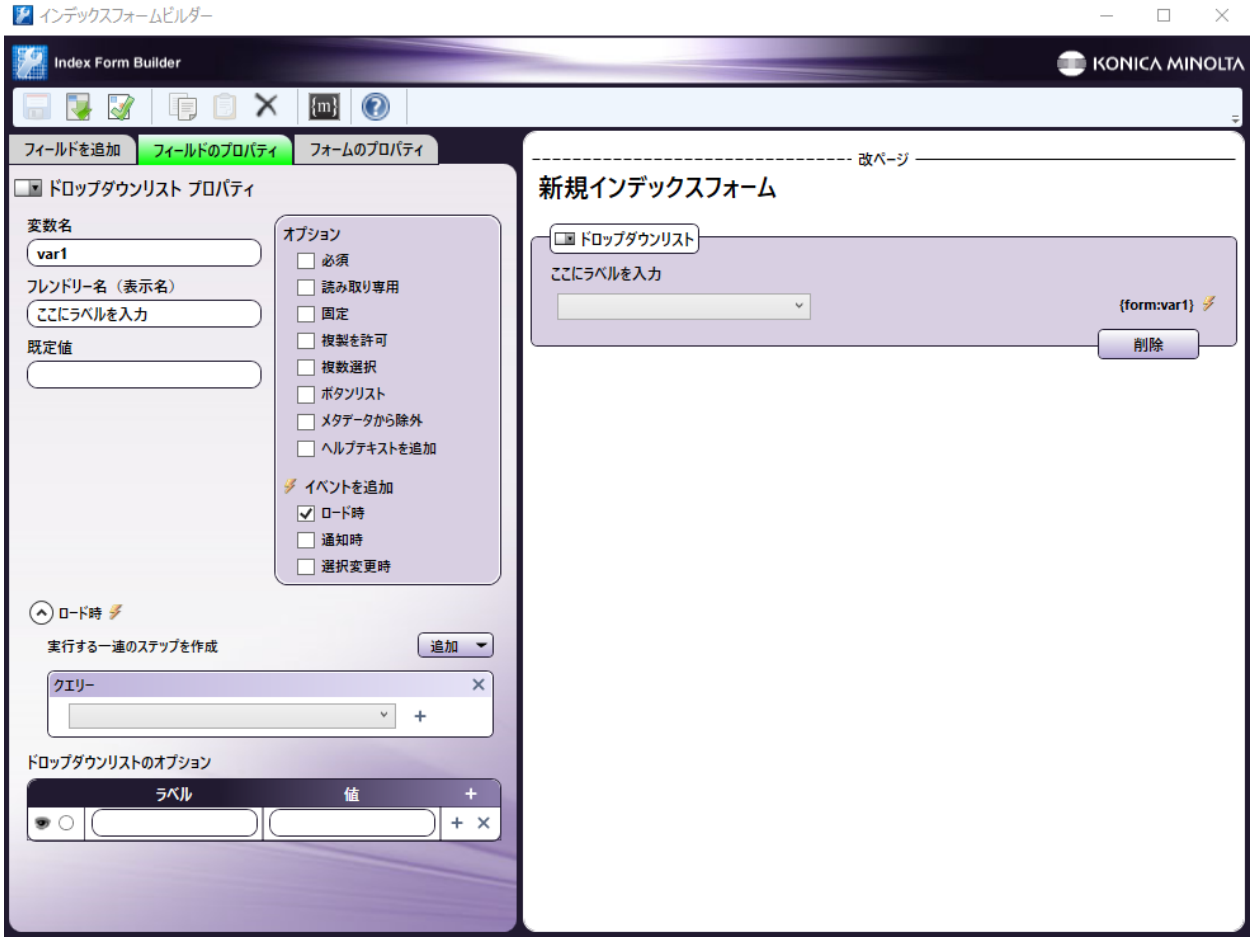
7. [標準インデックスフィールド]リストから **[ドロップダウンリスト]** をインデックスフォームビルダーの作業領域にドラッグします。

   注: 以下の手順(ステップ8-15)は、メタデータを入力するフィールドを追加するプロセスを示しています。具体的には、ユーザーは最大2つの追加クラスをドキュメントに追加できます。正確なフォームの設定はユースケースによって異なります。

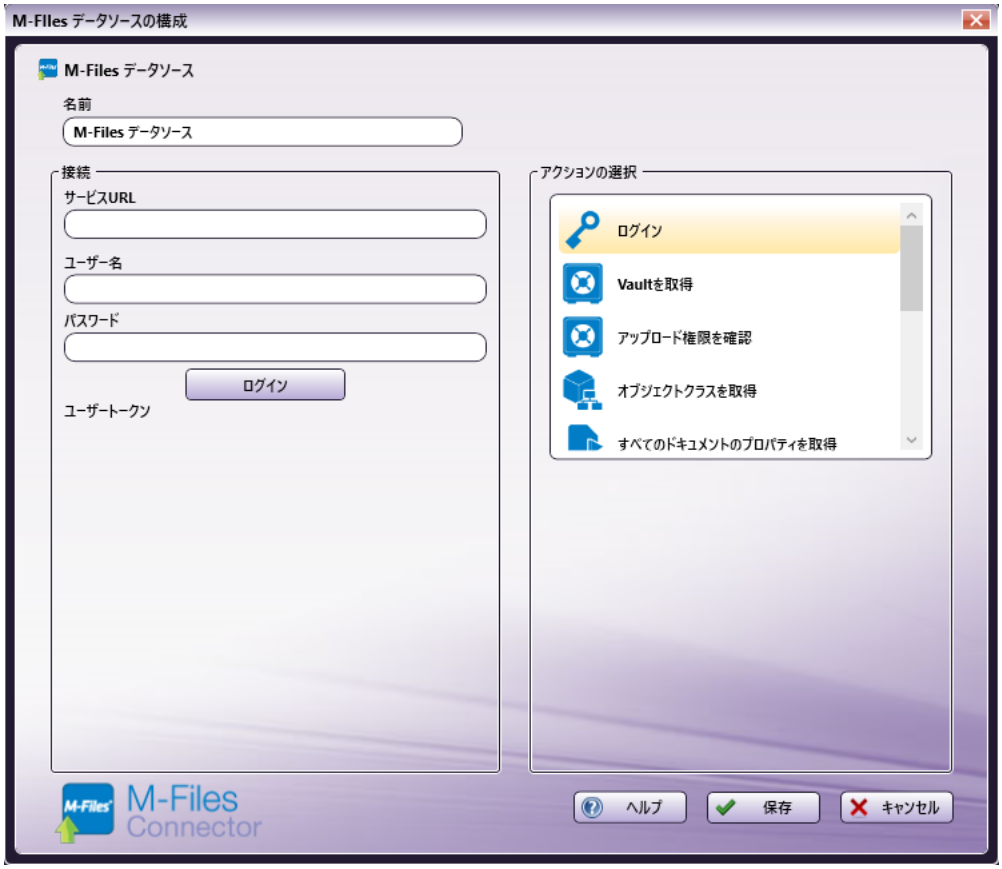
8. 次の図のように、**[ドロップダウンリスト]** をクリックしてフィールドプロパティを開きます。



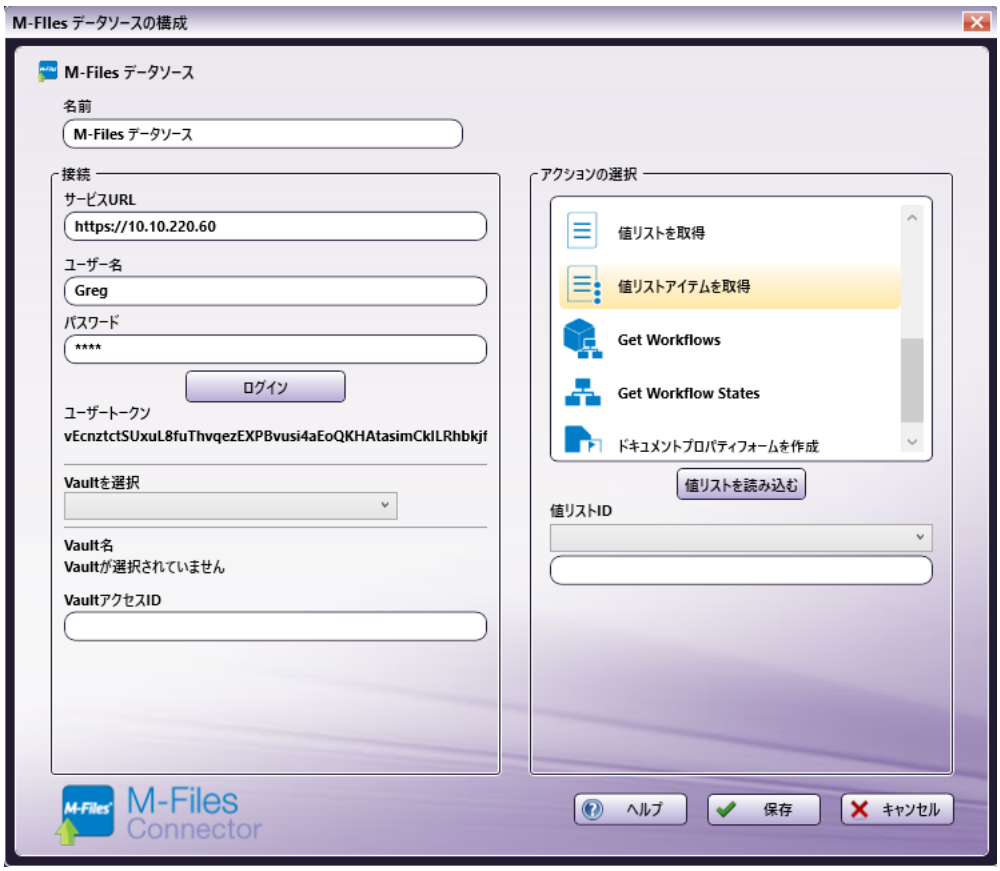
9. ドロップダウンに適切な変数名とフレンドリー名を付けます。**[ロード時]** の横にある **[チェックボックス]** をクリックします。次に、次の図のように、[追加]ドロップダウンメニューをクリックして、**[クエリー]** を選択します。



10. (前の図に示すように) [クエリー]ドロップダウンの横にある **[+]** アイコンをクリックし、**[M-Filesデータソース]** を選択します。これによって、次の図のようにM-Filesデータソースの構成ウィンドウが開きます。

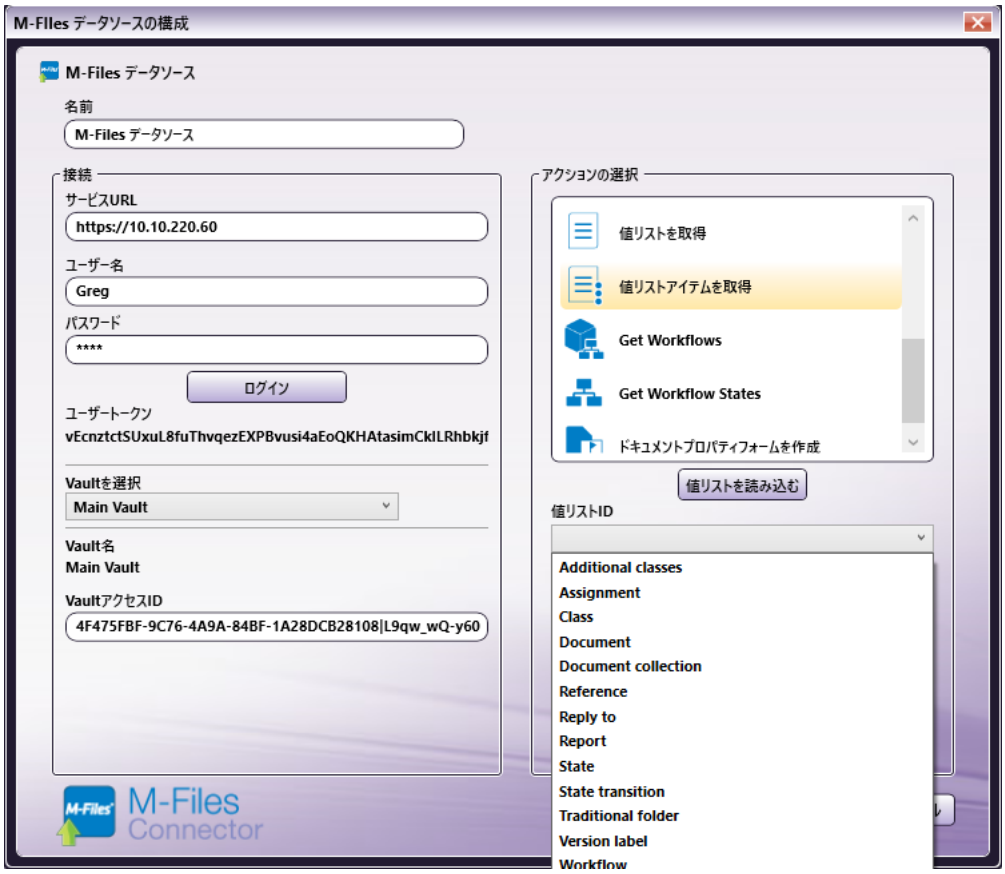


11. サービスURL、ユーザー名、パスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。これによって、ユーザートークンが生成されます。次の図のように、[アクションの選択]領域で、**[値リストアイテムを取得]** を選択します。



注: ユーザーは、アクションを選択する場合、アイテムを再選択する必要があります。

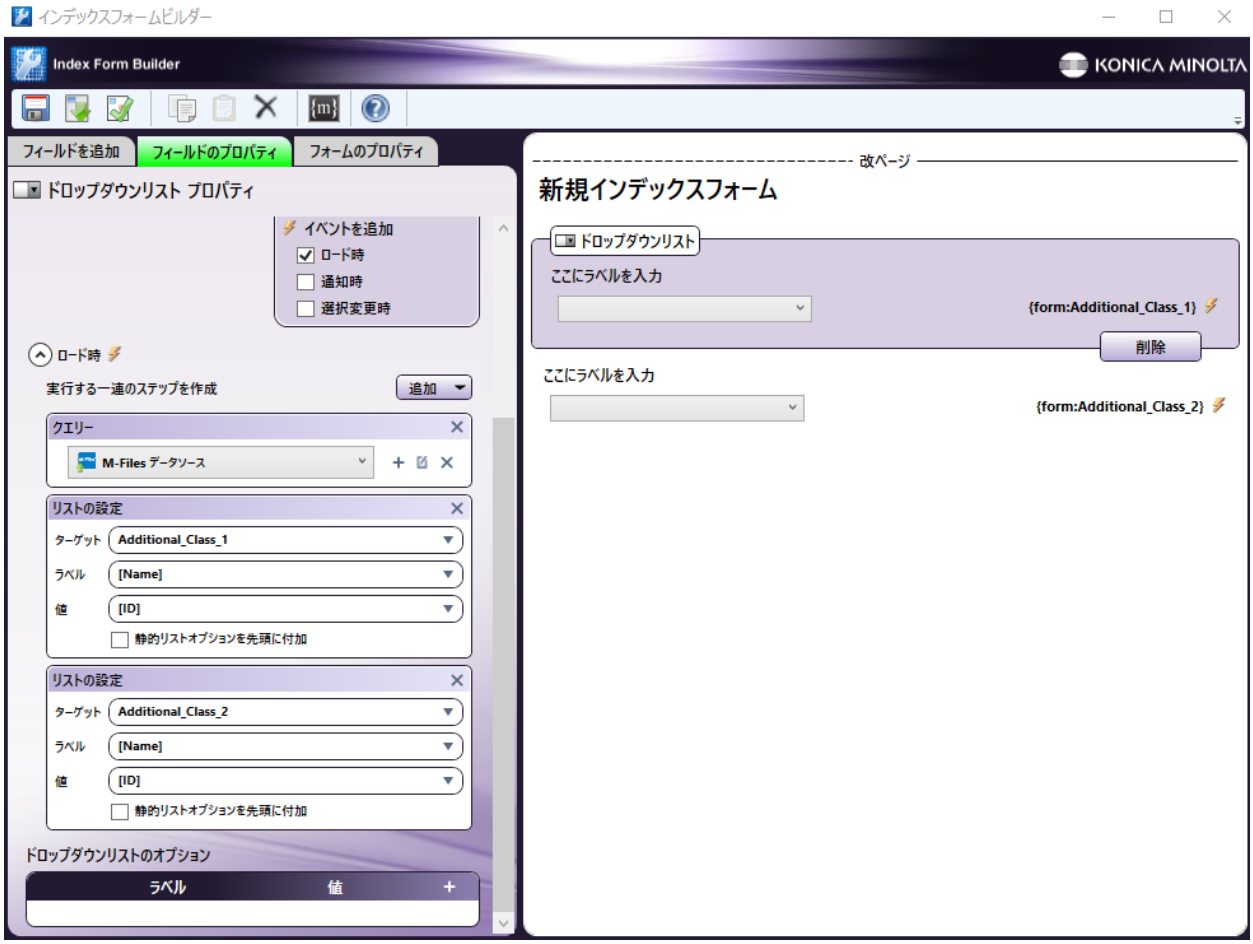
12. [Vaultを選択]ドロップダウンメニューからVaultを選択します。次に、**[値リストを読み込む]** をクリックして、**値リストID** を入力します。次の図のように、追加する値リストIDを選択します。



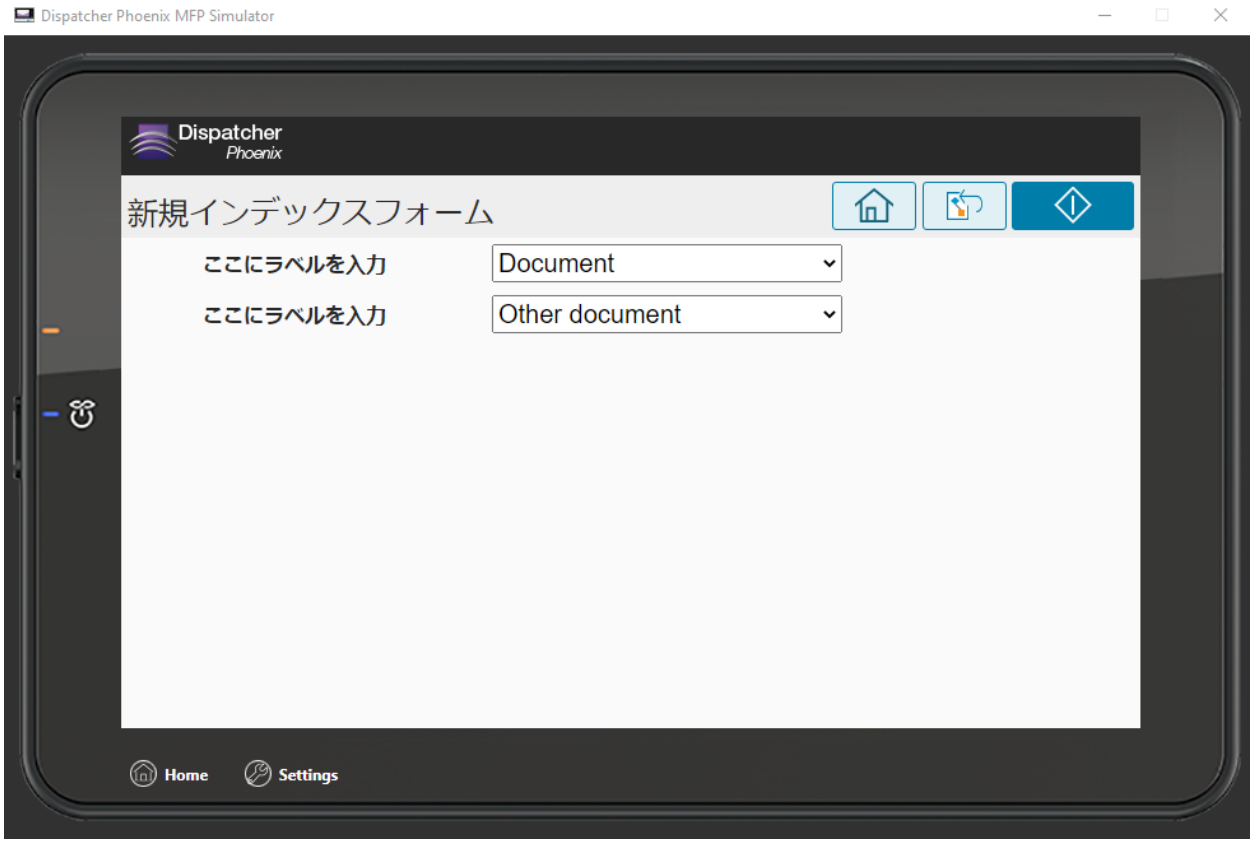
13. **[保存]** をクリックして保存し、M-Filesデータソースの構成ウィンドウを閉じます。

    注: 構成を保存して、クエリーを再度開いて編集する場合は、再度ログインする必要があります。

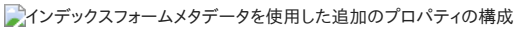
14. インデックスフォームビルダーで、**[追加]** ドロップダウンをもう一度クリックして、[リストの設定]を選択します。これを2回繰り返して、2つ目の **[リストの設定]** を追加します。次の図のように、ターゲットを2つのドロップダウンの[変数名]に設定し、ラベルを[Name]に設定し、値を[ID]に設定します。



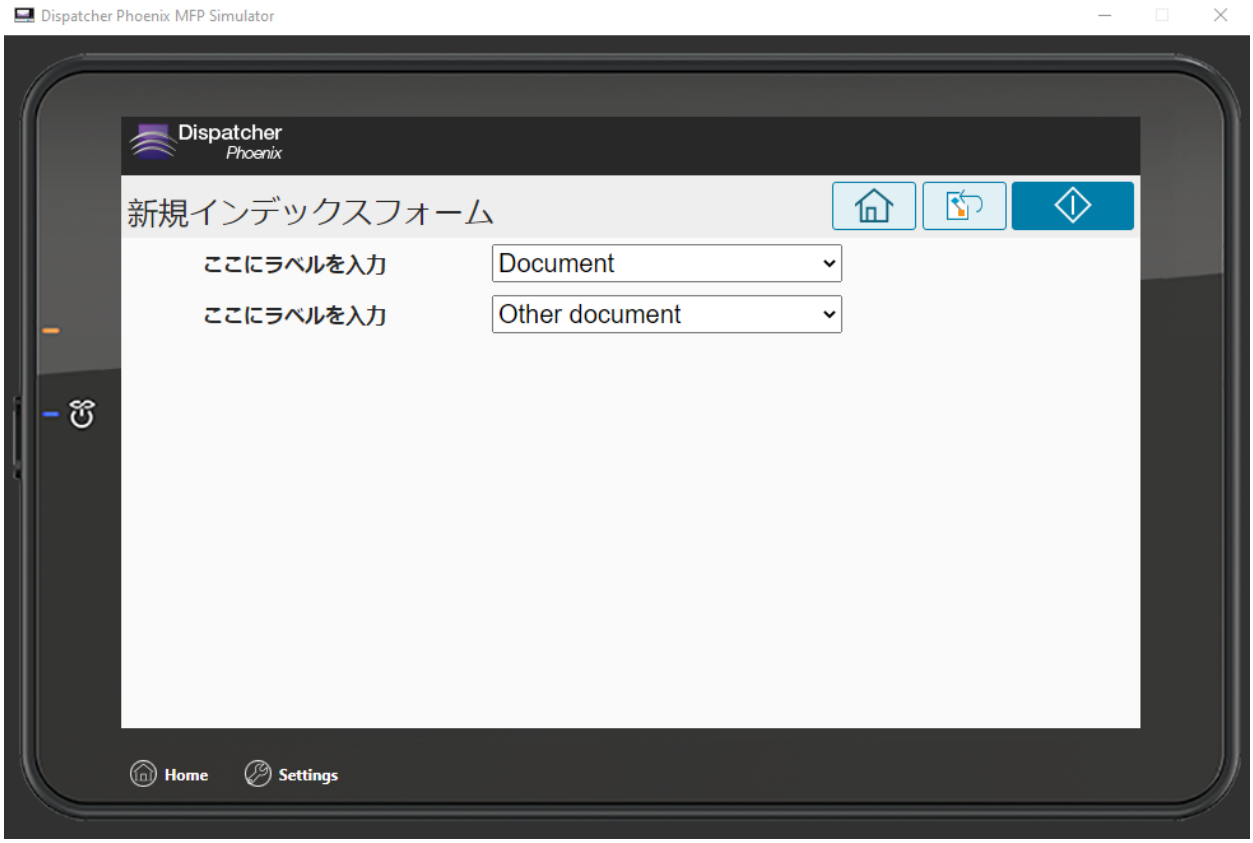
15. インデックスフォームビルダーを検証して保存します。
16. M-Filesコネクターをダブルクリックして開きます。
17. ログイン資格情報を入力し、手順12で選択したものと同じvaultを選択します。
18. [追加のプロパティ]セクションで、**[＋プロパティの追加]** ボタンを2回クリックします。
19. 追加の各プロパティのドロップダウンで、[追加クラス]を選択します。



20. ウィンドウの下部にある **【メタデータ】** ボタンをクリックします。これにより、メタデータブラウザーが開きます。**インデックスフォーム** をクリックし、最初のメタデータ変数をM-Filesコネクターウィンドウの最初の「追加のクラス」プロパティの横の空のスペースにドラッグします。2番目のメタデータ変数を2番目の「追加のクラス」プロパティの横の空のスペースにドラッグします。


インデックスフォームメタデータを使用した追加のプロパティの構成

21. 変更を保存し、ワークフローを検証し、ワークフローを保存して終了します。
22. 次の図のように、複合機パネルで、ユーザーはドロップダウンメニューから最大2つの異なる追加のクラスを追加することができます。



注:

- M-Filesコネクターは、すべての検索フィールドでOCRノードからのメタデータをサポートします。
  - 検索を実行して、OCRメタデータを使用してM-Files内にドロップダウンリストを作成する場合、ノードは、メタデータ値とM-Filesサーバーのプロパティから先頭と末尾の空白を自動的に削除して、両方を小文字に変換し、OCRメタデータ値をM-Filesプロパティデータと比較し、最も正確な一致を見つけます。
  - M-Filesサーバーに適切なプロパティが存在しないか、またはスペルの違いが原因で適切なプロパティが見つからない場合、ワークフローは警告をログに記録し、プロパティなしでドキュメントをアップロードしようとします。これにより、フィールドが **必須** としてマークされている場合、エラーが発生する可能性があります。
  - M-FilesはID番号に基づいてプロパティを格納するため、数値のプロパティ名は別のプロパティIDと同じ値を持つ可能性があります。この場合、M-Filesコネクターは既定でID番号と一致し、そのIDに関連付けられたプロパティを表示します。
- 同じ名前のプロパティが複数ある場合、それぞれに異なるIDが関連付けられます。この場合、M-Filesコネクターは、既定で数値の最初のIDに関連付けられたデータを使用します。
- ユーザーアカウントインデックス作成のインデックスフォームと同様の方法で、インデックスフォームを構成すると便利な場合があります。ただし、事前に作成されたインデックスフォームでは追加のプロパティやその他の機能がオフになっているため、その事前に作成されたフォームをベースとして使用しないことが重要です。ワークフローを設定する管理者は、空白のインデックスフォームから開始する必要があります。
- 管理者が新しいM-Files Vaultを作成したり、ユーザーの権限を調整した場合、変更がM-Filesノードまたはインデックスフォームビルダーに表示されるまでに最大24時間かかる場合があります。ただし、これらの変更は、管理者がIIS内でM-Files Webサービスを再起動した後、M-Filesノードとインデックスフォームビルダーに反映されます。

OnBaseコネクター

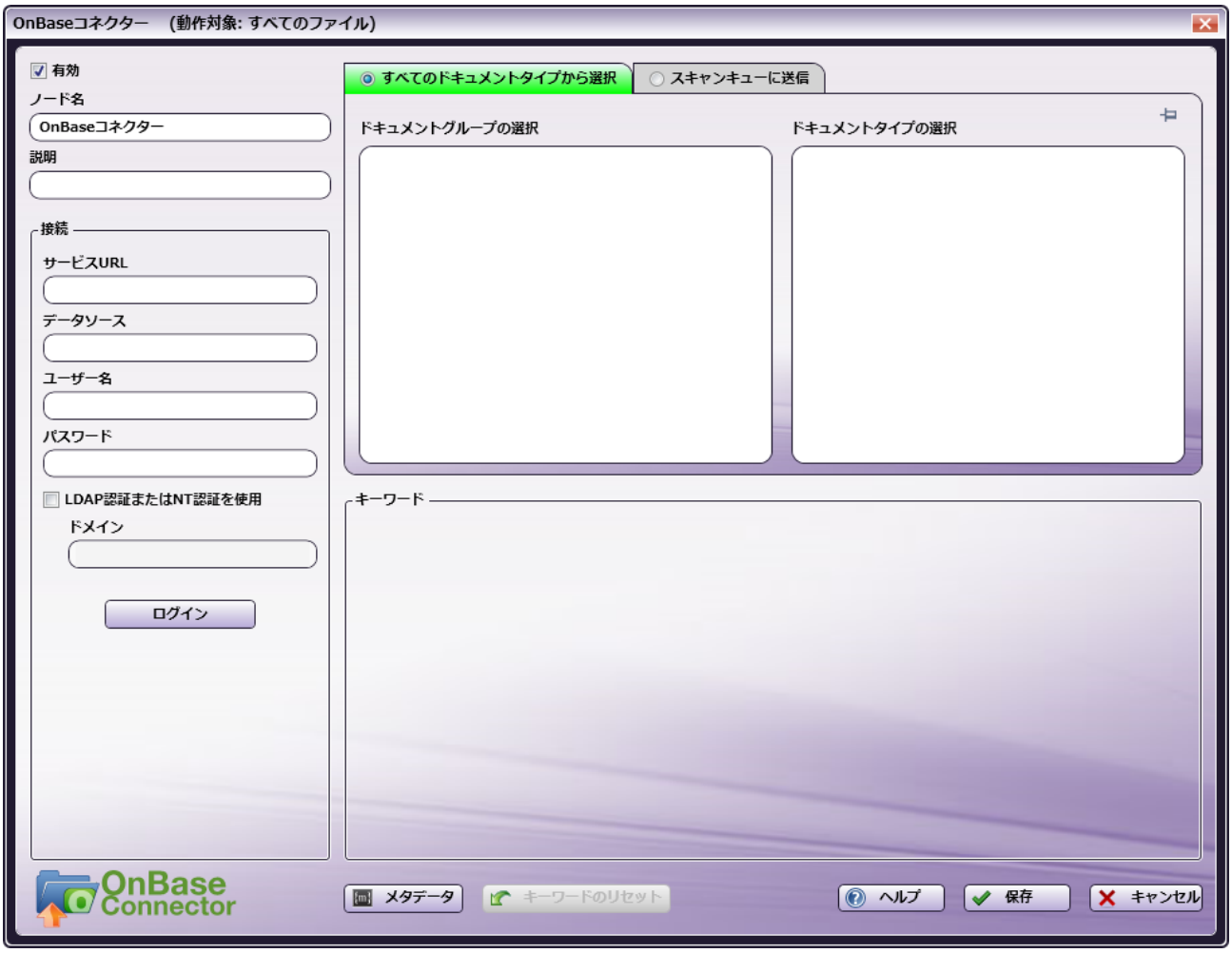
OnBaseコネクターノードでは、OnBaseデータベースとの間でドキュメントなどのデータの保存や取得ができます。自動化されたワークフローでドキュメントをOnBaseに送信することもできますし、複合機パネルから直接、OnBaseにログインし、OnBase属性を設定して、ドキュメントのキーワードを入力することもできます。

要件は次のとおりです。

- **サポートされるバージョン:** Hyland OnBase サーバーコンポーネント バージョン12.0.3.227以降。
- **インストールが必要なライセンス:** Hyland Softwareから「Integration for Konica Minolta Dispatcher Phoenix」ライセンスを購入し、OnBaseデータベースにインストールする必要があります。
- **スキャンサイズ:** サポートされている最大スキャンサイズは100 MBです。スキャンしたドキュメントがこの最大値を超えた場合、この上限を警告するメッセージが表示されます。

重要! お使いのOnBase クライアントやOnBase Unity クライアントのバージョンが異なる可能性がありますので、インストールされているHyland OnBase サーバーコンポーネントのバージョンを確認するようにOnBase管理者に依頼してください。ご不明な点は、OnBase管理者、またはHylandのサポート担当者にお問い合わせください。

OnBaseノードのプロパティウィンドウを表示するには、OnBaseの出力ノードをワークフローに追加し、ダブルクリックします。



- 複数の出力場所がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合は、この出力は無視されます。ワークフローによって引き続き検証される一方で、ドキュメントは出力されないため失われる可能性があります。
- **[ノード名]** フィールドに、OnBaseノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、OnBaseノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

OnBaseへの接続

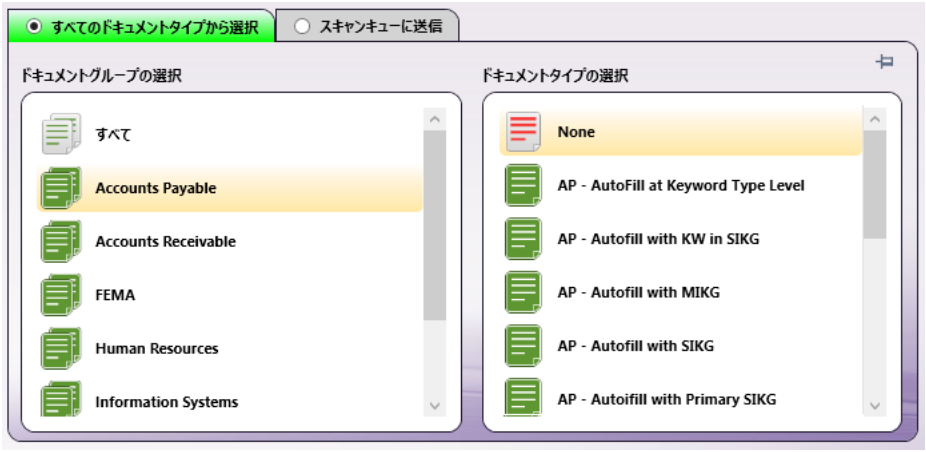
最初に、ObBaseに接続する必要があります。[接続]領域で以下の操作を行います。

1. **[サービスURL]** フィールドにOnBaseアプリケーションサーバーのURLを入力します。
2. **[データソース]** フィールドに、OnBaseアプリケーションサーバーが使用しているODBCデータソースの名前を入力し、そのOnBaseデータベースに接続します。
3. **[ユーザー名]** フィールドと **[パスワード]** フィールドに、OnBaseサーバーへの接続に使用するユーザー名とパスワードを入力します。
4. LDAP/NT認証を有効にする場合は、**[LDAP認証またはNT認証を使用]** ボックスをチェックします。
5. LDAP/NT認証を有効にした場合は、**[ドメイン]** フィールドに、LDAP/NT認証経由でOnBaseにログインするときに使用するドメインを入力する必要があります。
6. **[ログイン]** を選択して、接続の資格情報を検証します。資格情報が正しい場合、使用可能なドキュメントグループが **[ドキュメントグループの選択]** ボックスに表示されます。

ドキュメントの分類

- **[すべてのドキュメントタイプから選択]** - このタブ/ラジオボタンが選択されている場合、使用可能なドキュメントグループが **[ドキュメントグループの選択]** ボックスに表示されます。ドキュメントグループは、OnBaseでは類似するドキュメントタイプをまとめるために使用され、通常、組織単位や組織内の部門に関連付けられます。

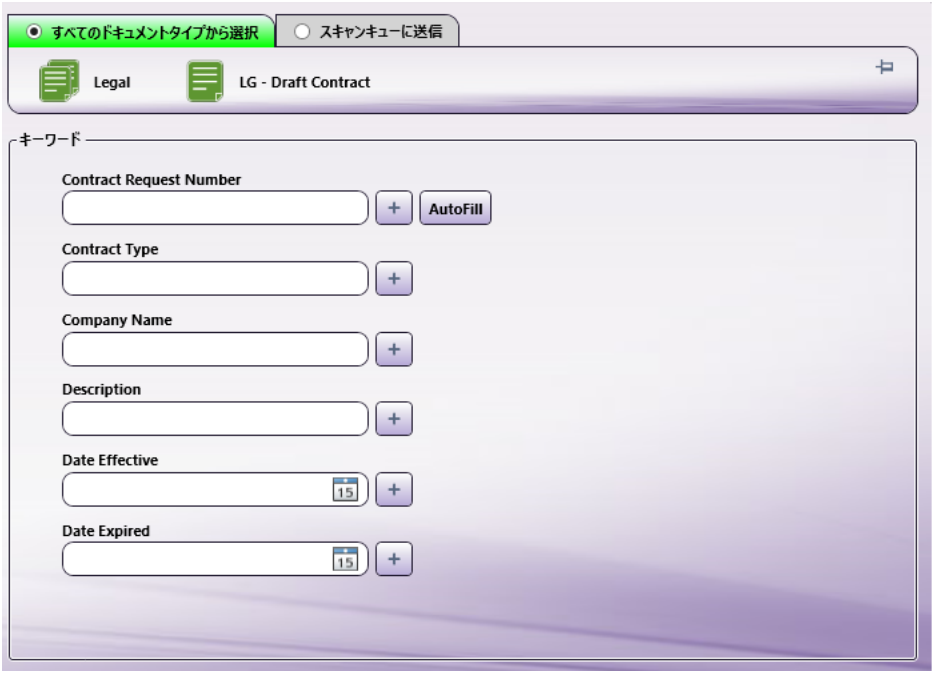
  ドキュメントグループを選択すると、次の図のように、関連するドキュメントタイプが隣の列に表示されます。このドキュメントタイプは、インデックスで使用できるキーワードフィールドをコントロールします。ドキュメントタイプを選択すると、そのドキュメントタイプで使用できる関連キーワードフィールドのリストが表示され、[ドキュメントグループの選択]ボックスと[ドキュメントタイプの選択]ボックスは自動的に折りたたまれます。



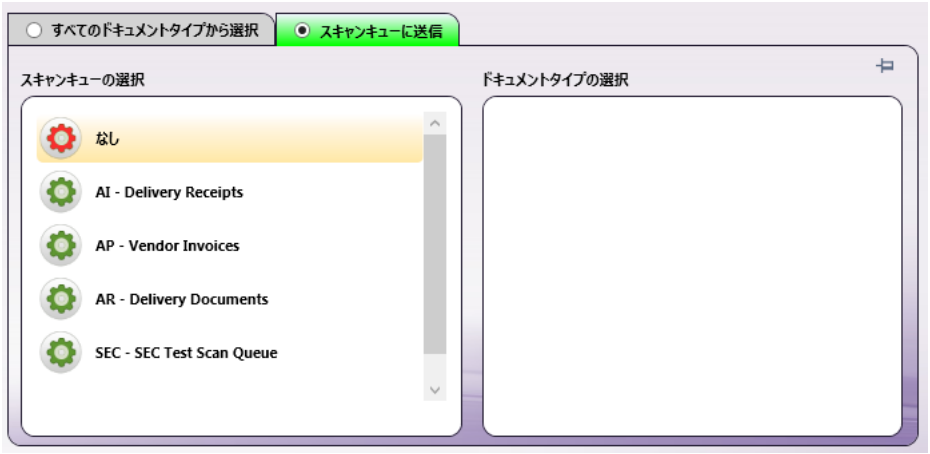
ピンのアイコンをクリックして、これらの2つのボックスのための自動折りたたみ機能を無効にすることができます。

注: Dispatcher Phoenixでは、[マネージャー]ユーザーと[管理者]ユーザーの場合、必須のOnBaseフィールドには[必須]と表示されません。これは、[マネージャー]や[管理者]はこのようなキーワード(必須、非表示、読み取り専用)に対する権限を持っているためです。

例については次の図を参照してください。



- **[スキャンキューに送信]** - このタブ/ラジオボタンが選択されている場合、使用可能なスキャンキューが **[スキャンキューの選択]** ボックスに表示されます。OnBaseスキャンキューは、特定のドキュメント処理やインデックス作成用にあらかじめ定義されています。次の図を参照してください。



OnBase 16またはそれ以降のサーバーでは、[スキャンモード]ドロップダウンリストからスキャンモードを選択して、スキャンキューに入るドキュメントの初期インデックス作成ステータスを設定することができます。以下を選択します。

- **[指定なし]** このオプションを選択すると、スキャンモードはOnBaseサーバーに送信されません。OnBaseサーバーは既定のスキャンモードである"フルインデックス"を使用します。このオプションは、OnBaseサーバー バージョン15またはそれ以前で使用する必要があります。

  注: OnBase 15またはそれ以前で「指定なし」以外のスキャンモードオプションを選択した場合、ワークフローはドキュメントを処理できません。

- **[インデックスなし]** ドキュメントがOnBaseにスキャンされた後に手動でインデックス付けを実行するには、このオプションを選択します。アップロードされたドキュメントは、ドキュメントタイプやキーワードが関連付けられていないOnBaseのインデックス待機状態になります。このオプションが選択されている場合、**[ドキュメントタイプを選択]** および **[キーワード]** セクションは空になります(それらは適用されないため)。
- **[プレインデックス]** このオプションを選択した場合は、ドキュメントタイプを指定してキーワードを入力できます。アップロードされた文書は、OnBaseのインデックス待機状態になります。
- **[フルインデックス]** このオプションを選択した場合は、ドキュメントタイプを指定してキーワードを入力できます。ただし、アップロードされたドキュメントはインデックス作成キューをバイパスしてOnBaseのコミット待機状態に移行します。これがデフォルトの動作です。

注: 上記の状態は既定の設定に基づいています。実際の状態は、OnBaseの構成に基づいて変わる可能性があります(たとえば、[フルインデックス]オプションを選択すると、そのオプションが[スキャンキュー]で選択されている場合、アップロードされたドキュメントを[アドバンストキャプチャの待機中]状態に送信することがあります。)。

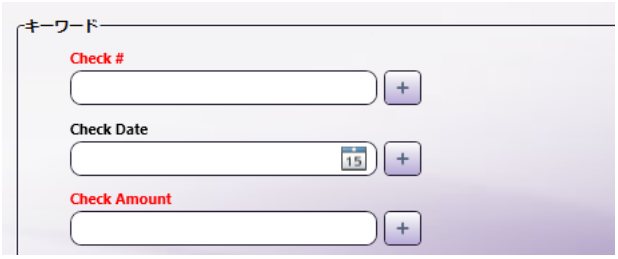
- スキャンモード機能はメタデータをサポートします。ユーザーは手動で、またはメタデータブラウザーウィンドウからフィールドにメタデータをドラッグアンドドロップしてメタデータキーを入力できます。ウィンドウ下部の **[メタデータ]** ボタンをクリックして、メタデータブラウザを開くことができます。選択したメタデータには、次のいずれかの値が含まれている必要があります。
  - 指定なし (スキャンモードオプション未指定用)
  - インデックスなし (インデックスなしスキャンモードオプション用)
  - プレインデックス (プレインデックススキャンモードオプション用)
  - フルインデックス (フルインデックススキャンモードオプション用)
- **[スキャンキューの選択]** 列からスキャンキューを選択すると、隣の列に関連ドキュメントタイプのリストが表示されます。ドキュメントタイプを選択すると、そのドキュメントタイプで使用できる関連キーワードフィールドのリストが表示され、**[スキャンキューの選択]** ボックスと **[ドキュメントタイプの選択]** ボックスは自動的に折りたたまれます。この自動折りたたみ機能を無効化するには、画面の左側にある **ピン留め** アイコンをクリックします。

キーワード

キーワードフィールドには、選択したドキュメントタイプに関連する値を入力できます。

注:

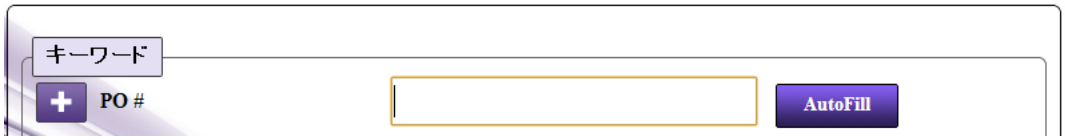
- **メタデータ** - **[メタデータ]** ボタンをクリックして、[メタデータブラウザー]ウィンドウを開き、必要に応じて、メタデータ変数をドラッグし、キーワードフィールドにドロップします。
- **必須キーワード** - 必須キーワードは、次の図にあるように、赤で表示されます。



- **複製/クローニング** - Dispatcher PhoenixのOnBaseコネクターノードおよび複合機パネルでは何度でも、キーワードフィールドを複製できます。次の操作を行います。
  - Dispatcher Phoenixでキーワードフィールドを複製するには、複製したいキーワードフィールドにカーソルを置き、**[+]** ボタンをクリックするか、**[F6]** を押します。
  - 複合機パネルでキーワードフィールドを複製するには、フィールドの隣にある **[+]** ボタンを押します。

  Dispatcher Phoenixにおけるフィールドの複製:

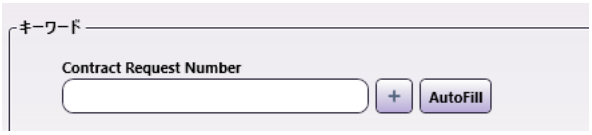
  複合機でのフィールドの複製:



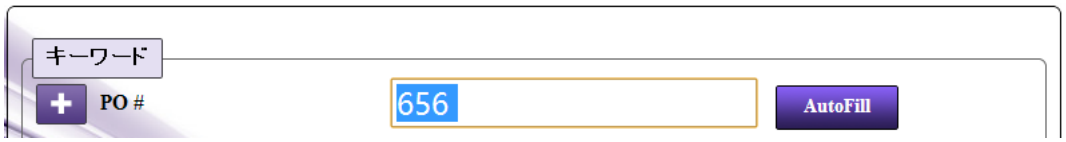
- **自動入力** - OnBaseでは、最初に入力した値に基づいて、キーワードフィールドを自動入力できます。たとえば、複合機パネルでキーワードを1つ入力した場合、先頭フィールドの値を使用するクエリーに基づいて、そのドキュメントタイプに関連するその他のキーワードを自動的に入力できます。

  キーワードフィールドは、**[Autofill（自動入力）]** ボタンが隣に付いている他のフィールドを自動入力するために使用できます。そのキーワードフィールドに特定の値を入力した後に、**[Autofill（自動入力）]** ボタンをクリックして、他のキーワードフィールドに自動入力します。次の図を参照してください。

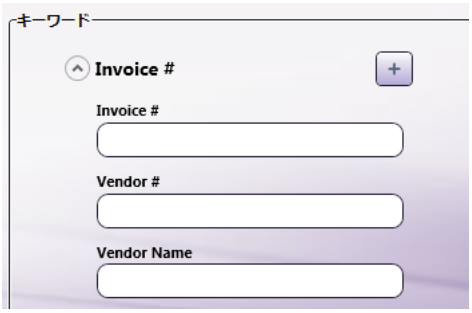
  Dispatcher Phoenixにおける自動入力:



  複合機での自動入力:



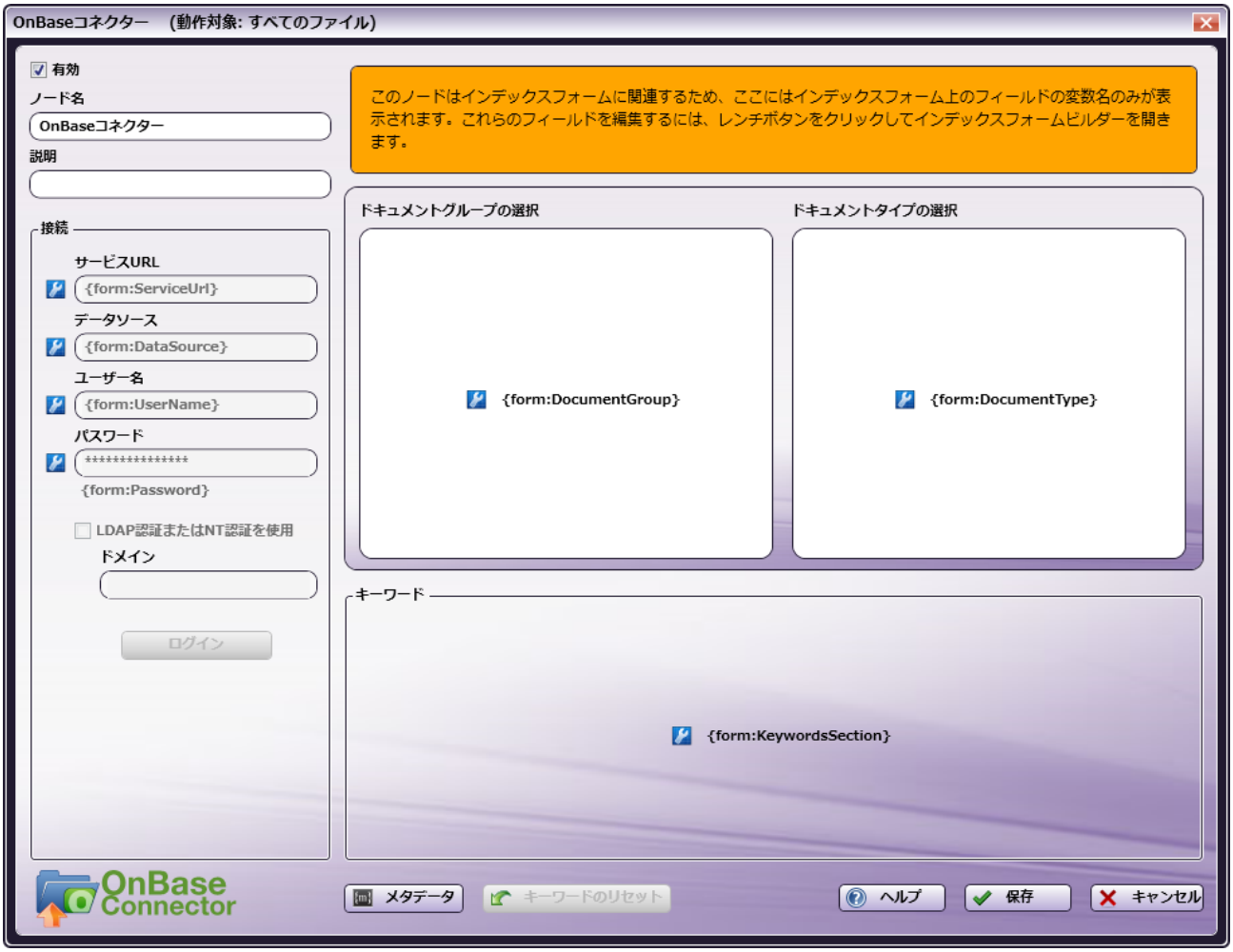
- **ネストしたセクション** - キーワードをセクションにグループ化すると、セクション名の隣にある矢印ボタンをクリックして、セクションを展開したり、折りたたんだりできるようになります。セクションを複製するには、セクション名の隣にある **[+]** ボタンをクリックします。次の図は、Dispatcher PhoenixのOnBaseノードプロパティウィンドウでネストされたセクションを表しています。



- **キーワードのリセット** - これまでに入力されたキーワードのエントリーをすべてクリアするには、[キーワードのリセット]ボタンをクリックします。
- **キーワードの検証** - Dispatcher Phoenixの **[保存]** ボタン、または複合機の **[スキャン]** ボタンをクリックすると、OnBaseサーバーに対してキーワードが検証されます。検証でエラーが発生した場合、OnBaseからエラーメッセージが返されます。ただし、メタデータを使用している場合、Dispatcher Phoenixではこの検証は行われません。
- **日付キーワード** - 日付キーワードは「YYYY-MM-DD」の形式で指定します。たとえば、2013年3月1日は「2013-03-01」となります。

インデックスフォームでの使用

インデックスフォームでOnBaseノードを使用すると、ウィンドウには、インデックスフォームにあるフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウでフィールドを編集することはできませんが、スパナツールボタンをクリックすることで、インデックスフォームビルダー内の該当するセクションまたはフィールドに移動できます。次の図を参照してください。

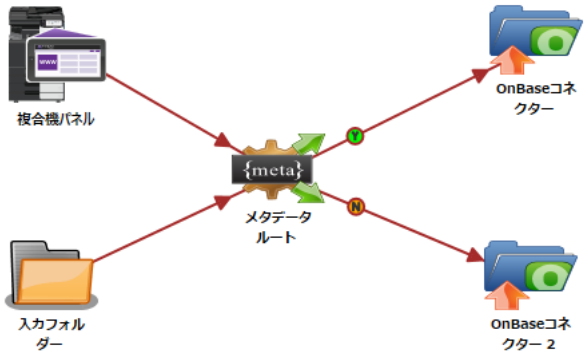


複数の入力でのOnBaseインデックスフォームの使用

OnBaseコネクターノードを複合機パネルノードのインデックスフォームと関連付けると、OnBaseとの接続と経路指定に必要な情報がすべて複合機で入力されます。このため、その他のタイプの収集ノード（入力フォルダー、複合機など）を、ワークフロー内でインデックスされたOnBaseコネクターノードに接続することはできません。この場合、ワークフローに別の収集ノードを追加する必要がある場合は、インデックスフォームに接続されていない新しいOnBaseノードを追加する必要があります。例については次の図を参照してください。

例1:この図では、OnBase構成が複合機パネルで入力され、さらに、ファイルは入力フォルダーから自動的に収集され、あらかじめ定義されたOnBaseサーバーに転送されます。

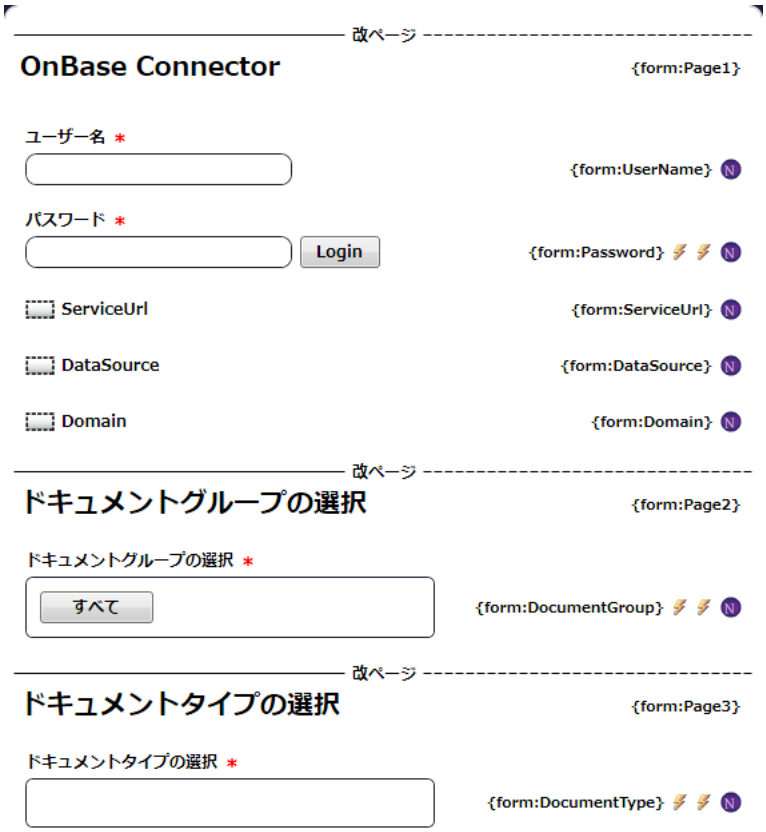
例2:この図では、メタデータ経路指定ノードを使って、ファイルの転送先となるOnBaseノードが判断されます。複合機パネルノードから来たファイルはすべて自動的にインデックスされたOnBaseノードに送られます。その他のファイルはすべて、もう1つのOnBaseノードへ転送されます。



OnBaseインデックスフォームの作成

スキャンしたドキュメントを複合機でOnBaseにアップロードできるようにする、インデックスフォームを作成できます。次の操作を行います。

1. ワークフローに複合機パネルノードとOnBaseノードが含まれていることを確認します。
2. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に **[OnBaseコネクター]** ボタンが表示されます。
3. **[OnBaseコネクター]** ボタンをドラッグして、インデックスフォームの作業領域にドロップします。OnBaseコネクターノードがすでに構成されている場合、あらかじめフィールドに値が入力されているインデックスフォームが表示されます。それ以外の場合、次の図のように、何も入力されていないフィールドを持つインデックスフォームが表示されます。

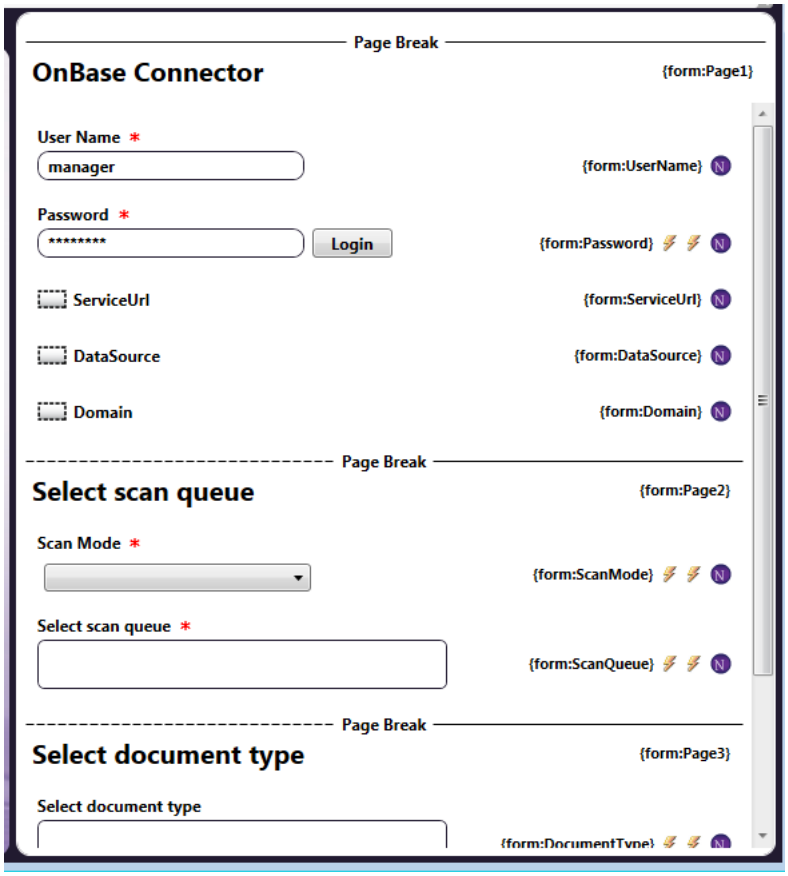


4. **[サービスURL]** フィールドと **[データソース]** および **[ドメイン]** フィールドに既定の値を割り当てます。

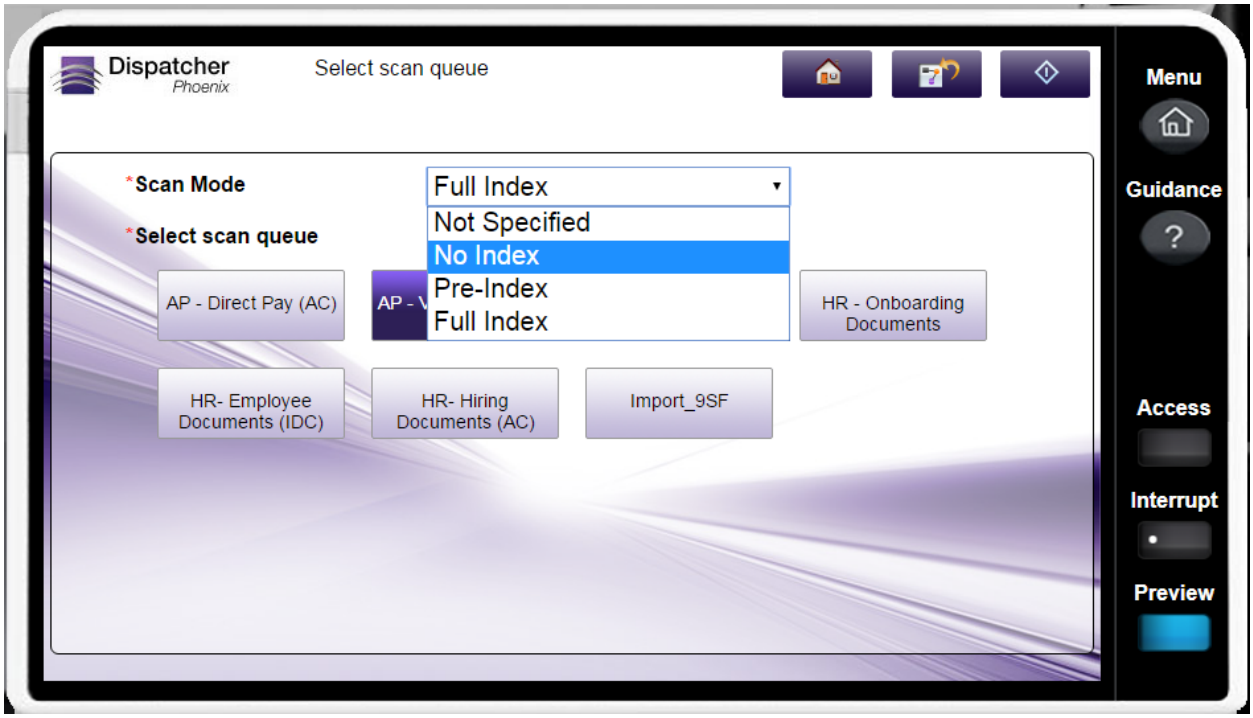
スキャンキュー用のOnBaseインデックスフォームの作成

OnBaseスキャンキューにドキュメントを送信するためのインデックスフォームを作成することもできます。次の操作を行います。

1. ワークフローに複合機パネルノードとOnBaseノードが含まれていることを確認します。
2. 接続の詳細を使ってOnBaseノードを設定します。次に[スキャンキューに送信]タブを選択します。
3. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。ワークフローインデックスフィールド領域の下に **[OnBase コネクター]** ボタンが表示されます。
4. **[OnBase コネクター]** ボタンをインデックスフォーム作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図のように、スキャンモード、スキャンキュー、ドキュメントタイプ、およびキーワードを指定するためのフィールドを含むインデックスフォームが表示されます。



5. 複合機ユーザーは、コントロールパネルでスキャンモードを選択できます。「指定なし」、「プレインデックス」、または「フルインデックス」が選択されている場合、ユーザーはドキュメントタイプを指定してパネルにキーワードを入力することもできます。複合機インターフェイスの外観の例については次の図を参照してください。

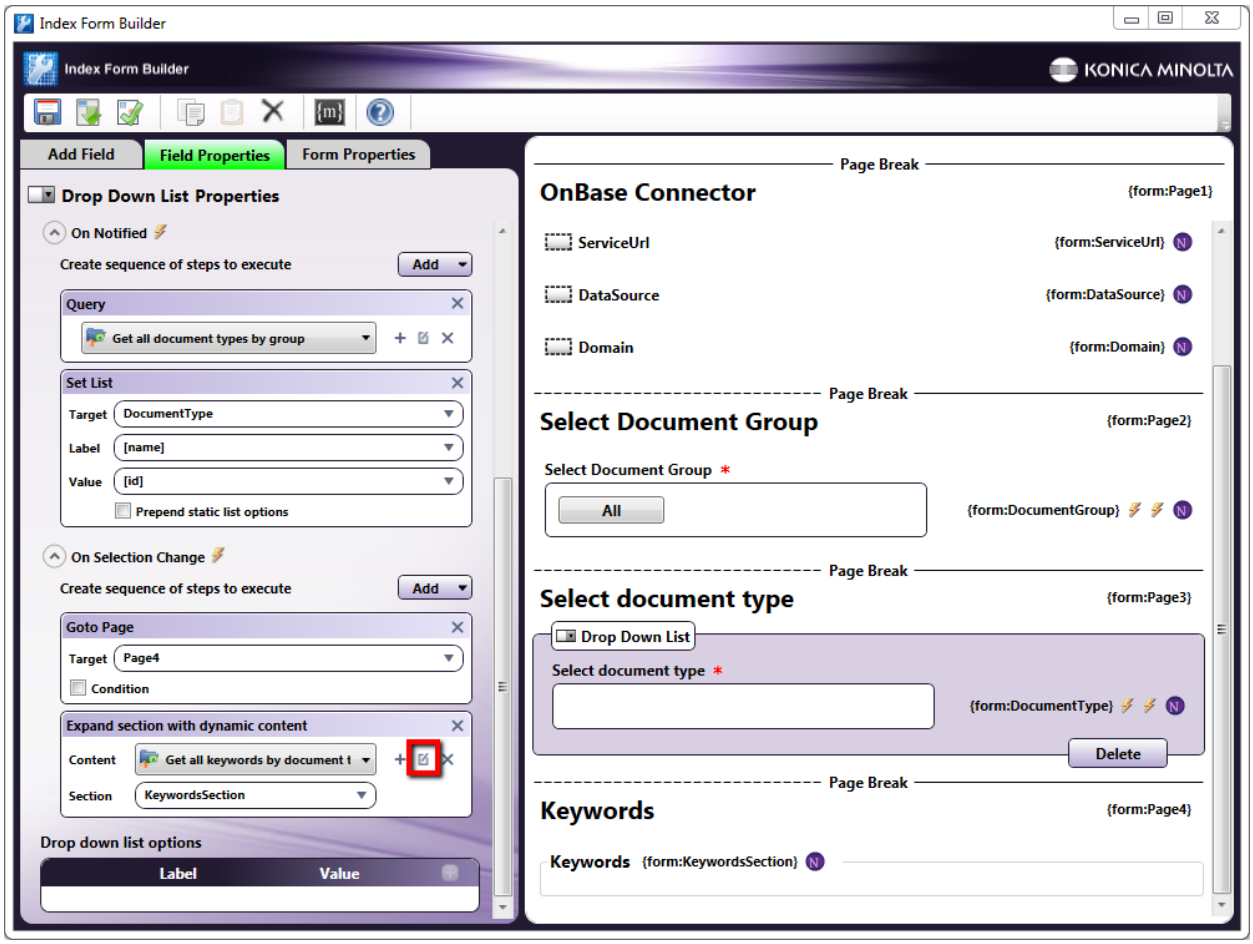


Dispatcher Phoenix 6.3.4より以前に作成されたワークフローに対するキーワードドロップダウンリストの有効化

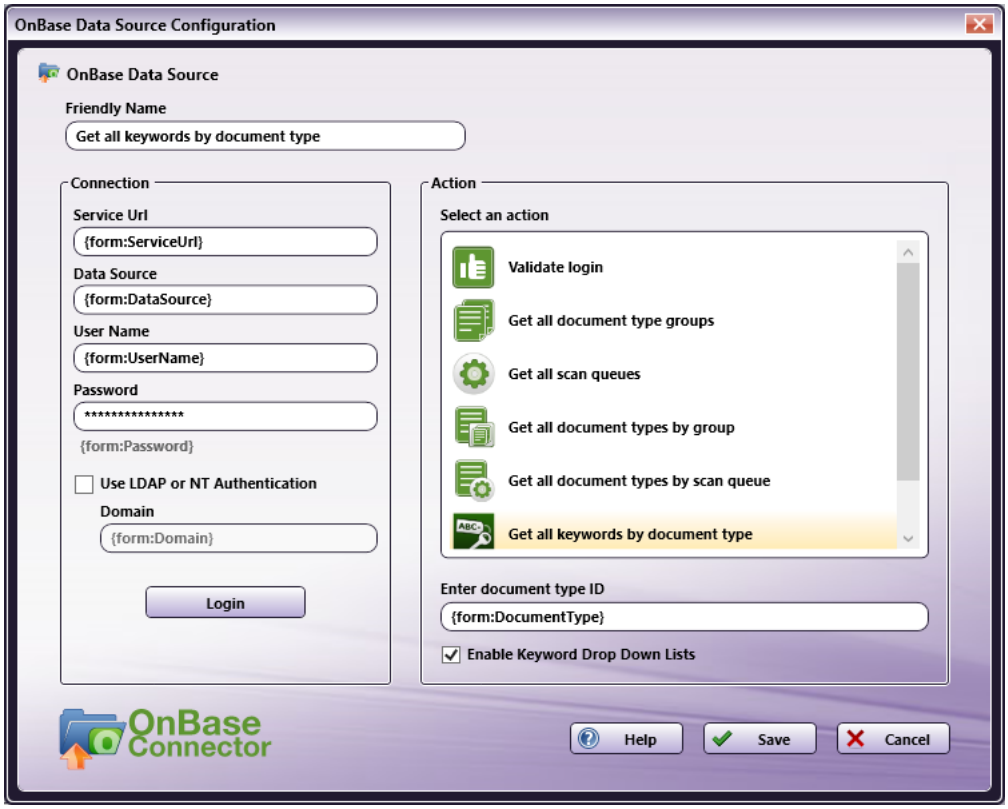
Dispatcher Phoenix バージョン 6.3.4のリリース以前にワークフローを作成した場合、以下のステップに従ってキーワードドロップダウンリストを有効にしてください。

1. ワークフローを停止します。

2. ワークフローを編集します。
3. ワークフロービルダーのツールバーで、**[フォーム]** をクリックします
4. **[OnBaseインデックスフォーム]** をクリックします。
5. インデックスフォームビルダーで、**[ドキュメントタイプの選択]** フィールドをクリックします。
6. ウィンドウの左側にある **[フィールドのプロパティ]** タブで、**[動的コンテンツを含むセクションを展開する]** 領域までスクロールし、**[編集]** ボタンをクリックします。(下図の赤い枠で囲まれています)



7. [OnBaseデータソースの設定]ウィンドウで、下の図に示すように、**[キーワードドロップダウンリストを有効にする]** チェックボックスをオンにします。



複合機上のOnBaseインデックスフォーム

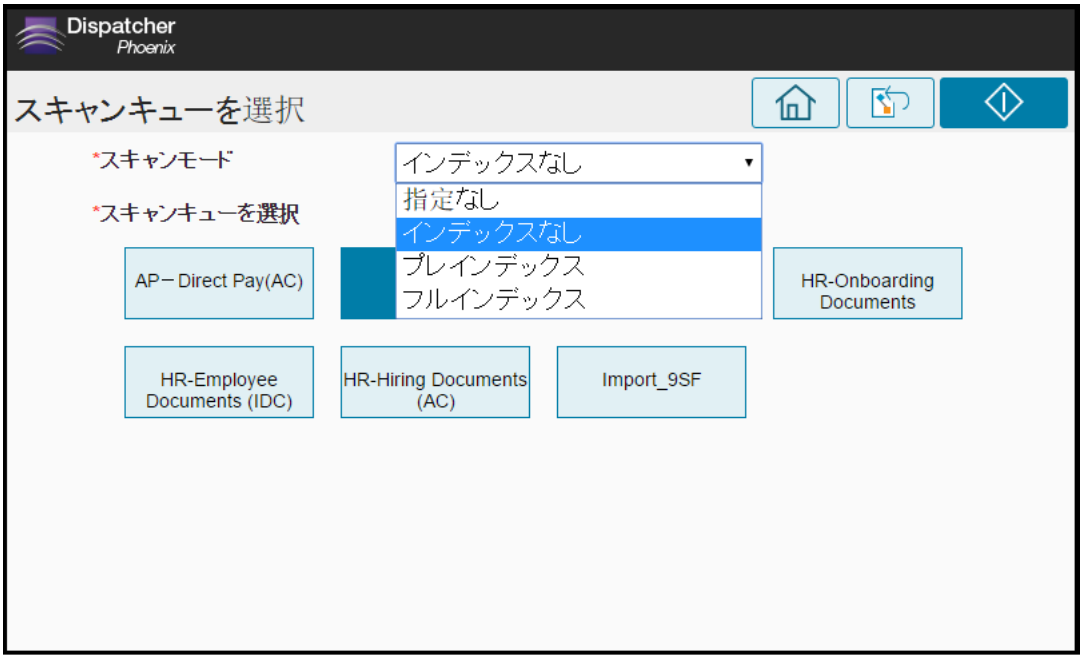
複合機のOnBaseインデックスフォームは、以下のように4つの画面に分かれます。

1つ目の画面: OnBaseへのユーザーログイン

2つ目の画面: ユーザーによるドキュメントグループの選択

スキャンキュー

ファイルをOnBaseスキャンキューに配信する場合、次の画面が表示され、複合機ユーザーはスキャンモードとスキャンキューを選択することができます。



3つ目の画面: ユーザーによるドキュメントタイプの選択

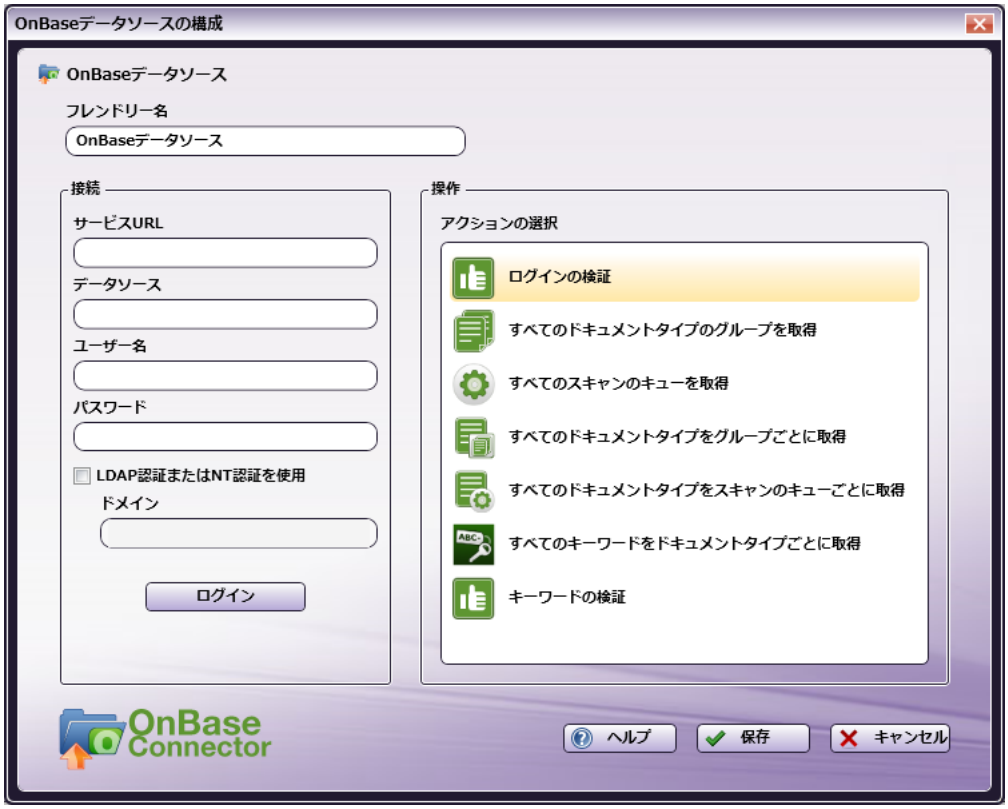
4つ目の画面: ユーザーによるドキュメントのキーワード入力

データベース参照 - OnBaseの構成

OnBaseからデータ（フォルダーのリストや検証など）を取り出すためのクエリーは手動で構成することもできます。

インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[OnBaseデータソース]** を選択します。
4. [OnBaseデータソースの構成]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、OnBaseからデータを取得するための特定のアクションを実行できます。



次の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、OnBaseデータソースの構成を識別する名前を入力します。
- **[接続]** 領域に、OnBaseへの接続に必要な情報を入力します。
- **[ログイン]** ボタンを選択して、OnBaseに正しく接続していることを確認します。
- **[操作]** 領域で、OnBaseデータソースに対して実行するアクションの種類を選択します。オプションは次のとおりです。
  - ***[ログインの検証]*** - OnBaseデータソースに対して複合機で入力するログイン資格情報（ユーザー名とパスワード）を確認するには、このアクションを使用します。このアクションでは、次のレコードが返されます。
    - [結果] - ログインの結果: trueまたはfalse
    - [メッセージ] - 成功または失敗したログインに関するテキスト
  - ***[すべてのドキュメントタイプのグループを取得]*** - OnBaseで利用可能なドキュメントタイプグループのリストを表示するには、このアクションを使用します。
  - ***[すべてのスキャンのキューを取得]*** - OnBaseで利用可能なスキャンキューのリストを表示するには、このアクションを使用します。
  - ***[すべてのドキュメントタイプをグループごとに取得]*** - OnBaseで特定のドキュメントグループに関連付けられているドキュメントタイプのリストを表示するには、このアクションを使用します。使用するドキュメントグループを指定するには、IDの入力が必要です。
  - ***[すべてのドキュメントタイプをスキャンのキューごとに取得]*** - OnBaseで特定のスキャンキューに関連付けられているドキュメントタイプのリストを表示するには、このアクションを使用します。使用するスキャンキューを指定するには、IDの入力が必要です。
  - ***[すべてのキーワードをドキュメントタイプごとに取得]*** - OnBaseで特定のドキュメントタイプに関連付けられているキーワードのリストを表示するには、このアクションを使用します。使用するドキュメントタイプを指定するには、IDの入力が必要です。
  - ***[キーワードの検証]*** - OnBaseデータソースに対して複合機で入力するキーワードを確認するには、このアクションを使用します。

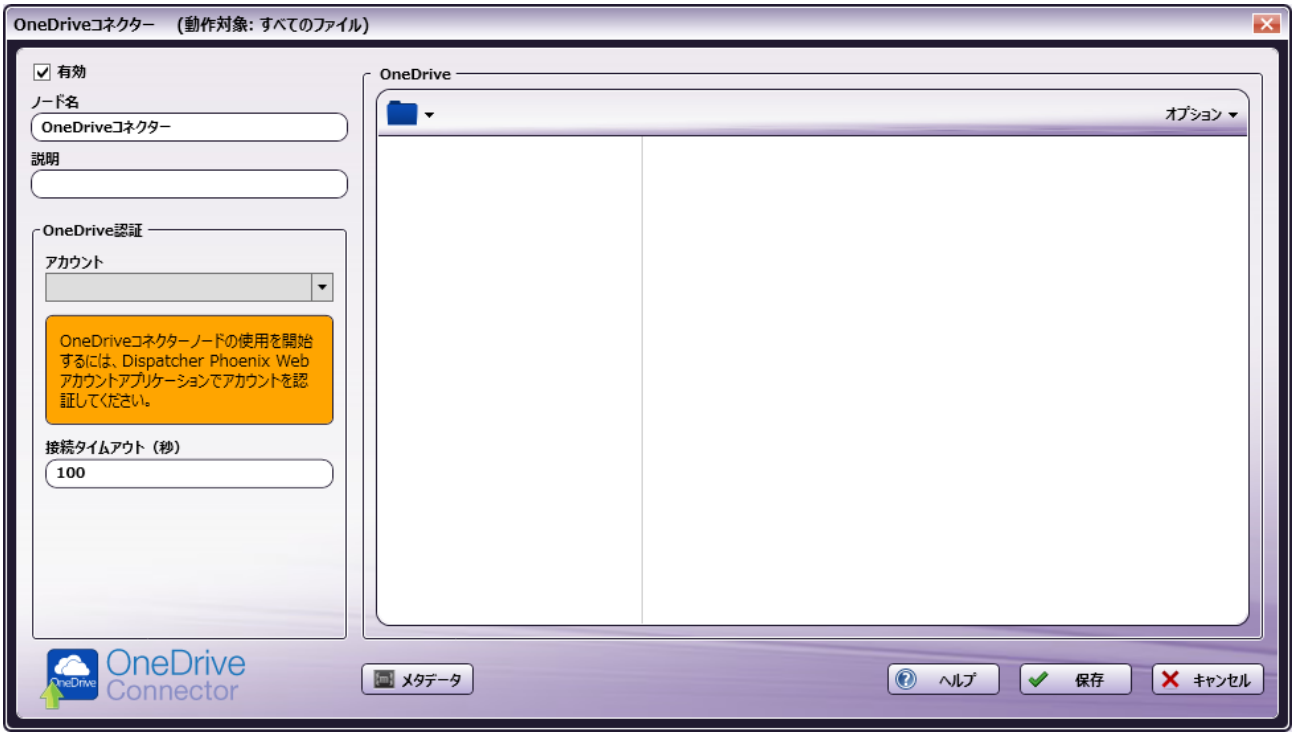
OneDriveコネクター

OneDriveコネクターノード を使用すると、Microsoft OneDriveにドキュメントを配信できます。Microsoft OneDriveは、ユーザーがクラウドストレージにファイルをアップロードしたり、同期したりできるようにするファイルホスティングサービスです。自動ワークフローによってOneDriveにドキュメントを送信することも、複合機のパネルからOneDriveに直接アクセスすることもできます。

注:

- OneDriveコネクターを使用するには、OneDriveアカウントが必要です。
- OneDriveにドキュメントをアップロードするファイルの最大サイズは100MBです。

OneDriveコネクターノード のプロパティウィンドウを開くには、OneDriveの出力ノードをワークフローに追加して、そのノードをダブルクリックします。



- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** ノード名がこのフィールドに既定で設定されます。この名前は、ノードアイコンの下のワークフローに表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[説明]** このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフローでのノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読むことができます。

ボタン

- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウィンドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenix オンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

OneDriveコネクターの構成

OneDriveコネクターを構成するには、最初に **Dispatcher Phoenix Web 認証マネージャー** からOneDriveアカウントにログインする必要があります。この初期設定が完了すると、ノード内または複合機のパネルからのOneDriveへのログインが不要になり、最適化されたシングルサインオンが実現されます。

注: 組織が、マシンでのアプリケーション登録に管理者権限を要求するようにMicrosoft Azureを構成している場合、管理者はこの制限を無効にして、OneDriveコネクターのアカウントを作成するときに、管理者の存在なしでユーザーが登録できるようにすることができます。この方法でOneDriveコネクターを構成することを選択した場合は、最初に管理者がログインし、他のユーザーがアカウントを作成しようとする前に同意を与えることをお勧めします。それ以外の場合、Dispatcher Phoenix Webの認証マネージャーを介してOneDriveコネクター用に作成されたアカウントには管理者の資格情報が必要であり、管理者は登録されたユーザーになります。

OneDriveコネクターアカウントを作成するときに管理者権限の要件を上書きするには、以下の「セットアップ」セクションの手順に従います。ステップ4で、管理者資格情報を使用してログインします。管理者が初めてログインする場合は、[組織の代理として同意する]チェックボックスが表示されます。このフィールドのチェックボックスをオンにして、セットアップ手順の次のステップに進みます。

重要! 「組織の代理として同意する」オプションは、管理者が初めてログインしたときにのみ表示されます。このオプションを取り戻すには、Azureのエンタープライズアプリケーションリストから Dispatcher Phoenixを削除する必要があります。次回管理者がログインすると、オプションが表示されます。

設定

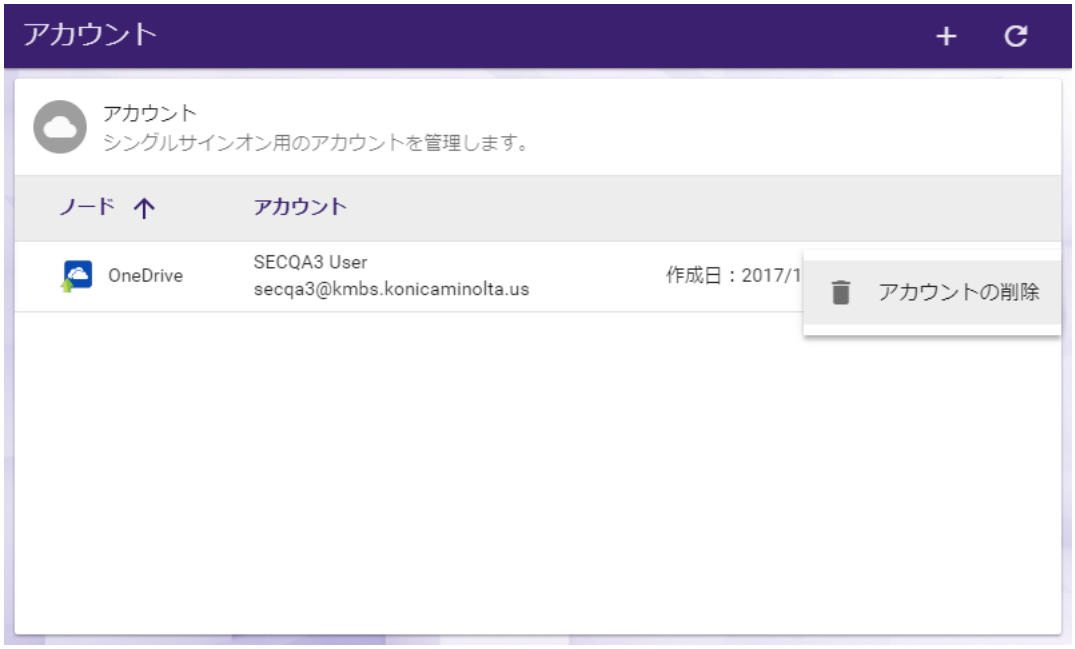
まず、Dispatcher Phoenix Webの認証マネージャーからOneDriveにログインする必要があります。以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenix Webにログインします。
2. ホームページで **[アカウント]** ツールを選択します。

3. [アカウント]ページで、**[+]** ボタンを選択して **[OneDrive]** オプションを選択します。以下の図を参照してください。

4. アカウントの資格情報（電子メールアドレス/OneDriveアカウントのユーザー名とパスワード）を使用して、OneDriveにログインします。
5. アプリケーションが情報にアクセスするための許可を求められたら、**[はい]** を選択します。
6. [アカウント]ページにOneDriveのアカウントが表示されます。以下の例の図を参照してください。

7. アカウントを削除する必要がある場合は、縦の参照ボタンを選択して、以下の図に示すように **[アカウントの削除]** を選択します。

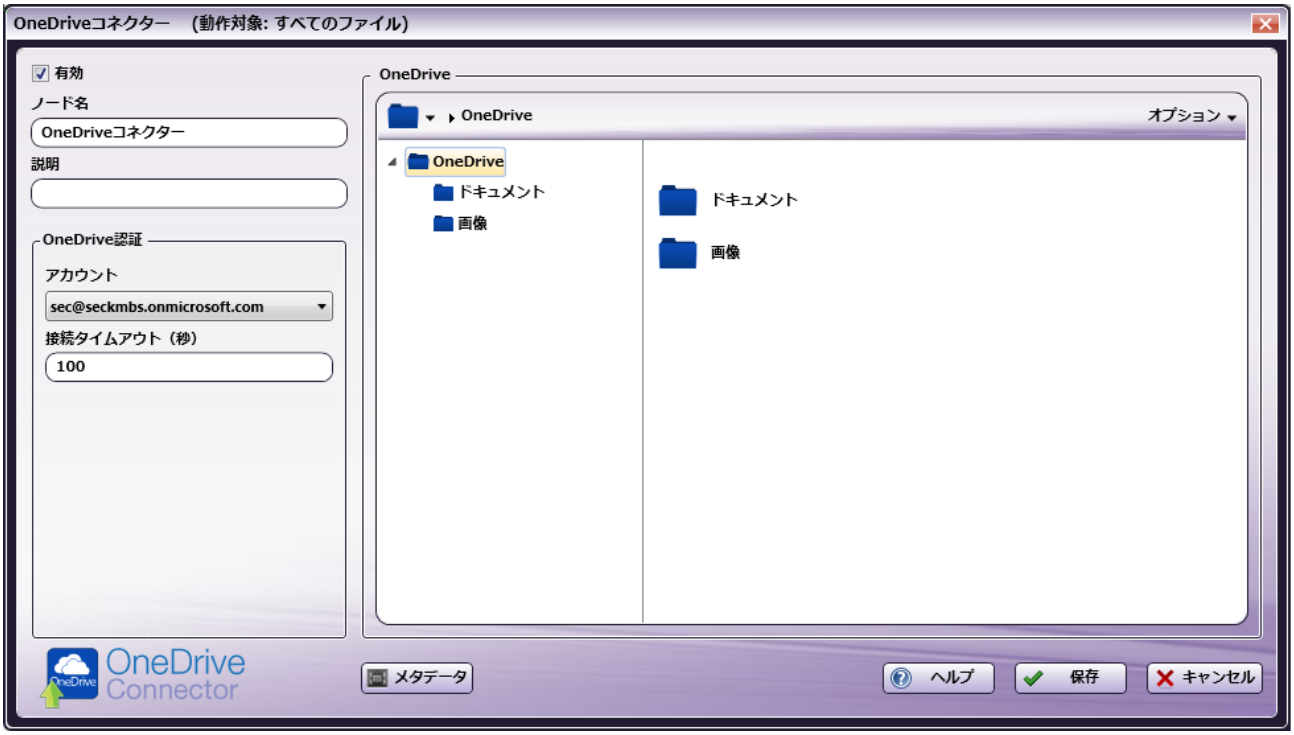


8. 複数のアカウントを追加する場合は、最初に追加したアカウントに星のアイコンが付き、プライマリアカウントとしてマークされます。プライマリアカウントの利点は、複合機へのサインイン時に、このアカウントに即時にアクセスできることです。複合機でチェックアイコンを選択し、次の画面で戻る矢印アイコンを選択することで、別のアカウントに切り替えることができます。縦の参照ボタンを選択して **【プライマリアカウントの有効化】** を選択することで、プライマリアカウントを切り替えることもできます。また、**プライマリアカウントを無効化する** ことで、複合機のアカウント画面で常に確認を求めるようにすることができます。

OneDriveコネクターノードのカスタマイズ

接続後、OneDriveノードのプロパティウィンドウの右側に、OneDrive内のフォルダー、サブフォルダー、およびファイルのツリービューが表示されます。この領域を使用して、OneDriveのフォルダー構造を参照したり、ドキュメントを保存するフォルダーを選択したりすることができます。

以下の例の図を参照してください。



別のOneDriveアカウントを選択するには、**【アカウント】** ドロップダウンリストからアカウントを選択します。

既定の接続タイムアウト（サーバーに最初に接続してから、通信が行われずタイムアウトするまでの時間として割り振られた秒数）を変更するには、**【接続タイムアウト】** フィールドに値を入力します。

新規フォルダーへのドキュメントの送信

OneDriveにスキャン先となる新規フォルダーを作成するには、**[オプション]** ドロップダウンメニューから **[新規フォルダー]** オプションを選択するか、**Ctrl** + **Shift** + **N** キーを押します。

表示される[新規フォルダーの作成]ウィンドウで、**[名前]** フィールドに新規フォルダーの名前を入力してから、**[作成]** ボタンを選択します。新規に作成されたフォルダーがフォルダービューに表示されます。

ファイル名の制限

ファイル名には、以下の制限が適用されます。

- ファイル名の最初と最後にスペースを使用することはできません。
- ファイル名の最初に2つのピリオド(..)を使用することはできません。
- 表示されない文字をファイル名に含めることはできません(タブ文字や改行文字など)。
- `< > : " / \ | ? *` は使用できません。

表示オプション

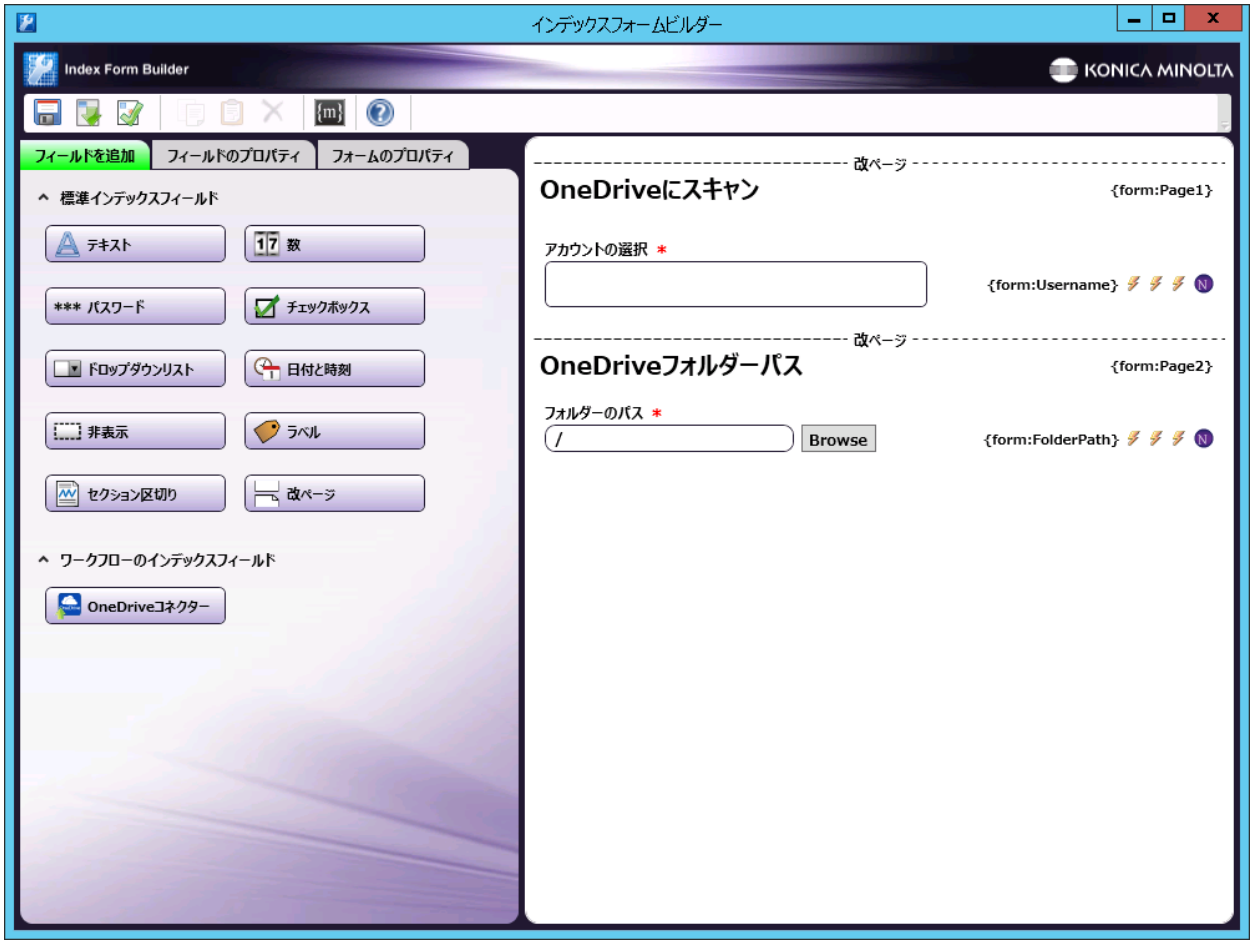
ノードのプロパティウィンドウでの、OneDriveフォルダーの既定の表示は、ウィンドウの右上にある[オプション]ボタンを使用して調整できます。[オプション]プルダウンメニューから以下の項目を選択します。

- 既定の表示をオフにするには、**[ツリービューの表示]** オプションのチェックを外すか、**[Ctrl + T]** キーを押します。
- OneDriveのフォルダーに格納されているファイルを非表示にするには、**[ファイルの表示]** オプションのチェックを外すか、**[Ctrl + E]** キーを押します。
- 現在の表示を最新のフォルダー/ファイルで更新するには、**[最新の情報に更新]** オプションを選択するか、**[F5]** キーを押します。

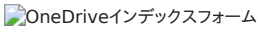
OneDriveコネクターのインデックスフォームの作成

複合機からOneDriveに自動ログインできるように、インデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

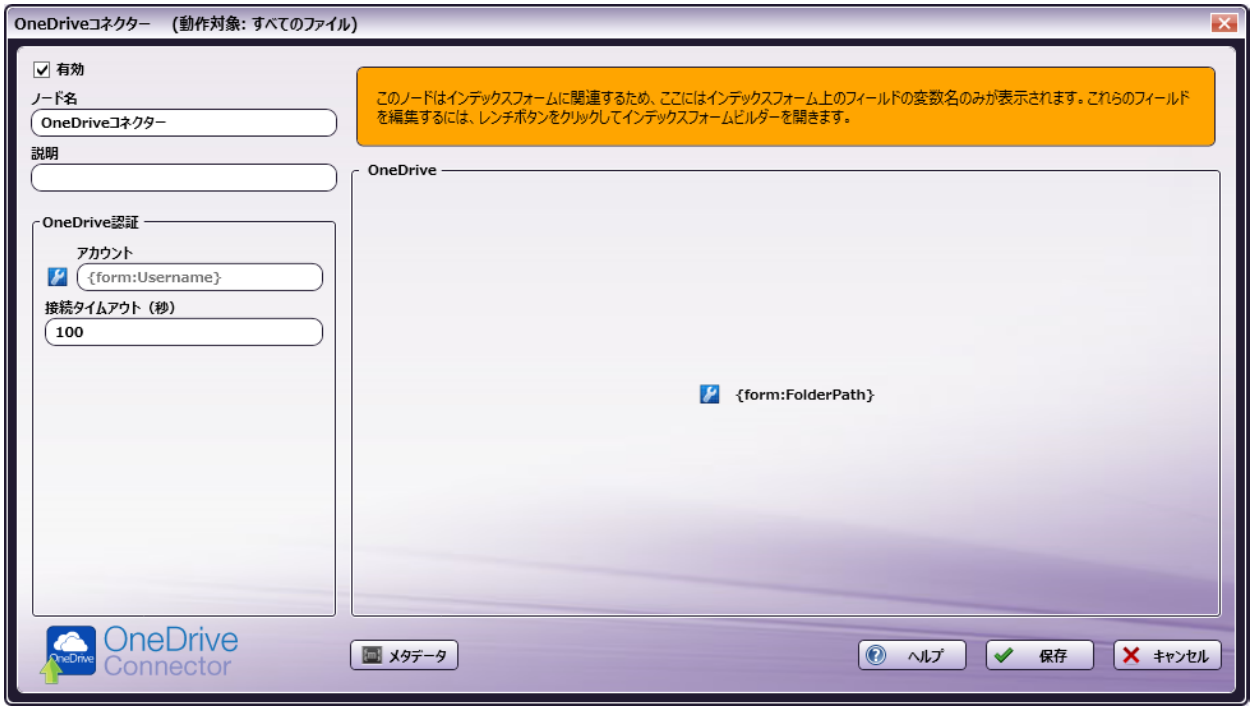
1. Dispatcher Phoenix Webのアカウントマネージャーから、OneDriveにログインしていることを確認します。
2. ワークフローに **複合機パネルノード** 、および **OneDriveコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
3. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に[OneDriveコネクター]ボタンが表示されます。
4. インデックスフォームの作業領域にその **[OneDriveコネクター]** ボタンをドラッグアンドドロップします。以下の図に示すように、[OneDriveにスキャン]インデックスフォームが自動的に表示されます。



注: OneDrive for Businessコネクターの既定では、フォルダーの参照中に200個のフォルダーが表示されます。この既定値を更新するには、次の図のように、**フォルダーパス** フィールドを選択し、**OneDriveのフォルダーを取得** ドロップダウンの横にある **[編集]** ボタンを選択します。



5. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
6. OneDriveコネクターノードのプロパティウィンドウに、インデックスフォームのフィールドの変数名が自動で表示されます。このウィンドウのフィールドは編集できませんが、レンチツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダー内の該当のセクションまたはフィールドに移動することができます。以下の図を参照してください。



複合機でのOneDriveインデックスフォーム

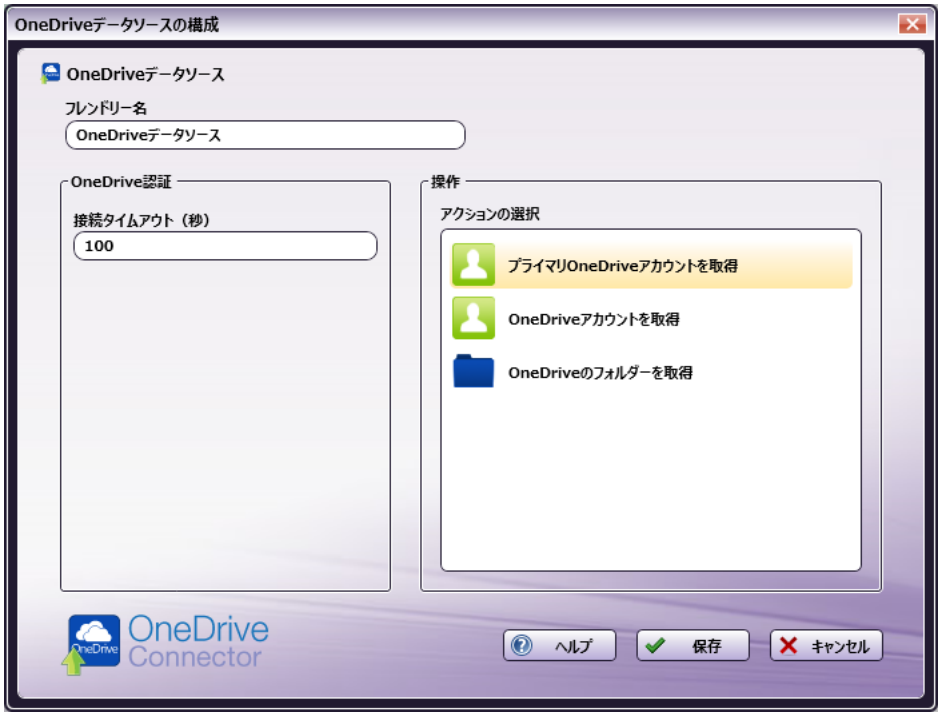
複合機では、OneDriveインデックスフォームが以下のように表示されます。

データベースの参照 - OneDriveの構成

OneDriveからデータ（フォルダーのリストや検証など）を取得するためのクエリーを手動で構成することもできます。

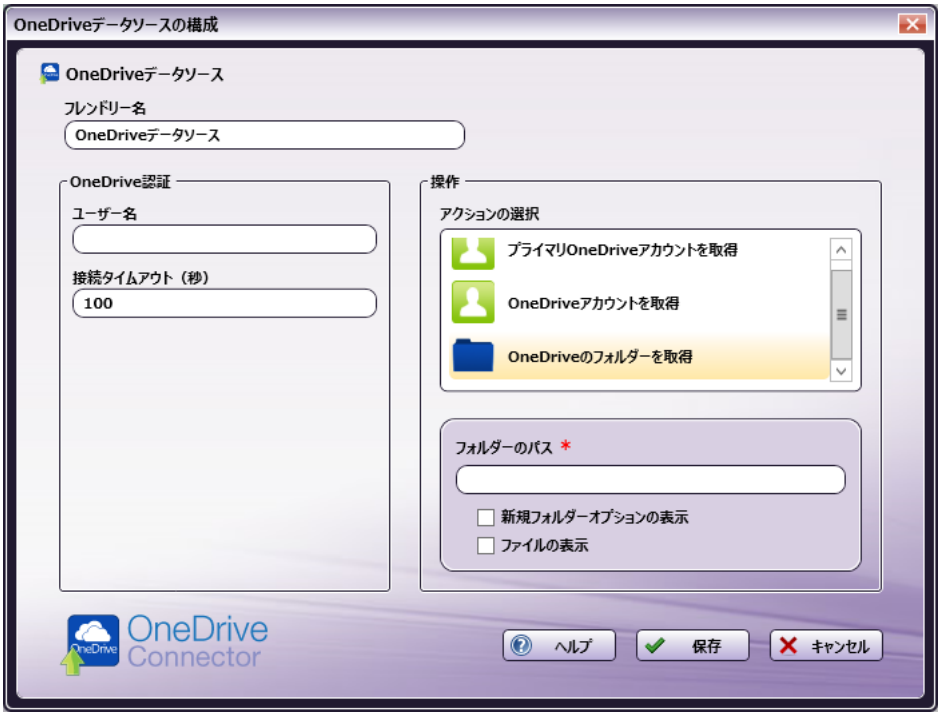
インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新規フィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから **[OneDriveデータソース]** を選択します。
4. [OneDriveデータソースの構成]ウィンドウが表示されます。ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、OneDriveからデータを取得するための特定の操作を実行できます。



以下の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、OneDriveのデータソースの構成を識別する名前を入力します。
- **[操作]** 領域では、OneDriveのデータソースに対して実行するアクションの種類を選択できます。オプションは以下のとおりです。
  - **[プライマリOneDriveアカウントを取得]** – このオプションでは、ユーザーのプライマリOneDriveアカウントが返されます。
  - **[OneDriveアカウントを取得]** – このオプションでは、ユーザーのすべてのOneDriveアカウントが返されます。
  - **[OneDriveフォルダーを取得]** – 特定のOneDriveフォルダーパス内のフォルダーのリストを表示するには、このアクションを使用します。[OneDriveフォルダーを取得]項目を選択すると、以下の図に示すように、構成の新しいフィールドが表示されます。



- **[フォルダーのパス]** – 複合機のパネルに表示するOneDriveルートフォルダーのフォルダーIDを入力します。
  - **[新規フォルダーオプションの表示]** – このオプションをチェックすると、ユーザーは複合機で新規OneDriveフォルダーを作成できます。
  - **[ファイルの表示]** - 複合機でOneDriveフォルダー内のファイルを表示するには、このオプションをチェックします。

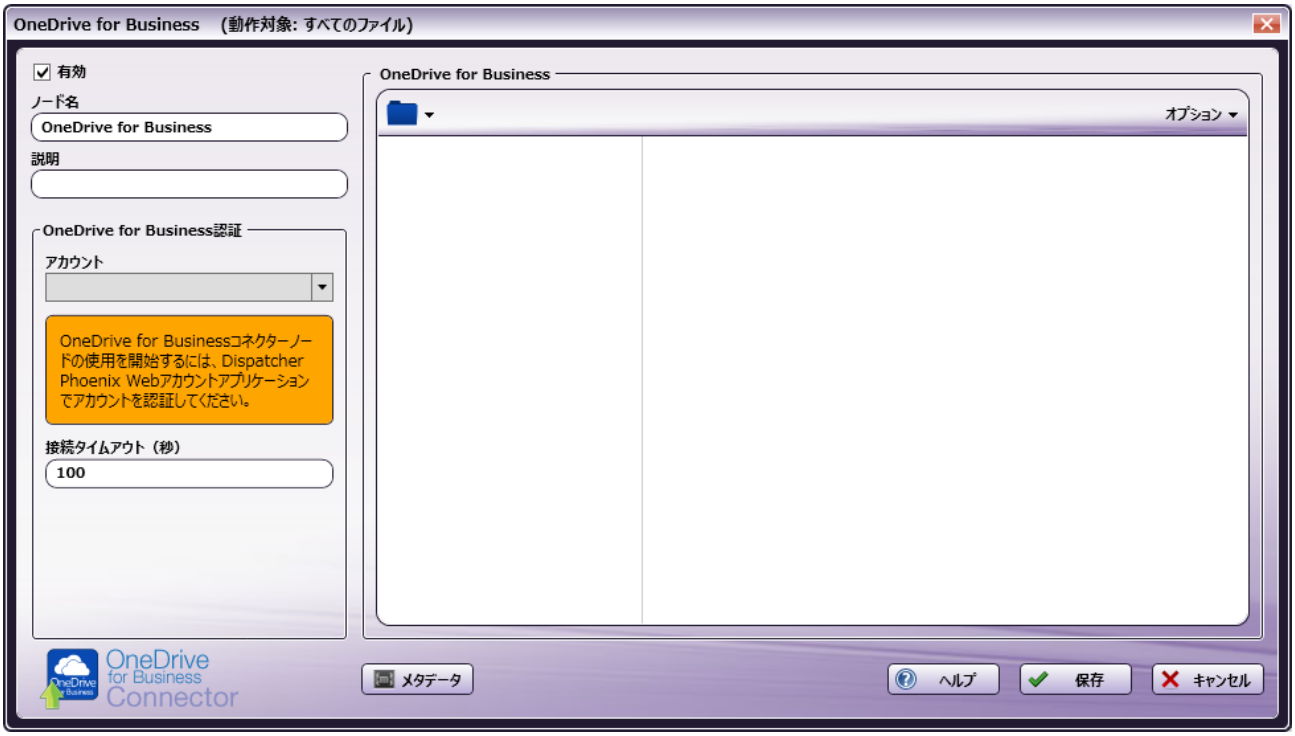
OneDrive for Businessコネクター

OneDrive for Businessコネクターノードを使用すると、OneDrive for Businessにドキュメントを配信できます。OneDrive for Businessは、組織が各チームメンバーにデータの保存場所を提供できるようにするためのMicrosoftのクラウドストレージサービスです。このコネクターでは、自動ワークフローによってOneDrive for Businessにドキュメントを送信することも、複合機のユーザーが複合機のパネルからOneDrive for Businessに直接アクセスすることもできます。

注:

- OneDrive for Businessコネクターを使用するには、OneDriveアカウントが必要です。
- OneDrive for Businessにドキュメントをアップロードするファイルの最大サイズは100MBです。

OneDrive for Businessコネクターノードのプロパティウィンドウを開くには、ワークフローにOneDrive for Businessの出力ノードを追加して、そのノードをダブルクリックします。



- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** ノード名がこのフィールドに既定で設定されます。この名前は、ノードアイコンの下のワークフローに表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[説明]** このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフローでのノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読むことができます。

ボタン

- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウィンドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenix オンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

OneDrive for Businessコネクターの構成

OneDrive for Businessコネクターを構成するには、最初に **Dispatcher Phoenix Web 認証マネージャー** からOneDrive for Businessのアカウントにログインする必要があります。この初期設定が完了すると、ノード内または複合機のパネルからのOneDrive for Businessへのログインが不要になり、最適化されたシングルサインオンが実現されます。

注: 組織が、マシンでのアプリケーション登録に管理者権限を要求するようにMicrosoft Azureを構成している場合、管理者はこの制限を無効にして、OneDrive for Businessコネクターのアカウントを作成するときに、管理者の存在なしでユーザーが登録できるようにすることができます。この方法でOneDrive for Businessコネクターを構成することを選択した場合は、最初に管理者がログインし、他のユーザーがアカウントを作成しようとする前に同意を与えることをお勧めします。それ以外の場合、Dispatcher

Phoenix Webの認証マネージャーを介してOneDrive for Businessコネクター用に作成されたアカウントには管理者の資格情報が必要であり、管理者は登録されたユーザーになります。

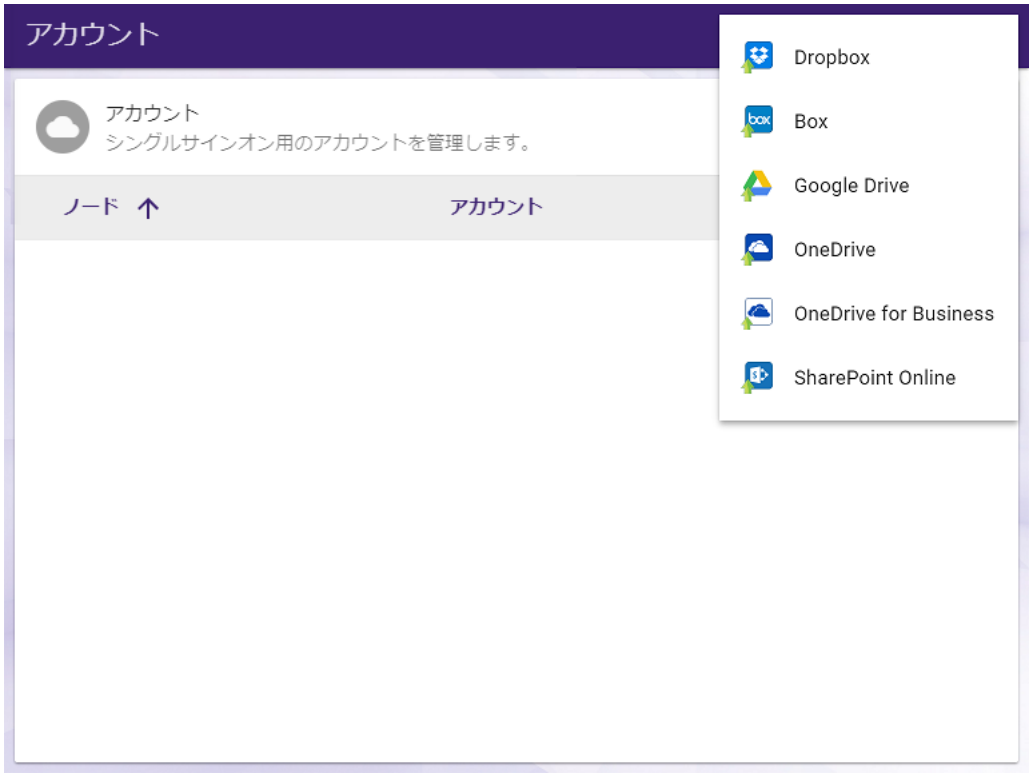
OneDrive for Businessコネクターアカウントを作成するときに管理者権限の要件を上書きするには、以下の「セットアップ」セクションの手順に従います。ステップ4で、管理者資格情報を使用してログインします。管理者が初めてログインする場合は、[組織の代理として同意する]チェックボックスが表示されます。このフィールドのチェックボックスをオンにして、セットアップ手順の次のステップに進みます。

重要! 「組織の代理として同意する」オプションは、管理者が初めてログインしたときにのみ表示されます。このオプションを取り戻すには、Azureのエンタープライズアプリケーションリストから Dispatcher Phoenixを削除する必要があります。次回管理者がログインすると、オプションが表示されます。

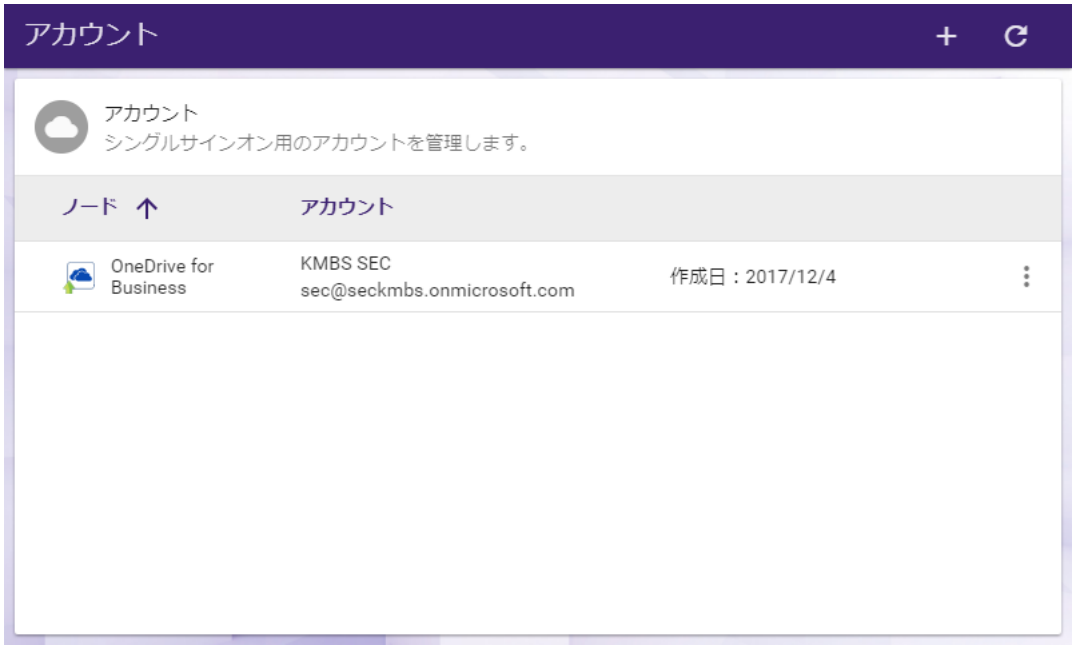
設定

まず、Dispatcher Phoenix Webの認証マネージャーからOneDrive for Businessにログインする必要があります。以下の操作を行います。

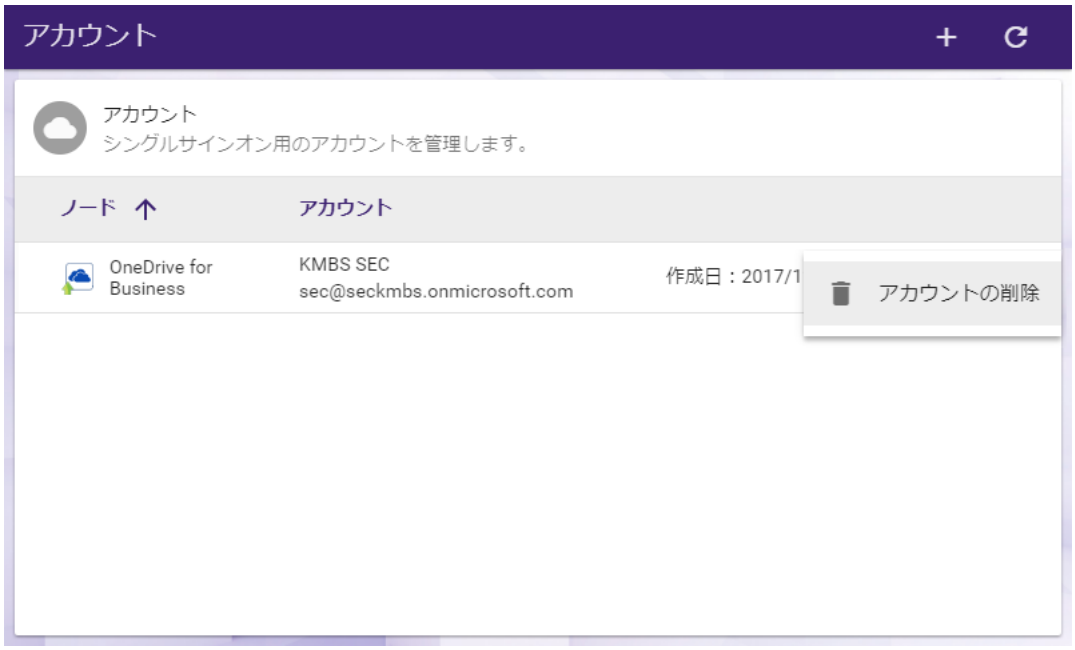
1. Dispatcher Phoenix Webにログインします。
2. ホームページで **[アカウント]** ツールを選択します。
3. [アカウント]ページで、**[+]** ボタンを選択して **[OneDrive for Business]** オプションを選択します。以下の図を参照してください。



4. アカウントの資格情報（電子メールアドレス/OneDrive for Businessアカウントのユーザー名とパスワード）を使用して、OneDrive for Businessにログインします。
5. アプリケーションが情報にアクセスするための許可を求められたら、**[はい]** を選択します。
6. [アカウント]ページにOneDrive for Businessのアカウントが表示されます。例については、以下の図を参照してください。



7. アカウントを削除する必要がある場合は、縦の参照ボタンを選択して、以下の図に示すように **【アカウントの削除】** を選択します。

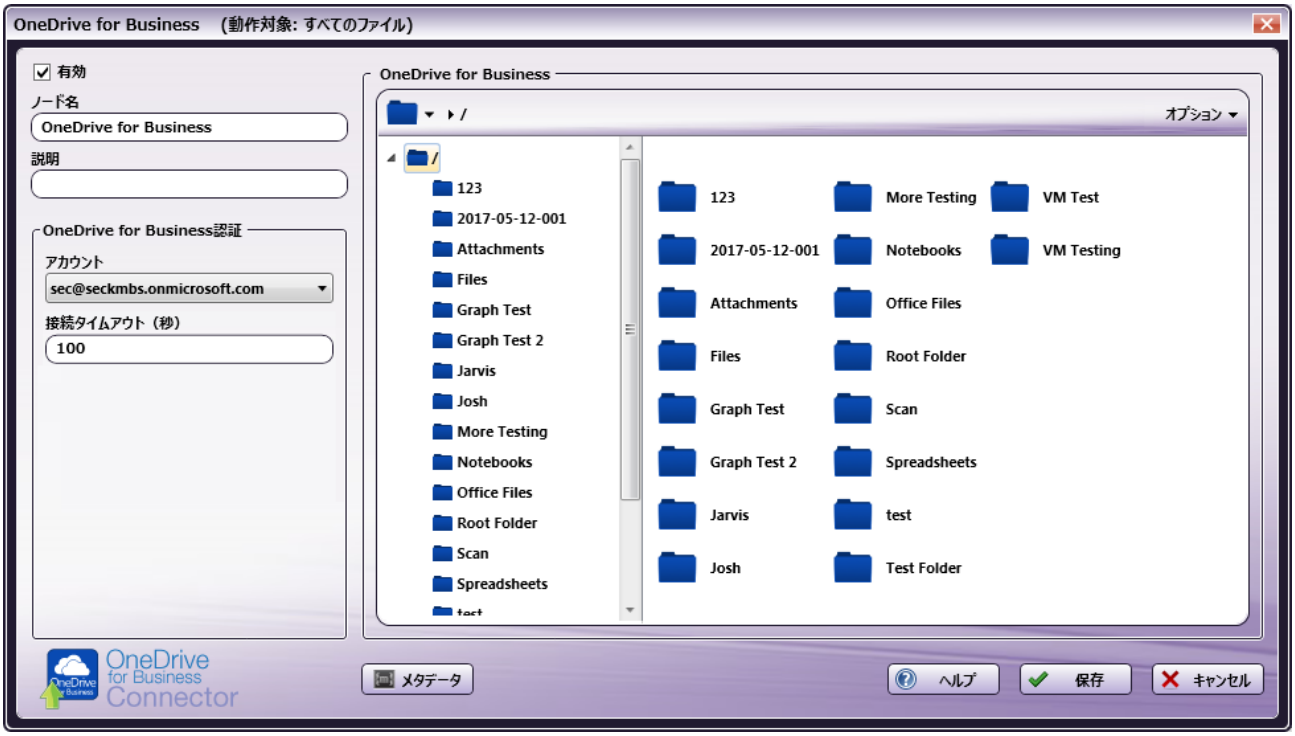


8. 複数のアカウントを追加する場合は、最初に追加したアカウントに星のアイコンが付き、プライマリアカウントとしてマークされます。プライマリアカウントの利点は、複合機へのサインイン時に、このアカウントに即時にアクセスできることです。複合機でチェックアイコンを選択し、次の画面で戻る矢印アイコンを選択することで、別のアカウントに切り替えることができます。縦の参照ボタンを選択して **【プライマリアカウントの有効化】** を選択することで、プライマリアカウントを切り替えることもできます。また、**プライマリアカウントを無効化する** ことで、複合機のアカウント画面で常に確認を求めるようにすることができます。

OneDrive for Businessコネクターノードのカスタマイズ

接続後、OneDrive for Businessノードのプロパティウィンドウの右側に、OneDrive for Business内のフォルダー、サブフォルダー、およびファイルのツリービューが表示されます。この領域を使用して、OneDrive for Businessのフォルダー構造を参照し、ドキュメントを格納するフォルダーを選択することができます。

以下の図の例を参照してください。



別のOneDrive for Businessアカウントを選択するには、**[アカウント]** ドロップダウンリストからアカウントを選択します。

既定の接続タイムアウト（サーバーに最初に接続してから、通信が行われずタイムアウトするまでの時間として割り振られた秒数）を変更するには、**[接続タイムアウト]** フィールドに値を入力します。

新規フォルダーへのドキュメントの送信

OneDrive for Businessにスキャン先となる新規フォルダーを作成するには、**[オプション]** ドロップダウンメニューから **[新規フォルダー]** オプションを選択するか、**Ctrl** + **Shift** + **N** キーを押します。

表示される[新規フォルダーの作成]ウィンドウで、**[名前]** フィールドに新規フォルダーの名前を入力してから、**[作成]** ボタンを選択します。新規に作成されたフォルダーがフォルダービューに表示されます。

ファイル名の制限

ファイル名には、以下の制限が適用されます。

- ファイル名の最初と最後にスペースを使用することはできません。
- ファイル名の最初に2つのピリオド（..）を使用することはできません。
- 表示されない文字をファイル名に含めることはできません（タブ文字や改行文字など）。
- < > : " / \ | ? * は使用できません。

表示オプション

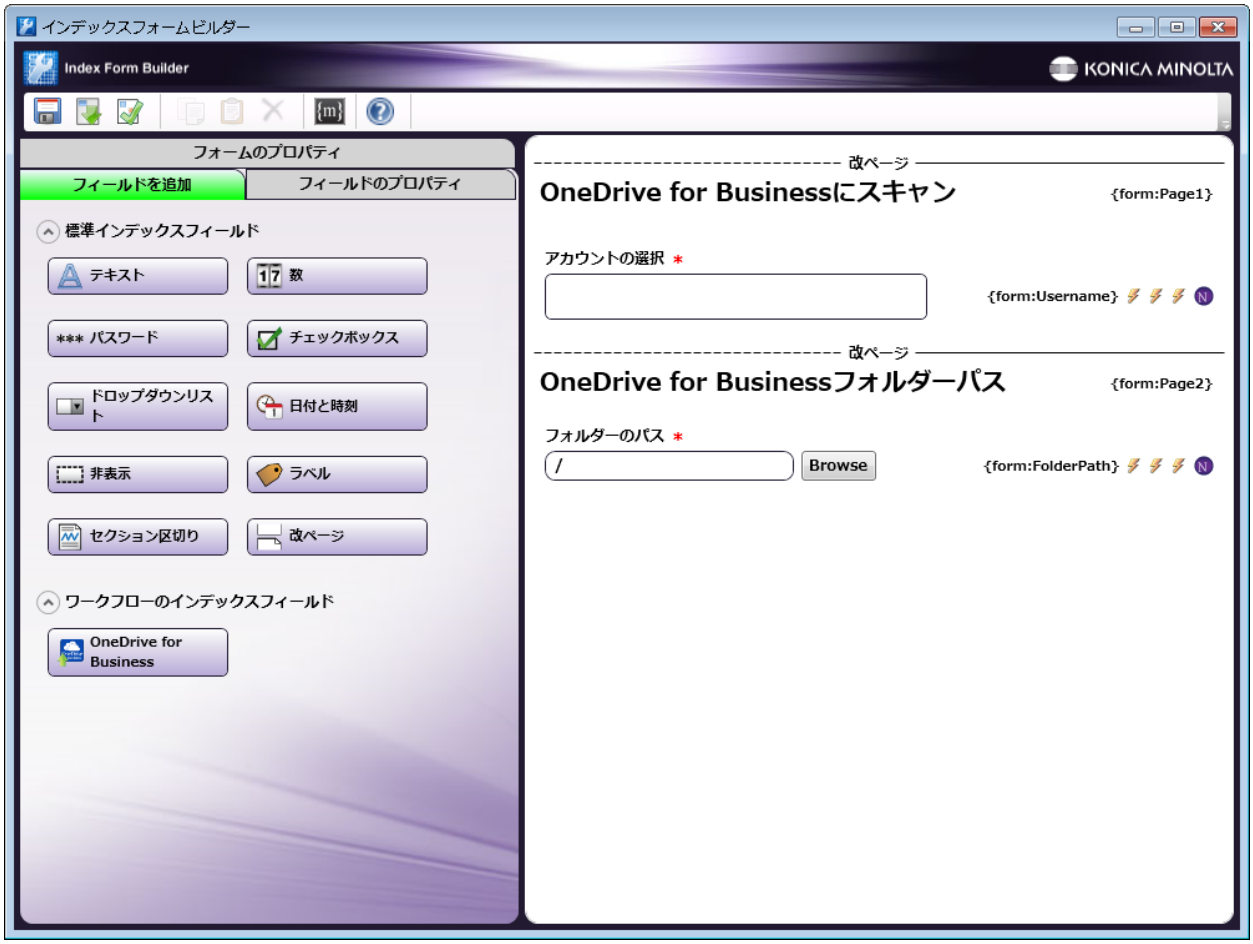
ノードのプロパティウィンドウでの、OneDrive for Businessフォルダーの既定の表示は、ウィンドウの右上にある[オプション]ボタンを使用して調整できます。[オプション]プルダウンメニューから以下の項目を選択します。

- 既定の表示をオフにするには、**[ツリービューの表示]** オプションのチェックを外すか、**[Ctrl + T]** キーを押します。
- OneDrive for Businessのフォルダーに格納されているファイルを非表示にするには、**[ファイルの表示]** オプションのチェックを外すか、**[Ctrl + E]** キーを押します。
- 現在の表示を更新して最新のフォルダーとファイルが表示されるようにするには、**[最新の情報に更新]** オプションを選択するか、**[F5]** キーを押します。

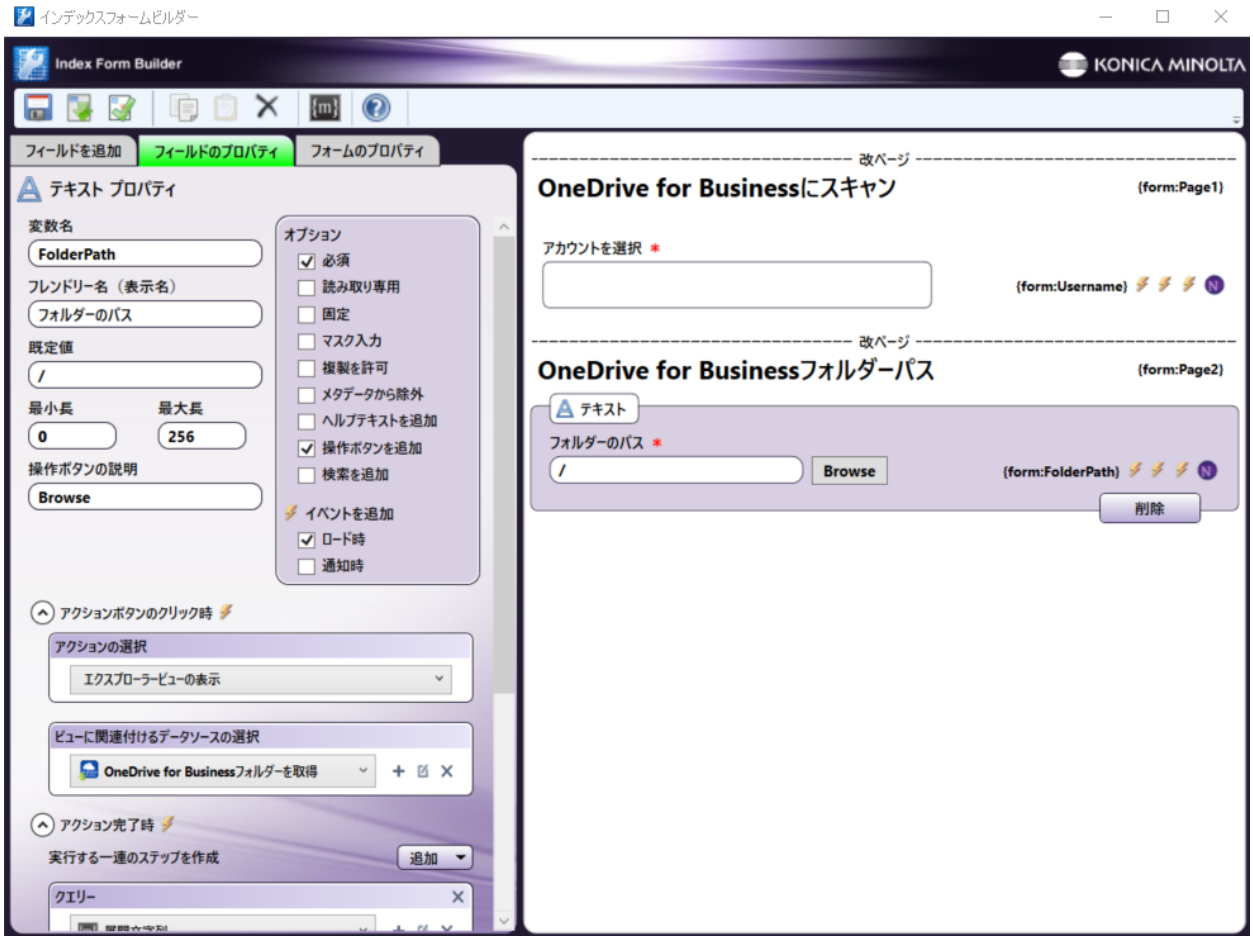
OneDrive for Businessコネクターのインデックスフォームの作成

複合機からOneDrive for Businessに自動ログインできるように、インデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

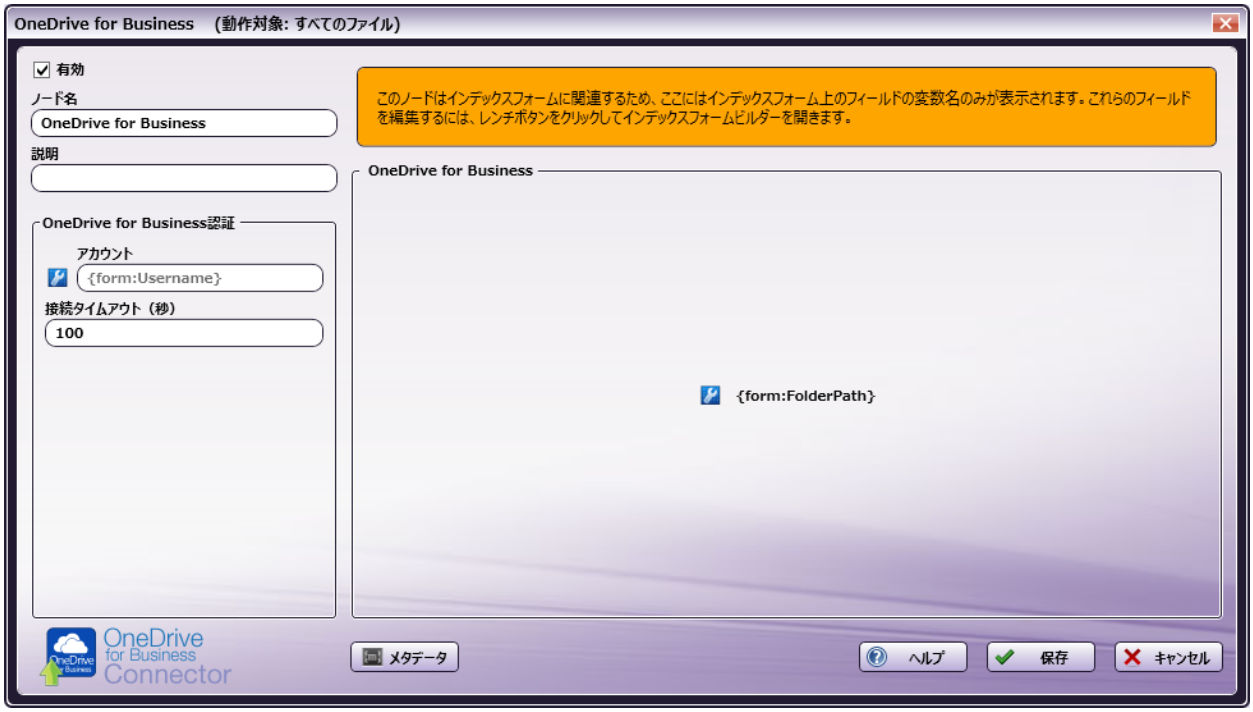
1. Dispatcher Phoenix Webのアカウントマネージャーから、OneDrive for Businessにログインしていることを確認します。
2. ワークフローに **複合機パネルノード**、および **OneDrive for Businessコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
3. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に **[OneDrive for Businessコネクター]** ボタンが表示されます。
4. **[OneDrive for Businessコネクター]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。以下の図に示すように、[OneDrive for Businessにスキャン]インデックスフォームが自動的に表示されます。



注: OneDrive for Businessコネクターの既定では、フォルダーの参照中に200個のフォルダーが表示されます。この既定値を更新するには、次の図のように、**フォルダーパス** フィールドを選択し、**OneDriveのフォルダーを取得** ドロップダウンの横にある **[編集]** ボタンを選択します。



5. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
6. OneDrive for Businessコネクターノードのプロパティウィンドウに、インデックスフォームのフィールドの変数名が自動的に表示されます。このウィンドウのフィールドは編集できませんが、レンチツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダー内の該当のセクションまたはフィールドに移動することができます。以下の図を参照してください。



複合機でのOneDrive for Businessインデックスフォーム

複合機では、OneDrive for Businessのインデックスフォームが以下のように表示されます。

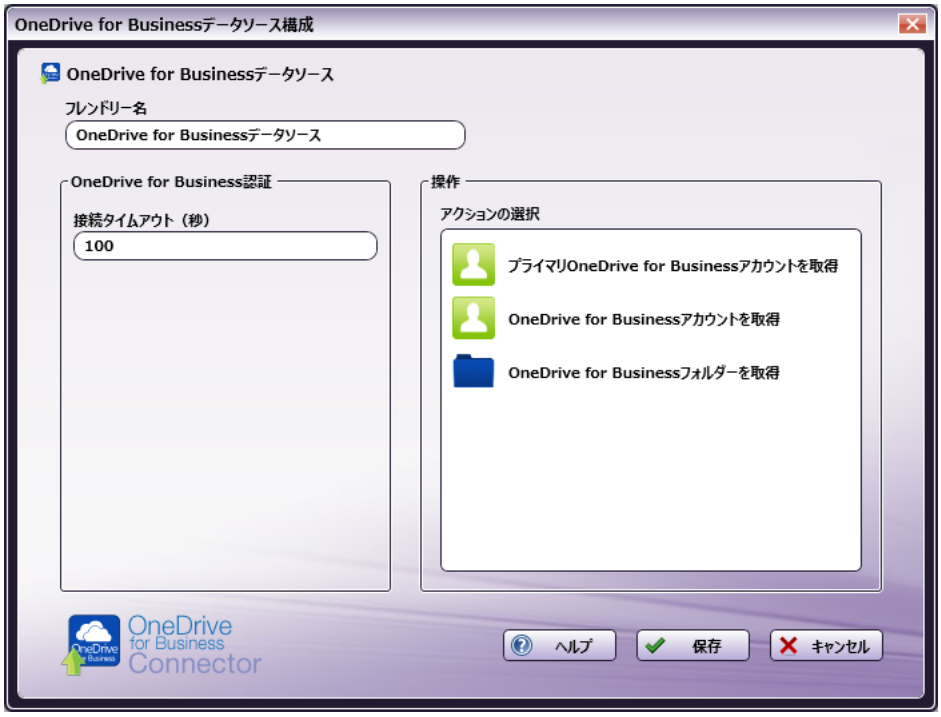
画面上部の **[+]** アイコンを選択して、新規フォルダーを追加できます。以下の図のように、**[新規フォルダー]** ウィンドウが表示されます。

データベースの参照 - OneDrive for Businessの構成

OneDrive for Businessからデータ（フォルダーのリストや検証など）を取得するためのクエリーを手動で構成することもできます。

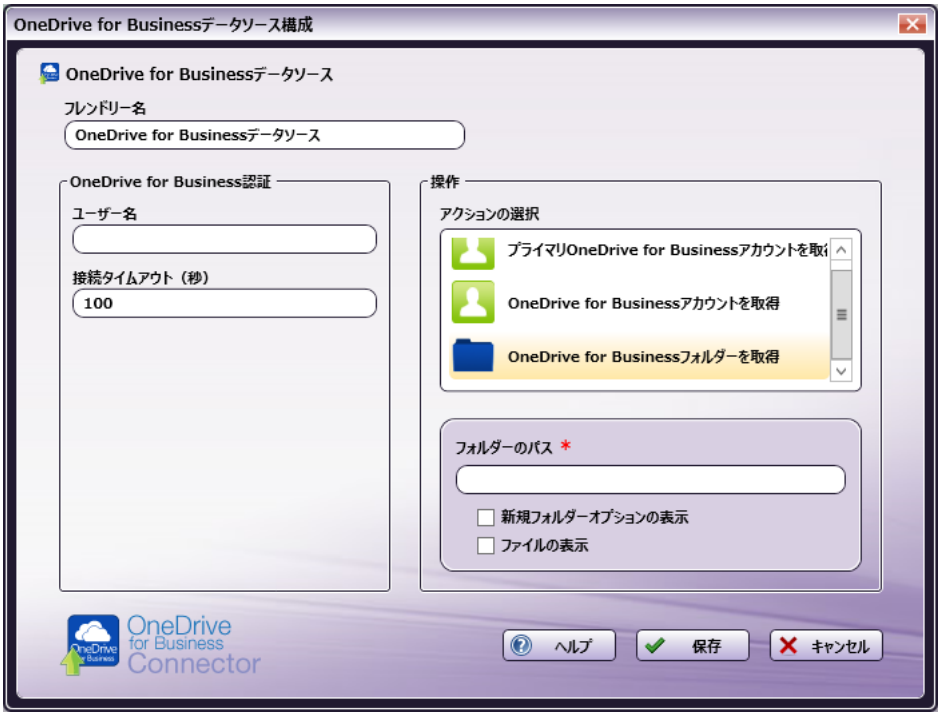
インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新規フィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[OneDrive for Businessデータソース]** を選択します。
4. [OneDrive for Businessデータソースの構成]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、OneDrive for Businessからデータを取得するための特定の操作を実行できます。



以下の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、OneDrive for Businessのデータソースの構成を識別する名前を入力します。
- **[操作]** 領域では、OneDrive for Businessのデータソースに対して実行するアクションの種類を選択できます。オプションは以下のとおりです。
  - **[プライマリOneDrive for Businessアカウントを取得]** - このオプションでは、ユーザーのプライマリOneDrive for Businessアカウントが返されます。
  - **[OneDrive for Businessアカウントを取得]** - このオプションでは、ユーザーのすべてのOneDrive for Businessアカウントが返されます。
  - **[OneDrive for Businessフォルダーを取得]** - 特定のOneDrive for Businessフォルダーパス内のフォルダーのリストを表示するには、このアクションを使用します。[OneDrive for Businessフォルダーを取得]項目を選択すると、以下の図に示すように、構成の新規フィールドが表示されます。



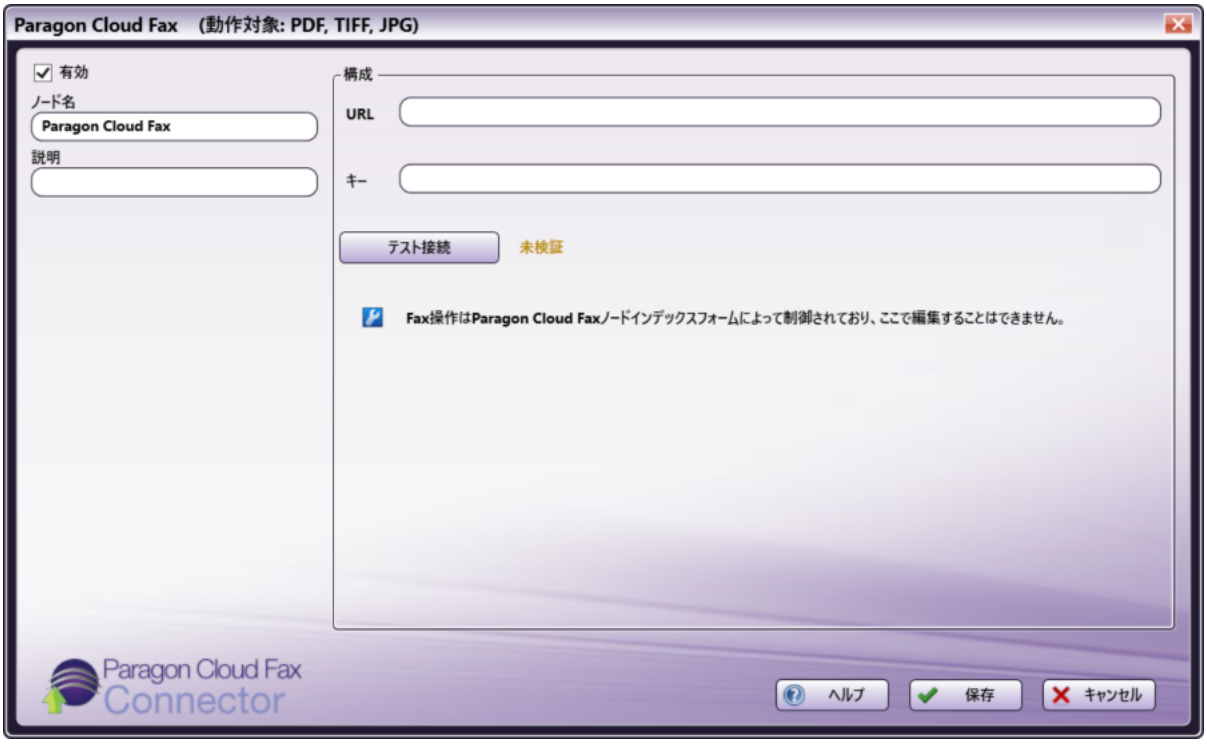
- **[フォルダーのパス]** - 複合機のパネルに表示するOneDrive for Businessルートフォルダーのフォルダー IDを入力します。
  - **[新規フォルダーオプションの表示]** - このオプションをチェックすると、ユーザーは複合機で新規OneDrive for Businessフォルダーを成できるようになります。
  - **[ファイルの表示]** - このオプションをチェックすると、複合機にOneDrive for Businessフォルダー内のファイルが表示されます。

Paragon Cloud Fax コネクター

Paragon Cloud Fax コネクター を使用すると、ユーザーはDispatcher PhoenixワークフローからDispatcher Paragonクラウドベースのオンライン Faxサービスを介してドキュメントを直接送信することができます。

重要! Paragon Cloud Fax ノードは個別にインストールする必要があります。アドインマネージャーを使用して、次の**インストール手順** に従ってください。さらに、**Paragon Cloud Fax** ノードは、**複合機パネル** または **Webキャプチャ** ノード、および **Dispatcher Paragon** のFax接続機能と組み合わせた場合にのみ機能します。**Dispatcher Paragon Cloud Fax** 機能の構成や管理など、詳細については、**ここ**をクリックしてください。

Paragon Cloud Faxコネクターノードの設定



- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。既定では、ノードは作成時に有効になります。
- **[ノード名]** - ノード名が既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ノードアイコンの下のワークフローに表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフローでのノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読むことができます。

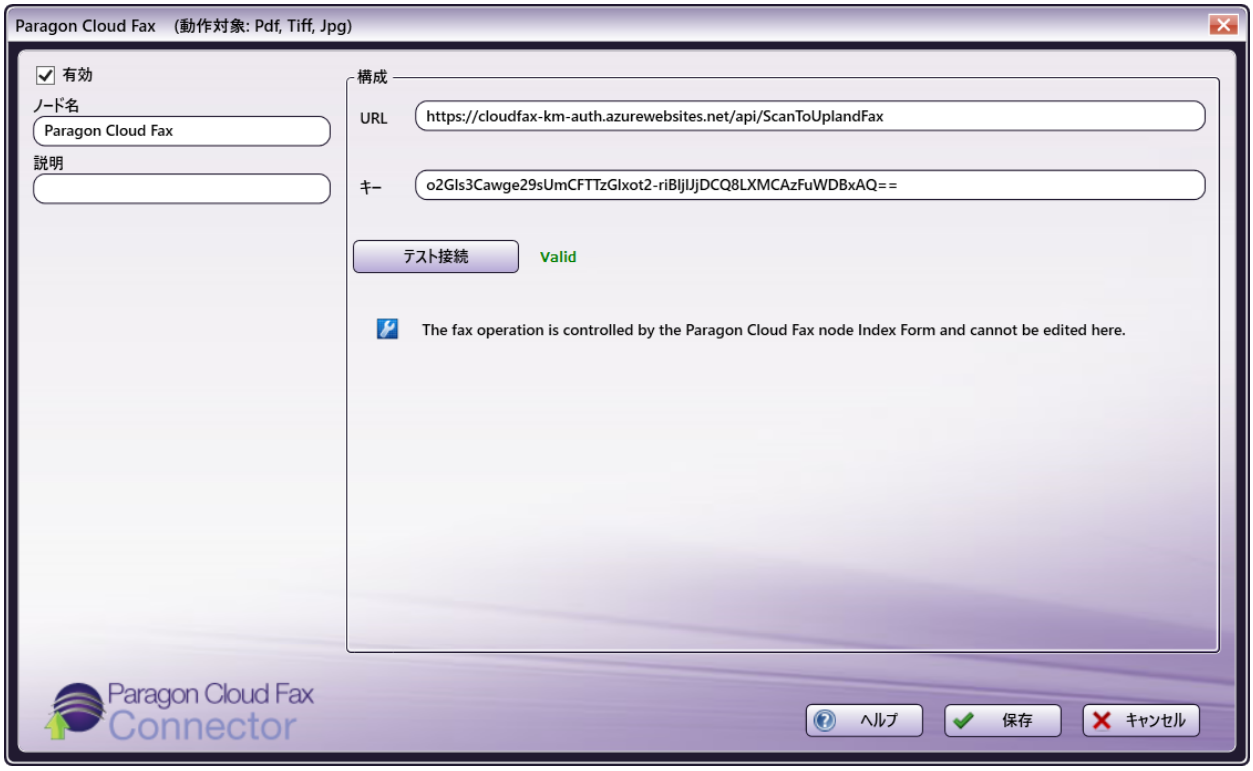
ボタン

- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保存してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

Paragon Cloud Faxに接続する

開始するには、まず Paragon Cloud Faxサーバーに接続する必要があります。[構成]領域で、次の操作を実行します。

1. **URL** フィールドで、Paragon Cloud FaxサーバーのURLアドレスを入力します。
2. **キー** フィールドで、Paragon Cloud Faxサーバーの認証用に提供されているキーを入力します。
3. 完了したら、**[テスト接続]** ボタンを選択して Paragon Cloud Faxサーバーに接続します。

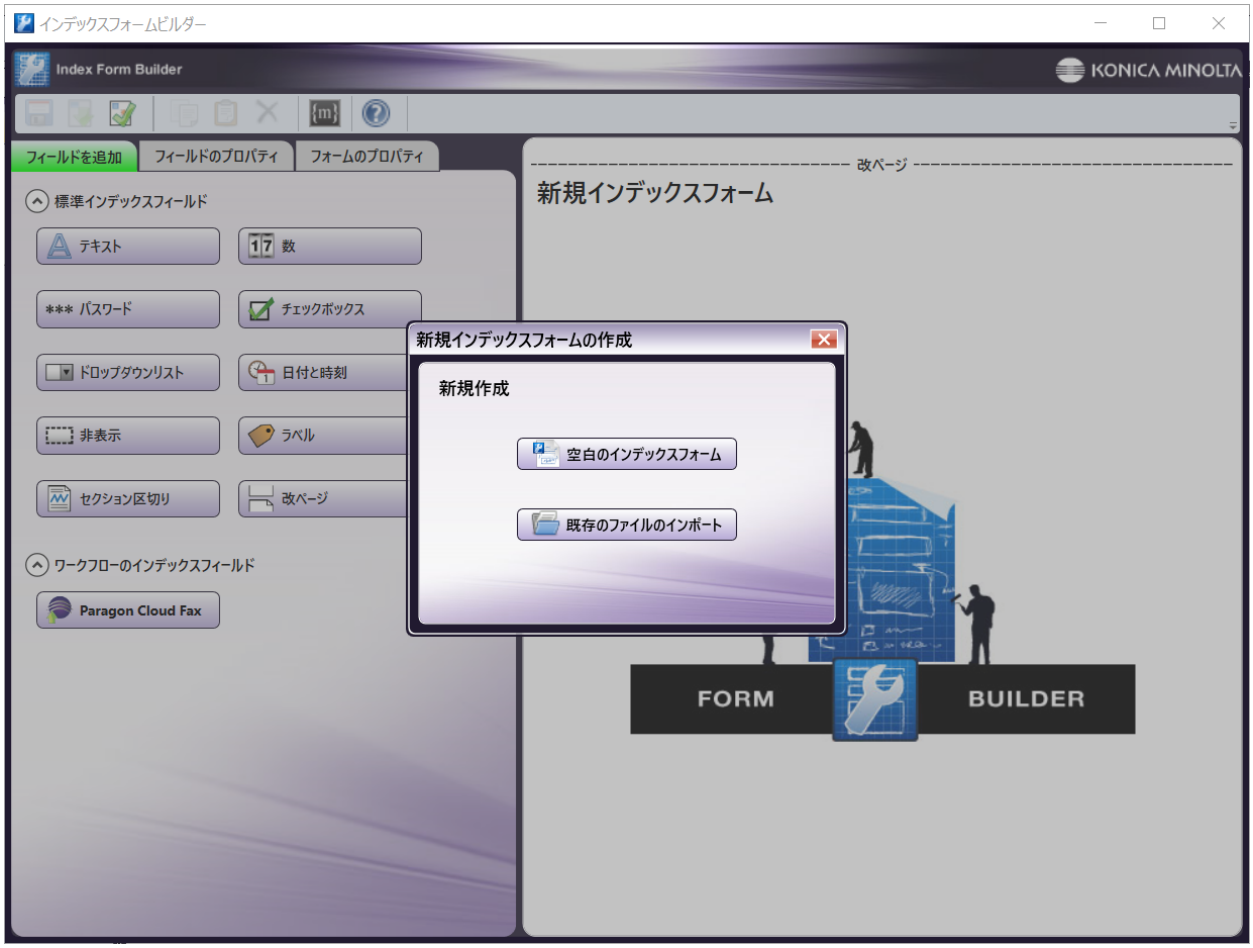


Paragon Cloud Faxコネクターのインデックスフォームの構成

複合機でParagon Cloud Faxに自動接続するインデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

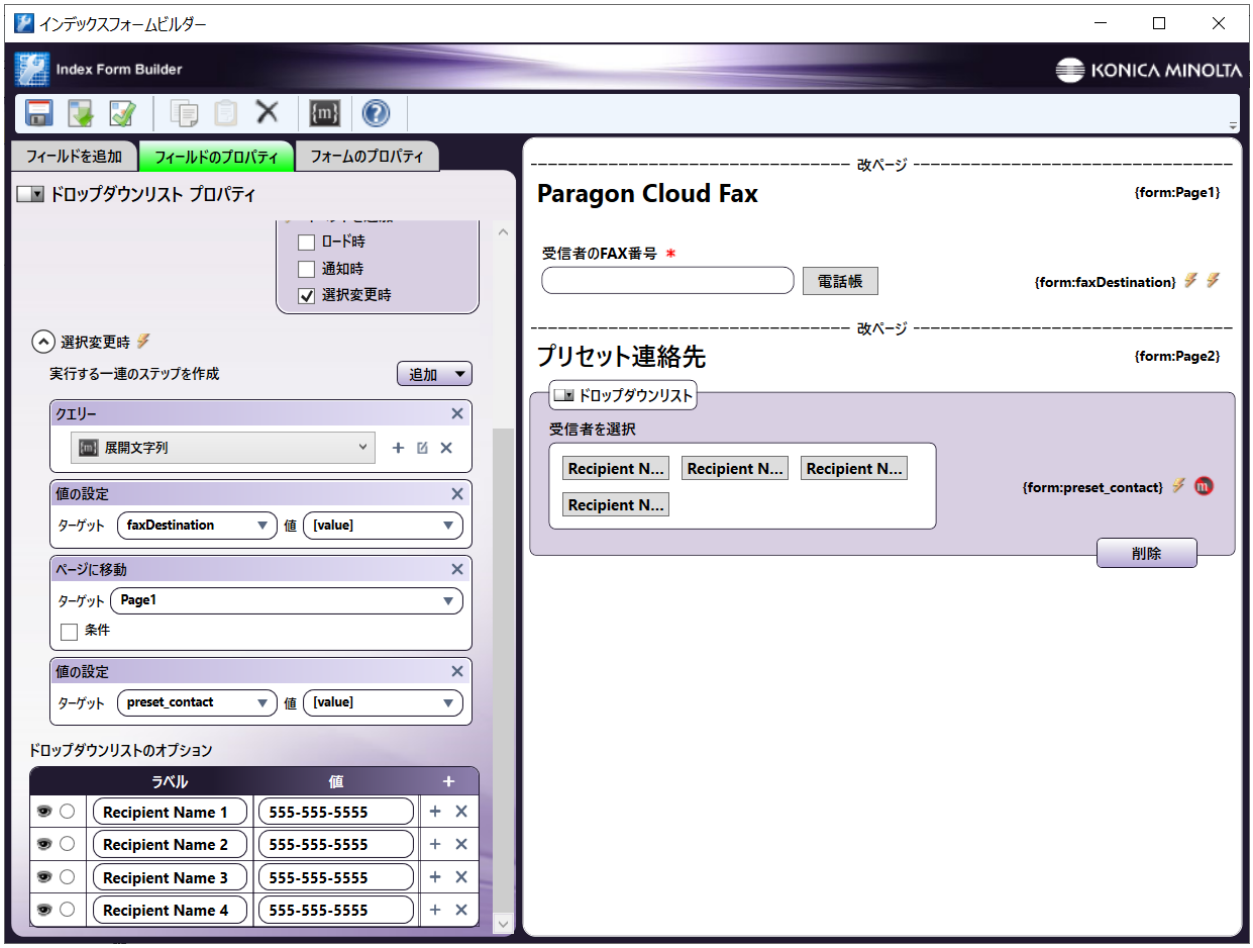
1. ワークフローに **複合機パネル** ノードと **Paragon Cloud Faxコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
2. 次の図のように、ツールバーの **フォーム** ドロップダウンをクリックし、**[新規インデックスフォームの作成]** を選択します。

3. 次の図のように、**[空白のインデックスフォーム]** を選択します。



4. 次に、[**Paragon Cloud Faxコネクター**] ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図のように、Paragon Cloud Faxコネクターインデックスフォームが自動的に表示されます。

5. 電話帳の連絡先を更新するには、次の図のように、**[ドロップダウンリスト]** 領域をクリックし、左側に表示される **[ラベル]** フィールドと **[値]** フィールドを編集します。



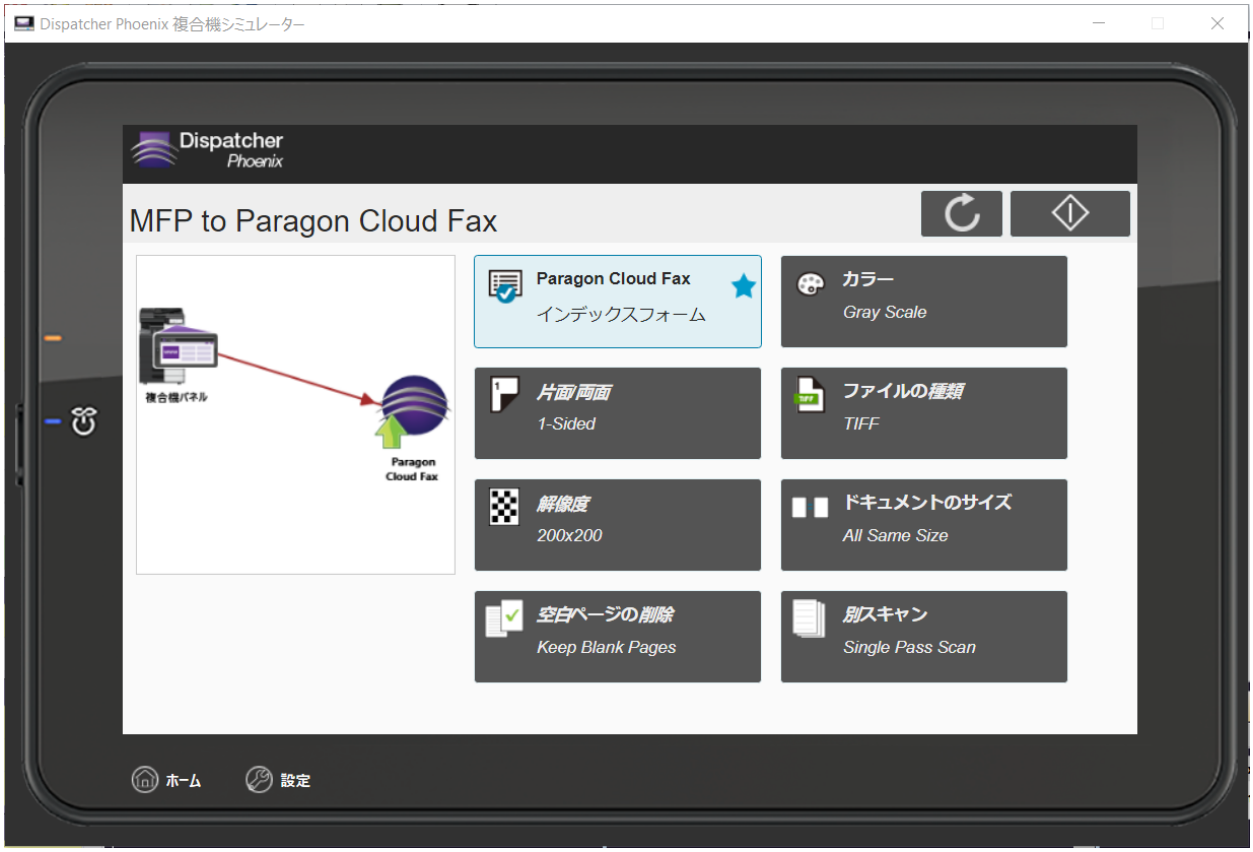
6. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。

詳細については、**インデックスフォームビルダー** ページを参照してください。

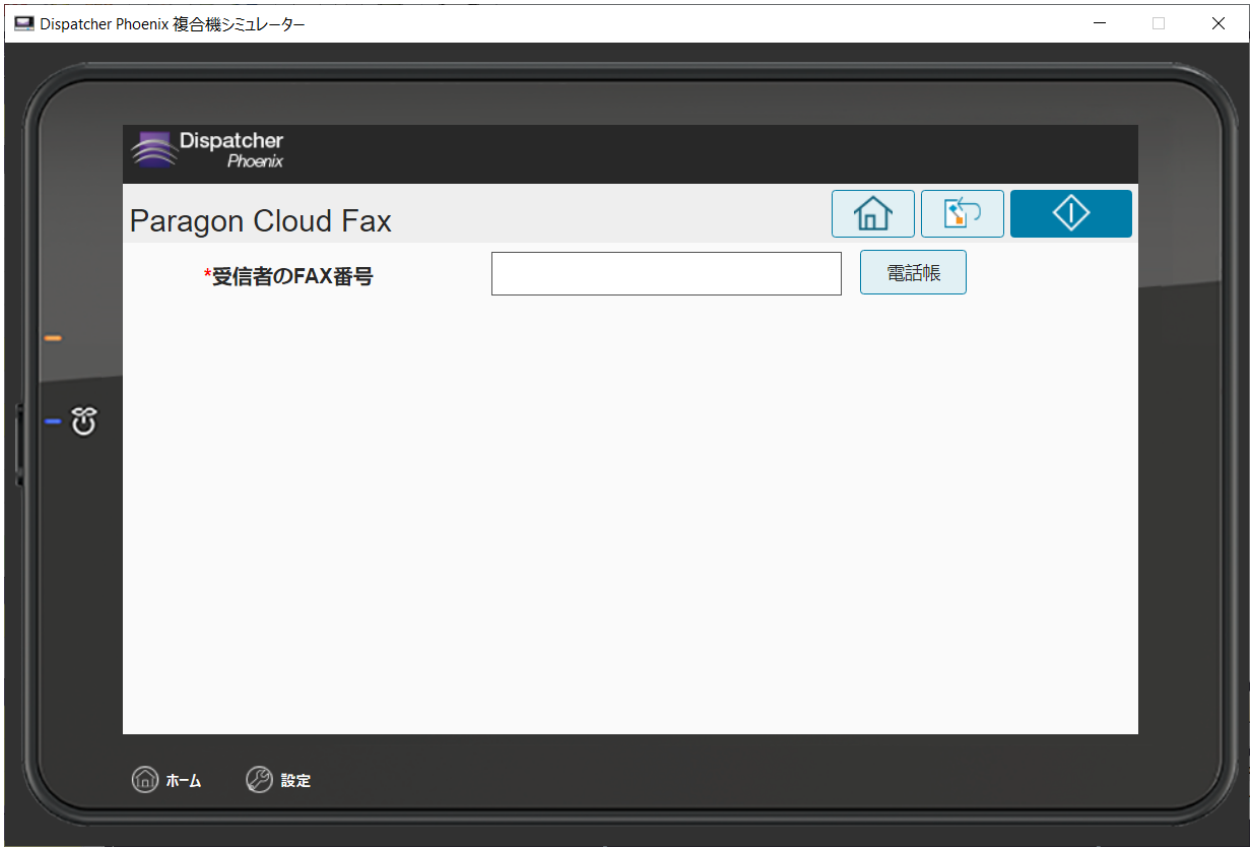
複合機でのParagon Cloud Fax

複合機で、次の手順を実行します。

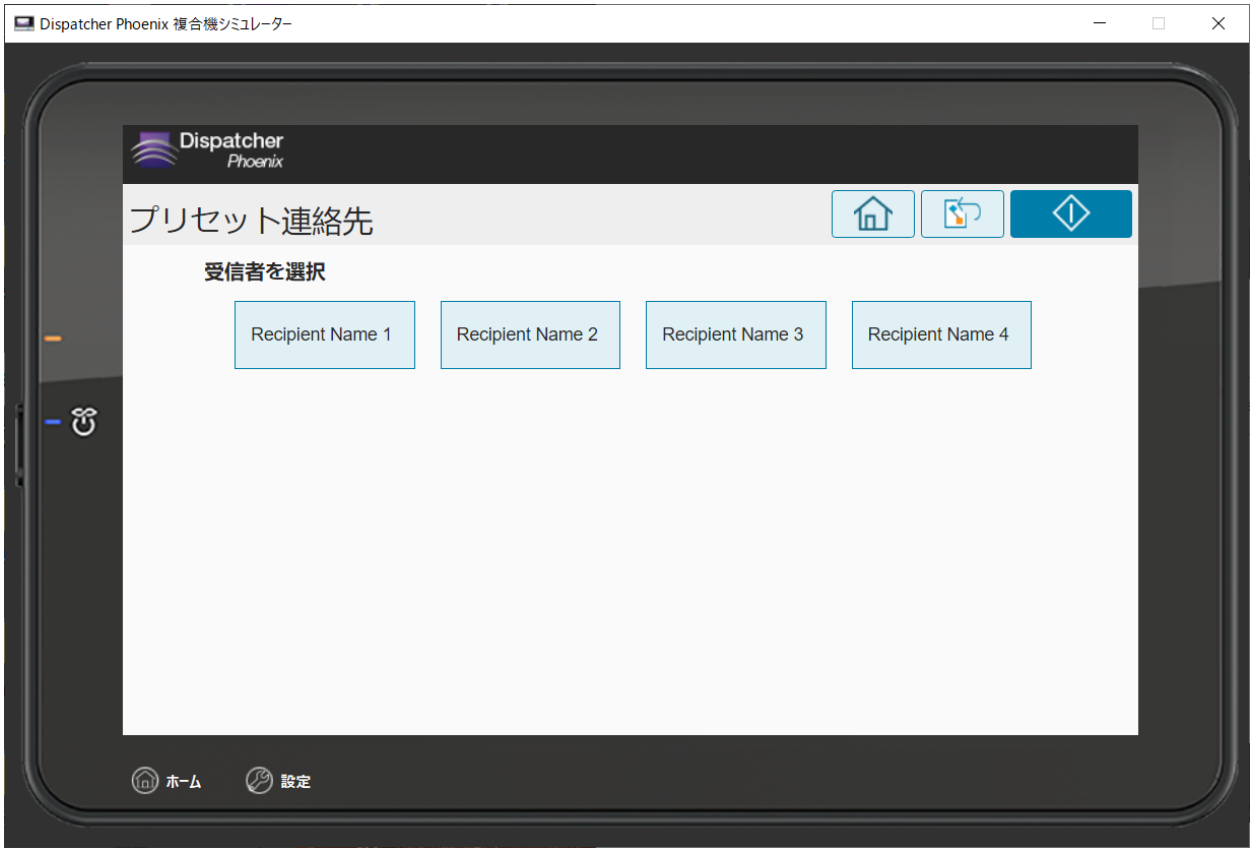
1. **ワークフローを選択** - 現在実行中の Dispatcher Phoenixワークフローが1つだけの場合、そのワークフローが表示されます。ただし、複数のワークフローが実行されている場合は、選択画面が表示され、ワークフローを選択する必要があります。
2. **インデックスフォームを選択** - ワークフローが画面に表示されたら、インデックスフォームを選択します。



3. **受信者のFAX番号を入力** - これは手動で行うか、[**電話帳**] ボタンをタップして行うことができます。



次の図のように、[**電話帳**] ボタンをタップすると、事前構成された電話帳が表示されます。



4. **ドキュメントをスキャン** - ドキュメントは選択したFax番号に自動的に送信されます。

RightFaxコネクター

RightFaxコネクター ノードは、新規、および既存のDispatcher Phoenixワークフローが、RightFaxのデジタルFAXシステムを介してファイルを配信できるように設計されています。RightFaxコネクターを使用すると次のことができます。

- RightFaxサーバーに接続する。
- 自動化されたワークフローのノード構成中に、特定の受信者を入力する。
- ワークフローメタデータを使用して、FAX受信者を指定する。
- スキャン時に複合機で直接 **インデックスフォーム**を使用して、特定の受信者を入力する。
- ノード構成、またはインデックスフォームを介して、スキャン時にFAXを送信する日付と時刻を選択する。

ノードプロパティ

RightFaxコネクターを使用するには、最初にコネクターを作成する必要があります。以下の操作を行います。

1. コネクターノードを左側のパネルからワークフロービルダー領域にドラッグアンドドロップします。次に、それをダブルクリックします。

2. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認します。チェックを外すと、この出力は無視されます。ワークフローは引き続き検証されますが、ドキュメントは配信されず、失われる可能性があります。
3. **[ノード名]** フィールドに、RightFaxコネクターの意味のある名前を入力します。
4. **[説明]** フィールドに、RightFaxコネクターの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の配信ポイントを区別する時に役立つ場合があります。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くとその内容全体を読み取ることができます。

RightFaxコネクター内には、他にもいくつかのボタンがあります。

- **[メタデータ]** - メタデータブラウザーウィンドウを開きます。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenix オンラインヘルプを開きます。
- **[保存]** - ノードの現在の状態を保持します。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了します。

RightFaxサーバーへの接続

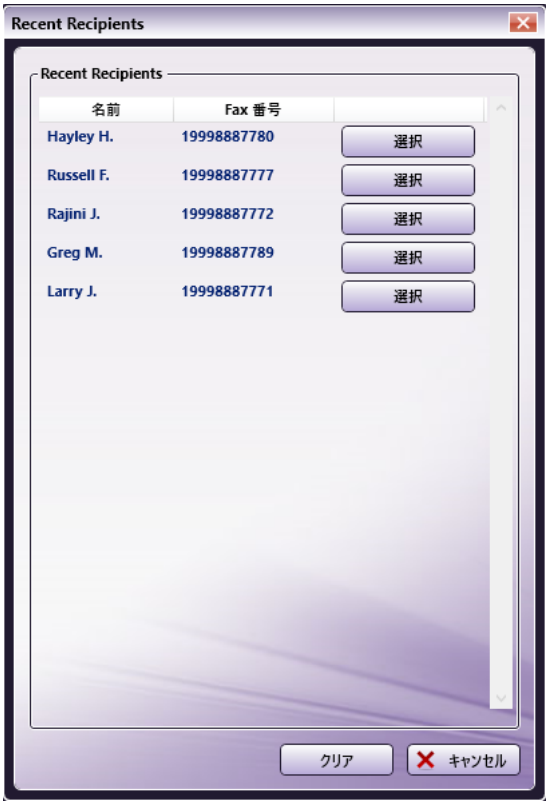
RightFaxコネクターに接続するには、**[接続]** 領域に次の情報を入力します。

- **[サーバーURL]** フィールドに、RightFaxサーバーのURLを入力します。
- **[ユーザー名]** フィールドと **[パスワード]** フィールドに、RightFaxサーバーへの接続に使用するユーザー名とパスワードを入力します。
- **[ログイン]** ボタンを使用して、RightFaxを介してドキュメントを配信するようにシステムが適切に構成されていることを確認します。

[構成] セクションには、受信者名、受信者番号、およびFAX設定を指定できるフィールドが含まれています。これらのフィールドは、スキャン時に複合機でアクセスして入力することもできます。

- **[Recipient name(受信者の名前)]** : FAXの受信者の名前を入力します。
- **[Recipient number(受信者番号)]** : FAXの送信先の受信者番号を入力します。接続されているRightFax電話帳、または最近の受信者リストから受信者番号を検索できます。
    - **[RightFax Phonebook(RightFax電話帳)]** - このボタンをクリックすると、RightFax電話帳の最初の50件の連絡先を表示するウィンドウが開きます。連絡先は、RightFaxに保存されているフィールドである連絡先IDのアルファベット順に一覧表示されます。ウィンドウ上部の検索バーに入力して、個別の連絡先を検索することもできます。これにより、RightFax電話帳全体が検索され、最初の50件の結果が表示されます。

    - **[Recent Recipients(最近の受信者)]** - このボタンをクリックすると、このアカウントからFAXを受信した最後の10個の一意の番号のFax番号を表すウィンドウが開きます。



- **[ドキュメントをいつFaxするか選択]**：次のラジオボタンを選択します。
  - **[すぐに送信]** - ファイルがRightFaxサーバーに正常にアップロードされるとすぐにFAXが送信されます。
  - **[予定日時に送信]** - FAXを受信者に送信する特定の日時を選択します。

注:

- RightFaxサーバーに正常にログインするまで、RightFaxコネクタノードの[構成]セクションにはデータが入力されません。
- RightFaxコネクターでは、RightFaxを介してFAXを送信するために、受信者名と受信者番号の両方が必要です。
- [受信者名]フィールドと[受信者番号]フィールドはメタデータを受け入れます。**[メタデータ]** ボタンをクリックして、**メタデータブラウザー** ウィンドウを開きます。次に、メタデータ変数を **メタデータブラウザー** から適切なテキストフィールドにドラッグアンドドロップできます。
- [受信者番号]フィールドは、メタデータまたは番号の文字列のいずれかを受け入れます。記号や文字などが記載された受信者番号は受け付けません。
- 構成フィールドに中括弧文字({)が含まれている場合、管理者は、ノードがエントリーをメタデータとして読み取ろうとしないように、その横に中括弧を追加する必要があります。たとえば、「Cynthia {ABC Corp}」という名前の連絡先は「Cynthia {{ABC Corp}」として入力する必要があります。
- 受信者名の最大長は60文字です。受信者番号の最大長は256文字です。
- 電話帳検索機能を使用すると、RightFaxは電話帳エントリー全体で入力された文字列を検索します。これによって、表示される名前または番号にはその文字列が存在しないが、そのエントリーの他のフィールドには存在する結果が返されます。
- 過去の日付や時刻を選択すると、RightFaxコネクターの既定ですぐにFAXを送信します。
- RightFax内で[電話帳から受信者を選択する必要がある]が有効になっている場合、**[最近の受信者]** ノードボタンは表示されません。複合機で、**[最近の受信者]** をクリックすると、エラーメッセージが表示されます。この場合、電話帳から受信者を選択する必要があります。必要に応じて電話帳から別の受信者を選択できますが、選択内容を編集することはできません。

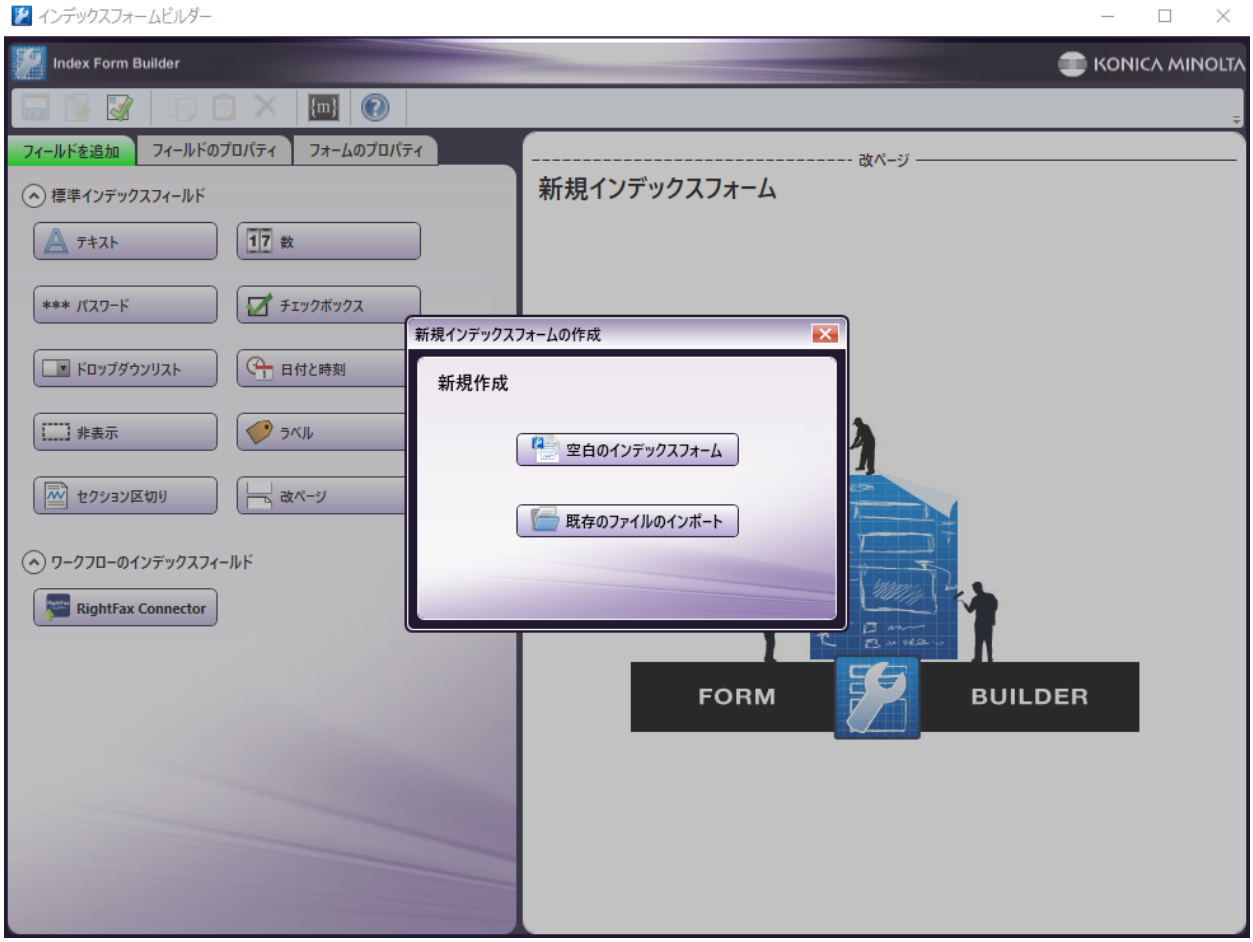
- RightFaxコネクターは、受信者名、または受信者番号を持たない電話帳の連絡先を自動的に除外して、FAXがRightFaxサーバーに正しくアップロードされるようにします。

ノードの構成が終了したら、**[保存]** ボタンを選択して、RightFaxコネクターノードの構成を保持します。

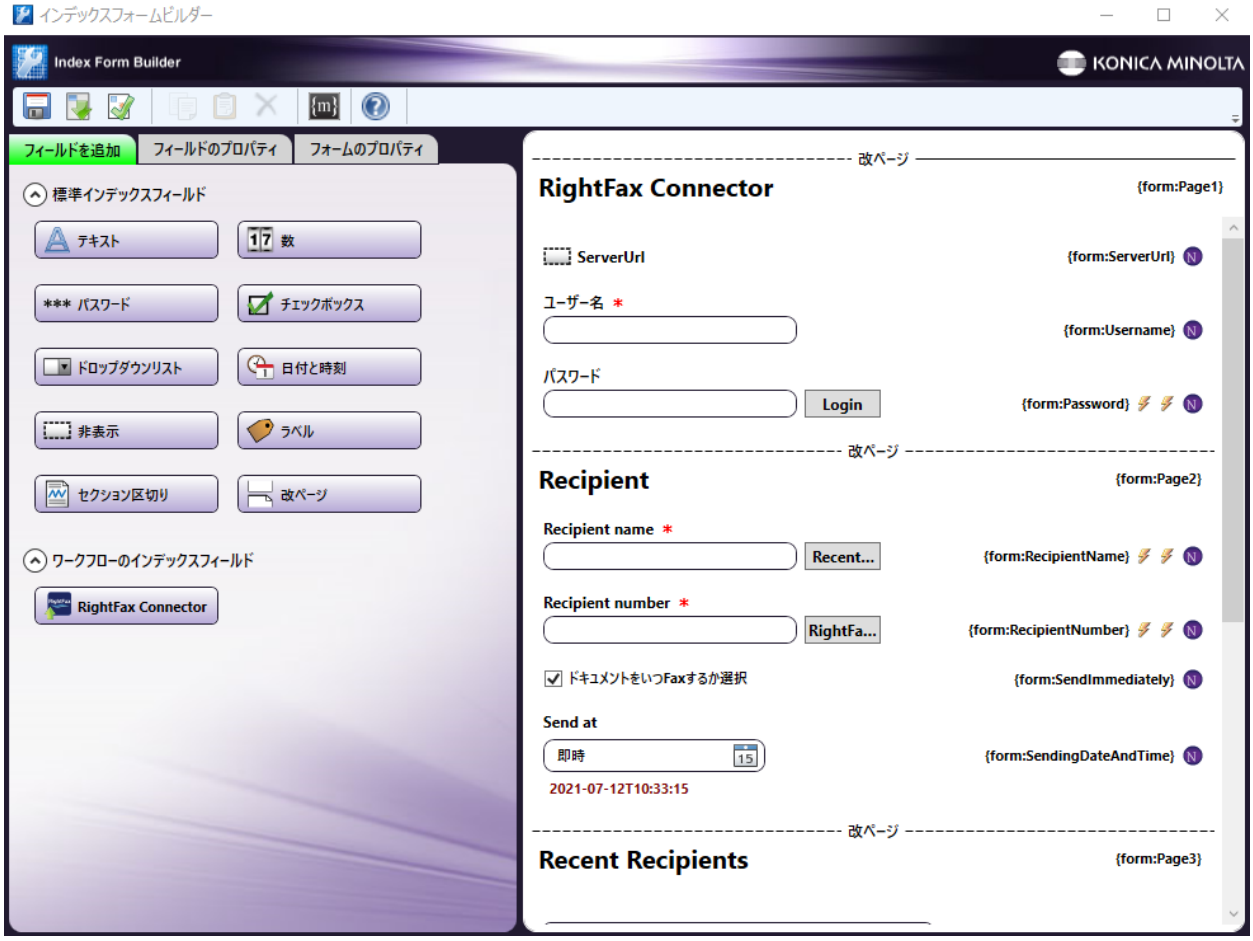
RightFaxコネクターインデックスフォームの作成

ワークフローにインデックスフォームが構成されている場合、スキャンと送信を開始する前に、複合機でRightFaxアカウントにログインするように求められます。複合機で、**RightFaxコネクター** ノードをカスタマイズできるインデックスフォームを作成するには、次の手順を実行します。

1. ワークフローに **RightFaxコネクター** ノードが含まれていることを確認しします。
2. 次の図のように、ツールバーの **[フォーム]** ドロップダウンをクリックし、**[新規インデックスフォームの作成]** を選択して、インデックスフォームビルダーを開きます。

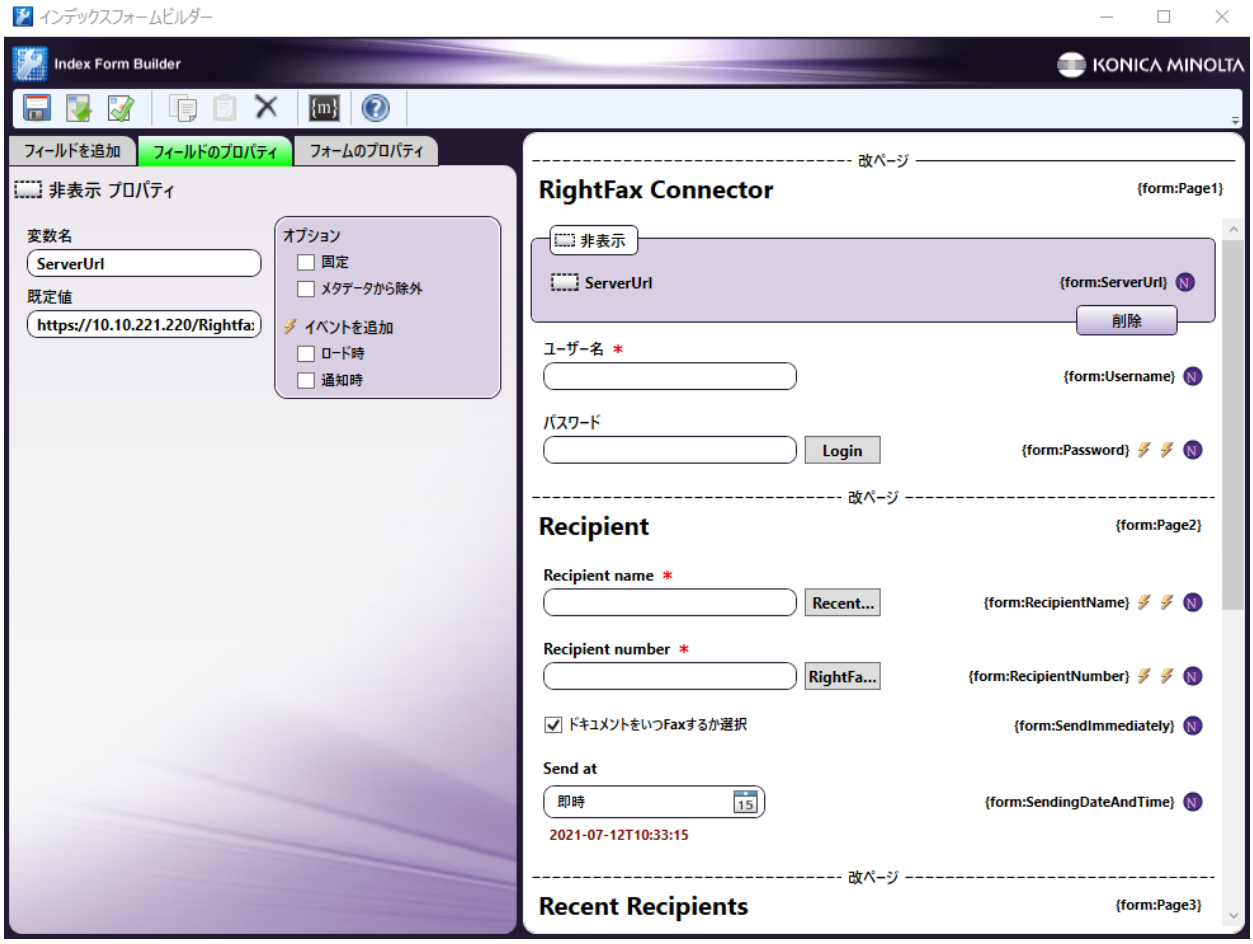


3. ポップアップで **[空白のインデックスフォーム]** オプションを選択します。次に、**[RightFaxコネクター]** アイコンをインデックスフォームの作業領域にドラッグします。次の図のように、いくつかのフィールドにデータが入力されます。



注: 図の[ServerUrl]のように、輪郭が「点線」で示されているフィールドは、RightFax管理者によって設定された非表示のフィールドです。複合機には表示されません。

4. **[ServerUrl]** 領域をクリックして、フィールドプロパティエディターを開きます。次の図のように、**[既定値]** をRightFaxサーバーのURLに変更します。



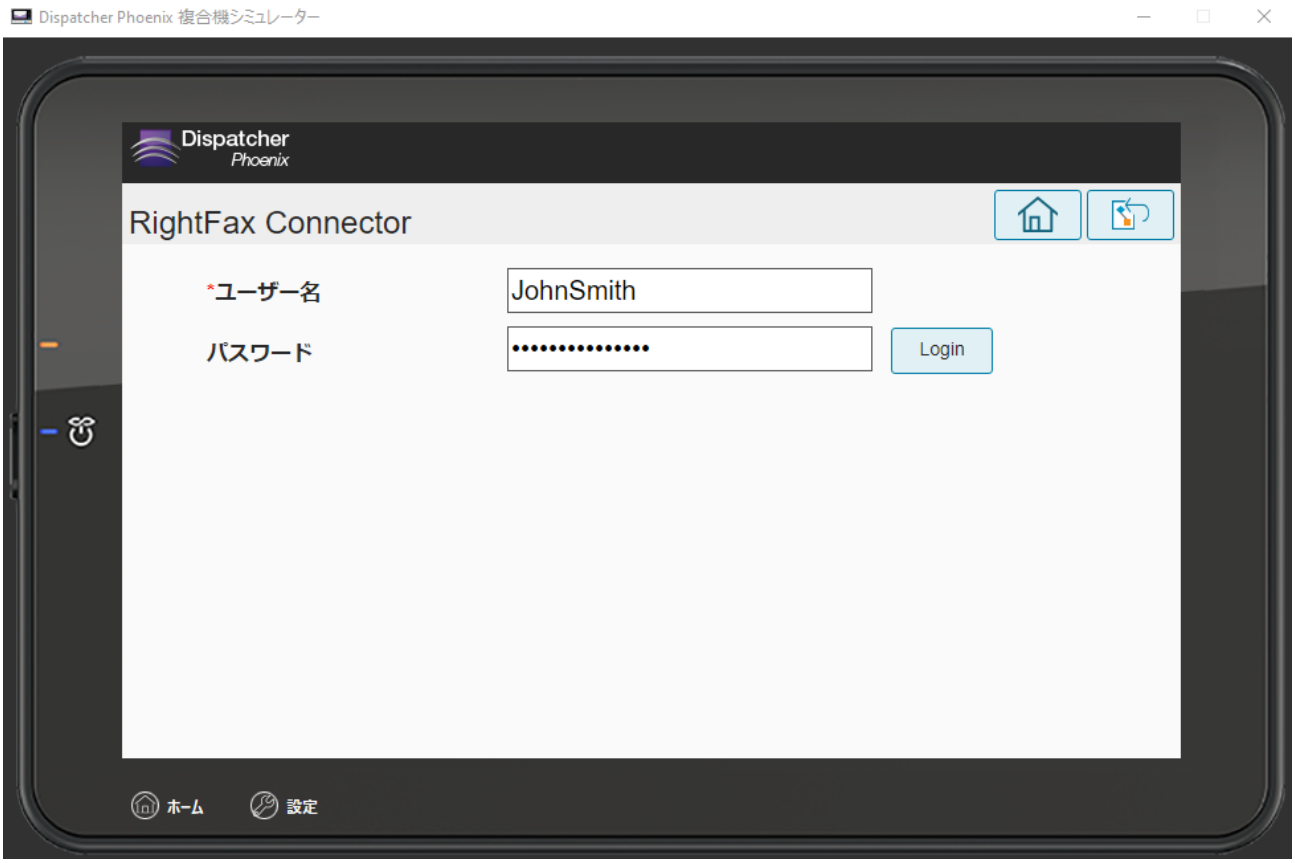
5. インデックスフォームビルダーを検証、保存して閉じます。
6. インデックスフォームを、複合機パネルノード、Webキャプチャノード、Release2Meノードなどのインデックスフォームをサポートするノードに添付します。
7. **RightFaxコネクター** ノードのプロパティウィンドウには、インデックスフォームのフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウのフィールドを編集することはできませんが、レンチツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダーのそのセクション、またはフィールドに移動することができます。次の図を参照してください。

複数の入力でRightFaxコネクターインデックスフォームを使用する

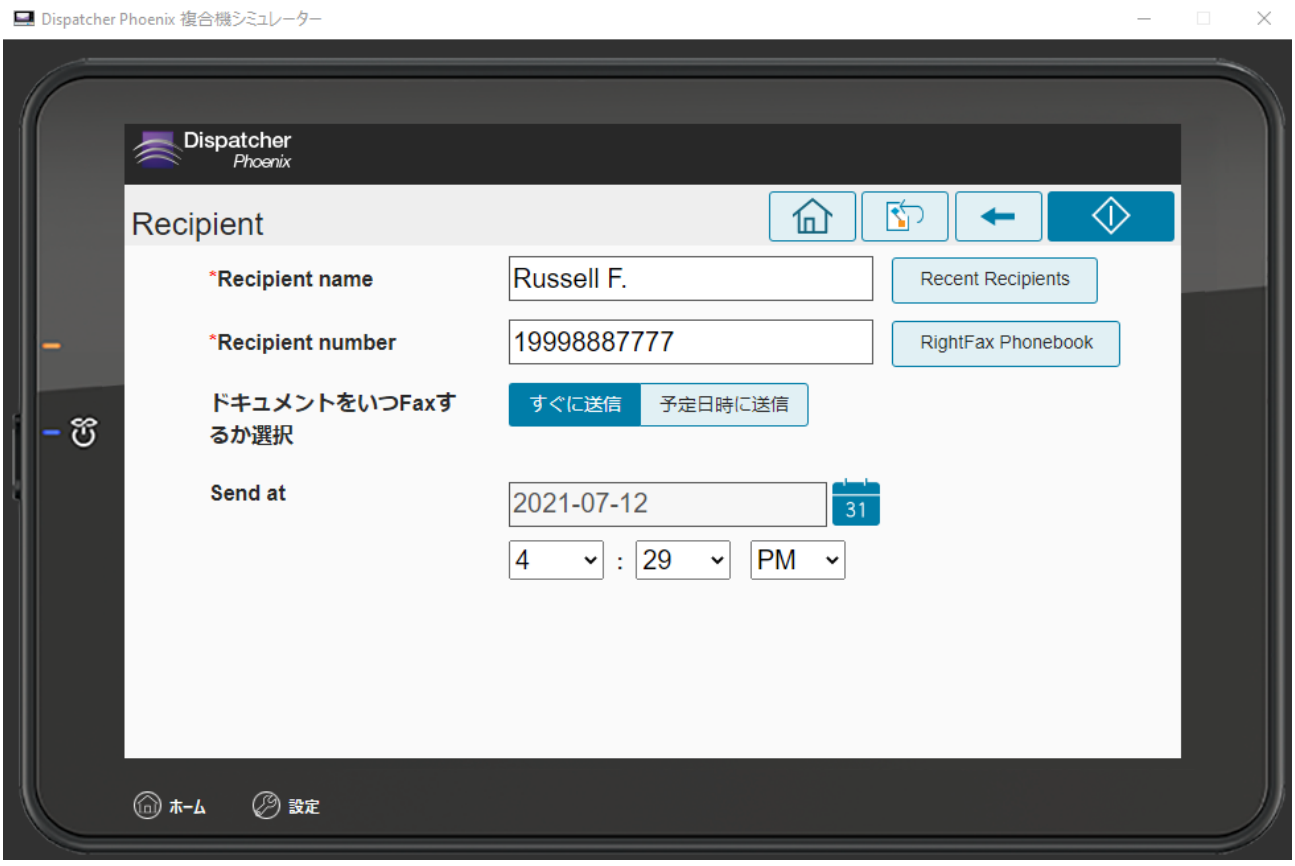
RightFaxコネクターノードを複合機パネル、またはWebキャプチャノードのインデックスフォームに関連付けると、FAXに接続してルーティングするために必要なすべての情報が複合機で入力されます。このため、ワークフロー内で他のタイプの収集ノード(入力フォルダー、複合機ユーザーボックスなど)をそのインデックス付きのRightFaxコネクターノードに接続することはできません。この場合、ワークフローに他の収集ノードを追加する必要がある場合は、インデックスフォームに接続されていない、新しいRightFaxコネクターノードを追加する必要があります。

複合機でのRightFaxコネクターインデックスフォーム

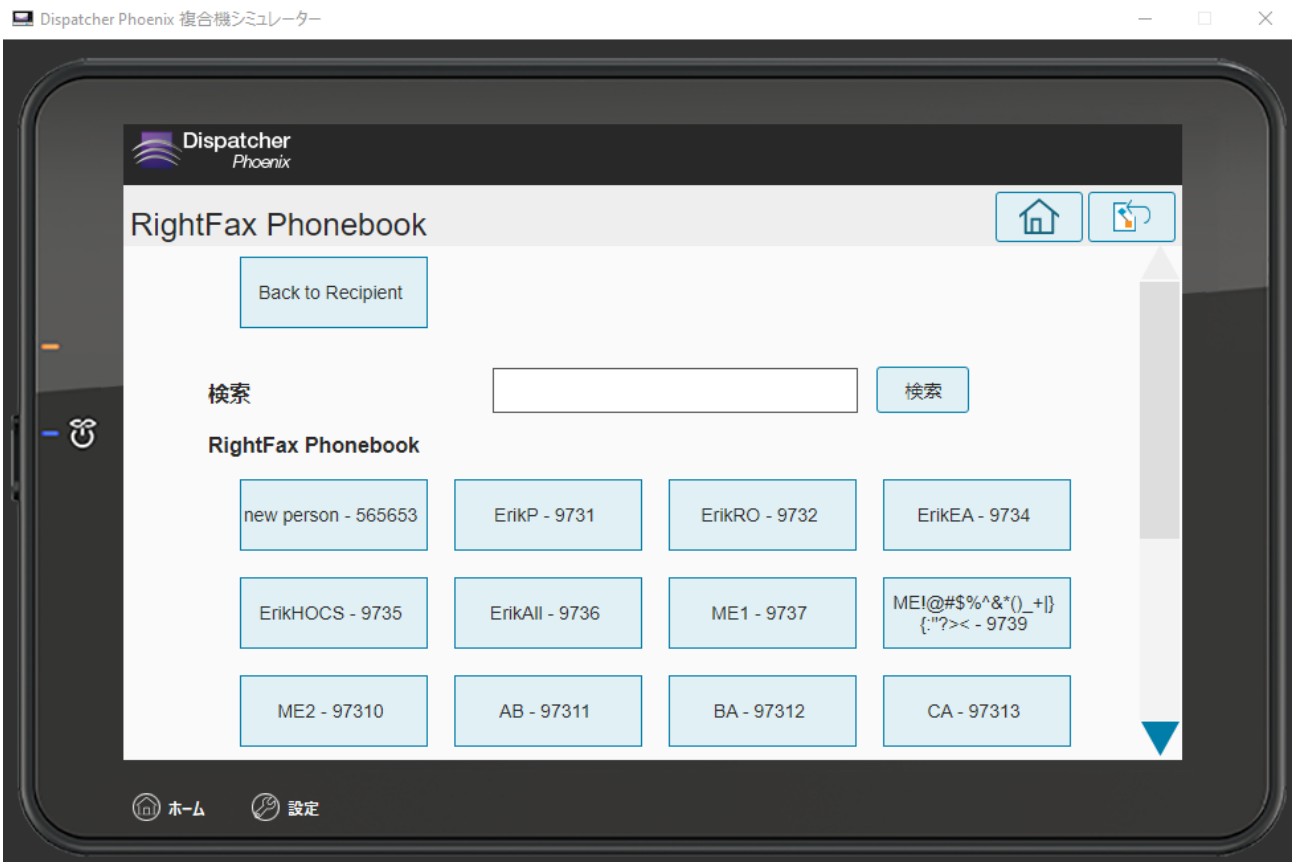
複合機では、次の図に示すように、RightFaxインデックスフォームを使用したワークフローによって、RightFaxユーザー名とパスワードを使用してサインインするように求められます。



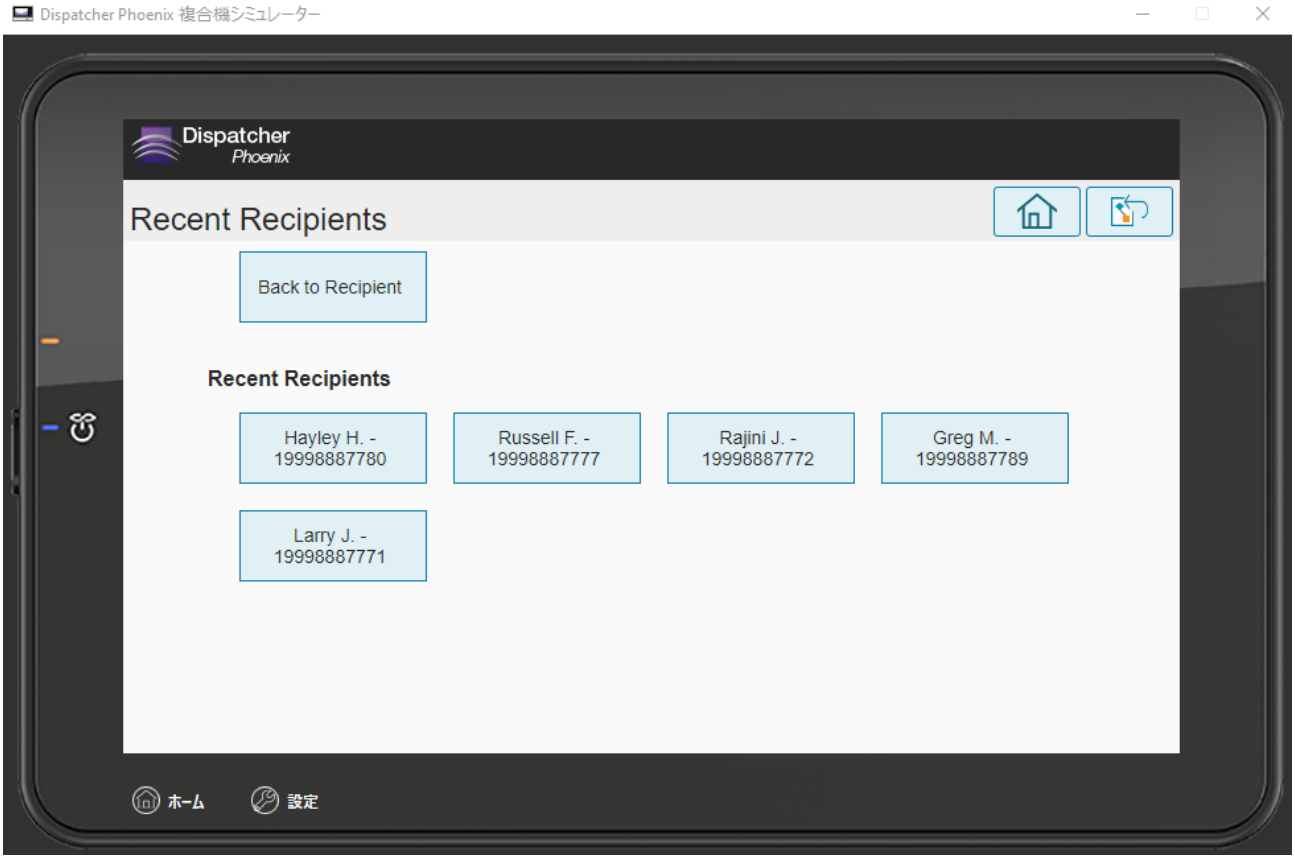
[ユーザー名] と、必要に応じて **[パスワード]** を必須フィールドに入力し、[ログイン]をクリックします。ログインに成功すると、インデックスフォームが表示され、**[受信者名]**、**[受信者番号]**、およびFAXの送信設定を入力できます。次の図を参照してください。



複合機での電話帳の検索は次のとおりです。



複合機での最近の受信者の検索は次のとおりです。



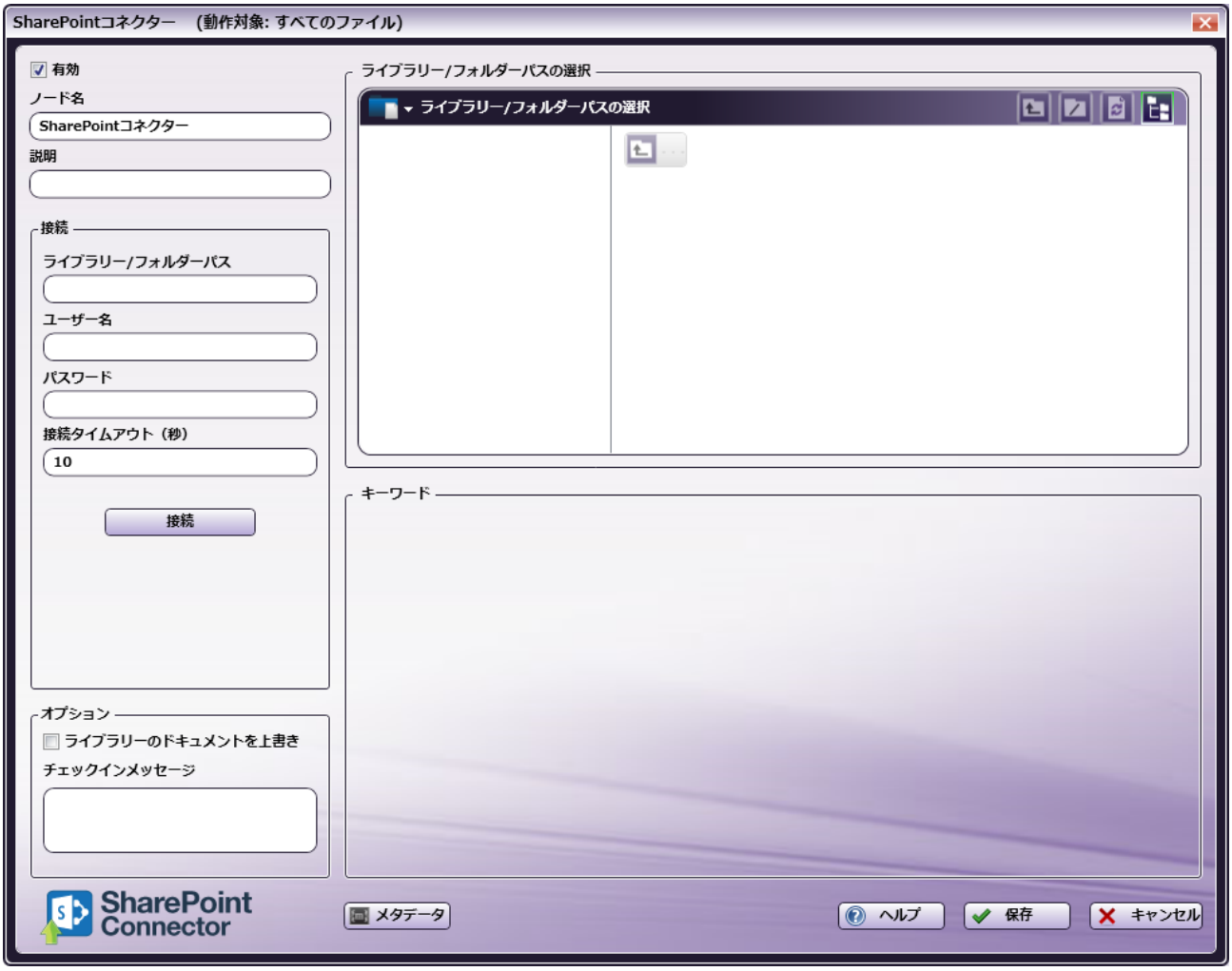
SharePointコネクター

SharePointコネクターでは、指定のSharePointリポジトリー内にドキュメントを保存するために、SharePointサイトに接続することができます。

重要! SharePointコネクターは、Windows SharePoint Services v3がインストールされたMicrosoft SharePoint 2016、2013、2010、および2007をサポートしています。さらに、SharePointコネクターは、以下の認証方式をサポートしています。

- HTTPおよびHTTPSの両方での基本認証
- NTLM
- Negotiate

SharePointノードのプロパティウィンドウを表示するには、**SharePoint** の出力ノードをワークフローに追加し、それをダブルクリックします。



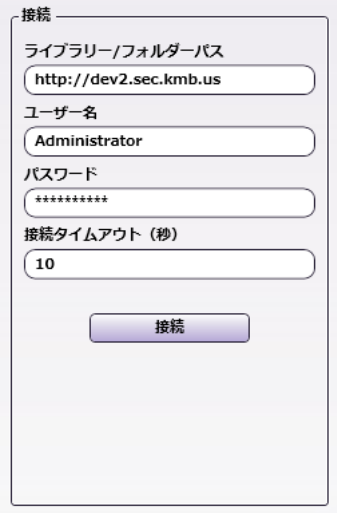
- 複数の出力場所がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合は、この出力は無視されます。ワークフローによって引き続き検証される一方で、ドキュメントは出力されないため失われる可能性があります。
- **[ノード名]** フィールドに、SharePointノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、SharePointノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[メタデータ]** ボタンをクリックしてメタデータブラウザーウィンドウを開き、メタデータ変数をこのウィンドウ内のフィールドに追加できます。

SharePointサーバーの構成

最初に、SharePointライブラリに接続する必要があります。[接続]領域で、以下の操作を行います。

1. **【ライブラリ/フォルダーパス】** フィールドに、SharePointサイトのURLを入力します。
2. **【ユーザー名】** フィールドと **【パスワード】** フィールドに、特定のSharePointサーバーへの接続に使用するユーザー名とパスワードを入力します。
3. 必要に応じて、**【接続タイムアウト】** フィールドで、サーバーに最初に接続した後に通信が行われなくなってからタイムアウトになるまでの時間として割り当てられている秒数を変更します。大きなドキュメントをロードするときには、接続のタイムアウト値を増やす必要があります（たとえば、25ページのドキュメントをアップロードする場合、適切なタイムアウト値は100秒です）。
4. 完了したら、**【接続】** ボタンを選択してSharePointに接続します。

例については次の図を参照してください。

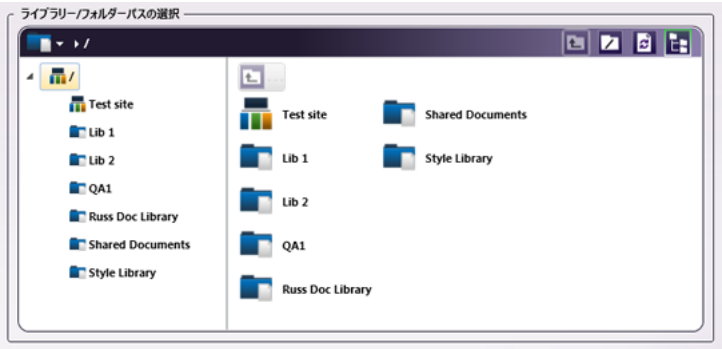


SharePointサイト/ライブラリ/フォルダーのナビゲート

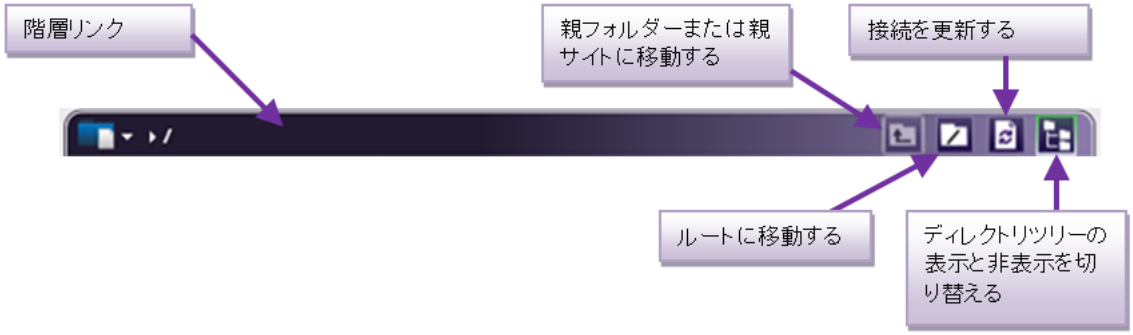
接続すると、SharePointノードのプロパティウィンドウの右側には、指定したSharePointサイトが表示されます。このサイトの下には、サイト内のライブラリと各ライブラリの中にあるフォルダー/サブフォルダーが表示されます。

ファイルを共有するために、SharePointではライブラリが使用されます。ライブラリは、ファイルを収集、作成、更新、および管理できるSharePointサイト上の場所です。各ライブラリには、ファイルのリストと、それらのファイルに関する主要な情報が表示されます（これらの情報はキーワードとも呼ばれます）。

SharePointノードを正しく設定するには、ドキュメントの配信先となるライブラリやフォルダーを指定する必要があります。次の図を参照してください。



ナビゲーション方法はWindowsエクスプローラーと同様であり、サイトをクリックするとそのサイト内のライブラリが表示され、ライブラリをクリックするとそのライブラリ内のフォルダーが表示され、フォルダーをクリックするとそのフォルダー内のサブフォルダーが表示されます。次の図で示すように、このセクションの上部には他のナビゲーションツールが用意されています。



コンテンツタイプの指定

[コンテンツタイプ]領域で、ドロップダウンリストを使用して、このライブラリにアップロードされたファイル用の事前定義済みのデフォルトのコンテンツタイプを選択できます。別のコンテンツタイプを選択すると、下の[キーワード]領域のフィールドが変わります。

注: ワークフローがDispatcher Phoenix バージョン 6.3.4のリリース前に作成されたものである場合、SharePointコンテンツタイプ機能にアクセスするために新しいワークフローを作成する必要があります。単にDispatcher Phoenixを更新し、SharePointコネクターノードを置き換えるだけでは機能しません。

キーワードの指定

[キーワード]領域に表示される一連の空白[キーワード]入力フィールドを使用して、リポジトリー内の編成目的のためにドキュメントにタグ付けできます。各ライブラリには、独自のキーワード群があります。目的に応じて適切なテキストをこれらのフィールドに入力してください。たとえば、ライブラリに「タイトル」というキーワードがある場合は、適切なタイトルによってドキュメントにタグ付けするためのタイトルを入力できます。

[メタデータ] ボタンをクリックして[メタデータブラウザー]ウィンドウを開き、希望に応じてメタデータ変数を[キーワード]フィールドにドラッグアンドドロップできます。

注: 日付キーワードは「YYYY-MM-DD」の日付形式で指定する必要があります。たとえば、2013年3月1日は「2013-03-01」となります。

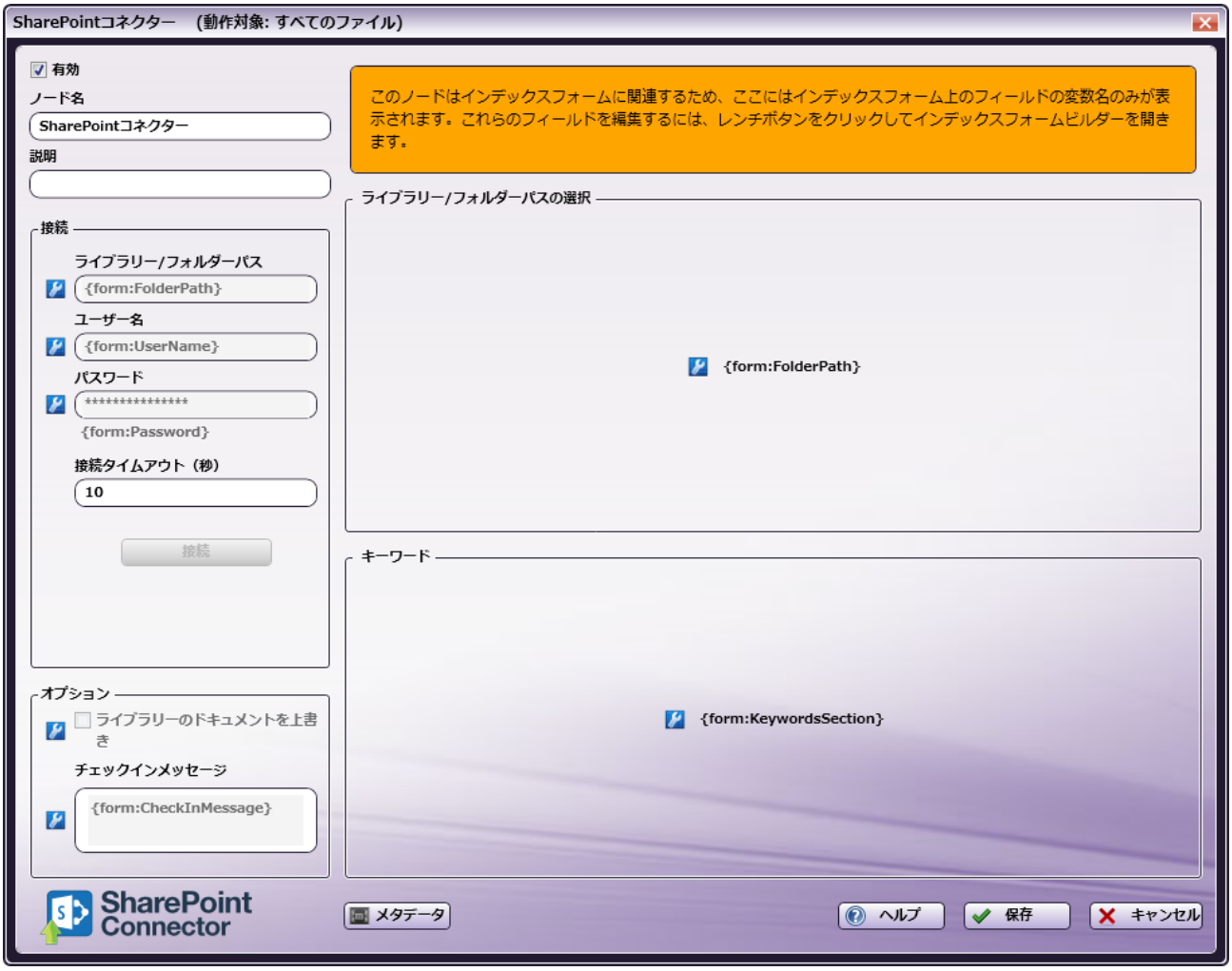
他のオプションの指定

[オプション]領域では、以下の操作を行うことができます。

- [ライブラリのドキュメントを上書き]チェックボックスをオンにして、ライブラリ内の既存のドキュメントを置き換えることができます。
- **[チェックインメッセージ]** 領域では、ドキュメントがリポジトリーにチェックインされる際にドキュメントに付加されるコメントを入力できます。このフィールドはオプションです。このメッセージが送信されるためには、SharePointサーバーがチェックインメッセージ（ライブラリごとに構成）をサポートするように構成されている必要があります。

インデックスフォームでの使用

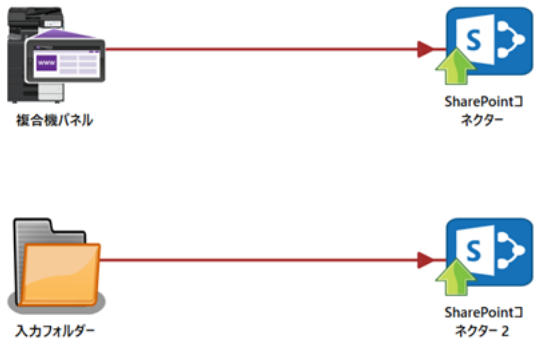
インデックスフォームでSharePointノードを使用している場合は、ウィンドウには、このインデックスフォームにあるフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウでフィールドを編集することはできませんが、スパナツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダーで該当するセクションまたはフィールドに移動できます。次の図を参照してください。



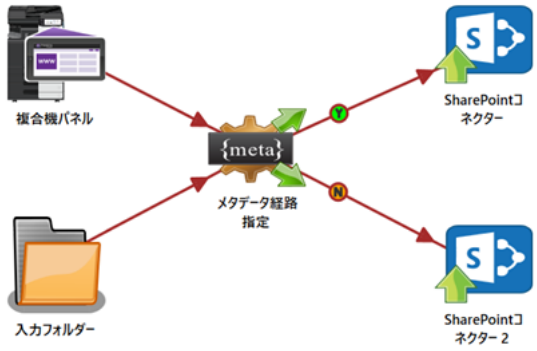
複数の入力でのSharePointインデックスフォームの使用

SharePointノードを複合機パネルノードのインデックスフォームに関連付けた後は、SharePointサイトへの接続と転送のために必要なすべての情報は複合機で入力されます。このため、他のタイプの収集ノード（入力フォルダーや複合機など）を、ワークフロー内のそのインデックス付けされたSharePointノードに接続することはできません。この場合に、ワークフローに他の収集ノードを追加する必要がある場合は、インデックスフォームに接続されていない新しいSharePointノードを追加する必要があります。以下の図では例を示しています。

例1：この図では、SharePoint構成が複合機パネルで入力されるとともに、ファイルが入力フォルダーから自動的に収集され、事前定義済みのSharePointサイトに転送されます。



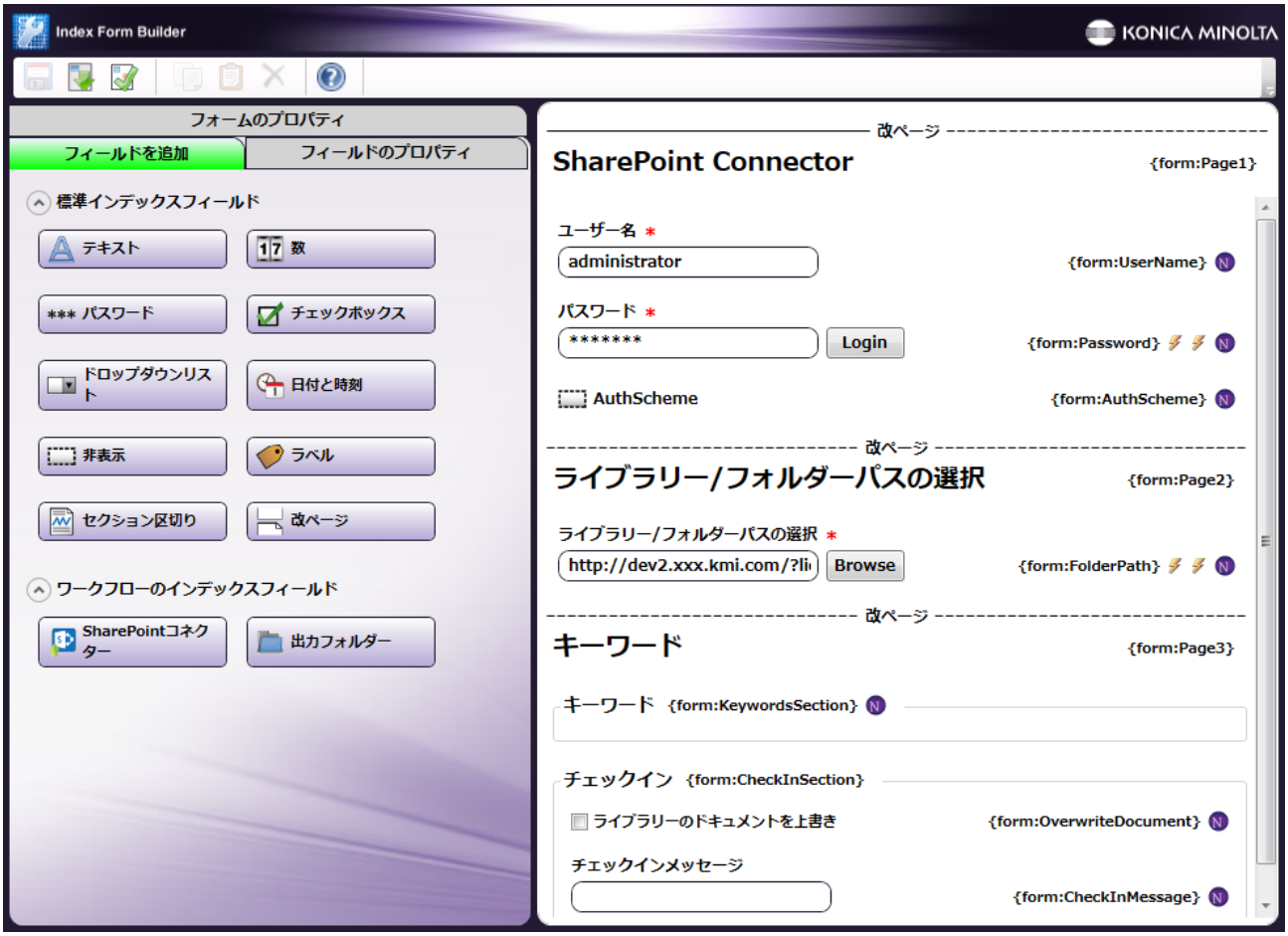
例2：この図では、メタデータ経路指定ノードを使用して、ファイルの転送先となるSharePointノードが決定されます。複合機パネルノードから転送されてきたすべてのファイルはインデックス付けされたSharePointノードに自動的に送信されます。その他のファイルはすべて、もう一方のSharePointノードに転送されます。



SharePointインデックスフォームの作成

スキャンされたドキュメントを複合機でSharePointリポジトリーにアップロードすることを可能にするインデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

1. ワークフローに複合機パネルノードとSharePointノードが含まれていることを確認します。
2. SharePointノードが適切なSharePointサーバーおよびライブラリに接続するように構成します。
3. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に[SharePoint]ボタンが表示されます。
4. [SharePoint]ボタンを[インデックスフォーム]作業領域にドラッグアンドドロップします。SharePointノードがすでに構成されている場合は、値が入力済みのフィールドが配置されたインデックスフォームが表示されます。SharePointノードがまだ構成されていない場合は、次の図のように、空白のフィールドが配置されたインデックスフォームが表示されます。



複合機でのSharePointインデックスフォーム

複合機では、SharePointインデックスフォームは以下のように3つの独立した画面に分割されます。

1つ目の画面:SharePointへのログイン

2つ目の画面:表示されるSharePointライブラリ/フォルダー

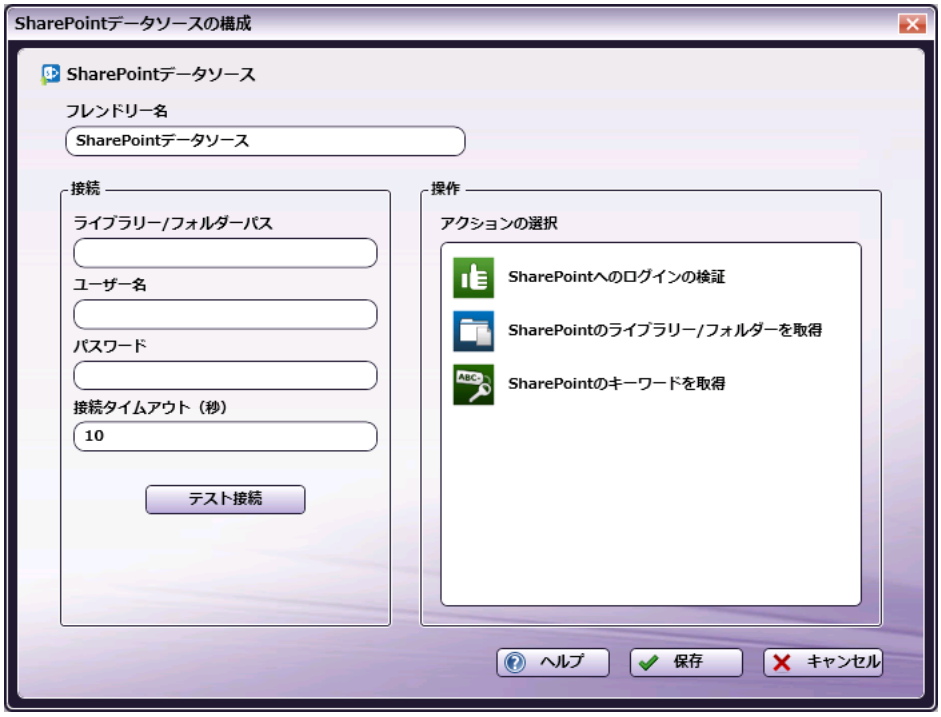
3つ目の画面:表示されるSharePointキーワード

データベース参照 - SharePoint構成

SharePointからデータ（フォルダーのリスト、検証など）を取得するためのクエリーを手動で構成することもできます。

インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[SharePointデータソース]** を選択します。
4. これにより表示される[SharePointデータソースの構成]ウィンドウでは、SharePointからデータを取得するための特定のアクションを実行できます。



以下の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、SharePointデータソースの構成を識別する名前を入力します。
- **[接続]** 領域に、SharePointサーバーに接続するために必要な情報を入力します。
- **[テスト接続]** ボタンを選択して、SharePointに正しく接続していることを確認します。
- **[操作]** 領域で、SharePointデータソースに対して実行するアクションの種類を選択します。オプションは次のとおりです。
  - ***SharePointへのログインの検証*** - このアクションは、複合機で入力されたログイン資格情報（ユーザー名とパスワード）をSharePointデータソースと照合して検証するために使用します。このアクションは、次のレコードを返します。
    - [結果] - ログインの結果: trueまたはfalse
    - [メッセージ] - 成功または失敗したログインに関するテキスト
  - ***SharePointのライブラリ/フォルダーを取得*** - このアクションは、指定したSharePointサイト内のライブラリとフォルダーのリストを表示するために使用します。
  - ***SharePointのコンテンツタイプを取得*** - このアクションは、指定したSharePointサイト内のコンテンツタイプの一覧を取得するために使用します。
  - ***SharePointのキーワードを取得*** - このアクションは、選択されたライブラリに属するキーワードのリストを表示するために使用します。これにより、動的に作成されたフィールドが取得されるため、このアクションは必ず展開セクショントリガーと組み合わせて使用してください。

[メタデータ] ボタンをクリックして[メタデータブラウザー]ウィンドウを開き、希望に応じてメタデータ変数を[キーワード]フィールドにドラッグアンドドロップできます。

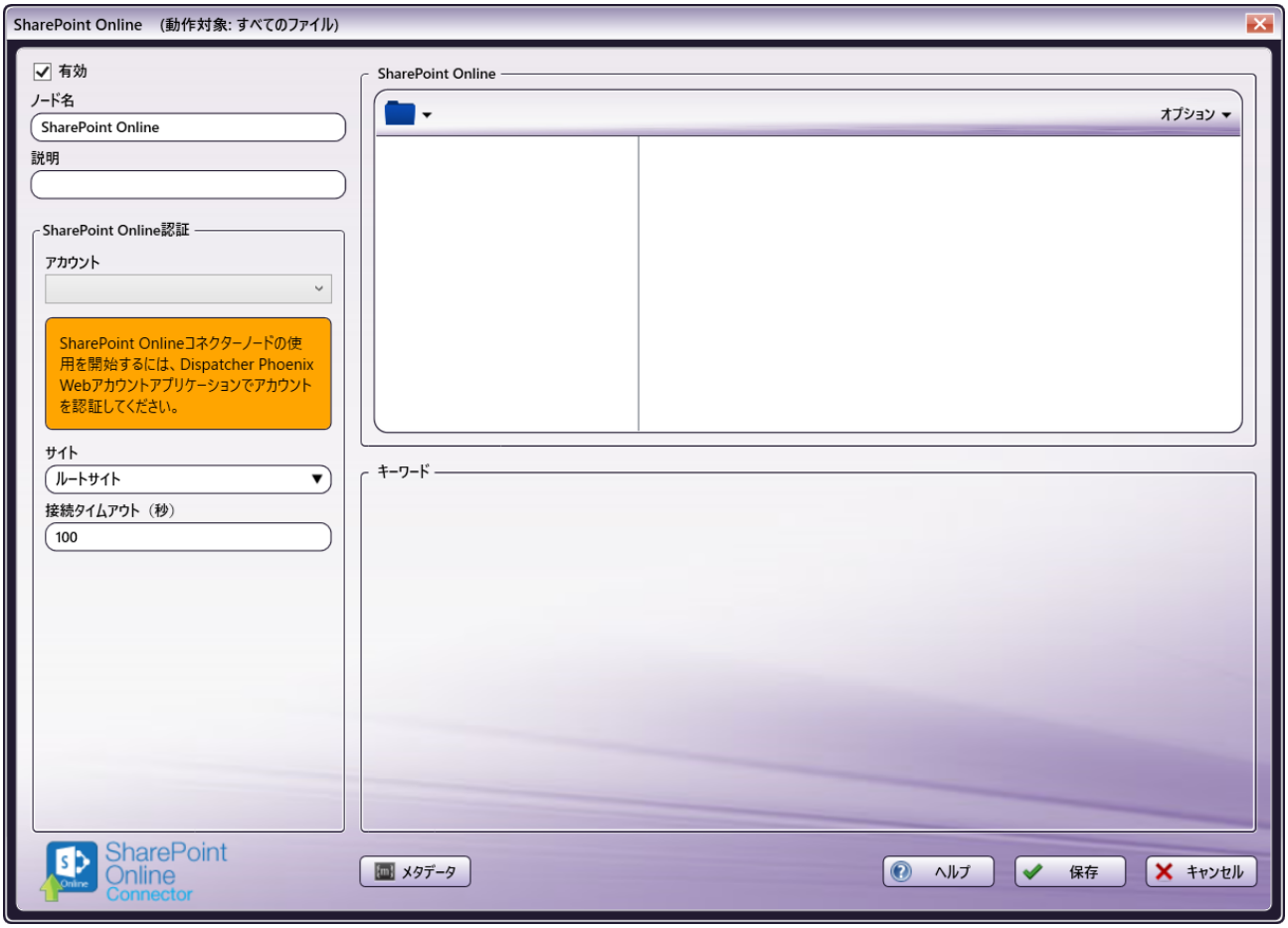
SharePoint Onlineコネクター

SharePoint Onlineコネクターノードを使用すると、SharePoint Onlineにドキュメントを配信できます。SharePoint Onlineは、クラウドベースのサービスを使用して既存の「オンプレミス」におけるSharePoint実装の機能を拡張するMicrosoftのプラットフォームです。このコネクターでは、自動ワークフローによってSharePoint Onlineにドキュメントを送信することも、複合機のユーザーが複合機のパネルから直接SharePoint Onlineにアクセスすることもできます。

注:

- SharePoint Onlineコネクターを使用するには、SharePoint Onlineアカウントが必要です。
- SharePoint Onlineにアップロードするドキュメントの最大ファイルサイズは250GBです。

SharePoint Onlineコネクターノードのプロパティウィンドウを開くには、ワークフローにSharePoint Onlineの出力ノードを追加して、そのノードをダブルクリックします。



- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効になっているノードは、論理条件やエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** ノード名がこのフィールドに既定で設定されます。この名前は、ノードアイコンの下のワークフローに表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[説明]** このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフローでのノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くと、その内容全体を読むことができます。

ボタン

- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウインドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - 定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

SharePoint Onlineコネクターの構成

SharePoint Onlineコネクターを構成するには、最初に **Dispatcher Phoenix Web 認証マネージャー** からSharePoint Onlineのアカウントにログインする必要があります。この初期設定が完了すると、ノード内、または複合機のパネルからのSharePoint Onlineへのログインが不要になり、最適化されたシングルサインオンが実現されます。

注: 組織がコンピューターでのアプリケーション登録に管理者権限を必要とするようにMicrosoft Azureを構成している場合、管理者はこの制限を無効にして、SharePoint Onlineコネクターのアカウントを作成するときに管理者が存在しなくてもユーザーが登録できるようにすることができます。この方法でSharePoint Onlineコネクターを構成する場合、管理者は最初にログインして、他のユーザーがアカウントの作成を試みる前に同意することをお勧めします。それ以外の場合、Dispatcher Phoenix Webの認証マネージャーを介してSharePoint Onlineコネクター用に作成されたアカウントは管理者の資格情報が必要になり、管理者は登録されたユーザーになります。

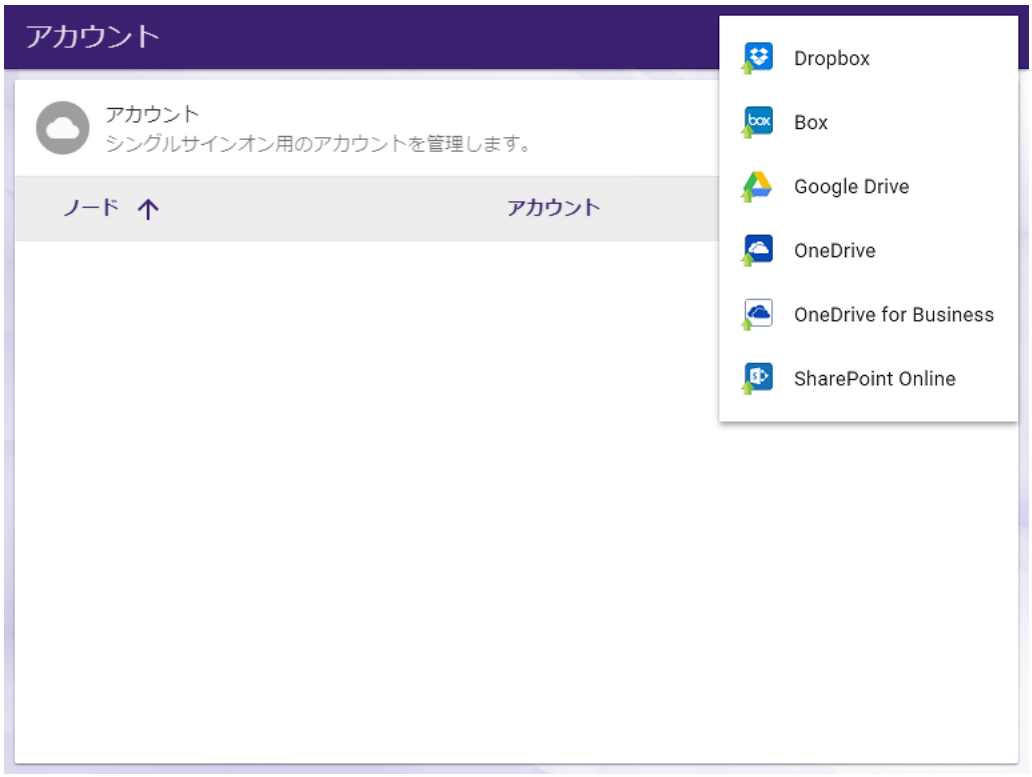
SharePoint Onlineコネクターアカウントを作成するときに管理者権限の要件を上書きするには、以下のセットアップセクションの手順に従います。ステップ4で、管理者の資格情報を使用してログインします。管理者が初めてログインした場合は、[組織の代理として同意する]チェックボックスが表示されます。このフィールドのボックスにチェックを入れ、セットアップ手順の次のステップに進みます。

重要: 「組織の代理として同意する」オプションは、管理者が初めてログインしたときにのみ表示されます。このオプションを回復するには、Azureのエンタープライズアプリケーションリストから Dispatcher Phoenixを削除する必要があります。管理者が次回ログインすると、オプションが表示されます。

設定

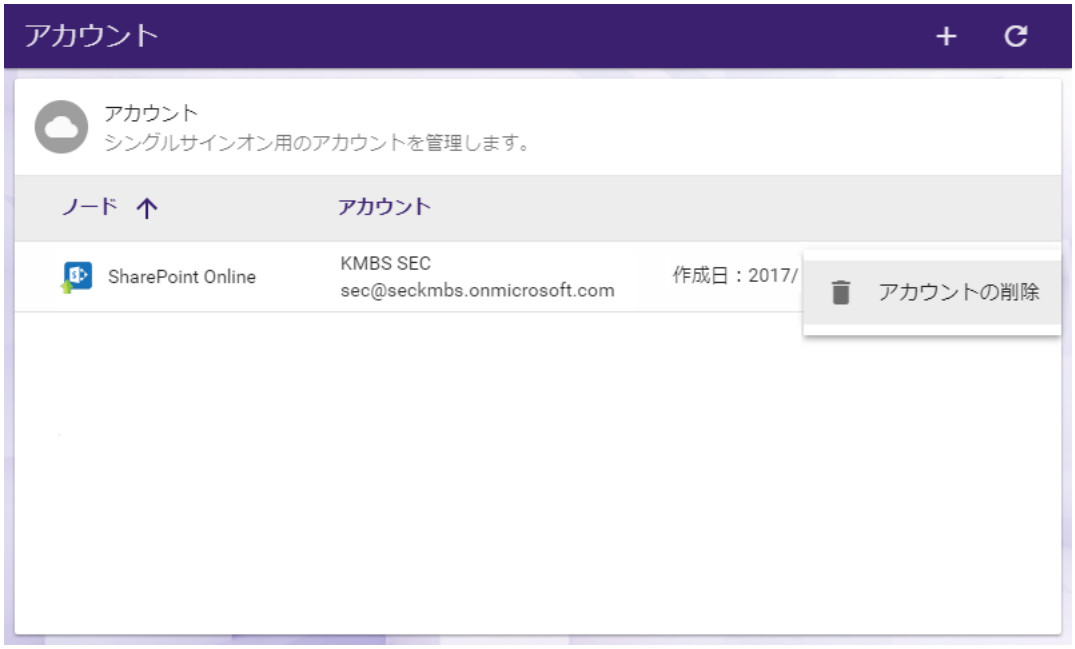
まず、Dispatcher Phoenix Webの認証マネージャーからSharePoint Onlineにログインする必要があります。以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenix Webにログインします。
2. ホームページで **[アカウント]** ツールを選択します。
3. [アカウント]ページで、**[+]** ボタンを選択して **[SharePoint Online]** オプションを選択します。以下の図を参照してください。



4. アカウントの資格情報(電子メールアドレス/SharePoint Onlineアカウントのユーザー名とパスワード)を使用して、SharePoint Onlineにログインします。
5. アプリケーションが情報にアクセスするための許可を求められたら、**[はい]** を選択します。
6. [アカウント]ページにSharePoint Onlineのアカウントが表示されます。以下の図の例を参照してください。

7. アカウントを削除する必要がある場合は、縦の参照ボタンを選択して、以下の図に示すように **[アカウントの削除]** を選択します。

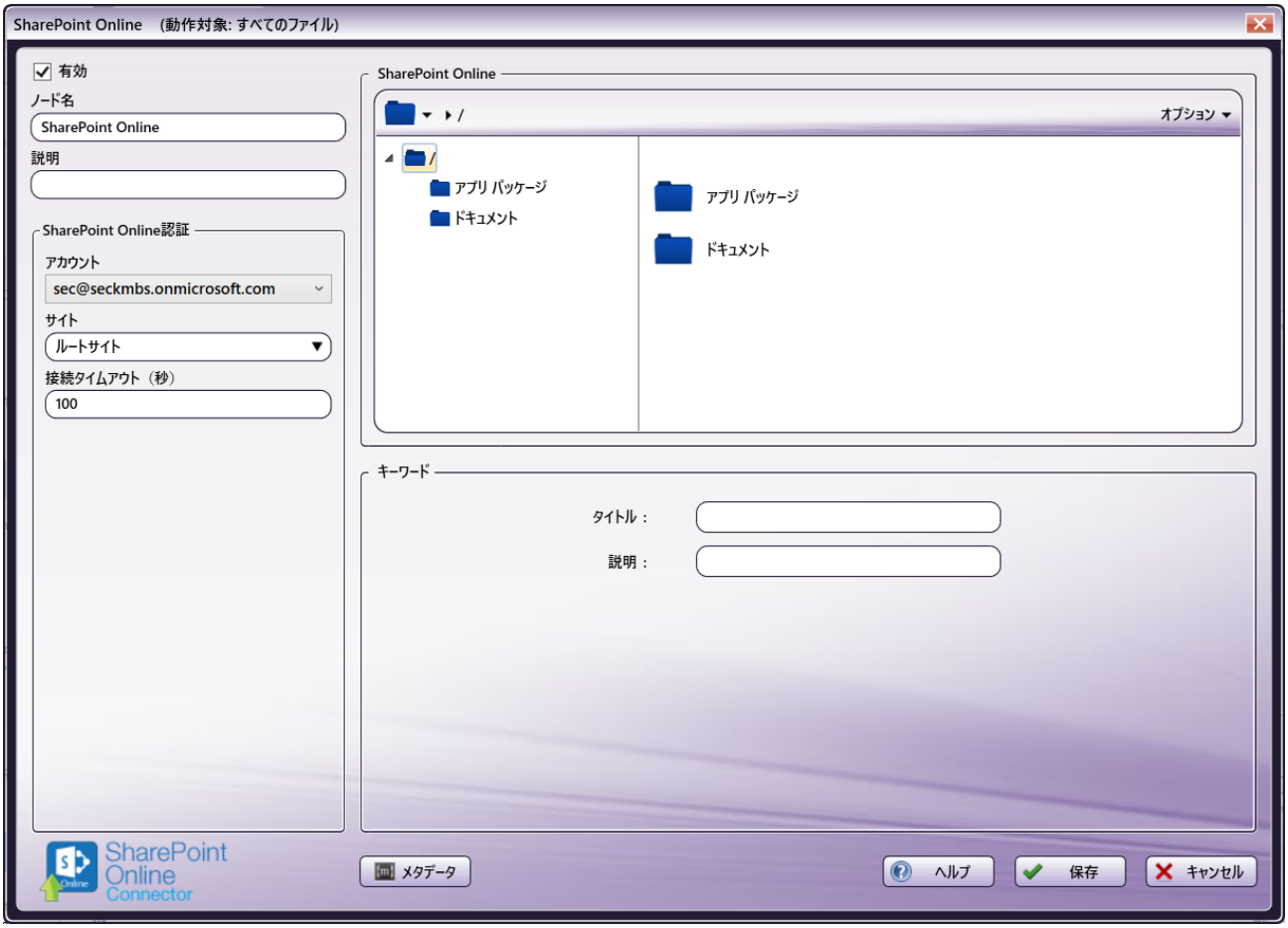


8. 複数のアカウントを追加する場合は、最初に追加したアカウントに星のアイコンが付き、プライマリアカウントとしてマークされます。プライマリアカウントの利点は、複合機へのサインイン時に、このアカウントに即時にアクセスできることです。複合機でチェックアイコンを選択し、次の画面で戻る矢印アイコンを選択することで、別のアカウントに切り替えることができます。縦の参照ボタンを選択して **【プライマリアカウントの有効化】** を選択することで、プライマリアカウントを切り替えることもできます。また、**プライマリアカウントを無効化** することで、複合機のアカウント画面で常に確認を求めるようにすることができます。

SharePoint Onlineコネクターノードのカスタマイズ

接続後、SharePoint Onlineノードのプロパティウィンドウの右側に、SharePoint Online内のフォルダー、サブフォルダー、およびファイルのツリービューが表示されます。この領域を使用して、SharePoint Onlineのフォルダー構造を参照し、ドキュメントを格納するフォルダーを選択することができます。

以下の図の例を参照してください。



別のSharePoint Onlineアカウントを選択するには、**[アカウント]** ドロップダウンリストからアカウントを選択します。

既定の接続タイムアウト(サーバーに最初に接続してから、通信が行われずタイムアウトするまでの時間として割り振られた秒数)を変更するには、**[接続タイムアウト]** フィールドに値を入力します。

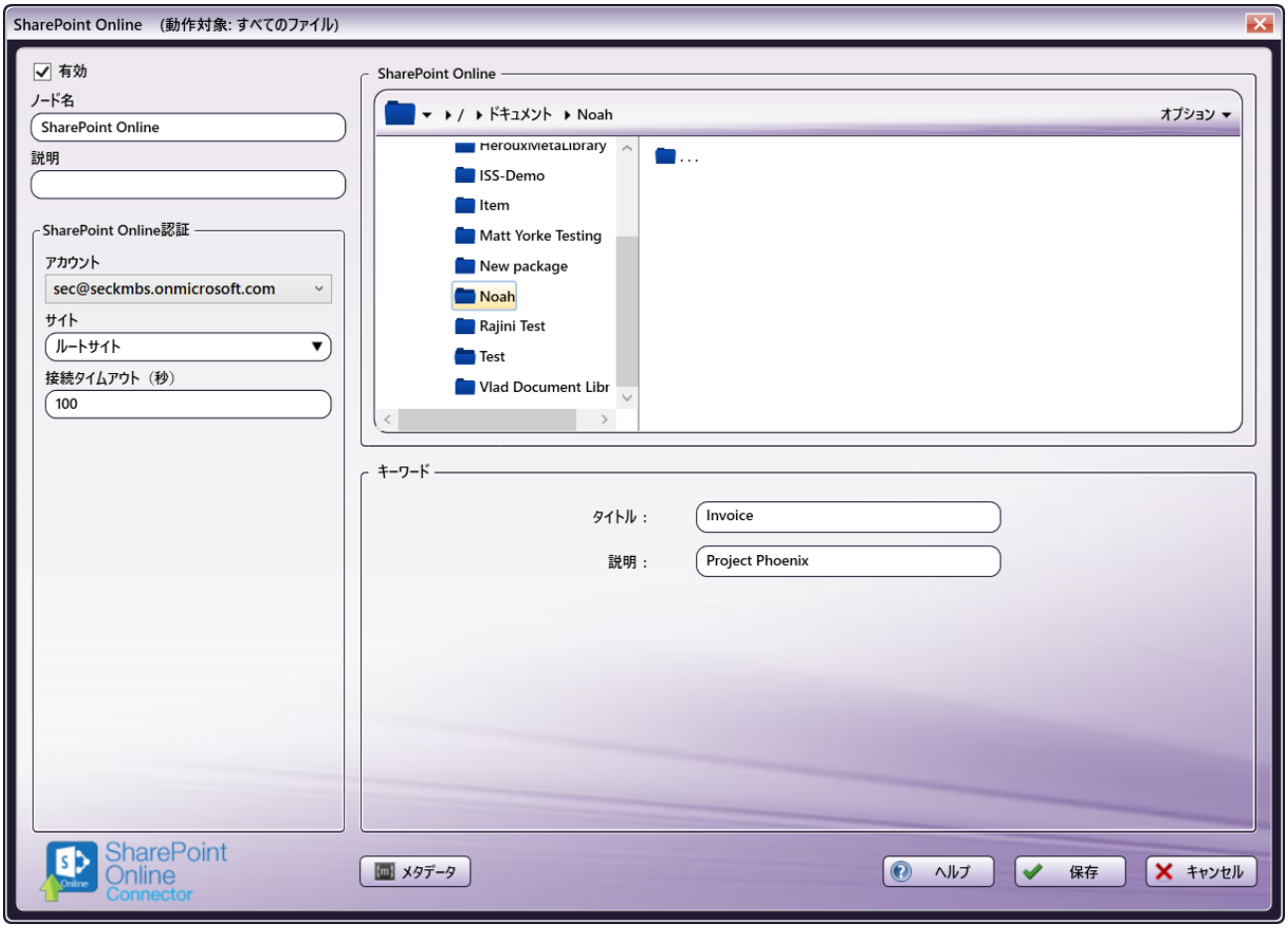
キーワード

SharePoint Onlineフォルダーウィンドウの下には、SharePoint Online内で使用されるメタデータタグであるキーワードを表示するウィンドウがあります。ユーザーは2つの方法でキーワードを構成できます。ワークフローのセットアップ時と、複合機パネルでインデックスフォームを使用する方法です。

事前設定されたキーワード

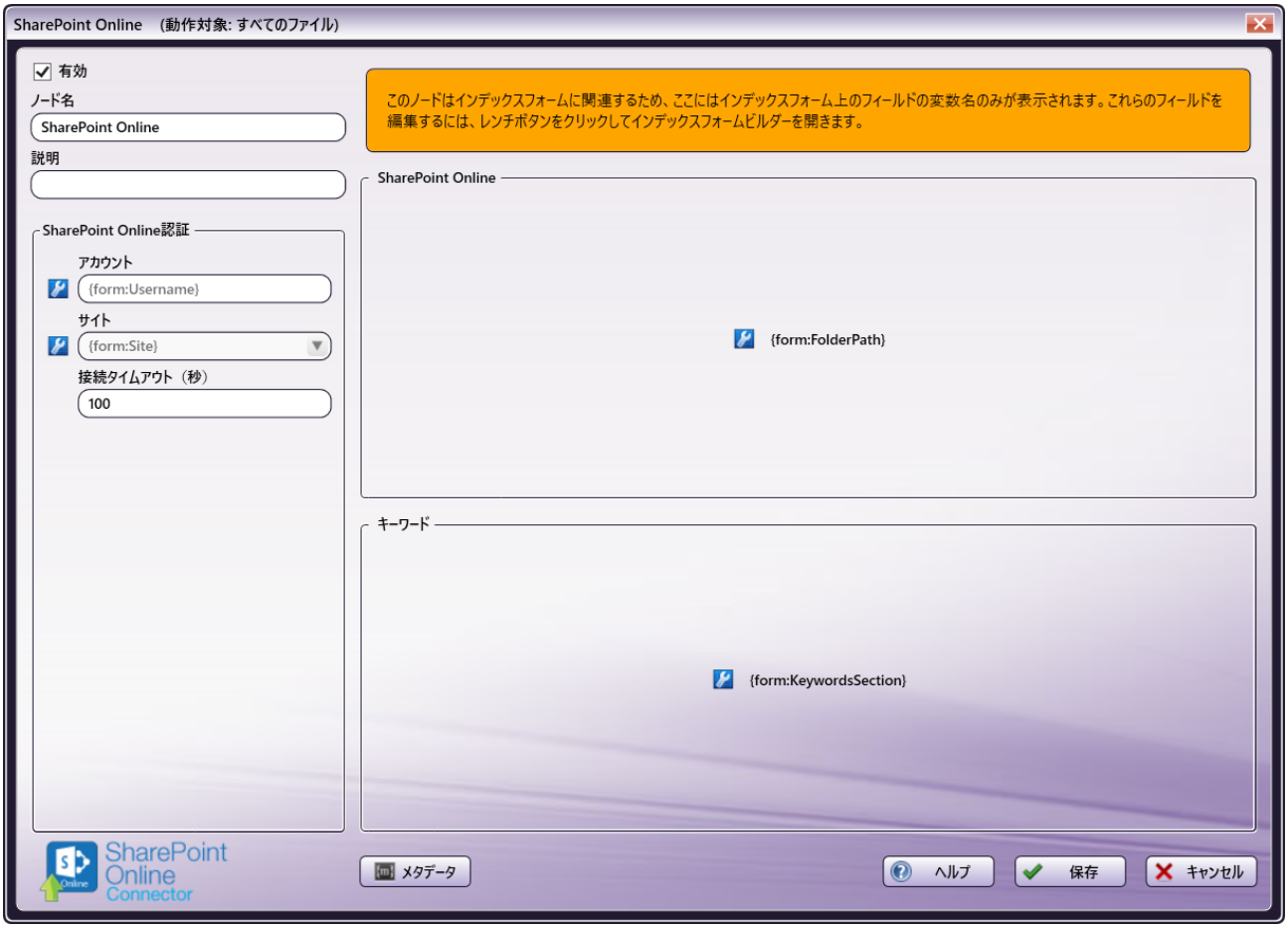
ユーザーは、キーワードフィールドに事前入力して、キーワードメタデータを保存することができます。これにより、これらのキーワードが、SharePoint Onlineコネクターを通過するすべてのドキュメントに自動的に適用されます。

次の図の例を参照してください。



インデックスフォームの構成

ユーザーは、ドキュメントが添付されたインデックスフォームを介してスキャンされるときに、ドキュメントにキーワードを添付することもできます。SharePoint Onlineコネクターのこのキーワード領域には、インデックスフォームへの接続が表示されます。複合機では、インデックスフォームに、選択したフォルダーに関連付けられたキーワードが自動的に入力されます。キーワードはSharePoint Onlineインデックスフォームに統合されており、選択したフォルダーに関連付けられた事前設定のキーワードから取得されます。詳細については、以下の **SharePoint Onlineコネクターインデックスフォームの作成** セクションを参照してください。



サポートされているキーワード

以下は、SharePoint Onlineコネクターがサポートするユーザー生成のキーワードの総合的なリストです。

列のプロパティ名	説明	サポート?
名前	列プロパティの名前	はい。フィールド上のラベルとして表示
説明	列のユーザー向けの説明	はい。フィールドにヘルプテキストとして表示
必須	フィールドに値が必要かどうか	はい
既定値	フィールドに事前入力する値	はい
計算値	フィールドが他の値を使用してその値を計算するかどうか	いいえ
最大長	このフィールドで許可される最大文字数	はい
一意の値を適用	リスト内のすべてのファイル間でフィールドが一意の値を持つ必要があるかどうか	はい
列の検証式	SharePoint によって検証されるカスタム検証式	部分的。DPではなく、Sharepointで設定、管理、実行される。
リンクされた列を表示	マルチパートの列(場所など)については、値の一部(市区町村や番地など)を他の列として表示| 部分的。Sharepointで設定、管理される。DPでは表示されない。	
最小値/最大値	このフィールドで許可される最小/最大数	はい
時間を含める	日付フィールドに時刻を含めて日付/時刻フィールドにするかどうか	はい
フレンドリーなフォーマット	より使いやすい方法で日付をフォーマットします	いいえ
値を手動で追加	ユーザーが選択ドロップダウンに新しい値を追加できるかどうか	いいえ
ドロップダウン vs ラジオ	選択がドロップダウンまたはラジオボタンとして表示されるかどうか	いいえ
通貨フォーマット	通貨値をフォーマットする方法	いいえ
複数選択	ドロップダウン フィールドで複数選択を許可するかどうか	はい。チェックボックスのリストとしてノードウィンドウにレンダリングします。

データプロパティ名	説明	サポート?
テキスト1行	この列には、1行のテキストが格納されます	はい
テキスト複数行	この列には、複数行のテキストが格納されます	部分的。1行のテキスト入力として表示
選択	この列には、選択肢のリストからのデータが格納されます	はい
番号	この列には、数値が格納されます	はい
通貨	この列には、通貨値が格納されます	はい
日付/時刻	この列には、日付または日付/時刻が格納されます	はい
参照	この列のデータは、サイト内の別のソースから検索されています	いいえ
はい/いいえ	この列には、はい/いいえ (ブール値) の値が格納されます	はい。チェックボックスとして表示
個人またはグループ	この列には、個人またはグループの値が格納されます	いいえ
ハイパーリンクまたは画像	この列には、URLが格納されます	いいえ
計算済み	この列には、他の列に基づいて計算された値が表示されます	いいえ
画像	この列には、アップロードされた画像ファイルが保存されます	いいえ
タスクの結果	この列には、タスクの結果の値が表示されます	いいえ
外部データ	この列には、外部データソースからのデータが表示されます	いいえ
管理されたメタデータ	この列には、Sharepointの用語ストア管理ツールで設定された1つ以上の用語が表示されます	いいえ
場所	この列には住所情報が表示されます	いいえ

注:

- SharePoint Onlineコネクターは、SharePointが制御する3つの列(名前、変更者、変更者)のキーワードインデックス作成をサポートしていません。
- 「通貨」キーワードは、最小/最大の制約をサポートしていません。
- 「選択」キーワードを使用すると、SharePoint Onlineアカウントがこのキーワードの「入力」選択肢を許可しないように設定されている場合でも、SharePoint Onlineコネクターはメタデータを含むカスタム値を常にアップロードします。

ドキュメントを新規フォルダーに送信

SharePoint Onlineにスキャン先となる新規フォルダーを作成するには、**[オプション]** ドロップダウンメニューから **[新規フォルダー]** オプションを選択するか、**Ctrl** + **Shift** + **N** キーを押します。

表示される[新規フォルダーの作成]ウィンドウで、**[名前]** フィールドに新規フォルダーの名前を入力してから、**[作成]** ボタンを選択します。新規に作成されたフォルダーがフォルダービューに表示されます。

ファイル名の制限

ファイル名には、以下の制限が適用されます。

- ファイル名の最初と最後にスペースを使用することはできません。
- ファイル名の最初に2つのピリオド(..)を使用することはできません。
- 表示されない文字をファイル名に含めることはできません(タブ文字や改行文字など)。
- < > : " / \ | ? * は使用できません。
- フォルダー名は400文字に制限されています。

表示オプション

ノードのプロパティウィンドウでの、SharePoint Onlineフォルダーの既定の表示は、ウィンドウの右上にある[オプション]ボタンを使用して調整できます。[オプション]プルダウンメニューから以下の項目を選択します。

- 既定の表示をオフにするには、**[ツリービューの表示]** オプションのチェックをはずすか、**[Ctrl + T]** キーを押します。
- SharePoint Onlineのフォルダーに格納されているファイルを非表示にするには、**[ファイルの表示]** オプションのチェックをはずすか、**[Ctrl + E]** キーを押します。
- SharePoint Onlineで新しいフォルダーを作成するには、**[新しいフォルダー]** オプションを選択するか、**Ctrl + Shift + N** を押します。
- 特定のフォルダーを検索するには、**[検索]** を選択するか、**[Ctrl + S]** を押します。検索は常にルートフォルダから実行されます。検索結果は最初の1000件に制限されています。検索で多数のフォルダーが返される場合は、より具体的な検索条件を入力して検索結果を絞り込むことをお勧めします。

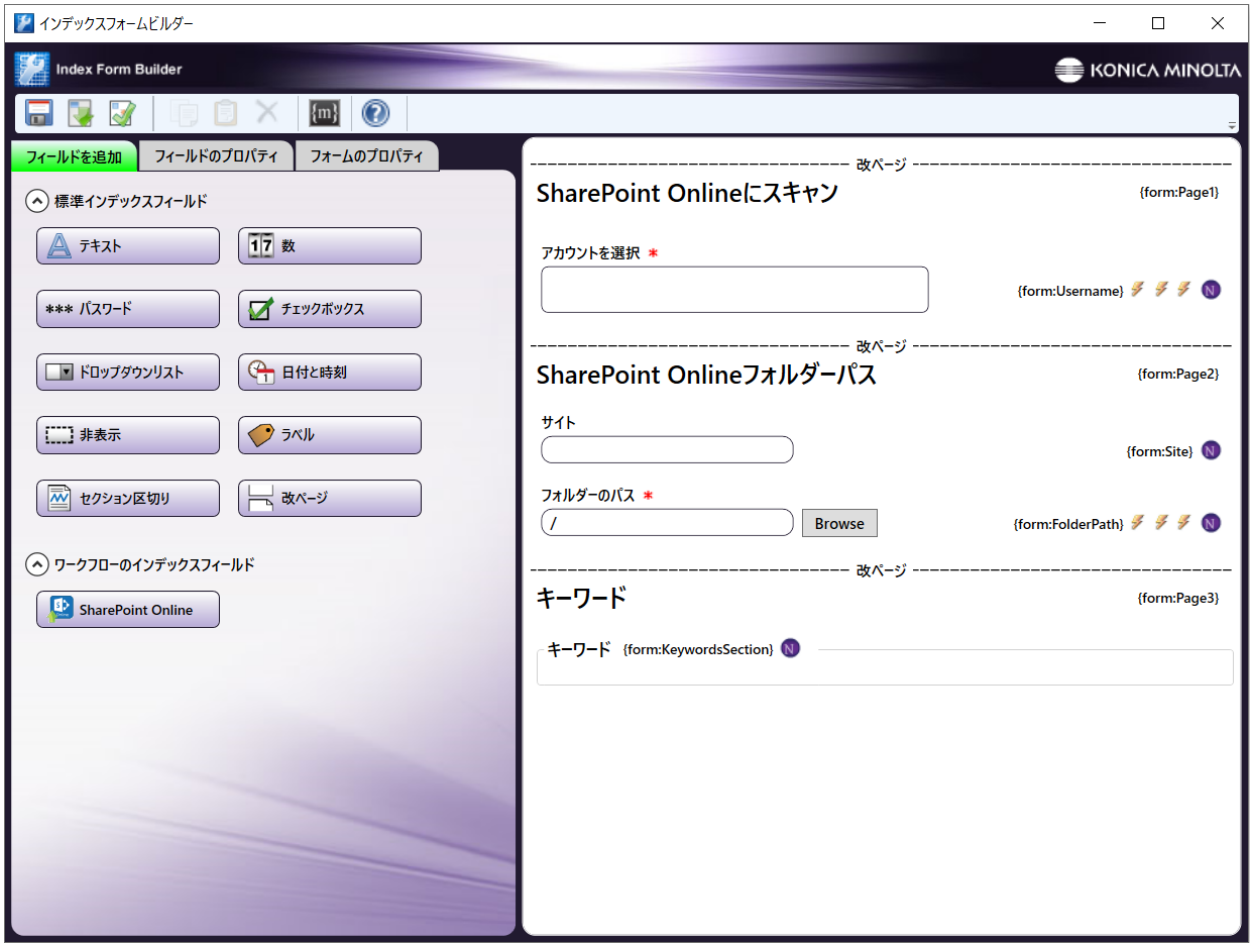
  注:

  - 検索文字列では記号はサポートされていません。
  - フォルダーパスは400文字に制限されています。
- 現在の表示を更新して最新のフォルダーとファイルが表示されるようにするには、**[最新の情報に更新]** オプションを選択するか、**[F5]** キーを押します。

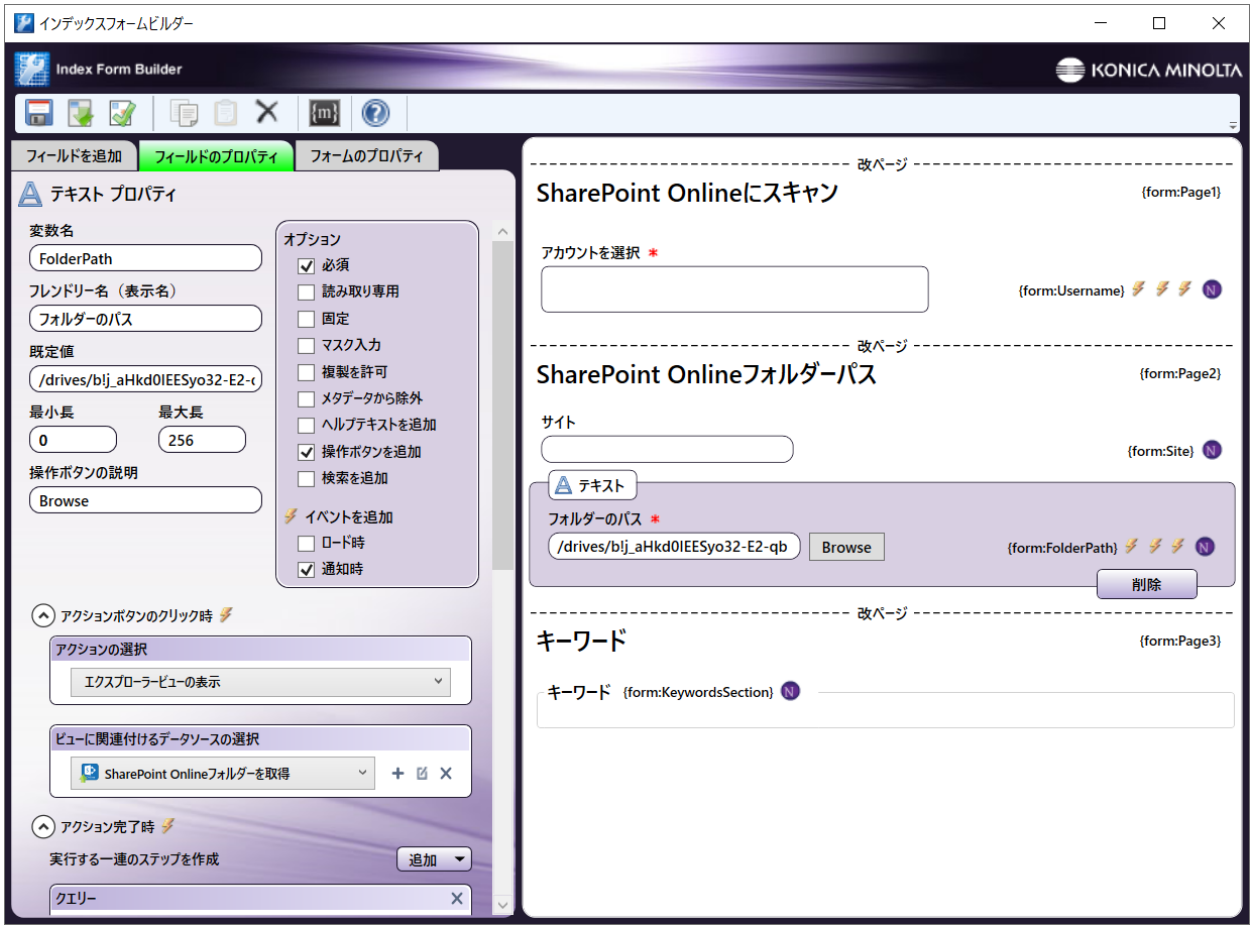
SharePoint Onlineコネクターのインデックスフォームの作成

複合機からSharePoint Onlineに自動ログインできるように、インデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

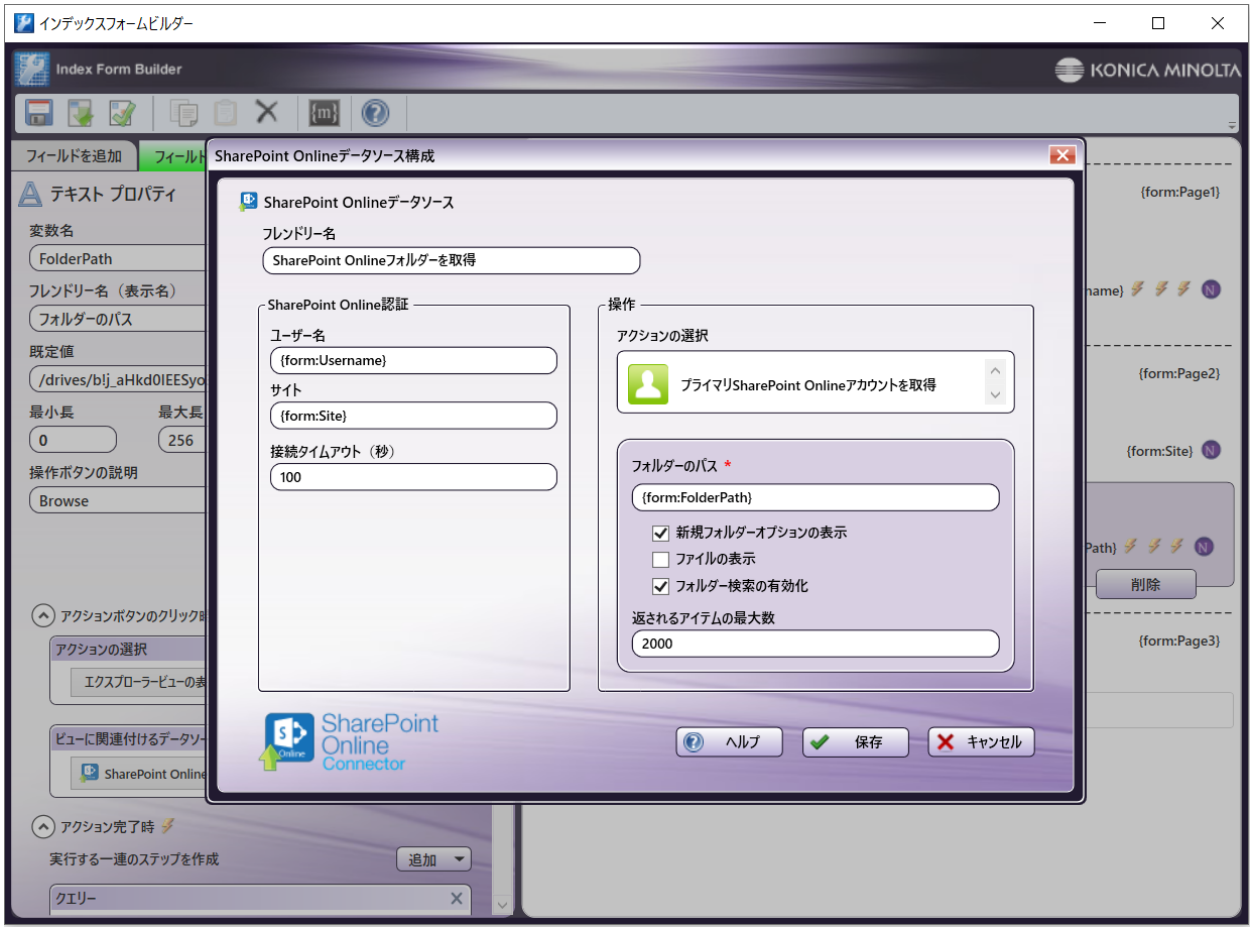
1. Dispatcher Phoenix Webのアカウントマネージャーから、SharePoint Onlineにログインしていることを確認します。
2. ワークフローに **複合機パネルノード** および **SharePoint Onlineコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
3. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に[SharePoint Onlineコネクター]ボタンが表示されます。
4. **[SharePoint Onlineコネクター]** ボタンをインデックスフォームの作業領域にドラッグアンドドロップします。以下の図に示すように、[SharePoint Onlineにスキャン]インデックスフォームが自動的に表示されます。



5. フィールドを選択して、既定の設定を更新または変更します。たとえば、次の図のように、**【フォルダーパス】** フィールドを選択することで、複合機でのフォルダー検索とフォルダー参照を有効にすることができます。

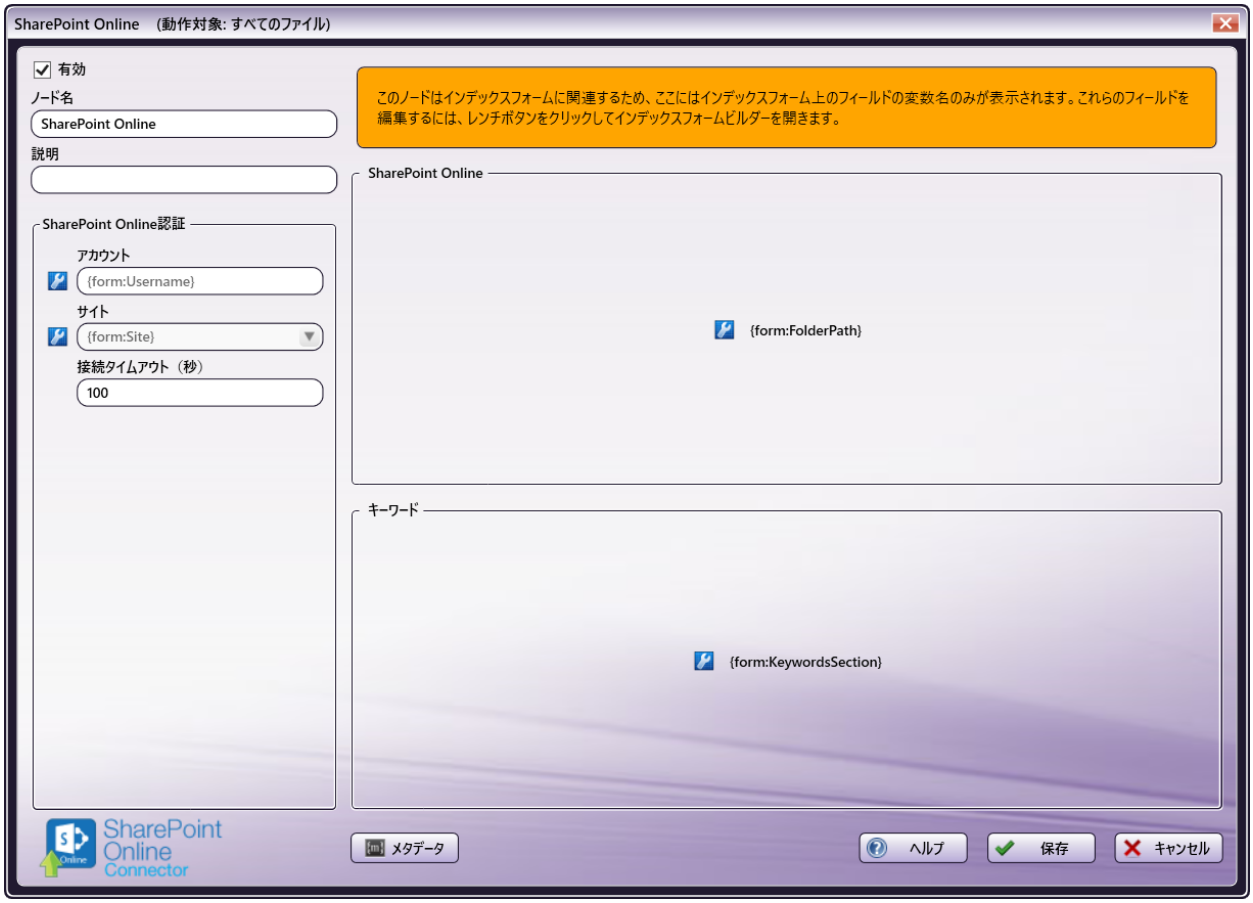


次に、**SharePoint Onlineフォルダーを取得** ドロップダウンの横にある **[編集]** アイコンを選択します。次の図に示すように、次の画面で、**[フォルダー検索の有効化]** の横にあるボックスをオンにし、[返されるアイテムの最大数]フィールドを更新します。



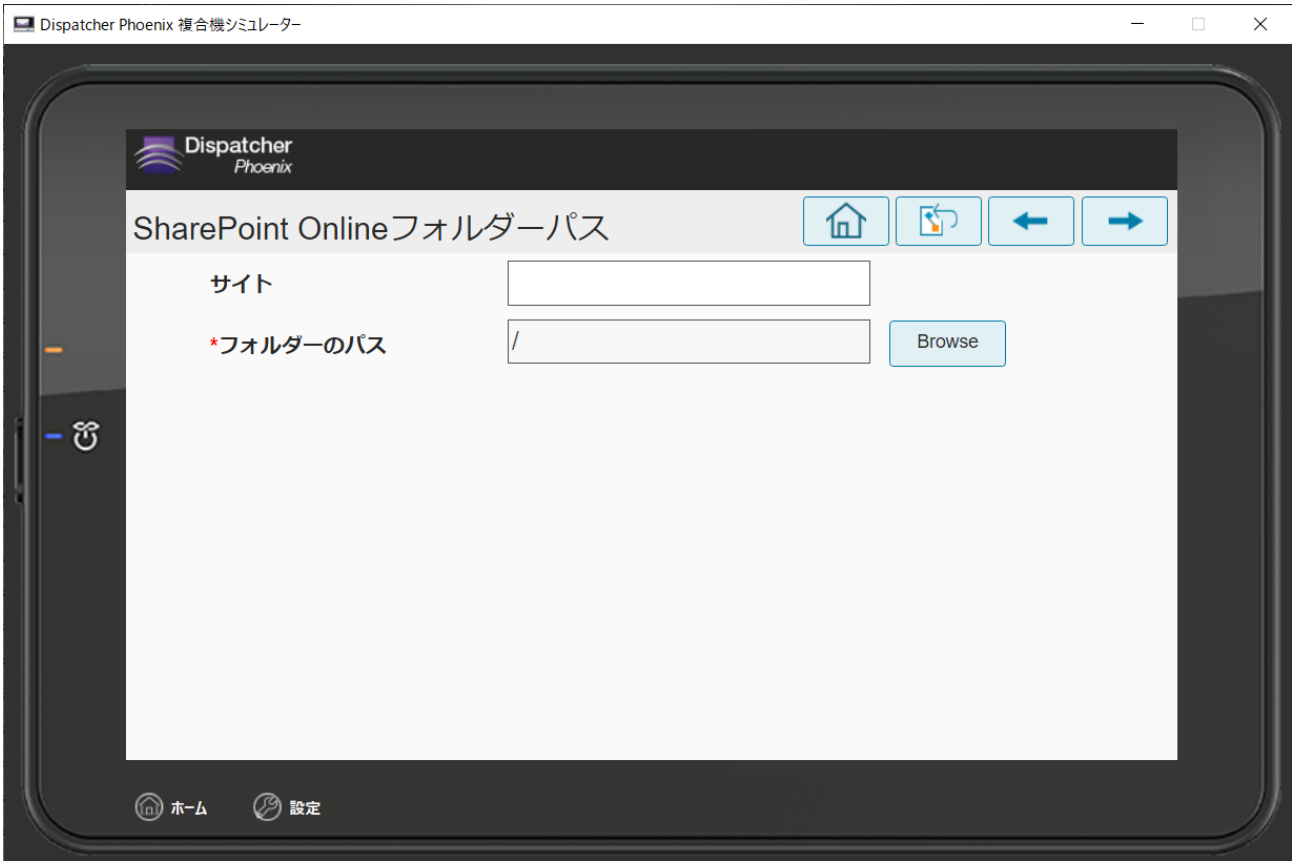
注: フォルダーの参照中に返されるフォルダーの最大数は2000です。

6. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
7. SharePoint Online コネクターノードのプロパティウィンドウには、インデックスフォームのフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウでフィールドを編集することはできませんが、[レンチツール]ボタンをクリックすると、インデックスフォームビルダーのそのセクション、またはフィールドに移動することができます。次の図を参照してください。

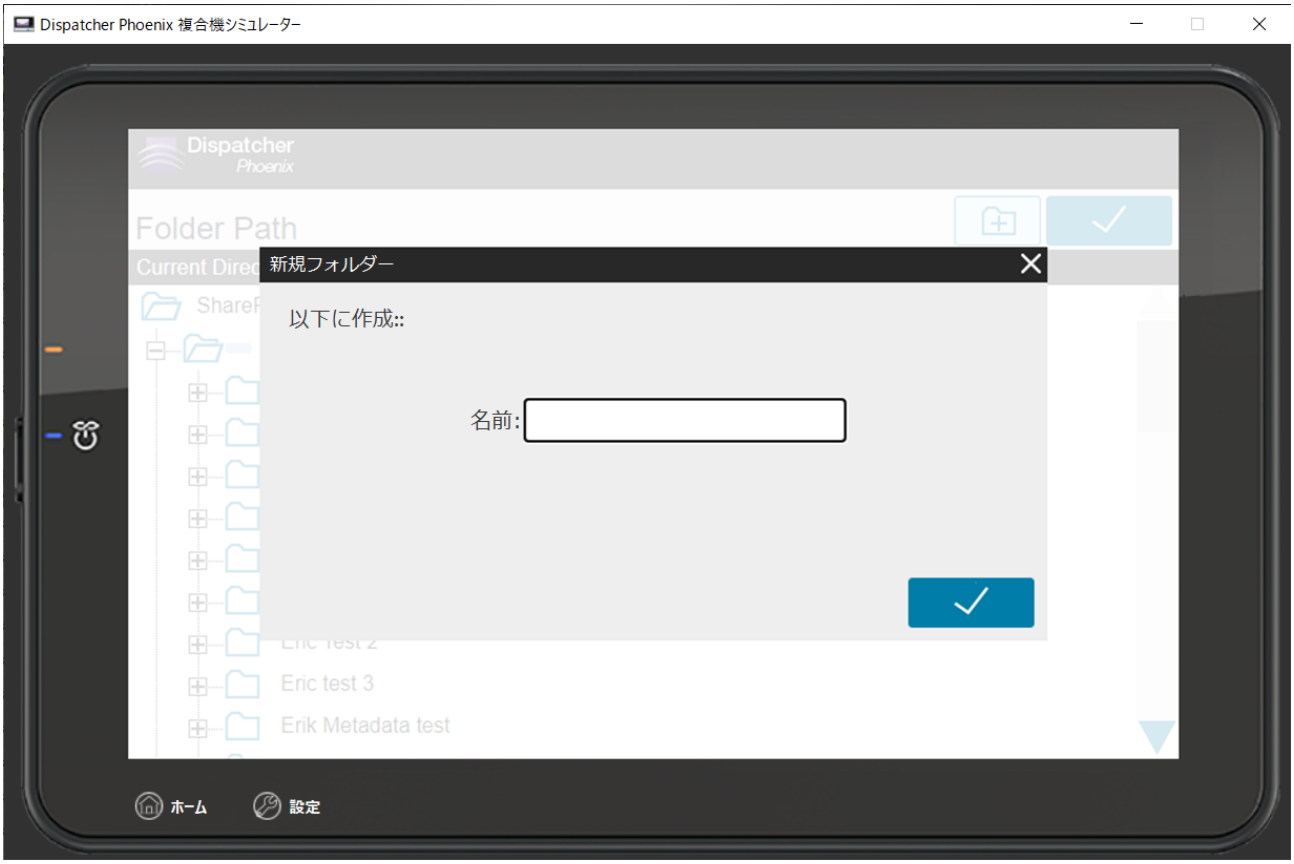


複合機でのSharePoint Onlineのインデックスフォーム

複合機では、SharePoint Onlineのインデックスフォームが次のように表示されます。



画面上部の **[+]** アイコンを選択して、新規フォルダーを追加できます。以下の図のように、**[新規フォルダー]** ウィンドウが表示されます。



スキャン時に、ユーザーはスキャンしたドキュメントに関連付けるキーワードを入力できます。次の図を参照してください。

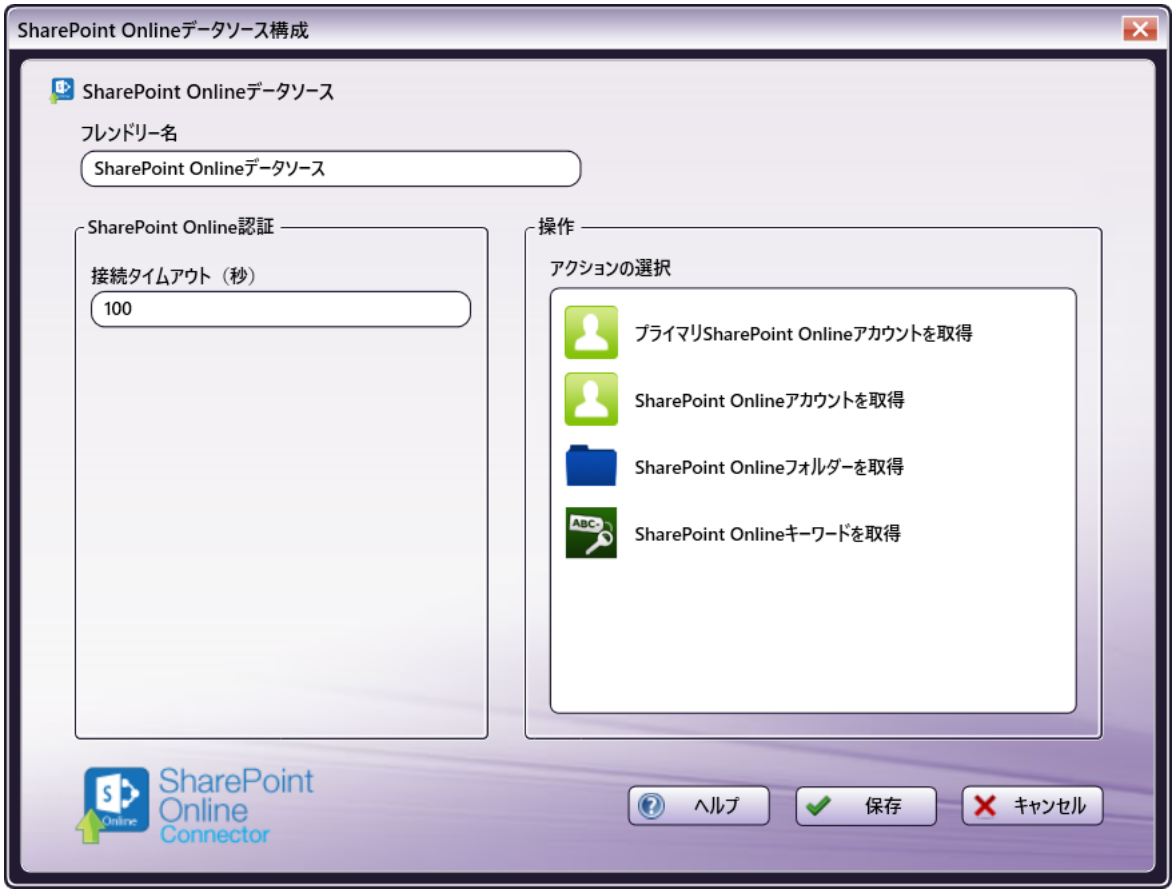
注: 次の図に示すように、アスタリスク(*)でマークされたキーワードフィールドは必須です。

データベースの参照 - SharePoint Onlineの構成

SharePoint Onlineからデータを取得するためのクエリー(フォルダーのリストや検証など)を手動で構成することもできます。

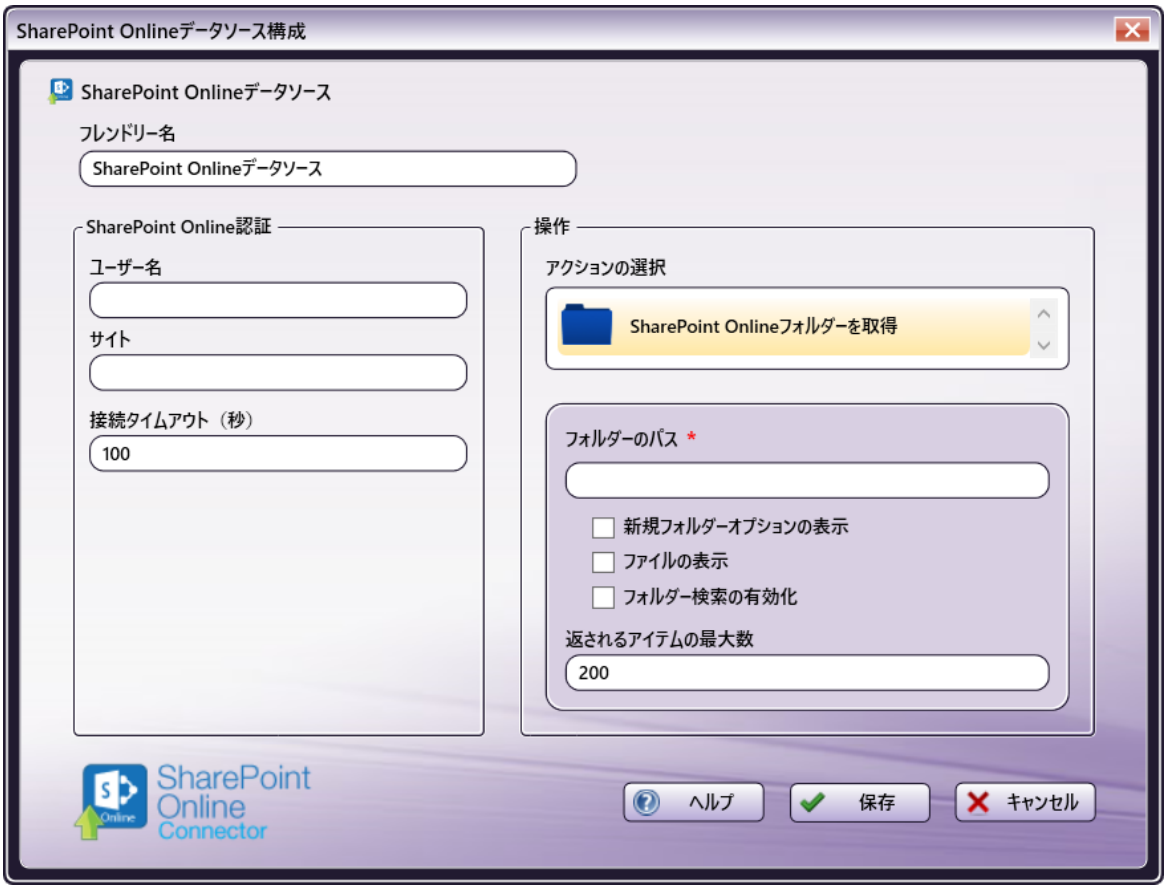
インデックスフォームビルダーを使用して、次の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新規フィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[SharePoint Onlineデータソース]** を選択します。
4. [SharePoint Onlineデータソース構成]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、SharePoint Onlineからデータを取得するための特定の操作を実行できます。



次の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、SharePoint Onlineのデータソースの構成を識別する名前を入力します。
- **[操作]** 領域では、SharePoint Onlineのデータソースに対して実行するアクションの種類を選択できます。オプションは次のとおりです。
  - ***プライマリSharePoint Onlineアカウントを取得*** - このオプションでは、ユーザーのプライマリSharePoint Onlineアカウントが返されます。
  - ***SharePoint Onlineアカウントを取得*** - このオプションでは、ユーザーのすべてのSharePoint Onlineアカウントが返されます。
  - ***SharePoint Onlineフォルダーを取得*** - 特定のSharePoint Onlineフォルダーパス内のフォルダーのリストを表示するには、このアクションを使用します。[SharePoint Onlineフォルダーを取得]項目を選択すると、次の図に示すように、構成の新規フィールドが表示されます。



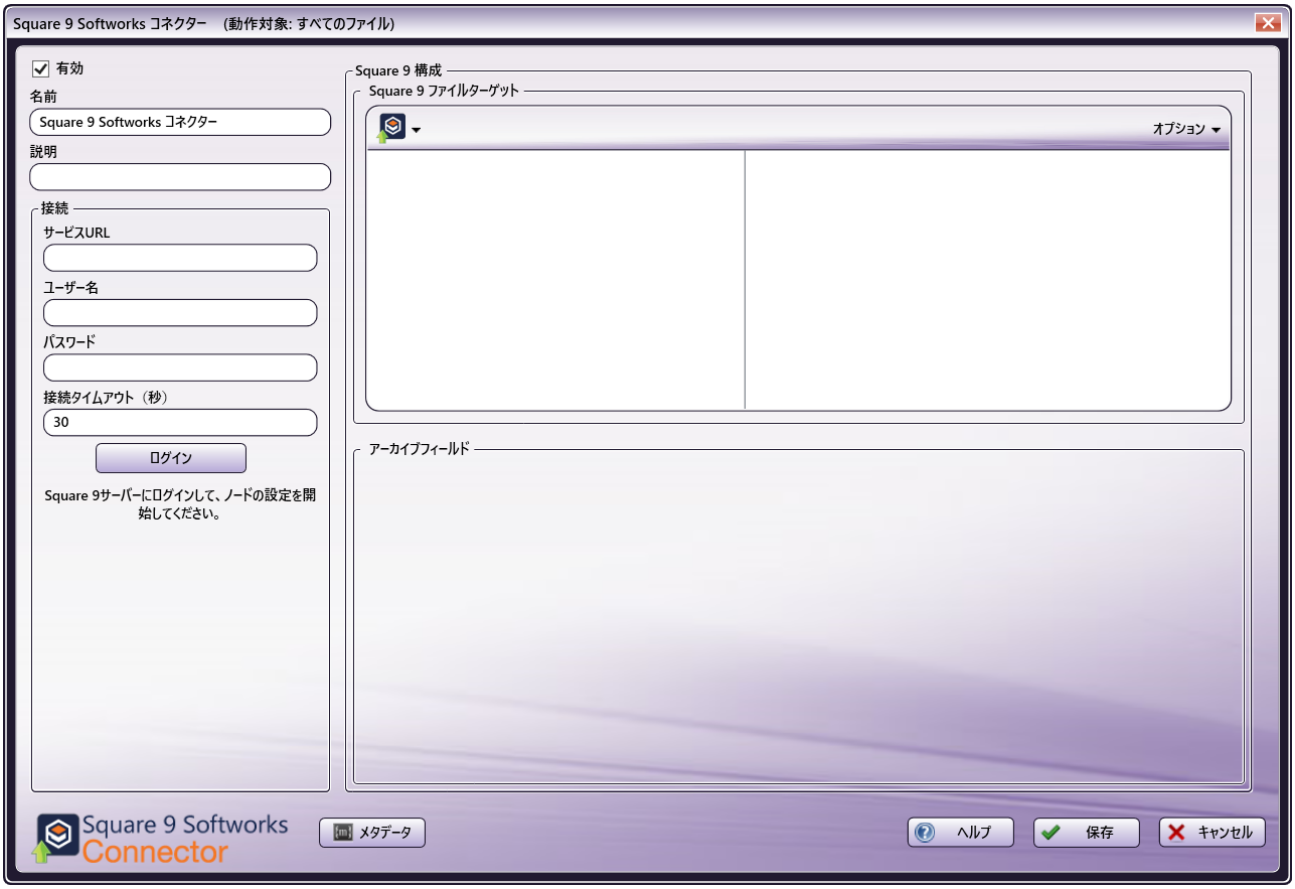
- **フォルダーのパス** - 複合機のパネルに表示するSharePoint Onlineルートフォルダーのフォルダーを入力します。
- **新規フォルダーオプションの表示** - このオプションをチェックすると、複合機で新規SharePoint Onlineフォルダーを作成できるようになります。
- **ファイルの表示** - このオプションをチェックすると、複合機にSharePoint Onlineフォルダー内のファイルが表示されます。

Square 9 Softworks コネクター

Square 9 コネクターノードを使用すると、人気のAIを活用したドキュメント処理プラットフォームであるSquare 9にドキュメントを配信することができます。ドキュメントは自動化されたワークフローを介してSquare 9に送信することも、または複合機パネルから直接Square 9にログインすることもできます。

注: Square 9 Softworks コネクターを使用するには、Square 9アカウントが必要です。

Square 9 Softworks コネクター ノードのプロパティウィンドウを開くには、Square 9出力ノードをワークフローに追加し、ダブルクリックします。

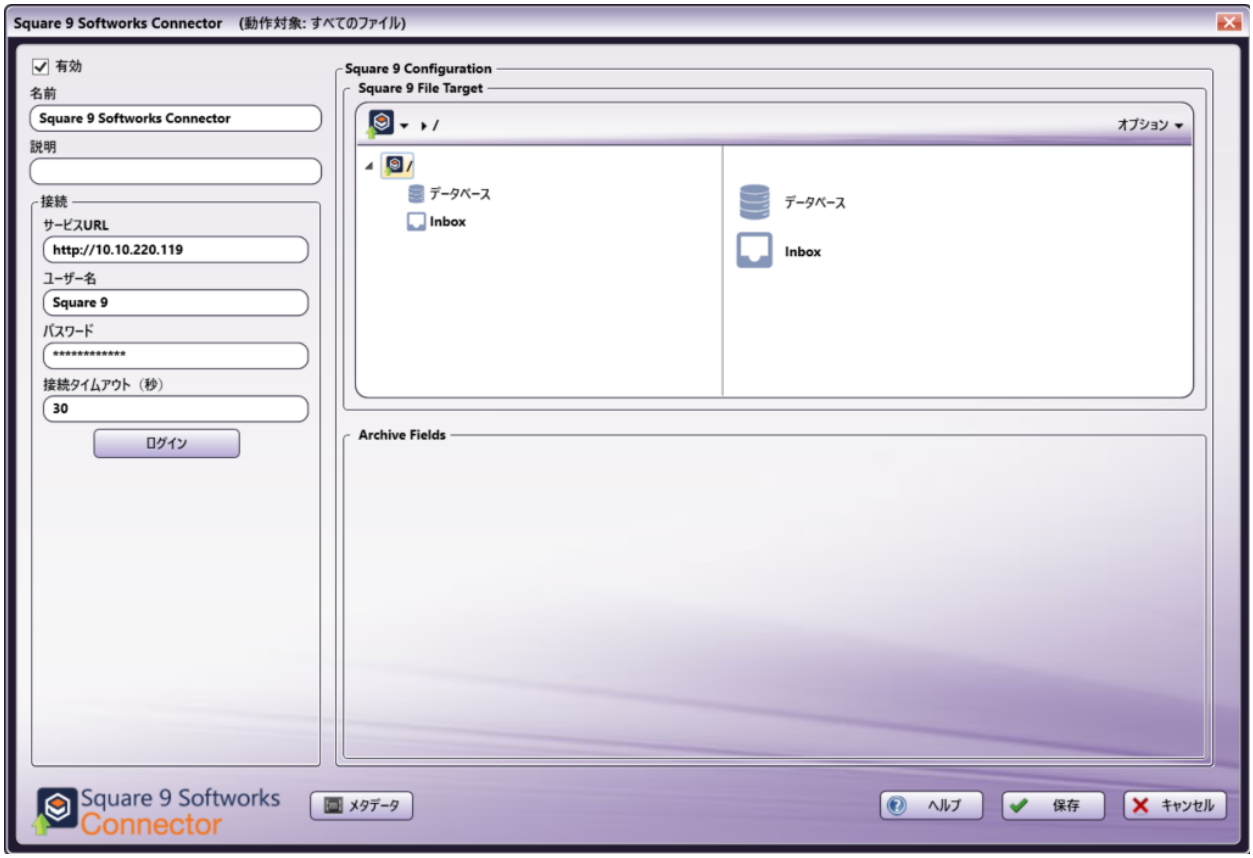


- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、**[有効]** ボックスがオンになっていることを確認します。既定では、ノードは作成時に有効になります。ノードを無効にするとワークフローはノードを無視します。ワークフローは引き続き検証されますが、ドキュメントは出力されず失われる可能性があります。無効化されたノードでは、ロジックまたはエラー状態がチェックされないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名は既定でこのフィールドに設定されます。この名前は、ワークフローのノードアイコンの下に表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示すノードの意味のある名前を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフロー内のノードの目的を覚えたり、ノードを相互に区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合、フィールドの上にマウスを置くと内容全体を読むことができます。

Square 9への接続

開始するには、まずSquare 9サーバーに接続する必要があります。[接続]領域で、次の操作を行います。

1. **[サービスURL]** フィールドに、Square 9サーバーのURLアドレスを入力します。
2. **[ユーザー名]** フィールドと **[パスワード]** フィールドに、Square 9サーバーのユーザー資格情報を入力します。
3. 完了したら、**[ログイン]** ボタンを選択してSquare 9サーバーに接続します。



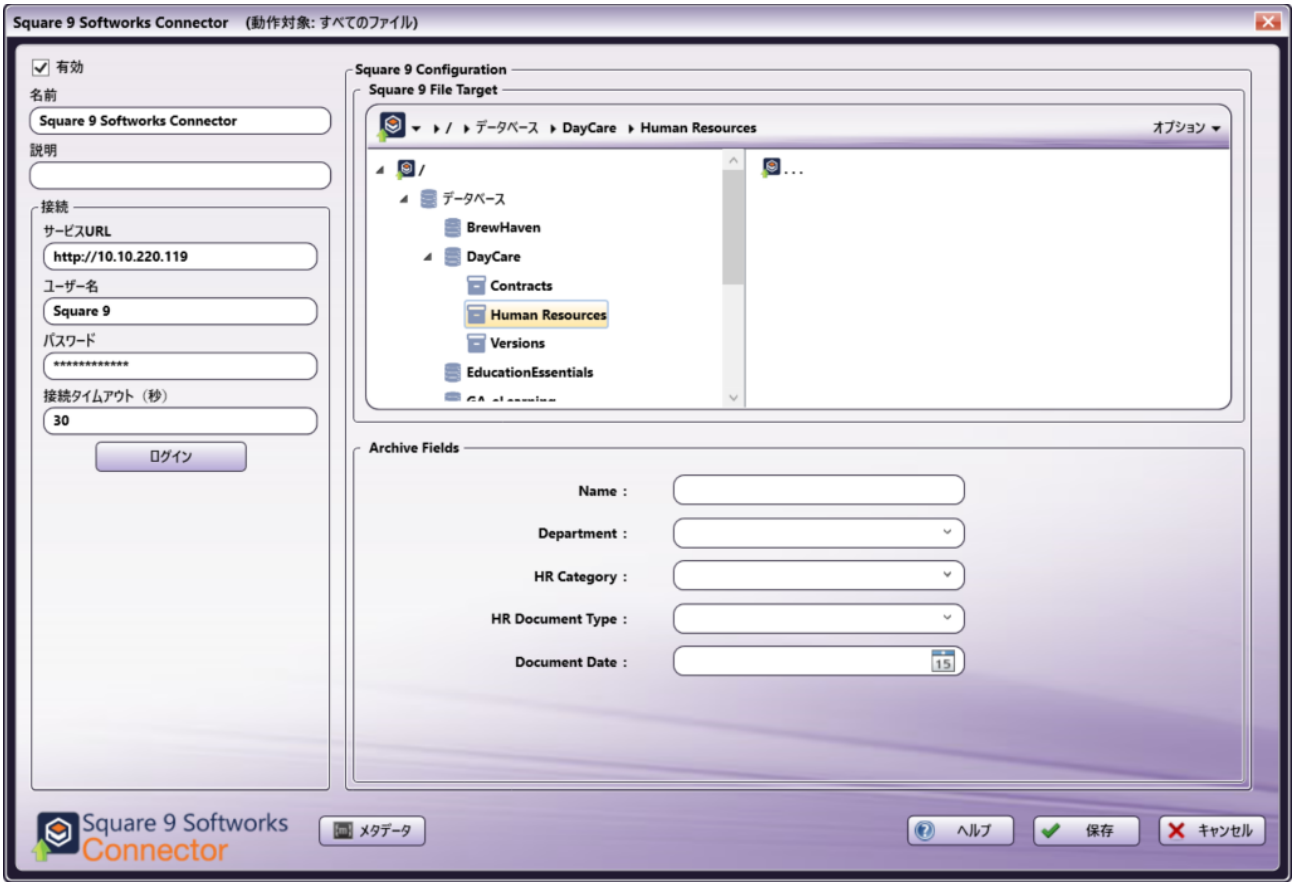
Square 9 Softworks コネクターの構成

接続すると、Square 9 Softworks コネクターのプロパティウィンドウの右側に、Square 9データベースと受信トレイのツリービューとリストビューが表示されます。ツリービューは **オプション** で、オフにすることができます。

データベースまたは受信トレイの選択

Square 9では、データベースと受信トレイという2つの方法でドキュメントを整理します。Square 9では通常、データベースを使用してドキュメントを保存します。アーカイブはデータベース内に存在し、フォルダーと同様に機能します。受信トレイは、データベースにインデックスを作成する前に、関係者がドキュメントをレビューすることができる一時的なリポジトリです。

Square 9サーバーに接続すると、ユーザーが利用できるデータベース、アーカイブ、受信トレイが設定領域に表示されます。ドキュメントを保存するリポジトリへ移動します。アーカイブ、または受信トレイを選択する必要があることに注意してください。データベースの選択は有効な構成ではありません。



アーカイブフィールド

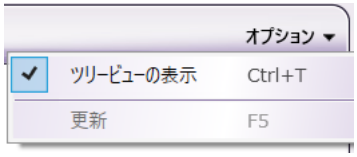
ドキュメントの保存先としてアーカイブを選択した場合、[アーカイブフィールド]領域に関連するフィールドが表示されます。アーカイブフィールドには、ドキュメントとともにアップロードされる追加情報が含まれます。

注: アーカイブフィールドは1行のテキストをサポートします。最大長はGlobalSearch内で定義されます。

オプション

ノードのプロパティウィンドウで、ウィンドウの右上にある[オプション]ボタンを使用して、Square 9アーカイブの既定のビューを調整することができます。以下の操作を行います。

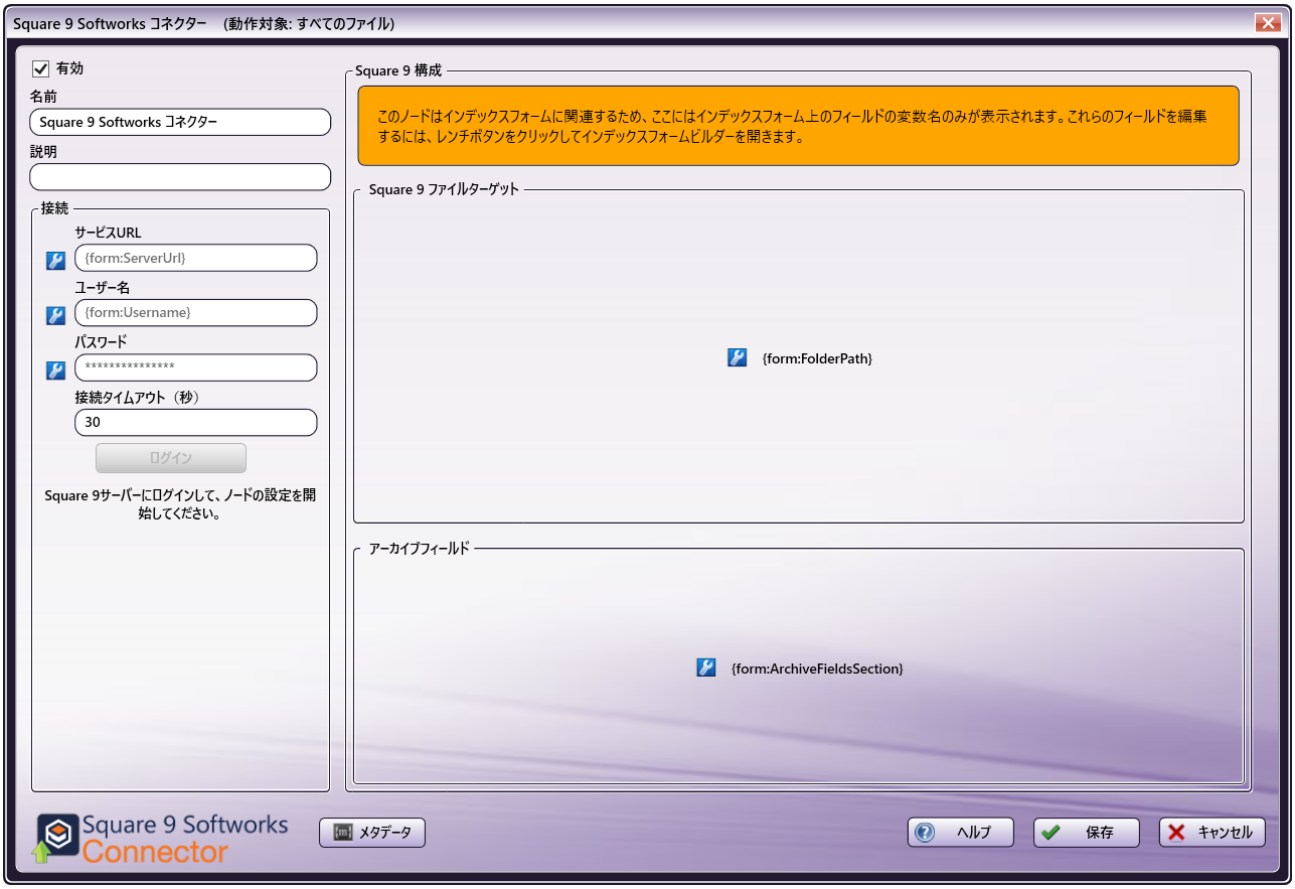
- **[オプション]** ボタンをクリックします。次のドロップダウンメニューが表示されます。



- 既定のビューをオフにするには、**ツリービューの表示** オプションのチェックを外します。
- ノードの構成領域を更新して、Square 9からの最新のデータベース、アーカイブ、受信トレイを表示するには、**[更新]** オプションを選択します。これにより、アーカイブフィールドセクションも更新されます。

インデックスフォームの使用

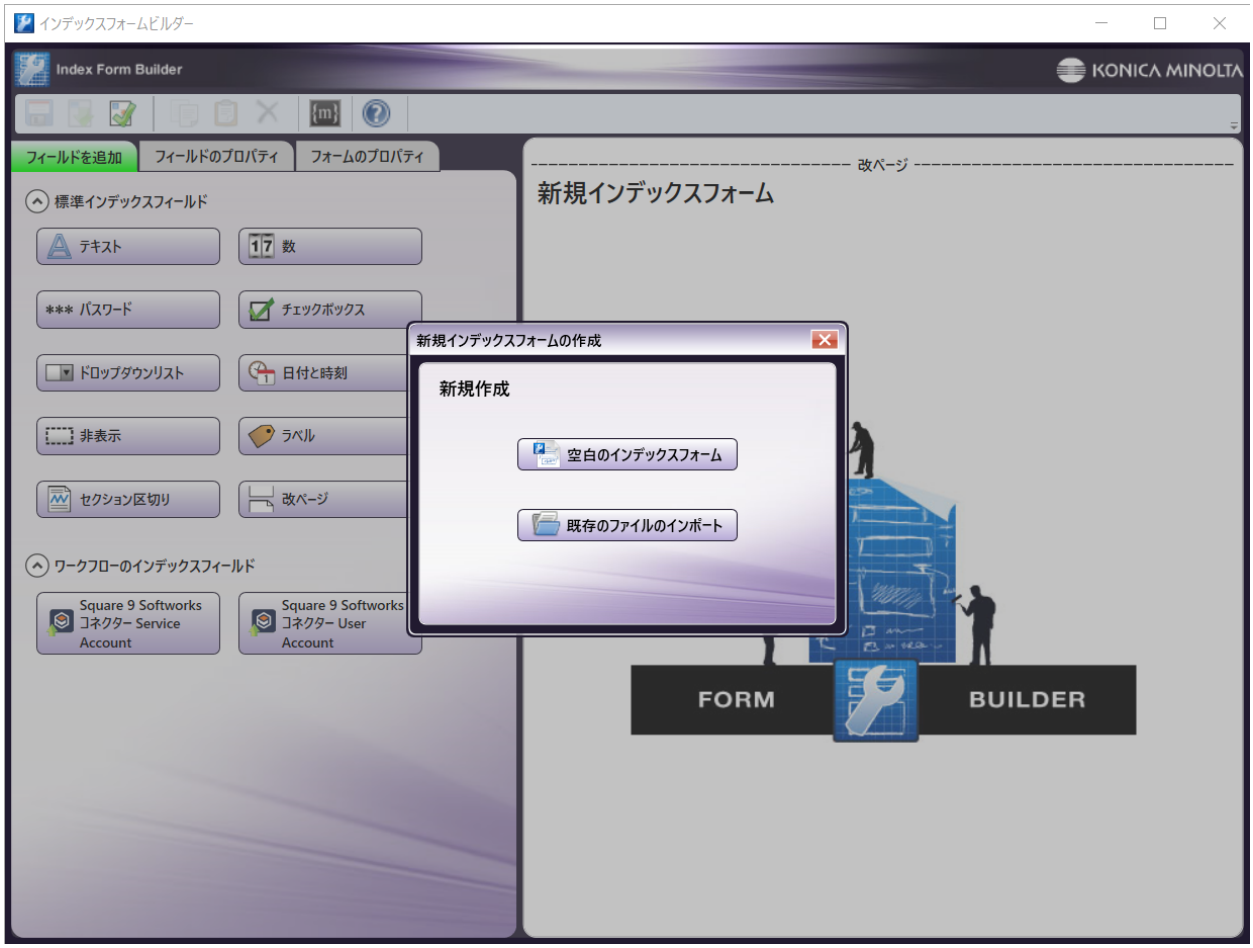
インデックスフォームでSquare 9 Softworks コネクターノードを使用すると、Square 9 Softworks コネクターノードのプロパティウィンドウにインデックスフォーム上のフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウではフィールドを編集することはできませんが、レンチツールボタンをクリックすると、インデックスフォームビルダーのそのセクション、またはフィールドに移動することができます。次の図を参照してください。



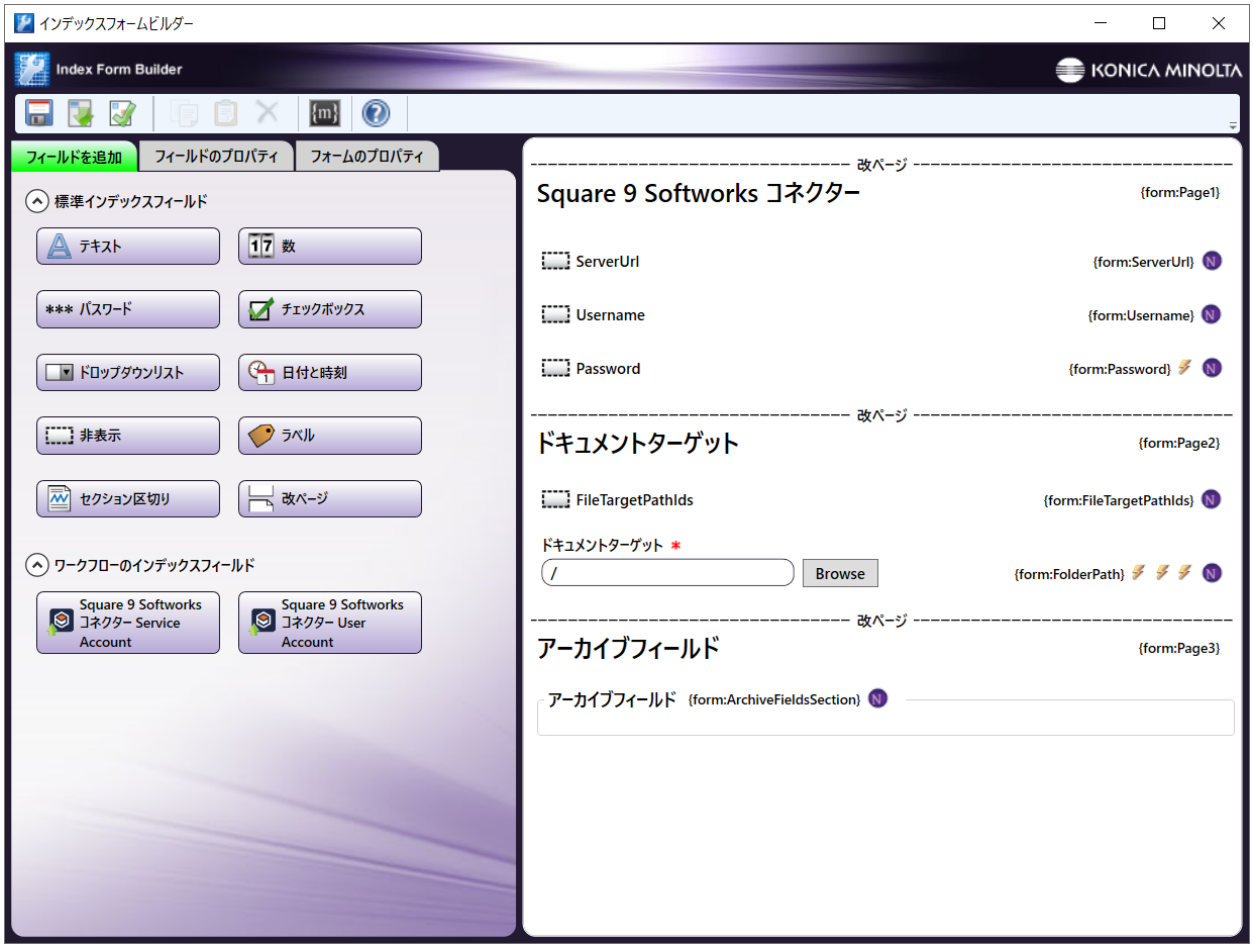
Square 9 Service Account インデックスフォームの作成

ワークフローがService Accountインデックスフォームで構成されている場合、ユーザーはスキャンを開始する前に単一のSquare 9アカウントに自動的にログインします。複合機で **Square 9 Softworks コネクター** ノードをカスタマイズできるインデックスフォームを作成するには、次の手順を実行します。

1. ワークフローに **Square 9 Softworks コネクター** ノードが含まれていることを確認します。
2. 次の図に示すように、ツールバーの **[フォーム]** ドロップダウンをクリックし、**[新規インデックスフォームの作成]** を選択してインデックスフォームビルダーを開きます。



3. ポップアップで **[空白のインデックスフォーム]** オプションを選択します。次に、**Square 9 Softworks コネクター Service Account** ボタンをインデックスフォームビルダーの作業領域にドラッグします。次の図に示すように、いくつかのフィールドが入力されます。

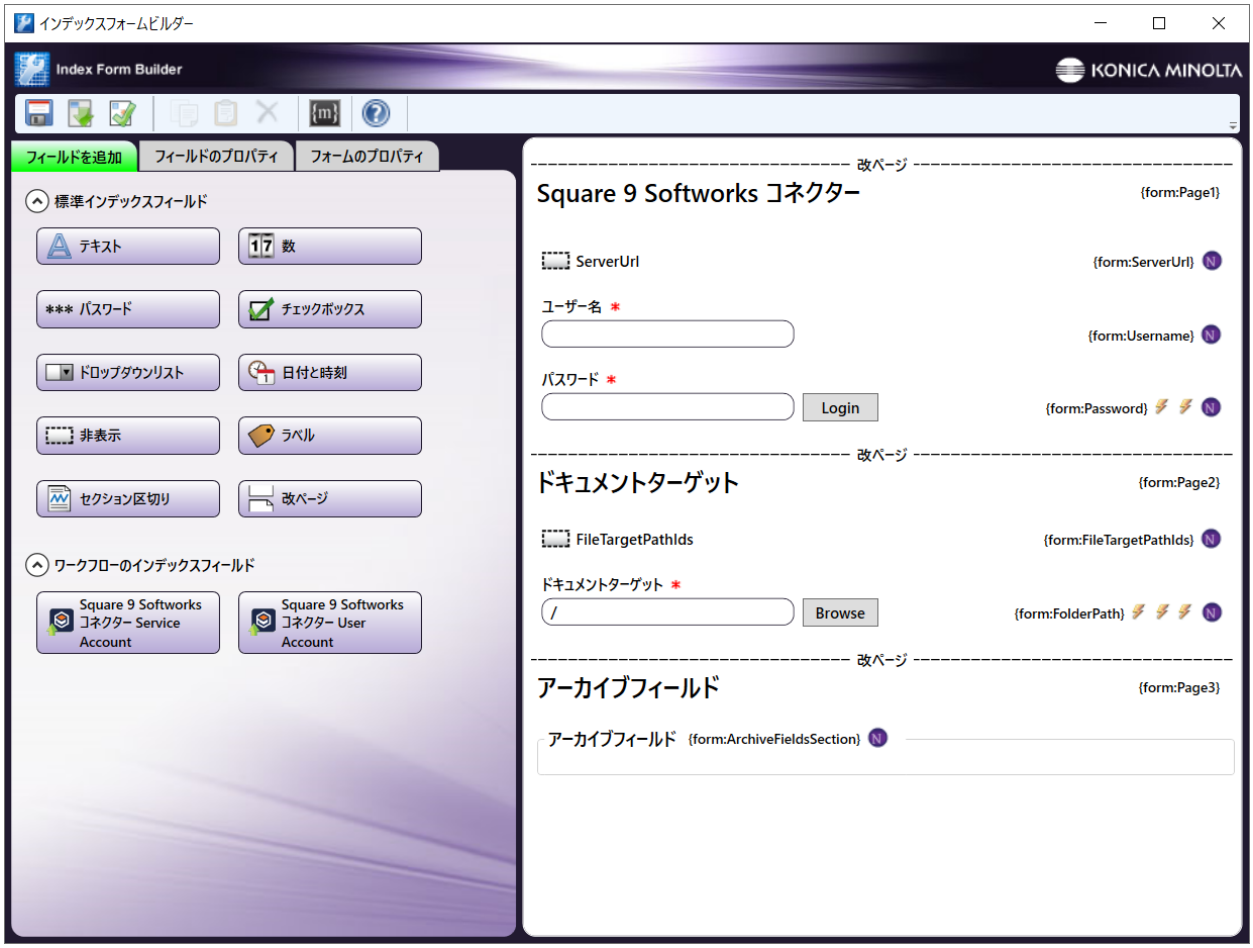


4. ServerUrlコンポーネントを選択し、Square 9インストールのサーバーURLを[既定値]フィールドに入力します。
5. **ユーザー名** 、**パスワード** 、事前設定されたアーカイブフィールドなどの追加情報を入力します。
6. インデックスフォームビルダーを検証し、保存して閉じます。
7. インデックスフォームを、複合機パネルノード、Webキャプチャノード、Release2Meノードなどのインデックスフォームをサポートするノードに接続します。

Square 9 User Account インデックスフォームの作成

ワークフローがUser Accountインデックスフォームで構成されている場合、スキャンと送信を開始する前に、複合機でSquare 9アカウントにログインするよう求められます。複合機でSquare 9 Softworks コネクターノードをカスタマイズできるインデックスフォームを作成するには、次の手順を実行します。

1. **[Square 9 Softworks コネクター User Account]** ボタンをクリックしてインデックスフォームビルダーの作業領域にドラッグし、**Square 9 Service Account インデックスフォームの作成** の手順1～4に従います。

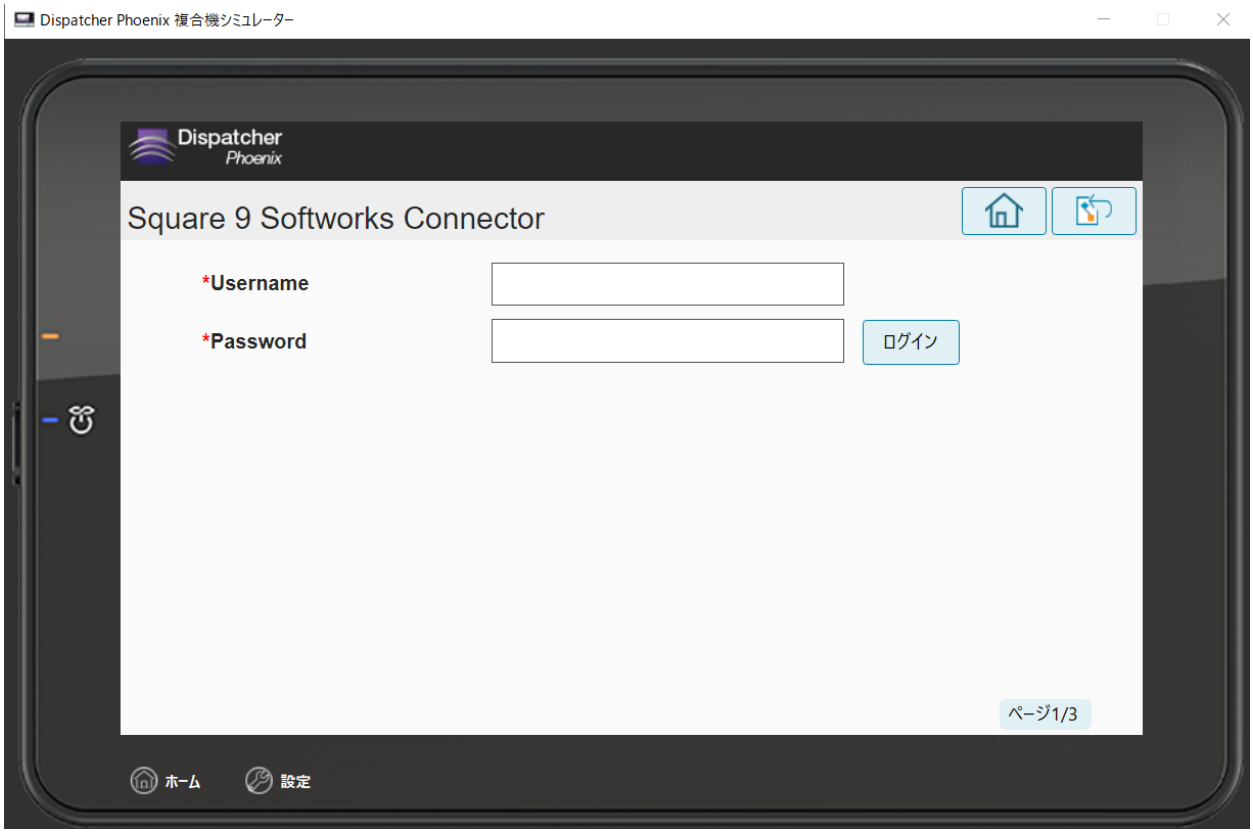


2. 事前構成されたアーカイブフィールドなどの追加情報を入力します。
3. インデックスフォームビルダーを検証し、保存して閉じます。
4. インデックスフォームを、複合機パネルノード、Webキャプチャノード、Release2Meノードなど、インデックスフォームをサポートするノードに接続します。

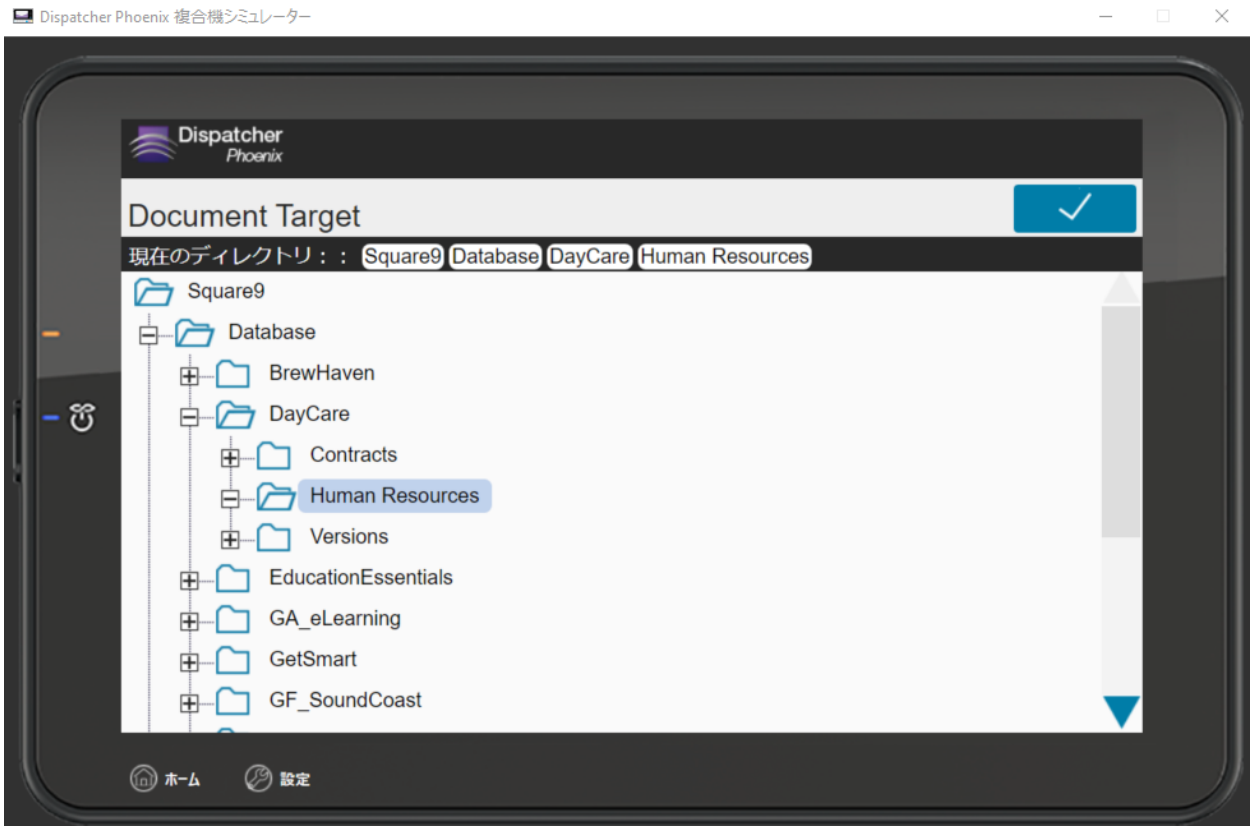
複合機でのSquare 9 インデックスフォーム

Square 9 Softworks コネクターがインデックスフォームを使用して構成されている場合、ユーザーはアカウントの資格情報を入力して、アーカイブを参照し、必要な追加情報を追加することができます。複合機パネルでSquare 9 Softworks コネクターを使用するには、次の手順を実行します。

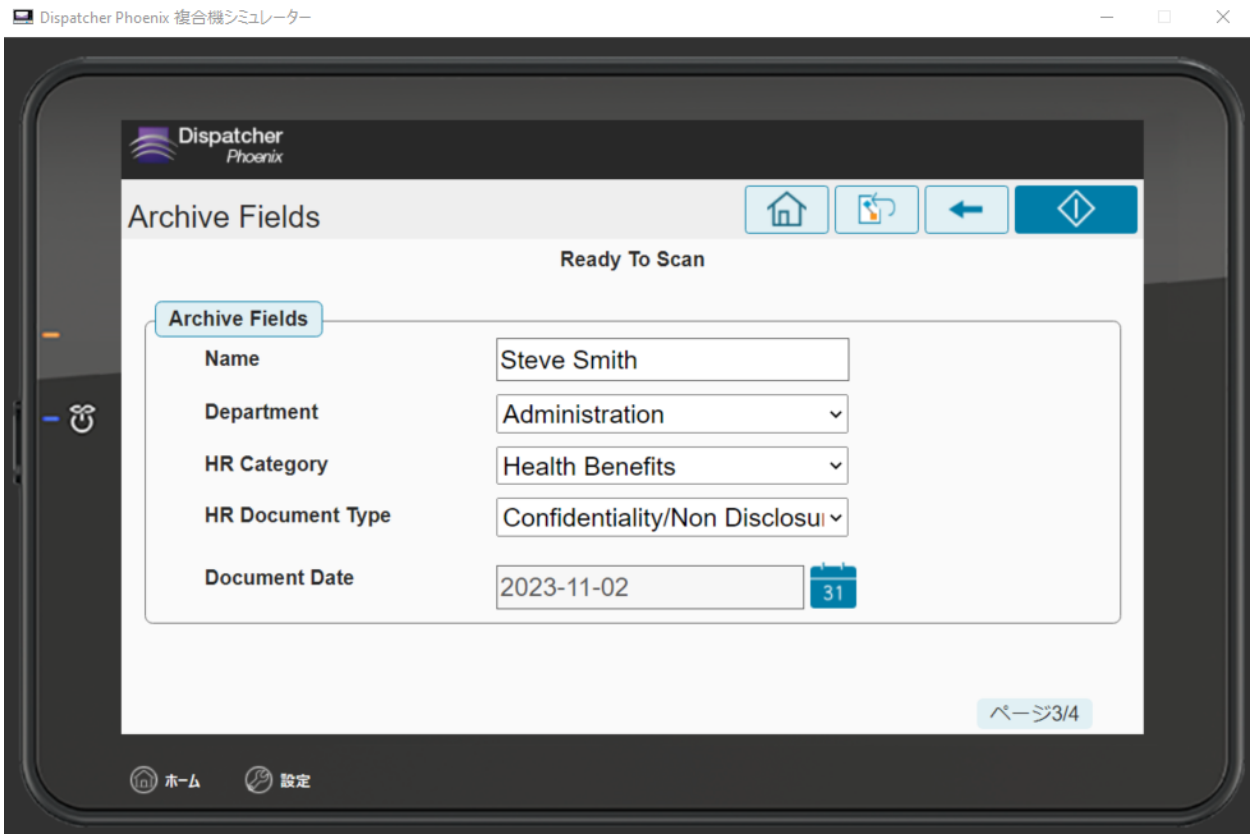
1. 複合機で、Square 9 Softworks コネクターと、すでに構成したインデックスフォームに関連付けられたノードを含むワークフローを開きます。
2. インデックスフォームが適切に事前設定されたService Accountフォームを使用して作成された場合は、自動的にログインされます。インデックスフォームがUser Accountフォームを使用して作成された場合、事前設定されていない場合は、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。次に、**ログイン** を選択します。



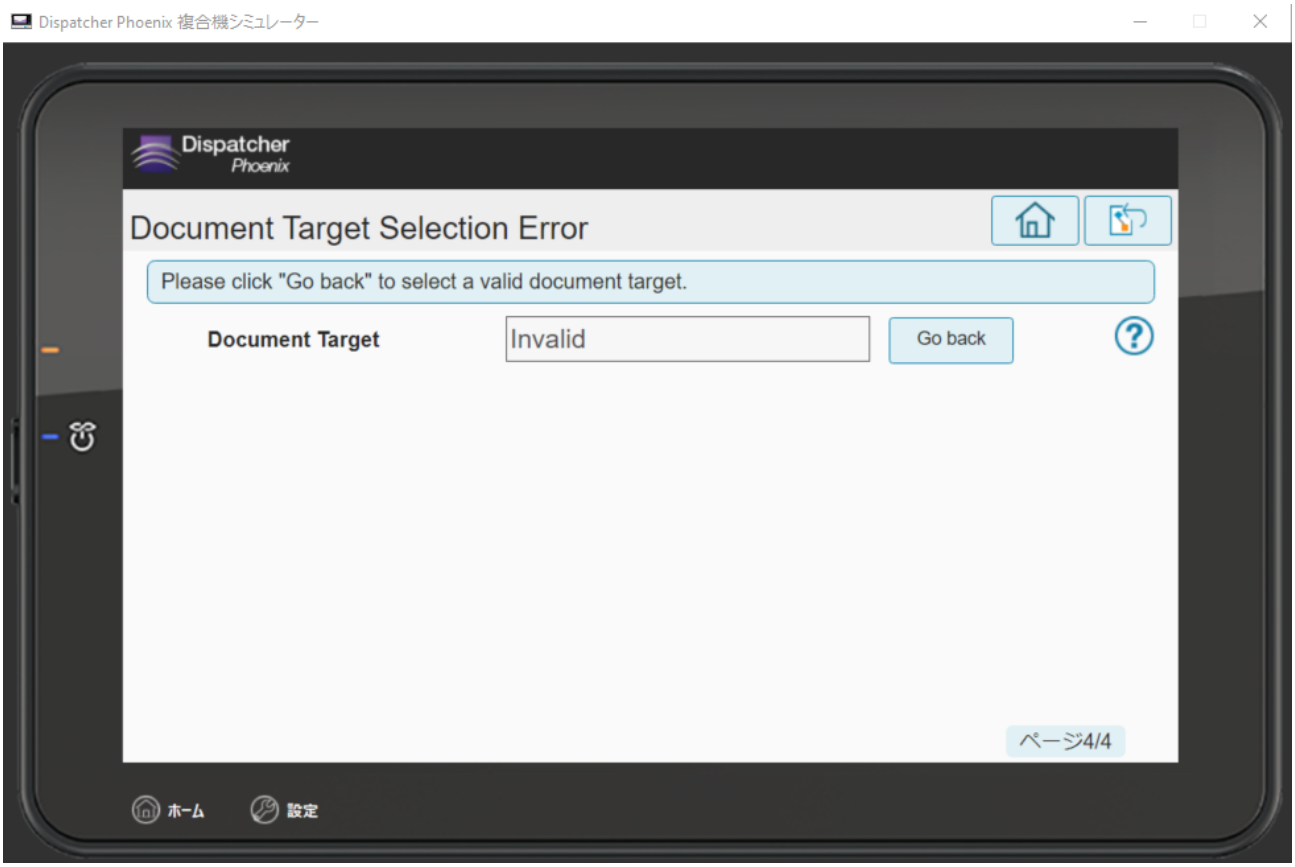
3. 次の図に示すように、保存先のSquare 9 ドキュメントターゲット (データベース/アーカイブまたは受信トレイ)を参照します。



4. 次の図に示すように、**アーカイブフィールド(Archive Fields)** に必要な情報を入力します。



重要! 有効なドキュメントターゲットが選択されていない場合、ワークフローはドキュメントを適切に処理しません。たとえば、次の図のように、アーカイブが含まれていないデータベースにドキュメントをアップロードしようとすると、エラーが発生し、ドキュメントはアップロードされません。



Upland InterFAX コネクター

Upland InterFAX コネクター ノードは、新規、および既存のDispatcher PhoenixワークフローがUplandのWebベースのInterFAXシステムを介してファイルを配信できるように設計されています。**Upland InterFAX コネクター** を介してルーティングされるすべてのドキュメントは、ノード構成ウィンドウ、ノードメタデータ、または複合機でのデータ入力によって指定された受信者に送信することができます。

重要! Upland InterFAXサービスの制限事項の詳細については、Upland InterFAXドキュメント を参照してください。

InterFAXコネクターの設定

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、ロジックまたはエラー条件をチェックしないことに注意してください。既定ではノードは作成時に有効になります。
- **[ノード名]** - ノード名が既定でこのフィールドに入力されます。この名前は、ノードアイコンの下のワークフローに表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明は、ワークフローでのノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くとその内容全体を読むことができます。

ボタン

- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** ウィンドウにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher ScanTripクラウドオンラインヘルプにアクセスするには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノード定義を保存してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

アプリケーションのセットアップ

Upland InterFAX コネクター ノードの設定ウィンドウを開くには、InterFAXの配信ノードを追加し、ダブルクリックします。

Upland InterFAXへの接続

Upland InterFAXに接続するには、次の手順を実行します。

1. 次の図のように、Upland InterFAXの **ユーザー名** と **パスワード** を入力します。

2. 次に、**[テスト接続]** を選択します。接続が成功すると、次の図のように確認メッセージが表示されます。

InterFAXへの接続をテストするときにTLS証明書エラーが発生した場合は、[すべてのTLS証明書を許可する]オプションを選択して、Dispatcher Phoenix Web でTLS証明書を更新できます。

Upland InterFAX コネクターの設定

Upland InterFAXに接続すると、受信者と送信するドキュメントに関する詳細情報を入力できるようになります。**Upland InterFAX コネクター** を構成するには、次の手順を実行します。

1. フィールドに **受信者名** と **受信者番号** を入力します。Upland InterFAXシステムにドキュメントを正常にアップロードするには、これらのフィールドが必要です。

   注:

   - **受信者番号** フィールドは、数字またはメタデータのみを受け入れます。ノードはこのフィールドの他の文字で保存できますが、ワークフローは検証に失敗します。これらのフィールドにメタデータを追加するには、**[メタデータ]** ボタンをクリックしてメタデータブラウザーウィンドウを開きます。その後、メタデータ変数を適切なフィールドにドラッグアンドドロップできます。
   - 構成フィールドに中カッコ ({) が含まれている場合、管理者はその横に中カッコを追加して、ノードがエントリーをメタデータとして読み取らないようにする必要があります。たとえば、「Cynthia {ABC Corp}」という名前の連絡先は、「Cynthia {{ABC Corp}」と入力する必要があります。

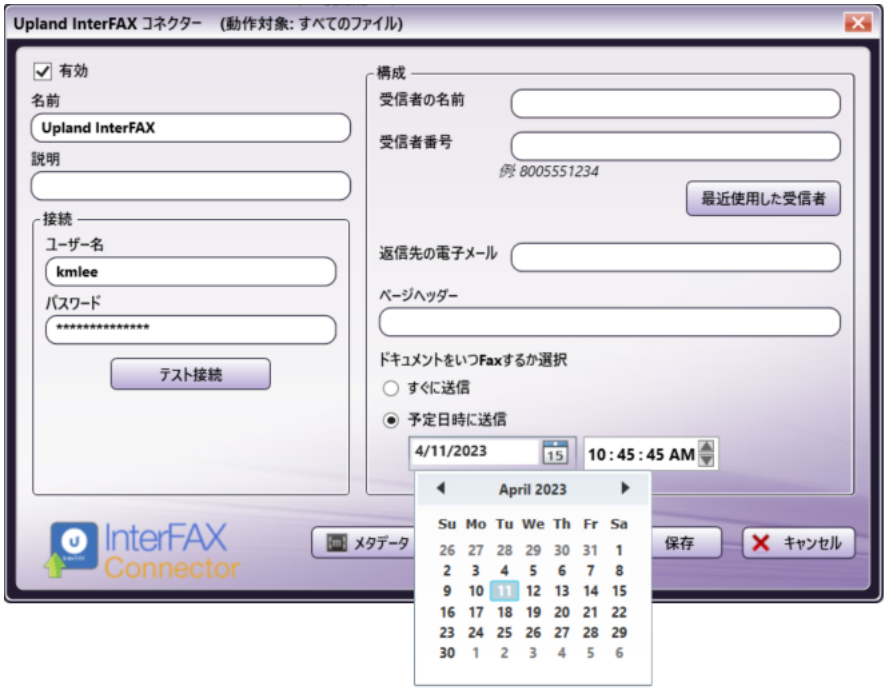
- 受信者名および受信者番号フィールドの最大長は100文字です。

[最近使用した受信者] ボタンを使用して、最近ファクスした最大10の番号のファクス情報を含むウィンドウを開くこともできます。これらの番号は時系列に表示され、最新の番号が一番上に表示されます。**[最近使用した受信者をクリア]** ボタンを使用して、最近の受信者をすべて削除します。

2. 必要に応じて、**返信先の電子メール** と **ページ ヘッダー** を入力することもできます。
3. InterFAXでドキュメントを送信したい場合、選択します。
   - **すぐに送信** - ドキュメントがInterFAXにアップロードされるとすぐにファクスします。
   - **予定日時に送信** - InterFAXがアップロードされたドキュメントを送信する日時を入力、または選択します。

     注:

     - 予定された日付/時刻を過ぎて送信しようとすると、ドキュメントはすぐにファクス送信されます。
     - ファクスの送信は、指定された日付/時刻以降になるまで遅れる場合があります。システムへのファクス送信は、最大30日間遅延する可能性があります。

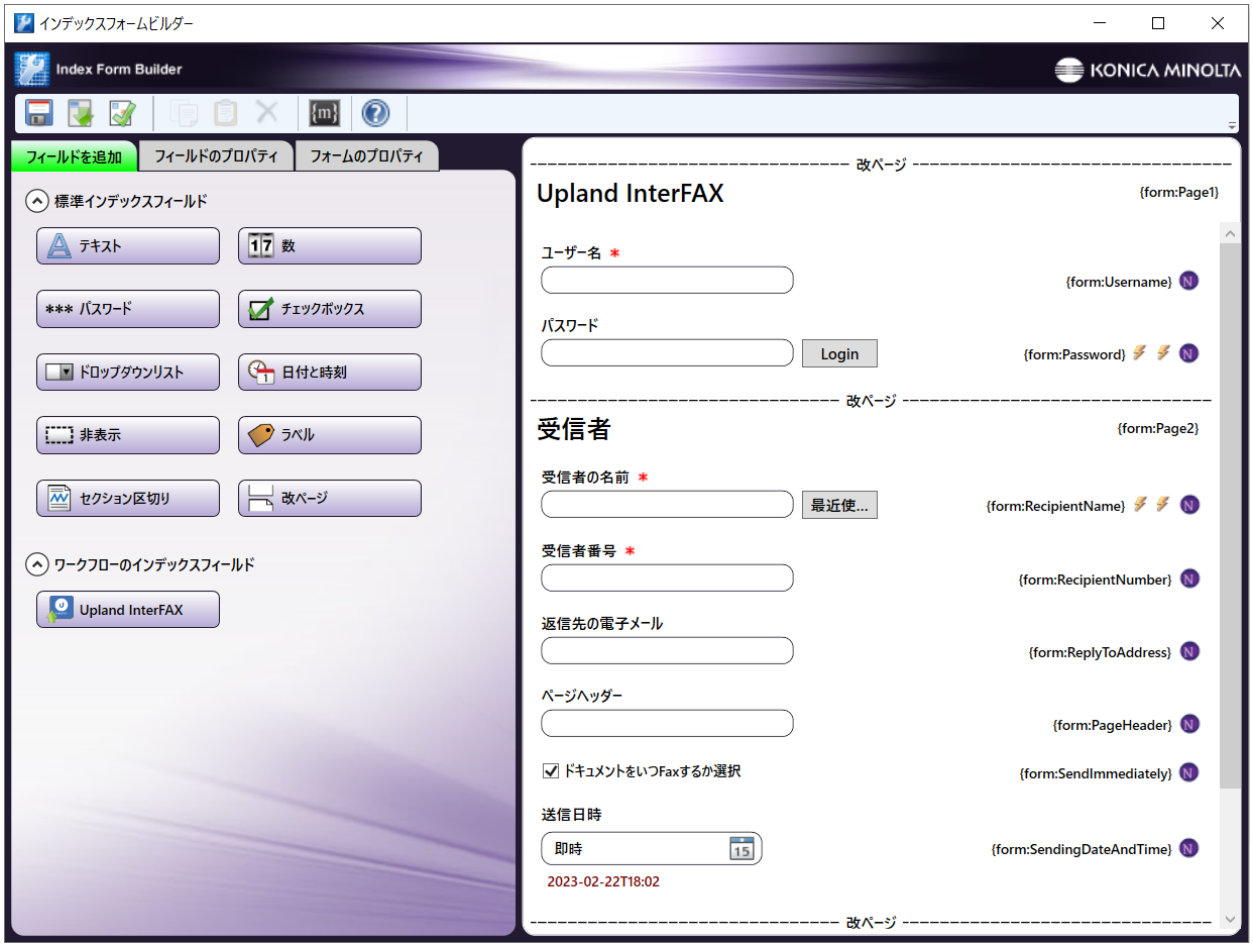


Upland InterFAX インデックスフォームの作成

ワークフローがインデックスフォームで構成されている場合、スキャンと送信を開始する前に、複合機でUpland InterFAXアカウントにログインするように求められます。複合機で **Upland InterFAX コネクター** ノードをカスタマイズできるインデックスフォームを作成するには、次の手順を実行します。

1. ワークフローに **Upland InterFAXコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
2. 次の図のように、ツールバーの **[フォーム]** ドロップダウンをクリックし、**[新規インデックスフォームの作成]** を選択して、インデックスフォーム ビルダーを開きます。

3. ポップアップで **[空白のインデックスフォーム]** オプションを選択します。次に、**Upland InterFAXコネクター** アイコンをインデックスフォームビルダー作業領域にドラッグします。次の図のように、いくつかのフィールドが入力されます。

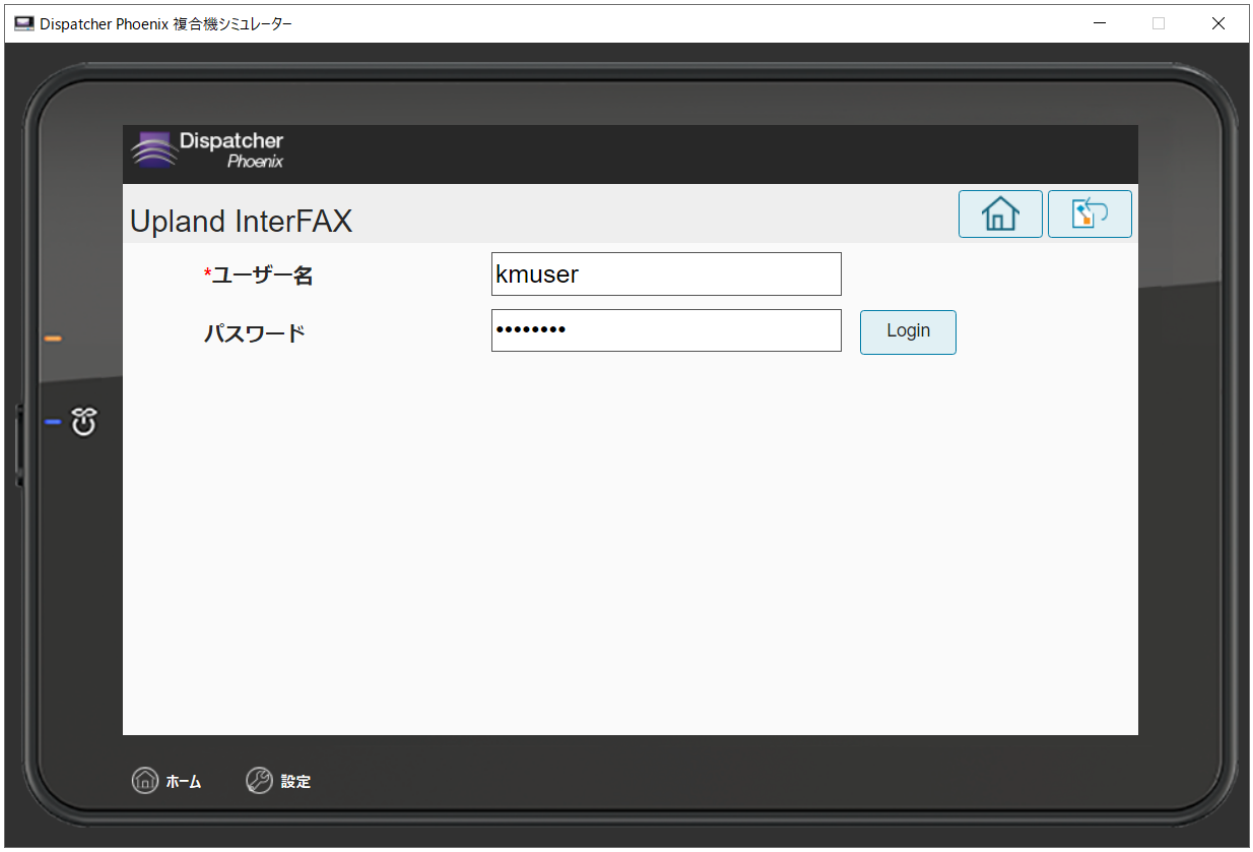


4. インデックスフォームビルダーを検証して保存し、閉じます。
5. 複合機パネルノード、Webキャプチャノード、Release2Meノードなど、インデックスフォームをサポートするノードにインデックスフォームを添付します。
6. **Upland InterFAXコネクター** ノードのプロパティウィンドウには、インデックスフォームのフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウでフィールドを編集することはできませんが、[レンチツール]ボタンをクリックすると、インデックスフォームビルダーのそのセクション、またはフィールドに移動することができます。次の図を参照してください。

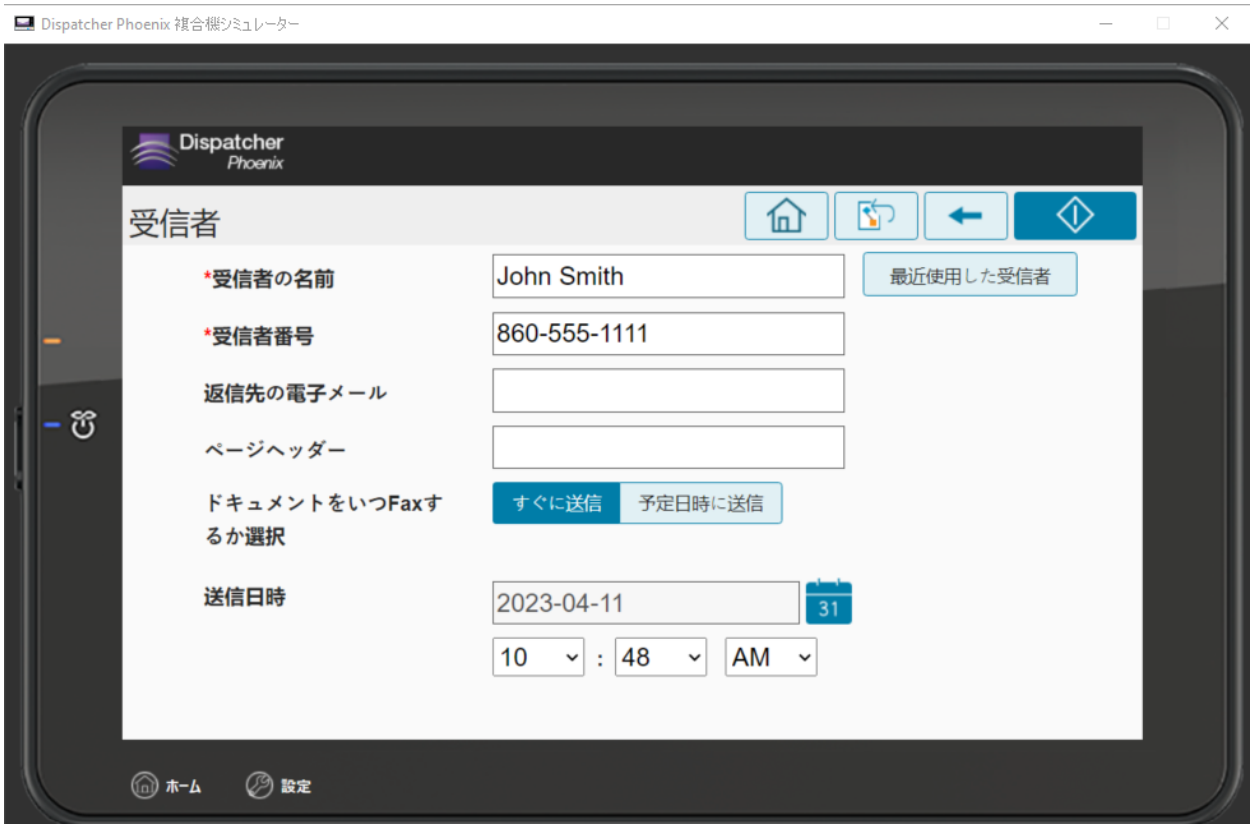
複合機でInterFAXにアクセスする

複合機で、次の手順を実行します。

1. **ワークフローを選択** - Dispatcher Phoenixワークフローが1つしか実行されていない場合、そのワークフローが表示されます。ただし、複数のワークフローが実行されている場合は、選択画面が表示され、ワークフローを選択する必要があります。
2. **ログイン資格情報を入力** - ノードのセットアップ中にInterFAXアカウントが構成されていない場合は、アカウント情報を入力する必要があります。



3. **受信者情報の入力** - ログインすると、目的のFAX受信者の名前とFAX番号を入力できます。必要に応じて、**電子メールへの返信** と **ページヘッダー** を入力し、必要に応じてファクス時刻を更新することもできます。次の図を参照してください。



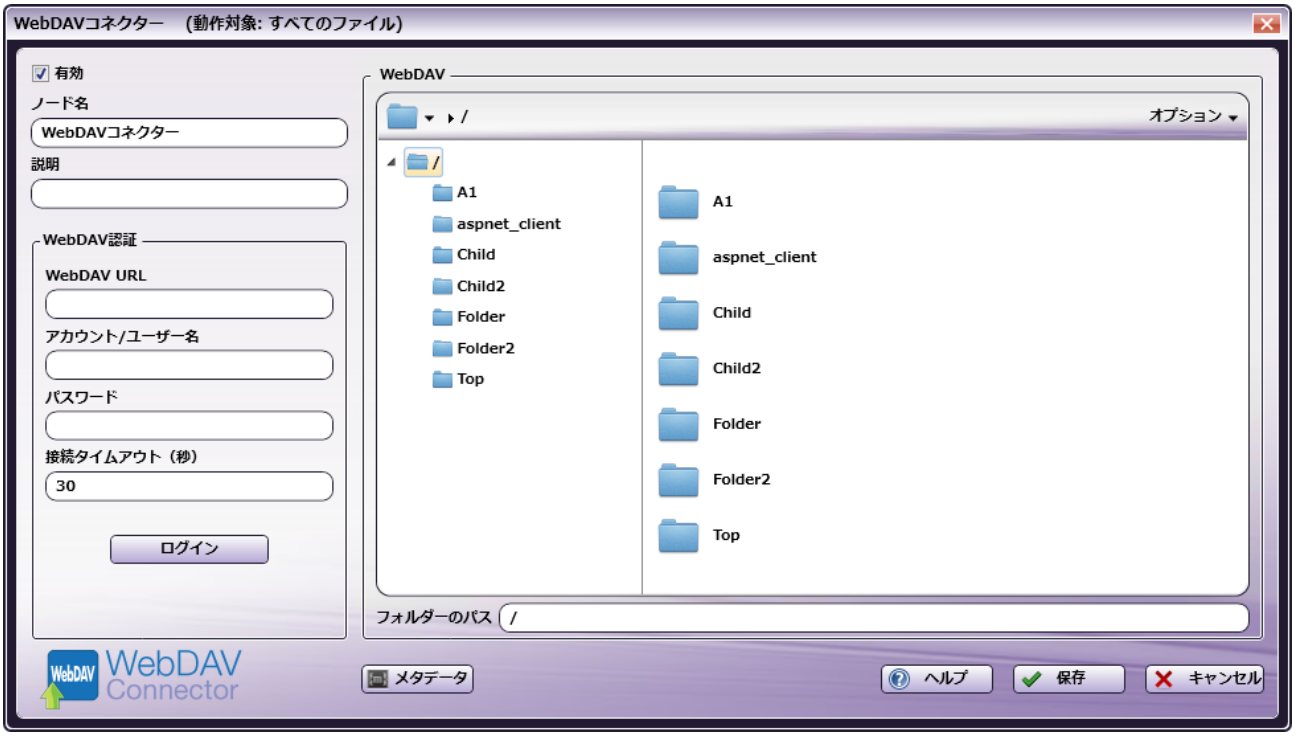
4. 必要な情報を入力したら、[スキャン]ボタンを選択してスキャン処理を開始します。スキャンしたドキュメントはすぐにUpland InterFAXサービスに送信、または、選択した日時にファクス送信されます。

WebDAVコネクター

WebDAV（Web-based Distributed Authoring and Versioning）は、ユーザーがリモートWebサーバー上のファイルにアクセスすることを可能にする標準プロトコルです。Dispatcher PhoenixのWebDAVコネクターを使用すると、WebDAVサーバー上のフォルダーを参照してファイルをアップロードできます。自動化されたワークフローを介してドキュメントをWebDAVサーバーに送信することも、直接複合機パネルでWebDAVサーバーにログインすることもできます。

注: WebDAVコネクターを使用するには、WebDAVサーバーにアクセスできる必要があります。

WebDAVコネクターノードのプロパティウィンドウを開くには、WebDAVの出力ノードをワークフローに追加して、そのノードをダブルクリックします。



- 複数の出力場所がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合は、この出力は無視されます。ワークフロー側では引き続き検証される一方で、ドキュメントは出力されなくなるため失われる可能性があります。
- **[ノード名]** フィールドに、WebDAVコネクターノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、WebDAVコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先ノードを互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

WebDAVコネクターの構成

WebDAVコネクターを構成するには、まずWebDAVサーバーに接続する必要があります。その後、ファイルの送信先となる既存のWebDAVフォルダーを指定するか新しいフォルダーを作成できます。

WebDAVへの接続

最初に、WebDAVサーバーに接続する必要があります。[WebDAV認証]領域で、以下の操作を行います。

1. **[WebDAV URL]** フィールドに、WebDAVサーバーのURLアドレスを入力します。
2. WebDAVサーバーのユーザー資格情報を **[アカウント/ユーザー名]** フィールドと **[パスワード]** フィールドに入力します。
3. 必要に応じて、**[接続タイムアウト]** フィールドで、サーバーに最初に接続した後に通信が行われなくなってからタイムアウトになるまでの時間として割り当てられている秒数を変更します。タイムアウトの既定値は、30秒です。
4. 完了したら、**[ログイン]** ボタンを選択してWebDAVサーバーに接続します。

フォルダーの選択

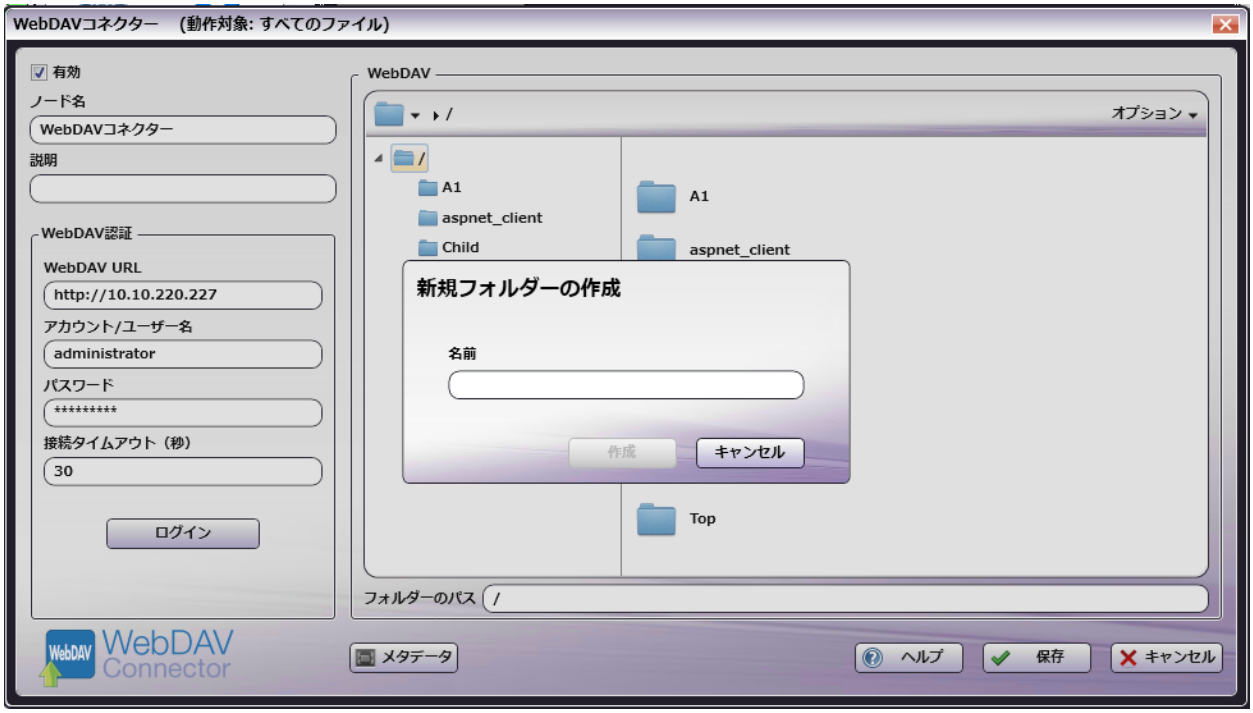
接続すると、WebDAVノードのプロパティウィンドウの右側に、WebDAVフォルダーとドキュメントのツリービューが表示されます。このツリービューでは、WebDAVフォルダーを参照して、対象のドキュメントを格納するためのフォルダーを選択できます。

新規フォルダーへのドキュメントの送信

ドキュメントの送信先となる、WebDAV内の新規フォルダーを作成することもできます。次のいずれかの操作を行います。

- **[オプション]** ドロップダウンメニューから **[新規フォルダー]** オプションを選択します。

  表示される[新規フォルダーの作成]ウィンドウで、**[名前]** フィールドに新規フォルダーの名前を入力してから、**[作成]** ボタンを選択します。新しく作成されたフォルダーが、[フォルダー]ビューに表示されます。



- **[フォルダーのパス]** フィールドに、新規フォルダーの名前を入力します。
- メタデータを使用して、実行時のフォルダーパスを指定します。

  たとえば、ゾーンOCRを使用して受信ドキュメントからクライアント名を抽出してから、そのOCRメタデータを[フォルダーのパス]フィールドで使用できます。この場合は、クライアント名と同じ名前のフォルダーがWebDAVサーバー上に作成され、ドキュメントは実行時にその新規フォルダーへ自動的にアップロードされます。

  注: まだ存在していないフォルダー内にフォルダーを作成することはできません。たとえば、フォルダー内にフォルダーを作成するために2つの異なるメタデータ変数を使用することはできません（{bates:Counter}/{file:name}など）。

  メタデータを使用するには、以下の操作を行います。

  1. **[メタデータ]** ボタンを選択して、[メタデータブラウザー]ウィンドウを開きます。
  2. [メタデータブラウザー]ウィンドウで、目的のメタデータ変数を選択して、**[フォルダーのパス]** フィールドにドラッグアンドドロップします。
  3. [メタデータブラウザー]ウィンドウの **[閉じる]** ボタンを選択します。

ファイル名の制約事項

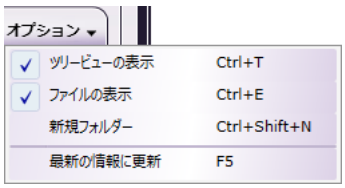
ファイル名には以下の制約があります。

- ファイル名の先頭と末尾にはスペースを使用できません。
- ファイル名の先頭に2個のピリオド（..）を使用することはできません。
- 表示されない文字をファイル名に含めることはできません（タブ文字や改行文字など）。
- 次の文字は使用できません: `< > : " / \ | ?*`

表示オプション

ノードプロパティウィンドウの右上にある **[オプション]** ボタンを使用して、ウィンドウ内のWebDAVフォルダーの既定表示方法を調整できます。以下の操作を行います。

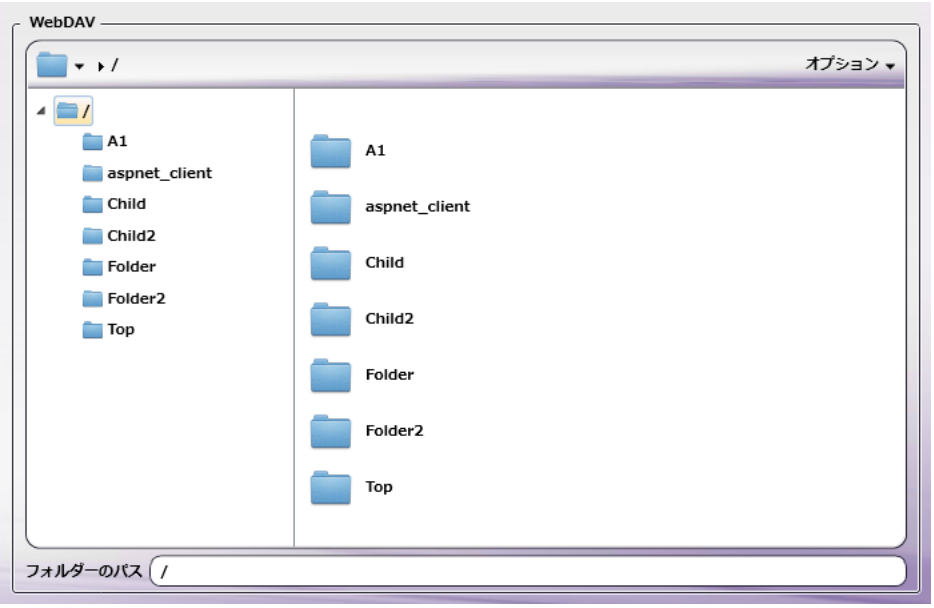
- **[オプション]** ボタンをクリックします。次のドロップダウンメニューが表示されます。



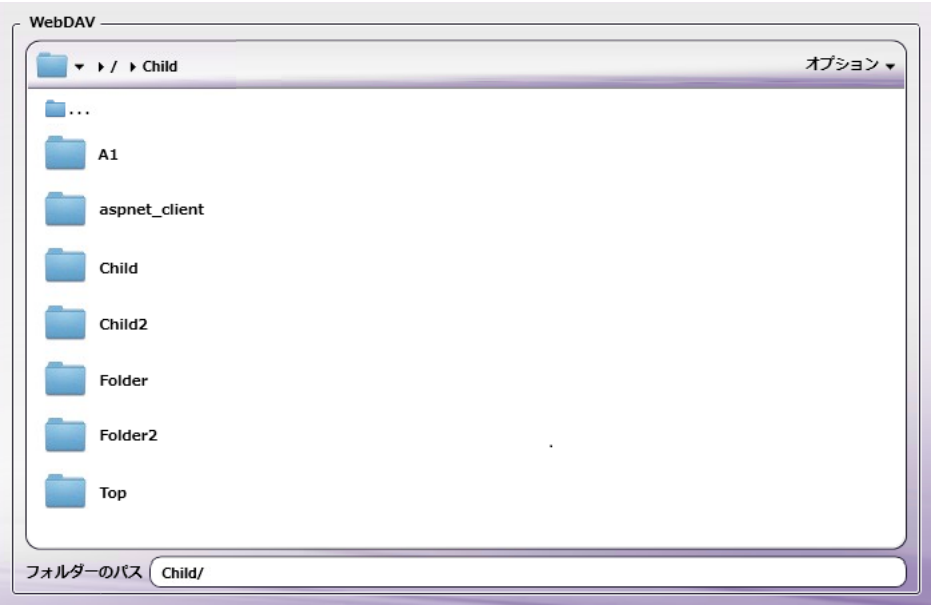
- 既定の表示方法をオフにするには、**[ツリービューの表示]** オプションのチェックを外します。

  次の図では、使用可能な2つのフォルダー表示方法を比較しています。

  ツリー表示がオン



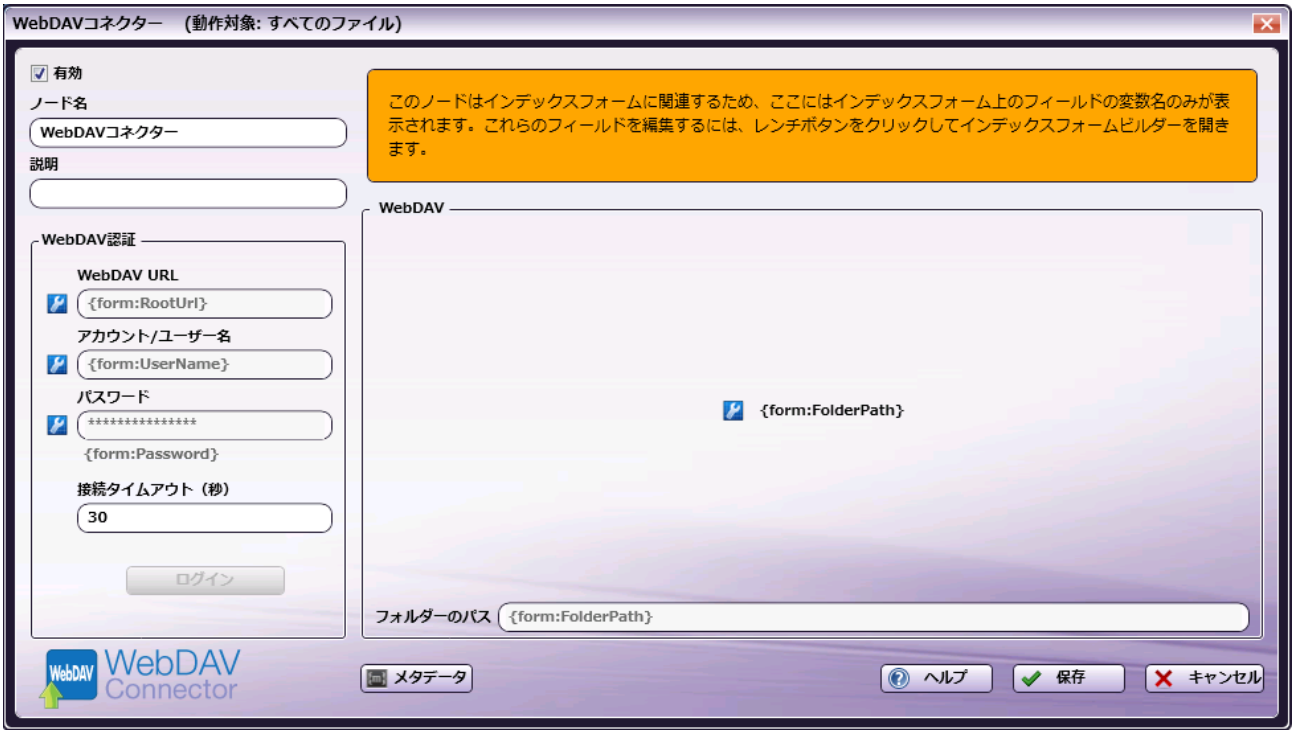
ツリー表示がオフ



- WebDAVフォルダーに保存されているファイルを非表示にするには、**[ファイルの表示]** オプションのチェックを外します。
- 現在の表示内容を更新して最新のフォルダーとファイルを表示するには、**[最新の情報に更新]** オプションを選択します。

インデックスフォームでの使用

インデックスフォームでWebDAVコネクターノードを使用している場合は、WebDAVコネクターノードのプロパティウィンドウに、このインデックスフォームにあるフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウでフィールドを編集することはできませんが、スパナツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダーで該当するセクションまたはフィールドに移動できます。次の図を参照してください。



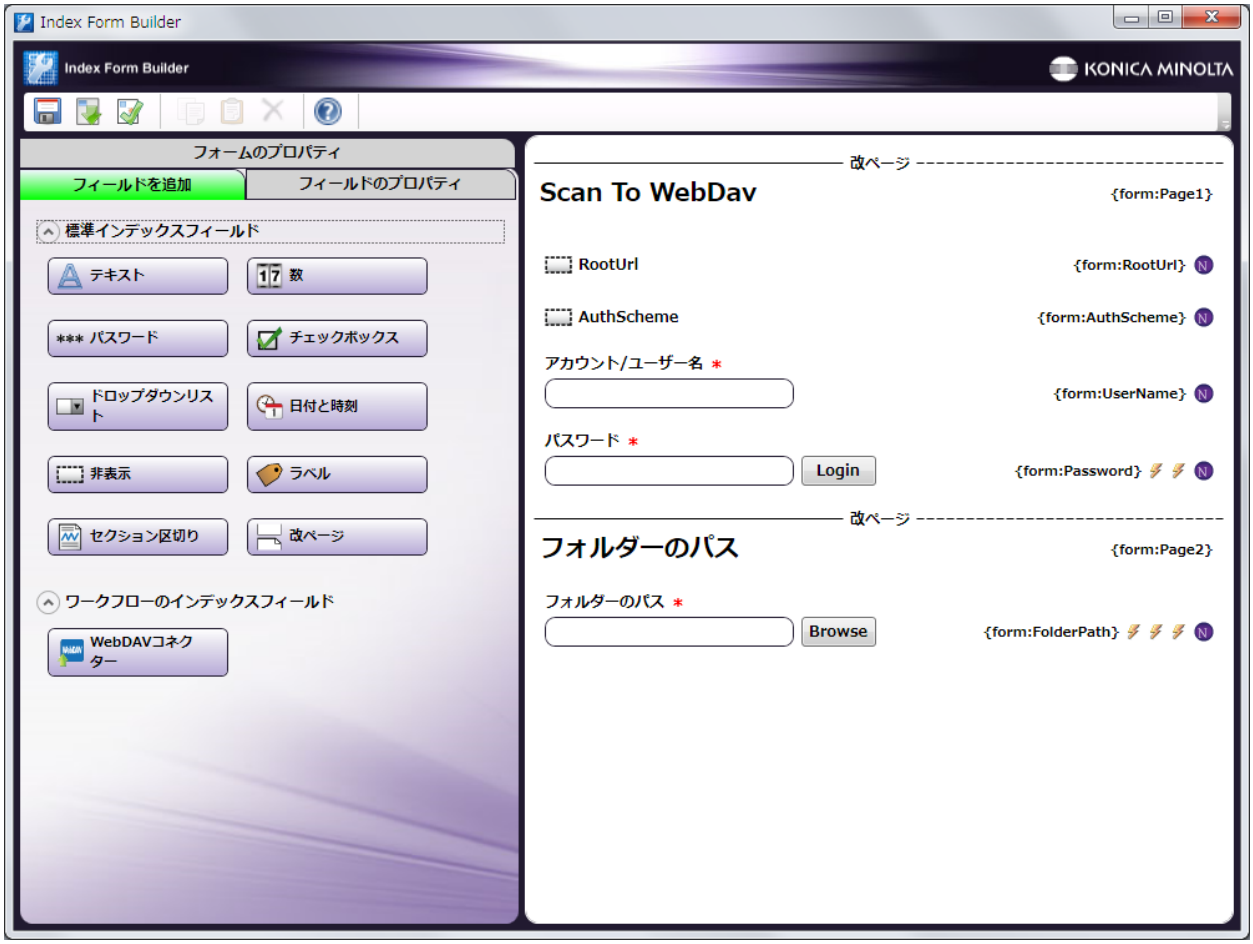
複数の入力でのWebDAVコネクターインデックスフォームの使用

WebDAVコネクターノードを複合機パネルノードのインデックスフォームに関連付けた後は、WebDAVへの接続と転送のために必要なすべての情報は複合機で入力されます。このため、他のタイプの収集ノード（入力フォルダーや複合機など）を、ワークフロー内のそのインデックス付けされたWebDAVコネクターノードに接続することはできません。この場合に、他の収集ノードをワークフローに追加する必要がある場合は、インデックスフォームに接続されていない新しいWebDAVノードを追加する必要があります。

WebDAVサーバーのインデックスフォームの作成

スキャンされたドキュメントを複合機で汎用WebDAVサーバーにアップロードすることを可能にするインデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

1. ワークフローに複合機パネルノードとWebDAVコネクターノードが含まれていることを確認します。
2. 適切なWebDAVサーバーおよびフォルダーに接続するように、WebDAVコネクターノードを構成します。
3. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に[WebDAVコネクター]ボタンが表示されます。
4. **[WebDAVコネクター]** ボタンを[インデックスフォーム]作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図に示すように、[Scan to WebDav]インデックスフォームが自動的に表示されます。



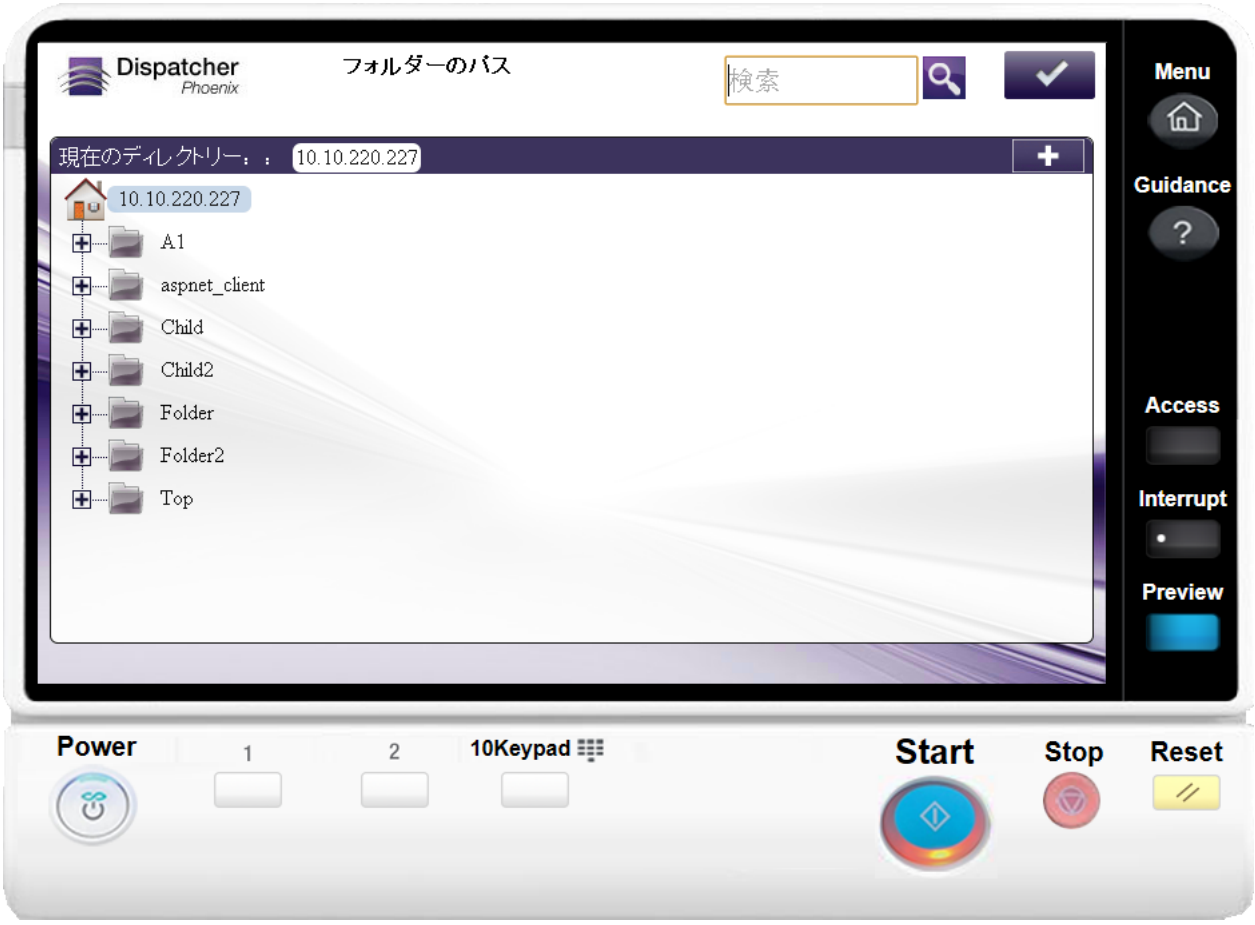
5. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。

注: 別の方法として、WebDAVコネクターをカスタマイズすることなく、WebDAVインデックスフォームを最初に作成できます。この場合、以下の操作を行います。

1. 複合機パネルノードとWebDAVコネクターノードが含まれたワークフローを作成します。
2. 空白のインデックスフォームを使用してこの複合機パネルノードをカスタマイズします。
3. **[WebDAVコネクター]** ボタンをインデックスフォームビルダーの作業領域にドラッグアンドドロップします。
4. **[RootUrl]** 隠しフィールドの **[既定値]** フィールドに、WebDAVサーバーのURLを指定します。このURLアドレスには、「http://」または「https://」を付加する必要があります。
5. **[WebDAVデータソースの構成]** ウィンドウの **[フォルダーのパス]** フィールドに、WebDAVサーバーのフォルダーの完全パスを指定します。
6. インデックスフォームビルダーを保存します。

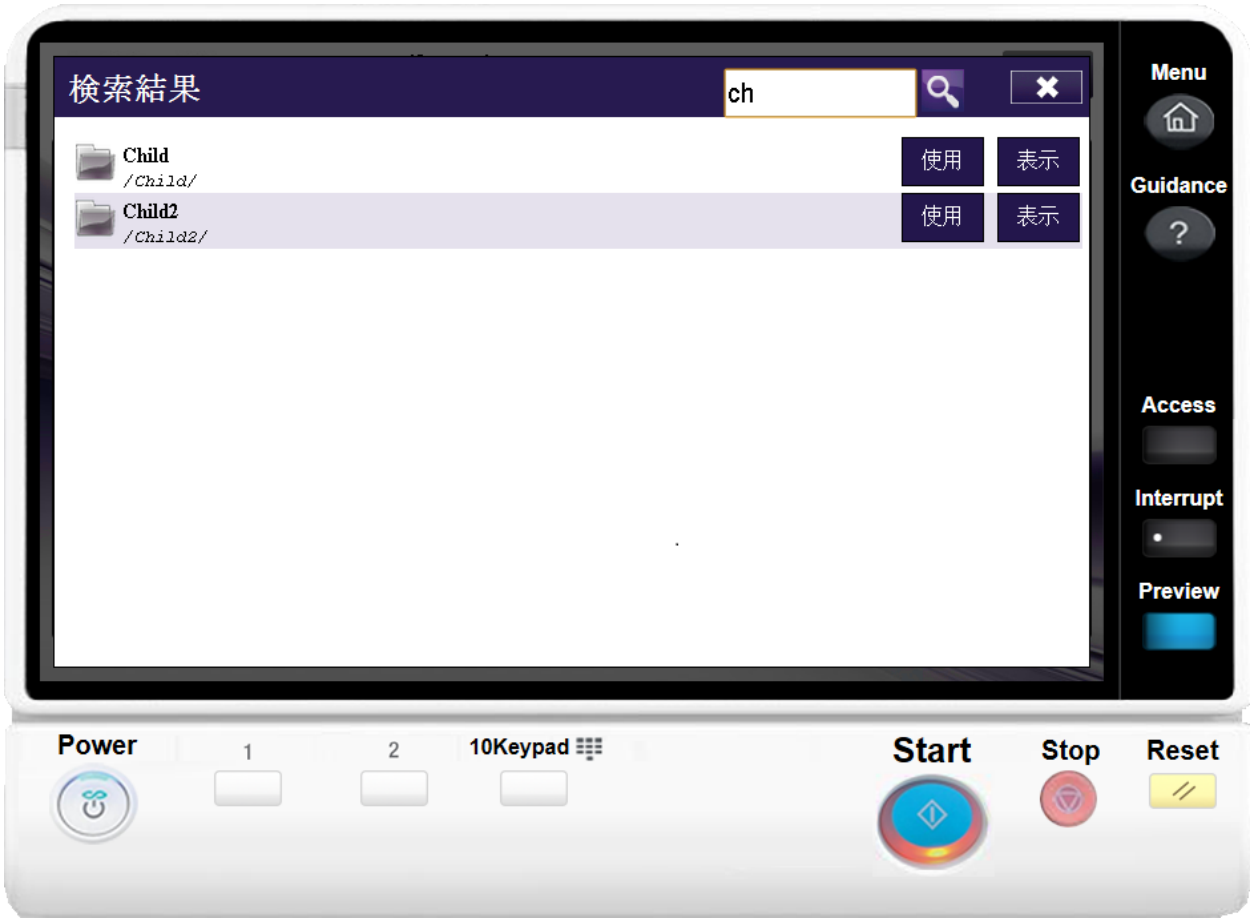
複合機でのWebDAVインデックスフォーム

複合機では、WebDAVインデックスフォームは以下のように3つの独立した画面に分割されます。



表示されるフォルダーのリストを絞り込むための **[検索]** フィールドが用意されています。このフィールドでサポートされている先行入力機能は、画面に表示されるフォルダーをすばやく絞り込むのに役立ちます。フィールドに文字を入力し始めると、入力された文字に応じてフォルダーが絞り込まれていきます（現在のパスから1階層下のサブフォルダーだけが検索されます）。

- ワイルドカードのアスタリスク(＊)を使用して、任意の文字列を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「inv*」と入力すると、この3文字で **始まる** フォルダーがすべて表示されます(inv01、inv02、invoiceなど)。または、[検索]フィールドに「*inv」と入力すると、この3文字で **終わる** フォルダーがすべて表示されます(01inv、02invなど)。
- ワイルドカードのクエスチョンマーク(?)を使用して、任意の1文字を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「ch?」と入力すると以下のようなフォルダーが表示されます。



[検索]フィールドを使用してフォルダーのリストを絞り込んだ後に、以下の操作を行うことができます。

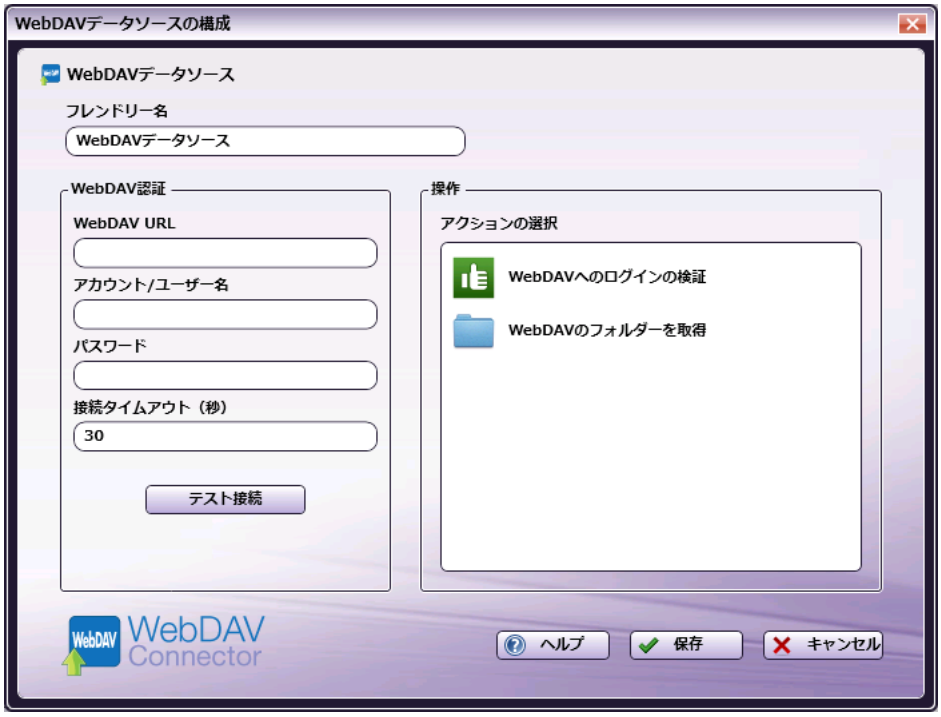
- 特定のフォルダーを選択するには、そのフォルダーの **[使用]** ボタンをタップします。
- 特定のフォルダーのディレクトリ構造表示に戻るには、そのフォルダーの **[表示]** ボタンをタップします。
- フィルターを解除するには、[検索]フィールドの隣にある ボタンをタップします。
- 検索基準を再び適用するには、フィールドの隣にある **[検索]** アイコンをタップします。

データベース参照 - WebDAV構成

WebDAVサーバーからデータ(フォルダーのリスト、検証など)を取得するためのクエリーを手動で構成することもできます。

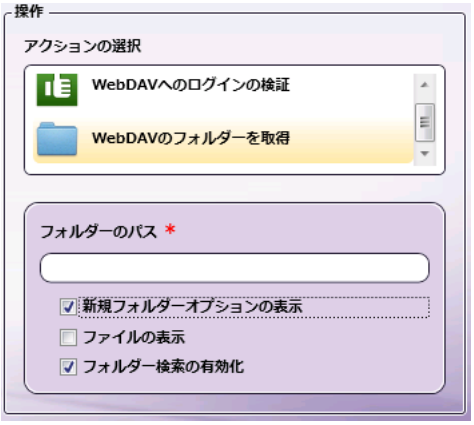
インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[WebDAVデータソース]** を選択します。
4. これにより表示される[WebDAVデータソースの構成]ウィンドウでは、WebDAVサーバーからデータを取得するための特定のアクションを実行できます。



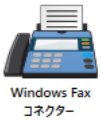
以下の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、WebDAVデータソースの構成を識別する名前を入力します。
- **[WebDAV認証]** 領域に、WebDAVサーバーに接続するために必要な情報を入力します。
- **[テスト接続]** ボタンを選択して、WebDAVサーバーに正しく接続していることを確認します。
- **[操作]** 領域で、WebDAVデータソースに対して実行するアクションの種類を選択します。オプションは次のとおりです。
  - ***[WebDAVへのログインの検証]*** - このアクションは、複合機で入力されたログイン資格情報（ユーザー名とパスワード）をWebDAVデータソースと照合して検証するために使用します。このアクションは、次のレコードを返します。
    - [結果] - ログインの結果: trueまたはfalse
    - [メッセージ] - 成功または失敗したログインに関するテキスト
  - ***[WebDAVのフォルダーを取得]*** - このアクションは、指定したWebDAVサーバールートパスのフォルダーのリストを表示するために使用します。[WebDAVのフォルダーを取得]項目を選択した場合は、以下のフィールドを構成できます。



  - **[フォルダーのパス]** フィールドに、WebDAVサーバーのルートパスを入力します。
  - 複合機パネルでスキャンしたドキュメントを格納する新規フォルダーを作成できるようにするには、**[新規フォルダーオプションの表示]** オプションにチェックマークを付けます。
  - 複合機パネルで各サブフォルダーに含まれるファイルのリストを表示するには、**[ファイルの表示]** オプションにチェックマークを付けます。
  - **[フォルダー検索の有効化]** - このオプションにチェックマークを付けると、パネルに表示されるWebDAVフォルダーのリストを絞り込むための[検索]フィールドが表示されます。[検索]フィールドでは先行入力機能がサポートされています。このオプションは既定で有効になっています。

Windows Faxコネクター



Windows Faxコネクター ノードは、新規および既存のDispatcher Phoenixワークフローがローカルの FAXモデムを介してファイルを配信できるように設計されています。Fax配信ノードを介してルーティングされたドキュメントはすべてノード設定ウィンドウ、ノードメタデータ、または複合機のデータ入力で指定された受信者に送信できます。必要に応じて、Fax送信される各アイテムに送付状を含めることができます。これには、送信者の名前、受信者の名前、その他の追加のメモなど、Fax送信されるドキュメントに関する追加のメタデータが含まれます。

Windows Faxコネクター ノードを設定する前に、お使いのFAXモデムまたはサーバーがWindows FAXとスキャンのユーザーガイドに従って設定されていることを確認してください。さらに、**[Windows FAXとスキャン]** を開きます。次に、**[FAXの設定]** に移動してモデムまたはサーバーのいずれかのFAXデバイスを選択し、事前設定プロセスを完了します。

既定では、FAXモデムを使用している場合、Windows Faxサービスでは、管理者は一部のオペレーティングシステムでのみFaxを送信できます。シングルユーザーアクセスまたは追加のグループアクセスを有効にするには、Microsoft FAXサービスマネージャーのすべてのFAXコンポーネントに権限を付与する必要があります。

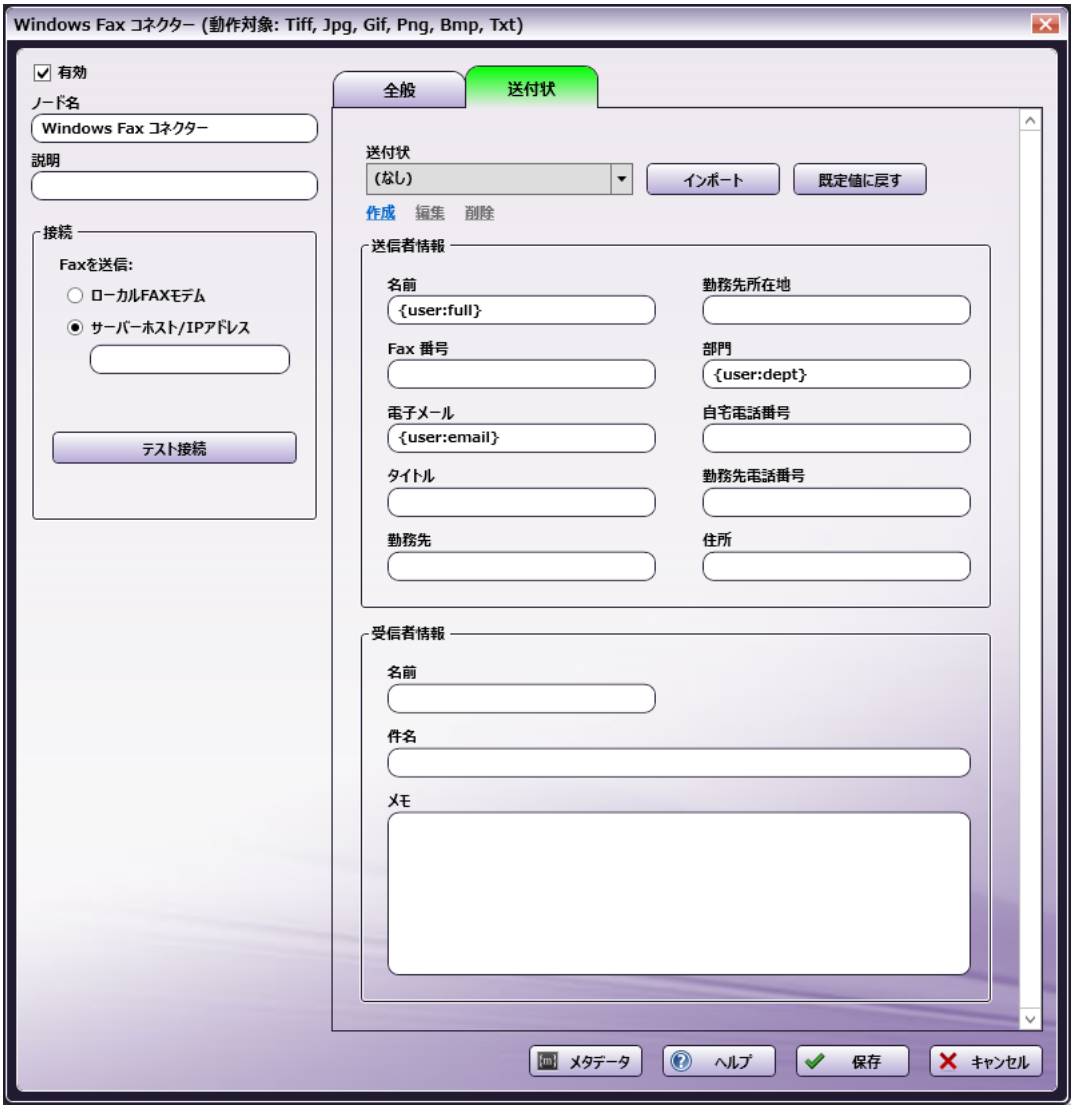
[Windows Faxコネクター] ノードの構成ウィンドウを開くには、Windows Fax配信ノードを追加して、それをダブルクリックします。

以下の操作を実行します。

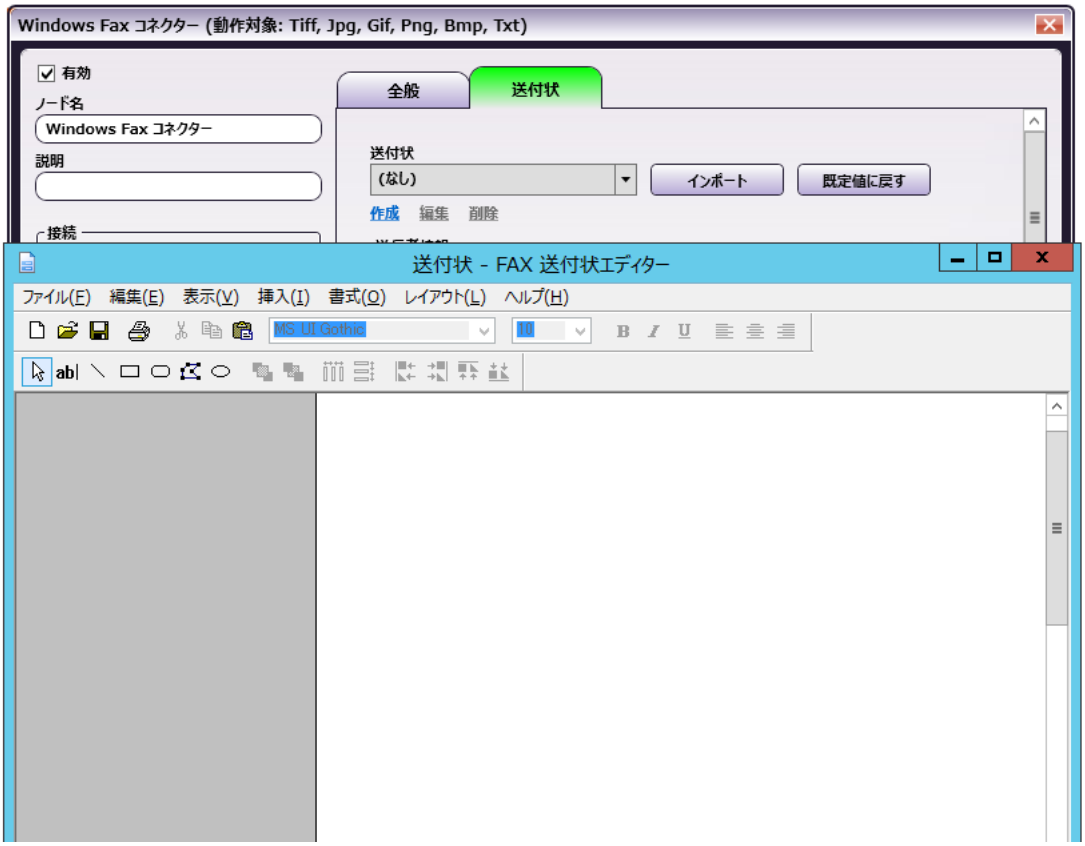
1. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認してください。チェックを外すと、この出力は無視されます。ワークフローは検証されますが、ドキュメントは配信されずに失われる可能性があります。
2. **[ノード名]** フィールドに、Windows Faxコネクターノードのわかりやすい名前を入力します。
3. **[説明]** フィールドに、Windows Faxコネクターの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の配信ポイントを区別するのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを移動するとその内容全体を読むことができます。
4. **[接続]** 領域で、Faxの送信方法を選択します。
    - **[ローカルFAXモデム]** :PCに接続されたFAXモデムと電話回線を使用してワークフローからドキュメントを送信する場合に選択します。
    - **[サーバーホスト/IPアドレス]** :FAXサーバーを使用してFaxでファイルを配信する場合に選択します。
5. システムがFaxでドキュメントを配信するように正しく設定されていることを確認するには、**[テスト接続]** ボタンを使用します。
6. **[全般]** タブには、受信者の番号とFax設定をするためのフィールドがあります。これらのフィールドは、スキャン時に複合機でアクセスして記入することもできます。
    - **[Fax設定]** を設定します。
        - **[受信者の番号]** :Fax送信先の受信者の番号を入力します。このフィールドには、複数の番号をカンマで区切った単一のFax番号のリストを含めることができます。例: 1-555-123-4567, 1 5551234567または4567。
        - **[ドキュメントをいつFaxするか選択]** :ラジオボタンを選択します。
            - **[すぐに送信]** - FaxはファイルがWindows Faxコネクターを介して出力されるとすぐに送信されます。
            - **[予定日時に送信]** - Faxを受信者に送信する特定の日時を選択します。
7. **[送付状]** タブには、Faxに含めることができる送付状を選択、および、カスタマイズできるフィールドがあります。注: [送付状]タブのすべてのフィールド、および[全般]タブの[受信者の番号]フィールドにはメタデータが使用できます。フィールドに追加するメタデータを参照するには、**[メタデータ]** ボタンをクリックすると **[メタデータブラウザー]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用して、**[メタデータブラウザー]** から適切なテキストフィールドにメタデータ変数をドラッグアンドドロップすることができます。
8. Windows Faxコネクター出力ノードの設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを、変更を保存せずに終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択します。

送付状の挿入

Faxで送信される送付状を挿入するには、**[Windows Faxコネクター]** ノードを開き、設定ウィンドウの **[送付状]** タブに移動します。

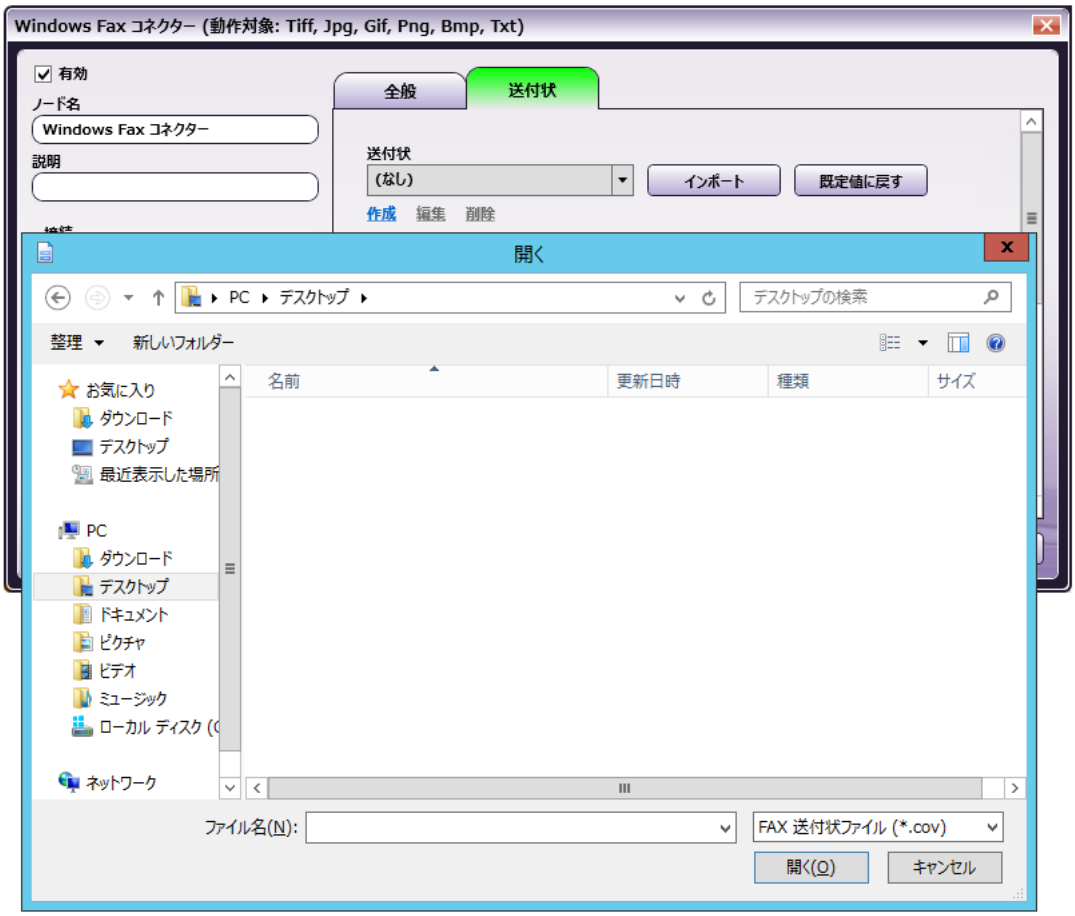


1. **[送付状]** ドロップダウンから、送付状に使用するテンプレートを選択します。既定では、Windows Faxコネクターには、Microsoft FAX送付状（Confident、fyi、Generic および Urgent）が付属しています。
    - 新しい送付状テンプレートを作成するには、送付状ドロップダウンの下にある **[作成]** をクリックします。**[送付状エディター]** が別ウィンドウで開きます。**[送付状エディター]** は、Windows FAXで使用する送信用送付状の作成と編集を可能にする **[Windows FAXとスキャン]** ツールです。



注: 送付状エディターによって作成された新しい送付状は、次のパスのフォルダーに自動的に保存されます。C:\Users\%ユーザー%\Documents\Fax\Personal CoverPages。この場所に保存されている送付状は自動的にDispatcher PhoenixのProgramDataにコピーされ、送付状のドロップダウンリストに表示されます。このため、他の場所に保存されている送付状はDispatcher Phoenix Windows Faxコネクターにインポートする必要があります。

- 既存のテンプレートを編集するには、ドロップダウンからテンプレートを選択して **[編集]** をクリックします。
- 利用可能な送付状テンプレートリストからテンプレートを削除するには、**[削除]** をクリックします。
- 新規またはカスタム送付状をドロップダウンリストにインポートするには、**[インポート]** ボタンをクリックします。次に、ファイルエクスプローラーから送付状を選択し、[開く]をクリックします。



- 送付状のテンプレートを規定の設定に戻すには、[規定値に戻す]ボタンを選択します。次に、リストから目的の送付状を選択して、下の図のように **[選択を復元]** をクリックします。

2. **[送信者情報]** 領域で、送付状の送信者情報を設定します。
   - **[名前]** - 既定では、このフィールドにはWindowsにログインしているユーザーのフルネームのシステムメタデータキーが自動的に入力されます。
   - **[Fax番号]** - Fax送信元のFax番号を指定します。
   - **[電子メール]** - 既定では、このフィールドにはWindowsにログインしているユーザーの電子メールアドレスのシステムメタデータキーが自動的に入力されます。
   - **[タイトル]** - 送信者の役職を入力します。
   - **[勤務先]** - Faxの送信元の組織を指定します。
   - **[勤務先所在地]** - 組織に複数の場所がある場合、このフィールドを使用して場所を指定します。

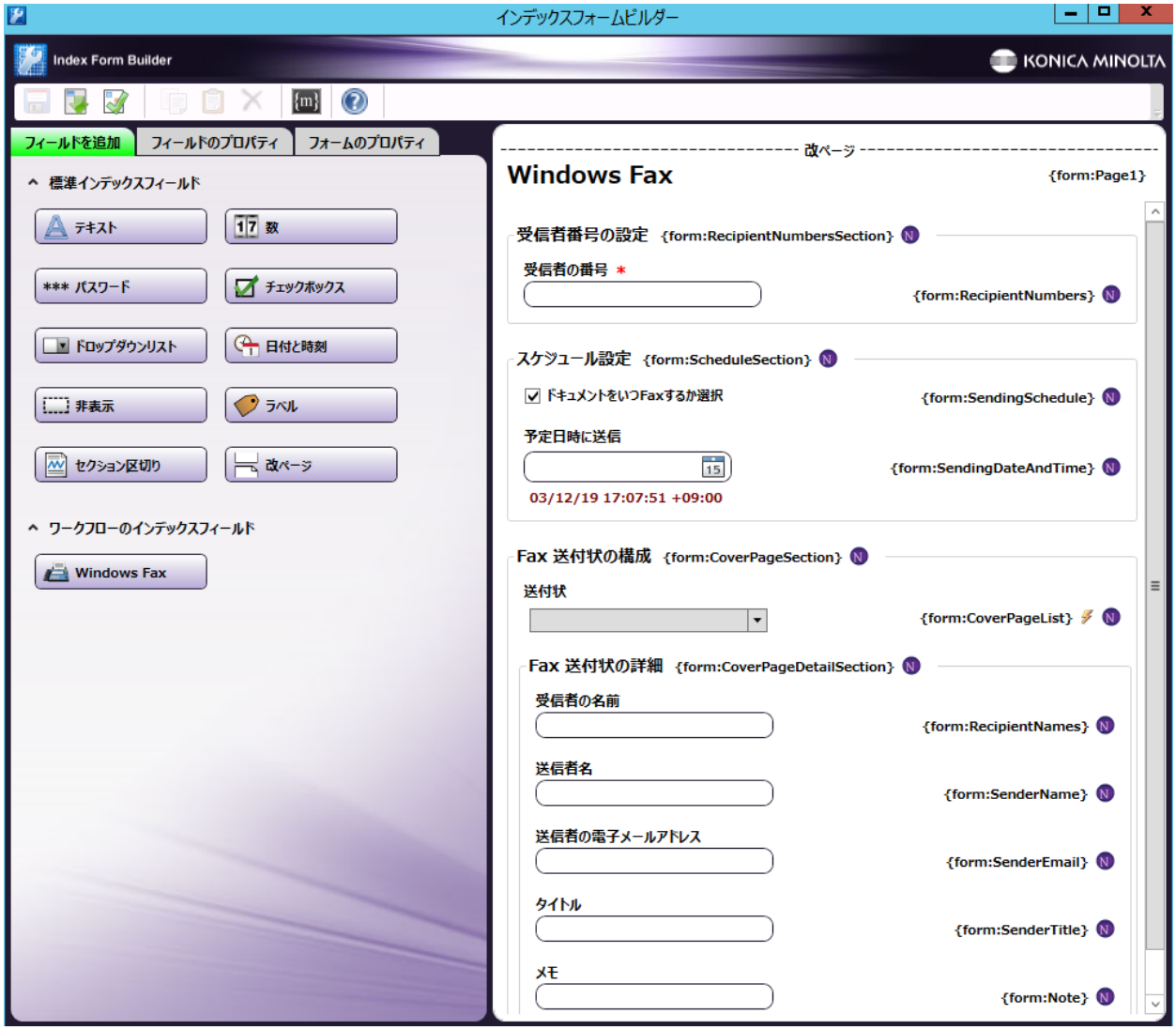
- **[部門]** - 既定では、このフィールドにはWindowsにログインしているユーザーの部門のシステムメタデータキーが自動的に入力されます。
- **[自宅電話番号]** - 送信者の自宅の電話番号を入力します。
- **[勤務先電話番号]** - 送信者の勤務先電話番号を入力します。
- **[住所]** - 送信者の住所を指定します。

3. **[受信者情報]** 領域で、送付状に記載される受信者情報を入力します。
   - **[名前]** - 受信者の名前を入力します。
   - **[件名]** - 送信するFaxの件名を指定します。
   - **[メモ]** - 送信するFaxにメモを追加します。

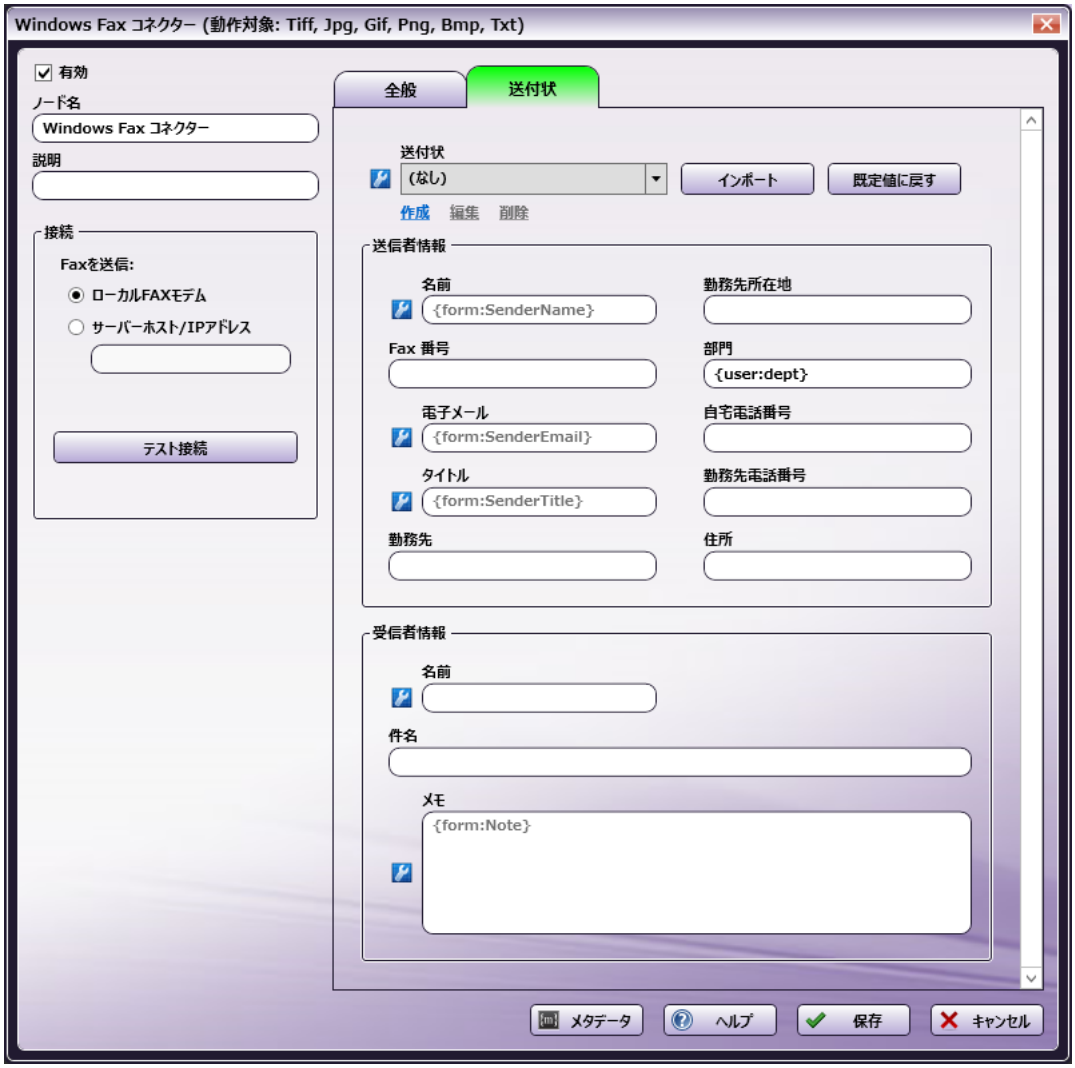
Windows Faxコネクター インデックスフォームの作成

複合機で**Windows Faxコネクター** ノードをカスタマイズできるインデックスフォームを作成できます。以下の操作を実行します。

1. ワークフローに **[複合機パネルノード]** と **[Windows Faxコネクターノード]** が含まれていることを確認します。
2. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。ワークフローインデックスフィールド領域の下に[Windows Fax]ボタンが表示されます。
3. [Windows Fax]ボタンを[インデックスフォーム]作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図のように、既定のWindows Faxコネクターのプロパティ インデックスフォームが自動的に表示されます。



4. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
5. **[Windows Faxコネクター]** ノードのプロパティウィンドウには、インデックスフォームのフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウのフィールドを編集することはできませんが、レンチツールボタンをクリックしてインデックスフォームビルダーのそのセクションまたはフィールドに移動することができます。次の図を参照してください。

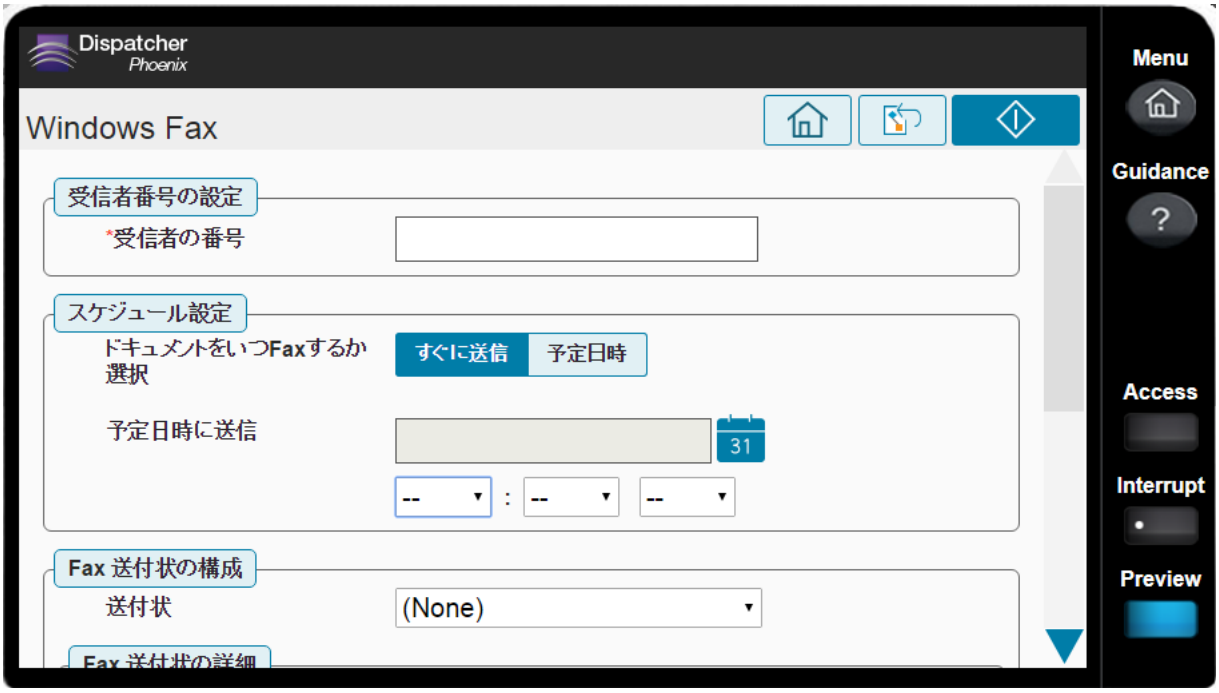


複数の入力でWindows Faxコネクター インデックスフォームを使用する

Windows Faxコネクターノードを複合機パネルノードのインデックスフォームに関連付けると、Faxへの接続とルーティングに必要なすべての情報が複合機に入力されます。このため、ワークフロー内の他の種類の収集ノード（入力フォルダー、複合機など）をそのインデックス付きのWindows Faxコネクターノードに接続することはできません。他の収集ノードをワークフローに追加する必要がある場合は、インデックスフォームに接続されていない新しいWindows Faxコネクターノードを追加する必要があります。

複合機でのWindows Faxコネクターインデックスフォーム

複合機で、Windows Faxインデックスフォームは次のように表示されます。



データベース クエリー

Windows Faxから送付状のテンプレートを取得するようにクエリーを手動で構成することもできます。

インデックスフォームビルダーを使用して、次の操作を実行します。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**[クエリー]** を追加します。
3. [クエリー]ドロップダウンリストから、[Windows Faxコネクターデータソース]を選択します。
4. 次の図のように、**[Windows Faxコネクターデータソース設定]** ウィンドウが表示されます。

5. **[保存]** をクリックします。次に、**[インデックスフォームビルダーツール]** を保存して閉じます。

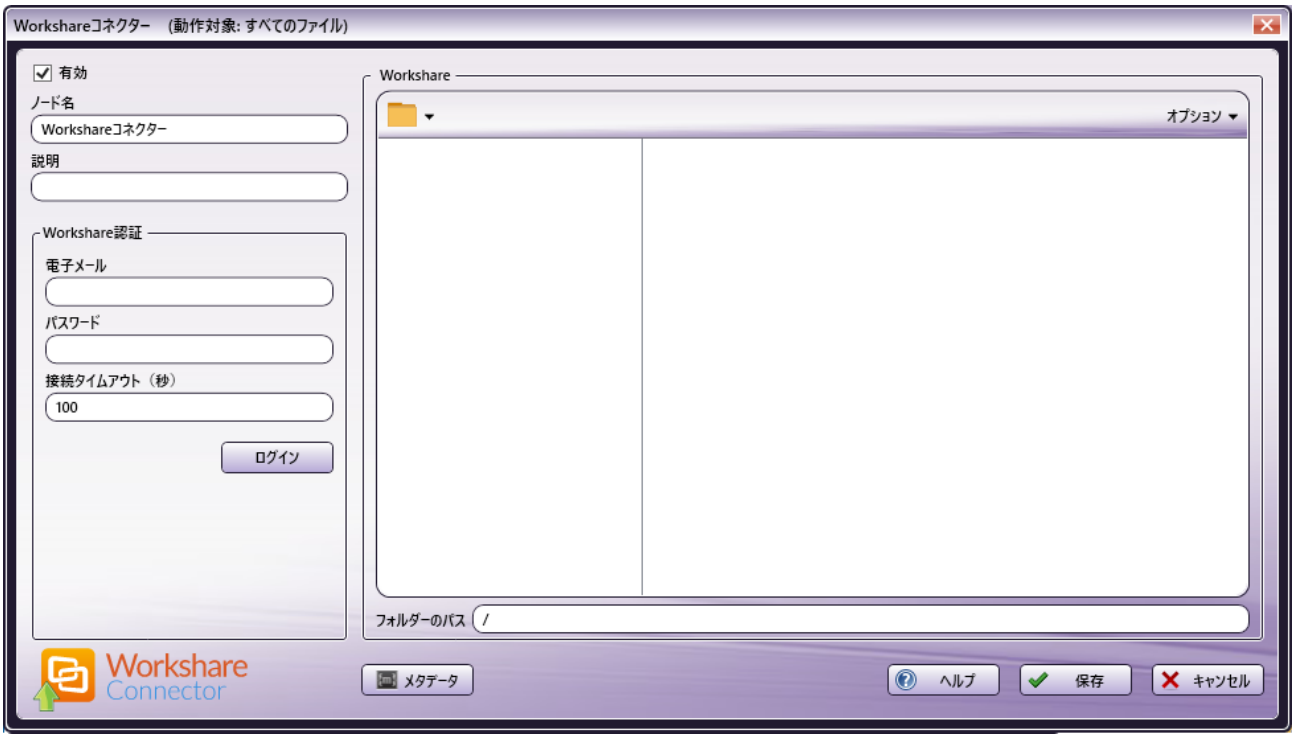
Workshareコネクター

*日本では販売していないノードです。

Workshareコネクターノードを使用すると、ファイルの共有とコラボレーションのためのアプリケーションであるWorkshareにドキュメントを配信できます。自動化されたワークフローを介してドキュメントをWorkshareに送信することも、直接複合機パネルでWorkshareにアクセスすることもできます。

注: このコネクターを使用するには、Workshareのアカウントを持っている必要があります。

Workshareコネクターノードのプロパティウィンドウを開くには、Workshareの出力ノードをワークフローに追加して、そのノードをダブルクリックします。



- 複数の出力場所がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合は、この出力は無視されます。ワークフロー側では引き続き検証される一方で、ドキュメントは出力されなくなるため失われる可能性があります。
- **[ノード名]** フィールドに、Workshareコネクターノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、Workshareコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先ノードを互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

Workshareコネクターの構成

Workshareコネクターを構成するには、まず自分のアカウントに接続するためにWorkshareから認証トークンを受け取る必要があります。そのためには、ノードのプロパティウィンドウにWorkshare資格情報を入力します。

Workshareへの接続

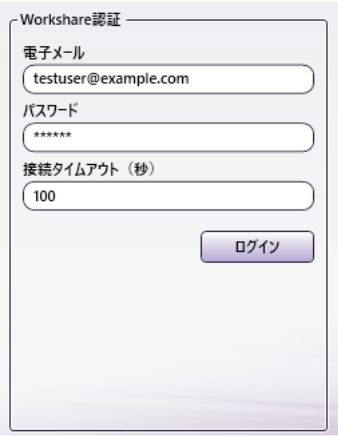
最初に、Workshare資格情報を入力する必要があります。以下の操作を行います。

1. **[Workshare認証]** 領域の **[電子メール]** フィールドと **[パスワード]** フィールドに、Workshare資格情報を入力します（アカウントの設定時に使用した電子メールアドレスとWorkshareのパスワード）。認証要求が正常に処理されてWorkshareからトークンを受け取ったら、そのトークンが無効になる（期限切れになる）までは、資格情報を再入力することなくフォルダー操作（フォルダーの参照や新規作成など）を行うことができます。

   自動化されたワークフロー（入力フォルダーからWorkshareへの自動ファイルアップロードなど）を作成する際は、Workshareから有効なトークンを受け取るために、Workshareノードのプロパティウィンドウから少なくとも1回はWorkshareにログインする必要があります。

2. 必要に応じて、**[接続タイムアウト]** フィールドで、サーバーに最初に接続した後に通信が行われなくなってからタイムアウトになるまでの時間として割り当てられている秒数を変更します。タイムアウトの既定値は、100秒です。

3. 完了したら、**[ログイン]** ボタンを選択します。認証に成功すると、次の図に示すように、**[セッションのクリア]** ボタンが新たに表示されます。



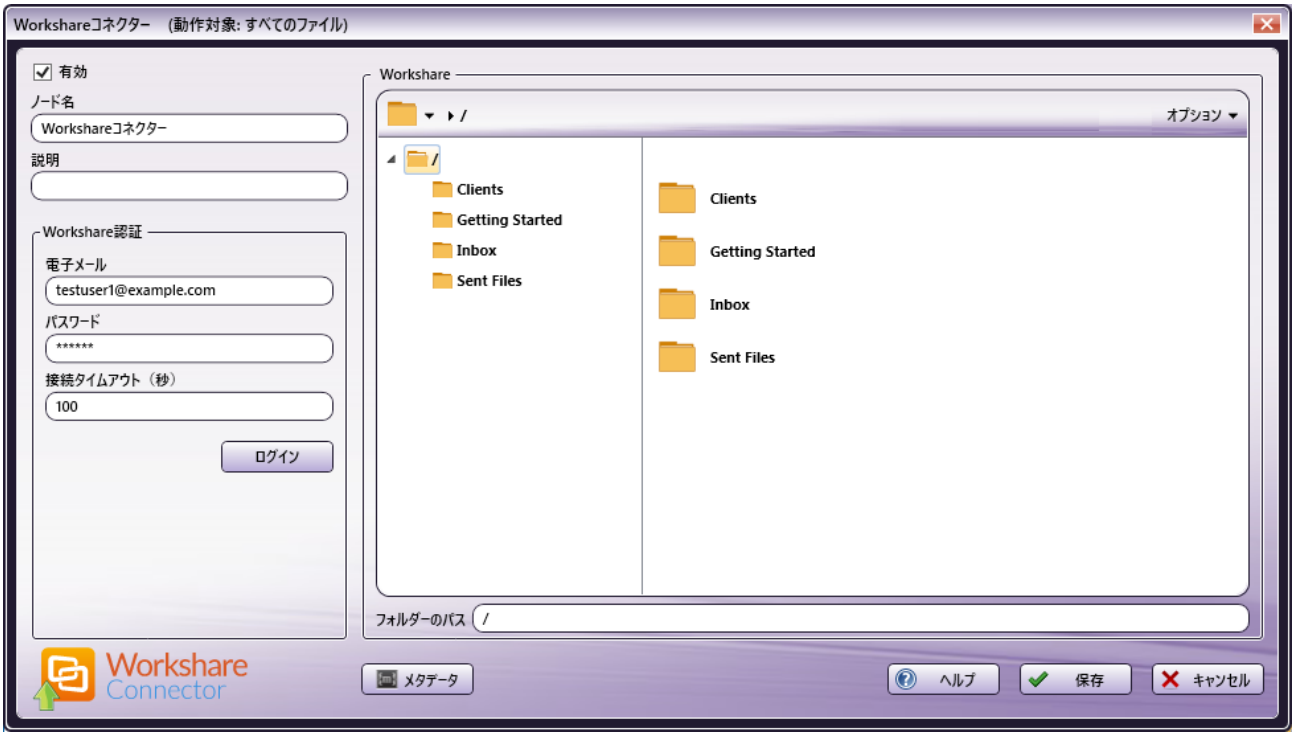
認証データが無効になったときは、[セッションのクリア]ボタンを使用できます。この場合は、以下の操作を行います。

1. **[セッションのクリア]** ボタンを選択します。
2. **[電子メール]** フィールドと **[パスワード]** フィールドに、Workshare資格情報を再び入力します。
3. 完了したら、**[ログイン]** ボタンを選択します。

フォルダーの選択

接続すると、Workshareノードのプロパティウィンドウの右側に、Workshare内のフォルダー、サブフォルダー、およびファイルがツリー形式で表示されます。この領域では、フォルダー構造を参照して、ドキュメントの保存先フォルダーを選択できます。

以下の図では例を示しています。

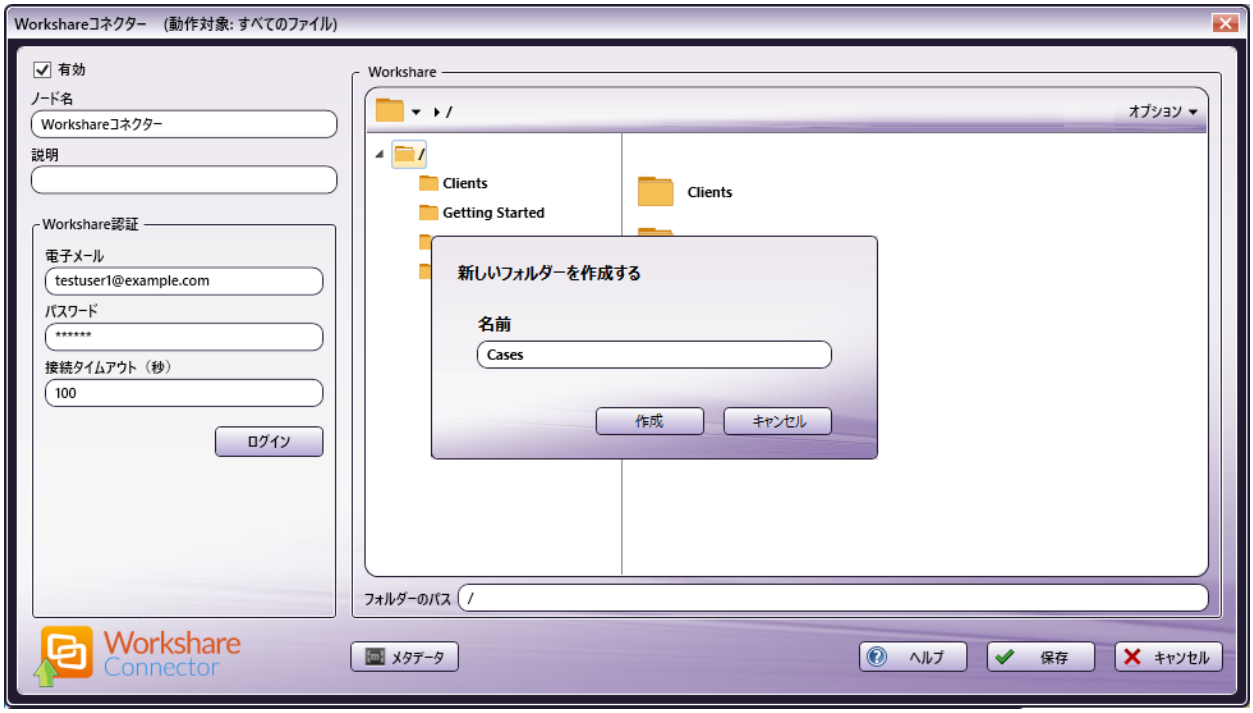


新規フォルダーへのドキュメントの送信

ドキュメントの送信先となる新規フォルダーをWorkshare内に作成することもできます。次のいずれかの操作を行います。

- **[オプション]** ドロップダウンメニューから **[新規フォルダー]** オプションを選択するか、**Ctrl**+**Shift**+**N** キーを押します。

  表示される[新規フォルダーの作成]ウィンドウで、**[名前]** フィールドに新規フォルダーの名前を入力してから、**[作成]** ボタンを選択します。新しく作成されたフォルダーが、[フォルダー]ビューに表示されます。次の図では、「Cases」という名前の新しいフォルダーが作成されています。



- **[フォルダーのパス]** フィールドに、新規フォルダーの名前を入力します。
- メタデータを使用して、実行時のフォルダーパスを指定します。

  たとえば、ゾーンOCRを使用して受信ドキュメントからクライアント名を抽出してから、そのOCRメタデータを[フォルダーのパス]フィールドで使用できます。この場合、クライアント名と同じ名前のフォルダーがWorkshare内に作成され、ドキュメントは実行時にその新規フォルダーへ自動的にアップロードされます。

  注: まだ存在していないフォルダー内にフォルダーを作成することはできません。たとえば、フォルダー内にフォルダーを作成するために2つの異なるメタデータ変数を使用することはできません（{bates:Counter}/{file:name}など）。

  メタデータを使用するには、以下の操作を行います。

  1. **[メタデータ]** ボタンを選択して、[メタデータブラウザー]ウィンドウを開きます。
  2. [メタデータブラウザー]ウィンドウで、目的のメタデータ変数を選択して、**[フォルダーのパス]** フィールドにドラッグアンドドロップします。

     必要に応じて、メタデータのページ番号をこの変数に手動で追加してください。たとえば、{ocr:zone.Name[1]}では、1ページ目のメタデータが検索されます。または、空の角カッコを追加することで（{ocr:zone.Name[]}など）、ドキュメント内の最初に存在するメタデータを検索できます。
  3. [メタデータブラウザー]ウィンドウの **[閉じる]** ボタンを選択します。

ファイル名の制約事項

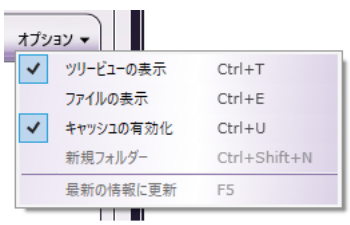
ファイル名には以下の制約があります。

- ファイル名の先頭と末尾にはスペースを使用できません。
- ファイル名の先頭に2個のピリオド（..）を使用することはできません。
- 表示されない文字をファイル名に含めることはできません（タブ文字や改行文字など）。
- 次の文字は使用できません: < > : " / \ | ?*

表示オプション

ノードプロパティウィンドウの右上にある[オプション]ボタンを使用して、ウィンドウ内のWorkshareフォルダーの既定の表示方法を調整できます。以下の操作を行います。

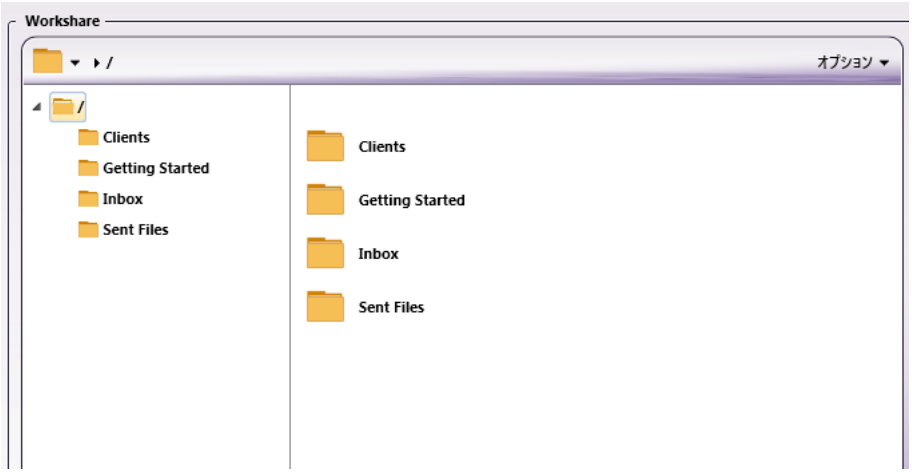
- **[オプション]** ボタンをクリックします。次のドロップダウンメニューが表示されます。



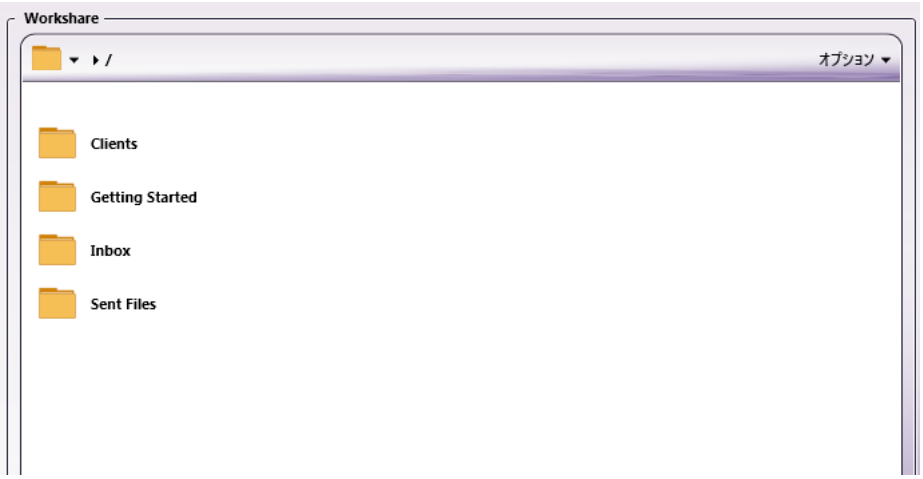
- 既定の表示方法をオフにするには、**[ツリービューの表示]** オプションのチェックを外すか、**[Ctrl+T]** キーを押します。

  次の図では、使用可能な2つのフォルダー表示方法を比較しています。

ツリー表示がオン



ツリー表示がオフ

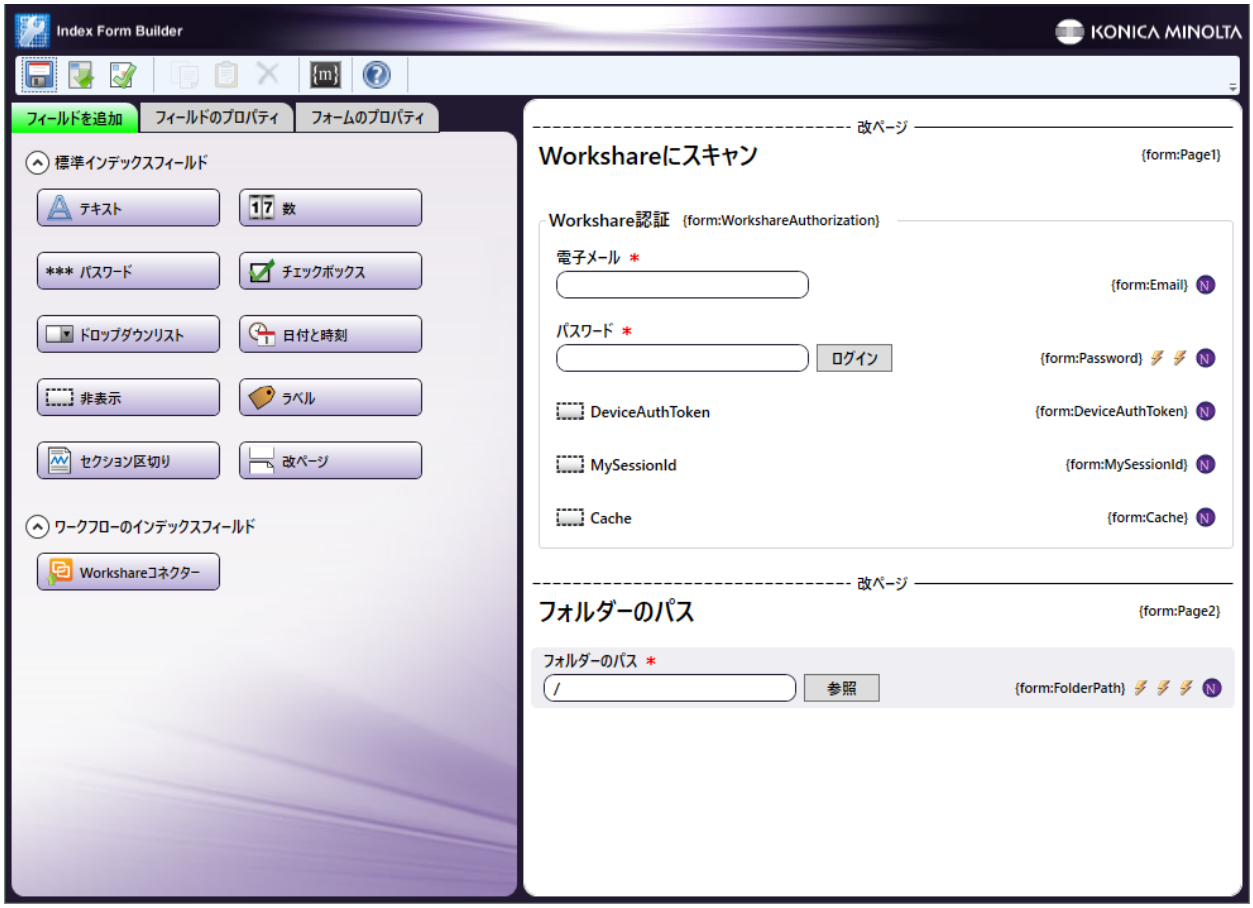


- Workshareフォルダーに保存されているファイルを非表示にするには、**[ファイルの表示]** オプションのチェックを外すか、**[Ctrl + E]** キーを押します。
- 既定では、**[キャッシュの有効化]** オプションは有効になっているため、Workshareコネクターはフォルダーを30分間キャッシュに保存でき、30分が経過した後はWorkshareに対して新しいデータを要求するようになります。このオプションを無効にした場合は、何らかの操作（複合機でのフォルダーの選択など）が実行されるたびにWorkshareに対してクエリーが発行されるため、パフォーマンスが低下する可能性があります。
- 現在の表示内容を更新して最新のフォルダーとファイルを表示するには、**[最新の情報に更新]** オプションを選択するか、**[F5]** キーを押します。

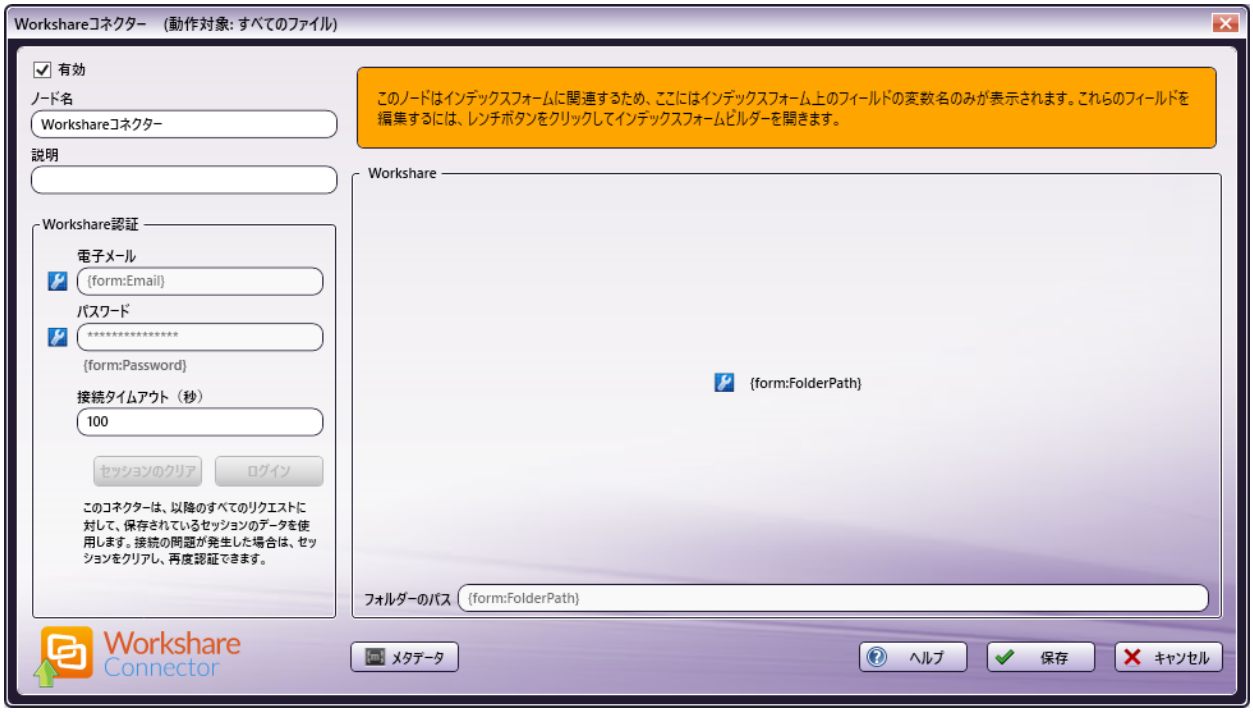
Workshareコネクターのインデックスフォームの作成

複合機でWorkshareにログインして（各種のアカウントを使用して）、スキャンされたドキュメントをWorkshareにアップロードすることを可能にするインデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

1. ワークフローに **複合機パネルノード** および **Workshareコネクター** ノードが含まれていることを確認します。
2. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に[Workshareコネクター]ボタンが表示されます。
3. **[Workshareコネクター]** ボタンを[インデックスフォーム]作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図に示すように、[スキャンしてWorkshareに保存]インデックスフォームが自動的に表示されます。



4. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。
5. Workshareコネクターノードのプロパティウィンドウには、このインデックスフォームにあるフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウでフィールドを編集することはできませんが、スパナツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダーで該当するセクションまたはフィールドに移動できます。次の図を参照してください。



複数の入力でのWorkshareコネクターインデックスフォームの使用

Workshareコネクターノードを複合機パネルノードのインデックスフォームに関連付けた後は、Workshareへの接続と転送のために必要なすべての情報は複合機で入力されます。このため、他のタイプの収集ノード（入力フォルダーや複合機など）を、ワークフロー内のそのインデックス付けされたWorkshareコネクターノードに接続することはできませ

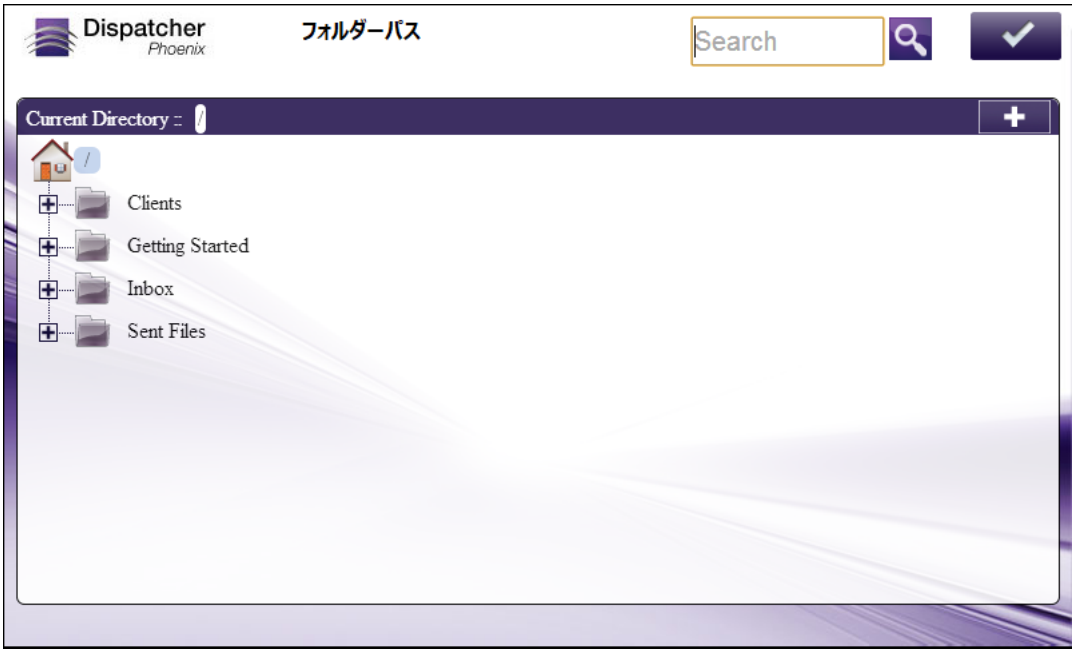
ん。この場合に、他の収集ノードをワークフローに追加する必要がある場合は、インデックスフォームに接続されていない新しいWorkshareノードを追加する必要があります。

複合機上のWorkshareインデックスフォーム

複合機では、Workshareインデックスフォームは以下のように3つの独立した画面に分割されます（ログインが必要な場合）。

1つ目の画面:Workshareへのログイン

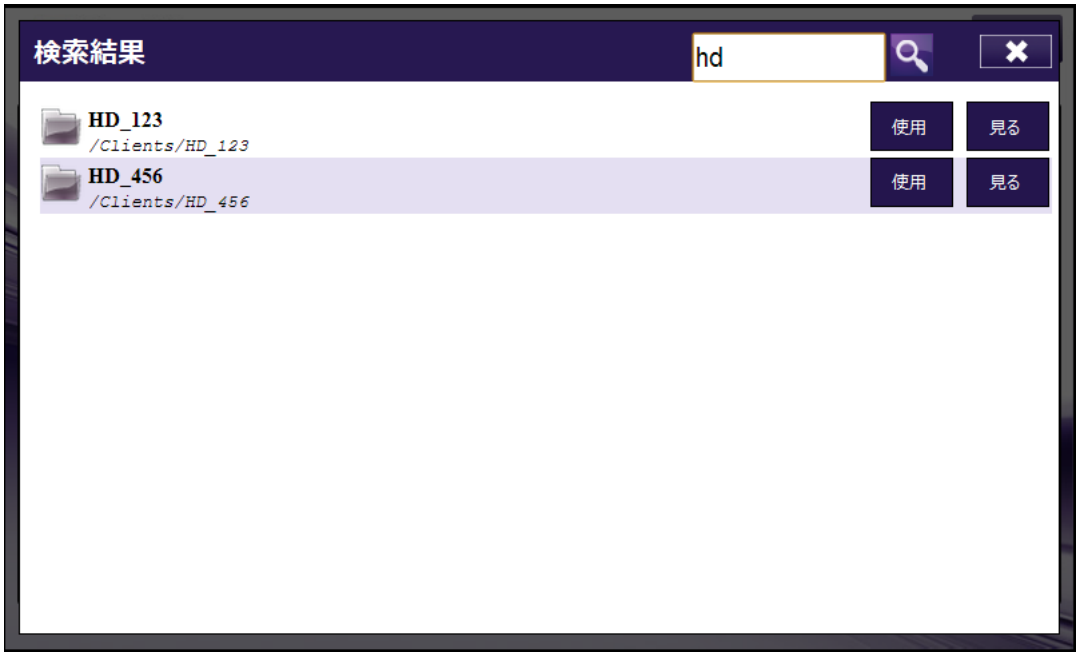
2つ目の画面:Workshareフォルダーの選択と新規作成



表示されるフォルダーのリストを絞り込むための **[検索]** フィールドが用意されています。このフィールドでサポートされている先行入力機能は、画面に表示されるフォルダーをすばやく絞り込むのに役立ちます。フィールドに文字を入力し始めると、入力された文字に応じてフォルダーが絞り込まれていきます。検索操作はルートディレクトリ内のすべてのフォルダーおよびサブフォルダーに対して実行されます。

- ワイルドカードのアスタリスク（* ）を使用して、任意の文字列を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「inv* 」と入力すると、この3文字で始まるフォルダーがすべて表示されます（inv01、inv02、invoiceなど）。または、[検索]フィールドに「*inv」と入力すると、この3文字で終わるフォルダーがすべて表示されます（01inv、02invなど）。
- ワイルドカードのクエスチョンマーク（?）を使用して、任意の1文字を表すことができます。たとえば、[検索]フィールドに「INV0?」と入力すると、INV01、INV02、INV03などのフォルダーが表示されます。

3つ目の画面:検索結果の表示



[検索]フィールドを使用してフォルダーのリストを絞り込んだ後に、以下の操作を行うことができます。

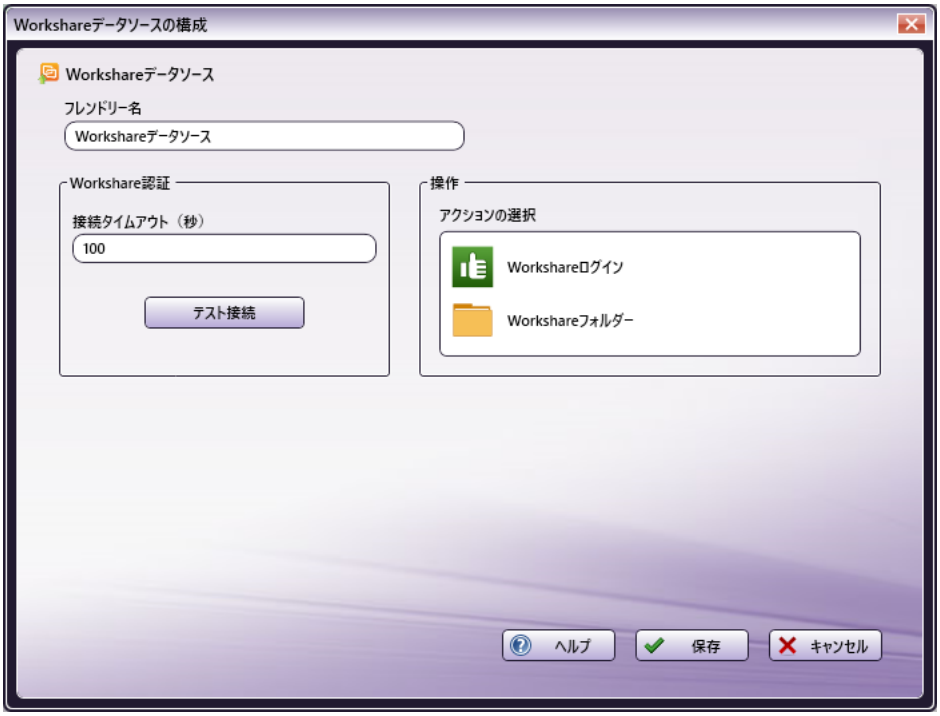
- 特定のフォルダーを選択するには、そのフォルダーの **[使用]** ボタンをタップします。
- 特定のフォルダーのディレクトリ構造表示に戻るには、そのフォルダーの **[表示]** ボタンをタップします。
- フィルターを解除するには、[検索]フィールドの隣にある **[x]** ボタンをタップします。
- 検索基準を再び適用するには、フィールドの隣にある **[検索]** アイコンをタップします。

データベース参照 - Workshare構成

Workshareからデータ(フォルダーのリストや検証など)を取得するためのクエリーを手動で構成することもできます。

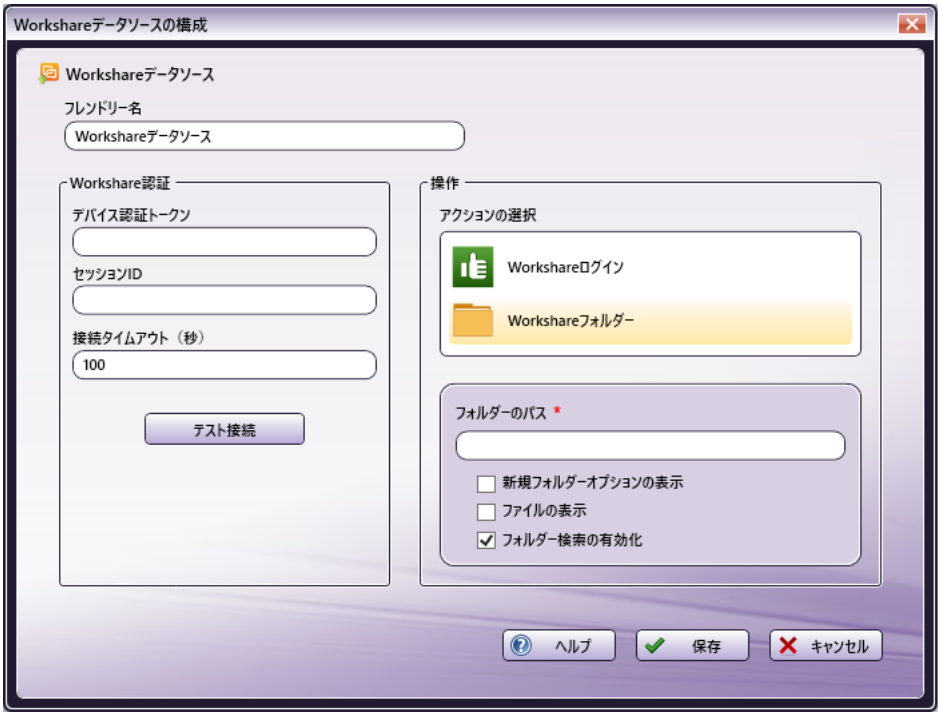
インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. このフィールドの **[ロード時]** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[Workshareデータソース]** を選択します。
4. これにより表示される[Workshareデータソースの構成]ウィンドウでは、Workshareからデータを取得するための特定のアクションを実行できます。



以下の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、Workshareデータソースの構成を識別する名前を入力します。
- **[操作]** 領域で、Workshareデータソースに対して実行するアクションの種類を選択できます。オプションは次のとおりです。
- ***[Workshareログイン]*** - このオプションをクリックすると、[Workshare認証]領域に[電子メール]フィールドと[パスワード]フィールドが表示されます。このオプションの目的は、複合機で入力されたログイン資格情報（電子メールとパスワード）をWorkshareデータソースと照合して検証することです。このアクションは、次のレコードを返します。
- [結果] - ログインの結果：trueまたはfalse。
- [メッセージ] - 成功または失敗したログインに関するテキスト。
- ***[Get Workshare Folders（Workshareのフォルダーを取得）]*** - このアクションを使用して、特定のWorkshareフォルダーパス内のフォルダーのリストを表示します。[Get Workshare Folders（Workshareのフォルダーを取得）]項目を選択すると、次の図のように構成に新しいフィールドが表示されます。



- **[フォルダーのパス]** - 複合機パネルに表示するWorkshareルートフォルダーの名前を入力します。
- **[新規フォルダーオプションの表示]** - このオプションにチェックマークを付けると、複合機で新しいWorkshareフォルダーを作成できるようになります。
- **[ファイルの表示]** - このオプションにチェックマークを付けると、複合機にWorkshareフォルダー内のファイルが表示されます。

- **[フォルダー検索の有効化]** - このオプションにチェックマークを付けると、パネルに表示されるWorkshareフォルダーのリストを絞り込むための[検索]フィールドが表示されます。[検索]フィールドでは先行入力機能がサポートされています。このオプションは既定で有効になっています。
- **[テスト接続]** ボタンを選択して、Workshareに正しく接続していることを確認できます。

Worldoxコネクター

*日本では販売していないノードです。

Worldoxコネクターノードを使用すると、ドキュメントなどのデータをスキャンしてWorld Software® CorporationのWorldox®ドキュメント管理システムに取り込んで、これらのドキュメントやデータにインデックス付けできます。ドキュメントは、自動化されたワークフローを介してWorldoxに送信できます。または、直接複合機パネルでドキュメントをスキャンしてWorldoxに取り込む前に、Worldoxにログインして、Worldoxのプロファイルグループとプロファイルフィールドを指定することもできます。

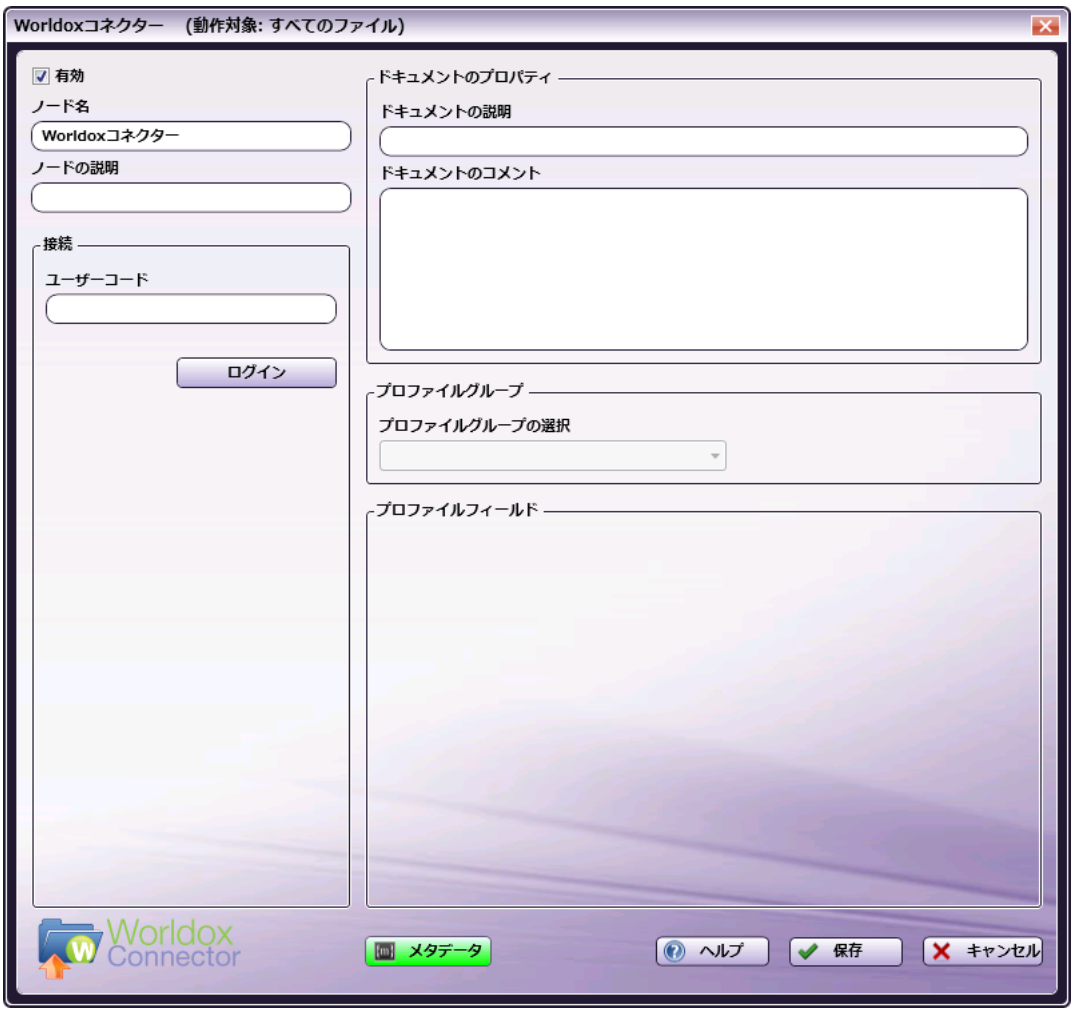
重要! Worldoxコネクターを使用するには、32ビットまたは64ビットシステム上で、32ビットバージョンのDispatcher Phoenixを実行している必要があります。

以下の要件を満たしている必要があります。

- **サポートされるバージョン:** Worldox GX2およびGX3。Worldox GX2は、Worldox GX3 Bridgeシステム（メンテナンス契約がアクティブなWorldox GX2カスタマーに無料で提供）経由でサポートされます。Worldox GX3 Bridgeの詳細は、Worldoxサポート（support@worldox.com）に電子メールでお問い合わせください。
- **オペレーティングシステム:** Windows 10またはそれ以降

開始する前に: Worldoxコネクターノードを使用する前に、Worldoxを使用するようにDispatcher Phoenixを構成する必要があります。メインアプリケーション画面で、**[ツール]** メニュープルダウンリストから **[オプション]** 項目を選択して、[Worldoxの構成]ウィンドウにアクセスします。

Worldoxコネクターノードのプロパティウィンドウを開くには、Worldoxの出力ノードをワークフローに追加して、そのノードをダブルクリックします。



- 複数の出力場所がある場合は、**[有効]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合は、この出力は無視されます。ワークフロー側では引き続き検証される一方で、ドキュメントは出力されなくなるため失われる可能性があります。
- **[ノード名]** フィールドに、Worldoxコネクターノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、Worldoxコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先ノードを互いに区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。

Worldoxへの接続

最初に、Worldoxに接続する必要があります。以下の操作を行います。

- **[接続]領域の[ユーザーコード]** フィールドに、Worldoxユーザーコードを入力します。入力するユーザーコードによって、使用可能なプロファイルグループとプロファイルフィールドが設定されます。
- **[ログイン]** ボタンを選択します。

  ログインできたら、次の図のようにログインしたユーザーの情報が表示されます（ユーザーのイニシャル、名前、ユーザータイプ（[ユーザー]または[マネージャー]）、一意のユーザーIDなど）。

注: ユーザーコードが不明な場合は、Worldox管理者にお問い合わせください。

ドキュメントのプロパティ

スキャンしたドキュメントのドキュメントプロパティを指定します。

- **[ドキュメントの説明]** - ドキュメントの名前/説明を入力します。

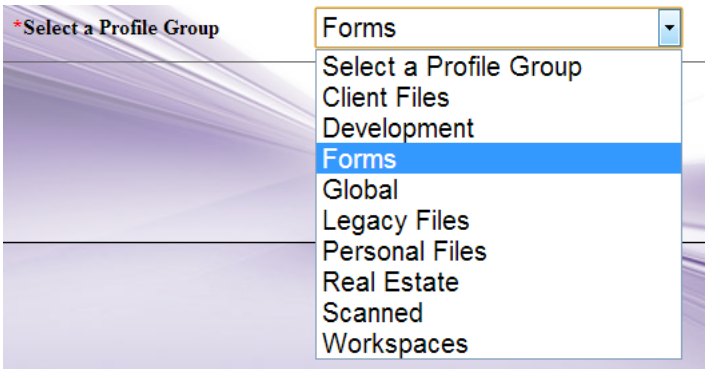
  注: Worldox Clientでは、各ドキュメントに一意のIDが自動的に割り当てられます。[ドキュメントの説明]フィールドは、通常はファイル名を格納するために使用されます。Dispatcher Phoenixのファイル名をWorldoxに統合するには、[ドキュメントの説明]フィールドで{file:name}というファイルレベル変数を使用します。

- **[ドキュメントのコメント]** - Worldox内のドキュメントに付加する任意のコメントを入力します。

  注: Worldoxでは使用可能な機能ですが、このコネクターを使用してファイルのセキュリティ設定を指定することはできません。これらのフィールドでは、メタデータ変数も使用できます。**[メタデータ]** ボタンをクリックして[メタデータブラウザー]ウィンドウを開き、Worldoxのこれらのフィールドに入力するために使用するメタデータをドラッグアンドドロップします。

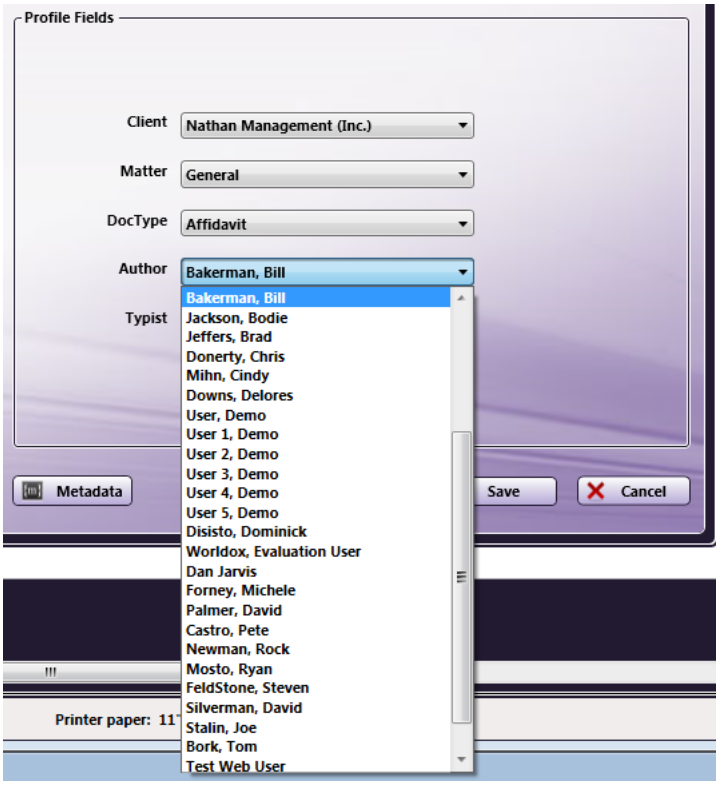
プロファイルグループ

Worldoxのドキュメントは、プロファイルグループを使用して編成されます。プロファイルグループには、そのプロファイルグループに属するドキュメントを説明する一連の一意のフィールドが含まれています。たとえば、管理ドキュメントと管理フォーム用に割り当てられたプロファイルグループもあれば、訴訟に関するドキュメント用のプロファイルグループもあります。



[プロファイルグループの選択] ドロップダウンリストには、当該ログイン済みユーザーが使用できるプロファイルグループのみが表示されます。

このドロップダウンリストから任意の **プロファイルグループ** を選択します。これにより、そのプロファイルグループに関連付けられたプロファイルフィールドが、下の[プロファイルフィールド]領域に表示されます。



プロファイルフィールド

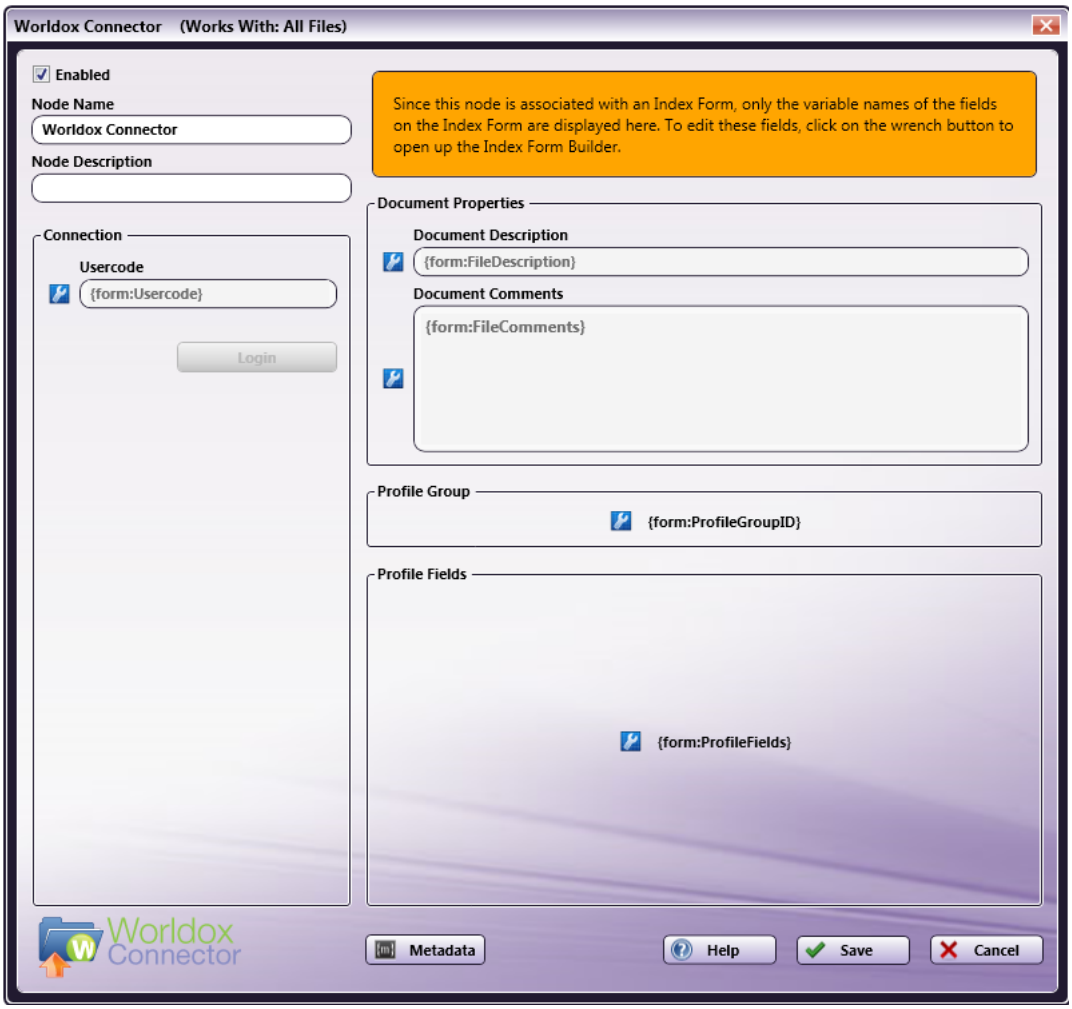
Worldoxのドキュメントをさらに細かく編成するには、主要なドキュメント属性であるプロファイルフィールドを使用して情報を指定できます。Worldoxの各ドキュメントには、プロファイルフィールドが関連付けられます。Worldoxのプロファイルフィールドには、[Client（クライアント）]や[Matter（内容）]などの基本的なドキュメント情報が含まれています。使用可能なプロファイルフィールドおよびプロファイルデータは、選択したプロファイルグループによって異なります。

[プロファイルフィールド] ドロップダウンリストを使用して、プロファイル情報を選択します。

プロファイルフィールド同士はリンクされています。つまり、他のプロファイルフィールドに関連付けられたデータは、選択済みのプロファイルフィールドによって異なる可能性があります（たとえば、表示される[Matter（内容）]データは、選択済みの[Client（クライアント）]データにリンクされています）。

インデックスフォームでの使用

インデックスフォーム上でWorldoxコネクターノードを使用している場合は、ウィンドウには、そのインデックスフォームにあるフィールドの変数名が自動的に入力されます。このウィンドウでフィールドを編集することはできませんが、レンチツールボタンをクリックして、インデックスフォームビルダーで該当するセクションまたはフィールドに移動できます。次の図を参照してください。



複数の入力でのWorldoxコネクターインデックスフォームの使用

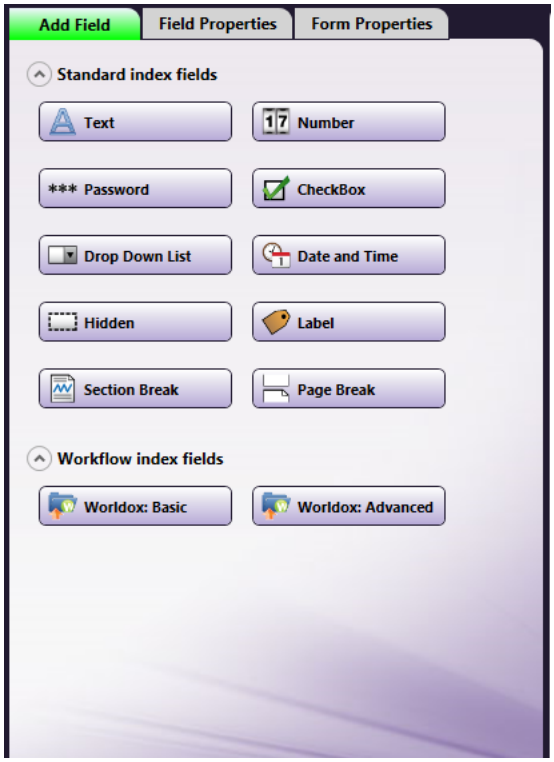
Worldoxコネクターノードを複合機パネルノードのインデックスフォームに関連付けた後は、Worldoxへの接続と転送のために必要なすべての情報は複合機で入力されます。このため、他のタイプの収集ノード（入力フォルダーや複合機など）を、ワークフロー内のそのインデックス付けされたWorldoxコネクターノードに接続することはできません。この場合に、他の収集ノードをワークフローに追加する必要がある場合は、インデックスフォームに接続されていない新しいWorldoxノードを追加する必要があります。

Worldoxインデックスフォームの作成

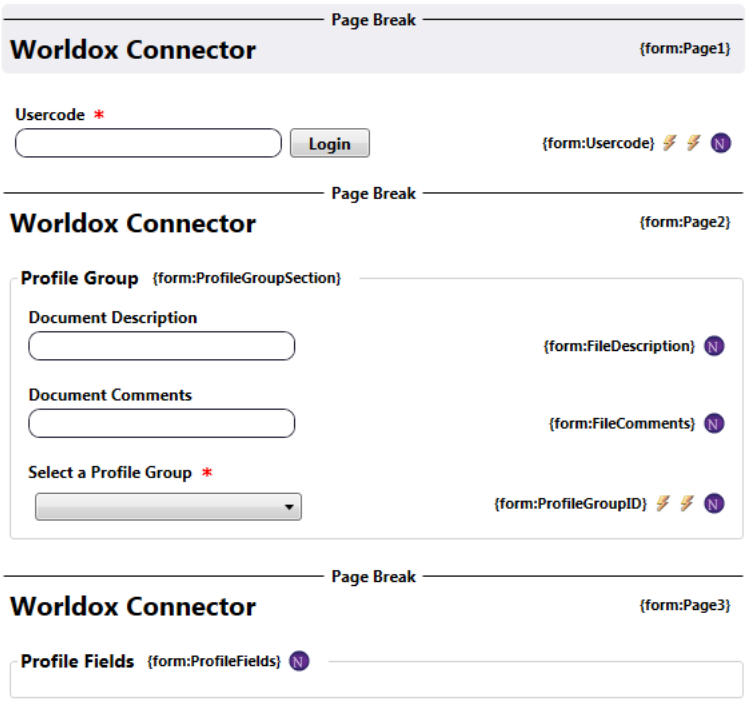
スキャンしたドキュメントを複合機でWorldoxにアップロードすることを可能にするインデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

1. ワークフローに複合機パネルノードおよびWorldoxコネクターノードが含まれていることを確認します。
2. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域に次の2つのWorldoxコネクターボタンが表示されます。
    - **[Worldox: 基本]** - このボタンで作成される複合機パネル用のWorldoxインデックスフォームでは、Worldoxに対してスキャンする前に、Worldoxにログインして、スキャンしたドキュメントのプロファイルグループを選択して、プロファイルインデックス情報を入力できます。
    - **[Worldox: 拡張]** - このボタンで作成される複合機パネル用のWorldoxインデックスフォームには、[Direct Access]、[Quick Profiles（クイックプロファイル）]、[Bookmarks（ブックマーク）]、[Favorite Matters（お気に入りの内容）]、[Workspaces（ワークスペース）]など、選択できるWorldox機能が表示されます。

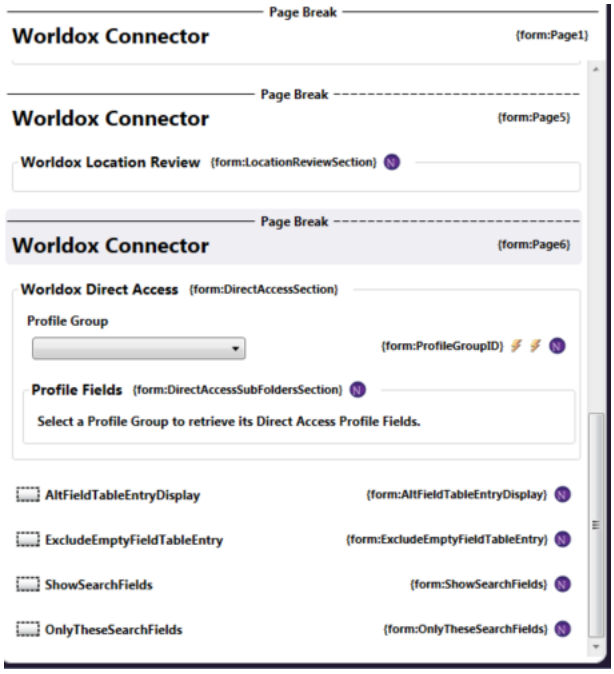
    以下の図では例を示しています。



3. 適切な **[Worldoxコネクター]** ボタンを[インデックスフォーム]作業領域にドラッグアンドドロップします。
4. Worldoxコネクターノードがすでに構成されている場合は、値が入力済みのフィールドが配置されたインデックスフォームが表示されます。Worldoxコネクターノードがまだ構成されていない場合は、空白のフィールドが配置されたインデックスフォームが表示されます。以下の図では、基本Worldoxインデックスフォームの例を示しています。



5. **[ユーザーコード]、[ドキュメントの説明]、および[ドキュメントのコメント]** フィールドに、既定値を割り当てることができます。
6. 基本および詳細のどちらのインデックスフォームにも隠しフィールドがあり、必要に応じてこれらのフィールドを変更できます。次の図を参照してください。



- **[AltFieldTableEntryDisplay]** - 既定値がFalseに設定されている場合は、プロファイルフィールド情報は複合機パネルに<code> ::<description>（例：0043 :Smith & Co）の形式で表示されます。既定値がTrueに設定されている場合は、プロファイルフィールド情報は複合機パネルに<description> ::<code>（例：Smith & Co :0043）の形式で表示されます。既定値はFalseです。
- **[ExcludeEmptyFieldTableEntry]** - 既定値がTrueに設定されている場合は、説明が指定されていないプロファイルフィールドエントリーは表示されません。既定値はFalseです。
- **[ShowSearchFields]** - 既定値がTrueに設定されている場合は、すべてのプロファイルフィールドの上に検索フィールドが表示されます。既定値はFalseです。
- **[OnlyTheseSearchFields]** - [ShowSearchFields]隠しフィールドがTrueに設定されている場合は、[OnlyTheseSearchFields]隠しフィールドを使用して、検索フィールドを表示するフィールドを指定できます。たとえば、[Client（クライアント）]プロファイルフィールドにのみ検索フィールドを追加するには、[既定値]フィールドに「Client（クライアント）」を指定します。[Client（クライアント）]および[Matter（内容）]の両方のプロファイルフィールドに検索フィールドを追加するには、[既定値]フィールドに「Client, Matter（クライアント、内容）」を指定します。

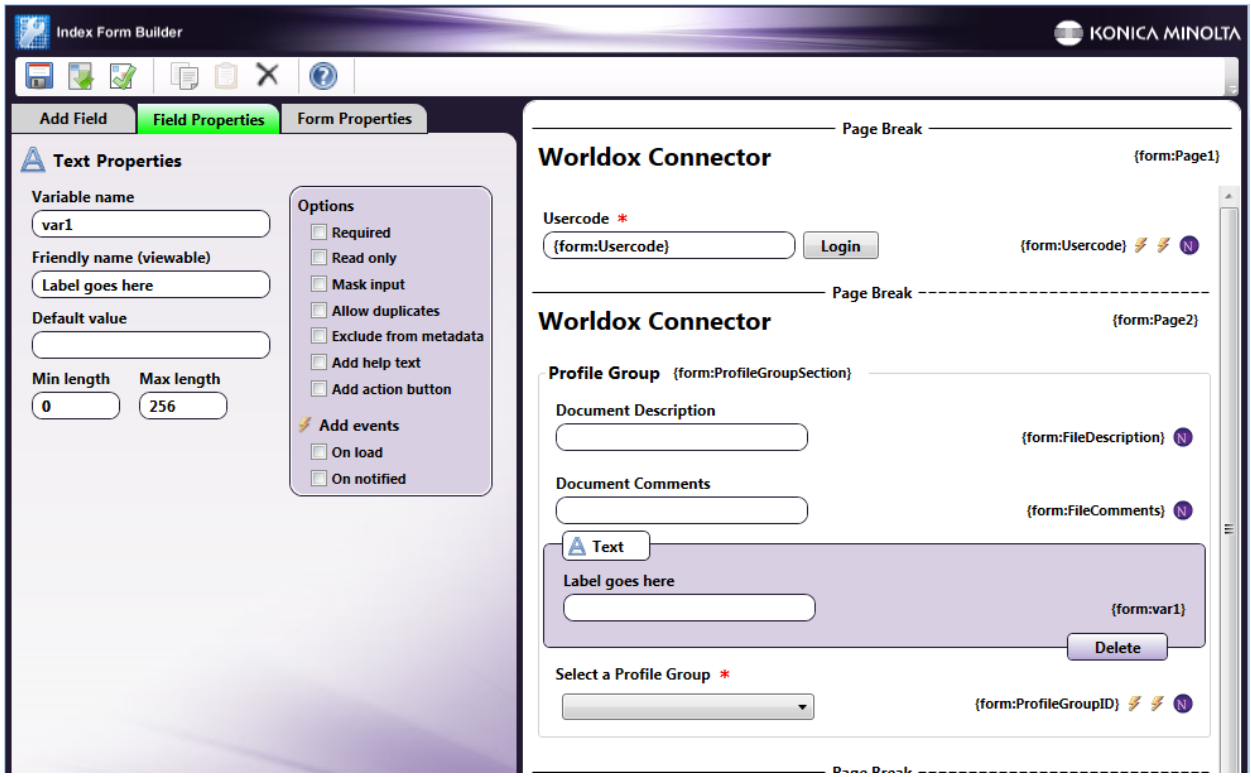
注: 基本Worldoxインデックスフォームには、[AltFieldTableEntryDisplay]フィールドおよび[ExcludeEmptyFieldTableEntry]フィールドのみが表示されます。詳細Worldoxインデックスフォームには、すべてのフィールドが含まれています。

インデックスフォームへの検索フィールドの追加

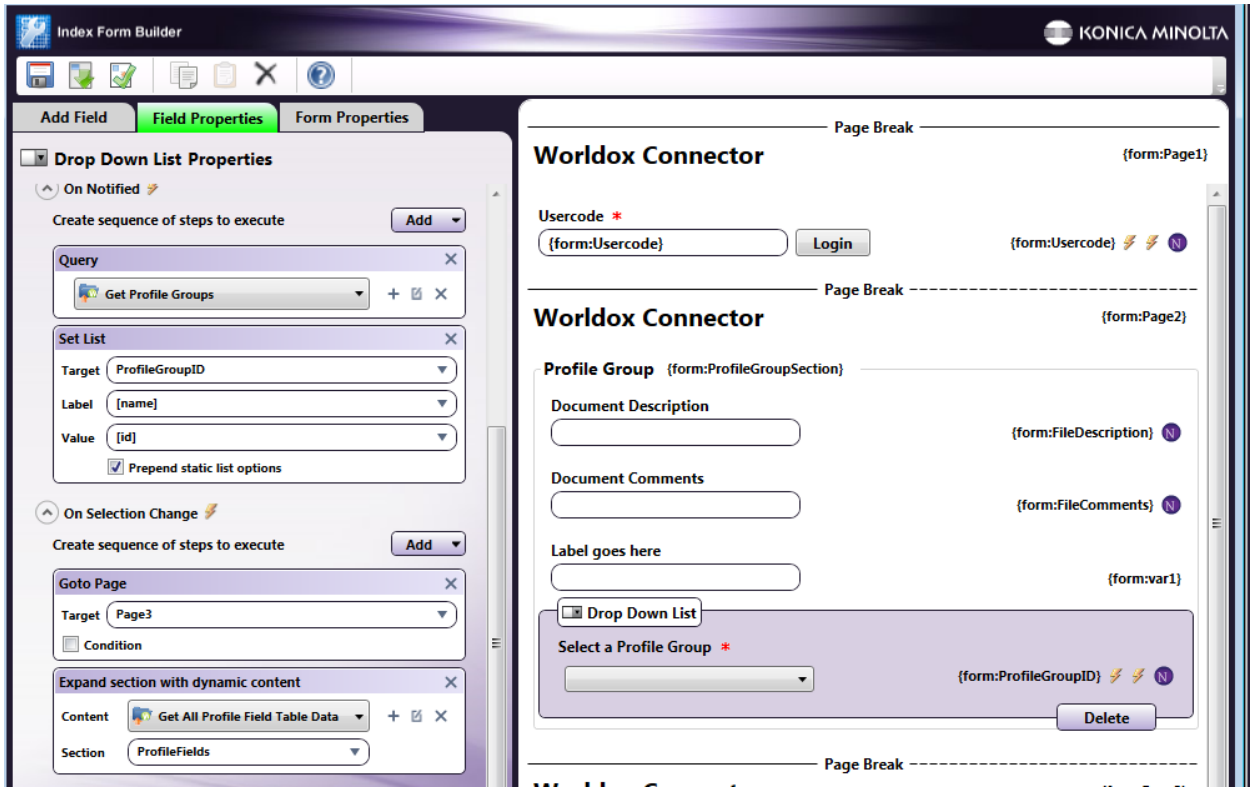
インデックス作成プロセスの速度を上げるために、検索フィールドをインデックスフォームに追加して、特定のプロファイルフィールドに表示されるプロファイルデータをフィルターできます。たとえば、「Client（クライアント）」検索フィールドを追加して、クライアントプロファイルフィールドのドロップダウンリストに表示されるクライアントのリストをフィルターできます。

検索フィールドを設定して、最初のプロファイルフィールドにリストされるプロファイルデータをフィルターするには、以下の操作を行います。

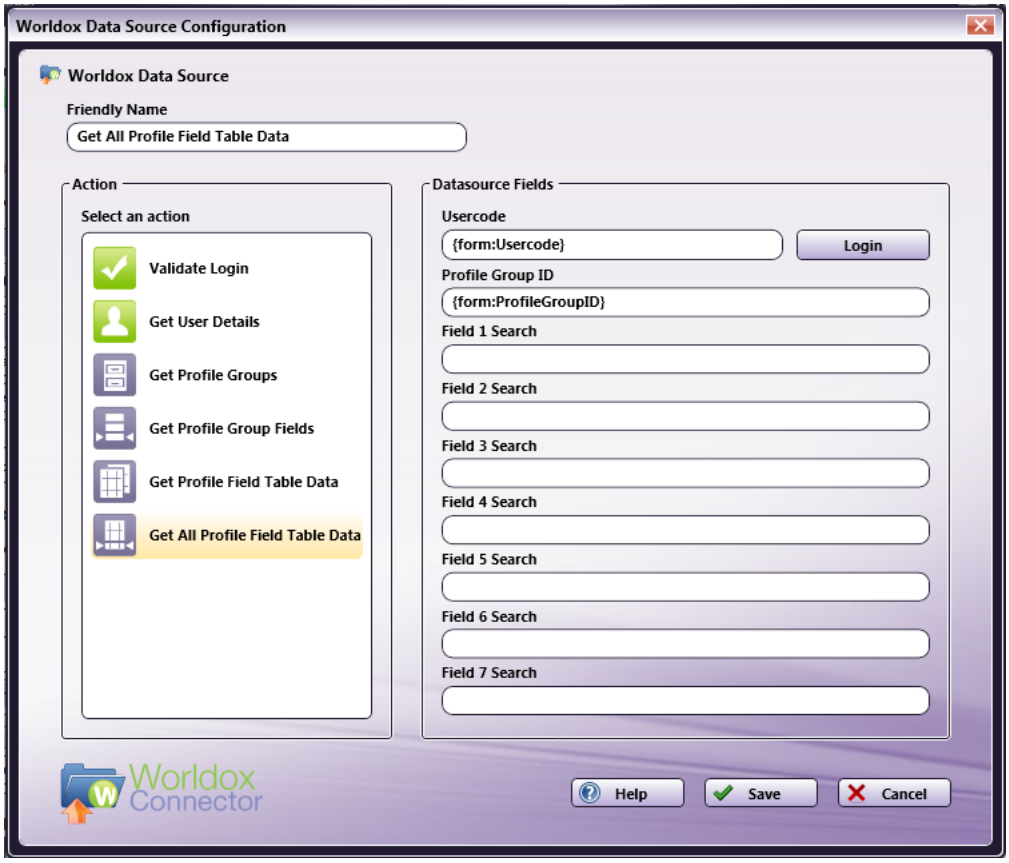
1. 次の図に示すように、**[テキスト]** フィールドをインデックスフォームのプロファイルグループセクションに追加します。



2. 新しく追加された[テキスト]フィールドで、以下の操作を行います。
   - **【フレンドリー名】** フィールドに、複合機パネルのフィールドの上に表示される名前を入力します（例：「クライアント」）。
   - **【変数名】** フィールドに、「Field1Search」と入力します（最初のプロファイルフィールドに表示される結果をフィルターすることを目的としているため）。
3. インデックスフォームビルダーの作業領域で、**【プロファイルグループの選択】** ドロップダウンリストを選択します。
4. **【動的コンテンツを使用する展開セクション】** - **【すべてのプロファイルフィールドの表データを取得】** データソース構成（図の赤い丸で囲まれている箇所）を編集します。



次の図のように、[Worldoxデータソースの構成]ウィンドウが表示されます。



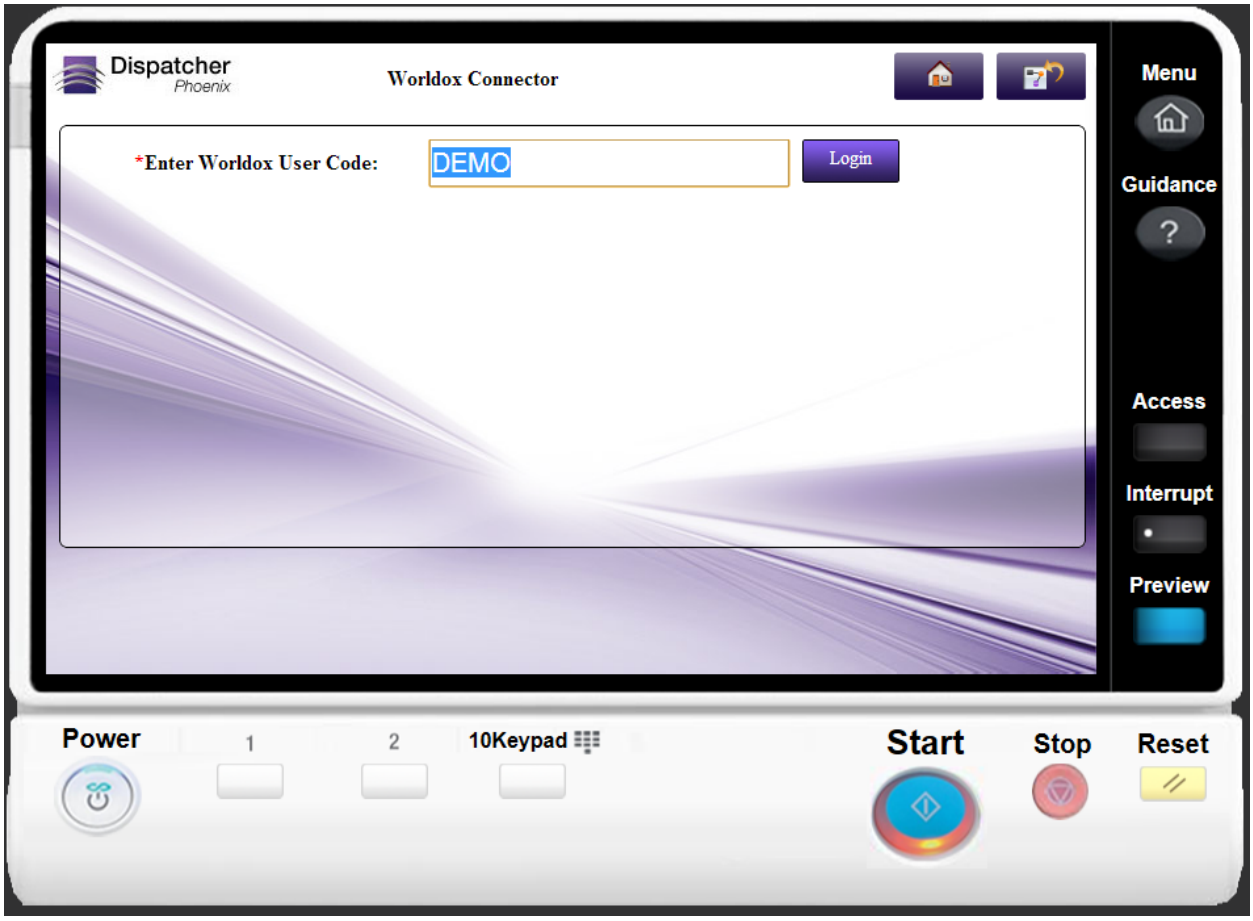
5. **【フィールド1検索】** フィールドに「{form:Field1Search}」と入力して、新しく追加された[テキスト]フィールドの変数名を参照します。そして **【保存】** ボタンを選択します。これにより、Worldoxは、複合機の検索フィールドに入力した内容に基づいて、フィルターされた結果を最初のプロファイルフィールドに表示できます。

   注: 別のプロファイルフィールドの検索フィールドを作成する場合は、それに応じて、[Worldoxデータソースの構成]ウィンドウで[テキスト]フィールドの変数名を（たとえば「Field4Search」などに）変更し、正しい[フィールド検索]フィールドにメタデータ参照を追加します（たとえば、[フィールド4検索]フィールドに「{form:Field4Search}」と入力します）。

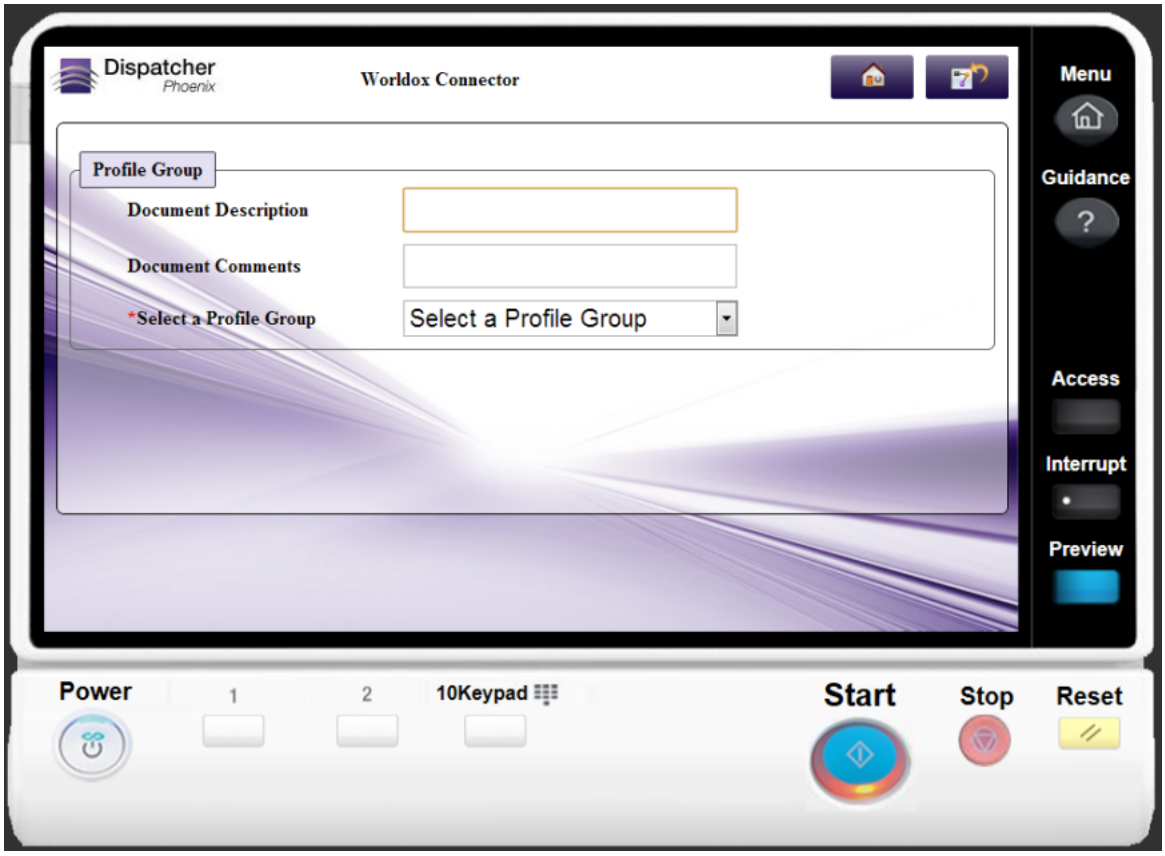
複合機の基本Worldoxインデックスフォーム

複合機では、基本Worldoxインデックスフォームは、以下のような3つの個別画面に分かれます。

1. **Worldoxログイン画面。** 以下の画面でWorldoxサーバーにログインします。



2. **Worldoxログイン画面。**スキャンしたドキュメントの説明およびコメントを入力してから、Worldoxプロファイルグループを選択します。次の図を参照してください。

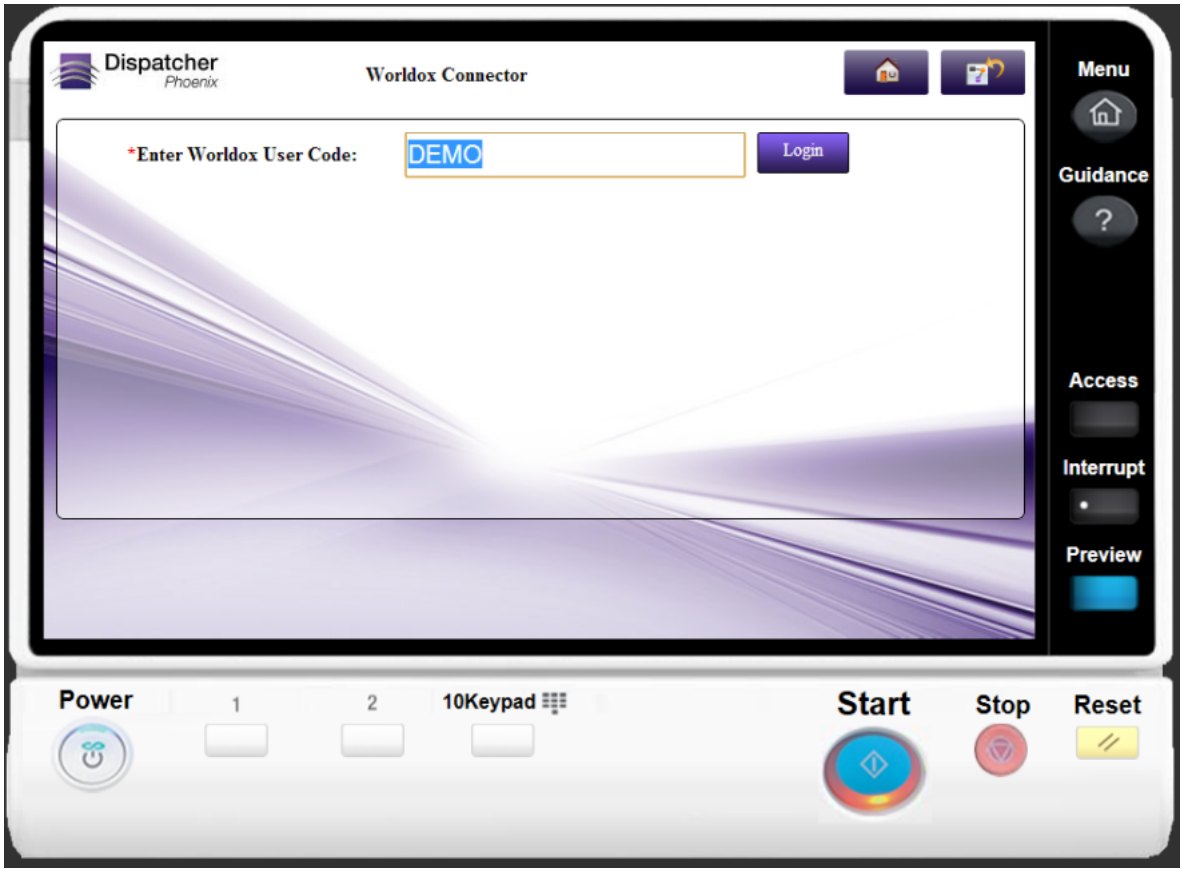


3. **Worldoxインデックス画面。**Worldoxプロファイルフィールドを使用して、スキャンしたドキュメントのインデックスを作成します。次の図を参照してください。

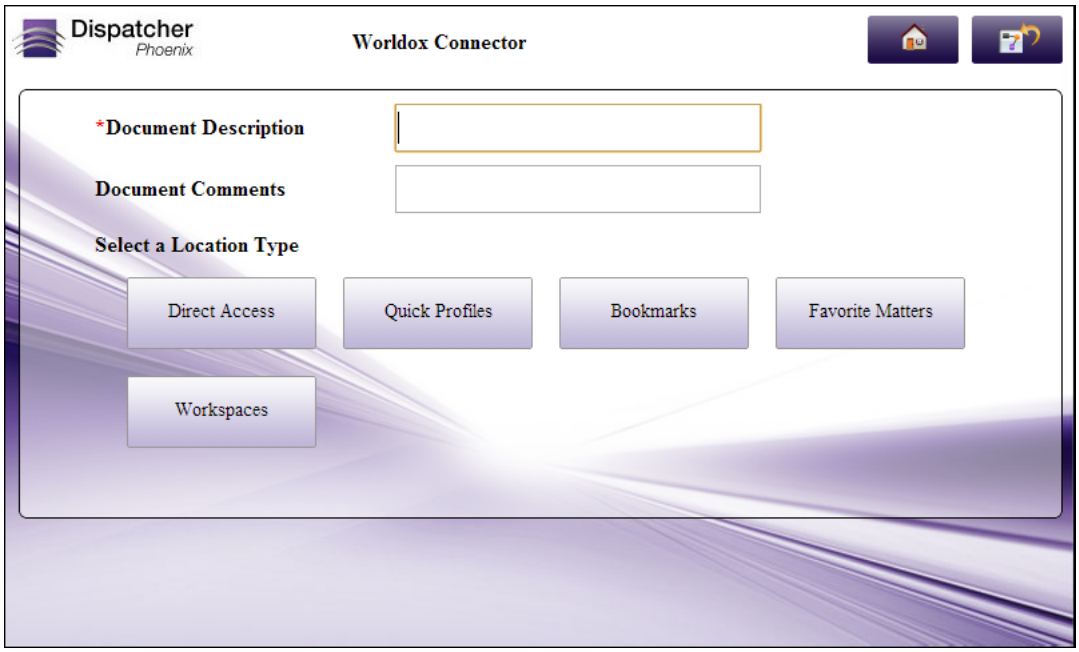
複合機の詳細Worldoxインデックスフォーム

複合機では、詳細Worldoxインデックスフォームは、以下のような画面に分かれます。

1. **Worldoxログイン画面。**以下の画面でWorldoxサーバーにログインします。

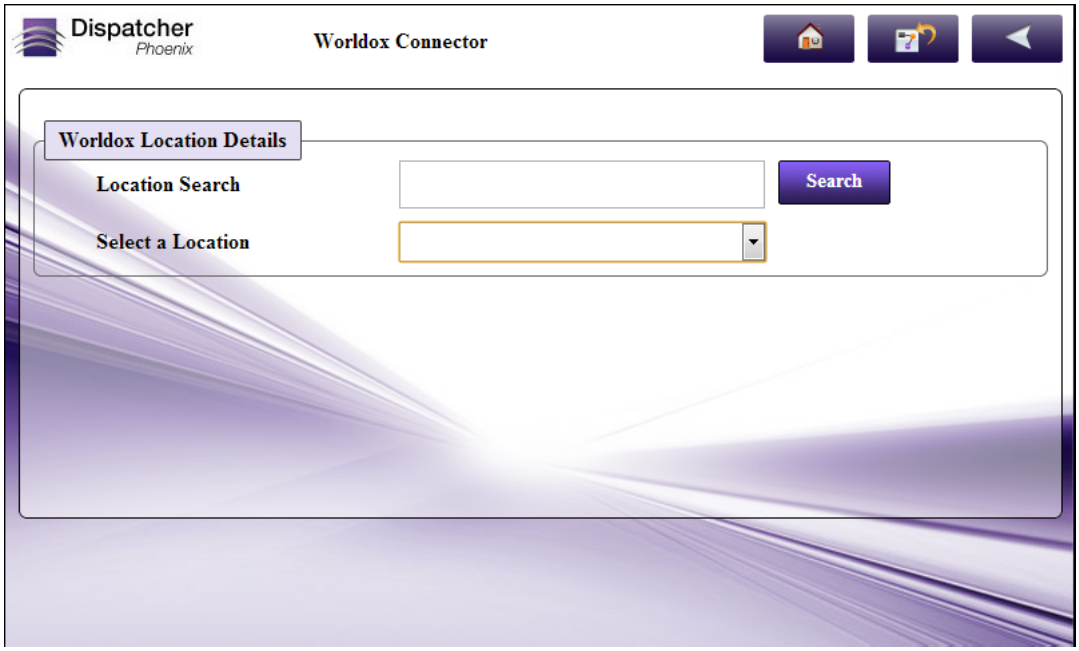


2. **Worldoxの場所の選択。** Quick Profiles（クイックプロファイル）]、[Bookmarks（ブックマーク）]、[Favorite Matters（お気に入りマター）]、[Workspaces（ワークスペース）]、およびプロファイルグループへの[Direct Access（直接アクセス）]を使用して、スキャンしたドキュメント用のWorldoxの場所を選択します。次の図を参照してください。

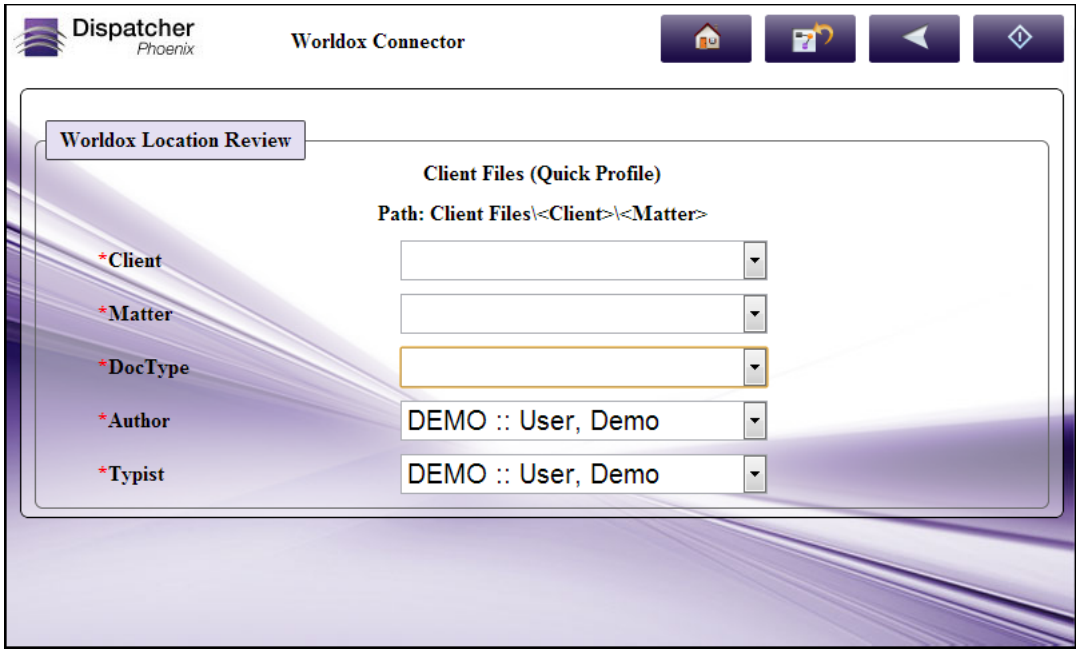


3. **Worldoxの場所のタイプの選択。** Worldox内の表示する場所（パブリック、社外秘、またはパブリックと社外秘の両方）を選択します。この画面には、場所リストをフィルターするための検索フィールドもあります。次の図を参照してください。

4. **場所の選択。**この画面上でWorldoxの場所を選択します。ドロップダウンメニューに表示される場所のリストをフィルターするための検索フィールドがあります。次の図を参照してください。



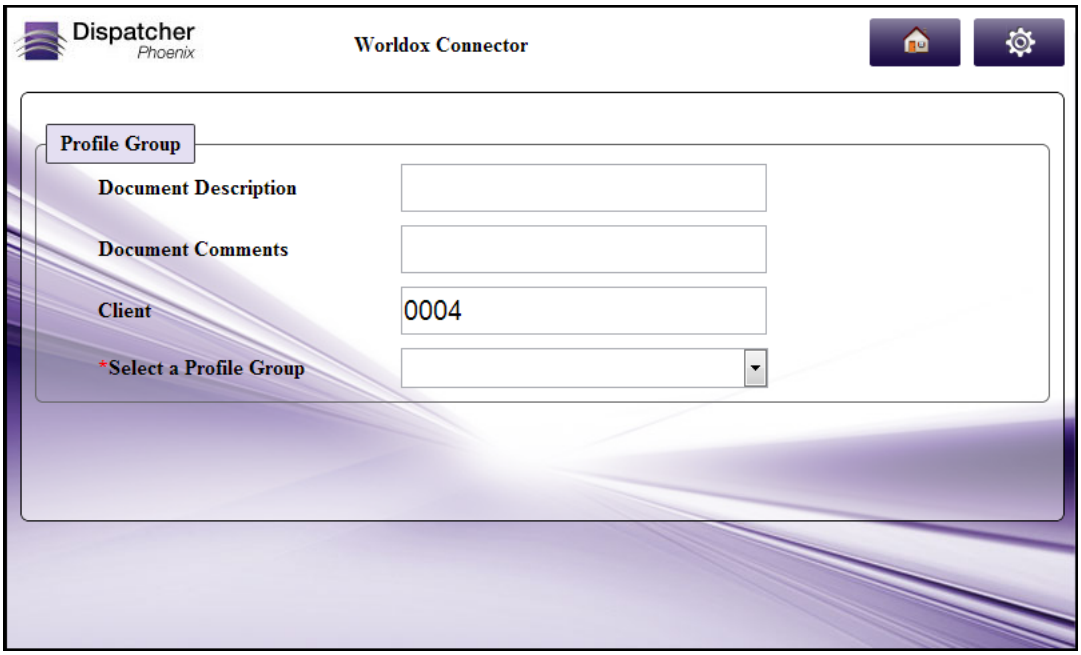
5. **インデックスフィールドおよびスキャンのレビュー/変更。**最後の画面には、選択した場所に対してWorldox内で事前にセットアップされているインデックスフィールドが表示されます。フィールドを必要に応じて変更してから、Worldoxにドキュメントをスキャンして取り込むことができます。次の図を参照してください。



複合機のWorldoxインデックスフォーム - 検索フィールドの使用

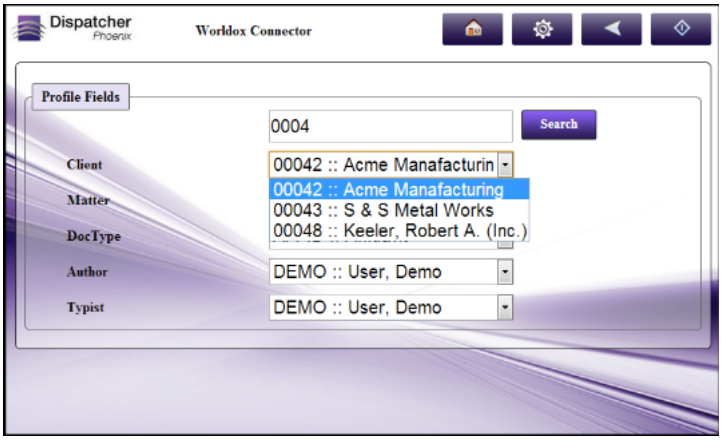
検索フィールドがWorldoxインデックスフォームに追加されると、複合機ユーザーはその検索フィールドを、2番目の「プロファイルグループ」画面で参照できます。

以下の例では、[Client（クライアント）]検索フィールドが追加されており、ユーザーは特定のクライアントコードに基づいてプロファイルデータをフィルターできます。



複合機ユーザーは、**[Client（クライアント）]** フィールドに「0004」と入力して、Worldoxサーバーから取得したクライアントのリストをフィルターし、次にドロップダウンリストからそのクライアントの**プロファイルグループ**を選択します。

次の図に示すとおり、次ページには初期検索条件が表示され、[Client（クライアント）]ドロップダウンメニューはそれに応じてフィルターされます。

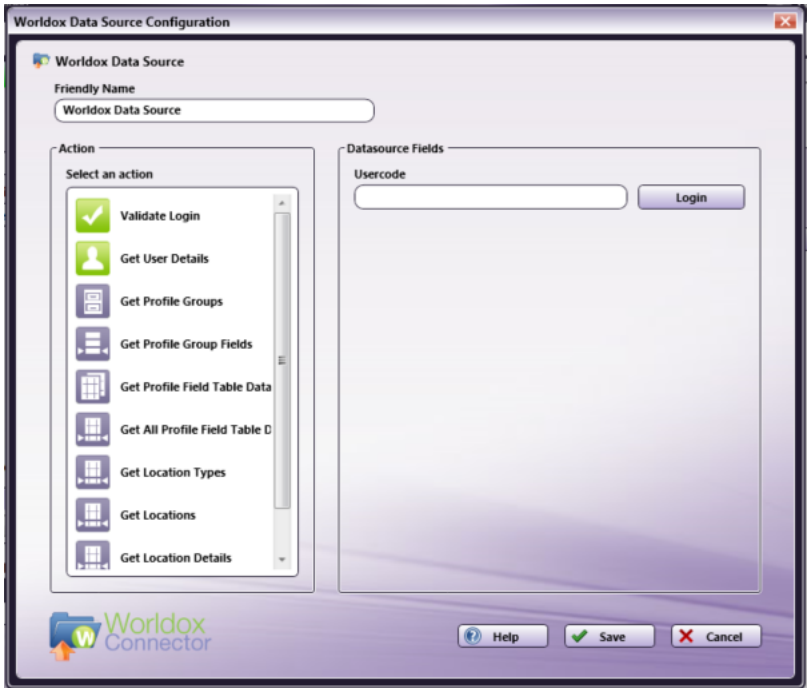


データベース参照 - Worldoxの構成

Worldoxからデータ（フォルダーのリストや検証など）を取り出すためのクエリーは、手動で構成することもできます。

インデックスフォームビルダーを使用して、以下の操作を行います。

1. ドロップダウンリストなどの、新しいフィールドを追加します。
2. フィールドの **ロード時** イベントを定義してから、**クエリー** を追加します。
3. **[クエリー]** ドロップダウンリストから、**[Worldoxデータソース]** を選択します。
4. [Worldoxデータソースの構成]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、Worldoxからデータを取得するための特定のアクションを実行できます。

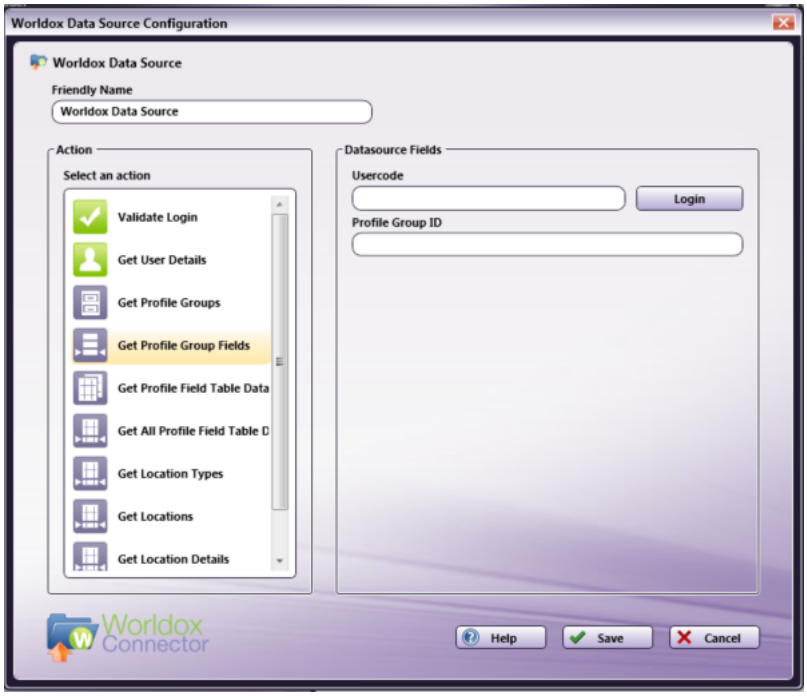


以下の操作を行います。

- **[フレンドリー名]** フィールドに、Worldoxデータソース構成を識別する名前を入力します。
- **[データソースフィールド]** 領域で、Worldoxへの接続に必要なWorldoxユーザーコードを入力します。
- **[ログイン]** ボタンを選択して、Worldoxに正しく接続していることを確認します。
- **[操作]** 領域で、Worldoxデータソースに対して実行する操作の種類を選択します。オプションは次のとおりです。
  - **[ログインの検証]** - Worldoxデータソースに対して複合機で入力されたログイン資格情報（ユーザーコード）を検証します。このアクションは、次のレコードを返します。
    - [結果] -ログインの結果: true または false
    - [メッセージ] -成功または失敗したログインに関するテキスト
  - **[ユーザーの詳細を取得]** - ユーザーコードを検証し、ログインユーザーに関する特定の詳細を返します（ユーザーのイニシャル、フルネーム、ユーザーID、ユーザータイプなど）。以下のいずれかの情報をWorldoxから返すことを選択できます。

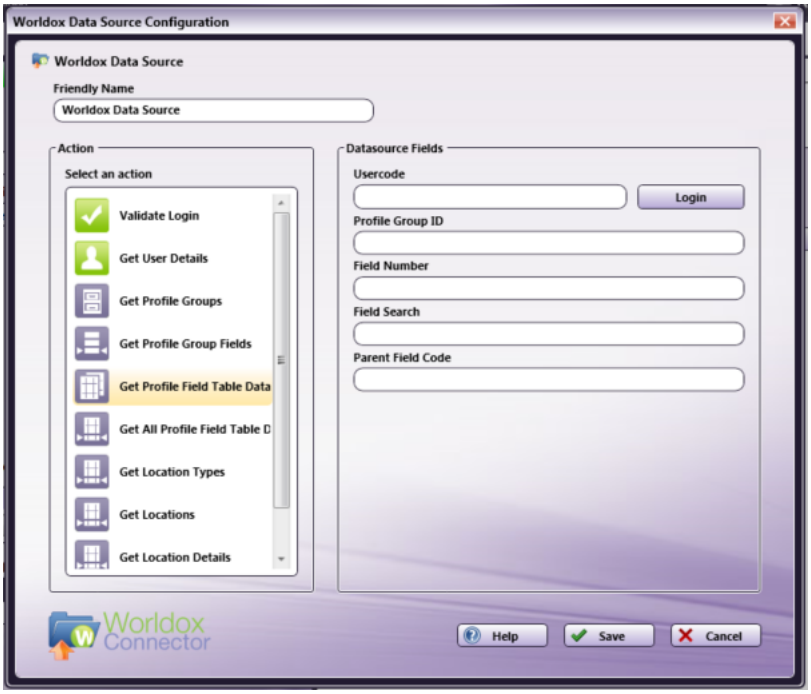
- [Number] - ログインユーザーのID
- [Ismanager] - ユーザーのタイプ（マネージャーまたはユーザー）
- [Usercode] - ログインユーザーのユーザーコード
- [Initials] - ユーザーのイニシャル
- [Name] - ユーザーのフルネーム

- **[プロファイルグループを取得]** - Worldoxユーザーが使用できる、Worldox内のプロファイルグループに関する情報を取得します。以下の情報をWorldoxから返すことを選択できます。
  - [ID] - Worldox内のプロファイルグループのID番号
  - [netmap] - Worldox内のプロファイルグループのネットワークマッピングパス
  - [basepath] - Worldox内のプロファイルグループのフォルダーパス
  - [name] - Worldox内のプロファイルグループの名前
- **[プロファイルグループのフィールドを取得]** - 指定されたユーザーコードとプロファイルグループIDのプロファイルフィールド（[Client（クライアント）]、[Matter（マター）]など）を取得します。この項目を選択すると、適切なプロファイルグループIDを入力できる空のフィールドが表示されます。例については次の図を参照してください。



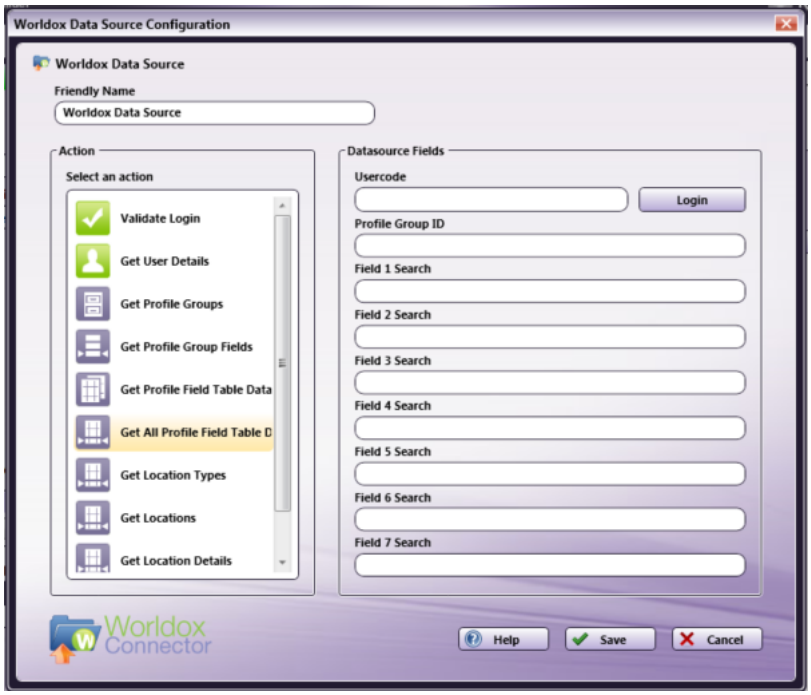
- **[プロファイルフィールドの表データを取得]** - プロファイルグループ内の特定のプロファイルフィールドの項目を取得します。この項目を選択すると、適切なプロファイルグループID、プロファイルフィールド番号、および（該当する場合は）親フィールド番号を入力できる空のフィールドが表示されます。以下の情報をWorldoxから返すことを選択できます。
  - [code] - プロファイルフィールドテーブル項目のWorldoxコード
  - [description] - プロファイルフィールドテーブル項目の名前

  例については次の図を参照してください。



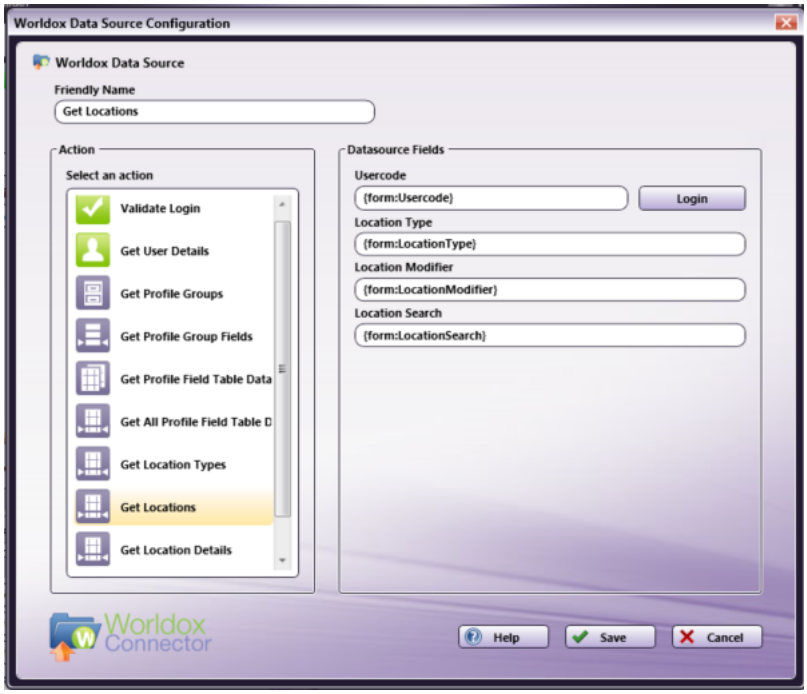
- **[すべてのプロファイルフィールドの表データを取得]** - 選択されているプロファイルグループIDに基づいて、すべてのプロファイルフィールドとその関連項目を取得します。この項目を選択すると、適切なプロファイルグループIDを入力できる空のフィールドが表示されます。

さらに次の図に示すとおり、この領域では、複合機パネルで検索条件を入力し、**[フィールド1検索]から[フィールド7検索]** までの各フィールドを使用して、取得したプロファイルフィールドの表項目のリストをフィルターすることを指定できます。

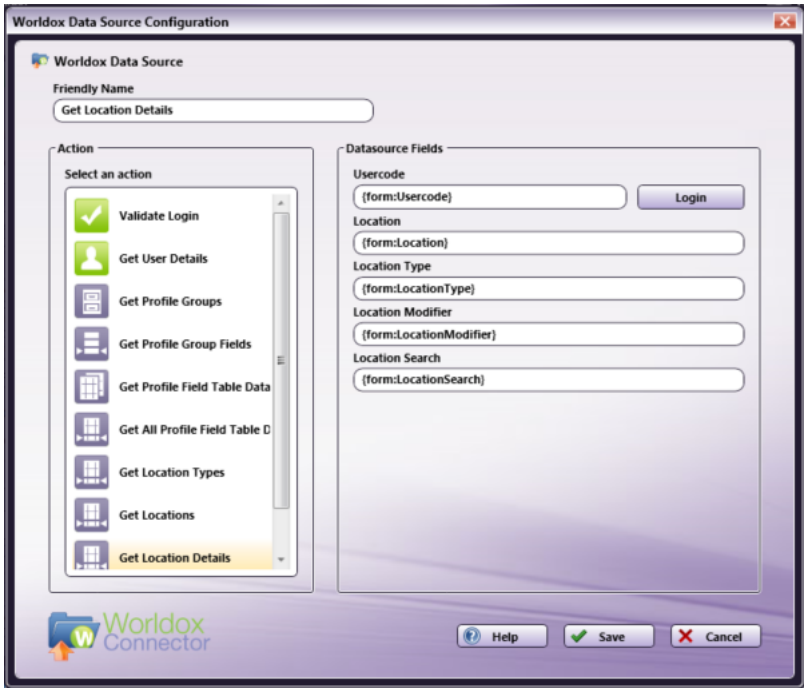


これにより動的コンテンツが取得されるので、このアクションは展開セクショントリガーで使用されます。

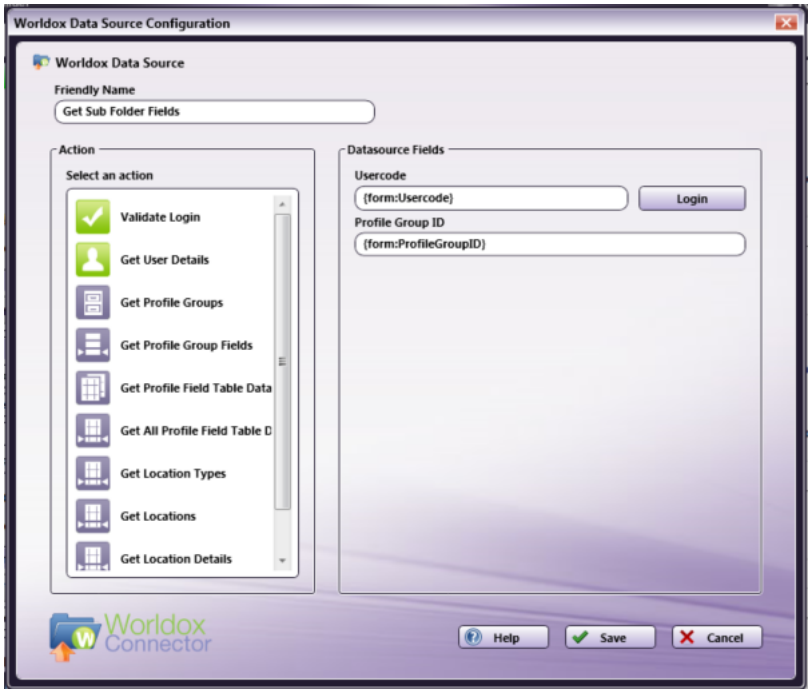
- **[場所のタイプを取得]** - ユーザーログインに基づいて、Worldoxのすべてのタイプの場所（[Direct Access]、[Quick Profiles（クイックプロファイル）]、[Bookmarks（ブックマーク）]、[Favorite Matters（お気に入りマター）]、および[Workspaces（ワークスペース）]）を取得します。
- **[場所を取得]** - 次の図に示すとおり、ユーザーログイン、選択された場所のタイプ、選択された場所の所有権、および検索フィールドの結果に基づいて場所を取得します。



- **[場所の詳細を取得]** - 次の図に示すとおり、ユーザーログイン、複合機パネルで選択されたWorldoxの場所、場所のタイプ、所有権についての内容、および検索フィールドの結果に基づいて、場所の詳細を取得します。



- **[サブフォルダーのフィールドを取得]** - 複合機で選択されたプロファイルグループに対して、Worldox内のサブディレクトリとなるようにマークされているフィールドの表を取得します。これはDirect Accessに使用されます。次の図を参照してください。



AccurioPro Fluxコネクター

AccurioPro Fluxコネクターノードはサポートされなくなりましたが、現在のライセンスは完全に機能し続けます。

AccurioPro Fluxコネクターノード を使用すると、ワークフローで処理した出力をAccurioPro Fluxサーバーに送信できます。ジョブの設定やジョブで使用するアドレスデータを指定できます。AccurioPro Fluxコネクターノードは、PDFファイルだけをサポート対象としています。

ワークフローで処理したPDFファイルをAccurioPro Fluxサーバーにアップロードすると、構成済みの製品や印刷設定を利用できます。アップロードされたプリントジョブは、AccurioPro Fluxサーバー上で他のプリントジョブと同様に管理されます。

AccurioPro Flux コネクタノードを使用する

AccurioPro Fluxコネクターノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、AccurioPro Fluxコネクターノードをワークフローに追加できます。そのアイコンをダブルクリックすると、[AccurioPro Fluxコネクターノード]ウィンドウが開きます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、AccurioPro Fluxコネクターノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、AccurioPro Fluxコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先ノードを区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- ワークフローのメタデータを参照するには **[メタデータ]** ボタンをクリックします。**[メタデータブラウザー]** ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用して、**[メタデータを選択]** キー領域からさまざまな名前をオープンテキストフィールドにドラッグアンドドロップすることができます。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- **[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスすることもできます。

サーバー構成

[サーバー構成]領域では、Fluxサーバーへの接続方法を指定できます。

- **[サーバーのURL]**：FluxサーバーにアクセスするためのHTTP URLです。***http://host:port*** という形式である必要があります。

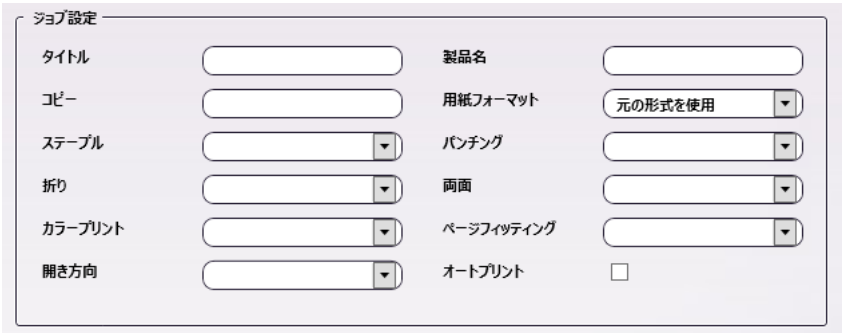
  既定のサーバーのURLとして、***http://localhost:3001*** が表示されます。
- **[接続タイムアウト（秒）]**：サーバーの応答を待機する最大秒数です。この秒数を超えると接続エラーが表示されます。このフィールドではメタデータは使用できないことに注意してください。
- **[ユーザー名]/[パスワード]**：送信時に使用するFluxサーバーのユーザーアカウントを指定します。接続をテストしたりジョブを送信したりするときに必要です。

  注: *このフィールドではメタデータは使用できないことに注意してください。*

- **[テスト接続]**：指定したAccurioPro Fluxサーバーへの接続をテストするには、このボタンをクリックします。接続が成功したかどうかを示すメッセージが表示されます。

ジョブ設定

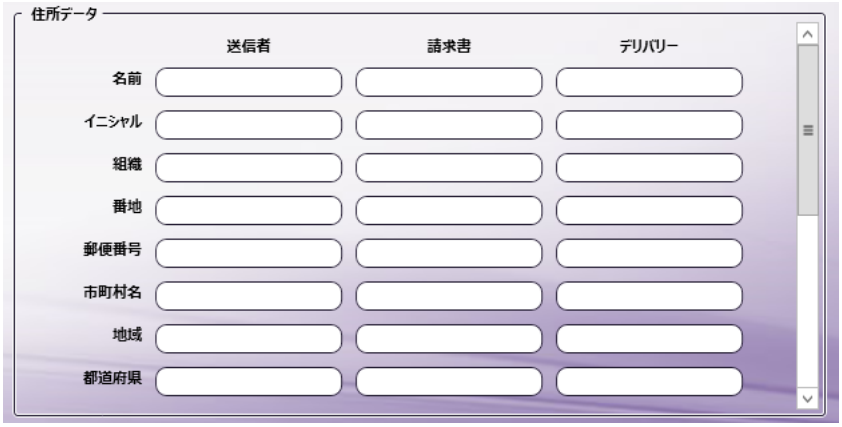
[ジョブ設定]領域では、AccurioPro Fluxサーバーに送信されるジョブの設定を指定できます。フィールドを空のままにしておくと、Fluxで既定値が使用されます。独自の値を入力して、カスタム（マニュアル）のサービスオプションを使用することもできます。



- **[タイトル]**：ジョブに割り当てるタイトル。
- **[製品名]**：ジョブで使用する製品。Fluxの構成内にこの名前の製品が存在している必要があります。存在していない場合は、**[All Settings（すべての設定）]** が使用されます。
- **[コピー]**：コピー部数。
- **[用紙フォーマット]**：ジョブで使用する用紙フォーマット。一連の既定の用紙フォーマットと、PDFファイルの用紙サイズを維持するための[元の形式を使用]が選択できます。製品が指定されている場合、この設定は無視されます。
- **[ステープル]**：使用するステープル設定。Fluxでサポートされているすべての既定のステープルオプションが選択できます。
- **[パンチング]**：使用するパンチング設定。Fluxでサポートされているすべての既定のパンチングオプションが選択できます。
- **[折り]**：使用する折り設定。Fluxでサポートされているすべての既定の折りオプションが選択できます。
- **[両面]**：使用する両面設定。**[左]**、**[オフ]**、**[上]** から選択できます。
- **[カラープリント]**：使用するカラープリント設定。**[カラー]**、**[白黒]** から選択できます。
- **[ページフィッティング]**：使用するページフィッティング設定。**[左下]**、**[センター]**、**[センター＆回転]**、**[スケール＆センター]**、**[スケール、センター＆回転]** から選択できます。
- **[開き方向]**：使用する開き方向の設定。**[左]**、**[上]**、**[右]**、**[下]** から選択できます。
- **[オートプリント]**：Fluxサーバーにジョブが到着したときに自動的に印刷するかどうかの設定。

住所データ

[住所データ]領域では、ジョブで使用する住所データを指定できます。ここには、Fluxで利用可能なすべての住所フィールドが表示されます。必要な各フィールドに適切なコンテンツを入力するか、またはメタデータのプレースホルダーを使用します。



AccurioPro Conductorコネクター

AccurioPro Conductorコネクターノードはサポートされなくなりましたが、現在のライセンスは完全に機能し続けます。

AccurioPro Conductorコネクターノード を使用すると、ジョブ（JDF+PDF）をAccurioPro Conductorのホットフォルダーに送信できます。ドキュメントは、自動ワークフローを通じてAccurioPro Conductorのホットフォルダーに送信され、さらにそのホットフォルダーからAccurioPro Conductorに送信されます。

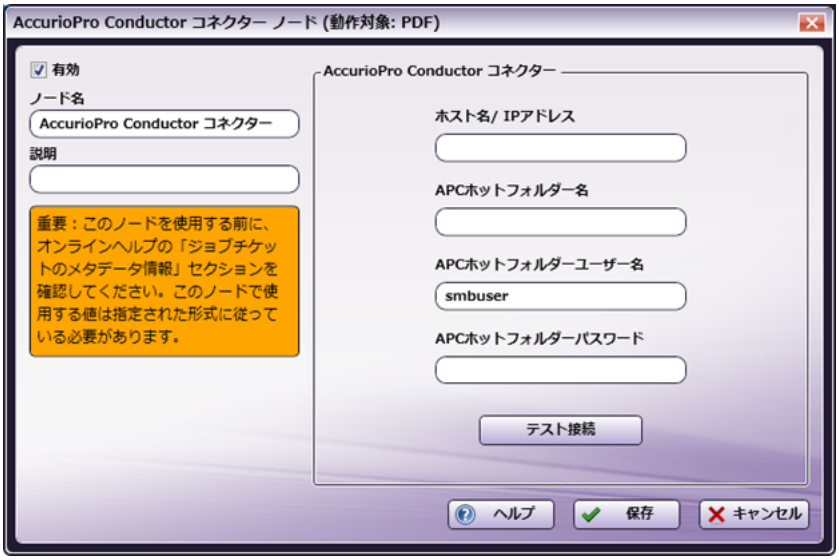
このノードでは、2つの方法のうちいずれかを使用して入力を処理します。入力ファイルのメタデータにJDFファイルパスが指定されている場合は、JDFファイルが送信されます。メタデータにジョブチケットファイルのファイルパスが指定されていない場合や、メタデータの内容がJDFジョブチケットではない場合（JSON/XMLなど）、デフォルト値が適用されたJDFファイルが作成されます。JDFが作成されると、JDFはメタデータのジョブ情報に基づいて更新された後、送信されます。

注: このヘルプファイルには、サポートされているジョブチケットメタデータ、JDF XPath、およびJDF値の範囲に関する詳細情報が含まれています。**ジョブチケットメタデータ** を参照してください。起動した[メタデータブラウザー]ウィンドウには、あらかじめ定義されているジョブチケットメタデータ、システム定義の変数（日付、ファイル、システム、ユーザー情報など）、およびアクティブノードのメタデータ値が表示されます。

AccurioPro Conductorコネクターノードを使用する

注: AccurioPro Conductorコネクターを構成するには、事前にAccurioPro Conductorを使用して **ホットフォルダー** を作成しておく必要があります。ホットフォルダーの詳細については、AccurioPro Conductorのヘルプドキュメント（APCアプリケーションを開いて起動できます）の「ホットフォルダー」のセクションを参照してください。

AccurioPro Conductorコネクターノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、AccurioPro Conductorコネクターノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、[AccurioPro Conductorコネクターノード]ウィンドウが開きます。



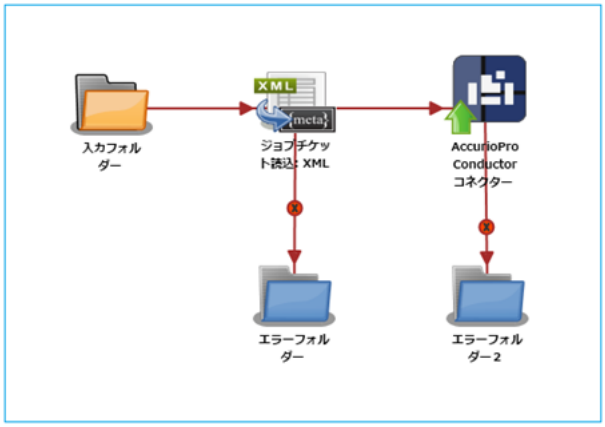
AccurioPro Conductor コネクターのホットフォルダーの詳細をこのウィンドウで指定します。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、AccurioPro Conductorコネクターノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、AccurioPro Conductorコネクターノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先ノードを相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[AccurioPro Conductorコネクター]** パネルで、AccurioPro Conductorホットフォルダーにアクセスするための以下の情報を入力します。
  - **[ホスト名/IPアドレス]**：AccurioPro Conductorサーバーのホスト名（mysubdomain.domain.comなど）またはIPアドレス（10.10.220.110など）のいずれかを入力します。
  - **[APCホットフォルダー名]**：ZIPファイルのアップロード先である、サーバー内の使用可能なホットフォルダー名を入力します。
  - **[APCホットフォルダーユーザー名]**：AccurioPro Conductorサーバーにログインするための資格情報を入力します。既定のユーザー名として「smbuser」が表示されます。
  - **[APCホットフォルダーパスワード]**：AccurioPro Conductorサーバーのホットフォルダーにアクセスするためのパスワードを入力します。
- 完了したら、**[テスト接続]** ボタンを選択して、AccurioPro Conductorサーバーに適切に接続されていることを確認します。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。[キャンセル]を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

AccurioPro Conductorコネクターワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、ジョブチケットファイルからジョブチケット情報を抽出して、AccurioPro Conductorに送信することです。

ワークフローの各ノードについて、以下に詳しく説明します。



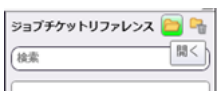
入力フォルダーノード: XMLジョブチケットを集めて、ワークフローの **ジョブチケット読込:XML** ノードに送るように入力フォルダーを構成します。送られるXMLジョブチケットファイルには、ジョブチケットの属性情報が含まれています。以下に、章の情報を含むサンプルのジョブチケットを示します。

```
<Ticket>
    <Name>Sample XML Job</Name>
    <Quantity>5</Quantity>
    <Media>
        <Color>Yellow</Color>
    </Media>
    <Src>C:\Temp\Testfile.pdf</Src>
    <File>file</File>
    <PageException>
        <PerPageSetting>
            <PageRange>1-5</PageRange>
            <Media>
                <PaperName>A4</PaperName>
            </Media>
        </PerPageSetting>
    </PageException>
</Ticket>
```

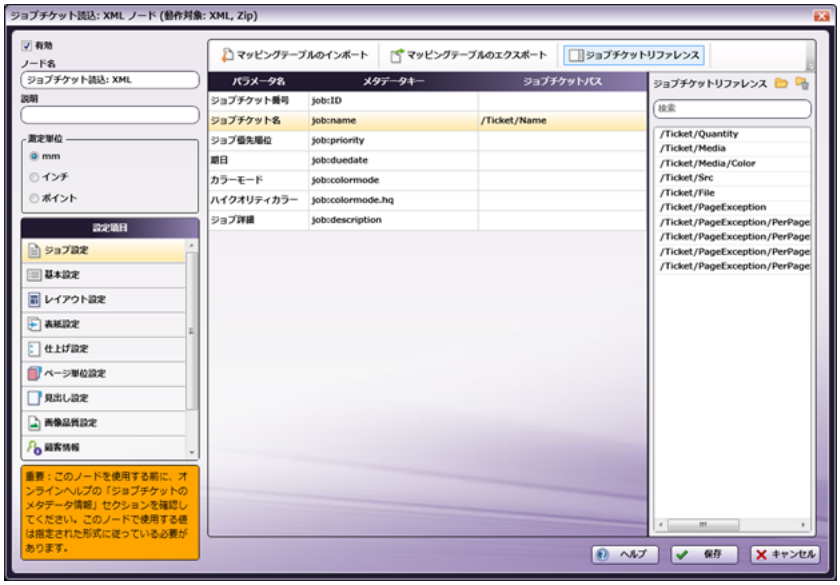
ジョブチケット読込:XMLノード: ドキュメントがXMLとしてフォーマットされている場合、そのXML情報はジョブチケットメタデータに変換され、ワークフローの次のノードに送られます。ドキュメントがXMLとしてフォーマットされていない場合、そのドキュメントは **エラーフォルダー** に移されます。

以下の手順に従って、XMLジョブチケットをマップします。

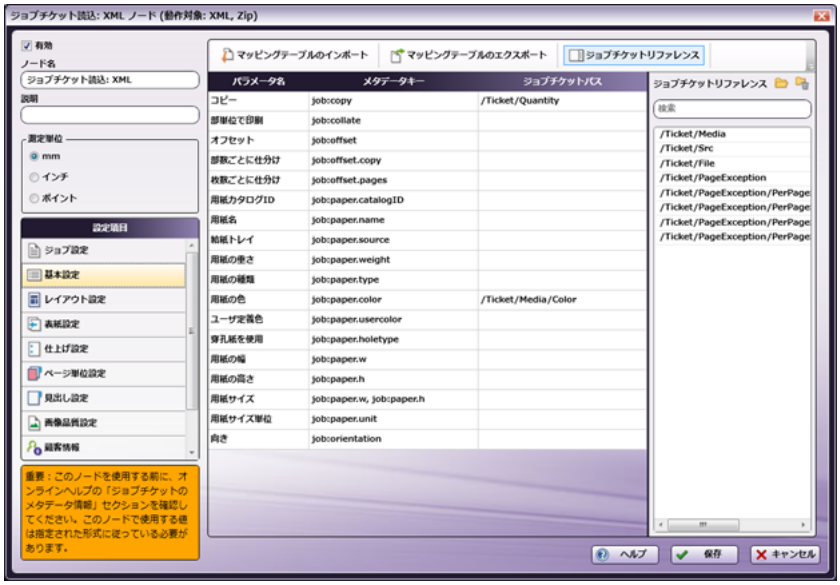
1. テキストエディターを使用して、上記のサンプルジョブチケットのサンプルXMLコードをコピーします。
2. サンプルのジョブチケットに記載されているソースパス **<Src>** は、パスが有効になるように変更する必要があります。
3. XML_Apcc_Connector.XMLとしてファイルをローカルに保存します。
4. ジョブチケット読込:XMLノードをダブルクリックします。次のように設定画面が開きます。
5. 左側のパネルで、次の値を設定します。
    - **[有効]**：チェックボックスをオンにすると、ノードでジョブを受け入れることができます。
    - **[ノード名]**：ノードに割り当てる名前をテキストフィールドに入力します。
    - **[測定単位]**：ノードに適用する測定単位のラジオボタンを選択します。
6. **[ジョブチケットリファレンス]** パネル（右端）で、**[開く]** アイコンを見つけます。



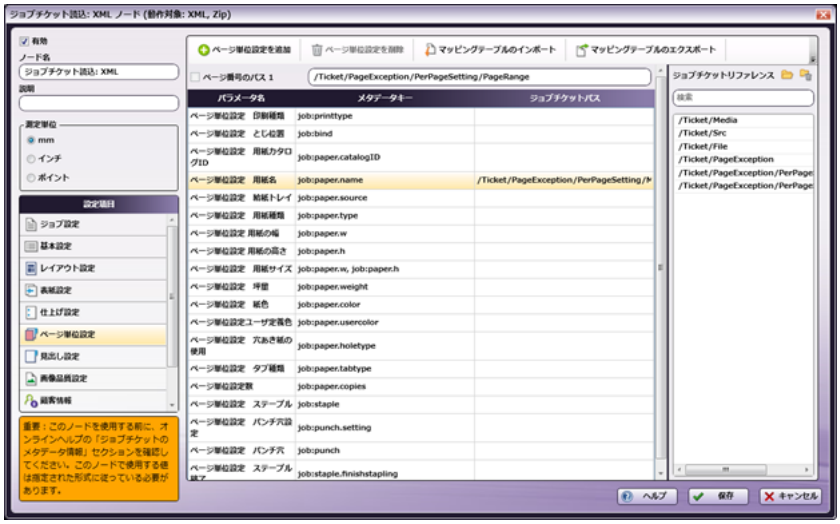
7. このアイコンをクリックして、開いた画面で、上記の手順3で保存したファイル（XML_Apcc_Connector.XML）に移動して選択します。
8. ファイルが開くと、その内容（XPath）が **[ジョブチケットリファレンス]** パネル（右端）に表示されます。
9. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[ジョブ設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



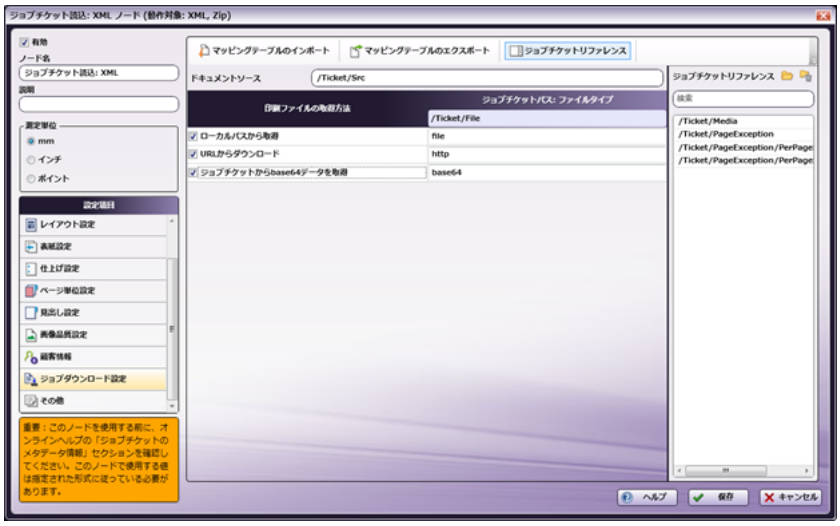
10. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
11. **[ジョブチケット名]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Name** をドラッグアンドドロップします。
12. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[基本設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



13. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
14. **[コピー]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Quantity** をドラッグアンドドロップします。
15. **[用紙の色]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Media/Color** をドラッグアンドドロップします。
16. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[ページ単位設定]** をクリックします。**[パラメータ名]**、**[メタデータキー]**、および **[ジョブチケットパス]** 列がメインパネルに表示されます。



17. **/Ticket/PageException/PerPageSetting/PageRange** を **[ページ番号のパス1]** セルにドラッグアンドドロップします。
18. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルの値を、その値の **[パラメータ名]** に対応する、**[ジョブチケットパス]** 列の空いているセルに移動する必要があります。
19. **[ページ単位設定 用紙名]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/PageException/PerPageSetting/Media/PaperName** をドラッグアンドドロップします。
20. **[ページ単位設定 紙色]** 行の **[ジョブチケットパス]** セルに **/Ticket/Media/Color** をドラッグアンドドロップします。
21. **[設定項目]** パネル（左端）で、**[ジョブダウンロード設定]** オプションをクリックします。**[ドキュメントソース]** および **[ジョブチケットパス:ファイルタイプ]** フィールドと[印刷ファイルの取得方法]チェックボックスがメインパネルに表示されます。



22. **[印刷ファイルの取得方法]** 列で、**[ローカルパスから取得]** 、**[URLからダウンロード]** 、および **[ジョブチケットからbase64データを取得]** の3つのオプションのチェックボックスをすべてオンにします。
23. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ドキュメントソース]** フィールドに **/Ticket/Src** をドラッグアンドドロップします。
24. **[ジョブチケットリファレンス]** パネルから、**[ジョブチケットパス: ファイルタイプ]** フィールドに **/Ticket/File** をドラッグアンドドロップします。
25. これまでの操作が完了すると、上の画像のような画面が表示されます。
26. **[保存]** をクリックして、変更をノードに適用します。

AccurioPro Conductorコネクターノード: AccurioPro Conductorコネクターノードはジョブチケットを生成し、PDFとジョブチケット情報をAccurioPro Conductorに送信します。そこから、ドキュメントを印刷できます。下記のメタデータ値のいずれかが無効である場合、PDFファイルは **エラーフォルダー2** に移動されます。

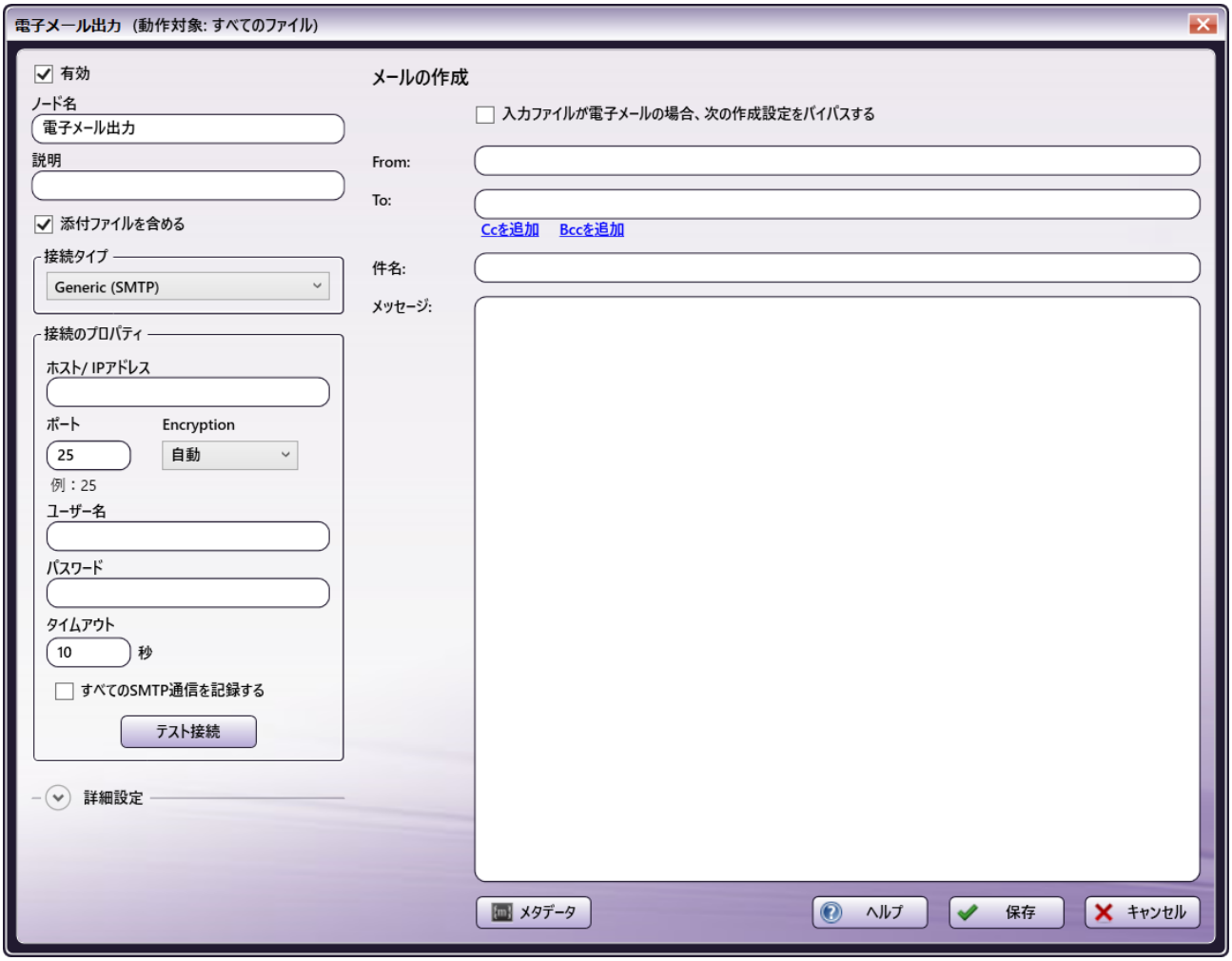
- **コピー > job:copy**
- **部数ごとに仕分け > job:offset.copy**
- **枚数ごとに仕分け > job:offset.pages**
- **用紙の重さ > job:paper.weight**
- **ページ単位設定 坪量 > job:paper.weight[]**
- **ページ単位設定数 > job:paper.copies[]**

上記以外のメタデータ値が無効な場合は、アクティビティログにエラーメッセージが送信されます。ただし、ジョブ自体はそのまま続行されます。ジョブチケットが生成され、ジョブチケットとそのPDFファイルはAccurioPro Conductorに移動されます。

出力

電子メール出力

電子メール出力 ノードを使用して、出力ファイルを電子メールで配信します。電子メール出力ノードウィンドウを開くには、電子メール出力ノードをワークスペースに追加してダブルクリックします。



重要! Dispatcher Phoenix 8.7またはそれ以降を使用している場合、**電子メール出力** ノードはMicrosoft Exchangeから電子メールを送信しなくなります。この構成のワークフローでは、**電子メール出力** ノードを **Microsoft Exchangeノード** に置き換えることができます。

次の構成オプションを使用できます。

- **[有効]** - 複数の配信場所がある場合、このボックスをチェックします。チェックマークを付けない場合、この配信は無視されます。ワークフローでは引き続き検証が行われますが、ドキュメントは出力されず、失われる可能性があります。
- **[ノード名]** - 電子メール出力ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** - 電子メール出力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、出力先が2つ以上ある場合に便利です。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[添付ファイルを含める]** - 電子メールに添付ファイルを含めるには、チェックボックスをオンにします。それ以外の場合は、ボックスを空白のままにします。

接続タイプ

接続タイプを指定するには、次のオプションのいずれかを選択します。

- **Generic (SMTP)** - 電子メール送信の標準である簡易メール転送プロトコル。
- **Google Mail** - オンライン Google Mail (GMail) プロトコル。

注: 接続プロパティ セクションで使用できるオプションは、ここでの選択内容によって異なります。

接続プロパティ

この領域を使用して、SMTPサーバーのシステム情報を入力します。**接続タイプ** 領域で **Generic (SMTP)** を選択した場合、次のフィールドが使用可能になります。

- **[ホスト/IPアドレス]** - 発信する外部SMTP電子メールサーバーの識別ホスト名、またはそのIPアドレスを入力します。
- **[ポート]** - サーバーがSMTP通信用に使用するポートを入力します(既定値は25)。
- **[暗号化]** - このフィールドを使用して、接続タイプを指定します。次のオプションがあります。
  - **[自動]** - 接続タイプを自動的に検出するには、このオプションを選択します。接続でSTARTTLSが許可されている場合は、その接続を使用します。それ以外の場合は、既定の接続を使用します。
  - **[SSL/TLS]** - Google AppsやMicrosoft LiveなどのSSL接続のみを許可するSMTPサーバーに接続するには、このオプションを選択します。このオプションを使用すると、SSL対応サーバーとTLS対応サーバーの両方でサポートが有効になります。このオプションを選択すると、ポートがすでにカスタマイズされていない限り、ポート番号は自動的にセキュアSMTPポートの既定である465に変更されます。特定のSMTPサーバーの構成オプションについては、最新のドキュメントを参照してください。
  - **[STARTTLS]** - SMTPサーバーをSTARTTLSに接続するには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、ポートがすでにカスタマイズされていない限り、ポート番号は自動的にセキュアSMTPポートの既定である587に変更されます。
- **[ユーザー名]** - メールサーバーアカウントのユーザー名を入力します。
- **[パスワード]** - 電子メールサーバーアカウントのパスワードを入力します。
- **[タイムアウト]** - 必要に応じて、その時間の間通信が行われなかった場合にタイムアウトが発生する秒数を変更します。タイムアウトの既定値は10秒です。

  注: 複数のサーバーがホスト名(例: smtp.office365.com) に関連付けられている場合、各サーバーはフルタイムアウトが許可されます。
- **[すべてのSMTP通信を記録する]** - すべてのSMTP通信の記録を取るには、このオプションを有効にします。
- **[テスト接続]** - このボタンをクリックして、入力したURLと認証情報が有効かどうかを確認します。

接続タイプ 領域で **Google Mail** を選択した場合は、次のフィールドが使用可能になります。

- **アカウント** - ドロップダウンから目的のアカウントを選択します。

  注: ドロップダウンに表示される前に、**Dispatcher Phoenix Web** でGoogle Mailアカウントを設定する必要があります。

詳細設定

この領域には、電子メール出力ノードの詳細設定が含まれています。

ファイル名エンコーディング

この領域を使用して、電子メールの添付ファイルのファイル名がSMTPサーバーに送信される方法をカスタマイズします。電子メールクライアントがDispatcher Phoenixから送信された添付ファイル名を誤って表示している場合は、この高度な機能を使用してください。次のいずれかのオプションを選択します。

- **[最新の電子メールクライアント]** - RFC2231エンコード方式を使用してファイル名をエンコードするには、このオプションを選択します。これは最新の標準であり、最新の電子メールクライアントでの使用をお勧めします。
- **[従来の電子メールクライアント]** - RFC2047エンコード方式を使用してファイル名をエンコードするには、このオプションを選択します。RFC2047エンコード方式では、ファイル名を可能な限り小さいサイズでエンコードする文字セットを使用します。
- **[従来の電子メールクライアント互換モード]** - すべてのファイル名にbase64 UTF-8エンコードを使用するRFC2047エンコーディングスキームを使用してファイル名をエンコードするには、このオプションを選択します。ファイル名は、このオプションを選択すると最大になりますが、多数の電子メールクライアントと互換性があります。

メールの作成

この領域を使用して送信メールの設定を指定します。次のオプションがあります。

- **[入力ファイルが電子メールの場合、次の作成設定をバイパスする]** - このボックスをチェックして作成設定(From(送信元)、To(宛先)、Cc、Bcc、件名、メッセージ) および電子メール添付ファイルを電子メールファイルから取得できるようにします。さらに、電子メールファイル内のヘッダー情報も送信されます。電子メール出力ノードで電子メールファイルが検出されると、その設定が作成設定フィールドで提供された情報の代わりに使用され、その添付ファイルが送信されます。サポートされている電子メールファイルの種類は、サードパーティのソフトウェアから取得した".eml"ファイルとSMTP入力ノードで生成した".mbox"ファイルです。
- **[From(送信元)]** - 送信者の電子メールアドレスを入力します。
- **[To(宛先)]** - 受信者の電子メールアドレスを入力します。複数のアドレスは、カンマ、セミコロン、または改行で区切ります。
  - **[Ccを追加]** - このリンクをクリックすると、電子メールに「カーボンコピー」する電子メールアドレスを入力できるフィールドが表示されます。
  - **[Bccを追加]** - このリンクをクリックすると、電子メールに「ブラインドカーボンコピー」する電子メールアドレスを入力できるフィールドが表示されます。このオプションを使用すると、Bccリストの受信者は他の受信者に表示されません。
- **[件名]** - 電子メールの件名を入力します。
- **[メッセージ]** - 出力ファイルに添付するメッセージを入力します。

- **[メタデータ]** - ワークフローメタデータを参照するには、このボタンをクリックします。**メタデータブラウザーウィンドウ** が表示されます。このウィンドウを使用して、**メタデータキーの選択** 領域から適切なオープンテキストフィールドに変数名をドラッグアンドドロップできます。詳細については、**電子メールヘッダーメタデータに動的変数を使用する** セクションを参照してください。
- **[ヘルプ]** - このボタンをクリックして、オンラインヘルプにアクセスします。
- **[保存]** - このボタンをクリックして、電子メール出力の定義を保持します。
- **[キャンセル]** - このボタンをクリックして、変更を保存せずにウィンドウを終了します。

電子メールヘッダーメタデータに動的変数を使用する

アドレスフィールド(From、To、Cc、およびBcc)は以下をサポートします。

- カンマ(,)、セミコロン(;)、およびスペースを使用して複数の電子メールアドレスに送信する。次の例を参照してください。

  ```
  accounting@emailhosting.com; manufacturing@emailhosting.com; sales@emailhosting.com
  ```

  ```
  accounting@emailhosting.com, manufacturing@emailhosting.com, sales@emailhosting.com
  ```

  ```
  accounting@emailhosting.com manufacturing@emailhosting.com sales@emailhosting.com
  ```

- メタデータの使用。次の例では、以前の電子メール解析ノードの「To(宛先)」および「From(送信元)」アドレスが、送信される新しい電子メールに使用されます。

  注: 電子メールの本文、または From(送信元)/To(宛先)/Subject(件名)フィールドで他の文字列をメタデータと一緒に使用する場合は、非メタデータ文字列の最初の中括弧を別の中括弧でエスケープする必要があります。例: **{fs.fullname}{0,1,1}** はエラーになります。しかし、**{fs:fullname}{{0,1,1}** は正しいです。

- メタデータが存在しない場合は、バックアップアドレスを指定します。この場合、キーワード「or」、「orelse」、「else」、「or-else」をメタデータのバックアップアドレスとして指定できます。

  これらのキーワードでは、キーワードの左側に指定されたメタデータが存在しない場合、右側に指定されたメールアドレスが次の例のように使用されます。

  ```
  {email : accounting} else accounting@emailhosting.com
  ```

  ```
  {email : accounting} or accounting@emailhosting.com, {email : manufacturing} or manufacturing@emailhosting.com, {email : sales} or sales@emailhosting.com
  ```

  複数のメタデータフィールドもチェックしたい場合は、複数のバックアップアドレスを組み合わせることもできます。このような場合、左から右へ最初のメタデータが次の例のように使用されます。

  ```
  {email : accounting} or {email : account manager} or accounting@emailhosting.com
  ```

  注: バックアップロジックは常に左から右に読み込まれます。次の例では、静的な電子メールの値が最初に読み取られるため、メタデータは使用されません。

  ```
  accounting@emailhosting.com or {email : accounting}
  ```

ファイアウォールに関する注意

一部のアンチウィルスソフトウェアを含むサードパーティのファイアウォールアプリケーションは、Dispatcher Phoenix 電子メール出力ノードで使用されるポートをブロックする可能性があります。既定では電子メール出力はポート25を使用します。ただし、このポート番号は設定可能であるため、番号が変更されている場合は異なる場合があります。メールの送信が失敗した場合、ワークフローログで次のメッセージを確認します。

```
"[Warning\][SMTP user@mail.com]Connection failed to SMTP server mail com:25"
```

電子メール出力が正しく機能するようにするには、ファイアウォールアプリケーションのマニュアルを参照してポート25のブロックを停止するか、ワークフローエンジンプロセス「blox-erl.exe」によるアクセスを許可してください。

FTP

FTP ノードは、出力ファイルをFTPサーバーに配信します。FTPノードウィンドウを開くには、FTPノードをワークスペースに追加してダブルクリックします。

- **[有効]** - 複数の出力場所が存在する場合は、このチェックボックスをオンにします。チェックを外すと、この出力は無視されます。ワークフローは引き続き検証されますが、ドキュメントは出力されず、失われる可能性があります。
- **[ノード名]** - FTPノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** - FTPノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、出力先が2つ以上ある場合に便利です。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[認証]** - この領域を使用して、このFTPサーバー上のアカウントにアクセスするための次の情報を入力します。
  - **ユーザー名**
  - **パスワード**
- **[接続]** - FTPサーバーのシステム情報を入力します。
  - **[ホスト/IPアドレス]** - このサーバーの識別ホスト名、またはそのIPアドレスを入力します。
  - **[ポート]** - サーバーがFTP通信用に使用するポートを入力します（既定値は21）。
  - **[サブディレクトリ]** - FTPサーバー上の目的の宛先ディレクトリへのパスを入力します。サーバー上のルートディレクトリを参照しない限り、先頭のスラッシュは必要ありません。
    - **[サブディレクトリが存在しない場合は作成する]** - 新しいサブディレクトリを作成するにはこのボックスをチェックします。
- **[ファイルがすでに存在する場合]** - エクスポートするワークフローのファイル名が宛先ディレクトリのファイル名と一致する場合のファイル処理の設定を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。
  - **[無視してオリジナルを保持]** - このオプションを選択すると、ファイルのエクスポートがキャンセルされ、元のファイルが宛先ディレクトリに保持されます。このオプションは、処理されたファイルの重複を防ぎます。
  - **[既存のファイルを置換]** - このオプションを選択すると、宛先ディレクトリの元のファイルが上書きされ、エクスポートされたファイルに置き換えられます。
  - **[一意のIDを付加]** - このオプションを選択すると、エクスポートされたファイルのファイル名に一意のIDが追加され、宛先ディレクトリの元のファイルと区別されます。このオプションは、処理されたファイルの両方のバージョンを保持します。
- **[メタデータ]** - ワークフローメタデータを参照するには、このボタンをクリックしてください。**メタデータブラウザーウィンドウ** が表示されます。このウィンドウを使用して、**メタデータキーの選択** 領域から、適切なテキストフィールドに変数名をドラッグアンドドロップできます。
- **[ヘルプ]** - このボタンをクリックして、オンラインヘルプにアクセスします。
- **[保存]** - FTP定義を保持するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - このボタンをクリックして、変更を保存せずにウィンドウを終了します。

FTP構成

Dispatcher Phoenixは、SSLおよびTLSを使用したFTPおよびFTP-SSL（FTPS）をサポートしています。FTPサーバーの構成に応じて、ポートを21（既定値）から990（SSL/TLSの既定値）、またはFTPサーバーが構成されているポートに変更する必要があります。

Dispatcher PhoenixはSSH-FTP（SFTP）をサポートしていますが、SFTP出力ノードを使用した出力としてのみサポートされています。

ファイアウォールの注意事項

一部のウイルス対策ソフトウェアを含むサードパーティのファイアウォールアプリケーションは、Dispatcher Phoenix FTPノードが使用するポートをブロックする場合があります。既定では、FTPはポート21を使用します。ただし、このポート番号は構成可能であり、パッシブモードFTPの場合は、サーバーによって任意に定義される可能性があるため、既定値とは異なる場合があります。FTP接続が失敗した場合は、ワークフローログで次のメッセージを確認してください。

ftp.com:21 <ftp://ftp.com:21> への接続に失敗しました。

FTPが正しく機能するようにするには、ファイアウォールアプリケーションのドキュメントを参照して、ポート21のブロックを停止するか、ワークフローエンジンプロセス「blox-erl.exe」によるアクセスを許可してください。

HL7コネクター

ヘルスケア市場にとって重要な特徴であるこのノードは、業界標準のHL7（Health Level 7）メッセージとしてドキュメントを配信します。Dispatcher PhoenixのHL7サポートは、医療従事者に必要な相互運用性と接続性を提供します。

- 複合機で患者情報を検索します。
- 追加の患者情報を複合機で入力します。
- スキャンされたドキュメントを指定された患者情報と共にHL7メッセージとして安全に送信し、その後、電子健康記録（EHR）システムによって安全に受信することができます。

Dispatcher Phoenix HL7コネクターは、**MLLP（Minimum Lower Layer Protocol）を使用したTCP/IP経由で** 直接接続することにより、**HL7 v2.x** メッセージの送信をサポートします。MLLPラッピングプロトコルは、各メッセージの開始と終了を認識するために必要です。

HL7の概要

HL7は、異なる医療システム間で医療データを転送するための国際規格です。HL7メッセージは、次のようにメッセージ部分を区切る1文字の区切り文字で構成されています。

- セグメント、キャリッジリターン (\r)で区切られる
- フィールド、縦棒/パイプ (|)で区切られる
- コンポーネント、キャレット (^)で区切られる
- サブコンポーネント、アンパサンド(&)で区切られる

HL7 メッセージフォーマット

HL7コネクターから送信されたHL7メッセージの例については、次の図を参照してください。

```
MSH|^~\&|Dispatcher Phoenix|Solutions Engineering Center||Facility
1|201804251135||MDM^T02|20180425113512995|P|2.3.1|
PID|1|123456|||Doe^John^A.||19790704|M|||123  Main Street^^Hartford^Connecticut^06101^US||860-123-
4567
TXA|1|PR||20180424
OBX|1|ED|0123456-C^Patient's
progress^^^ProgressNote.txt||^text^plain^Base64^MS4gSW5zdGFsbCBlbDcgU291cCAoMSkubXNpIG9uI
HRoZSBkZXNrdG9wDQoyLiBDb3B5IGFuZCBwYXN0ZSB0aGUgUmVjZWl2ZWQvU2VudCBtZXNzYWdlI
GIuIHRoZSBITDcgU291cCB1
OBX|2|ED|0123456-C^Patient's  progress^^^ProgressNote.txt||^text^plain^Base64^aS4=
```

HL7メッセージには、以下のセグメントが含まれます。

セグメント	説明
MSH	メッセージヘッダー。すべてのメッセージはMSHで始まります。
TXA	媒体化文書ヘッダー。これには、ドキュメントタイプと、ドキュメントが作成された日時が含まれます。
PID	患者識別。これには、提供されたすべての患者情報が含まれます。
OBX	観察結果。これには、ファイルが送信されている場合はED（カプセル化データ）、テキストが送信されている場合はTX（テキストデータ）が含まれます。ファイルデータが送信されている場合、各セグメントには32,768バイトのbase64エンコードファイルが格納されます。テキストデータが送信されている場合、入力テキストデータの各行はそれぞれのセグメントに含まれます。

メッセージヘッダー セグメント

メッセージヘッダーには、以下のエレメントが含まれます。

フィールドインデックス	フィールド名	コメント
1	Field Separator (フィールド区切り文字)	MSH.1 フィールドは /
2	Encoding Characters (コード化文字)	MSH.2 フィールドは ^~&
3	Sending Application (送信アプリケーション)	MSH.3 フィールドは Dispatcher Phoenix
4	Sending Facility (送信施設)	
5	Receiving Application (受信アプリケーション)	使用されません
6	Receiving Facility (受信施設)	
7	Date/Time Of Message (メッセージ日付/時刻)	フォーマット: yyyyMMddhhmmss
8	Security (セキュリティ)	使用されません
9	Message Type (メッセージ型)	以下のメッセージタイプがサポートされています。 • Admit Patient (患者の入院) – ADT^A01 • Discharge Patient (患者の退院) – ADT^A03 • Register Patient (患者の登録) – ADT^A04 • Patient Information Update (患者情報の更新) – ADT^A08 • Medical Document Upload (医療文書のアップロード) – MDM^T02 • Refer Patient (患者の照会) – REF^I12
10	Message Control ID (メッセージ制御ID)	
11	Processing ID (処理ID)	次の処理ID値がサポートされています。 • Production (プロダクション) - P • Debugging (デバッグ) - D • Training (トレーニング) - T
12	Version ID (バージョンID)	MSH.12 フィールドは 2.3.1

患者識別 セグメント

患者識別には、以下のエレメントが含まれます。

フィールドインデックス	フィールド名	コメント
1	Set ID - PID (セットID - PID)	
2	Patient ID (患者ID)	
3	Patient Identifier List (患者IDリスト)	使用されません
4	Alternate Patient ID (代替患者ID)	使用されません
5	Patient Name (患者氏名)	
6	Mother’s Maiden Name (母親の旧姓)	使用されません
7	Date of Birth (生年月日)	フォーマット: yyyyMMdd
8	Administrative Sex (性別)	• Ambiguous (両性具有) - A • Female (女性) - F • Male (男性) - M • Not Applicable (適応外) - N • Other (その他) - O • Unknown (未知) - U
9	Patient Alias (患者別名)	使用されません
10	Patient Address (患者住所)	
11	County Code (群コード)	使用されません
12	Phone Number - Home (電話番号ー自宅)	

媒体化文書ヘッダー セグメント

媒体化文書ヘッダーには、以下のエレメントが含まれます。

フィールドインデックス	フィールド名	コメント
1	Set ID - TXA (セットID - TXA)	
2	Document Type (ドキュメントタイプ)	次のドキュメントタイプがサポートされています。 • Consent to Treat (治療への同意) - CT • Consultation (相談) - CN • Diagnostic Imaging (画像診断) - DI • Discharge Summary (退院概要) - DS • Emergency Department Report (救急部レポート) - ED • HIPAA Consent (HIPAA同意) - HC • History and Physical Examination (履歴と健康診断) - HP • Operative Report (手術レポート) - OP • Psychiatric Consultation (精神医学相談) - PC • Psychiatric History and Physical Examination (精神医学履歴と健康診断) - PH • Procedure Note (手順メモ) - PN • Progress Note (経過メモ) - PR • Referral / Order (紹介/オーダー) - RO • Surgical Pathology (外科病理学) - SP • Transfer Summary (移動概要) - TS
3	Type of Referenced Data (参照データの種類)	使用されません
4	Activity Date/Time (活動日付/時刻)	フォーマット: yyyyMMdd

検査結果値 セグメント

検査結果値には、以下のエレメントが含まれます。

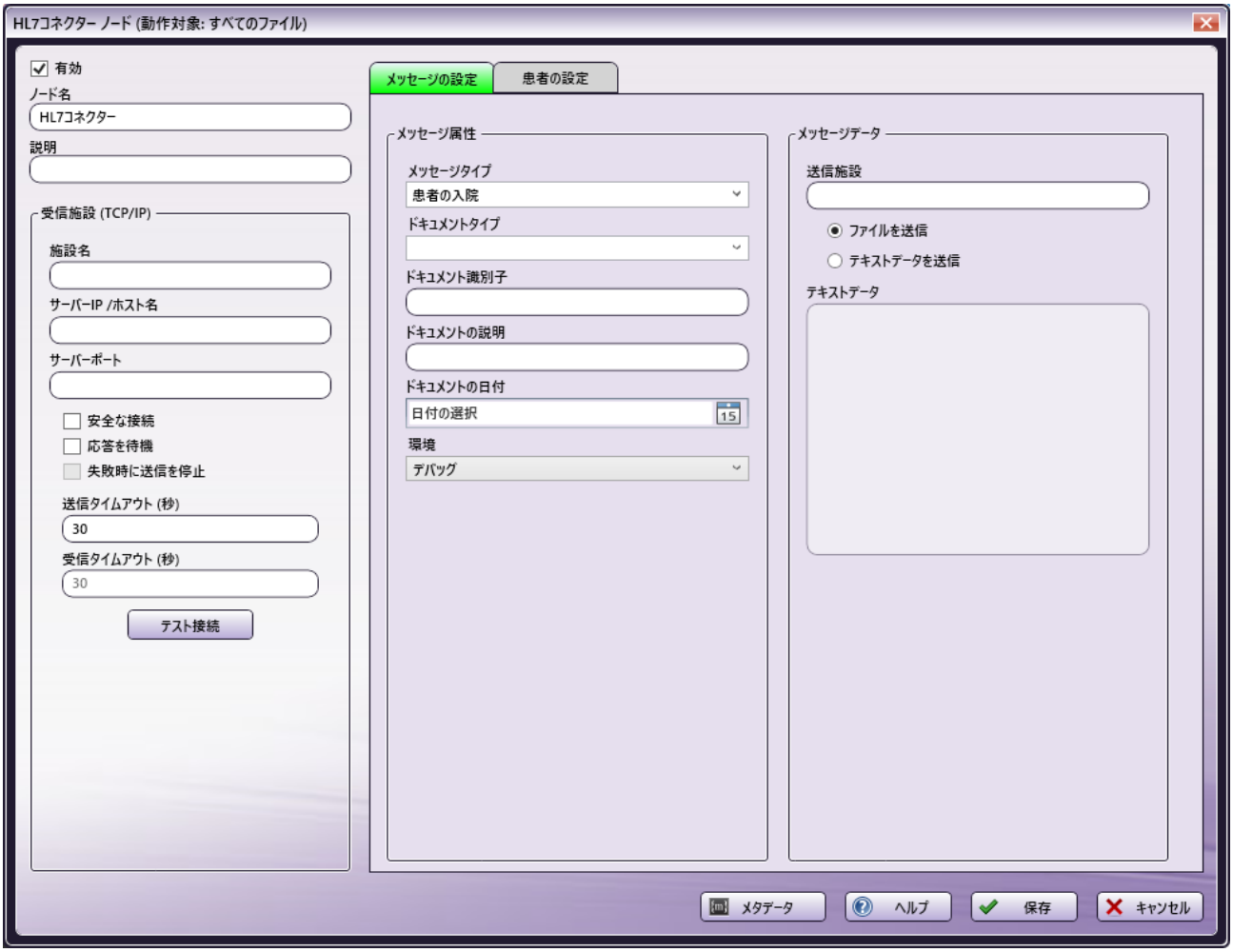
フィールドインデックス	フィールド名	コメント
1	Set ID - OBX (セットID - OBX)	
2	Value Type (値型)	次の値型が使用されています。 • Encapsulated Data (カプセル化データ) - ED • Text Data (テキストデータ) - TX
3	Observation Identifier (検査項目)	文書識別子、説明、およびファイル名が含まれます。
4	Observation Sub-ID (検査副ID)	使用されません
5	Observation Value (検査値)	ファイルデータを送信する場合、MIMEアプリケーションタイプ、エンコーディング（base64）、およびファイルバイトが含まれます。 テキストデータを送信する場合は、1行のテキストが含まれます。

HL7コネクター ノードの概要

HL7コネクターノードを使用すると、TCP/IPサーバーへ接続し、患者情報を検索したり、さまざまなメッセージや患者の設定を指定することができます。

HL7コネクター を設定するには、**HL7コネクター** ノードを追加し、ダブルクリックします。

注: 実行中のファイアウォールを無効にするか、実行中のファイアウォールのポートをこのサーバーに接続する用に転送する必要があります。



このウィンドウでは、次の操作を実行できます。

- 出力先が複数ある場合、**[有効]** ボックスにチェックを入れます。チェックを外すとこの出力は無視されます。ワークフローは引き続き検証されますが、ドキュメントは出力されず失われる可能性があります。
- **[ノード名]** フィールドで、**HL7コネクター** に有意義な名前を入力します。
- **[説明]** フィールドで、**HL7コネクター** の説明を入力します。これは必須ではありませんが、出力先が複数ある場合に役立ちます。説明が長い場合は、マウスの上にマウスを置くと、その内容全体を読むことができます。

TCP/IPサーバーへの接続

受信施設 (TCP/IP) の領域で、HL7メッセージを送信するサーバーに関する情報を入力します。以下を設定する必要があります。

- **[施設名]** フィールドで、HL7メッセージを受信するシステムの識別名を入力します。
- **[サーバーIP/ホスト名]** フィールドで、HL7メッセージを受信するシステムのサーバーアドレスを入力します。
- **[サーバーポート]** フィールドで、HL7メッセージを受信するシステムのサーバーポートを入力します。
- TCP/IP接続でTLSを有効にするには、**[安全な接続]** チェックボックスをオンにします。
- 進行中のHL7通信がスムーズに行われるようにするには、メッセージの送信を続行する前に **[応答を待機]** ボックスをチェックして、受信システムから肯定応答メッセージ（ACK）を受信することができます。この肯定応答メッセージは、メッセージが受信されたことの確認として機能し、メッセージはHL7処理ルールに基づいて有効です。
- HL7メッセージの受信または処理中に障害が発生した場合、受信側システムに送信されるメッセージがないことを確認するには、**[失敗時に送信を停止]** チェックボックスをオンにします。このオプションを指定した場合は、**[応答を待機]** ボックスも有効にする必要があります。
- **[送信タイムアウト（秒）]** フィールドに、送信操作がタイムアウトするまで待機する秒数を入力します。
- **[受信タイムアウト（秒）]** フィールドに、受信操作がタイムアウトするまで待機する秒数を入力します。この設定を有効にするには、**[応答を待機]** オプションを有効にする必要があります。
- **[テスト接続]** ボタンを選択して、入力された接続情報が有効であることを確認します。

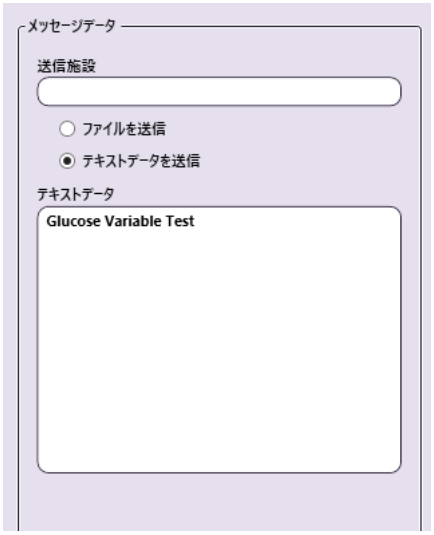
メッセージの設定の指定

[メッセージの設定] タブには、HL7メッセージの内容を指定できるフィールドがあります。これらのフィールドは通常、スキャン時にアクセスされ、複合機で記入されます。複合機ユーザは、[メッセージの設定]フィールドを使用して、次のようなメッセージに関する特定の情報を指定することができます。

- **[メッセージタイプ]** - 患者の入院、患者の退院、患者の登録、患者情報の更新、医療文書のアップロード、患者の照会を含む、患者管理、注文、結果および請求に最も一般的に使用されるHL7メッセージタイプを事前定義リストから選択します。
- **[ドキュメントタイプ]** - 事前定義されたリストから、送信されるドキュメントの種類を選択して指定します。治療への同意、相談、画像診断、退院概要、救急部レポート、HIPAA同意、履歴と健康診断、手術レポート、精神医学相談、精神医学履歴と健康診断、手順メモ、経過メモ、紹介/オーダー、外科病理学、移動概要オプションが含まれます。
- **[ドキュメント識別子]** フィールド - 送信されるドキュメントの簡単なタイトルを入力します。
- **[ドキュメントの説明]** フィールド - 送信されるドキュメントの説明を入力します。
- **[ドキュメントの日付]** - ドキュメントがスキャンされた日付を指定します。
- **[環境]** - メッセージが送信される環境（プロダクション、デバッグ、トレーニング）を選択します。

  [メッセージデータ] 領域では、次のフィールドを使用して、HL7メッセージに含める特定の情報を指定することもできます。

  - **[送信施設]** - メッセージを送信する施設の名前を入力します。
  - **[ファイルを送信]** ラジオボタンを選択して、バイナリファイルをHL7メッセージに埋め込みます。このオプションを有効にすると、アップロードされたドキュメントはサーバーシステム上に作成されたフォルダーに送信されます。
  - **[テキストデータを送信]** ラジオボタンを選択すると、HL7メッセージ内に特定の書式設定されたテキストデータが含まれます。テキストデータは、テキストデータボックスに入力することができます。スキャンしたドキュメントは送信されません。テキストデータボックスに入力されたテキストのみがHL7メッセージ内で送信されます。たとえば、テキストデータボックスに次の情報が入力されます。



HL7メッセージには、次のデータが含まれます。

```
MSH|^~\&|Dispatcher Phoenix|||CB|201804251513||ADT^A01|20180425151351041|D|2.3.1|
PID|1||||Houston^Whitney^||20060410||||^^^^^||
TXA|1|CN||20180425
OBX|1|TX|T55554^||Glucose Variable Test
```

患者の設定の指定

[患者の設定] タブには、スキャンしたドキュメントに関連付けることができる患者の情報（患者の詳細、患者の住所/連絡先データ）を入力できるフィールドがあります。

注: ノード構成ウィンドウを保存するには、患者の姓と名を入力する必要があります

患者の詳細は以下を含みます。

- 患者ID
- 名
- ミドルネーム
- 姓
- 生年月日。
- 性別
- 番地
- 市町村
- 都道府県

- 郵便番号
- 国
- 電話番号

注: [メッセージの設定]タブと[患者の設定]タブのすべてのフィールドでメタデータが受け入れられます。フィールドに追加するメタデータを参照するには、**[メタデータ]** ボタンをクリックすると、「メタデータブラウザー」ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用すると、変数名をメタデータブラウザーから適切なテキストフィールドにドラッグアンドドロップできます。

- **[保存]** ボタンを選択すると、HL7コネクター定義が保持されます。**[ヘルプ]** ボタンを選択してオンラインヘルプにアクセスしたり、**[キャンセル]** ボタンを選択して変更を保存せずにウィンドウを終了することもできます。

HL7 インデックスフォームの作成

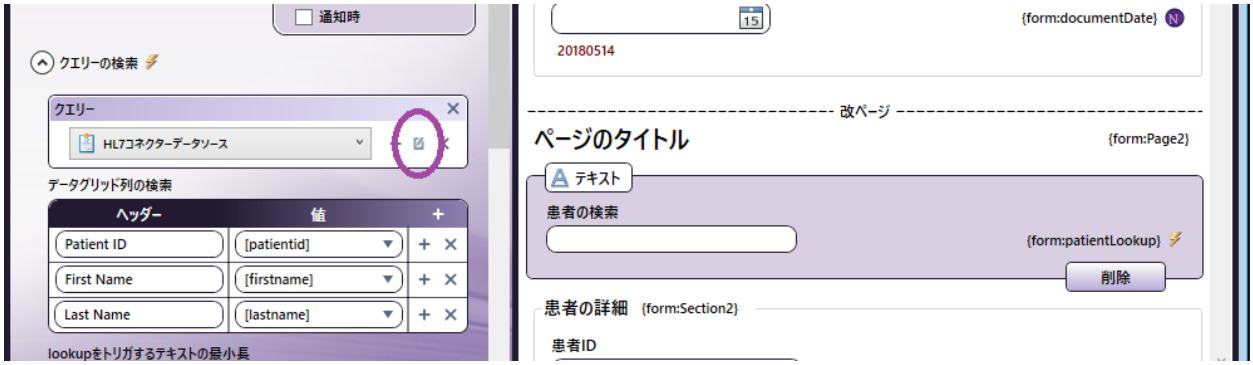
患者情報を検索したり、メッセージの設定を指定したり、患者情報を複合機で入力するためのインデックスフォームを作成できます。以下の操作を行います。

1. ワークフローに（少なくとも）**複合機パネルノード** と **HL7コネクターノード** が含まれていることを確認してください。
2. **複合機パネルノード** から、インデックスフォームビルダーを開きます。[ワークフローのインデックスフィールド]領域の下に **[HL7コネクター]** ボタンが表示されます。
3. **[HL7コネクター]** ボタンをインデックスフォームワーク領域にドラッグ＆ドロップします。次の図のように、デフォルトのHL7コネクターインデックスフォームが自動的に表示されます。

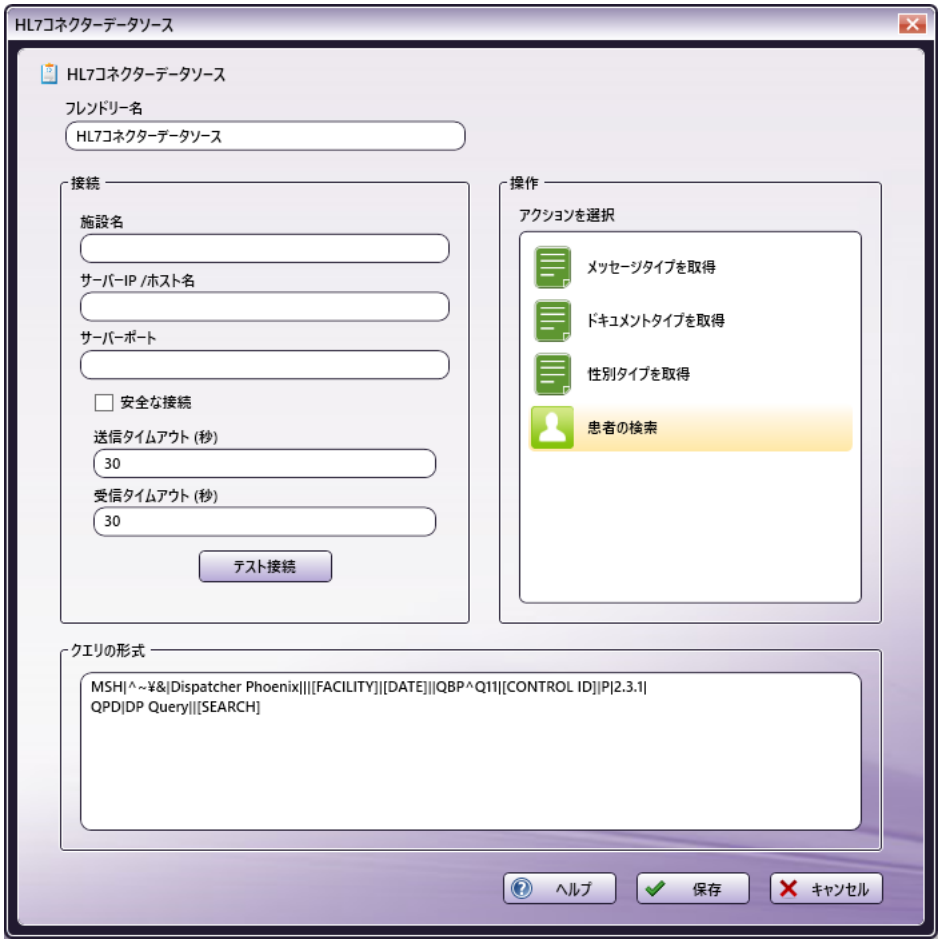
4. 必要に応じて、次の手順に従って、患者の検索のためにインデックスフォームを構成します。

   a. **[患者の検索]** フィールドを選択します。

   b. フィールドのプロパティパネルで、HL7コネクターのデータソースを編集します。例については、次の図を参照してください。



c. 次の図のように、[HL7コネクターデータソース]ウィンドウが表示されます。



[HL7コネクターデータソース]ウィンドウで、以下の操作を行います。

- **[施設名]** フィールドに、患者の情報を取得する対象のシステムの識別名を入力します。
- **[サーバーIP/ホスト名]** フィールドに、患者の情報を取得する対象のシステムのサーバーのIPアドレスを入力します。
- **[サーバーポート]** フィールドに、患者の情報を取得する対象のシステムのサーバーのポートを入力します。
- TCP接続でTLSを有効にするには、**[安全な接続]** チェックボックスをオンにします。
- **[送信タイムアウト(秒)]** フィールドに、送信操作がタイムアウトするまで待機する秒数を入力します。
- **[受信タイムアウト(秒)]** フィールドに、受信操作がタイムアウトするまで待機する秒数を入力します。この設定を有効にするには、**[応答を待機]** オプションを有効にする必要があります。
- **[テスト接続]** ボタンを選択して、入力された接続情報が有効であることを確認します。
- **[クエリーの形式]** フィールドを使用してクエリーを変更します。[クエリーの形式]フィールドには、複合機で患者の検索が要求されたときに、システムから患者情報を取得するために送信されるクエリーが含まれます。既定のクエリーには、次の置換単語が含まれます。
  - **FACILITY** - 接続フィールドに入力された施設名。
  - **DATE** - メッセージがYYYYMMDDHHMM形式で送信された日時。

- **CONTROL ID** - メッセージに対し、ランダムに生成された識別子。
- **SEARCH** - 複合機でユーザーが入力した検索。

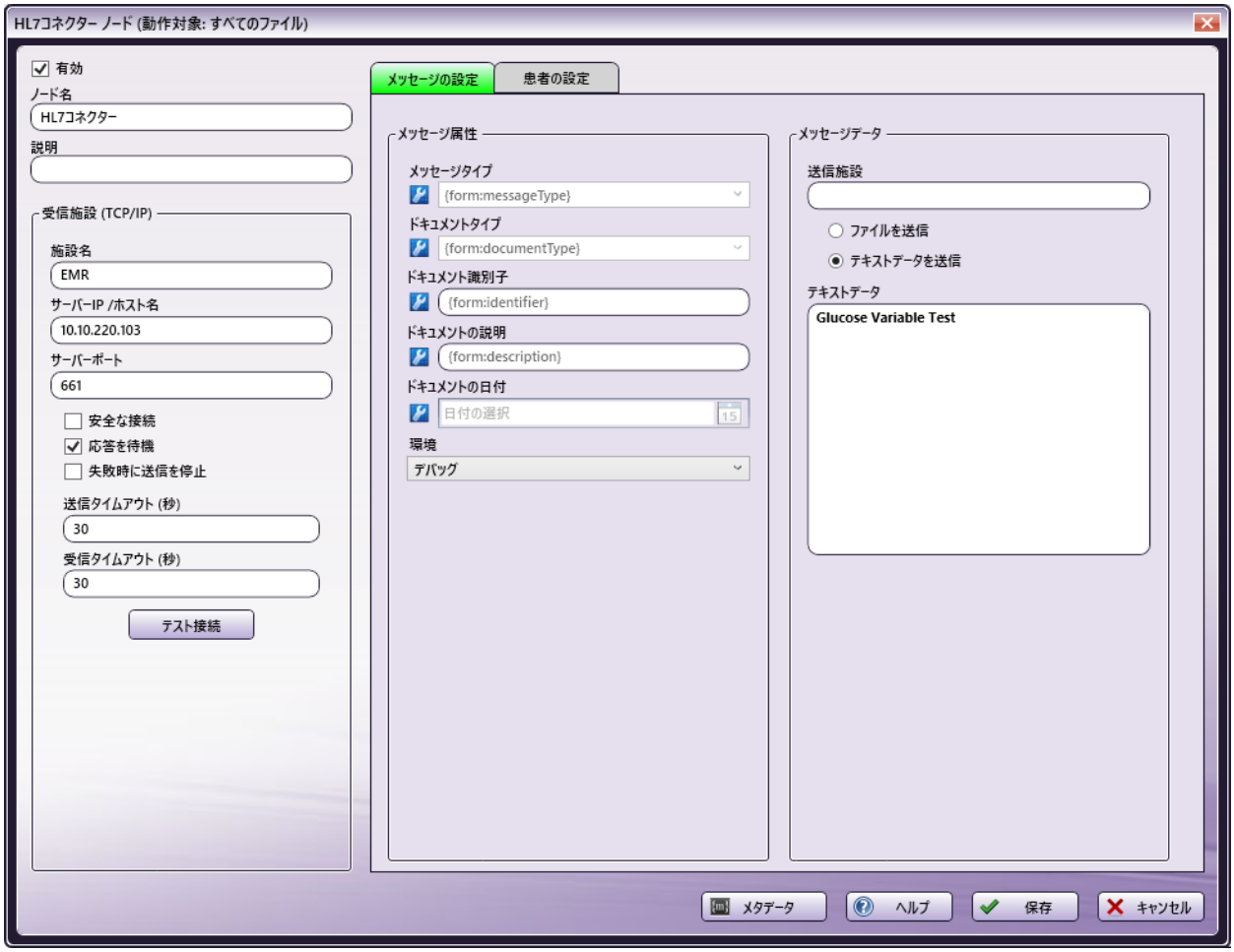
この既定のクエリーは、クエリーされているシステムと互換性があるように、任意のインデックスフォームのメタデータで完全にカスタマイズできます。

- 完了したら **[保存]** ボタンを選択します。

注:

- 複合機で患者の検索を使用しない場合、[インデックスフォーム]から[患者の検索]フィールドを削除してください。
- [患者の検索]は、ネイティブ複合機ユーザーインターフェイスではサポートされていません。

5. インデックスフォームを保存して閉じます。
6. 必要な複合機を使用して **複合機パネルノード** を構成します。**複合機パネルノード** を保存します。
7. 接続の詳細を設定するには、**HL7コネクター** をダブルクリックします。
8. **HL7コネクター** ノードの構成ウインドウで、HL7メッセージを受信するシステムに関する接続情報 を入力します。次の図のように、他のフィールドにはインデックスフォームのメタデータ変数が記入されています。



9. **HL7コネクター** ノードを保存します。

インデックスフォーム用のHL7メタデータ

カスタムインデックスフォームを作成する場合、メッセージタイプ、ドキュメントタイプ、および性別には、次の特定のメタデータ値が必要です。

メッセージタイプ メタデータ値

表示名	メタデータ値
Admit Patient (患者の入院)	ADT A01
Discharge Patient (患者の退院)	ADT A03
Register Patient (患者の登録)	ADT A04
Patient Information Update (患者情報の更新)	ADT A08
Medical Document Upload (医療文書のアップロード)	MDM T02
Refer Patient REF (患者の照会)	I12

ドキュメントタイプ メタデータ値

表示名	メタデータ値
[NOT SPECIFIED] (指定なし)	N
Consent to Treat (治療への同意)	CT
Consultation (相談)	CN
Diagnostic Imaging (画像診断)	DI
Discharge Summary (退院概要)	DS
Emergency Department Report (救急部レポート)	ED
HIPAA Consent (HIPAA同意)	HC
History and Physical Examination (履歴と健康診断)	HP
Operative Report (手術レポート)	OP
Psychiatric Consultation (精神医学相談)	PC
Psychiatric History and Physical Examination (精神医学履歴と健康診断)	PH
Procedure Note (手順メモ)	PN
Progress Note (経過メモ)	PR
Referral / Order (紹介/オーダー)	RO
Surgical Pathology (外科病理学)	SP
Transfer Summary (移動概要)	TS

性別 メタデータ値

表示名	メタデータ値
[NOT SPECIFIED] (指定なし)	[BLANK]
Ambiguous (両性具有)	A
Female (女性)	F
Male (男性)	M
Not Applicable (適応外)	N
Other (その他)	O
Unknown (不明)	U

複合機でのスキャン

複合機でHL7コネクターを使用するには、次の手順を実行します。

1. HL7インデックスフォーム を使用するHL7ワークフローを作成します。
2. HL7ワークフローが実行されていることを確認します。
3. 複合機で、Dispatcher Phoenixアプリケーションにアクセスします。
4. HL7インデックスフォームにアクセスします。次の画面が表示されます。

   第1画面：メッセージ/ドキュメント設定を入力

   この画面では、メッセージタイプ、スキャンするドキュメントタイプ、ドキュメントの識別に役立つその他の情報（識別子、説明、スキャン日付）を指定できます。

第2画面：患者の検索

この画面では、EHR内の特定の患者を検索して、スキャンしたドキュメントを関連付ける必要があります。患者の検索フィールドに文字を入力して検索します。患者名を選択すると、情報はEHRから取得され、他のインデックスフィールドに自動的に入力されます。

第3画面：患者の詳細を入力（生年月日および性別）

この画面では、患者の生年月日や性別などの追加情報を入力できます。

生年月日フィールドには、次の制約があります。

- 月の値は1から12の間でなければなりません。
- 日の値は1から31の間でなければなりません。
- 年は4桁でなければなりません。

第4画面：患者の連絡先情報を入力

この画面では、患者に関する追加の連絡先情報を入力できます。

5. 完了したら、**[開始]** ボタンをタップします。

HTTP出力

HTTP出力ノード は、URL経由で出力ファイルをサーバーに配信するために使用されます。HTTP出力ノード設定画面を使用して、そのURLを指定し、テストを行います。

注意:

- HTTP出力ノードでは、サーバーへのファイルのアップロードに、HTTP POSTリクエストメソッドのみをサポートしています。
- HTTP出力ノードでは、URLのメタデータをサポートしています。

HTTP出力ノードを使用する

HTTP出力 ノードアイコンをワークフロービルダーキャンバスにドラッグすることで、HTTP出力ノードをワークフローに追加できます。アイコンをダブルクリックすると、HTTP出力ノードウィンドウが開きます。

- **[有効]** チェックボックスをオンにして処理が実行されるようにします。オフにすると、この処理は無視されます。ドキュメントは、ノードが存在していないかのように通過します（つまり、既定のパスまたは「Y（はい）方向の」パスを進み続けます）。無効になっているノードでは、論理条件やエラー条件がチェックされません。
- **[ノード名]** フィールドに、HTTP出力ノードに付ける、わかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、HTTP出力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先を相互に区別するのに役立ちます。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[ファイルの送信先URL]** フィールドに、ファイルを送信するためのHTTPパスを指定します。不正な値が入力された場合、エラーメッセージが表示されます。
- **[テスト接続]** ボタンをクリックして、送信先URLに正しく接続していることを確認します。
- 変更を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。**[キャンセル]** を選択してウィンドウを閉じると、変更は保存されません。
- オンラインヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ]** ボタンを選択します。

HTTP出力ノードの送信先の設定のテスト

HTTP出力ノードにジョブが到達すると、それらのジョブは **[送信先の設定]** パネルで入力したURLに送信されます。**[テスト接続]** ボタンを使用して、URLに正しく接続することを確認します。

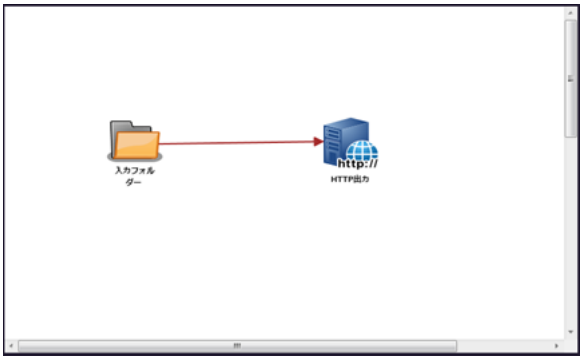
1. HTTP出力ノード設定画面を起動します。
2. 送信先サーバーのURLを **[ファイルの送信先URL]** フィールドに入力します。
3. **[テスト接続]** ボタンをクリックします。

4. フィールドに入力されたURLが有効かどうかのテストが実行されます。有効であれば、URLが有効であることを知らせるメッセージが表示されます。
5. 認証資格情報を必要とするようにサーバーが構成されていると、接続は失敗します。その場合はエラーメッセージが表示されます。接続するにはサーバー側の認証を削除する必要があります。
6. ファイルを送信できないように構成されているサーバーでも、URLが有効であるというメッセージが表示されます。ただし、このようなサーバー構成では、そのURLに対してファイルを送信することはできません。これを解決するには、サーバー側の設定を変更し、ファイルが受け付けられるようにします。

HTTP出力ワークフローのサンプル

このワークフローの目的は、URLを経由してサーバーに出力ファイルを配信することです。

下記のサンプルワークフローでは、ジョブが入力フォルダーに送信され、そこから指定されたURLを経由してHTTP出力サーバーに送られます。



入力フォルダーノード: 入力フォルダーでソースファイルパスを構成しておく必要があります。

HTTP出力ノード: HTTP出力ノードは、送信先URLにファイルを送信できるように構成しておく必要があります（このトピックの前の方にある「HTTP出力ノードを使う」セクションの手順を参照してください。）。

HTTP出力ノードの構成が完了し、接続テストが成功すると、ノードをワークフローで使用できるようになります。

注意: 「HTTP出力ノードの送信先の設定のテスト」の手順6で説明した状況のように正しく対処しないと、HTTP送信ノードは正常に機能しません。

HTTP出力用のサーバー設定のサンプルコード

PHPサーバーコードのサンプル

PHPサーバーコードを使用して、HTTP出力ノードからジョブを受信するようにサーバーを設定できます。以下のブロックは、PHPを使用した、送信先サーバーを作成するコードの例です。

```
<?php
if(empty($_GET) || $_GET['file'] == '') {
        echo "<p>'file' argument is missing in the request.</p>";
        return;
}

$uploaddir = 'C:/Users/test.user/Desktop/Test/output/'; //update the location of your file here.
$uploadfile = $uploaddir . $_GET['file'];

$data = file_get_contents('php://input');

echo "<pre>";
if(file_put_contents($uploadfile,$data)) {
        echo "<p>File uploaded successfully: " . $uploadfile . "</p>";
} else {
        echo "Failed to upload " . $uploadfile;
}
echo "</pre>";
?>
```

Microsoft Exchange

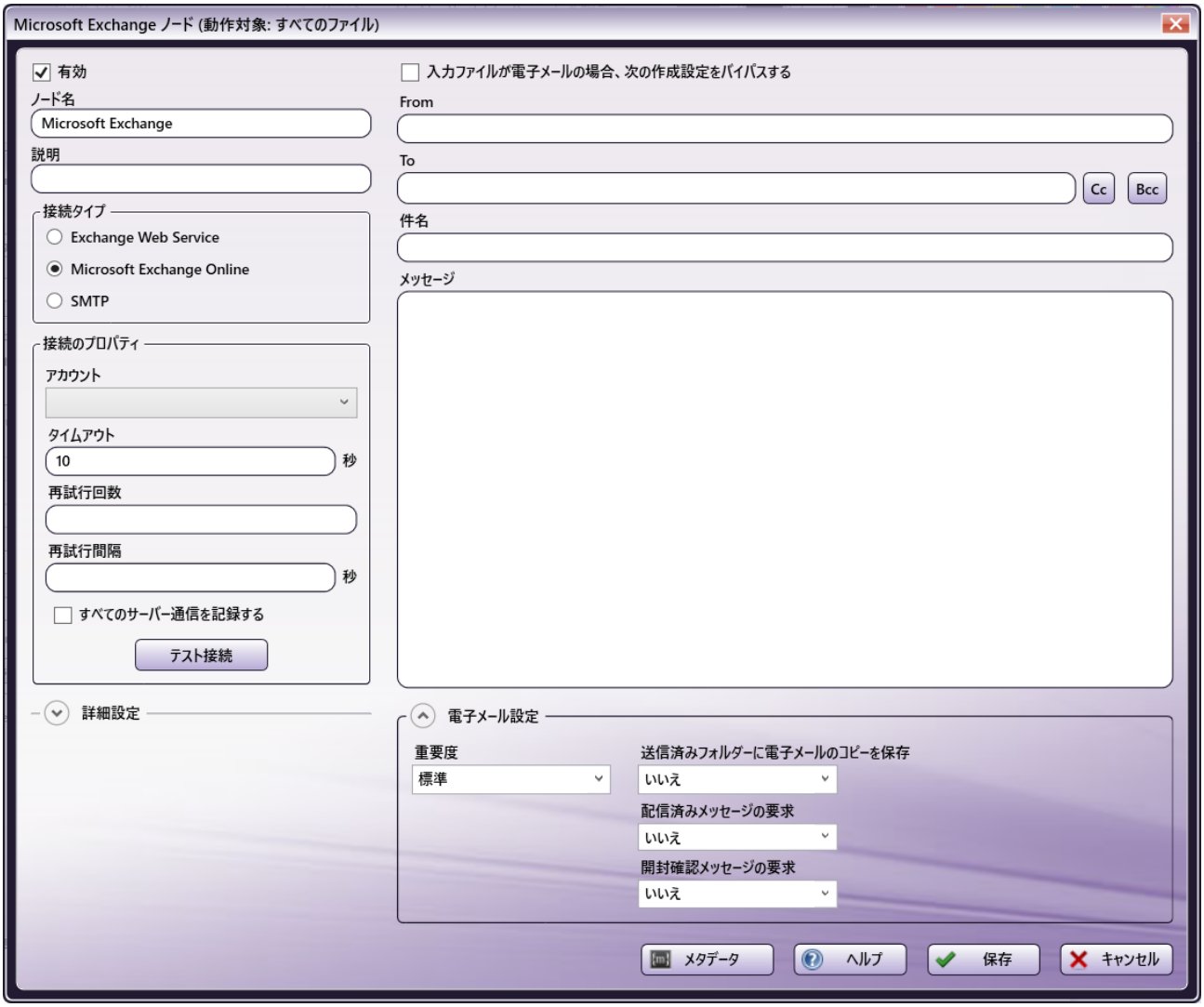
Microsoft Exchangeノード を使用すると、Microsoft Exchange（電子メールのホスティング、カレンダー共有、および連絡先管理の用途で使用されるサーバーベースのアプリケーション）を使用してドキュメントを配信できます。

重要! Dispatcher 8.6またはそれ以前からDispatcher Phoenix 8.7以降にアップグレードする場合、**Microsoft Exchange** ノードを使用するワークフローでは、ワークフローを再開する前にそのノードと関連するすべてのインデックスフォームを置き換えて構成する必要があります。

サポートされるExchangeのバージョン:

- Microsoft Exchange 2010 SP2
- Microsoft Exchange 2013
- Microsoft Exchange 2016
- Microsoft Exchange 2019
- Office365

Microsoft Exchangeノードのプロパティウィンドウを開くには、Microsoft Exchange 出力ノードをワークスペースに追加して、ダブルクリックします。下の図のようなウィンドウが表示されます。



構成オプション

Microsoft Exchangeノードを構成するには、まず以下のフィールドで設定を指定し、次にページのその他の領域で設定を指定します。

- **[有効]** - 複数の配信場所がある場合はこのボックスをチェックします。チェックを外すと、この配信は無視されます。ドキュメントは、ワークフローでは引き続き有効と見なされますが、出力されることはなく、失われる可能性もあります。
- **[ノード名]** - Microsoft Exchangeノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** - Microsoft Exchangeノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、複数の出力先がある場合に役立ちます。説明が長い場合は、このフィールドにマウスを合わせるとすべての内容を読むことができます。

接続タイプ

接続タイプを指定するには、次のオプションのいずれかを選択します。

- **Exchange Web Service** - Microsoft Exchange固有のプロトコル。
- **Microsoft Exchange Online** - オンラインのMicrosoft Exchangeプロトコル。
- **SMTP** - 電子メール転送の標準である簡易メール転送プロトコル。

注: 電子メール設定 セクションで使用できるオプションは、ここでの選択に応じて異なります。

接続のプロパティ

選択した接続タイプの接続のプロパティを指定します。

Exchange Web Service

- **[Web サービス URL]**- Microsoft ExchangeのEWSエンドポイントのURLを入力します。形式は以下のとおりです。*https://<server>/EWS/Exchange.asmx*
- **[ユーザー名]** - Microsoft Exchangeアカウントのユーザー名を入力します。
- **[パスワード]** - Microsoft Exchangeアカウントのパスワードを入力します。

- **[タイムアウト]** - 必要に応じて、通信が行われずにタイムアウトが発生するまでの時間（秒数）を入力します。

  注: 複数のサーバーがホスト名（例：smtp.office365.com）に関連付けられている場合、各サーバーはフルタイムアウトが許可されます。

- **[再試行回数]** - タイムアウト前に接続を再試行する回数を入力します。
- **[再試行間隔]** - 再試行するまでの秒数を入力します。
- **[すべてのサーバー通信を記録する]** - このボックスをチェックすると、すべてのサーバー通信が記録されます。
- **[テスト接続]** - このボタンをクリックして、入力したURLと認証情報が有効かどうかを確認します。

  注: ログを表示するには、ワークフローのアクティビティログを右クリックした後、[ログレベル]、[デバッグ]の順に選択する必要があります。

Microsoft Exchange Online

- **[アカウント]** - ドロップダウンメニューからアカウントを選択します。ドロップダウンに表示される前に、まず **Dispatcher Phoenix Web** にMicrosoft Exchange アカウントを追加する必要があることに注意してください。
- **[タイムアウト]** - 必要に応じて、タイムアウトが発生するまでの通信なしの時間を秒単位で入力します。
- **[再試行回数]** - タイムアウトまでに接続を再試行する回数を入力します。
- **[再試行間隔]** - 再試行が試行されるまでに割り当てられる秒数を入力します。
- **[すべてのサーバー通信を記録する]** - すべてのサーバー通信をログに記録するには、このボックスにチェックを入れます。

注:

- **Dispatcher Phoenix Web** で Microsoft Exchangeをまだ設定していない場合は、ドロップダウンに表示される前にこの操作を行う必要があります。
- Microsoft Exchange Online機能は、Microsoft Exchange OnlineとOutlook.comの両方の電子メールサービスで動作します。

SMTP

- **[ホスト/IPアドレス]** - 発信する外部のSMTP電子メールサーバーの識別ホスト名またはそのIPアドレスを入力します。
- **[ポート]** - サーバーがSMTP通信用に使用するポートを入力します（既定値は25です）。
- **[SSLの有効化]** - このオプションを有効にすると、SSL接続だけを許可するSMTPサーバーに接続します。このオプションを使用すると、SSLサーバーのサポートが有効になります。このボックスをチェックすると、ポートがすでにカスタマイズ済みでない限り、ポート番号は安全なSMTPポートの既定値である465に自動的に変更されます。特定のSMTPサーバーでの構成オプションについては、それらの最新のドキュメントを参照してください。
- **[ユーザー名]** - Microsoft Exchangeアカウントのユーザー名を入力します。
- **[パスワード]** - Microsoft Exchangeアカウントのパスワードを入力します。
- **[タイムアウト]** - 必要に応じて、通信が行われずにタイムアウトが発生するまでの時間（秒数）を入力します。

  注: 複数のサーバーがホスト名（例：smtp.office365.com）に関連付けられている場合、各サーバーはフルタイムアウトが許可されます。

- **[再試行回数]** - タイムアウト前に接続を再試行する回数を入力します。
- **[再試行間隔]** - 再試行するまでの秒数を入力します。
- **[すべてのサーバー通信を記録する]** - このボックスをチェックすると、すべてのサーバー通信が記録されます。

  注: ログを表示するには、ワークフローのアクティビティログを右クリックした後、[ログレベル]、[デバッグ]の順に選択します。

- **[接続のテスト]** - このボタンをクリックして、入力したURLと認証情報が有効かどうかを確認します。

詳細設定

以下の[詳細設定]オプションを利用できます。

- **[添付ファイルを含める]** - ドロ添付ファイルを含めるには、ドロップダウンをクリックして **[はい]** を選択します。それ以外の場合は、**[いいえ]** を選択します。
- **[添付ファイルごとに電子メールを送信]** - 添付ファイルごとに電子メールを送信するには、ドロップダウンをクリックして **[はい]** を選択します。それ以外の場合は、**[いいえ]** を選択します。

  注: 一通の電子メールですべての添付ファイルを送信することを選択した場合、ファイルごとのメタデータを使用しても想定どおりに機能しない可能性があります（一通の電子メールですべての添付ファイルを送信することを選択してから、ノードで[ファイル名]のメタデータを使用した場合、添付ファイルのいずれかのファイル名が選択されます）。ファイルごと（またはページレベル）のメタデータを使用する場合、[添付ファイルごとに電子メールを送信]を選択する必要があります。

- **[メッセージ制限]**
  - **[最大添付ファイル数]** - 電子メールに含めることができる最大添付ファイル数を入力します。
  - **[最大添付ファイルサイズ]** - 電子メールに含めることができる最大添付ファイルサイズ（KB）を入力します。
- **[ファイル名エンコーディング]** - 電子メール添付ファイルのファイル名をSMTPサーバーに送信する方法をカスタマイズすることができます。このオプションは **SMTP** 接続タイプでのみ使用できます。この高度な機能は、電子メールクライアントがDispatcher Phoenixから送信された添付ファイル名を間違って表示している場合に使用します。以下のオプションが利用可能です。
  - **[最新の電子メールクライアント]** を選択すると、RFC2231エンコード方式を使用してファイル名をエンコードします。これは最新の標準であり、最新の電子メールクライアントでの使用を推奨します。
  - **[従来の電子メールクライアント]** を選択すると、ファイル名が可能な限り小さいサイズでエンコードされるようにする文字セットを使用するRFC2047エンコード方式を使用してファイル名をエンコードします。

- **[従来の電子メールクライアント互換モード]** を選択すると、すべてのファイル名にbase64 UTF-8エンコーディングを使用するRFC2047エンコード方式を使用してエンコードします。このオプションを選択するとファイル名は最大になりますが、電子メールクライアントの最大数と互換性があります。

電子メールの作成

この領域を使用して次の操作を行います。

- **[入力ファイルが電子メールの場合、次の作成設定をバイパスする]** - 構成設定（From(送信元)、To(宛先)、Cc、Bcc、件名、メッセージ）および電子メールの添付ファイルを電子メールファイルから取得できるようにするには、このボックスをオンにします。さらに、電子メールファイル内のヘッダー情報も送信されます。Microsoft Exchangeノードで電子メールファイルが検出されると、構成設定フィールドで提供された情報の代わりにその設定が使用され、添付ファイルが送信されます。サポートされている電子メールファイルタイプは、サードパーティソフトウェアからキャプチャされた「.eml」ファイルと、SMTP入力ノードによって生成された「.mbox」ファイルです。

  注:

  - このオプションを有効にすると、**[添付ファイルごとに電子メールを送信]** オプションは自動的に **[はい]** に設定され、設定ができなくなります。これは、電子メールファイルに独自の添付ファイルリストを含めることができるためです。ワークフローでは電子メール添付ファイルと他の入力ファイルを添付ファイルとして混在させることができないため、この設定では各入力ファイルごとに個別の電子メールを送信する必要があります。
  - 接続の種類として **Exchange Web Service** (EWS) を選択すると、From、To、Cc、Bcc、件名、メッセージ、および電子メールの添付ファイルが電子メールファイルから抽出され、Microsoft Exchangeサーバーが期待するEWS形式に変換されます。つまり、電子メールファイルのその他のヘッダー情報は使用されません。
  - **[SMTP]** を接続タイプとして選択すると、Microsoft Exchangeノードは関連するすべてのヘッダー情報を含む電子メールファイルをファイルから送信します（SMTPは電子メールファイル形式を直接サポートするため）。
- **[From（送信元）]** フィールドに、送信者の電子メールアドレスを入力します。
- **[To（宛先）]** フィールドに、受信者の電子メールアドレスを入力します（アドレスが複数存在する場合は、コンマ、セミコロン、または改行で区切ります）。
  - **[Cc]** リンクをクリックすると、電子メールの **[Cc]** を送信する電子メールアドレスを入力できるフィールドが表示されます。
  - **[Bcc]** リンクをクリックすると、電子メールの **[Bcc]** を送信する電子メールアドレス（このアドレスは他の受信者には見えません）を入力できるフィールドが表示されます。

  注: 上記のアドレスフィールドは、**動的変数** の使用をサポートしています。
- **[件名]** フィールドに、電子メールの件名を入力します。
- **[メッセージ]** ボックスに、出力ファイルに添えるメッセージを入力します。

電子メール設定

このセクションで使用できるオプションは、選択した **接続タイプ** によって異なります。

- **[秘密度]** - ドロップダウンリストを使用して、メッセージの機密性を選択します。次のオプションがあります。
  - [標準]
  - [社外秘]
  - [個人用]
  - [極秘]

  注: Microsoft Exchange接続タイプを使用する場合、[秘密度]設定は使用できません。
- **[重要度]** - ドロップダウンリストを使用して、メッセージの重要度を選択します。次のオプションがあります。
  - [低]
  - [標準]
  - [高]

次のオプションは、接続タイプとしてExchange Web Serviceを選択した場合にのみ使用できます。

- **[送信済みフォルダーに電子メールのコピーを保存]** - ドロップダウンリストを使用して、差出人アカウントの[送信済みフォルダーに電子メールのコピーを保存]するかどうかを選択します。
- **[配信済みメッセージの要求]** - ドロップダウンリストを使用して、[配信済みメッセージ]を要求するかどうかを選択します。
- **[開封確認メッセージの要求]** - ドロップダウンリストを使用して、[開封確認]を要求するかどうかを選択します。

注: Microsoft Exchangeノードを含むワークフローに **インデックスフォーム** を添付すると、[**送信済みフォルダーに電子メールのコピーを保存する**] オプション以外の[電子メール設定]領域は、インデックスフォームの設定によって上書きされ、ここでは編集できません。詳細については、以下の **Microsoft Exchangeインデックスフォームの使用** セクションを確認してください。

ボタン

- **[メタデータ]** - **メタデータブラウザー** を開くには、このボタンをクリックします。

  注: メタデータは別のノードによって先に追加されていた場合にのみ使用できます。
- **[ヘルプ]** - オンラインヘルプにアクセスするにはこのボタンをクリックします。
- **[保存]** - 変更を保存するにはこのボタンをクリックします。

- **[キャンセル]** - 変更を保存しないでウィンドウを終了するにはこのボタンをクリックします。

電子メールヘッダーメタデータに動的変数を使用する

アドレスフィールド（From(送信元)、To(宛先)、Cc、およびBcc）は、以下をサポートします。

- コンマ（,）、セミコロン（;）、およびスペースを使用して複数の電子メールアドレスに送信する。次の例を参照してください。

  ```
  accounting@emailhosting.com; manufacturing@emailhosting.com; sales@emailhosting.com
  ```

  ```
  accounting@emailhosting.com, manufacturing@emailhosting.com, sales@emailhosting.com
  ```

  ```
  accounting@emailhosting.com manufacturing@emailhosting.com sales@emailhosting.com
  ```

- メタデータの使用。
- メタデータが存在しない場合は、バックアップアドレスを指定します。この場合、キーワード “or”、“orelse”、“else”、“or-else"をメタデータのバックアップアドレスとして指定できます。

  これらのキーワードでは、キーワードの左側に指定されたメタデータが存在しない場合、右側に指定された電子メールアドレスが次の例のように使用されます。

  ```
  {email:accounting} else accounting@emailhosting.com
  ```

  ```
  {email:accounting} or accounting@emailhosting.com , {email:manufacturing} or manufacturing@emailhosting.com , {email:sales} or sales@emailhosting.com
  ```

  複数のメタデータフィールドをチェックする場合は、複数のバックアップアドレスを組み合わせることもできます。このような場合、左から右へ最初のメタデータが次の例のように使用されます。

  ```
  {email:accounting} or {email:account manager} or accounting@emailhosting.com
  ```

  注: バックアップロジックは常に左から右に読み込まれます。次の例では、静的な電子メールの値が最初に読み取られるため、メタデータは使用されません。

  ```
  accounting@emailhosting.com or {email:accounting}
  ```

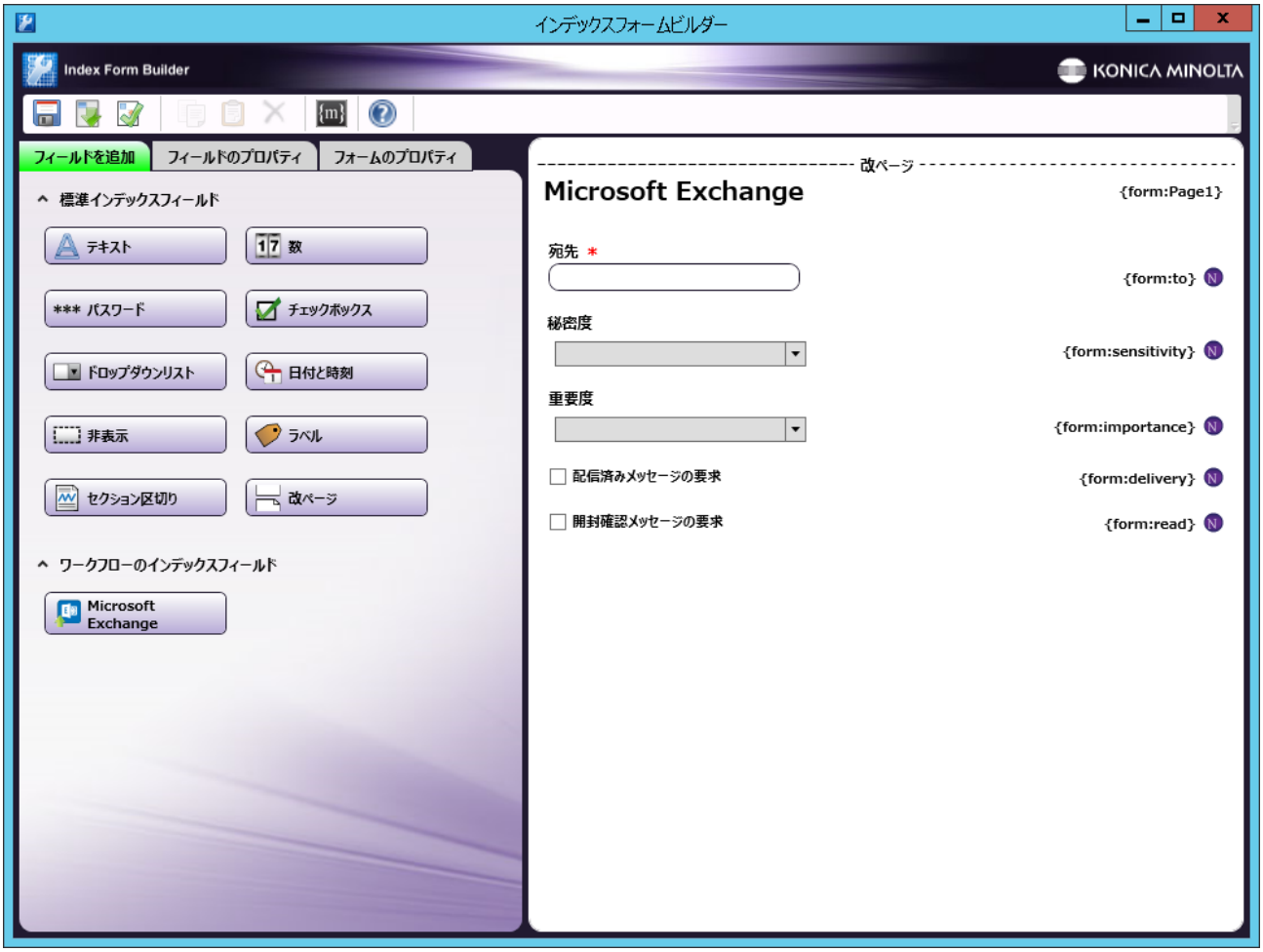
Microsoft Exchangeインデックスフォームの使用

Dispatcher Phoenixの **インデックスフォームビルダー** には、Microsoft Exchangeノードで使用するための事前に作成されたインデックスフォームが含まれています。ノードをワークフローに追加すると、インデックスフォームビルダーを使用してインデックスフォームにアクセスできます。このプロセスは次の基本的な手順で構成されています。

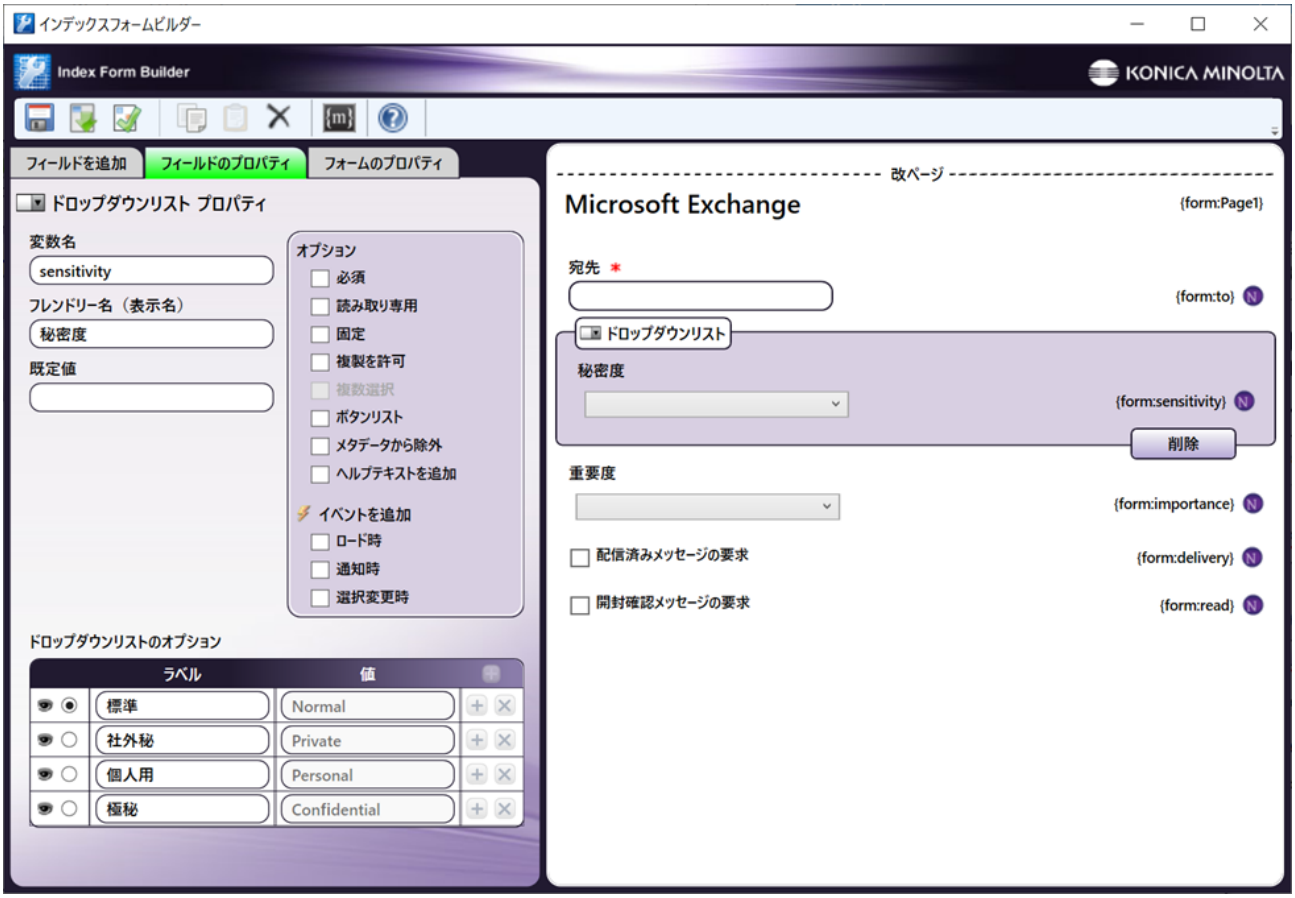
1. ワークフローに **複合機パネルノード** とMicrosoft Exchangeノードが含まれていることを確認します。
2. **Microsoft Exchangeノードの構成** で、適切なサーバーに接続します。Microsoft Exchangeインデックスフォームを設定する前に、この手順を完了する必要があります。

Microsoft Exchangeインデックスフォームの設定

ワークフローの複合機パネルノードで、インデックスフォームビルダーを開き、Microsoft Exchangeアイコンを[ワークフローインデックスフィールド]セクションからウィンドウの右側の作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図に示すように、[**フィールドの追加**]タブの横のペインにインデックスフォームが表示されます。



作業領域のいずれかのインデックスフォームフィールドをクリックすると、左側のペインに[**フィールドプロパティ**]タブが開き、選択したフィールドのオプションが表示されます。次の図は、[**秘密度**]フィールドのオプションを示しています。



Microsoft Exchangeインデックスフォームには、次のフィールドが含まれています。

- **[宛先]** - この **テキストフィールド** は、**[フィールドのプロパティ]** タブの **[既定値]** フィールドの内容（存在する場合）を表示します。ここで、1つ以上の複合機の **[宛先]** フィールドに表示されるデフォルトの宛先電子メールアドレスを指定できます。
- **[秘密度]** - この **ドロップダウンフィールド** を使用して、電子メールの「秘密度」を指定します。ドロップダウンには、次のオプションが含まれています。
  - [標準]
  - [社外秘]
  - [個人用]
  - [極秘]

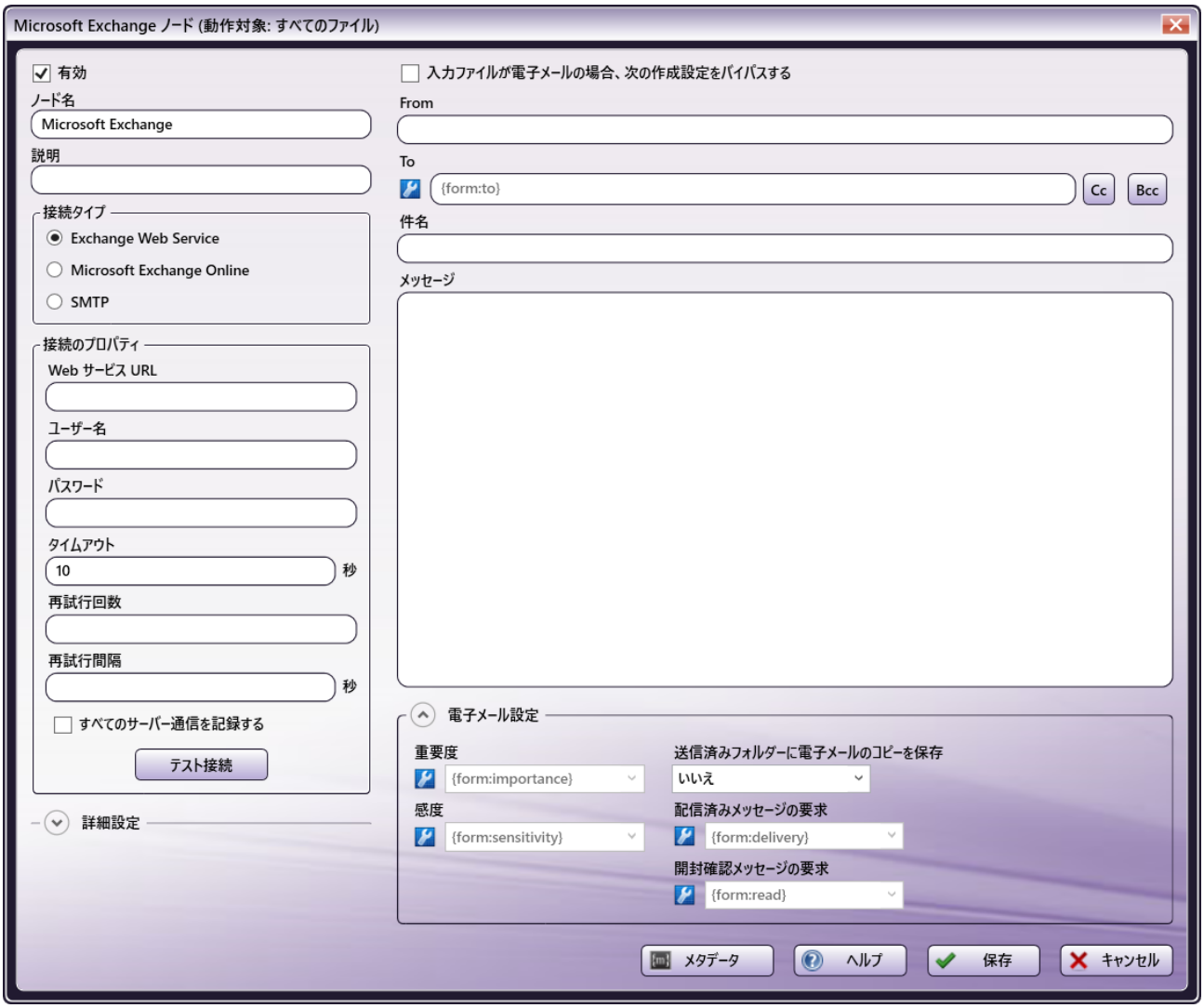
  [**ドロップダウンリストオプション**] フィールドの各アイテムでは、次のオプションを使用できます。
  - [目のアイコン] - 複合機で1つ以上のオプションを非表示にするには、[秘密度]オプションの横にある目のアイコンをクリックします。
  - [ラジオボタン] - 複合機に表示する既定値を選択するには、[秘密度]オプションの横のラジオボタンをクリックします。

- **[重要度]** - この **ドロップダウンフィールド** を使用して、電子メールの「重要度」を指定します。ドロップダウンには次のオプションが含まれています。
  - [低]
  - [標準]
  - [高]

  [**ドロップダウンリストオプション**] フィールドの各アイテムでは、次のオプションを使用できます。
    - [目のアイコン] - 複合機で1つ以上のオプションを非表示にするには、[秘密度]オプションの横にある目のアイコンをクリックします。
    - [ラジオボタン] - 複合機に表示する既定値を選択するには、[秘密度]オプションの横のラジオボタンをクリックします。

- **[配信済みメッセージの要求]** - このフィールドには、複合機で電子メールの配信確認を要求するオプションがあります。既定のラベル「はい」と「いいえ」が提供されています。独自のラベルを指定できます。
- **[開封確認メッセージの要求]** - このフィールドには、複合機で電子メールの開封確認を要求するオプションがあります。既定のラベル「はい」と「いいえ」が提供されています。独自のラベルを指定できます。

注: 複合機パネルノードを介してMicrosoft Exchangeインデックスフォームを有効にすると、インデックスフォームのフィールドがMicrosoft Exchangeノードのフィールド（たとえば、**[秘密度]** および **[重要度]** フィールド）を上書きし、インデックスフォームを無効にしない限り編集できなくなります。次の図を参照してください。



ファイアウォールの注意点

接続タイプについて、次の点に注意してください。

SMTP

接続タイプとして **[SMTP]** を使用している場合、一部のウイルス対策ソフトウェアを含むサードパーティのファイアウォールアプリケーションが、Dispatcher Phoenix 電子メール出力ノードで使用されるポートをブロックする場合があることに注意してください。既定では、電子メール出力はポート25を使用します。ただし、このポート番号は構成可能であるため、番号が変更されている場合は異なる場合があります。電子メールの送信に失敗した場合、ワークフローログで次のメッセージを確認してください。

```
[Warning\][SMTP user@mail.com\]Connection failed to SMTP server mail.com:25
```

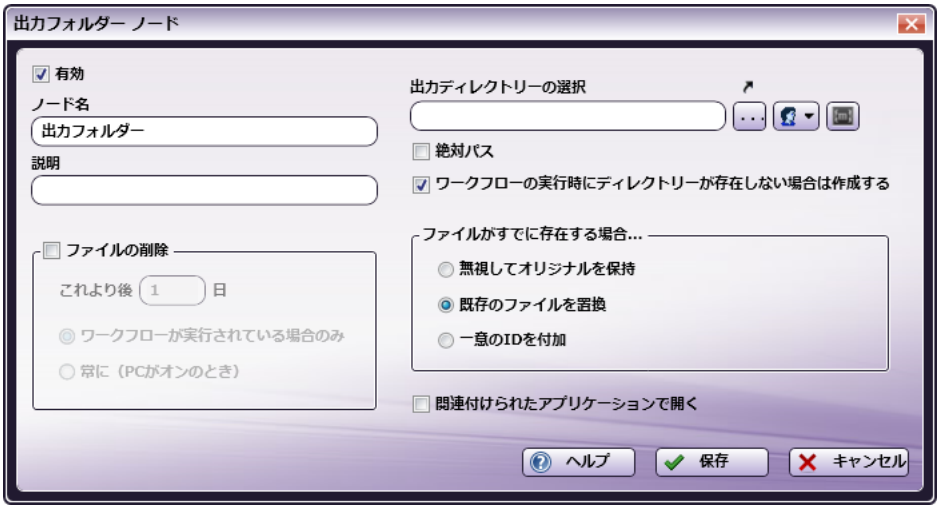
Microsoft Exchangeノードを正しく機能させるには、ファイアウォールアプリケーションのドキュメントを参照して、ポート25のブロックを停止するか、ワークフローエンジンプロセス「blox-erl.exe」によるアクセスを許可してください。

Exchange Web Service (EWS)

[Exchange Web Service (EWS)] を接続タイプとして使用している場合は、可能性は低いですが、ファイアウォールが発信トラフィックをブロックする可能性があります。

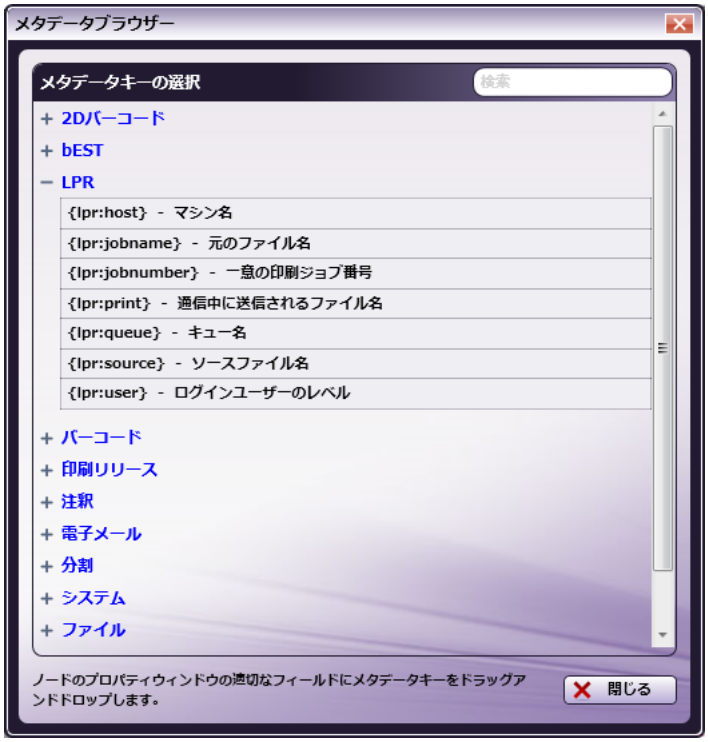
出力フォルダー

出力フォルダー ノードは、ファイルを指定されたフォルダーに配信します。出力フォルダーノードウィンドウを開くには、出力フォルダーノードを追加してダブルクリックします。



- **[有効]** - 複数の出力場所が存在する場合、このチェックボックスをオンにします。チェックを外すと、この出力は無視されます。ワークフローは引き続き検証されますが、ドキュメントは出力されず失われる可能性があります。
- **[ノード名]** - 出力フォルダーノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** - 出力フォルダーノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、出力先が2つ以上ある場合に便利です。説明が長い場合、このフィールドにマウスを合わせるとその内容全体を読むことができます。
- **[ファイルの削除]** - この領域のフィールドをアクティブにするには、チェックボックスをオンにします。次に、ファイルが出力場所から削除されるまでの日数を入力します。ファイルが削除されるまでに約30分かかる場合がありますのでご注意ください。ファイルを削除したくない場合は、チェックボックスを空のままにします。このチェックボックスをオンにする場合は、ファイルを削除するかどうかを指定する必要があります。
  - **[ワークフローが実行されている場合のみ]** 。このオプションを有効にすると、ワークフローの実行時にファイルが削除されます。Dispatcher Phoenixが終了していても、ワークフローがサービスとして実行されている場合、ファイルは削除されます。
  - **[常に(PCがオンのとき)]** 。このオプションを有効にすると、PCの電源が入っているときにファイルが削除されます。ファイルを削除するためにDispatcher Phoenixを開く必要はありません。

  注: [ファイルの削除]ボックスをオンにすると、出力フォルダー内のすべてのファイル(Dispatcher Phoenixに関連付けられていないファイルも含む)が削除されます。
- **[出力ディレクトリの選択]** - **省略記号** ボタンまたは **カーブ矢印** をクリックして、出力場所を見つけて選択します。このフィールドに出力ディレクトリ名を入力するか、動的変数を使用できます。
  - ワークフローメタデータを参照するには、[**メタデータ**] ボタンをクリックします。**メタデータブラウザーウィンドウ** が表示されます。このウィンドウを使用して、次の図のように、変数名を **メタデータキーの選択** 領域から **出力ディレクトリの選択** オープンテキストフィールドにドラッグアンドドロップできます。

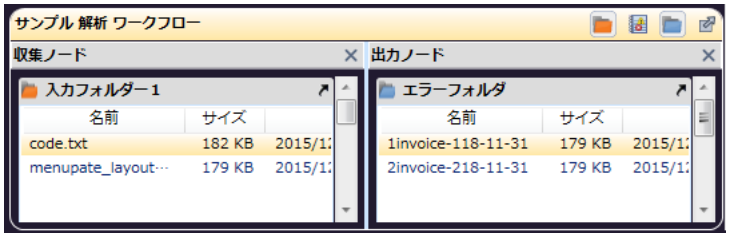


このウィンドウでは、動的変数はそれぞれ中カッコ("{" "}")で囲まれます。これは、アプリケーションで動的変数が使用されていることを示します。次に、動的変数の種類を指定します。

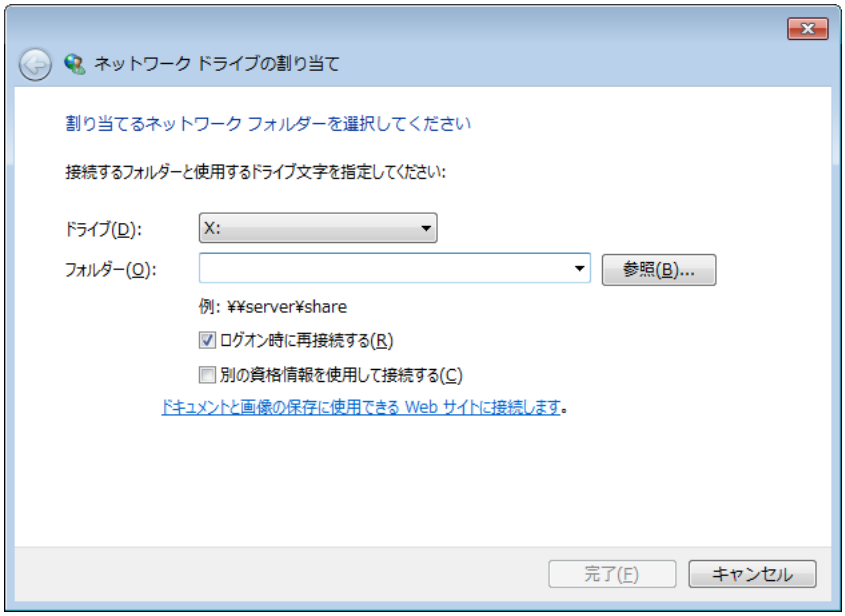
2種類の動的変数を使用してフォルダーを作成する場合、バックスラッシュ(円記号) (\) を2つの変数の間に追加します。(例: {fs:DesktopDirectory}\{date:%p}\{date:%p})。

さらに、フォルダー内にサブフォルダーを作成するには、バックスラッシュ (円記号)(\)で各フォルダー名、または動的変数を区切る必要があります(例: {fs:DesktopDirectory}\{date:%p}\{date:%p})。

注: 数秒または数分という短時間にわたる動的変数の場合には、Dispatcher Phoenixインターフェイスでは動的に作成されるこれらのフォルダーを常にモニターするとは限りません。ファイルが処理されると、各フォルダー名に新しい時間データを反映して、必要に応じて新しいフォルダーが作成されますが、[出力ノード]セクションではこれらの新しいフォルダーの内容をモニターしたり、表示したりすることはできません。



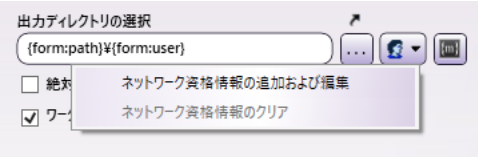
- *新しく* マップされたネットワークドライブに配信する場合、[ネットワークドライブの割り当て]ウィンドウでネットワークドライブを指定するときに **[ログオン時に再接続する]** ボックスがチェックされていることを確認してください。マップされた *既存の* ネットワークドライブに新しいフォルダーを追加する場合、まずマップされたネットワークから切断(ドライブを右クリックし、切断オプションを選択)してからネットワークドライブの割り当てウィンドウで再接続する必要があります。この時点でネットワーク資格情報を再入力する必要がある場合があります。



- ネットワークディレクトリを指す出力フォルダーを作成する場合、ネットワーク資格情報を入力する必要があります。指定したパスがカスタムパスの場合、そのパスについてネットワーク資格情報を指定できます。たとえば、ネットワーク共有のフォルダーを作成するためにメタデータ変数を使用する場合(*\\server\data\{email:to}* または *{form:path}\{form:user}* など)、そのフォルダーが動的に作成されていることを保証するためにパスの資格情報を入力できます。

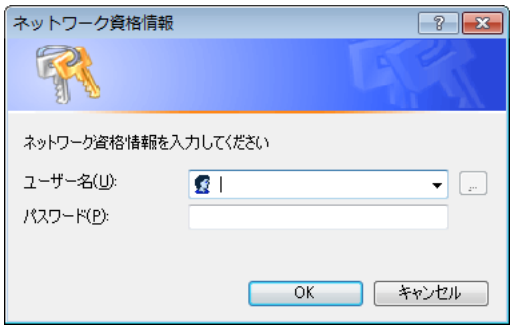
  注: Dispatcher PhoenixはCIFSネットワーク共有とSMBネットワーク共有のみをサポートします。

  ネットワーク資格情報の追加または変更を行うには、省略記号ボタンの右側にある **ネットワーク資格情報** ボタンを選択し、**[ネットワーク資格情報の追加および編集]** を選択してネットワーク資格情報ポップアップウィンドウを開きます。



  指定したネットワーク資格情報を削除するには、[ネットワーク資格情報の消去]オプションを選択します。

  ネットワーク資格情報ウィンドウでは、ユーザー名を選択して適切なパスワードを入力することができます



  注: パスワードは、ワークフローとともに暗号化された形式で保存されます。

  展開されるパスが絶対パスである場合、ワークフローの実行時にネットワーク資格情報は無視されます。

- このフィールドは、パス名の一環としてユーザー名とパスワードも受け入れて保存します。たとえば、「 `<file://test:test@servername/folder/user>`」と入力すると、ユーザー名とパスワード(test, test)がネットワーク資格情報として使用されます。この場合、ユーザーが指定した任意のネットワーク資格情報([ネットワーク資格情報]ウィンドウでの入力)は無視され、パスワードは暗号化されません。
- この出力フォルダーノードがこのワークフローに関連するインデックスフォームで使用されている場合、**[出力ディレクトリ項目の選択]** フィールドの左側に次のようなアイコンが表示されます 。このアイコンをクリックして、出力フォルダーを含むインデックスフォームを開きます。
- 入力した出力場所がユーザーごとに変わらないようにするには、**[絶対パス]** ボックスをチェックします。このオプションを使用すると、該当の場所で実行されるあらゆる種類の代入が無効になります。既定の設定(チェックなし)では、パスを事前定義されたファイルシステム変数に置き換えることが許可されています。

  注: 共有されるワークフローを作成する場合には、このオプションを無効にする必要があることに注意してください(ワークフローを実行するユーザーがフォルダーへの書き込みを許可しない限り、ファイルはフォルダーに配信されないため)。

- 新しい出力フォルダーを作成するには、**[ワークフローの実行時にディレクトリが存在しない場合は作成する]** ボックスをチェックします。出力ディレクトリを作成するために変数を使用する場合には、このチェックボックスにチェックマークを付けてワークフローの実行時にフォルダーが作成されるようにしてください。

  注: ワークフローの実行時にディレクトリが存在しておらず、さらにディレクトリを自動的に作成しないことを選択している場合には、宛先がないためファイルは失われてしまいます。新しいフォルダーを作成しないことを選択する場合には、ディレクトリが存在しないときにファイルが失われることを防ぐためにエラー遷移を使用することをお勧めします。

- **[ファイルがすでに存在する場合...]** - 以下のオプションのいずれかを選択します。
  - **[無視してオリジナルを保持]** - 重複処理ファイルを防ぎます。
  - **[既存のファイルを置換]** - この処理が前の処理に優先される場合に使用します。
  - **[一意のIDを付加]** - 処理ファイルの両バージョンを保持します。
- **[関連付けられたアプリケーションで開く]** - ファイルが処理および保存された後、ファイルの種類に関連するアプリケーションを使用してファイルを開くにはこのボックスをチェックします。
- **[ヘルプ]** - このボタンをクリックしてオンラインヘルプにアクセスします。
- **[保存]** - このボタンをクリックして、出力フォルダーの属性を保存します。
- **[キャンセル]** - このボタンを選択して、変更を保存せずにウィンドウを閉じます。

ファイアウォールの注意事項

一部のアンチウイルスソフトウェアを含むサードパーティーのファイアウォールアプリケーションは、Dispatcher Phoenixの出力フォルダーが使用するポートをブロックする場合があります。Dispatcher Phoenixは、SMBプロトコルまたはCIFSプロトコルを使用してWindowsのディレクトリにアクセスします。既定では、SMB/CIFSは、オペレーティングシステムおよびネットワーク要件に応じて多数の異なるポートを必要とします。接続に失敗した場合、ワークフローのログで以下のメッセージを確認してください。

「ディレクトリにアクセスできませんでした: '\\server\share\path\to\file'」

Windowsのディレクトリに正しくアクセスできるようにするには、お使いのファイアウォールアプリケーションのドキュメントを参照して、ワークフローエンジン処理「blox-erl.exe」がアクセスできるようにしてください。

OCRゾーンを使用したフォルダーの作成

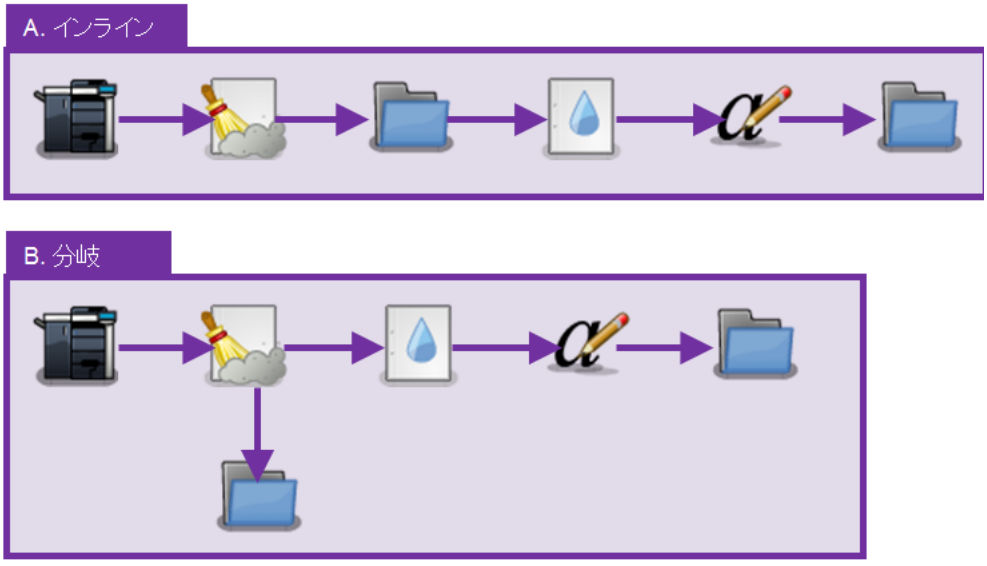
入力ドキュメントのOCR領域を基にしてフォルダーを作成するには、以下の構文を使用します。

{ocr:zone.name of zone[page number]}

たとえば、ドキュメントの1ページ目にある「クライアント」と呼ばれる定義済みのOCR領域を参照するには、「{ocr:zone.client[1]}」と入力します。デスクトップに「クライアント」のOCR領域フォルダーを作成するには、*「{fs:DesktopDirectory}\{ocr:zone.client[1]}」* と入力します。この例で、OCR領域が「ABCD」を抽出すると、ABCDという名前のフォルダーがデスクトップに自動的に作成されます。

出力フォルダーに関する特別な注意事項

出力は一般的に、ワークフローの終了点となります。ファイルが出力ノードに到達すると、そのワークフローまたはワークフローの分岐が完了したことになります。しかし、出力フォルダーはこの規則の例外となります。プリンターまたは電子メールなど他の出力の種類とは異なり、出力フォルダーノードに到達した後でもファイルはワークフローを進み続けます。



上記の例では、両方のワークフローで同じ結果が得られます。両方とも複合機スキャナーから入力を取得し、ファイルのノイズ除去を行います。その結果のファイルがフォルダーに保存されてから、透かし処理と注釈付けが行われ、最終的に最終宛先フォルダーへ送信されます。異なる点としては、**ワークフローA(インライン)** ではファイルをただちに保存することに加え、出力フォルダーを通じてファイルを渡すのに対し、**ワークフローB(分岐)** ではワークフローのメインフローの外でファイルを中間保存することが挙げられます。**ワークフローA(インライン)** 手法の使用には一定の利点と欠点があります。

メリット	デメリット
パフォーマンス: 出力フォルダーをワークフローの残りの部分に従うようにする最大の利点はパフォーマンスの向上です。この手法は、(分岐手法では、ファイルをフォルダーにコピーする処理と、ファイルを透かしに合わせて動かす処理の2つの処理が必要であるのに対し)単一処理で済むため、必要なリソースが少なくて済み、処理速度が向上します。	**重要!** 特殊なケースとして、出力フォルダーにも特定の制限が設けられます。フォルダーは、ワークフローの次のステップへの入力のように見えますが、出力フォルダーは、ワークフローの一環として受信されるファイルを渡すだけです。このことは、フォルダー内に以前存在したか、あるいはワークフローの外に置かれていた(たとえばデスクトップからコピーされたなど)すべてのファイルが、処理されるファイルに含まれずに未処理のままフォルダー内に残されることを意味します
エラー発見: 処理中のエラーをより簡単に発見できます。ファイルが適正に処理されるようにするには、エラーコネクタータイプを使用した措置を取る必要があります。	*処理の停止:* 出力フォルダーへ保存する時点でエラーが発生すると(ネットワークドライブの切断など)、ワークフローの残りの部分へ通じる他のパスがないため、ワークフローは処理を停止してしまいジョブを完了することができません。

プリンター

印刷用に複合機に配信するには、**プリンターノード** ウィンドウを開き、**プリンター** ノードを追加してダブルクリックします。プリンターへの出力の設定は、インストールしたアプリケーションやネットワークで使用できるプリンターによって異なります。ファイルは、***Windows*** 、***LPR*** 、または ***RAWファイル*** の印刷用に送信できます。

注: (サポートされている任意のドキュメント形式の)特定のファイルを印刷する上で問題がある場合には、PageScope Webコネクターダイレクトプリント機能を使用してファイルを印刷してみてください。それでも問題が解決されない場合には、コニカミノルタの担当販売員に問題のファイルについてご相談ください。

Windowsでの印刷

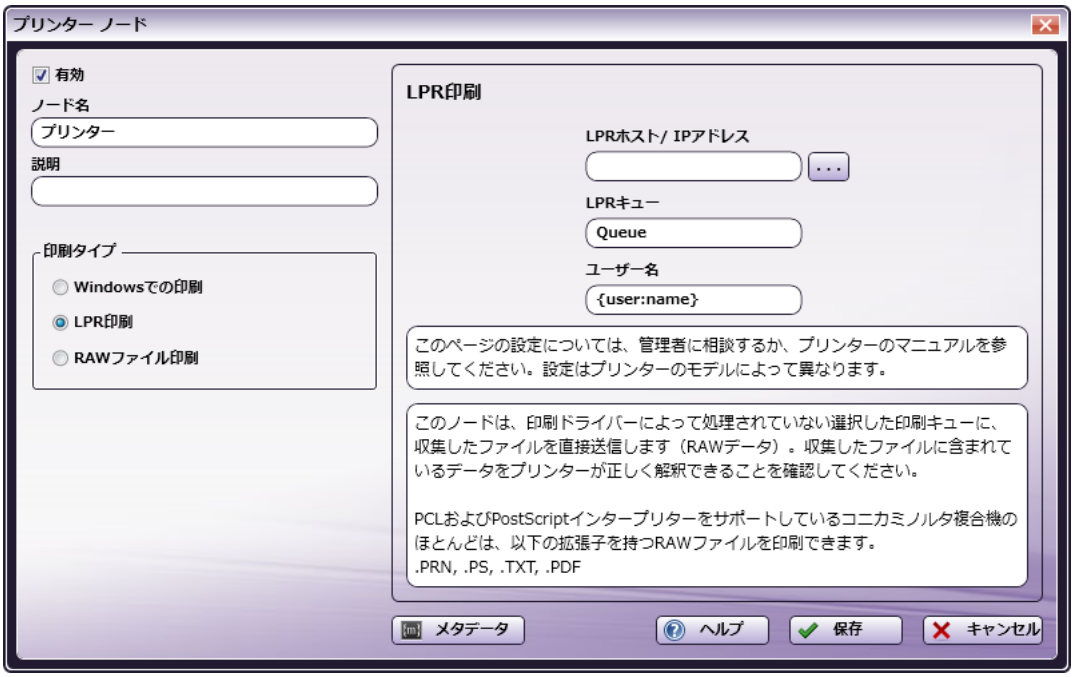
Windowsでの印刷 では使用可能なプリンターを選択しますが、未加工データが送信されプリンタードライバーは使用されないため、アプリケーションは必要ありません。**省略記号** アイコン( )をクリックして希望のプリンターを選択します。次の図で示すように、**プリンターの選択** ウィンドウが表示されます。

[メタデータ] ボタンをクリックすると、そのフィールド内のメタデータを使用してメタデータブラウザーウィンドウを立ち上げることもできます。メタデータブラウザーウィンドウから、メタデータをドラッグし、表示されている空のフィールドへドロップできます。

注: すべてのプリンターがあらゆるネイティブファイルタイプを印刷できるわけではありません。ワークフローを実行する前に、使用対象のプリンターが目的のファイルタイプを直接解釈して印刷できるか確認してください。

LPR印刷

LPR印刷 では、**LPRホスト/IPアドレス** を入力して **LPRキュー** を特定する必要があります。



LPRホスト/ IPアドレスフィールドに有効なホスト名（mysubdomain.domain.comなど）または数字のIPアドレス（10.10.220.110など）を入力するか、***[省略記号]*** ボタン（...）をクリックして複合機エクスプローラーツールを開きます。

ログインのために使用する規定のユーザー名は、Windowsのログインユーザーの名前（ユーザー名フィールドに記載される {user:name} メタデータで示される）とします。LPRを通じて設定されている既定のユーザー名を変更するには、**ユーザー名** フィールドの横にある **[メタデータブラウザー]** ボタンをクリックします。これにより、メタデータブラウザーウィンドウが立ち上がり、ユーザー名に使用する他のメタデータをブラウズしたり、選択/指定したりすることができます。

注: ユーザー名フィールドが検証されます。{ } や \ [などの特殊文字は、バックスラッシュまたは円記号（\）でエスケープするものとします。

複合機エクスプローラーは、現在構成されているネットワークで複合機デバイスを検索し、デバイスが選択されると、プリンターノードのプロパティウィンドウにあるフィールドに正しい情報を自動的に入力します。この場合、プリンターノードのウィンドウにある既存の設定はすべて上書きされます。

[メタデータ] ボタンをクリックすると、LPRフィールド内のメタデータを使用してメタデータブラウザーウィンドウを立ち上げることもできます。メタデータブラウザーウィンドウから、メタデータをドラッグし、表示されているフィールドへドロップできます。

RAWファイル印刷

次に示すように **RAWファイル印刷** では、***ホスト/ IPアドレス*** と ***ポート*** 番号を入力する必要があります。

ホスト/ IPアドレス フィールドに有効なホスト名（例: mysubdomain.domain.comなど）または数字のIPアドレス（10.10.220.110など）を入力するか、***[省略記号]*** ボタン（...）をクリックして複合機エクスプローラーツールを開きます。

複合機エクスプローラーは、現在構成されているネットワークで複合機デバイスを検索し、デバイスが選択されると、プリンターノードのプロパティウィンドウにあるフィールドに正しい情報を自動的に入力します。この場合、プリンターノードのウィンドウにある既存の設定はすべて上書きされます。

[メタデータ] ボタンをクリックすると、そのフィールド内のメタデータを使用してメタデータブラウザーウィンドウを立ち上げることもできます。メタデータブラウザーウィンドウから、メタデータをドラッグし、表示されているフィールドへドロップできます。

ファイアウォールの注意事項 一部のアンチウイルスソフトウェアを含むサードパーティーのファイアウォールアプリケーションは、Dispatcher Phoenixの印刷ノードが使用するポートをブロックする場合があります。既定では、LPR印刷はポート515を使用し、RAW印刷はポート9100を使用します。LPRポート番号は構成できないのに対し、番号が変更された場合にはRAWポートは異なる番号であることがあります。印刷に失敗した場合、ワークフローのログで以下のメッセージを確認してください。

LPR:「'lpr://printer.com:515/Queue'への接続に失敗しました」
または、
RAW:「'raw://printer.com:9100'への接続に失敗しました」

印刷が正しく動作するようにするには、お使いのファイアウォールアプリケーションのドキュメントを参照して、ポート515/9100をブロックしないようにするか、またはワークフローエンジン処理「blox-erl.exe」がアクセスできるようにしてください。

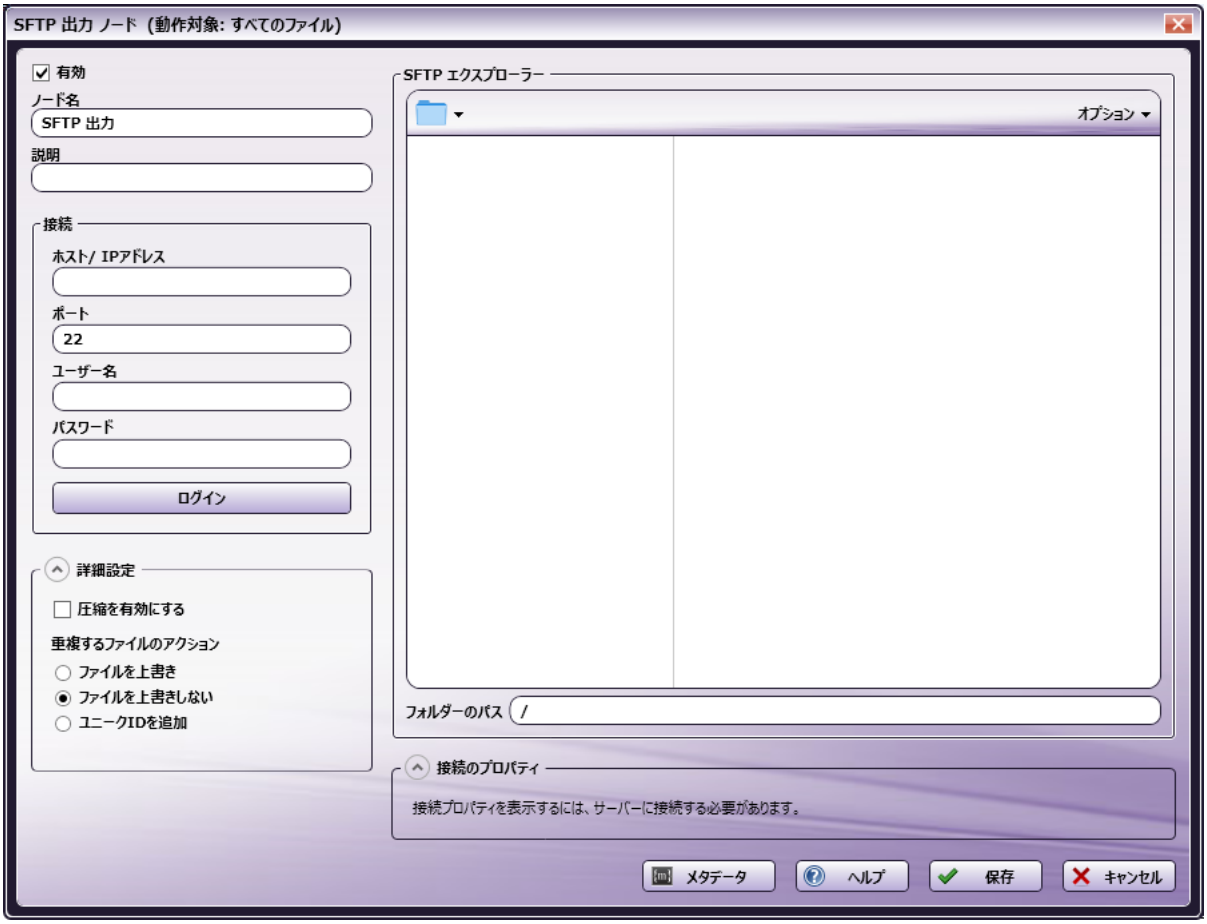
SFTP出力

SFTP出力ノードは、以下のような懸念に対処するのに役立つアルゴリズムをサポートしており、機密ファイルの伝送に非常に適しています。

1. データは機密のまま伝送されます。個人情報（PII）、企業秘密、顧客リスト、主要な従業員の給与、マーケティング戦略、ソースコードなどのような貴重な情報や機密情報を悪用されることは望ましくありません。
2. データの整合性は維持されます。データは変更されずに残り、それがたとえ僅かな偶発的、もしくは意図的な変更であったとしても確認することができます。
3. ソースの信憑性を検証することができます。それが詐欺などでなく、期待する差出人から来たものかどうかを確認することができます。

SFTP出力ノードの概要

このノードは出力ファイルをSFTPサーバーに配信します。**[SFTP出力]** ノードを設定するには、**[SFTP出力]** ノードをワークフローキャンバスに追加してダブルクリックします。



- **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認してください。チェックしないと、この出力は無視されます。ワークフローは検証されますが、ドキュメントは配信されずに失われる可能性があります。
- **[ノード名]** フィールドに、SFTP出力ノードのわかりやすい名前を入力します。
- **[説明]** フィールドに、SFTP出力ノードの説明を入力します。これは必須ではありませんが、出力先が複数ある場合に役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを移動してその内容全体を読むことができます。
- **[接続]** 領域に、SFTPサーバーのシステム情報を入力します。
  - **[ホスト/IPアドレス]** - このサーバーの識別ホスト名またはそのIPアドレスを入力します。
  - **[ポート]** - サーバーがSFTP通信に使用するポートを入力します（既定値は22です）。
  - **[ユーザー名]** - SFTPサーバーに接続するために必要なユーザー名を入力します。
  - **[パスワード]** - SFTPサーバーに正常にログインするために必要なパスワードを入力します。
  - SFTPサーバーとの接続をテストするには、**[ログイン]** ボタンを選択します。
- **[詳細設定]** 領域で、必要に応じて詳細設定オプションをカスタマイズします。
  - SSH接続でデータ圧縮を有効にするには、**[圧縮を有効にする]** ボックスを選択します。圧縮を有効にすることで、サーバーによって送信されたデータは送信前に圧縮され、受信後に解凍されます。
  - **[重複するファイルのアクション]** 領域で、次のいずれかの操作を選択します。
    - **[ファイルを上書き]** - 以前のドキュメントを新しいドキュメントで保存します。
    - **[ファイルを上書きしない]** - ファイルを上書きせず、その他の処理は行いません。
    - **[ユニークIDを追加]** - 処理済みファイルの両方のバージョンを保持します。
- SFTPサーバーに正常に接続すると、**[SFTPエクスプローラー]** 領域にサーバー上の使用可能なフォルダーが自動的に表示されます。
  - **[フォルダーパス]** - SFTPエクスプローラーを使用して、Dispatcher Phoenixがドキュメントを出力するフォルダーを動的に作成できます。
- **[接続のプロパティ]** は、SFTP転送に適用可能なアルゴリズムとその他の仕様を表示します。
- SFTP出力設定を保存するには、**[保存]** ボタンを選択します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを、変更を保存せずにウィンドウを終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択します。

SFTPサーバーの設定

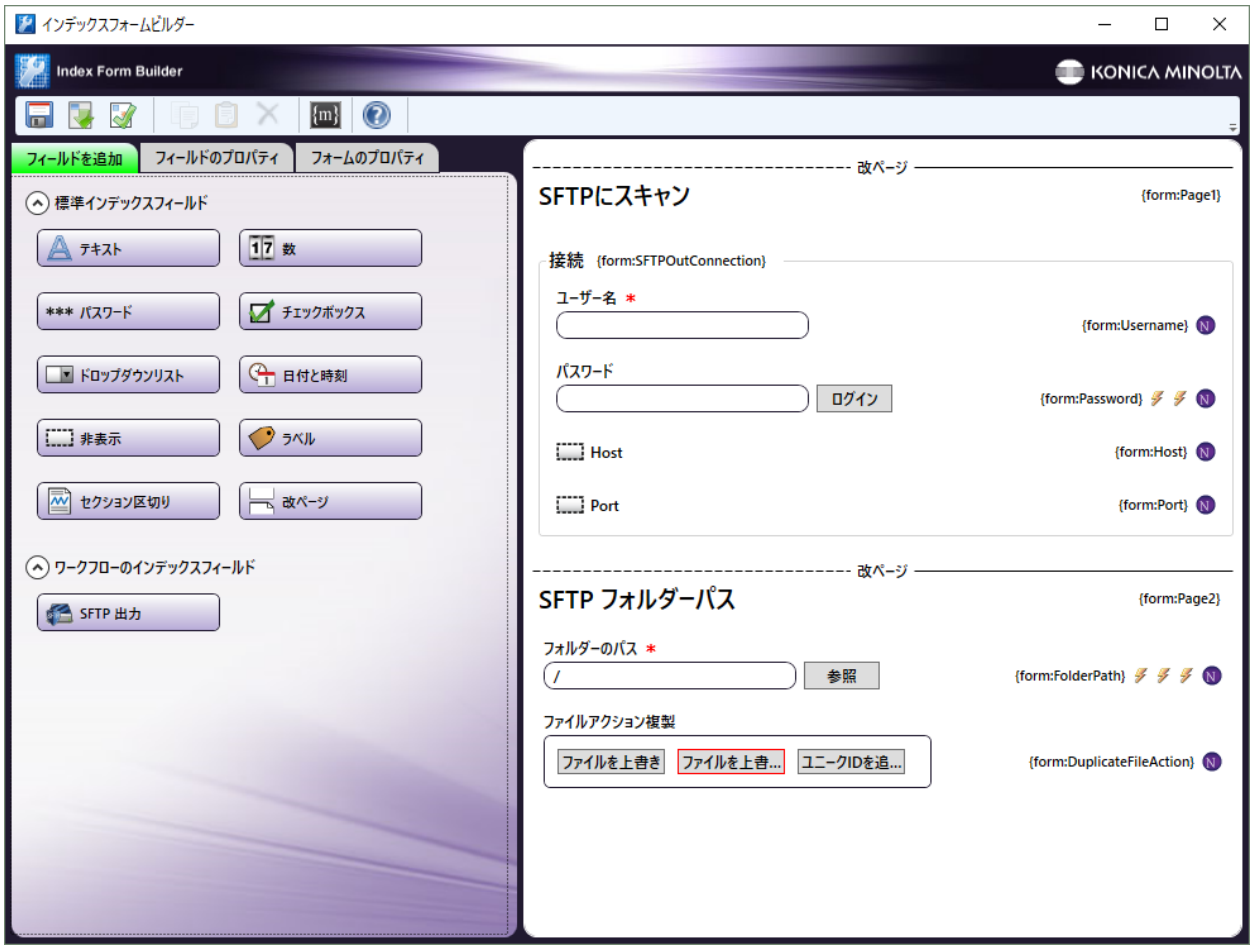
SFTP出力 ノードは、SFTP転送用に以下の暗号、キー交換、メッセージ認証コード（MAC）、および公開キーをサポートします。

暗号	キー交換	MAC	公開キー
AES256_CTR	CURVE25519_SHA256	HMAC_SHA1	SSH_ED25519
AES192_CTR	ECDH_SHA2_NISTP256	HMAC_SHA2_256	ECDSA_SHA2_NISTP256
AES128_CTR	ECDH_SHA2_NISTP384	HMAC_SHA2_512	ECDSA_SHA2_NISTP384
AES256_CBC	ECDH_SHA2_NISTP521		ECDSA_SHA2_NISTP521
AES192_CBC	DH_GROUP1_SHA1		SSH_RSA
AES128_CBC	DH_GROUP14_SHA1		RSA_SHA2_512
BLOWFISH_CBC	DH_GROUP16_SHA512		RSA_SHA2_256
3DES_CBC	DH_GROUP18_SHA512		SSH_DSS

SFTP出力 インデックスフォームの作成

複合機でSFTP出力サーバーに自動的にログインできるようにするためのインデックスフォームを作成できます。以下の操作を実行します。

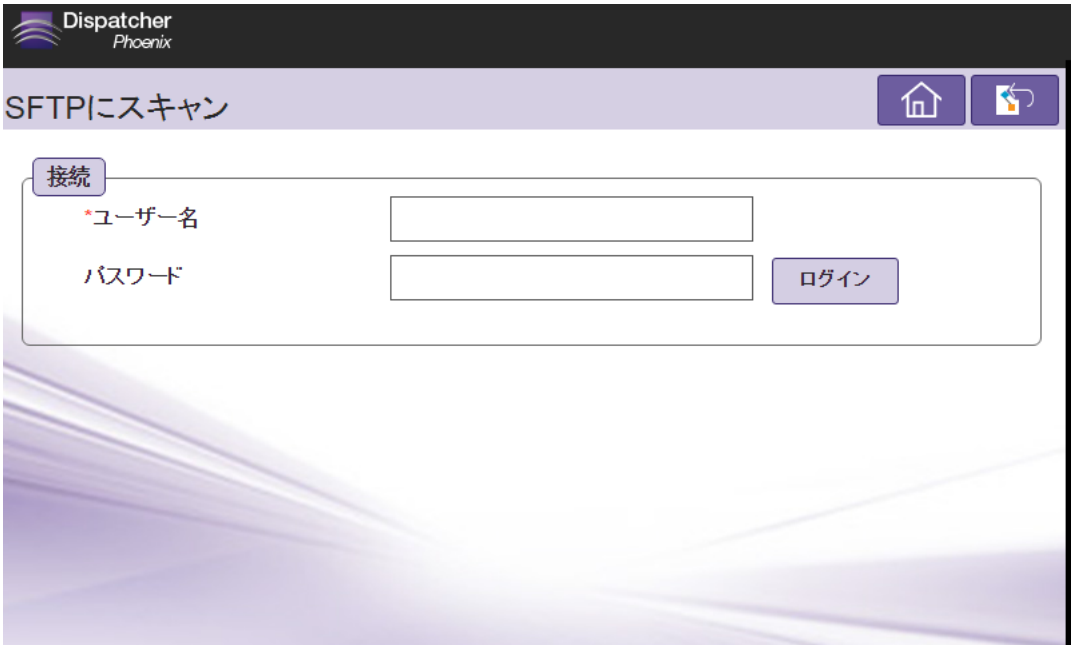
1. ワークフローに **[複合機パネルノード]** と、**[SFTP出力ノード]** が含まれていることを確認します。
2. 複合機パネルノードからインデックスフォームビルダーを開きます。ワークフローインデックスフィールド領域の下に[SFTP出力]ボタンが表示されます。
3. [SFTP出力]ボタンを[インデックスフォーム]作業領域にドラッグアンドドロップします。次の図のように、[SFTPにスキャン]フォームが自動的に表示されます。



4. インデックスフォームビルダーを保存して閉じます。

複合機でのSFTPインデックスフォーム

複合機で、SFTPインデックスフォームは次のように表示されます。



データベースの参照

SFTPサーバーからデータ（例: フォルダーの一覧、検証など）を取得するようにクエリーを手動で構成することもできます。

インデックスフォームビルダーを使用して、次の操作を実行します。

1. ドロップダウンリストなどの新しいフィールドを追加します。
2. フィールドに **[ロード時]** イベントを定義します。次に **[クエリー]** を追加します。
3. **[クエリー]** リストからSFTPデータソースを追加します。オプションは以下のとおりです。
    - SFTPサーバー上の特定の場所で利用可能なフォルダーとファイルのリストを見るために **[SFTPフォルダーを参照]** を選択します。
    - SFTPサーバーに直接接続するには、**[SFTPサーバーに接続]** を選択します（フォルダーのパスを必要としません）。

SFTPフォルダーを参照 クエリーの作成

クエリードロップダウンから **[SFTPフォルダーを参照]** を選択すると、[SFTP出力データソースの設定]ウィンドウが表示されます。ここで、SFTPサーバーからデータを取得するために特定のアクションを実行できます。

以下の操作を実行します。

1. **[ホスト/IP アドレス]** フィールドに、SFTPサーバーのホストまたはIPアドレスを入力します。
2. **[ポート]** フィールドに、サーバーがSFTP通信に使用するポート番号を入力します（規定値は22です）。

3. **[ユーザー名]** フィールドに、SFTPサーバーへの接続に必要なユーザー名を入力します。
4. **[パスワード]** フィールドに、SFTPサーバーに正常にログインするために必要なパスワードを入力します。
5. **[SFTPエクスプローラー]** 領域で、複合機パネルに表示したいSFTPルートフォルダーの **[フォルダーのパス]** を入力します。
    - **[新規フォルダーオプションの表示]** – このオプションをオンにすると、複合機で新しいフォルダーを作成できます。
    - **[ファイルの表示]** - 複合機でSFTPフォルダー内のファイルを表示するには、このオプションをオンにします。
    - **[フォルダー検索の有効化]** - 複合機でフォルダー内検索を有効にするには、このオプションをオンにします。
6. [SFTPフォルダーを参照]クエリー設定を保持するには、**[保存]** ボタンを選択します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを、変更を保存せずにウィンドウを終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択します。

SFTPに接続 クエリーの作成

クエリードロップダウンから **[SFTPに接続]** を選択すると、[SFTP出力データソースの設定]ウィンドウが表示されます。ここで、SFTPからデータを取得するために特定のアクションを実行できます。

以下の操作を実行します。

1. **[ホスト/IP アドレス]** フィールドに、SFTPサーバーのホストまたはIPアドレスを入力します。
2. **[ポート]** フィールドに、サーバーがSFTP通信に使用するポート番号を入力します（規定値は22です）。
3. **[ユーザー名]** フィールドに、SFTPサーバーへの接続に必要なユーザー名を入力します。
4. **[パスワード]** フィールドに、SFTPサーバーに正常にログインするために必要なパスワードを入力します。
5. [SFTPに接続]クエリー設定を保持するには、**[保存]** ボタンを選択します。オンラインヘルプにアクセスするには **[ヘルプ]** ボタンを、変更を保存せずにウィンドウを終了するには **[キャンセル]** ボタンを選択します。

DP Web

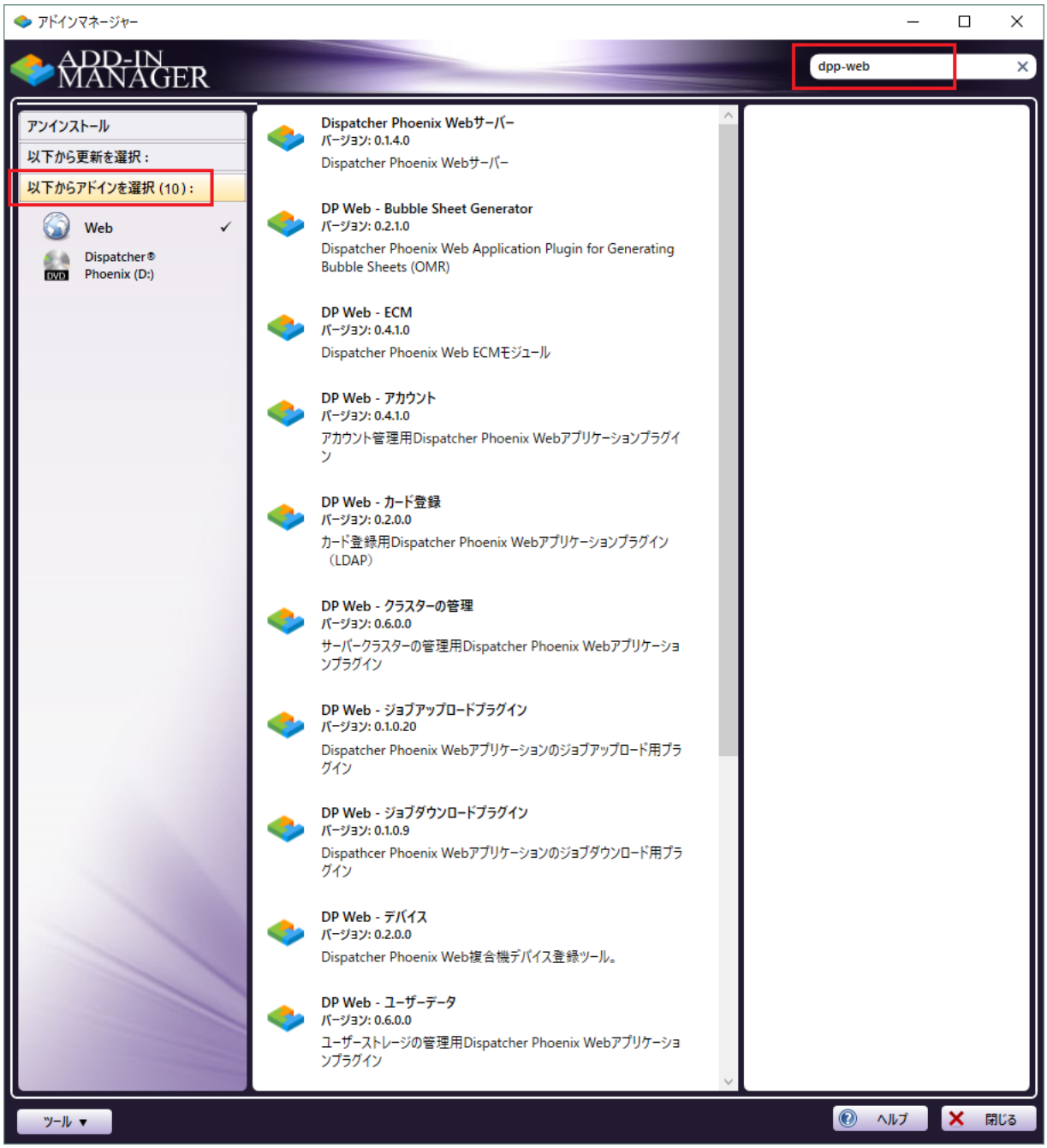
DP Webモジュールのインストール

Dispatcher Phoenix Webは、Dispatcher Phoenixデスクトップアプリケーションと同様に、インストール用にオプションのアドインモジュールを提供します。アドインマネージャーから1つまたは複数のオプションのWebアドインモジュールをインストールすることができます。

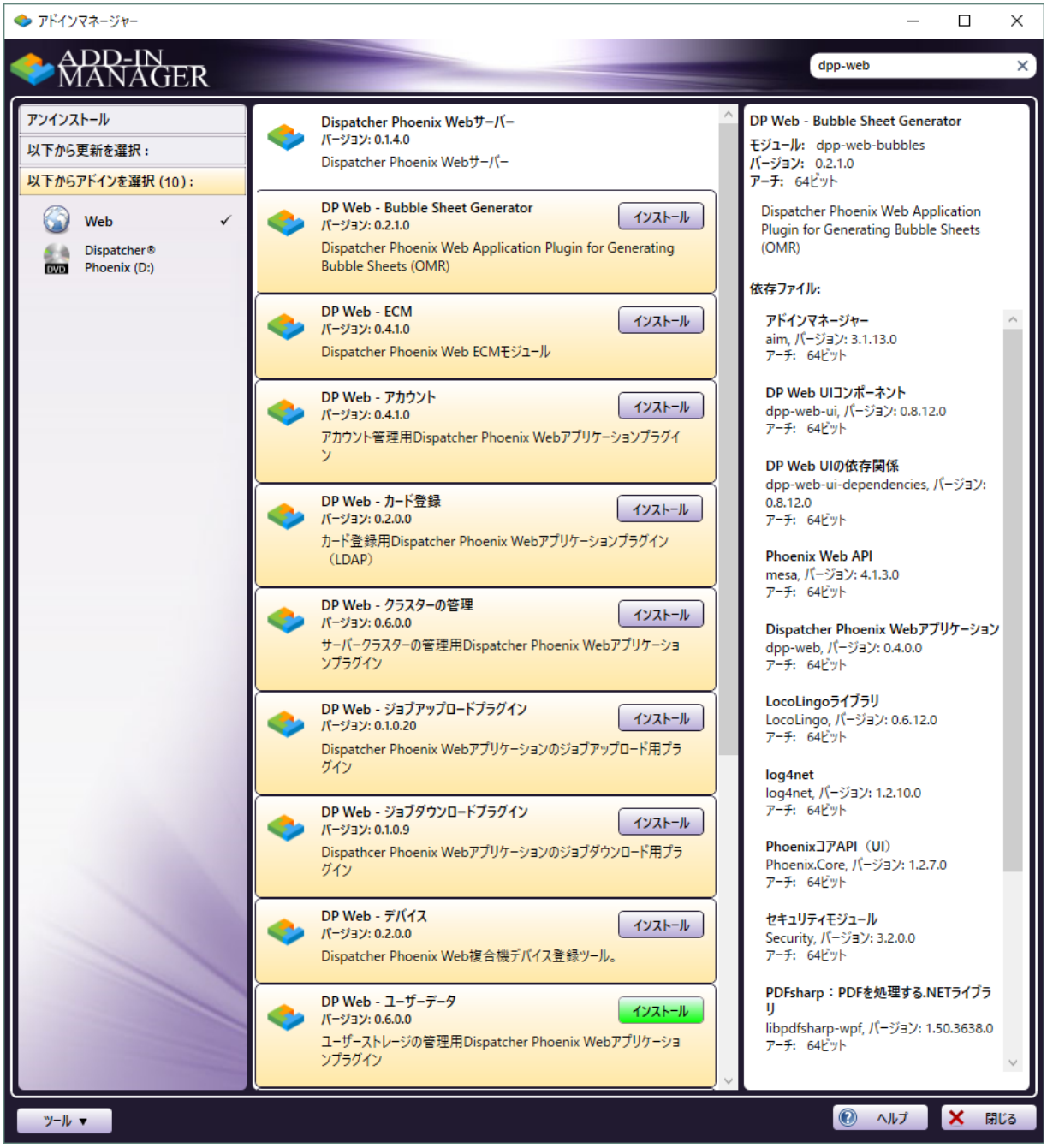
DP Webアドインのインストール

DPのWebアドインモジュールを選択してインストールするには、次の手順を実行します。

1. アドインマネージャーを開きます。
2. 左側のメニューの **[アドインを選択する]** をクリックします。
3. DP Webアドインモジュールをすべてフィルタリングして表示するには、右上の検索フィールドに **[dpp-web]** と入力します。



4. [Ctrl]キーを押しながら、インストールするアドインモジュールを複数選択します。



5. これにより選択したすべてのWebアドインモジュールとDP Webアプリケーションパッケージがシステムにインストールされます。

DP Web ホスティングオプション

Dispatcher Phoenix Webは、Webアプリケーションをホスティングするための2つの異なるオプションをサポートし、提供しています。

Dispatcher PhoenixのWebサーバーでホストするか、IISでホストするかを選択できます。両方のホスティングオプションの詳細な手順については次のリンクをクリックしてください。

1. **セルフホスティング**
2. **IISホスティング**

PIV/CAC カード認証

Dispatcher Phoenix Webは、ユーザーログインでのPIV認証の使用をサポートしています。Dispatcher Phoenix Webは、PIV/CACカードのクライアント証明書のサブジェクトの別名(SAN)フィールドから取得したユニバーサル プリンシパル名(UPN)を使用して、LDAPディレクトリーでユーザーを検索し、見つかった情報に基づいてアクセスを許可、または拒否します。

重要! ユーザーが適切にログインできるようにするには、PIV認証を有効にする前に、Dispatcher Phoenixに対して次のオプションが構成されていることを確認してください。

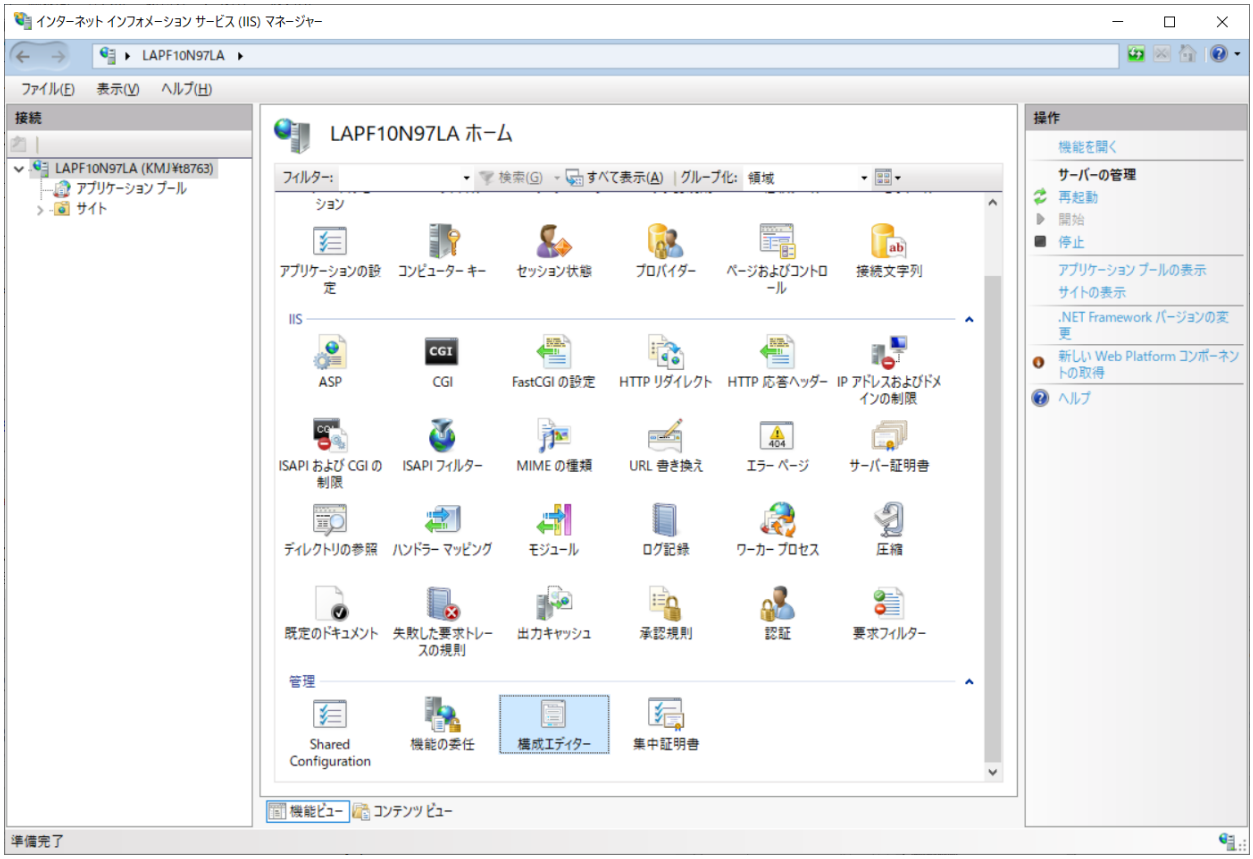
- Dispatcher PhoenixのLDAPを有効にする。

- Dispatcher PhoenixのLDAP設定を構成してテストする。

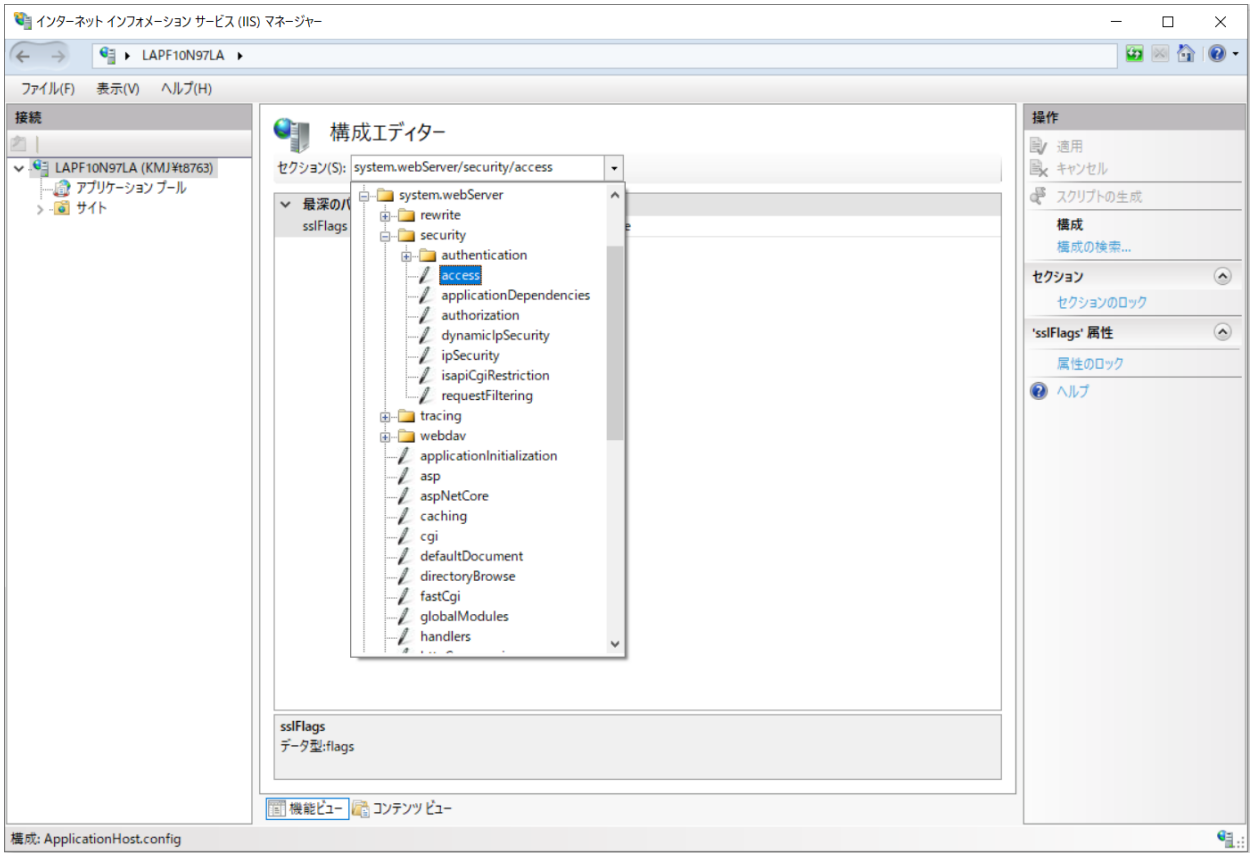
Dispatcher Phoenix WebでPIV認証を有効にする

Dispatcher Phoenix Webは、顧客のPIV認証をサポートしています。PIV認証を有効にして設定するには、次の手順を実行します。

1. IISマネージャーを起動します。
2. 左側の[接続]パネルでサーバー名を選択します。
3. [管理] セクションで、**構成エディター** をダブルクリックします。



4. ウィンドウの上部にある **セクション** ドロップダウンを開きます。次の図のように、**system.webServer** > **security** > **access** に移動します。



5. 右側の[操作]パネルで、**セクション** ドロップダウンを展開し、**セクションのロック解除** を選択します。
6. Windowsファイルエクスプローラーを開き、C:\Program Files\Konica Minolta\Dispatcher Phoenix Web\wwwroot に移動します。
7. **web.config** ファイルをテキストエディターで開きます。
8. ファイルの先頭にある(<!--)と末尾にある(-->)xml コメントタグを削除し、ファイルを保存します。次の図を参照してください。

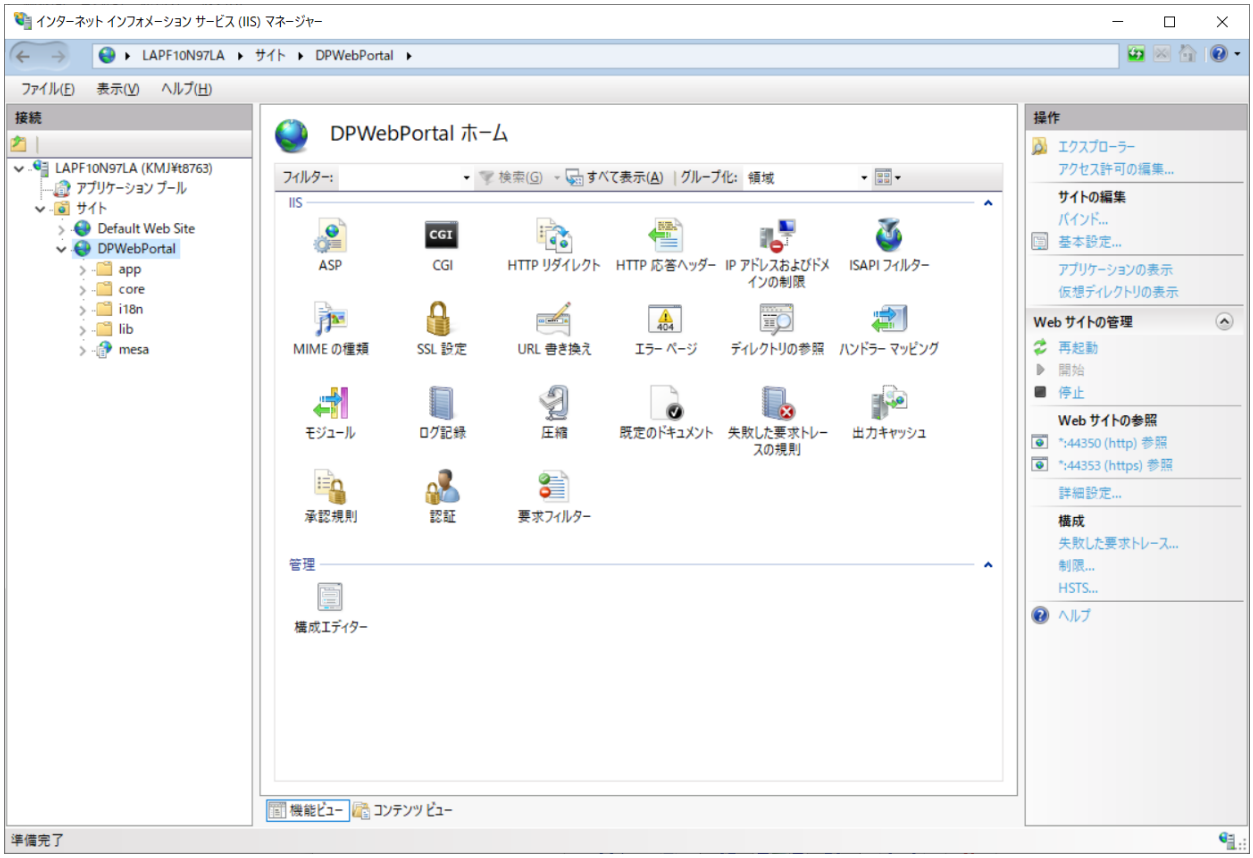
```
                <add name="StaticFileModuleDocx" path="*.docx" verb="*" modules="StaticFileModule" resourceType="Fi
                <add name="StaticFileModulePpt" path="*.ppt" verb="*" modules="StaticFileModule" resourceType="File
                <add name="StaticFileModulePptx" path="*.pptx" verb="*" modules="StaticFileModule" resourceType="Fi

                <add name="aspNetCore" path="*" verb="*" modules="AspNetCoreModuleV2" resourceType="Unspecified" />
            </handlers>
            <aspNetCore processPath="dotnet" arguments="..\Phoenix.Web.App.dll" stdoutLogEnabled="false" stdoutLogF
        </system.webServer>
    </location>

    <!--
    <location path="api-1/auth/cert-signin">
        <system.webServer>
            <security>
                <access sslFlags="Ssl, SslNegotiateCert, SslRequireCert" />
            </security>
            <modules>
                <remove name="WebDAVModule" />
            </modules>
            <handlers>
                <add name="aspNetCore" path="*" verb="*" modules="AspNetCoreModuleV2" resourceType="Unspecified" />
            </handlers>
        </system.webServer>
    </location>
    -->

</configuration>
```

9. Windowsファイルエクスプローラーを使用して、C:\Program Files\Konica Minolta\Dispatcher Phoenix Webに移動します。
10. **piv-auth.json** ファイルをテキストエディターで開きます。
11. 「enable」の値を **no** から **yes** に変更し、ファイルを保存します。次の図を参照してください。

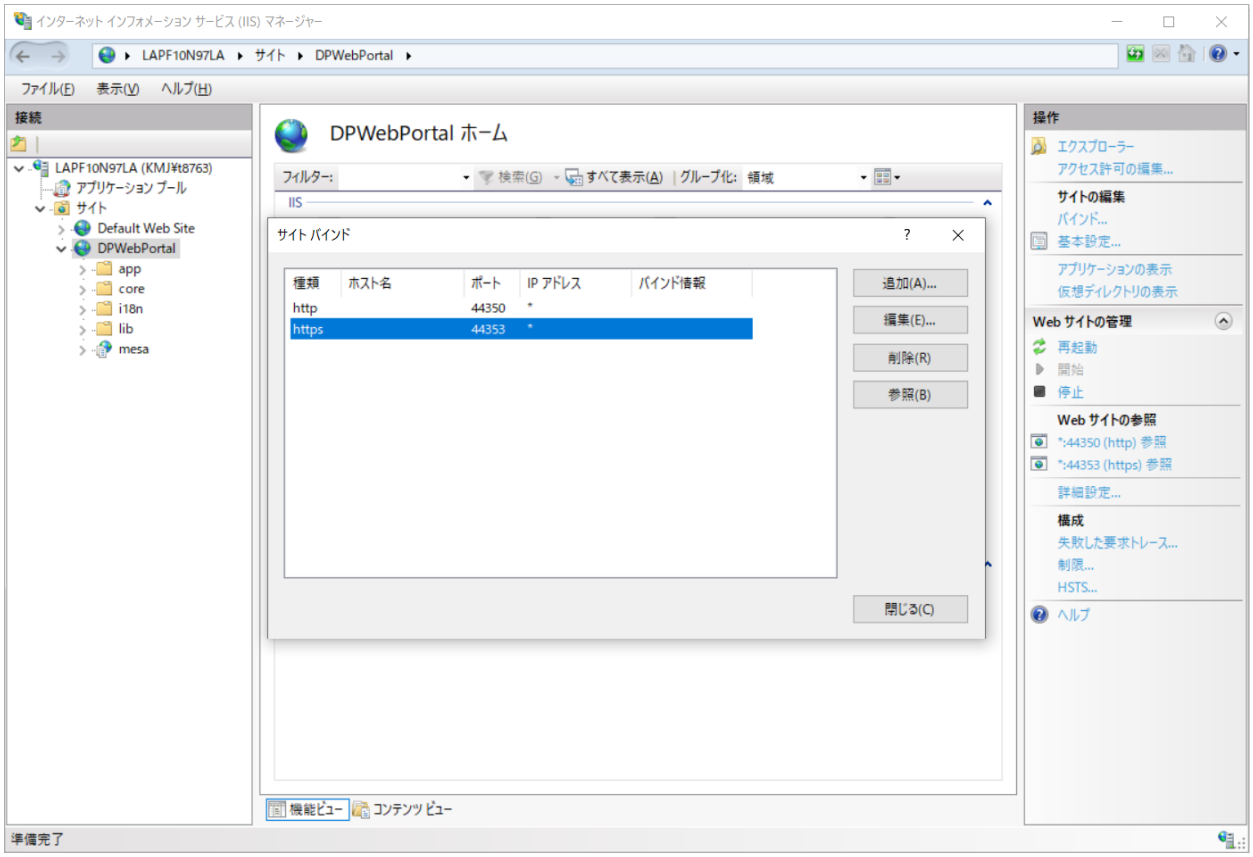
```
{
    "pivAuth": {
        "enable": "no",
        "signinMode": "dual",
        "signinLabel": "Sign in with PIV / CAC Card"
    }
}
```

注:「signinMode」フィールドでは、値を **dual** に設定して、エンドユーザーがAD資格情報とPIV/CACカードの両方を使用してDispatcher Phoenix Webにログインできるようにするか、**card** に設定して、エンドユーザーがPIV/CACカードのみを使用してログインできるようにします。「signinLabel」フィールドを編集して、PIV/CACサインインボタンのラベルを変更することもできます。

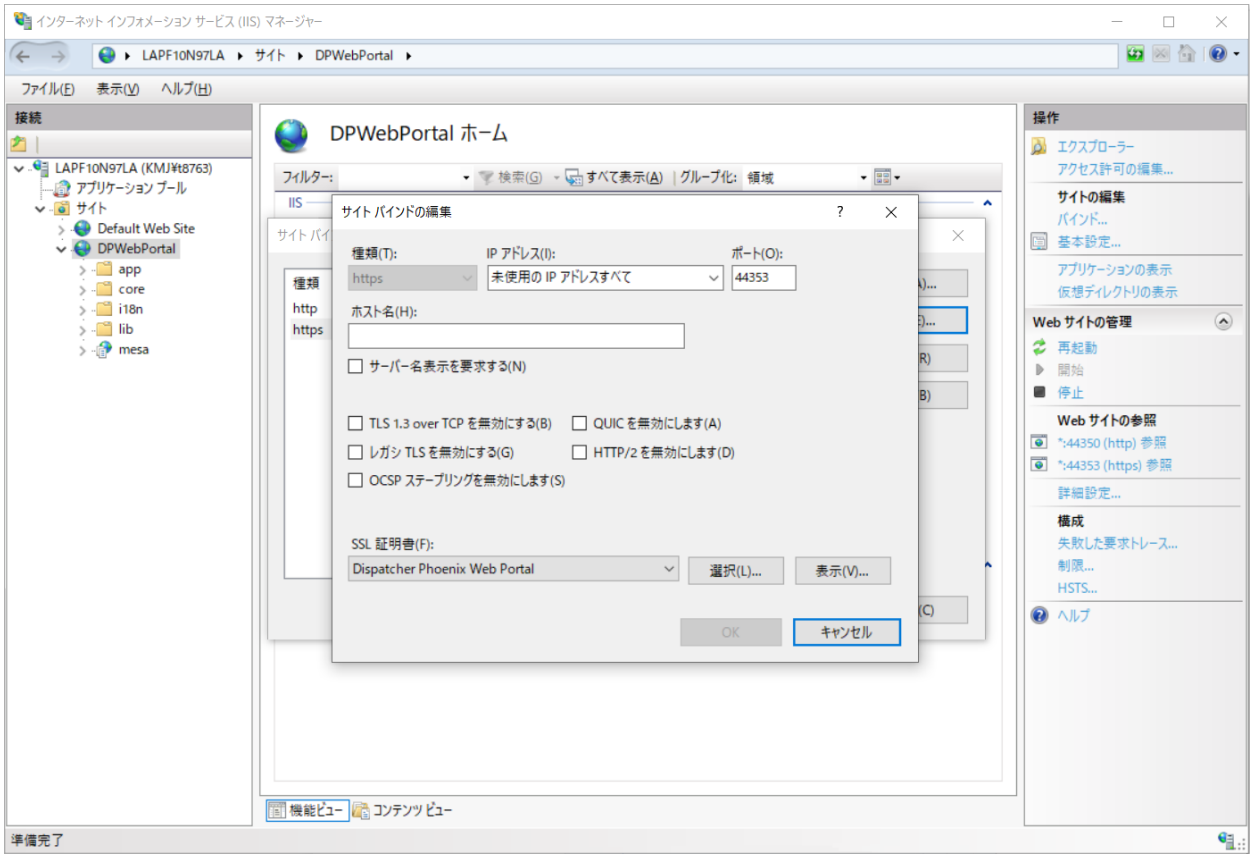
12. IISマネージャーで、「接続」パネルのサイトフォルダー以下の **DPWebPortal** を選択します。
13. 「操作」パネルで、「サイトの編集」セクションの下の **バインド...** を選択します。



14. HTTPSポート (ポート 44353)を選択し、[**編集**] をクリックします。

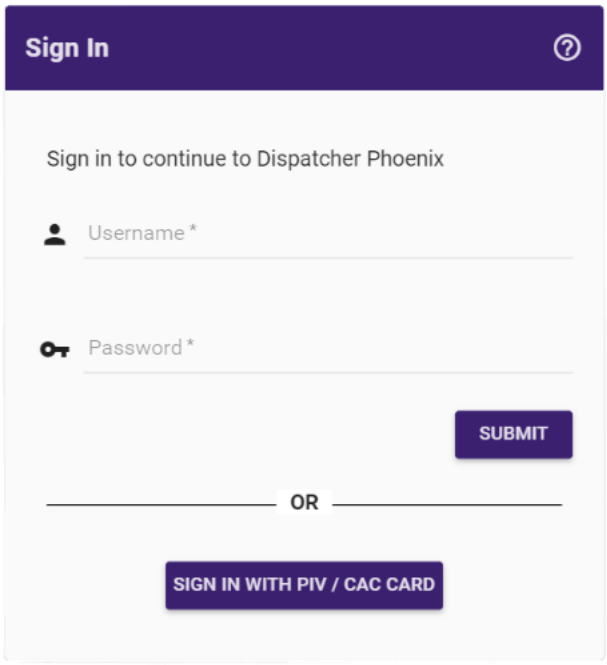


15. 下部にある **SSL 証明書** ドロップダウンを選択し、使用する署名付きSSL証明書を選択します。

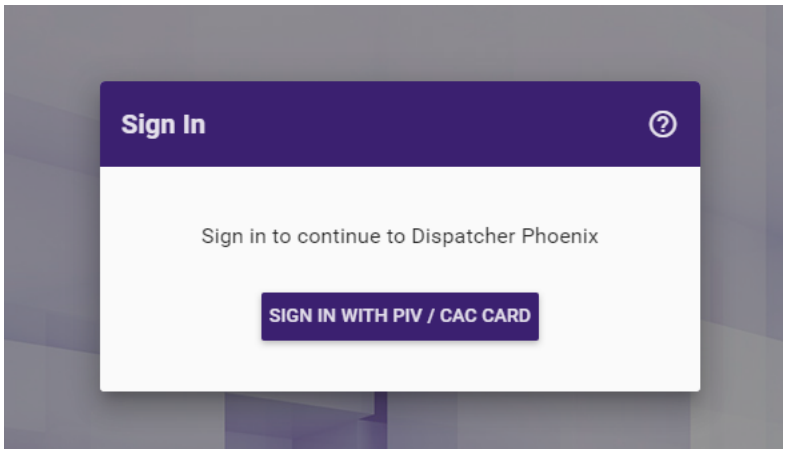


重要! Dispatcher Phoenixサーバーに、認証局(CA)によって署名されたSSLルートレベルのCA証明書があることを確認してください。

16. Webブラウザーを開いて、httpsプロトコルとポート44353を使用してDispatcher Phoenix Webに移動します。たとえば、URLは「https://IPアドレス:44353」のようになります。「signinMode」を **dual** に設定すると、ユーザーはユーザー名とパスワードを使用してサインインするか、次の図のように「PIV/CACカードでサインイン」することができます。



「signinMode」の値を **card** に設定した場合、次の図に示すように、「PIV/CACカードでサインインする」オプションが唯一のオプションになります。



セルフホスティング環境の設定

セルフホスティングの場合、Dispatcher Phoenixはアドインマネージャーからインストールできる独自のローカルWebサーバーを提供しています。

DP Webサーバーをインストールする

Dispatcher Phoenix Webサーバーモジュールを選択してインストールするには、次の手順に従います。

1. アドインマネージャを開きます。
2. 左側のメニューの **[アドインを選択]** をクリックします。
3. DP Webアドインモジュールをすべてフィルタリングして表示するには、右上の検索フィールドに **[dpp-web]** と入力します。**[Dispatcher Phoenix Web Server]** をリストから選択してインストールします。

4. これにより、ポート44350にDispatcher Phoenix Web Serverがインストールされ、自動的にDP Webアプリケーションをホストするように構成されます。

DP Webへのアクセス

Dispatcher Phoenix Webが正常にインストールされると、デスクトップにDispatcher Phoenix Webショートカットアイコンが作成されます。デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックするとDispatcher Phoenix Webにアクセスできます:

DP WebサーバーのIPアドレスを使用して、同じネットワーク内の他のワークステーションからDP Webにアクセスできます:

例:http://10.10.220.20:44350

IIS ホスティング環境の設定

Dispatcher Phoenix 8.3以降、IISを使用してWindowsでDispatcher Phoenix Webをホストするために必要なすべてのパッケージが自動的にダウンロードされます。このセクションでは、PIV/CACカード認証 を設定する場合など、IISを使用してWindowsでDispatcher Phoenix Webのホスティング環境を **手動** で設定するために必要なすべての手順について説明します。

注: Dispatcher Phoenixは、httpとhttps (推奨)サーバーの両方を自動的にセットアップします。

サポートされているオペレーティングシステム

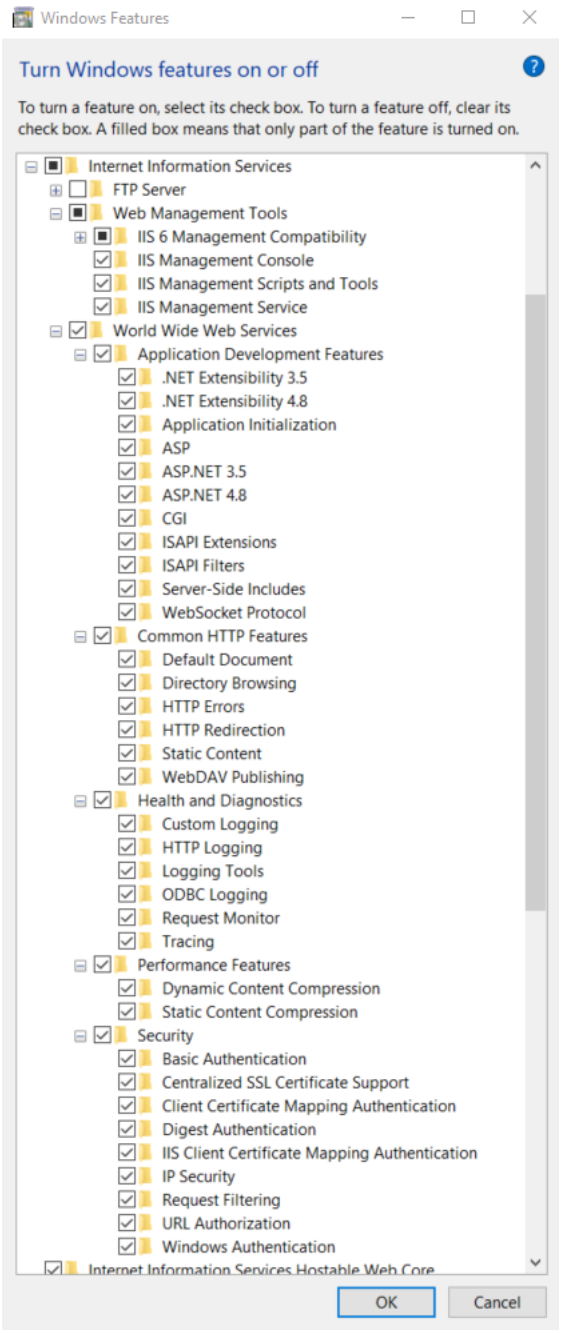
次のオペレーティングシステムがIIS上でDP Webをホストするためにサポートされています。

- Windows 10
- Windows 11 (推奨)
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows Server 2022 (推奨)

Windowsデスクトップオペレーティングシステムでの IIS構成

1. [コントロールパネル] > [プログラム] > [プログラムと機能]に移動します。
2. 画面の左側にある **[Windowsの機能を有効化または無効化]** をクリックします。
3. [インターネット インフォメーション サービス]と[Web管理ツール]のグループを開きます。

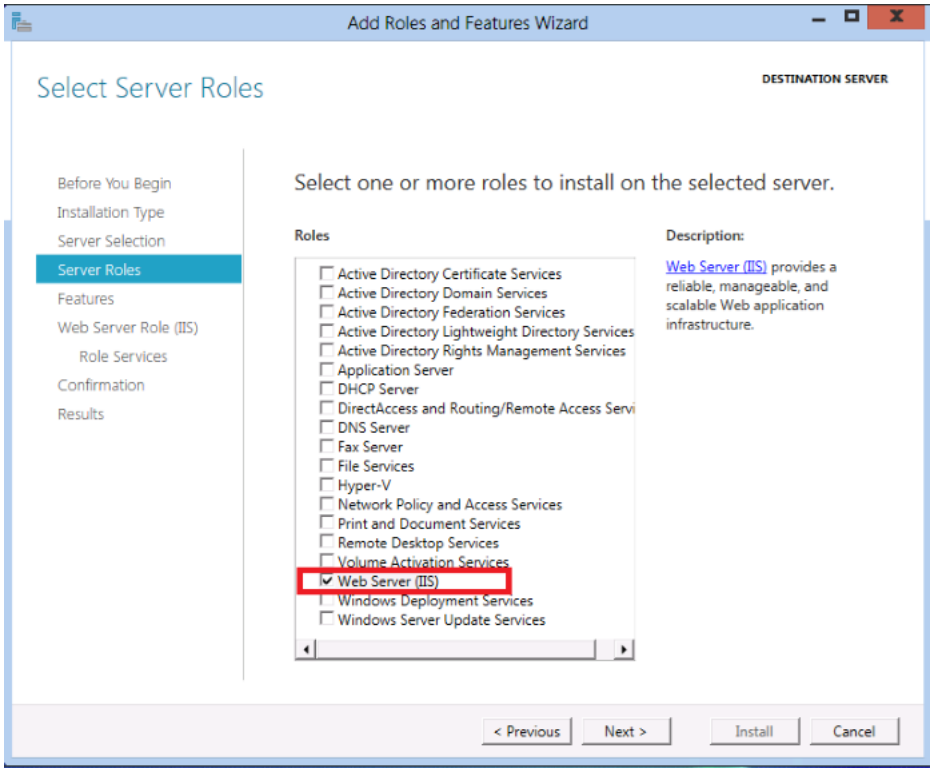
4. [IIS管理コンソール]のチェックボックスをオンにします。
5. [World Wide Web サービス]のチェックボックスをオンにして、World Wide Web サービス内のすべてのチェックボックスがオンになっていることを確認するか、必要に応じてIIS機能をカスタマイズします。



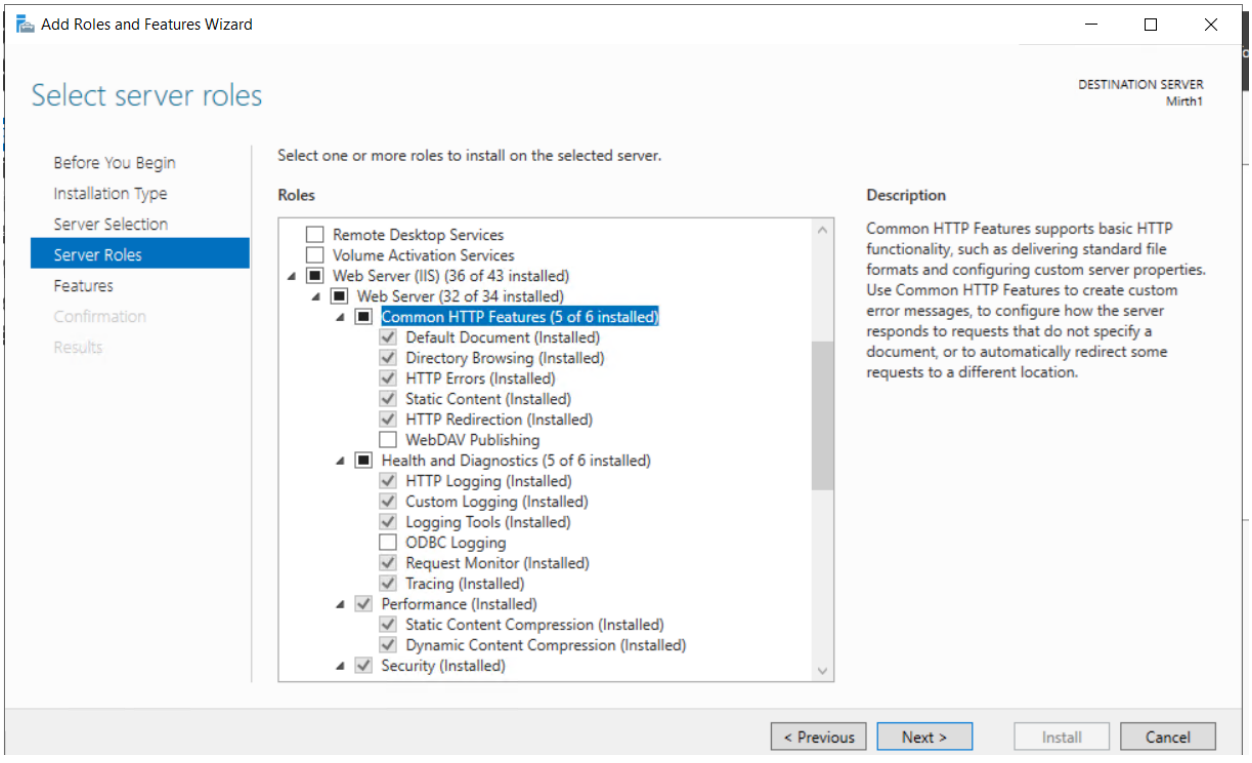
Windows Serverオペレーティングシステムでの IIS構成

サーバーオペレーティングシステムの場合、

1. [管理]メニューまたはサーバーマネージャのリンクを使用して、[役割と機能の追加]ウィザードを使用します。
2. [サーバーの役割]のステップで、1つまたは複数のサーバーの役割を選択するよう求められます。[役割]リストを下にスクロールし、以下に示すように[Webサーバー（IIS）]チェックボックスをオンにします。

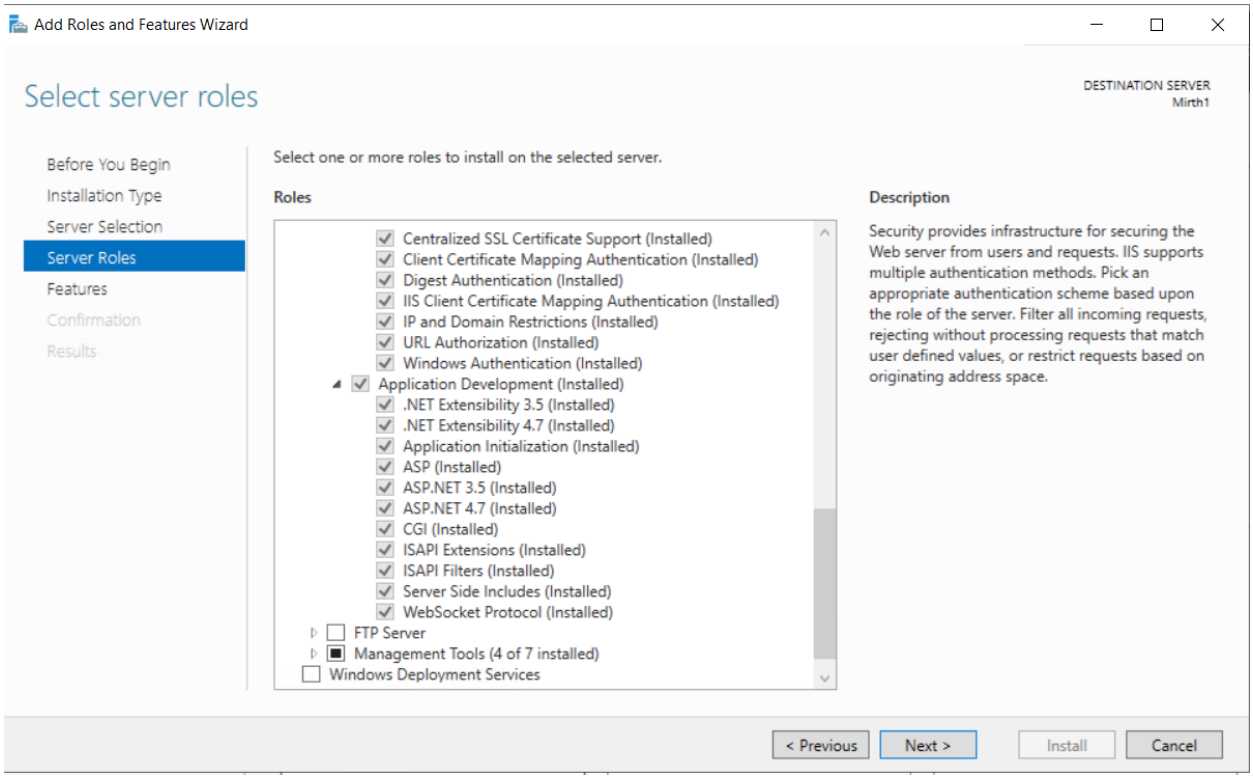


3. **【次へ】**をクリックして次の手順に進み、サーバーにインストールする追加の機能を選択します。**【次へ】**をもう一度クリックし、次の手順に進みます。
4. 次の手順では、Webサーバー（IIS）の役割に関するいくつかの紹介情報を示します。もう一度 **【次へ】**をクリックし、次の手順に進みます。次のようなステップになります。



Webサーバー内のすべてのチェックボックスがオンになっていることを確認するか、必要に応じてカスタマイズします。

5. 事前にWebサーバー（IIS）サーバーの役割を選択したため、IISの既定の複数のサブ機能がすでにオンになっていることに注意してください。ただし、IISで実行するには、ASP.NET 4.5以降を有効にする必要があるため、IIS関連の追加機能を有効にする必要があります。[アプリケーション開発]ノードが表示されるまで、[役割サービス]リストをスクロールダウンします。このノードは最初は折りたたまれているので、ノードをクリックして展開し、子ノードが表示されるようにします。



6. [アプリケーション開発]ノードでは、IISとASP.NETの統合を有効にします。類似した名前の機能リストにいくつかのチェックボックスがあることに注意してください。この設定の対象となるチェックボックスは次のとおりです。

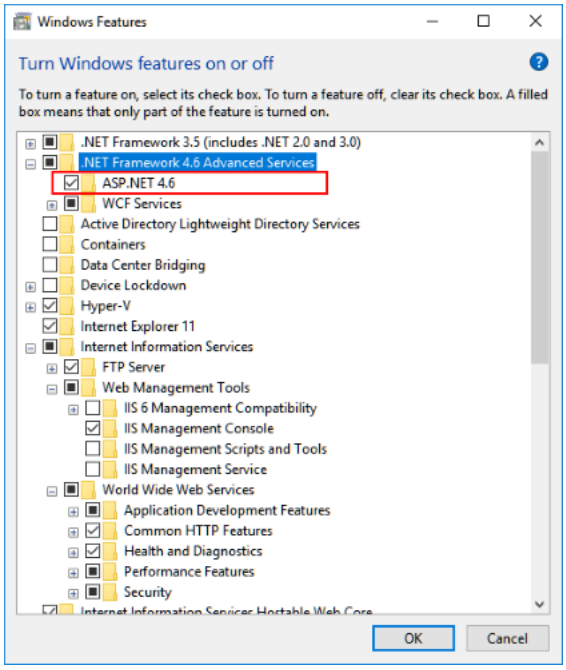
   ASP.NET 4.*（Windows Server OSによって異なります）- このオプションを使用すると、ASP.NETをIISで実行できます。

7. **[次へ]** をクリックして **[インストール]** ボタンを表示します。この時点で、**[インストール]** をクリックして変更を受け入れ、Windows Serverに完全なASP.NETサポートをインストールします。

IISでASP.NETを登録する

IISをインストールしたら、ASP.NETがIISに正しく登録されていることを確認する必要があります。これは重要なステップであり、Dispatcher Phoenix Webの他のコンポーネント/モジュールが、特にバッチインデックスで正しく機能するために必要です。

1. Windows Server OSでは、IISとASP.NETの統合は自動的に行われます。
2. Windows10およびWindows11では、次の図に示すように、ASP.NET機能が有効になっていることを確認してください。



IIS用 DPのWebの前提条件

Dispatcher Phoenix WebアプリケーションをIISで動作させるには、以下の追加のIISモジュールをインストールする必要があります。

1. ASP.NET Core 6.0 Runtime（v6.0.3）とWindows Hosting Bundleをダウンロードしてインストールします。

   ASP.NET Core 6.0 Runtime ダウンロード

   Windows Hosting Bundle ダウンロード

2. IISモジュールのインストール: **URL Rewrite**

   URL Rewrite モジュールをダウンロードしてシステムアーキテクチャにインストールします。

   URL Rewrite モジュール ダウンロード

IISでDP Webアプリケーションをホストする

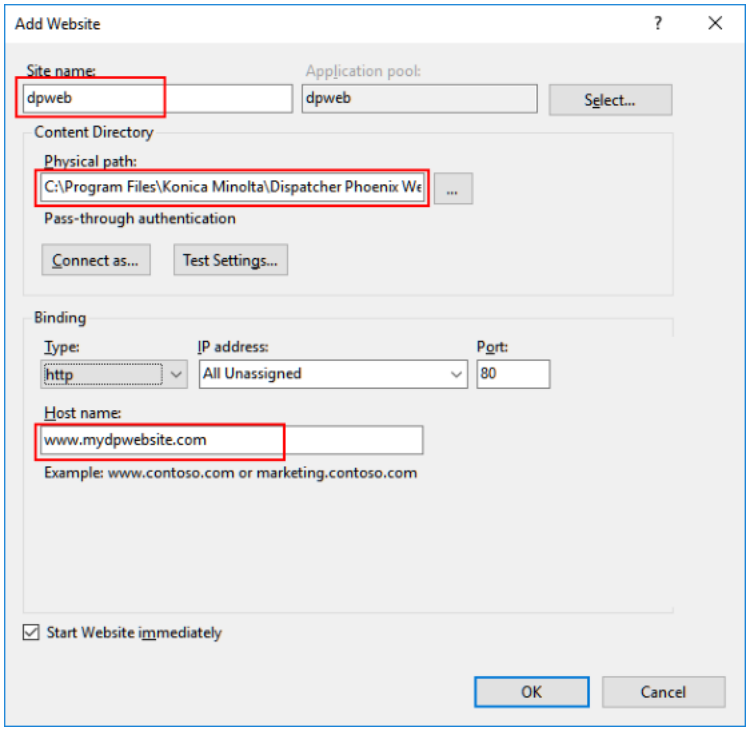
この時点で、IISでDP Web用の新しいWebサイトを作成する準備が整いました。次の手順では、IISでDP Webを作成および構成する方法について説明します。

1. **[Internet Information Services(IIS) マネージャー]** を開きます。
2. IISマネージャーで、**[サイト]** を右クリックし、**[Webサイトの追加]** ウィンドウを開きます。

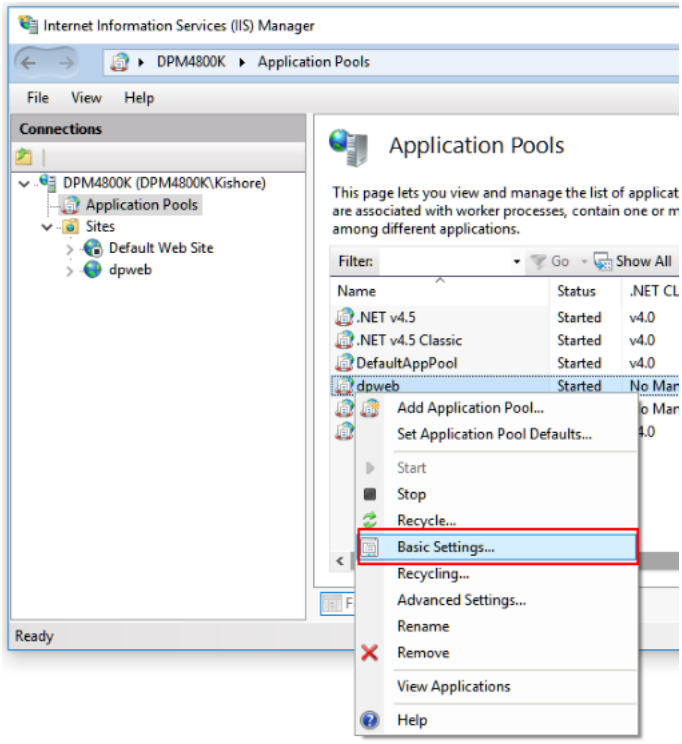
3. Webサイトを設定し、**[サイト名]** を入力し、**[物理パス]** をアプリケーションの配信フォルダーに設定します。**[バインド]** 設定を行い、ウェブサイトを作成します。

   アドインマネージャーは、すべてのDP WebアプリケーションファイルをC:\Program Files\Konica Minolta\Dispatcher Phoenix Web\wwwrootに発行します。

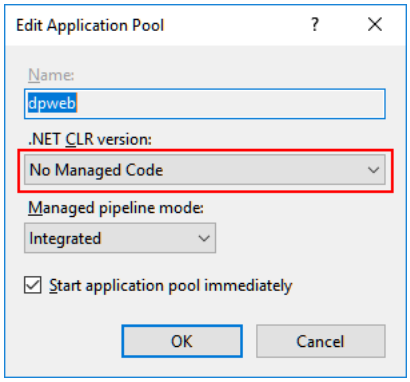
   物理パス としてこのフォルダーを参照して選択してください。



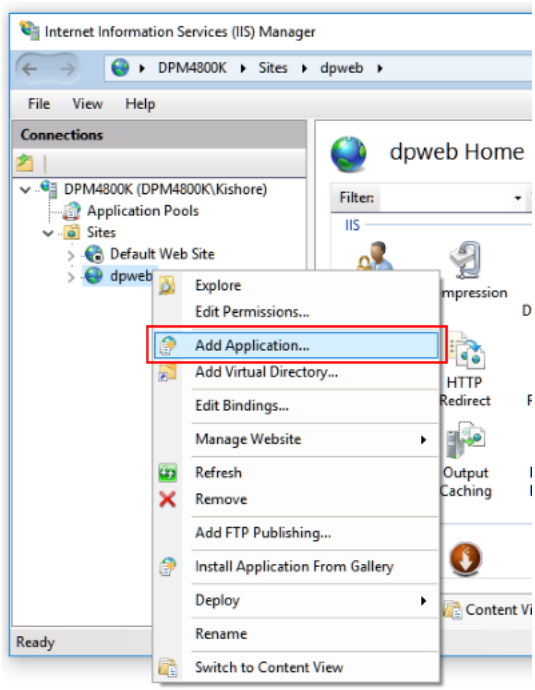
4. [アプリケーションプール]パネルで、[アプリケーションプールの編集]ウィンドウを開くには、Webサイトのアプリケーションプールを右クリックし、ポップアップメニューから **[基本設定...]** を選択します。



5. .NET CLR バージョンを **[マネージコードなし]** に設定します。DP Webは別のプロセスで実行され、ランタイムを管理します。



6. 新しく作成した **[dpweb]** ウェブサイトを右クリックし、表示されるコンテキストメニューから **[アプリケーションの追加]** オプションを選択します。



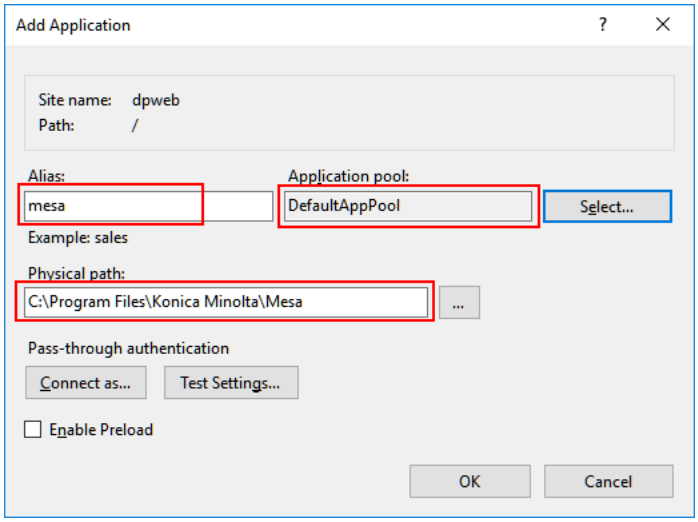
7. アプリケーションを設定し、**[エイリアス]** を提供し、**[物理パス]** をアプリケーションの配信フォルダーに設定します。

   エイリアス名は常に **[mesa]** と設定してください。この名前は変更しないでください。

   アドインマネージャは、すべてのmesaアプリケーションファイルを C:\Program Files\Konica Minolta\Mesa に公開します。

   [物理パス] としてこのフォルダを参照して選択してください。

   .NET CLRバージョンを **[DefaultAppPool]** または **[.NET v4.5]** のような最新の.NETバージョンいずれかに設定します。



注 ApplicationPoolIdentityからアプリケーションプールの既定のIDを変更する場合、上記の手順で使用されたアプリケーションのフォルダーにアクセスするために、新しいIDに必要な権限があることを確認してください。

DP Webにアクセスする

Dispatcher Phoenix Webが正常にインストールされると、デスクトップにDispatcher Phoenix Webショートカットアイコンが作成されます。デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックして、Dispatcher Phoenix Webにアクセスできます。

DP Webサーバーの IPアドレスを使用して、次の例のように、同じネットワーク内の他のワークステーションからDP Webにアクセスすることができます。

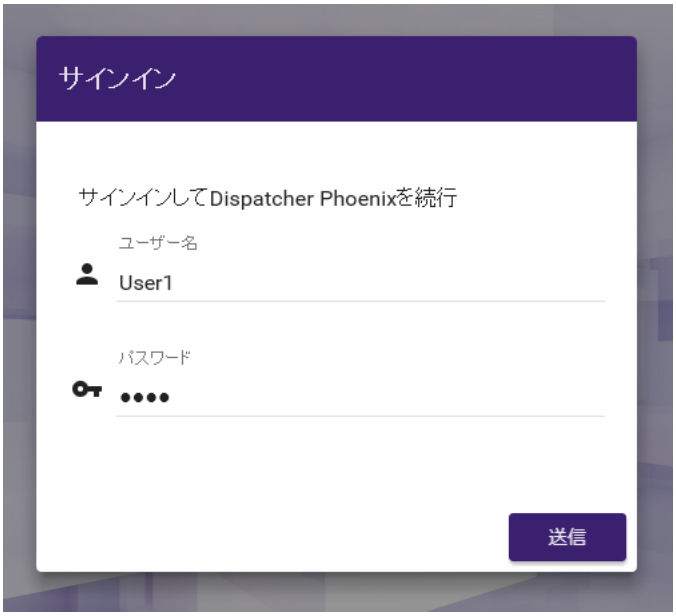
http://10.10.220.20:44350

DP Webの使用

セルフホスティング環境またはIISホスティング環境の準備ができたら、Webブラウザーを開き、IPアドレスまたはホスト名を使用してDP Webにアクセスします。

ログイン

DPのWeb機能と機能にアクセスするには、まず、社内のユーザー名とパスワードで **[ログイン]** する必要があります。



次の操作を実行します。

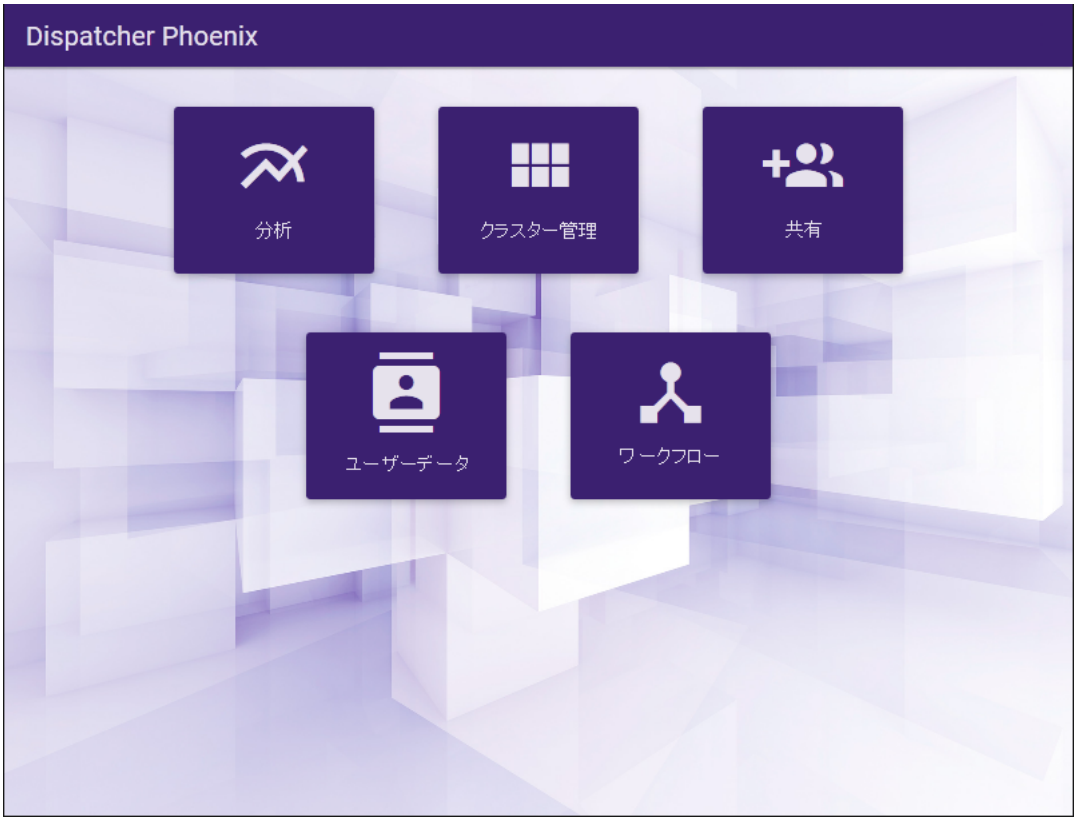
1. **[ユーザー名]** および **[パスワード]** フィールドに資格情報を入力します。
2. **[送信(ログイン)]** ボタンを選択します。

重要!

- Microsoft Entra IDでログインする場合は、**Workflow Services Manager** を事前に設定する必要があります。セットアップが完了すると、[ユーザー名]フィールドにEntra IDを入力できるようになります。
- Microsoft ログインを使用する場合、ドロップダウンメニューで利用できるようになります。

ナビゲート

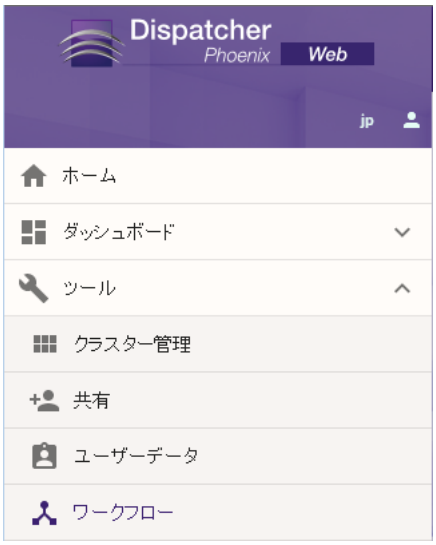
DP Webに初めてログインすると、Dispatcher Phoenixのワークフロー、サーバー、およびエンタープライズのユーザーを管理するためのさまざまな機能にアクセスできる一連のボタンが表示されます。次の図を参照してください。



これらの機能のいずれかにアクセスするには、該当するボタンをクリックします。

- **[分析]** - システム/クラスターに関する分析を表示します。
- **[クラスター管理]** - フェールオーバーとプロセスオフロードのためのサーバーの管理/追加。
- **[共有]** - 特定のユーザーとユーザーグループにワークフローを共有します。
- **[ユーザーデータ]** - ユーザープロファイル情報を表示/編集します。
- **[Webキャプチャ]** - 別のタブでWebキャプチャURLを起動します。このタイルは、現在のユーザーがDispatcher Phoenix Webにログインするために使用したのと同じ資格情報を使用して、Webブラウザーで **Dispatcher Phoenix Webキャプチャ** にログインしようとします。
- **[ワークフロー]** - ワークフローを開始、停止、一時停止します。

さらに、すべてのDP Webページには、これらの機能へのアクセスを提供するスライドアウトメニューが含まれています。ナビゲーションアイコンをクリックすると、次の図のようにスライドアウトメニューにアクセスできます。



エンタープライズ

エンタープライズレベルの展開のための最大のアップタイムを保証するために、Dispatcher Phoenixは企業にとって重要な次のような機能を提供します。

- **[フェールオーバー]** - プライマリサーバーがダウンした場合に使用されるフェールオーバーサーバーは、最大アップタイムを保証します。クラスター内のあるサーバーで障害が発生すると、リソースがリダイレクトされ、フェールオーバーサーバーとしてライセンスされたクラスター内の別のサーバーにワークフローが再配布されます。すべてのフ

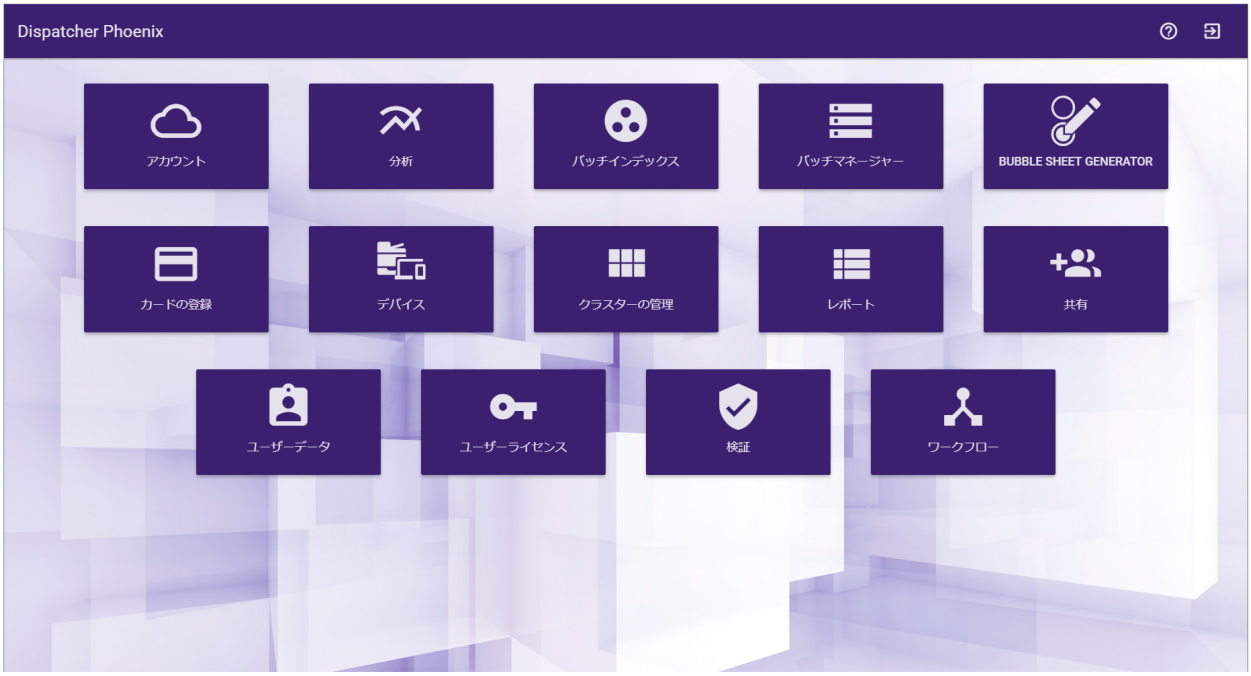
ェールオーバーサーバーは30日間プライマリとして機能し、その後、プライマリとして動作するフェールオーバーは機能しなくなります（ライセンスされたプライマリサーバーが利用できない場合）。プライマリサーバーが永続的にオフラインになり、フェールオーバーサーバーが永続プライマリサーバーになる必要がある場合、プライマリライセンスをフェールオーバーサーバーに移動するには、手動でライセンスを転送する必要があります。

- **[ロードバランシング]** - デバイスの大規模な展開では、負荷分散はサーバーに要求を分散するために最適です。Dispatcher Phoenixを使用すると、自動ロードバランシングのために複数のプライマリを結合することができます。この場合、ジョブはバックロードとユーザー指定のしきい値に基づいて一つのプライマリから別のプライマリに移動します。
- **[OCRオフロード]** - 処理時間を短縮するために、集中的な処理タスクを他のサーバーにオフロードすることができます。Dispatcher Phoenixは、**[複合機接続]**、**[モバイル接続]**、**[Web接続]**、および **[ワークフロー処理]** をオフロードするように設定できます。
- **[ワークフロー共有]** - 優れた共有制御機能により、特定のユーザーまたはユーザーグループにワークフローを割り当てることができます。
- **[ワークフローコントロール]** - 管理者は、システムにDispatcher Phoenixをインストールしなくても、ワークフローを実行、停止、一時停止することができます。
- **[ダッシュボード]** - グラフィカルなオンラインダッシュボードは、サーバー/ユーザーのアクティビティに関する簡単なスナップショットを提供します。

これらの機能は、Dispatcher Phoenix Webアプリケーションから使用できます。

管理者ユーザー

特定の機能は、管理者とみなされるユーザーのみがアクセスすることができます。Dispatcher Phoenix Webへの管理アクセス権を持っている場合、ホームページは次の図のようになります。



管理者は次のタイトルのいずれかに該当します。

- Administrators(管理者)
- Domain Admins(ドメイン管理者)
- Administrateurs(管理者)
- Administradores(管理者)
- Administratoren(管理者)

上記以外の管理グループを追加するには、次の手順を実行します。

1. Dispatcher Phoenix Webのインストールディレクトリ（例: C:\Program Files\Konica Minolta\Dispatcher Phoenix Web）に移動します。
2. [config.json]ファイルを開くと、次のようになります。

```
{
  "mesa": {
    "url": ""
  },
  "help": {
    "base": "http://sec.kmbs.us/reg/dev/",
    "path": "dphelp/manual/develop/"
  },
  "admin": {
    "memberOf": "Administrators, Domain Admins, Administrateurs, Administradores,
        ↪ Administratoren"
  }
}
```

3. **[memberOf]** エントリーを編集して、管理者と見なされる追加のグループを含めます。追加エントリの間にカンマがあることを確認してください。
4. 次の手順を実行して、[KMBS Dispatcher Phoenix Web Server]サービス（dp-web）を再起動します。
5. [ファイル名を指定して実行]ダイアログを開く（Windows キー + R）。
6. [services.msc]と入力し、[OK]をクリックします。
7. [KMBS Dispatcher Phoenix Web Server]を右クリックし、[再起動]をクリックします。

グループをこの管理者リストに追加することができず、ユーザーを個別にDispatcher Phoenix Webの管理者として追加する場合は、以下の手順に従います。

重要: これは、ユーザーのグループを使用することができない場合にのみ行うべき最後の手段であることに注意してください。

1. Dispatcher Phoenix Webのインストールディレクトリ内の「wwwroot」ディレクトリ（例 C:\Program Files\Konica Minolta\Dispatcher Phoenix Web\wwwroot)にナビゲートします。

```
{
        "users": ""
}
```

2. 「user-whitelist.json」ファイルを開きます。次のように表示されます。{ "users" : "" }

```
{
        "users": "admin1, admin2, admin3"
}
```

3. ホワイトリストに登録する必要があるユーザー名のカンマ区切りリストで「users」の値を更新します。{ "users" : "admin1 , admin2 , admin3" }
4. [KMBS Dispatcher Phoenix Web Server] サービス（dp-web）を再起動します。

トラブルシューティング

管理者であると思われるにもかかわらず、Dispatcher Phoenix Webで適切なタイトルが見つからない場合、または次のようなメッセージ、

「管理者はDP Webの管理者モジュールにアクセスできません」

が表示された場合、以下のトラブルシューティング手順に従ってください。

1. Dispatcher Phoenix Webのメインページから **[ユーザーデータ]** を選択して、Dispatcher Phoenix Webがユーザーが属していることを検出したグループを確認します。Dispatcher Phoenix Webによってユーザーのために検出されたグループは、**[ユーザープロファイル]** の **[グループ]** の隣に表示されます。
2. **Dispatcher Phoenix Webが既定で管理者と見なすグループのリスト** を確認します。ユーザーがこれらのいずれかのグループのメンバーとしてリストされていない場合は、そのページの手順に従って、管理者グループのリストにグループを追加するか、このユーザーを管理者としてホワイトリストに登録します。

必要条件

DP Webは、HTML5をサポートする次のすべてのブラウザーでサポートされています。

- Chrome
- Firefox
- Internet Explorer 10またはそれ以上
- Microsoft Edge
- Safari for Mac

アカウント

Dispatcher Phoenix Webアカウントアプリを使用して、Dispatcher Phoenixワークフローで使用する次のクラウドおよびオンプレミスアプリケーションのアカウントを承認および管理します。

- Dropbox
- Box
- Google Drive

- OneDrive
- OneDrive for Business
- SharePoint Online
- Microsoft Exchange Online
- Google Mail
- **Epic (オンプレミス)**
- DocuSign

Dispatcher Phoenix Webでアカウントを承認すると、関連するDispatcher Phoenixコネクターノードでアカウントにアクセスできるようになります。

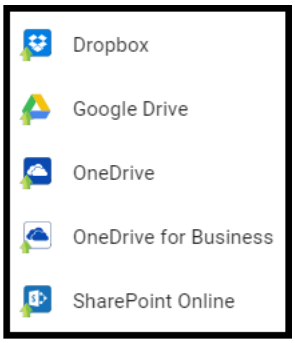
アカウントアプリケーションへのアクセス

Dispatcher Phoenix Webから、スライドアウトメニューから **【アカウント】** ボタン、または **【アカウント】** オプションを選択します。アカウントアプリケーションが表示されます。

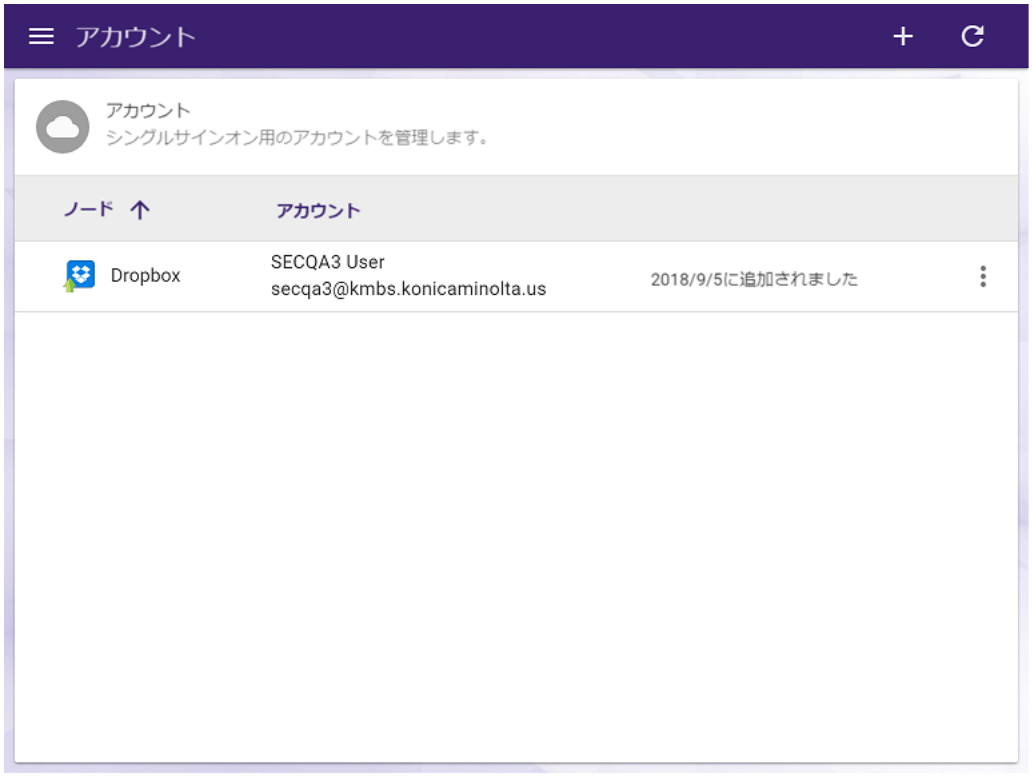
アカウントの追加

アカウントを追加するには、次の手順を実行します。

1. 上部のナビゲーションバーで **【+】** アイコンを選択します。次の図に示すように、使用可能なコネクターのリストが表示されます。



2. 追加するコネクターを選択します。ポップアップウィンドウが表示されます。
3. プロンプトに従って、Dispatcher Phoenixがアカウントにアクセスできるようにします。
4. Dropboxアカウントがアカウントページに表示されます。アカウントを追加したら、ワークフローで使用するコネクターを構成できます。次の図の例を参照してください。

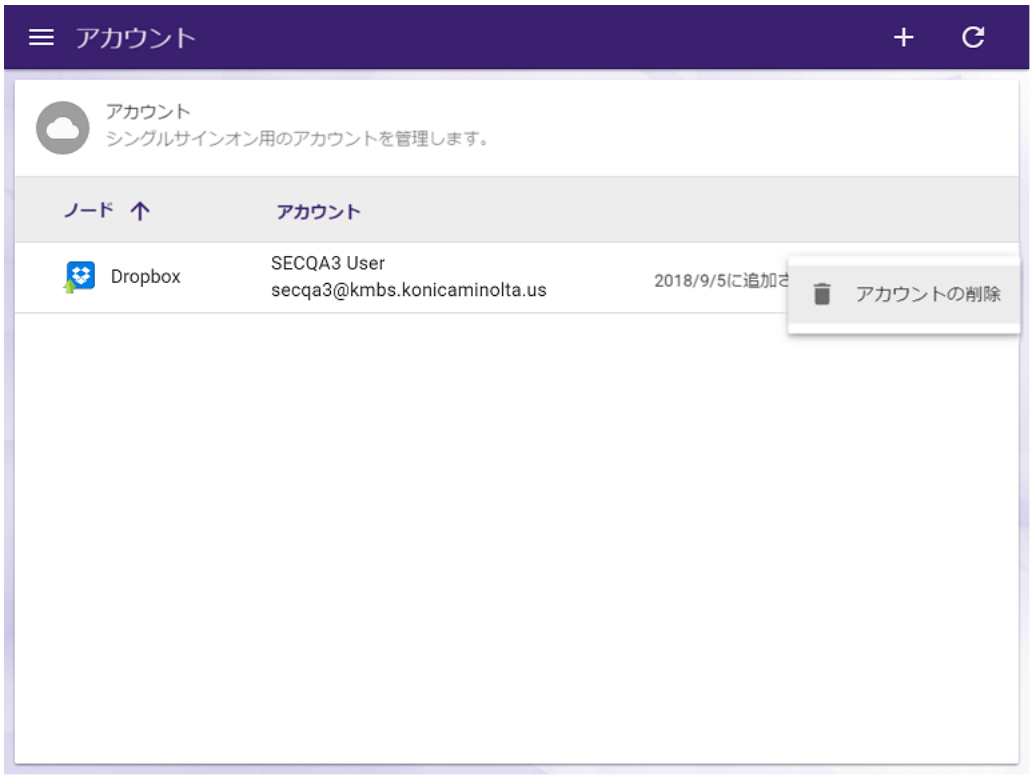


注: EPICアカウントを追加するには、まず**システム設定** を更新する必要があります。

アカウントの削除

アカウントを削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除するアカウントを選択し、画面の右側にある省略記号ボタンを選択します。次の図のように、メニューが表示されます。



2. **[アカウントの削除]** を選択します。
3. [アカウント削除の確認]ポップアップウィンドウで、**[削除]** を選択します。

プライマリアカウント

同じ種類のコネクターを持つ複数のアカウントをお持ちの場合は、追加する最初のアカウントがプライマリアカウントとして指定されます。プライマリアカウントにはスターアイコンが表示されます。プライマリアカウントを持つメリットは、複合機にログインしてワークフローにアクセスすると、シングルサインオンを使用してプライマリアカウントに自動的にアクセスできることです。プライマリとして有効にするアカウントを選択できるので、プライマリアカウントである必要はありません。複合機で複数のアカウントを切り替えるには、プライマリアカウントを無効にする必要があります。

プライマリアカウントの有効化

1. プライマリアカウントを作成するアカウントを選択し、画面の右側にある省略記号ボタンを選択します。
2. **[プライマリの有効化]** を選択します。
3. [プライマリアカウントの有効化を確認]ポップアップウィンドウで、**[はい]** を選択します。

プライマリアカウントの無効化

1. プライマリとして削除するアカウントを選択し、画面の右側にある省略記号ボタンを選択します。
2. **[プライマリの無効化]** を選択します。
3. [プライマリアカウントの無効化を確認]ポップアップウィンドウで、**[はい]** を選択します。

Dropboxアプリでのアカウントとチームメンバーのステータスの変更に関する注意

Dropboxアプリ内で、Dropboxアカウント、またはチームメンバーのステータスを変更しても、Dispatcher Phoenix Webの関連アカウントは自動的には更新されません。Dispatcher Phoenixでアカウントを更新するには、Dispatcher Phoenix Webでアカウントを削除してから再度追加する必要があります。Dispatcher Phoenix Webアカウントが更新されると、接続されているDispatcher Phoenixノード（および接続されているインデックスフォーム）が自動的に更新されます。

この状況は、Dropboxアプリで、次のトランザクションのいずれかが実行された場合に発生します。

- チームメンバーを追加
- チームメンバーを削除
- チームメンバーを一時停止

デバイス ツール

Dispatcher Phoenix Webのデバイスツール を使用すると、管理者は、実行中のワークフローを停止することなく、複数のデバイスやグループの検出、グループの作成、登録、編集/削除を簡単に行うことができます。開始するには、次の手順を実行します。

1. **Windowsユーザー資格情報** で **Dispatcher Phoenix Web** にログインします。
2. **[デバイス]** を選択します。

次の図は、デバイスタイルを表しています。

デバイスホームページ には、すでに検出、追加、または登録されているデバイスが一覧表示されます。グループに関連付けられていないデバイスは **グループなし** カテゴリの下に表示されます。次の図の例を参照してください。

ツールバーの使用

[デバイス]ツールバーには、デバイスを管理および登録できるさまざまなボタンが用意されています。ツールバーボタンは、オプションへのキーボードショートカットと同じように、提供するオプションをリストするドロップダウンメニューでアクセスします。ツールバーは次の図のように表示されます。

ツールバーを使用すると次のことができます。

- **検出** - ネットワーク上のすべてのデバイスを自動的に検出、検索します。
- **グループを作成** - **Webキャプチャ**ノードのグループを含む視覚化と管理を容易にするデバイスのグループを定義します。
- **追加** - 登録用に個々のデバイスを手動で追加します。[デバイスをインポート]オプションは、**デバイスの一括インポートツール**にアクセスします。
- **編集** - 選択したデバイスのアプリケーション設定と認証オプションを変更します。このボタンには、デバイスの割り当て先グループを変更したり、グループの名前を変更したりするオプションもあります。
- **削除** - 選択したデバイスをリストから削除したり、選択したデバイスをグループから削除します。
- **登録** - Dispatcher Phoenixを選択したデバイスに登録します。
- **登録解除** - Dispatcher Phoenixを選択したデバイスから登録解除します。
- **選択** - 登録済みデバイス、未登録デバイス、すべてのデバイスの選択、選択のクリア、またはすべてのグループの展開/折りたたみが選択できます。
- **既定値** - 新しく追加されたすべてのデバイスの既定のアプリケーション設定と認証オプションを定義します。
- **[...]** - **ヘルプ** トピックにアクセスしたり、キーボードショートカットを表示することができます。

デバイスを検出

デバイスを登録またはデバイスグループに追加する前に、デバイスを「検出」する必要があります。デバイスが[デバイス]ホームページに表示されている場合、そのデバイスはすでに検出されています。

ネットワーク上のデバイスを検出するには、**[検出]** ボタンを選択します。次のオプションが表示されます。

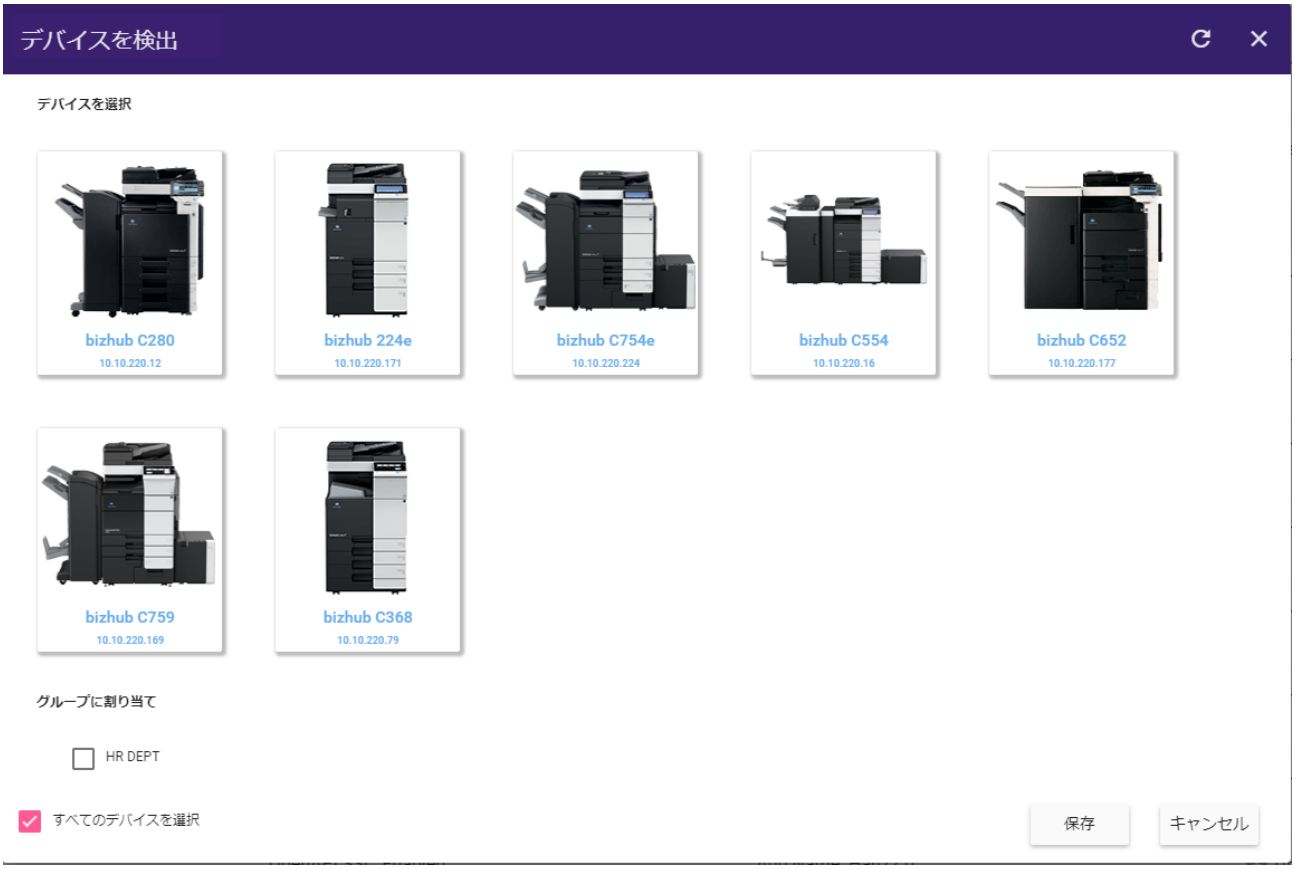
- **Konica Minolta 組み込みターミナルのデバイスを検索**
- **Webキャプチャターミナルのデバイスを検索**

このウィンドウでは、次の操作を実行できます。

- デバイスページに追加する特定のデバイスを選択し、登録します。
- [すべてのデバイスを選択] ボックスをチェックして、リストされているすべてのデバイスを選択します。
- [保存]を選択すると、選択したすべてのデバイスが既定の[グループなし]に追加されます。
- [グループに割り当て] - 選択したデバイスを特定のグループに追加できます。

Konica Minolta 組み込みターミナルのデバイスを検索

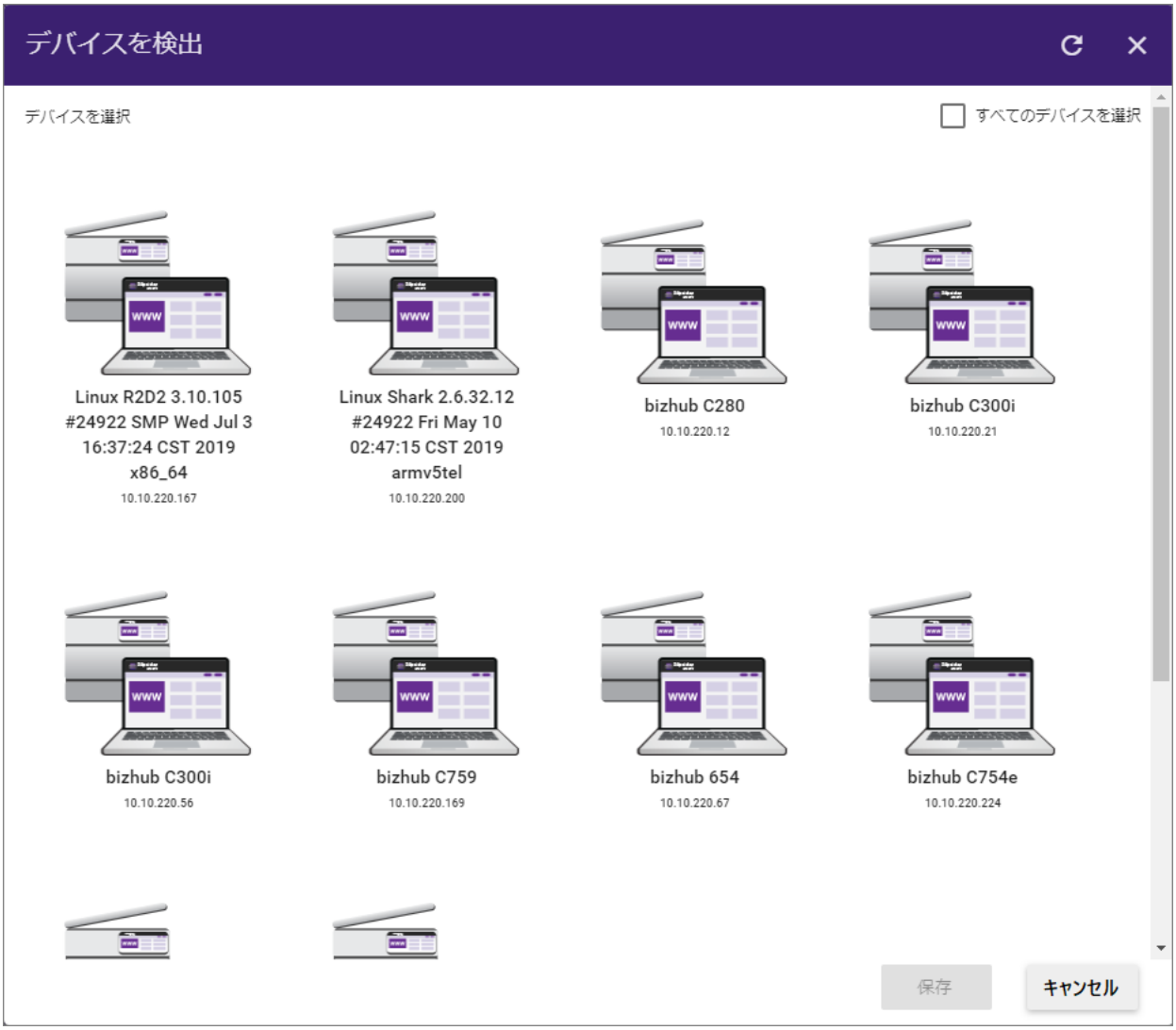
Konica Minoltaのデバイスのみを検索するには、**[Konica Minolta 組み込みターミナルのデバイスを検索]** オプションを選択します。[デバイスを検出]ウィンドウが表示され、ネットワークで検出されたすべてのデバイスが一覧表示されます。次の図の例を参照してください。



Webキャプチャターミナルのデバイスを検索

このオプションを使用して、**Webキャプチャ** ノードで使用するデバイスを検出します。

Konica Minoltaデバイスを含むネットワーク上のすべてのデバイスを検索するには、**[Webキャプチャターミナルのデバイスを検索]** オプションを選択します。[デバイスを検出] ウィンドウが表示され、ネットワークで検出されたすべてのデバイスが一覧表示されます。次の図の例を参照してください。



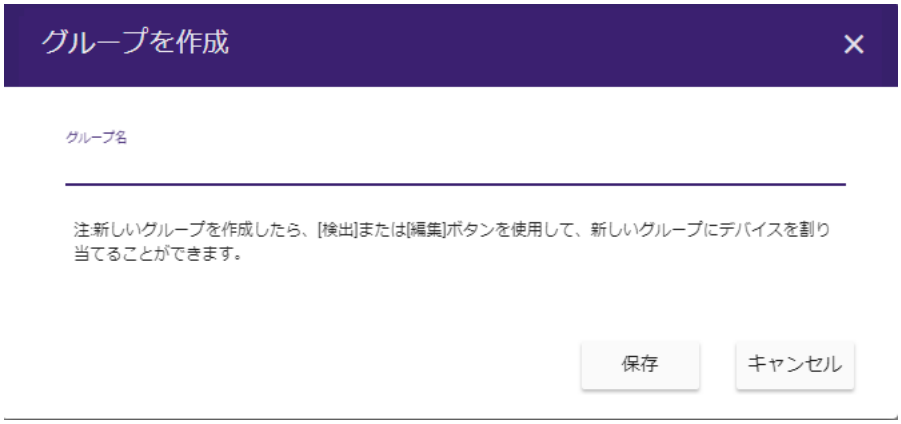
注: ワークフロー内でKonica Minolta複合機を使用して、既定のスキャン設定を含むすべての機能にアクセスすることをお勧めします。

グループを作成

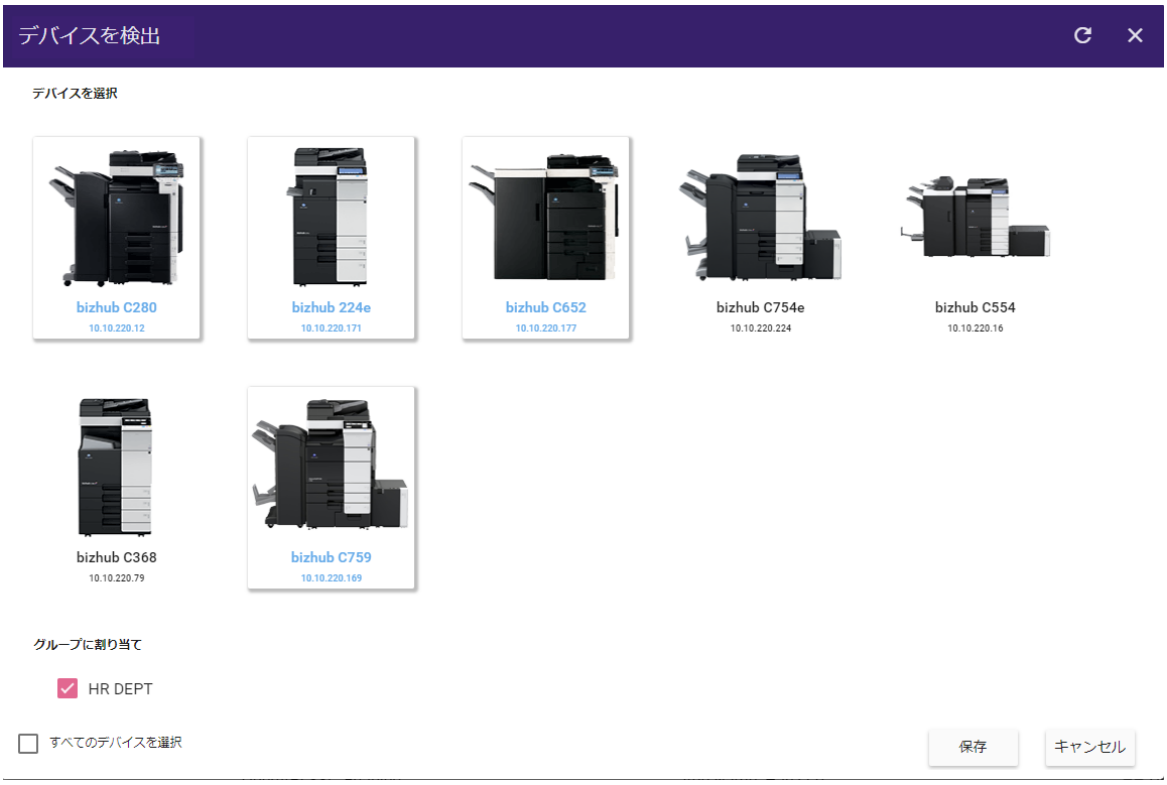
管理者はグループを作成してデバイスをさまざまなグループに簡単に整理、および管理することができます。これは、数百のデバイスを使用する企業レベルのビジネスにとって重要な要件です。デバイスグループに登録されたデバイスは、Dispatcher Phoenixで実行中のワークフローを含め、ワークフローを停止することなく、任意のワークフローに追加することができます。デバイスグループに登録されたデバイスは、Dispatcher Phoenixで実行中のワークフローを含め、ワークフローを停止することなく、任意のワークフローに追加することができます。複合機パネルノードとは異なり、**Web キャプチャノード** を構成できるのはデバイスグループのみであり、個々のデバイスでは構成できないことに注意してください。

グループを作成するには、次の操作を行います。

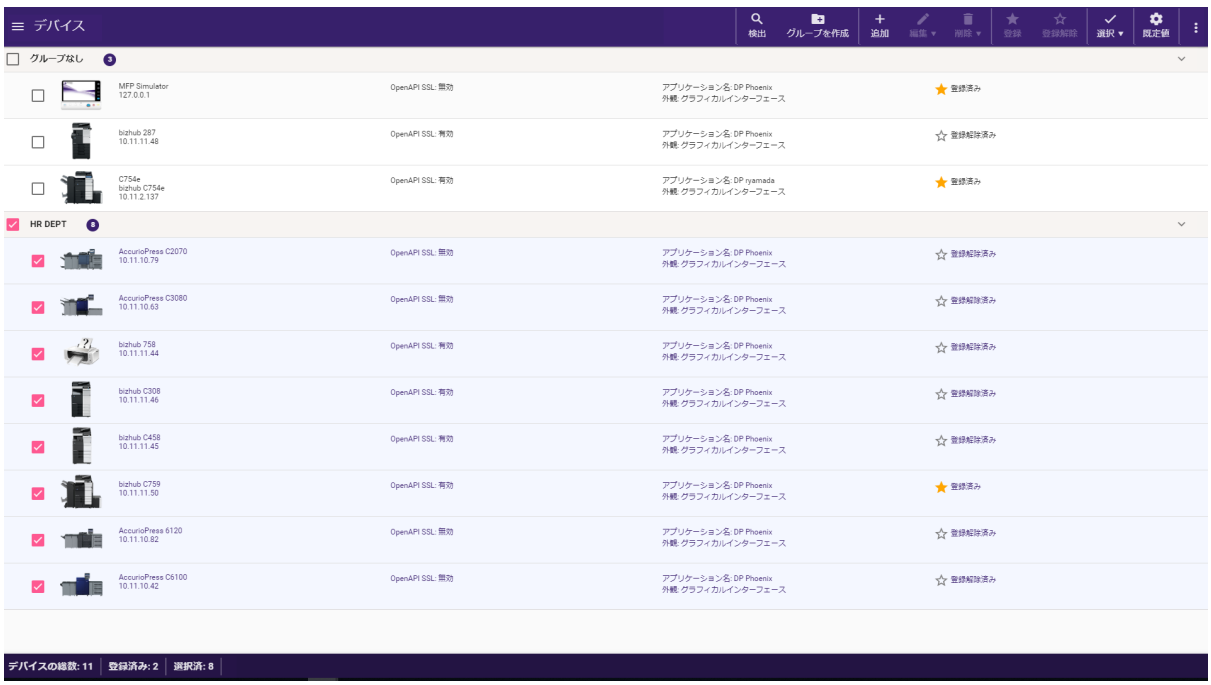
1. **[グループを作成]** ボタンを選択します。[グループを作成]ウィンドウが表示されます。



2. 作成するグループの名前を入力し、**[保存]** を選択します。
3. 新しく作成されたグループが[デバイス]ページに表示されます。各グループ名の横には、そのグループ内にあるデバイスの数を表す小さな番号が表示されます。
4. グループに新しいデバイスを追加するには、次のいずれかを実行します。
    - オプション1: デバイス検出ツールの使用
        1. ツールバーの **[検出]** ボタンを選択します。
        2. [デバイスを検出]ウィンドウで、目的のデバイスを選択します。
        3. 下の図のように、デバイスを追加するグループを選択します。



        4. 下の図のように、**[保存]** ボタンを選択して、指定したグループにデバイスを追加し、デバイスのホームページに戻ります。



    - オプション2: デバイスのホームページの使用

1. グループに追加するデバイスを選択します。
2. ツールバーの **[編集]** ボタンを選択します。
3. 表示されるメニューで **[デバイスを編集]** または **[デバイスグループを変更]** オプションいずれかを選択します。

注: 単一のデバイスの名前をダブルクリックすると、**[デバイスを編集]** ウィンドウが直接開きます。

手動でデバイスを追加する

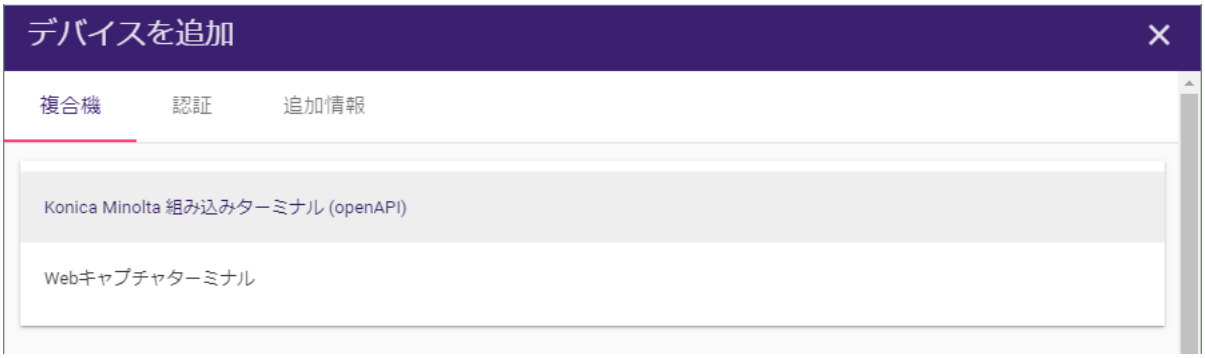
[検出] オプションで特定のデバイスが見つからない場合は、デバイスのIPアドレスがわかっている場合は、単一のデバイスを手動で追加できます。次の図のように、[追加]ボタンをクリックし、ドロップダウンから[デバイスを追加]を選択します。

注: 複数のKonica Minolta 複合機を一度にDispatcher Phoenixに追加するには、**[デバイスをインポート]** を選択して **一括インポートウィザード** にアクセスします。このオプションは、コニカミノルタ複合機でのみ使用できます。

[デバイスを追加]ウィンドウが表示され、次の図のように[複合機]タブが表示されます。

[デバイスを追加]ウィンドウで、最初に端末タイプを指定する必要があります。[複合機]タブに表示されるフィールドは、選択した端末タイプによって異なります。次の手順では、両方の端末タイプで使用可能なオプションについて説明します。

- **Konica Minolta 組み込みターミナル (OpenAPI)** - Konica Minoltaデバイスで使用する場合、**複合機パネル** ノードを使用します。
- **Webキャプチャターミナル** - 任意のデバイスで使用する場合、**Webキャプチャ** ノードを使用します。



Konica Minolta 組み込みターミナル(OpenAPI)の追加

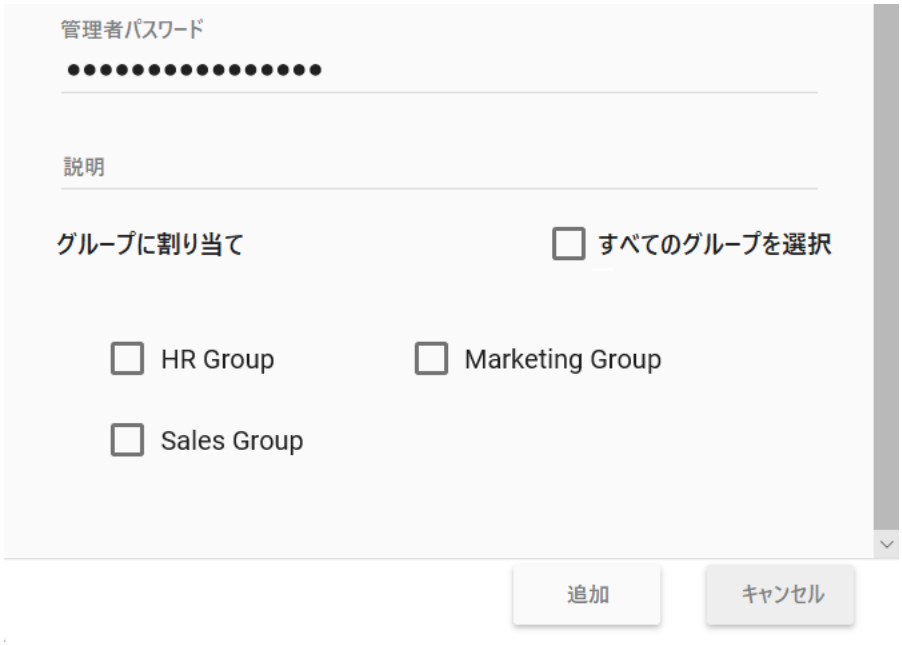
Konica Minolta 複合機にアプリケーションを登録するには、次の手順を実行します。

複合機 タブ

[複合機]タブに次のオプションが表示されます。

1. **[端末タイプ]** - ドロップダウンリストをクリックして、[Konica Minolta 組み込みターミナル(OpenAPI)]オプションを選択します。
2. **[ホスト名/IPアドレス]** - 追加するデバイスのホスト名またはIPアドレスを入力します。
3. **[名前]** - デバイスの識別名を入力します。この名前は[デバイス]ページで使用されます。
4. **[bESTアプリケーション名]** - 複合機パネルに表示するアプリケーションの一意の名前を入力します。
5. **[bESTサーバー]** - 既定では、bESTサーバーのURLが表示されます。高度なネットワーク状況に合わせてこのURLをカスタマイズできます（例: bESTサーバーは別のサーバーに登録されている、bESTサーバーはIISに埋め込まれている、Dispatcher PhoenixはNATネットワークを使用するVMにインストールされている、等）。Dispatcher Phoenixを搭載したPCを使用すると、ネットワーク上の互換性のある複合機デバイスでこのテクノロジーを使用することができます。IPアドレスまたはサーバーホスト名を入力して、複合機にサービスの場所を知らせることができます。これは、コンピューター上に複数のIPアドレスが存在する場合、複合機に使用するIPアドレスを伝えるために特に重要です。
6. **[パネルの外観]** - アプリケーションのパネルの外観を選択します。フィールドをクリックして、オプションのドロップダウンリストを表示します。複合機にi-Optionがインストールまたはライセンスされていない場合は、ネイティブインターフェースオプションを選択します。

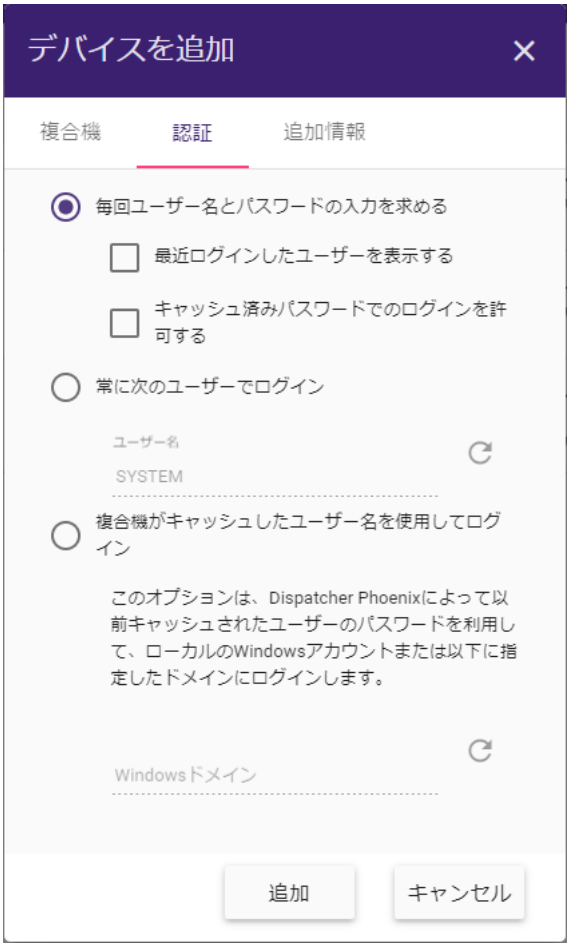
   [選択したUIが複合機でサポートされていない場合、サポートされているUIで自動的に登録する] - このボックスをチェックして、パネルの外観オプションでの登録エラーを回避します。このオプションを有効にすると、i-Optionがインストールされていないデバイスにグラフィカルインターフェースオプションが指定されている場合、登録は失敗しません。代わりに、アプリケーションはネイティブユーザーインターフェースモードで自動的に登録されます。
7. **[管理者パスワード]** - 複合機への管理アクセスに必要なパスワードを入力します。



8. **[説明]** - 複合機の説明を入力します。説明は必須ではありませんが、複数のデバイスが自分の名前で登録されている場合、一意の説明により複合機が識別しやすくなります。
9. **[グループに割り当て]** - デバイスを1つ以上のグループに割り当てるには、各グループ名の横にあるチェックボックスをオンにします。すべてのグループに割り当てるには、[**すべてのグループを選択**] ボックスをオンにします。
10. **[追加]** - デバイスを追加して、ウィンドウを終了します。

認証 タブ

このタブを使用して認証設定を編集します。次の図に例を示します。



[認証] タブを使用して、次の操作を実行できます。

- **[毎回ユーザー名とパスワードの入力を求める]** - ワークフローにアクセスする前に、複合機のコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを入力します。この設定では次のオプションも使用できます。
    - **[最近ログインしたユーザーを表示する]** このオプションを有効にすると、ユーザーは以前にログインした1000人のユーザーのドロップダウンリストからユーザー名を選択できるため、この情報を手動で入力する必要がなくなります。ただし、パスワードは入力する必要があります。
    - **[キャッシュ済みパスワードでのログインを許可する]** このオプションを有効にすると、ユーザーはパスワードを入力せずにログインすることができます。以前に入力したパスワードが使用されます。パスワードが変更され、複合機が再起動されると、キャッシュされたパスワードは失われることに注意してください。

    注: Windowsのユーザー名とパスワードを変更すると、bESTワークフローにアクセスすることができなくなります。
- **[常に次のユーザーでログイン]** - 設定を最小限に抑え、コントロールパネルでbESTワークフローにすばやくアクセスするには、このオプションを選択します。このオプションによってコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを手動で入力する必要がなくなります。このオプションを有効にすると、その特定のユーザーに対してアクティブに実行されているワークフローのみが表示され、パネルからスキャンされたジョブはそのユーザーとして実行されます。このフィールドには、現在のユーザーのユーザー名とドメイン名（利用可能な場合）が事前に入力されています。現在ログインしているユーザーに値をリセットするには、フィールドの横にある **[更新]** ボタンを使用します。
- **[複合機がキャッシュしたユーザー名を使用してログイン]** - シングルサインオン（SSO）には、このオプションを選択します。このオプションは、複合機またはActive Directory認証で動作するように設計されています。共有ワークフローに最適なこのオプションは、ユーザーが複合機にログインすると自動的にDispatcher Phoenixにログインします。このオプションを有効にすると、Windowsドメインフィールドにログインシステムの現在のドメインを事前入力するか、フィールドを空白のままにすることができます。

    注: 初回の使用時は、パスワードを手動で入力する必要があります。
- **[追加]** - クリックして設定を保存し、ウィンドウを閉じます。
- **[キャンセル]** - クリックすると、変更を保存せずにウィンドウが閉じます。

追加情報 タブ

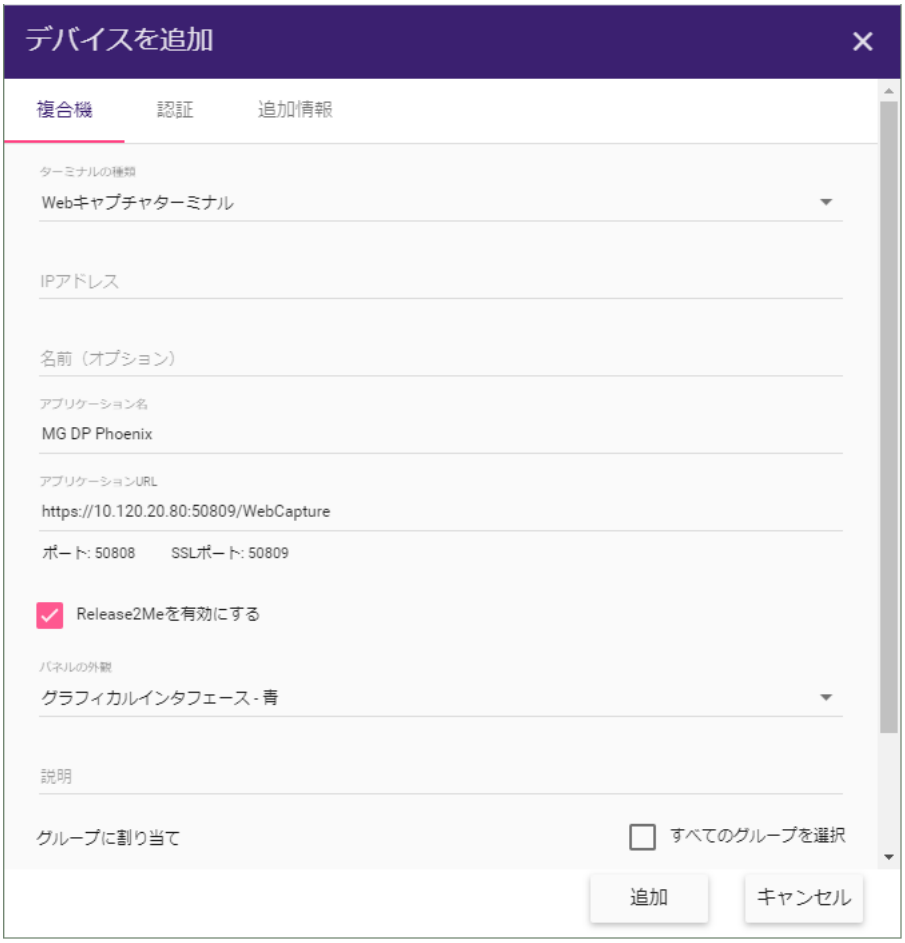
このタブを選択して、機器ID、サービス契約ID、連絡先、郵便番号などの追加のデバイス情報を編集します。

OpenAPI バージョン番号

新しいデバイスの追加が完了すると、デバイスのホームページに戻ります。ここで、各Konica MinoltaデバイスのOpenAPIバージョンが表示されます（ただし、Webキャプチャターミナルデバイスの場合は表示されません）。デバイスに対してネイティブインターフェースが選択されている場合、既定のOpenAPIバージョン番号は3.5です。

Webキャプチャターミナルの追加

Webブラウザー経由でドキュメントを送信またはスキャンするデバイスを追加するには、次の手順を実行します。

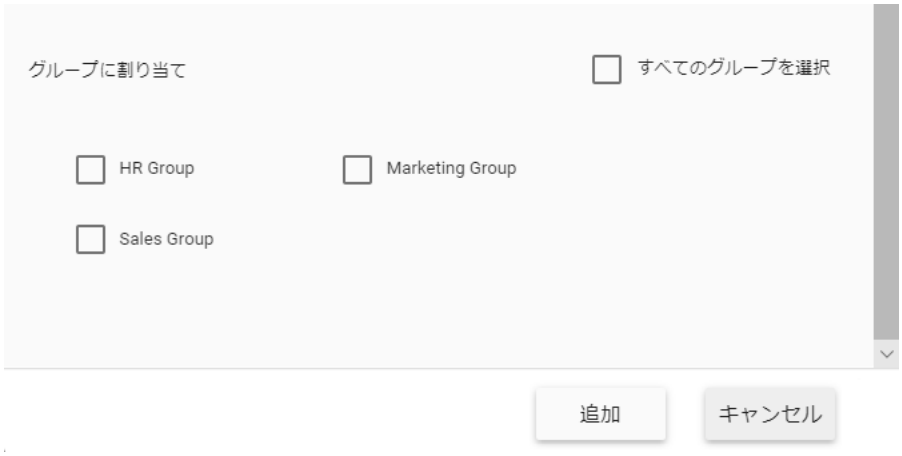


注: 複合機パネル ノードとは異なり、**Webキャプチャ** ノードは、個々のデバイスではなくデバイスグループでのみ構成できます。デバイスをグループに追加するには、以下の「グループへの割り当て」ステップを参照してください。

複合機 タブ

[複合機]タブに次のオプションが表示されます。

1. **[ターミナルの種類]** - ドロップダウンリストをクリックして、[Webキャプチャターミナル]オプションを選択します。
2. **[IPアドレス]** - 追加するデバイスのIPアドレスを入力します。
3. **[名前]** - デバイスの識別名を入力します。この名前は[デバイス]ページで使用されます。
4. **[アプリケーション名]** - **Webキャプチャ** アプリケーションの一意の名前を入力します。
5. **[アプリケーションURL]** - Webキャプチャサーバーの URLは既定で表示されます。このURLをWebブラウザーに貼り付けて、Dispatcher Phoenixでこのユーザーに割り当てられている実行中のすべてのワークフローを表示します。
6. **[Release2Meを有効にする]** - Webブラウザーから Release2Me印刷キューにアクセスするには、このボックスをオンにします。
7. **[パネルの外観]** - Webキャプチャアプリケーションのパネルの外観を選択します。フィールドをクリックして、オプションのドロップダウンリストを表示します。
8. **[説明]** - デバイスの説明を入力するには、このフィールドをクリックします。説明は必須ではありませんが、一意の説明を使用すると、自分の名前で複数のデバイスが登録されている場合にデバイスを簡単に識別できます。
9. **[グループに割り当て]** - デバイスを1つ以上のグループに割り当てるには、各グループ名の横にあるチェックボックスをオンにします。すべてのグループに割り当てるには、**[すべてのグループを選択]** ボックスをオンにします。Dispatcher Phoenixワークフローで実行するには、**Webキャプチャ** をグループに割り当てる必要があることに注意してください。



10. **[追加]** - デバイスを追加して、ウィンドウを終了します。

認証 タブ

このタブを使用して、認証設定を編集します。次の例を参照してください。

[認証] タブを使用すると、次のことができます。

- **[毎回ユーザー名とパスワードの入力を求める]** - ワークフローにアクセスする前に、デバイスのコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを入力します。この設定では、次のオプションも使用できます。

  - **[最近ログインしたユーザーを表示する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはドロップダウンリストから以前にログインした最新の1000人のユーザーのユーザー名を選択できるため、この情報を手動で入力する必要がなくなります。ただし、ユーザーは引き続きパスワードを入力する必要があります。

  - **[キャッシュ済みパスワードでのログインを許可する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはパスワードを入力せずにログインできます。以前に入力したパスワードが使用されます。パスワードを変更して複合機を再起動すると、キャッシュされたパスワードは失われることに注意してください。

  注: Windowsのユーザー名とパスワードを変更するとワークフローにアクセスすることができなくなります。

- **[常に次のユーザーでログイン]** - セットアップを最小限に抑え、コントロールパネルのワークフローにすばやくアクセスするには、このオプションを選択します。このオプションにより、デバイスのコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを手動で入力する必要がなくなります。このオプションを有効にすると、その特定のユーザーに対してアクティブに実行されているワークフローのみが表示され、パネルからスキャンされたジョブはそのユーザーとして実行されます。このフィールドには、現在のユーザーのユーザー名とドメイン名（利用可能な場合）が事前に入力されています。現在ログインしているユーザーに値をリセットするには、フィールドの横にある **[更新]** ボタンを使用します。
- **[追加]** - クリックして設定を保存し、ウィンドウを閉じます。
- **[キャンセル]** - クリックすると、変更を保存せずにウィンドウが閉じます。

追加情報 タブ

このタブを選択して、機器ID、サービス契約ID、連絡先、郵便番号などの追加のデバイス情報を編集します。

- **[追加]** - クリックして設定を保存し、ウィンドウを閉じます。

アプリケーション設定の編集

Dispatcher Phoenix Webのデバイス ページでは、単一のデバイスの特定のアプリケーション設定を編集できます。ターミナルの種類およびデバイスの登録ステータスによっては一部の設定は編集することができません。

デバイスのアプリケーション設定を編集するには、次の手順を実行します。

1. **デバイス** ページで、編集するデバイスの横にあるチェックボックスをクリックするか、デバイスをダブルクリックします。
2. ダブルクリックしない場合は、上のツールバーの **[編集]** ボタンを選択します。次の画像のようなドロップダウンリストが表示され、編集オプションが表示されます。

3. ドロップダウンで **[デバイスを編集]** を選択すると、次の図のように **[デバイスを編集]** ウィンドウが表示されます。

以下に、**Konica Minolta 組み込みターミナル（OpenAPI）** ターミナルの種類で利用可能なオプションについて説明します。**Webキャプチャ** ターミナルの種類のオプションの説明は、このトピックのさらに下に表示されます。

Konica Minolta 組み込みターミナル（OpenAPI）ターミナルの種類の編集

デバイスの編集 ウィンドウのすべてのデバイス設定が編集可能ではありません。フィールドが編集可能かどうかを判断するには、フィールドをクリックします。

- **[ターミナルの種類]** - このフィールドには、編集用に選択されたデバイスのターミナルの種類が表示されます。ターミナルの種類によって、このウィンドウに表示されるオプションが決まります。このフィールドは編集できません。デバイスの端末タイプを変更するには、デバイスを削除して再作成する必要があります。

この画面のフィールドについては、**Konica Minolta 組み込みターミナル（OpenAPI）の追加** を参照してください。

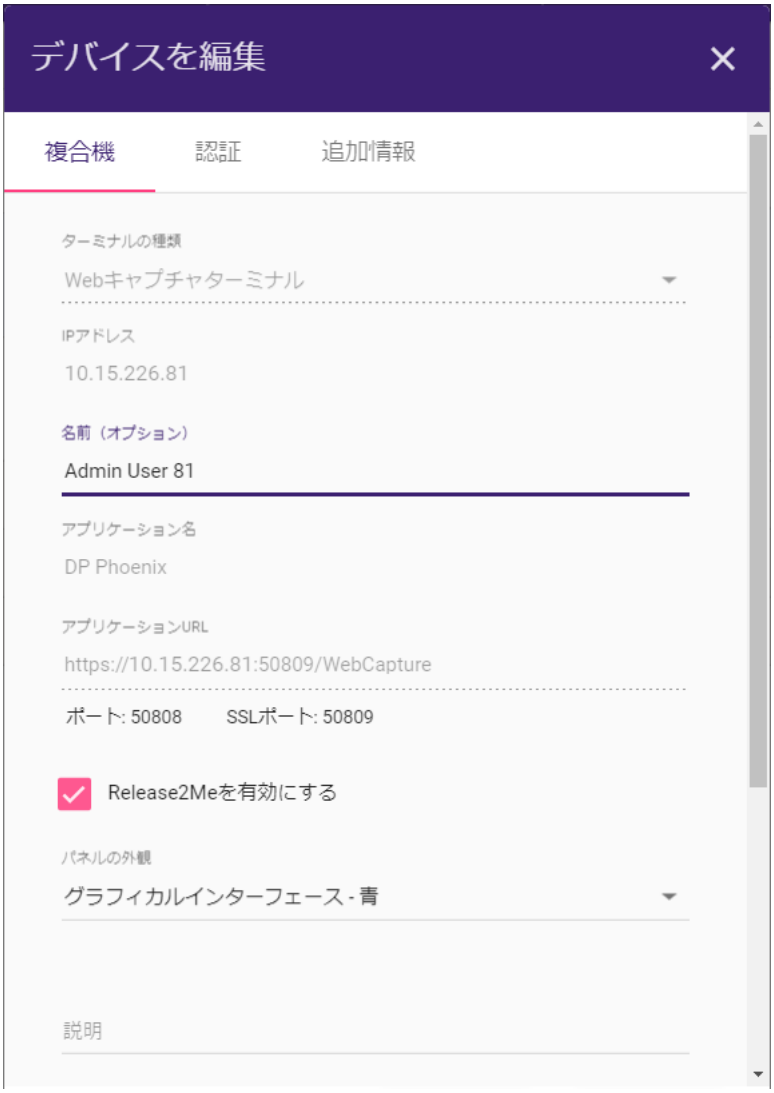
注: [デバイスの編集]ウィンドウには、[デバイスの追加]ウィンドウには表示されない次のフィールドが含まれています。

- **[モデル]** - デバイスのモデル名が表示されます。このフィールドは編集できません。

Webキャプチャターミナルの種類の編集

このセクションでは、**Webキャプチャ** ターミナルの種類の編集について説明します。**デバイスの編集** ウィンドウのすべてのデバイス設定が編集可能ではありません。フィールドが編集可能かどうかを判断するには、フィールドをクリックします。

- **[ターミナルの種類]** - このフィールドには、編集用に選択されたデバイスのターミナルの種類が表示されます。ターミナルの種類によって、このウィンドウに表示されるオプションが決まります。このフィールドは編集できません。デバイスのターミナルの種類を変更するには、デバイスを削除して再作成する必要があります。



注: Webキャプチャターミナルの場合、**IPアドレス** フィールドは既定でログオンユーザーになり、編集することはできません。デバイスのIPアドレスを変更するには、デバイスを削除して再作成する必要があります。

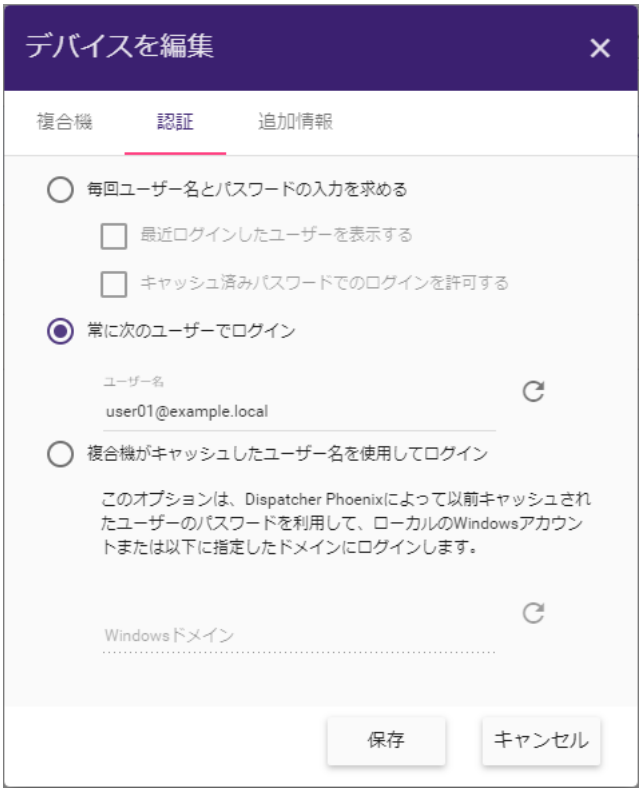
この画面のフィールドの詳細については、**Webキャプチャターミナルの追加** を参照してください。

単一デバイスでの認証オプションの編集

デバイスの認証設定を編集するには、**[設定の編集]** ウィンドウの **[認証]** タブを使用します。利用可能なオプションは、選択したデバイスのターミナルの種類によって異なります。

Konica Minolta 組み込みターミナル(OpenAPI)の編集

このタブに表示されるオプションは、選択したデバイスのターミナルの種類によって異なります。以下では、**Konica Minolta 組み込みターミナル（OpenAPI）** ターミナルの種類で利用可能なオプションについて説明します。**Webキャプチャ** ターミナルの種類のオプションの説明はこのトピックのさらに下に表示されます。



[認証] タブを使用すると、次のことができます。

- **[毎回ユーザー名とパスワードの入力を求める]** - 複合機パネルワークフローにアクセスする前に、ユーザーに複合機コントロールパネル画面でユーザー名とパスワードの入力を要求するには、このオプションを選択します。この設定では次のオプションも使用することができます。 - **[最近ログインしたユーザーを表示する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはドロップダウンリストから以前にログインした最新の1000人のユーザーのユーザー名を選択できるため、この情報を手動で入力する必要がなくなります。ただし、ユーザーは引き続きパスワードを入力する必要があります。 - **[キャッシュ済みパスワードでのログインを許可する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはパスワードを入力せずにログインできます。以前に入力したパスワードが使用されます。パスワードを変更して複合機を再起動すると、キャッシュされたパスワードは失われることに注意してください。

  注: Windowsのユーザー名とパスワードを変更すると、ワークフローにアクセスすることができなくなります。

- **[常に次のユーザーでログイン]** - セットアップを最小限に抑え、コントロールパネルのワークフローにすばやくアクセスするには、このオプションを選択します。このオプションにより、デバイスのコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを手動で入力する必要がなくなります。このオプションを有効にすると、その特定のユーザーに対してアクティブに実行されているワークフローのみが表示され、パネルからスキャンされたジョブはそのユーザーとして実行されます。このフィールドには、現在のユーザーのユーザー名とドメイン名（利用可能な場合）が事前に入力されています。現在ログインしているユーザーに値をリセットするには、フィールドの横にある **[更新]** ボタンを使用します。

- **[複合機がキャッシュしたユーザー名を使用してログイン]** - シングルサインオン（SSO）にはこのオプションを選択します。このオプションは、複合機またはActive Directory認証で動作するように設計されています。共有ワークフローに最適なこのオプションは、ユーザーが複合機にログインすると、Dispatcher Phoenixに自動的にログインします。このオプションを有効にすると、Windowsドメインフィールドにログインシステムの現在のドメインが事前に入力されるか、フィールドが空白のままになります。フィールドの横にある **[更新]** ボタンを使用して、値を現在のドメインにリセットします。

  注: 初めて使用する場合は、パスワードを手動で入力する必要があります。

- **[保存]** - このボタンをクリックして設定を保存します。

Webキャプチャターミナルの認証オプションの編集

このタブに表示されるオプションは、選択したデバイスのターミナルの種類によって異なります。以下は、**Webキャプチャ** ターミナルの種類で使用可能なオプションについて説明しています。前のトピックに、Konica Minoltaの組み込みターミナル（OpenAPI）ターミナルの種類のオプションの説明があります。

- **[認証]** -次の図に示すように、このタブを使用して認証設定を編集します。

[認証] タブを使用すると、次のことができます。

- **[毎回ユーザー名とパスワードの入力を求める]** - ユーザーに、ワークフローにアクセスする前にデバイスのコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードの入力を要求するには、このオプションを選択します。この設定では次のオプションも使用できます。
  - **[最近ログインしたユーザーを表示する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはドロップダウンリストから以前にログインした最新の1000人のユーザーのユーザー名を選択できるため、この情報を手動で入力する必要がなくなります。ただし、ユーザーは引き続きパスワードを入力する必要があります。
  - **[キャッシュ済みパスワードでのログインを許可する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはパスワードを入力せずにログインできます。以前に入力したパスワードが使用されます。パスワードを変更して複合機を再起動すると、キャッシュされたパスワードは失われることに注意してください。

  注: Windowsのユーザー名とパスワードを変更すると、ワークフローにアクセスすることができなくなります。
- **[常に次のユーザーでログイン]** - セットアップを最小限に抑え、コントロールパネルのワークフローにすばやくアクセスするには、このオプションを選択します。このオプションにより、デバイスのコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを手動で入力する必要がなくなります。このオプションを有効にすると、その特定のユーザーに対してアクティブに実行されているワークフローのみが表示され、パネルからスキャンされたジョブはそのユーザーとして実行されます。このフィールドには、現在のユーザーのユーザー名とドメイン名（利用可能な場合）が事前に入力されています。現在ログインしているユーザーに値をリセットするには、フィールドの横にある **[更新]** ボタンを使用します。

- **[保存]** - このボタンをクリックして設定を保存します。

複数デバイスを編集

Dispatcher Phoenix Webのデバイス ページでは、複数のデバイスを同時に設定することもできます。特定のデバイスを複数選択するだけでなく、グループ全体を選択して、次の操作を行うこともできます。

- 選択したすべてのデバイスまたはグループ内のすべてのデバイスのアプリケーション設定/認証オプションを編集する。
- 新規または既存のグループに複数のデバイスを追加する。

次の操作を行います。

1. デバイスページで、個々のデバイス、グループ内のデバイス、またはグループ全体を選択します。**[グループなし]** チェックボックスをオンにして、グループに分類されていないすべてのデバイスを選択することもできます。
2. **[編集]** ボタンを選択すると、ドロップダウンに表示されるオプションを自由に編集できます。

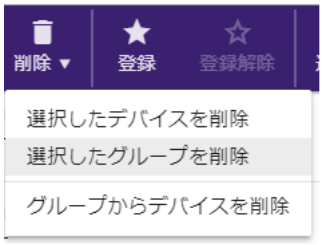
デバイス/グループの削除

管理者は、上部のツールバーの **[削除]** ボタンを使用して、グループからデバイスを削除したり、デバイスを削除したり、グループを削除することができます。

注: 登録解除された複合機のみ削除できます。登録済みの複合機を削除するには、まずその登録を解除する必要があります。

以下の操作を実行します。

1. 一つ以上のグループまたはデバイスを選択します。
2. ツールバーの **[削除]** ボタンを選択すると、次の図のようにドロップダウンリストが開きます。



3. 以下のいずれかを実行します。
    - **[選択したデバイスを削除]** - 選択したデバイスをデバイスツールから削除します。更に選択したデバイスを割り当てられたすべてのグループから削除します。
    - **[選択したグループを削除]** - デバイスツールからグループまたは複数のグループを削除します。選択したグループ内のデバイスが他のグループに属していない場合、それらは**「グループなし」**カテゴリの下に表示されます。
    - **[グループからデバイスを削除]** - グループから選択したデバイスを削除します。

デバイスの登録/登録解除

ワークフローで使用する前に、デバイスを **Dispatcher Phoenix** に登録する必要があります。Dispatcher Phoenix Webを使用してデバイスを登録できます。

デバイスを登録するには、次の手順を実行します。

1. [デバイス]ページで、登録する1つ以上のデバイスを選択します。
2. 上部のツールバーの **[登録]** ボタンを選択します。このボタンは、[デバイス]ページで少なくとも1つの未登録デバイスを選択した場合にのみアクティブになります。

注:

- 複数の複合機を一度に登録する場合（例: 10台またはそれ以上の複合機）、同時に登録されるのは4つですが、残りは同時にキューに登録されます。
- 登録時に複合機に表示されるbESTアプリケーション名は、すべてのユーザーで一意でなければなりません。登録の引き継ぎの詳細については、ここをクリックしてください。

デバイスを登録解除するには、次の手順を実行します。

1. [デバイス]ページで、登録を解除する1つ以上のデバイスを選択します。
2. 上部のツールバーの **[登録解除]** ボタンを選択します。このボタンは、[デバイス]ページで少なくとも1つの登録済みデバイスを選択した場合にのみアクティブになります。

既定値の設定

既定値 ウィンドウを使用して、すべての登録済みデバイスの既定のデバイス設定と認証オプションを構成します。必要に応じて、**[編集]** ウィンドウを使用して個々のデバイスの既定値の設定を上書きできます。

注: 既定値 ウィンドウで行われた変更は保存されますが、デバイスが初めて登録されるか、または登録解除されてから再度登録されるまで、デバイスに適用または検証されません。

既定の複合機設定

このセクションでは、複合機タブの設定について説明します。

- **[bESTサーバーホスト名/IPアドレス]** - このフィールドを使用して、アプリケーションサーバーの既定の場所を設定します。フィールドにIPアドレスまたはサーバーホスト名を入力します。既定では、このフィールドにはコンピューターのIPアドレスが入力されます。

さらに、このウィンドウでbESTアプリケーションの既定値の設定を指定するには、次の操作を実行します。

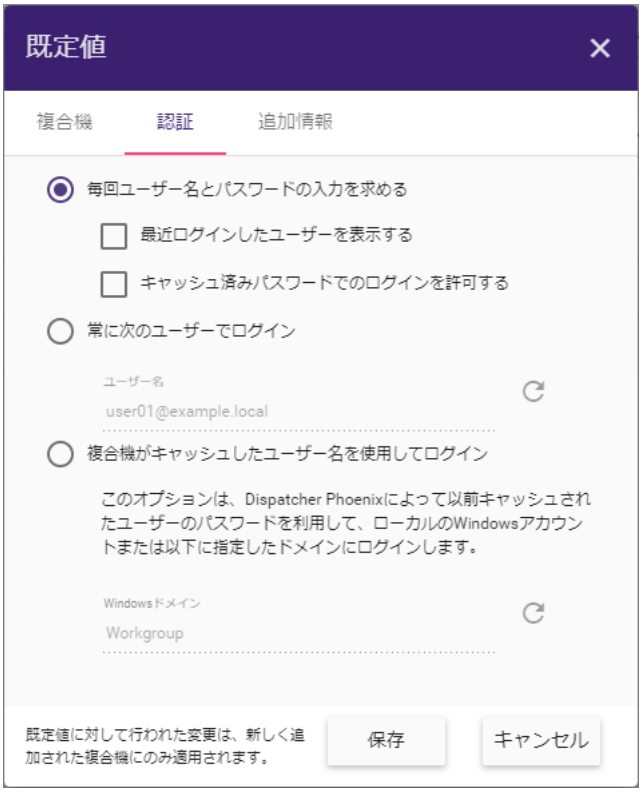
- **[bESTアプリケーション名]** - bESTアプリケーションを識別するために、コントロールパネルに表示する名前を入力します。
- **[パネルの外観]** - コントロールパネルでのワークフローの表示方法を選択します。次のオプションがあります。
  - **[グラフィカルユーザーインターフェース]** - ワークフロー自体のサムネイル画像とともに、ワークフローのスキャン設定の詳細を表示します。これが既定の設定です。
  - **[ネイティブ複合機ユーザーインターフェース]** - 非グラフィカルなテキストベースの方法でワークフローをリストします。i-Optionのライセンスおよびインストールが行われていないデバイスには、このオプションを選択します。

  注: Webキャプチャ デバイスタイプの場合、既定の設定が **ネイティブインターフェース** に設定されている場合、設定は自動的に **グラフィカルインターフェース** に戻ります。
- **[選択したUIが複合機でサポートされていない場合、サポートされているUIで自動的に登録する]** - パネルの外観オプションで登録エラーを回避するには、このボックスをオンにします。このオプションを有効にすると、複合機がグラフィカルUIをサポートしていない場合（および複合機にグラフィカルユーザーインターフェースオプションが指定されている場合）、複合機は自動的にネイティブUIとして登録されます。
- **[管理者パスワード]** - パスワードを入力して、デバイスへの管理アクセスを提供します。このパスワードは、次にbESTアプリケーションを登録するときに自動的に使用されます。
- **[既定のグループ]** - 既定のグループになる既存のグループを選択します。すべての新しいデバイスは、この既定のグループに自動的に割り当てられます。
- **[保存]** - このボタンをクリックして設定を保存します。

既定の認証設定

このセクションでは、ワークフローの既定のユーザー認証設定について説明します。

注: このタブで行われた認証の変更は、既存の複合機ではなく、新しく定義された複合機にのみ適用されます。



- **[毎回ユーザー名とパスワードの入力を求める]** - 複合機パネルワークフローにアクセスする前に、ユーザーに複合機コントロールパネル画面でユーザー名とパスワードの入力を要求するには、このオプションを選択します。この設定では次のオプションも使用することができます。
  - **[最近ログインしたユーザーを表示する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはドロップダウンリストから以前にログインした最新の1000人のユーザーのユーザー名を選択できるため、この情報を手動で入力する必要がなくなります。ただし、ユーザーは引き続きパスワードを入力する必要があります。
  - **[キャッシュ済みパスワードでのログインを許可する]** - このオプションを有効にすると、ユーザーはパスワードを入力せずにログインできます。以前に入力したパスワードが使用されます。パスワードを変更して複合機を再起動すると、キャッシュされたパスワードは失われることに注意してください。

  注: Windowsのユーザー名とパスワードを変更するとbESTワークフローにアクセスすることができなくなります。
- **[常に次のユーザーでログイン]** - セットアップを最小限に抑え、コントロールパネルのワークフローにすばやくアクセスするには、このオプションを選択します。このオプションにより、デバイスのコントロールパネル画面でユーザー名とパスワードを手動で入力する必要がなくなります。このオプションを有効にすると、その特定のユーザーに対してアクティブに実行されているワークフローのみが表示され、パネルからスキャンされたジョブはそのユーザーとして実行されます。このフィールドには、現在のユーザーのユーザー名とドメイン名（利用可能な場合）が事前に入力されています。現在ログインしているユーザーに値をリセットするには、フィールドの横にある[更新]ボタンを使用します。

  フィールドの横にある **[更新]** ボタンを使用すると、現在ログインしているユーザーに値をリセットできます。
- **[複合機がキャッシュしたユーザー名を使用してログイン]** - このシングルサインオン（SSO）オプションは、複合機またはActive Directory認証で動作するように設計されています。共有ワークフローに最適なこのオプションは、ユーザーが複合機にログインすると、Dispatcher Phoenixに自動的にログインします。このオプションを有効にすると、Windowsドメインフィールドにログインシステムの現在のドメインが事前に入力されるか、フィールドが空白のままにすることができます。初めて使用する場合は、パスワードを手動で入力する必要があります。

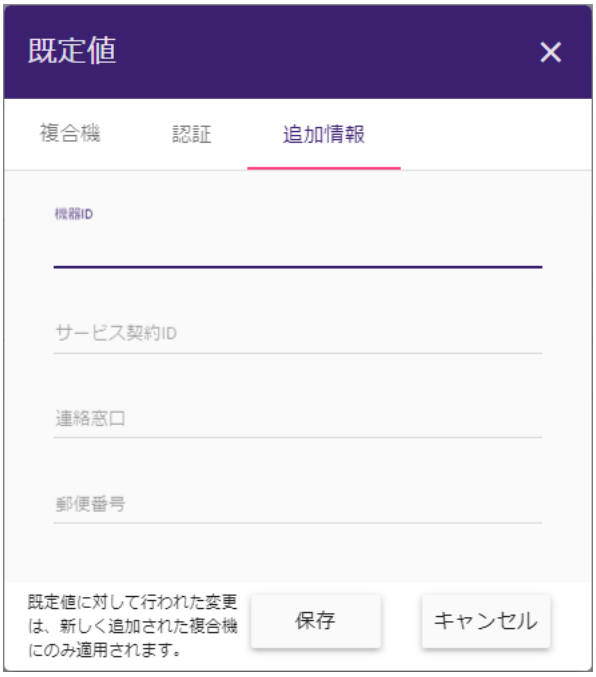
  フィールドの横にある **[更新]** ボタンを使用すると、値を現在のドメインにリセットできます。

  注: Webキャプチャデバイスタイプの場合、既定の設定が **[複合機がキャッシュしたユーザー名を使用してログイン]** に設定されている場合、設定は自動的に **[毎回ユーザー名とパスワードの入力を求める]** に戻ります。

既定の追加情報設定

既定の追加情報設定を使用して、**Dispatcher Phoenix** デバイスの既定の「追加情報」を設定します。デバイスを追加すると、ここで指定した情報が新しいデバイスに表示されます。既定値を受け入れるか、新しい情報を指定できます。これらのカスタマイズ可能なフィールドには以下が含まれます。

- **機器ID**
- **サービス契約ID**
- **連絡窓口**
- **郵便番号**



一括登録ツール

Dispatcher Phoenixの**複合機一括登録ツール** を使用すると、組織はKonica Minolta 複合機をDispatcher Phoenixデバイスツールに追加するプロセスを簡素化することができます。このツールは、IT部門が複数のデバイスをDispatcher Phoenixにインポートするプロセスを合理化できるように設計されています。

注: このツールは、コニカミノルタの複合機のみを一括インポートできます。たとえば、このツールを使用してデバイスをWebキャプチャ端末に一括インポートすることはできません。

複合機一括インポートツールの使用

一括インポートツールは、多数の新しいデバイスをインポートする必要がある大規模または企業の組織で使用します。新しい MFP を組織で購入すると、デバイスの到着とインストールの前に、多くの場合、その情報(モデルや MAC アドレスなど)がビジネスで利用できるようになります。Dispatcher Phoenix ワークフローで使用する新しいデバイスを事前に準備し、不要なダウンタイムを回避するために、**複合機一括インポートツール** を使用すると、組織はデバイスがネットワーク上で稼働する前にデバイス情報を一括インポートすることができます。

- **手順 1: Dispatcher Phoenix Webでデバイスツールにアクセスする**
- **手順 2: 複合機の既定を構成する**
- **手順 3: 一括インポートのExcelテンプレートをダウンロードする**
- **手順 4: 一括インポートのExcelテンプレートを構成する**
- **手順 5: デバイスリストをインポートする**
- **手順 6: デバイス情報を確認する**
- **手順 7: デバイスを登録**

注: このツールを使用して多数のデバイスをインポートする場合、インポートに数分かかる場合があります。

手順 1: Dispatcher Phoenix Webでデバイスツールにアクセスする

開始するには、次の手順を実行します。

1. **Windowsユーザー資格情報** を使用して**Dispatcher Phoenix Web** にログインします。
2. **デバイス** タイルを選択します。

例については、次の図を参照してください。

デバイスのホームページ には、すでに検出、追加、または登録されているデバイスが一覧表示されます。グループに関連付けられていないデバイスは、「グループなし」カテゴリの下に一覧表示されます。次の図を参照してください。一括インポート処理の準備をするには、複合機の既定を設定してください。例：

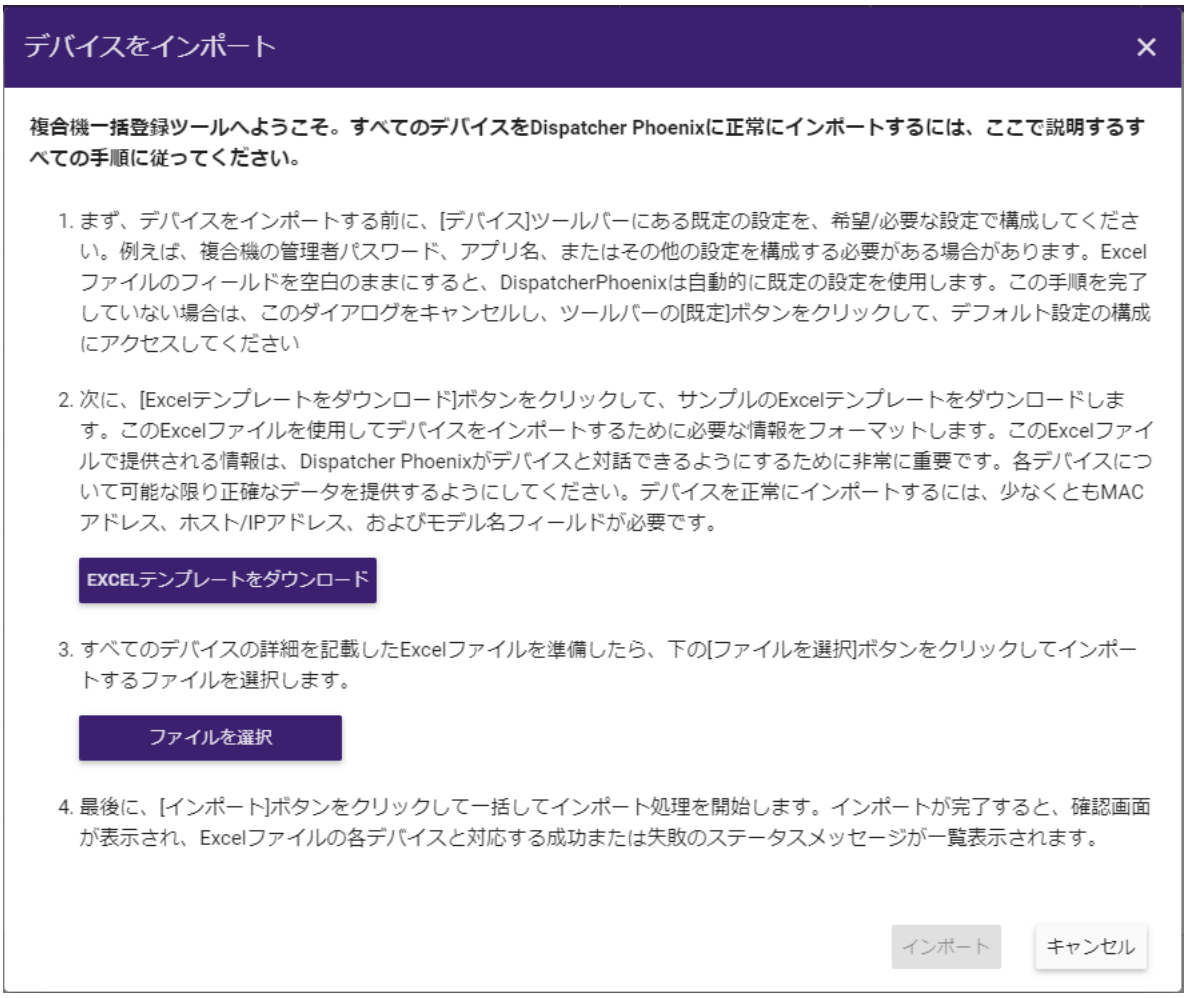
手順 2: 複合機の既定を構成する

1つ、または複数のデバイスをDispatcher Phoenixにインポートする前に、既定の複合機設定を構成する方法については、**ここをクリック**してください。

手順 3: 一括インポートのExcelテンプレートをダウンロードする

一括インポートのExcelテンプレートをダウンロードするには、次の図に示すように、**[追加]** ボタンをクリックし、ドロップダウンから**デバイスをインポート** オプションを選択します。

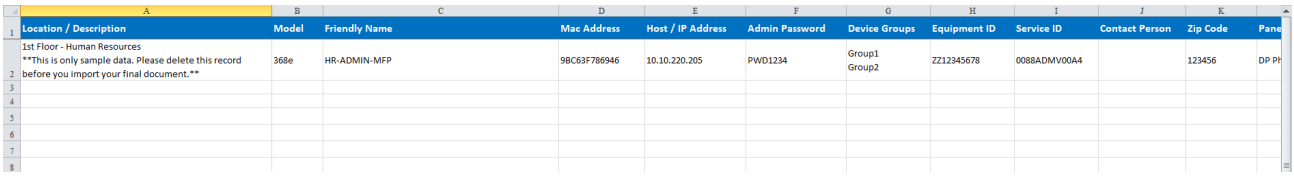
次の図のように、[デバイスをインポート]ウィンドウが表示されます。



手順2で、**[Excelテンプレートをダウンロード]** ボタンをクリックして、ファイルをダウンロード、または保存します。

手順 4: 一括インポートのExcelテンプレートを構成する

次に、Excelテンプレートを開いて、各デバイスの詳細の構成を開始します。例については、次の図を参照してください。



Location / Description	Model	Friendly Name	Mac Address	Host / IP Address	Admin Password	Device Groups	Equipment ID	Service ID	Contact Person	Zip Code	Pane
1st Floor - Human Resources **This is only sample data. Please delete this record before you import your final document.**	368e	HR-ADMIN-MFP	9BC63F786946	10.10.220.205	PWD1234	Group1 Group2	ZZ12345678	0088ADMV00A4		123456	DP PH

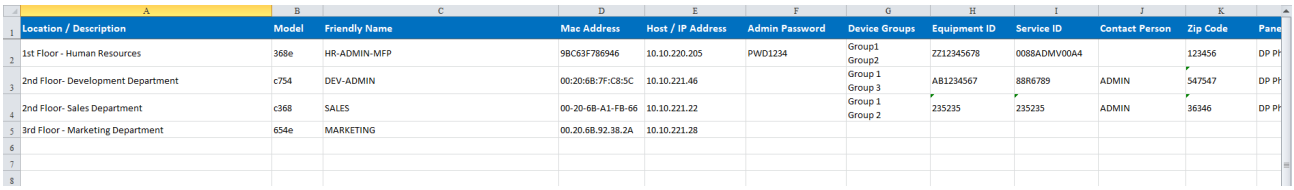
このテンプレートの列は再配置できます。ただし、列ヘッダーのテキストは変更できません。次のフィールドは、Excelテンプレートを使用して構成できます。

- Location/Description (場所/説明) - デバイスの場所、または目的の説明。
- Model (モデル) - 「224e、またはbizhub224e」など、デバイスの適切なモデル名。モデル名がコニカミノルタのデバイスと一致しない場合、その複合機の一般的なイメージが表示されます。
- Friendly Name (フレンドリー名) - デバイスのユーザーフレンドリー名。
- MAC Address (MACアドレス) - ネットワーク上のこのデバイスに割り当てられた一意の識別子。このフィールドは、次の文字を無視します -(ダッシュ)、:(コロン)および 。(ピリオド)。
- Host/IP Address (ホスト/IPアドレス) - デバイスのホスト名またはIPアドレス。
- Admin Password (管理者のパスワード) - このデバイスのDispatcher Phoenixの管理者パスワード。
- Device Groups (デバイスグループ) - デバイスを関連付ける必要があるグループ。各グループ名は改行で区切る必要があります。
- Equipment ID (機器ID) - デバイスの内部機器ID番号。
- Service ID (サービスID) - デバイスの内部サービスID番号。
- Contact Person (連絡窓口) - このデバイスに関して連絡する必要がある人。
- Zip Code (郵便番号) - このデバイスが配置されている住所の郵便番号。
- Panel App Name (パネルアプリケーション名) - 複合機パネルでDispatcher Phoenixに表示されるアプリケーション名。
- Server URL (サーバーURL) - Dispatcher Phoenix サーバーのURL。

デバイスごとに、少なくとも次の3つのフィールドが**必須** です。

- モデル
- MACアドレス
- ホスト/IPアドレス

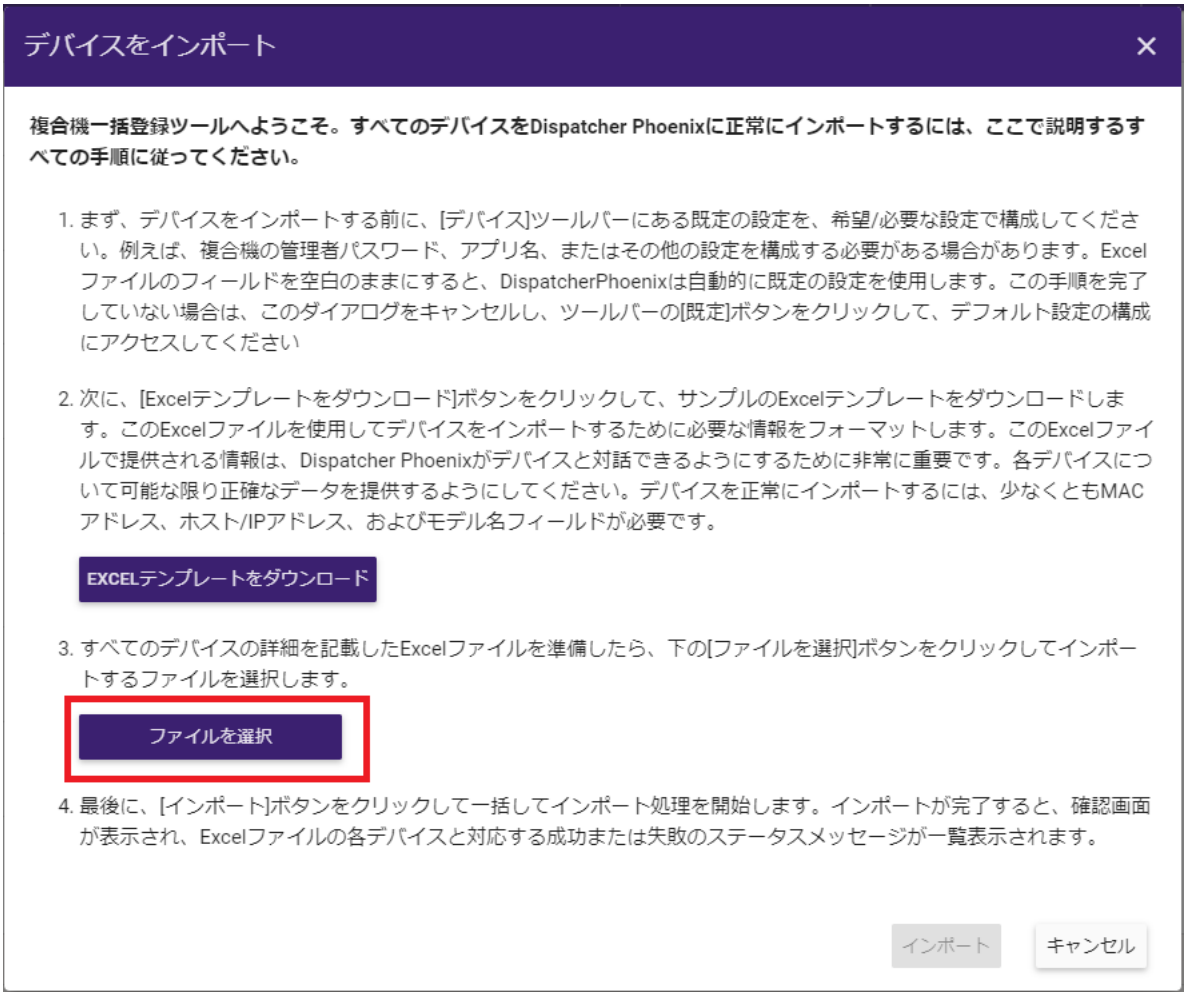
注: 他のフィールドのいずれかを空白のままにすると、事前構成されたすべての複合機の既定の設定が適用されます。



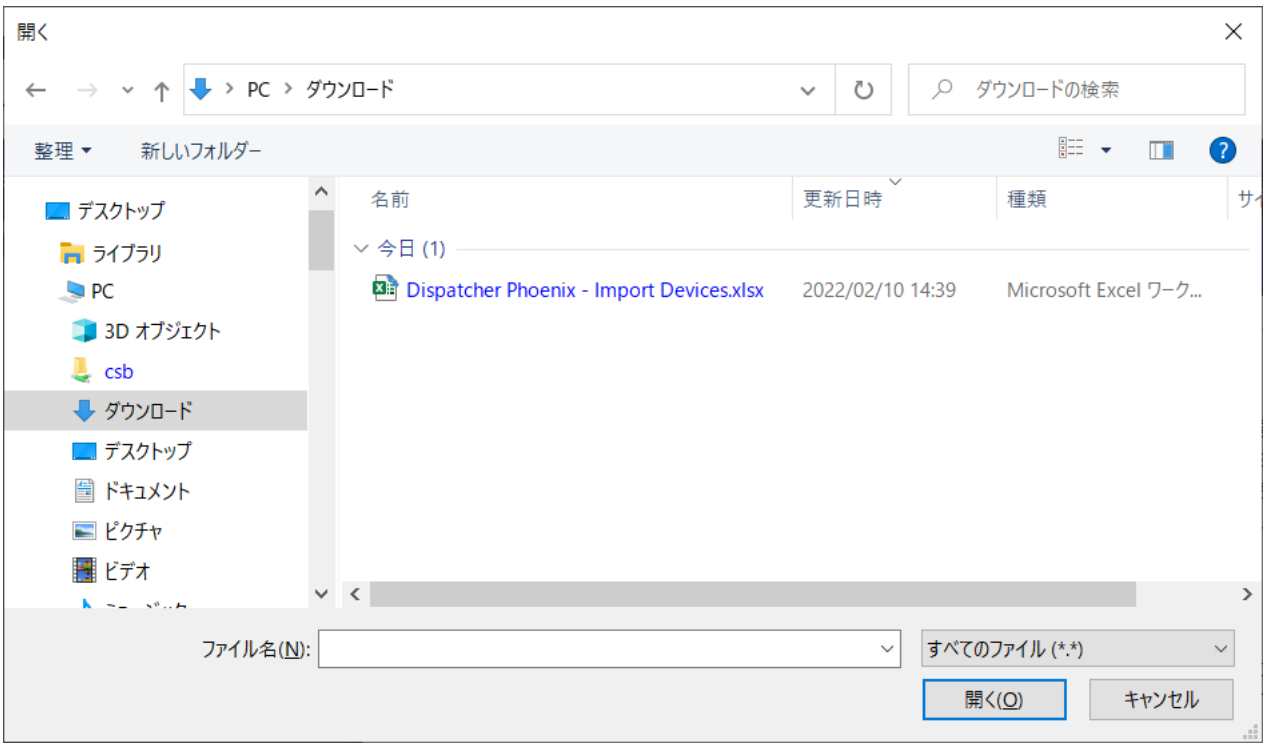
Location / Description	Model	Friendly Name	Mac Address	Host / IP Address	Admin Password	Device Groups	Equipment ID	Service ID	Contact Person	Zip Code	Pane
1st Floor - Human Resources	368e	HR-ADMIN-MFP	9BC63F786946	10.10.220.205	PWD1234	Group1 Group2	ZZ12345678	0088ADMV00A4		123456	DP PH
2nd Floor- Development Department	c754	DEV-ADMIN	00:20:6B:7F:C8:5C	10.10.221.46		Group 1 Group 3	AB1234567	88R6789	ADMIN	547547	DP PH
2nd Floor- Sales Department	c368	SALES	00-20-6B-A1-FB-66	10.10.221.22		Group 1 Group 2	235235	235235	ADMIN	36346	DP PH
3rd Floor - Marketing Department	654e	MARKETING	00.20.6B.92.38.2A	10.10.221.28							

手順 5: デバイスリストをインポートする

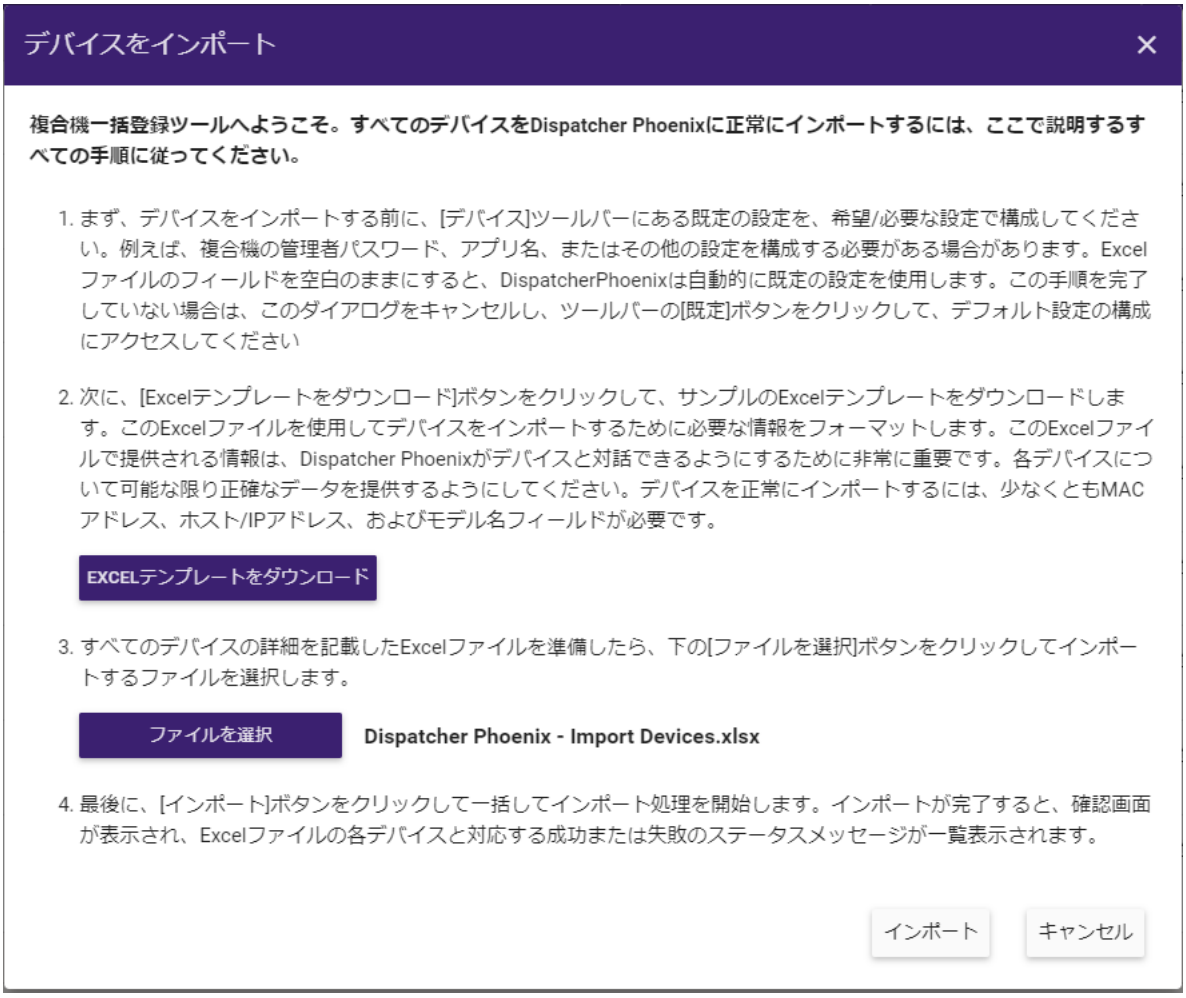
テンプレートに必要なデバイスの詳細を設定したら、Dispatcher Phoenix WebのDispatcher Phoenix デバイス一括インポートツールに戻ります。手順3で、[ファイルの選択]ボタンをクリックしてデバイスリストをアップロードします。



ファイルブラウザーを使用して、インポートするデバイスリストを選択し、**[開く]** をクリックします。



次の図に示すように、**[ファイルを選択]** ボタンの横にファイル名が表示されます。



デバイスのインポートを開始するには、**[インポート]** ボタンをクリックします。

手順 6: デバイス情報を確認する

インポートが完了すると、次の図に示すように、Excelファイルの各デバイスとそれに対応する成功または失敗のステータスメッセージを一覧表示する確認画面が表示されます。

このウィンドウを使用すると、次のことができます。

- インポートされた各デバイスに関連するすべてのデバイス情報を表示。

- DispatcherPhoenixにインポートされた各デバイスのステータスを確認。
- インポート中に発生した成功と失敗の数の概要を表示(結果が0の場合、その特定のテキストは表示されません。たとえば、5回成功してインポートした場合、失敗の部分は表示されません。その逆も同様です)。
- 失敗したインポートをフィルタリングするには、**[失敗でフィルター]** チェックボックスを使用します。成功のみ、または失敗のみの場合、フィルタリングするものがないため、このチェックボックスは表示されません。

手順 7: デバイスを登録

デバイスがネットワーク上で完全に構成されたら、デバイスを特定のワークフローに関連付けるために、デバイスをDispatcher Phoenixに登録する必要があります。

デバイスの登録時にエラーが発生した場合は、複合機の設定を確認してください。MACアドレスが正しくインポートされていない場合、デバイスを削除し、複合機を再度追加して、デバイスの登録を完了します。

デバイス登録の詳細については、**ここをクリック** してください。

ReleaseMe 印刷委任

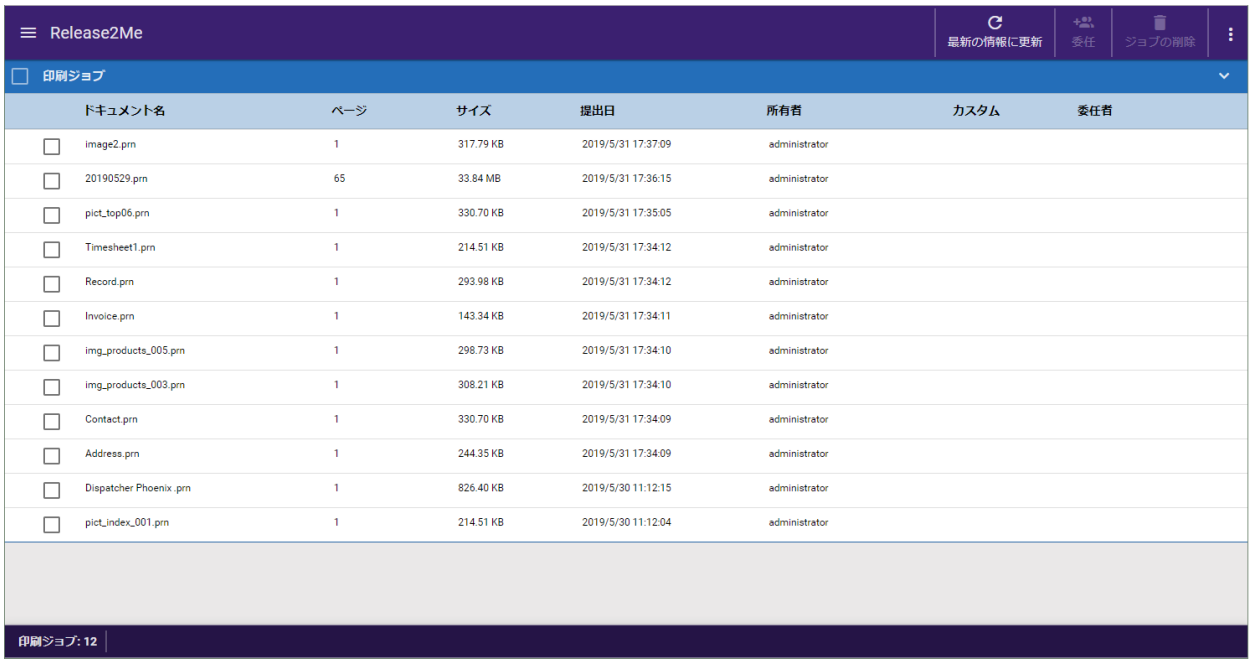
ユーザーは、Dispatcher Phoenix Webの **Release2Me** アプリケーションを使用して、Release2Me印刷キューにアクセスし、印刷ジョブを他のユーザーと共有することができます。このWebベースの機能は、印刷物を保護し、印刷コストを削減するために必要な柔軟で高度な制御を企業に提供します。

注: 印刷委任機能を使用するユーザーは、企業ドメインの一部である必要があります。

作業の開始

Release2Meアプリケーションにアクセスするには、次の手順に従います。

1. ブラウザーを使用してDispatcher Phoenix Webにログインします。
2. スライドアウトメニューから **Release2Me** タイル、または、**ツール > Release2Me** オプションを選択して、Release2Me印刷キューにアクセスします。次の図の例を参照してください。



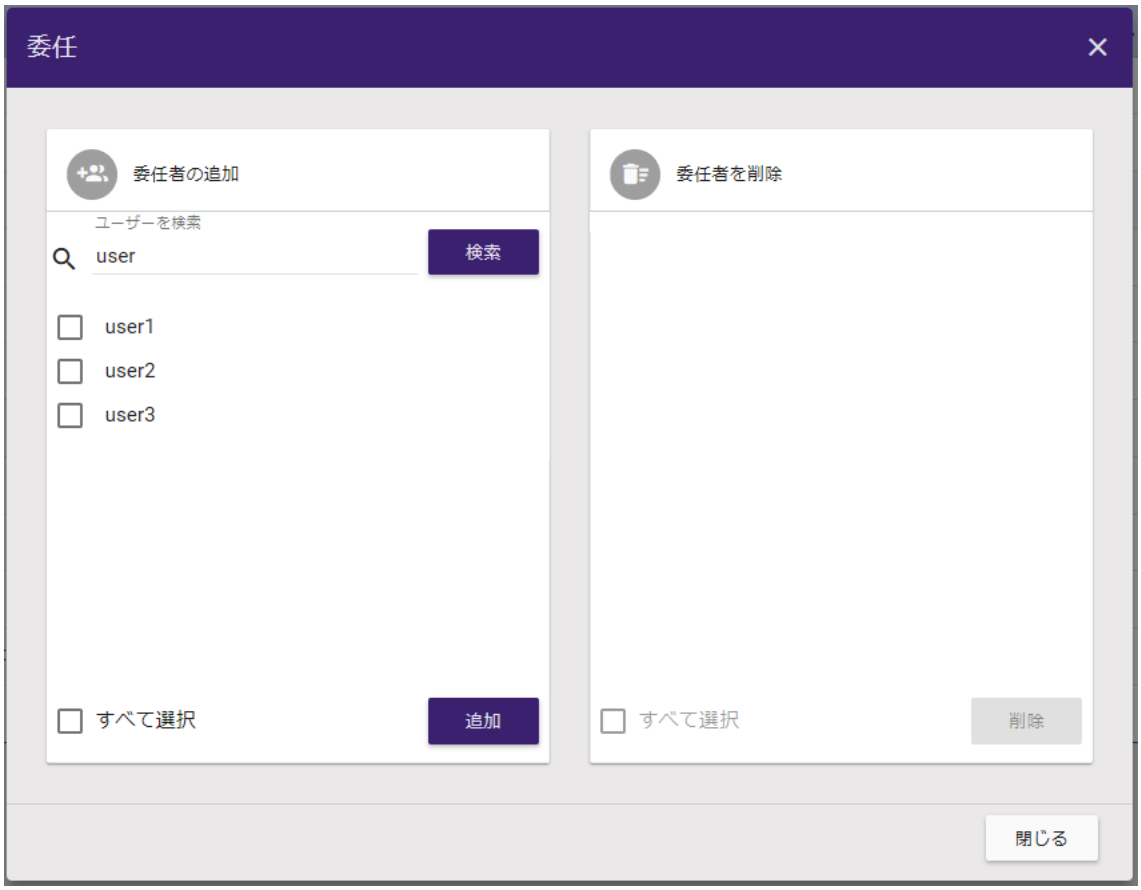
3. Release2Meページでは、次の操作ができます。
   - 現在、印刷キューにある印刷ジョブのリストを **[表示]** します。各印刷ジョブの以下の表示に関する詳細を含みます。
     - ドキュメント名
     - ページ数
     - ファイルサイズ
     - キューに送信された日付
     - ジョブの所有者
   - **[印刷ジョブ]** - キュー内のすべてのジョブを選択するには、このボックスをオンにします。個々の印刷ジョブを選択するには、ドキュメント名の横にあるチェックボックスをオンにします。
   - **[最新の情報に更新]** - リスト内の印刷ジョブを再ロードするには、上部のツールバーにあるこのボタンをクリックします。

- **[委任]** - ユーザーと **選択した印刷ジョブを共有する** には、上部のツールバーにあるこのボタンをクリックします。
- **[ジョブの削除]** - **選択した印刷ジョブを削除する** には、上部のツールバーにあるこのボタンをクリックします。

印刷ジョブの委任

別のユーザーに、複合機のRelease2Me印刷キューから自分の印刷ジョブを解放する権限を与えるには、次の手順を実行します。

1. 他の人に委任したい印刷ジョブをリストから選択します。
2. **[委任]** ボタンを選択します。
3. **[委任]** ウィンドウで、**[委任者の追加]** ボックスにユーザーの名前を入力します。次に、**[検索]** ボタンを選択します。次の図のように、結果がボックスに表示されます。



4. 印刷ジョブを共有したいユーザーの横にあるチェックボックスをオンにするか、リストにあるすべてのユーザーと共有するには **[すべて選択]** ボックスをオンにします。
5. **[追加]** ボタンを選択します。これで、選択したユーザーが **[委任者を削除]** ウィンドウ側に表示されます。
6. 印刷ジョブから委任者を削除するには、[委任者を削除]ボックスのユーザー名の横にあるチェックボックスをオンにします。次に **[削除]** ボタンを選択します。**[すべて選択]** ボタンをチェックして、すべてのユーザーを選択、または削除することもできます。
7. 終了したら、**[閉じる]** ボタンを選択します。

印刷ジョブが他のユーザーに委任されると、そのユーザーは印刷キューの[委任]列に表示されます。複合機で認証されると、ユーザーは自分の印刷ジョブと自分に委任されたジョブを表示できます。その後、キュー内のすべての印刷ジョブに対して、次のような操作を実行できます。

- 印刷にジョブをリリース
- 印刷にジョブをリリースし、それらをキューに入れる
- キューからジョブを削除する
- ジョブを印刷する前に印刷設定を指定する

印刷ジョブを削除する

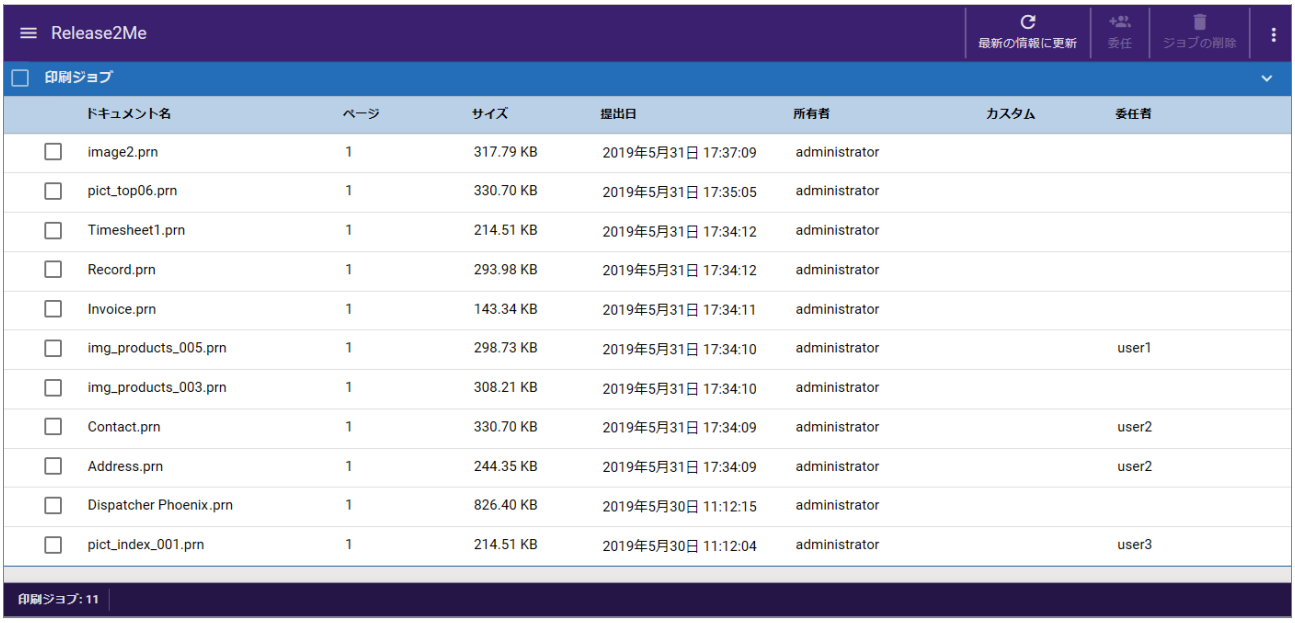
Release2Meの印刷キューから印刷ジョブを削除するには、次の操作を実行します。

1. 削除したい印刷ジョブをリストから選択します。
2. **[ジョブの削除]** ボタンを選択します。

委任された印刷ジョブの表示

印刷ジョブを委任されたユーザーは、Dispatcher Phoenix Webの印刷キューにある委任された印刷ジョブを表示できます。Dispatcher Phoenix WebのRelease2Meアプリケーションは、ユーザーのすべてのローカル印刷ジョブと、委任された印刷ジョブのリストを表示します。

次の図の例を参照してください。



注: 自分に委任されている印刷ジョブを委任、または、削除することはできません。

レポート

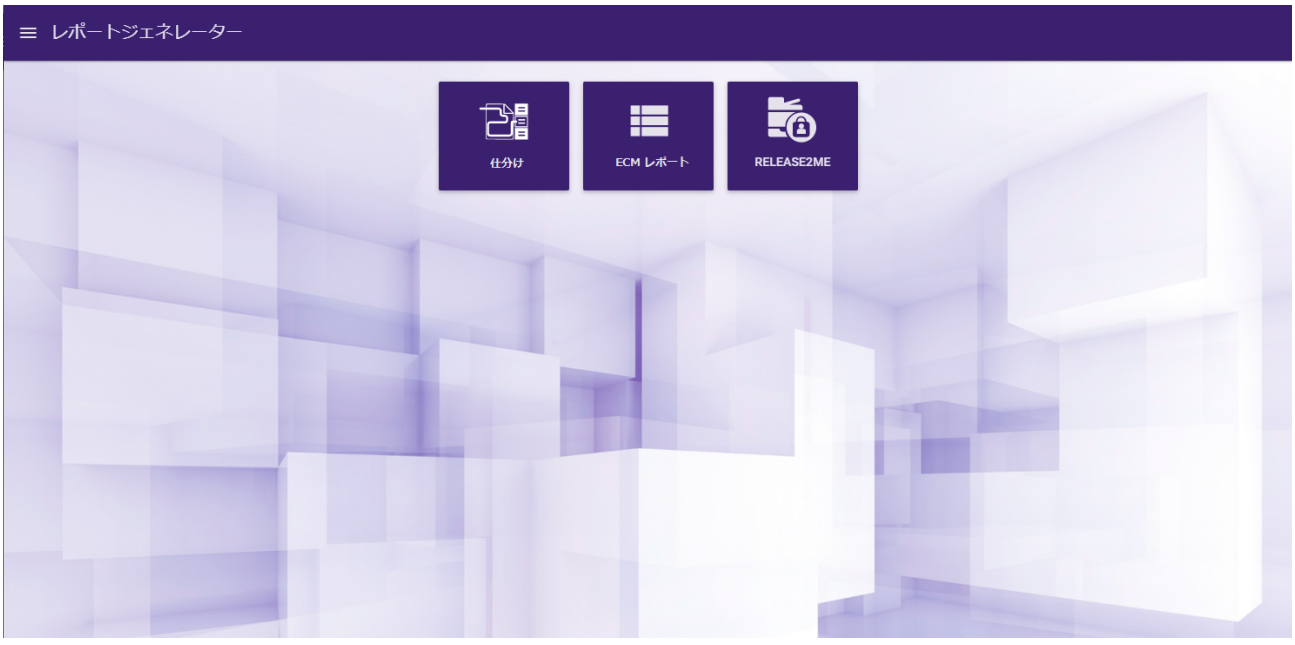
Dispatcher Phoenix Webには、ユーザーがDispatcher Phoenixシステムとその使用法に関するさまざまなレポートを生成できるレポートジェネレーターツールがあります。現在のレポートのオプションは次のとおりです。

- **仕分け**
- **ECM レポート**
- **Release2Me 印刷レポート**

レポートジェネレーターツールにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. Dispatcher Phoenix Webにログイン。
2. スライドアウトメニューから **[レポート]** ボタン、または **[レポート]** オプションを選択します。

レポートジェネレーターページの例については、次の図を参照してください。



仕分けレポート

仕分けノードによってキャプチャされたデータに関するレポートを生成するには、[レポートジェネレータ] ページで[Doc-Classifier (仕分け)] タイルを選択します。このタイルは、システムで仕分けライセンスがアクティブになっている場合にのみ表示されることに注意してください。

次のレポートタイプを動的に作成できます。

- **エグゼクティブレポート**
- **仕分け - 概要**
- **仕分け - ドキュメント**

注: 仕分けノードのデータ収集を有効にするには、最初に、Dispatcher Phoenix クライアントアプリケーションの **オプション** ウィンドウの **データベース設定** タブにある **ワークフローの監査を有効にする** ボックスをオンにする必要があります。[オプション]ウィンドウにアクセスするには、**[ツール]> [オプション]** を選択します。

ページの左側にある[構成]パネルのコントロールを使用して、各レポートをカスタマイズできます。既定の構成設定を保持すると、使用可能なすべてのデータがレポートに表示されます。次の構成オプションがあります。

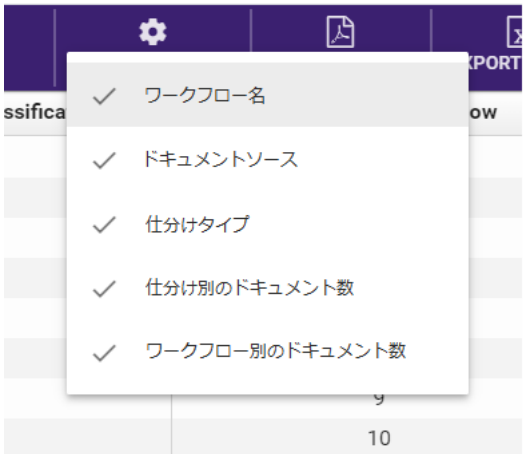
- **開始日** - レポートは、[開始日]、または[終了日]フィールドで指定した日付範囲からデータを生成します。既定の開始日は、現在の日付の30日前です。日付範囲を変更するには、[開始日]、または[終了日]フィールドで別の日付を指定します。
- **終了日** - レポートは、[終了日]、または[開始日]フィールドで指定した日付範囲からデータを生成します。既定の終了日は現在の日付です。日付範囲を変更するには、[終了日]、または[開始日]フィールドで別の日付を指定します。
- **フィルターのオプション** - レポート出力を指定された基準に制限するには、次の1つ以上のフィルターを使用します。各フィルターは、「* 」および「?」ワイルドカードをサポートします。さらに、各フィルターオプションについて、**[除外]** オプションを使用して、指定した基準をレポートから除外することができます。[除外]ボックスを空白のままにすると、レポートには指定された基準が含まれます。
  - **仕分けタイプ** - レポートを特定の仕分けタイプに制限するには、ここでタイプを指定します(請求書、またはW-2フォームなど)。
  - **ドキュメントのソース** - レポートを特定のドキュメントソース(仕分けするドキュメントの作成元のワークフロー内のノード)に制限するには、ここでソース(入力フォルダーや複合機など)を指定します。
  - **ワークフロー** - レポートを特定の仕分けワークフローに制限するには、ここでワークフローを指定します。

レポートの生成 - レポートの構成が完了したら、このボタンをクリックしてレポートを生成し、画面にスナップショットを表示します。ステータスバーの右側でタイムスタンプが更新されます。このスナップショットは、このボタンをもう一度クリックするか、仕分けレポートの生成ページを終了するまで残ります。現在のレポート構成の結果を表示するには、このボタンをクリックする必要があります。

ツールバー

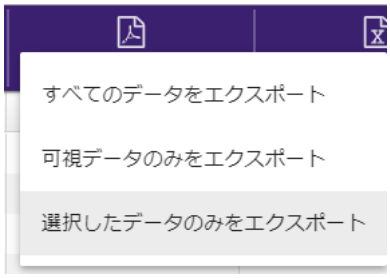
レポートを生成すると、ページ上部のツールバーがアクティブになります。ツールバーを使用してレポートを検索し、さまざまな形式でレポートを保存することができます。次の図では、ツールバーが上部に表示されています。

- **検索** - 画面に表示されるレコードを指定した文字列でフィルタリングするには、文字列を入力してから **[矢印]** ボタンをクリックします。入力する文字列は、テーブル内の少なくとも1つのセルの内容と完全に一致する必要があります。それ以外の場合、結果は表示されません。現在のフィルターを解放するには、[検索]フィールドを空にしてから、**[矢印]** ボタンをクリックします。
- **エクスポートのオプション** - レポートの列をフィルタリングするには、このボタンをクリックして、選択したレポートの列のリストを表示します。チェックされた列は、画面のスナップショットとエクスポートされたレポートに表示されます。列を除外するにはチェックを外します。次の図は仕分け概要レポートのオプションを示しています。



- **PDFとしてエクスポート** - このオプションを使用してレポートをPDF形式で保存します。次のオプションを使用できます。
  - **すべてのデータをエクスポート** - ページビューから除外されたデータを含むすべてのデータをPDF形式にエクスポートします。
  - **可視データのみをエクスポート** - ページに表示されているデータのみPDF形式にエクスポートします。
  - **選択したデータのみをエクスポート** - ページで選択したデータのみPDF形式にエクスポートします。

    次の図を参照してください。



- **CSVとしてエクスポート** - このオプションを使用して、レポートをCSV形式で保存します。次のオプションを使用できます。
  - **すべてのデータをエクスポート** - ページビューから除外されたデータを含むすべてのデータをCSV形式にエクスポートします。
  - **可視データのみをエクスポート** - ページに表示されているデータのみCSV形式にエクスポートします。
  - **選択したデータのみをエクスポート** - ページで選択したデータのみCSV形式でエクスポートします。

ステータスバー

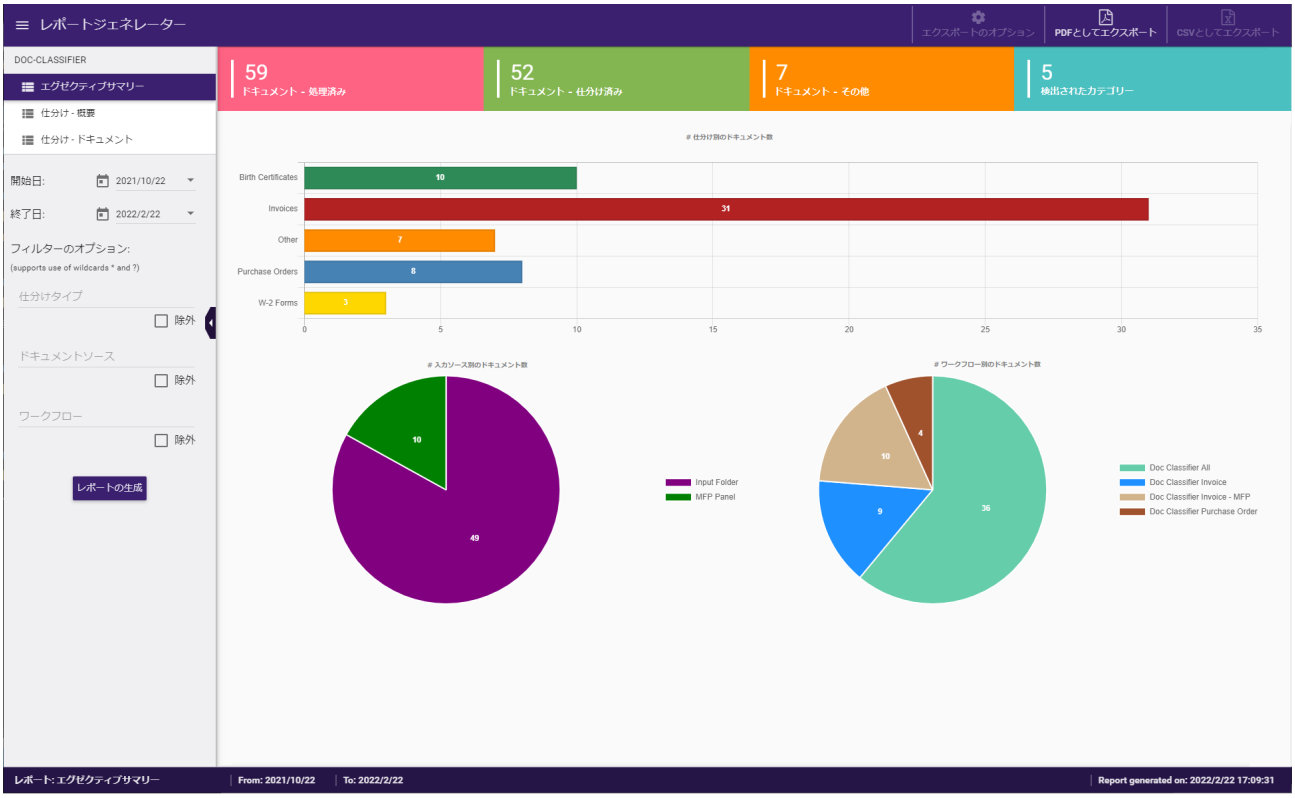
レポートを生成すると、レポートジェネレーターツールの下部にステータスバーが表示され、次の情報が表示されます。

- 生成されたレポートのタイプ。
- 生成されたレコードの数。
- レポートの期間。
- レポートのタイムスタンプ。

次の図の例を参照してください。

エグゼクティブ概要レポート

エグゼクティブ概要レポートには、次の図に示すように、カラーグラフ、棒グラフ、縦棒グラフ、ドーナツグラフで構成される視覚的なレポートが表示されます。



レポートは、仕分けワークフローからの次の情報を含む仕分けアクティビティの総合的な視覚的概要を提供します。

- 処理されたドキュメントの総数
- 仕分けされたドキュメントの総数
- 仕分けされていないドキュメントの総数 - その他
- 検出されたカテゴリの総数
- ドキュメントの総数:
    - 仕分け
    - 入力ソース
    - ワークフロー

ビジュアルレポートでは、次のことができます。

- 棒グラフの場合、棒にカーソルを合わせると、データ項目に関する情報が表示されます。
- 円グラフの場合、次の操作を実行できます。
    - 円のセクションにカーソルを合わせると、データ項目に関する情報が表示されます。
    - 1つまたは複数の凡例項目をクリックして、それらのセクションを円から除外します。たとえば、円の凡例に4つのドキュメントタイプがリストされている場合、1つをクリックすると、そのセクションは円から消え、3つのセクションだけが残ります。円グラフのセクションを復元するには、凡例項目をもう一度クリックします。

PDFとしてエクスポート

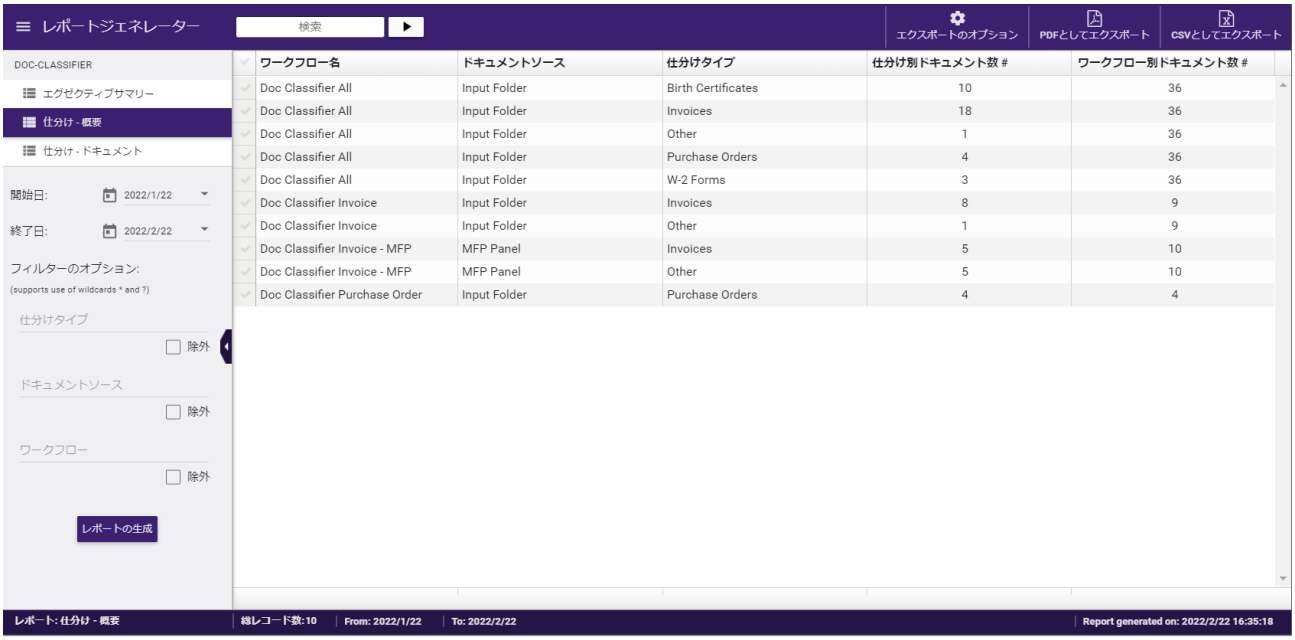
ビジュアルレポートをPDFファイルとしてエクスポートするには、**ツールバー**の右側にある **[PDFとしてエクスポート]** ボタンをクリックします。ページ上の他の[エクスポート]ボタンは、エグゼクティブサマリーレポートなどのビジュアルレポートではアクティブではないことに注意してください。

仕分け - 概要レポート

このレポートを使用して、仕分けノードによって実行された仕分けアクティビティの概要を表示します。レポートには次の情報が含まれています。

- ワークフロー名
- ドキュメントソース
- 仕分けタイプ
- 仕分け別のドキュメント数
- ワークフロー別のドキュメント数

次の図の例を参照してください。



レポートでは、次のことを実行できます。

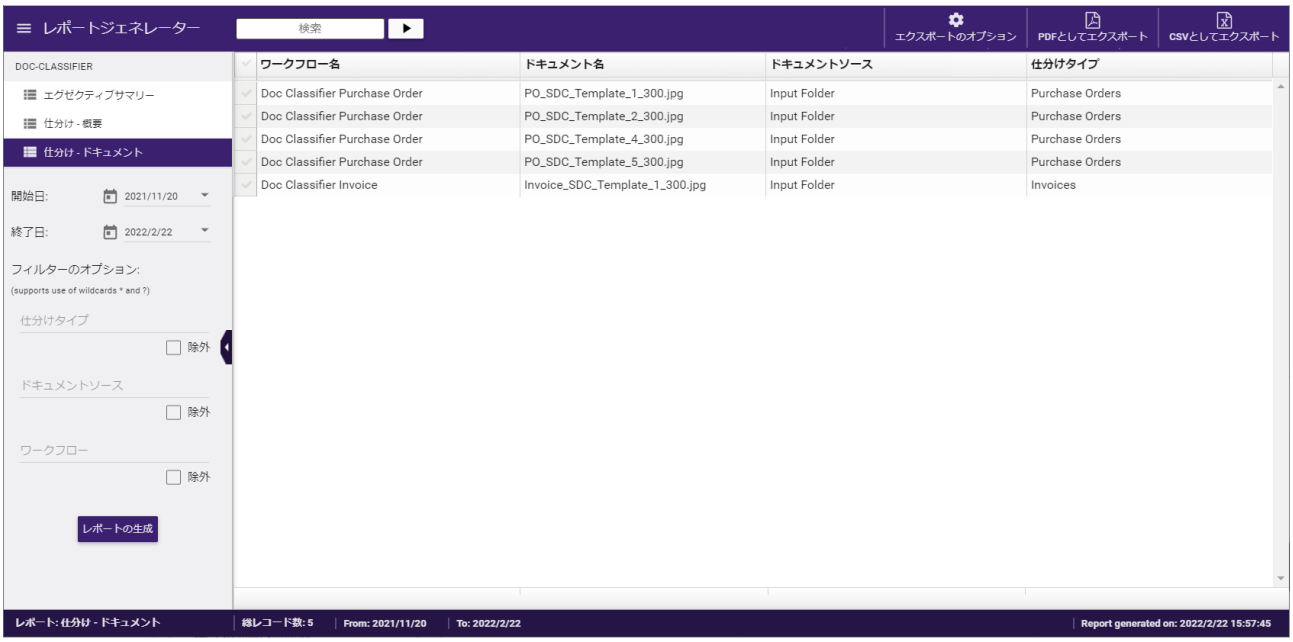
- 目的の行のチェックボックスをオンにして、特定のレコードを選択します。たとえば、エクスポートする1つ以上のレコードを選択します。
- エクスポートするすべてのレコードを選択するには、列1、行1にあるチェックボックスをオンにして、すべてのレコードを選択します。
- 列の上/下矢印をクリックして、データを昇順または降順で並べ替えます。

仕分け - ドキュメントレポート

このレポートには、「その他」に仕分けされたドキュメントを含む、仕分けノードによって仕分けされたすべてのドキュメントが一覧表示されます。レポート内のドキュメントごとに、次の情報が表示されます。

- ワークフロー名
- ドキュメント名
- ドキュメントソース
- 仕分けタイプ

次の図の例を参照してください。



レポートでは、次のことを実行できます。

- 目的の行のチェックボックスをオンにして、特定のレコードを選択します。たとえば、エクスポートする1つ以上のレコードを選択します。
- エクスポートするすべてのレコードを選択するには、列1、行1にあるチェックボックスをオンにして、すべてのレコードを選択します。

- 列の上/下矢印をクリックして、データを昇順または降順で並べ替えます。

ECM レポート

Dispatcher Phoenix Webには、ユーザーが、バッチインデックス付け、および、検証操作に関するさまざまなレポートを生成できるようにするレポートジェネレーターツールがあります。現在のECMレポートは次のとおりです。

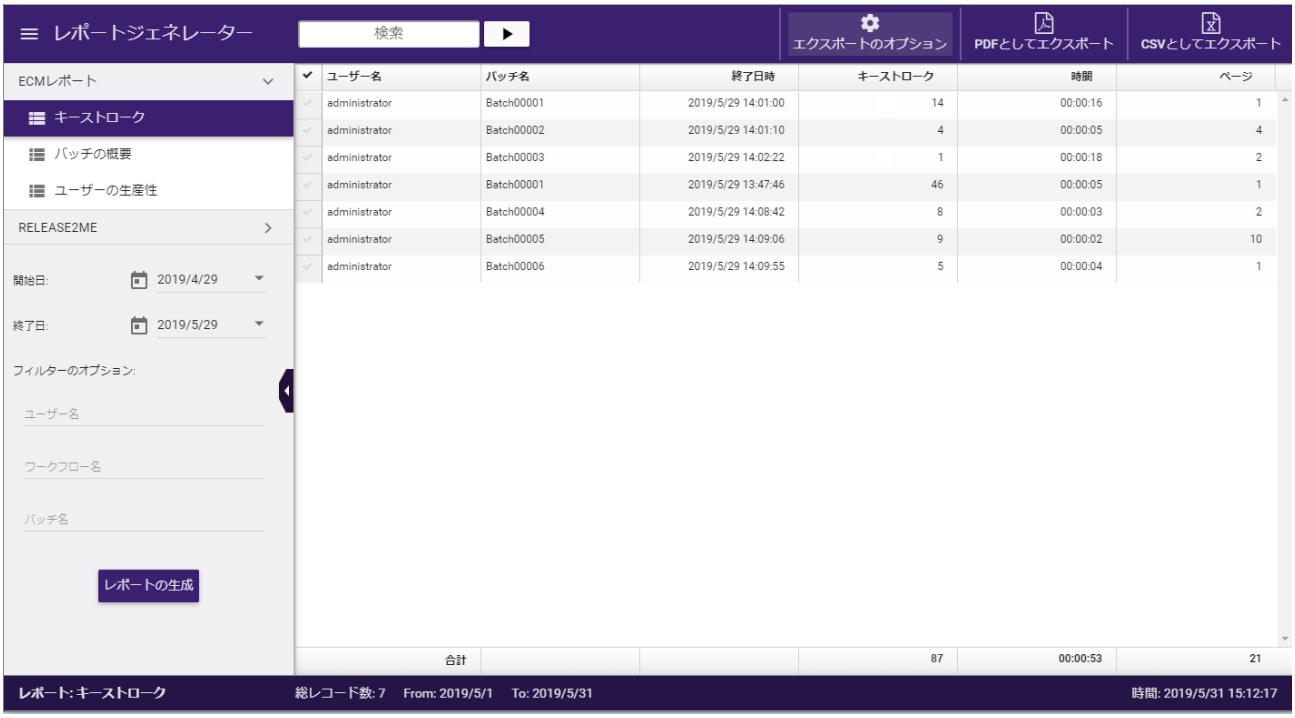
- **キーストローク追跡レポート** - 特定のバッチのインデックス作成中に押されたキーストロークの数を追跡します。
- **バッチの概要レポート** - ドキュメント、および、バッチごとの平均処理時間に関する情報を含む、送信された各バッチについての統計情報を表示します。
- **ユーザーの生産性レポート** - 入力されたキーストローク数、合計処理時間などに関する情報を含む、ECMツールセットを使用している各DP Webユーザーに関する統計情報を一覧表示します。

レポートを生成するには、次の操作を実行します。

1. 目的の特定のレポートをクリックします。その他のオプションが次の図のように表示されます。

2. **[開始日]** と **[終了日]** ドロップダウンリストを使用して、レポートの期間を指定します。
3. 必要に応じて、フィールドに **[ユーザー名]** 、**[ワークフロー名]** 、または **[バッチ名]** を入力し、それに応じてレポートをフィルタリングします。
4. 完了したら **[レポートの生成]** ボタンを選択します。

次の図のように、生成されたレポートがウィンドウのメインセクションに表示されます。



ページ上部のツールバーがアクティブになり、ページ下部のステータスバーが表示されます。

レポートでは、次の操作を実行できます。

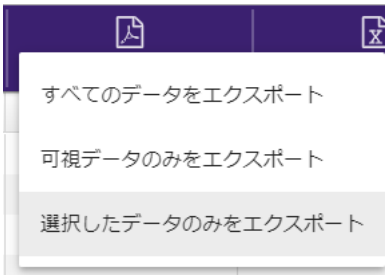
- 目的の行のチェックボックスをクリックして、特定のレコードを選択します。
- 最初の列にある先頭のチェックボックスをクリックして、すべてのレコードを選択します。
- 列の上下矢印をクリックして、データを昇順または降順に並べ替えます。

主な機能

- **[ツールバー]** - レポートジェネレーターツールには、レポートを検索し、さまざまな形式でレポートを保存できるツールバーが含まれています。次の図の例を参照してください。

  - **[検索]** - レポートに表示されるレコードをフィルタリングするためのテキストを入力できます。検索処理を開始するには、フィールドの横にある **[矢印]** ボタンをクリックします。
  - **[エクスポートのオプション]** - レポートに含める特定のデータをフィルタリングします。オプションを選択解除すると、そのデータはレポートに表示されなくなります。ドロップダウンリストから使用できるオプションは、生成したレポートによって異なります。たとえば、キーストローク追跡レポートでは次の項目を選択できます。

- **[PDFとしてエクスポート]** - レポートをPDF形式で保存します。以下のオプションがあります。
  - **[すべてのデータをエクスポート]** - すべてのデータをPDF形式にエクスポートします。
  - **[可視データのみをエクスポート]** - ページに表示されているデータのみをPDF形式にエクスポートします。
  - **[選択したデータのみをエクスポート]** - ページで選択されているデータのみをPDF形式にエクスポートします。次の図を参照してください。



- **[CSVとしてエクスポート]** - レポートをCSV形式で保存します。以下のオプションがあります。
  - **[すべてのデータをエクスポート]** - すべてのデータをCSV形式にエクスポートします。
  - **[可視データのみをエクスポート]** - ページに表示されているデータのみをCSV形式にエクスポートします。
  - **[選択したデータのみをエクスポート]** - ページで選択されているデータのみをCSV形式にエクスポートします。

- **[ステータスバー]** - レポートジェネレーターツールの下部にあるステータスバーには次の情報が表示されます。
  - 生成されたレポートの種類。
  - 生成されたレコード数。
  - レポートの期間。
  - レポートが生成された日時。

    次の例の図を参照してください。

キーストローク追跡レポート

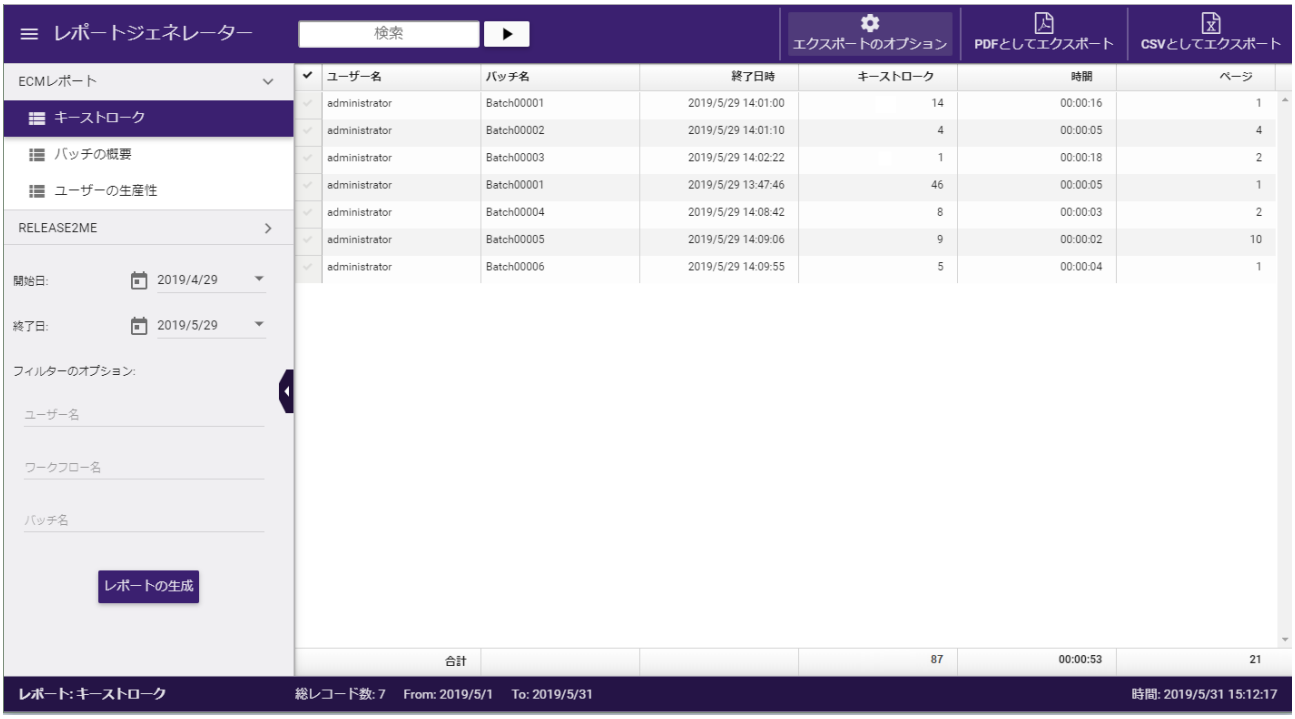
キーストローク追跡レポートには、次の情報が記録されています。

- **[ユーザー名]** - DP Webにログインしているユーザーの名前。
- **[バッチ名]** - インデックスされたバッチの名前。
- **[終了日時]** - バッチが送信された日時。
- **[キーストローク]** - そのバッチに対して入力されたキーストロークの数。
- **[時間]** - そのバッチのインデックスに要した時間。
- **[ページ]** - インデックスされたページの数。

レポートの下部には、以下の情報が記録されています。

- キーストロークの総数
- 総消費時間
- 総ページ数

次の例の図を参照してください。



バッチの概要レポート

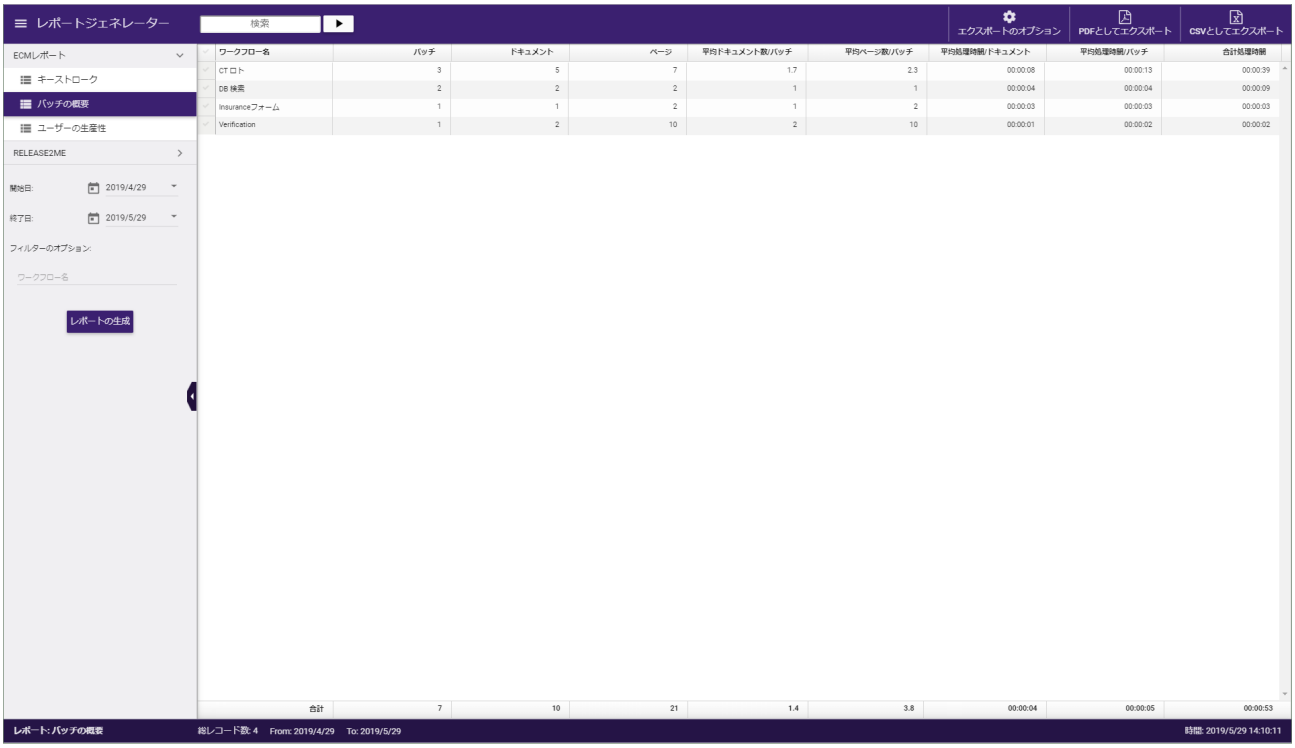
バッチの概要レポートは、処理されたバッチに関する以下の情報が含まれる概要情報を記録します。

- **[ワークフロー名]** - バッチの処理に使用されたワークフローの名前。
- **[バッチ]** - ワークフローによって処理されたバッチの数。この数は、新しいバッチがワークフローに送信されたときにのみ増加します。
- **[ドキュメント]** - ワークフローによって処理されたドキュメントの総数。
- **[ページ]** - ワークフローによって処理されたページの総数。
- **[平均ドキュメント数/バッチ]** - 各バッチ内のドキュメントの平均数。
- **[平均ページ数/バッチ]** - 各バッチ内の平均ページ数。
- **[平均処理時間/ドキュメント]** - オペレーターが各ドキュメントを処理（インデックス/検証）するのに要した平均時間。
- **[平均処理時間/バッチ]** - オペレーターが各バッチを処理（インデックス/検証）するのに要した平均時間。
- **[合計処理時間]** - オペレーターがすべてのドキュメントを処理（インデックスまたは検証）するのに要した合計時間。

レポートの下部に、以下の情報が表示されます。

- レポートに含まれる **バッチ** の総数。
- レポートに含まれている **ドキュメント** の総数。
- レポートに含まれる **ページ** の総数。
- すべてのバッチの **平均ドキュメント数** 。
- すべてのバッチの **平均ページ数** 。
- すべてのドキュメントの **平均処理時間** 。
- すべてのバッチの **平均処理時間** 。
- すべてのバッチの **合計処理時間** 。

次の図の例を参照してください。

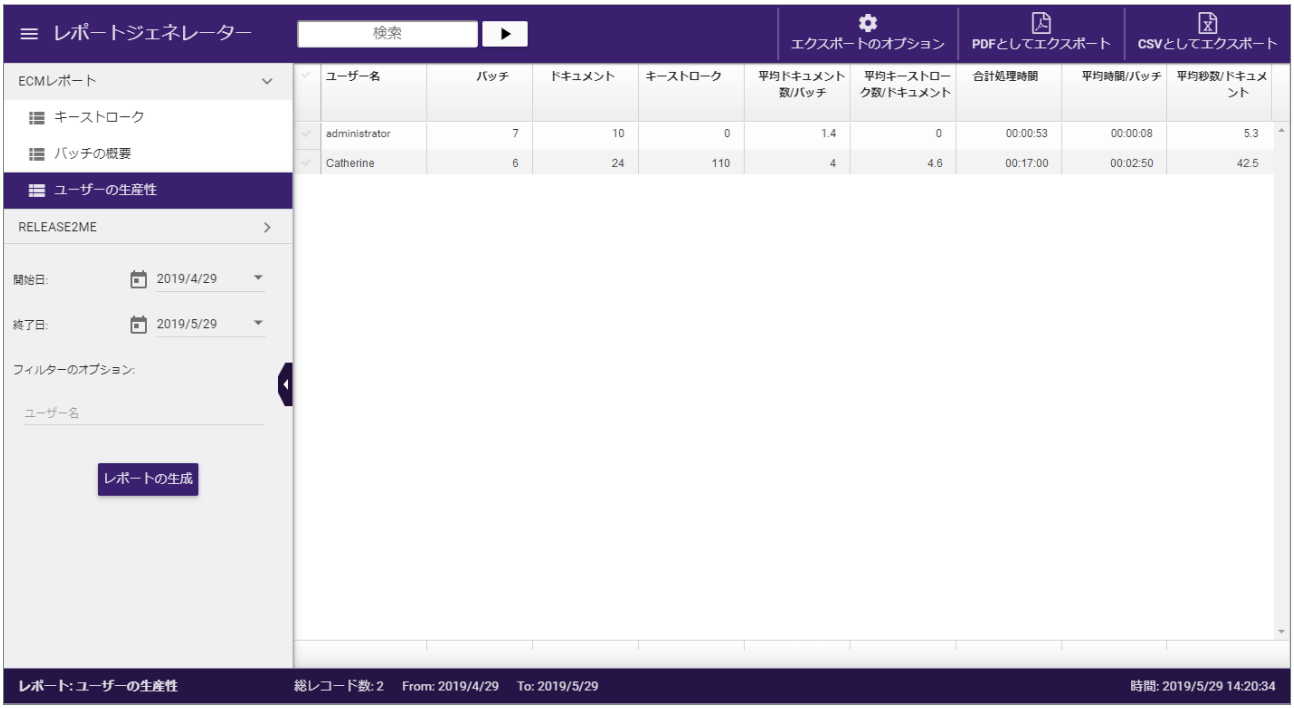


ユーザーの生産性レポート

ユーザーの生産性レポートは、DP Webのバッチインデックス作成ツールや検証ツールを使用した各オペレータに関する以下の情報が含まれる概要情報を記録、または、表示します。

- **[ユーザー名]** - バッチを処理したログインユーザーの名前。
- **[バッチ]** - ユーザーによって処理されたバッチの数。
- **[ドキュメント]** - ユーザーによって処理されたドキュメントの総数。
- **[キーストローク]** - ユーザーによって入力されたキー操作の総数。
- **[平均ドキュメント数/バッチ]** - ユーザーによって処理されたドキュメントの平均数。
- **[平均キーストローク数/ドキュメント]** - ユーザーによって入力されたキー入力の平均数。
- **[合計処理時間]** - ユーザーがすべてのドキュメントを処理（インデックスまたは検証）するのに要した合計時間。
- **[平均時間/バッチ]** - ユーザーがバッチを処理するのに要した平均時間。
- **[平均秒数/ドキュメント]** - ユーザーが各ドキュメントを処理するのに要した平均秒数。

次の図の例を参照してください。



Release2Me レポート

ビジネスや組織の印刷アクティビティに関するレポートを生成するには、レポートジェネレーターページの **[Release2Me]** ボタンを選択します。次の種類のレポートを動的に作成できます。

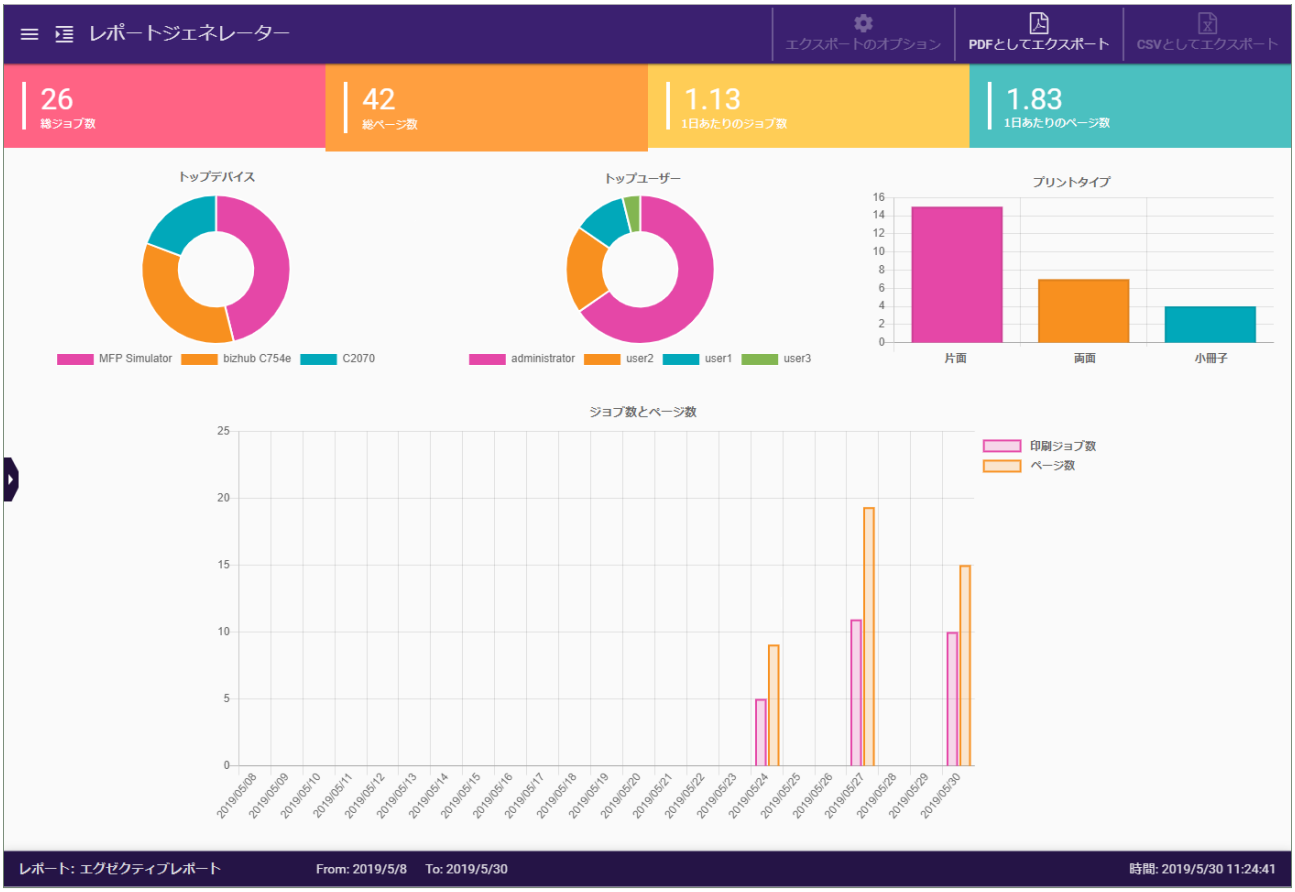
- **エグゼクティブレポート**
- **ユーザーレポート**
- **デバイスレポート**

各レポートをカスタマイズするには、ページの左側にあるコントロールを使用します。次の操作を実行します。

1. [開始日]と[終了日]のコントロールを使用して、レポートの時間枠を指定します。
2. 次のフィルターを1つ以上選択します。
    - ユーザー。特定のユーザーまたはユーザーグループの印刷アクティビティに関するレポートを実行するには、**[ユーザー]** フィールドにユーザーのフルネームを入力します。複数の名前はカンマで区切る必要があります。指定したユーザーをレポートから除外するには、[ユーザー]フィールドの下の **[除外]** ボックスをオンにします。
    - デバイス。特定のデバイスまたはデバイスのグループの使用状況に関するレポートを実行するには、**[デバイス]** フィールドにデバイス名を入力します。複数のデバイス名はカンマで区切る必要があります。指定したデバイスをレポートから除外するには、[デバイス]フィールドの下にある **[除外]** ボックスをオンにします。
    - ドキュメント。特定のドキュメントまたはドキュメントのグループについてレポートを作成するには、**[ドキュメント]** フィールドに完全なドキュメント名（ファイルタイプを含む）を入力します。複数のドキュメント名はカンマで区切る必要があります。指定したドキュメントをレポートから除外するには、[ドキュメント]フィールドの下にある **[除外]** ボックスをオンにします。
3. **[表示タイプ]** ドロップダウンリストから生成したいレポートのタイプを選択します。カラフルなグラフ、棒グラフ、縦棒グラフ、ドーナツグラフなどを使用した[ビジュアル形式]、または、[表形式]でデータを表示することを選択できます。
4. **[レポートの生成]** ボタンを選択します。

ビジュアルレポート

[ビジュアルレポート]表示タイプを選択すると、次の図に示すように、組織のデータがカラーグラフ、棒グラフ、縦棒グラフ、ドーナツグラフなどを使用して表示されます。

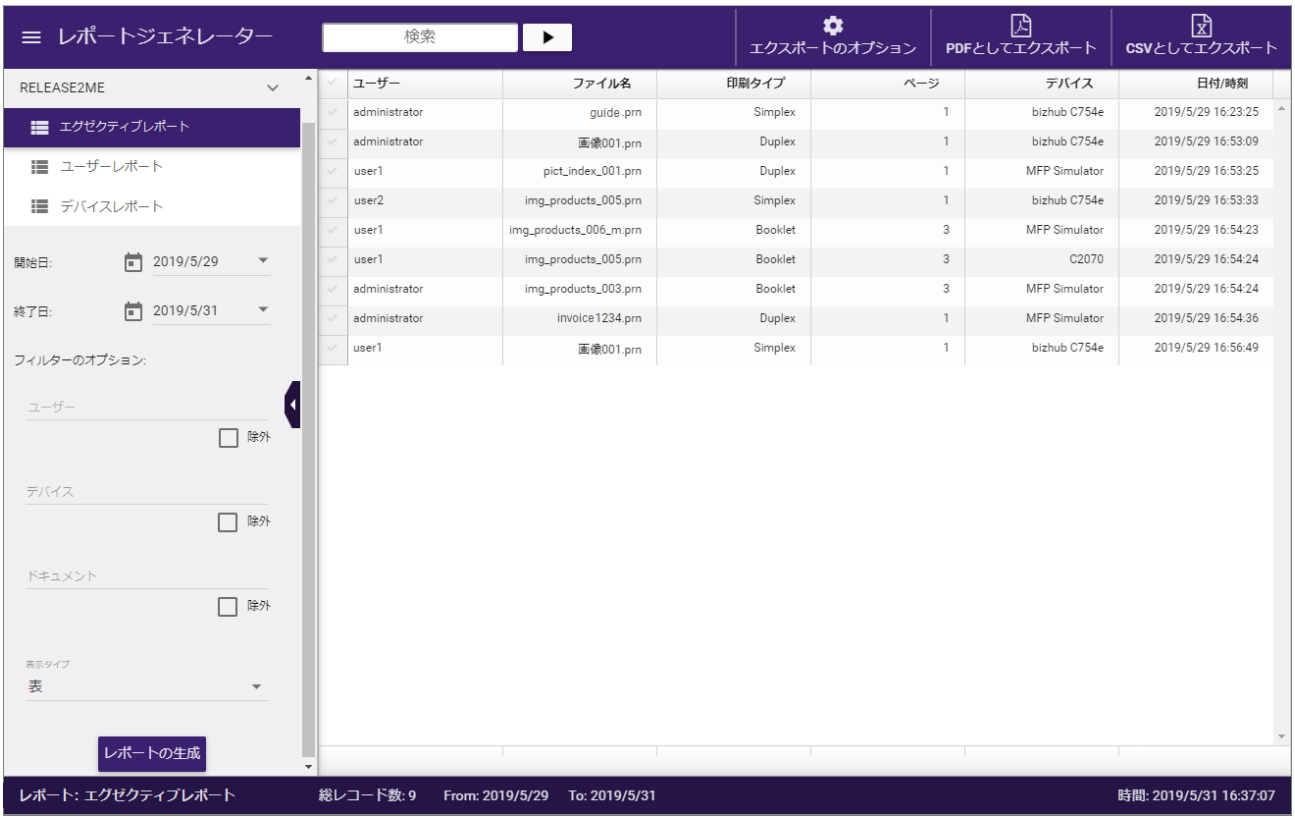


[ビジュアルレポート]には、日々の平均とともに、総ジョブ数とページ数の概要が表示されます。さらに、[ビジュアルレポート]を使用すると、ジョブが片面印刷、両面印刷、または小冊子として印刷されたかどうかなど、Release2Meを使用した印刷ジョブの構成だけでなく、組織の最上位デバイスやユーザーを表示できます。

右上隅にある **[PDFとしてエクスポート]** ボタンを使用して、ビジュアルレポートをPDFファイルとしてエクスポートすることを選択できます。

表レポート

[表レポート]表示タイプを選択すると、次の図に示すように、組織のRelease2Meデータが表形式で表示されます。



[表レポート]には、Release2Meを使用してリリースされた各印刷ジョブに関する以下のような概要情報が記録、または表示されます。

表レポートのデータをカスタマイズするには、右上隅にある **[エクスポートのオプション]** ボタンを選択します。ドロップダウンが開いたら、列ヘッダーを有効または無効にすることができます。次に、**[PDFとしてエクスポート]** ボタン、または、**[CSVとしてエクスポート]** ボタンを使用して表レポートをエクスポートします。

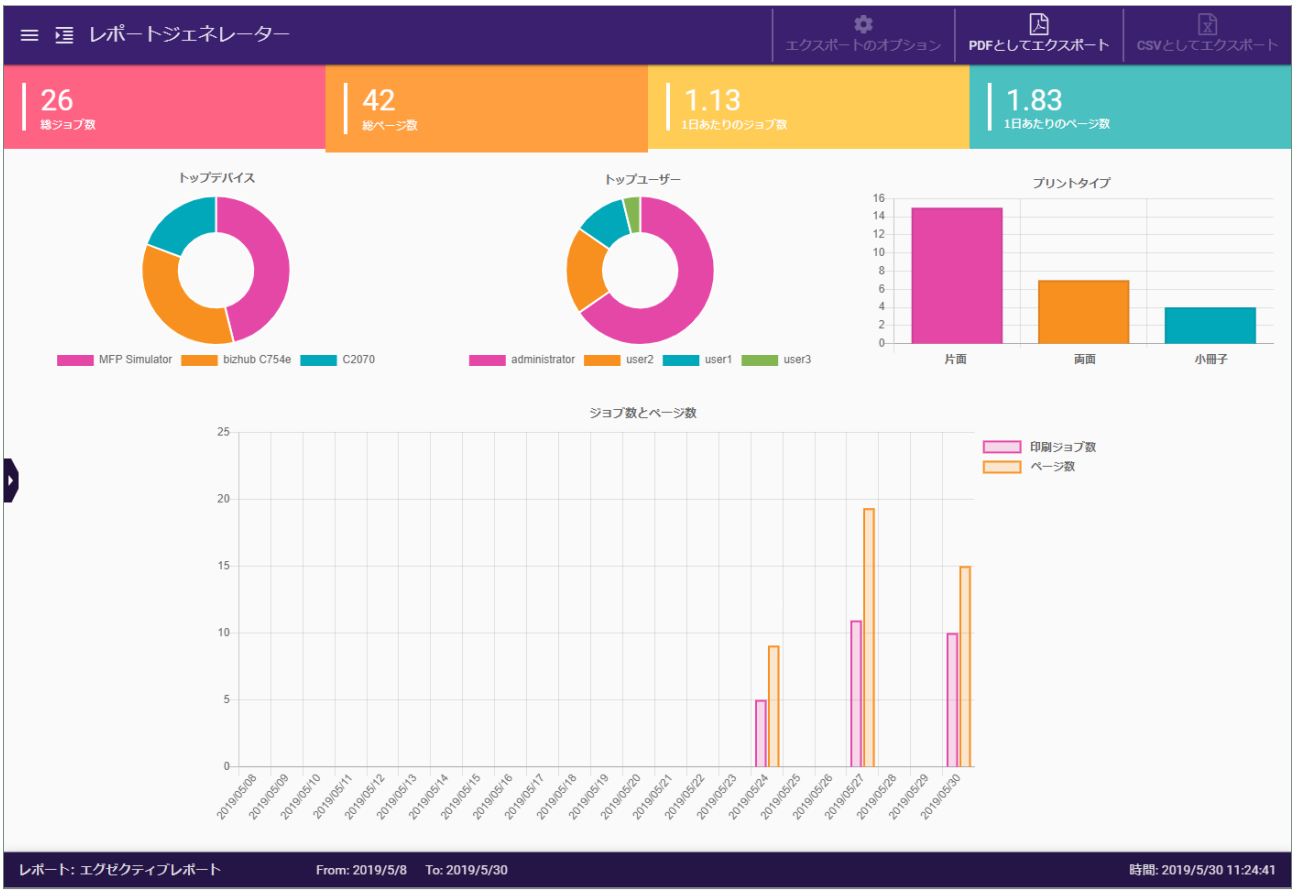
エグゼクティブレポート

エグゼクティブレポートは、以下の情報を含む、全体的な印刷アクティビティの綿密な分析をユーザーに提供します。

- 送信された印刷ジョブの総数。
- 印刷された総ページ数。
- 1日に送信された印刷ジョブの平均数。
- 1日の平均印刷ページ数。
- 使用された上位のデバイス。
- 印刷した上位のユーザー。
- 片面、両面、小冊子印刷の比較。

このレポートを作成するには、左側のメニューから **[エグゼクティブレポート]** オプションを選択します。

次の図の例を参照してください。



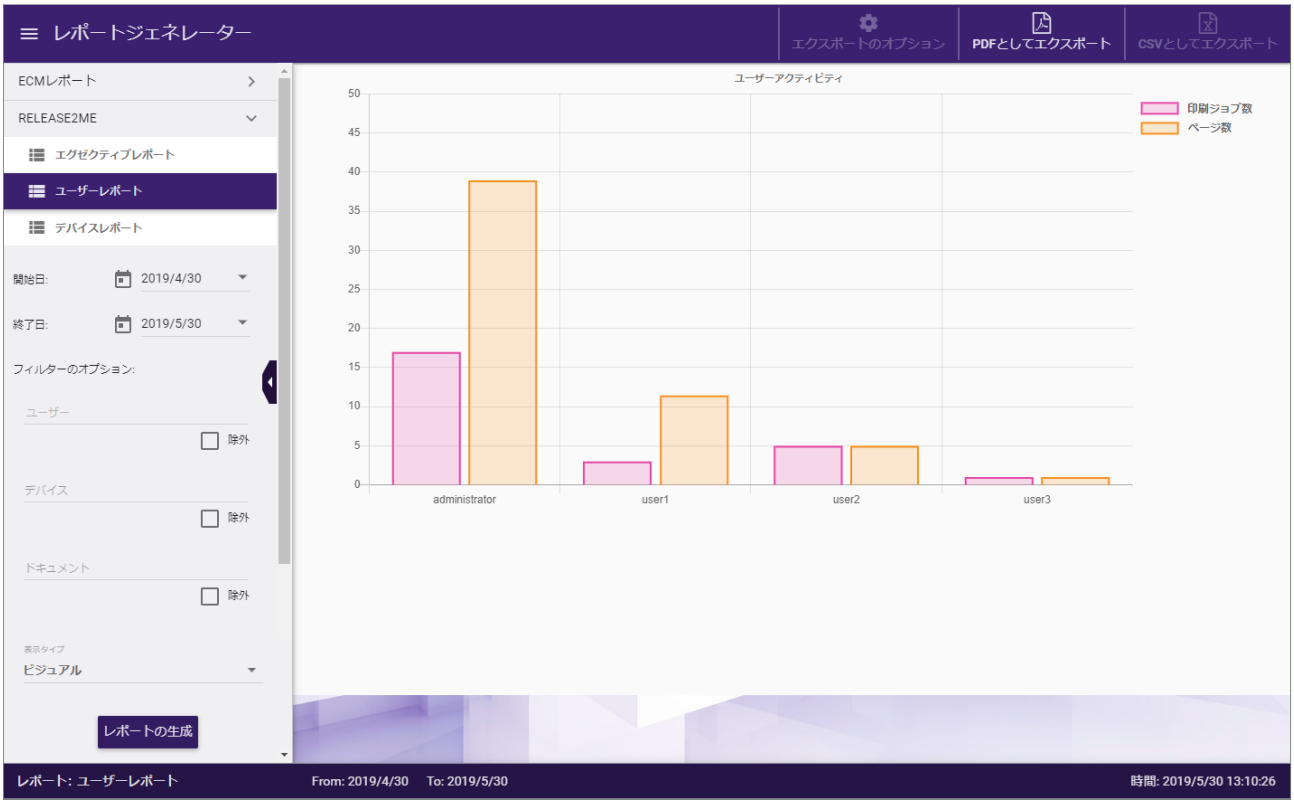
ユーザーレポート

ユーザーレポートは、ユーザーの行動に関する情報を提供し、特定のユーザーを比較したり、特定のユーザーのアクティビティを追跡したりできます。ユーザーレポートには次のデータが含まれます。

- 印刷ジョブをリリースしたログインユーザーの名前。
- 印刷ジョブの総数。
- 総ページ数。
- 総ジョブ数の割合。
- 総ページ数の割合。

このレポートを作成するには、左側のメニューから **[ユーザーレポート]** オプションを選択します。

次の図の例を参照してください。



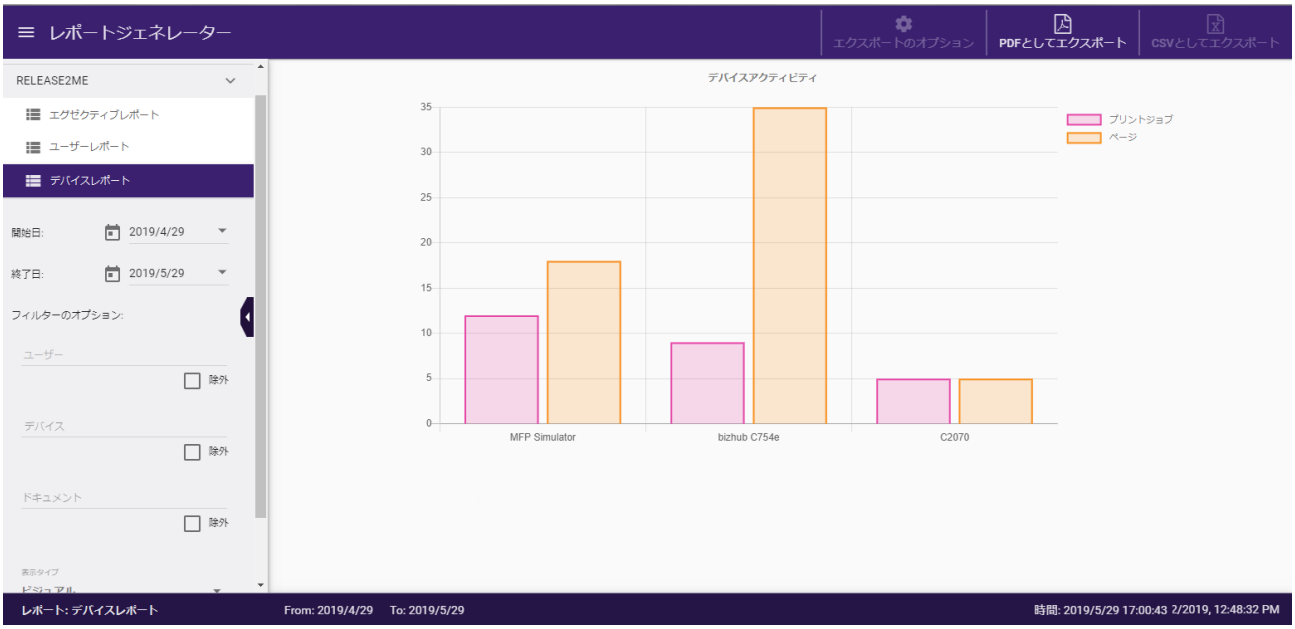
デバイスレポート

デバイスレポートは、デバイスの使用状況に関する情報を提供します。これにより、デバイスごとの印刷アクティビティを比較したり、特定のプリンターを分析したりできます。デバイスレポートには、次のデータが含まれています。

- 印刷ジョブをリリースしたログインユーザーの名前。
- 印刷ジョブの総数。
- 総ページ数。
- 総ジョブ数の割合。
- 総ページ数の割合。

このレポートを作成するには、左側のメニューから **[デバイスレポート]** オプションを選択します。

次の図の例を参照してください。



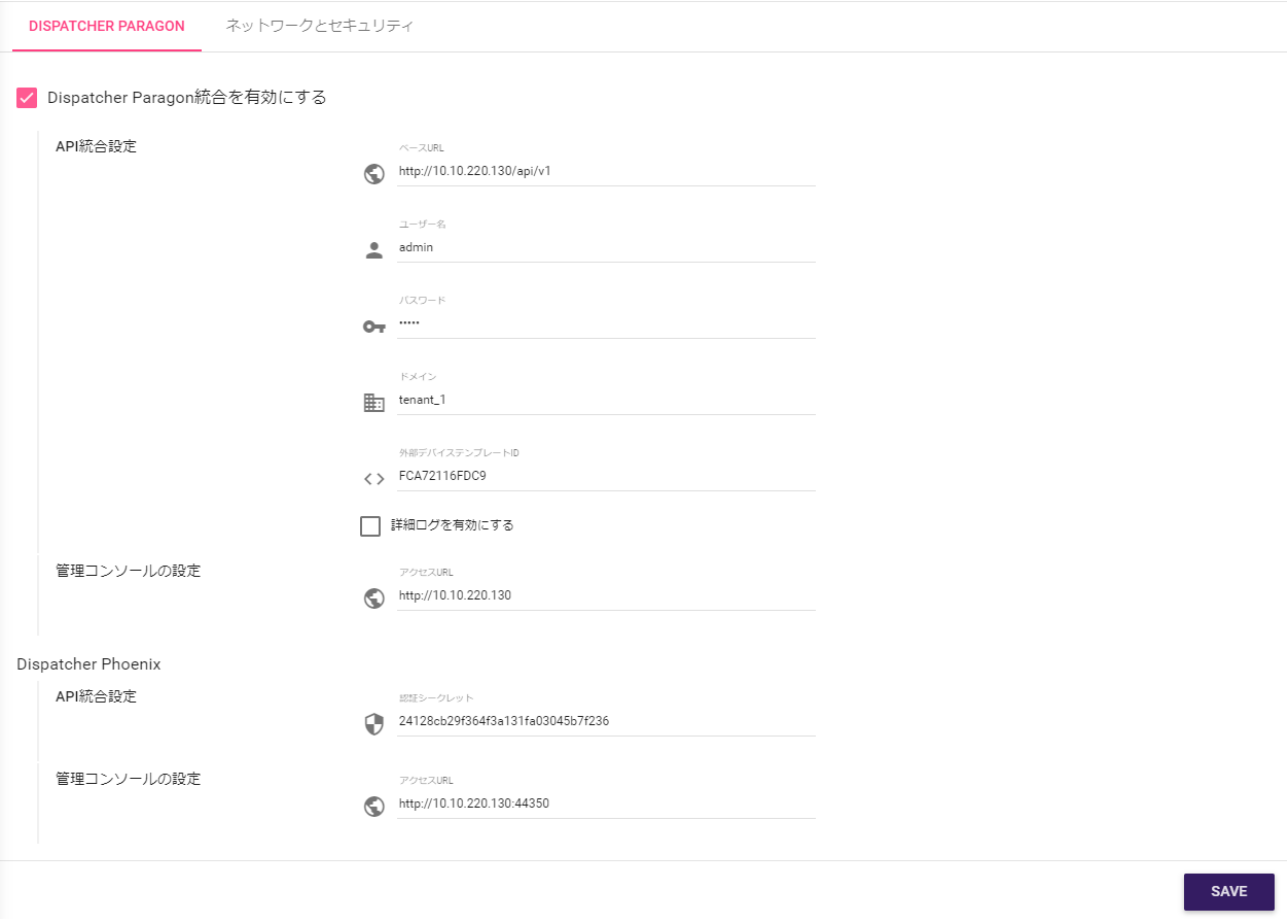
システム設定

Dispatcher Phoenix Webのシステム設定ツール により、管理者はアプリケーションの重要な設定オプションを管理できます。作業を開始するには次の手順に従います。

1. **Windowsユーザー認証情報** で **Dispatcher Phoenix Web** にログインします。
2. **[システム設定]** タイルを選択します。

次の図の例を参照してください。

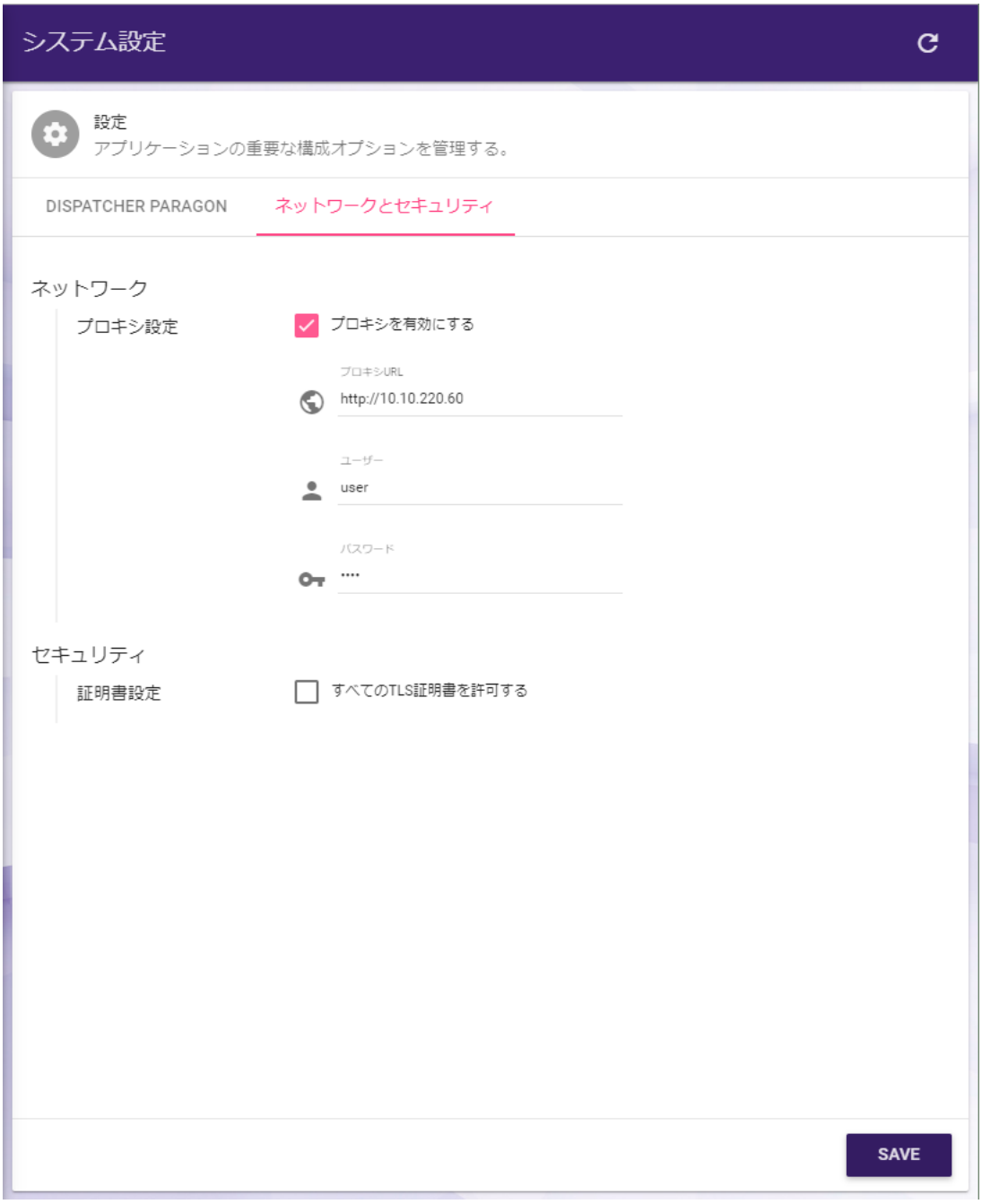
Dispatcher Paragon



注: 機密情報を含むフィールドには、新しい値を入力できる **[リセット]** ボタンがあります。

Dispatcher Paragonの設定に関する詳細は、**ここ** をクリックしてください。

ネットワークとセキュリティ



[ネットワークとセキュリティ] では、以下の設定を行うことができます。

プロキシ設定

- **プロキシを有効にする**: プロキシサーバーの使用を有効にするには、このチェックボックスを選択します。
- **プロキシURL**: プロキシサーバーのIPアドレス / ホスト名。
- **ユーザー**: プロキシサーバーで認証が必要な場合は、ユーザー名を入力します。
- **パスワード**: プロキシサーバーで認証が必要な場合は、パスワードを入力します。

証明書設定

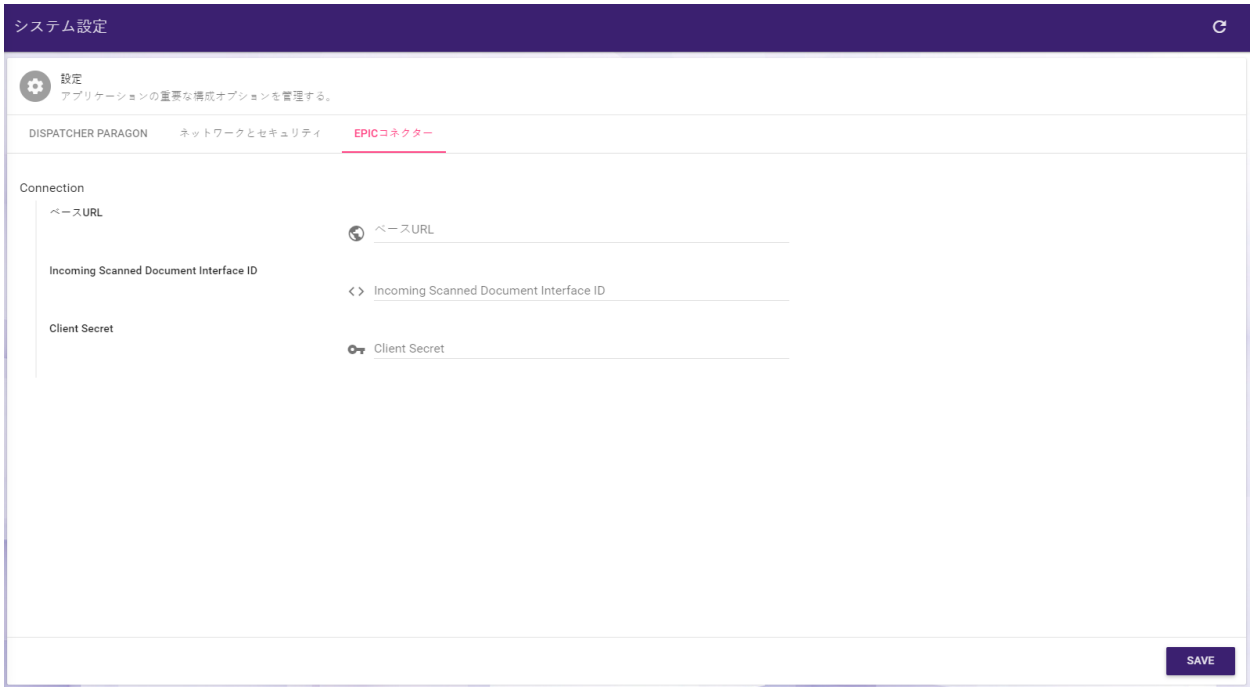
- **すべてのTLS証明書を許可する**: すべてのサードパーティSSL / TLS証明書を受け入れるには、このチェックボックスを選択します。

Epic コネクター

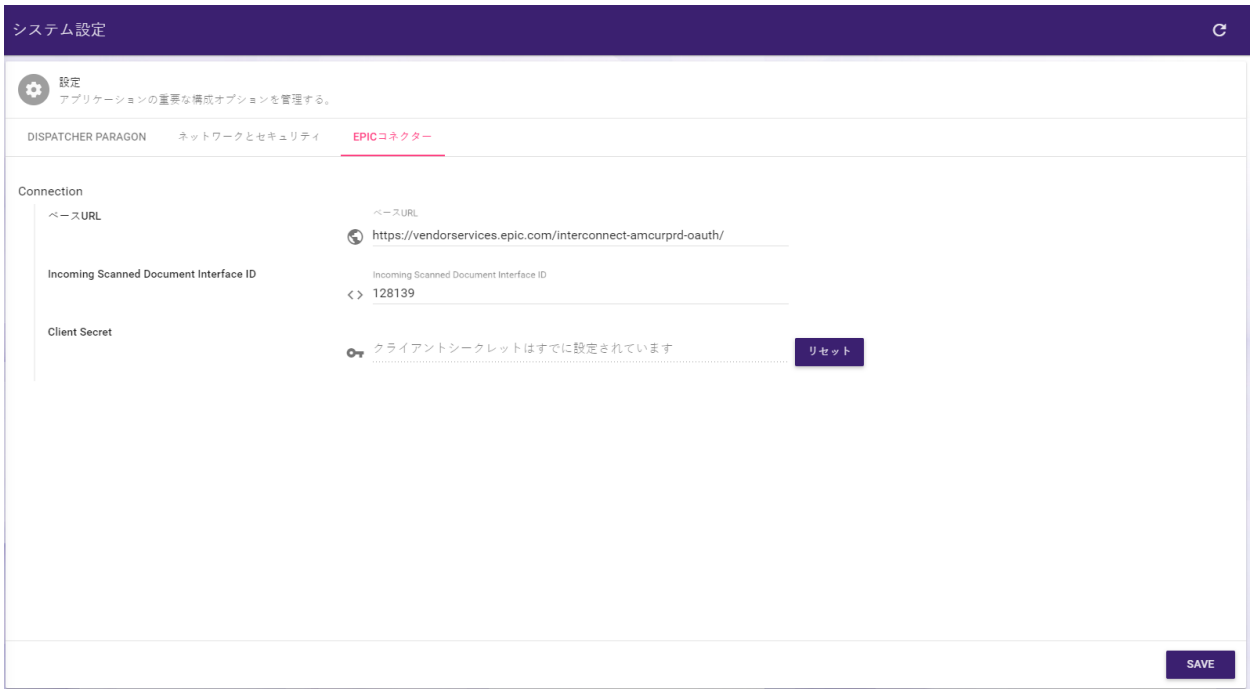
Epicアカウントを **Dispatcher Phoenix Webアカウント** に追加し、**EPICコネクター** の使用を開始するには、初めにEpicに必要なシステム設定を追加する必要があります。Epicシステム設定を更新するには次の手順を実行します。

1. Dispatcher Phoenix Web で、**[システム設定]** タイルを選択します。

2. 次の図のように、**[EPICコネクター]** タブを選択します。



3. **[ベースURL]** 、**[受信スキャンドキュメントインターフェイスID]** 、および **[クライアントシークレット]** を入力します。次に、次の図のように **[保存]** を選択します。



4. **アカウントの追加** の前の手順を使用して、Epicアカウントを追加することができます。

ECM

バッチインデックス

バッチインデックスの概要

Dispatcher Phoenix Webのバッチインデックスアプリケーションを使用すると、ユーザーはドキュメント管理システムにドキュメントを保管する前に、後日の検索や取得を目的にドキュメントのインデックスを作成できます。Dispatcher Phoenixは、ショートカットキーを使用したインデックスの手動作成をサポートしています。さらに、OCR抽出とデータベース検索によりインデックスフィールドにデータを事前入力することもできます。

バッチインデックスは、オプションのアドインとして、または **バッチインデックスパッケージ** の一部として利用でき、ユーザーライセンスに基づきます。

バッチインデックスアプリケーションの使用を開始するには、バッチインデックスノードを含むDispatcher Phoenixワークフローを作成しておく必要があります。

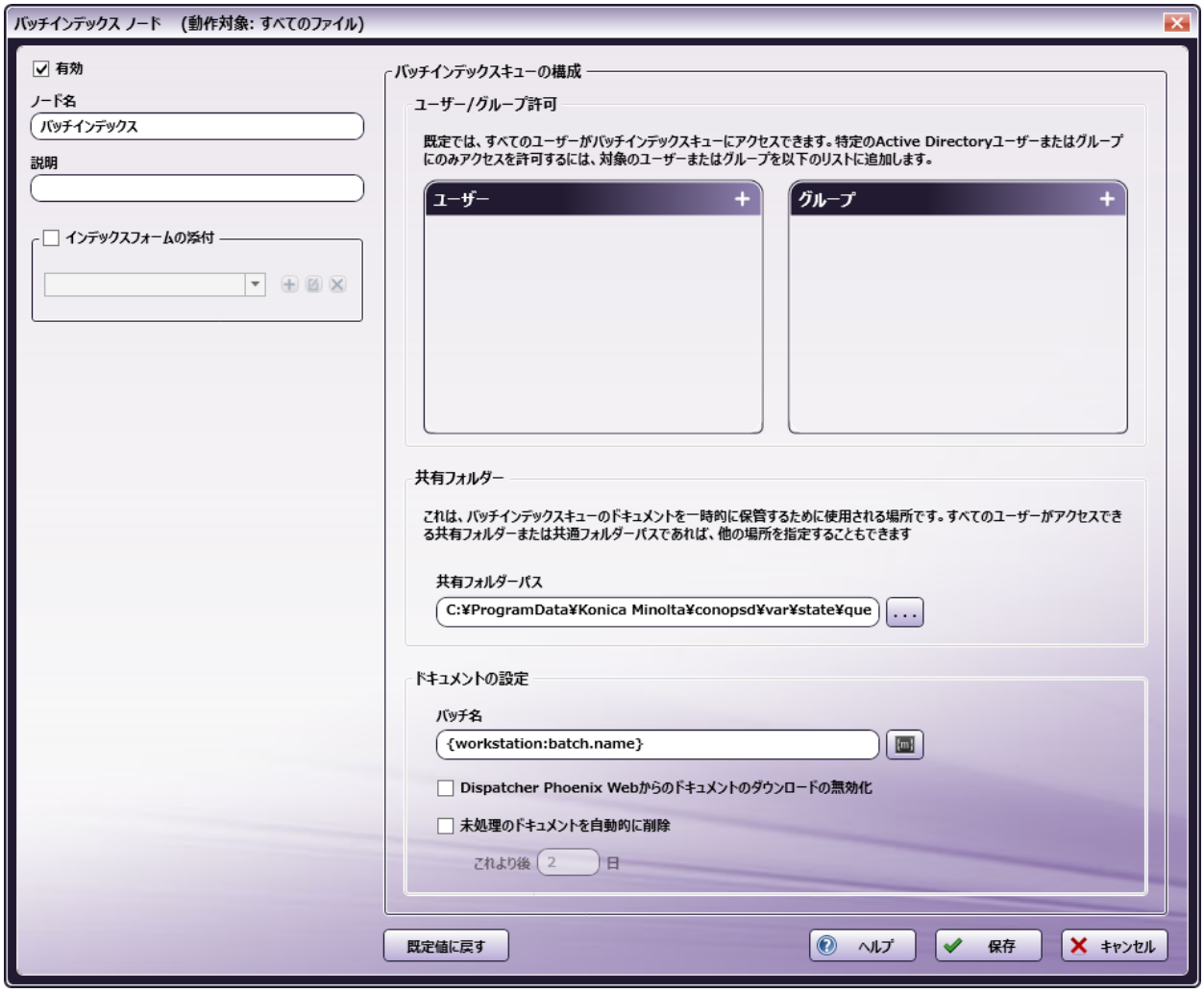
バッチインデックス処理ノード

バッチインデックスノードは、DP Webのバッチインデックスアプリケーションへのドキュメント送信に使用されるDispatcher Phoenix処理ノードです。

バッチインデックス処理ノードを構成するには、以下の操作を行います。

1. ワークフロービルダーツールの作業領域に **バッチインデックス** 処理ノードをドラッグアンドドロップします。[バッチインデックス]アイコンは、次の図のように表示されます。

2. **[バッチインデックス]** アイコンをダブルクリックして、バッチインデックスノードのプロパティウィンドウを開きます。次の図に示すように、バッチインデックスノードのプロパティウィンドウが表示されます。

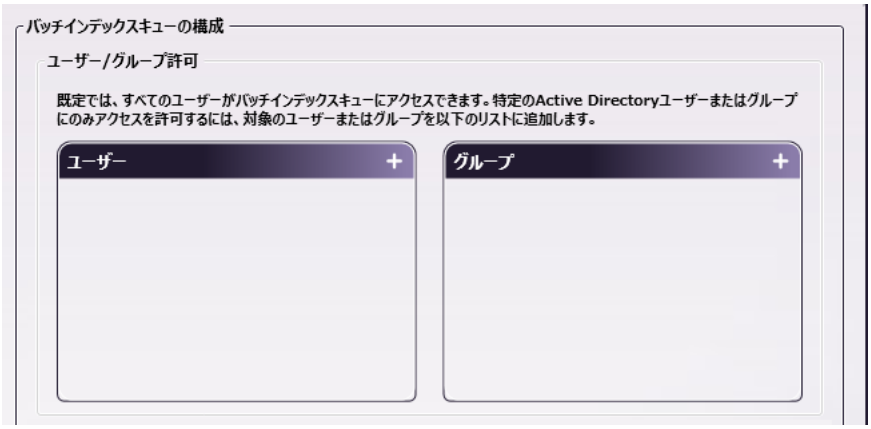


3. バッチインデックスノードは標準のDispatcher Phoenixフィールドを備えており、次のようにカスタマイズできます。
    - 処理が実行されるように **【有効】** ボックスをチェックします。
    - バッチインデックスノードのわかりやすい名前を **【ノード名】** フィールドに入力します。
    - バッチインデックスノードの説明を **【説明】** フィールドに入力します。これは必須フィールドではありませんが、複数の処理ノードがある場合に役立ちます。説明が長い場合は、フィールドにマウスを合わせるとすべての内容を表示できます。
    - 完了したら、**【保存】** ボタンを選択してバッチインデックスの設定を保持します。**【ヘルプ】** ボタンを選択してヘルプを利用することもできます。さらに、**【キャンセル】** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

ユーザー/グループ許可の構成

特定のActive Directoryユーザーまたはグループに対して、バッチインデックスキューへのアクセスを許可できます。**【+】** 記号をクリックして、Active Directoryの[ユーザーの選択]または[グループの選択]ダイアログにアクセスします。

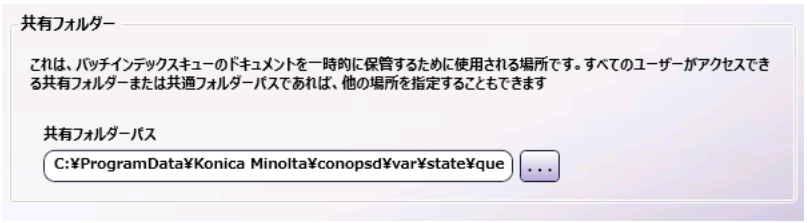
注: 既定ではすべてのユーザーがバッチインデックスキューのバッチにアクセスできます。



共有フォルダーパス

既定では、インデックスを作成するドキュメントは、C:\ProgramData\Konica Minolta\conopsd\var\state\queueディレクトリーに一時的に保管されます。**省略符号** ボタンをクリックして、この既定の場所を変更することもできます。

注: この場所はすべてのユーザーがアクセスできるフォルダーでなければなりません（共有フォルダーパスまたは共通フォルダーパス）。



ドキュメントの設定

バッチインデックスのワークフローの設定時に、バッチのドキュメント設定を指定することもできます。次のオプションを利用できます。

- **バッチ名** - 既定では、次のWorkstationメタデータを使用してWorkstationで最初にバッチを設定したときに指定したバッチ名が[バッチインデックス]ページに表示されます（{workstation:batch.name}）。ただし、このフィールドに他のメタデータを入力すると、Workstationで設定したバッチ名を無効にできます。たとえば、バッチ名を複合機のインデックスフォームで選択または入力した名前にする場合は、このフィールドにインデックスフォームのメタデータを入力できます。バッチ名に追加できるメタデータのリストにアクセスするには、[バッチ名]フィールドの横にある **[メタデータブラウザー]** ボタンをクリックします。
- **Dispatcher Phoenix Webからのドキュメントのダウンロードの無効化** - Dispatcher Phoenix Webのバッチインデックスアプリケーションのツールバーには **[ドキュメントのダウンロード]** ボタンがあります。ワークフローでこのオプションの表示を無効にするには、このボックスをチェックします。
- **未処理のドキュメントを自動的に削除** - Dispatcher Phoenixは、ユーザーが指定した期間が過ぎると、インデックスが作成されていないドキュメントをバッチインデックスキューから自動的に削除できます。

インデックスフォーム

バッチインデックス処理ノードは、このノードに関連付けられたインデックスフォームを必要とします。このインデックスフォームは、DP Webのバッチインデックスアプリケーションでワークフローが選択されているときに表示されます。

以下の操作を行います。

1. **[インデックスフォームの添付]** ボックスをチェックします。
2. **[+]** ボタンをクリックしてインデックスフォームビルダーを開きます。
3. [新規インデックスフォームの作成]ウィンドウで **[空白のインデックスフォーム]** ボタンを選択します。
4. インデックスフォームビルダーを使用して、バッチインデックスアプリケーションで表示するインデックスフィールドをドラッグアンドドロップします。
5. 完了したら、インデックスフォームビルダーを保存します。

既定値に戻す

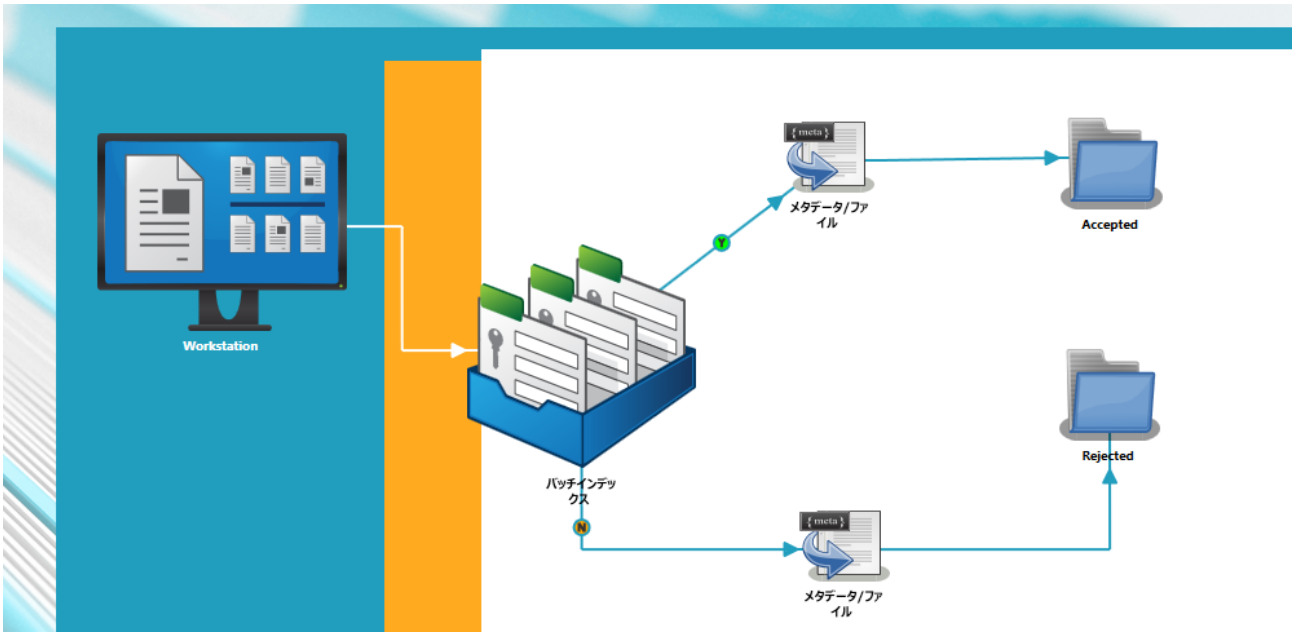
バッチインデックス処理ノードは、必要に応じてノードを元の設定に戻すことができる、[既定値に戻す]ボタンを備えています。

バッチインデックスワークフローの構成

バッチインデックスノードは、**[はい]** と **[いいえ]** の遷移によってワークフローの他の部分に接続できます。DP Webのバッチインデックスアプリケーションを使用してドキュメントのインデックスを作成するときは、以下の操作が行われます。

- **[リリース]** または **[すべてをリリース]** ボタンを選択すると、**[はい]** 遷移によってインデックス作成済みドキュメントが経路指定されます。
- **[拒否]** ボタンを選択すると、**[いいえ]** 遷移によってドキュメントが経路指定されます。

次のイメージは、Dispatcher Phoenixで作成したバッチインデックスワークフローがどのように見えるかを示しています。



このワークフローは、Dispatcher Phoenix Workstationが送信したファイルを受信して、そのファイルをバッチインデックスキューに送信するように設定されています。インデックス作成が完了すると、バッチのドキュメントは、ドキュメントごとに入力されたインデックス情報を格納したXMLファイルと共に"Accepted"フォルダーに送信されます。DP Webバッチインデックスの実行中に拒否されたドキュメントは、「Rejected」フォルダーに格納されます。

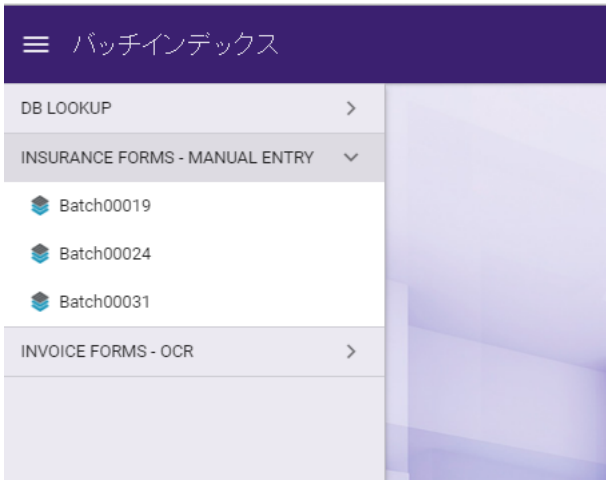
バッチインデックスアプリケーションの使用

DP Webのバッチインデックスアプリケーションを使用してドキュメントのインデックスを作成するには、以下の操作を行います。

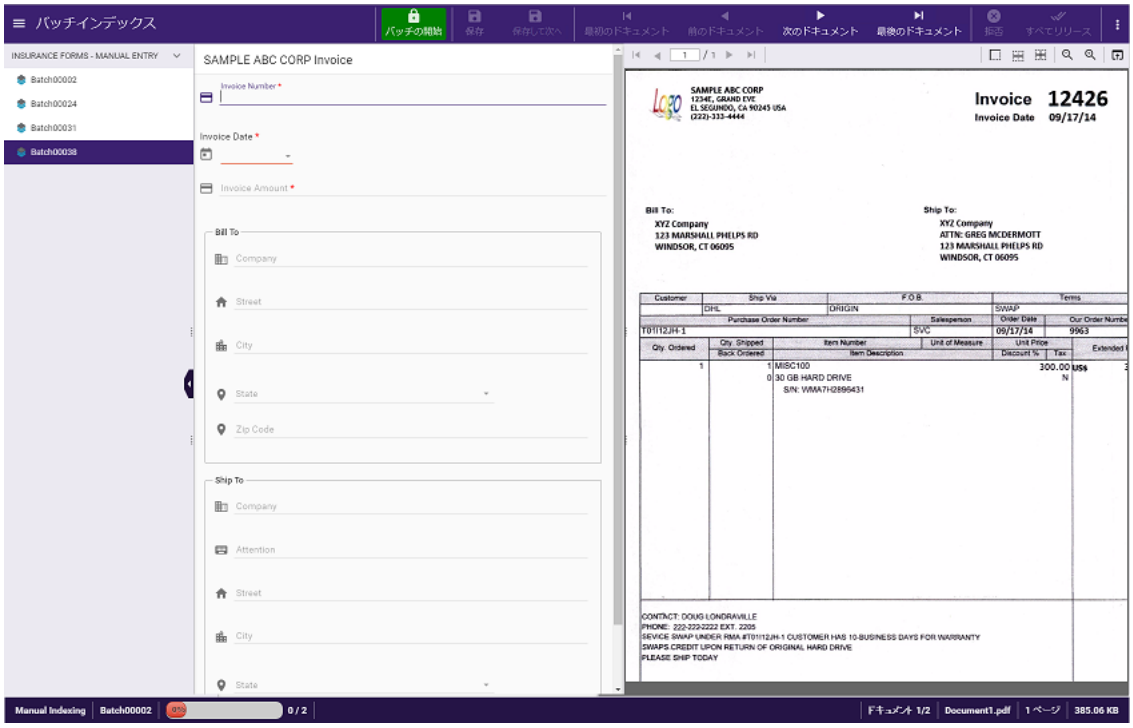
1. Dispatcher Phoenixクライアントアプリケーションへのログインに使用した資格情報を入力してDispatcher Phoenix Webにログインします。
2. 次の図のように、**[バッチインデックス]** カードを選択します。

[バッチインデックス]ページが表示され、送信されたバッチの宛先であるバッチインデックスワークフローがすべてリストされます。

3. 次の図に示すように、ワークフローを選択して、その特定のワークフローに向けて送信されたバッチのリストを表示します。



4. バッチを選択して、そのバッチに含まれるドキュメントのインデックス作成を開始します。ワークフローのインデックスフォームが表示されます。ここでは、各ドキュメントに関するインデックス情報の入力と、インデックスが作成されるページのプレビューを行うことができます。例については、次の図を参照してください。



この表示は、それぞれの作業環境に最も適合するようにカスタマイズできます。たとえば、マウスでドラッグアンドドロップすることで、バッチリストパネルやインデックスフォーム、ドキュメントビューアのサイズを変更できます。

バッチのロック

ドキュメントのインデックス作成を開始する前に、**[バッチの開始]** ボタンを最初に選択する必要があります。これにより、他のユーザーが同じバッチを開いたり、インデックスを作成したりするのを防止できます。

ドキュメントのインデックス作成が完了したら、**[バッチの停止]** ボタンを選択して、そのバッチに対する排他ロックをリリースします。

インデックスフィールド間の移動

バッチに対する排他ロックを取得したら、各フィールドに適切なインデックス情報を入力できます。[インデックス]領域は、インデックス作成時間を短縮するショートカットキーをサポートしています。**[Tab]** キーまたは **[Enter]** キーを押すと、フィールド間を移動できます。ページのインデックス作成が完了したら、ドキュメントビューアの上部にあるナビゲーションキーを使用するか、**[Ctrl] + [→]** キーを押すと、ドキュメントの次のページに移動できます。

インデックスフィールド情報の保存

- **[保存]** - インデックス作成処理を通じて、バッチまたはドキュメントを送信しなくても、入力したインデックス作成情報をいつでも保存できます。これを行うには、ツールバーの **[保存]** ボタンを選択するか、**[Ctrl] + [S]** キーを押します。ドキュメントはバッチインデックスキューに残ります。
- **[保存して移動]** - （ドキュメントまたはバッチをDispatcher Phoenixに送信しないで）入力したインデックス作成情報を保存してバッチの別のドキュメントに移動するには、**[保存して移動]** ボタンを選択するか、**[Ctrl] + [Enter]** キーを押します。ドキュメントはバッチインデックスキューに残ります。

ドキュメントのリリース

- **[リリース]** - **[リリース]** ボタンを選択するか、**[Ctrl] + [9]** キーを押すと、バッチ全体ではなく、インデックス情報を保存した現在のドキュメントをリリースできます。現在のドキュメントはバッチインデックスキューを離れて、後続処理、ルーティング、および保管のためにDispatcher Phoenixワークフローに送信されます。
- **[すべてをリリース]** - バッチのすべてのドキュメントでインデックスを作成したら、**[すべてをリリース]** ボタンを選択するか、**[F9]** キーを押すことができます。バッチのすべてのドキュメントはバッチインデックスキューを離れて、後続処理、ルーティング、および保管のためにDispatcher Phoenixワークフローに送信されます。

ドキュメントの拒否

- **[拒否]** - バッチのドキュメントを拒否する必要がある場合は、**[拒否]** ボタンを選択するか、**[Ctrl] + [Delete]** キーを押すことができます。ドキュメントはバッチインデックスキューを離れて、（バッチインデックスノードの **[いいえ]** 遷移によって）Dispatcher Phoenixワークフローに送り返されます。

ドキュメント/バッチの削除

- **[ドキュメントの削除]** - **[ドキュメントの削除]** ボタンを選択すると、バッチからドキュメントを完全に削除できます。ドキュメントはバッチインデックスキューを離れます。このドキュメントはDispatcher Phoenixには送信されません。
- **[バッチの削除]** - **[バッチの削除]** ボタンを選択すると、バッチインデックスキューからバッチを完全に削除できます。バッチはバッチインデックスキューを離れます。このバッチはDispatcher Phoenixには送信されません。

固定フィールド

バッチインデックスアプリケーションは、「固定」フィールドをサポートしています。固定フィールドでは、最初に入力した値が保持されます。インデックスオペレーターが次のページに移動すると、フィールドに入力されている値が同じフィールドに自動的に適用されます。

データベース検索

インデックスフォームのフィールドにデータベース検索の機能を設定している場合、バッチインデックスアプリケーションはこの機能をサポートします。詳細については、Dispatcher Phoenixオンラインヘルプの「インデックスフォームビルダー」のセクションを参照してください。

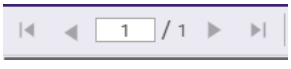
ナビゲーション

ページ間およびドキュメント間の移動には、[バッチインデックス]ページのツールバーにあるボタンまたはショートカットキーを使用できます。

- バッチの最初のドキュメントに移動するには、ツールバーの **[最初のドキュメント]** ボタンを選択するか、**[Ctrl] + [M]** キーを押します。
- バッチの前のドキュメントに移動するには、ツールバーの **[前のドキュメント]** ボタンを選択するか、**[Ctrl] + [,]** キーを押します。
- バッチの次のドキュメントに移動するには、ツールバーの **[次のドキュメント]** ボタンを選択するか、**[Ctrl] + [.]** キーを押します。
- バッチの最後のドキュメントに移動するには、ツールバーの **[最後のドキュメント]** ボタンを選択します。

バッチインデックスのツールバーのナビゲーションボタンについては、次のスクリーンショットを参照してください。

ドキュメントビューアのツールバーは、ドキュメントのページ移動に使用するコントロールも備えています。



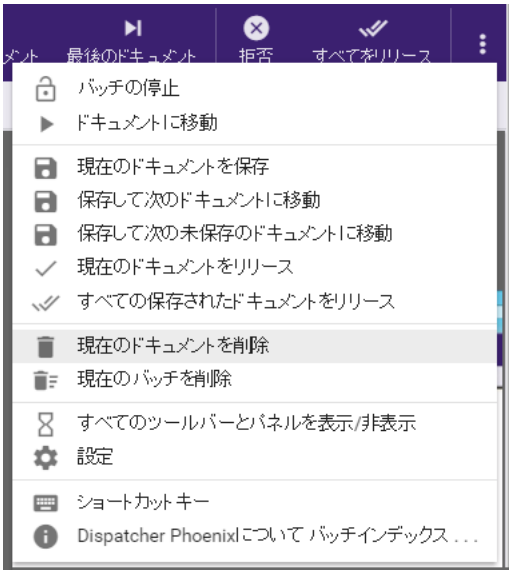
矢印のコントロールを使用すると、選択したドキュメントのさまざまなページに移動できます。表示されるフィールドにページ番号を入力して **[Enter]** キーを押すことで、ドキュメントの特定のページに移動することもできます。

以下に示すショートカットキーも利用できます。

- **[最初のページに移動]:** [Ctrl] + [↑]
- **[前のページに移動]:** [Ctrl] + [←]
- **[次のページに移動]:** [Ctrl] + [→]
- **[最後のページに移動]:** [Ctrl] + [↓]

その他のメニューオプション

ツールバーにある垂直の3つのドットを使用すると、以下のようなその他のメニューオプションにアクセスできます。



- **[現在のドキュメントを保存]** - 現在のドキュメントのインデックス情報を保存します。
- **[保存して次のドキュメントに移動]** - 現在のドキュメントのインデックス情報を保存して、キューの次のドキュメントを表示します。
- **[現在のドキュメントをリリース]** - バッチインデックスキューから現在のドキュメントをリリースします。
- **[すべての保存されたドキュメントをリリース]** - バッチインデックスキューから保存されたドキュメントをすべてリリースします。
- **[現在のドキュメントを削除]** - 現在のドキュメントを削除します。
- **[現在のバッチを削除]** - 現在のバッチを削除します。
- **[すべてのツールバーとパネルの表示/非表示]** - [バッチインデックス]ページの外観を切り替えます。
- **[設定]** - ツールバーとレイアウトのオプションを指定します。
- **[ショートカットキー]** - ドキュメントのインデックス作成時に使用できるショートカットキーをすべて表示します。
- **[Dispatcher Phoenixについて...]** - バッチインデックスアプリケーションのバージョン情報を表示します。

ドキュメントビューア

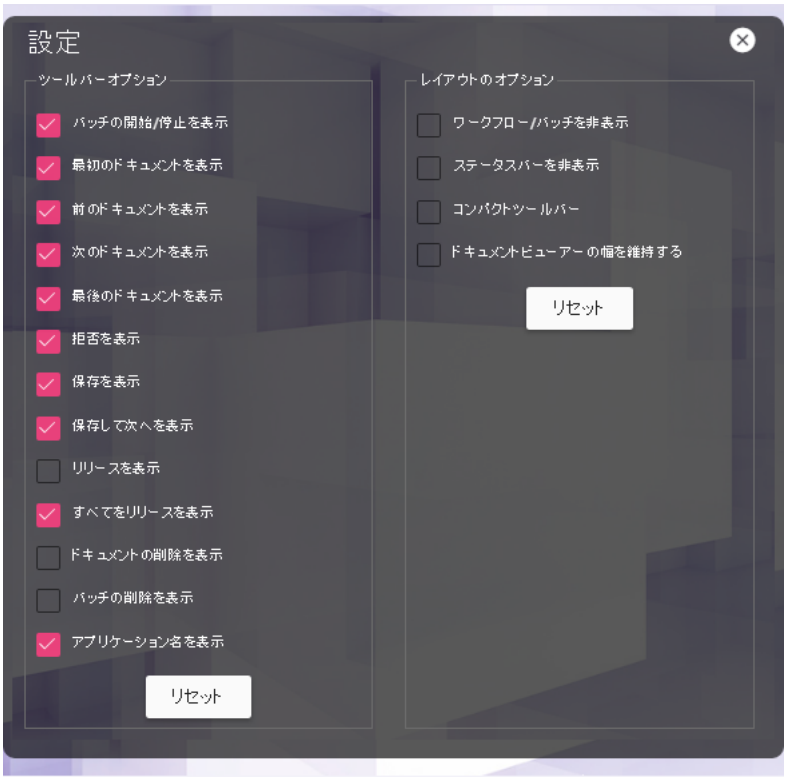
ドキュメントビューア領域には、インデックスを作成している、バッチの現在のドキュメントが表示されます。必要に応じてドキュメントビューアの幅を調整できます。ドキュメントビューアを新しいブラウザーページに移動し、このページをセカンダリーモニターにドラッグアンドドロップすることもできます。

ドキュメントビューアは、ナビゲーションとズームコントロールを可能にするツールバーを備えています。

- **[矢印のコントロール]** - 選択したドキュメントのさまざまなページに移動できます。または、表示されるフィールドにページ番号を入力して[Enter]キーを押すと、ドキュメントの特定のページに移動できます。
- **[ダウンロード]** - 現在のドキュメントをダウンロードしてネイティブビューアーで表示します。このオプションは、Dispatcher Phoenixワークフローのバッチインデックス処理ノードを設定するときに非表示にできます。
- **[ズーム100%]** - 現在のドキュメントの表示を100%に拡大します。
- **[幅に合わせる]** - [プレビュー]領域のドキュメントの幅に合わせます。
- **[ページ全体を収める]** - [プレビュー]領域でドキュメントのページ全体を収めます。
- **[虫眼鏡]** - [プレビュー]領域のドキュメントを拡大/縮小します。ドキュメントビューアを新しいブラウザーに移動し、必要に応じてそのブラウザーをセカンダリーモニターにドラッグアンドドロップすることもできます。
- **[新しいブラウザーで開く]** - 新しいブラウザーページで[プレビュー]領域を表示し、そのページをセカンダリーモニターにドラッグして効率的に表示できます。

設定

ツールバーにある **3つのドット** ボタンをクリックしてアクセスする[設定]には、ツールバーとレイアウトのオプションリストが表示されます。このオプションを選択して[バッチインデックス]ページの外観をカスタマイズできます。



表示する各種のボタンや特定のレイアウトオプションを選択したら、**[X]** ボタンをクリックしてポップアップウィンドウを閉じます。または、**[リセット]** ボタンを選択して既定の設定に戻します。

ツールバーのオプション

次のボックスをチェックできます。

- **[最初のドキュメントを表示]** - [最初のドキュメント]ボタンをツールバーに表示します。
- **[前のドキュメントを表示]** - [前のドキュメント]ボタンをツールバーに表示します。
- **[次のドキュメントを表示]** - [次のドキュメント]ボタンをツールバーに表示します。
- **[最後のドキュメントを表示]** - [最後のドキュメント]ボタンをツールバーに表示します。
- **[拒否を表示]** - [拒否]ボタンをツールバーに表示します。
- **[保存を表示]** - [保存]ボタンをツールバーに表示します。
- **[保存して次へを表示]** - [保存して移動]ボタンをツールバーに表示します。
- **[リリースを表示]** - [リリース]ボタンをツールバーに表示します。
- **[すべてをリリースを表示]** - [すべてをリリース]ボタンをツールバーに表示します。
- **[ドキュメントの削除を表示]** - [ドキュメントの削除]ボタンをツールバーに表示します。
- **[バッチの削除を表示]** - [バッチの削除]ボタンをツールバーに表示します。
- **[アプリケーション名を表示]** - ページの左上に「バッチインデックス」が表示されます。

レイアウトのオプション

次のボックスをチェックすることで、[バッチインデックス]ページのレイアウトをカスタマイズすることもできます。

- **[ワークフロー/バッチを非表示]**- [バッチインデックス]ページの左側からバッチ/ワークフローのリストを削除します。
- **[ステータスバーを非表示]**- [バッチインデックス]ページの下部からステータスバーを削除します。このステータスバーには、ワークフローの名前、選択したバッチの名前、現在表示しているドキュメントとページのほか、ドキュメント名とファイルサイズが表示されます。
- **[コンパクトツールバー]** - ツールバーの外観を縮小します。
- **[ドキュメントビューアの幅を維持する]** - ドキュメントビューアの幅に加えた変更が保存され、次回、バッチインデックスアプリケーションでバッチを選択するときも維持されます。

ショートカットキー

ドキュメントのインデックスを作成するときに、時間の節約となるショートカットキーを利用できます。次のリストを参照してください。

表示/非表示のショートカットキー

- **ヘルプの表示/非表示:** ? または CTRL + `
- **ツールバーとバッチパネルの表示/非表示:** CTRL + 7
- **About画面の表示/非表示:** CTRL + i
- **設定画面の表示/非表示:** CTRL + o
- **ショートカットキーダイアログを閉じる:** ESC

ナビゲーションのショートカットキー

- **最初のページに移動:** CTRL + ↑
- **前のページに移動:** CTRL + ←
- **次のページに移動:** CTRL + →
- **最後のページに移動:** CTRL + ↓
- **最初のドキュメントに移動:** CTRL + M
- **前のドキュメントに移動:** CTRL + ,
- **次のドキュメントに移動:** CTRL + .
- **バッチの特定のドキュメントに移動:** CTRL + G
- **最後のドキュメントに移動:** CTRL + /

インデックスのショートカットキー

- **バッチのロック/ロック解除の切り替え:** CTRL + L
- **ドキュメントを拒否する:** CTRL + Delete
- **現在のドキュメントを保存:** CTRL + S
- **保存して次のドキュメントに移動:** CTRL + Enter
- **保存して次の未保存のドキュメントに移動:** CTRL + ↑ + Enter
- **保存してドキュメントをリリース:** CTRL + 9
- **すべての保存されたドキュメントをリリース:** F9

ドキュメントプレビューのショートカットキー

- **100%拡大:** CTRL + 1
- **ページの幅に合わせてサイズ変更:** CTRL + 2
- **ページ全体に合わせてサイズ変更:** CTRL + 3
- **縮小:** CTRL + 4
- **拡大:** CTRL + 5

ドキュメントビューアーのショートカットキー

- **ドキュメントビューアーの切り替え:** F8

レイアウトカスタマイズのショートカットキー

- **ワークフロー/バッチのパネルの切り替え:** F4
- **レイアウトのリセット:** CTRL + 0

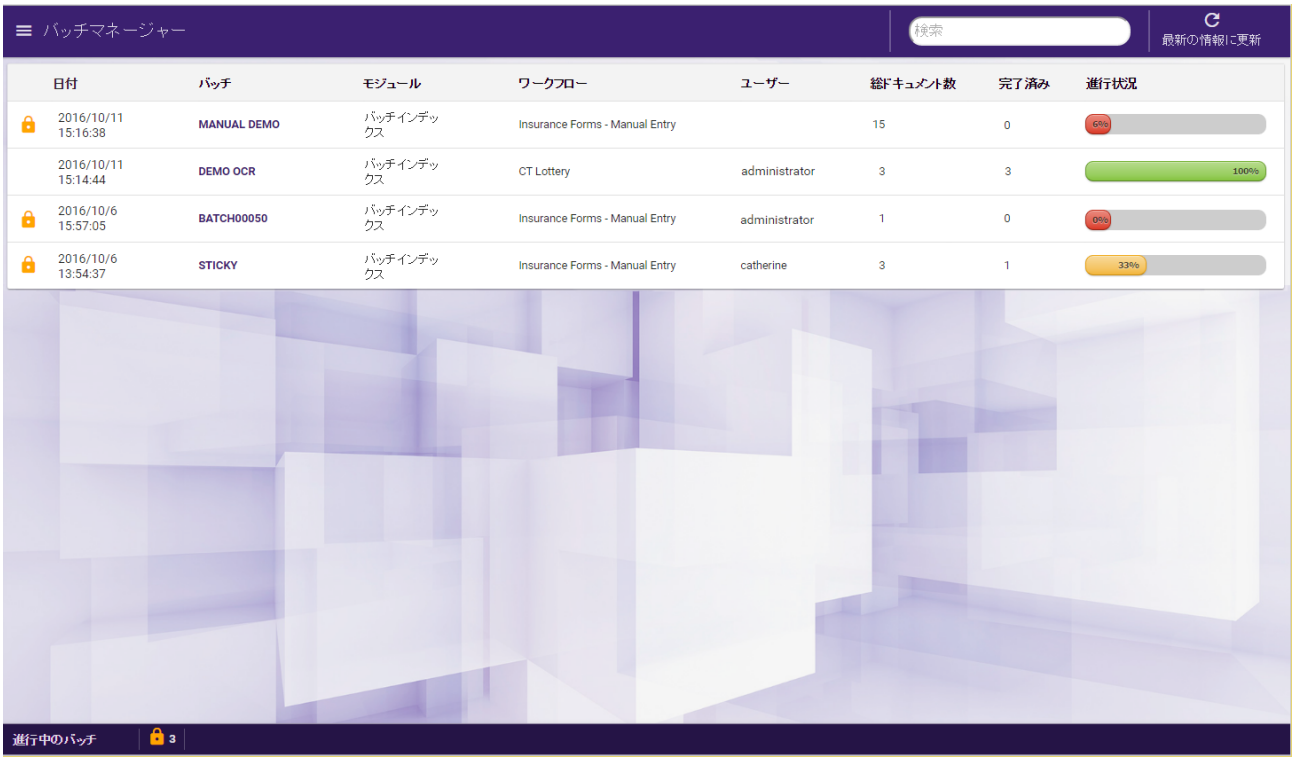
バッチマネージャー

バッチマネージャー

Dispatcher Phoenix Webのバッチマネージャーアプリケーションを使用すると、管理者は、各バッチの進行状況を確認して、ユーザーによってロックされたままになっているバッチを強制的にリリースできます。ロックされたバッチのリリースは、別のユーザーがそのバッチを引き継ぐ必要があるときに限って行うことをお勧めします。

バッチマネージャーアプリケーションにアクセスするには、次の図に示すように、Dispatcher Phoenix Webのホームページで **[バッチマネージャー]** カードを選択します。

[バッチマネージャー]ページは、次の図のように表示されます。



このページには、現在アクティブなすべてのバッチが以下の情報と共に表示されます。

- **[ロック]** アイコン - このシンボルは、バッチがユーザーによって開始されているかどうかを示します。
- **[日付]** - バッチが送信された日付。
- **[バッチ]** - バッチの名前。
- **[モジュール]** - バッチを処理しているアプリケーション（バッチインデックスまたは検証）。
- **[ワークフロー]** - バッチが送信されたワークフローの名前。
- **[ユーザー]** - バッチを処理しているユーザーの名前。このユーザーはバッチを排他的にロックしています。
- **[総ドキュメント数]** - バッチのドキュメント数。
- **[完了済み]** - バッチの完了済みのドキュメント数。
- **[進行状況]** - バッチの進行状況をグラフィカルに示します。

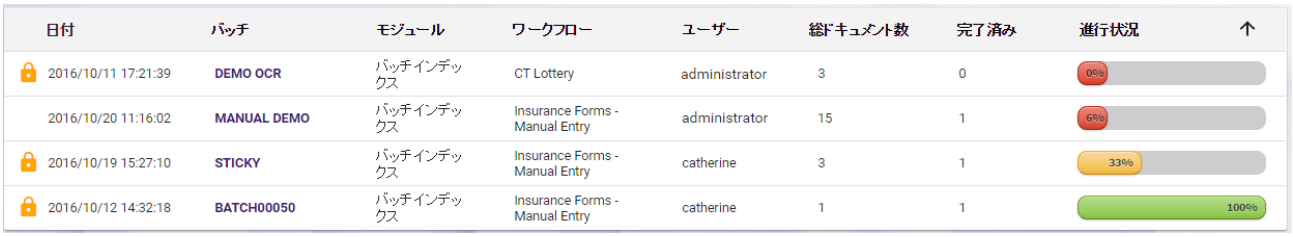
バッチのリリース

ユーザーから強制的にバッチをリリースして他のユーザーがアクセスできるようにするには、対象のバッチの横にある **[ロック]** アイコンをクリックします。例については、次の図を参照してください。

確認メッセージが表示されます。メッセージで **[はい]** を選択すると、そのユーザーに対するバッチのロックが解除され、インデックス作成や確認のために他のユーザーがアクセスできるようになります。

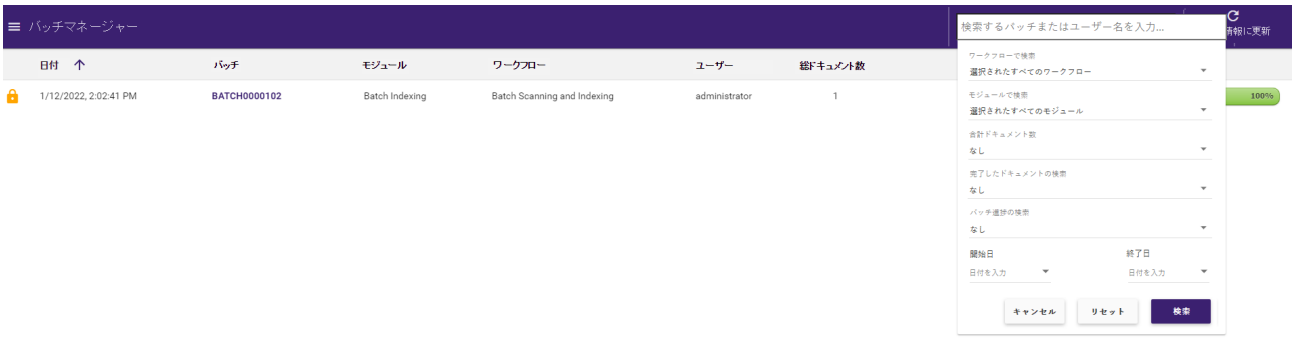
バッチの並べ替え

列（日付、バッチ、モジュール、ワークフロー、ユーザー、総ドキュメント数、完了済み、進行状況）をクリックすると、バッチ表示を並べ替えることができます。たとえば、次の図のように、すべてのバッチを[進行状況]で並べ替えるには、[進行状況]列をクリックします。



バッチを検索

ウィンドウの右上にある **[検索]** フィールドを使用して、バッチリストをフィルタリングすることもできます。このフィールドでは、先行入力の検索機能を使用して、日付、バッチ名、モジュール、ワークフロー、およびユーザー名に基づいてリストをフィルタリングできます。より詳細な結果を得るために、複数の検索条件を定義できます。



バッチへのアクセス

モジュール（バッチインデックスまたは検証）内のバッチにアクセスするには、バッチの名前をクリックします。

バッチの更新

バッチリストを更新するには、ウィンドウの右上にある **[最新の情報に更新]** ボタンをクリックします。

ユーザーライセンス

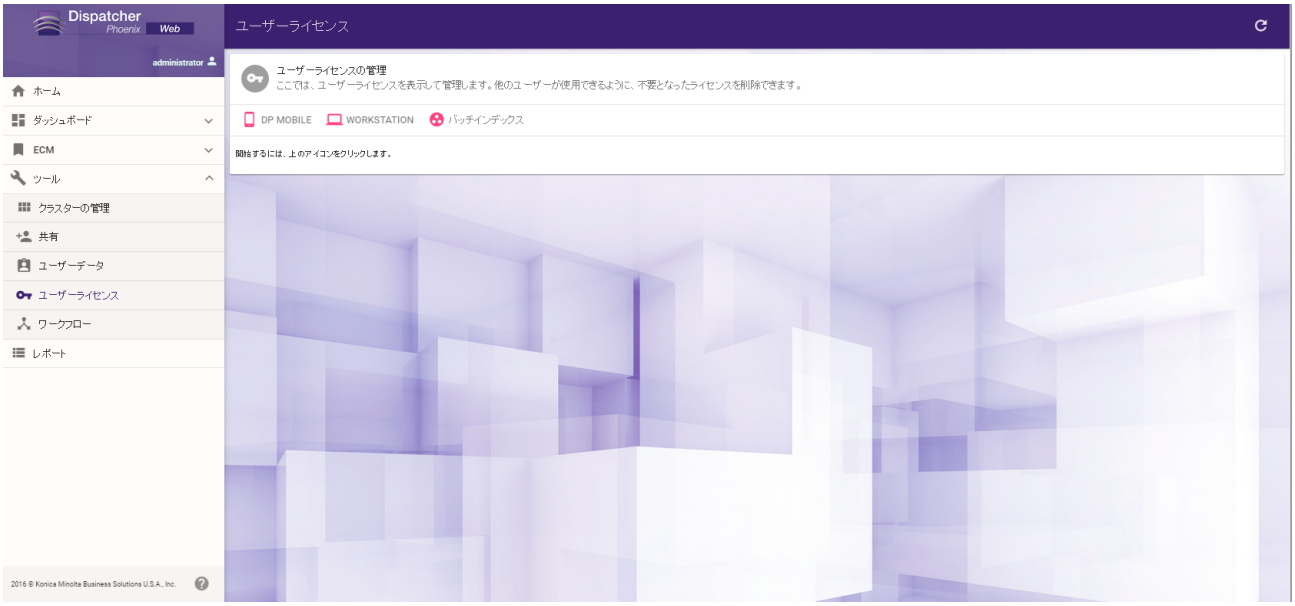
概要

Dispatcher Phoenix Webのユーザーライセンスアプリケーションを使用すると、管理者は、ロックされているユーザーライセンスを次のモジュールから削除またはリリースできます。

- DP Mobile
- Workstation
- バッチインデックス

ユーザーライセンスアプリケーションにアクセスするには、次の図に示すように、Dispatcher Phoenix Webのホームページで［**ユーザーライセンス**］カードを選択します。

［ユーザーライセンス］ページは、次の図のように表示されます。



このページで **[DP Mobile]**、**[Workstation]**、または **[バッチインデックス]** リンクをクリックすると、それぞれのモジュールで使用されているライセンスを表示できます。

DP Mobile

Dispatcher Phoenix Mobileの各ユーザーライセンスにより、ユーザーは最大3つのデバイスでこのアプリケーションを使用できます。DP Mobileのユーザーライセンスを管理するには、**[DP Mobile]** リンクをクリックします。それぞれのDP Mobileライセンスに関する次の情報が表示されます。

- ユーザー名
- デバイス名

例については、次の図を参照してください。

ライセンスを削除するには、対象のユーザーライセンスの横にある **[ライセンスの削除]** アイコンをクリックします。

Workstation

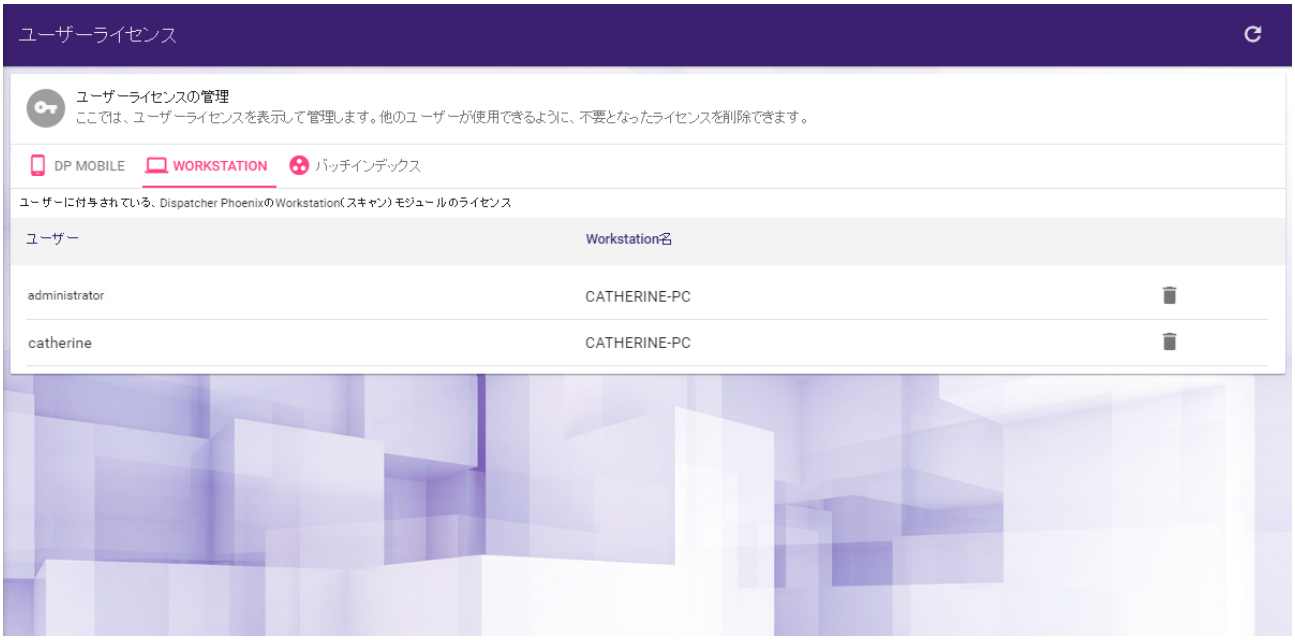
Dispatcher Phoenix WorkstationをPCにインストールすると、Workstationのログインユーザーはライセンスを要求します。ログイン情報は、**Workstationの[オプション]ウィンドウ** で構成されます。

このライセンスはコンピューターに関連付けられています（デバイスごとに1ユーザーライセンス）。つまり、1人のユーザーがあるコンピューターからWorkstationにログインし、その後別のコンピューターからWorkstationにログインすることはできません。

そのコンピューターからユーザーをリリースするには、**[Workstation]** リンクをクリックします。それぞれのライセンスに関する次の情報が表示されます。

- ユーザー名
- コンピューター名

例については、次の図を参照してください。



ライセンスをリリースするには、対象のユーザーライセンスの横にある **[ライセンスの削除]** アイコンをクリックします。

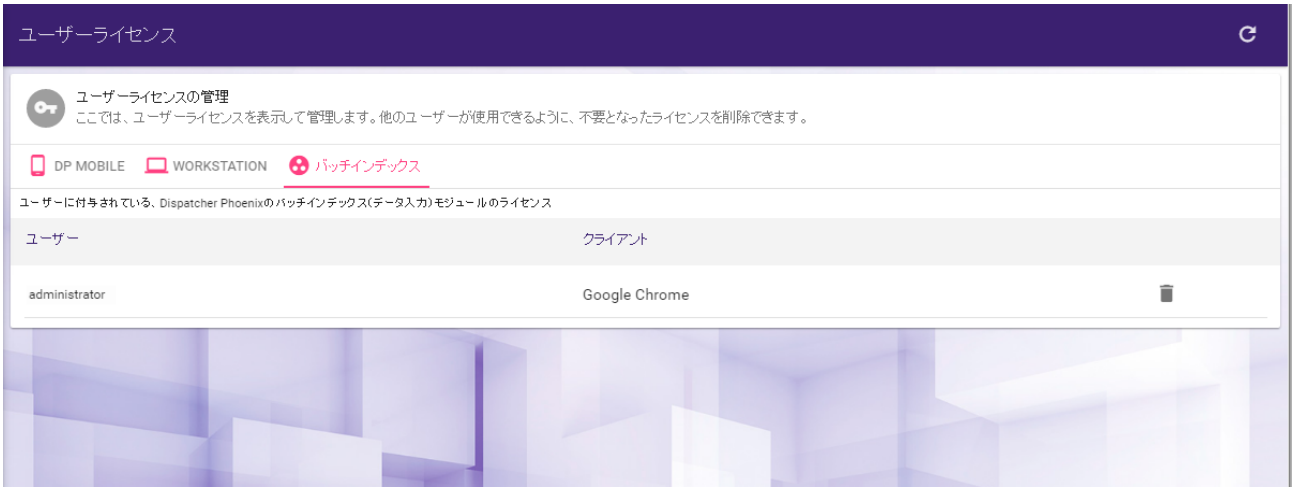
バッチインデックス

バッチインデックスのライセンスは、特定のコンピューターではなくセッションに関連付けられています。ログインユーザーがバッチへのアクセス権を持つと、そのユーザーによってライセンスが要求されます。バッチインデックスのユーザーライセンスは、同時使用ライセンスでないことに注意してください。つまり、それぞれの指定ユーザーは1つのライセンスを要求します。たとえば、バッチインデックスの実行を必要とする従業員が10人いる場合は、同時に実行するユーザーの数に関係なく、10のライセンスを必要とします。

セッションからユーザーをリリースするには、**[バッチインデックス]** リンクをクリックします。それぞれのライセンスに関する次の情報が表示されます。

- ユーザー名
- クライアント名

例については、次の図を参照してください。



ライセンスをリリースするには、対象のユーザーライセンスの横にある **[ライセンスの削除]** アイコンをクリックします。

検証

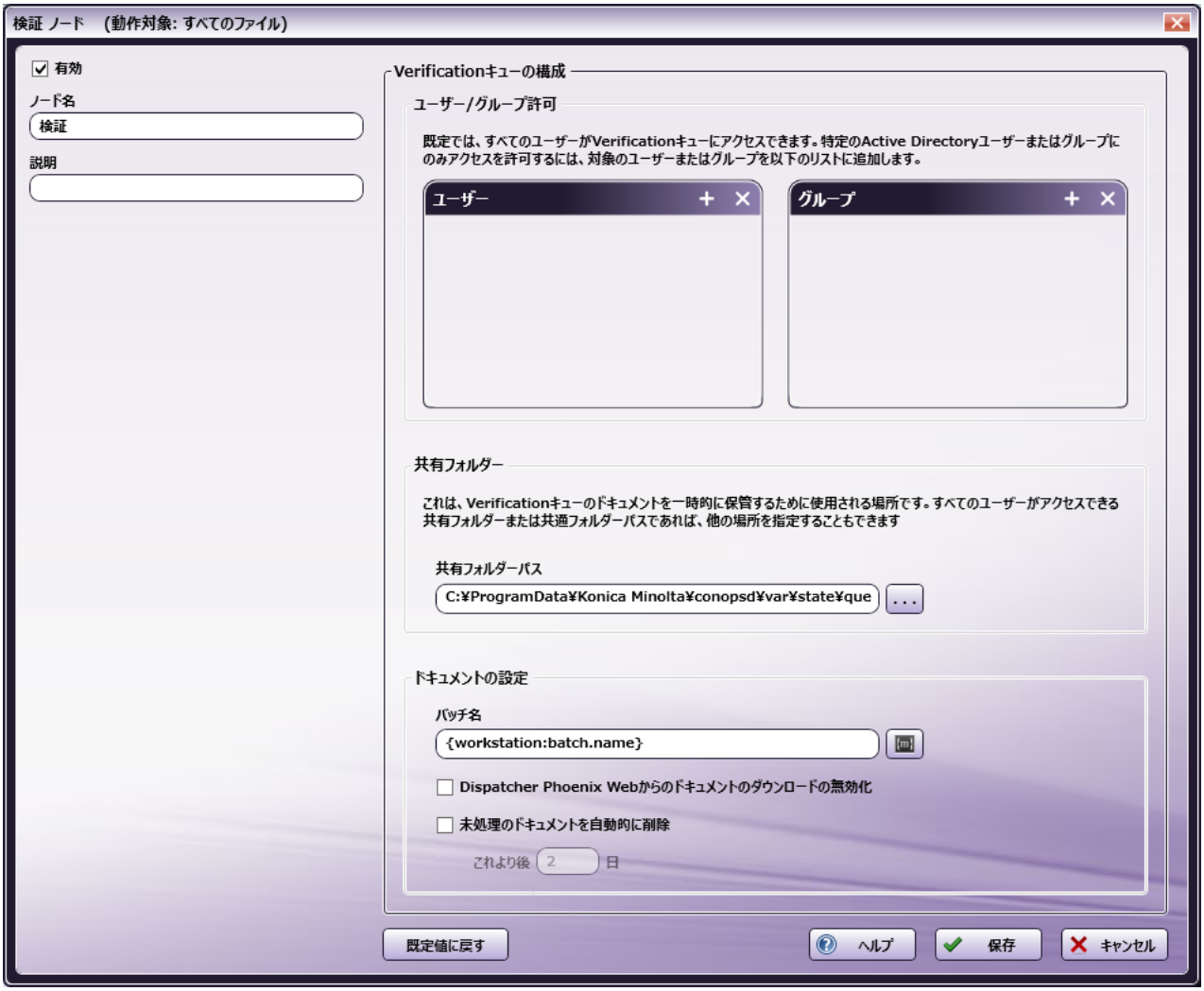
検証の概要

Dispatcher Phoenixの検証ノードをDispatcher Phoenix Webの検証ツールと一緒に使用して、品質保証のためにバッチでドキュメントをチェックします。検証ノードは、ドキュメントをDispatcher Phoenix Webの検証ツールに送信し、バッチ内のドキュメントを表示して検証、または拒否することができます。検証ツールを使用する前に、まず検証処理ノードを含むDispatcher Phoenixワークフローを作成し、ワークフローを実行します。

検証は、オプションのアドインまたは **バッチインデックス作成パッケージ** の一部として提供され、ユーザーライセンスに基づきます。

検証処理ノード

検証処理ノードを構成するには、検証ノードをワークフロービルダーツールの作業領域にドラッグアンドドロップし、ダブルクリックします。次の図のように、[検証ノードのプロパティ]ウィンドウが表示されます。



次のオプションを利用できます。

- **[有効]** - 現在のワークフローでこのノードを有効にするには、このフィールドのボックスをオンにします。ボックスを空白のままにすると、ワークフローはノードを無視し、ドキュメントはノードが存在しないかのように通過します。無効化されたノードは、ロジックまたはエラー条件をチェックしないことに注意してください。
- **[ノード名]** - ノード名がこのフィールドに既定で設定されます。この名前は、ノードアイコンの下のワークフローに表示されます。このフィールドを使用して、ワークフローでの使用を示す意味のあるノード名を指定します。
- **[説明]** - このノードのオプションの説明を入力します。説明はワークフローでのノードの目的を思い出したり、ノードを互いに区別したりするのに役立ちます。説明が長い場合は、フィールドの上にマウスを置くとその内容全体を読むことができます。

ボタン

- **[既定値に戻す]** - Verificationキューの構成プロパティを既定値に戻すには、このボタンをクリックします。このボタンは、[Verificationキューの構成]セクションの項目のみに影響することに注意してください。ノード名、説明、有効化の設定には影響しません。
- **[ヘルプ]** - Dispatcher Phoenixのオンラインヘルプにアクセスするにはこのボタンをクリックします。
- **[保存]** - ノードの定義を保持してウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。
- **[キャンセル]** - 変更を保存せずにウィンドウを終了するには、このボタンをクリックします。

Verificationキューの設定

この領域を使用して、Verificationキューを構成します。

ユーザー/グループの権限

既定では、すべてのユーザーがVerificationキューのバッチにアクセスできます。Verificationキューへのアクセスを特定のActive Directoryユーザー、またはグループに制限するには、**[+]** 記号をクリックして Active Directoryの[ユーザーの選択]または[グループの選択]ダイアログにアクセスします。特定のActive Directoryユーザー、またはグループ(存在する場合)をリストから削除するには、ユーザーまたはグループを選択して **[X]** ボタンをクリックします。

共有フォルダー

既定では、検証用のドキュメントは次のディレクトリに一時的に保存されます。

```
C:\ProgramData\Konica Minolta\conopsd\var\state\queue
```

[省略記号] ボタンをクリックして、この既定の場所を変更することができます。

注: このフォルダーはすべてのユーザーがアクセスできる必要があります (共有フォルダー、または共通フォルダーパスなど)。

ドキュメントの設定

- **バッチ名** - 既定では、[検証]ページには、次のWorkstationメタデータを使用してWorkstationで最初にバッチが設定されたときに指定されたバッチ名が表示されます。

  {workstation:batch.name}

  次の名前タイプのいずれかを使用して、Workstationで構成されたバッチ名を上書きすることができます。

名前の種類	例
メタデータ	{user:domain}
プレーンテキスト	ABCD
メタデータとプレーンテキスト	{workstation:batch:name}-ABCD
複数のメタデータ	{Workstation:batch:name}-{user:domain}
複数のプレーンテキスト	ABCD-1234

  - **[メタデータの参照]** - バッチ名に追加できるメタデータのリストにアクセスするには、[バッチ名]フィールドの横にあるこのボタンをクリックします。

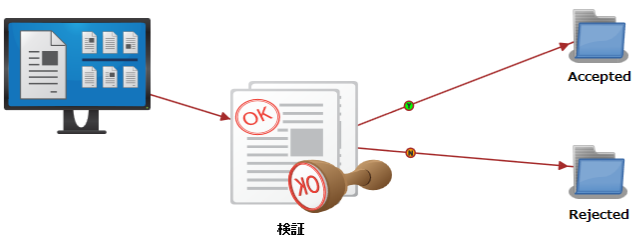
  たとえば、複合機のインデックスフォームで行った選択、または入力をバッチ名として使用するには、このフィールドにインデックスフォームのメタデータを入力します。

- **Dispatcher Phoenix Webからのドキュメントのダウンロードの無効化** - Dispatcher Phoenix Webの検証アプリには、ツールバーに **[ドキュメントのダウンロード]** ボタンがあります。ワークフローでこのオプションが表示されないようにするには、このボックスをオンにします。
- **未処理のドキュメントを自動的に削除** - ユーザーが指定した期間が経過した後にVerificationキューから検証されていないドキュメントを自動的に削除するには、このボックスをオンにして期間を指定します。

検証ワークフローの構成

[はい] および **[いいえ]** の遷移を介して、検証ノードを残りのワークフローに接続できます。DP Webでバッチを検証する場合、

- **[はい]** の遷移を介して、ドキュメントまたはバッチルートドキュメント全体をリリースします。
- ドキュメントを拒否すると、**[いいえ]** の遷移を介してドキュメントがルーティングされます。



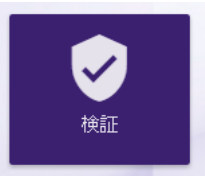
このワークフローは、Dispatcher Phoenix Workstationが送信したファイルを受信して、そのファイルをVerificationキューに送信するように設定されています。オペレーターが検証してリリースしたドキュメントは、“Accepted"フォルダーに送信されます。検証処理時に拒否されたドキュメントは、“Rejected"フォルダーに格納されます。

検証ツールの使用

検証へのアクセス

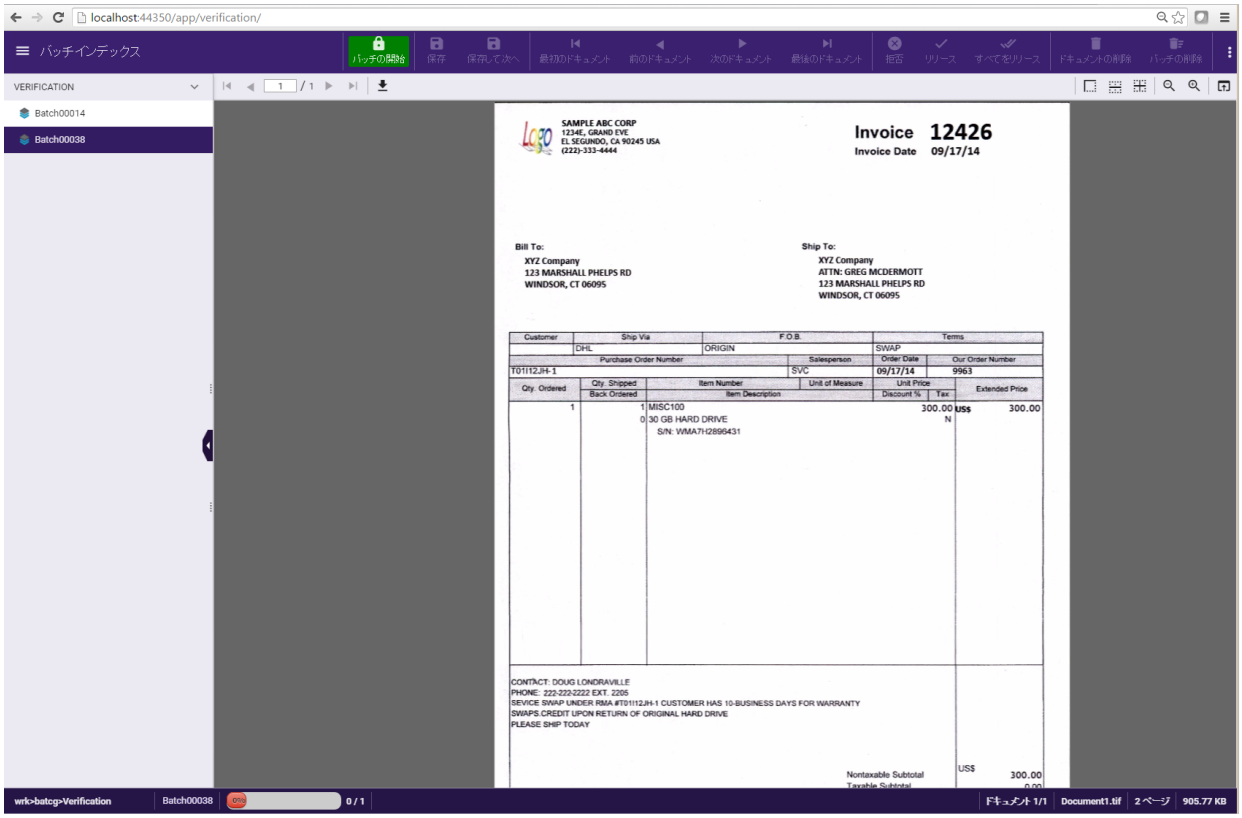
DP Webの検証アプリケーションを使用してドキュメントの品質を確認するには、以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenix Webにログインします (Dispatcher Phoenix クライアントアプリケーションにログインするときに使用したものと同じ資格情報を使用)。
2. 次の図のように、**[検証]** カードを選択します。



[検証]ページが表示され、送信されたバッチの宛先である検証ワークフローがページの左側にすべてリストされます。

3. ワークフローを選択して、その特定のワークフローに向けて送信されたバッチのリストを表示します。
4. バッチを選択して、そのバッチに含まれるドキュメントの検証を開始します。バッチに含まれる最初のドキュメントの先頭ページがプレビュー領域に表示されます。例については、次の図を参照してください。



この表示は、それぞれの作業環境に最も適合するようにカスタマイズできます。たとえば、ワークフロー/バッチリストパネルのサイズを変更したり、ワークフロー/バッチリスト領域の横にある矢印をクリックして、バッチリストを非表示にしてプレビュー領域のみを表示したりできます。

ドキュメントの検証

ドキュメントを検証するには、以下の手順を実行します。

バッチのロック

ドキュメントの検証を開始する前に、**[バッチの開始]** ボタンを最初に選択する必要があります。これにより、他のユーザーが同じバッチを開いたり、検証したりするのを防止できます。

ドキュメントの検証が完了したら、**[バッチの停止]** ボタンを選択して、そのバッチに対する排他ロックをリリースします。

「検証済み」としてドキュメントを保存

- **保存** - 検証処理を通じて、ドキュメントをいつでも「検証済み」として保存できます。これを行うには、ツールバーの **[保存]** ボタンを選択するか、**CTRL + S** キーを押します。ドキュメントはVerificationキューに残ります。
- **保存して移動** - (ドキュメントまたはバッチをDispatcher Phoenixに送信しないで)ドキュメントを「検証済み」として保存して、バッチの別のドキュメントに移動するには、**[保存して移動]** ボタンを選択するか、**CTRL + Enter** キーを押します。ドキュメントはVerificationキューに残ります。

ドキュメントのリリース

- **リリース** - **[リリース]** ボタンを選択するか、**CTRL + 9** キーを押すと、バッチ全体ではなく、現在のドキュメントをリリースできます。現在のドキュメントはVerificationキューを離れて、後続処理、ルーティング、および保管のためにDispatcher Phoenixワークフローに送信されます。
- **すべてをリリース** - バッチのすべてのドキュメントを検証したら、**[すべてをリリース]** ボタンを選択するか、**F9** キーを押すことができます。バッチのすべてのドキュメントはVerificationキューを離れて、後続処理、ルーティング、および保管のためにDispatcher Phoenixワークフローに送信されます。

ドキュメントの拒否

- **拒否** - バッチのドキュメントを拒否する必要がある場合は、**[拒否]** ボタンを選択するか、**CTRL + Delete** キーを押すことができます。ドキュメントはVerificationキューを離れて、（検証ノードの **[いいえ]** 遷移によって）Dispatcher Phoenixワークフローに送り返されます。

ドキュメント/バッチの削除

- **ドキュメントの削除** - **[ドキュメントの削除]** ボタンを選択すると、バッチからドキュメントを完全に削除できます。ドキュメントはVerificationキューを離れます。このドキュメントはDispatcher Phoenixには送信されません。
- **バッチの削除** - **[バッチの削除]** ボタンを選択すると、Verificationキューからバッチを完全に削除できます。バッチはVerificationキューを離れます。このバッチはDispatcher Phoenixには送信されません。

ページとドキュメントを移動する

ページやドキュメント間を移動するには、検証ページのツールバーボタン、またはキーボードショートカットを使用できます。

- バッチの最初のドキュメントに移動するには、ツールバーの **[最初のドキュメント]** ボタンを選択するか、**CTRL + M** キーを押します。
- バッチの前のドキュメントに移動するには、ツールバーの **[前のドキュメント]** ボタンを選択するか、**CTRL + ,** キーを押します。
- バッチの次のドキュメントに移動するには、ツールバーの **[次のドキュメント]** ボタンを選択するか、**CTRL + .** キーを押します。
- バッチの最後のドキュメントに移動するには、ツールバーの **[最後のドキュメント]** ボタンを選択します。

検証ツールバーのナビゲーションボタンについては、次のスクリーンショットを参照してください。

ドキュメントビューアーのツールバーは、ドキュメントのページ移動に使用するコントロールも備えています。

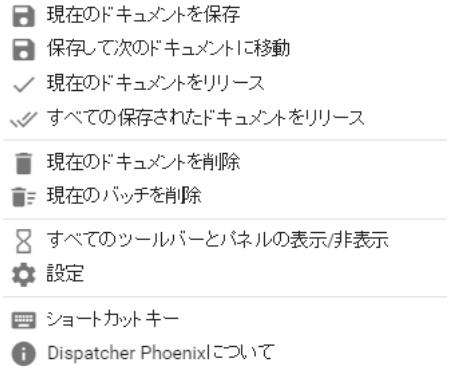
矢印のコントロール を使用すると、選択したドキュメントのさまざまなページに移動できます。表示されるフィールドにページ番号を入力して **Enter** キーを押すことで、ドキュメントの特定のページに移動することもできます。

以下に示すショートカットキーも利用できます。

- **最初のページに移動:** CTRL + ↑
- **前のページに移動:** CTRL + ←
- **次のページに移動:** CTRL + →
- **最後のページに移動:** CTRL + ↓

その他のメニューオプション

ツールバーにある垂直の3つのドットを使用すると、以下に示すその他のメニューオプションにアクセスできます。



- **現在のドキュメントを保存** - 現在のドキュメントの状態を「検証済み」として保存します。

- **保存して次のドキュメントに移動** - 現在のドキュメントの状態を「検証済み」として保存し、キューの次のドキュメントを表示します。
- **現在のドキュメントをリリース** - Verificationキューから現在のドキュメントをリリースします。
- **すべての保存されたドキュメントをリリース** - 保存されたドキュメントをVerificationキューからすべてリリースします。
- **現在のドキュメントを削除** - 現在のドキュメントを削除します。
- **現在のバッチを削除** - 現在のバッチを削除します。
- **すべてのツールバーとパネルの表示/非表示** - [検証]ページの外観を切り替えます。
- **設定** - ツールバーとレイアウトのオプションを指定します。
- **ショートカットキー** - ドキュメントの検証時に使用できるショートカットキーをすべて表示します。
- **Dispatcher Phoenixについて...** - [検証]アプリケーションのバージョン情報を表示します。

ドキュメントビューアー

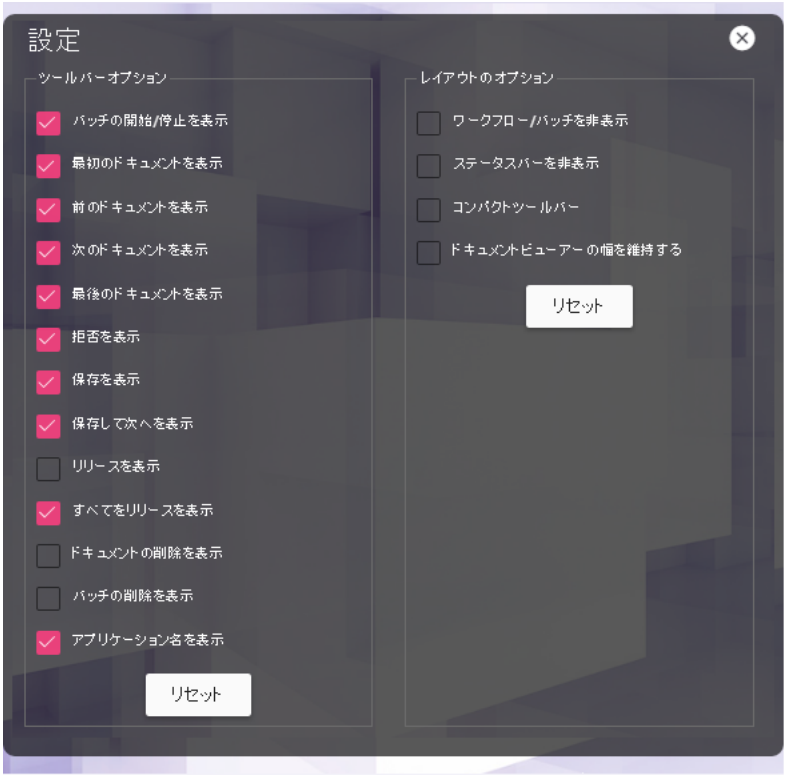
ドキュメントビューアー領域には、検証しているバッチの現在のドキュメントが表示されます。必要に応じてドキュメントビューアーの幅を調整できます。ドキュメントビューアーを新しいブラウザーページに移動し、このページをセカンダリーモニターにドラッグアンドドロップすることもできます。

ドキュメントビューアーは、ナビゲーションとズームコントロールを可能にするツールバーを備えています。

- **矢印のコントロール** - 選択したドキュメントのさまざまなページに移動できます。または、表示されるフィールドにページ番号を入力してEnterキーを押すと、ドキュメントの特定のページに移動できます。
- **ダウンロード** - 現在のドキュメントをダウンロードしてネイティブビューアーで表示します。このオプションは、Dispatcher Phoenixワークフローの検証処理ノードを設定するときに非表示にできます。
- **ズーム100%** - 現在のドキュメントの表示を100%に拡大します。
- **幅に合わせる** - [プレビュー]領域のドキュメントの幅に合わせます。
- **ページ全体を収める** - [プレビュー]領域でドキュメントのページ全体を収めます。
- **虫眼鏡** - [プレビュー]領域のドキュメントを拡大/縮小します。ドキュメントビューアーを新しいブラウザーに移動し、必要に応じてそのブラウザーをセカンダリーモニターにドラッグアンドドロップすることもできます。
- **新しいブラウザーで開く** - 新しいブラウザーページで[プレビュー]領域を表示し、そのページをセカンダリーモニターにドラッグして効率的に表示できます。

設定

ツールバーにある垂直の3つのドットボタンでアクセスする[設定]ポップアップには、ツールバーとレイアウトのオプションリストが表示されます。このオプションを選択して[検証]ページの外観をカスタマイズできます。



表示する各種のボタンや特定のレイアウトオプションを選択したら、**[X]** ボタンをクリックしてポップアップウィンドウを閉じます。または、**[リセット]** ボタンを選択して既定の設定に戻します。

ツールバーのオプション

次のボックスをチェックできます。

- **最初のドキュメントを表示** - [最初のドキュメント]ボタンをツールバーに表示します。
- **前のドキュメントを表示** - [前のドキュメント]ボタンをツールバーに表示します。
- **次のドキュメントを表示** - [次のドキュメント]ボタンをツールバーに表示しす。
- **最後のドキュメントを表示** - [最後のドキュメント]ボタンをツールバーに表示します。
- **拒否を表示** - [拒否]ボタンをツールバーに表示します。
- **保存を表示** - [保存]ボタンをツールバーに表示します。
- **保存して次へを表示** - [保存して移動]ボタンをツールバーに表示します。
- **リリースを表示** - [リリース]ボタンをツールバーに表示します。
- **すべてをリリースを表示** - [すべてをリリース]ボタンをツールバーに表示します。
- **ドキュメントの削除を表示** - [ドキュメントの削除]ボタンをツールバーに表示します。
- **バッチの削除を表示** - [バッチの削除]ボタンをツールバーに表示します。
- **アプリケーション名を表示** - ページの左上に「検証」が表示されます。

レイアウトのオプション

次のボックスをチェックすることで、[検証]ページのレイアウトをカスタマイズすることもできます。

- **ワークフロー/バッチを非表示**- [検証]ページの左側からバッチ/ワークフローのリストを削除します。
- **ステータスバーを非表示** - [検証]ページの下部からステータスバーを削除します。このステータスバーには、ワークフローの名前、選択したバッチの名前、現在表示しているドキュメントとページのほか、ドキュメント名とファイルサイズが表示されます。
- **コンパクトツールバー** - ツールバーの外観を縮小します。
- **ドキュメントビューアーの幅を維持する** - ドキュメントビューアーの幅に加えた変更が保存され、次回、検証アプリケーションでバッチを選択するときも維持されます。

ショートカットキー

ドキュメントを検証するときに、時間の節約となるショートカットキーを利用できます。次のリストを参照してください。

表示/非表示のショートカットキー

- **ヘルプの表示/非表示:** ?またはCTRL + `
- **ツールバーとバッチパネルの表示/非表示:** CTRL + 7
- **画面についての表示/非表示:** CTRL + i
- **設定画面の表示/非表示:** CTRL + o
- **ショートカットキーダイアログを閉じる:** ESC

ナビゲーションのショートカットキー

- **最初のページに移動:** CTRL + ↑
- **前のページに移動:** CTRL + ←
- **次のページに移動:** CTRL + →
- **最後のページに移動:** CTRL + ↓
- **最初のドキュメントに移動:** CTRL + M
- **前のドキュメントに移動:** CTRL + ,
- **次のドキュメントに移動:** CTRL + .
- **バッチの特定のドキュメントに移動:** CTRL + G
- **最後のドキュメントに移動:** CTRL + /

検証のショートカットキー

- **バッチのロック/ロック解除の切り替え:** CTRL + L

- **ドキュメントを拒否する:** CTRL + Delete
- **現在のドキュメントを保存:** CTRL + S
- **保存して次のドキュメントに移動:** CTRL + Enter
- **保存して次の未保存のドキュメントに移動:** CTRL + ↑ + Enter
- **保存してドキュメントをリリース:** CTRL + 9
- **すべての保存されたドキュメントをリリース:** F9

ドキュメントプレビューのショートカットキー

- **100%拡大:** CTRL + 1
- **ページの幅に合わせてサイズ変更:** CTRL + 2
- **ページ全体に合わせてサイズ変更:** CTRL + 3
- **縮小:** CTRL + 4
- **拡大:** CTRL + 5

ドキュメントビューアーのショートカットキー

- **ドキュメントビューアーの切り替え:** F8

レイアウトカスタマイズのショートカットキー

- **ワークフロー/バッチのパネルの切り替え:** F4
- **レイアウトのリセット:** CTRL + 0

Workstation

Workstationの概要

Dispatcher Phoenix Workstationは、あらゆるメーカーの高速TWAINスキャンデバイスをサポートする専用のスキャンステーションです。Workstationの特徴は次のとおりです。

- リアルタイムイメージ表示
- 自動分割
- 次のスキャンイメージの操作:
  - ドラッグ アンド ドロップによるイメージの並べ替え
  - 分割
  - マージ
  - ポイント アンド クリックによる再スキャン
  - その他
- その他の多くの機能

Dispatcher Phoenix Workstationは、Dispatcher Phoenixアプリケーションと完全に統合された総合的なバッチスキャンソリューションを提供します。バッチが受信され、Workstation内で手動で操作されると、自動化されたDispatcher Phoenixワークフローがバッチをさらに処理したり、適切なドキュメント管理システムに保存することができます。

注:

- Konica Minolta HDD TWAINドライバーはサポートされていません。
- Konica Minolta TWAINドライバーの一部はサポートされています。ドキュメントをスキャンすることは可能ですが、ドライバーのUI設定は利用できません。
- 富士通 7160などの高速デスクトップスキャナーを推奨します。

Workstationクイックスタート

以下は、ヘルプの「Workstation」セクションの主要トピックへのリンクを含むリストです。**Workstationのインストール** については、**ここをクリック** します。

ステップ 1: ワークフローを作成して実行する - Workstation入力ノードを含むDispatcher Phoenixワークフローを作成して実行します。

ステップ 2: Workstationを構成する - Dispatcher Phoenixサーバーと通信するようにWorkstationを構成します。

ステップ 3: 新しいバッチを作成する - 既存のバッチを選択するか、スキャンする新しいバッチを作成することを選択します。

ステップ 4: イメージのソースを選択する - Workstationにイメージをインポートする方法を選択します（複合機、スキャナー、フォルダー、ファイルなど）。

ステップ 5: ファイルのインポート - Workstationにファイルをインポートします。

ステップ 6: スキャンしたイメージを操作する - Workstationでスキャンしたイメージとドキュメントを操作します（並べ替え、分割、マージなど）。

ステップ 7: バッチを送信する - バッチをDispatcher Phoenixに送信します。

Workstationのワークフロー

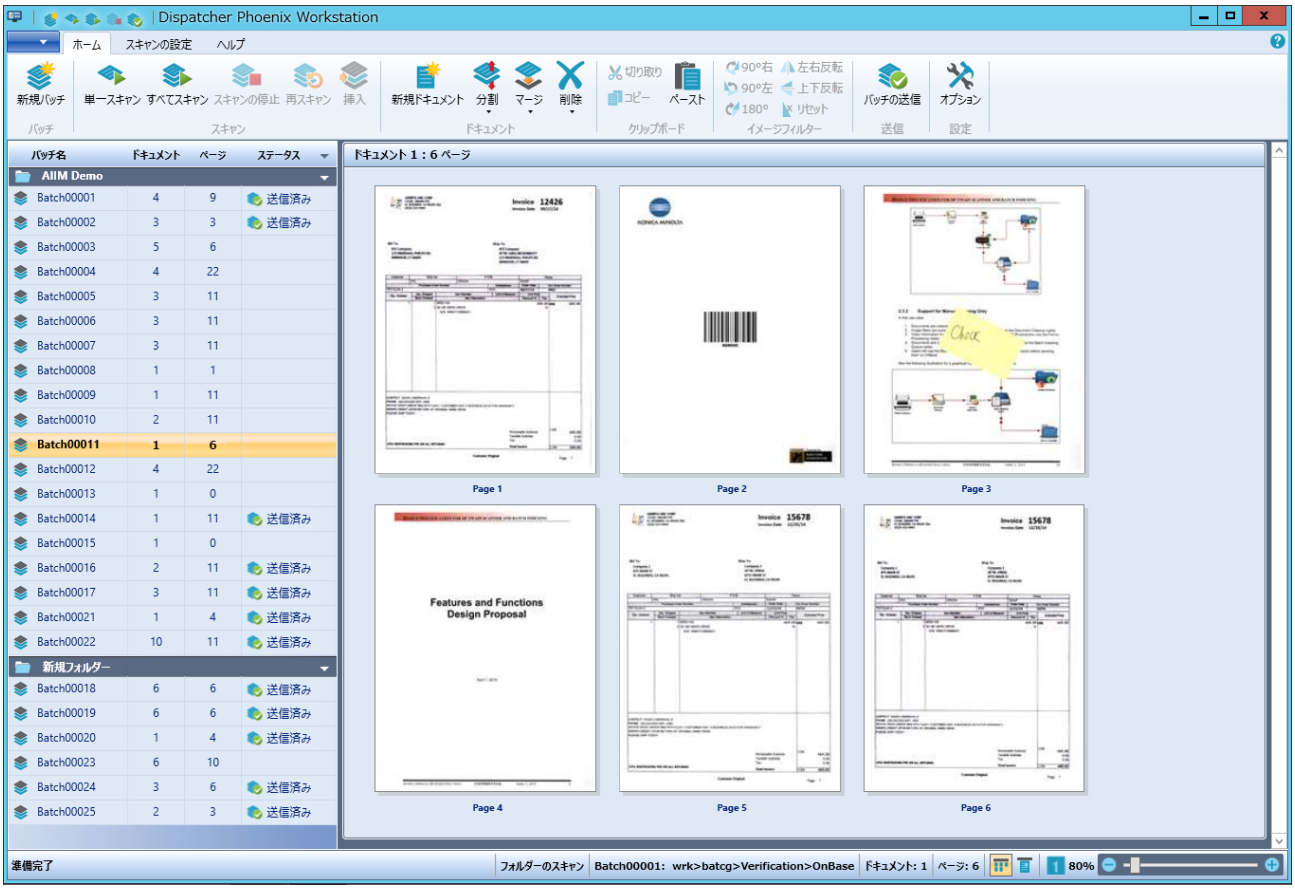
バッチスキャンのワークフローでは、通常以下の処理が行われます。

1. **ドキュメント準備** - スキャンオペレーターがバッチスキャン処理のドキュメントを用意します。
2. **スキャン** - スキャンのため、バッチがスキャナーまたは複合機の自動データフィーダーに配置されます。
3. **品質保証** - バッチの品質が確認されます。必要に応じて、ページまたはドキュメントの操作や再スキャンが行われます。
4. **インデックスまたは分類** - 品質保証を通過した後は、ゾーンOCR、データベース検索により自動的、または手動入力によりインデックス情報をバッチのドキュメントと関連付けることができます。ショートカットキーを使用すると手動でのインデックス処理を短縮できます。
5. **ドキュメント管理ソリューションへの移行** - 確認とインデックス作成が終わると、後日の取得を目的に、バッチをドキュメント管理システムに保管できます。

Dispatcher Phoenix Workstationのメインインターフェイスは、次の領域で構成されています。

- **バッチリスト領域**
- **イメージプレビュー領域**
- スキャンおよびバッチ設定用の **ツールバー** 。

次の図は、メインインターフェイスを示しています。



バッチリスト領域

Workstationの左側にはすべてのバッチがフォルダーで整理されている状態で表示されます。各フォルダーには以下の情報が含まれます。

- フォルダー内のバッチの名前。
- 各バッチのドキュメント数。
- バッチのページ数。
- バッチの状態（ワークフローに送信済みかどうか）

バッチリストメニュー

[バッチリスト]領域の上部にある矢印ボタンを押すと、以下のオプションを持つ別のメニューが表示されます。

- **[新規フォルダー]** - バッチ整理のための新規フォルダーを作成します。フォルダーを挿入する位置として、[バッチリスト]領域の一番上か一番下かを選択できます。
- **[すべて展開]** - 各フォルダーの内容を表示します。
- **[すべて折りたたむ]** - 各フォルダーの内容を非表示にします。

バッチの管理

バッチ名を右クリックすると、以下のオプションを持つコンテキストメニューが表示されます。

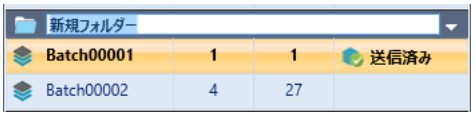
- **[編集...]** - [バッチの更新]ウィンドウでバッチ設定を編集します（機能的には、**新規バッチの作成** ウィンドウと同等）。
- **[移動]** - フォルダー内でバッチを移動します。次のオプションがあります。[一番上へ]、[上へ]、[下へ]、または[一番下へ]。
- **[移動先...]** - バッチを別のフォルダーに移動します。[フォルダーの選択]ウィンドウが表示され、バッチの移動先のフォルダーを選択できます。
- **[削除]** - バッチを削除します。

フォルダー内のバッチは、フォルダー間で **バッチをドラッグアンドドロップ** することで、再配置できます。

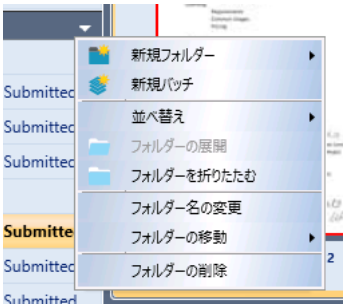
フォルダーの管理

フォルダーの **↓下** 矢印を押すと、以下のメニューオプションが表示されます。

- **[新規フォルダー]** - 新規フォルダーを作成します（バッチリスト内のフォルダーの上か下に配置されます）。
- **[新規バッチ]** - スキャン先としての新しいバッチを作成します。
- **[並べ替え]** - フォルダー内のバッチを名前またはステータスで並べ替えます。
- **[フォルダーの展開]** - フォルダー内のすべてのバッチを表示します。
- **[フォルダーを折りたたむ]** - フォルダー内のすべてのバッチを非表示にします。
- **[フォルダー名の変更]** - フォルダーバーにフォルダーの新しい名前を入力できます。このオプションを選択すると、次の図に示すように、[バッチリスト]領域にあるフォルダーアイコンの横のフィールドに新しい名前を入力できます。



- **[フォルダーの移動]** - フォルダーを[バッチリスト]領域の一番上または一番下に移動するか、フォルダーを上または下に移動します。
- **[フォルダーの削除]** - フォルダーおよびフォルダーに含まれるすべてのバッチを完全に削除します。



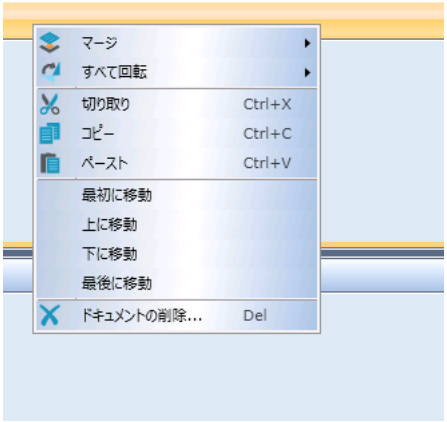
プレビュー領域

[プレビュー]領域では、選択したバッチ内にあるすべてのページまたはドキュメントのサムネイル画像が表示され、以下の機能が利用できます。

- **[再配置]** - サムネイル画像をドラッグアンドドロップしてページの順番を変更したり、別のドキュメントへ再配置したりできます。また、ドキュメントもドラッグアンドドロップで順番を変更できます。
- **[ズーム]** - サムネイル画像をダブルクリックすると拡大します。
- **[コンテキストメニュー]** - サムネイル画像を右クリックして、以下のオプションを選択します。
    - **[分割]** :

        - **[選択したページ]** - 選択したすべてのページを新しいドキュメントに移動します。
        - **[ここから最後まで]** - 選択したページからドキュメント内の最後のページまでをすべて新しいドキュメントに移動します。
        - **[最初からここまで]** - ドキュメントの最初から選択したページまでをすべて新しいドキュメントに移動します。
        - **[各ページ]** - ドキュメント内の各ページをそれぞれ独自のドキュメントに移動します。
    - **[再スキャン]** - 選択したページを再スキャンしたイメージで置き換えます。
    - **[挿入]** - 選択したページの前にスキャンした新しいイメージを挿入します。
    - **[90°右回転]** - 選択したページを右に90°回転します。
    - **[90°左回転]** -選択したページを左に90°回転します。
    - **[180°回転]** -選択したページを180°回転します。
    - **[左右反転]** - 選択したページを左右に反転します。
    - **[上下反転]** - 選択したページを上下に反転します。
    - **[既定値にリセット]** - 選択したページを元の設定にリセットします。
    - **[切り取り]** - 選択したページをクリップボードに切り取ります。
    - **[コピー]** - 選択したページをクリップボードにコピーします。
    - **[ペースト]** - クリップボードからページをペーストします。
    - **[移動先(ドキュメント内)]** - 選択したページをドキュメントの最初か最後、または右か左に再配置します。
    - **[移動先]** - 選択したページを指定したフォルダーに移動します。
    - **[削除]** - 選択したページをドキュメントおよびバッチから削除します。

- **[ドキュメントタイトルバー]** - ドキュメントのタイトルバーを右クリックすると、以下のオプションを持つコンテキストメニューが表示されます。
    - **[マージ]** – 選択したドキュメントまたはすべてのドキュメントをマージします。
    - **[切り取り]** – ドキュメントをクリップボードに移動します。
    - **[コピー]** – ドキュメントをクリップボードにコピーします。
    - **[ペースト]** – クリップボードからドキュメントをペーストします。
    - **[最初に移動]** – 選択したドキュメントをバッチの最初に移動します。
    - **[上に移動]** – 選択したドキュメントを上に移動します。
    - **[下に移動]** – 選択したドキュメントを下に移動します。
    - **[最後に移動]** – 選択したドキュメントをバッチの最後に移動します。
    - **[ドキュメントの削除]** – 選択したドキュメントを削除します。



その他のコントロール

Dispatcher Phoenix Workstationウィンドウの下部には、以下のようなその他のコントロールや表示があります。

- Dispatcher Phoenix Workstationのステータス([準備完了]、[ページの処理中]、[スキャナーソースを選択]、または[スキャン中])。
- 選択したスキャナーソース。
- 選択したバッチの名前。
- 選択したバッチ内のドキュメント数。
- ドキュメント内のページ数。
- 選択したドキュメントをサムネイル表示と全ページ表示とで切り替えるオプション。
- 拡大表示を行うためのズームコントロール。100%表示に戻すには、[1]のアイコンを選択。

ツールバー

ツールバーでは、スキャナー設定やその他のWorkstation操作が行えます。

ホーム ツールバー

[ホーム]ツールバーは、以下のオプションでWorkstationを起動すると表示されます。

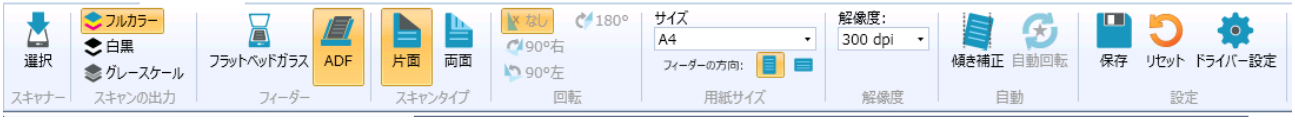
- **[新規バッチ]** - 新しいバッチを作成します。
- **[単一スキャン]** - バッチ内の選択したドキュメントに、スキャンした単一のページを取り込みます。特定のページ数ごとにドキュメント分割を行うようにバッチが設定されている場合には、スキャンしたイメージは自動的に新しいドキュメントに追加されることがあります。
- **[すべてスキャン]** - バッチ内の選択したドキュメントに、スキャンしたすべてのページを取り込みます。
- **[スキャンの停止]** - スキャンのインポート処理を停止します。
- **[再スキャン]** - スキャン処理を開始して、選択したページを再スキャンしたイメージで置き換えます。
- **[挿入]** - スキャン処理を開始して、選択したページの前にスキャンしたイメージを挿入します。
- **[新規ドキュメント]** - スキャン先としての新しいドキュメントを作成します。
- **[分割]** - 以下のいずれかの分割を行います。
    - ドキュメントの選択したページ。
    - 選択したページからドキュメントの最後まで。
    - 最初のページから選択したページまで。
    - ドキュメントの各ページごと。
- **[マージ]** - 以下のいずれかのマージを行います。
    - 選択したドキュメント。

- 選択したドキュメントとその前のドキュメント。
- 選択したドキュメントとその次のドキュメント。
- 選択したドキュメントからバッチの最後のドキュメントまで。
- バッチの最初のドキュメントから選択したドキュメントまで。
- すべてのドキュメント。

- **[削除]** - 以下のいずれかの削除を行います。
  - ドキュメントの選択したページ。
  - 選択したページからドキュメントの最後まで。
  - ドキュメントの最初のページから選択したページまで。
  - 選択したドキュメント。
  - すべてのドキュメント。
- **[切り取り]** - 選択したページをクリップボードに切り取ります。
- **[コピー]** - 選択したページをクリップボードにコピーします。
- **[ペースト]** - クリップボードからページをペーストします。
- **[90°右回転]** - 選択したページを右に90°回転します。
- **[90°左回転]** -選択したページを左に90°回転します。
- **[180°回転]** -選択したページを180°回転します。
- **[左右反転]** - 選択したページを左右に反転します。
- **[上下反転]** - 選択したページを上下に反転します。
- **[リセット]** - 選択したページを元の位置と外観に戻します。
- **[バッチの送信]** - Dispatcher Phoenixワークフローにバッチを送信します。
- **[オプション]** - Dispatcher Phoenixクライアントアプリケーションと通信するようにWorkstationを構成したり、その他の設定を指定したりします。

スキャン設定 ツールバー

[スキャン設定]ツールバーを使用して、ドキュメントのインポートソースやスキャナーの設定を指定します。

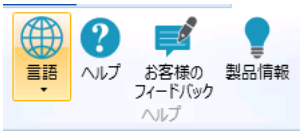


- **[選択]** - スキャンイメージのインポートソースを選択します。ソースを選択ウィンドウが開きます。ここでは、接続が検出されたすべてのスキャナーが表示され、イメージのインポート元となるフォルダーの選択や、イメージの個別のインポートを選択できます。
- **[フルカラー]** - イメージをカラーでスキャンします。
- **[白黒]** - イメージを白黒でスキャンします。
- **[グレースケール]** - イメージをグレースケールでスキャンします。
- **[フラットベッドガラス]** - フラットベッドスキャナーのガラスからイメージをスキャンします。
- **[ADF]** - スキャナーまたは複合機の自動ドキュメントフィーダー（ADF）からイメージをスキャンします。
- **[片面]** - 片面のイメージをスキャンします。
- **[両面]** - 両面のイメージをスキャンします。
- **[なし]** - Workstationに取り込むドキュメントに回転を適用しません。
- **[90°右]** - Workstationに取り込むドキュメントを90°右に回転します。
- **[90°左]** - Workstationに取り込むドキュメントを90°左に回転します。
- **[180°]** - Workstationに取り込むドキュメントを180°回転します。
- **[左右反転]** - Workstationにインポートするスキャンイメージを左右反転します。
- **[上下反転]** - Workstationにインポートするスキャンイメージを上下反転します。
- **[サイズ]** - Workstationに取り込むドキュメントの用紙サイズを選択します。
- **[フィーダーの方向]アイコン** - ドキュメントの方向を選択します（長辺/縦向き、または短辺/横向き）。
- **[傾き補正]** - Workstationにインポートするドキュメントの傾き補正を自動的に行います。
- **[自動回転]** - Workstationにインポートするドキュメントを自動的に回転します。

- **[保存]** - 後続のバッチ用にスキャン設定を保存します。
- **[リセット]** - スキャン設定を元の既定値に戻します。
- **[ドライバー設定]** - スキャナーに対する追加のスキャン設定を参照および指定します。

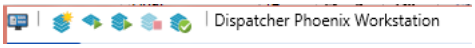
ヘルプ ツールバー

[ヘルプ]ツールバーには、Workstationの表示言語の切り替え、ヘルプ情報の表示、およびバージョン情報の表示を行うためのボタンが提供されています。



- **[言語]** - Workstationで表示する言語を選択します。
- **[ヘルプ]** - Workstationのオンラインヘルプにアクセスします。
- **[お客様のフィードバック]** - アプリケーションに関するコメントを送信するカスタマーフィードバックエージェントを起動します。
- **[製品情報]** - バージョン情報や著作権情報を表示します。

クイックアクセス ツールバー



[クイックアクセス]ツールバーには、選択しているタブに関係なく、常に表示される一連のコマンドが含まれます。

- **[Dispatcher Phoenix Workstation]ボタン** - Dispatcher Phoenix Workstationの復元、移動、サイズ変更、最小化、最大化、および終了を行います。
- **[新規バッチ]** - [新規バッチの作成]ウィンドウを使用して新しいバッチを作成します。
- **[単一スキャン]** - Dispatcher Phoenix Workstationに単一のページを取り込みます。
- **[すべてスキャン]** - Dispatcher Phoenix Workstationにすべてのページを取り込みます。
- **[スキャンの停止]** - すべてのページの取り込みを完了する前にスキャン処理を停止します。
- **[バッチの送信]** - Dispatcher Phoenixにバッチを送信してさらに処理します。ワークフローをバッチに関連付けていなかった場合、バッチを送信するワークフローを選択する必要があります。

Workstationメタデータ

以下のスキャンデータは、メタデータとしてWorkstationから出力することができます。

- workstation:address - Dispatcher Phoenix bEST serverのURL。
- workstation:batch.documents - バッチの総ドキュメント数。
- workstation:batch.group - バッチが置かれているWorkstationフォルダーの名前。
- workstation:batch.name - バッチの名前。
- workstation:batch.pages - バッチ内の総ページ数。
- workstation:document.id - バッチ内のドキュメントに関連付けられている番号。
- workstation:document.name - バッチ内のドキュメントの名前（命名規則は、Workstation入力ノードの[名前付け形式]フィールド、またはWorkstationの[新規作成]ウィンドウおよび[バッチの更新]ウィンドウで定義されています ）。
- workstation:document.pages - ドキュメントの総ページ数。
- workstation:document.size - ドキュメントのサイズ（バイト）。
- workstation:id - Workstationの一意の識別子。
- workstation:name - Dispatcher Phoenix Workstationが実行されているPCの名前。
- workstation:user - 現在ログイン中のWindowsユーザーの名前、またはWorkstationの[オプション]ウィンドウで指定されている他のWindowsユーザーの名前。

スキャナーメタデータ

スキャナーをインポートソースとして使用する場合、以下のメタデータが作成されます。

- workstation:scan.output - スキャンの出力（カラー、白黒、またはグレースケール）
- workstation:scan.papersize - スキャン対象の用紙のサイズ。
- workstation:scan.resolution - Dispatcher Phoenix Workstationに取り込む際に使用される解像度。
- workstation:scan.source - Dispatcher Phoenix Workstationにイメージをインポートする際に使用されるスキャナーの名前。

- workstation:scan.type - スキャンタイプ(片面または両面)。

バッチレベルフィールドメタデータ

バッチレベルフィールドメタデータは、以下の形式に従います。

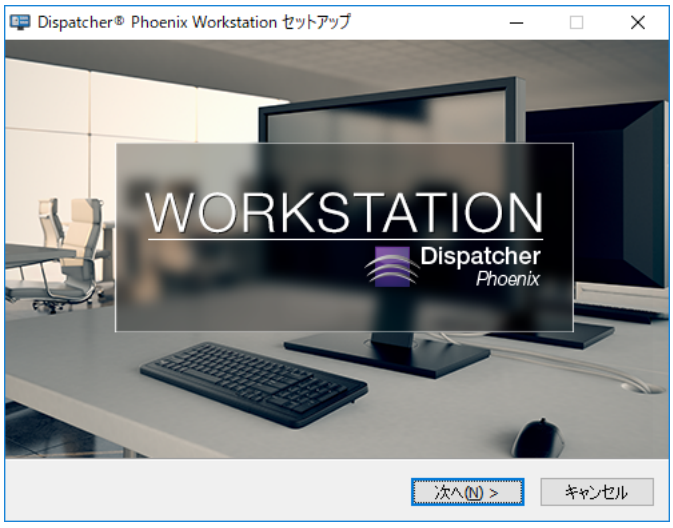
{workstation:batch.fields.variable name}

Workstationのインストールと要件

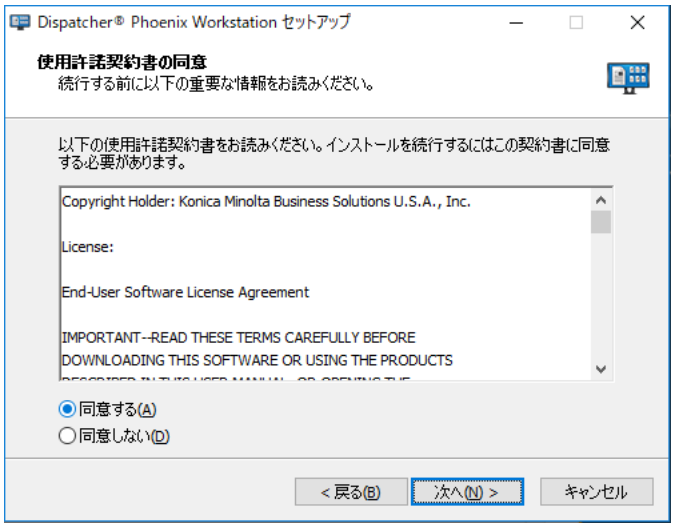
Dispatch Phoenixワークフローで使用する **Dispatcher Phoenix Workstation** をダウンロードしてインストールするには、次の手順を実行します。

1. **SEC Webサイト** にアクセスしてログインします。製品をダウンロードするにはログインする必要があります。SEC Webサイトは、製品のダウンロードと登録に関する情報を提供します。
2. メニューバーから **[Products(製品)]** をクリックします。[Product Catalog(製品カタログ)]ページが表示されます。
3. ページを下にスクロールして、**Dispatcher Phoenix Workstation** を見つけます。**[Download(ダウンロード)]** リンクをクリックします。
4. ダウンロードが完了したら、**Dispatcher-Phoenix-Workstation-Setup.exe** ファイルをクリックし、指示に従ってDispatcher Phoenix Workstationをインストールします。
5. 警告メッセージが表示された場合は、それらをバイパスしてインストールを続行してください。次の警告メッセージが表示された場合は、**[詳細情報]** をクリックし、表示された画面で **[実行]** をクリックします。

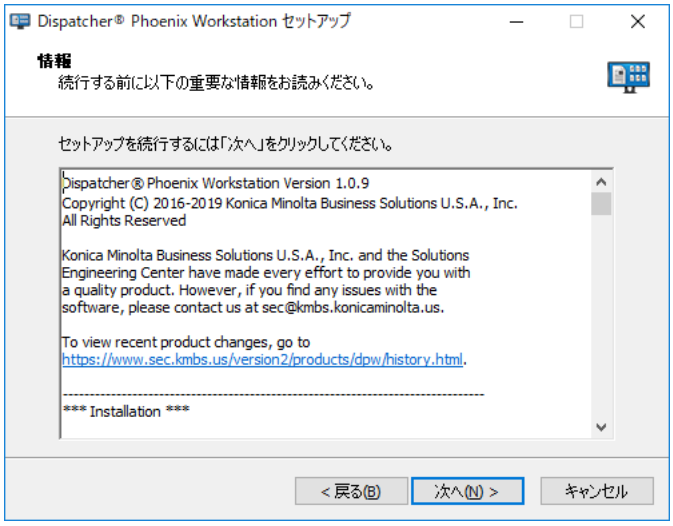
6. **[次へ]** をクリックして続行します。



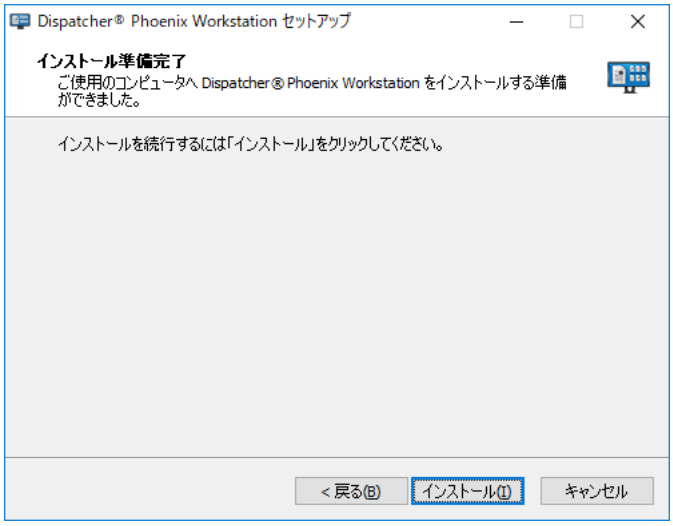
7. 使用許諾契約に同意し、**【次へ】**をクリックします。



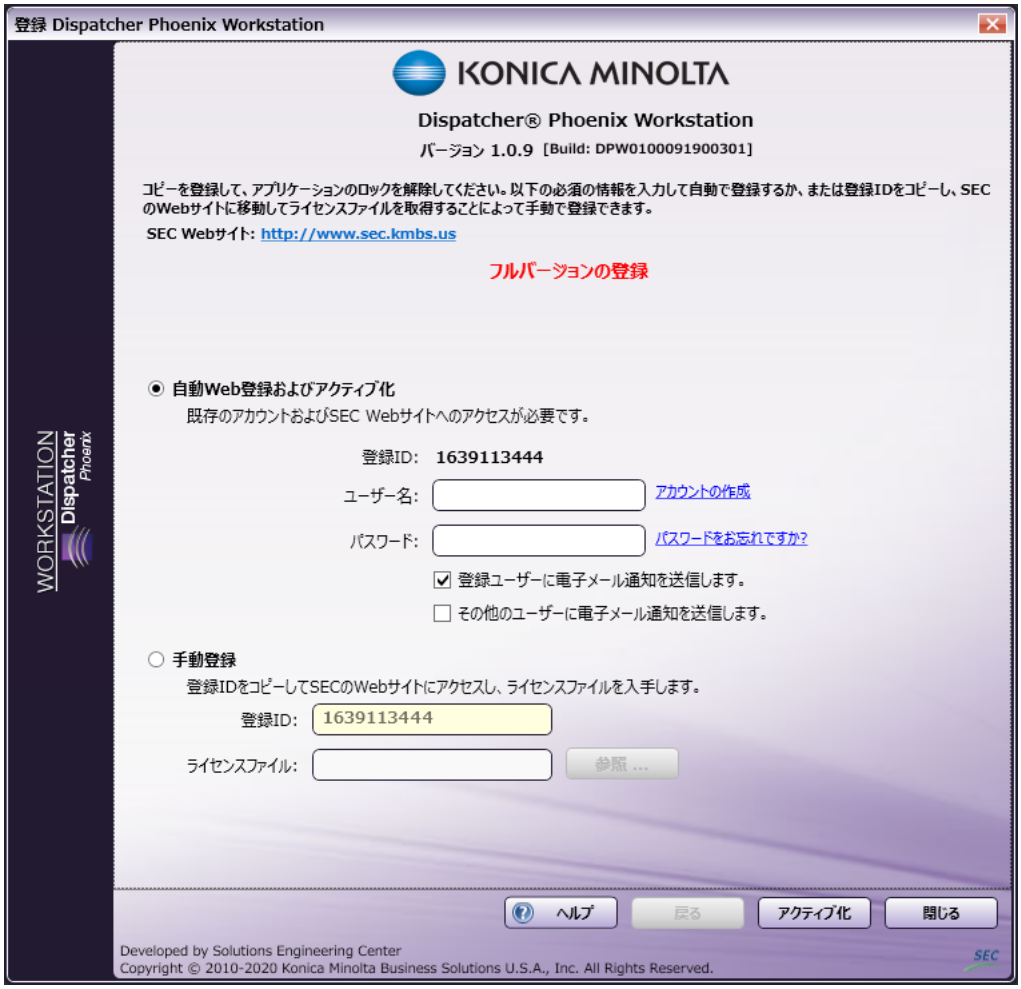
8. **【情報】**画面で情報を読み、**【次へ】**をクリックします。



9. インストールを続行する準備ができたら、**【インストール】**ボタンをクリックします。

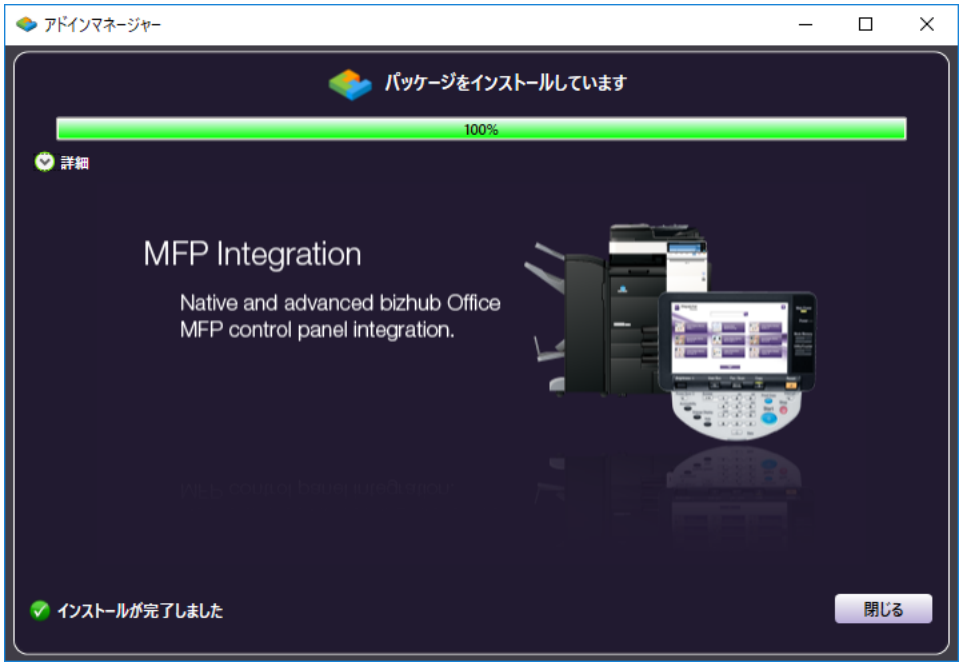


10. 最後に、Workstationを登録します。



SEC Webサイト には、Dispatcher Phoenix製品の登録に関する情報があります。

11. インストールが完了すると、アドインマネージャーに完了メッセージが表示されます。**[閉じる]** ボタンをクリックして、インストールを終了します。



Workstationの要件

Dispatcher Phoenix Workstationを使用するには、以下が必要です。

- Workstationは、Dispatcher Phoenixサーバーと同じドメイン上になければなりません。
- **Workstation入力ノード** を備えたDispatcher Phoenix ワークフローが実行されている必要があります。**Workstation入力ノード** は、ワークステーションからスキャンされたすべてのジョブを受け入れます。
- Dispatcher Phoenixアプリケーションが開いているか、ワークフローがサービスとして実行されている必要があります。
- 適切なTWAINドライバーをWorkstationのシステムにインストールする必要があります。

Workstationクイックスタート

Dispatcher Phoenix Workstationを使用するには以下の手順を実行します。各手順の詳細情報を参照するにはリンクをクリックしてください。

手順1：ワークフローを作成して実行します。 Workstation収集ノードを含むDispatcher Phoenixワークフローを作成して実行します。

手順2：Workstationを構成します。 Dispatcher Phoenixサーバーと通信するようにWorkstationを構成します。

手順3：新規バッチを作成します。 取り込み先として既存のバッチを選択するか、新規バッチを作成します。

手順4：イメージのソースを選択します。 Workstationにイメージをインポートする方法を選択します（複合機、スキャナー、フォルダー、ファイルなど）。

手順5：ファイルをインポートします。 Workstationにファイルをインポートします。

手順6：スキャンしたイメージを操作します。 スキャンしたイメージとドキュメントをWorkstationで操作します（再配置、分割、マージなど）。

手順7：バッチを送信します。 Dispatcher Phoenixにバッチを送信します。

Workstationワークフローの作成

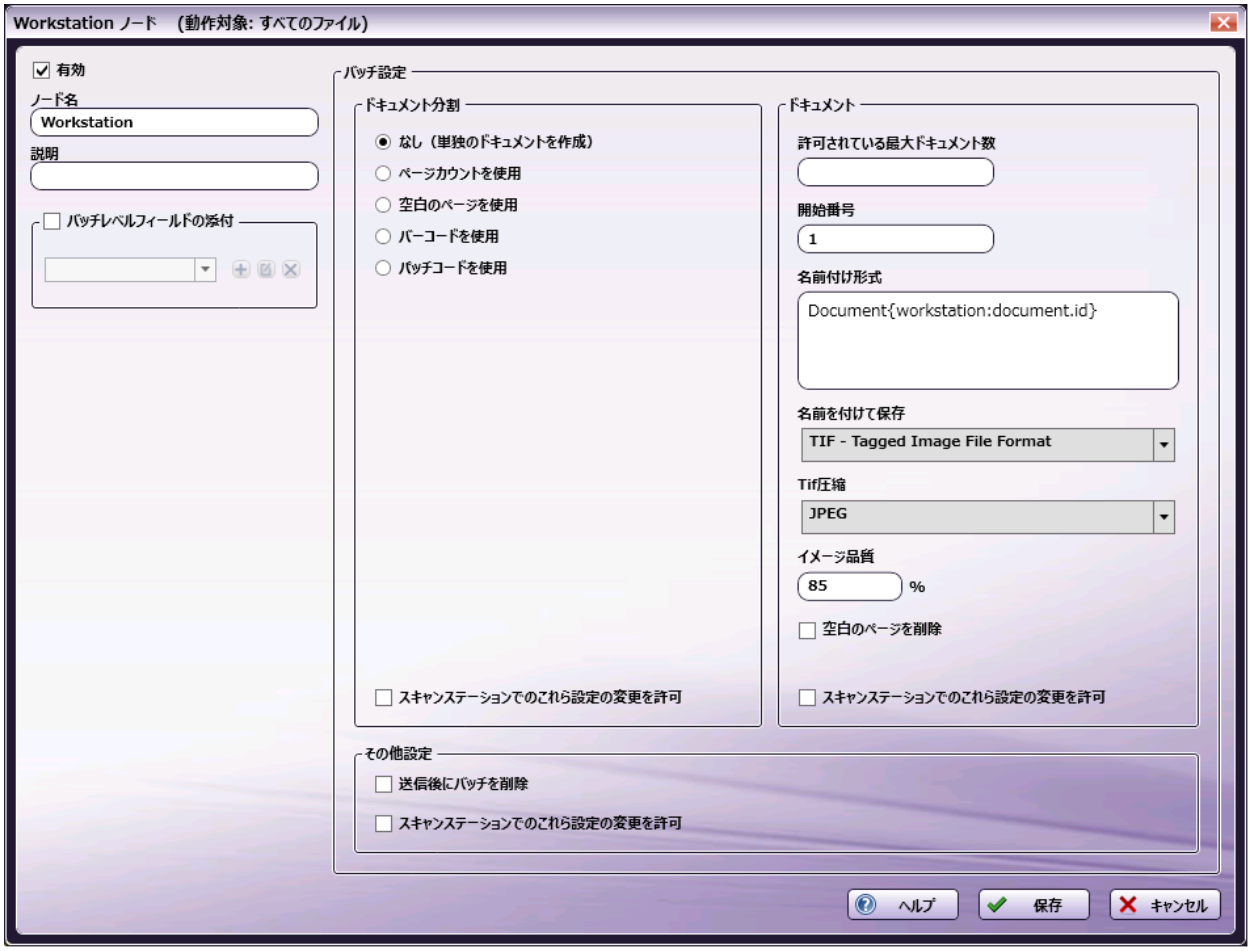
Workstationを使用するには、最初にそのWorkstationノードを含む1つ以上のワークフローが実行中でなければなりません。

Workstationノード

WorkstationノードはDispatcher Phoenix Workstationから送信されたファイルを収集します。Workstation収集ノードを構成するには、以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenixアプリケーション内に新規ワークフローを作成します。
2. ワークフロービルダーツールの作業領域にWorkstation収集ノードをドラッグアンドドロップします。
3. **[Workstation]** アイコンをダブルクリックして、Workstationノードのプロパティウィンドウを開きます。[Workstation]アイコンは、次の図のように表示されます。

4. 次の図に示すように、Workstationノードのプロパティウィンドウが表示されます。



5. すべてのDispatcher Phoenixノードは、以下に示す共通のコントロールを備えています。
    - **[有効]** ボックス - ノードが実行されるようにこのボックスをチェックします。
    - **[ノード名]** フィールド - Workstationノードのわかりやすい名前をこのフィールドに入力します。
    - **[説明]** フィールド - Workstationノードの説明をこのフィールドに入力します。これは必須フィールドではありませんが複数の収集ノードがある場合に役立ちます。説明が長い場合はフィールドにマウスを合わせるとすべての内容を表示できます。
6. このウィンドウでは、バッチ設定、ドキュメント命名規則、バッチレベルフィールド（必要な場合）などの設定を構成します。詳細については、以下のセクションを参照してください。
7. ノードの構成を完了したら、**[保存]** ボタンを選択してWorkstationの設定を保持します。**[ヘルプ]** ボタンを選択してヘルプを利用することもできます。さらに、**[キャンセル]** ボタンを選択して、変更を保存しないでウィンドウを終了することもできます。

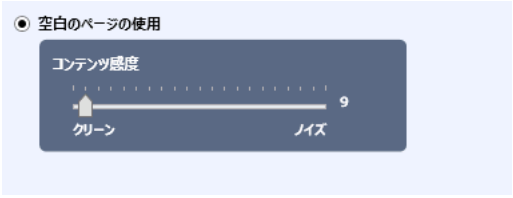
ドキュメント分割

Workstationへのインポート時にバッチをどのように自動分割するかを指定できます。この設定はWorkstationで構成することもできます。この設定をWorkstationで変更できるようにするには、**[スキャンステーションでのこれらの設定の変更を許可]** ボックスをチェックする必要があります。

Dispatcher Phoenixでは、Workstationにインポートしたバッチ内のドキュメントを分割する、以下の複数のオプションを利用できます。

- **[なし]** – バッチは個別のドキュメントに分割されません。Workstationへのインポート/取り込み時、スキャンされたすべてのページは1つのドキュメントに追加されます。
- **[ページ数の使用]** – 固定ページ数に基づいて、バッチを個別のドキュメントに分割します。このラジオボタンを選択すると、値を指定できるフィールドが下部に表示されます。例については、次の図を参照してください。

- **[空白のページの使用]** – 空白ページの検出に基づいて、バッチを個別のドキュメントに分割します。このラジオボタンを選択すると、**[コンテンツ感度]** スライドバーが下部に表示されます。このスライドバーにより、ページが空白かどうかの判断に使用するしきい値を調整できます（空白ページの小さなマークやその他の「ノイズ」を許容するかどうかなど）。例については、次の図を参照してください。

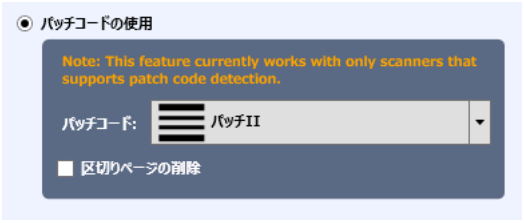


- **[バーコードの使用]** – 検出されたバーコードに基づいて、バッチを個別のドキュメントに分割します。次のバーコードの検出がサポートされています。***Aztec***、***Codabar***、***Code 128***、***Code 39***、***Code 93***、***データマトリクス***、***EAN 8***、***EAN 13***、***インターリーブ2of5***、***Maxi Code***、***QRコード***、***UPCA***、***UPCE***、および***PDF 417***。このラジオボタンを選択すると、以下の操作を実行できる追加フィールドが下部に表示されます。
  - **[バーコード]** ドロップダウンリストを使用してバーコードタイプを選択します。
  - **[条件]** ドロップダウンリストを使用してバーコードの条件付きルールを指定します。このルールには、「次の値である」、「次の値を含む」、「存在する」、「値の変更時」、「正規表現」などがあります。
  - **[値]** フィールドを使用してバーコードルールの値を入力します。
  - [値]フィールドに入力した値の大文字と小文字を区別するには、**[大文字と小文字を区別]** ボックスをチェックします。
  - ドキュメント分割処理の一環としてバーコード区切りページを削除するには、**[区切りページの削除]** ボックスをチェックします。

例については、次の図を参照してください:

- **[パッチコードの使用]** – 検出されたパッチコードに基づいて、バッチを個別のドキュメントに分割します。注:現在、この機能はスキャナーでのみ利用できます。このラジオボタンを選択すると、以下の操作を実行できる追加フィールドが表示されます。
  - 検出するパッチコードを **[パッチコード]** ドロップダウンリストで選択します。
  - ドキュメント分割処理の一環としてパッチコード区切りページを削除するには、**[区切りページの削除]** ボックスをチェックします。

例については、次の図を参照してください:



- これらの設定をDispatcher Phoenix Workstationで変更できるようにするには、**[スキャンステーションでのこれらの設定の変更を許可]** ボックスをチェックします。

ドキュメントの設定

[ドキュメントの設定]領域には、ドキュメントをどのように命名してWorkstation内に保存するかを指定するオプションが表示されます。次の設定を利用できます。

- **[使用できる最大ドキュメント数]** - バッチに含めることができる最大ドキュメント数を入力します。
- **[開始番号]** - バッチの最初のドキュメントに付ける開始番号(1から1,000,000,000の範囲)を入力します。既定では、バッチの最初のドキュメント番号は1です。バッチの最初のドキュメントを作成すると、後続の新規ドキュメントには、前のドキュメント番号に続く番号が割り当てられます。
- **[名前付け形式]** - バッチ内のドキュメントをどのように命名するかを選択します。既定では、“Document"という単語とそのドキュメント番号で構成されます(例:Document1、Document2、Document3)。この名前は、Workstationのメタデータに基づいて作成されます({workstation:document.id})。
- **[名前を付けて保存]** - ドキュメントの形式を選択します(TIFまたはPDF)。TIFを選択する場合は、使用するTIF圧縮のタイプを **[Tif圧縮]** ドロップダウンリストで選択することもできます。次のオプションがあります。
  - LZW
  - JPEG
  - CCITT Fax3

- CCITT Fax4

- **[イメージ品質]** – イメージの品質を制御します。[イメージ品質] の設定を高めると、より多くのディテールが最適化されたイメージに保存されますが、ファイルサイズは大きくなります。
- **[空白のページを削除]** - バッチのインポート処理時に検出された空白ページを削除します。
- **[スキャンステーションでのこれらの設定の変更を許可]** - これらの設定をDispatcher Phoenix Workstationで変更します。

その他の設定

- **[送信後にバッチを削除]** - Workstationからバッチを送信したら、そのバッチを自動的に削除します。
- **[スキャンステーションでのこれらの設定の変更を許可]** - この設定をDispatcher Phoenix Workstationで変更します。

その他のノード

Workstation収集ノードは、Dispatcher Phoenix Webでのバッチインデックスや検証に向けてファイルを経路指定するために、**[バッチインデックス]** ノードや **[検証]** ノードと共に使用されることがよくあります。

バッチレベルフィールド

バッチのすべてのドキュメントに追加のメタデータを関連付ける必要がある場合は、バッチレベルフィールドを作成できます。これらのフィールドは、Workstationからバッチを送信するときに入力されている必要があります。これらのバッチレベルフィールドは、Workstationノードに属するインデックスフォームの一部でなければなりません。この特殊なインデックスフォームを作成する唯一の方法は、Workstationノードの内部から作成することです。

バッチレベルフィールドを備えたインデックスフォームを作成するには、以下の操作を行います。

1. **[Workstation]ノード** 内で作業していることを確認します。
2. **[バッチレベルフィールドの添付]** ボックスをチェックします。
3. **[+]** ボタンを選択して、**[空白のインデックスフォーム]** の作成を選択します。
4. **テキストフィールド/ドロップダウンリスト**をドラッグアンドドロップしてインデックスフォームを作成します。

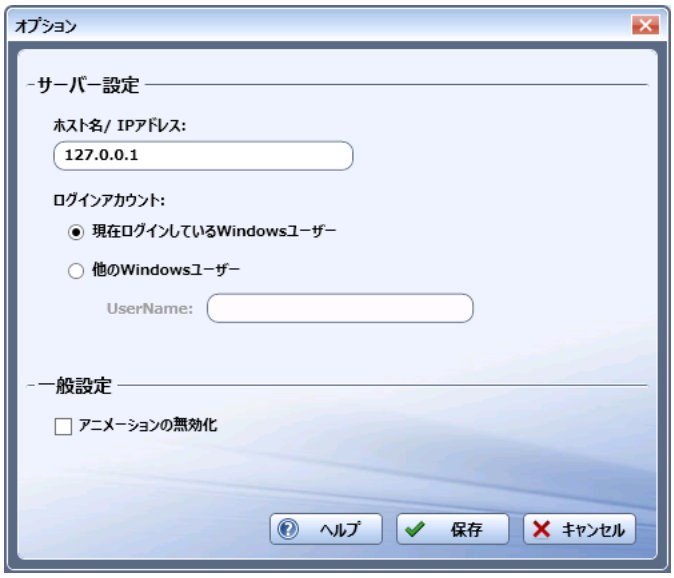
Workstationの構成

Dispatcher Phoenix Workstationの[オプション]ウィンドウを使用して、WorkstationがDispatcher Phoenixサーバーと通信するように構成する必要があります。

##[オプション]ウィンドウ

[オプション]ウィンドウを使用すると、Dispatcher Phoenixサーバーに関する設定とWorkstationの一般設定を指定できます。[オプション]ウィンドウにアクセスするには、以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenix Workstationを起動します。
2. **[ホーム]** タブのツールバーから **[オプション]** ボタンを選択します。次の図のように、[オプション]ウィンドウが表示されます。



3. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

サーバー設定

[オプション]ウィンドウでは、次のサーバー設定を構成する必要があります。

- **[ホスト名/ IPアドレス]** - Dispatcher Phoenixサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。
- **[ログインアカウント]** - Dispatcher Phoenix Workstationのログイン方法を選択します。次のオプションがあります。**[現在ログインしているWindowsユーザー]** または **[他のWindowsユーザー]**

一般設定

[オプション]ウィンドウでは次の一般設定を構成できます。

- **[アニメーションの無効化]** - インポート時および遷移時に[Workstation]ページで使用するアニメーションを無効化します。

新規バッチの作成

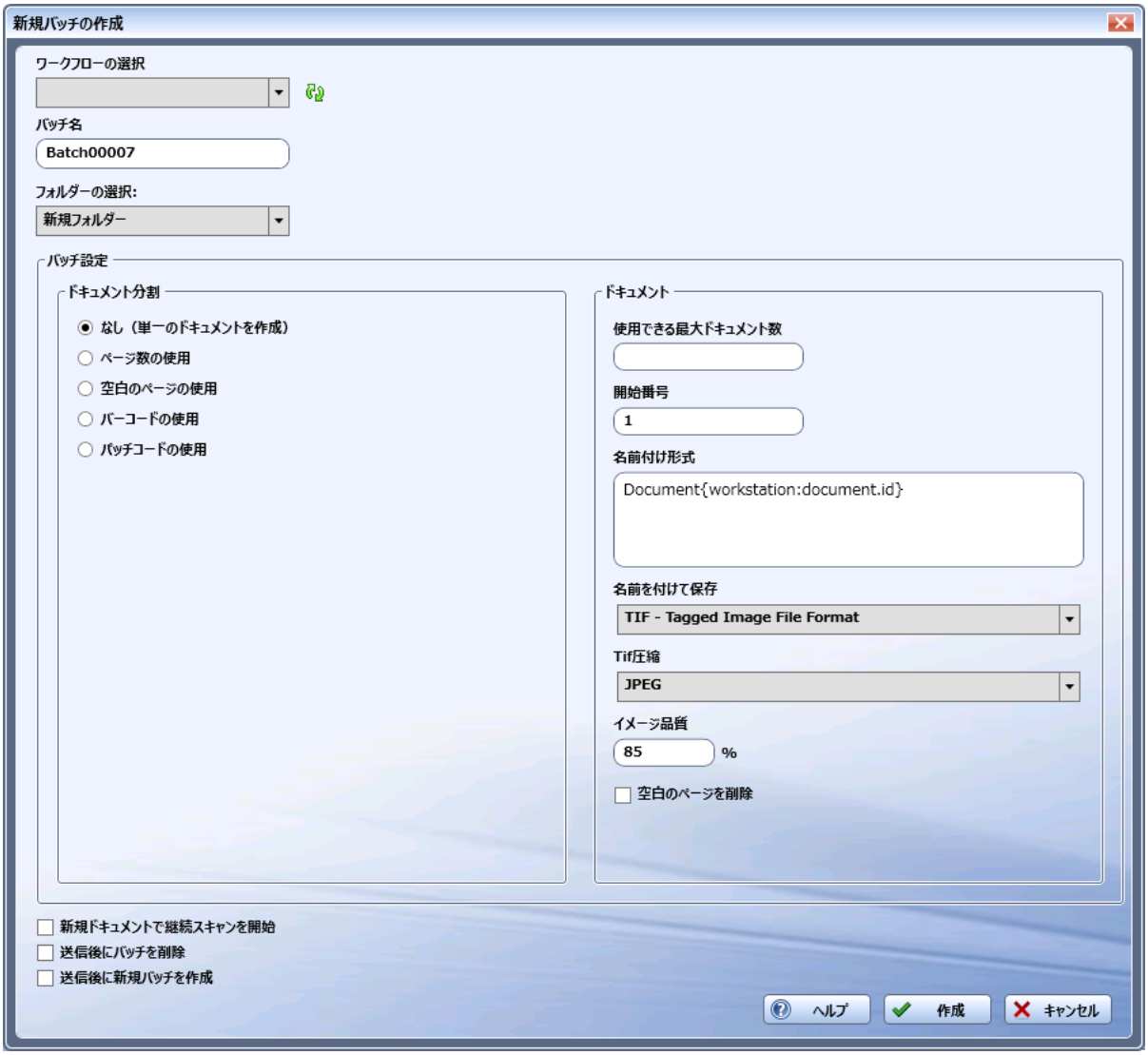
Workstationへのドキュメントのインポートを開始するには、取り込み先として新規バッチを作成するか、既存のバッチを[バッチリスト]領域から選択します。

重要！

- Workstationノードを含むワークフローを最初に実行する必要があります。
- Workstationの接続先のホスト名/IPアドレス（オプション ウィンドウで指定）を正しく設定しておく必要があります。

新規バッチウィンドウ

新規バッチを作成するには、**[ホーム]** タブのツールバーから **[新規バッチ]** ボタンを選択します。次の図のように、[新規バッチの作成]ウィンドウが表示されます。

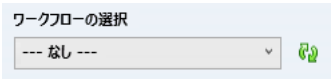


注: 既存のバッチを編集するときは、[バッチの更新]ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、[新規バッチの作成]ウィンドウと同じフィールドおよびオプションが表示されます。

以下のセクションでは、新規バッチ設定時の構成に利用するさまざまなオプションについて説明します。新規バッチの構成を完了したら、**[作成]** ボタンを選択します。

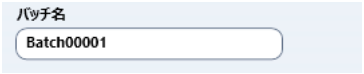
ワークフローの選択

バッチの作成時に、Dispatcher Phoenixワークフローにバッチを関連付けることもできます。**[ワークフローの選択]** ドロップダウンリストには、現在実行している **Dispatcher Phoenix Workstation** のワークフローがすべて表示されます。このドロップダウンリストの横にある **[最新の情報に更新]** アイコンをクリックすると、ワークフローのリストを更新できます。ワークフローを選択してバッチを送信すると、バッチのドキュメントがそのワークフローに送られます。



バッチ名

既定では、最初のバッチには「Batch00001」という名前が付き、後続のバッチには連続番号が振られます。バッチの名前は必要に応じて変更できます。後続のバッチに自動的に番号を振る必要がない場合は、数字を含まないバッチ名を入力します。



フォルダーの選択

フォルダーでバッチを整理することもできます。「新規フォルダー」は、最初にWorkstationを開始するときに作成される既定のフォルダーです。このドロップダウンリストには、現在利用できる既存のフォルダーがすべて表示されます。**[新規フォルダーの作成]** オプションを選択して、新規フォルダーを作成することもできます。新規フォルダーの作成時には、**[新規フォルダー]** 入力フィールドが表示されます。このフィールドには、自動的に作成される新規フォルダーの名前を入力できます。例については、次の図を参照してください。

バッチ設定

このバッチの ワークフローを選択しなかった場合や、選択したワークフローがWorkstationで編集可能な場合は、ドキュメントの分割、名前付け、および形式のオプションをバッチに対して指定できます。詳細については、**ワークフローの作成** を参照してください。

継続スキャン

Dispatcher Phoenixでは、バッチに取り込むときに各種のオプションを利用できます。自動ドキュメントフィーダーのページ制限に起因するなど、複数回にわたってスキャンを開始する必要がある場合に、後続のすべてのスキャンを新規ドキュメントに配置するときは、**[新規ドキュメントで継続スキャンを開始]** ボックスをチェックします。

このボックスを無効のままにすると、新たにスキャンしたページは自動的にバッチの最後のドキュメントに追加されます。

送信後にバッチを削除

既定では、Dispatcher Phoenixワークフローに送信したバッチはDispatcher Phoenix Workstationに残ります。ただし、**[送信後にバッチを削除]** ボックスをチェックすると、送信したバッチを自動的に削除することもできます。

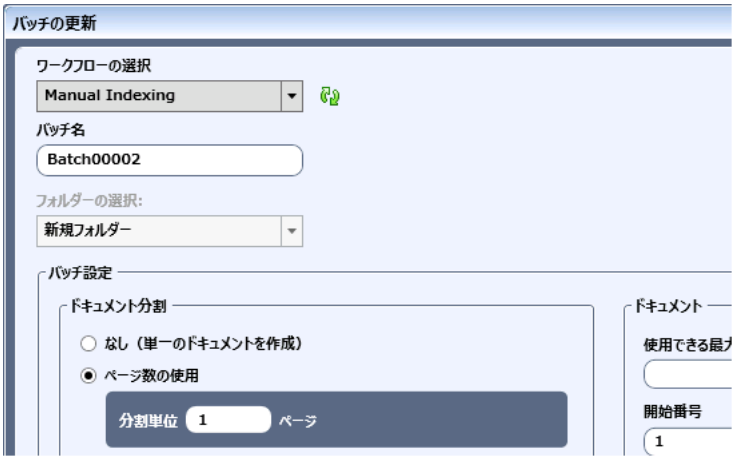
送信後に新規バッチを作成

既定では、Dispatcher Phoenixワークフローへのバッチの送信後、新規バッチは作成されません。ただし、スキャン処理の時間を短縮するために、バッチの送信後に新規バッチを作成することもできます。その場合は、**[送信後に新規バッチを作成]** ボックスをチェックします。

自動的に作成される新規バッチは、バッチフォルダー領域の送信されたバッチの下に表示されます。

バッチレベルのインデックス情報の入力

送信時にバッチレベルのインデックス情報を入力しなくても済むように、バッチの作成/編集時にバッチレベルのフィールドに情報を事前入力できます。この操作は、**[バッチレベルフィールド]** ボタンが表示される[バッチの作成]または[バッチの更新]ウィンドウで実行できます。次の図を参照してください。

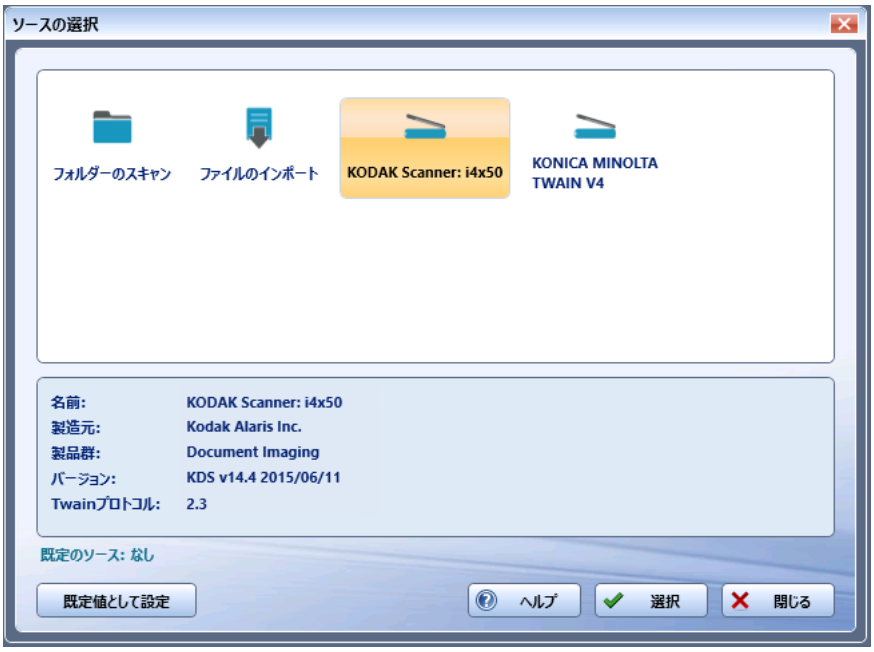


ドキュメントをインポートするソースの選択

Dispatcher Phoenix Workstationは、Twainベースのスキャンデバイスからの送信をサポートしています。こうしたデバイスには、複合機、デスクトップスキャナー、高速のプロダクション印刷デバイスなどがあります。フォルダーやイメージをコンピューターからインポートすることもできます。

[ソースの選択]ウィンドウ

ドキュメントをインポートするソースを選択するには、[スキャンの設定]のツールバーから **[選択]** ボタンをクリックします。[ソースの選択]ウィンドウが表示されます。接続されているスキャナーまたは複合機がDispatcher Phoenix Workstationによって自動的に検出され、このウィンドウに表示されます。たとえば、次の図ではKodakスキャナーが自動検出されています。



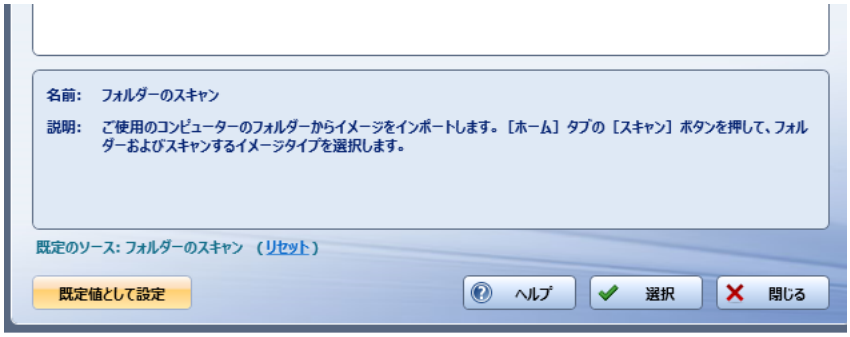
ソースの選択を完了したら、**[選択]** ボタンをクリックします。

主な機能

[ソースの選択]ウィンドウには、以下のインポートオプションが表示されます。

- **[フォルダーのスキャン]** - フォルダーから特定のイメージをインポートします。
- **[ファイルのインポート]** - コンピューターから特定のイメージをインポートします。
- **[スキャナー/複合機]** - 検出された接続済みのスキャナーまたは複合機です。

  注: スキャナー/複合機を選択する場合は、バッチのスキャン設定を指定することもできます。
- **[既定値として設定]** - [既定値として設定]ボタンを使用すると、選択したソースを既定値に設定して、次回ドキュメントをバッチに取り込むときに使用できます。指定した既定値は、既定のソースとして表示されます。[リセット]リンクをクリックすると、この値は容易にリセットできます。次の図を参照してください。



ドキュメントのインポート

Dispatcher Phoenix Workstationへのドキュメントのインポートを開始するには、次のいずれかの操作を行います。

1. **[ホーム]** タブのツールバーで **[単一スキャン]** または **[すべてスキャン]** ボタンを選択します。

   または

2. Workstationのイメージ表示領域の選択されているドキュメントにコンピューターから **イメージをドラッグアンドドロップ** します。すべてのイメージは同じドキュメントに含まれます。

複合機からのスキャン

複合機からスキャンするときは、すべてのページが正しい向きでWorkstationにインポートされるように、Workstationのスキャン設定の調整が必要になることがあります。最初に1つのドキュメント(またはページ)をスキャンして、Workstationのスキャン設定を調整する必要があるかどうかを確認してからバッチ全体をスキャンすることをお勧めします。

フォルダーのスキャン

コンピューターのフォルダーからイメージをインポートする場合は、スキャンを開始すると[フォルダーのスキャン]ウィンドウが表示され、使用するフォルダーを選択できます。次の図を参照してください。

このウィンドウを使用するには、以下の操作を行います。

1. **[参照]** ボタンをクリックして、ドキュメントが格納されているフォルダーを選択します。
2. インポート処理を開始する準備が完了したら、**[スキャン]** ボタンを選択します。

注: [スキャン]ボタンをクリックすると、選択した設定が保存され、次回Workstationアプリケーションを起動したときに使用可能になります。

フォルダーのスキャンのインポートオプション

[フォルダーのスキャン]ウィンドウには、フォルダーインポートの以下のオプションが表示されます。

- **[検索対象]** - Dispatcher Phoenix Workstationにインポートするファイルのタイプをフィルターします。次のオプションがあります。**TIF、JPG、PNG、およびBMP。**
- **[サブフォルダーの検索(再帰的)]** - 指定したフォルダー内のサブフォルダーからイメージをインポートします。
- **[インポート後にファイルを削除]** - Dispatcher Phoenix Workstationへのインポート後にファイルを削除します。

- **[ファイルごとに新規ドキュメントを作成]** - Dispatcher Phoenix Workstation内のファイル独自のドキュメントに各ファイルを追加します。このボックスが無効な場合は、すべてのファイルが同じドキュメントにインポートされます。
- **[リセット]** - 上の図に示されているように、すべてのオプションをデフォルト設定に変更します。

ファイルのインポート

コンピューターからファイルをインポートする場合は、スキャンを開始するとWindows Explorerのウィンドウが表示され、Dispatcher Phoenix Workstationにインポートするイメージを選択できます。イメージは、バッチ内の選択したドキュメントに追加されます。

スキャンしたイメージの作業

既定では、バッチに取り込んだページはWorkstationのプレビュー領域にサムネイル画像で表示され、(Dispatcher PhoenixワークフローのWorkstation収集ノード内またはWorkstationの[新規バッチの作成]ウィンドウ内で)最初にバッチを設定したときの指定に基づいてさまざまなドキュメントに分割されます。

イメージ/ドキュメントの再配置

この領域を使用すると、以下の操作を行うことができます。

- サムネイル画像をダブルクリックしてフルサイズで表示します。
- ページをドラッグアンドドロップしてドキュメント内に配置します。複数ページを選択するには、**[Ctrl]** キーを使用します。
- ページを別のドキュメントにドラッグアンドドロップして移動します。複数ページを選択するには、**[Ctrl]** キーを使用します。
- ページを選択して右クリックでコンテキストメニューを表示し、ページの分割、回転、反転、切り取り、コピー、ペースト、シフト、移動、または削除を行います。これらのオプションの詳細については、プレビュー領域を参照してください。
- ドキュメントのタイトルバーを選択し、右クリックでコンテキストメニューを表示します。このメニューでは、ドキュメントのマージ、切り取り、コピー、ペースト、移動、および削除を行うことができます。これらのオプションの詳細については、プレビュー領域を参照してください。

イメージの挿入

バッチ全体を再スキャンする必要なしに、スキャンし忘れたり失敗したりしたドキュメントを挿入するには、以下の操作を行います。

1. イメージ表示領域内でドキュメントのページを選択します。
2. ツールバーの**[挿入]**ボタンを選択してスキャン操作を開始します。
3. 選択したファイルによって選択したページが置き換えられます。

イメージの再スキャン

バッチ全体を再スキャンする必要なしにページを置き換えるには、以下の操作を行います。

1. イメージ表示領域内でドキュメントのページを選択します。
2. ツールバーの**[再スキャン]**ボタンを選択してスキャン操作を開始します。
3. [プレビュー]領域の選択したイメージの前に選択したイメージが挿入されます。

バッチの送信

Dispatcher Phoenixにバッチを送信する準備が完了したら、以下の操作を行います。

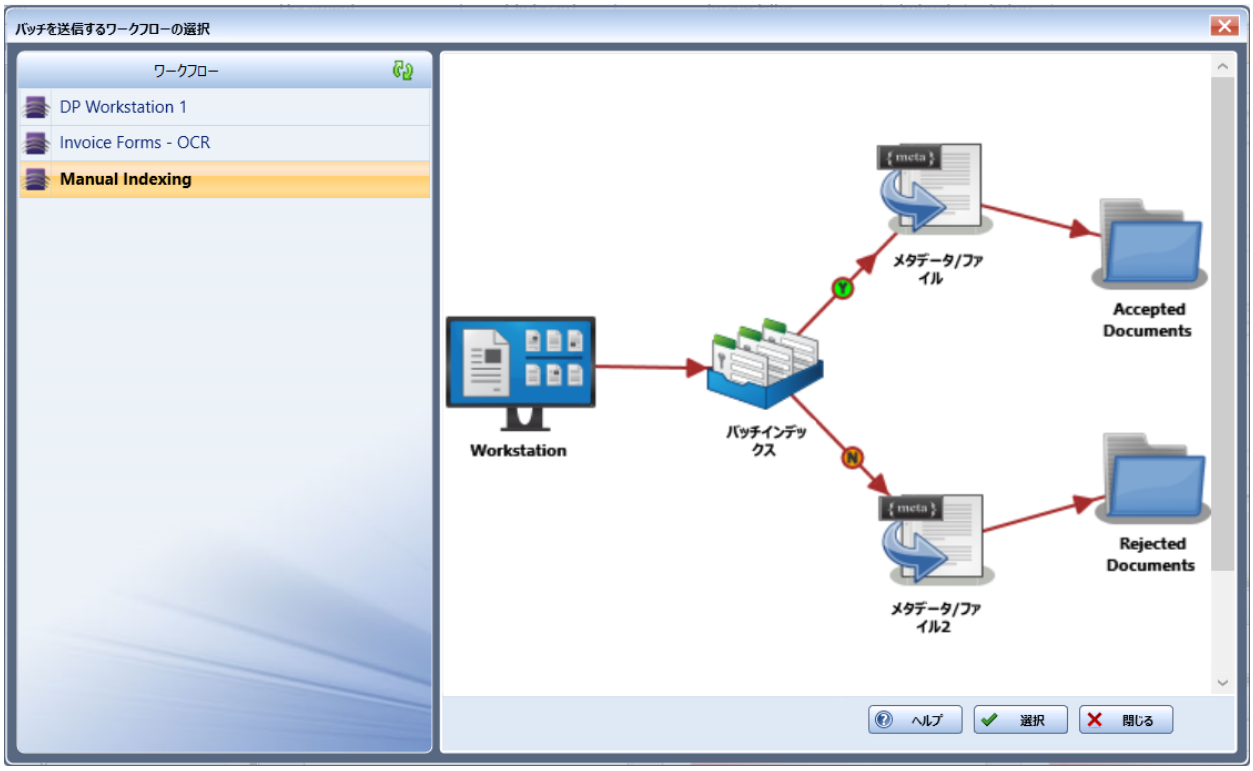
1. ツールバーの **[バッチの送信]** ボタンを選択します。
2. 最初のバッチ作成時にワークフローを選択しなかった場合は、**[バッチを送信するワークフローの選択]** ウィンドウが表示され、バッチを送信するDispatcher Phoenixワークフローを選択できます。

ワークフローの選択

[バッチを送信するワークフローの選択] ウィンドウには、Workstation収集ノードを含む現在実行中のワークフローがすべて表示されます。このウィンドウを使用するには、以下の操作を行います。

1. リストを更新するには、ウィンドウ右側の[ワークフロー]の横にある **[最新の情報に更新]** ボタンをクリックします。例については、次の図を参照してください。

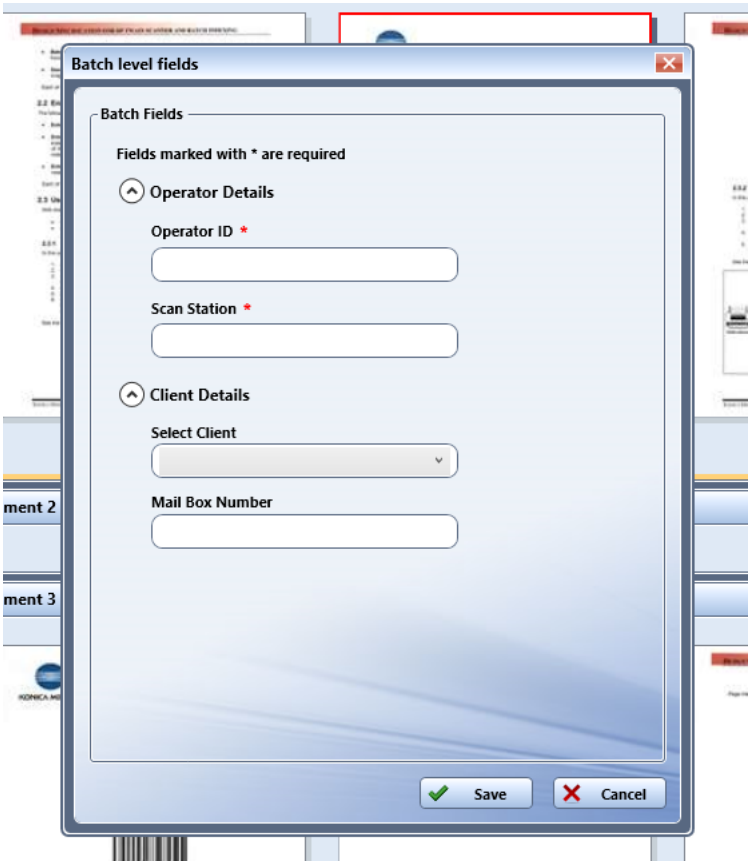
2. 対象のワークフローを[ワークフロー]パネルから選択します。選択したワークフローはウィンドウの右側に表示されます。例については、次の図を参照してください。



3. **【送信】** ボタンを選択して、選択したワークフローにバッチを送信します。

バッチレベルのインデックス情報の入力

Workstationにバッチレベルフィールドが関連付けられている場合は、バッチの送信時にポップアップウィンドウが表示され、バッチに関する情報の入力が求められます。例については、次の図を参照してください。



エンタープライズオプション

概要

アップタイムを確実に最大化してエンタープライズレベルの実装にも対応できるようにするために、Dispatcher Phoenixは次のようなエンタープライズ向けの重要な機能を提供します。

- **フェールオーバー** - プライマリサーバーが故障した場合に使用されるフェールオーバーサーバーにより、アップタイムが確実に最大化されます。クラスターのいずれかのサーバーで障害が発生すると、フェールオーバーシステムとしてライセンスが交付されているクラスターの別のサーバーにリソースがリダイレクトされ、ワークフローが再分配されます。すべてのフェールオーバーシステムは30日間プライマリとして機能することができます。30日間を過ぎると、プライマリとして機能していたフェールオーバーは機能を停止します（ライセンスが交付されているプライマリサーバーが使用できない場合）。プライマリサーバーが完全にオフラインになり、以降もフェールオーバーシステムをプライマリサーバーとして使用し続ける必要がある場合は、手動でのライセンス移行によってプライマリライセンスをフェールオーバーサーバーに移行する必要があります。
- **ロードバランシング** - デバイスの大規模な実装において、要求を複数のサーバーに分配するにはロードバランシングが最適です。Dispatcher Phoenixでは、複数のプライマリを結合して自動ロードバランシングを実現することができます。それにより、負荷やユーザー指定のしきい値に基づいてプライマリ間でジョブが移動するようになります。
- **OCRオフローディング** - 処理時間を短縮するために処理負荷が高いタスクを他のサーバーにオフロードできます。Dispatcher Phoenixは、**複合機接続、モバイル接続、Web接続** 、および**ワークフロー処理** をオフロードするように設定できます。
- **ワークフロー共有** - 詳細な共有制御機能により特定のユーザーまたはユーザーグループにワークフローを割り当てることができます。
- **ワークフロー制御** - 管理者は、システムにDispatcher Phoenixをインストールすることなくワークフローを実行、停止、および一時停止することができます。
- **ダッシュボード** - グラフィカルオンラインダッシュボードによりサーバー/ユーザーのアクティビティに関する簡易スナップショットが提供されます。

これらの機能は、Dispatcher Phoenix Webアプリケーションを介して使用できます。

要件

DP Webは、次のような、すべてのHTML5対応ブラウザーでサポートされます。

- Chrome
- Firefox
- Internet Explorer 10 またはそれ以降
- Microsoft Edge
- Safari for Mac

クラスターの管理

Dispatcher Phoenix Webの「クラスターの管理」アプリを使用すると、サーバーの **クラスター** を設定できます。クラスターとは、サービスの高可用性を確保するために、1つのシステムとして連携して動作するサーバーのグループのことです。

重要! 管理者だけがクラスターの管理機能にアクセスできます。

クラスター内の各Dispatcher Phoenixサーバーは、それぞれ異なる役割を持つことができます。

- **ノード** - すべての「開始済み」ワークフローを実行するプライマリDispatcher Phoenixサーバー。
- **プライマリ** - フルバージョンのDispatcher Phoenixサーバー（「デモ」としてライセンスされているDispatcher Phoenixサーバーをプライマリサーバーにすることはできません）。
- **フェールオーバー** - フェールオーバーとしてライセンスされているDispatcher Phoenixサーバー。プライマリサーバーが停止すると、フェールオーバーサーバーが、すべての「開始済み」ワークフローを処理します。フェールオーバーサーバーがワークフローを実行するのは、プライマリサーバーが停止した場合のみです。フェールオーバーのクラスターを設定する場合、プライマリ上のすべてのワークフローはサービスとして実行されている必要があります。フェールオーバーサーバーがプライマリとして動作している場合、実行中のワークフローは、プライマリサーバーと同じ資格情報を使用してフェールオーバーサーバーにログインするユーザーによってのみ停止または変更できます。

  注: 複合機のフェールオーバーが自動的に行われるようにするには、管理者はフェールオーバー付きプロキシ（HAProxy、nginxなど）によって制御されるか、フェールオーバーポリシー付きDNSサーバーによって管理されるホスト名で複合機を登録する必要があります。
- **オフロード** - オフロードサーバーとして動作するようライセンスされているDispatcher Phoenixサーバー。ワークフロー処理（詳細および基本）オフロードサーバーをクラスターに追加できます。

構成の要件

- 複数のプライマリを持つクラスターを設定する場合は、プライマリサーバー上のDispatcher Phoenixのエディションが一致している必要があります。たとえば、Dispatcher Phoenix Officeのライセンスがそれぞれインストールされている2台のサーバーをプライマリクラスターに含めることはできますが、Dispatcher Phoenix Officeがインストールされているサーバーと Dispatcher Phoenix Professionalがインストールされているサーバーを1台ずつクラスターに含めることはできません。
- クラスター内のすべてのサーバーには同じドライバーがインストールされている必要があります。Dispatcher Phoenixクライアントアプリケーション（ **【ツール】 > 【オプション】 > 【データベース設定】** 以下）を使用してドライバー/バージョンを制御することができます。たとえば、SQL Server Native Client 11.0がDispatcher Phoenixクライアントで構成されている場合、SQL Server Native Client 11.0はクラスター内の他のサーバーにインストールする必要があります。

クイックスタート

クラスターを設定するには、以下の操作を行います。

1. Workflow Services Managerを使用して、クラスター内の各システムがクラスターに **ブロードキャスト** するよう構成します。
2. Dispatcher Phoenix Web内で **クラスターの管理** アプリにアクセスします。
3. クラスターにサーバーを **追加** します。

ブロードキャストの設定

クラスター内のすべてのメンバーは、お互いに通信できる必要があります。既定では、Dispatcher Phoenixサーバーは「プライベート」として設定されます。クラスターの設定時にアクセスできるように、**Workflow Services Manager** を使用して、サーバーをパブリックにする必要があります。

以下の操作を行います。

1. Workflow Services Managerを起動します（ **スタート > プログラム > KONICA MINOLTA > Workflow Services Manager** ）。例については、次の図を参照してください。

2. Workflow Services Managerウィンドウで、以下の操作を行います。
    1. **[Workflow Service]** タブを選択します。
    2. **[サービスの停止]** ボタンを選択して、最初にWorkflow Serviceを停止します。
    3. 次のいずれかの操作を行って、パブリックにするサーバーを選択します。
        - **[クラスターへブロードキャスト]** ドロップダウンリストから **[ユーザー指定のIP/ホスト名]** オプションを選択して、表示された空のフィールドに特定のサーバーのIPアドレスを入力します。
        - Dispatcher Phoenixにより自動的に検出され、**[クラスターへブロードキャスト]** ドロップダウンリストにリストされる **[Local IP（ローカルIP）アドレス]** を選択します。
        - **[クラスターへブロードキャスト]** ドロップダウンリストから **[クラスター（自動）]** を選択し、Dispatcher Phoenixがコンピューターのホスト名を自動的に検出できるようにします（このオプションは、コンピューターがドメインの一部である場合などに適用できます）。
3. 完了したら **[設定の保存]** ボタンを選択します。
4. **[サービスの開始]** ボタンを選択します。
5. **[閉じる]** ボタンを選択して、Workflow Services Managerを閉じます。

クラスターの管理アプリへのアクセス

プライマリシステムのDispatcher Phoenix Webで、**[クラスターの管理]** ボタンを選択するか、スライドアウトメニューから **[ツール] > [クラスターの管理]** オプションを選択します。[クラスターの管理]ページが表示され、ローカルで実行されているDispatcher Phoenixサーバーのホスト/IPアドレス、およびフレンドリー名とそのステータス（オンラインまたはオフライン）が表示されます。

サーバーの追加

DP Web クラスターの管理 アプリで新しいサーバーを追加するには、以下の操作を行います。

1. **[サーバーを追加（+）]** ボタンを選択します。
2. サーバーを追加ポップアップウィンドウで、表示されたフィールドにホストアドレスを入力して、**[保存]** ボタンを選択します。次の図を参照してください。

クラスターにブロードキャストされたのと同じ方法でサーバーを追加する必要があります。例えば、

- サーバーがIPアドレスでブロードキャストされている場合、そのIPアドレスを使用してサーバーを追加する必要があります。
- サーバーがホスト名でブロードキャストされている場合、そのホスト名を使用してサーバーを追加する必要があります。
- サーバーが自動的にブロードキャストされている場合、そのコンピューターの完全修飾ドメイン名を使用してサーバーを追加する必要があります。

サーバーリストに、新しいサーバーとそのサーバーにライセンスされている役割（フェールオーバー、オフロードなど）が表示されます。次の図を参照してください。

サーバーの編集

既存のサーバーのフレンドリー名を編集するには、以下の操作を行います。

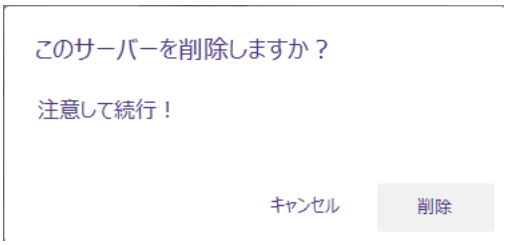
1. サーバーの **[サーバーの編集]** ボタンを選択します。

2. サーバーの編集ポップアップウィンドウで、新しいフレンドリー名を入力して、**[保存]** ボタンを選択します。

変更されたサーバー名が[サーバー]リストに表示されます。次の図を参照してください。

サーバーの削除

サーバーを削除するには、**[サーバーの削除]** アイコンを選択して、次の確認メッセージで **[削除]** ボタンを選択します。



クラスター環境内での更新の適用

クラスター内のプライマリサーバーとフェールオーバーサーバーに更新を適用する場合、以下のガイドラインに従います。

1. プライマリサーバーに更新を適用します。これにより、サーバーがオフになります。次の動作が発生します。
- 更新が完了しサーバーの電源が再びオンになった後、このサーバーはフェールオーバーとして動作します。
- フェールオーバーとしてライセンスされていたサーバーは、この時点でプライマリとして動作するようになります。
2. フェールオーバーサーバーに更新を適用します。これにより、サーバーがオフになります。次の動作が発生します。
- 以前にプライマリとしてライセンスされていたサーバーは、この時点で再びプライマリとして動作するようになります。
- 更新が完了しサーバーの電源が再びオンになった後、このサーバーは再びフェールオーバーとして動作します。

オフロードサーバーの構成

Dispatcher Phoenixのオフロードサーバーをインストールして構成するには、以下の操作を行います。

手順1：オフロードライセンスの購入

まず、（保守付きの）適切なオフロードライセンスを注文する必要があります。Dispatcher Phoenixでは、以下のオフロード用ライセンスが用意されています。

- 複合機接続
- Web接続
- モバイル接続
- ワークフロー処理（基本および拡張）

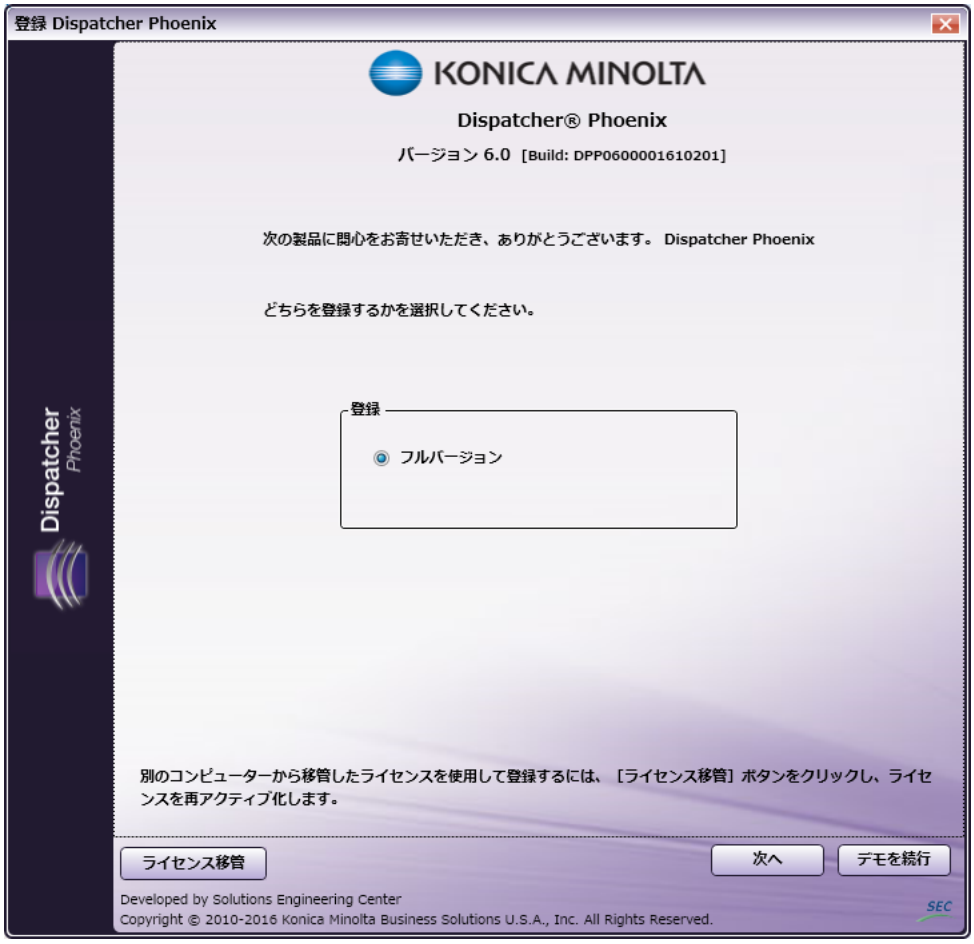
手順2：オフロードライセンスのインストール

ライセンスを購入して購入コードを受け取ると、オフロード用に指定したサーバーにオフロードライセンスをインストールできるようになります。以下の手順を実行します。

1. **Dispatcher Phoenix インストーラー**を起動します。
2. ドロップダウンリストから適切なライセンスを選択してから、**[アプリケーションのインストール]** ボタンを選択します。次の図を参照してください。

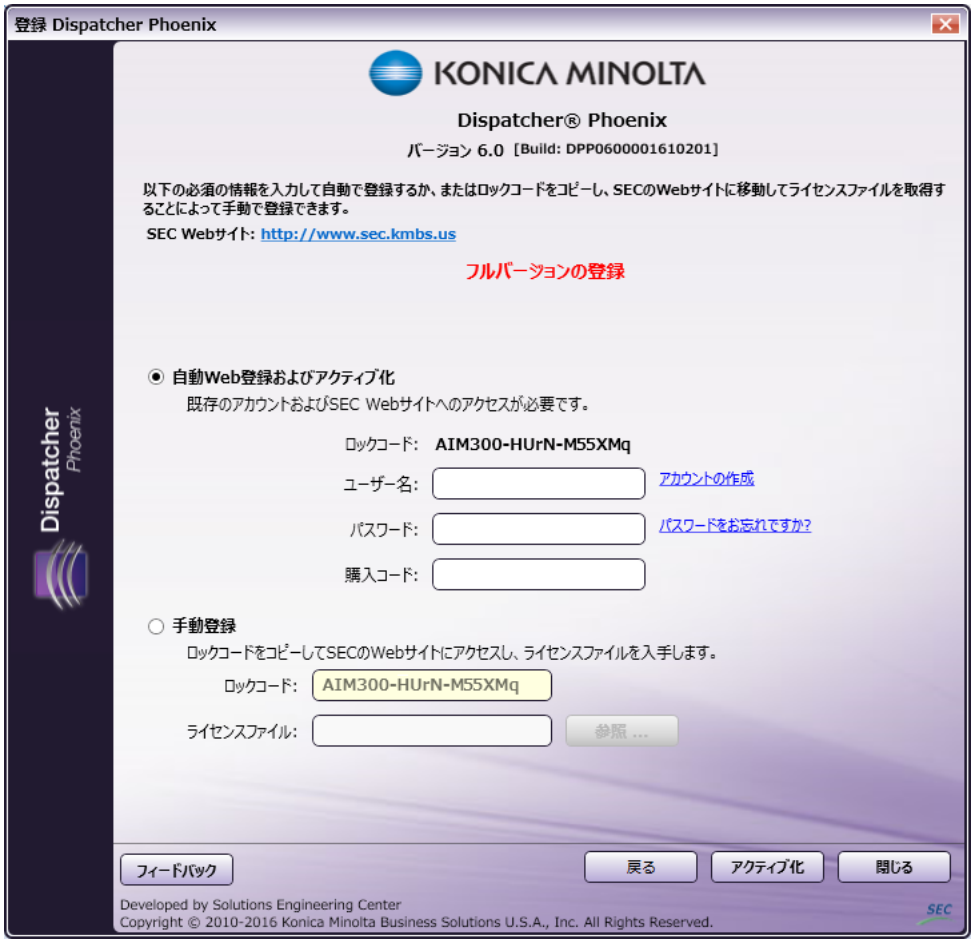
3. 表示される［ユーザーアカウント制御］ポップアップウィンドウで**［はい］**ボタンを選択します。
4. 表示されるウィンドウで**［次へ］**ボタンを選択します。例については、次の図を参照してください。

5. ［Licensing Agreement（使用許諾契約）］ウィンドウで**［I accept the agreement（同意する）］**ラジオボタンを選択してから、［次へ］ボタンを選択します。
6. Readmeテキストファイルを確認してから、［次へ］ボタンを選択します。
7. ［Select Additional Tasks（追加タスクの選択）］ウィンドウで設定をカスタマイズしてから、［次へ］ボタンを選択します。
8. ［Ready to Install（インストール準備完了）］ウィンドウで**［インストール］**ボタンを選択すると、インストールプロセスが開始されます。
9. ［Dispatcher Phoenix Registration（Dispatcher Phoenixの登録）］ウィンドウが表示されたら、［次へ］ボタンを選択します。例については、次の図を参照してください。



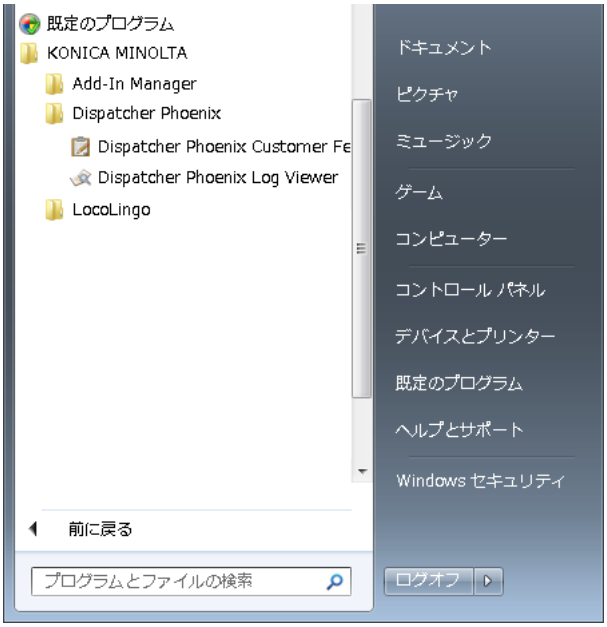
10. ［登録 Register Dispatcher Phoenix］ウィンドウで、以下の操作を行います。
    - **［ユーザー名］**フィールドと**［パスワード］**フィールドに、SECアカウントの資格情報を入力します。
    - **［購入コード］**フィールドに購入コードを貼り付けます。
    - **［アクティブ化］**ボタンを選択します。

    例については、次の図を参照してください。



11. 表示される[処理が完了しました]メッセージで、**[OK]** ボタンを選択します。アドインマネージャーによりインストールプロセスが継続されます。
12. インストールプロセスが完了したら、**[閉じる]** ボタンを選択します。

ライセンスに必要なパッケージのみが、Dispatcher Phoenixログビューアーおよびカスタマーフィードバックエージェントとともにインストールされます。Dispatcher Phoenixアプリケーションはインストールされないことに注意してください。

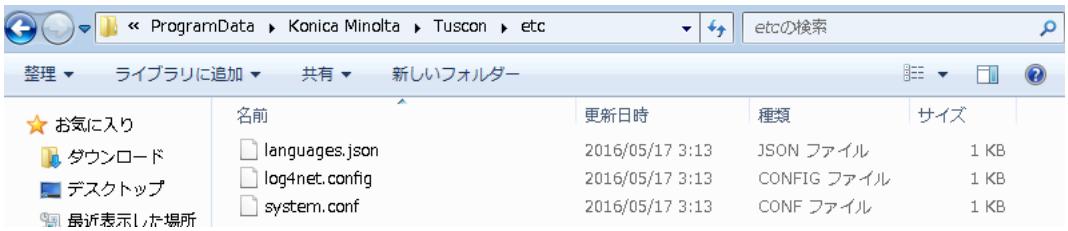


手順3:オフロードサーバーの構成

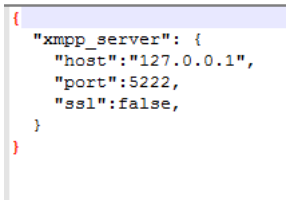
複合機接続サーバーの構成

複合機接続オフロードサーバーを構成するには、構成ファイルを編集する必要があります。以下の操作を行います。

1. \ProgramData\Konica Minolta\Tuscon\etcディレクトリに移動します。次の図を参照してください。



2. **system.conf**ファイルを開きます。
3. ホスト「127.0.0.1」の既定の設定を、Dispatcher Phoenixを実行しているサーバーのIP/ホスト名に変更します。次の図を参照してください。



4. ファイルを保存します。

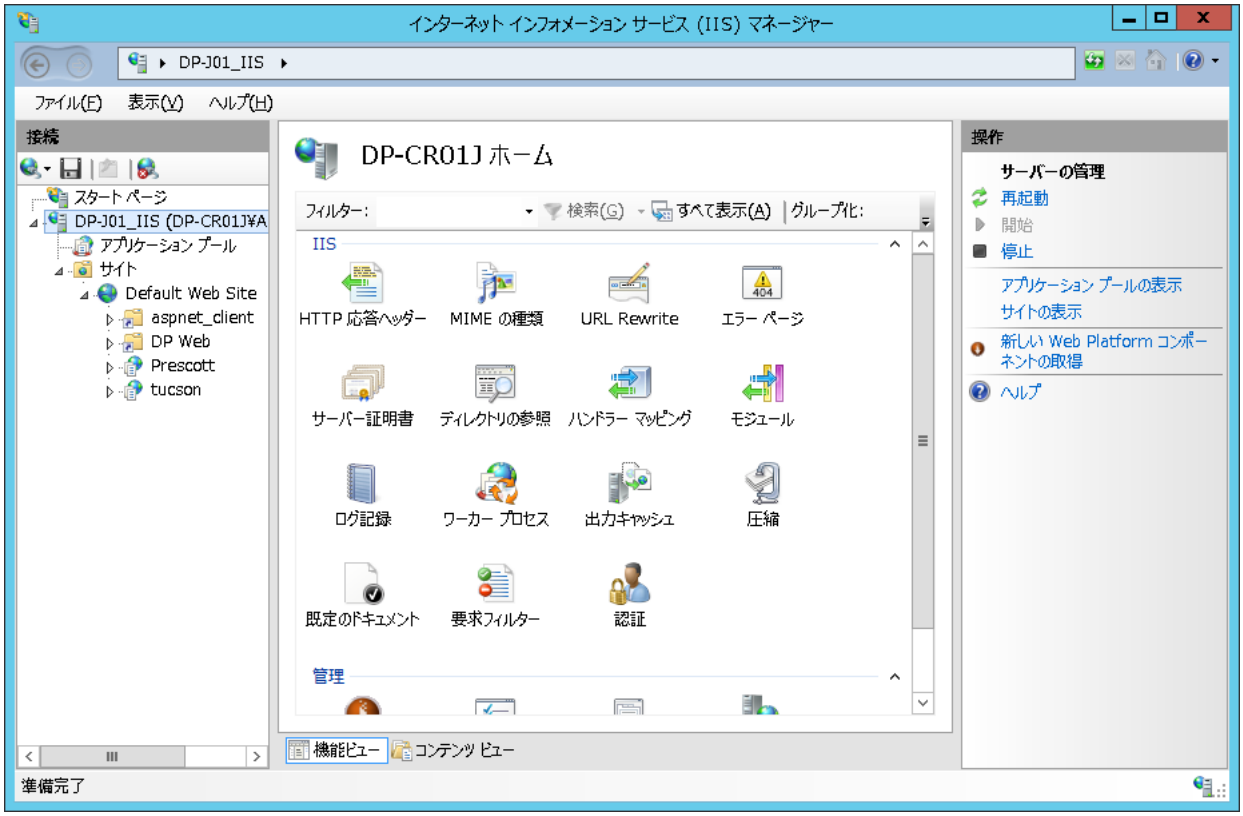
オプションの手順（推奨）

パフォーマンスを最適化するために、IISへのbESTサーバーのインストールをお勧めします。開始前に、必ずbESTサーバーを停止してください。ロギングが適切に行われるようにするために、IISとbESTサーバーを同時に実行することはできません。以下の操作を行います。

1. ［サービス］に移動してから、以下の操作を行います。
2. KMBS bEST Serverを停止します。
3. ［スタートアップの種類］を［無効］に変更します。

基本設定

1. IISをインストールします。以下を確認します。
    - IISと.Netの依存コンポーネントがインストールされていること。これはWindowsのバージョンによって異なりますが、通常は、Windowsの［コントロールパネル］の［Windowsの機能の有効化または無効化］を通じて使用できます。
    - IISが有効になっていること。
    - IIS管理コンソールが有効になっていること。
2. IISをインストールしたら、システムを構成します。以下の手順を実行します。
    - Windowsの［スタート］メニューから、**インターネットインフォメーションサービス（IIS）マネージャー**を起動します。例については、次の図を参照してください。



- 現在のサーバーとその下にあるサイトをクリックして、リストを**展開**します。
- **[Default Web Site]** を右クリックして、表示されるメニューから **[アプリケーションの追加...]** オプションを選択します。
- [アプリケーションの追加]ウィンドウで、以下の操作を行います。
- **[エイリアス]** フィールドに、**「Prescott」** と入力します。
- **[物理パス]** フィールドで、`C:\Program Files\Konica Minolta\Prescott\`を参照して選択します。

3. IISで、OpenAPIトラフィックが、IISで実行されているアプリケーションに書き換えられることを確認します。複合機の設計により、すべてのOpenAPIの要求は、複合機が通信しているサーバーの/OpenAPIのパスに設定されます。これをサポートするため、IISにより、サーバー上のそのエンドポイントへのトラフィックが、IISで実行されている実際のアプリケーションに書き換えられる必要があります。以下の操作を行います。

   a. MicrosoftのURL Rewriteモジュールをインストールします（https://www.iis.net/downloads/microsoft/url-rewrite）。

   b. 基本サーバーのRewrite構成で、IISマネージャーを開きます。

   c. [Management（管理）]領域で、**[URL Rewrite]** をクリックします。

   d. インバウンドルール部を右クリックしてから、表示されるメニューで **[Add Rules(s)...（ルールの追加）]** オプションをクリックします。

   e. **[Blank rule（空のルール）]** を選択します。

   f. **[OK]** を選択します。

   g. [Edit Inbound Rule(インバウンドルールの編集)]ウィンドウで、以下の操作を行います。

      - **[Name（名前）]** フィールドに、規則の名前を入力します。
      - **[Requested URL（要求されたURL）]** ドロップダウンリストから、**[Matches the Pattern（パターンに一致）]** を選択します
      - **[Using]** ドロップダウンリストから **[Exact Match（完全に一致）]** を選択、**[Pattern]** フィールドに **[/OpenAPI]** と入力します。
      - **[Action type（アクションの種類）]** ドロップダウンリストから、**[Rewrite（書き換え）]** を選択します。
      - **[Rewrite URL（URL書き換え）]** フィールドに、/Prescott/OpenAPI（またはアプリケーション名）を入力します。
      - **[適用]** リンクを選択して、ルールを保存します。

4. サーバーでSSLを設定します。以下の操作を行います。

   a. IISマネージャーを開きます。

   b. サーバーをクリックします。

   c. **[サーバー証明書]** をダブルクリックします。

   d. ウィンドウの右側にある[自己署名入り証明書の作成]リンクを選択します。

   e. [自己署名入り証明書の作成]ウィンドウで、以下の操作を行います。

- 表示されているフィールドに、証明書のフレンドリ名を入力します。
- 表示されているドロップダウンリストを使用して、新しい証明書の証明書ストアとして **［Webホスティング］** を選択します。
- ボタンを選択します。これにより、サーバーの現在の名前で証明書マッピングが生成されます。

f. 証明書が生成されたら、以下の操作を行います。
1. サーバーを展開します。
2. サイトを展開します。
3. **［Default Web Site］** を右クリックして、表示されるドロップダウンメニューから **［バインドの編集...］** オプションを選択します。
4. **［追加...］** ボタンを選択します。
5. ［サイトバインドの追加］ウィンドウで、以下の操作を行います。
   - **［種類］** ドロップダウンリストから、**［https］** を選択します。
   - **［IPアドレス］** ドロップダウンリストから、**［未使用のIPアドレスすべて］** を選択します。
   - **［ポート］** フィールドに、**「443」** と入力します。
   - **［SSL証明書］** ドロップダウンリストから、先ほど生成されたSSL証明書を選択します。
   - **［OK］** ボタンを選択します。

ワークフロー処理オフロードの構成（基本および拡張）

ワークフロー処理のオフロード（基本ライセンスと拡張ライセンスの両方）を構成するには、次の操作を実行します。

1. オフロードサーバーが公開されていることを確認します。詳細はこちら。
2. プライマリサーバーのDP Web クラスターの管理 アプリケーションを使用して、**[サーバーを追加]** ボタンをクリックします。
3. オフロードワークフロー処理（基本 / 拡張）サーバーのIPアドレスを入力します。
4. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

これにより、ワークフロー処理オフロードサーバーがクラスターに追加されます。

モバイル コネクティビティ オフロードの設定

モバイルオフロードを構成するには、bESTサーバーのシステム構成ファイルを編集する必要があります。次の操作を実行します。

1. c:¥ProgramData¥Konica Minolta¥Prescott¥etcディレクトリに移動します。
2. **system.conf** ファイルを開きます。
3. ホスト “127.0.0.1” のXMPPサーバーホスト/IPアドレスのデフォルト設定を、Dispatcher Phoenixを実行しているサーバー（プライマリサーバーまたはワークフロー処理オフロードサーバーいずれか）のIPアドレスを指すように編集します。
4. ファイルを保存します。
5. Windows サービスからIISまたはKMBS bEST Serverを再起動します（構成によって異なります）。

Web接続 オフロード用の構成

Webオフロードを構成するには、Dispatcher Phoenix Webのシステム構成ファイルを編集する必要があります。次の操作を実行します。

1. c:\Program Files\Konica Minolta\Dispatcher Phoenix Web ディレクトリに移動します。
2. **system.json** ファイルを開きます。
3. ホスト “127.0.0.1” のXMPPサーバーホスト/IPアドレスのデフォルト設定を、Dispatcher Phoenixを実行しているサーバー（プライマリサーバーまたはワークフロー処理オフロードサーバーいずれか）のIPアドレスを指すように編集します。
4. ファイルを保存します。
5. Windows サービスからDispatcher Phoenix Web Serverを再起動します。

フェールオーバーサーバーのインストール

注: この機能は、特定の地域では利用できない場合があります。詳細については、コニカミノルタの担当者にお問い合わせください。

Dispatcher Phoenix フェールオーバーサーバーをインストールして構成するには、次の手順を実行します。

手順1: フェールオーバーライセンスの購入

開始するには、フェールオーバーライセンスを購入します。

手順2: フェールオーバーライセンスのインストール

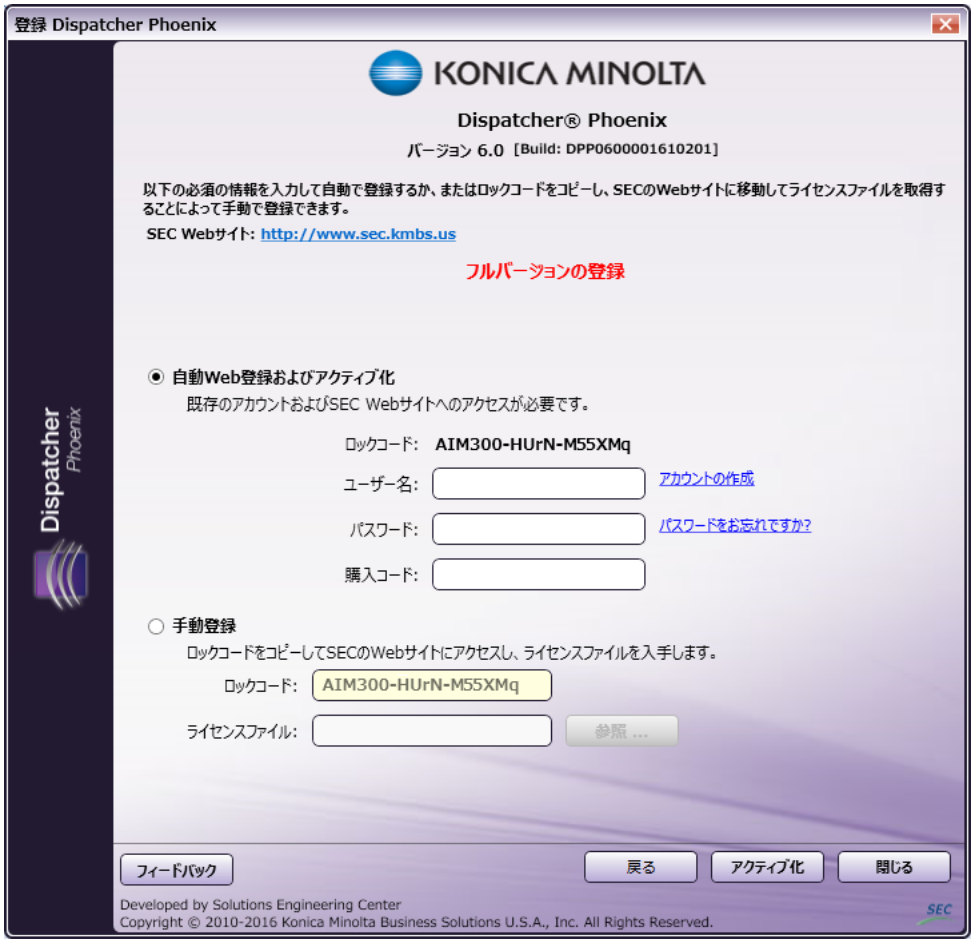
ライセンスを購入し、購入コードを受け取ったら、指定したサーバーにフェールオーバーライセンスをインストールできます。次の手順を実行します。

1. **Dispatcher Phoenixインストーラー**を起動します。
2. ドロップダウンリストからプライマリサーバーの基本エディションのライセンスを選択して、**［アプリケーションのインストール］**ボタンを選択します。例えば、次の図では、Dispatcher Phoenix Officeのフェールオーバーライセンスがインストールされています。

3. **［アプリケーションのインストール］**ボタンを選択します。
4. 表示される［ユーザーアカウント制御］ポップアップウィンドウで**［はい］**ボタンを選択します。
5. 表示されるウィンドウで**［次へ］**ボタンを選択します。例については、次の図を参照してください。

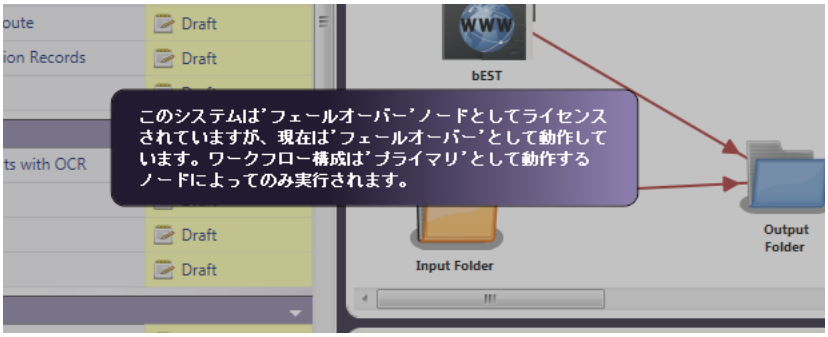
6. ［Licensing Agreement（使用許諾契約）］ウィンドウで**［I accept the agreement（同意する）］**ラジオボタンを選択してから、［次へ］ボタンを選択します。
7. Readmeテキストファイルを確認してから、［次へ］ボタンを選択します。
8. ［Select Additional Tasks（追加タスクの選択）］ウィンドウで設定をカスタマイズしてから、［次へ］ボタンを選択します。
9. ［Ready to Install（インストール準備完了）］ウィンドウで**［インストール］**ボタンを選択すると、インストールプロセスが開始されます。
10. ［Dispatcher Phoenix Registration（Dispatcher Phoenixの登録）］ウィンドウが表示されたら、［次へ］ボタンを選択します。
11. ［登録 Register Dispatcher Phoenix］ウィンドウで、以下の操作を行います。
    - **［ユーザー名］**フィールドと**［パスワード］**フィールドに、SECアカウントの資格情報を入力します。
    - **［購入コード］**フィールドに購入コードを貼り付けます。
    - **［アクティブ化］**ボタンを選択します。

例については、次の図を参照してください。



12. 表示される[処理が完了しました]メッセージで、**[OK]** ボタンを選択します。アドインマネージャーによりインストールプロセスが継続されます。
13. インストールプロセスが完了したら、**[閉じる]** ボタンを選択します。

非アクティブのフェールオーバーサーバーは、ワークフローを実行できません。フェールオーバーサーバーでアプリケーションを起動すると、次のメッセージが表示されます。



ワークフロー共有

DP Webの **共有** アプリケーションを使用して、**ワークフロー** を編集、または表示する権限をユーザーやユーザーグループに割り当てる(または取り消す)ことができます。これにより、ワークフローの所有者はワークフローアクセスを共有、制御する(特定の人または部門のみに許可を与える)ことができます。

Dispatcher Phoenixは次のようなワークフローを共有する機能を提供します。

- **[なし]** - ワークフローの作成者のみがそのワークフローにアクセスできます。これが既定です。
- **[全員]** - コンピューターにアクセスできるユーザーなら誰でも、実行中のワークフローにアクセスできます。
- **[特定のユーザー/グループ]** - 指定されたユーザー/グループのみがワークフローにアクセスできます。

複合機で共有ワークフローにアクセスする方法については、**ここ** をクリックしてください。

権限

共有アプリケーションを使用して、以下の操作を行うことができます。

- **表示権限の付与。** ワークフローの所有者が特定のユーザーまたはユーザーグループに表示権限を割り当てると、そのユーザー/グループは使用されるワークフローに対して読み取り専用のアクセス権を持つことになります。つまり、ワークフローの開始、停止、スケジュール設定などを行うことはできません。
- **編集権限の付与。** ワークフローの所有者が特定のユーザーまたはユーザーグループに編集権限を割り当てると、そのユーザー/グループはワークフローに対して次の操作を行うことができるようになります：編集、開始、停止、一時停止、スケジュール設定、エクスポート、再開、ワークフローのコピーとペースト。ユーザーが編集権限を持っていても、ワークフローを削除できないことに注意してください。

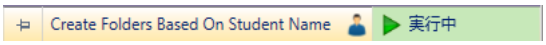
  注: 「編集」権限を付与されたユーザーがワークフローをコピーしてペーストした場合、コピーされたワークフローはそのユーザーのみのローカルとなります。コピーされたワークフローには誰もアクセスできません。
- **表示/編集権限の取り消し。** ワークフローの所有者は、特定のユーザー/グループの表示権限または編集権限を取り消すことができます。

  注: グループ内のユーザーに特定の権限（「編集」または「表示」）が既に割り当てられている場合、その権限はグループに割り当てられた権限よりも優先されます。たとえば、ユーザー A が「表示」権限を持ち、また、ユーザー A が「編集」権限を持つグループの一部である場合は、ユーザー A はそのワークフローの「表示」権限のみを保持します。

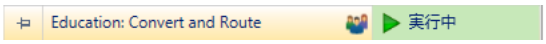
共有アイコン

ワークフローが（すべてまたは特定のユーザー/グループと）共有されている場合は、次回アプリケーションを起動したときに、Dispatcher Phoenixクライアントアプリケーションのワークフローリストで、そのワークフローの横に共有を示すアイコンが表示されます。

- ワークフローが特定のユーザーと共有されている場合は、次のアイコンが表示されます。



- ワークフローがすべてのユーザーと共有されている場合は、次のアイコンが表示されます。



LDAP検索のための構成

LDAPカード検索用の構成を行う場合は、まず、Workflow Services Managerを使用して、AD/LDAPサーバーへの接続を設定する必要があります。

以下の操作を行います。

1. Workflow Services Managerを起動します（ **[スタート > プログラム > KONICA MINOLTA > Workflow Services Manager** ）。プロンプトが表示されたら、ドメインの管理者の資格情報を入力します。
2. Workflow Services Managerで、**[Windows認証]** タブが選択されていることを確認します。例については次の図を参照してください。

3. **[サービスの停止]** ボタンをクリックします。
4. **[LDAP検索の有効化]** ボックスをチェックして、LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）のサポートを有効にします。有効にした後、次のように、LDAPサーバーに応じた接続、検索、および認証のオプションを入力する必要があります。
    - **[ホスト]** - Active Directory（AD）サーバーをホストするサーバーの名前を入力します。
    - **[ポート]** - ADサーバーのポートを入力します。
    - **[LDAPユーザー検索ベース]** - LDAPサーバーのツリー構造における検索の開始点を入力します。
    - **[SSLセキュア接続の使用]** - 必要に応じて、このボックスをチェックして、LDAPサーバーへのSSL接続を有効にします。
    - **[簡易認証]または[匿名認証]** - LDAP認証の種類を指定します（[匿名認証]は資格情報を渡さずに接続するよう指定し、[簡易認証]は接続で基本認証を使用するよう指定します）。
    - **[バインドDN]** - 定義された検索ベース内でのLDAPディレクトリの検索を許可された、外部ADサーバーのユーザーを入力します。
    - **[パスワード]** - バインドパスワードを入力します。
    - **[既定の検索]** - 検索属性を設定します。
    - **[フォールバック検索]** - 必要に応じて、追加の検索文字列を入力します。
5. **[LDAP接続のテスト]** ボタンを選択すると、検索設定をテストできます。
6. 完了したら、**[設定の保存]** ボタンを選択します。
7. **[サービスの開始]** ボタンをクリックします。

共有アプリへのアクセス

Dispatcher Phoenix Webで **[共有]** ボタンを選択するか、スライドアウトメニューから **[ツール]** > **[共有]** オプションを選択します。

共有アプリの使用

既定では、共有アプリで以下が表示されます。

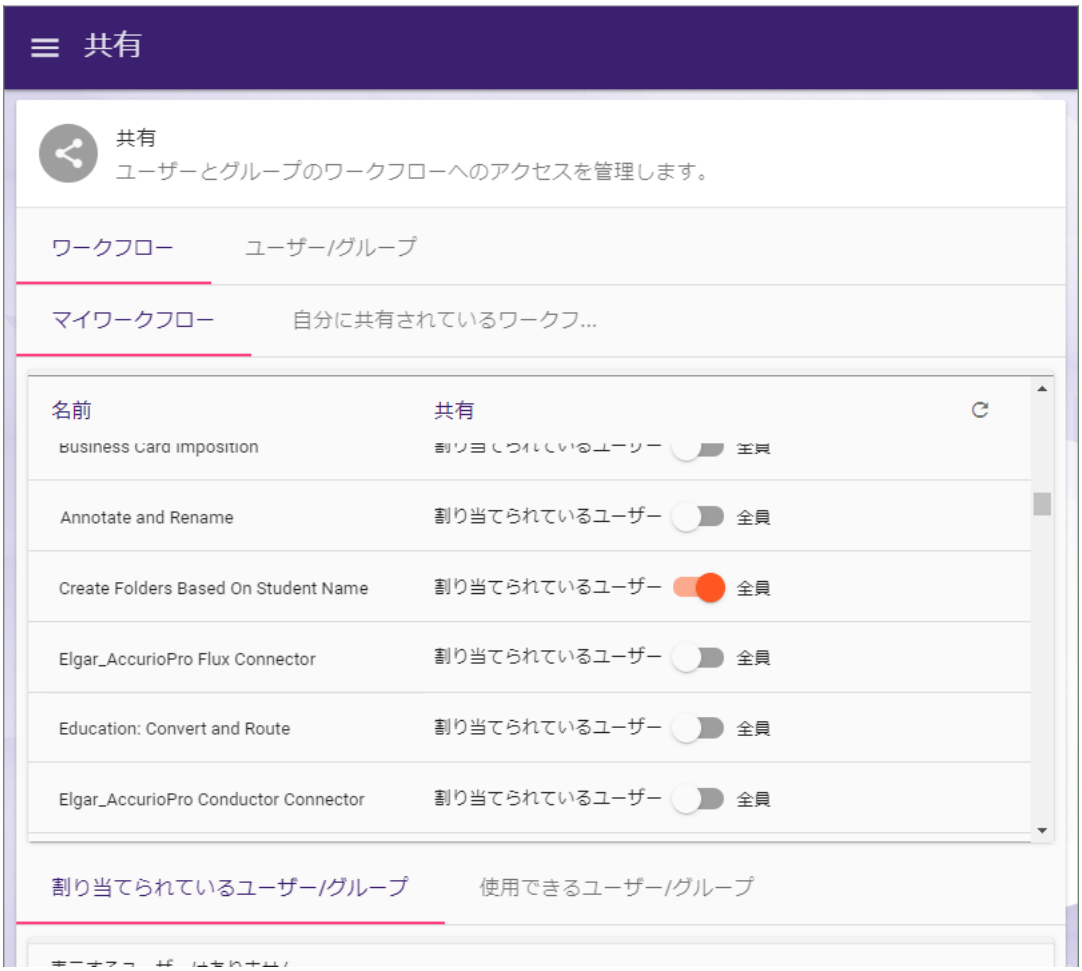
- **マイワークフロー** 領域。すべてまたは特定のユーザー/グループにワークフローを割り当てることができるコントロールとともに、ログインユーザーの実行中または実行予定のワークフローが表示されます。

- **自分に共有されているワークフロー** 領域。ログインユーザーと共有しているワークフローがすべて表示され、ワークフローの名前と所有者が示されます。ログインユーザーと共有しているワークフローは読み取り専用です。

注: ワークフローをあるグループと共有している場合、そのグループの個々のメンバーは、Dispatcher Phoenix Webにログインした時の [**自分に共有されているワークフロー**] セクション以下で共有されているワークフローを見ることができません。ただし、それらのグループメンバーは複合機でそのワークフローにアクセスできます。

この既定の表示は **[ワークフロー概要]** です。

例については次の図を参照してください。



ワークフロー概要の使用

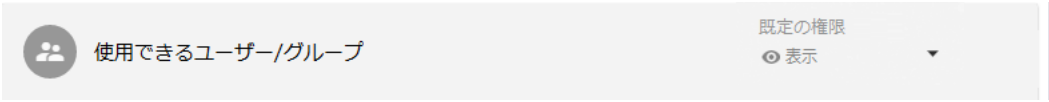
特定のユーザーとのワークフローの共有

Active Directoryグループの特定のユーザーにワークフローを割り当てるには、以下の操作を行います。

1. **マイワークフロー** 領域でワークフローをクリックします。
2. **使用できるユーザー/グループ** 領域で、空のフィールドに特定のユーザー/グループ名を入力してから（または、認証サーバーからすべてのユーザー/グループを返す場合はこのフィールドを空欄のままにして）、**[検索]** ボタンをクリックします。

   注: ユーザーが属するすべてのグループを返すには、**[一致するユーザーが属するグループを含める]** ボックスをチェックします。
3. 使用できるユーザー/グループ領域で、対象のユーザー/グループの横にある[権限]ボックスをチェックします。ボックスが緑色になり、その中に[+]マークが表示されます。
4. **[権限]** ボックスの横にある下矢印をクリックし、付与する権限（表示または編集）を選択します。例については次の図を参照してください。

次の図に示すように、上部の[権限]領域でオプションを選択することによって、常に表示される既定の権限の動作を指定できます。



5. **[適用]** ボタンをクリックします。

次の図のように、割り当てられているユーザー/グループが **割り当てられているユーザー/グループ** 領域に表示されます。

すべてのユーザーとのワークフローの共有

すべてのユーザーとワークフローを共有するには、**マイワークフロー** 領域で **[共有]** コントロールを **[全員]** にスライドします。コントロールの色がオレンジに変わります。

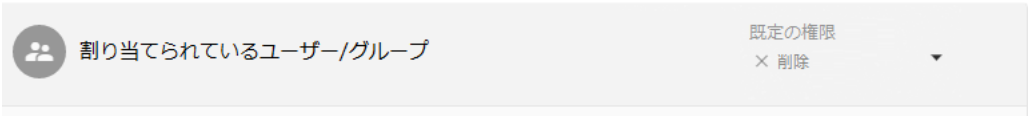
例については次の図を参照してください。

全員と共有されているワークフローは、すべて無効として表示されます。

ワークフローの権限の削除

[ワークフロー概要]を使用して、ワークフローに対するユーザーの編集/表示アクセス権を削除するには、以下の操作を行います。

1. **マイワークフロー** 領域でワークフローをクリックします。
2. **割り当てられているユーザー/グループ** 領域に表示されているユーザーの横にあるボックスをチェックし、**[削除]** オプションを選択します。次の図に示すように、[既定の権限]領域でオプションを選択することによって、自動的に表示される既定の権限の動作を指定できます。



3. **[適用]** ボタンをクリックします。ユーザーはそのワークフローに対する編集/表示権限を失い、ユーザーの名前と電子メールアドレスが **割り当てられているユーザー/グループ** 領域から削除されます。

ワークフローの権限の変更

ワークフロー概要を使用して、ワークフローに対するユーザーの編集/表示アクセス権を変更するには、以下の操作を行います。

1. **マイワークフロー** 領域でワークフローをクリックします。
2. **割り当てられているユーザー/グループ** 領域に表示されているユーザーの横にあるボックスをチェックし、目的の権限を選択します。
3. 上部の[権限]領域で選択することによって既定の動作を指定している場合は、ユーザーの横にある[権限]ボックスをチェックすることができます。ボックスは青色になり、権限の動作は割り当てられた既定の動作に自動的に変更されます。例については、次の図を参照してください。

4. **[適用]** ボタンをクリックします。

概要の変更

次の図のように、ページの左上にある **[概要]** コントロールをクリックし、**[ユーザー/グループ]** を選択して概要を切り替えることで、ワークフローの代わりにユーザー/グループをページの左側に表示できます。

ページが変更され、ページの左側に[ユーザー/グループ]領域が表示されます。この領域には、構成された認証サーバー（Active Directory、LDAPなど）からシステムが検出したユーザー/グループが表示されます。

ユーザー/グループ概要 の使用

特定のユーザーとのワークフローの共有

[ユーザー/グループ]概要を使用して、特定のユーザーにワークフローを割り当てるには、以下の操作を行います。

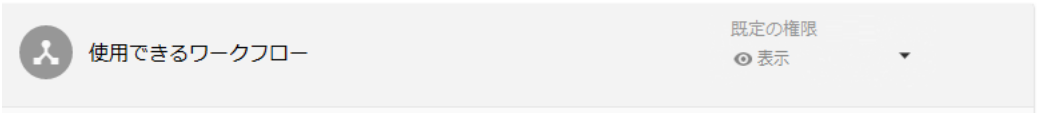
1. **ユーザー/グループ** 領域で、空のフィールドに特定のユーザー/グループ名を入力してから（または、認証サーバーからすべてのユーザー/グループを返す場合はこのフィールドを空欄のままにして）、**[検索]** ボタンをクリックします。

   注: ユーザーが属するすべてのグループを返すには、**[一致するユーザーが属するグループを含める]** ボックスをチェックします。

2. 検索結果からユーザーを選択します。そのユーザーにすでに割り当てられているすべてのワークフローが、ウィンドウの右側にある **割り当てられているワークフロー** 領域に表示されます。

   注: 現在「全員」と共有されているワークフローは、いずれも[使用できるワークフロー]リストに表示されません。

3. **使用できるワークフロー** 領域で、対象のワークフローの横にある **[権限]** ボックスをチェックし、付与する権限（表示/編集）を選択します。次の図に示すように、[既定の権限]領域でオプションを選択することによって、既定の権限の動作を指定できます。



4. **[適用]** ボタンをクリックします。

これで、ユーザーはそのワークフローに対して編集/表示アクセス権を所有することになります。ワークフローは、**割り当てられているワークフロー** 領域に表示されます。

ワークフローへのアクセスの削除

[ユーザー/グループ]概要を使用して、ワークフローに対するユーザーまたはグループのアクセス権を削除するには、以下の操作を行います。

1. ウィンドウの左側にある **ユーザー/グループ** 領域から、ユーザーを選択します。
2. **割り当てられているワークフロー** 領域で、対象のワークフローの横にある[権限]ボックスをチェックし、[削除]オプションを選択します。[権限]ボックスが赤色になり、その中に☑ マークが表示されます。
3. **[適用]** ボタンを選択します。ユーザーはそのワークフローに対する編集/表示アクセス権を失います。また、ワークフローが **割り当てられているワークフロー** 領域から削除され、**使用できるワークフロー** リストに再び追加されます。

ワークフローの権限の変更

[ユーザー/グループ概要]を使用して、ワークフローに対するユーザーまたはグループのアクセス権を変更するには、以下の操作を行います。

1. ウィンドウの左側にある **ユーザー/グループ** 領域から、ユーザーを選択します。
2. **割り当てられているワークフロー** 領域で、対象のワークフローの横にある[権限]ボックスをチェックし、目的の権限を選択します。[権限]ボックスが緑色になり、その中に[+]マークが表示されます。
3. 上部の[権限]領域で選択することによって既定の動作を指定している場合は、ワークフローの横にある[権限]ボックスをチェックすることができます。ボックスは青色になり、権限の動作は割り当てられた既定の動作に自動的に変更されます。
4. **[適用]** ボタンを選択します。

ワークフロー制御

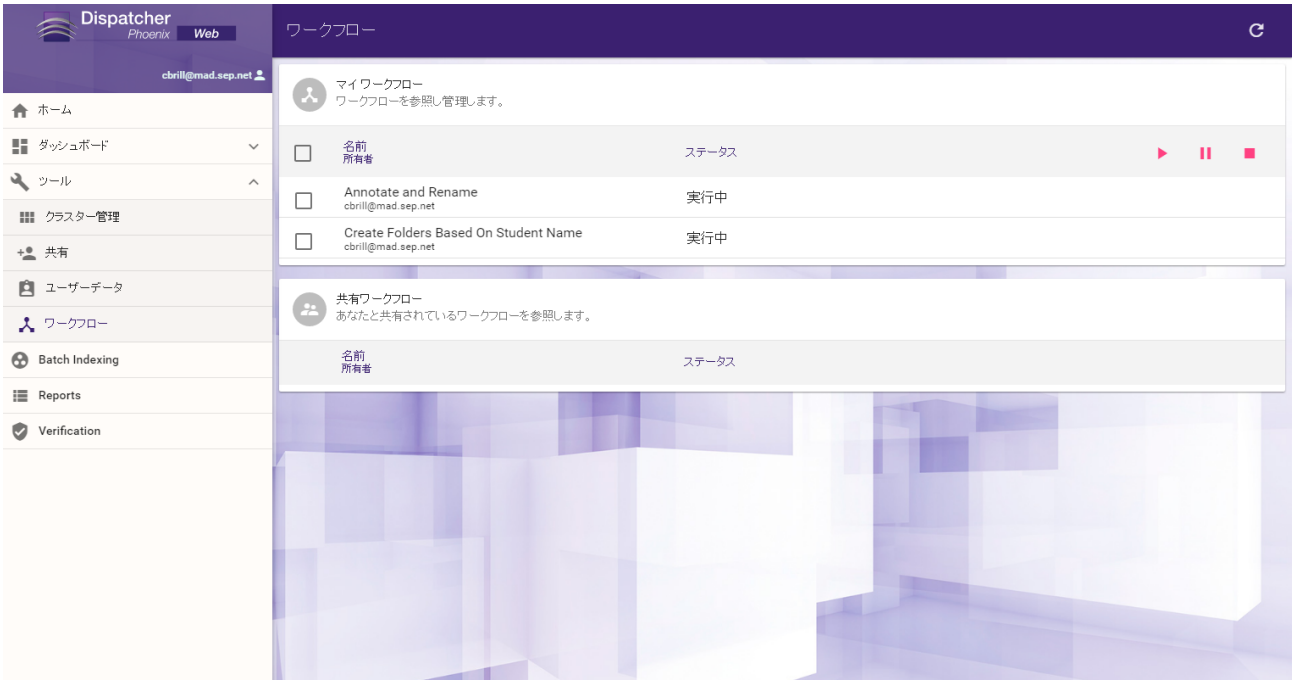
DP Webには、Dispatcher Phoenixサーバーに直接アクセスすることなくワークフロー（実行、一時停止、停止、または状況の確認）を制御できる「ワークフロー」ツールが含まれています。さらに、ワークフローツールを使用して、現在使用中のアクティブ入力の数を表示したり、ライセンス使用状況レポートにアクセスしたりできます。

ワークフローアプリケーションへのアクセス

Dispatcher Phoenix Webで、**[ワークフロー]** ボタンを選択するか、スライドアウトメニューから **[ツール] > [ワークフロー]** オプションの順に選択します。[ワークフロー]ページでは以下の操作が実行できます。

- **ワークフローの表示とコントロール。** このページには、Dispatcher Phoenix クライアントアプリケーションで少なくとも1回は正常に実行されたすべてのワークフローが表示されます。ワークフローは次のように編成されています。
    - マイワークフロー - この領域には、ログインしているユーザーのワークフローが表示されます。リストには、ワークフロー名、ワークフローの所有者、および現在のステータスが含まれています。
    - 共有ワークフロー - このエリアには、ログインユーザーと共有されているワークフローが表示されます。リストには、ワークフロー名とその現在のステータスが含まれています。これらのワークフローは選択できず、開始、一時停止、または停止することもできません。
- **ライセンス数を表示。** 現在使用されているアクティブ入力ライセンスの数と使用可能なライセンスの数。表示されるライセンス数は、ワークフローが開始、停止、または一時停止されるたびに動的に更新されます。
- **[更新]** このページは10秒ごとにワークフローのリストを自動的に更新します。ワークフローリストを手動で更新するには、**[更新]** アイコンをクリックします。

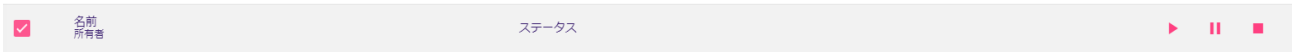
次の例の図を参照してください。



ワークフローコントロール

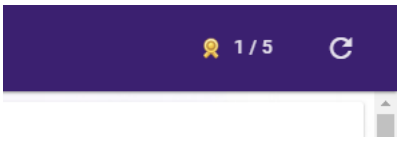
ワークフローを開始、一時停止、または停止するには、次の手順に従います。

1. 目的のワークフローの横にあるチェックボックスをオンにするか、上部のチェックボックスをオンにしてすべてのワークフローを選択します。
2. 関心のあるワークフローの上にマウスを移動します。次に、選択したワークフローを開始、一時停止、または停止するには **[開始]**、**[一時停止]**、または **[停止]** アイコンをクリックします。ワークフローのステータスは適宜変わります。
3. 選択したすべてのワークフローを開始するには、次の図のように一番上の行に表示されているアイコンをクリックします。



ライセンスカウントの表示

ワークフローページの右上隅には、現在使用されているアクティブ入力ライセンスの数と使用可能なライセンスの合計数が表示されます。たとえば、次の図では、ユーザーは5つのアクティブ入力のライセンスを取得しており、1つのアクティブ入力が現在使用されています。



所有しているライセンスの総数と各ライセンスカテゴリーで使用されているライセンスの数（Workstation、バッチインデックス、Dispatcher Phoenix Mobileなどのアクティブ入力とユーザーライセンス）に関する詳細レポートにアクセスするには、そのアクティブ入力ライセンス数をクリックして、ライセンス使用状況レポートを生成します。

使用状況レポート

使用状況レポートには、現在使用されていて利用可能なアクティブ入力およびユーザーライセンスに関する情報が表示されます。

このセクションには、インストールライセンスがあるモジュールだけが表示されます。たとえば、Workstationのライセンスがない場合は、使用状況の概要でWorkstationユーザーの行は省略されます。

次の例の図を参照してください。

このレポートは以下を含みます。

- **[使用方法の概要]** この領域には、以下についての高レベルな情報が表示されます。
  - 現在使用中で使用可能な一意のアクティブ入力の総数。
  - 現在使用中で使用可能なバッチインデックス、Workstation、およびDispatcher Phoenix Mobileのユーザー・ライセンスの総数。
- **[ワークフローアクティビティ情報]** この領域には、ログインしているユーザーが所有している、またはログインしているユーザーと共有しているアクティブなワークフローの名前と、ワークフローが消費しているアクティブ入力の数およびワークフローの所有者の名前が表示されます。実行中の複数のワークフローで使用されている場合でも、使用されているすべてのアクティブ入力が表示されます。現在実行中のワークフローがない場合、この領域は表示されません。特定のワークフローで使用されているアクティブ入力に関する詳細情報を表示するには、リスト内の任意の場所をクリックします。次の図では、「Route」ワークフローに入力フォルダーと複合機パネルノードが含まれているため、入力フォルダーのディレクトリパスと複合機のIPアドレスが表示されています。

- **[バッチインデックスユーザー情報]** この領域には、現在バッチインデックスツールを使用しているユーザーと、使用されているクライアントに関する情報（IPアドレスとブラウザー）が一覧表示されます。**[バッチインデックスユーザー]** は、ユーザーが初めてバッチインデックスプロセスを開始したときにライセンスを消費します。この領域は、少なくとも1つのバッチインデックスユーザーライセンスが使用されている場合にのみ表示されます。
- **[Workstation ユーザー情報]** この領域には、Workstation ユーザーの名前と、ライセンスが付与されているWorkstationが表示されます。**[Workstation ユーザー]** は、ユーザーが初めてWorkstationで新規バッチを作成したときにライセンスを消費します。この領域は、少なくとも1つのWorkstationユーザーライセンスが使用されている場合にのみ表示されます。
- **[Dispatcher Phoenix Mobile ユーザー情報]** この領域には、現在Dispatcher Phoenix Mobileアプリケーションを使用しているユーザーの名前と、接続しているモバイルデバイスが表示されます。**[DP Mobile ユーザー]** は、モバイルデバイスがDP Mobile アプリケーション内のDispatcher Phoenix サーバーに接続されているときにライセンスを消費します。この領域は、少なくとも1つのDispatcher Phoenix Mobile ユーザーライセンスが使用されている場合にのみ表示されます。Dispatcher Phoenix Mobileの詳細については**Dispatcher Phoenix Mobile ユーザーズガイド**を確認してください。
- **[更新]ボタン** ウィンドウを更新するにはこのボタンを選択します。

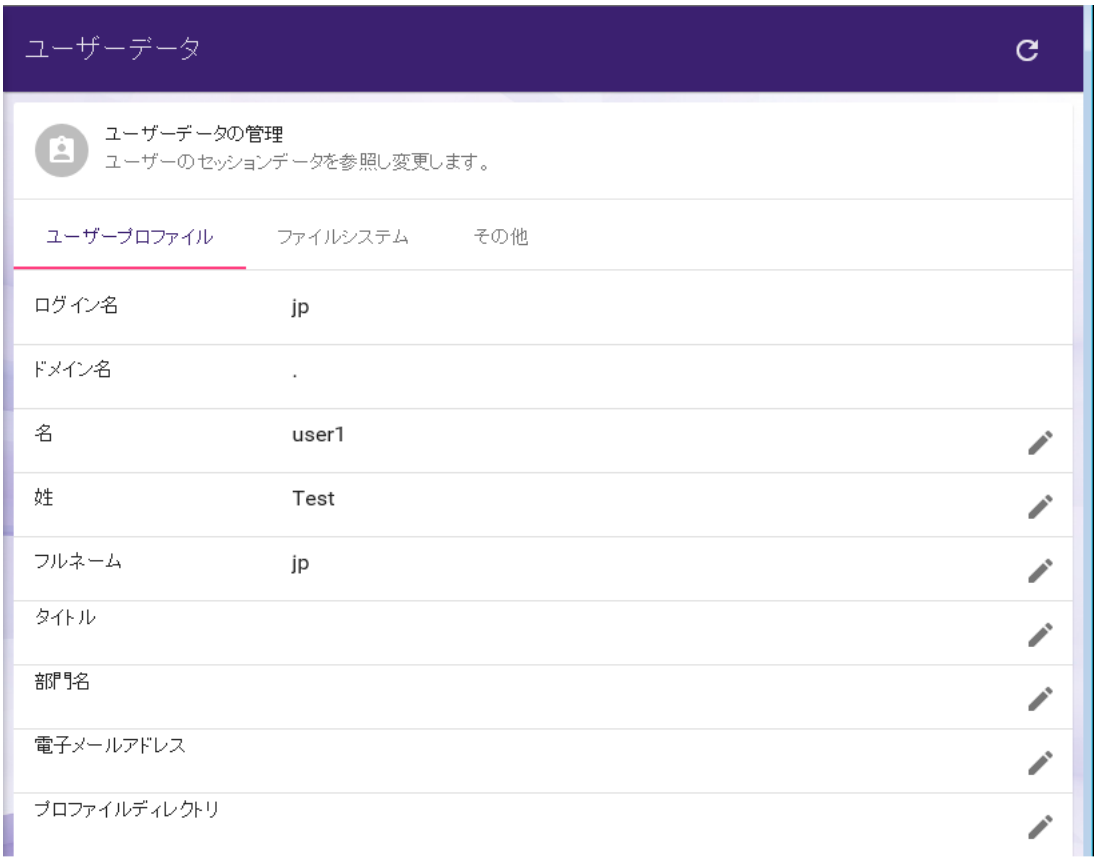
ユーザーデータ

DP Webには「ユーザーデータ」アプリケーションが付属しており、DP Webユーザープロファイルとユーザーストレージ変数を管理することができます。

ユーザーデータ アプリケーション へのアクセス

Dispatcher Phoenix Webで、**[ユーザーデータ]** ボタンを選択するか、スライドアウトメニューから **[ツール] > [ユーザーデータ]** オプションを選択します。[ユーザーデータ] ページに次のリンクが表示されます。

- **[ユーザープロファイル]** - 編集可能なユーザープロファイルフィールドのリストを表示します。
- **[ファイルシステム]** - Dispatcher Phoenixで使用される既定のディレクトリのリストを表示します。必要に応じて設定された変数を表示し、それらを変更することができます。
- **[その他]** - 削除可能なその他のユーザー変数を表示します。次の図の例を参照してください。



ユーザープロファイルの管理

ユーザープロファイルページには、ログインしているユーザーのプロファイルフィールドが表示されます。各フィールドの横には、次の図のように **[編集]** アイコンが表示されます。

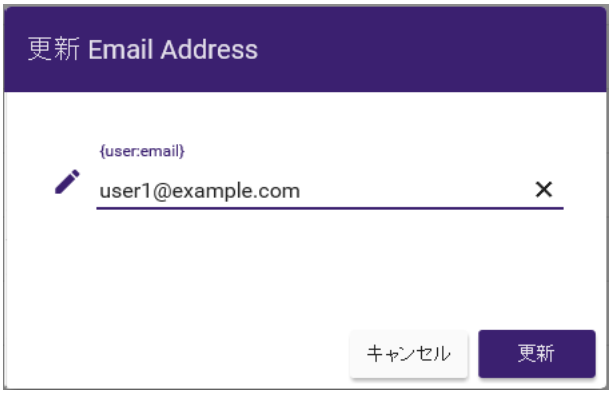
Active DirectoryまたはLDAPに接続している場合は、AD/LDAPシステムの設定がフィールドにあらかじめ入力されています。

重要！ AD/LDAPの設定は、ユーザーが指定した、いかなる変更よりも常に優先されます。

DP Webのユーザープロファイルを編集するには以下の操作を行います。

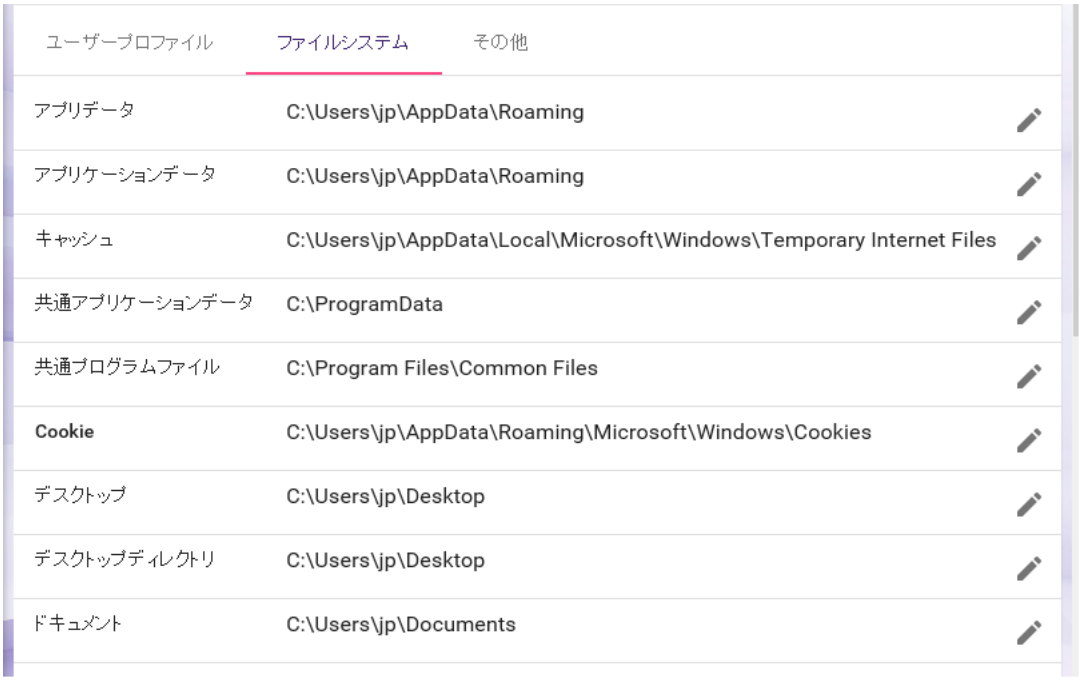
1. 次のフィールドを変更するには、それらのフィールドの横にある **[編集]** アイコンをクリックします。
    - **[名]** - ログインしたユーザーに関連付けられた名。
    - **[姓]** - ログインしたユーザーに関連付けられた姓。
    - **[フルネーム]** - ログインしたユーザーに関連付けられたフルネーム。
    - **[タイトル]** - ログインしたユーザーに関連付けられた職位。
    - **[部門名]** - ログインしたユーザーに関連付けられた部門名。
    - **[電子メールアドレス]** - ログインしたユーザーに関連付けられた電子メールアドレス。
    - **[プロファイルディレクトリ]** - ログインしたユーザーに関連付けられたプロファイルディレクトリ。
    - **[ホームディレクトリ]** - ログインしたユーザーに関連付けられたホームディレクトリ。
    - **[グループ]** - ログインしたユーザーが属するグループ。

2. **[編集]** アイコンをクリックすると、指定されたフィールドの[更新]ポップアップウィンドウが表示されます。そのウィンドウを使用してフィールドの新たな設定を入力してから、**[更新]** ボタンを選択します。たとえば、次の図では、電子メールアドレスをユーザープロファイルに追加しています。



ファイル システムの既定の管理

ファイルシステムページには、Dispatcher Phoenix Webで使用される既定のディレクトリが表示されます。各フィールドの横には次の図のように **[編集]** アイコンが表示されます。

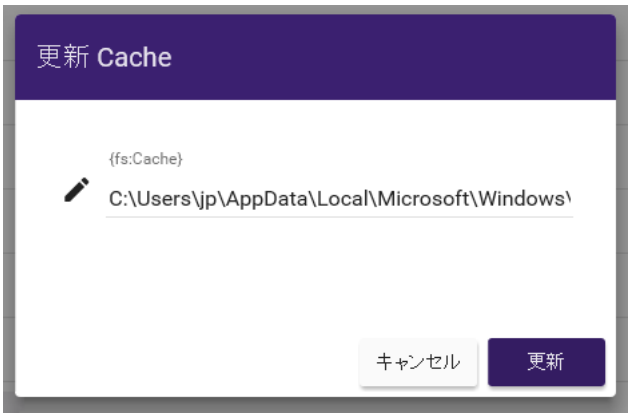


これらの既定のディレクトリを編集するには以下の操作を行います。

1. 次の既定のディレクトリを変更するには、各フィールドの横にある **[編集]** アイコンをクリックします。
    - アプリデータ
    - アプリケーションデータ
    - キャッシュ
    - 共通アプリケーションデータ
    - 共通プログラムファイル
    - Cookie
    - デスクトップ
    - デスクトップディレクトリ
    - ドキュメント
    - ダウンロード
    - お気に入り
    - 履歴
    - ローカルアプリデータ

- ローカルアプリケーションデータ
- マイミュージック
- マイピクチャ
- マイビデオ
- NetHood
- 個人
- PrintHood
- プログラムファイル
- プログラム
- 最近
- 送信先
- スタートメニュー
- スタートアップ
- システム
- テンプレート

2. **[編集]** アイコンをクリックすると、指定されたフィールドの[更新]ポップアップウィンドウが表示されます。そのウィンドウを使用してフィールドの新たな設定を入力してから **[更新]** ボタンを選択します。たとえば、次の図では[キャッシュ]ディレクトリを更新しています。



分析

Dispatcher Phoenix Webでは、サーバーとプロセスに関するわかりやすいリアルタイムの分析のダッシュボードにアクセスできます。

監査を有効にするには、まずDispatcher Phoenixクライアントアプリケーションの**オプション**ウインドウの、**データベースセットアップ** タブの **[ワークフローの監査を有効にする]** チェックボックスをオンにする必用があります。(オプションウィンドウにアクセスするには、**[ツール] > [オプション]**)を選択します)。

Dispatcher Phoenix Webで、**[分析]** ボタンを選択するか、スライドアウトメニューから **[ダッシュボード] > [分析]** オプションを選択します。次のページが表示されます。

このページには、次の情報が表示されます。

- スキャンされたドキュメント数（すべてのユーザー用）。
- 収集されたファイル数。
- ドキュメントをスキャンしているユーザー数。
- 入力ソースあたりの収集されたファイル数。
- 次のスキャンアクティビティの視覚的な内訳：
  - 最大ボリュームユーザー
  - 最もアクティブなユーザー
  - スキャンユーザーの総数
  - スキャンした総ドキュメント数
  - ドキュメントの平均スキャン数（1日あたり）
  - スキャンした総ページ数
  - ページの平均スキャン数（1日あたり）
- ユーザースキャンアクティビティ - トップ5のユーザーアクティビティ詳細を表示。

ダッシュボード表示のカスタマイズ

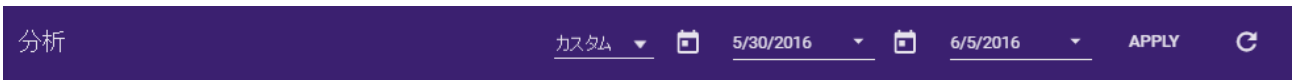
日付範囲を調整するには、ページの右上隅にある**［過去7日間］**ドロップダウンリストを選択します。次のメニューが表示されます。

統計情報の表示を次の範囲で選択できます。

- 過去7日間（既定の表示）
- 今日
- 昨日
- 過去30日間
- カスタム

カスタム日付範囲の構成

［カスタム］を選択してデータをレポートするカスタム期間を構成する場合、次の図に示すように、カレンダーアイコンが表示されます。



ポップアップカレンダーを使用して日付範囲を選択し、**［適用］**ボタンを選択します。

カード登録

カード登録の概要

カードの登録を利用すると、組織のディレクトリサーバーのユーザーにIDカード（HID Proximity、iCLASS、MIFAREなど）をマッピングできます。登録したカードは、複合機認証や、複合機でのシングルサインオンを通じたDispatcher Phoenixへのログインに使用できます。

また、カードをスキャンして、LDAPサーバー内のユーザー登録情報を返すこともできます。これにより、カードが他のユーザーに既に登録されているかどうかを確認することができます。

カードの登録を使用するには、以下の操作を行います。

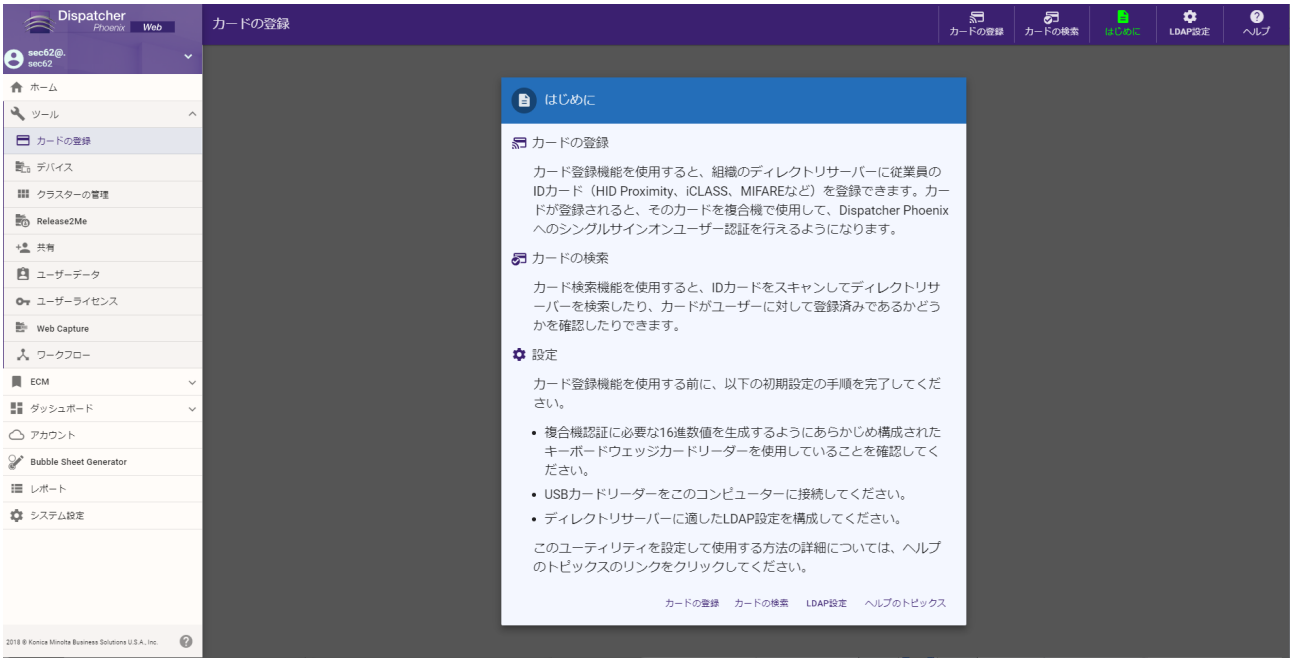
1. カードリーダー を設定します。
2. 複合機の認証機能を設定します。
3. Dispatcher Phoenix Webにログインし、**【カードの登録】**をクリックします。次の図の例を参照してください。

4. カードの登録でLDAP設定を構成します。
5. ユーザー用のカードを登録します。
6. カード情報を検索します。

このツールには、作業の開始に役立つヘルプ情報とショートカットキーも用意されています。

ヒント: カードの登録を使用して最初に1つだけカードを登録し、それが複合機の認証で使用できるかどうかを確認してから他のすべてのカードを登録することをお勧めします。

カードの登録の画面の例を以下に示します。



要件

カードの登録を使用する際の要件を以下に示します。

- カードリーダーはキーボードウェッジインターフェイスを備えている必要があります。
- カードリーダーをコンピューターに接続する必要があります。
- 他のユーザーのLDAPを更新できるLDAP管理者アカウントが必要です。
- カードの登録内で構成するLDAP設定がLDAPサーバーに対応している必要があります。

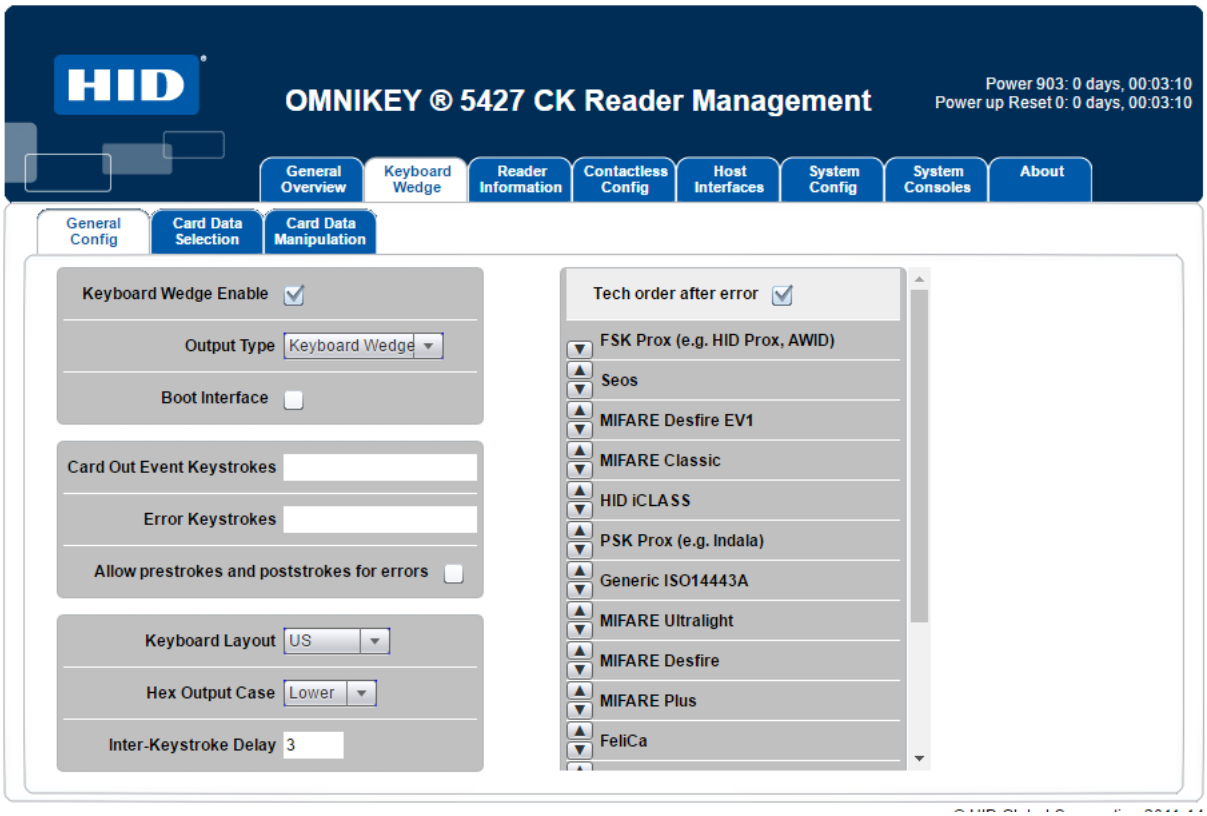
カードリーダーの設定

最初に、複合機の認証で必要なHEX値を送信するようにカードリーダーを設定する必要があります。

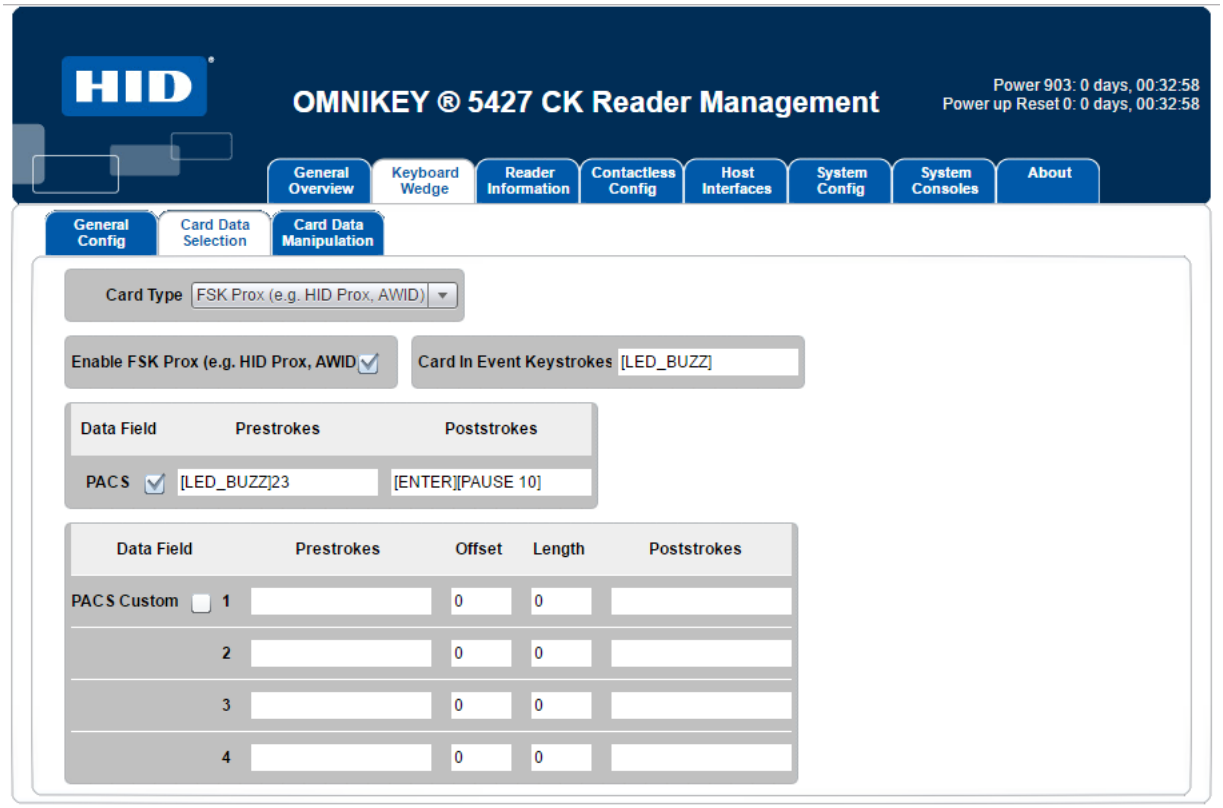
重要！カードの登録で使用するカードリーダーは、複合機で使用するカードリーダーと同じ構成である必要があります。

たとえば、コニカミノルタAU-205Hでは以下のように構成します。

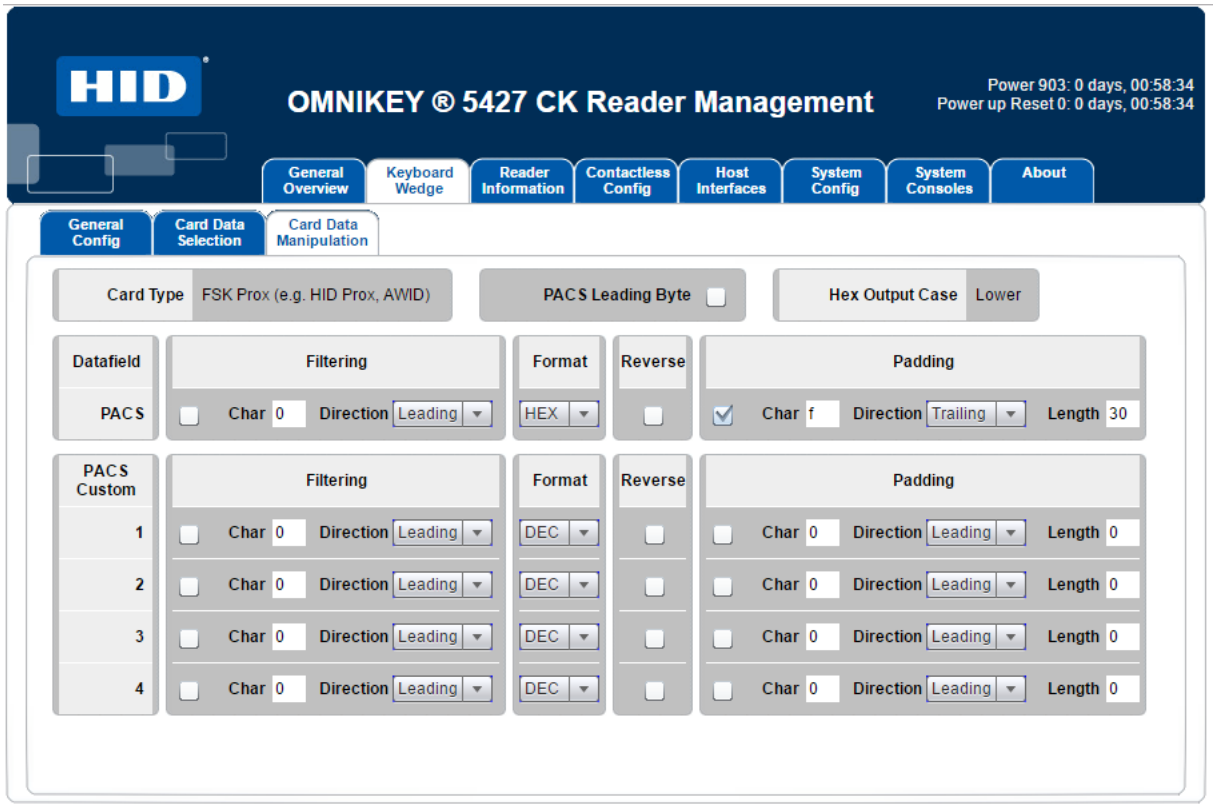
1. **一般設定を構成します。**ここで、キーボードウェッジ機能を有効にします。この機能を有効にすると、デバイスはキーボードのように計算を行い、一連のキーストロークとしてデータを出力します。次の図の例を参照してください。



2. **カードデータの選択を構成します。** カードのタイプを指定し、カードから読み取ってキーボードインターフェイスを通じて自動的にレポートされるデータを選択する必要があります。また、リーダーがカードを検出したときのキーボードウェッジの動作を設定する必要があります。次の図の例を参照してください。



3. **カードデータの操作を構成します。** 次の図に示すように、[Card Data Manipulation(カードデータの操作)]タブを使用して、出力のフォーマットを指定します。



複合機のActive Directoryとカードリーダー認証に関する設定

次に、複合機のActive Directory/LDAP認証を設定します。これは複合機上で行うか、またはPageScope Web Connectionを通して行います。これらの手順を実行するには、管理者としてログインする必要があります。

複合機上で以下を構成する必要があります。

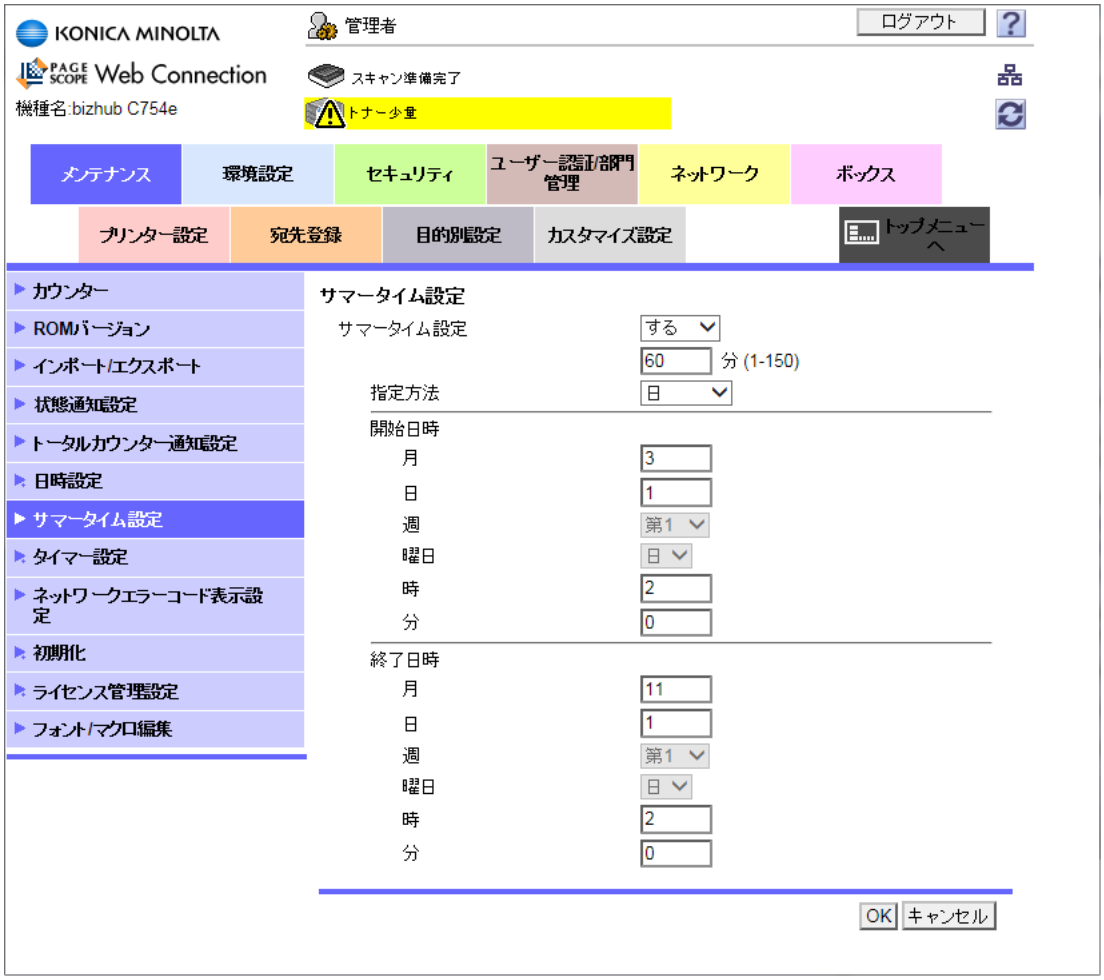
1. 時刻
2. DNSサーバー
3. 外部サーバー設定
4. カードリーダーの認証

注: これらの手順は、PageScope Web Connectionを使用して複合機を構成します。

複合機の時刻の構成

複合機の時刻がカードリーダーと合っているかどうか確認する必要があります。以下の操作を行います。

1. 次の図に示すように、管理者モードで **[サマータイム設定]** を選択し、**[サマータイム設定]** ドロップダウンで **[する]** が選択されていることを確認します。



2. 地域に応じてタイムゾーンを適切に設定する必要があります。たとえば、米国の東海岸ではGMT -5:00に設定します。次の図に示すように、**[日時設定] > [手動設定]** の順に選択し、**[タイムゾーン]** を設定します。

3. **[日時設定] > [時刻補正設定]** の順に選択し、NTP（Network Time Protocol）サーバーを使用するように複合機を構成します。以下の操作を行います。

   a. サーバーのアドレスを「pool.ntp.org」に設定します。

   b. 複合機の時刻を強制的に更新するには、[調整]ボタンを選択します。

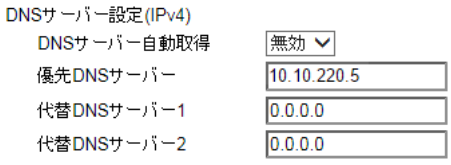
次の図の例を参照してください。

複合機のDNSサーバーの構成

次に、Active Directoryドメインサーバーシステムの IPアドレスを手動で入力する必要があります。以下の操作を行います。

1. 管理者モードで、**[ネットワーク]** を選択します。
2. 左のメニューから **[TCP / IP]** を選択します。
3. [DNSサーバーの自動取得]ドロップダウンリストで **[無効]** オプションを選択します。
4. **[優先DNSサーバー]** フィールドにActive Directoryドメインサーバーシステムの IPアドレスを入力します。

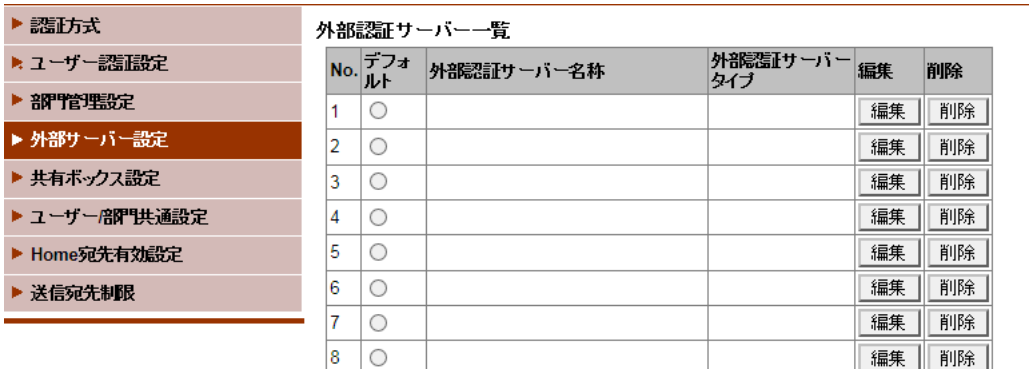
次の図の例を参照してください。



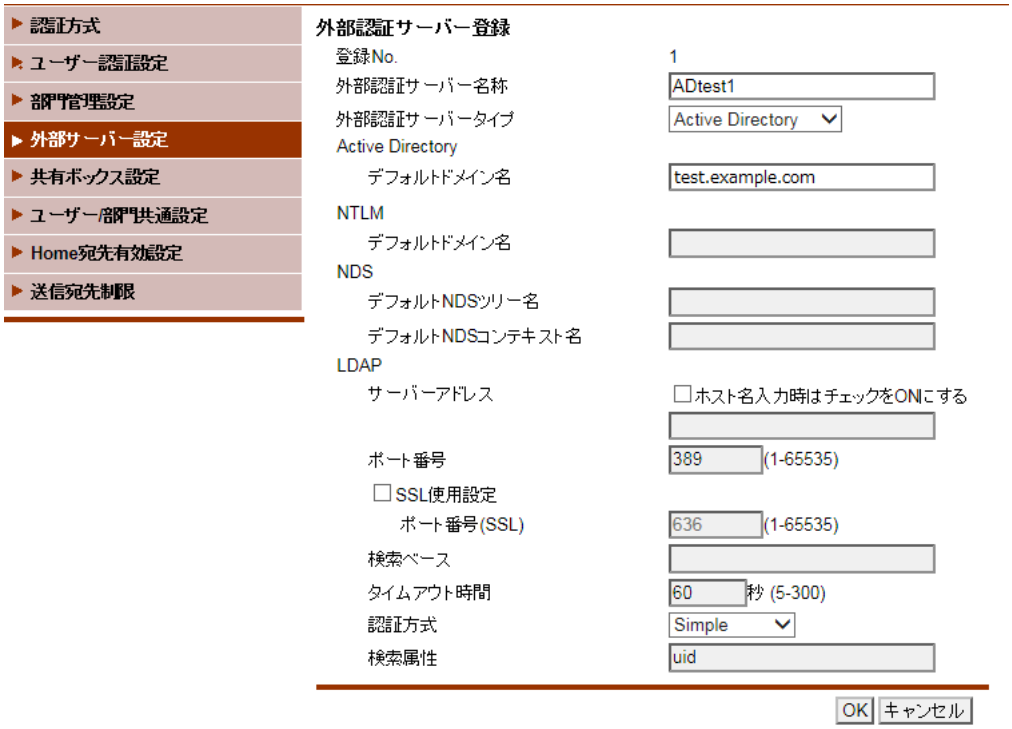
外部サーバー設定の構成

次に、外部サーバーと、認証で使用するActive Directoryドメインのドメイン名を登録する必要があります。以下の操作を行います。

1. 管理者モードで、**[ユーザー認証 / 部門管理]** を選択します。
2. 左のメニューから **[外部サーバー設定]** を選択します。
3. 1 番目の外部サーバースロットを選択し、**[編集]** ボタンを選択します。次の図の例を参照してください。



4. [外部認証サーバー登録]ページで、外部サーバーの名前とActive Directoryドメインの既定のドメイン名をそれぞれ該当するフィールドに入力します。[外部認証サーバー名称]は、ユーザーに対する表示のみを目的としたラベルであり、実際のサーバー名である必要はありません。次の図の例を参照してください。



5. 次の図に示すように、[認証方式]ページで、[ユーザー認証]ドロップダウンリストから **[本体装置認証]** を選択します。

カードリーダー認証の構成

最後に、認証カードに登録されたカードIDを使用してLDAPサーバーで認証を実行できるように複合機を構成する必要があります。以下の操作を行います。

1. 管理者モードで、[ユーザー認証/部門管理] > [LDAP-ICカード認証設定] > [LDAP-ICカード認証設定]の順に選択します。
2. 次の図に示すように、[LDAP-ICカード認証設定]で[使用する]オプションを選択します。

3. カード情報のクエリーを行うLDAPシステムを構成します。以下のフィールドに入力します。
   - サーバーアドレス
   - 検索ベース
   - 認証方式の一般設定
   - ログイン名（管理者である必要があります）
   - パスワード（最初に[パスワードを変更]ボックスにチェックマークを入れてから管理者のパスワードを入力します）
   - ドメイン名
   - 検索属性。ここで入力する属性（pagerなど）は、カードの登録の[LDAP設定]の[カードデータを登録するためのLDAP属性]フィールドに入力した属性と一致している必要があります。

- ユーザー名属性。ここで入力する属性は、カードの登録の[LDAP設定]の[ユーザーアカウント名を取得するためのLDAP属性]フィールドに入力した属性と一致している必要があります。
- 外部サーバー接続。外部サーバー設定の構成時に登録したサーバーを指定します。

LDAP設定の構成

カードリーダーを構成し、複合機のLDAP認証を設定したら、Dispatcher Phoenixのカードの登録でLDAP設定をセットアップする必要があります。このセットアップを行う必要があるのは1度だけです。LDAP設定を構成するには、以下のセクションを参照してください。

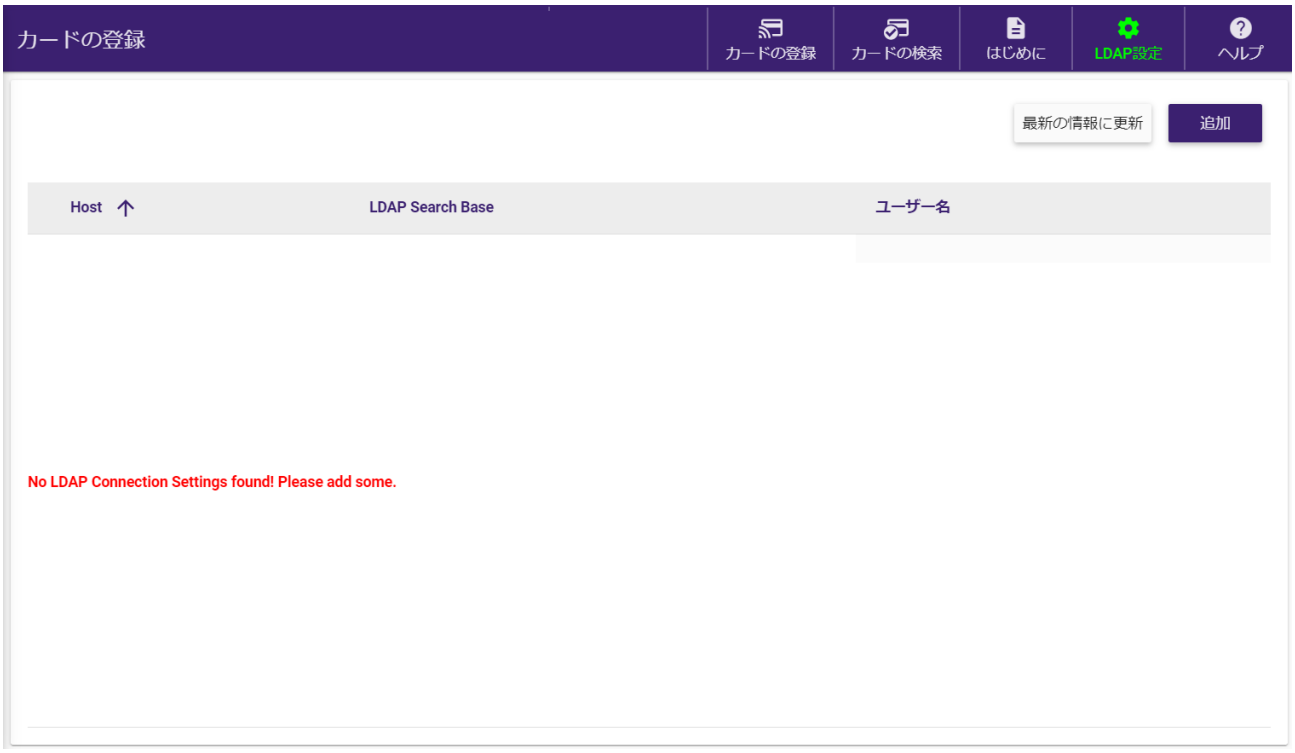
注:

- 2010年3月10日、マイクロソフトは、LDAPチャネルバインド、およびLDAP署名の使用による権限昇格の脆弱性に対処するため、Active Directoryドメインコントローラー用のセキュリティパッチをリリースしました。Dispatcher Phoenixはこの問題に対処するために強化されています。
- LDAP認証タイプをSIMPLEに設定し、SSLを有効にしていないユーザーの場合、Microsoft社のセキュリティ更新プログラムが適用されると、LDAP接続に失敗します。SIMPLE認証タイプを維持したい場合は、SSL暗号化を有効にし、信頼できる認証局から発行された有効なLDAPサーバー証明書がドメインサーバーにインストールされていることを確認する必要があります。このシナリオでは、どちらの証明書検証オプションも機能します。
- また、別の認証タイプを選択することも可能で、その場合はMSのセキュリティアップデートが実施された後でも機能します。
- このMicrosoftアップデートは、Workflow Services ManagerのLDAP接続、およびインデックスフォームビルダーのLDAPデータソース構成にも影響します。

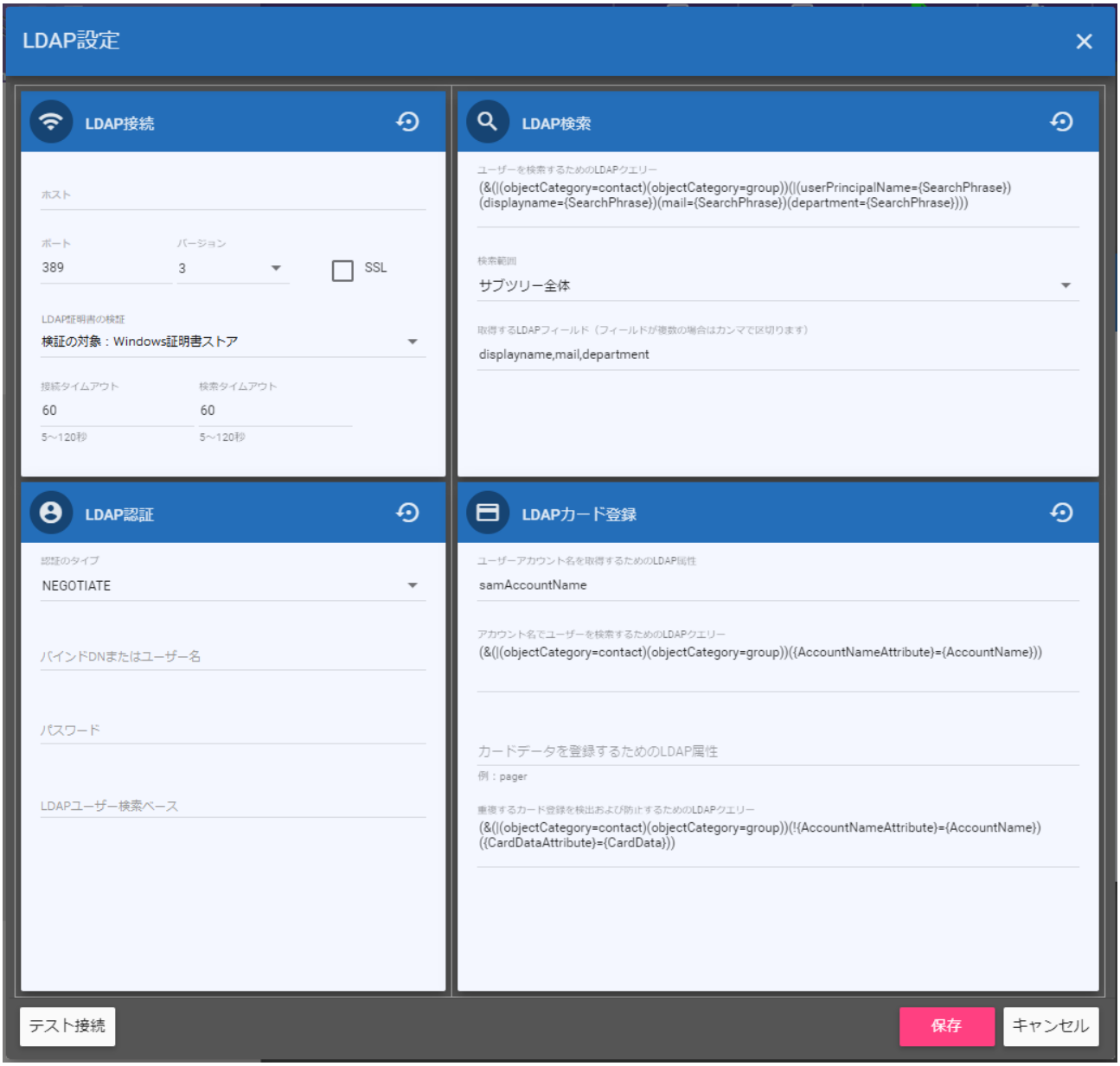
LDAP 設定

カードの登録で、ツールバーの **[LDAP設定]** を選択します。

次の図のように、LDAP設定ウィンドウが表示されます。



LDAP接続を追加するには、**[追加]** ボタンをクリックします。これにより、次の図に示すように、LDAP設定モーダルが開きます。



LDAP 接続

[LDAP 設定] ウィンドウで、次の情報を入力してLDAPサーバー接続を構成します。

- **ホスト** – LDAP がホストされているサーバーの名前を入力します。
- **ポート** – LDAP サーバーのポートを入力します。
- **バージョン** – ドロップダウンリストからLDAPバージョンを選択します。バージョン3(既定の設定)は、バージョン1および2 と下位互換性があることに注意してください。このため、既定の設定のままにしておくことをお勧めします。
- **SSL** – LDAPサーバーにSSL暗号化接続を要求する場合は、このボックスを選択します。
- **LDAP証明書の検証** - **SSL** フィールドの項目にチェックを入れた場合、このフィールドを使用してLDAPサーバー証明書の検証方法を指定します。以下のオプションがあります。
    - **Windows 証明書ストアに対して確認** - このオプションは、Windowsに設定されている認証局を使用して、LDAPサーバー証明書を検証します。このオプションを選択した場合、信頼できる認証局から発行された有効なLDAPサーバー証明書がドメインサーバーにインストールされていることを確認してください。
    - **検証を無視、これは信頼されているサーバーです** - 自己署名証明書には、このオプションをお勧めします。このオプションは、TLS接続のすべての証明書を受け入れます。
- **接続タイムアウト** – LDAP接続を確立するまでの最大秒数を入力します。割り当てられた時間内に接続が確立されない場合、接続は終了します。
- **検索タイムアウト** – 検索を中止する前にLDAPデータを検索する最大秒数を入力します。LDAPデータの検索を放棄するまでの最大秒数を入力します。

LDAP 認証

次の情報を選択、または入力して、LDAPサーバーに関する認証情報を指定します。

- **認証タイプ** - ドロップダウンメニューには次のオプションがあります。

- DIGEST
- KERBEROS
- NEGOTIATE - これは既定のレスポンスです。このオプションは、接続にMicrosoft Negotiate認証を使用します。
- NTLM
- SIMPLE

  注: Microsoftのセキュリティ強化により、2020年3月現在、このオプションは、**SSL** ボックスにチェックを入れ、ドメインサーバーにSSL証明書がインストールされていないと接続を維持することができません。

- **DNまたはユーザー名をバインド** - 定義された検索ベース内でLDAPディレクトリを検索することを許可された外部サーバーのユーザーを入力します。変数 {user}@{domain} は複合機からの情報に置き換えられ、検索を実行するために必要であることに注意してください。
- **パスワード** - バインドパスワードを入力します。
- **ベースDNまたは検索ベース** - 検索ベースは、複合機の設定と一致する必要があります。

LDAP 検索

次のフィールドを使用して、LDAPサーバーでユーザーを検索するために必要なプロパティを入力します。

- **ユーザー検索用のLDAPクエリー** - このフィールドには、カード登録ツールの検索フィールドに入力された文字に基づいてLDAPでユーザーを検索するクエリーを入力します。Active Directoryを使用している場合、既定のLDAPクエリーを変更する必要はありません。ただし、LDAPの別の実装を使用している場合は、サーバーに合わせてこのクエリーを変更する必要がある場合があります。
- **検索範囲** - LDAP 検索の開始点です。次のオプションがあります。
  - ベース - 指定したルートのエントリのみを検索します。
  - 1 レベル - 指定したルートの1レベル下のすべてのエントリーを検索します。
  - サブツリー全体 - 指定したルートを含むすべてのレベルですべてのエントリーを検索します。
- **取得するLDAPフィールド** - これらは、LDAP サーバーから返される属性です。列ヘッダーを引用符で囲むことにより、表示されるフレンドリ名を追加することができます。例: displayname “Name” は、列に “displayname” ではなく “Name” を表示します。次の図の例を参照してください。

LDAP カード登録

次のフィールドを使用して、カードデータの登録に必要な属性とクエリーを入力します。

- **ユーザーアカウント名を取得するためのLDAP属性** - このフィールドの属性は、複合機でサーバー登録をセットアップするときにユーザー名属性に入力したものと一致する必要があります。
- **アカウント名でユーザーを検索するためのLDAPクエリー** - このフィールドのクエリーは、ユーザ アカウントを見つけるために使用されます。Active Directoryを使用している場合、この既定のクエリーを変更する必要はありません。

- **カードデータを登録するためのLDAP属性** - このフィールドの属性は、複合機でサーバー登録をセットアップするときに検索属性に入力したものと一致する必要があります。
- **重複するカード登録を検出および防止するためのLDAPクエリー** - このフィールドのクエリーは、重複したカード登録を防ぐために使用されます。Active Directoryを使用している場合、この既定のクエリーを変更する必要はありません。

既定値に戻す - フィールドを既定の設定に戻すには、次の図のように各領域の上部に表示されるこのボタンをクリックします。

テスト接続 - このボタンをクリックして、LDAPプロパティをテストします。

保存 - 完了したら、このボタンをクリックします。

カードの登録

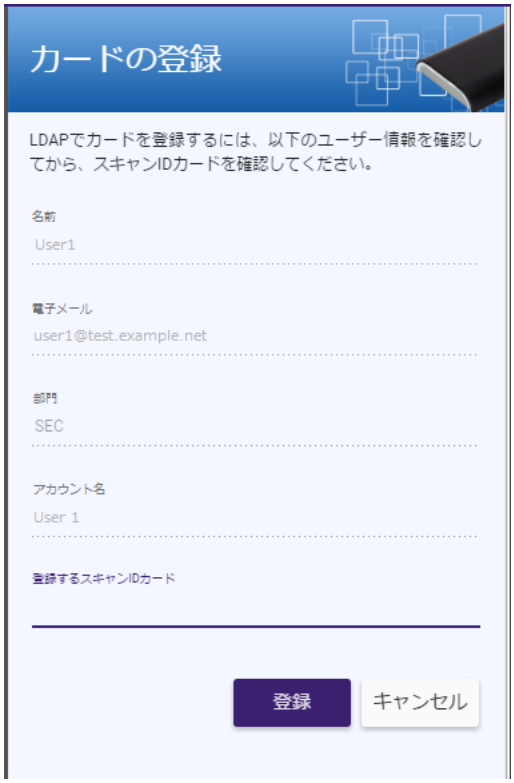
カードを登録するには、以下の操作を行います。

1. [カードの登録]ページで、LDAPでユーザーを検索するための検索フレーズを入力します。検索ではワイルドカード文字(*)を使用できます。
2. ユーザー検索を開始するには、**[検索]** ボタンを選択するか、**[Enter]** キーを押します(「 * 」を入力した場合はすべてのユーザーが検索されます)。

   [検索結果]で、ユーザーに対してすでにカードが登録されている場合、ユーザー名の横にそれを示すアイコンが表示されます。このアイコンの例については次の図を参照してください。

3. 検索結果から目的のユーザーを選択します。IDカードをスキャンしてユーザーに対して登録可能である場合、ユーザー名の横にそれを示すアイコンが表示されます。このアイコンの例については次の図を参照してください。

   ページの右側に[カードの登録]領域が表示されます。次の図の例を参照してください。

4. カードリーダーを使用して、未登録のカードをスキャンします。すぐにカードの値が[登録するスキャンIDカード]フィールドに表示されます。表示状態が変化し、カード登録の確認が行われます。これで、カードがユーザーとペアリングされます。次の図の例を参照してください。

5. ユーザーからカード登録を削除するには、**[登録解除]** ボタンをクリックします。

カード登録の検索

カードが登録されているかどうかを確認するには、以下の操作を行います。

1. ツールバーの **[カードの検索]** を選択します。
2. カードリーダーを使用してカードをスキャンします。空のフィールドにカードのID値が表示されます。カードにユーザーが登録されている場合は、次の図に示すようにページの右側にそのユーザーの情報が表示されます。

3. このユーザーのカードを登録解除するには、**[登録解除]** ボタンを選択します。
4. カードがまだユーザーに対して登録されていない場合は、ページの下部に次のメッセージが表示されます。

作業の開始

このツールの使用に関する重要な情報を参照するには、ツールバーの **[はじめに]** を選択します。

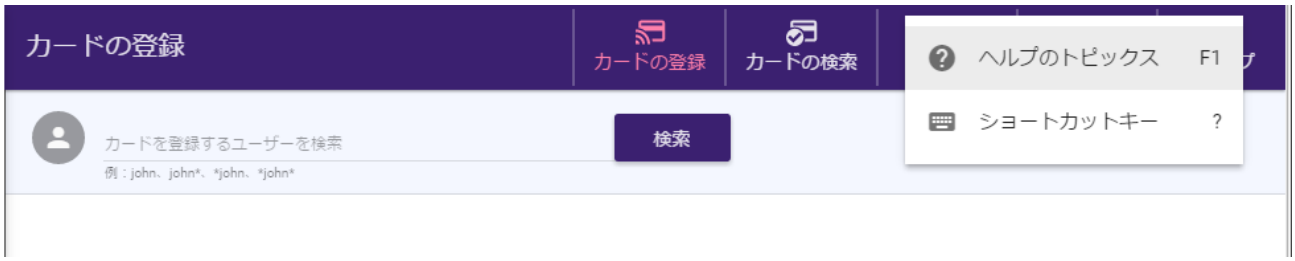
このポップアップ画面で、以下の操作を行うことができます。

- カードを登録するには、**[カードの登録]** を選択します。
- IDカードをスキャンしてカードが登録されているユーザーを確認するには、**[カードの検索]** を選択します。
- LDAPディレクトリに接続して検索クエリーを設定するには、**[LDAP設定]** を選択します。この設定を行うのは最初にこのツールを使用するときに1度だけです。
- ツールのヘルプ情報を参照するには、**[ヘルプのトピックス]** を選択します。

キーボードショートカット

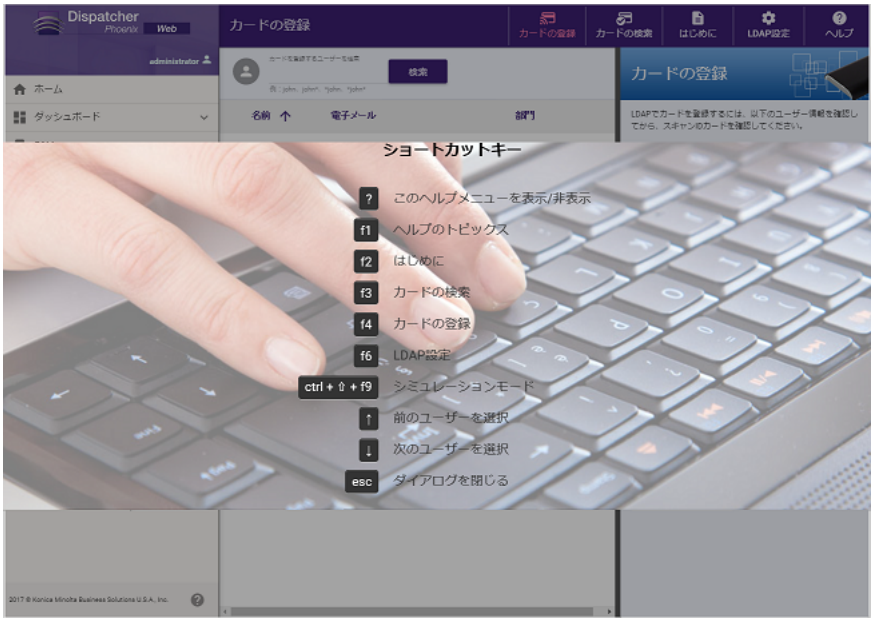
キーボードショートカットが使用できます。

[Shift + ?] キーを選択すると、使用可能なすべてのショートカットキーの一覧が記されたヘルプメニューが表示されます。次の図に示すように、[ヘルプ]ドロップダウンからショートカットキーのヘルプメニューにアクセスすることもできます。



以下のショートカットキーが利用できます。

- **[?]** - このヘルプメニューの表示/非表示
- **[F1]** - ヘルプトピックスの表示
- **[F2]** - [はじめに]情報の表示
- **[F3]** - カードの検索機能へのアクセス
- **[F4]** - カードの登録機能へのアクセス
- **[F6]** - [LDAP設定]ウィンドウへのアクセス
- **[Ctrl + Shift + F9]** - ダミーLDAPデータを利用するデモモードへのアクセス
- **[上矢印]** - 前のユーザーを選択
- **[下矢印]** - 次のユーザーを選択
- **[Esc]** - ショートカットキーのヘルプメニューを閉じる


Dispatcher
Phoenix
Web
administrator
ホーム
ダッシュボード
カードの登録
カードの登録
はじめに
LDAP設定
ヘルプ
検索
名前
電子メール
部門
カードの登録
ショートカットキー
? このヘルプメニューを表示/非表示
f1 ヘルプのトピックス
f2 はじめに
f3 カードの検索
f4 カードの登録
f6 LDAP設定
ctrl + ⇧ + f9 シミュレーションモード
↑ 前のユーザーを選択
↓ 次のユーザーを選択
esc ダイアログを閉じる

ツール

アドインマネージャー

アドインマネージャーを初めて開いた場合は、アンインストールできるノード/パッケージがすべて表示されます。ウィンドウの左側のさまざまな項目をクリックして、更新プログラムを表示してインストールしたり、新しいオプションノードをインストールしたりすることもできます。

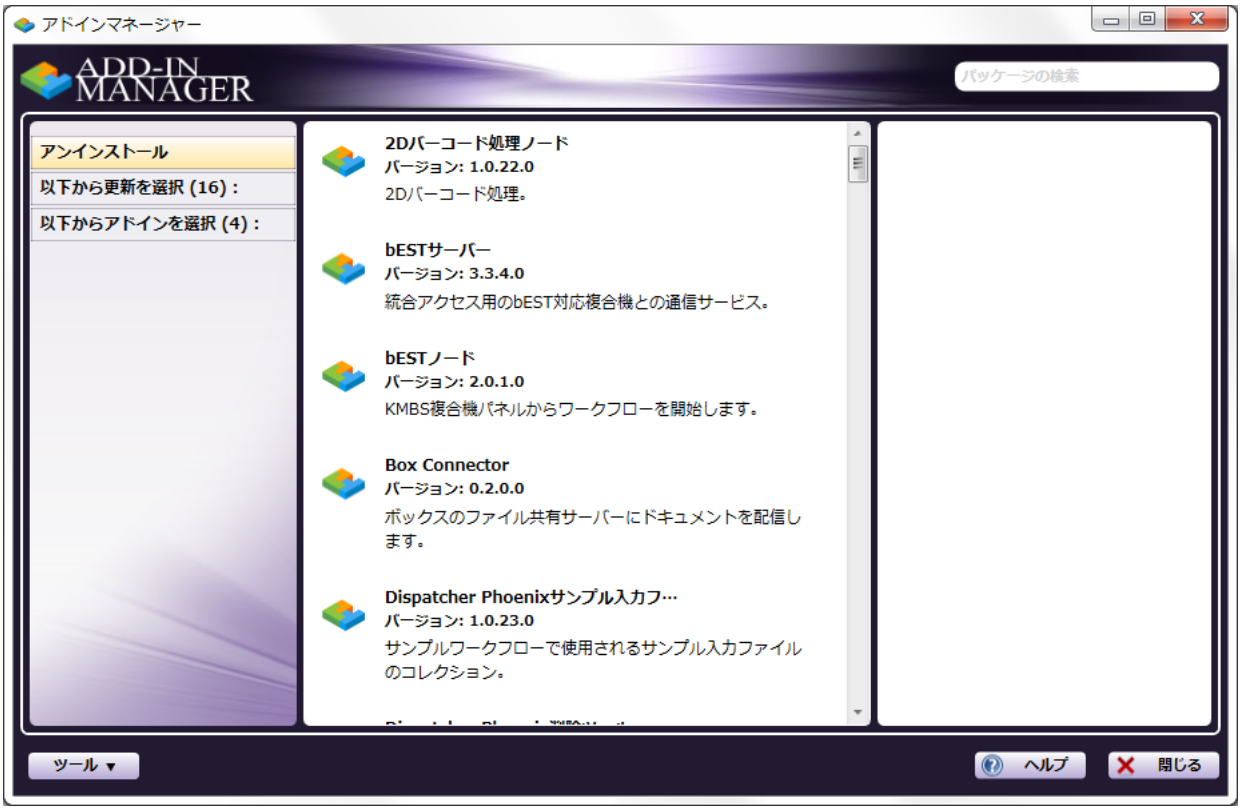
更新プログラムのダウンロード/インストールや新しいノードのインストールを行う場合、次の点に注意します。

- アドインマネージャーは最小化できます。ダウンロード、インストール、または更新を行っているときに、アドインマネージャーウィンドウを最小化することができます。システムトレイにアイコンが表示されます。このアイコンをダブルクリックして操作の進行状況を確認できます。
- アドインマネージャーには複数選択機能が用意されています。アドインマネージャーに表示される項目を複数選択して、それらを一度にインストールまたはアンインストールすることができます。

アドインマネージャーを開くには、[KONICA MINOLTA]フォルダーの下にあるAdd-In Managerが見つかるまで、Windowsの[スタート]メニューからすべてのプログラムを参照します。Add-In Managerをクリックすると、アドインマネージャーの実行可能ファイルが表示されます。実行可能ファイルをクリックして、アドインマネージャーを起動します。

管理者として実行

更新、アンインストール、またはインストールを実行するには、ユーザーが管理権限を持っている必要があります。ただし、更新プログラムのダウンロードはどのユーザーでも実行できます。



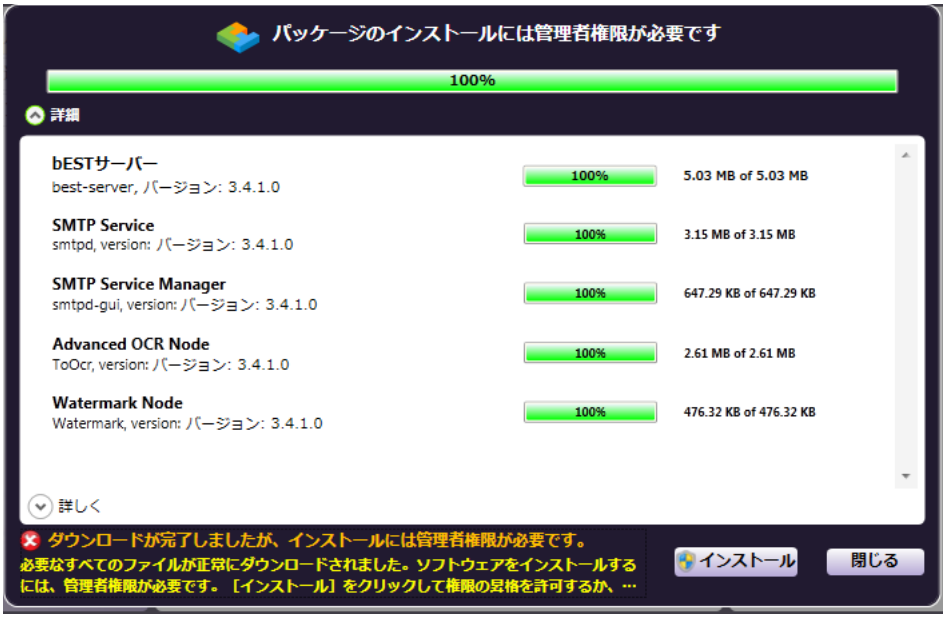
次の操作を実行します。

- アドインマネージャーで **[管理者として実行]** ボタンを選択します。
- Windowsのプログラムの一覧で **[アドインマネージャー]** を右クリックして、表示されたコンテキストメニューから **[管理者として実行]** を選択します。この手順では **[管理者として実行]** ボタンはアドインマネージャーに表示されません。

  UACプロンプトが表示されます。**[はい]** ボタンをクリックして続行します。アドインマネージャーを閉じるまで管理権限が付与されます。

バックグラウンドで更新プログラムをダウンロードしている場合

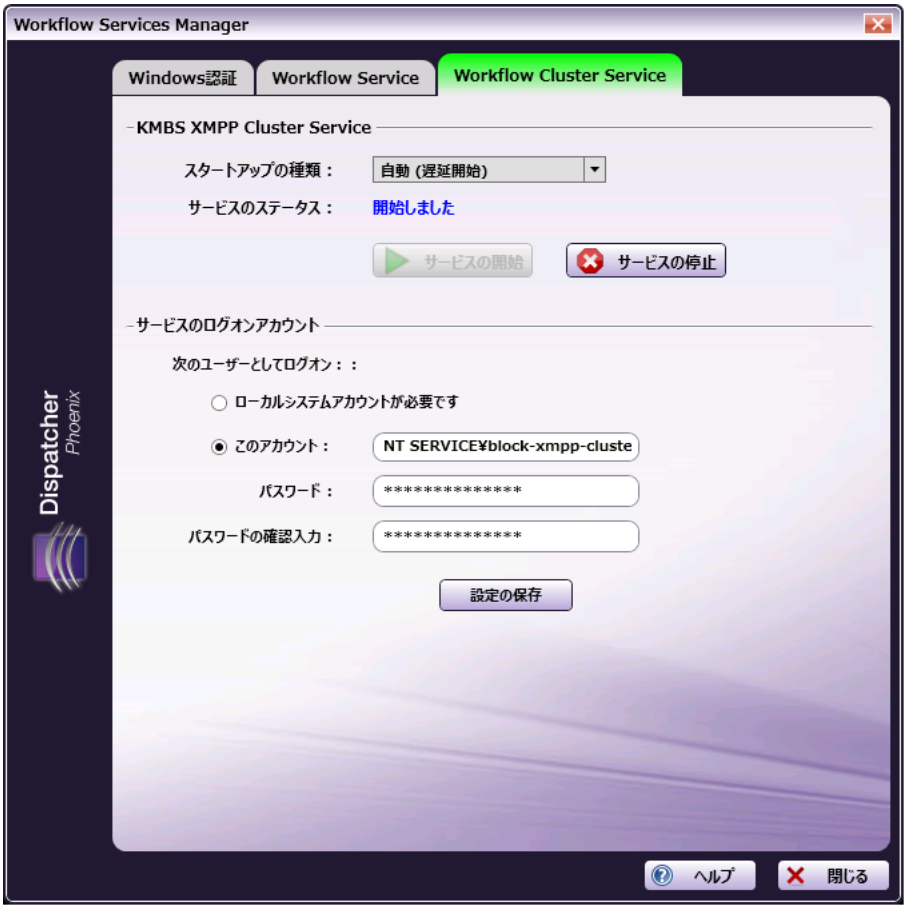
アドインマネージャーが起動時にバックグラウンドで更新プログラムをダウンロードしている場合は、インストールの準備ができるとインストールウィンドウが表示されます。この場合、**[インストール]** ボタンをクリックすると、自動的に管理権限が付与されてインストールが続行されます。



主な機能

バージョン情報

システムに現在インストールされているすべてのパッケージとそのバージョン番号のリストを表示するには、アドインマネージャーの **[ツール]** プルダウンメニューから **[バージョン情報...]** を選択します。次の図のように、[アドインマネージャーレポート]ウィンドウが表示されます。



表示されるパッケージのリストを絞り込むには、ウィンドウの右上にある **[検索]** フィールドを使用します。フィルタリングされた結果を削除するには、フィールド内のフレーズを削除するか、**[X]** をクリックしてフィールドをクリアします。

注: スラッシュ [/] キーを押すと、[検索]フィールドにすぐにフォーカスが移動します。

レポートをPDFファイルとして保存するには、**[PDFとして保存]** ボタンを選択します。Windowsの[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、目的の場所にファイル（既定名はAIM Report.pdf）を保存できます。保存すると、PDFが生成されて自動的に開きます。

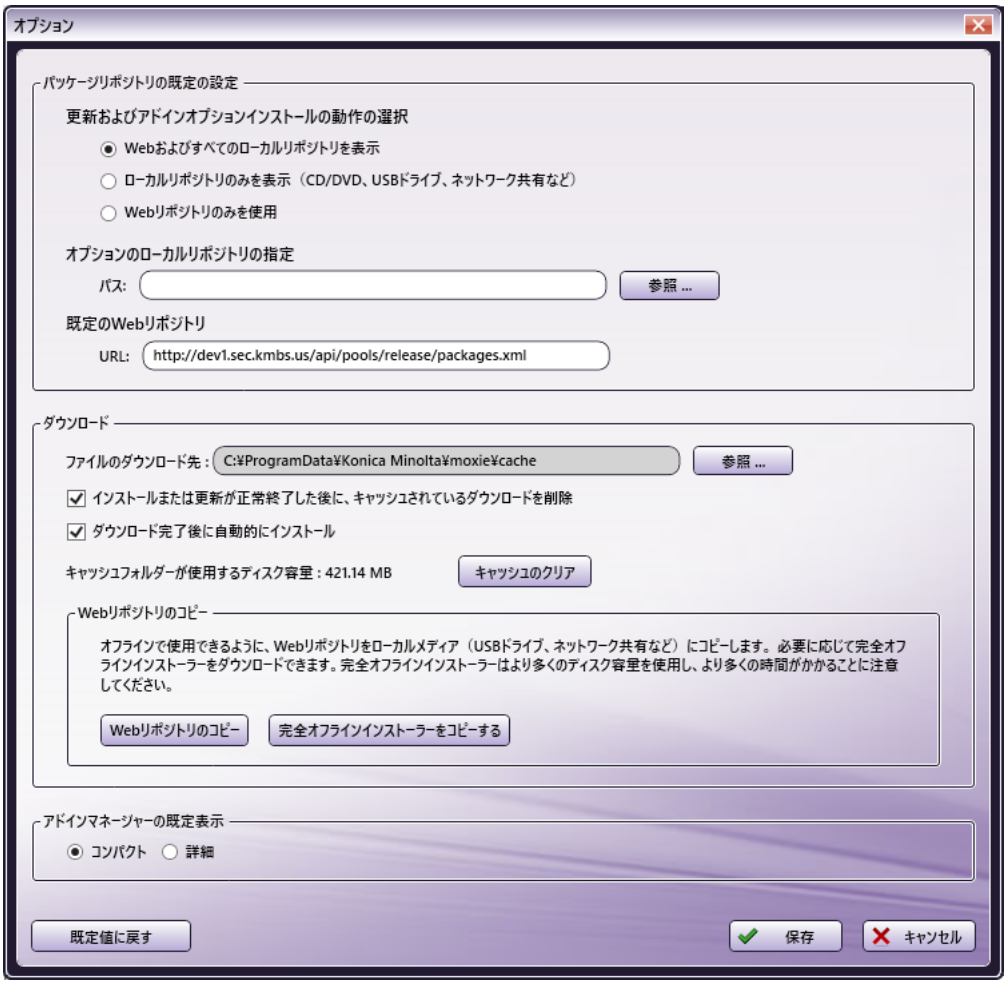
アドインマネージャーレポートを閉じるには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。

注: このウィンドウは、Dispatcher Phoenixの **ライセンスマネージャー** と **製品情報** ボックスから開くこともできます。

オプション

パッケージリポジトリの設定の指定、ローカルメディアへのWebリポジトリのコピー、およびアドインマネージャーのビューの設定を行うには、アドインマネージャーの **[ツール]** プルダウンメニューから **[オプション...]** を選択します。

オプションウィンドウは次の図のようになります。

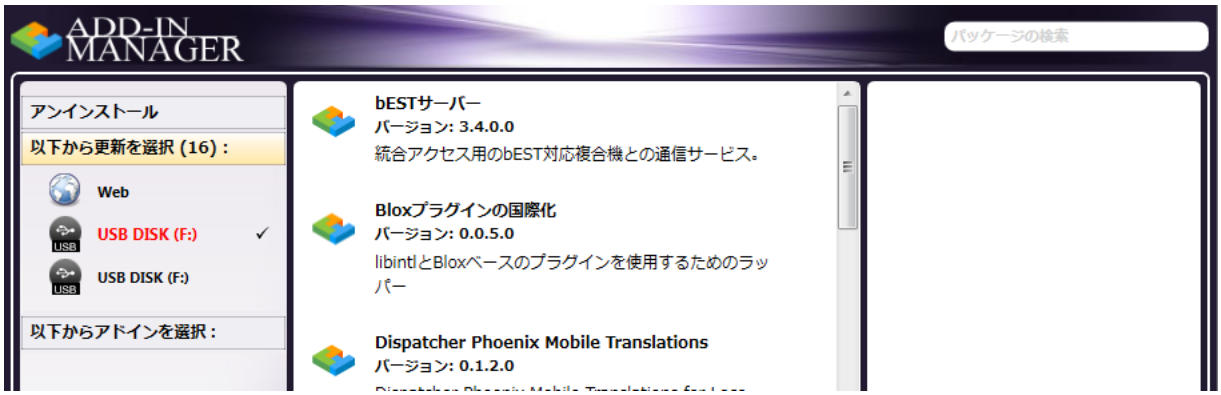


パッケージリポジトリの既定の設定

更新およびアドインオプションインストールの動作の選択 のオプションから次のいずれかのオプションを選択して、パッケージの更新またはインストールを行うときにユーザーが選択できるパッケージリポジトリの場所を選択することができます。

- **Webおよびすべてのローカルリポジトリを表示** - これは既定設定です。このオプションを有効にすると、アドインマネージャーは使用可能なパッケージリポジトリの場所を自動検出して、複数のリポジトリの場所（Web、CD/DVD、USBドライブなど）が検出された場合にユーザーが選択できるパッケージリポジトリのリストを表示します。ネットワーク共有またはローカルドライブが指定されている場合は、それらも表示されます。
- アプリケーションで更新を確認すると、次の図のように、パッケージリポジトリが一覧表示されたメッセージが表示されます。

Windowsのプログラムメニューから直接アドインマネージャーにアクセスした場合は、次の図のように、使用可能なパッケージリポジトリの場所がウィンドウの左側に表示されます。



- **ローカルリポジトリ（CD/DVD、USBドライブ、ネットワーク共有など）のみを表示** - このオプションを有効にすると、アドインマネージャーは自動的にインストールまたは更新するパッケージリポジトリのインストール元の場所としてローカルメディア（CD/DVDやUSBドライブなど）を使用しようとします。複数のローカルリポジトリが自動検出された場合は、いずれか1つを選択するよう求めるメッセージが表示されます。ネットワーク共有またはローカルドライブが指定されている場合は、それらも表示されます。

  Windowsの[プログラム]メニューから直接アドインマネージャーにアクセスした場合は、パッケージリポジトリが含まれているローカルのインストール元の場所だけがウィンドウの左側に表示されます。

  ローカルリポジトリが検出されなかった場合は、警告メッセージが表示されます。

- **Webリポジトリのみを使用** - このオプションを有効にすると、アドインマネージャーは自動的に、インターネット（既定のWebリポジトリ]フィールドに示されている）からパッケージをダウンロードします。

  Windowsの[プログラム]メニューから直接アドインマネージャーにアクセスした場合は、パッケージリポジトリが含まれているローカルのインストール元の場所だけがウィンドウの左側に表示されます。

- 別のローカルリポジトリ（ネットワーク共有またはローカルドライブ）を指定して、**[オプションのローカルリポジトリの指定]** フィールドにパスの場所を追加して、パッケージリポジトリの利用可能なダウンロード元の場所としてリストすることもできます。**[参照]** ボタンを使用して、リポジトリを検索して見つけることができます。

ダウンロード

- キャッシュされているダウンロードファイルの保存先の既定の一時フォルダーを変更するには、**[ファイルのダウンロード先]** フィールドの横にある **[参照]** ボタンをクリックします。
  - 既定では、インストールまたは更新されたダウンロードファイルは、インストールまたは更新が完了した後に自動的に削除されます。この機能を無効にするには、**[インストールまたは更新が正常終了した後にキャッシュされているダウンロードを削除]** ボックスのチェックマークを外します。
  - パッケージをダウンロードした後に自動的にインストールするには、**[ダウンロード完了後に自動的にインストール]** ボックスにチェックマークを付けます。
  - キャッシュされているファイルをすべてクリアするには、**[キャッシュのクリア]** ボタンをクリックします。
- USBドライブなどのローカルメディアにWebリポジトリをダウンロードするには、**[Webリポジトリのコピー]** ボタンをクリックします。これは[**インターネット接続に制約がある、またはインターネット接続に制約がある、またはインターネットに接続されていない場所で更新プログラムのインストール準備を行う**時に便利です。

  注: このオプションでは、アドインマネージャーは新しいパッケージまたは更新されたパッケージのみをチェックします。そのため、リモートリポジトリを複製する場合は **[インストールまたは更新が正常終了した後にキャッシュされているダウンロードを削除]** オプションが **無効** になっていることを確認してください。

- 完全インストーラーファイルを複製するには、**[完全オフラインインストーラーをコピーする]** をクリックします。これによってすべてのインストーラーファイルがダウンロードされ、選択したメディアにISOの完全なレイアウトが作成されます。ISOは光学ディスクのデータを含むイメージファイルです。これは単一のISOファイルを作成するだけではなく、ISO構成内のすべてのファイルをダウンロードします。これによってDVDの作成やISOのマウントの代わりに、メディアから直接インストーラーを使用することができます。ISOを作成したい場合、ダウンロードしたインストーラーファイルからISOイメージを作成するための任意のISOイメージ作成ツールを使用できます。

アドインマネージャーの既定の表示

アドインマネージャーの外観を構成するには、以下のいずれかを行います。

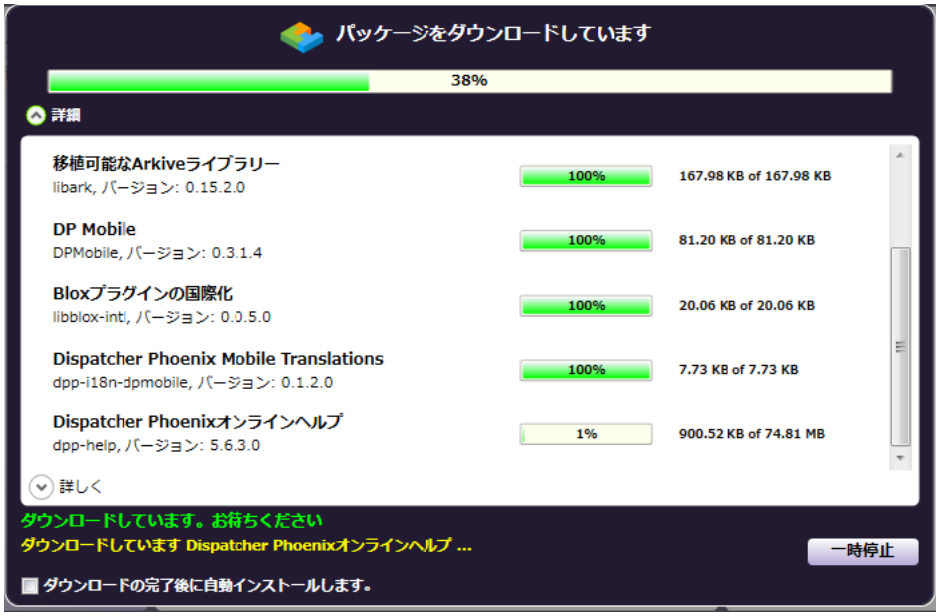
[コンパクト] - このビューは既定のもので、製品機能のスライドショーと共に進行状況バーが表示されます。

[詳細] - このビューには、進行状況バーと共に詳細な進行状況メッセージが表示されます。

既定の設定に戻す

設定は **[既定値に戻す]** ボタンをクリックしていつでも既定の設定に戻すことができます。

- **ダウンロード中** すべての更新プログラムおよび新しいパッケージは、インストールされる前にまずダウンロードされます。インストールは、ダウンロードが完了した後、手動または自動で行うことができます。以下に、[ダウンロード]ウィンドウの例を示します。これらのほかにもフィールドとボタンがあることに注意してください。
  - **[一時停止]** - [一時停止]ボタンをクリックして、いつでもダウンロード処理を中断できます。ダウンロードを一時停止した場合は、後で[再開]ボタンをクリックして、ダウンロード処理の同じ時点から再開することができます。



さまざまなビュー

ダウンロード、アンインストール、およびインストールを行う際には、次の2つのビューから選択できます。

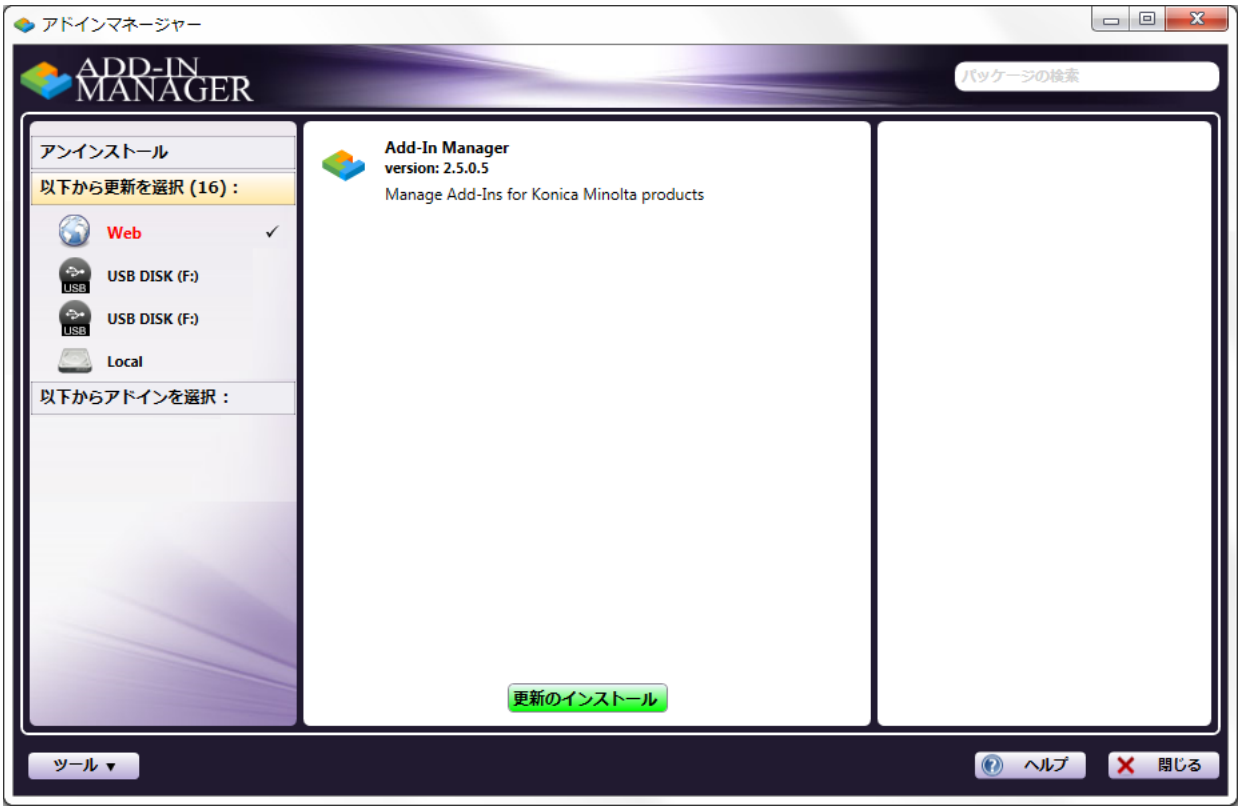
- 進行状況バーと製品機能のスライドショー（ **既定** のビュー）
- 進行状況バーと詳細なインストールメッセージ（ **[詳細]** オプションを有効にした場合に表示される）

アンインストール リンク

アドインマネージャーウィンドウの左側にある **【アンインストール】** リンクには、システムに現在インストールされているすべてのパッケージのリストが表示されます。各項目の下に簡単な説明が含まれています。特定のパッケージに関する詳細を表示するには、リスト内の項目をクリックします。ウィンドウの右側にその項目の依存関係のリストが表示されます。

- 特定のコンポーネントをアンインストールするには、**【アンインストール】** ボタンを選択します。コンポーネントをアンインストールすると、そのコンポーネントの依存関係もアンインストールされます。確認メッセージが表示され、そのパッケージをアンインストールしてもよいかどうかを確認されます。
- アンインストール操作が開始される前に、アドインマネージャーは実行中のパッケージを探します。問題が見つかると、進行状況バーが赤くなり、ウィンドウの下部にメッセージが表示されます。次の図には、Dispatcher Phoenixアプリケーションが開いている場合に発生したエラーが示しています。

以下から更新を選択 リンク

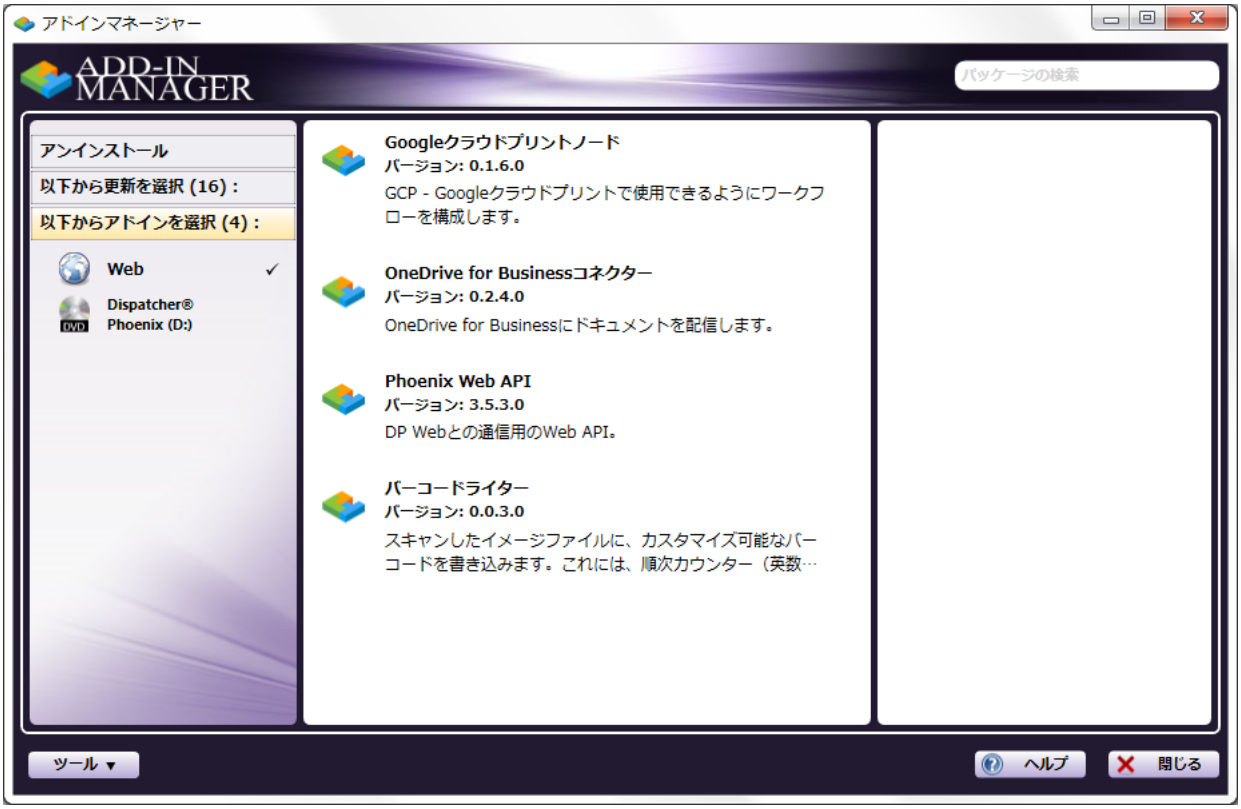


アドインマネージャーウィンドウの左側にある **[以下から更新を選択]** リンクには、現在インストールできる更新パッケージの数が表示されます（選択した場所に応じて異なります）。パッケージリポジトリの場所は動的に検出されます。この領域に表示される場所の種類（Webとローカルリポジトリ、ローカルリポジトリのみ、Webのみ）を変更するには、[オプション]ウィンドウを使用します。

[更新のインストール] ボタンを選択して、インストール処理を開始します。確認メッセージが表示され、更新プログラムをインストールしてもよいかどうかを確認されます。更新操作を開始する前に、アドインマネージャーは実行中のパッケージを探します。問題が見つかると、進行状況バーが赤くなり、ウィンドウの下部にメッセージが表示されます。

特定のコンポーネントに関する詳細を表示するには、リスト内の項目をクリックします。ウィンドウの右側にその項目の依存関係のリストが表示されます。

以下からアドインを選択 リンク



アドインマネージャーウィンドウの左側にある **[以下からアドインを選択]** リンクには、現在インストールできる新しいパッケージが表示されます（選択した場所に応じて異なります）。パッケージリポジトリの場所は動的に検出されます。この領域に表示される場所の種類（Webとローカルリポジトリ、ローカルリポジトリのみ、Webのみ）を変更するには、[オプション]ウィンドウを使用します。

パッケージを選択して（またはShiftキーを押しながらクリックして複数のパッケージを選択して）から、**[インストール]** ボタンを選択してインストール処理を開始します。確認メッセージが表示され、新しいパッケージをインストールしてもよいかどうかを確認されます。インストール操作を開始する前に、アドインマネージャーは実行中のパッケージを探します。問題が見つかると、進行状況バーが赤くなり、ウィンドウの下部にメッセージが表示されます。

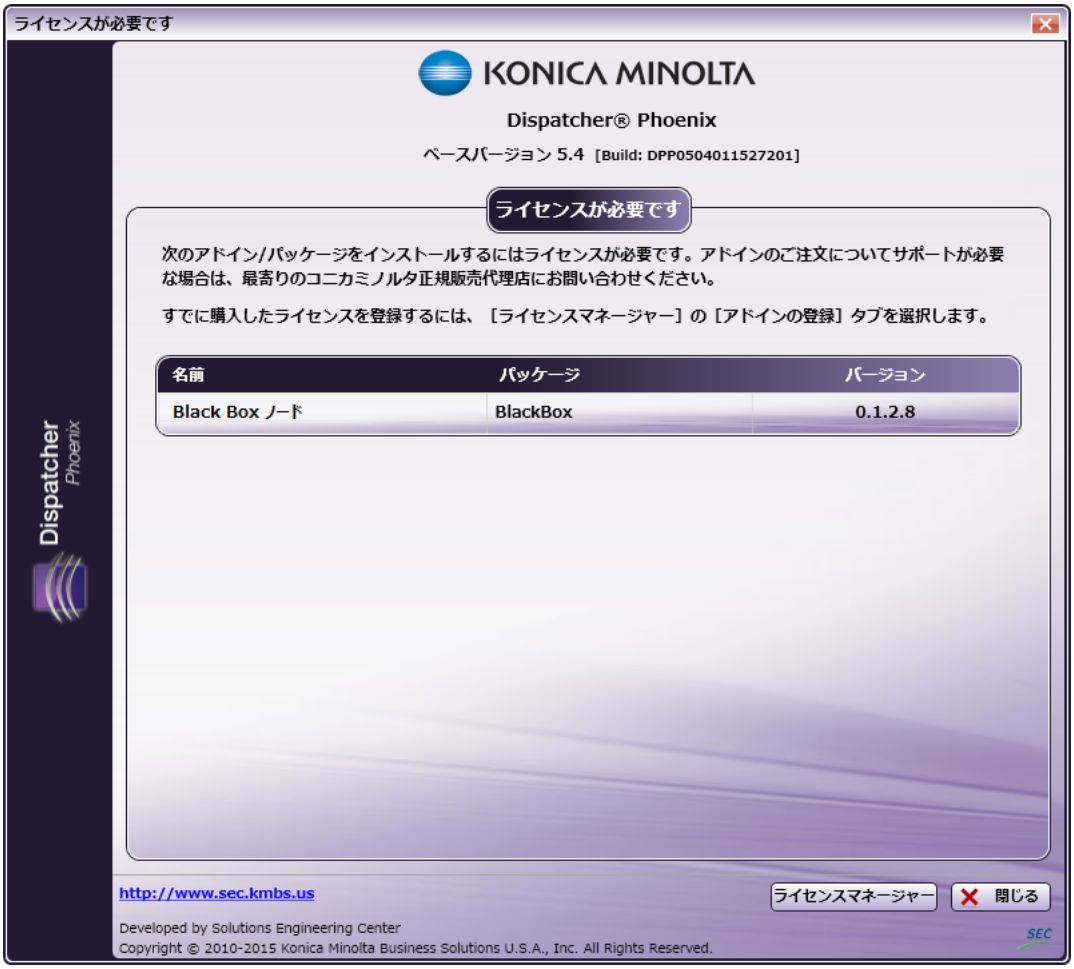
特定のコンポーネントに関する詳細を表示するには、リスト内の項目をクリックします。ウィンドウの右側にその項目の依存関係のリストが表示されます。

重要！ 新しいパッケージをインストールする前に、すべての更新プログラムをインストールしておく必要があります。

次の図は、新しいノードをインストールしているアドインマネージャーの「詳細」ビューの例です。

ライセンス要件

アドインモジュールがまだ登録されていない場合は、[ライセンスが必要です]ウィンドウが開き、インストールまたは更新の対象として選択したすべてのアドインの名前、パッケージ、およびバージョンが表示されます。たとえば、次の図では、ユーザーがBlack Boxノードアドインモジュールを事前に登録しないでインストールしようとしました。



このウィンドウでは、次の操作ができます。

- **[閉じる]** ボタンを選択して、[ライセンスが必要です]ウィンドウを閉じてから、アドインマネージャーに戻ります。
- **[ライセンスマネージャー]** ボタンを選択して **ライセンスマネージャー** ウィンドウを起動し、アドインノードを登録します。

インターネットに接続せずに更新プログラムをインストール

インターネットに接続できない、または接続が制限されている場所でDispatcher Phoenixをインストールまたは更新する必要がある場合、次の操作を行います。

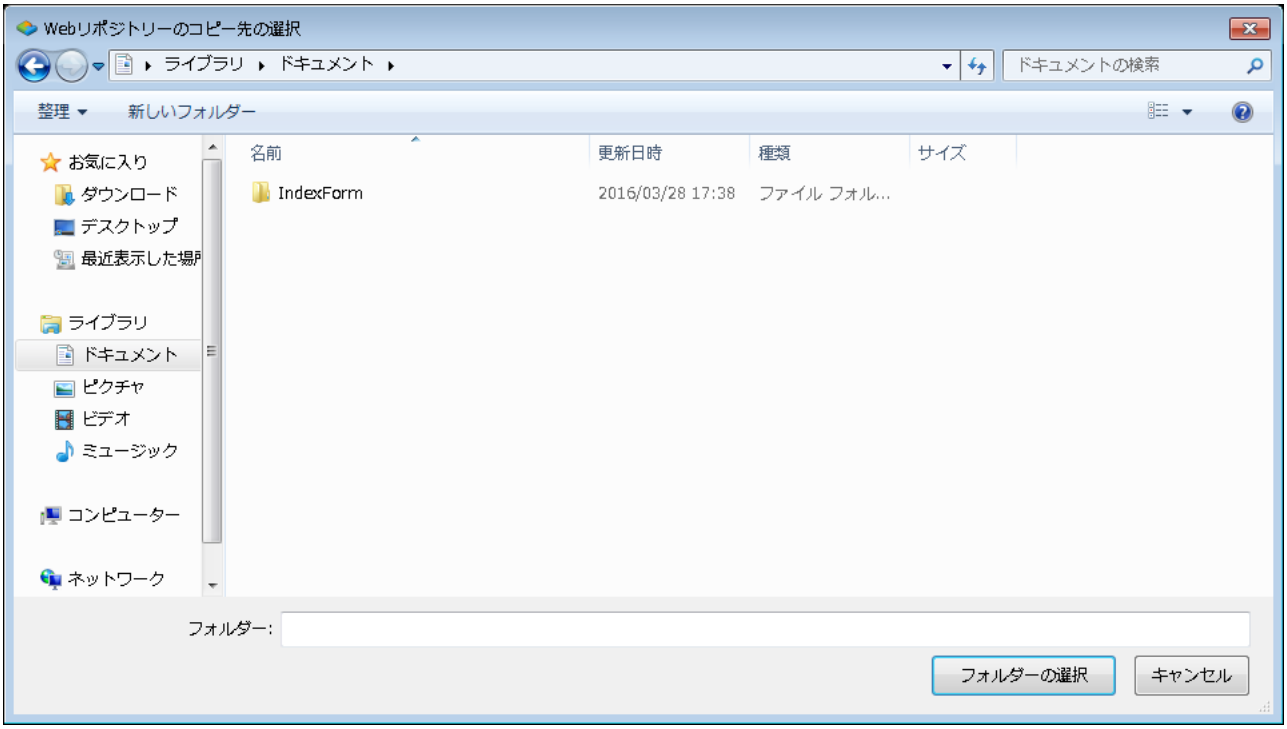
- Webリポジトリをコピーします。
- ダウンロードしたリポジトリから更新プログラムをインストールします。

注: Dispatcher Phoenixを新規インストールする場合は、Dispatcher Phoenixの必須コンポーネント（Microsoft .Net Framework 4.8など）がすべてインストールされている場合にかぎりこの手順は有効です。

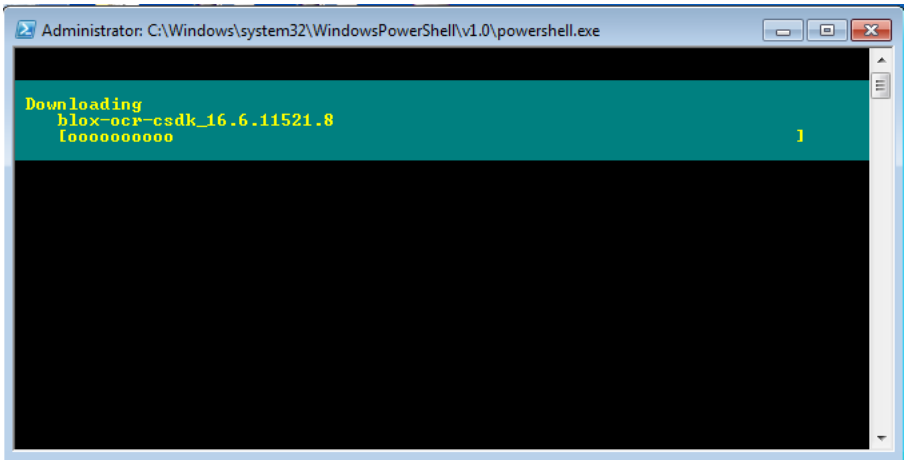
Webリポジトリのコピー

1. アドインマネージャーを開きます。
2. **[オプション]** ボタンを選択します。
3. [オプション]ウィンドウで、**[Webリポジトリのコピー]** ボタンをクリックします。
4. **[Webリポジトリのコピー先の選択]** ウィンドウが開きます。リポジトリの保存先にする外部メディア（USBドライブなど）を選択してから、**[フォルダーの選択]** ボタンをクリックします。

注: 必ずメディアのルートディレクトリ、または第1レベルのディレクトリにWebリポジトリをコピーしてください。それ以外のディレクトリにコピーすると、アドインマネージャーはローカルリポジトリを自動検出できません。



Powershell.exeウィンドウが開き、指定した場所へのWebリポジトリのダウンロードが開始されます。次の図の例を参照してください。



ダウンロードしたリポジトリからの更新プログラムのインストール

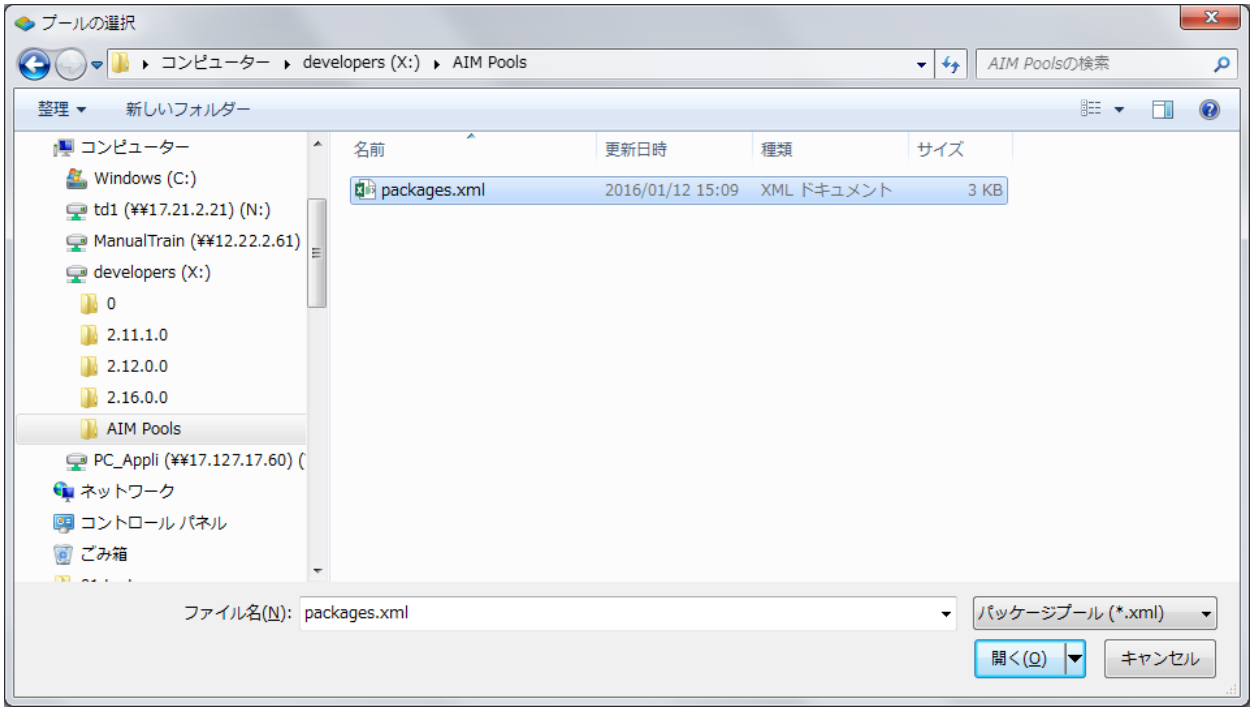
いずれかの外部メディアにダウンロードしたリポジトリを使用して更新プログラムをインストールするには、次のいずれかの操作を行います。

1. Webリポジトリのダウンロード先のメディアが更新するシステムに接続されていることを確認します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
    - **Dispatcher Phoenix** で次の操作を行います。
        - **[ヘルプ]** プルダウンメニューから **[更新の確認]** オプションを選択します。
        - **[パッケージリポジトリの選択]** ウィンドウが開きます。
        - ダウンロードするリポジトリが含まれているダウンロード元を選択します。
        - アドインマネージャーが起動し、その場所からのファイルのダウンロード/インストールが開始されます。
    - **アドインマネージャー** で次の操作を行います。
        - ウィンドウの左側にある **[以下から更新を選択]** をクリックします。
        - ダウンロードするリポジトリが含まれているダウンロード元を選択します。
        - **[更新のインストール]** ボタンを選択します。

ネットワーク共有からのDispatcher Phoenixの更新

Dispatcher Phoenixのライセンスを複数所有している場合は、ライセンスごとに更新プログラムをダウンロードすると時間がかかることがあります。その解決策として、ネットワーク共有からすべての更新プログラムをインストールするようにアドインマネージャーを設定します。このように設定するには、次の操作を行います。

1. Webリポジトリをコピーします。
2. ダウンロードしたリポジトリをネットワーク共有にコピーします。
3. アドインマネージャーを開きます。
4. **[オプション]** ボタンを選択します。
5. **[オプションのローカルリポジトリの指定]** の参照ボタンを選択して、ダウンロードしたリポジトリが含まれているネットワーク共有上で **packages.xml** を見つけて選択します。次の図を参照してください。



6. **[保存]** ボタンを選択して変更を保存し、アドインマネージャーを閉じます。
7. アドインマネージャーの **[以下から更新を選択]** リンクの下に表示されているネットワーク共有を選択します。

管理者として実行

更新、アンインストール、またはインストールを実行するには、ユーザーが管理権限を持っている必要があります。ただし、更新プログラムのダウンロードはどのユーザーでも実行できます。

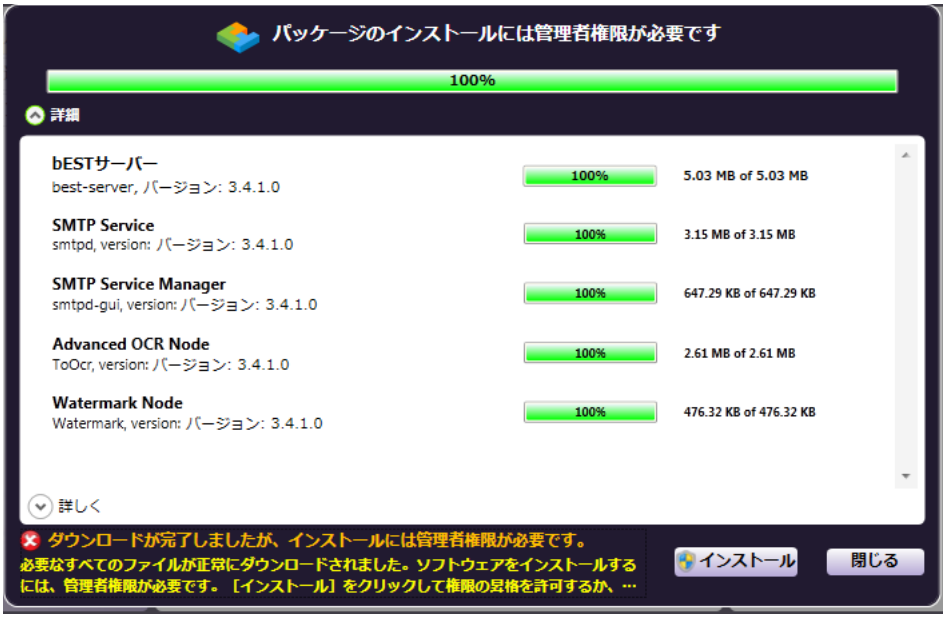
次の操作を実行します。

- **アドインマネージャー** で **[管理者として実行]** ボタンを選択します。または、
- Windowsのプログラムの一覧で **[アドインマネージャー]** を右クリックして、表示されたコンテキストメニューから **[管理者として実行]** を選択します。この手順では **[管理者として実行]** ボタンはアドインマネージャーに表示されません。

UACプロンプトが表示されます。**[はい]** ボタンをクリックして続行します。アドインマネージャーを閉じるまで管理権限が付与されます。

バックグラウンドで更新プログラムをダウンロードしている場合

アドインマネージャーが起動時にバックグラウンドで更新プログラムをダウンロードしている場合は、インストールの準備ができるとインストールウィンドウが表示されます。



この場合、**【インストール】**ボタンをクリックすると、自動的に管理権限が付与されてインストールが続行されます。

アドインマネージャーの概要

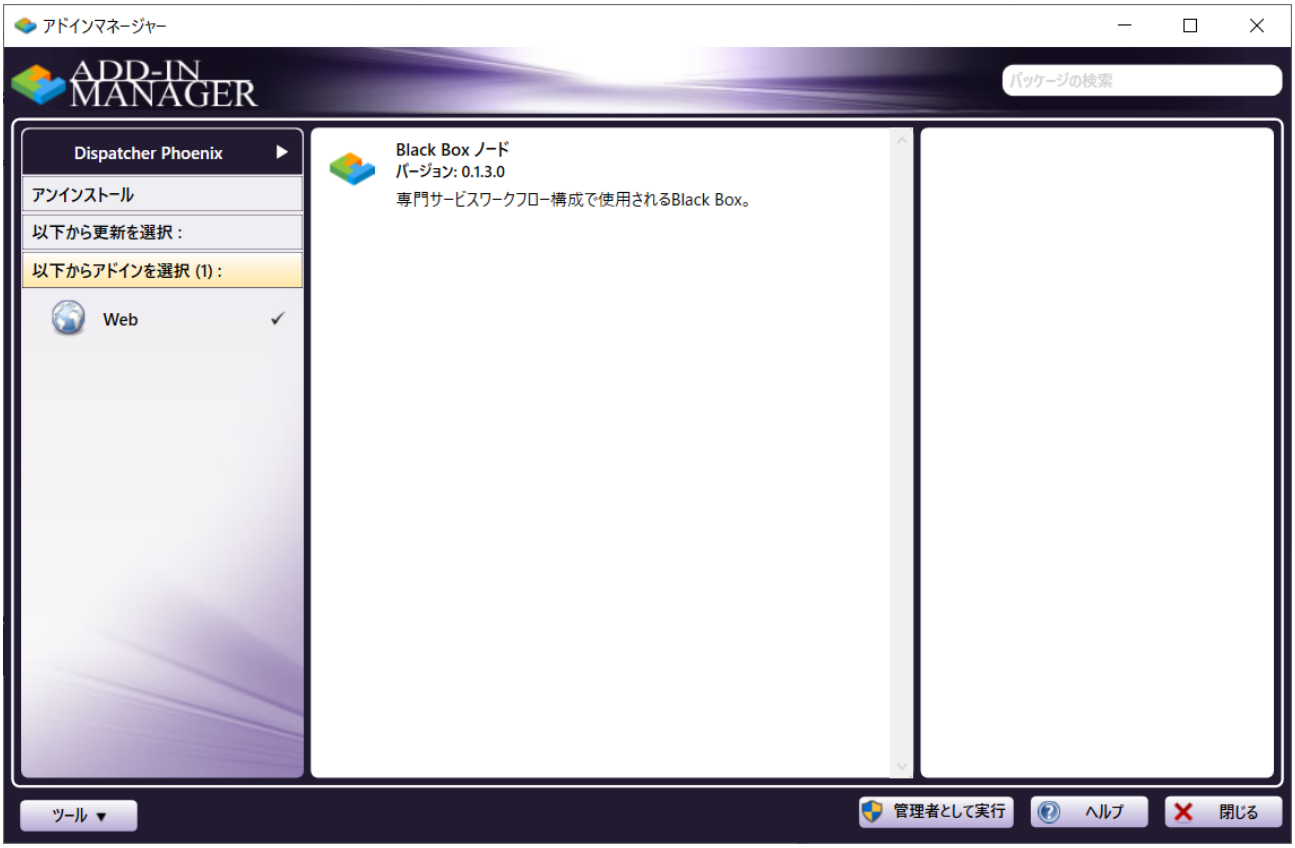
アドインマネージャーは、Windowsの[スタート]メニューから利用できます。Konica Minoltaフォルダーの下にあるAdd-In Managerが見つかるまでプログラムを参照します。[Add-In Manager]をクリックすると、実行可能ファイルが表示されます。

初めてアドインマネージャーを開くと、アンインストールできるすべてのノード/パッケージがリストされます。ウィンドウの左側にあるさまざまな項目をクリックして、更新を表示してインストールしたり、新しいオプションのノードをインストールしたりすることもできます。

注:

- アプリケーションを初めて開いて、更新が自動的にダウンロードされる時、**アドインマネージャーはバックグラウンドで実行** されます。これはアップデートの既定のオプションであり、アプリケーションのメイン画面の **【ツール】**メニューにある **【オプション】**ウィンドウで変更できます。
- **アドイン マネージャーを最小化できます。**ダウンロード、インストール、または更新するときに、アドイン マネージャーウィンドウを最小化することができます。アイコンがシステムトレイに表示されます。ダブルクリックすると、操作の進行状況を確認できます。
- **アドインマネージャーは複数選択機能を提供します。**アドインマネージャーにリストされている項目を複数選択して、すべてを一度にインストールまたはアンインストールすることができます。

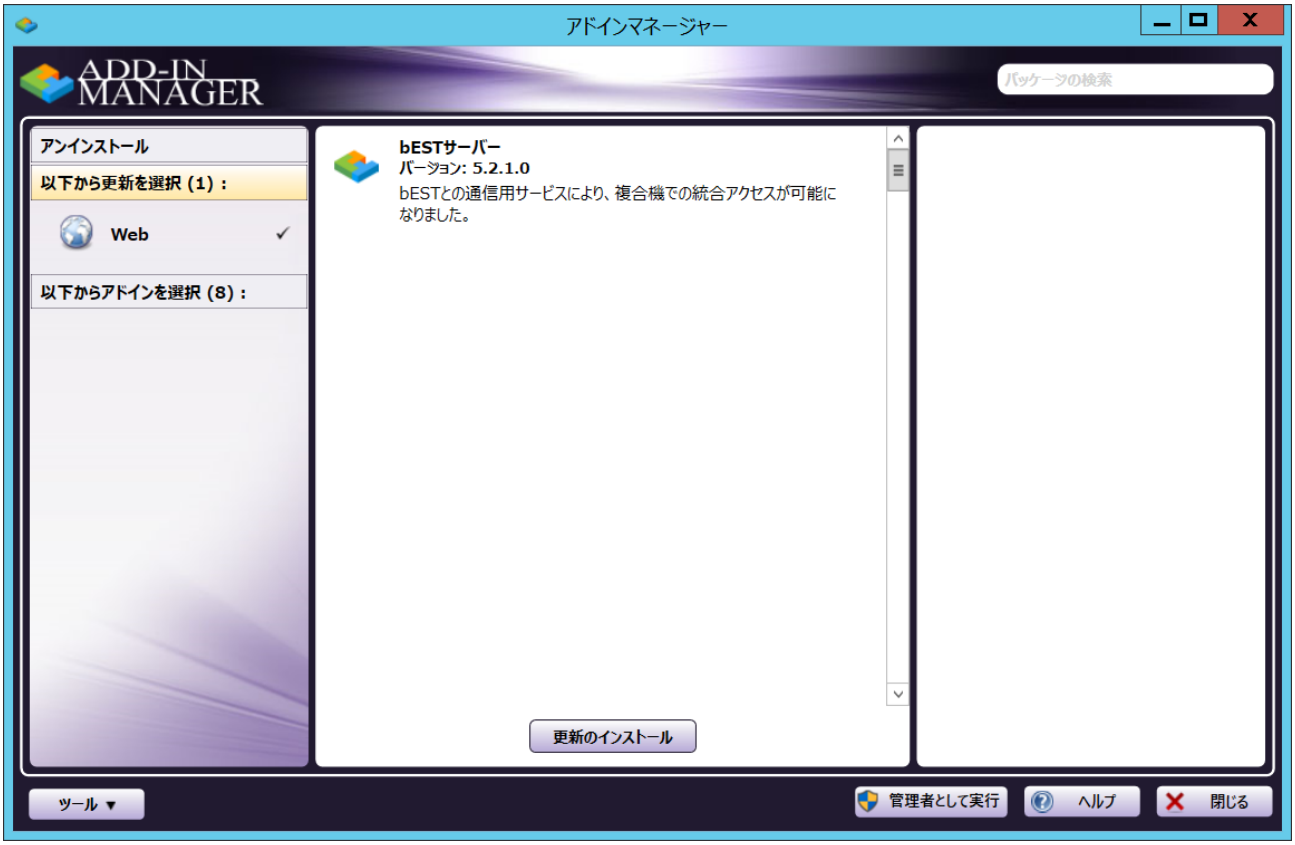
アンインストール



[アドインマネージャー]ウィンドウの左側にある **[アンインストール]** リンクには、現在システムにインストールされているすべてのパッケージのリストが表示されます。各項目の下には簡単な説明が含まれています。特定のパッケージの詳細を表示するには、リスト内の項目をクリックします。依存関係のリストがウィンドウの右側に表示されます。

- 特定のコンポーネントをアンインストールするには、**[アンインストール]** ボタンを選択します。コンポーネントをアンインストールすると、その依存関係もアンインストールされます。そのパッケージをアンインストールするかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- アンインストール操作を開始する前に、アドインマネージャーは実行中のパッケージを探します。問題が見つかった場合は、進行状況バーが赤色に変わり、ウィンドウの下部にメッセージが表示されます。次の図は、Dispatcher Phoenixアプリケーションが開いている場合に発生するエラーを示しています。

アップデートの更新元

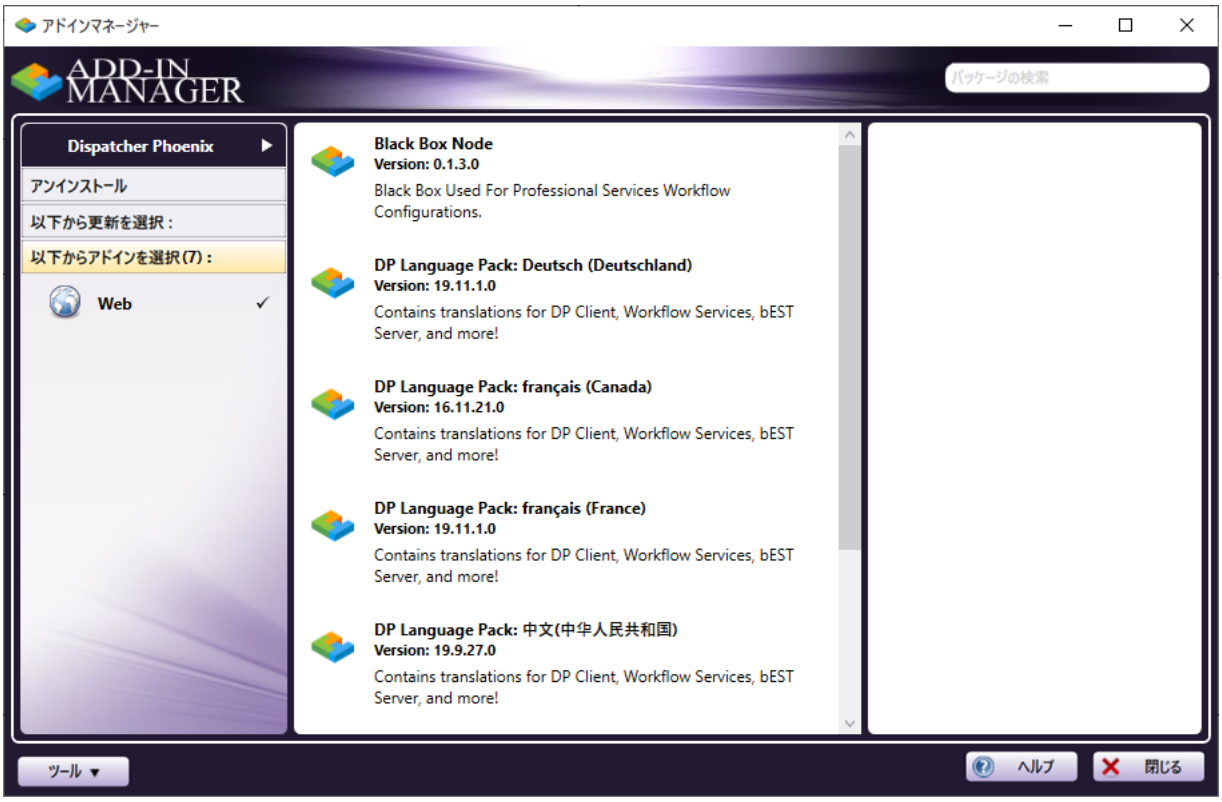


[アドインマネージャー]ウィンドウの左側にある **[更新元の選択]** リンクには、現在インストールできる更新パッケージの数が表示されます(選択した特定の場所に応じて)。パッケージリポジトリの場所は動的に検出されます。この領域にリストされる場所のタイプ(Web+ローカルリポジトリ、ローカルリポジトリのみ、またはWebのみ)を変更するには、(**[ツール]** プルダウンから)[オプション]ウィンドウを使用します。

[アップデートをインストール] ボタンを選択して、インストール処理を開始します。更新をインストールするかどうかを確認する確認メッセージが表示されます。更新操作が開始される前に、アドインマネージャーは実行中のパッケージを探します。問題が見つかった場合は、進行状況バーが赤色に変わり、ウィンドウの下部にメッセージが表示されます。

特定のコンポーネントの詳細を表示するには、リスト内の項目をクリックします。依存関係のリストがウィンドウの右側に表示されます。

アドインの選択元



[アドインマネージャー]ウィンドウの左側にある **【アドインの選択】** リンクには、現在インストール可能な新しいパッケージが表示されます(選択した特定の場所に応じて)。パッケージリポジトリの場所は動的に検出されます。この領域にリストされる場所のタイプ(Web+ローカルリポジトリ、ローカルリポジトリのみ、またはWebのみ)を変更するには、(**【ツール】** プルダウンから) **【オプション】** ウィンドウを使用します。

パッケージを選択します(または、Shiftキーを押しながらクリックして複数のパッケージを選択します)。次に、**【インストール】** ボタンを選択してインストール処理を開始します。新しいパッケージをインストールするかどうかを確認する確認メッセージが表示されます。

インストール操作が開始される前に、アドインマネージャーは実行中のパッケージを探します。問題が見つかった場合は、進行状況バーが赤色に変わり、ウィンドウの下部にメッセージが表示されます。

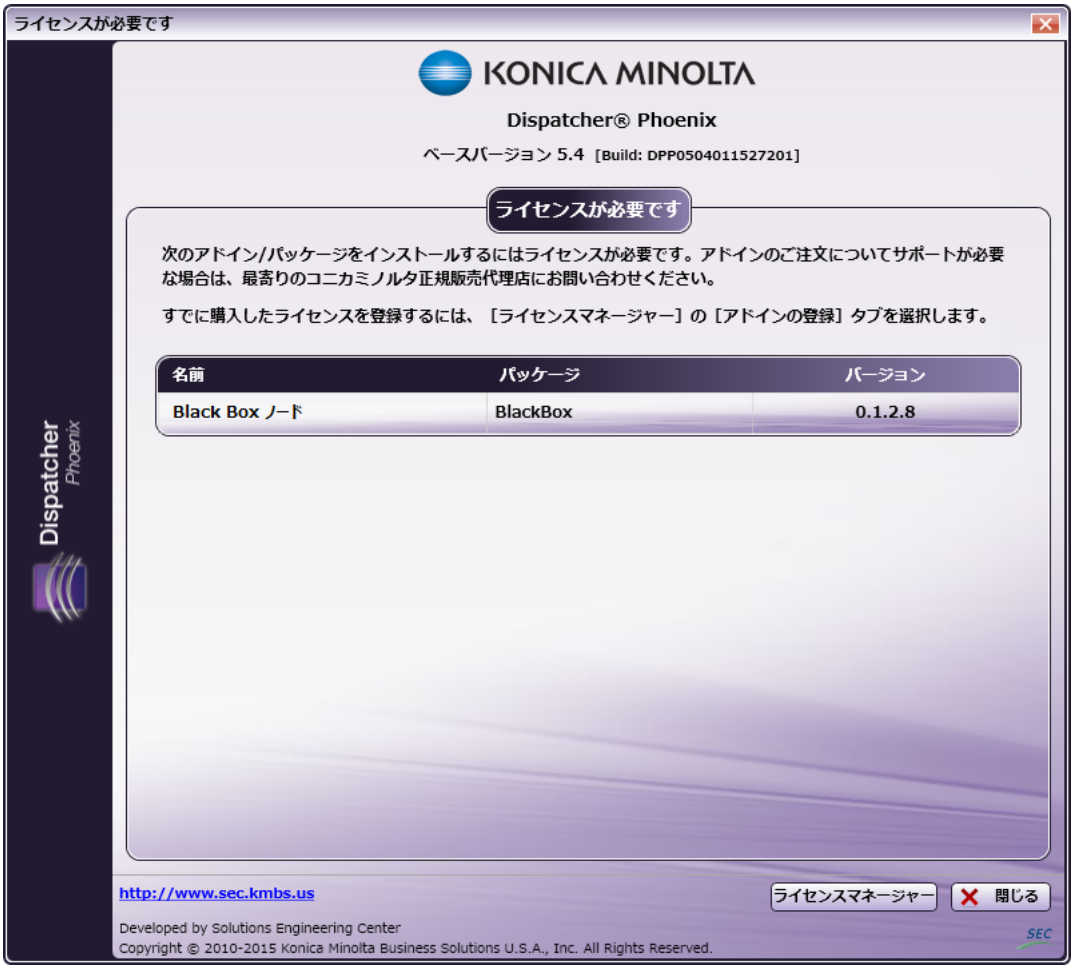
特定のコンポーネントの詳細を表示するには、リスト内の項目をクリックします。依存関係のリストがウィンドウの右側に表示されます。

注: 新しいパッケージをインストールする前に、すべてのアップデートを最初にインストールする必要があります。

次の図は、新しいノードをインストールするアドインマネージャーの「詳細」ビューの例です。

ライセンス要件

アドインモジュールがまだ登録されていない場合は、[ライセンスが必要です]ウィンドウが表示され、インストールまたは更新するように選択したすべてのアドインの名前、パッケージ、およびバージョンがリストされます。たとえば、次の図では、ユーザーが最初に登録せずに[カラー経路指定]アドインモジュールをインストールしようとしました。



このウィンドウでは、次の操作を行うことができます。

- **[閉じる]** ボタンを選択し、[ライセンスが必要です]ウィンドウを閉じて、アドインマネージャーに戻ります。

[ライセンスマネージャー] ボタンを選択すると、**アドインノードを登録できる**[ライセンスマネージャー]ウィンドウが起動します。

検索フィールドの使用

インストール済み、更新済み、または新しく作成されたコンポーネントを探す場合は、アドインマネージャーの右上にある **検索** フィールドを使用してリストを絞り込むことができます。表示された空白のフィールドにキーワードを入力すると、3つのオプションすべて(アンインストール、更新、およびインストール可能)についてフィルター処理された検索結果が表示されます。フィルタリングされた結果を削除するには、フィールド内の語句を削除するか、**[X]** をクリックしてフィールドをクリアします。

注: スラッシュキーを押すと、すぐに検索フィールドにフォーカスが移動します。

バージョン情報を確認する

現在システムにインストールされているすべてのパッケージのリストとそのバージョン番号を表示するには、アドインマネージャーの **[ツール]** プルダウンメニューから **[バージョン情報...]** を選択します。

次の図に示すように、[アドインマネージャーレポート]ウィンドウが開きます。

次の操作を行います。

- **表示されるパッケージのリストを絞り込む** には、ウィンドウの右上にある **検索** フィールドを使用します。フィルタリングされた結果を削除するには、フィールド内の語句を削除するか、 をクリックしてフィールドをクリアします。

注: スラッシュキーを押すと、すぐに検索フィールドにフォーカスが移動します。

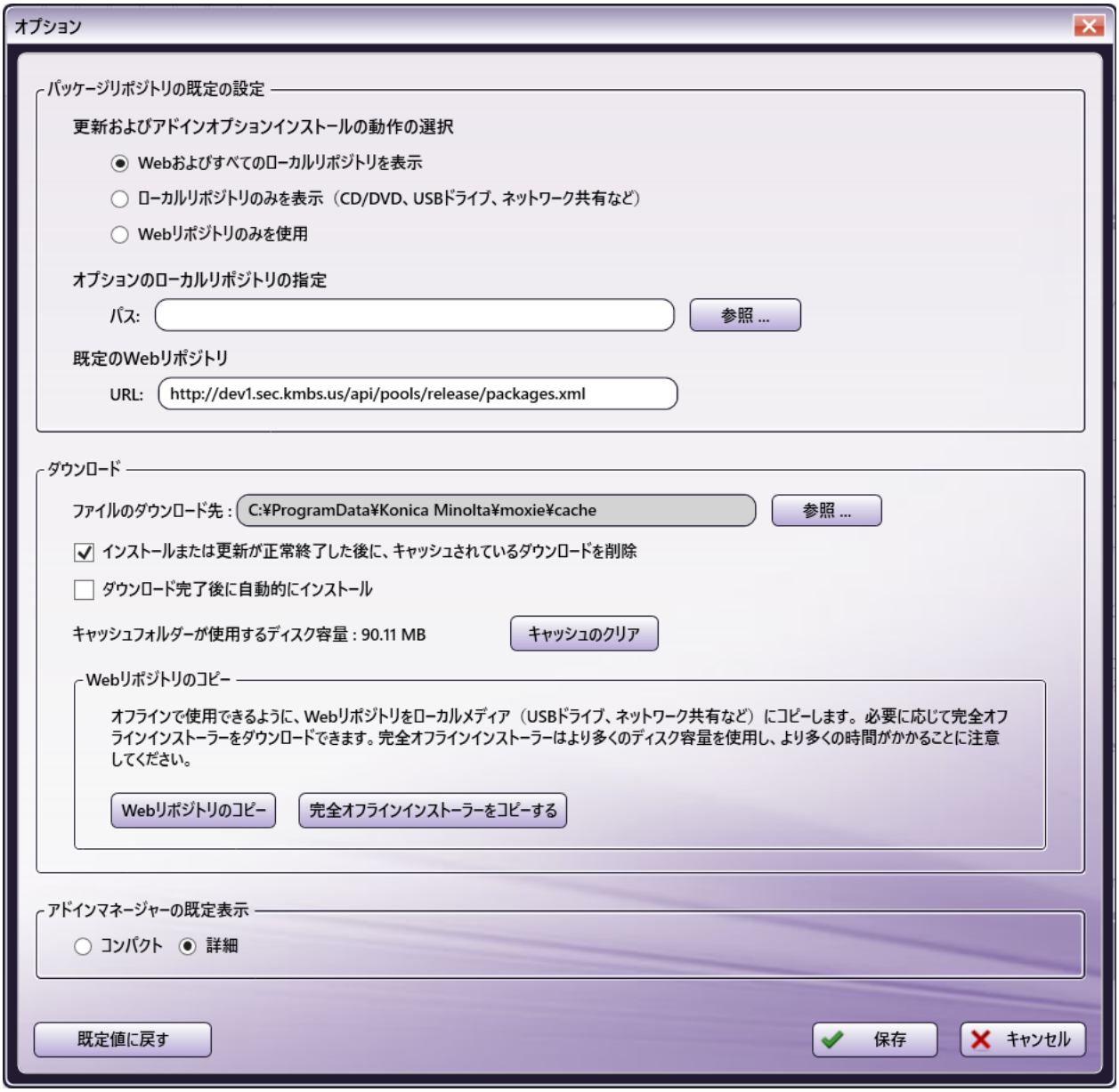
- **レポートをPDFファイルとして保存する** には、**[PDFとして保存]** ボタンを選択します。Windowsの[名前を付けて保存]ダイアログボックスが表示され、ファイル(既定名は AIM Report.pdf)を適切な場所に保存できます。保存するとPDFが生成され、自動的に開きます。
- アドインマネージャーレポートを閉じるには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。

注: このウィンドウは、[ライセンスマネージャー]または[製品情報]ボックスから開くこともできます。

アドインマネージャーオプションの構成

パッケージリポジトリの設定を指定するには、Webリポジトリをローカルメディアにコピーし、アドインマネージャーのビューを構成して、アドインマネージャーの **[ツール]** プルダウンメニューから **[オプション...]** を選択します。

[オプション]ウィンドウは次の図のようになります。

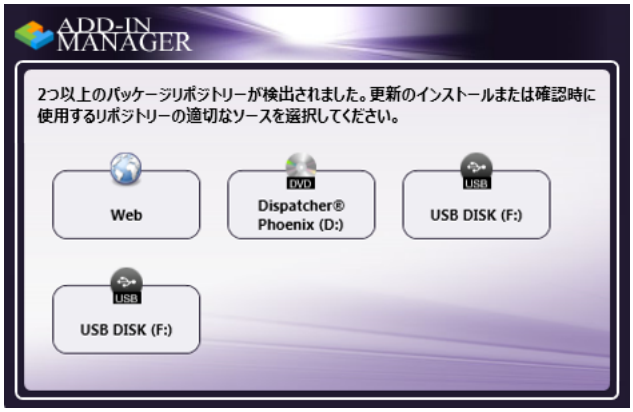


パッケージリポジトリの既定の設定

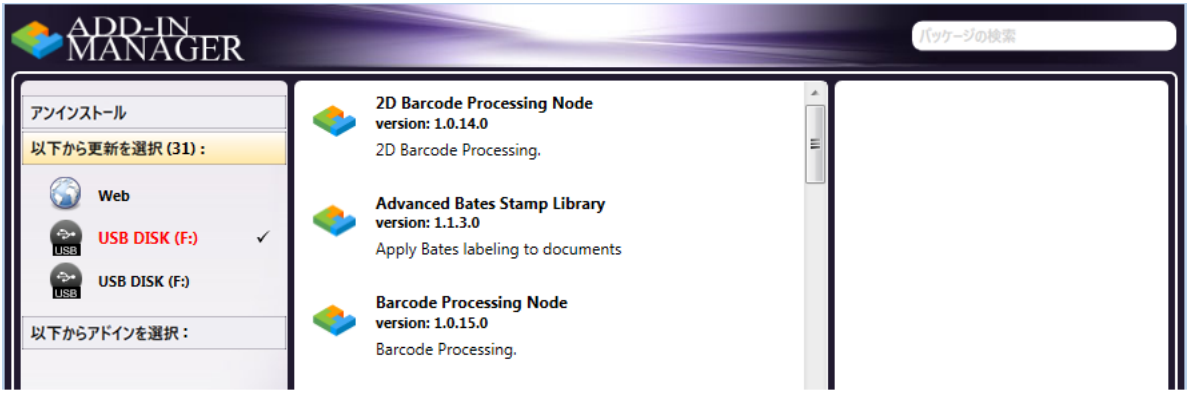
[更新およびアドインオプションインストールの動作の選択]オプションから次のいずれかのオプションを選択することで、パッケージの更新、またはインストール時に選択できるパッケージリポジトリの場所を選択することができます。

- **Webおよびすべてのローカルリポジトリを表示–** これが既定の設定です。このオプションを有効にすると、アドインマネージャーは、複数のリポジトリの場所(Web、CD/DVD、USBドライブなど)が検出された場合に、利用可能なパッケージリポジトリの場所を自動検出して一覧表示します。ネットワーク共有、またはローカルドライブが指定されている場合はそれもリストされます。

  アプリケーションの更新を確認すると、次の図に示すように、パッケージリポジトリがリストされたメッセージがユーザーに届きます。



Windowsの[プログラム]メニューからアドインマネージャーに直接アクセスすると、次の図に示すように、利用可能なパッケージリポジトリの場所がウィンドウの左側に一覧表示されます。



- **ローカルリポジトリのみを表示(CD/DVD、USBドライブ、ネットワーク共有など)-** このオプションを有効にすると、アドインマネージャーは、CD/DVDやUSBドライブなどのローカルメディアをインストール/更新するパッケージリポジトリのソースの場所として自動的に使用しようとします。複数のローカルリポジトリが自動検出された場合、ユーザーは1つを選択するよう求められます。ネットワーク共有またはローカルドライブが指定されている場合は、それもリストされます。

  Windowsの[プログラム]メニューからアドインマネージャーに直接アクセスすると、パッケージリポジトリを含むローカルソースの場所のみがウィンドウの左側にリストされます。

ローカルリポジトリが検出されない場合は、警告メッセージが表示されます。

- **Webリポジトリのみを使用** – このオプションを有効にすると、アドインマネージャーはインターネットからパッケージを自動的にダウンロードします([既定のWebリポジトリ]フィールドに表示されているとおり)。

  Windowsの[プログラム]メニューから直接アドインマネージャーにアクセスすると、ウィンドウの左側にインストールする前に「Web」が表示されます。

- **[オプションのローカルリポジトリの指定]** フィールドにパスの場所を追加することで、パッケージリポジトリの利用可能なソースの場所としてリストされる別のローカルリポジトリ(つまり、ネットワーク共有またはローカルドライブ)を指定することもできます。**[参照]** ボタンを使用して、リポジトリを検索して見つけることができます。

ダウンロード

- キャッシュされたダウンロードファイルが保存される既定の一時フォルダーを変更するには、**[ファイルのダウンロード先:]** フィールドの横にある **[参照]** ボタンをクリックします。
- 既定では、インストール、または更新されたダウンロードファイルは、インストール/更新の完了後に自動的に削除されます。この機能を無効にするには、**[インストールまたは更新が正常終了した後に、キャッシュされているダウンロードを削除]** ボックスのチェックを外します。キャッシュされたファイルをすべてクリアするには、**[キャッシュのクリア]** ボタンをクリックします。
- パッケージのダウンロード後に自動的にインストールするには、**[ダウンロード完了後に自動的にインストール]** チェックボックスをオンにします。
- WebリポジトリをUSBドライブなどのローカルメディアにダウンロードするには、**Webリポジトリのコピー** ボタンをクリックします。

  注: このオプションを使用すると、アドインマネージャーは新しいパッケージまたは更新されたパッケージの確認とダウンロードのみを行います。このため、Webリポジトリのクローンを作成する場合は、**[インストールまたは更新が正常終了した後に、キャッシュされたダウンロードを削除]** オプションが **無効** になっていることを確認してください。

アドインマネージャーの既定ビュー

アドインマネージャーの外観を構成するには、次のいずれかを選択します。

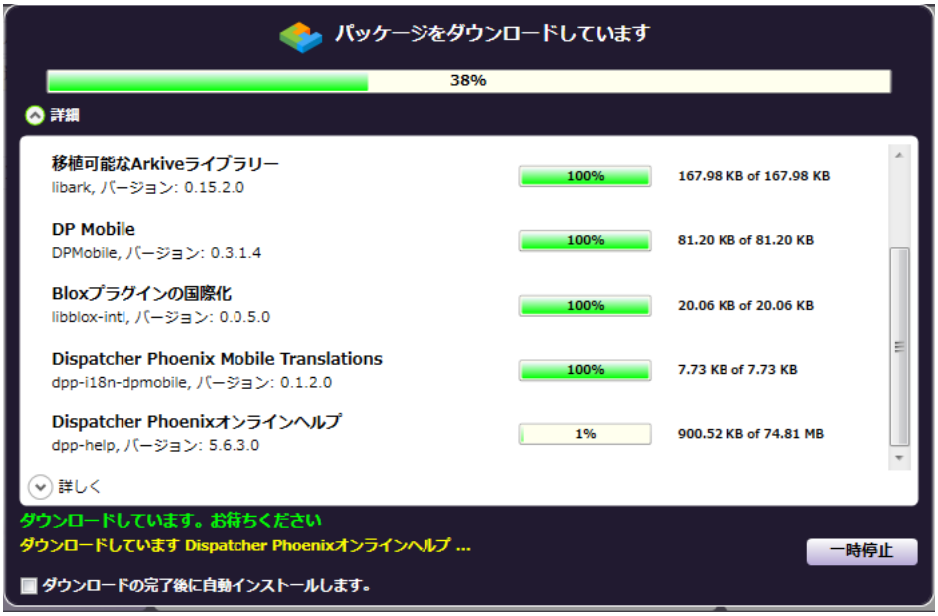
- **コンパクト** - 既定のビューには、製品機能のスライドショーとともに、進行状況バーが表示されます。
- **詳細** - このビューには、進行状況バーとともに、詳細な進行状況メッセージが表示されます。

既定値に戻す

既定値に戻す ボタンをクリックすると、いつでも設定を既定の設定に戻すことができます。

ダウンロード中

すべてのアップデートと新しいパッケージは、インストールされる前に、まずダウンロードされます。インストールは手動で行うことも、ダウンロードの完了後に自動的に行うこともできます。次の図は、ダウンロードウィンドウの例です。



[ダウンロード中] ウィンドウでは、次の操作を行うことができます。

- **[ダウンロード完了後に自動インストール]** チェックボックスをオンにすると、ファイルのダウンロードが完了した後にインストールが自動的に開始されます。チェックを入れると、この設定は今後のすべてのダウンロード操作に適用されます。
- **[一時停止]** ボタンを選択すると、いつでもダウンロード処理を一時停止できます。ダウンロードを一時停止した場合、後で **[再開]** ボタンをクリックすると、ダウンロード処理の同じ時点から再開できます。

さまざまなビュー

ダウンロード、アンインストール、またはインストールする場合、次の2つのビューから選択できます。

- 進行状況バーと製品機能のスライドショー(**既定** のビュー)
- 進行状況バーと詳細なインストールメッセージ(**[詳細]** オプションを有効にした場合に表示される)

Dispatcher Phoenix複合機シミュレーター設定

複合機シミュレーターで **[Guidance（ガイド）]** ボタンをクリックしてから、**[設定]** ボタンをクリックして［設定］画面にアクセスします。複合機シミュレーターの以下の設定を変更できます。

- アニメーションの有効化または無効化
- ページ遷移の有効化または無効化
- レイアウトの制御
- 使用する既定のスキャンファイルの指定
- Dispatcher Phoenixアプリケーションボタンのラベルの編集

設定の編集後には、以下のことができます。

- 既定の設定に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンをクリックします。
- 変更内容を保存しないでこの画面を元のままにするには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。
- 変更内容を保存するには、**[保存]** ボタンをクリックします。複合機シミュレーターのレイアウト（［拡張］または［基本］）、または［アニメーション］のタイプを変更した場合、複合機シミュレーターを再起動するまでこの変更内容は有効にならないことに注意してください。
- 変更内容を保存して複合機シミュレーターを再起動するには、**[保存して再起動]** ボタンをクリックします。複合機シミュレーターの［レイアウトスタイル］（［拡張］または［基本］スタイル）、または使用できる［アニメーション］の種類を変更した場合、変更内容は、複合機シミュレーターが再度起動されるとすぐに有効になります。

アプリケーションモードおよびアプリケーションパネルの外観

- スタンドアロンバージョンのDispatcher Phoenixに切り替えるには、**[スタンドアロン]** ボックスをチェックします。
- 現在、ワークフローは、複合機シミュレーターの **グラフィカルユーザーインターフェイス** でだけ実行できます。

Dispatcher Phoenixアプリケーション設定

- シミュレーションしたパネルに表示される、Dispatcher Phoenixアプリケーションボタンの名前をカスタマイズするには、**[アプリケーション名]** フィールドに新しい名前を入力します。
- シミュレーションしたパネルでユーザーが［スキャン］ボタンを押したときにDispatcher Phoenixワークフローに必ず送信されるサンプル入力ファイルを選択するには、**[参照]** ボタンをクリックすることでファイルを参照して探します。
- 完了したら、**[保存]** ボタンをクリックします。変更内容が表示されます。

レイアウトスタイル

複合機シミュレーターは、次の2種類のレイアウトスタイルで表示できます。［拡張］または［基本］。複合機コントロールパネルでボタンの下にラベルが表示されるよう、複合機シミュレーターをカスタマイズすることもできます。次の操作を行います。

1. 複合機シミュレーターのレイアウトを変更するには、**[拡張]** または **[基本]** ラジオボタンを選択します。
2. 複合機コントロールパネルでボタンの下にラベルを表示するには、**[ラベルの表示]** ボックスをチェックします。
3. 完了したら、**[保存]** ボタンまたは **[保存して再起動]** ボタンをクリックします。

注：[レイアウトスタイル]（[拡張]または[基本]）の変更は、複合機シミュレーターツールが再起動されるまで有効になりません。

既定の拡張スタイルでは、複合機コントロールパネルと共に複合機の一部が表示されます。基本スタイルでは、複合機コントロールパネルだけが表示されます。違いについては、以下の図を参照してください。

拡張スタイル（［ラベルの表示］がオン）

基本スタイル（[ラベルの表示]がオフ）

アニメーション

複合機シミュレーターで画面間の遷移をアニメーションで表示するには、**[ページ遷移の有効化]** ボックスがチェックされていることを確認してください。

複合機シミュレーター

Dispatcher Phoenix複合機シミュレーターツールは、複合機に物理的に接続せずに複合機上のDispatcher Phoenix ワークフローをシミュレートします。主にコニカミノルタのプロフェッショナル向け営業ツールとして設計されており、ユーザーはバーチャル複合機シミュレーターを操作することによって、複合機でどれだけ簡単にワークフローにアクセスして、ワークフローを実行できるかを確認できます。Dispatcher Phoenix複合機シミュレーターツールを使用して次のことが可能です。

- ログインし、各種の **認証オプション** を使用してワークフローにアクセスする。
- **実行中のワークフロー** のリストにアクセスする。
- **オンライン** または **スタンドアロン** バージョンの複合機シミュレーターいずれかに切り替えて **アニメーション** を介して実行中のワークフローをデモンストレーションします。これらのバージョンでは、Dispatcher Phoenixへの接続は必要ありません。
- シミュレートする複合機に最も似ている **デバイスディスプレイ** を選択します。
- ワークフローをカスタマイズする（インデックスデータの入力、スキャン設定のカスタマイズ、フォルダーブラウズの実行など）。
- スキャンするファイルを選択する（統合複合機シミュレーターを使用する場合）。
- 複合機シミュレーターの **レイアウトをカスタマイズ** する（統合複合機シミュレーターを使用する場合）。

Dispatcher Phoenix 複合機シミュレーターは、次の形式で利用できます。

- **統合複合機シミュレーター**
- **オンライン複合機シミュレーター**

- **スタンドアロン複合機シミュレーター**

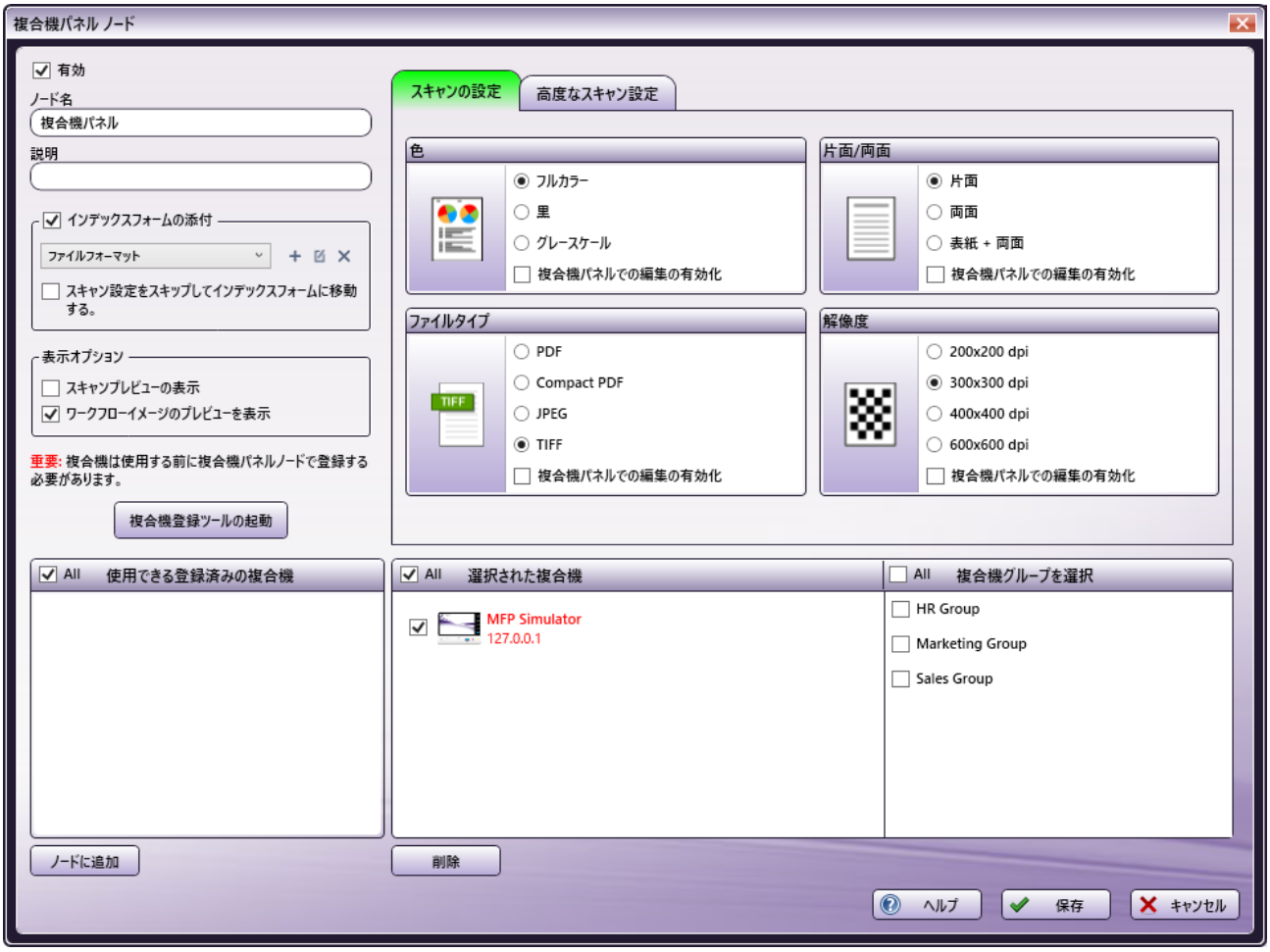
各シミュレーターには、わずかに異なる機能と目的があります。一般的に言えば、統合複合機シミュレーターを使用して、シミュレートされたバージョンのDispatcher Phoenixのライブワークフローにアクセスします。このバージョンには、Dispatcher Phoenixへのアクティブな接続が必要です。オンラインシミュレーターとスタンドアロンシミュレーターを使用して、デモンストレーション用の既定のワークフローにアクセスします。これらのバージョンでは、Dispatcher Phoenixへの接続は必要ありません。

さらに、各シミュレーターは、次の **デバイスの表示** のいずれかを使用して表示できます。

- **bizhub**
- **i-Series(i シリーズ)**
- **プロダクションプリント**

設定

統合複合機シミュレーターは、複合機パネルノード内で利用可能な登録済み複合機として常に利用できます。統合複合機シミュレーターでワークフローを実行するには、次の図のように、複合機パネルノードの選択済み複合機のリストに複合機シミュレーターを追加します。



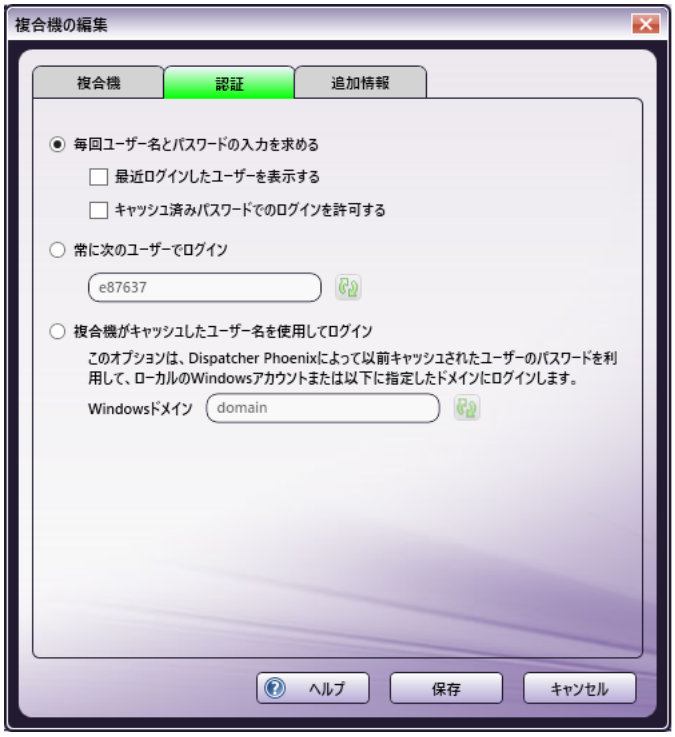
認証タブ

ユーザーは統合複合機シミュレーターを登録解除したり、削除したりすることはできませんが、認証設定は構成することが可能です。

注: [認証] タブへの変更を有効にするには、まず統合複合機シミュレーターを再起動する必要があります。

統合複合機シミュレーターの認証オプションを編集するには、次の操作を行います。

1. **複合機登録ツール**を起動します。
2. リストされている複合機シミュレーターを選択して、**[複合機の編集]** ボタンをクリックします。
3. [複合機の編集]ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、次の図に示すように、**[認証]** タブをクリックして複合機シミュレーターの認証オプションを編集できます。



- **[毎回ユーザー名とパスワードの入力を求める]。** これは既定の設定で、複合機パネルワークフローにアクセスする前に、ユーザーはユーザー名とパスワードを複合機コントロールパネル画面で入力する必要があります。この設定により、次のオプションも利用できます。
  - **[最近ログインしたユーザーを表示する]。** このオプションが有効にされていると、ユーザーは5人の最新ログインユーザーのドロップダウンリストからユーザー名を選択でき、この情報を手動で入力する必要はありません。ただし、パスワードは入力する必要があります。
  - **[キャッシュ済みパスワードでのログインを許可する]。** このオプションが有効にされていると、ユーザーはパスワードを入力せずにログインできます。以前に入力したパスワードが使用されます。

  注:

  - パスワードを変更して複合機を再起動すると、キャッシュされているパスワードは失われます。
  - Windowsユーザー名とパスワードを変更すると、複合機パネルワークフローにアクセスできません。
- **[常に次のユーザーでログイン]** 設定を最小限にしてコントロールパネルで複合機パネルワークフローに迅速にアクセスするために、複合機パネルワークフローにアクセスする際は毎回Windowsログイン名を使用するように選択できます。このオプションにより、ユーザー名とパスワードを複合機コントロールパネル画面で手動入力する必要がありません。このオプションが有効にされていると、その特定ユーザーでアクティブに実行しているワークフローのみが表示され、パネルからスキャンされたジョブはそのユーザーとして実行します。このフィールドは、現在のユーザーのユーザー名およびドメイン名（利用可能な場合）を使用して事前に入力されます。
- **[複合機がキャッシュしたユーザー名を使用してログイン]** このシングルサインオンオプションは、複合機またはActive Directoryの認証を使用するためのものです。共有ワークフローに最適であり、ユーザーが複合機にログインすると、このオプションにより自動的にDispatcher Phoenixにログインします。このオプションを有効にすると、ログインしているシステムの現在のドメインが[Windowsドメイン]フィールドに事前に入力されます。これは、複合機が使用するように構成されているドメイン名と同じであることが必要です。

注: 初めて使用する場合、手動でパスワードを入力する必要があります。

- **[保存]** - 設定を保存してウィンドウを終了するには、このボタンを選択します。

追加情報タブ

統合複合機シミュレーターの追加情報を編集するには、次の手順を実行します。これらのフィールドはオプションです。

1. **複合機登録ツール** を起動します。
2. 表示されている複合機シミュレーターを選択します。次に、**[複合機を編集]** ボタンをクリックします。
3. **複合機の編集** ウィンドウが表示されます。このウィンドウから **[追加情報]** タブをクリックして、次の図のように複合機シミュレーターの追加情報を編集できます。

- **機器ID** - 機器の識別情報を入力します。
- **サービス契約ID** - サービスの識別情報を入力します。
- **連絡窓口** - 連絡窓口の情報を入力します。
- **郵便番号** - 郵便番号の情報を入力します。
- **[保存]** - 設定を保存してウィンドウを終了するには、このボタンを選択します。

Dispatcher Phoenix 統合複合機シミュレーターへのアクセス

次のいずれかを実行して、統合複合機シミュレーターにアクセスできます。

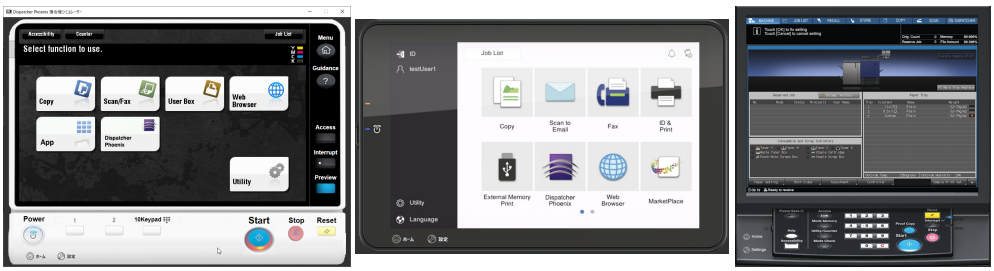
- **ツールバー** - メインアプリケーション画面のツールバーにある **複合機シミュレーターアイコン** をクリック。
- **ツールメニュー** - メインアプリケーション画面で、**[ツール]** プルダウンメニューをクリックして **[複合機シミュレーター]** オプションを選択。
- **Windows [スタート] メニュー** - [KONICA MINOLTA] > [Dispatcher Phoenix] > [MFP Simulator(複合機シミュレーター)] を選択。

次の図は複合機シミュレーターのアイコンを示しています。[ツール]メニューが右側に表示されます。

作業の開始

統合複合機シミュレーターを起動すると、複合機のホーム画面が表示されます。セットアップに応じて、次のいずれかの **デバイス表示** のホーム画面が表示されます。

デバイス表示(左から **bizhub** 、**i-Series(i シリーズ)**、**プロダクションプリント**)



注:

- Dispatcher Phoenix バージョン 7.6以降の場合、既定のデバイス表示は「i-Series(i シリーズ)」です。
- Dispatcher Phoenix バージョン 7.5以前の場合、既定のデバイス表示は「bizhub」です。
- プロダクションプリントのデバイス表示にアクセス、または別のデバイス表示に変更するには、**設定** ページを使用します。

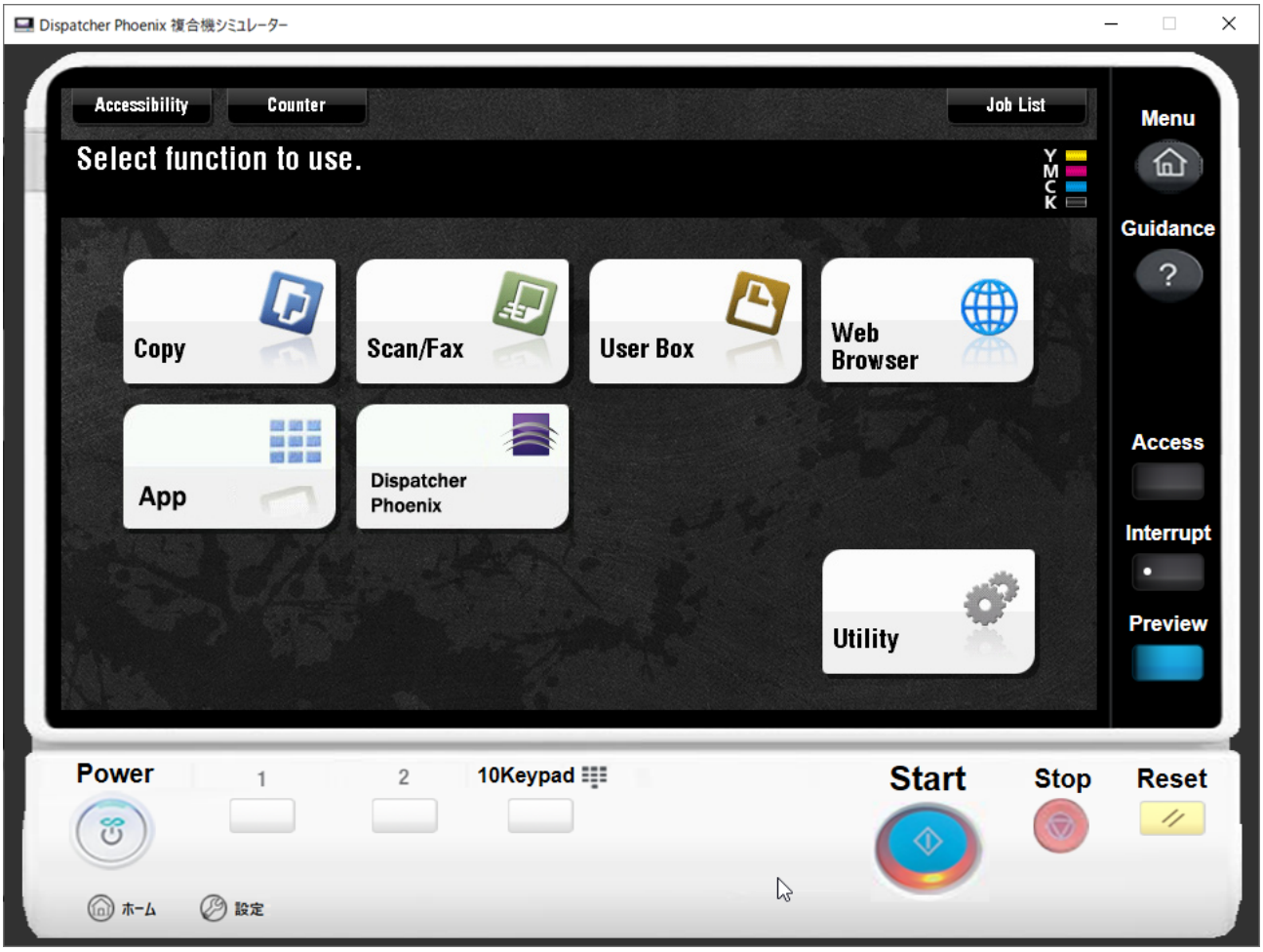
複合機シミュレーターのホーム画面

各複合機シミュレーターの **デバイス表示** には、複合機シミュレータータイプのルックアンドフィールに似せて設計された独自のホーム画面が表示されます。このセクションでは、各タイプについて説明します。

- **bizhub**
- **i-Series(i シリーズ)**
- **プロダクションプリント**

bizhub複合機シミュレーターのホーム画面

次の図は、bizhub **デバイス表示** のホーム画面を示しています。



ボタンとアイコン

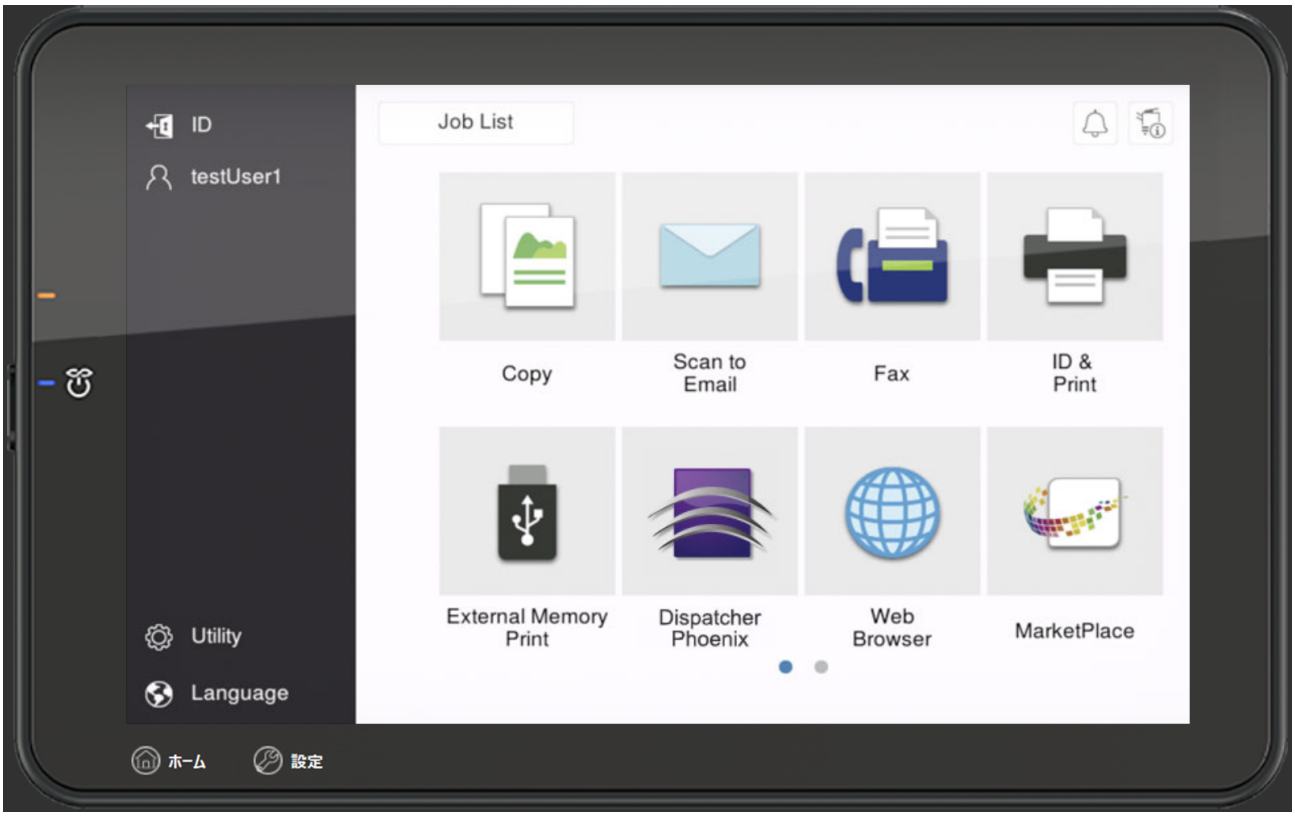
bizhubデバイス表示のホーム画面には、次のボタンとアイコンが表示されます。

- **Menu（メニュー）** - 複合機シミュレーターのホーム画面を表示します。
- **Guidance（ガイド）** - 複合機シミュレーターのバージョン番号と、次のボタンが表示されます。
- **設定** - 複合機シミュレーターのレイアウトと外観を設定できる **設定** 画面にアクセスします。
  - **ヘルプ** - Dispatcher Phoenix オンラインヘルプファイル、および **[再読み込み]** ボタンにアクセスします。
- **Copy（コピー）** - 複合機のコピー画面の静的イメージを表示します。
- **Scan/Fax（スキャン/ファクス）** - 複合機のスキャン/ファクス画面の静的イメージを表示します。
- **User Box（ユーザーボックス）** - 複合機のBox画面の静的イメージを表示します。
- **Web Browser（Webブラウザー）** - 複合機シミュレーターでWebブラウザーを開きます。

- **App（アプリケーション）** - Dispatcher Phoenix ワークフローのリストから選択できるワークフローリスト画面にアクセスします。
- **Dispatcher Phoenix** - Dispatcher Phoenix ワークフローのリストから選択できるワークフローリスト画面にアクセスします。**設定** 画面では、このボタンのラベルを編集するオプションが提供されるため、名前は「Dispatcher Phoenix」から編集されている可能性があることに注意してください。
- **Utility（ユーティリティ）** - 複合機のユーティリティ画面の静的イメージを表示します。
- **Power（パワー）** - 複合機シミュレーターを閉じます。
- **Register Key #1** - スキャン/ファクス画面を表示します。
- **Register Key #2** - コピー画面を表示します。
- **10Keypad** - ポップアップキーパッドを開きます(表示目的のみ)。キーパッドを閉じて複合機シミュレーターに戻るには、**【キャンセル】** ボタンをクリックします。
- **Start(スタート)** - 表示目的でのみ提供されます。
- **Stop(ストップ)** - 表示目的でのみ提供されます。
- **Reset(リセット)** - コピー画面を表示します。
- **ホーム** - **ホーム** 画面にアクセスします。
- **設定** - **設定** 画面にアクセスします。

i-Series(i シリーズ) 複合機シミュレーターのホーム画面

次の図は、i-Series(i シリーズ) **デバイス表示** のホーム画面を示しています。



ボタンとアイコン

i-Series(i シリーズ)デバイス表示のホーム画面には、次のボタンとアイコンが表示されます。

- **ID** - 表示目的でのみ提供されます。
- **User Name（ユーザー名）** - ログオンユーザーのユーザー名を表示します。
- **Power（パワー）** - 画面の左中央にあるこのボタンは、複合機シミュレーターを閉じます。
- **Copy（コピー）** - 複合機のコピー画面を静的イメージで表示します。
- **Fax（ファクス）** - 複合機のファクス画面の静的イメージを表示します。
- **Dispatcher Phoenix** - Dispatcher Phoenix ワークフローのリストから選択できるワークフローリスト画面にアクセスします。**設定** 画面では、このボタンのラベルを編集するオプションが提供されるため、名前は「Dispatcher Phoenix」から編集されている可能性があることに注意してください。
- **Web Browser(Webブラウザー)** - 複合機シミュレーターでWebブラウザーを開きます。
- **Utility(ユーティリティ)** - 複合機のユーティリティ画面の静的イメージを表示します。
- **ホーム** - **ホーム** 画面にアクセスします。

- **設定** - **設定** 画面にアクセスします。

プロダクションプリント複合機シミュレーターのホーム画面

次の図は、プロダクションプリント **デバイス表示** のホーム画面を示しています。

ボタンとアイコン

プロダクションプリントデバイス表示のホーム画面の上部には、次のボタンを含む標準のプロダクションプリントステータス画面が表示されます。

- **Machine（マシーン）** - ホーム画面にアクセスします。
- **Copy（コピー）** - プロダクションプリントのコピー画面を表示します。
- **Dispatcher** - ワークフローリスト画面にアクセスし、Dispatcher Phoenixワークフローのリストを表示します。

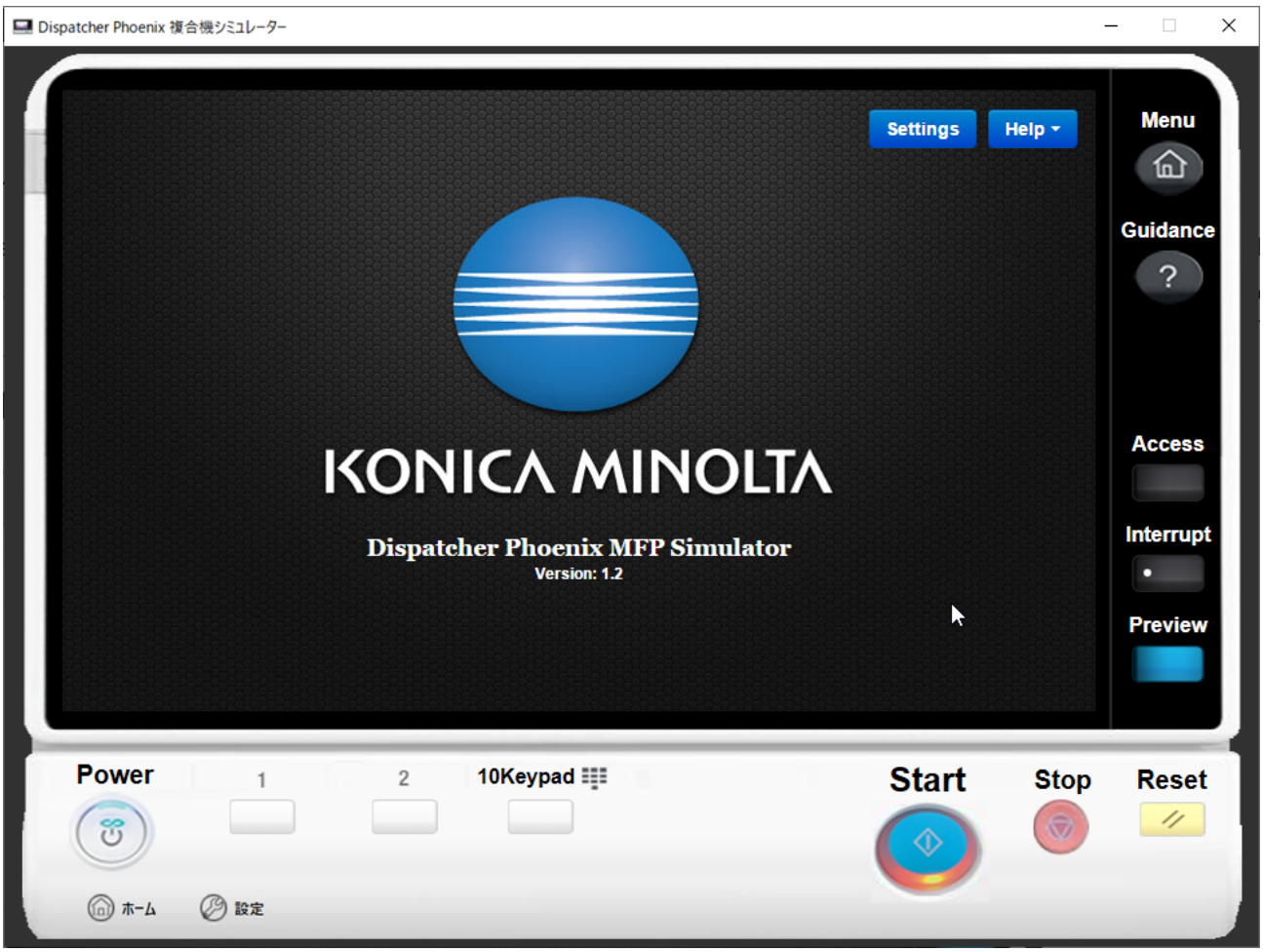
下部パネルには、次のボタンを含むいくつかのハードキーがシミュレーターに組み込まれています。

- **Power Save（パワーセーブ）** - 表示目的でのみ提供されます。
- **Help(ヘルプ)** - 複合機シミュレーターのバージョン番号と、次のボタンが表示されます。
  - **設定** - **設定** 画面にアクセスして複合機シミュレーターのレイアウトと外観を構成できます。
  - **ヘルプ** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプファイル、および **[再読み込み]** ボタンにアクセスします。
- **Accessibility（アクセシビリティ）** - 表示目的でのみ提供されます。

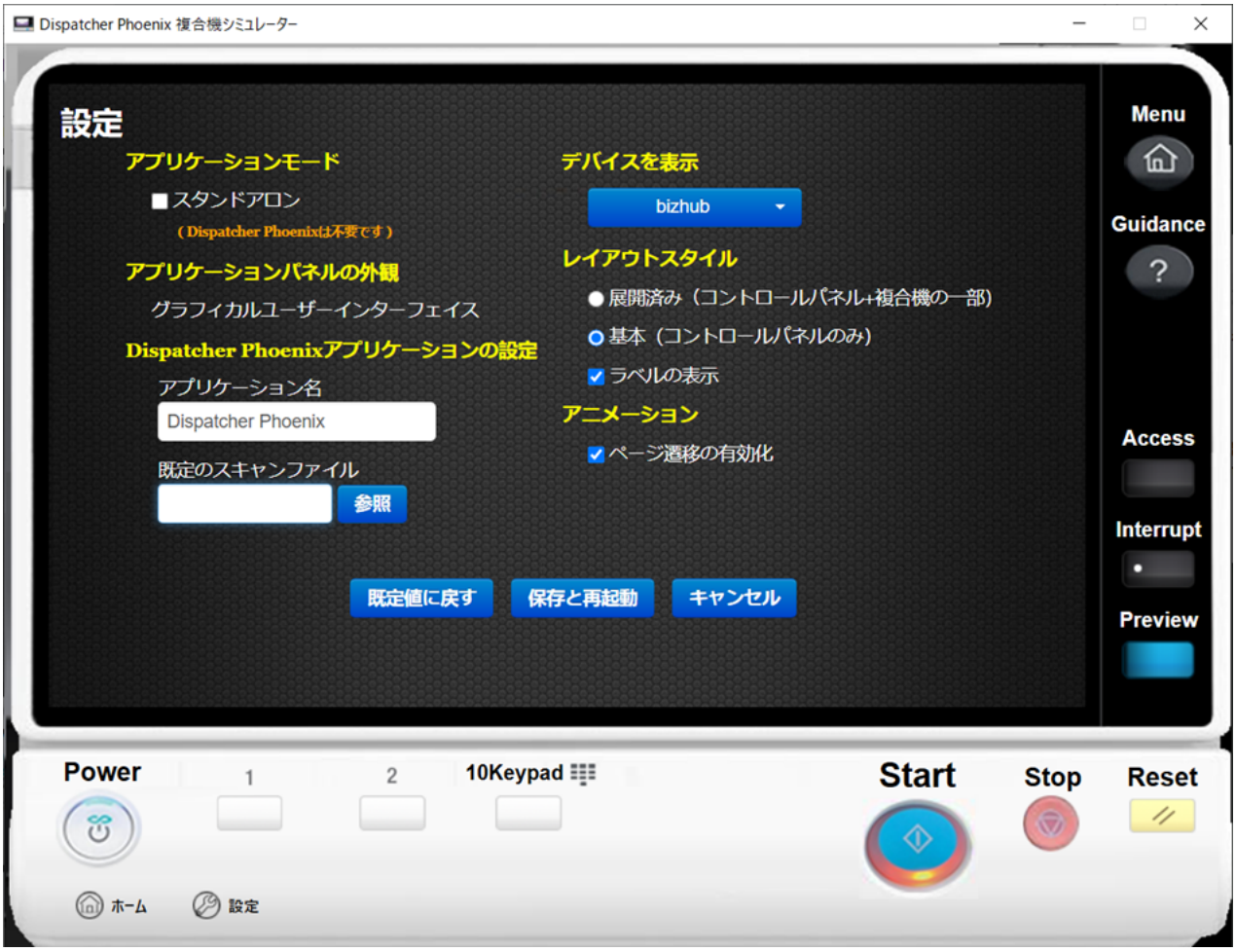
- **Access（アクセス）** - 表示目的でのみ提供されます。
- **Mode Memory（モードメモリー）** - 表示目的でのみ提供されます。
- **Utility/Counter（ユーティリティ/カウンター）** - 複合機のユーティリティ画面の静的イメージを表示します。
- **Mode Check（モードチェック）** - 表示目的でのみ提供されます。
- **Proof Copy（プルーフコピー）** - 表示目的でのみ提供されます。
- **Start（スタート）** - 表示目的でのみ提供されます。
- **Reset（リセット）** - プロダクションプリント複合機シミュレーターのコピー画面を表示します。
- **Interrupt（インタラプト）** - 表示目的でのみ提供されます。
- **Stop（ストップ）** - 表示目的でのみ提供されます。
- **ホーム** - **ホーム** 画面にアクセスします。
- **設定** - **設定** 画面にアクセスします。

統合複合機シミュレーター設定画面

設定画面を使用して、統合複合機シミュレーターの外観を設定します。設定画面にアクセスするには、統合複合機シミュレーターの **[Guidance(ガイダンス)]** ボタンをクリックします。Guidance(ガイダンス)画面が表示されます。Guidance(ガイダンス)画面の右上にある **[設定]** ボタンをタップします。以下の図を参照してください。



Guidance(ガイダンス)画面の右上にある **[設定]** ボタンをタップすると、設定画面が表示されます。次の図は、bizhub **デバイス表示** の設定画面です。



以下のオプションが利用可能です。デバイスを表示フィールドは、現在の **デバイス表示** を示し、設定画面に表示されるオプションが決定されることに注意してください。すべてのデバイス表示ですべてのオプションが利用できるわけではありません。

注: [設定]画面への変更は、**[保存と再起動]** ボタンをタップした後にのみ有効になります。設定画面に加えた変更を破棄するには、**[キャンセル]** ボタンをタップします。すべての設定を既定に戻すには、**[既定値に戻す]** ボタンをタップします。

アプリケーションモード

- **スタンドアロン** - **スタンドアロン複合機シミュレーター** に切り替えるには、このボックスをオンにします。
    - **ワークフロー** - 他のデモワークフローにアクセスするには、ドロップダウンをクリックします。選択できるワークフローカテゴリのリストが表示されます。この設定は、**スタンドアロン** フィールドのチェックボックスをオンにした場合にのみアクティブになります。これは、スタンドアロン複合機シミュレーターで使用可能なデモワークフローに影響します。
        - Default（既定値）
        - Finance（金融）
        - Healthcare（ヘルスケア）
    - **テーマ** - 選択したシミュレーターの外観を変更します。次のオプションがあります。この設定は、**スタンドアローン** フィールドのボックスをチェックした場合にのみ表示されます。複合機シミュレーターの表示の配色を変更するには、ドロップダウンをタップします。次のオプションを使用できます。
        - 青
        - 紫

アプリケーションパネルの外観

現在、統合複合機シミュレーターでは、ワークフローのパネルの外観オプションは **グラフィカルユーザーインターフェイス** のみです。

Dispatcher Phoenix アプリケーションの設定

- **アプリケーション名** - シミュレートされたパネルに表示されるDispatcher Phoenixアプリボタンの名前をカスタマイズするには、フィールドに新しい名前を入力します。
- **既定のスキャンファイル** - ユーザーがシミュレーションパネルの[Scan(スキャン)]ボタンを押すたびに常にDispatcher Phoenixワークフローに送信されるサンプル入力ファイルを選択するには、**[参照]** ボタンをクリックしてファイルを参照し、選択します。

デバイスを表示

複合機シミュレーターは、次のシミュレートされた複合機タイプを提供します。シミュレートしている複合機に最もよく似た表示を選択します。次の複合機タイプを使用できます。

- **bizhub**
- **i-Series(i シリーズ)**
- **プロダクションプリント**

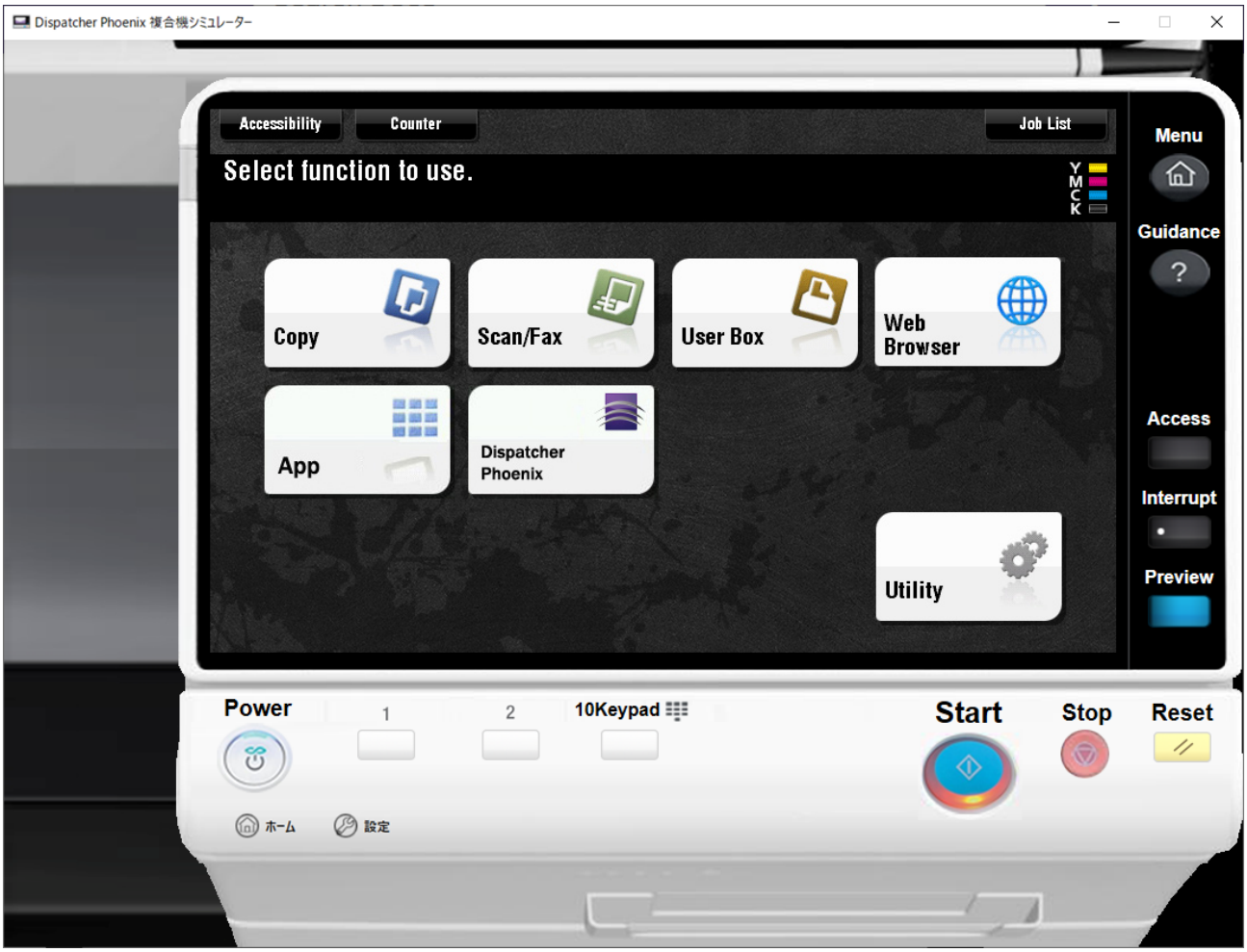
レイアウトスタイル

統合複合機シミュレーターのレイアウトをカスタマイズするには、次のオプションを使用できます。設定の例については下の図を参照してください。

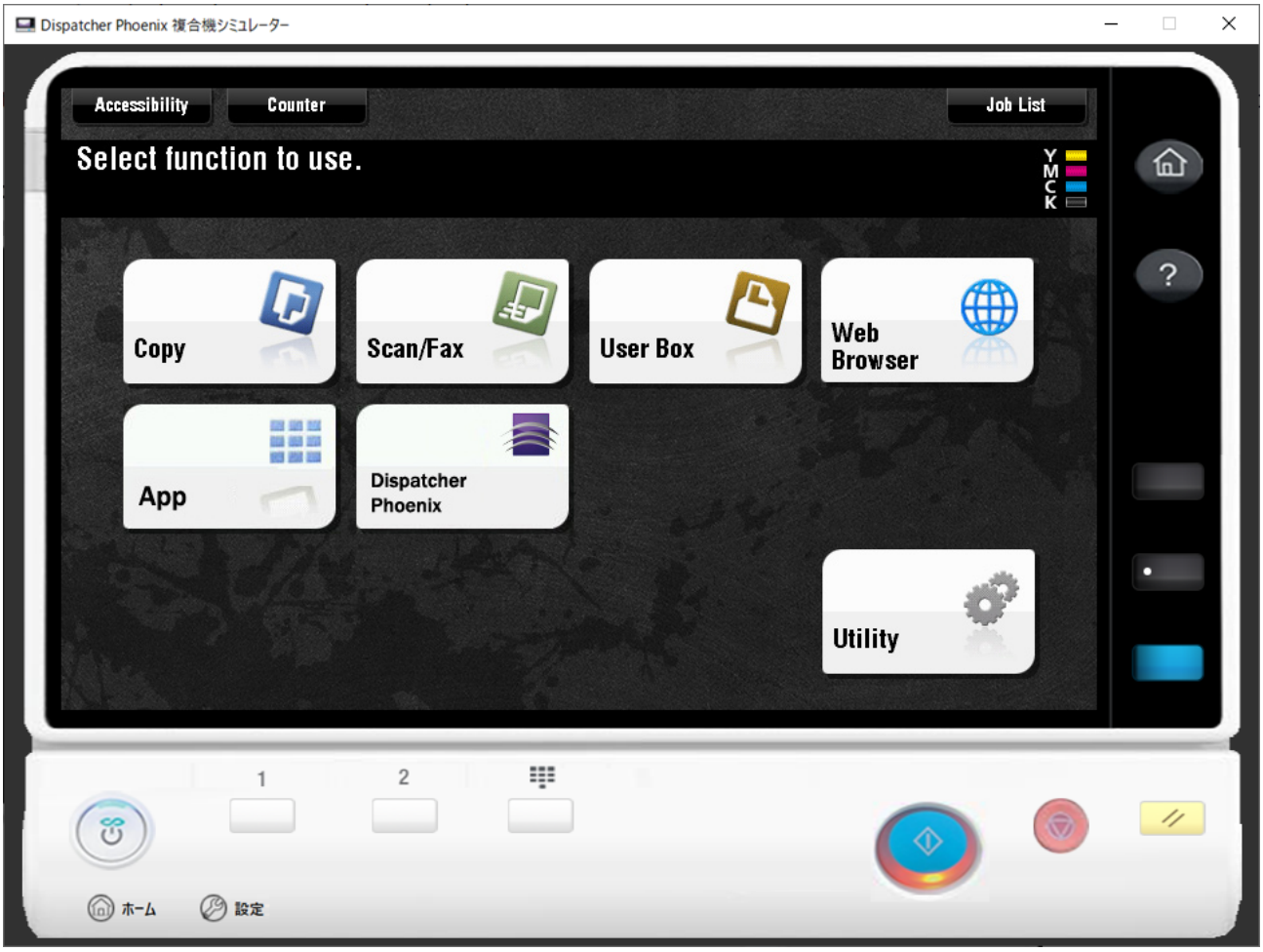
- **展開済み(コントロールパネル+複合機の一部)** - 複合機コントロールパネルを複合機の一部とともに表示します。
- **基本** - 複合機コントロールパネルのみを表示します。
- **ラベルの表示** - 複合機コントロールパネルのボタンの下にラベルを表示するには、このボックスをオンにします。

注: レイアウトスタイルオプションは、**bizhubデバイス表示** でのみ使用できます。

拡張レイアウトスタイル(ラベル表示を有効にした場合)



基本レイアウトスタイル(ラベルの表示を無効にした場合)



アニメーション

統合複合機シミュレーターの画面間のアニメーション遷移を表示するには、[設定] 画面の [**ページ遷移の有効化**] ボックスをオンにします。

注: スタンドアロン複合機シミュレーター ではアニメーションを使用できません。

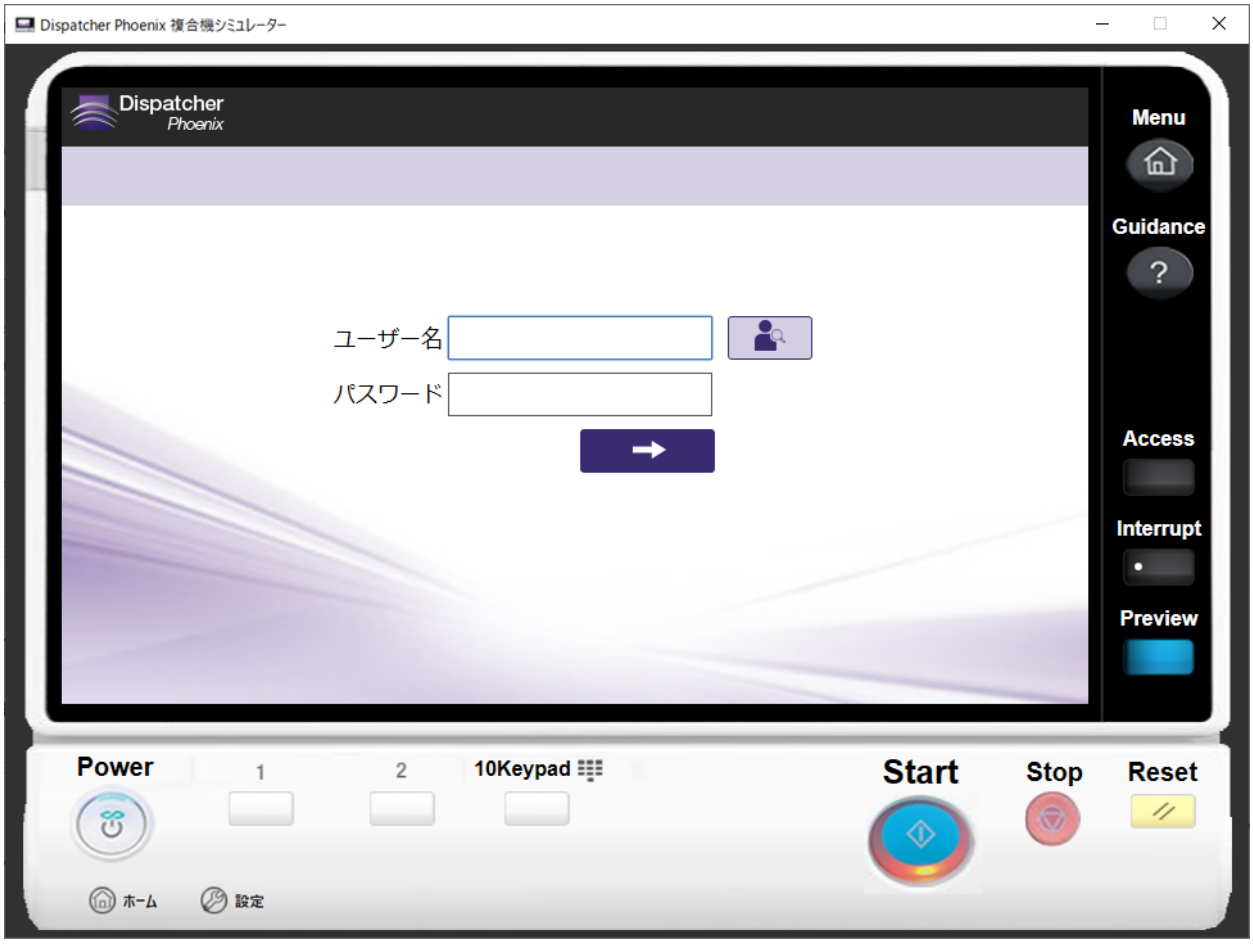
統合複合機シミュレーターの使用

以下は、統合複合機シミュレーターにログインしてDispatcher Phoenixワークフローにアクセスする例です。

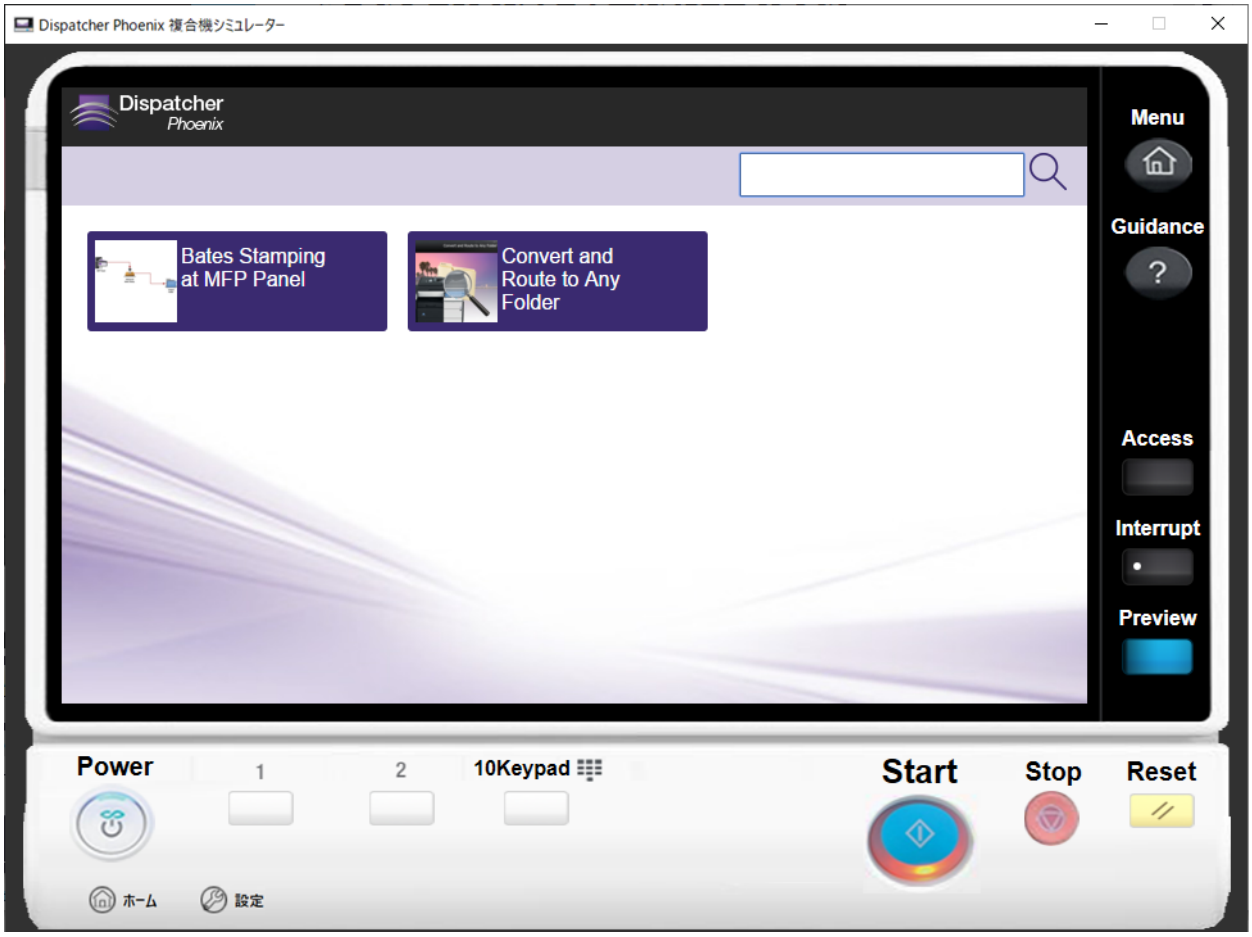
1. Dispatcher Phoenixで、統合複合機シミュレーターでアクセスしたいワークフローを実行します。
2. 統合複合機シミュレーターのホーム画面で、**[App(アプリ)]** ボタンまたは **[Dispatcher Phoenix]** ボタンをクリックします。
3. 複合機シミュレーターに指定した認証オプションと、現在実行中のワークフローの数に応じて、次のいずれかが表示されます。
    - ログイン画面
    - 実行中のすべてのワークフローのリストを表示するワークフローリスト画面
    - 単一のワークフローを表示するワークフローリスト画面

    次の図を参照してください。

    最近のユーザー選択を示すログイン画面と「キャッシュ済みパスワードでのログインを許可する」が有効になっていることを示すログイン画面:

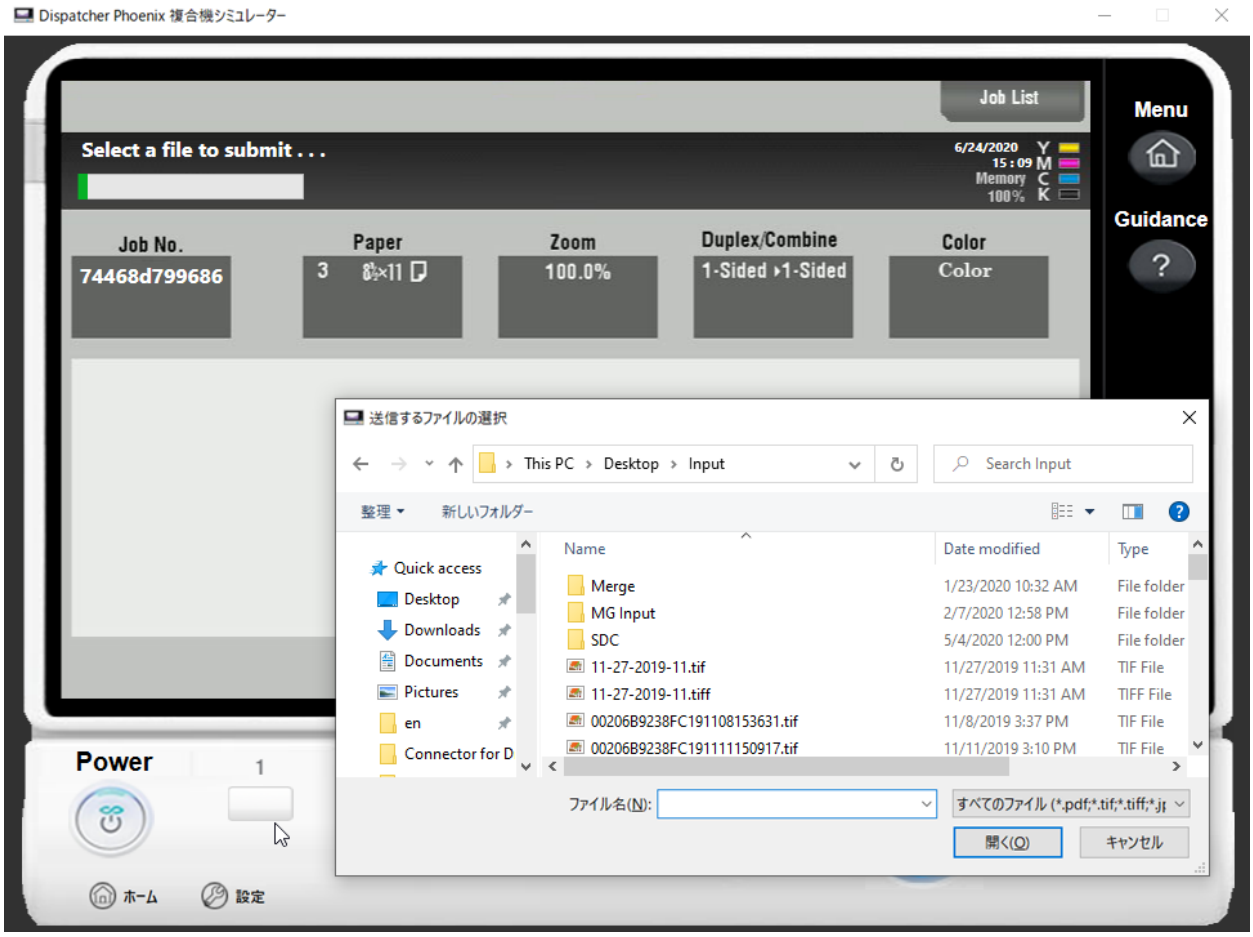


ワークフローリスト画面:

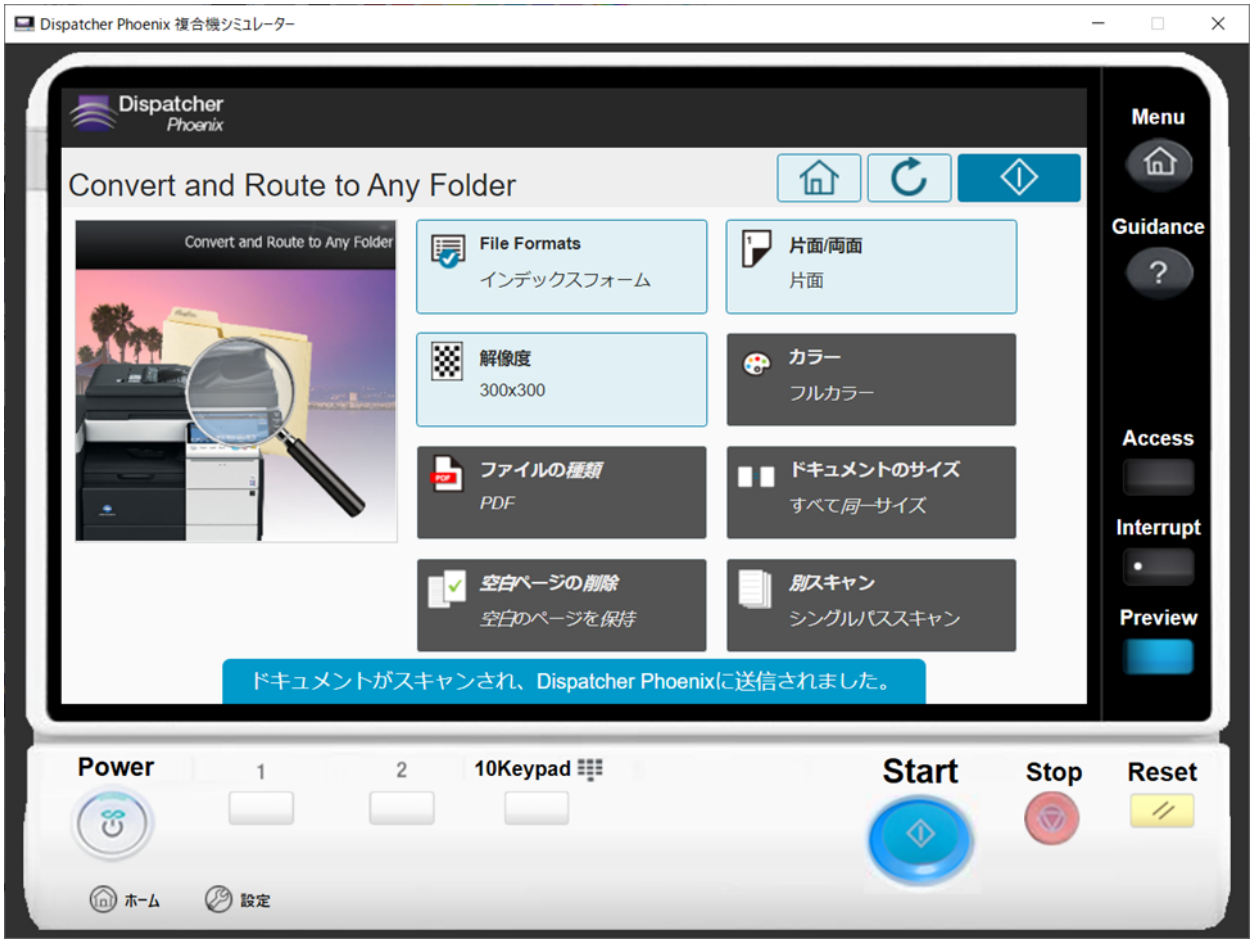


4. ワークフローリスト画面で、アクセスしたいワークフローをクリックします。インデックスデータの入力、フォルダーの参照、スキャン設定のカスタマイズ、ベイツスタンプの変更など、ワークフローをカスタマイズすることができます。

5. ドキュメントをワークフローにスキャンするには、**[Scan(スキャン)]** ボタンをクリックします。使用する「既定のスキャンファイル」を定義した場合 (**複合機シミュレーターの設定** 画面で)、そのファイルはワークフローに直接送信されます。そうでない場合、またはそのファイルがシステム上に存在しない場合は、**【送信するファイルの選択】** ウィンドウが表示され、ワークフローを実行するドキュメントを選択できます。次の図を参照してください。



6. 仮想スキャンが開始されると、次の図のように、物理複合機のメッセージと同様のメッセージが表示され、ドキュメントがスキャンされ、Dispatcher Phoenixワークフローに送信されたことが通知されます。



処理されたドキュメントは、ワークフローで指定された出力場所に表示されます。

オンライン複合機シミュレーターの使用

オンライン複合機シミュレーターは、Webページを介してアクセスするバージョンの複合機シミュレーターです。Dispatcher Phoenixへの接続は必要ありません。**統合複合機シミュレーター** と似ていますが、次の点が異なります。

- **デモンストレーションワークフロー** - オンライン複合機シミュレーターは、実際のアプリケーションには接続せずにDispatcher Phoenixのパワーを体験するために使用できる多くの事前に定義された「既定の」ワークフローへのアクセスを提供します。これらのワークフローは、統合複合機シミュレーターからは利用できません。
- **ライブワークフローへのアクセスなし** - オンライン複合機シミュレーターはDispatcher Phoenixに接続されていないため、統合複合機シミュレーターでアクセスするようにライブワークフローにアクセスすることはできません。

オンライン複合機シミュレーターへのアクセス

オンライン複合機シミュレーターを開くには、次の手順を実行します。

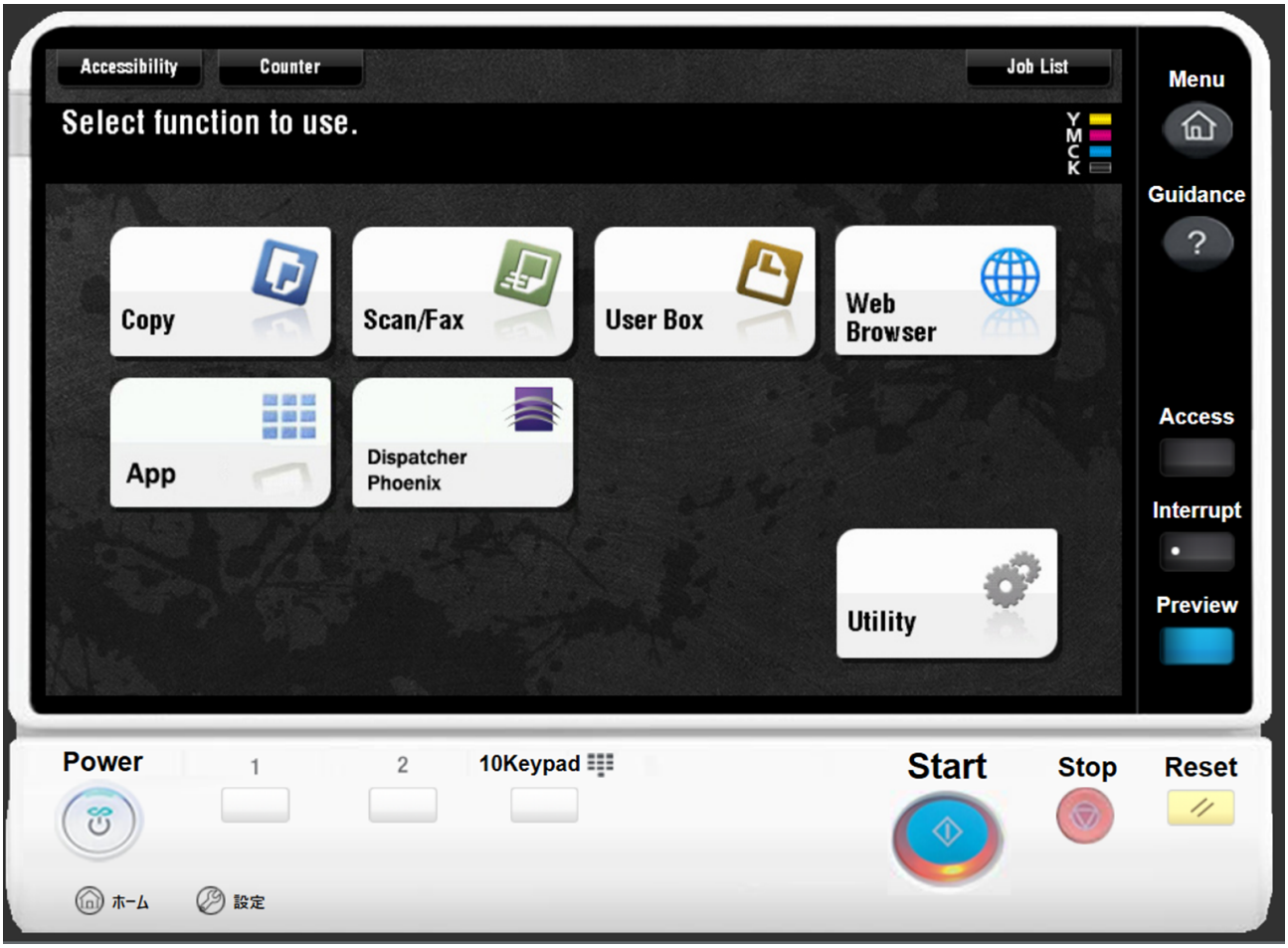
1. **SEC Webサイト ホームページ** にアクセスします。
2. SEC Webサイトにログインします。
3. [Products(製品)]ページにアクセスします。
4. 製品カタログから、Dispatcher Phoenix MFP Simulator (Online) を選択します。

オンライン複合機シミュレーターが開くと、次の図のようにサインイン画面が表示されます。これらの資格情報を提示する必要があるのは1度のみです。

SEC資格情報を入力すると、次の図のような起動画面が表示されます。

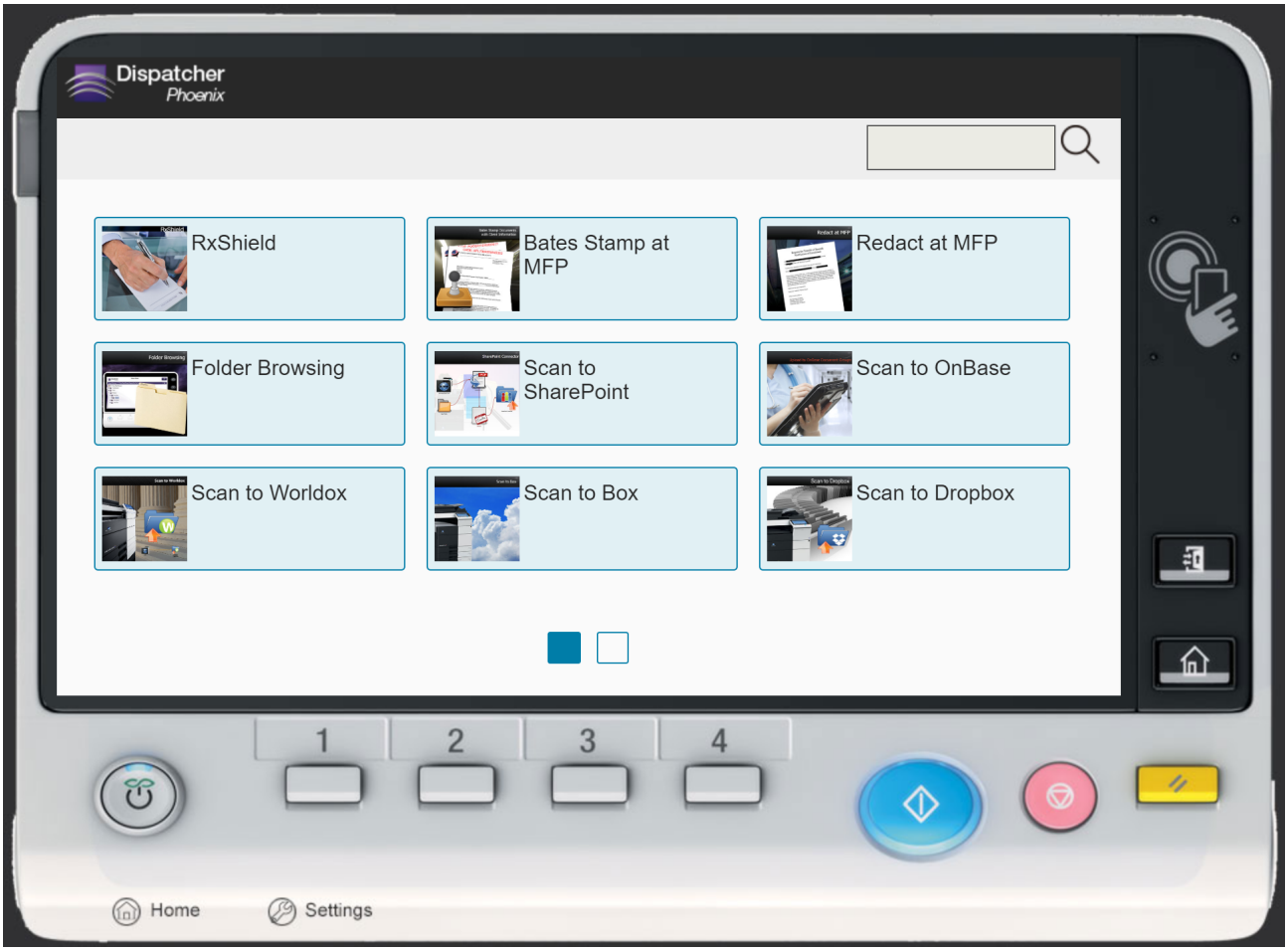
起動画面で、**[START(スタート)]** ボタンを選択して **[ホーム]** 画面にアクセスします。

オンライン複合機シミュレーターホーム画面 (bizhubデバイス表示)



ホーム画面で、定義済みの「既定の」ワークフローのリストを表示するには、**[App(アプリ)]** ボタン、または **[Dispatcher Phoenix]** ボタンをクリックします。次の図のように、bizhubワークフローを示す[ワークフローリスト]画面が表示されます。

オンライン複合機シミュレーターワークフローリスト画面



[ワークフローリスト]画面で、ワークフローをクリックします。Dispatcher Phoenixと同じように、特定のワークフローを入力します。**[Start(開始)]** ボタンをクリックすると、次の図のようにワークフローを通過するドキュメントを表すアニメーションが表示されます。

オンライン複合機シミュレーターの設定画面

次の図に示すように、オンライン複合機シミュレーターの **[Settings(設定)]** ボタンは[Settings(設定)]画面にアクセスします。

[Settings(設定)]画面には次のドロップダウンメニューがあります。

- **MFP(複合機)** - 以下を含む **利用可能なシミュレートされた複合機タイプ** へのアクセスを提供します。
  - bizhub
  - I-Series(i シリーズ) (IT6)
  - Production(プロダクション) (PP)
- **Theme(テーマ)** - 選択したシミュレーターの外観を変更します。次のオプションがあります。
  - Blue(青)
  - Purple(紫)
- **Workflows(ワークフロー)** - 追加の既定のワークフローにアクセスします。次のカテゴリを利用できます。
  - Default(既定)
  - Finance(金融)
  - Healthcare(ヘルスケア)
- **Help(ヘルプ)** - Dispatcher Phoenixオンラインヘルプファイルと **[Reload(再読み込み)]** ボタンにアクセスします。

スタンドアロン複合機シミュレーターの使用

スタンドアロン複合機シミュレーターは、複合機シミュレーターのバージョンの一つです。**オンライン複合機シミュレーター** と同様に、Dispatcher Phoenixへの接続は必要ありません。このバージョンには2つの形式があります。次の方法でフォームにアクセスできます。

- **統合複合機シミュレーター** の **設定** ページから。
- **SEC Webサイト** から純正の「スタンドアロン」バージョンをダウンロード。

スタンドアロン複合機シミュレーターは、オンライン複合機シミュレーターに似ていますが、以下で説明するようないくつかの例外があります。

統合複合機シミュレーターからのアクセス

1. 統合複合機シミュレーターから、**[Guidance(ガイダンス)]** ボタンを選択します。Guidance(ガイダンス)画面が表示されます。
2. Guidance(ガイダンス)画面で、**[設定]** ボタンを選択します。

3. [設定]画面の **[アプリケーションモード]** で **[スタンドアロン]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、**ワークフロー** フィールドがアクティブになり、必要に応じてワークフローの他のカテゴリを選択できます。
4. [設定]画面で、**[保存と再起動]** ボタンを選択して設定を保存し、次の図のようにスタートアップ画面を表示します。

5. スタートアップ画面で、**[Start(スタート)]** ボタンを選択して **ホーム** 画面にアクセスします。

スタンドアロン複合機シミュレーターのダウンロード

スタンドアロン複合機シミュレーターの純粋のスタンドアロンバージョンをダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. **SEC Webサイト ホームページ** にアクセスします。
2. SEC Webサイトにログインします。
3. Products (製品)ページにアクセスします。
4. 製品カタログから、Dispatcher Phoenix MFP Simulator (Standalone)を選択します。

このプロセスの詳細については、**オンライン複合機シミュレーターへのアクセス** セクションを参照してください。

スタンドアロン複合機シミュレーターのヘルプメニュー

スタンドアロン複合機シミュレーターのダウンロードバージョンの[ヘルプ]メニューは、他の複合機シミュレータでは利用できない2つのオプションにアクセスします。次の図のように、[Settings(設定)]画面に[Help(ヘルプ)]メニューが表示されます。

スタンドアロン複合機シミュレーターのダウンロードバージョンの[ヘルプ]メニューには、次のオプションが含まれています。

- **Help(ヘルプ)** - 次のオプションにアクセスします。
  - **Help Topics(ヘルプトピックス)** - クリックして、Dispatcher Phoenixオンラインヘルプファイルにアクセスします。
  - **Reload（再読み込み）** - クリックして、スタンドアロン複合機シミュレーターを再読込みします。
  - **Check for Updates(更新を確認)** - クリックして、スタンドアロン複合機シミュレーターの利用可能なアップデートを検索します。
  - **Customer Feedback(カスタマーフィードバック)** - クリックしてカスタマーフィードバックを送信します。

Workflow Service Manager

Workflow Service Managerでは、次の操作を行うことができます。

- Workflow Serviceの管理。
- CAC/PIV認証のためのLDAPサポートの設定。

このアプリケーションにはWindowsの[スタート]メニューからアクセスできます（[すべてのプログラム] > [KONICA MINOLTA]）。「Workflow Service Manager」でWindowsの検索を実行してこのアプリケーションを探すこともできます。

Workflow Service Managerの主な機能は次のとおりです。

- **Windows認証**
- **Workflow Service**
- **Workflow Cluster Service**

Windows認証

このタブでは、管理者は次の操作で、KMBS Windows Authentication Serviceを管理できます。

次のオプションが利用可能です。

KMBS Windows Authentication Service

- **[スタートアップの種類]** プルダウンリストで、KMBS Windows Authentication Serviceを開始する方法と時点を指定します。オプションは次のとおりです。
  - **[自動（遅延起動）]** - サービスは、[自動]と指定されたその他すべてのサービスが開始した後、まもなく開始します（通常はシステムの起動後1～2分）。
  - **[自動]** - サービスは、システムが最初に起動したときに開始します。
  - **[手動]** - サービスを開始するには、PCを起動するたびにユーザーがこのウィンドウの[サービスの開始]ボタンを使用する必要があります。
  - **[無効]** - ユーザーは、いつの時点であってもサービスを開始することはできません。
- **[サービスの開始]** - サービスを有効にするには、このボタンを選択します。
- **[サービスの停止]** - サービスを停止にするには、このボタンを選択します。

LDAP サポート

次のセクションを使用して、Workflow Services ManagerのLDAP接続を構成します。

[LDAP検索の有効化] - LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）のサポートを有効にするにはこのボックスをチェックします。LDAPとは、ユーザー認証とユーザープロファイルデータの保存の規格です。Dispatcher PhoenixではLDAPに接続して読み取り専用クエリーを実行し、ユーザー属性を判別します（ホームディレクトリのスキャンの場合は{user:home}、メールアドレスの場合は{user:email}など）。有効にした後には、LDAPサーバーと一致するように接続、認証、および検索のオプションを入力する必要があります。以下のセクションを参照してください。

重要!: 2010年3月10日、MicrosoftはActive Directoryドメインコントローラー用のセキュリティパッチをリリースし、LDAPチャネルバインドとLDAP署名の使用を強制することにより、特権昇格の脆弱性に対処しました。Dispatcher Phoenixは、この問題に対処するために強化されました。

注:

- LDAP認証タイプがSIMPLEに設定され、SSLが有効になっていないユーザーの場合、Microsoftセキュリティアップデートが適用されると、LDAP接続は失敗します。SIMPLE認証タイプを維持する場合は、SSL暗号化を有効にし、信頼できる認証局によって発行された有効なLDAPサーバー証明書がドメインサーバーにインストールされていることを確認する必要があります。このシナリオでは、どちらの証明書検証オプションも機能します。
- もう1つのオプションは、別の認証タイプを選択することです。これは、MSセキュリティアップデートが実装された後でも機能します。
- このMicrosoft更新プログラムは、Dispatcher Phoenix Webカード登録およびインデックスフォームビルダーでのLDAPデータソース構成のLDAP接続にも影響します。

LDAP接続

- **[タイプ]** - 接続タイプを指定します。次のオプションがあります。
  - Active Directory
  - Novell Directory Services
  - OpenLDAP
- **[ホスト]** - Active Directory（AD）サーバーをホストするサーバーの名前を入力します。
- **[ポート]** - ADサーバーのポートを入力します。
- **[LDAPユーザー検索ベース]** - LDAPサーバーのツリー構造で、検索の開始点を入力します。
- **[SSLセキュア接続の使用]** - LDAPサーバーへのSSL接続を有効にします。
- **[LDAP証明書の検証]** - **[SSLセキュア接続の使用]** フィールドのボックスをオンにした場合、このフィールドを使用してLDAPサーバー証明書の検証方法を指定します。

認証パラメーター

- **[バインドDN]** - 定義された検索ベース内でLDAPディレクトリーを検索することを許可された外部サーバーのユーザーを入力します。{user}@{domain} 変数は複合機からの情報に置き換えられ、検索を実行するために必要であることに注意してください。
- **[パスワード]** - バインドパスワードを入力します。

LDAP検索オプション

- **[フィルター]** - 検索条件を定義して、検索リクエスト内のエントリーを識別することができます。たとえば、(objectClass=person)は、LDAPディレクトリー全体でユーザーのサブセットを取得するために使用されます。
- **[既定の検索]** - 検索属性を構成します。
- **[フォールバック検索]** - 追加の検索文字列を入力します。

ボタン

- **[LDAP設定を同期]** - **LDAP設定を同期** するにはこのボタンをクリックします。
- **[LDAP接続のテスト]** - 検索設定をテストするには、このボタンをクリックします。
- **[LDAP接続を追加]** - 複数のLDAP構成を追加するには、このボタンをクリックします。新しいLDAP接続領域が以前の接続領域の下に表示されます。複数のLDAP接続領域が存在する場合は、それぞれに **[LDAP接続を削除]** ボタンが表示されます。
- **[LDAP接続を削除]** - 関連付けられているLDAP接続領域を削除します。このボタンは、複数のLDAP接続領域がある場合にのみ表示されることに注意してください。
- **[設定の保存]** - Windows Authentication Serviceを更新するには、このボタンをクリックします。

複数のLDAP接続を追加すると、以下の図のようにリストに表示されます。

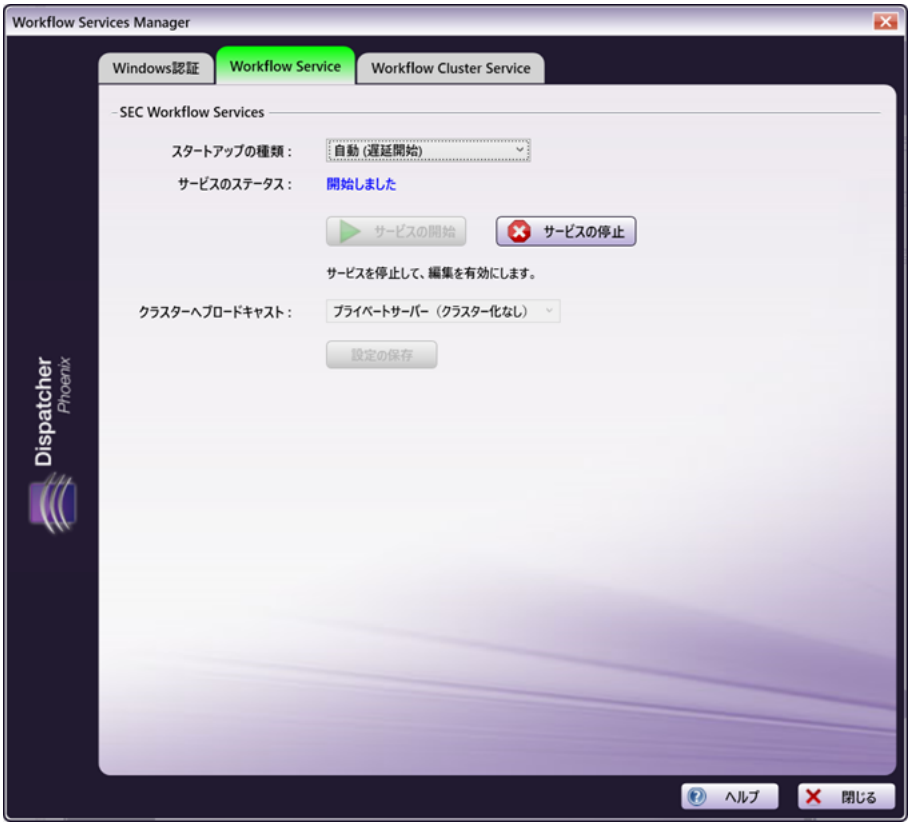
メモ:

- LDAPの変更は、KMBS Windows Authentication Serviceを停止して、再度開始するまで有効になりません。

- ユーザーが最初に複合機でDispatcher Phoenixにログインすると、ユーザーが(複合機でアプリケーションを終了して) Dispatcher Phoenixからログアウトするまで、Active DirectoryとLDAPの情報がキャッシュされます。ユーザーが次回ログインすると、Active DirectoryやLDAPからLDAP情報が再度取得されます。

Workflow Service

このタブでは、管理者は次の操作でSEC Workflow Servicesを管理できます。

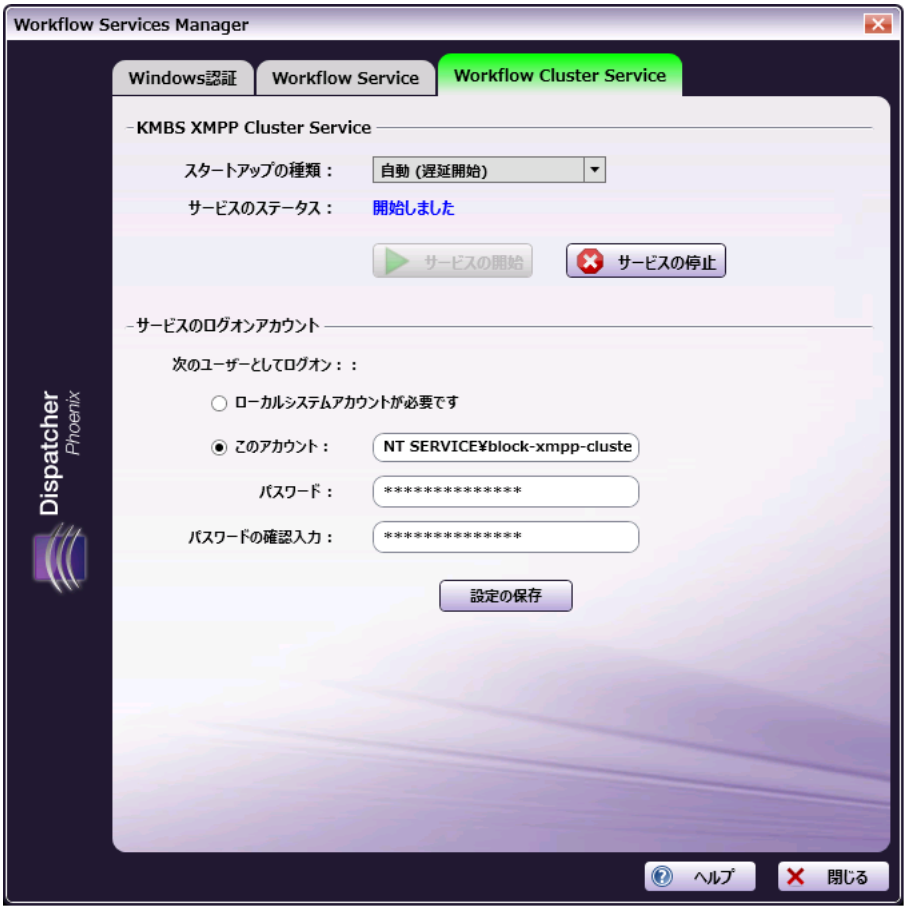


次のオプションがあります。

1. **[スタートアップの種類]** プルダウンリストで、SEC Workflow Servicesを開始する方法と時点を指定します。オプションは次のとおりです。
    - **[自動（遅延起動）]** - サービスは、[自動]と指定されたその他すべてのサービスが開始した後、まもなく開始します（通常はシステムの起動後1～2分）。
    - **[自動]** - サービスは、システムが最初に起動したときに開始します。
    - **[手動]** - サービスを開始するには、PCを起動するたびに、ユーザーがこのウィンドウの[サービスの開始]ボタンを使用する必要があります。
    - **[無効]** - ユーザーは、いつの時点であってもサービスを開始することはできません。
2. サービスを有効にするには、**[サービスの開始]** ボタンを選択します。
3. サービスを停止にするには、**[サービスの停止]** ボタンを選択します。
4. **クラスターへブロードキャスト** のいずれかを選択します。この設定でサーバーをパブリックにしてクラスター設定のためにアクセスできるようにします。

Workflow Cluster Service

このタブでは、管理者はKMBS XMPP Cluster Serviceを管理できます。このサービスは、ワークフローの主なサービスの1つで、管理者はCAC/PIV認証およびその他のセキュリティ目的で使用するNT サービスの仮想アカウントとしてこのサービスを実行するように設定できます。仮想アカウントは、「管理されたローカルアカウント」で、次の機能によりサービスを簡単に管理できるようにします。



仮想アカウントは、サービス管理を簡素化する次の機能を提供する「管理されたローカルアカウント」です。

- パスワード管理が不要です。
- ドメイン環境のコンピューターのIDで、ネットワークの接続先（例：ネットワーク共有、ホームフォルダーなど）にアクセスする機能があります。

以下の操作を行います。

1. **[スタートアップの種類]** プルダウンリストで、XMPP Cluster Serviceを開始する方法と時点を指定します。オプションは次のとおりです。
    - **[自動（遅延起動）]** - サービスは、[自動]と指定されたその他すべてのサービスが開始した後、まもなく開始します（通常はシステムの起動後1～2分）。
    - **[自動]** - サービスは、システムが最初に起動したときに開始します。
    - **[手動]** - サービスを開始するには、PCを起動するたびに、ユーザーがこのウィンドウの[サービスの開始]ボタンを使用する必要があります。
    - **[無効]** - ユーザーは、いつの時点であってもサービスを開始することはできません。
2. サービスを有効にするには、**[サービスの開始]** ボタンを選択します。
3. サービスを停止にするには、**[サービスの停止]** ボタンを選択します。
4. サービスの **[ログオン]** の種類を変更します。
    - ドメインで実行しない場合は、**[ローカルシステムアカウント]** ラジオボタンを選択します。
    - ドメインサーバーへの完全な書き込み権限が必要な場合は、**[このアカウント]** ラジオボタンを選択して、NT仮想サービスアカウントおよびパスワードを指定します。

注: サービスのログオンアカウントを変更しても、Workflow Cluster Serviceを停止し、再開するまでは有効になりません。

重要! Dispatcher Phoenixは、Microsoft Entra環境を使用するように構成されている場合でも、Workflow Cluster Service資格情報のMicrosoft Entra IDへの更新をサポートしません。

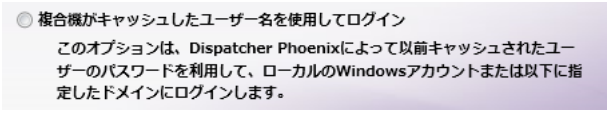
Windows NT サービスのログオンによるLDAP検索でのScan To Home

Windows NTサービスにログオンしてLDAP検索を行うように「Scan to Home」ワークフローを設定するには以下の操作を行います。

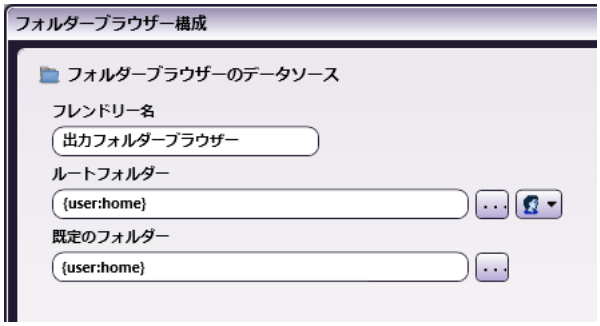
この説明では、すべてのユーザーのホームおよびプロファイルパスへのアクセス権限および完全な権限を持つWindows NT仮想サービスのアカウントがすでに作成されていることと、コンピューターがドメインに参加していることを前提としています。

1. Workflow Service Managerのアプリケーションを起動します。
2. **[Workflow Cluster Service]** タブで、Windows NT仮想サービスアカウントを使用するように **[サービスのログオンアカウント]** の情報を変更します。
3. **[サービスの開始]** ボタンを選択してから、**[サービスの停止]** ボタンを選択します。

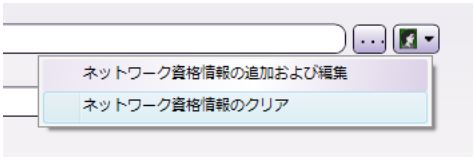
4. **[Windows認証]** タブで、**[LDAP検索の有効化]** ボタンをチェックします。
5. LDAP設定の詳細を、該当するフィールドに入力します。
6. **[設定の保存]** ボタンを選択します。
7. **[サービスの開始]** ボタンを選択してから、**[サービスの停止]** ボタンを選択します。
8. Dispatcher Phoenixのメインアプリケーションで複合機登録ツールを開きます。使用する複合機を編集してから[認証]タブを選択します。
9. 次の図のように、[認証]タブでシングルサインオンのオプションを選択します。



10. ワークフローのインデックスフォームでフォルダーの参照を設定するには、次の図のように、{user:home}変数を使用します。



11. ネットワーク資格情報は不要です。次の図のように **[ネットワーク資格情報]** アイコンをクリックしてから **[ネットワーク資格情報のクリア]** オプションを選択して、ネットワーク資格情報をすべてクリアします。



12. Dispatcher Phoenixのメインのアプリケーション画面で、ワークフローが共有されていることを確認します。
13. 複合機で、ドメインユーザーアカウントを使用してログインします。

重要: 複数のドメインをWorkflow Service Managerに追加すると、次のことが可能になります。

- 複合機がActive Directoryを使用するように構成されており、ユーザーがデバイスに登録されている場合に限り、複数のドメインにわたるユーザーに対する複合機での認証。この構成は **カードリーダー** で動作します。
- **Release2Me** がActive Directoryを使用するように構成されている場合に限り、複数のドメイン間での印刷委任とジョブ共有。
- プライマリユーザーがDispatcher Phoenixと同じドメイン上のDispatcher Phoenix Webにログインしている場合に限り、複数のドメインにわたる **ワークフロー共有**。
- **インデックスフォーム** を使用した複数のドメインにわたるLDAP データソース検索。

参考資料

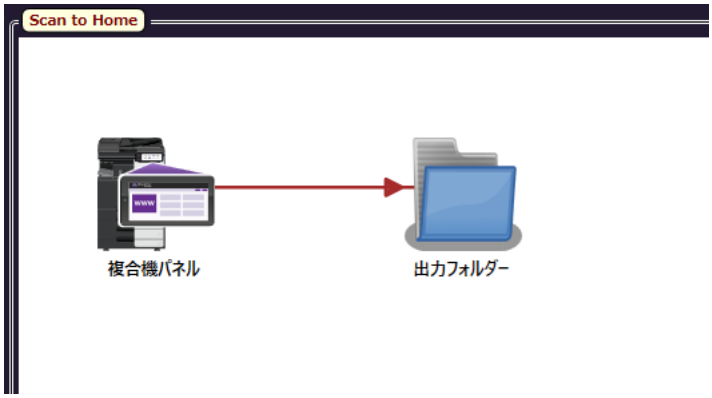
Active Directory用の設定

Dispatcher Phoenixでは、Active Directoryを使用する個人のホームフォルダーのスキャン、サブフォルダーの参照、新しいフォルダーの作成を複合機で直接実行できます。これはActive Directoryを使用して複合機にログインし、複合機の表示パネルからホームフォルダーにアクセスできるということです。通常、この機能を「Scan to Home」と呼びます。

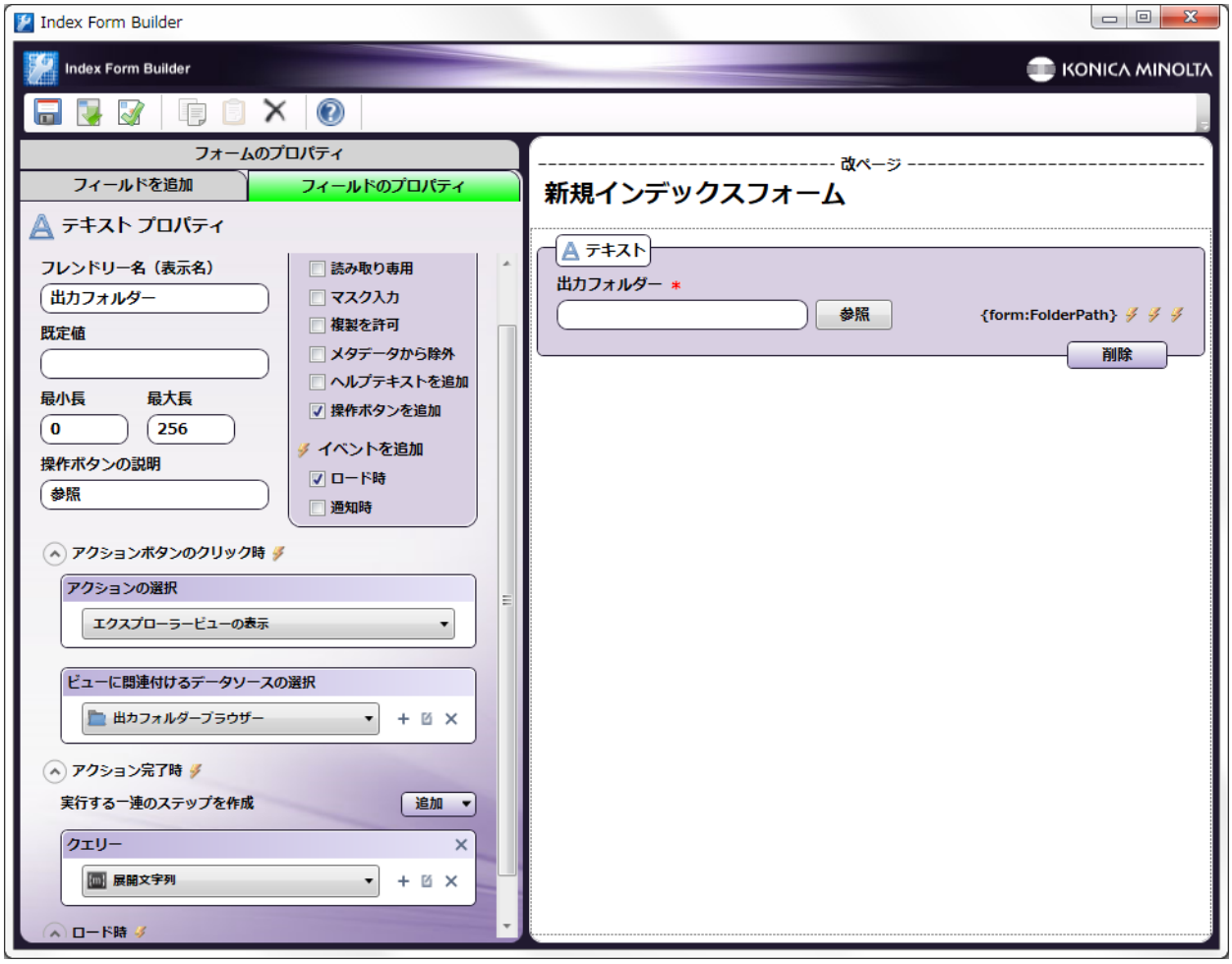
要件:Dispatcher PhoenixがActive Directoryドメインを構成するマシンにインストールされている必要があります。

はじめに、以下の操作を行います。

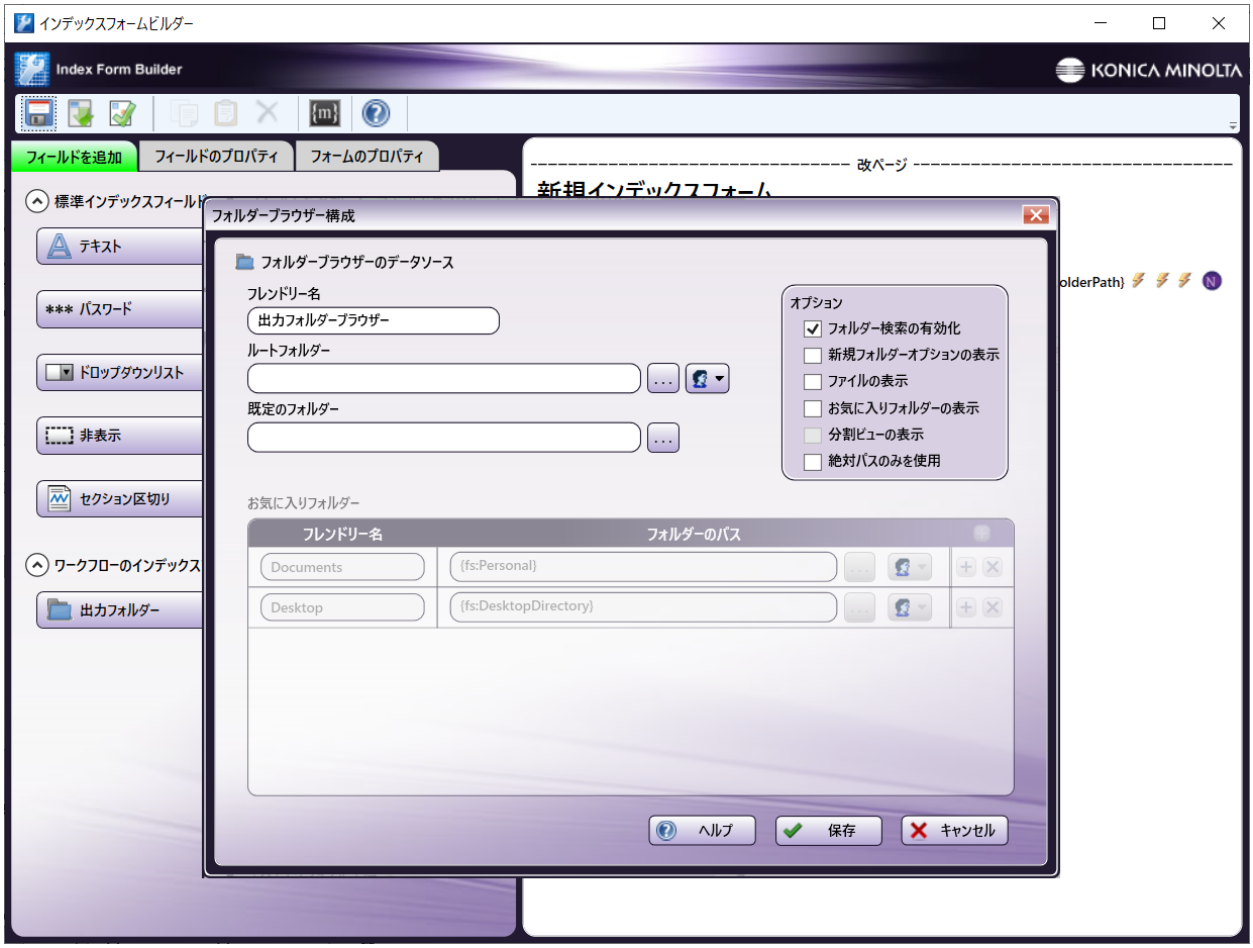
1. Active Directoryユーザーが、**[移動プロファイル]** または **[ホームフォルダー]** のどちらで設定されているかを確認します。
    - 移動プロファイルで設定されたActive Directoryユーザーは、Active Directoryドメインのどのコンピューターにもログオンでき、そのプロファイルにアクセスできます。
    - ホームフォルダーは、ユーザーがファイルを保存できる、プライベートネットワーク上の場所です。
2. 「Scan to Home」ワークフローを、複合機パネルノードと出力フォルダーを使用して作成します。



3. 複合機パネルノードにインデックスフォームを追加してそのインデックスフォームをフォルダーの参照ができるように設定します。



4. [フォルダーブラウザー構成]ウィンドウで[出力フォルダーブラウザー]データソースを設定します。



5. [ルートフォルダー]フィールドでは、ワークフローを実行すると自動的に展開する変数を使用します。
   - 移動プロファイルを使用している場合は、「{user:profile}」と入力します。
   - 移動プロファイルを使用していない場合は、「{user:home}」と入力します。

   移動プロファイルを使用していない場合は、既存の変数を使用して数多くのユーザーが使用できるようなパスを構成する必要があります。たとえば以下のようになります。

   \\ad-server\Profiles\{user:home}\Desktop

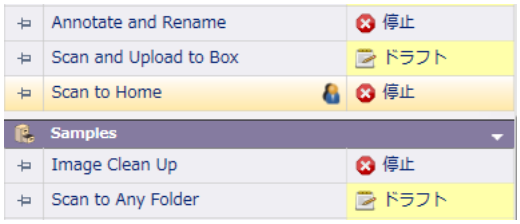
   {user:home}\Scans

   注: 従来の環境では、ユーザーのホームフォルダーがActive Directoryを介して共有され、複数のオペレーティングシステム（v1、v2、v3など）からアクセスされると、v1、v2、v3がプロファイルフォルダーに追加されそれ以前のオペレーティングシステムで作成されたプロファイルから分離されます。

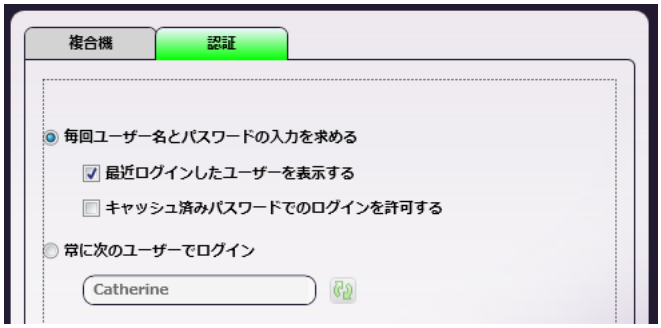
   Windows 7、およびWindows 2008では、プロファイルは次のようにユーザー名の後に「.V2」を追加してサーバーに保存されます。

   \\%server%\%share%\%Profiles%\%User%.v2\

   Windows 8、およびWindows 2012についてはIT管理者にお問い合わせください。
6. [フォルダーブラウザー構成]ウィンドウ、インデックスフォームビルダー、複合機パネルノード、およびワークフロービルダーツールを保存して閉じます。
7. アプリケーションのメイン画面で、ツールバーの **[共有ステータス]** アイコンをクリックしてワークフローを共有します。次の図のように、ワークフローリストのワークフローの横には[共有ステータス]アイコンが表示されます。



8. 複合機登録ツールを使用して、複合機の認証オプションがオプション1（[毎回ユーザー名とパスワードの入力を求める]）に設定されていることを確認します。



9. ワークフローを実行します。
10. 複合機で、Active Directoryの資格情報（例:「ユーザー名@ドメイン名」や「ドメイン名 / ユーザー名」）を使用してDispatcher Phoenixにログインします。

Workflow Services Manager

Workflow Service Managerでは、次の操作を行うことができます。

- Workflow Serviceの管理
- CAC/PIV認証のためのLDAPサポートの設定

このアプリケーションには、Windowsの[スタート]メニューからアクセスできます（[すべてのプログラム] > [KONICA MINOLTA]）。「Workflow Service Manager」でWindowsの検索を実行して、このアプリケーションを探すこともできます。

Workflow Service Managerの主な機能は、次のとおりです。

Windows認証

このタブでは、管理者は次の操作で、KMBS Windows Authentication Serviceを管理できます。

1. **[スタートアップの種類]** プルダウンリストで、KMBS Windows Authentication Serviceを開始する方法とタイミングを指定します。オプションは次のとおりです。
    - **[自動（遅延起動）]** - サービスは、[自動]と指定されたその他すべてのサービスが開始した後、まもなく開始します（通常はシステムの起動後1～2分）。
    - **[自動]** - サービスは、システムが最初に起動したときに開始します。

- **[手動]** - サービスを開始するには、PCを起動する度に、ユーザーがこのウィンドウの[サービスの開始]ボタンを使用する必要があります。
- **[無効]** - ユーザーは、いつの時点であってもサービスを開始できません。

2. サービスを有効にするには、**[サービスの開始]** ボタンを選択します。
3. サービスを停止にするには、**[サービスの停止]** ボタンを選択します。
4. LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）のサポートを有効にするには、**[LDAP検索の有効化]** ボックスをチェックします。LDAPとは、ユーザー認証とユーザープロファイルデータの保存の規格です。Dispatcher Phoenixでは、LDAPに接続して、読み取り専用クエリを実行して、ユーザー属性を判別します（ホームディレクトリのスキャンの場合は{user:home}、メールアドレスの場合は{user:email}など）。有効にした後には、LDAPサーバーと一致するように接続、認証、および検索のオプションを入力する必要があります。
   - **[ホスト]** - Active Directory（AD）サーバーをホストするサーバーの名前を入力します。
   - **[ポート]** - ADサーバーのポートを入力します。
   - **[LDAPユーザー検索ベース]** - LDAPサーバーのツリー構造で検索の開始点を入力します。
   - **[SSLセキュア接続の使用]** - LDAPサーバーへのSSL接続を有効にします。
   - **[簡易認証]** または **[匿名認証]** - LDAP認証の種類（[匿名認証]では資格情報を渡さずに接続を行い、[簡易認証]では接続で基本的な認証を使用すると指定します）。
   - **[バインドDN]** - 指定された検索ベース内でのLDAPディレクトリの検索を許可された外部ADサーバーのユーザーを入力します。{user}@{domain}変数は、複合機から受信する情報で置き換えられ、検索に必要であることに注意してください。
   - **[パスワード]** - バインドパスワードを入力します。
   - **[フィルター]** - 検索条件内のエントリを識別するための検索基準を定義できます。たとえば、(objectClass=person) は、LDAPディレクトリ全体のユーザーのサブセットを取得するために使用されます。
   - **[既定の検索]** - 検索属性を設定します。
   - **[フォールバック検索]** - 追加の検索文字列を入力します。
5. **[LDAP接続のテスト]** ボタンを選択して、検索設定をテストします。
6. **[設定の保存]** ボタンを選択して、Windows認証サービスを更新します。

注:

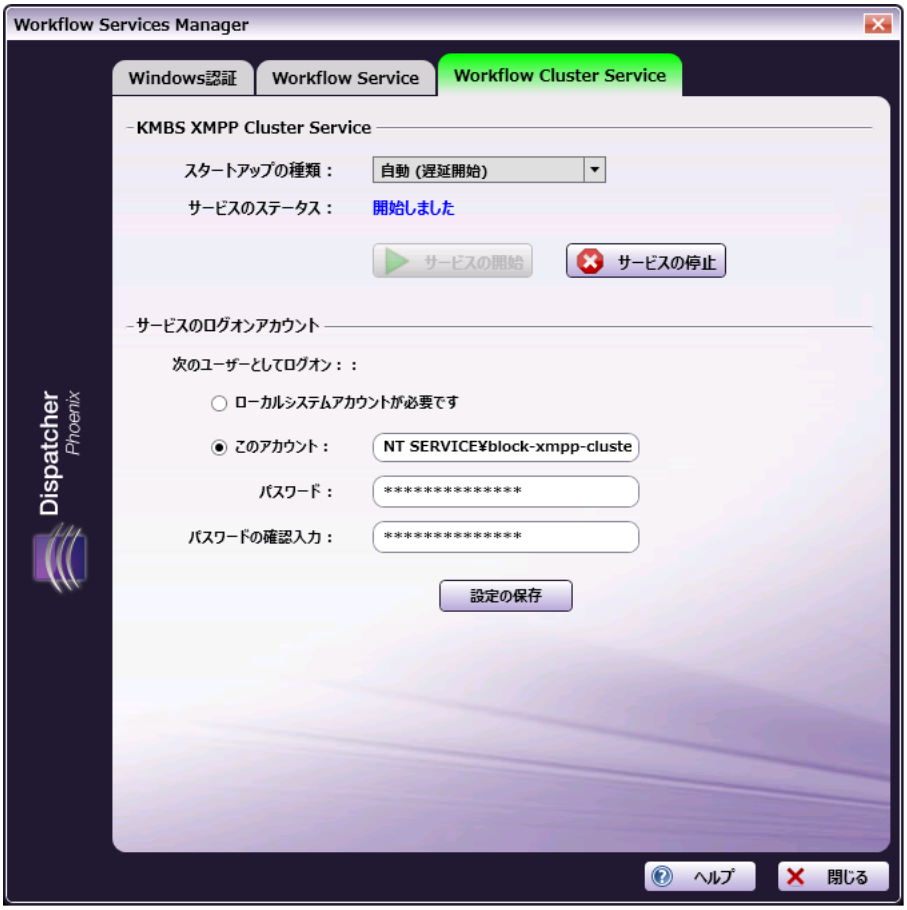
- LDAPの変更は、KMBS Windows Authentication Serviceを停止し、再開するまでは有効になりません。
- ユーザーが複合機で最初にDispatcher Phoenixにログインすると、Dispatcher Phoenixをログアウトするまで（複合機でアプリケーションを終了するまで）Active DirectoryとLDAPの情報はキャッシュされます。次にユーザーがログインするとき、LDAPの情報はActive DirectoryおよびLDAPまたはそのいずれかから再度取得されます。

Workflow Service

このタブでは、管理者は次の操作で、SEC Workflow Servicesを管理できます。

1. **[スタートアップの種類]** プルダウンリストで、SEC Workflow Servicesを開始する方法とタイミングを指定します。オプションは次のとおりです。
    - **[自動（遅延起動）]** - サービスは、[自動]と指定されたその他すべてのサービスが開始した後、まもなく開始します（通常はシステムの起動後1～2分）。
    - **[自動]** - サービスは、システムが最初に起動したときに開始します。
    - **[手動]** - サービスを開始するには、PCを起動する度に、ユーザーがこのウィンドウの[サービスの開始]ボタンを使用する必要があります。
    - **[無効]** - ユーザーは、いつの時点であってもサービスを開始できません。
2. サービスを有効にするには、**[サービスの開始]** ボタンを選択します。
3. サービスを停止にするには、**[サービスの停止]** ボタンを選択します。
4. **[クラスターへブロードキャスト]** のいずれかを選択します。この設定では、サーバーをパブリックにしてクラスター設定のためにアクセスできるようにします。

Workflow Cluster Service



このタブでは、管理者はKMBS XMPP Cluster Serviceを管理できます。このサービスは、ワークフローの主なサービスの1つで、管理者はCAC/PIV認証およびその他のセキュリティ目的で使用するNTサービスの仮想アカウントとしてこのサービスを実行するように設定できます。仮想アカウントは「管理されたローカルアカウント」で、次の機能によりサービスを簡単に管理できるようにします。

- パスワード管理が不要。
- ドメイン環境のコンピューターのIDでネットワークの接続先（例：ネットワーク共有、ホームフォルダーなど）にアクセスする機能があります。

以下の操作を行います。

1. **[スタートアップの種類]** プルダウンリストで、XMPP Cluster Serviceを開始する方法とタイミングを指定します。オプションは次のとおりです。
    - **[自動（遅延起動）]** - サービスは、[自動]と指定されたその他すべてのサービスが開始した後、まもなく開始します（通常はシステムの起動後1～2分）。
    - **[自動]** - サービスは、システムが最初に起動したときに開始します。
    - **[手動]** - サービスを開始するには、PCを起動する度に、ユーザーはこのウィンドウの[サービスの開始]ボタンを使用する必要があります。
    - **[無効]** - ユーザーは、いつの時点であってもサービスを開始できません。
2. サービスを有効にするには、**[サービスの開始]** ボタンを選択します。
3. サービスを停止にするには、**[サービスの停止]** ボタンを選択します。
4. サービスの **[ログオン]** の種類を変更します。
    - ドメインで実行しない場合は、**[ローカルシステムアカウント]** ラジオボタンを選択します。
    - ドメインサーバーへの完全な書き込み権限が必要な場合は、**[このアカウント]** ラジオボタンを選択して、NT仮想サービスアカウントおよびパスワードを指定します。

注: [サービスのログオンアカウント]を変更しても、Workflow Cluster Serviceを停止し、再開するまでは有効になりません。

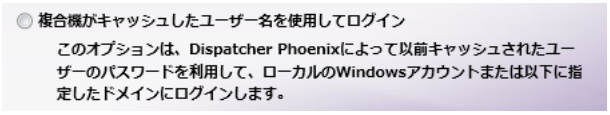
Windows NTサービスログオンを使用したLDAP検索での「Scan to Home」

Windows NTサービスにログオンしてLDAP検索を行うように「Scan to Home」ワークフローを設定するには、以下の操作を行います。

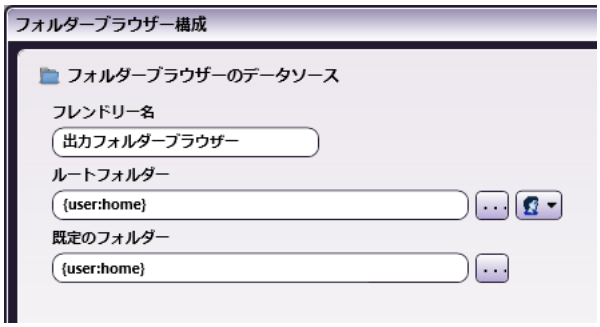
この説明では、すべてのユーザーのホームおよびプロファイルパスへのアクセス権限および完全な権限を持つWindows NT仮想サービスのアカウントがすでに作成されていることと、コンピューターがドメインに参加していることを前提としています。

1. Workflow Service Managerのアプリケーションを起動します。
2. **[Workflow Cluster Service]** タブで、Windows NT仮想サービスアカウントを使用するように **[サービスのログオンアカウント]** の情報を変更します。
3. **[サービスの開始]** ボタンを選択してから、**[サービスの停止]** ボタンを選択します。
4. **[Windows認証]** タブで、**[LDAP検索の有効化]** ボタンをチェックします。

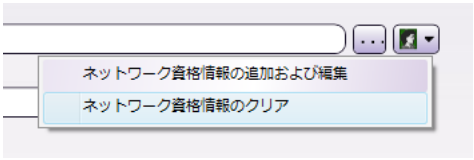
5. LDAP設定の詳細を該当するフィールドに入力します。
6. **[設定の保存]** ボタンを選択します。
7. **[サービスの開始]** ボタンを選択してから、**[サービスの停止]** ボタンを選択します。
8. Dispatcher Phoenixのメインアプリケーションで複合機登録ツールを開きます。使用する複合機を編集してから **[認証]** タブを選択します。
9. 次の図のように、[認証]タブでシングルサインオンのオプションを選択します。



10. ワークフローのインデックスフォームでフォルダーの参照を設定するには、次の図のように {user:home} 変数を使用します。



11. ネットワーク資格情報は不要です。次の図のように、**[ネットワーク資格情報]** アイコンをクリックしてから **[ネットワーク資格情報のクリア]** オプションを選択してネットワーク資格情報をすべてクリアします。



12. Dispatcher Phoenixのメインのアプリケーション画面で、ワークフローが共有されていることを確認します。
13. 複合機で、ドメインユーザーアカウントを使用してログインします。

Dispatcher Phoenix FAQ

1. Dispatcher Phoenixのバージョンの違いは何ですか?
2. フォーム処理、高度なOCR、PDFに変換およびOfficeに変換の違いは何ですか?
3. Dispatcher Phoenixには複合機シミュレーターがありますか?
4. Dispatcher Phoenixワークフローを複合機で実行するためにiOptionが必要ですか?
5. プロダクションプリントモデルでDispatcher Phoenixを実行するためには何が必要ですか?
6. アクティブ入力とは何ですか?
7. Dispatcher Phoenixはフォルダーを動的に作成できますか?
8. 1つのワークフローに含めることができるノードの数に制限はありますか?
9. ワークフローは複数のページ上に描画することができますか?
10. Dispatcher Phoenixは米国連邦情報処理規格(FIPS)140-2準拠環境にインストールして使用できますか?
11. Googleは、Googleクラウドプリントサービスを廃止しました。Googleクラウドプリントノードを含むDispatcher Phoenixワークフローはどうなりますか?

---

1. Dispatcher Phoenixのバージョンの違いは何ですか?

すべてのバージョンの**Dispatcher Phoenix**は以下を含んでいます。

- グラフィカルな**ワークフロービルダー**、高度な**ワークフロースケジューラ**、およびLiveFloテクノロジを備えた基本アプリケーション

- ネイティブおよび高度なbizhubオフィス複合機コントロールパネルの統合
- フレキシブルな複合機ユーザーオプションとワークフロー共有機能
- 複合機パネルでの文書のインデックス付けとフォルダー閲覧機能

Dispatcher Phoenix

- 使いやすいスケーラブルでコスト効率の高いソリューション
- **バーコード処理**、**高度なOCR**、**OnBaseコネクター**などのようなオプションのアドインノードを使用して拡張が容易なモジュラーアーキテクチャー
- **注釈**、**透かし**、**名前の変更**、**傾き補正**、**ノイズ除去**などのドキュメントイメージング、ルーティング、および印刷処理

Dispatcher Phoenix ScanTrip

Dispatcher Phoenix ScanTrip は、シンプルで低コストのクラウドへのスキャンソリューションを提供する**Dispatcher Phoenix**の簡易版です。

Dispatcher Phoenix Release2Me+

Dispatcher Phoenix Release2Me+は、安全な印刷とスキャンに使用できるフル機能の印刷管理ソリューションの無駄のない経済的な代替手段です。この便利で安全な印刷ソリューションは、ビジネスドキュメントの機密性を保護し、必要のない不要な印刷を削減します。

バーティカル市場パッケージ

Dispatcher Phoenix 基本ライセンスを購入すると、1つまたはそれ以上の次のオプションのバーティカル市場パッケージを追加できます。

- **Dispatcher Phoenix Office**
- **Dispatcher Phoenix Legal**
- **Dispatcher Phoenix Government**
- **Dispatcher Phoenix Healthcare**
- **Dispatcher Phoenix Education**
- **Dispatcher Phoenix Finance**
- **Dispatcher Phoenix ECM**

2. [フォーム処理]、[高度なOCR]、[PDFに変換] および[Officeに変換]ノードの違いは何ですか?

- **[フォーム処理]** - バーコードやテキスト検索で一意の識別子（例:社会保障番号、電話番号など）を詳細に検索します。ユーザー定義のルールに基づいて情報を抽出したり、処理（墨消し、強調表示または取り消し線）することができます。このノードは、正確な内容（またはページ上の正確な位置）を知らなくてもドキュメント内の情報を抽出、または処理する必要がある場合に便利です。
- **[高度なOCR]** - イメージファイル（TIFF、JPG、PNG、BMP）とPDFに対してページレベルでゾーンOCRを実行して、ドキュメントの分割、名前変更、またはルーティングに使用するメタデータを抽出します。ノードを使用してファイルをさまざまな異なる形式に変換することもできます。
    - PDF
    - 検索可能なPDF
    - イメージ代替を含むPDF
    - Microsoft Word 2000、XP
    - Microsoft Word 97
    - Microsoft Word 2003
    - Microsoft Word Excel 2003、XP
    - Microsoft Word Excel 97
    - Microsoft PowerPoint 97
    - 検索可能なXPS
    - RTF Word 2000
    - RTF 2000 Exact Word
    - RTF Word 97
    - RTF Word 6.0/95
    - テキスト
    - カンマ区切りテキスト
    - 書式付きテキスト
    - 改行を含むテキスト
    - Unicodeテキスト
    - Unicodeカンマ区切りテキスト

- Unicode形式のテキスト
- 改行を含むUnicodeテキスト
- XML
- eBook

注: [高度なOCR]ノードは、[Microsoft Office]変換とベーシックな[検索可能なPDF]変換に対して最もコスト効率のよいソリューションです。

- **[PDFに変換]** - イメージファイルと既存のPDFをさまざまなPDF形式に変換します。
  - PDF
  - 検索可能なPDFイメージ
  - イメージ代替を含むPDF
  - PDF編集済み
  - PDFイメージのみ
  - 以下の高度な設定:
    - セキュリティパスワード
    - ファイルサイズ、品質、特定のPDFバージョンおよびPDF/Aの最適化
    - ページの自動回転
    - 空白のページを削除
- **[Officeに変換]** - イメージファイルとPDFを最新のMicrosoft Office形式に変換します。
  - Microsoft Word 2007/2010（docx）
  - Microsoft Word 2000、XP（doc）
  - Microsoft Word 97（doc）
  - Microsoft Word 2003（doc）
  - Microsoft Excel 2007、2010（xlsx）
  - Microsoft Word Excel 2003、XP（xls）
  - Microsoft Word Excel 97（xls）
  - Microsoft PowerPoint 2007、2010（pptx）
  - Microsoft PowerPoint 97（ppt）
  - XPS
  - 検索可能なXPS
  - RTF Word 2000
  - RTF 2000 Exact Word
  - RTF Word 97
  - RTF Word 6.0/95
  - WordPad
  - WordPerfect（9,10）
  - Microsoft Infopath
  - Microsoft Publisher 98
  - Microsoft Reader

3. Dispatcher Phoenixには複合機シミュレーターがありますか？

Dispatcher Phoenix 複合機シミュレーターを使用すると、物理的な複合機またはDispatcher Phoenixアプリケーションを必要とせずに、複合機上でアプリケーションをどの程度簡単に使用できるかをデモンストレーションすることができます。

複合機シミュレーターは次のように利用できます:

- スタンドアロンのPCベースのシミュレーター
- PCブラウザー、iPhone、iPad、Androidデバイス、およびその他のモバイルデバイスで使用されるオンラインのWebベースのシミュレーター
- 統合されたシミュレーター

スタンドアロンおよびオンラインシミュレーター

スタンドアロンおよびオンラインシミュレーターの両方は、Dispatcher Phoenixまたは複合機の実行を必要とせずに複合機のアプリケーションの外観ビューを顧客に提供します。これらにはデモンストレーションに深い知識を必要としない、組み込み済みの準備されたワークフローが含まれています。

SEC Webサイトからスタンドアロンシミュレーターをダウンロードしてください。

ここをクリックしてオンラインシミュレーターにアクセスしてください。

統合シミュレーター

Dispatcher Phoenixのすべてのバージョンに組み込まれているシミュレーターを使用すると、物理的に複合機に接続することなくDispatcher Phoenixのワークフローをインタラクティブに実行できます。シミュレートされた複合機パネルからファイルをDispatcher Phoenixワークフローに直接送信することができ、これらのファイルはDispatcher Phoenixでリアルタイムに処理されます。

4. Dispatcher Phoenix ワークフローを複合機で実行するためにiOptionが必要ですか？

Dispatcher Phoenixを複合機上で実行するためにiOptionは必要ありません。iOptionがインストールされている場合、Dispatcher Phoenix bEST（bizhub Extended Solution Technology）のワークフローは、利用可能なワークフローの特大のボタンやサムネイル画像でグラフィカルに表示できます。また、ワークフローをテキストベースで表示する複合機のネイティブインタフェースのサポートも提供されています。

DISPATCHER PHOENIX - ネイティブユーザーインターフェイス

DISPATCHER PHOENIX - グラフィカルユーザーインターフェイス

iOptionを複合機に追加するには、複合機モデルに適したLK-101キットを注文する必要があります。また、複合機に追加のメモリが必要になります。

5. プロダクションプリントモデルでDispatcher Phoenixを実行するためには何が必要ですか?

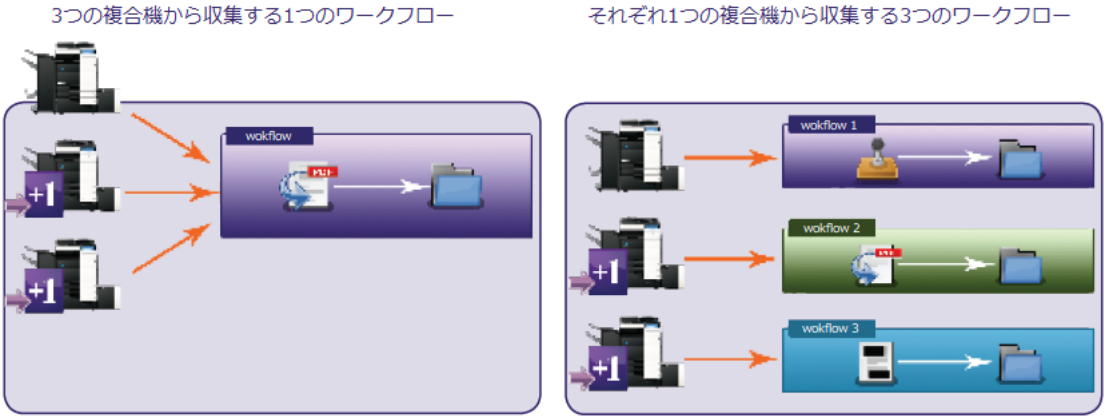
プロダクションプリントモデルでDispatcher Phoenixワークフローを実行するには、**プロダクションプリントの設定** ページを参照します。

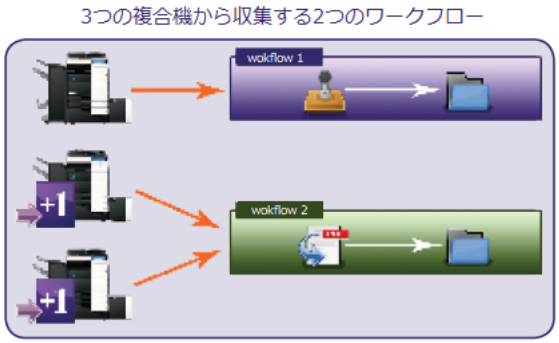
また、**Dispatcher Phoenix プロダクションプリントセット アップガイド**をSEC Webサイトで入手することもできます。

6. アクティブ入力とは何ですか?

アクティブ入力は、実行中または実行するようにスケジュールされたワークフローへのエントリポイントです。ワークフローは複数のアクティブ入力を含むことができます。Dispatcher Phoenixの入力は次のとおりです。

- 入力フォルダー(ローカルフォルダーまたはネットワークフォルダーから収集)
- 複合機ユーザーボックス(複合機のユーザーボックスから収集)
- 複合機パネル(bESTテクノロジーを実行する複合機からスキャンしたファイルを受信)
- LPR入力(LPRプリントドライバーからのファイルを受信)
- SMTP入力(複合機から電子メールとしてスキャンされたファイルを受信)
- Googleクラウドプリント(Googleクラウドプリントジョブを受信)
- Dispatcher Phoenix Mobile(モバイルデバイスからファイルを受信)
- Dispatcher Phoenix Workstation(Dispatcher Phoenix Workstationからファイルを受信)





7. Dispatcher Phoenixはフォルダーを動的に作成できますか?

Dispatcher Phoenixを使用すると、ワークフローで提供されるパスと、ファイル名、日付/時刻、ログインしているユーザー名などのさまざまな変数に基づいて新しいフォルダーを動的に作成することができます。

Dispatcher Phoenixには、ファイルの内容に基づいて出力ディレクトリを動的に作成する機能もあります。高度なOCRノードを使用すると、ドキュメントでキャプチャーしたい特定のデータの辺りにゾーンを作成できます。抽出された情報は次の構文を使用して出力フォルダーを定義するときに参照できます。

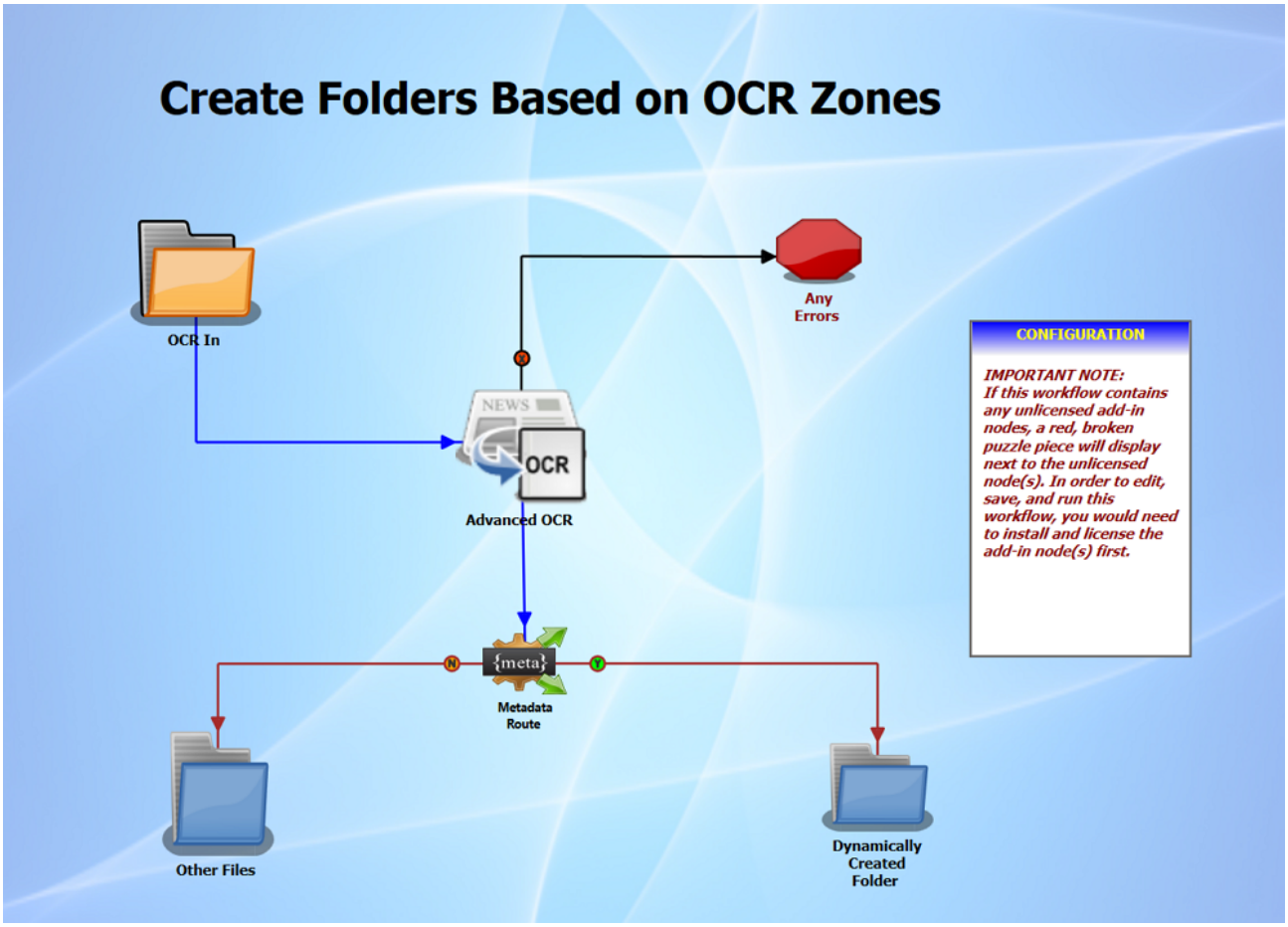
{ocr:zone.ゾーン名[ページ番号]}

たとえば、ドキュメントの1ページに'client'というゾーンを作成した場合、出力フォルダーを定義するときに次のように指定できます。

{fs:DesktopDirectory}{ocr:zone.client[1]}

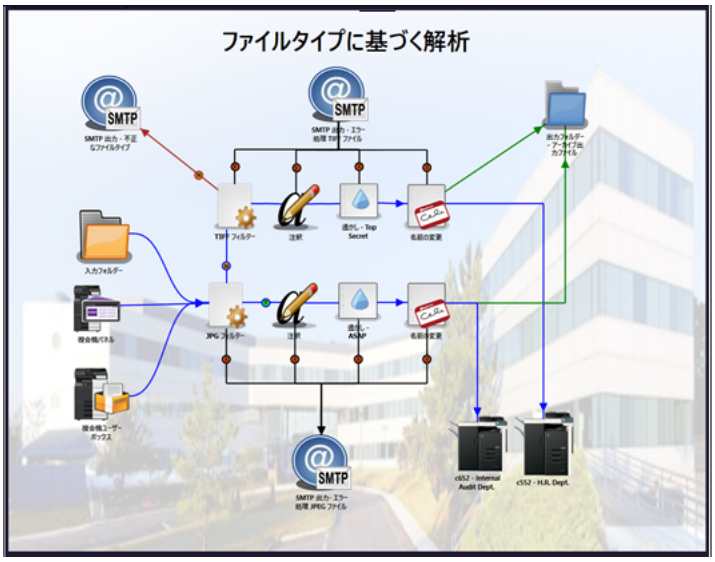
この例では、'client'ゾーンの値が'John Doe'の場合、デスクトップ上に'John Doe'出力フォルダーが自動的に作成されます。

この機能を実演するために、サンプルファイルを含むサンプルワークフローが作成されています。Dispatcher Phoenixのメインアプリケーション画面で、ツールバーの[オンラインサンプル]アイコンをクリックして、動的フォルダーの作成（Dynamic Folder Creation）サンプルワークフローをダウンロードします。



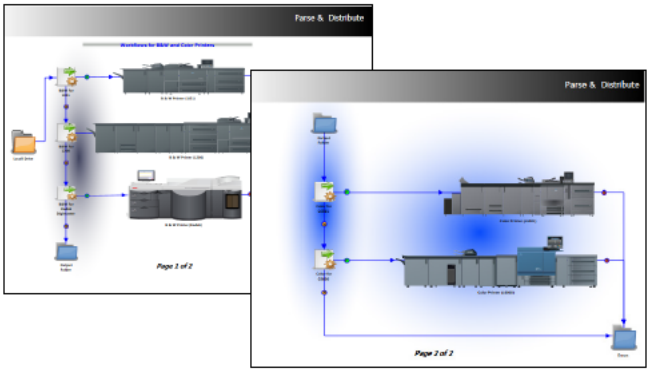
8. 1つのワークフローに含めることができるノードの数に制限はありますか？

ワークフローに含めることができるノードの数に制限はありません。複数の入力ノード（ファイル収集用）、処理ノード、および配信ノード（ファイル配信用）をビジネスニーズに合わせて含めることができます。



9. ワークフローは複数のページ上に描画することができますか？

大量のノードを使用して複雑なプロセスを作成する必要がある場合は、ワークフローに無制限に追加ページを挿入できます。ワークフロー内の複数の要素をページ間でコピーして貼り付けることができます。これは、同じページの2つのノード間にコネクターを使用することと同じです。



10. Dispatcher Phoenixは米国連邦情報処理規格（FIPS）140-2 準拠環境にインストールして使用できますか?

はい。Dispatcher Phoenixは、非軍事連邦政府機関や、高度に設計されたセキュリティ基準が必要な政府請負業者など、FIPS 140-2準拠の環境で使用することができます。

11. Googleは、Googleクラウドプリントサービスを廃止しました。Googleクラウドプリントノードを含むDispatcher Phoenixワークフローはどうなりますか?

2021年1月1日をもって、GoogleはGoogleクラウドプリントサービスを廃止しました。そのため、現在Googleクラウドプリントノードを含むDispatcher Phoenixワークフローはすべて機能しなくなります。Dispatcher Phoenixを現在のバージョンに更新すると、ワークフロー内のすべてのGoogleクラウドプリントノードが赤色の壊れたパズルのピースに置き換えられ、これらのノードが使用できなくなったことを示します。現在のバージョンに更新しないことを選択した場合、ノードはワークフローで変更されていないように見えますが、機能しません。

エンドユーザーソフトウェア使用許諾契約書

DISPATCHER®は、Konica Minolta Business Solutions U.S.A., Inc.の商標です。本書に記載されているその他の製品名は各社の商標または登録商標です。

エンドユーザーソフトウェア使用許諾契約書

重要 - 本ソフトウェアをダウンロードしたり、このユーザーズガイドに記載されている製品を使用したり、本ソフトウェアが入っているパッケージを開封したりする前に、この条項をよくお読みください。本ソフトウェアをダウンロードまたは使用することにより、お客様は、この使用許諾契約書を読んで理解し、その条項に従うことに同意したものとみなされます。この使用許諾契約書の条項に同意いただけない場合は、ソフトウェアをダウンロードしないでただちにこのページを閉じてください。

1. 登録ユーザーへのライセンスの付与

   Konica Minolta Business Solutions U.S.A., Inc.（「Konica Minolta」）は、以下の条件を満たす場合に、このライセンスと共に配布されるプログラム（「本ソフトウェア」）、および本ソフトウェアに付属するあらゆるドキュメントファイル（「ドキュメント」）を1台のサーバーまたはパーソナルコンピューターで使用するための、お客様がライセンス料金を支払った最大同時ユーザー数をサポートする非排他的かつ譲渡不可能なライセンスをお客様に付与します。(i) 本ソフトウェアが1台のサーバーまたはパーソナルコンピューターにのみインストールされていること、(ii) 本ソフトウェアが改変されていないこと、(iii) 本ソフトウェア上にすべての著作権情報が保持されていること、および (iv) この使用許諾契約に従うことに同意すること。本ソフトウェアおよびドキュメントは、お客様のみが個人用途または社内業務用途にのみ使用し、サービスビューローの業務、あるいは他の個人または団体のためには使用しないものとします。

   あらゆる個人、事業、会社、政府機関、または他の団体が本ソフトウェアをこれ以外の方法で使用することは厳重に禁止されており、この使用許諾契約書に違反します。

2. 所有権

   お客様は本ソフトウェアの所有権を一切有さないものとします。すなわち、お客様は、この使用許諾契約書が完全な効力を維持しているかぎり、本ソフトウェアを使用するためのライセンスを持つものとします。この使用許諾契約書に記載されているソフトウェア、ドキュメント、およびすべての知的財産権の所有権は、常にコニカミノルタに帰属するものとします。

3. 著作権

   本ソフトウェアおよびドキュメントには、米国著作権法、国際著作権法と企業秘密法、および国際条約の規定により保護されている内容が含まれています。この使用許諾契約書においてお客様に付与されていないすべての権利は、コニカミノルタにより明示的に留保されています。お客様は、本ソフトウェアまたはドキュメントのいかなるコピーからも、コニカミノルタの所有権表示を削除することはできません。

4. 制限

   お客様は、(i) 本ソフトウェアまたはドキュメントの全体または一部のコピーの作成、(ii) 改ざん、翻訳、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、(iii) 本ソフトウェアまたはドキュメントに基づく二次的著作物の作成、または (iv) 本ソフトウェアのオブジェクトコードからのソースコードの作成を行わないことに同意するものとします。ただし、そのような制限が適用法で禁止されている場合を除きます。お客様は、本ソフトウェアまたはドキュメントのコピーが無許可のユーザーによりコピーまたは使用されないよう保護するための適切な措置を取ること、および従業員または代理店が本使用許諾契約書の条項に違反しないようにするための適切な措置を取ることに同意するものとします。お客様は、本ソフトウェアのいかなる部分をも、本ソフトウェアと切り離して使用しないことに同意するものとします。お客様は、本ソフトウェアまたはいかなるドキュメント、またはそれらのいかなるコピーをも、事前にコニカミノルタの書面による同意なしで第三者に譲渡することはできません。

5. 機密保持

   お客様は、本ソフトウェアにはコニカミノルタの独占的企業秘密が含まれていることを確認し、少なくともお客様自身の最も機密性の高い情報の機密を保持する場合と同等の注意を払って、このソフトウェアの機密を保持することに同意するものとします。お客様は、本ソフトウェア使用許諾契約書の条項について、お客様が雇用し、このソフトウェアに接する従業員に適切に説明し、当該の従業員がこの条項を遵守するため（本プログラムのソースコードの二次的著作物の作成、またはロックコード/ロック解除コードの解除を目的として、このプログラムの一部を使用することを故意に容認することを含みます）、合理的な最大限の努力をすることに同意するものとします。

6. 限定保証

   コニカミノルタは、購入後30日間、本ソフトウェアがこのドキュメントに従って問題なく動作することを保証いたします。本ソフトウェアがそのように動作しない場合、この使用許諾契約書に基づくお客様の排他的な救済方法およびコニカミノルタの唯一の義務は、コニカミノルタの独自の裁量による欠陥の修正またはソフトウェアの交換とするものとします。お客様による本ソフトウェアのご使用は、お客様ご自身の責任に帰すものとします。この限定保証は、本ソフトウェアに関してコニカミノルタが提供する唯一の保証です。上記の限定保証を除き、本ソフトウェアは「現状のまま」提供されます。法律で許可される最大限の範囲で、コニカミノルタは、明示、暗黙を問わず、商品性および特定目的適合性の暗黙的な保証を含む（ただしこれだけに限定されません）、他の保証を一切行いません。コニカミノルタは、本ソフトウェアに備わる機能がお客様に生じる可能性のあるあらゆる要件または要望を満たすこと、本ソフトウェアがエラーなしで中断されることなく動作すること、本ソフトウェアのあらゆる欠陥またはエラーが修正されること、本ソフトウェアが任意の特定のプラットフォームと互換性のあることを保証するものではありません。管轄区域によっては、暗黙的な保証の権利放棄または免責が認められていないため、上記の制限はお客様に適用されない場合があります。

7. 責任の制限

   いかなる場合も、コニカミノルタは、本ソフトウェアの使用または使用不能から生ずる副次的または間接的な損害（利益の逸失、事業の中断、または事業情報の損失に対する間接的、特殊、懲罰的な賠償、ビジネスの損失を無制限に含みます）、あるいは第三者による請求について、コニカミノルタが当該の損害が発生する可能性を通告されていた場合も、一切責任を負いません。この使用許諾契約書に基づく義務に関する、または本ソフトウェアおよびドキュメントその他に関する、コニカミノルタの総債務額は、本ソフトウェアおよびドキュメントに対して支払われたライセンス料の額を超えることはありません。一部の州/国では副次的または間接的な損害に対する責任の排除または制限が認められていないため、上記の制限はお客様に適用されない場合があります。

8. 輸出の制限

   この使用許諾契約書は、アメリカ合衆国政府から適宜課される、本ソフトウェアまたは当該ソフトウェアの情報のアメリカ合衆国からの輸出に関する法律、規制、命令、またはその他の制限を明示的に受けます。お客様は、かかる法律、規制、命令、またはその他の制限に従うことなく、本ソフトウェア、ドキュメント、または本ソフトウェアに関する情報を輸出または再輸出することはできません。

9. 契約の終了

   この使用許諾契約書は、契約が終了するまで有効です。お客様は、お客様が所有または管理する本ソフトウェアおよびドキュメントのすべてのコピーを破棄するか、コニカミノルタに返却することにより、この使用許諾契約書をいつでも終了できます。コニカミノルタは、お客様がこの使用許諾契約書のいずれかの条項に違反したことを発見した場合を含め（ただし、これに限定されません）、いかなる理由であれ、この使用許諾契約書を終了できます。契約終了の通知があった時点で、お客様は、本ソフトウェアおよびドキュメントのすべてのコピーを破棄するか、コニカミノルタに返却して、バックアップコピーを含むすべての既知のコピーが破棄されたことを書面で証明することに同意するものとします。機密保持、財産権、および非開示に関するすべての規定は、この使用許諾契約書の終了後も効力を有するものとします。

10. 総則

    この使用許諾契約書は、抵触法の規定にかかわらず、ニュージャージー州の法律に基づいて解釈され、それらの法律に準拠するものとします。この使用許諾契約書から生じる、またはこの使用許諾契約書に関連するあらゆる争議の専属裁判所は、米国ニュージャージー州にある適切な連邦裁判所または州裁判所である必要があります。この使用許諾契約書は、この契約の当事者間の契約全体を構成するものとします。この使用許諾契約書の権利放棄または修正はすべて、書面によるもので両当事者の署名がある場合にのみ有効です。管轄区域の裁判所により、この使用許諾契約書のいずれかの部分が法的効力がなく執行不可能であると判断された場合には、この使用許諾契約書のそれ以外の部分は当事者の意図に合理的な影響を与えるよう解釈されるものとします。

11. 米国政府エンドユーザーへの注意

    使用許諾品目は、「商用品目」（連邦調達規則（FAR）（48 C.F.R.）2.101で定義される用語）と見なされ、「商用コンピューターソフトウェア」および「商用コンピューターソフトウェアドキュメント」（FAR 12.212で使用されている用語）から構成されています。FAR 12.212および国防省連邦調達規則（DoD FAR）補則227.7202-1～227.7202-4に従い、本契約書が含まれる可能性のあるいずれかの契約にそれと異なる他のFARまたは他の契約条項があったとしても、または本契約書が直接適用される場合に、米国政府のエンドユーザーが入手するのは、本契約書で定められた権利のみが認められた使用許諾品目となります。いずれかの使用許諾品目を使用することにより、政府機関は、使用許諾品目が「商用コンピューターソフトウェア」および/または「商用コンピューターソフトウェアドキュメント」であることに同意し、その権利および制限に同意したことになります。製造元：Konica Minolta Business Solutions U.S.A., Inc., 101 Williams Drive, Ramsey, NJ 07446, U.S.A.

12. 抵触

    この使用許諾契約書は、お客様の便宜を図るため、複数の言語に翻訳されています。この使用許諾契約書の翻訳版におけるいずれかの規定が、この使用許諾契約書の英語版の規定と異なっている場合は、英語版の規定が優先されます。

13. 商標情報

    KONICA MINOLTA、KONICA MINOLTAロゴ、シンボルマーク、および「The essentials of imaging」は、コニカミノルタ株式会社の登録商標です。

用語集

Dispatcher Phoenix

用語	定義
アクティブ入力	「入力」はワークフローのエントリーポイント（入力フォルダー、複合機ユーザーボックス、複合機パネル、LPR入力、SMTP入力など）であり、ワークフローが実行されている場合、または実行がスケジュールされている場合にアクティブとみなされます。Release2Meワークフロー内で使用されている複合機もアクティブ入力と見なされます。
AD	Active Directory（AD）は、Windows Server上で実行されるいくつかのサービスで構成され、ネットワークリソースへのアクセス権とアクセスを管理するMicrosoft製品です。
アドインマネージャー(Add-In Manager)	このツールは、Dispatcher Phoenixアプリケーションの更新を表示、ダウンロード、インストール、またはアンインストールするために使用されます。
アドインモジュール	既存のDispatcher Phoenixインストールを拡張または強化する特徴、機能、またはノードのセット。
ADF	原稿自動送り装置（Auto Document Feeder）を使用すると、スキャナと複合機で複数のページを一度にスキャンできるため、1ページずつドキュメントをスキャンする必要がなくなります。
高度なルーティング	Dispatcher Phoenixの処理には、電子メール、ページ数、またはドキュメントのカラーコンテンツによるルーティングなどが含まれます。
自動Web登録とアクティベーション	Solutions Engineering Center（SEC）Webサイトのログイン、パスワード、および購入コードを使用して、Dispatcher Phoenixのインストールを登録およびアクティブ化するプロセス。
bEST	bESTはbizhub Extended Solution Technologyの略で、コニカミノルタ複合機とPCまたはサーバー上のソフトウェアアプリケーションとのシームレスな統合を可能にします。これらのソフトウェアアプリケーション（印刷管理、コスト管理、ドキュメントワークフローなど）は、複合機のパネルから直接アクセスできます。
Bubble Grader	学校やカレッジ、大学の教育者や管理者のための採点および評価ソリューション。
キャンバスプロパティ	ワークフローの「背景」や「キャンバス」の設定とカスタマイズオプション。
収集ノード	Dispatcher Phoenixワークフローの後続の処理/配信のためのファイルを収集する始点ノード（入力フォルダー、複合機パネルなど）。
コネクター (ノード)	Dispatcher Phoenixがファイルをサードパーティアプリケーションにルーティングできるようにする配信または出力ノードの一種（例：OnBaseコネクター、Googleドライブコネクターなど）。
コネクター (ワークフロービルダー)	2つのノード間の経路。コネクターには、標準(無印)、Yes(はい)、No(いいえ)、またはError(エラー)の遷移を含めることができ、ドキュメントがワークフロー内を進む方向を示します。
既定のエラーノード	キャンバスプロパティのカスタマイズ設定で、別のエラー遷移を使用せずにワークフローからエラーが発生したドキュメントを自動的に収集します。
配信ノード	ファイルを出力に配信するワークフローパスの終点ノード（例：出力フォルダー、プリンターなど）。
ドキュメントインデックス	検索やドキュメント検索を容易にするために、データや検索用語をドキュメントに関連付けるプロセス。
ドキュメント管理システム	組織/企業がドキュメントを電子形式で管理し、後で検索したり取得するためにこれらのドキュメントを保管できるようにするアプリケーション。
ドキュメント操作	Dispatcher Phoenixのカスタムファイル編集ツール（高度なペイツスタンプ、墨消し、強調/取り消し線、注釈など）。
ファイルの解析	処理、操作、または保管のために指定された入力に基づいてファイルを分割する。
フラットベッドスキャナ	スキャンするためのドキュメントがガラスウィンドウ上に置かれるスキャナ。
FTP	ファイル転送プロトコル（FTP）は、伝送制御プロトコル（TCP）/インターネットプロトコル（IP）接続を介して、インターネット上のコンピュータ間でファイルを送信するための標準的なインターネットプロトコルです。
グラフィカルワークフロービルダー	Dispatcher Phoenixワークフローを作成するための直感的なドラッグ・アンド・ドロップツール。
HTTP	ハイパーテキスト・トランスファー・プロトコル（HTTP）は、インターネットまたはローカルネットワーク（イントラネット）上のWebサーバーに接続するために使用される通信プロトコルです。その主な機能は、サーバーとの接続を確立し、ハイパーテキストマークアップランゲージ（HTML）ページなどのリソースをユーザーのブラウザーに返します。
アイコン (ノード)	ノードに関連付けられたイメージ。ニーズに合わせてワークフローごとにカスタマイズすることができます。ワークフローの各ノードに合ったカスタムアイコンをアップロードできます。
画像処理	デジタル化された画像の品質を改善するための分析と操作。Dispatcher Phoenixの画像処理タスクには、ノイズ除去、傾き補正、ミラーイメージ、ネガポジ反転、名前変更、透かしなどがあります。
インデックスフォームビルダー (IFB)	Dispatcher Phoenixのインデックスフォームビルダー（IFB）を使用すると、エンドユーザーはドキュメントのインデックス作成、処理、およびフォルダーの参照のための複合機用の画面を作成できます。
LDAP	LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）を使用すると、パブリックインターネットや企業イントラネットなど、組織、個人、およびネットワーク内のファイルやデバイスなどのその他のリソースを見つけることができます。
ライセンスファイル	Dispatcher Phoenixソフトウェアを手動で登録または更新することを可能にするSEC Webサイトからダウンロードされるパッケージ。

用語	定義
ライブフロー (LiveFlo)	リアルタイムワークフローアニメーションを使用すると、ワークフロー内でのドキュメントの場所を表示できます。
手動登録	SECのWebサイトにアクセスし、購入コードとロックコードまたはロック解除コードを入力して、Dispatcher Phoenixソフトウェアまたはアドインをアクティブ化する。
メタデータ	追加のドキュメント処理タスクに使用したり、別のファイルに保存することが可能なファイルまたはノード設定についての情報を記述するデータセット。
複合機(MFP)	多機能周辺装置(multi-function peripheral/MFP)は、別々の周辺装置によって実行される様々な機能を実行する装置である。原則として、プリンター、スキャナ、または複写機のうちの少なくとも2つを含む。
複合機登録ツール	デバイスを検索、検出、登録するための管理インターフェース。
複合機シミュレーター	物理的に複合機に接続する必要なく、bEST対応のDispatcher Phoenixワークフローを複合機でシミュレートするツール。
ノード (ワークフロー)	ワークフローの一部または特定のプロセス。ノードには、収集、処理、および配信プロセスが含まれます。
ノードのプロパティ	ノードの設定とカスタマイズオプション。
OCR	光学式文字認識(OCR)は、画像形式のテキストを編集可能な検索可能なテキストに変換し、ファイル変換とインテリジェントなルーティングを可能にするテクノロジーです。
ODBC	ODBC(Open Database Connectivity)は、データベースにアクセスするための標準のアプリケーションプログラミングインターフェイス(API)。
パッチコード	パッチコードは、自動スキャンに使用するために開発された平行に交互に並ぶ黒色のバーとスペースのパターン(バーコード)です。ドキュメントをスキャンするときにパッチコードを認識して処理することができます。
処理ノード	Dispatcher Phoenixワークフロー内の収集ノードと配信ノードの間のドキュメント処理または操作タスク(注釈、ハイライト、墨消し、傾き補正、ノイズ除去、マージ、分割など)。
購入コード	Dispatcher Phoenixの各ライセンスに関連付けられた一意のID。このコードは、Dispatcher Phoenixまたはアドインモジュールのアクティブ化、登録、または非アクティブ化に使用されます。
登録済みの複合機	bESTワークフローで使用するように設定された複合機。
Release2Me	Dispatcher Phoenix特有のシンプル、便利で安全なプリントリリースシステム。
ワークフローのスケジュール	ワークフローを特定の頻度で実行するように設定するプロセス。ユーザーは特定の日付範囲内でのみ実行するワークフローを選択するか、無期限にワークフローを実行することができます。さらに、ワークフローは特定の曜日と時刻に実行するようにスケジュールできます。スケジューラーはサービスまたはアプリケーションとして実行できます。
選択された複合機	ユーザーが現在、ワークフローで構成、登録、削除、または使用することを選択した複合機。
SMB	サーバーメッセージブロック(Server Message Block/SMB)は、ほとんどのWindowsベースのコンピュータで使用されるネットワークプロトコルで、同じネットワーク内のシステムがファイル、プリンタ、シリアルポートなどのリソースを共有できるようにします。
SMTP	SMTP(Simple Mail Transfer Protocol)は、電子メールの送受信に使用されるプロトコルです。ユーザーは通常、電子メールを送信するためにSMTPを使用し、電子メールを受信するためにPOP3(Post Office Protocol 3)またはIMAP(Internet Message Access Protocol)を使用するプログラムを使用します。
共有ステータスの切り替え	オンにすると、ワークフローを共有することができるメインアプリケーションのツールバー上のアイコン。これによって、コンピュータにアクセスできるすべてのユーザーが実行中のワークフローを使用できるようになり、オフにすると、コンピュータにアクセスできる他のユーザーとは共有されなくなります。
遷移	あるプロセスから別のプロセスに変化するファイルの動作。ワークフロー内の単一のプロセス/ノードから複数の遷移が存在する可能性があります。
ロック解除コード	Dispatcherがインストールされているシステムを表しており、ソフトウェアがインストールされるまで生成されません。ロック解除コードは、Dispatcher Phoenixライセンスを移行する必要がある場合に使用されます。
フロー検証	ワークフローの正確さをチェックして、ワークフローを実行するために必要なすべてのフィールドと設定が確実に行われるようにするプロセス。
WebDAV	Webベースの分散オーサリングとバージョン管理(WebDAV)によって、ユーザーはリモートWebサーバー上のファイルを共同編集して管理できます。WebDAVは、ハイパーテキストトランスファープロトコル(Hypertext Transfer Protocol)の拡張プロトコルです。
Workflow Services	Dispatcher Phoenixがドキュメント処理ワークフローを自動化するためのバックグラウンドタスク。

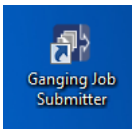
Dispatcher Phoenix Web

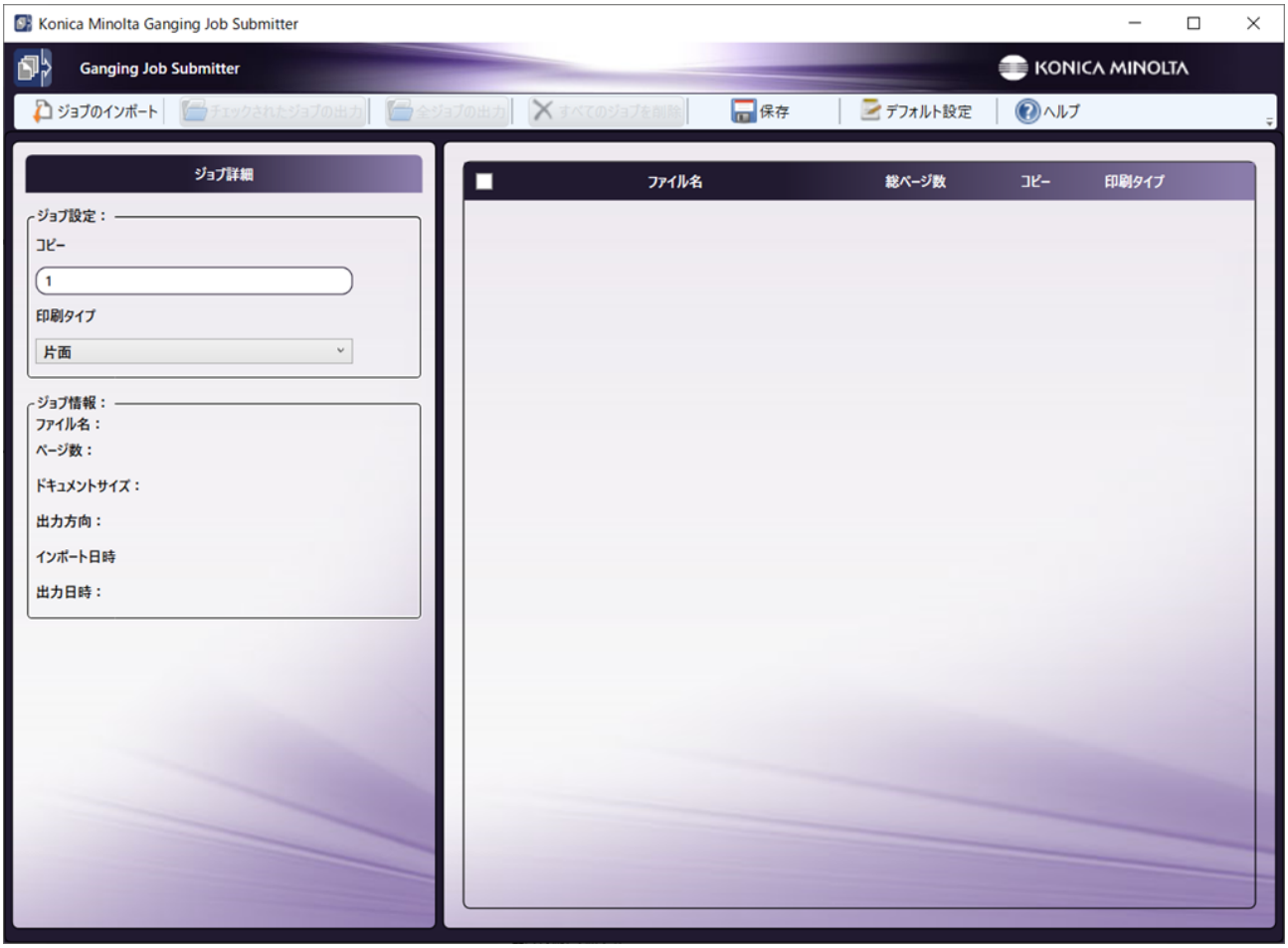
用語	定義
アクティブノード	クラスターグループリソースを所有していて、これらのサービスに対するネットワーク要求に応答するクラスターサーバー。
バッチ	スキャン操作で処理されるドキュメントのグループ。
バッチインデックス	大量のドキュメントためのインデックス作成プロセス。
バッチ処理	スキャンまたはキャプチャされたファイルを処理する為に、インテリジェントキャプチャソフトウェアアプリケーションを使用して、大量のドキュメントを一般的な少数のファイルまたは一つのファイルに処理します。
バッチスキャン	大量のドキュメントのスキャン処理。
Bubble Sheet Generator	教育者がバブルシートのテストとテンプレートを作成、および管理するための時間を節約するツール。
カードの登録	組織のディレクトリサーバーにユーザーIDカード（HID近接、iCLASS、MIFAREなど）を登録するための管理ツール。カードが登録されると、そのカードを複合機で使用してシングルサインオンユーザー認証をDispatcher Phoenixに提供できます。
クラスター	単一サーバーによって提供されるものより、グループの可用性、信頼性、およびパフォーマンスを向上させるために配備された2つ以上の複製サーバーのグループ（「ノード」とも呼ばれる）。一度、クラスター内で結合されると、ノードは一定の通信状態を維持します。
ドキュメント分割	バッチ内のイメージ/ファイルをドキュメントに分割するプロセス。Dispatcher Phoenix Workstationは、ページ数、空白ページ、バーコード、パッチコード、または、なし（単一の文書を作成）のドキュメント分割メソッドをサポートしています。
フェールオーバー	障害発生時にサーバー間でリソースを移動するプロセス。アクティブ/パッシブ構成を使用すると、パッシブサーバーはスタンバイモードのままで、アクティブサーバーが失敗するのを待機します。プライマリサーバーが障害またはメンテナンスのために使用できなくなった場合、パッシブサーバーはすぐにクラスターリソースとサービスを制御します。これはフェールオーバークラスター内で発生する結果です。
フェールオーバークラスター	フェールオーバーサービスを提供するように設計されたクラスター（クラスターのプライマリメンバーに障害が発生した場合、プライマリサーバーのリソースはクラスターのメンバーでもある別のサーバーで自動的に再起動されます）。
ハートビート	クラスター内のノード間で定期的に送信され、それらがまだオンラインであることを確認するネットワーク「パケット」。
ロードバランシング	処理とトラフィックをクラスター内のすべてのサーバーまたはサーバー"ファーム"に均等に分散します。
オフロードサーバー	プライマリサーバーの効率を向上するために、OCRなどの労働集約的なタスクを収集して完了するように設計されたサーバー。
ノード (エンタープライズ)	クラスターの一部であるサーバー。
パッシブノード	クラスターグループリソースを所有していないが、アクティブノードがフェールオーバーした場合に使用可能なクラスターサーバー。
共有	Dispatcher Phoenix Webのワークフローへのアクセスを、特定のユーザーまたはユーザーグループに対して管理する機能。
TWAIN	スキャナをパーソナルコンピュータのアプリケーションと接続するスキャンプロトコル。
検証	長期保管用にルーティングする前に、品質保証の目的でドキュメントを検証するプロセス。
Workstation	メーカーの高速TWAINスキャニングデバイスをサポートする専用スキャンステーション。Workstationアプリケーションを使用すると、ページ数、空白ページ、バーコード、またはパッチコードをリアルタイム表示してドキュメントを自動的に区切ることができます。Workstationは、スキャンオペレーターがドラッグアンドドロップ機能を使用してスキャンしたドキュメントを再編成し、ページを操作することができるスキャン前/後のオプション（並べ替え、回転、反転、再スキャン、挿入など）を提供します。

Ganging Job Submitterの基本操作手順

Ganging Job Submitter ツールを使用すると、**ギャンギングノード** 用の入力ファイルを作成できます。

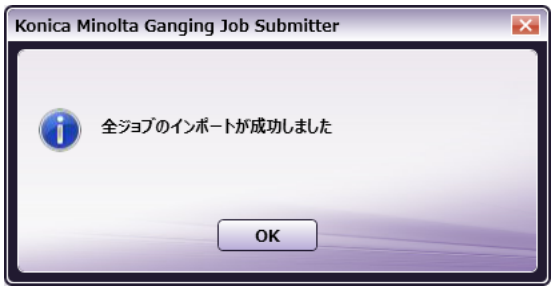
Ganging Job Submitter ノードは、以下に示すアイコンをダブルクリックすることで起動できます。



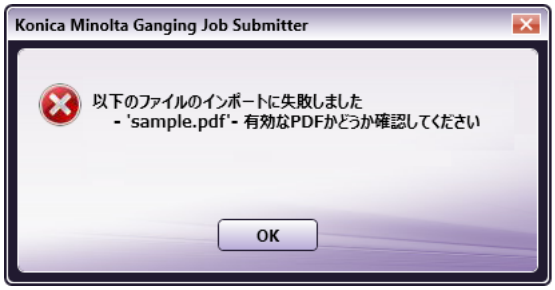


ジョブのインポート

1. 新しいジョブをインポートするには、**[ジョブのインポート]** ボタンを選択します。開いた画面で、目的のファイルに移動して選択します。
2. または、PDFファイルをGUIのメインパネルにドラッグアンドドロップすることもできます。
3. インポートが成功すると、以下のメッセージが表示されます。



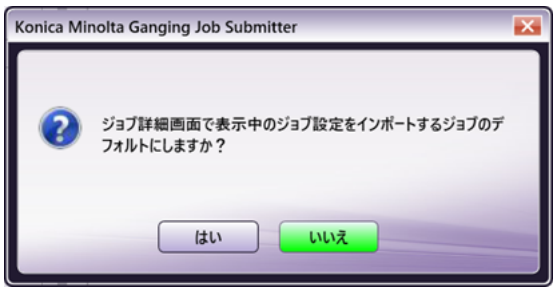
4. ジョブがインポートされなかった場合は、以下のメッセージが表示されます。また、インポートできなかったPDFファイルの名前も表示されます。



デフォルト設定

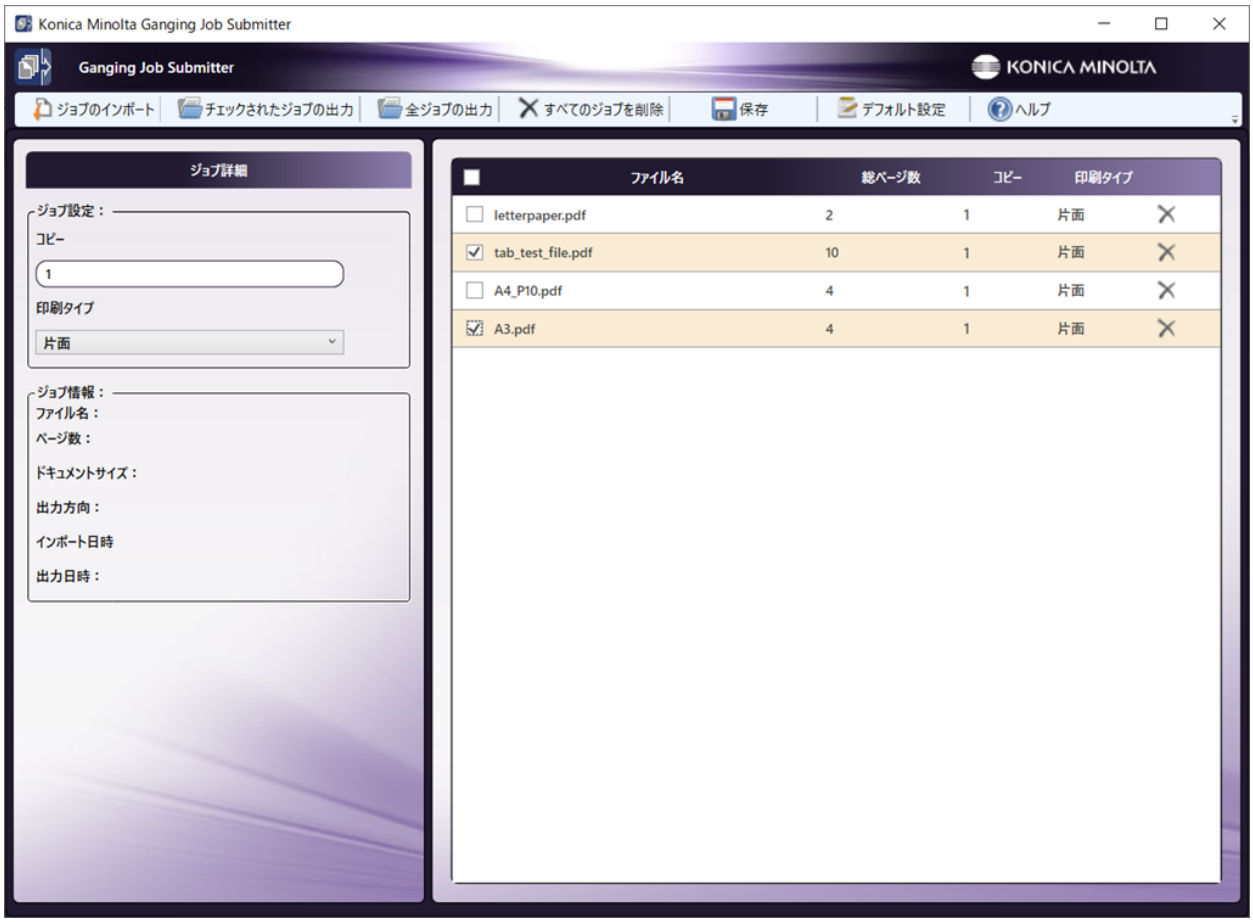
1. **「デフォルト設定」**ボタンを使用すると、ジョブの詳細セクションの **[コピー]** と **[印刷タイプ]** の現在の値をインポートする新しいジョブのデフォルト値として適用できます。

2. **[デフォルト設定]** ボタンをクリックします。
3. 確認メッセージが開きます。**[はい]** をクリックすると現在の設定をデフォルト設定として適用します。**[いいえ]** をクリックすると現在の設定はデフォルト設定として適用されません。

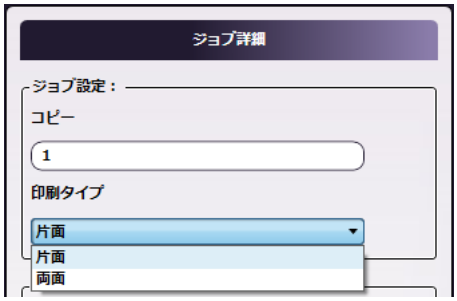


ジョブ詳細の更新

1. キーボードの**Ctrl**キーまたは**Shift**キーを押しながら **1**つまたは複数のジョブを選択します。

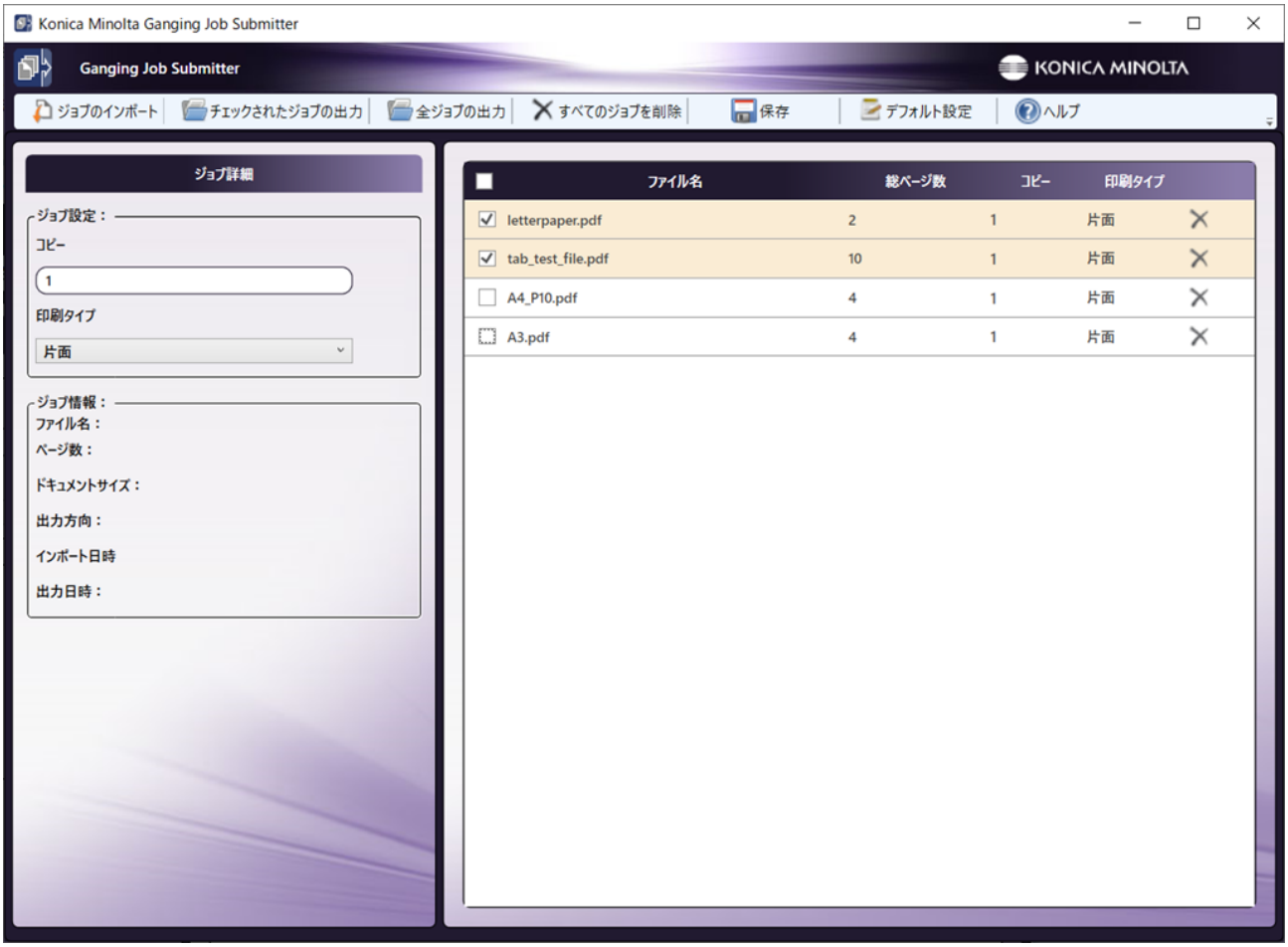


2. **［ジョブ設定］** セクションで、**［コピー］** の値を入力して、ドロップダウンから **［印刷タイプ］** を選択します。



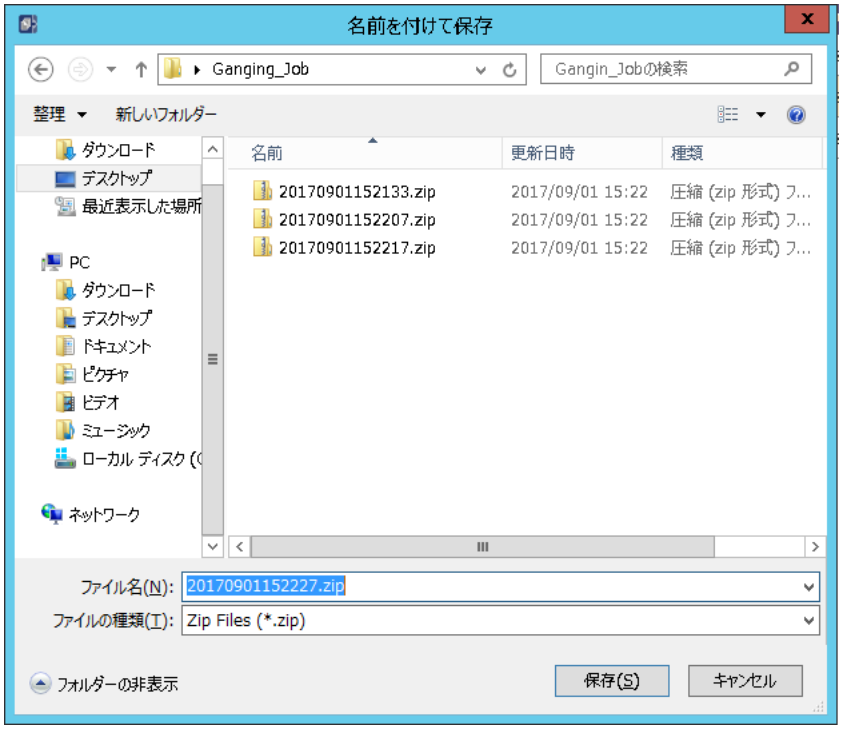
3. 更新された［**コピー**］と［**印刷タイプ**］の値がジョブテーブルに反映されます。

1つまたは複数のジョブのエクスポート



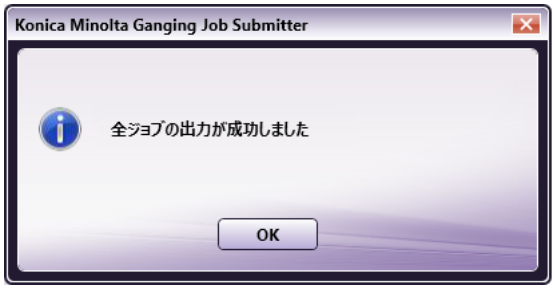
1. メインパネルで、**1**つまたは複数のジョブの選択ボックスをオンにします。上部のメニューから、［**チェックされたジョブの出力**］ボタンをクリックします。

2. 開いた画面で、希望の保存場所に移動して、［**保存**］をクリックします。



3. メインパネルのすべてのジョブをエクスポートする場合は、**[全ジョブの出力]** ボタンを選択することもできます。

4. ジョブが指定した場所に送られます。エクスポートが完了すると、以下のポップアップメッセージが開きます。

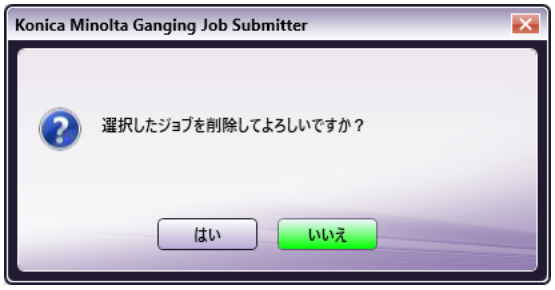


5. ジョブごとに1つのzipファイルが作成されます。このzipファイルは上記の手順2で指定した場所に保存されます。日付+時刻.zipという命名規則に従ったファイル名がポップアップメッセージに表示されます。日付と時刻の書式は以下のようになります。
   - zipファイルの作成日時が2017年8月10日午前9時58分42秒である場合のファイル名:**20170810095842.zip**

   このzipファイルを**ギャンギングノード**に送ることができます。

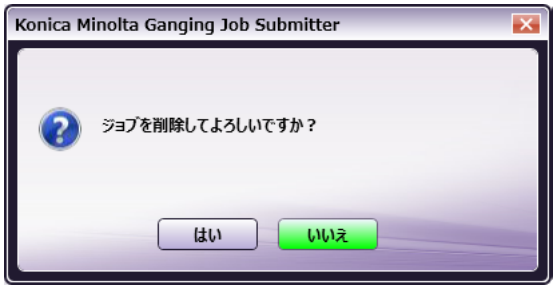
ジョブの削除

1. メインパネルで、**Ctrl**キーまたは**Shift** キーを押しながら1つまたは複数のジョブを選択して、キーボードの**Delete**キーを押します。
2. 確認メッセージが開きます。選択したジョブを削除するには **[はい]** を、要求をキャンセルするには **[いいえ]** をクリックします。**[はい]** をクリックすると、選択したジョブがジョブの一覧から削除されます。



3. すべてのジョブを削除するには、**[全ジョブの削除]** ボタンをクリックします。

4. 確認メッセージが開きます。すべてのジョブを削除するには **[はい]** を、要求をキャンセルするには **[いいえ]** をクリックします。**[はい]** をクリックすると、すべてのジョブがジョブの一覧から削除されます。



保存およびヘルプのオプション

1. ノードに加えたすべての変更を保存するには、**[保存]** ボタンをクリックします。

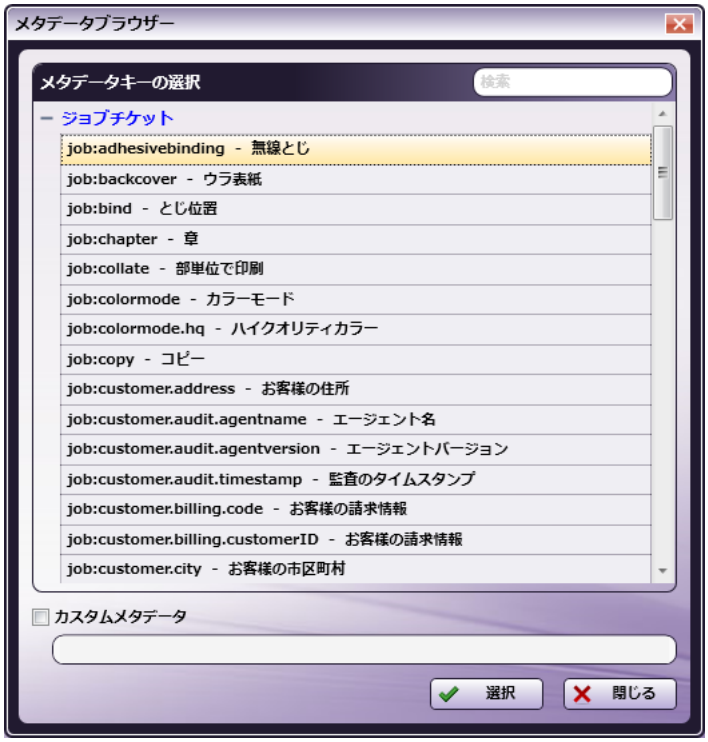
2. Ganging Job Submitterのヘルプファイルを起動するには、**[ヘルプ]** ボタンをクリックします。

ジョブチケットのメタデータ情報

[メタデータキー] 選択ボタンをクリックして、[メタデータブラウザー]ウィンドウを起動します。このウィンドウには、あらかじめ定義されているジョブチケットメタデータ、システム定義の変数（日付、ファイル、システム、ユーザー情報など）、およびアクティブノードのメタデータ値が表示されます。

メタデータブラウザーは以下の機能を備えています。

- **リストの展開：** 表示したいメタデータの横のプラス（＋）記号をクリックします。たとえば、**ジョブチケットのメタデータ**を確認したい場合は、ジョブチケットの横の＋記号をクリックします。それにより、次のような展開可能なリストが開きます。



- **リストの折りたたみ:** メタデータの横のマイナス記号(-)をクリックすると、リストが折りたたまれます。
- **メタデータの選択:** 編集可能なメタデータを新たに追加するには、メタデータをクリックして **[選択]** ボタンをクリックします。
- **カスタムデータ:** カスタムのメタデータリファレンスを追加するには、**[カスタムメタデータ]** チェックボックスをオンにして、空白のフィールドに正確な構文を入力します。
- **メタデータの検索:** メニューの右側にある[検索]フィールドに、検索したい文字列を入力します。
- **ページレベルのメタデータの指定:** 特定のページのメタデータは、角かっこ( )で囲む必要があります。次に例を示します。{job:paper.width[]}

ジョブチケットのメタデータ

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
ジョブ設定	**ジョブチケット番号**	ジョブチケットテーブルによって作成され、割り当てられるジョブチケット番号。	{job:ID}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/@kmbs:ConnectorJo
	ジョブチケット名	ジョブの名前。	{job:name}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/@Cust
	ジョブ優先順位	ジョブの優先順位。	{job:priority}	• Normal • Rush	/JDF/NodeInfo/@JobPriorit
	期日	ジョブの期日。	{job:duedate}	プリントジョブの期日の指定には次の形式を使用します。 YYYY'-'MM'-'dd'T'HH':'mm':'ss(). ()はタイムゾーンを表します。 例:2017-02-13T13:03:30+05:30	/JDF/NodeInfo/@LastEnd
	カラーモード	ジョブのカラーモード。	{job:colormode}	• Color • BW • Mixed	/JDF/ResourcePool/Colora
	ハイクオリティカラー	ジョブのハイクオリティカラーモード。	{job:colormode.hq}	• ON • OFF	/JDF/ResourcePool/Colora
	ジョブ詳細	ジョブの説明。	{job:description}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/Comment
基本設定	**コピー**	ジョブの部数。	{job:copy}	1-99999	/JDF/ResourceLinkPool/Co
	部単位で印刷	ドキュメントの印刷部数が複数である場合に、1部ずつ、そのドキュメント全体の印刷を一度に行います。	{job:collate}	• ON • OFF	/JDF/ResourcePool/Digital
	オフセット	ジョブの仕分け設定。制限事項についての詳細は、[1]を参照してください。	{job:offset}	• ON • OFF	/JDF/ResourcePool/Digital
	部数ごとに仕分け	1つの仕分けセット内の部数。制限事項についての詳細は、[1]を参照してください。	{job:offset.copy}	1-99999	/JDF/ResourcePool/Digital
	枚数ごとに仕分け	1つの仕分けセット内のページ数。制限事項についての詳細は、[1]を参照してください。	{job:offset.pages}	1-65535	/JDF/ResourcePool/Digital
	用紙カタログID	用紙カタログ項目のID(用紙カタログ項目には、通常、用紙のサイズ、種類、色、重さなど、定義済みのジョブチケット属性が含まれます)。	{job:paper.catalogID}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/ResourcePool/Media/

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
	用紙名	用紙カタログに保管されている値に割り当てられた用紙名（用紙カタログ項目には、通常、用紙のサイズ、種類、色、重さなど、定義済みのジョブチケット属性が含まれます）。	{job:paper.name}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/ResourcePool/Media/
	給紙トレイ	ジョブの給紙トレイ。	{job:paper.source}	• Auto • Tray1 • Tray2 • Tray3 • Tray4 • Tray5 • Tray6 • Tray7 • Tray8 • Tray9 • Tray10 • Tray11 • Tray12 • Manual	/JDF/ResourcePool/Media/
	用紙の重さ	ジョブの用紙の重さ（単位：g/m2）。	{job:paper.weight}	• 40 • 50 • 62 • 72 • 92 • 131 • 162 • 210 • 245 • 300 • 400	JDF/ResourcePool/Media/(
	用紙の種類	ジョブの用紙の種類。 Custom Value：ユーザー指定値	{job:paper.type}	Plain	/JDF/ResourcePool/Media/
				CoatedA	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
				CoatedB	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
				Fine	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
				Book	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
				Embossed	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
				Embossed2	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
				USER	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
				BlankInsert	/JDF/ResourcePool/Media/
				Transparency	/JDF/ResourcePool/Media/
				Thick1	/JDF/ResourcePool/Media/
				Thick2	/JDF/ResourcePool/Media/
				Thin	/JDF/ResourcePool/Media/
				Recycled	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveA	/JDF/ResourcePool/Media/

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
				ExclusiveB	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveC	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveD	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveE	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveF	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveG	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveH	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveI	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveJ	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveK	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveL	/JDF/ResourcePool/Media/
				ExclusiveM	/JDF/ResourcePool/Media/
				Seal	/JDF/ResourcePool/Media/
				Trace	/JDF/ResourcePool/Media/
				ColorSpecific	/JDF/ResourcePool/Media/
				HighQuality	/JDF/ResourcePool/Media/
				CoatedGlossLaser	/JDF/ResourcePool/Media/
				CoatedGlossOffset	/JDF/ResourcePool/Media/
				CoatedMatteLaser	/JDF/ResourcePool/Media/
				CoatedMatteOffset	/JDF/ResourcePool/Media/
				Envelope	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
				PrePrinted	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
				Custom Value	/JDF/ResourcePool/Media/
	用紙の色	ジョブの用紙の色。 制限事項についての詳細は、[2]を参照してください。 Custom Value:ユーザー指定値	{job:paper.color}	• White • ClearWhite • Yellow • Pink • Blue • Green • Other • Goldenrod • Gray • Ivory • Orange • Red • Cream • Custom Value	JDF/ResourcePool/Media/
	ユーザー定義色	ユーザー定義の用紙の色。 制限事項についての詳細は、[2]を参照してください。	{job:paper.usercolor}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/ResourcePool/Media/ /JDF/ResourcePool/Media/
	穿孔紙を使用	出力トレイに穿孔紙を入れるかどうかを示します。	{job:paper.useperforated}	• ON • OFF	/JDF/ResourcePool/Media/

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
	用紙の幅	ジョブの用紙の幅（単位：ポイント）。この値は、[基本設定] > [用紙サイズ単位]に設定されている値によって決まります。 例：ジョブチケットの値が8.50インチ（Letter）である場合、メタデータでは612ポイントに変換されます。	{job:paper.w}	255.096 – 936	/JDF/ResourcePool/Media/
	用紙の高さ	ジョブの用紙の高さ（単位：ポイント）。この値は、[基本設定] > [用紙サイズ単位]に設定されている値によって決まります。 例：ジョブチケットの値が11インチ（Letter）である場合、メタデータでは792ポイントに変換されます。。	{job:paper.h}	374.184 – 3401.568	/JDF/ResourcePool/Media/
	用紙サイズ単位	用紙のサイズに使用する測定基準。制限事項についての詳細は、[3]を参照してください。	{job:paper.unit}	• inch • mm • point	適用外
	向き	元のドキュメントの用紙方向。	{job:orientation}	• Portrait • Landscape	適用外
レイアウト設定	**面付**	面付（縮小なし）では、1枚の用紙にドキュメントの2ページを印刷できます。この設定は、出力用紙のサイズが元のドキュメントの2倍のサイズである場合にのみ使用できます。たとえば、1枚のA3用紙にA4ページ2枚が印刷されます。	{job:imposition}	OFF	/JDF/ResourcePool/Layout
				2In1	/JDF/ResourcePool/Layout
				2In1Repeat	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				2In1RepeatReverse1	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				2In1RepeatReverse2	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				2In1RepeatReverse3	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
				2In1RepeatReverse4	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
	印刷タイプ	ジョブの印刷の種類。 One-Sided：用紙の片面に印刷します。 Double-Sided：用紙の両面に印刷します。 Booklet：用紙の両面に印刷します。印刷したページをまとめて半分に折り、元のページ順と同じになるようにします。 Adhesive Binding：用紙の両面に印刷します。印刷後、用紙を1枚ずつ半分に折り、元のページ順と同じになるようにします。通常、この設定はCenterFoldOutの設定と組み合わせて使用します。	{job:printtype}	One-Sided	/JDF/ResourcePool/Layout
				Double-Sided	/JDF/ResourcePool/Layout
				Booklet	/JDF/ResourcePool/Layout
				AdhesiveBinding	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Gluing
表紙設定	**オモテ表紙**	ドキュメントのオモテ表紙に関する印刷指示。 Blank：オモテ表紙に何も印刷しません。 Print：ドキュメントの最初のページをオモテ表紙に印刷します。	{job:frontcover}	Blank	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				Print	/JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis
	オモテ表紙の用紙名	オモテ表紙に使用する用紙カタログ値の名前。	{job:frontcover.paper.name}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/ResourcePool/Layout
	ウラ表紙	ドキュメントのウラ表紙に関する印刷指示。 Blank：ウラ表紙に何も印刷しません。 Print：ドキュメントの最初のページをウラ表紙に印刷します。	{job:backcover}	Blank	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
				Print	/JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis JDF/ResourcePool/RunList /JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis /JDF/ResourcePool/RunLis
	ウラ表紙の用紙名	ウラ表紙に使用する用紙カタログ値の名前。	{job:backcover.paper.name}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/ResourcePool/RunLis
仕上げ設定	**とじ位置**	ドキュメントのとじ位置を指定します。	{job:bind}	• Left • Top • Right	/JDF/ResourceLinkPool/Co
	中とじ	取り付けられている中とじ装置を選択します。	{job:saddlestitch}	• ON • OFF	JDF/ResourcePool/Stitchir
	断裁	中とじして中央で折った用紙の端を裁断します。この設定は、印刷タイプとしてBookletを選択した場合に有効になります。	{job:trim}	• ON • OFF	/JDF/ResourcePool/Trimm
	ステープル	ジョブのステープル設定。ステープル位置は、とじ位置の設定で変更できます。 とじ位置がTopになっている場合、SingleLeftとSingleRightが有効になります。	{job:staple}	SingleLeft	/JDF/ResourcePool/Stitchi /JDF/ResourcePool/Stitchi
				SingleRight	/JDF/ResourcePool/Stitchi /JDF/ResourcePool/Stitchi
				1	/JDF/ResourcePool/Stitchi
				2	/JDF/ResourcePool/Stitchi
				Narrow	/JDF/ResourcePool/Stitchi /JDF/ResourcePool/Stitchi
				Narrow+	/JDF/ResourcePool/Stitchi /JDF/ResourcePool/Stitchi
	パンチ穴	ジョブに適用するパンチ穴の数。	{job:punch}	• 2 • 3 • 4 • 10	/JDF/ResourcePool/HoleM
	折り	ジョブの折り設定。	{job:folding}	Z-Fold (A3, B4, 11x17, 8K)	/JDF/ResourcePool/Folding /JDF/ResourcePool/Resou
				Z-Fold (8.5 x 14)	/JDF/ResourcePool/Folding
				CenterFold	/JDF/ResourcePool/Folding /JDF/ResourcePool/Resou
				CenterFoldOut	/JDF/ResourcePool/Folding
				LetterFold	/JDF/ResourcePool/Folding /JDF/ResourcePool/Resou
				LetterFoldOut	/JDF/ResourcePool/Folding
				ZigZag	/JDF/ResourcePool/Folding /JDF/ResourcePool/Resou

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
				ZigZagOut	/JDF/ResourcePool/Folding
				DoubleParallel	/JDF/ResourcePool/Folding
				DoubleParallelOut	/JDF/ResourcePool/Folding /JDF/ResourcePool/Resou
				GateFold	/JDF/ResourcePool/Folding /JDF/ResourcePool/Resou
				GateFoldOut	/JDF/ResourcePool/Folding
				MultiLetterFold	/JDF/ResourcePool/Folding
				MultiLetterFoldOut	/JDF/ResourcePool/Folding
				MultiCenterFold	/JDF/ResourcePool/Folding
	くるみ製本	くるみ製本の設定。	{job:perfectbinding}	• ON • OFF	JDF/ResourcePool/CoverA
	くるみ製本モード	くるみ製本に適用するモード。	{job:perfectbinding.mode}	• Blank • 1In1 • 2In1 • 3In1	JDF/ResourcePool/DigitalF
	くるみ製本トレイ	くるみ製本のトレイ。	{job:perfectbinding.tray}	• Tray1 • Tray2 • Tray3 • Tray4 • Tray5 • Tray6 • Tray7 • Tray8 • Tray9 • Tray10 • Tray11 • Tray12 • Manual • PITray1 • PITray2 • PI-PFUTray1 • PI-PFUTray2 • PI-PFUTray3 • PBCoverTray	/JDF/ResourcePool/Digital
	くるみ製本両面	くるみ製本両面の設定。	{job:perfectbinding.duplex}	• ON • OFF	/JDF/ResourcePool/Digital
	くるみ製本背表紙	くるみ製本背表紙の値(単位:ポイント)。この値は、**[基本設定] > [用紙サイズ単位]** に設定されている値によって決まります。 例:ジョブチケットの値が0.04インチである場合、メタデータでは2.88ポイントに変換されます。	{job:perfectbinding.spine}	2.88 - 84.96	/JDF/ResourcePool/Digital

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
	くるみ製本表紙サイズ幅	くるみ製本表紙サイズ幅(単位:ポイント)。この値は、**[基本設定] > [用紙サイズ単位]** に設定されている値によって決まります。 例:ジョブチケットの値が5.47インチである場合、メタデータでは393.84ポイントに変換されます。	{job:perfectbinding.cover.w}	393.84 – 870.48	/JDF/ResourcePool/Digital
	くるみ製本表紙サイズ高さ	くるみ製本表紙サイズ高さ(単位:ポイント)。この値は、**[基本設定] > [用紙サイズ単位]** に設定されている値によって決まります。 例:ジョブチケットの値が10.98インチである場合、メタデータでは790.56ポイントに変換されます。	{job:perfectbinding.cover.h}	790.56 – 1337.76	/JDF/ResourcePool/Digital
	くるみ製本表紙坪量	くるみ製本用紙の表紙坪量(単位:g/m2.)	{job:perfectbinding.cover.weight}	• 40 • 50 • 62 • 72 • 92 • 131 • 162 • 210 • 245 • 300 • 400	/JDF/ResourcePool/Digital
	リングバインド	リングバインドが有効かどうかを示します。	{job:ringbinding}	• ON • OFF	/JDF/ResourcePool/RingBi
	リングバインドオモテ表紙	リングバインドオモテ表紙の設定。	{job:ringbinding.frontcover}	• Outside • Inside	/JDF/ResourcePool/RingBi
	リングバインドウラ表紙	リングバインドウラ表紙の設定。	{job:ringbinding.backcover}	• Outside • Inside	/JDF/ResourcePool/RingBi
ページ単位設定	**ページ単位設定印刷種類**	ページ例外シートの印刷の種類。 One-Sided:用紙の片面に印刷します。 Double-Sided:用紙の両面に印刷します。 Blank:白紙を挿入します。 BlankBeforeFirst:最初のページの前に白紙を挿入します。	{job:printtype[]}	One-Sided	/JDF/ResourcePool/Layout
				Double-Sided	/JDF/ResourcePool/Layout
				Blank	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
				BlankBeforeFirst	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定 とじ位置	ページ単位のとじ位置。	{job:bind[]}	• Left • Top • Right	/JDF/ResourceLinkPool/Co
	ページ単位設定 用紙カタログID	用紙カタログに保管されている項目のID（用紙カタログ項目には、通常、用紙のサイズ、種類、色、重さなど、定義済みのジョブチケット属性が含まれます）。	{job:paper.catalogID[]}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定 用紙名	用紙カタログに保管されている値に割り当てられた用紙名（用紙カタログ項目には、通常、用紙のサイズ、種類、色、重さなど、定義済みのジョブチケット属性が含まれます）。	{job:paper.name[]}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定 給紙トレイ	ページ単位の給紙トレイ。	{job:paper.source[]}	• SameAsBody • Tray1 • Tray2 • Tray3 • Tray4 • Tray5 • Tray6 • Tray7 • Tray8 • Tray9 • Tray10 • Tray11 • Tray12 • Manual	/JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定 用紙種類	ページ単位の用紙の種類。 Custom Value：ユーザー指定値	{job:paper.type[]}	Plain	/JDF/ResourcePool/Layout
				CoatedA	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				CoatedB	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				Fine	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				Book	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				Embossed	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				Embossed2	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				USER	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				BlankInsert	/JDF/ResourcePool/Layout
				Transparency	/JDF/ResourcePool/Layout
				Thick1	/JDF/ResourcePool/Layout

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
				Thick2	/JDF/ResourcePool/Layout
				Thin	/JDF/ResourcePool/Layout
				Recycled	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveA	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveB	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveC	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveD	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveE	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveF	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveG	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveH	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveI	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveJ	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveK	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveL	/JDF/ResourcePool/Layout
				ExclusiveM	/JDF/ResourcePool/Layout
				Seal	/JDF/ResourcePool/Layout
				Trace	/JDF/ResourcePool/Layout
				ColorSpecific	/JDF/ResourcePool/Layout
				HighQuality	/JDF/ResourcePool/Layout
				CoatedGlossLaser	/JDF/ResourcePool/Layout
				CoatedGlossOffset	/JDF/ResourcePool/Layout
				CoatedMatteLaser	/JDF/ResourcePool/Layout
				CoatedMatteOffset	/JDF/ResourcePool/Layout
				Envelope	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				PrePrinted	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
				Custom Value	/JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定用紙の幅	ページ単位の用紙の幅（単位：ポイント）。この値は、**［基本設定］＞［用紙サイズ単位］**に設定されている値によって決まります。 例：ジョブチケットの値が8.5インチ（Letter）である場合、メタデータでは612ポイントに変換されます。	{job:paper.w[]}	255.096 – 936	/JDF/ResourcePool/Layout

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
	ページ単位設定 用紙の高さ	ページ単位の用紙の高さ(単位:ポイント)。この値は、**[基本設定] > [用紙サイズ単位]** に設定されている値によって決まります。 例:ジョブチケットの値が11インチ(Letter)である場合、メタデータでは792ポイントに変換されます。	{job:paper.h[]}	374.184 – 3401.568	/JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定 坪量	ページ単位の用紙の重さ(単位:g/m2)。	{job:paper.weight[]}	• 40 • 50 • 62 • 72 • 92 • 131 • 162 • 210 • 245 • 300 • 400	/JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定 紙色	ページ単位の用紙の色。制限事項についての詳細は、[4]を参照してください。 Custom Value:ユーザー指定値	{job:paper.color[]}	• White • ClearWhite • Yellow • Pink • Blue • Green • Other • Goldenrod • Gray • Ivory • Orange • Red • Cream • Custom Value	/JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定 ユーザー定義色	ユーザー定義の用紙の色。制限事項についての詳細は、[4]を参照してください。	{job:paper.usercolor[]}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/ResourcePool/Layout /JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定 穴あき紙の使用	出力トレイに穿孔紙を入れるかどうかを示します。	{Job:paper.useperforated[]}	• ON • OFF	JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定タブ種類	1つのタブセット内のタブ数。タブセットとは、ドキュメントの用紙方向に基づいて特定の順序で印刷される、一連のシーケンシャルなタブのことです。1つのプリントジョブにおいて、タブセットを何度も繰り返すことができます。	{job:paper.tabtype[]}	• Tab • Tab2 • Tab3 • Tab4 • Tab5 • Tab6 • Tab7 • Tab8 • Tab9 • Tab10 • Tab11 • Tab12 • Tab13 • Tab14 • Tab15	JDF/ResourcePool/Layout
	ページ単位設定 数	挿入する白紙の数。	{job:paper.copies[]}	1-500	JDF/ResourcePool/Layout

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
	ページ単位設定 ステープル	ページ単位のステープル設定。ステープル位置は、とじ位置の設定で変更できます。 SameAsBody：この値は、**［仕上げ設定］＞［ステープル］**に設定されている値によって決まります。	{job:staple[]}	SameAsBody	/JDF/ResourcePool/Stitchi
				OFF	/JDF/ResourcePool/Stitchi
				1	/JDF/ResourcePool/Stitchi
				2	/JDF/ResourcePool/Stitchi JDF/ResourcePool/Stitchir
				Narrow	/JDF/ResourcePool/Stitchi /JDF/ResourcePool/Stitchi
				Narrow+	/JDF/ResourcePool/Stitchi /JDF/ResourcePool/Stitchi
	ページ単位設定 パンチ穴設定	ページ単位のパンチ穴設定。 SameAsBody：この値は、**［仕上げ設定］＞［パンチ］**に設定されている値によって決まります。	{job:punch.setting[]}	SameAsBody	/JDF/ResourcePool/HoleM
				ON	/JDF/ResourcePool/HoleM
				OFF	/JDF/ResourcePool/HoleM
	ページ単位設定 パンチ穴	ページ単位に適用するパンチ穴の数。	{job:punch[]}	• 2 • 3 • 4 • 10	/JDF/ResourcePool/HoleM
	ページ単位設定 ステープル終了	ページ単位のステープル終了設定。	{job:staple.finishstapling[]}	• ON • OFF	JDF/ResourcePool/Stitchir
画像品質設定	**解像度**	ジョブの印刷解像度。	{job:resolution}	• 600 • 1200	JDF/ResourcePool/Interpr
顧客情報	**コメントURL**	MISまたは他のシステムへのリンクとして使用できます。 例： http://127.0.0.1	{job:customer.commentURL}	URL	/JDF/@CommentURL
	お客様の名前	お客様の名前	{job:customer.firstname}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Conta
	お客様の姓	お客様の姓	{job:customer.familyname}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Conta
	お客様の住所	お客様の住所	{job:customer.address}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Conta
	お客様の丁目・番地		{job:customer.extendedaddress}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/@kmbs:Address2 (o /JDF/CustomerInfo/Conta
	お客様の市区町村	お客様の市区町村	{job:customer.city}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/Customerinfo/Conta

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値 (大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH
	お客様の都道府県	お客様の都道府県	{job:customer.state}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Conta
	お客様の郵便番号	お客様の郵便番号	{job:customer.postalcode}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Conta
	お客様の国	お客様の国	{job:customer.country}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Conta
	お客様の会社	お客様の会社の詳細。	{job:customer.company}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Compa
	お客様の電話番号	お客様の電話番号	{job:customer.phone}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Conta /JDF/CustomerInfo/Conta
	お客様のファクス番号	お客様のファクス番号	{job:customer.fax}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Conta /JDF/CustomerInfo/Conta
	お客様の電子メール	お客様の電子メール	{job:customer.email}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/CustomerInfo/Conta /JDF/CustomerInfo/Conta
	JobCreatedBy	ジョブの作成者または担当者の名前。	{job:createdby}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	JDF/AuditPool/Created/@A

[1]{job:offset}がONに設定されている場合、{job:offset.copy}と{job:offset.pages}の両方がサポートされます。1つのジョブチケットに対して、これらで設定できる値には、以下の制限があります。

- 両方を1に設定できます。
- 一方を2以上に設定した場合は、もう一方を1に設定する必要があります。

[2]{job:paper.color}と{job:paper.usercolor}の両方がサポートされます。1つのジョブチケットに対して、両方の値を設定できます。

[3]ワークフローに**ジョブチケット読込** ノードと**ジョブチケット書出し** ノードが含まれる場合、メタデータ値{job:paper.unit}は次のように処理されます。**ジョブチケット読込** ノードは{job:paper.unit}の値を取得し、ジョブチケット用紙サイズをユーザー指定値（**インチまたはミリ** ）からポイントに変換します。ワークフローの後工程で、**ジョブチケット書出し**ノードはポイント値を{job:paper.unit}の元の値（**インチまたはミリ**）に戻します。

[4]{job:paper.color[]}と{job:paper.usercolor[]}の両方がサポートされます。1つのジョブチケットに対して、両方の値を設定できます。

タブ設定のメタデータ

タブノードおよびブリードタブノードで使用されるメタデータについて、以下の表で説明します。

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値(大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH	JDF値の範囲
タブ設定	インデックス紙用紙幅	インデックス紙の用紙の幅(単位:ポイント)。 この値は、**[基本設定] > [用紙サイズ単位]** に設定されている値によって決まります。 例:ジョブチケットの値が9インチ(Letterインデックス)である場合、メタデータでは648ポイントに変換されます。	{job:tab.paper.w}	255.096 – 936	/JDF/kmbs:TabSettings/Media/@Dimension	255.096 – 936
	インデックス紙用紙高さ	インデックス紙の用紙の高さ(単位:ポイント)。 この値は、**[基本設定] > [用紙サイズ単位]** に設定されている値によって決まります。 例:ジョブチケットの値が11インチ(Letterインデックス)である場合、メタデータでは792ポイントに変換されます。	{job:tab.paper.h}	374.184 – 3401.568	/JDF/kmbs:TabSettings/Media/@Dimension	374.184 – 3401.568
	インデックス紙坪量	インデックス紙の坪量(単位:g/m2)。	{job:tab.paperweight}	• 40 • 50 • 62 • 72 • 92 • 131 • 162 • 210 • 245 • 300 • 400	/JDF/kmbs:TabSettings/Media/@Weight	• 40 • 50 • 62 • 72 • 92 • 131 • 162 • 210 • 245 • 300 • 400
	タブ文字	タブ領域または章名に表示するテキスト。	{job:tab.text}	記号、スペース、または英数字を使用できます。	/JDF/kmbs:TabSettings/*kmbs:SheetParams/@kmbs:TabText	記号、スペース、または英数字を使用できます。

設定項目	パラメータ名	説明	メタデータキー	サポートされているメタデータ値(大文字と小文字を区別しない)	JDFジョブチケットXPATH	JDF値の範囲
	インデックス紙のページ番号	タブが適用されるページ番号のリスト。	{job:tab.page}	正整数の配列。	/JDF/kmbs:TabSettings/*kmbs:SheetParams/@kmbs:Page	正の整数
	ファイル順序	マージするファイルまたはファイルパスのリスト。	{job:file.order}	PDFファイルパスの配列。	/JDF/kmbs:FileOrderInformation/*Order/@File	PDFファイルパス
	タブ数	1つのタブセット内のタブ数。タブセットとは、ドキュメントの用紙方向に基づいて特定の順序で印刷される、一連のシーケンシャルなタブのことです。1つのプリントジョブにおいて、タブセットを何度も繰り返すことができます。	{job:tab.amount}	• 1 • 2 • 3 • 4 • 5 • 6 • 7 • 8 • 9 • 10 • 11 • 12 • 13 • 14 • 15	/JDF/kmbs:TabSettings/Media/@MediaSetCount	• 1 • 2 • 3 • 4 • 5 • 6 • 7 • 8 • 9 • 10 • 11 • 12 • 13 • 14 • 15

タブ:インチ／ポイント変換テーブル

タブを正しく印刷するには、ノードに送信する **[インデックス紙　用紙サイズ]** のメタデータ値を、以下に示す**予期されるインデックス紙の用紙の幅と予期されるインデックス紙の用紙の高さ** のポイント値に合わせて変更する必要があります。

用紙サイズ	PDFドキュメントの用紙の幅（単位:ポイント）	PDFドキュメントの用紙の高さ（単位:ポイント）	予期されるインデックス紙の用紙の幅（単位:ポイント）	予期されるインデックス紙の用紙の高さ（単位:ポイント）
レター	612	792	648	792
ハーフレター	396	612	432	612
タブロイド	792	1224	828	1224
A3	842	1191	878	1191
A4	595	842	631	842
A5	420	595	456	595
B4	729	1032	765	1032
B5	516	729	552	729

ジョブチケットのメタデータ

先頭へ戻る

複合機サポートリスト

注: Dispatcher Phoenixをサポートすることが認定されている複合機モデルの最新リストについては、bEST Webサイトをご覧ください。

複合機パネル ノード

- ファイルはスキャン時に複合機から送信されます。
- ネイティブインターフェイスはスキャン用に標準的な複合機のインターフェイスを提供します。
- 複合機パネルのグラフィカルインターフェイスはスキャン用に豊富で多彩なインターフェイスを提供します。

モデル	グラフィカルパネル	ネイティブパネル
AccurioPress C6085, AccurioPress C6100	Yes	No
AccurioPress 6036, AccurioPress 6036P, AccurioPress 6120	Yes	No
AccurioPress C4080, AccurioPress C4070, AccurioPrint C4065	Yes	No
AccurioPress C3080, AccurioPress C3070, AccurioPrint C3070L	Yes	No
AccurioPress C2070, AccurioPress C2060, AccurioPress C2060L	Yes	No
AccurioPress C3080, AccurioPress C3070, AccurioPrint C3070L	Yes	No
bizhub PRESS 1250, PRO 1100, PRESS 1052, PRO 951	Yes	No
bizhub PRESS C1070, PRESS C1060, PRO C1060L	Yes	No
bizhub PRESS C1085, PRESS C1100	Yes	No
bizhub 4750, 4050	Yes	Yes
bizhub 754e, 654e	Yes	Yes
bizhub 754, 654	Yes	Yes
bizhub 751, 601**	Yes	Yes
bizhub 554e, 454e, 364e, 284e, 224e	Yes	Yes
bizhub 652, 552**	Yes	Yes
bizhub 501, 421, 361*	Yes	Yes
bizhub 423, 363, 283, 223**	Yes	Yes
bizhub 367, 287, 227	Yes	Yes
bizhub 42, 36**	No	Yes
bizhub 558, 458, 368, 308	Yes	Yes
bizhub 4752, 4052	Yes	Yes
bizhub 658e, 558e, 458e, 368e, 308e	Yes	Yes
bizhub 958, 808, 758	Yes	Yes
bizhub C3851FS, C3851, C3351	Yes	Yes
bizhub C3850, C3850FS, C3350	Yes	Yes
bizhub C754e, C654e	Yes	Yes
bizhub C754, C654	Yes	Yes
bizhub C652DS, C552DS**	Yes	Yes
bizhub C652, C552, C452**	Yes	Yes
bizhub C650, C550, C451**	Yes	Yes
bizhub C554e, C454e, C364e, C284e, C224e	Yes	Yes
bizhub C554, C454, C364, C284, C224	Yes	Yes
bizhub C368, C308, C258	Yes	Yes
bizhub C360, C280, C220**	Yes	Yes
bizhub C353, C253, C203, C200**	Yes	Yes
bizhub C35**	No	Yes
bizhub C287, C227	Yes	Yes
bizhub C360i, C300i, C250i	Yes	No
bizhub C658, C558, C458	Yes	Yes
bizhub C759, C659	Yes	Yes
bizhub 306i, 266i, 246i, 226i	Yes	Yes
bizhub C287i, C286i, C266i, C257i, C256i, C227i, C226i	Yes	Yes
ineo+ 754, 654	Yes	Yes
ineo+ 554	Yes	Yes
ineo+ 3850, 3350	Yes	Yes
ineo 754	Yes	Yes
ineo+ 554e, 454e, 354e	Yes	Yes

モデル	グラフィカルパネル	ネイティブパネル
ineo 654	Yes	Yes
ineo 554e, 454e, 364e, 284e	Yes	Yes
ineo 4750, 4050	Yes	Yes
ineo+ 3850FS	Yes	Yes
ineo 367	Yes	Yes
ineo 758, 958	Yes	Yes
ineo+ 287, 227	Yes	Yes
ineo+ 658, 558, 458	Yes	Yes
ineo 287, 227	Yes	Yes
ineo+ 368, 308, 258	Yes	Yes
ineo 306, 266	Yes	Yes
ineo+ 759	Yes	Yes
ineo+ 3851, 3351, 3851FS	Yes	Yes
ineo 558, 458, 368, 308	Yes	Yes
ineo+ 659	Yes	Yes
ineo 4752, 4052	Yes	Yes
ineo+ 360i, 300i, 250i	Yes	No

**特別なファームウェアが必要です*

*** モデルは、Dispatcher Phoenixバージョン6.13以前をサポートしています。Dispatcher Phoenixの新しいバージョンの一部の機能は、これらのデバイスではサポートされない場合があります。*

複合機ユーザーボックス ノード

- ファイルを複合機のユーザーボックスから取得することができます。
- セキュリティ強化のためにパスワードで保護されたユーザーボックスをサポートします。
- スケジューラは、スケジュールされた時間（例:ネットワーク帯域幅が利用可能な午前1時以降）に複合機からファイルを収集ことを可能にします。

以下のリストには、Dispatcher Phoenix ユーザーボックス収集をサポートするすべての複合機が含まれています。

モデル
bizhub PRESS C8000, C7000, C6000[1]
bizhub PRO 1200, 1051, 950, C5501, C6000L, C6501, 6500[2]
bizhub 754e, 654e
bizhub 754, 654
bizhub 751, 601
bizhub 750, 600
bizhub 554e, 454e, 364e, 284e, 224e
bizhub 652, 602, 552, 502
bizhub 501, 421, 361
bizhub 500, 420, 360
bizhub 423, 363, 283, 223
bizhub 362, 282, 222
bizhub 25
bizhub 558, 458, 368, 308
bizhub 4752, 4052
bizhub 658e, 558e, 458e, 368e, 308e
bizhub 958, 808, 758
bizhub C754, C654
bizhub C754e, C654e
bizhub C652DS, C552DS
bizhub C652, C552, C452
bizhub C650, C550, C451
bizhub C450, C352, C351, C300, C252, C250
bizhub C554, C454, C364, C284, C224
bizhub C554e, C454e, C364e, C284e, C224e
bizhub C360, C280, C220
bizhub C368, C308
bizhub C353, C253, C203, C200
bizhub C350
bizhub 350, 250, 200[3]
bizhub C658, C558, C458
bizhub C3851FS, C3851, C3351
bizhub C759, C659
bizhub C360i, C300i, C250i
bizhub 306i, 266i, 246i, 226i
bizhub C287i, C286i, C266i, C257i, C256i, C227i, C226i
ineo+ 754, 654
ineo+ 554
ineo+ 3850, 3350
ineo 754
ineo+ 554e, 454e, 354e
ineo 654
ineo 554e, 454e, 364e, 284e
ineo 4750, 4050
ineo+ 3850FS
ineo 367
ineo 758, 958

モデル
ineo+ 287, 227
ineo+ 658, 558, 458
ineo 287, 227
ineo+ 368, 308, 258
ineo 306, 266
ineo+ 759
ineo+ 3851, 3351, 3851FS
ineo 558, 458, 368, 308
ineo+ 659
ineo 4752, 4052
ineo+ 360i, 300i, 250i
Legacy Secured: bizhub Pro 1050, bizhub Pro 920, Konica 7145 (late firmware release)[4]
Legacy Konica 7272, 7255, 7235, 7228, 7155, 7165, 7145, 7135, 7130, 7085, 7075, 7045, 7040, 7033, 7030, 7025, 7022, 7020

[1] これらのbizhub PRESSマシンから収集できるのはJPGファイルのみです。

[2] これらのbizhub PRO/Pressマシンから収集できるのはTIFFファイルのみです。

[3] これらのコニカミノルタモデルにはフェーズ2.5ファームウェアがインストールされている必要があります。

[4] 従来のセキュリティ保護:これらのマシンはパスワードを要求する、または要求しないボックスにスキャンします。

Rx保護をサポートする複合機リスト

Dispatcher Phoenixの[Rx保護]ソリューションは、ヘルスケアプロバイダーに通常のコピー用紙を使用する費用効果が高く安全な処方箋印刷ソリューションを提供します。メディケアおよびメディケイド・サービスのセンターが発行する処方印刷規定に適合するように設計された[Rx保護]は、印刷された処方箋に以下の改ざん防止機能を自動的に適用します。

- カスタマイズ可能なセキュリティ警告テキストを含むアンチコピーパンタグラフ。
- 自動消去および変更検出。
- 薬剤師のセキュリティ機能の通知。

コピー防止機能は、コニカミノルタのすべての複合機で機能します。ただし、[Rx保護]で保護された処方箋の作成は、コピーセキュリティ機能/ファームウェアを備えた次のデバイスでのみサポートされます。

カラーモデル

bizhub C754e	bizhub C364e	bizhub C284	bizhub C360
bizhub C654e	bizhub C284e	bizhub C224	bizhub C280
bizhub C754	bizhub C224e	bizhub C652	bizhub C220
bizhub C654	bizhub C554	bizhub C552	bizhub C550
bizhub C554e	bizhub C454	bizhub C452	bizhub C3851FS
bizhub C454e	bizhub C364	bizhub C650	bizhub C3351
bizhub C368	bizhub C308	bizhub C258	bizhub C658
bizhub C558	bizhub C458	bizhub C287	bizhub C227
bizhub C550i	bizhub C450i	bizhub C650i	bizhub C250i
bizhub C300i	bizhub C360i	bizhub C4050i	

モノクロモデル

bizhub 754e	bizhub 554e	bizhub 224e	bizhub 363
bizhub 654e	bizhub 454e	bizhub 652	bizhub 283
bizhub 754	bizhub 364e	bizhub 552	bizhub 223
bizhub 654	bizhub 284e	bizhub 423	bizhub 367
bizhub 287	bizhub 227	bizhub 808	bizhub 958
bizhub 368	bizhub 308	bizhub 4750i	bizhub 4050i
bizhub 4052	bizhub 300i	bizhub 550i	bizhub 4752
bizhub 360i	bizhub 650i	bizhub 450i	bizhub 750i

注: 現在、これらの機能は、コピー防止をサポートするコニカミノルタ複合機デバイスでのみ動作します。コピーセキュリティ機能/ファームウェアの互換性が確認された後、その他のデバイスのサポートが発表されます。

正規表現

正規表現

正規表現（RegEx）とは、テキストを検索するために使用される、特別な規則に従って記述された文字列のことです。正規表現では、検索の実行方法を定義する特定の形式の構文が使用されます。また、簡単な文字列のマッチングでは不可能な柔軟な検索を実行できます。

使用可能な演算子: - 以下の表には、Dispatcher Phoenixの正規表現で使用可能な一般的な演算子の一部を示してあります。すべての演算子が含まれているわけではありませんので、注意してください。

マッチング修飾子 - これらの文字は、検索の実行方法に影響します。
演算子

\ 一般的なエスケープ文字

.（ピリオド）任意の文字と一致します。

* 直前の1個または複数の文字と一致します。

? 直前の0個または1個の文字と一致します。

[] 一致する一連の文字を定義します。たとえば、[0-9]は、0～9の数字と一致します。[a-z]は、小文字のaからzまでと一致します。[A,E,I,O,U]は、大文字の母音と一致します。

[^] 一致しない一連の文字を定義します。たとえば、[^0-9]は、0～9の数字とは一致しません。

^ 行の先頭と一致します。

$ 行の末尾と一致します。

文字クラス

これらの文字クラスでは、指定されたいずれかの数字、単語構成文字、または特殊文字と一致します。

\d 10進数のいずれかの数字と一致します（[0-9]の省略形）。

\D 10進数のいずれの数字とも一致しません（[^0-9]）。

\s いずれかの空白文字と一致します（タブ、改行、改ページ、復帰、またはスペース）。

\S いずれの空白文字とも一致しません。

\w「単語」構成文字[a-z, A-Z, 0-9, _]のいずれかと一致します。

\W「単語」構成文字[a-z, A-Z, 0-9, _]のいずれとも一致しません。

\b 単語の境界と一致します。

\B 単語の境界と一致しません。

\cx xで指定した任意の制御文字と一致します。たとえば、\csは、制御文字sと一致します。

\e エスケープ文字（hex 1B）と一致します。

\f 改ページ文字（hex 0C）と一致します。

\n 改行文字（hex 0A）と一致します。

\r 復帰文字（hex 0D）と一致します。

\t タブ文字（hex 09）と一致します。

\ddd 8進コードdddと一致します。

\xhh 16進コードhhと一致します。

正規表現の詳細については、以下のページを参照してください。

http://en.wikipedia.org/wiki/Regular_expression

正規表現の使用方法について詳しく知るためのチュートリアルについては、以下のページを参照してください。

http://www.regular-expressions.info/tutorial.html

Dispatcher Phoenix で使用可能な構文については、以下のリンク先で説明しています。http://developer.gnome.org/glib/stable/glib-regex-syntax.html

正規表現での特殊文字の使用

以下の特殊文字を正規表現で使用して文字定義どおりに解釈されるようにするには、バックススラッシュ(\)を使用してそれらの文字が特別な意味を持たないようにします。

[左大かっこ

\ バックスラッシュ

^ キャレット

$ ドル記号

. ピリオド

| 縦線(パイプ記号)

? 疑問符

* アスタリスク

+ プラス記号

(左丸かっこ

) 右丸かっこ

たとえば、1+1=2と一致するようにしたいときの正しい正規表現は、1\+1=2となります。そうしないと、プラス記号が特別な意味を持つことになります。

内容の検索

以下に示す **Dispatcher Phoenix** での正規表現の使用例では、以下のテキストファイルが検索されることを想定しています。

行	テキスト
1	This is MyTest a file to test regular expressions.
2	The technicians reviewed the latest test results looking for
3	a pattern that would explain the reported symptoms. So far the
4	testing had found nothing that would explain the results they were getting.
5	Test #1 - Good
6	Test #2 - Failed
7	Test #3 - Passed
8	Test #4 - Failed
9	Test #5 - Failed

- 文字列「**test**」を検索するには、検索テキストフィールドに「**test**」と入力します。大文字/小文字の区別のオプションの指定によっては、検索結果が以下のようになります。

行	一致ケース	一致しないケース
1	test	MyTest, test
2	latest, test	latest, test
4	testing	testing
5		Test
6		Test
7		Test
8		Test
9		Test

- 「test」という単語を検索するには、単語の境界を表す演算子\bで区切る必要があり、「\btest\b」という文字列を指定して検索すると、以下の結果が返されます。

行	一致ケース	一致しないケース
1	test	test
2	test	test
5		Test
6		Test
7		Test
8		Test
9		Test

- 1つの数字を含む複数の文字が検出されるようにするには、演算子「\d」を使用します。検索文字列「Test #\d」を使用すると、結果は以下のようになります。

行	一致ケース	一致しないケース
5	Test #1	Test #1
6	Test #2	Test #2
7	Test #3	Test #3
8	Test #4	Test #4
9	Test #5	Test #5

ファイル名の検索

解析ノードでは、正規表現を使用してファイル名を検索できます。ファイルの内容を検索する他のパーサーノードとは異なり、このパーサーノードではファイル名が検索されます。

たとえば、以下のようなファイルのリストがあるとします。

testfile1.txt

testfile2.xls

testfile3.docx

testfile4.doc

testfile5.psd

testfile6.pdf

testfile7.jpg

testfile8.tiff

検索文字列「testfile\d」を使用すると、上記リストのすべてのファイルが一致します。

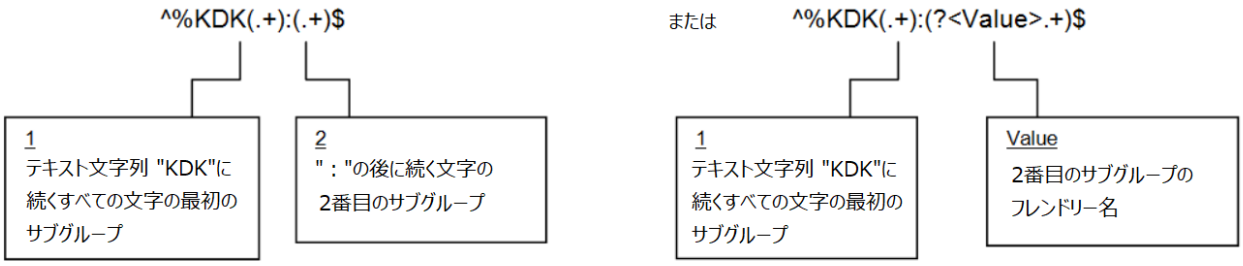
メタデータ参照が可能な高度な機能

解析ノード（挿入、解析と配信、解析と挿入、および解析と置換）では、正規表現を使用するときの高度な機能も用意されており、検索と挿入、置換、または配信といった操作をより細かく制御できます。

正規表現とDispatcher Phoenixのメタデータ参照機能により、一致したテキストの一部分から情報を抽出するためのサブグループを指定できます。その後、この情報を置換または挿入といった操作で使用したり、今後使用するためにそれらの値をメタデータとして格納したりできます。

サブグループは、正規表現の一部分を1対の丸かっこで囲んで表されます。サブグループには固有の番号が与えられ（1から始まって左から右へと進む）、その番号で参照できます。さらに、グループには（山かっこ< >で囲まれた）「フレンドリー名」を指定して、番号ではなく名前で参照されるようにできます。

例:



サブグループを参照するには、サブグループの番号をコロン(:)で区切って、「parser」のクラスを使用します。上記の例では、最初のサブグループを参照するのに、{parser:1}という構文を使用します。2番目のサブグループを参照するには、{parser:2}または、{parser:Value}のいずれかの構文を使用します（使用した正規表現による）。

置換または挿入の操作でこのサブグループの情報を使用するには、以下のいずれかのオプションを使用します。

\1 -「1」は、サブグループを表す数値です。

\g<1> -「1」は、サブグループを表す数値です。

\g<Value> -「Value」は、サブグループのフレンドリー名です。

ページレベルメタデータの指定

特定のページのメタデータを、2つの角かっこ([ ])の間にページ番号を追加して指定できます。これにより、特定のページで検出されたサブグループの最初の値のテキストが返されます。例:

{bar1:Address[5]}では、5ページのbar1:Addressの値が返されます。

ドキュメントレベルのメタデータを指定するには、0を2つの角かっこで囲んで追加するか、何も追加せず空白のままにしておきます。例:

{bar1:Address[0]}

{bar1:Address}

処理を1ページずつ行っている場合は（ベイツスタンプや注釈の適用など）、「current」という文字列を2つの角かっこで囲んで指定して、処理されているページからデータを抽出できます。例:

{annotate:text[current]}

メタデータの出現番号の指定

- ページレベルの角かっこの後にもう1対の角かっこを使用して出現番号を指定することもできます。例:

  {value:bar[3] [2]と指定すると、3ページで2番目に出現した「value:bar」が返されます。

  {parser:Value[0][1]}と指定すると、ドキュメントレベルで最初に出現した「parser:Value」が返されます。

- 最初に検出された値が返されるようにするには、[] と指定します。

  たとえば、{bar1:zone.Address[]}と指定すると、ページにかかわらず、「Address」ゾーンで最初に検出されたバーコードが返されます。

- 複数の値が1つの文字列に結合されて返されるよう指定するには、|を使用します。

  たとえば、{bar1:zone.part number[]|-}と指定すると、bar1:zone.part numberのすべての値が「-」で区切られて返されます。

システム定義変数

日付タイプ

変数: %a（省略された曜日名）
構文: {date:%a}

変数: %A（完全な曜日名）
構文: {date:%A}

変数: %b（省略された月名）
構文: {date:%b}

変数: %B（完全な月名）
構文: {date:%B}

変数: %d（日付（01～31））
構文: {date:%d}

変数: %H（24時間表記の時間（00～23））
構文: {date:%H}

変数: %I（12時間表記の時間（01～12））
構文: {date:%I}

変数: %j（年間通算日（001～366））
構文: {date:%j}

変数: %m（10進数の月（01～12））
構文: {date:%m}

変数: %M（分（00～59））
構文: {date:%M}

変数: %p（AMまたはPMの指定）
構文: {date:%p}

変数: %S（秒（00～61））
構文: {date:%S}

変数: %u (日曜日を週の最初の曜日として開始する週番号 (00-53))
構文: {date:%U}

変数: %w（月曜日を週の最初の曜日として開始する週番号（0～6））
構文: {date:%W}

変数: %y（年、最後の2桁（00～99））
構文: {date:%y}

変数: %Y（年）
構文: {date:%Y}

変数: %Z（タイムゾーンの名前または省略名）
構文: {date:%Z}

変数: %%（タイムゾーンの名前または省略名）
構文: {date:%%}

複合機パネル

変数: jcf_id（ファイル名（複合機のMACアドレス+時刻/スタンプ））
構文: {best:jcf_id}

変数: job_id （複合機のジョブID）
構文: {best:job_id}

変数: mac（複合機のMACアドレス）
構文: {best:mac}

変数: mfp_address（複合機のIPアドレス）
構文: {best:mfp_address}

変数: num_files（ジョブの一部として送信されたファイルの数）
構文: {best:num_files}

変数: pages（スキャンされたページの数）
構文: {best:pages}

変数: product_id（デバイスのSNMP ID）
構文: {best:product_id}

変数: product_name（デバイスの製造元およびモデル名）
構文: {best:product_name}

変数: user_id（ログインしているユーザーの数字によるID）
構文: {best:user_id}

変数: user_name（複合機のユーザー名）
構文: {best:user_name}

電子メール

変数: body（電子メールの内容）
構文: {email:body}

変数: cc（cc受信者の電子メールアドレス）
構文: {email:cc}

変数: date（メッセージが受信された日時）
構文: {email:date}

変数: from（電子メールの作成者の電子メールアドレス）
構文: {email:from}

変数: in-reply-to（その電子メールが返信先であるメッセージのメッセージID）
構文: {email:in-reply-to}

変数: message-id（メッセージの固有のID）
構文: {email:message-id}

変数: received（メッセージが受信された日時などの、メールサーバーにより生成される追跡情報）
構文: {email:received}

変数: references（その電子メールが返信先であるメッセージのメッセージID。および直前の返信が返信先であったメッセージのメッセージIDなど）。
構文: {email:references}

変数: sender（送信者のIPアドレス）
構文: {email:sender}

変数: subject（メッセージの件名）
構文: {email:subject}

変数: to（メッセージの受信者の電子メールアドレス）
構文: {email:to}

ファイルレベル

変数: fullname（ファイル名と拡張子）
構文: {file:fullname}

変数: name（ファイル名（最後のピリオドの前まで、ファイル拡張子は除く））
構文: {file:name}

変数: ext （ファイル拡張子（最後のピリオド以降））
構文: {file:ext}

変数: size（ファイルのサイズ（バイト数））
構文: {file:size}

ファイルシステム

変数: DesktopDirectory（例：C:\Users\ユーザー名\Desktop）
構文: {fs:DesktopDirectory}

変数: Personal（例：C:\Users\ユーザー名\Documents)
構文: {fs:Personal}

変数: ProgramFiles（例：C:\ProgramFiles)
構文: {fs:ProgramFiles}

変数: LocalApplicationData（例：C:\Users\ユーザー名\AppData\Local)
構文: {fs:LocalApplicationData}

変数: ApplicationData（例：C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming)
構文: {fs:ApplicationData}

変数: CommonApplicationData（例：C:\ProgramData)
構文: {fs:CommonApplicationData}

変数: CommonProgramFiles（例：C:\Program Files\Common Files)
構文: {fs:CommonProgramFiles}

変数: System（例：C:\Windows\System32)
構文: {fs:System}

変数: MyPictures（例：C:\Users\ユーザー名\MyPictures)
構文: {fs:MyPictures}

変数: MyMusic（例：C:\Users\ユーザー名\MyMusic）
構文: {fs:MyMusic}

変数: Favorites（例：C:\Users\ユーザー名\Favorites）
構文: {fs:Favorites}

変数: History（例：C:\Users\ユーザー名\AppData\Local\Microsoft\Windows\History）
構文: {fs:Favorites}

変数: Programs（例：C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs）
構文: {fs:Programs}

変数: Recent（例：C:\Users\ユーザー名\AppData\Local\Microsoft\Windows\Recent）
構文: {fs:Recent}

LPR

変数: host（マシン名）
構文: {lpr:host}

変数: jobname（元のファイル名）
構文: {lpr:jobname}

変数: jobnumber（印刷ジョブの固有の番号）
構文: {lpr:jobnumber}

変数: print（プロトコルで送信されるファイル名）
構文: {lpr:print}

変数: queue（指定されたキュー名）
構文: {lpr:queue}

変数: source（ソースファイルの名前）
構文: {lpr:source}

変数: user（ログインしたユーザーのレベル）
構文: {lpr:user}

変数: user（ログインしたユーザーのレベル）
構文: {lpr:user}

SMTP

変数: from（送信者のメールボックス（必ずしも送信者の電子メールアドレスでなくてもよい）。メールボックスアドレスは、山かっこで囲まれます（例：＜user@example.com＞）
構文: {smtp:from}

変数: rcpt（受信時の宛先メールボックスを1人の受信者に対して1つ指定。これは、To、CC、およびBCCのすべてのメールボックスに対して設定されます）
構文: {smtp:rcpt}

ユーザー

変数: domain（Windowsのドメイン名）
構文: {user:domain}

変数: name（Windowsのログインユーザー名）
構文: {user:name}

メタデータグループ

以下のメタデータグループがページレベルのメタデータとして作成されます。

注釈

変数: {annotate:variable}

構文: {annotate:variable[]}

例: {annotate:date[5]} - 5ページ目で「date」メタデータを検出

高度なベイツスタンプ

変数: {bates:variable}

構文: {bates:variable[]}

例: {bates:counter[3]} - 3ページ目で「counter」メタデータを検出

高度なOCR

変数: {ocr:zone.variable}

構文: {ocr:zone.variable[]}

例: {ocr:name[]} - ドキュメント内の「name」ゾーンを検出

バーコード処理（標準）

変数: {bar1:zone.variable}

構文: {bar1:zone.variable[]}

例: {bar1:zone.128[2]} 2ページ目で「128」ゾーンを検出

バーコード処理（2D）

変数: {bar2:zone.variable}

構文: {bar2:zone.variable[]}

例: {bar2:zone.128[2]} 2ページ目で「128」ゾーンを検出

プロダクションプリントの設定

このガイドは、Dispatcher Phoenixをプロダクションプリントモデルと統合するために必要なステップを提供します。現在サポートされているモデルは次の通りです。

- 1250 シリーズ (bizhub PRESS 1250, bizhub PRO 1100, bizhub PRESS 1052, bizhub PRO 951)
- C1070 シリーズ (bizhub PRESS C1070, bizhub PRESS C1060, bizhub PRO C1060L)
- C1100 シリーズ (bizhub PRESS C1085, bizhub PRESS C1100)
- C2070 シリーズ (AccurioPress 2070, AccurioPress C2060, AccurioPrint 2060L)
- C3070 シリーズ (AccurioPress C3080, AccurioPress C3070, AccurioPrint C3070L)
- C6085 シリーズ (AccurioPress C6085, AccurioPress C6100)

このガイドはDispatcher PhoenixがPCに正しくインストールされていることを前提としています。

必要なオプション

シリーズ	必要なオプション
1250	UK-205 アップグレードキット
C1070	• IC-602A イメージコントローラー • UK-206 アップグレードキット
C1100	• IC-602C KM イメージコントローラー • UK-206 アップグレードキット • PF-708 ドキュメントフィーダー付き給紙ユニット
C2070	IC-603A KM イメージコントローラー

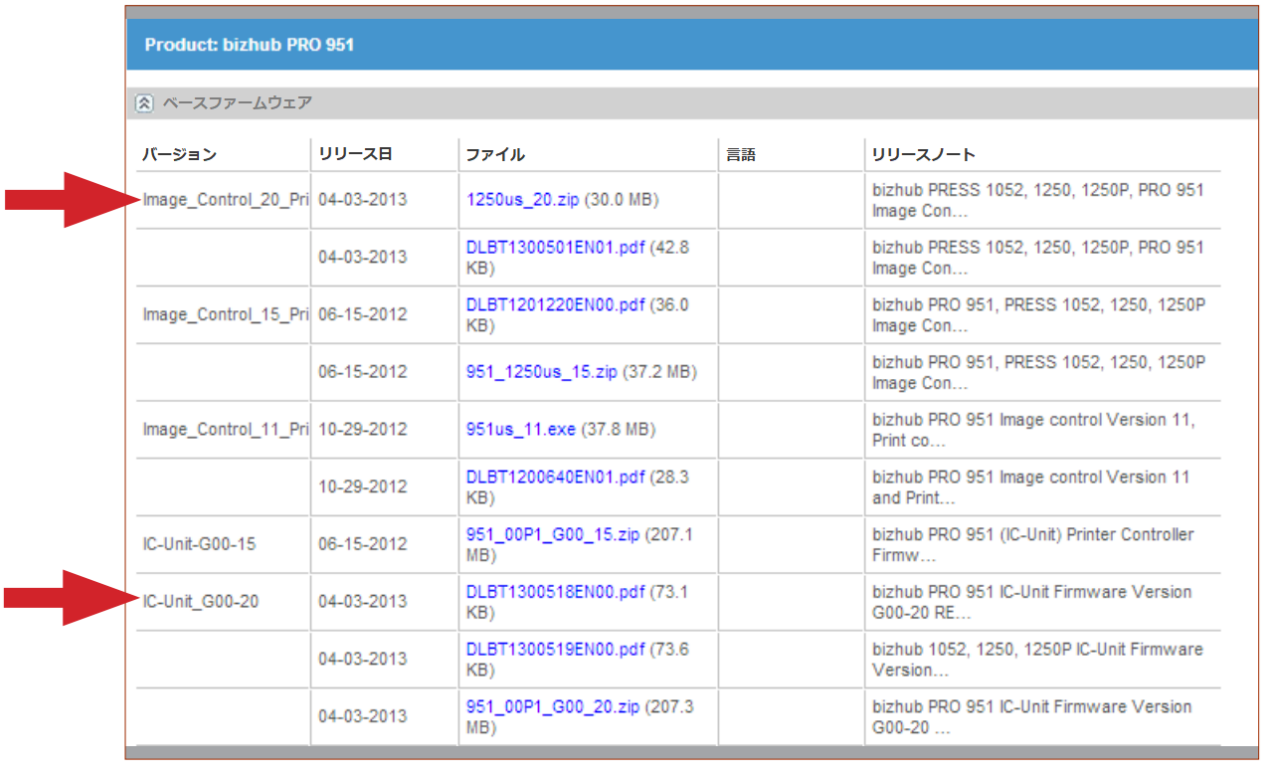
ステップ1. ファームウェアのインストール

1250 シリーズの場合

ファームウェアを次（またはそれ以降）のバージョンに更新します。

- Image_Control_20 (ファイル名: 1250us_20.zip; リリースノート: DLBT11300501EN01.pdf)
- IC-Unit_G00-20 (ファイル名: 951_00P1_G00_20.zip; リリースノート: DLBT1300518EN00.pdf)

次の図を参照してください。



Product: bizhub PRO 951

ベースファームウェア

バージョン	リリース日	ファイル	言語	リリースノート
Image_Control_20_Pri	04-03-2013	1250us_20.zip (30.0 MB)		bizhub PRESS 1052, 1250, 1250P, PRO 951 Image Con...
	04-03-2013	DLBT1300501EN01.pdf (42.8 KB)		bizhub PRESS 1052, 1250, 1250P, PRO 951 Image Con...
Image_Control_15_Pri	06-15-2012	DLBT1201220EN00.pdf (36.0 KB)		bizhub PRO 951, PRESS 1052, 1250, 1250P Image Con...
	06-15-2012	951_1250us_15.zip (37.2 MB)		bizhub PRO 951, PRESS 1052, 1250, 1250P Image Con...
Image_Control_11_Pri	10-29-2012	951us_11.exe (37.8 MB)		bizhub PRO 951 Image control Version 11, Print co...
	10-29-2012	DLBT1200640EN01.pdf (28.3 KB)		bizhub PRO 951 Image control Version 11 and Print...
IC-Unit-G00-15	06-15-2012	951_00P1_G00_15.zip (207.1 MB)		bizhub PRO 951 (IC-Unit) Printer Controller Firmw...
IC-Unit_G00-20	04-03-2013	DLBT1300518EN00.pdf (73.1 KB)		bizhub PRO 951 IC-Unit Firmware Version G00-20 RE...
	04-03-2013	DLBT1300519EN00.pdf (73.6 KB)		bizhub 1052, 1250, 1250P IC-Unit Firmware Version...
	04-03-2013	951_00P1_G00_20.zip (207.3 MB)		bizhub PRO 951 IC-Unit Firmware Version G00-20 ...

C1070 シリーズの場合

複合機がG00-18以降を実行していることを確認してください。さらに、これらのデバイスにWebブラウザーROMをインストールする場合は、A5AA0Y0で始まるROMを選択する必要があります。これらのデバイス用に提供されている他のブラウザーROMはDispatcher Phoenixと互換性がありません。

C1100 シリーズの場合

複合機がG00-18以降を実行していることを確認してください。さらに、これらのデバイスにWebブラウザーROMをインストールする場合は、A5AA0Y0で始まるROMを選択する必要があります。これらのデバイス用に提供されている他のブラウザーROMはDispatcher Phoenixと互換性がありません。

bizhub PRO 1100 シリーズの場合

複合機がGU0-20またはそれ以降を実行していることを確認してください。

AccurioPress C2070 シリーズの場合

すべてのファームウェアはDispatcher Phoenixをサポートしています。

ステップ 2. ネットワーク用の複合機とコントローラーの設定（1250シリーズのみ）

ネットワーク用の複合機とコントローラーを接続し、設定します。例については、次の図を参照してください。

ステップ 3. コントローラースイッチの設定

コントローラスイッチを設定するときは、ガイダンスについて特定のデバイスのドキュメントを参照してください。以下は、いくつかの特定のデバイスに関する一般的なガイドラインと推奨事項です。

コントローラースイッチを設定するには、次の手順を実行します。

1. パネルの上部バーの[機械状態]タブをタップします。
2. コントロールパネルの[機械状態]画面で[コントローラー設定]ボタンを押します。[コントローラー機械状態設定]メニュー画面が表示されます。
3. [08 管理者設定]ボタンを押します。
4. [管理者設定]画面で[01 ソフトウェアスイッチ設定]ボタンを押します。
5. [スイッチ番号]ボタンを選択します。フィールドに番号を入力します。
6. 完了したら、[オン]ボタンを押します。次に、[セット]を押します。

1250 シリーズの場合

最良の結果を得るには、コントローラースイッチ[51]と[52]の両方を[1]に変更することをお勧めします。

- スイッチ[51]を[1]に変更すると、Dispatcher Phoenixで1200 dpiでスキャンすることができます。
- スイッチ[52]を[1]に変更すると、複数のページを1つのファイルとしてスキャンすることができます。

AccurioPress C4080 シリーズの場合

最良の結果を得るには、コントローラースイッチ[83]を[ON(1)]に変更することをお勧めします。

- スイッチ83をONに変更すると、複数のページを単一ファイルとしてDispatcher Phoenixにスキャンできます。

  注: C4080シリーズでは、コントローラースイッチとは異なるソフトウェアスイッチを変更することが重要です。ソフトウェアスイッチ83の検索方法の詳細については、最寄りのコニカミノルタのフィールドエンジニアにお問い合わせください。

C6085 のコントローラー スイッチを見つけるには、次の選択を行います。

- [ユーティリティ] → [管理者設定] → [コントローラー] → [ソフトウェアスイッチ設定]

その他のすべてのサポートされているプロダクションプリントデバイスの場合

最良の結果を得るには、コントローラースイッチ[83]を[1]に変更することをお勧めします。

- スイッチ83を1に変更すると、複数のページを単一ファイルとしてDispatcher Phoenixにスキャンできます。

ステップ 4. Dispatcher Phoenix 登録

サポートされているプロダクションプリント機器でDispatcher Phoenixを登録するには、次の手順を実行します。

1. Dispatcher Phoenixで、Dispatcher Phoenixの[ツール]メニューから[複合機登録ツール]を選択して複合機登録ツールを起動します。
2. 次のいずれかを実行してデバイスを追加します。
   - 手動でデバイスのIPアドレスを入力し、[複合機を追加]ボタンを選択します、または
   - 複合機エクスプローラツールを使用してネットワーク上のすべての複合機を自動的に検索するには、[複合機の検索]ボタンを選択します。
3. 必要に応じて、既定のbESTサーバー設定と認証設定を構成します。詳細については、Dispatcher PhoenixのWebヘルプを参照してください。
4. リストされたデバイスを選択します。[複合機の登録]ボタンをクリックします。
5. 登録されたデバイスをワークフローに追加します。

ステップ 5. Dispatcher Phoenixへのアクセス

Dispatcher Phoenixが登録されると、次の図のように **[Phoenix]** タブが表示パネルの右上に表示されます。

注: 他のアプリケーションがインストールされている場合は、代わりに「APP」タブが表示されます。

1. **[Phoenix]** タブをタップしてDispatcher Phoenixアプリケーションアイコンを表示します。
2. 開始するにはDispatcher Phoenixアプリケーションアイコンをタッチします。実行中のワークフローがすべて表示されます。

1250 シリーズ用 トラブルシューティング

複合機のNICにネットワーク接続がない場合は、空白の画面が表示されます。

重要!

- プロダクションプリントデバイスでは複合機の[Start]ボタンを使用してスキャンを開始することはサポートされていません。
- 数字キーパッドは、プロダクションプリントデバイスでは機能しません。
- Dispatcher Phoenixを含むOpenAPIソリューションは、サードパーティのコントローラーでは動作しません。

シングルサインオン認証

Dispatcher Phoenixでは、複合機の認証設定、または外部の認証サーバー（例：Active Directory）のいずれかを使用してユーザー認証による複合機へのシングルサインオンアクセスを提供します。

Dispatcher Phoenixで、シングルサインオン機能を使用する複合機を設定するには、以下のステップが必要となります。

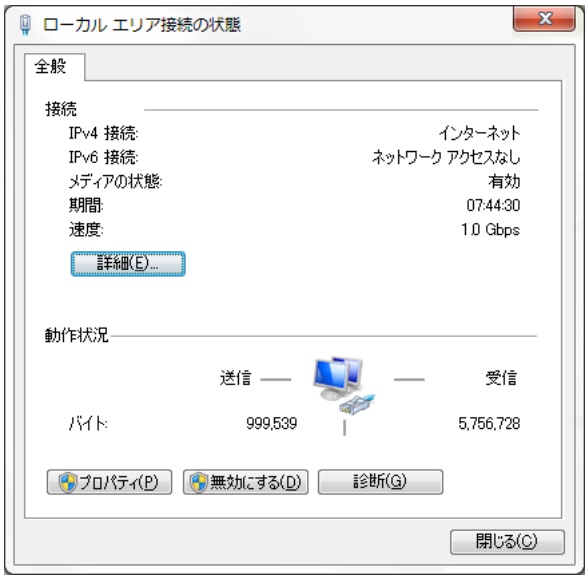
1. PCのDNS設定が正常に設定されていることを確認します。
2. Dispatcher Phoenixを実行しているPCをドメインに接続します。
3. 複合機を外部サーバーに対して認証するように設定します。
4. Dispatcher Phoenixでシングルサインオンのユーザー認証オプションを設定します。
5. ワークフローを実行します。

注: PCの説明は、Windows 10を対象としています。

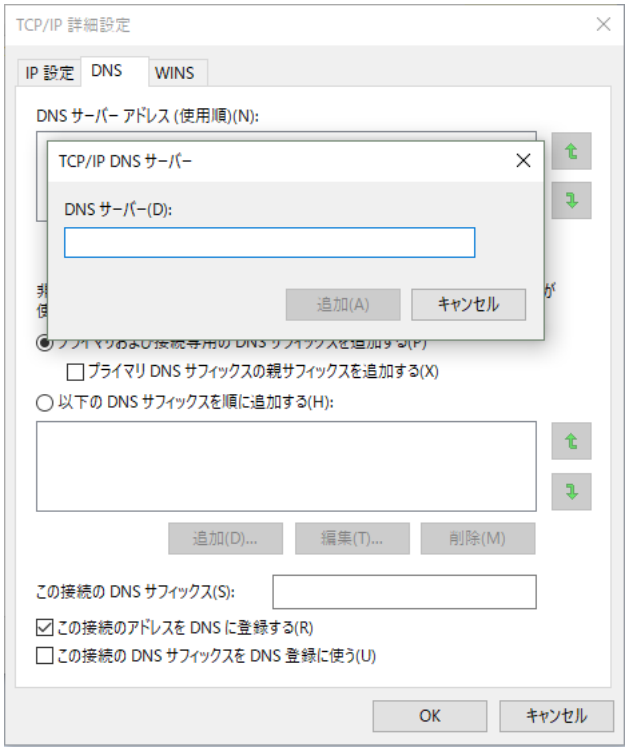
DNS（Domain Name Server）の設定

PCのDNS設定を変更して、社内ネットワークのDNSサーバーを必ず指定します。次の手順に従ってください。

1. **[コントロール パネル]** > **[ネットワークとインターネット]** > **[ネットワークと共有センター]** の順に選択します。
2. 社内ネットワークの横にある、**[ローカルエリア接続]** リンクをクリックします。以下の図に示すように[ローカル エリア接続の状態]ウィンドウが表示されます。



3. **[プロパティ]** ボタンをクリックすると、[ローカルエリア接続のプロパティ]ウィンドウが表示されます。
4. **[インターネット プロトコル バージョン4 (TCP IPv4)]** を選択して、**[プロパティ]** ボタンをクリックします。
5. [インターネット プロトコル バージョン4 (TCP/IPv4)のプロパティ]ウィンドウで、**[詳細設定...]** ボタンをクリックすると[TCP/IP詳細設定]が表示されます。
6. [TCP/IP 詳細設定]ウィンドウで、**[DNS]** タブを選択すると、DNSサーバーのアドレスが表示されます。
7. **[追加...]** ボタンをクリックすると、[TCP/IP DNS サーバー]ウィンドウが開くのでDNSサーバーのアドレスを入力します。



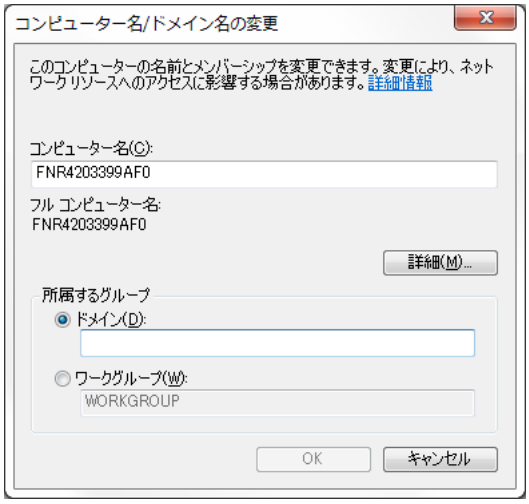
8. 完了したら、**[追加]** ボタンをクリックします。

ドメインへのPCの接続

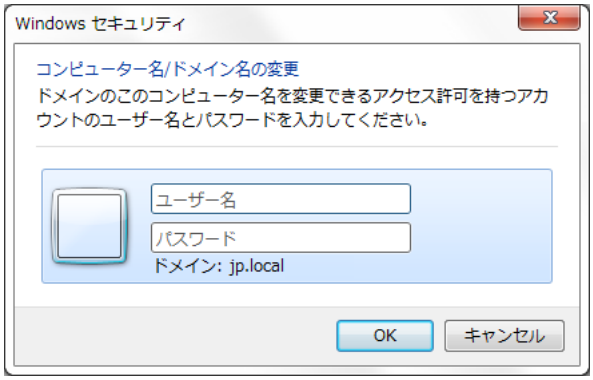
ドメインとは、ネットワーク上のコンピューターの集まりで、ルールや手続きが共通しており、1つの単位として管理されます。各ドメインには一意の名前が付いています。通常、ドメインはワークプレースのネットワークに使用します。コンピューターをドメインに接続するには、ドメインの名前を確認して、そのドメインで有効なユーザーアカウントを取得する必要があります。

PCをドメインに接続するには、次の手順を実行します。

1. **[コントロール パネル]** > **[システムとセキュリティ]** > **[システム]** の順に選択します。
2. **[コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定]** エリアで、**[設定の変更]** をクリックします。
3. **[コンピューター名]** タブで、**[変更]** ボタンをクリックします。
4. 次に表示されるウィンドウの **[所属するグループ]** セクションで、**[ドメイン]** をクリックします。



5. [ドメイン]フィールドにドメイン名を入力して、**[OK]** ボタンをクリックします。このドメイン名は、Dispatcher Phoenixで使用するドメイン名となります。
6. [Windows セキュリティ]ポップアップウィンドウで、ドメインコンピューターの使用を認証されているユーザーのユーザー名とドメイン名を入力してから、**[OK]** ボタンを選択します。



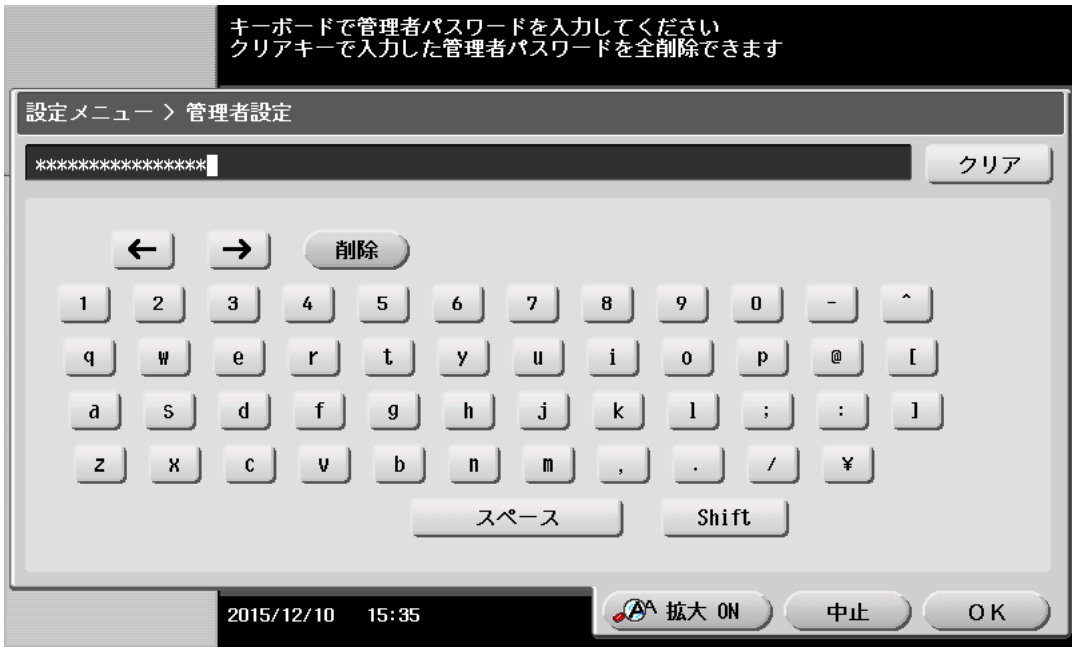
7. 正常に完了すると、「ようこそ」画面が表示されます。
8. PCを再起動します。

複合機での外部サーバーの登録

次の手順に従ってください。

[管理者設定]へのアクセス

1. 複合機で、**[メニュー]** キーを押します。
2. **[管理者設定]** にタッチして、キーボードまたはキーパッドで管理者のパスワードを入力してから、**[OK]** をタッチします。

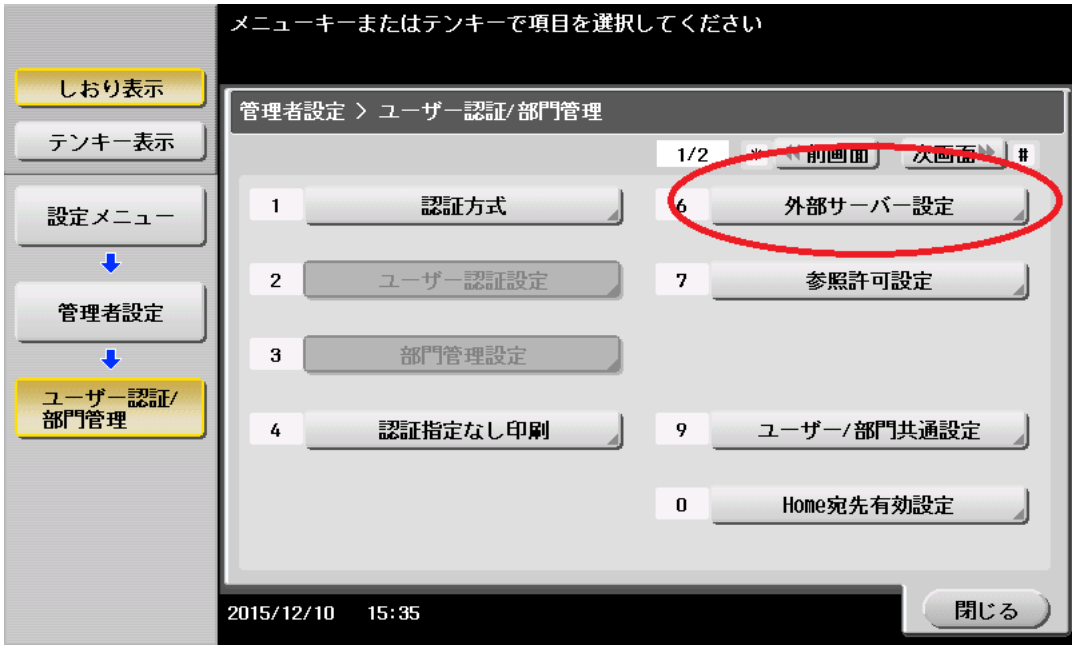


DNSのドメイン名の指定

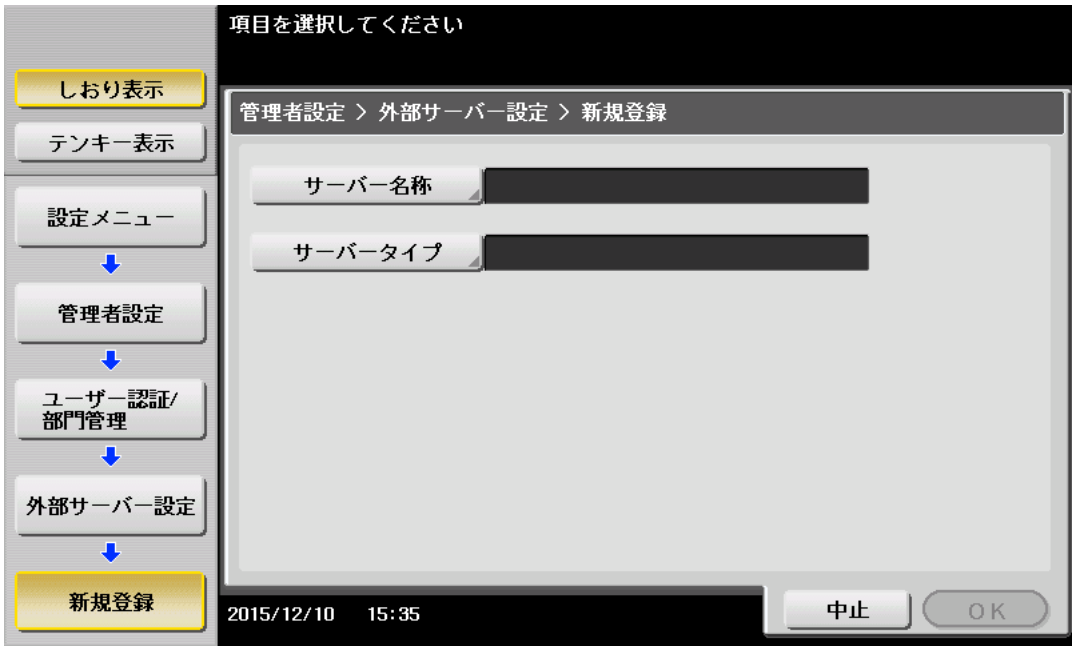
1. **[ネットワーク設定]** > **[TCP/IP設定]** の順に選択します。
2. **[ドメイン]** をタップして、目的のドメインでDNSのドメインを設定します。
3. **[既定のDNSドメイン名]** フィールドをタップすると、キーボードが表示されるので、ドメイン名を入力します。
4. 完了したら[OK]をタップします。

外部サーバーの設定

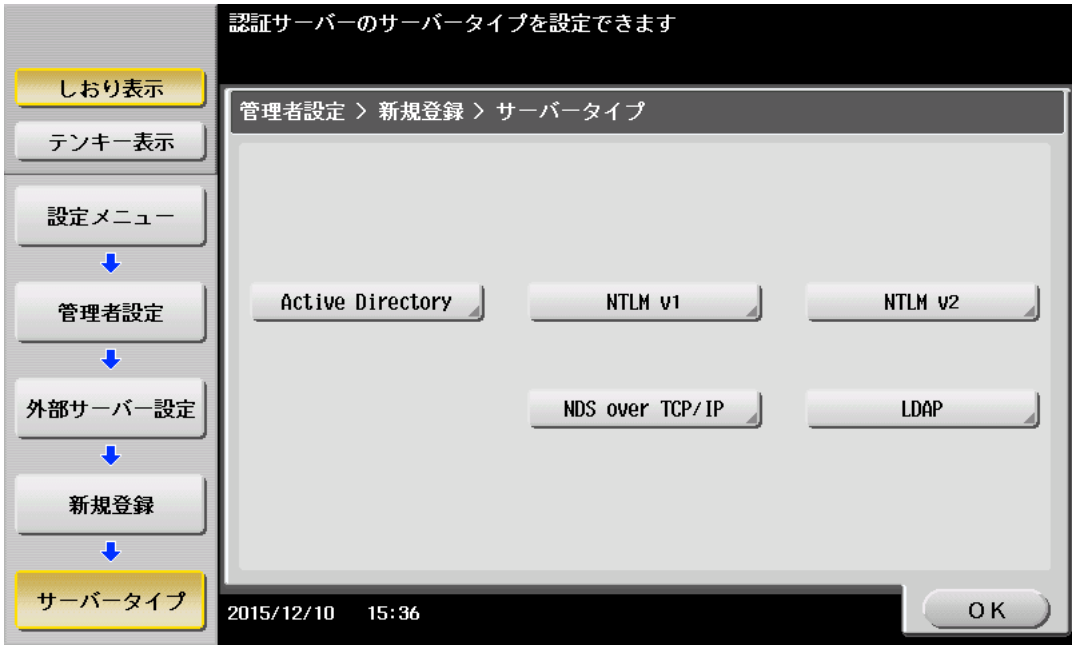
1. **[管理者設定]** > **[ユーザー認証/部門管理]** の順に選択して、**[外部サーバー設定]** をクリックします。



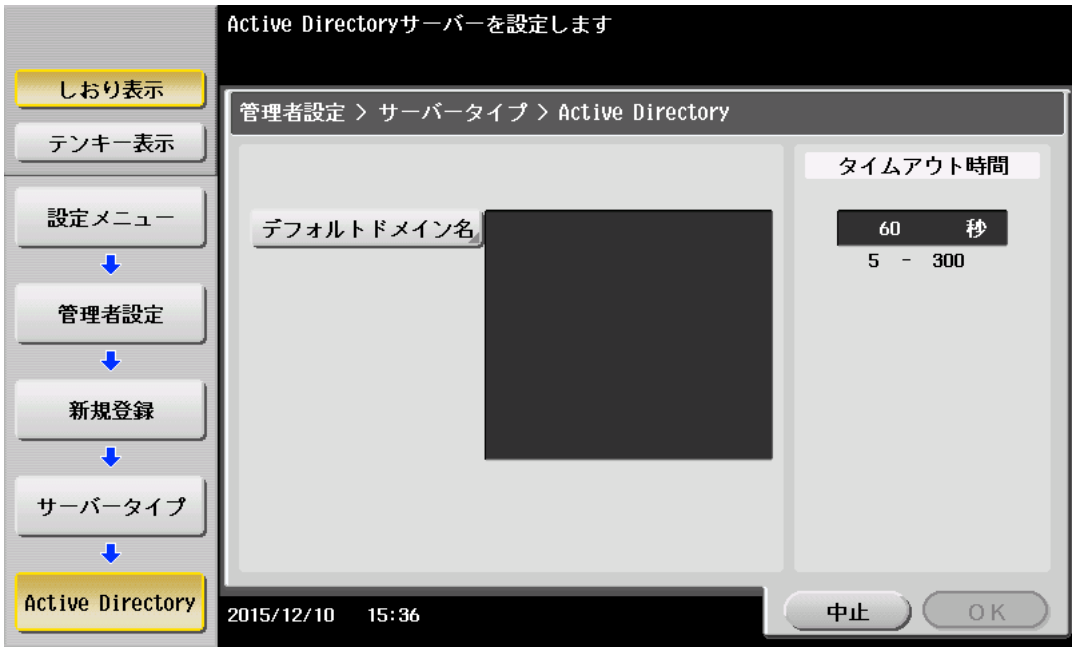
2. **[新規登録]** ボタンをタップして、外部サーバーを新しく定義します。次の画面が表示されます。



3. **[サーバー名称]** ボタンをタップして、Active Directoryのドメインコントローラーのリテラル名を入力します。
4. **[サーバータイプ]** ボタンをタップして、**[Active Directory]** を選択します。



5. Active Directoryを選択した後は既定のドメイン名を入力できます(必ず、完全なドメイン名を入力します)。

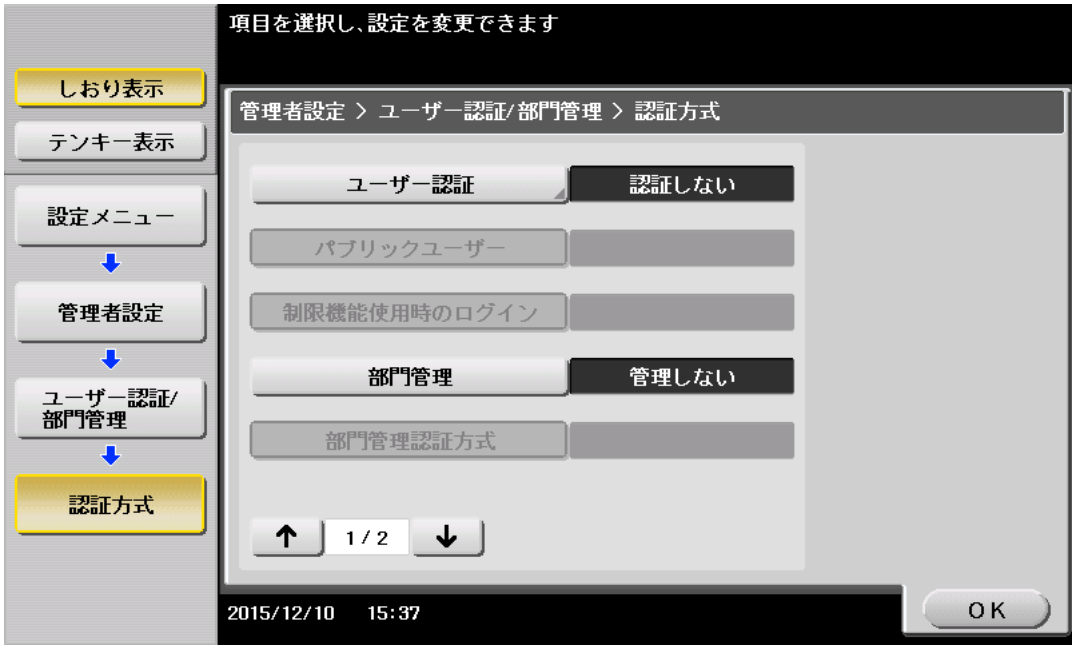


6. 完了したら、**[OK]** ボタンをタップします。新しい外部サーバーがリストに表示されるようになります。
7. **[OK]** ボタンをタップします。

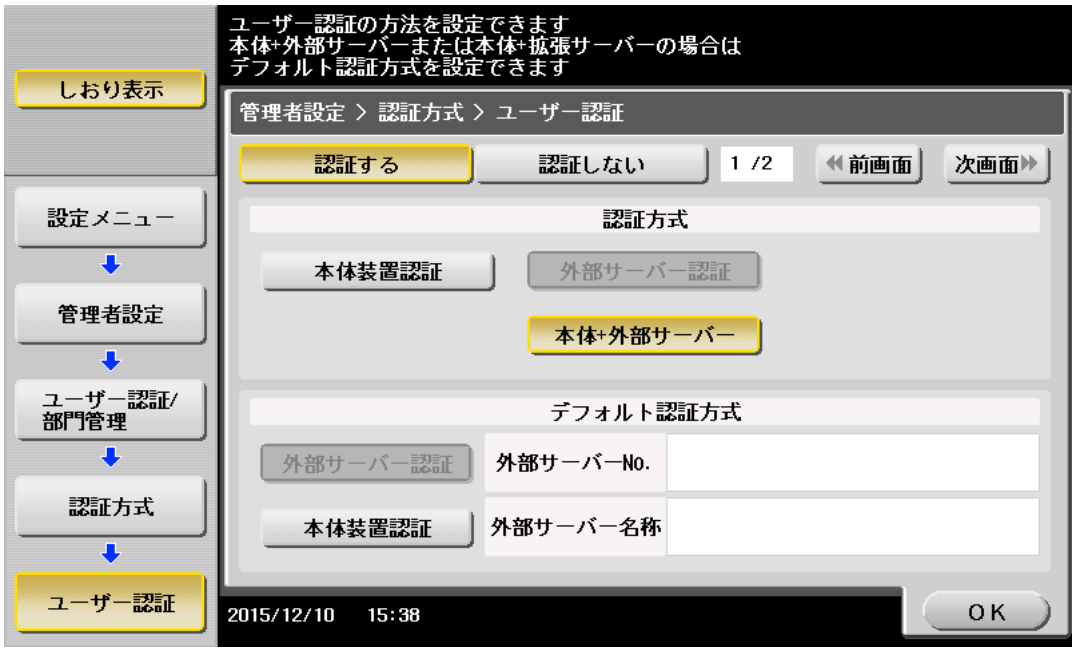
ユーザー認証の有効化

複合機のユーザー認証で、Active Directoryに対する認証が有効であることを確認します。

1. **[一般設定]** > **[ユーザー認証]** の順に選択します。



2. [ユーザー認証]ボタンをタップして、**[外部サーバー]** オプションを有効にします。



3. 完了したら、**[OK]** ボタンをタップします。
4. [すべてのデータをクリアしますか]というメッセージが表示されたら、**[はい]** をタップしてデータをクリアします。
5. **[OK]** ボタンを3回タップします。

複合機に、[Log In（ログイン）]画面が表示されます。

Dispatcher Phoenixでのシングルサインオンの設定

Dispatcher Phoenixを起動して、Active Directory認証を行うように、複合機を登録します。この手順では複合機がすでに登録されていることを前提としています。次の手順に従ってください。

1. 複合機登録ツールを起動します（アプリケーションのメイン画面で **[ツール]** > **[複合機登録ツール]** オプションを選択します）。
2. 複合機登録ツールで、リスト内の複合機を選択してから、**[複合機の編集]** ボタンをクリックして複合機の認証オプションを編集します。
3. [複合機の編集]ウィンドウで、[認証]タブを選択してから、**[複合機がキャッシュしたユーザー名を使用してログイン]** ボタンを選択します。[Windowsドメイン]フィールドに正しいドメイン名が表示されていることを確認します。
4. 完了したら、**[保存]** ボタンをクリックします。

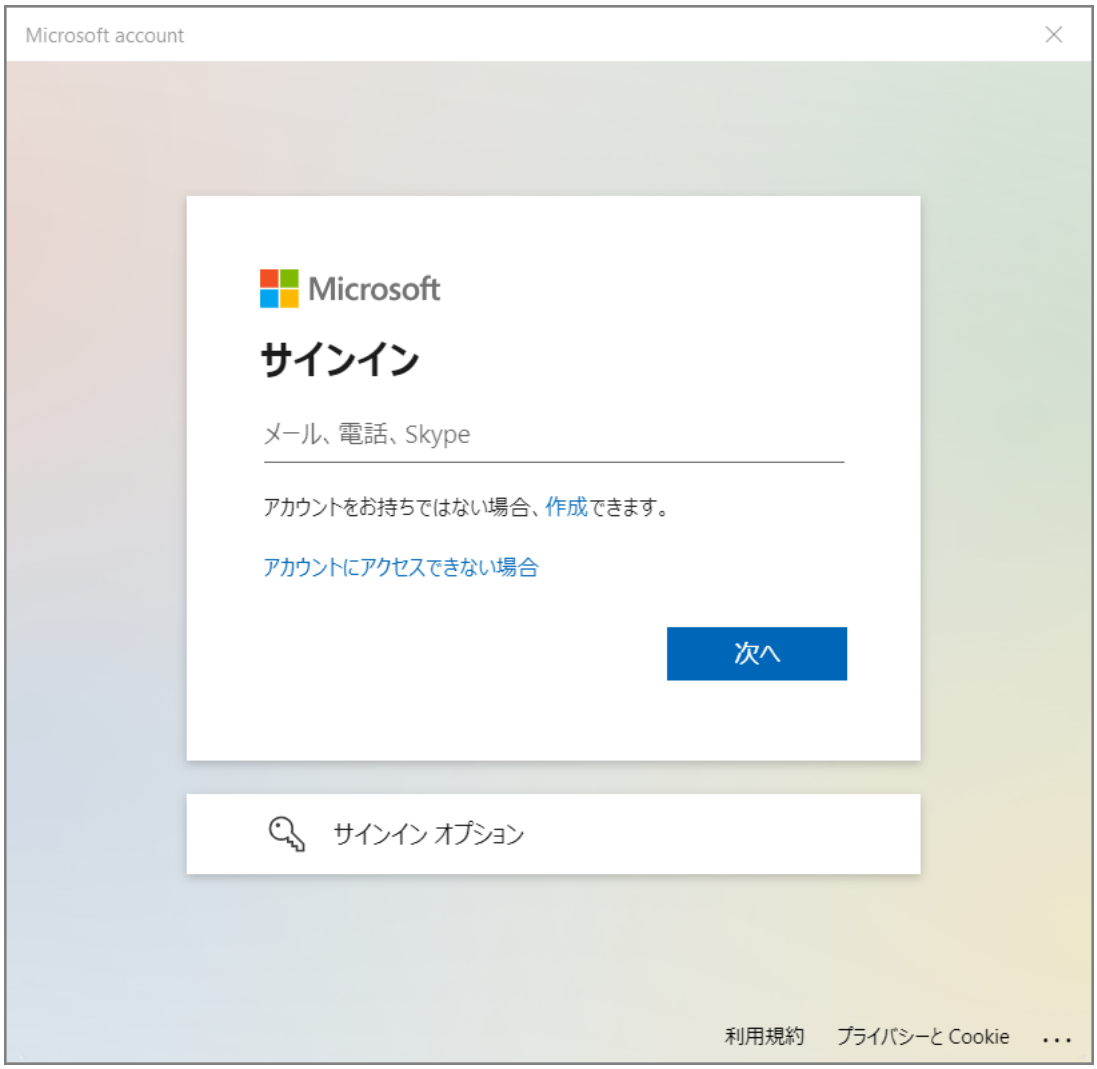
作成したDispatcher Phoenixワークフローの実行

Dispatcher Phoenixワークフローを実行していることを確認してから、複合機のユーザー名とパスワードを使用して複合機にログインします。Dispatcher Phoenixに再度ログインしなくてもDispatcher Phoenixワークフローにアクセスできるようになります。

Microsoft ログインの構成

Dispatcher PhoenixはMicrosoft ログインをサポートしています。Dispatcher Phoenix を使用してMicrosoft ログインを構成するには、次の手順を実行します。

1. **[設定] > [アカウント]** に移動します。「ユーザーの情報」ページが開きます。
2. **Microsoftアカウントでのサインインに切り替える** を選択します。



3. 必要に応じて、ユーザー名とパスワードを入力します。
4. Microsoftからのサインインコードを入力します。
5. コンピューターのパスワードを入力します。
6. PINを作成します。「ユーザーの情報」ページに戻ります。

Entra ID ログインの構成

Dispatcher Phoenixは、Microsoft Entra ID(旧称 Azure AD)ログインをサポートしています。Dispatcher Phoenixを使用してEntra IDログインを設定するには、次の手順を実行します。

1. **[設定] > [アカウント] > [職場または学校にアクセスする]** に移動します。
2. **[接続]** をクリックします。Microsoftアカウントウインドウが開きます。
3. ウィンドウの下部にある [**このデバイスをMicrosoft Entra IDに参加させる**] をクリックします。
4. ユーザー名とパスワードを入力します。

5. 正しい組織に接続していることを確認します。**[参加]** をクリックします。
6. **[完了]** をクリックします。[職場または学校にアクセスする]ページに戻ります。

MicrosoftおよびEntra IDの使用に関する制限事項

次の場合、Dispatcher PhoenixではMicrosoft ログインはサポートされていません。

- Dispatcher Phoenix Web内でMicrosoftアウントを使用してワークフローを個別に共有する

次の場合、Dispatcher PhoenixではMicrosoftおよびEntra IDログインはサポートされていません。

- バッチインデックスのユーザーグループ権限
- Workflow Cluster Serviceの資格情報

サードパーティーのライセンス

Dispatcher Phoenixは特定の機能にサードパーティーのライセンスを使用します。Dispatcher Phoenixが使用するサードパーティーのライセンスの最新リストについては、次の手順を実行してください。

1. Dispatcher Phoenixを開きます。
2. 右上隅にあるクエスチョンマークアイコン ( ) をクリックして、**[ヘルプ]** ドロップダウンメニューを開きます。
3. **[製品情報 Dispatcher Phoenix]** を選択します。
4. **[製品情報 Dispatcher Phoenix]** ウィンドウの下部にある **[ライセンス情報]** リンクをクリックします。
5. **[サードパーティーのライセンス]** の横にある矢印をクリックして、Dispatcher Phoenixが使用するサードパーティーのライセンスの最新バージョンを確認します。

サードパーティーライセンスのリスト

サードパーティーライセンス	バージョン	Copyright
AvalonEdit	4.0.0.6988	2008-2010
Cairo LGPL	2.1	-
Cairo MPL	1.1	-
GCrypt	2.1	1991, 1999
GLib	2.1	1991, 1999
GLibNetworking	2.1	1991, 1999
GMime	2.1	1991, 1999
GPG-Error	2.1	1991, 1999
HarfBuzz	2.1	2010, 2011, 2012
Inno Setup	5.0.4 (u)	1997-2007
IntI	3	2007
Jabber-Net	2.1	2002-2008
JSON-Glib	2.1	1991, 1999
Kofax	16.5	2011
libffi	2.1	1996-2014
libsoup	2.1	1991, 1999
log4net	1.2.10.0	2001-2006
LuaJIT	5.1/5.2	2005-2017
NotifyIcon for WPF	1.0.4.0	2009
OpenSSL	-	1998-2019
Pango	2	1991
PDFSharp	1.31.1789.0	2005-2009
SharpZipLib	0.85.5.452	2001-2007
XML2	-	1998-2012
ZLIB	1.2.11	1995-2017
ZMQ	3	2007

トラブルシューティング

エラーメッセージ

このセクションには、**Dispatcher Phoenix** を使用するときに発生する可能性のある一般的なメッセージのいくつかを示してあります。

アドインが応答していません（%u秒間応答がありません）

- **説明:** Dispatcher Phoenixアプリケーションが応答していません。システムが、処理能力を超えるにもかかわらず、すべてのワークロードを処理しようとしている可能性があります。
- **解決方法:** Dispatcher Phoenixの動作を妨げている可能性のある他のアプリケーションを閉じます。

アプリケーションがインストールされていません

- **説明:** このメッセージは、ファイルに出力ノードの設定時に表示されることがあります。Dispatcher Phoenixでは、アプリケーションがまだ実行されていない場合には、そのアプリケーションが「インストールされていない」ものとしてMicrosoft OfficeまたはAdobe Acrobatに報告されることがあります。
- **解決方法:** 新しくインストールしたアプリケーションを実行します。

アイコンをお気に入りから削除しますか？

- **説明:** 「お気に入り」グループからノードを削除しようとしています。
- **解決方法:** **[はい]** ボタンを選択すると、メッセージボックスが閉じて処理が続行されます。ノードを「お気に入り」グループに残しておくには、**[いいえ]** ボタンを選択します。

選択した複合機をノードから削除しますか？

- **説明:** SMTP入力ノードから複合機を削除しようとしています。このメッセージは、ウィンドウの[使用できる複合機]または[選択された複合機]のいずれかの領域に示されているデバイスを削除しようとしたときに表示されることがあります。
- **解決方法:** 削除処理を続行するには、**[はい]** ボタンを選択します。複合機をそのままSMTP入力ノードの一部にしておくには、**[いいえ]** ボタンを選択します。

アドインの応答がないためblox-xmpp-workerは終了します

- **説明:** Dispatcher Phoenixアプリケーションが応答していません。システムが、処理能力を超えるにもかかわらず、すべてのワークロードを処理しようとしている可能性があります。
- **解決方法:** Dispatcher Phoenixの動作を妨げている可能性のある他のアプリケーションを閉じます。

排他ロックを取得できませんでした

- **説明:** 他のアプリケーションまたはプロセスが使用している可能性があるファイルを収集しようとしています。
- **解決方法:** ファイルを開いているアプリケーションを閉じます。また、ファイルのプロパティの[属性]で、ファイルが読み取り専用に設定されていないことを確認することもできます。

カウンターの終了値は開始値よりも大きくなければなりません。

- **説明:** 高度なベイツスタンプカウンター（数字、アルファベット、またはローマ数字）のいずれかで、カウンターが増分されるよう定義されています。ただし、指定されている開始値が指定されている終了値を超えています。
- **解決方法:** カウンターを増分するには、終了値が開始値よりも大きくなければなりません。**[OK]** ボタンを選択してメッセージボックスを閉じてから、カウンターの終了値を再定義してください。

カウンターの開始値は終了値よりも大きくなければなりません。

- **説明:** 高度なベイツスタンプカウンター（数字、アルファベット、またはローマ数字）のいずれかで、カウンターが減分されるよう定義されています。ただし、指定されている終了値が指定されている開始値を超えています。
- **解決方法:** カウンターを減分するには、開始値が終了値よりも大きくなければなりません。**[OK]** ボタンを選択してメッセージボックスを閉じてから、カウンターの開始値を再定義してください。

ディスク領域の使用量が指定されたしきい値に達しました。

- **説明:** 最大使用量のしきい値/[オプション]ウィンドウで構成されたハードディスクスペースに達しました。
- **解決方法:** これらのしきい値に達したことを伝える警告メッセージを受信した場合は、以下の方法で対処できます。
  - **メモリーの警告** の場合は、開いている他のアプリケーションを閉じるか、大量のメモリーを消費しているワークフロー（イメージ処理のワークフローなど）を停止して、メモリーを解放します。
  - **ハードディスクスペース** の警告の場合は、一時ファイルを削除するなどして、ディスクスペースを解放します。

しきい値の制限に関する警告は、メモリの使用量が指定されたしきい値を再度下回るまで表示されることはありません。

URLの読み取りエラー

- **説明:** このメッセージは、インストールプロセスで一部のファイルをインターネットからダウンロードする必要がある場合に、ダウンロードプロセスの実行中にインターネット接続の問題が発生すると表示されることがあります。
- **解決方法:** インターネットの接続を確認して、インストールプロセスをもう一度試してみます。参考までに、以下のパッケージは、インストールCDから取得できない場合にインターネットからダウンロードされます。

  32ビットプラットフォーム:

  - Microsoft Visual C++ 2010再頒布可能パッケージ（x86）
  - Windowsインストーラー4.5 再頒布可能パッケージ
  - Microsoft .NET Framework 4.8（スタンドアロンインストーラー）

  64ビットプラットフォーム:

  - Microsoft Visual C++ 2010再頒布可能パッケージ（x86）
  - Microsoft Visual C++ 2010再頒布可能パッケージ（x64）
  - Windowsインストーラー4.5 再頒布可能パッケージ
  - Microsoft .NET Framework 4.8（スタンドアロンインストーラー）

ワークフローを開始できませんでした。ワークフローに欠落しているプラグインノードがあります。

- **説明:** 欠落しているプラグインノードを含むワークフローを実行しようとしています。メッセージボックスには欠落しているノードの一覧が示されています。この問題が解決されるまで、ワークフローを実行することはできません。
- **解決方法: [OK]** ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じてから、欠落しているノードをインストールするか、それらのノードをワークフローから削除してからワークフローをもう一度実行してみます。

ワークフローを開始できませんでした。ワークフローが検証に合格しませんでした。もう一度ワークフローを開始する前に、ワークフローを編集して検証上の問題をすべて修正する必要があります。

- **説明:** まだ検証に合格していないワークフローを実行しようとしています。
- **解決方法: [OK]** ボタンを選択してメッセージボックスを閉じてから、ワークフロービルダーでワークフローを編集し、検証で見つかった問題を解決して、ワークフローをもう一度実行してみます。

ワークフローを開始できませんでした。ワークフローを開始できません。SMTP入力ノードで現在実行中の別のワークフローがあります。

- **説明:** SMTP入力ノードは、1つのアクティブ化されたワークローにのみ存在できますが、SMTP入力ノードを同様に持つ別のワークフローを実行しようとしています。そのワークフローを実行することはできません。
- **解決方法: [OK]** ボタンを選択してメッセージボックスを閉じてから、ワークフロービルダーでワークフローを編集し、SMTP入力ノードを削除します。

このデバイスにアプリケーションを登録できませんでした。

- **説明:** 複合機パネルノードを使用するために複合機を登録しようとしていますが、インストール時に[コンポーネント選択]ウィンドウでbESTサーバーオプションが選択されませんでした。
- **解決方法:** アプリケーションを再インストールして、bESTを選択するようにします。

このデバイスのアプリケーションを登録解除できませんでした。

- **説明:** 複合機パネルノードから複合機を登録解除しようとしていますが、別のユーザーがすでに登録を引き継いでいます。他のユーザーが登録を引き継いでいる場合、元のユーザーは複合機でアプリケーションを使用することはできず、デバイスを登録解除することもできません。
- **解決方法:** デバイスのステータスを未登録に変更するには、**[はい]** ボタンを選択します。

  このエラーが、その時点では複合機の処理がビジー状態であり、外部のコマンドを受信できなかったことによるものと思われる場合には、**[いいえ]** ボタンを選択して、もう一度登録を試みてください。

このデバイスのアプリケーションを登録解除できませんでした。このデバイスには「グラフィカルユーザーインターフェイス」を登録するために必要なi-Optionがインストールまたはライセンス付与されていません。

- **説明:** 「グラフィカルユーザーインターフェイス」のパネル表示設定で複合機パネルノード用の複合機を登録しようとしていますが、複合機にはi-Optionがインストールされていないか、i-Optionのライセンスがありません。
- **解決方法:**
  - 自動的にパネル表示設定を「ネイティブユーザーインターフェイス」に切り替えて、複合機を登録するには、**[はい]** ボタンを選択します。
  - 何も変更をせずに[複合機登録]ウィンドウに戻るには、**[いいえ]** ボタンを選択します。

言語ファイルは正常にインポートされました。

- **説明:** このメッセージは、言語マネージャーから新しい言語を追加した後に表示されます。
- **解決方法: [OK]** ボタンを選択すると、メッセージが閉じます。

ロックすると、このカウンターはリセットできなくなります。

- **説明:** これは、高度なベイツスタンプノードでカウンターをロックしようとしたときに表示される確認のメッセージです。
- **解決方法:** ロック操作を続行するには、**[はい]** ボタンを選択します。この操作をキャンセルするには、**[いいえ]** ボタンを選択します。カウンターをロックすると、そのカウンターをリセットすることはできず、カウンターをもう一度ロック解除することはできなくなます。

ライセンスファイルの更新が必要です。

- **説明:** アプリケーションを実行しようとしていますが、最初にライセンスファイルを更新する必要があります。
- **解決方法:** 新しいプラグインノードフレームワークが追加されたため、ライセンスファイルを更新する必要があります。[ライセンスマネージャー]ウィンドウに移動します（アプリケーションのメイン画面の **[ヘルプ]** プルダウンメニューから **[ライセンスマネージャー]** を選択します。）そこで、ライセンスファイルを自動または手動で更新するよう選択できます。手動でのライセンスファイルの更新を選択した場合は、**SEC Webサイト** からそのファイルをダウンロードする必要があります。

このカウンターをリセットすると、現在の値は元の開始値に戻ります。

- **説明:** これは、高度なベイツスタンプノードでカウンターをリセットしようとしたときに表示される確認のメッセージです。
- **解決方法:** リセット操作を続行するには、**[はい]** ボタンを選択します。この操作をキャンセルするには、**[いいえ]** ボタンを選択します。カウンターをリセットすると、現在の値が変更され、最初に指定した開始値に戻されます。

以下の複合機は複合機パネルノードに追加されていますが、現在登録されていません。

- **説明:** 検証エラーにより、複合機パネルノードの設定を保存できません。複合機パネルノードで使用するために追加された複合機は、登録解除されました。
- **解決方法:** 次の操作のいずれか1つを行います。
  - 複合機パネルノードウィンドウの **[選択された複合機]** 領域から複合機を削除します。*または*
  - **複合機登録ツール** を起動して複合機を再登録します。*または*
  - 複合機パネルノードウィンドウで **[有効]** ボックスのチェックを外して、複合機パネルノードを無効にします。これにより、このノードは使用できなくなりますが、他の部分は必要に応じて変更できるようになります。

欠落しているプラグインノードがあるためワークフローを保存できません。

- **説明:** 欠落しているプラグインノードを含むワークフローを保存しようとしています。
- **解決方法:** メッセージに示された欠落しているノードをインストールするか、それらのノードをワークフローから完全に削除して、ワークフローが正常に実行されるようにします。それが終わるまで、ワークフローを保存することはできません。

現時点で入手できる更新はありません。

- **説明: [ヘルプ]** メニューから **[更新の確認]** オプションを選択しました。現在実行されているアプリケーションは最新のものです。更新は見つかりませんでした。
- **解決方法: [OK]** ボタンをクリックして、メッセージボックスを閉じます。

ご使用のソフトウェアで使用可能な新しいライセンスの更新はありません。

- **説明:** ライセンスマネージャーでライセンスを更新しようとしましたが、指定したライセンスには現在のライセンスの更新が何も含まれていません。
- **解決方法: [OK]** ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じてから、別のファイルでライセンスの更新を試みます。

選択したサンプルドキュメントは小さすぎてプレビューにロードできません。別のサンプルドキュメントをロードしてください。

- **説明:** 高度なベイツスタンプノードウィンドウで、インチ四方よりも小さいサンプルドキュメントのアップロードを試みています。このような操作を行うことはできません。
- **解決方法: [OK]** ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じてから、より大きなサンプルドキュメントのアップロードを試みます。

このデバイスを登録解除すると、このデバイスに関連付けられたすべてのワークフローが動作を停止します。

- **説明:** 複合機登録ツールを使用して、複合機の登録を解除しようとしています。これは確認メッセージです。
- **解決方法: [はい]** ボタンを選択して、複合機デバイスの登録を解除します。

更新を利用できます。[続行]をクリックすると、利用できるすべての更新が表示されます。

- **説明:** [ヘルプ]メニューから **[更新の確認]** オプションを選択しました。更新はインストールできます。**[続行]** ボタンをクリックすると、アドインマネージャーが表示されて、更新をインストールできます。
- **解決方法:** **[続行]** ボタンを選択して、アドインマネージャーを起動します。

警告: ページ X が大きすぎます。最大値は YYYY × ZZZZ に設定されています。

- **説明:** 指定された最大ピクセルサイズより大きいページを処理しようとしています。既定では、ノードは 8400 × 8400 ピクセル(幅×高さ)に設定されています。
- **解決策:** ノードの最大ピクセルサイズを調整します([詳細設定]>[認識])。許可される最大ピクセルサイズは32000 × 32000です。

警告!このワークフローは正常に完了していないようです。処理が不完全なファイルが含まれています。

- **説明:** 以前にワークフローの失敗またはシステムエラーにより停止したワークフローを実行しようとしています。
- **解決方法:** 次の操作のいずれか1つを行います。
  - 最初に停止した時点からワークフローの実行を再開するには、**[再開]** ボタンを選択します。 *または*
  - ワークフローが停止した時点で処理されていたすべてのファイルを削除して、通常どおりにワークフローを開始するには、**[削除]** ボタンを選択します。

警告:サービスとして実行するように設定されていないワークフローでファイルを処理している間、Dispatcher Phoenixアプリケーションインターフェイスを閉じるよう選択しました。

- **説明:** サービスでないワークフローで処理が実行されているときにアプリケーションを閉じようとしました。ワークフローはワークフロースケジューラーで「サービス」ワークフローとしてマークできます。それにより、(アプリケーションが実行していなくても)PCが起動している限りワークフローを実行できるようになります。
- **解決方法:** 次の操作のいずれか1つを行います。
  - 現在処理しているすべてのファイルがワークフローを終了した *後に* すべての非サービスワークフローを停止するには、**[終了]** ボタンを選択します。
  - ワークフローを *ただちに* 停止して、現在処理中のファイルを削除するには、**[強制終了]** ボタンを選択します。
  - 現在処理されているすべての非サービスワークフローを一時停止するには、**[一時停止]** ボタンを選択します。
  - この閉じる操作をキャンセルしてメッセージボックスを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。

警告:現在ファイルを処理中のワークフローを停止するよう選択しました。

- **説明:** 現在ファイルを処理中のワークフローを停止しようとしています。
- **解決方法:** 次の操作のいずれか1つを行います。
  - 処理しているファイルがワークフローを離れた *後で* のみワークフローを停止するには、**[終了]** ボタンを選択します。 *または*
  - ワークフローを *ただちに* 停止して、処理中のファイルをすべて削除するには、**[強制終了]** ボタンを選択します。 *または*
  - 停止操作をキャンセルしてメッセージボックスを終了するには、**[キャンセル]** ボタンを選択します。

すべてのDispatcher Phoenixをアンインストールしますか、それとも一部のアドインのみをアンインストールしますか?

- **説明:** Windowsの[コントロールパネル]を使用してアプリケーションをアンインストールしようとしています。
- **解決方法:** 確認のメッセージボックスで、以下のいずれか1つの操作を行います。
  - アプリケーション全体を削除するには、**[はい]** ボタンを選択します。
  - アプリケーションの特定のコンポーネントを削除するには、**[いいえ]** ボタンを選択します。アドインマネージャーに戻ります。

欠落しているプラグインノードを含むワークフローを編集しています。

- **説明:** 欠落しているプラグインノードを含むワークフローを編集しようとしています。このメッセージは、ワークフロービルダーが開く前に表示されます。
- **解決方法:** メッセージに示された欠落しているノードをインストールするか、それらのノードをワークフローから完全に削除して、ワークフローが正常に実行されるようにしてください。

欠落しているプラグインノードを含むワークフローをエクスポートしています。

- **説明:** 欠落しているプラグインノードを含むワークフローをエクスポートしようとしています。
- **解決方法:** エクスポート操作は続行できますが、ワークフローには欠落しているプラグインノードが含まれなくなります。欠落しているノードを後からインストールしても、それらのノードに対して定義されていたプロパティは使用できなくなります。

欠落しているプラグインノードを含むワークフローをインポートしています。

- **説明:** 欠落しているプラグインノードを含むワークフローをインポートしようとしています。
- **解決方法:** インポート操作は続行できますが、ワークフローには欠落しているプラグインノードが含まれなくなります。欠落しているノードを後からインストールしても、それらのノードに対して定義されていたプロパティは使用できなくなります。

欠落しているプラグインノードを含むワークフローをペーストしています。

- **説明:** 欠落しているプラグインノードを含むワークフローをペーストしようとしています。
- **解決方法:** ペースト操作の続行を選択すると、欠落しているノードのプロパティが含まれなくなり、ワークフローが正常に実行されないことがあります。欠落しているノードを後からインストールしても、それらのノードに対して定義されていたプロパティは使用できなくなります。

欠落しているプラグインノードを含むワークフローをスケジューリングしています。

- **説明:** 欠落しているプラグインノードを含むワークフローをスケジューリングしようとしています。
- **解決方法:** 欠落しているノードをインストールするか、ワークフローから削除するまで、ワークフローをスケジュールすることはできません。スケジューリング操作を続行するには、メッセージボックスで[OK]ボタンを選択してから、欠落しているノードを再インストールするか、削除します。

1つのページに複数存在する要素、または複数のページに存在する要素の切り取り/削除を行おうとしています。

- **説明:** このメッセージは、[オリジナルをペースト]オプションを使用してノードをペーストしてからそのノードを削除しようとしたときに表示されることがあります。
- **解決方法:** 次の操作のいずれか1つを行います。
  - **[削除]** ボタンを選択して、選択したノードを削除します。
  - **[すべて削除]** ボタンを選択して、すべてのノードを削除します。
  - **[キャンセル]** ボタンを選択して、何もせずにメッセージボックスを閉じます。

追加入力のライセンスが正常にアクティブ化されました。

- **説明:** このメッセージは、追加入力のライセンスを更新した後に表示されます。
- **解決方法:** **[OK]** ボタンを選択してメッセージボックスを閉じます。

ライセンスは正常に更新されました。新しくライセンスが交付されたノードを完全に機能させるには、アプリケーションの再起動が必要です。

- **説明:** このメッセージは、新しいノードのライセンスを更新した後に表示されます。
- **解決方法:** 新しくライセンスが交付されたノードのすべての機能を使用するには、メッセージボックスを閉じて、アプリケーションを再起動します。このメッセージボックスを閉じると、新しくライセンスが交付されたノードをインストールするためにアドインマネージャーが自動的に起動します。

一般的な問題

問題: ワークフローにノードではなく、次のような画像が表示される。

解決方法: 現在はアンインストールされているかライセンスが交付されていないノードがワークフローに含まれています。ワークフローを編集または保存するには、ノードをダブルクリックして30日間のデモノードをインストール/アクティブ化するか、欠落しているノードのライセンスをアクティブ化するか、ワークフローからノードを削除する必要があります。

問題: ワークフローでノードの画像の上部に、次の図のような赤いばらばらのジグソーパズルのピースが表示される。

解決方法: インポートされているワークフローには、アンインストールされているかライセンスが交付されていない、画像がカスタマイズされたノードが含まれています。欠落しているノードをインストールするか、そのノードのライセンスを取得します。あるいは、ワークフローからノードを削除します。そうすれば、ワークフローを編集または保存できるようになります。

問題: 以下のいずれかのメッセージが表示される。

「Workflow Serviceへの接続に失敗しました...ターゲットマシンが能動的に拒否したため、接続を行えませんでした。」

または

「このシステムでWorkflow Serviceが正しく動作していることを確認してください。」 エラー: ConnectionRefused

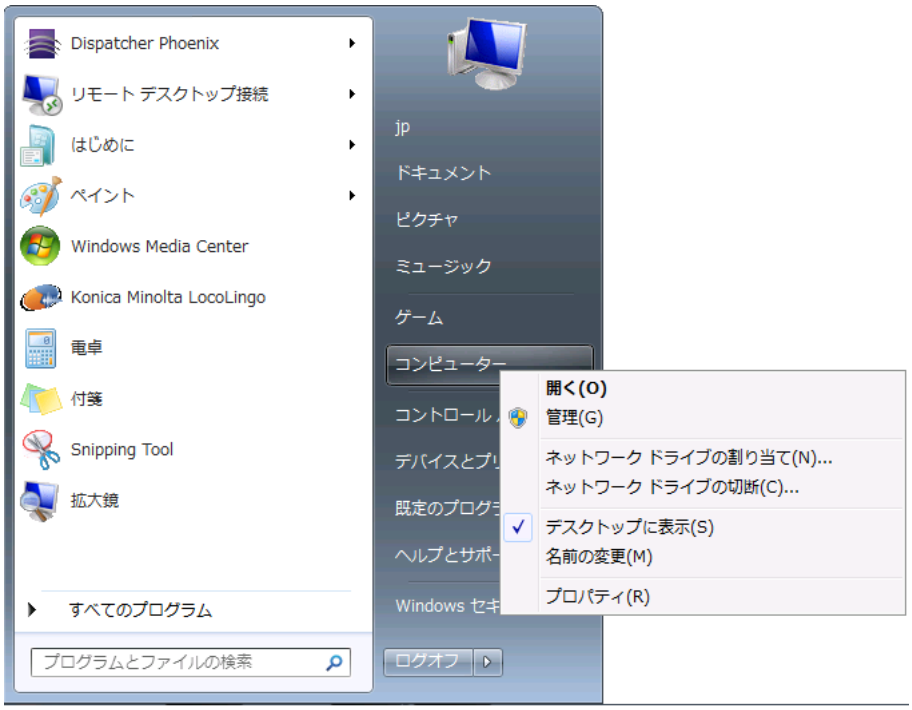
解決方法: これらのメッセージは、「SEC Workflow Services」と呼ばれるWindowsサービスが実行されていないことを示しています。

SEC Workflow Servicesの開始を試みることができます（Windowsの[コントロールパネル]で、[管理ツール]>[サービス]の順に選択して、[サービス]ウィンドウを開きます）。

または、「conopsd」ユーザーに何らかの問題がある可能性があります（SEC Workflow Servicesは「conospd」として実行されるように設定されています）。

• 最初に、以下の手順に従って、「conopsd」ユーザーがロックされていないことを確認します。

1. Windowsのスタートボタンをクリックしてから、[コンピューター]を右クリックして、[管理]オプションを選択します。

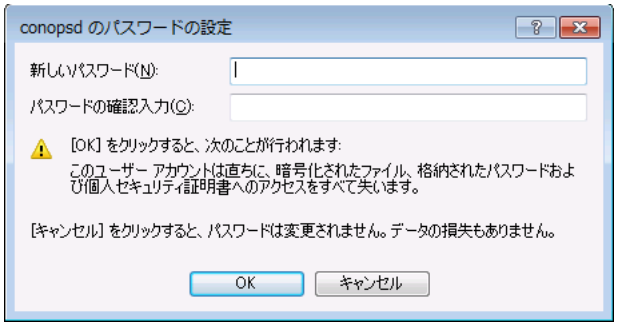


2. [コンピューターの管理]ウィンドウが開いたら、[ローカルユーザーとグループ]をクリックして展開します。
3. [ユーザー]をクリックしてから、conopsdを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
4. 以下の図のように、[conopsd のプロパティ]ウィンドウで、[アカウントを無効にする]と[アカウントのロックアウト]の2つのオプションのチェックが外れていることを確認します。

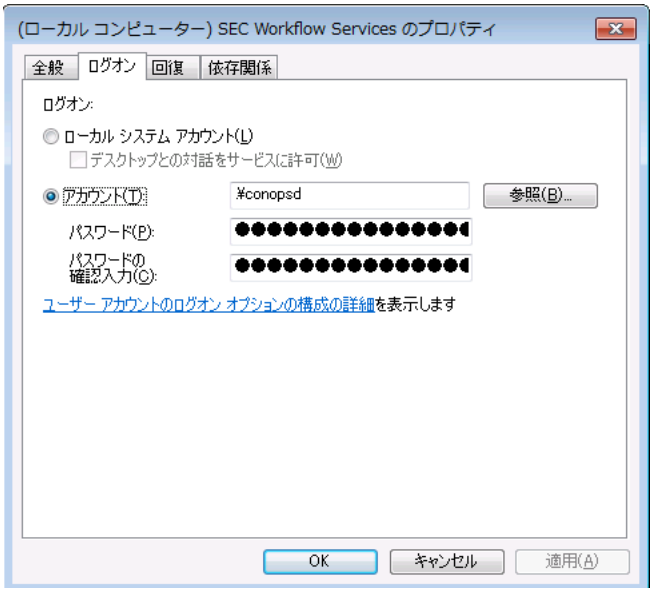
5. SEC Workflow Servicesは「conopsd」ユーザーとして実行されるように設定されているので、このユーザーがロックされていないことを確認します。

• 他に問題として考えられるのは、パスワードの不一致です。SEC Workflow Servicesは「.\conopsd」ユーザーとして実行されるように設定されています。そのためには、Windowsでconopsdユーザーの正しいパスワードが保存されている必要があります。そのパスワードを変更したときには、conopsdユーザーとして実行されているSEC Workflow Servicesも更新する必要があります。Workflow Servicesでいくつかの更新をまだ実行していない場合は、conopsdユーザーのパスワードがサービスのファイルで指定されているものと一致していることを確認するとよいでしょう。以下の手順を実行します。

1. [コンピューターの管理]ウィンドウで、[ユーザー]をクリックします。次に、[conopsd]を右クリックして、[パスワードの設定]オプションを選択します。
2. 以下の図のように、警告メッセージが表示されたら[続行]をクリックし、[conopsdのパスワードの設定]ウィンドウで新しいパスワードを入力して確認します。



3. [コンピューターの管理]ウィンドウに戻って、[サービスとアプリケーション]をクリックします。
4. サービスをクリックしてから、[SEC Workflow Services]を右クリックします。
5. [プロパティ]オプションを選択してから、[ログオン]タブをクリックします。
6. 以下の図のように、先ほどconopsdに対して作成したパスワードと一致する、SEC Workflow Servicesの新しいパスワードを入力して確認します。



インストール/登録

問題: インストール時に、以下のメッセージが表示される。

「このノードの一部の機能は、Microsoft.NET Framework 4.8がないと正しく動作しないことがあります。フレームワークをWindows Updateからインストールするか、マイクロソフトのWebサイトからダウンロードしてください。」

解決方法: 特定のノードの機能がすべて正しく動作するには、指定されたフレームワークが必要です。Windows UpdateまたはマイクロソフトのWebサイト（www.microsoft.com/ja-jp/）からMicrosoft.NET Framework 4.8をダウンロードして、システムを更新してください。

問題: インストールエラー1935が発生する。

解決方法: サードパーティーから提供される特定の依存コンポーネントが見つからないと、このエラーが発生します。Dispatcher Phoenixは、サードパーティーから提供される以下の依存コンポーネントのインストールを実行します。

- Windowsインストーラー4.5 再頒布可能パッケージ
- Windows Management Framework Coreパッケージ（Windows PowerShell 2.0）
- Microsoft .NET Framework Version 2.0 再頒布可能パッケージ
- Microsoft .NET Framework 3.0 再頒布可能パッケージ
- Microsoft .NET Framework 4.8（スタンドアロンインストーラー）
- Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージ
- Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ
- Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ

これらのパッケージのいずれかに問題がある場合は、トラブルシューティングに関する詳しい情報をマイクロソフトに問い合わせてください。

問題: 製品を登録するときに、以下のエラーメッセージが表示される。

「登録に失敗しました。購入コードのライセンスは失効しているため、製品を登録できません。」

解決方法: このエラーは、アクティブ化されていないライセンスを持つ購入コードを使用して登録をしようとしているときに起きることがあります。以下のように対処してください。

1. メッセージウィンドウで **[OK]** ボタンを選択してメッセージを閉じます。
2. **[戻る]** ボタンを選択して、メインの[Dispatcher Phoenixの登録]ウィンドウに戻ります。
3. ウィンドウの下部で **[ライセンス移行]** ボタンを選択します。
4. ライセンスの移行をアクティブ化するには、非アクティブ化されたロック解除コードと購入コードが必要になります。

問題: Corporate Announcements アプリケーションもインストールされているシステムにアプリケーションをインストールするときに、以下のメッセージが表示される。

「セットアップはこのシステム上にMicrosoft PowerShell 1.0を検出しましたが、Dispatcher PhoenixではPowerShell 2.0以上が必要です。Microsoft PowerShell 1.0をアンインストールして、このインストーラーを再実行してください。」

解決方法: Windows 8 またはそれ以降の場合の手順: PowerShell 1.0をシステムから正しくアンインストールするには、以下の手順を実行してください。

1. [プログラムと機能]を開きます。(スタート>コントロールパネル>プログラム>プログラムと機能)
2. [インストールされた更新プログラムを表示]をクリックして[インストールされた更新プログラム]画面を開きます。
3. 以下の番号のサポート技術情報を参照して、インストールされた更新プログラムを見つけます。KB968930
4. 次のプログラムが確認できます。
    - “Windows PowerShell 1.0 …. (KB968930)”
    - “Windows Management Framework Core (KB968930)”
5. これら両方の更新プログラムをアンインストールします。
6. システムを再起動します。
7. インストールプログラムを再開します。

ログイン

問題: Dispatcher Phoenixにログインしようとしているときに、パスワードを入力しないとアクセスが拒否され続ける。

解決方法: 既定では、Windowsでパスワードが空のままでもユーザーの認証が許可されるのは、[ようこそ]画面だけです。パスワードが未入力でもDispatcher Phoenixなどの他のアプリケーションが動作するためには、パスワードが空の場合のコンピューターのセキュリティポリシーを変更する必要があります。そのためには、コンピューターのローカルセキュリティポリシーを編集する必要があります。

Windows 10の場合

• [スタート]>[コントロールパネル]>[システムとセキュリティ]>[管理ツール]に移動します。

• [ローカルセキュリティポリシー]アプリケーションをダブルクリックします。

• [セキュリティの設定]>[ローカルポリシー]>[セキュリティオプション]に移動します。

• 「アカウント:ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソールログオンのみに制限する」というポリシーを見つけます。

• Dispatcher Phoenixに対してこのポリシーを無効にして、パスワードが空でもユーザーアカウントがサポートされるようにします。

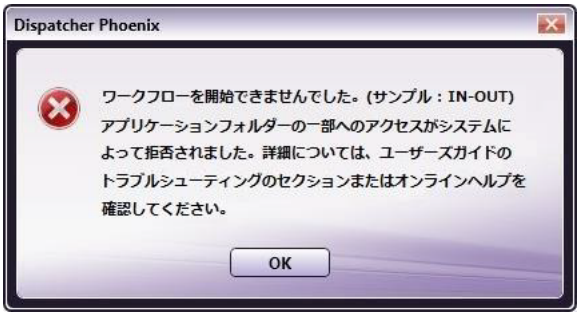
問題: Windowsのユーザープロファイルにパスワードが設定されていず、Workflow Servicesに接続できない。認証エラーになる。

解決方法: コンピューターのセキュリティポリシーを更新して、非コンソールログインで空のパスワードが許可されるようにします。以下の操作を行います。

1. **Windowsのスタート** ボタンをクリックして、secpol.mscを検索します。
2. secpol.mscプログラムを起動します。
3. [ローカルセキュリティポリシー]ウィンドウで、[セキュリティの設定]（左側）の[ローカルポリシー]をクリックします。
4. **[セキュリティオプション]** をクリックします。
5. [ポリシー]のリストで「アカウント: ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソールログオンのみに制限する」を右クリックしてから、[プロパティ]を選択します。
6. **[無効]** ラジオボタンをクリックしてから、**[適用]** ボタンを選択します。

ワークフローの実行

問題: ワークフローを実行すると、次の図に示すように、「ワークフローを開始できませんでした。」というエラーメッセージが表示されます。



解決方法: ワークフローエンジンが（ユーザーごとの）ワークフローの保存に使用される以下のディレクトリにアクセスできません。

%appdata%\Konica Minolta\Dispatcher Pro Phoenix Edition\data

現在のユーザーには、既定でこのフォルダーに対する読み取り/書き込みアクセス許可が与えられることになります。このディレクトリに対する許可を変更して、「conopsd」ユーザープロファイルに少なくとも読み取りアクセスが与えられるようにします。

問題: PCのタイムゾーンの設定を変更してから、スケジュールされたワークフローが正常に実行されない。

解決方法: タイムゾーンの設定を変更した後にシステムを再起動してWorkflow Schedulerが正常に機能するようにします。

ファイアウォール/デバイスの接続

問題: ネットワークドライブ/プリンター/FTPサーバー/メール送信に接続できない。

解決方法: 一部のウイルス対策ソフトウェアなどの、サードパーティーのファイアウォールアプリケーションは、Dispatcher Phoenixのノードで使用されるポートをブロックすることがあります。デバイスが接続に失敗したり、メールの送信に失敗したりしたときには、ワークフローのログに以下のようなメッセージがないかどうかを確認してください。

“[Warning][SMTP user@mail.com]Connection failed to SMTP server mail.com:25”

参考として、既定のアクセスポートを以下に示します。これらのポートの多くは管理者により手動で設定される可能性があり、値もこのリストに示すものとは異なることがあります。

- 複合機パネル: 50808
- 複合機パネル (SSL): 50809
- FTP: 21
- FTP（パッシブモード）:（サーバー定義）
- コニカミノルタ 複合機: 59158
- コニカミノルタ 複合機（SSL）: 59159
- プリンター - LPR: 515
- プリンター - RAW: 9100
- SMB/CIFS（Windows共有）:（数値）
- SMTP: 25

デバイスを正しく機能させるには、ファイアウォールアプリケーションのドキュメントを参照して、影響を受けるポートのブロックを停止するか、ワークフローエンジンプロセス（blox-erl.exe）によるアクセスを許可します。

入力

問題: ワークフローで使用するために電子メールのドキュメントをスキャンしたが、その電子メールがSMTP入力ノードで受信されていなかった。

解決方法: 複合機がTLSを使用して（暗号化された）電子メールを送信するように構成されているかどうかを確認してください。SMTPサービスは、現在TLSオプションをサポートしていません。

処理

問題: マージ済みファイルのページ数がファイルによって異なる。

解決方法: ファイルの数はページの数と必ずしも同じではありません。複数のページを含むファイルの場合、一部のマージ済みファイルに、他のマージ済みファイルよりも多くのページが含まれる、ということが起こります。ページの数を同じにするには、マージする前にファイルの分割処理を実行することをお勧めします。

問題: イメージの処理でサポートされている形式がわからない。

解決方法: Dispatcher PhoenixではWindows Imaging Components（WIC）を使用しているため、WICでサポートされているすべてのイメージ形式がサポートされます。つまり、.bmp、.gif、.jpg、.png、および.tifです。

WICでは、イメージコーデックにより、さらに多くのイメージ形式をサポーできます。その結果、Dispatcher Phoenixでは追加の形式をサポートできます。追加のイメージ形式はいずれも、テストが済んでいないことがあるため、既定のイメージ形式と結果が異なることがあります。

問題: ファイルに出力ノードが機能しない。

解決方法: ご使用のシステムに最新のWindows更新プログラムが適用され、Adobe Acrobatのアップデートがインストールされていることを確認します。

問題: ワークフローのアクティビティログに「[ファイルに出力]ファイルタイプがサポートされていません」というメッセージが記載されている。

解決方法: ファイル拡張子を含まないファイルは、ファイルに出力ノードで処理されません。以前の名前変更処理で、ファイル名の末尾以外のいずれかの場所にファイル拡張子が指定されたか、拡張子が完全に削除された場合は、ファイルに出力でファイルが処理されません。

ファイルに出力ノードで処理されるすべてのファイルについて、ファイル名の末尾にファイル拡張子が含まれていることを確認してくだい。

問題: Officeに変換ノードを使用してイメージを変換するときに、Windowsエクスプローラーで出力ファイルのファイルタイプが「Office Open XMLドキュメント」と表示される。

解決方法: 変換先のMicrosoft Officeアプリケーションが現在システムにインストールされていない場合、出力ファイルがXMLドキュメントなどの異なるファイル形式で表示されることがあります。

問題: ワークフローでMicrosoft Office Document Imagingを使用して生成されたカラーのTIFFファイルを表示することができない。

解決方法: 以下のノードで生成されたカラーのTIFFを、Microsoft Office Document Imagingを使用して表示することはできません。高度なベイツスタンプ、注釈、傾き補正、ノイズ除去、ミラーイメージ、ネガポジ反転、分割、透かし、およびマージ。Windowsフォトビューアーまたはペイントなどの別のアプリケーションを使用して、生成されたファイルを表示することをお勧めします。

問題: 高度なOCR、バーコード処理、または2Dバーコード処理ノードのプレビュー領域でサンプルドキュメントの各ページを繰り返し表示するときに、断続的に遅延が生じる。

解決方法: サンプルドキュメントがネットワーク共有からロードされていないことを確認してください。

問題: Adobe Readerバージョン11を使用しているときに、ファイルに出力ノードで、他のすべてのPDFファイルの処理に失敗する。

解決方法: Adobe Readerの環境設定（編集>環境設定>セキュリティ（拡張））で、[起動時に保護モードを有効にする]オプションのチェックを外します。

問題: ワークフローの実行時に以下のような警告エラーが記録される。

「トレーラーディレクトリのサイズキーで指定されたよりも多くのオブジェクトがこのXRefテーブルに存在します。」

解決方法: 何もする必要はありません。PDFサポートライブラリが、PDFドキュメントの形式に関して認められたエラーを報告しています。ファイルは引き続き正常に処理されています。

問題: 複合機からTIFFとしてスキャンされた複数のページのマージが機能しない。

解決方法: アプリケーションは設計されたとおりに機能しています。複合機からTIFFとしてスキャンされた複数ページのドキュメントは、1つのファイルになります。5ページをTIFFとしてスキャンしてから、別の3ページをTIFFとしてスキャンすると、2つのジョブが生成されます（それぞれのスキャンが別のジョブと見なされます）。マージ機能は、同じジョブの複数のファイルをマージするように設計されています。

複数ページのドキュメントを複合機からJPEGとしてスキャンするときには、各ページに対する1つのファイルが1つのジョブで生成されます（JPEGでは複数のページを1つのファイルに保存することができません）。

出力

問題: BoxコネクターとWebDAVコネクターを使用しているときに、エラーコードが示されたエラーメッセージが表示される。それらのエラーコードの目的がわからない。

解決方法: それらのコードは、サービスにより生成されるもので、トラブルシューティングの際BoxまたはWebDAVのベンダーとやり取りをするときに便利なものです。

問題: Boxコネクターを使用しているときに、「ログインできませんでした。認証に失敗しました」というエラーメッセージが表示される。

解決方法: このメッセージは、短時間のうちに無効な資格情報を2回以上入力した後に表示されます。以下の操作を行います。

1. WebブラウザーでBox.comのアカウントにログインします。
2. reCAPTCHAの情報の入力を求められたら、パスワードを変更してみます。
3. パスワードをリセットしてもreCAPTCHAテストが表示され続ける場合は、Boxのカスタマーサポートに連絡して、アカウントからCAPTCHAフラグを削除するよう依頼してください。

問題: SharePointコネクターを使用しているときに、「すでにチェックアウトしています」という警告メッセージが表示される。

解決方法: このメッセージは、以下のいずれかの理由により表示されます。

• ファイルがすでにチェックアウトされている可能性があります。ファイルがすでにチェックアウトされていないことを確認してください。 • 宛先URLがSharePointサイトと一致していない。IPアドレスまたはホスト名が未登録の状態でSharePointとの通信を試みていた場合は、試みていた方法で接続できるように設定またはサーバーを更新してもらうようSharePointの管理者に依頼してください。

ワークフロービルダーからの印刷

問題: ワークフロービルダーでワークフローが保存された用紙サイズで印刷されない。

解決方法: 印刷ドライバーの既定の用紙サイズ以外で何かを印刷するには、ユーザーによる手動での選択が必要になります。異なるサイズの用紙に印刷するには、印刷時に印刷ドライバーの設定画面が表示されたときに、希望の用紙サイズを選択します。ワークフロービルダーにより、イメージが自動的にこの新しいサイズに合わせて拡大縮小されます。

サンプルワークフロー

問題: アプリケーションに付属するサンプルワークフローは、内容が古くなっている可能性があります。

解決方法: サンプルワークフローをワークフローリストにインポートするには、以下の手順を実行します。

1. 既存のサンプルワークフローを削除します。
2. [ツール]ドロップダウンメニューから[サンプルワークフローのインポート]オプションを選択します。
3. 表示される[インポート]ウィンドウで、目的のサンプルワークフローをダブルクリックするか、すべてのサンプルwfxpファイルを選択して、すべてのサンプルワークフローをワークフローリスト領域にインポートします。
4. 表示される[インポートウィザード]ウィンドウで、[インポート]ボタンを選択します。これにより、ワークフローは、ワークフローリスト内の正しいフォルダーに自動的にロードされます。

最新のサンプルワークフローについては、弊社のサンプルオンラインライブラリを確認してください(メインアプリケーション画面のツールバーにあるアイコン( )をクリックするとアクセスできます)。

複合機パネルノードおよび複合機の登録

問題: 複合機パネルでワークフローが機能しなくなった。

解決方法: この問題は、以下のようないくつかの問題が原因で発生する可能性があります。

- 複合機が登録されていません。複合機登録ツールを使用して複合機を再登録してください。
- 複合機アプリケーションが別のユーザーによって継承されています。この問題は、複合機パネルに表示されるアプリケーションに対して他のユーザーが同じ名前を使用しており、そのユーザーがアプリケーションの名前を変更するのではなくあなたの登録を継承することを選択していた場合に起きる可能性があります。複合機登録ツールを使用して、複合機のステータスを未登録に変更してください。その後、別の名前でアプリケーションを再登録してください。
- インストールされているDispatcher Phoenixにライセンスが交付されているアクティブな入力の数を超えています。ワークフローで1つの入力が表示されているように見えても、複合機パネルノードで複数の複合機が割り当てられていることがあります。ライセンスをカウントするときには、これらの複合機のそれぞれが1つの入力としてカウントされます。複合機パネルノードから余分な複合機を削除して所定の数を超えないようにするか、Dispatcher Phoenixのアクティブな入力のライセンスを追加で購入してください。

問題: 「以降はこのメッセージを表示しない」オプションを有効にしても、ワークフローにアクセスしようとすると以下のメッセージが表示される。

「このページは保護されています。情報は暗号化されて送受信されます。」

解決方法: 以下のいずれかの方法で、メッセージが再度表示されないようにできます。

• OpenAPI 3.7をサポートする複合機にファームウェアをインストールします。インストール後、マシンでアプリケーションを登録すると、bESTサーバー用のSSL証明書が登録され、以降は証明書が要求されなくなります。

• 複合機のコントロールパネルのWebブラウザーから、SSLを使用する別のサイトにアクセスして、同様のメッセージが表示されたら[以降はこのメッセージを表示しない]オプションを有効にします。

問題: 以下のメッセージが表示される。

「このデバイスにアプリケーションを登録できませんでした - デバイスの詳細を取得できませんでした。」

解決方法: 複合機のOpen API設定が無効になっている可能性があります。以下の方法でこの問題を解決してください。

1. 複合機のコントロールパネルで管理者としてログインします。
2. **[システム接続]** ボタンを押します。
3. **[OpenAPI設定]** ボタンを押します。
4. **[アクセス設定]** ボタンを押します。
5. [制限]ではなく[許可]が選択されていることを確認します。

問題: 以下のポップアップメッセージが表示される。「Cookieを受け入れますか?」

解決方法: このメッセージが以降は二度と表示されないようにするには、以下の操作を行います。

1. アプリケーションメニューキーを押して、アプリケーションメニューを表示します。
2. アプリケーションメニューで[Webブラウザー]をタッチします。
3. ツールバーで[メニュー]ボタンをタッチします。
4. [設定]タブをタッチします。
5. [Cookie]オプションをタッチします。
6. [受け入れ]、[OK]の順にタッチします。
7. [設定]を終了します。

問題: bESTサーバーのドメイン認証を使用しています。複合機でDispatcher Phoenixにログインしようとすると、以下のメッセージが表示されます。「ワークフローが見つかりません。」

解決方法: Dispatcher Phoenixに誤ったドメイン名を入力したか、ドメインを変更した可能性があります。以下の操作を行って、Dispatcher Phoenixでユーザー認証に正しいドメイン名が指定されていることを確認します。

1. 複合機登録ツールを起動します(ツール>複合機登録ツール)。

2. リストから複合機を選択して、[複合機の編集]ボタンをクリックします。
3. [認証]タブを選択します。
4. 3番目のオプションが選択されており、[Windowsドメイン]フィールドに正しいドメイン名が含まれていることを確認します。

問題: 複合機でDispatcher Phoenixのワークフローにアクセスすると、証明書セキュリティ資格情報に関する以下のメッセージが表示されます。

「証明書セキュリティ資格情報が検証できませんでした。続行しますか?」

[はい]ボタンをすぐにタッチしないと、ワークフローにアクセスできなくなります。

解決方法: このメッセージが表示されないようにするには、複合機でOpenAPIのSSLをオフにする必要があります。以下の操作を行います。

1. 複合機のWebページに移動して、複合機に管理者としてログインします。
2. [ネットワーク]タブ/ボタンを選択します。
3. 画面の左側にある[OpenAPI設定]オプションをクリックします。
4. [OpenAPI]ページで、[SSL/TLSを使用]ドロップダウンリストから、[非SSLのみ]オプションを選択します。

問題: 起動後のシステム上で、KMBS bEST server サービスが自動的に開始しません。

解決方法: この問題は、bESTサービスが、正常に開始したことをWindowsが確認できるほど迅速に開始しなかった場合に起きることがあります。この問題を解決するには、以下の操作を行って、bESTサービスの開始プロファイルを調整します。

1. Windowsサービスを開きます。
2. サービスのリストからKMBS bEST server を見つけます。その項目を右クリックして、[プロパティ]を選択します。[KMBS bEST server のプロパティ]ウィンドウが開きます。
3. [スタートアップの種類]ドロップダウンリストから[自動(遅延開始)]を選択した後、[OK]ボタンを選択します。

これにより、bEST serverサービスは、コンピューターの起動のすぐ後に開始して、正常に開始するための十分なリソースにアクセスできます。

問題: ファームウェアの更新後に複合機でDispatcher Phoenixにアクセスしようとすると、以下のエラーが表示されます。

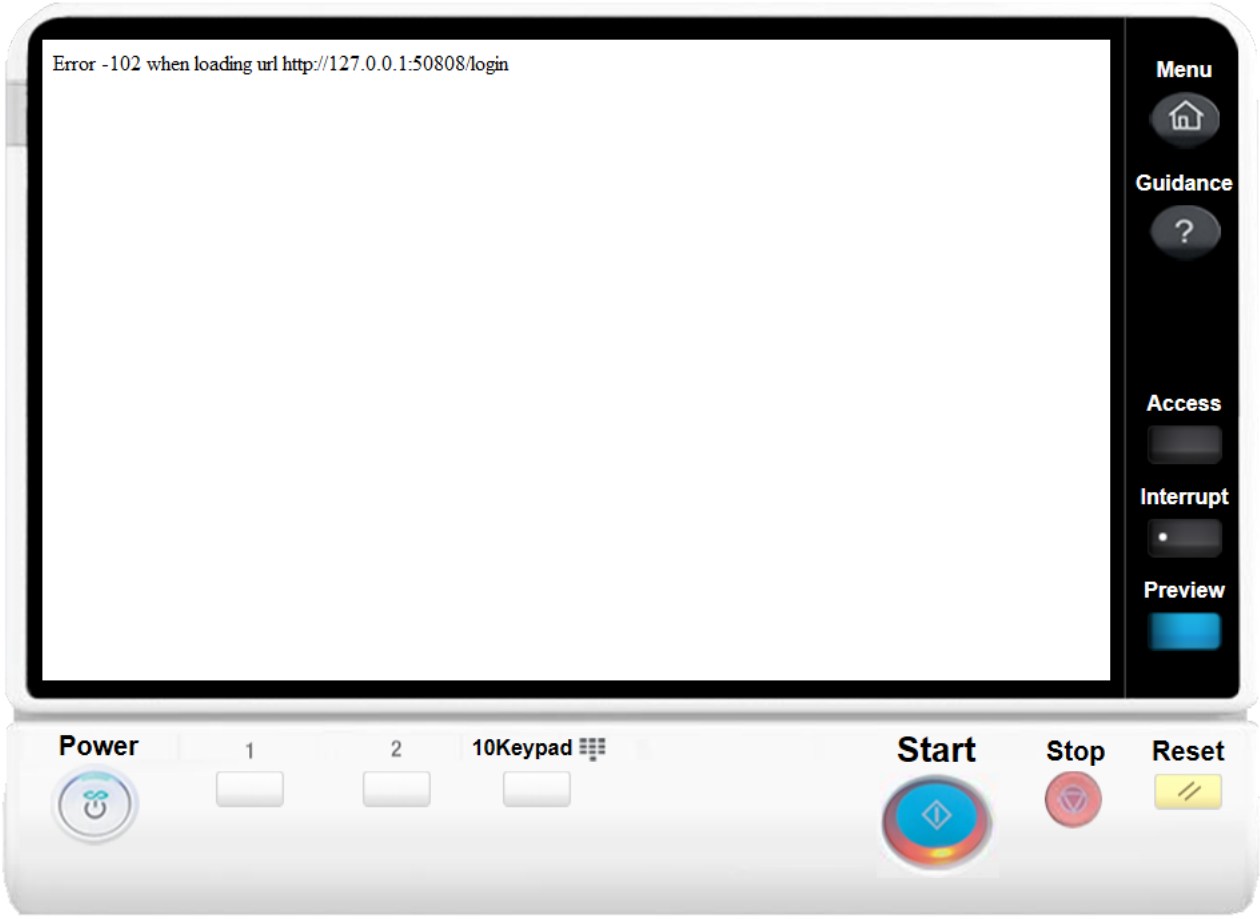
「この装置の構成ファイルは存在しません。アプリケーションを再度登録してください。」

解決方法: この問題を解決するには、以下の操作を行います。

1. bESTサーバーのホスト名/IPアドレスを再確認します(複合機登録ツールの[既定値]ボタンをクリックしてアクセスします)。
2. ローカルネットワークにIPアドレスの競合がないことを確認します。
3. ローカルネットワークにMACアドレスの競合がないことを確認します。

複合機シミュレーター

問題: Dispatcher Phoenixから対話型の複合機シミュレーターを起動すると、以下のエラーが表示されます。



解決方法: このエラーは、bESTサービスが実行を停止すると発生します。以下の操作を行います。

1. Windowsサービスを開きます。
2. リストを下方向にスクロールして、[KMBS bEST server]を見つけて選択します。
3. このサービスを開始します。

SHA-1/SHA-256 証明書

問題: 2つのデバイス間の通信障害が原因で複合機または複合機パネルノード内にエラーメッセージが表示されるか、またはワークフローへの接続に失敗したというエラーが複合機パネルに表示されます。

解決方法: 複合機がSHA-1証明書を使用しているかどうかを確認してください。SHA-1証明書はWindows環境ではサポートされなくなりました。そのため、bESTサーバー用のSHA-1証明書をSHA-256に変換する必要があります。その場合は、次の手順に従ってSHA-1証明書をSHA-256に手動で更新してください。

次の手順を実行して、bESTが使用しているSSL証明書をSHA-1からSHA-256に更新します。

1. 複合機登録ツールを使用してすべての複合機の登録を解除します。
2. 管理者としてWindowsコマンドプロンプトを起動します（管理者として実行）。
3. 次のコマンドを入力して、bEST serverを停止します: `net stop tuscon`
4. 次の手順に従ってSSL証明書を更新します。

   a. 次のコマンドを入力します: `cd "\Program Files\Konica Minolta\tuscon"`

   このエラーメッセージを削除するために、bESTサーバー バージョン3.9.3には、bESTサーバー用のSHA-256証明書を生成する"peoria.exe"というユーティリティプログラムが含まれています。

   b. 次のコマンドを入力します: `peoria.exe -r -sha256`

   このユーティリティプログラム（peoria.exe）は、bESTサーバー用のSHA-256証明書を生成します。

5. 完了したら、次のコマンドを入力してbEST serverを再起動します。: `net start tuscon`
6. 複合機登録ツールを使用してすべてのデバイスを再登録します。

これは、Windows上で稼働しているサーバーの証明書のみ更新します。SHA-256証明書でコニカミノルタデバイスの証明書を更新するには、関連するユーザマニュアルを参照してください。それでもうまくいかない場合は、コニカミノルタの認定技術者に連絡して証明書をSHA-256にアップグレードしてください。

アクティビティログ

問題: 編集したログビューアファイルを開くことができません。

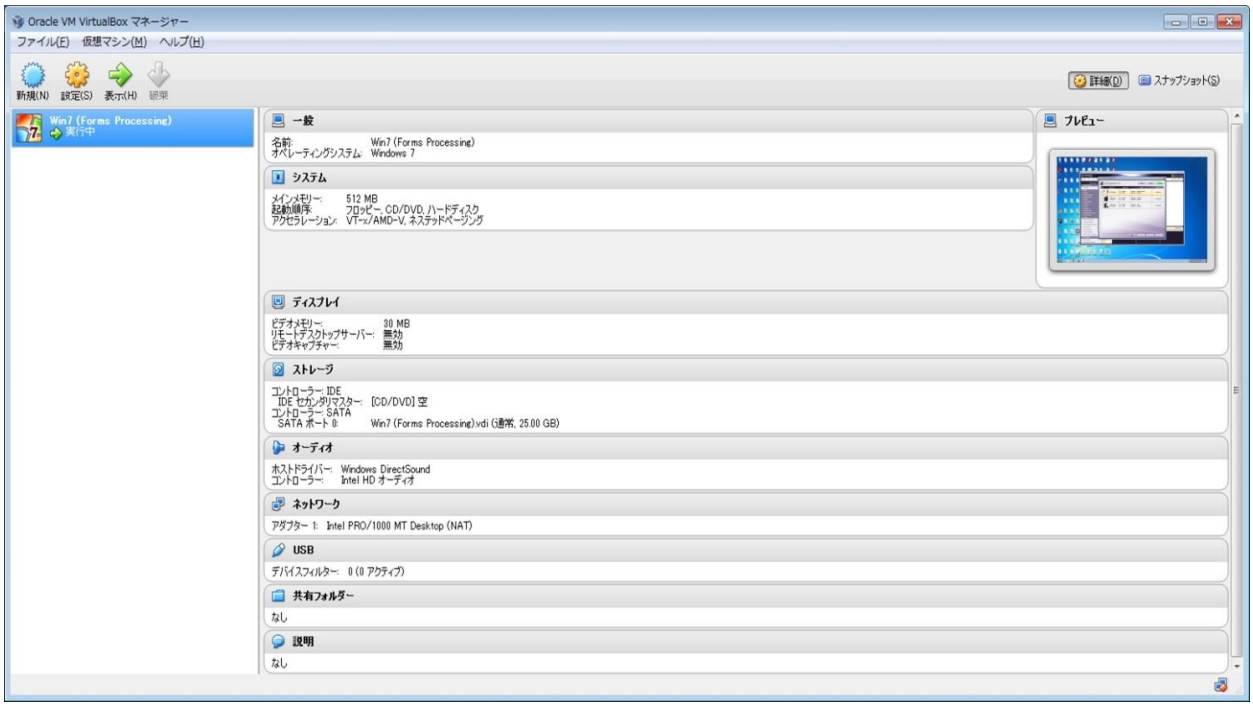
解決方法: Windowsのオプション[登録されている拡張子は表示しない]が有効になっている場合は、エクスポートしたログのファイル名を編集した後にファイルを開く際には、その前にプログラムを選択する必要があります。このオプションを無効にすると、ファイル名を編集した後でも、ファイルを自動的に開くことが可能になります。

仮想マシンでのDispatcher Phoenixの使用

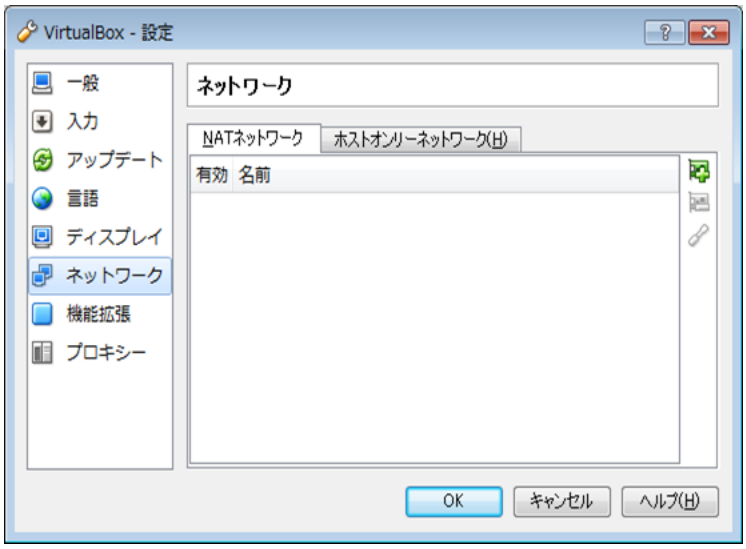
複合機と同じネットワーク上にない仮想マシンでも、Dispatcher Phoenixを使用できます。NAT（ネットワークアドレス変換）環境において、仮想マシン（ここではVirtualBox）上のDispatcher Phoenixと複合機を使用するには、以下の手順を実行します。

注: 開始する前に最新バージョンのDispatcher Phoenixがインストールされていることを確認してください。

1. VirtualBoxマネージャーを起動します。例については次の図を参照してください。



2. [VirtualBoxマネージャー]ウィンドウで、**【ファイル】**メニューから **【設定...】**オプションを選択します。
3. 次の図のように、[VirtualBox - 設定]ウィンドウの左側で **【ネットワーク】**を選択します。

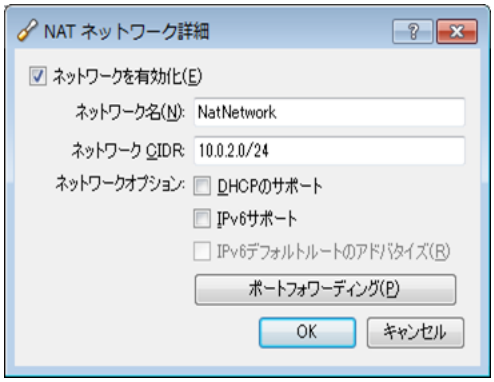


4. 新しいNATネットワークの項目をリストに追加するには、**【追加】**ボタンをクリックします。
5. 以下のいずれかの操作を行って、新しいNATネットワークを編集します。

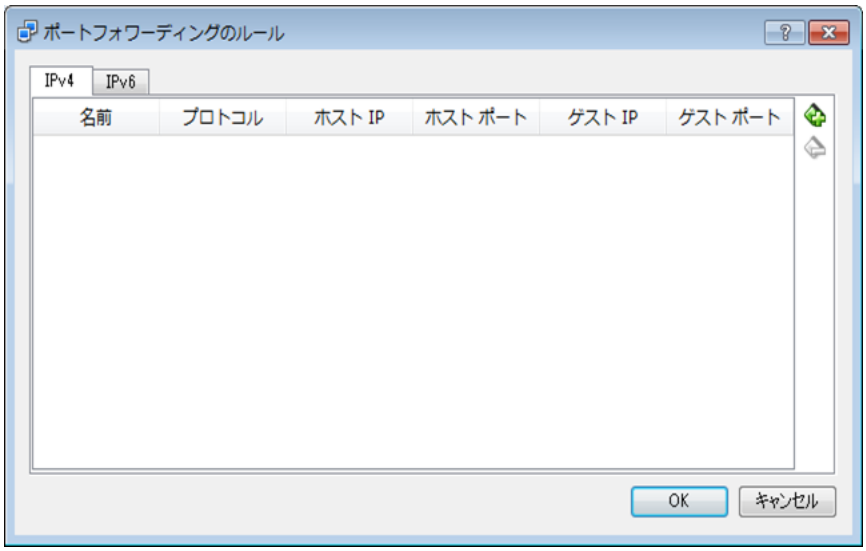
- リスト内の項目をダブルクリックします。
- 項目を選択して、**[編集]** ボタンをクリックします。

6. **[NATネットワーク詳細]** ウィンドウで、各フィールドが以下の設定になっていることを確認します。
   - **ネットワーク名** – NatNetwork
   - **ネットワークCIDR:** - 10.0.2.0/24
   - **DHCPのサポート** – 無効
   - **IPv6サポート** – 無効

   ウィンドウの表示の例については次の図を参照してください。

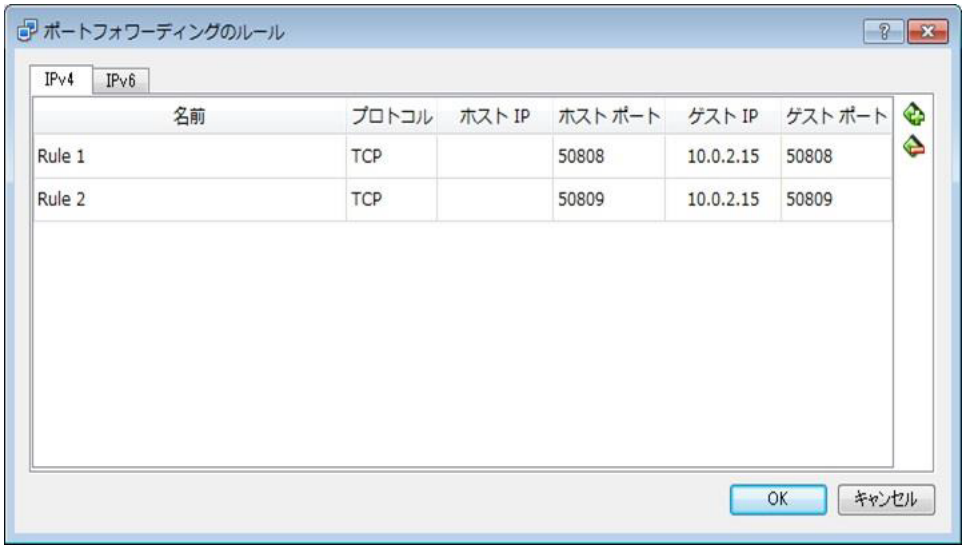


7. 完了したら、**[ポートフォワーディング]** ボタンを選択します。次のウィンドウが表示されます。



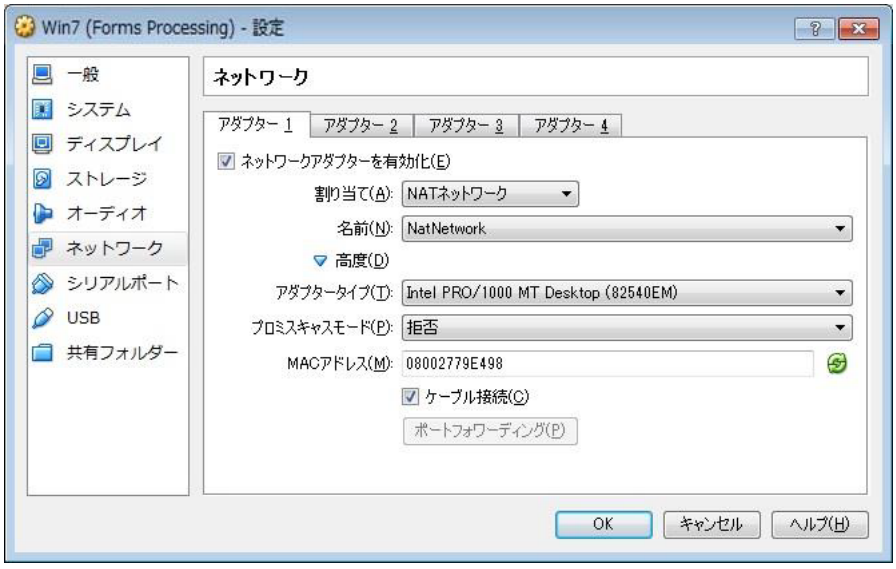
8. **[新しいルールの追加]** ボタンを2回クリックして、以下のような2つの新しい項目を作成します。
   - Rule 1の **[ホストポート]** と **[ゲストポート]** は50808にする必要があります。
   - Rule 2の **[ホストポート]** と **[ゲストポート]** は50809にする必要があります。
   - **[ゲストIP]** アドレスには、どのようなアドレスでも設定できます。ただし、ゲストマシンの設定時に必要になるため、このアドレスを覚えておいてください。

   例については次の図を参照してください。

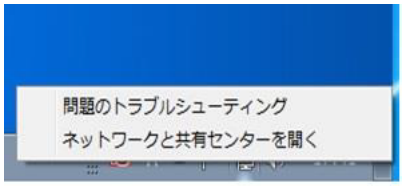


9. すべてのアクティブウィンドウで **[OK]** ボタンを選択します。
10. VirtualBoxマネージャーに表示されているゲストマシンを右クリックして、**[設定]** オプションを選択します。例については次の図を参照してください。

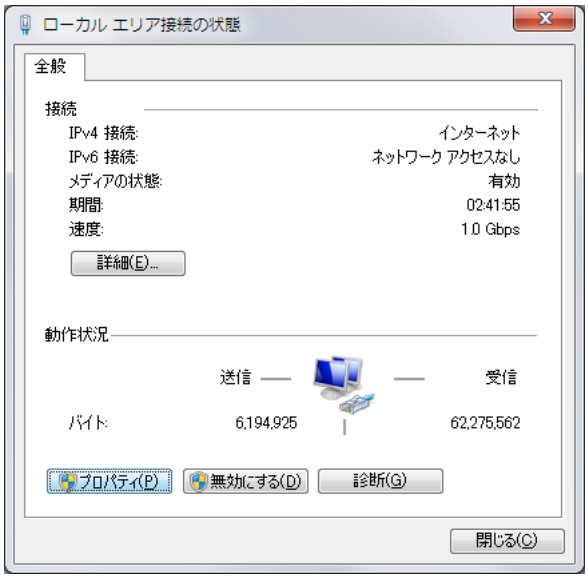
11. [設定]ウィンドウで、**[ネットワーク]** を選択します。例については次の図を参照してください。



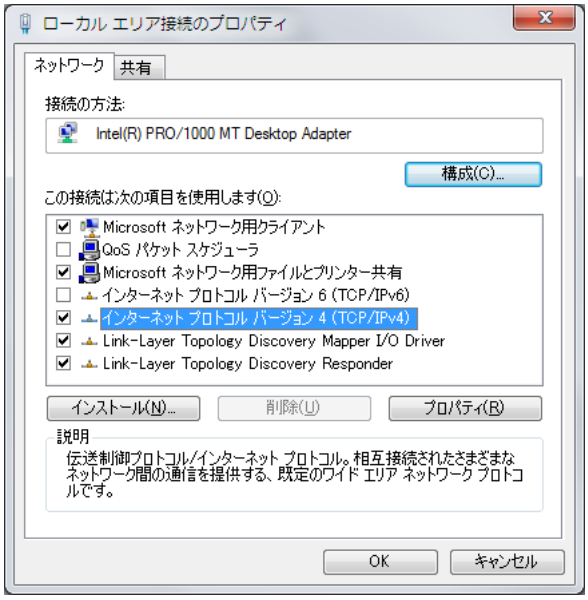
12. [ネットワーク]タブで、以下の操作を行います。
    1. **[割り当て:]** ドロップダウンリストから **[NATネットワーク]** オプションを選択します。
    2. **[名前]** の項目が作成済みのネットワーク名と一致していることを確認します。
    3. **[OK]** ボタンを選択して、設定を保存します。
13. ゲストマシンを起動します。
14. システムトレイの **ネットワークアイコン** を右クリックして、**[ネットワークと共有センターを開く]** オプションを選択します。



15. [ネットワークと共有センター]で、**[ローカルエリア接続]** リンクをクリックします。次の図のように、[ローカルエリア接続の状態]ウィンドウが表示されます。

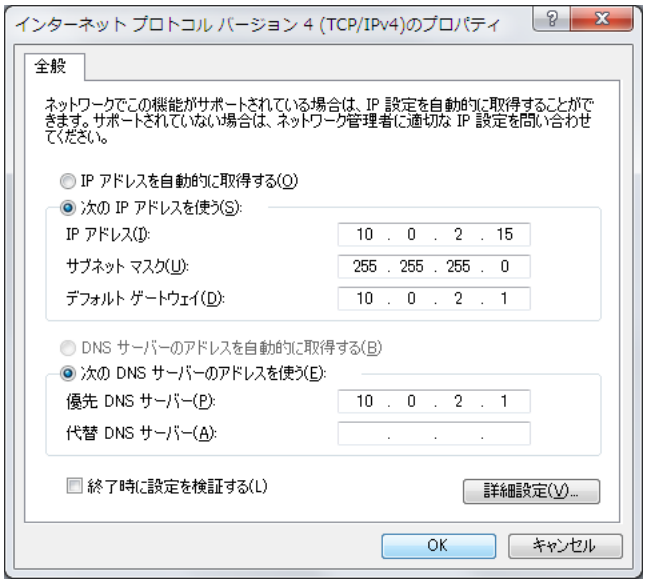


16. [ローカルエリア接続の状態]ウィンドウで、**[プロパティ]** ボタンを選択します。[ローカルエリア接続のプロパティ]ウィンドウが表示されます。
17. 次の図のように、**[インターネットプロトコルバージョン4（TCP/IPv4）]** の項目をクリックして、**[プロパティ]** ボタンを選択します。

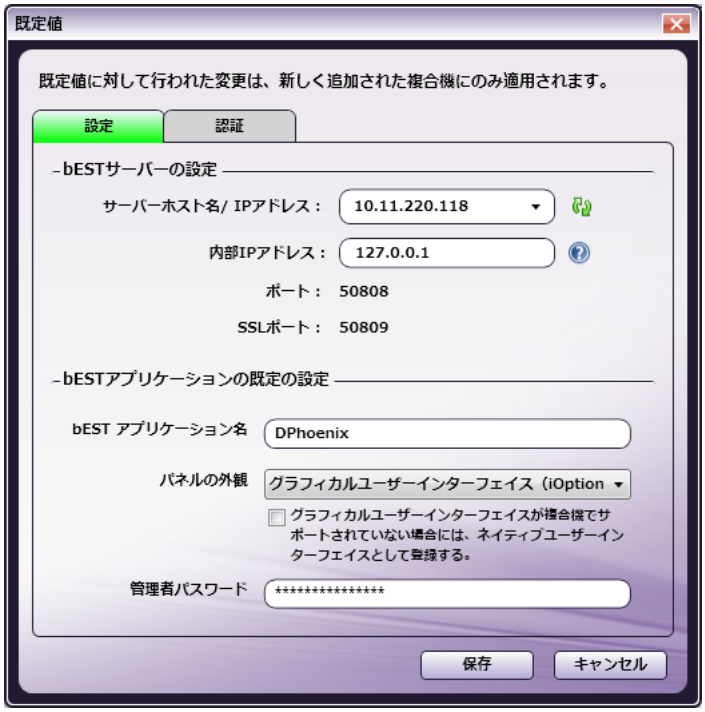


18. [インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)のプロパティ]ウィンドウで、以下の操作を行います。
    1. **[次のIPアドレスを使う]** ラジオボタンを選択します。
    2. **[IPアドレス]** フィールドに、手順8で指定したIPアドレスを入力します。
    3. **[デフォルトゲートウェイ]** フィールドに、IPアドレスの最初の3桁と最後の数字1を入力します。
    4. **[優先DNSサーバー]** に、IPアドレスの最初の3桁と最後の数字1を入力します。

    例については次の図を参照してください。



19. すべてのアクティブウィンドウで **[OK]** ボタンを選択して、設定を保存します。
20. アダプターが正常に接続することを確認します。
21. Dispatcher Phoenixを起動して、複合機エクスプローラーツールを開きます。
22. 複合機エクスプローラーツールで、**[既定値]** ボタンを選択します。
23. [既定値]の[設定]ウィンドウで、**[サーバーホスト名/IPアドレス]** フィールドの値が、外部から認識可能なNATサーバーのIPアドレスであることを確認します。
24. **Ctrl+Shift+D** キーを押して、次の図のように、**[内部IPアドレス]** フィールドを表示します。



25. 内部IPアドレスが127.0.0.1に設定されていることを確認します。
26. **[保存]** ボタンを選択して、変更内容を保存します。
27. 自動検出ツールでは、プリンターは検出されません。**[複合機を追加]** ボタンを選択して、IPアドレスによって複合機を手動で追加します。

チュートリアル

複合機パネルでのベイツスタンプ

このチュートリアルでは、高度なベイツスタンプ処理が拡張されて、新規または既存のベイツスタンプを複合機パネルで直接作成または変更できるようになったことを説明します。

概要: A法律事務所では、一意のID（クライアントID）を、受信ドキュメントの各ページに適用する必要があります。現在手動で行っている処理をなくすため英数字スタンプのソリューションを探しています。さらに、一意のIDの形式はそのときスキャンされるドキュメントに応じて変わる可能性があり、高度なフォーマット機能とコンテンツを備えた新しいベイツスタンプを複合機パネルで作成する柔軟性を求めています。

チュートリアルの概要: Dispatcher Phoenixでは、ベイツスタンプのワークフローを作成して複合機パネルで直接実行および変更できます。複合機パネルでDispatcher Phoenixの高度なベイツスタンプノードのすべての機能にアクセスして実行できるようになりました。このチュートリアルでは以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenixワークフローを作成して、bEST対応複合機からのドキュメントの受信、ベイツスタンプの適用、処理済みファイルのデスクトップ上のフォルダーへの配信を行います。
2. 複合機パネルで、既存のベイツスタンプを変更します。
3. 複合機パネルで、新しいベイツスタンプを作成します。

開始する前に: このワークフローを作成するには以下の操作を行います。

1. デスクトップに「out」という出力フォルダーを作成します。
2. このワークフローで使用する複合機を登録します。
3. bESTサーバーを設定します。

必要ステップ: このチュートリアルでは次の手順を実行します。

1. ワークフローを作成する
2. 複合機パネルノードを設定する
3. 出力フォルダーノードを構成する
4. 高度なベイツスタンプノードを設定する
5. ノードを接続する
6. ワークフローを検証する
7. ワークフローを実行する
8. 複合機でワークフローへアクセスする

9. 複合機でベイツスタンプにアクセスする
10. ClientIDスタンプをカスタマイズする
11. 別のスタンプをノードに追加する
12. ワークフローを実行する

1. ワークフローを作成する

ワークフローを作成するには、まず、アプリケーションのメイン画面にあるツールバーで **[新規ワークフロー]** アイコンをクリックします。この操作で、ワークフロービルダーが開きます。ウィンドウの右側にある[キャンバスのプロパティ]パレットの **[プロジェクト名]** フィールドにプロジェクトにふさわしい名前を入力します（例：「パネルのベイツスタンプ」）。

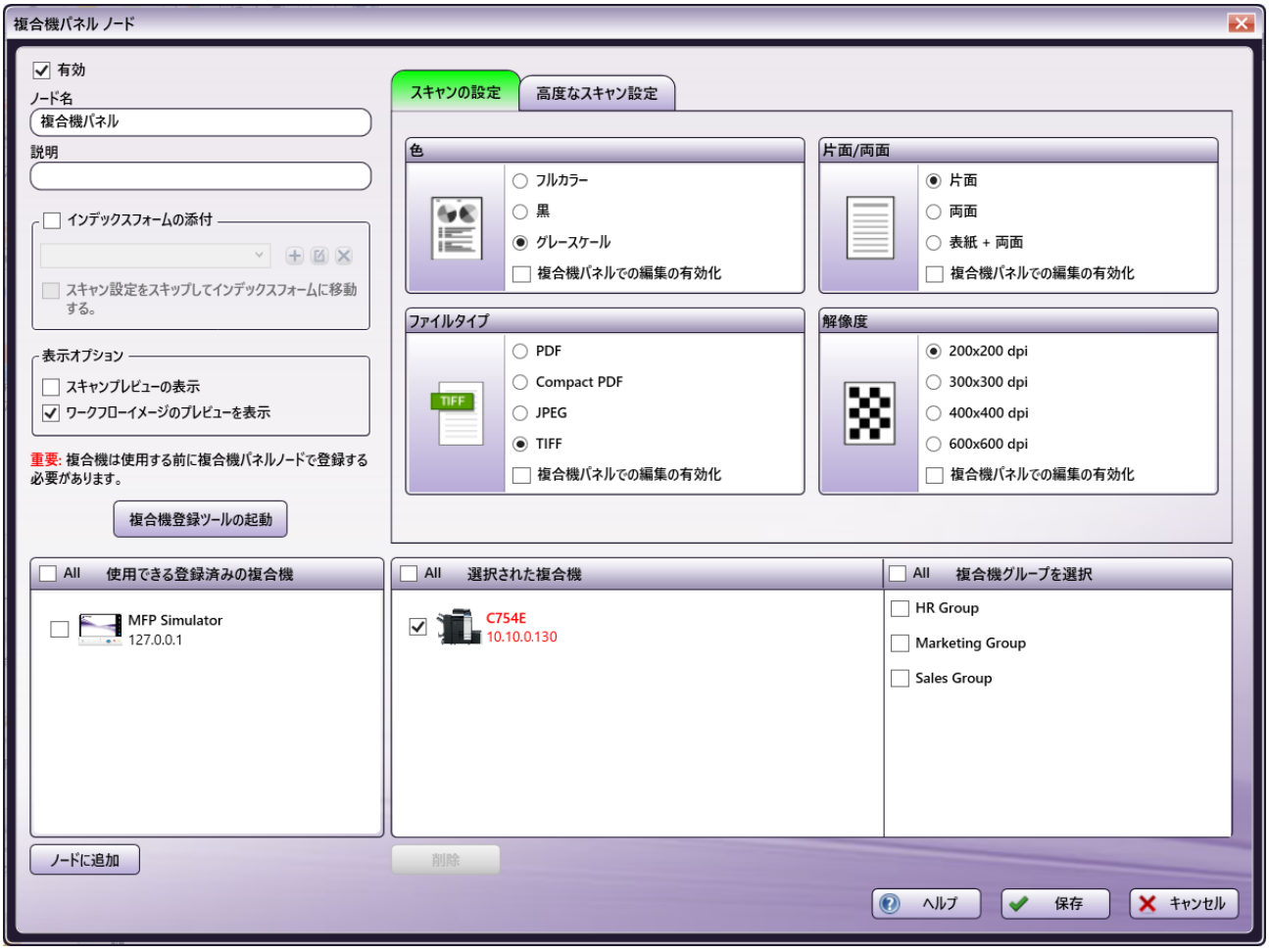
2. 複合機パネルノードを設定する

次に、スキャンに使用する複合機のための、複合機パネルノードを定義する必要があります。ワークフロービルダーのキャンバスに **[複合機パネルノード]** をドラッグアンドドロップします。

アイコンをダブルクリックして、ノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。

1. **[ノード名]** フィールドに複合機パネルノードにふさわしい名前を入力します。
2. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認します。
3. 適切なプリンターアイコンを[使用できる登録済みの複合機]エリアから[選択された複合機]エリアにドラッグします。
4. 完了したら **[保存]** ボタンを選択します。

[複合機パネルノード]プロパティウィンドウは次の図のようになります。



3. 出力フォルダーノードを構成する

次に、処理を終えたファイルを保存するための出力フォルダーを定義します。ワークフロービルダーのキャンバスに **[出力フォルダー]** をドラッグアンドドロップします。

アイコンをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。

1. **[ノード名]** フィールドに出力フォルダーにふさわしい名前を入力します。
2. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認します。

3. **[ファイルがすでに存在する場合...]** エリアの **[一意のIDを付加]** ラジオボタンを選択します。これによりファイルのすべてのバージョンが保存されます。
4. **[出力ディレクトリの選択]** フィールドの横にある **[省略]** ボタン (...) をクリックして元のファイルの場所を指定します。次に表示される[フォルダの参照]ウィンドウで、これまでの手順で作成した出力フォルダーを選択します。
5. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

[出力フォルダーノード]プロパティウィンドウは次の図のようになります。

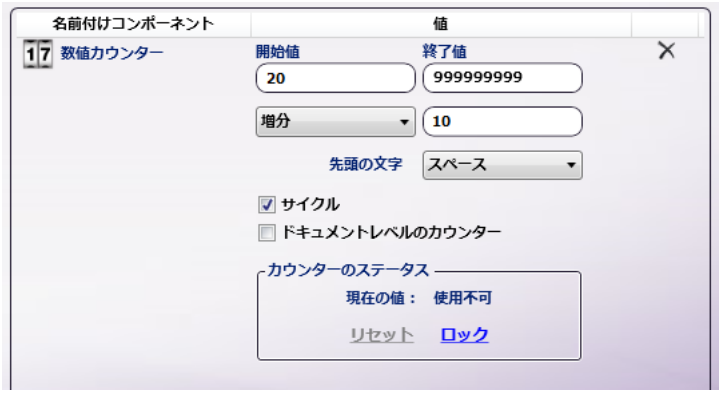
4. 高度なベイツスタンプノードを設定する

次に、高度なベイツスタンプ処理を定義して入力されたファイルにスタンプを押します。ワークフロービルダーのキャンバスに **[高度なベイツスタンプ]** ノードをドラッグアンドドロップします。

アイコンをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。

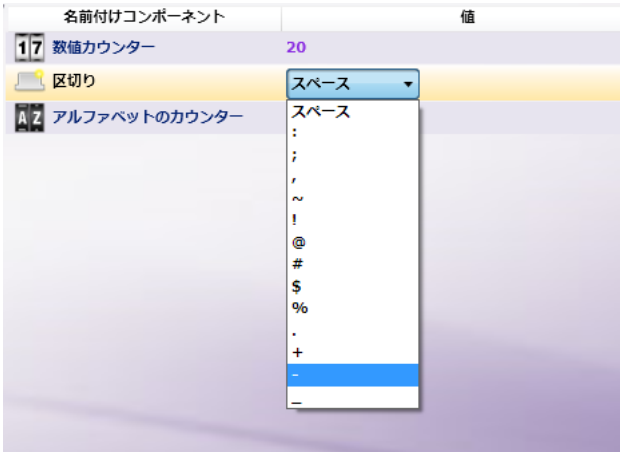
1. **[ノード名]** フィールドにベイツスタンプにふさわしい名前を入力します。
2. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認します。
3. **[新規追加]** ボタンを選択して新しいスタンプを作成します。
4. 表示される[新規追加]パレットを使用して以下の操作を行います。
    - **[スタンプ名]** フィールドで **[スタンプ1]** と入力します。
    - **[既定のアンカー位置]** ラジオボタンを使用して **[中央上]** の位置を指定します。
    - レイアウトの向きで **[水平]** を選択します。
    - 完了したら **[保存]** ボタンをクリックします。

    この時点では、[スタンプの編集]プレビューエリアに「スタンプ1」スタンプが空白の境界ボックスで表示されます。
5. **[スタンプ]** ドロップダウンリストで **[最初のページ]** を選択して、すべてのドキュメントの最初のページにこのスタンプを配置することを指定します。
6. 高度なベイツスタンプノードの**コンポーネントのデザイン**エリアで **[数値カウンター]** と **[アルファベットのカウンター]** コンポーネントをコンポーネントの作成エリアにドラッグアンドドロップします。
7. **[数値カウンター]** アイコンをダブルクリックしてカウンターをカスタマイズします。
    - **[開始値]** 入力フィールドを使用して[開始値]に「20」を入力します。
    - 空白の **[増分]** 入力フィールドを使用してスタンプを10ずつ増やします。
    - **[先頭の文字]** ドロップダウンリストでスペースを選択します。



8. **【アルファベットのカウンター】** アイコンをダブルクリックしてカウンターをカスタマイズします。
   - **【開始値】** 入力フィールドを使用して[開始値]に「AA」と入力します。
   - 空白の **【増分】** 入力フィールドを使用してスタンプを10ずつ増やします。

9. 数値とアルファベットのカウンターの間にダッシュの区切り記号を定義します。これには **【区切り】** コンポーネントをドラッグし、2つのカウンターの間にドロップします。次の図のように[区切り]をダブルクリックし、表示されるドロップダウンリストからダッシュを選択します。



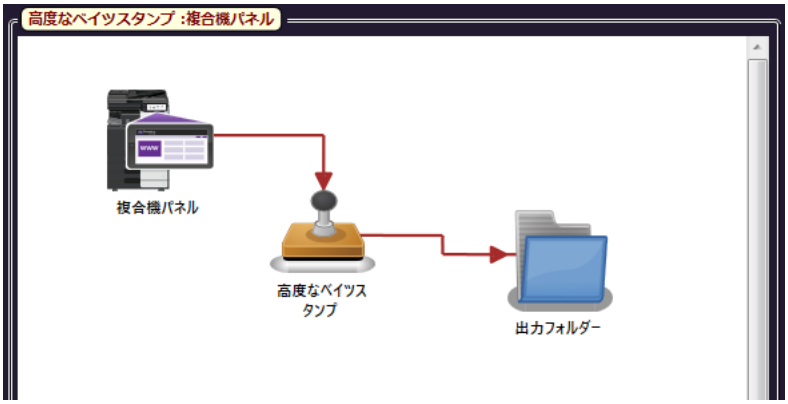
10. 複合機パネルのベイツスタンプを編集するには、**【複合機パネルでの編集の有効化】** パネルボックスをチェックします。
11. すべての操作が終了したら[保存]ボタンを選択します。

5. ノードを接続する

次に、ワークフローにあるすべてのノードを接続する必要があります。

コネクターを使用して、複合機パネルノードを高度なベイツスタンプノードに接続し、高度なベイツスタンプノードを出力フォルダーノードに接続します。

この時点でワークフローは次の図のようになります。



6. ワークフローを検証する

ワークフローを検証するには、ツールバーの **[フロー検証]** ボタンを選択します。

エラーがない場合は、ワークフローが検証を通過したことを示すメッセージが表示されます。

7. ワークフローを実行する

次に、ワークフロービルダーを閉じて（**[ファイル]** > **[終了]**）アプリケーションのメイン画面に戻り、ワークフローを実行します。

8. 複合機でワークフローへアクセスする

このワークフローの実行を設定した複合機で複合機パネルワークフローにアクセスします。

注: ワークフローにアクセスするにはログインが必要な場合があります（Dispatcher Phoenixで設定された複合機ユーザーの認証オプションに応じて異なります）。

- ***複合機での実行を設定されているワークフローが複数ある場合***、使用できるワークフローのリストが表示されます。各ワークフローにはサムネイルイメージが表示されます。**[複合機パネルでのベイツスタンプ]** アイコンをタップしてワークフローにアクセスします。[ワークフローの詳細]画面が表示されます。
- ***複合機に対して定義されたワークフローが1つだけの場合***、ログインすると[ワークフローの詳細]画面がただちに表示されます。

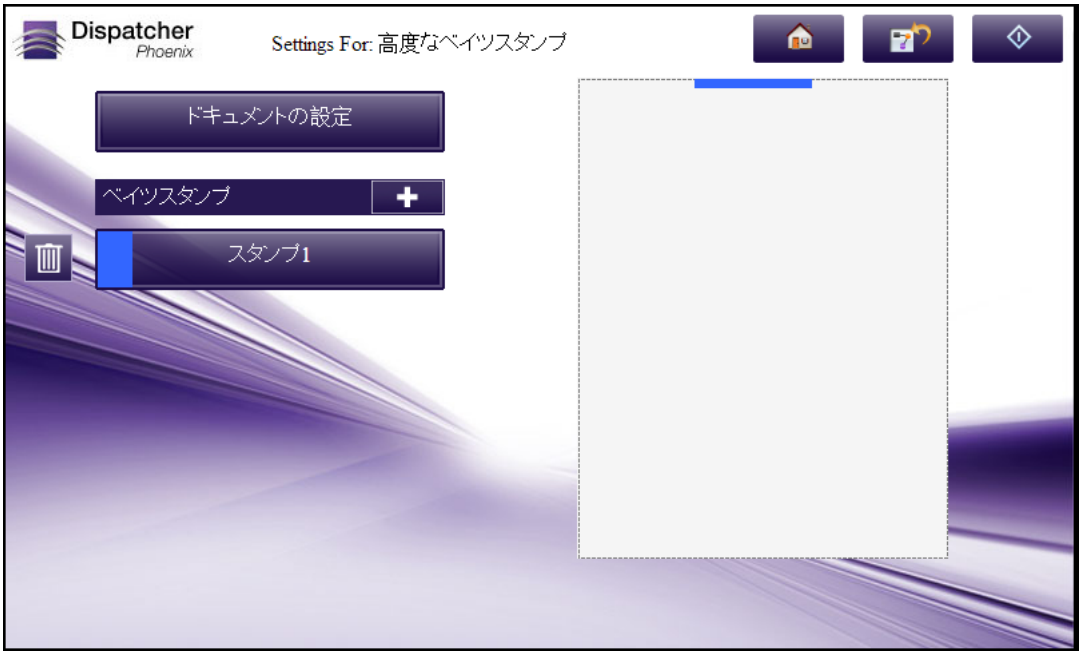
9. 複合機でベイツスタンプにアクセスする

複合機では、[ワークフローの詳細]画面にワークフローのイメージ、指定されたスキャン設定、さらに、カスタマイズできるすべてのノードのリストが表示されます。このワークフローでは[ワークフローのカスタマイズ]エリアのリストが示すように、カスタマイズできるノードは高度なベイツスタンプノードだけです。

[高度なベイツスタンプ]アイコン をタップして、このノードを変更します。ノード構成画面が表示されます。

10. ClientIDスタンプをカスタマイズする

ノード構成画面にそのノードに対して定義されたベイツスタンプが表示されます。このワークフローでは、ベイツスタンプ(“ClientID”) が1つだけ定義されているので、リストにはこのスタンプだけが表示されます。右側の[プレビュー]エリアには、ページ上のスタンプの位置が表示されます。次の図を参照してください。



以下の操作を行います。

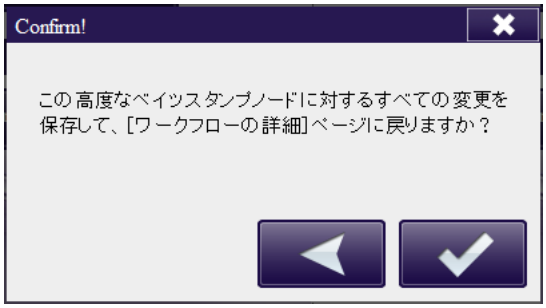
1. **[スタンプ]** ボタンをタップして、このスタンプを変更します。このスタンプに対してこれまでに定義したコンポーネントが次の図のように現在の設定と共にリストに表示されます。

2. 数値カウンターを編集するには、[数値カウンター]の行にある **[操作]** ボタンをタップしてから、次の図で円で囲んで示している **[表示/編集]** アイコンをタップします。

3. 次の図のように数値コンポーネントを編集できるようになります。

このチュートリアルでは、練習として[開始値]を20から10に変更します。次に **[チェックマーク]** ボタンをタップして変更を保存します。画面が閉じます。

4. [ノード構成]画面で **[保存]** ボタンをタップします。



11. 別のスタンプをノードに追加する

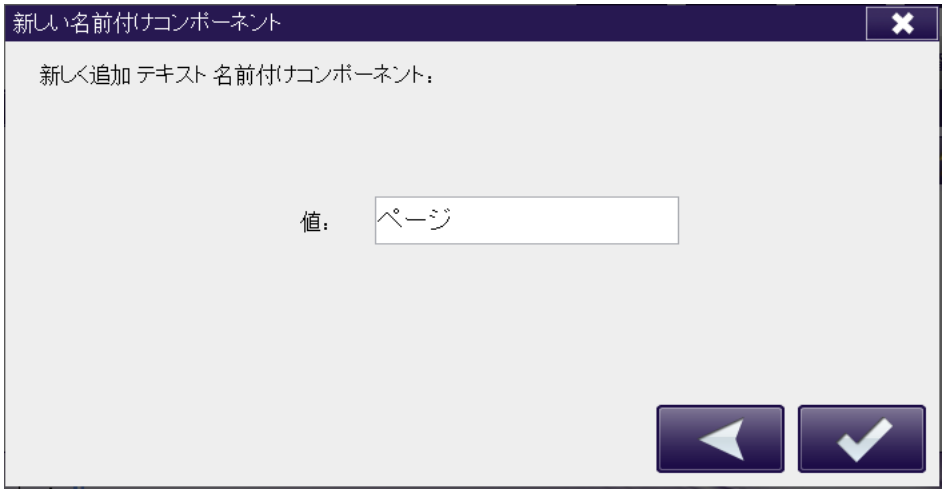
複合機パネルの表示中は、高度なベイツスタンプノードに別のスタンプを追加できます。このチュートリアルでは、スキャンしたドキュメントの各ページにページ番号を追加します。

以下の操作を行います。

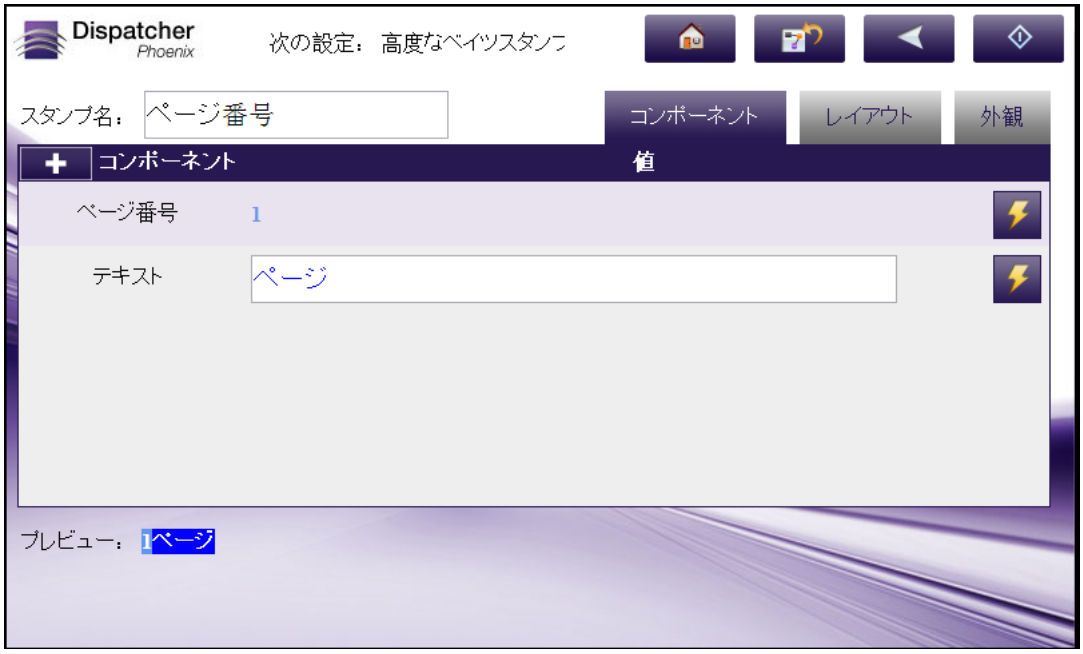
1. [ノード構成]画面で、**[+]** ボタンをタップします。[新しいベイツスタンプ]画面が表示されます。
2. [新しいベイツスタンプ]画面で以下の操作を行います。
   - **[スタンプ名]** フィールドで「ページ番号」と入力します。
   - **[アンカー位置]** エリアで中央下の位置をタップして、ページの下部にスタンプ位置を指定します。
   - **[チェックマーク]** ボタンをタップして変更を保存します。

   次の図を参照してください。

3. 新しい「ページ番号」コンポーネントの[コンポーネントの表示/編集]画面が表示されます。まず、次の操作を行って「ページ番号」コンポーネントを追加します。
    - 新しいコンポーネントを追加するには **[+]** ボタンをタップします。[新しい名前付けコンポーネント]画面が表示されます。
    - [新しい名前付けコンポーネント]画面で、**[ページ番号]** ボタンをタップします。[新しく追加 テキスト 名前付けコンポーネント]画面が表示されます。
    - [新しく追加 テキスト 名前付けコンポーネント]画面で **[チェックマーク]** ボタンをタップします。画面が閉じて[コンポーネントの表示/編集]画面に戻ると、「ページ番号」コンポーネントが新しく追加されています。
4. 次に、以下の操作を行って「ページ」を静的テキストとして追加します。
    - 新しいコンポーネントを追加するには **[+]** ボタンをタップします。[新しい名前付けコンポーネント]画面が表示されます。
    - [新しい名前付けコンポーネント]画面で、**[テキスト]** ボタンをタップします。[新しく追加 テキスト 名前付けコンポーネント]画面が表示されます。次の図のように、[値]フィールドに「ページ」と入力します。

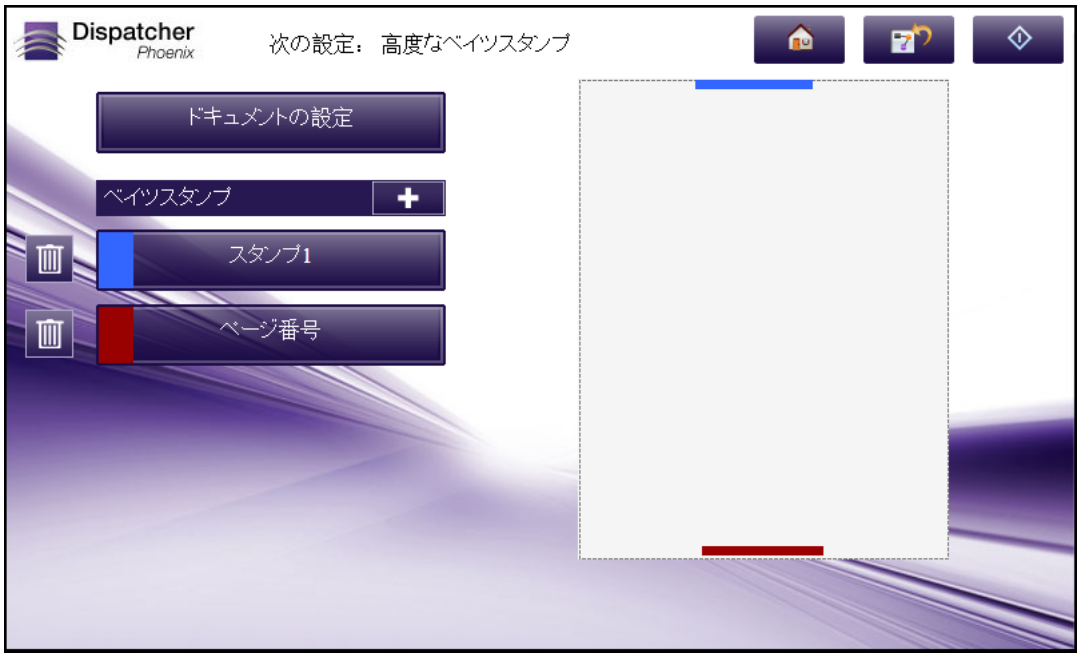


    - [新しく追加 テキスト 名前付けコンポーネント]画面で **[チェックマーク]** ボタンをタップします。画面が閉じ、[コンポーネントの表示/編集]画面に戻ると、「ページ番号」コンポーネントが新しく追加されています。



5. ページ番号コンポーネントの前にテキストコンポーネントを移動するには、テキストの **[操作]** アイコンをタップしてから次の図で円で囲んで示している **[1つ上に移動]** アイコンをタップします。

6. **[保存]** ボタンをタップします。次の図で示すようにノード構成画面に変更が反映されます。



12. ワークフローを実行する

これで、変更したベイツスタンプノードを使用してワークフローを実行できるようになりました。Dispatcher Phoenixでは、ベイツスタンプの変更がただちに反映されることに注意してください。

解析チュートリアル

このチュートリアルでは、Dispatcher Phoenixワークフローに含まれている強力な[解析ノード]アプリケーションについて説明します。

概要: 創業年数の長い保険会社では、メインフレームコンピューターシステムから取引明細書を印刷します。メインフレームでは、全顧客の取引明細書を含むPostscriptファイルを生成します。この会社では、顧客の取引明細書を白い用紙に印刷し、各顧客の明細書の間に、何も印刷されていない青い用紙のページを挿入したいと考えています。元のPostscriptファイルは、個別のフォルダーに保存する必要があります。処理済みのPostscriptファイルは、出力フォルダーに移動します。各顧客の取引明細書の最後のページには、送金に使用する切り取り部分があります。このページは、「返送用切り取り部分」というタイトルテキストで識別できます。

ワークフローの概要: 次の操作を行うDispatcher Phoenixワークフローを作成します。

1. Postscriptドキュメントの入力フォルダーを監視します。
2. Postscript以外のファイルは、エラーフォルダーに送ります。
3. ファイルにPostscriptコマンドを挿入して、各ページのメディアタイプを白い用紙に設定し、返送用の切り取り部分があるページの後に、青い用紙の空白のページを挿入します。
4. 元のPostscriptファイルのコピーを「オリジナル」というフォルダーに送ります。
5. 処理済みのファイルは、出力フォルダーに送ります。

必要なデスクトップフォルダー:このワークフローの作成を開始する前に、次のフォルダーをデスクトップに作成する必要があります。

- 「入力」という名前の入力フォルダー
- 「オリジナル」という名前の出力フォルダー
- 「出力」という名前の出力フォルダー
- 「エラー」という名前の出力フォルダー

ワークフローの作成ステップ: このワークフローを作成するには、以下の操作を行う必要があります。

1. ワークフローを作成する
2. 入力フォルダーノードを構成する
3. オリジナルファイルを保存するための出力フォルダーを設定する
4. ページの先頭を検索/すべてのページを白にする
5. “Return Stub"を検索/用紙の種類を青にするコマンドを挿入する
6. “Return Stub"を検索する
7. “Return Stub"後のページの検索/空白の青いページを挿入する
8. 配信フォルダーを作成する
9. エラー用の出力フォルダーを作成する
10. ノードを接続する
11. ワークフローを検証

1. ワークフローを作成する

ワークフローを作成するには、まず、ツールバーの **【新規ワークフロー】** アイコンを選択します。この操作でワークフロービルダーが開きます。次の図のように、ウィンドウの右側にある[キャンバスのプロパティ]パレットの[プロジェクト名]フィールドにプロジェクトにふさわしい名前を入力します。

2. 入力フォルダーノードを構成する

1. まず、処理対象のファイルの収集に使用する入力フォルダーを定義する必要があります。ワークフロービルダーのキャンバスに、**【入力フォルダー】** をドラッグします。アイコンをダブルクリックして、ノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。
    - [収集オプション]エリアの **【取得時に削除する】** オプションを有効にして、処理済みのファイルをフォルダーから削除します。
    - Postscriptファイルだけを収集するように、**【ファイルフィルター】** フィールドに「*.ps」と入力します。
    - **【入力ディレクトリの選択】** フィールドの横にある **【省略】** ボタン(...)をクリックして、入力フォルダーの場所を指定します。次に表示される[フォルダの参照]ウィンドウで、これまでの手順で作成した入力フォルダーを選択します。
2. 完了したら、[入力フォルダーノード]プロパティウィンドウで **【保存】** ボタンを選択します。

3. オリジナルファイルを保存するための出力フォルダーを設定する

次に、変更を加えていない元のPostscriptファイルを保存するための出力フォルダーを定義します。ワークフロービルダーのキャンバスに、**[出力フォルダー]** をドラッグします。アイコンをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。

- [ファイルがすでに存在する場合…]エリアの **[一意のIDを付加]** ラジオボタンを選択します。これにより処理済みのファイルのすべてのバージョンが保存されます。
- **[出力ディレクトリの選択]** フィールドの横にある **[省略]** ボタン(…)をクリックして、元のファイルの場所を指定します。次に表示される[フォルダの参照]ウィンドウで、これまでの手順で作成した「オリジナル」という名前のフォルダーを選択します。
- 完了したら、[出力フォルダーノード]プロパティウィンドウで **[保存]** ボタンを選択します。

4. ページの先頭を検索/すべてのページを白にする

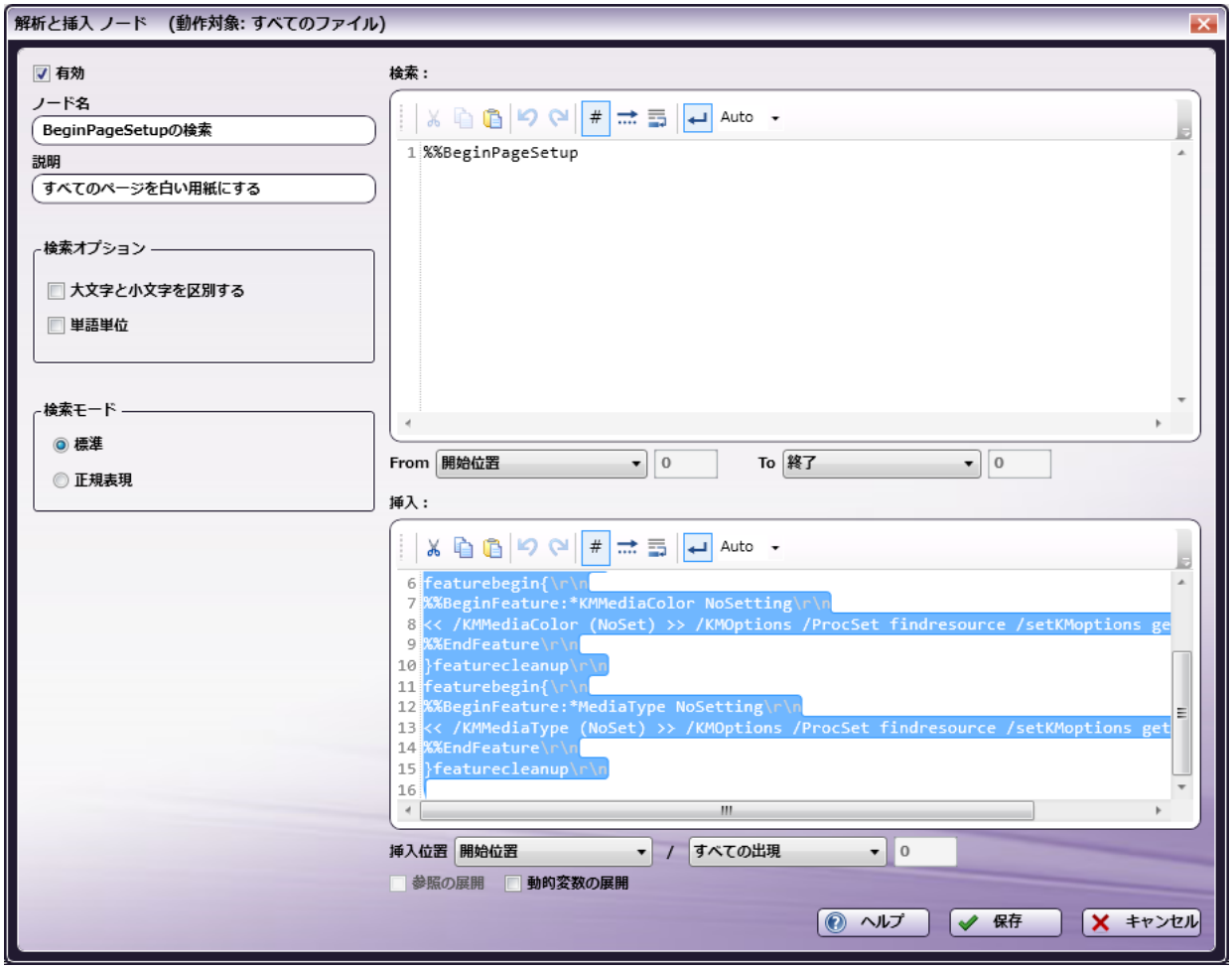
Postscriptファイルでは、他の設定を行う前に、白い用紙への印刷を設定する必要があります。解析と挿入処理ノードを使用することにより、各ページの先頭にPostscriptコマンドを挿入できます。これらのコマンドでは、メディアの重さと色を設定します。

1. ワークフロービルダーのキャンバスに、**[解析と挿入]** ノードをドラッグします。アイコンをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。
2. [ノード名]フィールドに、処理ノードの名前を **「ページ先頭の検索」** のように入力します。
3. [説明]フィールドに、処理ノードの説明を **「すべてのページを白い用紙にする」** のように入力します。
4. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認します。
5. [検索]オプションの **[大文字と小文字を区別する]** ボックスのチェックを外して、検索条件で大文字と小文字が区別されないようにします。
6. [検索対象]エリアで **「%%BeginPageSetup」** と入力してから、[From]フィールドと[To]フィールドにそれぞれ **[開始位置]** と **[終了]** を指定します。
7. [挿入]エリアに、次のテキストを入力してから **[挿入位置]** フィールドで **[開始位置/すべての出現]** を指定します。

   ```
   featurebegin{ %%BeginFeature: *KMMediaWeight NoSetting << /KMMediaWeight (NoSet) >> /KMOptions /ProcSet findresource /setKMoptions get exec %%EndFeature }featurecleanup featurebegin{ %%BeginFeature: *KMMediaColor NoSetting << /KMMediaColor (NoSet) >> /KMOptions /ProcSet findresource /setKMoptions get exec %EndFeature }featurecleanup featurebegin{ %%BeginFeature: *MediaType NoSetting << /KMMediaType (NoSet) >> /KMOptions /ProcSet findresource /setKMoptions get exec %%EndFeature }featurecleanup
   ```

   注: ブロックの末尾には空の行を含める必要があります。
8. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

   [解析と挿入]プロパティウィンドウは次の図のようになります。



5. “Return Stub"を検索/用紙の種類を青にするコマンドを挿入する

次に、用紙の種類を青に切り替えるように指定するPostscriptコマンドを、送金に関するページの後に挿入する必要があります。送金に関するページは「返送用切り取り部分」の文字列で識別します。解析と挿入処理ノードを使用することで指定された検索条件が出現するたびにその箇所の後にPostscriptコマンドを挿入できます。

こうしたPostscriptコマンドで、メディアの色を設定します。

1. ワークフロービルダーのキャンバスに **【解析と挿入】** ノードをドラッグします。アイコンをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。
2. [ノード名]フィールドに処理ノードの名前を **「返送用切り取り部分の検索」** のように入力します。
3. [説明]フィールドに処理ノードの説明を **「用紙の色を青にする」** のように入力します。
4. **【有効】** ボックスがチェックされていることを確認します。
5. [検索]オプションの **【大文字と小文字を区別する】** ボックスのチェックを外して、検索条件で大文字と小文字が区別されないようにします。
6. **【検索対象】** エリアで **「(Return Stub)」** と入力してから、[From]フィールドと[To]フィールドにそれぞれ **【開始位置】と【終了】** を指定します。
7. **【挿入】** エリアに、次のテキストを入力してから、[挿入位置]フィールドで **【開始位置/すべての出現】** を指定します。

   featurebegin{

   %%BeginFeature: *KMMediaWeight Thick

   << /KMMediaWeight (Thick) >> /KMOptions /ProcSet findresource /setKMoptions get exec

   %%EndFeature

   }featurecleanup

   featurebegin{

   %%BeginFeature: *KMMediaColor Blue

   << /KMMediaColor (Blue) >> /KMOptions /ProcSet findresource /setKMoptions get exec

   %%EndFeature

   }featurecleanup

   featurebegin{

%%BeginFeature: *MediaType User1

<< /KMMediaType (CustomType) >> /KMOptions /ProcSet findresource /setKMoptions get exec

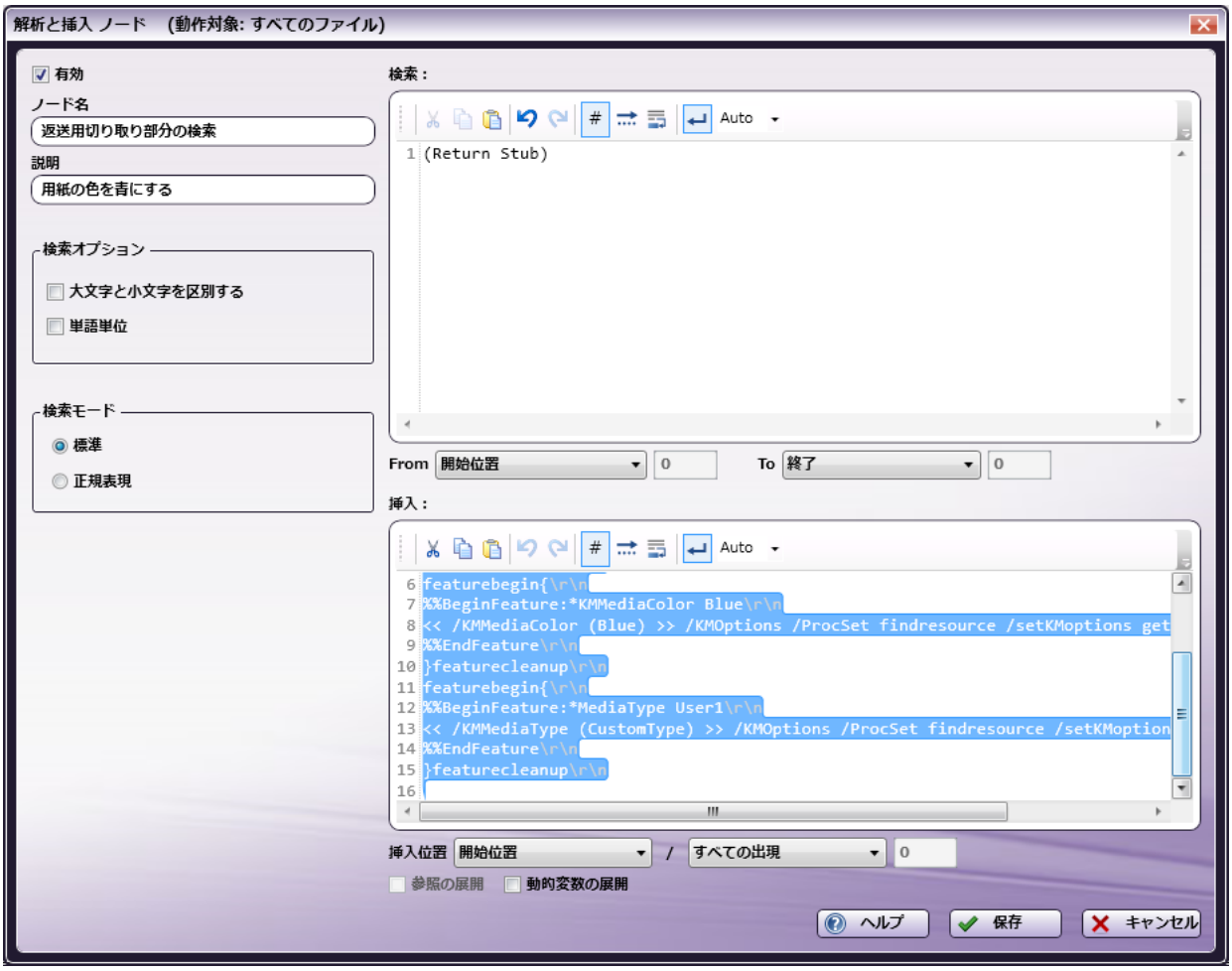
%%EndFeature

}featurecleanup

注: ブロックの末尾には空の行を含める必要があります。

8. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

[解析と挿入]プロパティウィンドウは、次の図のようになります。

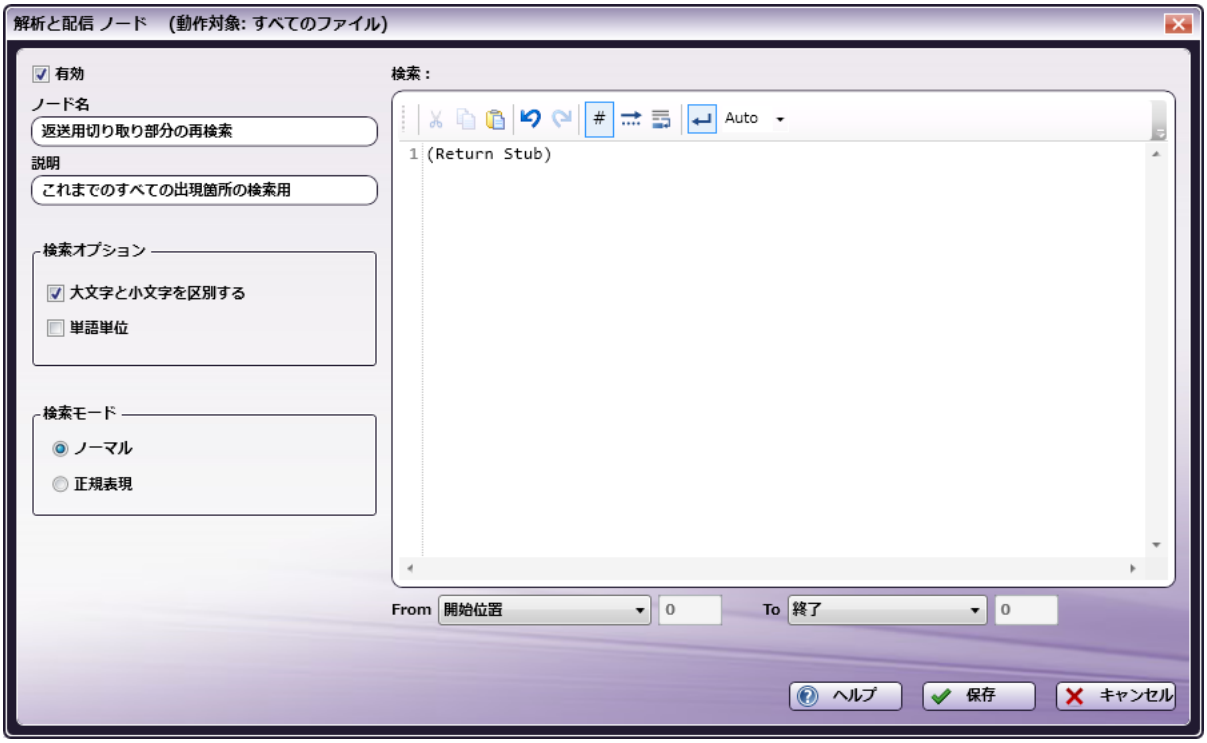


6. “Return Stub"を検索する

次に、解析と配信ノードを使用して「返送用切り取り部分」の文字列を含むすべてのファイルを検索します。この処理では、キーワードやテキスト文字列がファイル内のどこに位置するかを示すタグをファイル内に作成します。この処理により、この後の解析ノードではそれまでに検索したテキストだけを取り扱うことができます。つまり、この解析と配信ノードの検索結果は、この後の解析ノードの開始点として使用されます。解析ノードは「それまでのすべての出現箇所」から検索するように設定されています。

1. ワークフロービルダーのキャンバスに **[解析と配信]** ノードをドラッグします。アイコンをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。
2. **[ノード名]** フィールドに処理ノードの名前を「返送用切り取り部分の検索」のように入力します。
3. **[説明]** フィールドに処理ノードの説明を「これまでのすべての出現箇所の検索用」のように入力します。
4. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認します。
5. **[検索]** オプションの **[大文字と小文字を区別する]** ボックスのチェックを外して、検索条件で大文字と小文字が区別されないようにします。
6. **[検索対象]** エリアで「(Return Stub)」と入力してから、[From]フィールドと[To]フィールドにそれぞれ **[開始位置]** と **[終了]** を指定します。
7. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

[解析と挿入]プロパティウィンドウは次の図のようになります。



7. “Return Stub"後のページの検索/空白の青いページを挿入する

各取引明細書の末尾に空の青いページを挿入する必要があります（この場合、明細書の末尾は「返送用切り取り部分」ページ）。これを実行するには、解析と置換ノードを使用して「返送用切り取り部分」の後のページを検索し、メディア設定のコマンドを青い用紙への印刷を設定するコマンドと置き換えます。

1. ワークフロービルダーのキャンバスに **【解析と置換】** ノードをドラッグします。アイコンをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。
2. **【ノード名】** フィールドに処理ノードの名前を「返送用切り取り部分の後のページの検索」のように入力します。
3. **【説明】** フィールドに処理ノードの説明を「空白の青いページを挿入する」のように入力します。
4. **【有効】** ボックスがチェックされていることを確認します。
5. **【検索】** オプションの **【大文字と小文字を区別する】** ボックスをチェックして、検索条件で大文字と小文字を区別するようにします。
6. **【検索対象】** エリアで、[From]フィールドと[To]フィールドにそれぞれ **【前回のすべての出現】** と **【最初の出現】** を指定します。

   (featurebegin{\R.*Media.*NoSetting\R.*KMOption.*\R([^}].*\R)*}featurecleanup\R){3}
7. **【置換】** エリアで、次のPostscriptコマンドを入力してから[置換]フィールドで **【すべての出現】** を指定します。

   featurebegin{

   %%BeginFeature: *KMMediaWeight Thick

   << /KMMediaWeight (Thick) >> /KMOptions /ProcSet findresource /setKMoptions get exec

   %%EndFeature

   }featurecleanup

   featurebegin{

   %%BeginFeature: *KMMediaColor Blue

   << /KMMediaColor (Blue) >> /KMOptions /ProcSet findresource /setKMoptions get exec

   %%EndFeature

   }featurecleanup

   featurebegin{

   %%BeginFeature: *MediaType User1

   << /KMMediaType (CustomType) >> /KMOptions /ProcSet findresource /setKMoptions get exec

   %%EndFeature

   }featurecleanup

   注: ブロックの末尾には空の行を含める必要があります。
8. 完了したら、**【保存】** ボタンを選択します。

8. 配信フォルダーを作成する

処理の設定が完了したので、新しく変更されたPostscriptファイルを保存するフォルダーを指定する必要があります。ワークフロービルダーのキャンバスに、**[出力フォルダー]** をドラッグします。アイコンをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。

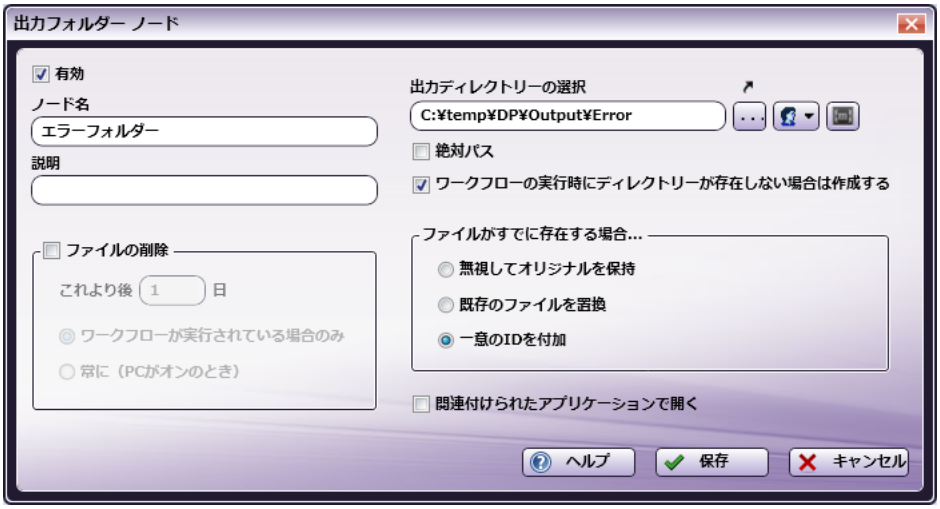
1. [ノード名]フィールドに、出力フォルダーの名前を「出力フォルダー」のように入力します。
2. **[ファイルがすでに存在する場合...]** エリアの **[一意のIDを付加]** ラジオボタンを選択します。これにより、処理済みのファイルのすべてのバージョンが保存されます。
3. **[出力ディレクトリの選択]** フィールドの横にある **[省略]** ボタン(...)をクリックして場所を指定します。次に表示される[フォルダの参照]ウィンドウで、これまでの手順で作成した「出力」という名前のフォルダーを選択します。
4. 完了したら、[出力フォルダーノード]プロパティウィンドウで **[保存]** ボタンを選択します。

9. エラー用の出力フォルダーを作成する

処理中に発生するエラーに対処するために、出力フォルダーを作成して、ワークフローのすべてのエラーを保存できます。ワークフロービルダーのキャンバスに **[出力フォルダー]** をドラッグします。アイコンをダブルクリックしてノードのプロパティウィンドウを開き、以下の操作を行います。

1. [ノード名]フィールドに、出力フォルダーの名前を「エラーフォルダー」のように入力します。
2. **[ファイルがすでに存在する場合...]** エリアの **[一意のIDを付加]** ラジオボタンを選択します。これにより処理済みのファイルのすべてのバージョンが保存されます。
3. **[出力ディレクトリの選択]** フィールドの横にある **[省略]** ボタン(...)をクリックして場所を指定します。次に表示される[フォルダの参照]ウィンドウで、これまでの手順で作成した「エラー」という名前のフォルダーを選択します。
4. 完了したら、[出力フォルダーノード]プロパティウィンドウで **[保存]** ボタンを選択します。

[出力フォルダーノード]プロパティウィンドウは次の図のようになります。



10. ノードを接続する

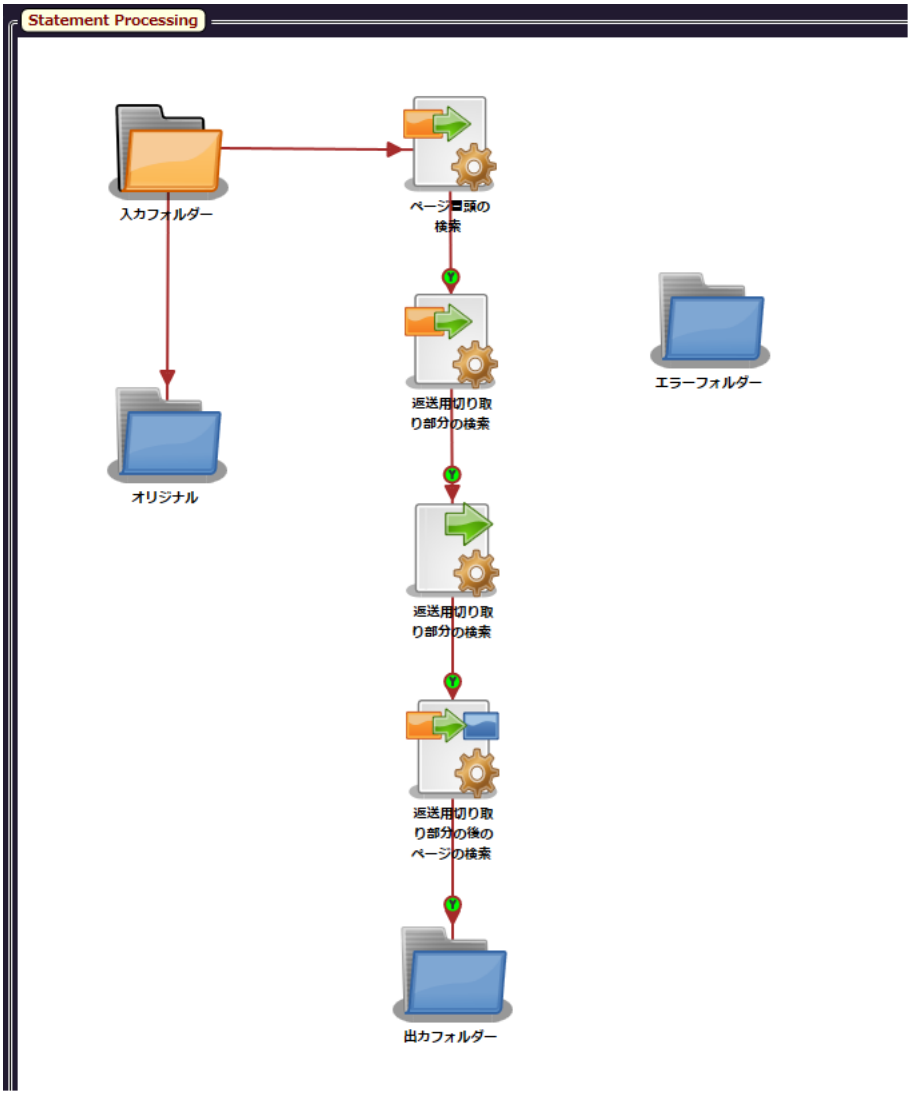
次に、ワークフローにあるすべてのノードを接続する必要があります。まず、ノード間のY（はい）の接続を作成してから、N（いいえ）方向の接続を作成します。

Y（はい）方向の接続を作成 します。[コネクター]パレットの **[コネクター]** ツールをクリックして以下の操作を行います。

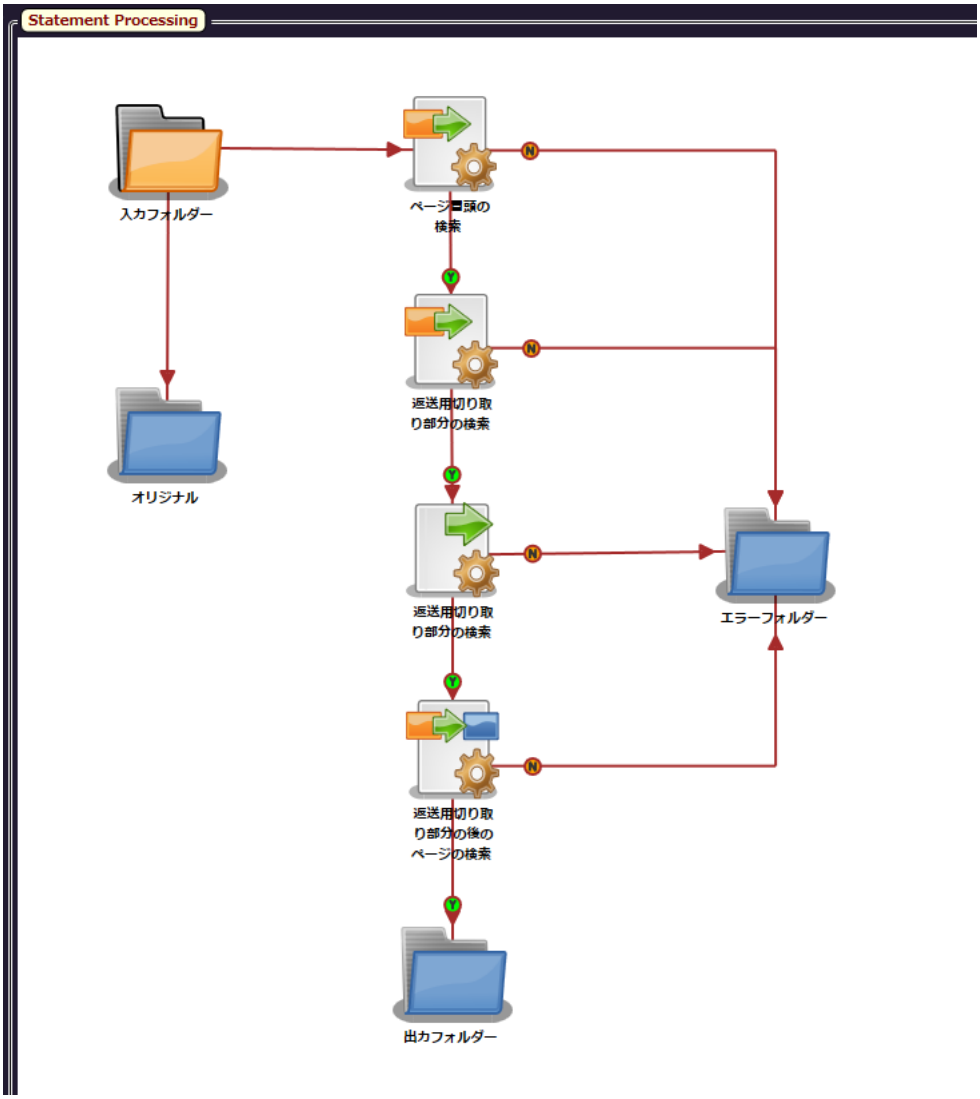
- 入力フォルダーをオリジナル出力フォルダーに接続します。
- 入力フォルダーを[ページ先頭の検索]の検索ノードに接続します。
- [ページ先頭の検索]の検索ノードを[返用切り取り部分の検索]の検索ノードに接続します。
- [返送用切り取り部分の検索]の検索ノードを[返送用切り取り部分の検索]ノードに接続します。
- [返送用切り取り部分の検索]ノードを[返送用切り取り部分の後のページの検索]ノードに接続します。
- [返送用切り取り部分の後のページの検索]ノードを出力フォルダーノードに接続します。

注: これらの接続は、Y（はい）方向の接続となります（「Y」を丸で囲んで表示）。既定では、解析ノードからの最初の接続は、Y（はい）方向のコネクターとなります。

この時点で、ワークフローは次の図のようになります。

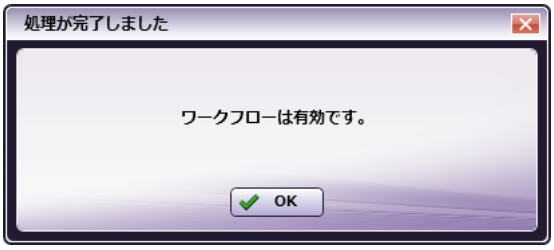


すべての解析ノードをエラーフォルダーノードに接続します。「N」を丸で囲んだコネクターは、N（いいえ）方向のコネクターを示しています。既定では、解析ノードの2番目のコネクターはN（いいえ）方向になります。ワークフローは次の図のようになります。



11. ワークフローを検証

ワークフローを検証するには、ツールバーの **【フロー検証】** ボタンを選択します。エラーがない場合は、次の図のようにワークフローが検証を通過したことを示すメッセージが表示されます。



複合機パネルでのフォルダーの参照

このチュートリアルでは、インデックスフォームを設定してスキャンしたドキュメントへの名前の入力やスキャン先のフォルダーの選択をすべて複合機コントロールパネルで行えるようにする方法を説明します。

概要: A法律事務所では、スキャンしたドキュメントのルーティングと識別にかかる時間を短縮する必要があります。具体的には、ユーザーが複合機パネルでPCのフォルダー構造を参照してスキャン場所を選択すること、さらに、スキャンしたドキュメントの名前をスキャンの時点で複合機で入力した名前に変更することを希望しています。

チュートリアルの概要: Dispatcher Phoenixでは、複合機パネルに表示するインデックスフォームを作成できます。このフォームでは、表示されるリストからユーザーがスキャン先のフォルダーを選択でき、さらに、入力フィールドでドキュメント名を入力できます。このチュートリアルでは以下の操作を行います。

1. Dispatcher Phoenixワークフローを作成してbEST対応複合機で実行します。
2. 出力フォルダーを追加してスキャンしたドキュメントを受信します。出力フォルダーの場所は複合機パネルで選択して指定します。

3. [参照]ボタンを含むインデックスフォームを作成して、ユーザーがPCのフォルダー構造を表示して、スキャン先を選択できるようにします。インデックスフォームには、テキスト入力フィールドも追加してスキャンしたドキュメントに対してユーザーが一意の名前を指定できるようにします。
4. 名前の変更ノードをワークフローに追加して、複合機で入力したドキュメント名を使用して名前変更の処理を行います。

開始する前に:このワークフローを作成するには、以下の操作を行います。

- デスクトップに、「ClientX」、「ClientY」、「ClientZ」という名前のフォルダーを作成します。
- このワークフローで使用する複合機を登録します。
- bESTサーバーを設定します。

必要ステップ: このチュートリアルには、次のステップが含まれています。

1. ワークフローを作成
2. 複合機パネルノードの作成とカスタマイズ
3. 出力フォルダーノードをワークフローに追加する
4. インデックスフォームを作成する
5. インデックスフォームにテキストフィールドを追加する
6. 出力フォルダーワークフローインデックスフィールドをフォームに追加する
7. 名前の変更ノードを作成する
8. ノードを接続する
9. ワークフローを検証
10. ワークフローを実行
11. 複合機でワークフローへアクセスする
12. 複合機でインデックスフォームにアクセスする

1. ワークフローを作成

ワークフローを作成するには、まず、アプリケーションのメイン画面にあるツールバーで **[新規ワークフロー]** アイコンをクリックします。この操作で、ワークフロービルダーが開きます。ウィンドウの右側にある[キャンバスのプロパティ]パレットの **[プロジェクト名]** フィールドに、プロジェクトにふさわしい名前を入力します(例:「フォルダーに送信」)。

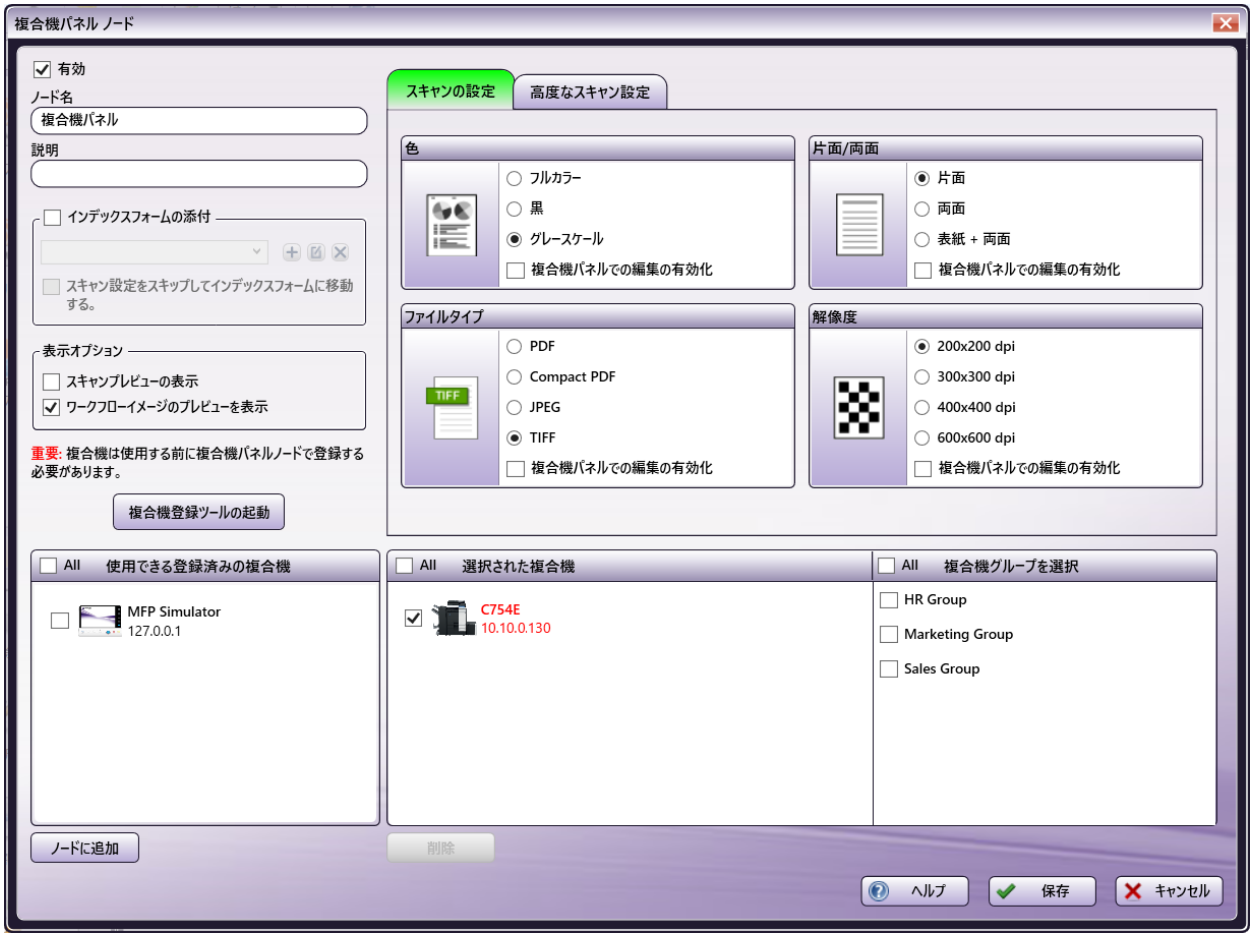
2. 複合機パネルノードの作成とカスタマイズ

次に、スキャンに使用する複合機のための複合機パネルノードを定義する必要があります。ワークフロービルダーのキャンバスに **[複合機パネルノード]** をドラッグアンドドロップします。

アイコンをダブルクリックして、ノードのプロパティウィンドウを開き以下の操作を行います。

1. **[ノード名]** フィールドに複合機パネルノードにふさわしい名前を入力します。
2. **[有効]** ボックスがチェックされていることを確認します。
3. 適切なプリンターアイコンを[使用できる登録済みの複合機]エリアから[選択された複合機]エリアにドラッグします。
4. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

   [複合機パネルノード]プロパティウィンドウは次の図のようになります。



3. 出力フォルダーノードをワークフローに追加する

次に、スキャン済みのドキュメントを保存するための出力フォルダーを定義する必要があります。ワークフロービルダーのキャンバスに **[出力フォルダーノード]** をドラッグアンドドロップします。

4. インデックスフォームを作成する

次に、複合機パネルに表示するインデックスフォームを作成できます。はじめに以下の操作を行います。

1. 複合機パネルノードを再び開いて、**[インデックスフォームの添付]** チェックボックスをオンにしてから **[+]** ボタンをクリックします。
2. [新規インデックスフォームの作成]ポップアップウィンドウで、**[空白のインデックスフォーム]** ボタンを選択します。

   空白の[インデックスフォーム]ウィンドウが表示されます。この[インデックスフォーム]には、さまざまなフィールドが含まれていて、ボタンで表示されています。これらのボタンをドラッグアンドドロップで配置して目的に合うようにカスタマイズできます。複合機パネルノードに関連付けられたインデックスフォームでは、ユーザーがこのワークフローを実行するたびにフォームを使用して複合機パネルでアクセスを行うことができます。チュートリアルでは練習を目的としているため、次の2つのフィールドだけを作成します。

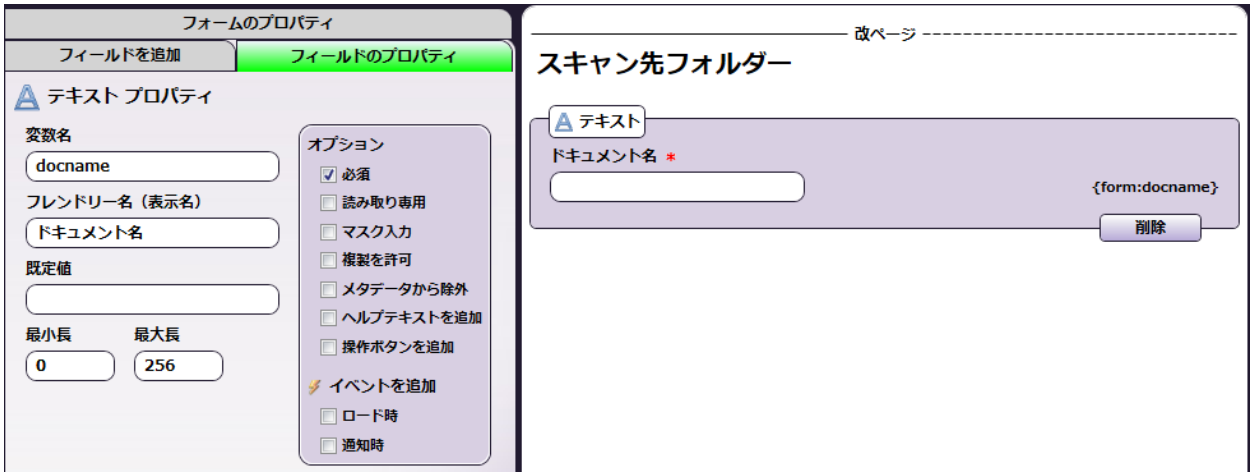
   - テキスト入力フィールドではスキャンするドキュメントの名前を入力できます。
   - 出力フォルダーフィールドはワークフローの出力フォルダーノードに関連付けられています。このフィールドを使用して、ユーザーは、スキャン済みのドキュメントを送信する出力フォルダーを選択できます。
3. 空白のインデックスフォームの作成後、まず行う必要があるのはフォームの名前を指定することです。インデックスフォームの作業領域で **[新規インデックスフォーム]** ラベルを選択します。ウィンドウの左側には **[改ページ]** プロパティフィールドが表示されます。**[ページのタイトル]** フィールドにインデックスフォームにふさわしい名前を入力します（例：スキャン先フォルダー）。

5. インデックスフォームにテキストフィールドを追加する

1. インデックスフォームビルダーで、ウィンドウの下部にある **[フィールドを追加]** タブを選択してからインデックスフォームの作業領域に **[テキスト]** ボタンをドラッグアンドドロップします。上部に[ここにラベルを入力]というテキストが表示された空白のテキストフィールドが表示されます。
2. 空白のテキストフィールドを選択すると、ウィンドウの左側に **[テキスト]** プロパティが表示されます。次のプロパティをそれぞれカスタマイズします。

   - **[変数名]** フィールドに、「docname」と入力します。この変数名は、この後、ワークフローの名前の変更ノードで参照します。
   - **[フレンドリー名]** フィールドに、「ドキュメント名」と入力します。このテキストは複合機パネルでテキストフィールドの上に表示されます。
   - **[オプション]** で、**[必須]** ボックスをチェックします。この情報を入力しないとドキュメントをスキャンできません。

   次の図を参照してください。



6. 出力フォルダー ワークフローインデックスフィールドをフォームに追加する

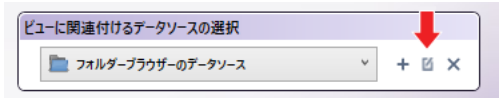
次に、[出力フォルダー]ワークフローインデックスフィールドを使用して、インデックスフォームからのフォルダーの参照を設定できます。以下の操作を行います。

1. インデックスフォームビルダーで、ウィンドウの下部にある **[フィールドを追加]** タブを選択してからインデックスフォームの作業領域に **[出力フォルダー]** ボタンをドラッグアンドドロップします。インデックスフォームの作業領域に以下の空白のフィールドが表示されます。

2. 空白の **[出力フォルダー] ワークフローフィールド** を選択すると、ウィンドウの左側にプロパティが表示されます。以下の図に示すように、[出力フォルダー]ワークフローフィールドでは必要なフィールドプロパティやアクションが既定で自動的に設定されるので、フォルダーの参照を簡単に設定できます。

このチュートリアルでは練習を目的としているため既定値をそのまま使用します。

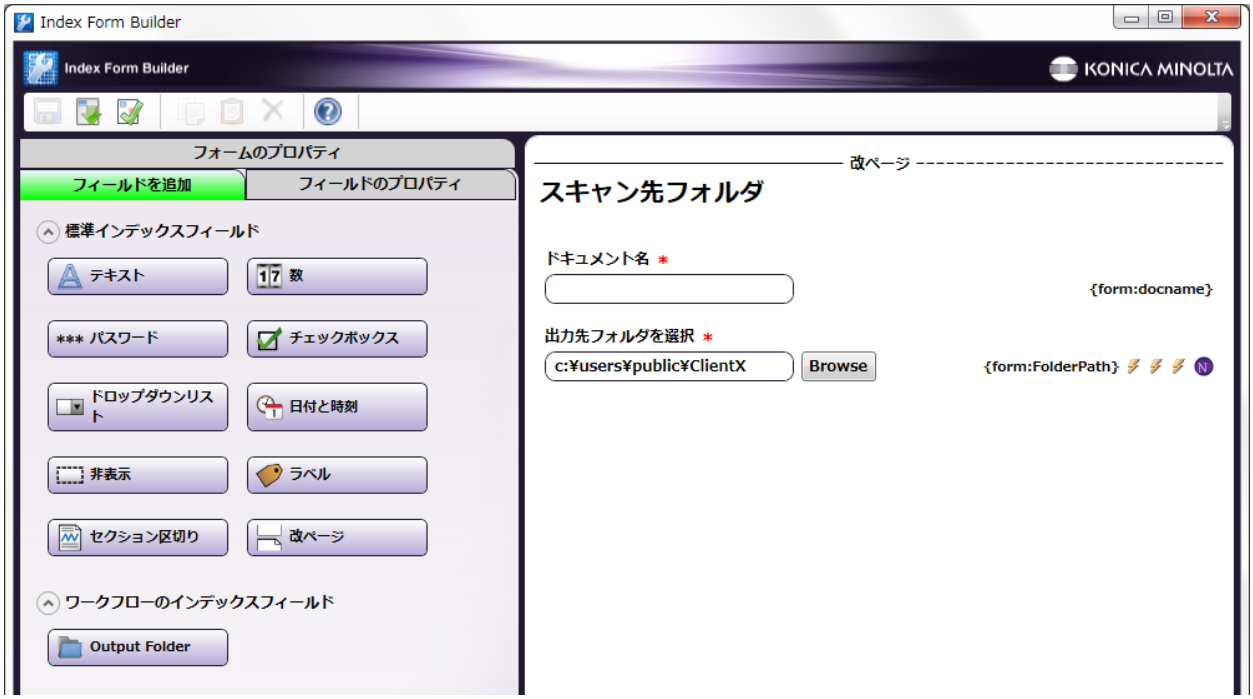
3. **[編集]** ボタン（図の赤い丸の部分）をクリックして、アクションボタンの **[出力フォルダーブラウザー]** データソースをカスタマイズします。[フォルダーブラウザー構成]ウィンドウが表示されます。



4. フォルダーの参照を設定します。[フォルダーブラウザー構成]ウィンドウでは、**[ルートフォルダー]** と **[既定のフォルダー]** を選択でき、複合機パネルのインデックスフォームに表示されます。このチュートリアルでは練習を目的としているため、[ルートフォルダー]には「デスクトップ」、[既定のフォルダー]には「Client X」を選択します。完了したら、**[保存]** ボタンを選択して、変更を保存し[フォルダーブラウザー構成]ウィンドウを閉じます。

5. メニューバーの **[保存]** アイコンをクリックして、インデックスフォームを保存します。

   この時点で、インデックスフォームは次の図のようになります。



6. 完了したら、[保存]ボタンを選択します。複合機パネルノードに戻ります。

7. 複合機パネルノードのプロパティウィンドウを保存して閉じます。

7. 名前の変更ノードを作成する

次に、複合機パネルで入力された名前をファイルの新しい名前として使用する[名前の変更ノード]を定義します。以下の操作を行います。

1. ワークフロービルダーの作業領域に **[名前の変更]** ノードをドラッグアンドドロップします。ノードアイコンをダブルクリックして、プロパティウィンドウを開きます。

2. 既定の **[カウンター]** と **[ファイル名]** コンポーネントのそれぞれの行で **[X]** をクリックしてコンポーネントを削除します。

3. **[メタデータ]** ファイル名前付けコンポーネントをウィンドウの右側にドラッグします。その行をダブルクリックすると **[メタデータキーの選択]** ボタンが表示されます。

4. **[メタデータキーの選択]** ボタンをクリックすると、メタデータブラウザーが表示されます。[メタデータブラウザー]ウィンドウには、そのワークフローで使用できるすべてのメタデータ（ファイル、システムなど）が表示されます。インデックスフォームはこのワークフローと関連付けて作成したため、メタデータブラウザーにはインデックスフォームの以下のメタデータが表示されます。

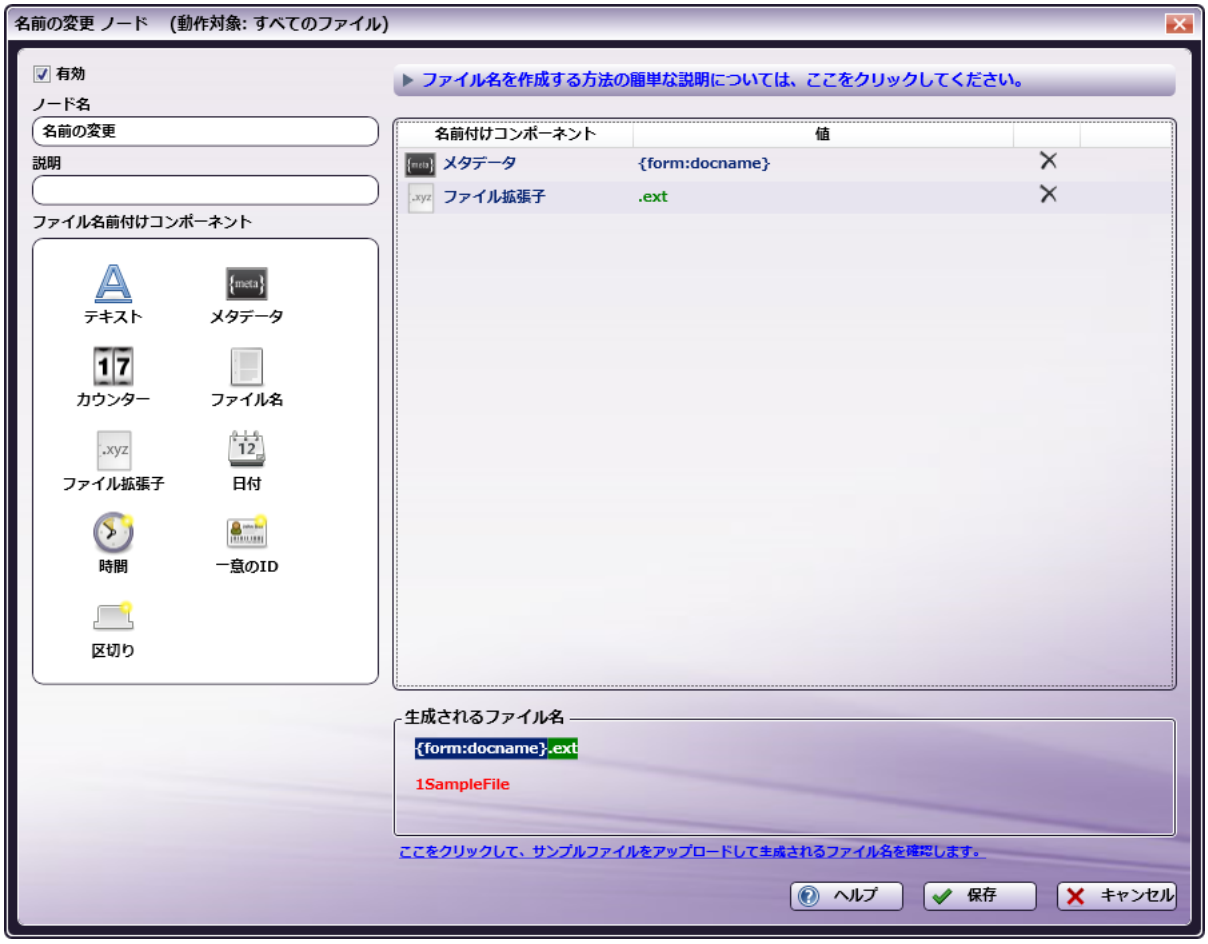
   - docname：テキストフィールドの変数名
   - FolderPath：出力フォルダーのワークフローフィールドの変数名

   次の図を参照してください。

このチュートリアルでは練習を目的としているため、{form:docname}変数を取り扱います。この変数は複合機パネルで「docname」フィールドに入力された値を取得します。

5. [インデックスフォーム]の **{form:docname}** をクリックしてから、**[選択]** ボタンをクリックします。[メタデータブラウザー]ウィンドウが閉じ、名前の変更ノードのプロパティウィンドウに{form:docname}が表示されます。
6. **[ファイル拡張子]** ファイル名前付けコンポーネントを、[名前の変更]ウィンドウの右側にドラッグします。

   次の図を参照してください。

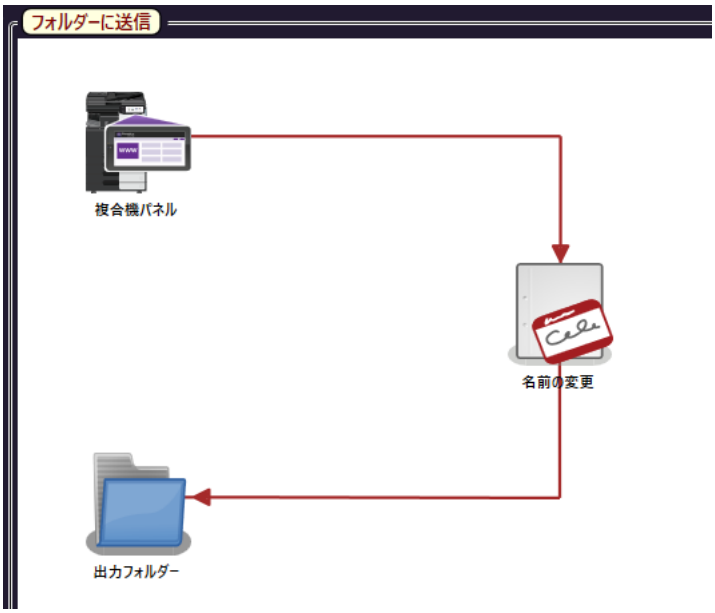


7. 完了したら、**[保存]** ボタンを選択します。

8. ノードを接続する

次に、ワークフローにあるすべてのノードを接続する必要があります。コネクターを使用して複合機パネルノードを名前の変更ノードに接続し、名前の変更ノードを出力フォルダーノードに接続します。

この時点で、ワークフローは次の図のようになります。



9. ワークフローを検証

ワークフローを検証するには、ツールバーの **[フロー検証]** ボタンを選択します。

エラーがない場合は、ワークフローが検証を通過したことを示すメッセージが表示されます。

10. ワークフローを実行

次に、ワークフロービルダーを閉じて（**【ファイル】** > **【終了】**）、アプリケーションのメイン画面に戻り、ワークフローを実行します。

11. 複合機パネルでワークフローへアクセスする

このワークフローの実行を設定した複合機で、複合機パネルワークフローにアクセスします。

注: ワークフローにアクセスするには、ログインが必要な場合があります（Dispatcher Phoenixで設定された複合機ユーザーの認証オプションに応じて異なります）。

- ***複合機での実行を設定されているワークフローが複数ある場合***、使用できるワークフローのリストが表示されます。各ワークフローにはサムネイルイメージが表示されます。[フォルダーに送信]アイコンをタップして、ワークフローにアクセスします。[ワークフローの詳細]画面が表示されます。
- ***複合機に対して定義されたワークフローが1つだけの場合***、ログインすると[ワークフローの詳細]画面がただちに表示されます。

12. 複合機でインデックスフォームにアクセスする

複合機では、[ワークフローの詳細]画面にワークフローのイメージ、指定されたスキャン設定、さらに、[インデックスフォーム]のアイコンが表示されます。[インデックスフォーム]をクリックして、以下の図のように、ドキュメント名を入力しドキュメントをスキャンして保存するフォルダーを選択します。

完了したら、**【スタート】** ボタンをタップしてスキャンと保存を開始します。

使用事例

Dispatcher Phoenixは、次のようなさまざまな処理を自動的に実行できます。

イメージ処理

- コニカミノルタのスキャナー、またはその他の場所からのTIFFファイルの取得、[Received（受領済み）]スタンプ、日付、メカニカルスタンプのようなシーケンス番号を含む各ページへの注釈の追加を行います。
- コニカミノルタのスキャナーからスキャンした後、イメージのノイズ除去、傾き補正、注釈を行い、各ページに透かしを追加します。コニカミノルタのプリンターにドキュメントを自動的に送信して、すべての変更内容を含めて印刷します。
- 25箇所のナースステーションから病院の薬剤部に送信される処方箋指示に、日付、医師名、ナースステーション名、および優先順位番号をスタンプしてから、病院薬剤部のプリンターに送信します。また、これらの処方箋指示を、中央のサーバーにアーカイブします。

印刷処理

- 平日の間にアプリケーションで作成して、フォルダーに保存したPDFファイルを、土曜日に、自動的に25部両面印刷し、ステープルで綴じます。
- メインフレームアプリケーションで作成され、フォルダーに保存されたテキストファイルを、水曜日と金曜日だけ、午前2時に自動的に印刷します。

デスクトップルーター

- 月曜日に、スキャナーメールボックス1のすべてのファイルを「月曜日」というフォルダーに移動します。火曜日には、メールボックス2のすべてのファイルを「火曜日」というフォルダーに移動します。これを平日の間、毎日繰り返します。この作業はすべて、就業時間後に毎晩行います。5台のルーターで毎晩の処理をスケジューリングしています。

解析処理

- 10,000人以上のお客様が、新しい保険証を必要としています。顧客ファイルはそれぞれ3～5ページあり、そのうち1ページは、保険証用の特別なカード用紙に印刷する必要があります。解析処理を使用して、特別なカード用紙用に、プリンターの入力用紙トレイを変更できます。

解析処理のケーススタディ

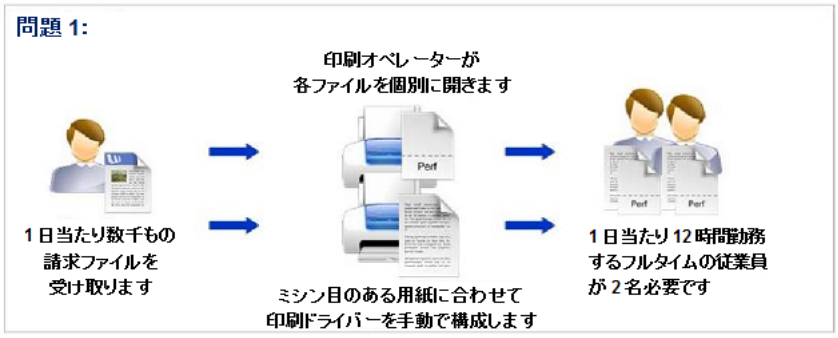
Dispatcher Phoenixの 解析処理は、強力で時間短縮に役立つツールです。複数の手順で手動の作業が必要となる印刷業務を自動化および能率化できます。これにより、スタッフは印刷業務から解放されて他の業務を実行できます。

解析ルールを記述することで、印刷ストリームに挿入されたトリガーに基づいて、コニカミノルタの複合機の動作を変更できます。たとえば、解析ルールでは、コマンドを挿入して、処理中のドキュメント内で特別なページを印刷するときに、入力トレイを変更できます。次のケーススタディーは解析処理で実行できる事例をいくつか示しています。

シナリオ 1 – 請求ファイル

背景 - ある保険会社では、毎日何千もの請求明細を作成します。このとき、顧客の保険契約に基づいて、メインフレームのデータをMicrosoft Wordドキュメントに挿入します。ドキュメントはその後、社内の印刷室に送信します。含まれる契約データによっては、ファイルの長さは3～15ページになります。各顧客の請求明細の最後のページは、ミシン目のある青色の用紙に印刷する必要があります。これにより、顧客はそのページを切り取って、支払金と共に返送できます。その他のページはすべて標準的な白色の用紙に印刷します。送付書類は各顧客につき1通ずつにまとめ、照合してから郵送します。

問題 - Microsoft Wordのファイルはそれぞれ、個別に開く必要があります。そこで、印刷ドライバーを手動で構成して、用紙トレイ3の中にあるミシン目入りの特別な用紙に「返送用切り取り部分」ページを印刷する必要があります。ドキュメントの残りの部分は標準的な白色の用紙に印刷します。



社内印刷室では、印刷オペレーターが約40秒かけて各ファイルをMicrosoft Wordで開き、「返送用切り取り部分」ページを検索してから、手動で印刷ドライバーを設定して、返送用切り取り部分のページを用紙トレイ3にあるミシン目入りの用紙に印刷します。

この印刷室では、時間とコストがかかりすぎるという理由でこの仕事を断りました。フルタイム勤務の従業員2人がこの仕事にかかりきりになるだけでなく、作業のほとんどの間、bizhub Pro 1050がアイドル状態となるためです（印刷オペレーターが次の印刷ジョブの設定を完了するまで待機するため）。

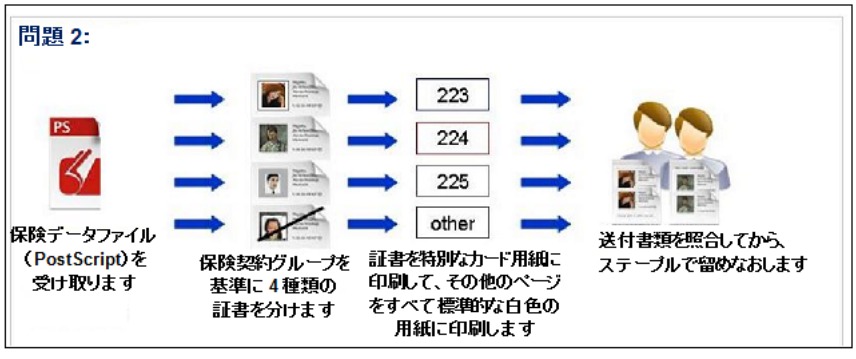
解決策 - Dispatcher Phoenixではこの処理を自動化できます。Microsoft Wordのドキュメントファイルを収集して、自動的にPostscriptに変換します。解析プロセスでは、トリガーを検索して、特別な用紙に使用する適切なトレイの呼び出しを追加します。新しい（解析済みの）ファイルは、新しい命令と共に、Konica Minolta bizhub Pro 1050に送信されます。送付書類はその書類に含まれる特別ページが自動的に挿入されて、印刷されます。

ワークフローの実行速度は速いので、収集したMicrosoft Wordファイルの処理および印刷キューへの挿入は、bizhub Pro 1050の印刷可能速度よりもかなり速くなります。その結果、すべてのファイルの処理が完了するまで、bizhub Pro 1050は継続して印刷を行う（アイドル時間がない）ことになります。フルタイム勤務の従業員2人が8時間以上かけて通常数日分の作業を行っていたところ、現在では数時間しかかからなくなりました。印刷室の従業員は手が空いて他のプロジェクトに携わることができます。

シナリオ 2 – 保険証

背景 - クライアントの歯科医療保険証券が、印刷に対応したPostscriptデータ形式で、メインフレームシステムからプリントショップに送信されます。各顧客への送付書類の最初のページは、取り外し可能な保険証が2枚含まれる、特別なカード用紙に印刷する必要があります。クライアントの保険証券とグループの番号に応じて、カードは4種類に分かれる可能性があります。その他すべてのページは標準的な白い用紙に印刷します。最後に、すべての送付書類を照合して配布用にステープルで綴じる必要があります。

問題 - プリントショップでは、フォーマット済みのPostscriptデータ形式で、それぞれの印刷作業を受け付ける必要があります。各保険証券の最初のページは、4種類になる可能性があるカード用紙のいずれかに印刷する必要があります。Postscriptデータストリームに含まれる保険証券/グループ番号によって、どのカード用紙を最初のページに使用するかが決まります。その他すべてのページは、標準の用紙に印刷する必要があります。送付書類（保険証券）は1通分ずつまとめてステープルで留める必要があります。これが一連の作業となります。



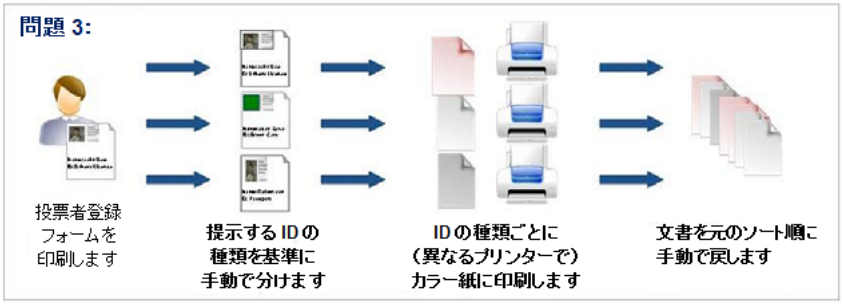
解決策 - Dispatcher Phoenixではこの処理を自動化できます。ファイルは自動的に収集されます。解析処理では、各保険証券/グループの一意のトリガーを検索して、用紙トレイの呼び出しを追加し、bizhub Pro 1050に送信します。bizhub Pro 1050にファイルが自動的に送信され、印刷され、そこでそれぞれの種類の保険送付書類がステープル

で留められて、郵送する準備が整います。

シナリオ 3 – 投票者の登録

背景 - 市の投票者登録ドキュメントは、色分けした用紙に印刷して、選挙で各投票者に請求する個人IDの種類が、登録官に視覚的にわかるようにする必要があります。数十万人の投票者の個別の投票者データで、投票者が提示する必要があるIDの種類を判別します。つまり、プリントショップでは各種類のIDの登録ドキュメントを、異なる色の用紙（ピンク、白、および灰色など）に印刷することを依頼されています。

問題 - 各投票者のファイルを個別に開いて、色分けの情報を判別する必要があります。印刷するために、手動でファイルを色別にグループ分けする必要があります。色別グループのドキュメントを個別のジョブとして印刷します（別のプリンターを使用する可能性もあります）。



解決策 - Dispatcher Phoenixではこの処理を自動化できます。ワークフローを設定して、ファイルを自動的に収集します。収集したファイルをPostscriptに変換します（.PRNファイル）。解析ノードを設定して、色分け情報と用紙トレイの呼び出しを追加します。解析済みのファイルをプリンター配信ノードに送信して、印刷完了ファイル（郵送準備済み）をbizhub Pro 1050に送信します。

結論

それぞれのシナリオで、お客様は**Dispatcher Phoenix**を使用することで、リソースを抑え、作業時間とコストを圧倒的に削減し、特殊な作業をやり遂げています。すべてのワークフローはお客様の手で設定可能で、現場対応の要求や特別な開発は不要です。

Webベースの認証

Dispatcher Phoenixバージョン6.4では、ユーザーは新しいDispatcher Phoenix Web アカウントモジュールを使用して、接続時にアカウントを設定、および管理できるようになりました。

- **Box**
- **OneDrive**
- **OneDrive for Business**
- **Googleドライブ**
- **Dropbox**
- **SharePoint Online**

注: Dispatcher Phoenix Web アカウントモジュールでコネクターを構成する方法の詳細については、上記のいずれかのリンクをクリックしてください。

なぜDispatcher Phoenixをバージョン6.4に更新する必要があるのでしょうか？

Dispatcher Phoenixをバージョン6.4に更新すると、ユーザーはDispatcher Phoenix Web アカウントモジュールにアクセスして複数のコネクター用の複数のアカウントをすべて1か所で簡単に追加および管理することができます。これらのコネクターには、Box、Dropbox、Googleドライブ、OneDrive、OneDrive for Business、およびSharePoint Onlineが含まれます。また、複合機パネルのアカウントを切り替えたり、シングルサインオンを使用することもできます。

Dispatcher Phoenixをバージョン6.4に更新しました。ワークフローの一部が機能しなくなったのはなぜですか？

ユーザーがDispatcher Phoenixをバージョン6.4に更新すると、上記のいずれかのコネクターを使用している既存のワークフローが機能しなくなります。これらのワークフローを変更するための簡単な手順に従うには数分しかかかりません。ダウンタイムは最小限に抑えるべきですが、営業時間外にアップデートをインストールすることをお勧めします。

動作を停止したワークフローを変更するにはどうすればよいですか？

以下の手順に従ってください。

ワークフローの設定

1. Dispatcher Phoenix Webにログインします。
2. ホームページで[アカウント]ツールを選択します。
3. **[+]** ボタンを選択してから、設定するアプリケーション（Dropboxなど）を選択します。
4. 自分のユーザー名とパスワードを指定してアカウントにログインします。

アカウントが追加されます。複合機でDispatcher Phoenixにログインすると自動的にアカウントにログインできるようになり、シングルサインオンが可能になります。

既存のワークフローの変更

この新しい認証方法は、OneDrive、OneDrive for Business、Googleドライブ、Dropbox、およびSharePoint Onlineに経路指定する既存のワークフローに影響します。既存のワークフローを変更するには以下の手順を実行します。

インデックスフォーム以外のワークフローの場合（複合機からのスキャンを含まないワークフロー）

1. Dispatcher Phoenix Webの[アカウント]ツールを使用してアカウントを設定します（前述の手順を参照してください）。
2. Dispatcher Phoenixクライアントアプリケーションのワークフロービルダーツールでワークフローを開きます。
3. コネクターノードを開きます。アカウントに自動的に接続されます。[アカウント]ドロップダウンリストから、アクセスする別のアカウントを選択することもできます。
4. ノードとワークフローを保存します。

複合機パネルノード/インデックスフォームのワークフローの場合（複合機からのスキャンを含むワークフロー）

1. Dispatcher Phoenix Webの[アカウント]ツールを使用して、アカウントを設定します（前述の手順を参照してください）。
2. Dispatcher Phoenixクライアントアプリケーションのワークフロービルダーツールでワークフローを開きます。
3. 複合機パネルノードを開きます。
4. 複合機パネルノードに関連付けられたコネクターの既存のインデックスフォームを削除します。
5. 新しい[空白のインデックスフォーム]を作成します。
6. [ワークフローのインデックスフィールド]にリストされているコネクターのボタン（Dropboxなど）を、インデックスフォームビルダーのメイン領域にドラッグアンドドロップします。コネクターの適切なインデックスフィールドが自動的に作成されます。
7. インデックスフォームを保存します。
8. 複合機パネルノードを保存します。
9. ワークフローを実行します。

注: 古いインデックスフォームがカスタマイズされていた場合は、必要に応じて同じようにカスタマイズし直す必要があります。